User's Manual

32

Renesas RA6M1 グループ

ユーザーズマニュアル　ハードウェア編

32-bit MCU
Renesas Advanced (RA) Family
Renesas RA6 Series

ルネサス エレクトロニクス
www.renesas.com

Rev.1.10　2022.06

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合、お客様の責任において、お客様の機器・システムを設計ください。これらの使用に起因して生じた損害（お客様または第三者いずれに生じた損害も含みます。以下同じです。）に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 当社製品または本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は、何らの保証を行うものではなく、また責任を負うものではありません。
3. 当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 当社製品を組み込んだ製品の輸出入、製造、販売、利用、配布その他の行為を行うにあたり、第三者保有の技術の利用に関するライセンスが必要となる場合、当該ライセンス取得の判断および取得はお客様の責任において行ってください。
5. 当社製品を、全部または一部を問わず、改造、改変、複製、リバースエンジニアリング、その他、不適切に使用しないでください。かかる改造、改変、複製、リバースエンジニアリング等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
6. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。

   標準水準：　コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等

   高品質水準：輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通制御（信号）、大規模通信機器、金融端末基幹システム、各種安全制御装置等

   当社製品は、データシート等により高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（宇宙機器と、海底中継器、原子力制御システム、航空機制御システム、プラント基幹システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、これらの用途に使用することは想定していません。たとえ、当社が想定していない用途に当社製品を使用したことにより損害が生じても、当社は一切その責任を負いません。
7. あらゆる半導体製品は、外部攻撃からの安全性を 100%保証されているわけではありません。当社ハードウェア／ソフトウェア製品にはセキュリティ対策が組み込まれているものもありますが、これによって、当社は、セキュリティ脆弱性または侵害（当社製品または当社製品が使用されているシステムに対する不正アクセス・不正使用を含みますが、これに限りません。）から生じる責任を負うものではありません。当社は、当社製品または当社製品が使用されたあらゆるシステムが、不正な改変、攻撃、ウイルス、干渉、ハッキング、データの破壊または窃盗その他の不正な侵入行為（「脆弱性問題」といいます。）によって影響を受けないことを保証しません。当社は、脆弱性問題に起因しまたはこれに関連して生じた損害について、一切責任を負いません。また、法令において認められる限りにおいて、本資料および当社ハードウェア／ソフトウェア製品について、商品性および特定目的との合致に関する保証ならびに第三者の権利を侵害しないことの保証を含め、明示または黙示のいかなる保証も行いません。
8. 当社製品をご使用の際は、最新の製品情報（データシート、ユーザーズマニュアル、アプリケーションノート、信頼性ハンドブックに記載の「半導体デバイスの使用上の一般的な注意事項」等）をご確認の上、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他指定条件の範囲内でご使用ください。指定条件の範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障、誤動作の不具合および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は、データシート等において高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、耐放射線設計を行っておりません。仮に当社製品の故障または誤動作が生じた場合であっても、人身事故、火災事故その他社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
10. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。かかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
11. 当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。当社製品および技術を輸出、販売または移転等する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他日本国および適用される外国の輸出管理関連法規を遵守し、それらの定めるところに従い必要な手続きを行ってください。
12. お客様が当社製品を第三者に転売等される場合には、事前に当該第三者に対して、本ご注意書き記載の諸条件を通知する責任を負うものといたします。
13. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。
14. 本資料に記載されている内容または当社製品についてご不明な点がございましたら、当社の営業担当者までお問合せください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社が直接的、間接的に支配する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

(Rev.5.0-1 2020.10)

本社所在地

〒 135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24（豊洲フォレシア）

www.renesas.com

お問合せ窓口

弊社の製品や技術、ドキュメントの最新情報、最寄の営業お問合せ窓口に関する情報などは、弊社ウェブサイトをご覧ください。

www.renesas.com/contact/

商標について

ルネサスおよびルネサスロゴはルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

© 2022 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本ドキュメントおよびテクニカルアップデートを参照してください。

1. 静電気対策
   CMOS 製品の取り扱いの際は静電気防止を心がけてください。CMOS 製品は強い静電気によってゲート絶縁破壊を生じることがあります。運搬や保存の際には、当社が出荷梱包に使用している導電性のトレーやマガジンケース、導電性の緩衝材、金属ケースなどを利用し、組み立て工程にはアースを施してください。プラスチック板上に放置したり、端子を触ったりしないでください。また、CMOS 製品を実装したボードについても同様の扱いをしてください。
2. 電源投入時の処置
   電源投入時は、製品の状態は不定です。電源投入時には、LSI の内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。
3. 電源オフ時における入力信号
   当該製品の電源がオフ状態のときに、入力信号や入出力プルアップ電源を入れないでください。入力信号や入出力プルアップ電源からの電流注入により、誤動作を引き起こしたり、異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。資料中に「電源オフ時における入力信号」についての記載のある製品は、その内容を守ってください。
4. 未使用端子の処理
   未使用端子は、「未使用端子の処理」に従って処理してください。CMOS 製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI 周辺のノイズが印加され、LSI 内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。
5. クロックについて
   リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。
6. 入力端子の印加波形
   入力ノイズや反射波による波形歪みは誤動作の原因になりますので注意してください。CMOS 製品の入力がノイズなどに起因して、V_{IL}（Max.）から V_{IH}（Min.）までの領域にとどまるような場合は、誤動作を引き起こす恐れがあります。入力レベルが固定の場合はもちろん、V_{IL}（Max.）から V_{IH}（Min.）までの領域を通過する遷移期間中にチャタリングノイズなどが入らないように使用してください。
7. リザーブアドレス（予約領域）のアクセス禁止
   リザーブアドレス（予約領域）のアクセスを禁止します。アドレス領域には、将来の拡張機能用に割り付けられている リザーブアドレス（予約領域）があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。
8. 製品間の相違について
   型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。同じグループのマイコンでも型名が違うと、フラッシュメモリ、レイアウトパターンの相違などにより、電気的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ幅射量などが異なる場合があります。型名が違う製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

はじめに

1. このマニュアルについて

このマニュアルは主に、製品の概要、CPU、システム制御機能、周辺機能、電気的特性の仕様および使用上の注意事項で構成されています。このマニュアルはマイクロコントローラ（MCU）のスーパーセットの製品特性を記述します。お客様の製品によっていくつかの端子、レジスタまたは機能が存在しないものがある場合があります。使用できないレジスタが割り当てられているアドレス空間は予約されています。

2. 対象読者

このマニュアルは、本 MCU を使用したプログラミングアプリケーションを設計およびプログラミングするシステム設計者を対象としています。読者には、電気回路、論理回路および MCU に関する基本的な知識が求められます。

3. 関連ドキュメント

弊社では、本 MCU 用に下記のドキュメントを提供しています。

ドキュメントの種類	内容
データシート	特長、概要およびMCUの電気的特性
ユーザーズマニュアル　ハードウェア編	ピン配置、メモリマップ、周辺機能、電気特性、タイミング図、および動作記述などのMCU仕様
アプリケーションノート	テクニカルノート、ボードデザインのガイドラインおよびソフトウェア移行情報
テクニカルアップデート（TU）	制限や正誤表などの製品仕様に関する予備レポート

4. 数値の表記法

数値には、このマニュアル全体を通じて下記の表記法が用いられています。

例	内容
011b	2進数。たとえば、数値3を2進数で表記すると011bになります。
1Fh	16進数。たとえば、数値31を16進数で表記すると1Fhになります。場合によっては、C/C++フォーマットに基づいて、プレフィックス0xが付いた16進数が示されます。
1234	10進数。一般的に10進数には後付き記号を付けません。

5. シンボルの表記法

シンボルには、このマニュアル全体を通じて下記の表記法が用いられています。

例	内容
ICU.NMICR.NMIMD	機能モジュールのシンボル（ICU）、レジスタのシンボル（NMICR）、およびビットフィールドのシンボル（NMIMD）は、ピリオドで区切られます。
ICU.NMICR	機能モジュールのシンボル（ICU）とレジスタのシンボル（NMICR）は、ピリオドで区切られます。
NMICR.NMIMD	レジスタのシンボル（NMICR）とビットフィールドのシンボル（NMIMD）は、ピリオドで区切られます。
NFCLKSEL[1:0]	レジスタビット名において、角括弧内に記されたビット範囲は、その位置におけるフィールドのビット番号を示します。たとえば、NFCLKSEL[1:0]はNMI端子割り込みコントロールレジスタ(NMICR)の指定位置の2ビットフィールドを表します。

6. 単位記号

下記の単位記号は誤解を招くことがあります。これらの単位記号は、このマニュアル全体を通して下記の意味で用いられます。

例	内容
b	Bit
B	Byte この単位記号は、一般にMCUおよびアドレススペースのメモリ指定に使用されます。
k	1000 = 10^3 kは1024（2^{10}）を表すのにも使用されますが、この単位記号はこのマニュアル全体を通して1000（10^3）表すために使用されます。
K	1024 = 2^{10} この単位記号は、このマニュアル全体を通して1000（10^3）ではなく1024（2^{10}）を表すために使用されます。

7. 特殊用語

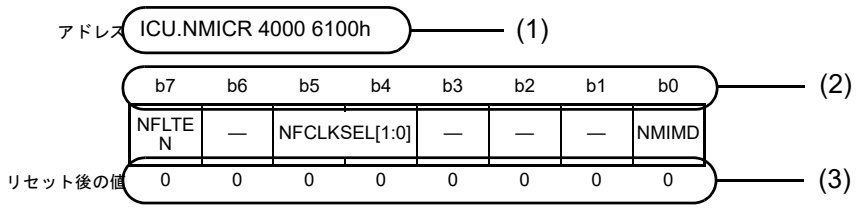
下記の用語には特殊な意味があります。

用語	内容
NC	非接続の端子。NCは、端子がMCUに接続されていないことを意味します。
Hi-Z	ハイインピーダンス

8. レジスタの説明

各章の「レジスタの説明」には、ビットの並びを示すレジスタ配置図と、各ビットの内容を説明するレジスタのビット機能表があります。これらの表で使用されている記号例については、以降の項で説明します。以下は、レジスタの説明および関連するビットフィールド定義の例です。

X.X.X NMI 端子割り込みコントロールレジスタ（NMICR）



(4) (5) (6)

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	NMIMD	NMI検出設定	0：立ち下がりエッジ 1：立ち上がりエッジ	R/W
b3-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5-b4	NFCLKSEL[1:0]	NMIデジタルフィルタサンプリングクロック選択	b5 b4 0 0：PCLKB 0 1：PCLKB/8 1 0：PCLKB/32 1 1：PCLKB/64	R/W
b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	NFLTEN	NMIデジタルフィルタ有効	0：デジタルフィルタ無効 1：デジタルフィルタ有効	R/W

(1) 機能モジュールのシンボル、レジスタのシンボル、およびアドレス割り当て

この部分には、通常、機能モジュールのシンボル、レジスタのシンボル、およびこのレジスタのアドレス割り当てが記載されます。たとえば、ICU.NMICR 4000 6100h は、割り込みコントローラユニット（ICU）の NMI 端子割り込みコントロールレジスタ（NMICR）がアドレス 4000 6100h に割り当てられることを表します。

(2) ビット番号

この番号はビット番号を表します。32 ビットレジスタの場合は b31 ～ b0 の順に、16 ビットレジスタの場合は b15 ～ b0 の順に、8 ビットレジスタの場合は b7 ～ b0 の順に示されます。

(3) リセット後の値

これらのシンボルや数字は、ハードリセット後の各ビット値を示しています。特に記載のない限り、値は 2 進数で示されます。

0：ハードリセット後、値は 0
1：ハードリセット後、値は 1
x：ハードリセット後、値は不定

(4) ビットシンボル

ビットシンボルは、ビットフィールドの略名です。予約ビットの場合は、— と表記されます。

(5) ビット名

ビット名は、ビットフィールドの正式名です。

(6) R/W

R/W 列は、そのビットフィールドが読み出し可能であるか書き込み可能であるかを示します。

R/W： 読み出しも書き込みも可能
R/(W)：読み出しも書き込みも可能。しかし、本ビットフィールドに書き込むにはいくつかの制限があります。制限の詳細については、それぞれのレジスタの説明または注釈を参照してください。
R： 読み出しのみ可能。書き込みは無効
W： 書き込みのみ可能。読み出し値は不定

9. 略称

このマニュアルで使用する略称が下表に示されています。

略称	内容
AES	Advanced Encryption Standard（高度暗号化標準）
AHB	Advanced High-performance Bus（アドバンストハイパフォーマンスバス）
AHB-AP	AHB Access Port（AHBアクセスポート）
APB	Advanced Peripheral Bus（アドバンスト周辺バス）
ARC	Alleged RC（Alleged RC暗号）
ATB	Advanced Trace Bus（アドバンストトレースバス）
BCD	Binary Coded Decimal（2進化10進数）
BSDL	Boundary Scan Description Language（バウンダリスキャン記述言語）
DES	Data Encryption Standard（データ暗号化標準）
DSA	Digital Signature Algorithm（デジタル署名アルゴリズム）
ECC	Error Correction Code（誤り訂正コード）
ETB	Embedded Trace Buffer（エンベデッドトレースバッファ）
ETM	Embedded Trace Macrocell（エンベデッドトレースマクロセル）
FLL	Frequency Locked Loop（周波数安定化ループ回路）
FPU	Floating Point Unit（浮動小数点ユニット）
GSM	Global System for Mobile communications（第2世代移動通信システム (2G) 規格）
HMI	Human Machine Interface（ヒューマンマシーンインタフェース）
IrDA	Infrared Data Association（赤外線通信協会／規格）
LSB	Least Significant Bit（最下位ビット）
MSB	Most Significant Bit（最上位ビット）
NVIC	Nested Vector Interrupt Controller（ネスト型ベクタ割り込みコントローラ）
PC	Program Counter（プログラムカウンタ）
PFS	Port Function Select（ポート機能選択）
PLL	Phase Locked Loop（位相同期回路）
POR	Power-on Reset（パワーオンリセット）
PWM	Pulse Width Modulation（パルス幅変調）
RSA	Rivest Shamir Adleman（Rivest/Shamir/Adlemanによる公開鍵暗号方式）
SHA	Secure Hash Algorithm（セキュアハッシュアルゴリズム）
S/H	Sample and Hold（サンプルアンドホールド）
SP	Stack Pointer（スタックポインタ）
SWD	Serial Wire Debug（シリアルワイヤデバッグ）
SW-DP	Serial Wire-Debug Port（シリアルワイヤデバッグポート）
TRNG	True Random Number Generator（真性乱数発生器）
UART	Universal Asynchronous Receiver/Transmitter（調歩同期式シリアルインタフェース）

10. 所有権通知

このマニュアルに含まれるすべてのテキスト、画像、写真、商標、ロゴ、挿絵、コンピュータコード（総称して「コンテンツ」）は、ルネサスが所有、管理、またはライセンス保持するものであり、トレードドレス法、著作権法、特許法、商標法、その他の知的所有権法、不当競争法で保護されています。このマニュアルに明示的に記述されている場合を除いて、ルネサスから事前に承諾書を得ることなく、このマニュアルの一部またはコンテンツを、公開または頒布目的で、あるいは営利目的で、コピー、複製、再版、掲載、開示、エンコード、翻訳、伝送すること、およびいかなる媒体においても配布することは禁じられています。

Arm® および Cortex® は、Arm Limited の登録商標です。CoreSight™ は Arm Limited の商標です。

CoreMark® は、Embedded Microprocessor Benchmark Consortium の登録商標です。

Magic Packet™ は、Advanced Micro Devices、Inc. の商標です。

SuperFlash® は、Silicon Storage Technology、Inc. の日本と米国を含むいくつかの国での登録商標です。

このマニュアルに記載されているその他のブランド名は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

特長 54

1. 概要 55

1.1 機能の概要 55

1.2 ブロック図 61

1.3 型名 62

1.4 機能の比較 63

1.5 端子機能 64

1.6 ピン配置図 68

1.7 端子一覧 72

2. CPU 75

2.1 概要 75

2.1.1 CPU 75

2.1.2 デバッグ 76

2.1.3 動作周波数 77

2.2 MCU 実装オプション 78

2.3 トレースインタフェース 78

2.4 JTAG/SWD インタフェース 79

2.5 デバッグモード 80

2.5.1 デバッグモード定義 80

2.5.2 デバッグモードの影響 80

2.5.2.1 低消費電力モード 80

2.5.2.2 リセット 81

2.6 プログラマモデル 82

2.6.1 アドレス空間 82

2.6.2 Cortex-M4 ペリフェラルアドレスマップ 82

2.6.3 CoreSight ROM テーブル 83

2.6.3.1 ROM エントリ 83

2.6.3.2 CoreSight コンポーネントレジスタ 83

2.6.4 DBGREG モジュール 84

2.6.4.1 デバッグステータスレジスタ（DBGSTR） 84

2.6.4.2 デバッグストップコントロールレジスタ（DBGSTOPCR） 85

2.6.4.3 トレースコントロールレジスタ（TRACECTR） 86

2.6.4.4 DBGREG CoreSight コンポーネントレジスタ 86

2.6.5 OCDREG モジュール 87

2.6.5.1 ID 認証コードレジスタ（IAUTH0 ～ 3） 87

2.6.5.2 MCU ステータスレジスタ（MCUSTAT） 88

2.6.5.3 MCU コントロールレジスタ（MCUCTRL） 89

2.6.5.4 OCDREG CoreSight コンポーネントレジスタ 89

2.7 CoreSight ATB ファネル 90

2.8 フラッシュパッチ & ブレークユニット 90
2.9 SysTick システムタイマ 90
2.10 CoreSight タイムスタンプジェネレータ 91
2.11 OCD エミュレータ接続 91
2.11.1 DBGEN 91
2.11.2 アンロック ID コード 92
2.11.3 OCD エミュレータ接続における制限 92
2.11.3.1 低消費電力モード中の接続開始 92
2.11.3.2 OCD モードにおける低消費電力モードの切り替え 92
2.11.3.3 OSIS におけるアンロック ID コードの変更 92
2.11.3.4 接続順序と JTAG/SWD 認証 93
2.12 参考資料 94
3. 動作モード 95
3.1 概要 95
3.2 動作モードの説明 95
3.2.1 シングルチップモード 95
3.2.2 SCI ブートモード 95
3.2.3 USB ブートモード 95
3.3 動作モード遷移 96
3.3.1 モード設定端子による動作モード遷移 96
4. アドレス空間 97
4.1 概要 97
4.2 外部アドレス空間 98
5. メモリミラー機能（MMF） 99
5.1 概要 99
5.2 レジスタの説明 100
5.2.1 MemMirror 特殊機能レジスタ（MMSFR） 100
5.2.2 MemMirror イネーブルレジスタ（MMEN） 101
5.3 動作説明 102
5.3.1 MMF 動作 102
5.3.2 設定例 105
6. リセット 106
6.1 概要 106
6.2 レジスタの説明 110
6.2.1 リセットステータスレジスタ 0（RSTSR0） 110
6.2.2 リセットステータスレジスタ 1（RSTSR1） 112
6.2.3 リセットステータスレジスタ 2（RSTSR2） 115
6.3 動作説明 116
6.3.1 RES 端子リセット 116
6.3.2 パワーオンリセット 117
6.3.3 電圧監視リセット 118

6.3.4 ディープソフトウェアスタンバイリセット 120
6.3.5 独立ウォッチドッグタイマリセット 120
6.3.6 ウォッチドッグタイマリセット 120
6.3.7 ソフトウェアリセット 120
6.3.8 コールドスタート／ウォームスタート判定機能 121
6.3.9 リセット発生要因の判定 122
7. オプション設定メモリ 123
7.1 概要 123
7.2 レジスタの説明 124
7.2.1 オプション機能選択レジスタ 0（OFS0） 124
7.2.2 オプション機能選択レジスタ 1（OFS1） 127
7.2.3 アクセスウィンドウ設定レジスタ（AWS） 128
7.2.4 OCD ／シリアルプログラマ ID 設定レジスタ（OSIS） 130
7.3 オプション設定メモリの設定方法 131
7.3.1 オプション設定メモリへのデータの配置方法 131
7.3.2 オプション設定メモリにプログラムするデータの設定方法 131
7.4 使用上の注意事項 132
7.4.1 オプション設定メモリの予約領域および予約ビットにプログラムするデータ 132
8. 低電圧検出（LVD） 133
8.1 概要 133
8.2 レジスタの説明 136
8.2.1 電圧モニタ 1 回路コントロールレジスタ 1（LVD1CR1） 136
8.2.2 電圧モニタ 1 回路ステータスレジスタ（LVD1SR） 137
8.2.3 電圧モニタ 2 回路コントロールレジスタ 1（LVD2CR1） 137
8.2.4 電圧モニタ 2 回路ステータスレジスタ（LVD2SR） 138
8.2.5 電圧モニタ回路コントロールレジスタ（LVCMPCR） 139
8.2.6 電圧検出レベル選択レジスタ（LVDLVLR） 140
8.2.7 電圧モニタ 1 回路コントロールレジスタ 0（LVD1CR0） 141
8.2.8 電圧モニタ 2 回路コントロールレジスタ 0（LVD2CR0） 142
8.3 VCC 入力電圧のモニタ 143
8.3.1 V_{det0} のモニタ 143
8.3.2 V_{det1} のモニタ 143
8.3.3 V_{det2} のモニタ 143
8.4 電圧監視 0 リセット 144
8.5 電圧監視 1 割り込み、電圧監視 1 リセット 145
8.6 電圧監視 2 割り込み、電圧監視 2 リセット 148
8.7 イベントリンク出力 151
8.7.1 割り込み処理とイベントリンクの関係 151
9. クロック発生回路 152
9.1 概要 152
9.2 レジスタの説明 157

9.2.1 システムクロック分周コントロールレジスタ（SCKDIVCR）..... 157
9.2.2 システムクロック分周コントロールレジスタ 2（SCKDIVCR2）..... 161
9.2.3 システムクロックソースコントロールレジスタ（SCKSCR）..... 162
9.2.4 PLL クロックコントロールレジスタ（PLLCCR）..... 165
9.2.5 PLL コントロールレジスタ（PLLCR）..... 166
9.2.6 外部バスクロックコントロールレジスタ（BCKCR）..... 167
9.2.7 メインクロック発振器コントロールレジスタ（MOSCCR）..... 168
9.2.8 サブクロック発振器コントロールレジスタ（SOSCCR）..... 169
9.2.9 低速オンチップオシレータコントロールレジスタ（LOCOCR）..... 170
9.2.10 高速オンチップオシレータコントロールレジスタ（HOCOCR）..... 171
9.2.11 高速オンチップオシレータウェイトコントロールレジスタ（HOCOWTCR）..... 172
9.2.12 中速オンチップオシレータコントロールレジスタ（MOCOCR）..... 173
9.2.13 FLL コントロールレジスタ 1（FLLCR1）..... 174
9.2.14 FLL コントロールレジスタ 2（FLLCR2）..... 176
9.2.15 発振安定フラグレジスタ（OSCSF）..... 177
9.2.16 発振停止検出コントロールレジスタ（OSTDCR）..... 179
9.2.17 発振停止検出ステータスレジスタ（OSTDSR）..... 180
9.2.18 メインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタ（MOSCWTCR）..... 181
9.2.19 メインクロック発振器モード発振コントロールレジスタ（MOMCR）..... 182
9.2.20 サブクロック発振器モードコントロールレジスタ（SOMCR）..... 183
9.2.21 クロックアウトコントロールレジスタ（CKOCR）..... 184
9.2.22 外部バスクロック出力コントロールレジスタ（EBCKOCR）..... 185
9.2.23 LOCO ユーザトリミングコントロールレジスタ（LOCOUTCR）..... 185
9.2.24 MOCO ユーザトリミングコントロールレジスタ（MOCOUTCR）..... 186
9.2.25 HOCO ユーザトリミングコントロールレジスタ（HOCOUTCR）..... 186
9.2.26 トレースクロックコントロールレジスタ（TRCKCR）..... 187
9.3 メインクロック発振器 188
9.3.1 水晶振動子を接続する方法 188
9.3.2 外部クロックを入力する方法 189
9.3.3 外部クロック入力に関する注意事項 189
9.4 サブクロック発振器 190
9.4.1 32.768kHz 水晶振動子を接続する方法 190
9.4.2 サブクロック発振器を使用しない場合の端子処理 191
9.5 発振停止検出機能 192
9.5.1 発振停止検出と検出後の動作 192
9.5.2 発振停止検出割り込み 194
9.6 PLL 回路 195
9.7 内部クロック 195
9.7.1 システムクロック（ICLK）..... 196
9.7.2 周辺モジュールクロック（PCLKA、PCLKB、PCLKC、PCLKD）..... 197
9.7.3 フラッシュインタフェースクロック（FCLK）..... 197

9.7.4 外部バスクロック（BCLK） 198
9.7.5 USB クロック（UCLK） 198
9.7.6 CAN クロック（CANMCLK） 198
9.7.7 CAC クロック（CACCLK） 198
9.7.8 RTC 専用クロック（RTCSCLK、RTCLCLK） 198
9.7.9 IWDT 専用クロック（IWDTCLK） 199
9.7.10 AGT 専用クロック（AGTSCLK, AGTLCLK） 199
9.7.11 SysTick タイマ専用クロック（SYSTICCLK） 199
9.7.12 クロック／ブザー出力クロック（CLKOUT） 199
9.7.13 JTAG クロック（JTAGTCK） 199
9.8 使用上の注意事項 200
9.8.1 クロック発生回路に関する注意事項 200
9.8.2 発振子に関する注意事項 200
9.8.3 ボード設計に関する注意事項 200
9.8.4 発振子接続端子に関する注意事項 201
9.8.5 サブクロック発振器使用時の注意事項（LGA パッケージ） 201
9.8.6 メインクロック発振器駆動能力自動切り替え機能に関する注意事項 201
10. クロック周波数精度測定回路（CAC） 202
10.1 概要 202
10.2 レジスタの説明 204
10.2.1 CAC コントロールレジスタ 0（CACR0） 204
10.2.2 CAC コントロールレジスタ 1（CACR1） 205
10.2.3 CAC コントロールレジスタ 2（CACR2） 206
10.2.4 CAC 割り込みコントロールレジスタ（CAICR） 207
10.2.5 CAC ステータスレジスタ（CASTR） 208
10.2.6 CAC 上限値設定レジスタ（CAULVR） 209
10.2.7 CAC 下限値設定レジスタ（CALLVR） 209
10.2.8 CAC カウンタバッファレジスタ（CACNTBR） 209
10.3 動作説明 210
10.3.1 クロック周波数測定 210
10.3.2 CACREF 端子のデジタルフィルタ機能 211
10.4 割り込み要求 211
10.5 使用上の注意事項 211
10.5.1 モジュールストップ機能の設定 211
11. 低消費電力モード 212
11.1 概要 212
11.2 レジスタの説明 217
11.2.1 スタンバイコントロールレジスタ（SBYCR） 217
11.2.2 モジュールストップコントロールレジスタ A（MSTPCRA） 218
11.2.3 モジュールストップコントロールレジスタ B（MSTPCRB） 219
11.2.4 モジュールストップコントロールレジスタ C（MSTPCRC） 221

11.2.5 モジュールストップコントロールレジスタ D（MSTPCRD） 222
11.2.6 動作電力コントロールレジスタ（OPCCR） 224
11.2.7 サブ動作電力コントロールレジスタ（SOPCCR） 225
11.2.8 スヌーズコントロールレジスタ（SNZCR） 227
11.2.9 スヌーズ終了コントロールレジスタ（SNZEDCR） 228
11.2.10 スヌーズ要求コントロールレジスタ（SNZREQCR） 230
11.2.11 ディープソフトウェアスタンバイコントロールレジスタ（DPSBYCR） 232
11.2.12 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みイネーブルレジスタ 0（DPSIER0） 233
11.2.13 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みイネーブルレジスタ 1（DPSIER1） 234
11.2.14 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みイネーブルレジスタ 2（DPSIER2） 235
11.2.15 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みイネーブルレジスタ 3（DPSIER3） 236
11.2.16 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みフラグレジスタ 0（DPSIFR0） 237
11.2.17 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みフラグレジスタ 1（DPSIFR1） 238
11.2.18 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みフラグレジスタ 2（DPSIFR2） 239
11.2.19 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みフラグレジスタ 3（DPSIFR3） 241
11.2.20 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みエッジレジスタ 0（DPSIEGR0） 242
11.2.21 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みエッジレジスタ 1（DPSIEGR1） 242
11.2.22 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みエッジレジスタ 2（DPSIEGR2） 243
11.2.23 システムコントロール OCD コントロールレジスタ（SYOCDCR） 244
11.2.24 スタンバイ条件レジスタ（STCONR） 245
11.3 クロックの切り替えによる消費電力の低減 246
11.4 モジュールストップ機能 246
11.5 低消費電力機能 247
11.5.1 動作電力制御モードの設定方法 247
11.6 スリープモード 249
11.6.1 スリープモードへの遷移 249
11.6.2 スリープモードの解除 249
11.7 ソフトウェアスタンバイモード 251
11.7.1 ソフトウェアスタンバイモードへの遷移 251
11.7.2 ソフトウェアスタンバイモードの解除 254
11.7.3 ソフトウェアスタンバイモードの応用例 256
11.8 スヌーズモード 257
11.8.1 スヌーズモードへの遷移 257
11.8.2 スヌーズモードの解除 258
11.8.3 ソフトウェアスタンバイモードへの復帰 259
11.8.4 スヌーズモードの動作例 260
11.9 ディープソフトウェアスタンバイモード 264
11.9.1 ディープソフトウェアスタンバイモードへの遷移 264
11.9.2 ディープソフトウェアスタンバイモードの解除 265
11.9.3 ディープソフトウェアスタンバイモード解除時の端子状態 265
11.9.4 ディープソフトウェアスタンバイモードの応用例 266

11.9.5 ディープソフトウェアスタンバイモード使用時のフローチャート 267
11.10 使用上の注意事項 268
11.10.1 レジスタアクセス 268
11.10.2 I/O ポートの状態 269
11.10.3 DMAC と DTC のモジュールストップ状態 270
11.10.4 内部割り込み要因 270
11.10.5 DIRQnE ビット（n = 0, 1, 4 ～ 12）による入力バッファ制御 270
11.10.6 低消費電力モードへの遷移 270
11.10.7 WFI 命令のタイミング 270
11.10.8 スリープモード／スヌーズモード時の DMAC または DTC による WDT および IWDT レジスタへの書き込みについて 270
11.10.9 スヌーズモードにおける発振器について 270
11.10.10 RXD0 の立ち下がりエッジによるスヌーズモードエントリ 271
11.10.11 スヌーズモードにおける SCI0 の使用 271
11.10.12 スヌーズモードにおける A/D 変換開始条件 271
11.10.13 スヌーズモードにおける ELC イベント 271
11.10.14 スヌーズモードにおける CTSU の条件 271
12. バッテリバックアップ機能 272
12.1 概要 272
12.1.1 バッテリバックアップ機能 272
12.1.2 バッテリ電源スイッチ 272
12.1.3 バックアップレジスタ 272
12.1.4 時間キャプチャ端子検出 272
12.2 レジスタの説明 274
12.2.1 VBATT バックアップレジスタ（VBTBKRn）（n = 0 ～ 511） 274
12.2.2 VBATT 入力コントロールレジスタ（VBTICTLR） 274
12.3 動作説明 275
12.3.1 バッテリバックアップ機能 275
12.3.2 VBATT バッテリ電源スイッチの使用法 276
12.3.3 VBATT バックアップレジスタの使用法 276
12.4 使用上の注意事項 277
13. レジスタライトプロテクション 278
13.1 概要 278
13.2 レジスタの説明 279
13.2.1 プロテクトレジスタ（PRCR） 279
14. 割り込みコントローラユニット（ICU） 280
14.1 概要 280
14.2 レジスタの説明 282
14.2.1 IRQ コントロールレジスタ i（IRQCRi）（i = 0 ～ 13） 282
14.2.2 ノンマスカブル割り込みステータスレジスタ（NMISR） 284
14.2.3 ノンマスカブル割り込みイネーブルレジスタ（NMIER） 287

14.2.4 ノンマスカブル割り込みステータスクリアレジスタ（NMICLR）..... 289
14.2.5 NMI 端子割り込みコントロールレジスタ（NMICR）..... 291
14.2.6 ICU イベントリンク設定レジスタ n（IELSRn）（n = 0 ～ 95）..... 292
14.2.7 DMAC イベントリンク設定レジスタ n（DELSRn）（n = 0 ～ 7）..... 294
14.2.8 SYS イベントリンク設定レジスタ（SELSR0）..... 295
14.2.9 ウェイクアップ割り込みイネーブルレジスタ（WUPEN）..... 296
14.3 ベクタテーブル 298
14.3.1 割り込みベクタテーブル 298
14.3.2 イベント番号 301
14.4 割り込み動作 308
14.4.1 割り込みの検出 308
14.4.2 割り込み要求先の選択 309
14.4.2.1 CPU 割り込み要求 309
14.4.2.2 DTC の起動 309
14.4.2.3 DMAC の起動 310
14.4.3 デジタルフィルタ 311
14.4.4 外部端子割り込み 311
14.5 ノンマスカブル割り込みの動作 312
14.6 低消費電力モードからの復帰 313
14.6.1 スリープモードからの復帰 313
14.6.2 ソフトウェアスタンバイモードからの復帰 313
14.6.3 スヌーズモードからの復帰 313
14.7 ノンマスカブル割り込みとともに WFI 命令を使用する場合 314
14.8 参考資料 314
15. バス 315
15.1 概要 315
15.2 バスの説明 317
15.2.1 メインバス 317
15.2.2 スレーブインタフェース 317
15.2.3 外部バス 318
15.2.4 並列動作 320
15.2.5 バスの設定 320
15.2.6 エンディアンに関する制限事項 320
15.3 レジスタの説明 321
15.3.1 CSn コントロールレジスタ（CSnCR）（n = 0, 1, 4 ～ 7）..... 321
15.3.2 CSn リカバリサイクル設定レジスタ（CSnREC）（n = 0, 1, 4 ～ 7）..... 322
15.3.3 CS リカバリサイクル挿入イネーブルレジスタ（CSRECEN）..... 324
15.3.4 CSn モードレジスタ（CSnMOD）（n = 0, 1, 4 ～ 7）..... 326
15.3.5 CSn ウェイトコントロールレジスタ 1（CSnWCR1）（n = 0, 1, 4 ～ 7）..... 328
15.3.6 CSn ウェイトコントロールレジスタ 2（CSnWCR2）（n = 0, 1, 4 ～ 7）..... 330
15.3.7 マスタバスコントロールレジスタ（BUSMCNT<master>）..... 333

15.3.8 スレーブバスコントロールレジスタ（BUSSCNT<slave>）..... 334
15.3.9 バスエラーアドレスレジスタ（BUSnERRADD）（n = 1 ～ 5）..... 336
15.3.10 バスエラーステータスレジスタ（BUSnERRSTAT）（n = 1 ～ 4）..... 337
15.4 エンディアン形式とデータアライメント 338
15.4.1 CS 領域のデータアライメント制御 338
15.4.1.1 8 ビットバス空間 338
15.5 CS 領域コントローラの動作説明 340
15.5.1 セパレートバス 340
15.5.1.1 Tw1 ～ Twn（ノーマルリードサイクルウェイト、ノーマルライトサイクルウェイト）..... 340
15.5.1.2 Tend（ストローブ信号有効サイクル）..... 340
15.5.1.3 Tn1 ～ Tnm（CS 延長サイクル）..... 340
15.5.1.4 Tdw1 ～ Tdwn（ライトデータ出力延長サイクル）..... 341
15.5.1.5 Tpw1 ～ Tpwn（ページリードサイクルウェイト、ページライトサイクルウェイト）..... 341
15.5.1.6 Tr1 ～ Trn（リカバリサイクル）..... 341
15.5.2 アドレス／データマルチプレクスバス 353
15.5.2.1 Ta1 ～ Tan（アドレスサイクルウェイト）..... 353
15.5.3 外部ウェイト機能 355
15.5.4 リカバリサイクルの挿入 358
15.5.5 非アクセス時の状態 362
15.5.6 ライトバッファ機能（外部バス）..... 362
15.5.7 制限事項 362
15.5.7.1 セパレートバスインタフェース使用時の制限事項 362
15.5.7.2 アドレス／データマルチプレクスバスインタフェース使用時の制限事項 363
15.5.7.3 EBCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を選択した場合の制限事項 363
15.5.7.4 命令コードの制限 363
15.6 バスエラー監視 364
15.6.1 バスエラーの種類 364
15.6.2 バスエラー発生時の動作 364
15.6.3 不正アドレスアクセスエラーを引き起こす条件 365
15.6.4 タイムアウト 365
15.7 フラッシュキャッシュ使用時の注意事項 366
15.8 参考資料 366
16. メモリプロテクションユニット（MPU）..... 367
16.1 概要 367
16.2 CPU スタックポインタモニタ 368
16.2.1 レジスタの説明 371
16.2.1.1 メインスタックポインタモニタ開始アドレスレジスタ（MSPMPUSA）..... 371
16.2.1.2 メインスタックポインタモニタ終了アドレスレジスタ（MSPMPUEA）..... 371
16.2.1.3 プロセススタックポインタモニタ開始アドレスレジスタ（PSPMPUSA）..... 372
16.2.1.4 プロセススタックポインタモニタ終了アドレスレジスタ（PSPMPUEA）..... 372

16.2.1.5 スタックポインタモニタ検出後動作レジスタ（MSPMPUOAD, PSPMPUOAD）..... 373
16.2.1.6 スタックポインタモニタアクセスコントロールレジスタ（MSPMPUCTL, PSPMPUCTL）..... 374
16.2.1.7 スタックポインタモニタ保護レジスタ（MSPMPUPT, PSPMPUPT）..... 375
16.2.2 動作説明 376
16.2.2.1 レジスタの保護 376
16.2.2.2 オーバーフローエラーとアンダーフローエラー 376
16.3 Arm MPU 376
16.4 バスマスタ MPU 377
16.4.1 レジスタの説明 379
16.4.1.1 グループ A 領域 n 開始アドレスレジスタ（MMPUSAn）（n = 0 ～ 31）..... 379
16.4.1.2 グループ A 領域 n 終了アドレスレジスタ（MMPUEAn）（n = 0 ～ 31）..... 380
16.4.1.3 グループ A 領域 n アクセスコントロールレジスタ（MMPUACAn）（n = 0 ～ 31）..... 381
16.4.1.4 バスマスタ MPU コントロールレジスタ（MMPUCTLA）..... 383
16.4.1.5 グループ A レジスタ保護（MMPUPTA）..... 384
16.4.2 動作説明 384
16.4.2.1 メモリプロテクション 384
16.4.2.2 レジスタの保護 387
16.4.2.3 メモリプロテクションエラー 387
16.5 バススレーブ MPU 388
16.5.1 レジスタの説明 389
16.5.1.1 メモリバス 3 アクセスコントロールレジスタ（SMPUMBIU）..... 389
16.5.1.2 内部周辺バス 9 アクセスコントロールレジスタ（SMPUFBIU）..... 390
16.5.1.3 メモリバス 4 アクセスコントロールレジスタ（SMPUSRAM0）..... 391
16.5.1.4 メモリバス 5 アクセスコントロールレジスタ（SMPUSRAM1）..... 392
16.5.1.5 内部周辺バス 1 アクセスコントロールレジスタ（SMPUP0BIU）..... 393
16.5.1.6 内部周辺バス 3 アクセスコントロールレジスタ（SMPUP2BIU）..... 394
16.5.1.7 内部周辺バス 7 アクセスコントロールレジスタ（SMPUP6BIU）..... 395
16.5.1.8 CS 領域アクセスコントロールレジスタ（SMPUEXBIU）..... 396
16.5.1.9 QSPI 領域アクセスコントロールレジスタ（SMPUEXBIU2）..... 397
16.5.1.10 スレーブ MPU コントロールレジスタ（SMPUCTL）..... 398
16.5.2 動作説明 399
16.5.2.1 メモリプロテクション 399
16.5.2.2 レジスタの保護 399
16.5.2.3 メモリプロテクションエラー 399
16.6 セキュリティ MPU 400
16.6.1 レジスタの説明（オプション設定メモリ）..... 401
16.6.1.1 セキュリティ MPU プログラムカウンタ開始アドレスレジスタ（SECMPUPCSn）（n = 0, 1）..... 401
16.6.1.2 セキュリティ MPU プログラムカウンタ終了アドレスレジスタ（SECMPUPCEn）（n = 0, 1）..... 402

16.6.1.3 セキュリティ MPU 領域 0 開始アドレスレジスタ（SECMPUS0）..... 402
16.6.1.4 セキュリティ MPU 領域 0 終了アドレスレジスタ（SECMPUE0）..... 403
16.6.1.5 セキュリティ MPU 領域 1 開始アドレスレジスタ（SECMPUS1）..... 403
16.6.1.6 セキュリティ MPU 領域 1 終了アドレスレジスタ（SECMPUE1）..... 404
16.6.1.7 セキュリティ MPU 領域 2 開始アドレスレジスタ（SECMPUS2）..... 405
16.6.1.8 セキュリティ MPU 領域 2 終了アドレスレジスタ（SECMPUE2）..... 406
16.6.1.9 セキュリティ MPU 領域 3 開始アドレスレジスタ（SECMPUS3）..... 407
16.6.1.10 セキュリティ MPU 領域 3 終了アドレスレジスタ（SECMPUE3）..... 408
16.6.1.11 セキュリティ MPU アクセスコントロールレジスタ（SECMPUAC）..... 409
16.6.2 メモリプロテクション 410
16.6.3 使用上の注意事項 411
16.7 参考資料 411
17. DMA コントローラ（DMAC）..... 412
17.1 概要 412
17.2 レジスタの説明 414
17.2.1 DMA 転送元アドレスレジスタ（DMSAR）..... 414
17.2.2 DMA 転送先アドレスレジスタ（DMDAR）..... 414
17.2.3 DMA 転送カウントレジスタ（DMCRA）..... 415
17.2.4 DMA ブロック転送カウントレジスタ（DMCRB）..... 417
17.2.5 DMA 転送モードレジスタ（DMTMD）..... 418
17.2.6 DMA 割り込み設定レジスタ（DMINT）..... 419
17.2.7 DMA アドレスモードレジスタ（DMAMD）..... 421
17.2.8 DMA オフセットレジスタ（DMOFR）..... 424
17.2.9 DMA 転送イネーブルレジスタ（DMCNT）..... 424
17.2.10 DMA ソフトウェア起動レジスタ（DMREQ）..... 425
17.2.11 DMA ステータスレジスタ（DMSTS）..... 426
17.2.12 DMAC モジュール起動レジスタ（DMAST）..... 428
17.3 動作説明 429
17.3.1 転送モード 429
17.3.2 拡張リピート領域機能 433
17.3.3 オフセットを使用したアドレス更新機能 435
17.3.4 起動要因 439
17.3.5 動作タイミング 440
17.3.6 DMAC の実行サイクル 441
17.3.7 DMAC の起動 442
17.3.8 DMA 転送の開始 443
17.3.9 DMA 転送中のレジスタ 443
17.3.10 チャネル優先順位 444
17.4 DMA 転送の終了 445
17.4.1 設定した総転送回数完了による転送終了 445
17.4.2 リピートサイズ終了割り込みによる転送終了 445

17.4.3 拡張リピート領域オーバーフロー割り込みによる転送終了 445
17.4.4 DMA 転送の終了に関する注意事項 446
17.5 割り込み 447
17.6 イベントリンク 449
17.7 低消費電力機能 449
17.8 使用上の注意事項 450
17.8.1 外部デバイスへの DMA 転送について 450
17.8.2 DMA 転送中のレジスタアクセスについて 450
17.8.3 予約領域への DMA 転送について 450
17.8.4 割り込みコントローラユニットの DMAC イベントリンク設定レジスタ（ICU.DELSRn）の設定 450
17.8.5 DMA 起動の保留／再開方法 450
18. データトランスファコントローラ（DTC） 451
18.1 概要 451
18.2 レジスタの説明 453
18.2.1 DTC モードレジスタ A（MRA） 453
18.2.2 DTC モードレジスタ B（MRB） 454
18.2.3 DTC 転送元レジスタ（SAR） 455
18.2.4 DTC 転送先レジスタ（DAR） 455
18.2.5 DTC 転送カウントレジスタ A（CRA） 456
18.2.6 DTC 転送カウントレジスタ B（CRB） 457
18.2.7 DTC コントロールレジスタ（DTCCR） 457
18.2.8 DTC ベクタベースレジスタ（DTCVBR） 458
18.2.9 DTC モジュール起動レジスタ（DTCST） 458
18.2.10 DTC ステータスレジスタ（DTCSTS） 459
18.3 起動要因 460
18.3.1 転送情報の配置と DTC ベクタテーブル 460
18.4 動作説明 462
18.4.1 転送情報のリードスキップ機能 464
18.4.2 転送情報のライトバックスキップ機能 465
18.4.3 ノーマル転送モード 466
18.4.4 リピート転送モード 467
18.4.5 ブロック転送モード 469
18.4.6 チェーン転送 470
18.4.7 動作タイミング 471
18.4.8 DTC の実行サイクル 473
18.4.9 DTC のバス権解放タイミング 473
18.5 DTC の設定手順 474
18.6 DTC の使用例 475
18.6.1 ノーマル転送 475
18.6.2 チェーン転送 476
18.6.3 カウンタ = 0 のときのチェーン転送 478

18.7 割り込み要因 480
18.8 イベントリンク 480
18.9 スヌーズ制御インタフェース 480
18.10 モジュールストップ機能 480
18.11 使用上の注意事項 481
18.11.1 転送情報の開始アドレス 481
19. イベントリンクコントローラ（ELC） 482
19.1 概要 482
19.2 レジスタの説明 483
19.2.1 イベントリンクコントローラレジスタ（ELCR） 483
19.2.2 イベントリンクソフトウェアイベント発生レジスタ n（ELSEGRn）（n = 0, 1） 484
19.2.3 イベントリンク設定レジスタ（ELSRn）（n = 0 ～ 18） 485
19.3 動作説明 492
19.3.1 割り込み処理とイベントリンクの関係 492
19.3.2 イベントのリンク 492
19.3.3 イベントリンクの動作設定手順例 492
19.4 使用上の注意事項 493
19.4.1 DMAC または DTC 転送終了のイベントリンクを使用する場合 493
19.4.2 クロック設定について 493
19.4.3 モジュールストップ機能の設定 493
19.4.4 ELC 遅延時間 493
20. I/O ポート 494
20.1 概要 494
20.2 レジスタの説明 496
20.2.1 ポートコントロールレジスタ 1（PCNTR1/PODR/PDR） 496
20.2.2 ポートコントロールレジスタ 2（PCNTR2/EIDR/PIDR） 497
20.2.3 ポートコントロールレジスタ 3（PCNTR3/PORR/POSR） 498
20.2.4 ポートコントロールレジスタ 4（PCNTR4/EORR/EOSR） 499
20.2.5 ポート mn 端子機能選択レジスタ（PmnPFS/PmnPFS_HA/PmnPFS_BY）（m = 0 ～ 7; n = 00 ～ 15） 500
20.2.6 書き込みプロテクトレジスタ（PWPR） 502
20.3 動作説明 503
20.3.1 汎用入出力ポート 503
20.3.2 ポート機能選択 503
20.3.3 ELC のポートグループ機能 504
20.3.3.1 ELC から ELC_PORT1, 2, 3, 4 が入力された場合の動作 504
20.3.3.2 イベントパルスが ELC に出力された場合の動作 505
20.4 未使用端子の処理 506
20.5 使用上の注意事項 507
20.5.1 端子機能の設定手順 507
20.5.2 ポートグループ入力の使用手順 507
20.5.3 ポート出力データレジスタ（PODR）の概要 507

20.5.4 アナログ機能使用時の注意事項 507
20.5.5 入出力バッファの仕様 508
20.6 製品ごとの周辺選択設定 509
20.7 PmnPFS レジスタ設定に関する注意事項 509
21. キー割り込み機能（KINT） 519
21.1 概要 519
21.2 レジスタの説明 521
21.2.1 キーリターンコントロールレジスタ（KRCTL） 521
21.2.2 キーリターンフラグレジスタ（KRF） 521
21.2.3 キーリターンモードレジスタ（KRM） 522
21.3 動作説明 523
21.3.1 キー割り込みフラグを使用しない場合の動作（KRMD = 0） 523
21.3.2 キー割り込みフラグを使用する場合の動作（KRMD = 1） 524
21.4 使用上の注意事項 526
22. GPT 用ポートアウトプットイネーブル（POEG） 527
22.1 概要 527
22.2 レジスタの説明 529
22.2.1 POEG グループ n 設定レジスタ（POEGGn）（n = A ～ D） 529
22.3 出力禁止制御の動作 531
22.3.1 端子入力レベル検出時の動作 531
22.3.1.1 デジタルフィルタ 532
22.3.2 GPT からの出力禁止要求 532
22.3.3 コンパレータ割り込みの検出 532
22.3.4 発振停止検出による出力禁止制御 532
22.3.5 レジスタによる出力禁止制御 532
22.3.6 出力禁止状態の解除 533
22.4 割り込み要因 534
22.5 GPT に対する外部トリガ出力 535
22.6 使用上の注意事項 535
22.6.1 ソフトウェアスタンバイモードへの遷移 535
22.6.2 GPT 対応端子の指定 535
23. 汎用 PWM タイマ（GPT） 536
23.1 概要 536
23.2 レジスタの説明 541
23.2.1 汎用 PWM タイマ書き込み保護レジスタ（GTWP） 543
23.2.2 汎用 PWM タイマソフトウェアスタートレジスタ（GTSTR） 544
23.2.3 汎用 PWM タイマソフトウェアストップレジスタ（GTSTP） 545
23.2.4 汎用 PWM タイマソフトウェアクリアレジスタ（GTCLR） 545
23.2.5 汎用 PWM タイマスタート要因選択レジスタ（GTSSR） 546
23.2.6 汎用 PWM タイマストップ要因選択レジスタ（GTPSR） 550
23.2.7 汎用 PWM タイマクリア要因選択レジスタ（GTCSR） 554

23.2.8 汎用 PWM タイマアップカウント要因選択レジスタ（GTUPSR）..... 557
23.2.9 汎用 PWM タイマダウンカウント要因選択レジスタ（GTDNSR）..... 561
23.2.10 汎用 PWM タイマインプットキャプチャ要因選択レジスタ A（GTICASR）..... 565
23.2.11 汎用 PWM タイマインプットキャプチャ要因選択レジスタ B（GTICBSR）..... 569
23.2.12 汎用 PWM タイマコントロールレジスタ（GTCR）..... 573
23.2.13 汎用 PWM タイマカウント方向、デューティ設定レジスタ（GTUDDTYC）..... 575
23.2.14 汎用 PWM タイマ I/O コントロールレジスタ（GTIOR）..... 578
23.2.15 汎用 PWM タイマ割り込み出力設定レジスタ（GTINTAD）..... 582
23.2.16 汎用 PWM タイマステータスレジスタ（GTST）..... 584
23.2.17 汎用 PWM タイマバッファイネーブルレジスタ（GTBER）..... 590
23.2.18 汎用 PWM タイマ割り込み、A/D 変換開始要求間引き設定レジスタ（GTITC）..... 593
23.2.19 汎用 PWM タイマカウンタ（GTCNT）..... 595
23.2.20 汎用 PWM タイマコンペアキャプチャレジスタ n（GTCCRn）（n = A ～ F）..... 595
23.2.21 汎用 PWM タイマ周期設定レジスタ（GTPR）..... 596
23.2.22 汎用 PWM タイマ周期設定バッファレジスタ（GTPBR）..... 596
23.2.23 汎用 PWM タイマ周期設定ダブルバッファレジスタ（GTPDBR）..... 596
23.2.24 A/D 変換開始要求タイミングレジスタ n （GTADTRn）（n = A, B）..... 597
23.2.25 A/D 変換開始要求タイミングバッファレジスタ n（GTADTBRn）（n = A, B）..... 597
23.2.26 A/D 変換開始要求タイミングダブルバッファレジスタ n（GTADTDBRn）（n = A, B）..... 598
23.2.27 汎用 PWM タイマデッドタイムコントロールレジスタ（GTDTCR）..... 599
23.2.28 汎用 PWM タイマデッドタイム値レジスタ n（GTDVn）（n = U, D）..... 601
23.2.29 汎用 PWM タイマデッドタイムバッファレジスタ n（GTDBn）（n = U, D）..... 602
23.2.30 汎用 PWM タイマ出力保護機能ステータスレジスタ（GTSOS）..... 602
23.2.31 汎用 PWM タイマ出力保護機能一時解除レジスタ（GTSOTR）..... 603
23.2.32 出力相切り替えコントロールレジスタ（OPSCR）..... 604
23.3 動作説明 607
23.3.1 基本動作 607
23.3.1.1 カウンタの動作 607
23.3.1.2 コンペアマッチによる波形出力機能 613
23.3.1.3 インプットキャプチャ機能 617
23.3.2 バッファ動作 619
23.3.2.1 GTPR レジスタのバッファ動作 619
23.3.2.2 GTCCRA、GTCCRB レジスタのバッファ動作 622
23.3.2.3 GTADTRA、GTADTRB レジスタのバッファ動作 627
23.3.3 PWM 出力動作モード 630
23.3.3.1 のこぎり波 PWM モード 630
23.3.3.2 のこぎり波ワンショットパルスモード 632
23.3.3.3 三角波 PWM モード 1（谷 32 ビット転送）..... 635
23.3.3.4 三角波 PWM モード 2（山／谷 32 ビット転送）..... 637
23.3.3.5 三角波 PWM モード 3（谷 64 ビット転送）..... 639

23.3.4 デッドタイム自動設定機能 642
23.3.5 カウント方向切り替え機能 647
23.3.6 出力デューティ 0% および出力デューティ 100% 機能 648
23.3.7 ハードウェアカウントスタート／カウントストップ、カウントクリア動作 650
23.3.7.1 ハードウェアスタート動作 650
23.3.7.2 ハードウェアストップ動作 652
23.3.7.3 ハードウェアクリア動作 656
23.3.8 同期動作 659
23.3.8.1 ソフトウェアによる同期動作 659
23.3.8.2 ハードウェアによる同期動作 661
23.3.9 PWM 出力動作例 663
23.3.10 位相計数機能 669
23.3.11 出力相切り替え（GPT_OPS） 679
23.3.11.1 外部入力信号の同期および入力選択 683
23.3.11.2 入力サンプリング 683
23.3.11.3 入力相デコード 684
23.3.11.4 出力選択制御 684
23.3.11.5 出力選択制御（グループ出力禁止機能） 685
23.3.11.6 イベントリンクコントローラ（ELC）出力 685
23.3.11.7 GPT_OPS スタート動作設定フロー 686
23.4 割り込み要因 687
23.4.1 DMAC/DTC 起動 694
23.4.2 割り込み、A/D 変換要求の間引き機能 694
23.5 A/D 変換開始要求 698
23.6 ELC によるリンク動作 700
23.6.1 ELC へのイベント信号出力 700
23.6.2 ELC からのイベント信号入力 700
23.7 ノイズフィルタ機能 701
23.8 保護機能 702
23.8.1 レジスタの書き込み保護 702
23.8.2 バッファ動作の禁止 702
23.8.3 GTIOC 端子出力のネゲート制御 703
23.8.4 GTIOC 端子出力の出力保護機能 704
23.8.4.1 バッファ転送中に GTCCRA レジスタが 0 になった場合の出力保護機能 704
23.8.4.2 谷でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタ≧ GTPR レジスタとなった場合の出力保護機能 709
23.8.4.3 山でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタ≧ GTPR レジスタとなった場合の出力保護機能 711
23.8.4.4 出力保護機能の注意事項 712
23.8.4.5 出力保護機能の一時解除 712
23.9 出力端子の初期化方法 714
23.9.1 リセット後の端子設定 714

23.9.2 動作中の異常による端子の初期化 714
23.10 使用上の注意事項 715
23.10.1 モジュールストップ機能の設定 715
23.10.2 コンペアマッチ動作時の GTCCRn レジスタの設定（n = A ～ F） 715
23.10.3 GTCNT カウンタの範囲設定 716
23.10.4 GTCNT カウンタのスタート／ストップ 716
23.10.5 イベントごとの優先順位 717
24. PWM 遅延生成回路 718
24.1 概要 718
24.2 レジスタの説明 720
24.2.1 PWM 出力遅延コントロールレジスタ（GTDLYCR） 720
24.2.2 PWM 出力遅延コントロールレジスタ 2（GTDLYCR2） 721
24.2.3 GTIOCnA 立ち上がり出力遅延レジスタ（GTDLYRnA）（n = 0 ～ 3） 722
24.2.4 GTIOCnA 立ち下がり出力遅延レジスタ（GTDLYFnA）（n = 0 ～ 3） 723
24.2.5 GTIOCnB 立ち上がり出力遅延レジスタ（GTDLYRnB）（n = 0 ～ 3） 724
24.2.6 GTIOCnB 立ち下がり出力遅延レジスタ（GTDLYFnB）（n = 0 ～ 3） 725
24.3 動作説明 726
24.3.1 PWM 波形の立ち上がりおよび立ち下がりエッジのタイミング調整 726
24.3.2 GTDLYRnA、GTLDYRnB、GTDLYFnA、GTDLYFnB レジスタ設定値の転送タイミング 727
24.4 使用上の注意事項 729
24.4.1 モジュールストップ機能の設定 729
24.4.2 PWM 遅延生成回路の遅延設定に関する注意事項 729
25. 低消費電力非同期汎用タイマ（AGT） 730
25.1 概要 730
25.2 レジスタの説明 732
25.2.1 AGT カウンタレジスタ（AGT） 732
25.2.2 AGT コンペアマッチ A レジスタ（AGTCMA） 732
25.2.3 AGT コンペアマッチ B レジスタ（AGTCMB） 733
25.2.4 AGT コントロールレジスタ（AGTCR） 734
25.2.5 AGT モードレジスタ 1（AGTMR1） 736
25.2.6 AGT モードレジスタ 2（AGTMR2） 737
25.2.7 AGT I/O コントロールレジスタ（AGTIOC） 738
25.2.8 AGT イベント端子選択レジスタ（AGTISR） 739
25.2.9 AGT コンペアマッチ機能選択レジスタ（AGTCMSR） 739
25.2.10 AGT 端子選択レジスタ（AGTIOSEL） 740
25.3 動作説明 741
25.3.1 リロードレジスタおよびカウンタの書き換え動作 741
25.3.2 リロードレジスタおよびコンペアレジスタ A/B の書き換え動作 743
25.3.3 タイマモード 744
25.3.4 パルス出力モード 745

25.3.5 イベントカウンタモード 746
25.3.6 パルス幅測定モード 748
25.3.7 パルス周期測定モード 749
25.3.8 コンペアマッチ機能 750
25.3.9 各モードの出力設定 752
25.3.10 スタンバイモード 754
25.3.11 割り込み要因 754
25.3.12 ELC へのイベント信号出力 755
25.4 使用上の注意事項 756
25.4.1 カウント動作の開始および停止制御 756
25.4.2 カウンタレジスタへのアクセス 756
25.4.3 モード変更時 757
25.4.4 デジタルフィルタ 757
25.4.5 イベント番号、パルス幅、およびパルス周期の計算方法 757
25.4.6 TSTOP ビットで強制的にカウントを停止した場合 757
25.4.7 カウントソースとして AGT0 アンダーフローを選択した場合 758
25.4.8 I/O レジスタのリセット 758
25.4.9 カウントソースに PCLKB、PCLKB/8、または PCLKB/2 を選択した場合 758
25.4.10 カウントソースに AGTSCLK または AGTLCLK を選択した場合 758
25.4.11 クロックソースを切り替える場合 758
26. リアルタイムクロック（RTC） 759
26.1 概要 759
26.2 レジスタの説明 761
26.2.1 64Hz カウンタ（R64CNT） 761
26.2.2 秒カウンタ （RSECCNT）／バイナリカウンタ 0（BCNT0） 762
26.2.3 分カウンタ （RMINCNT）／バイナリカウンタ 1（BCNT1） 763
26.2.4 時カウンタ （RHRCNT）／バイナリカウンタ 2（BCNT2） 764
26.2.5 曜日カウンタ （RWKCNT）／バイナリカウンタ 3（BCNT3） 765
26.2.6 日カウンタ（RDAYCNT） 766
26.2.7 月カウンタ（RMONCNT） 766
26.2.8 年カウンタ（RYRCNT） 767
26.2.9 秒アラームレジスタ （RSECAR）／バイナリカウンタ 0 アラームレジスタ（BCNT0AR） 768
26.2.10 分アラームレジスタ （RMINAR）／バイナリカウンタ 1 アラームレジスタ（BCNT1AR） 769
26.2.11 時アラームレジスタ （RHRAR）／バイナリカウンタ 2 アラームレジスタ（BCNT2AR） 770
26.2.12 曜日アラームレジスタ （RWKAR）／バイナリカウンタ 3 アラームレジスタ（BCNT3AR） 772
26.2.13 日アラームレジスタ （RDAYAR）／バイナリカウンタ 0 アラームイネーブルレジスタ（BCNT0AER） 774
26.2.14 月アラームレジスタ （RMONAR）／バイナリカウンタ 1 アラームイネーブルレジスタ（BCNT1AER） 775

26.2.15 年アラームレジスタ （RYRAR）／バイナリカウンタ 2 アラームイネーブルレジスタ（BCNT2AER） ... 776
26.2.16 年アラームイネーブルレジスタ （RYRAREN）／バイナリカウンタ 3 アラームイネーブルレジスタ（BCNT3AER） ... 777
26.2.17 RTC コントロールレジスタ 1（RCR1） ... 778
26.2.18 RTC コントロールレジスタ 2（RCR2） ... 780
26.2.19 RTC コントロールレジスタ 4（RCR4） ... 784
26.2.20 周波数レジスタ（RFRH/RFRL） ... 785
26.2.21 時計誤差補正レジスタ（RADJ） ... 786
26.2.22 時間キャプチャコントロールレジスタ y（RTCCRy）（y = 0 ～ 2） ... 787
26.2.23 秒キャプチャレジスタ y（RSECCPy）（y = 0 ～ 2）／ BCNT0 キャプチャレジスタ y（BCNT0CPy）（y = 0 ～ 2） ... 789
26.2.24 分キャプチャレジスタ y（RMINCPy）（y = 0 ～ 2）／ BCNT1 キャプチャレジスタ y（BCNT1CPy）（y = 0 ～ 2） ... 790
26.2.25 時キャプチャレジスタ y（RHRCPy）（y = 0 ～ 2）／ BCNT2 キャプチャレジスタ y（BCNT2CPy）（y = 0 ～ 2） ... 791
26.2.26 日キャプチャレジスタ y（RDAYCPy）（y = 0 ～ 2）／ BCNT3 キャプチャレジスタ y（BCNT3CPy）（y = 0 ～ 2） ... 792
26.2.27 月キャプチャレジスタ y（RMONCPy）（y = 0 ～ 2） ... 793
26.3 動作説明 ... 794
26.3.1 電源投入後のレジスタ初期設定の概要 ... 794
26.3.2 クロックおよびカウントモードの設定手順 ... 795
26.3.3 時刻の設定 ... 796
26.3.4 30 秒調整 ... 797
26.3.5 64Hz カウンタと時刻の読み出し ... 798
26.3.6 アラーム機能 ... 799
26.3.7 アラーム割り込み禁止手順 ... 800
26.3.8 時計誤差補正機能 ... 801
26.3.8.1 自動補正 ... 801
26.3.8.2 ソフトウェアによる補正 ... 802
26.3.8.3 補正モードの変更手順 ... 802
26.3.8.4 補正の停止手順 ... 803
26.3.8.5 時間キャプチャ ... 803
26.4 割り込み要因 ... 804
26.5 イベントリンク出力 ... 806
26.5.1 割り込み処理とイベントリンク機能 ... 806
26.6 使用上の注意事項 ... 806
26.6.1 カウント動作時のレジスタ書き込みについて ... 806
26.6.2 周期割り込みの使用について ... 807
26.6.3 RTCOUT（1Hz/64Hz）クロック出力について ... 807
26.6.4 レジスタ設定後の低消費電力モードへの遷移について ... 807
26.6.5 レジスタの書き込み／読み出し時の注意事項 ... 808
26.6.6 カウントモードの変更について ... 808

26.6.7 リアルタイムクロック（RTC）を使用しない場合の初期化手順 809
26.6.8 クロックソースを切り替える場合 809
27. ウォッチドッグタイマ（WDT） 810
27.1 概要 810
27.2 レジスタの説明 812
27.2.1 WDT リフレッシュレジスタ（WDTRR） 812
27.2.2 WDT コントロールレジスタ（WDTCR） 813
27.2.3 WDT ステータスレジスタ（WDTSR） 816
27.2.4 WDT リセットコントロールレジスタ（WDTRCR） 817
27.2.5 WDT カウント停止コントロールレジスタ（WDTCSTPR） 818
27.2.6 オプション機能選択レジスタ 0（OFS0） 818
27.3 動作説明 819
27.3.1 スタートモード別のカウント動作 819
27.3.1.1 レジスタスタートモード 819
27.3.1.2 オートスタートモード 821
27.3.2 WDTCR、WDTRCR、および WDTCSTPR レジスタへの書き込み制御 823
27.3.3 リフレッシュ動作 824
27.3.4 リセット出力 825
27.3.5 割り込み要因 825
27.3.6 ダウンカウンタ値の読み出し 825
27.3.7 オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）と WDT レジスタの対応関係 826
27.4 ELC によるリンク動作 826
27.5 使用上の注意事項 826
27.5.1 ICU イベントリンク設定レジスタ n（IELSRn）の設定 826
28. 独立ウォッチドッグタイマ（IWDT） 827
28.1 概要 827
28.2 レジスタの説明 829
28.2.1 IWDT リフレッシュレジスタ（IWDTRR） 829
28.2.2 IWDT ステータスレジスタ（IWDTSR） 830
28.2.3 オプション機能選択レジスタ 0（OFS0） 832
28.3 動作説明 835
28.3.1 オートスタートモード 835
28.3.2 リフレッシュ動作 837
28.3.3 ステータスフラグ 838
28.3.4 リセット出力 838
28.3.5 割り込み要因 839
28.3.6 ダウンカウンタ値の読み出し 839
28.4 ELC によるリンク動作 840
28.5 使用上の注意事項 840
28.5.1 リフレッシュ動作 840
28.5.2 クロック分周比の設定に関する制限 840

29. USB2.0 フルスピードモジュール（USBFS） 841
29.1 概要 841
29.2 レジスタの説明 843
29.2.1 システムコンフィグレーションコントロールレジスタ（SYSCFG） 843
29.2.2 システムコンフィグレーションステータスレジスタ 0（SYSSTS0） 845
29.2.3 デバイスステートコントロールレジスタ 0（DVSTCTR0） 847
29.2.4 CFIFO ポートレジスタ（CFIFO/CFIFOL）
D0FIFO ポートレジスタ（D0FIFO/D0FIFOL）
D1FIFO ポートレジスタ（D1FIFO/D1FIFOL） 850
29.2.5 CFIFO ポート選択レジスタ（CFIFOSEL）
D0FIFO ポート選択レジスタ（D0FIFOSEL）
D1FIFO ポート選択レジスタ（D1FIFOSEL） 852
29.2.6 CFIFO ポートコントロールレジスタ（CFIFOCTR）
D0FIFO ポートコントロールレジスタ（D0FIFOCTR）
D1FIFO ポートコントロールレジスタ（D1FIFOCTR） 856
29.2.7 割り込みイネーブルレジスタ 0（INTENB0） 858
29.2.8 割り込みイネーブルレジスタ 1（INTENB1） 859
29.2.9 BRDY 割り込みイネーブルレジスタ（BRDYENB） 860
29.2.10 NRDY 割り込みイネーブルレジスタ（NRDYENB） 861
29.2.11 BEMP 割り込みイネーブルレジスタ（BEMPENB） 862
29.2.12 SOF 出力コンフィグレーションレジスタ（SOFCFG） 863
29.2.13 割り込みステータスレジスタ 0（INTSTS0） 864
29.2.14 割り込みステータスレジスタ 1（INTSTS1） 867
29.2.15 BRDY 割り込みステータスレジスタ（BRDYSTS） 870
29.2.16 NRDY 割り込みステータスレジスタ（NRDYSTS） 871
29.2.17 BEMP 割り込みステータスレジスタ（BEMPSTS） 872
29.2.18 フレームナンバレジスタ（FRMNUM） 873
29.2.19 デバイスステート切り替えレジスタ（DVCHGR） 874
29.2.20 USB アドレスレジスタ（USBADDR） 875
29.2.21 USB リクエストタイプレジスタ（USBREQ） 876
29.2.22 USB リクエストバリューレジスタ（USBVAL） 877
29.2.23 USB リクエストインデックスレジスタ（USBINDX） 878
29.2.24 USB リクエストレングスレジスタ（USBLENG） 879
29.2.25 DCP コンフィグレーションレジスタ（DCPCFG） 880
29.2.26 DCP マックスパケットサイズレジスタ（DCPMAXP） 881
29.2.27 DCP コントロールレジスタ（DCPCTR） 882
29.2.28 パイプウィンドウ選択レジスタ（PIPESEL） 886
29.2.29 パイプコンフィグレーションレジスタ（PIPECFG） 887
29.2.30 パイプマックスパケットサイズレジスタ（PIPEMAXP） 889
29.2.31 パイプ周期コントロールレジスタ（PIPEPERI） 890
29.2.32 パイプ n コントロールレジスタ（PIPEnCTR）（n = 1 ～ 9） 891
29.2.33 パイプ n トランザクションカウンタイネーブルレジスタ（PIPEnTRE）
（n = 1 ～ 5） 898

29.2.34 パイプ n トランザクションカウンタレジスタ（PIPEnTRN）（n = 1 ～ 5） 899
29.2.35 デバイスアドレス n コンフィグレーションレジスタ（DEVADDn）（n = 0 ～ 5） 900
29.2.36 PHY クロスポイント調整レジスタ（PHYSLEW） 901
29.2.37 ディープソフトウェアスタンバイ USB トランシーバコントロール／端子モニタレジスタ（DPUSR0R） 902
29.2.38 ディープソフトウェアスタンバイ USB サスペンド／レジューム割り込みレジスタ（DPUSR1R） 903
29.3 動作説明 905
29.3.1 システム制御 905
29.3.1.1 USBFS 関連レジスタへのデータ設定 905
29.3.1.2 コントローラ機能の選択 905
29.3.1.3 抵抗による USB データバス制御 905
29.3.1.4 外部接続回路例 906
29.3.1.5 USB のサスペンド／レジューム割り込みによるディープソフトウェアスタンバイモードの解除 910
29.3.2 割り込み 914
29.3.3 割り込みの説明 917
29.3.3.1 BRDY 割り込み 917
29.3.3.2 NRDY 割り込み 920
29.3.3.3 BEMP 割り込み 922
29.3.3.4 デバイスステート遷移割り込み（デバイスコントローラモード） 924
29.3.3.5 コントロール転送ステージ遷移割り込み（デバイスコントローラモード時） .. 925
29.3.3.6 フレーム番号更新割り込み 926
29.3.3.7 VBUS 割り込み 926
29.3.3.8 レジューム割り込み 926
29.3.3.9 OVRCR 割り込み 926
29.3.3.10 BCHG 割り込み 927
29.3.3.11 DTCH 割り込み 927
29.3.3.12 SACK 割り込み 927
29.3.3.13 SIGN 割り込み 927
29.3.3.14 ATTCH 割り込み 927
29.3.3.15 EOFERR 割り込み 927
29.3.4 パイプコントロール 928
29.3.4.1 パイプコントロールレジスタの切り替え手順 929
29.3.4.2 転送タイプ 929
29.3.4.3 エンドポイント番号 929
29.3.4.4 最大パケットサイズ設定 930
29.3.4.5 トランザクションカウンタ（受信方向パイプ 1 ～ 5） 930
29.3.4.6 応答 PID 930
29.3.4.7 データ PID シーケンスビット 931
29.3.4.8 応答 PID = NAK 機能 932
29.3.4.9 自動応答モード 932

29.3.4.10 OUT-NAK モード 932
29.3.4.11 Null 自動応答モード 932
29.3.5 FIFO バッファメモリ 933
29.3.6 FIFO バッファクリア 934
29.3.7 FIFO ポートの機能 934
29.3.8 DMA 転送（D0FIFO/D1FIFO ポート） 935
29.3.9 DCP を使用したコントロール転送 936
29.3.9.1 ホストコントローラモードでのコントロール転送 936
29.3.9.2 デバイスコントローラモードでのコントロール転送 937
29.3.10 バルク転送（パイプ 1 ～ 5） 938
29.3.11 インタラプト転送（パイプ 6 ～ 9） 938
29.3.11.1 ホストコントローラモードでのインタラプト転送時のインターバルカウンタ 938
29.3.12 アイソクロナス転送（パイプ 1 ～ 2） 939
29.3.12.1 アイソクロナス転送のエラー検出 939
29.3.12.2 DATA-PID 940
29.3.12.3 インターバルカウンタ 941
29.3.13 SOF 補完機能 946
29.3.14 パイプスケジュール 947
29.3.14.1 トランザクション発行条件 947
29.3.14.2 転送スケジュール 947
29.3.14.3 USB 通信許可 947
29.4 使用上の注意事項 948
29.4.1 モジュールストップ状態の設定 948
29.4.2 ソフトウェアスタンバイモード終了時の割り込みステータスレジスタのクリア 948
29.4.3 ポート機能設定後の割り込みステータスレジスタのクリア 948
30. シリアルコミュニケーションインタフェース（SCI） 949
30.1 概要 949
30.2 レジスタの説明 954
30.2.1 受信シフトレジスタ（RSR） 954
30.2.2 受信データレジスタ（RDR） 954
30.2.3 受信 9 ビットデータレジスタ（RDRHL） 954
30.2.4 受信 FIFO データレジスタ H, L, HL（FRDRH, FRDRL, FRDRHL） 955
30.2.5 送信データレジスタ（TDR） 957
30.2.6 送信 9 ビットデータレジスタ（TDRHL） 957
30.2.7 送信 FIFO データレジスタ H, L, HL（FTDRH, FTDRL, FTDRHL） 958
30.2.8 送信シフトレジスタ（TSR） 959
30.2.9 非スマートカードインタフェースモード用シリアルモードレジスタ（SMR）（SCMR.SMIF = 0） 959
30.2.10 スマートカードインタフェースモード用シリアルモードレジスタ（SMR_SMCI）（SCMR.SMIF = 1） 961

30.2.11 非スマートカードインタフェースモード用シリアルコントロールレジスタ（SCR）（SCMR.SMIF = 0） ... 963
30.2.12 スマートカードインタフェースモード用シリアルコントロールレジスタ（SCR_SMCI）（SCMR.SMIF = 1） ... 965
30.2.13 非スマートカードインタフェースおよび非 FIFO モード用シリアルステータスレジスタ（SSR）（SCMR.SMIF = 0 および FCR.FM = 0） ... 967
30.2.14 非スマートカードインタフェースおよび FIFO モード用シリアルステータスレジスタ（SSR_FIFO）（SCMR.SMIF = 0 および FCR.FM = 1） ... 970
30.2.15 スマートカードインタフェースモード用シリアルステータスレジスタ（SSR_SMCI）（SCMR.SMIF = 1） ... 973
30.2.16 スマートカードモードレジスタ（SCMR） ... 976
30.2.17 ビットレートレジスタ（BRR） ... 978
30.2.18 モジュレーションデューティレジスタ（MDDR） ... 988
30.2.19 シリアル拡張モードレジスタ（SEMR） ... 991
30.2.20 ノイズフィルタ設定レジスタ（SNFR） ... 993
30.2.21 I2C モードレジスタ 1（SIMR1） ... 994
30.2.22 I2C モードレジスタ 2（SIMR2） ... 995
30.2.23 I2C モードレジスタ 3（SIMR3） ... 996
30.2.24 I2C ステータスレジスタ（SISR） ... 998
30.2.25 SPI モードレジスタ（SPMR） ... 999
30.2.26 FIFO コントロールレジスタ（FCR） ... 1001
30.2.27 FIFO データ数レジスタ（FDR） ... 1003
30.2.28 ラインステータスレジスタ（LSR） ... 1004
30.2.29 コンペアマッチデータレジスタ（CDR） ... 1005
30.2.30 データコンペアマッチコントロールレジスタ（DCCR） ... 1006
30.2.31 シリアルポートレジスタ（SPTR） ... 1008
30.3 調歩同期式モードの動作 ... 1009
30.3.1 シリアル転送フォーマット ... 1010
30.3.2 調歩同期式モードの受信データサンプリングタイミングと受信マージン ... 1012
30.3.3 クロック ... 1013
30.3.4 倍速動作とビットレートの 6 倍の周波数 ... 1013
30.3.5 CTS、RTS 機能 ... 1013
30.3.6 アドレス一致（受信データ一致）検出機能 ... 1014
30.3.7 SCI の初期化（調歩同期式モード） ... 1017
30.3.8 シリアルデータの送信（調歩同期式モード） ... 1019
30.3.9 シリアルデータの受信（調歩同期式モード） ... 1025
30.4 マルチプロセッサ通信機能 ... 1032
30.4.1 マルチプロセッサシリアルデータ送信 ... 1034
30.4.2 マルチプロセッサシリアルデータ受信 ... 1037
30.5 クロック同期式モードの動作 ... 1042
30.5.1 クロック ... 1042
30.5.2 CTS、RTS 機能 ... 1043
30.5.3 SCI の初期化（クロック同期式モード） ... 1044

30.5.4 シリアルデータの送信（クロック同期式モード） 1046
30.5.5 シリアルデータの受信（クロック同期式モード） 1051
30.5.6 シリアルデータの同時送受信動作（クロック同期式モード） 1056
30.6 スマートカードインタフェースモードの動作 1060
30.6.1 接続例 1060
30.6.2 データフォーマット（ブロック転送モード時を除く） 1061
30.6.3 ブロック転送モード 1062
30.6.4 受信データのサンプリングタイミングと受信マージン 1063
30.6.5 SCI の初期化 1064
30.6.6 シリアルデータの送信（ブロック転送モード時を除く） 1066
30.6.7 シリアルデータの受信（ブロック転送モード時を除く） 1069
30.6.8 クロック出力制御 1071
30.7 簡易 IIC モードの動作 1072
30.7.1 開始条件、再開始条件、停止条件の生成 1073
30.7.2 クロック同期化 1074
30.7.3 SDA 出力遅延 1075
30.7.4 SCI の初期化（簡易 IIC モード） 1076
30.7.5 マスタ送信動作（簡易 IIC モード） 1077
30.7.6 マスタ受信動作（簡易 IIC モード） 1079
30.8 簡易 SPI モードの動作 1081
30.8.1 マスタモード、スレーブモードと各端子の状態 1082
30.8.2 マスタモード時の SS 機能 1082
30.8.3 スレーブモード時の SS 機能 1082
30.8.4 クロックと送受信データの関係 1083
30.8.5 SCI の初期化（簡易 SPI モード） 1083
30.8.6 シリアルデータの送受信（簡易 SPI モード） 1084
30.9 ビットレートモジュレーション機能 1084
30.10 割り込み要因 1085
30.10.1 SCIn_TXI および SCIn_RXI 割り込みのバッファ動作（非 FIFO 選択時） 1085
30.10.2 SCIn_TXI および SCIn_RXI 割り込みのバッファ動作（FIFO 選択時） 1085
30.10.3 調歩同期式モード、クロック同期式モード、および簡易 SPI モードにおける割り込み 1085
30.10.4 スマートカードインタフェースモードにおける割り込み 1087
30.10.5 簡易 IIC モードにおける割り込み 1088
30.11 イベントリンク機能 1089
30.12 アドレス不一致イベント出力（SCI0_DCUF） 1090
30.13 ノイズ除去機能 1091
30.14 使用上の注意事項 1092
30.14.1 モジュールストップ状態の設定 1092
30.14.2 低消費電力状態での SCI の動作について 1092
30.14.3 ブレークの検出と処理について 1097
30.14.4 マーク状態とブレークの送出 1097

30.14.5 受信エラーフラグと送信動作（クロック同期式モードおよび簡易 SPI モード）.... 1097
30.14.6 クロック同期送信に関する制限事項（クロック同期式モードおよび簡易 SPI モード）.... 1098
30.14.7 DMAC または DTC 使用時の制限事項 1100
30.14.8 通信の開始に関する注意事項 1100
30.14.9 クロック同期式モードおよび簡易 SPI モードにおける外部クロック入力 1100
30.14.10 簡易 SPI モードの制限事項 1101
31. IrDA インタフェース 1102
31.1 概要 1102
31.2 レジスタの説明 1103
31.2.1 IrDA コントロールレジスタ（IRCR） 1103
31.3 動作説明 1104
31.3.1 IrDA インタフェースの設定手順 1104
31.3.2 送信 1104
31.3.3 受信 1104
31.4 使用上の注意事項 1105
31.4.1 モジュールストップ状態の設定 1105
31.4.2 調歩同期式モードにおける SCI1 の基準クロック 1105
32. I²C バスインタフェース（IIC） 1106
32.1 概要 1106
32.2 レジスタの説明 1109
32.2.1 I²C バスコントロールレジスタ 1（ICCR1） 1109
32.2.2 I²C バスコントロールレジスタ 2（ICCR2） 1112
32.2.3 I²C バスモードレジスタ 1（ICMR1） 1116
32.2.4 I²C バスモードレジスタ 2（ICMR2） 1117
32.2.5 I²C バスモードレジスタ 3（ICMR3） 1119
32.2.6 I²C バスファンクションイネーブルレジスタ（ICFER） 1121
32.2.7 I²C バスステータスイネーブルレジスタ（ICSER） 1123
32.2.8 I²C バス割り込みイネーブルレジスタ（ICIER） 1125
32.2.9 I²C バスステータスレジスタ 1（ICSR1） 1127
32.2.10 I²C バスステータスレジスタ 2（ICSR2） 1130
32.2.11 I²C バスウェイクアップユニットレジスタ（ICWUR） 1134
32.2.12 I²C バスウェイクアップユニットレジスタ 2（ICWUR2） 1135
32.2.13 スレーブアドレスレジスタ Ly（SARLy）（y = 0 ～ 2） 1136
32.2.14 スレーブアドレスレジスタ Uy（SARUy）（y = 0 ～ 2） 1137
32.2.15 I²C バスビットレート Low レジスタ（ICBRL） 1138
32.2.16 I²C バスビットレート High レジスタ（ICBRH） 1139
32.2.17 I²C バス送信データレジスタ（ICDRT） 1141
32.2.18 I²C バス受信データレジスタ（ICDRR） 1141
32.2.19 I²C バスシフトレジスタ（ICDRS） 1141
32.3 動作説明 1142

32.3.1 通信データフォーマット 1142
32.3.2 初期設定 1143
32.3.3 マスタ送信動作 1144
32.3.4 マスタ受信動作 1148
32.3.5 スレーブ送信動作 1153
32.3.6 スレーブ受信動作 1156
32.4 SCL 同期回路 1158
32.5 SDA 出力遅延機能 1159
32.6 デジタルノイズフィルタ回路 1160
32.7 アドレス一致検出機能 1161
32.7.1 スレーブアドレス一致検出機能 1161
32.7.2 ジェネラルコールアドレス検出機能 1163
32.7.3 デバイス ID アドレス検出機能 1163
32.7.4 ホストアドレス検出機能 1165
32.8 ウェイクアップ機能 1166
32.8.1 ノーマルウェイクアップモード 1 1167
32.8.2 ノーマルウェイクアップモード 2 1170
32.8.3 コマンドリカバリモードと EEP 応答モード（特殊ウェイクアップモード） 1173
32.8.4 WFI 命令の実行に関する注意事項 1176
32.9 SCL の自動 Low ホールド機能 1177
32.9.1 送信データの誤送信防止機能 1177
32.9.2 NACK 受信転送中断機能 1178
32.9.3 受信データ取りこぼし防止機能 1179
32.10 アービトレーションロスト検出機能 1181
32.10.1 マスタアービトレーションロスト検出機能（MALE ビット） 1181
32.10.2 NACK 送信中のアービトレーションロスト検出機能（NALE ビット） 1183
32.10.3 スレーブアービトレーションロスト検出機能（SALE ビット） 1184
32.11 スタートコンディション、リスタートコンディション、ストップコンディション発行機能 1185
32.11.1 スタートコンディション発行動作 1185
32.11.2 リスタートコンディション発行動作 1185
32.11.3 ストップコンディション発行動作 1188
32.12 バスハングアップ 1189
32.12.1 タイムアウト検出機能 1189
32.12.2 SCL クロック追加出力機能 1191
32.12.3 IIC リセット、内部リセット 1192
32.13 SMBus 動作 1193
32.13.1 SMBus タイムアウト測定 1193
32.13.2 パケットエラーコード（PEC） 1194
32.13.3 SMBus ホスト通知プロトコル（Notify ARP Master コマンド） 1194
32.14 割り込み要因 1195
32.14.1 IICn_TXI 割り込みおよび IICn_RXI 割り込みのバッファ動作 1195

32.15 各コンディション発行時のリセット、レジスタ、機能の状態 ... 1196
32.16 イベントリンク出力 ... 1197
32.16.1 割り込み処理とイベントリンク機能 ... 1197
32.17 使用上の注意事項 ... 1197
32.17.1 モジュールストップ状態の設定 ... 1197
32.17.2 転送開始に関する注意事項 ... 1197
33. CAN（Controller Area Network）モジュール ... 1198
33.1 概要 ... 1198
33.2 レジスタの説明 ... 1201
33.2.1 コントロールレジスタ（CTLR） ... 1201
33.2.2 ビットコンフィグレーションレジスタ（BCR） ... 1205
33.2.3 マスクレジスタ k（MKRk）（k = 0 ～ 7） ... 1207
33.2.4 FIFO 受信 ID 比較レジスタ 0、1（FIDCR0、FIDCR1） ... 1208
33.2.5 マスク無効レジスタ（MKIVLR） ... 1209
33.2.6 メールボックスレジスタ j（MBj_ID、MBj_DL、MBj_Dm、MBj_TS）（j = 0 ～ 31; m = 0 ～ 7） ... 1210
33.2.7 メールボックス割り込みイネーブルレジスタ（MIER） ... 1215
33.2.8 FIFO メールボックスモード用メールボックス割り込みイネーブルレジスタ（MIER_FIFO） ... 1216
33.2.9 送信用メッセージコントロールレジスタ（MCTL_TXj）（j = 0 ～ 31） ... 1217
33.2.10 受信用メッセージコントロールレジスタ（MCTL_RXj）（j = 0 ～ 31） ... 1220
33.2.11 受信 FIFO コントロールレジスタ（RFCR） ... 1222
33.2.12 受信 FIFO ポインタコントロールレジスタ（RFPCR） ... 1224
33.2.13 送信 FIFO コントロールレジスタ（TFCR） ... 1225
33.2.14 送信 FIFO ポインタコントロールレジスタ（TFPCR） ... 1227
33.2.15 ステータスレジスタ（STR） ... 1228
33.2.16 メールボックスサーチモードレジスタ（MSMR） ... 1230
33.2.17 メールボックスサーチステータスレジスタ（MSSR） ... 1231
33.2.18 チャネルサーチサポートレジスタ（CSSR） ... 1232
33.2.19 アクセプタンスフィルタサポートレジスタ（AFSR） ... 1233
33.2.20 エラー割り込みイネーブルレジスタ（EIER） ... 1234
33.2.21 エラー割り込み要因判定レジスタ（EIFR） ... 1236
33.2.22 受信エラーカウントレジスタ（RECR） ... 1238
33.2.23 送信エラーカウントレジスタ（TECR） ... 1238
33.2.24 エラーコード格納レジスタ（ECSR） ... 1239
33.2.25 タイムスタンプレジスタ（TSR） ... 1241
33.2.26 テストコントロールレジスタ（TCR） ... 1242
33.3 動作モード ... 1244
33.3.1 CAN リセットモード ... 1245
33.3.2 CAN halt モード ... 1246
33.3.3 CAN スリープモード ... 1247
33.3.4 CAN オペレーションモード（バスオフ状態以外） ... 1247

33.3.5 CAN オペレーションモード（バスオフ状態） 1248
33.4 データ転送レートの設定 1249
33.4.1 クロックの設定 1249
33.4.2 ビットタイミングの設定 1249
33.4.3 データ転送レート 1250
33.5 メールボックスとマスクレジスタの構成 1251
33.6 アクセプタンスフィルタ機能とマスク機能 1253
33.7 受信／送信 1256
33.7.1 受信 1257
33.7.2 送信 1259
33.8 割り込み 1260
33.9 使用上の注意事項 1261
33.9.1 モジュールストップ状態の設定 1261
33.9.2 動作クロックの設定 1261
34. シリアルペリフェラルインタフェース（SPI） 1262
34.1 概要 1262
34.2 レジスタの説明 1266
34.2.1 SPI コントロールレジスタ（SPCR） 1266
34.2.2 SPI スレーブ選択極性レジスタ（SSLP） 1268
34.2.3 SPI 端子コントロールレジスタ（SPPCR） 1269
34.2.4 SPI ステータスレジスタ（SPSR） 1270
34.2.5 SPI データレジスタ（SPDR/SPDR_HA） 1273
34.2.6 SPI シーケンスコントロールレジスタ（SPSCR） 1276
34.2.7 SPI シーケンスステータスレジスタ（SPSSR） 1277
34.2.8 SPI ビットレートレジスタ（SPBR） 1278
34.2.9 SPI データコントロールレジスタ（SPDCR） 1279
34.2.10 SPI クロック遅延レジスタ（SPCKD） 1281
34.2.11 SPI スレーブ選択ネゲート遅延レジスタ（SSLND） 1282
34.2.12 SPI 次アクセス遅延レジスタ（SPND） 1283
34.2.13 SPI コントロールレジスタ 2（SPCR2） 1284
34.2.14 SPI コマンドレジスタ 0 ～ 7（SPCMD0 ～ SPCMD7） 1286
34.2.15 SPI データコントロールレジスタ 2（SPDCR2） 1289
34.3 動作説明 1290
34.3.1 SPI 動作の概要 1290
34.3.2 SPI 端子の制御 1291
34.3.3 SPI システム構成例 1292
34.3.3.1 シングルマスタ／シングルスレーブ（MCU はマスタ） 1292
34.3.3.2 シングルマスタ／シングルスレーブ（MCU はスレーブ） 1293
34.3.3.3 シングルマスタ／マルチスレーブ（MCU はマスタ） 1294
34.3.3.4 シングルマスタ／マルチスレーブ（MCU はスレーブ） 1295
34.3.3.5 マルチマスタ／マルチスレーブ（MCU はマスタ） 1296

34.3.3.6 クロック同期式動作のマスタ／スレーブの構成（MCU はマスタ） 1297
34.3.3.7 クロック同期式動作のマスタ／スレーブの構成（MCU はスレーブ） 1297
34.3.4 データフォーマット 1298
34.3.4.1 パリティ機能無効時（SPCR2.SPPE = 0）の動作 1299
34.3.4.2 パリティ機能有効時（SPCR2.SPPE = 1）の動作 1303
34.3.5 転送フォーマット 1307
34.3.5.1 CPHA ビット = 0 の場合の転送フォーマット 1307
34.3.5.2 CPHA ビット = 1 の場合 1308
34.3.6 データ転送モード 1309
34.3.6.1 全二重同期式シリアル通信（SPCR.TXMD = 0） 1309
34.3.6.2 送信のみ動作（SPCR.TXMD = 1） 1310
34.3.7 送信バッファエンプティ／受信バッファフル割り込み 1311
34.3.8 エラー検出 1313
34.3.8.1 オーバーランエラー 1314
34.3.8.2 パリティエラー 1316
34.3.8.3 モードフォルトエラー 1317
34.3.8.4 アンダーランエラー 1317
34.3.9 SPI の初期化 1318
34.3.9.1 SPE ビットのクリアによる初期化 1318
34.3.9.2 システムリセットによる初期化 1318
34.3.10 SPI 動作 1319
34.3.10.1 マスタモード動作 1319
34.3.10.2 スレーブモード動作 1329
34.3.11 クロック同期式動作 1334
34.3.11.1 マスタモード動作 1334
34.3.11.2 スレーブモード動作 1338
34.3.12 ループバックモード 1340
34.3.13 パリティビット機能の自己診断 1341
34.3.14 割り込み要因 1342
34.4 イベントリンクコントローラ（ELC）への出力 1343
34.4.1 受信バッファフルイベント出力 1343
34.4.2 送信バッファエンプティイベント出力 1343
34.4.3 モードフォルト／アンダーラン／オーバーラン／パリティエラーイベント出力 ... 1343
34.4.4 SPI アイドルイベント出力 1344
34.4.5 送信完了イベント出力 1344
34.5 使用上の注意事項 1345
34.5.1 モジュールストップ状態の設定 1345
34.5.2 低消費電力機能に関する制約 1345
34.5.3 転送の開始に関する制限 1345
34.5.4 モードフォルト／アンダーラン／オーバーラン／パリティエラーイベント出力に関する制限 1345

34.5.5 SPRF および SPTEF フラグに関する制限 1345
35. クワッドシリアルペリフェラルインタフェース（QSPI） 1346
35.1 概要 1346
35.2 レジスタの説明 1348
35.2.1 転送モードコントロールレジスタ（SFMSMD） 1348
35.2.2 チップ選択コントロールレジスタ（SFMSSC） 1349
35.2.3 クロックコントロールレジスタ（SFMSKC） 1350
35.2.4 ステータスレジスタ（SFMSST） 1351
35.2.5 通信ポートレジスタ（SFMCOM） 1352
35.2.6 通信モードコントロールレジスタ（SFMCMD） 1352
35.2.7 通信ステータスレジスタ（SFMCST） 1353
35.2.8 命令コードレジスタ（SFMSIC） 1353
35.2.9 アドレスモードコントロールレジスタ（SFMSAC） 1354
35.2.10 ダミーサイクルコントロールレジスタ（SFMSDC） 1355
35.2.11 SPI プロトコルコントロールレジスタ（SFMSPC） 1356
35.2.12 ポートコントロールレジスタ（SFMPMD） 1356
35.2.13 外部 QSPI アドレスレジスタ（SFMCNT1） 1357
35.3 メモリマップ 1358
35.3.1 内部バス空間 1358
35.3.2 SPI 空間と SPI バスのアドレス幅 1359
35.4 SPI バス 1360
35.4.1 SPI プロトコル 1360
35.4.2 SPI モード 1362
35.5 SPI バスタイミング補正 1363
35.5.1 SPI バス基準周期 1363
35.5.2 QSPCLK 信号デューティ比 1364
35.5.3 QSSL 信号の最小 High レベル幅 1364
35.5.4 QSSL 信号セットアップ時間 1365
35.5.5 QSSL 信号ホールド時間 1365
35.5.6 シリアルデータ出力許可のホールド時間 1366
35.5.7 シリアルデータ出力のセットアップ時間 1366
35.5.8 シリアルデータ出力のホールド時間 1367
35.6 フラッシュアクセスに使用される SPI 命令セット 1368
35.6.1 自動生成される SPI 命令の種類 1368
35.6.2 標準リード命令 1369
35.6.3 ファストリード命令 1370
35.6.4 ファストリード Dual 出力命令 1371
35.6.5 ファストリード Dual I/O 命令 1372
35.6.6 ファストリード Quad 出力命令 1373
35.6.7 ファストリード Quad I/O 命令 1374
35.6.8 4 バイトモード遷移命令 1375

35.6.9 4 バイトモード解除命令 ... 1375
35.6.10 ライトイネーブル命令 ... 1376
35.7 SPI バスサイクル配置 ... 1377
35.7.1 個々の変換に基づくフラッシュリード ... 1377
35.7.2 プリフェッチ機能を使用したフラッシュリード ... 1377
35.7.3 プリフェッチの停止 ... 1378
35.7.4 プリフェッチ先の直接指定 ... 1378
35.7.5 プリフェッチ状態ポーリング ... 1378
35.7.6 SPI バスサイクル拡張機能を使用したフラッシュリード ... 1379
35.8 XIP 制御 ... 1380
35.8.1 XIP モードの選択 ... 1380
35.8.2 XIP モードの解除 ... 1380
35.9 QIO2 端子、QIO3 端子の状態 ... 1381
35.10 直接通信モード ... 1382
35.10.1 直接通信 ... 1382
35.10.2 直接通信モードの使用 ... 1382
35.10.3 直接通信時の SPI バスサイクルの発生 ... 1382
35.11 動作説明 ... 1385
35.11.1 複数のコントロールレジスタの設定変更手順 ... 1385
35.12 割り込み ... 1385
35.13 使用上の注意事項 ... 1385
35.13.1 モジュールストップ機能の設定 ... 1385
36. 巡回冗長検査（CRC）演算器 ... 1386
36.1 概要 ... 1386
36.2 レジスタの説明 ... 1387
36.2.1 CRC コントロールレジスタ 0（CRCCR0） ... 1387
36.2.2 CRC コントロールレジスタ 1（CRCCR1） ... 1388
36.2.3 CRC データ入力レジスタ（CRCDIR/CRCDIR_BY） ... 1388
36.2.4 CRC データ出力レジスタ（CRCDOR/CRCDOR_HA/CRCDOR_BY） ... 1389
36.2.5 スヌープアドレスレジスタ（CRCSAR） ... 1390
36.3 動作説明 ... 1391
36.3.1 基本動作 ... 1391
36.3.2 CRC スヌープ ... 1395
36.4 使用上の注意事項 ... 1396
36.4.1 モジュールストップ状態の設定 ... 1396
36.4.2 送信時の注意事項 ... 1396
37. 拡張シリアルサウンドインタフェース（SSIE） ... 1397
37.1 概要 ... 1397
37.2 レジスタの説明 ... 1401
37.2.1 コントロールレジスタ（SSICR） ... 1401
37.2.2 ステータスレジスタ（SSISR） ... 1412

37.2.3 FIFO コントロールレジスタ（SSIFCR） 1423
37.2.4 FIFO ステータスレジスタ（SSIFSR） 1430
37.2.5 送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR） 1433
37.2.6 受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR） 1435
37.2.7 オーディオフォーマットレジスタ（SSIOFR） 1437
37.2.8 ステータスコントロールレジスタ（SSISCR） 1441
37.3 通信フォーマット 1442
37.3.1 I2S フォーマット 1443
37.3.2 モノラルフォーマット 1444
37.3.2.1 ショートフレーム 1444
37.3.2.2 ロングフレーム 1445
37.3.3 TDM フォーマット 1445
37.4 通信モード 1447
37.4.1 スレーブモード通信 1447
37.4.2 マスタモード通信 1447
37.4.3 送信 1448
37.4.4 受信 1448
37.4.5 送信および受信 1448
37.5 動作説明 1449
37.5.1 アイドル状態 1449
37.5.2 通信状態 1452
37.5.2.1 データ通信状態 1453
37.5.2.2 パディング通信 1455
37.6 通信動作 1456
37.6.1 通信開始 1456
37.6.2 送信 1458
37.6.3 受信 1459
37.6.4 送信および受信 1459
37.6.5 通信停止 1459
37.6.6 エラー処理 1461
37.6.7 通信再開 1462
37.7 割り込み 1463
37.7.1 SSIE0_SSIF 割り込み 1463
37.7.2 SSIE0_SSITXI 割り込み（全二重通信） 1464
37.7.3 SSIE0_SSIRXI 割り込み 1464
37.8 ソフトウェアリセット 1465
37.8.1 ソフトウェアリセット手順 1465
37.9 使用上の注意事項 1467
37.9.1 スレーブモード通信の注意事項 1467
37.9.1.1 ADCKE 制御 1467
37.9.1.2 SSILRCK/SSIFS 端子 1467

37.9.2 マスタモード通信の注意事項 1467
37.9.2.1 ADCKE 制御 1467
37.9.2.2 LRCONT 制御 1467
37.9.2.3 BCKASTP 制御 1467
37.9.3 通信フローの注意事項 1467
37.9.3.1 エラー割り込み発生 1467
37.9.3.2 送信データエンプティ割り込み 1468
37.9.3.3 受信データフル割り込み 1468
37.9.3.4 転送モードの切り替え 1468
37.9.3.5 SSIE 停止後の通信再開 1469
37.9.4 書き込みアクセス制限 1469
37.9.4.1 SSICR レジスタ 1469
37.9.4.2 SSISR レジスタ 1469
37.9.4.3 通信状態 1469
38. サンプリングレートコンバータ（SRC） 1471
38.1 概要 1471
38.2 レジスタの説明 1472
38.2.1 入力データレジスタ（SRCID） 1472
38.2.2 出力データレジスタ（SRCOD） 1473
38.2.3 入力データコントロールレジスタ（SRCIDCTRL） 1474
38.2.4 出力データコントロールレジスタ（SRCODCTRL） 1475
38.2.5 コントロールレジスタ（SRCCTRL） 1476
38.2.6 ステータスレジスタ（SRCSTAT） 1479
38.2.7 フィルタ係数テーブル n（SRCFCTRn）（n = 0 ～ 5551） 1482
38.3 動作説明 1483
38.3.1 初期設定 1483
38.3.2 データ入力 1484
38.3.3 データ出力 1485
38.4 割り込み 1487
38.5 使用上の注意事項 1488
38.5.1 レジスタアクセス時の注意 1488
38.5.2 フラッシュ処理に関する注意 1488
38.5.3 DMAC/DTC 転送時の注意 1488
38.5.4 SRC 動作時の注意 1488
38.5.5 モジュールストップ状態の設定 1488
39. SD/MMC ホストインタフェース（SDHI） 1489
39.1 概要 1489
39.2 レジスタの説明 1491
39.2.1 コマンドタイプレジスタ（SD_CMD） 1491
39.2.2 SD コマンドアーギュメントレジスタ（SD_ARG） 1492
39.2.3 SD コマンドアーギュメントレジスタ 1（SD_ARG1） 1492

39.2.4 データストップレジスタ（SD_STOP） 1493
39.2.5 ブロックカウントレジスタ（SD_SECCNT） 1494
39.2.6 SD カードレスポンスレジスタ 10（SD_RSP10）、SD カードレスポンスレジスタ 32（SD_RSP32）、SD カードレスポンスレジスタ 54（SD_RSP54） 1494
39.2.7 SD カードレスポンスレジスタ 1（SD_RSP1）、SD カードレスポンスレジスタ 3（SD_RSP3）、SD カードレスポンスレジスタ 5（SD_RSP5） 1495
39.2.8 SD カードレスポンスレジスタ 76（SD_RSP76） 1495
39.2.9 SD カードレスポンスレジスタ 7（SD_RSP7） 1496
39.2.10 SD カード割り込みフラグレジスタ 1（SD_INFO1） 1497
39.2.11 SD カード割り込みフラグレジスタ 2（SD_INFO2） 1500
39.2.12 SD INFO1 割り込みマスクレジスタ（SD_INFO1_MASK） 1505
39.2.13 SD INFO2 割り込みマスクレジスタ（SD_INFO2_MASK） 1506
39.2.14 SD クロックコントロールレジスタ（SD_CLK_CTRL） 1507
39.2.15 転送データ長レジスタ（SD_SIZE） 1508
39.2.16 SD カードアクセスコントロールオプションレジスタ（SD_OPTION） 1509
39.2.17 SD エラーステータスレジスタ 1（SD_ERR_STS1） 1510
39.2.18 SD エラーステータスレジスタ 2（SD_ERR_STS2） 1511
39.2.19 SD バッファレジスタ（SD_BUF0） 1512
39.2.20 SDIO モードコントロールレジスタ（SDIO_MODE） 1513
39.2.21 SDIO 割り込みフラグレジスタ（SDIO_INFO1） 1515
39.2.22 SD INFO1 割り込みマスクレジスタ（SDIO_INFO1_MASK） 1517
39.2.23 DMA モードイネーブルレジスタ（SD_DMAEN） 1518
39.2.24 ソフトウェアリセットレジスタ（SOFT_RST） 1519
39.2.25 SD インタフェースモード設定レジスタ（SDIF_MODE） 1520
39.2.26 スワップコントロールレジスタ（EXT_SWAP） 1521
39.3 動作説明 1522
39.3.1 SD/MMC インタフェース 1522
39.3.2 カード検出／ライトプロテクト 1524
39.3.2.1 カード検出 1524
39.3.2.2 ライトプロテクト 1525
39.3.3 割り込み要求と DMA 転送要求 1525
39.3.3.1 割り込み 1525
39.3.3.2 DMA 転送要求（SDHI_MMCn_ODMSDBREQ、n = 0 〜 1） 1526
39.3.4 通信エラーとタイムアウト 1527
39.3.5 データ転送を行わないコマンド（SD/MMC） 1529
39.3.5.1 データ転送を行わないコマンドの動作 1530
39.3.6 シングルブロックリード（SD/MMC） 1531
39.3.6.1 シングルブロックリード動作 1532
39.3.7 シングルブロックライト（SD/MMC） 1533
39.3.7.1 シングルブロックライト動作 1534

39.3.8 マルチブロックリード（SD/MMC） 1535
39.3.8.1 マルチブロックリード動作 1536
39.3.9 マルチブロックライト（内蔵タイマによる SD/MMC） 1537
39.3.9.1 内蔵タイマによるマルチブロックライト動作 1538
39.3.10 マルチブロックライト（外付けタイマによる MMC） 1539
39.3.10.1 外付けタイマによるマルチブロックライト動作 1540
39.3.11 IO_RW_DIRECT コマンド（SD：CMD52） 1541
39.3.12 IO_RW_EXTENDED コマンド（SD：CMD53 ／マルチブロックリード） 1542
39.3.13 IO_RW_EXTENDED コマンド（SD：CMD53 ／マルチブロックライト） 1544
39.3.14 DMA 転送（SD/MMC） 1546
39.3.14.1 SD_BUF DMA 転送 1546
39.3.15 SD_CMD レジスタへの設定例 1548
39.4 使用上の注意事項 1551
39.4.1 SD_BUF0 不正書き込み（SD/MMC） 1551
39.4.2 マルチブロックリードのブロック数制限（SD） 1551
39.4.2.1 誤った読み出しのメカニズム 1551
39.4.3 SD/MMC クロック出力の自動制御（SD/MMC） 1552
39.4.4 マルチブロックライトの C52PUB 設定の制御（SD） 1552
39.4.5 SD_CLK_CTRL レジスタ設定時の注意（SD/MMC） 1552
39.4.6 仕様の制限 1552
39.4.7 マルチブロックリード時の STP ビット設定（SD/MMC） 1553
39.4.8 レジスタ設定時の注意 1553
40. バウンダリスキャン 1554
40.1 概要 1554
40.2 レジスタの説明 1555
40.2.1 インストラクションレジスタ（JTIR） 1556
40.2.2 ID コードレジスタ（JTIDR） 1557
40.2.3 バイパスレジスタ（JTBPR） 1557
40.2.4 バウンダリスキャンレジスタ（JTBSR） 1557
40.3 動作説明 1558
40.3.1 TAP コントローラ 1558
40.3.2 コマンド 1559
40.4 使用上の注意事項 1560
41. セキュア暗号エンジン（SCE7） 1561
41.1 概要 1561
41.2 動作説明 1563
41.2.1 暗号エンジン 1563
41.2.2 暗号化と復号 1564
41.3 使用上の注意事項 1564
41.3.1 ソフトウェアスタンバイモード 1564
41.3.2 モジュールストップ機能の設定 1564

42. 12 ビット A/D コンバータ（ADC12） 1565
42.1 概要 1565
42.2 レジスタの説明 1571
42.2.1 A/D データレジスタ y（ADDRy）、
A/D データ 2 重化レジスタ（ADDBLDR）、
A/D データ 2 重化レジスタ A（ADDBLDRA）、
A/D データ 2 重化レジスタ B（ADDBLDRB）、
A/D 温度センサデータレジスタ（ADTSDR）、
A/D 内部基準電圧データレジスタ（ADOCDR） 1571
42.2.2 A/D 自己診断データレジスタ（ADRD） 1575
42.2.3 A/D コントロールレジスタ（ADCSR） 1579
42.2.4 A/D チャネル選択レジスタ A0（ADANSA0） 1583
42.2.5 A/D チャネル選択レジスタ A1（ADANSA1） 1584
42.2.6 A/D チャネル選択レジスタ B0（ADANSB0） 1585
42.2.7 A/D チャネル選択レジスタ B1（ADANSB1） 1586
42.2.8 A/D 変換値加算／平均チャネル選択レジスタ 0（ADADS0） 1587
42.2.9 A/D 変換値加算／平均チャネル選択レジスタ 1（ADADS1） 1588
42.2.10 A/D 変換値加算／平均回数選択レジスタ（ADADC） 1589
42.2.11 A/D コントロール拡張レジスタ（ADCER） 1590
42.2.12 A/D 変換開始トリガ選択レジスタ（ADSTRGR） 1592
42.2.13 A/D 変換拡張入力コントロールレジスタ（ADEXICR） 1594
42.2.14 A/D サンプリングステートレジスタ n（ADSSTRn）
（n = 00 ～ 03, 05 ～ 07, L, T, O） 1596
42.2.15 A/D サンプル & ホールド回路コントロールレジスタ（ADSHCR） 1597
42.2.16 A/D サンプル & ホールド動作モード選択レジスタ（ADSHMSR） 1598
42.2.17 A/D 断線検出コントロールレジスタ（ADDISCR） 1599
42.2.18 A/D グループスキャン優先コントロールレジスタ（ADGSPCR） 1600
42.2.19 A/D コンペア機能コントロールレジスタ（ADCMPCR） 1601
42.2.20 A/D コンペア機能ウィンドウ A チャネル選択レジスタ 0（ADCMPANSR0） 1603
42.2.21 A/D コンペア機能ウィンドウ A チャネル選択レジスタ 1（ADCMPANSR1） 1604
42.2.22 A/D コンペア機能ウィンドウ A 拡張入力選択レジスタ（ADCMPANSER） 1605
42.2.23 A/D コンペア機能ウィンドウ A 比較条件設定レジスタ 0（ADCMPLR0） 1606
42.2.24 A/D コンペア機能ウィンドウ A 比較条件設定レジスタ 1（ADCMPLR1） 1608
42.2.25 A/D コンペア機能ウィンドウ A 拡張入力比較条件設定レジスタ（ADCMPLER） .. 1609
42.2.26 A/D コンペア機能ウィンドウ A 下側レベル設定レジスタ（ADCMPDR0）、
A/D コンペア機能ウィンドウ A 上側レベル設定レジスタ（ADCMPDR1）、
A/D コンペア機能ウィンドウ B 下側レベル設定レジスタ（ADWINLLB）、
A/D コンペア機能ウィンドウ B 上側レベル設定レジスタ（ADWINULB） 1610
42.2.27 A/D コンペア機能ウィンドウ A チャネルステータスレジスタ 0（ADCMPSR0） ... 1612
42.2.28 A/D コンペア機能ウィンドウ A チャネルステータスレジスタ 1（ADCMPSR1） ... 1613
42.2.29 A/D コンペア機能ウィンドウ A 拡張入力チャネルステータスレジスタ
（ADCMPSER） 1614
42.2.30 A/D コンペア機能ウィンドウ B チャネル選択レジスタ（ADCMPBNSR） 1615
42.2.31 A/D コンペア機能ウィンドウ B ステータスレジスタ（ADCMPBSR） 1617

42.2.32 A/D コンペア機能ウィンドウ A/B ステータスモニタレジスタ（ADWINMON） 1618
42.2.33 A/D プログラマブルゲインアンプコントロールレジスタ（ADPGACR） 1620
42.2.34 A/D プログラマブルゲインアンプゲイン設定レジスタ 0（ADPGAGS0） 1621
42.2.35 A/D プログラマブルゲインアンプ差動入力コントロールレジスタ（ADPGADCR0） 1622
42.3 動作説明 1623
42.3.1 スキャンの動作説明 1623
42.3.2 シングルスキャンモード 1624
42.3.2.1 基本動作（チャネル専用サンプル＆ホールド回路なし） 1624
42.3.2.2 基本動作（チャネル専用サンプル＆ホールド回路あり、常時サンプリング無効） 1625
42.3.2.3 基本動作（チャネル専用サンプル＆ホールド回路あり、常時サンプリング有効） 1626
42.3.2.4 チャネル選択と自己診断（チャネル専用サンプル＆ホールド回路なし） 1627
42.3.2.5 チャネル選択と自己診断（チャネル専用サンプル＆ホールド回路あり、常時サンプリング無効） 1628
42.3.2.6 チャネル選択と自己診断（チャネル専用サンプル＆ホールド回路あり、常時サンプリング有効） 1629
42.3.2.7 温度センサ出力／内部基準電圧選択時の A/D 変換動作 1630
42.3.2.8 ダブルトリガモード選択時の A/D 変換動作 1631
42.3.2.9 ダブルトリガモード選択時の拡張動作 1632
42.3.3 連続スキャンモード 1634
42.3.3.1 基本動作（チャネル専用サンプル＆ホールド回路なし） 1634
42.3.3.2 基本動作（チャネル専用サンプル＆ホールド回路あり、常時サンプリング無効） 1635
42.3.3.3 基本動作（チャネル専用サンプル＆ホールド回路あり、常時サンプリング有効） 1636
42.3.3.4 チャネル選択と自己診断（チャネル専用サンプル＆ホールド回路なし） 1638
42.3.3.5 チャネル選択と自己診断（チャネル専用サンプル＆ホールド回路あり、常時サンプリング無効） 1639
42.3.3.6 チャネル選択と自己診断（チャネル専用サンプル＆ホールド回路あり、常時サンプリング有効） 1640
42.3.3.7 温度センサ出力／内部基準電圧選択時の A/D 変換動作 1642
42.3.4 グループスキャンモード 1643
42.3.4.1 基本動作 1643
42.3.4.2 ダブルトリガモード選択時の A/D 変換動作 1644
42.3.4.3 グループ A 優先制御動作 1646
42.3.5 コンペア機能（ウィンドウ A、ウィンドウ B） 1657
42.3.5.1 コンペア機能 1657
42.3.5.2 コンペア機能のイベント出力 1659
42.3.5.3 コンペア機能の制限事項 1661
42.3.6 アナログ入力のサンプリング時間とスキャン変換時間 1661
42.3.7 A/D データレジスタの自動クリア機能の使用例 1664
42.3.8 A/D 変換値加算／平均モード 1664

42.3.9 断線検出アシスト機能 1665
42.3.10 非同期トリガによる A/D 変換の開始 1667
42.3.11 周辺モジュールからの同期トリガによる A/D 変換の開始 1667
42.3.12 プログラマブルゲインアンプ 1667
42.4 割り込み要因と DTC/DMAC 転送要求 1669
42.4.1 割り込み要求 1669
42.5 イベントリンク機能 1671
42.5.1 ELC へのイベント出力 1671
42.5.2 ELC からのイベントによる ADC12 の動作 1671
42.6 使用上の注意事項 1672
42.6.1 データレジスタの読み出しに関する制限 1672
42.6.2 A/D 変換停止時の注意事項 1672
42.6.3 A/D 変換強制停止と再開時の動作タイミング 1673
42.6.4 スキャン終了割り込み処理の制限 1674
42.6.5 モジュールストップ機能の設定 1674
42.6.6 低消費電力状態への遷移に関する注意事項 1674
42.6.7 断線検出アシスト機能使用時の絶対精度誤差 1674
42.6.8 AN000 ～ AN002、AN007、AN100 ～ AN102、および AN107 の使用可能な機能とレジスタ設定 1674
42.6.9 動作モードおよびステータスビットについての注意事項 1676
42.6.10 ボード設計に関する注意事項 1677
42.6.11 ノイズ対策時の制約 1677
42.6.12 ADC12 入力使用時のポート設定 1678
42.6.13 ADC12（ユニット 0 およびユニット 1）と ACMPHS の関係 1678
43. 12 ビット D/A コンバータ（DAC12） 1679
43.1 概要 1679
43.2 レジスタの説明 1681
43.2.1 D/A データレジスタ m（DADRm）（m = 0, 1） 1681
43.2.2 D/A コントロールレジスタ（DACR） 1682
43.2.3 DADRm フォーマット選択レジスタ（DADPR） 1683
43.2.4 D/A A/D 同期スタートコントロールレジスタ（DAADSCR） 1684
43.2.5 D/A 出力アンプコントロールレジスタ（DAAMPCR） 1685
43.2.6 D/A アンプ安定ウェイトコントロールレジスタ（DAASWCR） 1686
43.2.7 D/A A/D 同期ユニット選択レジスタ（DAADUSR） 1687
43.3 動作説明 1688
43.3.1 D/A 変換と A/D 変換の干渉の低減 1689
43.4 イベントリンクの動作設定手順 1691
43.4.1 DA0 イベントリンクの動作設定手順 1691
43.4.2 DA1 イベントリンクの動作設定手順 1691
43.5 イベントリンク動作における注意事項 1691
43.6 使用上の注意事項 1692
43.6.1 モジュールストップ機能の設定 1692

43.6.2 モジュールストップ時の DAC12 の動作 1692
43.6.3 ソフトウェアスタンバイモード時の DAC12 の動作 1692
43.6.4 ディープソフトウェアスタンバイモードへの遷移に関する制約 1692
43.6.5 出力アンプ使用時の初期設定手順 1692
43.6.6 D/A 変換と A/D 変換の干渉低減有効時の制限事項 1693
44. 温度センサ（TSN） 1694
44.1 概要 1694
44.2 レジスタの説明 1695
44.2.1 温度センサコントロールレジスタ（TSCR） 1695
44.2.2 温度センサ補正データレジスタ（TSCDR） 1695
44.3 温度センサの使用方法 1696
44.3.1 使用前の準備 1696
44.3.2 温度センサの使用手順 1697
44.4 使用上の注意事項 1699
44.4.1 モジュールストップ機能の設定 1699
44.4.2 制限事項 1699
45. 高速アナログコンパレータ（ACMPHS） 1700
45.1 概要 1700
45.2 レジスタの説明 1702
45.2.1 コンパレータコントロールレジスタ（CMPCTL） 1702
45.2.2 コンパレータ入力選択レジスタ（CMPSEL0） 1703
45.2.3 コンパレータ基準電圧選択レジスタ（CMPSEL1） 1704
45.2.4 コンパレータ出力モニタレジスタ（CMPMON） 1704
45.2.5 コンパレータ出力コントロールレジスタ（CPIOC） 1705
45.3 動作説明 1706
45.4 ノイズフィルタ 1708
45.5 ACMPHS 割り込み 1709
45.6 イベントリンクコントローラ（ELC）への ACMPHS 出力 1709
45.7 ACMPHS 端子出力 1709
45.8 使用上の注意事項 1709
45.8.1 モジュールストップ機能の設定 1709
45.8.2 ADC12 との関係 1709
46. 静電容量式タッチセンシングユニット（CTSU） 1710
46.1 概要 1710
46.2 レジスタの説明 1712
46.2.1 CTSU コントロールレジスタ 0（CTSUCR0） 1712
46.2.2 CTSU コントロールレジスタ 1（CTSUCR1） 1714
46.2.3 CTSU 同期ノイズ低減設定レジスタ（CTSUSDPRS） 1715
46.2.4 CTSU センサ安定待ち時間コントロールレジスタ（CTSUSST） 1716
46.2.5 CTSU 計測チャネルレジスタ 0（CTSUMCH0） 1717
46.2.6 CTSU 計測チャネルレジスタ 1（CTSUMCH1） 1718

46.2.7 CTSU チャネルイネーブルコントロールレジスタ 0（CTSUCHAC0） 1718
46.2.8 CTSU チャネルイネーブルコントロールレジスタ 1（CTSUCHAC1） 1719
46.2.9 CTSU チャネル送受信コントロールレジスタ 0（CTSUCHTRC0） 1719
46.2.10 CTSU チャネル送受信コントロールレジスタ 1（CTSUCHTRC1） 1720
46.2.11 CTSU 高域ノイズ低減コントロールレジスタ（CTSUDCLKC） 1720
46.2.12 CTSU ステータスレジスタ（CTSUST） 1721
46.2.13 CTSU 高域ノイズ低減スペクトラム拡散コントロールレジスタ（CTSUSSC） 1723
46.2.14 CTSU センサオフセットレジスタ 0（CTSUSO0） 1724
46.2.15 CTSU センサオフセットレジスタ 1（CTSUSO1） 1725
46.2.16 CTSU センサカウンタ（CTSUSC） 1726
46.2.17 CTSU リファレンスカウンタ（CTSURC） 1727
46.2.18 CTSU エラーステータスレジスタ（CTSUERRS） 1728
46.3 動作説明 1730
46.3.1 計測動作原理 1730
46.3.2 計測モード 1732
46.3.2.1 初期設定フロー 1733
46.3.2.2 ステータスカウンタ 1734
46.3.2.3 自己容量シングルスキャンモード動作 1735
46.3.2.4 自己容量マルチスキャンモードの動作 1737
46.3.2.5 相互容量フルスキャンモード動作 1739
46.3.3 複数モードに関わる共通事項 1743
46.3.3.1 センサ安定待ち時間と計測時間 1743
46.3.3.2 割り込み 1744
46.4 使用上の注意事項 1746
46.4.1 計測結果データ（CTSUSC カウンタ、CTSURC カウンタ） 1746
46.4.2 ソフトウェアトリガに対する制限事項 1746
46.4.3 外部トリガに対する制限事項 1746
46.4.4 強制終了に関する制限事項 1746
46.4.5 TSCAP 端子 1747
46.4.6 計測動作時（CTSUCR0.CTSUSTRT ビット = 1）の制限事項 1747
47. データ演算回路（DOC） 1748
47.1 概要 1748
47.2 レジスタの説明 1749
47.2.1 DOC コントロールレジスタ（DOCR） 1749
47.2.2 DOC データインプットレジスタ（DODIR） 1750
47.2.3 DOC データ設定レジスタ（DODSR） 1750
47.3 動作説明 1751
47.3.1 データ比較モード 1751
47.3.2 データ加算モード 1751
47.3.3 データ減算モード 1752
47.4 イベントリンクコントローラ（ELC）への割り込み要求と出力 1753

47.5 使用上の注意事項 1753
47.5.1 モジュールストップ状態の設定 1753
48. SRAM 1754
48.1 概要 1754
48.2 レジスタの説明 1755
48.2.1 SRAM パリティエラー検出後動作レジスタ（PARIOAD） 1755
48.2.2 SRAM プロテクトレジスタ（SRAMPRCR） 1755
48.2.3 SRAM ウェイトステートコントロールレジスタ（SRAMWTSC） 1756
48.2.4 ECC 動作モードコントロールレジスタ（ECCMODE） 1757
48.2.5 ECC 2 ビットエラーステータスレジスタ（ECC2STS） 1757
48.2.6 ECC 1 ビットエラー情報更新イネーブルレジスタ（ECC1STSEN） 1758
48.2.7 ECC 1 ビットエラーステータスレジスタ（ECC1STS） 1758
48.2.8 ECC プロテクトレジスタ（ECCPRCR） 1759
48.2.9 ECC プロテクトレジスタ 2（ECCPRCR2） 1759
48.2.10 ECC テストコントロールレジスタ（ECCETST） 1760
48.2.11 SRAM ECC エラー検出後動作レジスタ（ECCOAD） 1760
48.3 動作説明 1761
48.3.1 低消費電力機能 1761
48.3.2 ECC 機能 1761
48.3.3 ECC エラー発生 1762
48.3.4 ECC デコーダのテスト方法 1763
48.3.5 パリティ計算機能 1764
48.3.6 SRAM エラー要因 1765
48.3.7 アクセスサイクル 1766
48.4 使用上の注意事項 1767
48.4.1 ウェイトステートの挿入 1767
48.4.2 SRAM 領域からの命令フェッチ 1767
48.4.3 SRAM のストアバッファ 1767
49. スタンバイ SRAM 1768
49.1 概要 1768
49.2 動作説明 1769
49.2.1 データ保持 1769
49.2.2 低消費電力機能 1769
49.2.3 パリティ計算機能 1769
49.2.4 アクセスサイクル 1769
49.3 使用上の注意事項 1770
49.3.1 スタンバイ SRAM 領域からの命令フェッチ 1770
50. フラッシュメモリ 1771
50.1 概要 1771
50.2 メモリ構成 1773
50.3 レジスタの説明 1774

50.3.1 フラッシュキャッシュイネーブルレジスタ（FCACHEE） 1774
50.3.2 フラッシュキャッシュインバリデートレジスタ（FCACHEIV） 1774
50.3.3 フラッシュウェイトサイクルレジスタ（FLWT） 1775
50.3.4 ファクトリ MCU インフォメーションフラッシュルートテーブル（FMIFRT） 1775
50.3.5 ユニーク ID レジスタ n（UIDRn）（n = 0 ～ 3） 1776
50.3.6 型名レジスタ n（PNRn）（n = 0 ～ 3） 1776
50.3.7 MCU バージョンレジスタ（MCUVER） 1777
50.4 フラッシュキャッシュ 1778
50.4.1 概要 1778
50.5 動作説明 1779
50.5.1 フラッシュキャッシュ使用における注意 1779
50.6 フラッシュメモリ関連の動作モード 1780
50.6.1 ID コードプロテクト 1780
50.7 機能概要 1782
50.7.1 構成領域ビットマップ 1784
50.7.2 スタートアップ領域選択 1785
50.7.3 アクセスウィンドウによるプロテクション 1785
50.8 プログラムコマンド 1788
50.9 サスペンド動作 1788
50.10 プロテクション機能 1788
50.11 シリアルプログラミングモード 1789
50.11.1 SCI ブートモード 1789
50.11.2 USB ブートモード 1790
50.12 シリアルプログラマを使用する場合 1791
50.12.1 シリアルプログラミング 1791
50.12.2 プログラミング環境 1791
50.13 セルフプログラミング 1792
50.13.1 概要 1792
50.13.2 バックグラウンドオペレーション 1792
50.14 フラッシュメモリの読み出し 1793
50.14.1 コードフラッシュメモリの読み出し 1793
50.14.2 データフラッシュメモリの読み出し 1793
50.15 使用上の注意事項 1793
50.15.1 プログラム／イレースを中断した領域の読み出し 1793
50.15.2 追加の書き込みに関する制約 1793
50.15.3 プログラム／イレース中のリセット 1793
50.15.4 プログラム／イレース中の割り込み／例外ベクタの配置 1793
50.15.5 プログラム／イレース中の制約 1793
50.15.6 プログラム／イレース中の異常終了 1794
51. 内部電圧レギュレータ 1795
51.1 概要 1795

51.2 動作説明 1795
52. 電気的特性 1796
52.1 絶対最大定格 1797
52.2 DC 特性 1798
52.2.1 Tj/Ta の定義 1798
52.2.2 I/O V_{IH}, V_{IL} 1799
52.2.3 I/O I_{OH}, I_{OL} 1800
52.2.4 I/O V_{OH}、V_{OL}、その他の特性 1801
52.2.5 動作電流とスタンバイ電流 1802
52.2.6 VCC 立ち上がり／立ち下がり勾配とリップル周波数 1806
52.3 AC 特性 1807
52.3.1 周波数 1807
52.3.2 クロックタイミング 1808
52.3.3 リセットタイミング 1811
52.3.4 ウェイクアップタイミング 1812
52.3.5 NMI/IRQ ノイズフィルタ 1815
52.3.6 バスタイミング 1816
52.3.7 I/O ポート、POEG、GPT32、AGT、KINT、ADC12 トリガタイミング 1822
52.3.8 PWM 遅延生成回路タイミング 1825
52.3.9 CAC タイミング 1825
52.3.10 SCI タイミング 1826
52.3.11 SPI タイミング 1831
52.3.12 QSPI タイミング 1836
52.3.13 IIC タイミング 1837
52.3.14 SSIE タイミング 1839
52.3.15 SD/MMC ホストインタフェースタイミング 1842
52.4 USB 特性 1843
52.4.1 USBFS タイミング 1843
52.5 ADC12 特性 1845
52.6 DAC12 特性 1849
52.7 TSN 特性 1849
52.8 OSC 停止検出特性 1850
52.9 POR/LVD 特性 1851
52.10 VBATT 特性 1854
52.11 CTSU 特性 1854
52.12 ACMPHS 特性 1854
52.13 PGA 特性 1855
52.14 フラッシュメモリ特性 1856
52.14.1 コードフラッシュメモリ特性 1856
52.14.2 データフラッシュメモリ特性 1858
52.15 バウンダリスキャン 1859
52.16 ジョイントテストアクショングループ（JTAG） 1861

52.17 シリアルワイヤデバッグ（SWD） 1862
52.18 エンベデッドトレースマクロインタフェース（ETM） 1863
付録 1. 各プロセスモードのポート状態 1864
付録 2. 外形寸法図 1867
付録 3. I/O レジスタ 1871
3.1 周辺機能のベースアドレス 1871
3.2 アクセスサイクル 1874
3.3 レジスタの説明 1876
改訂記録 1913

トップ性能の120MHz Arm® Cortex®-M4コア、512KBのコードフラッシュメモリ、256KB SRAM、静電容量式タッチセンシングユニット、USB2.0フルスピード、SDHI、クワッドシリアルペリフェラルインタフェース、セキュリティ＆セーフティ機能、および高度なアナログ機能

特長

■ 浮動小数点ユニット(FPU)内蔵 Arm Cortex-M4 コア
- Armv7E-M アーキテクチャ（DSP 命令セット搭載）
- 最高動作周波数：120MHz
- 4GB アドレス空間をサポート
- オンチップデバッグシステム：JTAG、SWD、および ETM
- バウンダリスキャンおよび Arm メモリプロテクションユニット（Arm MPU）

■ メモリ
- 512KB のコードフラッシュメモリ（40MHz ゼロウェイトステート）
- 8KB データフラッシュメモリ（125000 回のイレース／ライトサイクル）
- 256KB の SRAM
- フラッシュキャッシュ（FCACHE）
- メモリプロテクションユニット（MPU）
- メモリミラー機能（MMF）
- 128 ビットの固有の ID

■ 接続性
- USB2.0 フルスピード（USBFS）モジュール
  - オンチップトランシーバ
- FIFO 内蔵シリアルコミュニケーションインタフェース（SCI）× 7
- シリアルペリフェラルインタフェース（SPI）× 2
- I^2C バスインタフェース（IIC）× 2
- CAN モジュール（CAN）× 2
- 拡張シリアルサウンドインタフェース（SSIE）
- SD/MMC ホストインタフェース（SDHI）× 2
- クワッドシリアルペリフェラルインタフェース（QSPI）
- IrDA インタフェース
- サンプリングレートコンバータ（SRC）
- 外部アドレス空間
  - 8 ビットバス空間

■ アナログ
- 12 ビット A/D コンバータ（ADC12）× 2、それぞれに 3 つのサンプル＆ホールド回路を搭載
- 12 ビット D/A コンバータ（DAC12）× 2
- 高速アナログコンパレータ（ACMPHS）× 6
- プログラマブルゲインアンプ（PGA）× 6
- 温度センサ（TSN）

■ タイマ
- 32 ビット拡張高分解能汎用 PWM タイマ（GPT32EH）× 4
- 32 ビット拡張汎用 PWM タイマ（GPT32E）× 4
- 32 ビット汎用 PWM タイマ（GPT32）× 5
- 低消費電力非同期汎用タイマ（AGT）× 2
- ウォッチドッグタイマ（WDT）

■ セーフティ
- 誤り訂正コード（ECC）搭載の SRAM
- SRAM のパリティエラー検査
- フラッシュ領域の保護
- ADC 自己診断機能
- クロック周波数精度測定回路（CAC）
- 巡回冗長検査（CRC）演算器
- データ演算回路（DOC）
- GPT 用のポートアウトプットイネーブル（POEG）
- 独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）
- GPIO リードバックレベル検出
- レジスタライトプロテクション
- メインクロック発振器停止検出
- 不正メモリアクセス

■ システムおよびパワーマネジメント
- 低消費電力モード
- カレンダおよび VBATT 対応のリアルタイムクロック（RTC）
- イベントリンクコントローラ（ELC）
- DMA コントローラ（DMAC）× 8
- データトランスファコントローラ（DTC）
- キー割り込み機能（KINT）
- パワーオンリセット
- 低電圧検出機能（LVD）の設定可能

■ セキュリティおよび暗号化
- AES128/192/256
- 3DES/ARC4
- SHA1/SHA224/SHA256/MD5
- GHASH
- RSA/DSA/ECC
- 真性乱数発生器（TRNG）

■ ヒューマンマシーンインタフェース（HMI）
- 静電容量式タッチセンシングユニット（CTSU）

■ マルチクロックソース
- メインクロック発振器（MOSC）（8 ～ 24MHz）
- サブクロック発振器（SOSC）（32.768kHz）
- 高速オンチップオシレータ（HOCO）（16/18/20MHz）
- 中速オンチップオシレータ（MOCO）（8MHz）
- 低速オンチップオシレータ（LOCO）（32.768kHz）
- IWDT 専用オンチップオシレータ（15kHz）
- HOCO/MOCO/LOCO に対するクロックトリム機能
- クロックアウトのサポート

■ 汎用入出力ポート
- 最大 76 本の入出力端子
  - 最大 9 本の CMOS 入力
  - 最大 67 本の CMOS 入出力
    - 最大 14 本の 5V トレラント入出力
    - 最大 13 本の大電流端子（20mA）

■ 動作電圧
- VCC：2.7 ～ 3.6V

■ 動作温度およびパッケージ
- Ta = -40 ℃～ +105 ℃
  - 100 ピン LGA（7mm × 7mm、0.65mm ピッチ）
  - 100 ピン LQFP（14mm × 14mm、0.5mm ピッチ）
  - 64 ピン LQFP（10mm × 10mm、0.5mm ピッチ）
  - 64 ピン QFN（8mm × 8mm、0.4mm ピッチ）

1. 概要

本 MCU は、ソフトウェア互換性および端子互換性を有する Arm® ベースの 32 ビットコアシリーズを統合したものであり、共通のルネサス周辺デバイスを共有することで、設計変更およびプラットフォーム単位の効率的製品開発を容易に行うことができます。

本シリーズの MCU には、次の各機能を有し、最大 120MHz で駆動する、高性能 Arm Cortex®-M4 コアが含まれます。

- 512KB のコードフラッシュメモリ
- 256KB の SRAM
- 静電容量式タッチセンシングユニット（CTSU）
- USBFS
- SD/MMC ホストインタフェース
- クワッドシリアルペリフェラルインタフェース（QSPI）
- セキュリティ&セーフティ機能
- 12 ビット A/D コンバータ（ADC12）
- 12 ビット D/A コンバータ（DAC12）
- アナログ周辺機能

1.1 機能の概要

表 1.1 Arm コア

機能	機能の説明
Arm Cortex-M4 コア	• 最高動作周波数：120MHz • Arm Cortex-M4 コア： - リビジョン：r0p1-01rel0 - Armv7E-M アーキテクチャプロファイル - 単精度浮動小数点ユニット（ANSI/IEEE 規格 754-2008 に準拠） • Arm メモリプロテクションユニット（Arm MPU）： - Armv7 保護メモリシステムアーキテクチャ - 8 つのメモリ保護領域 • SysTick タイマ： - SYSTICCLK（LOCO）または ICLK により駆動

表 1.2 メモリ

機能	機能の説明
コードフラッシュメモリ	512KB のコードフラッシュメモリ。「50. フラッシュメモリ」を参照してください。
データフラッシュメモリ	8KB のデータフラッシュメモリ。「50. フラッシュメモリ」を参照してください。
メモリミラー機能（MMF）	メモリミラー機能（MMF）は、コードフラッシュメモリ内の対象アプリケーションイメージロードアドレスをミラーリングして、23 ビット未使用メモリ空間（メモリミラー空間アドレス）内のアプリケーションイメージリンクアドレスに反映するよう設定することが可能です。ユーザアプリケーションコードを開発する場合、この MMF 転送先アドレスから実行するようにリンクします。開発するアプリケーションコード側でコードフラッシュメモリ内の格納位置を考慮する必要はありません。「5. メモリミラー機能（MMF）」を参照してください。
オプション設定メモリ	オプション設定メモリは、MCU のリセット後の状態を決定します。「7. オプション設定メモリ」を参照してください。
SRAM	パリティビットまたは誤り訂正コード（ECC）を有する高速 SRAM を内蔵しています。ECC を使用した誤り訂正機能は、SRAM0 の先頭 32KB にて実現されます。パリティチェックはその他の領域で行われます。「48. SRAM」を参照してください。
スタンバイ SRAM	ディープソフトウェアスタンバイモード時にデータを保持できる SRAM を内蔵しています。「49. スタンバイ SRAM」を参照してください。

表 1.3 システム (1/2)

機能	機能の説明
動作モード	2種類の動作モード： • シングルチップモード • SCIまたはUSBブートモード 「3. 動作モード」を参照してください。
リセット	以下の14種類のリセットをサポートしています。 • RES端子リセット • パワーオンリセット • 電圧監視0リセット • 電圧監視1リセット • 電圧監視2リセット • 独立ウォッチドッグタイマリセット • ウォッチドッグタイマリセット • ディープソフトウェアスタンバイリセット • SRAMパリティエラーリセット • SRAM ECCエラーリセット • バスマスタMPUエラーリセット • バススレーブMPUエラーリセット • スタックポインタエラーリセット • ソフトウェアリセット 「6. リセット」を参照してください。
低電圧検出（LVD）	低電圧検出（LVD）機能は、VCC端子へ入力された電圧レベルを監視します。検出レベルはソフトウェアプログラムを使用して選択できます。「8. 低電圧検出（LVD）」を参照してください。
クロック	• メインクロック発振器（MOSC） • サブクロック発振器（SOSC） • 高速オンチップオシレータ（HOCO） • 中速オンチップオシレータ（MOCO） • 低速オンチップオシレータ（LOCO） • PLL周波数シンセサイザ • 独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）オンチップオシレータ • クロックアウトのサポート 「9. クロック発生回路」を参照してください。
クロック周波数精度測定回路（CAC）	クロック周波数精度測定回路（CAC）は、測定基準として使用するクロック（測定基準クロック）によって発生する時間内における、測定されるクロック（測定対象クロック）のパルスをカウントし、そのパルス数が許容範囲内にあるか否かに基づき精度を判定します。測定が終了したとき、または測定基準クロックによって発生する時間内のパルス数が許容範囲内にない場合、割り込み要求が発生します。 「10. クロック周波数精度測定回路（CAC）」を参照してください。
割り込みコントローラユニット（ICU）	割り込みコントローラユニット（ICU）は、NVIC/DTCモジュールとDMACモジュールにリンクされるイベント信号を制御します。また、NMI割り込みも制御します。「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。
キー割り込み機能（KINT）	キー割り込みは、キーリターンモードレジスタ（KRM）を設定し、キー割り込み入力端子に立ち上がりエッジまたは立ち下がりエッジを入力することで発生させることができます。 「21. キー割り込み機能（KINT）」を参照してください。
低消費電力モード	消費電力は以下の方法で削減可能です： クロック分周器を設定する、EBCLK出力を制御する、モジュールを停止する、通常動作時に電力制御モードを選択する、および低消費電力モードへ移行するなど。詳細は「11. 低消費電力モード」を参照してください。
バッテリバックアップ機能	バッテリバックアップ機能によってバッテリによる部分電力供給が可能です。バッテリ電源領域に含まれるものには、RTC、SOSC、バックアップメモリ、およびVCC/VBATT切り替えがあります。「12. バッテリバックアップ機能」を参照してください。
レジスタライトプロテクション	レジスタライトプロテクション機能は、ソフトウェアエラーによって重要なレジスタが書き換えられないように保護します。「13. レジスタライトプロテクション」を参照してください。
メモリプロテクションユニット（MPU）	メモリプロテクションユニット（MPU）およびCPUスタックポインタモニタ機能は、メモリを保護するために備えられています。「16. メモリプロテクションユニット（MPU）」を参照してください。

表 1.3 システム (2/2)

機能	機能の説明
ウォッチドッグタイマ（WDT）	ウォッチドッグタイマ（WDT）は14ビットのダウンカウンタです。システムが暴走してWDTをリフレッシュできないためにカウンタがアンダーフローした場合、MCUをリセットするために使用できます。また、アンダーフローにより、ノンマスカブル割り込みまたは割り込みを発生させることもできます。 リフレッシュ許可期間を設定することによりカウンタをリフレッシュすることができます。リフレッシュ許可期間はシステムの暴走を検知する条件として使用できます。詳細は「27. ウォッチドッグタイマ（WDT）」を参照してください。
独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）	独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）は14ビットダウンカウンタで構成されます。このカウンタはアンダーフロー防止のため定期的に動作させる必要があります。IWDTには、MCUをリセットする機能や、タイマのアンダーフローに備えて割り込み／ノンマスカブル割り込みを生成する機能があります。このタイマは独立した専用のクロックソースで動作するため、システムが暴走したとき、MCUをフェールセーフ機構と呼ばれる状態に戻すことに特に役立ちます。IWDTは、リセット、アンダーフロー、またはリフレッシュエラー時に自動的に起動します。あるいはレジスタのカウント値のリフレッシュによっても起動します。「28. 独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）」を参照してください。

表 1.4 イベントリンク

機能	機能の説明
イベントリンクコントローラ（ELC）	イベントリンクコントローラ（ELC）は、各周辺モジュールで発生する割り込み要求をイベント信号として使用し、それらを異なるモジュールに接続することにより、CPUを介さずにモジュール間の直接的な相互作用を可能にします。「19. イベントリンクコントローラ（ELC）」を参照してください。

表 1.5 ダイレクトメモリアクセス

機能	機能の説明
データトランスファコントローラ（DTC）	データトランスファコントローラ（DTC）モジュールは割り込み要求による起動時に、データ転送を行います。「18. データトランスファコントローラ（DTC）」を参照してください。
DMACコントローラ（DMAC）	8チャネルのDMACコントローラ（DMAC）モジュールは、CPUを介さずにデータ転送を行うために備えられています。DMA転送要求が発生すると、DMACは転送元アドレスに格納されているデータを転送先アドレスへ転送します。「17. DMACコントローラ（DMAC）」を参照してください。

表 1.6 外部バスインタフェース

機能	機能の説明
外部バス	• CS領域（EXBIU）：外部デバイス（外部メモリインタフェース）を接続 • QSPI領域（EXBIUT2）：QSPI（外部デバイスインタフェース）を接続

表 1.7 タイマ (1/2)

機能	機能の説明
汎用PWMタイマ（GPT）	汎用PWMタイマ（GPT）は、13チャネルの32ビットタイマです。PWM波形は、アップカウンタ、ダウンカウンタ、またはアップダウンカウンタを制御することで発生させることができます。さらに、ブラシレスDCモータ制御用のPWM波形を発生させることもできます。GPTは汎用タイマとしても使用可能です。「23. 汎用PWMタイマ（GPT）」を参照してください。
GPT用のポートアウトプットイネーブル（POEG）	汎用PWMタイマ（GPT）の出力端子を出力禁止状態とするには、GPT用のポートアウトプットイネーブル（POEG）機能を使用します。「22. GPT用ポートアウトプットイネーブル（POEG）」を参照してください。
低消費電力非同期汎用タイマ（AGT）	低消費電力非同期汎用タイマ（AGT）は、パルスの出力、外部パルスの幅／周期の測定、および外部イベントのカウントに利用可能な16ビットタイマです。 この16ビットタイマは、リロードレジスタとダウンカウンタで構成されます。これらのリロードレジスタとダウンカウンタは、同一アドレスに配置され、AGTレジスタでアクセスが可能です。「25. 低消費電力非同期汎用タイマ（AGT）」を参照してください。

表 1.7 タイマ (2/2)

機能	機能の説明
リアルタイムクロック（RTC）	リアルタイムクロック（RTC）は、カレンダカウントモードとバイナリカウントモードの2種類のカウントモードがあり、モード選択はレジスタの設定で制御します。 カレンダカウントモードは、2000年から2099年の100年間を、うるう年を自動で判定してカウントするモードです。 バイナリカウントモードは、秒をカウントし、その情報をシリアル値として保持するモードです。バイナリカウントモードは、西暦以外のカレンダに使用できます。「26. リアルタイムクロック（RTC）」を参照してください。

表 1.8 通信インタフェース (1/2)

機能	機能の説明
シリアルコミュニケーションインタフェース（SCI）	シリアルコミュニケーションインタフェース（SCI）は、下記の5種類の調歩同期式および同期式シリアルインタフェースとして設定可能です。 • 調歩同期式インタフェース（UARTおよび調歩同期式通信アダプタ（ACIA）） • 8ビットクロック同期式インタフェース • 簡易IIC（マスタのみ） • 簡易SPI • スマートカードインタフェース スマートカードインタフェースは、電子信号と伝送プロトコルに関してISO/IEC 7816-3規格に準拠しています。 各SCIはFIFOバッファを内蔵しており、連続した全二重通信が可能です。また、内蔵のボーレートジェネレータを用いて、データの転送速度を個別に設定することが可能です。「30. シリアルコミュニケーションインタフェース（SCI）」を参照してください。
IrDAインタフェース（IrDA）	IrDAインタフェースは、SCI1と連携してIrDA（Infrared Data Association）規格バージョン1.0に基づくIrDA通信波形の送受信を行います。「31. IrDAインタフェース」を参照してください。
I^2Cバスインタフェース（IIC）	2チャネルのI^2Cバスインタフェース（IIC）は、NXP社のI^2C（Inter-Integrated Circuit）バスインタフェース方式に準拠し、そのサブセット機能を提供しています。「32. I^2Cバスインタフェース（IIC）」を参照してください。
シリアルペリフェラルインタフェース（SPI）	独立した2つのシリアルペリフェラルインタフェース（SPI）により、複数のプロセッサおよび周辺デバイスとの高速全二重同期式シリアル通信が可能です。「34. シリアルペリフェラルインタフェース（SPI）」を参照してください。
拡張シリアルサウンドインタフェース（SSIE）	拡張シリアルサウンドインタフェース（SSIE）の周辺機器は、I^2S（Inter-Integrated Sound）2ch、4ch、6ch、8ch、Word Select（WS）Continue/モノラル/TDMオーディオデータを送信するため、デジタルオーディオデバイスをシリアルバス経由でMCUに接続する機能を提供しています。SSIEは最大50MHzのオーディオクロック周波数をサポートしており、各種アプリケーションに適合するスレーブまたはマスタレシーバ／トランスミッタ／トランシーバとして動作します。SSIEはレシーバとトランスミッタに32段FIFOバッファを内蔵し、割り込みおよびDMA駆動によるデータ送受信をサポートしています。「37. 拡張シリアルサウンドインタフェース（SSIE）」を参照してください。
クワッドシリアルペリフェラルインタフェース（QSPI）	クワッドシリアルペリフェラルインタフェース（QSPI）は、SPI互換インタフェースを持つシリアルROM（シリアルフラッシュメモリ、シリアルEEPROM、シリアルFeRAMなどの不揮発性メモリ）に接続するためのメモリコントローラです。「35. クワッドシリアルペリフェラルインタフェース（QSPI）」を参照してください。
コントローラエリアネットワーク（CAN）モジュール	コントローラエリアネットワーク（CAN）モジュールは、電磁ノイズの多い応用機器において、複数のスレーブ・マスタ間でメッセージベースのプロトコルを用いたデータの送受信機能を提供しています。 CANモジュールは、ISO 11898-1（CAN 2.0A/CAN 2.0B）規格に準拠しており、通常のメールボックスモードおよびFIFOモードを送受信用に設定可能な最大32個のメールボックスをサポートしています。標準（11ビット）と拡張（29ビット）の両方のメッセージフォーマットに対応しています。「33. CAN（Controller Area Network）モジュール」を参照してください。
USB2.0フルスピード（USBFS）モジュール	USB2.0フルスピード（USBFS）モジュールは、ホストコントローラまたはデバイスコントローラとしての動作が可能です。本モジュールは、USB2.0規格に規定されたフルスピードおよびロースピード（ホストコントローラのみ）の転送に対応しています。本モジュールは、USBトランシーバを内蔵しているので、USB2.0規格に規定されたあらゆる転送タイプに対応しています。 データ転送用にバッファメモリを内蔵し、最大10本のパイプを使用できます。パイプ1～9に対しては、通信を行う周辺デバイスやユーザシステムに合わせた任意のエンドポイント番号の割り付けが可能です。「29. USB2.0フルスピードモジュール（USBFS）」を参照してください。

表 1.8 通信インタフェース (2/2)

機能	機能の説明
SD/MMCホストインタフェース（SDHI）	SDHIおよびマルチメディアカード（MMC）インタフェースモジュールは、各種外部メモリカードをMCUと接続するために必要な機能を提供します。SDHIは、SD、SDHC、およびSDXCフォーマットに対応するメモリカードを接続するために、1ビットと4ビットの両方のバスをサポートしています。SD規格に対応したホスト機器を開発する際は、SD Host/Ancillary Product License Agreement（SD HALA）に従う必要があります。 MMCインタフェースは、eMMC 4.51（JEDEC Standard JESD 84-B451）デバイスアクセスを可能にする1ビットおよび4ビットのMMCバスをサポートしています。このインタフェースには下位互換性があり、高速SDR転送モードもサポートしています。 「39. SD/MMCホストインタフェース（SDHI）」を参照してください。

表 1.9 アナログ

機能	機能の説明
12ビットA/Dコンバータ（ADC12）	逐次比較方式の12ビットA/Dコンバータ（ADC12）を2ユニット内蔵しています。ユニット0では最大11チャネル、ユニット1では最大8チャネルのアナログ入力を選択可能です。ただしユニット0およびユニット1の各2つのアナログ入力は共通のポートに割り当てられており（AN005/AN105, AN006/AN106）、同時に使用可能なアナログ入力は、最大17端子です。また内蔵の温度センサ出力および内部基準電圧を各ユニットのアナログ入力として選択できます。A/D変換精度として、12ビット、10ビット、および8ビットの各変換が選択可能であり、デジタル値生成における速度と分解能のバランスを最適化できます。「42. 12ビットA/Dコンバータ（ADC12）」を参照してください。
12ビットD/Aコンバータ（DAC12）	DAC12は出力アンプを内蔵した12ビットD/Aコンバータです。「43. 12ビットD/Aコンバータ（DAC12）」を参照してください。
温度センサ（TSN）	デバイス動作の信頼性確保のため、内蔵されている温度センサ（TSN）でダイの温度を決定し、監視することが可能です。このセンサはダイ温度に正比例した電圧を出力するため、ダイ温度と出力電圧はリニアな関係にあります。 出力された電圧はADC12で変換されてから、末端の応用機器で使用できます。「44. 温度センサ（TSN）」を参照してください。
高速アナログコンパレータ（ACMPHS）	高速アナログコンパレータ（ACMPHS）は、テスト電圧と基準電圧を比較し、変換結果に基づいてデジタル出力を行います。 テスト電圧と基準電圧は、どちらも内部電源（DAC12出力や内部基準電圧）と外部電源（内部PGAありまたはなし）からコンパレータに供給できます。 こうした柔軟性は、必ずしもA/D変換を必要とせずに、アナログ信号に対して実行／中止の比較を行わなければならないアプリケーションに有効です。「45. 高速アナログコンパレータ（ACMPHS）」を参照してください。

表 1.10 ヒューマンマシーンインタフェース

機能	機能の説明
静電容量式タッチセンシングユニット（CTSU）	静電容量式タッチセンシングユニット（CTSU）は、タッチセンサの静電容量を測定します。ソフトウェアで静電容量の変化を判定することによって、指などがタッチセンサに接触したことを検出できます。通常、タッチセンサの電極表面は誘電体で覆われており、指が電極に直接接触することはありません。 「46. 静電容量式タッチセンシングユニット（CTSU）」を参照してください。

表 1.11 データ処理

機能	機能の説明
巡回冗長検査（CRC）演算器	巡回冗長検査（CRC）演算器は、データ内の誤りを検出するためのCRCコードを生成します。LSBファーストまたはMSBファーストでの通信用に、CRC演算結果のビットオーダを切り替えることができます。さらに、さまざまなCRC生成多項式を使用できます。スヌープ機能により、特定のアドレスに対する読み出しと書き込みをモニタできます。この機能は、シリアル送信バッファへの書き込みとシリアル受信バッファからの読み出しをモニタする場合など、特定のイベントでCRCコードの自動生成が必要となるアプリケーションで役立ちます。 「36. 巡回冗長検査（CRC）演算器」を参照してください。
データ演算回路（DOC）	データ演算回路（DOC）は、16ビットのデータを比較、加算、または減算する機能です。 「47. データ演算回路（DOC）」を参照してください。
サンプリングレートコンバータ（SRC）	サンプリングレートコンバータ（SRC）は、WMA/MP3/AACなどの各種オーディデコーダで生成されたデータのサンプリングレートを変換します。16ビットのステレオデータとモノラルデータの両方に対応しています。 「38. サンプリングレートコンバータ（SRC）」を参照してください。

表 1.12 セキュリティ

機能	機能の説明
セキュアクリプトエンジン7（SCE7）	• セキュリティアルゴリズム： - 対称暗号方式：AES、3DES、ARC4 - 非対称暗号方式：RSA、DSA、ECC • その他のサポート機能： - TRNG（真性乱数発生器） - ハッシュ値生成：SHA1、SHA224、SHA256、GHASH、MD5 - 128ビットの固有のID

表 1.13 I/Oポート

機能	機能の説明
設定可能なI/Oポート	• 100ピンLGA、100ピンLQFP - 入出力：67 - 入力：9 - プルアップ抵抗：68 - Nチャネルオープンドレイン出力：67 - 5Vトレラント：14 • 64ピンLQFP、64ピンQFN - 入出力：35 - 入力：5 - プルアップ抵抗：36 - Nチャネルオープンドレイン出力：35 - 5Vトレラント：9

1.2 ブロック図

図 1.1 に、本 MCU のスーパーセットのブロック図を示します。グループ内の個々のデバイスによっては、その機能のサブセットを持つ場合があります。

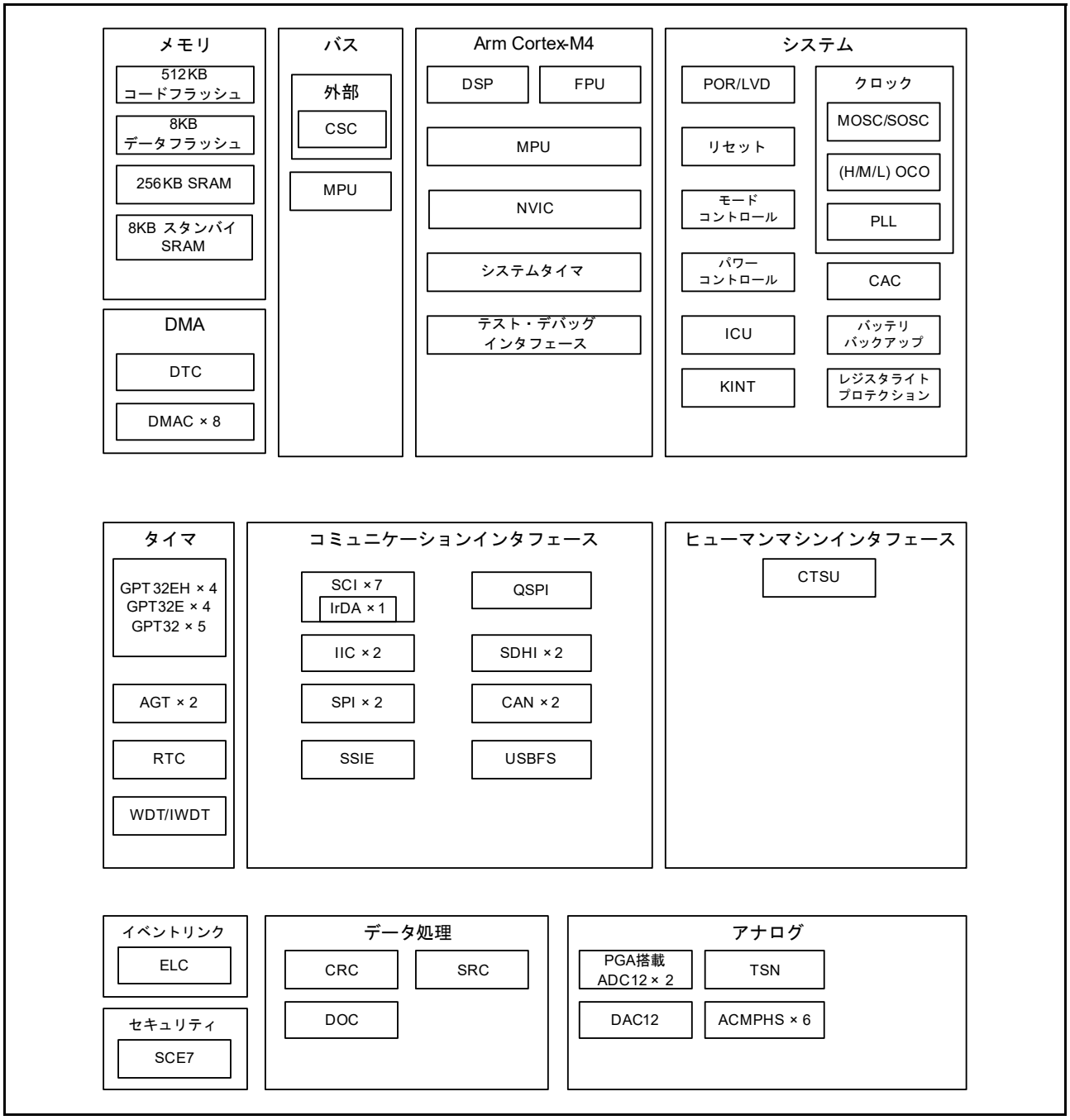


図 1.1 ブロック図

1.3 型名

図 1.2 に、メモリ容量やパッケージタイプなどを含む製品型名情報の読み方について示します。また、表 1.14 に製品一覧を示します。

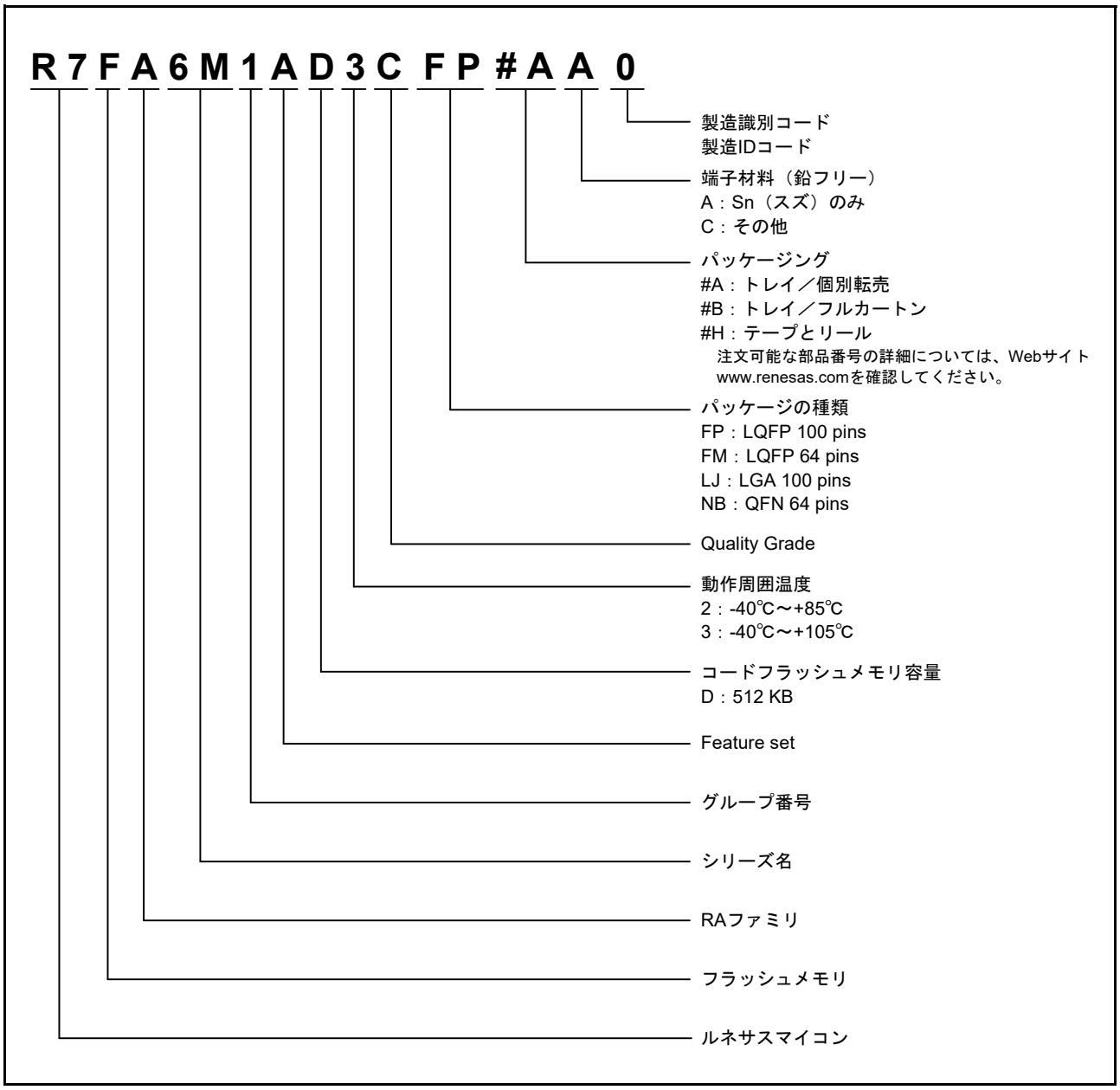


図 1.2 型名の読み方

表 1.14 製品一覧

型名	パッケージ	コードフラッシュ	データフラッシュ	SRAM	動作温度
R7FA6M1AD2CLJ	PTLG0100JA-A	512KB	8KB	256KB	-40～+85℃
R7FA6M1AD3CLJ					-40～+105℃
R7FA6M1AD3CFP	PLQP0100KB-B				-40～+105℃
R7FA6M1AD3CFM	PLQP0064KB-C				-40～+105℃
R7FA6M1AD3CNB	PWQN0064LA-A				-40～+105℃

1.4 機能の比較

表 1.15 機能の比較

機能		型名			
		R7FA6M1AD2CLJ	R7FA6M1AD3CFP	R7FA6M1AD3CFM	R7FA6M1AD3CNB
端子総数		100		64	
パッケージ		LGA	LQFP	LQFP	QFN
コードフラッシュメモリ		512KB			
データフラッシュメモリ		8KB			
SRAM		256KB			
	パリティ	224KB			
	ECC	32KB			
スタンバイ SRAM		8KB			
システム	CPUクロック	120MHz			
	バックアップレジスタ	512B			
	ICU	あり			
	KINT	8			
イベントリンク	ELC	あり			
DMA	DTC	あり			
	DMAC	8			
バス	外部バス	8ビットバス		なし	
タイマ	GPT32EH	4			
	GPT32E	4		3	
	GPT32	5		4	
	AGT	2			
	RTC	あり			
	WDT/IWDT	あり			
通信	SCI	7			
	IIC	2			
	SPI	2			
	SSIE	1		なし	
	QSPI	1			
	SDHI	2		なし	
	CAN	2			
	USBFS	あり			
アナログ	ADC12	ユニット0：11 ユニット1：8 端子共有：2（注1）		ユニット0：7 ユニット1：3 端子共有：2（注1）	
	3ch-S/H	ユニット0：1（3ch） ユニット1：1（3ch）		ユニット0：1（3ch）	
	PGA	ユニット0：3 ユニット1：3		ユニット0：3	
	DAC12	2			
	ACMPHS	6			
	TSN	あり			
HMI	CTSU	12		7	
データ処理	CRC	あり			
	DOC	あり			
	SRC	あり			
セキュリティ		SCE7			
I/Oポート	入出力	67		35	
	入力	9		5	
	プルアップ抵抗	68		36	
	Nチャネルオープンドレイン出力	67		35	
	5Vトレラント	14		9	

注 1. 各 ADC ユニットの入力チャネルが、同一ポートにアサインされています。

1.5 端子機能

表 1.16 端子機能 (1/4)

機能	端子名	入出力	説明
電源	VCC	入力	電源端子。本端子は、各モジュールおよび内部電圧レギュレータのデジタル電源端子として使用されます。また、POR/LVDの電圧監視にも使用されます。システムの電源に接続してください。この端子は0.1μFのコンデンサを介してVSSに接続してください。コンデンサは端子近くに配置してください。
	VCL0	入力	内部電源供給を安定化するための0.1μFの平滑コンデンサを経由してこの端子をVSSに接続します。コンデンサは端子近くに配置してください。
	VCL	入力	
	VSS	入力	グランド端子。システムの電源（0V）に接続してください。
	VBATT	入力	バックアップ電源端子
クロック	XTAL	出力	水晶振動子用の接続端子。EXTAL端子を通じて外部クロック信号の入力が可能です。
	EXTAL	入力	
	XCIN	入力	サブクロック発振器用の入出力端子。XCOUTとXCINの間には、水晶振動子を接続してください。
	XCOUT	出力	
	EBCLK	出力	外部デバイス用の外部バスクロック出力端子
	CLKOUT	出力	クロック出力端子
動作モード コントロール	MD	入力	動作モード設定用の端子。本端子の信号レベルは、リセット解除時の動作モードの遷移中に変更しないでください。
システム制御	RES	入力	リセット信号入力端子。本端子がLowになると、MCUはリセット状態となります。
CAC	CACREF	入力	測定基準クロックの入力端子
割り込み	NMI	入力	ノンマスカブル割り込み要求端子
	IRQ0～IRQ13	入力	マスカブル割り込み要求端子
KINT	KR00～KR07	入力	キー割り込みは、キー割り込み入力端子に立ち下がりエッジを入力することで発生させることが可能です。
オンチップ エミュレータ	TMS	入出力	オンチップエミュレータ用またはバウンダリスキャン用端子
	TDI	入力	
	TCK	入力	
	TDO	出力	
	TCLK	出力	トレースデータと同期をとるためのクロックを出力します。
	TDATA0～TDATA3	出力	トレースデータ出力
	SWDIO	入出力	シリアルワイヤデバッグデータの入出力端子
	SWCLK	入力	シリアルワイヤクロック端子
	SWO	出力	シリアルワイヤトレース出力端子
外部バス インタフェース	RD	出力	外部バスインタフェース空間から読み出し中であることを示すストローブ信号、アクティブLow
	WR0	出力	外部バスインタフェース空間への書き込みが実行中であることを示すストローブ信号、アクティブLow
	ALE	出力	アドレス／データマルチプレクスバス選択時のアドレスラッチ信号
	WAIT	入力	外部空間をアクセスするときのウェイト要求信号用の入力端子。アクティブLow
	CS0, CS1, CS4～CS7	出力	CS領域選択信号、アクティブLow
	A00～A12	出力	アドレスバス
	D00～D07	入出力	データバス
	A00/D00～A07/D07	入出力	アドレス／データマルチプレクスバス

表 1.16 端子機能 (2/4)

機能	端子名	入出力	説明
GPT	GTETRGA, GTETRGB, GTETRGC, GTETRGD	入力	外部トリガ入力端子
	GTIOC0A～GTIOC12A, GTIOC0B～GTIOC12B	入出力	インプットキャプチャ、アウトプットコンペア、またはPWM出力端子
	GTIU	入力	ホールセンサ入力端子U
	GTIV	入力	ホールセンサ入力端子V
	GTIW	入力	ホールセンサ入力端子W
	GTOUUP	出力	BLDCモータ制御用3相PWM出力（正相U相）
	GTOULO	出力	BLDCモータ制御用3相PWM出力（逆相U相）
	GTOVUP	出力	BLDCモータ制御用3相PWM出力（正相V相）
	GTOVLO	出力	BLDCモータ制御用3相PWM出力（逆相V相）
	GTOWUP	出力	BLDCモータ制御用3相PWM出力（正相W相）
	GTOWLO	出力	BLDCモータ制御用3相PWM出力（逆相W相）
AGT	AGTEE0, AGTEE1	入力	外部イベント入力イネーブル信号
	AGTIO0, AGTIO1	入出力	外部イベント入力およびパルス出力端子
	AGTO0, AGTO1	出力	パルス出力端子
	AGTOA0, AGTOA1	出力	出力コンペアマッチA出力端子
	AGTOB0, AGTOB1	出力	出力コンペアマッチB出力端子
RTC	RTCOUT	出力	1Hzまたは64Hzのクロック出力端子
	RTCIC0～RTCIC2	入力	時間キャプチャイベント入力端子
SCI	SCK0～SCK4, SCK8, SCK9	入出力	クロック用の入出力端子（クロック同期式モード）
	RXD0～RXD4, RXD8, RXD9	入力	受信データ用の入力端子（調歩同期式モード／クロック同期式モード）
	TXD0～TXD4, TXD8, TXD9	出力	送信データ用の出力端子（調歩同期式モード／クロック同期式モード）
	CTS0_RTS0～CTS4_RTS4, CTS8_RTS8, CTS9_RTS9	入出力	送受信の開始制御用の入出力端子 （調歩同期式モード／クロック同期式モード）、アクティブLow
	SCL0～SCL4, SCL8, SCL9	入出力	IICクロック用の入出力端子（簡易IICモード）
	SDA0～SDA4 SDA8, SDA9	入出力	IICデータ用の入出力端子（簡易IICモード）
	SCK0～SCK4, SCK8, SCK9	入出力	クロック用の入出力端子（簡易SPIモード）
	MISO0～MISO4, MISO8, MISO9	入出力	データのスレーブ送信用の入出力端子（簡易SPIモード）
	MOSI0～MOSI4, MOSI8, MOSI9	入出力	データのマスタ送信用の入出力端子（簡易SPIモード）
	SS0～SS4, SS8, SS9	入力	チップセレクト入力端子（簡易SPIモード）、アクティブLow
IIC	SCL0, SCL1	入出力	クロック用の入出力端子
	SDA0, SDA1	入出力	データ用の入出力端子
SSIE	SSIBCK0	入出力	SSIEシリアルビットクロック端子
	SSILRCK0/SSIFS0	入出力	LRクロック／フレーム同期端子
	SSITXD0	出力	シリアルデータ出力端子
	SSIRXD0	入力	シリアルデータ入力端子
	AUDIO_CLK	入力	オーディオ用の外部クロック端子（入力オーバーサンプリングクロック）

表 1.16 端子機能 (3/4)

機能	端子名	入出力	説明
SPI	RSPCKA, RSPCKB	入出力	クロック入出力端子
	MOSIA, MOSIB	入出力	マスタからの出力データ用の入出力端子
	MISOA, MISOB	入出力	スレーブからの出力データ用の入出力端子
	SSLA0, SSLB0	入出力	スレーブ選択用の入出力端子
	SSLA1～SSLA3, SSLB1～SSLB3	出力	スレーブ選択用の出力端子
QSPI	QSPCLK	出力	QSPIクロック出力端子
	QSSL	出力	QSPIスレーブ出力端子
	QIO0～QIO3	入出力	Data0～Data3
CAN	CRX0, CRX1	入力	受信データ
	CTX0, CTX1	出力	送信データ
USBFS	VCC_USB	入力	電源端子
	VSS_USB	入力	グランド端子
	USB_DP	入出力	USB内蔵トランシーバD+入出力端子。この端子はUSBバスのD+端子に接続してください。
	USB_DM	入出力	USB内蔵トランシーバD-入出力端子。この端子はUSBバスのD-端子に接続してください。
	USB_VBUS	入力	USBケーブル接続モニタ端子。この端子はUSBバスのVBUSに接続してください。デバイスコントローラ機能選択時のVBUSの接続／切断を検出することが可能です。
	USB_EXICEN	出力	外部電源（OTG）チップの低消費電力制御信号
	USB_VBUSEN	出力	外部電源チップへのVBUS（5V）の供給許可信号
	USB_OVRCURA, USB_OVRCURB	入力	これらの端子には外部過電流検出信号を接続してください。OTG電源チップとの接続時にはVBUSコンパレータ信号を接続してください。
	USB_ID	入力	OTG動作時にMicroABコネクタのID入力信号を接続してください。
SDHI	SD0CLK, SD1CLK	出力	SDクロック出力端子
	SD0CMD, SD1CMD	入出力	コマンド出力端子、レスポンス入力信号端子
	SD0DAT0～SD0DAT3, SD1DAT0～SD1DAT3	入出力	SD/MMCデータバス端子
	SD0CD	入力	SDカード検出端子
	SD0WP	入力	SDライトプロテクト信号
アナログ電源	AVCC0	入力	アナログ電圧端子。それぞれのモジュールのアナログ電源端子として使用されます。この端子にはVCC端子と同じ電圧を供給してください。
	AVSS0	入力	アナロググランド端子。それぞれのモジュールのアナロググランド端子として使用されます。この端子にはVSS端子と同じ電圧を供給してください。
	VREFH0	入力	ADC12（ユニット0）用のアナログ基準電圧端子。ADC12（ユニット0）およびAN000～AN002にサンプル＆ホールド回路を使用しない場合は、この端子をVCCに接続してください。
	VREFL0	入力	ADC12用のアナログ基準グランド端子。ADC12（ユニット0）およびAN000～AN002にサンプル＆ホールド回路を使用しない場合は、この端子をVSSに接続してください。
	VREFH	入力	ADC12（ユニット1）とD/Aコンバータ用のアナログ基準電圧端子。ADC12（ユニット1）、AN100～AN102にサンプル＆ホールド回路およびD/Aコンバータを使用しない場合は、この端子をVCCに接続してください。
	VREFL	入力	ADC12とD/Aコンバータ用のアナログ基準グランド端子。ADC12（ユニット1）、AN100～AN102にサンプル＆ホールド回路およびD/Aコンバータを使用しない場合は、この端子をVSSに接続してください。

表 1.16 端子機能 (4/4)

機能	端子名	入出力	説明
ADC12	AN000～AN003, AN005～AN007, AN016～AN018, AN020	入力	ADC12で処理されるアナログ信号用の入力端子 AN005とAN105、およびAN006とAN106はそれぞれ同じポートに割り当てられています。
	AN100～AN102, AN105～AN107, AN116, AN117	入力	
	ADTRG0	入力	A/D変換を開始する外部トリガ信号用の入力端子
	ADTRG1	入力	
	PGAVSS000, PGAVSS100	入力	差動入力端子
DAC12	DA0, DA1	出力	D/Aコンバータで処理されるアナログ信号用の出力端子
ACMPHS	VCOUT	出力	コンパレータ出力端子
	IVREF0～IVREF3	入力	コンパレータ用の基準電圧入力端子
	IVCMP0～IVCMP3	入力	コンパレータ用のアナログ電圧入力端子
CTSU	TS01～TS12	入力	静電容量式タッチ検出端子（タッチ端子）
	TSCAP	-	タッチドライバ用の二次電源端子
I/Oポート	P000～P007	入力	汎用入力端子
	P008, P014, P015	入出力	汎用入出力端子
	P100～P115	入出力	汎用入出力端子
	P200	入力	汎用入力端子
	P201, P205～P214	入出力	汎用入出力端子
	P300～P307	入出力	汎用入出力端子
	P400～P415	入出力	汎用入出力端子
	P500～P504, P508	入出力	汎用入出力端子
	P600～P602, P608～P610	入出力	汎用入出力端子
	P708	入出力	汎用入出力端子

1.6 ピン配置図

図 1.3 ～図 1.6 にピン配置図を示します。

R7FA6M1AD2CLJ

	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K	
10	P407	P409	P412	VCC	P212/ EXTAL	XCOUT	VCL0	P403	P400	P000	10
9	USB_DM	USB_DP	P411	VSS	P213/ XTAL	XCIN	VBATT	P405	P401	P001	9
8	VCC_ USB	VSS_ USB	P207	P413	P415	P708	P404	P003	P004	P002	8
7	P205	P214	P206	P408	P414	P406	P006	P007	P008	P005	7
6	P209	P208	P210	P211	P410	P402	P508	AVSS0	VREFL0	VREFH0	6
5	P200	P201/MD	P307	RES	P113	P600	P504	AVCC0	VREFL	VREFH	5
4	VCC	P304	P305	P306	P115	P601	P503	P100	P015	P014	4
3	VSS	P303	P110/TDI	P111	P609	P602	P107	P103	VSS	VCC	3
2	P300/ TCK/ SWCLK	P302	P301	P114	P610	VSS	P106	P101	P501	P502	2
1	P108/ TMS/ SWDIO	P109/ TDO	P112	P608	VCC	VCL	P105	P104	P102	P500	1
	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K	

図 1.3 100-pin LGA のピン配置図（上面図）

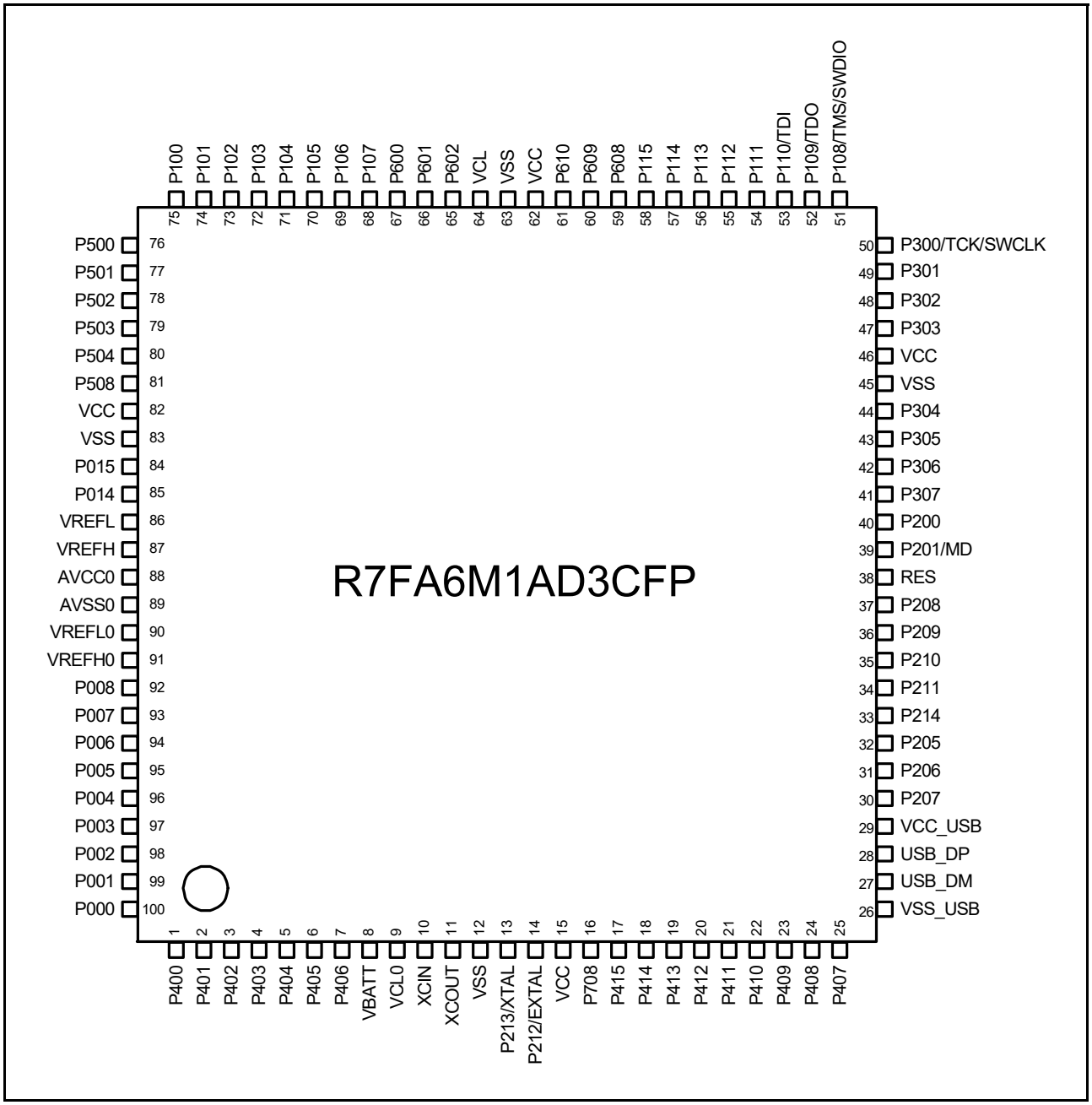


図 1.4　100-pin LQFP のピン配置図（上面図）

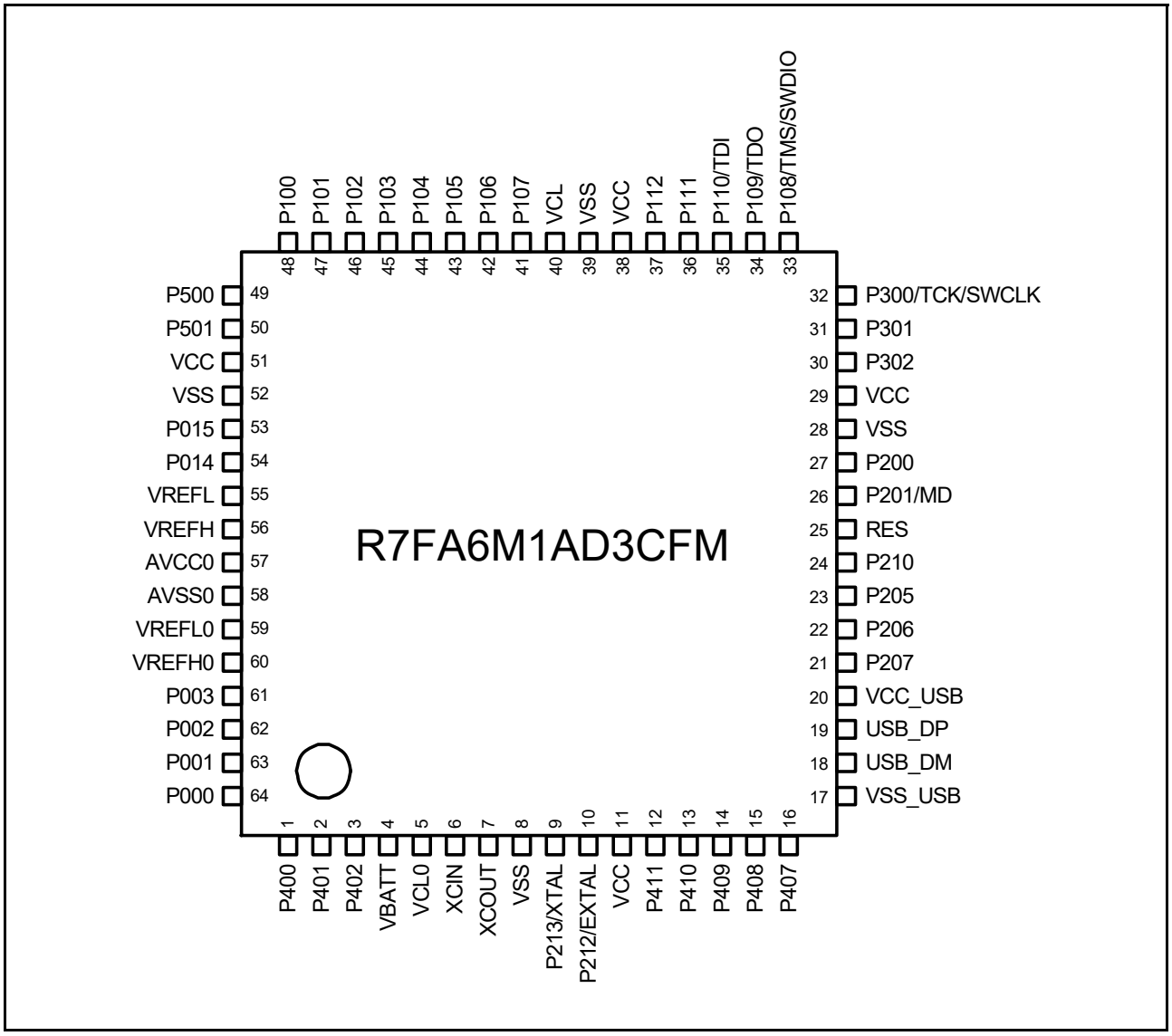


図 1.5　64-pin LQFP のピン配置図（上面図）

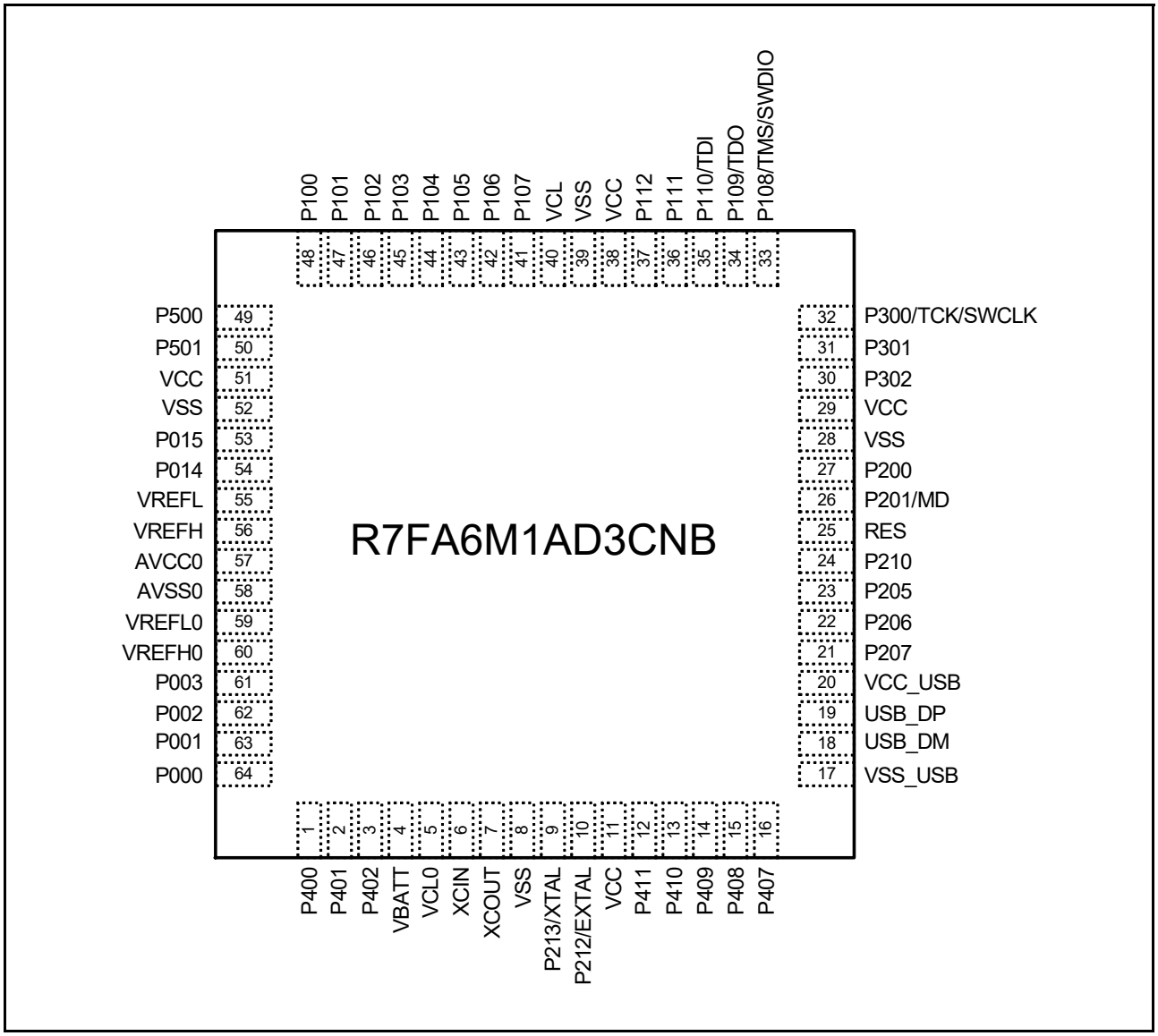


図 1.6 64-pin QFN のピン配置図（上面図）

1.7 端子一覧

ピン番号								タイマ				通信インタフェース							アナログ		HMI
LGA100	LQFP100	LQFP64	QFN64	電源、システム、クロック、デバッグ、CAC	割り込み	I/Oポート	外部バス	AGT	GPT	GPT	RTC	USBFS, CAN	SCI0,2,4,8 (30 MHz)	SCI1,3,9 (30 MHz)	IIC	SPI, QSPI	SSIE	SDHI	ADC12	DAC12, ACMPHS	CTSU
J10	1	1	1	-	IRQ0	P400	-	AGTIO1	-	GTIOC6A	-	-	SCK4	-	SCL0_A	-	AUDIO_CLK	-	ADTRG1	-	-
J9	2	2	2	-	IRQ5-DS	P401	-	-	GTETRGA	GTIOC6B	-	CTX0	CTS4_RTS4/SS4	-	SDA0_A	-	-	-	-	-	-
F6	3	3	3	CACREF	IRQ4-DS	P402	-	AGTIO0/AGTIO1	-	-	RTCIC0	CRX0	-	-	-	-	AUDIO_CLK	-	-	-	-
H10	4	-	-	-	-	P403	-	AGTIO0/AGTIO1	-	GTIOC3A	RTCIC1	-	-	-	-	-	SSIBCK0_A	-	-	-	-
G8	5	-	-	-	-	P404	-	-	-	GTIOC3B	RTCIC2	-	-	-	-	-	SSILRCK0/SSIFS0_A	-	-	-	-
H9	6	-	-	-	-	P405	-	-	-	GTIOC1A	-	-	-	-	-	-	SSITXD0_A	-	-	-	-
F7	7	-	-	-	-	P406	-	-	-	GTIOC1B	-	-	-	-	-	-	SSIRXD0_A	-	-	-	-
G9	8	4	4	VBATT	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
G10	9	5	5	VCL0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
F9	10	6	6	XCIN	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
F10	11	7	7	XCOUT	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
D9	12	8	8	VSS	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
E9	13	9	9	XTAL	IRQ2	P213	-	-	GTETRGC	GTIOC0A	-	-	-	TXD1/MOSI1/SDA1	-	-	-	-	ADTRG1	-	-
E10	14	10	10	EXTAL	IRQ3	P212	-	AGTEE1	GTETRGD	GTIOC0B	-	-	-	RXD1/MISO1/SCL1	-	-	-	-	-	-	-
D10	15	11	11	VCC	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
F8	16	-	-	CACREF	IRQ11	P708	-	-	-	-	-	-	-	RXD1/MISO1/SCL1	-	SSLA3_B	AUDIO_CLK	-	-	-	TS12
E8	17	-	-	-	IRQ8	P415	-	-	-	GTIOC0A	-	USB_VBUSEN	-	-	-	SSLA2_B	-	SD0CD	-	-	TS11
E7	18	-	-	-	IRQ9	P414	-	-	-	GTIOC0B	-	-	-	-	-	SSLA1_B	-	SD0WP	-	-	TS10
D8	19	-	-	-	-	P413	-	-	GTOUUP	-	-	-	CTS0_RTS0/SS0	-	-	SSLA0_B	-	SD0CLK_A	-	-	TS09
C10	20	-	-	-	-	P412	-	AGTEE1	GTOULO	-	-	-	SCK0	-	-	RSPCKA_B	-	SD0CMD_A	-	-	TS08
C9	21	12	12	-	IRQ4	P411	-	AGTOA1	GTOVUP	GTIOC9A	-	-	TXD0/MOSI0/SDA0	CTS3_RTS3/SS3	-	MOSIA_B	-	SD0DAT0_A	-	-	TS07
E6	22	13	13	-	IRQ5	P410	-	AGTOB1	GTOVLO	GTIOC9B	-	-	RXD0/MISO0/SCL0	SCK3	-	MISOA_B	-	SD0DAT1_A	-	-	TS06
B10	23	14	14	-	IRQ6	P409	-	-	GTOWUP	GTIOC10A	-	USB_EXICEN	-	TXD3/MOSI3/SDA3	-	-	-	-	-	-	TS05
D7	24	15	15	-	IRQ7	P408	-	-	GTOWLO	GTIOC10B	-	USB_ID	-	RXD3/MISO3/SCL3	SCL0_B	-	-	-	-	-	TS04
A10	25	16	16	-	-	P407	-	AGTIO0	-	-	RTCOUT	USB_VBUS	CTS4_RTS4/SS4	-	SDA0_B	-	-	-	ADTRG0	-	TS03
B8	26	17	17	VSS_USB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A9	27	18	18	-	-	-	-	-	-	-	-	USB_DM	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B9	28	19	19	-	-	-	-	-	-	-	-	USB_DP	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A8	29	20	20	VCC_USB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C8	30	21	21	-	-	P207	-	-	-	-	-	-	-	-	-	QSSL	-	-	-	-	TS02
C7	31	22	22	-	IRQ0-DS	P206	WAIT	-	GTIU	-	-	USB_VBUSEN	RXD4/MISO4/SCL4	-	SDA1_A	-	-	SD0DAT2_A	-	-	TS01
A7	32	23	23	CLKOUT	IRQ1-DS	P205	-	AGTO1	GTIV	GTIOC4A	-	USB_OVRCURA-DS	TXD4/MOSI4/SDA4	CTS9_RTS9/SS9	SCL1_A	-	-	SD0DAT3_A	-	-	TSCAP
B7	33	-	-	TCLK	-	P214	-	-	GTIU	-	-	-	-	-	-	QSPCLK	-	SD0CLK_B	-	-	-
D6	34	-	-	TDATA0	-	P211	CS7	-	GTIV	-	-	-	-	-	-	QIO0	-	SD0CMD_B	-	-	-
C6	35	24	24	TDATA1	-	P210	CS6	-	GTIW	-	-	-	-	-	-	QIO1	-	SD0CD	-	-	-
A6	36	-	-	TDATA2	-	P209	CS5	-	GTOVUP	-	-	-	-	-	-	QIO2	-	SD0WP	-	-	-
B6	37	-	-	TDATA3	-	P208	CS4	-	GTOVLO	-	-	-	-	-	-	QIO3	-	SD0DAT0_B	-	-	-
D5	38	25	25	RES	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B5	39	26	26	MD	-	P201	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A5	40	27	27	-	NMI	P200	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C5	41	-	-	-	-	P307	A12	-	GTOUUP	-	-	-	-	-	-	QIO0	-	-	-	-	-
D4	42	-	-	-	-	P306	A11	-	GTOULO	-	-	-	-	-	-	QSSL	-	-	-	-	-
C4	43	-	-	-	IRQ8	P305	A10	-	GTOWUP	-	-	-	-	-	-	QSPCLK	-	-	-	-	-
B4	44	-	-	-	IRQ9	P304	A09	-	GTOWLO	GTIOC7A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A3	45	28	28	VSS	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A4	46	29	29	VCC	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

ピン番号								タイマ				通信インタフェース								アナログ		HMI
LGA100	LQFP100	LQFP64	QFN64	電源、システム、クロック、デバッグ、CAC	割り込み	I/Oポート	外部バス	AGT	GPT	GPT	RTC	USBFS, CAN	SCI0,2,4,8 (30 MHz)	SCI1,3,9 (30 MHz)	IIC	SPI, QSPI	SSIE	SDHI	ADC12	DAC12, ACMPHS	CTSU
B3	47	-	-	-	-	P303	A08	-	-	GTIOC7B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B2	48	30	30	-	IRQ5	P302	A07	-	GTOUUP	GTIOC4A	-	-	TXD2/MOSI2/SDA2	-	-	SSLB3_B	-	-	-	-	-
C2	49	31	31	-	IRQ6	P301	A06	AGTIO0	GTOULO	GTIOC4B	-	-	RXD2/MISO2/SCL2	CTS9_RTS9/SS9	-	SSLB2_B	-	-	-	-	-
A2	50	32	32	TCK/SWCLK	-	P300	-	-	GTOUUP	GTIOC0A_A	-	-	-	-	-	SSLB1_B	-	-	-	-	-
A1	51	33	33	TMS/SWDIO	-	P108	-	-	GTOULO	GTIOC0B_A	-	-	-	CTS9_RTS9/SS9	-	SSLB0_B	-	-	-	-	-
B1	52	34	34	CLKOUT/TDO/SWO	-	P109	-	-	GTOVUP	GTIOC1A_A	-	CTX1	-	TXD9/MOSI9/SDA9	-	MOSIB_B	-	-	-	-	-
C3	53	35	35	TDI	IRQ3	P110	-	-	GTOVLO	GTIOC1B_A	-	CRX1	CTS2_RTS2/SS2	RXD9/MISO9/SCL9	-	MISOB_B	-	-	-	VCOUT	-
D3	54	36	36	-	IRQ4	P111	A05	-	-	GTIOC3A_A	-	-	SCK2	SCK9	-	RSPCKB_B	-	-	-	-	-
C1	55	37	37	-	-	P112	A04	-	-	GTIOC3B_A	-	-	TXD2/MOSI2/SDA2	SCK1	-	SSLB0_B	SSIBCK0_B	-	-	-	-
E5	56	-	-	-	-	P113	A03	-	-	GTIOC2A	-	-	RXD2/MISO2/SCL2	-	-	-	SSILRCK0/SSIFS0_B	-	-	-	-
D2	57	-	-	-	-	P114	A02	-	-	GTIOC2B	-	-	-	-	-	-	SSIRXD0_B	-	-	-	-
E4	58	-	-	-	-	P115	A01	-	-	GTIOC4A	-	-	-	-	-	-	SSITXD0_B	-	-	-	-
D1	59	-	-	-	-	P608	A00	-	-	GTIOC4B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
E3	60	-	-	-	-	P609	CS1	-	-	GTIOC5A	-	CTX1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
E2	61	-	-	-	-	P610	CS0	-	-	GTIOC5B	-	CRX1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
E1	62	38	38	VCC	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
F2	63	39	39	VSS	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
F1	64	40	40	VCL	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
F3	65	-	-	-	-	P602	EBCLK	-	-	GTIOC7B	-	-	-	TXD9	-	-	-	-	-	-	-
F4	66	-	-	-	-	P601	WR0	-	-	GTIOC6A	-	-	-	RXD9	-	-	-	-	-	-	-
F5	67	-	-	CLKOUT/CACREF	-	P600	RD	-	-	GTIOC6B	-	-	-	SCK9	-	-	-	-	-	-	-
G3	68	41	41	-	KR07	P107	D07[A07/D07]	AGTOA0	-	GTIOC8A	-	-	CTS8_RTS8/SS8	-	-	QIO3	-	-	-	-	-
G2	69	42	42	-	KR06	P106	D06[A06/D06]	AGTOB0	-	GTIOC8B	-	-	SCK8	-	-	SSLA3_A/QIO2	-	-	-	-	-
G1	70	43	43	-	IRQ0/KR05	P105	D05[A05/D05]	-	GTETRGA	GTIOC1A	-	-	TXD8/MOSI8/SDA8	-	-	SSLA2_A/QIO1	-	-	-	-	-
H1	71	44	44	-	IRQ1/KR04	P104	D04[A04/D04]	-	GTETRGB	GTIOC1B	-	-	RXD8/MISO8/SCL8	-	-	SSLA1_A/QIO0	-	-	-	-	-
H3	72	45	45	-	KR03	P103	D03[A03/D03]	-	GTOWUP	GTIOC2A_A	-	CTX0	CTS0_RTS0/SS0	-	-	SSLA0_A	-	-	-	-	-
J1	73	46	46	-	KR02	P102	D02[A02/D02]	AGTO0	GTOWLO	GTIOC2B_A	-	CRX0	SCK0	-	-	RSPCKA_A	-	-	ADTRG0	-	-
H2	74	47	47	-	IRQ1/KR01	P101	D01[A01/D01]	AGTEE0	GTETRGB	GTIOC5A	-	-	TXD0/MOSI0/SDA0	CTS1_RTS1/SS1	SDA1_B	MOSIA_A	-	-	-	-	-
H4	75	48	48	-	IRQ2/KR00	P100	D00[A00/D00]	AGTIO0	GTETRGA	GTIOC5B	-	-	RXD0/MISO0/SCL0	SCK1	SCL1_B	MISOA_A	-	-	-	-	-
K1	76	49	49	-	-	P500	-	AGTOA0	GTIU	GTIOC11A	-	USB_VBUSEN	-	-	-	QSPCLK	-	SD1CLK_A	AN016	IVREF0	-
J2	77	50	50	-	IRQ11	P501	-	AGTOB0	GTIV	GTIOC11B	-	USB_OVRCURA	-	-	-	QSSL	-	SD1CMD_A	AN116	IVREF1	-
K2	78	-	-	-	IRQ12	P502	-	-	GTIW	GTIOC12A	-	USB_OVRCURB	-	-	-	QIO0	-	SD1DAT0_A	AN017	IVCMP0	-
G4	79	-	-	-	-	P503	-	-	GTETRGC	GTIOC12B	-	USB_EXICEN	-	-	-	QIO1	-	SD1DAT1_A	AN117	-	-
G5	80	-	-	-	-	P504	ALE	-	GTETRGD	-	-	USB_ID	-	-	-	QIO2	-	SD1DAT2_A	AN018	-	-
G6	81	-	-	-	-	P508	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SD1DAT3_A	AN020	-	-
K3	82	51	51	VCC	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
J3	83	52	52	VSS	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
J4	84	53	53	-	IRQ13	P015	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	AN006/AN106	DA1/IVCMP1	-
K4	85	54	54	-	-	P014	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	AN005/AN105	DA0/IVREF3	-
J5	86	55	55	VREFL	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
K5	87	56	56	VREFH	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H5	88	57	57	AVCC0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

ピン番号								タイマ				通信インタフェース							アナログ		HMI
LGA100	LQFP100	LQFP64	QFN64	電源、システム、クロック、デバッグ、CAC	割り込み	I/Oポート	外部バス	AGT	GPT	GPT	RTC	USBFS, CAN	SCI0,2,4,8 (30 MHz)	SCI1,3,9 (30 MHz)	IIC	SPI, QSPI	SSIE	SDHI	ADC12	DAC12, ACMPHS	CTSU
H6	89	58	58	AVSS0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
J6	90	59	59	VREFL0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
K6	91	60	60	VREFH0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
J7	92	-	-	-	IRQ12-DS	P008	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	AN003	-	-
H7	93	-	-	-	-	P007	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	PGAVSS100/AN107	-	-
G7	94	-	-	-	IRQ11-DS	P006	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	AN102	IVCMP2	-
K7	95	-	-	-	IRQ10-DS	P005	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	AN101	IVCMP2	-
J8	96	-	-	-	IRQ9-DS	P004	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	AN100	IVCMP2	-
H8	97	61	61	-	-	P003	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	PGAVSS000/AN007	-	-
K8	98	62	62	-	IRQ8-DS	P002	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	AN002	IVCMP2	-
K9	99	63	63	-	IRQ7-DS	P001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	AN001	IVCMP2	-
K10	100	64	64	-	IRQ6-DS	P000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	AN000	IVCMP2	-

注 . いくつかの端子名には、_A、_B という接尾語が付加されています。GPT、IIC、SPI、SSIE、SDHI 機能を割り当てる場合、同じ接尾語の機能端子を選択してください。

2. CPU

本 MCU は、Arm® Cortex®-M4 コアをベースにしています。

2.1 概要

2.1.1 CPU

- Arm Cortex-M4
  - リビジョン：r0p1-01rel0
  - Armv7E-M アーキテクチャプロファイル
  - 単精度浮動小数点ユニット（ANSI/IEEE 規格 754-2008 に準拠）
- メモリプロテクションユニット（MPU）
  - Armv7 保護メモリシステムアーキテクチャ
  - 8 つのメモリ保護領域
- SysTick タイマ
  - SYSTICCLK（LOCO）または ICLK により駆動

詳細は、参考資料 1. および参考資料 2. を参照してください。

2.1.2 デバッグ

- Arm CoreSight™ ETM-M4
  - リビジョン：r0p1-00rel0
  - Arm ETM アーキテクチャバージョン 3.5
- CoreSight 計装トレースマクロセル（ITM）
- データウォッチポイント & トレース（DWT）ユニット
  - ウォッチポイントとトリガ用の 4 つのコンパレータ
- フラッシュパッチ&ブレークポイント（FPB）ユニット
  - フラッシュパッチ（リマップ）機能は使用できない。ブレークポイント機能のみ使用可能
  - 6 つの命令コンパレータ
  - 2 つのリテラルコンパレータ
- CoreSight タイムスタンプジェネレータ（TSG）
  - ETM および ITM 用タイムスタンプ
  - CPU クロックによる駆動
- デバッグレジスタモジュール（DBGREG）
  - リセットコントロール
  - 停止コントロール
- CoreSight デバッグアクセスポート（DAP）
  - JTAG デバッグポート（JTAG-DP）
  - シリアルワイヤデバッグポート（SW-DP）
- Cortex-M4 トレースポートインタフェースユニット（TPIU）
  - 4 ビット TPIU フォーマッタ出力
  - シリアルワイヤ出力
- CoreSight エンベデッドトレースバッファ（ETB）
  - CoreSight トレースメモリコントローラ（ETB コンフィグレーション内蔵）
  - バッファサイズ：2KB

詳細は、参考資料 1. および参考資料 2. を参照してください。

2.1.3 動作周波数

本 MCU の動作周波数は以下のとおりです。

- CPU：最大 120MHz
- 4 ビット TPIU トレースインタフェース：最大 60MHz
- シリアルワイヤ出力（SWO）トレースインタフェース：最大 60MHz
- ジョイントテストアクショングループ（JTAG）インタフェース：最大 25MHz
- シリアルワイヤデバッグ（SWD）インタフェース：最大 25MHz

図 2.1 に Cortex-M4 CPU のブロック図を示します。

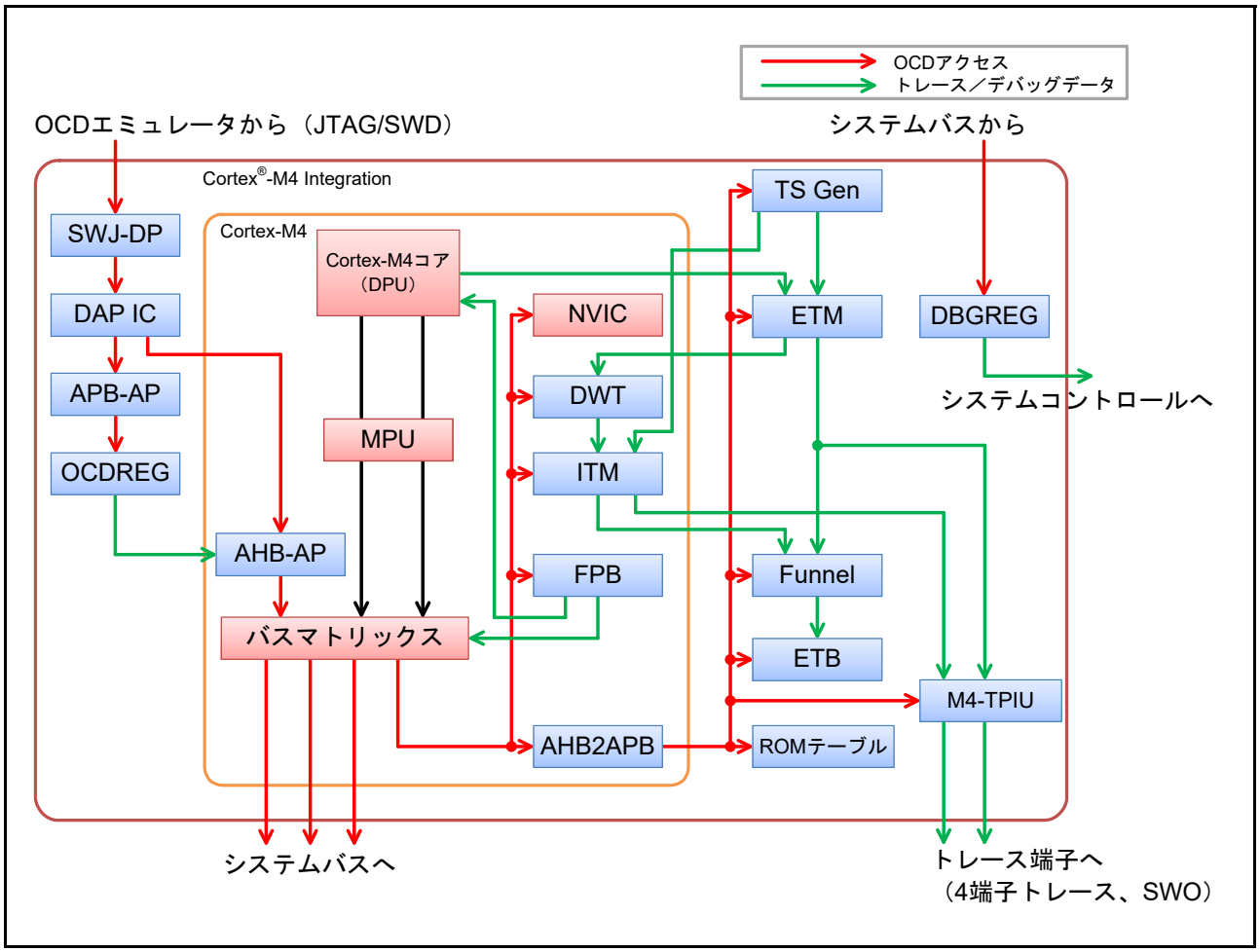


図 2.1 Cortex-M4 CPU ブロック図

2.2 MCU 実装オプション

表 2.1 に本 MCU の実装オプションを示します。これは、参考資料 2. の構成可能オプションを基にしています。

表 2.1 実装オプション

オプション	実装
MPU	あり（8つのメモリ保護領域）
FPB	フラッシュパッチ（リマップ）機能は使用できません。ブレークポイント機能のみ使用可能です。
ブレークポイント機能	あり
FPU	あり
割り込み回数	96
プライオリティビット数	4
ウェイクアップ割り込みコントローラ（WIC（注1））の数	なし
スリープモードパワーセーブ	スリープモードなどの低消費電力モードがサポートされています。詳細は、「11. 低消費電力モード」を参照してください。SCB.SCR.SLEEPDEEPは無視されます。
エンディアン形式	リトルエンディアン
SysTick SYST_CALIB レジスタ	SYST_CALIB = 4000 0147h ビット[31] = 0 基準クロック提供 ビット[30] = 1 TERMS値が精度異常 ビット[29:24] = 00h 予約ビット ビット[23:0] = 000147h TERM: (32768 × 10ms) - 1/32.768kHz = 326.66（10進） = 327（スキューを含む） = 000147h
イベント入出力	実装なし
システムリセット要求出力	アプリケーション割り込みおよびリセットコントロールレジスタのSYSRESETREQビットによってCPUがリセットされます。
補助フォルト入力（AUXFAULT）	実装なし

注 1. ウェイクアップ割り込みコントローラ（WIC）の代わりに、ICU によって CPU のウェイクアップが可能です。詳細は、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

2.3 トレースインタフェース

トレースポートインタフェースユニット（TPIU）とシリアルワイヤ出力（SWO）は、トレース出力を行います。表 2.2 は、この機能に対応する MCU 端子を示しています。これらの端子は他機能との兼用端子です。

表 2.2 トレース機能の端子

名称	入出力	幅	機能
TCLK	出力	1ビット	トレースクロック
TDATA0	出力	1ビット	トレースデータ出力0
TDATA1	出力	1ビット	トレースデータ出力1
TDATA2	出力	1ビット	トレースデータ出力2
TDATA3	出力	1ビット	トレースデータ出力3
TDO/SWO	出力	1ビット	JTAG TDO端子と兼用のシリアルワイヤ出力

2.4 JTAG/SWD インタフェース

表 2.3 は JTAG/SWD 端子を示しています。

表 2.3 JTAG/SWD端子

名称	入出力	P/N	幅	機能	使用しない場合
TCK/SWCLK	入力	Pos.	1ビット	JTAGクロック端子	プルアップ
TMS/SWDIO	入出力	Neg.	1ビット	JTAG TMS端子 SWD入出力端子	プルアップ
TDI	入力	Pos.	1ビット	JTAG TDI端子	プルアップ
TDO/SWO	出力	Neg.	1ビット	シリアルワイヤ出力と兼用のJTAG TDO端子	オープン

2.5 デバッグモード

2.5.1 デバッグモード定義

シングルチップモードでは、デバッガ接続状態は OCD（オンチップデバッガ）モードと定義され、デバッガ未接続状態はユーザモードと定義されます。表 2.4 に、CPU デバッグモードおよびその使用条件を示します。

表 2.4 CPU デバッグモードおよび条件

条件		モード	
OCD 接続	JTAG/SWD 認証	デバッグモード	デバッグ認証
未接続	—	ユーザモード	禁止
接続	不合格	ユーザモード	禁止
接続	合格	OCD モード	許可

注 . OCD 接続は、SWJ-DP レジスタの CDBGPWRUPREQ ビット出力によって判別されます。このビットは OCD によってのみ書き込むことができます。ただし、このビットのレベルは、DBGSTR.CDBGPWRUPREQ ビットの読み出しによって確認できます。

注 . デバッグ認証は、Armv7-M アーキテクチャによって定義されます。「許可」とは、侵入型と非侵入型の両方の CPU デバッグが許可されることを意味します。「禁止」とは、両方とも許可されないことを意味します。

2.5.2 デバッグモードの影響

この節ではデバッグモードの影響について説明します。デバッグモードは CPU の内部および外部に影響を与えます。

2.5.2.1 低消費電力モード

すべての CoreSight デバッグコンポーネントは、CPU がソフトウェアスタンバイモード、スヌーズモード、あるいはディープソフトウェアスタンバイモードに入った場合でも、レジスタの設定値を格納することが可能です。ただし、これらの低消費電力モードにおいては、AHB-AP はオンチップデバッグ（OCD）アクセスに応答できません。CoreSight デバッグコンポーネントにアクセスするには、OCD は低消費電力モードが解除されるのを待つ必要があります。OCD は MCUCTRL レジスタの DBIRQ ビットを設定することで、低消費電力モードの解除を要求できます。詳細は、2.6.5.3 MCU コントロールレジスタ（MCUCTRL）を参照してください。

2.5.2.2 リセット

OCD モードでは、一部のリセットは CPU 状態と DBGSTOPCR の設定内容に依存します。

表 2.5 リセットまたは割り込みおよびモード設定

リセットまたは割り込みの名称	オンチップデバッグ（OCD）モード時の制御	
	OCD ブレークモード	OCD RUN モード
RES端子リセット	ユーザモードと同じ	
パワーオンリセット	ユーザモードと同じ	
独立ウォッチドッグタイマリセット／割り込み	発生なし（注1）	DBGSTOPCRの設定内容に依存（注2）
ウォッチドッグタイマリセット／割り込み	発生なし（注1）	DBGSTOPCRの設定内容に依存（注2）
電圧監視0リセット	DBGSTOPCRの設定内容に依存（注3）	
電圧監視1リセット／割り込み	DBGSTOPCRの設定内容に依存（注3）	
電圧監視2リセット／割り込み	DBGSTOPCRの設定内容に依存（注3）	
SRAMパリティエラーリセット／割り込み	DBGSTOPCRの設定内容に依存（注3）	
SRAM ECCエラーリセット／割り込み	DBGSTOPCRの設定内容に依存（注3）	
MPUバスマスタリセット／割り込み	ユーザモードと同じ	
MPUバススレーブリセット／割り込み	ユーザモードと同じ	
スタックポインタエラーリセット／割り込み	ユーザモードと同じ	
ディープソフトウェアスタンバイリセット	ユーザモードと同じ	
ソフトウェアリセット	ユーザモードと同じ	

注 . OCD ブレークモードでは CPU が停止しています。OCD RUN モードでは CPU が OCD モードにあって、停止していません。
注 1. このモードでは IWDT と WDT は常に停止しています。
注 2. IWDT と WDT の動作は、DBGSTOPCR の設定内容に依存します。
注 3. リセットまたは割り込みのマスク処理は、DBGSTOPCR の設定内容に依存します。

2.6 プログラマモデル

2.6.1 アドレス空間

本 MCU のデバッグシステムには、次の 2 つの CoreSight アクセスポート（AP）があります。

- AHB-AP：CPU バスマトリックスに接続され、CPU と同様にシステムアドレス空間にアクセスします
- APB-AP：専用のアドレス空間（OCD アドレス空間）を持ち、OCD レジスタに接続されます

図 2.2 は、AP 接続とアドレス空間のブロック図です。

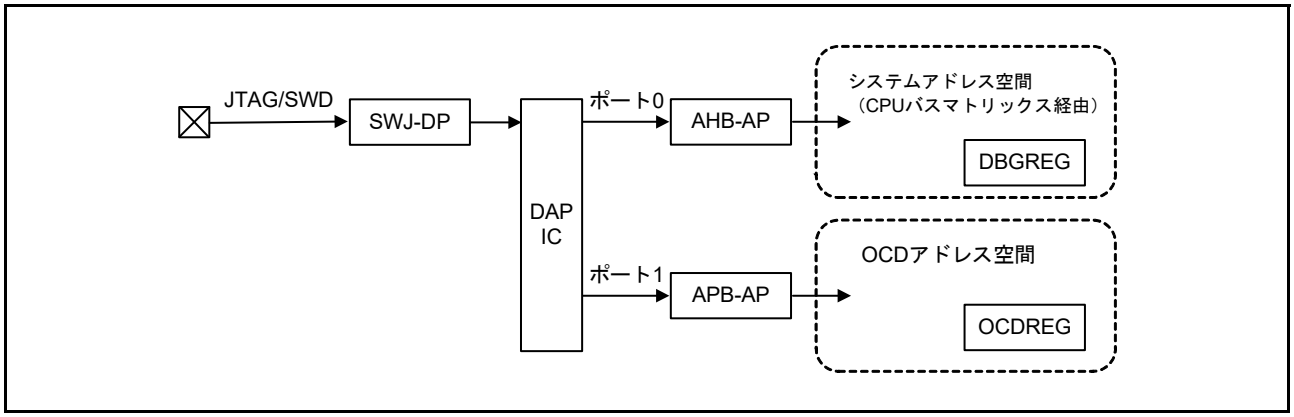


図 2.2 JTAG/SWD 認証のブロック図

デバッグ用に、DBGREG と OCDREG の 2 つのレジスタモジュールが存在します。DBGREG はシステムアドレス空間に配置され、OCD エミュレータ、CPU、および MCU の他のバスマスタからアクセスが可能です。OCDREG は OCD アドレス空間に配置され、OCD ツールからのみアクセスが可能です。CPU と他のバスマスタは OCD レジスタにアクセスできません。

2.6.2 Cortex-M4 ペリフェラルアドレスマップ

システムアドレス空間では、Cortex-M4 コアは専用周辺バス（PPB）を備えます。このバスは CPU および OCD エミュレータからのみアクセスが可能です。PPB は、本 MCU に対する Cortex-M4 オリジナル実装から拡張されます。表 2.6 は、本 MCU のアドレスマップを示しています。

表 2.6 Cortex-M4 ペリフェラルアドレスマップ

コンポーネント名	開始アドレス	終了アドレス	備考
ITM	E000 0000h	E000 0FFFh	参考資料2. を参照してください。
DWT	E000 1000h	E000 1FFFh	参考資料2. を参照してください。
FPB	E000 2000h	E000 2FFFh	参考資料2. を参照してください。
SCS	E000 E000h	E000 EFFFh	参考資料2. を参照してください。
TPIU	E004 0000h	E004 0FFFh	参考資料2. を参照してください。
ETM	E004 1000h	E004 1FFFh	参考資料5. を参照してください。
ATB ファネル	E004 2000h	E004 2FFFh	2.7 および参考資料4. を参照してください。
ETB	E004 3000h	E004 3FFFh	参考資料6. を参照してください。
タイムスタンプジェネレータ	E004 4000h	E004 4FFFh	2.10 および参考資料4. を参照してください。
ROM テーブル	E00F F000h	E00F FFFFh	2.6.3 および参考資料7. を参照してください。

2.6.3 CoreSight ROM テーブル

本 MCU には 1 つの CoreSight ROM テーブルがあります。これは Arm コンポーネントの一覧表です。

2.6.3.1 ROM エントリ

表 2.7 に、CoreSight ROM テーブル内の ROM エントリを示します。OCD エミュレータは、この ROM エントリを使用して、システムに実装されているコンポーネントを識別できます。詳細は参考資料 7. を参照してください。

表 2.7 CoreSight ROM テーブル

#	アドレス	アクセスサイズ	R/W	値	コンポーネント
0	E00F F000h	32 ビット	R	FFF0 F003h	NVIC
1	E00F F004h	32 ビット	R	FFF0 2003h	SWT
2	E00F F008h	32 ビット	R	FFF0 3003h	FPB
3	E00F F00Ch	32 ビット	R	FFF0 1003h	ITM
4	E00F F010h	32 ビット	R	FFF4 1003h	TPIU
5	E00F F014h	32 ビット	R	FFF4 2003h	ETM
6	E00F F018h	32 ビット	R	FFF4 3003h	ファネル
7	E00F F01Ch	32 ビット	R	FFF4 4003h	ETB
8	E00F F020h	32 ビット	R	FFF4 5003h	TSG
9	E00F F024h	32 ビット	R	0000 0000h	エントリ終了

2.6.3.2 CoreSight コンポーネントレジスタ

CoreSight ROM テーブルは、Arm CoreSight アーキテクチャで定義された CoreSight コンポーネントレジスタの一覧表です。

表 2.8 にこれらのレジスタを示します。各レジスタの詳細は、参考資料 7. を参照してください。

表 2.8 CoreSight ROM テーブルの CoreSight コンポーネントレジスタ

名称	アドレス	アクセスサイズ	R/W	初期値
DEVTYPE	E00F FFCCh	32 ビット	R	0000 0001h
PID4	E00F FFD0h	32 ビット	R	0000 0004h
PID5	E00F FFD4h	32 ビット	R	0000 0000h
PID6	E00F FFD8h	32 ビット	R	0000 0000h
PID7	E00F FFDCh	32 ビット	R	0000 0000h
PID0	E00F FFE0h	32 ビット	R	0000 0027h
PID1	E00F FFE4h	32 ビット	R	0000 0030h
PID2	E00F FFE8h	32 ビット	R	0000 000Ah
PID3	E00F FFECh	32 ビット	R	0000 0000h
CID0	E00F FFF0h	32 ビット	R	0000 000Dh
CID1	E00F FFF4h	32 ビット	R	0000 0010h
CID2	E00F FFF8h	32 ビット	R	0000 0005h
CID3	E00F FFFCh	32 ビット	R	0000 00B1h

2.6.4 DBGREG モジュール

DBGREG モジュールはデバッグ機能を制御し、CoreSight 準拠のコンポーネントとして実装されています。

表 2.9 に、CoreSight コンポーネントレジスタ以外の DBGREG レジスタを示します。

表 2.9 CoreSight ではない DBGREG レジスタ

名称		DAP ポート	アドレス	アクセスサイズ	R/W
デバッグステータスレジスタ	DBGSTR	ポート 0	4001 B000h	32 ビット	R
デバッグストップコントロールレジスタ	DBGSTOPCR	ポート 0	4001 B010h	32 ビット	R/W
トレースコントロールレジスタ	TRACECTR	ポート 0	4001 B020h	32 ビット	R/W

2.6.4.1 デバッグステータスレジスタ（DBGSTR）

アドレス DBG.DBGSTR 4001 B000h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	CDBGPWRUPACK	CDBGPWRUPREQ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b27-b0	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。	R
b28	CDBGPWRUPREQ	デバッグパワーアップ要求	0：OCD はデバッグパワーアップを要求していない 1：OCD はデバッグパワーアップを要求している	R
b29	CDBGPWRUPACK	デバッグパワーアップアクノリッジ	0：デバッグパワーアップ要求は受け付けられていない 1：デバッグパワーアップ要求は受け付けられている	R
b31-b30	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。	R

2.6.4.2 デバッグストップコントロールレジスタ（DBGSTOPCR）

アドレス DBG.DBGSTOPCR 4001 B010h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	DBGSTOP_RECCR	DBGSTOP_RPER	—	—	—	—	—	DBGSTOP_LVD[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DBGSTOP_WDT	DBGSTOP_IWDT
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DBGSTOP_IWDT	IWDTリセット／割り込み用のマスクビット	0：IWDTリセット／割り込みを許可 1：IWDTリセット／割り込みをマスクし、CPUがOCDブレークモードの場合はIWDTカウントを停止	R/W
b1	DBGSTOP_WDT	WDTリセット／割り込み用のマスクビット	0：WDTリセット／割り込みを許可 1：WDTリセット／割り込みをマスクし、CPUがOCDブレークモードの場合はWDTカウントを停止	R/W
b15-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b16	DBGSTOP_LVD[2:0]	LVD0リセット用のマスクビット	0：LVD0リセットを許可 1：LVD0リセットをマスク	R/W
b17		LVD1リセット／割り込み用のマスクビット	0：LVD1リセット／割り込みを許可 1：LVD1リセット／割り込みをマスク	R/W
b18		LVD2リセット／割り込み用のマスクビット	0：LVD2リセット／割り込みを許可 1：LVD2リセット／割り込みをマスク	R/W
b23-b19	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b24	DBGSTOP_RPER	SRAMパリティエラーリセット／割り込み用のマスクビット	0：SRAMパリティエラーリセット／割り込みを許可 1：SRAMパリティエラーリセット／割り込みをマスク	R/W
b25	DBGSTOP_RECCR	SRAM ECCエラーリセット／割り込み用のマスクビット	0：SRAM ECCエラーリセット／割り込みを許可 1：SRAM ECCエラーリセット／割り込みをマスク	R/W
b31-b26	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

デバッグストップコントロールレジスタ（DBGSTOPCR）は、OCD モード時の機能停止を制御します。このレジスタの全ビットは、MCU が OCD モードでないときは、0 とみなされます。

2.6.4.3 トレースコントロールレジスタ（TRACECTR）

アドレス DBG.TRACECTR 4001 B020h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	ENETBFULL	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b30-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b31	ENETBFULL	ETBフル時の停止要求用のイネーブルビット	0：ETBフルはCPUを停止させない 1：ETBフルはCPUを停止させる	R/W

2.6.4.4 DBGREG CoreSight コンポーネントレジスタ

DBGREGモジュールは、Arm CoreSightアーキテクチャで定義されたCoreSightコンポーネントレジスタを備えています。

表 2.10 に、これらのレジスタを示します。各レジスタの詳細は、参考資料 7. を参照してください。

表 2.10 DBGREG CoreSightコンポーネントレジスタ

名称	アドレス	アクセスサイズ	R/W	初期値
PID4	4001 BFD0h	32ビット	R	0000 0004h
PID5	4001 BFD4h	32ビット	R	0000 0000h
PID6	4001 BFD8h	32ビット	R	0000 0000h
PID7	4001 BFDCh	32ビット	R	0000 0000h
PID0	4001 BFE0h	32ビット	R	0000 0005h
PID1	4001 BFE4h	32ビット	R	0000 0030h
PID2	4001 BFE8h	32ビット	R	0000 001Ah
PID3	4001 BFECh	32ビット	R	0000 0000h
CID0	4001 BFF0h	32ビット	R	0000 000Dh
CID1	4001 BFF4h	32ビット	R	0000 00F0h
CID2	4001 BFF8h	32ビット	R	0000 0005h
CID3	4001 BFFCh	32ビット	R	0000 00B1h

2.6.5 OCDREG モジュール

OCDREG レジスタモジュールは、オンチップデバッグ（OCD）エミュレータ機能を制御します。CoreSight 準拠のコンポーネントとして実装されています。

表 2.11 に、CoreSight コンポーネントレジスタ以外の OCDREG レジスタを示します。

表 2.11 CoreSight ではない OCDREG レジスタ

名称		DAP ポート	アドレス	アクセスサイズ	R/W
ID 認証コードレジスタ 0	IAUTH0	ポート 1	8000 0000h	32 ビット	W
ID 認証コードレジスタ 1	IAUTH1	ポート 1	8000 0100h	32 ビット	W
ID 認証コードレジスタ 2	IAUTH2	ポート 1	8000 0200h	32 ビット	W
ID 認証コードレジスタ 3	IAUTH3	ポート 1	8000 0300h	32 ビット	W
MCU ステータスレジスタ	MCUSTAT	ポート 1	8000 0400h	32 ビット	R
MCU コントロールレジスタ	MCUCTRL	ポート 1	8000 0410h	32 ビット	R/W

注 . OCDREG は専用の OCD アドレス空間に配置されます。このアドレスマップはシステムのアドレスマップから独立しています。2.6.2 Cortex-M4 ペリフェラルアドレスマップを参照してください。

2.6.5.1 ID 認証コードレジスタ（IAUTH0 ～ 3）

128 ビットキーを書き込むための 4 つの認証レジスタが存在します。これらのレジスタは、IAUTH0 から IAUTH3 への順序で書き込む必要があります。レジスタセットへの書き込みがこの順序に従わないと、予測できない結果となります。

32 ビットの書き込みのみが許可されます。このレジスタの初期値はすべて 1 です。これは、OSIS レジスタの ID コードが初期値の場合、JTAG/SWD アクセスが許可されることを意味します。2.11.2 アンロック ID コードを参照してください。

アドレス IAUTH0 8000 0000h

b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
IAUTH0: AID 31-0 ビット																															
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

アドレス IAUTH1 8000 0100h

b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
IAUTH1: AID 63-32 ビット																															
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

アドレス IAUTH2 8000 0200h

b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
IAUTH2: AID 95-64 ビット																															
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

アドレス IAUTH3 8000 0300h

b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
IAUTH3: AID 127-96 ビット																															
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

2.6.5.2 MCU ステータスレジスタ（MCUSTAT）

アドレス MCUSTAT 8000 0400h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CPUSTOPCLK	CPUSLEEP	AUTH
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1/0 (注1)	1/0 (注1)	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	AUTH	認証ステータス	0：認証失敗 1：認証成功	R
b1	CPUSLEEP		0：CPUは非スリープモード 1：CPUはスリープモード	R
b2	CPUSTOPCLK		0：CPUクロックを停止させない。MCUがノーマルモードまたはスリープモードであることを示す 1：CPUクロックを停止させる。MCUがスヌーズモードまたはソフトウェアスタンバイモードであることを示す	R
b31-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

注 1. MCU 状態に依存します。

2.6.5.3 MCU コントロールレジスタ（MCUCTRL）

アドレス MCUCTRL 8000 0410h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	DBIRQ	—	—	—	—	—	—	—	EDBGRQ
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	EDBGRQ	外部デバッグ要求	このビットに1を書き込むと、CPUが停止するかデバッグモニタ例外となります。 0：デバッグイベントを要求しない 1：デバッグイベントを要求する EDBGRQビットを0にするか、CPUが停止したとき、EDBCRQビットはクリアされます。	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	DBIRQ	デバッグ割り込み要求	このビットに1を書き込むと、MCUは低消費電力モードから復帰します。 0：デバッグ割り込みを要求しない 1：デバッグ割り込みを要求する この条件はDBIRQビットに0を書き込むことで解除できます。	R/W
b31-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 . DBIRQ ビットと EDBGRQ ビットは同じ値にしてください。

2.6.5.4 OCDREG CoreSight コンポーネントレジスタ

OCDREG モジュールは、Arm CoreSight アーキテクチャで定義された CoreSight コンポーネントレジスタを備えています。

表 2.12 に、これらのレジスタを示します。各レジスタの詳細は、参考資料 7. を参照してください。

表 2.12 OCDREG CoreSight コンポーネントレジスタ

名称	アドレス	アクセスサイズ	R/W	初期値
PID4	8000 0FD0h	32 ビット	R	0000 0004h
PID5	8000 0FD4h	32 ビット	R	0000 0000h
PID6	8000 0FD8h	32 ビット	R	0000 0000h
PID7	8000 0FDCh	32 ビット	R	0000 0000h
PID0	8000 0FE0h	32 ビット	R	0000 0004h
PID1	8000 0FE4h	32 ビット	R	0000 0030h
PID2	8000 0FE8h	32 ビット	R	0000 000Ah
PID3	8000 0FECh	32 ビット	R	0000 0000h
CID0	8000 0FF0h	32 ビット	R	0000 000Dh
CID1	8000 0FF4h	32 ビット	R	0000 00F0h
CID2	8000 0FF8h	32 ビット	R	0000 0005h
CID3	8000 0FFCh	32 ビット	R	0000 00B1h

2.7 CoreSight ATB ファネル

MCU には、1 個の CoreSight ATB ファネルがあります。このファネルは、2 個の ATB スレーブと 1 個の ATB マスタを持ち、ETM および ITM から ETB へのデバッグトレースのソースを選択します。図 2.3 は、本 MCU における CoreSight ATB 接続を示しています。

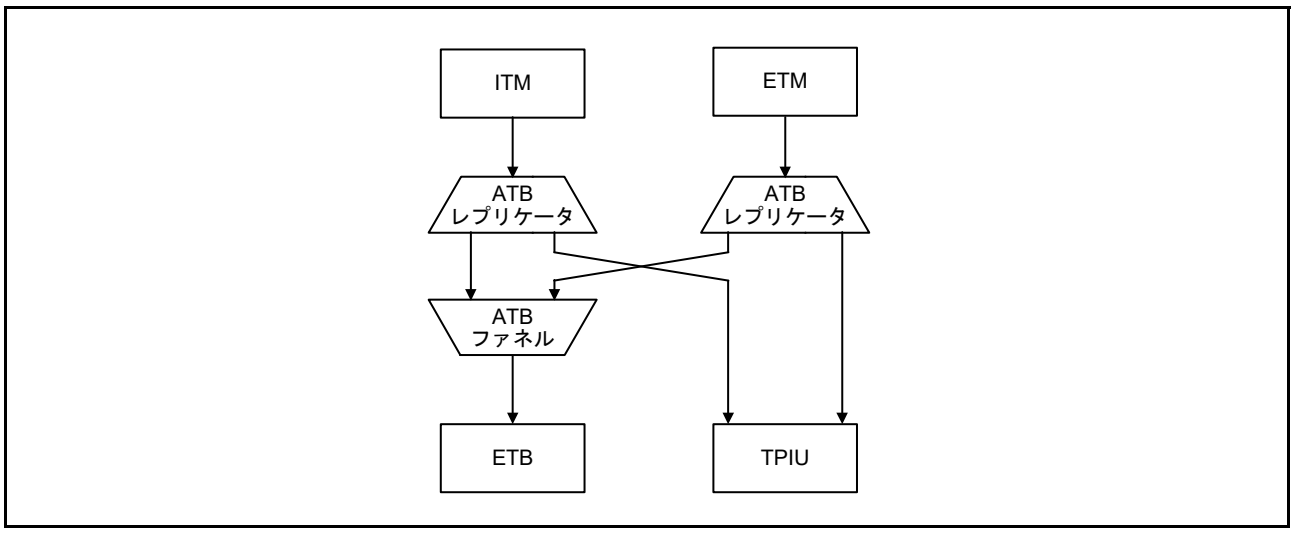


図 2.3 CoreSight ATB 接続

表 2.13 は ATB ファネルのスレーブ接続を示しています。

表 2.13 ATB スレーブ接続

ATB スレーブ番号	接続されるトレースソース
#0	ITM
#1	ETM

ATB とファネルの詳細は、参考資料 4. を参照してください。

2.8 フラッシュパッチ & ブレークユニット

本 MCU は、フラッシュパッチ & ブレークユニットを備えています。ブレークポイント機能は使用可能ですが、フラッシュパッチ（リマップ）機能は使用できません。したがって、FP_COMPn レジスタの REPLACE ビット（[31:30]）を 0 にしないでください。FP_REMAP レジスタのビット [28] は、常に 1 に固定されています。本レジスタに書き込む場合は、ビット [28] に 1 を書き込んでください。本レジスタを読み出す場合は、ビット [28] は常に 1 が読み出されます。詳細は、参考資料 1. および 2.9 SysTick システムタイマを参照してください。

2.9 SysTick システムタイマ

SysTick システムタイマは、簡易的な 24 ビットダウンカウンタを備えています。このタイマの基準クロックには、CPU クロック（ICLK）または SysTick タイマクロック（SYSTICCLK）を選択できます。詳細は、「9. クロック発生回路」および参考資料 1.（注 1）を参照してください。

注 1. 参照先では、IMPLEMENTATION DEFINED 外部基準クロックに SYSTICCLK（LOCO）を使用し、プロセッサクロックに ICLK を使用しています。

2.10 CoreSight タイムスタンプジェネレータ

CoreSight タイムスタンプジェネレータは、CPU クロックベースのタイムスタンプを ITM と ETM に供給します。64 ビットカウンタの 48LSB ビットが、これら 2 つのコンポーネントに用いられます。詳細は参考資料 4. を参照してください。

2.11 OCD エミュレータ接続

JTAG/SWD 認証機構は、デバッグと MCU リソースへのアクセス許可をチェックします。全デバッグ機能を取得するには、この認証機構の合格結果が必要です。

図 2.4 に、認証機構のブロック図を示します。

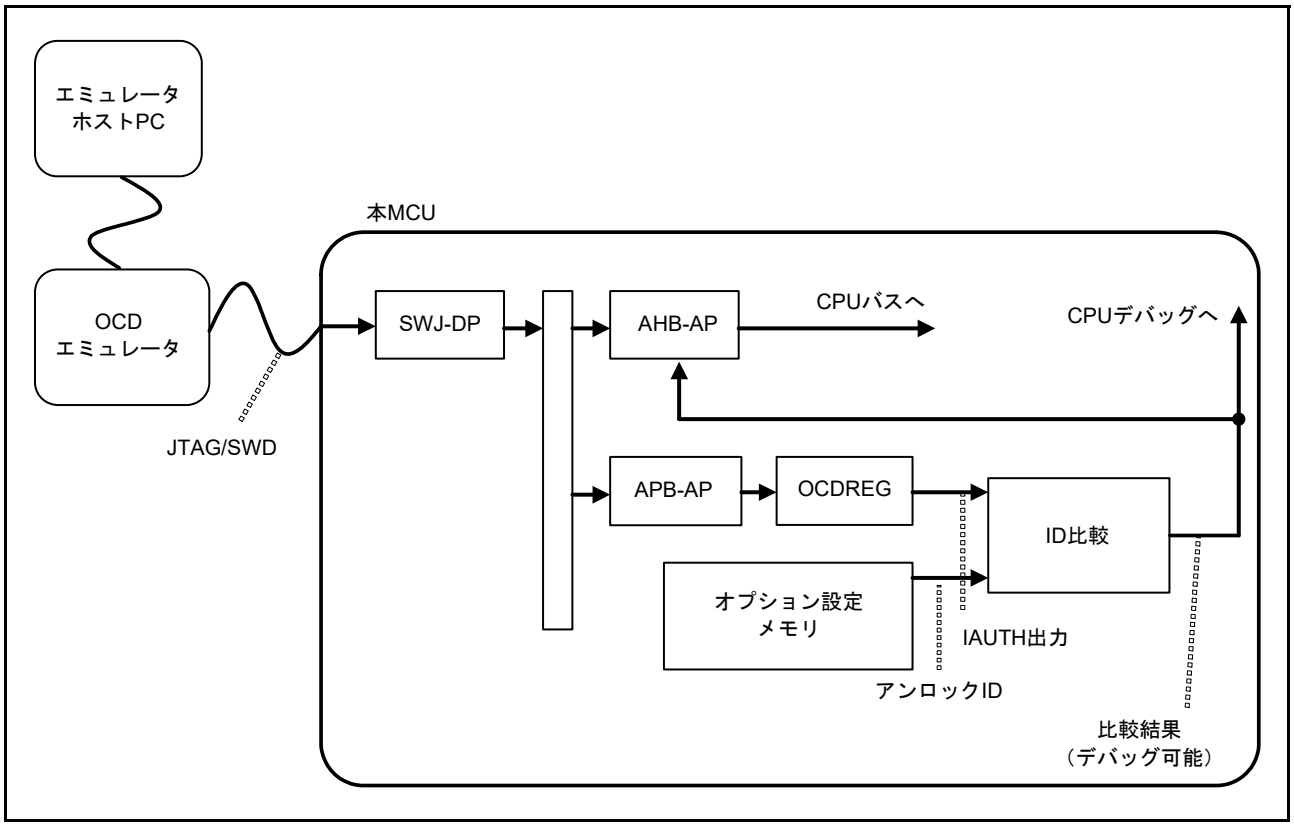


図 2.4 認証機構のブロック図

本 MCU には認証用の ID コンパレータがあります。このコンパレータは、OCDREG からの 128 ビットの IAUTH 出力と、オプション設定メモリからの 128 ビットのアンロック ID コードを比較します。これら 2 つの出力が同一であると、CPU デバッグ機能と、OCD エミュレータからのシステムバスアクセスが許可されます。

2.11.1 DBGEN

OCD エミュレータは、アクセス許可を取得した後、システムコントロール OCD コントロールレジスタ（SYOCDCR）の DBGEN ビットを設定する必要があります。また、OCD エミュレータは DBGEN ビットをクリアしないと切断されません。詳細は、「11. 低消費電力モード」を参照してください。

2.11.2 アンロック ID コード

アンロック ID コードは、デバッグとオンチップリソースへのアクセスの許可を判定するために用いられます。アンロック ID コードが ID 認証レジスタ 0 ～ 3 に書き込まれた 128 ビットデータと一致した場合、JTAG/SWD デバッガはアクセス許可を取得します。アンロック ID コードは、オプション設定メモリの OCD／シリアルプログラマ ID 設定レジスタ（OSIS）に書き込まれます。アンロック ID コードの初期値は、すべて 1（FFFFFFFF_FFFFFFFF_FFFFFFFFh）です。詳細は、「7. オプション設定メモリ」を参照してください。

2.11.3 OCD エミュレータ接続における制限

この節では、エミュレータのアクセス制限について説明します。

2.11.3.1 低消費電力モード中の接続開始

OCD エミュレータから JTAG/SWD 接続を開始するとき、MCU はノーマルモードかスリープモードでなければいけません。本 MCU がソフトウェアスタンバイモード、スヌーズモード、またはディープソフトウェアスタンバイモードであると、OCD エミュレータは本 MCU をハングさせます。

2.11.3.2 OCD モードにおける低消費電力モードの切り替え

本 MCU が OCD モードであるとき、低消費電力モードへの切り替えが可能です。ただし、AHB-AP からのシステムバスアクセスは、ソフトウェアスタンバイモード、スヌーズモード、またはディープソフトウェアスタンバイモードでは禁止されます。これらのモードでは、SWJ-DP、APB-AP、および OCDREG に対してのみ、OCD エミュレータからのアクセスが可能です。表 2.14 に制限事項を示します。

表 2.14 モード別の制限

アクティブモード	OCDエミュレータ接続の開始	低消費電力モードへの切り替え	AHB-APとシステムバスへのアクセス	APB-APとOCDREGへのアクセス
ノーマル	可能	可能	可能	可能
スリープ	可能	可能	可能	可能
ソフトウェアスタンバイ	不可能	可能	不可能	可能
スヌーズ	不可能	可能	不可能	可能
ディープソフトウェアスタンバイ	不可能	可能	不可能	可能

ソフトウェアスタンバイモード、スヌーズモード、またはディープソフトウェアスタンバイモードにおいてシステムバスアクセスが必要な場合は、OCDREG の MCUCTRL.DBIRQ ビットを設定して、MCU を低消費電力モードから復帰させてください。同時に、OCDREG の MCUCTRL.EDBGRQ ビットを用いることで、OCD エミュレータは CPU ブレークによって CPU の実行を開始することなく、MCU を復帰させることが可能です。

2.11.3.3 OSIS におけるアンロック ID コードの変更

OSIS においてアンロック ID コードを変更した後、OCD エミュレータは、RES 端子をアサートするか、またはシステムコントロールブロックのアプリケーション割り込みおよびリセットコントロールレジスタの SYSRESETREQ ビットを 1 にすることによって、MCU をリセットする必要があります。変更されたアンロック ID コードは、リセット後に反映されます。

2.11.3.4 接続順序と JTAG/SWD 認証

OCD エミュレータは JTAG/SWD 認証機構で保護されているため、OCD では認証レジスタに対し ID コードの入力が必要となる場合があります。オプション設定メモリの OSIS 値によって、コード入力が必要かどうかが決まります。

リセットネゲート後、コールドスタート時の OSIS 値を比較する前に 5µs の待ち時間が必要です。

(1) OSIS の MSB が 0（ビット [127] = 0）のとき

ID コードは常に不一致であり、OCD への接続は禁止されます。

ALeRASE コマンド操作に関する注意を示します。

1. 注意
   OSIS の bit[127] が 0 に設定されている時、エミュレータはデバイスに接続できませんが、ALeRASE コマンドは実行されます。ALeRASE コマンドが実行されたとき、ユーザー領域とオプション設定メモリ領域は初期化されます。
   OSIS レジスタが初期化されるため、エミュレータが接続可能になります。
2. 対策
   OSIS の bit[127] = 0 の時、ALeRASE コマンドの実行を防止するためには、追加設定が必要です。
   以下の 2 つの方法を選択できます。

   A) SECMPUAC の設定（ブートスワップを設定している時、SECMPAC のアドレスは 2000h 加算されます。）

   - SECMPUAC を 0xFEFF に設定してください。
   - SECMPUPCS0 を 0xFFFF_FFFC に、SECMPUPCE0 を 0xFFFF_FFFF に設定してください。

   B) AWS の設定

   AWS の bit[15] を 0 に設定してください。
   AWS の bit[15] は、一度 0 に設定すると 1 に変更できません。
   0 に設定した場合、アクセスウィンドウとスタートアップ領域は二度と変更できません。
   スタートアップ領域を変更できなくなるため、セルフプログラミングでの書き換えは禁止されます。

(2) OSIS がすべて 1（デフォルト）のとき

OCD 認証は不要であり、OCD は認証なしで AHB-AP を使用できます。

1. JTAG または SWD インタフェースを介して OCD エミュレータを本 MCU に接続します。
2. DAP バスにアクセスするよう SWJ-DP を設定します。この設定において、OCD エミュレータは SWJ-DP コントロールステータスレジスタの CDBGPWRUPREQ をアサートする必要があります。その後、同じレジスタの CDBGPWRUPACK がアサートされるまで待ちます。
3. システムアドレス空間にアクセスするよう AHB-AP を設定します。この AHB-AP は DAP バスのポート 0 に接続されます。
4. AHB-AP を使用して、CPU デバッグリソースへのアクセスを開始します。

(3) OSIS[127:126] = 10b のとき

OCD 認証が必要であり、OCD は、OCDREG の IAUTH レジスタ 0 ～ 3 にアンロック ID コードを書き込んでから、AHB-AP を使用する必要があります。

1. JTAG または SWD インタフェースを介して OCD デバッガを本 MCU に接続します。
2. DAP バスにアクセスするよう SWJ-DP を設定します。この設定において、OCD エミュレータは SWJDP コントロールステータスレジスタの CDBGPWRUPREQ をアサートする必要があります。その後、同じレジスタの CDBGPWRUPACK がアサートされるまで待ちます。
3. OCDREG にアクセスするよう APB-AP を設定します。この APB-AP は DAP バスのポート 1 に接続されます。
4. APB-AP を使用して、OCDREG の IAUTH レジスタ 0 ～ 3 に 128 ビット ID コードを書き込みます。

5. この 128 ビット ID コードが OSIS の値と一致した場合、AHB-AP に対して AHB トランザクションを発行する権限が与えられます。認証結果は、MCUSTAT レジスタの AUTH ビット、または AHB-AP コントロールステータスワードレジスタの DbgStatus ビットで確認することが可能です。
   - DbgStatus ビットが 1 の場合、128 ビット ID コードが OSIS 値と一致している。AHB 転送が許可される
   - DbgStatus ビットが 0 の場合、128 ビット ID コードが OSIS 値と一致していない。AHB 転送は許可されない
6. システムアドレス空間にアクセスするよう AHB-AP を設定します。この AHB-AP は DAP バスのポート 0 に接続されます。
7. AHB-AP を使用して、CPU デバッグリソースへのアクセスを開始します。

(4) OSIS[127:126] = 11b のとき

OCD 認証が必要であり、OCD は、OCDREG の IAUTH レジスタ 0 ～ 3 にアンロック ID コードを書き込む必要があります。接続順序は、「ALeRASE」機能を除いて、OSIS[127:126] = 10b の場合と同じです。

IATUH レジスタ 0 ～ 3 に ASCII コードで「ALeRASE」（414C_6552_4153_45FF_FFFF_FFFF_FFFF_FFFFh）と書き込まれている場合、コードフラッシュ、データフラッシュ、および構成領域の内容はただちに消去されます。詳細は、「50. フラッシュメモリ」を参照してください。

ALeRASE のシーケンスは下記のとおりです。

1. JTAG または SWD インタフェースを介して OCD デバッガを本 MCU に接続します。
2. DAP バスにアクセスするよう SWJ-DP を設定します。この設定において、OCD エミュレータは SWJDP コントロールステータスレジスタの CDBGPWRUPREQ をアサートする必要があります。その後、同じレジスタの CDBGPWRUPACK がアサートされるまで待ちます。
3. OCDREG にアクセスするよう APB-AP を設定します。この APB-AP は DAP バスのポート 1 に接続されます。
4. APB-AP を使用して、OCDREG の IAUTH レジスタ 0 ～ 3 に 128 ビット ID コードを書き込みます。
5. 128 ビット ID コードが ASCII コードの「ALeRASE」の場合、コードフラッシュ、データフラッシュ、および構成領域の内容は消去されます。その後、MCU はスリープモードに遷移します。

2.12 参考資料

1. *ARM®v7-M Architecture Reference Manual (ARM DDI 0403D)*
2. *ARM® Cortex®-M4 Processor Technical Reference Manual (ARM DDI 0439D)*
3. *ARM® Cortex®-M4 Devices Generic User Guide (ARM DUI 0553A)*
4. *ARM® CoreSight™ SoC-400 Technical Reference Manual (ARM DDI 0480F)*
5. *ARM® CoreSight™ ETM-M4 Technical Reference Manual (ARM DDI 0440C)*
6. *ARM® CoreSight™ Trace Memory Controller Technical Reference Manual (ARM DDI 0461B)*
7. *ARM® CoreSight™ Architecture Specification (ARM IHI 0029D)*

3. 動作モード

3.1 概要

表 3.1 は、モード設定端子による動作モードの選択を示しています。詳細は、3.2 動作モードの説明を参照してください。どのモードで起動しても、内蔵フラッシュメモリが有効な場合に動作を開始します。

表 3.1 モード設定端子による動作モードの選択

モード設定端子 MD	動作モード	内蔵フラッシュメモリ	外部バス
1	シングルチップモード	有効	無効
0	SCI/USB ブートモード	有効	無効

3.2 動作モードの説明

3.2.1 シングルチップモード

シングルチップモードでは、すべての入出力端子が、入出力ポート、周辺機能入出力、または割り込み入力として使用可能です。MD 端子が High になっているときにリセットが解除されると、MCU はシングルチップモードで起動し、内蔵フラッシュメモリが有効になります。

3.2.2 SCI ブートモード

このモードでは、MCU 内部の専用領域に格納された、内蔵フラッシュメモリ書き込みルーチン（SCI ブートプログラム）が用いられます。調歩同期式シリアル通信インタフェース（UART）SCI を使用して、MCU 外部から内蔵フラッシュメモリ（コードフラッシュメモリ、データフラッシュメモリ）を書き換えることができます。詳細は、「50. フラッシュメモリ」を参照してください。MD 端子を Low に保持してリセットを解除すると、本 MCU は SCI ブートモードで起動します。

3.2.3 USB ブートモード

このモードでは、MCU 内部のブート領域に格納された、内蔵フラッシュメモリ書き込みルーチン（USB ブートプログラム）が用いられます。USB を使用して、MCU 外部からコードフラッシュメモリとデータフラッシュメモリを含む内蔵フラッシュメモリを書き換えることができます。詳細は、「50. フラッシュメモリ」を参照してください。MD 端子を Low に保持してリセットを解除すると、本 MCU は USB ブートモードで起動します。

3.3 動作モード遷移

3.3.1 モード設定端子による動作モード遷移

MD 端子の設定による動作モード遷移について、図 3.1 に状態遷移図を示します。

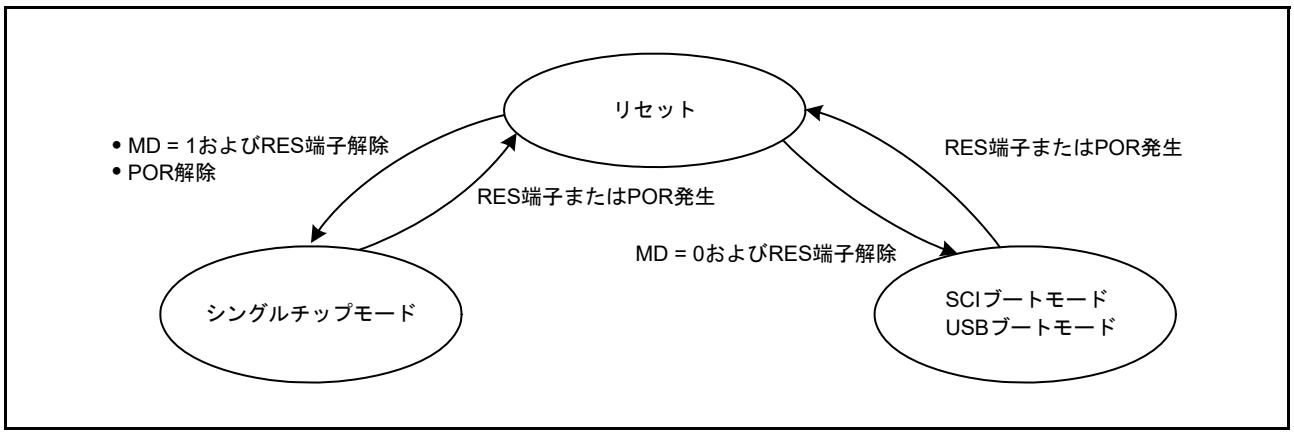
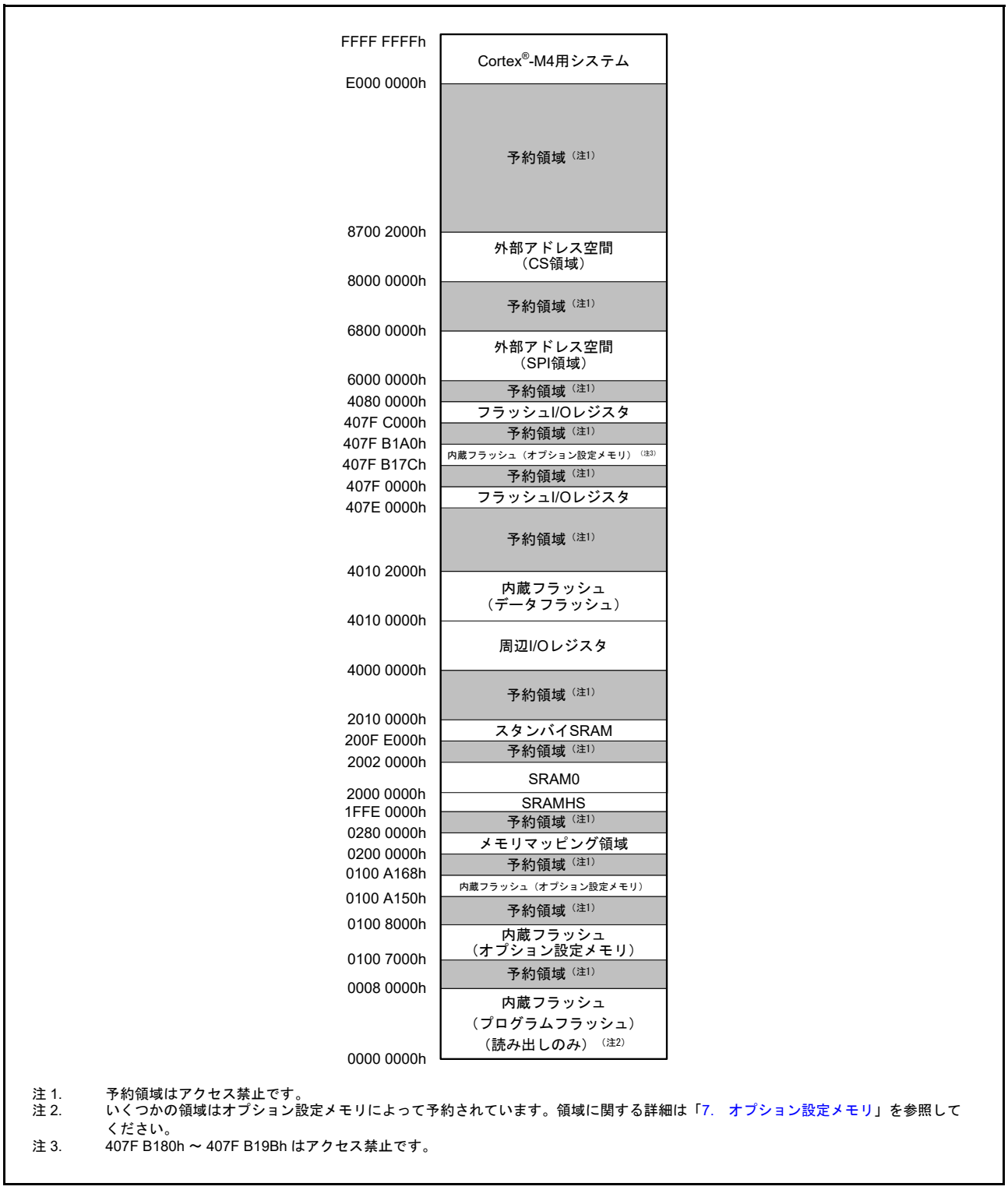


図 3.1 モード設定端子のレベルと動作モード

4. アドレス空間

4.1 概要

本 MCU は、プログラムとデータの両方を格納できる 4GB のリニアアドレス空間（0000 0000h ～ FFFF FFFFh）をサポートしています。図 4.1 にメモリマップを示します。



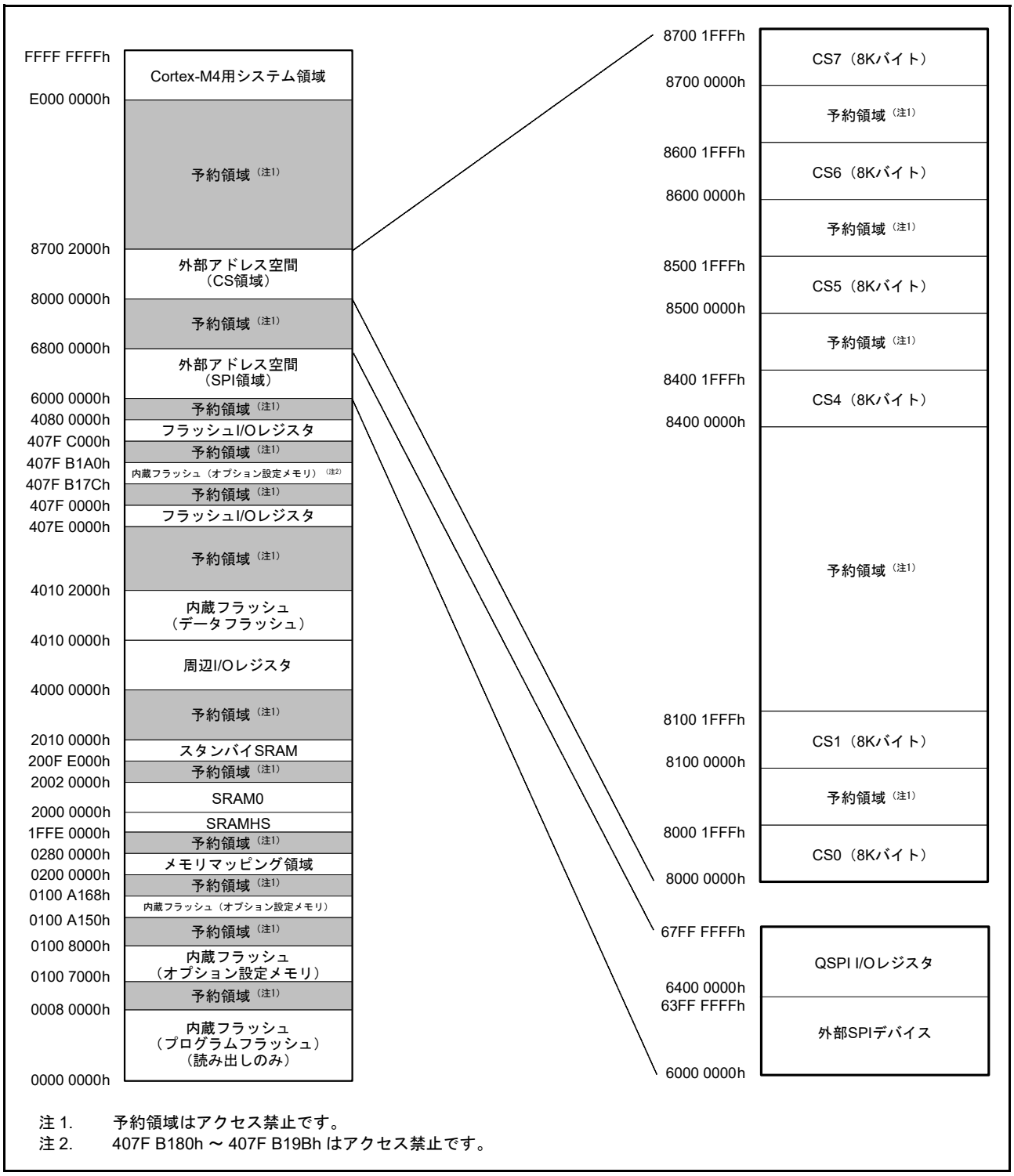
注 1. 予約領域はアクセス禁止です。
注 2. いくつかの領域はオプション設定メモリによって予約されています。領域に関する詳細は「7. オプション設定メモリ」を参照してください。
注 3. 407F B180h ～ 407F B19Bh はアクセス禁止です。

図 4.1 メモリマップ

4.2 外部アドレス空間

外部アドレス空間は、CS 領域（CS0、CS1、CS4 ～ CS7）および SPI 領域に分割されています。6 つの CS 領域（CS0、CS1、CS4 ～ CS7）のそれぞれは、CSn 端子（n = 0, 1, 4 ～ 7）から出力される CSn 信号に対応しています。また、SPI 領域は、QSPI I/O レジスタと外部 SPI デバイス空間の 2 つの領域に分割されています。

図 4.2 に、個々の CS 領域（CS0、CS1、CS4 ～ CS7）および SPI 領域に対応するアドレス範囲を示します。



注 1. 予約領域はアクセス禁止です。
注 2. 407F B180h ～ 407F B19Bh はアクセス禁止です。

図 4.2 外部アドレス空間と CS 領域の対応

5. メモリミラー機能（MMF）

5.1 概要

本 MCU はメモリミラー機能（MMF）を備えています。MMF を構成することによって、コードフラッシュメモリ内のアプリケーションイメージのロードアドレスを、未使用の 23 ビットメモリミラー空間アドレスにおけるアプリケーションイメージのリンクアドレスへマップすることが可能です。ユーザアプリケーションコードを開発する場合、この MMF 転送先アドレスから実行するようにリンクする必要があります。アプリケーションコードでは、コードフラッシュメモリ内に格納されるときのロードアドレスを認識する必要がありません。

MMF の仕様を表 5.1 に示します。

表 5.1 MMFの仕様

項目	内容
メモリミラー空間	8MB（0200 0000h～027F FFFFh）
メモリミラー境界	128バイト

5.2 レジスタの説明

5.2.1 MemMirror 特殊機能レジスタ（MMSFR）

アドレス MMF.MMSFR 4000 1000h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	KEY[7:0]								—	MEMMIRADDR[15:9]						
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	MEMMIRADDR[8:0]									—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b22-b7	MEMMIRADDR[15:0]	メモリミラーアドレス	0000h～FFFFh（8MB）	R/W
b23	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b31-b24	KEY[7:0]	MMSFRキーコード	MEMMIRADDRビットの書き換えの可否を制御します。	R/W

MEMMIRADDR[15:0] ビット（メモリミラーアドレス）

メモリミラーアドレスの [22:7] ビットを指定します。これらのビットでは、メモリミラー空間アドレスの開始アドレス（0200 0000h）のリンク先を定義します。これらのビットへの書き込みは、このレジスタが 32 ビットワードでアクセスされ、かつ DBh の値が KEY[7:0] ビットに書き込まれた場合にのみ有効になります。

KEY[7:0] ビット（MMSFR キーコード）

MEMMIRADDR[15:0] ビットの書き換えの可否を制御します。KEY ビットへの書き込みデータは保存されません。読むと 0 が読めます。キーコードと MEMMIRADDR は、同じサイクルで書き込む必要があります。

5.2.2 MemMirror イネーブルレジスタ（MMEN）

アドレス MMF.MMEN 4000 1004h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	KEY[7:0]								—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	EN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	EN	メモリミラー機能イネーブル	0：メモリミラー機能は無効 1：メモリミラー機能は有効	R/W
b23-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b31-b24	KEY[7:0]	MMENキーコード	ENビットの書き換えの可否を制御します。	R/W

EN ビット（メモリミラー機能イネーブル）

EN ビットへの書き込みは、MemMirror イネーブルレジスタが 32 ビットワードでアクセスされ、かつ DBh の値が KEY[7:0] ビットに書き込まれた場合にのみ有効になります。

KEY[7:0] ビット（MMEN キーコード）

EN ビットの書き換えの可否を制御します。KEY[7:0] ビットへの書き込みデータは保存されません。読むと 0 が読めます。キーコードと EN ビットは、同じサイクルで書き込む必要があります。

5.3 動作説明

5.3.1 MMF 動作

MMF は、メモリミラー空間（0200 0000h ～ 027F FFFFh）をコードフラッシュメモリ領域にリンクさせます。MMEN.EN = 1 の場合、CPU は通常のアドレス（開始アドレス：0000 0000h）とメモリミラー空間アドレス（開始アドレス：0200 0000h）の両方を使用してコードフラッシュメモリにアクセスできます。
図 5.1 に MMF の概要を示します。MMSFR.MEMMIRADDR[15:0] ビットでは、メモリミラー空間アドレスの開始アドレス（0200 0000h）のリンク先を指定します。図 5.2、図 5.3、および図 5.4 に MMF の動作を示します。また、図 5.5 に MMF の設定手順を示します。

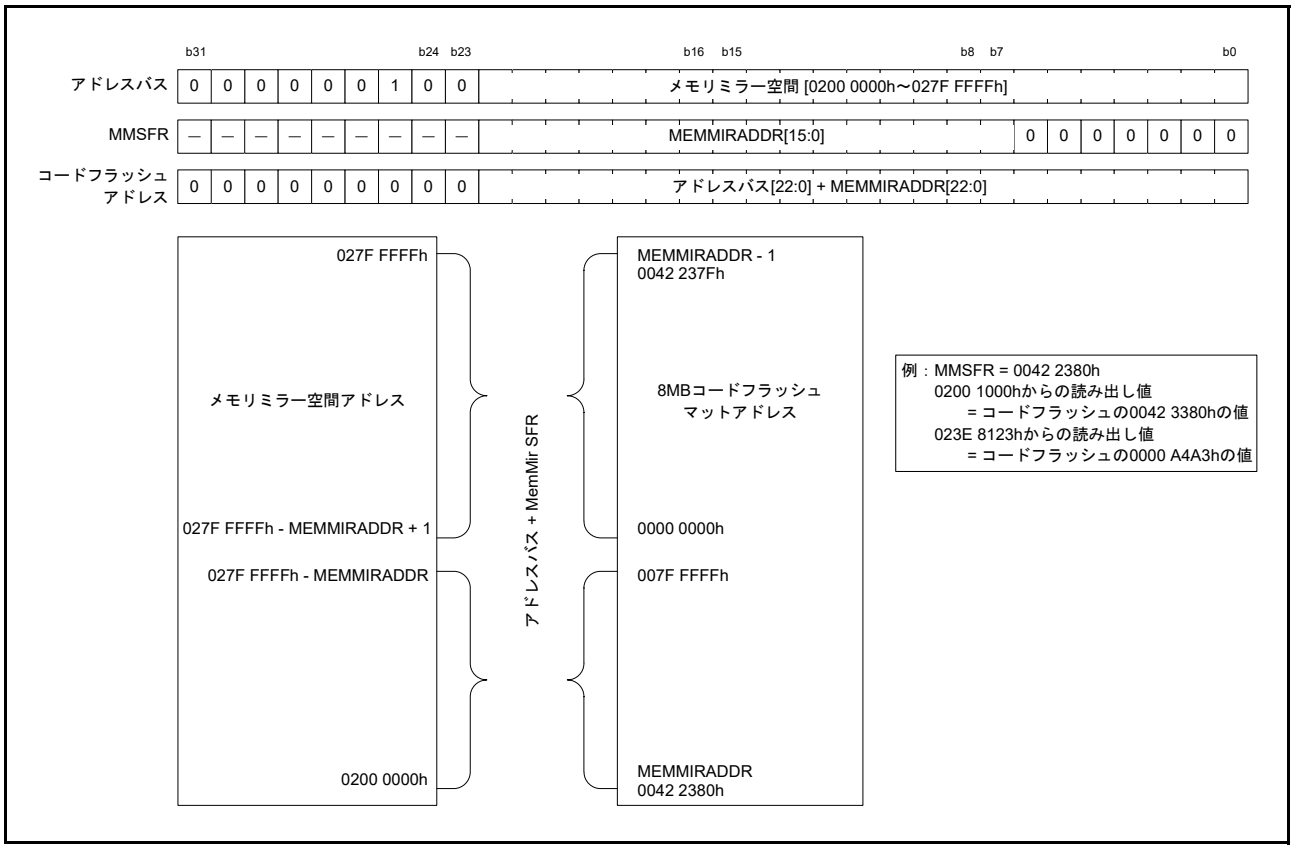
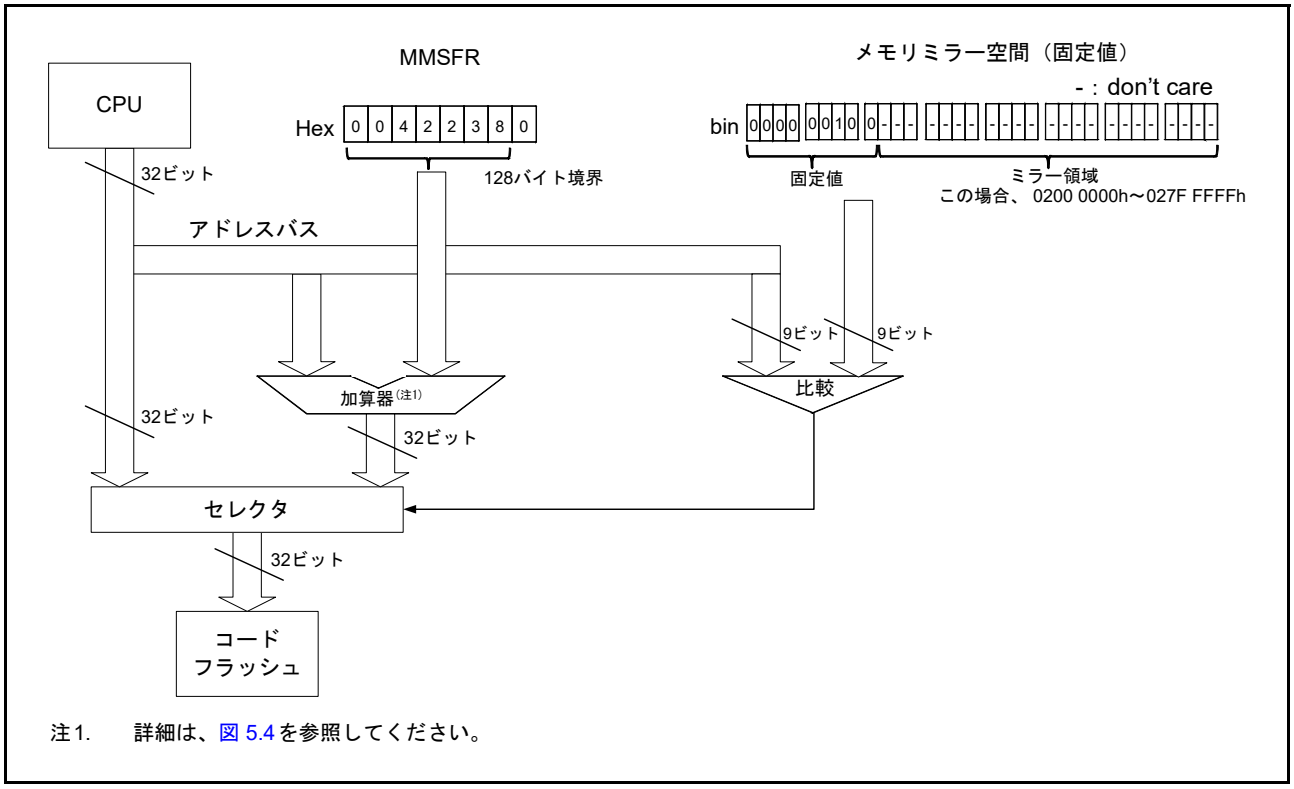


図 5.1 MMF 動作



注1. 詳細は、図 5.4 を参照してください。

図 5.2 MMF ブロック図

図 5.3 に、各モジュールで処理されるアドレスを示します。Arm® MPU は CPU のオリジナルアドレスを使用します。セキュリティ MPU およびコードフラッシュメモリは、メモリミラー機能による変換後のアドレスを使用します。

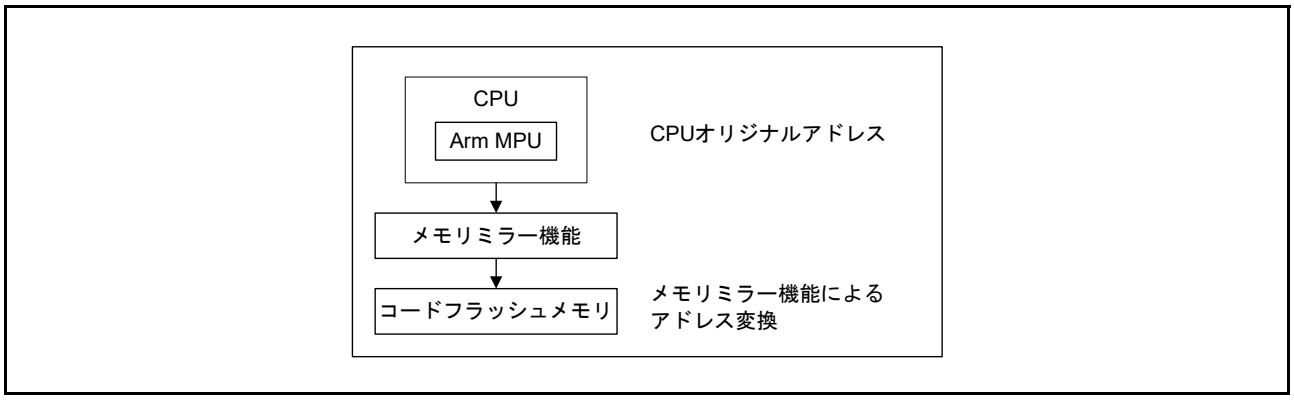


図 5.3 MMF アドレス処理

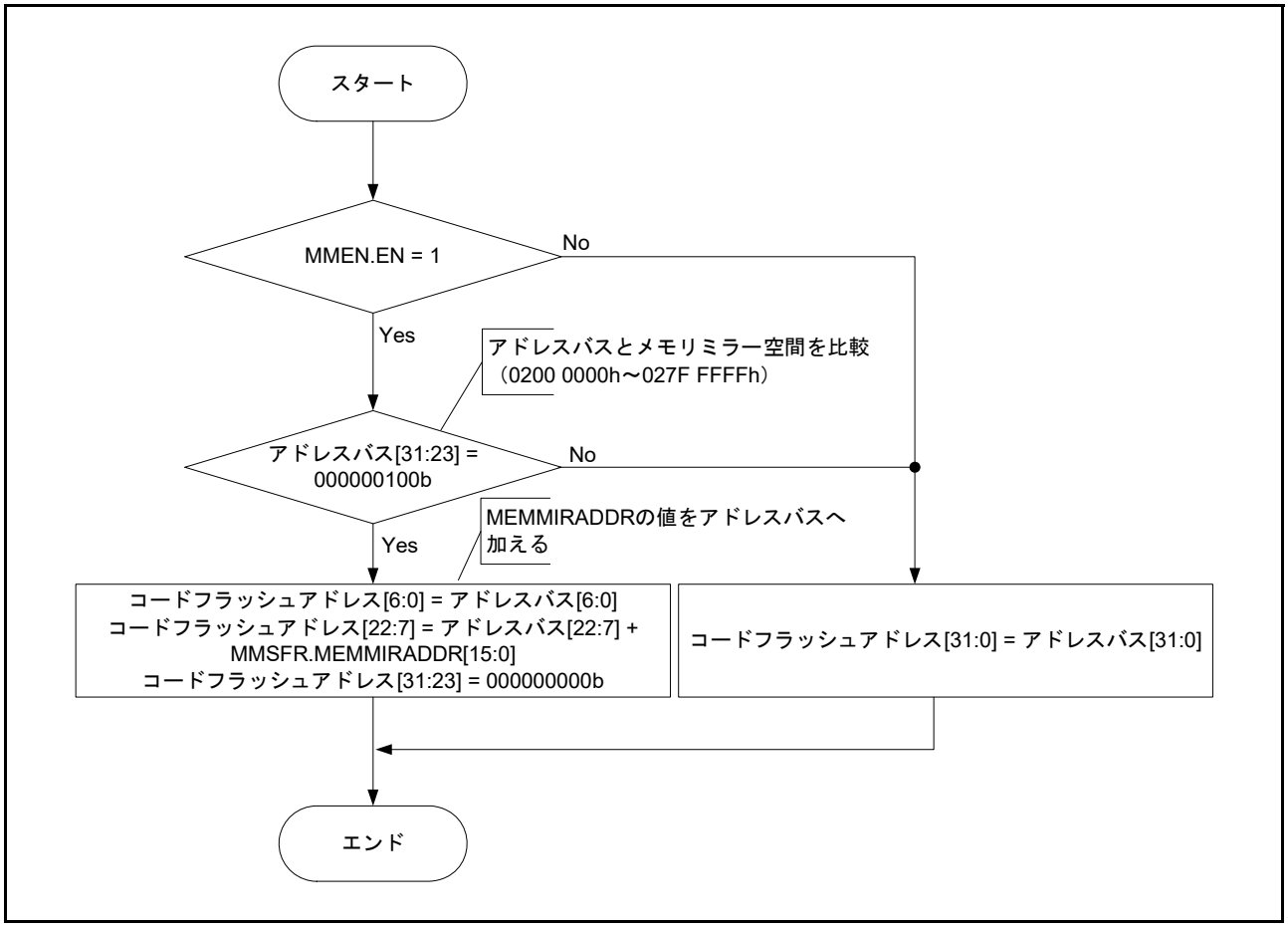


図 5.4　　MMF 動作フロー

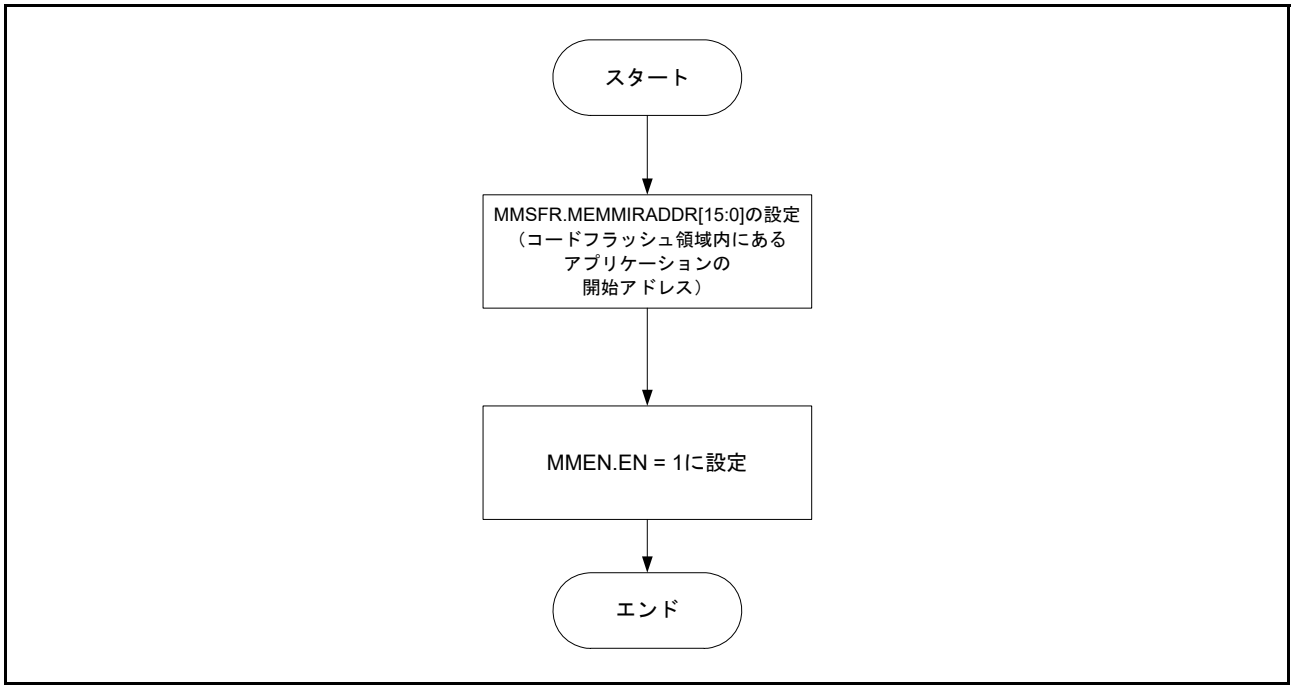


図 5.5　　MMF 設定フロー

5.3.2 設定例

コードフラッシュメモリ上の目的のアプリケーションコードは、MMSFR.MEMMIRADDR[15:0] でコードフラッシュメモリの開始アドレスを指定し、MMEN.EN = 1 に設定することによって、メモリミラー空間上のアドレス 0200 0000h からアクセスすることが可能です。

図 5.6 に、MMF の使用方法の例を示します。

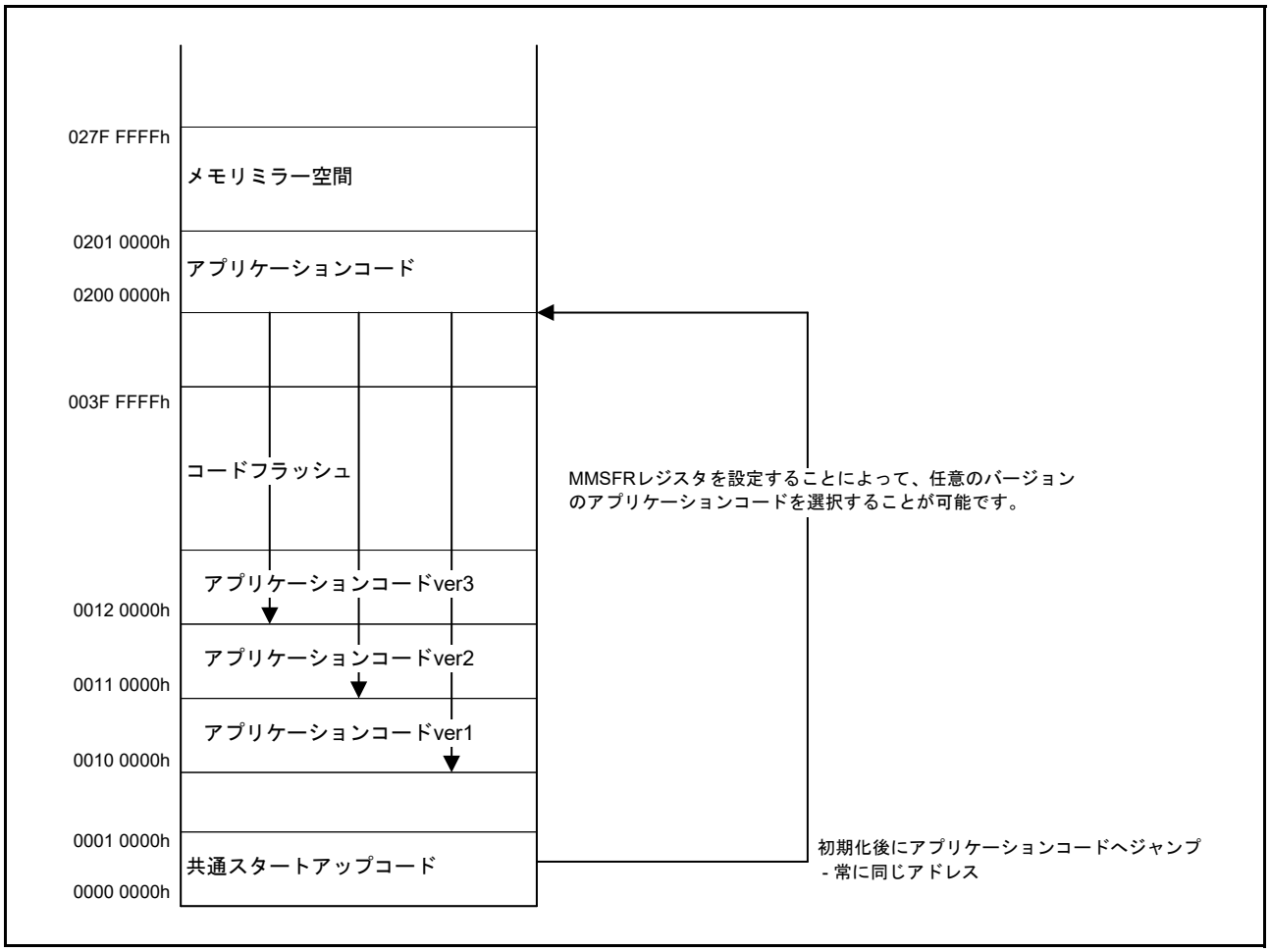


図 5.6 MMF 設定例

アプリケーションコード Ver.1 を使用する場合は、MMSFR レジスタを DB10 0000h に設定。

アプリケーションコード Ver.2 を使用する場合は、MMSFR レジスタを DB11 0000h に設定。

アプリケーションコード Ver.3 を使用する場合は、MMSFR レジスタを DB12 0000h に設定。

6. リセット

6.1 概要

本 MCU は、以下の 14 種類のリセットをサポートしています。

- RES 端子リセット
- パワーオンリセット
- 独立ウォッチドッグタイマリセット
- ウォッチドッグタイマリセット
- 電圧監視 0 リセット
- 電圧監視 1 リセット
- 電圧監視 2 リセット
- SRAM パリティエラーリセット
- SRAM ECC エラーリセット
- バスマスタ MPU エラーリセット
- バススレーブ MPU エラーリセット
- スタックポインタエラーリセット
- ディープソフトウェアスタンバイリセット
- ソフトウェアリセット

表 6.1 にリセットの名称と要因を示します。

表 6.1 リセットの名称と要因

リセット名	要因
RES端子リセット	RES端子への入力電圧がLow
パワーオンリセット	VCCの上昇（監視電圧：V_{POR}）（注1）
独立ウォッチドッグタイマリセット	IWDTのアンダーフローまたはリフレッシュエラー
ウォッチドッグタイマリセット	WDTのアンダーフローまたはリフレッシュエラー
電圧監視0リセット	VCCの下降（監視電圧：V_{det0}）（注1）
電圧監視1リセット	VCCの下降（監視電圧：V_{det1}）（注1）
電圧監視2リセット	VCCの下降（監視電圧：V_{det2}）（注1）
SRAMパリティエラーリセット	SRAMパリティエラー検出
SRAM ECCエラーリセット	SRAM ECCエラー検出
バスマスタMPUエラーリセット	バスマスタMPUエラー検出
バススレーブMPUエラーリセット	バススレーブMPUエラー検出
スタックポインタエラーリセット	スタックポインタエラー検出
ディープソフトウェアスタンバイリセット	割り込みによるディープソフトウェアスタンバイモードの解除
ソフトウェアリセット	レジスタ設定（Arm®ソフトウェアリセットビット、AIRCR.SYSRESETREQを使用）

注 1. 監視電圧（V_{POR}、V_{det0}、V_{det1}、V_{det2}）については、「8. 低電圧検出（LVD）」と「52. 電気的特性」を参照してください。

リセットによって内部状態は初期化され、端子は初期状態になります。表 6.2 と表 6.3 に、リセット種別ごとの初期化対象を示します。

表 6.2 リセット要因ごとの初期化対象リセット検出フラグ

初期化対象フラグ	リセット要因							
	RES端子リセット	パワーオンリセット	電圧監視0リセット	独立ウォッチドッグタイマリセット	ウォッチドッグタイマリセット	電圧監視1リセット	電圧監視2リセット	ソフトウェアリセット
パワーオンリセット検出フラグ（RSTSR0.PORF）	○	x	x	x	x	x	x	x
電圧監視0リセット検出フラグ（RSTSR0.LVD0RF）	○	○	x	x	x	x	x	x
独立ウォッチドッグタイマリセット検出フラグ（RSTSR1.IWDTRF）	○	○	○	x	x	x	x	x
ウォッチドッグタイマリセット検出フラグ（RSTSR1.WDTRF）	○	○	○	x	x	x	x	x
電圧監視1リセット検出フラグ（RSTSR0.LVD1RF）	○	○	○	x	x	x	x	x
電圧監視2リセット検出フラグ（RSTSR0.LVD2RF）	○	○	○	x	x	x	x	x
ソフトウェアリセット検出フラグ（RSTSR1.SWRF）	○	○	○	x	x	x	x	x
SRAMパリティエラーリセット検出フラグ（RSTSR1.RPERF）	○	○	○	x	x	x	x	x
SRAM ECCエラーリセット検出フラグ（RSTSR1.REERF）	○	○	○	x	x	x	x	x
バススレーブMPUエラーリセット検出フラグ（RSTSR1.BUSSRF）	○	○	○	x	x	x	x	x
バスマスタMPUエラーリセット検出フラグ（RSTSR1.BUSMRF）	○	○	○	x	x	x	x	x
スタックポインタエラーリセット検出フラグ（RSTSR1.SPERF）	○	○	○	x	x	x	x	x
ディープソフトウェアスタンバイリセット検出フラグ（RSTSR0.DPSRSTF）	○	○	○	x	x	x	x	x
コールドスタート／ウォームスタート判別フラグ（RSTSR2.CWSF）	x	○	x	x	x	x	x	x

初期化対象フラグ	リセット要因						
	SRAMパリティエラーリセット	SRAM ECCエラーリセット	バスマスタMPUエラーリセット	バススレーブMPUエラーリセット	スタックポインタエラーリセット	ディープソフトウェアスタンバイリセット	
						DEEPCUT[0] = 0	DEEPCUT[0] = 1
パワーオンリセット検出フラグ（RSTSR0.PORF）	x	x	x	x	x	x	x
電圧監視0リセット検出フラグ（RSTSR0.LVD0RF）	x	x	x	x	x	x	x
独立ウォッチドッグタイマリセット検出フラグ（RSTSR1.IWDTRF）	x	x	x	x	x	○	○
ウォッチドッグタイマリセット検出フラグ（RSTSR1.WDTRF）	x	x	x	x	x	○	○
電圧監視1リセット検出フラグ（RSTSR0.LVD1RF）	x	x	x	x	x	x	x
電圧監視2リセット検出フラグ（RSTSR0.LVD2RF）	x	x	x	x	x	x	x
ソフトウェアリセット検出フラグ（RSTSR1.SWRF）	x	x	x	x	x	○	○
SRAMパリティエラーリセット検出フラグ（RSTSR1.RPERF）	x	x	x	x	x	○	○
SRAM ECCエラーリセット検出フラグ（RSTSR1.REERF）	x	x	x	x	x	○	○
バススレーブMPUエラーリセット検出フラグ（RSTSR1.BUSSRF）	x	x	x	x	x	○	○
バスマスタMPUエラーリセット検出フラグ（RSTSR1.BUSMRF）	x	x	x	x	x	○	○
スタックポインタエラーリセット検出フラグ（RSTSR1.SPERF）	x	x	x	x	x	○	○
ディープソフトウェアスタンバイリセット検出フラグ（RSTSR0.DPSRSTF）	x	x	x	x	x	x	x
コールドスタート／ウォームスタート判別フラグ（RSTSR2.CWSF）	x	x	x	x	x	x	x

○：初期化される。x：初期化されない。

表 6.3 リセット要因ごとの初期化対象モジュール関連レジスタ

初期化対象レジスタ		リセット要因							
		RES端子リセット	パワーオンリセット	電圧監視0リセット	独立ウォッチドッグタイマリセット	ウォッチドッグタイマリセット	電圧監視1リセット	電圧監視2リセット	ソフトウェアリセット
ウォッチドッグタイマのレジスタ	WDTRR, WDTCR, WDTSR, WDTRCR, WDTCSTPR	○	○	○	○	○	○	○	○
電圧監視機能1のレジスタ	LVD1CR0, LVCMPCR.LVD1E, LVDLVLR.LVD1LVL	○	○	○	○	○	x	x	x
	LVD1CR1/LVD1SR	○	○	○	○	○	x	x	x
電圧監視機能2のレジスタ	LVD2CR0, LVCMPCR.LVD2E, LVDLVLR.LVD2LVL	○	○	○	○	○	x	x	x
	LVD2CR1/LVD2SR	○	○	○	○	○	x	x	x
SOSCのレジスタ	SOSCCR	x	○（注1）	x	x	x	x	x	x
	SOMCR	x	x	x	x	x	x	x	x
LOCOのレジスタ	LOCOCR	○	○	○	○	○	○	○	○
	LOCOUTCR	x	○	○	x	x	○	○	x
MOSCのレジスタ	MOMCR	○	○	○	○	○	○	○	○
リアルタイムクロック（RTC）のレジスタ（注2）		x	x	x	x	x	x	x	x
AGTのレジスタ		x	○	○	x	x	○	○	x
USBFSのレジスタ	DPUSR0R, DPUSR1R以外	○	○	○	○	○	○	○	○
	DPUSR0R, DPUSR1R	○	○	○	○	○	○	○	○
MPUのレジスタ		○	○	○	○	○	○	○	○
端子状態（XCIN/XCOUT端子以外）		○	○	○	○	○	○	○	○
端子状態（XCIN/XCOUT端子）		x	x	x	x	x	x	x	x
低消費電力機能のレジスタ	DPSBYCR, DPSIER0～DPSIER3, DPSIFR0～DPSIFR3, DPSIEGR0～DPSIEGR2	○	○	○	○	○	○	○	○
バッテリバックアップのレジスタ		x	x	x	x	x	x	x	x
上記以外のレジスタ、CPU、および内部状態		○	○	○	○	○	○	○	○

初期化対象レジスタ		リセット要因						
		SRAMパリティエラーリセット	SRAM ECCエラーリセット	バスマスタMPUエラーリセット	バススレーブMPUエラーリセット	スタックポインタエラーリセット	ディープソフトウェアスタンバイリセット	
							DEEPCUT[0] = 0	DEEPCUT[0] = 1
ウォッチドッグタイマのレジスタ	WDTRR, WDTCR, WDTSR, WDTRCR, WDTCSTPR	○	○	○	○	○	○	○
電圧監視機能1のレジスタ	LVD1CR0, LVCMPCR.LVD1E, LVDLVLR.LVD1LVL	x	x	x	x	x	x	x
	LVD1CR1/LVD1SR	x	x	x	x	x	○	○
電圧監視機能2のレジスタ	LVD2CR0, LVCMPCR.LVD2E, LVDLVLR.LVD2LVL	x	x	x	x	x	x	x
	LVD2CR1/LVD2SR	x	x	x	x	x	○	○
SOSCのレジスタ	SOSCCR	x	x	x	x	x	x	x
	SOMCR	x	x	x	x	x	x	x
LOCOのレジスタ	LOCOCR	○	○	○	○	○	○	○
	LOCOUTCR	x	x	x	x	x	x	○
MOSCのレジスタ	MOMCR	○	○	○	○	○	x	x
リアルタイムクロック（RTC）のレジスタ（注2）		x	x	x	x	x	x	x
AGTのレジスタ		x	x	x	x	x	x	○
USBFSのレジスタ	DPUSR0R, DPUSR1R以外	○	○	○	○	○	○	○
	DPUSR0R, DPUSR1R	○	○	○	○	○	x	○
MPUのレジスタ		○	○	x	x	x	○	○
端子状態（XCIN/XCOUT端子以外）		○	○	○	○	○	（注3）	（注3）
端子状態（XCIN/XCOUT端子）		x	x	x	x	x	x	x
低消費電力機能のレジスタ	DPSBYCR, DPSIER0～DPSIER3, DPSIFR0～DPSIFR3, DPSIEGR0～DPSIEGR2	○	○	○	○	○	x	x
バッテリバックアップのレジスタ		x	x	x	x	x	x	x
上記以外のレジスタ、CPU、および内部状態		○	○	○	○	○	○	○

○：初期化される。x：初期化されない。

注 1. 各レジスタの初期値については、「9. クロック発生回路」を参照してください。

注 2. RTC にはソフトウェアリセットがあります。RCR1.RTCOS、RCR1.CIE、RCR2.RTCOE、RCR2.ADJ30、および RCR2.RESET は、すべてのリセットにより初期化されます。対象ビットの詳細については、「26. リアルタイムクロック（RTC）」を参照してください。
注 3. DPSBYCR.IOKEEP の設定値に依存します。

RTC はいずれのリセット要因によっても初期化されません。SOSC と LOCO は、RTC のクロックソースとして選択可能です。表 6.4 および表 6.5 に、リセット発生時の SOSC と LOCO の状態を示します。

表 6.4 リセット発生時の SOSC の状態

		リセット要因	
		POR	その他
SOSC	有効または無効	有効に初期化	リセット発生前に選択されていた状態を継続
	駆動能力	リセット発生前に選択されていた状態を継続	

表 6.5 リセット発生時の LOCO の状態

		リセット要因	
		POR, LVD0, LVD1, LVD2/ ディープソフトウェアスタンバイ（DEEPCUT[0] = 1）	その他
LOCO	有効または無効	有効に初期化	
	発振精度（注 1）	LOCOUTCR によるトリミング前の精度に初期化（精度：± 15%）	LOCOUTCR によってトリミングされた精度を継続

注 1. LOCO ユーザトリミングコントロールレジスタ（LOCOUTCR）は、POR、LVD0、LVD1、LVD2 およびディープソフトウェアスタンバイ（DEEPCUT[0] = 1）の各リセットでリセットされます。これにより、LOCO は、デフォルトの発振精度に戻ります。RTC が（LOCOUTCR のユーザトリミング値で）LOCO を RTC ソースクロックとして使用している場合、RTC 精度が影響を受ける場合があります。事前に設定した LOCO 発振精度に戻すには、これらのいずれかのリセットの後、LOCOUTCR に必要なトリミング値をリロードしてください。

表 6.6 にリセット機能に関連する入出力端子を示します。

表 6.6 リセットの入出力端子

端子名	入出力	機能
RES	入力	リセット端子

6.2 レジスタの説明

6.2.1 リセットステータスレジスタ 0（RSTSR0）

アドレス SYSTEM.RSTSR0 4001 E410h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DPSRSTF	—	—	—	LVD2RF	LVD1RF	LVD0RF	PORF
リセット後の値	x（注1）	0	0	0	x（注1）	x（注1）	x（注1）	x（注1）

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PORF	パワーオンリセット検出フラグ	0：パワーオンリセット未検出 1：パワーオンリセット検出	R(/W)（注2）
b1	LVD0RF	電圧監視0リセット検出フラグ	0：電圧監視0リセット未検出 1：電圧監視0リセット検出	R(/W)（注2）
b2	LVD1RF	電圧監視1リセット検出フラグ	0：電圧監視1リセット未検出 1：電圧監視1リセット検出	R(/W)（注2）
b3	LVD2RF	電圧監視2リセット検出フラグ	0：電圧監視2リセット未検出 1：電圧監視2リセット検出	R(/W)（注2）
b6-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	DPSRSTF	ディープソフトウェアスタンバイリセットフラグ	0：割り込みによるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生なし 1：割り込みによるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生あり	R(/W)（注2）

注 1. リセット後の値は、リセット要因で異なります。
注 2. フラグをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。このフラグは、1 を読んだ後、0 を書くことでクリアする必要があります。

PORF フラグ（パワーオンリセット検出フラグ）

パワーオンリセットが発生したことを示します。

[1 になる条件]

- パワーオンリセットが発生したとき

[0 になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

LVD0RF フラグ（電圧監視 0 リセット検出フラグ）

VCC 電圧が V_{det0} レベル以下になったことを示します。

[1 になる条件]

- 電圧監視 0 リセットが発生したとき

[0 になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

LVD1RF フラグ（電圧監視 1 リセット検出フラグ）

VCC 電圧が V_{det1} レベル以下になったことを示します。

［1 になる条件］

- 電圧監視 1 リセットが発生したとき

［0 になる条件］

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

LVD2RF フラグ（電圧監視 2 リセット検出フラグ）

VCC 電圧が V_{det2} レベル以下になったことを示します。

［1 になる条件］

- 電圧監視 2 リセットが発生したとき

［0 になる条件］

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

DPSRSTF フラグ（ディープソフトウェアスタンバイリセットフラグ）

外部または内部割り込みによってディープソフトウェアスタンバイモードが解除されたこと、および、ディープソフトウェアスタンバイモードからの例外発生時に内部リセット（ディープソフトウェアスタンバイリセット）が発生したことを示します。

［1 になる条件］

- 外部または内部割り込みによってディープソフトウェアスタンバイモードが解除されたとき。詳細は、「11. 低消費電力モード」を参照してください。

［0 になる条件］

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

6.2.2 リセットステータスレジスタ 1（RSTSR1）

アドレス SYSTEM.RSTSR1 4001 E0C0h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	SPERF	BUSMRF	BUSSRF	REERF	RPERF	—	—	—	—	—	SWRF	WDTRF	IWDTRF
リセット後の値	0	0	0	x（注1）	x（注1）	x（注1）	x（注1）	x（注1）	0	0	0	0	0	x（注1）	x（注1）	x（注1）

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IWDTRF	独立ウォッチドッグタイマリセット検出フラグ	0：独立ウォッチドッグタイマリセット未検出 1：独立ウォッチドッグタイマリセット検出	R(/W)（注2）
b1	WDTRF	ウォッチドッグタイマリセット検出フラグ	0：ウォッチドッグタイマリセット未検出 1：ウォッチドッグタイマリセット検出	R(/W)（注2）
b2	SWRF	ソフトウェアリセット検出フラグ	0：ソフトウェアリセット未検出 1：ソフトウェアリセット検出	R(/W)（注2）
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	RPERF	SRAMパリティエラーリセット検出フラグ	0：SRAMパリティエラーリセット未検出 1：SRAMパリティエラーリセット検出	R(/W)（注2）
b9	REERF	SRAM ECCエラーリセット検出フラグ	0：SRAM ECCエラーリセット未検出 1：SRAM ECCエラーリセット検出	R(/W)（注2）
b10	BUSSRF	バススレーブMPUエラーリセット検出フラグ	0：バススレーブMPUエラーリセット未検出 1：バススレーブMPUエラーリセット検出	R(/W)（注2）
b11	BUSMRF	バスマスタMPUエラーリセット検出フラグ	0：バスマスタMPUエラーリセット未検出 1：バスマスタMPUエラーリセット検出	R(/W)（注2）
b12	SPERF	SPエラーリセット検出フラグ	0：SPエラーリセット未検出 1：SPエラーリセット検出	R(/W)（注2）
b15-b13	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. リセット後の値は、リセット要因で異なります。
注 2. フラグをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。このフラグは、1 を読んだ後、0 を書くことでクリアする必要があります。

IWDTRF フラグ（独立ウォッチドッグタイマリセット検出フラグ）

独立ウォッチドッグタイマリセットが発生したことを示します。

[1 になる条件]

- 独立ウォッチドッグタイマリセットが発生したとき

[0 になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

WDTRF フラグ（ウォッチドッグタイマリセット検出フラグ）

ウォッチドッグタイマリセットが発生したことを示します。

[1 になる条件]

- ウォッチドッグタイマリセットが発生したとき

[0 になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

SWRF フラグ（ソフトウェアリセット検出フラグ）

ソフトウェアリセットが発生したことを示します。

[1 になる条件]

- ソフトウェアリセットが発生したとき

[0 になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

RPERF フラグ（SRAM パリティエラーリセット検出フラグ）

SRAM パリティエラーリセットが発生したことを示します。

[1 になる条件]

- SRAM パリティエラーリセットが発生したとき

[0 になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

REERF フラグ（SRAM ECC エラーリセット検出フラグ）

SRAM ECC エラーリセットが発生したことを示します。

[1 になる条件]

- SRAM ECC エラーリセットが発生したとき

[0 になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

BUSSRF フラグ（バススレーブ MPU エラーリセット検出フラグ）

バススレーブ MPU エラーリセットが発生したことを示します。

[1 になる条件]

- バススレーブ MPU エラーリセットが発生したとき

[0 になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

BUSMRF フラグ（バスマスタ MPU エラーリセット検出フラグ）

バスマスタ MPU エラーリセットが発生したことを示します。

[1 になる条件]

- バスマスタ MPU エラーリセットが発生したとき

[0 になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

SPERF フラグ（SP エラーリセット検出フラグ）

スタックポインタエラーリセットが発生したことを示します。

[1 になる条件]

- スタックポインタエラーリセットが発生したとき

[0 になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

6.2.3 リセットステータスレジスタ 2（RSTSR2）

アドレス SYSTEM.RSTSR2 4001 E411h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	CWSF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	x（注1）

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CWSF	コールドスタート／ウォームスタート判別フラグ	0：コールドスタート 1：ウォームスタート	R(/W)（注2）
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. リセット後の値は、リセット要因で異なります。
注 2. フラグをセットするための 1 の書き込みのみ可能です。

RSTSR2 レジスタは、電源が投入されたときのリセット処理（コールドスタート）なのか、動作中にリセット信号が入力されたときのリセット処理（ウォームスタート）なのかを判定するレジスタです。

CWSF フラグ（コールドスタート／ウォームスタート判別フラグ）

リセット処理の種類（コールドスタートまたはウォームスタート）を示します。CWSF フラグは、パワーオンリセットで初期化されます。RES 端子リセットでは初期化されません。

[1 になる条件]

- ソフトウェアで 1 を書いたとき。0 を書いても変化しない

[0 になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき

6.3 動作説明

6.3.1 RES 端子リセット

RES 端子によるリセットです。RES 端子が Low になると実行中の処理はすべて打ち切られ、MCU はリセット状態になります。MCU を適切にリセットするには、電源投入時の規定の電源安定時間だけ RES 端子は Low を保持していなければいけません。

RES 端子が Low から High になったとき、RES 解除後待機時間（t_{RESWT}）経過後に内部リセットが解除されます。この後 CPU はリセット例外処理を開始します。

詳細は、「52. 電気的特性」を参照してください。

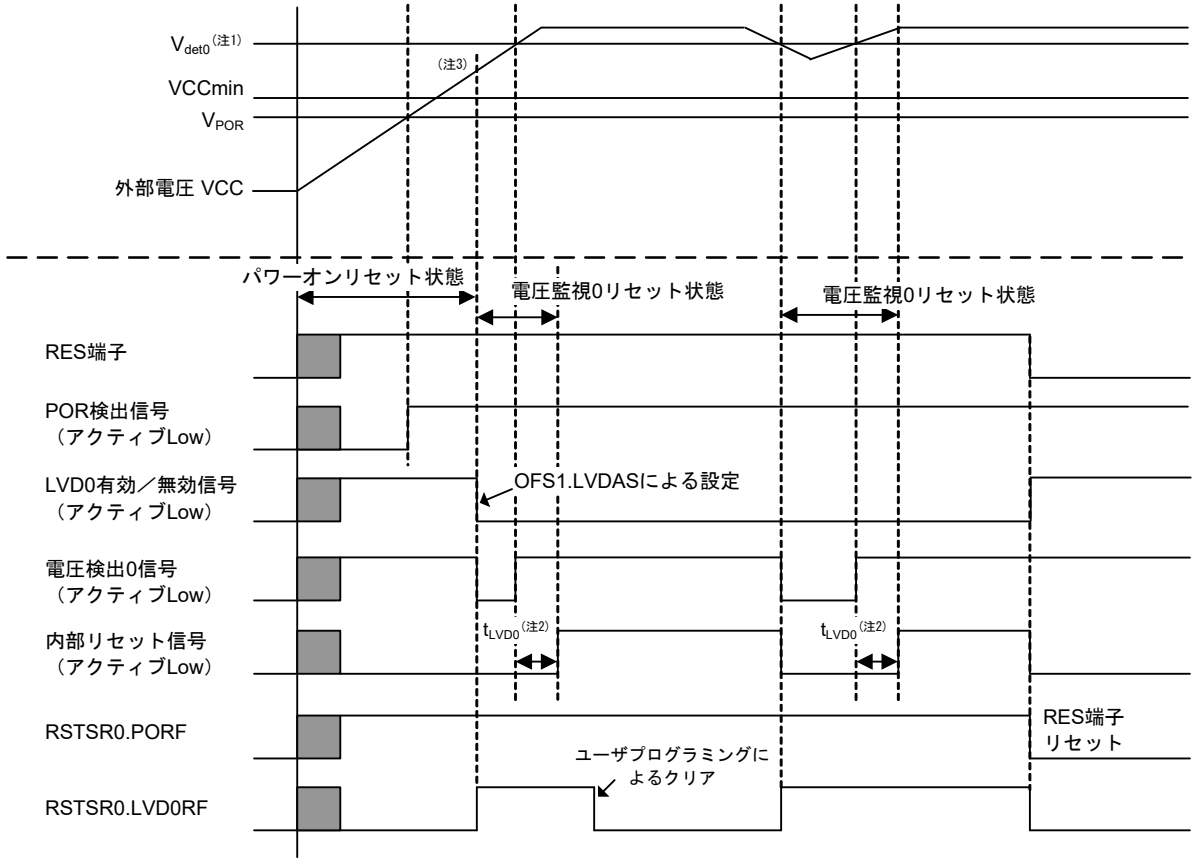
6.3.2 パワーオンリセット

パワーオンリセット（POR）は、パワーオンリセット回路による内部リセットです。RES 端子を High にした状態で電源を投入すると、パワーオンリセットが発生します。VCC が V_{POR} を超えると、一定のパワーオンリセット時間経過後、内部リセットが解除され、CPU がリセット例外処理を開始します。パワーオンリセット時間とは、外部電源と MCU 回路のための安定期間です。パワーオンリセットが発生すると、RSTSR0.PORF フラグが 1 になります。PORF フラグは、RES 端子リセットによって初期化されます。

電圧監視 0 リセットは、電圧監視回路による内部リセットです。オプション機能選択レジスタ 1（OFS1）の電圧検出 0 回路起動ビット（LVDAS）が 0（リセット後、電圧監視 0 リセット有効）の状態で、VCC が V_{det0} 以下になると、RSTSR0.LVD0RF フラグが 1 になり、電圧検出回路は電圧監視 0 リセットを発生させます。電圧監視 0 リセットを使用する場合は、OFS1.LVDAS ビットを 0 にしてください。

VCC が V_{det0} を超えると、電圧監視 0 リセット時間（t_{LVD0}）経過後、内部リセットが解除され、CPU がリセット例外処理を開始します。V_{det0} の電圧検出レベルは、オプション機能選択レジスタ 1（OFS1）の VDSEL[1:0] ビットの設定により変更できます。

図 6.1 に、パワーオンリセットおよび電圧監視 0 リセット時の動作例を示します。



注 . 電気的特性の詳細は、「52. 電気的特性」を参照してください。
注 1. V_{det0} は、電圧監視 0 リセット検知レベル、V_{POR} はパワーオンリセット検知レベル、VCCmin は、MCU の最低保証電圧を表します。
注 2. t_{LVD0} は電圧監視 0 リセット時間を表します。
注 3. 電源投入時には、VCC が最低保証電圧に達してからでなければ、POR リセットを解除することはできません。

図 6.1 パワーオンリセットおよび電圧監視 0 リセット時の動作例

6.3.3 電圧監視リセット

電圧監視 0 リセットは、電圧監視回路による内部リセットです。オプション機能選択レジスタ 1（OFS1）の電圧検出 0 回路起動ビット（LVDAS）が 0（リセット後、電圧監視 0 リセット有効）の状態で、VCC が V_{det0} 以下になると、RSTSR0.LVD0RF フラグが 1 になり、電圧検出回路は電圧監視 0 リセットを発生させます。電圧監視 0 リセットを使用する場合は、OFS1.LVDAS ビットを 0 にしてください。VCC が V_{det0} を超えると、電圧監視 0 リセット時間（t_{LVD0}）経過後、内部リセットが解除され、CPU がリセット例外処理を開始します。

電圧監視 1 回路コントロールレジスタ 0（LVD1CR0）の電圧監視 1 割り込み／リセット許可ビット（RIE）が 1（電圧検出回路によるリセット／割り込み有効）で、かつ電圧監視 1 回路モード選択ビット（LVD1CR0.RI）が 1（低電圧検出時、リセット発生）の状態にあるとき、VCC が V_{det1} 以下になると、RSTSR0.LVD1RF フラグが 1 になり、電圧検出回路は電圧監視 1 リセットを発生させます。

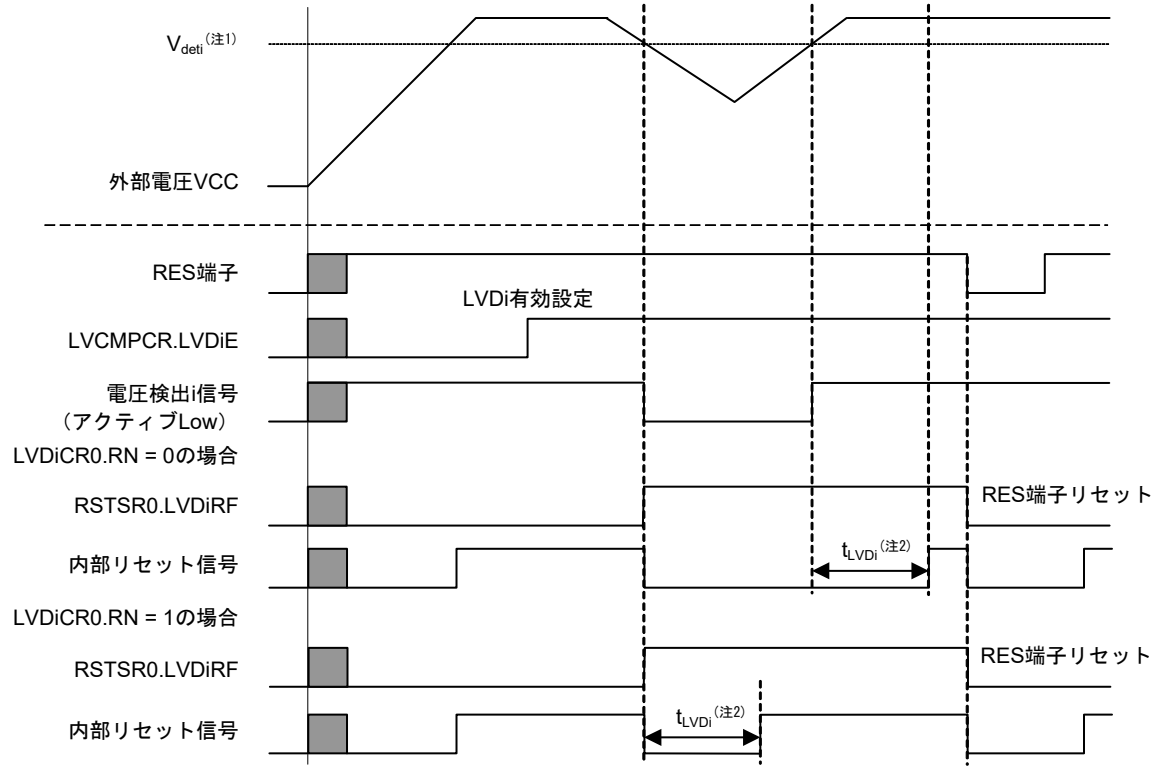
同様に、電圧監視 2 回路コントロールレジスタ 0（LVD2CR0）の電圧監視 2 割り込み／リセット許可ビット（RIE）が 1（電圧検出回路によるリセット／割り込み有効）で、かつ電圧監視 2 回路モード選択ビット（LVD2CR0.RI）が 1（低電圧検出時、リセット発生を選択）の状態にあるとき、VCC が V_{det2} 以下になると、RSTSR0.LVD2RF フラグが 1 になり、電圧検出回路は電圧監視 2 リセットを発生させます。

電圧監視 1 リセットの解除タイミングは、LVD1CR0 レジスタの電圧監視 1 リセットネゲート選択ビット（RN）で選択可能です。LVD1CR0.RN ビットが 0 で、かつ VCC が V_{det1} 以下になっている場合、V_{det1} を超えてから LVD1 リセット時間（t_{LVD1}）が経過すると、CPU は内部リセット状態から解除され、リセット例外処理を開始します。また、LVD1CR0.RN ビットが 1 で、かつ VCC が V_{det1} 以下になっている場合、LVD1 リセット時間（t_{LVD1}）が経過すると、内部リセットは解除され、CPU がリセット例外処理を開始します。

電圧監視 2 リセットの解除タイミングも同様であり、LVD2CR0 レジスタの電圧監視 2 リセットネゲート選択ビット（RN）で選択可能です。

V_{det1} および V_{det2} の電圧検出レベルは、電圧検出レベル選択レジスタ（LVDLVLR）で変更できます。

図 6.2 に電圧監視 1 リセットおよび電圧監視 2 リセット時の動作例を示します。電圧監視 1 リセットと電圧監視 2 リセットの詳細は、「8. 低電圧検出（LVD）」を参照してください。



注 . 電気的特性の詳細は、「52. 電気的特性」を参照してください。
注1. V_{deti}は、電圧監視1リセットと電圧監視2リセットの検出レベルを表しています。(i = 1, 2)
注2. t_{LVDi}は、電圧監視1リセット時間と電圧監視2リセット時間を表しています。(i = 1, 2)

図 6.2 電圧監視 1 リセットおよび電圧監視 2 リセット時の動作例

6.3.4 ディープソフトウェアスタンバイリセット

ディープソフトウェアスタンバイリセットは、ディープソフトウェアスタンバイモードを関連の割り込みによって解除する場合に発生する内部リセットです。ディープソフトウェアスタンバイモード解除後復帰時間（tDSBY）が経過すると、ディープソフトウェアスタンバイリセットは解除されます。

ディープソフトウェアスタンバイモードの解除後に、ディープソフトウェアスタンバイモード解除後待機時間（tDSBYWT）が経過すると、内部リセットは解除され、CPU がリセット例外処理を開始します。

ディープソフトウェアスタンバイリセットの詳細は、「11. 低消費電力モード」を参照してください。

6.3.5 独立ウォッチドッグタイマリセット

独立ウォッチドッグタイマリセットは、独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）による内部リセットです。オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）によって、IWDT からリセットを出力するかどうかを選択できます。

独立ウォッチドッグタイマリセットの出力を選択した場合、IWDT がアンダーフローしたとき、あるいはリフレッシュ許可期間以外で書き込みを行ったときに、このリセットが発生します。独立ウォッチドッグタイマリセットの発生後に、内部リセット時間（tRESW2）が経過すると、内部リセットは解除され、CPU がリセット例外処理を開始します。

独立ウォッチドッグタイマリセットの詳細は、「28. 独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）」を参照してください。

6.3.6 ウォッチドッグタイマリセット

ウォッチドッグタイマリセットは、ウォッチドッグタイマ（WDT）による内部リセットです。WDT リセットコントロールレジスタ（WDTRCR）またはオプション機能選択レジスタ 0（OFS0）によって、WDT からリセットを出力するかどうかを選択できます。

ウォッチドッグタイマリセットの出力を選択した場合、WDT がアンダーフローしたとき、あるいはリフレッシュ許可期間以外で書き込みを行ったときに、このリセットが発生します。ウォッチドッグタイマリセットの発生後に、内部リセット時間（tRESW2）が経過すると、内部リセットは解除され、CPU がリセット例外処理を開始します。

ウォッチドッグタイマリセットの詳細は、「27. ウォッチドッグタイマ（WDT）」を参照してください。

6.3.7 ソフトウェアリセット

ソフトウェアリセットは、Arm コア内部の AIRCR レジスタの SYSRESETREQ ビットに対するソフトウェア設定によって発生する内部リセットです。SYSRESETREQ ビットを 1 にすると、ソフトウェアリセットが発生します。ソフトウェアリセットの発生後に、内部リセット時間（tRESW2）が経過すると、内部リセットは解除され、CPU がリセット例外処理を開始します。

SYSRESETREQ ビットについての詳細は、*ARM® Cortex®-M4 Technical Reference Manual* を参照してください。

6.3.8 コールドスタート／ウォームスタート判定機能

RSTSR2.CWSF フラグの読み出しによって、リセット処理の原因を判定できます。このフラグは、電源が投入されたときのリセット処理（コールドスタート）なのか、動作中にリセット信号が入力されたときのリセット処理（ウォームスタート）なのかを示します。

CWSF フラグは、パワーオンリセットが発生すると 0（コールドスタート）になります。その他のリセットを行っても 0 になりません。また、ソフトウェアで 1 を書くと 1 になります。0 を書いても 0 になりません。

図 6.3 にコールドスタート／ウォームスタート判定機能の動作例を示します。

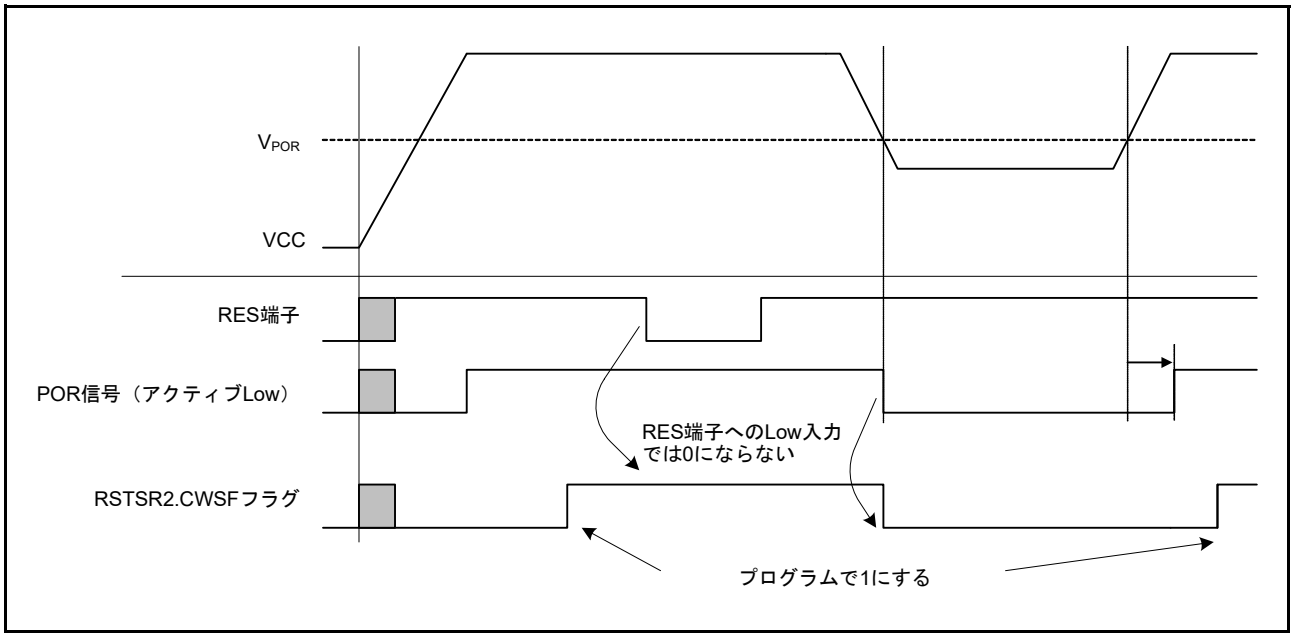
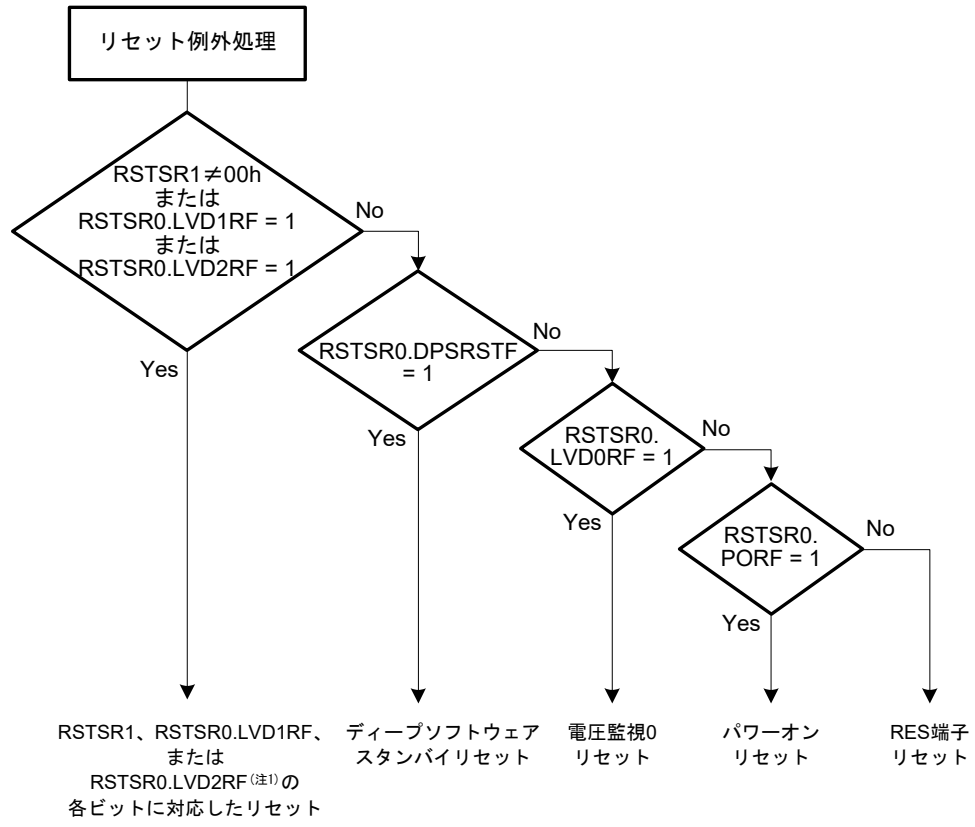


図 6.3 コールドスタート／ウォームスタート判定機能の動作例

6.3.9 リセット発生要因の判定

RSTSR0 レジスタと RSTSR1 レジスタを読むことで、いずれのリセット発生によってリセット例外処理が実行されたかを確認できます。図 6.4 にリセット発生要因の判定フロー例を示します。リセットフラグは、1 を読んだ後に 0 を書く必要があります。



注1. RSTSR1、RSTSR0.LVD1RF、またはRSTSR0.LVD2RFの各ビットに対応した2つ以上のリセットが同時に発生した場合、すべてのリセットフラグが1になります。

図 6.4 リセット発生要因の判定フロー例

7. オプション設定メモリ

7.1 概要

オプション設定メモリは、MCU のリセット後の状態を決定します。オプション設定メモリは、フラッシュメモリのコンフィグレーション設定領域とプログラムフラッシュ領域に配置されます。これら 2 つの領域では設定方法が異なります。

図 7.1 にオプション設定メモリの領域を示します。

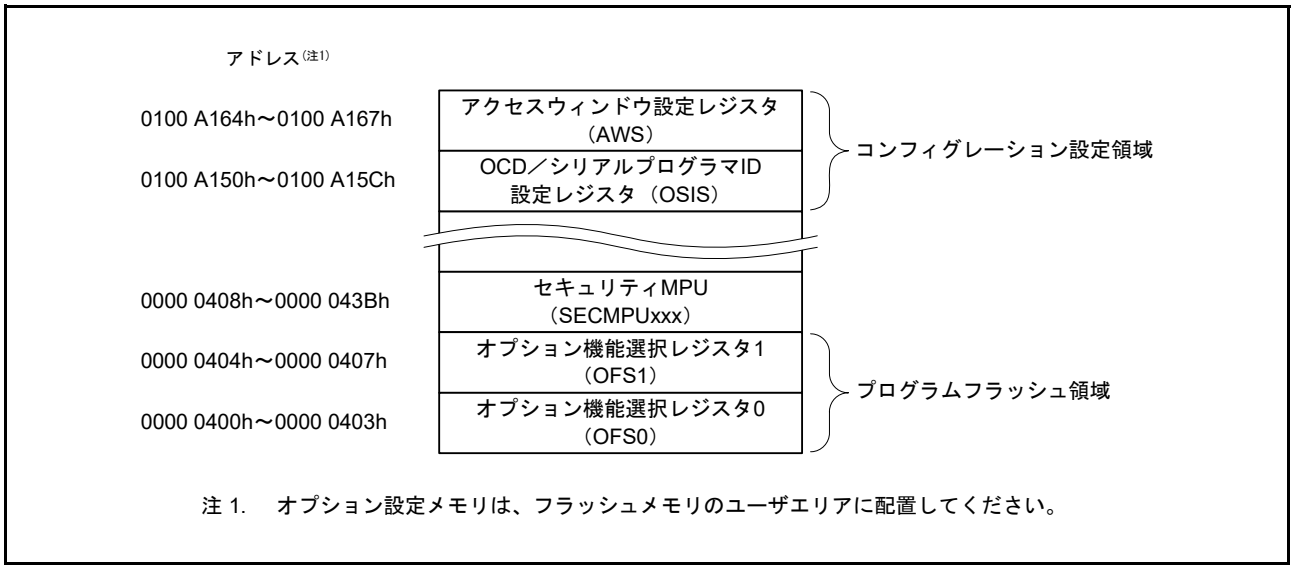


図 7.1 オプション設定メモリの領域

7.2 レジスタの説明

7.2.1 オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）

アドレス OFS0 0000 0400h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	WDTSTPCTL	—	WDTRSTIRQS	WDTRPSS[1:0]		WDTRPES[1:0]		WDTCKS[3:0]				WDTTOPS[1:0]		WDTSTRT	—
リセット後の値	ユーザの設定値（注1）															

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	IWDTSTPCTL	—	IWDTRSTIRQS	IWDTRPSS[1:0]		IWDTRPES[1:0]		IWDTCKS[3:0]				IWDTTOPS[1:0]		IWDTSTRT	—
リセット後の値	ユーザの設定値（注1）															

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。 書く場合、1としてください。	R
b1	IWDTSTRT	IWDTスタートモード選択	0：リセット後、IWDTは自動的に起動 （オートスタートモード） 1：IWDTは無効	R
b3-b2	IWDTTOPS[1:0]	IWDTタイムアウト期間選択	b3 b2 0 0：128サイクル（007Fh） 0 1：512サイクル（01FFh） 1 0：1024サイクル（03FFh） 1 1：2048サイクル（07FFh）	R
b7-b4	IWDTCKS[3:0]	IWDT専用クロック分周比選択	b7 b4 0 0 0 0：1分周 0 0 1 0：16分周 0 0 1 1：32分周 0 1 0 0：64分周 1 1 1 1：128分周 0 1 0 1：256分周 上記以外は設定しないでください。	R
b9-b8	IWDTRPES[1:0]	IWDTウィンドウ終了位置選択	b9 b8 0 0：75% 0 1：50% 1 0：25% 1 1：0%（ウィンドウの終了位置設定なし）	R
b11-b10	IWDTRPSS[1:0]	IWDTウィンドウ開始位置選択	b11 b10 0 0：25% 0 1：50% 1 0：75% 1 1：100%（ウィンドウの開始位置設定なし）	R
b12	IWDTRSTIRQS	IWDTリセット割り込み要求選択	0：割り込み 1：リセット	R
b13	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。 書く場合、1としてください。	R
b14	IWDTSTPCTL	IWDT停止制御	0：カウントは継続 1：スリープモード、スヌーズモード、またはソフトウェアスタンバイモードの状態にあるとき、カウント停止	R
b16-b15	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。 書く場合、1としてください。	R
b17	WDTSTRT	WDTスタートモード選択	0：リセット後、WDTは自動的に起動 （オートスタートモード） 1：リセット後、WDTは停止状態 （レジスタスタートモード）	R

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b19-b18	WDTTOPS[1:0]	WDTタイムアウト期間選択	b19 b18 0 0：1024サイクル（03FFh） 0 1：4096サイクル（0FFFh） 1 0：8192サイクル（1FFFh） 1 1：16384サイクル（3FFFh）	R
b23-b20	WDTCKS[3:0]	WDTクロック分周比選択	b23 b20 0 0 0 1：PCLKB/4 0 1 0 0：PCLKB/64 1 1 1 1：PCLKB/128 0 1 1 0：PCLKB/512 0 1 1 1：PCLKB/2048 1 0 0 0：PCLKB/8192 上記以外は設定しないでください。	R
b25-b24	WDTRPES[1:0]	WDTウィンドウ終了位置選択	b25 b24 0 0：75% 0 1：50% 1 0：25% 1 1：0%（ウィンドウの終了位置設定なし）	R
b27-b26	WDTRPSS[1:0]	WDTウィンドウ開始位置選択	b27 b26 0 0：25% 0 1：50% 1 0：75% 1 1：100%（ウィンドウの開始位置設定なし）	R
b28	WDTRSTIRQS	WDTリセット割り込み要求選択	WDT動作の選択 0：割り込み 1：リセット	R
b29	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。書く場合、1としてください。	R
b30	WDTSTPCTL	WDT停止制御	0：カウントは継続 1：スリープモード遷移時にカウント停止	R
b31	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。書く場合、1としてください。	R

注 1. ブランク品は、FFFF FFFFh です。ユーザがプログラムした値になります。

IWDTSTRT ビット（IWDT スタートモード選択）

リセット後の IWDT の起動モード（停止状態または起動状態）を選択します。

IWDTTOPS[1:0] ビット（IWDT タイムアウト期間選択）

ダウンカウンタがアンダーフローするまでのタイムアウト期間を、IWDTCKS[3:0] ビットで設定した分周クロックを 1 サイクルとして、128、512、1024、2048 の各サイクル数で指定します。リフレッシュ後、カウンタがアンダーフローするまでの時間は、IWDTCKS[3:0] ビットと IWDTTOPS[1:0] ビットの組み合わせで決定されます。

詳細は、「28. 独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）」を参照してください。

IWDTCKS[3:0] ビット（IWDT 専用クロック分周比選択）

IWDT 専用クロックを分周するプリスケーラの分周比設定を、1、16、32、64、128、256 の各分周から選択します。この設定を IWDTTOPS[1:0] ビット設定と組み合わせることで、IWDT のカウント期間は 128 から 524288 までの IWDT クロック数に設定可能です。

詳細は、「28. 独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）」を参照してください。

IWDTRPES[1:0] ビット（IWDT ウィンドウ終了位置選択）

ダウンカウンタのウィンドウ終了位置を、カウント値の 0%、25%、50%、75% から選択します。ウィンドウ終了位置の値はウィンドウ開始位置の値よりも小さくなければいけません。ウィンドウ終了位置をウィンドウ開始位置よりも大きい値にした場合、ウィンドウ開始位置の設定値のみが有効となります。

IWDTRPSS[1:0] および IWDTRPES[1:0] ビットで設定したウィンドウ開始および終了位置に対応するカウンタ値は、IWDTTOPS[1:0] ビットの設定によって変わります。

詳細は、「28. 独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）」を参照してください。

IWDTRPSS[1:0] ビット（IWDT ウィンドウ開始位置選択）

ダウンカウンタのウィンドウ開始位置を、カウント値の 25%、50%、75%、100% から選択します。このとき、カウント開始時が 100%、アンダーフロー発生時が 0% です。ウィンドウ開始位置からウィンドウ終了位置までの期間がリフレッシュ許可期間となります。それ以外はリフレッシュ禁止期間です。

詳細は、「28. 独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）」を参照してください。

IWDTRSTIRQS ビット（IWDT リセット割り込み要求選択）

ダウンカウンタのアンダーフロー、またはリフレッシュエラー発生時の動作を設定します。独立ウォッチドッグタイマリセット、ノンマスカブル割り込み要求、または割り込み要求のいずれかを選択できます。

詳細は、「28. 独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）」を参照してください。

IWDTSTPCTL ビット（IWDT 停止制御）

スリープモード、スヌーズモード、またはソフトウェアスタンバイモード遷移時にカウントを停止するかどうかを選択します。

詳細は、「28. 独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）」を参照してください。

WDTSTRT ビット（WDT スタートモード選択）

リセット後の WDT の起動モード（停止状態または起動状態）を選択します。オートスタートモードでの起動の場合、WDT の設定は OFS0 レジスタの設定が有効となります。

WDTTOPS[1:0] ビット（WDT タイムアウト期間選択）

ダウンカウンタがアンダーフローするまでのタイムアウト期間を、WDTCKS[3:0] ビットで設定した分周クロックを 1 サイクルとして、1024、4096、8192、16384 の各サイクル数で指定します。リフレッシュ後、カウンタがアンダーフローするまでの PCLKB サイクル数は、WDTCKS[3:0] ビットと WDTTOPS[1:0] ビットの組み合わせで決定されます。

詳細は、「27. ウォッチドッグタイマ（WDT）」を参照してください。

WDTCKS[3:0] ビット（WDT クロック分周比選択）

PCLKB を分周するプリスケーラの分周比設定を、4、64、128、512、2048、8192 の各分周から選択します。この設定を WDTTOPS[1:0] ビット設定と組み合わせることで、WDT のカウント期間は 4096 から 134217728 までの PCLKB クロック数に設定可能です。

詳細は、「27. ウォッチドッグタイマ（WDT）」を参照してください。

WDTRPES[1:0] ビット（WDT ウィンドウ終了位置選択）

ダウンカウンタのウィンドウ終了位置を、カウント値の 0%、25%、50%、75% から選択します。ウィンドウ終了位置の値はウィンドウ開始位置の値よりも小さくなければいけません。ウィンドウ終了位置をウィンドウ開始位置よりも大きい値にした場合、ウィンドウ開始位置の設定値のみが有効となります。

WDTRPSS[1:0] ビットおよび WDTRPES[1:0] ビットで設定したウィンドウ開始および終了位置に対応するカウンタ値は、WDTTOPS[1:0] ビットの設定によって変わります。

詳細は、「27. ウォッチドッグタイマ（WDT）」を参照してください。

WDTRPSS[1:0] ビット（WDT ウィンドウ開始位置選択）

ダウンカウンタのウィンドウ開始位置を、カウント値の 25%、50%、75%、100% から選択します。このとき、カウント開始時が 100%、アンダーフロー発生時が 0% です。ウィンドウ開始位置からウィンドウ終了位置までの期間がリフレッシュ許可期間となります。それ以外はリフレッシュ禁止期間です。

詳細は、「27. ウォッチドッグタイマ（WDT）」を参照してください。

WDTRSTIRQS ビット（WDT リセット割り込み要求選択）

ダウンカウンタのアンダーフロー、またはリフレッシュエラー発生時の動作を設定します。ウォッチドッグタイマリセット、ノンマスカブル割り込み要求、または割り込み要求のいずれかを選択できます。

詳細は、「27. ウォッチドッグタイマ（WDT）」を参照してください。

WDTSTPCTL ビット（WDT 停止制御）

スリープモード遷移時に、カウントを停止させるかどうかを選択します。詳細は、「27. ウォッチドッグタイマ（WDT）」を参照してください。

7.2.2 オプション機能選択レジスタ 1（OFS1）

アドレス　OFS1 0000 0404h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ユーザの設定値（注1）															

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	—	—	—	—	—	HOCOFRQ0[1:0]		HOCOEN	—	—	—	—	—	LVDAS	VDSEL0[1:0]	
	ユーザの設定値（注1）															

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	VDSEL0[1:0]	電圧検出 0 レベル選択	b1 b0 0 0：設定禁止 0 1：2.94V を選択 1 0：2.87V を選択 1 1：2.80V を選択	R
b2	LVDAS	電圧検出 0 回路起動	0：リセット後、電圧監視 0 リセット有効 1：リセット後、電圧監視 0 リセット無効	R
b7-b3	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。 書く場合、1 としてください。	R
b8	HOCOEN	HOCO 発振有効	0：リセット後、HOCO 発振が有効 1：リセット後、HOCO 発振が無効	R
b10-b9	HOCOFRQ0[1:0]	HOCO 周波数設定 0	b10 b9 0 0：16MHz 0 1：18MHz 1 0：20MHz 1 1：設定禁止	R
b31-b11	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。 書く場合、1 としてください。	R

注 1.　ブランク品は、FFFF FFFFh です。ユーザがプログラムした値になります。

VDSEL0[1:0] ビット（電圧検出 0 レベル選択）

電圧検出 0 回路の電圧検出レベルを選択します。

LVDAS ビット（電圧検出 0 回路起動）

リセット後、電圧監視 0 リセットを有効にするか無効にするかを選択します。

HOCOEN ビット（HOCO 発振有効）

リセット後、HOCO 発振を有効にするか無効にするかを選択します。このビットを 0 にすることにより、CPU が動作する前に HOCO の発振を開始することができ、発振安定の待ち時間を減らすことができます。

注 .　HOCOEN ビットを 0 にしても、システムクロックソースは HOCO に切り替わりません。クロックソース選択ビット（SCKSCR.CKSEL[2:0]）を設定することによってのみ、システムクロックソースは HOCO に切り替わります。HOCO クロックを使用する場合は、OFS1.HOCOFRQ0[1:0] ビットを最適な値に設定してください。

HOCOFRQ0[1:0] ビット（HOCO 周波数設定 0）

リセット後の HOCO 周波数を、16、18、20MHz から選択します。

7.2.3 アクセスウィンドウ設定レジスタ（AWS）

アドレス AWS 0100 A164h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	BTFLG	—	—	—	—	FAWE[10:0]										
リセット後の値						ユーザの設定値										

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	FSPR	—	—	—	—	FAWS[10:0]										
リセット後の値						ユーザの設定値										

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b10-b0	FAWS[10:0]	アクセスウィンドウ開始ブロックアドレス	アクセスウィンドウの開始ブロックアドレスを指定します。これらのビットは、アクセスウィンドウのブロック番号を表すものではありません。アクセスウィンドウはプログラムフラッシュ領域でのみ有効です。このブロックアドレスは、ブロックの先頭アドレスを指定し、アドレスビット23～13で構成されます。	R
b14-b11	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。	R
b15	FSPR	アクセスウィンドウとスタートアップ領域選択機能の保護	アクセスウィンドウ、スタートアップ領域選択フラグ（AWS.BTFLG）、およびテンポラリブートスワップ制御に対するライト／イレース保護のプログラミングを制御します。このビットは0にすると、1に変更できません。 0：アクセスウィンドウ（FAWE[10:0]、FAWS[10:0]）とスタートアップ領域選択フラグ（AWS.BTFLG）のプログラミングに対するコンフィグレーション設定コマンドの実行は無効。 1：アクセスウィンドウ（FAWE[10:0]、FAWS[10:0]）とスタートアップ領域選択フラグ（AWS.BTFLG）のプログラミングに対するコンフィグレーション設定コマンドの実行は有効。	R
b26-b16	FAWE[10:0]	アクセスウィンドウ終了ブロックアドレス	アクセスウィンドウの終了ブロックアドレスを指定します。これらのビットは、アクセスウィンドウのブロック番号を表すものではありません。アクセスウィンドウはプログラムフラッシュ領域でのみ有効です。アクセスウィンドウの終了ブロックアドレスは、アクセスウィンドウで定義されるプログラム／イレース受け付け可能領域の次のブロックです。このブロックアドレスは、ブロックの先頭アドレスを指定し、アドレスビット23～13で構成されます。	R
b30-b27	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。 書く場合、1としてください。	R
b31	BTFLG	スタートアップ領域選択フラグ	スタートアップ領域のアドレスをブートスワップ機能用に入れ替えるか否かを指定します。 0：最初の8KB領域（0000 0000h～0000 1FFFh）と次の8KB領域（0000 2000h～0000 3FFFh）が入れ替わる 1：最初の8KB領域（0000 0000h～0000 1FFFh）と次の8KB領域（0000 2000h～0000 3FFFh）は入れ替わらない	R

アクセスウィンドウ外の領域にプログラム／イレース（P/E）コマンドを発行すると、コマンドロック状態に陥ります。アクセスウィンドウはプログラムフラッシュ領域でのみ有効です。アクセスウィンドウは、セルフプログラミングモード、シリアルプログラミングモード、およびオンチップデバッグモードにおいて、プロテクション機能を提供します。アクセスウィンドウはFSPRビットでロックすることが可能です。

アクセスウィンドウは、FAWS[10:0]ビットおよびFAWE[10:0]ビットの両方で指定されます。以下に、FAWS[10:0]ビットとFAWE[10:0]ビットの設定方法を説明します。

- FAWE[10:0] = FAWS[10:0]：P/Eコマンドは、全プログラムフラッシュ領域に対して実行が許可される
- FAWE[10:0] ＞ FAWS[10:0]：P/Eコマンドは、FAWS[10:0]ビットで指示されたブロックから、FAWE[10:0]ビットで指示されたブロックより1つ下のブロックまでのウィンドウでのみ実行が許可される

- FAWE[10:0] ＜ FAWS[10:0]：P/E コマンドは、プログラムフラッシュ領域に対して実行が禁止される

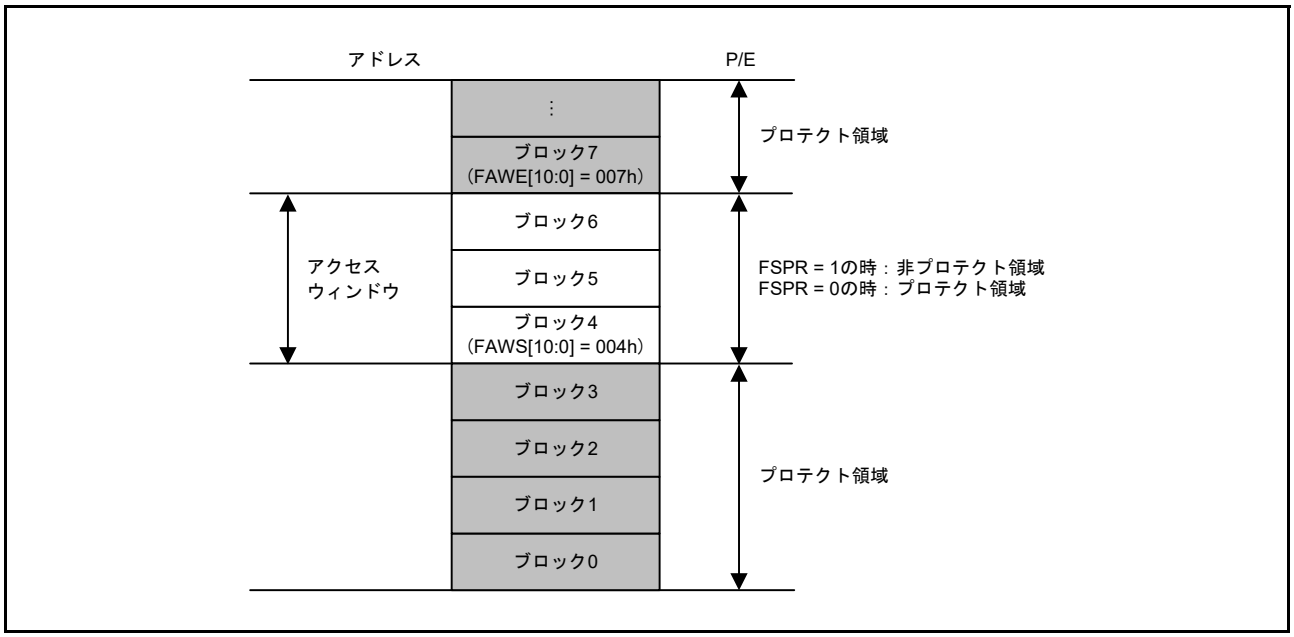


図 7.2　アクセスウィンドウの概要

7.2.4 OCD／シリアルプログラマ ID 設定レジスタ（OSIS）

OSIS レジスタは、OCD／シリアルプログラマの ID コードプロテクト機能の ID を格納します。OCD／シリアルプログラマを接続する場合、MCU がその接続を許可するか否か判定できるようにするための値を書き込んでください。このレジスタを用いて、OCD／シリアルプログラマから送られてくるコードが、オプション設定メモリ上の ID コードと一致するか否かを判定してください。

ID コードが一致した場合、OCD／シリアルプログラマとの接続が許可されます。ID コードが一致しない場合、OCD／シリアルプログラマとの接続はできません。OSIS レジスタは 32 ビットワード単位で設定する必要があります。

アドレス OSIS 0100 A150h, OSIS 0100 A154h, OSIS 0100 A158h, OSIS 0100 A15Ch



OCD／シリアルプログラマの ID 認証に使用する ID を格納します。

ID コードのビット 127 とビット 126 は、ID コードプロテクト機能の有効／無効を判定し、ホストで使用する認証方法を決定します。ID コードがどのように認証方法を決定するかについて、表 7.1 に示します。

ビット 127 を 0 にすると、ルネサスはテストモードにアクセスできなくなります。そのため、ビット [126:0] を設定しないと、ルネサスは故障解析を実施できません。ルネサスが保証クレームを処理するためには、故障解析を実行する必要があります。

表 7.1 IDコードプロテクト機能の仕様

起動時の動作モード	IDコード	プロテクト状態	プログラマまたは オンチップデバッガ接続時の動作
シリアルプログラミングモード（SCI/USB ブートモード） オンチップデバッグモード（JTAG/SWD ブートモード）	FFh, …, FFh （全バイトがFFh）	プロテクト無効	IDコードはチェックされません。IDコードは常に一致して、プログラマまたはオンチップデバッガへの接続が許可されます。
	ビット127 = 1および ビット126 = 1、かつ 16バイトのうち少なくとも1つがFFh以外	プロテクト有効	IDコードの一致 = 認証が完了し、プログラマまたはオンチップデバッガとの接続が許可されます。 IDコードの不一致 = IDコードプロテクト待ち状態へ遷移します。 プログラマまたはオンチップデバッガから送られてきたIDコードがASCIIコードのALeRASE（414C_6552_4153_45FF_FFFF_FFFF_FFFF_FFFFh）であると、ユーザフラッシュ領域の内容は消去されます。ただし、FSPRビットが0であれば、強制消去は実行されません。
	ビット127 = 1および ビット126 = 0	プロテクト有効	IDコードの一致 = 認証が完了し、プログラマまたはオンチップデバッガとの接続が許可されます。 IDコードの不一致 = IDコードプロテクト待ち状態へ遷移します。
	ビット127 = 0	プロテクト有効	IDコードはチェックされません。IDコードは常に不一致であり、プログラマまたはオンチップデバッガへの接続は禁止されていますが、ALeRASEコマンドは受け入れられます。ALeRASEコマンドの禁止については、2.11.3.4 接続順序とJTAG/SWD認証の(1) OSISのMSBが0（ビット[127] = 0）のときを参照してください。ルネサスはテストモードにアクセスできません。

7.3 オプション設定メモリの設定方法

7.3.1 オプション設定メモリへのデータの配置方法

プログラムデータは、図 7.1 に示すオプション設定メモリのアドレスに配置されます。配置したデータは、フラッシュ書き込みソフトウェアやオンチップデバッガなどのツールで使用されます。

注 . プログラムの書式はコンパイラによって異なります。詳細は、コンパイラのマニュアルを参照してください。

7.3.2 オプション設定メモリにプログラムするデータの設定方法

7.3.1 オプション設定メモリへのデータの配置方法に記述されたとおりにデータを配置するだけでは、オプション設定メモリにプログラムできません。合わせて、本項に記載されている下記のいずれかを実施してください。

(1) セルフプログラミングでオプション設定メモリを変更する場合

プログラムフラッシュ領域へデータを書き込むため、プログラムコマンドを使用してください。また、コンフィグレーション設定領域のオプション設定メモリへデータを書き込むため、コンフィグレーション設定コマンドを使用してください。さらに、スタートアップ領域選択機能を用いて、オプション設定メモリを含むブートプログラムを安全に更新してください。

プログラムコマンド、コンフィグレーション設定コマンド、およびスタートアップ領域選択機能の詳細については、「50. フラッシュメモリ」を参照してください。

注 . コンフィグレーション設定領域へのプログラミングには以下の制約があります。
- すべてのバスマスタから、式 1 で記述された範囲を満たすアドレスに対してコードによるアクセスをしないでください。
- 式 1 で記述された範囲を満たすアドレス上でコードの実行をしないでください。

式 1 :
If (((address & 0x0101F800) = = 0x01010000) || ((address & 0x0101FC00) = = 0x01012000))

たとえば、アドレス範囲 0x1FFF0000 ～ 0x1FFF07FF または 0x1FFF2000 ～ 0x1FFF23FF は、制約を示すタグが付された SRAMHS 領域に対応しています。また、割り込みは可能ですが、割り込みステータスレジスタには上記の制約があります。したがって、コンフィグレーション設定領域をプログラミングするときは、すべての割り込みと、CPU 以外のバスマスタを無効にしてください。割り込みおよびそれらモジュールは、式 1 で示す禁止領域にアクセスする可能性があるためです。

(2) OCD によるデバッグ時またはフラッシュライタによってプログラムする場合

この手順は使用するツールによって異なるため、詳細はツールのマニュアルを参照してください。

本 MCU には、以下の 2 つの設定手順があります。

- 7.3.1 オプション設定メモリへのデータの配置方法に示すように配置されたデータを、コンパイラが生成するオブジェクトファイルやモトローラ S 形式ファイルから読み取り、本 MCU へプログラムする
- ツールの GUI インタフェースを使用して、7.3.1 オプション設定メモリへのデータの配置方法に示すように配置された同じデータをプログラムする

注 . OSIS および AWS レジスタへのプログラミングには以下の制約があります。
- すべてのバスマスタから、式 1 で記述された範囲を満たすアドレスに対してコードによるアクセスをしないでください。
- 式 1 で記述された範囲を満たすアドレス上でコードの実行をしないでください。

7.4 使用上の注意事項

7.4.1 オプション設定メモリの予約領域および予約ビットにプログラムするデータ

オプション設定メモリの予約領域および予約ビットがプログラム範囲内にある場合、予約領域の全ビットおよび全予約ビットには 1 を書き込んでください。これらのビットに 0 を書き込むと、動作は保証されません。

8. 低電圧検出（LVD）

8.1 概要

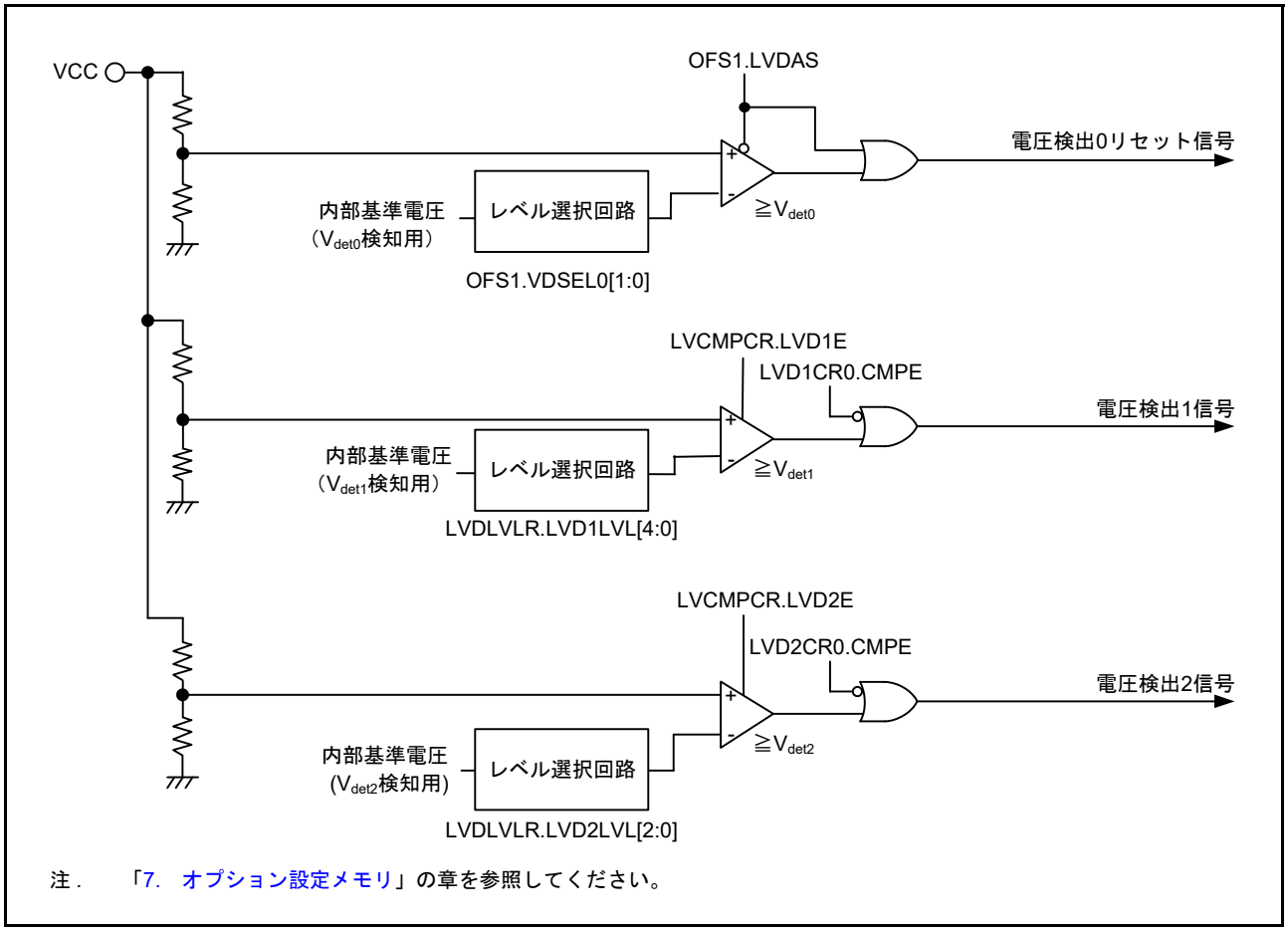
低電圧検出（LVD）モジュールは、VCC 端子へ入力された電圧レベルを監視します。検出レベルはソフトウェアプログラムで選択できます。LVD モジュールは、3 つの独立した電圧レベル検出器（0、1、2 回路）で構成され、それぞれが VCC 端子への入力電圧レベルを測定します。LVD 電圧検出レジスタにより、さまざまな電圧しきい値で VCC の変動を検出するようにユーザアプリケーションを設定できます。

それぞれの電圧レベル検出器には、電圧監視 0、1、2 などの電圧監視回路が対応しています。電圧モニタレジスタを用いることで、電圧しきい値を通過したときに、割り込み、イベントリンク出力、またはリセットを発生させるように LVD を設定できます。

表 8.1 に LVD の仕様を示します。また、図 8.1 に電圧検出 0、1、2 回路のブロック図を、図 8.2 に電圧監視 1 割り込み／リセット発生回路のブロック図を、図 8.3 に電圧監視 2 割り込み／リセット発生回路のブロック図を示します。

表 8.1 LVDの仕様

項目		電圧監視0の仕様	電圧監視1の仕様	電圧監視2の仕様
VCC監視	監視電圧	V_{det0}	V_{det1}	V_{det2}
	検出イベント	下降してV_{det0}を通過	上昇または下降してV_{det1}を通過	上昇または下降してV_{det2}を通過
	検出電圧	OFS1.VDSEL0[1:0]ビットで3レベルから選択可能	LVDLVLR.LVD1LVL[4:0]ビットで3レベルから選択可能	LVDLVLR.LVD2LVL[2:0]ビットで3レベルから選択可能
	モニタフラグ	なし	LVD1SR.MONフラグ：電圧がV_{det1}より高いか低いかを監視	LVD2SR.MONフラグ：電圧がV_{det2}より高いか低いかを監視
			LVD1SR.DETフラグ：V_{det1}通過検出	LVD2SR.DETフラグ：V_{det2}通過検出
電圧検出時の処理	リセット	電圧監視0リセット	電圧監視1リセット	電圧監視2リセット
		V_{det0}＞VCCでリセット。VCC＞V_{det0}の一定時間後にCPU動作再開	V_{det1}＞VCCでリセット。CPU動作再開タイミングとして、VCC＞V_{det1}の一定時間後、またはV_{det1}＞VCCの一定時間後を選択可能	V_{det2}＞VCCでリセット。CPU動作再開タイミングとして、VCC＞V_{det2}の一定時間後、またはV_{det2}＞VCCの一定時間後を選択可能
	割り込み	なし	電圧監視1割り込み	電圧監視2割り込み
			ノンマスカブル割り込み、またはマスカブル割り込みを選択可能	ノンマスカブル割り込み、またはマスカブル割り込みを選択可能
			V_{det1}＞VCCまたはVCC＞V_{det1}のとき割り込み要求	V_{det2}＞VCCまたはVCC＞V_{det2}のとき割り込み要求
デジタルフィルタ	有効／無効の切り替え	デジタルフィルタ機能なし	あり	あり
	サンプリング時間	—	LOCOのn分周 × 2（n：2, 4, 8, 16）	LOCOのn分周 × 2（n：2, 4, 8, 16）
イベントリンク機能		なし	あり V_{det1}通過検出時にイベント信号出力	あり V_{det2}通過検出時にイベント信号出力



注． 「7. オプション設定メモリ」の章を参照してください。

図 8.1 電圧検出 0、1、2 回路のブロック図

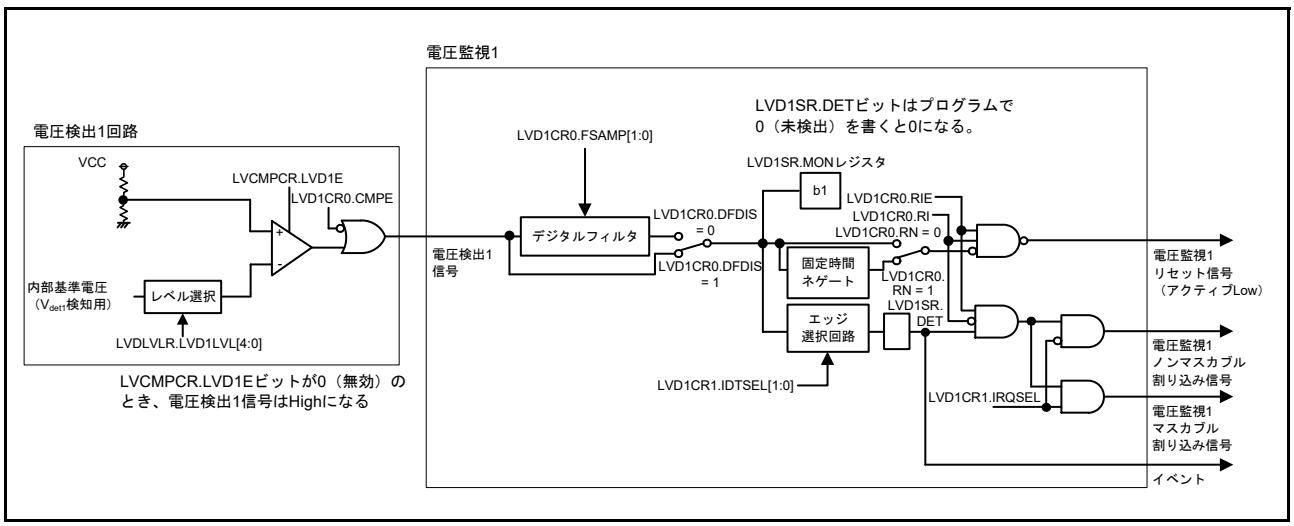


図 8.2 電圧監視 1 割り込み／リセット発生回路のブロック図

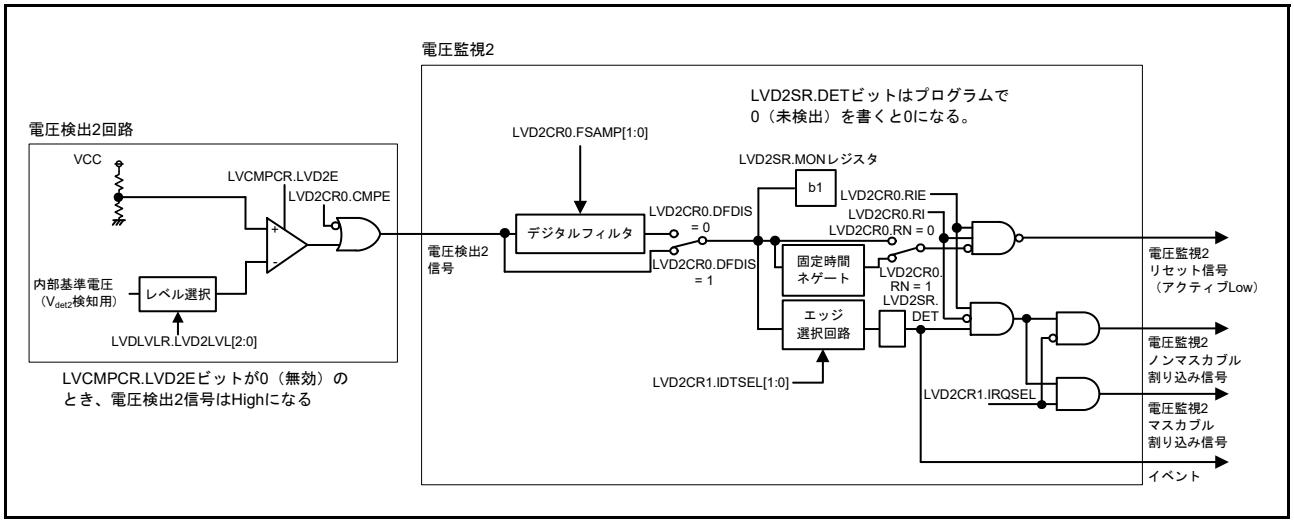


図 8.3　電圧監視 2 割り込み／リセット発生回路のブロック図

8.2 レジスタの説明

8.2.1 電圧モニタ 1 回路コントロールレジスタ 1（LVD1CR1）

アドレス SYSTEM.LVD1CR1 4001 E0E0h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	IRQSEL	IDTSEL[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	IDTSEL[1:0]	電圧監視1割り込み発生条件選択	b1 b0 0 0：VCC≧V_{det1}（上昇）検出時 0 1：VCC＜V_{det1}（下降）検出時 1 0：下降および上昇検出時 1 1：設定禁止	R/W
b2	IRQSEL	電圧監視1割り込み種類選択	0：ノンマスカブル割り込み 1：マスカブル割り込み（注1）	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 . PRCR.PRC3 ビットを 1（書き込み許可）にしてから、このレジスタを書き換えてください。
注 1. マスカブル割り込みを許可する場合、ICU の NMIER.LVD1EN ビット値をリセット状態から変更しないでください。

8.2.2 電圧モニタ 1 回路ステータスレジスタ（LVD1SR）

アドレス SYSTEM.LVD1SR 4001 E0E1h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	MON	DET
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DET	電圧監視1電圧変化検出フラグ	0：未検出 1：V_{det1}通過検出	R(/W) （注1）
b1	MON	電圧監視1信号モニタフラグ	0：VCC＜V_{det1} 1：VCC≧V_{det1}またはMON無効	R
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 . PRCR.PRC3 ビットを 1（書き込み許可）にしてから、このレジスタを書き換えてください。
注 1. このビットには 0 のみ書けます。0 を書いた後、このビットの読み出し値に反映されるまでにシステムクロックの 2 サイクルが必要です。

DET フラグ（電圧監視 1 電圧変化検出フラグ）

DET フラグは、LVCMPCR.LVD1E ビットが 1（電圧検出 1 回路有効）であり、かつ LVD1CR0.CMPE ビットが 1（電圧監視 1 回路比較結果出力許可）のときに有効になります。

DET フラグを 0 にするときは、LVD1CR0.RIE を 0（禁止）にしてから行ってください。LVD1CR0.RIE を 0 にした後、再度 1（許可）にする場合は、PCLKB が 2 サイクル以上経過してから行ってください。

MON フラグ（電圧監視 1 信号モニタフラグ）

MON フラグは、LVCMPCR.LVD1E ビットが 1（電圧検出 1 回路有効）であり、かつ LVD1CR0.CMPE ビットが 1（電圧監視 1 回路比較結果出力許可）のときに有効になります。

8.2.3 電圧モニタ 2 回路コントロールレジスタ 1（LVD2CR1）

アドレス SYSTEM.LVD2CR1 4001 E0E2h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	IRQSEL	IDTSEL[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	IDTSEL[1:0]	電圧監視2割り込み発生条件選択	b1 b0 0 0：VCC≧V_{det2}（上昇）検出時 0 1：VCC＜V_{det2}（下降）検出時 1 0：下降および上昇検出時 1 1：設定禁止	R/W
b2	IRQSEL	電圧監視2割り込み種類選択	0：ノンマスカブル割り込み 1：マスカブル割り込み（注1）	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 . PRCR.PRC3 ビットを 1（書き込み許可）にしてから、このレジスタを書き換えてください。
注 1. マスカブル割り込みを許可する場合、ICU の NMIER.LVD2EN ビット値をリセット状態から変更しないでください。

8.2.4 電圧モニタ 2 回路ステータスレジスタ（LVD2SR）

アドレス SYSTEM.LVD2SR 4001 E0E3h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	MON	DET
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DET	電圧監視2電圧変化検出フラグ	0：未検出 1：V_{det2}通過検出	R(/W) （注1）
b1	MON	電圧監視2信号モニタフラグ	0：VCC＜V_{det2} 1：VCC≧V_{det2}またはMON無効	R
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 . PRCR.PRC3 ビットを 1（書き込み許可）にしてから、このレジスタを書き換えてください。
注 1. このビットには 0 のみ書けます。0 を書いた後、このビットの読み出し値に反映されるまでにシステムクロックの 2 サイクルが必要です。

DET フラグ（電圧監視 2 電圧変化検出フラグ）

DET フラグは、LVCMPCR.LVD2E ビットが 1（電圧検出 2 回路有効）であり、かつ LVD2CR0.CMPE ビットが 1（電圧監視 2 回路比較結果出力許可）のときに有効になります。

DET フラグを 0 にするときは、LVD2CR0.RIE を 0（禁止）にしてから行ってください。LVD2CR0.RIE を 0 にした後、再度 1（許可）にする場合は、PCLKB の 2 サイクル以上が経過してから行ってください。

MON フラグ（電圧監視 2 信号モニタフラグ）

MON フラグは、LVCMPCR.LVD2E ビットが 1（電圧検出 2 回路有効）であり、かつ LVD2CR0.CMPE ビットが 1（電圧監視 2 回路比較結果出力許可）のときに有効になります。

8.2.5 電圧モニタ回路コントロールレジスタ（LVCMPCR）

アドレス SYSTEM.LVCMPCR 4001 E417h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	LVD2E	LVD1E	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5	LVD1E	電圧検出1有効	0：電圧検出1回路無効 1：電圧検出1回路有効	R/W
b6	LVD2E	電圧検出2有効	0：電圧検出2回路無効 1：電圧検出2回路有効	R/W
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 . PRCR.PRC3 ビットを 1（書き込み許可）にしてから、このレジスタを書き換えてください。

LVD1E ビット（電圧検出 1 有効）

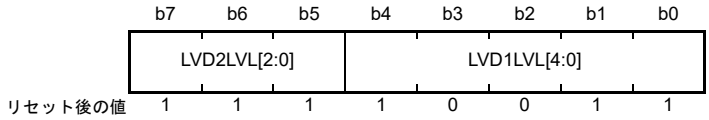
電圧検出 1 の割り込み／リセットを使用する場合、または LVD1SR.MON ビットを使用する場合、LVD1E ビットを 1 にしてください。LVD1E ビットを 0 から 1 に変更した後、$t_{d(E-A)}$ 経過すると、電圧検出 1 回路が動作します。ディープソフトウェアスタンバイモード時に電圧検出 1 回路を使用する場合は、DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットを 11b にしないでください。

LVD2E ビット（電圧検出 2 有効）

電圧検出 2 の割り込み／リセットを使用する場合、または LVD2SR.MON ビットを使用する場合、LVD2E ビットを 1 にしてください。LVD2E ビットを 0 から 1 に変更した後、$t_{d(E-A)}$ 経過すると、電圧検出 2 回路が動作します。ディープソフトウェアスタンバイモード時に電圧検出 2 回路を使用する場合は、DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットを 11b にしないでください。

8.2.6 電圧検出レベル選択レジスタ（LVDLVLR）

アドレス SYSTEM.LVDLVLR 4001 E418h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	LVD1LVL[4:0]	電圧検出1レベル選択 （電圧下降時の標準電圧）	b4 b0 1 0 0 0 1 : 2.99V (V_{det1_1}) 1 0 0 1 0 : 2.92V (V_{det1_2}) 1 0 0 1 1 : 2.85V (V_{det1_3}) 上記以外は設定しないでください。	R/W
b7-b5	LVD2LVL[2:0]	電圧検出2レベル選択 （電圧下降時の標準電圧）	b7 b5 1 0 1 : 2.99V (V_{det2_1}) 1 1 0 : 2.92V (V_{det2_2}) 1 1 1 : 2.85V (V_{det2_3}) 上記以外は設定しないでください。	R/W

注 . PRCR.PRC3 ビットを 1（書き込み許可）にしてから、このレジスタを書き換えてください。

LVDLVLR レジスタは、LVCMPCR.LVD1E ビット、LVCMPCR.LVD2E ビットがともに 0（電圧検出 n 回路無効、n = 1, 2）の場合のみ変更可能です。また、LVD の電圧検出 1 および 2 回路は、同じ電圧検出レベルに設定しないでください。

8.2.7 電圧モニタ 1 回路コントロールレジスタ 0（LVD1CR0）

アドレス SYSTEM.LVD1CR0 4001 E41Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	RN	RI	FSAMP[1:0]		—	CMPE	DFDIS	RIE
リセット後の値	1	0	0	0	x	0	1	0

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RIE	電圧監視1割り込み／リセット許可	0：禁止 1：許可	R/W
b1	DFDIS	電圧監視1デジタルフィルタ無効モード選択	0：デジタルフィルタ有効 1：デジタルフィルタ無効	R/W
b2	CMPE	電圧監視1回路比較結果出力許可	0：電圧監視1回路比較結果出力禁止 1：電圧監視1回路比較結果出力許可	R/W
b3	—	予約ビット	読むと不定値が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b5-b4	FSAMP[1:0]	サンプリングクロック選択	b5 b4 0 0：LOCOの2分周 0 1：LOCOの4分周 1 0：LOCOの8分周 1 1：LOCOの16分周	R/W
b6	RI	電圧監視1回路モード選択	0：V_{det1}通過時に電圧監視1割り込み発生 1：下降してV_{det1}通過時に電圧監視1リセット許可	R/W
b7	RN	電圧監視1リセットネゲート選択	0：VCC＞V_{det1}検出時、安定時間（t_{LVD1}）経過後にネゲート 1：LVD1リセットアサート時、安定時間（t_{LVD1}）経過後にネゲート	R/W

注． PRCR.PRC3 ビットを 1（書き込み許可）にしてから、このレジスタを書き換えてください。

RIE ビット（電圧監視 1 割り込み／リセット許可）

電圧監視 1 の割り込み／リセットを許可または禁止にします。このビットが 1 に設定されている状態で、かつフラッシュメモリのプログラム／イレース中の場合には、電圧監視 1 割り込みと電圧監視 1 リセットをどちらも発生させないようにしてください。

DFDIS ビット（電圧監視 1 デジタルフィルタ無効モード選択）

デジタルフィルタ回路を有効にします。このビットが 0（有効）の場合、LOCOCR.LCSTP ビットは 0（LOCO 動作）にしてください。電圧監視 1 回路をソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードで使用する場合、このビットを 1（無効）にしてください。

FSAMP[1:0] ビット（サンプリングクロック選択）

LVD1CR0.DFDIS ビットが 1（デジタルフィルタ回路無効）の場合のみ、FSAMP[1:0] ビットを書き換えてください。LVD1CR0.DFDIS ビットが 0（デジタルフィルタ回路有効）の場合は書き換えないでください。

RI ビット（電圧監視 1 回路モード選択）

RI ビットが 1（電圧監視 1 リセット選択）、または LVD2CR0.RI ビットが 1（電圧監視 2 リセット選択）の場合は、ディープソフトウェアスタンバイモードではなく、ソフトウェアスタンバイモードへの遷移が可能です。ディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移するには、RI ビットを 0（電圧監視 1 割り込み選択）、かつ LVD2CR0.RI ビットを 0（電圧監視 2 割り込み選択）にしてください。

RN ビット（電圧監視 1 リセットネゲート選択）

RN ビットを 1（LVD1 リセットアサート時、安定時間経過後にネゲート）にする場合は、LOCOCR.LCSTP ビットは 0（LOCO 動作）にしてください。また、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、RN ビットは 0（VCC ＞ V_{det1} 検出時、安定時間経過後にネゲート）のみが可能です。この場合、RN ビットを 1 にしないでください。

8.2.8 電圧モニタ 2 回路コントロールレジスタ 0（LVD2CR0）

アドレス SYSTEM.LVD2CR0 4001 E41Bh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	RN	RI	FSAMP[1:0]		—	CMPE	DFDIS	RIE
リセット後の値	1	0	0	0	x	0	1	0

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RIE	電圧監視2割り込み／リセット許可	0：禁止 1：許可	R/W
b1	DFDIS	電圧監視2デジタルフィルタ無効モード選択	0：デジタルフィルタ有効 1：デジタルフィルタ無効	R/W
b2	CMPE	電圧監視2回路比較結果出力許可	0：電圧監視2回路比較結果出力禁止 1：電圧監視2回路比較結果出力許可	R/W
b3	—	予約ビット	読むと不定値が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b5-b4	FSAMP[1:0]	サンプリングクロック選択	b5 b4 0 0：LOCOの2分周 0 1：LOCOの4分周 1 0：LOCOの8分周 1 1：LOCOの16分周	R/W
b6	RI	電圧監視2回路モード選択	0：V_{det2}通過時に電圧監視2割り込み発生 1：下降してV_{det2}通過時に電圧監視2リセット許可	R/W
b7	RN	電圧監視2リセットネゲート選択	0：VCC＞V_{det2}検出時、安定時間（t_{LVD2}）経過後にネゲート 1：LVD2リセットアサート時、安定時間（t_{LVD2}）経過後にネゲート	R/W

注．　PRCR.PRC3 ビットを 1（書き込み許可）にしてから、このレジスタを書き換えてください。

RIE ビット（電圧監視 2 割り込み／リセット許可）

電圧監視 2 の割り込み／リセットを許可または禁止にします。このビットが 1 に設定されている状態で、かつフラッシュメモリのプログラム／イレース中の場合には、電圧監視 2 割り込みと電圧監視 2 リセットをどちらも発生させないようにしてください。

DFDIS ビット（電圧監視 2 デジタルフィルタ無効モード選択）

デジタルフィルタ回路を有効にします。このビットが 0（有効）の場合、LOCOCR.LCSTP ビットは 0（LOCO 動作）にしてください。電圧監視 2 回路をソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードで使用する場合、このビットを 1（無効）にしてください。

FSAMP[1:0] ビット（サンプリングクロック選択）

LVD2CR0.DFDIS ビットが 1（デジタルフィルタ回路無効）の場合のみ、FSAMP[1:0] ビットを書き換えてください。LVD2CR0.DFDIS ビットが 0（デジタルフィルタ回路有効）の場合は書き換えないでください。

RI ビット（電圧監視 2 回路モード選択）

RI ビットが 1（電圧監視 2 リセット選択）、または LVD1CR0.RI ビットが 1（電圧監視 1 リセット選択）の場合は、ディープソフトウェアスタンバイモードではなく、ソフトウェアスタンバイモードへの遷移が可能です。ディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移するには、RI ビットを 0（電圧監視 2 割り込み選択）、かつ LVD1CR0.RI ビットを 0（電圧監視 1 割り込み選択）にしてください。

RN ビット（電圧監視 2 リセットネゲート選択）

RN ビットを 1（LVD2 リセットアサート時、安定時間経過後にネゲート）にする場合は、LOCOCR.LCSTP ビットは 0（LOCO 動作）にしてください。また、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、RN ビットは 0（VCC ＞ V_{det2} 検出時、安定時間経過後にネゲート）のみが可能です。この場合、RN ビットを 1（LVD2 リセットアサート時、安定時間経過後にネゲート）にしないでください。

8.3 VCC 入力電圧のモニタ

8.3.1 V_{det0} のモニタ

電圧監視 0 の比較結果は、読み出すことができません。

8.3.2 V_{det1} のモニタ

表 8.2 に V_{det1} のモニタの設定手順を示します。設定が完了すると、LVD1SR.MON フラグで電圧監視 1 の比較結果をモニタできます。

表 8.2 V_{det1} のモニタの設定手順

手順		電圧監視1比較結果モニタ
電圧検出1回路の設定	1	LVDLVLR レジスタへ書き込む前に、LVCMPCR.LVD1E = 0にして、電圧検出1回路を無効にする
	2	LVDLVLR.LVD1LVL[4:0] ビットで検出電圧を選択する
	3	LVCMPCR.LVD1E = 1にして、電圧検出1を有効にする
	4	$t_{d(E-A)}$（LVD有効切り替え後のLVD動作安定時間）以上待つ（注1）
デジタルフィルタの設定（注2）	5	LVD1CR0.FSAMP[1:0] ビットでデジタルフィルタのサンプリングクロックを選択する
	6	LVD1CR0.DFDIS = 0にして、デジタルフィルタを有効にする
	7	LOCOの2n + 3サイクル以上待つ（ここで、n = 2, 4, 8, 16であり、デジタルフィルタのサンプリングクロックはLOCOのn分周です）
出力許可の設定	8	LVD1CR0.CMPE = 1にして、電圧監視1の比較結果出力を許可する

注 1. 手順 4 の待ち時間中に手順 5 ～ 7 を行うことができます。$t_{d(E-A)}$ の詳細は、「52. 電気的特性」を参照してください。
注 2. デジタルフィルタを使用しない場合、手順 5 ～ 7 は不要です。

8.3.3 V_{det2} のモニタ

表 8.3 に V_{det2} のモニタの設定手順を示します。設定が完了すると、LVD2SR.MON フラグで電圧監視 2 の比較結果をモニタできます。

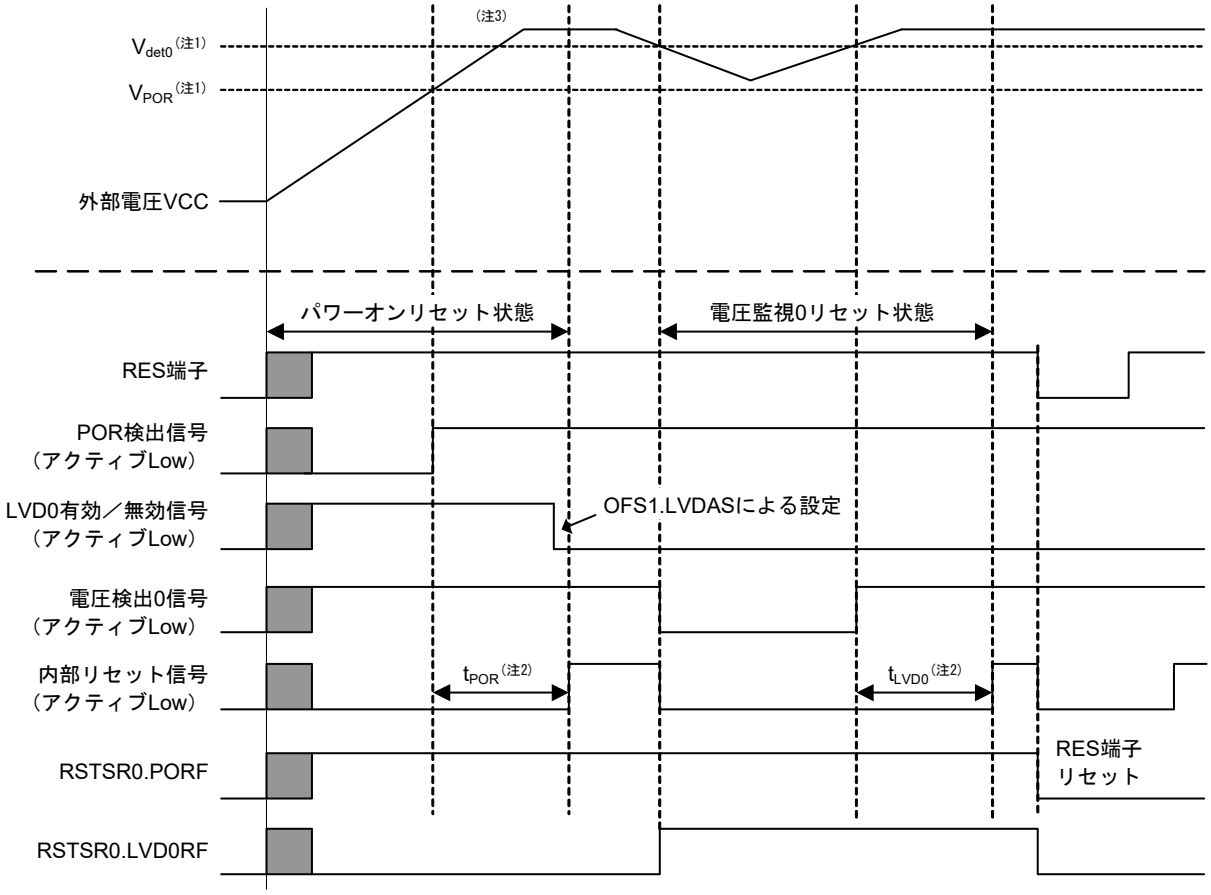
表 8.3 V_{det2} のモニタの設定手順

手順		電圧監視2比較結果モニタ
電圧検出2回路の設定	1	LVDLVLR レジスタへ書き込む前に、LVCMPCR.LVD2E = 0にして、電圧検出2回路を無効にする
	2	LVDLVLR.LVD2LVL[2:0] ビットで検出電圧を選択する
	3	LVCMPCR.LVD2E = 1にして、電圧検出2回路を有効にする
	4	$t_{d(E-A)}$（LVD有効切り替え後のLVD動作安定時間）以上待つ（注1）
デジタルフィルタの設定（注2）	5	LVD2CR0.FSAMP[1:0] ビットでデジタルフィルタのサンプリングクロックを選択する
	6	LVD2CR0.DFDIS = 0にして、デジタルフィルタを有効にする
	7	LOCOの2n + 3サイクル以上待つ（ここで、n = 2, 4, 8, 16であり、デジタルフィルタのサンプリングクロックはLOCOのn分周です）
出力許可の設定	8	LVD2CR0.CMPE = 1にして、電圧監視2の比較結果出力を許可する

注 1. 手順 4 の待ち時間中に手順 5 ～ 7 を行うことができます。$t_{d(E-A)}$ の詳細は、「52. 電気的特性」を参照してください。
注 2. デジタルフィルタを使用しない場合、手順 5 ～ 7 は不要です。

8.4 電圧監視 0 リセット

電圧監視 0 リセットを使用する場合は、OFS1.LVDAS ビットを 0（リセット後、電圧監視 0 リセット有効）にしてください。ただし、ブートモード時は、OFS1.LVDAS ビットの値にかかわらず、電圧監視 0 リセットは無効です。図 8.4 に電圧監視 0 リセットの動作例を示します。



注 . 電気的特性の詳細は、「52. 電気的特性」を参照してください。
注1. V_{POR}はパワーオンリセットの検出レベルを表し、V_{det0}は電圧監視0リセットの検出レベルを表します。
注2. t_{POR}はパワーオンリセット解除までの時間を表し、t_{LVD0}はLVD0リセット解除までの時間を表します。
注3. 電源投入時には、VCCが最低保証電圧に達してからでなければ、PORリセットを解除することはできません。

図 8.4 電圧監視 0 リセットの動作例

8.5 電圧監視 1 割り込み、電圧監視 1 リセット

電圧監視 1 回路での比較結果に基づいて、割り込みやリセットを発生させることが可能です。

表 8.4 に、電圧監視 1 割り込み、電圧監視 1 リセット関連ビットの動作設定手順を示します。表 8.5 に、電圧監視 1 割り込み、電圧監視 1 リセット関連ビットの停止設定手順を示します。図 8.5 に電圧監視 1 割り込みの動作例を示します。電圧監視 1 リセットの動作については、「6. リセット」の図 6.2 を参照してください。

なお、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードで電圧監視 1 回路を使用する場合は、以下の手順に従って回路を設定してください。

(1) ソフトウェアスタンバイモード時の設定

- デジタルフィルタを無効（LVD1CR0.DFDIS = 1）にする
- VCC ＞ V_{det1} 検出時、安定時間経過後に電圧監視 1 リセット信号をネゲート（LVD1CR0.RN = 0）にする

(2) ディープソフトウェアスタンバイモード時の設定

- デジタルフィルタを無効（LVD1CR0.DFDIS = 1）にする
- 電圧監視 1 割り込みを許可（LVD1CR0.RI = 0）にする。電圧監視 1 リセットを許可（LVD1CR0.RI = 1）にすると、ディープソフトウェアスタンバイモードへの遷移はできずに、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する
- DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットが 11b の場合は、電圧監視 1 回路が停止する。ディープソフトウェアスタンバイモードで電圧監視 1 回路を使用するには、DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットを 11b 以外にする

表 8.4 電圧監視1割り込み、電圧監視1リセット関連ビットの動作設定手順

手順		電圧監視1割り込み（電圧監視1 ELCイベント出力）	電圧監視1リセット
電圧検出1回路の設定	1	LVDLVLR レジスタへ書き込む前に、LVCMPCR.LVD1E = 0にして、電圧検出1回路を無効にする	
	2	LVDLVLR.LVD1LVL[4:0] ビットで検出電圧を選択する	
	3	LVCMPCR.LVD1E = 1にして、電圧検出1回路を有効にする	
	4	$t_{d(E-A)}$（LVD有効切り替え後のLVD動作安定時間）以上待つ（注1）	
デジタルフィルタの設定（注2）	5	LVD1CR0.FSAMP[1:0] ビットでデジタルフィルタのサンプリングクロックを選択する	
	6	LVD1CR0.DFDIS = 0にして、デジタルフィルタを有効にする	
	7	LOCOの2n + 3サイクル以上待つ（ここで、n = 2, 4, 8, 16であり、デジタルフィルタのサンプリングクロックはLOCOのn分周です）（注4）	
電圧監視1割り込み／リセットの設定	8	LVD1CR0.RI = 0にして、電圧監視1割り込みを選択する	• LVD1CR0.RI = 1にして、電圧監視1リセットを選択する • LVD1CR0.RN ビットでリセットネゲートの種類を選択する
	9	• LVD1CR1.IDTSEL[1:0] ビットで割り込み要求のタイミングを選択する • LVD1CR1.IRQSEL ビットで割り込みの種類を選択する	—
出力許可の設定	10	LVD1SR.DET = 0にする	
	11	LVD1CR0.RIE = 1にして、電圧監視1割り込み／リセットを許可する（注3）	
	12	LVD1CR0.CMPE = 1にして、電圧監視1の比較結果出力を許可する	

注 1. 手順 4 の待ち時間中に手順 5 ～ 11 を行うことができます。$t_{d(E-A)}$ の詳細は、「52. 電気的特性」を参照してください。
注 2. デジタルフィルタを使用しない場合、手順 5 ～ 7 は不要です。
注 3. ELC イベント信号のみを出力させる場合、手順 11 は不要です。
注 4. 手順 7 の待ち時間中に手順 8 ～ 11 を行うことができます。

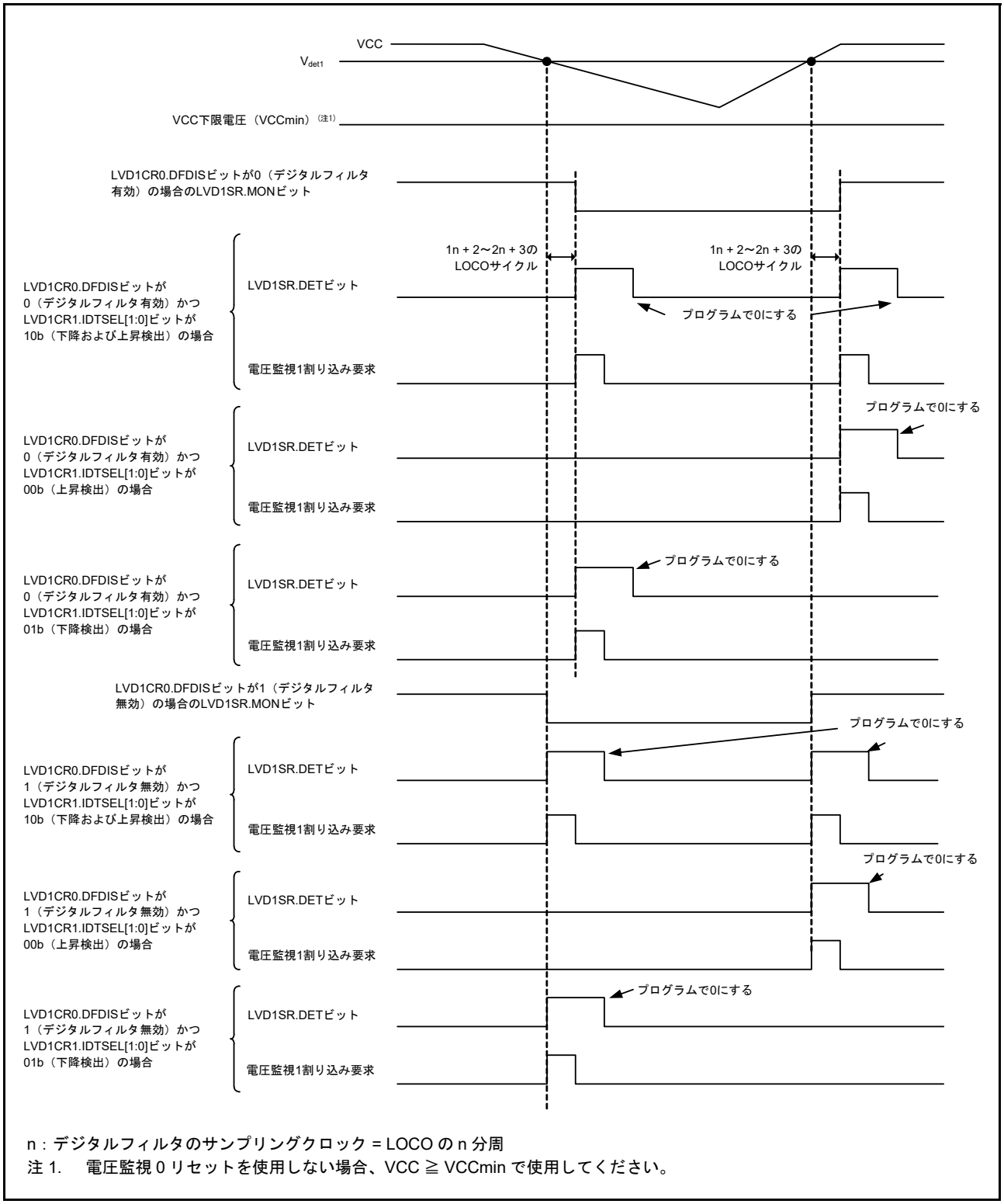
表 8.5 電圧監視1割り込み、電圧監視1リセット関連ビットの停止設定手順

手順		電圧監視1割り込み（電圧監視1 ELCイベント出力）、電圧監視1リセット
出力許可停止の設定	1	LVD1CR0.CMPE = 0にして、電圧監視1の比較結果出力を禁止する
	2	LOCOの2n + 3サイクル以上待つ（ここで、n = 2, 4, 8, 16であり、デジタルフィルタのサンプリングクロックはLOCOのn分周です）（注1）
	3	LVD1CR0.RIE = 0にして、電圧監視1割り込み／リセットを禁止する（注2）
デジタルフィルタ停止の設定	4	LVD1CR0.DFDIS = 1にして、デジタルフィルタを無効にする（注1）（注3）
電圧検出1回路停止の設定	5	LVCMPCR.LVD1E = 0にして、電圧検出1回路を無効にする

注 1. デジタルフィルタを使用しない場合、手順 2 と 4 は不要です。
注 2. ELC イベント信号のみを出力させる場合、手順 3 は不要です。
注 3. デジタルフィルタを有効状態から無効にした後に再度有効にする場合、無効にしてから再度有効にするまで、LOCO クロックの 2 サイクル以上待つ必要があります。

電圧監視 1 割り込み／リセットを使用した後にいったん停止してから再度設定する場合は、条件によって停止手順と再設定手順を次のように省略することが可能です。

- 電圧検出 1 回路の設定を変更しない場合、回路の設定または停止は不要
- デジタルフィルタの設定を変更しない場合、デジタルフィルタの設定または停止は不要
- 電圧監視 1 割り込み／リセットの設定を変更しない場合、電圧監視 1 割り込み／リセットの設定は不要



n：デジタルフィルタのサンプリングクロック = LOCO の n 分周

注 1. 電圧監視 0 リセットを使用しない場合、VCC ≧ VCCmin で使用してください。

図 8.5 電圧監視 1 割り込みの動作例

8.6 電圧監視 2 割り込み、電圧監視 2 リセット

電圧監視 2 回路での比較結果に基づいて、割り込みやリセットを発生させることが可能です。

表 8.6 に、電圧監視 2 割り込み、電圧監視 2 リセット関連ビットの動作設定手順を示します。表 8.7 に、電圧監視 2 割り込み、電圧監視 2 リセット関連ビットの停止設定手順を示します。図 8.6 に電圧監視 2 割り込みの動作例を示します。電圧監視 2 リセットの動作については、「6. リセット」の図 6.2 を参照してください。

なお、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードで電圧監視 2 回路を使用する場合は、以下の手順に従って回路を設定してください。

(1) ソフトウェアスタンバイモード時の設定

- デジタルフィルタを無効（LVD2CR0.DFDIS = 1）にする
- VCC ＞ V_{det2} 検出時、安定時間経過後に電圧監視 2 リセット信号をネゲート（LVD2CR0.RN = 0）にする

(2) ディープソフトウェアスタンバイモード時の設定

- デジタルフィルタを無効（LVD2CR0.DFDIS = 1）にする
- 電圧監視 2 割り込みを許可（LVD2CR0.RI = 0）にする。電圧監視 2 リセットを許可（LVD2CR0.RI = 1）にすると、ディープソフトウェアスタンバイモードへの遷移はできずに、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する
- DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットが 11b の場合は、電圧監視 2 回路が停止する。ディープソフトウェアスタンバイモードで電圧監視 2 回路を使用するには、DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットを 11b 以外にする

表 8.6 電圧監視2割り込み、電圧監視2リセット関連ビットの動作設定手順

手順		電圧監視2割り込み（電圧監視2 ELCイベント出力）	電圧監視2リセット
電圧検出2回路の設定	1	LVDLVLR レジスタへ書き込む前に、LVCMPCR.LVD2E = 0にして、電圧検出2回路を無効にする	
	2	LVDLVLR.LVD2LVL[2:0]ビットで検出電圧を選択する	
	3	LVCMPCR.LVD2E = 1にして、電圧検出2回路を有効にする	
	4	$t_{d(E-A)}$（LVD有効切り替え後のLVD動作安定時間）以上待つ（注1）	
デジタルフィルタの設定（注2）	5	LVD2CR0.FSAMP[1:0]ビットでデジタルフィルタのサンプリングクロックを選択する	
	6	LVD2CR0.DFDIS = 0にして、デジタルフィルタを有効にする	
	7	LOCOの2n + 3サイクル以上待つ（ここで、n = 2, 4, 8, 16であり、デジタルフィルタのサンプリングクロックはLOCOのn分周です）（注4）	
電圧監視2割り込み／リセットの設定	8	LVD2CR0.RI = 0にして、電圧監視2割り込みを選択する	• LVD2CR0.RI = 1にして、電圧監視2リセットを選択する • LVD2CR0.RNビットでリセットネゲートの種類を選択する
	9	• LVD2CR1.IDTSEL[1:0]ビットで割り込み要求のタイミングを選択する • LVD2CR1.IRQSELビットで割り込みの種類を選択する	—
出力許可の設定	10	LVD2SR.DET = 0にする	
	11	LVD2CR0.RIE = 1にして、電圧監視2割り込み／リセットを許可する（注3）	
	12	LVD2CR0.CMPE = 1にして、電圧監視2の比較結果出力を許可する	

注 1. 手順 4 の待ち時間中に手順 5 ～ 11 を行うことができます。$t_{d(E-A)}$ の詳細は、「52. 電気的特性」を参照してください。
注 2. デジタルフィルタを使用しない場合、手順 5 ～ 7 は不要です。
注 3. ELC イベント信号のみを出力させる場合、手順 11 は不要です。
注 4. 手順 7 の待ち時間中に手順 8 ～ 11 を行うことができます。

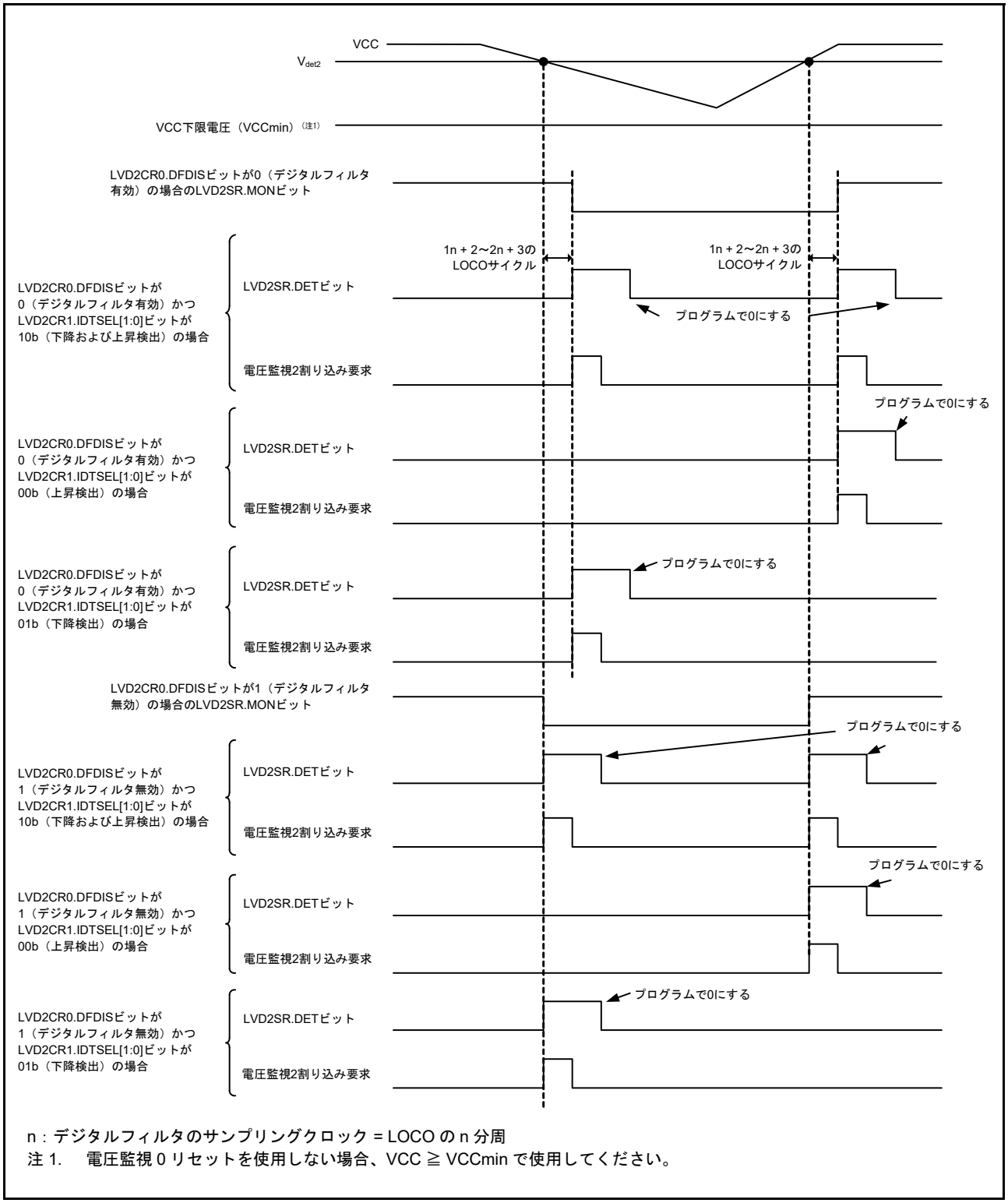
表 8.7 電圧監視2割り込み、電圧監視2リセット関連ビットの停止設定手順

手順		電圧監視2割り込み（電圧監視2 ELCイベント出力）、電圧監視2リセット
出力許可停止の設定	1	LVD2CR0.CMPE = 0にして、電圧監視2の比較結果出力を禁止する
	2	LOCOの2n + 3サイクル以上待つ（ここで、n = 2, 4, 8, 16であり、デジタルフィルタのサンプリングクロックはLOCOのn分周です）（注1）
	3	LVD2CR0.RIE = 0にして、電圧監視2割り込み／リセットを禁止する（注2）
デジタルフィルタ停止の設定	4	LVD2CR0.DFDIS = 1にして、デジタルフィルタを無効にする（注1）（注3）
電圧検出2回路停止の設定	5	LVCMPCR.LVD2E = 0にして、電圧検出2回路を無効にする

注 1. デジタルフィルタを使用しない場合、手順 2 と 4 は不要です。
注 2. ELC イベント信号のみを出力させる場合、手順 3 は不要です。
注 3. デジタルフィルタを有効状態から無効にした後に再度有効にする場合、無効にしてから再度有効にするまで、LOCO の 2 サイクル以上待つ必要があります

電圧監視 2 割り込み／リセットを使用した後にいったん停止してから再度設定する場合は、条件によって停止手順と再設定手順を次のように省略することが可能です。

- 電圧検出 2 回路の設定を変更しない場合、回路の設定または停止は不要
- デジタルフィルタの設定を変更しない場合、デジタルフィルタの設定または停止は不要
- 電圧監視 2 割り込み／リセットの設定を変更しない場合、電圧監視 2 割り込み／リセットの設定は不要



n：デジタルフィルタのサンプリングクロック = LOCO の n 分周

注 1. 電圧監視 0 リセットを使用しない場合、VCC ≧ VCCmin で使用してください。

図 8.6 電圧監視 2 割り込みの動作例

8.7 イベントリンク出力

LVD は、イベントリンクコントローラ（ELC）に対してイベント信号出力が可能です。

(1) V_{det1} 通過検出イベント

電圧検出 1 回路有効かつ電圧監視 1 回路比較結果出力許可の状態において、電圧の V_{det1} 通過を検出した場合、LVD はイベント信号を出力します。

(2) V_{det2} 通過検出イベント

電圧検出 2 回路有効かつ電圧監視 2 回路比較結果出力許可の状態において、電圧の V_{det2} 通過を検出した場合、LVD はイベント信号を出力します。

LVD のイベントリンク出力機能を有効にする場合、LVD を有効にしてから、ELC 側の LVD イベントリンク機能を有効にする必要があります。LVD のイベントリンク出力機能を停止する場合は、LVD の停止設定を行う前に、ELC 側の LVD イベントリンク機能を無効にしてください。

8.7.1 割り込み処理とイベントリンクの関係

LVD には、電圧監視 1 割り込みと電圧監視 2 割り込みのそれぞれに割り込み許可／禁止を制御するビットがあります。割り込み要因が発生すると、割り込み許可ビットが許可の場合は、割り込み信号（LVD1CR0.RIE または LVD2CR0.RIE）が CPU へ出力されます。

一方、割り込み要因が発生するとすぐに、割り込み許可ビットの状態にかかわらず、イベントリンク信号がイベント信号として、ELC を介して他のモジュールに出力されます。

ソフトウェアスタンバイモードとディープソフトウェアスタンバイモードにおいても、電圧監視 1 割り込み信号および電圧監視 2 割り込み信号を出力することが可能です。ソフトウェアスタンバイモードとディープソフトウェアスタンバイモードでは、ELC 用のイベント信号が以下のように出力されます。

- ソフトウェアスタンバイモード期間中に V_{det1} または V_{det2} 通過イベントを検出した場合、ソフトウェアスタンバイモードではクロックが供給されていないため ELC 用のイベント信号は出力されない。V_{det1} および V_{det2} 通過検出フラグは保持されているため、ソフトウェアスタンバイモードから復帰してクロック供給が再開されると、V_{det1} および V_{det2} 検出フラグの状態に従って ELC 用のイベント信号が出力される
- ディープソフトウェアスタンバイモード期間中に V_{det1} または V_{det2} 通過イベントを検出した場合、ELC 用のイベント信号は出力されない

9. クロック発生回路

9.1 概要

本 MCU はクロック発生回路を内蔵しています。

表 9.1 および表 9.2 に、クロック発生回路の仕様を示します。図 9.1 にブロック図を、表 9.3 に入出力端子を示します。

表 9.1 クロック発生回路の仕様（クロックソース）

クロックソース	項目	内容
メインクロック発振器（MOSC）	発振子周波数	8～24MHz USB ブートモード：8、10、12、15、16、20、24MHz
	外部クロック入力周波数	最大24MHz
	外部発振子または付加回路：セラミック発振子、水晶振動子	あり
	接続端子：EXTAL、XTAL	
	駆動能力切り替え	
	発振停止検出機能	
サブクロック発振器（SOSC）	発振子周波数	32.768kHz
	外部発振子または付加回路：水晶振動子	あり
	接続端子：XCIN、XCOUT	
	駆動能力切り替え	
PLL 回路	入力クロックソース	MOSC、HOCO
	入力分周比	1、2、3分周から選択可能
	入力周波数	8～24MHz
	逓倍比	10～30逓倍から選択可能 （0.5ステップ単位）
	PLL 出力周波数	120～240MHz
高速オンチップオシレータ（HOCO）	発振周波数	16、18、20MHz
	ユーザトリミング	あり
中速オンチップオシレータ（MOCO）	発振周波数	8MHz
	ユーザトリミング	あり
低速オンチップオシレータ（LOCO）	発振周波数	32.768kHz
	ユーザトリミング	あり
IWDT専用オンチップオシレータ（IWDTLOCO）	発振周波数	15kHz
JTAG用外部クロック入力（TCK）	入力クロック周波数	最大25MHz
SWD用外部クロック入力（SWCLK）	入力クロック周波数	最大25MHz

表 9.2 クロック発生回路の仕様（内部クロック）(1/2)

項目	クロックソース	クロック供給	内容
システムクロック（ICLK）	MOSC, SOSC, HOCO, MOCO, LOCO, PLL	CPU、DTC、DMAC、フラッシュ、SRAM	最大120MHz 分周比：1、2、4、8、16、32、64
周辺モジュールクロックA（PCLKA）	MOSC, SOSC, HOCO, MOCO, LOCO, PLL	周辺モジュール（QSPI、SPI、SCI、SCE7、SDHI、CRC、IrDA、GPTバスクロック）	最大120MHz 分周比：1、2、4、8、16、32、64
周辺モジュールクロックB（PCLKB）	MOSC, SOSC, HOCO, MOCO, LOCO, PLL	周辺モジュール（IIC、SSIE、SRC、DOC、CAC、CAN、DAC12、POEG、CTSU、AGT、スタンバイSRAM、ELC、I/Oポート、RTC、WDT、IWDT、ADC12、KINT、USBFS、ACMPHS、TSN）	最大60MHz 分周比：1、2、4、8、16、32、64
周辺モジュールクロックC（PCLKC）	MOSC, SOSC, HOCO, MOCO, LOCO, PLL	周辺モジュール（ADC12変換クロック）	最大60MHz 分周比：1、2、4、8、16、32、64
周辺モジュールクロックD（PCLKD）	MOSC, SOSC, HOCO, MOCO, LOCO, PLL	周辺モジュール（GPTカウントクロック）	最大120MHz 分周比：1、2、4、8、16、32、64
フラッシュインタフェースクロック（FCLK）	MOSC, SOSC, HOCO, MOCO, LOCO, PLL	フラッシュインタフェース	4～60MHz（P/E） 最大60MHz（読み出し）（注1） 分周比：1、2、4、8、16、32、64
外部バスクロック（BCLK）	MOSC, SOSC, HOCO, MOCO, LOCO, PLL	外部バス	最大120MHz 分周比：1、2、4、8、16、32、64
EBCLK端子出力（EBCLK）	BCLKまたは1/2 BCLK	EBCLK端子	最大60MHz 分周比：1、2
USBクロック（UCLK）	PLL	USB	48MHz 分周比：3、4、5
CANクロック（CANMCLK）	MOSC	CAN	8～24MHz
AGTクロック（AGTSCLK、AGTLCLK）	SOSC, LOCO	AGT	32.768kHz
CACメインクロック（CACMCLK）	MOSC	CAC	最大24MHz
CACサブクロック（CACSCLK）	SOSC	CAC	32.768kHz
CAC LOCOクロック（CACLCLK）	LOCO	CAC	32.768kHz
CAC MOCOクロック（CACMOCLK）	MOCO	CAC	8MHz
CAC HOCOクロック（CACHCLK）	HOCO	CAC	16、18、20MHz
CAC IWDTLOCOクロック（CACILCLK）	IWDTLOCO	CAC	15kHz
RTCクロック（RTCSCLK、RTCLCLK）	SOSC, LOCO	RTC	32.768kHz
IWDTクロック（IWDTCLK）	IWDTLOCO	IWDT	15kHz
SysTickタイマクロック（SYSTICCLK）	LOCO	SysTickタイマ	32.768kHz
JTAGクロック（JTAGTCK）	TCK端子	JTAG	最大25MHz
クロックおよびブザー出力（CLKOUT）	MOSC, SOSC, LOCO, MOCO, HOCO	CLKOUT端子	最大24MHz 分周比：1、2、4、8、16、32、64、128

表 9.2 クロック発生回路の仕様（内部クロック）(2/2)

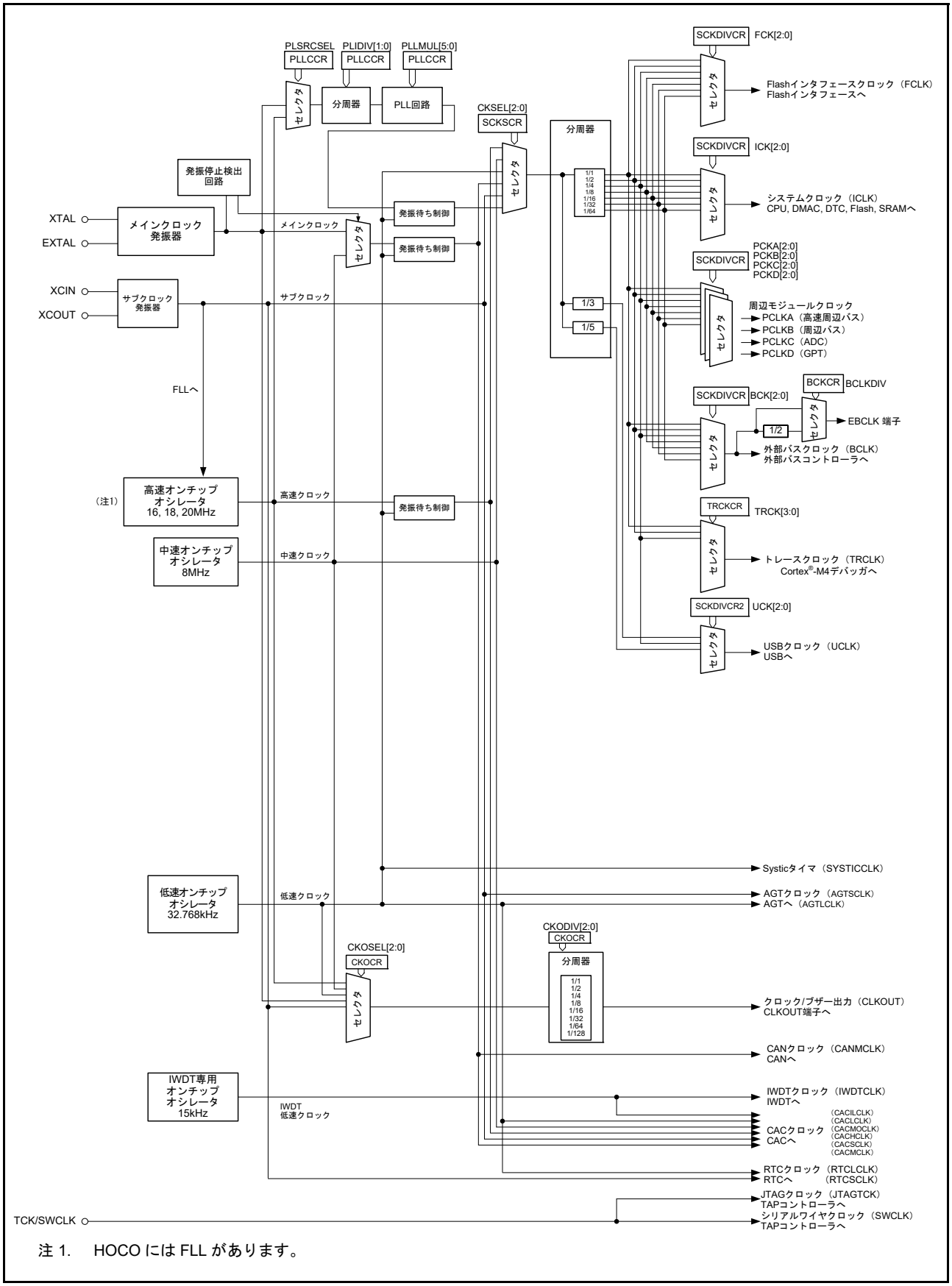
項目	クロックソース	クロック供給	内容
シリアルワイヤクロック（SWCLK）	SWCLK端子	OCD	最大25MHz
トレースクロック（TRCLK）	MOSC, SOSC, HOCO, MOCO, LOCO, PLL	CPU-OCD	最大60MHz 分周比：1、2、4
TCLK端子出力（TCLK）	TRCLKの2分周	TCLK端子	最大30MHz

注 . クロック周波数の設定に関する制限：ICLK ≧ PCLKA ≧ PCLKB、PCLKD ≧ PCLKA ≧ PCLKB
クロック周波数比に関する制限（N：整数、最大 64）：
ICLK:FCLK = N:1、ICLK:BCLK = N:1、ICLK:PCLKA = N:1、ICLK:PCLKB = N:1
ICLK:PCLKC = N:1 または 1:N、ICLK:PCLKD = N:1 または 1:N
A/D コンバータが有効な場合のクロック周波数比に関する制限：
PCLKB:PCLKC = 1:1、1:2、1:4、2:1、4:1、または 8:1

注 . クロックには、許容周波数範囲があります。表 9.2 を参照してください。
フラッシュメモリと SRAM にも、各ウェイトサイクルの設定値に許容動作周波数範囲があります。「48. SRAM」および「50. フラッシュメモリ」を参照してください。
これらのクロック周波数範囲は、HOCO 自身に最大または最小周波数があったとしても、必ず満たす必要があります。「52. 電気的特性」を参照してください。

注 . PLL 基準クロックソースが HOCO の場合、PLL 逓倍の設定値は、HOCO 周波数（最小／最大値）を考慮して 120 ～ 240MHz に設定する必要があります。

注 1. プログラム／イレース（P/E）モードでの最小 FCLK 周波数は 4MHz です。



注 1. HOCO には FLL があります。

図 9.1 クロック発生回路のブロック図

表 9.3 クロック発生回路の入出力端子

端子名	入出力	機能
XTAL	出力	水晶振動子用の接続端子。EXTAL端子は外部クロックの入力にも使用可能です。詳細は、9.3.2 外部クロックを入力する方法を参照してください。
EXTAL	入力	
XCIN	入力	32.768kHz水晶振動子用の接続端子
XCOUT	出力	
TCK/SWCLK	入力	JTAG用のクロック入力
EBCLK	出力	外部デバイスに外部バスクロック（EBCLK）を供給
CLKOUT	出力	CLKOUT/BUZZERクロック用の出力端子

9.2　レジスタの説明

9.2.1　システムクロック分周コントロールレジスタ（SCKDIVCR）

アドレス　SYSTEM.SCKDIVCR 4001 E020h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	FCK[2:0]			—	ICK[2:0]			—	—	—	—	—	BCK[2:0]		
リセット後の値	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	PCKA[2:0]			—	PCKB[2:0]			—	PCKC[2:0]			—	PCKD[2:0]		
リセット後の値	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	PCKD[2:0]	周辺モジュールクロックD（PCLKD）選択(注4)	b2 b0 0 0 0：1分周 0 0 1：2分周 0 1 0：4分周 0 1 1：8分周 1 0 0：16分周 1 0 1：32分周 1 1 0：64分周 上記以外は設定しないでください。	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6-b4	PCKC[2:0]	周辺モジュールクロックC（PCLKC）選択(注4)	b6 b4 0 0 0：1分周 0 0 1：2分周 0 1 0：4分周 0 1 1：8分周 1 0 0：16分周 1 0 1：32分周 1 1 0：64分周 上記以外は設定しないでください。	R/W
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b10-b8	PCKB[2:0]	周辺モジュールクロックB（PCLKB）選択(注3)	b10 b8 0 0 0：1分周 0 0 1：2分周 0 1 0：4分周 0 1 1：8分周 1 0 0：16分周 1 0 1：32分周 1 1 0：64分周 上記以外は設定しないでください。	R/W
b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b14-b12	PCKA[2:0]	周辺モジュールクロックA（PCLKA）選択(注3)	b14 b12 0 0 0：1分周 0 0 1：2分周 0 1 0：4分周 0 1 1：8分周 1 0 0：16分周 1 0 1：32分周 1 1 0：64分周 上記以外は設定しないでください。	R/W
b15	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b18-b16	BCK[2:0]	外部バスクロック（BCLK）選択 （注2）	b18 b16 0 0 0：1分周 0 0 1：2分周 0 1 0：4分周 0 1 1：8分周 1 0 0：16分周 1 0 1：32分周 1 1 0：64分周 上記以外は設定しないでください。	R/W
b23-b19	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b26-b24	ICK[2:0]	システムクロック（ICLK）選択 （注1）（注2）（注3）（注4）（注5）	b26 b24 0 0 0：1分周 0 0 1：2分周 0 1 0：4分周 0 1 1：8分周 1 0 0：16分周 1 0 1：32分周 1 1 0：64分周 上記以外は設定しないでください。	R/W
b27	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b30-b28	FCK[2:0]	フラッシュインタフェースクロック（FCLK）選択（注1）	b30 b28 0 0 0：1分周 0 0 1：2分周 0 1 0：4分周 0 1 1：8分周 1 0 0：16分周 1 0 1：32分周 1 1 0：64分周 上記以外は設定しないでください。	R/W
b31	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. システムクロック（ICLK）とフラッシュインタフェースクロック（FCLK）との間には次の周波数関係が必要です。
ICLK:FCLK = N:1（N：整数）
ICLK ＜ FCLK となる設定は無視されます。

注 2. システムクロック（ICLK）と外部バスクロック（BCLK）との間には次の周波数関係が必要です。
ICLK:BCLK = N:1（N：整数）
ICLK ＜ BCLK となる設定は無視されます。

注 3. システムクロック（ICLK）と周辺モジュールクロック（PCLKA, PCLKB）の間には次の周波数関係が必要です。
ICLK:PCLKA = N:1、ICLK:PCLKB = N:1（N：整数）
ICLK ＜ PCLKA または ICLK ＜ PCLKB となる設定は無視されます。

注 4. システムクロック（ICLK）と周辺モジュールクロック（PCLKC, PCLKD）の間には次の周波数関係が必要です。
ICLK:PCLKC = N:1 または 1:N、ICLK:PCLKD = N:1 または 1:N（N：整数）

注 5. システムクロック（ICLK）の周波数は、フラッシュウェイトサイクルレジスタ（FLWT）によって制限されます。「50. フラッシュメモリ」を参照してください。

SCKDIVCR レジスタは、システムクロック（ICLK）、周辺モジュールクロック（PCLKA、PCLKB、PCLKC、PCLKD）、フラッシュインタフェースクロック（FCLK）、および外部バスクロック（BCLK）の周波数を選択するレジスタです。

クロックソースとして PLL を選択した場合、以下のモジュールをモジュールストップ状態に設定してから SCKDIVCR の値を変更してください。

- SCE7
- GPT32EH
- GPT32E

また、SCKDIVCR の値を低い分周比から高い分周比に変更する場合、事前に少なくとも 750ns 待機してください。高い分周比から低い分周比に値を変更した場合は、値の変更後、少なくとも 250ns 待機してから、次の処理を開始してください。

待機時間の計測にはソフトウェアを使用することを推奨します。ワーストケースの使用条件を考慮して、待機時間が確実に経過したことを確認してください。

図 9.2 に、SCKDIVCR の値の変更フロー例を示します。

PCKD[2:0] ビット（周辺モジュールクロック D（PCLKD）選択）

周辺モジュールクロック D（PCLKD）の周波数を選択します。

PCKC[2:0] ビット（周辺モジュールクロック C（PCLKC）選択）

周辺モジュールクロック C（PCLKC）の周波数を選択します。

PCKB[2:0] ビット（周辺モジュールクロック B（PCLKB）選択）

周辺モジュールクロック B（PCLKB）の周波数を選択します。

PCKA[2:0] ビット（周辺モジュールクロック A（PCLKA）選択）

周辺モジュールクロック A（PCLKA）の周波数を選択します。

BCK[2:0] ビット（外部バスクロック（BCLK）選択）

外部バスクロック（BCLK）の周波数を選択します。

ICK[2:0] ビット（システムクロック（ICLK）選択）

CPU、DMAC、および DTC 用システムクロックの周波数を選択します。

FCK[2:0] ビット（フラッシュインタフェースクロック（FCLK）選択）

フラッシュインタフェースクロック（FCLK）の周波数を選択します。

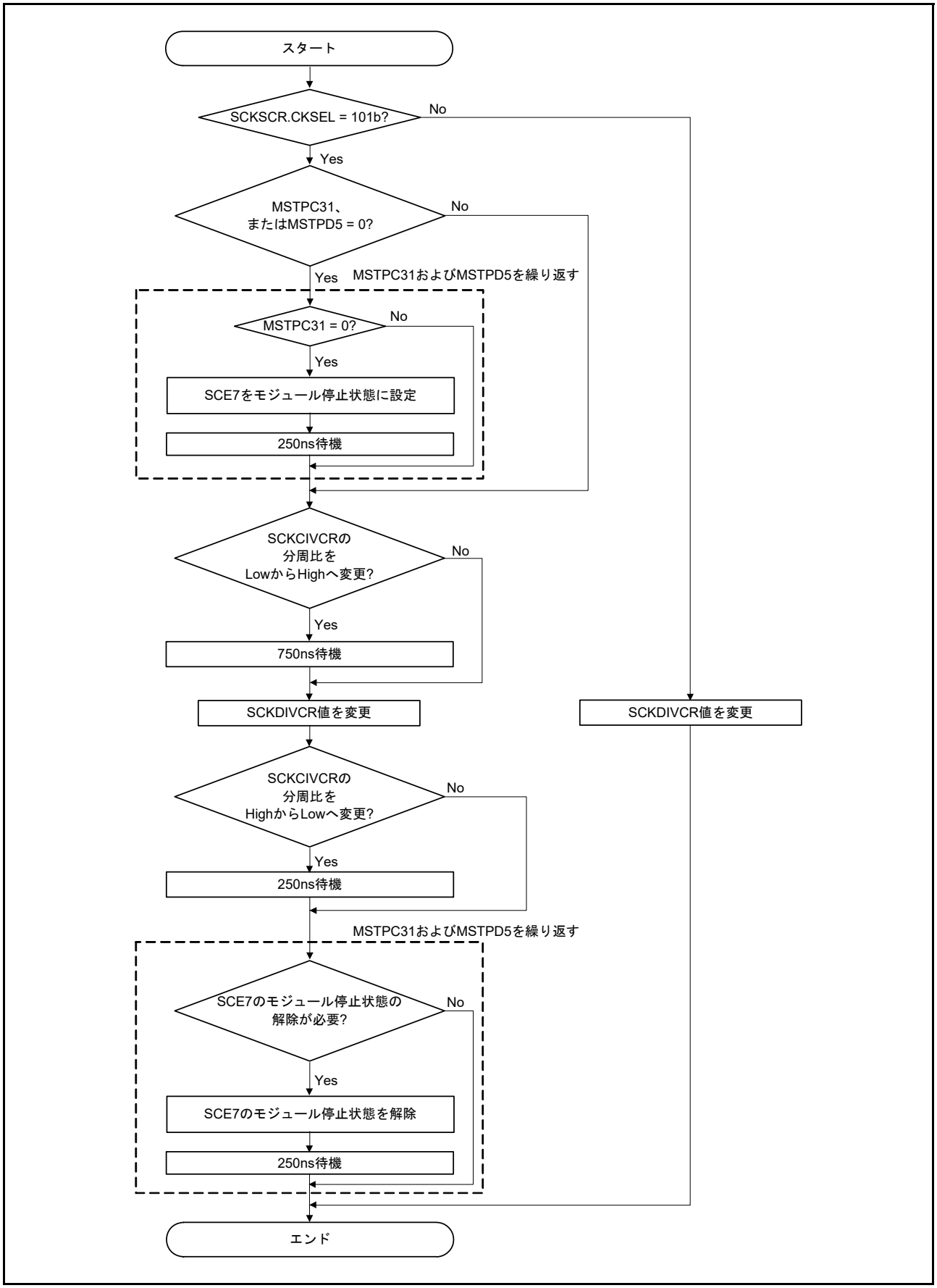


図 9.2 SCKDIVCR 値の変更フロー例

9.2.2 システムクロック分周コントロールレジスタ 2（SCKDIVCR2）

アドレス SYSTEM.SCKDIVCR2 4001 E024h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	UCK[2:0]			—	—	—	—
リセット後の値	0	1	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6-b4	UCK[2:0]	USBクロック（UCLK）選択	b6 b4 0 1 0：3分周 0 1 1：4分周 1 0 0：5分周 上記以外は設定しないでください。	R/W
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 . SCKDIVCR2 レジスタと SCKSCR レジスタには、同時に 32 ビットアクセスで書き込まないでください。

SCKDIVCR2 レジスタは、USB クロック（UCLK）の周波数を選択するレジスタです。

UCK[2:0] ビット（USB クロック（UCLK）選択）

USB クロック（UCLK）の周波数を選択します。3 分周選択時のデューティ比は 2:1 であり、5 分周選択時のデューティ比は 3:2 です。

9.2.3 システムクロックソースコントロールレジスタ（SCKSCR）

アドレス SYSTEM.SCKSCR 4001 E026h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	CKSEL[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	CKSEL[2:0]	クロックソース選択	b2 b0 0 0 0 : HOCO 0 0 1 : MOCO 0 1 0 : LOCO 0 1 1 : メインクロック発振器 1 0 0 : サブクロック発振器 1 0 1 : PLL 上記以外は設定しないでください。	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 . SCKDIVCR2 レジスタと SCKSCR レジスタには、同時に 32 ビットアクセスで書き込まないでください。

SCKSCR レジスタは、システムクロックのクロックソースを選択するレジスタです。

PLL を選択または非選択するために SCKSCR の値を変更するときは、下記モジュールをモジュールストップ状態に設定してから SCKSCR の値を変更してください。

- SCE7
- GPT32EH
- GPT32E

また、SCKSCR の値を PLL から別のクロックソースへ変更する場合、少なくとも 750ns 待機してから値を変更してください。PLL 以外のクロックソースから PLL に値を変更するときは、値の変更後に少なくとも 250ns 待機してから次の処理を開始してください。

待機時間の計測にはソフトウェアを使用することを推奨します。ワーストケースの使用条件を考慮して、待機時間が確実に経過したことを確認してください。

図 9.3 に、SCKSCR の値の変更フロー例を示します。

CKSEL[2:0] ビット（クロックソース選択）

下記モジュールのクロックソースを選択します。

- システムクロック（ICLK）
- 周辺モジュールクロック（PCLKA、PCLKB、PCLKC、および PCLKD）
- フラッシュインタフェースクロック（FCLK）
- 外部バスクロック（BCLK）
- USBFS クロック（UCLK）

下記のクロックソースから 1 つ選択します。

- 低速オンチップオシレータ（LOCO）
- 中速オンチップオシレータ（MOCO）
- 高速オンチップオシレータ（HOCO）
- メインクロック発振器
- サブクロック発振器
- PLL 回路

内部非同期割り込みが発生していないときに、クロックソースの切り替えを行ってください。

停止しているクロックソースへの切り替えは禁止です。

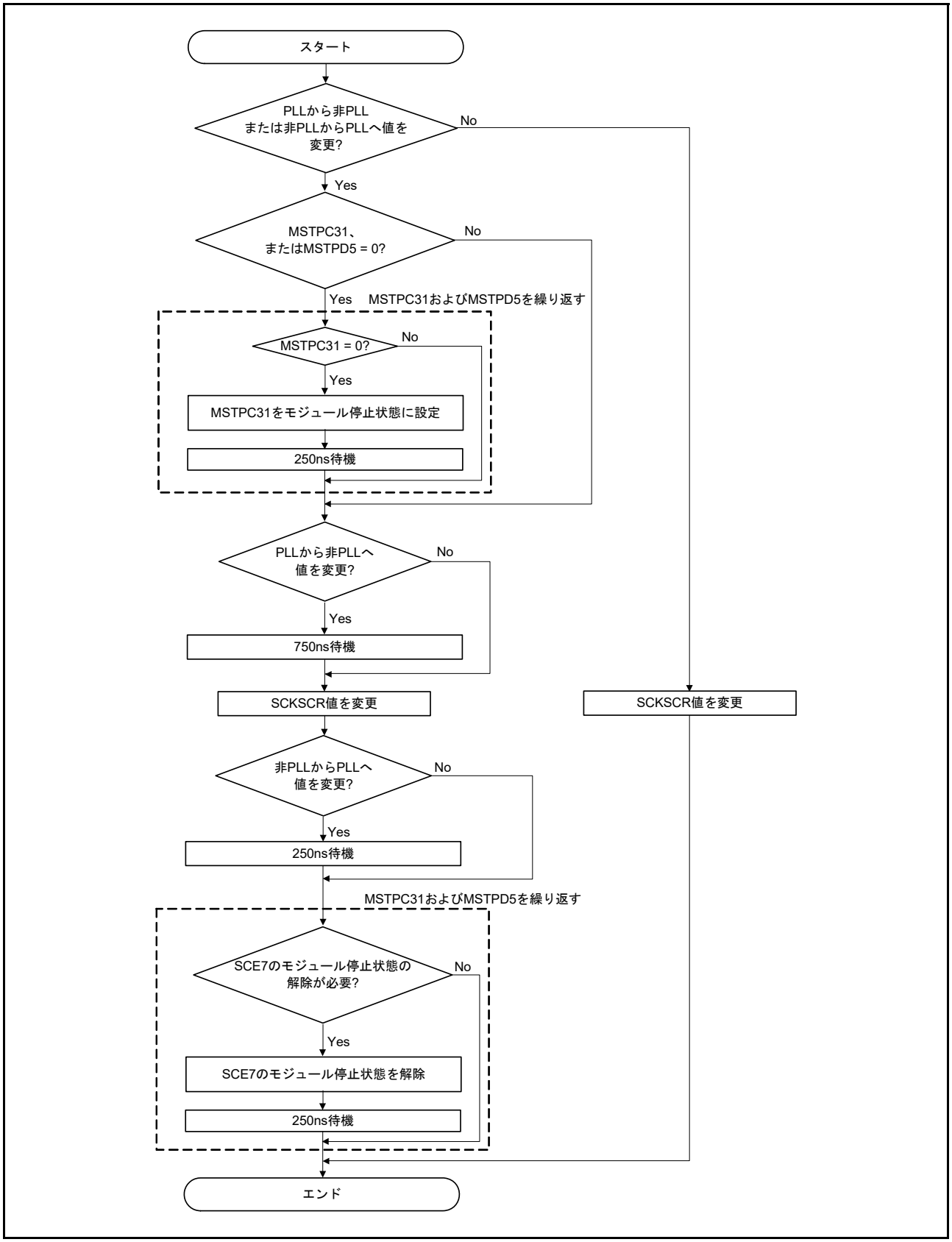


図 9.3 SCKSCR 値変更のフロー例

9.2.4 PLL クロックコントロールレジスタ（PLLCCR）

アドレス SYSTEM.PLLCCR 4001 E028h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	PLLMUL[5:0]						—	—	—	PLSRCSEL	—	—	PLIDIV[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	PLIDIV[1:0]	PLL入力分周比選択（注1）	b1 b0 0 0：1分周 0 1：2分周 1 0：3分周 1 1：設定禁止	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	PLSRCSEL	PLLクロックソース選択	0：メインクロック発振器（注3） 1：HOCO	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b13-b8	PLLMUL[5:0]	PLL周波数逓倍率選択（注2）	b13 b8 0 1 0 0 1 1：10.0倍 0 1 0 1 0 0：10.5倍 0 1 0 1 0 1：11.0倍 ： 0 1 1 1 0 0：14.5倍 0 1 1 1 0 1：15.0倍 0 1 1 1 1 0：15.5倍 ： 1 1 1 0 1 0：29.5倍 1 1 1 0 1 1：30.0倍 上記以外は設定しないでください。	R/W
b15-b14	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. PLIDIV[1:0] ビットは、PLL の入力周波数が表 9.1 に示す範囲に収まるように設定する必要があります。
注 2. PLLMUL[5:0] ビットは、PLL の出力周波数が表 9.1 に示す範囲に収まるように設定する必要があります。
注 3. PLSRCSEL ビットは、UCLK 使用時には 0 にする必要があります。

PLLCCR レジスタは、PLL 回路の動作を設定するレジスタです。PLL が動作中（PLLCR.PLLSTP ビットが 0）の場合、PLLCCR レジスタへの書き込みは禁止です。

PLIDIV[1:0] ビット（PLL 入力分周比選択）

PLL クロックソースの分周比を選択します。

PLSRCSEL ビット（PLL クロックソース選択）

PLL のクロックソースを選択します。

PLLMUL[5:0] ビット（PLL 周波数逓倍率選択）

PLL 回路の周波数逓倍率を選択します。

9.2.5 PLL コントロールレジスタ（PLLCR）

アドレス SYSTEM.PLLCR 4001 E02Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	PLLSTP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PLLSTP	PLL停止制御	0：PLL動作 1：PLL停止	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

PLLCR レジスタは、PLL 回路の動作を制御するレジスタです。

PLLSTP ビット（PLL 停止制御）

PLL 回路を起動または停止させます。PLLCCR.PLSRCSEL ビットで、PLL のクロックソースとしてメインクロック発振器を選択する場合、メインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタ（MOSCWTCR）も設定する必要があります。

PLLSTP ビットを 0 にした後、OSCSF.PLLSF ビットが 1 になっていることを確認してから、PLL クロックを使用してください。PLL を動作するように設定してから、発振が安定するまでに一定の時間を要します。PLL 動作が停止してから、発振が停止するまでにも一定の時間を要します。

PLL 動作の開始および停止に関しては、以下の制限があります。

- PLL の停止後、動作を再開させる前に OSCSF.PLLSF ビットが 0 であることを確認すること
- PLL を停止させる前に、PLL が動作していること、および OSCSF.PLLSF ビットが 1 であることを確認すること
- PLL クロックをシステムクロックとして選択しているかどうかにかかわらず、PLL を動作させた後、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、OSCSF.PLLSF ビットが 1 になっていることを確認した上で WFI 命令を実行すること
- PLL を停止させた後、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、OSCSF.PLLSF ビットが 0 になっていることを確認した上で WFI 命令を実行すること

以下の条件下で PLLSTP ビットに 1 を書き込むことは禁止です。

- SCKSCR.CKSEL[2:0] = 101b（システムクロックソース = PLL）

PLLSTP に 0 を書き込む前に、以下の条件が適用されていることを確認してください。

- PLL クロックソース = MOSC の場合、OSCSF.MOSCSF ビット = 1
- PLL クロックソース = HOCO の場合、OSCSF.HOCOSF ビット = 1

9.2.6 外部バスクロックコントロールレジスタ（BCKCR）

アドレス SYSTEM.BCKCR 4001 E030h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	BCLKDIV
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	BCLKDIV	EBCLK端子出力選択	0：BCLK 1：BCLK/2	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

BCKCR レジスタは、外部バスクロック端子を制御するレジスタです。

BCLKDIV ビット（EBCLK 端子出力選択）

EBCLK 端子から出力するクロックを選択します。SCKDIVCR.BCK[2:0] ビットで選択した周波数の BCLK、または BCLK の 2 分周を選択できます。

9.2.7 メインクロック発振器コントロールレジスタ（MOSCCR）

アドレス SYSTEM.MOSCCR 4001 E032h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	MOSTP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MOSTP	メインクロック発振器停止	0：メインクロック発振器動作（注1） 1：メインクロック発振器停止	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. MOSTP を 0 にする前に、MOMCR レジスタを設定する必要があります。

MOSCCR レジスタは、メインクロック発振器を制御するレジスタです。

MOSTP ビット（メインクロック発振器停止）

メインクロック発振器を起動または停止させます。メインクロック発振器を動作させるには、本ビットを 0 にします。本ビットの値を変更する場合、必ずそのビット値を読み出して、値が更新されていることを確認してから、次の命令を実行してください。

メインクロック発振器を使用する場合は、MOSTP ビットを 0 にする前に、メインクロック発振器モード発振コントロールレジスタ（MOMCR）およびメインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタ（MOSCWTCR）を設定する必要があります。

MOSTP ビットを 0 にした後、OSCSF.MOSCSF ビットが 1 になっていることを確認してから、メインクロック発振器を使用してください。メインクロック発振器を動作するように設定してから、発振が安定するまでに一定の待ち時間を要します。メインクロック発振器が停止してから、発振が停止するまでにも一定の時間を要します。

メインクロック発振器の動作の開始および停止に関しては、以下の制限があります。

- メインクロック発振器の停止後､動作を再開させる前に OSCSF.MOSCSF ビットが 0 であることを確認すること
- メインクロック発振器を停止させる前に、メインクロック発振器が動作していること、および OSCSF.MOSCSF ビットが 1 であることを確認すること
- メインクロック発振器をシステムクロックとして選択しているかどうかにかかわらず、メインクロック発振器を動作させた後、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、OSCSF.MOSCSF ビットが 1 になっていることを確認した上で WFI 命令を実行すること
- メインクロック発振器を停止させた後、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、OSCSF.MOSCSF ビットが 0 になっていることを確認した上で WFI 命令を実行すること

以下の条件下で MOSTP ビットに 1 を書き込むことは禁止です。

- SCKSCR.CKSEL[2:0] = 011b（システムクロックソース = MOSC）
- PLLCCR.PLSRCSEL = 0（PLL ソースクロック = MOSC）および SCKSCR.CKSEL[2:0] = 101b（システムクロックソース = PLL）
- PLLCCR.PLSRCSEL = 0（PLL ソースクロック = MOSC）および PLLCR.PLLSTP = 0（PLL 動作）

9.2.8 サブクロック発振器コントロールレジスタ（SOSCCR）

アドレス SYSTEM.SOSCCR 4001 E480h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	SOSTP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SOSTP	サブクロック発振器停止	0：サブクロック発振器動作（注1） 1：サブクロック発振器停止	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. SOSTP を 0 にする前に、SOMCR レジスタを設定する必要があります。

SOSCCR レジスタは、サブクロック発振器を制御するレジスタです。

SOSTP ビット（サブクロック発振器停止）

サブクロック発振器を起動または停止させます。

本ビットの値を変更した場合、必ずビット値を読み出して、値が更新されたことを確認してから、次の命令を実行してください。RTC などの周辺モジュールに対するソースとしてサブクロック発振器を使用する場合、SOSTP ビットを使用します。

サブクロック発振器を使用する場合は、SOSTP ビットを 0 にする前に、サブクロック発振器モードコントロールレジスタ（SOMCR）を設定する必要があります。

SOSTP ビットを 0 にした後、必ずサブクロック発振安定待機時間（$t_{SUBOSCWT}$）が経過してから、サブクロック発振器を使用してください。サブクロック発振器を動作するように設定してから、発振が安定するまでに一定の時間を要します。また、発振が停止するまでにも一定の時間を要します。

動作の開始および停止に関しては、以下の制限があります。

- サブクロック発振器の停止後､動作を再開させるまでに SOSC クロックで 5 サイクル以上の待ち時間が必要
- サブクロック発振器を停止させる前に、サブクロック発振器の発振が安定していることを確認すること
- サブクロック発振器をシステムクロックとして選択しているかどうかにかかわらず、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、サブクロック発振器の発振が安定していることを確認した上で WFI 命令を実行すること
- サブクロック発振器を停止させた後、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、SOSC クロックで 3 サイクル以上待った後、WFI 命令を実行すること

以下の条件下で SOSTP ビットに 1 を書き込むことは禁止です。

- SCKSCR.CKSEL[2:0] = 100b（システムクロック ソース = SOSC）

9.2.9 低速オンチップオシレータコントロールレジスタ（LOCOCR）

アドレス SYSTEM.LOCOCR 4001 E490h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	LCSTP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	LCSTP	LOCO停止	0：LOCOクロック動作 1：LOCOクロック停止	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

LOCOCR レジスタは、LOCO クロックを制御するレジスタです。

LCSTP ビット（LOCO 停止）

LOCO クロックを起動または停止させます。

LCSTP ビットを 0 にして LOCO クロックを起動した後、必ず LOCO クロック発振安定待機時間（tLOCOWT）が経過してから、LOCO クロックを使用してください。LOCO クロックを動作するように設定してから、発振が安定するまでに一定の時間を要します。また、発振が停止するまでにも一定の時間を要します。

動作の開始および停止に関しては、以下の制限があります。

- LOCO クロックの停止後、動作を再開させるまでに LOCO クロックで 5 サイクル以上の待ち時間が必要
- LOCO クロックを停止させる前に、LOCO クロックの発振が安定していることを確認すること
- LOCO クロックをシステムクロックとして選択しているかどうかにかかわらず、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、LOCO クロックの発振が安定していることを確認した上で WFI 命令を実行すること
- LOCO クロックを停止させた後、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、LOCO クロックで 3 サイクル以上待った後、WFI 命令を実行すること

以下の条件下で LCSTP ビットに 1 を書き込むことは禁止です。

- SCKSCR.CKSEL[2:0] = 010b（システムクロックソース = LOCO）

LOCO クロックは他の発振器の待機時間を計測しているため、LOCOCR.LCSTP ビットの設定値にかかわらず、待機時間の計測中は LOCO クロックが発振しています。そのため、LCSTP ビットが停止に設定されていても、意図せず LOCO クロックが供給される場合があります。

9.2.10 高速オンチップオシレータコントロールレジスタ（HOCOCR）

アドレス SYSTEM.HOCOCR 4001 E036h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	HCSTP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0/1（注1）

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	HCSTP	HOCO停止	0：HOCOクロック動作（注2） 1：HOCOクロック停止	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. OFS1.HOCOEN ビットが 0 のとき、HCSTP ビットのリセット後の値は 0 になります。OFS1.HOCOEN ビットが 1 のとき、本ビットのリセット後の値は 1 になります。

注 2. HOCO を使用する場合（HCSTP = 0）、OFS1.HOCOFRQ0[1:0] ビットを最適な値に設定する必要があります。

HOCOCR レジスタは、HOCO クロックを制御するレジスタです。

HCSTP ビット（HOCO 停止）

HOCO クロックを起動または停止させます。

HCSTP ビットを 0 にして HOCO が動作するように変更した場合、必ず OSCSF.HOCOSF ビットが 1 になっていることを確認してから、このクロックを使用してください。

OFS1.HOCOEN ビットが 0 になっている場合、HCSTP ビットを 0 にして HOCO クロックを起動した後、HOCO クロックを使用してください。HOCO クロックを動作するように設定してから、発振が安定するまでに一定の待ち時間を要します。また、発振が停止するまでにも一定の時間を要します。HOCO を動作させるには、HOCO ウェイトコントロールレジスタ（HOCOWTCR）も設定してください。

動作の開始および停止に関しては、以下の制限があります。

- HOCO クロックの停止後､動作を再開させる前に OSCSF.HOCOSF ビットが 0 であることを確認すること
- HOCO クロックを停止させる前に､HOCO クロックが動作していること､および OSCSF.HOCOSF ビットが 1 であることを確認すること
- HOCO クロックをシステムクロックとして選択しているかどうかにかかわらず､HCSTP ビットで HOCO を動作設定にしてソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、OSCSF.HOCOSF ビットが 1 になっていることを確認した上で WFI 命令を実行すること
- HOCO クロックを停止させた後、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、OSCSF.HOCOSF ビットが 0 になっていることを確認した上で WFI 命令を実行すること

以下の条件下で HCSTP ビットに 1 を書き込むことは禁止です。

- SCKSCR.CKSEL[2:0] = 000b（システムクロックソース = HOCO）
- PLLCCR.PLSRCSEL = 1（PLL ソースクロック = HOCO）および SCKSCR.CKSEL[2:0] = 101b（システムクロックソース = PLL）
- PLLCCR.PLSRCSEL = 1（PLL ソースクロック = HOCO）および PLLCR.PLLSTP = 0（PLL 動作）

9.2.11 高速オンチップオシレータウェイトコントロールレジスタ（HOCOWTCR）

アドレス SYSTEM.HOCOWTCR 4001 E0A5h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	HSTS[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	HSTS[2:0]	HOCO待機時間設定	待機時間（s）= (HSTS[2:0]設定値 + 3)/f_{LOCO}	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R

HSTS[2:0] ビット（HOCO 待機時間設定）

スヌーズモードで SCI0 を使用している場合以外は、HSTS[2:0] ビットを 110b にしてください。スヌーズモードで SCI0 を使用している場合は、当該ビットを 010b にしてください。

9.2.12 中速オンチップオシレータコントロールレジスタ（MOCOCR）

アドレス SYSTEM.MOCOCR 4001 E038h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	MCSTP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MCSTP	MOCO停止	0：MOCOクロック動作 1：MOCOクロック停止	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

MOCOCR レジスタは、MOCO クロックを制御するレジスタです。

MCSTP ビット（MOCO 停止）

MOCO クロックを起動または停止させます。

MCSTP ビットを 0 にして MOCO クロックを起動した後、必ず MOCO クロック発振安定時間（tMOCOWT）が経過してから、MOCO クロックを使用してください。MOCO クロックを動作するように設定してから、発振が安定するまでに一定の時間を要します。MCSTP ビットを 1 に設定してから、発振が停止するまでにも一定の時間を要します。

動作の開始および停止に関しては、以下の制限があります。

- MOCO クロックの停止後､動作を再開させるまでに MOCO クロックで 5 サイクル以上の待ち時間が必要
- MOCO クロックを停止させる前に、MOCO クロックの発振が安定していることを確認すること
- MOCO クロックをシステムクロックとして選択しているかどうかにかかわらず、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、MOCO クロックの発振が安定していることを確認した上で WFI 命令を実行すること
- MOCO クロックを停止させた後、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、MOCO クロックで 3 サイクル以上待った後、WFI 命令を実行すること

以下の条件下で MCSTP ビットに 1 を書き込むことは禁止です。

- SCKSCR.CKSEL[2:0] = 001b（システムクロックソース = MOCO）

発振停止検出コントロールレジスタの発振停止検出機能許可ビット（OSTDCR.OSTDE）を有効にしているとき、MCSTP ビットを 1（MOCO 停止）にすることは禁止です。

9.2.13 FLL コントロールレジスタ 1（FLLCR1）

アドレス SYSTEM.FLLCR1 4001 E039h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	FLLEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	FLLEN	FLL有効	0：FLL機能は無効 1：FLL機能は有効	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 . HOCO を停止（HOCOCR.HCSTP = 1）にしてから、FLLCR1.FLLEN ビットを変更する必要があります。
FLL が有効（FLLCR1.FLLEN = 1）であるとき、SOSC は安定して動作中でなければいけません。

FLLCR1 レジスタは、HOCO の FLL 機能を制御するレジスタです。FLL 機能は、HOCO の精度向上に SOSC が利用できるなら SOSC を使用します。

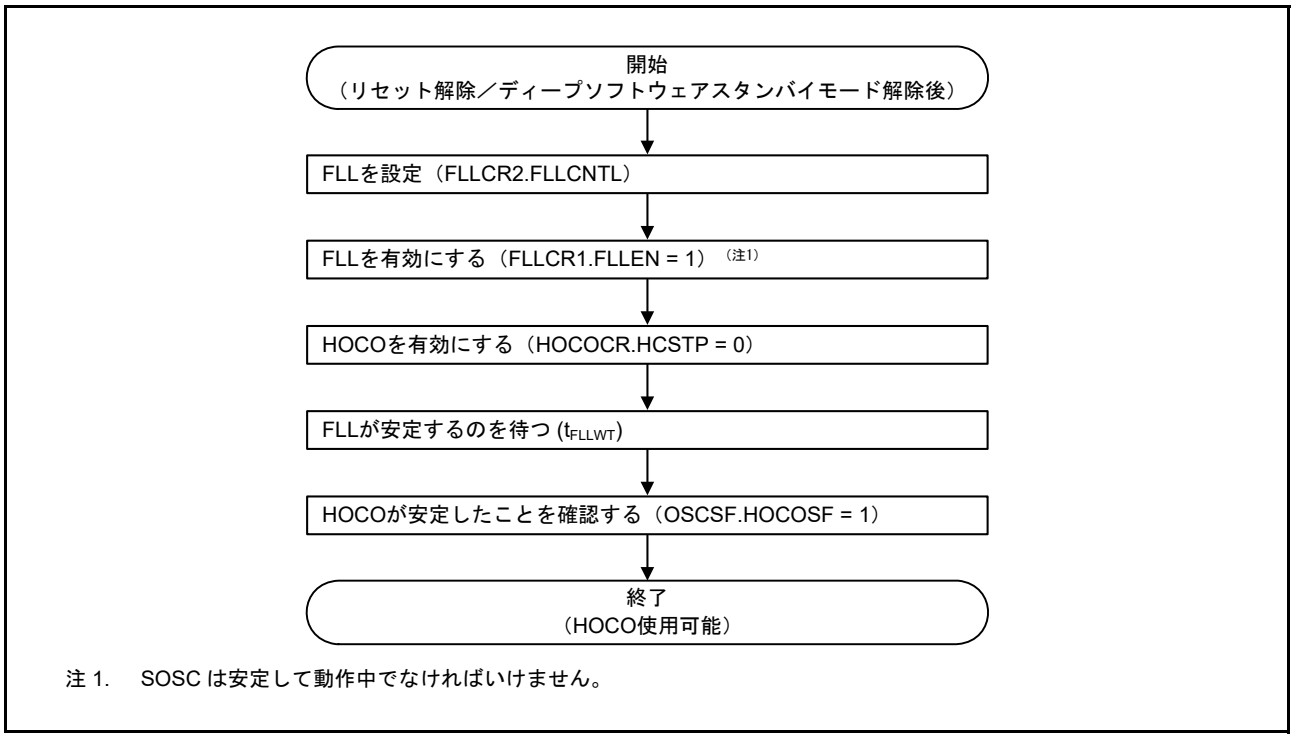
FLLEN ビット（FLL 有効）

HOCO の FLL 機能を有効または無効にします。

FLL が有効な場合、FLL が安定してからでなければ周波数精度は保証されません。FLL の安定は、HOCO の安定後にクロック周波数精度測定回路（CAC）で周波数を測定することにより確認できます。

FLLEN ビットを 0 に設定し FLL 機能を無効にしてからソフトウェアスタンバイモードへ遷移してください。

図 9.4 および図 9.5 に、各状況に応じた FLL の設定フロー例を示します。



注 1. SOSC は安定して動作中でなければいけません。

図 9.4 FLL 設定フロー（リセット解除後／ディープソフトウェアスタンバイモード解除後）



注 1. HOCO をシステムクロックまたは PLL 基準クロックとして使用している場合、HOCO を停止させる前に、これらのクロックソースを他のクロックに変更する必要があります。

図 9.5 ソフトウェアスタンバイモード遷移／解除フロー

9.2.14 FLL コントロールレジスタ 2（FLLCR2）

アドレス SYSTEM.FLLCR2 4001 E03Ah

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	FLLCNTL[10:0]										
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b10-b0	FLLCNTL[10:0]	FLL逓倍制御	• OFS1.HOCOFRQ0[1:0]ビットが00b（16MHz）の場合、これらのビットは1E9hにする必要があります。 • OFS1.HOCOFRQ0[1:0]ビットが01b（18MHz）の場合、これらのビットは226hにする必要があります。 • OFS1.HOCOFRQ0[1:0]ビットが10b（20MHz）の場合、これらのビットは263hにする必要があります。 上記以外は設定しないでください。	R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

FLLCR2 レジスタは、HOCO の FLL 機能を制御するレジスタです。

FLLCNTL[10:0] ビット（FLL 逓倍制御）

FLL 基準クロックの逓倍比を選択します。FLL を有効（FLLCR1.FLLEN = 1）にする前に、これらのビットを設定する必要があります。

9.2.15 発振安定フラグレジスタ（OSCSF）

アドレス SYSTEM.OSCSF 4001 E03Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	PLLSF	—	MOSCSF	—	—	HOCOSF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0/1（注1）

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	HOCOSF	HOCOクロック発振安定フラグ	0：HOCOクロックは停止、または発振安定待ち中 1：HOCOクロックは安定、システムクロックとして使用可能	R
b2-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b3	MOSCSF	メインクロック発振安定フラグ	0：メインクロック発振器は停止（MOSTP = 1）、または発振安定待ち中（注2） 1：メインクロック発振器は安定、システムクロックとして使用可能	R
b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b5	PLLSF	PLLクロック発振安定フラグ	0：PLLクロックは停止、または発振安定待ち中 1：PLLクロックは安定、システムクロックとして使用可能	R
b7-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

注 1. リセット後の値は、OFS1.HOCOEN の設定値で決まります。
OFS1.HOCOEN が 1 になっている場合、HOCOSF のリセット後の値は 0 です。
OFS1.HOCOEN が 0 になっている場合は、リセット解除直後に HOCOSF の値が 0 になり、HOCO 発振安定待機時間の経過後に HOCOSF の値が 1 になります。

注 2. 該当する発振器のウェイトコントロールレジスタに適切な値が設定されます。値（待機時間）が不十分な場合、発振が安定する前に発振安定フラグが 1 になり、内部回路へのクロック信号の供給が開始します。

OSCSF レジスタは、各発振器の発振安定待ち回路内にあるカウンタの動作状態を示すフラグからなるレジスタです。

これらのカウンタは、発振開始後、各発振器の出力クロックが内部回路に供給されるまでの待機時間を計測します。カウンタのオーバーフローは、クロック供給が安定しており、対応する回路で利用可能なことを示します。

HOCOSF フラグ（HOCO クロック発振安定フラグ）

高速クロック発振器（HOCO）の待機時間を計測するカウンタの動作状態を示します。OFS1.HOCOEN が 0 に設定されている場合は、OSCSF.HOCOSF ビットが 1 になっていることを確認してから、HOCO クロックを使用してください。

[1 になる条件]

- HOCO クロックが停止し HOCOCR.HCSTP ビットが 0 になった後、HOCOWTCR レジスタの設定値に応じた LOCO サイクル数が経過してから MCU クロック供給が開始されたとき

[0 になる条件]

- HOCO クロックの動作時に、HOCOCR.HCSTP ビットを 1 にした結果、HOCO クロックが発振停止になったとき

MOSCSF フラグ（メインクロック発振安定フラグ）

メインクロック発振器の待機時間を計測するカウンタの動作状態を示します。

[1 になる条件]

- メインクロック発振器が停止しMOSCCR.MOSTP ビットが 0 になった後、MOSCWTCR レジスタの設定値に応じた LOCO サイクル数が経過してから MCU クロック供給が開始されたとき

[0 になる条件]

- メインクロック発振器の動作時に、MOSCCR.MOSTP ビットを 1 にした結果、メインクロック発振器が発振停止になったとき

PLLSF フラグ（PLL クロック発振安定フラグ）

PLL の待機時間を計測するカウンタの動作状態を示します。

[1 になる条件]

- PLL の停止しPLLCR.PLLSTP ビットが 0 になった後、LOCO クロックで 31 サイクル経過してから、MCU へクロック供給が開始されたとき。ただし、PLLSTP ビットを 0 にしたときに、PLLCCR.PLSRCSEL ビットで選択された PLL クロックソースの発振が安定していなければ、PLL クロックソースの発振が安定した後も LOCO サイクルのカウントは継続します。待機時間は次式で計算されます。

  1 サイクル＝LOCO（32.768kHz）× 8（3.81μs（標準））

[0 になる条件]

- PLL の動作時に、PLLCR.PLLSTP ビットを 1 にした結果、PLL が発振停止になったとき

9.2.16 発振停止検出コントロールレジスタ（OSTDCR）

アドレス SYSTEM.OSTDCR 4001 E040h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	OSTDE	—	—	—	—	—	—	OSTDIE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	OSTDIE	発振停止検出割り込み許可	0：発振停止検出割り込みを禁止（POEGへの通知なし） 1：発振停止検出割り込みを許可（POEGへの通知あり）	R/W
b6-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	OSTDE	発振停止検出機能有効	0：発振停止検出機能は無効 1：発振停止検出機能は有効	R/W

OSTDCR レジスタは、発振停止検出機能を制御するレジスタです。

OSTDIE ビット（発振停止検出割り込み許可）

発振停止検出機能割り込みを許可します。また、発振停止検出を POEG に通知するかどうかを制御します。

発振停止検出ステータスレジスタの発振停止検出フラグ（OSTDSR.OSTDF）をクリアする必要がある場合、OSTDIE ビットを 0 にしてから OSTDF をクリアしてください。OSTDIE ビットを 1 にする場合は、PCLKB で 2 サイクル以上待ってから行ってください。I/O レジスタの読み出しに要するサイクル数によっては、これ以上の PCLKB 待ち時間が必要になる場合があります。

OSTDE ビット（発振停止検出機能有効）

発振停止検出機能を有効にします。

OSTDE ビットを 1（有効）にすると、MOCO 停止ビット（MOCOCR.MCSTP）が 0 となり、MOCO が起動します。発振停止検出機能が有効の間は、MOCO クロックは停止できません。MOCOCR.MCSTP ビットへの 1 の書き込み（MOCO 停止）は無効です。

発振停止検出ステータスレジスタの発振停止検出フラグ（OSTDSR.OSTDF）が 1（メインクロック発振停止検出）のとき、OSTDE ビットへの 0 の書き込みは無効です。

ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、OSTDE ビットを 0 にする必要があります。ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードのいずれかへ遷移する場合は、最初に OSTDE ビットを 0 にしてから WFI 命令を実行してください。

発振停止検出機能を使用する場合、以下の制限があります。

- Low-speed モードでは、ICLK、FCLK、BCLK、PCLKA、PCLKB、PCLKC、および PCLKD に対する 1 分周、2 分周、4 分周、8 分周の設定は禁止

9.2.17 発振停止検出ステータスレジスタ（OSTDSR）

アドレス SYSTEM.OSTDSR 4001 E041h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	OSTDF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	OSTDF	発振停止検出フラグ	0：メインクロック発振停止を未検出 1：メインクロック発振停止を検出	R(/W) （注1）
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. 0 のみ書けます。

OSTDSR レジスタは、メインクロック発振器の発振停止の検出状態を示すレジスタです。

OSTDF フラグ（発振停止検出フラグ）

メインクロック発振器の状態を示します。本フラグが 1 のとき、メインクロックの発振停止が検出されたことを示します。発振停止が検出された後、メインクロックの発振が再開しても OSTDF フラグは 0 になりません。OSTDF フラグは、1 の状態を読み出した後、0 を書き込むことで 0 になります。

OSTDF に 0 を書き込んでから、0 を読み出せるようになるまで、ICLK で 3 サイクル以上待つ必要があります。メインクロックの発振が停止しているとき、OSTDF フラグを 0 にすると、OSTDF フラグはいったん 0 になった後、再度 1 に戻ります。

以下の条件下では、OSTDF フラグは 0 にできません。

- SCKSCR.CKSEL[2:0] = 011b（システムクロックソース = MOSC）
- PLLCCR.PLSRCSEL = 0（PLL ソースクロック = MOSC）および SCKSCR.CKSEL[2:0] = 101b（システムクロックソース = PLL）

クロックソースをメインクロック発振器と PLL 以外に切り替えた後、OSTDF フラグを 0 にする必要があります。

［1 になる条件］

- OSTDCR.OSTDE ビットが 1（発振停止検出機能有効）の状態で、メインクロック発振器が停止したとき

［0 になる条件］

1 を読んだ後、0 を書いたとき

ただし、下記条件の時は 0 になりません。

- SCKSCR.CKSEL[2:0] = 011b（システムクロックソース = MOSC）
- PLLCCR.PLSRCSEL = 0（PLL ソースクロック = MOSC）および SCKSCR.CKSEL[2:0] = 101b（システムクロックソース = PLL）

9.2.18 メインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタ（MOSCWTCR）

アドレス SYSTEM.MOSCWTCR 4001 E0A2h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	MSTS[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	1	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	MSTS[3:0]	メインクロック発振器待機時間設定	駆動能力自動切り替え機能が無効のとき（MOMCR.AUTODRVEN = 0（デフォルト））： b3 b0 0 0 0 1：待機時間 = 35サイクル（133.5μs） 0 0 1 0：待機時間 = 67サイクル（255.6μs） 0 0 1 1：待機時間 = 131サイクル（499.7μs） 0 1 0 0：待機時間 = 259サイクル（988.0μs） 0 1 0 1：待機時間 = 547サイクル（2086.6μs）（リセット後の値） 0 1 1 0：待機時間 = 1059サイクル（4039.8μs） 0 1 1 1：待機時間 = 2147サイクル（8190.2μs） 1 0 0 0：待機時間 = 4291サイクル（16368.9μs） 1 0 0 1：待機時間 = 8163サイクル（31139.4μs） 駆動能力自動切り替え機能が有効のとき（MOMCR.AUTODRVEN = 1） b3 b0 0 0 0 1：待機時間 = 36サイクル（137.3μs） 0 0 1 0：待機時間 = 68サイクル（259.4μs） 0 0 1 1：待機時間 = 132サイクル（503.5μs） 0 1 0 0：待機時間 = 260サイクル（991.8μs） 0 1 0 1：待機時間 = 548サイクル（2090.5μs）（リセット後の値） 0 1 1 0：待機時間 = 1060サイクル（4043.6μs） 0 1 1 1：待機時間 = 2148サイクル（8194.0μs） 1 0 0 0：待機時間 = 4292サイクル（16372.7μs） 1 0 0 1：待機時間 = 8164サイクル（31143.2μs） 上記以外は設定しないでください。 待機時間は次式で計算されます。 1サイクル（μs）= 1/(f_{LOCO} [MHz] × 8) = 1/(0.032768 × 8) = 3.81μs	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

MSTS[3:0] ビット（メインクロック発振器待機時間設定）

メインクロック発振器の発振安定待機時間を設定します。

発振器メーカが推奨する安定時間以上の時間をメインクロック発振安定時間に設定してください。メインクロックが外部から入力される場合、発振安定時間は必要ないので 0001b に設定してください。

MSTS[3:0] ビットに設定した待機時間は、次式を用いてカウントされます。

1 サイクル（μs）= 1/(f_{LOCO} [MHz] × 8) = 1/(0.032768 × 8) = 3.81 (μs)

LOCO クロックは、必要であれば、LOCOCR.LOSTP ビットの値にかかわらず、自動的に発振を開始します。設定した待機時間が経過すると、MCU 内部へメインクロック発振器の供給が開始され、OSCSF.MOSCSF フラグは 1 になります。設定した待機時間が短いと、クロックの発振が安定になる前に、メインクロック発振器の供給が開始されます。

MOSCWTCR レジスタの書き換えは、MOSCCR.MOSTP ビットが 1 で、かつ OSCSF.MOSCSF フラグが 0 の場合にのみ行ってください。他の状態ではレジスタの書き換えを行わないでください。

9.2.19 メインクロック発振器モード発振コントロールレジスタ（MOMCR）

アドレス SYSTEM.MOMCR 4001 E413h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	AUTODRVEN	MOSEL	MODRV0[1:0]		—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5-b4	MODRV0[1:0]	メインクロック発振器駆動能力0切り替え	b5 b4 0 0：20～24MHz 0 1：16～20MHz 1 0：8～16MHz 1 1：8MHz	R/W
b6	MOSEL	メインクロック発振器切り替え	0：発振子 1：外部クロック入力	R/W
b7	AUTODRVEN	メインクロック発振器駆動能力自動切り替え有効化	0：無効 1：有効	R/W

注 . EXTAL/XTAL 端子もポートとして使用されます。初期状態では、ポート機能が選択されています。
注 . このレジスタを変更する前に、MOSCCR.MOSTP ビットを 1（MOSC 停止）にする必要があります。

MODRV0[1:0] ビット（メインクロック発振器駆動能力 0 切り替え）

メインクロック発振器の駆動能力を切り替えます。

MOSEL ビット（メインクロック発振器切り替え）

メインクロック発振器の発振源を切り替えます。

AUTODRVEN ビット（メインクロック発振器駆動能力自動切り替え有効化）

メインクロック発振器の駆動能力自動切り替えを制御します。

AUTODRVEN = 1 の場合、メインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタの MSTS ビットでの設定時間が経過すると、メインクロック発振器駆動能力は、MOMCR.MODRV0[1:0] 設定にかかわらず自動的に最も低い状態になります。MOSCCR.MOSTP の設定またはソフトウェアスタンバイモードへの遷移によって発振が停止した後、メインクロック発振器は、MODRV0[1:0] ビットの設定で駆動能力を切り替えて、発振を再開します。

9.2.20 サブクロック発振器モードコントロールレジスタ（SOMCR）

アドレス SYSTEM.SOMCR 4001 E481h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	SODRV1	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	x	0

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b1	SODRV1	サブクロック発振器駆動能力切り替え	0：通常駆動 1：低駆動	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 . 本レジスタを変更する前に、SOSCCR.SOSTP ビットを 1（SOSC 停止）にする必要があります。

SODRV1 ビット（サブクロック発振器駆動能力切り替え）

サブクロック発振器の駆動能力を切り替えます。初電源投入時の値は定義されていませんが、SOSCCR.SOSTP ビットのリセット後の値は 0（SOSC 動作）です。そのため、初電源投入時に SOSC を以下のように設定してください。

1. SOSCCR.SOSTP ビットを 1（SOSC 停止）にする
2. SODRV1 ビットに電流コンデンサに合った正しい値を設定する
3. SOSCCR.SOSTP ビットを 0（SOSC 動作）にする

9.2.21 クロックアウトコントロールレジスタ（CKOCR）

アドレス SYSTEM.CKOCR 4001 E03Eh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CKOEN	CKODIV[2:0]			—	CKOSEL[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	CKOSEL[2:0]	クロックアウトソース選択	b2 b0 0 0 0 : HOCO 0 0 1 : MOCO 0 1 0 : LOCO 0 1 1 : MOSC 1 0 0 : SOSC 上記以外は設定しないでください。	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6-b4	CKODIV[2:0]	クロックアウト入力分周比選択	b6 b4 0 0 0 : 1分周 0 0 1 : 2分周 0 1 0 : 4分周 0 1 1 : 8分周 1 0 0 : 16分周 1 0 1 : 32分周 1 1 0 : 64分周 1 1 1 : 128分周	R/W
b7	CKOEN	クロックアウト許可	0：クロックアウト禁止 1：クロックアウト許可	R/W

CKOSEL[2:0] ビット（クロックアウトソース選択）

HOCO、MOCO、LOCO、MOSC、または SOSC クロックを、CLKOUT 端子から出力するクロックのソースとして設定します。CLKOUT ソースクロックを変更する場合、CKOEN ビットを 0 にしてください。

CKODIV[2:0] ビット（クロックアウト入力分周比選択）

クロック分周比を設定します。分周比を変更する場合、CKOEN ビットを 0 にしてください。出力クロック周波数の分周比は、CLKOUT 端子出力周波数の特性を超えない値に設定する必要があります。CLKOUT 端子の特性の詳細については、「52. 電気的特性」を参照してください。

CKOEN ビット（クロックアウト許可）

CLKOUT 端子からの出力を許可します。CKOEN ビットを 1 にすると、選択したクロックが出力されます。CKOEN ビットを 0 にすると、Low が出力されます。本ビットを変更する場合は、CKOSEL[2:0] ビットで選択したクロックアウトのソースクロックが安定していることを確認してください。安定していないと、出力にグリッチを生じる恐れがあります。

ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する際は、これらのモードで選択中のクロックアウトソースクロックを停止させる場合、事前に CKOEN ビットをクリアしておいてください。

9.2.22 外部バスクロック出力コントロールレジスタ（EBCKOCR）

アドレス SYSTEM.EBCKOCR 4001 E052h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	EBCKOEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	EBCKOEN	EBCLK端子出力制御	0：EBCLK端子出力を禁止（High固定） 1：EBCLK端子出力を許可	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

9.2.23 LOCO ユーザトリミングコントロールレジスタ（LOCOUTCR）

アドレス SYSTEM.LOCOUTCR 4001 E492h

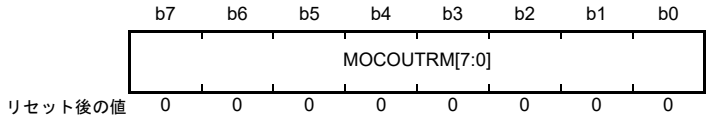
	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	LOCOUTRM[7:0]							
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	LOCOUTRM[7:0]	LOCOユーザトリミング	b7 b0 1 0 0 0 0 0 0 0 : -128 1 0 0 0 0 0 0 1 : -127 1 0 0 0 0 0 1 0 : -126 : 1 1 1 1 1 1 1 1 : -1 0 0 0 0 0 0 0 0 : センターコード 0 0 0 0 0 0 0 1 : +1 : 0 1 1 1 1 1 0 1 : +125 0 1 1 1 1 1 1 0 : +126 0 1 1 1 1 1 1 1 : +127 これらのビットは、元のLOCOトリミングビットに追加されます。	R/W

注 . LOCO 周波数が仕様外となるような値に LOCOUTCR を設定した場合、MCU 動作は保証されません。
注 . LOCOUTCR を変更した場合、周波数が安定するまでの時間は、MCU 動作開始時の周波数安定時間に相当します。

9.2.24 MOCO ユーザトリミングコントロールレジスタ（MOCOUTCR）

アドレス SYSTEM.MOCOUTCR 4001 E061h

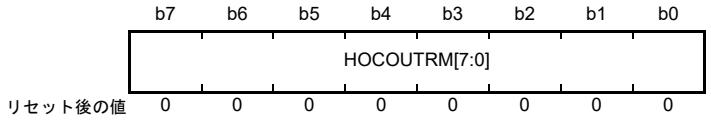


ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	MOCOUTRM[7:0]	MOCOユーザトリミング	b7 b0 1 0 0 0 0 0 0 0 : -128 1 0 0 0 0 0 0 1 : -127 1 0 0 0 0 0 1 0 : -126 : 1 1 1 1 1 1 1 1 : -1 0 0 0 0 0 0 0 0 : センターコード 0 0 0 0 0 0 0 1 : +1 : 0 1 1 1 1 1 0 1 : +125 0 1 1 1 1 1 1 0 : +126 0 1 1 1 1 1 1 1 : +127 これらのビットは、元のMOCO トリミングビットに追加されます。	R/W

注 . MOCO 周波数が仕様外となるような値に MOCOUTCR を設定した場合、MCU 動作は保証されません。
注 . MOCOUTCR を変更した場合、周波数が安定するまでの時間は、MCU 動作開始時の周波数安定時間に相当します。

9.2.25 HOCO ユーザトリミングコントロールレジスタ（HOCOUTCR）

アドレス SYSTEM.HOCOUTCR 4001 E062h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	HOCOUTRM[7:0]	HOCOユーザトリミング	b7 b0 1 0 0 0 0 0 0 0 : -128 1 0 0 0 0 0 0 1 : -127 1 0 0 0 0 0 1 0 : -126 : 1 1 1 1 1 1 1 1 : -1 0 0 0 0 0 0 0 0 : センターコード 0 0 0 0 0 0 0 1 : +1 : 0 1 1 1 1 1 0 1 : +125 0 1 1 1 1 1 1 0 : +126 0 1 1 1 1 1 1 1 : +127 これらのビットは、元のHOCO トリミングビットに追加されます。	R/W

注 . HOCO 周波数が仕様外となるような値に HOCOUTCR を設定した場合、MCU 動作は保証されません。
注 . HOCOUTCR を変更した場合、周波数が安定するまでの時間は、MCU 動作開始時の周波数安定時間に相当します。
注 . FLL を有効（FLLCR1.FLLEN = 1）にした場合、これらのビットは 00000000b にする必要があります。

9.2.26 トレースクロックコントロールレジスタ（TRCKCR）

アドレス SYSTEM.TRCKCR 4001 E03Fh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TRCKEN	—	—	—	TRCK[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	TRCK[3:0]	トレースクロック動作周波数選択	b3 b0 0 0 0 0：1分周 0 0 0 1：2分周（リセット後の値） 0 0 1 0：4分周 上記以外は設定しないでください。	R/W
b6-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	TRCKEN	トレースクロック動作許可	0：動作禁止 1：動作許可	R/W

トレースクロックコントロールレジスタ（TRCKCR）は、トレースクロックの切り替えを制御するレジスタです。TRCLK 周波数を変更する場合、あらかじめ TRCKEN ビットを 0 にしてください。本レジスタは、すべてのリセットソースで初期化されます。

9.3 メインクロック発振器

メインクロック発振器にクロック信号を供給するには、下記のいずれかの方法を使用します。

- 発振器を接続
- 外部クロック信号の入力を接続

9.3.1 水晶振動子を接続する方法

水晶振動子の接続例を図 9.6 に示します。必要に応じてダンピング抵抗（Rd）を挿入することが可能です。この抵抗値は、振動子と発振駆動能力によって異なるので、振動子メーカの推奨する値を使用してください。また、振動子メーカが外部帰還抵抗（Rf）の使用を推奨している場合は、その指示に従って EXTAL と XTAL の間に Rf を挿入してください。

振動子を接続してクロックを供給する場合、その振動子の周波数は、表 9.1 に記載されているように、メインクロック発振器の発振子周波数の範囲内としてください。

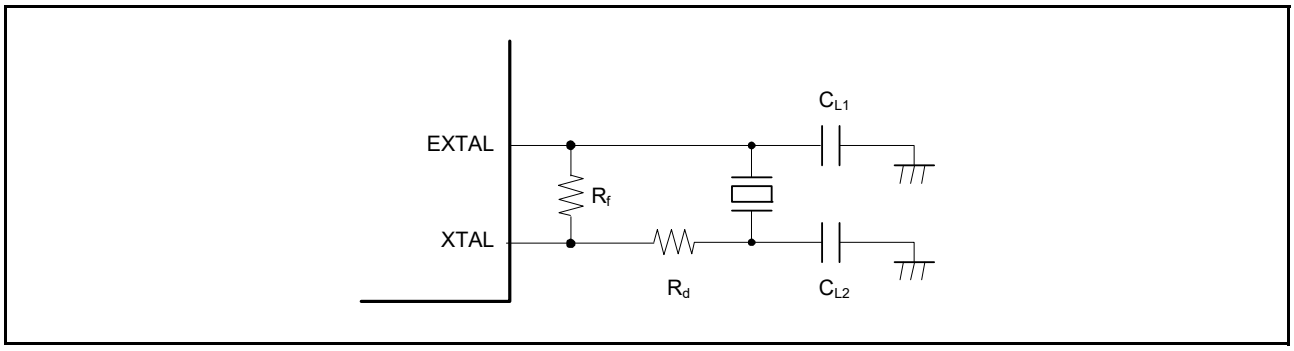


図 9.6 水晶振動子の接続例

水晶振動子の等価回路を図 9.7 に示します。

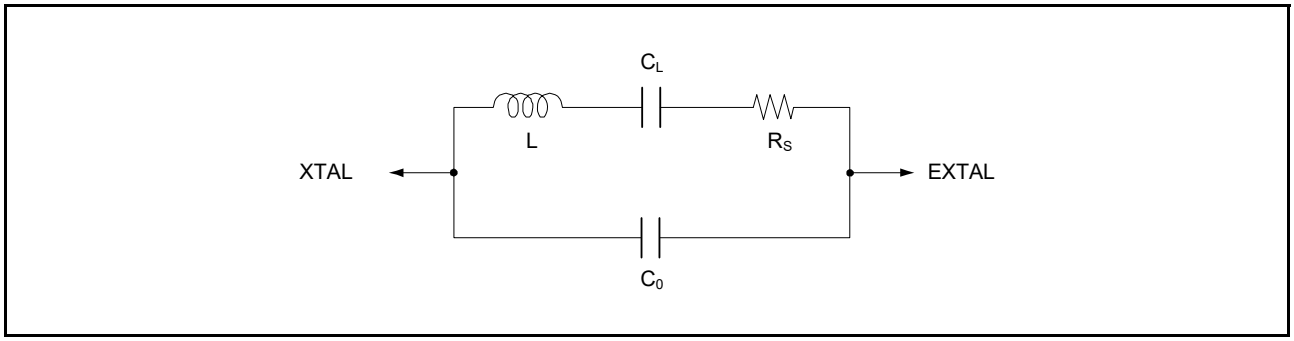


図 9.7 水晶振動子の等価回路

9.3.2 外部クロックを入力する方法

外部クロック入力の接続例を図 9.8 に示します。外部クロックで発振器を動作させるには、MOMCR.MOSEL ビットを 1 にしてください。XTAL 端子は PFS.P213PFS レジスタで設定する機能です。

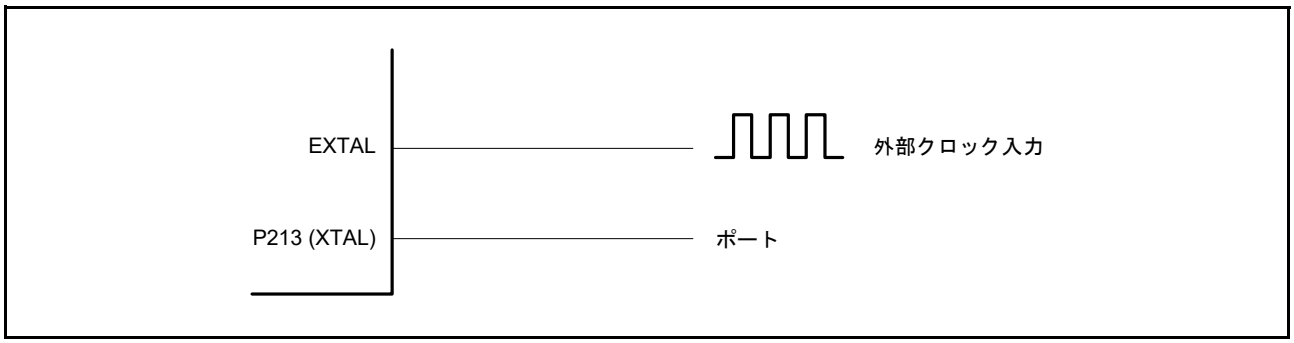


図 9.8 外部クロックの等価回路

9.3.3 外部クロック入力に関する注意事項

外部クロック入力周波数の変更は、メインクロック発振器が動作を停止しているときのみ可能です。メインクロック発振器の停止ビット（MOSCCR.MOSTP）が 0 の場合、外部クロック入力周波数を変更しないでください。

9.4 サブクロック発振器

サブクロック発振器へクロックを供給する唯一の方法は、水晶振動子を接続することです。

9.4.1 32.768kHz 水晶振動子を接続する方法

サブクロック発振器へクロックを供給するには、図 9.9 に示すように 32.768kHz 水晶振動子を接続します。必要に応じてダンピング抵抗（Rd）を挿入することが可能です。この抵抗値は、振動子と発振駆動能力によって異なるので、振動子メーカの推奨する値を使用してください。また、振動子メーカが外部帰還抵抗（Rf）の使用を推奨している場合は、その指示に従って XCIN と XCOUT の間に Rf を挿入してください。

振動子を接続してクロックを供給する場合、その振動子の周波数は、表 9.1 に記載されているように、サブクロック発振器の発振子周波数の範囲内としてください。

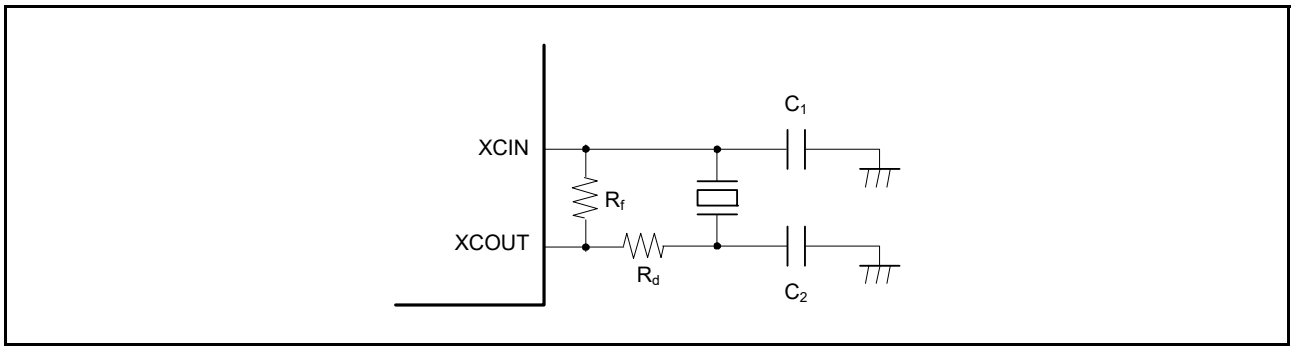


図 9.9 32.768kHz 水晶振動子の接続例

32.768kHz 水晶振動子の等価回路を図 9.10 に示します。

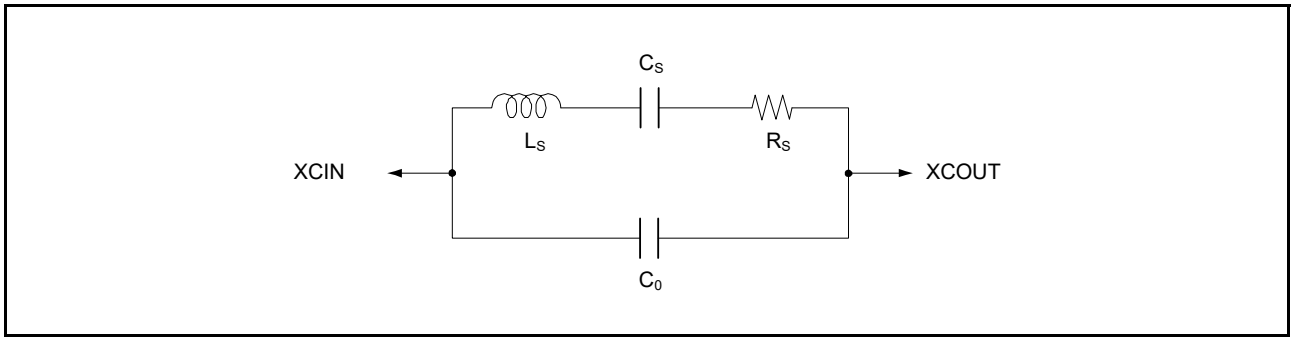


図 9.10 32.768kHz 水晶振動子の等価回路

9.4.2 サブクロック発振器を使用しない場合の端子処理

サブクロック発振器を使用しない場合は、図 9.11 に示すように、XCIN 端子を抵抗を介して VSS に接続（プルダウン）し、XCOUT 端子をオープンとしてください。さらに、発振器を接続しない場合、サブクロック発振器の停止ビット（SOSCCR.SOSTP）を 1 にして発振器を停止してください。

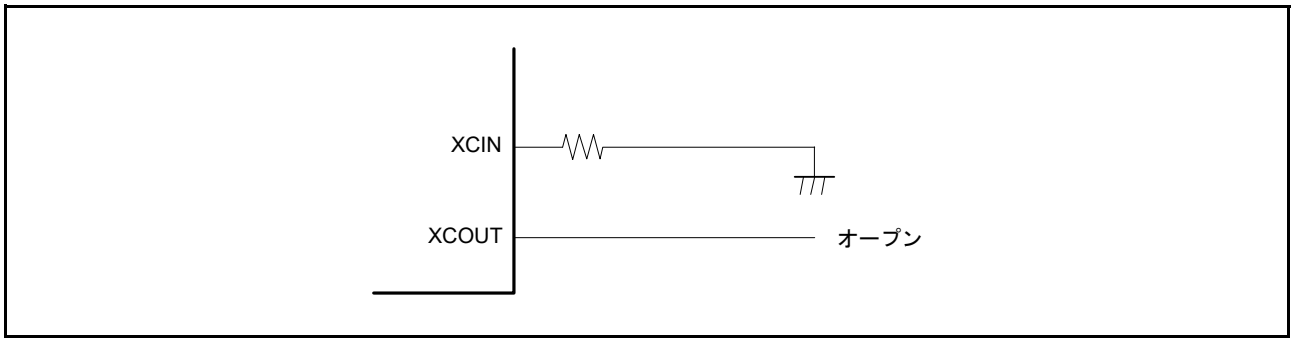


図 9.11 サブクロック発振器を使用しない場合の端子処理

9.5 発振停止検出機能

9.5.1 発振停止検出と検出後の動作

発振停止検出機能は、メインクロック発振器の停止を検出します。発振停止が検出されると、システムクロックは以下のように切り替わります。

- SCKSCR.CKSEL[2:0] = 011b（システムクロックソース = MOSC）で発振停止が検出された場合、システムクロックソースは MOCO クロックに切り替わる
- PLLCCR.PLSRCSEL = 0（PLL ソースクロック = MOSC）および SCKSCR.CKSEL[2:0] = 101b（システムクロックソース = PLL）で発振停止が検出された場合、PLL クロックはシステムクロックソースのままとなる。周波数はフリーラン発振周波数となり、SCKSCR.CKSEL[2:0] ビットの設定は変化しない

発振停止検出時には発振停止検出割り込み要求を発生させることができます。さらに、検出時の汎用 PWM タイマ（GPT）出力をハイインピーダンスにすることが可能です。

メインクロック発振器に異常が発生した場合など、入力クロックが一定期間 0 または 1 のままとなった場合、メインクロック発振停止が検出されます。「52. 電気的特性」を参照してください。

メインクロック発振器と MOCO クロックの切り替え、または PLL クロックと PLL フリーランクロックの切り替えは、発振停止検出フラグ（OSTDSR.OSTDF）によって制御されます。

OSTDF フラグは切り替えたクロックを以下のように制御します。

- SCKSCR.CKSEL[2:0] = 011b（システムクロックソース = MOSC）の場合：
  - OSTDF が 0 から 1 になると、クロックソースは MOCO クロックに切り替わる
  - OSTDF が 1 から 0 になると、クロックソースは MOSC に戻る
- PLLCCR.PLSRCSEL = 0（PLL ソースクロック = MOSC）および SCKSCR.CKSEL[2:0] = 101b（システムクロックソース = PLL）の場合：
  - OSTDF が 0 から 1 になると、クロックソースは PLL フリーラン発振クロックに切り替わる
  - OSTDF が 1 から 0 になると、クロックソースは PLL に戻る

発振停止検出後にクロックソースをメインクロック発振器または PLL クロックに戻したい場合は、いったん CKSEL[2:0] ビットの設定をメインクロック発振器または PLL クロック以外に変更し、OSTDF フラグを 0 にしてください。さらに、OSTDF フラグが 1 になっていないことを確認した後、所定の発振安定時間が経過してから、CKSEL[2:0] ビットの設定をメインクロック発振器または PLL クロックに変更してください。

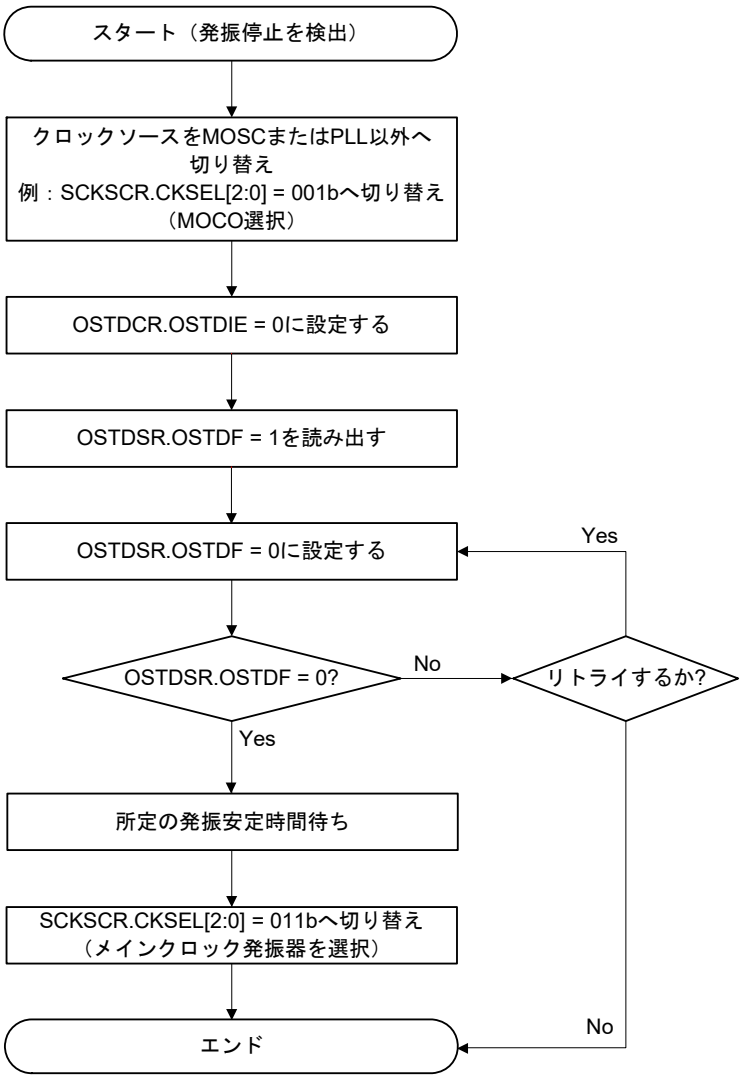
リセット解除後、メインクロック発振器は停止して、発振停止検出機能は無効になります。発振停止検出機能を有効にするには、メインクロック発振器を動作させた後、所定の発振安定時間が経過してから、発振停止検出機能有効ビット（OSTDCR.OSTDE）に 1 を書き込んでください。

発振停止検出機能は、外部要因によってメインクロック発振器が停止したことを検出します。そのため、ソフトウェアによってメインクロック発振器を停止させる前や、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、発振停止検出機能を無効にしてください。

発振停止検出機能は、以下のクロックを MOCO クロック（システムクロックが MOSC の場合）または PLL フリーランクロック（システムクロックが PLL の場合）に切り替えます。

- CLKOUT 以外の MOSC クロックまたは PLL として選択できるすべてのクロック
- MOCO 動作中（システムクロックが MOSC の場合）または PLL フリーラン動作中（システムクロックが PLL の場合）のシステムクロック（ICLK）周波数は、MOCO 発振周波数と、システムクロック選択ビット（SCKDIVCR.ICK[2:0]）で設定された分周比に指定される

発振停止検出後にCKSEL[2:0] = 011b（メインクロック発振器を選択）として
復帰する場合の例



注 . 発振停止状態から復帰する際は、ユーザシステムにおいてメインクロック発振回路の停止要因が取り除かれ、再度発振可能な状態となっている必要があります。

図 9.12 発振停止検出時の復帰フロー

9.5.2 発振停止検出割り込み

発振停止検出フラグ（OSTDSR.OSTDF）が 1 で、かつ発振停止検出コントロールレジスタの発振停止検出割り込み許可ビット（OSTDCR.OSTDIE）が 1（許可）のとき、発振停止検出割り込み（MOSC_STOP）が発生します。このとき GPT 用ポートアウトプットイネーブル（POEG）に対して、メインクロック発振器の停止が通知されます。POEG は、発振停止の通知を受けて、POEG グループ n 設定レジスタ（POEGGn.OSTPF）（n = A、B）の発振停止検出フラグを 1 にします。

この POEGGn.OSTPF フラグに対しては、発振停止を検出後、PCLKB で 10 サイクル以上経過するまで書き込みできません。OSTDSR.OSTDF フラグのクリアは、発振停止検出コントロールレジスタの発振停止検出割り込み許可ビット（OSTDCR.OSTDIE）を 0 にした後に行ってください。その後、OSTDCR.OSTDIE ビットを再度 1 にする場合は、PCLKB クロックで 2 サイクル以上待ってから行ってください。I/O レジスタの読み出しに要するサイクル数によっては、これ以上の PCLKB 待ち時間が必要になる場合があります。

発振停止検出割り込みはノンマスカブル割り込みです。リセット解除後の初期状態ではノンマスカブル割り込みは禁止されているため、発振停止検出割り込みを使用する前にソフトウェアでノンマスカブル割り込みを許可してください。詳細は、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

9.6 PLL 回路

PLL 回路は、発振器からの周波数を逓倍する機能を提供します。

9.7 内部クロック

内部クロック用のクロックソースには以下のものがあります。

- メインクロック発振器
- サブクロック発振器
- HOCO クロック
- MOCO クロック
- LOCO クロック
- PLL クロック
- IWDT 専用クロック
- JTAG 用外部クロック

これらのソースから、以下の内部クロックが生成されます。

- CPU、DMAC、DTC、フラッシュメモリ、および SRAM の動作クロック — システムクロック（ICLK）
- 周辺モジュールの動作クロック — PCLKA、PCLKB、PCLKC、および PCLKD
- フラッシュインタフェースの動作クロック — FCLK
- 外部バスコントローラおよび外部端子出力のクロック — EBCLK
- USBFS の動作クロック — UCLK
- CAN の動作クロック — CANMCLK
- CAC の動作クロック — CACCLK
- RTC LOCO クロックの動作クロック — RTCLCLK
- RTC サブクロックの動作クロック — RTCSCLK
- IWDT の動作クロック — IWDTCLK
- AGT LOCO クロックの動作クロック — AGTLCLK
- AGT サブクロックの動作クロック — AGTSCLK
- SysTick タイマの動作クロック — SYSTICCLK
- 外部端子出力のクロック — CLKOUT
- JTAG の動作クロック — JTAGTCK

内部クロックの周波数設定に使用するレジスタの詳細については、9.7.1 システムクロック（ICLK）～ 9.7.13 JTAG クロック（JTAGTCK）を参照してください。

各ビットを書き換えると、変更後の周波数で動作します。

9.7.1 システムクロック（ICLK）

システムクロック（ICLK）は、CPU、DMAC、DTC、フラッシュメモリ、および SRAM の動作クロックです。

ICLK の周波数は下記のビットで設定します。

- SCKDIVCR.ICK[2:0] ビット
- SCKSCR.CKSEL[2:0] ビット
- PLLCCR.PLLMUL[5:0] ビットおよび PLLCCR.PLIDIV[1:0] ビット
- OFS1.HOCOFRQ0[1:0] ビット

ICLK クロックソースを切り替えると、クロックソースの遷移期間中に ICLK クロックサイクルの期間が長くなります。図 9.13 および図 9.14 を参照してください。

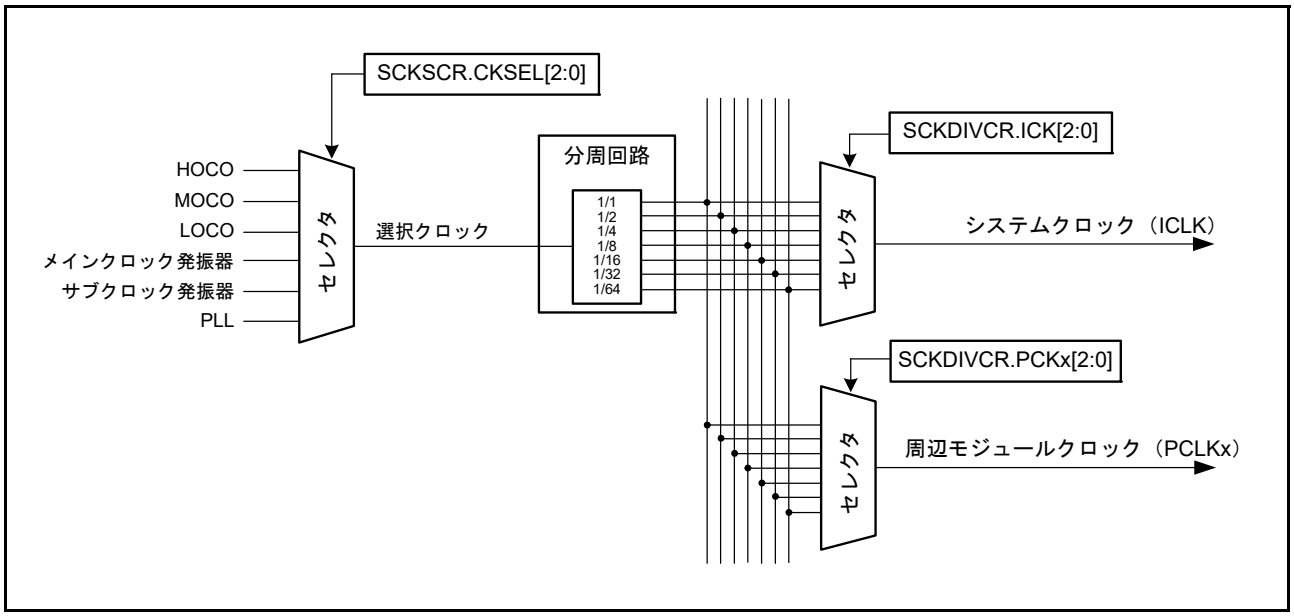


図 9.13 クロックソース選択ブロック図

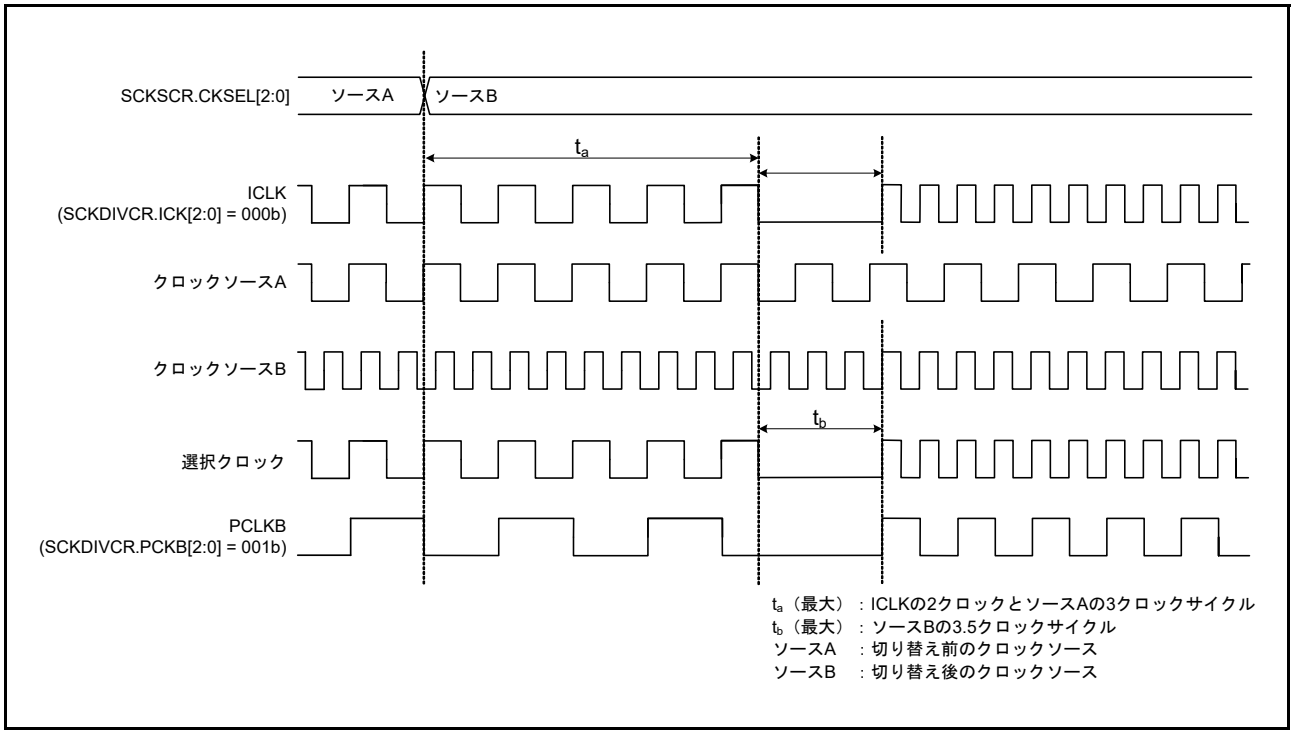


図 9.14　クロックソース切り替えタイミング図

9.7.2　周辺モジュールクロック（PCLKA、PCLKB、PCLKC、PCLKD）

周辺モジュールクロック（PCLKA、PCLKB、PCLKC、PCLKD）は、周辺モジュールの動作クロックです。

各クロックの周波数は下記のビットで設定します。

- SCKDIVCR.PCKA[2:0] ビット、SCKDIVCR.PCKB[2:0] ビット、SCKDIVCR.PCKC[2:0] ビット、および SCKDIVCR.PCKD[2:0] ビット
- SCKSCR.CKSEL[2:0] ビット
- PLLCCR.PLLMUL[5:0] ビットおよび PLLCCR.PLIDIV[1:0] ビット
- OFS1.HOCOFRQ0[1:0] ビット

周辺モジュールクロックのクロックソースを切り替えると、クロックソースの遷移期間中に周辺モジュールクロックサイクルの期間が長くなります。図 9.13 および図 9.14 を参照してください。

9.7.3　フラッシュインタフェースクロック（FCLK）

フラッシュインタフェースクロック（FCLK）は、フラッシュメモリインタフェースの動作クロックです。データフラッシュからの読み出しに加え、FCLK はコードフラッシュとデータフラッシュのプログラム／イレースに使用されます。

FCLK の周波数は下記のビットで設定します。

- SCKDIVCR.FCK[2:0] ビット
- SCKSCR.CKSEL[2:0] ビット
- PLLCCR.PLLMUL[5:0] ビットおよび PLLCCR.PLIDIV[1:0] ビット
- OFS1.HOCOFRQ0[1:0] ビット

9.7.4 外部バスクロック（BCLK）

外部バスクロック（BCLK）は、外部バスコントローラの動作クロックです。BCLK は外部接続バスに対して EBCLK 端子からも外部に出力されます。EBCLK 端子から BCLK を出力するには、EBCKOCR.EBCKOEN ビットを 1 にして、PmnPFS.PSEL[4:0] ビットを 01011b にします。PmnPFS.PSEL[4:0] ビットを 01011b に変更できるのは、EBCKOCR.EBCKOEN ビットが 0 の場合だけです。また、BCKCR.BCLKDIV ビットが 1 の場合は、EBCLK 端子から BCLK の 2 分周クロックが出力されます。

BCLK の周波数は下記のビットで設定します。

- SCKDIVCR.BCK[2:0] ビット
- SCKSCR.CKSEL[2:0] ビット
- PLLCCR.PLLMUL[5:0] ビットおよび PLLCCR.PLIDIV[1:0] ビット
- OFS1.HOCOFRQ0[1:0] ビット

BCLK をシステムクロック（ICLK）より高い周波数に設定しないでください。

9.7.5 USB クロック（UCLK）

USB クロック（UCLK）は、USBFS モジュールの動作クロックです。USBFS モジュールには 48MHz クロックを供給する必要があります。このモジュールを使用する場合は、UCLK クロックを 48MHz に設定してください。

UCLK の周波数は下記のビットで設定します。

- SCKDIVCR2.UCK[2:0] ビット
- SCKSCR.CKSEL[2:0] ビット
- PLLCCR.PLLMUL[5:0] ビットおよび PLLCCR.PLIDIV[1:0] ビット

9.7.6 CAN クロック（CANMCLK）

CAN クロック（CANMCLK）は、CAN モジュールの動作クロックです。CANMCLK は、メインクロック発振器で生成されます。

9.7.7 CAC クロック（CACCLK）

CAC クロック（CACCLK）は、CAC の動作クロックです。CACCLK は下記の発振器で生成されます。

- メインクロック発振器
- サブクロック発振器
- 高速クロック発振器（HOCO）
- 中速クロック発振器（MOCO）
- 低速オンチップオシレータ（LOCO）
- IWDT 専用オンチップオシレータ

9.7.8 RTC 専用クロック（RTCSCLK、RTCLCLK）

RTC 専用クロック（RTCSCLK および RTCLCLK）は、RTC の動作クロックです。RTCSCLK はサブクロック発振器で生成され、RTCLCLK は LOCO クロックで生成されます。

9.7.9 IWDT 専用クロック（IWDTCLK）

IWDT 専用クロック（IWDTCLK）は、IWDT の動作クロックです。IWDTCLK は、IWDT 専用オンチップオシレータの内部発振によって生成されます。

9.7.10 AGT 専用クロック（AGTSCLK, AGTLCLK）

AGT 専用クロック（AGTSCLK および AGTLCLK）は、AGT の動作クロックです。AGTSCLK はサブクロック発振器で生成され、AGTLCLK は LOCO クロックで生成されます。

9.7.11 SysTick タイマ専用クロック（SYSTICCLK）

SysTick タイマ専用クロック（SYSTICCLK）は、SysTick タイマの動作クロックです。SYSTICCLK は、LOCO クロックで生成されます。

9.7.12 クロック／ブザー出力クロック（CLKOUT）

CLKOUT は、クロック出力またはブザー出力用に CLKOUT 端子から外部に出力されます。CKOCR.CKOEN を 1 にすると、CLKOUT を CLKOUT 端子に出力できます。CKOCR.CKODIV[2:0] ビットまたは CKOCR.CKOSEL[2:0] ビットの値を変更できるのは、CKOCR.CKOEN ビットが 0 の場合だけです。

CLKOUT の周波数は下記のビットで設定します。

- CKOCR.CKODIV[2:0] ビットまたは CKOCR.CKOSEL[2:0] ビット
- OFS1.HOCOFRQ0[1:0] ビット

9.7.13 JTAG クロック（JTAGTCK）

JTAG 専用クロック（JTAGTCK）は、JTAG の動作クロックです。JTAGTCK は、JTAG 外部クロック（TCK）で生成されます。

9.8 使用上の注意事項

9.8.1 クロック発生回路に関する注意事項

各モジュールに供給されるシステムクロック（ICLK）、周辺モジュールクロック（PCLKA ～ PCLKD）、フラッシュインタフェースクロック（FCLK）、および外部バスクロック（BCLK）の周波数は、SCKDIVCRレジスタの設定に従って変化します。各周波数は、以下の条件を満たす必要があります。

- 各周波数は、AC 電気的特性で規定されるクロックサイクル時間（t_{cyc}）の動作保証範囲内に収まるように選択すること。「52. 電気的特性」を参照してください
- 周波数は表 9.2 に記載の周波数範囲を超えないこと
- 周辺モジュールは PCLKA と PCLKB を基準に動作する。周波数変更の前後で、タイマや SCI などのモジュールは動作速度が変化する
- システムクロック（ICLK）、周辺モジュールクロック（PCLKA ～ PCLKD）、フラッシュインタフェースクロック（FCLK）、および外部バスクロック（BCLK）は、表 9.2 に従って設定すること

外部バスアクセス中は、クロック周波数を変更しないでください。また、クロック周波数の変更後に外部バスのアクセスを開始する場合は、周波数変更が完了していることを確認してからバスアクセスを行ってください。クロック周波数変更後の処理を正しく行うには、当該クロックコントロールレジスタへの書き込みによって周波数を変更してからレジスタの値を読み出し、以降の処理を実行してください。

9.8.2 発振子に関する注意事項

発振子の特性はユーザのボード設計に密接に関係するので、使用する前に十分な評価が必要です。発振子の接続例については図 9.9 を参照してください。発振子の回路定数は、使用する発振子および実装回路の浮動容量によって異なります。回路定数を決定する際は、常に発振子メーカと相談してください。発振端子に印加される電圧が最大定格を超えないようにしてください。

9.8.3 ボード設計に関する注意事項

水晶振動子を使用する場合は、振動子およびコンデンサはできるだけ XTAL/EXTAL 端子の近くに配置してください。図 9.15 に示すように、発振回路の近くには信号線を通過させないでください。電磁誘導によって正常に発振しなくなることがあります。

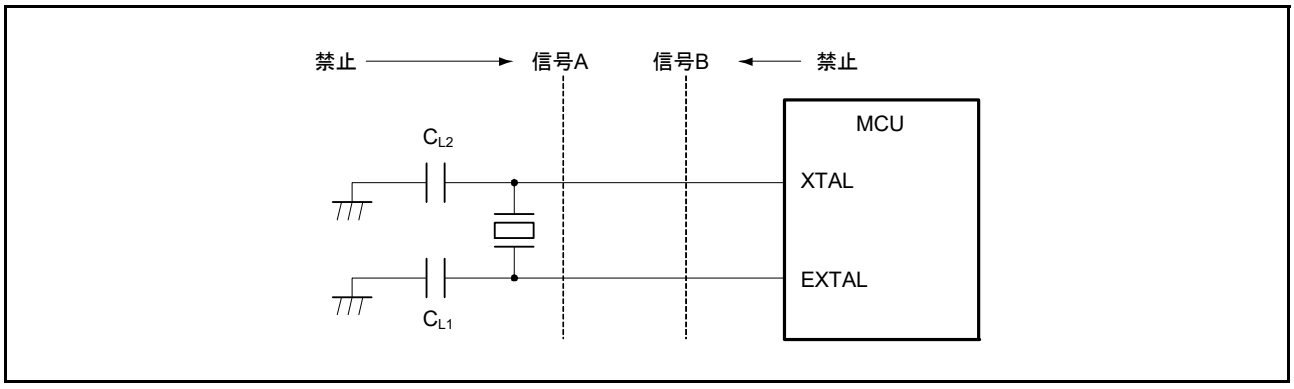


図 9.15 発振回路部のボード設計に関する信号のルーティング（メインクロック発振器の場合、サブクロック発振器も同様）

9.8.4 発振子接続端子に関する注意事項

メインクロック発振器を使用しない場合、EXTAL 端子と XTAL 端子は、汎用ポート P212 および P213 として使用可能です。これらの端子を汎用ポートとして使用する場合は、メインクロック発振器を停止させる（MOSCCR.MOSTP ビットを 1 にする）必要があります。

9.8.5 サブクロック発振器使用時の注意事項（LGA パッケージ）

P212（EXTAL）端子、P213（XTAL）端子、および P708 端子の出力は、サブクロック発振器の発振に影響を及ぼす可能性があります。

サブクロック発振器を使用する場合、発振に影響しないようボードを設計してください。P212（EXTAL）、P213（XTAL）、および P708 を出力端子として使用する場合、ならびにサブクロック発振器を使用する場合は、PmnPFS.DSCR[1:0] ビットを 00b または 01b に設定するよう強く推奨します。

さらに、サブクロック発振器を低駆動能力（SOMCR.SODRV1 = 1）で使用する場合は、発振への影響を避けるために P212（EXTAL）、P213（XTAL）、および P708 のうち 2 つ以上のポートを同時に出力端子として使用しないことも推奨します。

9.8.6 メインクロック発振器駆動能力自動切り替え機能に関する注意事項

駆動能力自動切り替え機能は、メインクロック発振器の動作開始後に、メインクロック発振器の駆動能力を自動で低下させてメインクロック発振器起因の EMI を抑止します。

駆動能力自動切り替え機能を有効にするには、メインクロック発振器が停止（MOSCCR.MOSTP = 1）しているときに、MOMCR.AUTODRVEN ビットを 1 にしてください。MOMCR.AUTODRVEN の設定に関係なく、駆動能力切り替えレジスタのビット（MOMCR.MODRV0[1:0]）は、選択した発振器に応じて正しく設定する必要があります。その後、メインクロック発振器を有効（MOSCCR.MOSTP = 0）にしてください。発振安定フラグ（OSCSF.MOSCSF）が 1 になれば、メインクロックが使用できます。

発振安定待機時間を延長することによって、EMI の抑止機能を向上することができます。詳細は、9.2.18 メインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタ（MOSCWTCR）を参照してください。

10. クロック周波数精度測定回路（CAC）

10.1 概要

クロック周波数精度測定回路（CAC）は、測定基準として選択したクロック（測定基準クロック）で生成した時間内における、測定するクロック（測定対象クロック）のパルス数をカウントします。CAC はそのパルス数が許容範囲内にあるか否かに基づき精度を判定します。

基準クロックは、外部から I/O ポート端子を介して供給、または内蔵発振器から供給することができます。測定が終了したとき、または測定基準クロックで生成した時間内のパルス数が許容範囲内にない場合には、割り込み要求が発生します。この機能は、ホームオートメーションや工業オートメーション機器のフェールセーフ機構の実現において役立ちます。

表 10.1 に CAC の仕様、図 10.1 にブロック図、表 10.2 に入出力端子を示します。

表 10.1 CACの仕様

項目	内容
測定対象クロック	以下のクロックの周波数を測定可能 • メインクロック発振器 • サブクロック発振器 • HOCOクロック • MOCOクロック • LOCOクロック • IWDTCLKクロック • 周辺モジュールクロックB（PCLKB）
測定基準クロック	以下のクロックを基準として使用可能 • 外部からCACREF端子に入力したクロック • メインクロック発振器 • サブクロック発振器 • HOCOクロック • MOCOクロック • LOCOクロック • IWDTCLKクロック • 周辺モジュールクロックB（PCLKB）
選択機能	デジタルフィルタ
割り込み要因	• 測定終了 • 周波数エラー • オーバーフロー
モジュールストップ機能	モジュールストップ状態に設定して消費電力を削減

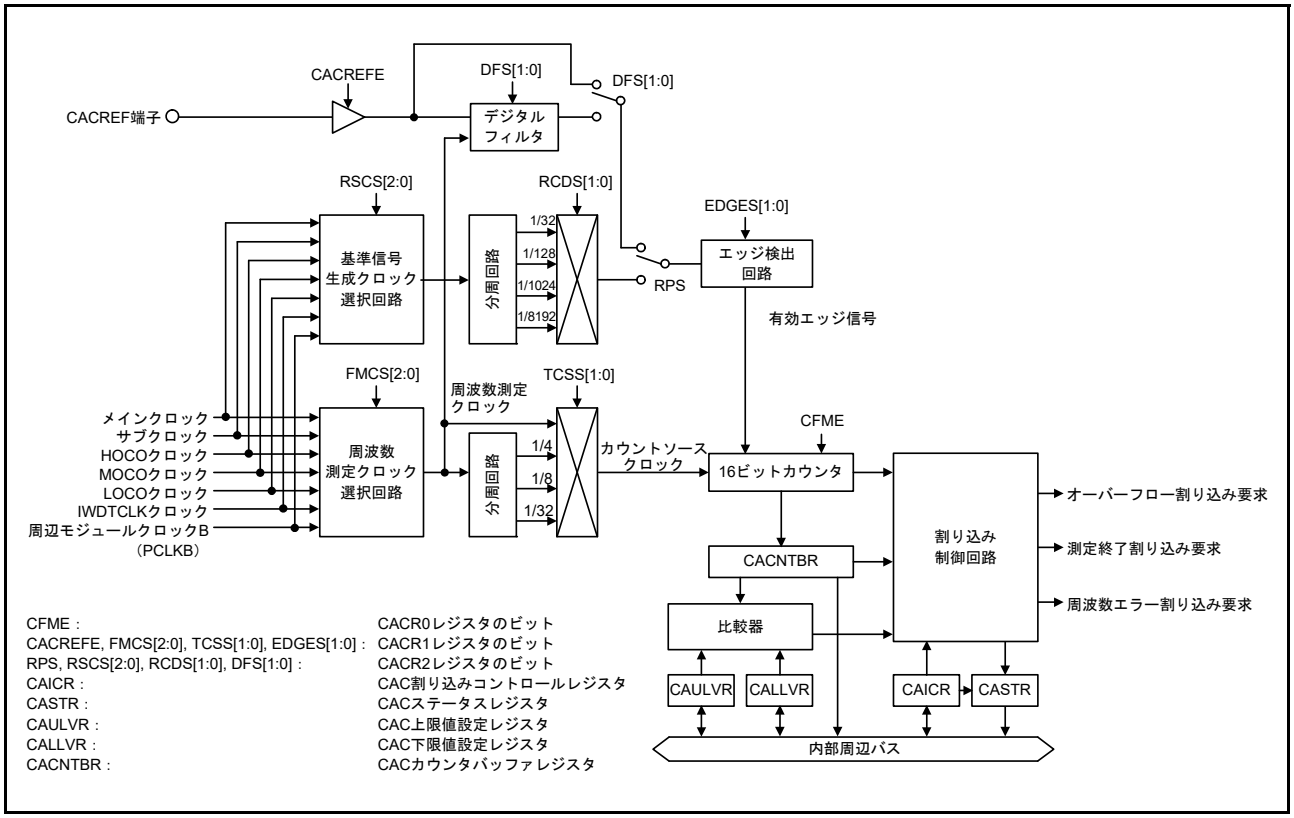


図 10.1　　CAC のブロック図

表 10.2　　CACの入出力端子

端子名	入出力	機能
CACREF	入力	測定基準クロックの入力端子

10.2　レジスタの説明

10.2.1　CAC コントロールレジスタ 0（CACR0）

アドレス　CAC.CACR0 4004 4600h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	CFME
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CFME	クロック周波数測定有効	0：無効 1：有効	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CFME ビット（クロック周波数測定有効）

クロック周波数測定を有効にします。CFME ビットを読み出すことで、このビットが変更されたことを確認できます。変更が完了するまでは、さらなる書き込みは無視されます。

10.2.2 CAC コントロールレジスタ 1（CACR1）

アドレス CAC.CACR1 4004 4601h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	EDGES[1:0]		TCSS[1:0]		FMCS[2:0]			CACREFE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CACREFE	CACREF端子入力有効	0：無効 1：有効	R/W
b3-b1	FMCS[2:0]	測定対象クロック選択	b3 b1 0 0 0：メインクロック発振器 0 0 1：サブクロック発振器 0 1 0：HOCOクロック 0 1 1：MOCOクロック 1 0 0：LOCOクロック 1 0 1：周辺モジュールクロック（PCLKB） 1 1 0：IWDTCLKクロック 1 1 1：設定禁止	R/W
b5-b4	TCSS[1:0]	測定対象クロック分周比選択	b5 b4 0 0：分周なしクロック 0 1：4分周クロック 1 0：8分周クロック 1 1：32分周クロック	R/W
b7-b6	EDGES[1:0]	有効エッジ選択	b7 b6 0 0：立ち上がりエッジ 0 1：立ち下がりエッジ 1 0：立ち上がり／立ち下がり両エッジ 1 1：設定禁止	R/W

注．　CACR1 レジスタは、CACR0.CFME ビットが 0 のときに設定してください。

CACREFE ビット（CACREF 端子入力有効）

CACREF 端子入力を有効にします。

FMCS[2:0] ビット（測定対象クロック選択）

周波数を測定する測定対象クロックを選択します。

TCSS[1:0] ビット（測定対象クロック分周比選択）

測定対象クロックの分周比を選択します。

EDGES[1:0] ビット（有効エッジ選択）

基準信号の有効エッジを選択します。

10.2.3 CAC コントロールレジスタ 2（CACR2）

アドレス CAC.CACR2 4004 4602h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DFS[1:0]		RCDS[1:0]		RSCS[2:0]			RPS
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RPS	基準信号選択	0：CACREF端子入力 1：内部クロック（内部生成信号）	R/W
b3-b1	RSCS[2:0]	測定基準クロック選択	b3 b2 b1 0 0 0：メインクロック発振器 0 0 1：サブクロック発振器 0 1 0：HOCOクロック 0 1 1：MOCOクロック 1 0 0：LOCOクロック 1 0 1：周辺モジュールクロック（PCLKB） 1 1 0：IWDTCLKクロック 1 1 1：設定禁止	R/W
b5-b4	RCDS[1:0]	測定基準クロック分周比選択	b5 b4 0 0：32分周クロック 0 1：128分周クロック 1 0：1024分周クロック 1 1：8192分周クロック	R/W
b7-b6	DFS[1:0]	デジタルフィルタ機能選択	b7 b6 0 0：デジタルフィルタ機能無効 0 1：デジタルフィルタ用のサンプリングクロックを周波数測定クロックとして使用 1 0：デジタルフィルタ用のサンプリングクロックを周波数測定クロックの4分周クロックとして使用 1 1：デジタルフィルタ用のサンプリングクロックを周波数測定クロックの16分周クロックとして使用	R/W

注．　CACR2 レジスタは、CACR0.CFME ビットが 0 のときに設定してください。

RPS ビット（基準信号選択）

基準信号として CACREF 端子入力と内部クロック（内部生成信号）のどちらを使用するかを選択します。

RSCS[2:0] ビット（測定基準クロック選択）

測定基準クロックを選択します。

RCDS[1:0] ビット（測定基準クロック分周比選択）

内部基準クロックを選択（RPS = 1）した場合、測定基準クロックの分周比を選択します。RPS = 0（CACREF 端子を基準クロックソースとして使用）の場合、基準クロックは分周されません。

DFS[1:0] ビット（デジタルフィルタ機能選択）

デジタルフィルタを有効または無効にします。また、そのサンプリングクロックを選択します。

10.2.4 CAC 割り込みコントロールレジスタ（CAICR）

アドレス CAC.CAICR 4004 4603h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	OVFFCL	MENDFCL	FERRFCL	—	OVFIE	MENDIE	FERRIE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	FERRIE	周波数エラー割り込み要求許可	0：周波数エラー割り込み要求禁止 1：周波数エラー割り込み要求許可	R/W
b1	MENDIE	測定終了割り込み要求許可	0：測定終了割り込み要求禁止 1：測定終了割り込み要求許可	R/W
b2	OVFIE	オーバーフロー割り込み要求許可	0：オーバーフロー割り込み要求禁止 1：オーバーフロー割り込み要求許可	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	FERRFCL	FERRF フラグクリア	本ビットを1にするとFERRF フラグをクリアします。 読むと0が読めます。	R/W
b5	MENDFCL	MENDF フラグクリア	本ビットを1にするとMENDF フラグをクリアします。 読むと0が読めます。	R/W
b6	OVFFCL	OVFF フラグクリア	本ビットを1にするとOVFF フラグをクリアします。 読むと0が読めます。	R/W
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

FERRIE ビット（周波数エラー割り込み要求許可）

周波数エラー割り込み要求を許可します。

MENDIE ビット（測定終了割り込み要求許可）

測定終了割り込み要求を許可します。

OVFIE ビット（オーバーフロー割り込み要求許可）

オーバーフロー割り込み要求を許可します。

FERRFCL ビット（FERRF フラグクリア）

このビットを 1 にすると CASTR.FERRF フラグをクリアします。

MENDFCL ビット（MENDF フラグクリア）

このビットを 1 にすると CASTR.MENDF フラグをクリアします。

OVFFCL ビット（OVFF フラグクリア）

このビットを 1 にすると CASTR.OVFF フラグをクリアします。

10.2.5 CAC ステータスレジスタ（CASTR）

アドレス CAC.CASTR 4004 4604h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	OVFF	MENDF	FERRF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	FERRF	周波数エラーフラグ	0：クロック周波数は許容範囲内 1：クロック周波数が許容範囲を外れた（周波数エラー）	R
b1	MENDF	測定終了フラグ	0：測定中 1：測定終了	R
b2	OVFF	オーバーフローフラグ	0：カウンタがオーバーフローしていない 1：カウンタがオーバーフローした	R
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

FERRF フラグ（周波数エラーフラグ）

クロック周波数が設定値から外れた（周波数エラー）ことを示します。

[1 になる条件]

- クロック周波数が CAULVR と CALLVR の両レジスタで定義された許容範囲を外れたとき

[0 になる条件]

- FERRFCL ビットに 1 を書いたとき

MENDF フラグ（測定終了フラグ）

測定が終了したことを示します。

[1 になる条件]

- 測定が終了したとき

[0 になる条件]

- MENDFCL ビットに 1 を書いたとき

OVFF フラグ（オーバーフローフラグ）

カウンタがオーバーフローしたことを示します。

[1 になる条件]

- カウンタがオーバーフローしたとき

[0 になる条件]

- OVFFCL ビットに 1 を書いたとき

10.2.6 CAC 上限値設定レジスタ（CAULVR）

アドレス CAC.CAULVR 4004 4606h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

CAULVR レジスタは、許容範囲の上限値を指定する 16 ビットの読み出し／書き込みが可能なレジスタです。カウンタ値がこのレジスタに指定された値を上回った場合、周波数エラーが検出されます。CACR0.CFME ビットが 0 のときに設定してください。

デジタルフィルタやエッジ検出回路と CACREF 端子入力信号との位相差によって、CACNTBR レジスタに格納されるカウンタ値がずれる可能性があります。そのため、余裕を持った値を設定してください。

10.2.7 CAC 下限値設定レジスタ（CALLVR）

アドレス CAC.CALLVR 4004 4608h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

CALLVR レジスタは、許容範囲の下限値を指定する 16 ビットの読み出し／書き込みが可能なレジスタです。カウンタ値がこのレジスタに指定された値を下回った場合、周波数エラーが検出されます。CACR0.CFME ビットが 0 のときに設定してください。

デジタルフィルタやエッジ検出回路と CACREF 端子入力信号との位相差によって、CACNTBR レジスタに格納されるカウンタ値がずれる可能性があります。そのため、余裕を持った値を設定してください。

10.2.8 CAC カウンタバッファレジスタ（CACNTBR）

アドレス CAC.CACNTBR 4004 460Ah

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

CACNTBR レジスタは、測定結果を格納する 16 ビットの読み出し専用レジスタです。

10.3　動作説明

10.3.1　クロック周波数測定

CAC は、CACREF 端子入力または内部クロックを基準にしてクロック周波数を測定します。図 10.2 に CAC の動作例を示します。

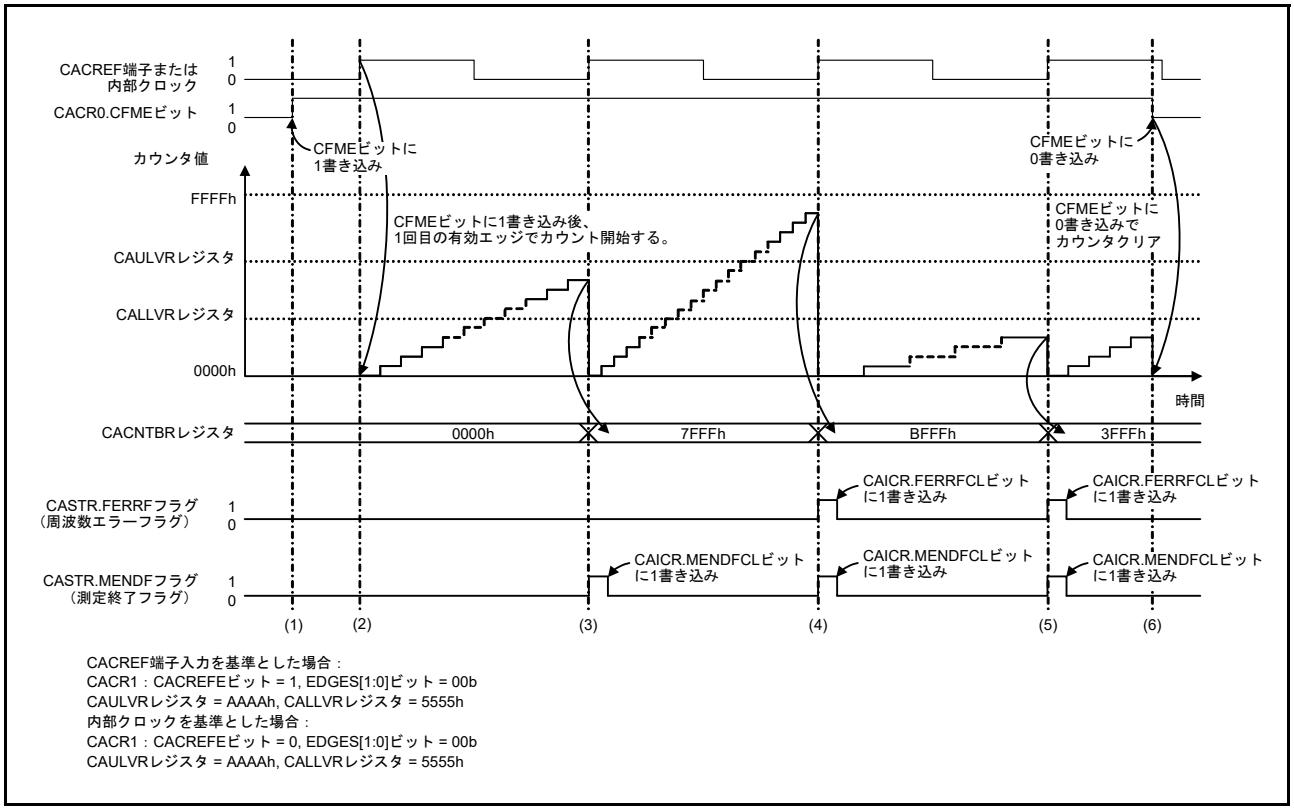


図 10.2　CAC の動作例

図 10.2 では、以下のように設定しています。

1. CACR0.CFME ビットに 1 を書き込む前に、CACR1 レジスタと CACR2 レジスタを設定して、測定対象クロックと測定基準クロックを定義します。CACR0.CFME ビットに 1 を書き込むと、クロック周波数測定が有効になります。
2. CACR1.EDGES[1:0] ビットで選択した有効エッジが測定基準クロックから入力されると、タイマがカウントアップを開始します。図 10.2 で、有効エッジは立ち上がりエッジです（CACR1.EDGES[1:0] = 00b）。
3. 次の有効エッジが入力されると、カウンタ値を CACNTBR レジスタに転送し、CAULVR レジスタ値および CALLVR レジスタ値と比較します。CACNTBR ≦ CAULVR かつ CACNTBR ≧ CALLVR が成立する場合、クロック周波数は正常なので CASTR.MENDF フラグのみが 1 になります。また、CAICR.MENDIE ビットが 1 の場合は、測定終了割り込みが発生します。
4. 次の有効エッジが入力されると、カウンタ値を CACNTBR レジスタに転送し、CAULVR レジスタ値および CALLVR レジスタ値と比較します。CACNTBR ＞ CAULVR の場合、クロック周波数は異常なので CASTR.FERRF フラグが 1 になります。また、CAICR.FERRIE ビットが 1 の場合は、周波数エラー割り込みが発生します。測定終了時に CASTR の MENDF フラグは 1 になります。また、CAICR.MENDIE ビットが 1 の場合は、測定終了割り込みが発生します。
5. 次の有効エッジが入力されると、カウンタ値を CACNTBR レジスタに転送し、CAULVR レジスタ値および CALLVR レジスタ値と比較します。CACNTBR ＜ CALLVR の場合、クロック周波数は異常なので CASTR.FERRF フラグが 1 になります。また、CAICR.FERRIE ビットが 1 の場合は、周波数エラー割り込みが発生します。測定終了時に CASTR の MENDF フラグは 1 になります。また、CAICR.MENDIE ビットが 1 の場合は、測定終了割り込みが発生します。

6. CACR0.CFME ビットが 1 のときは、有効エッジが入力されるたびにカウンタ値を CACNTBR レジスタに転送し、CAULVR レジスタ値および CALLVR レジスタ値と比較します。CACR0.CFME ビットに 0 を書き込むと、カウンタをクリアしカウントアップが停止します。

10.3.2　CACREF 端子のデジタルフィルタ機能

CACREF 端子はデジタルフィルタ機能を持っています。デジタルフィルタ機能は、設定したサンプリング周期で CACREF 端子レベルが 3 回連続で一致した場合、内部回路に一致したレベルを送信します。再度サンプリングした端子のレベルが 3 回連続で一致するまで内部へ同じレベルを送信し続けます。デジタルフィルタ機能では、デジタルフィルタ機能の有効／無効と、サンプリングクロックの設定が可能です。

デジタルフィルタと CACREF 端子入力信号の位相差によって、CACNTBR レジスタに転送されるカウンタ値には、サンプリングクロックの最大 1 周期分の誤差が生じる場合があります。カウントソースクロックに分周クロックを選択している場合は、以下の計算式でカウンタ値の誤差を表すことができます。

カウント値誤差＝（カウントソースクロック 1 周期）／（サンプリングクロック 1 周期）

10.4　割り込み要求

CAC は次の 3 種類の割り込み要求を発生させます。

- 周波数エラー割り込み
- 測定終了割り込み
- オーバーフロー割り込み

割り込み要因が発生すると、対応するステータスフラグが 1 になります。表 10.3 に、CAC の割り込み要求に関する情報を示します。

表 10.3　CAC の割り込み要求

割り込み要求	割り込み許可ビット	ステータスフラグ	割り込み要因
周波数エラー割り込み	CAICR.FERRIE	CASTR.FERRF	CACNTBR レジスタを CAULVR レジスタおよび CALLVR レジスタと比較した結果が、CACNTBR ＞ CAULVR または CACNTBR ＜ CALLVR のとき
測定終了割り込み	CAICR.MENDIE	CASTR.MENDF	• CACREF 端子または内部クロックから有効エッジが入力されたとき • CACR0.CFME ビットに 1 を書き込んだ後の 1 回目の有効エッジでは、測定終了割り込みの発生なし
オーバーフロー割り込み	CAICR.OVFIE	CASTR.OVFF	カウンタがオーバーフローしたとき

10.5　使用上の注意事項

10.5.1　モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ C（MSTPCRC）によって、CAC の動作を許可または禁止することが可能です。リセット後の初期状態では、CAC モジュールの動作は停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は、「11.　低消費電力モード」を参照してください。

11. 低消費電力モード

11.1 概要

本 MCU には、クロック分周器の設定、EBCLK 出力制御、モジュールストップ設定、通常モード時の電力制御モード選択、低消費電力モードへの遷移など、さまざまな消費電力低減機能があります。

表 11.1 に低消費電力モード機能の仕様を示します。表 11.2 に、低消費電力モードへの遷移条件、CPU と周辺モジュールの状態、および各モードの解除方法を示します。リセット後、MCU はプログラム実行状態に遷移しますが、DMAC、DTC、および SRAM のみが動作しています。

表 11.1 低消費電力モード機能の仕様

項目	内容
クロックの切り替えによる消費電力の低減	システムクロック（ICLK）、周辺モジュールクロック（PCLKA、PCLKB、PCLKC、PCLKD）、外部バスクロック（BCLK）、およびフラッシュインタフェースクロック（FCLK）に対して、個別に分周比を選択可能（注1）
EBCLK出力制御	BCLK出力またはHigh出力に選択可能（注1）
モジュールストップ状態	周辺モジュール機能を個別に停止可能
低消費電力モード	• スリープモード • ソフトウェアスタンバイモード • スヌーズモード • ディープソフトウェアスタンバイモード
電力制御モード	動作周波数と動作電圧に応じて適切な動作電力制御モードを選択することにより、通常モード、スリープモード、およびスヌーズモード時の消費電力を低減することが可能 3つの動作電力制御モードが利用可能： • High-speedモード • Low-speedモード • Subosc-speedモード

注 1. 詳細は、「9. クロック発生回路」を参照してください。

表 11.2 各低消費電力モードの動作状態 (1/3)

項目	スリープモード	ソフトウェアスタンバイモード	スヌーズモード（注1）	ディープソフトウェアスタンバイモード
遷移条件	SBYCR.SSBY = 0の状態でWFI命令	SBYCR.SSBY = 1かつDPSBYCR.DPSBY = 0の状態でWFI命令	ソフトウェアスタンバイモードにおけるスヌーズ要求トリガSNZCR.SNZE = 1	SBYCR.SSBY = 1かつDPSBYCR.DPSBY = 1の状態でWFI命令
解除方法	すべての割り込み。このモードで利用可能なすべてのリセット	表 11.3に示す割り込み。このモードで利用可能なすべてのリセット	表 11.3に示す割り込み。このモードで利用可能なすべてのリセット	表 11.3に示す割り込み。このモードで利用可能なすべてのリセット
割り込みによる解除後の状態	プログラム実行状態（割り込み処理）	プログラム実行状態（割り込み処理）	プログラム実行状態（割り込み処理）	リセット状態
リセットによる解除後の状態	リセット状態	リセット状態	リセット状態	リセット状態
メインクロック発振器	選択可能	停止	選択可能（注2）	停止
サブクロック発振器	選択可能	選択可能	選択可能	選択可能
高速オンチップオシレータ	選択可能	停止	選択可能	停止
中速オンチップオシレータ	選択可能	停止	選択可能	停止
低速オンチップオシレータ	選択可能	選択可能	選択可能	選択可能（注3）
IWDT専用オンチップオシレータ	選択可能（注7）	選択可能（注7）	選択可能（注7）	停止
PLL	選択可能	停止	選択可能（注2）	停止

表 11.2 各低消費電力モードの動作状態 (2/3)

項目	スリープモード	ソフトウェアスタンバイモード	スヌーズモード（注1）	ディープソフトウェアスタンバイモード
発振停止検出機能	選択可能	動作禁止	動作禁止	動作禁止
クロック／ブザー出力機能	選択可能	選択可能（注4）	選択可能	停止（不定）
外部バス（EBCLK）	選択可能	停止（保持）	動作禁止	停止（保持）
CPU	停止（保持）	停止（保持）	停止（保持）	停止（不定）
SRAM0、SRAMHS、ECC SRAM	選択可能	停止（保持）	選択可能	停止（不定）
スタンバイSRAM	選択可能	停止（保持）	選択可能	停止（保持／不定）（注5）
フラッシュメモリ	動作	停止（保持）	停止（保持）	停止（保持）
DMAコントローラ（DMAC）	選択可能	停止（保持）	動作禁止	停止（不定）
データトランスファコントローラ（DTC）	選択可能	停止（保持）	選択可能	停止（不定）
USB2.0フルスピードモジュール（USBFS）	選択可能	停止（保持） USBレジューム検出は可能	動作禁止 USBレジューム検出は可能	停止（保持／不定） USBレジューム検出は可能（注6）
ウォッチドッグタイマ（WDT）	選択可能（注7）	停止（保持）	停止（保持）	停止（不定）
独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）	選択可能（注7）	選択可能（注7）	選択可能（注7）	停止（不定）
リアルタイムクロック（RTC）	選択可能	選択可能	選択可能	選択可能（注8）
低消費電力非同期汎用タイマ（AGTn、n = 0, 1）	選択可能	選択可能（注9）	選択可能（注9）	選択可能（注9）
12ビットA/Dコンバータ（ADC12）	選択可能	停止（保持）	選択可能（注18）	停止（不定）
プログラマブルゲインアンプ（PGA）	選択可能（注19）	選択可能（注19）	選択可能（注19）	停止（不定）
12ビットD/Aコンバータ（DAC12）	選択可能	停止（保持）	選択可能	停止（不定）
静電容量式タッチセンシングユニット（CTSU）	選択可能	停止（保持）	選択可能	停止（不定）
データ演算回路（DOC）	選択可能	停止（保持）	選択可能	停止（不定）
シリアルコミュニケーションインタフェース（SCI0）	選択可能	停止（保持）	選択可能 （スヌーズモードへ遷移するためにRXD0立ち下がりエッジが利用可能） （調歩同期式モード時のみ）（注14）	停止（不定）
シリアルコミュニケーションインタフェース（SCIn、n = 1～4、8、9）	選択可能	停止（保持）	動作禁止	停止（不定）
I^2Cバスインタフェース（IIC0）	選択可能	選択可能（注13）	選択可能（注13）	停止（不定）
I^2Cバスインタフェース（IIC1）	選択可能	停止（保持）	動作禁止	停止（不定）
イベントリンクコントローラ（ELC）	選択可能	停止（保持）	選択可能（注10）	停止（不定）
高速アナログコンパレータ（ACMPHS0）	選択可能	選択可能（注12）	選択可能 VCOUT機能のみ（注12）	停止（不定）
高速アナログコンパレータ（ACMPHSn、n = 1～5）	選択可能	選択可能（注11）	選択可能 VCOUT機能のみ（注11）	停止（不定）
IRQn（n = 0～13）端子割り込み	選択可能	選択可能	選択可能	停止（不定）

表 11.2　各低消費電力モードの動作状態 (3/3)

項目	スリープモード	ソフトウェアスタンバイモード	スヌーズモード（注1）	ディープソフトウェアスタンバイモード
NMI、IRQn-DS（n =0, 1, 4～12）端子割り込み	選択可能	選択可能	選択可能	選択可能
キー割り込み機能（KINT）	選択可能	選択可能	選択可能	停止（不定）
低電圧検出（LVD）	選択可能	選択可能	選択可能	選択可能（注15）
パワーオンリセット回路	動作	動作	動作	動作（注16）
その他の周辺モジュール	選択可能	停止（保持）	動作禁止	停止（不定）
I/Oポート	動作	保持（注17）	動作	保持（注17）

注 .　「選択可能」とは、動作／停止がコントロールレジスタで選択できることを意味します。
「停止（保持）」とは、内部レジスタの内容は保持されるが、動作は中断されることを意味します。
「動作禁止」とは、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、その機能を停止させる必要があることを意味します。
「停止（不定）」とは、内部レジスタの内容が不定で、内部回路への通電が遮断されることを意味します。

注 1.　モジュールストップビットが 0 に設定されているモジュールはすべて、スヌーズモード遷移後に PCLK が供給されると、ただちに起動します。スヌーズモード時に消費電力の増大を防ぐには、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、スヌーズモードで不要なモジュールのストップビットを 1 にしてください。

注 2.　スヌーズモードで SCI0 を使用する場合、MOSCCR.MOSTP ビットと PLLCR.PLLSTP ビットは 1 でなければいけません。

注 3.　DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットが 00b の場合、発振器の状態はディープソフトウェアスタンバイモード遷移前と同じです。
DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットが 00b でない場合、MCU がディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移すると発振器は停止します。

注 4.　クロックアウトプットソース選択ビット（CKOCR.CKOSEL[2:0]）が 010b（LOCO）および 100b（SOSC）以外の値に設定されている場合は停止します。

注 5.　DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットが 00b の場合、ディープソフトウェアスタンバイモードではスタンバイ SRAM のデータが保持されます。DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットが 00b でない場合、ディープソフトウェアスタンバイモードではスタンバイ SRAM のデータは不定です。

注 6.　DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットが 00b の場合、ディープソフトウェアスタンバイモードでは、USB レジューム検出回路レジスタの値が保持され、USB レジューム検出機能が有効になります。その他のレジスタの値は不定です。
DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットが 00b でない場合、ディープソフトウェアスタンバイモードでは全レジスタの値が不定です。

注 7.　IWDT 専用オンチップ発振器および IWDT は、IWDT オートスタートモー時にプション機能選択レジスタ 0(OFS0) の IWDT 停止制御ビット（IWDTSTPCTL）の設定により、動作または停止を選択することが可能です。WDT は、WDT オートスタートモード時にオプション機能選択レジスタ 0(OFS0) の WDT 停止制御ビット（WDTSTPCTL）の設定により、動作または停止を選択することが可能です。

注 8.　RCR4.RCKSEL ビットが 1（LOCO）になっている場合、ディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットを 00b にする必要があります。

注 9.　AGT0.AGTMR1.TCK[2:0] ビットで 100b（AGTLCLK）または 110b（AGTSCLK）が選択されている場合、AGT0 は動作可能です。
AGT1.AGTMR1.TCK[2:0] ビットで 100b（AGTLCLK）、110b（AGTSCLK）、または 101b（AGT0 からのアンダーフローイベント信号）が選択されている場合、AGT1 は動作可能です。
AGTn.AGTMR1.TCK[2:0] ビット（n = 0, 1）で 100b（AGTLCLK）が選択されている場合、ディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットを 00b にする必要があります。

注 10.　イベントは、11.10.13　スヌーズモードにおける ELC イベントに記載のものに限定されます。

注 11.　VCOUT 機能のみが許可されます。ACMPHS がデジタルフィルタを使用していない場合に、VCOUT 端子は動作します。
デジタルフィルタの詳細については、「45.　高速アナログコンパレータ（ACMPHS）」を参照してください。

注 12.　CMPCTL.CSTEN ビットが 1 の場合、コンパレータ検出によるソフトウェアスタンバイモードの解除またはスヌーズモードへの遷移が可能です。

注 13.　IIC0 ウェイクアップ割り込みが利用可能です。

注 14.　SCI0 のシリアル通信モードは、調歩同期式モードです。

注 15.　ディープソフトウェアスタンバイモードで LVD を使用する場合、ディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットを 00b または 01b にする必要があります。

注 16.　DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットが 11b の状態で MCU がディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移した場合、LVD 回路は停止し、パワーオンリセット回路の低消費電力機能が有効になります。

注 17.　アドレスバスとバス制御信号（CS0、CS1、CS4 ～ CS7、RD、WR0、および ALE）に対しては、出力状態を維持するか、またはハイインピーダンス状態へ変化するかを SBYCR.OPE ビットで選択可能です。

注 18.　スヌーズモードで 12 ビット A/D コンバータを使用する場合、ADCMPCR.CMPAE ビットおよび ADCMPCR.CMPBE ビットは 1 でなければいけません。

注 19.　プログラマブルゲインアンプを使用する場合、MSTPDn（n = 15, 16）を 0 にする必要があります。詳細は「42.3.12　プログラマブルゲインアンプ」を参照してください。

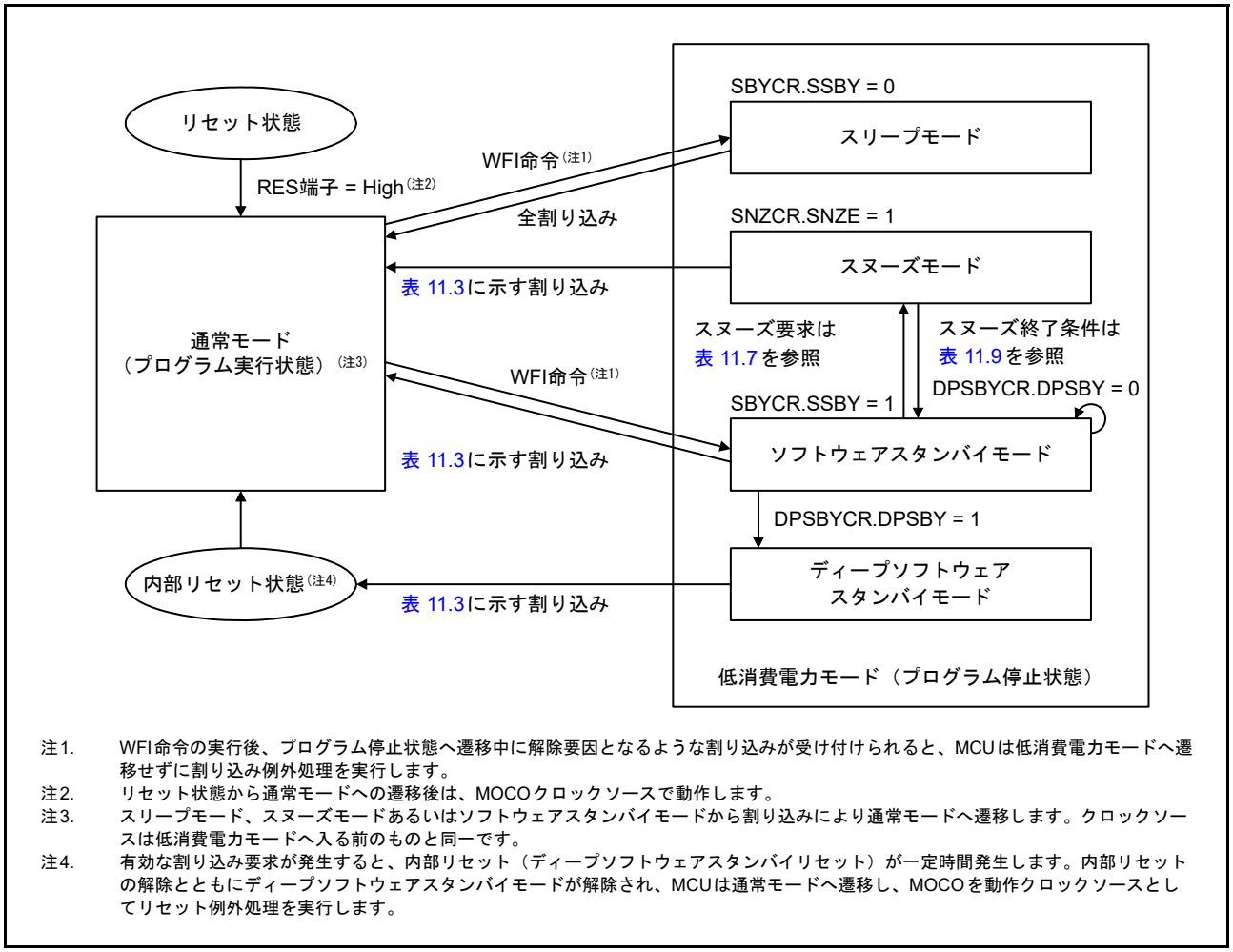
表 11.3 スヌーズモード、ソフトウェアスタンバイモード、ディープソフトウェアスタンバイモードを解除するための割り込み要因

割り込み要因	名称	ソフトウェアスタンバイモード	スヌーズモード	ディープソフトウェアスタンバイモード
NMI		可能	可能	可能
ポート	PORT_IRQn（n = 0～13）	可能	可能	不可能
	PORT_IRQn-DS（n = 0, 1, 4～12）	可能	可能	可能
LVD	LVD_LVD1	可能	可能	可能
	LVD_LVD2	可能	可能	可能
IWDT	IWDT_NMIUNDF	可能	可能	不可能
USBFS	USBFS_USBR	可能	可能	可能
RTC	RTC_ALM	可能	可能	可能
	RTC_PRD	可能	可能	可能
KINT	KEY_INTKR	可能	可能	不可能
AGT1	AGT1_AGTI	可能	可能（注3）	可能
	AGT1_AGTCMAI	可能	可能	不可能
	AGT1_AGTCMBI	可能	可能	不可能
ACMPHS	ACMP_HS0	可能	可能	不可能
IIC0	IIC0_WUI	可能	可能	不可能
ADC12n (n = 0, 1)	ADC12n_WCMPM	不可能	SELSR0で可能（注1）（注3）	不可能
	ADC12n_WCMPUM	不可能	SELSR0で可能（注1）（注3）	不可能
SCI0	SCI0_AM	不可能	SELSR0で可能（注1）（注2）	不可能
	SCI0_RXI_OR_ERI	不可能	SELSR0で可能（注1）（注2）	不可能
DTC	DTC_COMPLETE	不可能	SELSR0で可能（注1）（注3）	不可能
DOC	DOC_DOPCI	不可能	SELSR0で可能（注1）	不可能
CTSU	CTSU_CTSUFN	不可能	SELSR0で可能（注1）	不可能

注 1. 割り込み要求をスヌーズモードからの復帰トリガとして使用するには、この割り込み要求を SELSR0 で選択する必要があります。「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。SELSR0 で選択したトリガが、WFI 命令の実行後、通常モードからソフトウェアスタンバイモードへの遷移途中に発生した場合は、その要求が受け付けられる可能性はトリガ発生のタイミングに依存します。

注 2. SCI0_AM または SCI0_RXI_OR_ERI のいずれか一方のみ選択可能です。

注 3. SNZEDCR レジスタで許可されたイベントを使用してはいけません。



注1. WFI命令の実行後、プログラム停止状態へ遷移中に解除要因となるような割り込みが受け付けられると、MCUは低消費電力モードへ遷移せずに割り込み例外処理を実行します。
注2. リセット状態から通常モードへの遷移後は、MOCOクロックソースで動作します。
注3. スリープモード、スヌーズモードあるいはソフトウェアスタンバイモードから割り込みにより通常モードへ遷移します。クロックソースは低消費電力モードへ入る前のものと同一です。
注4. 有効な割り込み要求が発生すると、内部リセット（ディープソフトウェアスタンバイリセット）が一定時間発生します。内部リセットの解除とともにディープソフトウェアスタンバイモードが解除され、MCUは通常モードへ遷移し、MOCOを動作クロックソースとしてリセット例外処理を実行します。

図 11.1 モード遷移

11.2 レジスタの説明

11.2.1 スタンバイコントロールレジスタ（SBYCR）

アドレス SYSTEM.SBYCR 4001 E00Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SSBY	OPE	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b13-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b14	OPE	出力ポート許可	0：ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモード時、アドレスバスとバス制御信号をハイインピーダンス状態に設定。スヌーズモード時、アドレスバスとバス制御信号の状態はソフトウェアスタンバイモード遷移前と同じ 1：ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモード時、アドレスバスとバス制御信号の出力状態を保持	R/W
b15	SSBY	ソフトウェアスタンバイ	0：スリープモード 1：DPSBYCR.DPSBY = 0の場合、ソフトウェアスタンバイモード、DPSBYCR.DPSBY = 1の場合、ディープソフトウェアスタンバイモード	R/W

OPE ビット（出力ポート許可）

ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモード時に、アドレスバスとバス制御信号（CS0、CS1、CS4 ～ CS7、RD、WR0、および ALE）の出力をハイインピーダンス状態にするか保持するかを選択します。

SSBY ビット（ソフトウェアスタンバイ）

WFI 命令実行後の遷移先を設定します。

本ビットが 1 の状態で WFI 命令を実行すると、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移します。なお、MCU が割り込みによってソフトウェアスタンバイモードを解除したときは、SSBY ビットは 1 のままです。0 を書き込むことにより、SSBY ビットをクリアできます。

OSTDCR.OSTDE ビットが 1 のときは、SSBY ビットは無視されます。SSBY ビットが 1 であっても、WFI 命令を実行するとスリープモードへ遷移します。

FENTRYR.FENTRYi ビット（i = 0 ～ 3）が 1、または FENTRYR.FENTRYD ビットが 1 の場合、SSBY ビットの設定は無視されます。SSBY ビットが 1 であっても、WFI 命令を実行するとスリープモードへ遷移します。詳細は表 11.6 を参照してください。

HOCO クロックを使用してソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合、STCONR.STCON[1:0] ビットは 00b、HOCOWTCR.HSTS[2:0] ビットは 110b にしてください。ただし、スヌーズモードで SCI0 を使用しているときは、HOCOWTCR.HSTS[2:0] ビットは 010b にしてください。

11.2.2 モジュールストップコントロールレジスタ A（MSTPCRA）

アドレス SYSTEM.MSTPCRA 4001 E01Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	MSTPA22	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	MSTPA7	MSTPA6	MSTPA5	—	—	—	—	MSTPA0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MSTPA0	SRAM0モジュールストップ設定（注1）	対象モジュール：SRAM0 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b4-b1	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b5	MSTPA5	高速SRAMモジュールストップ設定	対象モジュール：高速SRAM 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b6	MSTPA6	ECC SRAMモジュールストップ設定（注1）	対象モジュール：ECC SRAM 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b7	MSTPA7	スタンバイSRAMモジュールストップ設定	対象モジュール：スタンバイSRAM 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b21-b8	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b22	MSTPA22	DMAコントローラ／データトランスファコントローラモジュールストップ設定（注2）	対象モジュール：DMAC, DTC 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b31-b23	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W

注 1. MSTPA0 ビットと MSTPA6 ビットの設定値は同じでなければいけません。
注 2. MSTPA22 ビットを 0 から 1 に書き換える場合、DMAC および DTC を無効にしてから MSTPA22 ビットを設定してください。

11.2.3 モジュールストップコントロールレジスタ B（MSTPCRB）

アドレス MSTP.MSTPCRB 4004 7000h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	MSTPB31	MSTPB30	MSTPB29	MSTPB28	MSTPB27	—	—	—	MSTPB23	MSTPB22	—	—	MSTPB19	MSTPB18	—	—
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	MSTPB11	—	MSTPB9	MSTPB8	—	MSTPB6	MSTPB5	—	—	MSTPB2	MSTPB1	—
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b1	MSTPB1	コントローラエリアネットワーク1モジュールストップ設定（注1）	対象モジュール：CAN1 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b2	MSTPB2	コントローラエリアネットワーク0モジュールストップ設定（注1）	対象モジュール：CAN0 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b4-b3	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b5	MSTPB5	IrDAモジュールストップ設定	対象モジュール：IrDA 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b6	MSTPB6	クワッドシリアルペリフェラルインタフェースモジュールストップ設定	対象モジュール：QSPI 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b7	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b8	MSTPB8	I^2Cバスインタフェース1モジュールストップ設定	対象モジュール：IIC1 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b9	MSTPB9	I^2Cバスインタフェース0モジュールストップ設定	対象モジュール：IIC0 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b10	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b11	MSTPB11	ユニバーサルシリアルバス2.0 FSインタフェースモジュールストップ設定（注2）	対象モジュール：USBFS 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b17-b12	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b18	MSTPB18	シリアルペリフェラルインタフェース1モジュールストップ設定	対象モジュール：SPI1 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b19	MSTPB19	シリアルペリフェラルインタフェース0モジュールストップ設定	対象モジュール：SPI0 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b21-b20	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b22	MSTPB22	シリアルコミュニケーションインタフェース9モジュールストップ設定	対象モジュール：SCI9 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b23	MSTPB23	シリアルコミュニケーションインタフェース8モジュールストップ設定	対象モジュール：SCI8 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b26-b24	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b27	MSTPB27	シリアルコミュニケーションインタフェース 4 モジュールストップ設定	対象モジュール：SCI4 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b28	MSTPB28	シリアルコミュニケーションインタフェース 3 モジュールストップ設定	対象モジュール：SCI3 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b29	MSTPB29	シリアルコミュニケーションインタフェース 2 モジュールストップ設定	対象モジュール：SCI2 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b30	MSTPB30	シリアルコミュニケーションインタフェース 1 モジュールストップ設定	対象モジュール：SCI1 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b31	MSTPB31	シリアルコミュニケーションインタフェース 0 モジュールストップ設定	対象モジュール：SCI0 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W

注 1. MSTPBi ビットの書き換えは、このビットによって制御されるクロックの発振が安定しているときに行う必要があります。本ビットを書き換えた後、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移するには、書き換え後 CAN クロック（CANMCLK）が 2 サイクル経過してから WFI 命令を実行してください（i = 1, 2）。

注 2. MSTPB11 ビットを書き換えた後、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、書き換え後 USB クロック（UCLK）が 2 サイクル経過してから WFI 命令を実行してください。

11.2.4 モジュールストップコントロールレジスタ C（MSTPCRC）

アドレス MSTP.MSTPCRC 4004 7004h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	MSTPC31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	MSTPC14	MSTPC13	MSTPC12	MSTPC11	—	MSTPC9	MSTPC8	—	—	—	—	MSTPC3	—	MSTPC1	MSTPC0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MSTPC0 （注1）	クロック周波数精度測定回路モジュールストップ設定	対象モジュール：CAC 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b1	MSTPC1	巡回冗長検査演算器モジュールストップ設定	対象モジュール：CRC 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b2	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b3	MSTPC3	静電容量式タッチセンシングユニットモジュールストップ設定	対象モジュール：CTSU 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b8	MSTPC8	拡張シリアルサウンドインタフェース（チャネル0）モジュールストップ設定	対象モジュール：SSIE0 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b9	MSTPC9	サンプリングレートコンバータモジュールストップ設定	対象モジュール：SRC 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b10	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b11	MSTPC11	セキュアデジタルホストIF／マルチメディアカード1モジュールストップ設定	対象モジュール：SDHI/MMC1 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b12	MSTPC12	セキュアデジタルホストIF／マルチメディアカード0モジュールストップ設定	対象モジュール：SDHI/MMC0 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b13	MSTPC13	データ演算回路モジュールストップ設定	対象モジュール：DOC 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b14	MSTPC14	イベントリンクコントローラモジュールストップ設定	対象モジュール：ELC 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b30-b15	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b31	MSTPC31	SCE7モジュールストップ設定	対象モジュール：SCE7 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W

注 1. MSTPC0 ビットの書き換えは、このビットによって制御されるクロックの発振が安定しているときに行う必要があります。本ビットを書き換えた後、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、発振器によって出力されるクロックのうち、最も遅いクロックが 2 サイクル経過してから WFI 命令を実行してください。

11.2.5 モジュールストップコントロールレジスタ D（MSTPCRD）

アドレス MSTP.MSTPCRD 4004 7008h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	MSTPD28	MSTPD27	MSTPD26	MSTPD25	MSTPD24	MSTPD23	MSTPD22	—	MSTPD20	—	—	—	MSTPD16
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	MSTPD15	MSTPD14	—	—	—	—	—	—	—	MSTPD6	MSTPD5	—	MSTPD3	MSTPD2	—	—
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b2	MSTPD2	低消費電力非同期汎用タイマ1モジュールストップ設定（注1）	対象モジュール：AGT1 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b3	MSTPD3	低消費電力非同期汎用タイマ0モジュールストップ設定（注2）	対象モジュール：AGT0 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b4	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b5	MSTPD5	汎用PWMタイマ32EH0～32EH3、32E4～32E7およびPWM遅延発生回路モジュールストップ設定	対象モジュール：GPT32EHx（x = 0～3）、GPT32Ey（y = 4～7）およびPWM遅延発生回路 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b6	MSTPD6	汎用PWMタイマ328～3212モジュールストップ設定	対象モジュール：GPT32x（x = 8～12） 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b13-b7	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b14	MSTPD14	GPT用ポートアウトプットイネーブルモジュールストップ設定	対象モジュール：POEG 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b15	MSTPD15	12ビットA/Dコンバータ1モジュールストップ設定	対象モジュール：ADC121 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b16	MSTPD16	12ビットA/Dコンバータ0モジュールストップ設定	対象モジュール：ADC120 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b19-b17	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b20	MSTPD20	12ビットD/Aコンバータモジュールストップ設定	対象モジュール：DAC12 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b21	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b22	MSTPD22	温度センサモジュールストップ設定	対象モジュール：TSN 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b23	MSTPD23	高速アナログコンパレータ5モジュールストップ設定	対象モジュール：ACMPHS5 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b24	MSTPD24	高速アナログコンパレータ4モジュールストップ設定	対象モジュール：ACMPHS4 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b25	MSTPD25	高速アナログコンパレータ3モジュールストップ設定	対象モジュール：ACMPHS3 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b26	MSTPD26	高速アナログコンパレータ 2 モジュールストップ設定	対象モジュール：ACMPHS2 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b27	MSTPD27	高速アナログコンパレータ 1 モジュールストップ設定	対象モジュール：ACMPHS1 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b28	MSTPD28	高速アナログコンパレータ 0 モジュールストップ設定	対象モジュール：ACMPHS0 0：モジュールストップ状態を解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b31-b29	—	予約ビット	読むと 1 が読めます。書く場合、1 としてください。	R/W

注 1. カウントソースがサブクロック発振器または LOCO の場合、MSTPD2 ビットを 1 にしても、AGT1 のカウントは停止しません。カウントソースがサブクロック発振器または LOCO の場合、AGT1 レジスタにアクセスする場合を除いて、このビットを 1 にする必要があります。

注 2. カウントソースがサブクロック発振器または LOCO の場合、MSTPD3 ビットを 1 にしても、AGT0 のカウントは停止しません。カウントソースがサブクロック発振器または LOCO の場合、AGT0 レジスタにアクセスする場合を除いて、このビットを 1 にする必要があります。

11.2.6 動作電力コントロールレジスタ（OPCCR）

アドレス SYSTEM.OPCCR 4001 E0A0h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	OPCMTSF	—	—	OPCM[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	OPCM[1:0]	動作電力制御モード選択	b1 b0 0 0 : High-speed モード 1 1 : Low-speed モード 上記以外は設定しないでください。	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b4	OPCMTSF	動作電力制御モード遷移状態フラグ	• 読み出し 0：遷移完了 1：遷移中 • 書き込み 書く場合、0 としてください。	R
b7-b5	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

OPCCR レジスタは、低い動作周波数と動作電圧を指定することによって、通常モードとスリープモード時の消費電力を低減させるためのレジスタです。動作電力制御モードの変更手順については、11.5 低消費電力機能を参照してください。

ソフトウェアスタンバイモードから通常モードまたはスヌーズモードへ遷移する場合は、ソフトウェアスタンバイモード遷移前の設定値にかかわらず、OPCCR.OPCM[1:0] ビットと SOPCCR.SOPCM ビットの設定値は以下のとおりです。

- OPCCR.OPCM[1:0] = 00b（High-speed モード）
- SOPCCR.SOPCM = 0b（Subosc-speed モード以外）

ソフトウェアスタンバイモードへの遷移が完了する前にソフトウェアスタンバイモードが解除されると、OPCCR.OPCM[1:0] ビットと SOPCCR.SOPCM ビットは、WFI 命令実行前の設定値を保持します。これによって問題が生じる場合は、ソフトウェアスタンバイモードを解除する際の例外処理手順において MCU を High-speed モードに設定してください。

OPCM[1:0] ビット（動作電力制御モード選択）

通常モードとスリープモード時の動作電力制御モードを選択します。表 11.4 は、各動作電力制御モードと、OPCM[1:0] ビットおよび SOPCM ビットの設定値との関係を示しています。

OPCMTSF フラグ（動作電力制御モード遷移状態フラグ）

動作電力制御モード切り替え時の切り替え制御状態を示します。本フラグは、OPCM[1:0] ビットへのライトアクセス時に 1 になり、モード遷移が完了すると 0 になります。本フラグが 0 であることを確認してから次の処理を行ってください。

11.2.7　サブ動作電力コントロールレジスタ（SOPCCR）

アドレス　SYSTEM.SOPCCR 4001 E0AAh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	SOPCMTSF	—	—	—	SOPCM
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SOPCM	サブ動作電力制御モード選択	0：Subosc-speed モード以外 1：Subosc-speed モード	R/W
b3-b1	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b4	SOPCMTSF	サブ動作電力制御モード遷移状態フラグ	0：遷移完了 1：遷移中	R
b7-b5	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

SOPCCR レジスタは、Subosc-speed モードへの遷移とこのモードからの復帰によって、通常モードとスリープモード時の消費電力を低減させるためのレジスタです。Subosc-speed モードは、サブクロック発振器または分周なしの LOCO を使用した場合に限り利用可能です。

FCACHEE.FCACHEEN を 0 にしてフラッシュキャッシュ機能を禁止にしてから、動作電力制御モードを変更してください。詳細は、「50.　フラッシュメモリ」を参照してください。

動作電力制御モードの変更手順については、11.5　低消費電力機能を参照してください。

SOPCM ビット（サブ動作電力制御モード選択）

通常モードおよびスリープモード時の動作電力制御モードを選択します。このビットを 1 にすることで、Subosc-speed モードへ遷移できます。また、このビットを 0 にすることで、Subosc-speed モード遷移前の動作モード（OPCCR.OPCM[1:0] で設定された動作モード）へ復帰できます。

ソフトウェアスタンバイモードから通常モードまたはスヌーズモードへ遷移する場合、ソフトウェアスタンバイモード遷移前の設定値にかかわらず、OPCCR.OPCM[1:0] ビットと SOPCCR.SOPCM ビットの設定値は以下のとおりです。

- OPCCR.OPCM[1:0] = 00b（High-speed モード）
- SOPCCR.SOPCM = 0b（Subosc-speed モード以外）

ソフトウェアスタンバイモードへの遷移が完了する前にソフトウェアスタンバイモードが解除されると、OPCCR.OPCM[1:0] ビットと SOPCCR.SOPCM ビットは、WFI 命令実行前の設定値を保持します。これによって問題が生じる場合は、ソフトウェアスタンバイモードを解除する際の例外処理手順において MCU を High-speed モードに設定してください。

表 11.4 は、各動作電力制御モードと、OPCM[1:0] ビットおよび SOPCM ビットの設定値との関係を示しています。

SOPCMTSF フラグ（サブ動作電力制御モード遷移状態フラグ）

動作電力制御モードを Subosc-speed モードへまたは Subosc-speed モードから切り替えたときの切り替え制御状態を示します。本フラグは、SOPCM ビットへのライトアクセス時に 1 になり、モード遷移が完了すると 0 になります。本フラグが 0 であることを確認してから次の処理を行ってください。

表 11.4 に、各動作電力制御モードを示します。

表 11.4　　各動作電力制御モードと、OPCM[1:0] ビットおよびSOPCM ビットの設定値との関係

動作電力制御モード	OPCM[1:0] ビット	SOPCM ビット	消費電力
High-speed モード	00b	0	高 ↓ 低
Low-speed モード	11b	0	
Subosc-speed モード	00b, 11b	1	

注 .　　動作周波数範囲と電圧範囲については、「52.　電気的特性」を参照してください。

High-speed モード

リセット解除後、MCU はこのモードで動作します。

Low-speed モード

Low-speed モードには下記の制限事項があります。

- フラッシュメモリに対するプログラム／イレース操作は禁止
- PLL は使用禁止。11.10.1　レジスタアクセスを参照してください。

このモードでは、同じ条件（動作周波数、動作電圧など）で同じ動作をさせる場合、High-speed モードよりも消費電力を低減できます。

Subosc-speed モード

Subosc-speed モードには下記の制限事項があります。

- フラッシュメモリに対するプログラム／イレース操作は禁止
- データフラッシュの読み出しは禁止
- MOSC、PLL、MOCO、HOCO は使用禁止。11.10.1　レジスタアクセスを参照してください。
- ICK または FCK に対して分周クロックは使用禁止。11.10.1　レジスタアクセスを参照してください。
- メインクロック発振器の発振停止検出機能は使用禁止

11.2.8 スヌーズコントロールレジスタ（SNZCR）

アドレス SYSTEM.SNZCR 4001 E092h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SNZE	—	—	—	—	—	SNZDTCEN	RXDREQEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RXDREQEN	RXD0スヌーズ要求許可	0：ソフトウェアスタンバイモード時にRXD0の立ち下がりエッジを無視 1：ソフトウェアスタンバイモード時にRXD0の立ち下がりエッジを検出	R/W
b1	SNZDTCEN	スヌーズモード時のDTC許可	0：スヌーズモード時にDTC動作を禁止 1：スヌーズモード時にDTC動作を許可	R/W
b6-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	SNZE	スヌーズモード許可	0：スヌーズモードを禁止 1：スヌーズモードを許可	R/W

RXDREQEN ビット（RXD0 スヌーズ要求許可）

ソフトウェアスタンバイモード時に RXD0 端子の立ち下がりエッジを検出するか否かを指定します。このビットは SCI0 が調歩同期式モードで作動しているときのみ使用可能です。RXD0 端子の立ち下がりエッジを検出するには、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、このビットを設定してください。このビットが 1 の場合、ソフトウェアスタンバイモード時に RXD0 端子の立ち下がりエッジが検出されると、MCU はスヌーズモードへ遷移します。

SNZDTCEN ビット（スヌーズモード時の DTC 許可）

スヌーズモード時に DTC と SRAM を使用するか否かを指定します。スヌーズモードで DTC と SRAM を使用するには、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、このビットを 1 にしてください。このビットが 1 の場合、IELSRn（ICU イベントリンク設定レジスタ n）を設定することで、DTC を起動することが可能です。

SNZE ビット（スヌーズモード許可）

ソフトウェアスタンバイモードからスヌーズモードへの遷移を許可または禁止します。スヌーズモードを使用するには、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、このビットを 1 にしてください。このビットを 1 にすると、ソフトウェアスタンバイモード時に発生するいずれかのイベントトリガ（表 11.7 に示すもの）によって、MCU はスヌーズモードへ遷移します。ソフトウェアスタンバイモードまたはスヌーズモードから通常モードへ遷移した後、ソフトウェアスタンバイモードへ再遷移する場合は、あらかじめ SNZE ビットをいったんクリアしてから再設定してください。詳細は、11.8 スヌーズモードを参照してください。

11.2.9 スヌーズ終了コントロールレジスタ（SNZEDCR）

アドレス SYSTEM.SNZEDCR 4001 E094h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SCI0UMTED	AD1UMTED	AD1MATED	AD0UMTED	AD0MATED	DTCNZRED	DTCZRED	AGTUNFED
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	AGTUNFED	AGT1アンダーフロー時スヌーズ終了許可	0：スヌーズ終了要求を禁止 1：スヌーズ終了要求を許可	R/W
b1	DTCZRED	最後のDTC送信完了時スヌーズ終了許可	0：スヌーズ終了要求を禁止 1：スヌーズ終了要求を許可	R/W
b2	DTCNZRED	最後以外のDTC送信完了時スヌーズ終了許可	0：スヌーズ終了要求を禁止 1：スヌーズ終了要求を許可	R/W
b3	AD0MATED	ADコンペアマッチ0スヌーズ終了許可	0：スヌーズ終了要求を禁止 1：スヌーズ終了要求を許可	R/W
b4	AD0UMTED	ADコンペア不一致0スヌーズ終了許可	0：スヌーズ終了要求を禁止 1：スヌーズ終了要求を許可	R/W
b5	AD1MATED	ADコンペアマッチ1スヌーズ終了許可	0：スヌーズ終了要求を禁止 1：スヌーズ終了要求を許可	R/W
b6	AD1UMTED	ADコンペア不一致1スヌーズ終了許可	0：スヌーズ終了要求を禁止 1：スヌーズ終了要求を許可	R/W
b7	SCI0UMTED	SCI0アドレス不一致スヌーズ終了許可	0：スヌーズ終了要求を禁止 1：スヌーズ終了要求を許可	R/W

表 11.8 に示すトリガの 1 つをスヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードへの切り替え条件として使用するには、SNZEDCR レジスタの対応するビットを 1 にしてください。

表 11.3 に示したような、スヌーズモードから通常モードへ復帰させるためのイベントは、SNZEDCR レジスタで許可しないでください。

AGTUNFED ビット（AGT1 アンダーフロー時スヌーズ終了許可）

AGT1 アンダーフロー時のスヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードへの遷移を許可または禁止します。トリガ条件については、「25. 低消費電力非同期汎用タイマ（AGT）」を参照してください。

DTCZRED ビット（最後の DTC 送信完了時スヌーズ終了許可）

最後の DTC 送信完了時（DTC の CRA または CRB レジスタが 0 のとき）のスヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードへの遷移を許可または禁止します。トリガ条件については、「18. データトランスファコントローラ（DTC）」を参照してください。

DTCNZRED ビット（最後以外の DTC 送信完了時スヌーズ終了許可）

各 DTC 送信完了時（DTC の CRA または CRB レジスタが 0 以外のとき）のスヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードへの遷移を許可または禁止します。トリガ条件については、「18. データトランスファコントローラ（DTC）」を参照してください。

AD0MATED ビット（AD コンペアマッチ 0 スヌーズ終了許可）

変換結果が期待値と一致した場合に、AD0 イベントによるスヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードへの遷移を許可または禁止します。トリガ条件については、「42. 12 ビット A/D コンバータ（ADC12）」を参照してください。

AD0UMTED ビット（AD コンペア不一致 0 スヌーズ終了許可）

変換結果が期待値と一致しない場合に、AD0 イベントによるスヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードへの遷移を許可または禁止します。トリガ条件については、「42. 12 ビット A/D コンバータ（ADC12）」を参照してください。

AD1MATED ビット（AD コンペアマッチ 1 スヌーズ終了許可）

変換結果が期待値と一致した場合に、AD1 イベントによるスヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードへの遷移を許可または禁止します。トリガ条件については、「42. 12 ビット A/D コンバータ（ADC12）」を参照してください。

AD1UMTED ビット（AD コンペア不一致 1 スヌーズ終了許可）

変換結果が期待値と一致しない場合に、AD1 イベントによるスヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードへの遷移を許可または禁止します。トリガ条件については、「42. 12 ビット A/D コンバータ（ADC12）」を参照してください。

SCI0UMTED ビット（SCI0 アドレス不一致スヌーズ終了許可）

ソフトウェアスタンバイモード時に受信したアドレスが期待値と一致しない場合に、SCI0 イベントによるスヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードへの遷移を許可または禁止します。トリガ条件については、「30. シリアルコミュニケーションインタフェース（SCI）」を参照してください。このビットは SCI0 が調歩同期式モードを作動しているときにのみ 1 にしてください。

11.2.10 スヌーズ要求コントロールレジスタ（SNZREQCR）

アドレス SYSTEM.SNZREQCR 4001 E098h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	SNZREQEN30	SNZREQEN29	SNZREQEN28	—	—	SNZREQEN25	SNZREQEN24	—	SNZREQEN22	—	—	—	—	SNZREQEN17	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	SNZREQEN13	SNZREQEN12	SNZREQEN11	SNZREQEN10	SNZREQEN9	SNZREQEN8	SNZREQEN7	SNZREQEN6	SNZREQEN5	SNZREQEN4	SNZREQEN3	SNZREQEN2	SNZREQEN1	SNZREQEN0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SNZREQEN0	スヌーズ要求許可0	IRQ0端子のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b1	SNZREQEN1	スヌーズ要求許可1	IRQ1端子のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b2	SNZREQEN2	スヌーズ要求許可2	IRQ2端子のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b3	SNZREQEN3	スヌーズ要求許可3	IRQ3端子のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b4	SNZREQEN4	スヌーズ要求許可4	IRQ4端子のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b5	SNZREQEN5	スヌーズ要求許可5	IRQ5端子のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b6	SNZREQEN6	スヌーズ要求許可6	IRQ6端子のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b7	SNZREQEN7	スヌーズ要求許可7	IRQ7端子のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b8	SNZREQEN8	スヌーズ要求許可8	IRQ8端子のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b9	SNZREQEN9	スヌーズ要求許可9	IRQ9端子のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b10	SNZREQEN10	スヌーズ要求許可10	IRQ10端子のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b11	SNZREQEN11	スヌーズ要求許可11	IRQ11端子のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b12	SNZREQEN12	スヌーズ要求許可12	IRQ12端子のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b13	SNZREQEN13	スヌーズ要求許可13	IRQ13端子のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b16-b14	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b17	SNZREQEN17	スヌーズ要求許可17	キー割り込みのスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b21-b18	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b22	SNZREQEN22	スヌーズ要求許可22	ACMPHS0のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b23	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b24	SNZREQEN24	スヌーズ要求許可24	RTCアラームのスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b25	SNZREQEN25	スヌーズ要求許可25	RTC周期のスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b27-b26	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b28	SNZREQEN28	スヌーズ要求許可28	AGT1アンダーフローのスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b29	SNZREQEN29	スヌーズ要求許可29	AGT1コンペアマッチAのスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b30	SNZREQEN30	スヌーズ要求許可30	AGT1コンペアマッチBのスヌーズ要求を許可 0：スヌーズ要求禁止 1：スヌーズ要求許可	R/W
b31	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

SNZREQCR レジスタは、MCU をソフトウェアスタンバイモードからスヌーズモードへ切り替えるためのトリガを制御します。WUPEN レジスタ（「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照）において、トリガがソフトウェアスタンバイモードの解除要求として選択されている場合、SNZREQCR の対応するビットが 1 であっても、そのトリガが発生すると MCU は通常モードへ遷移します。WUPEN レジスタの設定値は、SNZREQCR レジスタの設定値よりも常に優先順位は高くなります。詳細は、11.8 スヌーズモードと「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

11.2.11 ディープソフトウェアスタンバイコントロールレジスタ（DPSBYCR）

アドレス SYSTEM.DPSBYCR 4001 E400h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DPSBY	IOKEEP	—	—	—	—	DEEPCUT[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	DEEPCUT[1:0]	電源制御	b1 b0 0 0：ディープソフトウェアスタンバイモード時に、スタンバイSRAM、低速オンチップオシレータ、AGTn、およびUSBFSレジューム検出部へ電源を供給する 0 1：ディープソフトウェアスタンバイモード時に、スタンバイSRAM、低速オンチップオシレータ、AGTn、およびUSBFSレジューム検出部へ電源を供給しない 1 0：設定禁止 1 1：ディープソフトウェアスタンバイモード時に、スタンバイSRAM、低速オンチップオシレータ、AGTn、およびUSBFSレジューム検出部へ電源を供給しない。さらに、LVDを無効にし、パワーオンリセット回路の低消費電力機能を有効にする	R/W
b5-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6	IOKEEP	I/Oポート保持	0：ディープソフトウェアスタンバイモード解除時に、I/Oポートをリセット状態にクリア 1：ディープソフトウェアスタンバイモード解除時に、I/Oポートをディープソフトウェアスタンバイモード時と同じ状態に保持	R/W
b7	DPSBY	ディープソフトウェアスタンバイ	0：スリープモード（SBYCR.SSBY = 0）またはソフトウェアスタンバイモード（SBYCR.SSBY = 1） 1：スリープモード（SBYCR.SSBY = 0）またはディープソフトウェアスタンバイモード（SBYCR.SSBY = 1）	R/W

DPSBYCR レジスタは、ディープソフトウェアスタンバイモードを解除する内部リセット信号では初期化されません。詳細は、表 6.2 リセット要因ごとの初期化対象リセット検出フラグを参照してください。

DEEPCUT[1:0] ビット（電源制御）

ディープソフトウェアスタンバイモード時に、スタンバイ SRAM、低速オンチップオシレータ、AGTn、および USBFS レジューム検出部へ供給する内部電源を制御します。さらに、ディープソフトウェアスタンバイモード時に、LVD とパワーオンリセット回路の状態を制御します。ディープソフトウェアスタンバイモードの解除要因として USBFS サスペンド／レジューム割り込みを使用する場合、DEEPCUT[1:0] ビットを 00b にする必要があります。また、ディープソフトウェアスタンバイモード時に LVD 割り込みを使用する場合は、DEEPCUT[1:0] ビットを 00b または 01b にする必要があります。

消費電力を低減させるため、LVD を停止させて、パワーオンリセット回路の低消費電力モード機能を有効にするには、DEEPCUT[1:0] ビットを 11b にしてください。DEEPCUT[1:0] ビットの設定値にかかわらず、ディープソフトウェアスタンバイモード時には SRAM の内部電源供給は停止します。

IOKEEP ビット（I/O ポート保持）

ディープソフトウェアスタンバイモード時に、I/O ポートはソフトウェアスタンバイモード時と同じ状態を維持します。IOKEEP ビットは、ディープソフトウェアスタンバイモードの解除後、I/O ポートの状態をリセットするか否かを指定します。

DPSBY ビット（ディープソフトウェアスタンバイ）

ディープソフトウェアスタンバイモードへの遷移を制御します。詳細は表 11.6 を参照してください。

SBYCR.SSBY ビットと DPSBYCR.DPSBY ビットがともに 1 の状態で WFI 命令を実行すると、ソフトウェアスタンバイモードを経由してディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移します。

外部端子割り込みの発生元となる一部の端子（NMI、IRQ0-DS、IRQ1-DS、および IRQ4-DS ～ IRQ12-DS）、または周辺機能割り込み（RTC アラーム、RTC 周期、USB サスペンド／レジューム、電圧監視 1、電圧監視 2）によってディープソフトウェアスタンバイモードを解除したときは、DPSBY ビットは 1 のままです。このビットを 0 にするには、0 を書いてください。

OFS0.IWDTSTPCTL ビットが 0（カウント継続）の場合、OFS0.IWDTSTRT ビット設定値にかかわらず、DPSBY ビットの設定値は無効です。SBYCR.SSBY ビットと DPSBY ビットが 1 であっても、WFI 命令実行後はソフトウェアスタンバイモードへ遷移します。

また、電圧監視 1 リセットが許可（LVD1CR0.RI = 1）になっている場合、あるいは電圧監視 2 リセットが許可（LVD2CR0.RI = 1）になっている場合も、DPSBY ビットの設定値は無効です。SBYCR.SSBY ビットと DPSBY ビットが 1 であっても、WFI 命令を実行すると MCU はソフトウェアスタンバイモードへ遷移します。

11.2.12　ディープソフトウェアスタンバイ割り込みイネーブルレジスタ 0（DPSIER0）

アドレス　SYSTEM.DPSIER0 4001 E402h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DIRQ7E	DIRQ6E	DIRQ5E	DIRQ4E	—	—	DIRQ1E	DIRQ0E
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DIRQ0E	IRQ0-DS端子許可	IRQ0-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b1	DIRQ1E	IRQ1-DS端子許可	IRQ1-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	DIRQ4E	IRQ4-DS端子許可	IRQ4-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b5	DIRQ5E	IRQ5-DS端子許可	IRQ5-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b6	DIRQ6E	IRQ6-DS端子許可	IRQ6-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b7	DIRQ7E	IRQ7-DS端子許可	IRQ7-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W

DPSIER0 レジスタは、ディープソフトウェアスタンバイモードを解除する内部リセット信号では初期化されません。詳細は、表 6.2　リセット要因ごとの初期化対象リセット検出フラグを参照してください。なお、DPSIER0 レジスタの設定を変更すると、対応する端子の状態によっては内部的にエッジが発生し、対応する DPSIFR0 レジスタのビット値が 1 になる可能性があります。ディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、DPSIFR0 レジスタを 0 にしてください。

11.2.13 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みイネーブルレジスタ 1（DPSIER1）

アドレス SYSTEM.DPSIER1 4001 E403h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	DIRQ12E	DIRQ11E	DIRQ10E	DIRQ9E	DIRQ8E
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DIRQ8E	IRQ8-DS端子許可	IRQ8-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b1	DIRQ9E	IRQ9-DS端子許可	IRQ9-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b2	DIRQ10E	IRQ10-DS端子許可	IRQ10-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b3	DIRQ11E	IRQ11-DS端子許可	IRQ11-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b4	DIRQ12E	IRQ12-DS端子許可	IRQ12-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

DPSIER1 レジスタは、ディープソフトウェアスタンバイモードを解除する内部リセット信号では初期化されません。詳細は、表 6.2 リセット要因ごとの初期化対象リセット検出フラグを参照してください。なお、DPSIER1 レジスタの設定を変更すると、対応する端子の状態によっては内部的にエッジが発生し、対応する DPSIFR1 レジスタのビット値が 1 になる可能性があります。ディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、DPSIFR1 レジスタを 0 にしてください。

11.2.14 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みイネーブルレジスタ 2（DPSIER2）

アドレス SYSTEM.DPSIER2 4001 E404h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	DNMIE	DRTCAIE	DRTCIIE	DLVD2IE	DLVD1IE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DLVD1IE	LVD1ディープソフトウェアスタンバイ解除信号許可	電圧監視1信号によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b1	DLVD2IE	LVD2ディープソフトウェアスタンバイ解除信号許可	電圧監視2信号によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b2	DRTCIIE	RTC周期割り込みディープソフトウェアスタンバイ解除信号許可	RTC周期割り込み信号によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b3	DRTCAIE	RTCアラーム割り込みディープソフトウェアスタンバイ解除信号許可	RTCアラーム割り込み信号によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b4	DNMIE	NMI端子許可	NMI端子によるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W （注1）
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. 一度だけ 1 を書くことができます。以後のライトアクセスは無効です。

DPSIER2 レジスタは、ディープソフトウェアスタンバイモードを解除する内部リセット信号では初期化されません。詳細は、表 6.2 リセット要因ごとの初期化対象リセット検出フラグを参照してください。なお、DPSIER2 レジスタの設定を変更すると、対応する端子の状態によっては内部的にエッジが発生し、対応する DPSIFR2 レジスタのビット値が 1 になる可能性があります。ディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、DPSIFR2 レジスタを 0 にしてください。

11.2.15 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みイネーブルレジスタ 3（DPSIER3）

アドレス SYSTEM.DPSIER3 4001 E405h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	DAGT1IE	—	DUSBFSIE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DUSBFSIE	USBFSサスペンド／レジュームディープソフトウェアスタンバイ解除信号許可	USBFSサスペンド／レジュームによるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b2	DAGT1IE	AGT1アンダーフローディープソフトウェアスタンバイ解除信号許可	AGT1アンダーフローによるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を許可 0：禁止 1：許可	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

DPSIER3 レジスタは、ディープソフトウェアスタンバイモードを解除する内部リセット信号では初期化されません。詳細は、表 6.2 リセット要因ごとの初期化対象リセット検出フラグを参照してください。なお、DPSIER3 レジスタの設定を変更すると、対応する端子の状態によっては内部的にエッジが発生し、対応する DPSIFR3 レジスタのビット値が 1 になる可能性があります。ディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、DPSIFR3 レジスタを 0 にしてください。

11.2.16　ディープソフトウェアスタンバイ割り込みフラグレジスタ 0（DPSIFR0）

アドレス　SYSTEM.DPSIFR0 4001 E406h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DIRQ7F	DIRQ6F	DIRQ5F	DIRQ4F	—	—	DIRQ1F	DIRQ0F
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DIRQ0F	IRQ0-DS 端子ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	IRQ0-DS 端子によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R/(W)（注 1）
b1	DIRQ1F	IRQ1-DS 端子ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	IRQ1-DS 端子によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R/(W)（注 1）
b3-b2	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/(W)（注 1）
b4	DIRQ4F	IRQ4-DS 端子ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	IRQ4-DS 端子によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R/(W)（注 1）
b5	DIRQ5F	IRQ5-DS 端子ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	IRQ5-DS 端子によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R/(W)（注 1）
b6	DIRQ6F	IRQ6-DS 端子ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	IRQ6-DS 端子によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R/(W)（注 1）
b7	DIRQ7F	IRQ7-DS 端子ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	IRQ7-DS 端子によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R/(W)（注 1）

注 1.　フラグをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。

DPSIEGR0 レジスタで設定した該当の解除要求が発生すると、DPSIFR0 レジスタのフラグが 1 になります。ディープソフトウェアスタンバイモードではない状態でも、解除要求が発生すると 1 になる場合があります。また、DPSIER0 レジスタの設定を変更しても 1 になる場合があります。ディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、DPSIFR0 レジスタを 00h にしてください。

DPSIER0 レジスタの設定変更後に DPSIFR0 レジスタを 00h にする場合は、PCLKB が 6 サイクル以上経過してから、DPSIFR0 レジスタを読んだ後、0 を書いてください。たとえば、DPSIER0 レジスタを読むことによって、PCLKB の 6 サイクル以上が確保されます。DPSIFR0 レジスタは、ディープソフトウェアスタンバイモードを解除する内部リセット信号では初期化されません。詳細は、表 6.2　リセット要因ごとの初期化対象リセット検出フラグを参照してください。

DIRQnF フラグ（IRQn-DS 端子ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

IRQn-DS 端子による解除要求が発生したことを示します。

［1 になる条件］

- DPSIEGR0 レジスタで選択した IRQn-DS 端子による解除要求が発生したとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

11.2.17 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みフラグレジスタ 1（DPSIFR1）

アドレス SYSTEM.DPSIFR1 4001 E407h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	DIRQ12F	DIRQ11F	DIRQ10F	DIRQ9F	DIRQ8F
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DIRQ8F	IRQ8-DS端子ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	IRQ8-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R(/W)（注1）
b1	DIRQ9F	IRQ9-DS端子ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	IRQ9-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R(/W)（注1）
b2	DIRQ10F	IRQ10-DS端子ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	IRQ10-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R(/W)（注1）
b3	DIRQ11F	IRQ11-DS端子ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	IRQ11-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R(/W)（注1）
b4	DIRQ12F	IRQ12-DS端子ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	IRQ12-DS端子によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R(/W)（注1）
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. フラグをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。

DPSIEGR1 レジスタで設定した対応する解除要求が発生すると、DPSIFR1 レジスタのフラグが 1 になります。ディープソフトウェアスタンバイモードではない状態でも、解除要求が発生すると 1 になる場合があります。また、DPSIER1 レジスタの設定を変更しても 1 になる場合があります。ディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、DPSIFR1 レジスタを 00h にしてください。

DPSIER1 レジスタの設定変更後に DPSIFR1 レジスタを 00h にする場合は、PCLKB が 6 サイクル以上経過してから、DPSIFR1 レジスタを読んだ後、0 を書いてください。たとえば、DPSIER1 レジスタを読むことによって、PCLKB の 6 サイクル以上が確保されます。DPSIFR1 レジスタは、ディープソフトウェアスタンバイモードを解除する内部リセット信号では初期化されません。詳細は、表 6.2 リセット要因ごとの初期化対象リセット検出フラグを参照してください。

DIRQnF フラグ（IRQn-DS 端子ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ）（n = 8 ～ 12）

IRQn-DS 端子による解除要求が発生したことを示します。

［1 になる条件］

- DPSIEGR1 レジスタで選択した IRQn-DS 端子による解除要求が発生したとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

11.2.18 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みフラグレジスタ 2（DPSIFR2）

アドレス SYSTEM.DPSIFR2 4001 E408h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	DNMIF	DRTCAIF	DRTCIIF	DLVD2IF	DLVD1IF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DLVD1IF	LVD1ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	電圧監視1信号によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R(/W)（注1）
b1	DLVD2IF	LVD2ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	電圧監視2信号によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R(/W)（注1）
b2	DRTCIIF	RTC周期割り込みディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	RTC周期割り込み信号によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R(/W)（注1）
b3	DRTCAIF	RTCアラーム割り込みディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	RTCアラーム割り込み信号によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R(/W)（注1）
b4	DNMIF	NMIディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	NMI端子によるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R(/W)（注1）
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. フラグをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。

DPSIEGR2 レジスタで設定した対応する解除要求が発生すると、DPSIFR2 レジスタのフラグが 1 になります。ディープソフトウェアスタンバイモードではない状態でも、解除要求が発生すれば 1 になる場合があります。また、DPSIER2 レジスタの設定を変更しても 1 になる場合があります。ディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、DPSIFR2 レジスタを 00h にしてください。

DPSIER2 レジスタの設定変更後に DPSIFR2 レジスタを 00h にする場合は、PCLKB が 6 サイクル以上経過してから、DPSIFR2 レジスタを読んだ後、0 を書いてください。たとえば、DPSIER2 レジスタを読むことによって、PCLKB の 6 サイクル以上が確保されます。DPSIFR2 レジスタは、ディープソフトウェアスタンバイモードを解除する内部リセット信号では初期化されません。詳細は、表 6.2 リセット要因ごとの初期化対象リセット検出フラグを参照してください。

DLVDmIF フラグ（LVDm ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ）（m = 1, 2）

電圧監視 m 信号による解除要求が発生したことを示します。

[1 になる条件]

- DPSIEGR2 レジスタで選択した電圧監視 m 信号による解除要求が発生したとき

[0 になる条件]

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

DRTCIIF フラグ（RTC 周期割り込みディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ）

RTC 周期割り込み信号による解除要求が発生したことを示します。

[1 になる条件]

- RTC 周期割り込み信号による解除要求が発生したとき

[0 になる条件]

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

DRTCAIF フラグ（RTC アラーム割り込みディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ）

RTC アラーム割り込み信号による解除要求が発生したことを示します。

[1 になる条件]

- RTC アラーム割り込み信号による解除要求が発生したとき

[0 になる条件]

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

DNMIF フラグ（NMI ディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ）

NMI 端子による解除要求が発生したことを示します。

[1 になる条件]

- DPSIEGR2 レジスタで設定した NMI 端子による解除要求が発生したとき

[0 になる条件]

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

11.2.19 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みフラグレジスタ 3（DPSIFR3）

アドレス SYSTEM.DPSIFR3 4001 E409h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	DAGT1IF	—	DUSBFSIF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DUSBFSIF	USBFSサスペンド／レジュームディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	USBFSのサスペンド／レジュームによるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R(/W)（注1）
b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b2	DAGT1IF	AGT1アンダーフローディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ	AGT1アンダーフローによるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求の発生を示します。 0：要求の発生なし 1：要求の発生あり	R(/W)（注1）
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. フラグをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。

対応する解除要求が発生すると、DPSIFR3 レジスタのフラグが 1 になります。ディープソフトウェアスタンバイモードではない状態でも、解除要求が発生すれば 1 になる場合があります。また、DPSIER3 レジスタの設定を変更しても 1 になる場合があります。ディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、DPSIFR3 レジスタを 00h にしてください。

DPSIER3 レジスタの設定変更後に DPSIFR3 レジスタを 00h にする場合は、PCLKB が 6 サイクル以上経過してから、DPSIFR3 レジスタを読んだ後、0 を書いてください。たとえば、DPSIER3 レジスタを読むことによって、PCLKB の 6 サイクル以上が確保されます。DPSIFR3 レジスタは、ディープソフトウェアスタンバイモードを解除する内部リセット信号では初期化されません。詳細は、「6. リセット」を参照してください。

DUSBFSIF フラグ（USBFS サスペンド／レジュームディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ）

USBFS のサスペンド／レジュームによる解除要求が発生したことを示します。

［1 になる条件］

- USBFS のサスペンド／レジュームによる解除要求が発生したとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

DAGT1IF フラグ（AGT1 アンダーフローディープソフトウェアスタンバイ解除フラグ）

AGT1 アンダーフローによる解除要求が発生したことを示します。

［1 になる条件］

- AGT1 アンダーフローによる解除要求が発生したとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

11.2.20 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みエッジレジスタ 0（DPSIEGR0）

アドレス SYSTEM.DPSIEGR0 4001 E40Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DIRQ7EG	DIRQ6EG	DIRQ5EG	DIRQ4EG	—	—	DIRQ1EG	DIRQ0EG
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DIRQ0EG	IRQ0-DS端子エッジ選択	0：立ち下がりエッジで解除要求を発生 1：立ち上がりエッジで解除要求を発生	R/W
b1	DIRQ1EG	IRQ1-DS端子エッジ選択	0：立ち下がりエッジで解除要求を発生 1：立ち上がりエッジで解除要求を発生	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	DIRQ4EG	IRQ4-DS端子エッジ選択	0：立ち下がりエッジで解除要求を発生 1：立ち上がりエッジで解除要求を発生	R/W
b5	DIRQ5EG	IRQ5-DS端子エッジ選択	0：立ち下がりエッジで解除要求を発生 1：立ち上がりエッジで解除要求を発生	R/W
b6	DIRQ6EG	IRQ6-DS端子エッジ選択	0：立ち下がりエッジで解除要求を発生 1：立ち上がりエッジで解除要求を発生	R/W
b7	DIRQ7EG	IRQ7-DS端子エッジ選択	0：立ち下がりエッジで解除要求を発生 1：立ち上がりエッジで解除要求を発生	R/W

DPSIEGR0 レジスタは、ディープソフトウェアスタンバイモードを解除する内部リセット信号では初期化されません。詳細は、表 6.2 リセット要因ごとの初期化対象リセット検出フラグを参照してください。

11.2.21 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みエッジレジスタ 1（DPSIEGR1）

アドレス SYSTEM.DPSIEGR1 4001 E40Bh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	DIRQ12EG	DIRQ11EG	DIRQ10EG	DIRQ9EG	DIRQ8EG
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DIRQ8EG	IRQ8-DS端子エッジ選択	0：立ち下がりエッジで解除要求を発生 1：立ち上がりエッジで解除要求を発生	R/W
b1	DIRQ9EG	IRQ9-DS端子エッジ選択	0：立ち下がりエッジで解除要求を発生 1：立ち上がりエッジで解除要求を発生	R/W
b2	DIRQ10EG	IRQ10-DS端子エッジ選択	0：立ち下がりエッジで解除要求を発生 1：立ち上がりエッジで解除要求を発生	R/W
b3	DIRQ11EG	IRQ11-DS端子エッジ選択	0：立ち下がりエッジで解除要求を発生 1：立ち上がりエッジで解除要求を発生	R/W
b4	DIRQ12EG	IRQ12-DS端子エッジ選択	0：立ち下がりエッジで解除要求を発生 1：立ち上がりエッジで解除要求を発生	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

DPSIEGR1 レジスタは、ディープソフトウェアスタンバイモードを解除する内部リセット信号では初期化されません。詳細は、表 6.2 リセット要因ごとの初期化対象リセット検出フラグを参照してください。

11.2.22 ディープソフトウェアスタンバイ割り込みエッジレジスタ 2（DPSIEGR2）

アドレス SYSTEM.DPSIEGR2 4001 E40Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	DNMIEG	—	—	DLVD2EG	DLVD1EG
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DLVD1EG	LVD1エッジ選択	0：VCC＜V_{det1}（下降）検出時に解除要求を発生 1：VCC≧V_{det1}（上昇）検出時に解除要求を発生	R/W
b1	DLVD2EG	LVD2エッジ選択	0：VCC＜V_{det2}（下降）検出時に解除要求を発生 1：VCC≧V_{det2}（上昇）検出時に解除要求を発生	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	DNMIEG	NMI端子エッジ選択	0：立ち下がりエッジで解除要求を発生 1：立ち上がりエッジで解除要求を発生	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

DPSIEGR2 レジスタは、ディープソフトウェアスタンバイモードを解除する内部リセット信号では初期化されません。詳細は、表 6.2 リセット要因ごとの初期化対象リセット検出フラグを参照してください。

11.2.23 システムコントロール OCD コントロールレジスタ（SYOCDCR）

アドレス SYSTEM.SYOCDCR 4001 E40Eh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DBGEN	—	—	—	—	—	—	DOCDF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DOCDF	ディープソフトウェアスタンバイ OCD フラグ	MCUCTRL.DBIRQ ビットによる解除要求を示します。 0：DBIRQ の発生なし 1：DBIRQ の発生あり	R/(W)（注 1）
b6-b1	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b7	DBGEN	デバッガ有効	0：オンチップデバッガは無効 1：オンチップデバッガは有効 オンチップデバッグ（OCD）モードで最初に 1 にしてください。	R/W

注 1. 0 を書くとフラグが 0 になります。1 の書き込みは無視されます。

SYOCDCR レジスタは、ディープソフトウェアスタンバイモードを解除する内部リセット信号では初期化されません。

DOCDF フラグ（ディープソフトウェアスタンバイ OCD フラグ）

MCUCTRL.DBIRQ ビットによるディープソフトウェアスタンバイモード解除要求が発生したことを示します。解除要求が発生したときに 1 になります。ディープソフトウェアスタンバイモードではない状態でも、解除要求が発生すれば 1 になる場合があります。ディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、DOCDF フラグを 0 にしてください。

［1 になる条件］

- MCUCTRL.DBIRQ ビットによる解除要求が発生したとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- DBGEN ビットが 0 のとき

DBGEN ビット（デバッガ有効）

OCD モードを有効にします。このビットは、OCD モードで最初に 1 にする必要があります。

［1 になる条件］

- デバッガの接続時に 1 を書いたとき

［0 になる条件］

- パワーオンリセットが発生したとき
- 0 を書いたとき

11.2.24 スタンバイ条件レジスタ（STCONR）

アドレス SYSTEM.STCONR 4001 E40Fh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	STCON[1:0]	
リセット後の値	1	1	0	0	0	0	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	STCON[1:0]	SSTBY条件	b1 b0 0 0：HOCO使用時にソフトウェアスタンバイモードへ遷移する 1 1：HOCO不使用時にソフトウェアスタンバイモードへ遷移する	R/W
b5-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W

STCON[1:0] ビット（SSTBY 条件）

HOCO クロックの使用時にソフトウェアスタンバイモードへ遷移するには、STCON[1:0] ビットを常に 00b にする必要があります。

11.3 クロックの切り替えによる消費電力の低減

次のビットが設定されたときにクロック周波数が変わります。

- SCKDIVCR.FCK[2:0]
- ICK[2:0]
- BCK[2:0]
- PCKA[2:0]
- PCKB[2:0]
- PCKC[2:0]
- PCKD[2:0]

モジュールとクロックの対応関係は以下の通りです。

- CPU、DMAC、DTC、フラッシュ、および SRAM は、ICK[2:0] ビットで設定された動作クロックを使用
- 周辺モジュールは、PCKA[2:0]、PCKB[2:0]、PCKC[2:0]、および PCKD[2:0] の各ビットで設定された動作クロックを使用
- フラッシュメモリインタフェースは、FCK[2:0] ビットで設定された動作クロックを使用
- 外部バスは、BCK[2:0] ビットで設定された動作クロックを使用

詳細は、「9. クロック発生回路」を参照してください。

11.4 モジュールストップ機能

モジュールストップ機能は、内蔵周辺モジュール単位で設定することが可能です。

MSTPCRA ～ MSTPCRD レジスタの MSTPmi ビット（m = A ～ D、i = 31 ～ 0）を 1 にすると、指定したモジュールは動作を停止してモジュールストップ状態へ遷移します。このとき CPU は動作を継続します。MSTPmi ビットを 0 にすることによって、モジュールストップ状態は解除され、バスサイクルの終了時点でモジュールは動作を再開します。モジュールストップ状態では、モジュール内部の状態が保持されます。

リセット解除後は、DMAC、DTC、および SRAM モジュール以外の全モジュールがモジュールストップ状態になります。MSTPmi ビットが 1 であるときは、対応するモジュールにアクセスしないでください。そうでないと、そのモジュールに対するデータの読み出し／書き込みやモジュールの動作は保証されません。また、対応するモジュールにアクセス中であるときは、MSTPmi ビットを 1 にしないでください。

PLL をクロックソースとして選択したとき、MSTPmi ビットは 1 ビットずつ変更してください。以下のいずれかのビットを変更する際、各 MSTPmi ビットの変更後に次の操作を行う場合は、少なくとも 250ns 待機してください。

- MSTPA22 (DMAC, DTC)
- MSTPC31 (SCE7)
- MSTPD5 (GPT32EH, GPT32E)

待機時間の計測にはソフトウェアを使用することを推奨します。ワーストケースの使用条件を考慮して、待機時間が確実に経過したことを確認してください。

11.5 低消費電力機能

所定の動作周波数と動作電圧に合わせて適切な動作電力モードを選択することにより、通常モード時、スリープモード時の消費電力を削減できます。

11.5.1 動作電力制御モードの設定方法

動作電力制御モードを切り替える場合は、その前後において、電圧範囲や周波数範囲などの動作条件が仕様範囲内に収まっていることを必ず確認してください。動作電力制御モードの切り替え手順例を以下に示します。

表 11.5 各モードで利用可能な発振器

モード	発振器						
	PLL	高速オンチップオシレータ	中速オンチップオシレータ	低速オンチップオシレータ	メインクロック発振器	サブクロック発振器	IWDT専用オンチップオシレータ
High-speed	可能	可能	可能	可能	可能	可能	可能
Low-speed	不可能	可能	可能	可能	可能	可能	可能
Subosc-speed	不可能	不可能	不可能	可能	不可能	可能	可能

(1) 消費電力が大きいモードから小さいモードへ切り替える場合

例 1：High-speed モードから Low-speed モードへの切り替え

最初は High-speed モードで動作しています。

1. 発振器を Low-speed モードで使用するものに変更する。各クロックの周波数を、Low-speed モードにおける最大動作周波数以下とする。
2. Low-speed モードで不要な発振器をオフにする。
3. OPCCR.OPCMTSF フラグが 0（遷移完了）であることを確認する。
4. OPCCR.OPCM[1:0] ビットを 11b（Low-speed モード）にする。
5. OPCCR.OPCMTSF フラグが 0（遷移完了）であることを確認する。

   動作は Low-speed モードになります。

例 2：High-speed モードから Subosc-speed モードへの切り替え

最初は High-speed モードで動作しています。

1. クロックソースをサブクロック発振器に切り替える。
2. HOCO、MOCO、LOCO、メイン発振器、および PLL をオフにする。
3. サブクロック発振器以外の全クロックソースが停止していることを確認する。
4. SOPCCR.SOPCMTSF フラグが 0（遷移完了）であることを確認する。
5. SOPCCR.SOPCM ビットを 1（Subosc-speed モード）にする。
6. SOPCCR.SOPCMTSF フラグが 0（遷移完了）であることを確認する。

   動作は Subosc-speed モードになります。

(2) 消費電力が小さいモードから大きいモードへ切り替える場合

例 1：Subosc-speed モードから High-speed モードへの切り替え

最初は Subosc-speed モードで動作しています。

1. SOPCCR.SOPCMTSF フラグが 0（遷移完了）であることを確認する。
2. SOPCCR.SOPCM ビットを 0（High-speed モード）にする。

3. SOPCCR.SOPCMTSF フラグが 0（遷移完了）であることを確認する。
4. High-speed モードで必要な発振器をオンにする。
5. 各クロックの周波数を、High-speed モードにおける最大動作周波数以下とする。
   動作は High-speed モードになります。

例 2：Low-speed モードから High-speed モードへの切り替え
最初は Low-speed モードで動作しています。

1. OPCCR.OPCMTSF フラグが 0（遷移完了）であることを確認する。
2. OPCCR.OPCM[1:0] ビットを 00b（High-speed モード）にする。
3. OPCCR.OPCMTSF フラグが 0（遷移完了）であることを確認する。
4. High-speed モードで必要な発振器をオンにする。
5. 各クロックの周波数を、High-speed モードにおける最大動作周波数以下とする。
   動作は High-speed モードになります。

11.6 スリープモード

11.6.1 スリープモードへの遷移

SBYCR.SSBY ビットが 0 の状態で WFI 命令を実行すると、MCU はスリープモードへ遷移します。スリープモードでは、CPU は動作を停止しますが、CPU の内部レジスタの値は保持されます。CPU 以外の周辺機能は停止しません。スリープモードで利用可能なリセットまたは割り込みが発生すると、スリープモードが解除されます。すべての割り込み要因が利用可能です。割り込みを使用してスリープモードを解除する場合、WFI 命令の実行前に、対応する IELSRn レジスタを設定する必要があります。詳細は、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

IWDT がオートスタートモードであり、かつ OFS0.IWDTSTPCTL ビットが 1（スリープモード、ソフトウェアスタンバイモード、またはスヌーズモード時に IWDT カウント停止）の場合、MCU がスリープモードへ遷移すると IWDT はカウントを停止します。

IWDT がオートスタートモードであり、かつ OFS0.IWDTSTPCTL ビットが 0（スリープモード、ソフトウェアスタンバイモード、またはスヌーズモード時に IWDT カウント継続）の場合、MCU がスリープモードへ遷移しても IWDT はカウントを継続します。

WDT がオートスタートモードであり、かつ OFS0.WDTSTPCTL ビットが 1（スリープモード時に WDT カウント停止）の場合、MCU がスリープモードへ遷移すると WDT はカウントを停止します。同様に、WDT がレジスタスタートモードであり、かつ WDTCSTPR.SLCSTP ビットが 1（スリープモード時に WDT カウント停止）の場合、MCU がスリープモードへ遷移すると WDT はカウントを停止します。

WDT がオートスタートモードであり、かつ OFS0 の場合、MCU がスリープモードへ遷移しても WDT はカウントを継続します。WDTSTPCTL ビットは 0（WDT はスリープモードで停止しない）です。同様に、WDT がレジスタスタートモードであり、かつ WDTCSTPR.SLCSTP ビットが 0（スリープモード時に WDT カウント継続）の場合、MCU がスリープモードへ遷移しても WDT はカウントを継続します。

11.6.2 スリープモードの解除

スリープモードは以下の方法で解除されます。

- 割り込み
- RES 端子リセット
- パワーオンリセット
- 電圧監視リセット
- SRAM パリティエラーリセット
- SRAM ECC エラーリセット
- バスマスタ MPU エラーリセット
- バススレーブ MPU エラーリセット
- IWDT または WDT アンダーフローによるリセット

動作は以下の通りです。

1. 割り込みによる解除
   割り込み要求が発生すると、スリープモードが解除されて、MCU は割り込み処理を開始します。
2. RES 端子リセットによる解除
   RES 端子を Low にすると、MCU はリセット状態になります。「52. 電気的特性」に示す規定の期間に従って、RES 端子を Low に保つ必要があります。規定の期間が経過した後、RES 端子を High にすると、CPU はリセット例外処理を開始します。

3. IWDT リセットによる解除
   IWDT アンダーフローによる内部リセットが発生すると、スリープモードが解除されて、MCU はリセット例外処理を開始します。ただし、下記の条件下では、スリープモード時に IWDT が停止して、スリープモードを解除するための内部リセットが発生しません。
   - OFS0.IWDTSTRT = 0 かつ OFS0.IWDTSTPCTL = 1
4. WDT リセットによる解除
   WDT アンダーフローによる内部リセットが発生すると、スリープモードが解除されて、MCU はリセット例外処理を開始します。ただし、下記の条件下では、通常モード時にカウントしている場合でも WDT はスリープモードで停止して、スリープモードを解除するための内部リセットが発生しません。
   - OFS0.WDTSTRT = 0（オートスタートモード）かつ OFS0.WDTSTPCTL = 1
   - OFS0.WDTSTRT = 1（レジスタスタートモード）かつ WDTCSTPR.SLCSTP = 1
5. スリープモードで利用可能な他のリセットによる解除
   その他の利用可能なリセットによってスリープモードは解除され、MCU はリセット例外処理を開始します。

注 . 割り込みの正しい設定方法については、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

11.7 ソフトウェアスタンバイモード

11.7.1 ソフトウェアスタンバイモードへの遷移

SBYCR.SSBY ビットが 1、かつ DPSBYCR.DPSBY ビットが 0 の状態で WFI 命令を実行すると、MCU はソフトウェアスタンバイモードへ遷移します。このモードでは、CPU、ほとんどの内蔵周辺機能、および発振器が停止します。ただし、CPU の内部レジスタの値と SRAM データ、内蔵周辺機能と I/O ポートの状態は保持されます。ソフトウェアスタンバイモードでは、ほとんどの発振器が停止するため、消費電力が大幅に削減されます。表 11.2 に、内蔵周辺機能と発振器の状態を示します。ソフトウェアスタンバイモードで利用可能なリセットまたは割り込みが発生すると、ソフトウェアスタンバイモードが解除されます。利用可能な割り込み要因については表 11.3 を、ソフトウェアスタンバイモードからの復帰については、14.2.9 ウェイクアップ割り込みイネーブルレジスタ（WUPEN）を参照してください。割り込みを使用してソフトウェアスタンバイモードを解除する場合、WFI 命令の実行前に、対応する IELSRn レジスタを設定する必要があります。詳細は、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

ソフトウェアスタンバイモード時のアドレスバスとバス制御信号の状態は、SBYCR.OPE ビットで選択可能です。

スヌーズモード時に DTC を使用する場合を除き、DMAST.DMST ビットと DTCST.DTCST ビットを 0 にしてから WFI 命令を実行してください。スヌーズモード時に DTC が必要な場合は、DTCST.DTCST ビットを 1 にしてから WFI 命令を実行してください。

IWDT がオートスタートモードであり、かつ OFS0.IWDTSTPCTL ビットが 1（スリープモード、ソフトウェアスタンバイモード、またはスヌーズモード時に IWDT カウント停止）の場合、MCU がソフトウェアスタンバイモードへ遷移すると IWDT はカウントを停止します。

IWDT がオートスタートモードであり、かつ OFS0.IWDTSTPCTL ビットが 0（スリープモード、ソフトウェアスタンバイモード、またはスヌーズモード時に IWDT カウント継続）の場合、MCU がソフトウェアスタンバイモードへ遷移しても IWDT はカウントを継続します。MCU がソフトウェアスタンバイモードへ遷移すると、WDT はカウントを停止します。

OSTDCR.OSTDE が 1（発振停止検出機能が有効）の状態で、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移しないでください。ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、発振停止検出機能を無効（OSTDCR.OSTDE を 0）にした後、WFI 命令を実行してください。OSTDCR.OSTDE ビットが 1 の状態で WFI 命令を実行すると、SBYCR.SSBY ビットが 1 であっても、MCU はスリープモードへ遷移します。フラッシュメモリのプログラム／イレース処理中は、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移しないでください。ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、プログラム／イレース処理が完了してから WFI 命令を実行してください。

クロックソースとして PLL を選択した場合、以下のモジュールをモジュールストップ状態に設定してから WFI 命令を実行してください。

- SCE7
- GPT32EH
- GPT32E

少なくとも 750ns 待機してから WFI 命令を実行する必要があります。待機時間の計測にはソフトウェアを使用することを推奨します。ワーストケースの使用条件を考慮して、必要な待機時間が経過したことを確認してください。

表 11.6 に、関連する制御ビットの設定値と、WFI 命令実行時に遷移するモードを示します。

図 11.2 に、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへの遷移時のフロー例を示します。

表 11.6　WFI命令実行時のモードに影響を与えるビット設定

他のビットの設定値		SBYCR.SSBY ビットと DPSBYCR.DPSBY ビットの設定値			
		SSBY = 0, DPSBY = 0	SSBY = 0, DPSBY = 1	SSBY = 1, DPSBY = 0	SSBY = 1, DPSBY = 1
OSTDCR.OSTDE	0	スリープモード	スリープモード	ソフトウェアスタンバイモード	ディープソフトウェアスタンバイモード
	1			スリープモード	スリープモード
FENTRYR.FENTRYi	0	スリープモード	スリープモード	ソフトウェアスタンバイモード	ディープソフトウェアスタンバイモード
	1			スリープモード	スリープモード
OFS0.IWDTSTPCTL	0	スリープモード	スリープモード	ソフトウェアスタンバイモード	ソフトウェアスタンバイモード
	1				ディープソフトウェアスタンバイモード
LVD1CR0.RI	0	スリープモード	スリープモード	ソフトウェアスタンバイモード	ディープソフトウェアスタンバイモード
	1				ソフトウェアスタンバイモード
LVD2CR0.RI	0	スリープモード	スリープモード	ソフトウェアスタンバイモード	ディープソフトウェアスタンバイモード
	1				ソフトウェアスタンバイモード

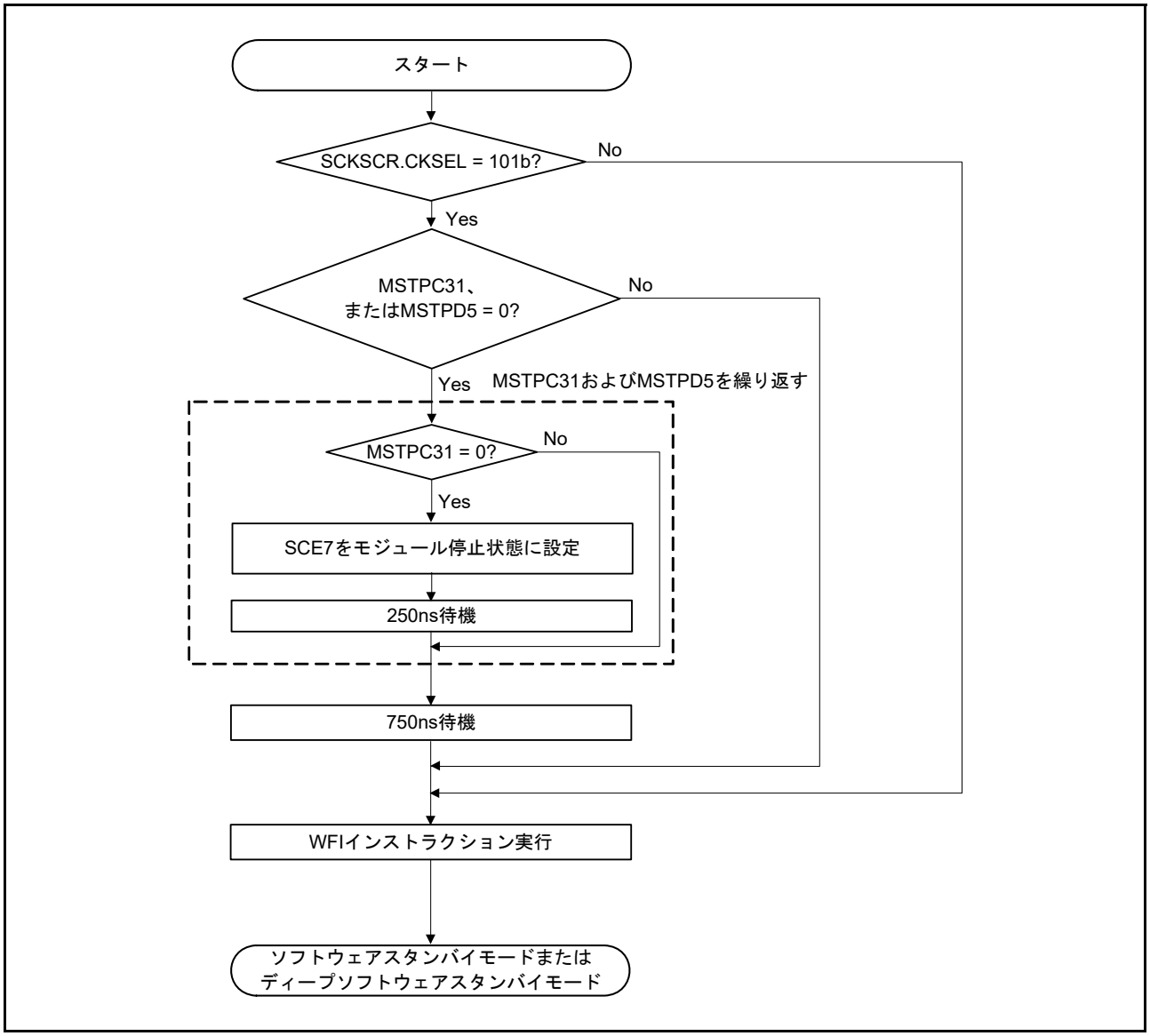


図 11.2 ソフトウェアスタンバイまたはディープソフトウェアスタンバイモード遷移時のフロー例

11.7.2 ソフトウェアスタンバイモードの解除

ソフトウェアスタンバイモードは以下の方法で解除されます。

- 表 11.3 に示す利用可能な割り込み
- RES 端子リセット
- パワーオンリセット
- 電圧監視リセット
- IWDT アンダーフローに起因したリセット

ソフトウェアスタンバイモードが解除されると、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に動作していた発振器が動作を再開します。これらすべての発振器が安定してから、MCU はソフトウェアスタンバイモードから通常モードへ復帰します。ソフトウェアスタンバイモードからの復帰については、14.2.9 ウェイクアップ割り込みイネーブルレジスタ（WUPEN）を参照してください。

以下の方法のいずれかによって、ソフトウェアスタンバイモードを解除できます。

- 割り込みによる解除
  利用可能な割り込み要求（表 11.3 を参照）が発生すると、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に動作していたすべての発振器が動作を再開します。これらすべての発振器が安定してから、MCU はソフトウェアスタンバイモードを解除して、割り込み処理を開始します。PLL をクロックソースとして選択したとき、割り込み処理の開始時に、少なくとも 250ns 待機する必要があります。待機時間の計測にはソフトウェアを使用することを推奨します。ワーストケースの使用条件を考慮して、待機時間が確実に経過したことを確認してください。図 11.3 に割り込みによるソフトウェアスタンバイ解除のフロー例を示します。
- RES 端子リセットによる解除
  RES 端子を Low にすると、MCU はリセット状態に遷移し、発振器はデフォルト状態で動作を開始します。「52. 電気的特性」に示す規定の期間に従って、RES 端子を Low に保つようにしてください。規定の期間が経過した後、RES 端子を High にすると、CPU はリセット例外処理を開始します。
- IWDT リセットによる解除
  IWDT アンダーフローによる内部リセットが発生すると、ソフトウェアスタンバイモードが解除されて、MCU はリセット例外処理を開始します。ただし、下記の条件下では、ソフトウェアスタンバイモード時に IWDT が停止して、ソフトウェアスタンバイモードを解除するための内部リセットが発生しません。
  - OFS0.IWDTSTRT = 0 かつ OFS0.IWDTSTPCTL = 1
- ソフトウェアスタンバイモードで利用可能な他のリセットによる解除
  その他の利用可能なリセットによってソフトウェアスタンバイモードは解除され、MCU はリセット例外処理を開始します。

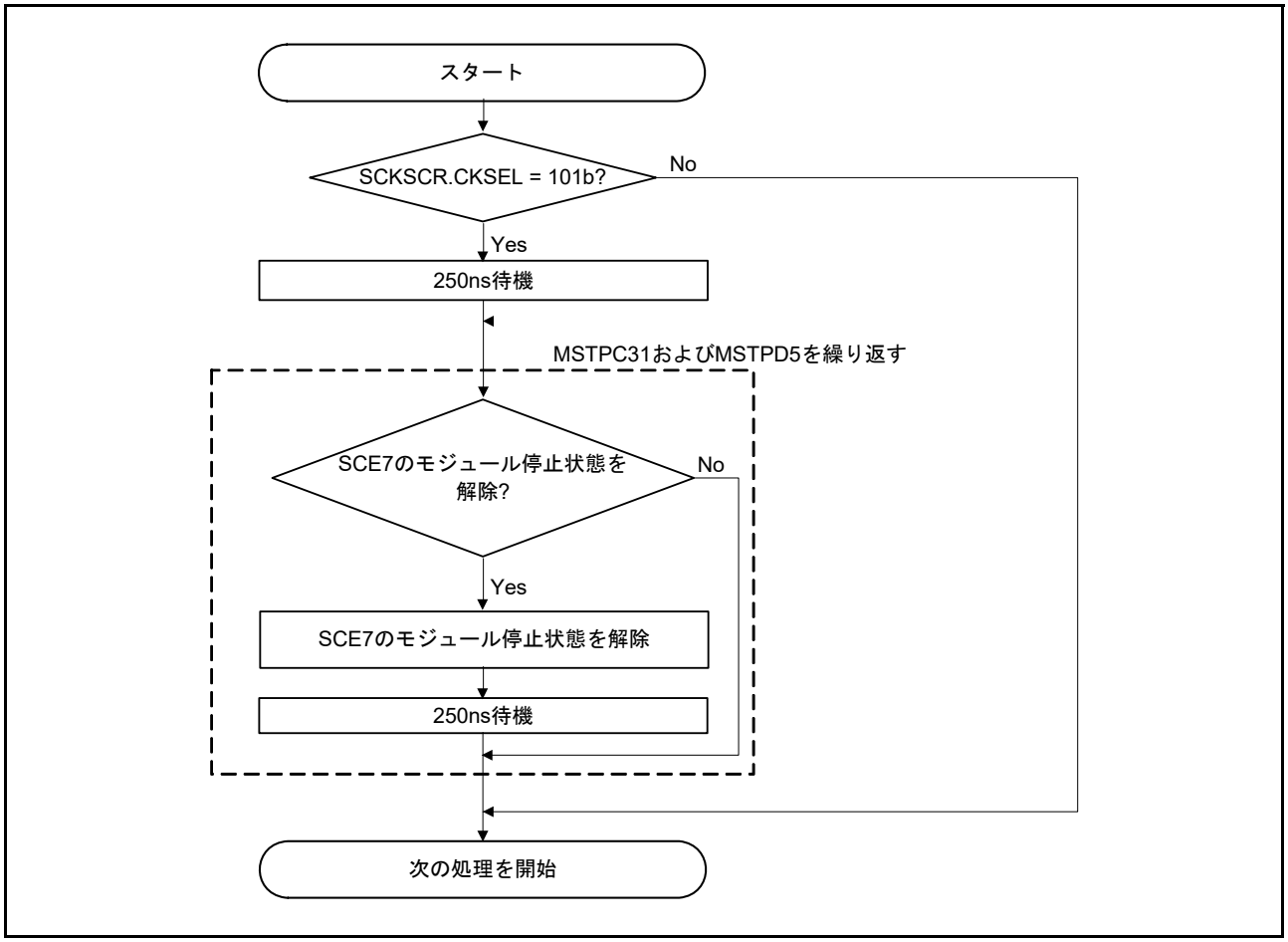


図 11.3 ソフトウェアスタンバイモードの解除フロー例

11.7.3 ソフトウェアスタンバイモードの応用例

IRQn 端子の立ち下がりエッジ検出時のソフトウェアスタンバイモードへの遷移と、IRQn 端子の立ち上がりエッジ検出時のソフトウェアスタンバイモードの解除の例を図 11.4 に示します。

この例では、通常モードにおいて ICU の IRQCRi.IRQMD[1:0] ビットが 00b（立ち下がりエッジ）のとき、IRQn 端子割り込みを受け付けた後、このビットを 01b（立ち上がりエッジ）にしています。続いて、SBYCR.SSBY ビットを 1 にして、WFI 命令を実行しています。ソフトウェアスタンバイモードへの遷移が完了し、その後、IRQn 端子の立ち上がりエッジによってソフトウェアスタンバイモードが解除されます。

ソフトウェアスタンバイモードからの復帰には、ICU の設定も必要になります。詳細は、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。図 11.4 の発振安定時間については、「52. 電気的特性」に示されています。

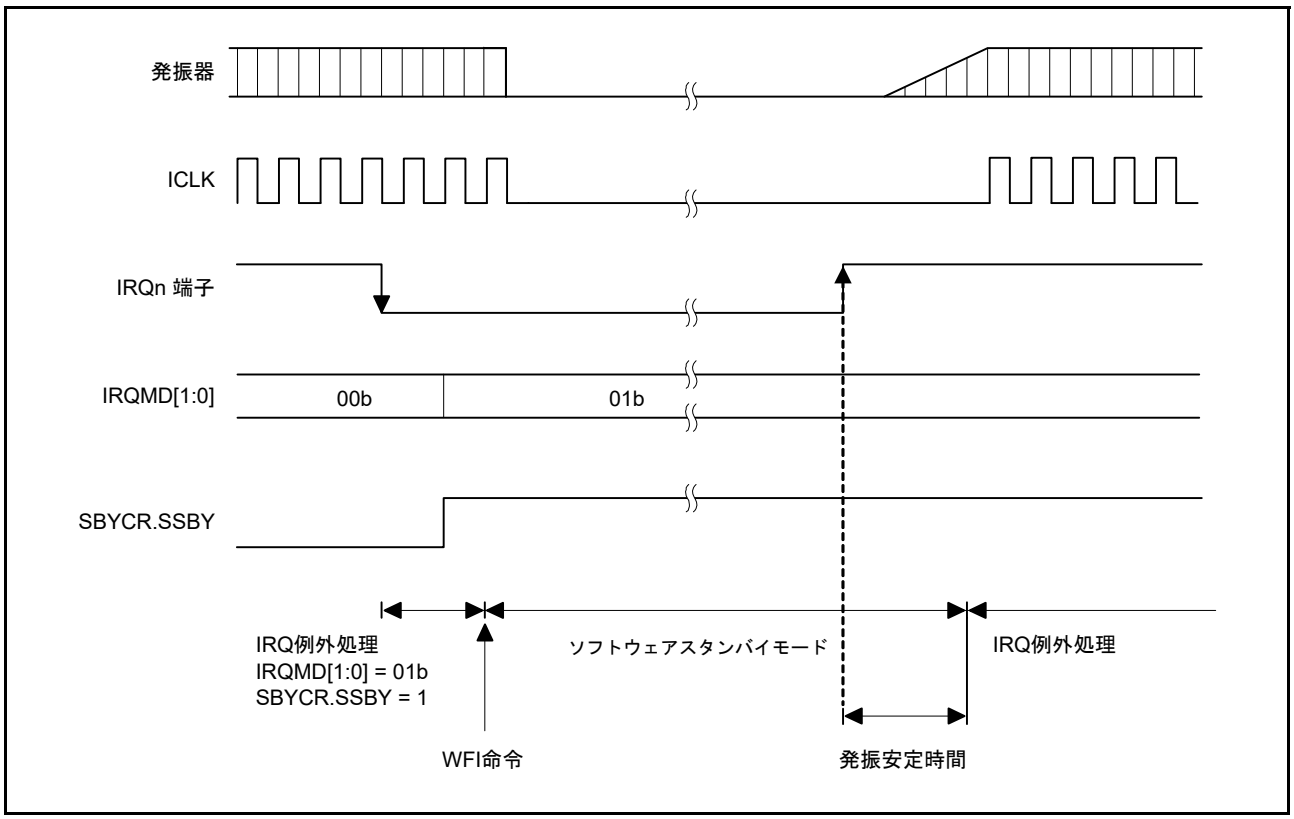


図 11.4 ソフトウェアスタンバイモードの応用例

11.8 スヌーズモード

11.8.1 スヌーズモードへの遷移

図 11.5 に、スヌーズモードエントリの構成を示します。ソフトウェアスタンバイモード時に、スヌーズ制御回路がスヌーズ要求を受信すると、MCU はスヌーズモードへ遷移します。このモードでは、CPU が復帰していなくても一部の周辺モジュールは動作します。スヌーズモードで動作可能な周辺モジュールを、表 11.2 に示します。また、スヌーズモード時の DTC の動作は、SNZCR.SNZDTCEN ビットで選択できます。

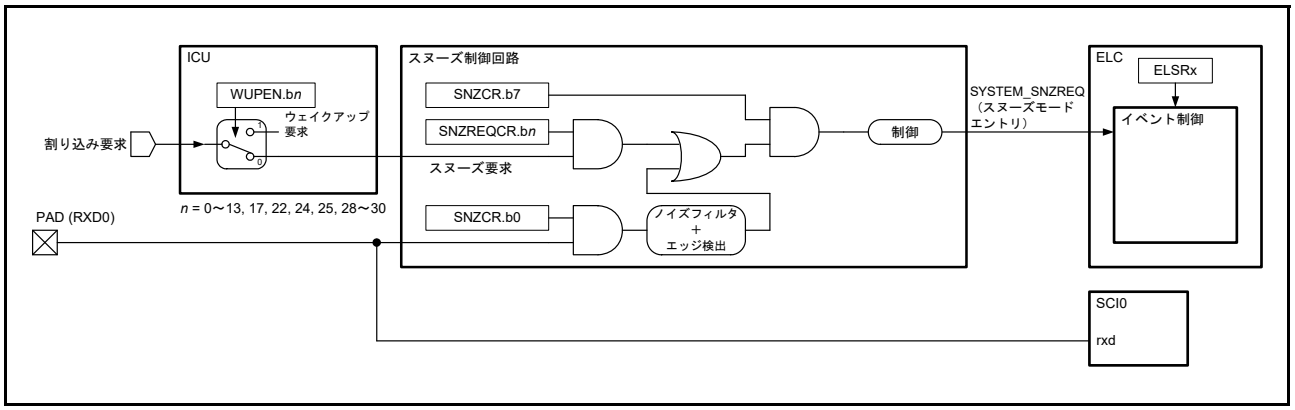


図 11.5 スヌーズエントリの構成

表 11.7 に、MCU をソフトウェアスタンバイモードからスヌーズモードへ切り替えるためのスヌーズ要求を示します。これらのスヌーズ要求をスヌーズモードへ切り替えるためのトリガとして使用するには、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、SNZREQCR レジスタの対応する SNZREQENn ビット、または SNZCR レジスタの RXDREQEN ビットを設定する必要があります。

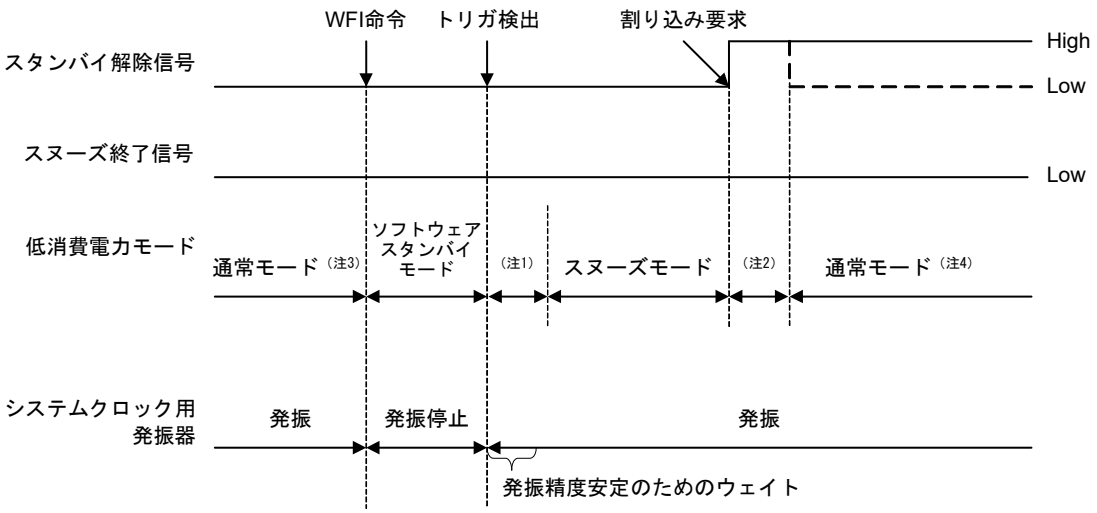
表 11.7 スヌーズモードへの切り替えに利用可能なスヌーズ要求

スヌーズ要求	コントロールレジスタ	
	レジスタ	ビット（注1）
PORT_IRQn（n = 0～13）	SNZREQCR	SNZREQENn（n = 0～13）
KEY_INTKR	SNZREQCR	SNZREQEN17
ACMP_HS0	SNZREQCR	SNZREQEN22
RTC_ALM	SNZREQCR	SNZREQEN24
RTC_PRD	SNZREQCR	SNZREQEN25
AGT1_AGTI	SNZREQCR	SNZREQEN28
AGT1_AGTCMAI	SNZREQCR	SNZREQEN29
AGT1_AGTCMBI	SNZREQCR	SNZREQEN30
RXD0 立ち下がりエッジ	SNZCR	RXDREQEN（注2）

注 1. 同時に複数のスヌーズ要求を有効にしないでください。
注 2. 調歩同期式モード以外では、RXDREQEN ビットを 1 にしないでください。

11.8.2 スヌーズモードの解除

スヌーズモードは、ソフトウェアスタンバイモードで利用可能なすべての割り込み要求、またはすべてのリセットで解除されます。各モードを解除するために使用可能な要求を、表 11.3 に示します。スヌーズモードを解除すると、MCU は通常モードへ遷移して、該当の割り込みまたはリセットの例外処理を開始します。SELSR0 レジスタで選択した割り込み要求によって引き起こされる動作が、スヌーズモードを解除します。スヌーズモードを解除するための割り込みは、対応する割り込み処理の NVIC とリンクさせるため、IELSRn（n = 0 ～ 96）で選択する必要があります。SELSR0 レジスタと IELSRn レジスタの設定方法については、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。



注1. ソフトウェアスタンバイモードからスヌーズモードへの遷移時間
注2. スヌーズモードから通常モードへの遷移時間
注3. ソフトウェアスタンバイモードへ切り替わる直前にスヌーズモードを許可します（SNZCR.SNZE = 1）。
注4. スヌーズモードの解除直後にスヌーズモードを禁止します（SNZCR.SNZE = 0）。

図 11.6 割り込み要求信号が発生する場合のスヌーズモードの解除

11.8.3 ソフトウェアスタンバイモードへの復帰

表 11.8 に、ソフトウェアスタンバイモードへの復帰トリガとして使用可能なスヌーズ終了要求を示します。スヌーズ終了要求は、スヌーズモードでのみ利用可能です。MCU がスヌーズモード状態でないときに要求が発生しても、それらは無視されます。複数の要求を選択した場合、それぞれの要求がスヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードへの遷移を行います。

表 11.9 に、スヌーズ終了条件を構成するスヌーズ終了要求と周辺モジュールの条件を示します。CTSU、SCI0、ADC120、ADC121、DTC の各モジュールは、それらの動作が完了するまで MCU をスヌーズモード状態に保ちます。ただし、ソフトウェアスタンバイモードへの復帰トリガとしての AGT1 アンダーフローは、SCI0 の動作完了を待たずにスヌーズモードを解除します。

図 11.7 に、スヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードへ遷移する際のタイミング図を示します。このようなモード遷移は、SNZEDCR レジスタで設定したスヌーズ終了要求に従って発生します。ソフトウェアスタンバイモードへ復帰後、スヌーズ要求は自動的にクリアされます。

表 11.8 利用可能なスヌーズ終了要求（ソフトウェアスタンバイモードへの復帰トリガ）

スヌーズ終了要求	許可／禁止制御	
	レジスタ	ビット
AGT1アンダーフローまたは測定終了（AGT1_AGTI）	SNZEDCR	b0
DTC転送終了（DTC_COMPLETE）	SNZEDCR	b1
DTC転送未了（DTC_TRANSFER）	SNZEDCR	b2
ADC120ウィンドウA/Bコンペアマッチ（ADC120_WCMPM）	SNZEDCR	b3
ADC120ウィンドウA/Bコンペア不一致（ADC120_WCMPUM）	SNZEDCR	b4
ADC121ウィンドウA/Bコンペアマッチ（ADC121_WCMPM）	SNZEDCR	b5
ADC121ウィンドウA/Bコンペア不一致（ADC121_WCMPUM）	SNZEDCR	b6
SCI0アドレス不一致（SCI0_DCUF）	SNZEDCR	b7

表 11.9 スヌーズ終了条件

スヌーズ終了要求発生時の動作モジュール	スヌーズ終了要求	
	AGT1アンダーフロー	AGT1アンダーフロー以外のすべて
DTC	これら全モジュールが動作を完了した後、MCUはソフトウェアスタンバイモードへ遷移する。	これら全モジュールが動作を完了した後、MCUはソフトウェアスタンバイモードへ遷移する。
ADC120		
ADC121		
CTSU		
SCI0	スヌーズ終了要求の発生後、MCUはただちにソフトウェアスタンバイモードへ遷移する。	
その他の全モジュール	スヌーズ終了要求の発生後、MCUはただちにソフトウェアスタンバイモードへ遷移する。	

注 . DTC を用いて ADC120、ADC121、CTSU、または SCI を起動した場合は、スヌーズ終了要求の発生後、MCU はただちにソフトウェアスタンバイモードへ遷移します。

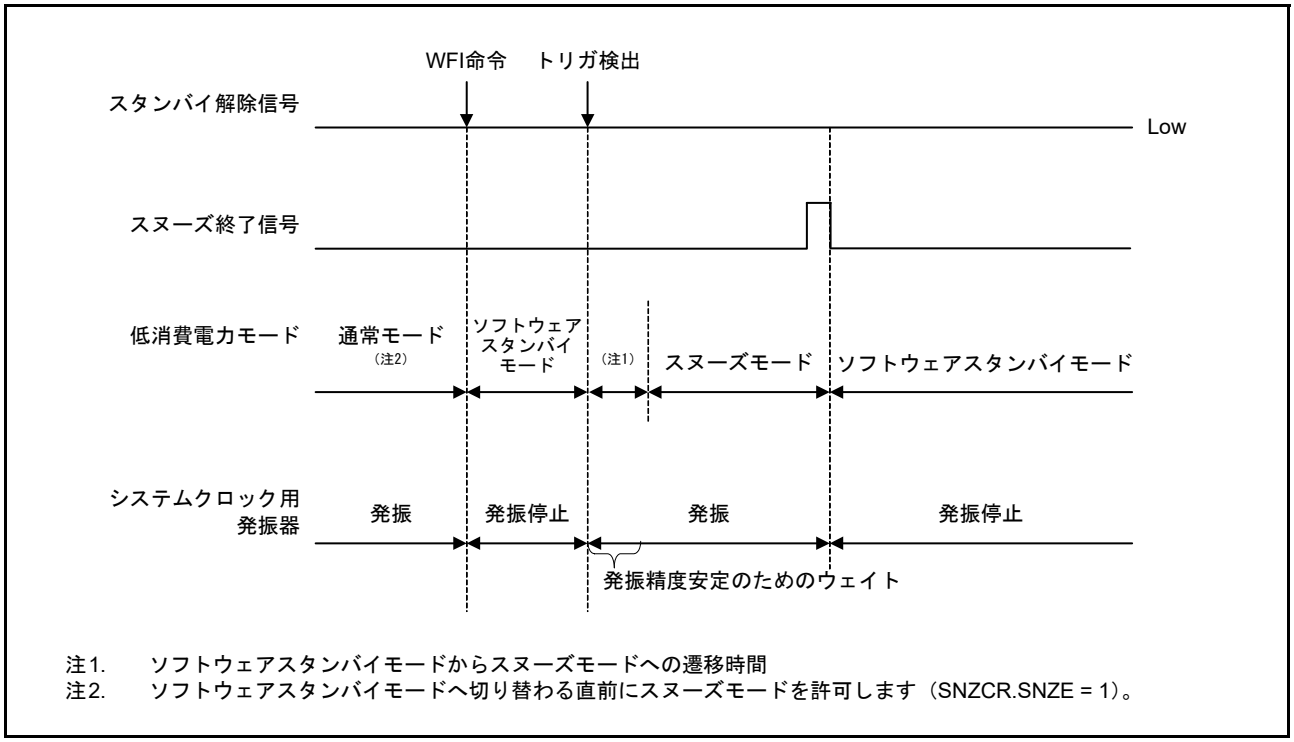


図 11.7 割り込み要求信号が発生しない場合のスヌーズモードの解除

11.8.4 スヌーズモードの動作例

図 11.8 に、スヌーズモードで ELC を使用する場合の設定例を示します。

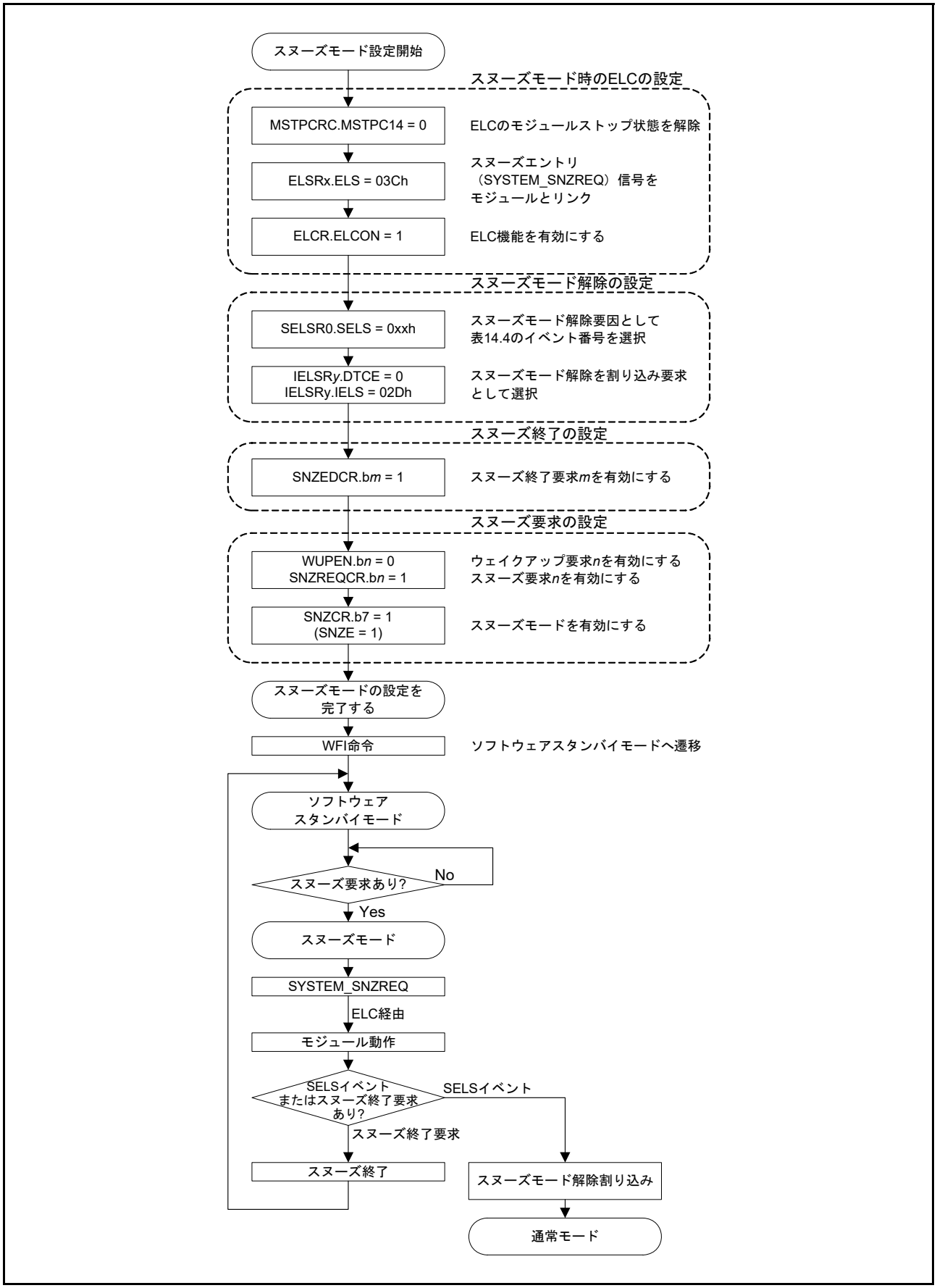


図 11.8 スヌーズモードで ELC を使用するための設定例

本 MCU は、CPU を介さずに SCI0 の調歩同期式モードでデータの送受信が可能です。スヌーズモードで SCI0 を使用する場合は、High-speed モードまたは Low-speed モードのいずれかを使用してください。

Subosc-speed モードは使用しないでください。表 11.10 に、スヌーズモードにおける SCI0 の最大転送速度を示します。

表 11.10　　HOCO：± 1.4%（Ta = -20～+105℃）　　**（単位：bps）**

ICLK、PCLKA、PCLKB、PCLKC、PCLKD、FCLK、BCLK、TRCLKの最大分周比	HOCO周波数					
	LOCO停止中			LOCO動作中		
	16MHz	18MHz	20MHz	16MHz	18MHz	20MHz
1	2400			4800		
2						
4						
8						
16						
32	1200			2400		
64						

図 11.9 に、スヌーズモードエントリで SCI0 を使用する場合の設定例を示します。

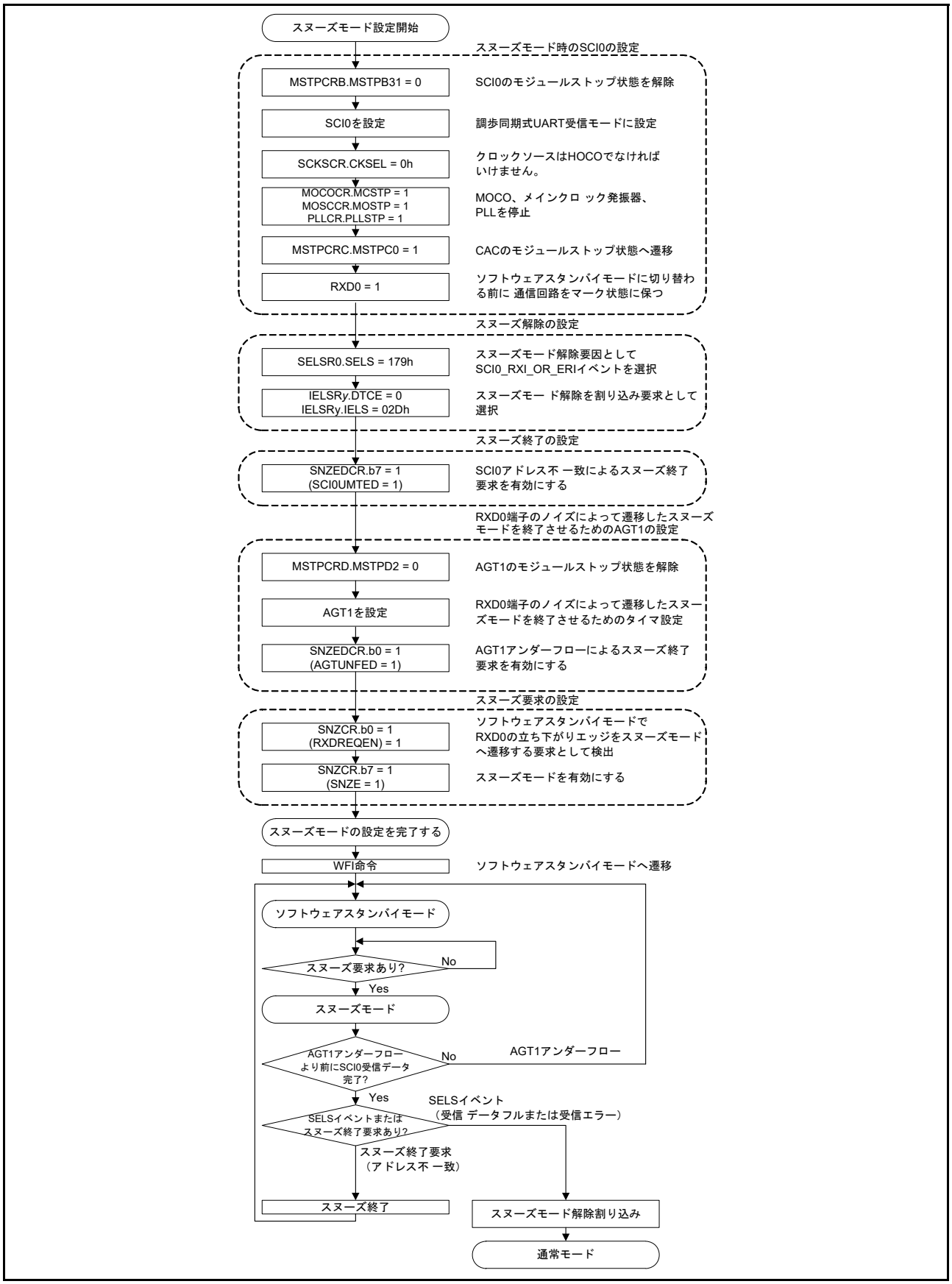


図 11.9　スヌーズモードエントリで SCI0 を使用するための設定例

11.9 ディープソフトウェアスタンバイモード

11.9.1 ディープソフトウェアスタンバイモードへの遷移

SBYCR.SSBY ビットが 1、かつ DPSBYCR.DPSBY ビットが 1 の状態で WFI 命令を実行すると、MCU はディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移します。関連する制御ビットの設定値については、表 11.6 を参照してください。

ディープソフトウェアスタンバイモードでは、次のモジュールが停止します。

- CPU
- RTC アラーム、RTC 周期、および USB サスペンド／レジューム検出部を除く各オンチップ周辺機能
- SRAM（スタンバイ SRAM を除く）
- サブクロック発振器と低速オンチップオシレータを除くすべての発振器

これらのモジュールに対する内部電源の供給が停止するので、消費電力が削減されます。CPU レジスタと内蔵周辺モジュール（RTC アラーム、RTC 周期、USB サスペンド／レジューム検出部は除く）の内容はすべて不定となります。

スタンバイ SRAM のデータは、DEEPCUT[1:0] ビットの設定値が 00b であると保持されます。DEEPCUT[1:0] ビットの設定値が 01b であると、スタンバイ SRAM と USB レジューム検出部への内部電源の供給が停止するので、消費電力が削減されます。このとき、スタンバイ SRAM のデータは不定となります。

DEEPCUT[1:0] ビットの設定値が 11b であると、スタンバイ SRAM と USB レジューム検出部への内部電源の供給停止に加えて、LVD が停止し、パワーオンリセット回路の低消費電力モード機能が有効になります。そのため、消費電力はさらに削減されます。詳細は、「52. 電気的特性」を参照してください。

IWDT がオートスタートモードであり、かつ OFS0.IWDTSTPCTL ビットが 1 の状態で MCU がディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移すると、IWDT 専用クロックと IWDT への電源供給が停止します。IWDT はカウントも停止します。

OFS0.IWDTSTPCTL ビットが 0 の場合は、OFS0.IWDTSTRT ビットまたは DPSBYCR.DPSBY ビットの設定値にかかわらず、MCU はディープソフトウェアスタンバイモードではなく、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移します。OFS0.IWDTSTRT ビットが 0（オートスタートモード）であるとき OFS0.IWDTSTPCTL ビットが 0 の場合は、IWDT 専用クロックと IWDT は動作を継続します。

LVD1CR0.RI ビットが 1（電圧監視 1 リセット選択）、または LVD2CR0.RI ビットが 1（電圧監視 2 リセット選択）の場合は、MCU はディープソフトウェアスタンバイモードではなく、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移します。I/O ポートの状態はソフトウェアスタンバイモード時と同じです。

クロックソースとして PLL を選択した場合、以下のモジュールをモジュールストップ状態に設定してから WFI 命令を実行してください。

- SCE7
- GPT32EH
- GPT32E

この場合は、少なくとも 750ns 待機してから WFI 命令を実行する必要があります。待機時間の計測にはソフトウェアを使用することを推奨します。ワーストケースの使用条件を考慮して、待機時間が確実に経過したことを確認してください。

図 11.2 に、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードへの遷移時のフロー例を示します。

注 . WFI 命令を実行する前に、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移するための DTC、DMAC、および IWDT に関する条件を満たしておく必要があります。詳細は、11.7 ソフトウェアスタンバイモードを参照してください。

11.9.2 ディープソフトウェアスタンバイモードの解除

ディープソフトウェアスタンバイモードは以下の方法で解除されます。

- 表 11.3 に示す割り込み
- RES 端子リセット
- パワーオンリセット
- 電圧監視 0 リセット

動作は以下の通りです。

1. 割り込みによる解除
   割り込みによる解除は、DPSIERn（n = 0 ～ 3）レジスタと DPSIFRn（n = 0 ～ 3）レジスタで制御されます。利用可能な割り込み要求が発生すると、DPSIFRn レジスタの当該フラグが 1 になります。DPSIERn レジスタで割り込みが許可されていると、ディープソフトウェアスタンバイモードが解除されます。立ち上がりまたは立ち下がりエッジ検出は、DPSIEGRn（n = 0 ～ 2）で選択できます。検出エッジは、NMI、IRQ0-DS、IRQ1-DS、IRQ4-DS ～ IRQ12-DS、電圧監視 1、電圧監視 2 の各割り込みに対して選択可能です。ディープソフトウェアスタンバイモードの解除要求が発生すると、内部電源が供給され、MOCO クロックが発振を開始し、その後 MCU 全体に対して内部リセット（ディープソフトウェアスタンバイリセット）が発生します。その後、安定した MOCO クロックが MCU 全体に供給され、ディープソフトウェアスタンバイリセットが解除されます。そして MCU はリセット例外処理を開始します。外部割り込み端子または内部割り込み信号によってディープソフトウェアスタンバイモードが解除されると、RSTSR0.DPSRSTF フラグが 1 になります。
2. RES 端子リセットによる解除
   RES 端子を Low にすると、MCU はディープソフトウェアスタンバイモードを解除して、リセット状態になります。「52. 電気的特性」に示す規定の期間に従って、RES 端子を Low に保つようにしてください。規定の期間が経過した後、RES 端子を High にすると、CPU はリセット例外処理を開始します。
3. パワーオンリセットによる解除
   パワーオンリセットによってディープソフトウェアスタンバイモードが解除され、MCU はリセット例外処理を開始します。
4. 電圧監視 0 リセットによる解除
   電圧検出回路による電圧監視 0 リセットによってディープソフトウェアスタンバイモードが解除され、MCU はリセット例外処理を開始します。

11.9.3 ディープソフトウェアスタンバイモード解除時の端子状態

ディープソフトウェアスタンバイモード時、I/O ポートはソフトウェアスタンバイモードと同じ状態を保持しています。ディープソフトウェアスタンバイモードの解除に伴う内部リセットによって MCU は初期化され、ただちにリセット例外処理が開始されます。DPSBYCR.IOKEEP ビットの設定値によって、I/O ポートを初期化するか、またはソフトウェアスタンバイモード時の I/O ポート状態を保持するかが決まります。ビット設定に対する I/O ポート状態は下記のとおりです。

- DPSBYCR.IOKEEP ビット = 0 の場合
  ディープソフトウェアスタンバイモードの解除に伴う内部リセットによって、I/O ポートは初期化されます。
- DPSBYCR.IOKEEP ビット = 1 の場合
  ディープソフトウェアスタンバイモードの解除に伴う内部リセットによって、MCU は初期化されますが、I/O ポートは MCU の内部状態にかかわらずソフトウェアスタンバイモード時の状態を保持します。I/O ポートまたは周辺モジュールの設定を行っても、I/O ポート状態はソフトウェアスタンバイモード時のまま変わりません。DPSBYCR.IOKEEP ビットを 0 にすることによって、保持されていた I/O ポート状態が解放され、MCU は内部状態に従って動作します。DPSBYCR.IOKEEP ビットは、ディープソフトウェアスタンバイモードの解除に伴う内部リセットによって初期化されません。

11.9.4 ディープソフトウェアスタンバイモードの応用例

(1) ディープソフトウェアスタンバイモードの遷移と復帰

IRQn-DS 端子の立ち下がりエッジ検出時のディープソフトウェアスタンバイモードへの遷移と、IRQn-DS 端子の立ち上がりエッジ検出時のディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰の例を図 11.10 に示します。この例では、ICU の IRQCRi.IRQMD[1:0] ビットを 00b（立ち下がりエッジ）にした状態で、IRQn 端子の割り込みを受け付けています。次に、DPSIEGRy.DIRQnEG ビット（y = 0, 1、n = 0, 1, 4 ～ 12）を 1（立ち上がりエッジ）にして、SBYCR.SSBY ビットと DPSBYCR.DPSBY ビットをともに 1 にした後、WFI 命令を実行しています。その結果、MCU はディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移します。その後、IRQn-DS 端子の立ち上がりエッジでディープソフトウェアスタンバイモードが解除されます。

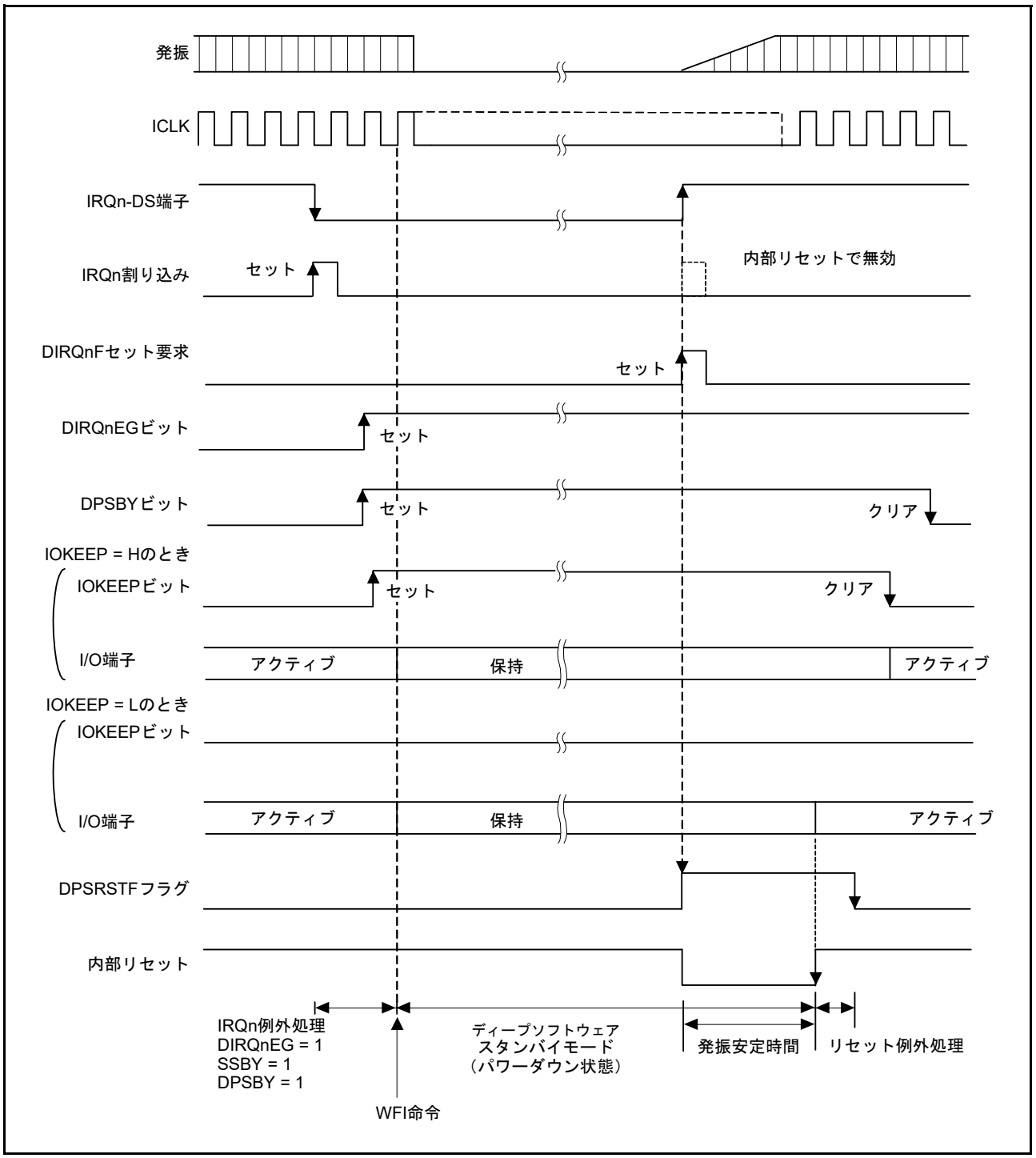


図 11.10 ディープソフトウェアスタンバイモードの応用例

11.9.5 ディープソフトウェアスタンバイモード使用時のフローチャート

図 11.11 に、ディープソフトウェアスタンバイモード使用時のフローチャート例を示します。この例では、リセット例外処理の後、リセット機能の RSTSR0.DPSRSTF フラグを読み出して、RES 端子によるリセットか、ディープソフトウェアスタンバイモード解除によるリセットかを判定しています。RES 端子によるリセットの場合は、必要なレジスタの設定を行った後、ディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移しています。ディープソフトウェアスタンバイモード解除によるリセットの場合は、I/O ポートの設定をした上で DPSBYCR.IOKEEP ビットを 0 にしています。

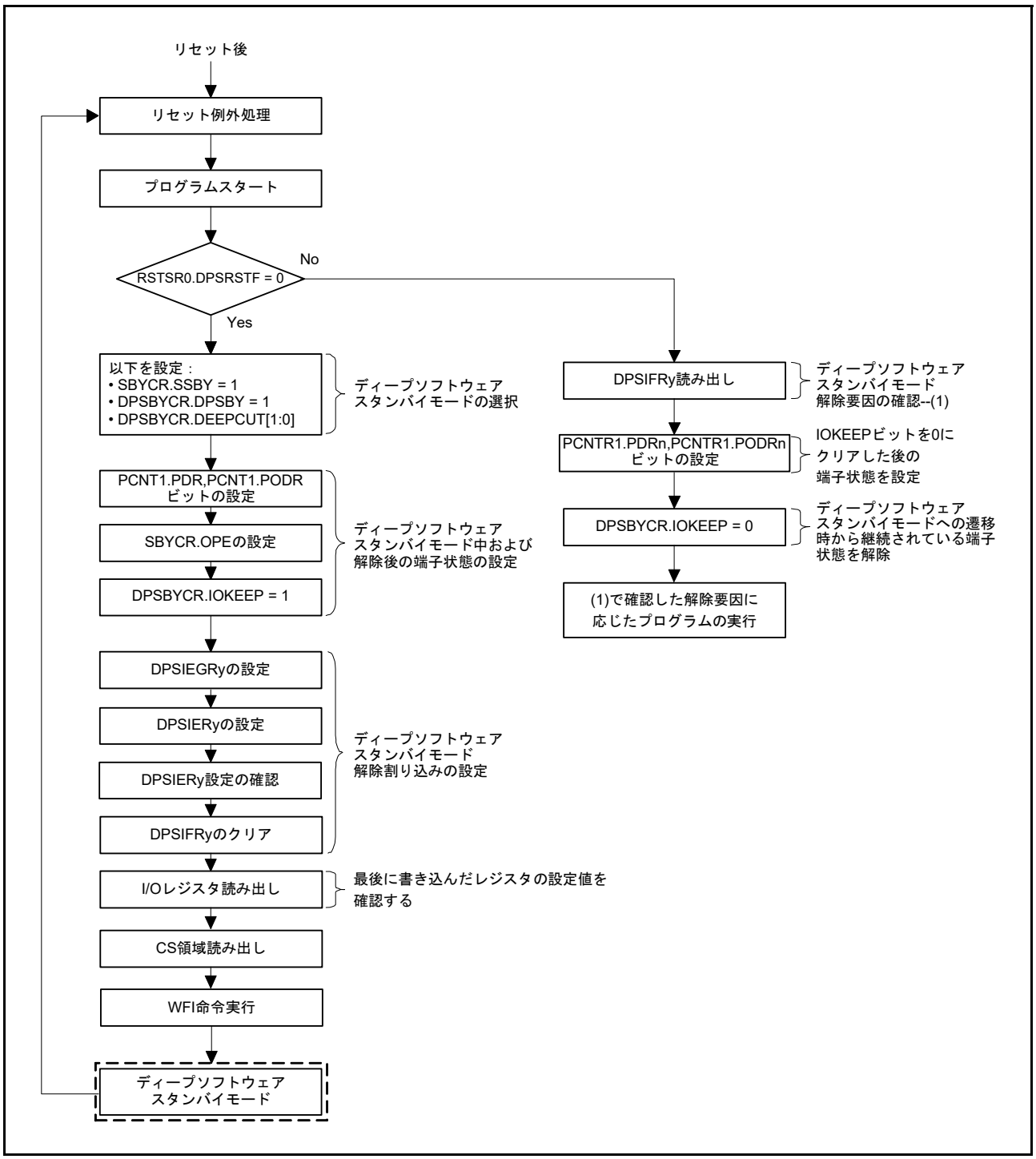


図 11.11 ディープソフトウェアスタンバイモード使用時のフローチャート例

11.10 使用上の注意事項

11.10.1 レジスタアクセス

(1) 特定モードの期間中または遷移中の無効なレジスタへのライトアクセス

下記の条件のいずれかに当てはまる場合、下記のレジスタに書き込まないでください。

［レジスタ］

- “SYSTEM” という周辺名をもつ全レジスタ

［条件］

- OPCCR.OPCMTSF = 1 または SOPCCR.SOPCMTSF = 1（動作電力制御モードへの遷移中）
- WFI 命令の実行から通常モードへ復帰するまでの期間中
- FENTRYR.FENTRYi = 1（i = 0 ～ 3）（フラッシュ P/E モード）、または FENTRYR.FENTRYD = 1（データフラッシュ P/E モード）

(2) クロック関連レジスタに対する有効な設定値

表 11.11 と表 11.12 に、各動作電力制御モードにおけるクロック関連レジスタの有効な設定値を示します。有効な設定値以外の値を書き込まないようにしてください。これら以外の値を書き込んでも無視されます。また、各レジスタには、動作電力制御モード関連以外の特定の条件下で禁止される設定値もあります。これらの各レジスタに対する他の条件については、「9. クロック発生回路」を参照してください。

表 11.11 クロック関連レジスタに対する有効な設定値（1）

モード	有効な設定値							
	SCKSCR.CKSEL[2:0], CKOCR.CKOSEL[2:0]	SCKDIVCR.FCK[2:0], ICK[2:0]	PLLCR. PLLSTP	HOCOCR. HCSTP	MOCOCR. MCSTP	LOCOCR. LCSTP	MOSCCR. MOSTP	SOSCCR. SOSTP
High-speed	000b（HOCO） 001b（MOCO） 010b（LOCO） 011b（メインクロック） 100b（サブクロック） 101b（PLL）（注1）	000b (1/1) 001b (1/2) 010b (1/4) 011b (1/8) 100b (1/16) 101b (1/32) 110b (1/64)	0（動作） 1（停止）	0（動作） 1（停止）	0（動作） 1（停止）	0（動作） 1（停止）	0（動作） 1（停止）	0（動作） 1（停止）
Low-speed	000b（HOCO） 001b（MOCO） 010b（LOCO） 011b（メインクロック） 100b（サブクロック）		1（停止）					
Subosc-speed	010b（LOCO） 100b（サブクロック）	000b (1/1)	1（停止）	1（停止）	1（停止）	0（動作） 1（停止）	1（停止）	0（動作） 1（停止）

注 1. SCKSCR.CKSEL[2:0] のみ

表 11.12　クロック関連レジスタに対する有効な設定値（2）

動作発振器	有効な設定値	
	OPCCR.OPCM[1:0]	SOPCCR.SOPCM
PLL	00b	0
高速オンチップオシレータ	00b, 11b	0
中速オンチップオシレータ		
メインクロック発振器		
低速オンチップオシレータ	00b, 11b	0, 1
サブクロック発振器		
IWDT専用オンチップオシレータ		

(3)　Subosc-speed モードにおける無効なレジスタへのライトアクセス

下記の条件に当てはまる場合、下記のレジスタに書き込まないでください。

［レジスタ］

- SCKSCR, OPCCR

［条件］

- SOPCCR.SOPCM = 1（Subosc-speed モード）

(4)　DTC または DMAC による無効なレジスタへのライトアクセス

DTC または DMAC によって、下記のレジスタに書き込まないでください。

［レジスタ］

- MSTPCRA

(5)　スヌーズモードにおける無効なレジスタへのライトアクセス

スヌーズモード時に、下記のレジスタに書き込まないでください。これらのレジスタの設定は、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に行ってください。

［レジスタ］

- SNZCR, SNZEDCR, SNZREQCR

(6)　FLWT.FLWT[2:0] への無効なライトアクセス

下記の条件に当てはまる場合、FLWT.FLWT[2:0] ビットに 000b 以外の値を書き込まないでください。

［条件］

- SOPCCR.SOPCM = 1（Subosc-speed モード）

(7)　PRCR.PRC1 ビットが 0 の場合の無効なライトアクセス

PRCR.PRC1 ビットが 0 の場合、下記のレジスタに書き込まないでください。

［レジスタ］

- SBYCR, SNZCR, SNZEDCR, SNZREQCR, OPCCR, SOPCCR, DPSBYCR, DPSIERn (n = 0～3), DPSIFRn (n = 0 ～ 3), DPSIEGRn (n = 0 ～ 2), SYOCDCR

11.10.2　I/O ポートの状態

ソフトウェアスタンバイモード、ディープソフトウェアスタンバイモード、およびスヌーズモード（スヌーズモード時に書き換える場合は除く）における I/O ポート状態は、各モードへ遷移する前と同じです。したがって、High を出力している間、消費電力は低減されません。

11.10.3 DMAC と DTC のモジュールストップ状態

MSTPCRA.MSTPA22 ビットを 1 にする前に、DMAC の DMAST.DMST ビットと、DTC の DTCST.DTCST ビットを 0 にしてください。

11.10.4 内部割り込み要因

モジュールストップ状態では、割り込みの動作ができません。割り込み要求が発生しているとき、モジュールストップビットを設定すると、CPU の割り込み要因または DMAC、DTC の起動要因のクリアができません。事前に対応する割り込みを禁止してから、モジュールストップビットを設定してください。

11.10.5 DIRQnE ビット（n = 0, 1, 4 ～ 12）による入力バッファ制御

DPSIERy.DIRQnE ビット（y = 0, 1、n = 0, 1, 4 ～ 12）を 1 にすることによって、IRQ0-DS 端子、IRQ1-DS 端子、および IRQ4-DS ～ IRQ12-DS 端子の対応する入力バッファが有効になります。これらの端子への入力は DPSIFRy.DIRQnF ビット（y = 0, 1、n = 0, 1, 4 ～ 12）に伝わりますが、ICU、周辺モジュール、または I/O ポートには伝わりません。

11.10.6 低消費電力モードへの遷移

本 MCU はイベントによるウェイクアップをサポートしていないため、WFE 命令の実行によって低消費電力モード（スリープモード、ソフトウェアスタンバイモード、またはディープソフトウェアスタンバイモード）へ遷移させないでください。また、本 MCU は SLEEPDEEP による低消費電力モードをサポートしていないため、Cortex®-M4 コアが内蔵するシステムコントロールレジスタの SLEEPDEEP ビットは設定しないでください。

11.10.7 WFI 命令のタイミング

WFI 命令は、I/O レジスタと CS 領域の書き込みが完了する前に実行されることがあり、その場合、意図しない動作を起こす恐れがあります。これは、I/O レジスタまたは CS 領域への書き込み直後に WFI 命令が実行された場合に生じます。この問題を避けるには、書き込まれたレジスタまたは CS 領域を読み戻して、書き込みの完了を確認してください。

11.10.8 スリープモード／スヌーズモード時の DMAC または DTC による WDT および IWDT レジスタへの書き込みについて

スリープモードやスヌーズモードへ遷移すると WDT や IWDT は停止します。その間に DMAC または DTC によって WDT または IWDT レジスタを書き換えないでください。

11.10.9 スヌーズモードにおける発振器について

ソフトウェアスタンバイモードへ遷移して停止した発振器は、スヌーズモードへの切り替えトリガが発生すると、自動的に動作を再開します。すべての発振器が安定するまで、MCU はスヌーズモードへ遷移しません。スヌーズモード時には、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、スヌーズモードで不要な発振器を無効にする必要があります。そうしないと、ソフトウェアスタンバイモードからスヌーズモードへの遷移に時間がかかります。

11.10.10 RXD0 の立ち下がりエッジによるスヌーズモードエントリ

SNZCR.RXDREQEN ビットが 1 の場合、RXD0 端子のノイズが原因で、MCU がソフトウェアスタンバイモードからスヌーズモードへ遷移する場合があります。また RXD0 端子のノイズによって、スヌーズモード時に後続の RXD0 データを受信する可能性があります。ノイズ発生後、MCU が RXD0 データを受信しなければ、割り込み（SCI0_ERI や SCI0_RXI など）もアドレス不一致イベントも発生せず、MCU はスヌーズモードを維持します。この問題を避けるには、スヌーズモードで SCI0 を使用する場合、AGT1 アンダーフロー割り込みを用いてソフトウェアスタンバイモードまたは通常モードへ復帰するようにしてください。ただし SCI 通信中は、AGT1 アンダーフロー割り込みがソフトウェアスタンバイモードへの復帰要因とならないように AGT1 を設定してください。これは、SCI0 の動作を中途半端に停止させます。

11.10.11 スヌーズモードにおける SCI0 の使用

スヌーズモードで SCI0 を使用する場合、割り込み要求またはスヌーズ終了要求には AGT1 アンダーフローを使用する必要があります。これ以外のトリガは使用しないでください。

スヌーズモードで SCI0 を使用する場合は、下記の条件が満たされなければいけません。

- クロックソースは HOCO であること
- MOCO、メインクロック発振器、および PLL は、ソフトウェアスタンバイモード遷移前に停止していること
- RXD0 端子は、ソフトウェアスタンバイモード遷移前に High レベルを維持していること
- SCI 通信中は、ソフトウェアスタンバイモードへの遷移が生じないこと
- ソフトウェアスタンバイモード遷移前に、MSTPCRC.MSTPC0 ビットが 1 であること

11.10.12 スヌーズモードにおける A/D 変換開始条件

スヌーズモードでは、ELC のみが ADC12 の開始トリガとなれます。ソフトウェアトリガや ADTRGn 端子を使用しないでください。

11.10.13 スヌーズモードにおける ELC イベント

スヌーズモードでは、下記に示す ELC イベントのみが利用可能です。これ以外のイベントは使用しないでください。スヌーズモードへ遷移後、初めて周辺モジュールを起動する場合は、イベントリンク設定レジスタ（ELSRn）において、スヌーズモードエントリイベント（SYSTEM_SNZREQ）をトリガとして設定する必要があります。

- スヌーズモードエントリ（SYSTEM_SNZREQ）
- DTC 転送終了（DTC_DTCEND）
- ADC12n ウィンドウ A/B コンペアマッチ（ADC12n_WCMPM）（n = 0, 1）
- ADC12n ウィンドウ A/B コンペア不一致（ADC12n_WCMPUM）（n = 0, 1）
- データ演算回路割り込み（DOC_DOPCI）

11.10.14 スヌーズモードにおける CTSU の条件

スヌーズモードでは、ELC のみが CTSU を起動できます。

12. バッテリバックアップ機能

12.1 概要

本 MCU はバッテリバックアップ機能を備えており、電力低下が生じた場合に、バッテリによる部分給電が維持されます。VCC と VBATT の切り替えのために、RTC、SOSC、およびバックアップメモリなどがバッテリ電源領域に含まれています。

正常に動作しているとき、バッテリ電源領域には主電源（VCC 端子）から電源が供給されます。VCC 端子に電圧降下が検出されると、電源は専用のバッテリバックアップ用電源端子（VBATT 端子）に切り替わります。そして電圧が上昇すると、電源は再び VBATT 端子から VCC 端子へ切り替わります。

12.1.1 バッテリバックアップ機能

バッテリバックアップ機能は以下のもので構成されます。

- バッテリ電源スイッチ
- バックアップレジスタ
- 時間キャプチャ端子検出

12.1.2 バッテリ電源スイッチ

VCC 端子の印加電圧が低下すると、この機能によって、電源が VCC 端子から VBATT 端子に切り替わります。そして電圧が上昇すると、再び VBATT 端子から VCC 端子へ切り替わります。

12.1.3 バックアップレジスタ

バッテリ電源領域には、512 個の 1 バイトバックアップレジスタが搭載されています。バッテリ電源領域に VCC 端子または VBATT 端子から電源が供給されていれば、これらのレジスタはデータを保持します。

12.1.4 時間キャプチャ端子検出

RTC は、時間キャプチャ端子の入力レベルの変化を検出します。詳細は、「26. リアルタイムクロック（RTC）」を参照してください。

注 . VCC が $V_{DETBATT}$ を下回り、かつ（VBATT + 0.6V）を上回ると、内部ダイオードを介して VCC 端子から VBATT 端子へ注入電流が流れます。VBATT 端子に接続された電源バッテリが、この電流注入に対応していない（たとえば、バッテリが再充電可能なものではない）場合、弊社では、電源バッテリと VBATT 端子の間に低電圧しきい値のダイオードを接続することを強く推奨しています。

注 . 電圧監視 0 リセットを許可にした上で、バッテリバックアップ機能を使用する必要があります。電圧監視 0 レベルは、VBATT 切り替えレベルよりも高く設定しなければいけません。

図 12.1 に、バッテリバックアップ機能の構成図を示します。

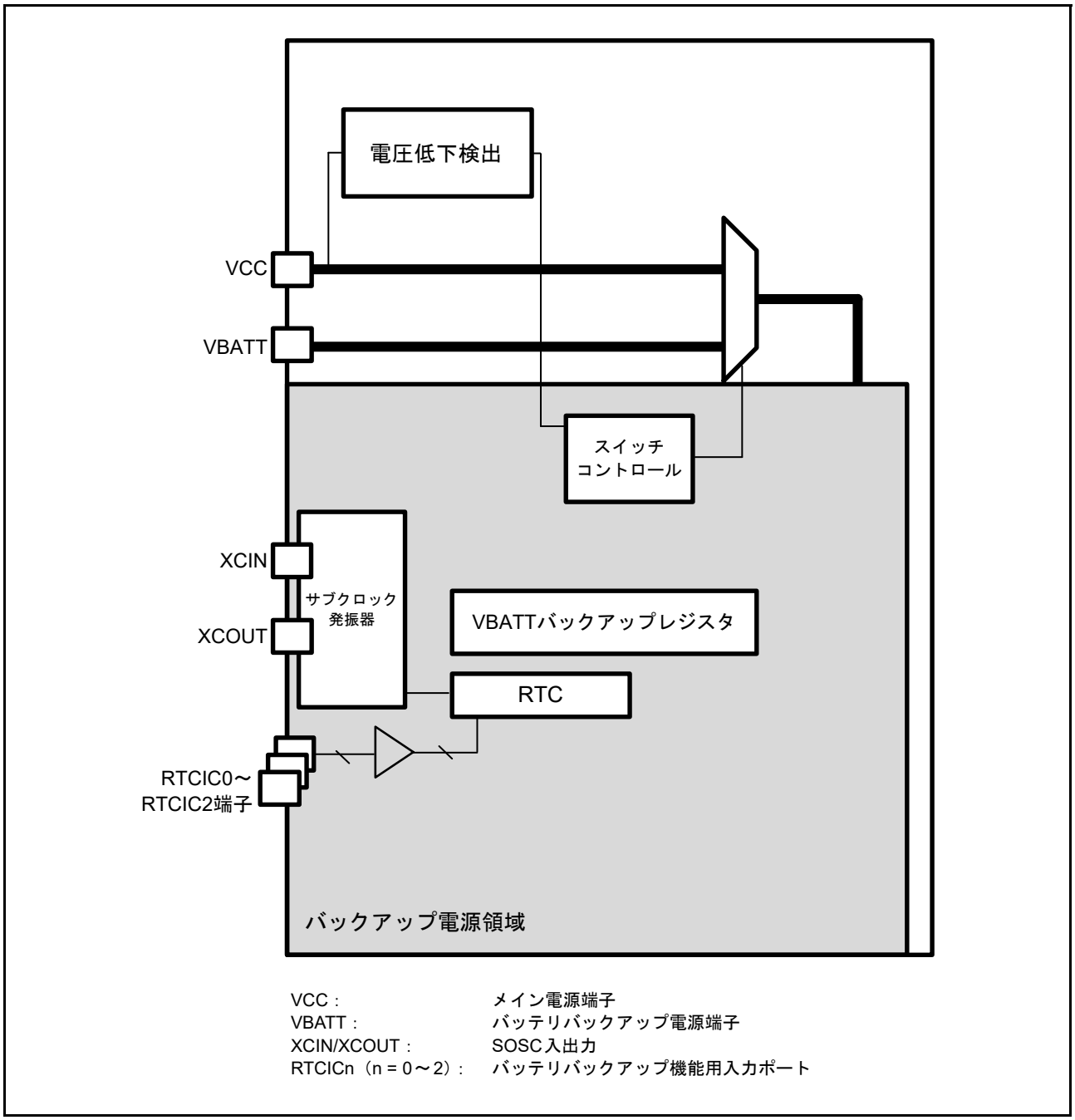


図 12.1 バッテリバックアップ機能の構成図

12.2　レジスタの説明

12.2.1　VBATT バックアップレジスタ（VBTBKRn）（n = 0 ～ 511）

アドレス　SYSTEM.VBTBKR[0] 4001 E500h～SYSTEM.VBTBKR[511] 4001 E6FFh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	VBTBKR[7:0]							
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

VBTBKRn レジスタは、8 ビット単位で読み出し／書き込みが可能なレジスタであり、VBATT により電源供給されてデータを格納します。VCC からの電源供給はされず VBATT から電源供給されている場合に、本レジスタの値は保持されます。このレジスタは、リセットによる初期化はされません。

12.2.2　VBATT 入力コントロールレジスタ（VBTICTLR）

アドレス　SYSTEM.VBTICTLR 4001 E4BBh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	VCH2INEN	VCH1INEN	VCH0INEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	VCH0INEN	VBATT CH0入力許可	0：禁止 1：許可	R/W
b1	VCH1INEN	VBATT CH1入力許可	0：禁止 1：許可	R/W
b2	VCH2INEN	VBATT CH2入力許可	0：禁止 1：許可	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

VBTICTLR レジスタは、VBATT 入出力端子の入力方向を選択するレジスタです。

VCHnINEN（VBATT CHn 入力許可）（n = 0 ～ 2）

対応する VBATT チャネルの入力方向を許可します。存在しない端子に対応するビットは予約ビットです。書く場合、0 としてください。

CH0 ～ CH2 対応機能については、20.5.5　入出力バッファの仕様を参照してください。

12.3 動作説明

12.3.1 バッテリバックアップ機能

VCC 端子の電圧が低下したとき、RTC とサブクロック発振器には VBATT 端子から電源が供給されます。VCC 端子の電圧降下が検出されると、電源との接続は VBATT 端子に切り替わります。また、VCC 端子の電圧が $V_{DETBATT}$ を超えると、VCC 端子からの電源供給に戻ります。電源の切り替わりは RTC の動作に影響を与えません。

電圧監視 0 リセットを許可にした上で、バッテリバックアップ機能を使用する必要があります。RTC は、時間キャプチャ端子の入力レベルが変化したときの時間キャプチャの検出をサポートします。

VBATT 端子からは、以下のモジュールに電力が供給されます。

- RTC
- サブクロック発振器（XCIN、XCOUT 端子を含む）
- VBATT バックアップレジスタ

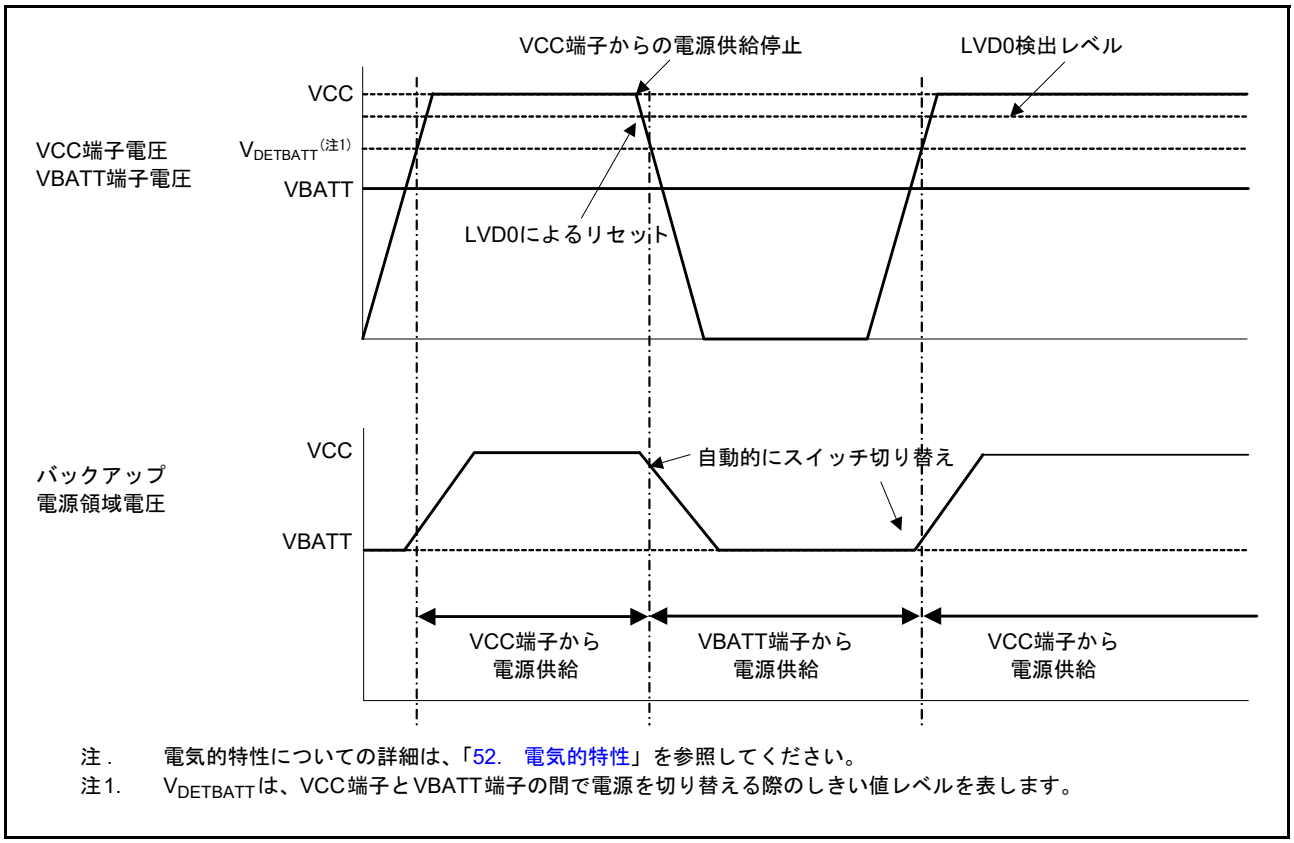
表 12.1 に、VBATT モード時の動作状態を示します。

表 12.1 VBATTモード時の動作状態

動作状態	VBATTモード
遷移条件	VCC電圧降下の検出
リセット以外の解除方法	VCC電圧上昇の検出
割り込みによる解除後の状態	—
リセットによる解除後の状態	—
メインクロック発振器	停止
サブクロック発振器	動作
高速オンチップオシレータ	停止
中速オンチップオシレータ	停止
低速オンチップオシレータ	停止
IWDT専用オンチップオシレータ	停止
PLL	停止
CPU	停止（不定）
SRAM（ECC SRAMを含む）	停止（不定）
スタンバイSRAM	停止（不定）
VBATTバックアップレジスタ	停止（保持）
フラッシュメモリ	停止（保持）
リアルタイムクロック（RTC）	選択可能（選択クロックがカウントソースとして動作しているとき）
AGTn (n = 0, 1)	停止（不定）
低電圧検出（LVD）	停止
パワーオンリセット回路	停止
その他の周辺モジュール	停止（不定）
I/Oポート	• RTCICnポート（n = 0～2）：動作 • 指定ポート以外：不定

注 . 「選択可能」とは、動作がコントロールレジスタで選択できることを意味します。モジュールによっては、対応するモジュールストップビットで制御できるものもあります。
注 . 「停止（保持）」とは、内部レジスタの内容は保持されるが、動作は中断されることを意味します。
注 . 「停止（不定）」とは、内部レジスタの内容が不定で、内部回路への通電が遮断されることを意味します。

図 12.2 に、バッテリバックアップ機能の切り替え順序を示します。



注 . 電気的特性についての詳細は、「52. 電気的特性」を参照してください。
注1. $V_{DETBATT}$は、VCC端子とVBATT端子の間で電源を切り替える際のしきい値レベルを表します。

図 12.2 バッテリバックアップ機能の切り替え順序

12.3.2 VBATT バッテリ電源スイッチの使用法

VCC 端子の印加電圧が低下すると、バッテリ電源スイッチによって、電源が VCC 端子から VBATT 端子に切り替わります。そして電圧が上昇すると、再び VBATT 端子から VCC 端子へ切り替わります。

注 . 電圧監視 0 リセットを許可にした上で、バッテリバックアップ機能を使用する必要があります。電圧監視 0 レベルは、VBATT 切り替えレベルよりも高く設定する必要があります。

12.3.3 VBATT バックアップレジスタの使用法

VBATT バックアップレジスタ VBTBKRn（n = 0 ～ 511）を使用して、8 ビット読み出し／書き込み操作により、データの格納／復元を行います。

12.4 使用上の注意事項

1. VBATT の電圧レベルが動作保証範囲を下回ったとき、サブクロック発振器と RTC の動作は保証されません。VBATT 端子が動作保証電圧を下回った後、再度電源を立ち上げたときには、RTC の初期設定を行ってください。
2. 本章に記載のレジスタへの書き込み中にリセットが発生した場合、レジスタ値が失われることがあります。
3. VCC が $V_{DETBATT}$ を上回っているときは、VCC 端子と VBATT 端子は切り離されます。VCC が $V_{DETBATT}$ を下回ってスイッチが VBATT 端子に接続された場合、VBATT の電圧が低下すると（VCC - 0.6V）、VCC 端子と VBATT 端子の間の寄生ダイオードを介して VBATT 端子に電流が流れ込む可能性があります。
4. VBATT 端子からの電圧とバックアップ領域内の I/O ポート（P402、P403、および P404）によって RTC が動作しているとき、その電源領域は RTC の時間キャプチャイベント入力端子としてのみ使用可能です。

13. レジスタライトプロテクション

13.1 概要

レジスタライトプロテクション機能は、ソフトウェアエラーによって重要なレジスタが書き換えられないように保護します。保護されるレジスタは、プロテクトレジスタ（PRCR）で設定します。

表 13.1 に PRCR レジスタのビットと保護されるレジスタの対応を示します。

表 13.1 PRCR レジスタのビットと保護されるレジスタの対応関係

PRCR レジスタ	保護されるレジスタ
PRC0 ビット	• クロック発生回路関連レジスタ SCKDIVCR, SCKDIVCR2, SCKSCR, PLLCCR, PLLCR, BCKCR, MOSCCR, HOCOCR, MOCOCR, CKOCR, TRCKCR, OSTDCR, OSTDSR, EBCKOCR, MOCOUTCR, HOCOUTCR, MOSCWTCR, MOMCR, SOSCCR, SOMCR, LOCOCR, LOCOUTCR, HOCOWTCR, FLLCR1, FLLCR2
PRC1 ビット	• 低消費電力モード関連レジスタ SBYCR, SNZCR, SNZEDCR, SNZREQCR, OPCCR, SOPCCR, DPSBYCR, DPSIER0～3, DPSIFR0～3, DPSIEGR0～2, SYOCDCR, STCONR • バッテリバックアップ機能関連レジスタ VBTBKRn (n = 0～511), VBTICTLR
PRC3 ビット	• LVD 関連レジスタ LVD1CR1, LVD1SR, LVD2CR1, LVD2SR, LVCMPCR, LVDLVLR, LVD1CR0, LVD2CR0

13.2　レジスタの説明

13.2.1　プロテクトレジスタ（PRCR）

アドレス　SYSTEM.PRCR 4001 E3FEh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	PRKEY[7:0]								—	—	—	—	PRC3	—	PRC1	PRC0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PRC0	プロテクトビット0	クロック発生回路関連レジスタへの書き込み許可 0：書き込み禁止 1：書き込み許可	R/W
b1	PRC1	プロテクトビット1	低消費電力モードおよびバッテリバックアップ機能関連レジスタへの書き込み許可 0：書き込み禁止 1：書き込み許可	R/W
b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b3	PRC3	プロテクトビット3	LVD関連レジスタへの書き込み許可 0：書き込み禁止 1：書き込み許可	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15-b8	PRKEY[7:0]	PRCキーコード	PRCRレジスタへの書き込みを制御します。PRCRレジスタを書き換える場合、上位8ビットにA5h、下位8ビットに目的の値を、16ビット単位で書いてください。	W （注1）

注 1.　書き込みデータは保持されません。読むと 00h が読めます。

PRCn ビット（プロテクトビット n）（n = 0, 1, 3）

保護されるレジスタ（表 13.1 を参照）への書き込みを許可または禁止します。PRCn ビットを 1 にすると書き込み許可、0 にすると書き込み禁止になります。

14.　割り込みコントローラユニット（ICU）

14.1　概要

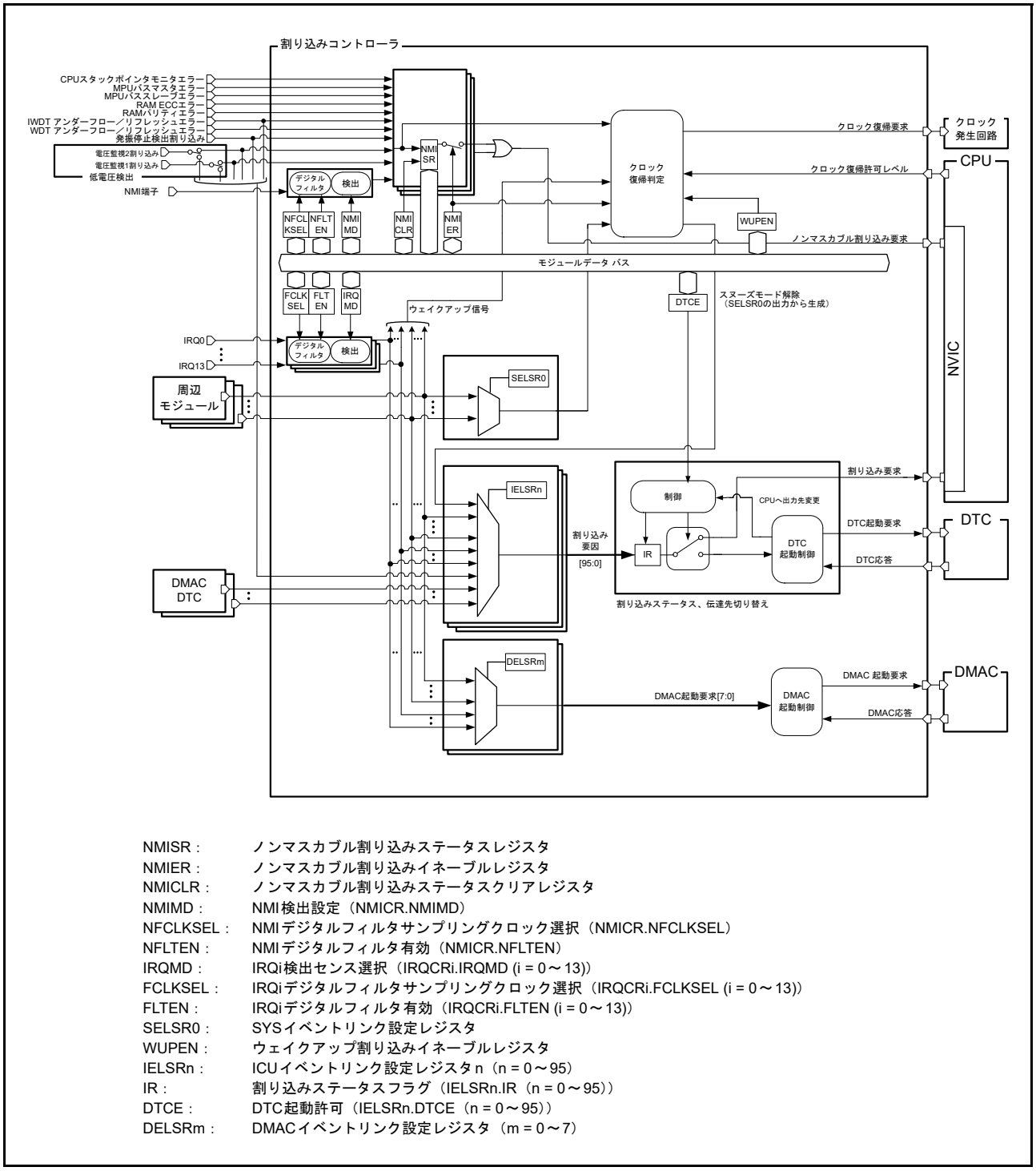
割り込みコントローラユニット（ICU）は、NVIC、DTC、およびDMACモジュールにリンクされるイベント信号を制御します。ICUはノンマスカブル割り込みも制御します。

表14.1にICUの仕様、図14.1にブロック図、そして表14.2に入出力端子を示します。

表14.1　ICUの仕様

項目		内容
割り込み	周辺機能割り込み	• 周辺モジュールからの割り込み 要因数：268（イベントリスト番号64～511から要因を選択）
	外部端子割り込み	• 割り込み検出：Lowレベル、立ち下がりエッジ、立ち上がりエッジ、両エッジ これらの検出法は要因ごとに1つ設定可能 • デジタルフィルタ機能をサポート • 14要因（IRQ0～IRQ13端子からの割り込み）
	DTCおよびDMAC制御	割り込み要因によってDTCとDMACの起動が可能（注1）
	NVICへの割り込み要因	96要因
ノンマスカブル割り込み（注2）	NMI端子割り込み	• NMI端子からの割り込み • 割り込み検出：立ち下がりエッジまたは立ち上がりエッジ • デジタルフィルタ機能をサポート
	発振停止検出割り込み（注3）	メイン発振器の停止を検出したときの割り込み
	WDTアンダーフロー／リフレッシュエラー（注3）	ダウンカウンタのアンダーフローまたはリフレッシュエラー発生時の割り込み
	IWDTアンダーフロー／リフレッシュエラー（注3）	ダウンカウンタのアンダーフローまたはリフレッシュエラー発生時の割り込み
	電圧監視1割り込み（注3）	低電圧検出1回路（LVD1）の電圧監視割り込み
	電圧監視2割り込み（注3）	低電圧検出2回路（LVD2）の電圧監視割り込み
	RPEST	SRAMパリティエラー発生時の割り込み
	RECCST	SRAM ECCエラー発生時の割り込み
	BUSSST	MPUバススレーブエラー発生時の割り込み
	BUSMST	MPUバスマスタエラー発生時の割り込み
	SPEST	CPUスタックポインタモニタによる割り込み
低消費電力モードからの復帰（注4）		• スリープモード：ノンマスカブル割り込みまたはその他の割り込み要因によって復帰 • ソフトウェアスタンバイモード：ノンマスカブル割り込みによって復帰 割り込みはWUPENレジスタで選択可能（注5） • スヌーズモード：ノンマスカブル割り込みによって復帰 割り込みはSELSR0およびWUPENレジスタで選択可能（注5）

注1.　DTCとDMACの起動要因については、表14.4　イベントテーブルを参照してください。
注2.　リセット解除後に1回だけノンマスカブル割り込みを許可することが可能です。
注3.　これらのノンマスカブル割り込みは、イベント信号としても使用可能です。割り込みとして使用する場合、NMIERレジスタの値をリセット状態から変更しないでください。電圧監視1と電圧監視2の割り込みを許可するには、LVD1CR1.IRQSELビットとLVD2CR1.IRQSELビットを1にしてください。
注4.　ディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰については、11.9　ディープソフトウェアスタンバイモードを参照してください。
注5.　14.2.8　SYSイベントリンク設定レジスタ（SELSR0）および14.2.9　ウェイクアップ割り込みイネーブルレジスタ（WUPEN）を参照してください。



NMISR：　ノンマスカブル割り込みステータスレジスタ
NMIER：　ノンマスカブル割り込みイネーブルレジスタ
NMICLR：　ノンマスカブル割り込みステータスクリアレジスタ
NMIMD：　NMI検出設定（NMICR.NMIMD）
NFCLKSEL：　NMIデジタルフィルタサンプリングクロック選択（NMICR.NFCLKSEL）
NFLTEN：　NMIデジタルフィルタ有効（NMICR.NFLTEN）
IRQMD：　IRQi検出センス選択（IRQCRi.IRQMD (i = 0～13)）
FCLKSEL：　IRQiデジタルフィルタサンプリングクロック選択（IRQCRi.FCLKSEL (i = 0～13)）
FLTEN：　IRQiデジタルフィルタ有効（IRQCRi.FLTEN (i = 0～13)）
SELSR0：　SYSイベントリンク設定レジスタ
WUPEN：　ウェイクアップ割り込みイネーブルレジスタ
IELSRn：　ICUイベントリンク設定レジスタn（n = 0～95）
IR：　割り込みステータスフラグ（IELSRn.IR（n = 0～95））
DTCE：　DTC起動許可（IELSRn.DTCE（n = 0～95））
DELSRm：　DMACイベントリンク設定レジスタ（m = 0～7）

図 14.1　　ICU のブロック図

表 14.2 に ICU の入出力端子を示します。

表 14.2　　ICUの入出力端子

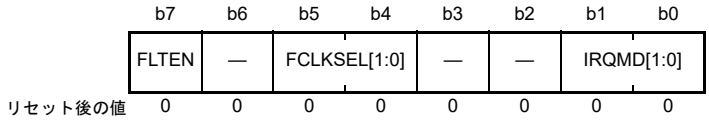
端子名	入出力	機能
NMI	入力	ノンマスカブル割り込み要求端子
IRQ0～IRQ13	入力	外部割り込み要求端子

14.2　レジスタの説明

本章では、Arm® NVIC の内部レジスタについては説明していません。これらのレジスタについては、*ARM® Cortex®-M4 Processor Technical Reference Manual (ARM DDI 0439D)* を参照してください。

14.2.1　IRQ コントロールレジスタ i（IRQCRi）（i = 0 ～ 13）

アドレス　ICU.IRQCR0 4000 6000h, ICU.IRQCR1 4000 6001h, ICU.IRQCR2 4000 6002h, ICU.IRQCR3 4000 6003h, ICU.IRQCR4 4000 6004h, ICU.IRQCR5 4000 6005h, ICU.IRQCR6 4000 6006h, ICU.IRQCR7 4000 6007h, ICU.IRQCR8 4000 6008h, ICU.IRQCR9 4000 6009h, ICU.IRQCR10 4000 600Ah, ICU.IRQCR11 4000 600Bh, ICU.IRQCR12 4000 600Ch, ICU.IRQCR13 4000 600Dh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	IRQMD[1:0]	IRQi検出センス選択	b1 b0 0 0：立ち下がりエッジ 0 1：立ち上がりエッジ 1 0：両エッジ 1 1：Low レベル	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5-b4	FCLKSEL[1:0]	IRQiデジタルフィルタサンプリングクロック選択	b5 b4 0 0：PCLKB 0 1：PCLKB/8 1 0：PCLKB/32 1 1：PCLKB/64	R/W
b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	FLTEN	IRQiデジタルフィルタ有効	0：無効 1：有効	R/W

IRQCRi レジスタの変更には、以下の条件があります。

- CPU 割り込みまたは DTC 起動要因の場合：
  IRQCRi レジスタの設定を変更してから、対象の IELSRn レジスタ（n = 0 ～ 95）を設定する必要があります。
  対象の IELSRn レジスタが 0000h の場合にのみ、レジスタ値の変更が可能です。
- DMAC 起動要因の場合：
  IRQCRi レジスタの設定を変更してから、対象の DELSRn レジスタ（n = 0 ～ 7）を設定する必要があります。
  DELSRn.DELS[8:0] ビットが 000h の場合にのみ、レジスタ値の変更が可能です。
- ウェイクアップ許可信号の場合：
  IRQCRi レジスタの設定を変更してから、対象の WUPEN.IRQWUPEN[n] ビット（n = 0 ～ 13）を設定する必要があります。
  対象の WUPEN.IRQWUPEN[n] ビットが 000h の場合にのみ、レジスタ値の変更が可能です。

IRQMD[1:0] ビット（IRQi 検出センス選択）

IRQi 外部端子割り込み要因の検出センシング方法を設定します。外部端子割り込み使用時の設定方法は、14.4.4　外部端子割り込みを参照してください。

FCLKSEL[1:0] ビット（IRQi デジタルフィルタサンプリングクロック選択）

IRQi 外部端子割り込み要求のデジタルフィルタサンプリングクロックを選択します。下記から選択できます。

- PCLKB（毎サイクル）
- PCLKB/8（8 サイクルに 1 回）
- PCLKB/32（32 サイクルに 1 回）
- PCLKB/64（64 サイクルに 1 回）

デジタルフィルタの詳細については、14.4.3　デジタルフィルタを参照してください。

FLTEN ビット（IRQi デジタルフィルタ有効）

IRQi 外部端子割り込み要因に使用するデジタルフィルタを有効にします。デジタルフィルタは、FLTEN ビットが 1 の場合に有効になり、FLTEN ビットが 0 の場合に無効になります。IRQi 端子レベルは、FCLKSEL[1:0] ビットで指定されたクロックサイクルでサンプリングされます。サンプリングされたレベルが 3 回一致すると、デジタルフィルタからの出力レベルが変化します。デジタルフィルタの詳細については、14.4.3　デジタルフィルタを参照してください。

14.2.2 ノンマスカブル割り込みステータスレジスタ（NMISR）

アドレス ICU.NMISR 4000 6140h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	SPEST	BUSMST	BUSSST	RECCST	RPEST	NMIST	OSTST	—	—	LVD2ST	LVD1ST	WDTST	IWDTST
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IWDTST	IWDTアンダーフロー／リフレッシュエラーステータスフラグ	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R
b1	WDTST	WDTアンダーフロー／リフレッシュエラーステータスフラグ	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R
b2	LVD1ST	電圧監視1割り込みステータスフラグ	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R
b3	LVD2ST	電圧監視2割り込みステータスフラグ	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R
b5-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b6	OSTST	メインクロック発振停止検出割り込みステータスフラグ	0：メインクロック発振停止検出割り込み要求なし 1：メインクロック発振停止検出割り込み要求あり	R
b7	NMIST	NMI端子割り込みステータスフラグ	0：NMI端子割り込み要求なし 1：NMI端子割り込み要求あり	R
b8	RPEST	SRAMパリティエラー割り込みステータスフラグ	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R
b9	RECCST	SRAM ECCエラー割り込みステータスフラグ	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R
b10	BUSSST	MPUバススレーブエラー割り込みステータスフラグ	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R
b11	BUSMST	MPUバスマスタエラー割り込みステータスフラグ	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R
b12	SPEST	CPUスタックポインタモニタ割り込みステータスフラグ	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R
b15-b13	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

NMISR レジスタは、ノンマスカブル割り込み要因のステータスを監視します。NMISR レジスタへの書き込みは無視されます。ノンマスカブル割り込み許可レジスタ（NMIER）の設定は、このレジスタのステータスフラグには影響しません。ノンマスカブル割り込みの処理ルーチンでは、このレジスタの全ビットが 0 になっていることをチェックして、他の NMI 要求が発生していないことを確認してから、処理を終了してください。

IWDTST フラグ（IWDT アンダーフロー／リフレッシュエラーステータスフラグ）

IWDT アンダーフロー／リフレッシュエラー割り込み要求を示します。このフラグは読み出し専用であり、NMICLR.IWDTCLR ビットでクリアされます。

［1 になる条件］

- IWDT アンダーフロー／リフレッシュエラー割り込みが発生し、この割り込み要因が許可されているとき

［0 になる条件］

- NMICLR.IWDTCLR ビットに 1 を書いたとき

WDTST フラグ（WDT アンダーフロー／リフレッシュエラーステータスフラグ）

WDT アンダーフロー／リフレッシュエラー割り込み要求を示します。このフラグは読み出し専用であり、NMICLR.WDTCLR ビットでクリアされます。

［1 になる条件］

- WDT アンダーフロー／リフレッシュエラー割り込みが発生したとき

［0 になる条件］

- NMICLR.WDTCLR ビットに 1 を書いたとき

LVD1ST フラグ（電圧監視 1 割り込みステータスフラグ）

電圧監視 1 割り込み要求を示します。このフラグは読み出し専用であり、NMICLR.LVD1CLR ビットでクリアされます。

［1 になる条件］

- 電圧監視 1 割り込みが発生し、この割り込み要因が許可されているとき

［0 になる条件］

- NMICLR.LVD1CLR ビットに 1 を書いたとき

LVD2ST フラグ（電圧監視 2 割り込みステータスフラグ）

電圧監視 2 割り込み要求を示します。このフラグは読み出し専用であり、NMICLR.LVD2CLR ビットでクリアされます。

［1 になる条件］

- 電圧監視 2 割り込みが発生し、この割り込み要因が許可されているとき

［0 になる条件］

- NMICLR.LVD2CLR ビットに 1 を書いたとき

OSTST フラグ（メインクロック発振停止検出割り込みステータスフラグ）

メインクロック発振器の発振停止検出割り込み要求を示します。このフラグは読み出し専用であり、NMICLR.OSTCLR ビットでクリアされます。

［1 になる条件］

- メインクロック発振停止検出割り込みが発生したとき

［0 になる条件］

- NMICLR.OSTCLR ビットに 1 を書いたとき

NMIST フラグ（NMI 端子割り込みステータスフラグ）

NMI 端子割り込み要求を示します。このフラグは読み出し専用であり、NMICLR.NMICLR ビットでクリアされます。

［1 になる条件］

- NMICR.NMIMD ビットで指定したエッジが NMI 端子に入力されたとき

［0 になる条件］

- NMICLR.NMICLR ビットに 1 を書いたとき

RPEST フラグ（SRAM パリティエラー割り込みステータスフラグ）

SRAM パリティエラー割り込み要求を示します。

［1 になる条件］

- SRAM パリティエラーにより、割り込みが発生したとき

［0 になる条件］

- NMICLR.RPECLR ビットに 1 を書いたとき

RECCST フラグ（SRAM ECC エラー割り込みステータスフラグ）

SRAM ECC エラー割り込み要求を示します。

[1 になる条件]

- SRAM ECC エラーにより、割り込みが発生したとき

[0 になる条件]

- NMICLR.RECCCLR ビットに 1 を書いたとき

BUSSST フラグ（MPU バススレーブエラー割り込みステータスフラグ）

バススレーブエラー割り込み要求を示します。

[1 になる条件]

- バススレーブエラーにより、割り込みが発生したとき

[0 になる条件]

- NMICLR.BUSSCLR ビットに 1 を書いたとき

BUSMST フラグ（MPU バスマスタエラー割り込みステータスフラグ）

バスマスタエラー割り込み要求を示します。

[1 になる条件]

- バスマスタエラーにより、割り込みが発生したとき

[0 になる条件]

- NMICLR.BUSMCLR ビットに 1 を書いたとき

SPEST フラグ（CPU スタックポインタモニタ割り込みステータスフラグ）

CPU スタックポインタモニタ割り込み要求を示します。

[1 になる条件]

- CPU スタックポインタモニタエラーにより、割り込みが発生したとき

[0 になる条件]

- NMICLR.SPECLR ビットに 1 を書いたとき

14.2.3 ノンマスカブル割り込みイネーブルレジスタ（NMIER）

アドレス ICU.NMIER 4000 6120h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	SPEEN	BUSMEN	BUSSEN	RECCEN	RPEEN	NMIEN	OSTEN	—	—	LVD2EN	LVD1EN	WDTEN	IWDTEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IWDTEN	IWDTアンダーフロー／リフレッシュエラー割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/(W) （注1）（注2）
b1	WDTEN	WDTアンダーフロー／リフレッシュエラー割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/(W) （注1）（注2）
b2	LVD1EN	電圧監視1割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/(W) （注1）（注2）
b3	LVD2EN	電圧監視2割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/(W) （注1）（注2）
b5-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。 書く場合、0としてください。	R/W
b6	OSTEN	メインクロック発振停止検出割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/(W) （注1）（注2）
b7	NMIEN	NMI端子割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/(W) （注1）
b8	RPEEN	SRAMパリティエラー割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/(W) （注1）（注2）
b9	RECCEN	SRAM ECCエラー割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/(W) （注1）（注2）
b10	BUSSEN	MPUバススレーブエラー割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/(W) （注1）（注2）
b11	BUSMEN	MPUバスマスタエラー割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/(W) （注1）（注2）
b12	SPEEN	CPUスタックポインタモニタ割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/(W) （注1）（注2）
b15-b13	—	予約ビット	読むと0が読めます。 書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　リセット後、本ビットに 1 回だけ 1 を書き込むことが可能です。以後のライトアクセスは無効です。0 の書き込みは無効です。

注 2.　イベント信号として使用する場合、1 にしないでください。

IWDTEN ビット（IWDT アンダーフロー／リフレッシュエラー割り込み許可）

NMI の起動要因となる IWDT アンダーフロー／リフレッシュエラー割り込みを許可します。

WDTEN ビット（WDT アンダーフロー／リフレッシュエラー割り込み許可）

NMI の起動要因となる WDT アンダーフロー／リフレッシュエラー割り込みを許可します。

LVD1EN ビット（電圧監視 1 割り込み許可）

NMI の起動要因となる電圧監視 1 割り込みを許可します。

LVD2EN ビット（電圧監視 2 割り込み許可）

NMI の起動要因となる電圧監視 2 割り込みを許可します。

OSTEN ビット（メインクロック発振停止検出割り込み許可）

NMI の起動要因となるメインクロック発振器の発振停止検出割り込みを許可します。

NMIEN ビット（NMI 端子割り込み許可）

NMI の起動要因となる NMI 端子割り込みを許可します。

RPEEN ビット（SRAM パリティエラー割り込み許可）

NMI の起動要因となる SRAM パリティエラー割り込みを許可します。

RECCEN ビット（SRAM ECC エラー割り込み許可）

NMI の起動要因となる SRAM ECC エラー割り込みを許可します。

BUSSEN ビット（MPU バススレーブエラー割り込み許可）

NMI の起動要因となるバススレーブエラー割り込みを許可します。

BUSMEN ビット（MPU バスマスタエラー割り込み許可）

NMI の起動要因となるバスマスタエラー割り込みを許可します。

SPEEN ビット（CPU スタックポインタモニタ割り込み許可）

NMI の起動要因となる CPU スタックポインタモニタ割り込みを許可します。

14.2.4　ノンマスカブル割り込みステータスクリアレジスタ（NMICLR）

アドレス　ICU.NMICLR 4000 6130h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	SPECLR	BUSMCLR	BUSSCLR	RECCCLR	RPECLR	NMICLR	OSTCLR	—	—	LVD2CLR	LVD1CLR	WDTCLR	IWDTCLR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IWDTCLR	IWDTクリア	0：無効 1：NMISR.IWDTSTフラグをクリア	R/(W) （注1）
b1	WDTCLR	WDTクリア	0：無効 1：NMISR.WDTSTフラグをクリア	R/(W) （注1）
b2	LVD1CLR	LVD1クリア	0：無効 1：NMISR.LVD1STフラグをクリア	R/(W) （注1）
b3	LVD2CLR	LVD2クリア	0：無効 1：NMISR.LVD2STフラグをクリア	R/(W) （注1）
b5-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/(W)
b6	OSTCLR	OSTクリア	0：無効 1：NMISR.OSTSTフラグをクリア	R/(W) （注1）
b7	NMICLR	NMIクリア	0：無効 1：NMISR.NMISTフラグをクリア	R/(W) （注1）
b8	RPECLR	SRAMパリティエラークリア	0：無効 1：NMISR.RPESTフラグをクリア	R/(W) （注1）
b9	RECCCLR	SRAM ECCエラークリア	0：無効 1：NMISR.RECCSTフラグをクリア	R/(W) （注1）
b10	BUSSCLR	バススレーブエラークリア	0：無効 1：NMISR.BUSSSTフラグをクリア	R/(W) （注1）
b11	BUSMCLR	バスマスタエラークリア	0：無効 1：NMISR.BUSMSTフラグをクリア	R/(W) （注1）
b12	SPECLR	SPESTクリア	0：無効 1：NMISR.SPESTフラグをクリア	R/(W) （注1）
b15-b13	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/(W)

注 1.　本ビットへの書き込みは、1 のみとしてください。

IWDTCLR ビット（IWDT クリア）

1 を書き込むことにより、NMISR.IWDTST フラグをクリアします。読むと 0 が読めます。

WDTCLR ビット（WDT クリア）

1 を書き込むことにより、NMISR.WDTST フラグをクリアします。読むと 0 が読めます。

LVD1CLR ビット（LVD1 クリア）

1 を書き込むことにより、NMISR.LVD1ST フラグをクリアします。読むと 0 が読めます。

LVD2CLR ビット（LVD2 クリア）

1 を書き込むことにより、NMISR.LVD2ST フラグをクリアします。読むと 0 が読めます。

OSTCLR ビット（OST クリア）

1 を書き込むことにより、NMISR.OSTST フラグをクリアします。読むと 0 が読めます。

NMICLR ビット（NMI クリア）

1 を書き込むことにより、NMISR.NMIST フラグをクリアします。読むと 0 が読めます。

RPECLR ビット（SRAM パリティエラークリア）

1 を書き込むことにより、NMISR.RPEST フラグをクリアします。読むと 0 が読めます。

RECCCLR ビット（SRAM ECC エラークリア）

1 を書き込むことにより、NMISR.RECCST フラグをクリアします。読むと 0 が読めます。

BUSSCLR ビット（バススレーブエラークリア）

1 を書き込むことにより、NMISR.BUSSST フラグをクリアします。読むと 0 が読めます。

BUSMCLR ビット（バスマスタエラークリア）

1 を書き込むことにより、NMISR.BUSMST フラグをクリアします。読むと 0 が読めます。

SPECLR ビット（SPEST クリア）

1 を書き込むことにより、NMISR.SPEST フラグをクリアします。読むと 0 が読めます。

14.2.5　NMI 端子割り込みコントロールレジスタ（NMICR）

アドレス　ICU.NMICR 4000 6100h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	NFLTEN	—	NFCLKSEL[1:0]		—	—	—	NMIMD
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	NMIMD	NMI検出設定	0：立ち下がりエッジ 1：立ち上がりエッジ	R/W
b3-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5-b4	NFCLKSEL[1:0]	NMIデジタルフィルタサンプリングクロック選択	b5 b4 0 0：PCLKB 0 1：PCLKB/8 1 0：PCLKB/32 1 1：PCLKB/64	R/W
b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	NFLTEN	NMIデジタルフィルタ有効	0：無効 1：有効	R/W

NMICR レジスタの設定を変更してから、NMI 端子割り込みを許可（NMIER.NMIEN ビットを 1）にしてください。

NMIMD ビット（NMI 検出設定）

NMI 端子割り込みの検出センシング方法を選択します。

NFCLKSEL[1:0] ビット（NMI デジタルフィルタサンプリングクロック選択）

NMI 端子割り込みのデジタルフィルタサンプリングクロックを選択します。下記から選択できます。

- PCLKB（毎サイクル）
- PCLKB/8（8 サイクルに 1 回）
- PCLKB/32（32 サイクルに 1 回）
- PCLKB/64（64 サイクルに 1 回）

デジタルフィルタの詳細については、14.4.3　デジタルフィルタを参照してください。

NFLTEN ビット（NMI デジタルフィルタ有効）

NMI 端子割り込みのデジタルフィルタを有効にします。デジタルフィルタは、NFLTEN ビットが 1 の場合に有効になり、NFLTEN ビットが 0 の場合に無効になります。NMI 端子レベルは、NMICR.NFCLKSEL[1:0] ビットで指定されたクロックサイクルでサンプリングされます。サンプリングされたレベルが 3 回一致すると、デジタルフィルタからの出力レベルが変化します。デジタルフィルタの詳細については、14.4.3　デジタルフィルタを参照してください。

14.2.6　ICU イベントリンク設定レジスタ n（IELSRn）（n = 0 ～ 95）

アドレス　ICU.IELSR0 4000 6300h, ICU.IELSR1 4000 6304h, ICU.IELSR2 4000 6308h, ICU.IELSR3 4000 630Ch……
……ICU.IELSR92 4000 6470h, ICU.IELSR93 4000 6474h, ICU.IELSR94 4000 6478h, ICU.IELSR95 4000 647Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	DTCE	—	—	—	—	—	—	—	IR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	IELS[8:0]								
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b8-b0	IELS[8:0]	ICUイベントリンク選択	b8　b0 000000000：対応するNVICまたはDTCモジュールへの割り込みは禁止 000000001～111111111：リンクするイベント信号の番号 詳細は、表 14.4を参照してください。	R/W
b15-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b16	IR	割り込みステータスフラグ	0：割り込み要求の発生なし 1：割り込み要求の発生あり	R/(W) （注1）
b23-b17	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b24	DTCE	DTC起動許可	0：禁止 1：許可	R/W
b31-b25	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 .　このレジスタにはハーフワードまたはワードアクセスが必要です。
注 1.　IR フラグを 1 にする書き込みは禁止です。

IELSRn レジスタでは、NVIC で使用する IRQ 要因を選択します。詳細は、表 14.4 を参照してください。IELSRn（n = 0 ～ 95）は、NVIC IRQ 入力要因番号 0 ～ 95 に対応しています。

IELS[8:0] ビット（ICU イベントリンク選択）

対応する NVIC または DTC モジュールにリンクするイベント信号を指定します。これら全ビットを同時に書き込む必要があります。

IR フラグ（割り込みステータスフラグ）

IELS[8:0] で指定されたイベントからの割り込み要求の有無を示します。

［1 になる条件］

- 対応する周辺モジュールまたは IRQi 端子から割り込み要求を受信したとき

［0 になる条件］

- 0 を書いたとき。DTCE ビットを 0 にしてから、IR フラグを 0 にすること

IR フラグのクリア方法：

1. 入力割り込み信号をネゲートする。
2. 周辺リードアクセスを 1 回実行し、対象モジュールクロックの 2 クロックサイクル分待つ。
3. 0 を書き込んで IR フラグをクリアする。

DTCE ビット（DTC 起動許可）

DTCE ビットを 1 にすると、対応するイベントが DTC 起動要因として選択されます。

［1 になる条件］

- 1 を書いたとき

［0 になる条件］

- 設定の転送数が終了したとき。チェーン転送の場合は、指定された最後のチェーン転送の転送数が終了したとき
- 0 を書いたとき

14.2.7　DMAC イベントリンク設定レジスタ n（DELSRn）（n = 0 ～ 7）

アドレス　ICU.DELSR0 4000 6280h, ICU.DELSR1 4000 6284h, ICU.DELSR2 4000 6288h, ICU.DELSR3 4000 628Ch, ICU.DELSR4 4000 6290h, ICU.DELSR5 4000 6294h, ICU.DELSR6 4000 6298h, ICU.DELSR7 4000 629Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	IR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	DELS[8:0]								
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b8-b0	DELS[8:0]	DMACイベントリンク選択	b8　b0 000000000：対応するDMACモジュールへのDMA起動要求は無効 000000001～111111111：リンクするイベント信号の番号 詳細は、表 14.4 を参照してください。	R/W （注1）
b15-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b16	IR	DMACの割り込みステータスフラグ	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R/(W) （注2）
b31-b17	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　このレジスタにはハーフワードまたはワードアクセスが必要です。
注 2.　IR フラグを 1 にする書き込みは禁止です。

DELS[8:0] ビット（DMAC イベントリンク選択）

DMAC モジュールへのイベント信号を指定します。これら全ビットを同時に書き込む必要があります。

IR フラグ（DMAC の割り込みステータスフラグ）

各 DMA 転送要求のステータスフラグです。本フラグは、同じレジスタの DELS[8:0] ビットに対応します。

［1 になる条件］

- 本フラグは、対応する周辺モジュールまたは IRQi 端子から DMA 転送要求が発生したときに 1 になる

［0 になる条件］

- 0 を書いたとき
- DMA 転送要求の発生後、DMA 転送を開始したとき

14.2.8 SYS イベントリンク設定レジスタ（SELSR0）

アドレス ICU.SELSR0 4000 6200h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	SELS[8:0]								
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b8-b0	SELS[8:0]	SYSイベントリンク選択	b8 b0 000000000：対応する低消費電力モードモジュールへのイベント出力は無効 000000001～111111111：リンクするイベント信号の番号 詳細は、表 14.4 を参照してください。	R/W
b15-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注．　このレジスタにはハーフワードアクセスが必要です。

SELSR0 レジスタでは、スヌーズモードから CPU を復帰させるためのイベントを選択します。表 14.4 において「スヌーズモードの解除」欄に○印が付いたイベントのみを使用できます。IELSRn.IELS ビットに 02Dh が設定されると、スヌーズモードを解除する割り込みの発生が可能です。

SELS[8:0] ビット（SYS イベントリンク選択）

これら全ビットを同時に書き込む必要があります。

14.2.9 ウェイクアップ割り込みイネーブルレジスタ（WUPEN）

アドレス ICU.WUPEN 4000 61A0h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	IIC0WUPEN	AGT1CBWUPEN	AGT1CAWUPEN	AGT1UDWUPEN	USBFSWUPEN	—	RTCPRDWUPEN	RTCALMWUPEN	—	ACMPHS0WUPEN	—	—	LVD2WUPEN	LVD1WUPEN	KEYWUPEN	IWDTWUPEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	IRQWUPEN[13:0]													
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b13-b0	IRQWUPEN[13:0]	IRQ割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可	0：IRQ割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰禁止 1：IRQ割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰許可	R/W
b15-b14	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b16	IWDTWUPEN	IWDT割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可	0：IWDT割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰禁止 1：IWDT割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰許可	R/W
b17	KEYWUPEN	キー割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可	0：キー割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰禁止 1：キー割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰許可	R/W
b18	LVD1WUPEN	LVD1割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可	0：LVD1割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰禁止 1：LVD1割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰許可	R/W
b19	LVD2WUPEN	LVD2割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可	0：LVD2割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰禁止 1：LVD2割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰許可	R/W
b21-b20	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b22	ACMPHS0WUPEN	ACMPHS0割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可	0：ACMPHS0割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰禁止 1：ACMPHS0割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰許可	R/W
b23	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b24	RTCALMWUPEN	RTCアラーム割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可	0：RTCアラーム割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰禁止 1：RTCアラーム割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰許可	R/W
b25	RTCPRDWUPEN	RTC周期割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可	0：RTC周期割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰禁止 1：RTC周期割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰許可	R/W
b26	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b27	USBFSWUPEN	USBFS割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可	0：USBFS割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰禁止 1：USBFS割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰許可	R/W
b28	AGT1UDWUPEN	AGT1アンダーフロー割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可	0：AGT1アンダーフロー割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰禁止 1：AGT1アンダーフロー割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰許可	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b29	AGT1CAWUPEN	AGT1コンペアマッチA割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可	0：AGT1コンペアマッチA割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰禁止 1：AGT1コンペアマッチA割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰許可	R/W
b30	AGT1CBWUPEN	AGT1コンペアマッチB割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可	0：AGT1コンペアマッチB割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰禁止 1：AGT1コンペアマッチB割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰許可	R/W
b31	IIC0WUPEN	IIC0アドレス一致割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可	0：IIC0アドレス一致割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰禁止 1：IIC0アドレス一致割り込みによるソフトウェアスタンバイ復帰許可	R/W

このレジスタの各ビットは、対応する割り込みがソフトウェアスタンバイモードから CPU を復帰させることができるかどうかを制御します。

IRQWUPEN[13:0] ビット（IRQ 割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可）

ソフトウェアスタンバイモードを解除するため IRQn 割り込みの使用を許可します。

IWDTWUPEN ビット（IWDT 割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可）

ソフトウェアスタンバイモードを解除するため IWDT 割り込みの使用を許可します。

KEYWUPEN ビット（キー割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可）

ソフトウェアスタンバイモードを解除するためキー割り込みの使用を許可します。

LVD1WUPEN ビット（LVD1 割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可）

ソフトウェアスタンバイモードを解除するため LVD1 割り込みの使用を許可します。

LVD2WUPEN ビット（LVD2 割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可）

ソフトウェアスタンバイモードを解除するため LVD2 割り込みの使用を許可します。

ACMPHS0WUPEN ビット（ACMPHS0 割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可）

ソフトウェアスタンバイモードを解除するため ACMPHS0 割り込みの使用を許可します。

RTCALMWUPEN ビット（RTC アラーム割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可）

ソフトウェアスタンバイモードを解除するため RTC アラーム割り込みの使用を許可します。

RTCPRDWUPEN ビット（RTC 周期割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可）

ソフトウェアスタンバイモードを解除するため RTC 周期割り込みの使用を許可します。

USBFSWUPEN ビット（USBFS 割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可）

ソフトウェアスタンバイモードを解除するため USBFS 割り込みの使用を許可します。

AGT1UDWUPEN ビット（AGT1 アンダーフロー割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可）

ソフトウェアスタンバイモードを解除するため AGT1 アンダーフロー割り込みの使用を許可します。

AGT1CAWUPEN ビット（AGT1 コンペアマッチ A 割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可）

ソフトウェアスタンバイモードを解除するため AGT1 コンペアマッチ A 割り込みの使用を許可します。

AGT1CBWUPEN ビット（AGT1 コンペアマッチ B 割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可）

ソフトウェアスタンバイモードを解除するため AGT1 コンペアマッチ B 割り込みの使用を許可します。

IIC0WUPEN ビット（IIC0 アドレス一致割り込みソフトウェアスタンバイ復帰許可）

ソフトウェアスタンバイモードを解除するため IIC0 割り込みの使用を許可します。

14.3 ベクタテーブル

ICU は、マスカブル割り込みとノンマスカブル割り込みを検出します。割り込み優先順位は Arm NVIC で設定されます。*ARM® Cortex®-M4 Processor Technical Reference Manual (ARM DDI 0439D)* の NVIC の章を参照してください。

14.3.1 割り込みベクタテーブル

表 14.3 に割り込みベクタを示します。アドレスは、NVIC の仕様に従います。

表 14.3 割り込みベクタテーブル (1/3)

例外番号	IRQ番号	ベクタオフセット	発生元	内容
0	-	000h	Arm	初期スタックポインタ
1	-	004h	Arm	初期プログラムカウンタ（リセットベクタ）
2	-	008h	Arm	ノンマスカブル割り込み（NMI）
3	-	00Ch	Arm	ハード障害
4	-	010h	Arm	MemManage障害
5	-	014h	Arm	バス障害
6	-	018h	Arm	使用障害
7	-	01Ch	Arm	予約
8	-	020h	Arm	予約
9	-	024h	Arm	予約
10	-	028h	Arm	予約
11	-	02Ch	Arm	スーパバイザコール（SVCall）
12	-	030h	Arm	デバッグ監視
13	-	034h	Arm	予約
14	-	038h	Arm	システムサービスに対する保留可能な要求（PendableSrvReq）
15	-	03Ch	Arm	システムティックタイマ（SysTick）
16	0	040h	ICU.IELSR0	ICU.IELSR0 レジスタで選択されたイベント
17	1	044h	ICU.IELSR1	ICU.IELSR1 レジスタで選択されたイベント
18	2	048h	ICU.IELSR2	ICU.IELSR2 レジスタで選択されたイベント
19	3	04Ch	ICU.IELSR3	ICU.IELSR3 レジスタで選択されたイベント
20	4	050h	ICU.IELSR4	ICU.IELSR4 レジスタで選択されたイベント
21	5	054h	ICU.IELSR5	ICU.IELSR5 レジスタで選択されたイベント
22	6	058h	ICU.IELSR6	ICU.IELSR6 レジスタで選択されたイベント
23	7	05Ch	ICU.IELSR7	ICU.IELSR7 レジスタで選択されたイベント
24	8	060h	ICU.IELSR8	ICU.IELSR8 レジスタで選択されたイベント
25	9	064h	ICU.IELSR9	ICU.IELSR9 レジスタで選択されたイベント
26	10	068h	ICU.IELSR10	ICU.IELSR10 レジスタで選択されたイベント
27	11	06Ch	ICU.IELSR11	ICU.IELSR11 レジスタで選択されたイベント
28	12	070h	ICU.IELSR12	ICU.IELSR12 レジスタで選択されたイベント
29	13	074h	ICU.IELSR13	ICU.IELSR13 レジスタで選択されたイベント
30	14	078h	ICU.IELSR14	ICU.IELSR14 レジスタで選択されたイベント
31	15	07Ch	ICU.IELSR15	ICU.IELSR15 レジスタで選択されたイベント
32	16	080h	ICU.IELSR16	ICU.IELSR16 レジスタで選択されたイベント
33	17	084h	ICU.IELSR17	ICU.IELSR17 レジスタで選択されたイベント
34	18	088h	ICU.IELSR18	ICU.IELSR18 レジスタで選択されたイベント
35	19	08Ch	ICU.IELSR19	ICU.IELSR19 レジスタで選択されたイベント
36	20	090h	ICU.IELSR20	ICU.IELSR20 レジスタで選択されたイベント

表 14.3　割り込みベクタテーブル (2/3)

例外番号	IRQ番号	ベクタオフセット	発生元	内容
37	21	094h	ICU.IELSR21	ICU.IELSR21 レジスタで選択されたイベント
38	22	098h	ICU.IELSR22	ICU.IELSR22 レジスタで選択されたイベント
39	23	09Ch	ICU.IELSR23	ICU.IELSR23 レジスタで選択されたイベント
40	24	0A0h	ICU.IELSR24	ICU.IELSR24 レジスタで選択されたイベント
41	25	0A4h	ICU.IELSR25	ICU.IELSR25 レジスタで選択されたイベント
42	26	0A8h	ICU.IELSR26	ICU.IELSR26 レジスタで選択されたイベント
43	27	0ACh	ICU.IELSR27	ICU.IELSR27 レジスタで選択されたイベント
44	28	0B0h	ICU.IELSR28	ICU.IELSR28 レジスタで選択されたイベント
45	29	0B4h	ICU.IELSR29	ICU.IELSR29 レジスタで選択されたイベント
46	30	0B8h	ICU.IELSR30	ICU.IELSR30 レジスタで選択されたイベント
47	31	0BCh	ICU.IELSR31	ICU.IELSR31 レジスタで選択されたイベント
48	32	0C0h	ICU.IELSR32	ICU.IELSR32 レジスタで選択されたイベント
49	33	0C4h	ICU.IELSR33	ICU.IELSR33 レジスタで選択されたイベント
50	34	0C8h	ICU.IELSR34	ICU.IELSR34 レジスタで選択されたイベント
51	35	0CCh	ICU.IELSR35	ICU.IELSR35 レジスタで選択されたイベント
52	36	0D0h	ICU.IELSR36	ICU.IELSR36 レジスタで選択されたイベント
53	37	0D4h	ICU.IELSR37	ICU.IELSR37 レジスタで選択されたイベント
54	38	0D8h	ICU.IELSR38	ICU.IELSR38 レジスタで選択されたイベント
55	39	0DCh	ICU.IELSR39	ICU.IELSR39 レジスタで選択されたイベント
56	40	0E0h	ICU.IELSR40	ICU.IELSR40 レジスタで選択されたイベント
57	41	0E4h	ICU.IELSR41	ICU.IELSR41 レジスタで選択されたイベント
58	42	0E8h	ICU.IELSR42	ICU.IELSR42 レジスタで選択されたイベント
59	43	0ECh	ICU.IELSR43	ICU.IELSR43 レジスタで選択されたイベント
60	44	0F0h	ICU.IELSR44	ICU.IELSR44 レジスタで選択されたイベント
61	45	0F4h	ICU.IELSR45	ICU.IELSR45 レジスタで選択されたイベント
62	46	0F8h	ICU.IELSR46	ICU.IELSR46 レジスタで選択されたイベント
63	47	0FCh	ICU.IELSR47	ICU.IELSR47 レジスタで選択されたイベント
64	48	100h	ICU.IELSR48	ICU.IELSR48 レジスタで選択されたイベント
65	49	104h	ICU.IELSR49	ICU.IELSR49 レジスタで選択されたイベント
66	50	108h	ICU.IELSR50	ICU.IELSR50 レジスタで選択されたイベント
67	51	10Ch	ICU.IELSR51	ICU.IELSR51 レジスタで選択されたイベント
68	52	110h	ICU.IELSR52	ICU.IELSR52 レジスタで選択されたイベント
69	53	114h	ICU.IELSR53	ICU.IELSR53 レジスタで選択されたイベント
70	54	118h	ICU.IELSR54	ICU.IELSR54 レジスタで選択されたイベント
71	55	11Ch	ICU.IELSR55	ICU.IELSR55 レジスタで選択されたイベント
72	56	120h	ICU.IELSR56	ICU.IELSR56 レジスタで選択されたイベント
73	57	124h	ICU.IELSR57	ICU.IELSR57 レジスタで選択されたイベント
74	58	128h	ICU.IELSR58	ICU.IELSR58 レジスタで選択されたイベント
75	59	12Ch	ICU.IELSR59	ICU.IELSR59 レジスタで選択されたイベント
76	60	130h	ICU.IELSR60	ICU.IELSR60 レジスタで選択されたイベント
77	61	134h	ICU.IELSR61	ICU.IELSR61 レジスタで選択されたイベント
78	62	138h	ICU.IELSR62	ICU.IELSR62 レジスタで選択されたイベント
79	63	13Ch	ICU.IELSR63	ICU.IELSR63 レジスタで選択されたイベント
80	64	140h	ICU.IELSR64	ICU.IELSR64 レジスタで選択されたイベント
81	65	144h	ICU.IELSR65	ICU.IELSR65 レジスタで選択されたイベント

表 14.3 割り込みベクタテーブル (3/3)

例外番号	IRQ番号	ベクタ オフセット	発生元	内容
82	66	148h	ICU.IELSR66	ICU.IELSR66 レジスタで選択されたイベント
83	67	14Ch	ICU.IELSR67	ICU.IELSR67 レジスタで選択されたイベント
84	68	150h	ICU.IELSR68	ICU.IELSR68 レジスタで選択されたイベント
85	69	154h	ICU.IELSR69	ICU.IELSR69 レジスタで選択されたイベント
86	70	158h	ICU.IELSR70	ICU.IELSR70 レジスタで選択されたイベント
87	71	15Ch	ICU.IELSR71	ICU.IELSR71 レジスタで選択されたイベント
88	72	160h	ICU.IELSR72	ICU.IELSR72 レジスタで選択されたイベント
89	73	164h	ICU.IELSR73	ICU.IELSR73 レジスタで選択されたイベント
90	74	168h	ICU.IELSR74	ICU.IELSR74 レジスタで選択されたイベント
91	75	16Ch	ICU.IELSR75	ICU.IELSR75 レジスタで選択されたイベント
92	76	170h	ICU.IELSR76	ICU.IELSR76 レジスタで選択されたイベント
93	77	174h	ICU.IELSR77	ICU.IELSR77 レジスタで選択されたイベント
94	78	178h	ICU.IELSR78	ICU.IELSR78 レジスタで選択されたイベント
95	79	17Ch	ICU.IELSR79	ICU.IELSR79 レジスタで選択されたイベント
96	80	180h	ICU.IELSR80	ICU.IELSR80 レジスタで選択されたイベント
97	81	184h	ICU.IELSR81	ICU.IELSR81 レジスタで選択されたイベント
98	82	188h	ICU.IELSR82	ICU.IELSR82 レジスタで選択されたイベント
99	83	18Ch	ICU.IELSR83	ICU.IELSR83 レジスタで選択されたイベント
100	84	190h	ICU.IELSR84	ICU.IELSR84 レジスタで選択されたイベント
101	85	194h	ICU.IELSR85	ICU.IELSR85 レジスタで選択されたイベント
102	86	198h	ICU.IELSR86	ICU.IELSR86 レジスタで選択されたイベント
103	87	19Ch	ICU.IELSR87	ICU.IELSR87 レジスタで選択されたイベント
104	88	1A0h	ICU.IELSR88	ICU.IELSR88 レジスタで選択されたイベント
105	89	1A4h	ICU.IELSR89	ICU.IELSR89 レジスタで選択されたイベント
106	90	1A8h	ICU.IELSR90	ICU.IELSR90 レジスタで選択されたイベント
107	91	1ACh	ICU.IELSR91	ICU.IELSR91 レジスタで選択されたイベント
108	92	1B0h	ICU.IELSR92	ICU.IELSR92 レジスタで選択されたイベント
109	93	1B4h	ICU.IELSR93	ICU.IELSR93 レジスタで選択されたイベント
110	94	1B8h	ICU.IELSR94	ICU.IELSR94 レジスタで選択されたイベント
111	95	1BCh	ICU.IELSR95	ICU.IELSR95 レジスタで選択されたイベント

14.3.2　イベント番号

下表は、イベント番号を記した表 14.4 の各項目の説明です。

項目	内容
割り込み要求の発生元	割り込み要求の発生元の名称
名称	割り込みの名称
NVICへの接続	CPU割り込み（IELSRnの設定）として使用可能な割り込みが○印で示されています。
DTCの起動	DTCの起動要求（IELSRnの設定）に使用可能な割り込みが○印で示されています。
DMACの起動	DMACの起動要求（DELSRnの設定）に使用可能な割り込みが○印で示されています。
スヌーズモードの解除	SELSR0を使用したスヌーズモードからの復帰要求に使用可能な割り込みが○印で示されています。それ以外では、直接使用可能な割り込みが○印で示されています。
ソフトウェアスタンバイモードの解除	ソフトウェアスタンバイモードからの復帰要求に使用可能な割り込みが○印で示されています。
ディープソフトウェアスタンバイモードの解除	ディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰要求に使用可能な割り込みが○印で示されています。

表 14.4　イベントテーブル (1/7)

イベント番号	割り込み要求の発生元	名称	IELSRn		DELSRn	スヌーズモードの解除	ソフトウェアスタンバイモードの解除	ディープソフトウェアスタンバイモードの解除
			NVICへの接続	DTCの起動	DMACの起動			
001h	Port	PORT_IRQ0	○	○	○	○	○	○
002h		PORT_IRQ1	○	○	○	○	○	○
003h		PORT_IRQ2	○	○	○	○	○	○
004h		PORT_IRQ3	○	○	○	○	○	○
005h		PORT_IRQ4	○	○	○	○	○	○
006h		PORT_IRQ5	○	○	○	○	○	○
007h		PORT_IRQ6	○	○	○	○	○	○
008h		PORT_IRQ7	○	○	○	○	○	○
009h		PORT_IRQ8	○	○	○	○	○	○
00Ah		PORT_IRQ9	○	○	○	○	○	○
00Bh		PORT_IRQ10	○	○	○	○	○	○
00Ch		PORT_IRQ11	○	○	○	○	○	○
00Dh		PORT_IRQ12	○	○	○	○	○	○
00Eh		PORT_IRQ13	○	○	○	○	○	○
020h	DMAC0	DMAC0_INT	○	○	-	-	-	-
021h	DMAC1	DMAC1_INT	○	○	-	-	-	-
022h	DMAC2	DMAC2_INT	○	○	-	-	-	-
023h	DMAC3	DMAC3_INT	○	○	-	-	-	-
024h	DMAC4	DMAC4_INT	○	○	-	-	-	-
025h	DMAC5	DMAC5_INT	○	○	-	-	-	-
026h	DMAC6	DMAC6_INT	○	○	-	-	-	-
027h	DMAC7	DMAC7_INT	○	○	-	-	-	-
029h	DTC	DTC_COMPLETE	○	-	-	○（注5）	-	-
02Dh	ICU	ICU_SNZCANCEL	○	-	-	○	-	-
030h	FCU	FCU_FIFERR	○	-	-	-	-	-
031h		FCU_FRDYI	○	-	-	-	-	-
038h	LVD	LVD_LVD1	○	-	-	○	○	○
039h		LVD_LVD2	○	-	-	○	○	○
03Bh	MOSC	MOSC_STOP	○	-	-	-	-	-

表 14.4　イベントテーブル (2/7)

イベント番号	割り込み要求の発生元	名称	IELSRn		DELSRn	スヌーズモードの解除	ソフトウェアスタンバイモードの解除	ディープソフトウェアスタンバイモードの解除
			NVICへの接続	DTCの起動	DMACの起動			
03Ch	低消費電力モード	SYSTEM_SNZREQ	-	○	-	-	-	-
040h	AGT0	AGT0_AGTI	○	○	○	-	-	-
041h		AGT0_AGTCMAI	○	○	○	-	-	-
042h		AGT0_AGTCMBI	○	○	○	-	-	-
043h	AGT1	AGT1_AGTI	○	○	○	○	○	○
044h		AGT1_AGTCMAI	○	○	○	○	○	-
045h		AGT1_AGTCMBI	○	○	○	○	○	-
046h	IWDT	IWDT_NMIUNDF	○	-	-	○	○	-
047h	WDT	WDT_NMIUNDF	○	-	-	-	-	-
048h	RTC	RTC_ALM	○	-	-	○	○	○
049h		RTC_PRD	○	-	-	○	○	○
04Ah		RTC_CUP	○	-	-	-	-	-
04Bh	ADC120	ADC120_ADI	○	○	○	-	-	-
04Ch		ADC120_GBADI	○	○	○	-	-	-
04Dh		ADC120_CMPAI	○	-	-	-	-	-
04Eh		ADC120_CMPBI	○	-	-	-	-	-
04Fh		ADC120_WCMPM	-	○	○	○（注5）	-	-
050h		ADC120_WCMPUM	-	○	○	○（注5）	-	-
051h	ADC121	ADC121_ADI	○	○	○	-	-	-
052h		ADC121_GBADI	○	○	○	-	-	-
053h		ADC121_CMPAI	○	-	-	-	-	-
054h		ADC121_CMPBI	○	-	-	-	-	-
055h		ADC121_WCMPM	-	○	○	○（注5）	-	-
056h		ADC121_WCMPUM	-	○	○	○（注5）	-	-
057h	ACMPHS	ACMP_HS0	○	-	-	○（注1）	○（注1）	-
058h		ACMP_HS1	○	-	-	-	-	-
059h		ACMP_HS2	○	-	-	-	-	-
05Ah		ACMP_HS3	○	-	-	-	-	-
05Bh		ACMP_HS4	○	-	-	-	-	-
05Ch		ACMP_HS5	○	-	-	-	-	-
05Fh	USBFS	USBFS_D0FIFO	○	○	○	-	-	-
060h		USBFS_D1FIFO	○	○	○	-	-	-
061h		USBFS_USBI	○	-	-	-	-	-
062h		USBFS_USBR	○	-	-	○	○	○
063h	IIC0	IIC0_RXI	○	○	○	-	-	-
064h		IIC0_TXI	○	○	○	-	-	-
065h		IIC0_TEI	○	-	-	-	-	-
066h		IIC0_EEI	○	-	-	-	-	-
067h		IIC0_WUI	○	-	-	○	○	-
068h	IIC1	IIC1_RXI	○	○	○	-	-	-
069h		IIC1_TXI	○	○	○	-	-	-
06Ah		IIC1_TEI	○	-	-	-	-	-
06Bh		IIC1_EEI	○	-	-	-	-	-
072h	SSIE0	SSIE0_SSITXI	○	○	○	-	-	-
073h		SSIE0_SSIRXI	○	○	○	-	-	-
075h		SSIE0_SSIF	○	-	-	-	-	-

表 14.4　イベントテーブル (3/7)

イベント番号	割り込み要求の発生元	名称	IELSRn		DELSRn	スヌーズモードの解除	ソフトウェアスタンバイモードの解除	ディープソフトウェアスタンバイモードの解除
			NVICへの接続	DTCの起動	DMACの起動			
07Ah	SRC	SRC_IDEI	○	○	○	-	-	-
07Bh		SRC_ODFI	○	○	○	-	-	-
07Ch		SRC_OVFI	○	-	-	-	-	-
07Dh		SRC_UDFI	○	-	-	-	-	-
07Eh		SRC_CEFI	○	-	-	-	-	-
082h	CTSU	CTSU_CTSUWR	○	○	○	-	-	-
083h		CTSU_CTSURD	○	○	○	-	-	-
084h		CTSU_CTSUFN	○	-	-	○（注5）	-	-
085h	KINT	KEY_INTKR	○	-	-	○（注2）	○（注2）	-
086h	DOC	DOC_DOPCI	○	-	-	○（注5）	-	-
087h	CAC	CAC_FERRI	○	-	-	-	-	-
088h		CAC_MENDI	○	-	-	-	-	-
089h		CAC_OVFI	○	-	-	-	-	-
08Ah	CAN0	CAN0_ERS	○	-	-	-	-	-
08Bh		CAN0_RXF	○	-	-	-	-	-
08Ch		CAN0_TXF	○	-	-	-	-	-
08Dh		CAN0_RXM	○	-	-	-	-	-
08Eh		CAN0_TXM	○	-	-	-	-	-
08Fh	CAN1	CAN1_ERS	○	-	-	-	-	-
090h		CAN1_RXF	○	-	-	-	-	-
091h		CAN1_TXF	○	-	-	-	-	-
092h		CAN1_RXM	○	-	-	-	-	-
093h		CAN1_TXM	○	-	-	-	-	-
094h	I/Oポート	IOPORT_GROUP1	○	○（注3）	○（注3）	-	-	-
095h		IOPORT_GROUP2	○	○（注3）	○（注3）	-	-	-
096h		IOPORT_GROUP3	○	○（注3）	○（注3）	-	-	-
097h		IOPORT_GROUP4	○	○（注3）	○（注3）	-	-	-
098h	ELC	ELC_SWEVT0	○（注4）	○	-	-	-	-
099h		ELC_SWEVT1	○（注4）	○	-	-	-	-
09Ah	POEG	POEG_GROUP0	○	-	-	-	-	-
09Bh		POEG_GROUP1	○	-	-	-	-	-
09Ch		POEG_GROUP2	○	-	-	-	-	-
09Dh		POEG_GROUP3	○	-	-	-	-	-
0B0h	GPT32EH0	GPT0_CCMPA	○	○	○	-	-	-
0B1h		GPT0_CCMPB	○	○	○	-	-	-
0B2h		GPT0_CMPC	○	○	○	-	-	-
0B3h		GPT0_CMPD	○	○	○	-	-	-
0B4h		GPT0_CMPE	○	○	○	-	-	-
0B5h		GPT0_CMPF	○	○	○	-	-	-
0B6h		GPT0_OVF	○	○	○	-	-	-
0B7h		GPT0_UDF	○	○	○	-	-	-
0B8h		GPT0_ADTRGA	○	○	○	-	-	-
0B9h		GPT0_ADTRGB	○	○	○	-	-	-

表 14.4　イベントテーブル (4/7)

イベント番号	割り込み要求の発生元	名称	IELSRn		DELSRn	スヌーズモードの解除	ソフトウェアスタンバイモードの解除	ディープソフトウェアスタンバイモードの解除
			NVICへの接続	DTCの起動	DMACの起動			
0BAh	GPT32EH1	GPT1_CCMPA	○	○	○	-	-	-
0BBh		GPT1_CCMPB	○	○	○	-	-	-
0BCh		GPT1_CMPC	○	○	○	-	-	-
0BDh		GPT1_CMPD	○	○	○	-	-	-
0BEh		GPT1_CMPE	○	○	○	-	-	-
0BFh		GPT1_CMPF	○	○	○	-	-	-
0C0h		GPT1_OVF	○	○	○	-	-	-
0C1h		GPT1_UDF	○	○	○	-	-	-
0C2h		GPT1_ADTRGA	○	○	○	-	-	-
0C3h		GPT1_ADTRGB	○	○	○	-	-	-
0C4h	GPT32EH2	GPT2_CCMPA	○	○	○	-	-	-
0C5h		GPT2_CCMPB	○	○	○	-	-	-
0C6h		GPT2_CMPC	○	○	○	-	-	-
0C7h		GPT2_CMPD	○	○	○	-	-	-
0C8h		GPT2_CMPE	○	○	○	-	-	-
0C9h		GPT2_CMPF	○	○	○	-	-	-
0CAh		GPT2_OVF	○	○	○	-	-	-
0CBh		GPT2_UDF	○	○	○	-	-	-
0CCh		GPT2_ADTRGA	○	○	○	-	-	-
0CDh		GPT2_ADTRGB	○	○	○	-	-	-
0CEh	GPT32EH3	GPT3_CCMPA	○	○	○	-	-	-
0CFh		GPT3_CCMPB	○	○	○	-	-	-
0D0h		GPT3_CMPC	○	○	○	-	-	-
0D1h		GPT3_CMPD	○	○	○	-	-	-
0D2h		GPT3_CMPE	○	○	○	-	-	-
0D3h		GPT3_CMPF	○	○	○	-	-	-
0D4h		GPT3_OVF	○	○	○	-	-	-
0D5h		GPT3_UDF	○	○	○	-	-	-
0D6h		GPT3_ADTRGA	○	○	○	-	-	-
0D7h		GPT3_ADTRGB	○	○	○	-	-	-
0D8h	GPT32E4	GPT4_CCMPA	○	○	○	-	-	-
0D9h		GPT4_CCMPB	○	○	○	-	-	-
0DAh		GPT4_CMPC	○	○	○	-	-	-
0DBh		GPT4_CMPD	○	○	○	-	-	-
0DCh		GPT4_CMPE	○	○	○	-	-	-
0DDh		GPT4_CMPF	○	○	○	-	-	-
0DEh		GPT4_OVF	○	○	○	-	-	-
0DFh		GPT4_UDF	○	○	○	-	-	-
0E0h		GPT4_ADTRGA	○	○	○	-	-	-
0E1h		GPT4_ADTRGB	○	○	○	-	-	-

表 14.4　イベントテーブル (5/7)

イベント番号	割り込み要求の発生元	名称	IELSRn		DELSRn	スヌーズモードの解除	ソフトウェアスタンバイモードの解除	ディープソフトウェアスタンバイモードの解除
			NVICへの接続	DTCの起動	DMACの起動			
0E2h	GPT32E5	GPT5_CCMPA	○	○	○	-	-	-
0E3h		GPT5_CCMPB	○	○	○	-	-	-
0E4h		GPT5_CMPC	○	○	○	-	-	-
0E5h		GPT5_CMPD	○	○	○	-	-	-
0E6h		GPT5_CMPE	○	○	○	-	-	-
0E7h		GPT5_CMPF	○	○	○	-	-	-
0E8h		GPT5_OVF	○	○	○	-	-	-
0E9h		GPT5_UDF	○	○	○	-	-	-
0EAh		GPT5_ADTRGA	○	○	○	-	-	-
0EBh		GPT5_ADTRGB	○	○	○	-	-	-
0ECh	GPT32E6	GPT6_CCMPA	○	○	○	-	-	-
0EDh		GPT6_CCMPB	○	○	○	-	-	-
0EEh		GPT6_CMPC	○	○	○	-	-	-
0EFh		GPT6_CMPD	○	○	○	-	-	-
0F0h		GPT6_CMPE	○	○	○	-	-	-
0F1h		GPT6_CMPF	○	○	○	-	-	-
0F2h		GPT6_OVF	○	○	○	-	-	-
0F3h		GPT6_UDF	○	○	○	-	-	-
0F4h		GPT6_ADTRGA	○	○	○	-	-	-
0F5h		GPT6_ADTRGB	○	○	○	-	-	-
0F6h	GPT32E7	GPT7_CCMPA	○	○	○	-	-	-
0F7h		GPT7_CCMPB	○	○	○	-	-	-
0F8h		GPT7_CMPC	○	○	○	-	-	-
0F9h		GPT7_CMPD	○	○	○	-	-	-
0FAh		GPT7_CMPE	○	○	○	-	-	-
0FBh		GPT7_CMPF	○	○	○	-	-	-
0FCh		GPT7_OVF	○	○	○	-	-	-
0FDh		GPT7_UDF	○	○	○	-	-	-
0FEh		GPT7_ADTRGA	○	○	○	-	-	-
0FFh		GPT7_ADTRGB	○	○	○	-	-	-
100h	GPT328	GPT8_CCMPA	○	○	○	-	-	-
101h		GPT8_CCMPB	○	○	○	-	-	-
102h		GPT8_CMPC	○	○	○	-	-	-
103h		GPT8_CMPD	○	○	○	-	-	-
104h		GPT8_CMPE	○	○	○	-	-	-
105h		GPT8_CMPF	○	○	○	-	-	-
106h		GPT8_OVF	○	○	○	-	-	-
107h		GPT8_UDF	○	○	○	-	-	-
10Ah	GPT329	GPT9_CCMPA	○	○	○	-	-	-
10Bh		GPT9_CCMPB	○	○	○	-	-	-
10Ch		GPT9_CMPC	○	○	○	-	-	-
10Dh		GPT9_CMPD	○	○	○	-	-	-
10Eh		GPT9_CMPE	○	○	○	-	-	-
10Fh		GPT9_CMPF	○	○	○	-	-	-
110h		GPT9_OVF	○	○	○	-	-	-
111h		GPT9_UDF	○	○	○	-	-	-

表 14.4　イベントテーブル (6/7)

イベント番号	割り込み要求の発生元	名称	IELSRn		DELSRn	スヌーズモードの解除	ソフトウェアスタンバイモードの解除	ディープソフトウェアスタンバイモードの解除
			NVICへの接続	DTCの起動	DMACの起動			
114h	GPT3210	GPT10_CCMPA	○	○	○	-	-	-
115h		GPT10_CCMPB	○	○	○	-	-	-
116h		GPT10_CMPC	○	○	○	-	-	-
117h		GPT10_CMPD	○	○	○	-	-	-
118h		GPT10_CMPE	○	○	○	-	-	-
119h		GPT10_CMPF	○	○	○	-	-	-
11Ah		GPT10_OVF	○	○	○	-	-	-
11Bh		GPT10_UDF	○	○	○	-	-	-
11Eh	GPT3211	GPT11_CCMPA	○	○	○	-	-	-
11Fh		GPT11_CCMPB	○	○	○	-	-	-
120h		GPT11_CMPC	○	○	○	-	-	-
121h		GPT11_CMPD	○	○	○	-	-	-
122h		GPT11_CMPE	○	○	○	-	-	-
123h		GPT11_CMPF	○	○	○	-	-	-
124h		GPT11_OVF	○	○	○	-	-	-
125h		GPT11_UDF	○	○	○	-	-	-
128h	GPT3212	GPT12_CCMPA	○	○	○	-	-	-
129h		GPT12_CCMPB	○	○	○	-	-	-
12Ah		GPT12_CMPC	○	○	○	-	-	-
12Bh		GPT12_CMPD	○	○	○	-	-	-
12Ch		GPT12_CMPE	○	○	○	-	-	-
12Dh		GPT12_CMPF	○	○	○	-	-	-
12Eh		GPT12_OVF	○	○	○	-	-	-
12Fh		GPT12_UDF	○	○	○	-	-	-
150h	GPT	GPT_UVWEDGE	○	-	-	-	-	-
174h	SCI0	SCI0_RXI	○	○	○	-	-	-
175h		SCI0_TXI	○	○	○	-	-	-
176h		SCI0_TEI	○	-	-	-	-	-
177h		SCI0_ERI	○	-	-	-	-	-
178h		SCI0_AM	○	-	-	○（注5）	-	-
179h		SCI0_RXI_OR_ERI	-	-	-	○（注5）	-	-
17Ah	SCI1	SCI1_RXI	○	○	○	-	-	-
17Bh		SCI1_TXI	○	○	○	-	-	-
17Ch		SCI1_TEI	○	-	-	-	-	-
17Dh		SCI1_ERI	○	-	-	-	-	-
17Eh		SCI1_AM	○	-	-	-	-	-
180h	SCI2	SCI2_RXI	○	○	○	-	-	-
181h		SCI2_TXI	○	○	○	-	-	-
182h		SCI2_TEI	○	-	-	-	-	-
183h		SCI2_ERI	○	-	-	-	-	-
184h		SCI2_AM	○	-	-	-	-	-
186h	SCI3	SCI3_RXI	○	○	○	-	-	-
187h		SCI3_TXI	○	○	○	-	-	-
188h		SCI3_TEI	○	-	-	-	-	-
189h		SCI3_ERI	○	-	-	-	-	-
18Ah		SCI3_AM	○	-	-	-	-	-

表 14.4　イベントテーブル (7/7)

イベント番号	割り込み要求の発生元	名称	IELSRn		DELSRn	スヌーズモードの解除	ソフトウェアスタンバイモードの解除	ディープソフトウェアスタンバイモードの解除
			NVICへの接続	DTCの起動	DMACの起動			
18Ch	SCI4	SCI4_RXI	○	○	○	-	-	-
18Dh		SCI4_TXI	○	○	○	-	-	-
18Eh		SCI4_TEI	○	-	-	-	-	-
18Fh		SCI4_ERI	○	-	-	-	-	-
190h		SCI4_AM	○	-	-	-	-	-
1A4h	SCI8	SCI8_RXI	○	○	○	-	-	-
1A5h		SCI8_TXI	○	○	○	-	-	-
1A6h		SCI8_TEI	○	-	-	-	-	-
1A7h		SCI8_ERI	○	-	-	-	-	-
1A8h		SCI8_AM	○	-	-	-	-	-
1AAh	SCI9	SCI9_RXI	○	○	○	-	-	-
1ABh		SCI9_TXI	○	○	○	-	-	-
1ACh		SCI9_TEI	○	-	-	-	-	-
1ADh		SCI9_ERI	○	-	-	-	-	-
1AEh		SCI9_AM	○	-	-	-	-	-
1BCh	SPI0	SPI0_SPRI	○	○	○	-	-	-
1BDh		SPI0_SPTI	○	○	○	-	-	-
1BEh		SPI0_SPII	○	-	-	-	-	-
1BFh		SPI0_SPEI	○	-	-	-	-	-
1C0h		SPI0_SPTEND	○	-	-	-	-	-
1C1h	SPI1	SPI1_SPRI	○	○	○	-	-	-
1C2h		SPI1_SPTI	○	○	○	-	-	-
1C3h		SPI1_SPII	○	-	-	-	-	-
1C4h		SPI1_SPEI	○	-	-	-	-	-
1C5h		SPI1_SPTEND	○	-	-	-	-	-
1C6h	QSPI	QSPI_INTR	○	-	-	-	-	-
1C7h	SDHI0	SDHI_MMC0_ACCS	○	-	-	-	-	-
1C8h		SDHI_MMC0_SDIO	○	-	-	-	-	-
1C9h		SDHI_MMC0_CARD	○	-	-	-	-	-
1CAh		SDHI_MMC0_ODMSDBREQ	-	○	○	-	-	-
1CBh	SDHI1	SDHI_MMC1_ACCS	○	-	-	-	-	-
1CCh		SDHI_MMC1_SDIO	○	-	-	-	-	-
1CDh		SDHI_MMC1_CARD	○	-	-	-	-	-
1CEh		SDHI_MMC1_ODMSDBREQ	-	○	○	-	-	-

注 1.　CMPCTL.CSTEN = 1 の場合にのみサポートされます。
注 2.　KRCTL.KRMD = 1 の場合にのみサポートされます。
注 3.　最初のエッジ検出のみが有効です。
注 4.　DTC 転送後の割り込みのみがサポートされます。
注 5.　SELSR0 の使用

14.4　割り込み動作

ICU は下記の機能を実行します。

- 割り込みの検出
- 割り込みの許可／禁止
- 割り込み要求先の選択（CPU 割り込み、DTC 起動、DMAC 起動など）

14.4.1　割り込みの検出

外部端子割り込み要求は、下記の 2 つの方法のいずれかで検出されます。

- 割り込み信号のエッジ（立ち下がりエッジ／立ち上がりエッジ／両エッジ）
- 割り込み信号のレベル（Low レベル）

IRQi 端子検出モードを選択するには、IRQCRi レジスタの IRQMD[1:0] ビットを設定します。周辺モジュールに関連した割り込み要因については、14.3.2　イベント番号を参照してください。イベントは、割り込みが発生して CPU に受け付けられる前に、NVIC で受け付けられる必要があります。

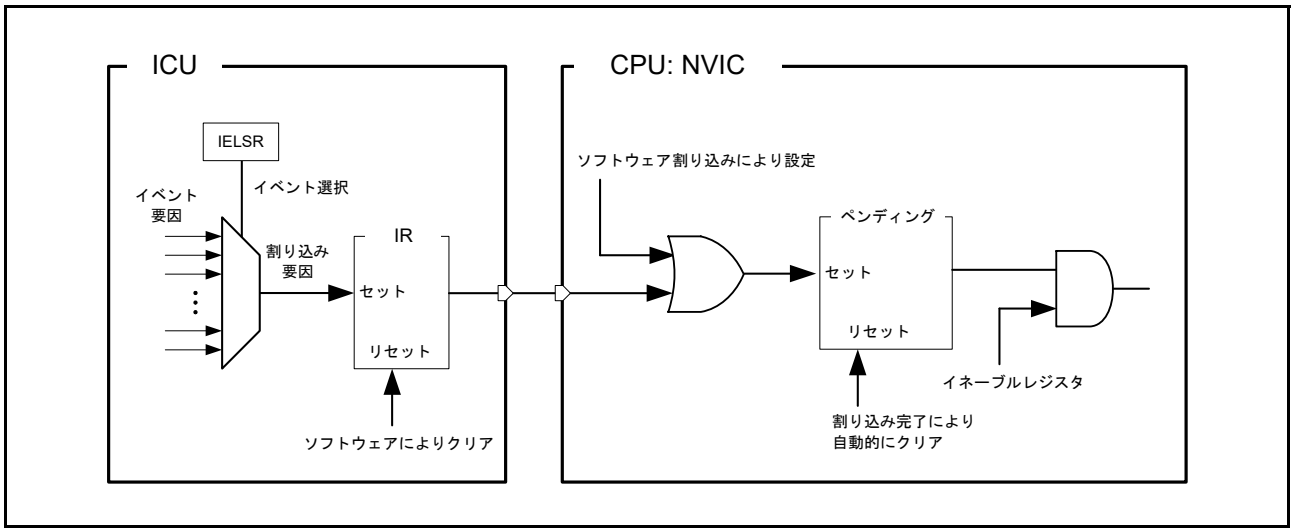


図 14.2　ICU および CPU: NVIC の割り込み経路

割り込みを検出するには以下の手順に従ってください。

割り込み中の一般的動作

- 非ソフトウェア割り込みが発生したとき：
  IELSRn.IR フラグと割り込みセット／クリア保留レジスタ（NVIC）が設定される
- ソフトウェア割り込みが発生したとき：
  割り込みセット保留レジスタを設定する
- 割り込みが完了したとき：
  ソフトウェアで IELSRn.IR フラグをクリアする。
  割り込みセット／クリア保留レジスタは自動的にクリアされる

割り込みが許可される場合

1. 割り込みセットイネーブルレジスタ（NVIC）を設定する。
2. IELSRn.IELS ビットを割り込み要因として設定する。
3. イベント要因に対し動作設定値を指定する。

割り込みが禁止される場合

1. イベント要因に対し設定値を無効にする。
2. IELSRn.IELS[8:0] ビットをクリアする（IELSRn.IELS[8:0] = 0000h）。必要に応じて、IELSRn.IR フラグをクリアする。
3. 割り込みクリアイネーブルレジスタをクリアする。必要に応じて、割り込みクリア保留レジスタをクリアする。

割り込みのポーリングを行う場合

1. 割り込みクリアイネーブルレジスタを設定（割り込みを禁止）する。
2. IELSRn.IELS[8:0] ビットを設定（割り込み要因を選択）する。
3. イベント要因に対し動作設定値を指定する。
4. 割り込みセット保留レジスタをポーリングする。
5. ポーリングが不要になった場合、割り込みが完了したときに、そのクリア手順に従うソフトウェアで IELSRn.IR フラグをクリアする。

14.4.2 割り込み要求先の選択

割り込み出力先（CPU、DTC、または DMAC）は、割り込み要因ごとに個別に選択できます。利用可能な出力先は、表 14.4 に示されているように、割り込みごとに固定されています。

注 . イベントリスト（表 14.4）で〇印が付いていない割り込み要求先の設定は使用しないでください。

1 つの IELSRn レジスタで CPU または DTC を選択した場合、他の IELSRn レジスタで同じ割り込み要因を設定することは禁止されます。同様に、1 つの DELSRn レジスタで DMAC を選択した場合、他の DELSRn レジスタで同じ割り込み要因を設定することは禁止されます。

注 . IELSRn や DELSRn で同じ割り込みを設定することは禁止されています。

DMAC または DTC が IRQi 端子からの要求先として選択された場合、その割り込みに対して IRQCRi の IRQMD[1:0] ビットをエッジ検出の選択に設定する必要があります。

14.4.2.1 CPU 割り込み要求

IELSRn.DTCE = 0 のとき、IELSRn レジスタで指定されたイベントが NVIC に出力されます。IELSRn.IELS ビットを対象のイベントに設定し、IELSRn.DTCE ビットを 0 にする。

14.4.2.2 DTC の起動

IELSRn.DTCE = 1 のとき、IELSRn レジスタで指定されたイベントが DTC に出力されます。DTC 送信の完了後、対応する割り込みが発生します。以下の手順に従ってください。

1. IELSRn.IELS ビットを対象のイベントに設定し、IELSRn.DTCE ビットを 1 にする。
2. DTC モジュール起動ビット（DTCST.DTCST）を 1 にする。

DTC が要求先となる場合の動作を表 14.5 に示します。

表 14.5　DTCが起動するときの動作

割り込み要求先	DISEL（注1）	残り転送動作	1要求あたりの動作	IR（注2）	転送後の割り込み要求先
DTC（注3）	1	≠0	DTC転送→CPU割り込み	CPUによる割り込み受け付け時にクリアされる。	DTC
		= 0	DTC転送→CPU割り込み	CPUによる割り込み受け付け時にクリアされる。	IELSRn.DTCEビットがクリアされ、CPUが要求先になる。
	0	≠0	DTC転送	DTC転送データの読み出し後、DTCデータ転送の開始時にクリアされる。	DTC
		= 0	DTC転送→CPU割り込み	CPUによる割り込み受け付け時にクリアされる。	IELSRn.DTCEビットがクリアされ、CPUが要求先になる。

注 1.　DTC.MRB.DISEL ビットで DTC 用の割り込み要求モードを設定します。
注 2.　IELSRn.IR フラグが 1 のとき、再度発生した割り込み要求（DTC 起動要求）は無視されます。
注 3.　チェーン転送の場合は、最後のチェーン転送が終了するまで DTC 転送が継続します。このとき、DISEL ビットの状態と残りの転送数によって、転送後の CPU 割り込み発生の有無、IELSRn.IR フラグクリアのタイミング、および割り込み要求先が決まります。「18.　データトランスファコントローラ（DTC）」の表 18.3　チェーン転送の条件を参照してください。

14.4.2.3　DMAC の起動

DELSRn レジスタで指定されたイベントが DMAC に出力されます。DMAC に対して割り込み要因を設定するには、以下の手順に従って下さい。

1. DELSRn.DELS[8:0] ビットを対象のイベントに設定する。
2. 割り込みを使用する場合、IELSRn.IELS ビットを設定して DMAC を割り込み要因とし、IELSRn.DTCE ビットを 1 にする。
3. 対象の DMAC チャネルの起動要因（DMACm.DMTMD.DCTG[1:0]）を 01b（割り込みモジュール検出）にする。
4. 対象の DMAC チャネルの DMAC 転送許可ビット（DMACm.DMCNT.DTE）を 1 にする。
5. DMAC 動作許可ビット（DMACm.DMAST.DMST）を 1 にする。

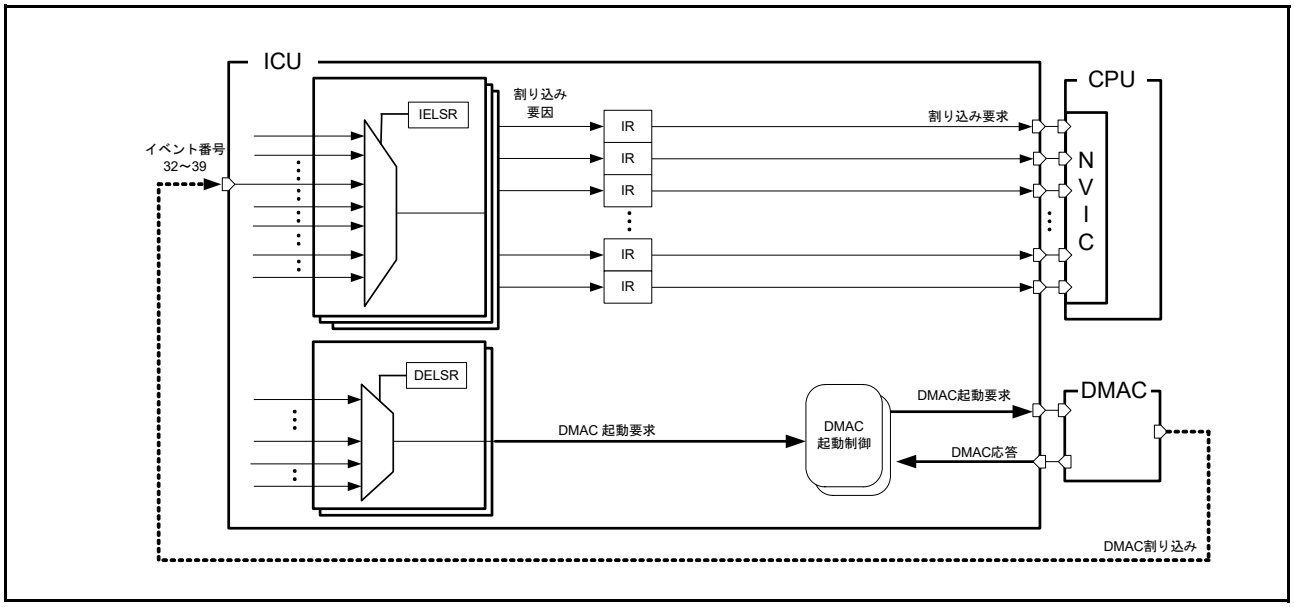


図 14.3　DMAC 要求トリガと割り込み経路

14.4.3　デジタルフィルタ

デジタルフィルタ機能は、外部割り込み要求端子（IRQi、i = 0 ～ 13）と NMI 端子割り込みのために準備されています。この機能は、入力信号をフィルタサンプリングクロック（PCLKB）でサンプリングし、3 サンプリングサイクル未満のパルス幅を持つ信号を除去します。

IRQi 端子に対するデジタルフィルタの使用法：

1. IRQCRi.FCLKSEL[1:0] ビットで、サンプリングクロックサイクルを PCLKB、PCLKB/8、PCLKB/32、または PCLKB/64 に設定する。
2. IRQCRi.FLTEN. ビットを 1（デジタルフィルタ有効）にする。

NMI 端子に対するデジタルフィルタの使用法：

1. NMICR.NFCLKSEL[1:0] ビットで、サンプリングクロックサイクルを PCLKB、PCLKB/8、PCLKB/32、または PCLKB/64 に設定する。
2. NMICR.NFLTEN ビットを 1（デジタルフィルタ有効）にする。

図 14.4 にデジタルフィルタの動作例を示します。

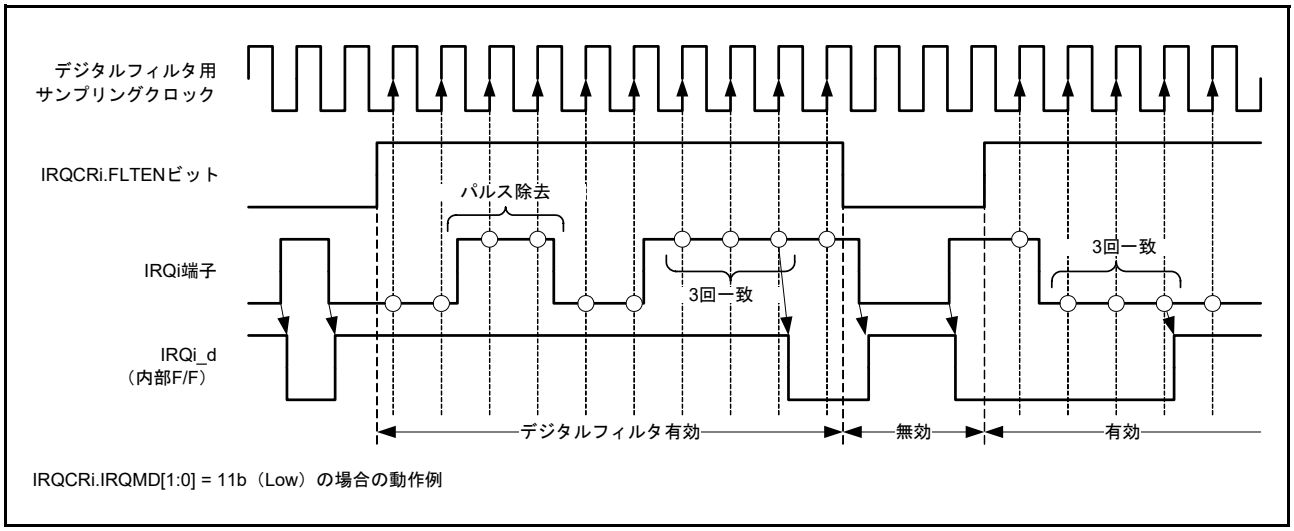


図 14.4　デジタルフィルタの動作例

ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、IRQCRi.FLTEN ビットと NMICR.NFLTEN ビットをクリアして、デジタルフィルタを無効にしてください。ICU のクロックはソフトウェアスタンバイモードでは停止します。ソフトウェアスタンバイモードの終了時、回路はスタンバイ前の状態をスタンバイ解除後の状態と比較することでエッジを検出します。ソフトウェアスタンバイモード中に入力が変化すると、誤ったエッジが検出される可能性があります。ソフトウェアスタンバイモードの終了後、デジタルフィルタを再度有効にできます。

14.4.4　外部端子割り込み

外部端子割り込みの使用法：

1. IRQCRi.FLTEN ビット（i = 0 ～ 13）を 0（デジタルフィルタ無効）にする。
2. I/O ポートの設定値を設定または確認する。
3. IRQCRi レジスタの IRQMD[1:0] ビット、FCLKSEL[1:0] ビット、および FLTEN ビットを設定する。
4. IRQ 端子を以下のように選択する。
   - IRQ 端子を CPU 割り込み要求に使用する場合、IELSRn.IELS ビットを設定し、IELSRn.DTCE ビットを 0 にする
   - IRQ 端子を DTC 起動に使用する場合、IELSRn.IELS ビットを設定し、IELSRn.DTCE ビットを 1 にする
   - IRQ 端子を DMAC 起動に使用する場合、DELSRn.DELS ビットを設定する

14.5 ノンマスカブル割り込みの動作

ノンマスカブル割り込みをトリガできるのは、以下の要因です。

- NMI 端子割り込み
- 発振停止検出割り込み
- WDT アンダーフロー／リフレッシュエラー割り込み
- IWDT アンダーフロー／リフレッシュエラー割り込み
- 電圧監視 1 割り込み
- 電圧監視 2 割り込み
- SRAM パリティエラー割り込み
- SRAM ECC エラー割り込み
- MPU バスマスタエラー割り込み
- MPU バススレーブエラー割り込み
- CPU スタックポインタモニタ割り込み

ノンマスカブル割り込みは CPU でのみ使用可能です。DTC または DMAC の起動には使用できません。ノンマスカブル割り込みは他のすべての割り込みよりも優先します。ノンマスカブル割り込みの状態は、ノンマスカブル割り込みステータスレジスタ（NMISR）で確認できます。NMI 処理ルーチンから復帰する前に、NMISR のビットがすべて 0 であることを確認してください。

ノンマスカブル割り込みはデフォルトで無効になっています。ノンマスカブル割り込みを使用するには、以下の手順に従う必要があります。

1. NMI 端子を使用するために、NMICR.NFLTEN ビットを 0（デジタルフィルタ無効）にする。
2. NMI 端子を使用するために、NMICR レジスタの NMIMD ビット、NFCLKSEL[1:0] ビット、および NFLTEN ビットを設定する。
3. NMI 端子を使用するために、NMICLR.NMICLR ビットを 1 にして NMISR.NMIST フラグを 0 にする。
4. ノンマスカブル割り込みイネーブルレジスタ（NMIER）の対応するビットを 1 にしてノンマスカブル割り込みを許可にする。

NMIER レジスタに 1 を書いた後は、NMIER レジスタの NMIEN ビットに対する後続のライトアクセスは無視されます。NMI 割り込みは、リセットの場合を除いて、許可されたものを禁止することはできません。

14.6　低消費電力モードからの復帰

スリープモードまたはソフトウェアスタンバイモードを終了させるために使用可能な割り込み要因は、表 14.4 に示されています。詳細は、「11.　低消費電力モード」を参照してください。14.6.1 ～ 14.6.3 には、割り込みを使用してスリープモード、ソフトウェアスタンバイモード、およびスヌーズモードから復帰する方法が示されています。ディープソフトウェアスタンバイモードについては、11.9　ディープソフトウェアスタンバイモードを参照してください。

14.6.1　スリープモードからの復帰

割り込みによってスリープモードから復帰する方法：

1. 割り込み要求先として CPU を選択する。
2. NVIC で割り込みを許可にする。

ノンマスカブル割り込みによってスリープモードから復帰するには、NMIER レジスタを使用して対象の割り込み要求を許可します。

14.6.2　ソフトウェアスタンバイモードからの復帰

ICU は、ノンマスカブル割り込みを用いるか、または WUPEN レジスタで選択された割り込みを用いて、ソフトウェアスタンバイモードからの復帰を可能にします。14.2.9　ウェイクアップ割り込みイネーブルレジスタ（WUPEN）を参照してください。

ソフトウェアスタンバイモードから復帰する方法：

1. ソフトウェアスタンバイモードからの復帰を許可する割り込み要因を選択する。
   - ノンマスカブル割り込みの場合、NMIER レジスタを使用して対象の割り込み要求を許可する
   - マスカブル割り込みの場合、WUPEN レジスタを使用して対象の割り込み要求を許可する
2. 割り込み要求先として CPU を選択する。
3. NVIC で割り込みを許可にする。

これらの条件を満たさない IRQ 端子による割り込み要求は、ソフトウェアスタンバイモードでクロックが停止している間は検出されません。

14.6.3　スヌーズモードからの復帰

ICU は、スヌーズモード用の割り込みを用いて、スヌーズモードから通常モードへの復帰を可能にします。

スヌーズモードから通常モードへ復帰する方法：

1. 以下の方法のうちいずれかを使用して、スヌーズモードから通常モードへの復帰をトリガしたいイベントを選択する。
   - SELSR0.SELS ビットにスヌーズモードから通常モードへの復帰をトリガしたいイベントを設定し、IELSRn.IELS[8:0] ビットに値 02Dh（ICU_SNZCANCEL）を設定する
   - IELSRn.IELS[8:0] ビットにスヌーズモードから通常モードへの復帰をトリガしたいイベントを設定する
2. 割り込み要求先として CPU を選択する。
3. NVIC で割り込みを許可にする。

注 .　スヌーズモードでは、クロックが ICU に供給されます。IELSRn で選択したイベントが検出された場合、ソフトウェアスタンバイモードから通常モードに復帰した後、CPU は割り込みアクノリッジを実行できます。DELSRn で選択したイベントが検出された場合、ソフトウェアスタンバイモードから通常モードに復帰した後、DMAC は割り込みアクノリッジを実行できます。

14.7 ノンマスカブル割り込みとともにWFI命令を使用する場合

WFI命令を実行するときは、常にNMISRレジスタのステータスフラグがすべて0であることを確認してください。

14.8 参考資料

ARM® Cortex®-M4 Processor Technical Reference Manual (ARM DDI 0439D).

15. バス

15.1 概要

表 15.1 にバスの仕様を、図 15.1 にバスの構成図を、表 15.2 にバス種類別アドレス対応表を示します。

本バスインタフェースは、LCD Intel 8080 インタフェースおよび Motorola 6800 インタフェースを接続する場合にも適用されます。

表 15.1 バスの仕様

バスの種類		内容
メインバス	Icodeバス（CPU）	• CPUを接続 • 内蔵メモリ（コードフラッシュメモリ、SRAMHS）を接続
	Dcodeバス（CPU）	• CPUを接続 • 内蔵メモリ（コードフラッシュメモリ、SRAMHS）を接続
	システムバス（CPU）	• CPUを接続 • 内蔵メモリ、内部周辺バス、および外部バスを接続
	DMAバス	• DMACおよびDTCを接続 • 内蔵メモリ、内部周辺バス、および外部バスを接続
スレーブインタフェース	メモリバス1	• コードフラッシュメモリを接続
	メモリバス2	• SRAMHSを接続
	メモリバス3	• DMAバスを介して、コードフラッシュメモリとSRAMHSを接続
	メモリバス4	• SRAM0を接続
	メモリバス5	• スタンバイSRAMを接続
	内部周辺バス1	• 周辺モジュール関連のシステムコントロールを接続
	内部周辺バス3	• 周辺モジュール（CAC、ELC、I/Oポート、POEG、RTC、WDT、IWDT、IIC、CAN、SSIE、SRC、ADC12、DAC12、TSN、DOC）を接続
	内部周辺バス4	• 周辺モジュール（GPT、SCI、IrDA、SPI、CRC、SDHI）を接続
	内部周辺バス5	• 周辺モジュール（KINT、AGT、USBFS、ACMPHS、CTSU）を接続
	内部周辺バス7	• セキュアIP（SCE7）を接続
	内部周辺バス9	• フラッシュメモリ（P/E時）(注1)、データフラッシュメモリ、TSNを接続
外部バス	CS領域	• 外部デバイスを接続
	QSPI領域	• 外部SPIデバイスを接続

注 1. P/E：プログラム／イレース

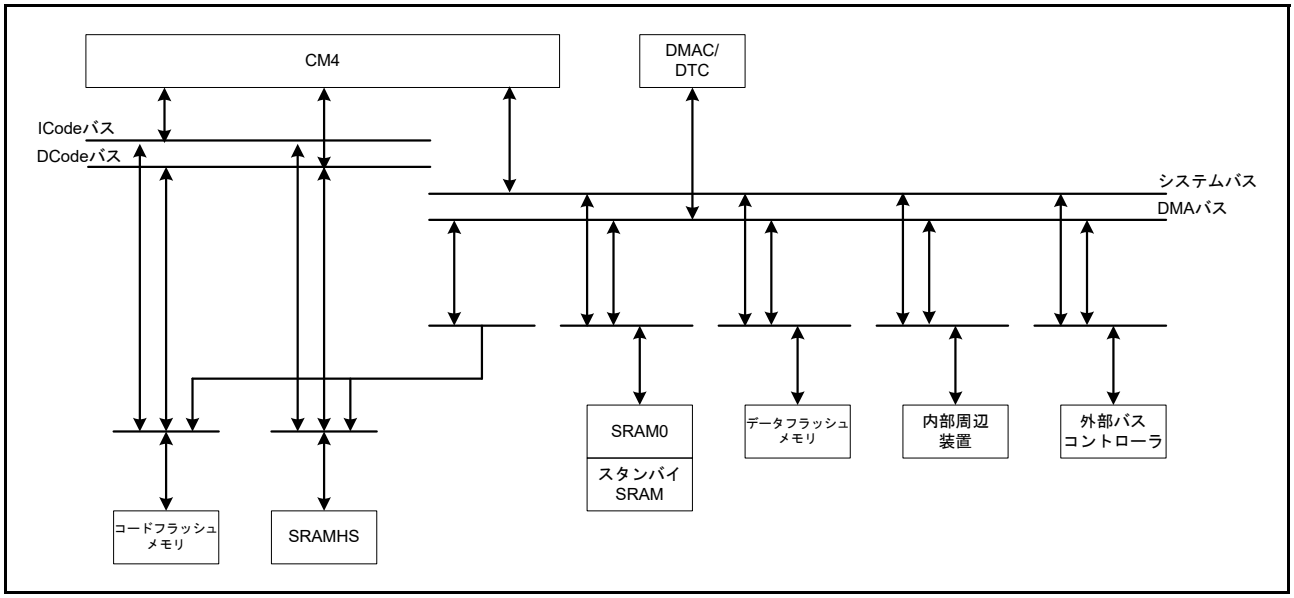


図 15.1　　バスの構成図

表 15.2　　バス種類別アドレス対応表

アドレス	バス	領域
0000 0000h～01FF FFFFh	メモリバス1、3	コードフラッシュメモリ
1FFE 0000h～1FFF FFFFh	メモリバス2、3	SRAMHS
2000 0000h～2003 FFFFh	メモリバス4	SRAM0
2004 0000h～200F FFFFh	メモリバス5	スタンバイ SRAM
4000 0000h～4001 FFFFh	内部周辺バス1	周辺I/O レジスタ
4004 0000h～4005 FFFFh	内部周辺バス3	
4006 0000h～4007 FFFFh	内部周辺バス4	
4008 0000h～4009 FFFFh	内部周辺バス5	
400C 0000h～400D FFFFh	内部周辺バス7	セキュアIP
4010 0000h～407F FFFFh	内部周辺バス9	フラッシュメモリ（P/E時(注1)）、 データフラッシュメモリ、TSN
6000 0000h～67FF FFFFh	外部バス	QSPI領域
8000 0000h～97FF FFFFh	外部バス	CS領域

注 1.　P/E：プログラム／イレース

15.2 バスの説明

15.2.1 メインバス

CPU 用のメインバスは、ICode バス、DCode バス、およびシステムバスで構成されます。

- ICode バスと DCode バス : コードフラッシュメモリと SRAMHS に接続。ICode バスは CPU への命令アクセスに使用、DCode バスは CPU へのデータアクセスに使用
- システムバス : SRAM0、スタンバイ SRAM、データフラッシュメモリ、内部周辺バス、および外部バスに接続。CPU への命令およびデータのアクセスに使用

CPU 以外のモジュール用のメインバスは、DMA バスで構成されます。

- DMA バス : コードフラッシュメモリ、SRAMHS、SRAM0、スタンバイ SRAM、データフラッシュメモリ、および外部バスに接続

マスタ転送とスレーブ転送のさまざまな組み合わせの同時通信が可能です。

DMAC および DTC ブロックでは、DMAC と DTC の間で DMA バス権の調停が行われます。下記の固定優先順位が用いられます。

DMAC0 > DMAC1 > DMAC2 > DMAC3 > DMAC4 > DMAC5 > DMAC6 > DMAC7 > DTC

起動要求を受け付けた 1 つの DTC と DMAC チャネルのみが、バス権要求を発行できます。また、DTC の転送制御情報を読み出している間は、DTC 以外のマスタからのバスアクセス要求は受け付けません。

調停プロトコルには、優先順位固定またはラウンドロビンのいずれかを選択できます。詳細は、15.3.8 スレーブバスコントロールレジスタ（BUSSCNT<slave>）を参照してください。

15.2.2 スレーブインタフェース

Cortex®-M4 コアを用いた製品には、ICode および DCode バス領域とシステムバス領域が含まれています。

ICode および DCode バス領域を作成するため、バスマトリックスは、メインバスからコードフラッシュメモリと SRAMHS のスレーブインタフェースまで、ICode バス、DCode バス、およびメモリバス 3 を接続しています。これらのバス間で、スレーブインタフェースへのバスアクセスが調停されます。調停プロトコルには、優先順位固定またはラウンドロビンのいずれかを選択できます。詳細は、15.3.8 スレーブバスコントロールレジスタ（BUSSCNT<slave>）を参照してください。

システムバス領域を作成するため、バスマトリックスは、メインバスから SRAM0、スタンバイ SRAM、データフラッシュメモリ、内部周辺バス、および外部バスのスレーブインタフェースまで、システムバス、および DMA バスを接続しています。これら 3 つのバス間で、スレーブインタフェースへのバスアクセスが調停されます。調停プロトコルには、優先順位固定またはラウンドロビンのいずれかを選択できます。詳細は、15.3.8 スレーブバスコントロールレジスタ（BUSSCNT<slave>）を参照してください。

メインバスからスレーブインタフェースへの接続については、表 15.1 に記載のスレーブインタフェースを参照してください。外部バスについては、15.2.3 外部バスを参照してください。

マスタ転送とスレーブ転送のさまざまな組み合わせの同時通信が可能です。

15.2.3 外部バス

外部バスコントローラは、CPU システムバスと DMAC バスからの外部アドレス空間におけるバスアクセス要求を調停します。その優先順位は外部バスのプライオリティ制御ビット（BUSSCNT.ARBMET[1:0]）で設定可能です。詳細は、15.3.8 スレーブバスコントロールレジスタ（BUSSCNT<slave>）を参照してください。

バスシステムには QSPI 用の外部空間があります。「35. クワッドシリアルペリフェラルインタフェース（QSPI）」を参照してください。

表 15.3 に外部バスの仕様を、表 15.4 に入出力端子を示します。

表 15.3 外部バスの仕様

項目	内容
外部アドレス空間	• 外部アドレス空間を6つのCS領域（CS0、CS1、CS4～CS7）に分割して管理 • 領域ごとにチップセレクト信号の出力が可能 • 領域ごとにバス幅を選択可能 - セパレートバス：8ビットバス空間 - アドレス／データマルチプレクスバス：8ビットバス空間 • 領域ごとにエンディアン形式を設定可能
CS領域コントローラ	• リカバリサイクルを挿入可能 - リードリカバリ：最大15サイクル - ライトリカバリ：最大15サイクル • サイクルウェイト機能：最大31サイクルウェイト（ページアクセスには最大7サイクルウェイト） • ウェイト制御の設定： - チップセレクト信号（CS0、CS1、CS4～CS7）のアサート／ネゲートタイミング - リード信号（RD）とライト信号（WR0）のアサートタイミング - データ出力の開始／終了タイミング • ライトアクセスモード： - バイトストローブモード • セパレートバス、アドレス／データマルチプレクスバスを領域ごとに設定可能
ライトバッファ機能	バスマスタからのライトデータをライトバッファに書き込んだ時点で、バスマスタ側のライトアクセスを終了
周波数	• CS領域コントローラ（CSC）は外部バスクロック（BCLK）に同期して動作 • EBCLK端子出力の周波数は、デフォルトでBCLKと同じ。外部バスクロックコントロールレジスタのEBCLK端子出力選択ビット（BCKCR.BCLKDIV）により、BCLKサイクルの2分周が可能。 詳細は、「9. クロック発生回路」を参照してください。

表 15.4 外部バスの入出力端子

端子名	入出力	関連機能	内容
EBCLK	出力	CSC	クロック出力端子
A12～A00	出力	CSC	アドレス出力端子
D07～D00	入出力	CSC	D07～D00はCSCデータの入出力端子
BC0	出力	CSC	• 1ライトストローブモード時、外部アドレス空間へのアクセス中にD07～D00が有効であることを示すストローブ信号（Lowの場合）、アクティブLow • 8ビットバス空間を設定した場合、ライトアクセスモードに関係なく常にLow出力となる
BC1	出力	CSC	• 1ライトストローブモード時、外部アドレス空間へのアクセス中にD15～D08が有効であることを示すストローブ信号（Lowの場合）、アクティブLow • 8ビットバス空間を設定した場合、使用しない
CS0	出力	CSC	領域0（CS0）のチップセレクト信号、アクティブLow
CS1	出力	CSC	領域1（CS1）のチップセレクト信号、アクティブLow
CS4	出力	CSC	領域4（CS4）のチップセレクト信号、アクティブLow
CS5	出力	CSC	領域5（CS5）のチップセレクト信号、アクティブLow
CS6	出力	CSC	領域6（CS6）のチップセレクト信号、アクティブLow
CS7	出力	CSC	領域7（CS7）のチップセレクト信号、アクティブLow
RD	出力	CSC	外部アドレス空間（CS0、CS1、CS4～CS7）から読み出し中であることを示すストローブ信号、アクティブLow
WR0	出力	CSC	バイトストローブモード時、外部アドレス空間へ書き込み中であること、およびD07～D00が有効であることを示すストローブ信号、アクティブLow
ALE	出力	CSC	アドレス／データマルチプレクスバス選択時のアドレスラッチ信号
WAIT	入力	CSC	外部アドレス空間（CS0、CS1、CS4～CS7）へのアクセス時に用いられるウェイト要求信号、アクティブLow

15.2.4 並列動作

それぞれのバスマスタが異なるスレーブにアクセスする場合、並列に動作することが可能です。たとえば、CPU がフラッシュから命令、SRAM からオペランドをフェッチする場合、同時に DMAC は、周辺バスと外部バスの間で転送処理が可能です。

図 15.2 に並列動作の例を示します。この例では、CPU は命令バスとオペランドバスを使用して、それぞれフラッシュと SRAM に同時にアクセスしています。また、CPU がフラッシュメモリと SRAM にアクセスする間、DMAC/DTC は DMA バス（DMAC/DTC）を同時に使用して、周辺バスまたは外部バスにアクセスしています。

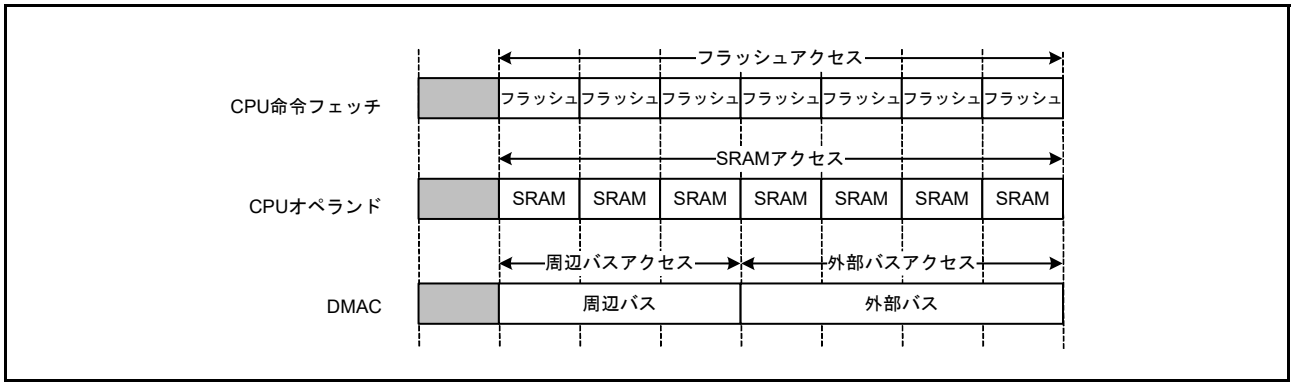


図 15.2 並列動作の例

15.2.5 バスの設定

外部バスの設定には、以下のレジスタを使用します。

- モード設定：
  - CSn モードレジスタ（CSnMOD）
  - CSn ウェイトコントロールレジスタ 1（CSnWCR1）
  - CSn ウェイトコントロールレジスタ 2（CSnWCR2）
  - CSn コントロールレジスタ（CSnCR）
  - CSn リカバリサイクル設定レジスタ（CSnREC）
  - CS リカバリサイクル挿入許可レジスタ（CSRECEN）
  - バスプライオリティコントロールレジスタ（BUSSCNT）
- I/O ポートの割り当て：
  PmnPFS.PMR = 1 および PmnPFS.PSEL[4:0] = 0Bh
- 外部バスクロック（BCLK）の周波数：
  SCKDIVCR レジスタ

PmnPFS については「20. I/O ポート」を、SCKDIVCR については「9. クロック発生回路」を参照してください。

15.2.6 エンディアンに関する制限事項

Cortex-M4 コアでコードを実行する場合、メモリ空間はリトルエンディアンでなければいけません。

15.3 レジスタの説明

15.3.1 CSn コントロールレジスタ（CSnCR）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

アドレス BUS.CS0CR 4000 3802h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	MPXEN	—	—	—	EMODE	—	—	BSIZE[1:0]		—	—	—	EXENB
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

アドレス BUS.CS1CR 4000 3812h, BUS.CS4CR 4000 3842h,
BUS.CS5CR 4000 3852h, BUS.CS6CR 4000 3862h, BUS.CS7CR 4000 3872h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	MPXEN	—	—	—	EMODE	—	—	BSIZE[1:0]		—	—	—	EXENB
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	EXENB	動作許可	0：動作禁止 1：動作許可	R/W
b3-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5-b4	BSIZE[1:0]	外部バス幅選択	b5 b4 0 0：設定禁止 0 1：設定禁止 1 0：8ビットバス空間 1 1：設定禁止	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	EMODE	エンディアンモード指定	0：リトルエンディアン 1：ビッグエンディアン	R/W
b11-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b12	MPXEN	アドレス／データマルチプレクスI/Oインタフェース選択	0：領域nはセパレートバスインタフェース 1：領域nはアドレス／データマルチプレクスI/Oインタフェース（n = 0, 1, 4～7）	R/W
b15-b13	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

外部バスへのアクセス中は、CSnCR レジスタに書き込まないでください。

EXENB ビット（動作許可）

対応する CS 領域の動作を許可します。MCU のリセット時は、領域 0（CS0）のみ動作許可（EXENB = 1）になり、それ以外の領域は動作禁止（EXENB = 0）になります。禁止領域へアクセスしても何も影響されません。

BSIZE[1:0] ビット（外部バス幅選択）

対応する領域のデータバス幅を指定します。本ビットを 10b にしてから、EXENB ビットに 1 を書き込む必要があります。

EMODE ビット（エンディアンモード指定）

対応する領域のエンディアン形式を指定します。Cortex-M4 コアはリトルエンディアンで固定されています。そのため、リトルエンディアンが指定された場合にのみ命令コードが外部空間に配置されます。領域にビッグエンディアンが指定された場合、命令コードは配置されません。

MPXEN ビット（アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェース選択）

各領域のセパレートバスインタフェースまたはアドレス／データマルチプレクス I/O インタフェースを指定します。

15.3.2 CSn リカバリサイクル設定レジスタ（CSnREC）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

アドレス BUS.CS0REC 4000 380Ah, BUS.CS1REC 4000 381Ah, BUS.CS4REC 4000 384Ah, BUS.CS5REC 4000 385Ah, BUS.CS6REC 4000 386Ah, BUS.CS7REC 4000 387Ah

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	WRCV[3:0]				—	—	—	—	RRCV[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	RRCV[3:0]	リードリカバリ設定	b3 b0 0 0 0 0 ：リカバリサイクルの挿入なし 0 0 0 1 ：リカバリサイクルを1サイクル挿入 0 0 1 0 ：リカバリサイクルを2サイクル挿入 0 0 1 1 ：リカバリサイクルを3サイクル挿入 0 1 0 0 ：リカバリサイクルを4サイクル挿入 0 1 0 1 ：リカバリサイクルを5サイクル挿入 0 1 1 0 ：リカバリサイクルを6サイクル挿入 0 1 1 1 ：リカバリサイクルを7サイクル挿入 1 0 0 0 ：リカバリサイクルを8サイクル挿入 1 0 0 1 ：リカバリサイクルを9サイクル挿入 1 0 1 0 ：リカバリサイクルを10サイクル挿入 1 0 1 1 ：リカバリサイクルを11サイクル挿入 1 1 0 0 ：リカバリサイクルを12サイクル挿入 1 1 0 1 ：リカバリサイクルを13サイクル挿入 1 1 1 0 ：リカバリサイクルを14サイクル挿入 1 1 1 1 ：リカバリサイクルを15サイクル挿入	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b11-b8	WRCV[3:0]	ライトリカバリ設定	b11 b8 0 0 0 0 ：リカバリサイクルの挿入なし 0 0 0 1 ：リカバリサイクルを1サイクル挿入 0 0 1 0 ：リカバリサイクルを2サイクル挿入 0 0 1 1 ：リカバリサイクルを3サイクル挿入 0 1 0 0 ：リカバリサイクルを4サイクル挿入 0 1 0 1 ：リカバリサイクルを5サイクル挿入 0 1 1 0 ：リカバリサイクルを6サイクル挿入 0 1 1 1 ：リカバリサイクルを7サイクル挿入 1 0 0 0 ：リカバリサイクルを8サイクル挿入 1 0 0 1 ：リカバリサイクルを9サイクル挿入 1 0 1 0 ：リカバリサイクルを10サイクル挿入 1 0 1 1 ：リカバリサイクルを11サイクル挿入 1 1 0 0 ：リカバリサイクルを12サイクル挿入 1 1 0 1 ：リカバリサイクルを13サイクル挿入 1 1 1 0 ：リカバリサイクルを14サイクル挿入 1 1 1 1 ：リカバリサイクルを15サイクル挿入	R/W
b15-b12	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

外部バスへのアクセス中は、CSnREC レジスタに書き込まないでください。

前バスアクセスがセパレートバスからの場合、CSRECEN レジスタのセパレートバス用リカバリサイクル挿入許可ビット（RCVENi）（i = 0 ～ 7）でリカバリサイクルの挿入が許可されているとき、CSnREC レジスタが有効になります。前バスアクセスがアドレス／データマルチプレクスバスアクセスの場合は、CSRECEN レジスタのマルチプレクスバス用リカバリサイクル挿入許可ビット（RCVENMj）（j = 0 ～ 7）でリカバリサイクルの挿入が許可されているとき、CSnREC レジスタが有効になります。詳細は、15.5.4 リカバリサイクルの挿入を参照してください。

RRCV[3:0] ビット（リードリカバリ設定）

CSn（n = 0, 1, 4 ～ 7）の外部バスに対するリードアクセス後に挿入するリカバリサイクル数を指定します。リカバリサイクルの挿入を許可し、これらのビットを 0000b 以外にすると、以下の場合に 1 ～ 15 のリカバリサイクルが挿入されます。

- 外部バスにリードアクセス後、同じ領域の外部バスにリードアクセスする場合
- 外部バスにリードアクセス後、異なる領域の外部バスにリードアクセスする場合
- 外部バスにリードアクセス後、同じ領域の外部バスにライトアクセスする場合
- 外部バスにリードアクセス後、異なる領域の外部バスにライトアクセスする場合

WRCV[3:0] ビット（ライトリカバリ設定）

CSn（n = 0, 1, 4 ～ 7）の外部バスに対するライトアクセス後に挿入するリカバリサイクル数を指定します。リカバリサイクルの挿入を許可し、これらのビットを 0000b 以外にすると、以下の場合に 1 ～ 15 のリカバリサイクルが挿入されます。

- 外部バスにライトアクセス後、同じ領域の外部バスにリードアクセスする場合
- 外部バスにライトアクセス後、異なる領域の外部バスにリードアクセスする場合
- 外部バスにライトアクセス後、同じ領域の外部バスにライトアクセスする場合
- 外部バスにライトアクセス後、異なる領域の外部バスにライトアクセスする場合

15.3.3 CS リカバリサイクル挿入イネーブルレジスタ（CSRECEN）

アドレス BUS.CSRECEN 4000 3880h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	RCVENM7	RCVENM6	RCVENM5	RCVENM4	RCVENM3	RCVENM2	RCVENM1	RCVENM0	RCVEN7	RCVEN6	RCVEN5	RCVEN4	RCVEN3	RCVEN2	RCVEN1	RCVEN0
リセット後の値	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	1	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RCVEN0	セパレートバス用リカバリサイクル挿入許可0	0：禁止 1：許可	R/W
b1	RCVEN1	セパレートバス用リカバリサイクル挿入許可1	0：禁止 1：許可	R/W
b2	RCVEN2	セパレートバス用リカバリサイクル挿入許可2	0：禁止 1：許可	R/W
b3	RCVEN3	セパレートバス用リカバリサイクル挿入許可3	0：禁止 1：許可	R/W
b4	RCVEN4	セパレートバス用リカバリサイクル挿入許可4	0：禁止 1：許可	R/W
b5	RCVEN5	セパレートバス用リカバリサイクル挿入許可5	0：禁止 1：許可	R/W
b6	RCVEN6	セパレートバス用リカバリサイクル挿入許可6	0：禁止 1：許可	R/W
b7	RCVEN7	セパレートバス用リカバリサイクル挿入許可7	0：禁止 1：許可	R/W
b8	RCVENM0	マルチプレクスバス用リカバリサイクル挿入許可0	0：禁止 1：許可	R/W
b9	RCVENM1	マルチプレクスバス用リカバリサイクル挿入許可1	0：禁止 1：許可	R/W
b10	RCVENM2	マルチプレクスバス用リカバリサイクル挿入許可2	0：禁止 1：許可	R/W
b11	RCVENM3	マルチプレクスバス用リカバリサイクル挿入許可3	0：禁止 1：許可	R/W
b12	RCVENM4	マルチプレクスバス用リカバリサイクル挿入許可4	0：禁止 1：許可	R/W
b13	RCVENM5	マルチプレクスバス用リカバリサイクル挿入許可5	0：禁止 1：許可	R/W
b14	RCVENM6	マルチプレクスバス用リカバリサイクル挿入許可6	0：禁止 1：許可	R/W
b15	RCVENM7	マルチプレクスバス用リカバリサイクル挿入許可7	0：禁止 1：許可	R/W

外部バスへのアクセス中は、CSRECEN レジスタに書き込まないでください。リカバリサイクルの挿入については、15.5.4 リカバリサイクルの挿入を参照してください。

RCVENi ビット（セパレートバス用リカバリサイクル挿入許可 i）（i = 0 ～ 7）

外部バスにリードまたはライトアクセスした後、同じまたは異なる領域の外部バスにリードまたはライトアクセスする場合、リードリカバリサイクルまたはライトリカバリサイクルの挿入を許可します。

RCVENMj ビット（マルチプレクスバス用リカバリサイクル挿入許可 j）（j = 0 ～ 7）

外部バスでリードアクセスまたはライトアクセスした後、同じ領域または異なる領域に外部バスでリードアクセスまたはライトアクセスする場合、リードリカバリサイクルまたはライトリカバリサイクルの挿入を許可します。

表 15.5 リカバリサイクルの挿入

アクセスの種類	外部アドレス空間	リカバリサイクルの挿入	対応するビット（セパレート／マルチプレクス）
リードアクセス後のリードアクセス	同じ領域	RRCV[3:0]ビットで設定されたリカバリサイクル数が、優先アクセス領域に対して挿入されます。	RCVEN0/RCVENM0
	異なる領域	RRCV[3:0]ビットで設定されたリカバリサイクル数が、優先アクセス領域に対して挿入されます。	RCVEN1/RCVENM1
リードアクセス後のライトアクセス	同じ領域	RRCV[3:0]ビットで設定されたリカバリサイクル数が、優先アクセス領域に対して挿入されます。	RCVEN2/RCVENM2
	異なる領域	RRCV[3:0]ビットで設定されたリカバリサイクル数が、優先アクセス領域に対して挿入されます。	RCVEN3/RCVENM3
ライトアクセス後のリードアクセス	同じ領域	WRCV[3:0]ビットで設定されたリカバリサイクル数が、優先アクセス領域に対して挿入されます。	RCVEN4/RCVENM4
	異なる領域	WRCV[3:0]ビットで設定されたリカバリサイクル数が、優先アクセス領域に対して挿入されます。	RCVEN5/RCVENM5
ライトアクセス後のライトアクセス	同じ領域	WRCV[3:0]ビットで設定されたリカバリサイクル数が、優先アクセス領域に対して挿入されます。	RCVEN6/RCVENM6
	異なる領域	WRCV[3:0]ビットで設定されたリカバリサイクル数が、優先アクセス領域に対して挿入されます。	RCVEN7/RCVENM7

15.3.4 CSn モードレジスタ（CSnMOD）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

アドレス BUS.CS0MOD 4000 3002h, BUS.CS1MOD 4000 3012h, BUS.CS4MOD 4000 3042h, BUS.CS5MOD 4000 3052h, BUS.CS6MOD 4000 3062h, BUS.CS7MOD 4000 3072h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	PRMOD	—	—	—	—	—	PWENB	PRENB	—	—	—	—	EWENB	—	—	WRMOD
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	WRMOD	ライトアクセスモード選択	0：バイトストローブモード 1：設定禁止	R/W
b2-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b3	EWENB	外部ウェイト許可	0：禁止 1：許可	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	PRENB	ページリードアクセス許可	0：禁止 1：許可	R/W
b9	PWENB	ページライトアクセス許可	0：禁止 1：許可	R/W
b14-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15	PRMOD	ページリードアクセスモード選択	0：ノーマルアクセス互換モード 1：外部データリード連続アサートモード	R/W

CSn 領域へのアクセス中は、CSnMOD レジスタに書き込まないでください。

WRMOD ビット（ライトアクセスモード選択）

ライトアクセス時の動作モードを選択します。0 を書き込むとバイトストローブモードを選択します。1 を書き込まないでください。

EWENB ビット（外部ウェイト許可）

外部ウェイトを許可します。本ビットを 0 にすると、WAIT 信号は禁止されます。1 にすると、外部ウェイトが許可され、WAIT 信号によってサイクルあたりのウェイト数の制御が可能になります。この場合、WAIT 信号が Low のとき、ウェイトサイクルが挿入されます。

PRENB ビット（ページリードアクセス許可）

ページリードアクセスを許可します。

注 . アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェースはページリードアクセスに対応していないので、CSnCR.MPXEN ビットでアドレス／データマルチプレクス I/O インタフェースを選択した場合は、PRENB ビットを設定しないでください。

PWENB ビット（ページライトアクセス許可）

ページライトアクセスを許可します。

注 . アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェースはページライトアクセスに対応していないので、CSnCR.MPXEN ビットでアドレス／データマルチプレクス I/O インタフェースを選択した場合は、PWENB ビットを設定しないでください。

PRMOD ビット（ページリードアクセスモード選択）

ページリードアクセスの動作モードを選択します。本ビットを 0 にすると、ノーマルアクセス互換モードになります。このとき、1 つのデータを読み出すごとに RD 信号がネゲートされ、RD アサートウェイトが挿入されます。RD アサートウェイトがない場合、外部バスアクセスの最後の転送以外、RD 信号はネゲートされません。

本ビットを 1 にすると、外部データリード連続アサートモードになります。このとき、RD アサートウェイトが挿入され、ウェイト中に RD 信号がアサートされ続けます。

15.3.5 CSn ウェイトコントロールレジスタ 1（CSnWCR1）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

アドレス BUS.CS0WCR1 4000 3004h, BUS.CS1WCR1 4000 3014h, BUS.CS4WCR1 4000 3044h, BUS.CS5WCR1 4000 3054h, BUS.CS6WCR1 4000 3064h, BUS.CS7WCR1 4000 3074h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	CSRWAIT[4:0]					—	—	—	CSWWAIT[4:0]				
リセット後の値	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	CSPRWAIT[2:0]			—	—	—	—	—	CSPWWAIT[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	CSPWWAIT[2:0]	ページライトサイクルウェイト選択（注1）	b2 b0 0 0 0：ウェイトの挿入なし 0 0 1：ウェイトを1サイクル挿入 0 1 0：ウェイトを2サイクル挿入 0 1 1：ウェイトを3サイクル挿入 1 0 0：ウェイトを4サイクル挿入 1 0 1：ウェイトを5サイクル挿入 1 1 0：ウェイトを6サイクル挿入 1 1 1：ウェイトを7サイクル挿入	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b10-b8	CSPRWAIT[2:0]	ページリードサイクルウェイト選択（注2）	b10 b8 0 0 0：ウェイトの挿入なし 0 0 1：ウェイトを1サイクル挿入 0 1 0：ウェイトを2サイクル挿入 0 1 1：ウェイトを3サイクル挿入 1 0 0：ウェイトを4サイクル挿入 1 0 1：ウェイトを5サイクル挿入 1 1 0：ウェイトを6サイクル挿入 1 1 1：ウェイトを7サイクル挿入	R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b20-b16	CSWWAIT[4:0]	ノーマルライトサイクルウェイト選択	b20 b16 0 0 0 0 0：ウェイトの挿入なし 0 0 0 0 1：ウェイトを1サイクル挿入 0 0 0 1 0：ウェイトを2サイクル挿入 0 0 0 1 1：ウェイトを3サイクル挿入 ： 1 1 1 0 1：ウェイトを29サイクル挿入 1 1 1 1 0：ウェイトを30サイクル挿入 1 1 1 1 1：ウェイトを31サイクル挿入	R/W
b23-b21	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b28-b24	CSRWAIT[4:0]	ノーマルリードサイクルウェイト選択	b28 b24 0 0 0 0 0：ウェイトの挿入なし 0 0 0 0 1：ウェイトを1サイクル挿入 0 0 0 1 0：ウェイトを2サイクル挿入 0 0 0 1 1：ウェイトを3サイクル挿入 ： 1 1 1 0 1：ウェイトを29サイクル挿入 1 1 1 1 0：ウェイトを30サイクル挿入 1 1 1 1 1：ウェイトを31サイクル挿入	R/W
b31-b29	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. CSPWWAIT[2:0] ビットの設定値は、CSnMOD.PWENB ビットが 1 の場合のみ有効となります。
注 2. CSPRWAIT[2:0] ビットの設定値は、CSnMOD.PRENB ビットが 1 の場合のみ有効となります。

外部バスへのアクセス中は、CSnWCR1 レジスタに書き込まないでください。各ビットについては、使用しているバスインタフェースに応じた制限を満たすように設定してください。制限については、15.5.7 制限事項の 15.5.7.1 セパレートバスインタフェース使用時の制限事項、または 15.5.7 制限事項の 15.5.7.2 アドレス／データマルチプレクスバスインタフェース使用時の制限事項を参照してください。

CSPWWAIT[2:0] ビット（ページライトサイクルウェイト選択）

ページライトサイクル時の 2 サイクル目以降のアクセスに挿入するウェイトサイクル数を設定します。設定値は、CSnMOD.PWENB ビットが 1 のとき有効になります。

注 . 1 ≦ CSnWCR2.WDON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.WRON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSPWWAIT[2:0] ビット、および CSnWCR2.CSON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.WRON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSPWWAIT[2:0] ビットとなるように設定してください。

CSPRWAIT[2:0] ビット（ページリードサイクルウェイト選択）

ページリードサイクル時の 2 サイクル目以降のアクセスに挿入するウェイトサイクル数を設定します。設定値は、CSnMOD.PRENB ビットが 1 のとき有効になります。

注 . CSnWCR2.CSON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.RDON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSPRWAIT[2:0] ビットとなるように設定してください。

CSWWAIT[4:0] ビット（ノーマルライトサイクルウェイト選択）

ノーマルライトサイクルまたはページライトサイクル時の最初のアクセスに挿入するウェイトサイクル数を設定します。

注 . 1 ≦ CSnWCR2.WDON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.WRON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSWWAIT[4:0] ビット、および CSnWCR2.CSON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.WRON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSWWAIT[4:0] ビットとなるように設定してください。

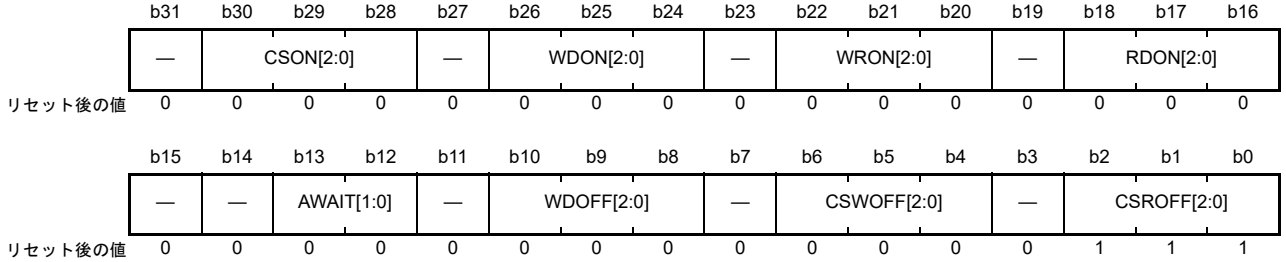
CSRWAIT[4:0] ビット（ノーマルリードサイクルウェイト選択）

ノーマルリードサイクルまたはページリードサイクル時の最初のアクセスに挿入するウェイトサイクル数を設定します。

注 . CSnWCR2.CSON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.RDON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSRWAIT[4:0] ビットとなるように設定してください。

15.3.6 CSn ウェイトコントロールレジスタ 2（CSnWCR2）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

アドレス BUS.CS0WCR2 4000 3008h, BUS.CS1WCR2 4000 3018h, BUS.CS4WCR2 4000 3048h, BUS.CS5WCR2 4000 3058h, BUS.CS6WCR2 4000 3068h, BUS.CS7WCR2 4000 3078h



	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	CSON[2:0]			—	WDON[2:0]			—	WRON[2:0]			—	RDON[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	AWAIT[1:0]		—	WDOFF[2:0]			—	CSWOFF[2:0]			—	CSROFF[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	CSROFF[2:0]	リードアクセス時CS延長サイクル選択	b2 b0 0 0 0：ウェイトの挿入なし 0 0 1：ウェイトを1サイクル挿入 0 1 0：ウェイトを2サイクル挿入 0 1 1：ウェイトを3サイクル挿入 1 0 0：ウェイトを4サイクル挿入 1 0 1：ウェイトを5サイクル挿入 1 1 0：ウェイトを6サイクル挿入 1 1 1：ウェイトを7サイクル挿入	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6-b4	CSWOFF[2:0]	ライトアクセス時CS延長サイクル選択	b6 b4 0 0 0：ウェイトの挿入なし 0 0 1：ウェイトを1サイクル挿入 0 1 0：ウェイトを2サイクル挿入 0 1 1：ウェイトを3サイクル挿入 1 0 0：ウェイトを4サイクル挿入 1 0 1：ウェイトを5サイクル挿入 1 1 0：ウェイトを6サイクル挿入 1 1 1：ウェイトを7サイクル挿入	R/W
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b10-b8	WDOFF[2:0]	ライトデータ出力延長サイクル選択	b10 b8 0 0 0：ウェイトの挿入なし 0 0 1：ウェイトを1サイクル挿入 0 1 0：ウェイトを2サイクル挿入 0 1 1：ウェイトを3サイクル挿入 1 0 0：ウェイトを4サイクル挿入 1 0 1：ウェイトを5サイクル挿入 1 1 0：ウェイトを6サイクル挿入 1 1 1：ウェイトを7サイクル挿入	R/W
b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b13-b12	AWAIT[1:0]	アドレスサイクルウェイト選択	b13 b12 0 0：ウェイトの挿入なし 0 1：ウェイトを1サイクル挿入 1 0：ウェイトを2サイクル挿入 1 1：ウェイトを3サイクル挿入	R/W
b15-b14	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b18-b16	RDON[2:0]	RDアサートウェイト選択	b18 b16 0 0 0：ウェイトの挿入なし 0 0 1：ウェイトを1サイクル挿入 0 1 0：ウェイトを2サイクル挿入 0 1 1：ウェイトを3サイクル挿入 1 0 0：ウェイトを4サイクル挿入 1 0 1：ウェイトを5サイクル挿入 1 1 0：ウェイトを6サイクル挿入 1 1 1：ウェイトを7サイクル挿入	R/W
b19	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b22-b20	WRON[2:0]	WRアサートウェイト選択	b22 b20 0 0 0 : ウェイトの挿入なし 0 0 1 : ウェイトを1サイクル挿入 0 1 0 : ウェイトを2サイクル挿入 0 1 1 : ウェイトを3サイクル挿入 1 0 0 : ウェイトを4サイクル挿入 1 0 1 : ウェイトを5サイクル挿入 1 1 0 : ウェイトを6サイクル挿入 1 1 1 : ウェイトを7サイクル挿入	R/W
b23	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b26-b24	WDON[2:0]	ライトデータ出力ウェイト選択	b26 b24 0 0 0 : ウェイトの挿入なし 0 0 1 : ウェイトを1サイクル挿入 0 1 0 : ウェイトを2サイクル挿入 0 1 1 : ウェイトを3サイクル挿入 1 0 0 : ウェイトを4サイクル挿入 1 0 1 : ウェイトを5サイクル挿入 1 1 0 : ウェイトを6サイクル挿入 1 1 1 : ウェイトを7サイクル挿入	R/W
b27	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b30-b28	CSON[2:0]	CSアサートウェイト選択	b30 b28 0 0 0 : ウェイトの挿入なし 0 0 1 : ウェイトを1サイクル挿入 0 1 0 : ウェイトを2サイクル挿入 0 1 1 : ウェイトを3サイクル挿入 1 0 0 : ウェイトを4サイクル挿入 1 0 1 : ウェイトを5サイクル挿入 1 1 0 : ウェイトを6サイクル挿入 1 1 1 : ウェイトを7サイクル挿入	R/W
b31	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

外部バスへのアクセス中は、CSnWCR2 レジスタに書き込まないでください。各ビットについては、使用しているバスインタフェースに応じた制限を満たすように設定してください。制限については、15.5.7 制限事項の 15.5.7.1 セパレートバスインタフェース使用時の制限事項、または 15.5.7 制限事項のアドレス／データマルチプレクスバスインタフェース使用時の制限事項を参照してください。

CSROFF[2:0] ビット（リードアクセス時 CS 延長サイクル選択）

リードアクセスモード時に、ウェイトサイクルの終了（RD 信号のネゲート）から CSn 信号（n = 0, 1, 4 ～ 7）がネゲートされるまでの間に挿入するウェイトサイクル数を設定します。

CSWOFF[2:0] ビット（ライトアクセス時 CS 延長サイクル選択）

ライトアクセスモード時に、ウェイトサイクルの終了（WR0 信号のネゲート）から CSn 信号（n = 0, 1, 4 ～ 7）がネゲートされるまでの間に挿入するウェイトサイクル数を設定します。

注 . CSnWCR2.WDOFF[2:0] ビット≦ CSnWCR2.CSWOFF[2:0] ビットとなるように設定してください。

WDOFF[2:0] ビット（ライトデータ出力延長サイクル選択）

ライトアクセスモード時に、ウェイトサイクルの終了（WR0 信号のネゲート）からライトデータ出力が終了するまでの間に挿入するウェイトサイクル数を設定します。

注 . CSnWCR2.WDOFF[2:0] ビット≦ CSnWCR2.CSWOFF[2:0] ビットとなるように設定してください。

AWAIT[1:0] ビット（アドレスサイクルウェイト選択）

アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェースのアドレス出力サイクルに挿入するウェイトサイクル数を設定します。

注 . CSnWCR2.CSON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.AWAIT[1:0] ビット
リードアクセス時、CSnWCR2.AWAIT[1:0] ビット + 2 ≦ CSnWCR2.RDON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSRWAIT[4:0] となるように設定してください。
ライトアクセス時、CSnWCR2.AWAIT[1:0] ビット + 2 ≦ CSnWCR2.WRON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSWWAIT[4:0] ビッ

ト、および CSnWCR2.AWAIT[1:0] ビット + 2 ≦ CSnWCR2.WDON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSWWAIT[4:0] ビットとなるように設定してください。

RDON[2:0] ビット（RD アサートウェイト選択）

RD 信号のアサート前に挿入するウェイトサイクル数を設定します。

注 . ノーマルリードアクセス時、CSnWCR2.CSON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.RDON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSRWAIT[4:0] ビットとなるように設定してください。
ページリードアクセス時、CSnWCR2.CSON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.RDON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSPRWAIT[2:0] ビットとなるように設定してください。
アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェースの場合、CSnWCR2.AWAIT[1:0] ビット + 2 ≦ CSnWCR2.RDON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSRWAIT[4:0] ビットとなるように設定してください。

WRON[2:0] ビット（WR アサートウェイト選択）

WR0 信号のアサート前に挿入するウェイトサイクル数を設定します。

注 . ノーマルライトアクセス時、1 ≦ CSnWCR2.WDON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.WRON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSWWAIT[4:0] ビット、および CSnWCR2.CSON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.WRON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSWWAIT[4:0] ビットとなるように設定してください。
ページライトアクセス時、1 ≦ CSnWCR2.WDON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.WRON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSPWWAIT[2:0] ビット、および CSnWCR2.CSON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.WRON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSPWWAIT[2:0] ビットとなるように設定してください。
アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェースの場合、CSnWCR2.AWAIT[1:0] ビット + 2 ≦ CSnWCR2.WRON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSWWAIT[4:0] ビットとなるように設定してください。

WDON[2:0] ビット（ライトデータ出力ウェイト選択）

ライトデータの出力前に挿入するウェイトサイクル数を設定します。

注 . ノーマルライトアクセス時、1 ≦ CSnWCR2.WDON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.WRON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSWWAIT[4:0] ビットとなるように設定してください。
ページライトアクセス時、1 ≦ CSnWCR2.WDON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.WRON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSPWWAIT[2:0] ビットとなるように設定してください。
アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェースの場合、CSnWCR2.AWAIT[1:0] ビット + 2 ≦ CSnWCR2.WDON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSWWAIT[4:0] ビットとなるように設定してください。

CSON[2:0] ビット（CS アサートウェイト選択）

CSn 信号（n = 0, 1, 4 ～ 7）のアサート前に挿入するウェイトサイクル数を設定します。

注 . ノーマルリードアクセス時、CSnWCR2.CSON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.RDON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSRWAIT[4:0] ビットとなるように設定してください。
ページリードアクセス時、CSnWCR2.CSON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.RDON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSPRWAIT[2:0] ビットとなるように設定してください。
ノーマルライトアクセス時、CSnWCR2.CSON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.WRON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSWWAIT[4:0] ビットとなるように設定してください。
ページライトアクセス時、CSnWCR2.CSON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.WRON[2:0] ビット≦ CSnWCR1.CSPWWAIT[2:0] ビットとなるように設定してください。
アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェースの場合、CSnWCR2.CSON[2:0] ビット≦ CSnWCR2.AWAIT[1:0] ビットとなるように設定してください。

15.3.7 マスタバスコントロールレジスタ（BUSMCNT<master>）

アドレス BUS.BUSMCNTM4I 4000 4000h, BUS.BUSMCNTM4D 4000 4004h, BUS.BUSMCNTSYS 4000 4008h, BUS.BUSMCNTDMA 4000 400Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	IERES	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b14-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15	IERES	エラー応答無視	0：バスエラーを通知する 1：バスエラーを通知しない	R/W

注. 予約ビットを初期値 0 から変更することは禁止されています。書き換え中の動作は保証されません。

表 15.6 に、バスの種類に対応したレジスタを示します。

表 15.6 バスの種類とレジスタの対応関係

バスの種類	マスタバス コントロールレジスタ	スレーブバス コントロールレジスタ	バスエラー アドレスレジスタ	バスエラー ステータスレジスタ
ICodeバス（CPU）	BUSMCNTM4I	-	BUS1ERRADD	BUS1ERRSTAT
DCodeバス（CPU）	BUSMCNTM4D	-	BUS2ERRADD	BUS2ERRSTAT
システムバス（CPU）	BUSMCNTSYS	-	BUS3ERRADD	BUS3ERRSTAT
DMAバス	BUSMCNTDMA	-	BUS4ERRADD	BUS4ERRSTAT
メモリバス1	-	BUSSCNTFLI	-	-
メモリバス2	-	BUSSCNTRAMH	-	-
メモリバス3	-	BUSSCNTMBIU	-	-
メモリバス4	-	BUSSCNTRAM0	-	-
メモリバス5	-	BUSSCNTRAM1	-	-
内部周辺バス1、3、4、5、7	-	BUSSCNTPnB（n = 0, 2, 3, 4, 6）	-	-
内部周辺バス9	-	BUSSCNTFBU	-	-
外部バス（CS領域）	-	BUSSCNTEXT	-	-
外部バス（QSPI領域）	-	BUSSCNTEXT2	-	-

IERES ビット（エラー応答無視）

本ビットを 1 にすると、AHB-Lite プロトコルエラー応答が無効になります。

15.3.8 スレーブバスコントロールレジスタ（BUSSCNT<slave>）

アドレス BUS.BUSSCNTFLI 4000 4100h, BUS.BUSSCNTRAMH 4000 4104h, BUS.BUSSCNTMBIU 4000 4108h, BUS.BUSSCNTRAM0 4000 410Ch, BUS.BUSSCNTRAM1 4000 4110h, BUS.BUSSCNTP0B 4000 4114h, BUS.BUSSCNTP2B 4000 4118h, BUS.BUSSCNTP3B 4000 411Ch, BUS.BUSSCNTP4B 4000 4120h, BUS.BUSSCNTP6B 4000 4128h, BUS.BUSSCNTFBU 4000 4130h, BUS.BUSSCNTEXT 4000 4134h, BUS.BUSSCNTEXT2 4000 4138h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	EWRES	—	—	ARBMET[1:0]		—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b5-b4	ARBMET[1:0]	調停法	グループ優先順位を指定します。 b5 b4 0 0：優先順位固定 0 1：ラウンドロビン 1 0：設定禁止 1 1：設定禁止	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b8	EWRES	早期ライト応答	0：早期ライト応答は無効 1：早期ライト応答は有効	R/W
b15-b9	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

注 . 予約ビットを初期値 0 から変更することは禁止されています。書き換え中の動作は保証されません。

表 15.6 に、バスの種類に対応したレジスタを示します。

ARBMET[1:0] ビット（調停法）

調停プロトコルを、すべてのバスマスタに定義される優先順位で指定します。優先順位固定については、表 15.7 を参照してください。ラウンドロビンについては、表 15.8 を参照してください。

EWRES ビット（早期ライト応答）

現行のライトトランザクションの応答がある前に、次のライト要求を受け付けるか否かを指定します。本ビットが 1 の場合、次のライト要求が受け付けられ高速転送が可能になりますが、AHB-Lite エラー応答は検出されません。バスエラーは、AHB-Lite のエラー応答プロトコルを用いて要求マスタ IP に返されます。各バスに生じるエラーについての詳細は、15.6 バスエラー監視を参照してください。BUSSCNTMBIU、BUSSCNTP0B、および BUSSCNTEXT レジスタのみを使用してください。

表 15.7 優先順位固定（ARBMET[1:0] = 00b）によるバス優先順位

スレーブバス コントロールレジスタ	スレーブインタフェース	優先順位
BUSSCNTFLI	メモリバス1	メモリバス3＞DCodeバス（CPU）＞ICodeバス（CPU）
BUSSCNTRAMH	メモリバス2	メモリバス3＞DCodeバス（CPU）＞ICodeバス（CPU）
BUSSCNTRAM0	メモリバス4	DMAバス＞システムバス（CPU）
BUSSCNTRAM1	メモリバス5	DMAバス＞システムバス（CPU）
BUSSCNTPnB（n = 0, 2, 3, 4, 6）	内部周辺バス1、3、4、5、7	DMAバス＞システムバス（CPU）
BUSSCNTFBU	内部周辺バス9	DMAバス＞システムバス（CPU）
BUSSCNTEXT	外部バス（CS領域）	DMAバス＞システムバス（CPU）
BUSSCNTEXT2	外部バス（QSPI領域）	DMAバス＞システムバス（CPU）

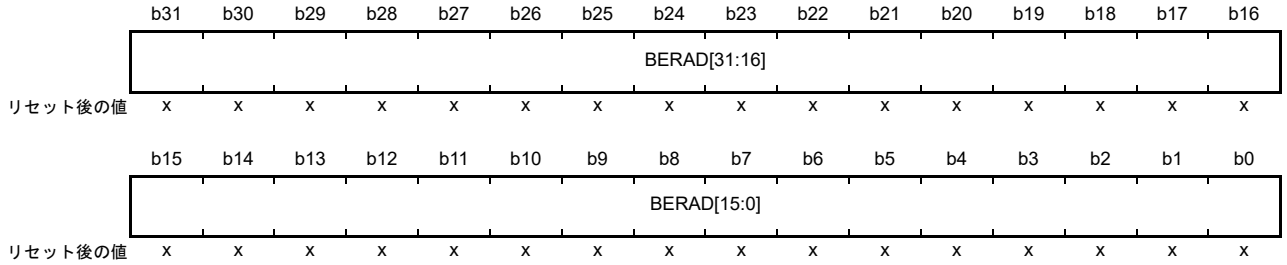
表 15.8 ラウンドロビン（ARBMET[1:0] = 01b）によるバス優先順位

スレーブバス コントロールレジスタ	スレーブインタフェース	優先順位（注1）
BUSSCNTFLI	メモリバス1	メモリバス3 <=> DCodeバス（CPU）<=> ICodeバス（CPU）
BUSSCNTRAMH	メモリバス2	メモリバス3 <=> DCodeバス（CPU）<=> ICodeバス（CPU）
BUSSCNTRAM0	メモリバス4	DMAバス <=> システムバス（CPU）
BUSSCNTRAM1	メモリバス5	DMAバス <=> システムバス（CPU）
BUSSCNTPnB（n = 0, 2, 3, 4, 6）	内部周辺バス1、3、4、5、7	DMAバス <=> システムバス（CPU）
BUSSCNTFBU	内部周辺バス9	DMAバス <=> システムバス（CPU）
BUSSCNTEXT	外部バス（CS領域）	DMAバス <=> システムバス（CPU）
BUSSCNTEXT2	外部バス（QSPI領域）	DMAバス <=> システムバス（CPU）

注 1. ラウンドロビンであることは <=> で示されます。

15.3.9 バスエラーアドレスレジスタ（BUSnERRADD）（n = 1 ～ 5）

アドレス BUS.BUS1ERRADD 4000 4800h, BUS.BUS2ERRADD 4000 4810h, BUS.BUS3ERRADD 4000 4820h, BUS.BUS4ERRADD 4000 4830h



x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b0	BERAD[31:0]	バスエラーアドレス	バスエラーが発生した場合、そのエラーアドレスを格納します。	R

注 . 本レジスタは、MPU 関連リセット以外のリセットによってのみクリアされます。詳細については、「6. リセット」と「16. メモリプロテクションユニット（MPU）」を参照してください。

表 15.6 に、バスの種類に対応したレジスタを示します。

BERAD[31:0] ビット（バスエラーアドレス）

バスエラーが発生した場合、そのアクセスアドレスを格納します。詳細については、BUSnERRSTAT.ERRSTAT ビットの説明と 15.6 バスエラー監視を参照してください。

BUSnERRADD.BERAD[31:0] ビット（n = 1 ～ 4）の値は、BUSnERRSTAT.ERRSTAT ビット（n = 1 ～ 4）が 1 の場合にのみ有効です。

15.3.10 バスエラーステータスレジスタ（BUSnERRSTAT）（n = 1 ～ 4）

アドレス BUS.BUS1ERRSTAT 4000 4804h, BUS.BUS2ERRSTAT 4000 4814h, BUS.BUS3ERRSTAT 4000 4824h, BUS.BUS4ERRSTAT 4000 4834h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ERRSTAT	—	—	—	—	—	—	ACCSTAT
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ACCSTAT	エラーアクセス状態	エラー発生時のアクセス状態 1：ライトアクセス 0：リードアクセス	R
b6-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b7	ERRSTAT	バスエラー状態	0：バスエラー発生なし 1：バスエラー発生あり	R

注．　本レジスタは、MPU 関連のリセット以外のリセットによってのみクリアされます。詳細については、「6. リセット」と「16. メモリプロテクションユニット（MPU）」を参照してください。

表 15.6 に、バスの種類に対応したレジスタを示します。

ACCSTAT ビット（エラーアクセス状態）

対応するバスにエラーが発生した場合、そのアクセス状態（ライトアクセスまたはリードアクセス）を示します。詳細については、BUSnERRSTAT.ERRSTAT ビットの説明と 15.6 バスエラー監視を参照してください。

本ビットの値は、BUSnERRSTAT.ERRSTAT ビット（n = 1 ～ 4）が 1 の場合にのみ有効です。

ERRSTAT ビット（バスエラー状態）

バスエラーの発生の有無を示します。対応するバスにエラーが発生した場合、そのアクセスアドレスとアクセス状態（ライトアクセスまたはリードアクセス）が格納されます。BUSnERRSTAT.ERRSTAT ビット（n = 1 ～ 4）は 1 になります。

それぞれのバスでは、下記のエラーが生じる可能性があります。

- 不正アドレスアクセス
- バスマスタ MPU エラー
- バススレーブ MPU エラー
- タイムアウト

バスマスタ MPU エラーまたはバススレーブ MPU エラーを検出時に、各 OAD ビットがリセットを選択している場合、ウェイトの設定によっては、MPU エラーの原因となったバスアクセスが内部リセット信号が生成されるよりも後に完了し、BUSnERRSTAT.ERRSTAT（n = 1 ～ 4）が 1 にならないことがあります。

バスマスタ MPU エラーまたはバススレーブ MPU エラーを検出時に、各 OAD ビットで NMI を選択している場合は、MPU エラーの原因となったバスアクセスが完了すると、BUSnERRSTAT.ERRSTAT（n = 1 ～ 4）は 1 になります。

各バスに生じるエラーについては、15.6 バスエラー監視と「16. メモリプロテクションユニット（MPU）」を参照してください。

15.4 エンディアン形式とデータアライメント

外部バスにはデータアライメント機能があります。データサイズとエンディアンの順序に従ってアライメントが行われます。

15.4.1 CS 領域のデータアライメント制御

15.4.1.1 8 ビットバス空間

CSnCR.BSIZE[1:0] ビットで 8 ビットバス空間を選択すると、アドレスバス（A12 ～ A00）がバイト単位のアドレス出力信号として有効になります。

8 ビットバス空間では、ライトアクセスモードの設定にかかわらず、WR0 端子のみが有効になります。WR0 端子にはライトアクセス時に常に Low が出力されます。

エンディアン形式にかかわらず、チップ外部データの有効位置は D07 ～ D00 であり、WR0 端子は制御信号として使用されます。図 15.3 と図 15.4 を参照してください。

16 ビットまたは 32 ビット単位のデータアクセスに対して、ページアクセスが発生する場合があります。アクセスが 32 ビット境界を越えない場合に限り、ページアクセスが発生します。ページアクセスが発生する場合を図 15.3 と図 15.4 に（p）で示します。

データサイズ	アクセス番地	アクセス回数	バスサイクル	データ量	アドレス		WR0 / RD データバス D07 D00
8ビット	4n	1回	1回目	8ビット	4n		7 0
	4n+1	1回	1回目	8ビット	4n+1		7 0
	4n+2	1回	1回目	8ビット	4n+2		7 0
	4n+3	1回	1回目	8ビット	4n+3		7 0
16ビット	4n	2回	1回目	8ビット	4n		7 0
			2回目	8ビット	4n+1	(p)	15 8
	4n+2	2回	1回目	8ビット	4n+2		7 0
			2回目	8ビット	4n+3	(p)	15 8
32ビット	4n	4回	1回目	8ビット	4n		7 0
			2回目	8ビット	4n+1	(p)	15 8
			3回目	8ビット	4n+2	(p)	23 16
			4回目	8ビット	4n+3	(p)	31 24

(p)：ページアクセス（CSnMOD.PRENB、PWENBビットでページアクセスが許可の場合のみ）

図 15.3 CS 領域の 8 ビットバス空間におけるデータアライメント（リトルエンディアン）

データサイズ	アクセス番地	アクセス回数	バスサイクル	データ量	アドレス	WR0 / RD データバス D07 D00
8ビット	4n	1回	1回目	8ビット	4n	7 0
	4n+1	1回	1回目	8ビット	4n+1	7 0
	4n+2	1回	1回目	8ビット	4n+2	7 0
	4n+3	1回	1回目	8ビット	4n+3	7 0
16ビット	4n	2回	1回目	8ビット	4n	15 8
			2回目	8ビット	4n+1 (p)	7 0
	4n+2	2回	1回目	8ビット	4n+2	15 8
			2回目	8ビット	4n+3 (p)	7 0
32ビット	4n	4回	1回目	8ビット	4n	31 24
			2回目	8ビット	4n+1 (p)	23 16
			3回目	8ビット	4n+2 (p)	15 8
			4回目	8ビット	4n+3 (p)	7 0

(p) : ページアクセス（CSnMOD.PRENB、PWENBビットでページアクセスが許可の場合のみ）

図 15.4 CS 領域の 8 ビットバス空間におけるデータアライメント（ビッグエンディアン）

15.5 CS 領域コントローラの動作説明

15.5.1 セパレートバス

本節では、タイミング図に記載のサイクルについて説明します。CS 領域コントローラ（CSC）は外部バスクロック（BCLK）に同期して動作します。CSC のレジスタで設定されるウェイトサイクルなどの動作サイクルは、BCLK でカウントされます。以下では、特に断りのない限り、外部バスクロック（BCLK）と EBCLK 端子出力は、同一周波数であるものとします。外部バスアクセス開始の起点は、EBCLK 端子出力の立ち上がり時点になります。ただし、外部バスクロック（BCLK）と EBCLK 端子出力が異なる周波数の場合、2 回目以降の外部バスアクセスの開始は、ウェイト設定によっては EBCLK 端子出力の立ち下がり時点になる可能性があります。図 15.10 ～図 15.14 を参照してください。また、バスアクセスに対してリカバリサイクルが挿入されている場合にも、リカバリサイクル数の設定によっては EBCLK 端子出力の立ち下がり時点になる可能性があります。図 15.32 を参照してください。

15.5.1.1 Tw1 ～ Twn（ノーマルリードサイクルウェイト、ノーマルライトサイクルウェイト）

Tw1 から Twn までの期間は、外部バスアクセス開始からストローブ信号有効サイクルの 1 サイクル前までのサイクル数です。0 ～ 31 サイクルを選択できます。この期間内に、CSn 信号、RD 信号、および WR0 信号のアサート（信号を Low にする）のタイミングは、それぞれのウェイト設定によって決定されます。ウェイト期間は次のすべてのビットで制御されます。

- CS アサートウェイト選択ビット（CSON）
- RD アサートウェイト選択ビット（RDON）
- WR アサートウェイト選択ビット（WRON）
- CSn ウェイトコントロールレジスタ 2（CSnWCR2）のライトデータ出力ウェイト選択ビット（WDON）

各ウェイトのサイクル数は、外部バスアクセス開始のサイクルを起点にして、0 ～ 7 サイクルから選択できます。選択可能なサイクル数は、リード／ライトサイクルウェイトに必要な全サイクル数の範囲内です。

15.5.1.2 Tend（ストローブ信号有効サイクル）

Tend は、ノーマルリード／ライトサイクルウェイト期間、あるいはページリード／ライトサイクルウェイト期間が終了した次のサイクルです。これらのサイクルウェイト選択ビットが 0 の場合、バスアクセス開始のサイクルがストローブ信号有効サイクルとなります。その次のサイクルで、RD 信号と WR0 信号がネゲートされます。リードアクセスの場合、ストローブ信号有効サイクルは、リードデータのサンプルサイクルです。外部ウェイト許可の場合、ストローブ信号有効サイクルでウェイト信号がサンプリングされます。ウェイト信号が Low の場合、バスサイクルを延長します。ウェイト信号が High になると、次のサイクルでバスサイクルを終了します。Tend は、ウェイト信号のサンプリングを開始するサイクルを示します。

ページアクセスでストローブ信号が有効な最初のサイクル後、ライトデータ出力延長サイクルに 0 以外の値が設定されているライトアクセス時（15.5.1.4 Tdw1 ～ Tdwn（ライトデータ出力延長サイクル）を参照）を除いて、次のサイクルでは 2 回目以降のページアクセス（15.5.1.5 Tpw1 ～ Tpwn（ページリードサイクルウェイト、ページライトサイクルウェイト）を参照）が開始されます。RD アサートウェイトまたは WR アサートウェイトの設定が 0 以外の場合、次のサイクルで RD 信号と WR0 信号がネゲートされます。0 の場合はアサートが継続されます。また、CSn 信号はネゲートされずにアサートされ続けます。

15.5.1.3 Tn1 ～ Tnm（CS 延長サイクル）

ノーマルアクセスの場合、Tn1 ～ Tnm は、ストローブ信号が有効なサイクル（Tend）の次のサイクルから CSn 信号をネゲートするまでの期間のクロックサイクルを表します。ネゲートするタイミングは、リードアクセス時は、CSn ウェイトコントロールレジスタ 2（CSnWCR2）のリードアクセス時 CS 延長サイクル選択ビット（CSROFF）、ライトアクセス時は、ライトアクセス時 CS 延長サイクル選択ビット（CSWOFF）によって制御することが可能です。サイクル数は、ストローブ信号有効サイクルの次のサイクルを起点に数えます。

ページアクセスの場合、Tn1 ～ Tnm は、ストローブ信号が有効な最後のサイクルから CSn 信号をネゲートするまでの期間のクロックサイクルを表します。

ライトアクセス時は、ライトデータ出力延長サイクル選択ビット（WDOFF）により、アドレスおよび出力データが有効な期間の延長が制御されます。

15.5.1.4 Tdw1 ～ Tdwn（ライトデータ出力延長サイクル）

ライトアクセス時、ライトデータ出力延長ウェイトの設定が 0 以外の場合、指定されたサイクルがストローブ信号有効サイクル（Tend）の次のサイクルから挿入されます。

ノーマルアクセスの場合、CS 延長サイクル期間（Tn1 ～ Tnm）内に挿入されます。

ページアクセスの場合、ストローブ信号有効サイクルと後続のページアクセスの期間内、または CS 延長サイクル期間（Tn1 ～ Tnm）内に挿入されます。この期間にわたって、アドレスとデータ出力が延長され、WRn 信号がネゲートされます。

15.5.1.5 Tpw1 ～ Tpwn（ページリードサイクルウェイト、ページライトサイクルウェイト）

ページアクセス中の 2 回目以降のバスサイクルについては、ノーマルリード／ライトサイクルウェイトの代わりに、ページリードサイクルウェイトまたはページライトサイクルウェイトの値が使用されます。WR アサートウェイト選択ビットの設定は、1 回目のアクセスと同様に有効となります。RD アサート制御は、下記に示すように、CSnMOD.PRMOD ビットのページリードアクセスモード設定によって動作が異なります。

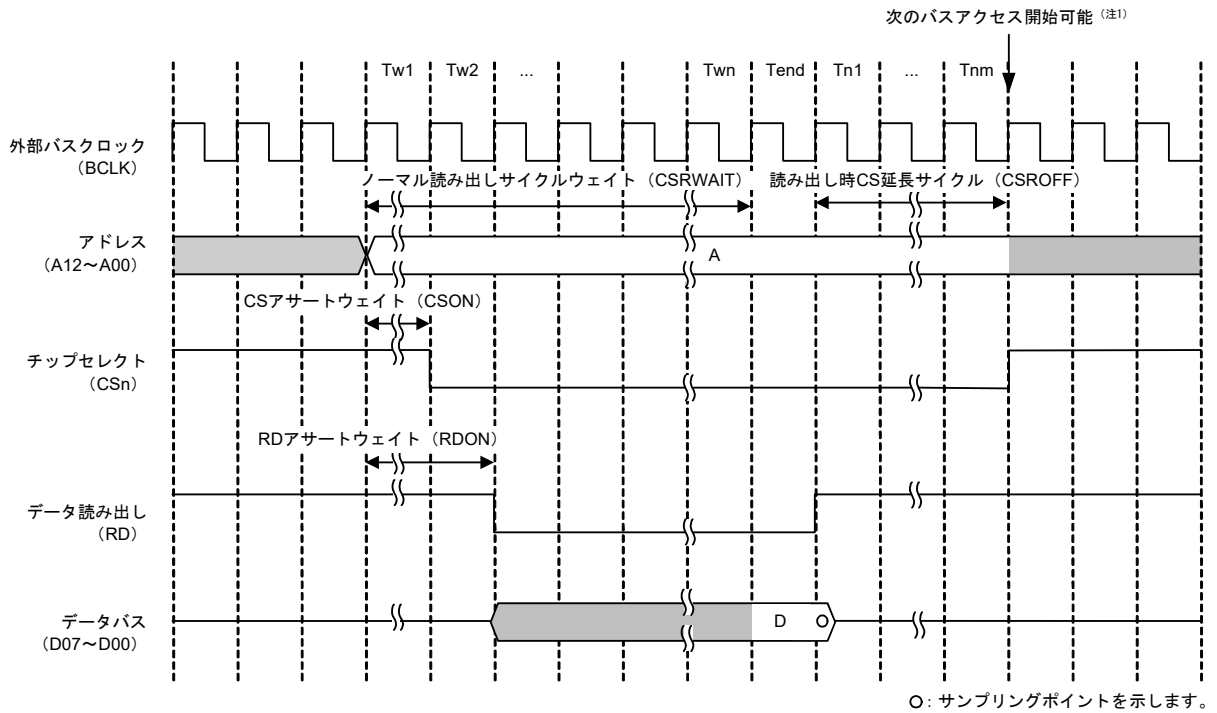
- CSnMOD.PRMOD ビット = 0 の場合 : 1 回目と同様に RD アサートウェイトが挿入され、RD 信号がネゲートされる
- CSnMOD.PRMOD ビット = 1 の場合 : ノーマルアクセス互換モードと同様に、RD アサートウェイトが挿入されるが、その間、RD 信号がアサートされ続ける

15.5.1.6 Tr1 ～ Trn（リカバリサイクル）

バスサイクルの終了時点（CSn 信号のネゲート時点）からリカバリサイクルの挿入が可能です。リカバリサイクル数は、CSn リカバリサイクル設定レジスタ（CSnREC）のリードリカバリ設定ビット（RRCV）、ライトリカバリ設定ビット（WRCV）によって制御することが可能です。各リカバリサイクル数は、バスサイクルの終了時点（CSn 信号のネゲート時点）を起点に数え、0 ～ 15 サイクルの選択が可能です。詳細は、15.5.4 リカバリサイクルの挿入を参照してください。

(1) ノーマルアクセス

CSnMOD レジスタの PRENB ビットと PWENB ビットを 0（ページリードアクセスおよびページライトアクセスを禁止）にした場合、すべてのバスアクセスはノーマルアクセスを行います。これらのビットを 1（ページリードアクセスおよびページライトアクセスを許可）にした場合でも、ページアクセスに該当しないバスアクセスは、ノーマルアクセスとなります。図 15.5 ～図 15.7 にノーマルアクセスの動作例を示します。



注 1. CSnWCR2.CSROFF[2:0] = 000b の場合は、次のバスアクセス開始は 1 サイクル後から可能になります。

図 15.5 ノーマルリードアクセスのバスタイミング（n = 0, 1, 4 ～ 7）

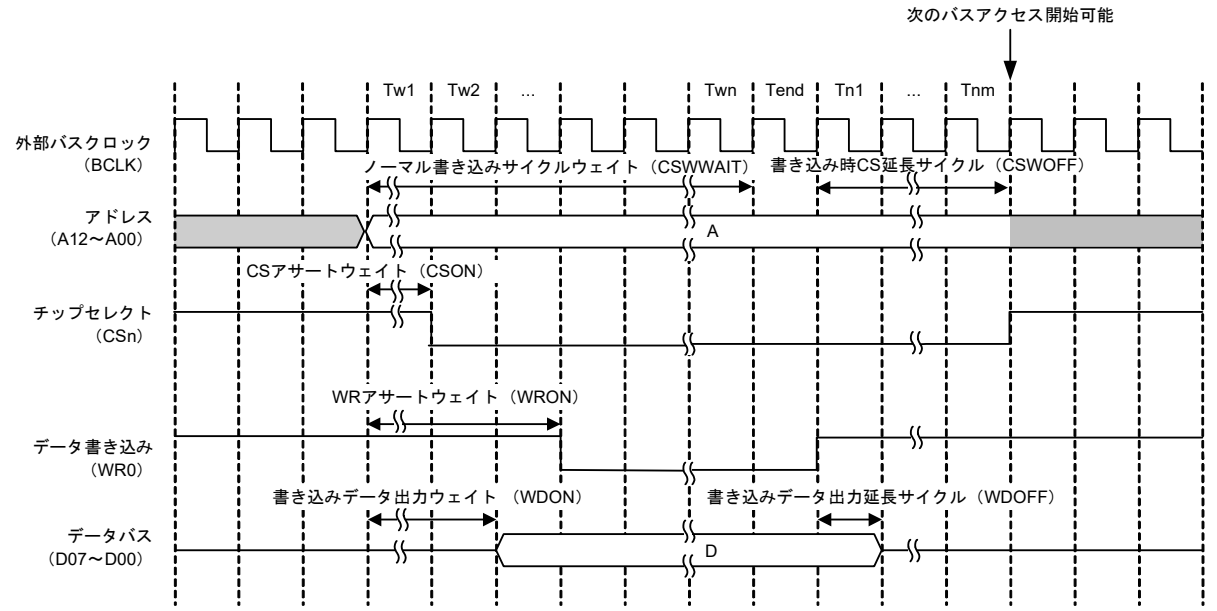


図 15.6 ノーマルライトアクセスのバスタイミング（1 ライトストローブモード）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

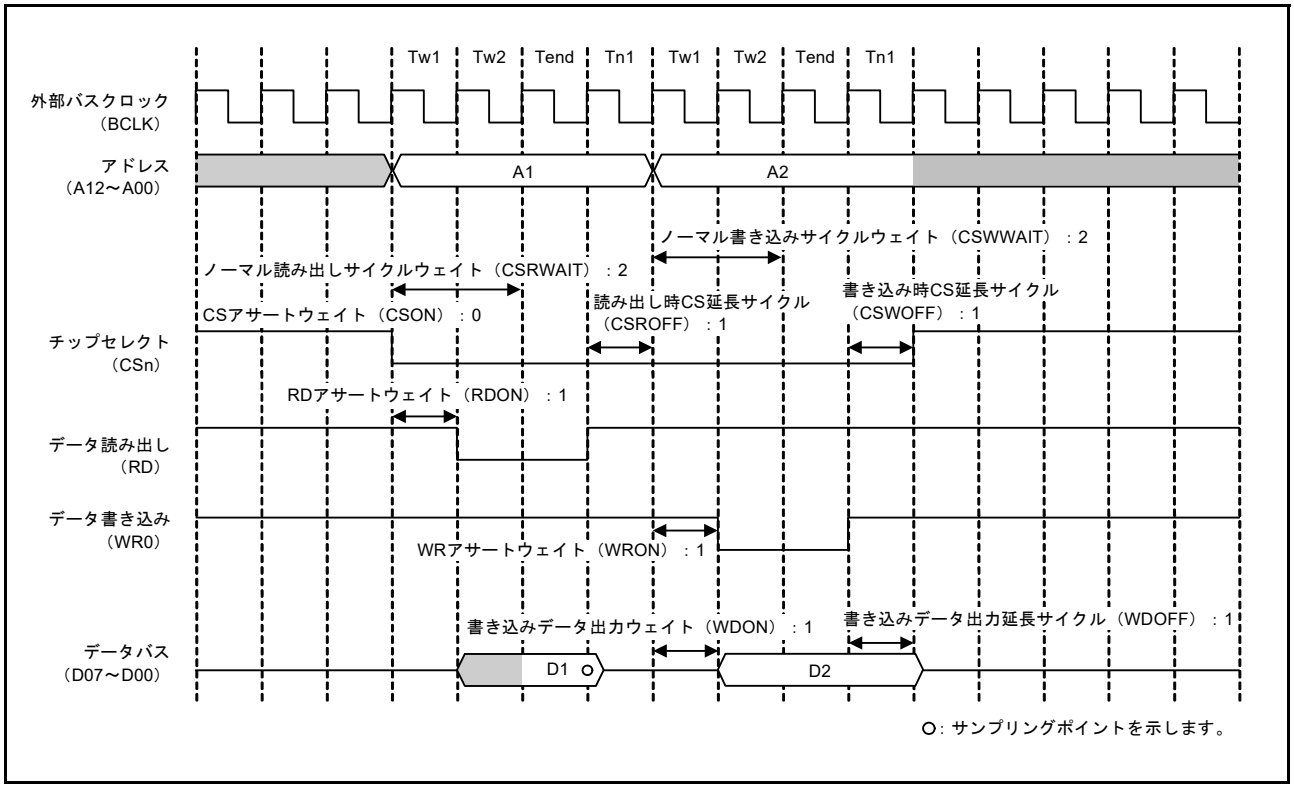


図 15.7　　ノーマルアクセスの動作例（読み出し／書き込み）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

バスマスタからの 1 転送要求に対して 2 回以上の外部バスアクセスが必要となる場合は、ノーマルアクセス動作を繰り返します。15.5.1.1　Tw1 ～ Twn（ノーマルリードサイクルウェイト、ノーマルライトサイクルウェイト）～ 15.5.1.4　Tdw1 ～ Tdwn（ライトデータ出力延長サイクル）を参照してください。図 15.8 と図 15.9 に、1 転送要求に対して 2 回バスアクセスが発生する場合の動作例を示します。ただし、リカバリサイクル挿入条件が成り立つ場合は、2 回目以降の外部バスアクセスにもリカバリサイクル（15.5.1.6 Tr1 ～ Trn（リカバリサイクル））が挿入されます。図 15.30 を参照してください。

図に示す各ウェイトコントロールレジスタの値は設定例です。アプリケーションにおいては、接続するデバイスの仕様に合わせて適切にレジスタを設定してください。

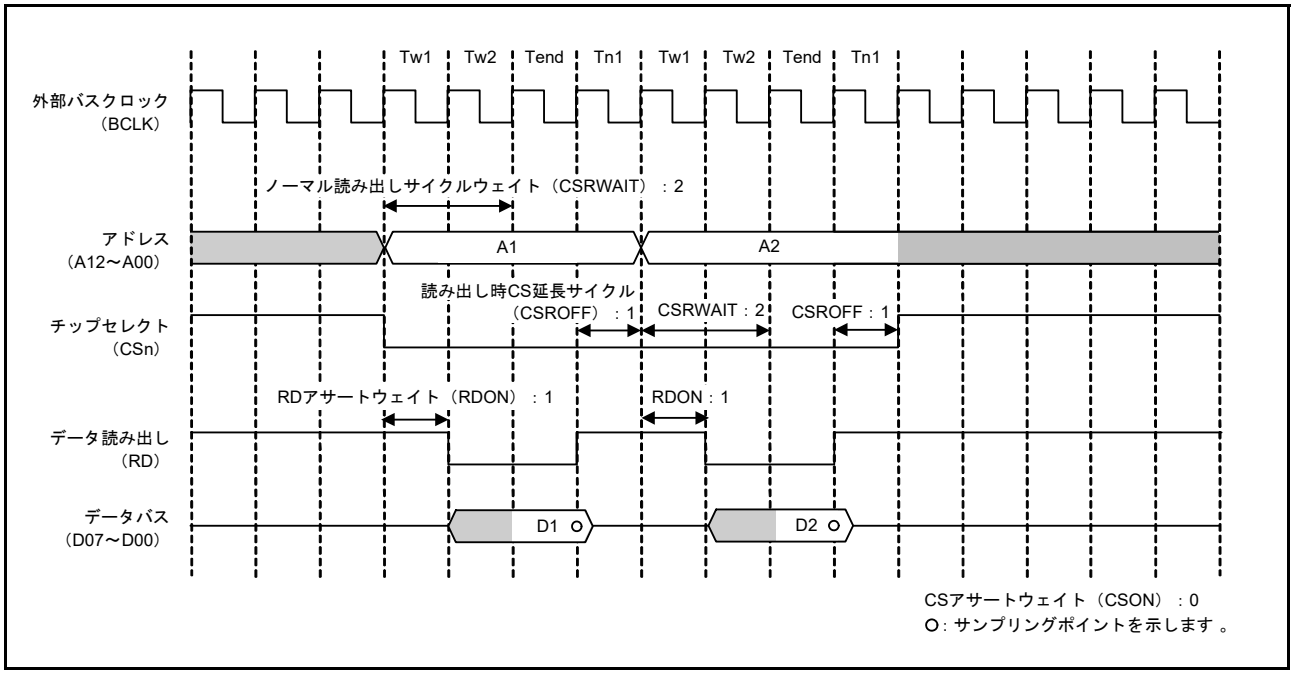


図 15.8　ノーマルリードアクセスの動作例（1 転送要求に対して 2 回バスアクセスが発生する場合）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

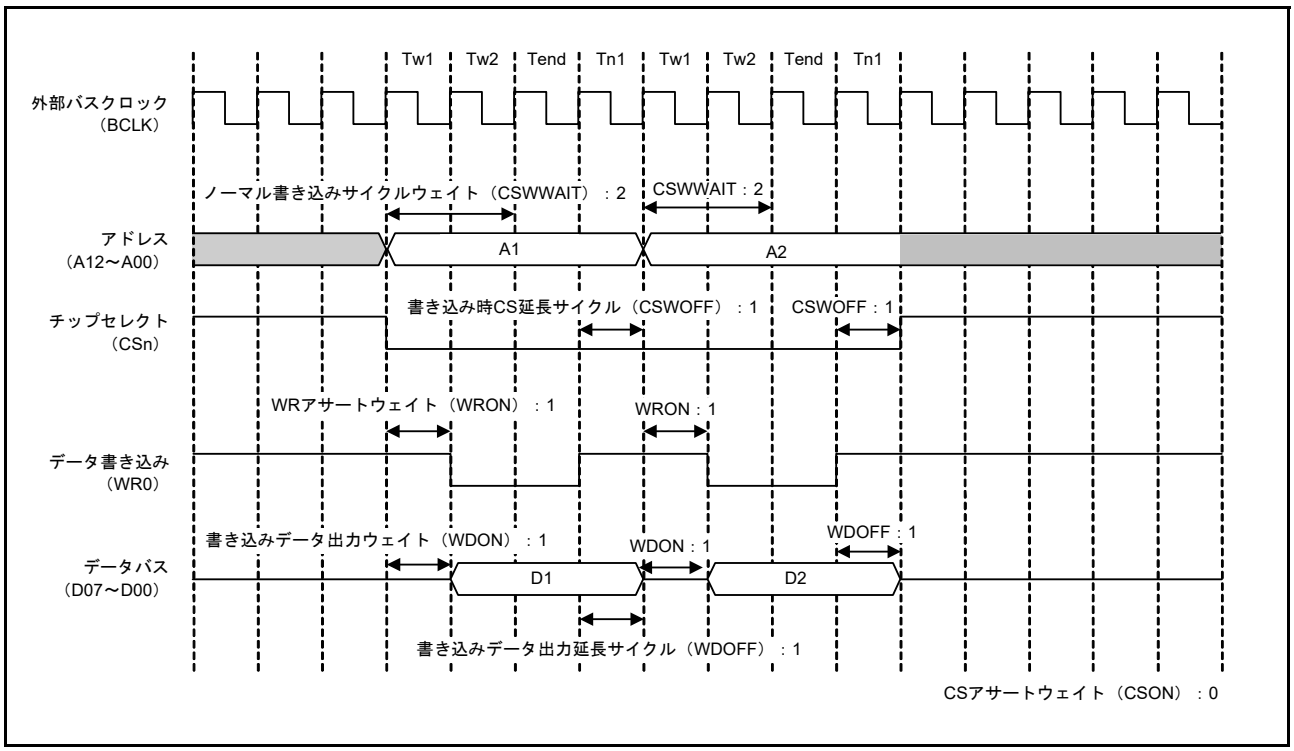


図 15.9　ノーマルライトアクセスの動作例（1 転送要求に対して 2 回バスアクセスが発生する場合：1 ライトストローブモード時）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

図 15.10 ～図 15.14 に、EBCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を選択した場合のノーマルアクセスの動作例を示します。

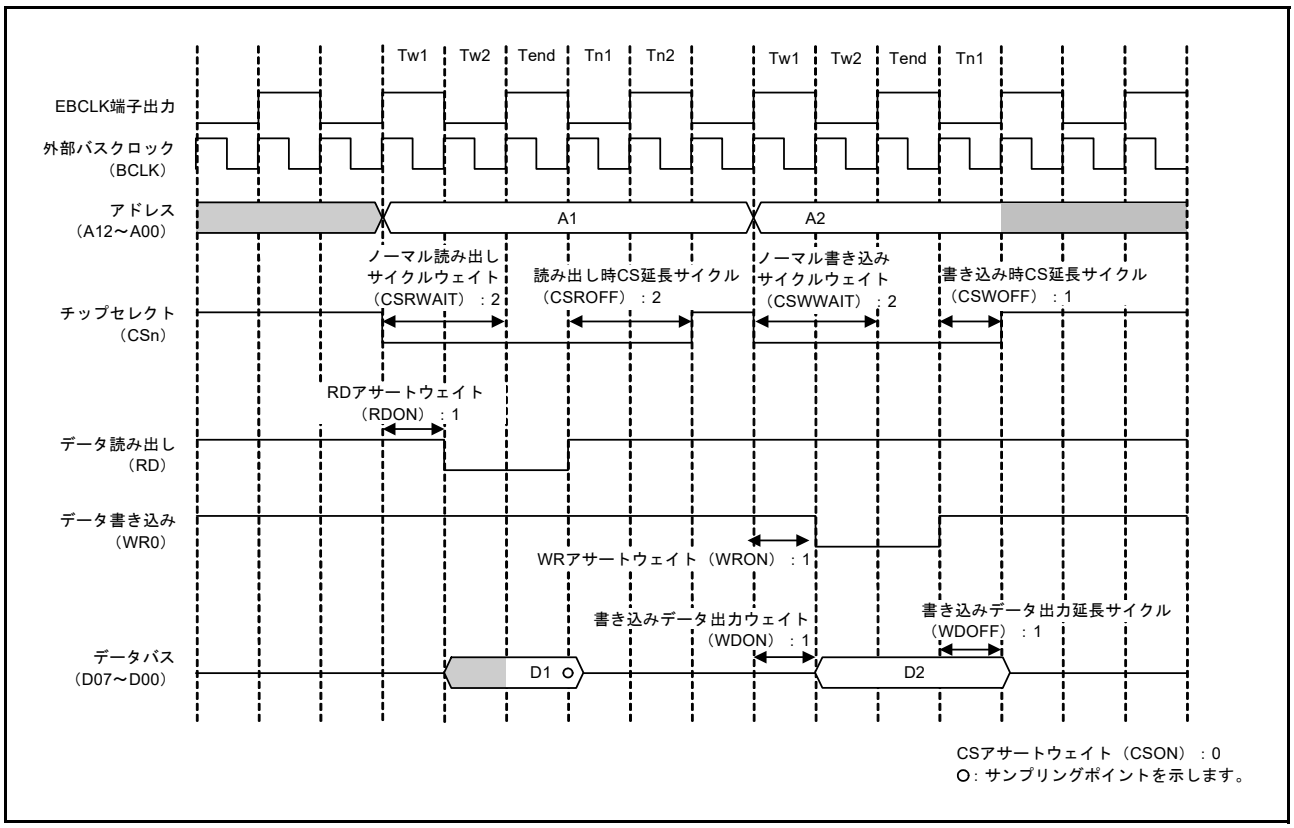


図 15.10　ノーマルアクセスの動作例（EBCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を設定した場合）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

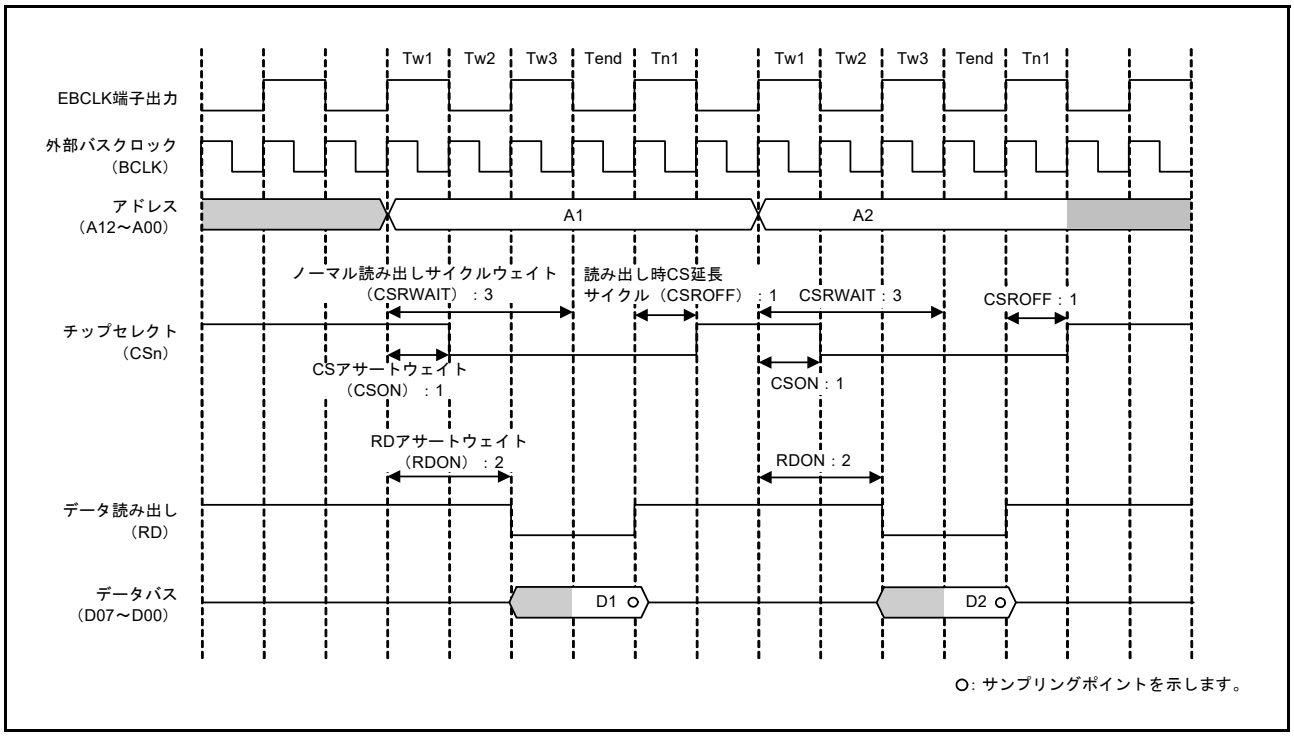


図 15.11　ノーマルリードアクセスの動作例（EBCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を設定した場合）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

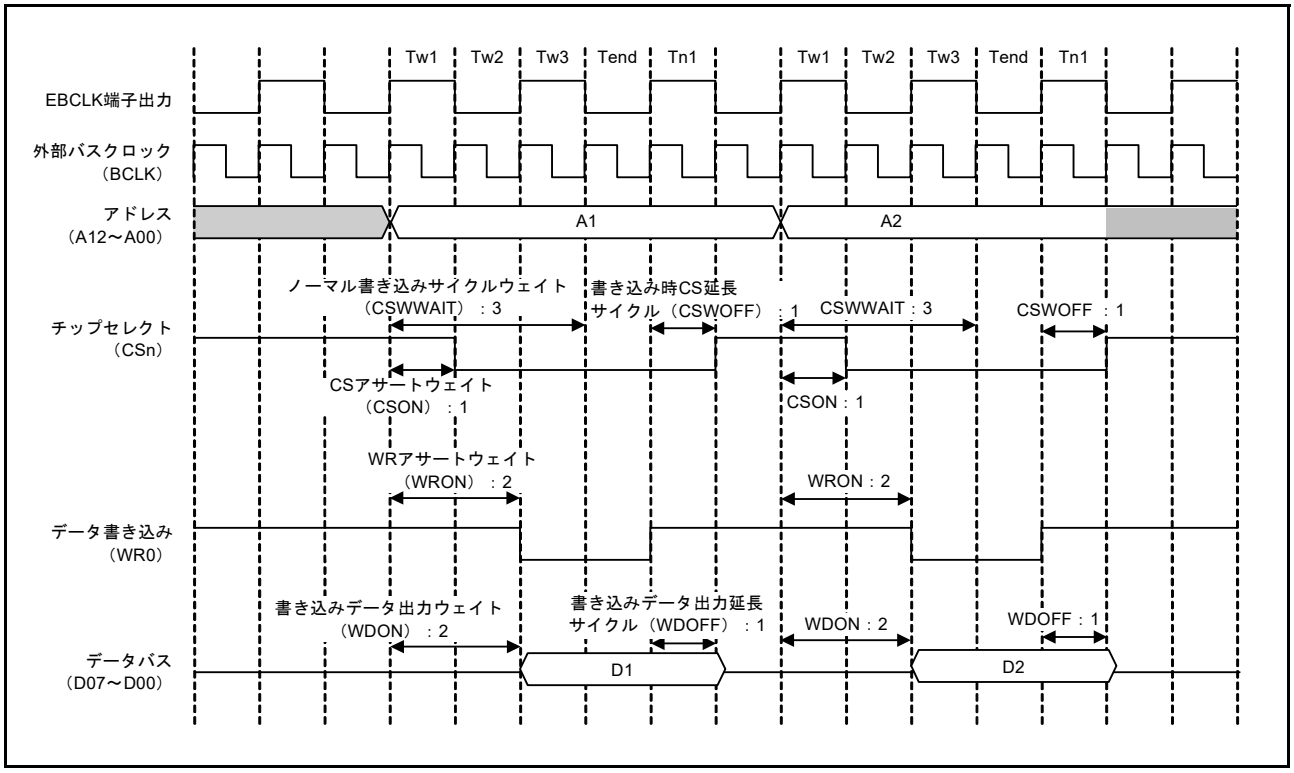


図 15.12　ノーマルライトアクセスの動作例（EBCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を設定した場合）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

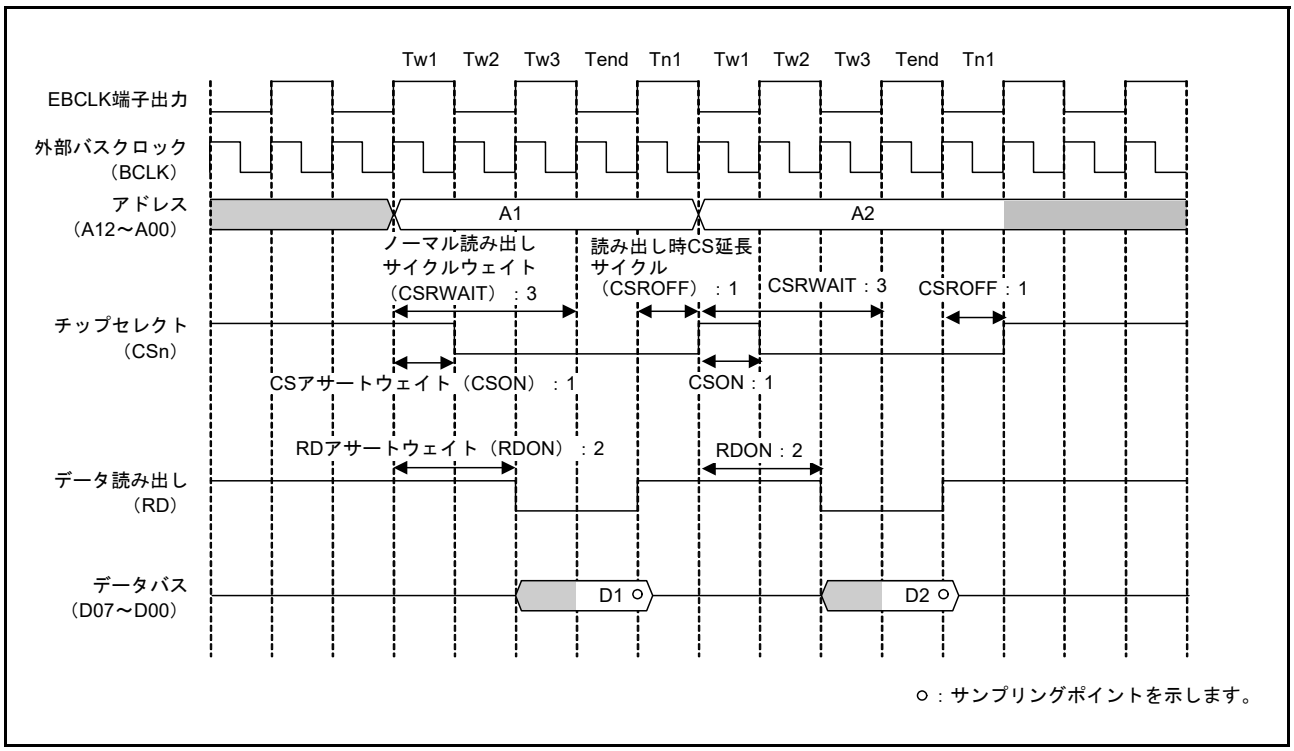


図 15.13　ノーマルリードアクセスの動作例（EBCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を設定した場合、および 1 転送要求に対して 2 回バスアクセスが発生する場合）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

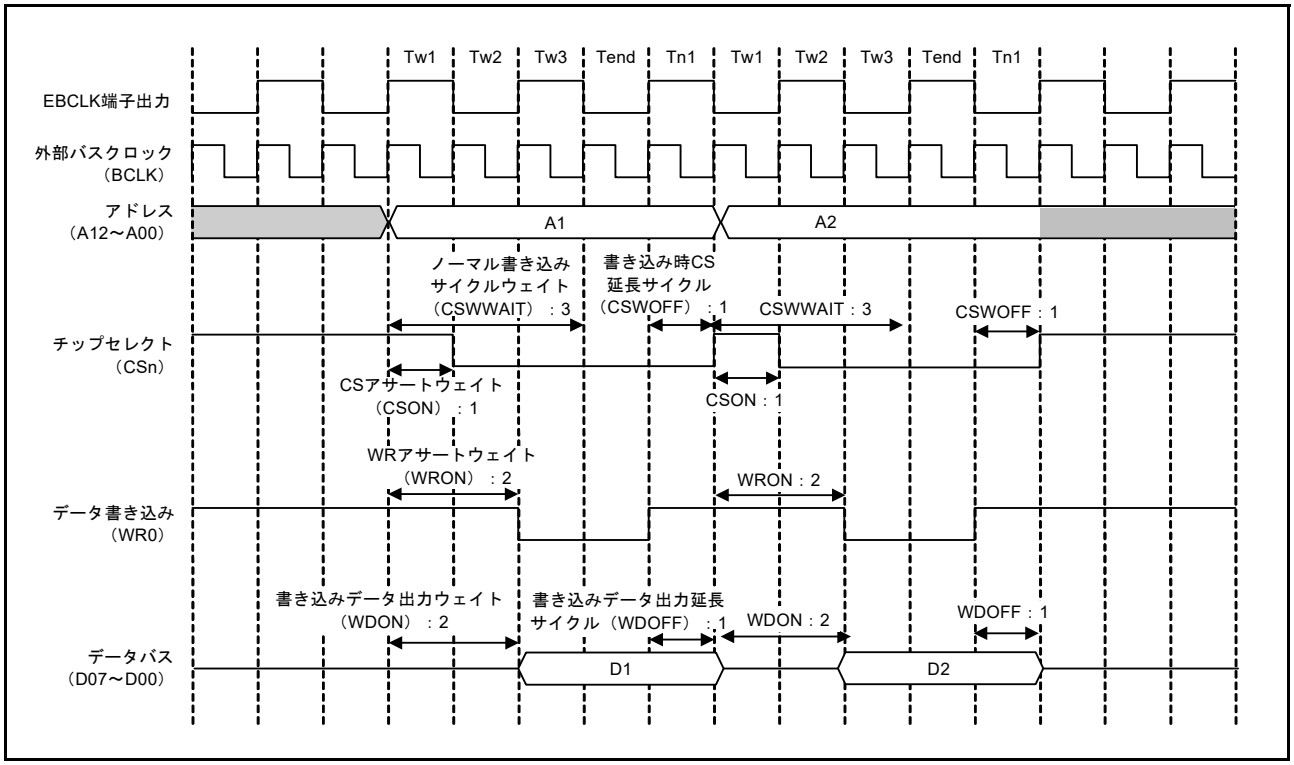
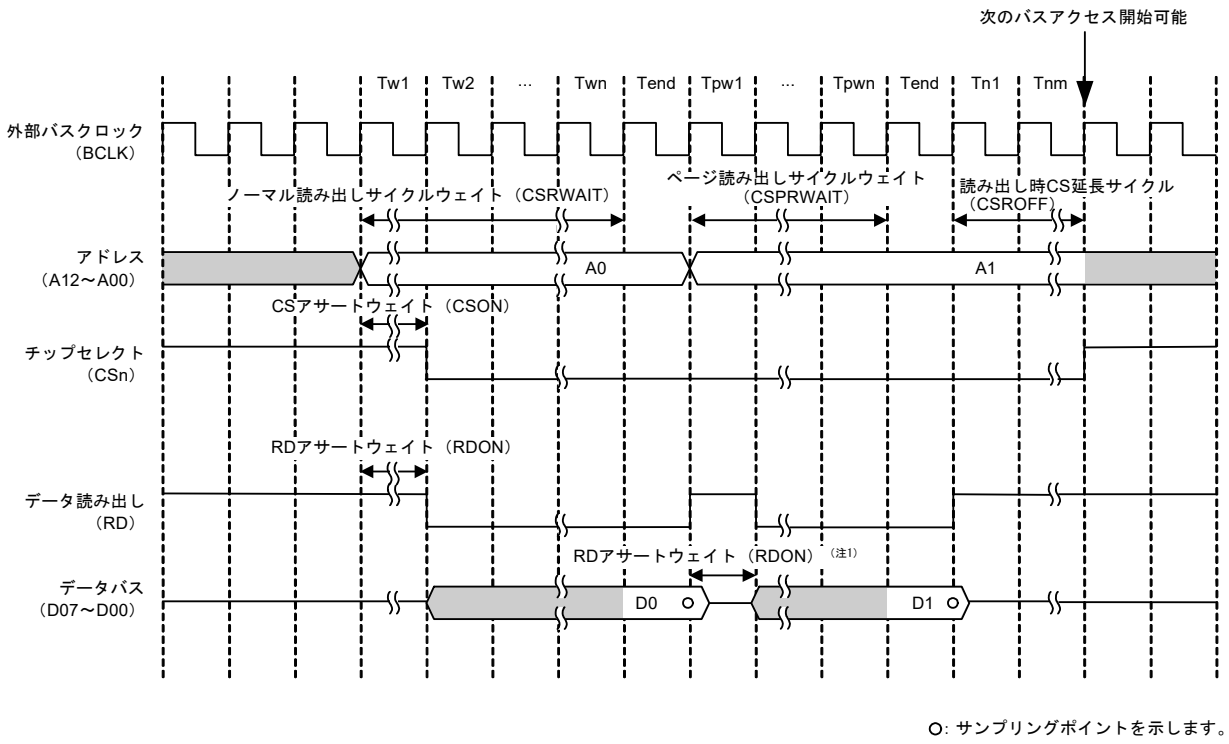


図 15.14　ノーマルライトアクセスの動作例（EBCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を設定した場合、および 1 転送要求に対して 2 回バスアクセスが発生する場合）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

(2)　ページアクセス

CSnMOD レジスタの PRENB ビットと PWENB ビットを 1（ページリードアクセスおよびページライトアクセスを許可）にした場合、ページアクセスに該当するバスアクセスはページアクセスとなります。バスマスタからの 1 転送要求に対して、2 回以上の外部バスアクセスが必要となる場合に限り、ページアクセスが発生します。ただし、分割されたアクセスが非アラインアクセスになる場合、または 32 ビット境界を越えるアクセスになる場合は、ページアクセスの対象とはならずノーマルアクセスとなります。ページアクセスが発生する条件については、図 15.3 と図 15.4 を参照してください。

図 15.15 と図 15.16 にページアクセスの動作例を示します。



注 1. 2 回目以降のバスアクセスで RD アサートウェイトの動作は、ページ読み出しアクセスモードの設定により異なります。

図 15.15 ページリードアクセスのタイミング（n = 0, 1, 4 ～ 7）

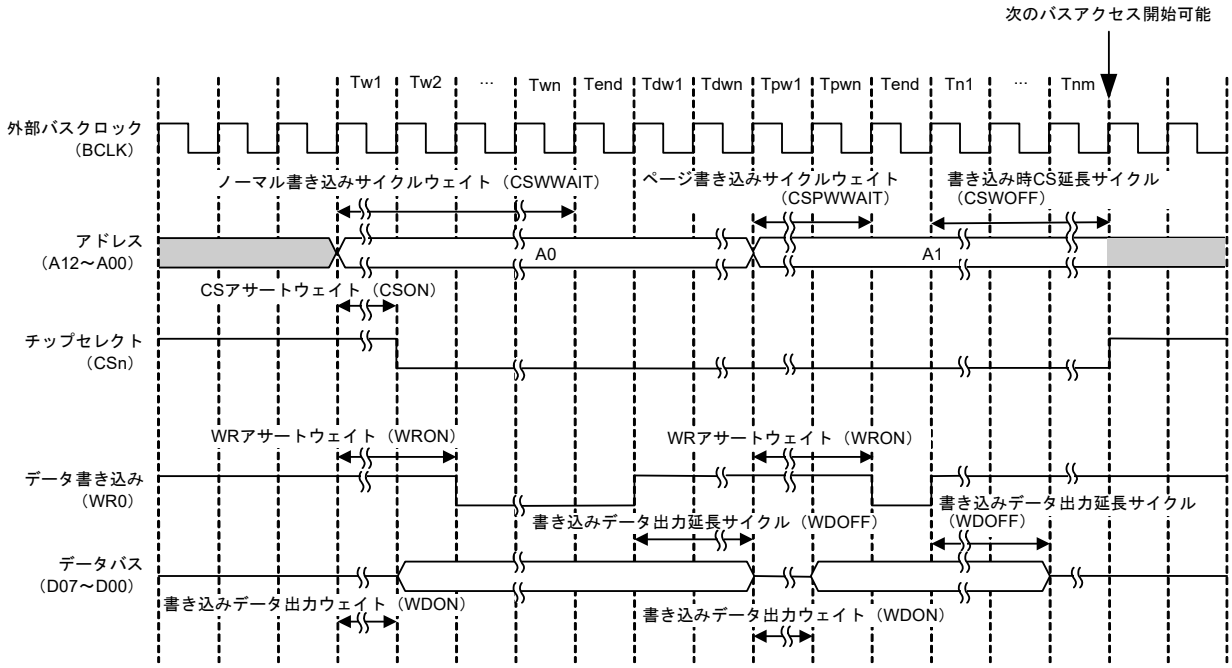


図 15.16 ページライトアクセスのタイミング（n = 0, 1, 4 ～ 7）

図 15.17 と図 15.18 に、8 ビットバス空間に対する 16 ビットアクセスの動作例を示します。図に示す各ウェイトコントロールレジスタの値は設定例です。アプリケーションにおいては、接続するデバイスの仕様に合わせて適切にレジスタを設定してください。

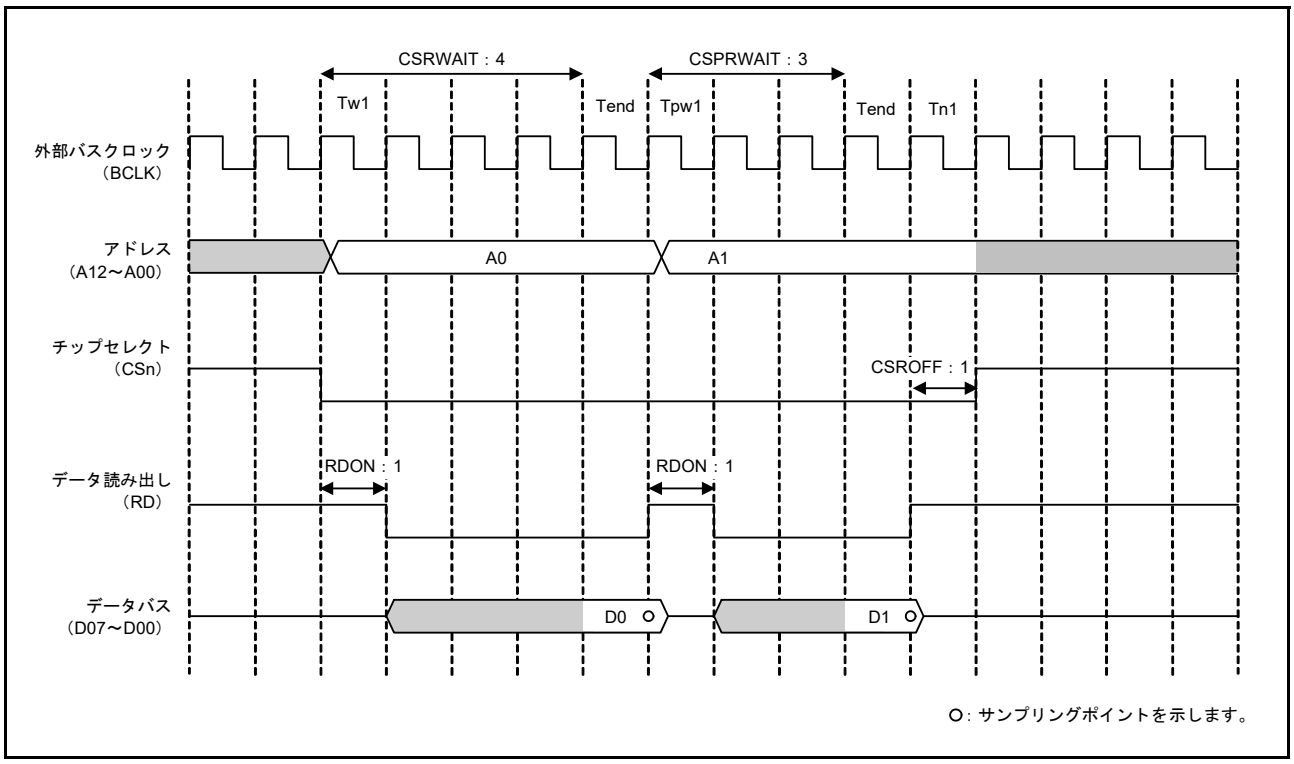


図 15.17 ページリードアクセスの動作例（8 ビットバス空間に対する 16 ビットアクセスの場合）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

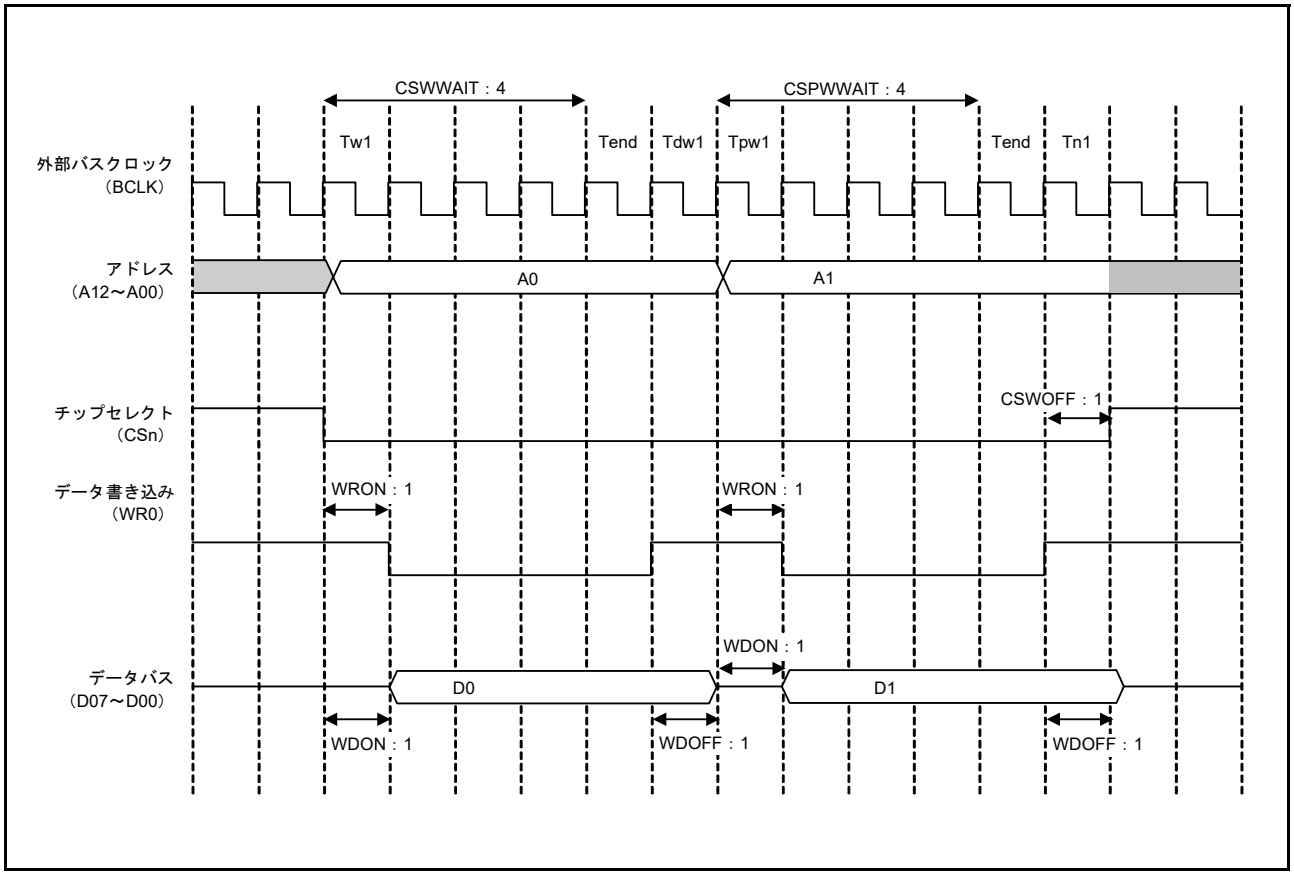


図 15.18 ページライトアクセスの動作例（8 ビットバス空間に対する 16 ビットアクセスの場合、1 ライトストローブモード時）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

図 15.19 と図 15.20 に、EBCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を選択した場合のページアクセスの動作例を示します。

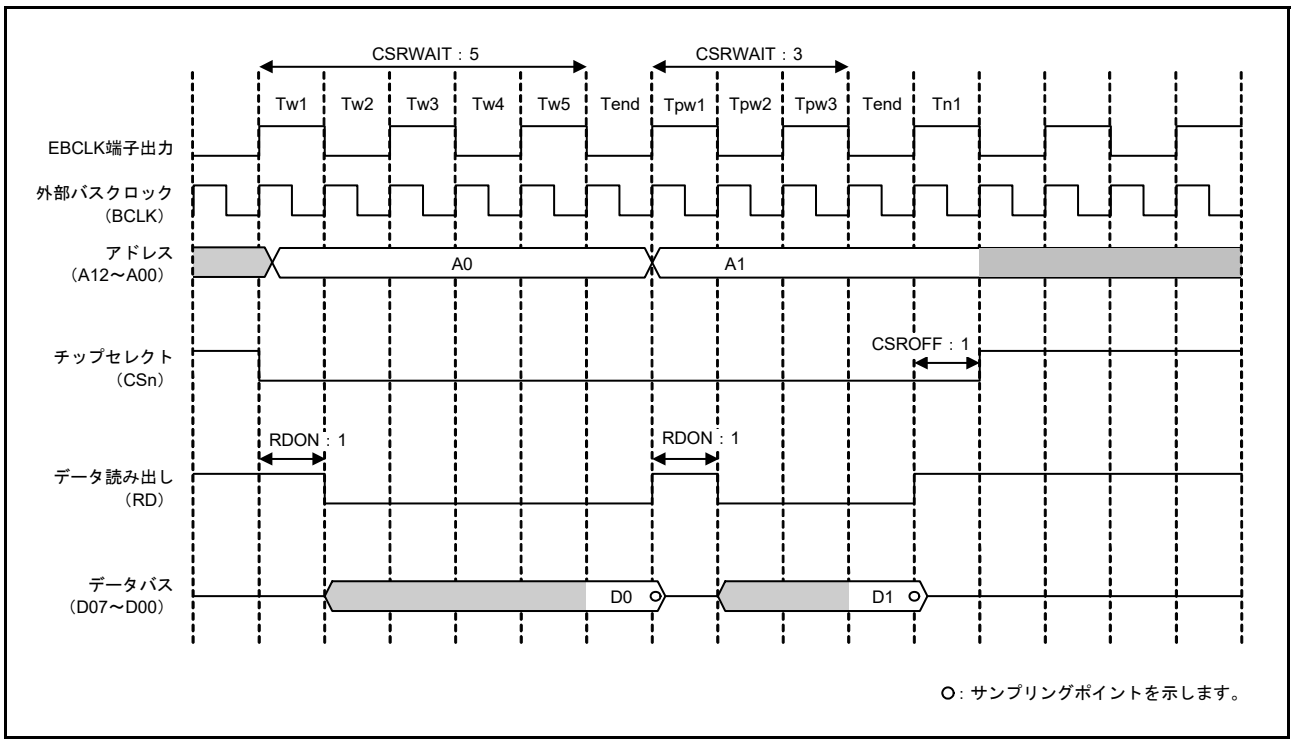


図 15.19 ページリードアクセスの動作例（EBCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を設定した場合、および 1 転送要求に対して 2 回バスアクセスが発生する場合）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

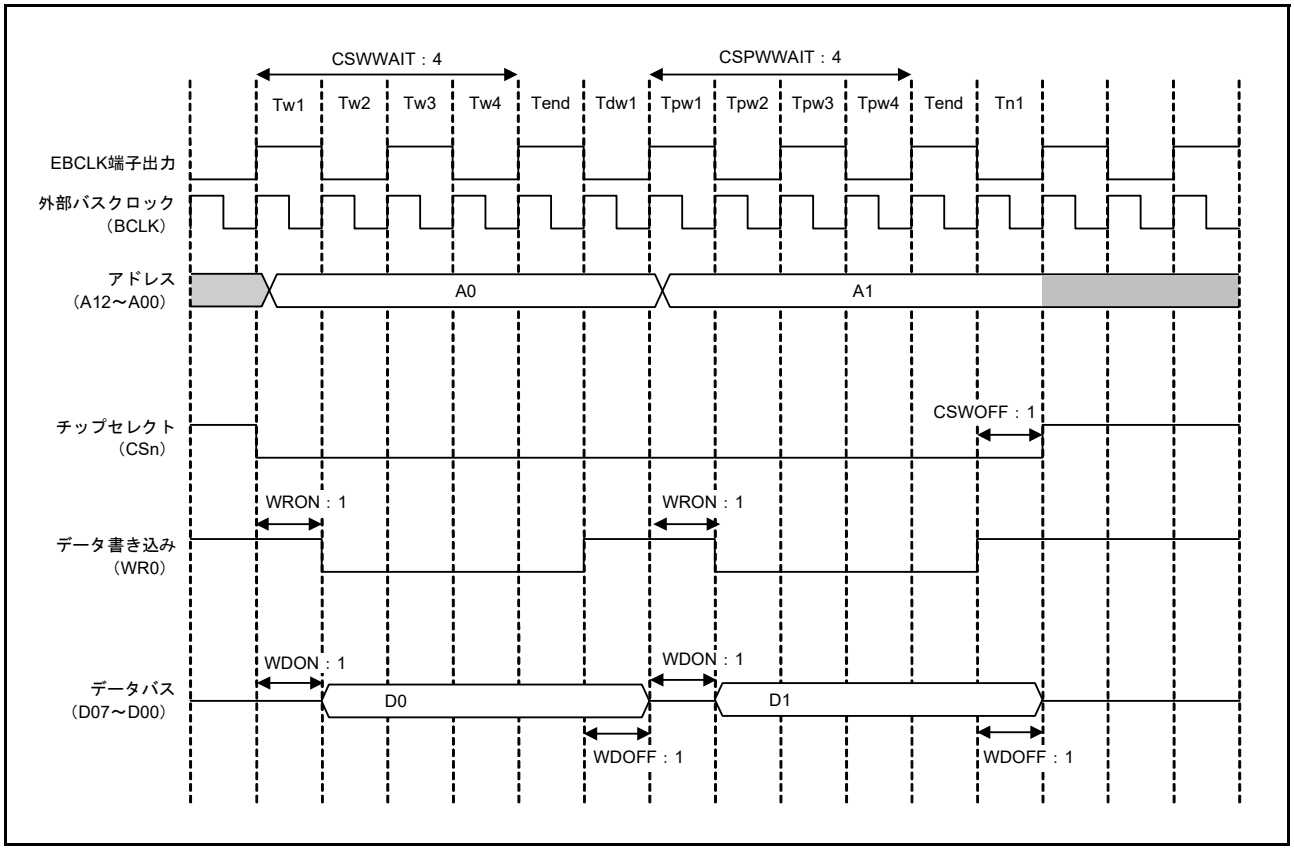


図 15.20 ページライトアクセスの動作例（EBCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を設定した場合、および 1 転送要求に対して 2 回バスアクセスが発生する場合、バイトストローブモード時）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

15.5.2 アドレス／データマルチプレクスバス

CSnCR レジスタのアドレス／データマルチプレクス I/O インタフェース選択ビット（CSnCR.MPXEN）を 1 にした場合、対応する領域で D07 ～ D00 端子にアドレスとデータをマルチプレクスして入出力することが可能です。これにより、アドレス／データマルチプレクスが必要な周辺 LSI を本 MCU に直結できます。CSnCR.BSIZE[1:0] ビットで 8 ビット幅を選択した領域では、D7 ～ D00 が A07 ～ A00 とマルチプレクスされます。アドレス／データマルチプレクス I/O 空間では、ALE 信号、RD 信号、および WR0 信号でアクセスが制御されます。

アドレス／データマルチプレクス I/O 空間のアクセスでは、アドレス出力サイクルに CSnWCR2 のアドレスサイクルウェイト選択ビット（AWAIT[1:0]）で指定されたウェイトサイクル数の後に、データのアクセスが行われます。

15.5.2.1 Ta1 ～ Tan（アドレスサイクルウェイト）

Ta1 ～ Tan 期間はアドレス／データマルチプレクス I/O 空間設定時のみ有効です。この期間は、外部バスアクセスの開始からアドレスラッチ（ALE）信号がネゲートされる 1 サイクル前までのクロックサイクル数です。サイクル数は 0 ～ 3 サイクルの範囲内で選択可能です。アドレスは ALE 信号がネゲートされた次のサイクルまで出力されます（アドレスサイクル）。ALE 信号のアサートタイミングは CS 信号と同じです。アドレスサイクル後はデータサイクルが開始します。アドレスサイクルとデータサイクルが重ならないように、CSnWCR1 と CSnWCR2 レジスタの値を設定してください。

アドレス／データマルチプレクス I/O 空間へのページアクセスは無効です。ページリードまたはページライトアクセスを許可するため、CSnMOD の PRENB ビットまたは PWENB ビットを 1 に設定した場合でも、これらの設定は無視されノーマルリードまたはノーマルライト動作が実行されます。

図 15.21 ～図 15.23 に、アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェース時の動作例を示します。

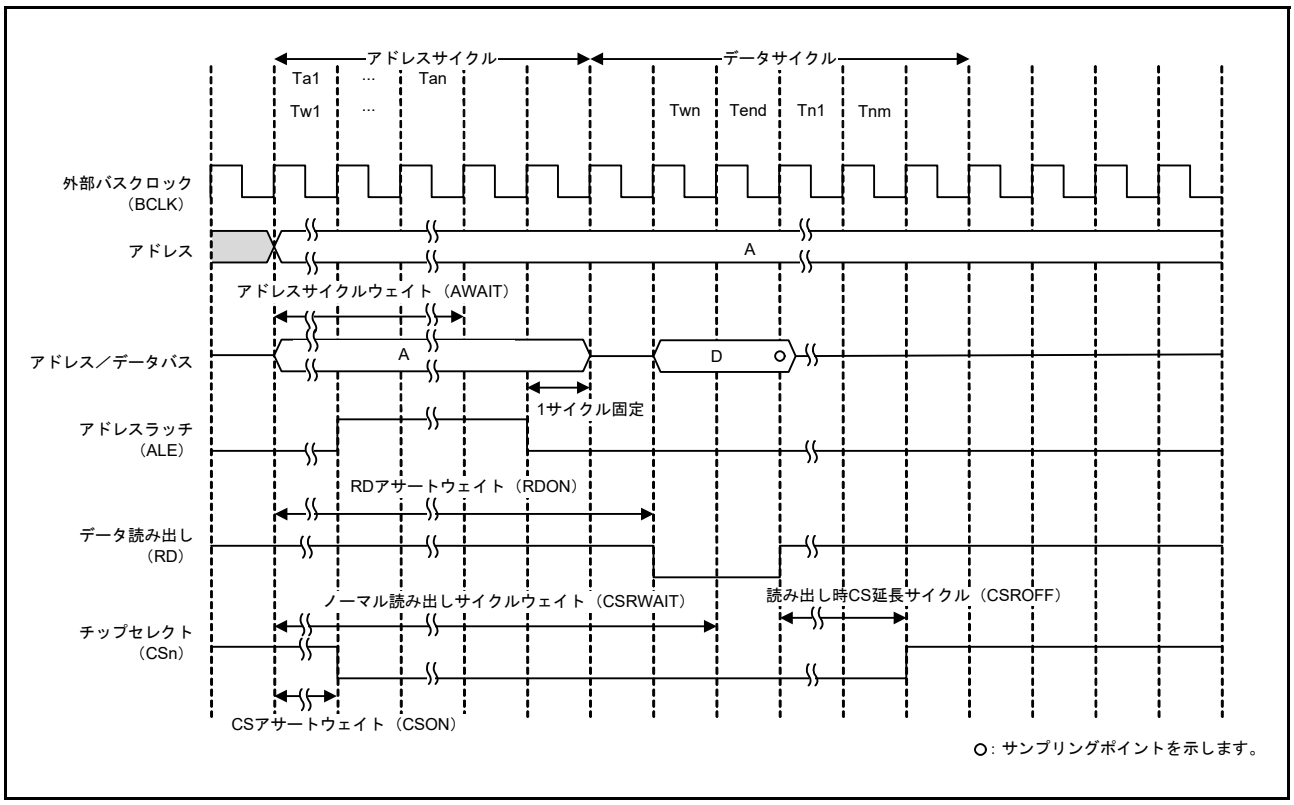


図 15.21 アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェース時のリードアクセスの動作例（n = 0, 1, 4 ～ 7）

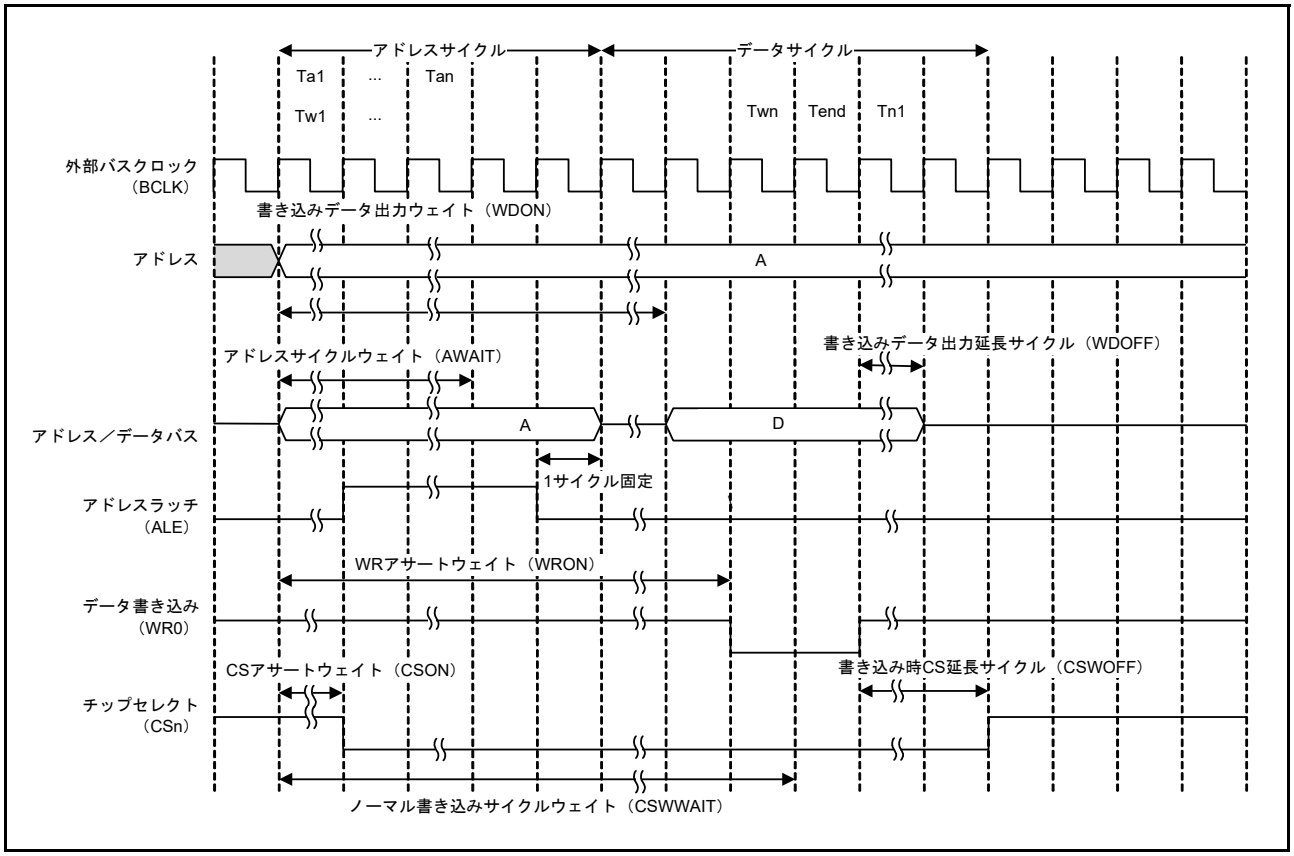


図 15.22　アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェース時のライトアクセスの動作例（n = 0, 1, 4 ～ 7）

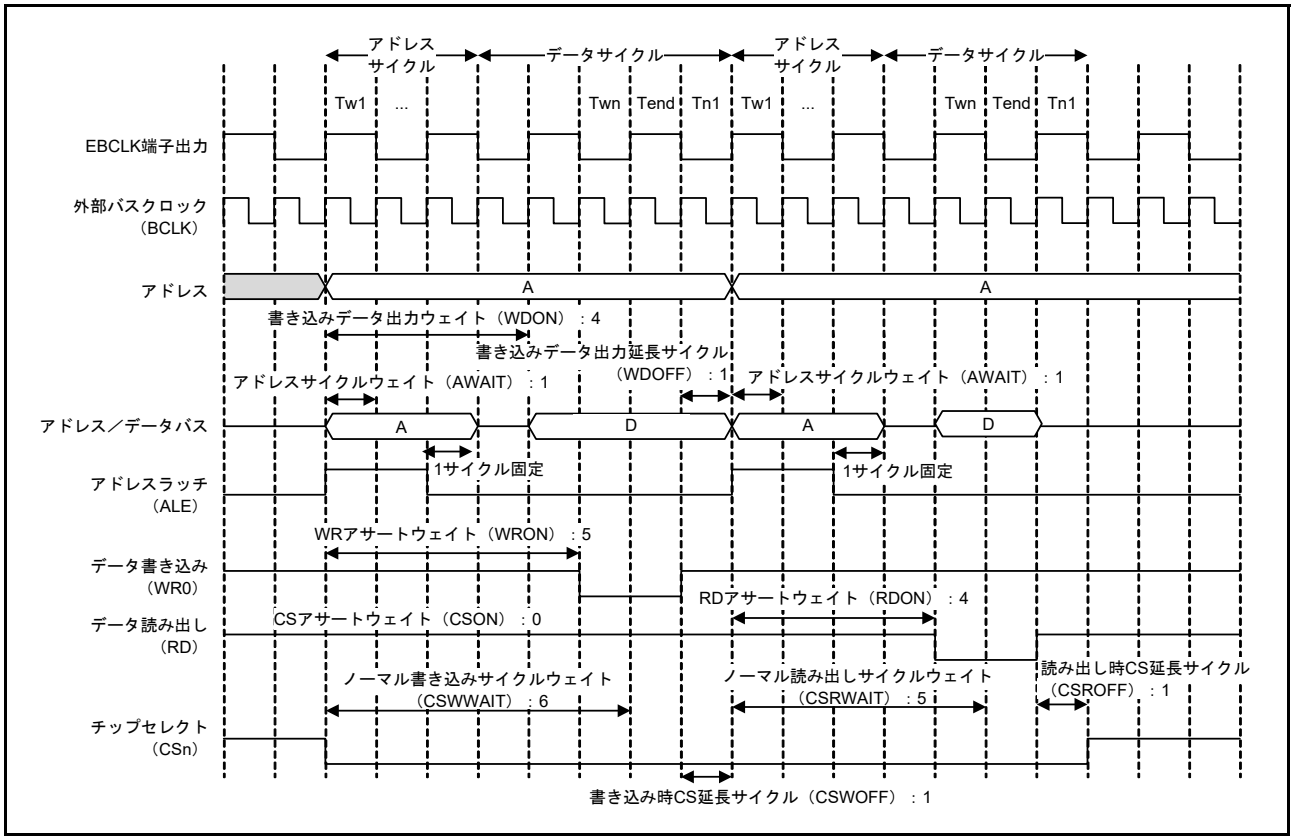


図 15.23　アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェース時のバスタイミング例（n = 0, 1, 4 ～ 7）

15.5.3 外部ウェイト機能

WAIT 信号により、CSn ウェイトコントロールレジスタ 1（CSnWCR1）で設定したノーマルアクセスサイクルウェイト（CSRWAIT[4:0] ビット、CSWWAIT[4:0] ビット）や、ページアクセスサイクルウェイト（CSPRWAIT[2:0] ビット、CSPWWAIT[2:0] ビット）を超えて、ウェイトサイクルを延長することが可能です。

外部ウェイト許可（CSnMOD.EWENB ビット＝1）にすると、WAIT 信号が Low の間、ウェイトサイクルが挿入されます。外部ウェイト禁止（CSnMOD.EWENB ビット＝0）であれば WAIT 信号は無効です。なお、CSnWCR1 レジスタで設定した各サイクルウェイトは、WAIT 信号にかかわらず挿入されます。

(1) ノーマルアクセス

CSnWCR1 レジスタで設定したウェイトサイクル数が完了した時点（Tend）から WAIT 信号がサンプリングされます。WAIT 信号が Low の間、バスサイクルが延長されます。WAIT 信号が High になった次のサイクルがウェイトサイクルの終了（Tend）となります。

(2) ページアクセス

最初のアクセスは、ノーマルアクセスと同じです。CSnWCR1 レジスタで設定したウェイトサイクル数が完了した時点（Tend）から WAIT 信号がサンプリングされます。WAIT 信号が Low の間、バスサイクルが延長されます。WAIT 信号が High になった次のサイクルがウェイトサイクルの終了（Tend）となります。

2 番目以降のアクセスに対しては、ページアクセスのウェイトサイクルが完了した時点（Tend）から WAIT 信号がサンプリングされます。WAIT 信号が Low の間、ページアクセスのウェイトサイクルが延長され、WAIT 信号が High になった次のサイクルがウェイトサイクルの終了（Tend）となります。

図 15.24 ～図 15.27 に、セパレートバスインタフェース時の外部ウェイトの挿入タイミング例を示します。

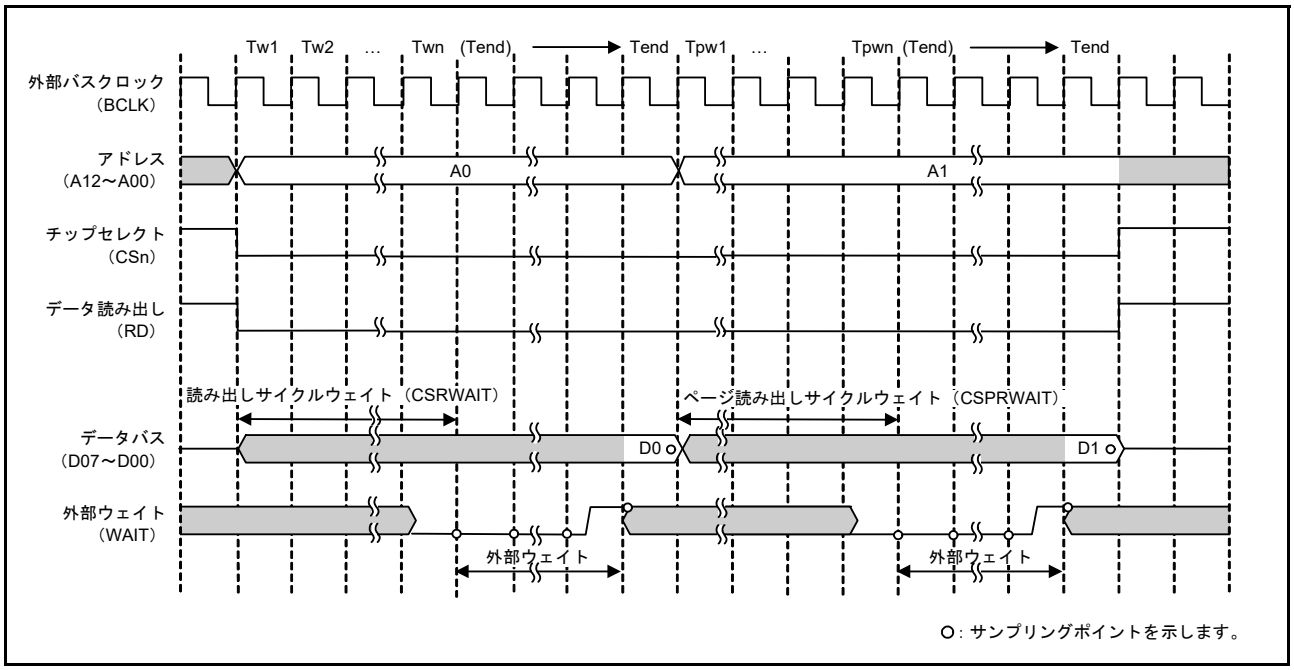


図 15.24 外部ウェイトタイミング例（8 ビットバス空間に対するページリードアクセス、BCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 1 分周を選択した場合）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

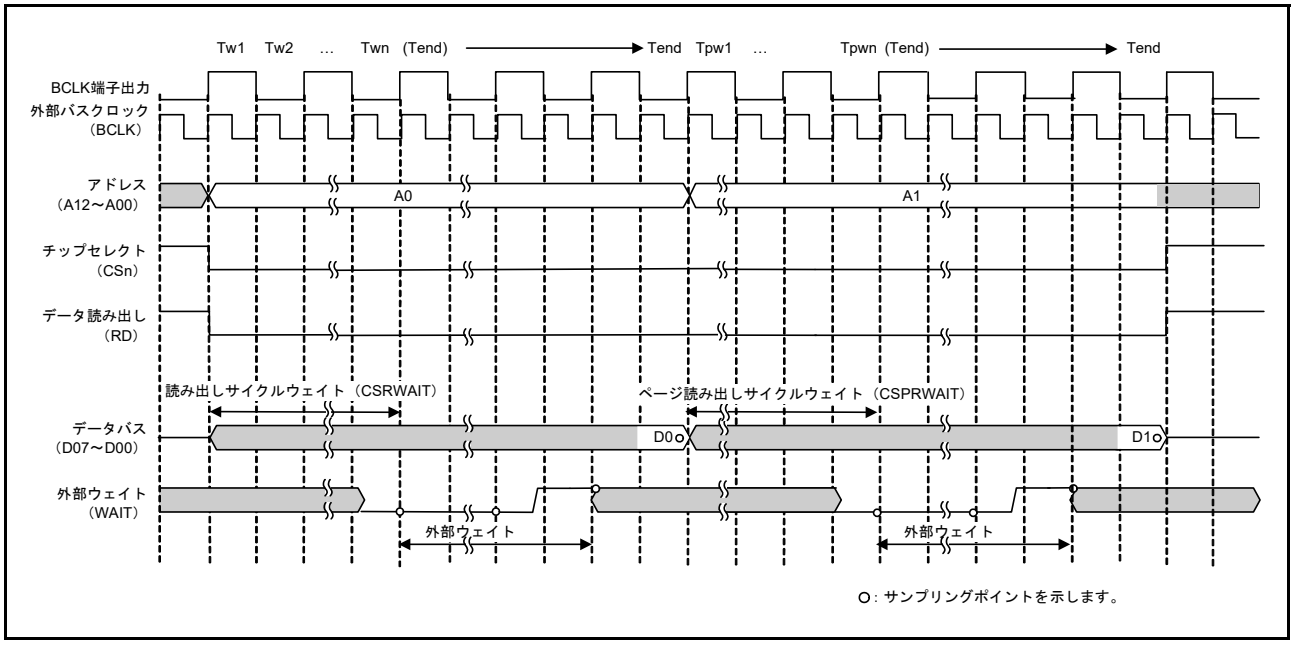


図 15.25　外部ウェイトタイミング例（8 ビットバス空間に対するページリードアクセス、BCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を選択した場合）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

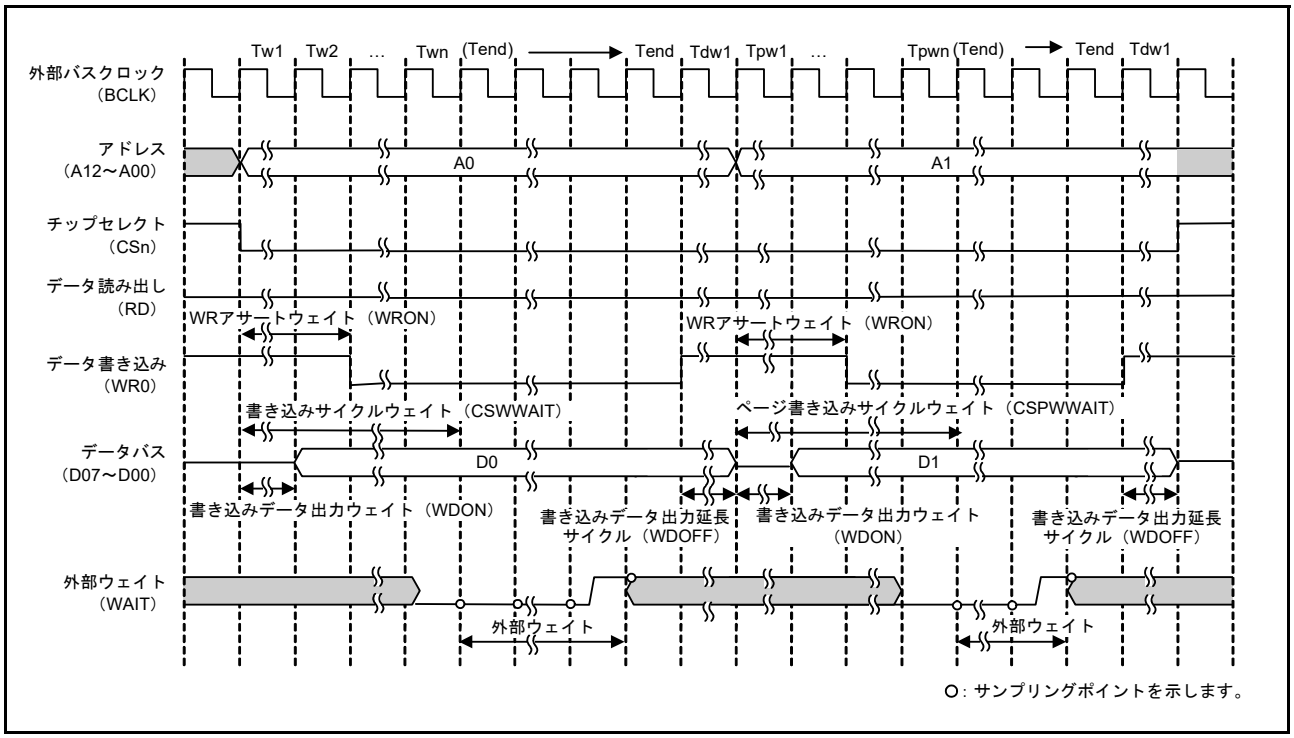


図 15.26　外部ウェイトタイミング例（バイトストローブモード時の 8 ビットバス空間に対するページライトアクセス、BCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 1 分周を選択した場合）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

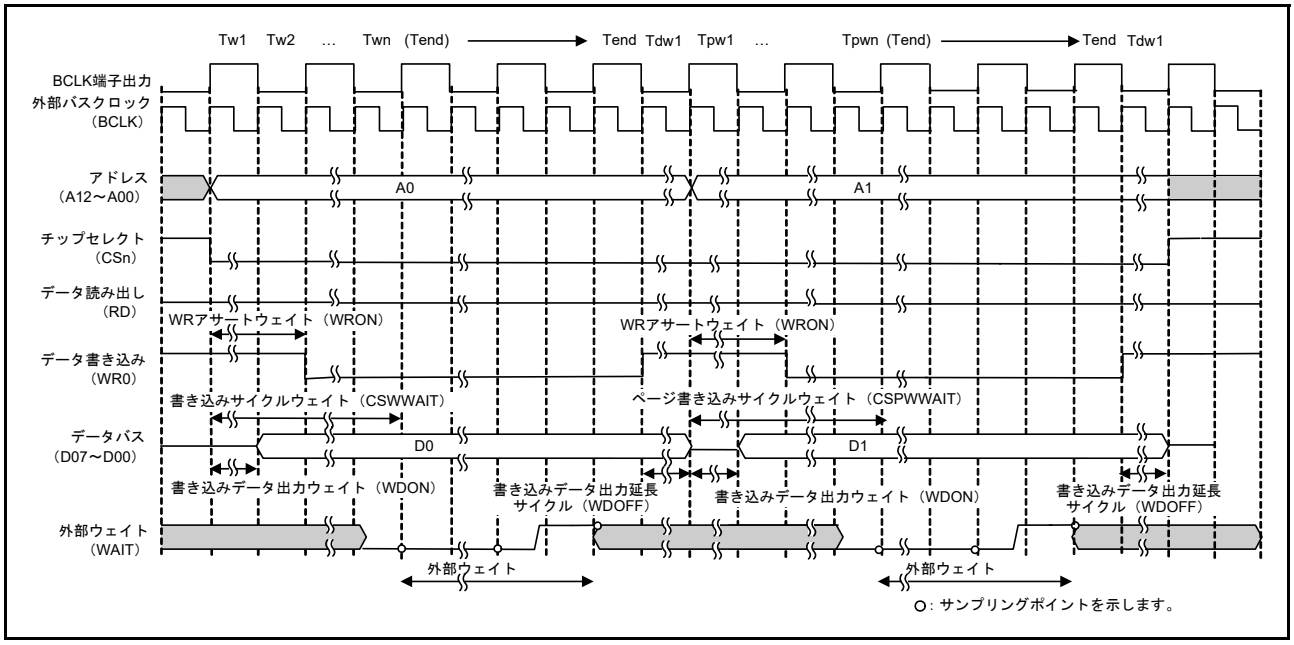


図 15.27　外部ウェイトタイミング例（バイトストローブモード時の 8 ビットバス空間に対するページライトアクセス、BCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を選択した場合）（n = 0, 1, 4 ～ 7）

(3)　アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェース

アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェースのデータサイクルには、セパレートバスインタフェースと同様にプログラムウェイトの挿入、WAIT 端子による端子ウェイトの挿入が可能です。

ウェイト制御の設定は、アドレスサイクルに影響を与えません。図 15.28 に、アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェース時の外部ウェイト挿入のタイミング例を示します。

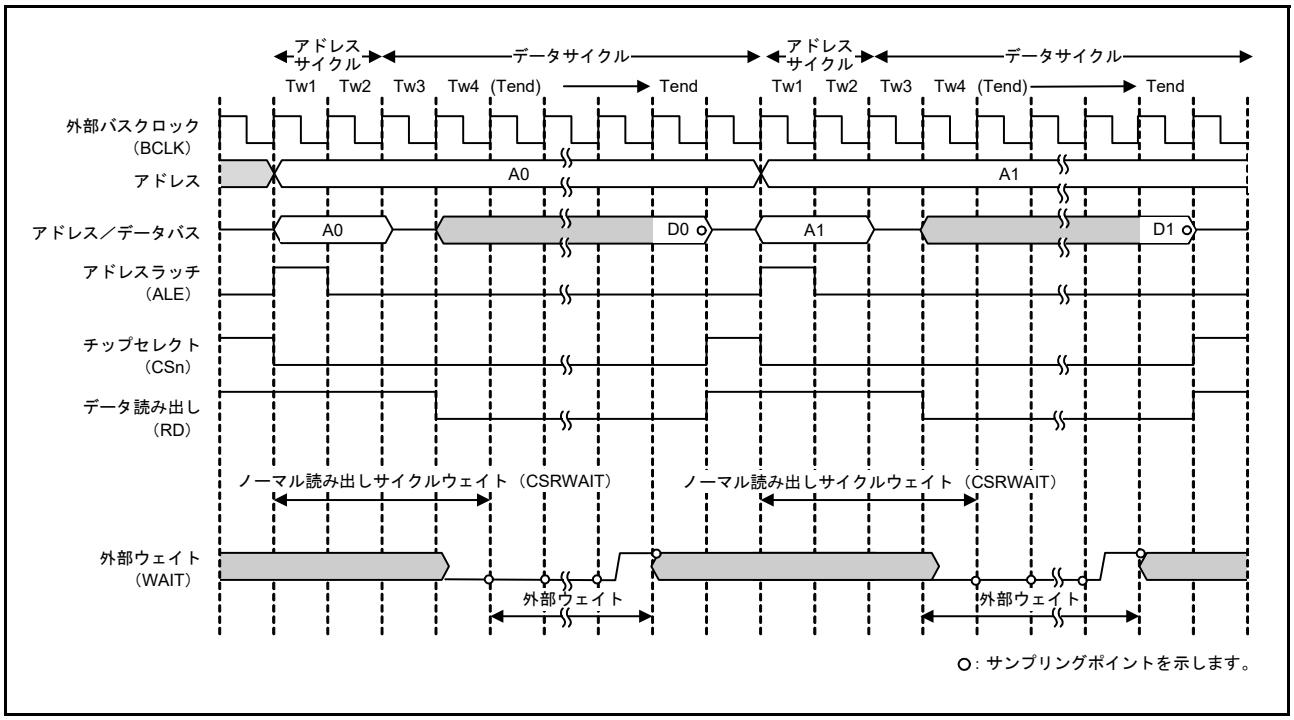


図 15.28　アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェース時の外部ウェイト挿入のタイミング例（n = 0, 1, 4 ～ 7）

15.5.4 リカバリサイクルの挿入

CSRECEN レジスタのリカバリサイクル挿入許可ビットを 1 にすることにより、連続する外部バスアクセスの間にリカバリサイクルを挿入することが可能です。

リードサイクル後とライトサイクル後に挿入するリカバリサイクル数は、CSn リカバリサイクル設定レジスタ（CSnREC）で各領域に対し個別に設定可能です。前バスサイクルがライトアクセスの場合、対応する領域のライトリカバリサイクル設定ビット（CSnREC.WRCV[3:0]）で、ライトリカバリサイクル数を設定する必要があります。前バスサイクルがリードアクセスの場合、対応する領域のリードリカバリサイクル設定ビット（CSnREC.RRCV[3:0]）で、リードリカバリサイクル数を設定する必要があります。たとえば、CS0 リードアクセス後に CS1 リードアクセスがある場合、挿入するリカバリサイクル数は、CS0REC.RRCV[3:0] ビットで設定されます。

リカバリサイクル挿入の可否は、前バスアクセスがセパレートバスアクセスの場合、CSRECEN.RCVENi ビット（i = 0 ～ 7）で設定し、前バスアクセスがアドレス／データマルチプレクスバスアクセスの場合は CSRECEN.RCVENMj ビット（j = 0 ～ 7）で設定できます。

リカバリサイクルの挿入可能な条件は、以下のとおりです。

- 外部バスにリードアクセス後、同じ領域の外部バスにリードアクセスする場合
- 外部バスにリードアクセス後、異なる領域の外部バスにリードアクセスする場合
- 外部バスにリードアクセス後、同じ領域の外部バスにライトアクセスする場合
- 外部バスにリードアクセス後、異なる領域の外部バスにライトアクセスする場合
- 外部バスにライトアクセス後、同じ領域の外部バスにリードアクセスする場合
- 外部バスにライトアクセス後、異なる領域の外部バスにリードアクセスする場合
- 外部バスにライトアクセス後、同じ領域の外部バスにライトアクセスする場合
- 外部バスにライトアクセス後、異なる領域の外部バスにライトアクセスする場合

リカバリサイクルの起点は、前バスサイクルの終了時点（たとえば、CSn 信号（n = 0, 1, 4 ～ 7）のネゲート時点）です。この時点から始まって、設定したリカバリサイクル期間に CSn 信号の High 期間が挿入されます。

最短では、リカバリサイクルの終了直後に、次のバスアクセスの CSn 信号がアサートされます。リカバリサイクル中に次の外部アドレス領域へのアクセス要求が発生した場合も、リカバリサイクル終了直後に次の外部バスアクセスを開始します。

バスマスタからの 1 転送要求に対して、2 回以上の外部バスアクセスが必要となる場合で、リカバリサイクル挿入条件が成り立つ場合、途中のバスアクセスにもリカバリサイクルが挿入されます。ただし、ページリードアクセス許可（CSnMOD.PRENB = 1）、あるいは、ページライトアクセス許可（CSnMOD.PWENB = 1）に設定された場合、リカバリサイクル挿入条件が成り立つ場合でも途中のバスアクセスにはリカバリサイクルは挿入されず、最後の転送のバスアクセスに対してのみリカバリサイクルが挿入されます。図 15.31 を参照してください。

同様に、ページアクセス許可設定時にノーマルアクセスとなる場合も、途中のバスアクセスにリカバリサイクルは挿入されず、最後の転送のバスアクセスに対してのみリカバリサイクルが挿入されます。アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェース時は、ページアクセス許可設定にかかわらず、リカバリサイクル挿入条件が成り立つ場合、途中のバスアクセスにもリカバリサイクルが挿入されます。

図 15.29 ～図 15.31 に、セパレートバスインタフェース時のリカバリサイクルの挿入例を示します。

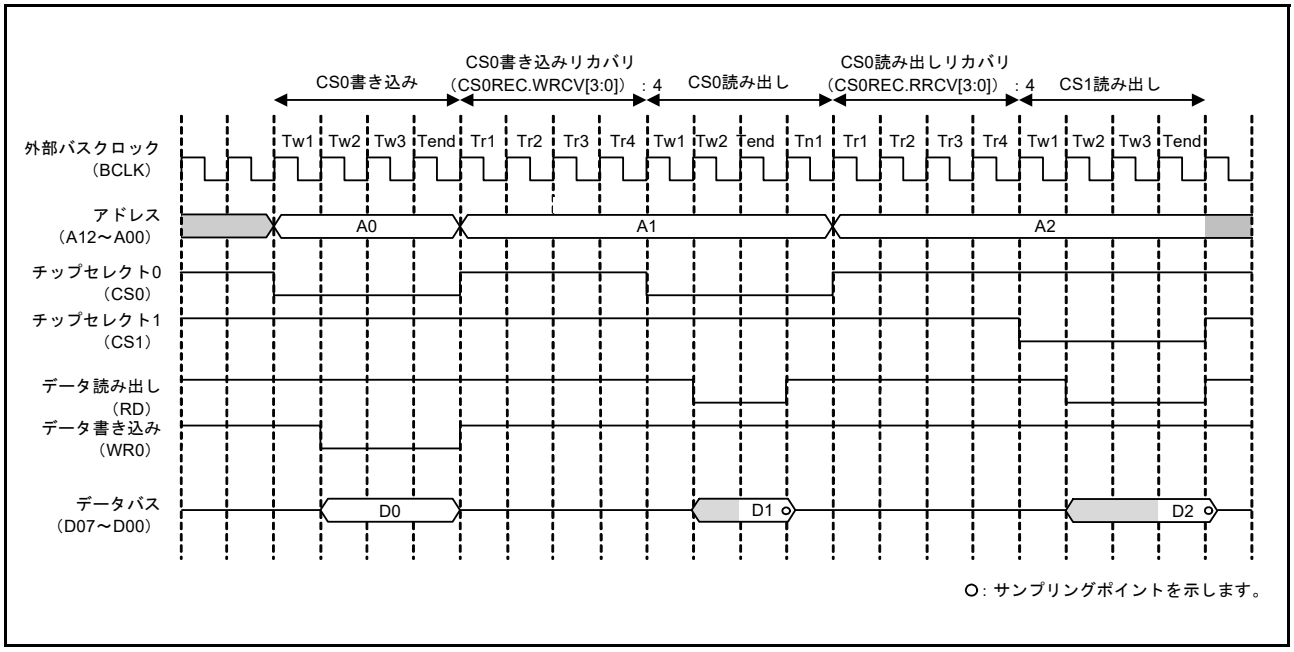


図 15.29　セパレートバスインタフェース時のリカバリサイクルの挿入例

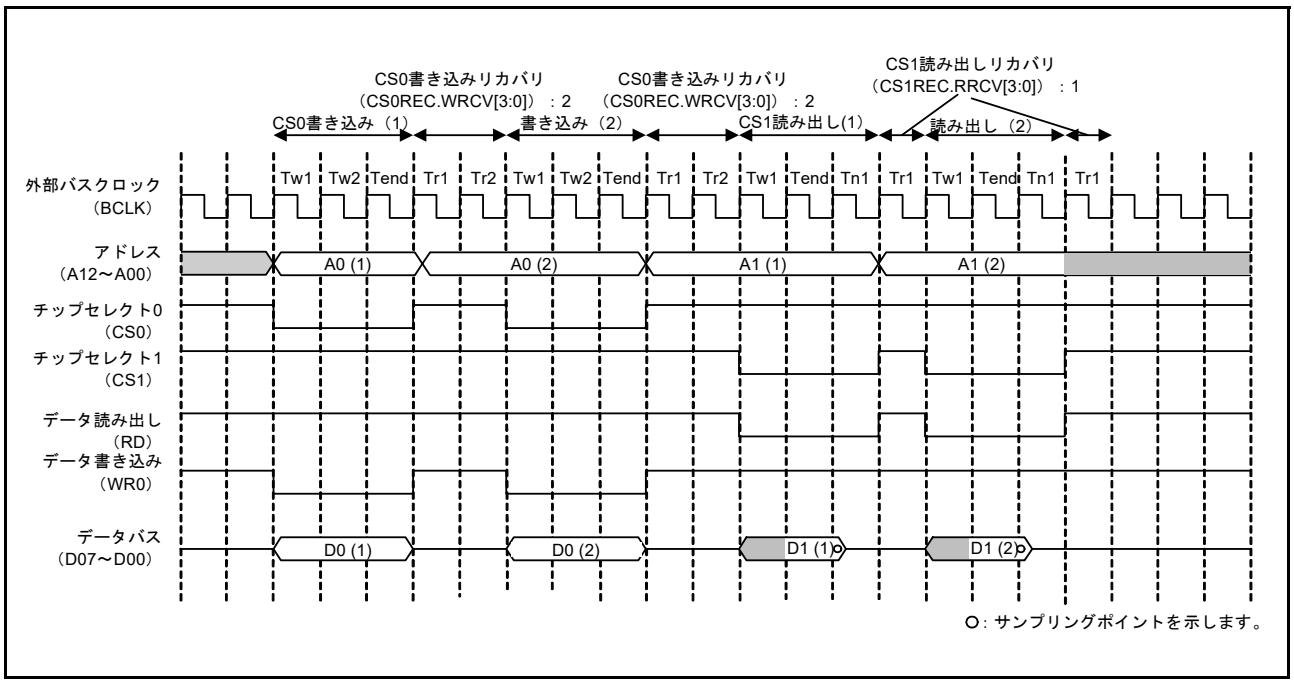


図 15.30　バスアクセスが分割された場合のリカバリサイクルの挿入例（セパレートバスインタフェースによるノーマルアクセスの場合）

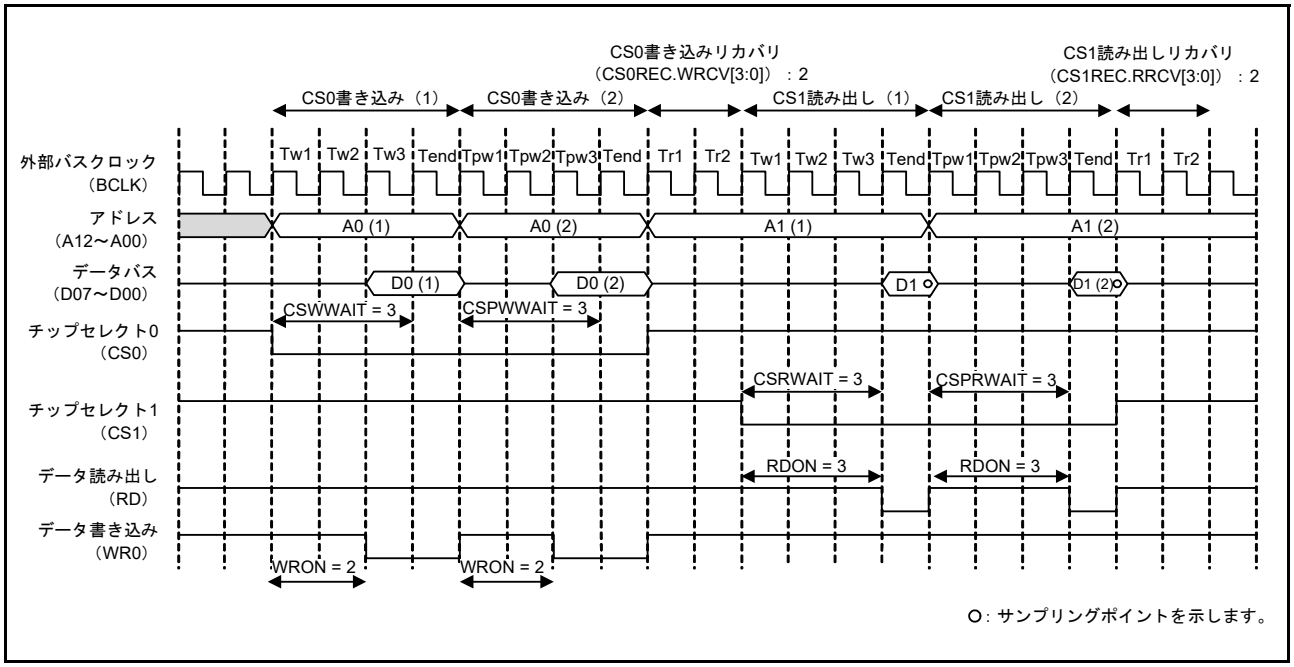


図 15.31　バスアクセスが分割された場合のリカバリサイクルの挿入例（セパレートバスインタフェースによるページアクセスの場合）

図 15.32 に、EBCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を選択した場合の動作例を示します。

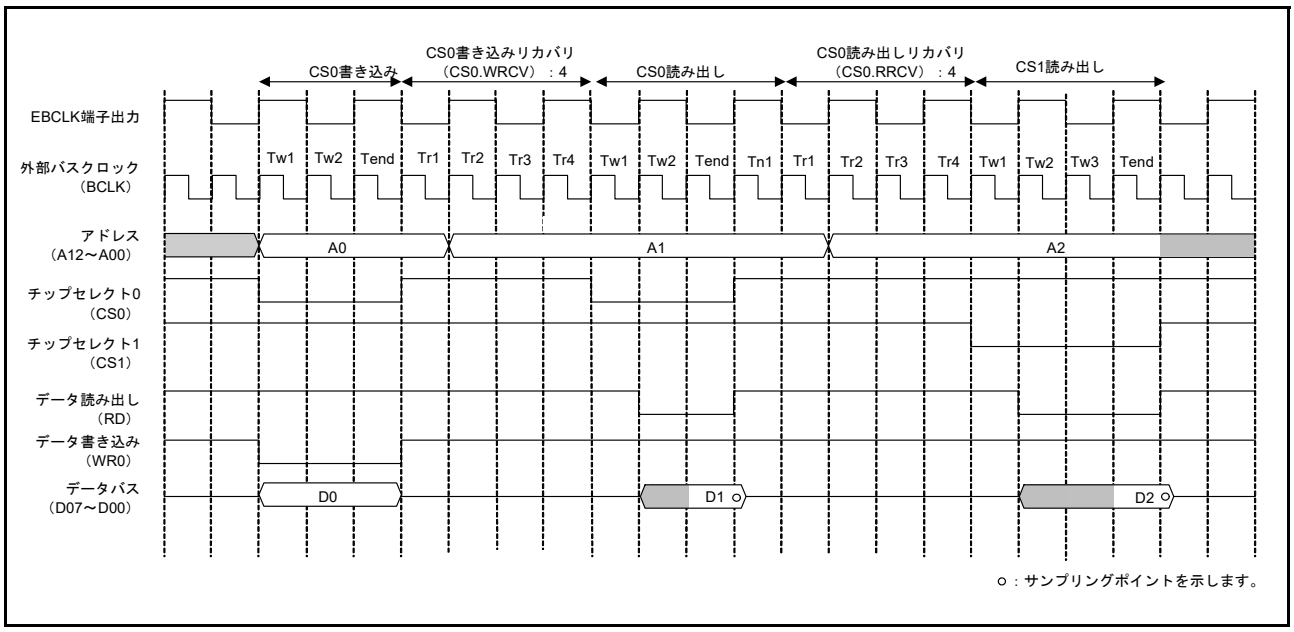


図 15.32　EBCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を選択した場合のリカバリサイクルの動作例（セパレートバスインタフェースによるノーマルアクセスの場合）

アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェースのリカバリサイクルの挿入もセパレートバスインタフェースと同様に行われます。図 15.33 および図 15.34 に、アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェース時のリカバリサイクルの挿入例を示します。

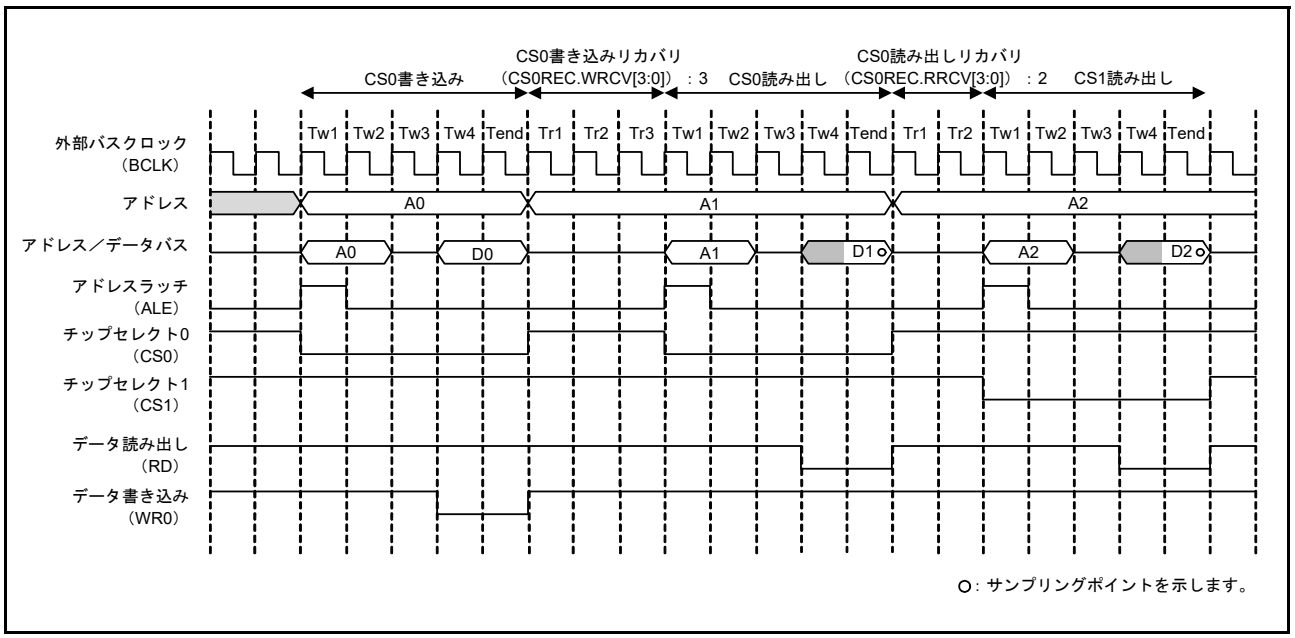


図 15.33　アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェース時のリカバリサイクルの挿入例

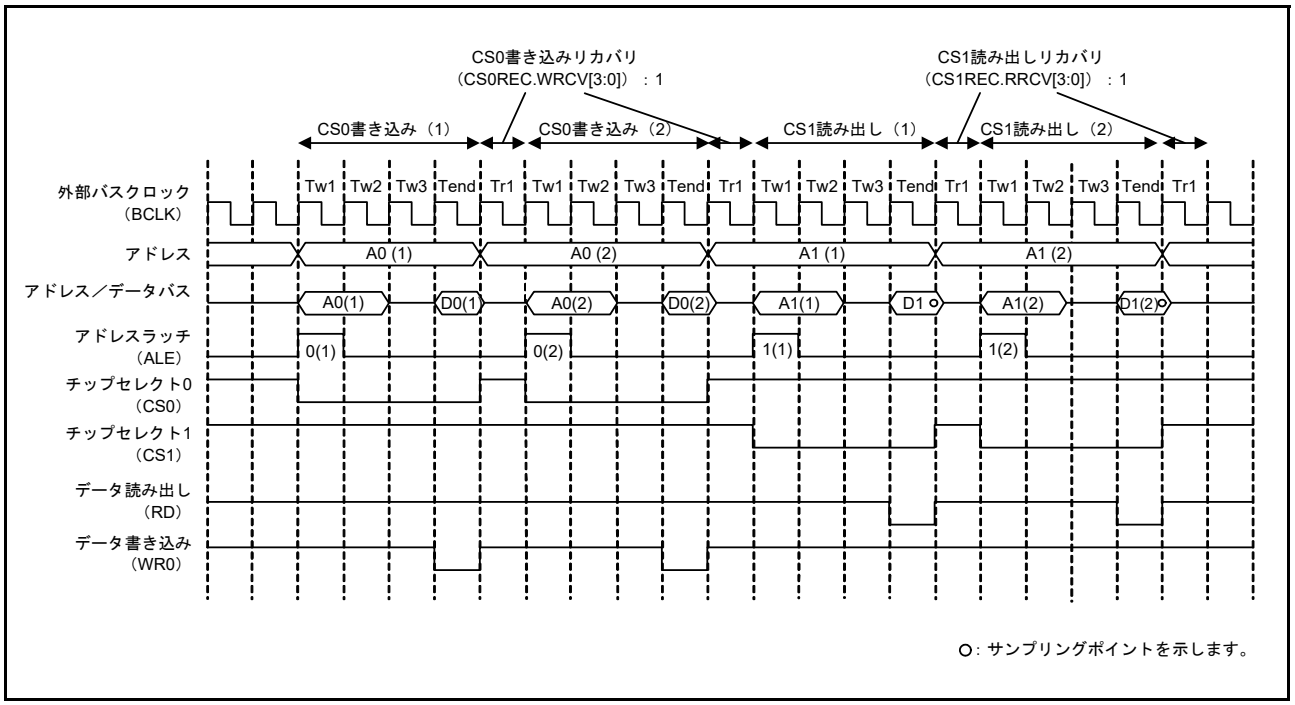


図 15.34　アドレス／データマルチプレクス I/O インタフェース時、バスアクセスが分割された場合のリカバリサイクルの挿入例

15.5.5 非アクセス時の状態

外部アドレス空間に対して処理を行っていない場合、CSn 信号、WR0 信号、RD 信号は High に、ALE 信号は Low に、D07 ～ D00 はハイインピーダンスになります。

15.5.6 ライトバッファ機能（外部バス）

ライトアクセスの場合、データをライトバッファに書くことにより、動作の終了を待たずにメインバスが解放されます。そのため、次のバスアクセスを開始することが可能です。ただし、次のアクセスが外部アドレス空間、あるいは外部バスコントローラのレジスタに対するものであれば、前の外部バス動作が終了するまで待たされます。

図 15.35 に、ライトバッファ機能を使用した場合の動作例を示します。この機能を使用したとき、外部ライトの次に内部アクセスがある場合は、外部ライトの終了を待たずに内部アクセスが並列して実行されます。

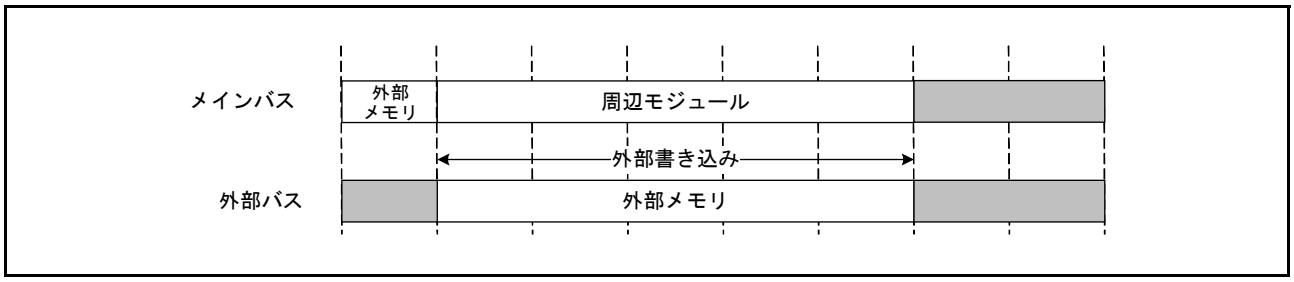


図 15.35 ライトバッファ機能使用時の動作例

15.5.7 制限事項

15.5.7.1 セパレートバスインタフェース使用時の制限事項

表 15.9 に、ノーマルアクセス時とページアクセス時の CSn ウェイトコントロールレジスタ 1（CSnWCR1）と CSn ウェイトコントロールレジスタ 2（CSnWCR2）の各ビットに適用される制限事項を示します。

CSn モードレジスタのページリードアクセス許可ビットまたはページライトアクセス許可ビットが許可（CSnMOD.PRENB = 1 または CSnMOD.PWENB = 1）になっていても、ページアクセスの 1 回目のアクセス、あるいはページアクセスの対象とならないアクセス時はノーマルアクセス動作となります。そのため、ノーマルアクセスの制限事項を満たす必要があります。

表 15.9 ノーマルアクセスとページアクセスに対する制限事項

ノーマルアクセスの制限事項		ページアクセスの制限事項	
読み出し	書き込み	読み出し	書き込み
CSON[2:0]≦CSRWAIT RDON[2:0]≦CSRWAIT CSON[2:0]≦RDON	1≦WDON[2:0] CSON[2:0]≦CSWWAIT WRON[2:0]≦CSWWAIT WDON[2:0]≦CSWWAIT WDOFF[2:0]≦CSWOFF WDON[2:0]≦WRON CSON[2:0]≦WRON	CSON[2:0]≦CSPRWAIT RDON[2:0]≦CSPRWAIT CSON[2:0]≦RDON	1≦WDON[2:0] CSON[2:0]≦CSPWWAIT WRON[2:0]≦CSPWWAIT WDON[2:0]≦CSPWWAIT WDOFF[2:0]≦CSWOFF WDON[2:0]≦WRON CSON[2:0]≦WRON

注 . バスマスタからの 1 転送要求に対して 2 回以上の外部バスアクセスが必要となる場合で、リカバリサイクル挿入条件が成り立つ場合、ページリードアクセス許可（CSnMOD.PRENB = 1）またはページライトアクセス許可（CSnMOD.PWENB = 1）に設定されていれば、途中のバスアクセスにはリカバリサイクルは挿入されず、最後の転送のバスアクセスに対してのみリカバリサイクルが挿入されます。

15.5.7.2 アドレス／データマルチプレクスバスインタフェース使用時の制限事項

アドレス／データマルチプレクス I/O 空間ではページアクセスは無効です。ページアクセス設定を指定しても設定は無視され、ノーマルリードまたはノーマルライト動作が実行されます。

表 15.10 ノーマルアクセス時の制約事項

ノーマルアクセス時の制約事項	
読み出し	**書き込み**
CSON[2:0]≦CSRWAIT RDON[2:0]≦CSRWAIT CSON[2:0]≦RDON AWAIT[1:0] + 2≦RDON CSON[2:0]≦AWAIT	CSON[2:0]≦CSWWAIT WRON[2:0]≦CSWWAIT WDON[2:0]≦CSWWAIT WDOFF[2:0]≦CSWOFF WDON[2:0]≦WRON CSON[2:0]≦WRON AWAIT[1:0] + 2≦WRON AWAIT[1:0] + 2≦WDON CSON[2:0]≦AWAIT

15.5.7.3 EBCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を選択した場合の制限事項

EBCLK 端子出力選択ビットで BCLK の 2 分周を選択した場合、外部バスアクセス開始の起点は、EBCLK 端子出力の立ち上がり時点になります。ただし、バスマスタからの 1 転送要求に対して 2 回以上の外部バスアクセスが発生する場合、2 回目以降の外部バスアクセスの開始は、ウェイトサイクル数の設定によっては、EBCLK 端子出力の立ち下がり時点になる可能性があります。接続するデバイスの仕様に合わせて適切にレジスタを設定してください。

15.5.7.4 命令コードの制限

命令コードはリトルエンディアンに固定する必要があります。

15.6 バスエラー監視

バスエラー監視システムは、個々の領域を監視して、エラーを検出すると AHB-Lite エラー応答プロトコルを用いてそのエラーを要求マスタ IP に返します。

15.6.1 バスエラーの種類

それぞれのバスでは、下記のエラーが生じる可能性があります。

- 不正アドレスアクセス
- バスマスタ MPU エラー
- バススレーブ MPU エラー
- タイムアウト

表 15.11 に、アクセスによって不正アドレスアクセスエラーが引き起こされるアドレスレンジを示します。スレーブの予約領域は、不正アドレスアクセスエラーを引き起こしません。バスマスタ MPU とバススレーブ MPU については、「16. メモリプロテクションユニット（MPU）」を参照してください。

15.6.2 バスエラー発生時の動作

バスエラーが発生すると、動作は保証されず、要求マスタ IP にエラーが返されます。マスタごとに発生するバスエラーが、BUSnERRADD レジスタと BUSnERRSTAT レジスタに格納されます。これらのレジスタは必ずリセットでクリアする必要があります。詳細については、15.3.9 バスエラーアドレスレジスタ（BUSnERRADD）（n = 1 ～ 5）と 15.3.10 バスエラーステータスレジスタ（BUSnERRSTAT）（n = 1 ～ 4）を参照してください。

注 . DMAC と DTC はバスエラーを受信しません。DMAC または DTC がバスにアクセスした場合、転送は継続されます。

15.6.3 不正アドレスアクセスエラーを引き起こす条件

表 15.11 に、不正アドレスアクセスエラーを引き起こす、バスごとのアドレス空間を示します。

表 15.11 不正アドレスアクセスエラーを引き起こす条件

アドレス	スレーブバス名	マスタバス	
		CPU（ICode、DCode、システム）	DMA
0000 0000h～01FF FFFFh	メモリバス1 メモリバス3	—	—
0200 0000h～027F FFFFh	メモリマッピング領域	(注1)	E
0280 0000h～1FFD FFFFh	予約領域	E	E
1FFE 0000h～1FFF FFFFh	メモリバス2 メモリバス3	—	—
2000 0000h～2003 FFFFh	メモリバス4	—	—
2004 0000h～200F FFFFh	メモリバス5	—	—
2010 0000h～3FFF FFFFh	予約領域	E	E
4000 0000h～4001 FFFFh	周辺バス1	—	—
4002 0000h～4003 FFFFh	予約領域	E	E
4004 0000h～4005 FFFFh	周辺バス3	—	—
4006 0000h～4007 FFFFh	周辺バス4	—	—
4008 0000h～4009 FFFFh	周辺バス5	—	—
400A 0000h～400B FFFFh	予約領域	—	—
400C 0000h～400D FFFFh	周辺バス7	—	—
400E 0000h～400F FFFFh	予約領域	E	E
4010 0000h～407F FFFFh	周辺バス9	—	—
4080 0000h～5FFF FFFFh	予約領域	E	E
6000 0000h～67FF FFFFh	QSPI領域	—	—
6800 0000h～7FFF FFFFh	予約領域	E	E
8000 0000h～97FF FFFFh	CS領域	—	—
9800 0000h～DFFF FFFFh	予約領域	E	E
E000 0000h～FFFF FFFFh	Cortex-M4用システム	—	E

E：不正アドレスアクセスエラーが生じる経路を示します。

注 1. バスモジュールは、メモリミラー機能（MMF）がアドレスを切り替えたか否かの検出を行いません。そのため、MMF が有効な状態で CPU が 0200 0000h にアクセスしても、エラーは発生しません。これは、切り替えられたアドレスに依存します。MMF が無効な状態で CPU が 0200 0000h にアクセスすると、バスモジュールがエラーを検出します。

バスモジュールは、スレーブに対して何も領域が割り当てられていない場合など、予約領域へのアクセスに起因したアクセスエラーを検出します。

- 0200 0000h ～ 1FFD FFFFh：アクセスエラーを検出
- 0000 0000h ～ 01FF FFFFh：メモリバス 1 のアクセスエラー検出なし

15.6.4 タイムアウト

一部の周辺モジュールでは、モジュールストップ機能によってタイムアウトエラーが発生します。一定期間スレーブから応答がなかった場合は、タイムアウトエラーが検出され、AHB-Lite エラー応答プロトコルを用いてそのエラーを要求マスタ IP に返します。

15.7 フラッシュキャッシュ使用時の注意事項

CPU からのアクセスを通じてフラッシュキャッシュを使用する場合は、Arm® MPU もキャッシング対象に設定する必要があります。詳細については、参考資料の 1. および 2. を参照してください。

15.8 参考資料

1. *ARM®v7-M Architecture Reference Manual (ARM DDI 0403D)*
2. *ARM® Cortex®-M4 Devices Generic User Guide (ARM DUI 0553A)*

16.　メモリプロテクションユニット（MPU）

16.1　概要

本 MCU は、4 つのメモリプロテクションユニット（MPU）と、CPU スタックポインタモニタ機能を備えています。表 16.1 に MPU の仕様を、表 16.2 に各 MPU エラー検出時の動作を示します。

表 16.1　MPUの仕様

項目	モジュール／機能	内容
不正メモリアクセス	Arm® Cortex®-M4 CPU	• Arm CPUはデフォルトのメモリマップを内蔵。CPUが不正アクセスを行うと、例外割り込みが発生 • デフォルトのメモリマップはMPUで変更可能
	CPUスタックポインタモニタ	2領域 • メインスタックポインタ（MSP） • プロセススタックポインタ（PSP）
メモリプロテクション	Arm MPU	CPU用のメモリプロテクション機能 • 8 MPU領域（サブ領域とバックグラウンド領域を含む）
	バスマスタMPU	CPUを除く各バスマスタ用のメモリプロテクション機能 • バスマスタMPUグループA：32領域
	バススレーブMPU	各バススレーブ用のメモリプロテクション機能
セキュリティ	セキュリティ MPU	非セキュアプログラムから下記のセキュリティ領域へのアクセスを保護 • 2領域（PC） • 4領域（コードフラッシュ、SRAM、2つのセキュリティ機能

表 16.2　MPUエラー検出時の動作

MPUの種類	通知動作	エラー検出時のバスアクセス	エラーアクセス情報の格納
CPUスタックポインタモニタ	リセットまたはノンマスカブル割り込み	Don't care	保持しない
Arm MPU	ハード障害	• 正しくライトアクセスできない • 正しくリードアクセスできない	Cortex-M4 プロセッサ内に格納
バスマスタMPU	リセットまたはノンマスカブル割り込み	• 保護領域にライトアクセス • 保護領域にリードアクセス	格納
バススレーブMPU	• リセットまたはノンマスカブル割り込み • ハード障害	• ライトアクセスは無視 • リードアクセスは0が読める	格納
セキュリティ MPU	通知なし	• 正しくライトアクセスできない • 正しくリードアクセスできない	保持しない

Arm MPU に対するエラーアクセスについては、16.7　参考資料を参照してください。他の MPU に対するエラーアクセスについては、「15.　バス」の 15.3.9　バスエラーアドレスレジスタ（BUSnERRADD）（n = 1 ～ 5）および 15.3.10　バスエラーステータスレジスタ（BUSnERRSTAT）（n = 1 ～ 4）を参照してください。

16.2 CPU スタックポインタモニタ

CPU スタックポインタモニタは、スタックポインタのオーバーフローとアンダーフローを検出します。Arm CPU には、メインスタックポインタ（MSP）とプロセススタックポインタ（PSP）の 2 つのスタックポインタがあるため、2 つの CPU スタックポインタモニタをサポートしています。スタックポインタのアンダーフローやオーバーフローを検出すると、CPU スタックポインタモニタはリセットまたはノンマスカブル割り込みを発生させます。

CPU スタックポインタモニタを有効にするには、スタックポインタモニタアクセスコントロールレジスタ（MSPMPUCTL、PSPMPUCTL）のスタックポインタモニタ有効ビットを 1 にします。

表 16.3 に CPU スタックポインタモニタの仕様、図 16.1 にブロック図、そして図 16.2 にレジスタの設定フローを示します。

表 16.3 CPUスタックポインタモニタの仕様

項目	内容
SRAM領域	メモリプロテクション対象領域
領域数	2領域： • メインスタックポインタ（MSP） • プロセススタックポインタ（PSP）
各領域のアドレス仕様	領域の開始および終了アドレスの設定可能
各領域のスタックポインタモニタの有効／無効設定	各領域のスタックポインタモニタは、有効または無効に設定可能
エラー検出時の動作	リセットまたはノンマスカブル割り込みの発生が可能
レジスタの保護	レジスタに対する不正書き込みの防止が可能

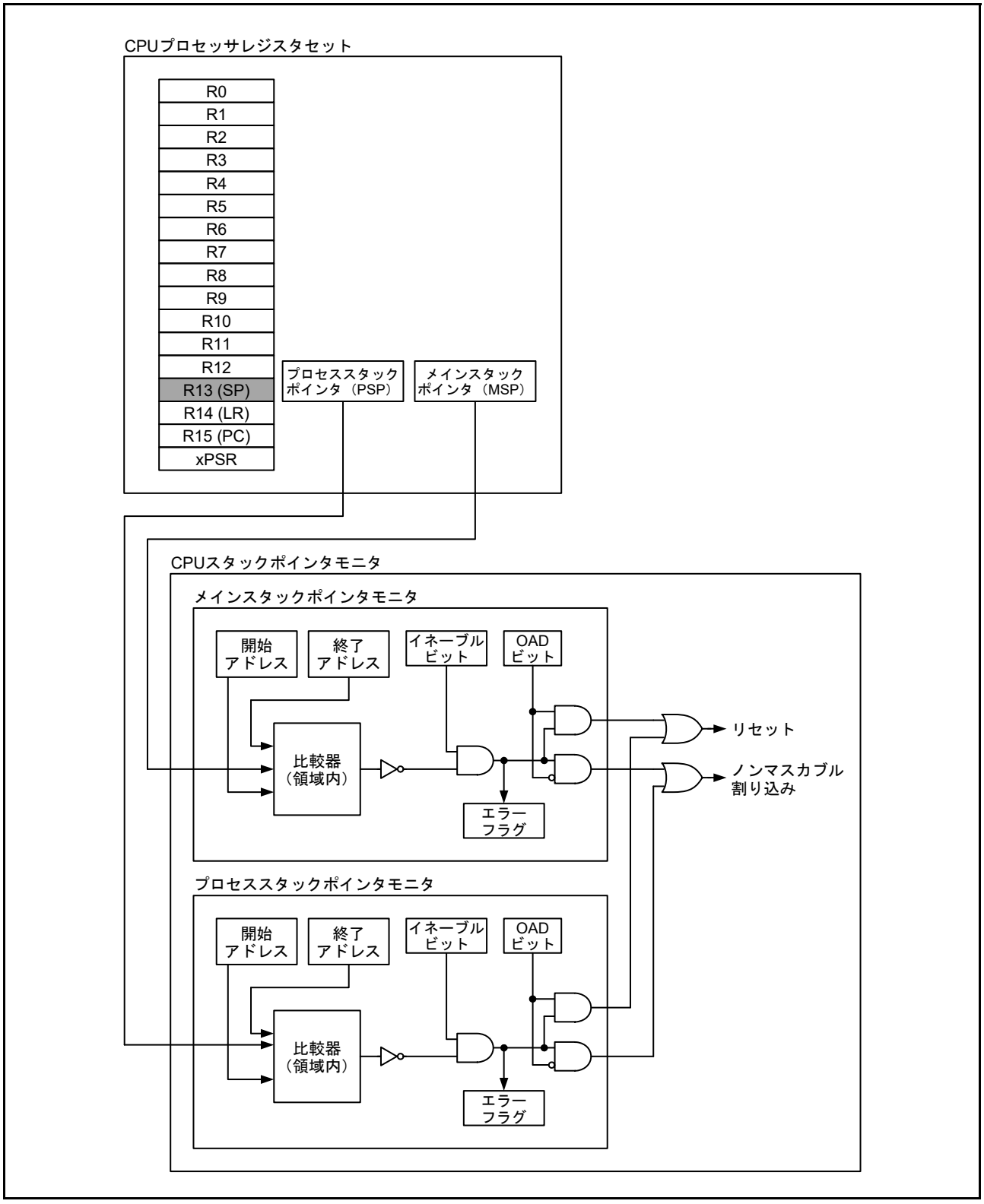


図 16.1 CPU スタックポインタモニタブロック図

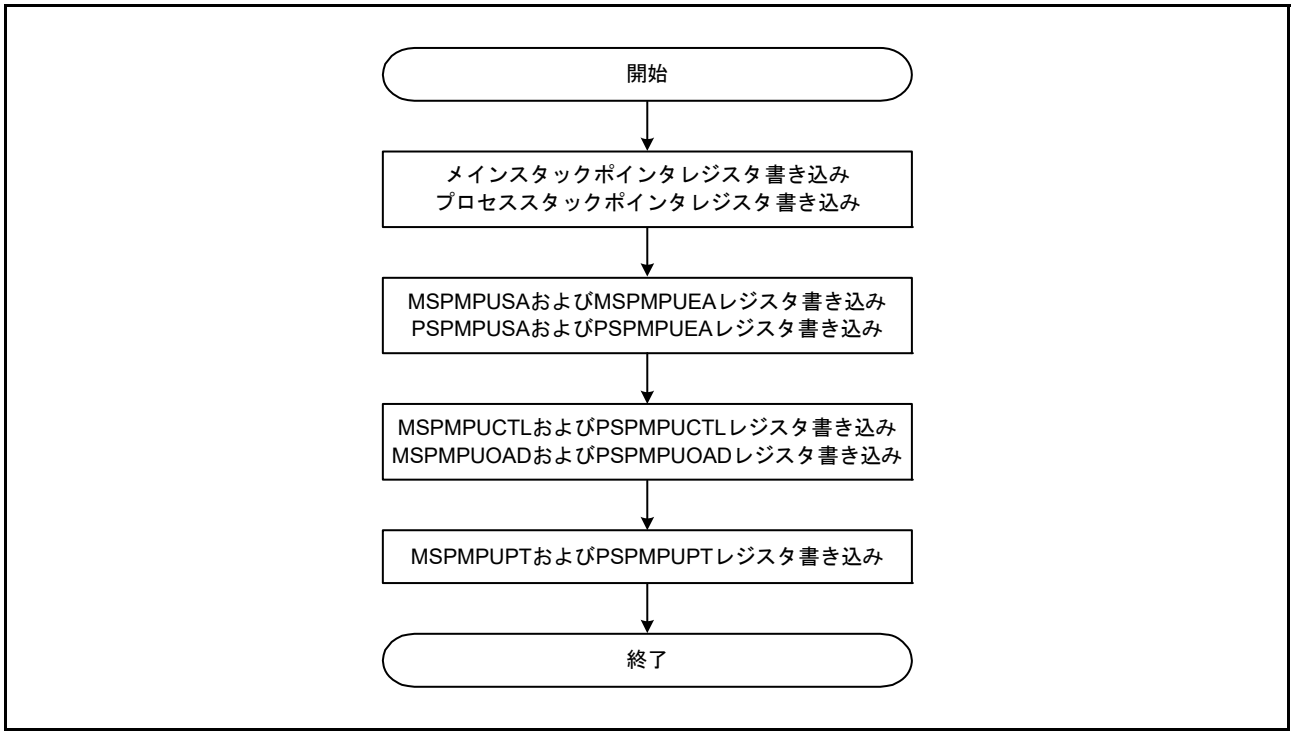


図 16.2 レジスタ設定フロー

16.2.1　レジスタの説明

注 .　MPU レジスタに書き込みを行う前に、バスアクセスを停止する必要があります。

16.2.1.1　メインスタックポインタモニタ開始アドレスレジスタ（MSPMPUSA）

アドレス　SPMON.MSPMPUSA 4000 0D08h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	MSPMPUSA[31:16]															
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	MSPMPUSA[15:0]															
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b0	MSPMPUSA[31:0]	領域開始アドレス	領域判定に使用する領域開始アドレス。下位2ビットは0にしてください。値の範囲は、予約領域を除く1FF0 0000h～200F FFFChです。	R/W

MSPMPUSA レジスタと MSPMPUEA レジスタでは、SRAM の CPU スタック領域（1FF0 0000h ～ 200F FFFFh のうち、予約領域を除く領域）を指定します。カバーされる SRAM 領域については、図 4.1　メモリマップを参照してください。

16.2.1.2　メインスタックポインタモニタ終了アドレスレジスタ（MSPMPUEA）

アドレス　SPMON.MSPMPUEA 4000 0D0Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	MSPMPUEA[31:16]															
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	MSPMPUEA[15:0]															
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1	1

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b0	MSPMPUEA[31:0]	領域終了アドレス	領域判定に使用する領域終了アドレス。下位2ビットは1にしてください。値の範囲は、予約領域を除く1FF0 0003h～200F FFFFhです。	R/W

16.2.1.3　プロセススタックポインタモニタ開始アドレスレジスタ（PSPMPUSA）

アドレス　SPMON.PSPMPUSA 4000 0D18h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	PSPMPUSA[31:16]															
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	PSPMPUSA[15:0]															
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b0	PSPMPUSA[31:0]	領域開始アドレス	領域判定に使用する領域開始アドレス。下位2ビットは0にしてください。値の範囲は、予約領域を除く1FF0 0000h～200F FFFChです。	R/W

PSPMPUSA レジスタと PSPMPUEA レジスタでは、SRAM の CPU スタック領域（1FF0 0000h ～ 200F FFFFh のうち、予約領域を除く領域）を指定します。カバーされる SRAM 領域については、図 4.1　メモリマップを参照してください。

16.2.1.4　プロセススタックポインタモニタ終了アドレスレジスタ（PSPMPUEA）

アドレス　SPMON.PSPMPUEA 4000 0D1Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	PSPMPUEA[31:16]															
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	PSPMPUEA[15:0]															
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1	1

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b0	PSPMPUEA[31:0]	領域終了アドレス	領域判定に使用する領域終了アドレス。下位2ビットは1にしてください。値の範囲は、予約領域を除く1FF0 0003h～200F FFFFhです。	R/W

16.2.1.5 スタックポインタモニタ検出後動作レジスタ（MSPMPUOAD, PSPMPUOAD）

アドレス SPMON.MSPMPUOAD 4000 0D00h, SPMON.PSPMPUOAD 4000 0D10h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	KEY[7:0]								—	—	—	—	—	—	—	OAD
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	OAD	検出後の動作	0：ノンマスカブル割り込み 1：リセット	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15-b8	KEY[7:0]	キーコード	OADビットへの書き込みを許可または禁止します。	R/(W) （注1）

注 1.　書き込みデータは保持されません。

OAD ビット（検出後の動作）

CPU スタックポインタモニタによってスタックポインタのアンダーフローまたはオーバーフローが検出されたとき、リセットまたはノンマスカブル割り込みのどちらを発生させるか選択します。

メインスタックポインタモニタとプロセススタックポインタモニタは、それぞれ OAD ビットを使用して、スタックポインタのアンダーフローまたはオーバーフロー検出時に発生させる信号を決定します。OAD ビットへ書き込む際は、同時にハーフワードアクセスによって KEY[7:0] ビットに A5h を書き込んでください。

KEY[7:0] ビット（キーコード）

OAD ビットへの書き込みを許可または禁止します。OAD ビットへ書き込む際は、同時に KEY[7:0] ビットに A5h を書き込んでください。A5h 以外の値を KEY[7:0] ビットに書き込むと、OAD ビットは更新されません。KEY[7:0] ビットは読むと常に 00h が読み出されます。

16.2.1.6 スタックポインタモニタアクセスコントロールレジスタ（MSPMPUCTL, PSPMPUCTL）

アドレス SPMON.MSPMPUCTL 4000 0D04h, SPMON.PSPMPUCTL 4000 0D14h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	ERROR	—	—	—	—	—	—	—	ENABLE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0/1（注1）	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ENABLE	スタックポインタモニタ有効	0：スタックポインタモニタ無効 1：スタックポインタモニタ有効	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	ERROR	スタックポインタモニタエラーフラグ	0：スタックポインタのアンダーフローまたはオーバーフロー発生なし 1：スタックポインタのアンダーフローまたはオーバーフロー発生あり	R/W
b15-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　初期値はリセット発生要因によって異なります。

ENABLE ビット（スタックポインタモニタ有効）

スタックポインタモニタ機能を有効または無効にします。メインスタックポインタモニタとプロセススタックポインタモニタを個別に設定できます。

MSPMPUCTL.ENABLE ビットを 1 にした場合、以下のレジスタが利用可能になります。

- MSPMPUSA
- MSPMPUEA
- MSPMPUOAD

PSPMPUCTL.ENABLE ビットを 1 にした場合、以下のレジスタが利用可能になります。

- PSPMPUSA
- PSPMPUEA
- PSPMPUOAD

ERROR ビット（スタックポインタモニタエラーフラグ）

スタックポインタモニタの状態を示します。各スタックポインタモニタは独立した ERROR ビットを持っています。

［1 になる条件］

- スタックポインタがオーバーフローまたはアンダーフローしたとき

［0 になる条件］

- 本ビットに 0 を書いたとき
- バスマスタ MPU エラーリセット、バススレーブ MPU エラーリセット、およびスタックポインタエラーリセット以外のリセットが発生したとき

注 .　ERROR ビットには 0 のみ書けます。

16.2.1.7　スタックポインタモニタ保護レジスタ（MSPMPUPT, PSPMPUPT）

アドレス　SPMON.MSPMPUPT 4000 0D06h, SPMON.PSPMPUPT 4000 0D16h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	KEY[7:0]								—	—	—	—	—	—	—	PROTECT
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PROTECT	レジスタの保護	0：スタックポインタモニタ関連レジスタの書き込みを許可 1：スタックポインタモニタ関連レジスタの書き込みから保護（読み出しは許可）	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15-b8	KEY[7:0]	キーコード	PROTECTビットへの書き込みを許可または禁止します。	R/(W)（注1）

注 1.　書き込みデータは保持されません。

PROTECT ビット（レジスタの保護）

保護する関連レジスタへの書き込みを許可または禁止します。メインスタックポインタモニタとプロセススタックポインタモニタをそれぞれ個別に設定できます。

MSPMPUPT.PROTECT ビットは、下記のメインスタックポインタ保護レジスタを制御します。

- MSPMPUCTL
- MSPMPUSA
- MSPMPUEA

PSPMPUPT.PROTECT ビットは、下記のプロセススタックポインタ保護レジスタを制御します。

- PSPMPUCTL
- PSPMPUSA
- PSPMPUEA

PROTECT ビットへ書き込む際は、同時にハーフワードアクセスによって KEY[7:0] ビットに A5h を書き込んでください。

KEY[7:0] ビット（キーコード）

PROTECT ビットへの書き込みを許可または禁止します。PROTECT ビットへ書き込む際は、同時に KEY[7:0] ビットに A5h を書き込んでください。これ以外の値を書き込むと、PROTECT ビットは更新されません。KEY[7:0] ビットは読むと常に 00h が読み出されます。

16.2.2 動作説明

16.2.2.1 レジスタの保護

CPU スタックポインタモニタ関連のレジスタを保護するには、対応する PROTECT ビットを設定します。

16.2.2.2 オーバーフローエラーとアンダーフローエラー

オーバーフローまたはアンダーフローエラーが検出されると、CPU スタックポインタモニタはエラーを発生させます。OAD ビットを設定することで、このエラーをノンマスカブル割り込みとリセットのどちらで通知するか選択できます。ノンマスカブル割り込み状態は ICU.NMISR.SPEST フラグに示されます。「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。リセット状態は SYSTEM.RSTSR1.SPERF フラグに示されます。「6. リセット」を参照してください。

ICU.NMISR.SPEST フラグが CPU スタックポインタモニタ割り込みの発生を示した場合、MSPMPUCTL レジスタと PSPMPUCTL レジスタの ERROR ビットをチェックして、メインスタックポインタモニタエラーまたはプロセススタックポインタモニタエラーのどちらのエラーであるかを判定してください。

スタックポインタがアンダーフローまたはオーバーフローすると、ノンマスカブル割り込みが設定されたままになります。エラーを解除するため、ICU.NMICLR.SPECLR ビットに 1 を書き込むことによりノンマスカブル割り込みフラグをクリアしてください。MSPMPUCTL レジスタまたは PSPMPUCTL レジスタの ERROR ビットを 0 書き込みでクリアしてください。

16.3 Arm MPU

Arm MPU は下記の項目を全面的にサポートしています。

- 8 つの保護領域
- 保護領域のオーバーラップ（優先順位は昇順）
  7 = 最高優先順位
  0 = 最低優先順位
- アクセス許可
- メモリ属性のシステムへのエクスポート

Arm MPU の不一致および許可違反によって、優先順位のプログラム可能な MemManage フォルト（ハード障害）ハンドラが呼び出されます。詳細は、16.7 参考資料を参照してください。

16.4　バスマスタ MPU

バスマスタ MPU は、全アドレス空間（0000 0000h ～ FFFF FFFFh）を対象にバスマスタがアクセスするアドレスを監視しています。アクセス制御情報は、読み出し許可と書き込み許可からなり、最大 32 の領域に対して個別に設定が可能です。バスマスタ MPU は、これらの設定に基づいて各領域へのアクセスを監視します。保護領域に対するアクセスが検出されると、バスマスタ MPU はリセットまたはノンマスカブル割り込みを発生させます。エラーアクセスについての詳細は、「15.　バス」の 15.3.9 および 15.3.10 を参照してください。

表 16.4 にバスマスタ MPU の仕様を、図 16.3 にブロック図を示します。図 16.4 に、バスマスタ MPU のグループ A を示します。

表 16.4　　バスマスタ MPU仕様

項目	内容
保護されるマスタグループ	バスマスタ MPU グループ A：DMA バス
保護領域	0000 0000h～FFFF FFFFh
領域数	バスマスタ MPU グループ A：32 領域
各領域のアドレス仕様	領域の開始および終了アドレスの設定可能
各領域のメモリプロテクションの有効／無効設定	対応する領域の設定を有効／無効
各領域のアクセス制御設定	読み出し許可と書き込み許可
エラー検出時の動作	リセットまたはノンマスカブル割り込み
レジスタの保護	レジスタに対する不正書き込みの防止が可能

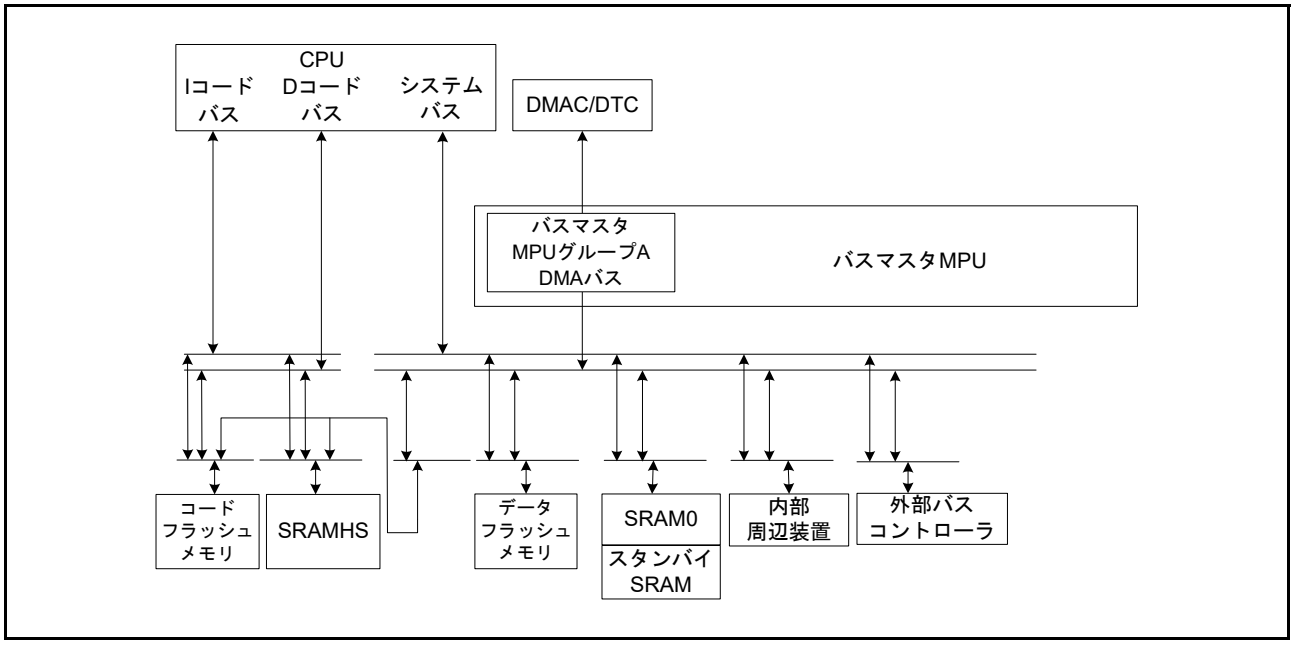


図 16.3　　バスマスタ MPU ブロック図

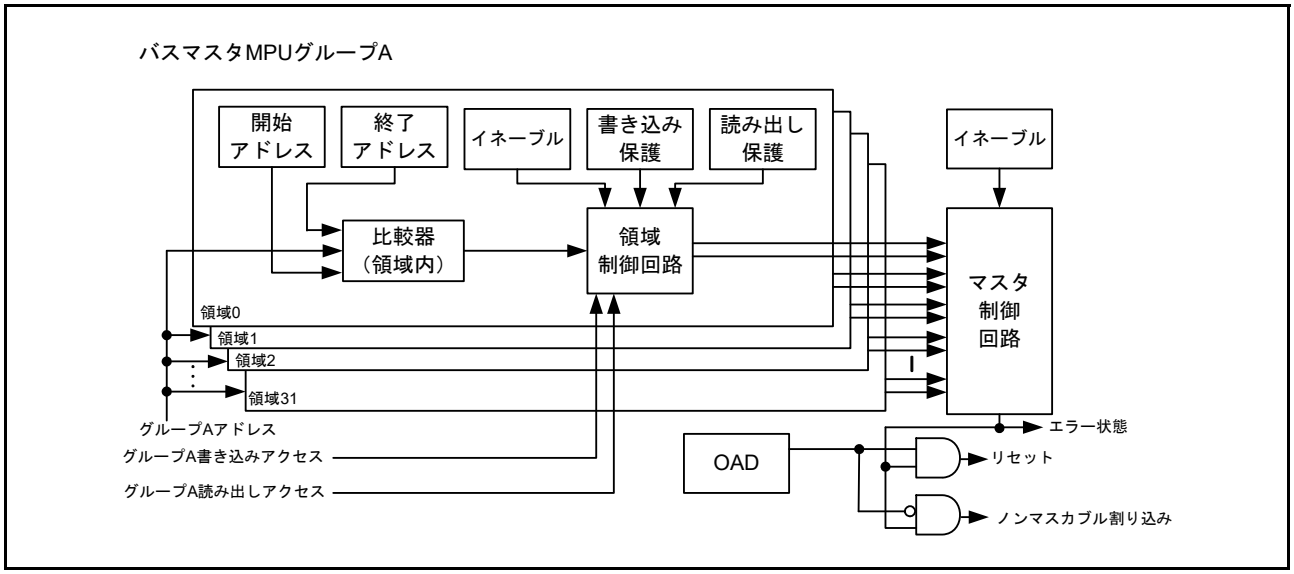


図 16.4 バスマスタ MPU グループ A

16.4.1 レジスタの説明

注 . MPU レジスタに書き込みを行う前に、バスアクセスを停止する必要があります。

16.4.1.1 グループ A 領域 n 開始アドレスレジスタ（MMPUSAn）（n = 0 ～ 31）

アドレス MMPU.MMPUSA0 4000 0204h, MMPU.MMPUSA1 4000 0214h, MMPU.MMPUSA2 4000 0224h, MMPU.MMPUSA3 4000 0234h, MMPU.MMPUSA4 4000 0244h, MMPU.MMPUSA5 4000 0254h, MMPU.MMPUSA6 4000 0264h, MMPU.MMPUSA7 4000 0274h, MMPU.MMPUSA8 4000 0284h, MMPU.MMPUSA9 4000 0294h, MMPU.MMPUSA10 4000 02A4h, MMPU.MMPUSA11 4000 02B4h, MMPU.MMPUSA12 4000 02C4h, MMPU.MMPUSA13 4000 02D4h, MMPU.MMPUSA14 4000 02E4h, MMPU.MMPUSA15 4000 02F4h, MMPU.MMPUSA16 4000 0304h, MMPU.MMPUSA17 4000 0314h, MMPU.MMPUSA18 4000 0324h, MMPU.MMPUSA19 4000 0334h, MMPU.MMPUSA20 4000 0344h, MMPU.MMPUSA21 4000 0354h, MMPU.MMPUSA22 4000 0364h, MMPU.MMPUSA23 4000 0374h, MMPU.MMPUSA24 4000 0384h, MMPU.MMPUSA25 4000 0394h, MMPU.MMPUSA26 4000 03A4h, MMPU.MMPUSA27 4000 03B4h, MMPU.MMPUSA28 4000 03C4h, MMPU.MMPUSA29 4000 03D4h, MMPU.MMPUSA30 4000 03E4h, MMPU.MMPUSA31 4000 03F4h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	MMPUSA[31:16]															
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	MMPUSA[15:0]															
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b0	MMPUSA[31:0]	領域開始アドレス	領域判定に使用する領域開始アドレス。下位2ビットは0にしてください。	R/W

16.4.1.2 グループA領域n終了アドレスレジスタ（MMPUEAn）（n = 0 ～ 31）

アドレス MMPU.MMPUEA0 4000 0208h, MMPU.MMPUEA1 4000 0218h, MMPU.MMPUEA2 4000 0228h, MMPU.MMPUEA3 4000 0238h, MMPU.MMPUEA4 4000 0248h, MMPU.MMPUEA5 4000 0258h, MMPU.MMPUEA6 4000 0268h, MMPU.MMPUEA7 4000 0278h, MMPU.MMPUEA8 4000 0288h, MMPU.MMPUEA9 4000 0298h, MMPU.MMPUEA10 4000 02A8h, MMPU.MMPUEA11 4000 02B8h, MMPU.MMPUEA12 4000 02C8h, MMPU.MMPUEA13 4000 02D8h, MMPU.MMPUEA14 4000 02E8h, MMPU.MMPUEA15 4000 02F8h, MMPU.MMPUEA16 4000 0308h, MMPU.MMPUEA17 4000 0318h, MMPU.MMPUEA18 4000 0328h, MMPU.MMPUEA19 4000 0338h, MMPU.MMPUEA20 4000 0348h, MMPU.MMPUEA21 4000 0358h, MMPU.MMPUEA22 4000 0368h, MMPU.MMPUEA23 4000 0378h, MMPU.MMPUEA24 4000 0388h, MMPU.MMPUEA25 4000 0398h, MMPU.MMPUEA26 4000 03A8h, MMPU.MMPUEA27 4000 03B8h, MMPU.MMPUEA28 4000 03C8h, MMPU.MMPUEA29 4000 03D8h, MMPU.MMPUEA30 4000 03E8h, MMPU.MMPUEA31 4000 03F8h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	MMPUEA[31:16]															
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	MMPUEA[15:0]															
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1	1

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b0	MMPUEA[31:0]	領域終了アドレス	領域判定に使用する領域終了アドレス。下位2ビットは1にしてください。	R/W

16.4.1.3　グループA領域nアクセスコントロールレジスタ（MMPUACAn）（n = 0 ～ 31）

アドレス　MMPU.MMPUACA0 4000 0200h, MMPU.MMPUACA1 4000 0210h, MMPU.MMPUACA2 4000 0220h, MMPU.MMPUACA3 4000 0230h, MMPU.MMPUACA4 4000 0240h, MMPU.MMPUACA5 4000 0250h, MMPU.MMPUACA6 4000 0260h, MMPU.MMPUACA7 4000 0270h, MMPU.MMPUACA8 4000 0280h, MMPU.MMPUACA9 4000 0290h, MMPU.MMPUACA10 4000 02A0h, MMPU.MMPUACA11 4000 02B0h, MMPU.MMPUACA12 4000 02C0h, MMPU.MMPUACA13 4000 02D0h, MMPU.MMPUACA14 4000 02E0h, MMPU.MMPUACA15 4000 02F0h, MMPU.MMPUACA16 4000 0300h, MMPU.MMPUACA17 4000 0310h, MMPU.MMPUACA18 4000 0320h, MMPU.MMPUACA19 4000 0330h, MMPU.MMPUACA20 4000 0340h, MMPU.MMPUACA21 4000 0350h, MMPU.MMPUACA22 4000 0360h, MMPU.MMPUACA23 4000 0370h, MMPU.MMPUACA24 4000 0380h, MMPU.MMPUACA25 4000 0390h, MMPU.MMPUACA26 4000 03A0h, MMPU.MMPUACA27 4000 03B0h, MMPU.MMPUACA28 4000 03C0h, MMPU.MMPUACA29 4000 03D0h, MMPU.MMPUACA30 4000 03E0h, MMPU.MMPUACA31 4000 03F0h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	WP	RP	ENABLE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ENABLE	領域有効	0：グループA領域nユニットは無効 1：グループA領域nユニットは有効	R/W
b1	RP	読み出し保護	0：リードアクセスを許可 1：リードアクセスを保護	R/W
b2	WP	書き込み保護	0：ライトアクセスを許可 1：ライトアクセスを保護	R/W
b15-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

ENABLEビット、RPビット、およびWPビットは、グループA領域nユニットごとに個別に設定が可能です。

ENABLEビット（領域有効）

グループA領域nユニットを有効または無効にします。ENABLEビットを1にした場合、MMPUSAnレジスタとMMPUEAnレジスタに設定した領域へのアクセスを、RPビットとWPビットの設定によって許可または保護することが可能です。ENABLEビットを0にした場合、グループA領域nのアクセスに対して領域は指定されません。

RPビット（読み出し保護）

グループA領域nの読み出し保護を有効または無効にします。ENABLEビットを1にした場合にRPビットを使用できます。

WPビット（書き込み保護）

グループA領域nの書き込み保護を有効または無効にします。ENABLEビットを1にした場合にWPビットを使用できます。

MMPUACAn レジスタで設定した領域にアクセスした際に、グループ A 領域 n ユニットから出力される情報の対応を表 16.5 に示します。

表 16.5　領域制御回路の機能

MMPUACAn.ENABLE（注1）	MMPUACAn.RP（注1）	MMPUACAn.WP（注1）	アクセス	領域	グループA領域nユニットの出力（注1）
0	—	—	リード	—	領域外
			ライト	—	領域外
1	0	0	リード	内部	許可領域
				外部	領域外
			ライト	内部	許可領域
				外部	領域外
	0	1	リード	内部	許可領域
				外部	領域外
			ライト	内部	保護領域
				外部	領域外
	1	0	リード	内部	保護領域
				外部	領域外
			ライト	内部	許可領域
				外部	領域外
	1	1	リード	内部	保護領域
				外部	領域外
			ライト	内部	保護領域
				外部	領域外

注 1.　n = 0 ～ 31

表 16.6　マスタ制御回路の機能

MMPUCTLA.ENABLE	グループA領域0ユニットの出力	グループA領域1ユニットの出力	グループA領域2～31ユニットの出力	グループAの機能
1	保護領域	Don’t care	Don’t care	エラー発生
1	Don’t care	保護領域	Don’t care	エラー発生
1	Don’t care	Don’t care	保護領域	エラー発生
1	領域外	領域外	領域外	エラー発生
その他の場合				エラーなし

マスタ MPU エラーは下記の条件で発生します。

- MMPUCTLA.ENABLE = 1 で、かつ 1 つ以上の領域 n ユニットの出力が保護領域の場合
- MMPUCTLA.ENABLE = 1 で、かつすべての領域 n ユニットの出力が領域外の場合

その他の場合は許可領域として処理されます。

16.4.1.4　バスマスタ MPU コントロールレジスタ（MMPUCTLA）

アドレス　MMPU.MMPUCTLA 4000 0000h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	KEY[7:0]								—	—	—	—	—	—	OAD	ENABLE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ENABLE	マスタグループ有効	0：マスタグループAは無効 1：マスタグループAは有効	R/W
b1	OAD	検出後の動作	0：ノンマスカブル割り込み 1：リセット	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15-b8	KEY[7:0]	キーコード	OADビットとENABLEビットへの書き込みを許可または禁止します。	R/(W) （注1）

注 1.　書き込みデータは保持されません。

ENABLE ビット（マスタグループ有効）

マスタグループ A のバスマスタ MPU 機能を有効または無効にします。本ビットが 1 になっていれば、MMPUACAn が利用可能です。本ビットを 0 にすると、すべての領域の許可領域を含めて、MMPUACAn レジスタが使用できなくなります。ENABLE ビットへ書き込む際は、同時にハーフワードアクセスによって KEY[7:0] ビットに A5h を書き込んでください。

OAD ビット（検出後の動作）

バスマスタ MPU によって保護領域へのアクセスが検出されたとき、リセットまたはノンマスカブル割り込みのどちらを発生させるか選択します。OAD ビットへ書き込む際は、同時にハーフワードアクセスによって KEY[7:0] ビットに A5h を書き込んでください。

KEY[7:0] ビット（キーコード）

ENABLE ビットと OAD ビットへの書き込みを許可または禁止します。ENABLE ビットと OAD ビットへ書き込む際は、同時に KEY[7:0] ビットに A5h を書き込んでください。これ以外の値を書き込むと、ENABLE ビットと OAD ビットは更新されません。KEY[7:0] ビットは読むと常に 00h が読み出されます。

16.4.1.5　グループ A レジスタ保護（MMPUPTA）

アドレス　MMPU.MMPUPTA 4000 0102h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	KEY[7:0]								—	—	—	—	—	—	—	PROTECT
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PROTECT	レジスタの保護	0：全バスマスタMPUグループAレジスタの書き込みを許可 1：全バスマスタMPUグループAレジスタの書き込みを保護（読み出しは可能）	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15-b8	KEY[7:0]	キーコード	PROTECTビットへの書き込みを許可または禁止します。	R/(W)（注1）

注 1.　書き込みデータは保持されません。

PROTECT ビット（レジスタの保護）

保護するレジスタへの書き込みを許可または禁止します。

MMPUPTA.PROTECT ビットは、バスマスタ MPU グループ A 保護レジスタを制御します。下記のレジスタが MMPUPTA.PROTECT ビットで保護されます。

- MMPUSAn
- MMPUEAn
- MMPUACAn
- MMPUCTLA

PROTECT ビットへ書き込む際は、ハーフワードアクセスを使用して同時に KEY[7:0] ビットに A5h を書き込んでください。

KEY[7:0] ビット（キーコード）

PROTECT ビットへの書き込みを許可または禁止します。PROTECT ビットへ書き込む際は、同時に KEY[7:0] ビットに A5h を書き込んでください。これ以外の値を書き込むと、PROTECT ビットは更新されません。KEY[7:0] ビットは読むと常に 00h が読み出されます。

16.4.2　動作説明

16.4.2.1　メモリプロテクション

バスマスタ MPU は、アクセス制御領域に対して個別に設定された制御情報を用いてメモリアクセスを監視します。保護領域に対するアクセスが検出されると、バスマスタ MPU はメモリプロテクションエラーを発生させます。

バスマスタ MPU は、最大 32 の保護領域に対して設定することが可能です。保護領域には、許可領域と保護領域のオーバーラップした領域と、2 つの許可領域のオーバーラップした領域が含まれます。

バスマスタ MPU にはグループ A があります。メモリプロテクション機能は、統合したマスタグループに対してバスのアドレスをチェックするため、マスタグループによる全アクセスが保護されます。バスマスタ MPU は、リセット後、すべての領域を許可に設定します。MMPUCTLA.ENABLE ビットを 1 にすることで、すべての領域が保護されます。領域ごとに、許可領域が保護領域の内部に設定されます。保護領域に対するアクセスが検出されると、バスマスタ MPU はエラーを発生させます。

図 16.5 に、バスマスタ MPU の使用例を示します。

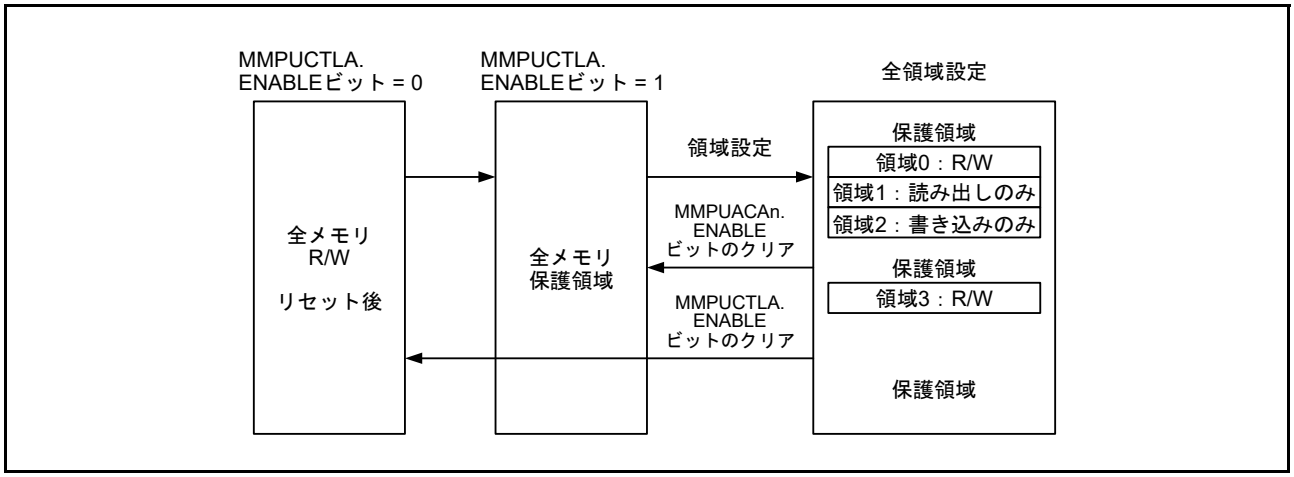


図 16.5　バスマスタ MPU の使用例

図 16.6 に、バスマスタ MPU のオーバーラップ領域に対するアクセスの許可または保護について示します。オーバーラップ領域に対するアクセス制御は以下のとおりです。

- 1 つ以上の領域ユニットの出力が保護領域の場合、領域は保護領域として処理される
- すべての領域ユニットの出力が領域外の場合、領域は保護領域として処理される
- その他の場合は許可領域として処理される

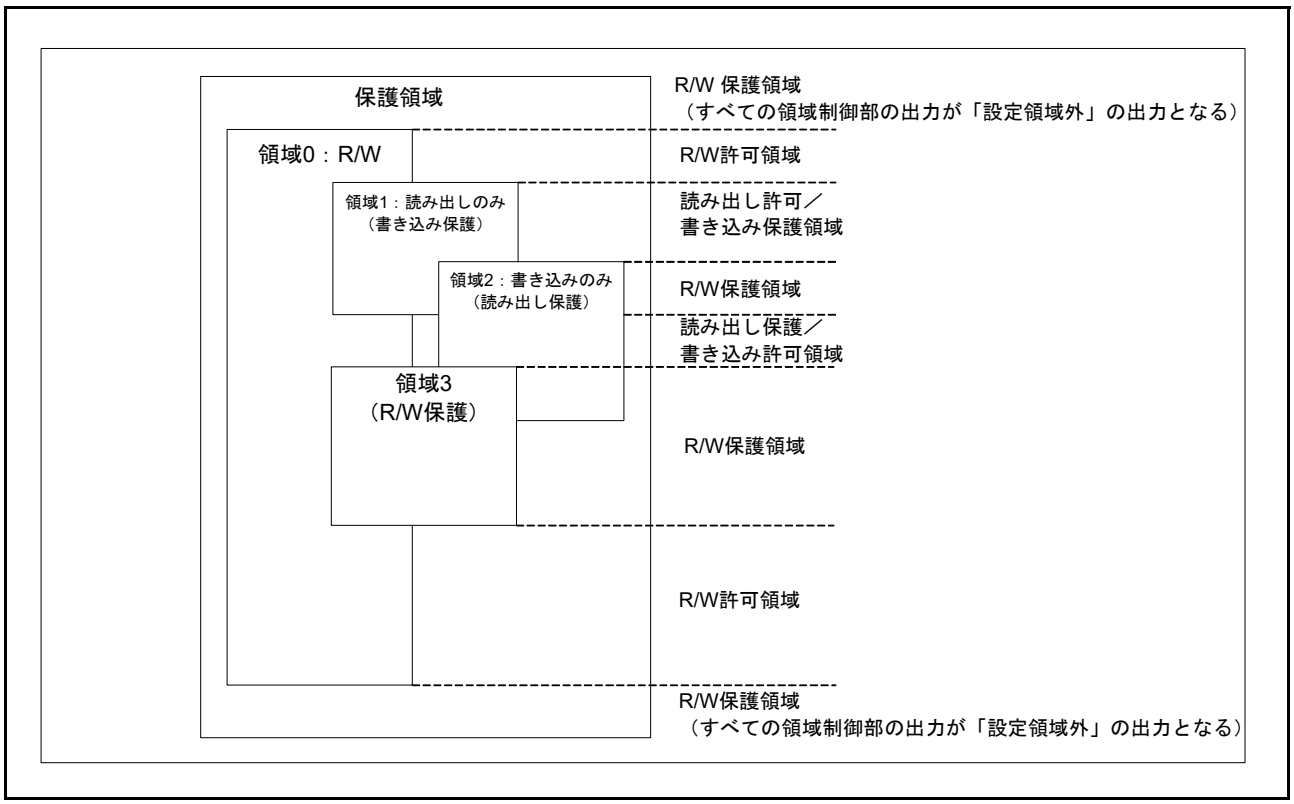


図 16.6　バスマスタ MPU 領域のオーバーラップによるアクセスの許可または保護

図 16.7 に、リセット後のレジスタ設定フローを示します。このレジスタ設定中は、CPU を除く全マスタを停止してください。

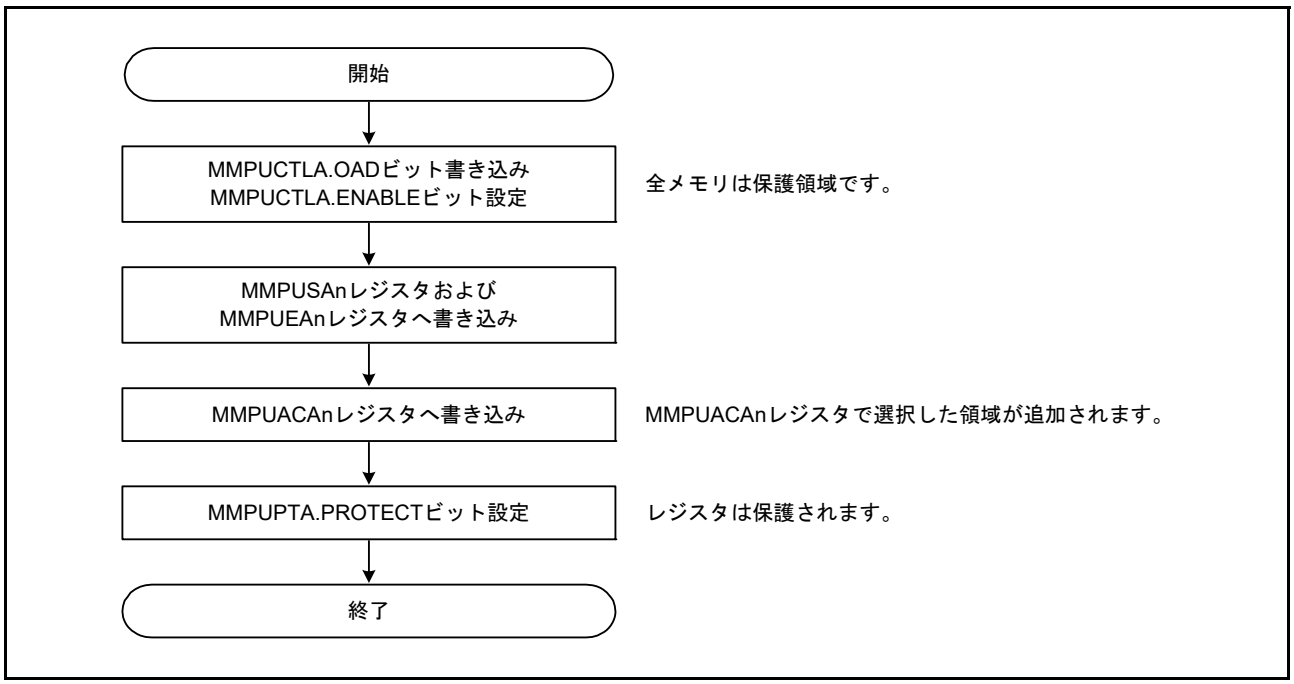


図 16.7 リセット後のレジスタ設定フロー

図 16.8 に、領域を追加するためのレジスタ設定フローを示します。このレジスタ設定中は、CPU を除く全マスタを停止してください。

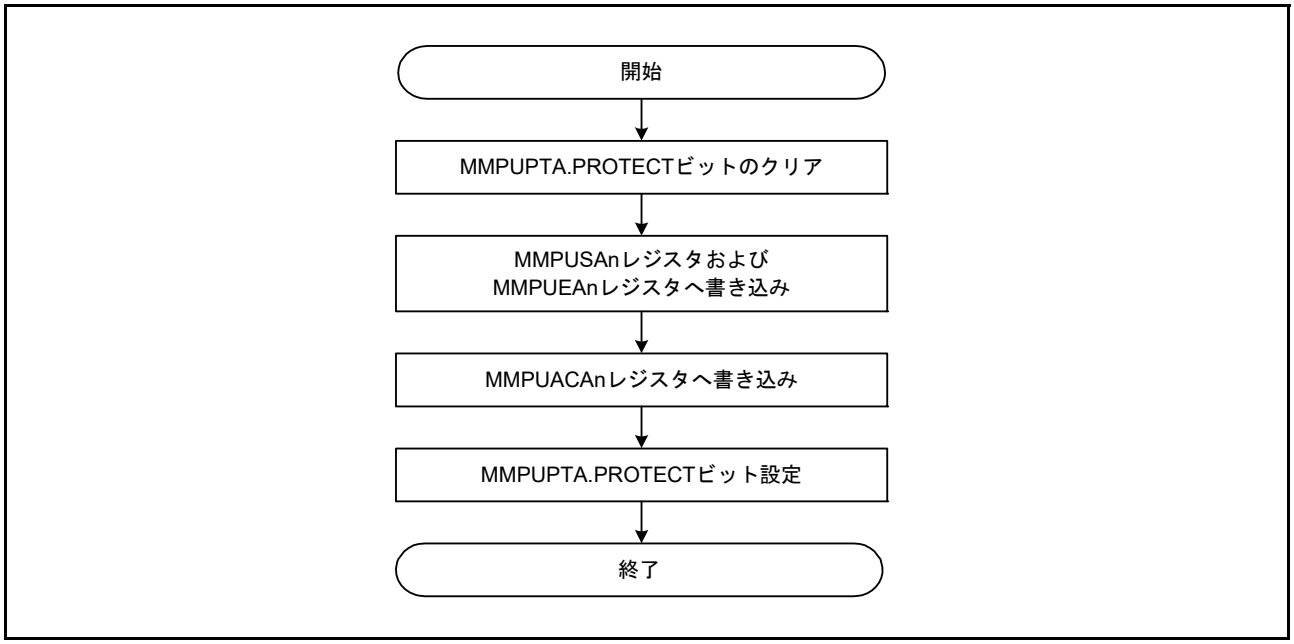


図 16.8 領域追加のレジスタ設定フロー

16.4.2.2 レジスタの保護

バスマスタ MPU 関連のレジスタを保護するには、MMPUPTA レジスタの PROTECT ビットを設定します。

16.4.2.3 メモリプロテクションエラー

保護領域に対するアクセスが検出されると、バスマスタ MPU はエラーを発生させます。OAD ビットを設定して、このエラーをノンマスカブル割り込みとリセットのどちらで通知するか選択します。ノンマスカブル割り込み状態は ICU.NMISR.BUSMST フラグに示されます。詳細は、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。リセット状態は SYSTEM.RSTSR1.BUSMRF フラグに示されます。詳細は、「6. リセット」を参照してください。

16.5　バススレーブ MPU

バススレーブ MPU は、フラッシュや SRAM などのバススレーブ機能に対するアクセスを監視します。この機能は、2 つのバスマスタ（CPU、バスマスタ MPU グループ A）からアクセスできます。バススレーブ MPU は、これら 2 つのバスマスタごとに独立したプロテクトレジスタを備えており、それぞれ個別に読み出し許可と書き込み許可からなるアクセス保護が可能です。保護領域に対するアクセスが検出されると、バススレーブ MPU はリセットまたはノンマスカブル割り込みを発生させ、バスエラーアドレス、バスエラー状態、およびエラーアクセス状態を記録します。詳細は「15.　バス」の 15.3.9 および 15.3.10 を参照してください。

表 16.7 にバススレーブ MPU の仕様を、図 16.9 にブロック図を示します。

表 16.7　　バススレーブMPU仕様

項目	内容
保護されるバスマスタ	バスマスタ MPU グループ A：DMA バス
保護されるスレーブ機能	• メモリバス 3：コードフラッシュメモリ、SRAMHS • メモリバス 4：SRAM0 • メモリバス 5：スタンバイ SRAM • 内部周辺バス 1：周辺モジュール（DTC、DMAC、割り込みコントローラ、フラッシュレジスタ、MPU、CSC、SRAM レジスタ、システムコントローラ、およびバスコントローラ）に接続 • 内部周辺バス 3、4、5：その他の周辺モジュールに接続 • 内部周辺バス 7：セキュア IP（SCE7）に接続 • 内部周辺バス 9：フラッシュメモリ（P/E 時）、データフラッシュメモリ、および TSN • EXBIU：外部メモリインタフェース（CSC） • EXBIU2：外部デバイスインタフェース（QSPI）
各領域のアクセス制御設定	読み出し許可と書き込み許可
エラー検出時の動作	リセット、ノンマスカブル割り込み、または例外
レジスタの保護	レジスタに対する不正書き込みの防止が可能

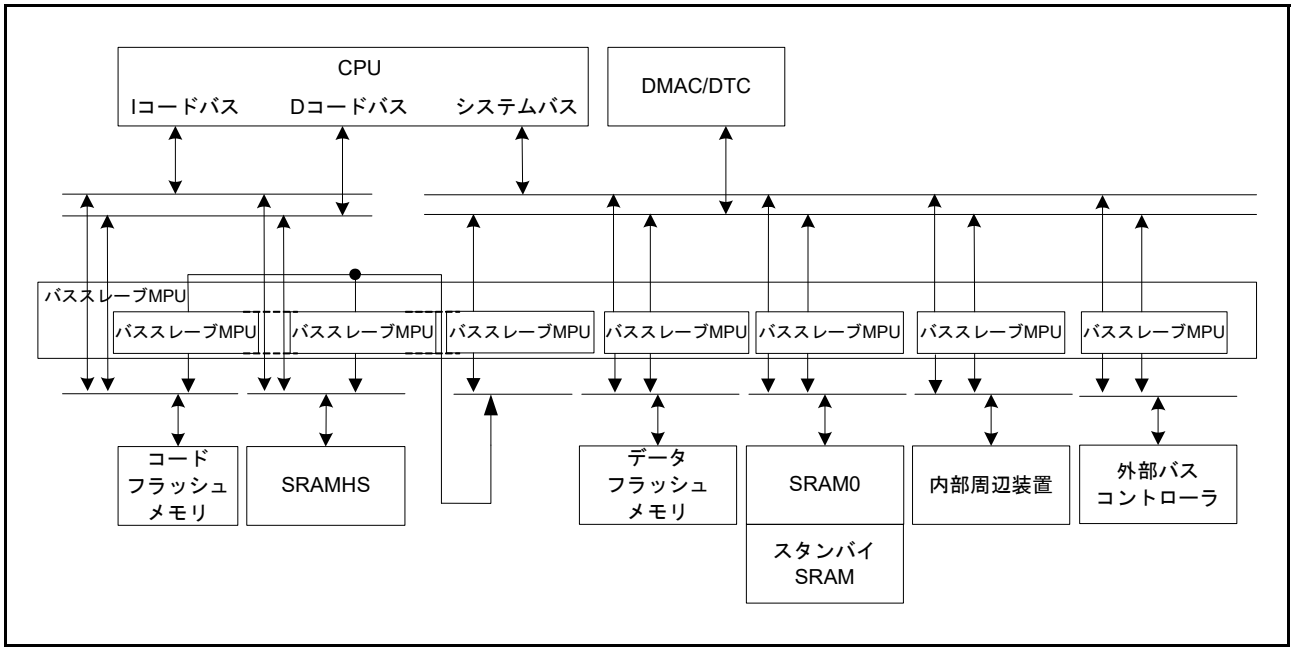


図 16.9　　バススレーブ MPU ブロック図

16.5.1　レジスタの説明

注 .　MPU レジスタに書き込みを行う前に、バスアクセスを停止する必要があります。

16.5.1.1　メモリバス 3 アクセスコントロールレジスタ（SMPUMBIU）

アドレス　SMPU.SMPUMBIU 4000 0C10h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	WPSRAMHS	RPSRAMHS	WPFLI	RPFLI	—	—	—	—	—	—	—	—	WPGRPA	RPGRPA	—	—
リセット後の値	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b2	RPGRPA	マスタグループA読み出し保護	0：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b3	WPGRPA	マスタグループA書き込み保護	0：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b11-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b12	RPFLI	コードフラッシュメモリ読み出し保護	0：マスタグループAからのコードフラッシュメモリ読み出しのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループAからのコードフラッシュメモリ読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b13	WPFLI	コードフラッシュメモリ書き込み保護	0：マスタグループAからのコードフラッシュメモリ書き込みのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループAからのコードフラッシュメモリ書き込みのメモリプロテクションは有効 読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b14	RPSRAMHS	SRAMHS読み出し保護	0：マスタグループAからのSRAMHS読み出しのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループAからのSRAMHS読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b15	WPSRAMHS	SRAMHS書き込み保護	0：マスタグループAからのSRAMHS書き込みのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループAからのSRAMHS書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W

SMPUMBIU レジスタは、マスタグループ A からコードフラッシュメモリと SRAMHS へのアクセスに対して、指定したマスタおよびスレーブのメモリプロテクションを有効にします。

RPGRPA ビット（マスタグループ A 読み出し保護）

メモリバス 3 でのマスタグループ A による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPGRPA ビット（マスタグループ A 書き込み保護）

メモリバス 3 でのマスタグループ A による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

RPFLI ビット（コードフラッシュメモリ読み出し保護）

コードフラッシュメモリでのマスタグループ A による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPFLI ビット（コードフラッシュメモリ書き込み保護）

コードフラッシュメモリでのマスタグループ A による書き込みに対してメモリプロテクションを有効にします。

RPSRAMHS ビット（SRAMHS 読み出し保護）

SRAMHS でのマスタグループ A による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPSRAMHS ビット（SRAMHS 書き込み保護）

SRAMHS でのマスタグループ A による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

16.5.1.2 内部周辺バス 9 アクセスコントロールレジスタ（SMPUFBIU）

アドレス SMPU.SMPUFBIU 4000 0C14h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	WPGRPA	RPGRPA	WPCPU	RPCPU
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RPCPU	CPU読み出し保護	0：CPU読み出しのメモリプロテクションは無効 1：CPU読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b1	WPCPU	CPU書き込み保護	0：CPU書き込みのメモリプロテクションは無効 1：CPU書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b2	RPGRPA	マスタグループA読み出し保護	0：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b3	WPGRPA	マスタグループA書き込み保護	0：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b15-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

RPCPU ビット（CPU 読み出し保護）

内部周辺バス 9 での CPU による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPCPU ビット（CPU 書き込み保護）

内部周辺バス 9 での CPU による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

RPGRPA ビット（マスタグループ A 読み出し保護）

内部周辺バス 9 でのマスタグループ A による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPGRPA ビット（マスタグループ A 書き込み保護）

内部周辺バス 9 でのマスタグループ A による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

16.5.1.3　メモリバス 4 アクセスコントロールレジスタ（SMPUSRAM0）

アドレス　SMPU.SMPUSRAM0 4000 0C18h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	WPGRPA	RPGRPA	WPCPU	RPCPU
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RPCPU	CPU読み出し保護	0：CPU読み出しのメモリプロテクションは無効 1：CPU読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b1	WPCPU	CPU書き込み保護	0：CPU書き込みのメモリプロテクションは無効 1：CPU書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b2	RPGRPA	マスタグループA読み出し保護	0：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b3	WPGRPA	マスタグループA書き込み保護	0：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b15-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

RPCPU ビット（CPU 読み出し保護）

メモリバス 4 での CPU による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPCPU ビット（CPU 書き込み保護）

メモリバス 4 での CPU による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

RPGRPA ビット（マスタグループ A 読み出し保護）

メモリバス 4 でのマスタグループ A による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPGRPA ビット（マスタグループ A 書き込み保護）

メモリバス 4 でのマスタグループ A による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

16.5.1.4　メモリバス 5 アクセスコントロールレジスタ（SMPUSRAM1）

アドレス　SMPU.SMPUSRAM1 4000 0C1Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	WPGRPA	RPGRPA	WPCPU	RPCPU
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RPCPU	CPU読み出し保護	0：CPU読み出しのメモリプロテクションは無効 1：CPU読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b1	WPCPU	CPU書き込み保護	0：CPU書き込みのメモリプロテクションは無効 1：CPU書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b2	RPGRPA	マスタグループA読み出し保護	0：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b3	WPGRPA	マスタグループA書き込み保護	0：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b15-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

RPCPU ビット（CPU 読み出し保護）

メモリバス 5 での CPU による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPCPU ビット（CPU 書き込み保護）

メモリバス 5 での CPU による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

RPGRPA ビット（マスタグループ A 読み出し保護）

メモリバス 5 でのマスタグループ A による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPGRPA ビット（マスタグループ A 書き込み保護）

メモリバス 5 でのマスタグループ A による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

16.5.1.5　内部周辺バス 1 アクセスコントロールレジスタ（SMPUP0BIU）

アドレス　SMPU.SMPUP0BIU 4000 0C20h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	WPGRPA	RPGRPA	WPCPU	RPCPU
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RPCPU	CPU読み出し保護	0：CPU読み出しのメモリプロテクションは無効 1：CPU読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b1	WPCPU	CPU書き込み保護	0：CPU書き込みのメモリプロテクションは無効 1：CPU書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b2	RPGRPA	マスタグループA読み出し保護	0：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b3	WPGRPA	マスタグループA書き込み保護	0：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b5-b4	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b15-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

RPCPU ビット（CPU 読み出し保護）

内部周辺バス 1 での CPU による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPCPU ビット（CPU 書き込み保護）

内部周辺バス 1 での CPU による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

RPGRPA ビット（マスタグループ A 読み出し保護）

内部周辺バス 1 でのマスタグループ A による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPGRPA ビット（マスタグループ A 書き込み保護）

内部周辺バス 1 でのマスタグループ A による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

16.5.1.6　内部周辺バス 3 アクセスコントロールレジスタ（SMPUP2BIU）

アドレス　SMPU.SMPUP2BIU 4000 0C24h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	WPGRPA	RPGRPA	WPCPU	RPCPU
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RPCPU	CPU読み出し保護	0：CPU読み出しのメモリプロテクションは無効 1：CPU読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b1	WPCPU	CPU書き込み保護	0：CPU書き込みのメモリプロテクションは無効 1：CPU書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b2	RPGRPA	マスタグループA読み出し保護	0：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b3	WPGRPA	マスタグループA書き込み保護	0：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b5-b4	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b15-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

RPCPU ビット（CPU 読み出し保護）

内部周辺バス 3、4、5 での CPU による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPCPU ビット（CPU 書き込み保護）

内部周辺バス 3、4、5 での CPU による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

RPGRPA ビット（マスタグループ A 読み出し保護）

内部周辺バス 3、4、5 でのマスタグループ A による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPGRPA ビット（マスタグループ A 書き込み保護）

内部周辺バス 3、4、5 でのマスタグループ A による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

16.5.1.7　内部周辺バス 7 アクセスコントロールレジスタ（SMPUP6BIU）

アドレス　SMPU.SMPUP6BIU 4000 0C28h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	WPGRPA	RPGRPA	WPCPU	RPCPU
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RPCPU	CPU読み出し保護	0：CPU読み出しのメモリプロテクションは無効 1：CPU読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b1	WPCPU	CPU書き込み保護	0：CPU書き込みのメモリプロテクションは無効 1：CPU書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b2	RPGRPA	マスタグループA読み出し保護	0：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b3	WPGRPA	マスタグループA書き込み保護	0：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b5-b4	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b15-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

RPCPU ビット（CPU 読み出し保護）

内部周辺バス 7 での CPU による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPCPU ビット（CPU 書き込み保護）

内部周辺バス 7 での CPU による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

RPGRPA ビット（マスタグループ A 読み出し保護）

内部周辺バス 7 でのマスタグループ A による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPGRPA ビット（マスタグループ A 書き込み保護）

内部周辺バス 7 でのマスタグループ A による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

16.5.1.8　CS 領域アクセスコントロールレジスタ（SMPUEXBIU）

アドレス　SMPU.SMPUEXBIU 4000 0C30h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	WPGRPA	RPGRPA	WPCPU	RPCPU
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RPCPU	CPU読み出し保護	0：CPU読み出しのメモリプロテクションは無効 1：CPU読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b1	WPCPU	CPU書き込み保護	0：CPU書き込みのメモリプロテクションは無効 1：CPU書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b2	RPGRPA	マスタグループA読み出し保護	0：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b3	WPGRPA	マスタグループA書き込み保護	0：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b15-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

RPCPU ビット（CPU 読み出し保護）

CS 領域での CPU による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPCPU ビット（CPU 書き込み保護）

CS 領域での CPU による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

RPGRPA ビット（マスタグループ A 読み出し保護）

CS 領域でのマスタグループ A による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPGRPA ビット（マスタグループ A 書き込み保護）

CS 領域でのマスタグループ A による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

16.5.1.9　QSPI 領域アクセスコントロールレジスタ（SMPUEXBIU2）

アドレス　SMPU.SMPUEXBIU2 4000 0C34h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	WPGRPA	RPGRPA	WPCPU	RPCPU
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RPCPU	CPU読み出し保護	0：CPU読み出しのメモリプロテクションは無効 1：CPU読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b1	WPCPU	CPU書き込み保護	0：CPU書き込みのメモリプロテクションは無効 1：CPU書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b2	RPGRPA	マスタグループA読み出し保護	0：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA読み出しのメモリプロテクションは有効	R/W
b3	WPGRPA	マスタグループA書き込み保護	0：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは無効 1：マスタグループA書き込みのメモリプロテクションは有効	R/W
b15-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

RPCPU ビット（CPU 読み出し保護）

QSPI 領域での CPU による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPCPU ビット（CPU 書き込み保護）

QSPI 領域での CPU による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

RPGRPA ビット（マスタグループ A 読み出し保護）

QSPI 領域でのマスタグループ A による読み出しに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

WPGRPA ビット（マスタグループ A 書き込み保護）

QSPI 領域でのマスタグループ A による書き込みに対してメモリプロテクションを有効または無効にします。

16.5.1.10　スレーブ MPU コントロールレジスタ（SMPUCTL）

アドレス　SMPU.SMPUCTL 4000 0C00h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	KEY[7:0]								—	—	—	—	—	—	PROTECT	OAD
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	OAD	検出後の動作	0：ノンマスカブル割り込み 1：リセット	R/W
b1	PROTECT	レジスタの保護	0：全バススレーブMPUレジスタの書き込みを許可 1：全バススレーブMPUレジスタの書き込みを保護（読み出しは許可）	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15-b8	KEY[7:0]	キーコード	OADビットとPROTECTビットへの書き込みを許可または禁止します。	R/(W) （注1）

注 1.　書き込みデータは保持されません。

OAD ビット（検出後の動作）

バススレーブ MPU によって保護領域へのアクセスが検出されたとき、リセットまたはノンマスカブル割り込みのどちらを発生させるか選択します。OAD ビットへ書き込む際は、ハーフワードアクセスを使用して同時に KEY[7:0] ビットに A5h を書き込んでください。

PROTECT ビット（レジスタの保護）

保護するレジスタへの書き込みを許可または禁止します。SMPUCTL.PROTECT ビットは下記のレジスタを制御します。

- SMPUMBIU
- SMPUFBIU
- SMPUSRAM0
- SMPUSRAM1
- SMPUP0BIU
- SMPUP2BIU
- SMPUP6BIU
- SMPUEXBIU
- SMPUEXBIU2

PROTECT ビットへ書き込む際は、ハーフワードアクセスを使用して同時に KEY[7:0] ビットに A5h を書き込んでください。

KEY[7:0] ビット（キーコード）

OAD ビットと PROTECT ビットへの書き込みを許可または禁止します。OAD ビットと PROTECT ビットへ書き込む際は、同時に KEY[7:0] ビットに A5h を書き込んでください。これ以外の値を書き込むと、OAD ビットと PROTECT ビットは更新されません。KEY[7:0] ビットは読むと常に 00h が読み出されます。

16.5.2 動作説明

16.5.2.1 メモリプロテクション

バススレーブ MPU による監視は、各アクセスコントロールレジスタに設定されたアクセス制御情報を使用します。保護領域に対するアクセスが検出されると、バススレーブ MPU はメモリプロテクションエラーを発生させます。

バススレーブ MPU は、アクセスコントロールレジスタ（SMPUMBIU, SMPUFBIU, SMPUSRAM0, SMPUSRAM1, SMPUP0BIU, SMPUP2BIU, SMPUP6BIU, SMPUEXBIU, SMPUEXBIU2）の書き込み保護（WPCPU または WPGRPA）ビットまたは読み出し保護（RPCPU または RPGRPA）ビットを 1 にすることで有効になります。

16.5.2.2 レジスタの保護

バススレーブ MPU 関連のレジスタは、SMPUCTL レジスタの PROTECT ビットで保護することが可能です。

16.5.2.3 メモリプロテクションエラー

保護領域に対するアクセスが検出されると、バススレーブ MPU はメモリプロテクションエラーを発生させます。OAD ビットを設定することで、このエラーをノンマスカブル割り込みとリセットのどちらで通知するか選択できます。

ノンマスカブル割り込み状態は ICU.NMISR.BUSSST フラグに示されます。「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。リセット状態は SYSTEM.RSTSR1.BUSSRF フラグに示されます。「6. リセット」を参照してください。

16.6　セキュリティ MPU

本 MCU には 4 つのセキュア領域を持つセキュリティ MPU が内蔵されており、セキュア領域にはコードフラッシュ、SRAM、および 2 つのセキュリティ機能が含まれます。セキュア領域を、非セキュアプログラムのアクセスから保護することが可能です。非セキュアプログラムから保護領域へのアクセスは許可されていません。

表 16.8 にセキュリティ MPU の仕様を、図 16.10 にセキュリティ MPU のブロック図を示します。

表 16.8　セキュリティ MPUの仕様

項目	内容
セキュア領域	コードフラッシュ、SRAM、2つのセキュリティ機能
保護領域	0000 0000h～FFFF FFFFh
領域数	プログラムカウンタ：2領域 データアクセス：4領域
各領域のアドレス指定	領域の開始アドレスと終了アドレスを設定
各領域のメモリプロテクション有効／無効設定	対応する領域に対し有効／無効を設定

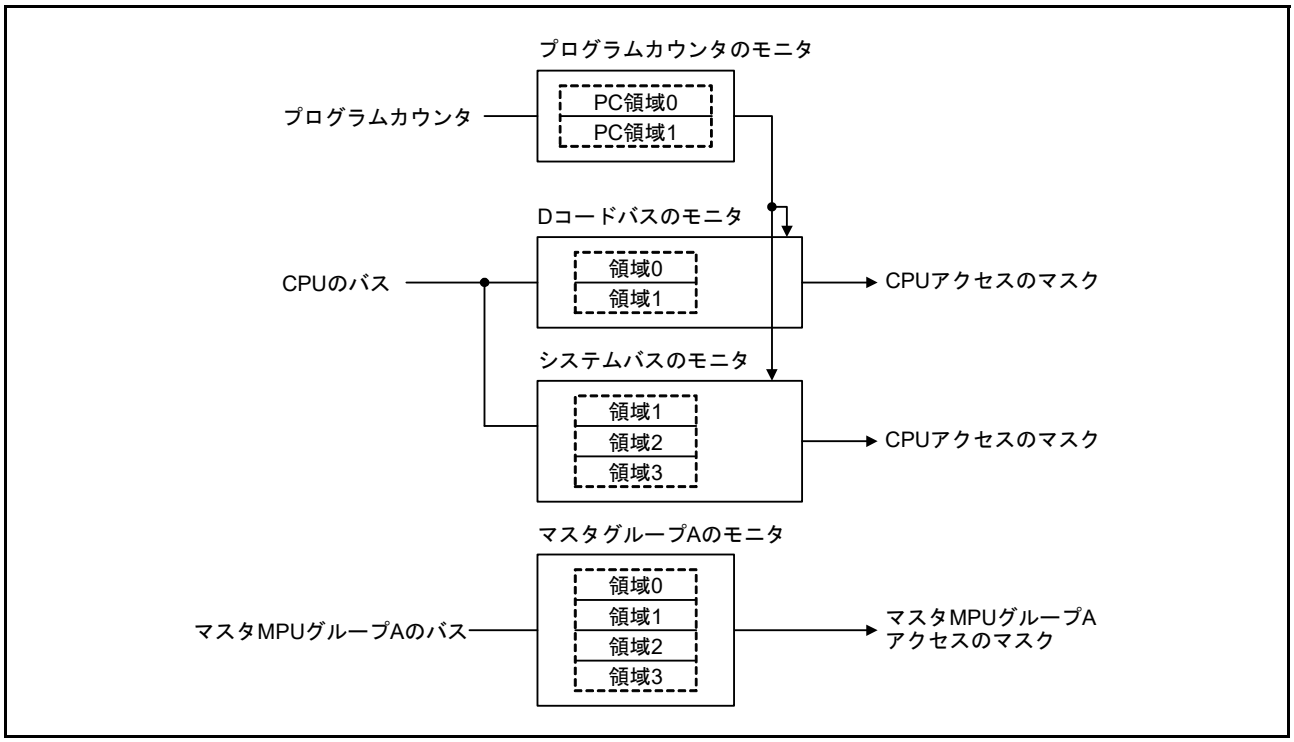


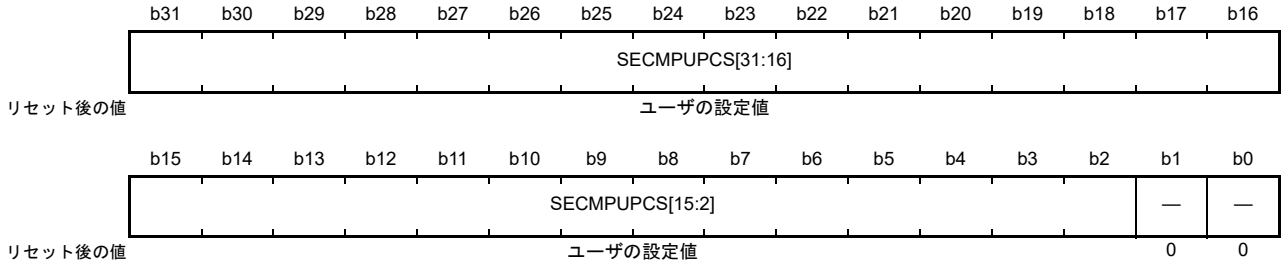
図 16.10　セキュリティ MPU のブロック図

16.6.1　レジスタの説明（オプション設定メモリ）

セキュリティ MPU のすべてのレジスタは、オプション設定メモリです。オプション設定メモリとは、リセット後のマイコン状態の選択に用いられる一連のレジスタを指します。オプション設定メモリはフラッシュに配置されます。

16.6.1.1　セキュリティ MPU プログラムカウンタ開始アドレスレジスタ（SECMPUPCSn）（n = 0, 1）

アドレス　SECMPUPCS0 0000 0408h, SECMPUPCS1 0000 0410h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に0としてください。	R
b31-b2	SECMPUPCS[31:2]	領域開始アドレス	領域判定に使用する領域開始アドレス。	R

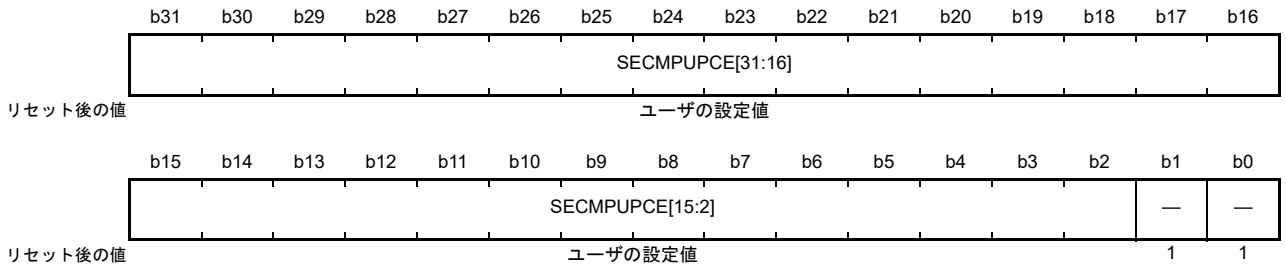
SECMPUPCSn レジスタと SECMPUPCEn レジスタは、コードフラッシュまたは SRAM のセキュリティフェッチ領域（0000 0000h ～ FFFF FFFFh）を指定します。セキュアプログラムは、SECMPUPCSn レジスタおよび SECMPUPCEn レジスタで定義されたメモリ空間で実行され、SECMPUSm レジスタおよび SECMPUEm レジスタ（m = 0 ～ 3）で指定されたセキュアデータにアクセスできます。

SECMPUPCSn レジスタは、領域開始位置のアドレスを指定します。MMF のメモリミラー空間（0200 0000h ～ 027F FFFFh）に設定することは禁止されています。

非セキュアプログラムの最後の命令とセキュアプログラムの最初の命令の間には 12 バイトより大きなアドレス空間が必要です。

16.6.1.2 セキュリティ MPU プログラムカウンタ終了アドレスレジスタ（SECMPUPCEn）（n = 0, 1）

アドレス SECMPUPCE0 0000 040Ch, SECMPUPCE1 0000 0414h



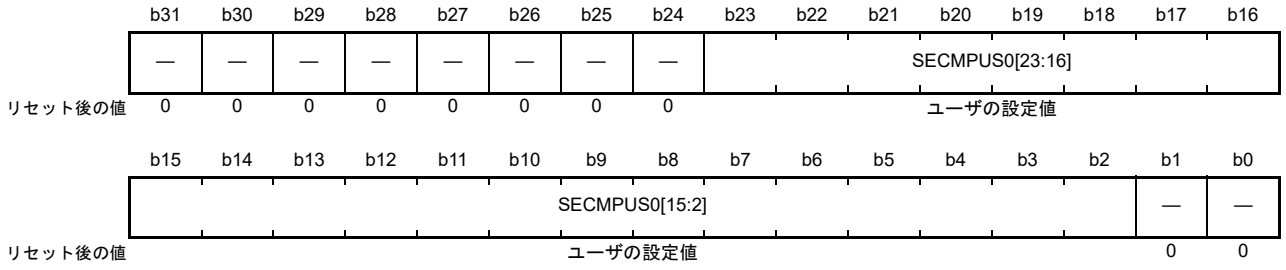
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと1が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に1としてください。	R
b31-b2	SECMPUPCE[31:2]	領域終了アドレス	領域判定に使用する領域終了アドレス	R

SECMPUPCSn レジスタと SECMPUPCEn レジスタは、コードフラッシュまたは SRAM のセキュリティフェッチ領域（0000 0000h ～ FFFF FFFFh）を指定します。

SECMPUPCEn レジスタは、領域終了位置のアドレスを指定します。

16.6.1.3 セキュリティ MPU 領域 0 開始アドレスレジスタ（SECMPUS0）

アドレス SECMPUS0 0000 0418h



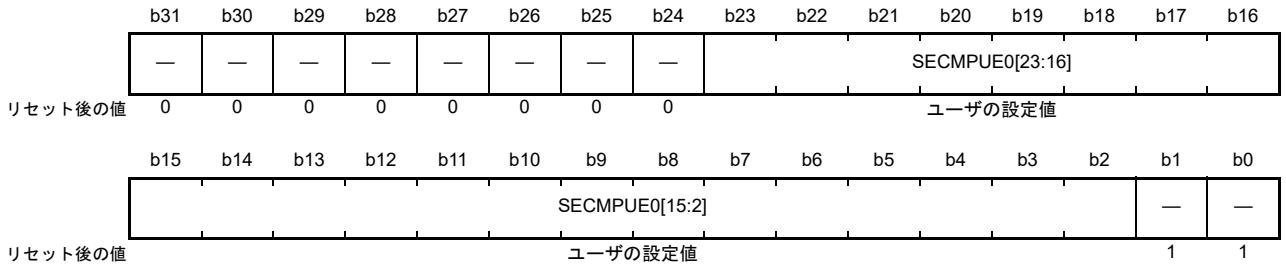
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に0としてください。	R
b23-b2	SECMPUS0[23:2]	領域開始アドレスレジスタ	領域判定に使用する領域開始アドレス。	R
b31-b24	—	予約ビット	読むと0が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に0としてください。	R

SECMPUS0 レジスタと SECMPUE0 レジスタは、フラッシュのセキュア領域（0000 0000 ～ 00FF FFFFh）を指定します。SECMPUS0 レジスタおよび SECMPUE0 レジスタで定義されたメモリ空間は、SECMPUPCSn レジスタおよび SECMPUPCEn レジスタで設定されたセキュアプログラムからのみアクセス可能です。

SECMPUS0 レジスタは、領域開始位置のアドレスを指定します。ベクタテーブル領域の設定は禁止です。

16.6.1.4　セキュリティ MPU 領域 0 終了アドレスレジスタ（SECMPUE0）

アドレス　SECMPUE0 0000 041Ch



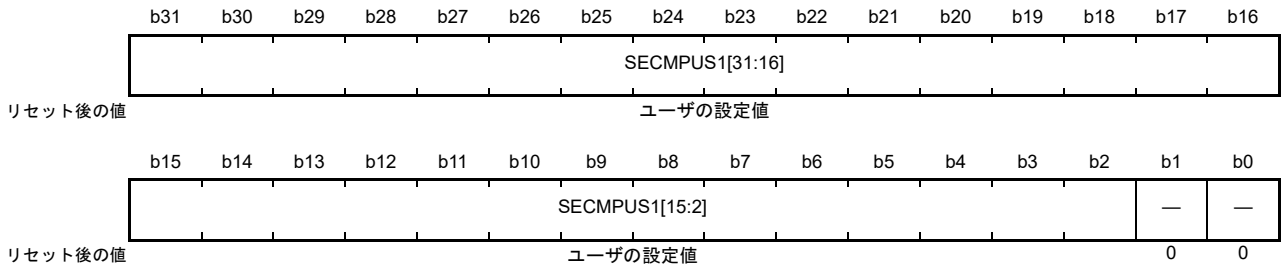
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと1が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に1としてください。	R
b23-b2	SECMPUE0[23:2]	領域終了アドレス	領域判定に使用する領域終了アドレス	R
b31-b24	—	予約ビット	読むと0が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に0としてください。	R

SECMPUS0 レジスタと SECMPUE0 レジスタは、フラッシュのセキュア領域（0000 0000 ～ 00FF FFFFh）を指定します。SECMPUS0 レジスタおよび SECMPUE0 レジスタで定義されたメモリ空間は、SECMPUPCSn レジスタおよび SECMPUPCEn レジスタで設定されたセキュアプログラムからのみアクセス可能です。

SECMPUE0 レジスタは、領域終了位置のアドレスを指定します。

16.6.1.5　セキュリティ MPU 領域 1 開始アドレスレジスタ（SECMPUS1）

アドレス　SECMPUS1 0000 0420h



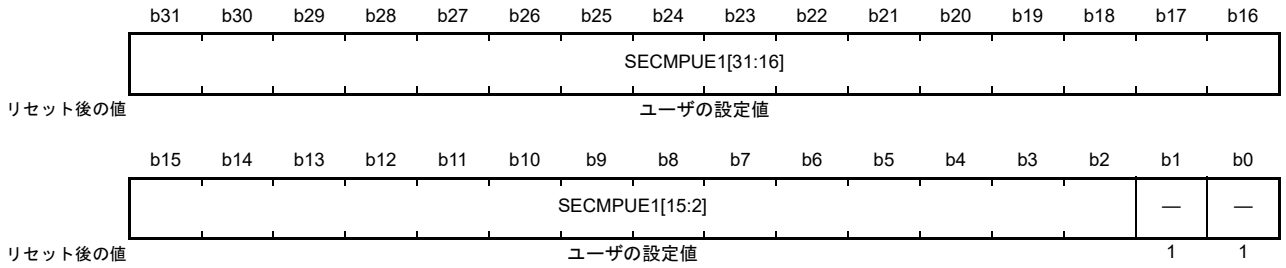
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に0としてください。	R
b19-b2	SECMPUS1[19:2]	領域開始アドレス	領域判定に使用する領域開始アドレス	R
b31-b20	SECMPUS1[31:20]	領域開始アドレス	領域判定に使用する領域開始アドレス。 書く場合、常に1FFhまたは200hとしてください。	R

SECMPUS1 レジスタと SECMPUE1 レジスタは、SRAM のセキュア領域（1FF0 0000h ～ 200F FFFFh）を指定します。SECMPUS1 レジスタおよび SECMPUE1 レジスタで定義されたメモリ空間は、SECMPUPCSn レジスタおよび SECMPUPCEn レジスタで設定されたセキュアプログラムからのみアクセス可能です。

SECMPUS1 レジスタには、領域開始位置のアドレスを指定します。スタック領域およびベクタテーブルの設定は禁止です。

16.6.1.6　セキュリティ MPU 領域 1 終了アドレスレジスタ（SECMPUE1）

アドレス　SECMPUE1 0000 0424h



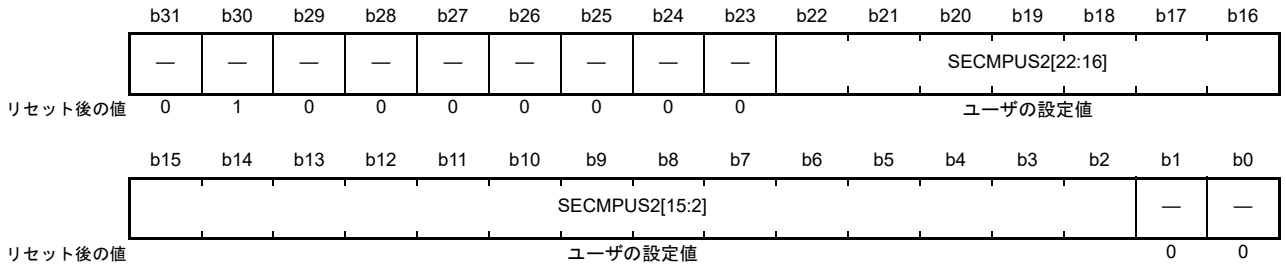
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと1が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に1としてください。	R
b19-b2	SECMPUE1[19:2]	領域終了アドレス	領域判定に使用する領域終了アドレス	R
b31-b20	SECMPUE1[31:20]	領域終了アドレス	領域判定に使用する領域終了アドレス 書く場合、常に1FFhまたは200hとしてください。	R

SECMPUS1 レジスタと SECMPUE1 レジスタは、SRAM のセキュア領域（1FF0 0000h ～ 200F FFFFh）を指定します。SECMPUS1 レジスタおよび SECMPUE1 レジスタに定義されたメモリ空間は、SECMPUPCSn レジスタおよび SECMPUPCEn レジスタで設定されたセキュアプログラムからのみアクセス可能です。

SECMPUE1 レジスタは、領域終了位置のアドレスを指定します。

16.6.1.7　セキュリティ MPU 領域 2 開始アドレスレジスタ（SECMPUS2）

アドレス　SECMPUS2 0000 0428h



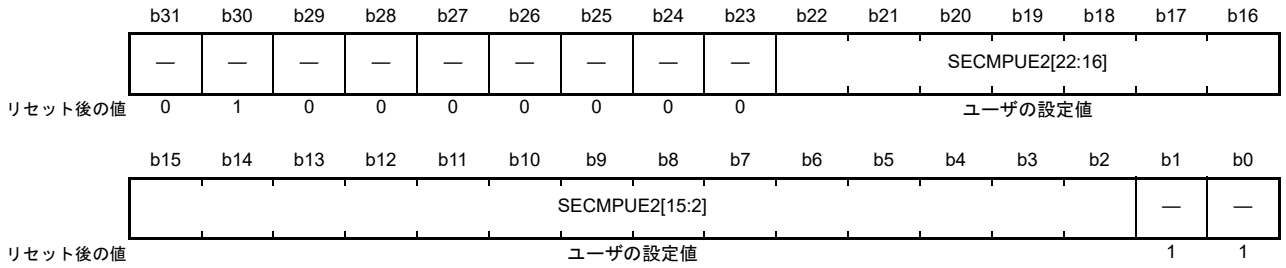
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に0としてください。	R
b22-b2	SECMPUS2[22:2]	領域開始アドレス	領域判定に使用する領域開始アドレス	R
b29-b23	—	予約ビット	読むと0が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に0としてください。	R
b30	—	予約ビット	読むと1が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に1としてください。	R
b31	—	予約ビット	読むと0が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に0としてください。	R

SECMPUS2 レジスタおよび SECMPUE2 レジスタは、セキュリティ機能 1 のセキュア領域（400C 0000h ～ 400D FFFFh および 4010 0000h ～ 407F FFFFh）を指定します。SECMPUS2 レジスタおよび SECMPUE2 レジスタで定義されたメモリ空間は、SECMPUPCSn レジスタおよび SECMPUPCEn レジスタで設定されたセキュアプログラムからのみアクセス可能です。

SECMPUS2 レジスタは、領域開始位置のアドレスを指定します。

16.6.1.8　セキュリティ MPU 領域 2 終了アドレスレジスタ（SECMPUE2）

アドレス　SECMPUE2 0000 042Ch



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと1が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に1としてください。	R
b22-b2	SECMPUE2[22:2]	領域終了アドレス	領域判定に使用する領域終了アドレス	R
b29-b23	—	予約ビット	読むと0が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に0としてください。	R
b30	—	予約ビット	読むと1が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に1としてください。	R
b31	—	予約ビット	読むと0が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に0としてください。	R

SECMPUS2 レジスタおよび SECMPUE2 レジスタは、セキュリティ機能 1 のセキュア領域（400C 0000h ～ 400D FFFFh および 4010 0000h ～ 407F FFFFh）を指定します。SECMPUS2 レジスタおよび SECMPUE2 レジスタで定義されたメモリ空間は、SECMPUPCSn レジスタおよび SECMPUPCEn レジスタで設定されたセキュアプログラムからのみアクセス可能です。

SECMPUE2 レジスタは、領域終了位置のアドレスを指定します。

16.6.1.9　セキュリティ MPU 領域 3 開始アドレスレジスタ（SECMPUS3）

アドレス　SECMPUS3 0000 0430h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SECMPUS3[22:16]						
リセット後の値	0	1	0	0	0	0	0	0	0	ユーザの設定値						

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SECMPUS3[15:2]														—	—
リセット後の値	ユーザの設定値														0	0

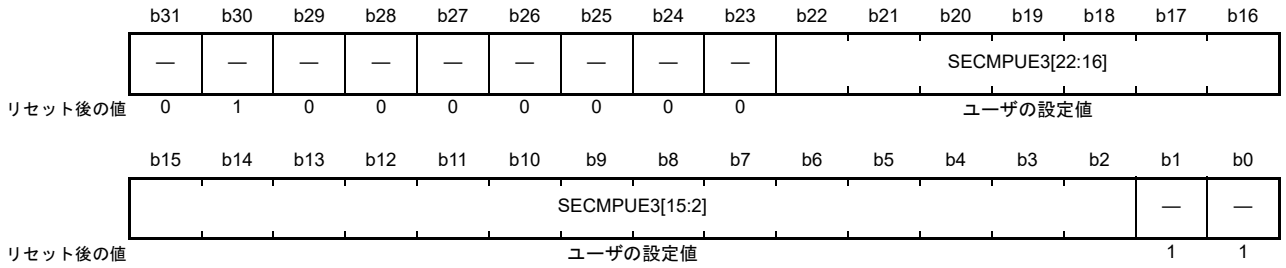
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に0としてください。	R
b22-b2	SECMPUS3[22:2]	領域開始アドレス	領域判定に使用する領域開始アドレス	R
b29-b23	—	予約ビット	読むと0が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に0としてください。	R
b30	—	予約ビット	読むと1が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に1としてください。	R
b31	—	予約ビット	読むと0が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に0としてください。	R

SECMPUS3 レジスタおよび SECMPUE3 レジスタは、セキュリティ機能 2 のセキュア領域（400C 0000h ～ 400D FFFFh および 4010 0000h ～ 407F FFFFh）を指定します。SECMPUS3 レジスタおよび SECMPUE3 レジスタで定義されたメモリ空間は、SECMPUPCSn レジスタおよび SECMPUPCEn レジスタで設定されたセキュアプログラムからのみアクセス可能です。

SECMPUS3 レジスタは、領域開始位置のアドレスを指定します。

16.6.1.10　セキュリティ MPU 領域 3 終了アドレスレジスタ（SECMPUE3）

アドレス　SECMPUE3 0000 0434h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと1が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に1としてください。	R
b22-b2	SECMPUE3[22:2]	領域終了アドレス	領域判定に使用する領域終了アドレス	R
b29-b23	—	予約ビット	読むと0が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に0としてください。	R
b30	—	予約ビット	読むと1が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に1としてください。	R
b31	—	予約ビット	読むと0が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に0としてください。	R

SECMPUS3 レジスタおよび SECMPUE3 レジスタは、セキュリティ機能 2 のセキュア領域（400C 0000h ～ 400D FFFFh および 4010 0000h ～ 407F FFFFh）を指定します。SECMPUS3 レジスタおよび SECMPUE3 レジスタで定義されたメモリ空間は、SECMPUPCSn レジスタおよび SECMPUPCEn レジスタで設定されたセキュアプログラムからのみアクセス可能です。

SECMPUE3 レジスタは、領域終了位置のアドレスを指定します。

16.6.1.11　セキュリティ MPU アクセスコントロールレジスタ（SECMPUAC）

アドレス　SECMPUAC 0000 0438h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	DISPC1	DISPC0	—	—	—	—	DIS3	DIS2	DIS1	DIS0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	ユーザの設定値		1	1	1	1	ユーザの設定値			

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DIS0	領域0無効	0：セキュリティ MPUの領域0は有効 1：セキュリティ MPUの領域0は無効	R
b1	DIS1	領域1無効	0：セキュリティ MPUの領域1は有効 1：セキュリティ MPUの領域1は無効	R
b2	DIS2	領域2無効	0：セキュリティ MPUの領域2は有効 1：セキュリティ MPUの領域2は無効	R
b3	DIS3	領域3無効	0：セキュリティ MPUの領域3は有効 1：セキュリティ MPUの領域3は無効	R
b7-b4	—	予約ビット	読むと1が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に1としてください。	R
b8	DISPC0	PC領域0無効	0：セキュリティ MPUのPC領域0は有効 1：セキュリティ MPUのPC領域0は無効	R
b9	DISPC1	PC領域1無効	0：セキュリティ MPUのPC領域1は有効 1：セキュリティ MPUのPC領域1は無効	R
b15-b10	—	予約ビット	読むと1が読めます。フラッシュに書き込む場合、常に1としてください。	R

注．　フラッシュメモリが消去されると、セキュリティ MPU は無効になります。
注．　セキュリティ MPU を有効または無効にするには、16.6.2　メモリプロテクションを参照してください。

DIS0 ビット（領域 0 無効）

セキュリティ MPU の領域 0 を有効または無効にします。セキュリティ MPU の領域 0 を有効にすると、SECMPUS0 レジスタと SECMPUE0 レジスタで設定した範囲内のコードフラッシュ領域がセキュアデータとなります。

DIS1 ビット（領域 1 無効）

セキュリティ MPU の領域 1 を有効または無効にします。セキュリティ MPU の領域 1 を有効にすると、SECMPUS1 レジスタと SECMPUE1 レジスタで設定した範囲内の SRAM 領域がセキュアデータとなります。

DIS2 ビット（領域 2 無効）

セキュリティ MPU の領域 2 を有効または無効にします。セキュリティ MPU の領域 2 を有効にすると、SECMPUS2 レジスタと SECMPUE2 レジスタで設定した範囲内のセキュリティ機能領域がセキュアデータとなります。

DIS3 ビット（領域 3 無効）

セキュリティ MPU の領域 3 を有効または無効にします。セキュリティ MPU の領域 3 を有効にすると、SECMPUS3 レジスタと SECMPUE3 レジスタで設定した範囲内のセキュリティ機能領域がセキュアデータとなります。

DISPC0 ビット（PC 領域 0 無効）

セキュリティ MPU PC の領域 0 を有効または無効にします。セキュリティ MPU PC の領域 0 を有効にすると、SECMPUPCS0 レジスタと SECMPUPCE0 レジスタで設定した範囲内のコードフラッシュ領域または SRAM 領域がセキュアプログラムで構成されます。

DISPC1 ビット（PC 領域 1 無効）

セキュリティ MPU PC の領域 1 を有効または無効にします。セキュリティ MPU PC の領域 1 を有効にすると、SECMPUPCS1 レジスタと SECMPUPCE1 レジスタで設定した範囲内のコードフラッシュ領域または SRAM 領域がセキュアプログラムで構成されます。

16.6.2 メモリプロテクション

セキュリティ MPU は、非セキュアプログラムからアクセスできないように領域（コードフラッシュ、SRAM、および 2 つのセキュリティ機能の領域）を保護します。保護領域に対するアクセスが検出されると、そのアクセスは無効になります。

セキュリティ MPU が有効の場合、セキュリティ MPU アクセスコントロールレジスタ（SECMPUAC）の DISPC0 ビットまたは DISPC1 ビットを 0 にする必要があります。さらに、セキュリティ MPU アクセスコントロールレジスタ（SECMPUAC）の DIS0、DIS1、DIS2、または DIS3 ビットを 0 にする必要があります。

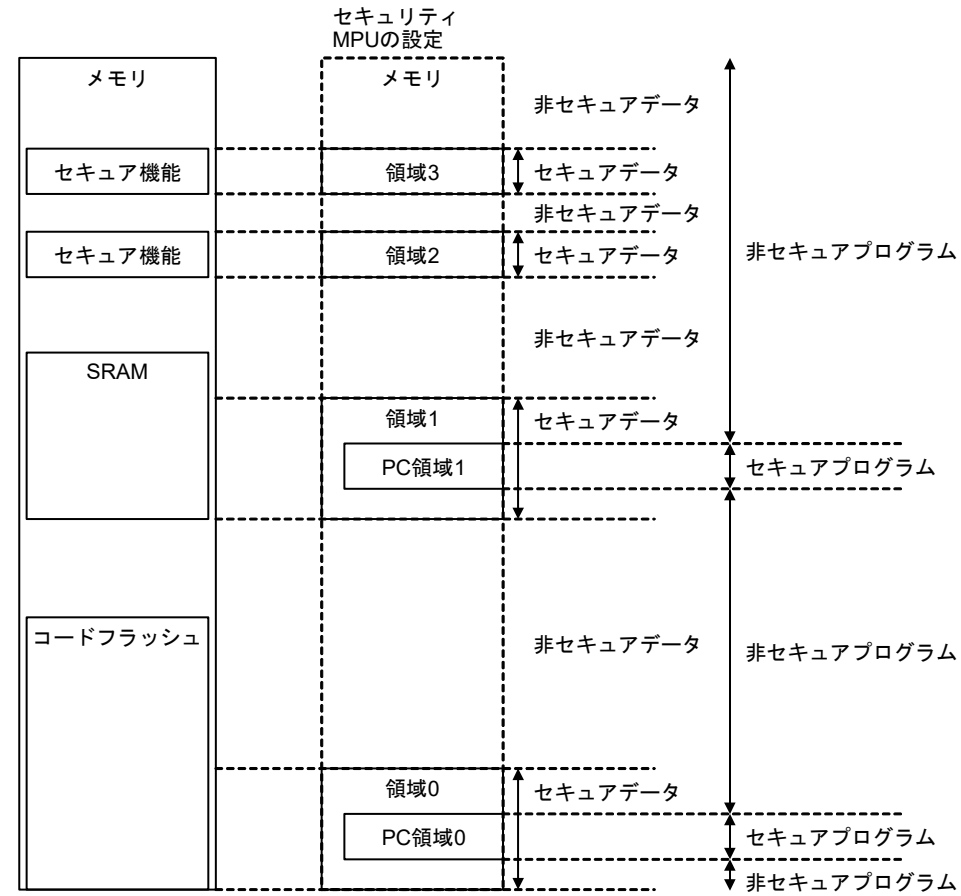
セキュリティ MPU が無効の場合、セキュリティ MPU アクセスコントロールレジスタ（SECMPUAC）の DISPC0、DISPC1、DIS0、DIS1、DIS2、および DIS3 ビットをすべて 1 にする必要があります。セキュリティ MPU アクセスコントロールレジスタ（SECMPUAC）の上記以外の設定は禁止です。

セキュリティ MPU は、以下の条件でアクセス保護を行います。

- セキュアデータが非セキュアプログラムからアクセスされるとき
- セキュアデータが CPU 以外（DMAC、DTC）からアクセスされるとき
- セキュアデータがデバッガからアクセスされるとき

セキュアデータは、セキュアプログラムからのみアクセス可能です。

注 . セキュアプログラム： SECMPUPCS0 レジスタと SECMPUPCE0 レジスタで設定した範囲内にあるコードフラッシュ領域または SRAM 領域
SECMPUPCS1 レジスタと SECMPUPCE1 レジスタで設定した範囲内にあるコードフラッシュ領域または SRAM 領域
非セキュアプログラム： セキュアプログラム領域外の全領域
セキュアデータ： SECMPUS0 レジスタと SECMPUE0 レジスタで設定した範囲内にあるコードフラッシュ領域
SECMPUS1 レジスタと SECMPUE1 レジスタで設定した範囲内にある SRAM 領域
SECMPUS2 レジスタと SECMPUE2 レジスタで設定した範囲内にあるセキュリティ機能領域
SECMPUS3 レジスタと SECMPUE3 レジスタで設定した範囲内にあるセキュリティ機能領域



コードフラッシュ内のセキュアプログラム（PC領域0）はすべてのデータ（セキュアデータおよび非セキュアデータ）へアクセスできます。
SRAM内のセキュアプログラム（PC領域1）はすべてのデータ（セキュアデータおよび非セキュアデータ）へアクセスできます。
非セキュアプログラム（PC領域0もしくはPC領域1以外）はセキュアデータ（領域0、領域1、領域2、領域3）へアクセスできません。
非セキュアプログラム（PC領域0もしくはPC領域1以外）は非セキュアデータへアクセスできます。

図 16.11　セキュリティ MPU の使用例

16.6.3　使用上の注意事項

セキュリティ MPU を有効にすると、保護されたメモリをデバッグできません。セキュアプログラムをデバッグするには、セキュリティ MPU を無効にしてください。

16.7　参考資料

1. *ARM®v7-M Architecture Reference Manual (ARM DDI 0403D)*
2. *ARM® Cortex®-M4 Processor Technical Reference Manual (ARM DDI 0439D)*
3. *ARM® Cortex®-M4 Devices Generic User Guide (ARM DUI 0553A)*

17.　DMA コントローラ（DMAC）

17.1　概要

本 MCU は、8 チャネルの DMA コントローラ（DMAC）を内蔵しており、CPU を介さずにデータ転送が可能です。DMA 転送要求が発生すると、DMAC は転送元アドレスに格納されているデータを転送先アドレスへ転送します。

表 17.1 に DMAC の仕様を、図 17.1 にブロック図を示します。

表 17.1　DMACの仕様

項目		内容
チャネル数		8チャネル（DMACm、m = 0～7）
転送空間		4Gバイト（0000 0000h～FFFF FFFFhのうち、予約領域を除く領域）
最大転送データ数		64Mデータ（ブロック転送モードにおける最大総転送数：1024データ × 65536ブロック）
DMA起動要因		チャネルごとに選択可能 • ソフトウェアトリガ • 周辺モジュールからの割り込み要求／外部割り込み入力端子からのトリガ（注1）
チャネル優先順位		チャネル0＞チャネル1＞チャネル2＞チャネル3...＞チャネル7（チャネル0：最優先）
転送データ	1データ	ビット長：8ビット、16ビット、32ビット
	ブロックサイズ	データ数：1～1024データ
転送モード	ノーマル転送モード	• 1回のDMA転送要求で1データを転送 • 総データ転送数を指定しない設定（フリーランニングモード）を選択可能
	リピート転送モード	• 1回のDMA転送要求で1データを転送 • 転送元または転送先に指定したリピートサイズ分のデータを転送すると、転送開始時のアドレスに復帰 • 設定可能な最大リピートサイズ：1024
	ブロック転送モード	• 1回のDMA転送要求で1ブロックを転送 • 設定可能な最大ブロックサイズ：1024データ
選択機能	拡張リピート領域機能	• 転送アドレスレジスタの上位ビット値を固定したまま、特定範囲のアドレスを繰り返すことでデータ転送が可能 • 拡張リピート領域は2バイトから128Mバイトまで転送元、転送先別に設定可能
割り込み要求（DMACm_INT）	転送終了割り込み	転送カウンタで設定したデータ数の転送終了時に発生
	転送エスケープ終了割り込み	下記の条件で発生 • リピートサイズ分のデータ転送を終了したとき • 拡張リピート領域の転送元アドレスがオーバーフローしたとき • 拡張リピート領域の転送先アドレスがオーバーフローしたとき
イベントリンク起動（DMACm_INT）		各データ転送後（ブロックの場合は各ブロック転送後）、イベントリンク要求を発生
モジュールストップ機能		モジュールストップ状態に設定して消費電力を削減

注 1.　DMAC の起動要因については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」の表 14.3　割り込みベクタテーブルを参照してください。

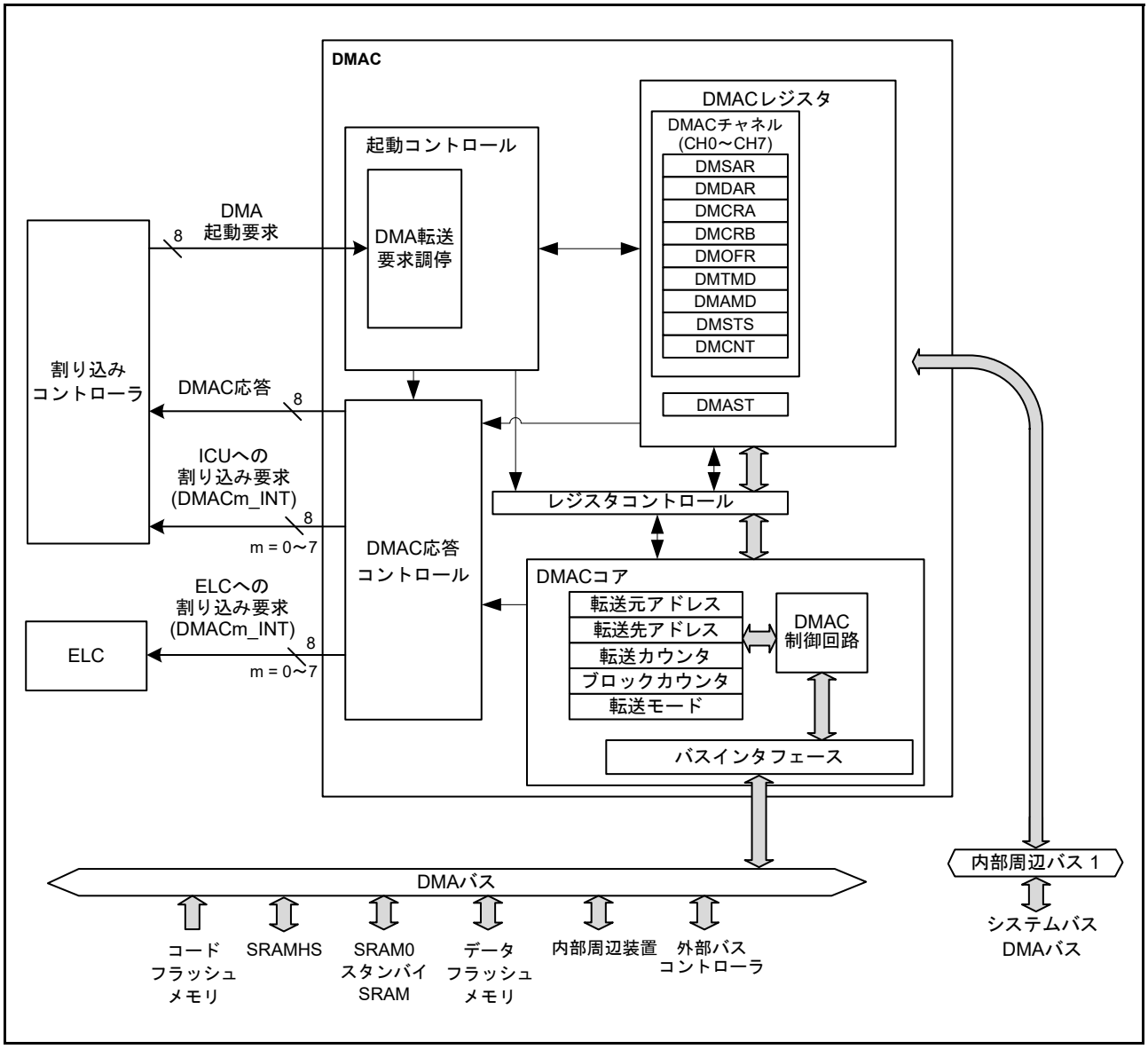


図 17.1　　DMAC のブロック図

17.2 レジスタの説明

17.2.1 DMA 転送元アドレスレジスタ（DMSAR）

アドレス DMAC0.DMSAR 4000 5000h, DMAC1.DMSAR 4000 5040h, DMAC2.DMSAR 4000 5080h, DMAC3.DMSAR 4000 50C0h, DMAC4.DMSAR 4000 5100h, DMAC5.DMSAR 4000 5140h, DMAC6.DMSAR 4000 5180h, DMAC7.DMSAR 4000 51C0h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	機能	設定範囲	R/W
b31-b0	転送元の開始アドレスを設定	0000 0000h～FFFF FFFFh（4Gバイト）	R/W

DMSAR レジスタは、DMAC 起動禁止（DMAST.DMST ビット＝0）、または DMA 転送禁止（DMCNT.DTE ビット＝0）のときに設定してください。

注 . このレジスタのアドレスアライメントは、DMTMD レジスタの SZ ビットで選択した転送データサイズ値と一致している必要があります。

17.2.2 DMA 転送先アドレスレジスタ（DMDAR）

アドレス DMAC0.DMDAR 4000 5004h, DMAC1.DMDAR 4000 5044h, DMAC2.DMDAR 4000 5084h, DMAC3.DMDAR 4000 50C4h, DMAC4.DMDAR 4000 5104h, DMAC5.DMDAR 4000 5144h, DMAC6.DMDAR 4000 5184h, DMAC7.DMDAR 4000 51C4h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	機能	設定範囲	R/W
b31-b0	転送先の開始アドレスを設定	0000 0000h～FFFF FFFFh（4Gバイト）	R/W

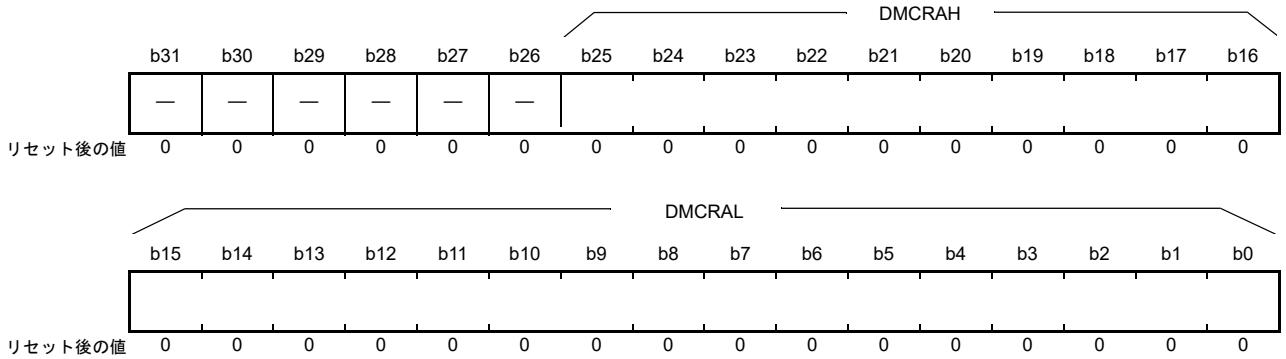
DMDAR レジスタは、DMAC 起動禁止（DMAST.DMST ビット＝0）、または DMA 転送禁止（DMCNT.DTE ビット＝0）のときに設定してください。

注 . このレジスタのアドレスアライメントは、DMTMD レジスタの SZ ビットで選択した転送データサイズ値と一致している必要があります。

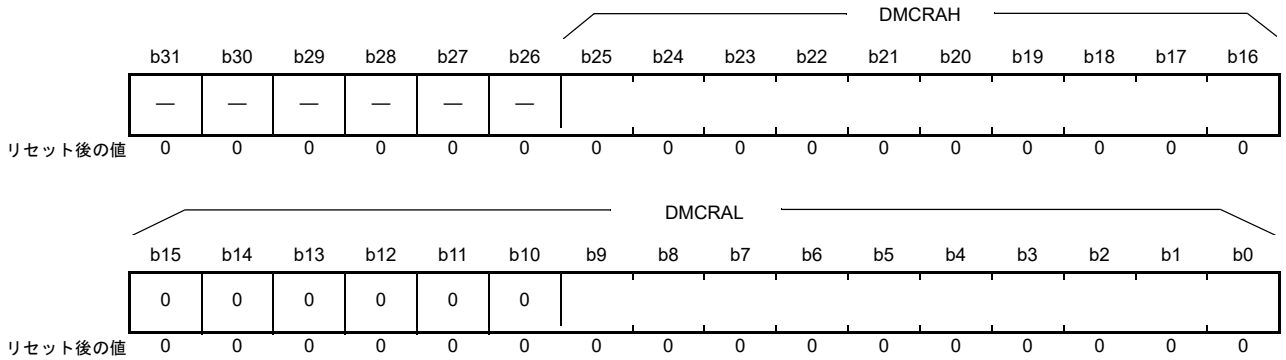
17.2.3 DMA 転送カウントレジスタ（DMCRA）

アドレス DMAC0.DMCRA 4000 5008h, DMAC1.DMCRA 4000 5048h, DMAC2.DMCRA 4000 5088h, DMAC3.DMCRA 4000 50C8h
DMAC4.DMCRA 4000 5108h, DMAC5.DMCRA 4000 5148h, DMAC6.DMCRA 4000 5188h, DMAC7.DMCRA 4000 51C8h

- ノーマル転送モード



- リピート転送モード、ブロック転送モード



シンボル	ビット名	機能	R/W
DMCRAL	転送カウント下位ビット	転送回数を設定	R/W
DMCRAH	転送カウント上位ビット		R/W

注 . リピート転送モードとブロック転送モードでは、DMCRAH レジスタと DMCRAL レジスタに同じ値を設定してください。

(1) ノーマル転送モード（DMACm.DMTMD.MD[1:0] ビット = 00b）のとき

ノーマル転送モードでは、DMCRAL レジスタは 16 ビットの転送カウンタとして機能します。転送回数は、設定値が 0001h のときは 1 回、FFFFh のときは 65535 回となります。1 回のデータ転送を行うたびにデクリメント（-1）されます。設定値が 0000h のときは転送回数の指定なしとなり、転送カウンタが停止した状態でデータ転送を行います（フリーランニングモード）。

ノーマル転送モードでは、DMCRAH レジスタを使用しないでください。DMCRAH レジスタへは 0000h を書いてください。

(2) リピート転送モード（DMACm.DMTMD.MD[1:0] ビット = 01b）のとき

リピート転送モードでは、DMCRAH レジスタはリピートサイズを指定し、DMCRAL レジスタは 10 ビットの転送カウンタとして機能します。転送回数は、設定値が 001h のときは 1 回、3FFh のときは 1023 回、000h のときは 1024 回となります。このモードでは、DMCRAH レジスタと DMCRAL レジスタの設定可能範囲は、000h ～ 3FFh（1 ～ 1024 回）です。

DMCRAL レジスタのビット [15:10] の設定値は無効です。これらのビットには 0 を書いてください。DMCRAL レジスタは 1 回のデータ転送を行うたびにデクリメント（-1）され、000h になると DMCRAH レジスタの値が DMCRAL レジスタにロードされます。

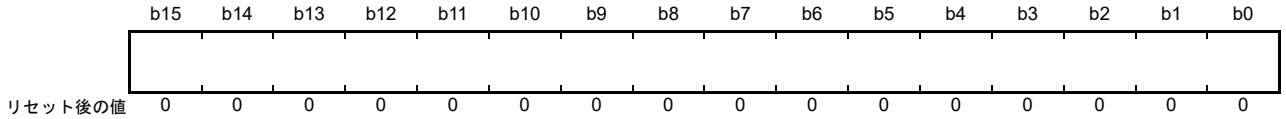
(3) ブロック転送モード（DMACm.DMTMD.MD[1:0] ビット = 10b）のとき

ブロック転送モードでは、DMCRAH レジスタはブロックサイズを指定し、DMCRAL レジスタは 10 ビットのブロックサイズカウンタとして機能します。設定値が 001h のときはブロックサイズ 1、3FFh のときはブロックサイズ 1023、000h のときはブロックサイズ 1024 となります。このモードでは、DMCRAH レジスタと DMCRAL レジスタの設定可能範囲は、000h ～ 3FFh です。

DMCRAL レジスタのビット [15:10] の設定値は無効です。これらのビットには 0 を書いてください。
DMCRAL レジスタは 1 回のデータ転送を行うたびにデクリメント（-1）され、000h になると DMCRAH レジスタの値が DMCRAL レジスタにロードされます。

17.2.4 DMA ブロック転送カウントレジスタ（DMCRB）

アドレス DMAC0.DMCRB 4000 500Ch, DMAC1.DMCRB 4000 504Ch, DMAC2.DMCRB 4000 508Ch, DMAC3.DMCRB 4000 50CCh, DMAC4.DMCRB 4000 510Ch, DMAC5.DMCRB 4000 514Ch, DMAC6.DMCRB 4000 518Ch, DMAC7.DMCRB 4000 51CCh



ビット	機能	設定範囲	R/W
b15-b0	ブロック転送回数またはリピート転送回数を設定	0001h～FFFFh（1～65535回） 0000h（65536回）	R/W

DMCRB レジスタは、ブロック転送モード時とリピート転送モード時の転送回数を指定するレジスタです。転送回数は、設定値が 0001h のときは 1 回、FFFFh のときは 65535 回、0000h のときは 65536 回となります。

リピート転送モードの場合、1 リピートサイズの最終データ転送時にデクリメント（-1）されます。ブロック転送モードの場合、1 ブロックサイズの最終データ転送時にデクリメント（-1）されます。ノーマル転送モードでは、設定は無効ですので、DMCRB レジスタは使用しないでください。

17.2.5 DMA 転送モードレジスタ（DMTMD）

アドレス　DMAC0.DMTMD 4000 5010h, DMAC1.DMTMD 4000 5050h, DMAC2.DMTMD 4000 5090h, DMAC3.DMTMD 4000 50D0h, DMAC4.DMTMD 4000 5110h, DMAC5.DMTMD 4000 5150h, DMAC6.DMTMD 4000 5190h, DMAC7.DMTMD 4000 51D0h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	MD[1:0]		DTS[1:0]		—	—	SZ[1:0]		—	—	—	—	—	—	DCTG[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	DCTG[1:0]	転送要求元選択	b1 b0 0 0：ソフトウェア 0 1：周辺モジュールまたは外部割り込み入力端子からの割り込み（注1） 1 0：設定禁止 1 1：設定禁止	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b9-b8	SZ[1:0]	データ転送サイズ選択	b9 b8 0 0：8ビット 0 1：16ビット 1 0：32ビット 1 1：設定禁止	R/W
b11-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b13-b12	DTS[1:0]	リピート領域選択	b13 b12 0 0：転送先をリピート領域またはブロック領域に設定 0 1：転送元をリピート領域またはブロック領域に設定 1 0：リピート領域、ブロック領域の設定なし 1 1：設定禁止	R/W
b15-b14	MD[1:0]	転送モード選択	b15 b14 0 0：ノーマル転送 0 1：リピート転送 1 0：ブロック転送 1 1：設定禁止	R/W

注 1.　DMAC の起動要因を選択するには、ICU.DELSRn レジスタを使用してください。DMAC の起動要因については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」の表 14.4　イベントテーブルを参照してください。

DTS[1:0] ビット（リピート領域選択）

転送元または転送先を、リピート転送モードではリピート領域、ブロック転送モードではブロック領域として選択します。ノーマル転送モードでは、これらのビットの設定値は無効です。

17.2.6 DMA 割り込み設定レジスタ（DMINT）

アドレス DMAC0.DMINT 4000 5013h, DMAC1.DMINT 4000 5053h, DMAC2.DMINT 4000 5093h, DMAC3.DMINT 4000 50D3h, DMAC4.DMINT 4000 5113h, DMAC5.DMINT 4000 5153h, DMAC6.DMINT 4000 5193h, DMAC7.DMINT 4000 51D3h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	DTIE	ESIE	RPTIE	SARIE	DARIE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DARIE	転送先アドレス拡張リピート領域オーバーフロー割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/W
b1	SARIE	転送元アドレス拡張リピート領域オーバーフロー割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/W
b2	RPTIE	リピートサイズ終了割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/W
b3	ESIE	転送エスケープ終了割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/W
b4	DTIE	転送終了割り込み許可	0：禁止 1：許可	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

DARIE ビット（転送先アドレス拡張リピート領域オーバーフロー割り込み許可）

DARIE ビットが 1 のとき、転送先アドレスの拡張リピート領域オーバーフローが発生すると、DMCNT.DTE ビットが 0 になります。同時に DMSTS.ESIF フラグが 1 になり、転送先アドレスの拡張リピート領域オーバーフローによって割り込み要求がトリガされたことを示します。

拡張リピート領域機能をブロック転送モードと併用する場合は、1 ブロック分のデータ転送終了後に割り込みが発生します。割り込みにより転送を終了したチャネルの DMACm.DMCNT.DTE ビットを 1 にすると、転送終了時の状態から再び転送を開始することが可能です。転送先アドレスに拡張リピート領域を設定していない場合、このビットは無視されます。

SARIE ビット（転送元アドレス拡張リピート領域オーバーフロー割り込み許可）

SARIE ビットが 1 のとき、転送元アドレスの拡張リピート領域オーバーフローが発生すると、DMCNT.DTE ビットが 0 になります。同時に DMSTS.ESIF フラグが 1 になり、転送元アドレスの拡張リピート領域オーバーフローによって割り込み要求がトリガされたことを示します。

拡張リピート領域機能をブロック転送モードと併用する場合は、1 ブロック分のデータ転送終了後に割り込みが発生します。割り込みにより転送を終了したチャネルの DMACm.DMCNT.DTE ビットを 1 にすると、転送終了時の状態から再び転送を開始することが可能です。転送元アドレスに拡張リピート領域を設定していない場合、このビットは無視されます。

RPTIE ビット（リピートサイズ終了割り込み許可）

リピート転送モードにおいて RPTIE ビットを 1 にすると、1 リピートサイズ分の転送終了後に DMCNT.DTE ビットを 0 にクリアします。同時に DMSTS.ESIF フラグが 1 になり、リピートサイズ終了割り込み要求が発生したことを示します。DMTMD.DTS[1:0] ビットを 10b（リピート領域、ブロック領域の指定なし）にしたときも、リピートサイズ終了割り込み要求を発生させることができます。

RPTIE ビットをブロック転送モードで 1 にしたときも、リピート転送モードの場合と同様に 1 ブロック分のデータ転送終了後に DMCNT.DTE ビットを 0 にクリアします。同時に DMSTS.ESIF フラグが 1 になり、リピートサイズ終了割り込み要求が発生したことを示します。DMTMD.DTS[1:0] ビットを 10b（リピート領域、ブロック領域の指定なし）にしたときも、リピートサイズ終了割り込み要求を発生させることができます。

ESIE ビット（転送エスケープ終了割り込み許可）

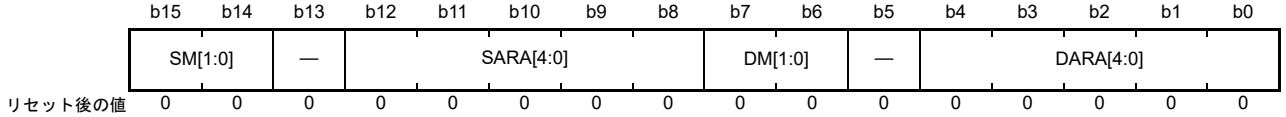
DMA 転送中に発生した転送エスケープ終了割り込み要求（リピートサイズ終了割り込み要求、拡張リピート領域オーバーフロー割り込み要求）を許可します。このビットが 1 でかつ DMSTS.ESIF フラグが 1 のときに割り込みが発生します。転送エスケープ終了割り込みを解除するには、このビットまたは DMSTS.ESIF フラグを 0 にします。

DTIE ビット（転送終了割り込み許可）

指定した回数のデータ転送が終了したときに発生する転送終了割り込み要求を許可します。このビットが 1 でかつ DMSTS.DTIF フラグが 1 のときに割り込みが発生します。転送終了割り込みを解除するには、このビットまたは DMSTS.DTIF フラグを 0 にします。

17.2.7 DMA アドレスモードレジスタ（DMAMD）

アドレス　DMAC0.DMAMD 4000 5014h, DMAC1.DMAMD 4000 5054h, DMAC2.DMAMD 4000 5094h, DMAC3.DMAMD 4000 50D4h, DMAC4.DMAMD 4000 5114h, DMAC5.DMAMD 4000 5154h, DMAC6.DMAMD 4000 5194h, DMAC7.DMAMD 4000 51D4h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	DARA[4:0]	転送先アドレス拡張リピート領域設定	転送先アドレスに拡張リピート領域を設定します。設定値についての詳細は、表 17.2 を参照してください。	R/W
b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7-b6	DM[1:0]	転送先アドレス更新モード設定	b7 b6 0 0：アドレス固定 0 1：オフセット加算 1 0：インクリメント 1 1：デクリメント	R/W
b12-b8	SARA[4:0]	転送元アドレス拡張リピート領域設定	転送元アドレスに拡張リピート領域を設定します。設定値についての詳細は、表 17.2 を参照してください。	R/W
b13	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15-b14	SM[1:0]	転送元アドレス更新モード設定	b15 b14 0 0：アドレス固定 0 1：オフセット加算 1 0：インクリメント 1 1：デクリメント	R/W

DARA[4:0] ビット（転送先アドレス拡張リピート領域設定）

転送先アドレスに拡張リピート領域を設定します。拡張リピート領域機能は、指定した下位アドレスビットを更新し、残りの上位アドレスビットを固定することで実現されます。拡張リピート領域のサイズは、2 バイトから 128M バイトまで設定可能です。設定間隔は 2 のべき乗バイト単位です。アドレスのインクリメントにより下位アドレスが拡張リピート領域をオーバーフローすると、拡張リピート領域の開始アドレスが設定されます。同様にアドレスのデクリメントにより下位アドレスが拡張リピート領域をアンダーフローすると、拡張リピート領域の終了アドレスが設定されます。

転送先にリピート領域またはブロック領域を設定している場合、転送先アドレスに拡張リピート領域を設定しないでください。リピート転送またはブロック転送を選択した場合、DMACm.DMTMD.DTS[1:0] = 00b（転送先にリピート領域またはブロック領域を設定）であれば、DARA[4:0] ビットには 00000b を書いてください。

拡張リピート領域にオーバーフローまたはアンダーフローが発生したとき、割り込みを要求するには、DMINT.DARIE ビットを 1 にします。表 17.2 には、各設定値に対応した拡張リピート領域が示されています。

DM[1:0] ビット（転送先アドレス更新モード設定）

転送先アドレスの更新モードを選択します。

- インクリメントを選択し、DMTMD.SZ[1:0] ビットに 00b、01b、または 10b を設定した場合、転送先アドレスはそれぞれ 1、2、または 4 ごとにインクリメントされる
- デクリメントを選択し、DMTMD.SZ[1:0] ビットに 00b、01b、または 10b を設定した場合、転送先アドレスはそれぞれ 1、2、または 4 ごとにデクリメントされる
- オフセット加算を選択した場合、DMACm.DMOFR レジスタで設定したオフセット値をアドレスに加算

SARA[4:0] ビット（転送元アドレス拡張リピート領域設定）

転送元アドレスに拡張リピート領域を設定します。拡張リピート領域機能は、指定した下位アドレスビットを更新し、残りの上位アドレスビットを固定することで実現されます。拡張リピート領域のサイズは、2バイトから128Mバイトまで設定可能です。設定間隔は2のべき乗バイト単位です。アドレスのインクリメントにより下位アドレスが拡張リピート領域をオーバーフローすると、拡張リピート領域の開始アドレスが設定されます。同様にアドレスのデクリメントにより下位アドレスが拡張リピート領域をアンダーフローすると、拡張リピート領域の終了アドレスが設定されます。

転送元にリピート領域またはブロック領域を設定している場合、転送元アドレスに拡張リピート領域を設定しないでください。リピート転送またはブロック転送を選択した場合、DMACm.DMTMD.DTS[1:0] = 01b（転送元にリピート領域またはブロック領域を設定）であれば、SARA[4:0] ビットには00000bを書いてください。

拡張リピート領域にオーバーフローまたはアンダーフローが発生したとき、割り込みを要求するには、DMINT.SARIE ビットを1にします。表 17.2 には、各設定値に対応した拡張リピート領域が示されています。

SM[1:0] ビット（転送元アドレス更新モード設定）

転送元アドレスの更新モードを選択します。

- インクリメントを選択し、DMTMD.SZ[1:0] ビットに00b、01b、または10bを設定した場合、転送元アドレスはそれぞれ1、2、または4ごとにインクリメントされる
- デクリメントを選択し、DMTMD.SZ[1:0] ビットに00b、01b、または10bを設定した場合、転送元アドレスはそれぞれ1、2、または4ごとにデクリメントされる
- オフセット加算を選択した場合、DMACm.DMOFR レジスタで設定したオフセット値をアドレスに加算

.

表 17.2 SARA[4:0]またはDARA[4:0]の設定値と対応するリピート領域 (1/2)

SARA[4:0]またはDARA[4:0]	拡張リピート領域
00000b	拡張リピート領域を設定しない
00001b	当該アドレスの下位1ビット（2バイト）を拡張リピート領域に設定
00010b	当該アドレスの下位2ビット（4バイト）を拡張リピート領域に設定
00011b	当該アドレスの下位3ビット（8バイト）を拡張リピート領域に設定
00100b	当該アドレスの下位4ビット（16バイト）を拡張リピート領域に設定
00101b	当該アドレスの下位5ビット（32バイト）を拡張リピート領域に設定
00110b	当該アドレスの下位6ビット（64バイト）を拡張リピート領域に設定
00111b	当該アドレスの下位7ビット（128バイト）を拡張リピート領域に設定
01000b	当該アドレスの下位8ビット（256バイト）を拡張リピート領域に設定
01001b	当該アドレスの下位9ビット（512バイト）を拡張リピート領域に設定
01010b	当該アドレスの下位10ビット（1Kバイト）を拡張リピート領域に設定
01011b	当該アドレスの下位11ビット（2Kバイト）を拡張リピート領域に設定
01100b	当該アドレスの下位12ビット（4Kバイト）を拡張リピート領域に設定
01101b	当該アドレスの下位13ビット（8Kバイト）を拡張リピート領域に設定
01110b	当該アドレスの下位14ビット（16Kバイト）を拡張リピート領域に設定
01111b	当該アドレスの下位15ビット（32Kバイト）を拡張リピート領域に設定
10000b	当該アドレスの下位16ビット（64Kバイト）を拡張リピート領域に設定
10001b	当該アドレスの下位17ビット（128Kバイト）を拡張リピート領域に設定
10010b	当該アドレスの下位18ビット（256Kバイト）を拡張リピート領域に設定
10011b	当該アドレスの下位19ビット（512Kバイト）を拡張リピート領域に設定
10100b	当該アドレスの下位20ビット（1Mバイト）を拡張リピート領域に設定
10101b	当該アドレスの下位21ビット（2Mバイト）を拡張リピート領域に設定
10110b	当該アドレスの下位22ビット（4Mバイト）を拡張リピート領域に設定

表 17.2 SARA[4:0]またはDARA[4:0]の設定値と対応するリピート領域 (2/2)

SARA[4:0]またはDARA[4:0]	拡張リピート領域
10111b	当該アドレスの下位23ビット（8Mバイト）を拡張リピート領域に設定
11000b	当該アドレスの下位24ビット（16Mバイト）を拡張リピート領域に設定
11001b	当該アドレスの下位25ビット（32Mバイト）を拡張リピート領域に設定
11010b	当該アドレスの下位26ビット（64Mバイト）を拡張リピート領域に設定
11011b	当該アドレスの下位27ビット（128Mバイト）を拡張リピート領域に設定
11100b～11111b	設定禁止

17.2.8 DMA オフセットレジスタ（DMOFR）

アドレス DMAC0.DMOFR 4000 5018h, DMAC1.DMOFR 4000 5058h, DMAC2.DMOFR 4000 5098h, DMAC3.DMOFR 4000 50D8h, DMAC4.DMOFR 4000 5118h, DMAC5.DMOFR 4000 5158h, DMAC6.DMOFR 4000 5198h, DMAC7.DMOFR 4000 51D8h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	機能	設定範囲	R/W
b31-b0	転送元または転送先のアドレス更新モードとしてオフセット加算が選択されている場合、そのオフセット値を設定	0000 0000h～00FF FFFFh（0バイト～(16M - 1) バイト） FF00 0000h～FFFF FFFFh（-16Mバイト～-1バイト）	R/W

このレジスタへの書き込みは、データ転送中ではなく、DMAC 動作停止中または DMA 転送が禁止されているときに行ってください。[31:25] ビットの設定は無効です。[24] ビットの値が [31:25] ビットへ拡張されます。DMOFR レジスタを読み出した場合、ビット拡張された値が読み出されます。

17.2.9 DMA 転送イネーブルレジスタ（DMCNT）

アドレス DMAC0.DMCNT 4000 501Ch, DMAC1.DMCNT 4000 505Ch, DMAC2.DMCNT 4000 509Ch, DMAC3.DMCNT 4000 50DCh, DMAC4.DMCNT 4000 511Ch, DMAC5.DMCNT 4000 515Ch, DMAC6.DMCNT 4000 519Ch, DMAC7.DMCNT 4000 51DCh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	DTE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DTE	DMA転送許可	0：禁止 1：許可	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

DTE ビット（DMA 転送許可）

DMA 転送を許可します。DMA 転送を許可するには、DMAST.DMST ビットを 1（DMAC 起動許可）にした後、DTE ビットを 1（対応するチャネルの DMA 転送許可）にしてください。

［1 になる条件］

- 1 を書いたとき

［0 になる条件］

- 0 を書いたとき
- 設定されたデータ数の転送が終了したとき
- リピートサイズ終了割り込みによって DMA 転送が停止したとき
- 拡張リピート領域オーバーフロー割り込みによって DMA 転送が停止したとき

17.2.10 DMA ソフトウェア起動レジスタ（DMREQ）

アドレス DMAC0.DMREQ 4000 501Dh, DMAC1.DMREQ 4000 505Dh, DMAC2.DMREQ 4000 509Dh, DMAC3.DMREQ 4000 50DDh, DMAC4.DMREQ 4000 511Dh, DMAC5.DMREQ 4000 515Dh, DMAC6.DMREQ 4000 519Dh, DMAC7.DMREQ 4000 51DDh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	CLRS	—	—	—	SWREQ
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SWREQ	DMAソフトウェア起動	0：DMA転送要求なし 1：DMA転送要求あり	R/W
b3-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	CLRS	DMAソフトウェア起動ビット自動クリア選択	0：ソフトウェアによるDMA転送開始後にSWREQビットをクリアする 1：ソフトウェアによるDMA転送開始後にSWREQビットをクリアしない	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

SWREQ ビット（DMA ソフトウェア起動）

SWREQ ビットを 1 にすると DMA 転送要求が発生します。DMA 転送の開始後、CLRS ビットが 0 の場合、SWREQ ビットは 0 にクリアされます。CLRS ビットが 1 の場合、SWREQ ビットはクリアされません。DMA 転送要求は、転送終了後に再発行できます。

注 . DMTMD.DCTG[1:0] ビットが 00b（DMA 起動要因がソフトウェア）になっている場合のみ、このビットの設定が有効となり、ソフトウェアによる DMA 転送が可能となります。DMTMD.DCTG[1:0] ビットが 00b 以外になっている場合、このビットの設定は無効です。

CLRS ビットが 0 の状態でソフトウェアによる DMA 転送を行う場合、SWREQ ビットが 0 であることを確認してから SWREQ ビットに 1 を書いてください。

［1 になる条件］

- 1 を書いたとき

［0 になる条件］

- CLRS ビットが 0（ソフトウェアによる DMA 転送開始後に SWREQ ビットをクリアする）の場合に、ソフトウェアによる DMA 転送要求が受け付けられて DMA 転送が開始したとき
- 0 を書いたとき

CLRS ビット（DMA ソフトウェア起動ビット自動クリア選択）

SWREQ ビットを 1 にして転送要求を発生させた場合、DMA 転送が開始された後に SWREQ ビットを 0 にするか否かを設定します。CLRS ビットを 0 にすると、DMA 転送の開始後、SWREQ ビットは 0 になります。CLRS ビットを 1 にすると、SWREQ ビットは 0 になりません。DMA 転送要求は、転送終了後に再発行できます。

17.2.11 DMA ステータスレジスタ（DMSTS）

アドレス DMAC0.DMSTS 4000 501Eh, DMAC1.DMSTS 4000 505Eh, DMAC2.DMSTS 4000 509Eh, DMAC3.DMSTS 4000 50DEh, DMAC4.DMSTS 4000 511Eh, DMAC5.DMSTS 4000 515Eh, DMAC6.DMSTS 4000 519Eh, DMAC7.DMSTS 4000 51DEh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ACT	—	—	DTIF	—	—	—	ESIF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ESIF	転送エスケープ終了割り込みフラグ	0：割り込み発生なし 1：割り込み発生あり	R/W （注1）
b3-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書き込みは無効になります。	R
b4	DTIF	転送終了割り込みフラグ	0：割り込み発生なし 1：割り込み発生あり	R/W （注1）
b6-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書き込みは無効になります。	R
b7	ACT	DMAアクティブフラグ	0：DMACが停止中 1：DMACが動作中	R

注 1.　フラグをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。

ESIF フラグ（転送エスケープ終了割り込みフラグ）

転送エスケープ終了割り込みが発生したことを示します。

［1 になる条件］

- リピート転送モードにおいて、DMINT.RPTIE ビットが 1 の状態で 1 リピートサイズ分のデータ転送が終了したとき
- ブロック転送モードにおいて、DMINT.RPTIE ビットが 1 の状態で 1 ブロック分のデータ転送が終了したとき
- DMINT.SARIE ビットが 1 であり、かつ DMAMD.SARA[4:0] ビットが 00000b 以外（転送元アドレスに拡張リピート領域を設定）の状態で、転送元アドレスに拡張リピート領域オーバーフローが発生したとき
- DMINT.DARIE ビットが 1 であり、かつ DMAMD.DARA[4:0] ビットが 00000b 以外（転送先アドレスに拡張リピート領域を設定）の状態で、転送先アドレスに拡張リピート領域オーバーフローが発生したとき

［0 になる条件］

- 0 を書いたとき
- DMCNT.DTE ビットに 1 を書いたとき

DTIF フラグ（転送終了割り込みフラグ）

転送終了割り込みが発生したことを示します。

［1 になる条件］

- ノーマル転送モードにおいて、指定した回数のデータ転送が終了したとき（DMCRAL レジスタの値が 0 になり転送が終了したとき）
- リピート転送モードにおいて、指定した回数のリピート転送が終了したとき（DMCRB レジスタの値が 0 になり転送が終了したとき）
- ブロック転送モードにおいて、指定したブロック数の転送が終了したとき（DMCRB レジスタの値が 0 になり転送が終了したとき）

［0 になる条件］

- 0 を書いたとき
- DMCNT.DTE ビットに 1 を書いたとき

ACT フラグ（DMA アクティブフラグ）

DMAC がアイドル状態であるか、または動作中であるかを示します。

［1 になる条件］

- DMAC がデータ転送を開始したとき

［0 になる条件］

- 1 転送要求に対するデータ転送が終了したとき

17.2.12 DMAC モジュール起動レジスタ（DMAST）

アドレス DMA.DMAST 4000 5200h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	DMST
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DMST	DMAC動作許可	0：禁止 1：許可	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

DMST ビット（DMAC 動作許可）

DMST ビットを 1 にすると、DMAC 全チャネルの起動が許可されます。DMST ビットを 1（DMAC 起動許可）にした場合、複数チャネルの DMACm.DMCNT.DTE ビットを 1（DMA 転送許可）にすることで、対応する全チャネルが同時に転送要求受け付け可能状態になります。

DMA 転送中に DMST ビットを 0 にすると、実行中の 1 転送要求に対するデータ転送が終了した後、DMA 転送が一時停止します。DMA 転送を再開するには、再度 DMST ビットを 1 にしてください。

［1 になる条件］

- 1 を書いたとき

［0 になる条件］

- 0 を書いたとき

17.3 動作説明

17.3.1 転送モード

(1) ノーマル転送モード

ノーマル転送モードでは、1 転送要求に対して 1 データの転送を行います。DMACm.DMCRAL レジスタで転送回数を最大 65535 回まで指定できます。また、DMACm.DMCRAL レジスタを 0000h にすると、転送回数は指定なしとなり、転送カウンタが停止した状態でデータ転送を行います（フリーランニングモード）。フリーランニングモードの場合を除き、指定した転送回数の終了後に転送終了割り込み要求を発生させることが可能です。ノーマル転送モードでは、DMACm.DMCRB レジスタの設定は無効です。

ノーマル転送モードにおけるレジスタ更新動作を表 17.3 に示します。

表 17.3 ノーマル転送モードにおけるレジスタ更新動作

レジスタ	機能	1転送要求に対する転送終了後の更新動作
DMACm.DMSAR	転送元アドレス	インクリメント／デクリメント／固定／オフセット加算
DMACm.DMDAR	転送先アドレス	インクリメント／デクリメント／固定／オフセット加算
DMACm.DMCRAL	転送カウント	1減算／更新なし（フリーランニングモード時）
DMACm.DMCRAH	-	更新なし（ノーマル転送モードでは使用しない）
DMACm.DMCRB	-	更新なし（ノーマル転送モードでは使用しない）

ノーマル転送モードにおける転送動作を図 17.2 に示します。

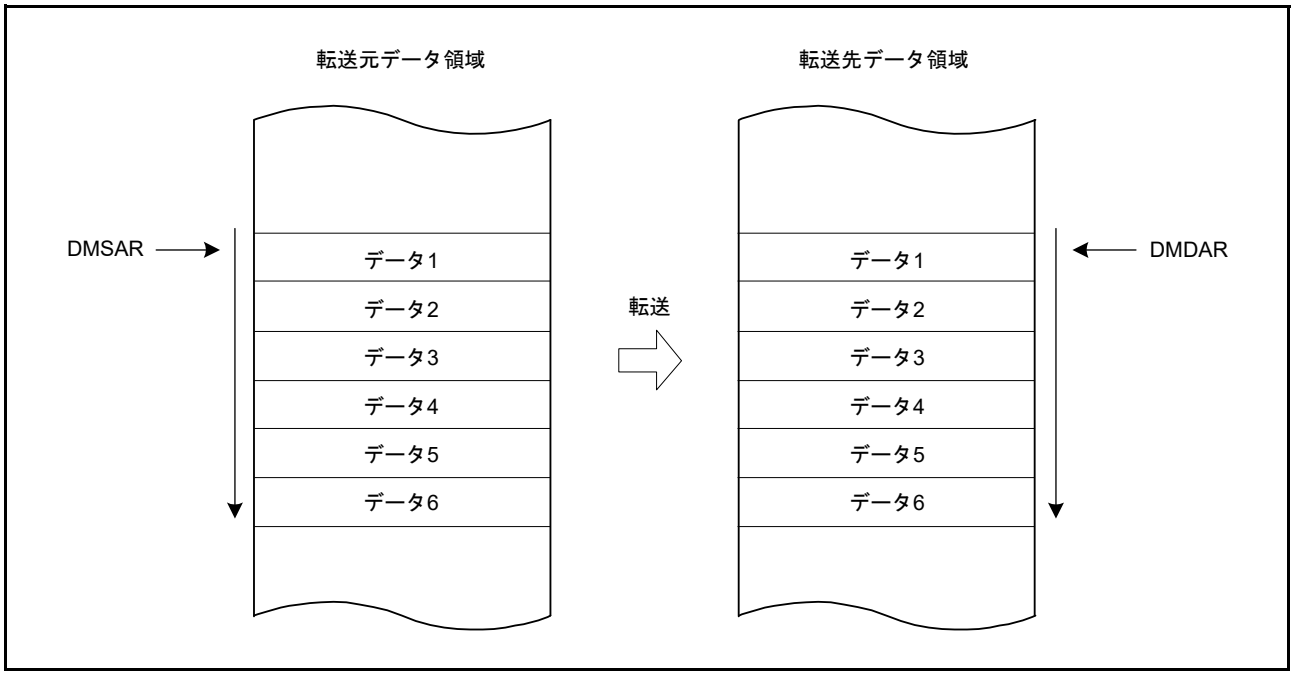


図 17.2 ノーマル転送モードにおける転送動作

(2)　リピート転送モード

リピート転送モードでは、1転送要求に対して1データの転送を行います。DMACm.DMCRAレジスタで最大1Kデータのリピート転送サイズを設定します。DMACm.DMCRBレジスタで最大64Kのリピート転送回数を設定します。総データ転送サイズは最大64Mデータ単位（1Kデータ単位×64Kリピート転送動作）の設定が可能です。

転送元または転送先のどちらか一方をリピート領域に指定することが可能です。リピート領域に指定された方のアドレスレジスタ（DMACm.DMSARまたはDMACm.DMDAR）は、リピートサイズ分のデータ転送が終了すると、転送開始時のアドレスに復帰します。このモードでは、指定したリピートサイズ分のデータ転送が終了したとき、DMA転送を停止させて、リピートサイズ終了割り込みを要求することが可能です。DMA転送を再開させるには、リピートサイズ終了割り込み処理でDMACm.DMCNT.DTEビットに1を書き込んでください。

また、指定したリピート転送回数の終了後に、転送終了割り込み要求を発生させることができます。

リピート転送モードにおけるレジスタ更新動作を表17.4に、リピート転送モードにおける転送動作を図17.3に示します。

表17.4　リピート転送モードにおけるレジスタ更新動作

レジスタ	機能	1転送要求に対する転送終了後の更新動作	
		DMACm.DMCRALレジスタが1以外のとき	DMACm.DMCRALレジスタが1のとき（リピートサイズの最終データ転送）
DMACm.DMSAR	転送元アドレス	インクリメント／デクリメント／固定／オフセット加算	• DMACm.DMTMD.DTS[1:0] = 00b インクリメント／デクリメント／固定／オフセット加算 • DMACm.DMTMD.DTS[1:0] = 01b DMACm.DMSARの初期値 • DMACm.DMTMD.DTS[1:0] = 10b インクリメント／デクリメント／固定／オフセット加算
DMACm.DMDAR	転送先アドレス	インクリメント／デクリメント／固定／オフセット加算	• DMACm.DMTMD.DTS[1:0] = 00b DMACm.DMDARの初期値 • DMACm.DMTMD.DTS[1:0] = 01b インクリメント／デクリメント／固定／オフセット加算 • DMACm.DMTMD.DTS[1:0] = 10b インクリメント／デクリメント／固定／オフセット加算
DMACm.DMCRAH	リピートサイズ	更新なし	更新なし
DMACm.DMCRAL	転送カウント	1減算	DMACm.DMCRAH
DMACm.DMCRB	リピート転送回数のカウント	更新なし	1減算

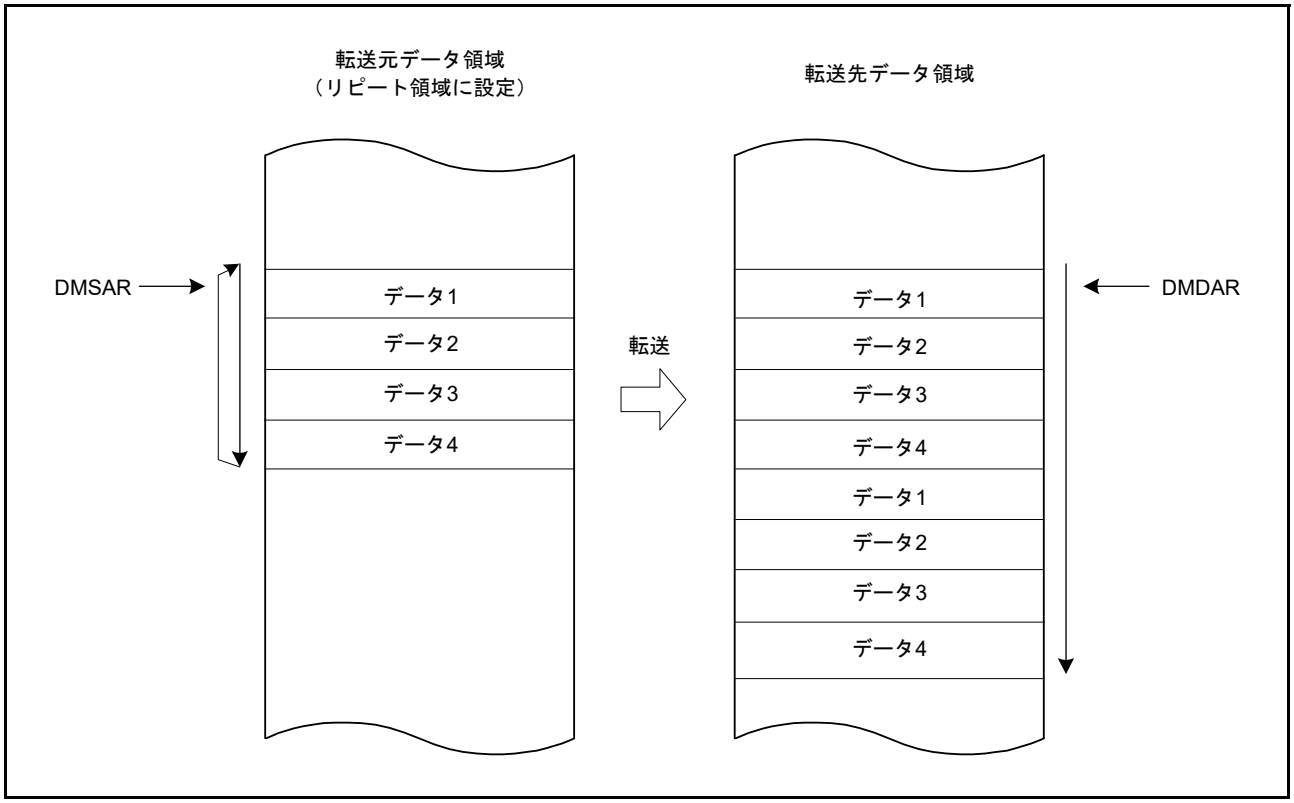


図 17.3　リピート転送モードにおける転送動作

(3)　ブロック転送モード

ブロック転送モードでは、1転送要求に対して1ブロックのデータ転送を行います。DMACm.DMCRAレジスタで最大1Kデータのブロックサイズを設定します。DMACm.DMCRBで最大64Kのブロック転送回数を設定します。総データ転送サイズは最大64Mデータ単位（1Kデータ単位×64Kブロック転送動作）の設定が可能です。

転送元または転送先のどちらか一方をブロック領域に指定することが可能です。ブロック領域に指定された方のアドレスレジスタ（DMACm.DMSARまたはDMACm.DMDAR）は、1ブロックのデータ転送が終了すると、転送開始時のアドレスに復帰します。このモードでは、1ブロックのすべてのデータ転送が終了したとき、DMA転送を停止させて、リピートサイズ終了割り込みを要求することが可能です。DMA転送を再開させるには、リピートサイズ終了割り込み処理でDMACm.DMCNT.DTEビットに1を書き込んでください。

また、指定したブロック転送回数の終了後に、転送終了割り込み要求を発生させることができます。

ブロック転送モードにおけるレジスタ更新動作を表17.5に、ブロック転送モードにおける転送動作を図17.4に示します。

表17.5　ブロック転送モードにおけるレジスタ更新動作

レジスタ	機能	1転送要求に対する1ブロック転送終了後の更新動作
DMACm.DMSAR	転送元アドレス	• DMACm.DMTMD.DTS[1:0] = 00b インクリメント／デクリメント／固定／オフセット加算 • DMACm.DMTMD.DTS[1:0] = 01b DMACm.DMSARの初期値 • DMACm.DMTMD.DTS[1:0] = 10b インクリメント／デクリメント／固定／オフセット加算
DMACm.DMDAR	転送先アドレス	• DMACm.DMTMD.DTS[1:0] = 00b DMACm.DMDARの初期値 • DMACm.DMTMD.DTS[1:0] = 01b インクリメント／デクリメント／固定／オフセット加算 • DMACm.DMTMD.DTS[1:0] = 10b インクリメント／デクリメント／固定／オフセット加算
DMACm.DMCRAH	ブロックサイズ	更新なし
DMACm.DMCRAL	転送カウント	DMACm.DMCRAH
DMACm.DMCRB	ブロック転送回数のカウント	1減算

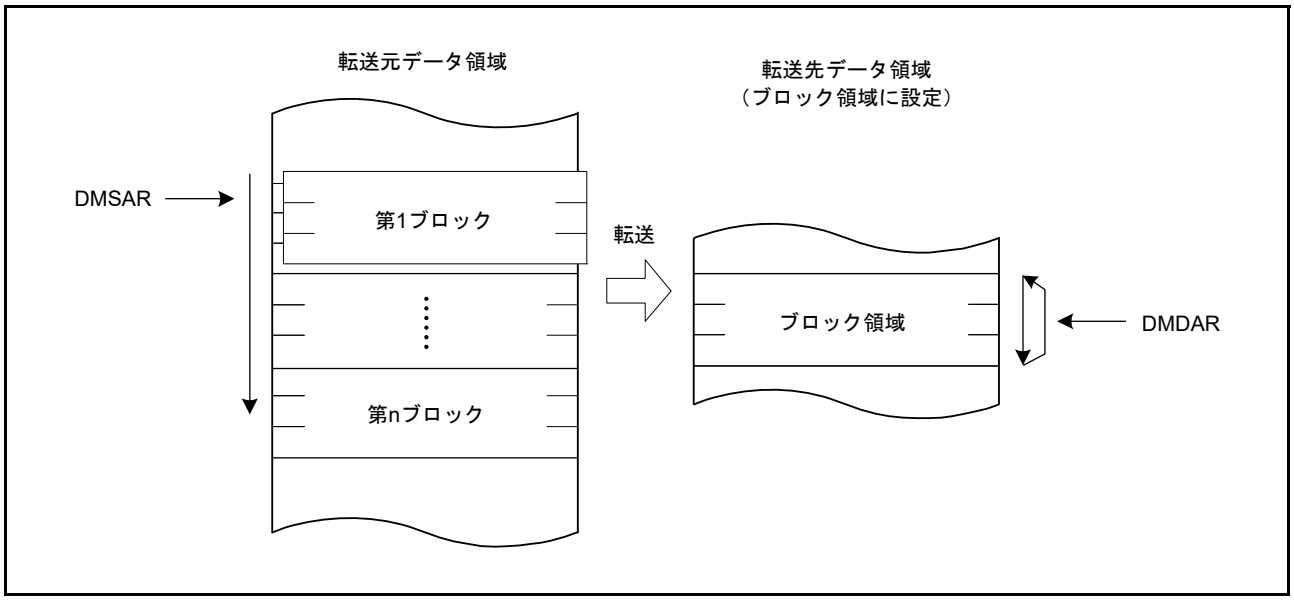


図17.4　ブロック転送モードにおける転送動作

17.3.2 拡張リピート領域機能

DMAC は転送元アドレスと転送先アドレスに対して拡張リピート領域をサポートしています。DMACm.DMSAR レジスタ（転送元アドレスレジスタ）と、DMACm.DMDAR レジスタ（転送先アドレスレジスタ）でそれぞれ個別に設定可能です。この機能を設定すると、アドレスレジスタは拡張リピート領域に指定した範囲のアドレス値を繰り返します。

転送元アドレスの拡張リピート領域は、DMACm.DMAMD.SARA[4:0] ビットで設定します。転送先アドレスの拡張リピート領域は、DMACm.DMAMD.DARA[4:0] ビットで設定します。転送元と転送先に異なるサイズの設定が可能です。ただし、リピート領域またはブロック領域として設定した転送元または転送先に、拡張リピート領域を設定することはできません。

アドレスレジスタの値が拡張リピート領域の終了アドレスに到達し、拡張リピート領域がオーバーフローすると、DMA 転送を停止させて、拡張リピート領域オーバーフロー割り込み要求を発生させることができます。DMACm.DMINT.SARIE ビットが 1 のとき、転送元の拡張リピート領域がオーバーフローすると、DMACm.DMSTS.ESIF フラグが 1 になり、DMACm.DMCNT.DTE ビットを 0 にして DMA 転送を終了させます。このとき、DMACm.DMINT.ESIE ビットが 1 になっていると、拡張リピート領域オーバーフロー割り込み要求が発生します。DMACm.DMINT.DARIE ビットが 1 の場合、この機能は転送先アドレスレジスタが対象になります。DMA 転送を再開させるには、割り込み処理で DMACm.DMCNT.DTE ビットに 1 を書き込んでください。

図 17.5 に、拡張リピート領域の動作例を示します。

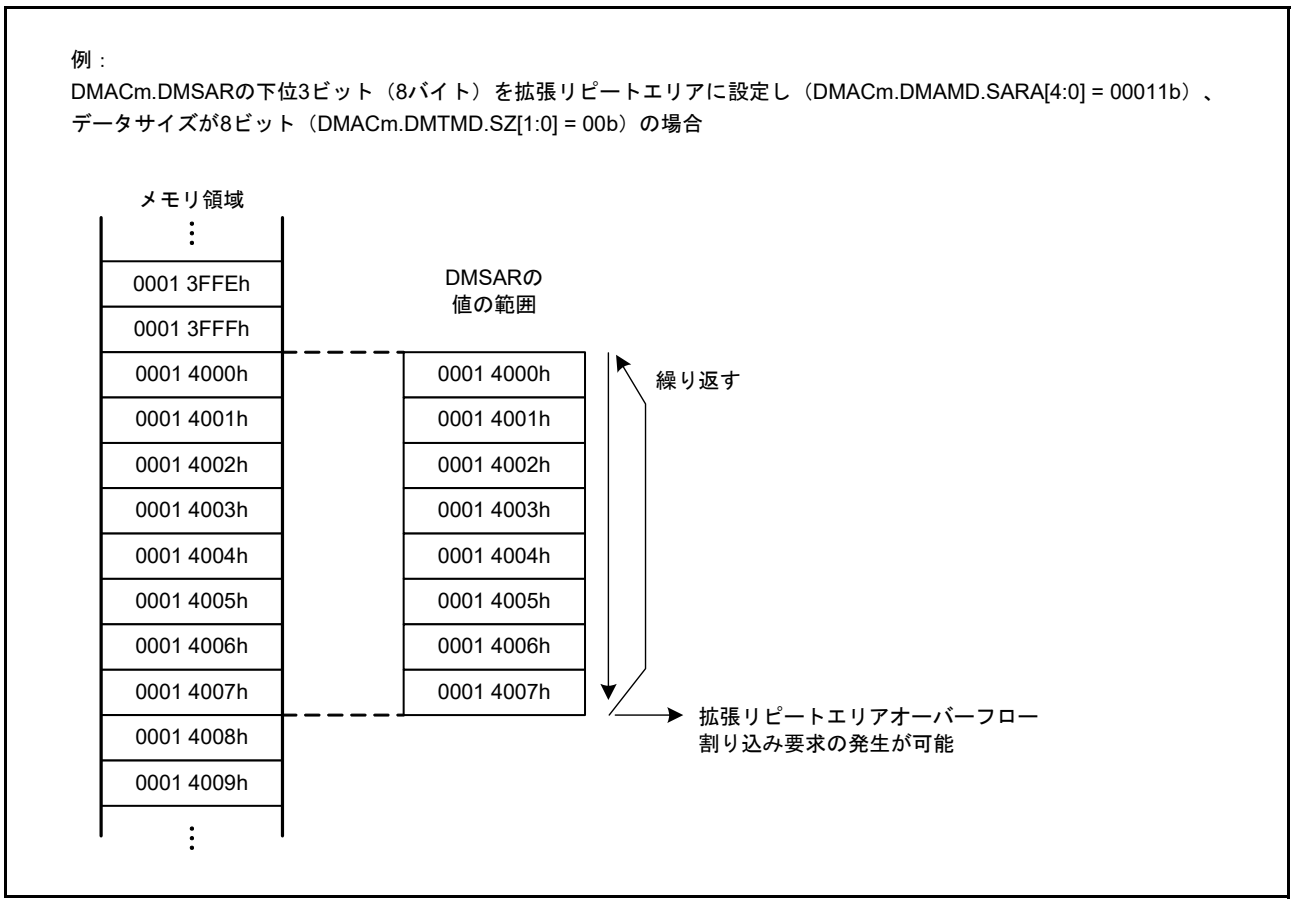


図 17.5 拡張リピート領域の動作例

ブロック転送モードで拡張リピート領域オーバーフロー割り込みを使用する場合は、以下の点に注意してください。

- 拡張リピート領域オーバーフロー割り込みで転送を終了させる場合、ブロックサイズを 2 のべき乗になるように設定するか、またはブロックサイズの境界と拡張リピート領域の範囲の境界が一致するようにアドレスレジスタの値を設定する必要があります。また、1 ブロックの転送中に拡張リピート領域にオーバーフローが発生した場合、そのブロックの転送が終了するまで拡張リピート領域オーバーフロー割り込みは保留され、転送はオーバーランします。

図 17.6 に、ブロック転送モードにおける拡張リピート領域機能の使用例を示します。

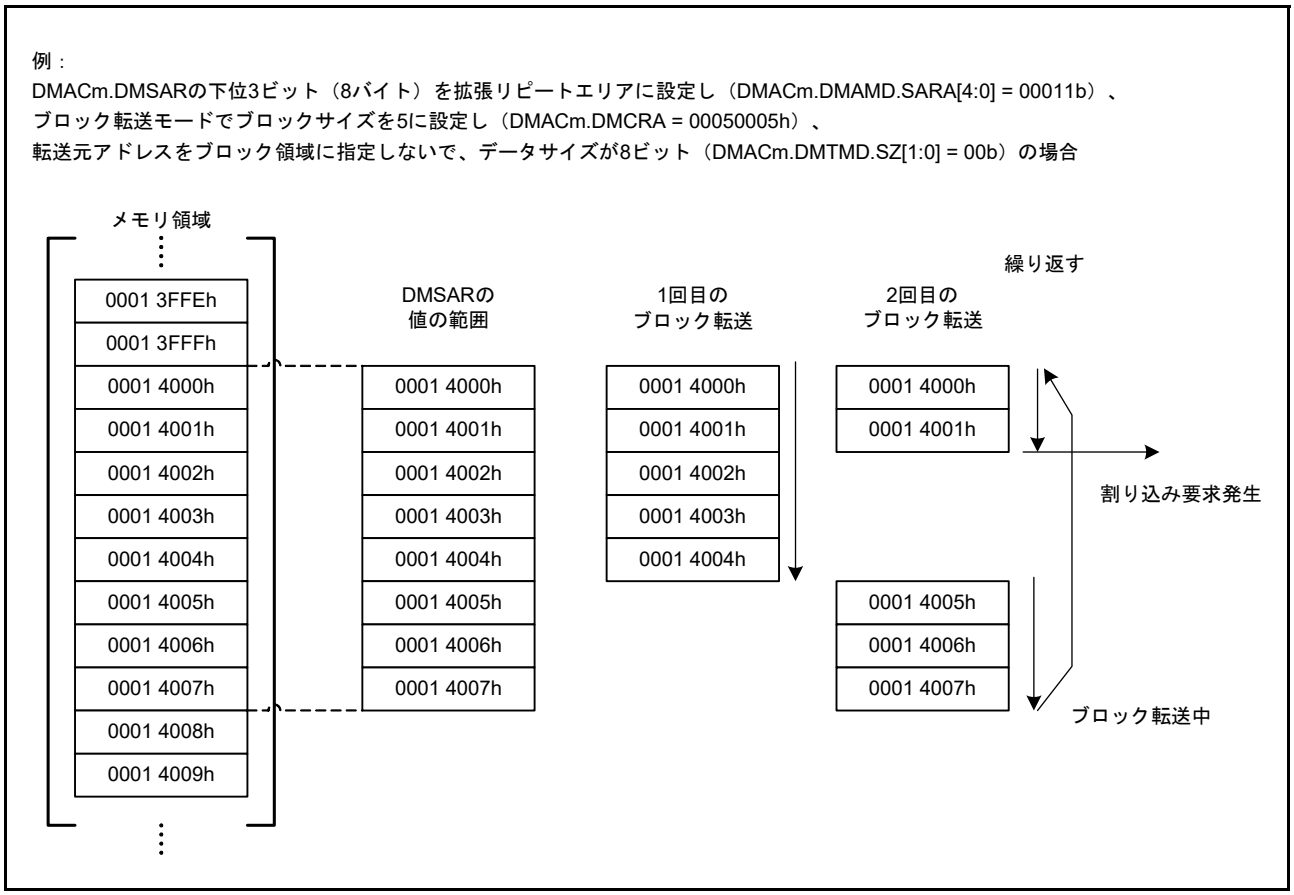


図 17.6 ブロック転送モードにおける拡張リピート領域機能の使用例

17.3.3　オフセットを使用したアドレス更新機能

転送元アドレスと転送先アドレスの更新方法には、固定、インクリメント、デクリメントの他にオフセット加算があります。オフセット加算では、DMAC が 1 データの転送を実行するたびに、DMA オフセットレジスタ（DMACm.DMOFR）で設定したオフセット値がアドレスに加算されます。また、DMACm.DMOFR に負の値を設定すると、オフセットによる減算も可能です。負の値は 2 の補数で設定する必要があります。

各アドレス更新モードにおけるアドレス更新方法を表 17.6 に示します。

表 17.6　各アドレス更新モードにおけるアドレス更新方法

アドレス更新モード	アドレス更新モードに対する DMACm.DMAMD.SM[1:0] および DMACm.DMAMD.DM[1:0] の設定値	DMACm.DMTMD.SZ[1:0] の設定値別アドレス更新方法		
		SZ[1:0] = 00b	SZ[1:0] = 01b	SZ[1:0] = 10b
アドレス固定	00b	固定		
オフセット加算	01b	+DMACm.DMOFR（注 1）		
インクリメント	10b	+1	+2	+4
デクリメント	11b	-1	-2	-4

注 1.　DMA オフセットレジスタに負の値を設定する場合、その値は次式で計算される 2 の補数でなければいけません。
負のオフセット値の 2 の補数表現 = ～（オフセット値）+1（～ = ビット反転）

(1)　オフセット加算を使用した基本的な転送

オフセット加算によるアドレス更新機能の動作例を図 17.7 に示します。

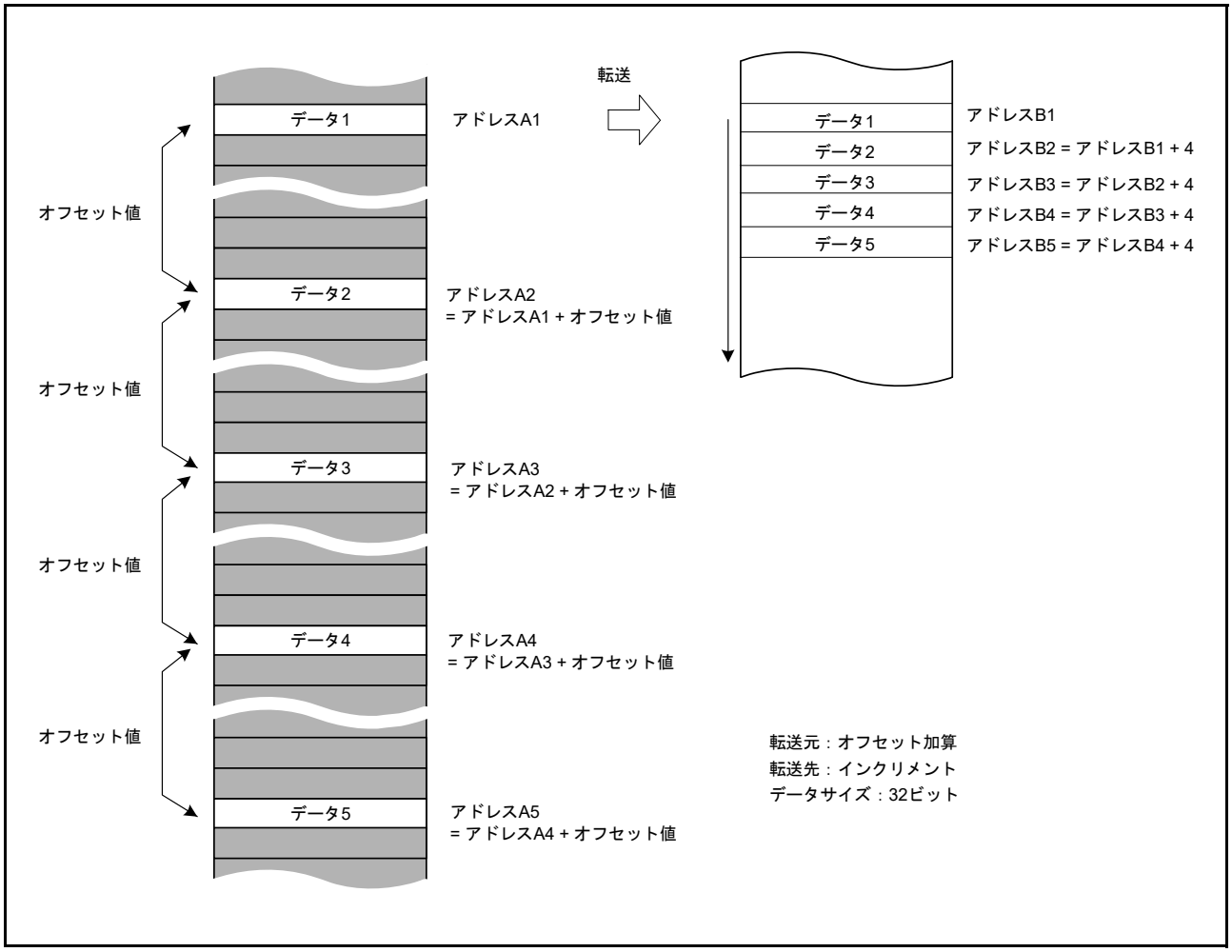


図 17.7　オフセット加算によるアドレス更新機能の動作例

図 17.7 では、以下のように設定しています。

- 転送データサイズは 32 ビット
- 転送元アドレスの更新モードはオフセット加算
- 転送先アドレスの更新モードはインクリメント

2 回目以降のデータは、前回のアドレスにオフセット値を加算することで得られる転送元アドレスから読み出されます。指定された間隔で読み出されたデータは、転送先では連続した領域に書き込まれます。

(2) オフセット加算を使用した XY 変換例

図 17.8 に、リピート転送モードとオフセット加算を組み合わせて XY 変換を行うときの動作を示します。設定方法は以下のとおりです。

- DMAC0.DMAMD — 転送元アドレス更新モード設定：オフセット加算
- DMAC0.DMAMD — 転送先アドレス更新モード設定：インクリメント
- DMAC0.DMTMD — データ転送サイズ選択：32 ビット
- DMAC0.DMTMD — 転送モード設定：リピート転送
- DMAC0.DMTMD — リピート領域選択：転送元をリピート領域に設定
- DMAC0.DMOFR — オフセットアドレス：10h
- DMAC0.DMCRA — リピートサイズ：4h
- DMAC0.DMINT — リピートサイズ終了割り込みを許可

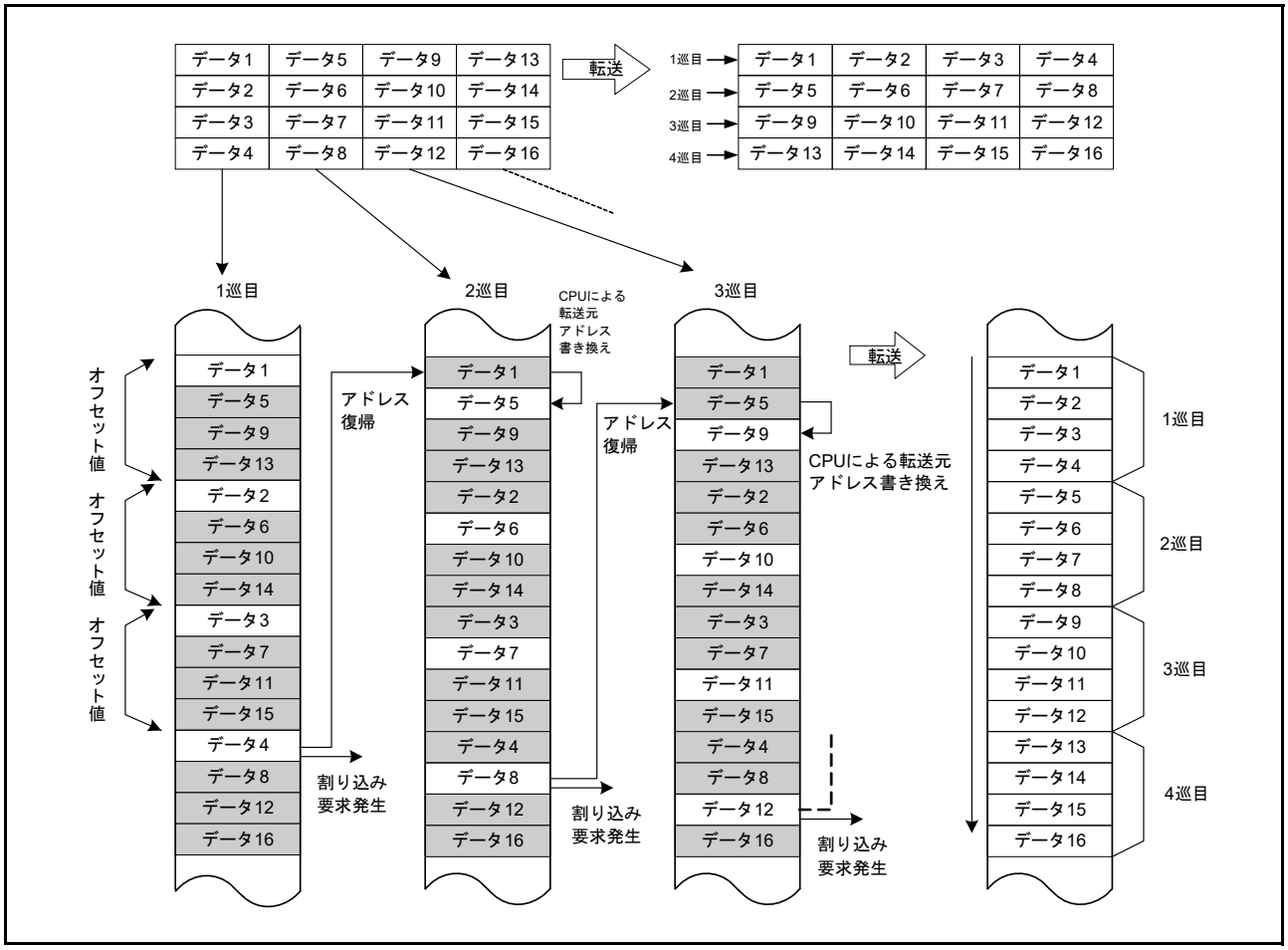


図 17.8　リピート転送モード + オフセット加算による XY 変換動作

転送が開始されると、毎回、転送元アドレスにオフセット値を加算してデータ転送が行われます。転送データは、連続した転送先アドレスに書き込まれます。データ 4 まで転送されたときの動作は以下のとおりです。

- リピートサイズ分のデータ転送が終了する
- 転送元アドレスは転送開始時のアドレス（転送元のデータ 1 のアドレス）に復帰する
- リピートサイズ終了割り込要求が発生する

この割り込みによって転送が一時停止している間、以下の処理を行います。

- DMAC0.DMSAR — DMA 転送元アドレスをデータ 5 のアドレスに書き換える
（この例ではデータ 1 のアドレスに 4 を加算）
- DMAC0.DMCNT — DTE ビットを 1 にする

DMA 転送が中断したときの状態から DMA 転送が再開されます。以降、同じ処理を繰り返すと、転送元のデータが転送先で配置を入れ替えられます（XY 変換）。

図 17.9 に XY 変換の処理フローを示します。

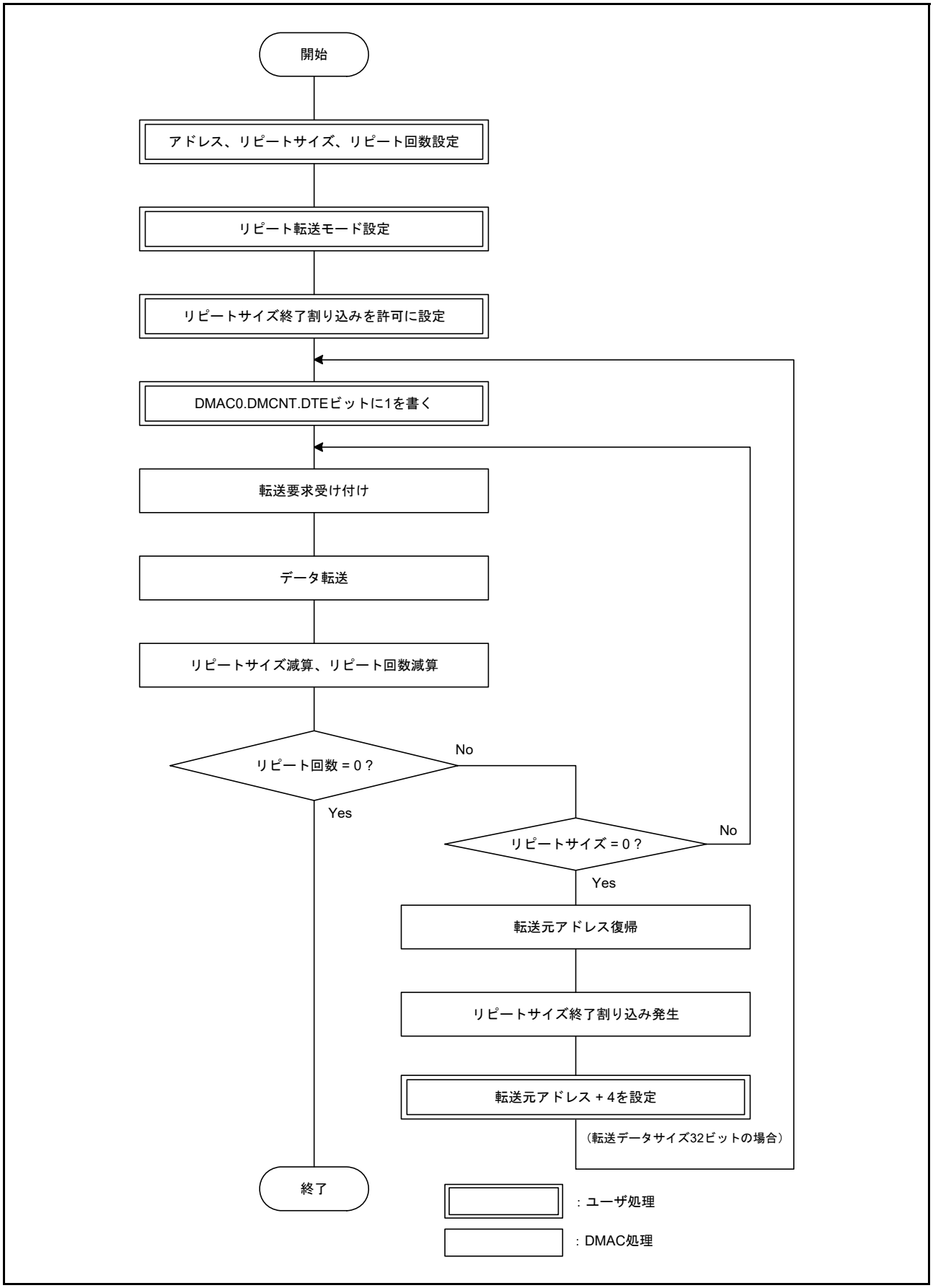


図 17.9　リピート転送モード + オフセット加算による XY 変換フロー

17.3.4 起動要因

ソフトウェア、周辺モジュールからの割り込み要求、および外部割り込み要求は、すべて DMAC 起動要因として指定可能です。起動要因を選択するには、DMACm.DMTMD.DCTG[1:0] ビットを設定します。

(1) ソフトウェアによる DMAC 起動

ソフトウェアによって DMA 転送を開始する場合、以下の手順に従います。

1. DMACm.DMTMD.DCTG[1:0] ビットを 00b にする。
2. DMACm.DMCNT.DTE ビットを 1（DMA 転送許可）にする。
3. DMAST.DMST ビットを 1（DMAC 起動許可）にする。
4. DMACm.DMREQ.SWREQ ビットを 1（DMA 転送要求あり）にする。

DMACm.DMREQ.CLRS ビットが 0 の状態でソフトウェアによる DMAC 起動を行った場合、DMA 転送要求に対する転送が開始されると DMACm.DMREQ.SWREQ ビットが 0 になります。

DMACm.DMREQ.CLRS ビットが 1 の状態でソフトウェアによる DMAC 起動を行った場合は、転送を開始しても DMACm.DMREQ.SWREQ ビットは 0 になりません。要求に対する転送終了後、再び DMA 転送要求が発生します。

(2) 内蔵周辺モジュール／外部割り込み要求による DMAC 起動

内蔵周辺モジュールからの割り込み要求と外部割り込み要求を、DMAC 起動要因に指定することが可能です。起動要因は、ICU.DELSRn.DELS[8:0] ビット（n = 0 ～ 7）でチャネルごとに個別に選択できます。

内蔵周辺モジュールからの割り込み要求または外部割り込み要求によって DMAC 転送を開始する場合、以下の手順に従います。

1. DMACm.DMTMD.DCTG[1:0] ビットを 01b（周辺モジュールまたは外部割り込み端子からの割り込み）にする。
2. DMACm.DMCNT.DTE ビットを 1（DMA 転送許可）にする。
3. ICU.DELSRn.DSEL ビットにイベント番号を設定する（DMAC イベントリンクを選択する）。
4. DMAST.DMST ビットを 1（DMAC 起動許可）にする。

DMAC 起動要因となる割り込み要求については、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」の表 14.3 割り込みベクタテーブルを参照してください。

17.3.5 動作タイミング

下記のタイミング図は、最小実行サイクル数を示しています。

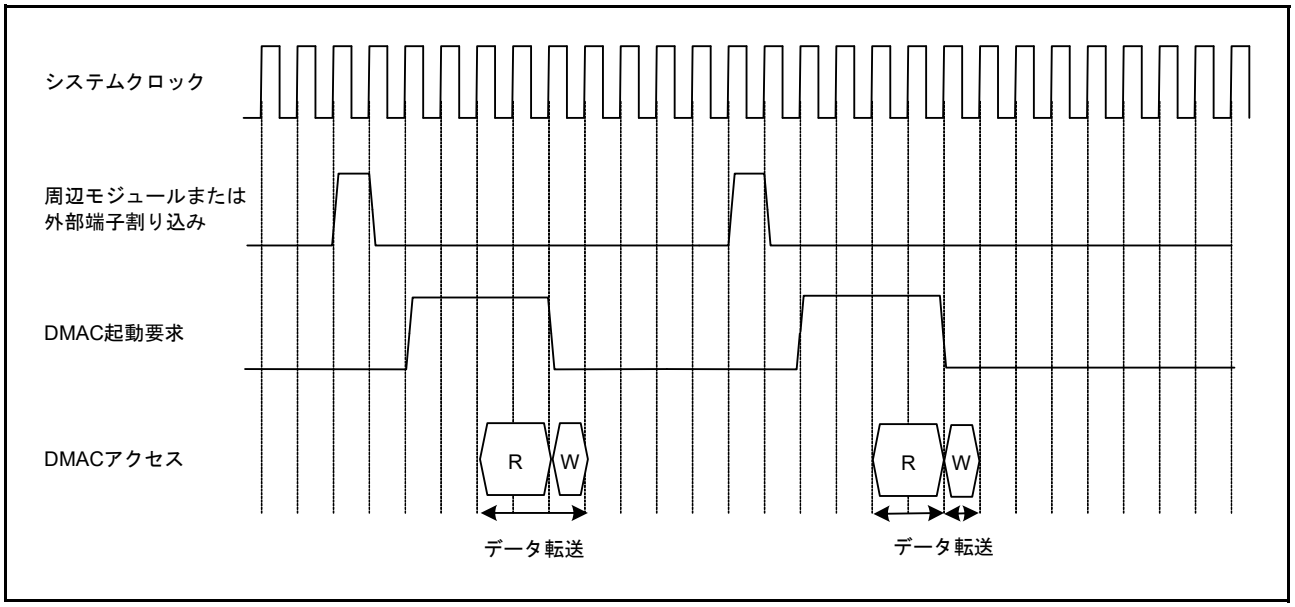


図 17.10 DMAC 動作タイミング例 1：周辺モジュールまたは外部割り込み入力端子からの割り込みによる DMA 起動（ノーマル転送モードまたはリピート転送モードの場合）

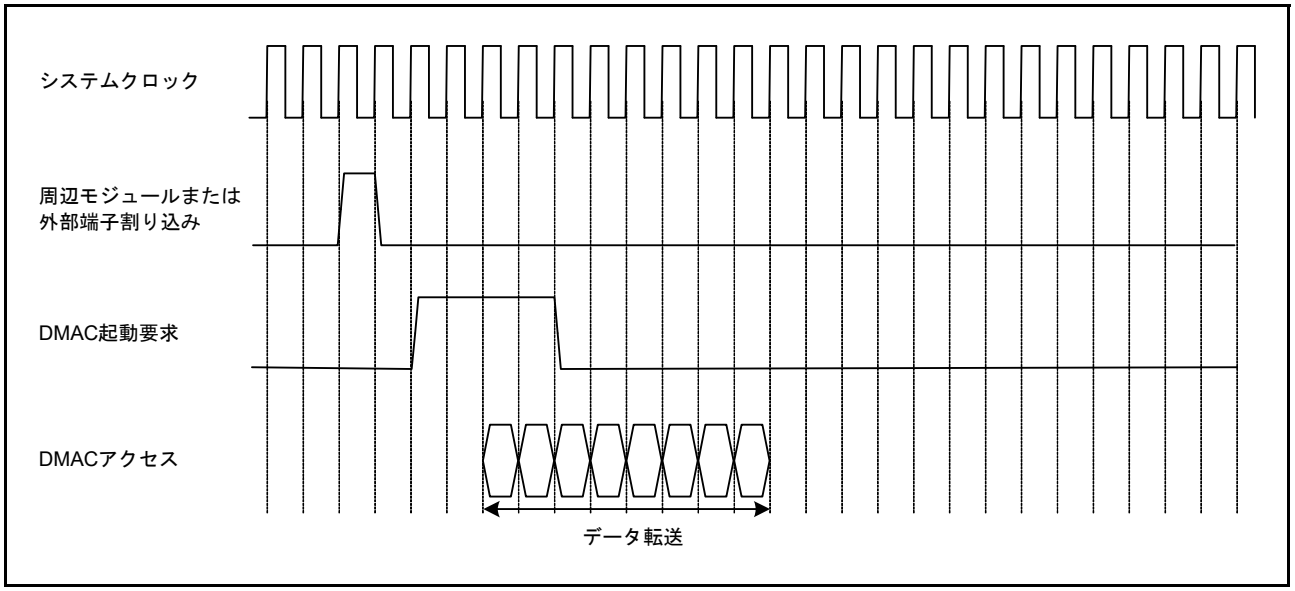


図 17.11 DMAC 動作タイミング例 2：周辺モジュールまたは外部割り込み入力端子からの割り込みによる DMA 起動（ブロック転送モードでブロックサイズ = 4 の場合）

17.3.6 DMAC の実行サイクル

表 17.7 に、DMAC の 1 回のデータ転送の実行サイクルを示します。

表 17.7 DMACの実行サイクル

転送モード	データ転送（読み出し）	データ転送（書き込み）
ノーマル	Cr + Cs + 1	Cw + Cs
リピート	Cr + Cs + 1	Cw + Cs
ブロック（注1）	P × (Cr + Cs)	P × (Cw + Cs)

注 . P = ブロックサイズ（DMCRAH レジスタの設定値）
Cr = データリード先アクセスサイクル
Cw = データライト先アクセスサイクル
Cs = システムコントロールに関連する SRAMHS および周辺モジュールへのアクセス時：2 サイクル
上記以外へのアクセス時：0 サイクル
スレーブバスがリード／ライトデータ転送によって変化する場合、さらに 1 サイクルを追加
注 1. ブロックサイズが 2 以上の場合です。ブロックサイズが 1 の場合は、ノーマル転送のサイクル数となります。

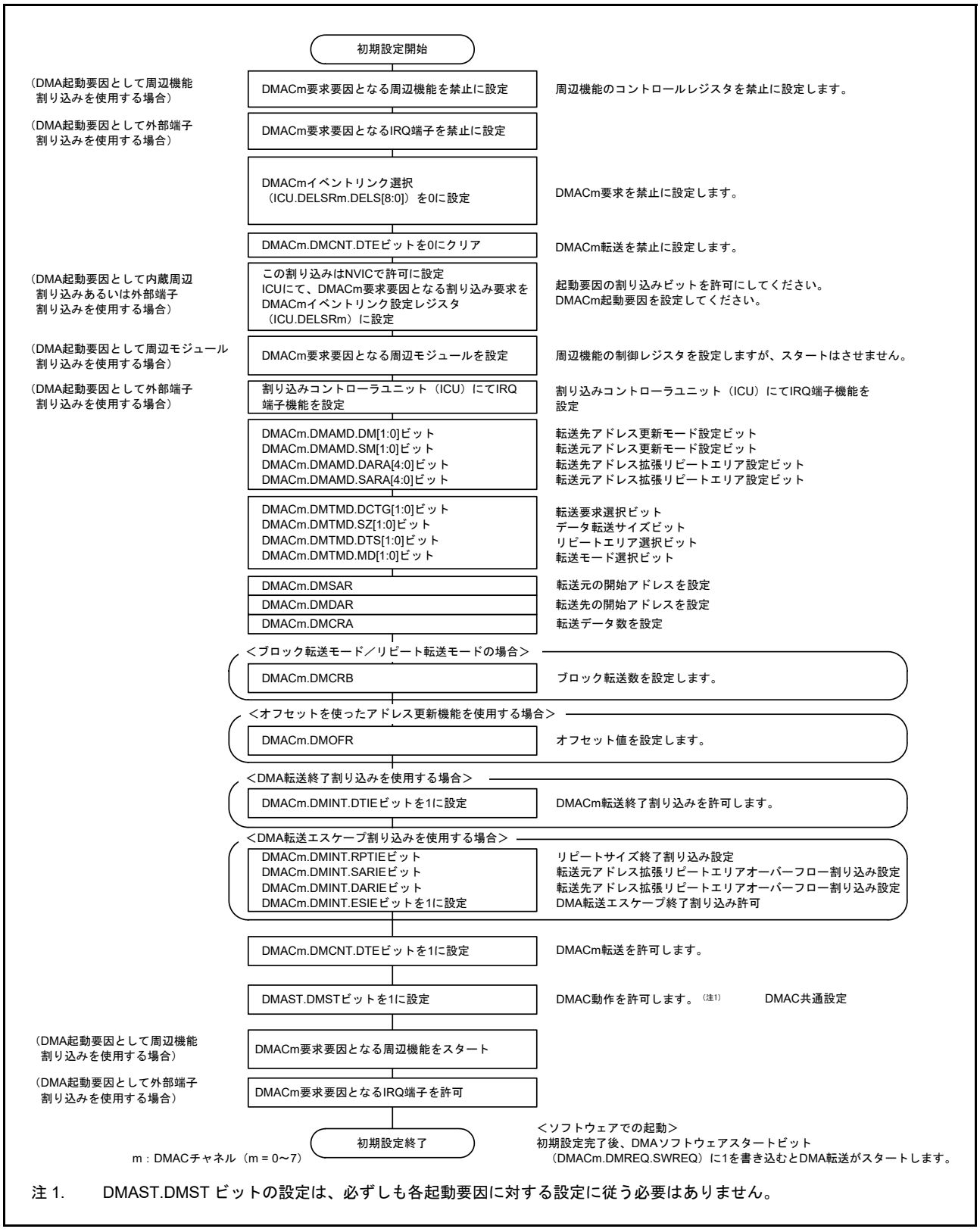
Cr と Cw はアクセス先で異なります。アクセス先ごとのサイクル数については、「48. SRAM」、「50. フラッシュメモリ」、および 15.2.3 外部バスを参照してください。システムクロックと周辺クロックの周波数比も考慮されています。

データ転送（読み出し）列の「+1」の単位は、システムクロック（ICLK）の 1 サイクルです。動作例については、17.3.5 動作タイミングを参照してください。

DMAC の応答時間は、DMAC の起動要因が検出されてから DMAC 転送が始まるまでの時間です。表 17.7 には、DMAC の起動要因がアクティブになってから DMAC 転送が始まるまでの時間は含まれていません。

17.3.7　DMAC の起動

図 17.12 にレジスタの設定手順を示します。



注 1.　DMAST.DMST ビットの設定は、必ずしも各起動要因に対する設定に従う必要はありません。

図 17.12　レジスタの設定手順

17.3.8 DMA 転送の開始

チャネル m の DMA 転送を有効にするには、DMACm.DMCNT.DTE ビットを 1（DMA 転送許可）にして、DMAST.DMST ビットを 1（DMAC 起動許可）にします。他の DMAC チャネルや DTC の転送中は、新たな起動要求は受け付けられません。先行する転送が終了した時点で最も優先順位の高いチャネルの DMA 転送要求が選択され、そのチャネルの DMA 転送が開始されます。DMA 転送が始まると、DMACm.DMSTS.ACT フラグが 1（DMAC 動作中）になります。

17.3.9 DMA 転送中のレジスタ

DMAC のレジスタは、DMA 転送処理によって値が更新されます。更新される値は、各種設定や転送の状態によって異なります。更新されるレジスタは、DMACm.DMSAR、DMACm.DMDAR、DMACm.DMCRA、DMACm.DMCRB、DMACm.DMCNT、および DMACm.DMSTS です。これらの説明を下記に示します。各転送モードにおけるレジスタの更新動作については、表 17.3 ～表 17.5 を参照してください。

(1) DMA 転送元アドレスレジスタ（DMACm.DMSAR）

1 転送要求に対するデータ転送が終了すると、DMSAR レジスタの内容は、次の転送要求でアクセスするアドレスに更新されます。

(2) DMA 転送先アドレスレジスタ（DMACm.DMDAR）

1 転送要求に対するデータ転送が終了すると、DMDAR レジスタの内容は、次の転送要求でアクセスするアドレスに更新されます。

(3) DMA 転送カウントレジスタ（DMACm.DMCRA）

1 転送要求に対するデータ転送が終了すると、カウント値が更新されます。更新動作は、選択した転送モードによって異なります。

(4) DMA ブロック転送カウントレジスタ（DMACm.DMCRB）

1 転送要求に対するデータ転送が終了すると、カウント値が更新されます。更新動作は、選択した転送モードによって異なります。

(5) DMA 転送許可ビット（DMACm.DMCNT.DTE）

DMACm.DMCNT.DTE ビットは、レジスタを書くことによってデータ転送の許可／禁止を制御します。DMA 転送の状態に応じて自動的に DMAC によって 0 にクリアされます。

DMAC がこのビットをクリアする条件は、以下のとおりです。

- 設定された総転送データ数の転送が終了したとき
- リピートサイズ終了割り込みによって DMA 転送が停止したとき
- 拡張リピート領域オーバーフロー割り込みによって DMA 転送が停止したとき

対応する DMACm.DMCNT.DTE ビットが 1 になっているチャネルのレジスタへの書き込みは禁止です（DMACm.DMCNT レジスタを除く）。本ビットを 0 にした後のみ、書き込みが可能になります。

(6) DMA アクティブフラグ（DMACm.DMSTS.ACT）

DMACm.DMSTS.ACT フラグは、DMACm がアイドル状態であるか、または動作中であるかを示します。このフラグは DMAC がデータ転送を開始すると 1 になり、1 転送要求に対するデータ転送が終了すると 0 になります。DMA 転送中に DMACm.DMCNT.DTE ビットに 0 を書いて DMA 転送を停止させた場合でも、このフラグは DMA 転送が終了するまで 1 を保持します。

(7) 転送終了割り込みフラグ（DMACm.DMSTS.DTIF）

総転送サイズ分の DMA 転送が終了すると、DMACm.DMSTS.DTIF フラグは 1 になります。このフラグと DMACm.DMINT.DTIE ビットがともに 1 の場合、転送終了割り込み要求が発生します。このフラグが 1 になるタイミングは、DMA 転送のバスサイクルが終了し、DMACm.DMSTS.ACT フラグが 0 になって DMA 転送終了を示したときです。割り込み処理中に DMACm.DMCNT.DTE ビットを 1 にした場合、このフラグは自動的に 0 クリアされます。

(8) 転送エスケープ終了割り込みフラグ（DMACm.DMSTS.ESIF）

リピートサイズ終了割り込み、または拡張リピート領域オーバーフロー割り込み要求が発生したとき、DMACm.DMSTS.ESIF フラグは 1 になります。このフラグと DMACm.DMINT.ESIE ビットがともに 1 の場合、転送エスケープ終了割り込み要求が発生します。このフラグが 1 になるタイミングは、割り込み要求を発生させる要因になった DMA 転送のバスサイクルが終了し、DMACm.DMSTS.ACT フラグが 0 になって DMA 転送終了を示したときです。割り込み処理中に DMACm.DMCNT.DTE ビットを 1 にした場合、このフラグは自動的に 0 クリアされます。

DMAC からの割り込み要求を CPU または DTC へ送信する前に、割り込みコントロールレジスタを設定する必要があります。詳細は、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

17.3.10 チャネル優先順位

DMAC は、複数の DMA 転送要求が発生したとき、DMA 転送要求のあるチャネルの優先順位を判断します。

チャネル優先順位は、チャネル 0 ＞チャネル 1 ＞チャネル 2 ＞チャネル 3 ＞チャネル 4 ＞チャネル 5 ＞チャネル 6 ＞チャネル 7 の順で固定です（チャネル 0 が最優先）。

データ転送中に DMA 転送要求が発生した場合は、最終データの転送後にチャネルアービトレーションを行い、最も優先順位の高いチャネルの転送が開始されます。

17.4 DMA 転送の終了

DMA 転送の終了は、転送終了条件によって動作が異なります。DMA 転送が終了すると、DMACm.DMCNT.DTE ビットと DMACm.DMSTS.ACT フラグが 1 から 0 になります。

17.4.1 設定した総転送回数完了による転送終了

(1) ノーマル転送モード（DMACm.DMTMD.MD[1:0] = 00b）の場合

DMACm.DMCRAL レジスタの値が 1 から 0 になると、対応するチャネルの DMA 転送が終了し、DMACm.DMCNT.DTE ビットが 0 になり、DMACm.DMSTS.DTIF フラグが 1 になります。このとき DMACm.DMINT.DTIE ビットが 1 であると、CPU または DTC へ転送終了割り込み要求が送信されます。

(2) リピート転送モード（DMACm.DMTMD.MD[1:0] = 01b）の場合

DMACm.DMCRB レジスタの値が 1 から 0 になると、対応するチャネルの DMA 転送が終了し、DMACm.DMCNT.DTE ビットが 0 になり、DMACm.DMSTS.DTIF フラグが 1 になります。このとき DMACm.DMINT.DTIE ビットが 1 であると、CPU または DTC へ割り込み要求が送信されます。

(3) ブロック転送モード（DMACm.DMTMD.MD[1:0] = 10b）の場合

DMACm.DMCRB レジスタの値が 1 から 0 になると、対応するチャネルの DMA 転送が終了し、DMACm.DMCNT.DTE ビットが 0 になり、DMACm.DMSTS.DTIF フラグが 1 になります。このとき DMACm.DMINT.DTIE ビットが 1 であると、CPU または DTC へ割り込み要求が送信されます。

DMAC からの割り込み要求を CPU または DTC へ送信する前に、割り込みコントロールレジスタを設定する必要があります。詳細は、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

17.4.2 リピートサイズ終了割り込みによる転送終了

リピート転送モードにおいて、DMACm.DMINT.RPTIE ビットが 1 であれば、1 リピートサイズ分の転送終了時にリピートサイズ終了割り込み要求が発生します。DMACm.DMCNT.DTE ビットが 0 になり、DMACm.DMSTS.ESIF フラグが 1 になります。このとき DMACm.DMINT.ESIE ビットが 1 であると、CPU または DTC へ割り込み要求が送信されます。転送を再開させるには、DMACm.DMCNT.DTE ビットに 1 を書き込んでください。

ブロック転送モードにおいても、リピートサイズ終了割り込み要求を発生させることができます。1 ブロックサイズ分の転送終了時に、リピート転送モードと同様に割り込み要求が発生します。

DMAC からの割り込み要求を CPU または DTC へ送信する前に、割り込みコントロールレジスタを設定する必要があります。詳細は、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

17.4.3 拡張リピート領域オーバーフロー割り込みによる転送終了

拡張リピート領域が指定され、かつ DMACm.DMINT.SARIE ビットまたは DMACm.DMINT.DARIE ビットが 1 の場合に、拡張リピート領域がオーバーフローすると、拡張リピート領域オーバーフロー割り込み要求が発生します。DMA 転送が停止して、DMACm.DMCNT.DTE ビットが 0 になり、DMACm.DMSTS.ESIF フラグが 1 になります。このとき DMACm.DMINT.ESIE ビットが 1 であると、CPU または DTC へ割り込み要求が送信されます。

この割り込み要求がリードサイクル中に発生しても、以降のライトサイクルは実行されます。ブロック転送モードでは、割り込み要求が 1 ブロックの転送中に発生しても、そのブロックの残りのデータが転送されるまで、転送は終了しません。

DMAC からの割り込み要求を CPU または DTC へ送信する前に、割り込みコントロールレジスタを設定する必要があります。詳細は、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

17.4.4 DMA 転送の終了に関する注意事項

DMA 転送終了後、次の要求時に DMA 起動要求が発生する場合があります。このような状況が生じた場合、DMA 転送が開始され、DMA 起動要求は DMAC 内に保持されます。これを避けるには、ICU の DELSRn.DSELS[8:0] ビットを 0 にして、DMA 起動要求を停止してください。

最後の DMA 転送後に DMA 起動要求が発生した場合は、ICU.DELSRm.IR ビットを 0 にして DMA 起動要求をクリアしてください。

17.5 割り込み

各 DMAC チャネルは、1 要求分の転送終了後、CPU または DTC へ割り込み要求（DMACm_INT）を出力することが可能です。転送先が外部バスの場合、実際の転送先への書き込みではなく、ライトバッファへの書き込みが完了した時点で、割り込み要求が発生します。

表 17.8 に、各割り込み要因とそれらに対応するステータスフラグおよび許可ビットを示します。図 17.13 に、割り込み出力の概略論理図（DMAC0 ～ DMAC7）を示します。また、DMAC 割り込み処理ルーチンで DMA 転送を再開／終了する手順を図 17.14 に示します。

表 17.8 割り込み要因、割り込みステータスフラグ、割り込み許可ビットの対応関係

割り込み要因		割り込み許可ビット	割り込みステータスフラグ	要求出力許可ビット
転送終了		—	DMACm.DMSTS.DTIF	DMACm.DMINT.DTIE
エスケープ転送終了	リピートサイズ終了	DMACm.DMINT.RPTIE	DMACm.DMSTS.ESIF	DMACm.DMINT.ESIE
	転送元アドレス拡張リピート領域オーバーフロー	DMACm.DMINT.SARIE		
	転送先アドレス拡張リピート領域オーバーフロー	DMACm.DMINT.DARIE		

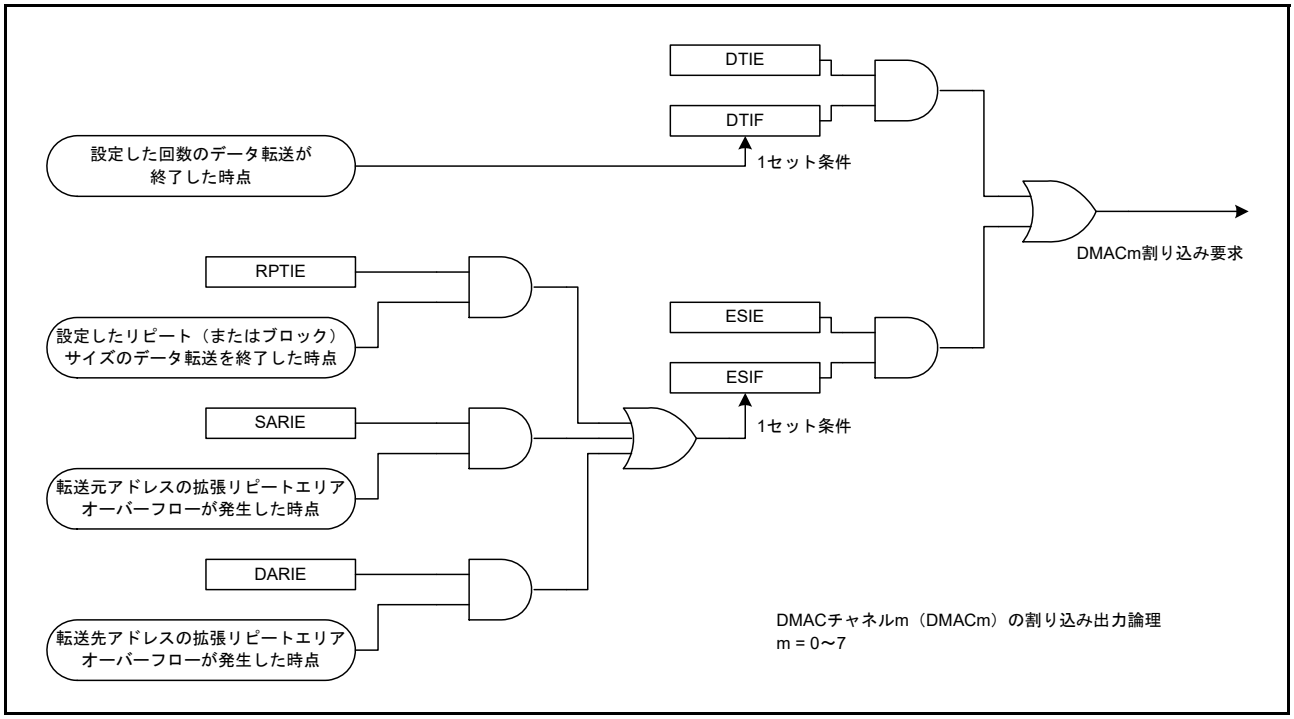


図 17.13 割り込み出力（DMAC0 ～ DMAC7）の概略論理図

割り込みを解除して DMA 転送を再開する方法は、以下のケースで異なります。

- DMA 転送を終了した場合
- DMA 転送を継続した場合

(1) DMA 転送を終了した場合

転送終了割り込みの場合は、DMACm.DMSTS.DTIF フラグに 0 を書いてください。また、リピートサイズ割り込みと拡張リピート領域オーバーフロー割り込みの場合は、DMACm.DMSTS.ESIF フラグに 0 を書いてください。割り込み要因がクリアされます。DMACm は停止状態を保ちます。その後、新たな DMA 転送を開始する場合は、必要なレジスタを設定して、DMACm.DMCNT.DTE ビットを 1（DMA 転送許可）にしてください。

(2) DMA 転送を継続した場合

DMACm.DMCNT.DTE ビットに 1 を書いてください。自動的に DMACm.DMSTS.ESIF フラグが 0 にクリア（割り込み要因がクリア）され、DMA 転送が再開します。

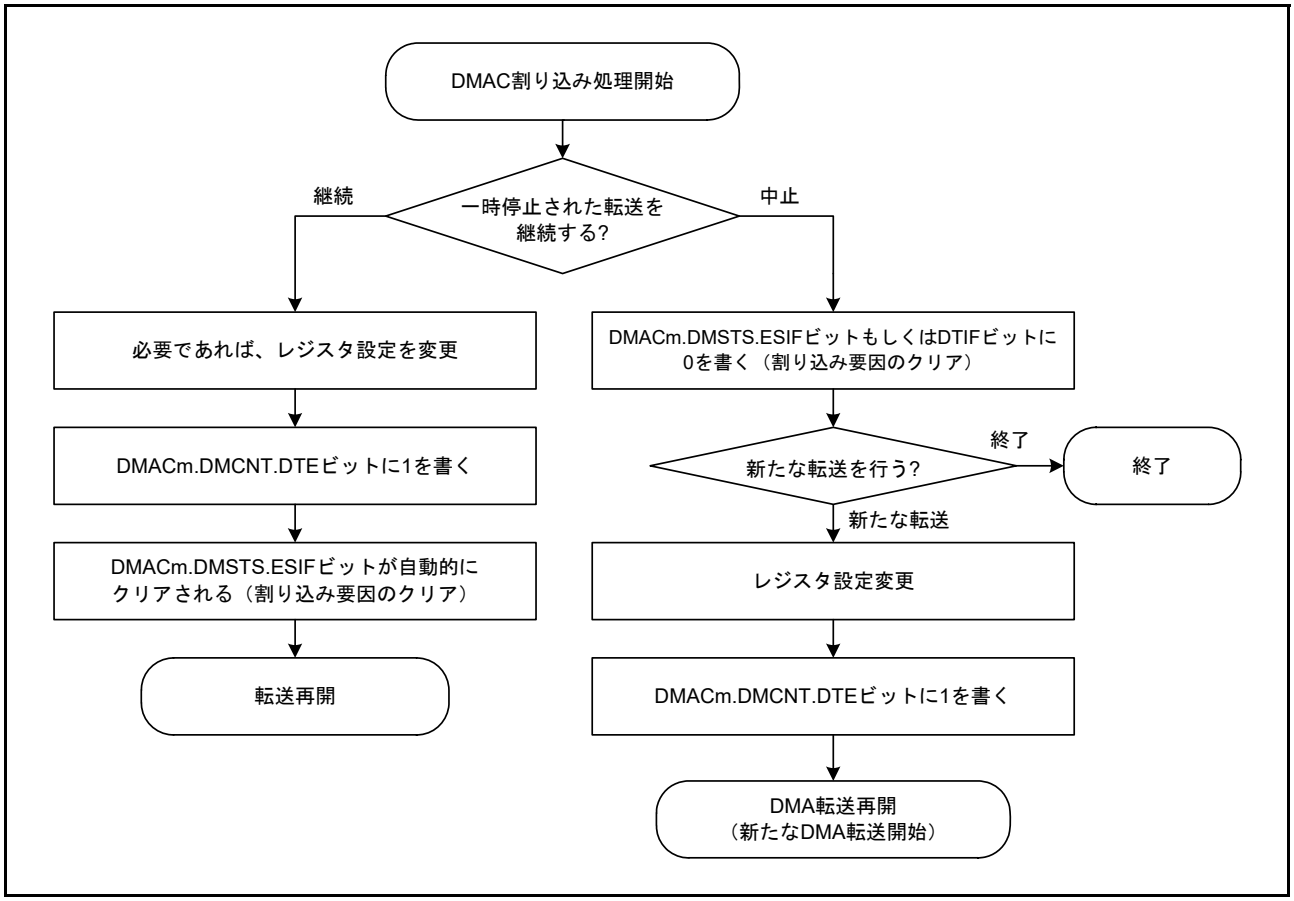


図 17.14 DMAC 割り込み処理ルーチンで DMA 転送を再開／終了する手順

17.6 イベントリンク

各 DMAC チャネルは、1 回のデータ転送（ブロック転送モードの場合は 1 ブロックの転送）が終了するたびに、イベントリンク要求信号（DMACm_INT）を出力します。転送先が外部バスの場合、ライトバッファへの書き込みが受け付けられた時点で、イベントリンク要求信号が発生します。詳細は、「19. イベントリンクコントローラ（ELC）」を参照してください。

17.7 低消費電力機能

モジュールストップ状態、ソフトウェアスタンバイモード、またはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する際は、最初に DMAST.DMST ビットを 0（DMAC モジュール停止）にして、以下のように設定してください。

(1) モジュールストップ機能

MSTPCRA.MSTPA22 ビットに 1 を書くことによって、DMAC のモジュールストップ機能が有効になります。MSTPCRA.MSTPA22 ビットに 1 を書いたとき、DMA 転送が動作中の場合は、DMA 転送終了後にモジュールストップ状態へ遷移します。MSTPCRA.MSTPA22 ビットが 1 のとき、DMAC のレジスタにアクセスすることは禁止されています。MSTPCRA.MSTPA22 ビットに 0 を書くことで、DMAC のモジュールストップ状態は解除されます。

(2) ソフトウェアスタンバイモード、ディープソフトウェアスタンバイモード

11.7.1 ソフトウェアスタンバイモードへの遷移および 11.9.1 ディープソフトウェアスタンバイモードへの遷移に示す手順に従って設定してください。

WFI 命令実行時に DMA 転送が動作中の場合、DMA 転送が終了してからソフトウェアスタンバイモードやディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移します。

(3) 低消費電力機能に関する注意事項

WFI 命令とレジスタの設定については、11.10.7 WFI 命令のタイミングを参照してください。

低消費電力モードから復帰後、DMA 転送を行うには、再度 DMAST.DMST ビットを 1 にしてください。ソフトウェアスタンバイモード時に発生した要求を、DMAC 起動要求ではなく CPU への割り込み要求として使用する場合は、14.4.2 割り込み要求先の選択に示すように、割り込み要求先を CPU に切り替えてから WFI 命令を実行してください。

17.8 使用上の注意事項

17.8.1 外部デバイスへの DMA 転送について

外部デバイスへの DMA 転送では、最後のデータライトが開始されてから外部バスアクセスが終了する前に、DMACm.DMSTS.ACT フラグが 0（DMAC 停止中）になることがあります。

17.8.2 DMA 転送中のレジスタアクセスについて

DMACm.DMSTS.ACT フラグが 1（DMAC 動作中）、または DMACm.DMCNT.DTE ビットが 1（DMA 転送許可）の状態で、同じチャネルの下記のレジスタに書き込まないでください。

- DMSAR
- DMDAR
- DMCRA
- DMCRB
- DMTMD
- DMINT
- DMAMD
- DMOFR

17.8.3 予約領域への DMA 転送について

予約領域への DMA 転送は禁止です。予約領域へアクセスが発生した場合の転送結果は保証されません。予約領域の詳細は、「4. アドレス空間」を参照してください。

17.8.4 割り込みコントローラユニットの DMAC イベントリンク設定レジスタ（ICU.DELSRn）の設定

DMAC イベントリンク設定レジスタ（ICU.DELSRn）を設定する前に、DMA 転送許可ビット（DMACm.DMCNT.DTE）が 0（DMA 転送禁止）であることを確認してください。また、ICU.DELSRn レジスタで設定したイベント番号に対応する DTC 起動許可ビット（ICU.IELSRn.DTCE）を 1 にしないでください。ICU.IELSRn.DTCE レジスタと ICU.DELSRn レジスタの詳細は、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

17.8.5 DMA 起動の保留／再開方法

DMA 起動要求を保留するには、DMAC イベントリンク選択ビット（ICU.DELSRn.DELS[8:0]）を 0 にしてください。DMA 転送を再開するには、17.3.7 DMAC の起動に示す設定を行った上で、ICU.DELSRn.DELS[8:0] ビットにイベント番号を書き込んでください。

18. データトランスファコントローラ（DTC）

18.1 概要

本 MCU はデータトランスファコントローラ（DTC）を内蔵しています。DTC は、割り込み要求によって起動するとデータ転送を行います。表 18.1 に DTC の仕様を、図 18.1 にブロック図を示します。

表 18.1　DTCの仕様

項目	内容
転送モード	• ノーマル転送モード 1回の起動で1データを転送 • リピート転送モード 1回の起動で1データを転送 リピートサイズ分データを転送すると転送開始時のアドレスに復帰 リピート回数は最大256回設定可能で、最大256 × 32ビット（1024バイト）転送可能 • ブロック転送モード 1回の起動で1ブロックを転送 ブロックサイズは、最大256 × 32ビット = 1024バイト設定可能
転送チャネル	• 割り込み要因に対応するチャネルの転送が可能（ICUからのDTC起動要求で転送） • 1つの起動要因に対して複数データの転送が可能（チェーン転送） • チェーン転送は「カウンタが0のとき実施」または「毎回実施」のいずれかを設定可能
転送空間	• 4GB（0000 0000h～FFFF FFFFhのうち、予約領域を除く領域）
データ転送単位	• 1データ：1バイト（8ビット）、1ハーフワード（16ビット）、または1ワード（32ビット） • 1ブロックサイズ：1～256データ
CPU割り込み要因	• DTCを起動した割り込みでCPUへの割り込み要求を発生可能 • 1回のデータ転送後にCPUへの割り込み要求を発生可能 • 指定したデータ数のデータ転送終了後にCPUへの割り込み要求を発生可能
イベントリンク機能	1回のデータ転送後（ブロックの場合は1ブロック転送後）、イベントリンク要求を発生
リードスキップ	転送情報の読み出しをスキップ可能
ライトバックスキップ	転送元アドレスまたは転送先アドレスが固定の場合、転送情報のライトバックをスキップ可能
モジュールストップ機能	モジュールストップ状態に設定して消費電力を削減

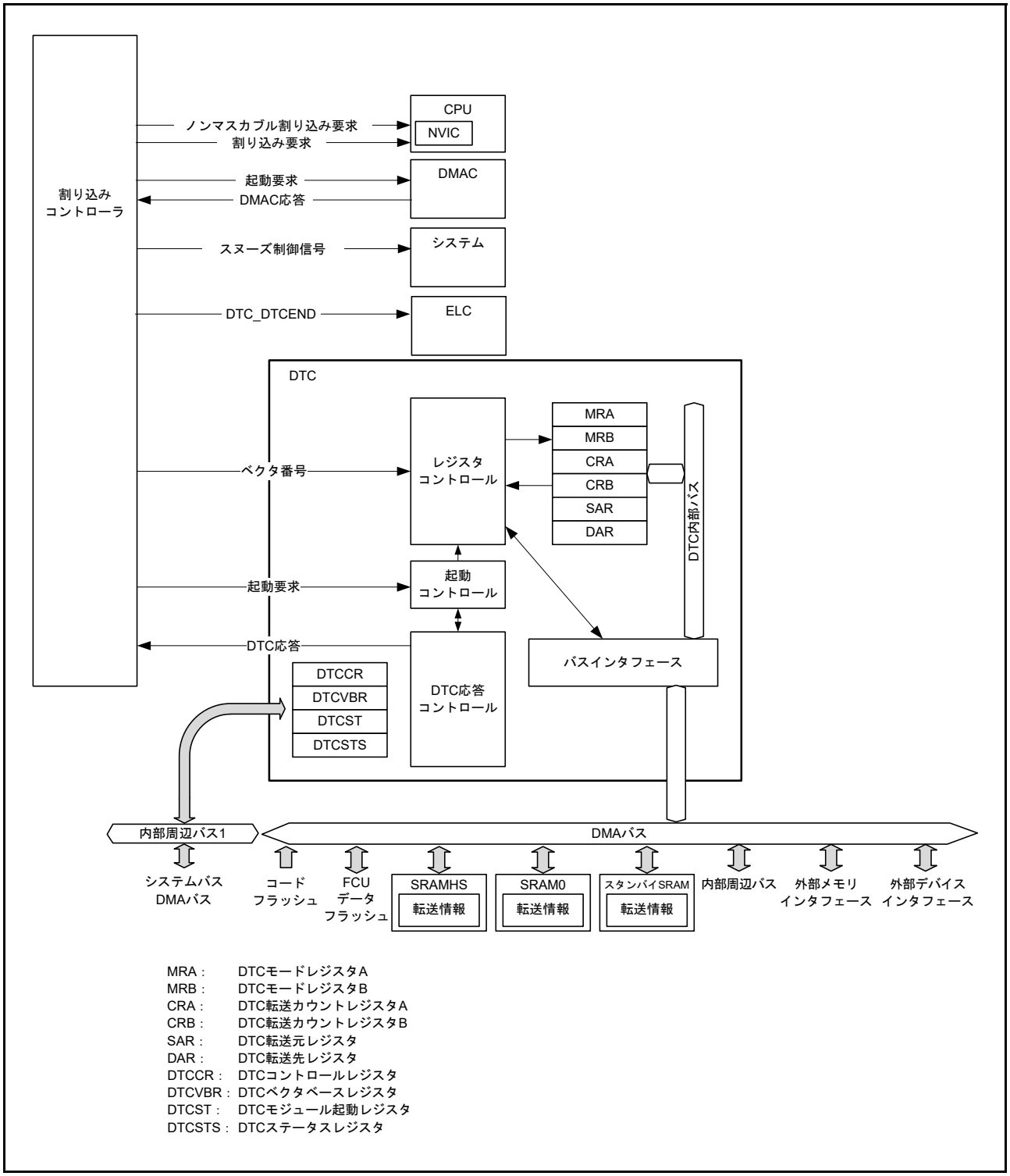


図 18.1 DTC のブロック図

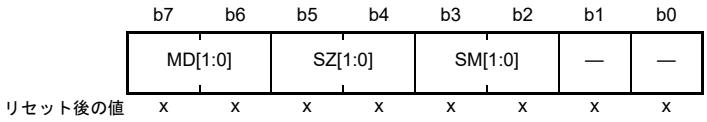
DTC と NVIC（CPU 内）の接続関係については、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」の 14.1 概要を参照してください。

18.2　レジスタの説明

MRA、MRB、SAR、DAR、CRA、CRB は、すべて DTC の内部レジスタであり、CPU から直接アクセスすることはできません。これら DTC 内部レジスタの設定値は、SRAM 領域に転送情報として配置されます。起動要求が発生すると、DTC は SRAM 領域から転送情報を読み出して、それを DTC の内部レジスタに設定します。データ転送の終了後、内部レジスタの内容は転送情報として SRAM 領域にライトバックされます。

18.2.1　DTC モードレジスタ A（MRA）

アドレス （CPUから直接アクセス不可。18.3.1 を参照してください）



x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと、不定値が読めます。書く場合、0としてください。	—
b3-b2	SM[1:0]	転送元アドレスアドレッシングモード	b3 b2 0 0：SARレジスタはアドレス固定 （SARレジスタへのライトバックをスキップ） 0 1：SARレジスタはアドレス固定 （SARレジスタへのライトバックをスキップ） 1 0：転送後SARレジスタをインクリメント SZ[1:0] = 00bのとき+1 SZ[1:0] = 01bのとき+2 SZ[1:0] = 10bのとき+4 1 1：転送後SARレジスタをデクリメント SZ[1:0] = 00bのとき-1 SZ[1:0] = 01bのとき-2 SZ[1:0] = 10bのとき-4	—
b5-b4	SZ[1:0]	DTCデータ転送サイズ	b5 b4 0 0：バイト（8ビット）転送 0 1：ハーフワード（16ビット）転送 1 0：ワード（32ビット）転送 1 1：設定禁止	—
b7-b6	MD[1:0]	DTC転送モード選択	b7 b6 0 0：ノーマル転送モード 0 1：リピート転送モード 1 0：ブロック転送モード 1 1：設定禁止	—

MRA レジスタは、CPU から直接アクセスすることはできません。ただし、CPU は SRAM 領域（転送情報（n）の開始アドレス＋03h）にアクセス可能なので、DTC によって MRA レジスタから（および MRA レジスタへ）自動的に MRA 転送情報が転送されます。18.3.1　転送情報の配置と DTC ベクタテーブルを参照してください。

18.2.2　DTC モードレジスタ B（MRB）

アドレス（CPUから直接アクセス不可。18.3.1を参照してください）

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CHNE	CHNS	DISEL	DTS	DM[1:0]		—	—
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと、不定値が読めます。書く場合、0としてください。	—
b3-b2	DM[1:0]	転送先アドレスアドレッシングモード	b3 b2 0 0：DARレジスタはアドレス固定 （DARレジスタへのライトバックをスキップ） 0 1：DARレジスタはアドレス固定 （DARレジスタへのライトバックをスキップ） 1 0：転送後DARレジスタをインクリメント MRA.SZ[1:0] = 00bのとき+1 MRA.SZ[1:0] = 01bのとき+2 MRA.SZ[1:0] = 10bのとき+4 1 1：転送後DARレジスタをデクリメント MRA.SZ[1:0] = 00bのとき-1 MRA.SZ[1:0] = 01bのとき-2 MRA.SZ[1:0] = 10bのとき-4	—
b4	DTS	DTC転送モード選択	0：転送先にリピート領域またはブロック領域を選択 1：転送元にリピート領域またはブロック領域を選択	—
b5	DISEL	DTC割り込み選択	0：指定されたデータ転送終了時、CPUへの割り込みが発生 1：DTCデータ転送のたびに、CPUへの割り込みが発生	—
b6	CHNS	DTCチェーン転送選択	0：連続してチェーン転送を行う 1：転送カウンタが1→0、または1→CRAHとなったとき、 チェーン転送を行う	—
b7	CHNE	DTCチェーン転送許可	0：チェーン転送禁止 1：チェーン転送許可	—

MRB レジスタは、CPU から直接アクセスすることはできません。ただし、CPU は SRAM 領域（転送情報（n）の開始アドレス＋02h）にアクセス可能なので、DTC によって MRB レジスタから（および MRB レジスタへ）自動的に MRB 転送情報が転送されます。18.3.1　転送情報の配置と DTC ベクタテーブルを参照してください。

DTS ビット（DTC 転送モード選択）

リピート転送モードあるいはブロック転送モードにおいて、転送元または転送先をリピート領域またはブロック領域に設定します。

CHNS ビット（DTC チェーン転送選択）

チェーン転送の条件を選択します。CHNE ビットが 0 のとき、CHNS ビットの設定は無視されます。チェーン転送の条件については、表 18.3　チェーン転送の条件を参照してください。

次の転送がチェーン転送の場合、指定した転送回数の終了判定も、起動要因フラグのクリアも行われず、CPU への割り込み要求は発生しません。

CHNE ビット（DTC チェーン転送許可）

チェーン転送を許可します。チェーン転送条件の選択は、CHNS ビットで行います。チェーン転送の詳細については、18.4.6　チェーン転送を参照してください。

18.2.3　DTC 転送元レジスタ（SAR）

アドレス（CPUから直接アクセス不可。18.3.1 を参照してください）

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

SAR レジスタは、転送元の開始アドレスを設定するレジスタです。CPU から直接アクセスすることはできません。ただし、CPU は SRAM 領域（転送情報（n）の開始アドレス＋04h）にアクセス可能なので、DTC によって SAR レジスタから（および SAR レジスタへ）自動的に SAR 転送情報が転送されます。
18.3.1　転送情報の配置と DTC ベクタテーブルを参照してください。

注 .　DTC 転送では、アドレスの不整合は禁止です。MRA.SZ[1:0] = 01b の場合、ビット 0 は 0 でなければいけません。MRA.SZ[1:0] = 10b の場合、ビット 1 およびビット 0 は 0 でなければいけません。

18.2.4　DTC 転送先レジスタ（DAR）

アドレス（CPUから直接アクセス不可。18.3.1 を参照してください）

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

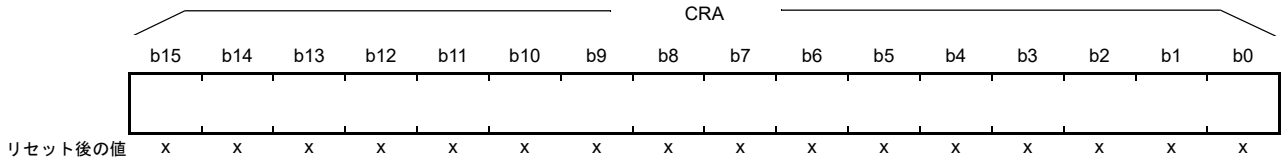
DAR レジスタは、転送先の開始アドレスを設定するレジスタです。CPU から直接アクセスすることはできません。ただし、CPU は SRAM 領域（転送情報（n）の開始アドレス＋08h）にアクセス可能なので、DTC によって DAR レジスタから（および DAR レジスタへ）自動的に DAR 転送情報が転送されます。
18.3.1　転送情報の配置と DTC ベクタテーブルを参照してください。

注 .　DTC 転送では、アドレスの不整合は禁止です。MRA.SZ[1:0] = 01b の場合、ビット 0 は 0 でなければいけません。MRA.SZ[1:0] = 10b の場合、ビット 1 およびビット 0 は 0 でなければいけません。

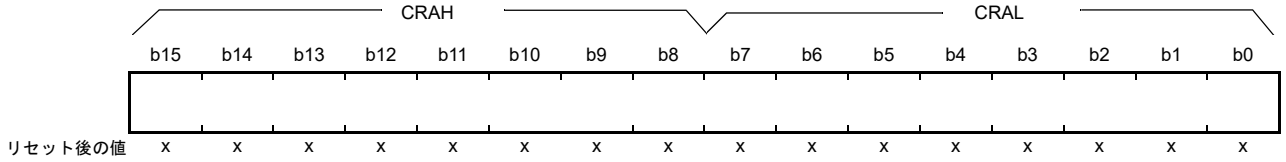
18.2.5　DTC 転送カウントレジスタ A（CRA）

アドレス（CPUから直接アクセス不可。18.3.1 を参照してください）

- ノーマル転送モード



- リピート転送モード／ブロック転送モード



x：不定

シンボル	レジスタ名	機能	R/W
CRAL	転送カウンタ A 下位レジスタ	転送回数を設定	—
CRAH	転送カウンタ A 上位レジスタ		—

注．　転送モードによって機能が異なります。
注．　リピート転送モードとブロック転送モードでは、CRAH および CRAL レジスタには同じ値を設定してください。

CRA レジスタは、CPU から直接アクセスすることはできません。ただし、CPU は SRAM 領域（転送情報（n）の開始アドレス＋0Eh）にアクセス可能なので、DTC によって CRA レジスタから（および CRA レジスタへ）自動的に CRA 転送情報が転送されます。18.3.1　転送情報の配置と DTC ベクタテーブルを参照してください。

(1)　ノーマル転送モードの場合（MRA.MD[1:0] = 00b）

ノーマル転送モードでは、CRA レジスタは 16 ビットの転送カウンタとして機能します。転送回数は、設定値が 0001h のときは 1 回、FFFFh のときは 65535 回、0000h のときは 65536 回となります。CRA レジスタの値は、データ転送を 1 回行うたびにデクリメント（-1）されます。

(2)　リピート転送モードの場合（MRA.MD[1:0] = 01b）

リピート転送モードでは、CRAH レジスタは転送回数を保持し、CRAL レジスタは 8 ビットの転送カウンタとして機能します。転送回数は、設定値が 01h のときは 1 回、FFh のときは 255 回、00h のときは 256 回となります。CRAL レジスタの値は、データ転送を 1 回行うたびにデクリメント（-1）されます。00h に達すると、CRAH レジスタの値が CRAL レジスタへ転送されます。

(3)　ブロック転送モードの場合（MRA.MD[1:0] = 10b）

ブロック転送モードでは、CRAH レジスタは転送回数を保持し、CRAL レジスタは 8 ビットのブロックサイズカウンタとして機能します。転送回数は、設定値が 01h のときは 1 回、FFh のときは 255 回、00h のときは 256 回となります。CRAL レジスタの値は、データ転送を 1 回行うたびにデクリメント（-1）されます。00h に達すると、CRAH レジスタの値が CRAL レジスタへ転送されます。

18.2.6　DTC 転送カウントレジスタ B（CRB）

アドレス（CPUから直接アクセス不可。18.3.1を参照してください）

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

CRB レジスタは、ブロック転送モードのブロック転送回数を指定するレジスタです。転送回数は、設定値が 0001h のときは 1 回、FFFFh のときは 65535 回、0000h のときは 65536 回となります。CRB レジスタの値は、1 ブロックサイズの最終データ転送時にデクリメント（-1）されます。ノーマル転送モードまたはリピート転送モードを選択した場合、CRB レジスタは使用されず、設定値は無視されます。

CRB レジスタは、CPU から直接アクセスすることはできません。ただし、CPU は SRAM 領域（転送情報（n）の開始アドレス + 0Ch）にアクセス可能なので、DTC によって CRB レジスタから（および CRB レジスタへ）自動的に CRB 転送情報が転送されます。18.3.1　転送情報の配置と DTC ベクタテーブルを参照してください。

18.2.7　DTC コントロールレジスタ（DTCCR）

アドレス　DTC.DTCCR 4000 5400h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	RRS	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	1	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b3	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b4	RRS	DTC転送情報リードスキップ許可	0：転送情報のリードスキップを行わない 1：ベクタ番号が一致したとき、転送情報のリードスキップを行う	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

RRS ビット（DTC 転送情報リードスキップ許可）

ベクタ番号が一致したとき、転送情報のリードスキップを許可します。DTC ベクタ番号は、前回起動時のベクタ番号と比較されます。ベクタ番号が一致し、かつ RRS ビットが 1 になっていると、転送情報の読み出しを行わずに DTC のデータ転送が行われます。ただし、前回の転送がチェーン転送のときは、RRS ビットの値にかかわらず転送情報の読み出しが行われます。

前回の転送がノーマル転送で転送カウンタ（CRA レジスタ）が 0 になっている場合と、ブロック転送で転送カウンタ（CRB レジスタ）が 0 になっている場合も、RRS ビットの値にかかわらず転送情報の読み出しが行われます。

18.2.8 DTC ベクタベースレジスタ（DTCVBR）

アドレス DTC.DTCVBR 4000 5404h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	ビット名	機能	R/W
b31-b0	DTCベクタベースアドレス	DTCベクタベースアドレスを設定します。下位10ビットは0にしてください。	R/W

DTCVBR レジスタは、DTC ベクタテーブルのアドレス計算に用いられるベースアドレスを設定するレジスタです。0000 0000h ～ FFFF FFFFh（4G バイト）の範囲内で 1K バイト単位の設定が可能です。

18.2.9 DTC モジュール起動レジスタ（DTCST）

アドレス DTC.DTCST 4000 540Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	DTCST
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DTCST	DTCモジュール起動	0：DTCモジュール停止 1：DTCモジュール起動	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

DTCST ビット（DTC モジュール起動）

DTC が転送要求を受け付けられるようにするには、DTCST ビットを 1 にしてください。DTCST ビットを 0 にすると、新たな転送要求を受け付けません。データ転送中に 0 に書き換えた場合、受け付け済みの転送要求は処理が終了するまで有効です。

下記の状態またはモードへ遷移する際は、事前に DTCST ビットを 0 にする必要があります：

- モジュールストップ状態
- スヌーズモードへの遷移を伴わないソフトウェアスタンバイモード
- ディープソフトウェアスタンバイモード

これらの遷移については、18.10　モジュールストップ機能と「11.　低消費電力モード」を参照してください。

18.2.10 DTC ステータスレジスタ（DTCSTS）

アドレス DTC.DTCSTS 4000 540Eh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ACT	—	—	—	—	—	—	—	VECN[7:0]							
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	VECN[7:0]	DTCアクティブベクタ番号モニタ	DTC転送動作中にその起動要因をベクタ番号で示します。 この値は、DTC転送動作中（ACTフラグが1）の場合にのみ有効です。	R
b14-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書き込みは無効です。	R
b15	ACT	DTCアクティブフラグ	0：DTC転送動作なし 1：DTC転送動作中	R

VECN[7:0] ビット（DTC アクティブベクタ番号モニタ）

DTC 転送動作中に、その転送の起動要因をベクタ番号で示します。ACT フラグが 1（DTC 転送動作中）であれば、読み出された VECN[7:0] の値は有効であり、ACT フラグが 0（DTC 転送動作なし）であれば、読み出された VECN[7:0] の値は無効です。

ACT フラグ（DTC アクティブフラグ）

DTC の転送動作状態を示します。

［1 になる条件］

- 転送要求によって DTC が起動したとき

［0 になる条件］

- 転送要求に対する DTC の転送が完了したとき

18.3 起動要因

DTC は割り込み要求によって起動します。ICU.IELSRn.DTCE ビットを 1 にすると、対応する割り込みによって DTC が起動します。ICU.IELSRn に設定されたセレクタ出力番号 n（n = 0 ～ 95）は、割り込みベクタ番号として定義されます。許可された割り込みに対して、各割り込みベクタ番号 n に対応した特定の DTC 割り込み要因が、ICU.IELSRn.IELS[8:0]（n = 0 ～ 95）で選択されます（「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」の表 14.4 イベントテーブルを参照）。ソフトウェアによる起動については、19.2.2 イベントリンクソフトウェアイベント発生レジスタ n（ELSEGRn）（n = 0, 1）を参照してください。

割り込みベクタ番号は DTC ベクタテーブル番号と同等です。DTC が起動要求を受け付けると、その要求に対する転送が終了するまで、新たな起動要求は優先順位にかかわらず受け付けません。DMAC または DTC 転送中に複数の起動要求が発生した場合、転送の終了時点で最も優先順位の高い要求が受け付けられます。DTC モジュール起動ビット（DTCST.DTCST）が 0 の状態で、複数の起動要求が発生した場合、DTC は、その後 DTCST.DTCST が 1 になったときに最も優先順位の高い要求を受け付けます。割り込みベクタ番号が小さいほど優先順位は高くなります。

1 回のデータ転送開始時（チェーン転送の場合、連続した最後の転送時）、DTC は以下のように動作します。

- 指定した回数のデータ転送が終了すると、ICU.IELSRn.DTCE ビットが 0 になり、CPU に対して割り込み要求が送信される
- MRB.DISEL ビットが 1 の場合、データ転送完了時に CPU に対して割り込み要求が送信される
- 上記のいずれでもない場合、起動要因となった ICU.IELSRn.IR ビットはデータ転送開始時に 0 になる

18.3.1 転送情報の配置と DTC ベクタテーブル

DTC は、起動要因ごとにベクタテーブルから転送情報の開始アドレスを読み出して、このアドレスから始まる転送情報を読み出します。

ベクタテーブルのベースアドレス（開始アドレス）は、下位 10 ビットが 0 になるように配置する必要があります。DTC ベクタベースレジスタ（DTCVBR）を用いて、DTC ベクタテーブルのベースアドレスを設定してください。転送情報は SRAM 領域に配置します。SRAM 領域では、ベクタ番号 n を持つ転送情報 n の開始アドレスは、ベクタテーブルのベースアドレス +4n 番地でなければいけません。

DTC ベクタテーブルと転送情報の対応を図 18.2 に示します。SRAM 領域上の転送情報の配置を図 18.3 に示します。

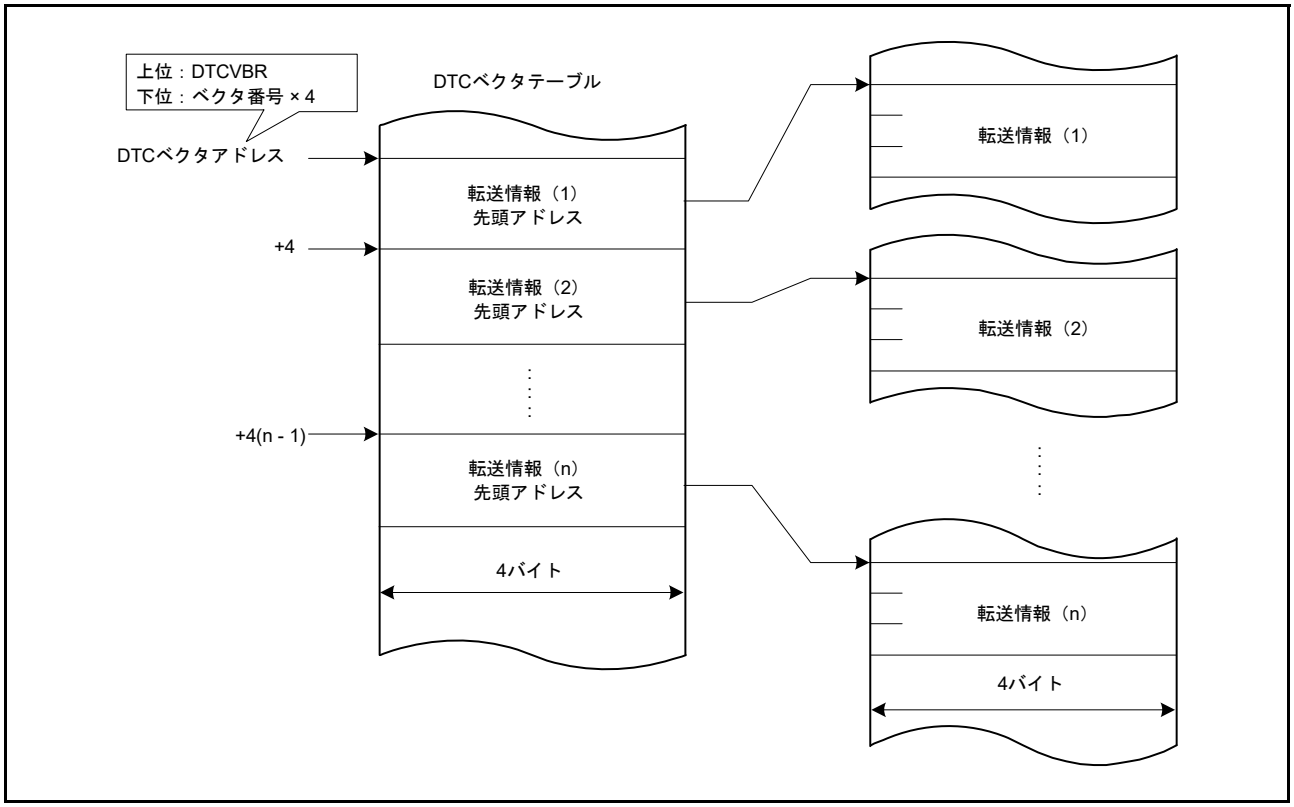


図 18.2　DTC ベクタテーブルと転送情報の対応関係

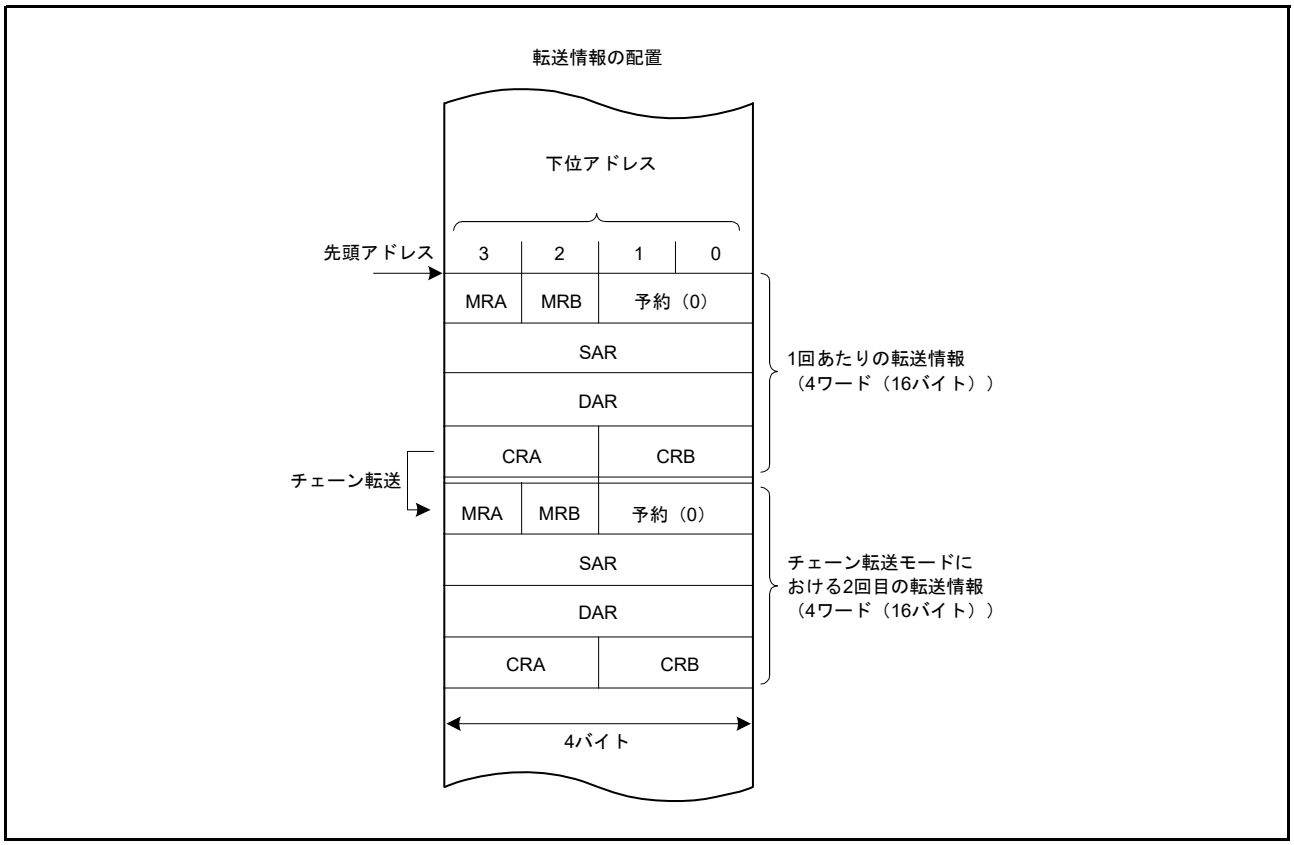


図 18.3　SRAM 領域上の転送情報の配置

18.4　動作説明

DTC は、転送情報に従ってデータを転送します。DTC を動作させるには、あらかじめ転送情報を SRAM 領域に格納しておく必要があります。DTC が起動すると、DTC はベクタ番号に対応する DTC ベクタを読み出します。次に DTC は、DTC ベクタが示す転送情報格納アドレスから転送情報を読み出して、データ転送を行います。データ転送後に、DTC は転送情報のライトバックを行います。転送情報を SRAM 領域に格納することで、任意のチャネル数のデータ転送が可能になります。

転送モードには、下記の種類があります。

- ノーマル転送モード
- リピート転送モード
- ブロック転送モード

DTC は転送元アドレスを SAR レジスタ、転送先アドレスを DAR レジスタで指定します。これらのレジスタ値は、データの転送後、それぞれ個別にインクリメント、デクリメント、あるいはアドレス固定されます。

DTC の転送モードを表 18.2 に示します。

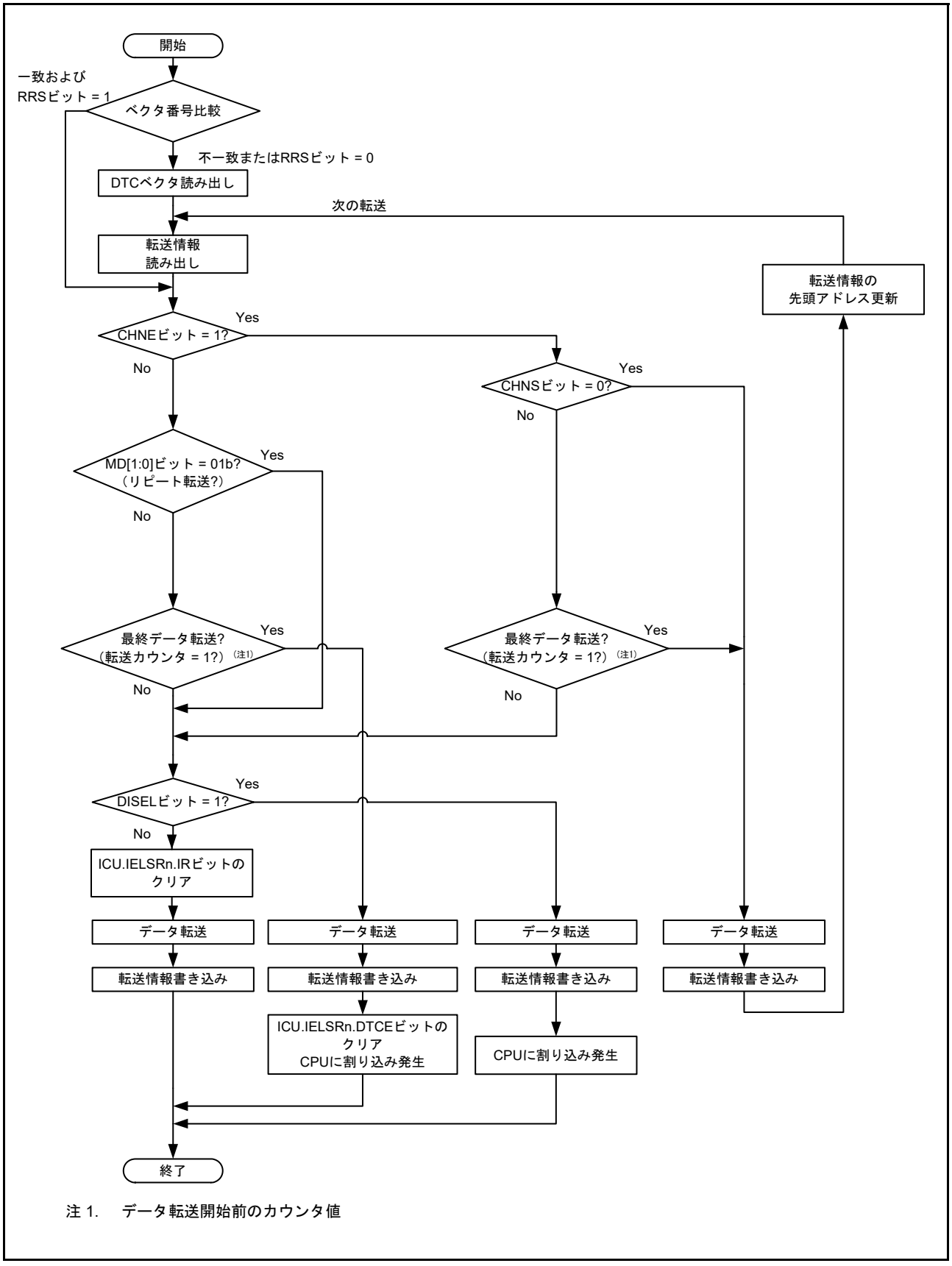
表 18.2　DTC の転送モード

転送モード	1 回の転送要求で転送可能なデータサイズ	メモリアドレスの増減	指定可能な転送回数
ノーマル転送モード	1 バイト（8 ビット）／1 ハーフワード（16 ビット）／1 ワード（32 ビット）	1、2、4 ずつインクリメントまたはデクリメント、あるいはアドレス固定	1～65536 回
リピート転送モード（注 1）	1 バイト（8 ビット）／1 ハーフワード（16 ビット）／1 ワード（32 ビット）	1、2、4 ずつインクリメントまたはデクリメント、あるいはアドレス固定	1～256 回（注 3）
ブロック転送モード（注 2）	CRAH レジスタで指定したブロックサイズ（1～256 バイト／1～256 ハーフワード（2～512 バイト）／1～256 ワード（4～1024 バイト））	1、2、4 ずつインクリメントまたはデクリメント、あるいはアドレス固定	1～65536 回

注 1.　転送元または転送先のいずれかをリピート領域に設定します。
注 2.　転送元または転送先のいずれかをブロック領域に設定します。
注 3.　指定回数の転送終了後は、初期状態を回復し動作を再開します。

MRB.CHNE ビットを 1 にすると、1 つの起動要因で複数転送またはチェーン転送が可能です。指定されたデータ転送終了時にチェーン転送を行う設定も可能です。

DTC 動作フローを図 18.4 に示します。チェーン転送の条件を表 18.3 に示します。この表では、2 番目以降の転送に対する制御情報の組み合わせは省略されています。



注 1. データ転送開始前のカウンタ値

図 18.4 DTC の動作フローチャート

表 18.3　チェーン転送の条件

第1転送				第2転送（注3）				DTC転送
CHNE ビット	CHNS ビット	DISEL ビット	転送カウンタ（注1）（注2）	CHNE ビット	CHNS ビット	DISEL ビット	転送カウンタ（注1）（注2）	
0	—	0	（1→0）以外	—	—	—	—	第1転送で終了
0	—	0	（1→0）	—	—	—	—	第1転送で終了しCPUへ割り込み要求
0	—	1	—	—	—	—	—	
1	0	—	—	0	—	0	（1→0）以外	第2転送で終了
				0	—	0	（1→0）	第2転送で終了しCPUへ割り込み要求
				0	—	1	—	
1	1	0	（1→*）以外	—	—	—	—	第1転送で終了
1	1	—	（1→*）	0	—	0	（1→0）以外	第2転送で終了
				0	—	0	（1→0）	第2転送で終了しCPUへ割り込み要求
				0	—	1	—	
1	1	1	（1→*）以外	—	—	—	—	第1転送で終了しCPUへ割り込み要求

注 1.　使用する転送カウンタは、以下のように、各転送モードで異なります。
ノーマル転送モード：CRA レジスタ
リピート転送モード：CRAL レジスタ
ブロック転送モード：CRB レジスタ

注 2.　転送終了時のカウンタ動作は以下のとおりです。
ノーマル転送モード、ブロック転送モードでは（1 → 0）
リピート転送モードでは（1 → CRAH）
表中の（1 → *）は、モードに応じて、これら両方の動作を表します。

注 3.　2 番目以降の転送に対してチェーン転送の選択が可能です。第 2 転送と CHNE ビットが 1 の組み合わせに対する条件は省略されています。

18.4.1　転送情報のリードスキップ機能

DTCCR.RRS ビットを設定することにより、ベクタアドレスと転送情報の読み出しをスキップできます。DTC 起動要求時に、今回の DTC ベクタ番号と前回起動時の DTC ベクタ番号が比較されます。ベクタ番号が一致し、かつ DTCCR.RRS ビットが 1 になっているときは、ベクタアドレスと転送情報の読み出しを行わずに DTC のデータ転送が行われます。ただし、前回の転送がチェーン転送の場合は、ベクタアドレスと転送情報が読み出されます。また、前回の転送がノーマル転送で、転送カウンタ（CRA レジスタ）が 0 になっている場合、またはブロック転送で転送カウンタ（CRB レジスタ）が 0 になっている場合も、DTCCR.RRS ビットにかかわらず転送情報が読み出されます。転送情報のリードスキップの動作例を図 18.12 に示します。

ベクタテーブルと転送情報を更新するには

1. RRS ビットを 0 にします。
2. ベクタテーブルと転送情報を更新します。
3. RRS ビットを 1 にします。

DTCCR.RRS ビットをいったん 0 にすることによって、格納されていたベクタ番号が破棄されます。次回の起動時には、更新された DTC ベクタテーブルと転送情報が読み出されます。

18.4.2 転送情報のライトバックスキップ機能

MRA.SM[1:0] ビットまたは MRB.DM[1:0] ビットをアドレス固定に設定すると、転送情報の一部はライトバックされません。転送情報のライトバックスキップ条件と対応するレジスタを表 18.4 に示します。CRA レジスタと CRB レジスタはライトバックされますが、MRA レジスタと MRB レジスタのライトバックはスキップされます。

表 18.4 転送情報のライトバックスキップ条件と適用されるレジスタ

MRA.SM[1:0] ビット		MRB.DM[1:0] ビット		SAR レジスタ	DAR レジスタ
b3	b2	b3	b2		
0	0	0	0	スキップ	スキップ
0	0	0	1		
0	1	0	0		
0	1	0	1		
0	0	1	0	スキップ	ライトバック
0	0	1	1		
0	1	1	0		
0	1	1	1		
1	0	0	0	ライトバック	スキップ
1	0	0	1		
1	1	0	0		
1	1	0	1		
1	0	1	0	ライトバック	ライトバック
1	0	1	1		
1	1	1	0		
1	1	1	1		

18.4.3　ノーマル転送モード

ノーマル転送モードでは、1 つの起動要因で、1 バイト（8 ビット）、1 ハーフワード（16 ビット）、または 1 ワード（32 ビット）のデータ転送が可能です。転送回数は 1 ～ 65536 回まで設定できます。転送元アドレスと転送先アドレスは、それぞれ個別に、インクリメント、デクリメント、または固定に設定できます。指定回数の転送が終了すると、CPU への割り込み要求を発生させることができます。

ノーマル転送モードのレジスタ機能を表 18.5 に、ノーマル転送モードのメモリマップを図 18.5 に示します。

表 18.5　ノーマル転送モードのレジスタ機能

レジスタ	機能	転送情報のライトバックによって書き戻される値
SAR	転送元アドレス	インクリメント／デクリメント／固定（注1）
DAR	転送先アドレス	インクリメント／デクリメント／固定（注1）
CRA	転送カウンタ A	CRA - 1
CRB	転送カウンタ B	更新なし

注 1.　アドレス固定のとき、ライトバックはスキップされます。

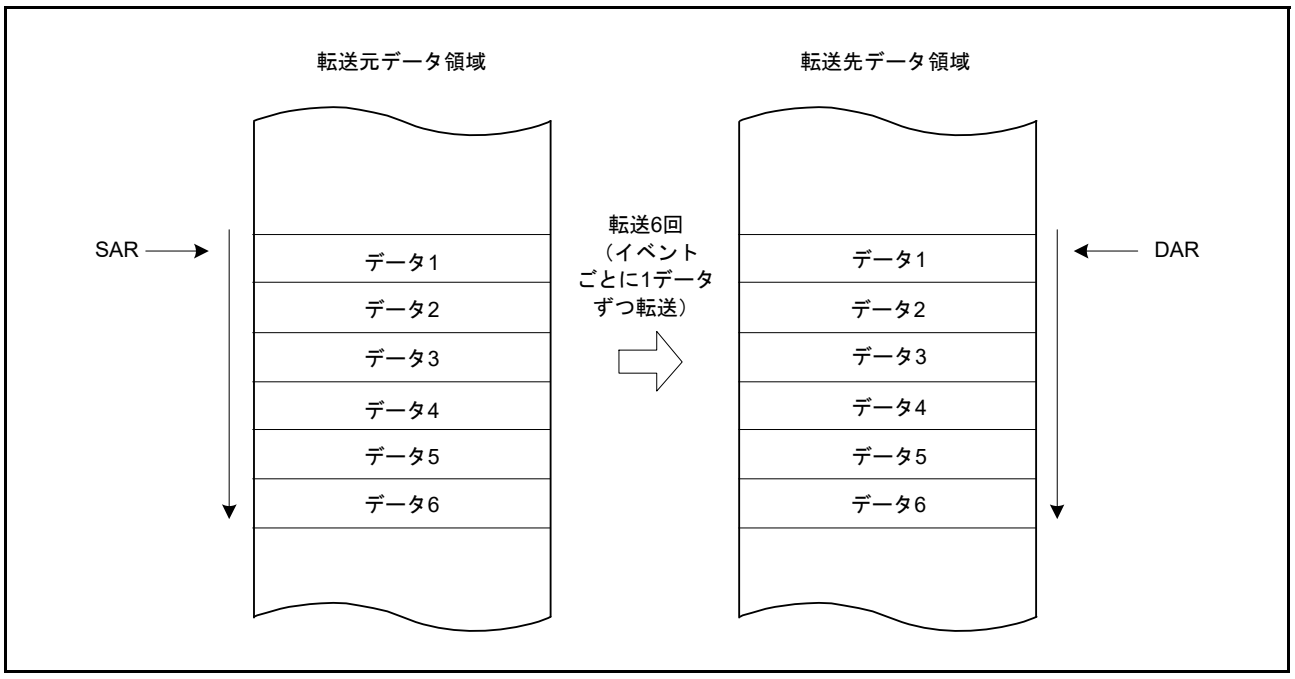


図 18.5　ノーマル転送モードのメモリマップ（MRA.SM[1:0] = 10b, MRB.DM[1:0] = 10b, CRA = 0006h）

18.4.4　リピート転送モード

リピート転送モードでは、1 つの起動要因で、1 バイト（8 ビット）、1 ハーフワード（16 ビット）、または 1 ワード（32 ビット）のデータ転送が可能です。MRB.DTS ビットで、転送元、転送先のいずれか一方をリピート領域に指定します。転送回数は 1 ～ 256 回まで設定できます。指定回数の転送が終了すると、リピート領域に指定された方のアドレスレジスタは初期値に戻り、転送カウンタも初期値に戻ります。そして転送が繰り返されます。他方のアドレスレジスタは、連続してインクリメントまたはデクリメントされるか、あるいはアドレス固定になります。

リピート転送モードでは、転送カウンタ（CRAL レジスタ）が 00h になると、CRAL レジスタの値は CRAH レジスタで設定した値に更新されます。このため、転送カウンタが 00h にならないので、MRB.DISEL ビットが 0 になっていると、CPU への割り込み要求は禁止されます。指定されたデータ転送が終了したとき、CPU への割り込みが発生します。

リピート転送モードのレジスタ機能を表 18.6 に、リピート転送モードのメモリマップを図 18.6 に示します。

表 18.6　リピート転送モードのレジスタ機能

レジスタ	機能	転送情報のライトバックによって書き戻される値	
		CRALが1以外のとき	CRALが1のとき
SAR	転送元アドレス	インクリメント／デクリメント／固定（注1）	• MRB.DTSビット= 0のとき インクリメント、デクリメントまたは固定（注1） • MRB.DTSビット= 1のとき SARレジスタの初期値
DAR	転送先アドレス	インクリメント／デクリメント／固定（注1）	• MRB.DTSビット= 0のとき DARレジスタの初期値 • MRB.DTSビット= 1のとき インクリメント、デクリメントまたは固定（注1）
CRAH	転送カウンタ保持	CRAH	CRAH
CRAL	転送カウンタA	CRAL - 1	CRAH
CRB	転送カウンタB	更新なし	更新なし

注 1.　アドレス固定のとき、ライトバックはスキップされます。

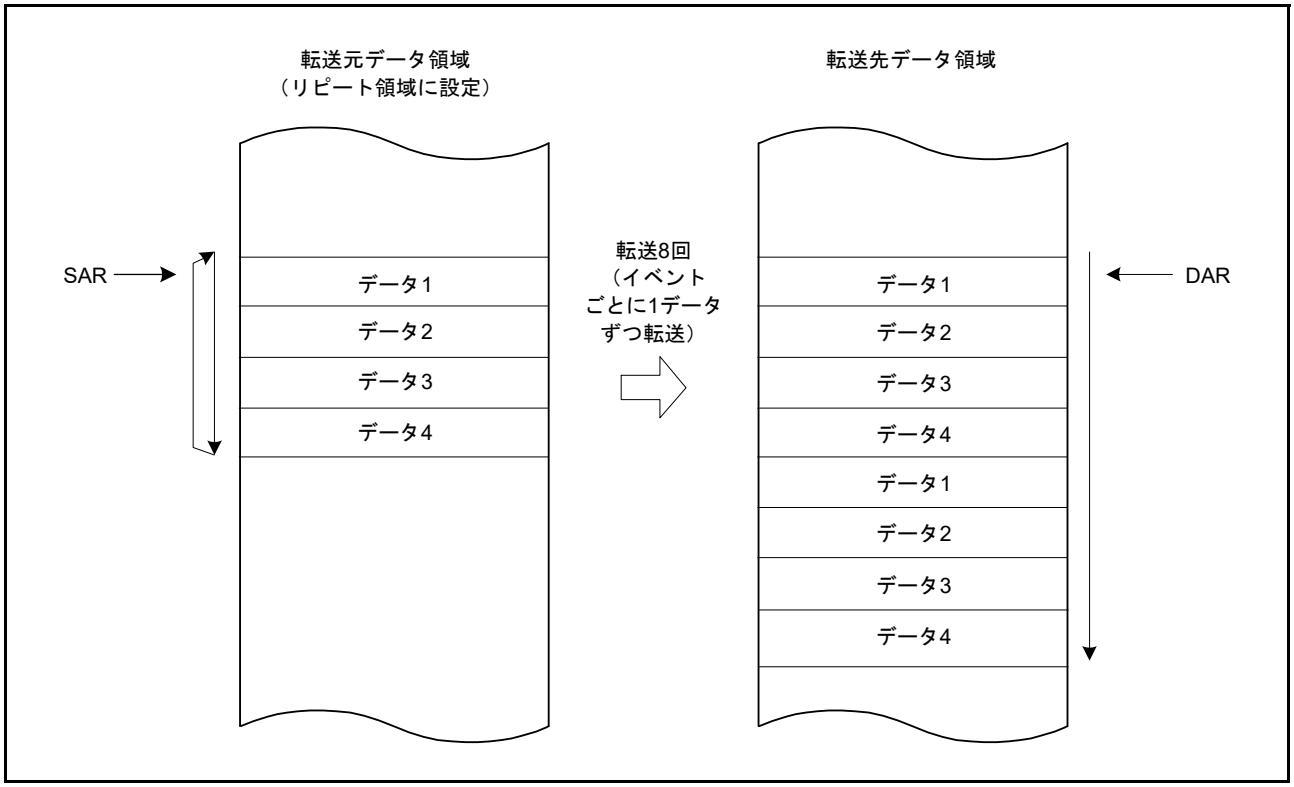


図 18.6 リピート転送モードのメモリマップ（転送元をリピート領域に設定した場合）（MRA.SM[1:0] = 10b, MRB.DM[1:0] = 10b, CRAH = 04h）

18.4.5　ブロック転送モード

ブロック転送モードでは、1 つの起動要因で 1 ブロックのデータ転送が可能です。MRB.DTS ビットで、転送元と転送先のいずれかをブロック領域に指定する必要があります。ブロックサイズは、1 ～ 256 バイト、1 ～ 256 ハーフワード（2 ～ 512 バイト）、または 1 ～ 256 ワード（4 ～ 1024 バイト）に設定できます。指定された 1 ブロックの転送が終了すると、ブロックサイズカウンタ（CRAL レジスタ）と、ブロック領域に指定したアドレスレジスタ（MRB.DTS ビットが 1 のとき SAR レジスタ、DTS ビットが 0 のとき DAR レジスタ）は初期値に戻ります。他方のアドレスレジスタは、連続してインクリメントまたはデクリメントされるか、あるいはアドレス固定になります。

転送回数（ブロック数）は、1 ～ 65536 まで指定可能です。指定回数のブロック転送が終了すると、CPU への割り込み要求を発生させることができます。

ブロック転送モードのレジスタ機能を表 18.7 に、ブロック転送モードのメモリマップを図 18.7 に示します。

表 18.7　ブロック転送モードのレジスタ機能

レジスタ	機能	転送情報のライトバックによって書き戻される値
SAR	転送元アドレス	• MRB.DTS ビット = 0 のとき インクリメント／デクリメント／固定（注 1） • MRB.DTS ビット = 1 のとき SAR レジスタの初期値
DAR	転送先アドレス	• MRB.DTS ビット = 0 のとき DAR レジスタの初期値 • MRB.DTS ビット = 1 のとき インクリメント／デクリメント／固定（注 1）
CRAH	ブロックサイズ保持	CRAH
CRAL	ブロックサイズカウンタ	CRAH
CRB	ブロック転送回数カウンタ	CRB - 1

注 1.　アドレス固定のとき、ライトバックはスキップされます。

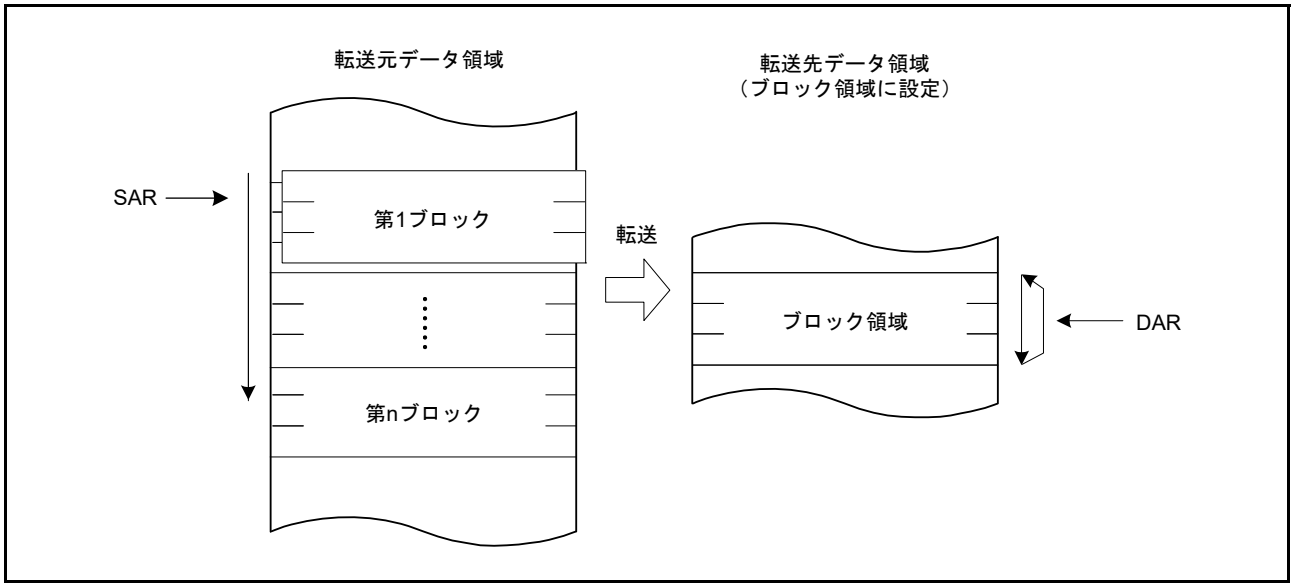


図 18.7　ブロック転送モードのメモリマップ

18.4.6　チェーン転送

MRB.CHNE ビットを 1 にすると、1 つの起動要因で複数のデータ転送を連続して行うチェーン転送が可能になります。MRB.CHNE ビットを 1 にして、MRB.CHNS ビットを 0 にした場合は、指定した転送回数の終了による CPU への割り込み要求も、MRB.DISEL ビット = 1 による CPU への割り込み要求も発生しません。割り込み要求は、DTC データ転送のたびに CPU に送信されます。データ転送が、起動要因の ICU.IELSRn.IR ビットに影響を与えることはありません。

データ転送を定義するための SAR、DAR、CRA、CRB、MRA、および MRB レジスタは、それぞれ個別に設定可能です。図 18.8 にチェーン転送の動作を示します。

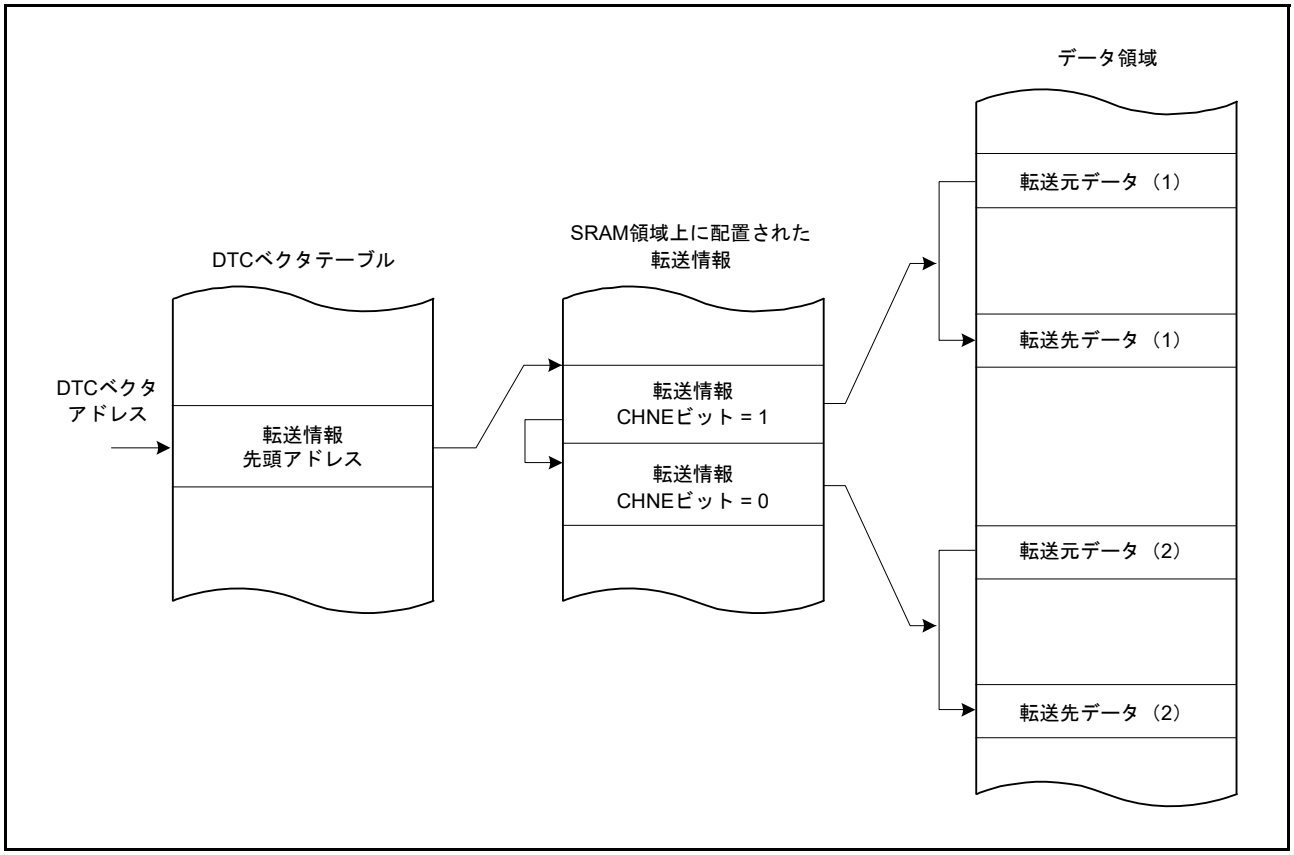


図 18.8　チェーン転送の動作

MRB.CHNE ビットと MRB.CHNS ビットを 1 にした場合、指定されたデータ転送終了時にのみチェーン転送を行います。リピート転送モードでも、指定されたデータ転送の終了時にチェーン転送が実行されます。チェーン転送の条件については、表 18.3　チェーン転送の条件を参照してください。

18.4.7 動作タイミング

図 18.9 ～図 18.12 に示すタイミング図は、最小実行サイクル数を示しています。

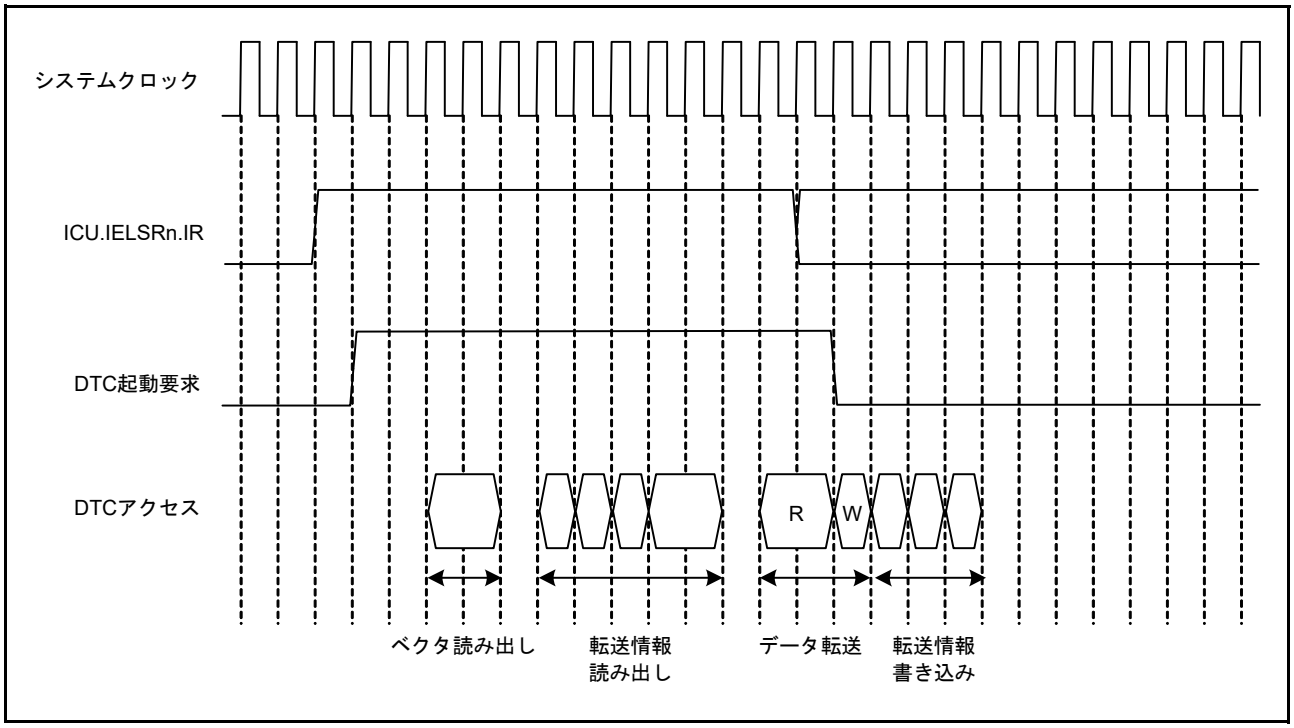


図 18.9 DTC 動作タイミング例 1（ノーマル転送モード、リピート転送モードの場合）

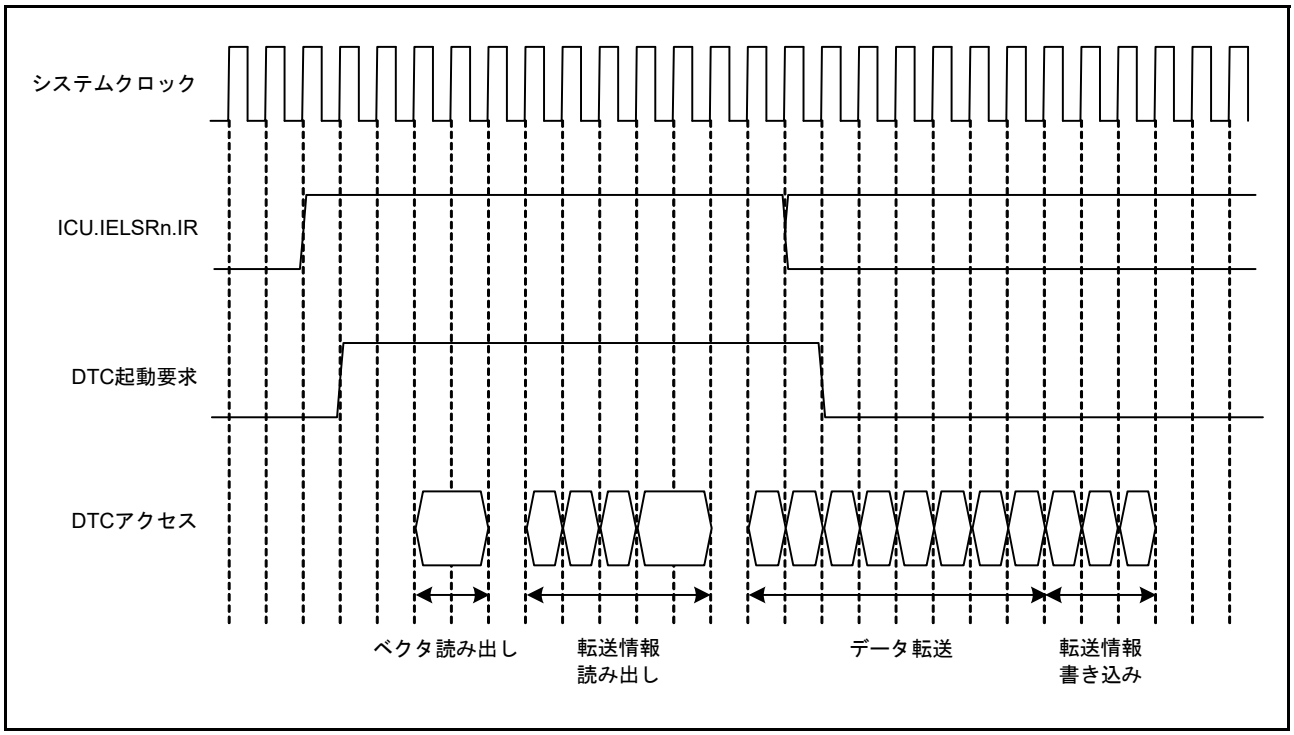


図 18.10 DTC 動作タイミング例 2（ブロック転送モードでブロックサイズ = 4 の場合）

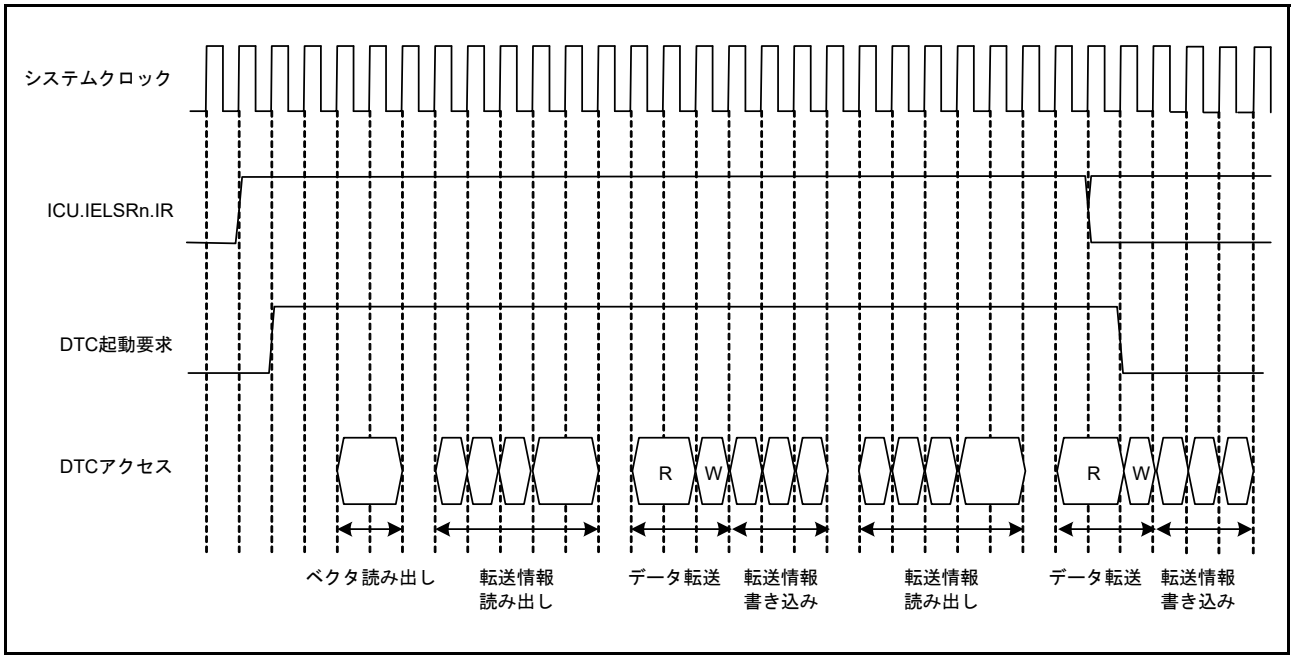
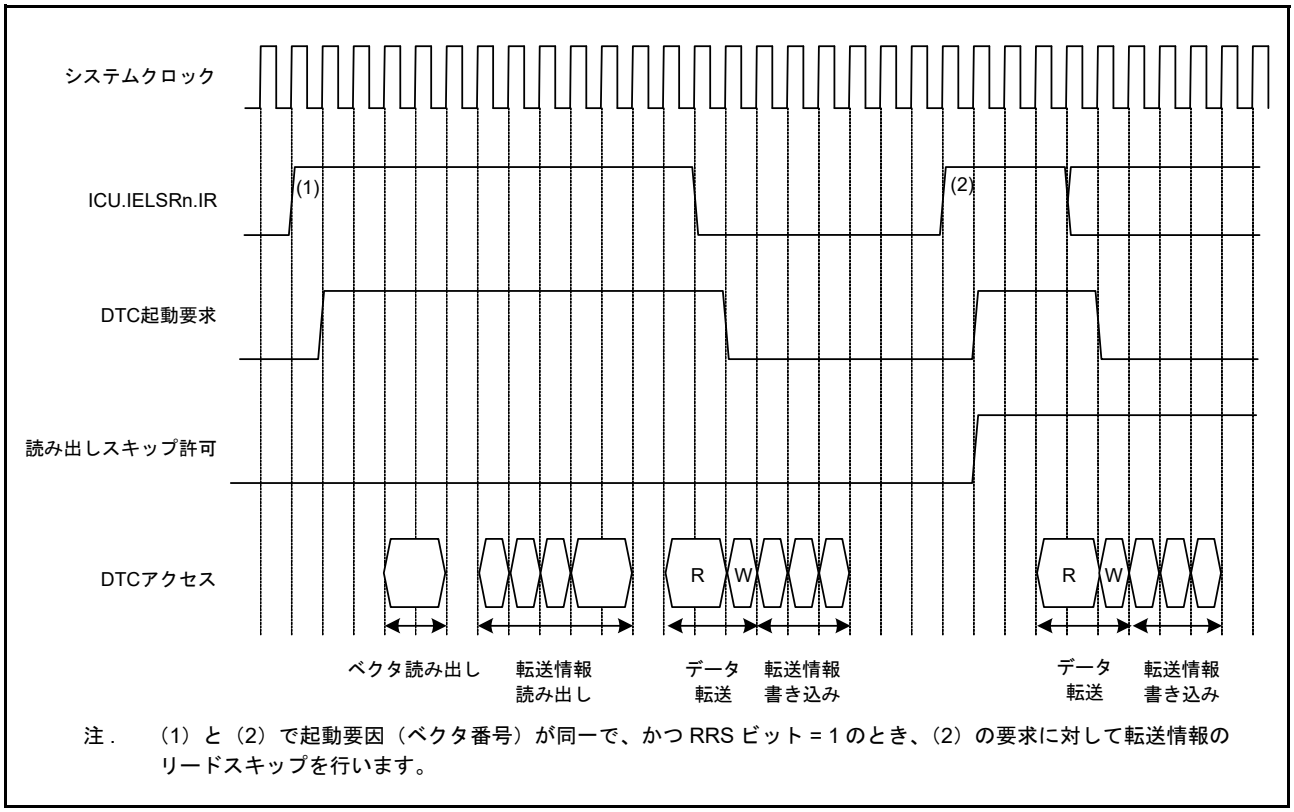


図 18.11　DTC 動作タイミング例 3（チェーン転送の場合）



注．　（1）と（2）で起動要因（ベクタ番号）が同一で、かつ RRS ビット = 1 のとき、（2）の要求に対して転送情報のリードスキップを行います。

図 18.12　転送情報リードスキップ時の動作例（ベクタ、転送情報、転送先データが SRAM にあり、転送元データが周辺モジュールにある場合）

18.4.8　DTC の実行サイクル

DTC の 1 回のデータ転送の実行サイクルを表 18.8 に示します。

各実行状態の順序については、18.4.7　動作タイミングを参照してください。

表 18.8　DTCの実行サイクル

転送モード	ベクタ読み出し		転送情報読み出し		転送情報書き込み			データ転送		内部動作	
								読み出し	書き込み		
ノーマル	Cv + Cs1 + 1	0（注1）	4 × (Ci + Cs1) + 1	0（注1）	3 × (Ci + Cs1) + 1（注2）	2 × (Ci + Cs1) + 1（注3）	(Ci + Cs1)（注4）	Cr + Cs2 + 1	Cw + Cs2 + 1	2	0（注1）
リピート								Cr + Cs2 + 1	Cw + Cs2 + 1		
ブロック（注5）								P × (Cr + Cs2)	P × (Cw + Cs2)		

注 1.　転送情報がリードスキップされる場合
注 2.　SAR レジスタと DAR レジスタがともにアドレス固定でない場合
注 3.　SAR レジスタと DAR レジスタのいずれかがアドレス固定の場合
注 4.　SAR レジスタと DAR レジスタがともにアドレス固定の場合
注 5.　ブロックサイズが 2 以上の場合。ブロックサイズが 1 の場合は、ノーマル転送のサイクル数となります。

P：　ブロックサイズ（CRAHおよびCRALレジスタの初期設定値）
Cv：　ベクタ転送情報格納先へのアクセスサイクル
Ci：　転送情報格納先アドレスへのアクセスサイクル
Cr：　データリード先へのアクセスサイクル
Cw：　データライト先へのアクセスサイクル
Cs1：SRAMHSへのアクセス時：2サイクル
　　上記以外へのアクセス時：0サイクル
　　スレーブバスがリード／ライトデータ転送によって変化する場合、さらに1サイクルを追加
Cs2：システムコントロールに関連するSRAMHSおよび周辺モジュールへのアクセス時：2サイクル
　　上記以外へのアクセス時：0サイクル
　　スレーブバスがリード／ライトデータ転送によって変化する場合、さらに1サイクルを追加
ベクタ読み出し、転送情報読み出し、データ転送読み出しの各列に記載の+1の単位と、内部動作の列に記載の2の単位は、システムクロック（ICLK）です。

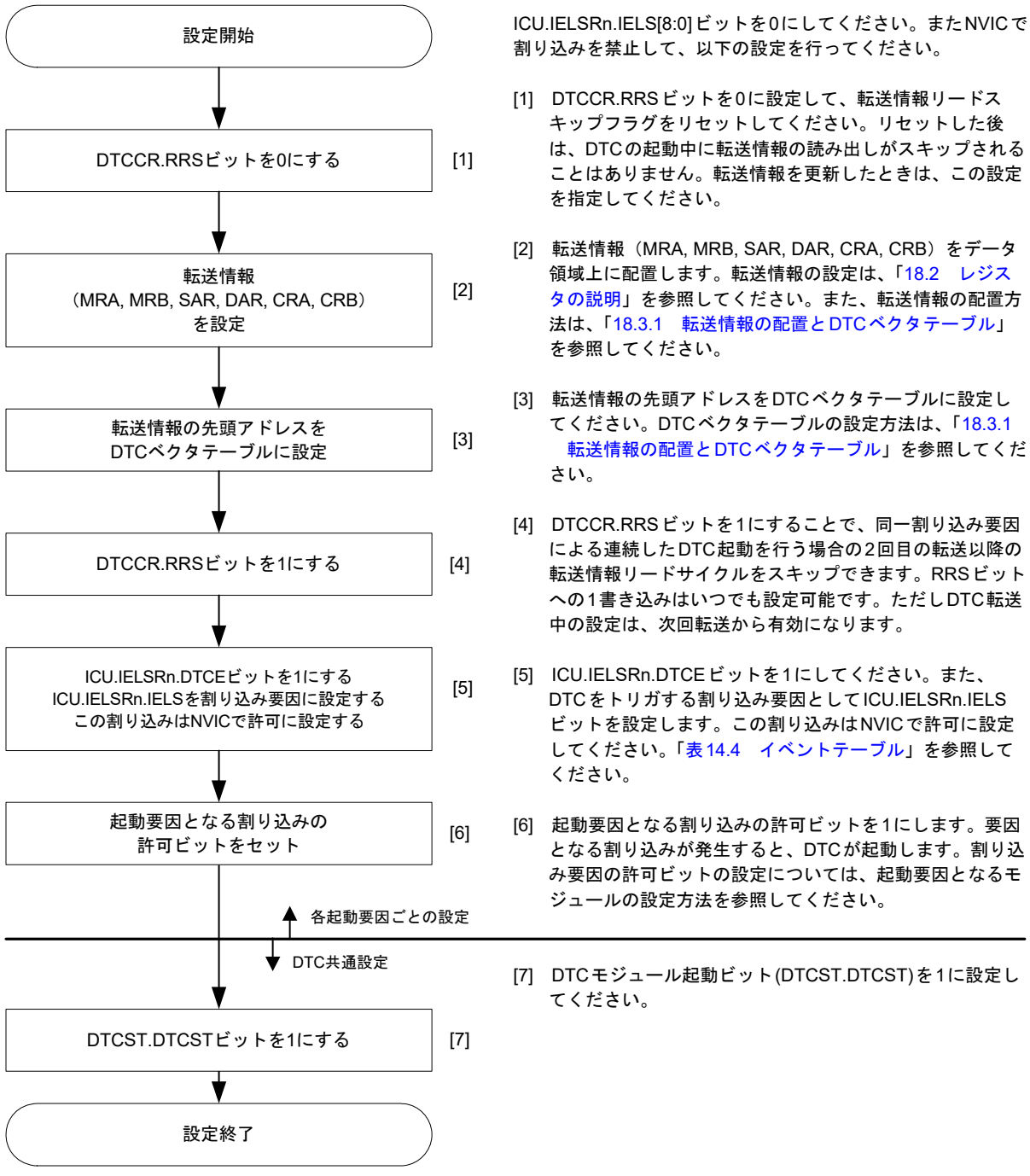
Cv、Ci、Cr、Cwは対応するアクセス先で異なります。それぞれのアクセス先に対するサイクル数については、「48.　SRAM」、「50.　フラッシュメモリ」および15.2.3　外部バスを参照してください。
システムクロックと周辺クロックの周波数比も考慮されています。
DTCの応答時間は、DTCの起動要因が検出されてからDTC転送が始まるまでの時間です。
この表には、DTCの起動要因がアクティブになってからDTCデータ転送が始まるまでの時間は含まれていません。

18.4.9　DTC のバス権解放タイミング

DTC は、転送情報の読み出し中はバス権を解放しません。転送情報の読み出しや書き込みが実施される前に、バスマスタ調停部によって決定された優先順位に従ってバス調停が行われます。バス調停については、「15.　バス」を参照してください。

18.5　DTC の設定手順

DTC を使用する前に、DTC ベクタベースレジスタ（DTCVBR）を設定してください。図 18.13 に、DTC の設定手順を示します。



注 .　DTCST.DTCST ビットの設定は、起動要因の設定が完了してなくても可能です。

図 18.13　DTC の設定手順

18.6　DTC の使用例

18.6.1　ノーマル転送

ここでは、SCI から 128 バイトのデータ受信を行う場合の DTC の使用例と応用例を示します。

(1)　転送情報の設定

MRA レジスタに、転送元アドレス固定（MRA.SM[1:0] = 00b）、ノーマル転送モード（MRA.MD[1:0] = 00b）、およびバイト転送（MRA.SZ[1:0] = 00b）を設定します。MRB レジスタには、転送先アドレスインクリメント（MRB.DM[1:0] = 10b）と、1 回の割り込みで 1 回のデータ転送（MRB.CHNE = 0、MRB.DISEL = 0）を設定します。MRB.DTS ビットは、任意の値を設定できます。SAR レジスタには SCI の RDR レジスタのアドレス、DAR レジスタにはデータを格納する SRAM 領域の開始アドレス、CRA レジスタには 128 回（0080h）を設定します。CRB レジスタは任意の値を設定できます。

(2)　DTC ベクタテーブルの設定

RXI 割り込み用の転送情報の開始アドレスを、DTC のベクタテーブルに設定します。

(3)　ICU の設定と DTC モジュールの起動

ICU.IELSRn.DTCE ビットを 1 にします。また、SCI 割り込みとして ICU.IELSRn.IELS ビットを設定します。この割り込みは NVIC で許可に設定する必要があります。DTCST.DTCST ビットを 1 にします。

(4)　SCI の設定

SCI の SCR.RIE ビットを 1 にして RXI 割り込みを許可します。なお、SCI の受信動作中に受信エラーが発生すると、受信が停止します。これに対処するため、CPU が受信エラー割り込みを受け付けられるように設定してください。

(5)　DTC 転送

SCI が 1 バイトのデータ受信を完了するごとに RXI 割り込みが発生し、DTC が起動します。DTC によって、受信データが SCI の RDR レジスタから SRAM へ転送され、DAR レジスタのインクリメント、CRA レジスタのデクリメントが行われます。

(6)　割り込み処理

128 回のデータ転送が終了して CRA レジスタが 0 になると、CPU に対する RXI 割り込み要求が発生します。割り込み処理ルーチンで終了処理を行ってください。

18.6.2 チェーン転送

ここでは、DTC のチェーン転送の例として、汎用 PWM タイマ（GPT）によってパルスを出力する場合を示します。チェーン転送を利用して、PWM タイマのコンペア値を転送し、GPT 用 PWM タイマの周期を変更することが可能です。

チェーン転送の最初の転送には、GPT32m.GTCCRC レジスタ（m = EH0 ～ EH3、E4 ～ E7、8 ～ 12）への転送用にノーマル転送モードを指定します。チェーン転送の 2 番目の転送には、GPT32m.GTCCRE レジスタへの転送用にノーマル転送モードを指定します。チェーン転送の 3 番目の転送には、GPT32m.GTPBR レジスタへの転送用にノーマル転送モードを指定します。これは、起動要因のクリアや指定回数の転送終了時の割り込み発生が、チェーン転送の 3 番目の転送、すなわち MRB.CHNE = 0 のときの転送にのみ行われるからです。

以下の例では、DTC の起動要因として、GPT32EH0.GTPR レジスタによるカウンタオーバーフロー割り込みの使用方法を説明します。

(1) 第 1 転送情報の設定

GPT32EH0.GTCCRC レジスタへの転送を設定します。

1. MRA レジスタで、転送元アドレスのインクリメント（MRA.SM[1:0] = 10b）を選択します。
2. ノーマル転送モード（MRA.MD[1:0] = 00b）と、ワード転送（MRA.SZ[1:0] = 10b）を設定します。
3. MRB レジスタで、転送先アドレスの固定（MRB.DM[1:0] = 00b）を選択し、チェーン転送（MRB.CHNE = 1、MRB.CHNS = 0）を設定します。
4. SAR レジスタにデータテーブルの先頭アドレスを設定します。
5. DAR レジスタに GPT32EH0.GTCCRC レジスタのアドレスを設定します。
6. CRAH および CRAL レジスタにデータテーブルのサイズを設定します。CRB レジスタは任意の値を設定できます。

(2) 第 2 転送情報の設定

GPT32EH0.GTCCRE レジスタへの転送を設定します。

1. MRA レジスタで、転送元アドレスのインクリメント（MRA.SM[1:0] = 10b）を選択します。
2. ノーマル転送モード（MRA.MD[1:0] = 00b）と、ワード転送（MRA.SZ[1:0] = 10b）を設定します。
3. MRB レジスタで、転送先アドレスの固定（MRB.DM[1:0] = 00b）を選択し、チェーン転送（MRB.CHNE = 1、MRB.CHNS = 0）を設定します。
4. SAR レジスタにデータテーブルの先頭アドレスを設定します。
5. DAR レジスタに GPT32EH0.GTCCRE レジスタのアドレスを設定します。
6. CRAH および CRAL レジスタにデータテーブルのサイズを設定します。CRB レジスタは任意の値を設定できます。

(3) 第 3 転送情報の設定

GPT32EH0.GTPBR レジスタへの転送を設定します。

1. MRA レジスタで、転送元アドレスのインクリメント（MRA.SM[1:0] = 10b）を選択します。
2. ノーマル転送モード（MRA.MD[1:0] = 00b）と、ワード転送（MRA.SZ[1:0] = 10b）を設定します。
3. MRB レジスタで、転送先アドレスの固定（MRB.DM[1:0] = 00b）を選択し、1 回の割り込みで 1 回のデータ転送（MRB.CHNE = 0、MRB.DISEL = 0）を設定します。MRB.DTS ビットは、任意の値を設定できます。
4. SAR レジスタにデータテーブルの先頭アドレスを設定します。
5. DAR レジスタに GPT32EH0.GTPBR レジスタのアドレスを設定します。
6. CRA レジスタにデータテーブルのサイズを設定します。CRB レジスタは任意の値を設定できます。

(4) 転送情報の配置

GPT32EH0.GTPBR レジスタへのデータ転送で使用する転送情報は、GPT32EH0.GTCCRC レジスタと GPT32EH0.GTCCRE レジスタで使用する転送制御情報のすぐ後に配置します。

(5) DTC ベクタテーブルの設定

DTC ベクタテーブルで、GPT32EH0.GTCCRC レジスタと GPT32EH0.GTCCRE レジスタへの転送で使用する転送制御情報の開始アドレスを設定します。

(6) ICU の設定と DTC モジュールの起動

1. GPT32EH0 カウンタオーバーフロー割り込みに対応する ICU.IELSRn.DTCE ビットを設定します。
2. ICU.IELSRn.IELS[8:0] ビットを 182（B6h）にして、GPT32EH0 カウンタオーバーフローを指定します。
3. DTCST.DTCST ビットを 1 にします。

(7) GPT の設定

1. GTCCRA および GTCCRB レジスタがアウトプットコンペアレジスタとして動作できるように、GPT32EH0.GTIOR レジスタを設定します。
2. GPT32EH0.GTCCRA レジスタと GPT32EH0.GTCCRB レジスタには、デフォルトの PWM タイマコンペア値を設定し、GPT32EH0.GTCCRC レジスタと GPT32EH0.GTCCRE レジスタには、次の PWM タイマコンペア値を設定します。
3. GPT32EH0.GTPR レジスタには、デフォルトの PWM タイマ周期を設定し、GPT32EH0.GTPBR レジスタには、次の PWM タイマ周期を設定します。
4. PmnPFS.PDR の出力ビットを 1 にして、PmnPFS.PSEL[4:0] の周辺選択ビットを 00011b にします。

(8) GPT の起動

GPT32EH0.GTSTR.CSTRT ビットを 1 にして、GPT32EH0.GTCNT カウンタのカウント動作を開始します。

(9) DTC 転送

GPT32EH0.GTPR レジスタで GPT32EH0 カウンタオーバーフローが発生するたびに、次の PWM タイマコンペア値が GPT32EH0.GTCCRC レジスタと GPT32EH0.GTCCRE レジスタへ転送されます。また、次の PWM タイマ周期の設定値が GPT32EH0.GTPBR レジスタへ転送されます。

(10) 割り込み処理

指定した回数の転送終了後（たとえば、GPT 転送用 CRA レジスタの値が 0 になると）、CPU に対して GPT カウンタオーバーフロー割り込みが要求されます。割り込み処理ルーチンで終了処理を行ってください。

18.6.3 カウンタ = 0 のときのチェーン転送

第 2 転送は第 1 データ転送の転送カウンタが 0 になったときにだけ実行されます。第 1 データ転送情報は第 2 転送が実行されるたびに繰り返し変更されます。チェーン転送によって、256 回以上のリピート転送が可能になります。

以下に、128K バイトの入力バッファを構成する例を示します。入力バッファは下位アドレスが 0000h から始まるように設定されています。カウンタ = 0 のときのチェーン転送を図 18.14 に示します。

1. 第 1 データ転送のデータ入力用にノーマル転送モードを設定します。以下のように設定してください。
   a. 転送元アドレス = 固定
   b. CRA レジスタ = 0000h（65536 回）
   c. MRB.CHNE ビット = 1（チェーン転送許可）
   d. MRB.CHNS ビット = 1（転送カウンタが 0 の場合のみチェーン転送を行う）
   e. MRB.DISEL ビット = 0（指定されたデータ転送の終了時、CPU への割り込み要求が発生）
2. 第 1 データ転送の転送先アドレスの 65536 回ごとに、開始アドレスの上位 8 ビットアドレスを別の領域（フラッシュなど）に用意してください。たとえば、入力バッファを 20 0000h ～ 21 FFFFh にする場合は、21h と 20h を用意します。
3. 第 2 データ転送は以下のように設定してください。
   a. 第 1 データ転送の転送先アドレスをリセットするため、リピート転送モード（転送元をリピート領域）に設定
   b. 転送先として、第 1 転送情報領域の DAR レジスタの上位 8 ビットを指定
   c. MRB.CHNE ビット = 0（チェーン転送禁止）
   d. MRB.DISEL ビット = 0（指定されたデータ転送の終了時、CPU への割り込み要求が発生）
   e. 入力バッファを 20 0000h ～ 21 FFFFh にした場合は、転送カウンタ = 2
4. 1 回の割り込みで、第 1 データ転送が 65536 回実行されます。第 1 データ転送の転送カウンタが 0 になると、第 2 データ転送がスタートします。第 1 データ転送の転送先アドレスの上位 8 ビットを 21h にしてください。転送先アドレスの下位 16 ビットと、第 1 データ転送の転送カウンタは 0000h になります。
5. 引き続き 1 回の割り込みで、第 1 データ転送用に指定された 65536 回だけ、第 1 データ転送が実行されます。第 1 データ転送の転送カウンタが 0 になると、第 2 データ転送がスタートします。第 1 データ転送の転送先アドレスの上位 8 ビットを 20h にしてください。転送先アドレスの下位 16 ビットと、第 1 データ転送の転送カウンタは 0000h になります。
6. 手順 4 と 5 が無限に繰り返されます。第 2 データ転送はリピート転送モードのため、CPU への割り込み要求は発生しません。

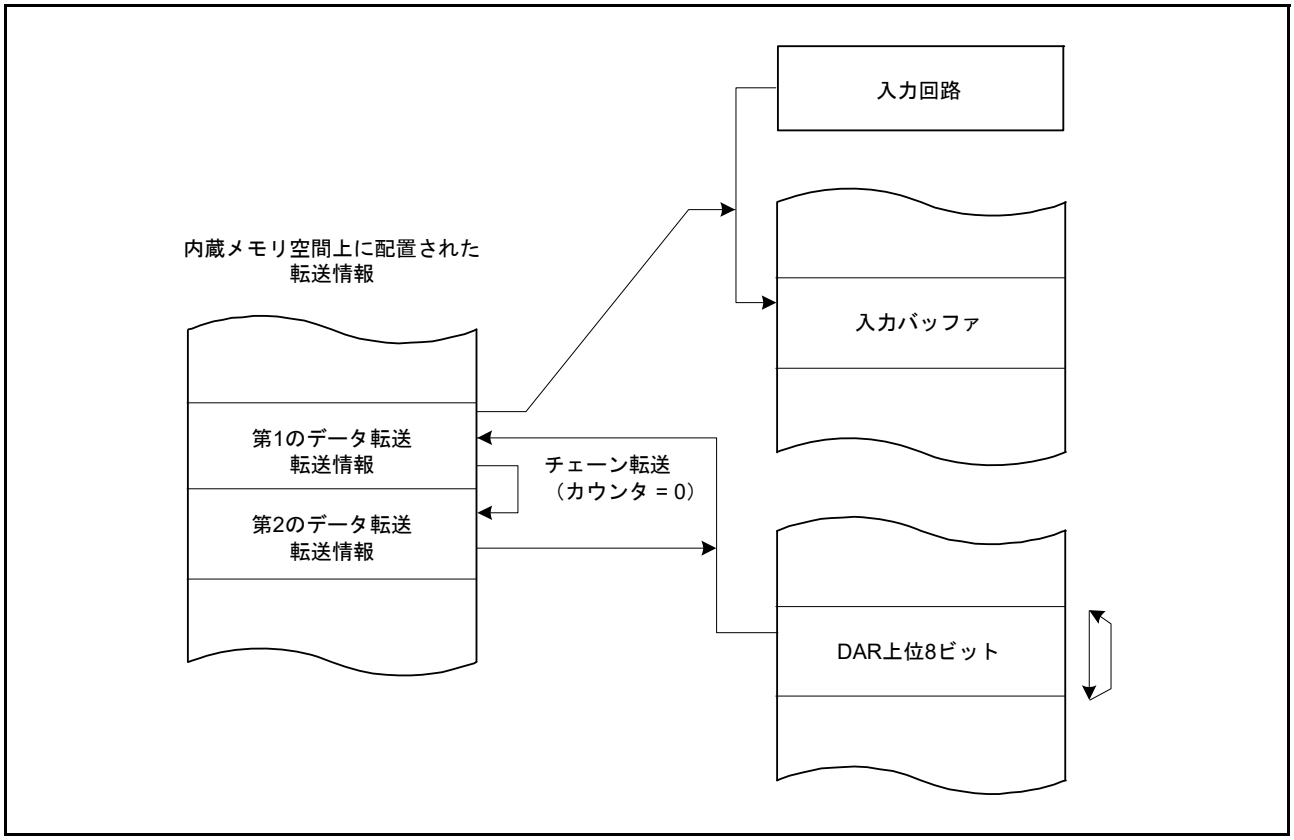


図 18.14　カウンタ = 0 のときのチェーン転送

18.7 割り込み要因

DTC が指定された回数のデータ転送を終了したとき、または MRB.DISEL ビットが 1 の状態でデータ転送が完了したとき、DTC の起動要因によって CPU に対する割り込みが発生します。CPU に対する割り込みは、NVIC および ICU.IELSRn.IELS[8:0] ビットの設定に従って制御されます。「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

DTC が決定する起動要因の優先順位は、割り込みベクタ番号が小さいほど高くなります。CPU への割り込みの優先順位は、NVIC の優先順位で決定されます。

18.8 イベントリンク

1 転送要求分の転送完了時に、DTC はイベントリンク要求を出力することが可能です。転送先が外部バスの場合は、実際の転送先への書き込みではなく、ライトバッファへの書き込みが完了した時点で、イベントリンク要求が発行されます。

18.9 スヌーズ制御インタフェース

DTC によってスヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードへ復帰させるには、SYSTEM.SNZEDCR.DTCZRED または SYSTEM.SNZEDCR.DTCNZRED を 1 にしてください。11.8.3 ソフトウェアスタンバイモードへの復帰を参照してください。

SYSTEM.SNZEDCR.DTCZRED は、最後の DTC 送信完了（CRA と CRB が 0 であるときに検出）時に、スヌーズ終了要求を許可または禁止にします。

SYSTEM.SNZEDCR.DTCNZRED は、最後以外の DTC 送信完了（CRA と CRB が 0 以外であるときに検出）時に、スヌーズ終了要求を許可または禁止にします。

18.10 モジュールストップ機能

モジュールストップ機能、スヌーズモードへの遷移を伴わないソフトウェアスタンバイモード、またはディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移する際は、事前に DTCST.DTCST ビットを 0 にした後、本項に示す動作を実行してください。LPW.SNZCR.SNZDTCEN を 1 にすると、DTC はスヌーズモードでも利用可能です。「11. 低消費電力モード」を参照してください。

(1) モジュールストップ機能

MSTPCRA.MSTPA22 ビットに 1 を書くことによって、DTC のモジュールストップ機能が有効になります。MSTPCRA.MSTPA22 ビットに 1 を書いたときに DTC 転送が動作中の場合、DTC 転送終了後にモジュールストップ状態へ遷移します。MSTPCRA.MSTPA22 ビットが 1 のときは、DTC のレジスタにアクセスしないでください。MSTPCRA.MSTPA22 ビットに 0 を書くことで、DTC のモジュールストップ状態が解除されます。

(2) ソフトウェアスタンバイモード、ディープソフトウェアスタンバイモード

11.7.1 ソフトウェアスタンバイモードへの遷移または 11.9.1 ディープソフトウェアスタンバイモードへの遷移の手順に従って設定してください。

WFI 命令実行時に DTC 転送が動作中の場合、DTC 転送が終了してからソフトウェアスタンバイモードやディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移します。

ソフトウェアスタンバイモード時に、スヌーズ制御回路がスヌーズ要求を受信すると、MCU はスヌーズモードへ遷移します。11.8.1 スヌーズモードへの遷移を参照してください。スヌーズモード時の DTC の動作は、SYSTEM.SNZCR.SNZDTCEN ビットで選択できます。スヌーズモード時に DTC 動作を許可にする場合、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、DTCST.DTCST ビットを 1 にしてください。DTC によってソフトウェアスタンバイモードへ復帰させるには、SYSTEM.SNZEDCR.DTCZRED または SYSTEM.SNZEDCR.DTCNZRED を 1 にしてください。11.8.3 ソフトウェアスタンバイモードへの復帰を参照してください。ソフトウェアスタンバイモード中は ICU からの DTC 起動要求は停止しますが、スヌーズモード中は停止しません。

(3) モジュールストップ機能の注意事項

WFI 命令とレジスタの設定手順については、「11. 低消費電力モード」を参照してください。

スヌーズモードへ遷移しないで低消費電力モードから復帰した後に DTC 転送を行うには、再度 DTCST.DTCST ビットを 1 にしてください。

ソフトウェアスタンバイモード時に発生した要求を、DTC 起動要求ではなく CPU への割り込み要求として使用する場合は、14.4.2 割り込み要求先の選択に示すように、割り込み要求先を CPU に切り替えてから WFI 命令を実行してください。スヌーズモード時に DTC 動作を許可にする場合、DTC のモジュールストップ機能を使用しないでください。

18.11 使用上の注意事項

18.11.1 転送情報の開始アドレス

ベクタテーブルに指定する転送情報の開始アドレスは 4n 番地でなければいけません。4n 番地以外を指定すると、アドレスの最下位 2 ビットは 00b としてアクセスされます。

19. イベントリンクコントローラ（ELC）

19.1 概要

イベントリンクコントローラ（ELC）は、各周辺モジュールで発生するイベント要求をソース信号として使用し、それらのモジュールを別のモジュールと接続することによって、CPU を介さずにモジュール間の直接リンクを実現します。

表 19.1 に ELC の仕様を、図 19.1 にブロック図を示します。

表 19.1 ELCの仕様

項目	内容
イベントリンク機能	229種類のイベント信号を、直接モジュールに接続可能。ELCイベント信号およびDTC起動用のイベントの発生が可能
モジュールストップ機能	モジュールストップ状態の設定が可能

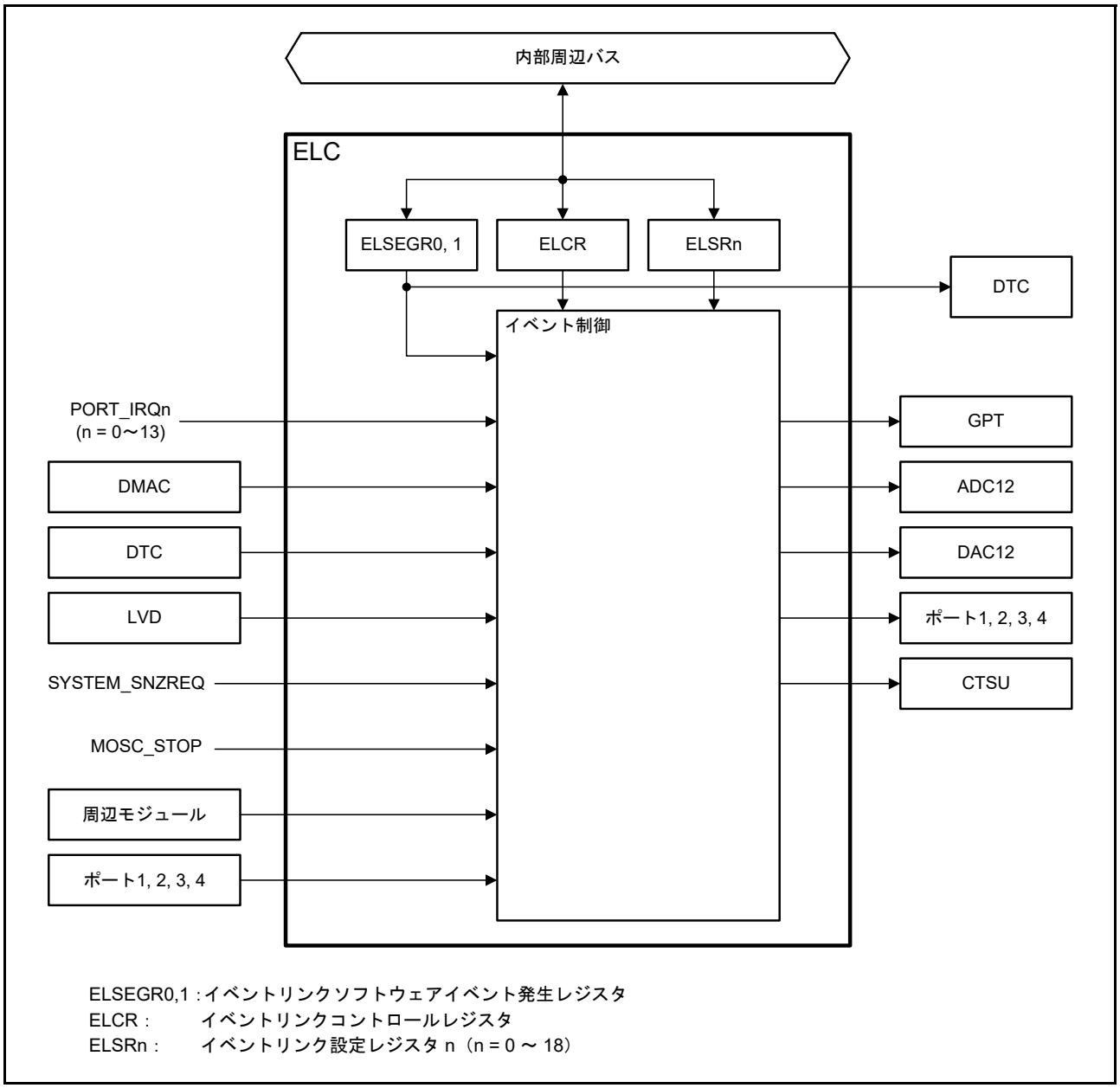


図 19.1 ELC のブロック図

19.2 レジスタの説明

19.2.1 イベントリンクコントローラレジスタ（ELCR）

アドレス ELC.ELCR 4004 1000h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ELCON	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	ELCON	全イベントリンク有効	0：ELC機能は無効 1：ELC機能は有効	R/W

ELCR レジスタは、ELC の動作を制御するレジスタです。

19.2.2　イベントリンクソフトウェアイベント発生レジスタ n（ELSEGRn）（n = 0, 1）

アドレス　ELC.ELSEGR0 4004 1002h, ELC.ELSEGR1 4004 1004h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	WI	WE	—	—	—	—	—	SEG
リセット後の値	1	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SEG	ソフトウェアイベント発生	0：通常動作 1：ソフトウェアイベント発生	W
b5-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6	WE	SEGビット書き込み許可	0：SEGビットへの書き込み禁止 1：SEGビットへの書き込み許可	R/W
b7	WI	ELSEGRレジスタ書き込み禁止	0：ELSEGRレジスタへの書き込み許可 1：ELSEGRレジスタへの書き込み禁止	W

SEG ビット（ソフトウェアイベント発生）

WE ビットが 1 の状態で SEG ビットに 1 を書くと、ソフトウェアイベントが発生します。読むと 0 が読めます。1 を書いてもデータは格納されません。WE ビットを 1 にしてから、このビットを書く必要があります。

ソフトウェアイベントは、DTC に対してイベントリンクをトリガすることが可能です。

WE ビット（SEG ビット書き込み許可）

WE ビットが 1 の場合にのみ、SEG ビットへの書き込みが可能になります。WI ビットを 0 にクリアしてから、このビットを書く必要があります。

［1 になる条件］

- WI ビットが 0 の状態で 1 を書いたとき

［0 になる条件］

- WI ビットが 0 の状態で 0 を書いたとき

WI ビット（ELSEGR レジスタ書き込み禁止）

WI ビットへの書き込み値が 0 の場合にのみ、ELSEGR レジスタに対する書き込みが可能になります。読むと 1 が読めます。WI ビットを 0 にしてから、WE または SEG ビットを設定する必要があります。

19.2.3　イベントリンク設定レジスタ（ELSRn）（n = 0 ～ 18）

アドレス　ELC.ELSR0 4004 1010h, ELC.ELSR1 4004 1014h, ELC.ELSR2 4004 1018h, ELC.ELSR3 4004 101Ch, ELC.ELSR4 4004 1020h, ELC.ELSR5 4004 1024h, ELC.ELSR6 4004 1028h, ELC.ELSR7 4004 102Ch, ELC.ELSR8 4004 1030h, ELC.ELSR9 4004 1034h, ELC.ELSR10 4004 1038h, ELC.ELSR11 4004 103Ch, ELC.ELSR12 4004 1040h, ELC.ELSR13 4004 1044h, ELC.ELSR14 4004 1048h, ELC.ELSR15 4004 104Ch, ELC.ELSR16 4004 1050h, ELC.ELSR17 4004 1054h, ELC.ELSR18 4004 1058h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	ELS[8:0]								
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b8-b0	ELS[8:0]	イベントリンク選択	b8 b0 000000000：対応する周辺モジュールへのイベント出力は禁止 000000001～111000101b：リンクするイベント信号の番号を指定 上記以外は設定しないでください。	R/W
b15-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

ELSRn レジスタは、周辺モジュールごとに、リンクするイベント信号を指定するレジスタです。ELSRn レジスタと周辺モジュールの対応を表 19.2 に示します。また、ELSRn レジスタに設定するイベント信号名と信号番号の対応を表 19.3 に示します。

表 19.2　ELSRn レジスタと周辺機能の対応

レジスタ名	周辺機能（モジュール）	イベント名
ELSR0	GPT (A)	ELC_GPTA
ELSR1	GPT (B)	ELC_GPTB
ELSR2	GPT (C)	ELC_GPTC
ELSR3	GPT (D)	ELC_GPTD
ELSR4	GPT (E)	ELC_GPTE
ELSR5	GPT (F)	ELC_GPTF
ELSR6	GPT (G)	ELC_GPTG
ELSR7	GPT (H)	ELC_GPTH
ELSR8	ADC12A0	ELC_AD00
ELSR9	ADC12B0	ELC_AD01
ELSR10	ADC12A1	ELC_AD10
ELSR11	ADC12B1	ELC_AD11
ELSR12	DAC12チャネル0	ELC_DA0
ELSR13	DAC12チャネル1	ELC_DA1
ELSR14	PORT 1	ELC_PORT1
ELSR15	PORT 2	ELC_PORT2
ELSR16	PORT 3	ELC_PORT3
ELSR17	PORT 4	ELC_PORT4
ELSR18	CTSU	ELC_CTSU

表 19.3　ELSRn.ELS[8:0]ビットに設定するイベント信号名と信号番号の対応 (1/6)

イベント番号	割り込み要求の発生元	名称	内容
001h	ポート	PORT_IRQ0（注1）	外部端子割り込み0
002h		PORT_IRQ1（注1）	外部端子割り込み1
003h		PORT_IRQ2（注1）	外部端子割り込み2
004h		PORT_IRQ3（注1）	外部端子割り込み3
005h		PORT_IRQ4（注1）	外部端子割り込み4
006h		PORT_IRQ5（注1）	外部端子割り込み5
007h		PORT_IRQ6（注1）	外部端子割り込み6
008h		PORT_IRQ7（注1）	外部端子割り込み7
009h		PORT_IRQ8（注1）	外部端子割り込み8
00Ah		PORT_IRQ9（注1）	外部端子割り込み9
00Bh		PORT_IRQ10（注1）	外部端子割り込み10
00Ch		PORT_IRQ11（注1）	外部端子割り込み11
00Dh		PORT_IRQ12（注1）	外部端子割り込み12
00Eh		PORT_IRQ13（注1）	外部端子割り込み13
020h	DMAC0	DMAC0_INT	DMAC転送終了0
021h	DMAC1	DMAC1_INT	DMAC転送終了1
022h	DMAC2	DMAC2_INT	DMAC転送終了2
023h	DMAC3	DMAC3_INT	DMAC転送終了3
024h	DMAC4	DMAC4_INT	DMAC転送終了4
025h	DMAC5	DMAC5_INT	DMAC転送終了5
026h	DMAC6	DMAC6_INT	DMAC転送終了6
027h	DMAC7	DMAC7_INT	DMAC転送終了7
02Ah	DTC	DTC_DTCEND（注3）	DTC転送終了
038h	LVD	LVD_LVD1	電圧監視1割り込み
039h		LVD_LVD2	電圧監視2割り込み
03Bh	MOSC	MOSC_STOP	メインクロック発振停止
03Ch	低消費電力モード	SYSTEM_SNZREQ（注2）（注3）	スヌーズエントリ
040h	AGT0	AGT0_AGTI	AGT割り込み
041h		AGT0_AGTCMAI	コンペアマッチA
042h		AGT0_AGTCMBI	コンペアマッチB
043h	AGT1	AGT1_AGTI	AGT割り込み
044h		AGT1_AGTCMAI	コンペアマッチA
045h		AGT1_AGTCMBI	コンペアマッチB
046h	IWDT	IWDT_NMIUNDF	IWDTアンダーフロー
047h	WDT	WDT_NMIUNDF	WDTアンダーフロー
049h	RTC	RTC_PRD	周期割り込み
04Bh	ADC120	ADC120_ADI	A/Dスキャン変換終了割り込み
04Fh		ADC120_WCMPM（注3）	コンペアマッチ
050h		ADC120_WCMPUM（注3）	コンペア不一致
051h	ADC121	ADC121_ADI	A/Dスキャン変換終了割り込み
055h		ADC121_WCMPM（注3）	コンペアマッチ
056h		ADC121_WCMPUM（注3）	コンペア不一致

表 19.3　ELSRn.ELS[8:0]ビットに設定するイベント信号名と信号番号の対応 (2/6)

イベント番号	割り込み要求の発生元	名称	内容
057h	ACMPHS	ACMP_HS0（注1）	高速アナログコンパレータ割り込み0
058h		ACMP_HS1（注1）	高速アナログコンパレータ割り込み1
059h		ACMP_HS2（注1）	高速アナログコンパレータ割り込み2
05Ah		ACMP_HS3（注1）	高速アナログコンパレータ割り込み3
05Bh		ACMP_HS4（注1）	高速アナログコンパレータ割り込み4
05Ch		ACMP_HS5（注1）	高速アナログコンパレータ割り込み5
063h	IIC0	IIC0_RXI	受信データフル
064h		IIC0_TXI	送信データエンプティ
065h		IIC0_TEI	送信終了
066h		IIC0_EEI	通信エラー
068h	IIC1	IIC1_RXI	受信データフル
069h		IIC1_TXI	送信データエンプティ
06Ah		IIC1_TEI	送信終了
06Bh		IIC1_EEI	通信エラー
086h	DOC	DOC_DOPCI（注3）	データ演算回路割り込み
094h	I/Oポート	IOPORT_GROUP1	ポート1イベント
095h		IOPORT_GROUP2	ポート2イベント
096h		IOPORT_GROUP3	ポート3イベント
097h		IOPORT_GROUP4	ポート4イベント
098h	ELC	ELC_SWEVT0	ソフトウェアイベント0
099h		ELC_SWEVT1	ソフトウェアイベント1
0B0h	GPT32EH0	GPT0_CCMPA	コンペアマッチA
0B1h		GPT0_CCMPB	コンペアマッチB
0B2h		GPT0_CMPC	コンペアマッチC
0B3h		GPT0_CMPD	コンペアマッチD
0B4h		GPT0_CMPE	コンペアマッチE
0B5h		GPT0_CMPF	コンペアマッチF
0B6h		GPT0_OVF	オーバーフロー
0B7h		GPT0_UDF	アンダーフロー
0B8h		GPT0_ADTRGA	A/D変換開始要求A
0B9h		GPT0_ADTRGB	A/D変換開始要求B
0BAh	GPT32EH1	GPT1_CCMPA	コンペアマッチA
0BBh		GPT1_CCMPB	コンペアマッチB
0BCh		GPT1_CMPC	コンペアマッチC
0BDh		GPT1_CMPD	コンペアマッチD
0BEh		GPT1_CMPE	コンペアマッチE
0BFh		GPT1_CMPF	コンペアマッチF
0C0h		GPT1_OVF	オーバーフロー
0C1h		GPT1_UDF	アンダーフロー
0C2h		GPT1_ADTRGA	A/D変換開始要求A
0C3h		GPT1_ADTRGB	A/D変換開始要求B

表 19.3 ELSRn.ELS[8:0]ビットに設定するイベント信号名と信号番号の対応 (3/6)

イベント番号	割り込み要求の発生元	名称	内容
0C4h	GPT32EH2	GPT2_CCMPA	コンペアマッチA
0C5h		GPT2_CCMPB	コンペアマッチB
0C6h		GPT2_CMPC	コンペアマッチC
0C7h		GPT2_CMPD	コンペアマッチD
0C8h		GPT2_CMPE	コンペアマッチE
0C9h		GPT2_CMPF	コンペアマッチF
0CAh		GPT2_OVF	オーバーフロー
0CBh		GPT2_UDF	アンダーフロー
0CCh		GPT2_ADTRGA	A/D変換開始要求A
0CDh		GPT2_ADTRGB	A/D変換開始要求B
0CEh	GPT32EH3	GPT3_CCMPA	コンペアマッチA
0CFh		GPT3_CCMPB	コンペアマッチB
0D0h		GPT3_CMPC	コンペアマッチC
0D1h		GPT3_CMPD	コンペアマッチD
0D2h		GPT3_CMPE	コンペアマッチE
0D3h		GPT3_CMPF	コンペアマッチF
0D4h		GPT3_OVF	オーバーフロー
0D5h		GPT3_UDF	アンダーフロー
0D6h		GPT3_ADTRGA	A/D変換開始要求A
0D7h		GPT3_ADTRGB	A/D変換開始要求B
0D8h	GPT32E4	GPT4_CCMPA	コンペアマッチA
0D9h		GPT4_CCMPB	コンペアマッチB
0DAh		GPT4_CMPC	コンペアマッチC
0DBh		GPT4_CMPD	コンペアマッチD
0DCh		GPT4_CMPE	コンペアマッチE
0DDh		GPT4_CMPF	コンペアマッチF
0DEh		GPT4_OVF	オーバーフロー
0DFh		GPT4_UDF	アンダーフロー
0E0h		GPT4_ADTRGA	A/D変換開始要求A
0E1h		GPT4_ADTRGB	A/D変換開始要求B
0E2h	GPT32E5	GPT5_CCMPA	コンペアマッチA
0E3h		GPT5_CCMPB	コンペアマッチB
0E4h		GPT5_CMPC	コンペアマッチC
0E5h		GPT5_CMPD	コンペアマッチD
0E6h		GPT5_CMPE	コンペアマッチE
0E7h		GPT5_CMPF	コンペアマッチF
0E8h		GPT5_OVF	オーバーフロー
0E9h		GPT5_UDF	アンダーフロー
0EAh		GPT5_ADTRGA	A/D変換開始要求A
0EBh		GPT5_ADTRGB	A/D変換開始要求B

表 19.3 ELSRn.ELS[8:0]ビットに設定するイベント信号名と信号番号の対応 (4/6)

イベント番号	割り込み要求の発生元	名称	内容
0ECh	GPT32E6	GPT6_CCMPA	コンペアマッチA
0EDh		GPT6_CCMPB	コンペアマッチB
0EEh		GPT6_CMPC	コンペアマッチC
0EFh		GPT6_CMPD	コンペアマッチD
0F0h		GPT6_CMPE	コンペアマッチE
0F1h		GPT6_CMPF	コンペアマッチF
0F2h		GPT6_OVF	オーバーフロー
0F3h		GPT6_UDF	アンダーフロー
0F4h		GPT6_ADTRGA	A/D変換開始要求A
0F5h		GPT6_ADTRGB	A/D変換開始要求B
0F6h	GPT32E7	GPT7_CCMPA	コンペアマッチA
0F7h		GPT7_CCMPB	コンペアマッチB
0F8h		GPT7_CMPC	コンペアマッチC
0F9h		GPT7_CMPD	コンペアマッチD
0FAh		GPT7_CMPE	コンペアマッチE
0FBh		GPT7_CMPF	コンペアマッチF
0FCh		GPT7_OVF	オーバーフロー
0FDh		GPT7_UDF	アンダーフロー
0FEh		GPT7_ADTRGA	A/D変換開始要求A
0FFh		GPT7_ADTRGB	A/D変換開始要求B
100h	GPT328	GPT8_CCMPA	コンペアマッチA
101h		GPT8_CCMPB	コンペアマッチB
102h		GPT8_CMPC	コンペアマッチC
103h		GPT8_CMPD	コンペアマッチD
104h		GPT8_CMPE	コンペアマッチE
105h		GPT8_CMPF	コンペアマッチF
106h		GPT8_OVF	オーバーフロー
107h		GPT8_UDF	アンダーフロー
10Ah	GPT329	GPT9_CCMPA	コンペアマッチA
10Bh		GPT9_CCMPB	コンペアマッチB
10Ch		GPT9_CMPC	コンペアマッチC
10Dh		GPT9_CMPD	コンペアマッチD
10Eh		GPT9_CMPE	コンペアマッチE
10Fh		GPT9_CMPF	コンペアマッチF
110h		GPT9_OVF	オーバーフロー
111h		GPT9_UDF	アンダーフロー
114h	GPT3210	GPT10_CCMPA	コンペアマッチA
115h		GPT10_CCMPB	コンペアマッチB
116h		GPT10_CMPC	コンペアマッチC
117h		GPT10_CMPD	コンペアマッチD
118h		GPT10_CMPE	コンペアマッチE
119h		GPT10_CMPF	コンペアマッチF
11Ah		GPT10_OVF	オーバーフロー
11Bh		GPT10_UDF	アンダーフロー

表 19.3 ELSRn.ELS[8:0]ビットに設定するイベント信号名と信号番号の対応 (5/6)

イベント番号	割り込み要求の発生元	名称	内容
11Eh	GPT3211	GPT11_CCMPA	コンペアマッチA
11Fh		GPT11_CCMPB	コンペアマッチB
120h		GPT11_CMPC	コンペアマッチC
121h		GPT11_CMPD	コンペアマッチD
122h		GPT11_CMPE	コンペアマッチE
123h		GPT11_CMPF	コンペアマッチF
124h		GPT11_OVF	オーバーフロー
125h		GPT11_UDF	アンダーフロー
128h	GPT3212	GPT12_CCMPA	コンペアマッチA
129h		GPT12_CCMPB	コンペアマッチB
12Ah		GPT12_CMPC	コンペアマッチC
12Bh		GPT12_CMPD	コンペアマッチD
12Ch		GPT12_CMPE	コンペアマッチE
12Dh		GPT12_CMPF	コンペアマッチF
12Eh		GPT12_OVF	オーバーフロー
12Fh		GPT12_UDF	アンダーフロー
150h	GPT	GPT_UVWEDGE	UVWのエッジイベント
174h	SCI0	SCI0_RXI（注4）	受信データフル
175h		SCI0_TXI（注4）	送信データエンプティ
176h		SCI0_TEI	送信終了
177h		SCI0_ERI（注4）	受信エラー
178h		SCI0_AM	アドレス一致イベント
17Ah	SCI1	SCI1_RXI（注4）	受信データフル
17Bh		SCI1_TXI（注4）	送信データエンプティ
17Ch		SCI1_TEI	送信終了
17Dh		SCI1_ERI（注4）	受信エラー
17Eh		SCI1_AM	アドレス一致イベント
180h	SCI2	SCI2_RXI（注4）	受信データフル
181h		SCI2_TXI（注4）	送信データエンプティ
182h		SCI2_TEI	送信終了
183h		SCI2_ERI（注4）	受信エラー
184h		SCI2_AM	アドレス一致イベント
186h	SCI3	SCI3_RXI（注4）	受信データフル
187h		SCI3_TXI（注4）	送信データエンプティ
188h		SCI3_TEI	送信終了
189h		SCI3_ERI（注4）	受信エラー
18Ah		SCI3_AM	アドレス一致イベント
18Ch	SCI4	SCI4_RXI（注4）	受信データフル
18Dh		SCI4_TXI（注4）	送信データエンプティ
18Eh		SCI4_TEI	送信終了
18Fh		SCI4_ERI（注4）	受信エラー
190h		SCI4_AM	アドレス一致イベント

表 19.3　ELSRn.ELS[8:0] ビットに設定するイベント信号名と信号番号の対応 (6/6)

イベント番号	割り込み要求の発生元	名称	内容
1A4h	SCI8	SCI8_RXI（注4）	受信データフル
1A5h		SCI8_TXI（注4）	送信データエンプティ
1A6h		SCI8_TEI	送信終了
1A7h		SCI8_ERI（注4）	受信エラー
1A8h		SCI8_AM	アドレス一致イベント
1AAh	SCI9	SCI9_RXI（注4）	受信データフル
1ABh		SCI9_TXI（注4）	送信データエンプティ
1ACh		SCI9_TEI	送信終了
1ADh		SCI9_ERI（注4）	受信エラー
1AEh		SCI9_AM	アドレス一致イベント
1BCh	SPI0	SPI0_SPRI	受信データフル
1BDh		SPI0_SPTI	送信データエンプティ
1BEh		SPI0_SPII	アイドル
1BFh		SPI0_SPEI	受信エラー
1C0h		SPI0_SPTEND	送信終了
1C1h	SPI1	SPI1_SPRI	受信データフル
1C2h		SPI1_SPTI	送信データエンプティ
1C3h		SPI1_SPII	アイドル
1C4h		SPI1_SPEI	受信エラー
1C5h		SPI1_SPTEND	送信終了

注 1.　パルス（エッジ検出）のみがサポートされています。
注 2.　ELSR8 ～ ELSR11、ELSR14 ～ ELSR17、および ELSR18 が、このイベントを選択できます。
注 3.　このイベントはスヌーズモードでも発生可能です。
注 4.　このイベントは FIFO モードではサポートされていません。

19.3 動作説明

19.3.1 割り込み処理とイベントリンクの関係

イベントリンクのイベント番号は、対応する割り込み要因のイベント番号と同一です。イベント信号の発生方法については、各イベント出力元モジュールの章を参照してください。

19.3.2 イベントのリンク

イベントリンク設定レジスタ（ELSRn）に設定しておいたイベントが発生すると、対応するモジュールが起動します。起動するモジュールの動作設定は、前もって完了しておく必要があります。表 19.4 に、イベントが発生したときのモジュール別動作一覧を示します。

表 19.4 イベント発生時のモジュールの動作

モジュール	イベント発生時の動作
GPT	• カウント開始 • カウント停止 • カウントクリア • アップカウント • ダウンカウント • インプットキャプチャ
ADC12	A/D変換開始
DAC12	D/A変換開始
I/Oポート	• EORR（リセット）またはEOSR（セット）に基づく端子出力の変化 • 端子状態をEIDRにラッチ • ELCで使用可能なポート： PORT 1 PORT 2 PORT 3 PORT 4
CTSU	測定動作開始
DTC	DTCデータ転送開始

19.3.3 イベントリンクの動作設定手順例

イベントのリンク方法は以下のとおりです。

1. イベントをリンクするモジュールの動作設定を行います。
2. イベントをリンクするモジュールに対して、ELSRn レジスタを設定します。
3. ELCR.ELCON ビットを 1 にして、すべてのイベントリンクを有効にします。
4. イベント出力元モジュールの設定を行い、起動させます。これによって、2 つのモジュール間のリンクがアクティブになります。
5. モジュール単位でイベントリンク動作を停止させるには、そのモジュールに対応する ELSRn.ELS[8:0] ビットを 000000000b にします。また、ELCR.ELCON ビットを 0 にすることにより、すべてのイベントリンクを停止します。

RTC のイベントリンク出力機能を使用する場合は、RTC の設定（初期化、時刻設定など）を行った後、ELC を設定してください。ELC の設定後に RTC の設定を行うと、意図しないイベント出力が発生する可能性があります。

19.4 使用上の注意事項

19.4.1 DMAC または DTC 転送終了のイベントリンクを使用する場合

DMAC または DTC 転送終了のイベントリンクを使用する場合、DMAC または DTC 転送先とイベントのリンク先を同一周辺モジュールに設定しないでください。設定すると、周辺モジュールへの DMAC または DTC 転送が完了する前に、周辺モジュールが起動する場合があります。

19.4.2 クロック設定について

イベントリンクを使用するには、ELC と対象モジュールが動作可能な状態でなければいけません。対象モジュールがモジュールストップ状態の場合、または、対象モジュールが停止するような低消費電力モード（ソフトウェアスタンバイモード、またはディープソフトウェアスタンバイモード）の場合、そのモジュールは動作できません。モジュールによっては、スヌーズモードで動作できるものもあります。詳細については、表 19.3 と「11. 低消費電力モード」を参照してください。

19.4.3 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ C（MSTPCRC）によって、ELC 動作を禁止または許可することが可能です。リセット後の初期状態では、ELC の動作は停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。モジュールストップコントロールレジスタを用いて ELC の動作を禁止する場合は、事前に ELCON ビットを 0 にする必要があります。詳細については、表 19.3 と「11. 低消費電力モード」を参照してください。

19.4.4 ELC 遅延時間

図 19.2 では、モジュール A は ELC を通じてモジュール B にアクセスしています。モジュール A とモジュール B の間にある ELC では遅延時間が発生します。この ELC 遅延時間を表 19.5 に示します。

モジュール A とモジュール B のクロックドメインが同一であれば、遅延時間は 0 です。しかし、モジュール A とモジュール B のクロックドメインが異なっていれば、ELC モジュールにある程度の遅延が生じています。この遅延時間は、モジュール A とモジュール B のクロックのうち周波数の遅い方が基準となります。

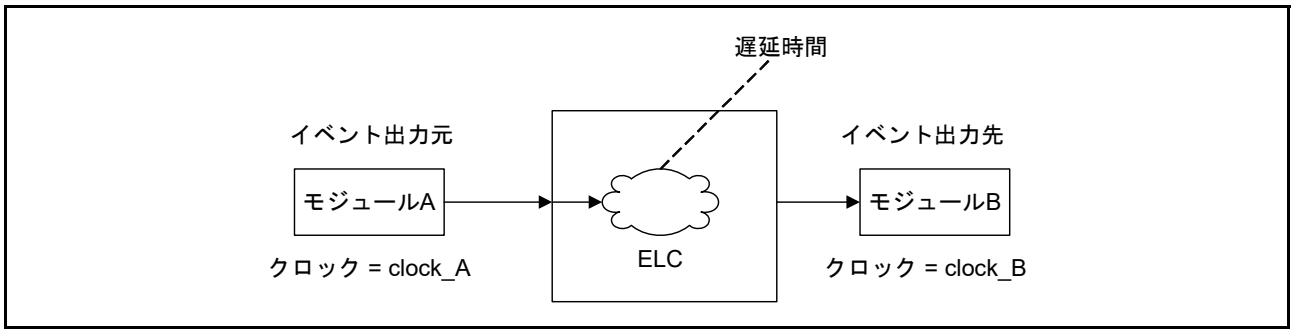


図 19.2 ELC 遅延時間

表 19.5 ELC遅延時間

クロックドメイン	クロック周波数	ELC遅延時間
clock_A = clock_B	clock_A = clock_B	0サイクル
clock_A ≠ clock_B	clock_A = clock_B	1～2サイクル
	clock_A ＞ clock_B	Bのクロックの1～2サイクル
	clock_A ＜ clock_B	Aのクロックの1～2サイクル

20. I/O ポート

20.1 概要

I/O ポート端子は、汎用入出力ポート端子、周辺モジュールの入出力端子、割り込み入力端子、アナログ入出力、ELC のポートグループ機能、またはバス制御端子として動作します。すべての端子は、リセット直後は入力端子として動作しますが、レジスタの設定によって機能を切り替えることができます。各端子の I/O ポートと周辺モジュールは、対応するレジスタで設定します。

図 20.1 に、I/O ポートレジスタの接続図を示します。パッケージによって I/O ポートの構成は異なります。表 20.1 にパッケージ別の I/O ポートの仕様を、表 20.2 に I/O ポートの機能を示します。

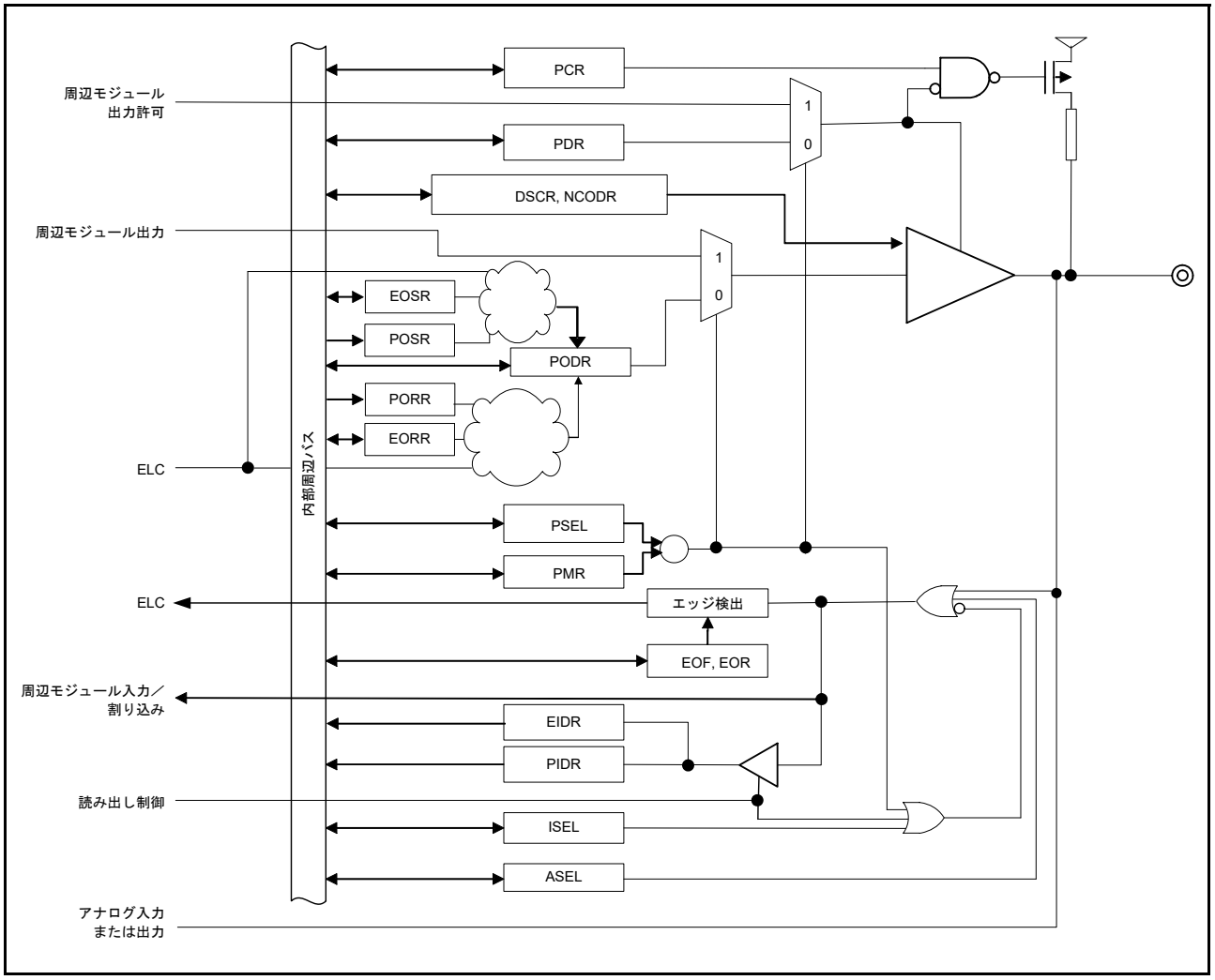


図 20.1 I/O ポートレジスタの接続図

注 . 図 20.1 はポートの基本構成を示しています。ポートによって構成は異なります。

表 20.1 I/O ポートの仕様

ポート	パッケージ 100 ピン	本数	パッケージ 64 ピン	本数
ポート 0	P000 ～ P008, P014, P015	11	P000 ～ P003, P014, P015	6
ポート 1	P100 ～ P115	16	P100 ～ P112	13
ポート 2	P200, P201, P205 ～ P214	12	P200, P201, P205 ～ P207, P210, P212, P213	8
ポート 3	P300 ～ P307	8	P300 ～ P302	3
ポート 4	P400 ～ P415	16	P400 ～ P402, P407 ～ P411	8
ポート 5	P500 ～ P504, P508	6	P500, P501	2
ポート 6	P600 ～ P602, P608 ～ P610	6	なし	0
ポート 7	P708	1	なし	0
	合計本数	76	合計本数	40

表 20.2 I/O ポートの機能

ポート	ポート名	入力プルアップ	オープンドレイン出力	駆動能力切り替え	5V トレラント
ポート 0	P000 ～ P007	○	○	-	-
	P008, P014, P015	○	○	-	-
ポート 1	P100 ～ P115	○	○	低／中／高	-
ポート 2	P200	○	-	-	-
	P201	○	○	-	-
	P205, P206	○	○	低／中／高	○
	P207 ～ P214	○	○	低／中／高	-
ポート 3	P300 ～ P307	○	○	低／中／高	-
ポート 4	P400, P401, P407 ～ P415	○	○	低／中／高	○
	P402 ～ P406	○	○	低／中／高	-
ポート 5	P500 ～ P504, P508	○	○	低／中／高	-
ポート 6	P600 ～ P602, P608 ～ P610（注 1）	○	○	低／中／高	-
ポート 7	P708	○	○	低／中／高	○

○：使用可能

注 1. P602 が EBCLK に設定されている場合（PmnPFS.PSEL[4:0] が 01011b に設定されている場合）、P602 のドライブ容量は High に設定されます。

20.2 レジスタの説明

20.2.1 ポートコントロールレジスタ 1（PCNTR1/PODR/PDR）

アドレス PORT0.PCNTR1 4004 0000h, PORT1.PCNTR1 4004 0020h, PORT2.PCNTR1 4004 0040h, PORT3.PCNTR1 4004 0060h, PORT4.PCNTR1 4004 0080h, PORT5.PCNTR1 4004 00A0h, PORT6.PCNTR1 4004 00C0h, PORT7.PCNTR1 4004 00E0h

PORT0.PODR 4004 0000h, PORT1.PODR 4004 0020h, PORT2.PODR 4004 0040h, PORT3.PODR 4004 0060h, PORT4.PODR 4004 0080h, PORT5.PODR 4004 00A0h, PORT6.PODR 4004 00C0h, PORT7.PODR 4004 00E0h

PORT0.PDR 4004 0002h, PORT1.PDR 4004 0022h, PORT2.PDR 4004 0042h, PORT3.PDR 4004 0062h, PORT4.PDR 4004 0082h, PORT5.PDR 4004 00A2h, PORT6.PDR 4004 00C2h, PORT7.PDR 4004 00E2h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	PODR 15	PODR 14	PODR 13	PODR 12	PODR 11	PODR 10	PODR 09	PODR 08	PODR 07	PODR 06	PODR 05	PODR 04	PODR 03	PODR 02	PODR 01	PODR 00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	PDR15	PDR14	PDR13	PDR12	PDR11	PDR10	PDR09	PDR08	PDR07	PDR06	PDR05	PDR04	PDR03	PDR02	PDR01	PDR00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	PDRn	Pmn 方向	0：入力（入力端子として機能） 1：出力（出力端子として機能）	R/W
b31-b16	PODRn	Pmn 出力データ	0：Low 出力 1：High 出力	R/W

m = 0 ～ 7
n = 00 ～ 15

ポートコントロールレジスタ 1（PCNTR1/PODR/PDR）は、32 ビットおよび 16 ビットの読み出し／書き込みが可能なレジスタで、ポート方向およびポート出力データを制御します。

PCNTR1 はポート方向とポート出力データを指定し、32 ビット単位でアクセスされます。PDRn（PCNTR1 のビット [15:0]）および PODRn（PCNTR1 のビット [31:16]）はそれぞれ 16 ビット単位でアクセスされます。

PDRn ビットは、汎用入出力端子として設定されている個々のポート端子の入力／出力方向を選択します。ポート m の各端子はそれぞれ PORTm.PCNTR1.PDRn ビットに対応しています。入出力方向は 1 ビット単位で指定できます。存在しない端子に対応するビットは予約ビットです。書く場合、常に 0 としてください。P000 ～ P007 と P200 は入力専用です。そのため PORT0.PCNTR1.PDR00 ～ PDR07 と PORT2.PCNTR1.PDR00 は予約ビットです。PORTm.PCNTR1 レジスタの PDRn ビットは、PFS.PmnPFS レジスタの PDR ビットと同じ機能を提供します。

PODRn ビットは、汎用入出力端子から出力されるデータを格納します。存在しない端子に対応するビットは予約ビットです。書く場合、0 としてください。P000 ～ P007 と P200 は入力専用です。そのため PORT0.PCNTR1.PODR00 ～ PODR07 と PORT2.PCNTR1.PODR00 は予約ビットです。P000 ～ P007 と P200 に対応するビットへの書き込みは何も影響を与えません。PORTm.PCNTR1 レジスタの PODRn ビットは、PFS.PmnPFS レジスタの PODR ビットと同じ機能を提供します。

20.2.2 ポートコントロールレジスタ 2（PCNTR2/EIDR/PIDR）

アドレス PORT0.PCNTR2 4004 0004h, PORT1.PCNTR2 4004 0024h, PORT2.PCNTR2 4004 0044h, PORT3.PCNTR2 4004 0064h, PORT4.PCNTR2 4004 0084h, PORT5.PCNTR2 4004 00A4h, PORT6.PCNTR2 4004 00C4h, PORT7.PCNTR2 4004 00E4h

PORT0.EIDR 4004 0004h, PORT1.EIDR 4004 0024h, PORT2.EIDR 4004 0044h, PORT3.EIDR 4004 0064h, PORT4.EIDR 4004 0084h, PORT5.EIDR 4004 00A4h, PORT6.EIDR 4004 00C4h, PORT7.EIDR 4004 00E4h

PORT0.PIDR 4004 0006h, PORT1.PIDR 4004 0026h, PORT2.PIDR 4004 0046h, PORT3.PIDR 4004 0066h, PORT4.PIDR 4004 0086h, PORT5.PIDR 4004 00A6h, PORT6.PIDR 4004 00C6h, PORT7.PIDR 4004 00E6h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	EIDR15	EIDR14	EIDR13	EIDR12	EIDR11	EIDR10	EIDR09	EIDR08	EIDR07	EIDR06	EIDR05	EIDR04	EIDR03	EIDR02	EIDR01	EIDR00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	PIDR15	PIDR14	PIDR13	PIDR12	PIDR11	PIDR10	PIDR09	PIDR08	PIDR07	PIDR06	PIDR05	PIDR04	PIDR03	PIDR02	PIDR01	PIDR00
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	PIDRn	Pmn 状態	0：Low レベル 1：High レベル	R
b31-b16	EIDRn	ポートイベント入力データ（注 1）	ELC_PORTx 信号の発生時： 0：Low 入力 1：High 入力	R

m = 0 ～ 7
n = 00 ～ 15
x = 1 ～ 4

注 1. ポート 1 ～ 4 に対応しています。

ポートコントロールレジスタ 2（PCNTR2/EIDR/PIDR）は、Pmn 状態およびポートイベント入力データへの、32 ビットアクセスまたは 16 ビットアクセスでのリードアクセスを可能にします。

PCNTR2 は Pmn 状態とポートイベント入力データを示し、32 ビット単位でアクセスされます。PIDRn（PCNTR2 のビット [15:0]）および EIDRn（PCNTR2 のビット [31:16]）はそれぞれ 16 ビット単位でアクセスされます。存在しない端子に対応するビットは予約ビットです。予約ビットを読むと、不定値が読めます。

PIDRn ビットは、PmnPFS.PMR ビットと PORTm.PCNTR1.PDRn ビットの設定値にかかわらず、ポートの個々の端子状態を反映します。PORTm.PCNTR2 レジスタの PIDRn ビットは、PFS.PmnPFS レジスタの PIDR ビットと同じ機能を提供します。

次の機能のいずれかが有効の場合、端子状態は PIDRn に反映できません。

- メインクロック発振器（MOSC）
- CS 領域コントローラ（CSC）
- アナログ機能（ASEL = 1）
- 静電容量式タッチセンシングユニット（CTSU）
- USB2.0 フルスピードモジュール（USBFS）

EIDRn ビットは、ELC_PORTx 信号の発生時に端子状態をラッチします。PmnPFS.PMR = 0 かつ PORTm.PCNTR1.PDRn = 0 の場合にのみ、EIDRn ビットに端子状態を入力できます。PmnPFS.ASEL ビットを 1 にすると、関連する端子状態は EIDRn に反映されません。

20.2.3 ポートコントロールレジスタ 3（PCNTR3/PORR/POSR）

アドレス PORT0.PCNTR3 4004 0008h, PORT1.PCNTR3 4004 0028h, PORT2.PCNTR3 4004 0048h, PORT3.PCNTR3 4004 0068h, PORT4.PCNTR3 4004 0088h, PORT5.PCNTR3 4004 00A8h, PORT6.PCNTR3 4004 00C8h, PORT7.PCNTR3 4004 00E8h

PORT0.PORR 4004 0008h, PORT1.PORR 4004 0028h, PORT2.PORR 4004 0048h, PORT3.PORR 4004 0068h, PORT4.PORR 4004 0088h, PORT5.PORR 4004 00A8h, PORT6.PORR 4004 00C8h, PORT7.PORR 4004 00E8h

PORT0.POSR 4004 000Ah, PORT1.POSR 4004 002Ah, PORT2.POSR 4004 004Ah, PORT3.POSR 4004 006Ah, PORT4.POSR 4004 008Ah, PORT5.POSR 4004 00AAh, PORT6.POSR 4004 00CAh, PORT7.POSR 4004 00EAh

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	PORR 15	PORR 14	PORR 13	PORR 12	PORR 11	PORR 10	PORR 09	PORR 08	PORR 07	PORR 06	PORR 05	PORR 04	PORR 03	PORR 02	PORR 01	PORR 00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	POSR 15	POSR 14	POSR 13	POSR 12	POSR 11	POSR 10	POSR 09	POSR 08	POSR 07	POSR 06	POSR 05	POSR 04	POSR 03	POSR 02	POSR 01	POSR 00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	POSRn	Pmn 出力設定	0：出力に影響なし 1：High 出力	W
b31-b16	PORRn	Pmn 出力リセット	0：出力に影響なし 1：Low 出力	W

m = 0 ～ 7
n = 00 ～ 15

ポートコントロールレジスタ 3（PCNTR3/PORR/POSR）は、32 ビットおよび 16 ビットの書き込み可能なレジスタで、ポート出力データの設定またはリセットを制御します。

PCNTR3 はポート出力データの設定またはリセットを制御し、32 ビット単位でアクセスされます。POSRn（PCNTR3 のビット [15:0]）および PORRn（PCNTR3 のビット [31:16]）はそれぞれ 16 ビット単位でアクセスされます。

POSR ビットがソフトウェア書き込みによって設定されると、PODR ビットが変更されます。たとえば P100 端子の場合、PORT1.PCNTR3.POSR00 が 1 であると、PORT1.PCNTR1.PODR00 は 1 を出力します。存在しない端子に対応するビットは予約ビットです。書く場合、常に 0 としてください。P000 ～ P007 と P200 は入力専用です。そのため PORT0.PCNTR3.POSR00 ～ POSR07 と PORT2.PCNTR3.POSR00 は予約ビットです。

PORR ビットがソフトウェア書き込みによって設定されると、PODR ビットが変更されます。たとえば P100 端子の場合、PORT1.PCNTR3.PORR00 が 1 であると、PORT1.PCNTR1.PODR00 は 0 を出力します。存在しない端子に対応するビットは予約ビットです。書く場合、常に 0 としてください。P000 ～ P007 と P200 は入力専用です。そのため PORT0.PCNTR3.PORR00 ～ PORR07 と PORT2.PCNTR3.PORR00 は予約ビットです。

注 . EORRn または EOSRn が設定されている場合は、PODRn、PORRn および POSRn への書き込みは禁止です。
注 . PORRn および POSRn は同時に設定しないでください。

20.2.4 ポートコントロールレジスタ 4（PCNTR4/EORR/EOSR）

アドレス PORT1.PCNTR4 4004 002Ch, PORT2.PCNTR4 4004 004Ch, PORT3.PCNTR4 4004 006Ch, PORT4.PCNTR4 4004 008Ch
PORT1.EORR 4004 002Ch, PORT2.EORR 4004 004Ch, PORT3.EORR 4004 006Ch, PORT4.EORR 4004 008Ch
PORT1.EOSR 4004 002Eh, PORT2.EOSR 4004 004Eh, PORT3.EOSR 4004 006Eh, PORT4.EOSR 4004 008Eh

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	EORR 15	EORR 14	EORR 13	EORR 12	EORR 11	EORR 10	EORR 09	EORR 08	EORR 07	EORR 06	EORR 05	EORR 04	EORR 03	EORR 02	EORR 01	EORR 00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	EOSR 15	EOSR 14	EOSR 13	EOSR 12	EOSR 11	EOSR 10	EOSR 09	EOSR 08	EOSR 07	EOSR 06	EOSR 05	EOSR 04	EOSR 03	EOSR 02	EOSR 01	EOSR 00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	EOSRn	Pmn イベント出力設定	ELC_PORTx の発生時： 0：出力に影響なし 1：High 出力	R/W
b31-b16	EORRn	Pmn イベント出力リセット	ELC_PORTx の発生時： 0：出力に影響なし 1：Low 出力	R/W

m = 1 ～ 4
n = 00 ～ 15
x = 1 ～ 4

ポートコントロールレジスタ 4（PCNTR4/EORR/EOSR）は、32 ビットおよび 16 ビットの読み出し／書き込みが可能なレジスタで、ELC からのイベント入力によりポート出力データの設定またはリセットを制御します。

PCNTR4 は、ELC からのイベント入力によりポート出力データの設定またはリセットを制御し、32 ビット単位でアクセスされます。EOSRn（PCNTR4 のビット [15:0]）および EORRn（PCNTR4 のビット [31:16]）はそれぞれ 16 ビット単位でアクセスされます。

EOSR ビットが ELC_PORTx 信号の発生によって設定されると、PODR ビットが変更されます。たとえば P100 端子の場合、ELC_PORTx の発生時に PORT1.PCNTR1.PODR00 が 1 になると、PORT1.PCNTR4.PODR00 は 1 を出力します。存在しない端子に対応するビットは予約ビットです。書く場合、常に 0 としてください。P200 は入力専用です。そのため PORT2.PCNTR4.EOSR00 は予約ビットです。

EORR ビットが ELC_PORTx 信号の発生によってリセットされると、PODR ビットが変更されます。たとえば P100 端子の場合、ELC_PORTx の発生時に PORT1.PCNTR1.PODR00 が 1 になると、PORT1.PCNTR4.PODR00 は 0 を出力します。存在しない端子に対応するビットは予約ビットです。書く場合、常に 0 としてください。P200 は入力専用です。そのため PORT2.PCNTR4.EORR00 は予約ビットです。

注 . EORRn または EOSRn が設定されている場合は、PODRn、PORRn および POSRn への書き込みは禁止です。
注 . EORRn および EOSRn は同時に設定しないでください。

20.2.5 ポート mn 端子機能選択レジスタ（PmnPFS/PmnPFS_HA/PmnPFS_BY）（m = 0 ～ 7; n = 00 ～ 15）

アドレス PFS.P000PFS 4004 0800h～PFS.P015PFS 4004 083Ch, PFS.P100PFS 4004 0840h～PFS.P115PFS 4004 087Ch,
PFS.P200PFS 4004 0880h～PFS.P214PFS 4004 08B8h, PFS.P300PFS 4004 08C0h～PFS.P307PFS 4004 08DCh,
PFS.P400PFS 4004 0900h～PFS.P415PFS 4004 093Ch, PFS.P500PFS 4004 0940h～PFS.P508PFS 4004 0960h,
PFS.P600PFS 4004 0980h～PFS.P610PFS 4004 09A8h, PFS.P708PFS 4004 09E0h

PFS.P000PFS_HA 4004 0802h～PFS.P015PFS_HA 4004 083Eh, PFS.P100PFS_HA 4004 0842h～PFS.P115PFS_HA 4004 087Eh,
PFS.P200PFS_HA 4004 0882h～PFS.P214PFS_HA 4004 08BAh, PFS.P300PFS_HA 4004 08C2h～PFS.P307PFS_HA 4004 08DEh,
PFS.P400PFS_HA 4004 0902h～PFS.P415PFS_HA 4004 093Eh, PFS.P500PFS_HA 4004 0942h～PFS.P508PFS_HA 4004 0962h,
PFS.P600PFS_HA 4004 0982h～PFS.P610PFS_HA 4004 09AAh, PFS.P708PFS_HA 4004 09E2h

PFS.P000PFS_BY 4004 0803h～PFS.P015PFS_BY 4004 083Fh, PFS.P100PFS_BY 4004 0843h～PFS.P115PFS_BY 4004 087Fh,
PFS.P200PFS_BY 4004 0883h～PFS.P214PFS_BY 4004 08BBh, PFS.P300PFS_BY 4004 08C3h～PFS.P307PFS_BY 4004 08DFh,
PFS.P400PFS_BY 4004 0903h～PFS.P415PFS_BY 4004 093Fh, PFS.P500PFS_BY 4004 0943h～PFS.P508PFS_BY 4004 0963h,
PFS.P600PFS_BY 4004 0983h～PFS.P610PFS_BY 4004 09ABh, PFS.P708PFS_BY 4004 09E3h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	PSEL[4:0]					—	—	—	—	—	—	—	PMR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0（注2）

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ASEL	ISEL	EOF	EOR	DSCR[1:0]		—	—	—	NCODR	—	PCR	—	PDR	PIDR	PODR
リセット後の値	0（注2）	0	0	0	0	0（注2）	0	0	0	0	0	0（注2）	0	0	x	0

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PODR	ポート出力データ	0：Low 出力 1：High 出力	R/W
b1	PIDR	Pmn 状態	0：Low レベル 1：High レベル	R
b2	PDR	ポート方向	0：入力（入力端子として機能） 1：出力（出力端子として機能）	R/W
b3	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b4	PCR	プルアップ制御	0：入力プルアップ無効 1：入力プルアップ有効	R/W
b5	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b6	NCODR	N チャネルオープンドレイン制御	0：CMOS 出力 1：NMOS オープンドレイン出力	R/W
b9-b7	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b11-b10	DSCR[1:0]	ポート駆動能力	b11 b10 0 0：低駆動 0 1：中駆動 1 0：設定禁止 1 1：高駆動	R/W
b13-b12	EOF/EOR	立ち下がり時イベント／立ち上がり時イベント（注1）	b13 b12 0 0：Don’tcare 0 1：立ち上がりエッジ検出 1 0：立ち下がりエッジ検出 1 1：両エッジ検出	R/W
b14	ISEL	IRQ 入力許可	0：IRQn 入力端子として使用しない 1：IRQn 入力端子として使用する	R/W
b15	ASEL	アナログ入力許可	0：アナログ端子として使用しない 1：アナログ端子として使用する	R/W
b16	PMR	ポートモード制御	0：汎用入出力端子として使用する 1：周辺機能用の入出力ポートとして使用する	R/W
b23-b17	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b28-b24	PSEL[4:0]	周辺機能選択	周辺機能を選択します。各端子の機能については、この章の関連する表を参照してください。	R/W
b31-b29	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

注 . P009PFS ～ P013PFS、P202PFS ～ P204PFS、P505PFS ～ P507PFS、および P603PFS ～ P607PFS には 32 ビットアクセス、16 ビットアクセス、8 ビットアクセスはできません。

注 1. ポート 1 ～ 4 に対応しています。

注 2. P000 ～ P007、P108、P109、P110、P201、P300 の初期値は 0000_0000h 以外になります。
P000 ～ P007 は 0000_8000h、P108 は 0001_0410h、P109 は 0001_0400h、P110 は 0001_0010h、P201 は 0000_0010h、P300 は 0001_0010h になります。

ポート mn 端子機能選択レジスタ（PmnPFS/PmnPFS_HA/PmnPFS_BY）は、32 ビット、16 ビットおよび 8 ビットの読み出し／書き込み可能なコントロールレジスタです。PmnPFS はポート mn 機能の選択を制御し、32 ビット単位でアクセスされます。PmnPFS_HA（PmnPFS[15:0] ビット）は 16 ビット単位でアクセスされます。PmnPFS_BY（PmnPFS[7:0] ビット）は 8 ビット単位でアクセスされます。

PDR ビット、PIDR ビット、PODR ビットは、PCNTR レジスタと同じ機能を果たします。これらのビットを読むと、PCNTR レジスタ値が読めます。

PCR ビットは、ポートの各端子に対して入力プルアップ抵抗を有効または無効にします。端子が入力状態にあって、PmnPFS.PCR の対応するビットが 1 になっている場合、その端子に接続されたプルアップ抵抗が有効になります。外部バス端子、汎用ポート出力端子、または周辺機能出力端子に設定されている場合は、PCR の設定値にかかわらず、プルアップ抵抗は無効になります。リセット状態でもプルアップ抵抗は無効になります。存在しない端子に対応するビットは予約ビットです。書く場合、0 としてください。

NCODR ビットは、ポート端子の出力タイプを設定します。存在しない端子に対応するビットは予約ビットです。書く場合、0 としてください。

DSCR ビットは、ポートの駆動能力を切り替えます。端子の駆動能力が固定されている場合、対応するビットは読み出し／書き込みが可能ですが、駆動能力は変更できません。存在しない端子に対応するビットは予約ビットです。書く場合、0 としてください。

EOF/EOR ビットは、ポートグループ入力信号のエッジ検出方法を選択します。立ち上がりエッジ検出、立ち下がりエッジ検出、または両エッジ検出を選択できます。EOF/EOR ビットを 01b、10b、または 11b にすると、入出力セルの入力許可がアサートされます。それに続いて、外部端子からイベントパルスが入力され、GPIO が ELC にイベントパルスを出力します。存在しない端子に対応するビットは予約ビットです。書く場合、0 としてください。

ISEL ビットは、IRQ 入力端子を設定します。周辺機能と組み合わせて使用することも可能です。ただし、同じ番号の IRQn（外部端子割り込み）は 1 つの端子にのみ許可できます。

ASEL ビットは、アナログ端子を設定します。本ビットで、端子をアナログ端子として設定する場合、以下のように指定します。

1. ポートモード制御ビット（PmnPFS.PMR）で、その端子を汎用入出力ポートに指定します。
2. プルアップ制御ビット（PmnPFS.PCR）で、入力プルアップ抵抗を無効にします。
3. ポート方向ビット（PmnPFS.PDR）で、入力に指定します。このとき、端子状態を読むことはできません。PmnPFS レジスタは、ライトプロテクトレジスタ（PWPR）によって保護されています。書き込み禁止を解除してから、レジスタを書き換えてください。

未指定の IRQn に対する ISEL ビットは予約ビットです。未指定のアナログ入出力端子に対する ASEL ビットは予約ビットです。

PMR ビットは、ポートの端子機能を設定します。存在しない端子に対応するビットは予約ビットです。書く場合、0 としてください。

PSEL[4:0] ビットは、周辺機能を割り当てます。

製品ごとの周辺選択設定に関する詳細は 20.6　製品ごとの周辺選択設定を参照してください。

20.2.6 書き込みプロテクトレジスタ（PWPR）

アドレス PMISC.PWPR 4004 0D03h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	B0WI	PFSWE	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	1	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b6	PFSWE	PmnPFS レジスタ書き込み許可	0：PmnPFS レジスタへの書き込みを禁止 1：PmnPFS レジスタへの書き込みを許可	R/W
b7	B0WI	PFSWE ビット書き込み禁止	0：PFSWE ビットへの書き込みを許可 1：PFSWE ビットへの書き込みを禁止	R/W

PFSWE ビット（PmnPFS レジスタ書き込み許可）

PFSWE ビットを 1 にしたときのみ、PmnPFS レジスタに対する書き込みが許可されます。最初に B0WI ビットに 0 を書いてから、PFSWE ビットを 1 にする必要があります。

B0WI ビット（PFSWE ビット書き込み禁止）

B0WI ビットを 0 にしたときのみ、PFSWE ビットに対する書き込みが許可されます。

20.3 動作説明

20.3.1 汎用入出力ポート

P000 ～ P007、P108 ～ P110、および P300 以外のすべての端子は、リセット後は汎用入力ポートとして動作します。汎用入出力ポートは、16 ビットで構成されたポートです。ポートコントロールレジスタ PCNTRn（n = 1 ～ 4）により、ポート単位のアクセスが可能です。また、ポート mn 端子機能選択レジスタにより、端子単位でのアクセスが可能です。これらのレジスタの詳細は、20.2 レジスタの説明を参照してください。

各ポートには以下のビットがあります。

- ポート方向ビット（PDRn）：入力／出力の方向を選択する
- ポート出力データビット（PODRn）：出力用データを格納する
- ポート入力データビット（PIDRn）：端子状態を示す
- イベント入力データビット（EIDRn）：ELC_PORT1, 2, 3, 4 信号発生時の端子状態を示す
- ポート出力設定ビット（POSRn）：ソフトウェア書き込み発生時の出力値を示す
- ポート出力リセットビット（PORRn）：ソフトウェア書き込み発生時の出力値を示す
- イベント出力設定ビット（EOSRn）：ELC_PORT1, 2, 3, 4 信号発生時の出力値を示す
- イベント出力リセットビット（EORRn）：ELC_PORT1, 2, 3, 4 信号発生時の出力値を示す

20.3.2 ポート機能選択

各端子の設定時、以下のポート機能を利用できます。

- 入出力設定：CMOS 出力または NMOS オープンドレイン出力、プルアップ制御、および駆動強度
- 汎用入出力ポート：ポート方向、出力データ設定、および入力データの読み出し
- 代替機能：端子への機能の割り当て

各端子は、ポート mn 端子機能選択レジスタ（PmnPFS）に対応してます。このレジスタには、対応するビット PODR、PIDR、および PDR があります。さらに、PmnPFS レジスタは以下のビットを持ちます。

- PCR：入力プルアップ MOS のオン／オフを切り替えるためのプルアップ抵抗制御ビット
- NCODR：各端子の出力タイプを選択するための N チャネルオープンドレイン制御ビット
- DSCR：駆動能力を選択するための駆動能力制御ビット
- EOR：ポート入力の立ち上がりエッジ検出に使用する立ち上がり時イベントビット
- EOF：ポート入力の立ち下がりエッジ検出に使用する立ち下がり時イベントビット
- ISEL：IRQ 入力端子を設定するための IRQ 入力許可ビット
- ASEL：アナログ端子を設定するためのアナログ入力許可ビット
- PMR：各ポートの端子機能を設定するためのポートモード制御ビット
- PSEL[4:0]：対応する周辺機能を選択するためのポート機能選択ビット

これらは、ポート mn 端子機能選択レジスタへのシングルレジスタアクセスで設定することができます。詳細は、20.2.5 ポート mn 端子機能選択レジスタ（PmnPFS/PmnPFS_HA/PmnPFS_BY）（m = 0 ～ 7; n = 00 ～ 15）を参照してください。

20.3.3 ELC のポートグループ機能

本 MCU では、ポート 1 ～ 4 がポートグループ機能に割り当てられています。

20.3.3.1 ELC から ELC_PORT1, 2, 3, 4 が入力された場合の動作

ELC から ELC_PORT1, 2, 3, 4 信号が入力されたとき、本 MCU は、以下に示す 2 つの機能をサポートしています。

(1) EIDR への入力

GPI 機能（PmnPFS レジスタで PDR = 0 および PMR = 0）では、ELC から ELC_PORT1, 2, 3, 4 信号が入力されると、入出力セルの入力許可がアサートされ、外部端子からのデータが EIDR ビットに読み出されます。図 20.2 を参照してください。

GPO 機能（PDR = 1）または周辺モード（PMR = 1）では、外部端子から EIDR ビットに 0 が入力されます。

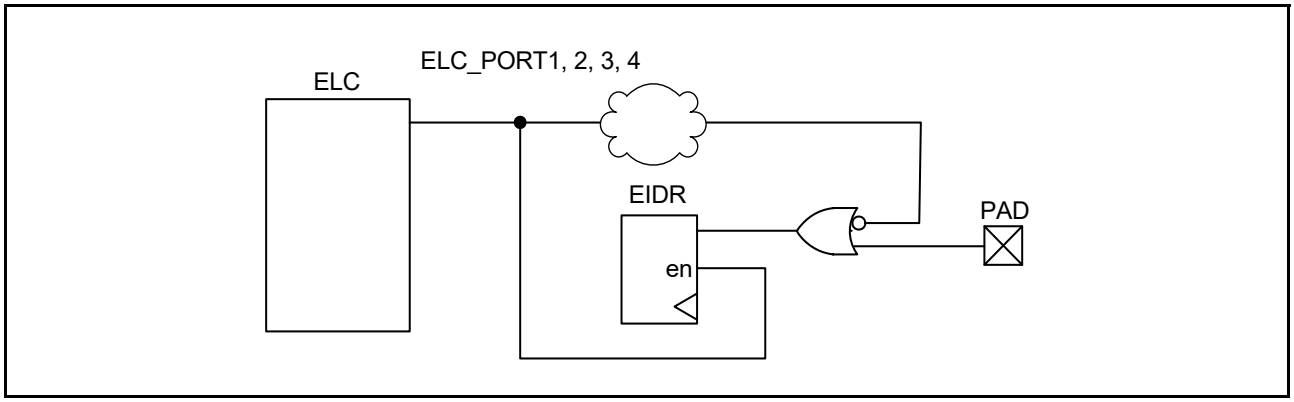


図 20.2 イベントポート入力データ

(2) EOSR/EORR による PODR からの出力

ELC_PORT1, 2, 3, 4 信号の発生時に、EOSR/EORR ビット設定値に基づいて、PODR から外部端子へデータが出力されます。

- EOSR を 1 にすると、ELC_PORT1, 2, 3, 4 発生時に PODR レジスタは外部端子へ 1 を出力する。EOSR = 0 の場合、PODR の値が保持される
- EORR を 1 にすると、ELC_PORT1, 2, 3, 4 発生時に PODR レジスタは外部端子へ 0 を出力する。EORR = 0 の場合、PODR の値が保持される

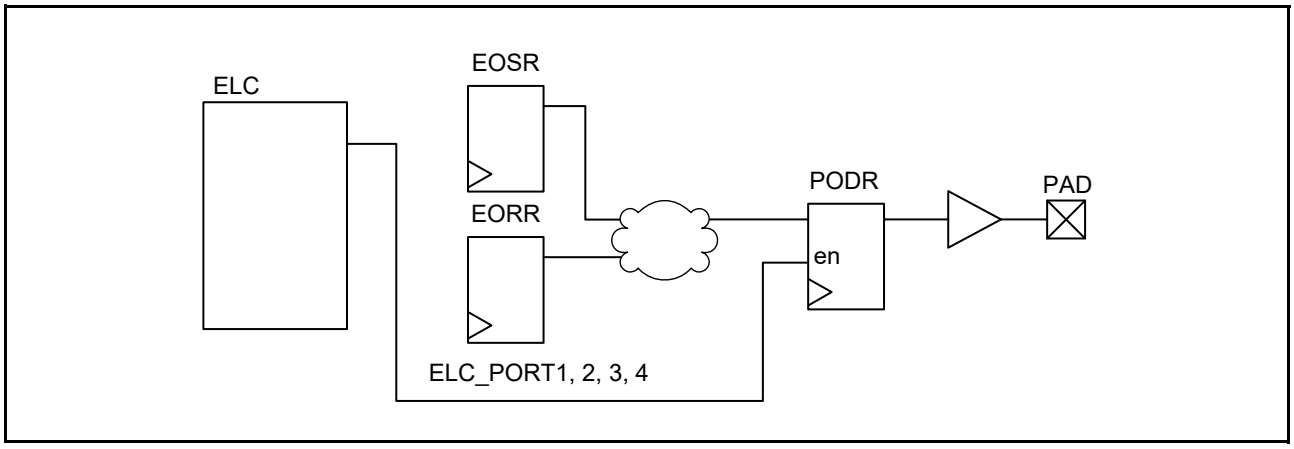


図 20.3 イベントポート出力データ

20.3.3.2 イベントパルスが ELC に出力された場合の動作

外部端子から ELC へイベントパルスを出力するには、PmnPFS レジスタの EOR/EOF ビットを設定します。詳細は、20.2.5 ポート mn 端子機能選択レジスタ（PmnPFS/PmnPFS_HA/PmnPFS_BY）（m = 0 ～ 7; n = 00 ～ 15）を参照してください。EOR/EOF ビットを設定すると、入出力セルの入力許可がアサートされます。

外部端子からのデータが入力となります。たとえばポート 1 に対して、P100 から P115 へデータが入力されると、これら 16 端子のデータは OR 論理で構成されます。このデータは、ワンショットパルスとして形成され、ELC に入力されます。ポート 2 ～ 4 の動作も同じです。図 20.4 を参照してください。

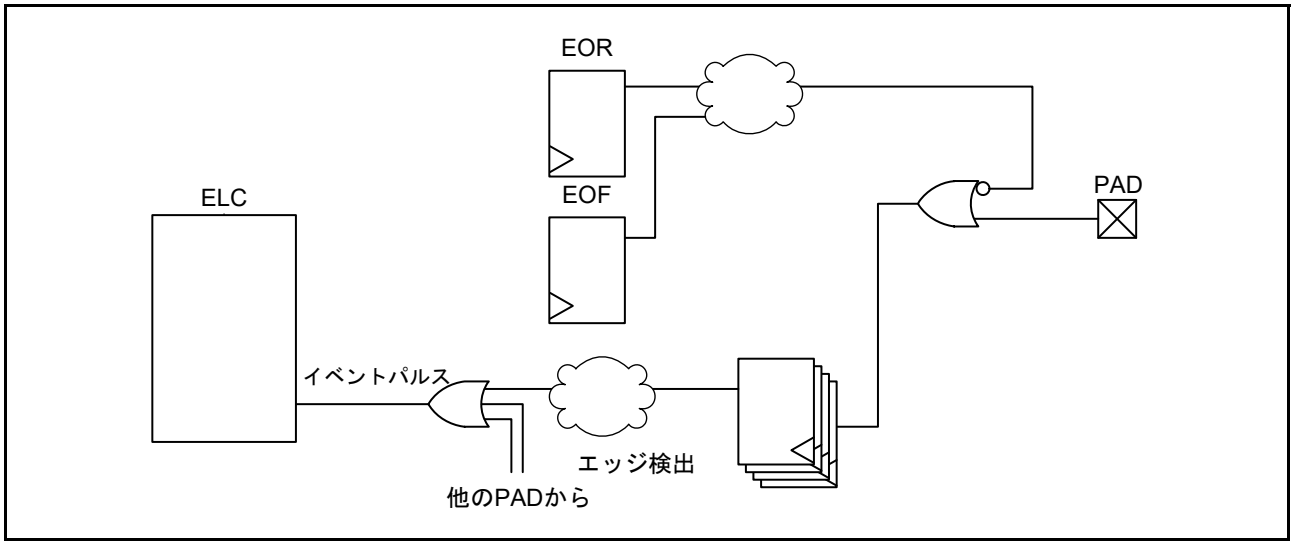


図 20.4 イベントパルスの発生

20.4 未使用端子の処理

表 20.3 に、未使用端子の処理方法を示します。

表 20.3 未使用端子の処理

端子名	未使用時の処理
MD	モード端子として使用
RES	抵抗を介してVCCに接続（プルアップ）
USB_DP	開放したまま
USB_DM	開放したまま
P200/NMI	抵抗を介してVCCに接続（プルアップ）
EXTAL	メインクロック発振器を使用しない場合、MOSCCR.MOSTPビットを1（汎用ポートP212）に設定。 この端子をポートP212として使用しない場合、P1x～P7xと同じ処理をしてください。
XTAL	メインクロック発振器を使用しない場合、MOSCCR.MOSTPビットを1（汎用ポートP213）に設定。 外部クロックがEXTAL端子に入力される場合、XTAL端子はP213として機能する。 この端子をポートP213として使用しない場合、P1x～P7xと同じ処理をしてください。
XCIN	抵抗を介してVSSに接続（プルダウン）
XCOUT	開放したまま
P000～P007	抵抗を介してAVCC0に接続（プルアップ）または抵抗を介してAVSS0に接続（プルダウン）（注1）（注4）
P008, P014, P015	• 入力（PCNTR1.PDRn = 0）に設定した場合、対応する端子を抵抗を介してAVCC0に接続（プルアップ）、または抵抗を介してAVSS0に接続（プルダウン）（注1） • 出力（PCNTR1.PDRn = 1）に設定した場合、端子を開放（注1）
P1x～P7x	• 入力（PCNTR1.PDRn = 0）に設定した場合、対応する端子を抵抗を介してVCCに接続（プルアップ）、または抵抗を介してVSSに接続（プルダウン）（注1）（注2） • 出力（PCNTR1.PDRn = 1）に設定した場合、端子を開放（注1）（注3）
VREFH0, VREFH	AVCC0に接続
VREFL0, VREFL	AVSS0に接続
VBATT	VCCまたはVSSに接続

注 1. PmnPFS.PMR ビット、PmnPFS.ISEL ビット、PmnPFS.PCR ビット、および PmnPFS.ASEL ビットを 0 にクリアしてください。

注 2. P108、P110、および P300 は、初期値（PmnPFS.PCR = 1）から入力プルアップが許可されている端子です。このため、抵抗を介したプルアップ VCC（プルアップ）に推奨されます。

注 3. P109 は、初期値から出力に設定されている端子です。このため、出力（PCNTR1.PDRn = 1）として設定されることが推奨されます。

注 4. P003 および P007 の入力リーク電流を低減するため、P003PFS.ASEL および P007PFS.ASEL ビットを 0 にしてください。64 ピンの製品を使用するときは、P007PFS.ASEL ビットを 0 にしてください。

20.5 使用上の注意事項

20.5.1 端子機能の設定手順

入出力端子機能を設定するには、下記の手順に従ってください。

1. PWPR.B0WI ビットをクリアします。PWPR.PFSWE ビットに書き込みできるようになります。
2. PWPR.PFSWE ビットを 1 にします。PmnPFS レジスタに書き込みできるようになります。
3. 当該端子の PMR のポートモード制御ビットをクリアして、汎用入出力ポートに設定します。
4. PmnPFS.PSEL[4:0] ビットによって、この端子の入出力機能を設定します。
5. 必要に応じて PMR ビットを 1 にして、選択した入出力機能に切り替えます。
6. PWPR.PFSWE ビットをクリアします。PmnPFS レジスタへの書き込みが禁止されます。
7. PWPR.B0WI ビットを 1 にします。PWPR.PFSWE ビットへの書き込みが禁止されます。

20.5.2 ポートグループ入力の使用手順

ポートグループ入力（ポート 1 ～ 4）を使用するには、下記の手順に従ってください。

1. ELSRx.ELS[8:0] ビットを 0000 0000b にして、意図しないパルスを無視します。詳細は、「19. イベントリンクコントローラ（ELC）」を参照してください。
2. PmnPFS.EOF/EOR ビットを設定して、立ち上がりエッジ検出、立ち下がりエッジ検出、または両エッジ検出を指定します。
3. ダミーリードを実行するか、少しの間（たとえば 100ns）待ちます。意図しないパルスを無視するかどうかは、外部端子の初期値によって異なります。
4. ELSRx.ELS[8:0] ビットを設定して、イベント信号を許可します。

20.5.3 ポート出力データレジスタ（PODR）の概要

このレジスタは下記のようにデータを出力します。

1. ELC_PORT1, 2, 3, 4 発生時に PCNTR4.EORRn が 1 の場合、0 を出力する。
2. ELC_PORT1, 2, 3, 4 発生時に PCNTR4.EOSRn が 1 の場合、1 を出力する。
3. PCNTR3.PORRn に 1 を設定すると、0 を出力する。
4. PCNTR3.POSRn に 1 を設定すると、1 を出力する。
5. PCNTR1.PODRn が設定されると、0 または 1 を出力する。
6. PmnPFS.PODRn が設定されると、0 または 1 を出力する。

上記の番号は、PODR への書き込み優先順位に相当しています。たとえば、上記の 1. と 3. が同時に発生した場合、優先順位の高い 1. が実行されます。

20.5.4 アナログ機能使用時の注意事項

アナログ機能を使用するには、ポートモード制御ビット（PMR）とポート方向ビット（PDR）を 0 にして、端子が汎用入力ポートとして動作できるようにしてください。その後、ポート mn 端子機能選択レジスタ（PmnPFS.ASEL）のアナログ入力許可ビット（ASEL）を 1 にしてください。

20.5.5 入出力バッファの仕様

P402、P403、およびP404は、RTC入力、AGT入力、およびその他の周辺機能として使用できます。

表20.4に、P402、P403、P404の仕様を示します。

表20.4 P402、P403、P404の仕様

機能					
I/Oポート	RTCおよびAGT			その他の周辺機能	
	RTCおよびAGT 入力イネーブルレジスタ	RTC	AGT	他の周辺機能 イネーブルレジスタ	CAC、GPT、CAN、SCI、SSIE、および割り込み
P402	VBTICTLR.VCH0INEN	RTCIC0	AGTIO0 AGTIO1	P402PFS.PSEL およびPMR	詳細は表20.12を参照してください。 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート4）
P403	VBTICTLR.VCH1INEN	RTCIC1	AGTIO0 AGTIO1	P403PFS.PSEL およびPMR	
P404	VBTICTLR.VCH2INEN	RTCIC2	—	P404PFS.PSEL およびPMR	

これらのRTCおよびAGT入力は、VBTICTLRレジスタによって制御されます。また、このレジスタは、RTCおよびAGT入力機能選択において最優先されます。図20.5を参照してください。

VBTICTLRレジスタは、リセット時に初期化されません。そのため、RTCまたはAGT入力を使用しない場合、VBTICTLRレジスタの対応するビットは、リセット後に0にする必要があります。64ピン製品を使用するときは、VBTICTLR.VCHnINEN（n = 1, 2）ビットを0にしてください。

VBTICTLRレジスタの詳細は12.2.2 VBATT入力コントロールレジスタ（VBTICTLR）を参照してください。

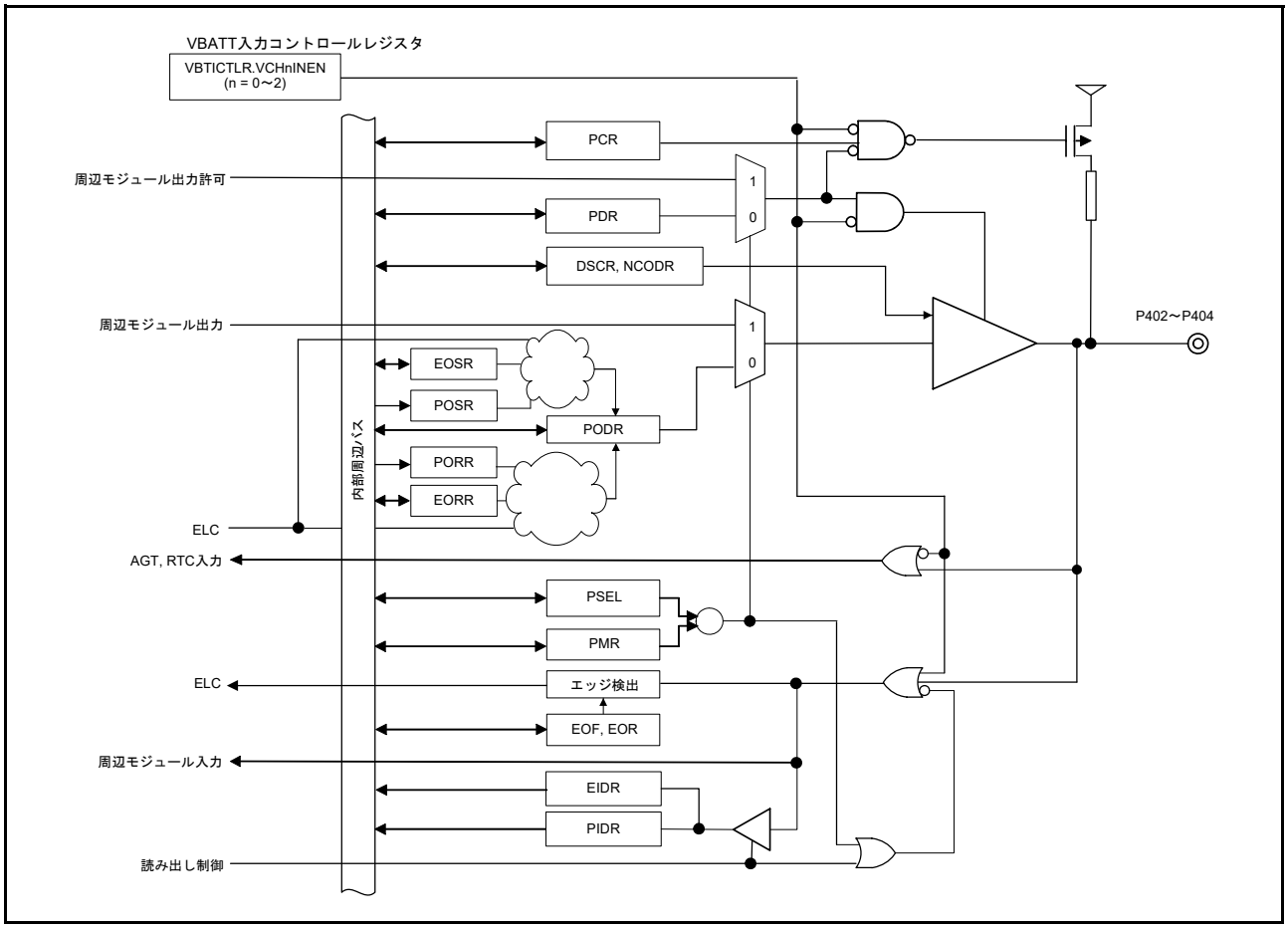


図20.5 P402、P403、P404の接続図

20.6 製品ごとの周辺選択設定

本節では、PmnPFS レジスタの端子機能選択設定について説明します。いくつかの端子名には、_A、および _B という接尾語が付加されています。IIC、SPI、SSIE および SDHI 機能を割り当てる場合、同じ接尾語の機能端子を選択してください。その他の端子は、接尾語に関係なく選択可能です。ただし、同じ機能を 2 つ以上の端子に同時に割り当てることはしないでください。

20.7 PmnPFS レジスタ設定に関する注意事項

(1) Pmn 端子機能選択レジスタ（PmnPFS）では、対象端子の PMR ビットが 0 のときに、PSEL ビットを必ず設定しなければなりません。PMR ビットが 1 のときに PSEL ビットを設定すると、入力機能の場合は意図しないエッジが入力され、出力機能の場合は意図しないパルスが外部端子に出力される場合があります。

(2) PmnPFS レジスタの PSEL ビットでは、許可された値（機能）以外に設定しないでください。このレジスタに許可されていない値を設定した場合、正しい動作は保証されません。

(3) PmnPFS レジスタでは、1 つの機能を複数の端子に割り付けないでください。

(4) ポート 0 とポート 5 は、A/D コンバータや D/A コンバータなどのアナログ機能を持っています。これらの端子をアナログ機能用に使用する場合、分解能の低下を防止するため、PMR ビットと PDR ビットは 0 にしてください。その後、ASEL ビットを 1 にしてください。

(5) P003 および P007 の ASEL ビットの初期値は 1 です。これらの端子をアナログ機能として使用しない場合、入力リーク電流を低減するため、ASEL ビットを 0 にする必要があります。64 ピン製品を使用するときは、P007PFS.ASEL ビットを 0 にクリアしてください。

表 20.5 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート 0）

PSEL[4:0] ビット設定値	機能	端子							
		P000	P001	P002	P003	P004	P005	P006	P007
00000b（リセット後の値）	Hi-z/JTAG/SWD	Hi-Z							
ASEL ビット		AN000/ IVCMP2	AN001/ IVCMP2	AN002/ IVCMP2	PGAVSS000/ AN007	AN100/ IVCMP2	AN101/ IVCMP2	AN102/ IVCMP2	PGAVSS100/ AN107
ISEL ビット		IRQ6-DS	IRQ7-DS	IRQ8-DS	—	IRQ9-DS	IRQ10-DS	IRQ11-DS	—
DSCR[1:0] ビット	駆動能力制御	—	—	—	—	—	—	—	—
NCODR ビット	N チャネルオープンドレイン	—	—	—	—	—	—	—	—
PCR ビット	プルアップ	—	—	—	—	—	—	—	—
ピン本数	100 ピン	○	○	○	○	○	○	○	○
	64 ピン	○	○	○	○	—	—	—	—

○：可能

注 1. このポートの駆動強度は、PmnPFS.DSCR[1:0] ビットで制御することはできません。

表 20.6 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート 0）

PSEL[4:0] ビット設定値	機能	端子		
		P008	P014	P015
00000b（リセット後の値）	Hi-Z/JTAG/SWD	Hi-Z		
ASEL ビット		AN003	AN005/ AN105/ DA0/ IVREF3	AN006/ AN106/ DA1/ IVCMP1
ISEL ビット		IRQ12-DS	—	IRQ13
DSCR[1:0] ビット	駆動能力制御	（注 1）	（注 1）	（注 1）
NCODR ビット	N チャネルオープンドレイン	○	○	○
PCR ビット	プルアップ	○	○	○
ピン本数	100 ピン	○	○	○
	64 ピン	—	○	○

○：可能

注 1. このポートの駆動強度は、PmnPFS.DSCR[1:0] ビットで制御することはできません。

表 20.7 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート 1）

PSEL[4:0] ビット設定値	機能	端子							
		P100	P101	P102	P103	P104	P105	P106	P107
00000b（リセット後の値）	Hi-Z/JTAG/SWD	Hi-Z							
00001b	AGT	AGTIO0	AGTEE0	AGTO0	—	—	—	AGTOB0	AGTOA0
00010b	GPT	GTETRGA	GTETRGB	GTOWLO	GTOWUP	GTETRGB	GTETRGA	—	—
00011b	GPT（注 2）	GTIOC5B	GTIOC5A	GTIOC2B_A	GTIOC2A_A	GTIOC1B	GTIOC1A	GTIOC8B	GTIOC8A
00100b	SCI	RXD0/MISO0/ SCL0	TXD0/MOSI0/ SDA0	SCK0	CTS0_RTS0/ SS0	RXD8/MISO8/ SCL8	TXD8/MOSI8/ SDA8	SCK8	CTS8_RTS8/ SS8
00101b	SCI	SCK1	CTS1_RTS1/ SS1	—	—	—	—	—	—
00110b	SPI（注 1）	MISOA_A	MOSIA_A	RSPCKA_A	SSLA0_A	SSLA1_A	SSLA2_A	SSLA3_A	—
00111b	IIC（注 1）	SCL1_B	SDA1_B	—	—	—	—	—	
01000b	KINT	KR00	KR01	KR02	KR03	KR04	KR05	KR06	KR07
01010b	CAC/ADC12	—	—	ADTRG0	—	—	—	—	—
01011b	バス	D00[A00/D00]	D01[A01/D01]	D02[A02/D02]	D03[A03/D03]	D04[A04/D04]	D05[A05/D05]	D06[A06/D06]	D07[A07/D07]
10000b	CAN	—	—	CRX0	CTX0	—	—	—	—
10001b	QSPI	—	—	—	—	QIO0	QIO1	QIO2	QIO3
ASEL ビット		—	—	—	—	—	—	—	—
ISEL ビット		IRQ2	IRQ1	—	—	IRQ1	IRQ0	—	—
DSCR[1:0] ビット	駆動能力制御	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高
NCODR ビット	N チャネルオープンドレイン	○	○	○	○	○	○	○	○
PCR ビット	プルアップ	○	○	○	○	○	○	○	○
ピン本数	100 ピン	○	○	○	○	○	○	○	○
	64 ピン	○	○	○	○	○	○	○	○

○：可能
—：設定禁止

注 1. 所属グループを示すため、端子名の末尾に “_A” や “_B” などの文字を付加しています。弊社では同一グループ端子の使用を推奨します。電気的特性の AC タイミングは各グループで測定しています。
注 2. 中駆動と高駆動の 2 種類の出力バッファが利用可能です。出力スキューの仕様（t_{GTISK}）に合わせて、同じ駆動バッファを用いることを推奨します。

表 20.8 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート 1）

PSEL[4:0] ビット設定値	機能	端子							
		P108	P109	P110	P111	P112	P113	P114	P115
00000b（リセット後の値）	Hi-Z/JTAG/SWD	TMS/SWDIO	TDO/SWO	TDI	Hi-Z				
00010b	GPT	GTOULO	GTOVUP	GTOVLO	—	—	—	—	—
00011b	GPT（注 2）	GTIOC0B_A	GTIOC1A_A	GTIOC1B_A	GTIOC3A_A	GTIOC3B_A	GTIOC2A	GTIOC2B	GTIOC4A
00100b	SCI	—	—	CTS2_RTS2/ SS2	SCK2	TXD2/MOSI2/ SDA2	RXD2/MISO2/ SCL2	—	—
00101b	SCI	CTS9_RTS9/ SS9	TXD9/MOSI9/ SDA9	RXD9/MISO9/ SCL9	SCK9	SCK1	—	—	—
00110b	SPI（注 1）	SSLB0_B	MOSIB_B	MISOB_B	RSPCKB_B	SSLB0_B	—	—	—
01001b	CLKOUT/ACMPHS/ RTC	—	CLKOUT	VCOUT	—	—	—	—	—
01011b	バス	—	—	—	A05	A04	A03	A02	A01
10000b	CAN	—	CTX1	CRX1	—	—	—	—	—
10010b	SSIE（注 1）	—	—	—	—	SSIBCK0_B	SSILRCK0/ SSIFS0_B	SSIRXD0_B	SSITXD0_B
ASEL ビット		—	—	—	—	—	—	—	—
ISEL ビット		—	—	IRQ3	IRQ4	—	—	—	—
DSCR[1:0] ビット	駆動能力制御	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高
NCODR ビット	N チャネルオープンドレイン	○	○	○	○	○	○	○	○
PCR ビット	プルアップ	○	○	○	○	○	○	○	○
ピン本数	100 ピン	○	○	○	○	○	○	○	○
	64 ピン	○	○	○	○	○	○	○	○

○：可能
—：設定禁止

注 1. 所属グループを示すため、端子名の末尾に “_A” や “_B” などの文字を付加しています。弊社では同一グループ端子の使用を推奨します。電気的特性の AC タイミングは各グループで測定しています。
注 2. 中駆動と高駆動の 2 種類の出力バッファが利用可能です。出力スキューの仕様（t_{GTISK}）に合わせて、同じ駆動バッファを用いることを推奨します。

表 20.9 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート 2）

PSEL[4:0] ビット設定値	機能	端子				
		P200（注 4）	P201	P205	P206	P207
00000b（リセット後の値）	Hi-Z/JTAG/SWD	Hi-Z				
00001b	AGT	—	—	AGTO1	—	—
00010b	GPT	—	—	GTIV	GTIU	—
00011b	GPT（注 2）	—	—	GTIOC4A	—	—
00100b	SCI	—	—	TXD4/MOSI4/SDA4	RXD4/MISO4/SCL4	—
00101b	SCI	—	—	CTS9_RTS9/SS9	—	—
00111b	IIC（注 1）	—	—	SCL1_A	SDA1_A	—
01001b	CLKOUT/ACMPHS/RTC	—	—	CLKOUT	—	—
01011b	バス	—	—	—	WAIT	—
01100b	CTSU	—	—	TSCAP	TS01	TS02
10000b	CAN	—	—	—	—	—
10001b	QSPI	—	—	—	—	QSSL
10011b	USBFS	—	—	USB_OVRCURA-DS	USB_VBUSEN	—
10101b	SDHI（注 1）	—	—	SD0DAT3_A	SD0DAT2_A	—
ASEL ビット		—	—	—	—	—
ISEL ビット		—	—	IRQ1-DS	IRQ0-DS	—
DSCR[1:0] ビット	駆動能力制御	—	（注 3）	低／中／高	低／中／高	低／中／高
NCODR ビット	N チャネルオープンドレイン	—	○	○	○	○
PCR ビット	プルアップ	○	○	○	○	○
ピン本数	100 ピン	○	○	○	○	○
	64 ピン	○	○	○	○	○

○：可能
—：設定禁止

注 1. 所属グループを示すため、端子名の末尾に “_A” や “_B” などの文字を付加しています。弊社では同一グループ端子の使用を推奨します。電気的特性の AC タイミングは各グループで測定しています。
注 2. 中駆動と高駆動の 2 種類の出力バッファが利用可能です。出力スキューの仕様（t_{GTISK}）に合わせて、同じ駆動バッファを用いることを推奨します。
注 3. このポートの駆動強度は、PmnPFS.DSCR[1:0] ビットで制御することはできません。
注 4. NMI ピン割り込みを使用する場合、ポート関連のレジスタ設定は必要ありません。

表 20.10 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート 2）

PSEL[4:0] ビット設定値	機能	端子						
		P208	P209	P210	P211	P212	P213	P214
00000b（リセット後の値）	Hi-Z/JTAG/SWD	Hi-Z						
00001b	AGT	—	—	—	—	AGTEE1	—	—
00010b	GPT	GTOVL0	GTOVUP	GTIW	GTIV	GTETRGD	GTETRGC	GTIU
00011b	GPT（注 2）	—	—	—	—	GTIOC0B	GTIOC0A	—
00101b	SCI	—	—	—	—	RXD1/MISO1/SCL1	TXD1/MOSI1/SDA1	—
01010b	CAC/ADC12	—	—	—	—	—	ADTRG1	—
01011b	バス	CS4	CS5	CS6	CS7	—	—	—
10001b	QSPI	QIO3	QIO2	QIO1	QIO0	—	—	QSPCLK
10101b	SDHI（注 1）	SD0DAT0_B	SD0WP	SD0CD	SD0CMD_B	—	—	SD0CLK_B
11010b	トレース（デバッグ）	TDATA3	TDATA2	TDATA1	TDATA0	—	—	TCLK
ASEL ビット		—	—	—	—	—	—	—
ISEL ビット		—	—	—	—	IRQ3	IRQ2	—
DSCR[1:0] ビット	駆動能力制御	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高
NCODR ビット	N チャネルオープンドレイン	○	○	○	○	○	○	○
PCR ビット	プルアップ	○	○	○	○	○	○	○
ピン本数	100 ピン	○	○	○	○	○	○	○
	64 ピン	—	—	○	—	○	○	—

○：可能
—：設定禁止

注 1. 所属グループを示すため、端子名の末尾に “_A” や “_B” などの文字を付加しています。弊社では同一グループ端子の使用を推奨します。電気的特性の AC タイミングは各グループで測定しています。
注 2. 中駆動と高駆動の 2 種類の出力バッファが利用可能です。出力スキューの仕様（t_{GTISK}）に合わせて、同じ駆動バッファを用いることを推奨します。

表 20.11 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート3）

PSEL[4:0]ビット設定値	機能	端子							
		P300	P301	P302	P303	P304	P305	P306	P307
00000b（リセット後の値）	Hi-Z/JTAG/SWD	TCK/SWCLK	Hi-Z						
00001b	AGT	—	AGTIO0	—	—	—	—	—	—
00010b	GPT	—	GTOULO	GTOUUP	—	GTOWLO	GTOWUP	GTOULO	GTOUUP
00011b	GPT（注2）	GTIOC0A_A	GTIOC4B	GTIOC4A	GTIOC7B	GTIOC7A	—	—	—
00100b	SCI	—	RXD2/MISO2/SCL2	TXD2/MOSI2/SDA2	—	—	—	—	—
00101b	SCI	—	CTS9_RTS9/SS9	—	—	—	—	—	—
00110b	SPI（注1）	SSLB1_B	SSLB2_B	SSLB3_B	—	—	—	—	—
01011b	バス	—	A06	A07	A08	A09	A10	A11	A12
10001b	QSPI	—	—	—	—	—	QSPCLK	QSSL	QIO0
ASELビット		—	—	—	—	—	—	—	—
ISELビット		—	IRQ6	IRQ5	—	IRQ9	IRQ8	—	—
DSCR[1:0]ビット	駆動能力制御	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高
NCODRビット	Nチャネルオープンドレイン	○	○	○	○	○	○	○	○
PCRビット	プルアップ	○	○	○	○	○	○	○	○
ピン本数	100ピン	○	○	○	○	○	○	○	○
	64ピン	○	○	○	—	—	—	—	—

○：可能
—：設定禁止

注 1. 所属グループを示すため、端子名の末尾に “_A” や “_B” などの文字を付加しています。弊社では同一グループ端子の使用を推奨します。電気的特性の AC タイミングは各グループで測定しています。

注 2. 中駆動と高駆動の 2 種類の出力バッファが利用可能です。出力スキューの仕様（t_{GTISK}）に合わせて、同じ駆動バッファを用いることを推奨します。

表 20.12 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート 4）

PSEL[4:0] ビット設定値	機能	端子							
		P400	P401	P402	P403	P404	P405	P406	P407
00000b（リセット後の値）	Hi-Z/JTAG/SWD	Hi-Z							
00001b	AGT	AGTIO1	—	—	—	—	—	—	AGTIO0
00010b	GPT	—	GTETRGA	—	—	—	—	—	—
00011b	GPT（注3）	GTIOC6A	GTIOC6B	—	GTIOC3A	GTIOC3B	GTIOC1A	GTIOC1B	—
00100b	SCI	SCK4	CTS4_RTS4/ SS4	—	—	—	—	—	CTS4_RTS4/ SS4
00111b	IIC（注2）	SCL0_A	SDA0_A	—	—	—	—	—	SDA0_B
01001b	CLKOUT/ACMPHS/ RTC	—	—	—	—	—	—	—	RTCOUT
01010b	CAC/ADC12	ADTRG1	—	CACREF	—	—	—	—	ADTRG0
01100b	CTSU	—	—	—	—	—	—	—	TS03
10000b	CAN	—	CTX0	CRX0	—	—	—	—	—
10010b	SSIE（注2）	AUDIO_CLK	—	AUDIO_CLK	SSIBCK0_A	SSILRCK0/ SSIFS0_A	SSITXD0_A	SSIRXD0_A	—
10011b	USBFS	—	—	—	—	—	—	—	USB_VBUS
Don't care	AGT, RTC	—	—	AGTIO0（注1）/ AGTIO1（注1）/ RTCIC0（注1）	AGTIO0（注1）/ AGTIO1（注1）/ RTCIC1（注1）	RTCIC2（注1）	—	—	—
ASEL ビット		—	—	—	—	—	—	—	—
ISEL ビット		IRQ0	IRQ5-DS	IRQ4-DS	—	—	—	—	—
DSCR[1:0] ビット	駆動能力制御	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高
NCODR ビット	N チャネルオープンドレイン	○	○	○	○	○	○	○	○
PCR ビット	プルアップ	○	○	○	○	○	○	○	○
ピン本数	100 ピン	○	○	○	○	○	○	○	○
	64 ピン	○	○	○	—	—	—	—	○

○：可能
—：設定禁止

注 1. この端子機能を使用する場合は、該当端子を汎用入力（PmnPFS.PDR ビットと PmnPFS.PMR ビットを 0）にしてください。
注 2. 所属グループを示すため、端子名の末尾に “_A” や “_B” などの文字を付加しています。弊社では同一グループ端子の使用を推奨します。電気的特性の AC タイミングは各グループで測定しています。
注 3. 中駆動と高駆動の 2 種類の出力バッファが利用可能です。出力スキューの仕様（t_{GTISK}）に合わせて、同じ駆動バッファを用いることを推奨します。

表 20.13 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート4）

PSEL[4:0]ビット設定値	機能	端子							
		P408	P409	P410	P411	P412	P413	P414	P415
00000b（リセット後の値）	Hi-Z/JTAG/SWD	Hi-Z							
00001b	AGT	—	—	AGTOB1	AGTOA1	AGTEE1	—	—	—
00010b	GPT	GTOWLO	GTOWUP	GTOVLO	GTOVUP	GTOULO	GTOUUP	—	—
00011b	GPT（注2）	GTIOC10B	GTIOC10A	GTIOC9B	GTIOC9A	—	—	GTIOC0B	GTIOC0A
00100b	SCI	—	—	RXD0/MISO0/SCL0	TXD0/MOSI0/SDA0	SCK0	CTS0_RTS0/SS0	—	—
00101b	SCI	RXD3/MISO3/SCL3	TXD3/MOSI3/SDA3	SCK3	CTS3_RTS3/SS3	—	—	—	—
00110b	SPI（注1）	—	—	MISOA_B	MOSIA_B	RSPCKA_B	SSLA0_B	SSLA1_B	SSLA2_B
00111b	IIC（注1）	SCL0_B	—	—	—	—	—	—	—
01100b	CTSU	TS04	TS05	TS06	TS07	TS08	TS09	TS10	TS11
10011b	USBFS	USB_ID	USB_EXICEN	—	—	—	—	—	USB_VBUSEN
10101b	SDHI（注1）	—	—	SD0DAT1_A	SD0DAT0_A	SD0CMD_A	SD0CLK_A	SD0WP	SD0CD
ASELビット		—	—	—	—	—	—	—	—
ISELビット		IRQ7	IRQ6	IRQ5	IRQ4	—	—	IRQ9	IRQ8
DSCR[1:0]ビット	駆動能力制御	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高
NCODRビット	Nチャネルオープンドレイン	○	○	○	○	○	○	○	○
PCRビット	プルアップ	○	○	○	○	○	○	○	○
ピン本数	100ピン	○	○	○	○	○	○	○	○
	64ピン	○	○	○	○	—	—	—	—

○：可能
—：設定禁止

注 1. 所属グループを示すため、端子名の末尾に “_A” や “_B” などの文字を付加しています。弊社では同一グループ端子の使用を推奨します。電気的特性の AC タイミングは各グループで測定しています。

注 2. 中駆動と高駆動の 2 種類の出力バッファが利用可能です。出力スキューの仕様（t_{GTISK}）に合わせて、同じ駆動バッファを用いることを推奨します。

表 20.14　入出力端子機能のレジスタ設定（ポート 5）

PSEL[4:0] ビット設定値	機能	端子					
		P500	P501	P502	P503	P504	P508
00000b（リセット後の値）	Hi-Z/JTAG/SWD	Hi-Z					
00001b	AGT	AGTOA0	AGTOB0	—	—	—	—
00010b	GPT	GTIU	GTIV	GTIW	GTETRGC	GTETRGD	—
00011b	GPT（注 2）	GTIOC11A	GTIOC11B	GTIOC12A	GTIOC12B	—	—
01011b	バス	—	—	—	—	ALE	—
10001b	QSPI	QSPCLK	QSSL	QIO0	QIO1	QIO2	—
10011b	USBFS	USB_VBUSEN	USB_OVRCURA	USB_OVRCURB	USB_EXICEN	USB_ID	—
10101b	SDHI（注 1）	SD1CLK_A	SD1CMD_A	SD1DAT0_A	SD1DAT1_A	SD1DAT2_A	SD1DAT3_A
ASEL ビット		AN016/ IVREF0	AN116/ IVREF1	AN017/ IVCMP0	AN117	AN018	AN020
ISEL ビット		—	IRQ11	IRQ12	—	—	—
DSCR[1:0] ビット	駆動能力制御	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高
NCODR ビット	N チャネルオープンドレイン	○	○	○	○	○	○
PCR ビット	プルアップ	○	○	○	○	○	○
ピン本数	100 ピン	○	○	○	○	○	○
	64 ピン	○	○	—	—	—	—

○：可能
—：設定禁止

注 1.　所属グループを示すため、端子名の末尾に “_A” や “_B” などの文字を付加しています。弊社では同一グループ端子の使用を推奨します。電気的特性の AC タイミングは各グループで測定しています。
注 2.　中駆動と高駆動の 2 種類の出力バッファが利用可能です。出力スキューの仕様（t_{GTISK}）に合わせて、同じ駆動バッファを用いることを推奨します。

表 20.15　入出力端子機能のレジスタ設定（ポート 6）

PSEL[4:0] ビット設定値	機能	端子					
		P600	P601	P602	P608	P609	P610
00000b（リセット後の値）	Hi-Z/JTAG/SWD	Hi-Z					
00011b	GPT（注 1）	GTIOC6B	GTIOC6A	GTIOC7B	GTIOC4B	GTIOC5A	GTIOC5B
00101b	SCI	SCK9	RXD9	TXD9	—	—	—
01001b	CLKOUT/ACMPHS/ RTC	CLKOUT	—	—	—	—	—
01010b	CAC/ADC12	CACREF	—	—	—	—	—
01011b	バス	RD	WR0	EBCLK	A00	CS1	CS0
10000b	CAN	—	—	—	—	CTX1	CRX1
ASEL ビット		—	—	—	—	—	—
ISEL ビット		—	—	—	—	—	—
DSCR[1:0] ビット	駆動能力制御	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高	低／中／高
NCODR ビット	N チャネルオープンドレイン	○	○	○	○	○	○
PCR ビット	プルアップ	○	○	○	○	○	○
ピン本数	100 ピン	○	○	○	○	○	○
	64 ピン	—	—	—	—	—	—

○：可能
—：設定禁止

注 1.　中駆動と高駆動の 2 種類の出力バッファが利用可能です。出力スキューの仕様（t_{GTISK}）に合わせて、同じ駆動バッファを用いることを推奨します。

表 20.16 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート 7）

PSEL[4:0] ビット設定値	機能	端子
		P708
00000b（リセット後の値）	Hi-Z/JTAG/SWD	Hi-Z
00101b	SCI	RXD1/MISO1/SCL1
00110b	SPI（注 1）	SSLA3_B
01010b	CAC/ADC12	CACREF
01100b	CTSU	TS12
10010b	SSIE	AUDIO_CLK
ASEL ビット		—
ISEL ビット		IRQ11
DSCR[1:0] ビット	駆動能力制御	低／中／高
NCODR ビット	N チャネルオープンドレイン	○
PCR ビット	プルアップ	○
ピン本数	100 ピン	○
	64 ピン	—

○：可能
—：設定禁止

注 1. 所属グループを示すため、端子名の末尾に “_A” や “_B” などの文字を付加しています。弊社では同一グループ端子の使用を推奨します。電気的特性の AC タイミングは各グループで測定しています。

21. キー割り込み機能（KINT）

キー割り込み（KEY_INTKR）は、キーリターンモードレジスタ（KRM）を設定し、キー割り込み入力端子 KR00 ～ KR07 に立ち上がりまたは立ち下がりエッジを入力することで発生させることができます。

21.1 概要

表 21.1 にキー割り込み検出端子の配置、表 21.2 にこの機能の構成、そして図 21.1 にブロック図を示します。

表 21.1 キー割り込み検出端子の配置

キー割り込みモード制御n（n = 0～7）	内容
KRM0	1ビット単位でKR00信号を制御
KRM1	1ビット単位でKR01信号を制御
KRM2	1ビット単位でKR02信号を制御
KRM3	1ビット単位でKR03信号を制御
KRM4	1ビット単位でKR04信号を制御
KRM5	1ビット単位でKR05信号を制御
KRM6	1ビット単位でKR06信号を制御
KRM7	1ビット単位でKR07信号を制御

表 21.2 キー割り込み機能の構成

項目	構成
入力	KR00～KR07
コントロールレジスタ	キーリターンコントロールレジスタ（KRCTL） キーリターンモードレジスタ（KRM） キーリターンフラグレジスタ（KRF）

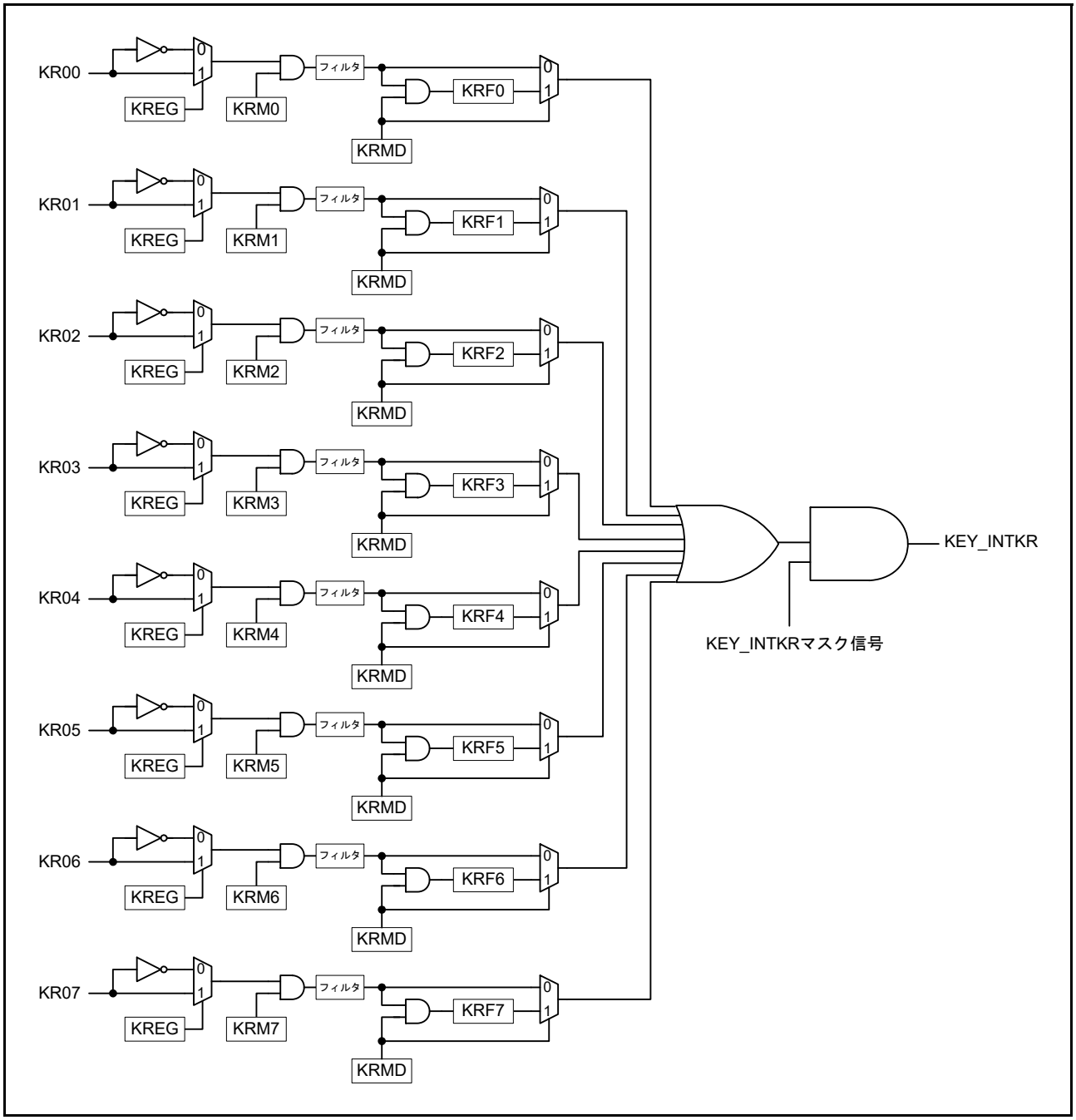


図 21.1 キー割り込み機能のブロック図

注 . 図 21.1 において、すべてのキーリターン要因が OR ゲートでマージされて、マージされたキー復帰要因を KEY_INTKR マスク信号によってマスクするために、キー割り込み（KEY_INTKR）が AND ゲートの出力となります。KRFn（KRMD = 1）を使用する場合、KEY_INTKR マスク信号は、KRFn をクリアすることでアサートされる出力マスクとして使用されます。

21.2　レジスタの説明

21.2.1　キーリターンコントロールレジスタ（KRCTL）

アドレス　KINT.KRCTL 4008 0000h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	KRMD	—	—	—	—	—	—	KREG
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	KREG	検出エッジ選択 （KR00～KR07）	0：立ち下がりエッジ 1：立ち上がりエッジ	R/W
b6-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	KRMD	キー割り込みフラグ使用状態 （KRF0～KRF7）	0：キー割り込みフラグを使用しない 1：キー割り込みフラグを使用する	R/W

KRCTL レジスタは、キー割り込みフラグ（KRF0 ～ KRF7）の使用状態を制御し、検出エッジを設定するためのレジスタです。

21.2.2　キーリターンフラグレジスタ（KRF）

アドレス　KINT.KRF 4008 0004h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	KRF7	KRF6	KRF5	KRF4	KRF3	KRF2	KRF1	KRF0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	KRFn	キー割り込みフラグn	0：キー割り込みの検出なし 1：キー割り込みの検出あり	R/W

n = 0 ～ 7

注 .　KRMD = 0 の場合、KRFn ビットを 1 にすることは禁止です。
KRFn ビットを 1 に設定しても KRFn の値は変化しません。KRFn ビットをクリアする場合は、0 を書き込む前に該当ビットが 1 であることを確認し、その後でその他のビットには 1 を書き込んでください。

KRF レジスタは、キー割り込みフラグ（KRF0 ～ KRF7）を制御するレジスタです。

21.2.3 キーリターンモードレジスタ（KRM）

アドレス KINT.KRM 4008 0008h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	KRM7	KRM6	KRM5	KRM4	KRM3	KRM2	KRM1	KRM0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	KRMn	キー割り込みモード制御 n	0：キー割り込み信号の検出なし 1：キー割り込み信号の検出あり	R/W

n = 0 ～ 7

注 . 対応するキー割り込み入力端子をプルアップ機能に設定することで、内蔵プルアップ抵抗の適用が可能です。詳細は、「20. I/O ポート」を参照してください。
キー割り込みは PmnPFS.PSEL[4:0] ビットで割り当てることができます。詳細は、「20. I/O ポート」を参照してください。
キー割り込み入力端子へ入力中の信号が Low レベル（KREG = 0）または High レベル（KREG = 1）のとき、KRM レジスタの対象ビットがセットされると割り込みが発生します。この割り込みを無視するには、割り込み処理を禁止してから、KRM レジスタを設定してください。

KRM レジスタは、キー割り込みモードの設定を行うレジスタです。

21.3　動作説明

21.3.1　キー割り込みフラグを使用しない場合の動作（KRMD = 0）

キー割り込み端子 KR00 ～ KR07 に、KREG ビットで指定された有効エッジが入力されたとき、キー割り込み（KEY_INTKR）が発生します。有効エッジが入力されたチャネルを判別するには、キー割り込み（KEY_INTKR）の発生後にポートレジスタを読み出して、ポートのレベルをチェックしてください。

KEY_INTKR 信号は、キー割り込み入力端子（KR00 ～ KR07）の入力レベルに応じて変化します。

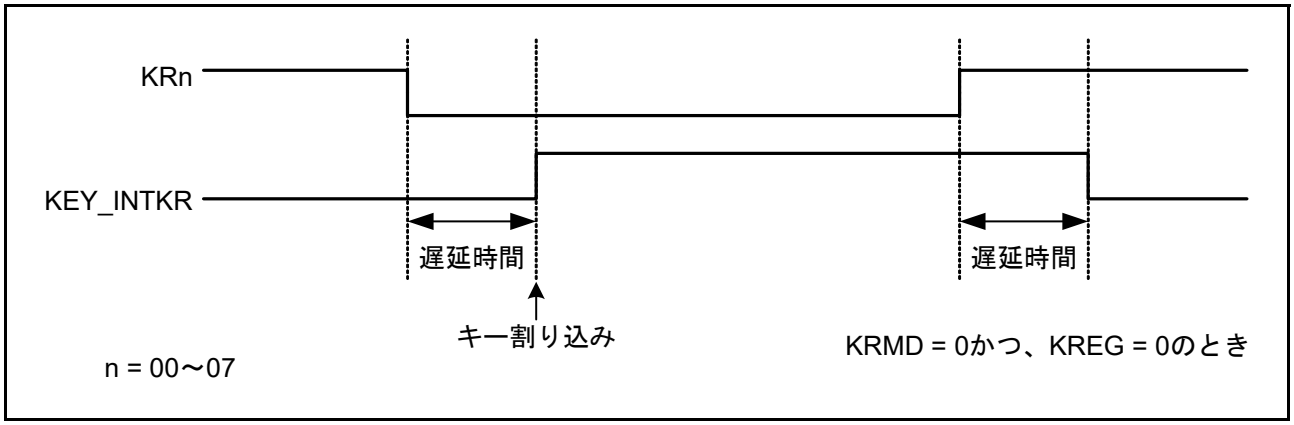


図 21.2　キー割り込みが 1 つのチャネルに入力された場合の KEY_INTKR 信号の動作

有効エッジが複数のキー割り込み入力端子に入力された場合の動作を図 21.3 に示します。一方の端子に Low レベルが入力中であると、KEY_INTKR 信号がセットされます（KREG = 0 の場合）。そのため、この期間中に他方の端子に立ち下がりエッジが入力されても、再度キー割り込み（KEY_INTKR）は発生しません。図 21.3 の [1] を参照してください。

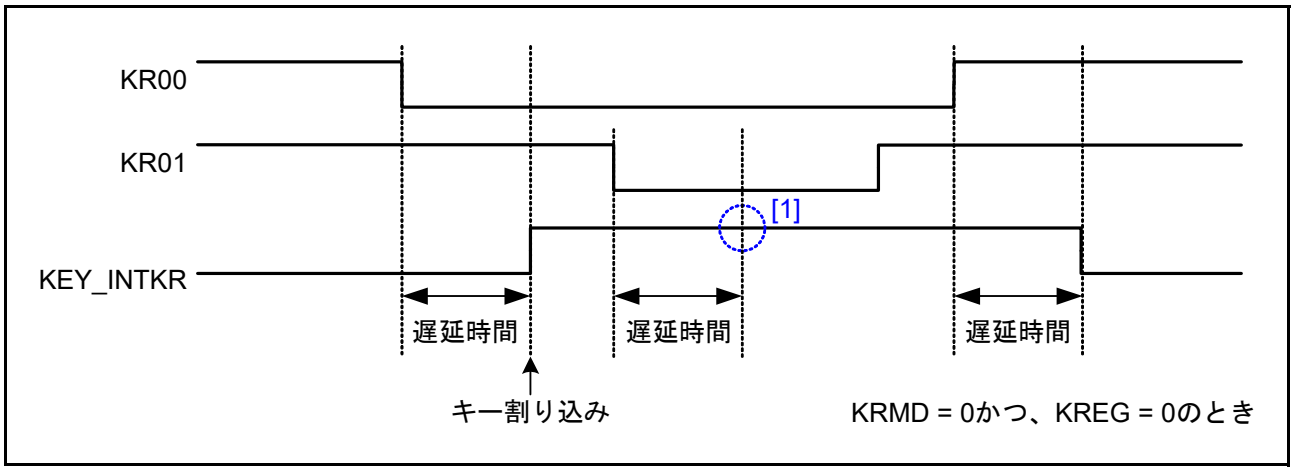


図 21.3　キー割り込みが複数のチャネルに入力された場合の KEY_INTKR 信号の動作

21.3.2　キー割り込みフラグを使用する場合の動作（KRMD = 1）

キー割り込み端子 KR00 ～ KR07 に、KREG ビットで指定された有効エッジが入力されたとき、キー割り込み（KEY_INTKR）が発生します。有効エッジが入力されたチャネルを判別するには、キー割り込み（KEY_INTKR）の発生後にキーリターンフラグレジスタ（KRF）を読み出します。KRMD ビットが 1 になっている場合は、KRF レジスタの対応するビットをクリアして、KEY_INTKR 信号をクリアしてください。

図 21.4 に示すように、KREG ビットが 0 の場合、1 つのチャネルに立ち下がりエッジが入力されるごとに、1 回だけ割り込みが発生します。立ち上がりエッジが入力される前や後に KRFn ビットがクリアされても、それ以上割り込みは発生しません。

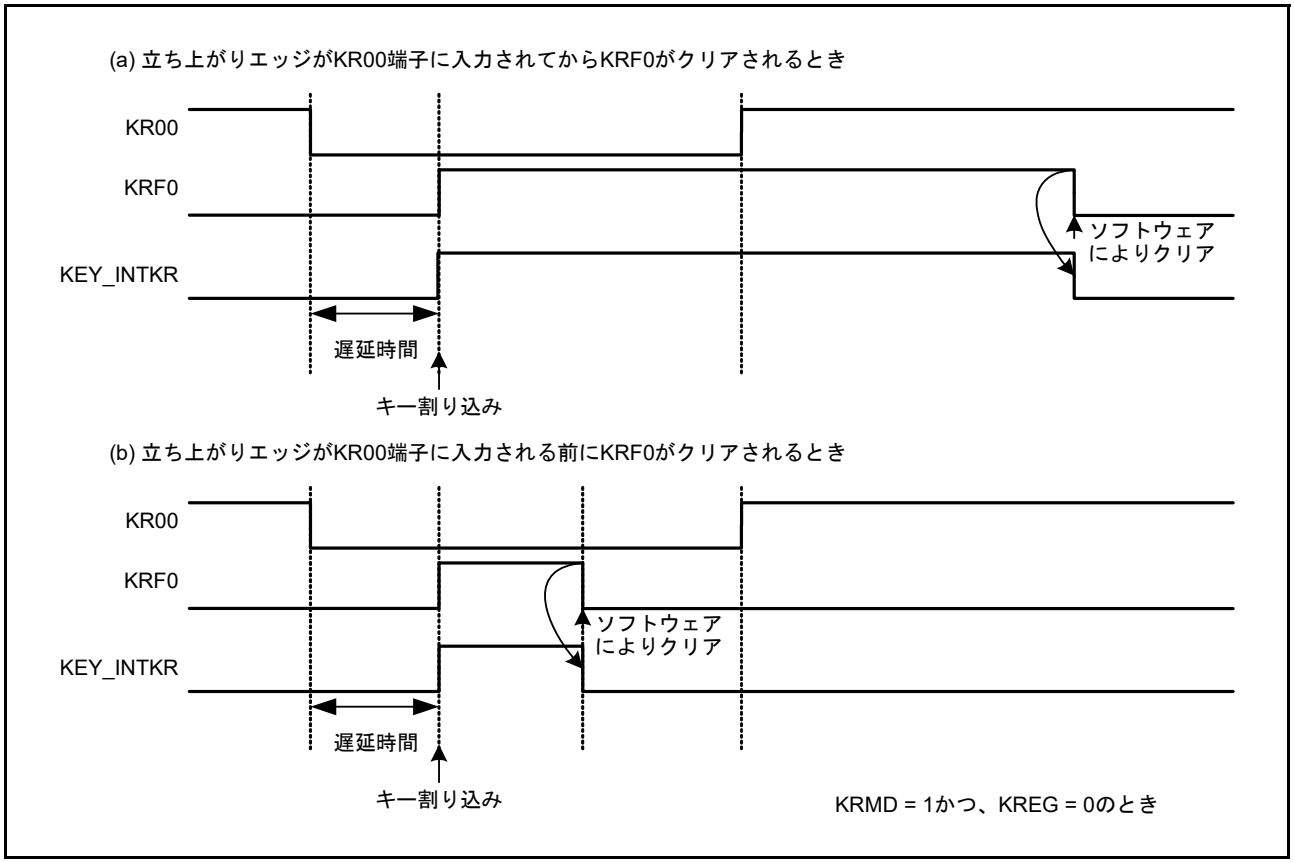


図 21.4　キー割り込みフラグを使用する場合の KEY_INTKR 信号の基本動作

有効エッジが複数のキー割り込み入力端子に入力された場合の動作を図 21.5 に示します。KR00 端子に立ち下がりエッジが入力された後に、KR01 端子と KR05 端子にも立ち下がりエッジが入力されます（KREG = 0 の場合）。KRF0 ビットがクリアされたとき、KRF1 ビットはセット状態になっています。そのため、KRF0 ビットがクリアされると、KEY_INTKR が PCLKB で 1 クロックの期間 L になった後再び H になります。図 21.5 の [1] を参照してください。また、KR05 端子に立ち下がりエッジが入力された後に、KRF5 ビットがセットされます。KRF1 ビットは図中の [2] のタイミングでクリアされます。そのため、KRF1 ビットがクリアされると、KEY_INTKR が PCLKB で 1 クロックの期間 L になった後再び H になります。図中の [3] を参照してください。したがって、複数チャネルに有効エッジが入力されたとき、それぞれキー割り込みを発生させることが可能です。

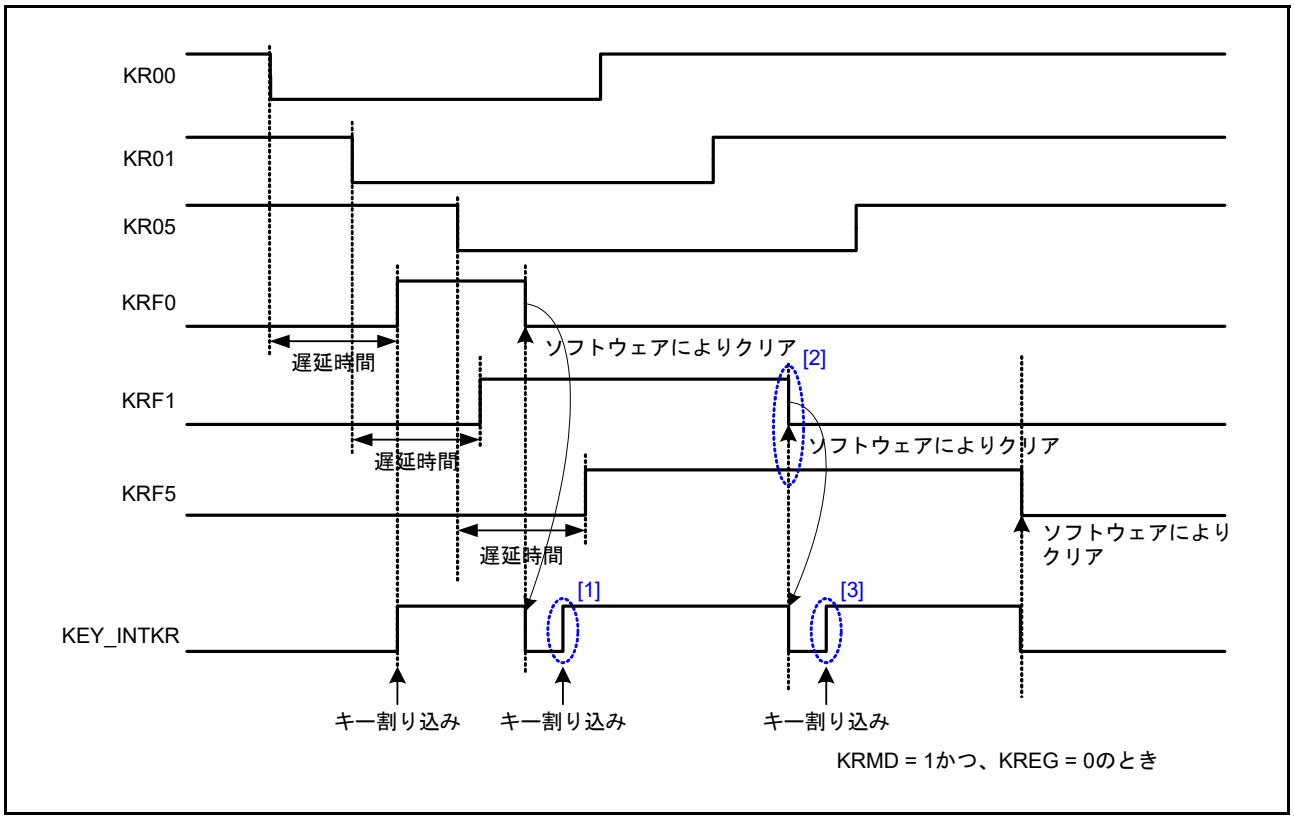


図 21.5　　キー割り込みが複数のチャネルに入力された場合の KEY_INTKR 信号の動作

21.4 使用上の注意事項

- KEY_INTKR をスヌーズ要求として用いる場合は、KRMD を 0 にすること
- KEY_INTKR をスヌーズモードおよびソフトウェアスタンバイモードから通常モードへ復帰するための割り込み要因として用いる場合は、KRMD ビットを 1 にすること
- キー割り込み機能（KINT）が端子に割り当てられる場合、この端子入力はソフトウェアスタンバイモード時に常に許可される。また、端子レベルが変化すると、対応する KRFn フラグがセットされる可能性がある。そのため、ソフトウェアスタンバイモードの解除時に、キー割り込みが発生する場合がある

ソフトウェアスタンバイモード時のキー割り込み端子の変化を無視するには、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、対応する KRM ビットをクリアしてください。ソフトウェアスタンバイモードの解除後は、対応する KRM ビットがセットされる前に、KRFn をクリアする必要があります。

22. GPT用ポートアウトプットイネーブル（POEG）

22.1 概要

GPT用ポートアウトプットイネーブル（POEG）機能は、以下の方法の1つを使用して、汎用PWMタイマ（GPT）の出力端子を出力禁止状態にすることが可能です。

- GTETRGn端子（n = A, B, C, D）の入力レベル検出
- GPTからの出力禁止要求
- コンパレータ割り込み要求検出
- クロック発生回路の発振停止検出
- レジスタ設定

GTETRGn端子（n = A, B, C, D）は、GPTへの外部トリガ入力端子としても利用可能です。

表22.1にPOEGの仕様、図22.1にブロック図、そして表22.2に入力端子を示します。

表22.1　POEGの仕様

項目	内容
入力レベル検出による出力禁止制御	極性とフィルタの選択後、GTETRGn端子の立ち上がりエッジまたはHighレベルをサンプリングした場合、GPT出力端子を出力禁止に設定可能
GPTからの出力禁止要求	• GTIOCAおよびGTIOCB端子が同時にアクティブレベルとなる場合、GPTはPOEGに対して出力禁止要求を発生させる。POEGは、これらの要求を受信して、GTIOCAおよびGTIOCB端子を出力禁止にするか否かの制御が可能 • GPT出力端子がデッドタイムエラーを検出した場合に、GPT出力端子を出力禁止に設定可能
コンパレータ（ACMPHS）割り込み検出による出力禁止制御	割り込み要求がどのコンパレータ出力結果の変化によって発生した場合でも、GPT出力端子を出力禁止に設定可能
発振停止検出による出力禁止制御	クロック発生回路の発振が停止した場合に、GPT出力端子を出力禁止に設定可能
ソフトウェア（レジスタ）による出力禁止制御	レジスタの設定値を書き換えることにより、GPT出力端子を出力禁止に設定可能
割り込み	• 入力レベル検出による出力禁止制御が可能 • GPTまたはACMPHSからの出力禁止要求が可能
GPTに対する外部トリガ出力（カウント開始／カウント停止／カウントクリア／アップカウント／ダウンカウント／インプットキャプチャ機能）	極性とフィルタの選択後、GTETRGn信号をGPTへ出力可能
ノイズフィルタリング	• どの入力端子（GTETRGn）に対しても、PCLKB/1、PCLKB/8、PCLKB/32、またはPCLKB/128クロックごとに3回のサンプリングを設定可能 • どの入力端子（GTETRGn）に対しても、正または負の極性を選択可能 • 極性およびフィルタ選択後の信号状態のモニタが可能

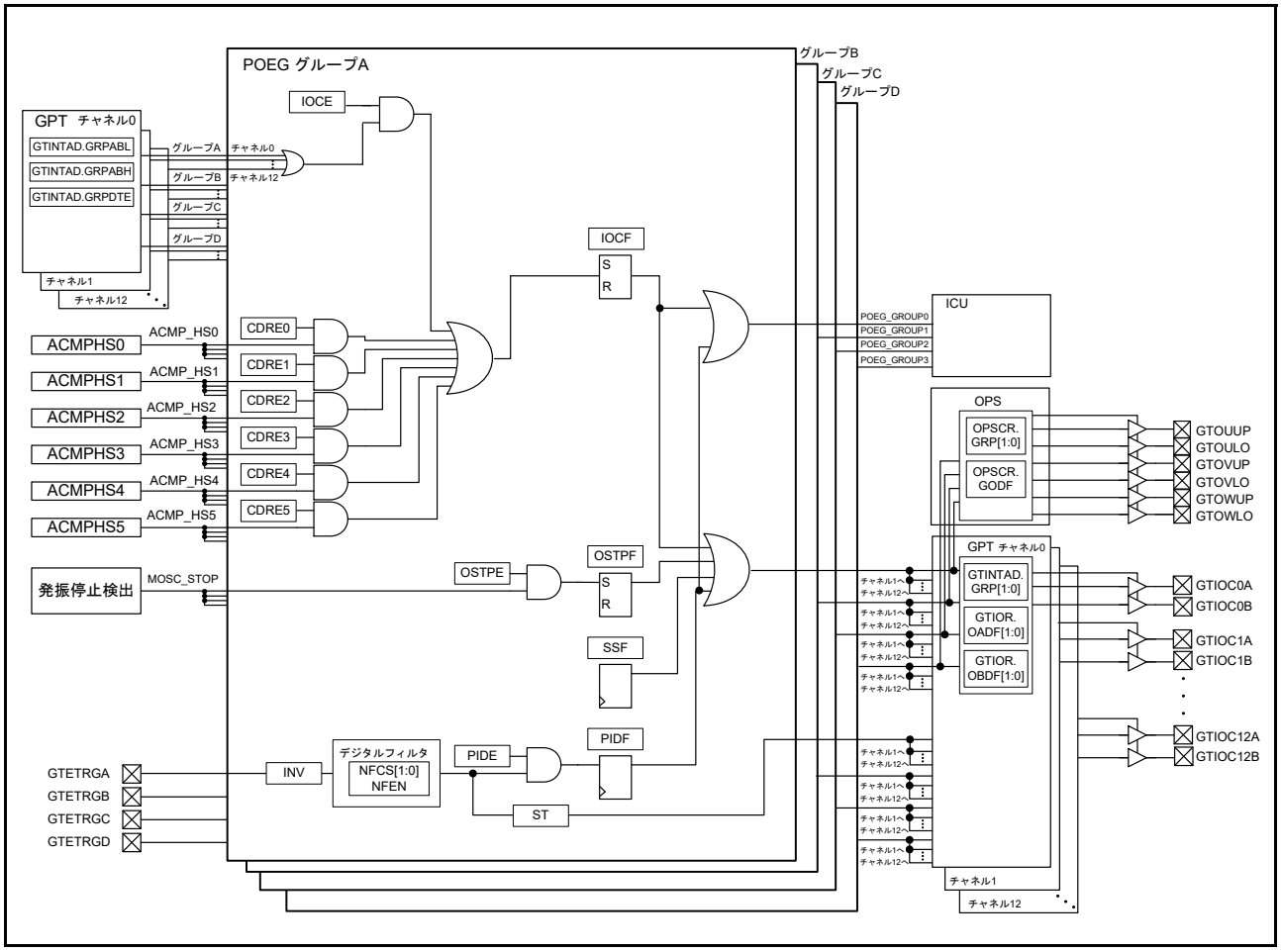


図 22.1　　POEG のブロック図

表 22.2　　POEGの入力端子

端子名	入出力	機能
GTETRGA	入力	GPT出力端子の出力禁止要求信号およびGPT外部トリガ入力端子A
GTETRGB	入力	GPT出力端子の出力禁止要求信号およびGPT外部トリガ入力端子B
GTETRGC	入力	GPT出力端子の出力禁止要求信号およびGPT外部トリガ入力端子C
GTETRGD	入力	GPT出力端子の出力禁止要求信号およびGPT外部トリガ入力端子D

22.2　レジスタの説明

22.2.1　POEG グループ n 設定レジスタ（POEGGn）（n = A ～ D）

アドレス　POEG.POEGGA 4004 2000h, POEG.POEGGB 4004 2100h, POEG.POEGGC 4004 2200h, POEG.POEGGD 4004 2300h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	NFCS[1:0]		NFEN	INV	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ST
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	CDRE5	CDRE4	CDRE3	CDRE2	CDRE1	CDRE0	—	OSTPE	IOCE	PIDE	SSF	OSTPF	IOCF	PIDF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PIDF	ポート入力検出フラグ	0：GTETRGn端子からの出力禁止要求なし 1：GTETRGn端子からの出力禁止要求あり	R(/W) （注1）
b1	IOCF	GPTまたはACMPHS出力禁止要求検出フラグ	0：GPTの禁止要求またはACMPHSによる出力禁止要求なし 1：GPTの禁止要求またはACMPHSによる出力禁止要求あり	R(/W) （注1）
b2	OSTPF	発振停止検出フラグ	0：発振停止検出による出力禁止要求なし 1：発振停止検出による出力禁止要求あり	R(/W) （注1）
b3	SSF	ソフトウェア停止フラグ	0：ソフトウェアからの出力禁止要求なし 1：ソフトウェアからの出力禁止要求あり	R/W
b4	PIDE	ポート入力検出許可	0：GTETRGn端子からの出力禁止要求を禁止 1：GTETRGn端子からの出力禁止要求を許可	R/W （注2）
b5	IOCE	GPT出力禁止要求許可	0：GPTの禁止要求による出力禁止要求を禁止 1：GPTの禁止要求による出力禁止要求を許可	R/W （注2）
b6	OSTPE	発振停止検出許可	0：発振停止検出による出力禁止要求を禁止 1：発振停止検出による出力禁止要求を許可	R/W （注2）
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	CDRE0	ACMP_HS0許可	0：コンパレータ0の禁止要求を禁止 1：コンパレータ0の禁止要求を許可	R/W （注2）
b9	CDRE1	ACMP_HS1許可	0：コンパレータ1の禁止要求を禁止 1：コンパレータ1の禁止要求を許可	R/W （注2）
b10	CDRE2	ACMP_HS2許可	0：コンパレータ2の禁止要求を禁止 1：コンパレータ2の禁止要求を許可	R/W （注2）
b11	CDRE3	ACMP_HS3許可	0：コンパレータ3の禁止要求を禁止 1：コンパレータ3の禁止要求を許可	R/W （注2）
b12	CDRE4	ACMP_HS4許可	0：コンパレータ4の禁止要求を禁止 1：コンパレータ4の禁止要求を許可	R/W （注2）
b13	CDRE5	ACMP_HS5許可	0：コンパレータ5の禁止要求を禁止 1：コンパレータ5の禁止要求を許可	R/W （注2）
b15-b14	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b16	ST	GTETRGn入力ステータスフラグ	0：フィルタリング後のGTETRGn入力は0 1：フィルタリング後のGTETRGn入力は1	R
b27-b17	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b28	INV	GTETRGn入力反転	0：GTETRGnをそのまま入力 1：GTETRGnを反転して入力	R/W
b29	NFEN	ノイズフィルタ有効	0：ノイズフィルタリングを無効 1：ノイズフィルタリングを有効	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b30	NFCS[1:0]	ノイズフィルタクロック選択	b31 b30 0 0：GTETRGn端子の入力レベルをPCLKB/1クロックごとに3回サンプリング 0 1：GTETRGn端子の入力レベルをPCLKB/8クロックごとに3回サンプリング 1 0：GTETRGn端子の入力レベルをPCLKB/32クロックごとに3回サンプリング 1 1：GTETRGn端子の入力レベルをPCLKB/128クロックごとに3回サンプリング	R/W

注 1.　フラグをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。
注 2.　リセット後、1 回のみ書き込み可能です。

POEGGA ～ POEGGD レジスタは、GPT 端子の出力禁止状態、割り込み、および GPT への外部トリガ入力を制御するレジスタです。以下の説明で POEGGn とは、POEGGA ～ POEGGD レジスタのすべてを表しています。

22.3　出力禁止制御の動作

以下のいずれかの条件が成立したとき、GTIOCxA、GTIOCxB、およびBLDCモータ制御用3相PWM出力端子を出力禁止に設定できます。

- GTETRGn端子の入力レベルまたはエッジ検出
  POEGGn.PIDEビットが1の状態で、POEGGn.PIDFフラグが1になったとき
- GPTからの出力禁止要求
  POEGGn.IOCEビットが1の場合、GTINTADレジスタで禁止要求が許可されると、POEGGn.IOCFフラグは1になる。GTINTAD.GRPDTE、GTINTAD.GRPABH、およびGTINTAD.GRPABLの設定は、GPTレジスタのGTINTAD.GRP[1:0]およびOPSCR.GRP[1:0]ビットで選択されたグループに適用される
- コンパレータ（ACMPHS）割り込み要求検出
  コンパレータ割り込みの検出は、POEGGn.CDRE[5:0]レジスタのいずれかが1の場合にアクティブになる。対応するコンパレータ割り込みが発生すると、GPT出力端子は出力禁止状態になる。
  POEGGn.IOCFフラグが検出状態を示す
- クロック発生回路の発振停止検出
  POEGGn.OSTPEビットが1の場合、POEGGn.OSTPFフラグが1になる
- SSFビットの設定
  POEGGn.SSFビットが1のとき、GPTとPWMは出力禁止状態になる

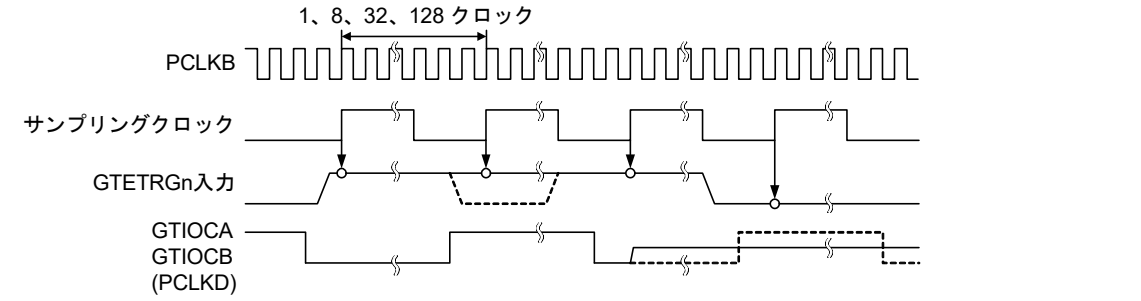
出力禁止状態はGPTで制御されます。GTIOCxA端子およびGTIOCxB端子の出力禁止は、GPTxのGTINTAD.GRP[1:0]ビット、GTIOR.OADF[1:0]ビット、およびGTIOR.OBDF[1:0]ビットで設定されます。BLDCモータ制御用3相PWM出力端子の出力禁止は、GPT_OPSのOPSCR.GRP[1:0]ビットおよびOPSCR.GODFビットで設定されます。

22.3.1　端子入力レベル検出時の動作

POEGGn.PIDEビット、POEGGn.NFCS[1:0]ビット、POEGGn.NFENビット、およびPOEGGn.INVビットに設定された入力条件が、GTETRGn端子で発生すると、GPT出力端子は出力禁止状態になります。

22.3.1.1　デジタルフィルタ

図 22.2 に、デジタルフィルタによる High 検出時の動作を示します。POEGGn.INV ビットの極性の設定に対応した High 状態が、POEGGn.NFCS[1:0] ビットで選択したサンプリングクロックにおいて 3 回連続して検出されたとき、High 検出とみなされて、GPT 出力端子は出力禁止状態になります。このとき、一度でも Low を検出した場合は High 検出とみなされません。さらに、サンプリングクロックが出力されていない期間は、GTETRGn 端子のレベル変化が無視されます。



注 .　各チャネル出力は、GPT で設定可能です。
注 .　Low レベルサンプリングは、POEGGn.INV ビットで設定可能です。

図 22.2　デジタルフィルタの動作例

22.3.2　GPT からの出力禁止要求

この動作の詳細については、「23.　汎用 PWM タイマ（GPT）」に記載の GTIOC 端子の出力禁止制御を参照してください。

22.3.3　コンパレータ割り込みの検出

POEGGn.CDRE[5:0] ビットが 1 の場合、対応するコンパレータ割り込み要求が発生すると、GPT 出力端子はグループごとに出力禁止状態になります。ステータスフラグは POEGGn.IOCF であり、これは GPT の出力禁止検出と共通です。

22.3.4　発振停止検出による出力禁止制御

POEGGn.OSTPE ビットが 1 の場合、クロック発生回路の発振停止検出機能が発振停止を検出すると、GPT 出力端子はグループごとに出力禁止状態になります。

22.3.5　レジスタによる出力禁止制御

GPT 出力端子は、ソフトウェア停止フラグ（POEGGn.SSF）に書き込むことで直接制御が可能です。

22.3.6　出力禁止状態の解除

出力禁止状態になっている GPT 出力端子を解放するには、リセットによって初期状態に復帰させるか、または下記のフラグをすべてクリアします。

- POEGGn.PIDF
- POEGGn.IOCF
- POEGGn.OSTPF
- POEGGn.SSF

外部入力端子 GTETRGn が無効ではなく、かつ POEGGn.ST ビットが 0 になっていなければ、POEGGn.PIDF フラグに 0 を書いても無視されます（フラグはクリアされません）。

GPT の GTST.DTEF フラグ、GTST.OABHF フラグ、および GTST.OABLF フラグがすべて 0 になっている場合にのみ、POEGGn.IOCF フラグに 0 を書くこと（フラグをクリアすること）ができます。

クロック発生回路の OSTDSR.OSTDF フラグが 0 になっていない場合、POEGGn.OSTPF フラグに 0 を書いても無視されます（フラグはクリアされません）。また、フラグのセットとクリアが同時に発生した場合、セットが優先されます。

図 22.3 に、出力禁止状態の解除タイミングを示します。フラグがクリアされた後、次の GPT カウント周期の開始時に、出力禁止状態が解除されます。

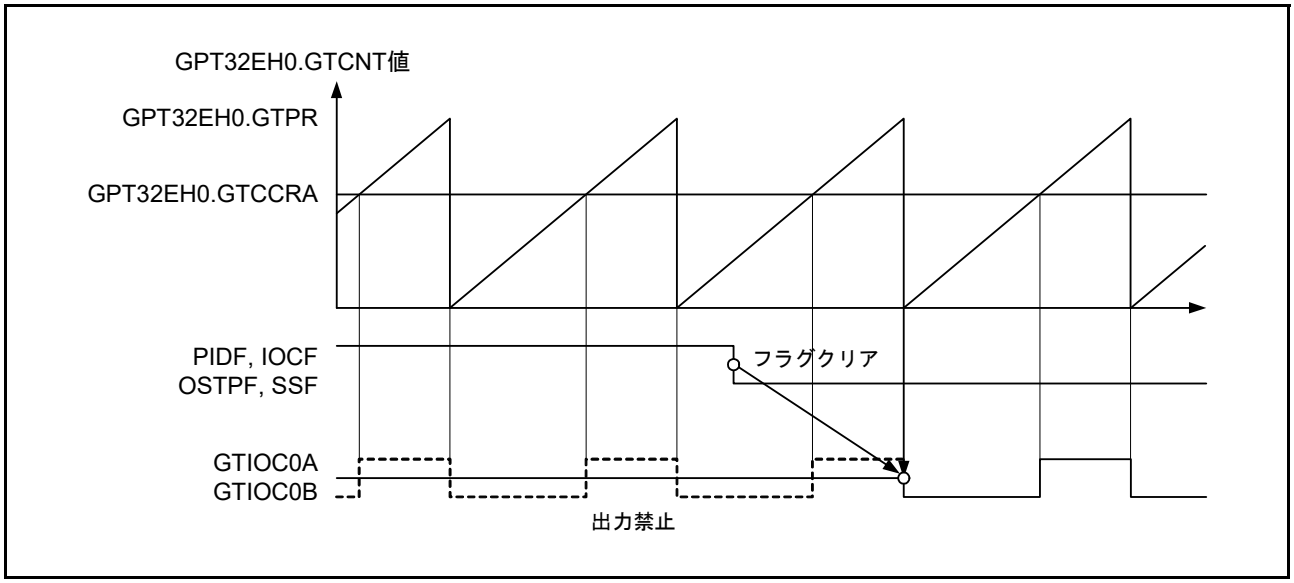


図 22.3　GPT 端子出力の出力禁止状態の解除タイミング

22.4　割り込み要因

POEGは、以下の要因によって、割り込み要求を発生させます。

- 入力レベル検出による出力禁止制御
- GPTからの出力禁止要求
- コンパレータ割り込み要求検出による出力禁止要求

表22.3に、割り込み要求の条件を示します。

表22.3　割り込み要因と条件

割り込み要因	シンボル	対応するフラグ	トリガ条件
POEGグループA割り込み	POEG_GROUP0	POEGGA.IOCF	GPT禁止要求による出力禁止要求の発生
			コンパレータ割り込み要求による出力禁止要求の発生
		POEGGA.PIDF	GTETRGA端子からの出力禁止要求の発生
POEGグループB割り込み	POEG_GROUP1	POEGGB.IOCF	GPT禁止要求による出力禁止要求の発生
			コンパレータ割り込み要求による出力禁止要求の発生
		POEGGB.PIDF	GTETRGB端子からの出力禁止要求の発生
POEGグループC割り込み	POEG_GROUP2	POEGGC.IOCF	GPT禁止要求による出力禁止要求の発生
			コンパレータ割り込み要求による出力禁止要求の発生
		POEGGC.PIDF	GTETRGC端子からの出力禁止要求の発生
POEGグループD割り込み	POEG_GROUP3	POEGGD.IOCF	GPT禁止要求による出力禁止要求の発生
			コンパレータ割り込み要求による出力禁止要求の発生
		POEGGD.PIDF	GTETRGD端子からの出力禁止要求の発生

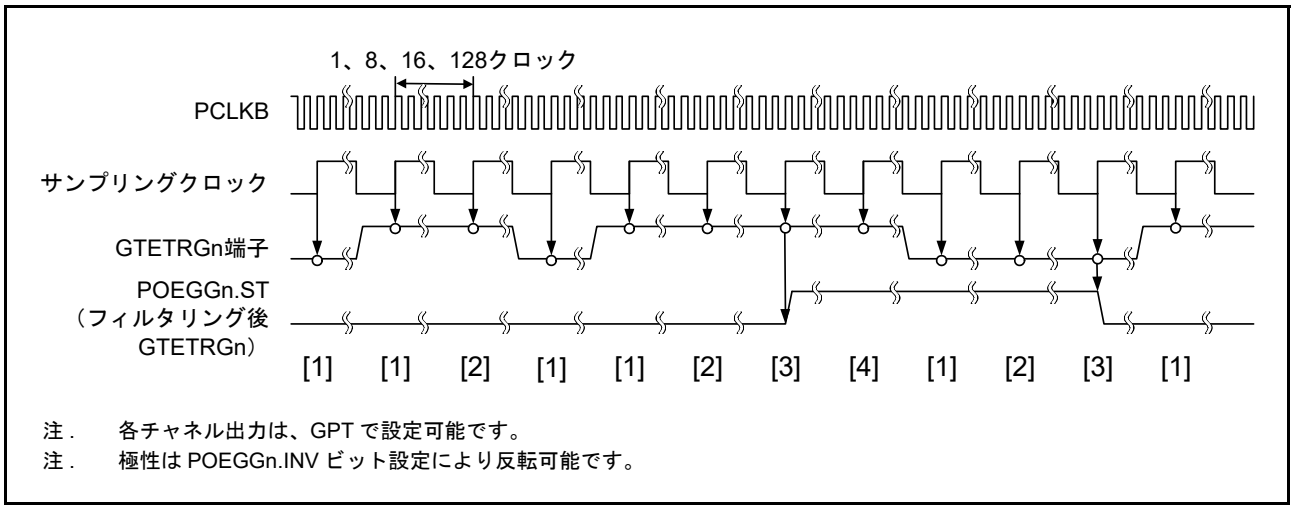
22.5　GPT に対する外部トリガ出力

POEG は、下記の GPT 動作のトリガ信号として、GTETRGn 信号を出力します。

- カウント開始
- カウント停止
- カウントクリア
- アップカウント
- ダウンカウント
- インプットキャプチャ

POEGGn.INV ビットで設定した極性信号に対し、POEGGn.NFCS[1:0] ビットで選択したサンプリングクロックで同じレベルが 3 回連続して入力されたとき、その値が出力されます。コントロールレジスタは 22.3.1　端子入力レベル検出時の動作で記載したビットを設定してください。フィルタリング後の状態は POEGGn.ST フラグでモニタできます。

図 22.4 に、GPT に対する外部トリガ出力のタイミングを示します。



注．　各チャネル出力は、GPT で設定可能です。
注．　極性は POEGGn.INV ビット設定により反転可能です。

図 22.4　GPT に対する外部トリガ出力のタイミング

22.6　使用上の注意事項

22.6.1　ソフトウェアスタンバイモードへの遷移

POEG を使用する場合は、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移しないでください。このモードでは POEG が停止するため、端子の出力禁止を制御することができません。

22.6.2　GPT 対応端子の指定

POEG は、PmnPFS.PMR および PmnPFS.PSEL[4:0] ビットによって、GPT 対応端子として指定された場合にのみ出力禁止制御を行います。端子が汎用入出力端子として指定されている場合、POEG は出力禁止制御を行いません。

23. 汎用 PWM タイマ（GPT）

23.1 概要

汎用 PWM タイマ（GPT）は、4 チャネルの GPT32EH、4 チャネルの GPT32E、および 5 チャネルの GPT32 によって構成される 32 ビットタイマです。PWM 波形は、アップカウンタ、ダウンカウンタ、またはアップダウンカウンタを制御することで発生させることができます。さらに、ブラシレス DC モータ制御用の PWM 波形を発生させることもできます。GPT は汎用タイマとしても使用可能です。

表 23.1 に GPT の仕様を、表 23.2 に GPT の機能一覧を、図 23.1 にブロック図を示します。

表 23.1 GPTの仕様

項目	内容
機能	• 32ビット × 13チャネル • 各カウンタは、アップカウントもしくはダウンカウント（のこぎり波）、またはアップダウンカウント（三角波） • チャネルごとに独立したクロックソースを選択可能 • チャネルごとに2本の入出力端子 • チャネルごとにアウトプットコンペア／インプットキャプチャ用レジスタが2本 • 各チャネル2本のアウトプットコンペア／インプットキャプチャレジスタに対し、それぞれバッファレジスタとして4本のレジスタがあり、バッファ動作しないときにはコンペアレジスタとしても動作可能 • アウトプットコンペア動作時に山／谷それぞれバッファ動作可能で左右非対称なPWM波形を生成 • チャネルごとにフレーム周期設定用レジスタを搭載（オーバーフロー／アンダーフローで割り込み可能） • PWM動作の際にデットタイム生成が可能 • 任意チャネルのカウンタの同期スタート／ストップ／クリア • 最大8個のELCイベントに対応したアップ／ダウンカウンタのスタート／ストップ／クリア • 入力レベル比較に対応したアップ／ダウンカウンタのスタート／ストップ／クリア • 最大4個の外部トリガに対応したアップ／ダウンカウンタのスタート／ストップ／クリア • デッドタイムエラーおよび出力端子間の短絡検出による出力端子無効機能 • A/Dコンバータの変換開始トリガ生成が可能 • ブラシレスDCモータ制御用のPWM波形生成が可能 • コンペアマッチA～Fイベント、オーバーフローイベント／アンダーフローイベント、および入力UVWエッジイベントをELCに出力可能 • インプットキャプチャおよび入力UVWのノイズフィルタを使用可能 • バスクロック：PCLKA • コアクロック：PCLKD • 周波数比：PCLKA:PCLKD = 1:N（N = 1/2/4/8/16/32/64）

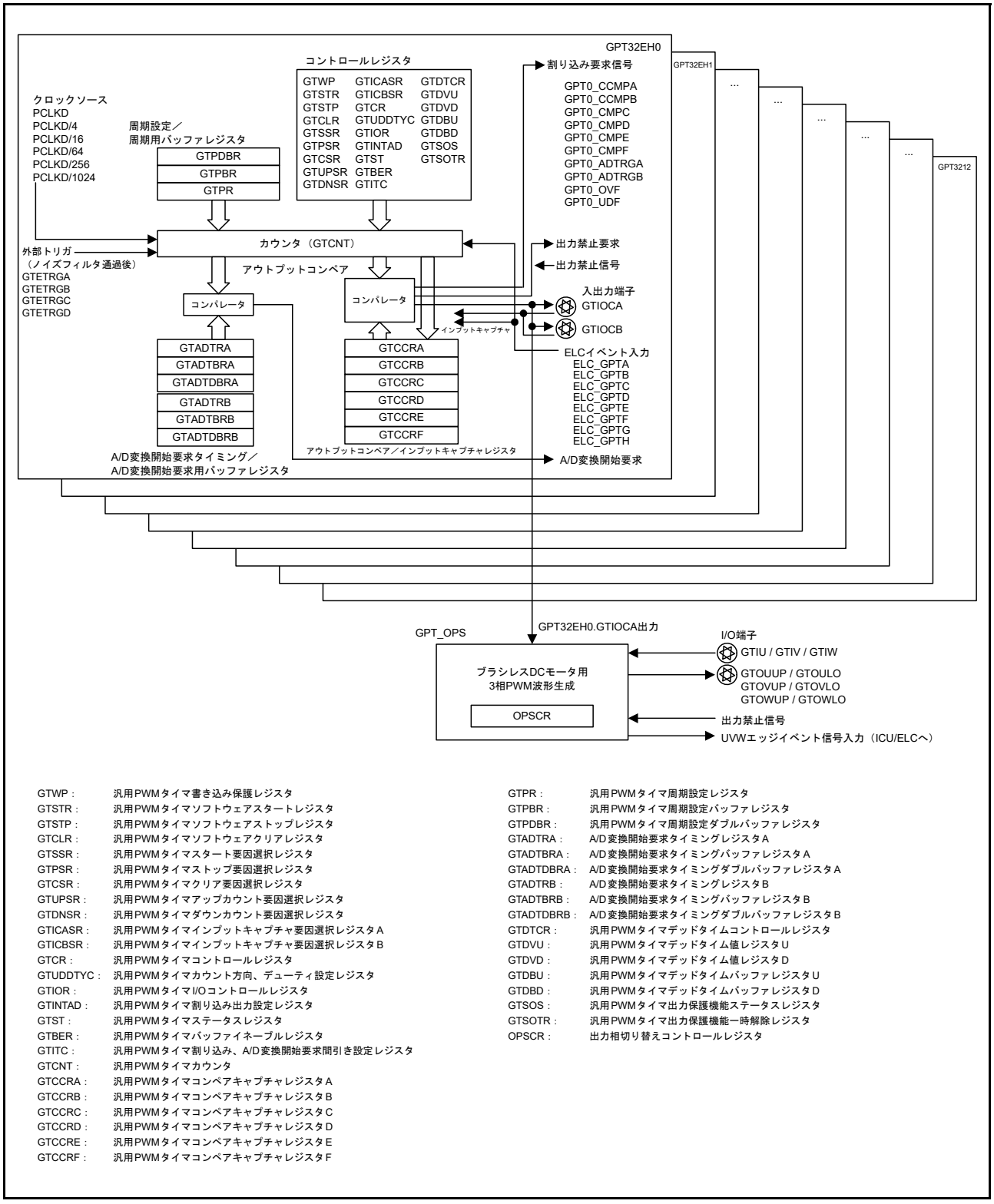
表 23.2 GPTの機能一覧 (1/2)

項目	GPT32EH, GPT32E	GPT32
カウントクロック	PCLKD PCLKD/4 PCLKD/16 PCLKD/64 PCLKD/256 PCLKD/1024	PCLKD PCLKD/4 PCLKD/16 PCLKD/64 PCLKD/256 PCLKD/1024
アウトプットコンペア／インプットキャプチャレジスタ（GTCCR）	GTCCRA GTCCRB	GTCCRA GTCCRB
コンペア／バッファレジスタ	GTCCRC GTCCRD GTCCRE GTCCRF	GTCCRC GTCCRD GTCCRE GTCCRF
周期設定レジスタ	GTPR	GTPR
周期設定バッファレジスタ	GTPBR GTPDBR	GTPBR
入出力端子	GTIOCA GTIOCB	GTIOCA GTIOCB

表 23.2　GPTの機能一覧 (2/2)

項目		GPT32EH, GPT32E	GPT32
外部トリガ入力端子（注1）		GTETRGA GTETRGB GTETRGC GTETRGD	GTETRGA GTETRGB GTETRGC GTETRGD
カウンタクリア要因		GTPRレジスタコンペアマッチ、インプットキャプチャ、入力端子状態、ELCイベント入力、およびGTETRGn（n = A, B, C, D）端子入力	GTPRレジスタコンペアマッチ、インプットキャプチャ、入力端子状態、ELCイベント入力、およびGTETRGn（n = A, B, C, D）端子入力
コンペアマッチ出力	Low出力	可能	可能
	High出力	可能	可能
	トグル出力	可能	可能
インプットキャプチャ機能		可能	可能
デッドタイム自動付加機能		可能	可能 （デッドタイムバッファなし）
PWMモード		可能	可能
位相計数機能		可能	可能
バッファ動作		ダブルバッファ	ダブルバッファ
ワンショット動作		可能	可能
DTCの起動		すべての割り込み要因	すべての割り込み要因
A/D変換開始トリガ		GTADTRAまたはGTADTRBのコンペアマッチ	-
ブラシレスDCモータ制御機能		可能	可能
割り込み要因		10要因 • GTCCRAコンペアマッチ／インプットキャプチャ（GPTn_CCMPA） • GTCCRBコンペアマッチ／インプットキャプチャ（GPTn_CCMPB） • GTCCRCコンペアマッチ（GPTn_CMPC） • GTCCRDコンペアマッチ（GPTn_CMPD） • GTCCREコンペアマッチ（GPTn_CMPE） • GTCCRFコンペアマッチ（GPTn_CMPF） • GTADTRAコンペアマッチ（GPTn_ADTRGA） • GTADTRBコンペアマッチ（GPTn_ADTRGB） • GTCNTオーバーフロー（GTPRコンペアマッチ）（GPTn_OVF） • GTCNTアンダーフロー（GPTn_UDF）	8要因 • GTCCRAコンペアマッチ／インプットキャプチャ（GPTn_CCMPA） • GTCCRBコンペアマッチ／インプットキャプチャ（GPTn_CCMPB） • GTCCRCコンペアマッチ（GPTn_CMPC） • GTCCRDコンペアマッチ（GPTn_CMPD） • GTCCREコンペアマッチ（GPTn_CMPE） • GTCCRFコンペアマッチ（GPTn_CMPF） • GTCNTオーバーフロー（GTPRコンペアマッチ）（GPTn_OVF） • GTCNTアンダーフロー（GPTn_UDF）
割り込み間引き機能		GTCNTオーバーフロー（GTPRコンペアマッチ）（GPTn_OVF）の間引き／GTCNTアンダーフロー（GPTn_UDF）割り込み（その他割り込みまたはA/D変換要求に対するインターロック機能付き）の間引き	-
イベントリンク（ELC）機能		可能	可能
ノイズフィルタ機能		可能	可能

注 1.　GTETRGn は、POEG モジュールを経由して GPT に接続します。このため、GPT の機能を使用するには、MSTPD14 ビットをクリアすることでクロックを POEG に供給してください。



GTWP : 汎用PWMタイマ書き込み保護レジスタ
GTSTR : 汎用PWMタイマソフトウェアスタートレジスタ
GTSTP : 汎用PWMタイマソフトウェアストップレジスタ
GTCLR : 汎用PWMタイマソフトウェアクリアレジスタ
GTSSR : 汎用PWMタイマスタート要因選択レジスタ
GTPSR : 汎用PWMタイマストップ要因選択レジスタ
GTCSR : 汎用PWMタイマクリア要因選択レジスタ
GTUPSR : 汎用PWMタイマアップカウント要因選択レジスタ
GTDNSR : 汎用PWMタイマダウンカウント要因選択レジスタ
GTICASR : 汎用PWMタイマインプットキャプチャ要因選択レジスタA
GTICBSR : 汎用PWMタイマインプットキャプチャ要因選択レジスタB
GTCR : 汎用PWMタイマコントロールレジスタ
GTUDDTYC : 汎用PWMタイマカウント方向、デューティ設定レジスタ
GTIOR : 汎用PWMタイマI/Oコントロールレジスタ
GTINTAD : 汎用PWMタイマ割り込み出力設定レジスタ
GTST : 汎用PWMタイマステータスレジスタ
GTBER : 汎用PWMタイマバッファイネーブルレジスタ
GTITC : 汎用PWMタイマ割り込み、A/D変換開始要求間引き設定レジスタ
GTCNT : 汎用PWMタイマカウンタ
GTCCRA : 汎用PWMタイマコンペアキャプチャレジスタA
GTCCRB : 汎用PWMタイマコンペアキャプチャレジスタB
GTCCRC : 汎用PWMタイマコンペアキャプチャレジスタC
GTCCRD : 汎用PWMタイマコンペアキャプチャレジスタD
GTCCRE : 汎用PWMタイマコンペアキャプチャレジスタE
GTCCRF : 汎用PWMタイマコンペアキャプチャレジスタF

GTPR : 汎用PWMタイマ周期設定レジスタ
GTPBR : 汎用PWMタイマ周期設定バッファレジスタ
GTPDBR : 汎用PWMタイマ周期設定ダブルバッファレジスタ
GTADTRA : A/D変換開始要求タイミングレジスタA
GTADTBRA : A/D変換開始要求タイミングバッファレジスタA
GTADTDBRA : A/D変換開始要求タイミングダブルバッファレジスタA
GTADTRB : A/D変換開始要求タイミングレジスタB
GTADTBRB : A/D変換開始要求タイミングバッファレジスタB
GTADTDBRB : A/D変換開始要求タイミングダブルバッファレジスタB
GTDTCR : 汎用PWMタイマデッドタイムコントロールレジスタ
GTDVU : 汎用PWMタイマデッドタイム値レジスタU
GTDVD : 汎用PWMタイマデッドタイム値レジスタD
GTDBU : 汎用PWMタイマデッドタイムバッファレジスタU
GTDBD : 汎用PWMタイマデッドタイムバッファレジスタD
GTSOS : 汎用PWMタイマ出力保護機能ステータスレジスタ
GTSOTR : 汎用PWMタイマ出力保護機能一時解除レジスタ
OPSCR : 出力相切り替えコントロールレジスタ

図 23.1　　GPT のブロック図

図 23.2 に複数の GPT の使用例を示します。

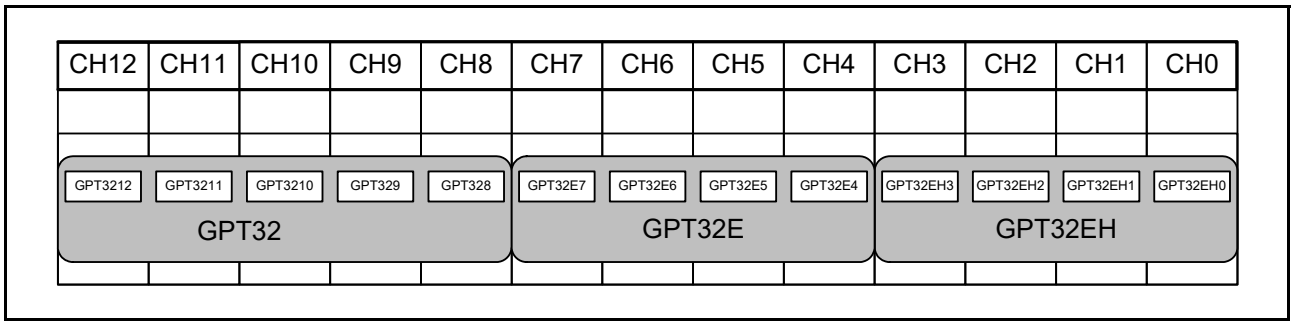


図 23.2 GPT チャネルとモジュール名の対応関係

表 23.3 GPTの入出力端子 (1/2)

チャネル	端子名	入出力	機能
共通	GTETRGA	入力	外部トリガ入力端子A（ノイズフィルタリング後）
	GTETRGB	入力	外部トリガ入力端子B（ノイズフィルタリング後）
	GTETRGC	入力	外部トリガ入力端子C（ノイズフィルタリング後）
	GTETRGD	入力	外部トリガ入力端子D（ノイズフィルタリング後）
GPT32EH0	GTIOC0A	入出力	GTCCRA レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
	GTIOC0B	入出力	GTCCRB レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
GPT32EH1	GTIOC1A	入出力	GTCCRA レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
	GTIOC1B	入出力	GTCCRB レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
GPT32EH2	GTIOC2A	入出力	GTCCRA レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
	GTIOC2B	入出力	GTCCRB レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
GPT32EH3	GTIOC3A	入出力	GTCCRA レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
	GTIOC3B	入出力	GTCCRB レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
GPT32E4	GTIOC4A	入出力	GTCCRA レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
	GTIOC4B	入出力	GTCCRB レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
GPT32E5	GTIOC5A	入出力	GTCCRA レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
	GTIOC5B	入出力	GTCCRB レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
GPT32E6	GTIOC6A	入出力	GTCCRA レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
	GTIOC6B	入出力	GTCCRB レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
GPT32E7	GTIOC7A	入出力	GTCCRA レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
	GTIOC7B	入出力	GTCCRB レジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子

表 23.3 GPTの入出力端子 (2/2)

チャネル	端子名	入出力	機能
GPT328	GTIOC8A	入出力	GTCCRAレジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
	GTIOC8B	入出力	GTCCRBレジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
GPT329	GTIOC9A	入出力	GTCCRAレジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
	GTIOC9B	入出力	GTCCRBレジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
GPT3210	GTIOC10A	入出力	GTCCRAレジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
	GTIOC10B	入出力	GTCCRBレジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
GPT3211	GTIOC11A	入出力	GTCCRAレジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
	GTIOC11B	入出力	GTCCRBレジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
GPT3212	GTIOC12A	入出力	GTCCRAレジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
	GTIOC12B	入出力	GTCCRBレジスタのインプットキャプチャ入力／アウトプットコンペア出力／PWM出力端子
GPT_OPS	GTIU	入力	ホールセンサ入力端子U
	GTIV	入力	ホールセンサ入力端子V
	GTIW	入力	ホールセンサ入力端子W
	GTOUUP	出力	BLDCモータ制御用3相PWM出力（正相U相）
	GTOULO	出力	BLDCモータ制御用3相PWM出力（逆相U相）
	GTOVUP	出力	BLDCモータ制御用3相PWM出力（正相V相）
	GTOVLO	出力	BLDCモータ制御用3相PWM出力（逆相V相）
	GTOWUP	出力	BLDCモータ制御用3相PWM出力（正相W相）
	GTOWLO	出力	BLDCモータ制御用3相PWM出力（逆相W相）

23.2 レジスタの説明

表 23.4 に GPT のレジスター覧を示します。

表 23.4 GPT レジスタ (1/2)

モジュールシンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	リセット値	アドレス（m = 0～12）	アクセスサイズ	GPT32EH/GPT32E	GPT32
GPT32EHm (m = 0～3) GPT32Em (m = 4～7) GPT32m (m = 8～12)	汎用PWMタイマ書き込み保護レジスタ	GTWP	0000_0000h	4007 8000h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマソフトウェアスタートレジスタ	GTSTR	0000_0000h	4007 8004h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマソフトウェアストップレジスタ	GTSTP	FFFF_FFFFh	4007 8008h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマソフトウェアクリアレジスタ	GTCLR	0000_0000h	4007 800Ch + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマスタート要因選択レジスタ	GTSSR	0000_0000h	4007 8010h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマストップ要因選択レジスタ	GTPSR	0000_0000h	4007 8014h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマクリア要因選択レジスタ	GTCSR	0000_0000h	4007 8018h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマアップカウント要因選択レジスタ	GTUPSR	0000_0000h	4007 801Ch + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマダウンカウント要因選択レジスタ	GTDNSR	0000_0000h	4007 8020h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマインプットキャプチャ要因選択レジスタA	GTICASR	0000_0000h	4007 8024h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマインプットキャプチャ要因選択レジスタB	GTICBSR	0000_0000h	4007 8028h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマコントロールレジスタ	GTCR	0000_0000h	4007 802Ch + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマカウント方向、デューティ設定レジスタ	GTUDDTYC	0000_0001h	4007 8030h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマI/Oコントロールレジスタ	GTIOR	0000_0000h	4007 8034h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマ割り込み出力設定レジスタ	GTINTAD	0000_0000h	4007 8038h + 0100h × m	32	○	(○)（注1）
	汎用PWMタイマステータスレジスタ	GTST	0000_8000h	4007 803Ch + 0100h × m	32	○	(○)（注1）
	汎用PWMタイマバッファイネーブルレジスタ	GTBER	0000_0000h	4007 8040h + 0100h × m	32	○	(○)（注1）
GPT32EHm (m = 0～3) GPT32Em (m = 4～7)	汎用PWMタイマ割り込み、A/D変換開始要求間引き設定レジスタ	GTITC	0000_0000h	4007 8044h + 0100h × m	32	○	-
GPT32EHm (m = 0～3) GPT32Em (m = 4～7) GPT32m (m = 8～12)	汎用PWMタイマカウンタ	GTCNT	0000_0000h	4007 8048h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマコンペアキャプチャレジスタA	GTCCRA	FFFF_FFFFh	4007 804Ch + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマコンペアキャプチャレジスタB	GTCCRB	FFFF_FFFFh	4007 8050h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマコンペアキャプチャレジスタC	GTCCRC	FFFF_FFFFh	4007 8054h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマコンペアキャプチャレジスタE	GTCCRE	FFFF_FFFFh	4007 8058h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマコンペアキャプチャレジスタD	GTCCRD	FFFF_FFFFh	4007 805Ch + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマコンペアキャプチャレジスタF	GTCCRF	FFFF_FFFFh	4007 8060h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマ周期設定レジスタ	GTPR	FFFF_FFFFh	4007 8064h + 0100h × m	32	○	○
	汎用PWMタイマ周期設定バッファレジスタ	GTPBR	FFFF_FFFFh	4007 8068h + 0100h × m	32	○	○

表 23.4 GPT レジスタ (2/2)

モジュールシンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	リセット値	アドレス（m = 0～12）	アクセスサイズ	GPT32EH/GPT32E	GPT32
GPT32EHm (m = 0～3) GPT32Em (m = 4～7)	汎用PWMタイマ周期設定ダブルバッファレジスタ	GTPDBR	FFFF_FFFFh	4007 806Ch + 0100h × m	32	○	-
	A/D変換開始要求タイミングレジスタA	GTADTRA	FFFF_FFFFh	4007 8070h + 0100h × m	32	○	-
	A/D変換開始要求タイミングバッファレジスタA	GTADTBRA	FFFF_FFFFh	4007 8074h + 0100h × m	32	○	-
	A/D変換開始要求タイミングダブルバッファレジスタA	GTADTDBRA	FFFF_FFFFh	4007 8078h + 0100h × m	32	○	-
	A/D変換開始要求タイミングレジスタB	GTADTRB	FFFF_FFFFh	4007 807Ch + 0100h × m	32	○	-
	A/D変換開始要求タイミングバッファレジスタB	GTADTBRB	FFFF_FFFFh	4007 8080h + 0100h × m	32	○	-
	A/D変換開始要求タイミングダブルバッファレジスタB	GTADTDBRB	FFFF_FFFFh	4007 8084h + 0100h × m	32	○	-
GPT32EHm (m = 0～3) GPT32Em (m = 4～7) GPT32m (m = 8～12)	汎用PWMタイマデッドタイムコントロールレジスタ	GTDTCR	0000_0000h	4007 8088h + 0100h × m	32	○	（○）（注1）
	汎用PWMタイマデッドタイム値レジスタU	GTDVU	FFFF_FFFFh	4007 808Ch + 0100h × m	32	○	○
GPT32EHm (m = 0～3) GPT32Em (m = 4～7)	汎用PWMタイマデッドタイム値レジスタD	GTDVD	FFFF_FFFFh	4007 8090h + 0100h × m	32	○	-
	汎用PWMタイマデッドタイムバッファレジスタU	GTDBU	FFFF_FFFFh	4007 8094h + 0100h × m	32	○	-
	汎用PWMタイマデッドタイムバッファレジスタD	GTDBD	FFFF_FFFFh	4007 8098h + 0100h × m	32	○	-
	汎用PWMタイマ出力保護機能ステータスレジスタ	GTSOS	0000_0000h	4007 809Ch + 0100h × m	32	○	-
	汎用PWMタイマ出力保護機能一時解除レジスタ	GTSOTR	0000_0000h	4007 80A0h + 0100h × m	32	○	-
GPT_OPS	出力相切り替えコントロールレジスタ	OPSCR	0000_0000h	4007 8FF0h	32	○	○

注 1. GPT32EH/GPT32E から一部機能が削減されます。

23.2.1　汎用 PWM タイマ書き込み保護レジスタ（GTWP）

アドレス　GPT32EHm.GTWP 4007 8000h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTWP 4007 8000h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTWP 4007 8000h + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	PRKEY[7:0]								—	—	—	—	—	—	—	WP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	WP	レジスタ書き込み禁止	0：レジスタへの書き込みを許可 1：レジスタへの書き込みを禁止	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15-b8	PRKEY[7:0]	GTWPキーコード	A5hを書き込むと、WPビットへの書き込みが許可されます。 読むと0が読めます。	R/W
b31-b16	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTWP レジスタは、誤書き込み防止のため以下のレジスタへの書き込みを許可／禁止します。

GTSSR, GTPSR, GTCSR, GTUPSR, GTDNSR, GTICASR, GTICBSR, GTCR, GTUDDTYC, GTIOR, GTINTAD, GTST, GTBER, GTITC, GTCNT, GTCCRA, GTCCRB, GTCCRC, GTCCRD, GTCCRE, GTCCRF, GTPR, GTPBR, GTPDBR, GTADTRA, GTADTBRA, GTADTDBRA, GTADTRB, GTADTBRB, GTADTDBRB, GTDTCR, GTDVU, GTDVD, GTDBU, GTDBD, GTSOS, GTSOTR

23.2.2　汎用 PWM タイマソフトウェアスタートレジスタ（GTSTR）

アドレス　GPT32EHm.GTSTR 4007 8004h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTSTR 4007 8004h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTSTR 4007 8004h + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	CSTRT12	CSTRT11	CSTRT10	CSTRT9	CSTRT8	CSTRT7	CSTRT6	CSTRT5	CSTRT4	CSTRT3	CSTRT2	CSTRT1	CSTRT0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

GTSTR レジスタは、各チャネル n（n = 0 ～ 12）の GTCNT カウンタ動作を開始します。

GTSTR レジスタのビット番号はチャネル番号に相当します。GTSTR レジスタは各チャネル共通です。1 が書き込まれた GTSTR レジスタのビットに対応するチャネルの GTCNT カウンタが動作を開始します。0 を書き込んでも、GTCNT カウンタの状態および GTSTR レジスタの値には影響しません。

GTSTR のビット番号とチャネル番号の対応関係については、図 23.2 を参照してください。

CSTRT[12:0] ビット（チャネル n GTCNT カウントスタート）（n = 0 ～ 12）

チャネル n の GTCNT カウンタ動作を開始します。GPTm.GTSSR.CSTRT ビットを 1 にしない限り、GTSTR.CSTRTn ビット（n = 0 ～ 12）への書き込みは無効です（GPT32EH については m = 0 ～ 3、GPT32E については m = 4 ～ 7、GPT32 については m = 8 ～ 12）。リードデータは各チャネルのカウンタ状態（GTCR.CST ビット値）を示します。0 はカウンタ停止を、1 はカウンタ実行を意味します。

23.2.3　汎用 PWM タイマソフトウェアストップレジスタ（GTSTP）

アドレス　GPT32EHm.GTSTP 4007 8008h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTSTP 4007 8008h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTSTP 4007 8008h + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	CSTOP 12	CSTOP 11	CSTOP 10	CSTOP 9	CSTOP 8	CSTOP 7	CSTOP 6	CSTOP 5	CSTOP 4	CSTOP 3	CSTOP 2	CSTOP 1	CSTOP 0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

GTSTP レジスタは、各チャネル n（n = 0 ～ 12）の GTCNT カウンタ動作を停止します。

GTSTP レジスタのビット番号はチャネル番号に相当します。GTSTP レジスタは各チャネル共通です。1 が書き込まれた GTSTP レジスタのビットに対応するチャネルの GTCNT カウンタが動作を停止します。0 を書き込んでも、GTCNT カウンタの状態および GTSTP レジスタの値には影響しません。GTSTP のビット番号とチャネル番号の対応関係については、図 23.2 を参照してください。

CSTOPn ビット（チャネル n GTCNT カウントストップ）（n = 0 ～ 12）

チャネル n の CSTOPn カウンタ動作を停止します。GPTm.GTPSR.CSTOP ビットを 1 にしない限り、GTSTP.CSTOPn ビット（n = 0 ～ 12）への書き込みは無効です（GPT32EH については m = 0 ～ 3、GPT32E については m = 4 ～ 7、GPT32 については m = 8 ～ 12）。

リードデータは各チャネルのカウンタ状態（GTCR.CST ビットの反転値）を示します。0 はカウンタ実行を、1 はカウンタ停止を意味します。

23.2.4　汎用 PWM タイマソフトウェアクリアレジスタ（GTCLR）

アドレス　GPT32EHm.GTCLR 4007 800Ch + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTCLR 4007 800Ch + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTCLR 4007 800Ch + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	CCLR 12	CCLR 11	CCLR 10	CCLR 9	CCLR 8	CCLR 7	CCLR 6	CCLR 5	CCLR 4	CCLR 3	CCLR 2	CCLR 1	CCLR 0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

GTCLR レジスタは書き込み専用レジスタであり、各チャネル n（n = 0 ～ 12）の GTCNT カウンタ動作をクリアします。

GTCLR レジスタのビット番号はチャネル番号に相当します。GTCLR レジスタは各チャネル共通です。1 が書き込まれた GTCLR レジスタのビット番号に対応するチャネルの GTCNT カウンタがクリアされます。0 を書き込んでも GTCNT カウンタの状態には影響しません。

GTCLR のビット番号とチャネル番号の対応関係については、図 23.2 を参照してください。

CCLR[12:0] ビット（チャネル n GTCNT カウントクリア）（n = 0 ～ 12）

1 を書き込むと、チャネル n の GTCNT カウンタ値がクリアされます。読むと 0 が読めます。

23.2.5　汎用 PWM タイマスタート要因選択レジスタ（GTSSR）

アドレス　GPT32EHm.GTSSR 4007 8010h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTSSR 4007 8010h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTSSR 4007 8010h + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	CSTRT	—	—	—	—	—	—	—	SSELCH	SSELCG	SSELCF	SSELCE	SSELCD	SSELCC	SSELCB	SSELCA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SSCBFAH	SSCBFAL	SSCBRAH	SSCBRAL	SSCAFBH	SSCAFBL	SSCARBH	SSCARBL	SSGTRGDF	SSGTRGDR	SSGTRGCF	SSGTRGCR	SSGTRGBF	SSGTRGBR	SSGTRGAF	SSGTRGAR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SSGTRGAR	GTETRGA端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTETRGA入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTETRGA入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W
b1	SSGTRGAF	GTETRGA端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTETRGA入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTETRGA入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W
b2	SSGTRGBR	GTETRGB端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTETRGB入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTETRGB入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W
b3	SSGTRGBF	GTETRGB端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTETRGB入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTETRGB入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W
b4	SSGTRGCR	GTETRGC端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTETRGC入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTETRGC入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W
b5	SSGTRGCF	GTETRGC端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTETRGC入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTETRGC入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W
b6	SSGTRGDR	GTETRGD端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTETRGD入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTETRGD入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W
b7	SSGTRGDF	GTETRGD端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTETRGD入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTETRGD入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W
b8	SSCARBL	GTIOCB値LowでのGTIOCA端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W
b9	SSCARBH	GTIOCB値HighでのGTIOCA端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b10	SSCAFBL	GTIOCB値LowでのGTIOCA端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W
b11	SSCAFBH	GTIOCB値HighでのGTIOCA端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W
b12	SSCBRAL	GTIOCA値LowでのGTIOCB端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W
b13	SSCBRAH	GTIOCA値HighでのGTIOCB端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W
b14	SSCBFAL	GTIOCA値LowでのGTIOCB端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W
b15	SSCBFAH	GTIOCA値HighでのGTIOCB端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可	0：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを禁止 1：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタスタートを許可	R/W
b16	SSELCA	ELC_GPTAイベント要因カウンタスタート許可	0：ELC_GPTAイベント入力でのカウンタスタートを禁止 1：ELC_GPTAイベント入力でのカウンタスタートを許可	R/W
b17	SSELCB	ELC_GPTBイベント要因カウンタスタート許可	0：ELC_GPTBイベント入力でのカウンタスタートを禁止 1：ELC_GPTBイベント入力でのカウンタスタートを許可	R/W
b18	SSELCC	ELC_GPTCイベント要因カウンタスタート許可	0：ELC_GPTCイベント入力でのカウンタスタートを禁止 1：ELC_GPTCイベント入力でのカウンタスタートを許可	R/W
b19	SSELCD	ELC_GPTDイベント要因カウンタスタート許可	0：ELC_GPTDイベント入力でのカウンタスタートを禁止 1：ELC_GPTDイベント入力でのカウンタスタートを許可	R/W
b20	SSELCE	ELC_GPTEイベント要因カウンタスタート許可	0：ELC_GPTEイベント入力でのカウンタスタートを禁止 1：ELC_GPTEイベント入力でのカウンタスタートを許可	R/W
b21	SSELCF	ELC_GPTFイベント要因カウンタスタート許可	0：ELC_GPTFイベント入力でのカウンタスタートを禁止 1：ELC_GPTFイベント入力でのカウンタスタートを許可	R/W
b22	SSELCG	ELC_GPTGイベント要因カウンタスタート許可	0：ELC_GPTGイベント入力でのカウンタスタートを禁止 1：ELC_GPTGイベント入力でのカウンタスタートを許可	R/W
b23	SSELCH	ELC_GPTHイベント要因カウンタスタート許可	0：ELC_GPTHイベント入力でのカウンタスタートを禁止 1：ELC_GPTHイベント入力でのカウンタスタートを許可	R/W
b30-b24	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b31	CSTRT	ソフトウェア要因カウンタスタート許可	0：GTSTRレジスタによるカウンタスタートを禁止 1：GTSTRレジスタによるカウンタスタートを許可	R/W

GTSSR レジスタは GTCNT カウンタの開始要因を設定するレジスタです。

SSGTRGAR ビット（GTETRGA 端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可）

GTETRGA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSGTRGAF ビット（GTETRGA 端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可）

GTETRGA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSGTRGBR ビット（GTETRGB 端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可）

GTETRGB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSGTRGBF ビット（GTETRGB 端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可）

GTETRGB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSGTRGCR ビット（GTETRGC 端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可）

GTETRGC 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSGTRGCF ビット（GTETRGC 端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可）

GTETRGC 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSGTRGDR ビット（GTETRGD 端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可）

GTETRGD 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSGTRGDF ビット（GTETRGD 端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可）

GTETRGD 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSCARBL ビット（GTIOCB 値 Low での GTIOCA 端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可）

GTIOCB 入力が 0 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSCARBH ビット（GTIOCB 値 High での GTIOCA 端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可）

GTIOCB 入力が 1 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSCAFBL ビット（GTIOCB 値 Low での GTIOCA 端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可）

GTIOCB 入力が 0 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSCAFBH ビット（GTIOCB 値 High での GTIOCA 端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可）

GTIOCB 入力が 1 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSCBRAL ビット（GTIOCA 値 Low での GTIOCB 端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可）

GTIOCA 入力が 0 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSCBRAH ビット（GTIOCA 値 High での GTIOCB 端子立ち上がり入力要因カウンタスタート許可）

GTIOCA 入力が 1 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSCBFAL ビット（GTIOCA 値 Low での GTIOCB 端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可）

GTIOCA 入力が 0 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSCBFAH ビット（GTIOCA 値 High での GTIOCB 端子立ち下がり入力要因カウンタスタート許可）

GTIOCA 入力が 1 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

SSELCm ビット（ELC_GPTm イベント要因カウンタスタート許可）（m = A ～ H）

ELC_GPTm イベント入力での GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

CSTRT ビット（ソフトウェア要因カウンタスタート許可）

GTSTR レジスタによる GTCNT カウンタスタートの許可／禁止を選択します。

23.2.6　汎用 PWM タイマストップ要因選択レジスタ（GTPSR）

アドレス　GPT32EHm.GTPSR 4007 8014h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTPSR 4007 8014h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTPSR 4007 8014h + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	CSTOP	—	—	—	—	—	—	—	PSELCH	PSELCG	PSELCF	PSELCE	PSELCD	PSELCC	PSELCB	PSELCA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	PSCBFAH	PSCBFAL	PSCBRAH	PSCBRAL	PSCAFBH	PSCAFBL	PSCARBH	PSCARBL	PSGTRGDF	PSGTRGDR	PSGTRGCF	PSGTRGCR	PSGTRGBF	PSGTRGBR	PSGTRGAF	PSGTRGAR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PSGTRGAR	GTETRGA端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTETRGA入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTETRGA入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W
b1	PSGTRGAF	GTETRGA端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTETRGA入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTETRGA入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W
b2	PSGTRGBR	GTETRGB端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTETRGB入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTETRGB入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W
b3	PSGTRGBF	GTETRGB端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTETRGB入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTETRGB入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W
b4	PSGTRGCR	GTETRGC端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTETRGC入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTETRGC入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W
b5	PSGTRGCF	GTETRGC端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTETRGC入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTETRGC入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W
b6	PSGTRGDR	GTETRGD端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTETRGD入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTETRGD入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W
b7	PSGTRGDF	GTETRGD端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTETRGD入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTETRGD入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W
b8	PSCARBL	GTIOCB値LowでのGTIOCA端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W
b9	PSCARBH	GTIOCB値HighでのGTIOCA端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b10	PSCAFBL	GTIOCB値LowでのGTIOCA端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W
b11	PSCAFBH	GTIOCB値HighでのGTIOCA端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W
b12	PSCBRAL	GTIOCA値LowでのGTIOCB端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W
b13	PSCBRAH	GTIOCA値HighでのGTIOCB端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W
b14	PSCBFAL	GTIOCA値LowでのGTIOCB端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W
b15	PSCBFAH	GTIOCA値HighでのGTIOCB端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可	0：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを禁止 1：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタストップを許可	R/W
b16	PSELCA	ELC_GPTAイベント要因カウンタストップ許可	0：ELC_GPTAイベント入力でのカウンタストップを禁止 1：ELC_GPTAイベント入力でのカウンタストップを許可	R/W
b17	PSELCB	ELC_GPTBイベント要因カウンタストップ許可	0：ELC_GPTBイベント入力でのカウンタストップを禁止 1：ELC_GPTBイベント入力でのカウンタストップを許可	R/W
b18	PSELCC	ELC_GPTCイベント要因カウンタストップ許可	0：ELC_GPTCイベント入力でのカウンタストップを禁止 1：ELC_GPTCイベント入力でのカウンタストップを許可	R/W
b19	PSELCD	ELC_GPTDイベント要因カウンタストップ許可	0：ELC_GPTDイベント入力でのカウンタストップを禁止 1：ELC_GPTDイベント入力でのカウンタストップを許可	R/W
b20	PSELCE	ELC_GPTEイベント要因カウンタストップ許可	0：ELC_GPTEイベント入力でのカウンタストップを禁止 1：ELC_GPTEイベント入力でのカウンタストップを許可	R/W
b21	PSELCF	ELC_GPTFイベント要因カウンタストップ許可	0：ELC_GPTFイベント入力でのカウンタストップを禁止 1：ELC_GPTFイベント入力でのカウンタストップを許可	R/W
b22	PSELCG	ELC_GPTGイベント要因カウンタストップ許可	0：ELC_GPTGイベント入力でのカウンタストップを禁止 1：ELC_GPTGイベント入力でのカウンタストップを許可	R/W
b23	PSELCH	ELC_GPTHイベント要因カウンタストップ許可	0：ELC_GPTHイベント入力でのカウンタストップを禁止 1：ELC_GPTHイベント入力でのカウンタストップを許可	R/W
b30-b24	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b31	CSTOP	ソフトウェア要因カウンタストップ許可	0：GTSTPレジスタによるカウンタストップを禁止 1：GTSTPレジスタによるカウンタストップを許可	R/W

GTPSR レジスタは GTCNT カウンタの停止要因を設定するレジスタです。

PSGTRGAR ビット（GTETRGA 端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可）

GTETRGA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSGTRGAF ビット（GTETRGA 端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可）

GTETRGA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSGTRGBR ビット（GTETRGB 端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可）

GTETRGB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSGTRGBF ビット（GTETRGB 端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可）

GTETRGB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSGTRGCR ビット（GTETRGC 端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可）

GTETRGC 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSGTRGCF ビット（GTETRGC 端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可）

GTETRGC 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSGTRGDR ビット（GTETRGD 端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可）

GTETRGD 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSGTRGDF ビット（GTETRGD 端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可）

GTETRGD 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSCARBL ビット（GTIOCB 値 Low での GTIOCA 端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可）

GTIOCB 入力が 0 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSCARBH ビット（GTIOCB 値 High での GTIOCA 端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可）

GTIOCB 入力が 1 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSCAFBL ビット（GTIOCB 値 Low での GTIOCA 端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可）

GTIOCB 入力が 0 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSCAFBH ビット（GTIOCB 値 High での GTIOCA 端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可）

GTIOCB 入力が 1 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSCBRAL ビット（GTIOCA 値 Low での GTIOCB 端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可）

GTIOCA 入力が 0 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSCBRAH ビット（GTIOCA 値 High での GTIOCB 端子立ち上がり入力要因カウンタストップ許可）

GTIOCA 入力が 1 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSCBFAL ビット（GTIOCA 値 Low での GTIOCB 端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可）

GTIOCA 入力が 0 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSCBFAH ビット（GTIOCA 値 High での GTIOCB 端子立ち下がり入力要因カウンタストップ許可）

GTIOCA 入力が 1 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

PSELCm ビット（ELC_GPTm イベント要因カウンタストップ許可）（m = A ～ H）

ELC_GPTm イベント入力での GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

CSTOP ビット（ソフトウェア要因カウンタストップ許可）

GTSTP レジスタによる GTCNT カウンタストップの許可／禁止を選択します。

23.2.7　汎用 PWM タイマクリア要因選択レジスタ（GTCSR）

アドレス　GPT32EHm.GTCSR 4007 8018h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTCSR 4007 8018h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTCSR 4007 8018h + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	CCLR	—	—	—	—	—	—	—	CSELCH	CSELCG	CSELCF	CSELCE	CSELCD	CSELCC	CSELCB	CSELCA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CSCBFAH	CSCBFAL	CSCBRAH	CSCBRAL	CSCAFBH	CSCAFBL	CSCARBH	CSCARBL	CSGTRGDF	CSGTRGDR	CSGTRGCF	CSGTRGCR	CSGTRGBF	CSGTRGBR	CSGTRGAF	CSGTRGAR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CSGTRGAR	GTETRGA端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTETRGA入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTETRGA入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W
b1	CSGTRGAF	GTETRGA端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTETRGA入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTETRGA入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W
b2	CSGTRGBR	GTETRGB端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTETRGB入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTETRGB入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W
b3	CSGTRGBF	GTETRGB端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTETRGB入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTETRGB入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W
b4	CSGTRGCR	GTETRGC端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTETRGC入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTETRGC入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W
b5	CSGTRGCF	GTETRGC端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTETRGC入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTETRGC入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W
b6	CSGTRGDR	GTETRGD端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTETRGD入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTETRGD入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W
b7	CSGTRGDF	GTETRGD端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTETRGD入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTETRGD入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W
b8	CSCARBL	GTIOCB値LowでのGTIOCA端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W
b9	CSCARBH	GTIOCB値HighでのGTIOCA端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b10	CSCAFBL	GTIOCB値LowでのGTIOCA端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W
b11	CSCAFBH	GTIOCB値HighでのGTIOCA端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W
b12	CSCBRAL	GTIOCA値LowでのGTIOCB端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W
b13	CSCBRAH	GTIOCA値HighでのGTIOCB端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W
b14	CSCBFAL	GTIOCA値LowでのGTIOCB端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W
b15	CSCBFAH	GTIOCA値HighでのGTIOCB端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可	0：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを禁止 1：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタクリアを許可	R/W
b16	CSELCA	ELC_GPTAイベント要因カウンタクリア許可	0：ELC_GPTAイベント入力でのカウンタクリアを禁止 1：ELC_GPTAイベント入力でのカウンタクリアを許可	R/W
b17	CSELCB	ELC_GPTBイベント要因カウンタクリア許可	0：ELC_GPTBイベント入力でのカウンタクリアを禁止 1：ELC_GPTBイベント入力でのカウンタクリアを許可	R/W
b18	CSELCC	ELC_GPTCイベント要因カウンタクリア許可	0：ELC_GPTCイベント入力でのカウンタクリアを禁止 1：ELC_GPTCイベント入力でのカウンタクリアを許可	R/W
b19	CSELCD	ELC_GPTDイベント要因カウンタクリア許可	0：ELC_GPTDイベント入力でのカウンタクリアを禁止 1：ELC_GPTDイベント入力でのカウンタクリアを許可	R/W
b20	CSELCE	ELC_GPTEイベント要因カウンタクリア許可	0：ELC_GPTEイベント入力でのカウンタクリアを禁止 1：ELC_GPTEイベント入力でのカウンタクリアを許可	R/W
b21	CSELCF	ELC_GPTFイベント要因カウンタクリア許可	0：ELC_GPTFイベント入力でのカウンタクリアを禁止 1：ELC_GPTFイベント入力でのカウンタクリアを許可	R/W
b22	CSELCG	ELC_GPTGイベント要因カウンタクリア許可	0：ELC_GPTGイベント入力でのカウンタクリアを禁止 1：ELC_GPTGイベント入力でのカウンタクリアを許可	R/W
b23	CSELCH	ELC_GPTHイベント要因カウンタクリア許可	0：ELC_GPTHイベント入力でのカウンタクリアを禁止 1：ELC_GPTHイベント入力でのカウンタクリアを許可	R/W
b30-b24	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b31	CCLR	ソフトウェア要因カウンタクリア許可	0：GTCLRレジスタによるカウンタクリアを禁止 1：GTCLRレジスタによるカウンタクリアを許可	R/W

GTCSR レジスタは GTCNT カウンタのクリア要因を設定するレジスタです。

CSGTRGAR ビット（GTETRGA 端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可）

GTETRGA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSGTRGAF ビット（GTETRGA 端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可）

GTETRGA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSGTRGBR ビット（GTETRGB 端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可）

GTETRGB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSGTRGBF ビット（GTETRGB 端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可）

GTETRGB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSGTRGCR ビット（GTETRGC 端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可）

GTETRGC 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSGTRGCF ビット（GTETRGC 端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可）

GTETRGC 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSGTRGDR ビット（GTETRGD 端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可）

GTETRGD 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSGTRGDF ビット（GTETRGD 端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可）

GTETRGD 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSCARBL ビット（GTIOCB 値 Low での GTIOCA 端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可）

GTIOCB 入力が 0 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSCARBH ビット（GTIOCB 値 High での GTIOCA 端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可）

GTIOCB 入力が 1 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSCAFBL ビット（GTIOCB 値 Low での GTIOCA 端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可）

GTIOCB 入力が 0 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSCAFBH ビット（GTIOCB 値 High での GTIOCA 端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可）

GTIOCB 入力が 1 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSCBRAL ビット（GTIOCA 値 Low での GTIOCB 端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可）

GTIOCA 入力が 0 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSCBRAH ビット（GTIOCA 値 High での GTIOCB 端子立ち上がり入力要因カウンタクリア許可）

GTIOCA 入力が 1 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSCBFAL ビット（GTIOCA 値 Low での GTIOCB 端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可）

GTIOCA 入力が 0 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSCBFAH ビット（GTIOCA 値 High での GTIOCB 端子立ち下がり入力要因カウンタクリア許可）

GTIOCA 入力が 1 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CSELCm ビット（ELC_GPTm イベント要因カウンタクリア許可）（m = A ～ H）

ELC_GPTm イベント入力での GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

CCLR ビット（ソフトウェア要因カウンタクリア許可）

GTCLR レジスタによる GTCNT カウンタクリアの許可／禁止を選択します。

23.2.8　汎用 PWM タイマアップカウント要因選択レジスタ（GTUPSR）

アドレス　GPT32EHm.GTUPSR 4007 801Ch + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTUPSR 4007 801Ch + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTUPSR 4007 801Ch + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	USELCH	USELCG	USELCF	USELCE	USELCD	USELCC	USELCB	USELCA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	USCBFAH	USCBFAL	USCBRAH	USCBRAL	USCAFBH	USCAFBL	USCARBH	USCARBL	USGTRGDF	USGTRGDR	USGTRGCF	USGTRGCR	USGTRGBF	USGTRGBR	USGTRGAF	USGTRGAR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	USGTRGAR	GTETRGA端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTETRGA入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTETRGA入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W
b1	USGTRGAF	GTETRGA端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTETRGA入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTETRGA入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W
b2	USGTRGBR	GTETRGB端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTETRGB入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTETRGB入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W
b3	USGTRGBF	GTETRGB端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTETRGB入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTETRGB入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W
b4	USGTRGCR	GTETRGC端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTETRGC入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTETRGC入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W
b5	USGTRGCF	GTETRGC端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTETRGC入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTETRGC入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W
b6	USGTRGDR	GTETRGD端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTETRGD入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTETRGD入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W
b7	USGTRGDF	GTETRGD端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTETRGD入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTETRGD入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W
b8	USCARBL	GTIOCB値LowでのGTIOCA端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W
b9	USCARBH	GTIOCB値HighでのGTIOCA端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b10	USCAFBL	GTIOCB値LowでのGTIOCA端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W
b11	USCAFBH	GTIOCB値HighでのGTIOCA端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W
b12	USCBRAL	GTIOCA値LowでのGTIOCB端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W
b13	USCBRAH	GTIOCA値HighでのGTIOCB端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W
b14	USCBFAL	GTIOCA値LowでのGTIOCB端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W
b15	USCBFAH	GTIOCA値HighでのGTIOCB端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可	0：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを禁止 1：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントアップを許可	R/W
b16	USELCA	ELC_GPTAイベント要因カウンタカウントアップ許可	0：ELC_GPTAイベント入力でのカウンタカウントアップを禁止 1：ELC_GPTAイベント入力でのカウンタカウントアップを許可	R/W
b17	USELCB	ELC_GPTBイベント要因カウンタカウントアップ許可	0：ELC_GPTBイベント入力でのカウンタカウントアップを禁止 1：ELC_GPTBイベント入力でのカウンタカウントアップを許可	R/W
b18	USELCC	ELC_GPTCイベント要因カウンタカウントアップ許可	0：ELC_GPTCイベント入力でのカウンタカウントアップを禁止 1：ELC_GPTCイベント入力でのカウンタカウントアップを許可	R/W
b19	USELCD	ELC_GPTDイベント要因カウンタカウントアップ許可	0：ELC_GPTDイベント入力でのカウンタカウントアップを禁止 1：ELC_GPTDイベント入力でのカウンタカウントアップを許可	R/W
b20	USELCE	ELC_GPTEイベント要因カウンタカウントアップ許可	0：ELC_GPTEイベント入力でのカウンタカウントアップを禁止 1：ELC_GPTEイベント入力でのカウンタカウントアップを許可	R/W
b21	USELCF	ELC_GPTFイベント要因カウンタカウントアップ許可	0：ELC_GPTFイベント入力でのカウンタカウントアップを禁止 1：ELC_GPTFイベント入力でのカウンタカウントアップを許可	R/W
b22	USELCG	ELC_GPTGイベント要因カウンタカウントアップ許可	0：ELC_GPTGイベント入力でのカウンタカウントアップを禁止 1：ELC_GPTGイベント入力でのカウンタカウントアップを許可	R/W
b23	USELCH	ELC_GPTHイベント要因カウンタカウントアップ許可	0：ELC_GPTHイベント入力でのカウンタカウントアップを禁止 1：ELC_GPTHイベント入力でのカウンタカウントアップを許可	R/W
b31-b24	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTUPSR レジスタは GTCNT カウンタのカウントアップ要因を設定するレジスタです。

GTUPSR レジスタの少なくとも 1 つのビットを 1 にした場合、GTUPSR が 1 に設定した要因によって GTCNT カウンタがカウントアップされます。この場合、GTCR.TPCS には影響しません。

USGTRGAR ビット（GTETRGA 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTETRGA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USGTRGAF ビット（GTETRGA 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTETRGA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USGTRGBR ビット（GTETRGB 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTETRGB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USGTRGBF ビット（GTETRGB 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTETRGB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USGTRGCR ビット（GTETRGC 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTETRGC 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USGTRGCF ビット（GTETRGC 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTETRGC 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USGTRGDR ビット（GTETRGD 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTETRGD 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USGTRGDF ビット（GTETRGD 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTETRGD 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USCARBL ビット（GTIOCB 値 Low での GTIOCA 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTIOCB 入力が 0 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USCARBH ビット（GTIOCB 値 High での GTIOCA 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTIOCB 入力が 1 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USCAFBL ビット（GTIOCB 値 Low での GTIOCA 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTIOCB 入力が 0 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USCAFBH ビット（GTIOCB 値 High での GTIOCA 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTIOCB 入力が 1 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USCBRAL ビット（GTIOCA 値 Low での GTIOCB 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTIOCA 入力が 0 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USCBRAH ビット（GTIOCA 値 High での GTIOCB 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTIOCA 入力が 1 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USCBFAL ビット（GTIOCA 値 Low での GTIOCB 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTIOCA 入力が 0 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USCBFAH ビット（GTIOCA 値 High での GTIOCB 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントアップ許可）

GTIOCA 入力が 1 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

USELCm ビット（ELC_GPTm イベント要因カウンタカウントアップ許可）（m = A ～ H）

ELC_GPTm イベント入力での GTCNT カウンタカウントアップの許可／禁止を選択します。

23.2.9　汎用 PWM タイマダウンカウント要因選択レジスタ（GTDNSR）

アドレス　GPT32EHm.GTDNSR 4007 8020h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTDNSR 4007 8020h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTDNSR 4007 8020h + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	DSELCH	DSELCG	DSELCF	DSELCE	DSELCD	DSELCC	DSELCB	DSELCA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DSCBFAH	DSCBFAL	DSCBRAH	DSCBRAL	DSCAFBH	DSCAFBL	DSCARBH	DSCARBL	DSGTRGDF	DSGTRGDR	DSGTRGCF	DSGTRGCR	DSGTRGBF	DSGTRGBR	DSGTRGAF	DSGTRGAR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DSGTRGAR	GTETRGA端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTETRGA入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTETRGA入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b1	DSGTRGAF	GTETRGA端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTETRGA入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTETRGA入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b2	DSGTRGBR	GTETRGB端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTETRGB入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTETRGB入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b3	DSGTRGBF	GTETRGB端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTETRGB入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTETRGB入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b4	DSGTRGCR	GTETRGC端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTETRGC入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTETRGC入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b5	DSGTRGCF	GTETRGC端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTETRGC入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTETRGC入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b6	DSGTRGDR	GTETRGD端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTETRGD入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTETRGD入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b7	DSGTRGDF	GTETRGD端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTETRGD入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTETRGD入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b8	DSCARBL	GTIOCB値LowでのGTIOCA端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b9	DSCARBH	GTIOCB値HighでのGTIOCA端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b10	DSCAFBL	GTIOCB値LowでのGTIOCA端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b11	DSCAFBH	GTIOCB値HighでのGTIOCA端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b12	DSCBRAL	GTIOCA値LowでのGTIOCB端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b13	DSCBRAH	GTIOCA値HighでのGTIOCB端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b14	DSCBFAL	GTIOCA値LowでのGTIOCB端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b15	DSCBFAH	GTIOCA値HighでのGTIOCB端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可	0：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを禁止 1：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b16	DSELCA	ELC_GPTAイベント要因カウンタカウントダウン許可	0：ELC_GPTAイベント入力でのカウンタカウントダウンを禁止 1：ELC_GPTAイベント入力でのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b17	DSELCB	ELC_GPTBイベント要因カウンタカウントダウン許可	0：ELC_GPTBイベント入力でのカウンタカウントダウンを禁止 1：ELC_GPTBイベント入力でのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b18	DSELCC	ELC_GPTCイベント要因カウンタカウントダウン許可	0：ELC_GPTCイベント入力でのカウンタカウントダウンを禁止 1：ELC_GPTCイベント入力でのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b19	DSELCD	ELC_GPTDイベント要因カウンタカウントダウン許可	0：ELC_GPTDイベント入力でのカウンタカウントダウンを禁止 1：ELC_GPTDイベント入力でのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b20	DSELCE	ELC_GPTEイベント要因カウンタカウントダウン許可	0：ELC_GPTEイベント入力でのカウンタカウントダウンを禁止 1：ELC_GPTEイベント入力でのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b21	DSELCF	ELC_GPTFイベント要因カウンタカウントダウン許可	0：ELC_GPTFイベント入力でのカウンタカウントダウンを禁止 1：ELC_GPTFイベント入力でのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b22	DSELCG	ELC_GPTGイベント要因カウンタカウントダウン許可	0：ELC_GPTGイベント入力でのカウンタカウントダウンを禁止 1：ELC_GPTGイベント入力でのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b23	DSELCH	ELC_GPTHイベント要因カウンタカウントダウン許可	0：ELC_GPTHイベント入力でのカウンタカウントダウンを禁止 1：ELC_GPTHイベント入力でのカウンタカウントダウンを許可	R/W
b31-b24	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTDNSR レジスタは GTCNT カウンタのカウントダウン要因を設定するレジスタです。

GTDNSR レジスタの少なくとも 1 つのビットを 1 にした場合、本レジスタが 1 に設定した要因によって GTCNT カウンタがカウントダウンされます。この場合、GTCR.TPCS には影響しません。

DSGTRGAR ビット（GTETRGA 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTETRGA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSGTRGAF ビット（GTETRGA 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTETRGA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSGTRGBR ビット（GTETRGB 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTETRGB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSGTRGBF ビット（GTETRGB 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTETRGB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSGTRGCR ビット（GTETRGC 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTETRGC 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSGTRGCF ビット（GTETRGC 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTETRGC 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSGTRGDR ビット（GTETRGD 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTETRGD 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSGTRGDF ビット（GTETRGD 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTETRGD 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSCARBL ビット（GTIOCB 値 Low での GTIOCA 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTIOCB 入力が 0 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSCARBH ビット（GTIOCB 値 High での GTIOCA 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTIOCB 入力が 1 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSCAFBL ビット（GTIOCB 値 Low での GTIOCA 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTIOCB 入力が 0 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSCAFBH ビット（GTIOCB 値 High での GTIOCA 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTIOCB 入力が 1 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSCBRAL ビット（GTIOCA 値 Low での GTIOCB 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTIOCA 入力が 0 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSCBRAH ビット（GTIOCA 値 High での GTIOCB 端子立ち上がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTIOCA 入力が 1 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSCBFAL ビット（GTIOCA 値 Low での GTIOCB 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTIOCA 入力が 0 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSCBFAH ビット（GTIOCA 値 High での GTIOCB 端子立ち下がり入力要因カウンタカウントダウン許可）

GTIOCA 入力が 1 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

DSELCm ビット（ELC_GPTm イベント要因カウンタカウントダウン許可）（m = A ～ H）

ELC_GPTm イベント入力での GTCNT カウンタカウントダウンの許可／禁止を選択します。

23.2.10　汎用 PWM タイマインプットキャプチャ要因選択レジスタ A（GTICASR）

アドレス　GPT32EHm.GTICASR 4007 8024h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTICASR 4007 8024h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTICASR 4007 8024h + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	ASELCH	ASELCG	ASELCF	ASELCE	ASELCD	ASELCC	ASELCB	ASELCA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ASCBFAH	ASCBFAL	ASCBRAH	ASCBRAL	ASCAFBH	ASCAFBL	ASCARBH	ASCARBL	ASGTRGDF	ASGTRGDR	ASGTRGCF	ASGTRGCR	ASGTRGBF	ASGTRGBR	ASGTRGAF	ASGTRGAR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ASGTRGAR	GTETRGA端子立ち上がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTETRGA入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGA入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b1	ASGTRGAF	GTETRGA端子立ち下がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTETRGA入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGA入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b2	ASGTRGBR	GTETRGB端子立ち上がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTETRGB入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGB入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b3	ASGTRGBF	GTETRGB端子立ち下がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTETRGB入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGB入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b4	ASGTRGCR	GTETRGC端子立ち上がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTETRGC入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGC入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b5	ASGTRGCF	GTETRGC端子立ち下がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTETRGC入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGC入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b6	ASGTRGDR	GTETRGD端子立ち上がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTETRGD入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGD入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b7	ASGTRGDF	GTETRGD端子立ち下がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTETRGD入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGD入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b8	ASCARBL	GTIOCB値LowでのGTIOCA端子立ち上がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b9	ASCARBH	GTIOCB値HighでのGTIOCA端子立ち上がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b10	ASCAFBL	GTIOCB値LowでのGTIOCA端子立ち下がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b11	ASCAFBH	GTIOCB値HighでのGTIOCA端子立ち下がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b12	ASCBRAL	GTIOCA値LowでのGTIOCB端子立ち上がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b13	ASCBRAH	GTIOCA値HighでのGTIOCB端子立ち上がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b14	ASCBFAL	GTIOCA値LowでのGTIOCB端子立ち下がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b15	ASCBFAH	GTIOCA値HighでのGTIOCB端子立ち下がり入力要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b16	ASELCA	ELC_GPTAイベント要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTAイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTAイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b17	ASELCB	ELC_GPTBイベント要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTBイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTBイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b18	ASELCC	ELC_GPTCイベント要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTCイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTCイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b19	ASELCD	ELC_GPTDイベント要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTDイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTDイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b20	ASELCE	ELC_GPTEイベント要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTEイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTEイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b21	ASELCF	ELC_GPTFイベント要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTFイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTFイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b22	ASELCG	ELC_GPTGイベント要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTGイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTGイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b23	ASELCH	ELC_GPTHイベント要因GTCCRAインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTHイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTHイベント入力でのGTCCRAインプットキャプチャを許可	R/W
b31-b24	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTICASR レジスタは GTCCRA のインプットキャプチャ要因を設定します。

ASGTRGAR ビット（GTETRGA 端子立ち上がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTETRGA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASGTRGAF ビット（GTETRGA 端子立ち下がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTETRGA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASGTRGBR ビット（GTETRGB 端子立ち上がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTETRGB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASGTRGBF ビット（GTETRGB 端子立ち下がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTETRGB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASGTRGCR ビット（GTETRGC 端子立ち上がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTETRGC 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASGTRGCF ビット（GTETRGC 端子立ち下がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTETRGC 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASGTRGDR ビット（GTETRGD 端子立ち上がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTETRGD 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASGTRGDF ビット（GTETRGD 端子立ち下がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTETRGD 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASCARBL ビット（GTIOCB 値 Low での GTIOCA 端子立ち上がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTIOCB 入力が 0 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASCARBH ビット（GTIOCB 値 High での GTIOCA 端子立ち上がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTIOCB 入力が 1 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASCAFBL ビット（GTIOCB 値 Low での GTIOCA 端子立ち下がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTIOCB 入力が 0 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASCAFBH ビット（GTIOCB 値 High での GTIOCA 端子立ち下がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTIOCB 入力が 1 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASCBRAL ビット（GTIOCA 値 Low での GTIOCB 端子立ち上がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTIOCA 入力が 0 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASCBRAH ビット（GTIOCA 値 High での GTIOCB 端子立ち上がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTIOCA 入力が 1 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASCBFAL ビット（GTIOCA 値 Low での GTIOCB 端子立ち下がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTIOCA 入力が 0 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASCBFAH ビット（GTIOCA 値 High での GTIOCB 端子立ち下がり入力要因 GTCCRA インプットキャプチャ許可）

GTIOCA 入力が 1 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

ASELCm ビット（ELC_GPTm イベント要因カウンタ GTCCRA インプットキャプチャ許可）（m = A ～ H）

ELC_GPTm イベント入力での GTCCRA インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

23.2.11　汎用 PWM タイマインプットキャプチャ要因選択レジスタ B（GTICBSR）

アドレス　GPT32EHm.GTICBSR 4007 8028h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTICBSR 4007 8028h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTICBSR 4007 8028h + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	BSELCH	BSELCG	BSELCF	BSELCE	BSELCD	BSELCC	BSELCB	BSELCA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	BSCBFAH	BSCBFAL	BSCBRAH	BSCBRAL	BSCAFBH	BSCAFBL	BSCARBH	BSCARBL	BSGTRGDF	BSGTRGDR	BSGTRGCF	BSGTRGCR	BSGTRGBF	BSGTRGBR	BSGTRGAF	BSGTRGAR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	BSGTRGAR	GTETRGA端子立ち上がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTETRGA入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGA入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b1	BSGTRGAF	GTETRGA端子立ち下がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTETRGA入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGA入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b2	BSGTRGBR	GTETRGB端子立ち上がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTETRGB入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGB入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b3	BSGTRGBF	GTETRGB端子立ち下がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTETRGB入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGB入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b4	BSGTRGCR	GTETRGC端子立ち上がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTETRGC入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGC入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b5	BSGTRGCF	GTETRGC端子立ち下がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTETRGC入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGC入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b6	BSGTRGDR	GTETRGD端子立ち上がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTETRGD入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGD入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b7	BSGTRGDF	GTETRGD端子立ち下がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTETRGD入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTETRGD入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b8	BSCARBL	GTIOCB値LowでのGTIOCA端子立ち上がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b9	BSCARBH	GTIOCB値HighでのGTIOCA端子立ち上がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b10	BSCAFBL	GTIOCB値LowでのGTIOCA端子立ち下がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCB入力が0のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b11	BSCAFBH	GTIOCB値HighでのGTIOCA端子立ち下がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCB入力が1のとき、GTIOCA入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b12	BSCBRAL	GTIOCA値LowでのGTIOCB端子立ち上がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b13	BSCBRAH	GTIOCA値HighでのGTIOCB端子立ち上がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち上がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b14	BSCBFAL	GTIOCA値LowでのGTIOCB端子立ち下がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCA入力が0のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b15	BSCBFAH	GTIOCA値HighでのGTIOCB端子立ち下がり入力要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：GTIOCA入力が1のとき、GTIOCB入力の立ち下がりエッジでのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b16	BSELCA	ELC_GPTAイベント要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTAイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTAイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b17	BSELCB	ELC_GPTBイベント要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTBイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTBイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b18	BSELCC	ELC_GPTCイベント要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTCイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTCイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b19	BSELCD	ELC_GPTDイベント要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTDイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTDイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b20	BSELCE	ELC_GPTEイベント要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTEイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTEイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b21	BSELCF	ELC_GPTFイベント要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTFイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTFイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b22	BSELCG	ELC_GPTGイベント要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTGイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTGイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b23	BSELCH	ELC_GPTHイベント要因GTCCRBインプットキャプチャ許可	0：ELC_GPTHイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを禁止 1：ELC_GPTHイベント入力でのGTCCRBインプットキャプチャを許可	R/W
b31-b24	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTICBSR レジスタは GTCCRB のインプットキャプチャ要因を設定します。

BSGTRGAR ビット（GTETRGA 端子立ち上がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTETRGA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSGTRGAF ビット（GTETRGA 端子立ち下がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTETRGA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSGTRGBR ビット（GTETRGB 端子立ち上がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTETRGB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSGTRGBF ビット（GTETRGB 端子立ち下がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTETRGB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSGTRGCR ビット（GTETRGC 端子立ち上がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTETRGC 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSGTRGCF ビット（GTETRGC 端子立ち下がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTETRGC 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSGTRGDR ビット（GTETRGD 端子立ち上がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTETRGD 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSGTRGDF ビット（GTETRGD 端子立ち下がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTETRGD 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSCARBL ビット（GTIOCB 値 Low での GTIOCA 端子立ち上がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTIOCB 入力が 0 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSCARBH ビット（GTIOCB 値 High での GTIOCA 端子立ち上がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTIOCB 入力が 1 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSCAFBL ビット（GTIOCB 値 Low での GTIOCA 端子立ち下がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTIOCB 入力が 0 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSCAFBH ビット（GTIOCB 値 High での GTIOCA 端子立ち下がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTIOCB 入力が 1 のとき、GTIOCA 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSCBRAL ビット（GTIOCA 値 Low での GTIOCB 端子立ち上がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTIOCA 入力が 0 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSCBRAH ビット（GTIOCA 値 High での GTIOCB 端子立ち上がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTIOCA 入力が 1 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち上がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSCBFAL ビット（GTIOCA 値 Low での GTIOCB 端子立ち下がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTIOCA 入力が 0 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSCBFAH ビット（GTIOCA 値 High での GTIOCB 端子立ち下がり入力要因 GTCCRB インプットキャプチャ許可）

GTIOCA 入力が 1 のとき、GTIOCB 端子入力の立ち下がりエッジでの GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

BSELCm ビット（ELC_GPTm イベント要因カウンタ GTCCRB インプットキャプチャ許可）（m = A ～ H）

ELC_GPTm イベント入力での GTCCRB インプットキャプチャの許可／禁止を選択します。

23.2.12　汎用 PWM タイマコントロールレジスタ（GTCR）

アドレス　GPT32EHm.GTCR 4007 802Ch + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTCR 4007 802Ch + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTCR 4007 802Ch + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	TPCS[2:0]			—	—	—	—	—	MD[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CST
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CST	カウントスタート	0：カウント動作を停止 1：カウント動作を実行	R/W
b15-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b18-b16	MD[2:0]	モード選択	b18 b17 b16 0 0 0：のこぎり波PWMモード（シングル／ダブルバッファ可） 0 0 1：のこぎり波ワンショットパルスモード（バッファ動作固定） 0 1 0：設定禁止 0 1 1：設定禁止 1 0 0：三角波PWMモード1（谷32ビット転送）（シングル／ダブルバッファ可） 1 0 1：三角波PWMモード2（山／谷32ビット転送）（シングル／ダブルバッファ可） 1 1 0：三角波PWMモード3（谷64ビット転送）（バッファ動作固定） 1 1 1：設定禁止	R/W
b23-b19	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b26-b24	TPCS[2:0]	タイマプリスケーラ選択	b26 b25 b24 0 0 0：PCLKD/1 0 0 1：PCLKD/4 0 1 0：PCLKD/16 0 1 1：PCLKD/64 1 0 0：PCLKD/256 1 0 1：PCLKD/1024	R/W
b31-b27	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTCR レジスタは、GTCNT を制御します。

CST ビット（カウントスタート）

GTCNT カウンタのスタート／ストップを制御します。

［1 になる条件］

- GTSSR.CSTRT ビットが 1 の状態で、GTSTR レジスタの値（チャネル番号はビット番号に対応）を 1 にしたとき
- ELC イベント入力、またはカウンタスタート要因により GTSSR レジスタで許可した GTIOCA/GTIOCB/GTETRGn ポート入力イベントが発生したとき
- ソフトウェアで直接 1 を書き込んだとき

［0 になる条件］

- GTPSR.CSTOP ビットが 1 の状態で、GTSTP レジスタの値（チャネル番号はビット番号に対応）を 1 にしたとき

- ELC イベント入力、またはカウンタストップ要因により GTPSR レジスタで許可した GTIOCA/GTIOCB/GTETRGn ポート入力イベントが発生したとき
- ソフトウェアで直接 0 を書き込んだとき

MD[2:0] ビット（モード選択）

GPT の動作モードを選択します。MD[2:0] ビットの設定は、GTCNT カウンタの動作が停止しているときに行ってください。

TPCS[2:0] ビット（タイマプリスケーラ選択）

GTCNT カウンタのクロックを選択します。チャネルごとに個別にクロックプリスケーラの選択が可能です。TPCS[2:0] ビットの設定は、GTCNT カウンタの動作が停止しているときに行ってください。

23.2.13　汎用 PWM タイマカウント方向、デューティ設定レジスタ（GTUDDTYC）

アドレス　GPT32EHm.GTUDDTYC 4007 8030h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTUDDTYC 4007 8030h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTUDDTYC 4007 8030h + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	OBDTYR	OBDTYF	OBDTY[1:0]		—	—	—	—	OADTYR	OADTYF	OADTY[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	UDF	UD
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	UD	カウント方向設定	0：GTCNTがカウントダウン 1：GTCNTがカウントアップ	R/W
b1	UDF	カウント方向強制設定	0：強制設定しない 1：強制設定する	R/W
b15-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b17-b16	OADTY[1:0]	GTIOCA出力デューティ設定	b17 b16 0　x：GTIOCA端子のデューティはコンペアマッチに依存 1　0：GTIOCA端子のデューティ = 0% 1　1：GTIOCA端子のデューティ = 100%	R/W
b18	OADTYF	GTIOCA出力デューティ強制設定	0：強制設定しない 1：強制設定する	R/W
b19	OADTYR	0%/100%デューティ設定解除後のGTIOCA出力値選択	0：0%/100%デューティ設定解除後に、0%/100%デューティに設定された出力値をGTIOA[3:2]機能に適用 1：0%/100%デューティ設定解除後に、マスクされたコンペアマッチ出力値をGTIOA[3:2]機能に適用	R/W
b23-b20	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b25-b24	OBDTY[1:0]	GTIOCB出力デューティ設定	b25 b24 0　x：GTIOCB端子のデューティはコンペアマッチに依存 1　0：GTIOCB端子のデューティ = 0% 1　1：GTIOCB端子のデューティ = 100%	R/W
b26	OBDTYF	GTIOCB出力デューティ強制設定	0：強制設定しない 1：強制設定する	R/W
b27	OBDTYR	0%/100%デューティ設定解除後のGTIOCB出力値選択	0：0%/100%デューティ設定解除後に、0%/100%デューティに設定された出力値をGTIOB[3:2]機能に適用 1：0%/100%デューティ設定解除後に、マスクされたコンペアマッチ出力値をGTIOB[3:2]機能に適用	R/W
b31-b28	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

x：Don't care

GTUDDTYC レジスタは、GTCNT カウンタのカウント方向（アップ／ダウン）および GTIOCA/GTIOCB 端子出力のデューティを設定します。

【カウント方向】

- のこぎり波モードの場合

アップカウント中に UD ビットを 0 にした場合、オーバーフロー時に（GTCNT カウンタ値が GTPR 値になった後、カウントクロックに同期したタイミングで）カウント方向が切り替わります。ダウンカウント中に UD ビットを 1 にした場合、アンダーフロー時に（GTCNT カウンタ値が 0 になった後、カウントクロックに同期したタイミングで）カウント方向が切り替わります。

カウントストップ中に UDF ビットが 0 の状態で UD 値を 1 から 0 に変更した場合、カウント動作はアップカウントとなり、オーバーフロー時に（GTCNT カウンタ値が GTPR 値になった後、カウントクロックに

同期したタイミングで）カウント方向が切り替わります。カウントストップ中にUDFビットが0の状態でUD値を0から1に変更した場合、カウント動作はダウンカウントとなり、アンダーフロー時に（GTCNTカウンタ値が0になった後、カウントクロックに同期したタイミングで）カウント方向が切り替わります。

カウントストップ中にUDFビットを1にすると、UDビットの値がカウントスタート時のカウント方向に反映されます。

【カウント方向】

- 三角波モードの場合

カウント中にUD値を変更しても、カウント方向は切り替わりません。カウントストップ中にUDFビットが0の状態でUDビットの値を変更しても、カウントスタート時のカウント方向には反映されません。

カウントストップ中にUDFビットを1にすると、UDビットの値がカウントスタート時のカウント方向に反映されます。

UDビット（カウント方向設定）

GTCNTカウンタのカウント方向（アップカウントまたはダウンカウント）を設定します。

UDFビット（カウント方向強制設定）

GTCNTカウンタ動作スタート時のカウント方向を強制的にUDビットの値に設定します。カウンタ動作中の書き込みは、0としてください。カウントストップ中にUDFに1を書いた場合、カウントスタートまでにUDFを0に戻してください。

【出力デューティ】

- のこぎり波モードの場合

アップカウント動作中にOADTY/OBDTY値を変更すると、オーバーフロー時にデューティが反映されます（GTCNT = GTPR）。ダウンカウント動作中にOADTY/OBDTY値を変更すると、アンダーフロー時にデューティが反映されます（GTCNT = 0）。

カウントストップ中に、OADTYF/OBDTYFビットが0の状態でOADTY/OBDTY値を変更しても、カウンタ動作開始時に出力デューティは反映されません。カウント方向がアップカウントの場合、オーバーフロー時（GTCNT = GTPR）に出力デューティが反映されます。カウント方向がダウンカウントの場合、アンダーフロー時（GTCNT = 0）に出力デューティが反映されます。

カウントストップ中に、OADTYF/OBDTYFビットが1の状態でOADTY/OBDTY値を変更しても、カウンタ動作開始時に出力デューティが反映されます。

【出力デューティ】

- 三角波モードの場合

カウント動作中にOADTY/OBDTY値を変更すると、アンダーフロー時にデューティが反映されます。カウントストップ中に、OADTYF/OBDTYFビットが0の状態でOADTY/OBDTY値を変更しても、カウンタ動作開始時に出力デューティは反映されません。アンダーフロー時には出力デューティが反映されます。

カウントストップ中に、OADTYF/OBDTYFビットが1の状態でOADTY/OBDTY値を変更しても、カウンタ動作開始時に出力デューティが反映されます。

OmDTY[1:0]ビット（GTIOCm出力デューティ設定）（m = A, B）

GTIOCm端子の出力デューティを0%、100%、またはコンペアマッチ制御に設定します。

OmDTYFビット（GTIOCm出力デューティ強制設定）（m = A, B）

出力デューティサイクルをOmDTYの設定値に強制的に設定します。カウンタ動作時には、本ビットを0として使用してください。カウントストップ中にOmDTYFビットを1にした場合、カウンタスタート後、最初の周期が終わるまでにOmDTYFビットを0に戻してください。

OmDTYR ビット（0%/100% デューティ設定解除後の GTIOCm 出力値選択）（m = A, B）

制御が 0%/100% デューティ設定から GTIOCm 端子および GTIOR レジスタのコンペアマッチに変更された場合、周期の終わりで出力保持／トグル出力の対象となる値を選択します。GTIOm[3:2] ビットが 00b（周期の終わりで出力保持）に、または GTIOR.GTIOm[3:2] ビットが 11b（周期の終わりでトグル出力）に設定されます。

0%/100% デューティ動作実行中、コンペアマッチ動作は、GPT32 内部で継続します。OmDTYR ビットを 1 にすると、GTIOCm 端子は、コンペアマッチ動作中の周期の終わりで GTIOR.GTIOm[3:2] ビットで選択した出力状態になります。

23.2.14　汎用 PWM タイマ I/O コントロールレジスタ（GTIOR）

アドレス　GPT32EHm.GTIOR 4007 8034h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTIOR 4007 8034h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTIOR 4007 8034h + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	NFCSB[1:0]		NFBEN	—	—	OBDF[1:0]		OBE	OBHLD	OBDFLT	—	GTIOB[4:0]				
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	NFCSA[1:0]		NFAEN	—	—	OADF[1:0]		OAE	OAHLD	OADFLT	—	GTIOA[4:0]				
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	GTIOA[4:0]	GTIOCA端子機能選択	表 23.5を参照してください。	R/W
b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6	OADFLT	カウントストップ時のGTIOCA端子出力値設定	0：カウントストップ時にGTIOCA端子はLowを出力 1：カウントストップ時にGTIOCA端子はHighを出力	R/W
b7	OAHLD	カウントスタート／ストップ時のGTIOCA端子出力設定	0：カウントスタート／ストップ時のGTIOCA端子の出力レベルは、レジスタ設定値に従う 1：カウントスタート／ストップ時のGTIOCA端子の出力レベルを保持する	R/W
b8	OAE	GTIOCA端子出力許可	0：出力禁止 1：出力許可	R/W
b10-b9	OADF[1:0]	GTIOCA端子禁止値設定	b10 b9 0 0：下記要因を設定しない 0 1：出力ネゲート制御時にGTIOCA端子をHi-Zにする 1 0：出力ネゲート制御時にGTIOCA端子を0にする 1 1：出力ネゲート制御時にGTIOCA端子を1にする	R/W
b12-b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b13	NFAEN	ノイズフィルタAを許可	0：GTIOCA端子のノイズフィルタを停止 1：GTIOCA端子のノイズフィルタを許可	R/W
b15-b14	NFCSA[1:0]	ノイズフィルタAサンプリングクロック選択	b15 b14 0 0：PCLKD/1 0 1：PCLKD/4 1 0：PCLKD/16 1 1：PCLKD/64	R/W
b20-b16	GTIOB[4:0]	GTIOCB端子機能選択	表 23.5を参照してください。	R/W
b21	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b22	OBDFLT	カウントストップ時のGTIOCB端子出力値設定	0：カウントストップ時にGTIOCB端子はLowを出力 1：カウントストップ時にGTIOCB端子はHighを出力	R/W
b23	OBHLD	カウントスタート／ストップ時のGTIOCB端子出力設定	0：カウントスタート／ストップ時のGTIOCB端子の出力レベルは、レジスタ設定値に従う 1：カウントスタート／ストップ時のGTIOCB端子の出力レベルを保持する	R/W
b24	OBE	GTIOCB端子出力許可	0：出力禁止 1：出力許可	R/W
b26-b25	OBDF[1:0]	GTIOCB端子禁止値設定	b26 b25 0 0：下記要因を設定しない 0 1：出力ネゲート制御時にGTIOCB端子をHi-Zにする 1 0：出力ネゲート制御時にGTIOCB端子を0にする 1 1：出力ネゲート制御時にGTIOCB端子を1にする	R/W
b28-b27	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b29	NFBEN	ノイズフィルタBを許可	0：GTIOCB端子のノイズフィルタを停止 1：GTIOCB端子のノイズフィルタを許可	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b30	NFCSB[1:0]	ノイズフィルタ B サンプリングクロック選択	b31 b30 0 0 : PCLKD/1 0 1 : PCLKD/4 1 0 : PCLKD/16 1 1 : PCLKD/64	R/W

GTIOR レジスタは、GTIOCA 端子および GTIOCB 端子の機能を設定します。

GTIOA[4:0] ビット（GTIOCA 端子機能選択）

GTIOCA 端子の機能を選択します。詳細は、表 23.5 を参照してください。

OADFLT ビット（カウントストップ時の GTIOCA 端子出力値設定）

カウントストップ時に、GTIOCA 端子が Low または High のいずれを出力するかを選択します。

OAHLD ビット（カウントスタート／ストップ時の GTIOCA 端子出力設定）

GTIOCA 端子の出力レベルを保持するか、カウントスタート／ストップ時にレベルがレジスタ設定値に従うかを設定します。

OAHLD ビットを 0 にした場合

- カウントスタート時に、GTIOA[4:0] ビットのビット [4] で指定した値を出力
- カウントストップ時に、OADFLT ビットで指定した値を出力
- カウントストップ中に OADFLT ビットを書き換えた場合、新規の値はただちに出力に反映される

OAHLD ビットを 1 にした場合

- カウントスタート／ストップ時に出力が保持される

OAE ビット（GTIOCA 端子出力許可）

GTIOCA 端子出力する／しないを選択します。

GTCCRA レジスタをインプットキャプチャレジスタとして使用する場合（GTICASR レジスタの少なくとも 1 つのビットを 1 にした場合）、OAE ビットの設定にかかわらず GTIOCnA 端子出力を行いません。

OADF[1:0] ビット（GTIOCA 端子禁止値設定）

OADF[1:0] ビットは POEG からの出力停止要求によって GTIOCnA 端子から出力する値を選択します。

NFAEN ビット（ノイズフィルタ A を許可）

GTIOCA 端子からの入力に対してノイズフィルタの許可／停止を設定します。本ビットを切り替えたとき、意図しない内部エッジが発生することがあるため、GTIOR レジスタの該当端子機能をアウトプットコンペア機能に設定した状態で、本ビットを切り替えてください。

NFCSA[1:0] ビット（ノイズフィルタ A サンプリングクロック選択）

GTIOCA 端子のノイズフィルタのサンプリング周期を設定します。これらのビットを設定する場合、選択したサンプリング周期の 2 周期分待った後、インプットキャプチャ機能を設定してください。

GTIOB[4:0] ビット（GTIOCB 端子機能選択）

GTIOCB 端子の機能を選択します。詳細は、表 23.5 を参照してください。

OBDFLT ビット（カウントストップ時の GTIOCB 端子出力値設定）

カウントストップ時に、GTIOCB 端子が High または Low のいずれを出力するかを設定します。

OBHLD ビット（カウントスタート／ストップ時の GTIOCB 端子出力設定）

GTIOCB 端子の出力レベルを保持するか、カウントスタート／ストップ時のレベルはレジスタ設定値に従うかを設定します。

OBHLD ビットを 0 にした場合

- カウントスタート時に、GTIOB[4:0] ビットのビット [4] で指定した値を出力
- カウントストップ時に、OBDFLT ビットで指定した値を出力
- カウントストップ中に OBDFLT ビットを書き換えた場合、新規の値はただちに出力に反映される

OBHLD ビットを 1 にした場合

- カウントスタート／ストップ時に出力が保持される

OBE ビット（GTIOCB 端子出力許可）

GTIOCB 端子出力する／しないを選択します。

GTCCRB レジスタをインプットキャプチャレジスタとして使用する場合（GTICBSR レジスタの少なくとも 1 つのビットを 1 にした場合）、OBE ビットの設定にかかわらず GTIOCnB 端子出力を行いません。

OBDF[1:0] ビット（GTIOCB 端子禁止値設定）

OBDF[1:0] ビットは POEG からの出力停止要求によって GTIOCnB 端子から出力する値を選択します。

NFBEN ビット（ノイズフィルタ B を許可）

GTIOCB 端子の入力のノイズフィルタ機能の許可／停止を設定します。本ビットを切り替えたとき、意図しない内部エッジが発生することがあるため、GTIOR レジスタの該当端子機能をアウトプットコンペア機能に設定した状態で、本ビットを切り替えてください。

NFCSB[1:0] ビット（ノイズフィルタ B サンプリングクロック選択）

GTIOCB 端子のノイズフィルタのサンプリング周期を設定します。これらのビットを設定する場合、選択したサンプリング周期の 2 周期分待った後、インプットキャプチャ機能を設定してください。

表 23.5　GTIOA[4:0]ビットとGTIOB[4:0]ビットの設定値

GTIOA/GTIOB[4:0]ビット					機能		
b4	b3	b2	b1	b0	b4	b3-b2（注1）（注2）（注3）	b1-b0（注2）
0	0	0	0	0	初期出力Lowの設定	周期の終わりで出力保持	GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチで出力保持
0	0	0	0	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでLow出力
0	0	0	1	0			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでHigh出力
0	0	0	1	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでトグル出力
0	0	1	0	0		周期の終わりでLow出力	GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチで出力保持
0	0	1	0	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでLow出力
0	0	1	1	0			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0	0		周期の終わりでHigh出力	GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチで出力保持
0	1	0	0	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでLow出力
0	1	0	1	0			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでHigh出力
0	1	0	1	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでトグル出力
0	1	1	0	0		周期の終わりでトグル出力	GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチで出力保持
0	1	1	0	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでLow出力
0	1	1	1	0			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでトグル出力
1	0	0	0	0	初期出力Highの設定	周期の終わりで出力保持	GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチで出力保持
1	0	0	0	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでLow出力
1	0	0	1	0			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでHigh出力
1	0	0	1	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでトグル出力
1	0	1	0	0		周期の終わりでLow出力	GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチで出力保持
1	0	1	0	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでLow出力
1	0	1	1	0			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでHigh出力
1	0	1	1	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでトグル出力
1	1	0	0	0		周期の終わりでHigh出力	GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチで出力保持
1	1	0	0	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでLow出力
1	1	0	1	0			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでHigh出力
1	1	0	1	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでトグル出力
1	1	1	0	0		周期の終わりでトグル出力	GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチで出力保持
1	1	1	0	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでLow出力
1	1	1	1	0			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでHigh出力
1	1	1	1	1			GTCCRA/GTCCRBコンペアマッチでトグル出力

注 1.　周期の終わりとは、のこぎり波のときはオーバフロー（アップカウント動作時に GTCNT が GTPR から 0 になる）、アンダフロー（ダウンカウント動作時に GTCNT が 0 から GTPR になる）、GTCNT カウンタクリア、三角波のときは谷（GTCNT が 0 から 1 になる）を示します。

注 2.　コンペアマッチ動作時、周期の終わりと GTCCRA/GTCCRB コンペアマッチのタイミングが一致する場合、のこぎり波 PWM モードでは b3-b2 の設定が優先され、それ以外のモードでは b1-b0 の設定が優先されます。

注 3.　GTUPSR レジスタまたは GTDNSR レジスタの少なくとも 1 つのビットが 1 の場合のイベントカウント動作では、b3-b2 の設定値は無視されます。

23.2.15　汎用 PWM タイマ割り込み出力設定レジスタ（GTINTAD）

アドレス　GPT32EHm.GTINTAD 4007 8038h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTINTAD 4007 8038h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTINTAD 4007 8038h + 0100h × m (m = 8～12)

- GPT32EH, GPT32E

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	GRPABL	GRPABH	GRPDTE	—	—	GRP[1:0]		—	—	—	—	ADTRBDEN	ADTRBUEN	ADTRADEN	ADTRAUEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

- GPT32

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	GRPABL	GRPABH	—	—	—	GRP[1:0]		—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b16	ADTRAUEN	GTADTRAコンペアマッチ（アップカウント）A/D変換開始要求許可	0：A/D変換開始要求を禁止 1：A/D変換開始要求を許可	R/W
b17	ADTRADEN	GTADTRAコンペアマッチ（ダウンカウント）A/D変換開始要求許可	0：A/D変換開始要求を禁止 1：A/D変換開始要求を許可	R/W
b18	ADTRBUEN	GTADTRBコンペアマッチ（アップカウント）A/D変換開始要求許可	0：A/D変換開始要求を禁止 1：A/D変換開始要求を許可	R/W
b19	ADTRBDEN	GTADTRBコンペアマッチ（ダウンカウント）A/D変換開始要求許可	0：A/D変換開始要求を禁止 1：A/D変換開始要求を許可	R/W
b23-b20	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b25-b24	GRP[1:0]	出力禁止要因選択	b25 b24 0　0：グループA出力禁止要求 0　1：グループB出力禁止要求 1　0：グループC出力禁止要求 1　1：グループD出力禁止要求	R/W
b27-b26	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b28	GRPDTE	デッドタイムエラー出力禁止要求許可	0：デッドタイムエラー出力禁止要求を禁止 1：デッドタイムエラー出力禁止要求を許可	R/W
b29	GRPABH	同時出力レベルHigh禁止要求許可	0：同時出力レベルHigh禁止要求を禁止 1：同時出力レベルHigh禁止要求を許可	R/W
b30	GRPABL	同時出力レベルLow禁止要求許可	0：同時出力レベルLow禁止要求を禁止 1：同時出力レベルLow禁止要求を許可	R/W
b31	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTINTAD レジスタは、割り込み要求、A/D 変換開始要求、および出力禁止要求の許可／禁止を設定するレジスタです。

ADTRAUEN ビット（GTADTRA コンペアマッチ（アップカウント）A/D 変換開始要求許可）

GTCNT カウンタのアップカウント中に、GTADTRA コンペアマッチによって生成される A/D 変換開始要求を許可／禁止します。GPT32EH と GPT32E にのみ、本ビットがあります。GPT32 には、本ビットはありません。

ADTRADEN ビット（GTADTRA コンペアマッチ（ダウンカウント）A/D 変換開始要求許可）

GTCNT カウンタのダウンカウント中に、GTADTRA コンペアマッチによって生成される A/D 変換開始要求を許可／禁止します。GPT32EH と GPT32E にのみ、本ビットがあります。GPT32 には、本ビットはありません。

ADTRBUEN ビット（GTADTRB コンペアマッチ（アップカウント）A/D 変換開始要求許可）

GTCNT カウンタのアップカウント中に、GTADTRB コンペアマッチによって生成される A/D 変換開始要求を許可／禁止します。GPT32EH と GPT32E にのみ、本ビットがあります。GPT32 には、本ビットはありません。

ADTRBDEN ビット（GTADTRB コンペアマッチ（ダウンカウント）A/D 変換開始要求許可）

GTCNT カウンタのダウンカウント中に、GTADTRB コンペアマッチによって生成される A/D 変換開始要求を許可／禁止します。GPT32EH と GPT32E にのみ、本ビットがあります。GPT32 には、本ビットはありません。

GRP[1:0] ビット（出力禁止要因選択）

GTIOCA 端子または GTIOCB 端子の出力禁止要因を選択します。

POEG への出力禁止要求は、出力禁止要求許可ビットに基づいてデッドタイムエラー、同時出力レベル High、または同時出力レベル Low が発生するときに、GRP[1:0] ビットで選択されるグループへ出力されます。

GTST.ODF が、GRP[1:0] ビットで選択した出力禁止要因グループの要求を示します。GRP[1:0] ビットの設定は、GTIOR.OAE ビットと GTIOR.OBE ビットの両方が 0 のときに行ってください。

GRPDTE ビット（デッドタイムエラー出力禁止要求許可）

デッドタイムエラー出力禁止要求を許可／禁止します。GPT32EH と GPT32E にのみ、本ビットがあります。GPT32 には、本ビットはありません。

GRPABH ビット（同時出力レベル High 禁止要求許可）

GTIOCA 端子と GTIOCB 端子が同時に 1 を出力する場合の出力禁止要求を許可／禁止します。

GRPABL ビット（同時出力レベル Low 禁止要求許可）

GTIOCA 端子と GTIOCB 端子が同時に 0 を出力する場合の出力禁止要求を許可／禁止します。

23.2.16　汎用 PWM タイマステータスレジスタ（GTST）

アドレス　GPT32EHm.GTST 4007 803Ch + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTST 4007 803Ch + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTST 4007 803Ch + 0100h × m (m = 8～12)

- GPT32EH, GPT32E

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	OABLF	OABHF	DTEF	—	—	—	ODF	—	—	—	—	ADTRBDF	ADTRBUF	ADTRADF	ADTRAUF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TUCF	—	—	—	—	ITCNT[2:0]			TCFPU	TCFPO	TCFF	TCFE	TCFD	TCFC	TCFB	TCFA
リセット後の値	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

- GPT32

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	OABLF	OABHF	—	—	—	—	ODF	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TUCF	—	—	—	—	—	—	—	TCFPU	TCFPO	TCFF	TCFE	TCFD	TCFC	TCFB	TCFA
リセット後の値	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TCFA	インプットキャプチャ／コンペアマッチフラグA	0：GTCCRAのインプットキャプチャ／コンペアマッチの発生なし 1：GTCCRAのインプットキャプチャ／コンペアマッチの発生あり	R/(W)（注1）
b1	TCFB	インプットキャプチャ／コンペアマッチフラグB	0：GTCCRBのインプットキャプチャ／コンペアマッチの発生なし 1：GTCCRBのインプットキャプチャ／コンペアマッチの発生あり	R/(W)（注1）
b2	TCFC	インプットコンペアマッチフラグC	0：GTCCRCのコンペアマッチの発生なし 1：GTCCRCのコンペアマッチの発生あり	R/(W)（注1）
b3	TCFD	インプットコンペアマッチフラグD	0：GTCCRDのコンペアマッチの発生なし 1：GTCCRDのコンペアマッチの発生あり	R/(W)（注1）
b4	TCFE	インプットコンペアマッチフラグE	0：GTCCREのコンペアマッチの発生なし 1：GTCCREのコンペアマッチの発生あり	R/(W)（注1）
b5	TCFF	インプットコンペアマッチフラグF	0：GTCCRFのコンペアマッチの発生なし 1：GTCCRFのコンペアマッチの発生あり	R/(W)（注1）
b6	TCFPO	オーバーフローフラグ	0：オーバーフロー（山）の発生なし 1：オーバーフロー（山）の発生あり	R/(W)（注1）
b7	TCFPU	アンダーフローフラグ	0：アンダーフロー（谷）の発生なし 1：アンダーフロー（谷）の発生あり	R/(W)（注1）
b10-b8	ITCNT[2:0]	GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き回数カウンタ	タイマ割り込みが間引かれる回数をカウントするカウンタ	R
b14-b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15	TUCF	カウント方向フラグ	0：GTCNTカウンタはダウンカウント 1：GTCNTカウンタはアップカウント	R
b16	ADTRAUF	GTADTRAコンペアマッチ（アップカウント）A/Dコンバータ開始リクエストフラグ	0：アップカウント時のGTADTRAのコンペアマッチの発生なし 1：アップカウント時のGTADTRAのコンペアマッチの発生あり	R/(W)（注1）

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b17	ADTRADF	GTADTRAコンペアマッチ（ダウンカウント）A/Dコンバータ開始リクエストフラグ	0：ダウンカウント時のGTADTRAのコンペアマッチの発生なし 1：ダウンカウント時のGTADTRAのコンペアマッチの発生あり	R/(W)（注1）
b18	ADTRBUF	GTADTRBコンペアマッチ（アップカウント）A/Dコンバータ開始リクエストフラグ	0：アップカウント時のGTADTRBのコンペアマッチの発生なし 1：アップカウント時のGTADTRBのコンペアマッチの発生あり	R/(W)（注1）
b19	ADTRBDF	GTADTRBコンペアマッチ（ダウンカウント）A/Dコンバータ開始リクエストフラグ	0：ダウンカウント時のGTADTRBのコンペアマッチの発生なし 1：ダウンカウント時のGTADTRBのコンペアマッチの発生あり	R/(W)（注1）
b23-b20	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b24	ODF	出力禁止フラグ	0：出力禁止要求の発生なし 1：出力禁止要求の発生あり	R
b27-b25	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b28	DTEF	デッドタイムエラーフラグ	0：デッドタイムエラーの発生なし 1：デッドタイムエラーの発生あり	R
b29	OABHF	同時出力レベルHighフラグ	0：GTIOCA端子とGTIOCB端子は同時に1を出力しない 1：GTIOCA端子とGTIOCB端子は同時に1を出力する	R
b30	OABLF	同時出力レベルLowフラグ	0：GTIOCA端子とGTIOCB端子は同時に0を出力しない 1：GTIOCA端子とGTIOCB端子は同時に0を出力する	R
b31	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. このビットには 0 のみ書けます。1 を書き込まないでください。

GTST レジスタは、GPT の状態を示します。

TCFA フラグ（インプットキャプチャ／コンペアマッチフラグ A）

GTCCRA のインプットキャプチャまたはコンペアマッチのステータスフラグです。

［1 になる条件］

- GTCCRA レジスタがコンペアマッチレジスタとして機能している場合、GTCNT カウンタ＝GTCCRA レジスタになったとき
- GTCCRA レジスタがインプットキャプチャレジスタとして機能している場合、インプットキャプチャ信号によって GTCNT カウンタ値が GTCCRA レジスタに転送されたとき

［0 になる条件］

- このフラグに 0 を書いたとき

TCFB フラグ（インプットキャプチャ／コンペアマッチフラグ B）

GTCCRB のインプットキャプチャまたはコンペアマッチのステータスフラグです。

［1 になる条件］

- GTCCRB レジスタがコンペアマッチレジスタとして機能している場合、GTCNT カウンタ＝GTCCRB レジスタになったとき
- GTCCRB レジスタがインプットキャプチャレジスタとして機能している場合、インプットキャプチャ信号によって GTCNT カウンタ値が GTCCRB レジスタに転送されたとき

［0 になる条件］

- このフラグに 0 を書いたとき

TCFC フラグ（インプットコンペアマッチフラグ C）

GTCCRC のコンペアマッチのステータスフラグです。

［1 になる条件］

- GTCNT カウンタ = GTCCRC レジスタになったとき

［0 になる条件］

- このフラグに 0 を書いたとき

［比較を行わない条件］

- GTCR.MD[2:0] ビット = 001b（のこぎり波ワンショットパルスモード）
- GTCR.MD[2:0] ビット = 110b（三角波 PWM モード 3）
- GTBER.CCRA[1:0] ビット = 01b、10b、11b（GTCCRC レジスタがバッファ動作）

TCFD フラグ（インプットコンペアマッチフラグ D）

GTCCRD のコンペアマッチのステータスフラグです。

［1 になる条件］

- GTCNT カウンタ = GTCCRD レジスタになったとき

［0 になる条件］

- このフラグに 0 を書いたとき

［比較を行わない条件］

- GTCR.MD[2:0] ビット = 001b（のこぎり波ワンショットパルスモード）
- GTCR.MD[2:0] ビット = 110b（三角波 PWM モード 3）
- GTBER.CCRA[1:0] ビット = 10b、11b（GTCCRD レジスタがバッファ動作）

TCFE フラグ（インプットコンペアマッチフラグ E）

GTCCRE のコンペアマッチのステータスフラグです。

［1 になる条件］

- GTCNT カウンタ = GTCCRE レジスタになったとき

［0 になる条件］

- このフラグに 0 を書いたとき

［比較を行わない条件］

- GTCR.MD[2:0] ビット = 001b（のこぎり波ワンショットパルスモード）
- GTCR.MD[2:0] ビット = 110b（三角波 PWM モード 3）
- GTBER.CCRB[1:0] ビット = 01b、10b、11b（GTCCRE レジスタがバッファ動作）

TCFF フラグ（インプットコンペアマッチフラグ F）

GTCCRF のコンペアマッチのステータスフラグです。

［1 になる条件］

- GTCNT カウンタ = GTCCRF レジスタになったとき

［0 になる条件］

- このフラグに 0 を書いたとき

［比較を行わない条件］

- GTCR.MD[2:0] ビット = 001b（のこぎり波ワンショットパルスモード）
- GTCR.MD[2:0] ビット = 110b（三角波 PWM モード 3）
- GTBER.CCRB[1:0] ビット = 10b、11b（GTCCRF レジスタがバッファ動作）

TCFPO フラグ（オーバーフローフラグ）

オーバーフローまたは山が発生したことを示します。

［1 になる条件］

- のこぎり波モードでオーバーフロー（アップカウント時に GTCNT カウンタが GTPR 値から 0 に変化）が発生したとき
- 三角波モードで山（GTCNT カウンタが GTPR 値から GTPR 値 -1 に変化）が発生したとき
- ハードウェア要因によるカウントで、オーバーフロー（アップカウント時に GTCNT カウンタが GTPR 値から 0 に変化）が発生したとき

［0 になる条件］

- このフラグに 0 を書いたとき

TCFPU フラグ（アンダーフローフラグ）

アンダーフローまたは谷が発生したことを示します。

［1 になる条件］

- のこぎり波モードでアンダーフロー（ダウンカウント時に GTCNT カウンタが 0 から GTPR 値に変化）が発生したとき
- 三角波モードで谷（GTCNT カウンタが 0 から 1 に変化）が発生したとき
- ハードウェア要因によるカウントで、アンダーフロー（ダウンカウント時に GTCNT カウンタが 0 から GTPR 値に変化）が発生したとき

［0 になる条件］

- このフラグに 0 を書いたとき

ITCNT[2:0] ビット（GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き回数カウンタ）

GPTn_OVF/GPTn_UDF（n = 0 ～ 7）割り込み間引き機能を使用（GTITC.IVTC[1:0] ビットを 00b 以外に設定）した場合、GTITC.IVTC[1:0] ビットで指定した GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み要因が発生するたびに、ITCNT[2:0] ビットが 1 カウントアップします。

GPT32EH と GPT32E にのみ、本ビットがあります。GPT32 には、本ビットはありません。

［0 になる条件］

- GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き機能を使用しないとき（GTITC.IVTC[1:0] ビット = 00b で、GTITC.IVTT[2:0] ビット = 000b のとき）
- GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き回数が指定した回数と一致したとき（ITCNT[2:0] ビット値が GTITC.IVTT[2:0] ビットで指定した間引き回数と一致したとき）

TUCF フラグ（カウント方向フラグ）

GTCNT カウンタのカウント方向を示します。イベントカウント動作において、このフラグはアップカウント時に 1、ダウンカウント時に 0 になります。

ADTRAUF フラグ（GTADTRA コンペアマッチ（アップカウント）A/D コンバータ開始リクエストフラグ）

GTADTRA コンペアマッチのアップカウント時のステータスフラグです。

［1 になる条件］

- アップカウント時に GTCNT = GTADTRA のとき

［0 になる条件］

- このフラグに 0 を書いたとき

ADTRADF フラグ（GTADTRA コンペアマッチ（ダウンカウント）A/D コンバータ開始リクエストフラグ）

GTADTRA コンペアマッチのダウンカウント時のステータスフラグです。

［1 になる条件］

- ダウンカウント時に GTCNT = GTADTRA のとき

［0 になる条件］

- このフラグに 0 を書いたとき

ADTRBUF フラグ（GTADTRB コンペアマッチ（アップカウント）A/D コンバータ開始リクエストフラグ）

GTADTRB コンペアマッチのアップカウント時のステータスフラグです。

［1 になる条件］

- アップカウント時に GTCNT = GTADTRB のとき

［0 になる条件］

- このフラグに 0 を書いたとき

ADTRBDF フラグ（GTADTRB コンペアマッチ（ダウンカウント）A/D コンバータ開始リクエストフラグ）

GTADTRB コンペアマッチのダウンカウント時のステータスフラグです。

［1 になる条件］

- ダウンカウント時に GTCNT = GTADTRB のとき

［0 になる条件］

- このフラグに 0 を書いたとき

ODF フラグ（出力禁止フラグ）

GRP[1:0] ビットで選択した出力禁止要因グループの要求を示します。出力禁止時、出力禁止要求がネゲートされる周期の間、出力禁止制御は解除されません。次の周期に解除されます。

DTEF フラグ（デッドタイムエラーフラグ）

デッドタイム自動付加後のタイマ出力トグルポイントが、タイマ周期を超えたことを示します。

デッドタイム自動付加後のタイマ出力トグルポイントがタイマ周期に戻ると、DTEF は 0 に戻ります。DTEF は読み出し専用です。このフラグをクリアするために 0 を書き込むことはしないでください。

［1 になる条件］

- デッドタイム自動付加後のタイマ出力トグルポイントが、タイマ周期を超えたとき
  アップカウント時の三角波の場合：GTCCRA レジスタ – GTDVU レジスタ ≦ 0
  ダウンカウント時の三角波の場合：GTCCRA レジスタ – GTDVD レジスタ < 0
  アップカウント時ののこぎり波ワンショットパルスモードの場合：
  GTCCRA レジスタ – GTDVU レジスタ < 0、または GTCCRA レジスタ + GTDVD レジスタ > GTPR レジスタ
  ダウンカウント時ののこぎり波ワンショットパルスモードの場合：
  GTCCRA レジスタ + GTDVU レジスタ > GTPR レジスタ、または GTCCRA レジスタ – GTDVD レジスタ < 0

［0 になる条件］

- デッドタイム自動付加後のタイマ出力トグルポイントが、タイマ周期内にあるとき
  GPT32EH と GPT32E にのみ、本フラグがあります。GPT32 には、本フラグはありません。
  GPT32 には、デッドタイム自動設定機能がありますが、デッドタイムエラーは生成しません。

OABHF フラグ（同時出力レベル High フラグ）

GTIOCA 端子と GTIOCB 端子が同時に 1 を出力したことを示します。

GTIOCA 端子または GTIOCB 端子が 0 を出力した場合、OABHF フラグは 0 に戻ります。OABHF フラグは読み出し専用です。本フラグをクリアするために 0 を書き込むことはしないでください。OABHF フラグによる割り込みが許可（GTINTAD.GRPABH ビット = 1）されている場合、OABHF フラグが出力禁止要求として POEG に出力されます。

［1 になる条件］

- OAE ビットと OBE ビットがどちらも 1 で、GTIOCA 端子と GTIOCB 端子が同時に 1 を出力したとき

［0 になる条件］

- OAE ビットと OBE ビットがどちらも 1 で、GTIOCA 端子と GTIOCB 端子の出力値が異なるとき
- OAE ビットと OBE ビットがどちらも 1 で、GTIOCA 端子と GTIOCB 端子が同時に 0 を出力したとき
- OAE ビットと OBE ビットのどちらかが 0 のとき

OABLF フラグ（同時出力レベル Low フラグ）

GTIOCA 端子と GTIOCB 端子が同時に 0 を出力したことを示します。

GTIOCA 端子または GTIOCB 端子が 1 を出力した場合、OABLF フラグは 0 に戻ります。OABLF フラグは読み出し専用です。本フラグをクリアするために 0 を書き込むことはしないでください。OABLF フラグによる割り込みが許可（GTINTAD.GRPABL ビット = 1）されている場合、OABLF フラグが出力禁止要求として POEG に出力されます。

［1 になる条件］

- OAE ビットと OBE ビットがどちらも 1 で、GTIOCA 端子と GTIOCB 端子が同時に 0 を出力したとき

［0 になる条件］

- OAE ビットと OBE ビットがどちらも 1 で、GTIOCA 端子と GTIOCB 端子の出力値が異なるとき
- OAE ビットと OBE ビットがどちらも 1 で、GTIOCA 端子と GTIOCB 端子が同時に 1 を出力したとき
- OAE ビットと OBE ビットのどちらかが 0 になったとき

OABHF/OABLF フラグを生成する比較対象信号は、出力禁止機能でマスクされる前のコンペアマッチ出力（PWM 出力）信号です。出力禁止状態が有効の場合、コンペアマッチが GPT 内部で継続して実行され、OABHF/OABLF フラグは比較値の結果に従って更新されます。

23.2.17　汎用 PWM タイマバッファイネーブルレジスタ（GTBER）

アドレス　GPT32EHm.GTBER 4007 8040h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTBER 4007 8040h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTBER 4007 8040h + 0100h × m (m = 8～12)

- GPT32EH,GPT32E

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	ADTDB	ADTTB[1:0]		—	ADTDA	ADTTA[1:0]		—	CCRSWT	PR[1:0]		CCRB[1:0]		CCRA[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BD[3]	BD[2]	BD[1]	BD[0]
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

- GPT32

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—		—	—	—		—	CCRSWT	PR[1:0]		CCRB[1:0]		CCRA[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BD[1]	BD[0]
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	BD[0]	GTCCRバッファ動作禁止	0：バッファ動作を許可 1：バッファ動作を禁止	R/W
b1	BD[1]	GTPRバッファ動作禁止		R/W
b2	BD[2]	GTADTRバッファ動作禁止		R/W
b3	BD[3]	GTDVバッファ動作禁止		R/W
b15-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b17-b16	CCRA[1:0]	GTCCRAバッファ動作	b17 b16 0 0：バッファ動作しない 0 1：シングルバッファ動作（GTCCRA レジスタ⇔GTCCRC レジスタ） 1 x：ダブルバッファ動作（GTCCRA レジスタ⇔GTCCRC レジスタ⇔GTCCRD レジスタ）	R/W
b19-b18	CCRB[1:0]	GTCCRBバッファ動作	b19 b18 0 0：バッファ動作しない 0 1：シングルバッファ動作（GTCCRB レジスタ⇔GTCCRE レジスタ） 1 x：ダブルバッファ動作（GTCCRB レジスタ⇔GTCCRE レジスタ⇔GTCCRF レジスタ）	R/W
b21-b20	PR[1:0]	GTPRバッファ動作	b21 b20 0 0：バッファ動作しない 0 1：シングルバッファ動作（GTPBR レジスタ⇒GTPR レジスタ） 1 x：ダブルバッファ動作（GTPDBR レジスタ⇒GTPBR レジスタ⇒GTPR レジスタ）	R/W
b22	CCRSWT	GTCCRAおよびGTCCRB強制バッファ動作	1を書くとGTCCRAおよびGTCCRB レジスタのバッファ転送を強制的に行います。このビットは1を書いた後、自動的に0に戻ります。読むと0が読めます。	R/W
b23	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b25-b24	ADTTA[1:0]	GTADTRAバッファ転送タイミング選択	• 三角波の場合 b25 b24 0　0：転送しない 0　1：山で転送 1　0：谷で転送 1　1：山と谷の両方で転送 • のこぎり波の場合 b25 b24 0　0：転送しない 0　0以外：アンダーフロー（ダウンカウント時）またはオーバーフロー（アップカウント時）で転送	R/W
b26	ADTDA	GTADTRAダブルバッファ動作	0：シングルバッファ動作 （GTADTBRAレジスタ⇒GTADTRAレジスタ） 1：ダブルバッファ動作 （GTADTDBRAレジスタ⇒GTADTBRAレジスタ⇒GTADTRAレジスタ）	R/W
b27	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b29-b28	ADTTB[1:0]	GTADTRBバッファ転送タイミング選択	• 三角波の場合 b29 b28 0　0：転送しない 0　1：山で転送 1　0：谷で転送 1　1：山と谷の両方で転送 • のこぎり波の場合 b29 b28 0　0：転送しない 0　0以外：アンダーフロー（ダウンカウント時）またはオーバーフロー（アップカウント時）で転送	R/W
b30	ADTDB	GTADTRBダブルバッファ動作	0：シングルバッファ動作 （GTADTBRBレジスタ⇒GTADTRBレジスタ） 1：ダブルバッファ動作 （GTADTDBRBレジスタ⇒GTADTBRBレジスタ⇒GTADTRBレジスタ）	R/W
b31	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTBER レジスタは、バッファ動作を設定します。GTCNT カウンタが停止しているときに設定する必要があります。

BD[0] ビット（GTCCR バッファ動作禁止）

GTCCRA、GTCCRC、GTCCRD レジスタを組み合わせたバッファ動作、および GTCCRB、GTCCRE、GTCCRF を組み合わせたバッファ動作を禁止します。

GTDTCR.TDE ビットが 1 のとき、BD[0] ビットを 0 にすると、GTCCRB レジスタはバッファ動作を実行せずに、デッドタイム付き逆相波形のコンペアマッチ値に自動的に設定されます。

BD[1] ビット（GTPR バッファ動作禁止）

GTPR、GTPBR、および GTPDBR レジスタを組み合わせたバッファ動作を禁止します。

BD[2] ビット（GTADTR バッファ動作禁止）

GTADTRA、GTADTBRA、GTADTDBRA レジスタを組み合わせたバッファ動作、および GTADTRB、GTADTBRB、GTADTDBRB レジスタを組み合わせたバッファ動作を禁止します。イベントカウント動作時は、本ビットは使用できず、GTADTR バッファ動作は実行されません。GPT32EH と GPT32E にのみ、本ビットがあります。GPT32 には本ビットはありません。

BD[3] ビット（GTDV バッファ動作禁止）

GTDVU および GTDBU レジスタを組み合わせたバッファ動作、GTDVD および GTDBD レジスタ組み合わせたバッファ動作を禁止します。

GTDTCR.TDFER ビットが 1 のとき、BD[3] ビットが 0 であっても、バッファ動作は実行されず、GTDVD 値には GTDVU レジスタの値が自動的に設定されます。イベントカウント動作時は、このビットは使用できず、GTDV バッファ動作は実行されません。GPT32EH と GPT32E にのみ、本ビットがあります。GPT32 には、本ビットはありません。

CCRA[1:0] ビット（GTCCRA バッファ動作）

GTCCRA、GTCCRC、および GTCCRD レジスタを組み合わせたバッファ動作を設定します。GTCR レジスタで設定した動作モードによってバッファ動作が制限される場合は、GTCR レジスタの設定が優先されます。（注 1）

CCRB[1:0] ビット（GTCCRB バッファ動作）

GTCCRB、GTCCRE、および GTCCRF レジスタを組み合わせたバッファ動作を設定します。GTCR レジスタで設定した動作モードによってバッファ動作が制限される場合は、GTCR レジスタの設定が優先されます。（注 1）

PR[1:0] ビット（GTPR バッファ動作）

GTPR、GTPBR、および GTPDBR レジスタを組み合わせたバッファ動作を設定します。GPT32 には、PR[1] ビットはありません。GPT32 では、PR[0] ビットによるシングルバッファ動作の設定のみが可能です。

CCRSWT ビット（GTCCRA および GTCCRB 強制バッファ動作）

CCRSWT ビットに 1 を書くと、強制的に GTCCRA レジスタと GTCCRB レジスタのバッファ転送を行います。このビットは 1 を書いた後、自動的に 0 に戻ります。読むと 0 が読め、有効となるのは指定したコンペアマッチ動作でカウントが停止した場合のみです。

ADTTA[1:0] ビット（GTADTRA バッファ転送タイミング選択）

GTADTRA、GTADTBRA、および GTADTDBRA レジスタのバッファ動作の転送タイミングを設定します。イベントカウント動作時は使用できません。GPT32EH と GPT32E にのみ、本ビットがあります。GPT32 には、本ビットはありません。

ADTDA ビット（GTADTRA ダブルバッファ動作）

GTADTRA、GTADTBRA、および GTADTDBRA レジスタを組み合わせたバッファ動作を設定します。イベントカウント動作時は使用できません。GPT32EH と GPT32E にのみ、本ビットがあります。GPT32 には、本ビットはありません。

ADTTB[1:0] ビット（GTADTRB バッファ転送タイミング選択）

GTADTRB、GTADTBRB、および GTADTDBRB レジスタのバッファ動作の転送タイミングを設定します。イベントカウント動作時は使用できません。GPT32EH と GPT32E にのみ、本ビットがあります。GPT32 には、本ビットはありません。

ADTDB ビット（GTADTRB ダブルバッファ動作）

GTADTRB、GTADTBRB、および GTADTDBRB レジスタを組み合わせたバッファ動作を設定します。イベントカウント動作時は使用できません。GPT32EH と GPT32E にのみ、本ビットがあります。GPT32 には、本ビットはありません。

注 1. のこぎり波ワンショットパルスモード、または三角波 PWM モード 3（谷 64 ビット転送）の場合、バッファ動作モードは固定となります。

23.2.18　汎用 PWM タイマ割り込み、A/D 変換開始要求間引き設定レジスタ（GTITC）

アドレス　GPT32EHm.GTITC 4007 8044h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTITC 4007 8044h + 0100h × m (m = 4～7)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	ADTBL	—	ADTAL	—	IVTT[2:0]			IVTC[1:0]		ITLF	ITLE	ITLD	ITLC	ITLB	ITLA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ITLA	GTCCRAコンペアマッチ／インプットキャプチャ割り込み連動	0：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動しない 1：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動する	R/W
b1	ITLB	GTCCRBコンペアマッチ／インプットキャプチャ割り込み連動	0：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動しない 1：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動する	R/W
b2	ITLC	GTCCRCコンペアマッチ割り込み連動	0：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動しない 1：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動する	R/W
b3	ITLD	GTCCRDコンペアマッチ割り込み連動	0：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動しない 1：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動する	R/W
b4	ITLE	GTCCREコンペアマッチ割り込み連動	0：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動しない 1：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動する	R/W
b5	ITLF	GTCCRFコンペアマッチ割り込み連動	0：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動しない 1：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動する	R/W
b7-b6	IVTC[1:0]	GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能選択	b7 b6 0 0：間引きしない 0 1：のこぎり波ではオーバーフローとアンダーフローの両方、三角波では山をカウントして間引く 1 0：のこぎり波ではオーバーフローとアンダーフローの両方、三角波では谷をカウントして間引く 1 1：のこぎり波ではオーバーフローとアンダーフローの両方、三角波では山と谷の両方をカウントして間引く	R/W
b10-b8	IVTT[2:0]	GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き回数選択	b10 b8 0 0 0：間引きしない 0 0 1：間引き回数：1回 0 1 0：間引き回数：2回 0 1 1：間引き回数：3回 1 0 0：間引き回数：4回 1 0 1：間引き回数：5回 1 1 0：間引き回数：6回 1 1 1：間引き回数：7回	R/W
b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b12	ADTAL	GTADTRA A/D変換開始要求連動	0：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動しない 1：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動する	R/W
b13	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b14	ADTBL	GTADTRB A/D変換開始要求連動	0：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動しない 1：GPTn_OVF/GPTn_UDF割り込み間引き機能と連動する	R/W
b31-b15	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTITC レジスタは、GTCNT カウンタオーバーフロー（GTPR コンペアマッチ）割り込み（GPTn_OVF）と、GTCNT カウンタアンダーフロー割り込み（GPTn_UDF）に対して間引き機能を設定します。また、その他の割り込みと A/D 変換開始要求を、GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き機能と連動させるか否かを指定します。POEG への出力禁止要求を、GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き機能と連動させることはできません。イベントカウント動作時は使用できません。GPT32EH と GPT32E にのみ、本レジスタがあります。GPT32 には本レジスタはなく、0 が読み出されます。

ITLA ビット（GTCCRA コンペアマッチ／インプットキャプチャ割り込み連動）

GTCCRA コンペアマッチ／インプットキャプチャ割り込み（GPTn_CCMPA）を、GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き機能と連動させるか否かを指定します。

ITLB ビット（GTCCRB コンペアマッチ／インプットキャプチャ割り込み連動）

GTCCRB コンペアマッチ／インプットキャプチャ割り込み（GPTn_CCMPB）を、GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き機能と連動させるか否かを指定します。

ITLC ビット（GTCCRC コンペアマッチ割り込み連動）

GTCCRC コンペアマッチ割り込み（GPTn_CCMPC）を、GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き機能と連動させるか否かを指定します。

ITLD ビット（GTCCRD コンペアマッチ割り込み連動）

GTCCRD コンペアマッチ割り込み（GPTn_CCMPD）を、GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き機能と連動させるか否かを指定します。

ITLE ビット（GTCCRE コンペアマッチ割り込み連動）

GTCCRE コンペアマッチ割り込み（GPTn_CCMPE）を、GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き機能と連動させるか否かを指定します。

ITLF ビット（GTCCRF コンペアマッチ割り込み連動）

GTCCRF コンペアマッチ割り込み（GPTn_CCMPF）を、GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き機能と連動させるか否かを指定します。

IVTC[1:0] ビット（GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き機能選択）

GTPR コンペアマッチ（GTCNT オーバーフロー）割り込み（GPTn_OVF）と、GTCNT カウンタアンダーフロー割り込み（GPTn_UDF）に対して間引き機能を設定します。

IVTT[2:0] ビット（GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き回数選択）

GTPR コンペアマッチ（GTCNT オーバーフロー）割り込み（GPTn_OVF）と、GTCNT カウンタアンダーフロー割り込み（GPTn_UDF）に対して間引き回数を設定します。IVTT[2:0] ビットを書き換える場合は、最初に IVTC[1:0] ビットを 00b にしてください。

ADTAL ビット（GTADTRA A/D 変換開始要求連動）

GTADTRA の A/D 変換開始要求を、GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き機能と連動させるか否かを指定します。

ADTBL ビット（GTADTRB A/D 変換開始要求連動）

GTADTRB の A/D 変換開始要求を、GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き機能と連動させるか否かを指定します。

23.2.19　汎用 PWM タイマカウンタ（GTCNT）

アドレス　GPT32EHm.GTCNT 4007 8048h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTCNT 4007 8048h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTCNT 4007 8048h + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

GTCNT レジスタは、32 ビットの読み出し／書き込みが可能なカウンタです。カウントストップ後にのみ書き込み可能です。32 ビット単位でアクセスしてください。8 ビット単位／ 16 ビット単位でのアクセスはしないでください。GTCNT レジスタは、0 ≦ GTCNT ≦ GTPR の範囲に収まるように設定する必要があります。

23.2.20　汎用 PWM タイマコンペアキャプチャレジスタ n（GTCCRn）（n = A ～ F）

アドレス　GPT32EHm.GTCCRA 4007 804Ch + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTCCRA 4007 804Ch + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTCCRA 4007 804Ch + 0100h × m (m = 8～12),
GPT32EHm.GTCCRB 4007 8050h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTCCRB 4007 8050h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTCCRB 4007 8050h + 0100h × m (m = 8～12),
GPT32EHm.GTCCRC 4007 8054h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTCCRC 4007 8054h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTCCRC 4007 8054h + 0100h × m (m = 8～12),
GPT32EHm.GTCCRE 4007 8058h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTCCRE 4007 8058h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTCCRE 4007 8058h + 0100h × m (m = 8～12),
GPT32EHm.GTCCRD 4007 805Ch + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTCCRD 4007 805Ch + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTCCRD 4007 805Ch + 0100h × m (m = 8～13),
GPT32EHm.GTCCRF 4007 8060h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTCCRF 4007 8060h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTCCRF 4007 8060h + 0100h × m (m = 8～13)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

GTCCRn レジスタは、読み出し／書き込みが可能なレジスタです。

GTCCRA レジスタと GTCCRB レジスタは、アウトプットコンペア／インプットキャプチャ兼用のレジスタです。

GTCCRC レジスタと GTCCRE レジスタは、コンペアマッチレジスタですが、GTCCRA レジスタと GTCCRB レジスタ用のバッファレジスタとしても機能します。

GTCCRD レジスタと GTCCRF レジスタは、コンペアマッチレジスタですが、GTCCRC レジスタと GTCCRE レジスタ用のバッファレジスタ（GTCCRA レジスタと GTCCRB レジスタ用のダブルバッファレジスタ）としても機能します。

23.2.21 汎用 PWM タイマ周期設定レジスタ（GTPR）

アドレス GPT32EHm.GTPR 4007 8064h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTPR 4007 8064h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTPR 4007 8064h + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

GTPR レジスタは、読み出し／書き込みが可能なレジスタであり、GTCNT カウンタの最大カウント値を設定します。のこぎり波の場合、GTPR 値 + 1 がカウント周期になります。三角波の場合、GTPR 値 × 2 がカウント周期になります。

23.2.22 汎用 PWM タイマ周期設定バッファレジスタ（GTPBR）

アドレス GPT32EHm.GTPBR 4007 8068h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTPBR 4007 8068h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTPBR 4007 8068h + 0100h × m (m = 8～12)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

GTPBR レジスタは、読み出し／書き込みが可能なレジスタであり、GTPR レジスタ用のバッファレジスタとして機能します。

23.2.23 汎用 PWM タイマ周期設定ダブルバッファレジスタ（GTPDBR）

アドレス GPT32EHm.GTPDBR 4007 806Ch + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTPDBR 4007 806Ch + 0100h × m (m = 4～7)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

GTPDBR レジスタは、32 ビットの読み出し／書き込みが可能なレジスタであり、GTPBR レジスタ用のバッファレジスタ（GTPR レジスタ用のダブルバッファレジスタ）として機能します。GPT32EH と GPT32E にのみ、本レジスタがあります。GPT32 には、本レジスタはありません。本レジスタは、リセット後の値が読み出されます。

23.2.24 A/D 変換開始要求タイミングレジスタ n （GTADTRn）（n = A, B）

アドレス GPT32EHm.GTADTRA 4007 8070h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTADTRA 4007 8070h + 0100h × m (m = 4～7)

GPT32EHm.GTADTRB 4007 807Ch + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTADTRB 4007 807Ch + 0100h × m (m = 4～7)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

GTADTRn レジスタは、32 ビットの読み出し／書き込みが可能なレジスタであり、A/D 変換開始要求のタイミングを設定します。GTADTRn レジスタの値が GTCNT カウンタ値と一致したとき、A/D 変換開始要求が発生します。32 ビット単位でアクセスしてください。8 ビット単位／ 16 ビット単位でのアクセスはしないでください。GPT32EH と GPT32E にのみ、本レジスタがあります。GPT32 には、本レジスタはありません。本レジスタは、リセット後の値が読み出されます。

23.2.25 A/D 変換開始要求タイミングバッファレジスタ n（GTADTBRn）（n = A, B）

アドレス GPT32EHm.GTADTBRA 4007 8074h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTADTBRA 4007 8074h + 0100h × m (m = 4～7)

GPT32EHm.GTADTBRB 4007 8080h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTADTBRB 4007 8080h + 0100h × m (m = 4～7)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

GTADTBRn レジスタは、32 ビットの読み出し／書き込みが可能なレジスタであり、GTADTRn レジスタ用のバッファレジスタとして動作します。32 ビット単位でアクセスしてください。8 ビット単位／ 16 ビット単位でのアクセスはしないでください。GPT32EH と GPT32E にのみ、本レジスタがあります。GPT32 には、本レジスタはありません。本レジスタは、リセット後の値が読み出されます。

23.2.26　A/D 変換開始要求タイミングダブルバッファレジスタ n（GTADTDBRn）（n = A, B）

アドレス　GPT32EHm.GTADTDBRA 4007 8078h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTADTDBRA 4007 8078h + 0100h × m (m = 4～7)

GPT32EHm.GTADTDBRB 4007 8084h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTADTDBRB 4007 8084h + 0100h × m (m = 4～7)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

GTADTDBRn レジスタは、32 ビットの読み出し／書き込みが可能なレジスタであり、GTADTBRn レジスタ用のバッファレジスタ（GTADTR レジスタ用のダブルバッファレジスタ）として動作します。32 ビット単位でアクセスしてください。8 ビット単位／ 16 ビット単位でのアクセスはしないでください。GPT32EH と GPT32E にのみ、本レジスタがあります。GPT32 には、本レジスタはありません。本レジスタは、リセット後の値が読み出されます。

23.2.27　汎用 PWM タイマデッドタイムコントロールレジスタ（GTDTCR）

アドレス　GPT32EHm.GTDTCR 4007 8088h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTDTCR 4007 8088h + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTDTCR 4007 8088h + 0100h × m (m = 8～12)

- GPT32EH,GPT32E

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	TDFER	—	—	TDBDE	TDBUE	—	—	—	TDE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

- GPT32

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TDE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TDE	逆相波形設定	0：GTDVUおよびGTDVDレジスタを使用しないで、GTCCRBレジスタを設定する 1：GTDVUおよびGTDVDレジスタを使用して、デッドタイム付き逆相波形のコンペアマッチ値をGTCCRBレジスタに自動設定する	R/W
b3-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	TDBUE	GTDVUバッファ動作許可	0：GTDVUバッファ動作を禁止 1：GTDVUバッファ動作を許可	R/W
b5	TDBDE	GTDVDバッファ動作許可	0：GTDVDバッファ動作を禁止 1：GTDVDバッファ動作を許可	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	TDFER	GTDVD設定	0：GTDVUおよびGTDVDレジスタを個別に設定する 1：GTDVUレジスタに書き込んだ値を、GTDVDレジスタにも自動設定する	R/W
b31-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTDTCR レジスタは、デッドタイム付き逆相波形のコンペアマッチ値の自動設定を許可します。

GPT32EH、GPT32E、および GPT32 には、デッドタイム制御機能があります。GPT32 は、デッドタイムバッファ機能を持たず、デッドタイム値の設定には GTDVU レジスタのみを使用します。

TDE ビット（逆相波形設定）

GTDVU および GTDVD レジスタを使用するか否かを指定します。GTDVU および GTDVD レジスタを使用する場合、正相波形のコンペアマッチ値（GTCCRA）とデッドタイム値（GTDVU および GTDVD）から算出したデッドタイム付き逆相波形のコンペアマッチ値が、GTCCRB レジスタに自動設定されます。TDE ビットの設定値は、のこぎり波 PWM モードでは無視され、自動設定は行われません。

GTCCRB レジスタ値が自動設定されるとき、下記のような上限値／下限値があります。算出された GTCCRB レジスタ値が上限値／下限値の範囲外となる場合は、GTCCRB レジスタには以下の上限値／下限値が設定され、GTST.DTEF フラグが 1 になります。ただし、三角波では、算出された GTCCRB レジスタ値が上限値を超えると、GTST.DTEF フラグが 0 にクリアされます。

- 三角波
  上限値：GTPR – 1
  下限値：アップカウント時は 1、ダウンカウント時は 0
- のこぎり波ワンショットパルスモード

  上限値：GTPR
  下限値：0

TDBUE ビット（GTDVU バッファ動作許可）

GTDVU レジスタと GTDBU レジスタを組み合わせたバッファ動作を許可します。バッファ転送タイミングは、三角波では谷、のこぎり波ではオーバーフローまたはアンダーフローです。

GPT32EH と GPT32E にのみ、本ビットがあります。GPT32 には、本ビットはありません。

TDBDE ビット（GTDVD バッファ動作許可）

GTDVD レジスタと GTDBD レジスタを組み合わせたバッファ動作を許可します。バッファ転送タイミングは、三角波では谷、のこぎり波ではオーバーフローまたはアンダーフローです。TDFER ビットを同時に 1 にした場合、TDFER ビットの設定が優先されます。

GPT32EH と GPT32E にのみ、本ビットがあります。GPT32 には、本ビットはありません。

TDFER ビット（GTDVD 設定）

GTDVU レジスタに書き込んだ値を GTDVD レジスタにも自動設定するかどうかを選択します。

GPT32EH と GPT32E にのみ、本ビットがあります。GPT32 には、本ビットはありません。

23.2.28 汎用 PWM タイマデッドタイム値レジスタ n（GTDVn）（n = U, D）

アドレス GPT32EHm.GTDVU 4007 808Ch + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTDVU 4007 808Ch + 0100h × m (m = 4～7),
GPT32m.GTDVU 4007 808Ch + 0100h × m (m = 8～12),
GPT32EHm.GTDVD 4007 8090h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTDVD 4007 8090h + 0100h × m (m = 4～7)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

GTDVn レジスタは、32 ビットの読み出し／書き込みが可能なレジスタであり、デッドタイム付きの PWM 波形を生成するためのデッドタイムを設定します。逆相波形の前半部の切り替わりポイントにおけるデッドタイムは GTDVU レジスタに、後半部の切り替わりポイントにおけるデッドタイムは GTDVD レジスタに設定します。

GTDVn 値に GTPR 以上の値を設定しないでください。また、周期を超えるデッドタイムの設定もしないでください。デッドタイム自動設定機能によって設定された逆相波形のコンペアマッチ値は、GTCCRB レジスタ値から読み出すことで確認できます。

GTDVn レジスタを使用する場合、GTCCRB レジスタへの書き込みはしないでください。このレジスタ値を 0 にすると、デッドタイムなしの波形が出力されます。GTDVn レジスタは 32 ビット単位でアクセスする必要があります。8 ビット単位／16 ビット単位でのアクセスはしないでください。GTDVn を書き換える方法は GPT チャネル番号によって異なります。

GPT32EH0 ～ GPT32EH3 および GPT32E4 ～ GPT32E7

GTDVn バッファ動作が許可されている場合、GTDBn はいつでも書き込み可能です。GTDBn は周期の終わりで GTDVn に転送されます。GTDVn バッファ動作が禁止されている場合、GTDVn を新しい値に変更する前に、GTCR レジスタの CST ビットで GPT を停止してください。

GPT328 ～ GPT3212

GPT の動作中は、GTDVU レジスタ値の変更はしないでください。GTDVU を新しい値に変更するには、GTCR レジスタの CST ビットで GPT を停止してください。

GPT32EH と GPT32E にのみ、GTDVD レジスタがあります。GPT32 には、GTDVD レジスタはありません。本レジスタは、リセット後の値が読み出されます。

23.2.29　汎用 PWM タイマデッドタイムバッファレジスタ n（GTDBn）（n = U, D）

アドレス　GPT32EHm.GTDBU 4007 8094h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTDBU 4007 8094h + 0100h × m (m = 4～7)

GPT32EHm.GTDBD 4007 8098h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTDBD 4007 8098h + 0100h × m (m = 4～7)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

GTDBn レジスタは、32 ビットの読み出し／書き込みが可能なレジスタであり、GTDVn レジスタ用のバッファレジスタとして動作します。

GPT32EH と GPT32E にのみ、本レジスタがあります。GPT32 には、本レジスタはありません。本レジスタは、リセット後の値が読み出されます。

23.2.30　汎用 PWM タイマ出力保護機能ステータスレジスタ（GTSOS）

アドレス　GPT32EHm.GTSOS 4007 809Ch + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTSOS 4007 809Ch + 0100h × m (m = 4～7)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SOS[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	SOS[1:0]	出力保護機能ステータス	b1 b0 0 0：通常動作 0 1：保護状態（谷または山での転送時にGTCCRA = 0が設定された） 1 0：保護状態（谷での転送時にGTCCRA≧GTPRが設定された） 1 1：保護状態（山での転送時にGTCCRA≧GTPRが設定された）	R
b31-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書き込みは無視されます。	R

GTSOS レジスタは出力保護機能の状態を示すステータスレジスタです。出力保護機能は、三角波モードでデッドタイムが自動設定（GTDTCR.TDE ビット = 1）されている場合にのみ有効です。

GPT32EH と GPT32E にのみ、本レジスタがあります。GPT32 には、本レジスタはありません。

SOS[1:0] ビット（出力保護機能ステータス）

三角波 PWM モードにおいて、出力保護機能のステータスを示します。

23.2.31　汎用 PWM タイマ出力保護機能一時解除レジスタ（GTSOTR）

アドレス　GPT32EHm.GTSOTR 4007 80A0h + 0100h × m (m = 0～3),
GPT32Em.GTSOTR 4007 80A0h + 0100h × m (m = 4～7)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SOTR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SOTR	出力保護機能一時解除	0：保護状態を解除しない 1：保護状態を解除する	R/W
b31-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTSOTR レジスタは、出力保護が設定されている場合に、GTIOCB 端子出力の保護状態を一時的に解除します。GTSOS.SOS[1:0] ビット = 10b（保護状態、谷での転送時に GTCCRA ≧ GTPR が設定された）の場合に限り、保護状態を解除できます。他の状態の場合には、保護状態は解除できません。

GPT32EH と GPT32E にのみ、本レジスタがあります。GPT32 には、本レジスタはありません。読むと 0000_0000h が読めます。

SOTR ビット（出力保護機能一時解除）

出力保護状態時に、GTIOCB 端子出力の保護状態を一時的に解除するか否かを設定します。SOTR ビットを 1 にすると、最初に現れる谷以降の出力保護機能が解除されます。SOTR ビットを 0 にすると、最初に現れる谷以降の出力保護機能が再開します。

23.2.32　出力相切り替えコントロールレジスタ（OPSCR）

アドレス　GPT_OPS.OPSCR 4007 8FF0h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	NFCS[1:0]		NFEN	—	—	GODF	GRP[1:0]		—	—	ALIGN	—	INV	N	P	FB
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	EN	—	W	V	U	—	WF	VF	UF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	UF	入力相ソフト設定	ソフトウェア設定により入力相を設定します。OPSCR.FBビットが1の場合に、これらのビットの設定が有効になります。	R/W
b1	VF			R/W
b2	WF			R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	U	入力U相監視	入力相の状態を監視します。 OPSCR.FB = 0：PCLKDと同期した外部入力 OPSCR.FB = 1：OPSCR.Uビット、OPSCR.Vビット、およびOPSCR.Wビットは、OPSCR.UFビット、OPSCR.VFビット、およびOPSCR.WFビットの値の読み出しが可能です。	R
b5	V	入力V相監視		R
b6	W	入力W相監視		R
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	EN	イネーブル相出力制御	0：出力しない（Hi-Z外部端子） 1：出力する（注1）	R/W
b15-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b16	FB	外部フィードバック信号許可	ソフトウェア設定または外部入力から入力相を選択します。 0：外部入力を選択 1：ソフトウェア設定を選択（OPSCR.UF、VF、WFビット）	R/W
b17	P	正相出力（P）制御	0：レベル信号を出力 1：PWM信号を出力	R/W
b18	N	逆相出力（N）制御	0：レベル信号を出力 1：PWM信号を出力	R/W
b19	INV	反転相出力制御	0：正論理（アクティブHigh）を出力 1：負論理（アクティブLow）を出力	R/W
b20	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b21	ALIGN	入力相アライメント	0：入力相をPCLKDに調整 1：入力相をPWMに調整	R/W
b23-b22	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b25-b24	GRP[1:0]	出力禁止要因選択	b25 b24 0　0：グループA出力禁止要因を選択 0　1：グループB出力禁止要因を選択 1　0：グループC出力禁止要因を選択 1　1：グループD出力禁止要因を選択	R/W
b26	GODF	グループ出力禁止機能	0：このビット機能を無視 1：グループ禁止でOPSCR.ENビットをクリア（注1）	R/W
b28-b27	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b29	NFEN	外部入力ノイズフィルタ有効	0：外部入力にノイズフィルタを使用しない 1：外部入力にノイズフィルタを使用する	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b30	NFCS[1:0]	外部入力ノイズフィルタクロック選択	外部入力のノイズフィルタサンプリングクロック設定 b31 b30 0 0 : PCLKD/1 0 1 : PCLKD/4 1 0 : PCLKD/16 1 1 : PCLKD/64	R/W

注 1.　OPSCR.GODF ビット = 1 で、かつ OPSCR.GRP[1:0] ビットで選択した信号値が High のとき、OPSCR.EN ビットは 0 になります。

OPSCR レジスタは、ブラシレス DC モータ制御に必要な信号波形の出力を設定するレジスタです。

UF、VF、WF ビット（入力相ソフト設定）

ソフトウェア設定からの入力相を設定します。OPSCR.FB ビットが 1 の場合に、これらのビットが有効になります。UF/VF/WF ビットの設定値が U/V/W 外部入力に代わります。

U、V、W ビット（入力相モニタ）

OPSCR.FB ビットが 0 の場合、PCLKD と同期した外部入力を監視します。OPSCR.FB ビットが 1 の場合、OPSCR.U、OPSCR.V、OPSCR.W ビットは、OPSCR.UF、OPSCR.VF、OPSCR.WF ビットの値を読み出せます。

EN ビット（イネーブル相出力制御）

出力許可信号出力相（正相／逆相）を制御します。

OPSCR.EN ビット = 1 の場合、信号波形が出力されます。

OPSCR.EN ビット = 0 の場合は、最初に OPSCR.FB、OPSCR.UF/VF/WF（ソフトウェア設定を選択）、OPSCR.P/N、OPSCR.INV、OPSCR.RV、OPSCR.ALIGN、OPSCR.GRP、OPSCR.GODF、OPSCR.NFEN および OPSCR.NFCS ビットを設定してください。その後、このビットを 1 にしてください。また、OPSCR.GODF ビット = 1 で、OPSCR.GRP ビットで選択した信号値が High のとき、OPSCR.EN ビットは 0 になります。

FB ビット（外部フィードバック信号許可）

ソフトウェア設定（OPSCR.UF、VF、WF ビット）、およびホール素子などの外部入力からの入力相を選択します。

P ビット（正相出力（P）制御）

レベル信号出力、または正相出力の PWM 信号出力（GTOUUP 端子、GTOVUP 端子、GTOWUP 端子）のどちらかを選択します。

N ビット（逆相出力（N）制御）

レベル信号出力、または逆相出力の PWM 信号出力（GTOULO 端子、GTOVLO 端子、GTOWLO 端子）のどちらかを選択します。

INV ビット（反転相出力制御）

出力相として、正論理（アクティブ High）出力または負論理（アクティブ Low）出力のどちらかを選択します。

ALIGN ビット（入力相アライメント）

入力相のサンプリングとして、PCLKD または PWM を選択します（入力相は OPSCR.FB ビットで指定）。

OPSCR.ALIGN ビット = 0 のとき、入力相は PCLKD に調整されます。

注 .　PWM 出力（OPSCR.P/N ビット = 1）を選択して、PCLKD 入力相を調整すると、PWM パルスは短パルスになる場合があります。

注 .　OPSCR.ALIGN ビット = 1 のとき、入力相は PWM 出力に調整されます。

GRP[1:0] ビット（出力禁止要因選択）

出力禁止要因（A ～ D）を選択します。

GODF ビット（グループ出力禁止機能）

GODF ビット = 1 で、OPSCR.GRP ビットで選択した信号値が High のとき、OPSCR.EN ビットは 0 になります。GODF ビット = 0 の場合、このビットは無視されます。

NFEN ビット（外部入力ノイズフィルタ有効）

外部入力用のノイズフィルタを選択します。OPSCR.NFEN ビット = 0 の場合、外部入力にノイズフィルタは使用されません。

注 . 意図しない内部エッジにより本ビットが切り替わった場合、OPSCR.EN ビットを 0 にしてください。

NFCS[1:0] ビット（外部入力ノイズフィルタクロック選択）

外部入力ノイズフィルタのクロックを選択します。OPSCR.NFEN ビット = 1 の場合、外部入力のノイズフィルタサンプリングクロック設定が有効になります。

1. NFCS[1:0] を設定します。
2. クロックの 2 周期分待ちます。
3. OPSCR.EN ビットを 1 にします。

23.3 動作説明

23.3.1 基本動作

各チャネルには32ビットタイマがあり、各タイマは、カウントクロックとハードウェア要因を用いて周期的なカウント動作を実行します。カウント機能にはアップカウントとダウンカウントの両方があります。GTPRレジスタがカウント周期を制御します。

GTCNTカウンタ値がGTCCRAまたはGTCCRBレジスタの値と一致する場合、対応するGTIOCA端子またはGTIOCB端子からの出力を変更できます。GTCCRAまたはGTCCRBレジスタは、ハードウェア要因によるインプットキャプチャレジスタとして使用可能です。

GTCCRCおよびGTCCRDレジスタは、GTCCRAレジスタ用のバッファレジスタとして機能します。また、GTCCREおよびGTCCRFレジスタは、GTCCRBレジスタ用のバッファレジスタとして機能します。

23.3.1.1 カウンタの動作

(1) カウンタスタート／ストップ

各チャネルのカウンタは、GTCR.CSTビットを1にするとカウント動作を開始します。GTCR.CSTビット値は以下の要因によって変化します。

- GTCRレジスタへの書き込み
- GTSSR.CSTRTビットが1の場合、GTSTRレジスタのGPTチャネル番号に対応したビットへの1の書き込み
- GTPSR.CSTOPビットが1の場合、GTSTPレジスタのGPTチャネル番号に対応したビットへの1の書き込み
- GTSSRレジスタで選択したハードウェア要因
- GTPSRレジスタで選択したハードウェア要因

(2) カウントクロックによるアップカウント時の周期カウント動作

各チャネルのGTCNTカウンタは、GTUPSRおよびGTDNSRレジスタを0000 0000hにした状態で、対応するGTCR.CSTビットを1にすると、アップカウントを開始します。GTCNTカウンタ値がGTPRレジスタ値から0になる（オーバーフロー）と、GTST.TCFPOフラグは1になります。GTCNTカウンタはオーバーフロー時、0000 0000hからアップカウントを継続します。

アップカウント時の周期カウント動作例を図23.3に示します。

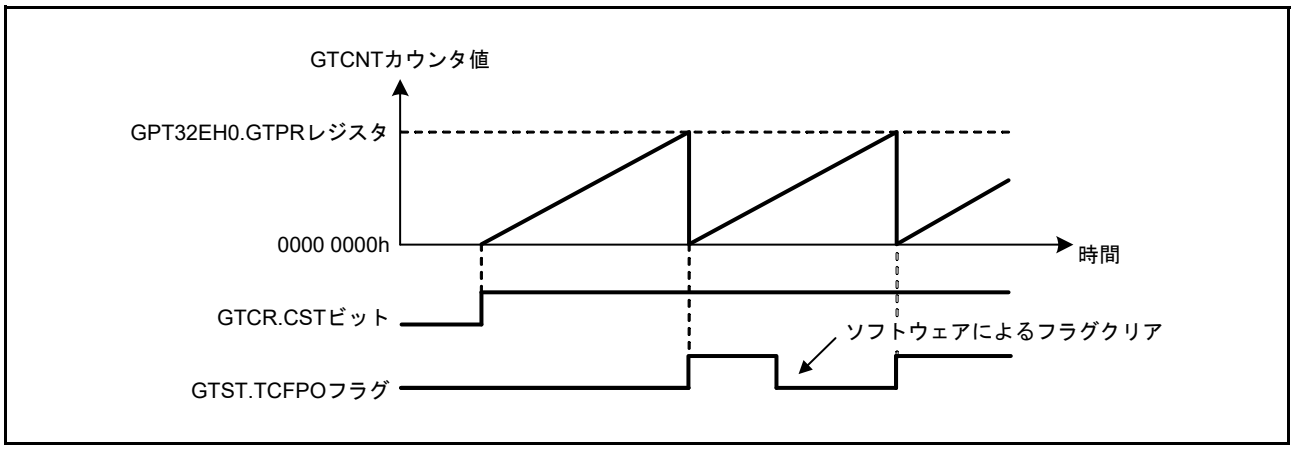


図23.3 カウントクロックによるアップカウント時の周期カウント動作例

アップカウント時の周期カウント動作設定例を図 23.4 に示します。

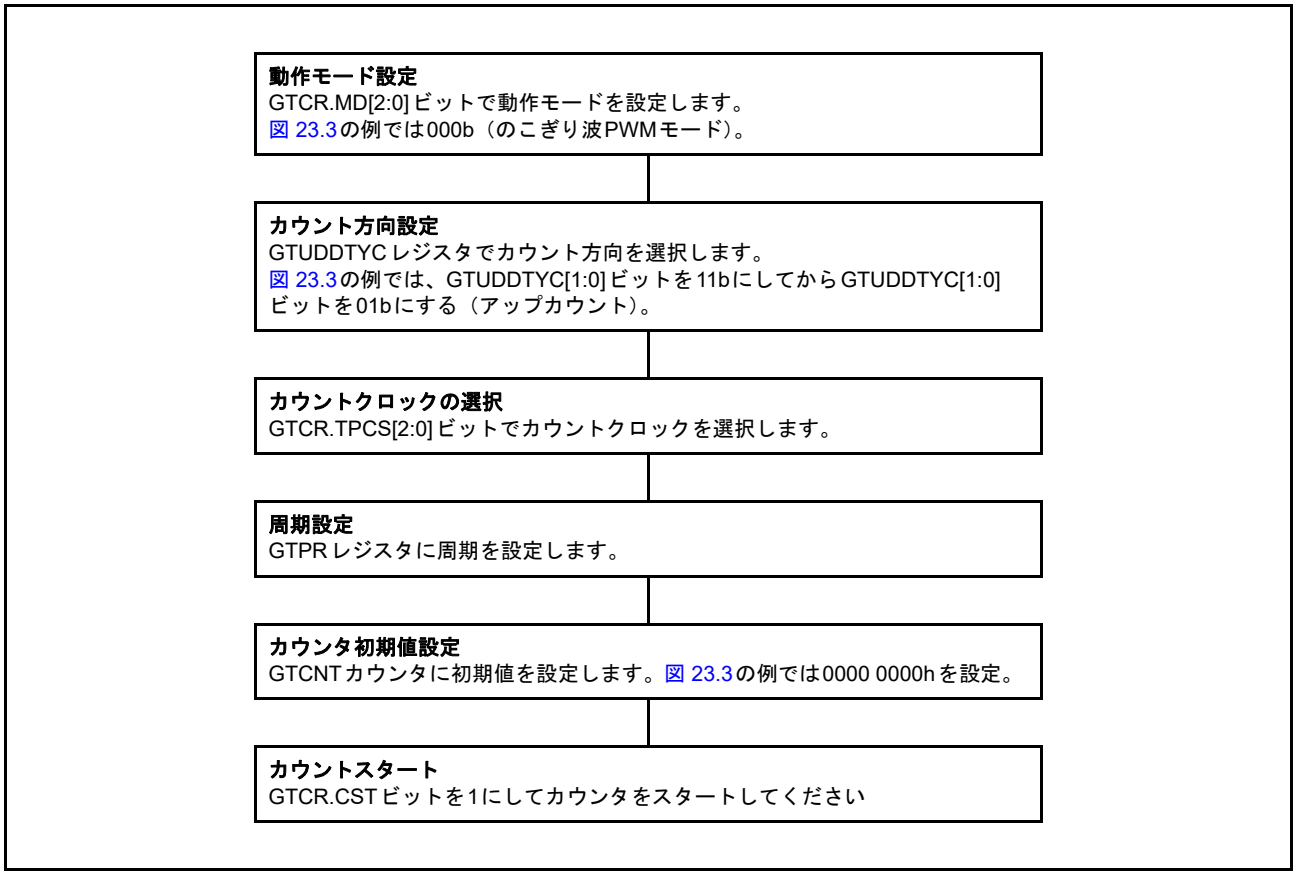


図 23.4　　カウントクロックによるアップカウント時の周期カウント動作設定例

(3)　カウントクロックによるダウンカウント時の周期カウント動作

各チャネルの GTCNT カウンタは、GTUPSR および GTDNSR レジスタを 0000 0000h にした状態で、GTUDDTYC.UD ビットを設定することにより、ダウンカウントを実行できます。GTCNT カウンタ値が 0 から GTPR 値に変化（アンダーフロー）すると、GTST.TCFPU ビットが 1 になります。GTCNT カウンタがアンダーフローすると、GTPR 値からダウンカウントを再開します。

カウントクロックによるダウンカウント時の周期カウント動作例を図 23.5 に示します。

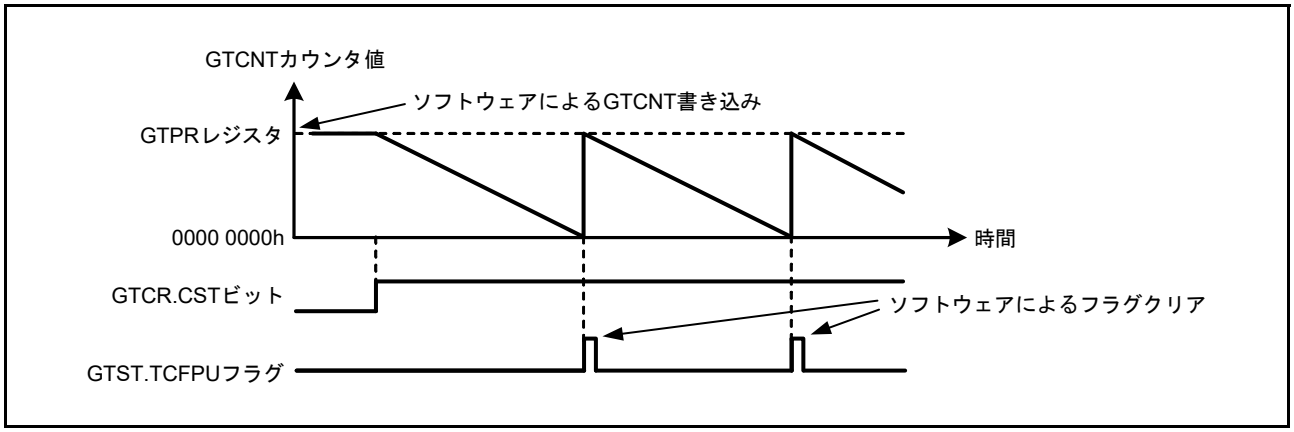


図 23.5　　カウントクロックによるダウンカウント時の周期カウント動作例

カウントクロックによるダウンカウント時の周期カウント動作設定例を図 23.6 に示します。

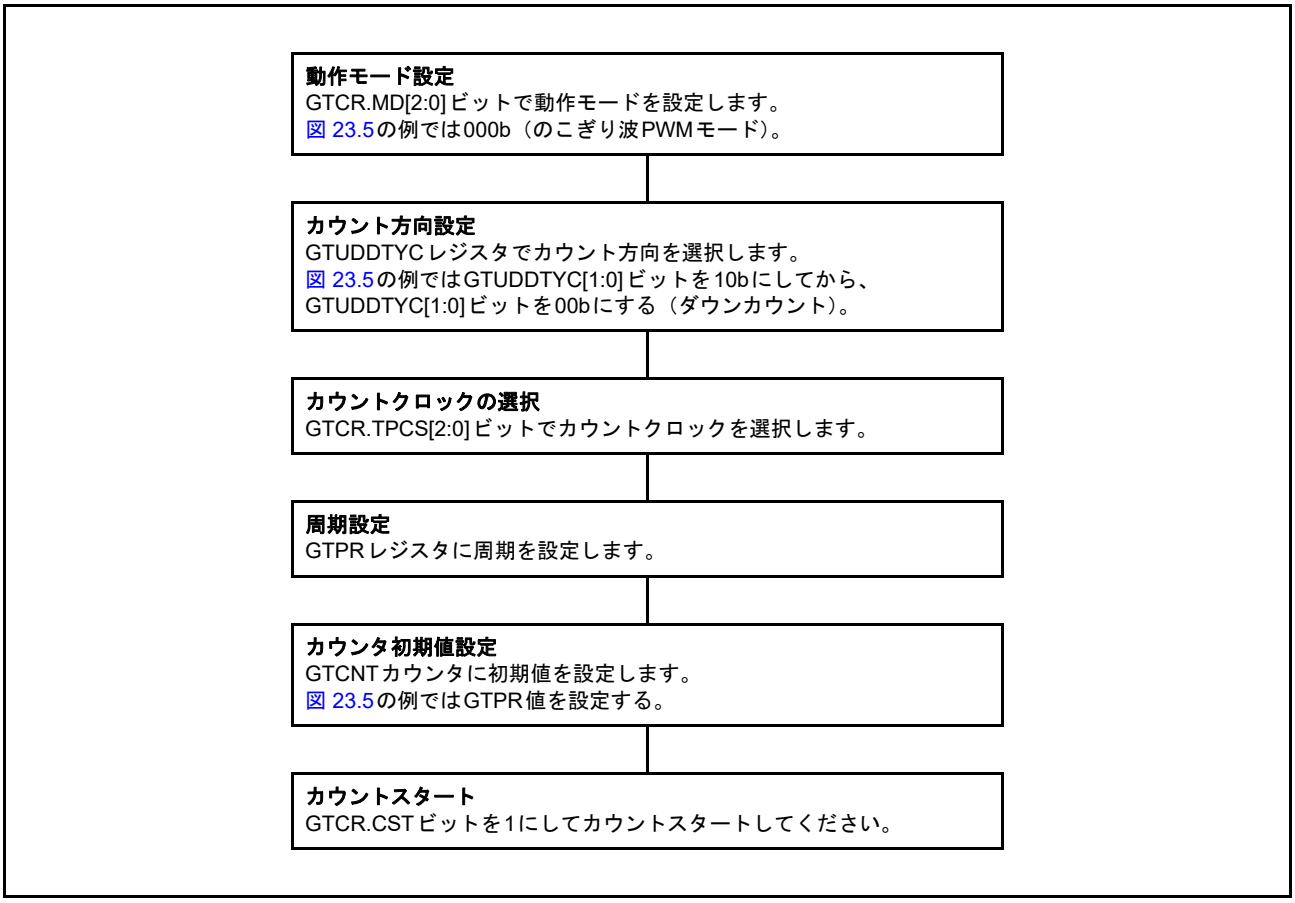


図 23.6 カウントクロックによるダウンカウント時の周期カウント動作設定例

(4) ハードウェア要因によるアップカウント時のイベントカウント動作

各チャネルの GTCNT カウンタは、GTUPSR レジスタで設定したハードウェア要因によるアップカウントを実行できます。

GTUPSR レジスタを許可に設定すると、GTCR.TPCS[2:0] ビットで選択したカウントクロックと、GTUDDTYC.UD ビットで選択したカウント方向は無視されます。ハードウェア要因によるアップカウントとダウンカウントが同時に発生した場合、GTCNT カウンタ値は変化しません。ハードウェア要因によるアップカウントのオーバーフロー動作は、カウントクロックによるアップカウントのオーバーフロー動作と同じです。

ハードウェア要因によるカウントアップを行うために、GTCR.CST ビットを 1 にしてカウント動作を有効にしてください。GTCR.CST ビットを 1 にすると、GTCR.TPCS[2:0] ビットで指定した 1 クロック周期の間カウンタはアップカウントされません。これは、カウント動作は、GTCR.TPCS[2:0] ビットで選択したカウントクロックと同期するためです。PCLKD 1 クロック遅れでカウントアップを行う場合、GTCR.TPCS[2:0] ビットを 000b にしてください。

ハードウェア要因（GTETRGA 端子の立ち上がりエッジ）によるアップカウント時の周期カウント動作例を図 23.7 に示します。

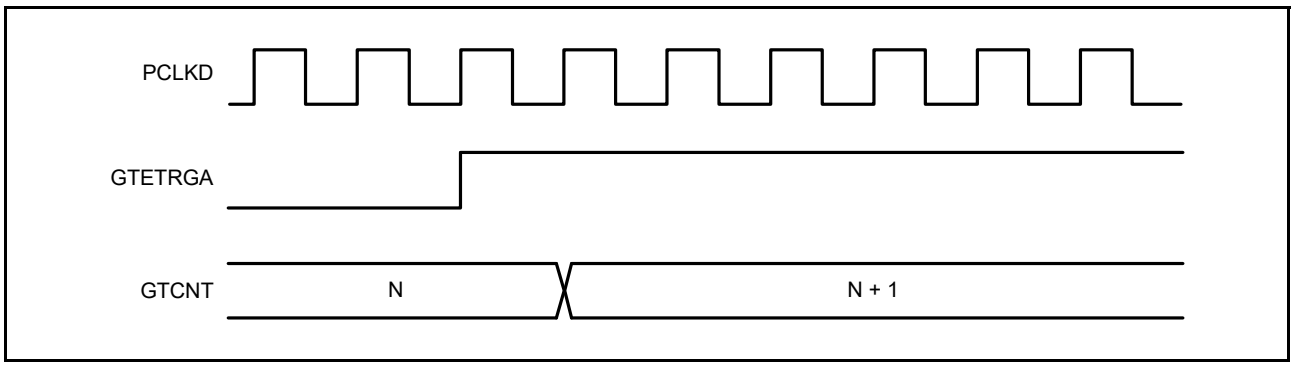


図 23.7 ハードウェア要因によるアップカウント時の周期カウント動作例

ハードウェア要因によるアップカウント時の周期カウント動作設定例を図 23.8 に示します。

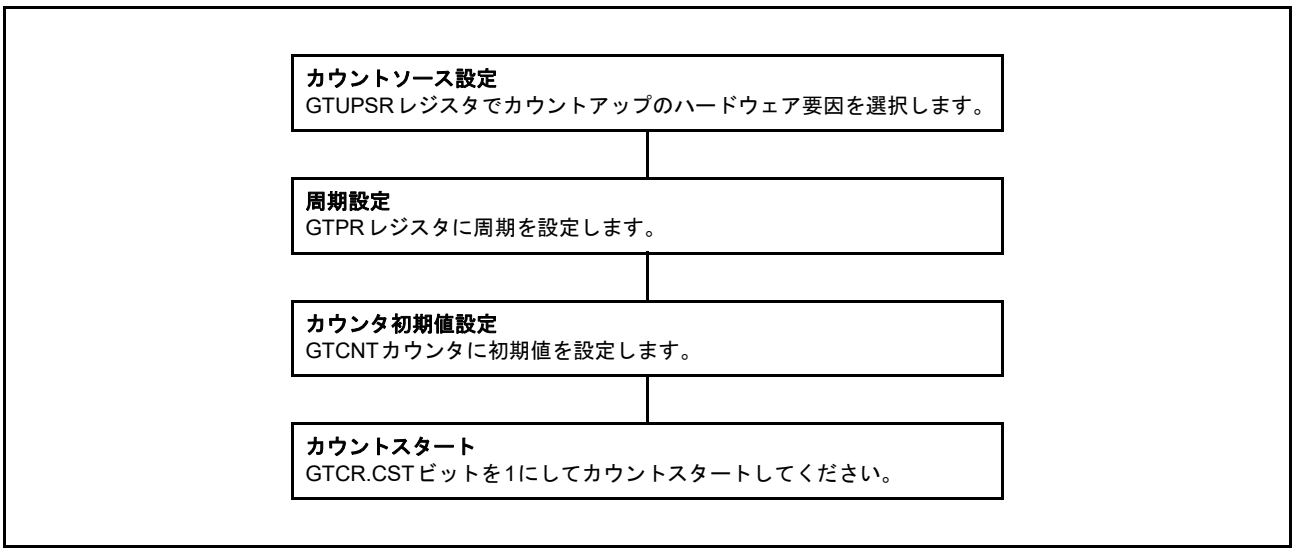


図 23.8 ハードウェア要因によるアップカウント時のイベントカウント動作設定例

(5) ハードウェア要因によるダウンカウント時のイベントカウント動作

各チャネルの GTCNT カウンタは、GTDNSR レジスタで設定したハードウェア要因によるダウンカウントを実行できます。

GTDNSR レジスタを許可に設定すると、GTCR.TPCS[2:0] ビットで選択したカウントクロックと、GTUDDTYC.UD ビットで選択したカウント方向は無視されます。ハードウェア要因によるアップカウントとダウンカウントが同時に発生した場合、GTCNT カウンタ値は変化しません。ハードウェア要因によるダウンカウントのアンダーフロー動作は、カウントクロックによるダウンカウントのアンダーフロー動作と同じです。

GTCR.CST ビットを 1 にしてハードウェア要因によるカウントダウンを行うと、カウント動作が有効になります。GTCR.CST ビットを 1 にすると、GTCR.TPCS[2:0] ビットで指定した 1 クロック周期の間カウンタはダウンカウントされません。これは、カウント動作は、GTCR.TPCS[2:0] ビットで選択したカウントクロックと同期するためです。PCLKD 1 クロック遅れでカウントダウンを行う場合、GTCR.TPCS[2:0] ビットを 000b にしてください。

ハードウェア要因（GTETRGA 端子の立ち上がりエッジ）によるダウンカウント時の周期カウント動作例を図 23.9 に示します。

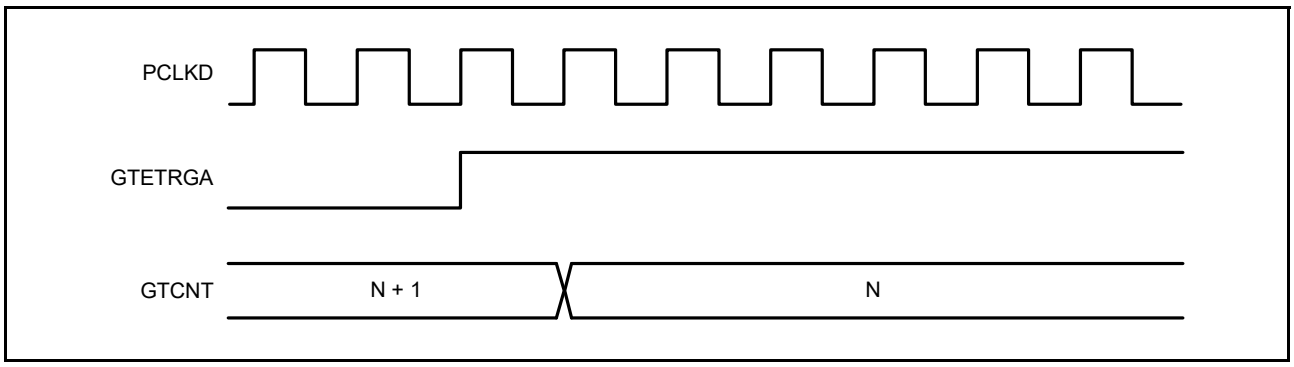


図 23.9　イベントカウント動作例（ハードウェア要因によるダウンカウント時）

ハードウェア要因によるダウンカウント時の周期カウント動作設定例を図 23.10 に示します。

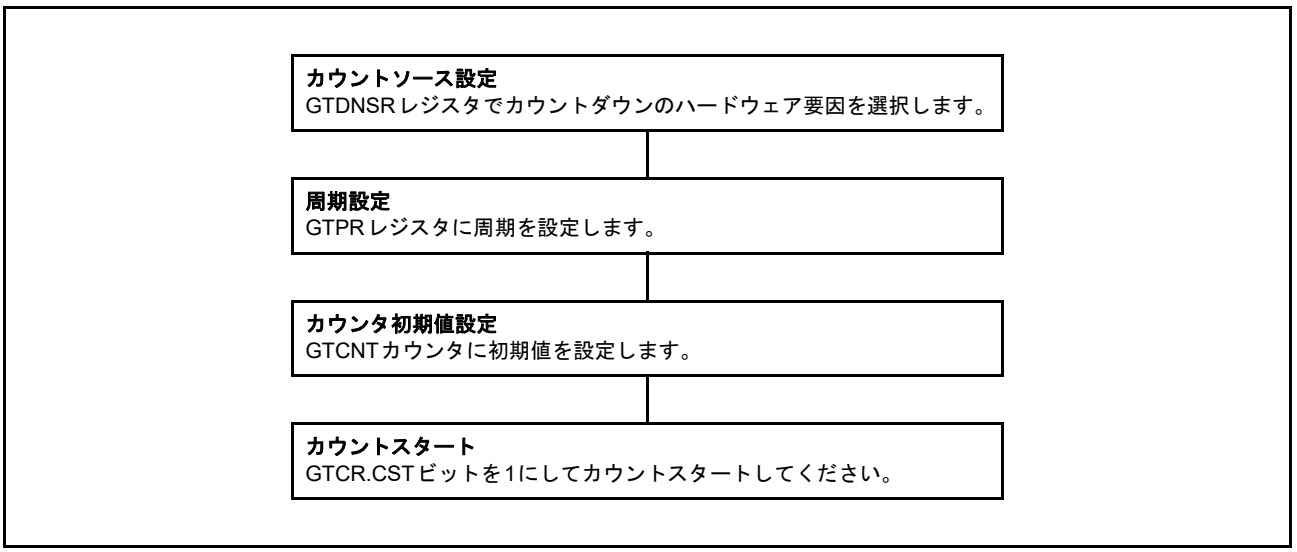


図 23.10　ハードウェア要因によるダウンカウント時のイベントカウント動作設定例

(6) カウンタクリア動作

各チャネルのカウンタは、下記の要因でクリアされます。

- GTCNT レジスタへの 0 の書き込み
- GTCSR.CCLR ビットが 1 の場合、GTCLR レジスタの GPT チャネル番号に対応したビットへの 1 の書き込み
- GTCSR レジスタで選択したハードウェア要因

カウント動作時は、GTCNT レジスタへの書き込みはしないでください。GTCNT カウンタは、カウント中でも（GTCR.CST ビット = 1）、カウント中でなくても（GTCR.CST ビット = 0）、GTCLR レジスタへの 1 の書き込みとハードウェア要因のクリア要求の両方の方法でクリアできます。

GTCR.MD[2:0] ビットおよびダウンカウント（GTST.TUCF ビット = 0）を示すカウント方向フラグで指定したのこぎり波の場合、GTCLR レジスタに 1 を書き込み、またはハードウェア要因によりクリアすると、GTCNT レジスタは GTPR レジスタの値に設定されます。

のこぎり波モードでもダウンカウントでもない場合、GTCLR レジスタへの 1 の書き込みと、ハードウェア要因によるクリアの実行時に、GTCNT レジスタは 0 になります。

GTUPSR または GTDNSR レジスタの少なくとも 1 ビットが 1 の場合のイベントカウント動作では、クリア要因発生後、GTCLR レジスタへの書き込みとハードウェア要因によるクリアがただちに実行され、PCLKD と同期が取られます。その他の設定を使用すると、GTCR.TPCS[2:0] ビットで選択したカウンタクロックと同期してクリアが実行されます。

23.3.1.2 コンペアマッチによる波形出力機能

コンペアマッチとは、GTCNT カウンタ値が GTCCRA または GTCCRB レジスタ値と一致することを意味します。コンペアマッチが発生すると、イベントカウントを含むカウントクロックと同期して、コンペアマッチフラグが発生します。同時に、GPT は、対応する GTIOCA または GTIOCB 出力端子から Low 出力／High 出力／トグル出力を行うことができます。また、GTPR レジスタで決定される周期の終わりでも、GTIOCA または GTIOCB 端子出力を Low 出力／ High 出力／トグル出力とすることが可能です。

周期の終わりとは、以下の場合です。

- アップカウント時ののこぎり波の場合 : GTCNT カウンタが GTPR 値から 0 に変化したとき（オーバーフロー）
- ダウンカウント時ののこぎり波の場合 : GTCNT カウンタが 0 から GTPR 値に変化したとき（アンダーフロー）
- のこぎり波の場合 : GTCNT カウンタがクリアされたとき
- 三角波の場合 : GTCNT カウンタが 0 から 1 に変化したとき（谷）

(1) Low 出力／ High 出力

GTCCRA および GTCCRB レジスタのコンペアマッチによる Low 出力／ High 出力の動作例を図 23.11 に示します。

この例では、GPT32EH0.GTCNT カウンタがアップカウント動作を行い、GPT32EH0.GTCCRA レジスタのコンペアマッチによって GTIOC0A 端子から High が出力され、GPT32EH0.GTCCRB レジスタのコンペアマッチによって GTIOC0B 端子から Low が出力されるように設定しています。設定したレベルと端子レベルが一致した場合、端子レベルは変化しません。

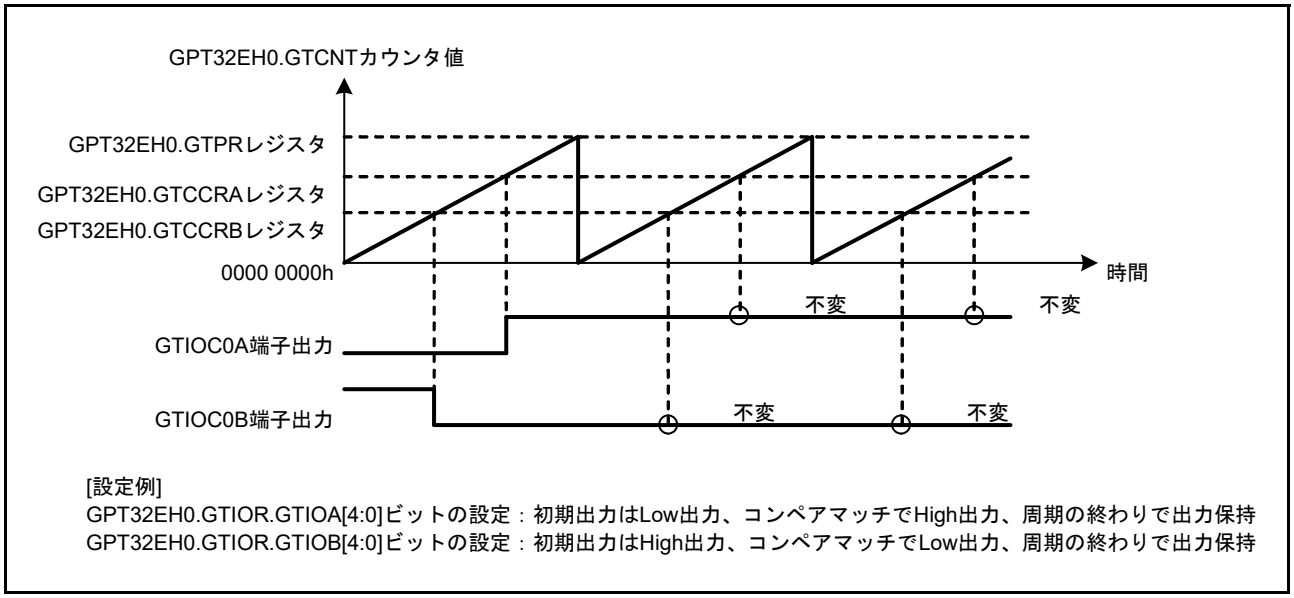
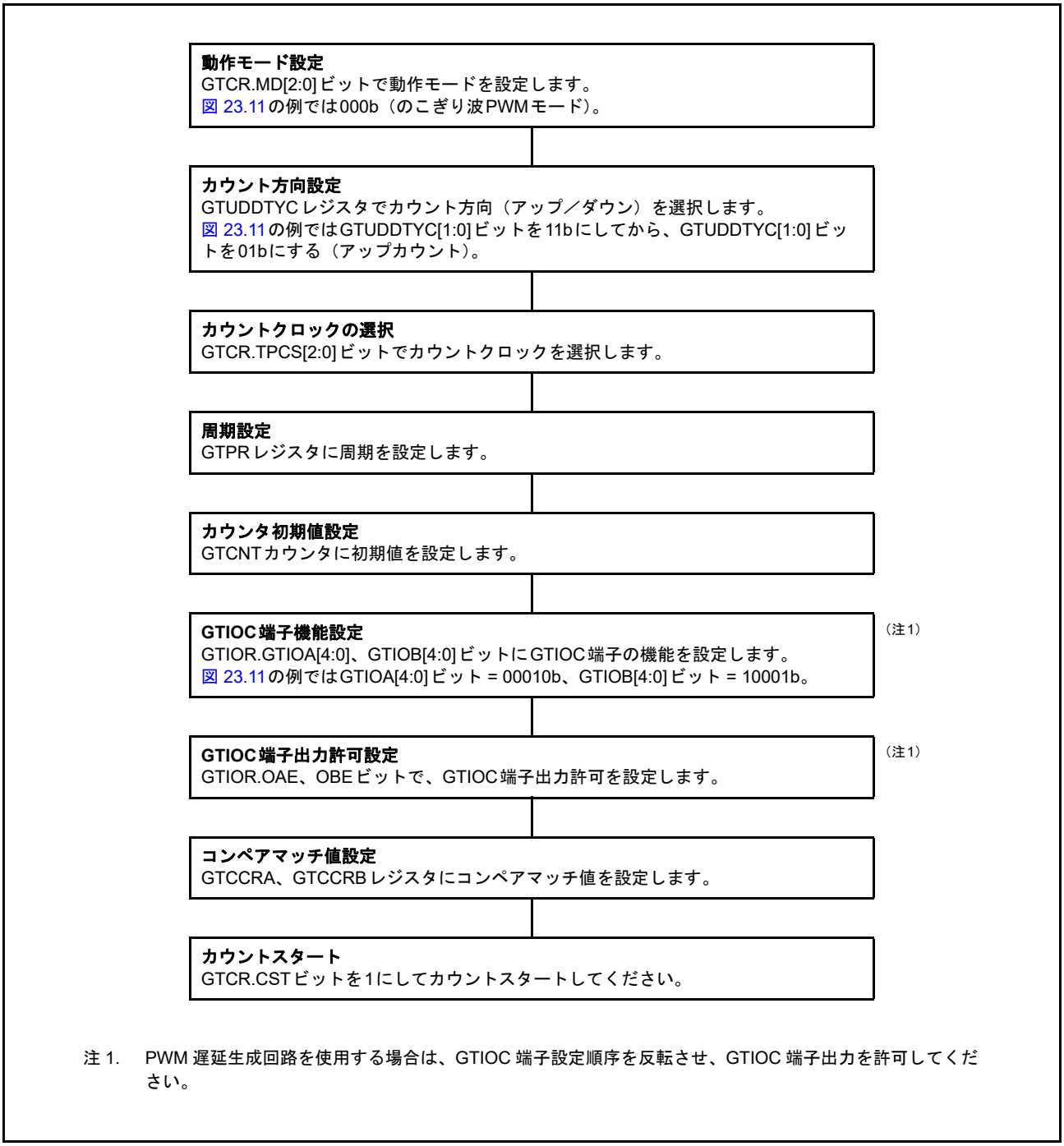


図 23.11 Low 出力／ High 出力動作例

Low 出力／ High 出力動作設定例を図 23.12 に示します。



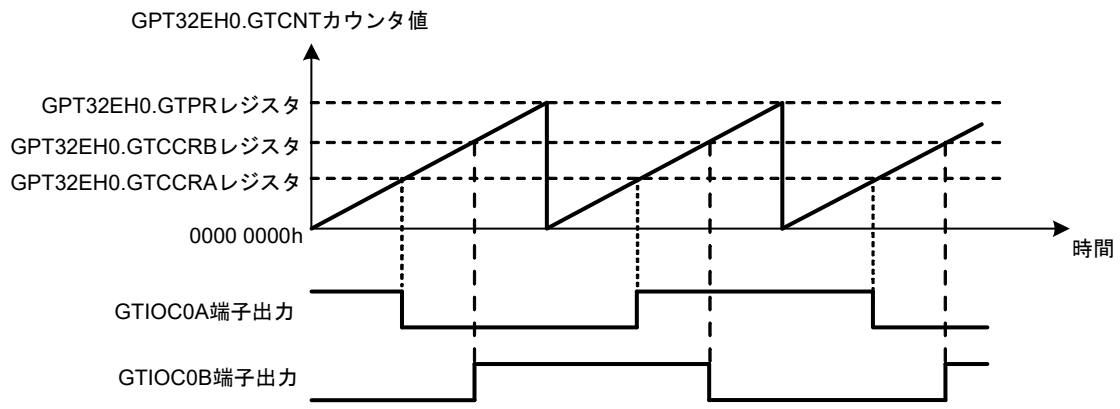
注 1. PWM 遅延生成回路を使用する場合は、GTIOC 端子設定順序を反転させ、GTIOC 端子出力を許可してください。

図 23.12 Low 出力／ High 出力動作設定例

(2) トグル出力

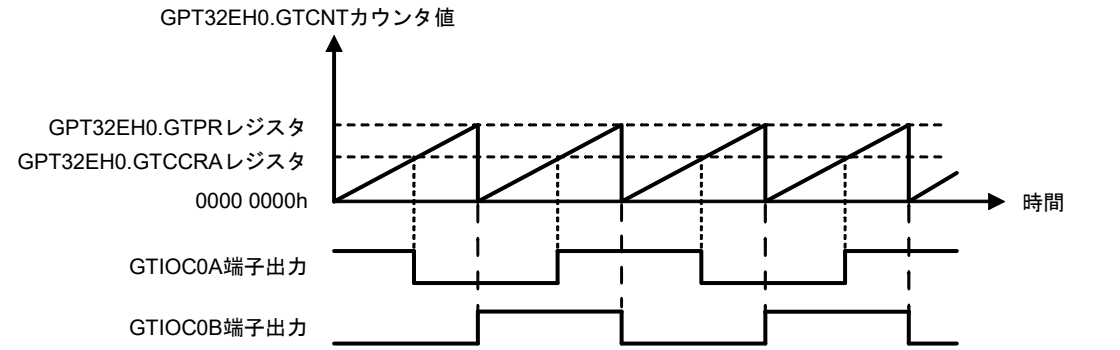
GTCCRA および GTCCRB レジスタのコンペアマッチによるトグル出力の動作例を、図 23.13 および図 23.14 に示します。図 23.13 は、GPT32EH0.GTCNT カウンタがアップカウント動作を行い、GPT32EH0.GTCCRA、GPT32EH0.GTCCRB レジスタのコンペアマッチによって、それぞれ GTIOC0A 端子と GTIOC0B 端子がトグル出力となるように設定した場合の例です。

図 23.14 は、GPT32EH0.GTCNT カウンタがアップカウント動作を行い、GPT32EH0.GTCCRA レジスタのコンペアマッチによって GTIOC0A 端子をトグル出力、周期の終わりで GTIOC0B 端子をトグル出力となるように設定した場合の例です。



［設定例］
GPT32EH0.GTIOR.GTIOA[4:0] ビットの設定：初期出力はHigh出力、コンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力保持
GPT32EH0.GTIOR.GTIOB[4:0] ビットの設定：初期出力はLow出力、コンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力保持

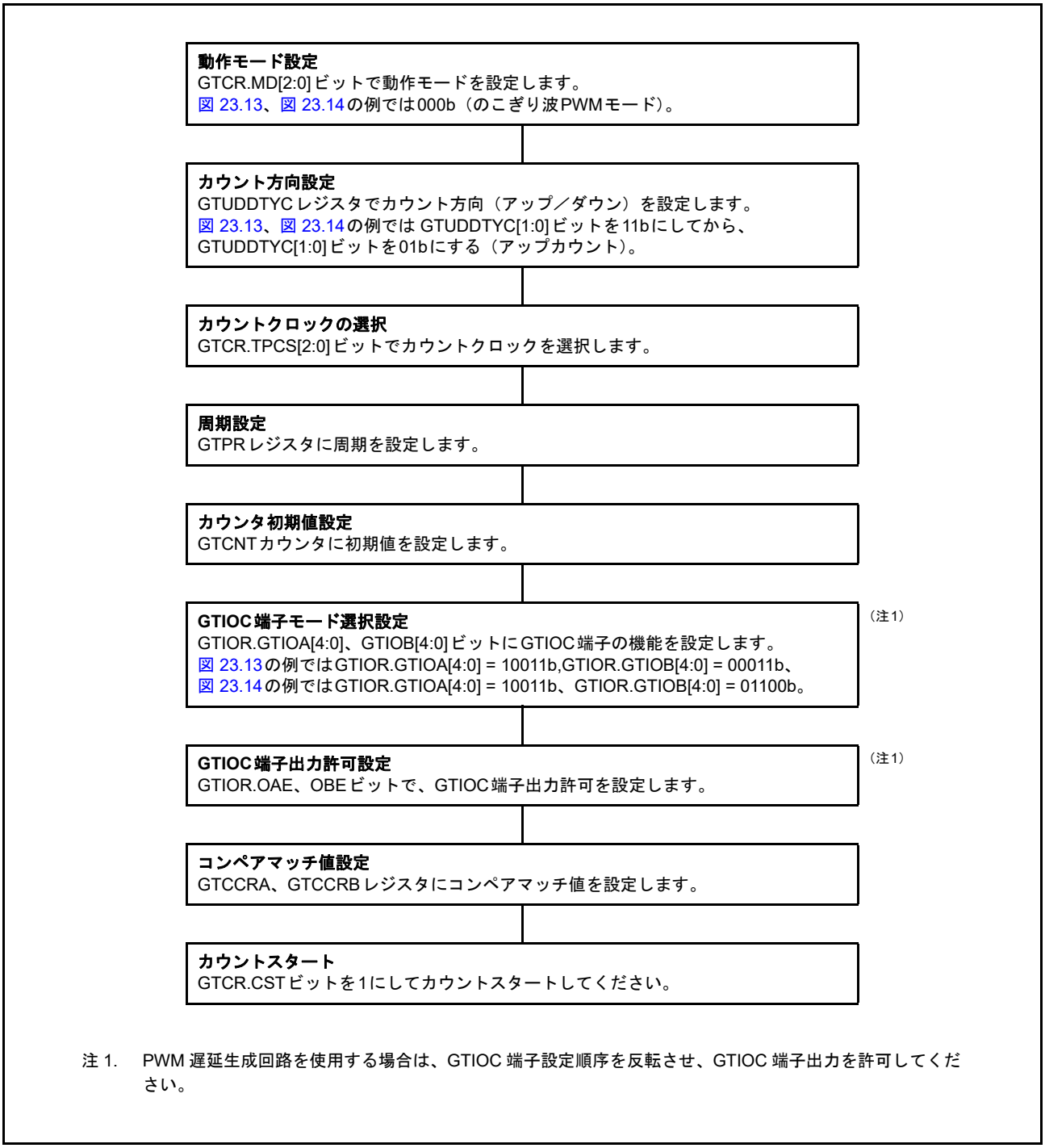
図 23.13 トグル出力動作例（1）



［設定例］
GPT32EH0.GTIOR.GTIOA[4:0]ビットの設定：初期出力はHigh出力、コンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力保持
GPT32EH0.GTIOR.GTIOB[4:0]ビットの設定：初期出力はLow出力、コンペアマッチで出力保持 、周期の終わりでトグル出力

図 23.14 トグル出力動作例（2）

トグル出力動作設定例を図 23.15 に示します。



注 1. PWM 遅延生成回路を使用する場合は、GTIOC 端子設定順序を反転させ、GTIOC 端子出力を許可してください。

図 23.15 トグル出力動作設定例

23.3.1.3 インプットキャプチャ機能

GTICASR および GTICBSR レジスタに設定されたハードウェア要因の検出時に、GTCCRA レジスタまたは GTCCRB レジスタのいずれか一方に GTCNT カウンタ値を転送できます。

インプットキャプチャ機能の動作例を図 23.16 に示します。

この例では、カウントクロックで GPT32EH0.GTCNT カウンタがアップカウント動作を行い、GTIOC0A 入力端子の両エッジで GTCCRA レジスタにインプットキャプチャを実行し、GTIOC0B 入力端子の立ち上がりエッジで GTCCRB レジスタにインプットキャプチャを実行するように設定しています。

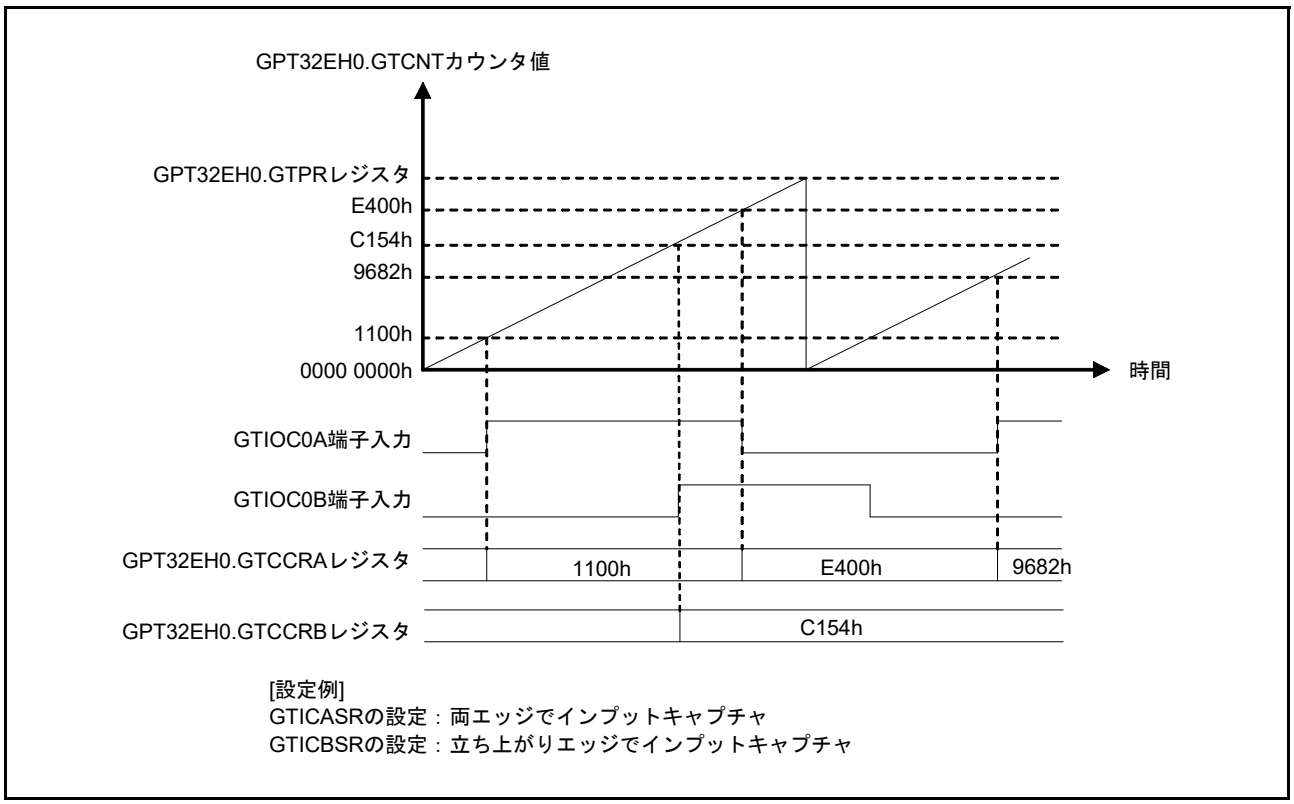


図 23.16 インプットキャプチャ動作例

カウントクロックによるカウント動作でのインプットキャプチャ動作設定例を図 23.17 に示します。

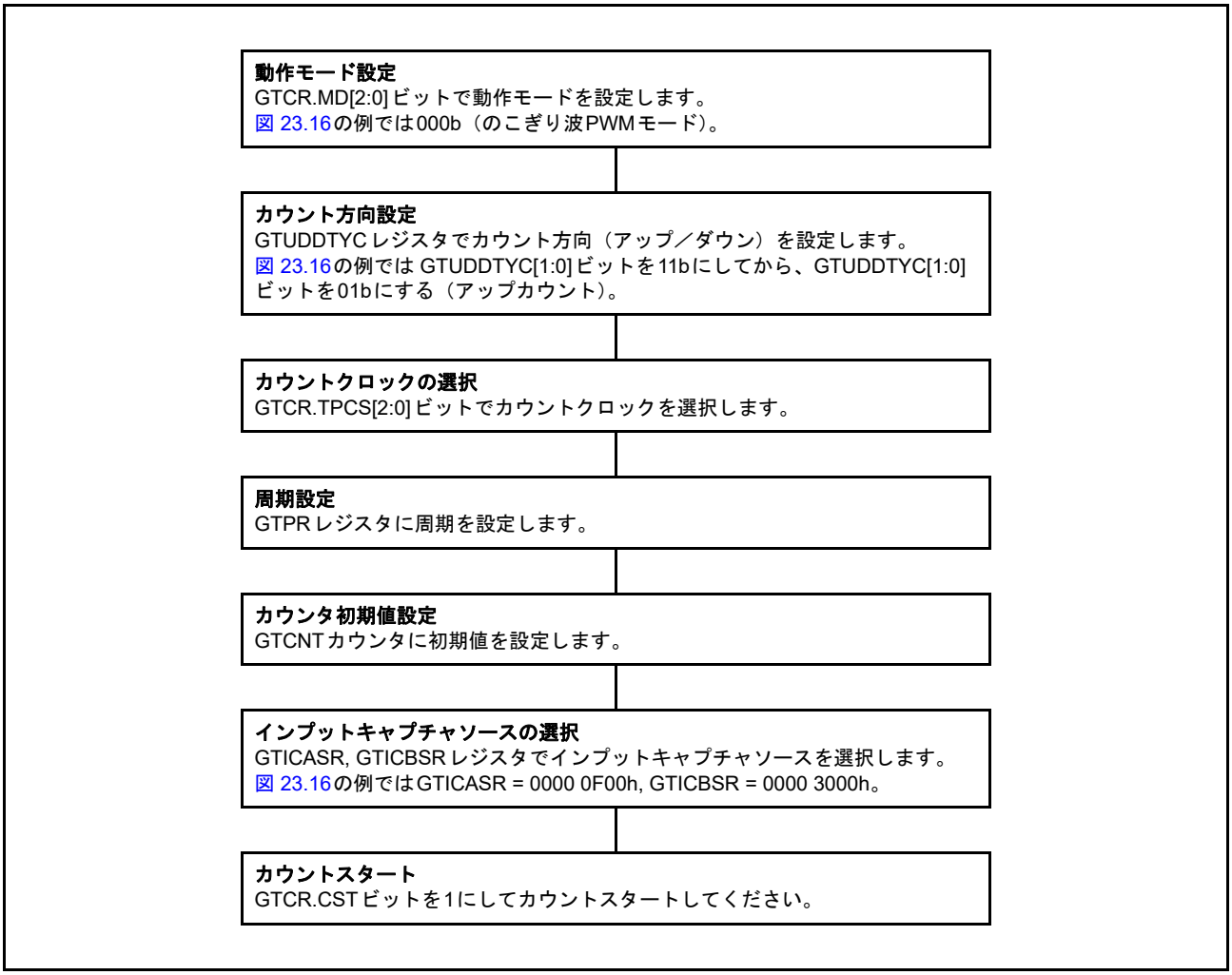


図 23.17　インプットキャプチャ動作設定例

23.3.2　バッファ動作

GTBER レジスタによって、以下のバッファ動作の設定が可能です。

- GTPR、GTPBR、および GTPDBR
- GTCCRA、GTCCRC、および GTCCRD
- GTCCRB、GTCCRE、および GTCCRF
- GTADTRA、GTADTBRA、および GTADTDBRA
- GTADTRB、GTADTBRB、および GTADTDBRB

GTDTCR レジスタを設定することにより、以下のバッファ動作が可能です。

- GTDVU および GTDBU
- GTDVD および GTDBD

23.3.2.1　GTPR レジスタのバッファ動作

GTPBR レジスタは GTPR レジスタのバッファレジスタ、GTPDBR レジスタは GTPBR レジスタ用のバッファレジスタ（GTPR レジスタ用のダブルバッファレジスタ）として動作します。バッファ転送は、のこぎり波モードまたはイベントカウントのオーバーフロー時（アップカウント中）またはアンダーフロー時（ダウンカウント中）、および三角波モードの谷で実行されます。

のこぎり波モードまたはイベントカウントでは、カウント中に以下のカウンタクリア動作が発生すると、バッファ転送が実行されます。

- ハードウェア要因によるクリア（クリア要因は GTCSR[23:0] ビットで選択）
- ソフトウェアによるクリア（GTCSR.CCLR ビットが 1、GTCLR[n] ビットが 1、n＝チャネル番号）

GTPR レジスタのダブルバッファ動作を設定するには、GTBER.PR[1:0] ビットを 10b または 11b にしてください。GTPR レジスタのバッファ動作を設定しない場合は、GTBER.PR[1:0] ビットを 00b にしてください。

GTPR レジスタのバッファ動作例を図 23.18 ～図 23.20 に、GTPR レジスタのバッファ動作設定例を図 23.21 に示します。

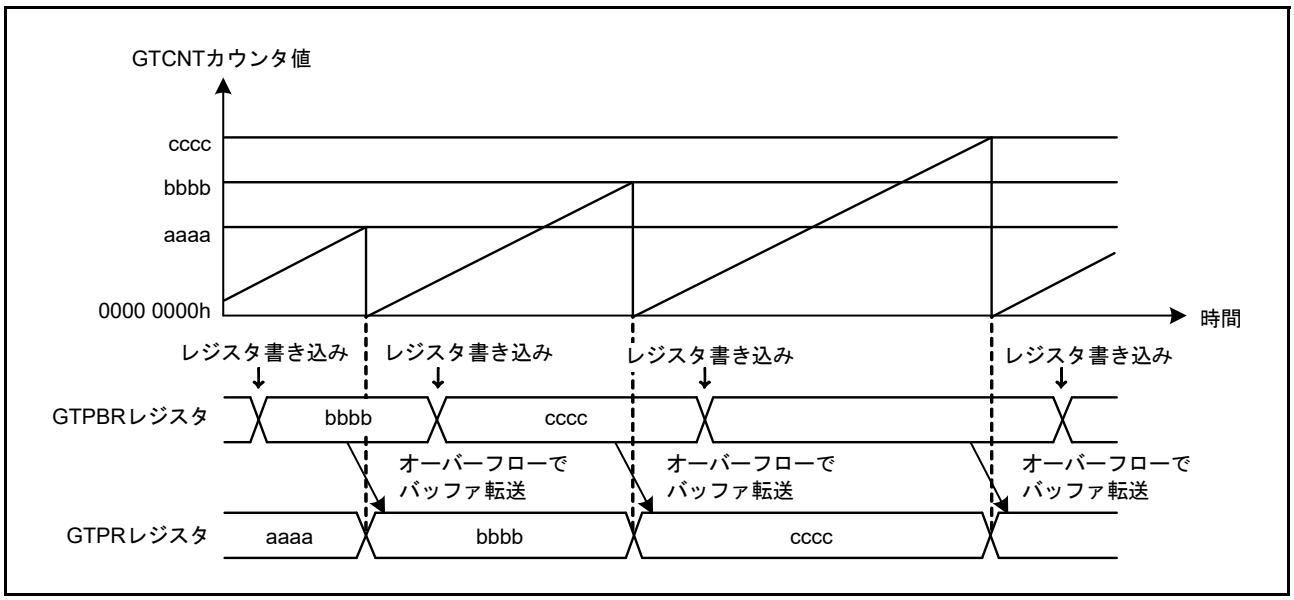


図 23.18　GTPR レジスタのバッファ動作例（のこぎり波でアップカウントの場合）

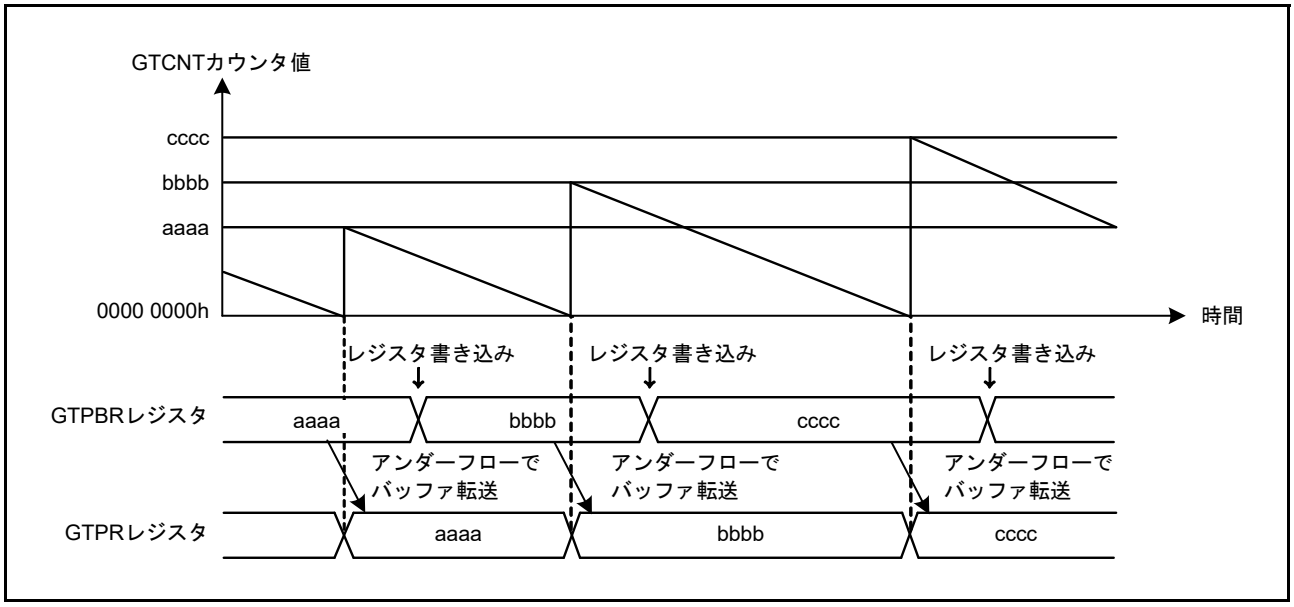


図 23.19　GTPR レジスタのバッファ動作例（のこぎり波でダウンカウントの場合）

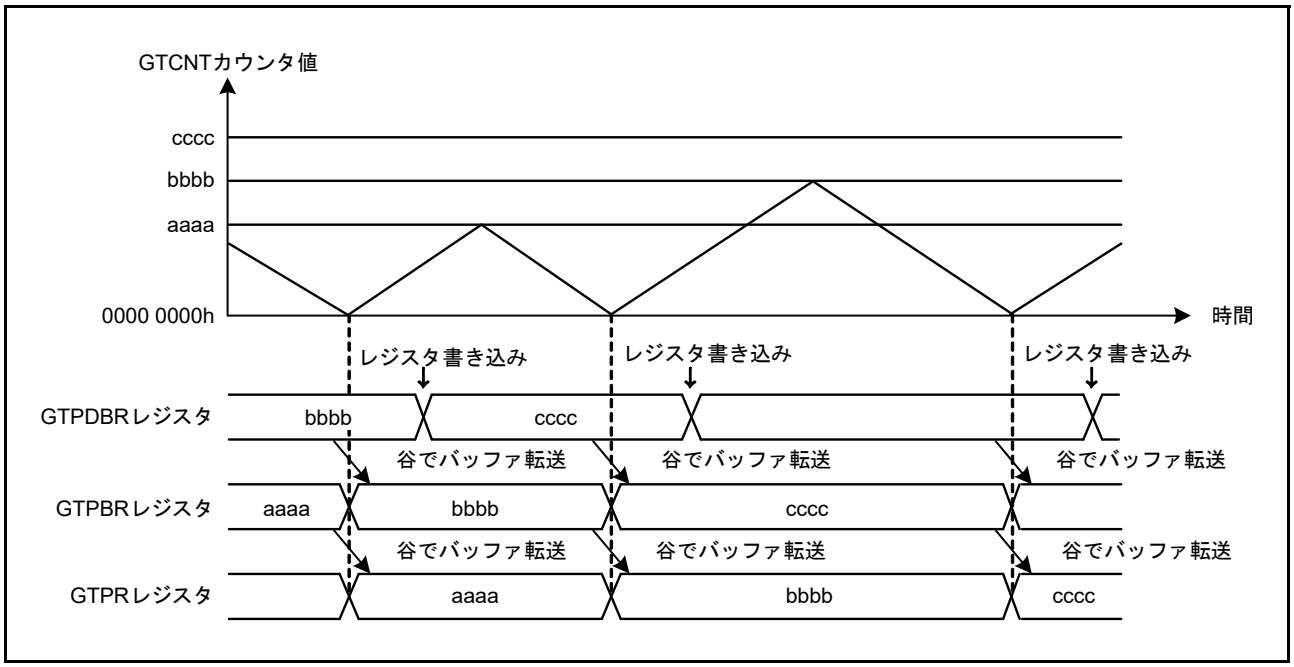


図 23.20　GTPR レジスタのダブルバッファ動作例（三角波の場合）

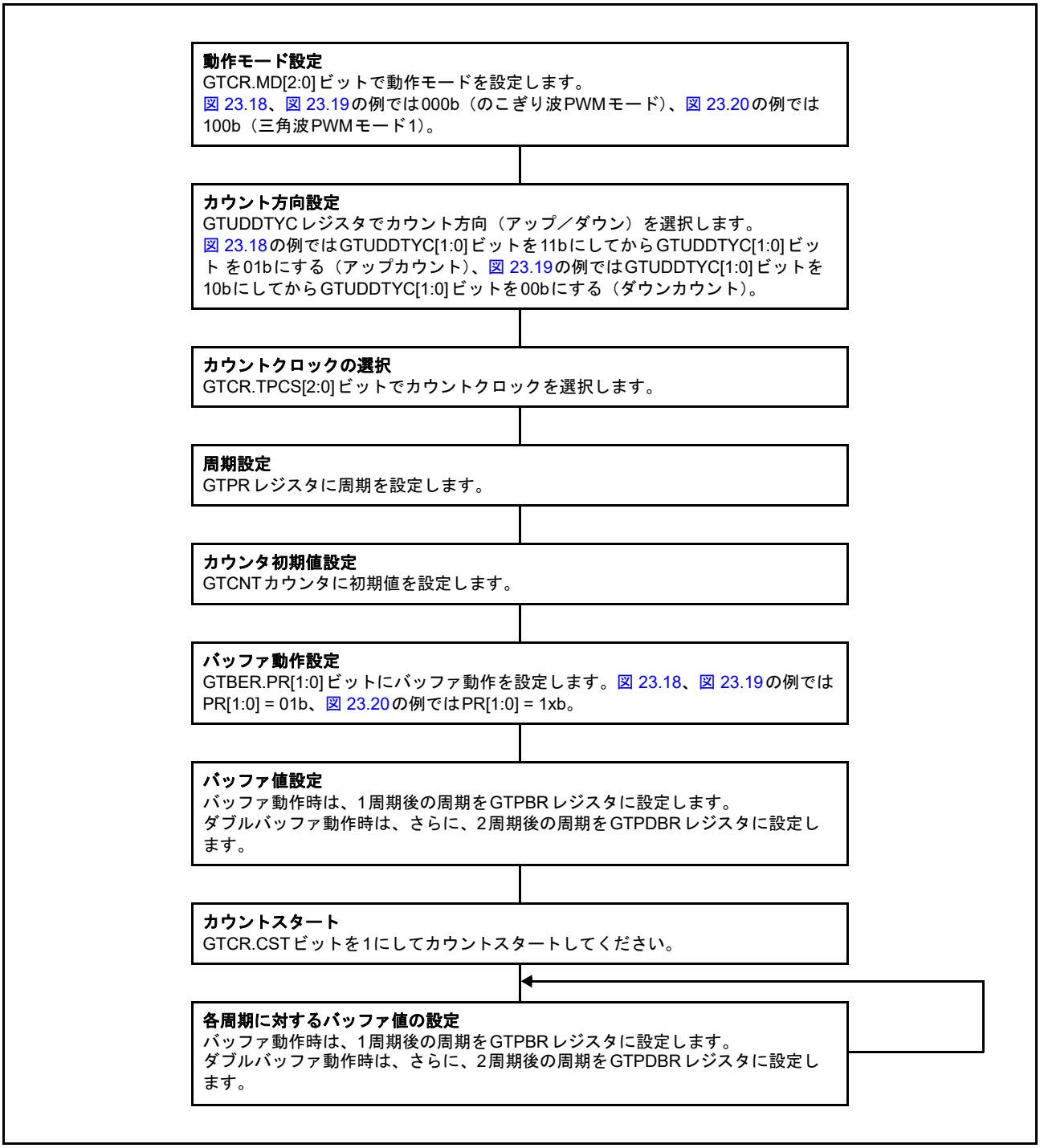


図 23.21 GTPR レジスタのバッファ動作設定例

23.3.2.2 GTCCRA、GTCCRB レジスタのバッファ動作

GTCCRC レジスタは GTCCRA レジスタのバッファレジスタ、GTCCRD レジスタは GTCCRC レジスタのバッファレジスタ（GTCCRA レジスタのダブルバッファレジスタ）として動作します。同様に、GTCCRE レジスタは GTCCRB レジスタのバッファレジスタ、GTCCRF レジスタは GTCCRE レジスタのバッファレジスタ（GTCCRB レジスタのダブルバッファレジスタ）として動作します。

GTCCRA または GTCCRB レジスタをダブルバッファ動作させるには、GTBER.CCRA[1:0] または GTBER.CCRB[1:0] ビットを 10b または 11b にします。シングルバッファとして動作設定するには、GTBER.CCRA[1:0] または GTBER.CCRB[1:0] ビットを 01b にします。GTCCRA または GTCCRB レジスタをバッファ動作させない場合は、GTBER.CCRA[1:0] または GTBER.CCRB[1:0] ビットを 00b にします。

(1) GTCCRA または GTCCRB レジスタがアウトプットコンペアレジスタとして動作している場合

バッファ転送は以下の状況で発生します。

- オーバーフロー／アンダーフローによるバッファ転送
  のこぎり波モードまたはイベントカウント動作では、オーバーフロー時（アップカウント中）またはアンダーフロー時（ダウンカウント中）に、バッファ転送が実行されます。三角波モードでは、谷（三角波 PWM モード 1）または山と谷（三角波 PWM モード 2）で、バッファ転送が実行されます。
- カウンタクリアによるバッファ転送
  のこぎり波モードまたはイベントカウント動作では、カウント中に 23.3.2.1 GTPR レジスタのバッファ動作に示すものと同じカウンタクリア要因によって、バッファ転送が（アップカウント中のオーバーフロー時またはダウンカウント中のアンダーフロー時と同様に）実行されます。三角波モードでは、カウンタクリアによるバッファ転送は実行されません。
- バッファ強制転送
  カウントストップ中に GTBER.CCRSWT ビットを 1 にすると、のこぎり波モード、イベントカウント動作、および三角波モードでは、GTCCRA および GTCCRB レジスタのバッファ転送が強制的に実行されます。さらに、のこぎり波ワンショットパルスモードまたは三角波 PWM モード 3 では、GTCCRD レジスタから一時レジスタ A へのバッファ転送、および GTCCRF レジスタから一時レジスタ B へのバッファ転送が実行されます。

GTCCRA および GTCCRB レジスタのバッファ動作例を図 23.22 ～図 23.24 に、GTCCRA および GTCCRB レジスタのバッファ動作設定例を図 23.25 に示します。

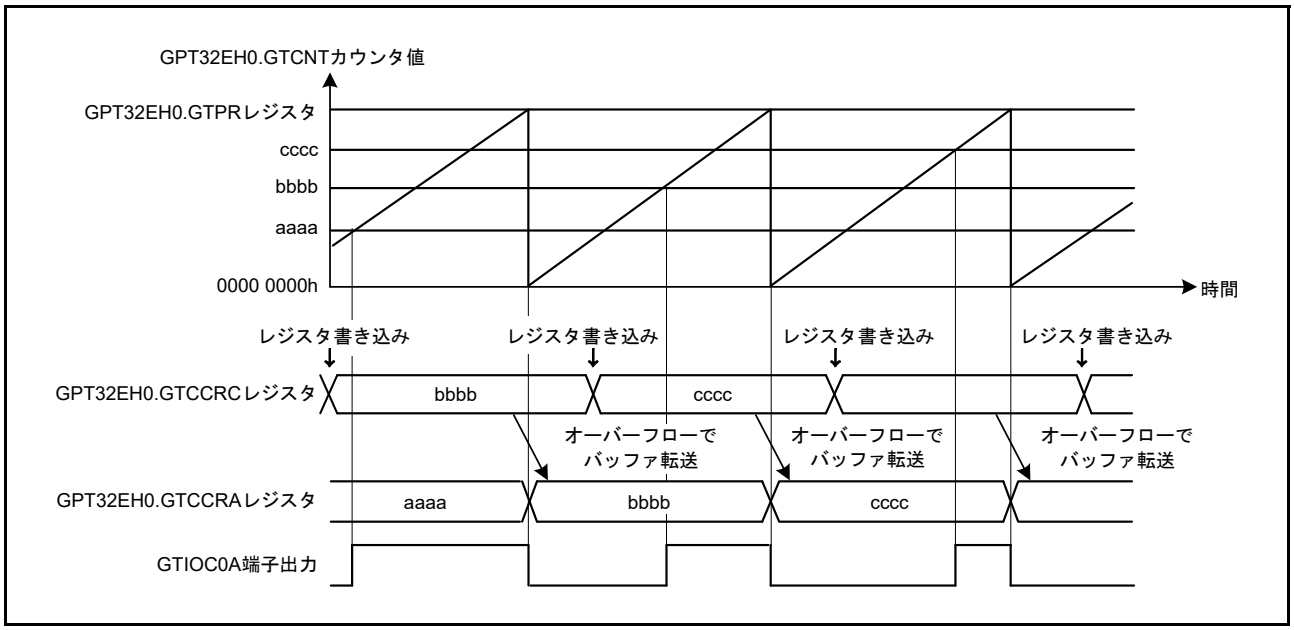


図 23.22 GTCCRA、GTCCRB レジスタのバッファ動作例（アウトプットコンペア、アップカウント時ののこぎり波、GTCCRA レジスタのコンペアマッチで High 出力、周期の終わりで Low 出力の場合）

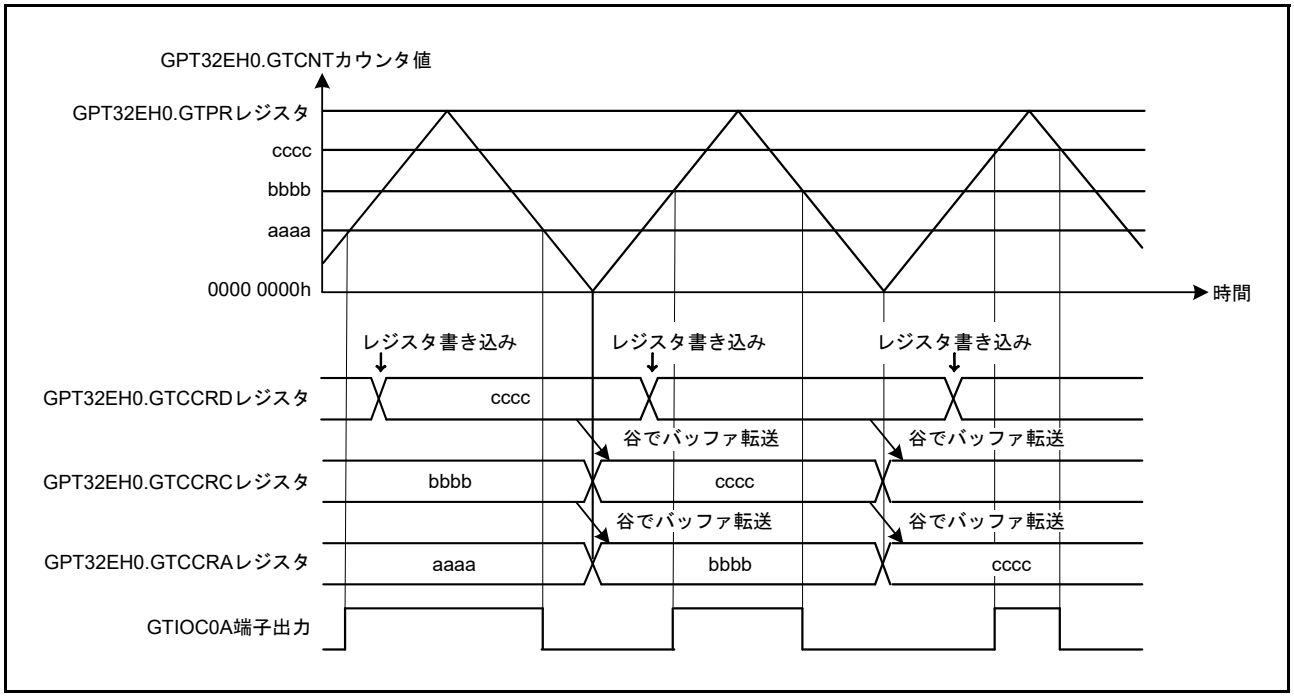


図 23.23　GTCCRA、GTCCRB レジスタのダブルバッファ動作例（アウトプットコンペア、三角波、谷でバッファ動作、GTCCRA レジスタのコンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力保持の場合）

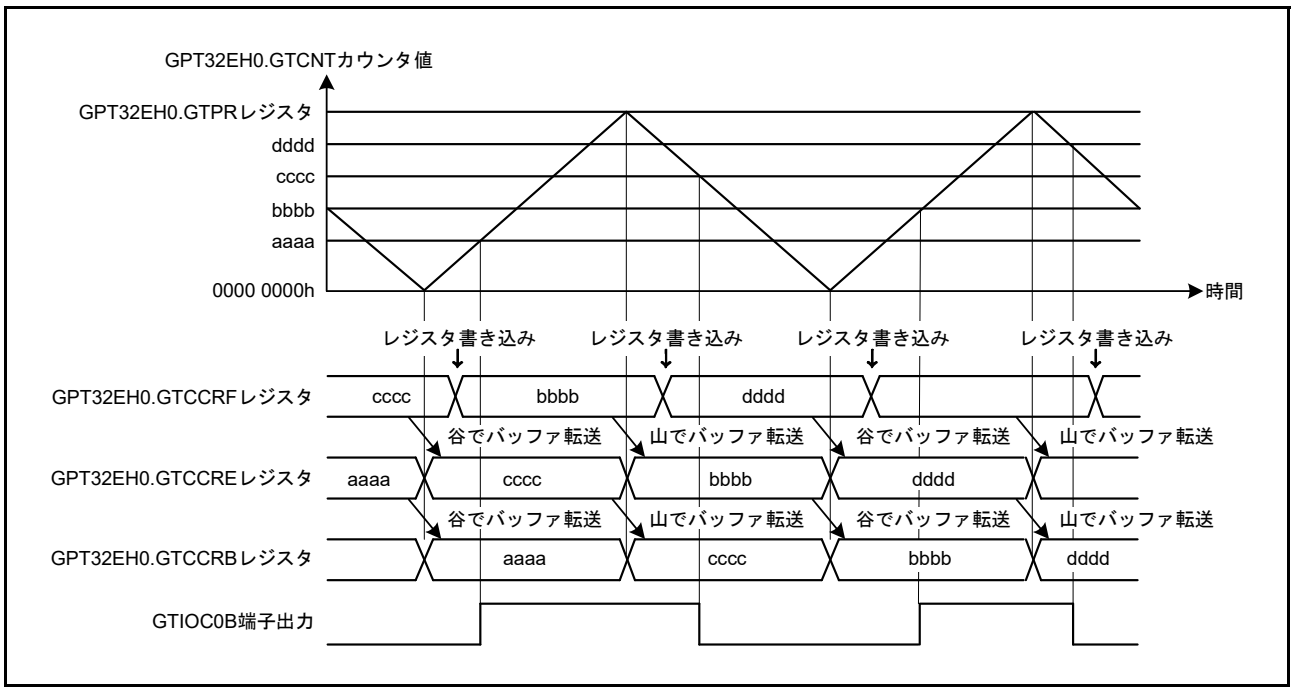
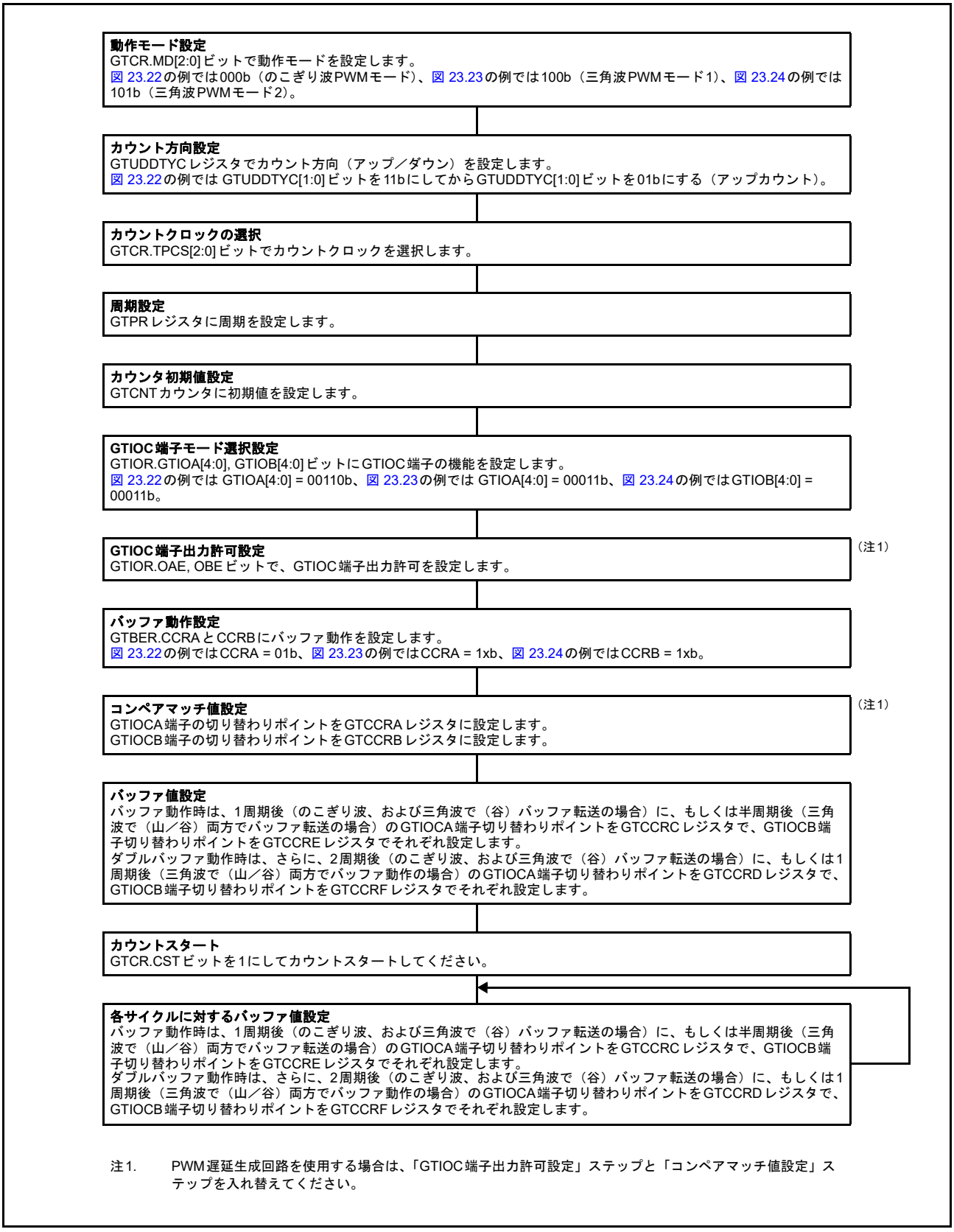


図 23.24　GTCCRA、GTCCRB レジスタのダブルバッファ動作例（アウトプットコンペア、三角波、山と谷でバッファ動作、GTCCRB レジスタのコンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力保持の場合）



注1.　PWM遅延生成回路を使用する場合は、「GTIOC端子出力許可設定」ステップと「コンペアマッチ値設定」ステップを入れ替えてください。

図 23.25　GTCCRA、GTCCRB レジスタのバッファ動作設定例（アウトプットコンペア時）

(2) GTCCRA または GTCCRB レジスタがインプットキャプチャレジスタとして動作している場合

インプットキャプチャが発生すると、GTCNT カウンタ値が GTCCRA および GTCCRB レジスタに転送されると同時に、それまで格納されていた GTCCRA および GTCCRB レジスタ値がバッファレジスタに転送されます。インプットキャプチャ動作では、カウンタクリアによるバッファ転送は実行されません。

GTCCRA および GTCCRB レジスタのバッファ動作例を図 23.26 および図 23.27 に、GTCCRA および GTCCRB レジスタのバッファ動作設定例を図 23.28 に示します。

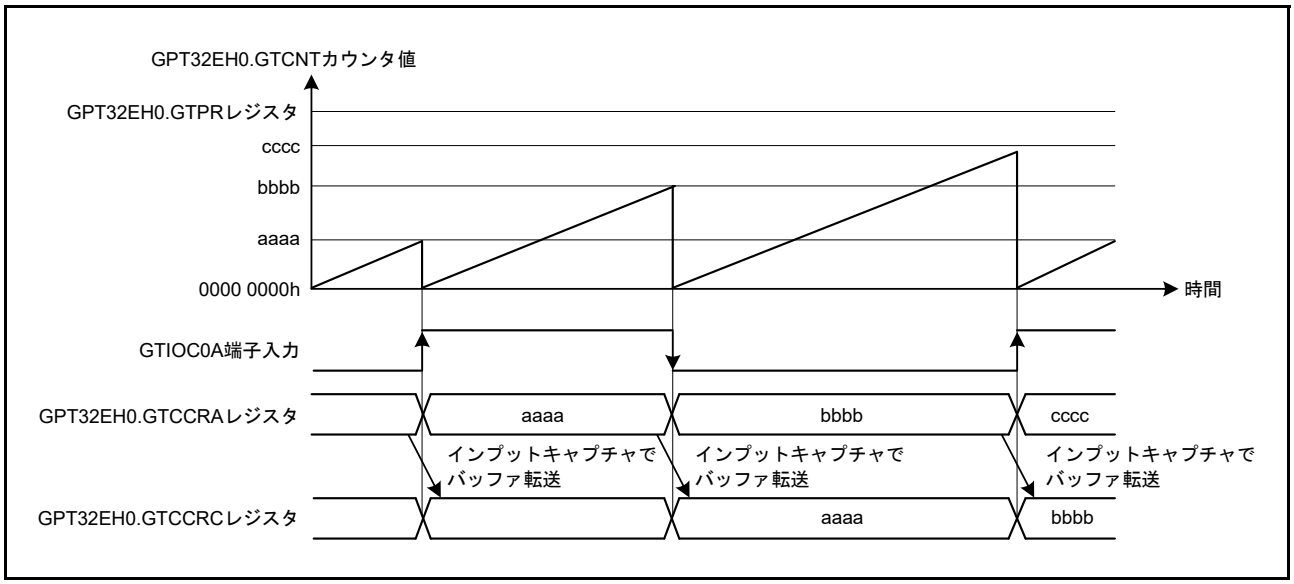


図 23.26　GTCCRA、GTCCRB レジスタのバッファ動作例（GTIOC0A 端子入力の両エッジでインプットキャプチャ、のこぎり波でアップカウント、GTIOC0A 端子入力の両エッジで GTCNT カウンタクリアの場合）

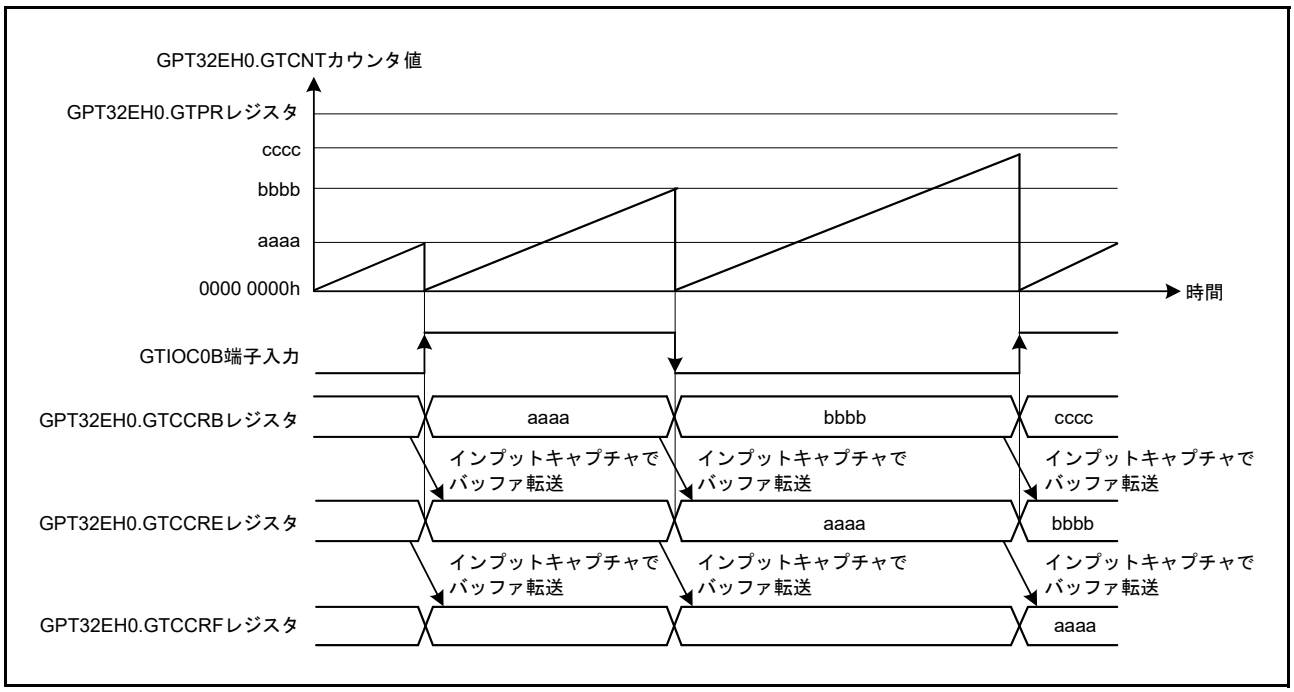


図 23.27　GTCCRA、GTCCRB レジスタのダブルバッファ動作例（GTIOC0B 端子入力の両エッジでインプットキャプチャ、のこぎり波でアップカウント、GTIOC0B 端子入力の両エッジで GTCNT カウンタクリアの場合）

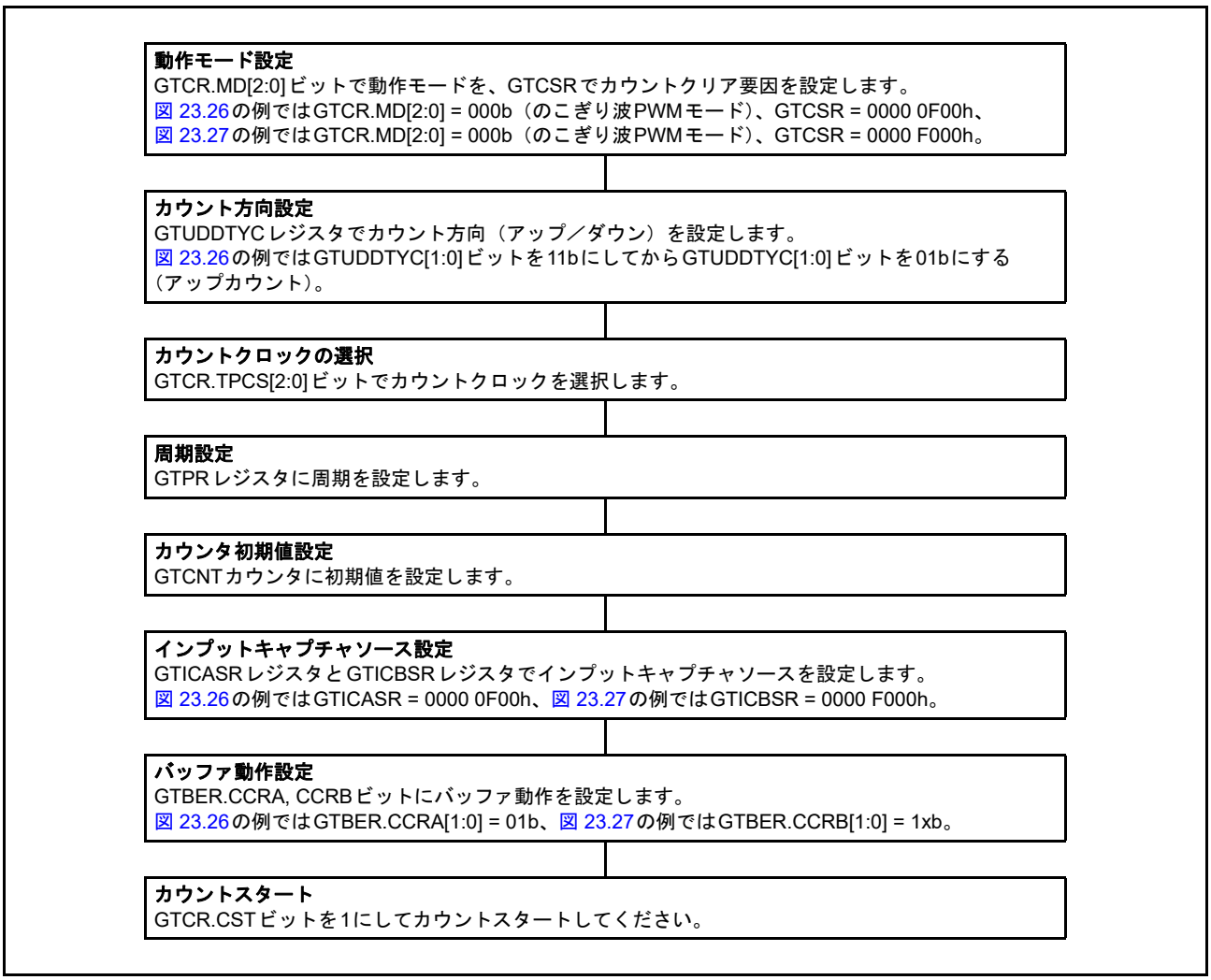


図 23.28 GTCCRA、GTCCRB レジスタのバッファ動作設定例（インプットキャプチャ時）

23.3.2.3 GTADTRA、GTADTRB レジスタのバッファ動作

GTADTBRA レジスタは GTADTRA レジスタのバッファレジスタ、GTADTDBRA レジスタは GTADTBRA レジスタのバッファレジスタ（GTADTRA レジスタのダブルバッファレジスタ）として動作します。同様に、GTADTBRB レジスタは GTADTRB レジスタのバッファレジスタ、GTADTDBRB レジスタは GTADTBRB レジスタのバッファレジスタ（GTADTRB レジスタのダブルバッファレジスタ）として動作します。

GTADTRA または GTADTRB レジスタのダブルバッファ動作させる場合には、GTBER.ADTDA または GTBER.ADTDB ビットを 1 にします。シングルバッファとして動作設定するには、GTBER.ADTDA または GTBER.ADTDB ビットを 0 にします。GTADTRA または GTADTRB レジスタのバッファ動作させない場合は、GTBER.ADTTA[1:0] または GTBER.ADTTB[1:0] ビットを 00b にします。

バッファ転送のタイミングは、GTBER.ADTTA[1:0] ビットで設定できます。のこぎり波の場合、オーバーフロー（アップカウント中）またはアンダーフロー（ダウンカウント中）を選択できます。三角波の場合、GTBER.ADTTA[1:0] ビット = 01b のときは山、GTBER.ADTTA[1:0] ビット = 10b のときは谷、GTBER.ADTTA[1:0] ビット = 11b のときは山と谷の両方を選択できます。

GTADTRA および GTADTRB レジスタのバッファ動作例を図 23.29 ～図 23.31 に、GTADTRA および GTADTRB レジスタのバッファ動作設定例を図 23.32 に示します。

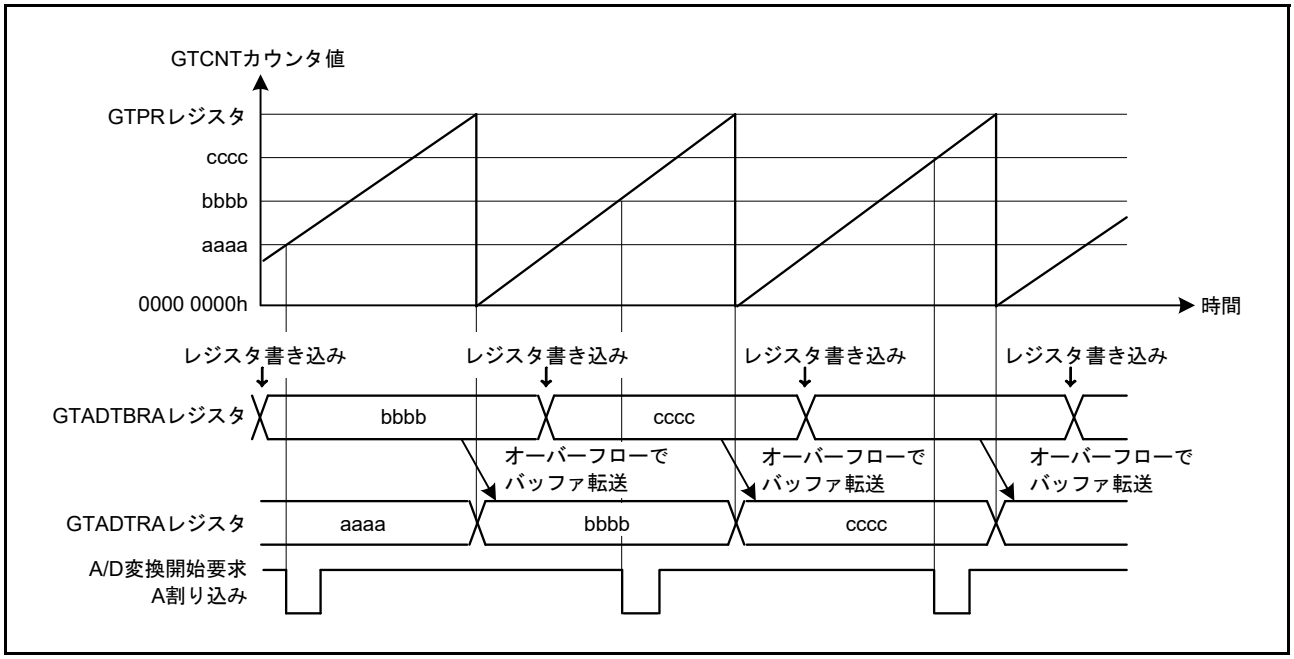


図 23.29 GTADTRA、GTADTRB レジスタのバッファ動作例（のこぎり波でアップカウント、アップカウントで A/D 変換開始要求割り込み発生の場合）

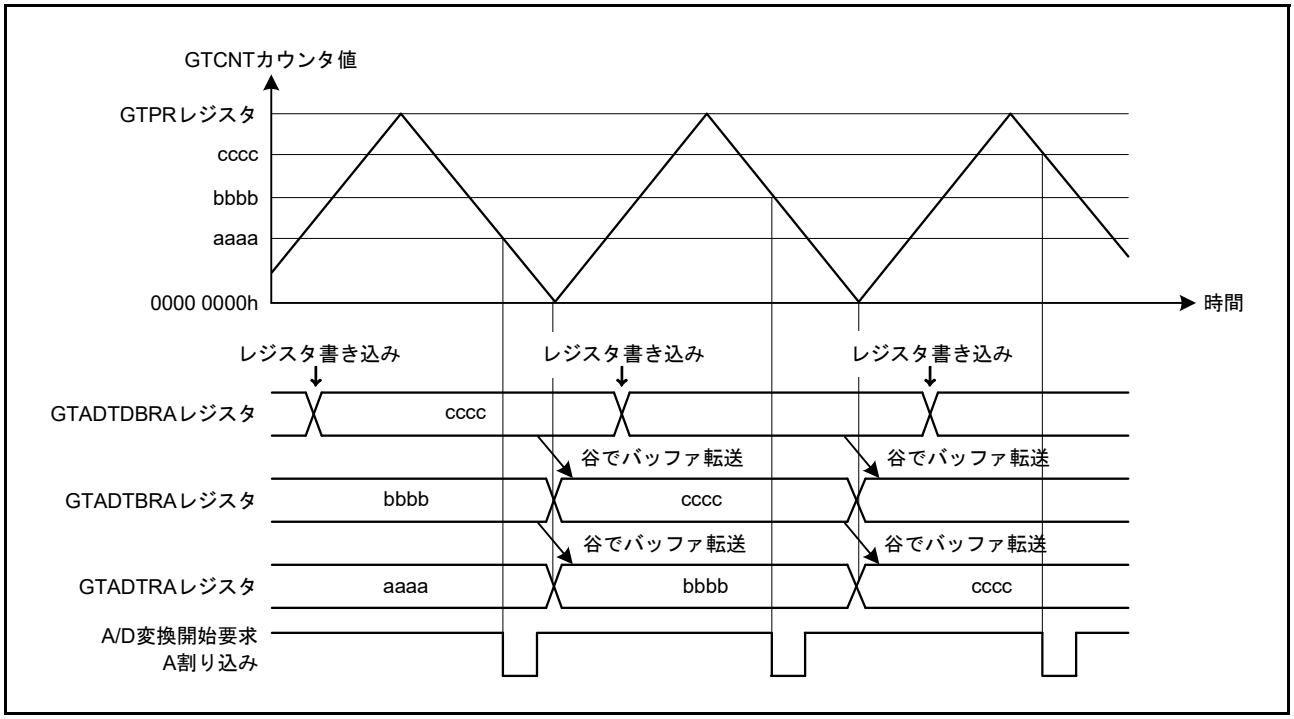


図 23.30　GTADTRA、GTADTRB レジスタのダブルバッファ動作例（三角波、谷でバッファ転送、ダウンカウントで A/D 変換開始要求割り込み発生の場合）

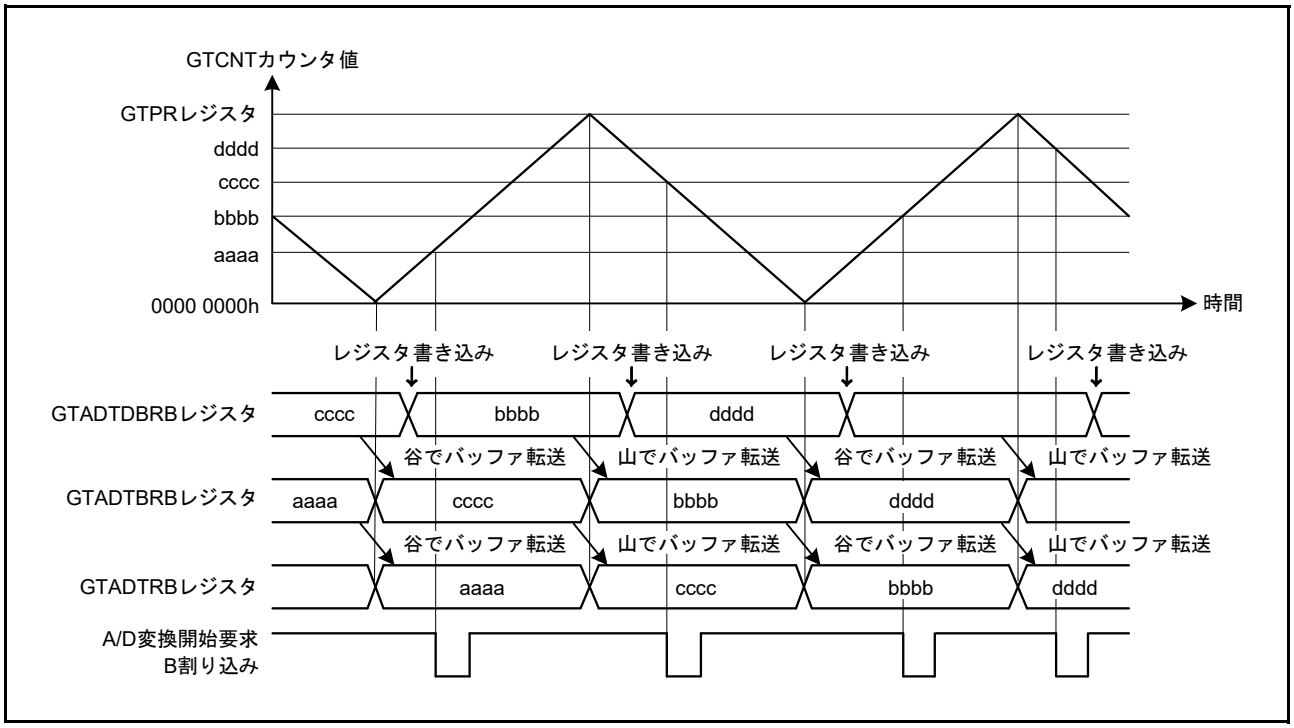


図 23.31　GTADTRA、GTADTRB レジスタのダブルバッファ動作例（三角波、谷と山の両方でバッファ転送、アップカウントとダウンカウント両方で A/D 変換開始要求割り込み発生の場合）

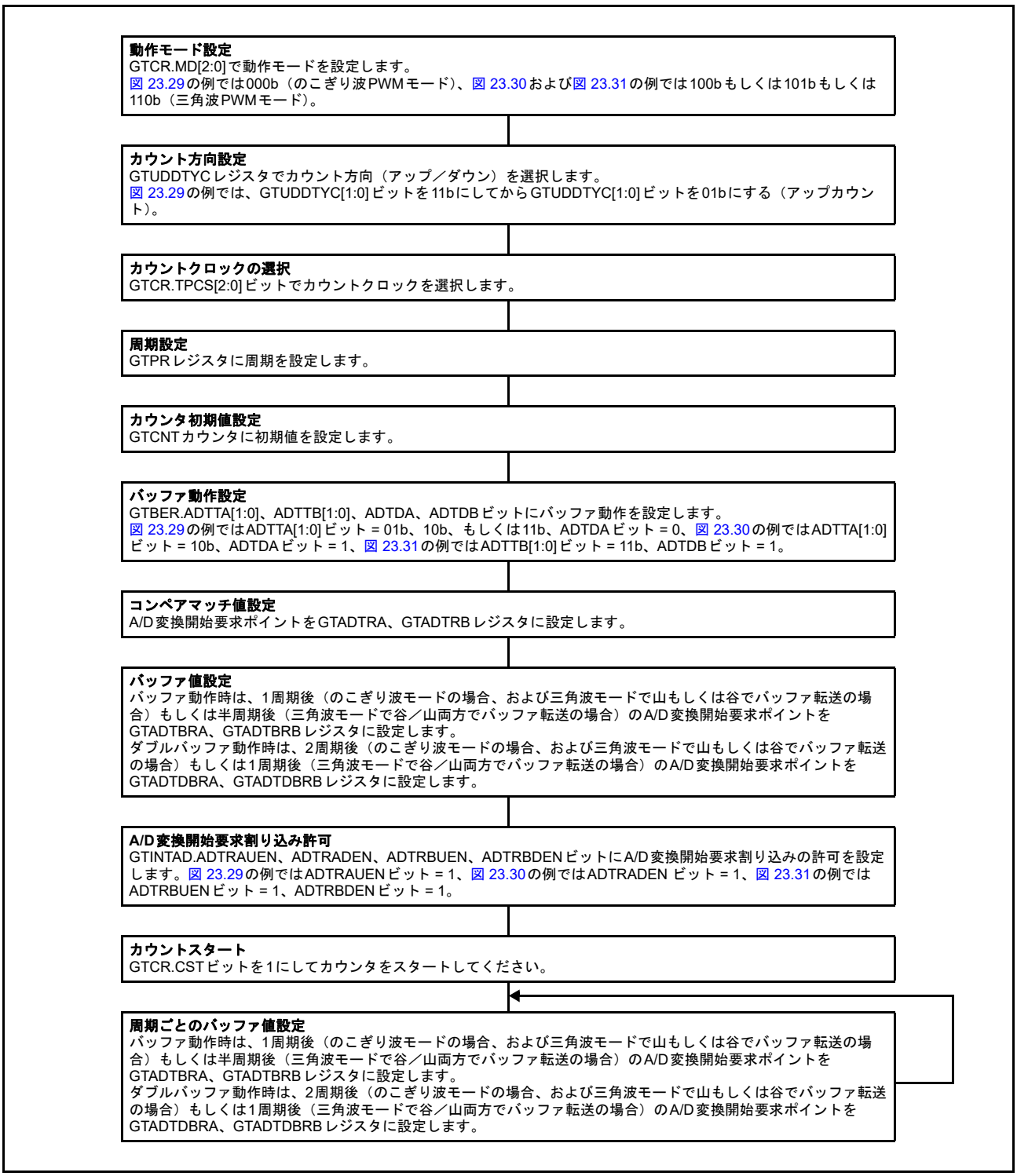


図 23.32 GTADTRA、GTADTRB レジスタのバッファ動作設定例

23.3.3 PWM 出力動作モード

GPT は、GTCNT カウンタと GTCCRA または GTCCRB レジスタとのコンペアマッチに基づいて、GTIOCA 端子または GTIOCB 端子へ PWM 波形を出力することが可能です。また、GTDTCR、GTDVU、および GTDVD レジスタを設定することにより、デッドタイム付き逆相波形のコンペアマッチ値を、GTCCRB レジスタに自動設定することが可能です。

23.3.3.1 のこぎり波 PWM モード

のこぎり波 PWM モードでは、GTPR レジスタに周期を設定することにより、GTCNT カウンタにのこぎり波（半波）動作を実行させます。また、GTCCRA または GTCCRB レジスタのコンペアマッチ発生時に、GTIOCA または GTIOCB 端子に PWM 波形を出力させます。端子の出力値は、GTIOR レジスタの設定によって、コンペアマッチ時と周期の終わりでそれぞれ個別に Low 出力／ High 出力／トグル出力から選択することが可能です。

図 23.33 にのこぎり波 PWM モードの動作例を、図 23.34 にのこぎり波 PWM モードの設定例を示します。

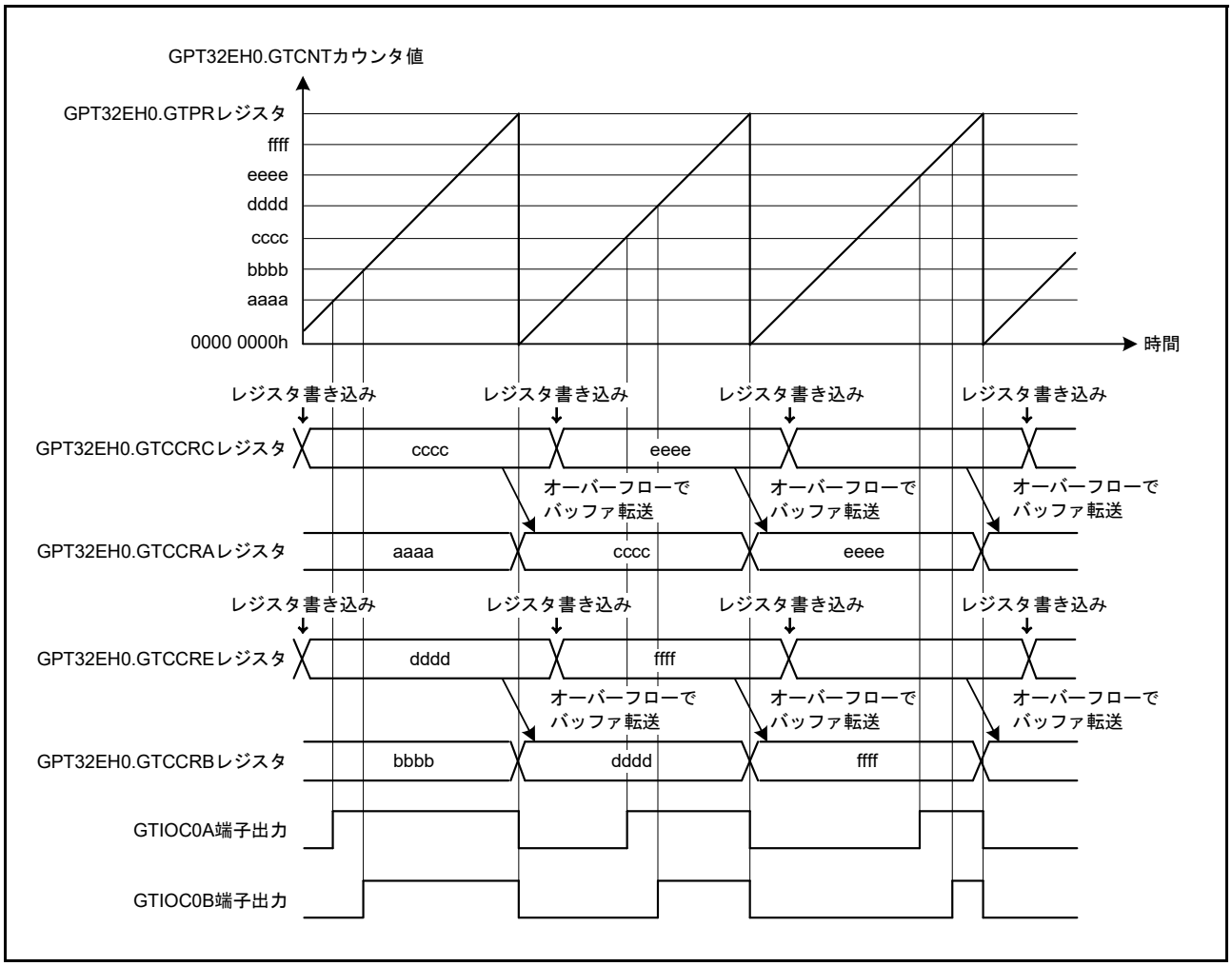
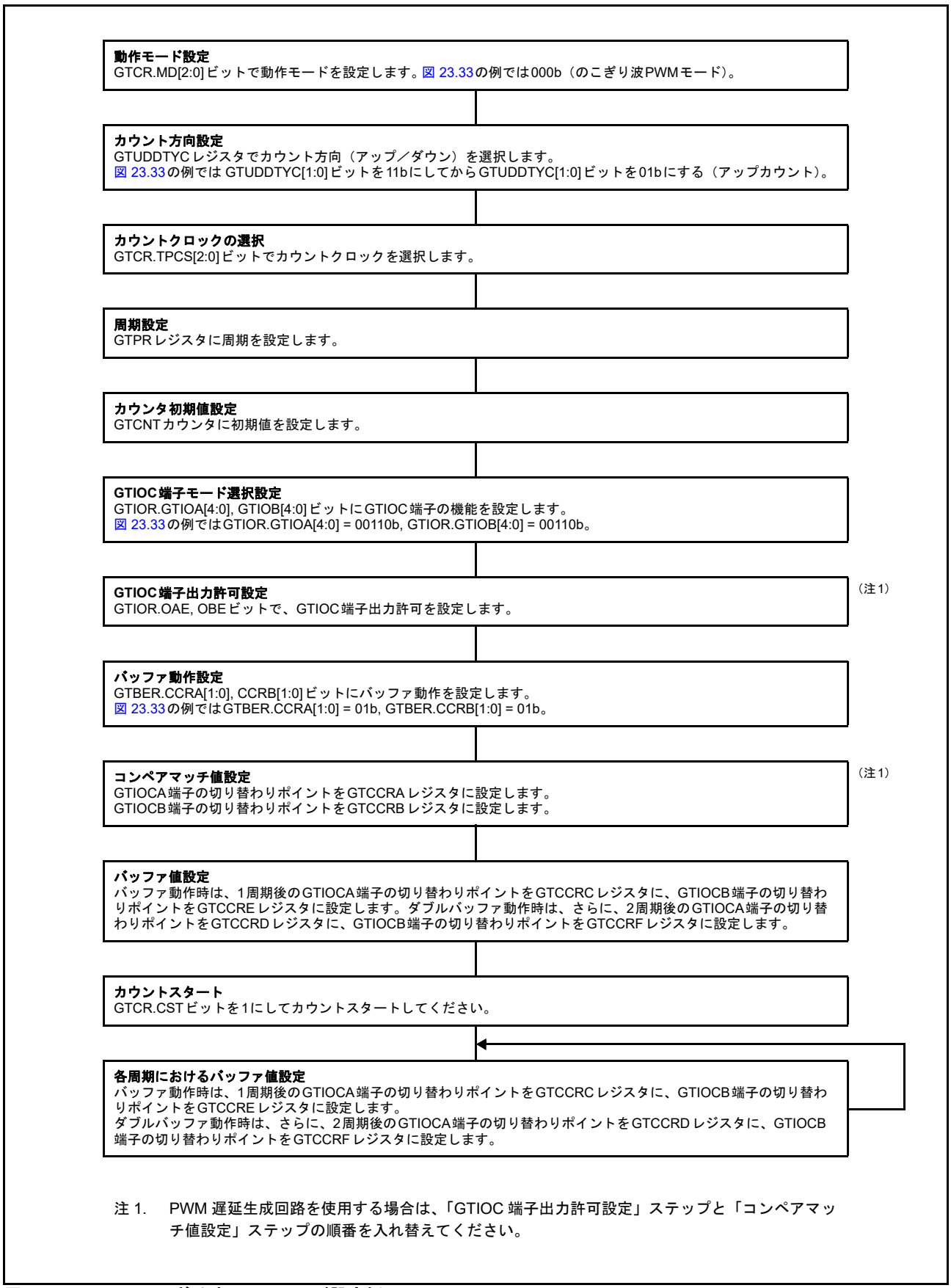


図 23.33 のこぎり波 PWM モード動作例（アップカウント、バッファ動作、GTCCRA/GTCCRB レジスタのコンペアマッチで High 出力、周期の終わりで Low 出力の場合）



注 1.　PWM 遅延生成回路を使用する場合は、「GTIOC 端子出力許可設定」ステップと「コンペアマッチ値設定」ステップの順番を入れ替えてください。

図 23.34　　のこぎり波 PWM モード設定例

23.3.3.2 のこぎり波ワンショットパルスモード

のこぎり波ワンショットパルスモードは、GTPR レジスタに周期を設定するモードです。GTCNT カウンタにのこぎり波（半波）動作を実行させ、バッファ動作固定で、GTCCRA または GTCCRB レジスタのコンペアマッチ発生時に GTIOCA または GTIOCB 端子に PWM 波形を出力します。

のこぎり波ワンショットパルスモードでのバッファ動作は、通常のバッファ動作とは異なります。バッファ転送は以下のように実行されます。

- 周期の終わりに GTCCRC レジスタから GTCCRA レジスタへ
- 周期の終わりに GTCCRE レジスタから GTCCRB レジスタへ
- 周期の終わりに GTCCRD レジスタから一時レジスタ A へ
- 周期の終わりに GTCCRF レジスタから一時レジスタ B へ
- GTCCRA レジスタのコンペアマッチ時に、一時レジスタ A から GTCCRA レジスタへ
- GTCCRB レジスタのコンペアマッチ時に、一時レジスタ B から GTCCRB レジスタへ

端子の出力値は、GTIOR レジスタの設定によって、コンペアマッチ時と周期の終わりでそれぞれ個別に Low 出力／ High 出力／トグル出力から選択することが可能です。カウントストップ中に GTBER.CCRSWT ビットを 1 にすると、GTCCRD レジスタから一時レジスタ A へ、および GTCCRF レジスタから一時レジスタ B へ、バッファ転送が強制的に実行されます。また、GTDTCR、GTDVU、および GTDVD レジスタを設定することにより、デッドタイム付き逆相波形のコンペアマッチ値は GTCCRB レジスタに自動設定されます。

図 23.35 に、のこぎり波ワンショットパルスモードの動作例を、図 23.36 に、のこぎり波ワンショットパルスモードの設定例を示します。

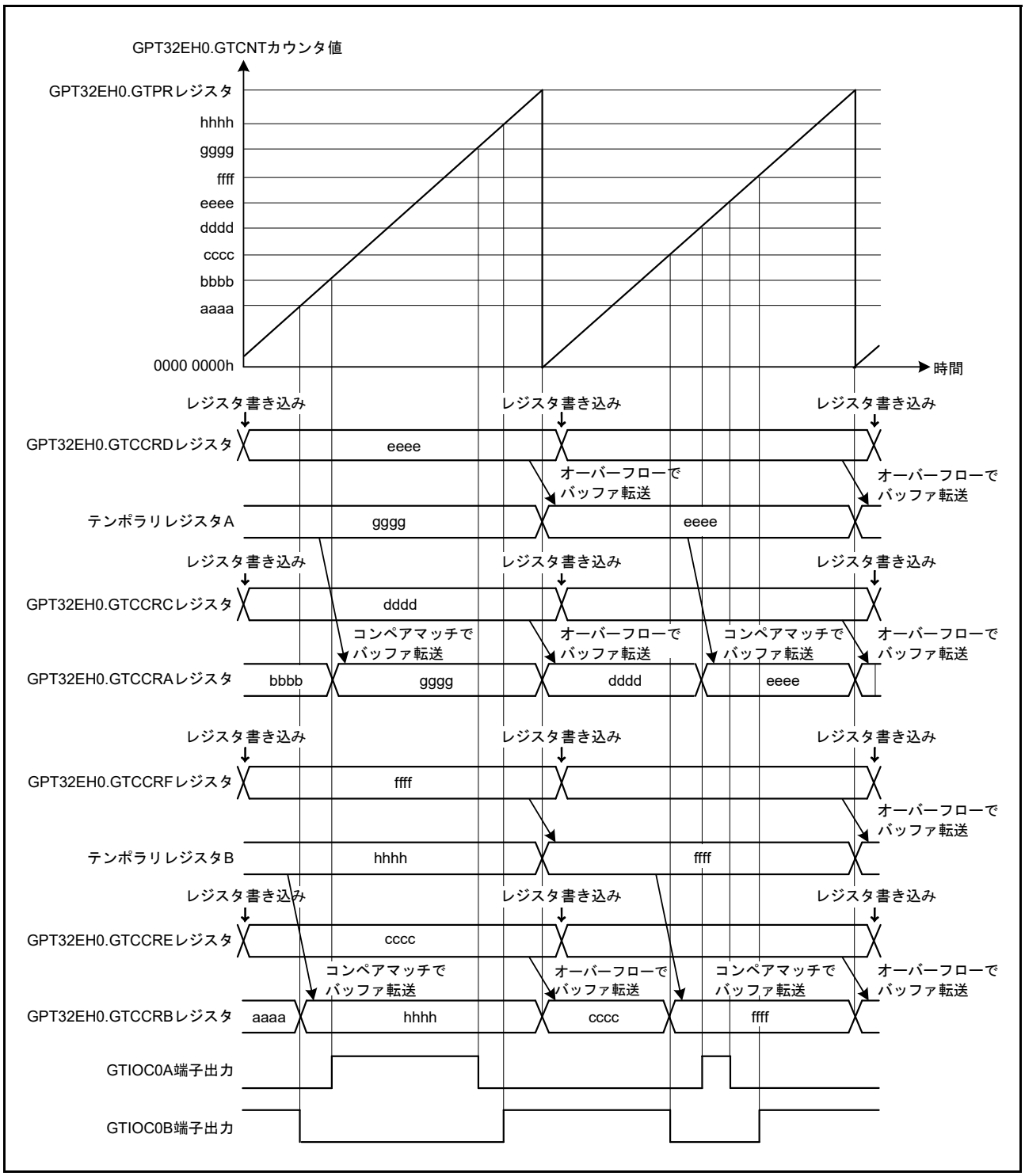
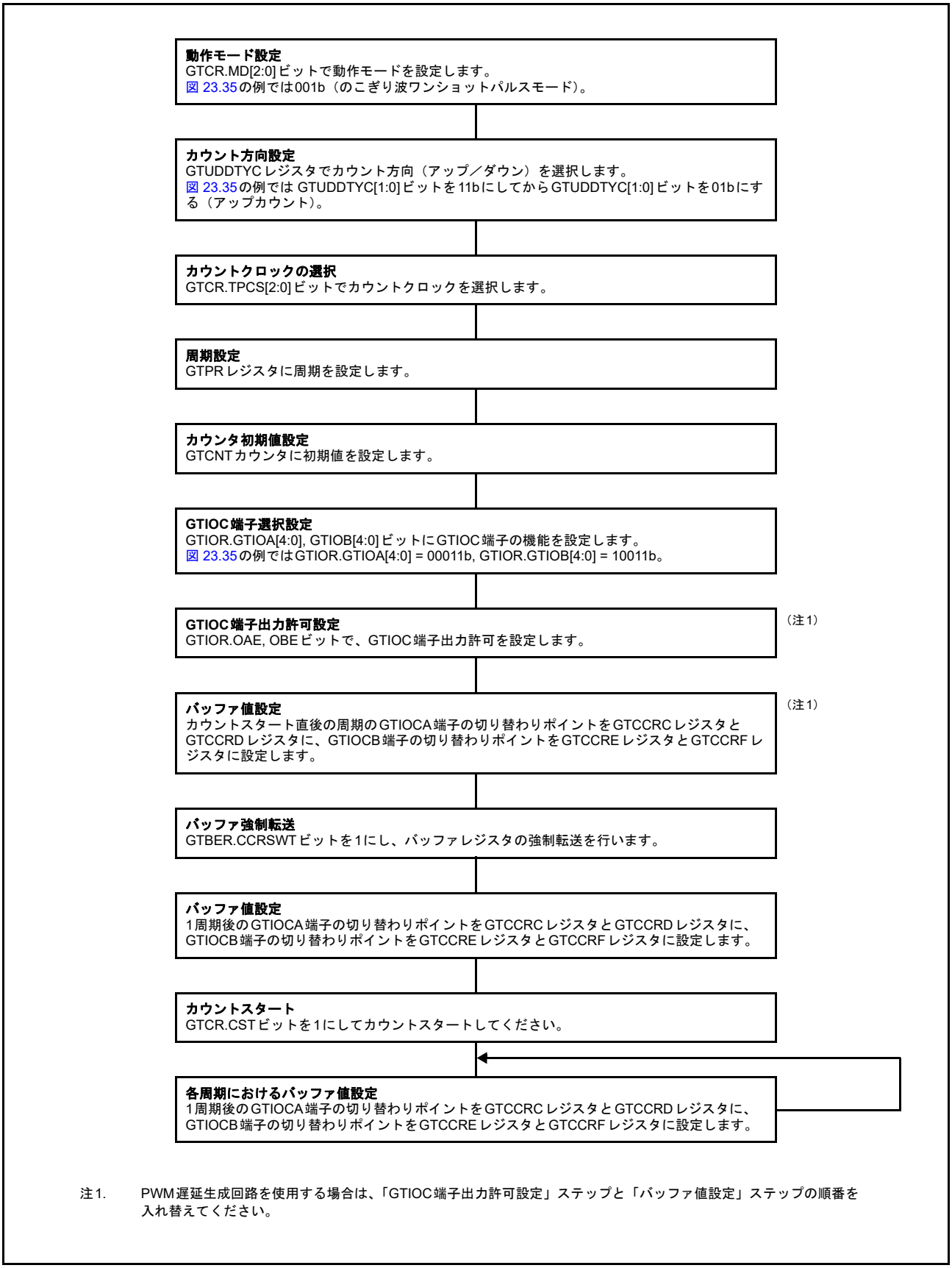


図 23.35　のこぎり波ワンショットパルスモード動作例（アップカウント、カウントスタート時 GTIOC0A 端子 = Low 出力／ GTIOC0B 端子 = High 出力、GTCCRA ／ GTCCRB レジスタのコンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力保持の場合）



注1. PWM遅延生成回路を使用する場合は、「GTIOC端子出力許可設定」ステップと「バッファ値設定」ステップの順番を入れ替えてください。

図 23.36 のこぎり波ワンショットパルスモード設定例

23.3.3.3　三角波 PWM モード 1（谷 32 ビット転送）

三角波 PWM モード 1 は、GTPR レジスタに周期を設定するモードです。GTCNT カウンタに三角波（全波）動作を実行させ、GTCCRA または GTCCRB レジスタのコンペアマッチ発生時に GTIOCA または GTIOCB 端子に PWM 波形を出力させます。バッファ転送は谷で行われます。端子の出力値は、GTIOR レジスタの設定によって、コンペアマッチ時と周期の終わりでそれぞれ個別に Low 出力／High 出力／トグル出力から選択できます。

また、GTDTCR、GTDVU、および GTDVD レジスタを設定することにより、デッドタイム付き逆相波形のコンペアマッチ値を、GTCCRB レジスタに自動設定することが可能です。

図 23.37 に三角波 PWM モード 1 の動作例を、図 23.38 に三角波 PWM モード 1 の設定例を示します。

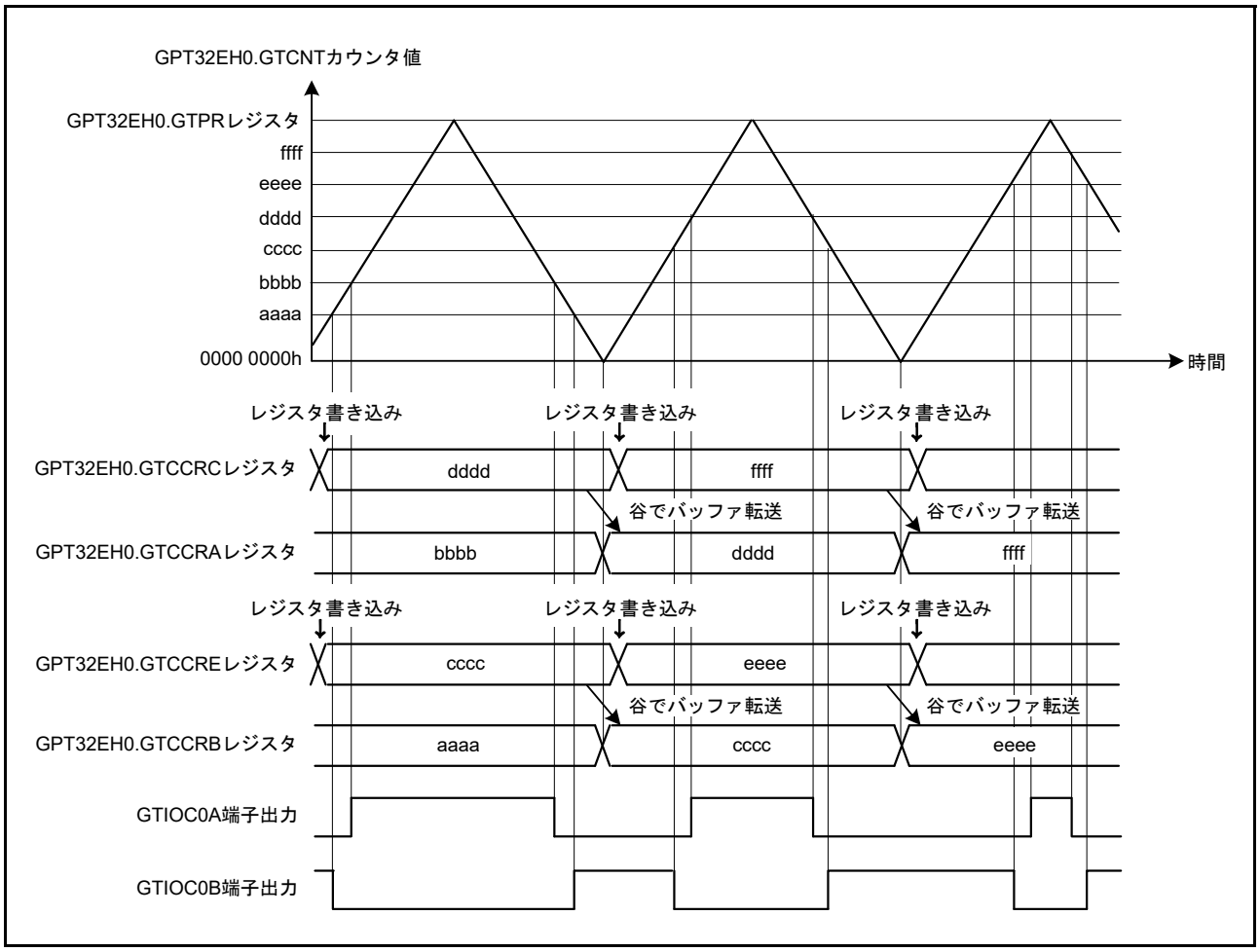
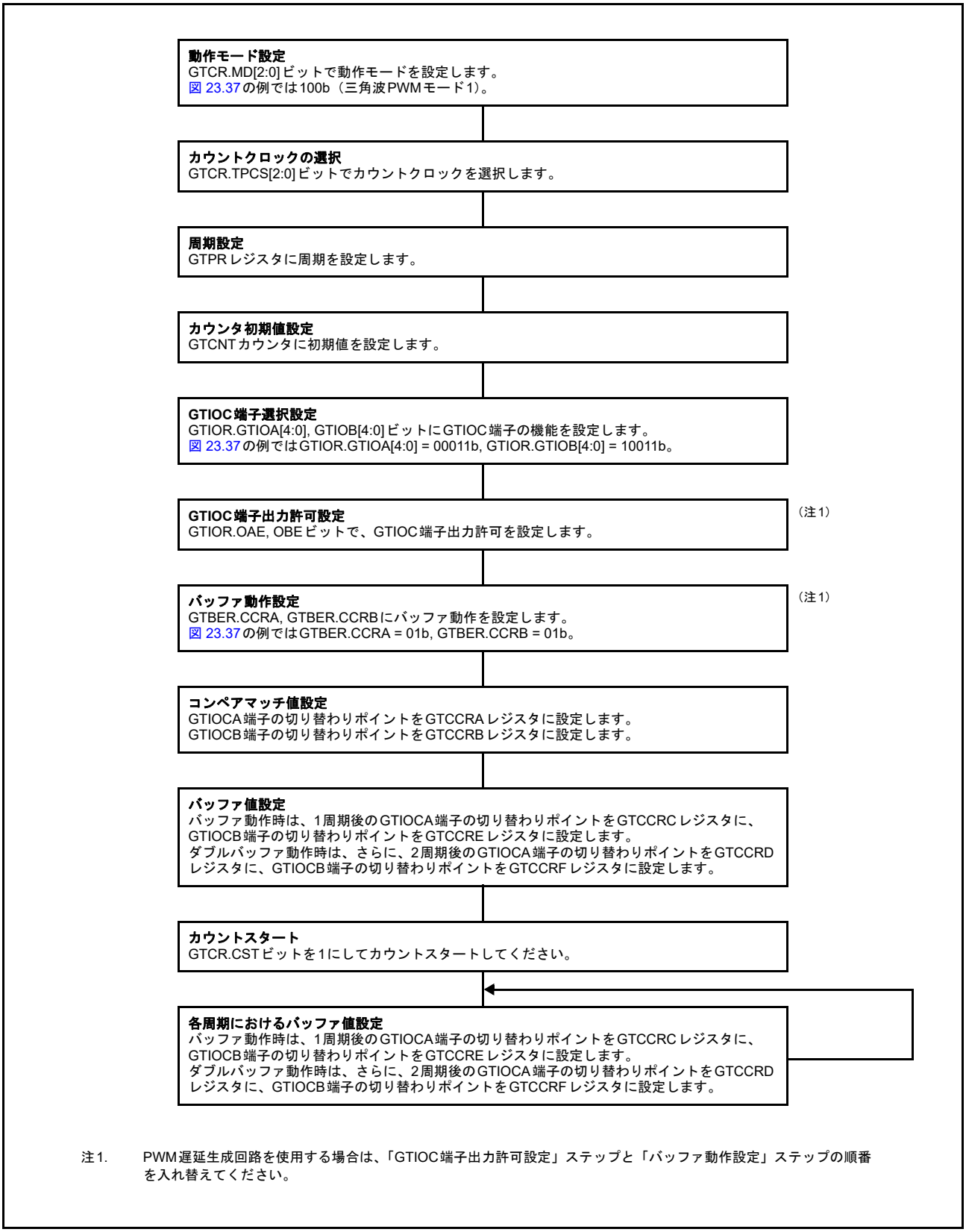


図 23.37　三角波 PWM モード 1 動作例（バッファ動作、カウントスタート時 GTIOC0A 端子 = Low 出力／GTIOC0B 端子 = High 出力、GTCCRA/GTCCRB レジスタのコンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力保持の場合）



注1. PWM遅延生成回路を使用する場合は、「GTIOC端子出力許可設定」ステップと「バッファ動作設定」ステップの順番を入れ替えてください。

図 23.38 三角波 PWM モード 1 設定例

23.3.3.4 三角波 PWM モード 2（山／谷 32 ビット転送）

三角波 PWM モード 1 と同様に、三角波 PWM モード 2 でも GTPR レジスタに周期を設定します。GTCNT カウンタに三角波（全波）動作を実行させ、GTCCRA または GTCCRB レジスタのコンペアマッチ発生時に GTIOCA または GTIOCB 端子に PWM 波形を出力させます。山と谷の両方でバッファ転送が行われます。端子の出力値は、GTIOR レジスタの設定によって、コンペアマッチ時と周期の終わりでそれぞれ個別に Low 出力／ High 出力／トグル出力から選択することが可能です。

また、GTDTCR、GTDVU、および GTDVD レジスタを設定することにより、デッドタイム付き逆相波形のコンペアマッチ値を、GTCCRB レジスタに自動設定することが可能です。

図 23.39 に三角波 PWM モード 2 の動作例を、図 23.40 に三角波 PWM モード 2 の設定例を示します。

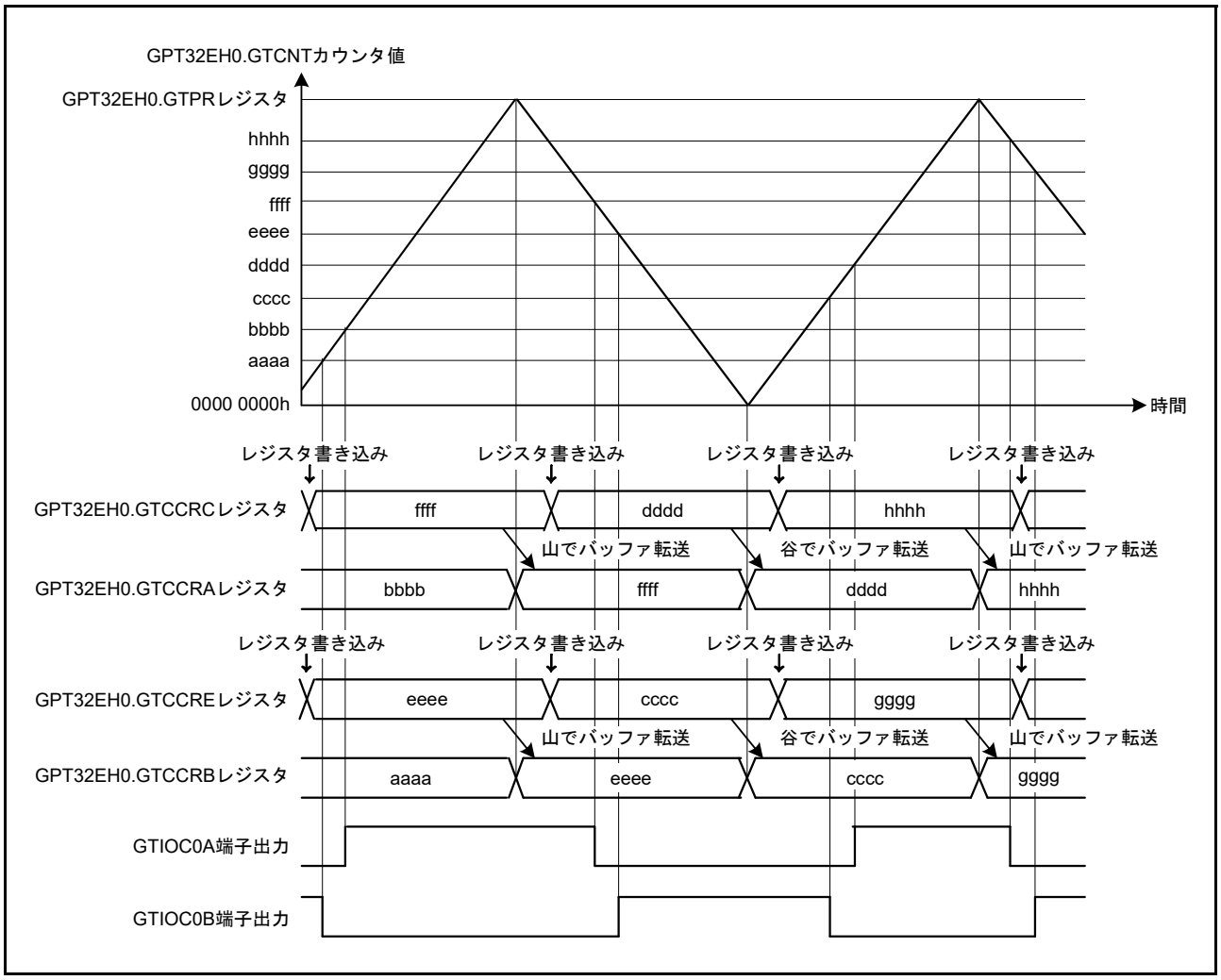
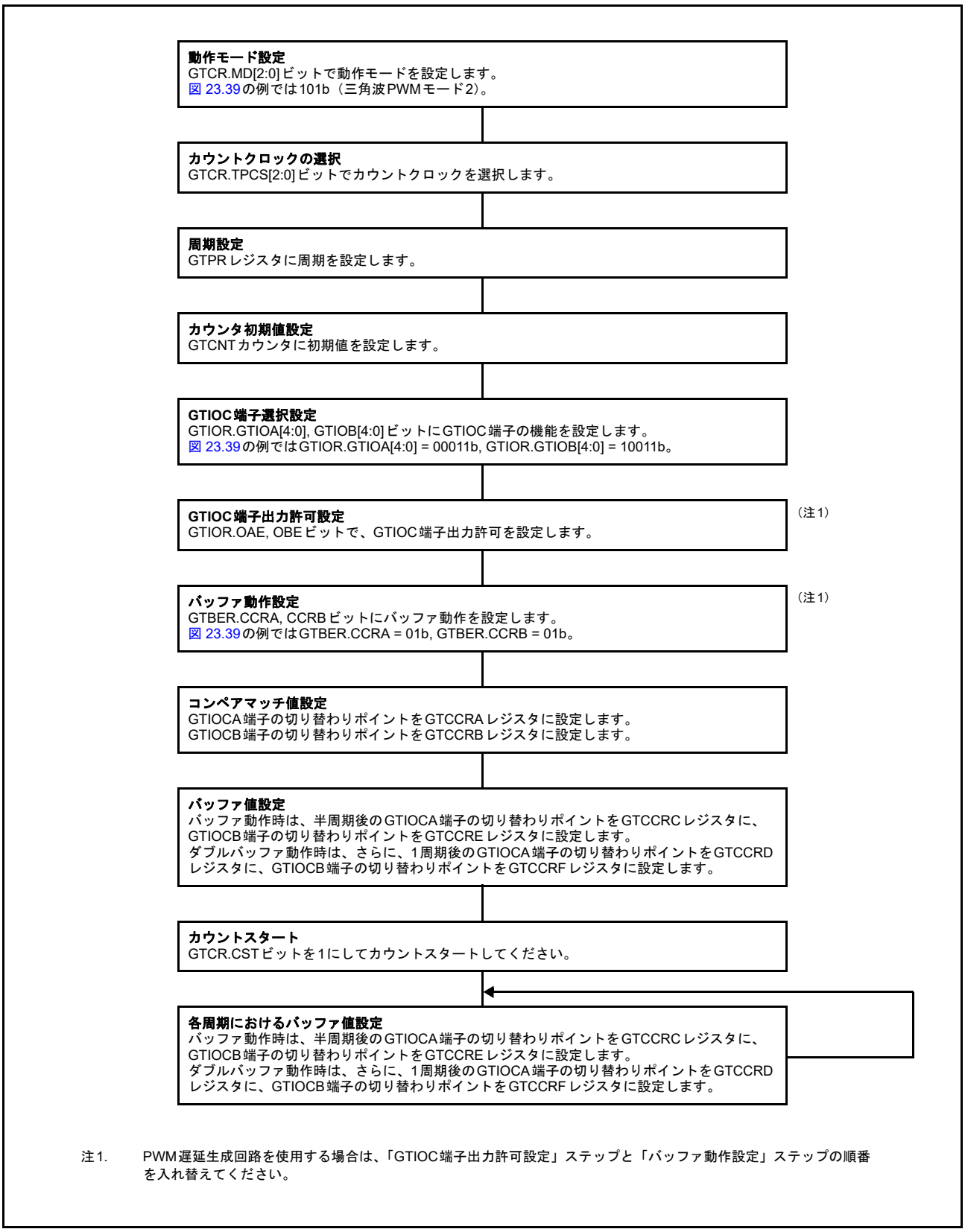


図 23.39 三角波 PWM モード 2 動作例（バッファ動作、カウントスタート時 GTIOC0A 端子 = Low 出力／GTIOC0B 端子 = High 出力、GTCCRA/GTCCRB レジスタのコンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力保持の場合）



注1. PWM遅延生成回路を使用する場合は、「GTIOC端子出力許可設定」ステップと「バッファ動作設定」ステップの順番を入れ替えてください。

図 23.40 三角波 PWM モード 2 設定例

23.3.3.5 三角波 PWM モード 3（谷 64 ビット転送）

三角波 PWM モード 3 は、GTPR レジスタに周期を設定するモードです。GTCNT カウンタに三角波（全波）動作を実行させ、バッファ動作を固定させた状態で GTCCRA または GTCCRB レジスタのコンペアマッチ発生時に GTIOCA または GTIOCB 端子に PWM 波形を出力させます。三角波 PWM モード 3 でのバッファ動作は、通常のバッファ動作とは異なります。バッファ転送は以下のように実行されます。

- 谷で GTCCRC レジスタから GTCCRA レジスタへ
- 谷で GTCCRE レジスタから GTCCRB レジスタへ
- 谷で GTCCRD レジスタから一時レジスタ A へ
- 谷で GTCCRF レジスタから一時レジスタ B へ
- 山で一時レジスタ A から GTCCRA レジスタへ
- 山で一時レジスタ B から GTCCRB レジスタへ

端子の出力値は、GTIOR レジスタの設定によって、コンペアマッチ時と周期の終わりでそれぞれ個別に Low 出力／ High 出力／トグル出力から選択できます。

また、GTDTCR、GTDVU、および GTDVD レジスタを設定することにより、デッドタイム付き逆相波形のコンペアマッチ値を、GTCCRB レジスタに自動設定することが可能です。

図 23.41 に三角波 PWM モード 3 の動作例を、図 23.42 に三角波 PWM モード 3 の設定例を示します。

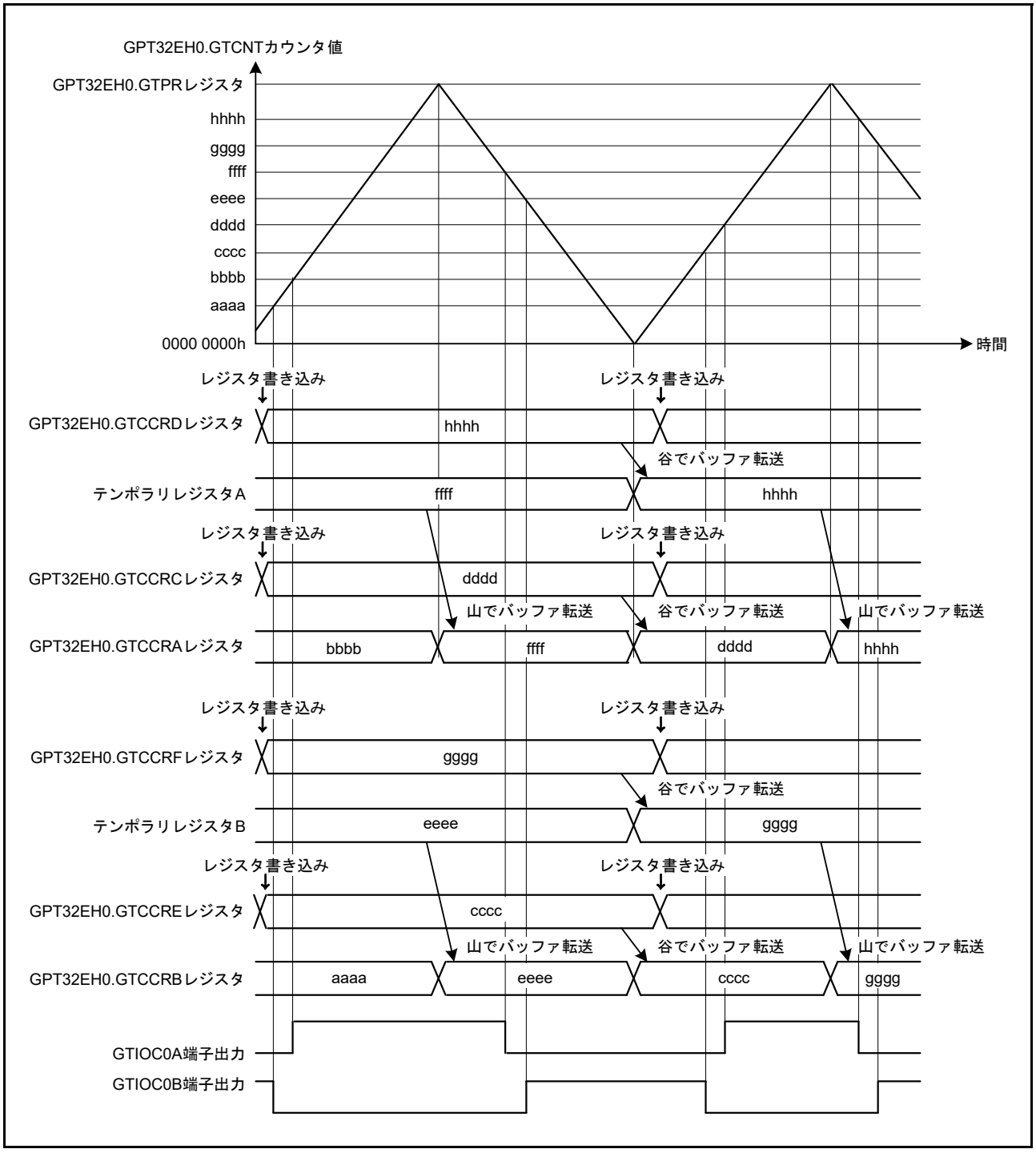
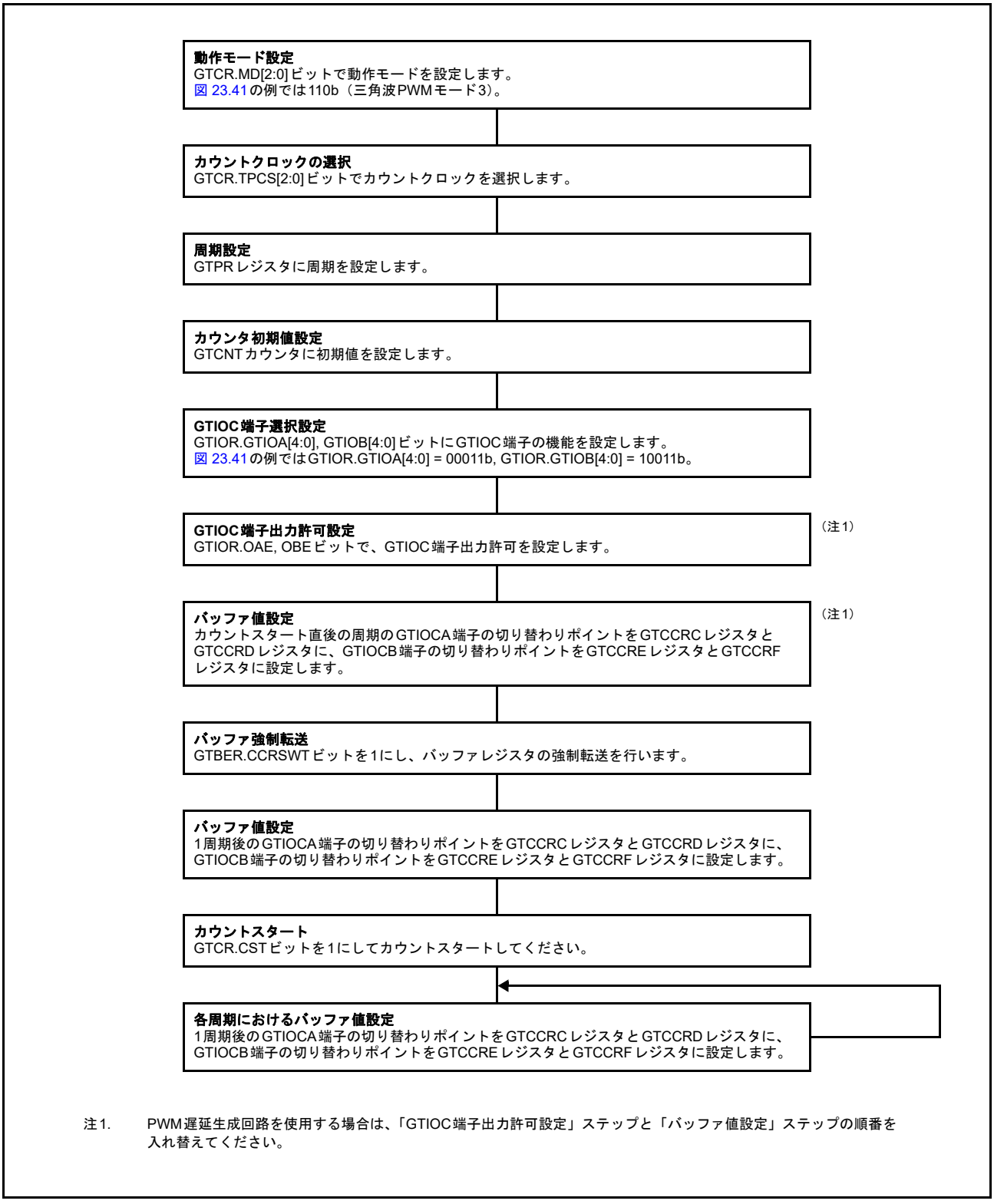


図 23.41 三角波 PWM モード 3 動作例（カウントスタート時 GTIOC0A 端子 = Low 出力／ GTIOC0B 端子 = High 出力、GTCCRA/GTCCRB レジスタのコンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力保持の場合）



注1. PWM遅延生成回路を使用する場合は、「GTIOC端子出力許可設定」ステップと「バッファ値設定」ステップの順番を入れ替えてください。

図 23.42 三角波 PWM モード 3 設定例

23.3.4 デッドタイム自動設定機能

GTDTCR レジスタを設定することにより、正相波形のコンペアマッチ値（GTCCRA 値）と指定したデッドタイム値（GTDVU および GTDVD 値）からデッドタイム付き逆相波形のコンペアマッチ値を生成し、GTCCRB レジスタに自動設定することが可能です。このデッドタイム自動設定機能は、のこぎり波ワンショットパルスモードと、すべての三角波 PWM モードで使用できます。

デッドタイムは、1 つの波形の前半部と後半部で個別に設定できます。逆相波形の前半部の切り替わりポイントにおけるデッドタイムは GTDVU レジスタに、後半部の切り替わりポイントにおけるデッドタイムは GTDVD レジスタに設定します。GTDTCR.TDFER ビットを 1 にして、前半部と後半部で同じデッドタイムを設定することも可能です。

GTDBU レジスタは GTDVU レジスタのバッファレジスタとして、GTDBD レジスタは GTDVD レジスタのバッファレジスタとして使用可能です。バッファ転送は、のこぎり波の場合は GTCNT カウンタのオーバーフロー時（アップカウント中）、アンダーフロー時（ダウンカウント中）、またはクリア時に周期の終わりで実行され、三角波では谷で実行されます。

デッドタイム自動設定機能によって設定されたコンペアマッチ値は、GTCCRB レジスタ値を読み出すことで確認できます。なお、デッドタイム自動設定機能を使用する場合、GTCCRB レジスタへの書き込みはしないでください。

周期を超えるデッドタイムの設定はしないでください。表 23.6 に示すように、デッドタイムエラーが発生した場合、正相波形と逆相波形のコンペアマッチ値はデッドタイム付き波形を生成するように調整されます。逆相波形の調整値は GTCCRB レジスタに自動設定されます。正相波形の調整値は内部信号として使用され、GTCCRA レジスタには設定されません。

のこぎり波ワンショットパルスモードでは、調整値が周期を超えていたり、調整された波形のトグルポイントが不規則な場合、これらの波形の相補性は保証されません。

三角波モードでは、GTCCR 値 = 0 または GTCCRA 値≧ GTPR に設定することでデッドタイムが周期を超える場合、出力保護機能により出力レベルが保持されます。詳細は、23.8.4 GTIOC 端子出力の出力保護機能を参照してください。GTCCRA 値が GTCCRA ≧ GTPR + GTDVn の場合、GTCCRB に対する上限値として GTPR-1 が設定されます。GTCCRB レジスタのデッドタイム値の自動設定は、デッドタイム自動設定値の計算用レジスタが更新された次のカウンタクロックで実行されます。

GTDVn を書き換える方法は GPT チャネル番号によって異なります。

表 23.6 デッドタイムエラー補正後のコンペアマッチ値

PWM 出力動作モード	カウント方向	前半部／後半部	デッドタイムエラーの条件	補正後のコンペアマッチ値	
				正相波形	逆相波形
のこぎり波ワンショットパルスモード	アップ	前半部	GTCCRA - GTDVU＜0	GTDVU	0
		後半部	GTCCRA + GTDVD＞GTPR	GTPR - GTDVD	GTPR
	ダウン	前半部	GTCCRA + GTDVU＞GTPR	GTPR - GTDVU	GTPR
		後半部	GTCCRA - GTDVD＜0	GTDVD	0
三角波PWMモード1/2/3	アップ	前半部	GTCCRA - GTDVU≦0	GTDVU + 1	1
	ダウン	後半部	GTCCRA - GTDVD＜0	GTDVD	0

GPT32EH0 ～ GPT32EH3 および GPT32E4 ～ GPT32E7

GTDVn バッファ動作が許可されている場合、GTDBn はいつでも書き込み可能です。周期の終わりに GTDBn は GTDVn へ転送されます。

GTDVn バッファ動作が禁止されている場合、GTDVn レジスタを新しい値に変更する前に、GTCR レジスタの CST ビットを用いて GPT を停止してください。

GPT328 ～ GPT3212

GPT の動作中は、GTDVU レジスタ値の変更はしないでください。GTDVU レジスタを新しい値に変更するには、最初に GTCR レジスタの CST ビットを用いて GPT を停止してください。

GPT32EH および GPT32E のデッドタイム自動設定機能の動作例を図 23.43 ～図 23.46 に示します。設定例を図 23.47 および図 23.48 に示します。

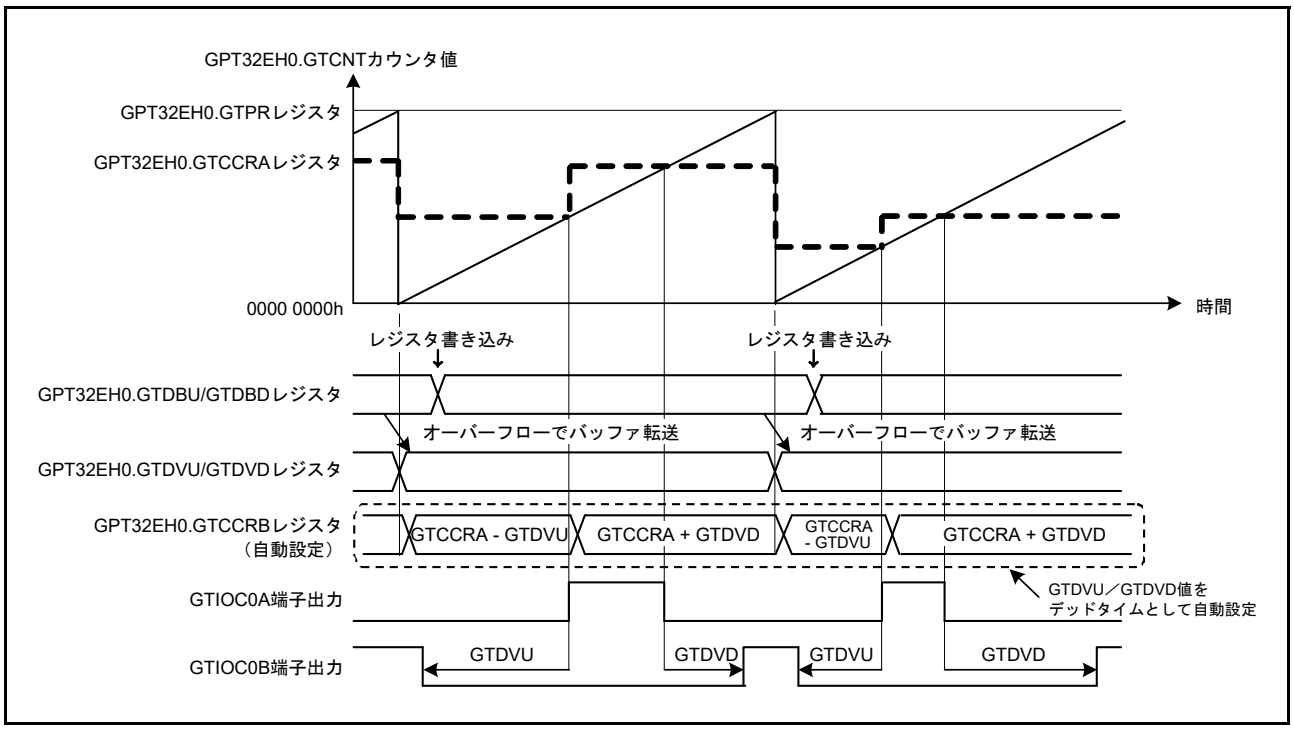


図 23.43　デッドタイム自動設定機能の動作例（のこぎり波ワンショットパルスモード、アップカウント、GTDVU/GTDVD レジスタはバッファ動作、アクティブ High の場合）

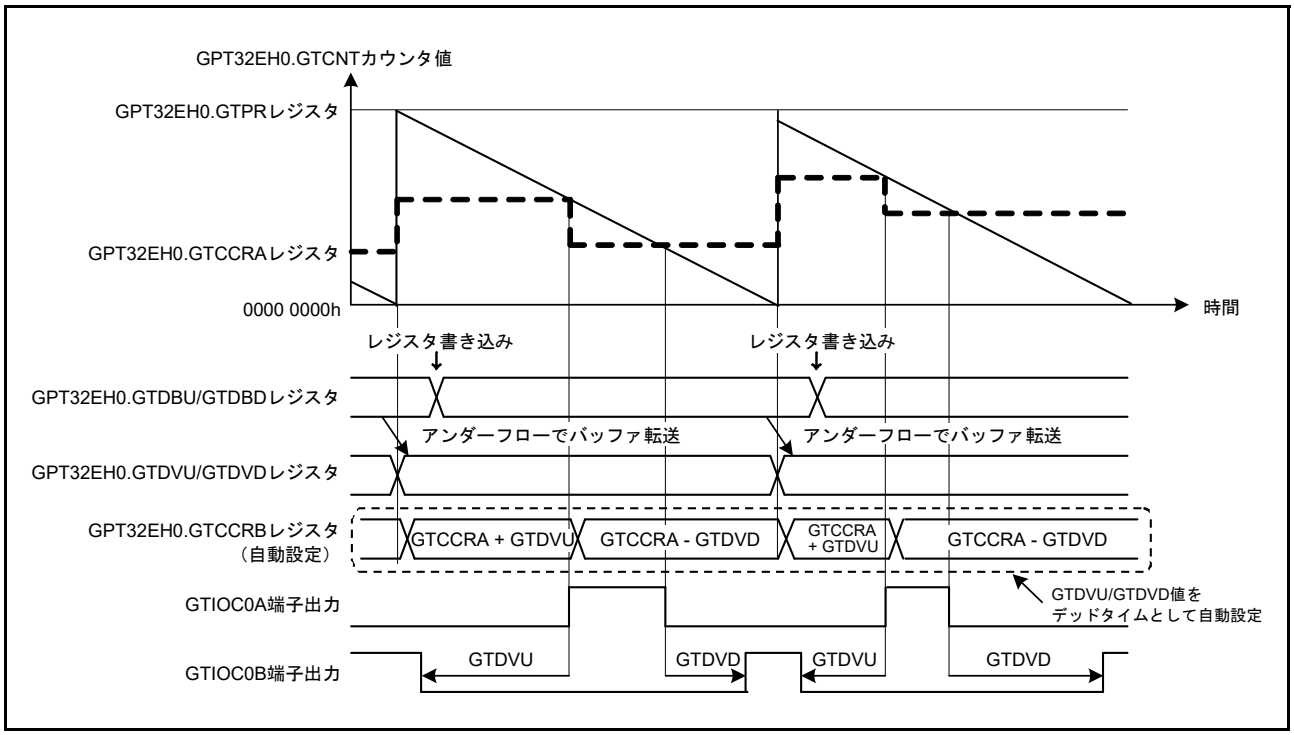


図 23.44　デッドタイム自動設定機能の動作例（のこぎり波ワンショットパルスモード、ダウンカウント、GTDVU/GTDVD レジスタはバッファ動作、アクティブ High の場合）

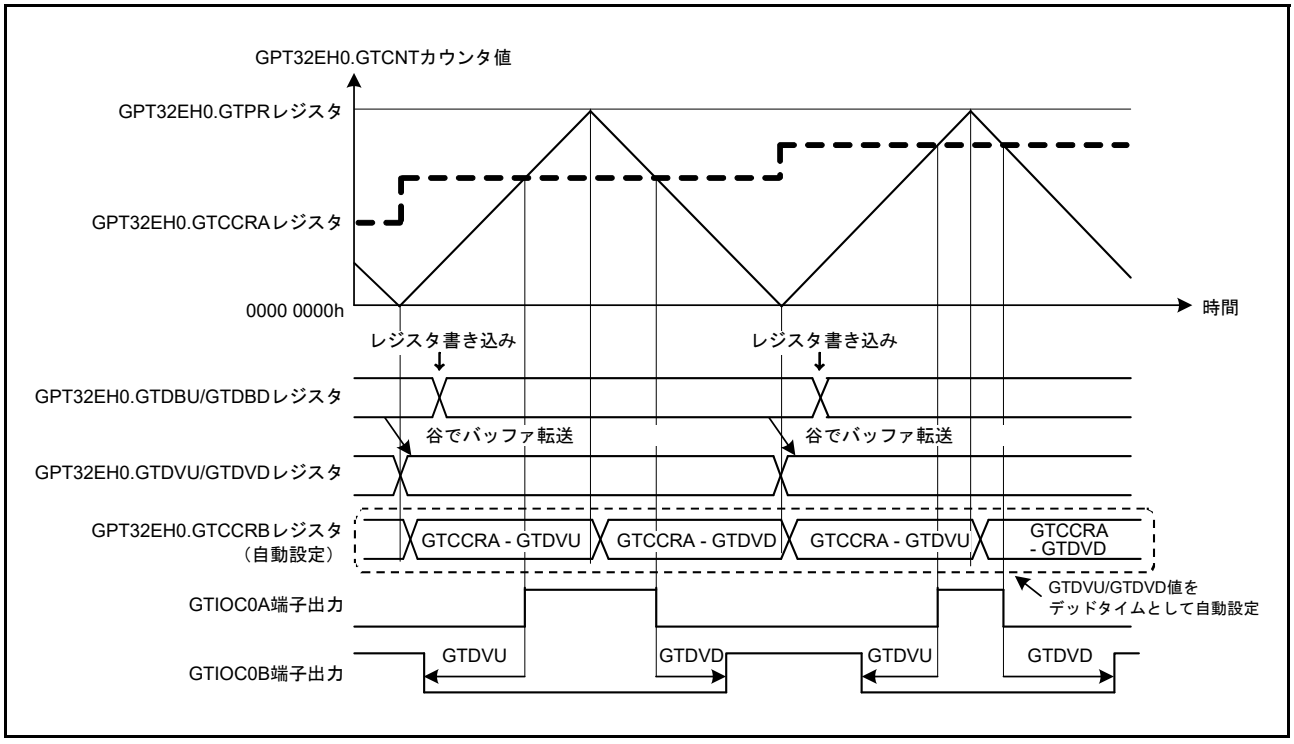


図 23.45　デッドタイム付きコンペアマッチ値の自動設定機能の動作例（三角波 PWM モード 1、GTDVU/GTDVD レジスタはバッファ動作、アクティブ High の場合）

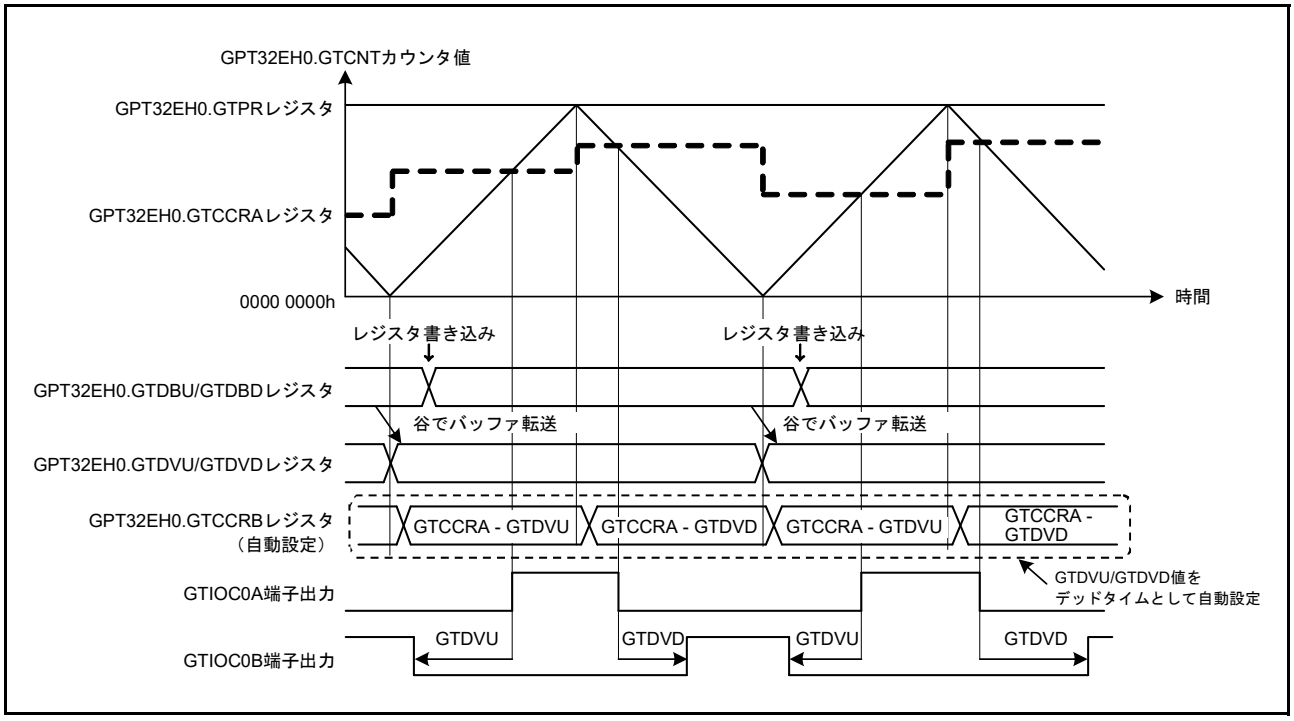
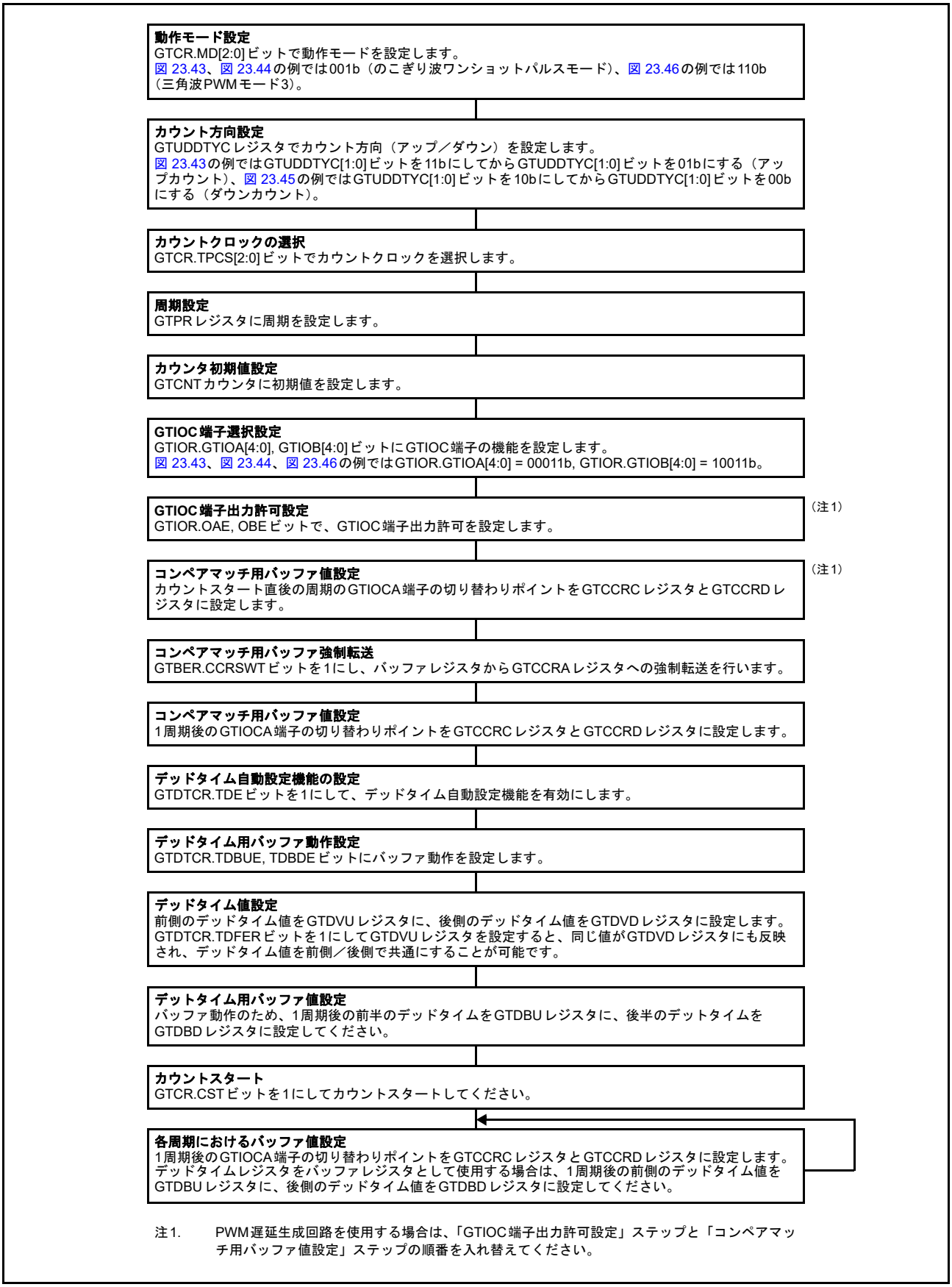
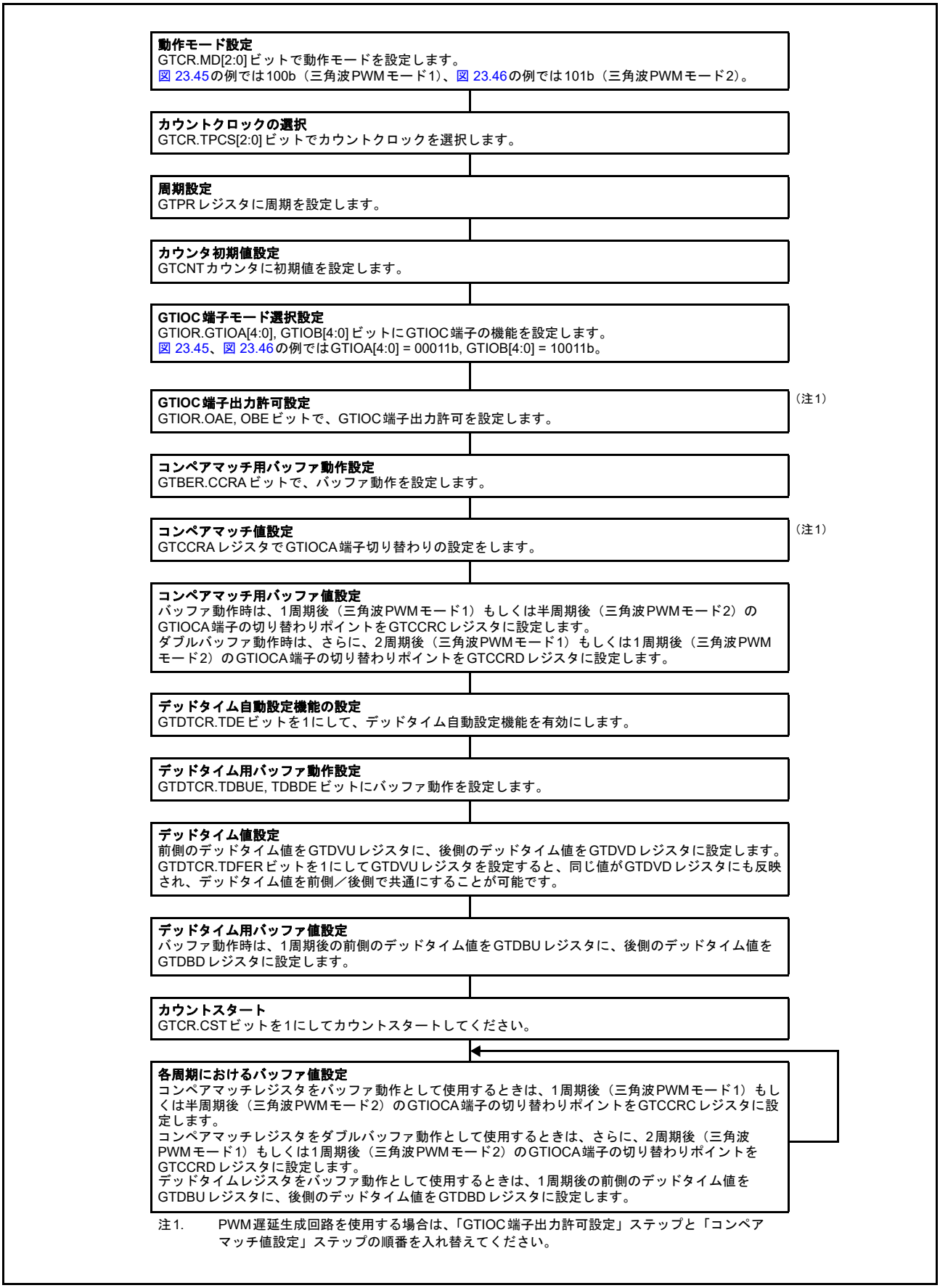


図 23.46　デッドタイム付きコンペアマッチ値の自動設定機能の動作例（三角波 PWM モード 2 または 3、GTDVU/GTDVD レジスタはバッファ動作、アクティブ High の場合）



注1.　PWM遅延生成回路を使用する場合は、「GTIOC端子出力許可設定」ステップと「コンペアマッチ用バッファ値設定」ステップの順番を入れ替えてください。

図 23.47　デッドタイム自動設定機能の設定例（のこぎり波ワンショットパルスモード、三角波 PWM モード 3 の場合）



注1. PWM遅延生成回路を使用する場合は、「GTIOC端子出力許可設定」ステップと「コンペアマッチ値設定」ステップの順番を入れ替えてください。

図 23.48 デッドタイム自動設定機能の設定例（三角波 PWM モード 1 または 2 の場合）

23.3.5 カウント方向切り替え機能

GTUDDTYC.UD ビットの値を書き換えることにより、GTCNT カウンタのカウント方向を切り替えることが可能です。

のこぎり波モードの場合、カウント動作中に GTUDDTYC.UD ビット値を変更すると、オーバーフロー（アップカウント中に変更した場合）またはアンダーフロー（ダウンカウント中に変更した場合）発生時に、カウント方向が切り替わります。カウントストップ中に GTUDDTYC.UDF ビットが 0 の状態で GTUDDTYC.UD ビット値を変更しても、その変更値はカウントスタート時に反映されず、オーバーフローまたはアンダーフロー発生時にカウント方向が切り替わります。カウントストップ中に GTUDDTYC.UDF ビットを 1 にすると、そのときの GTUDDTYC.UD ビット値がカウントスタート時に反映されます。

三角波モードの場合、カウント動作中に GTUDDTYC.UD ビット値を変更しても、カウント方向は切り替わりません。同様に、カウントストップ中に GTUDDTYC.UDF ビットが 0 の状態で GTUDDTYC.UD ビット値を変更しても、その値はカウント動作に反映されません。カウントストップ中に GTUDDTYC.UDF ビットを 1 にすると、そのときの GTUDDTYC.UD ビット値がカウントスタート時に反映されます。

のこぎり波のカウント動作中にカウント方向を変更すると、アップカウント中はアップカウントスタート後の GTPR 値がカウント周期に反映され、ダウンカウント中はダウンカウントスタート前の GTPR 値が反映されます。

図 23.49 にカウント方向切り替え機能の動作例を示します。

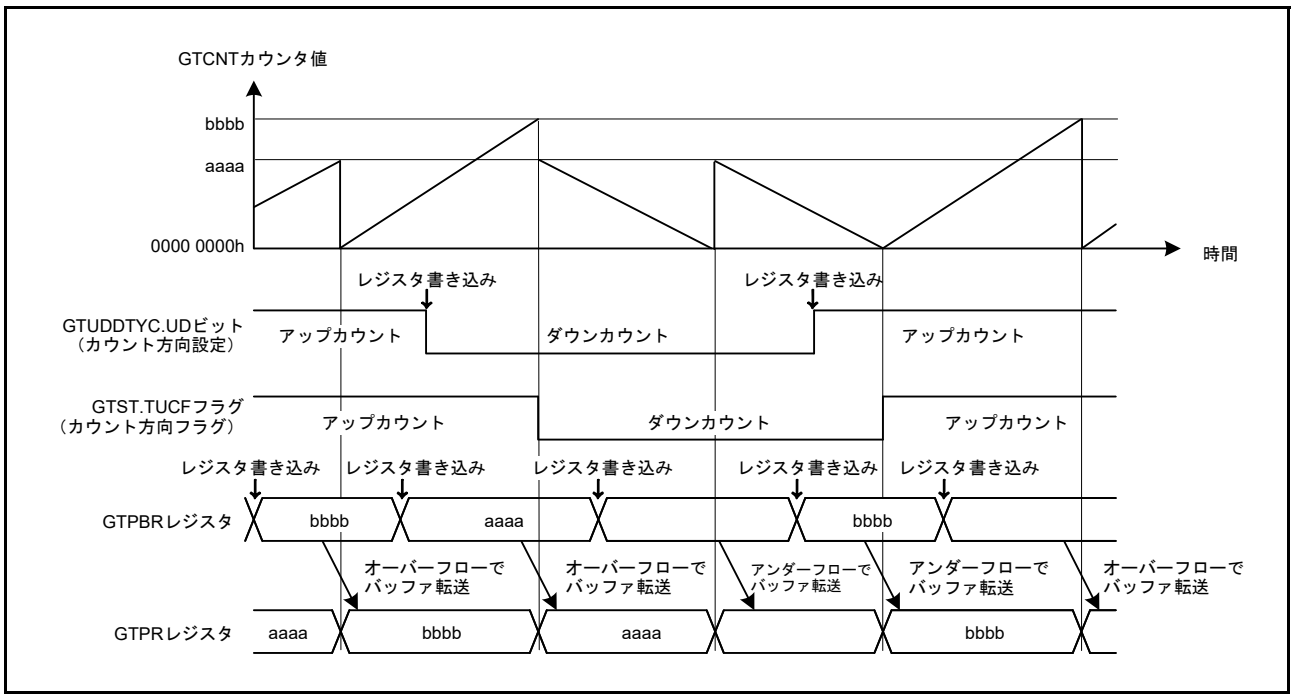


図 23.49 カウント方向切り替え機能の動作例（バッファ動作時）

23.3.6 出力デューティ 0% および出力デューティ 100% 機能

GTUDDTYC.OADTY ビットまたは GTUDDTYC.OBDTY ビットを変更することにより、GTIOCA 端子と GTIOCB 端子の出力デューティが 0% または 100% に設定されます。

のこぎり波モードの場合、カウント動作中に GTUDDTYC.OADTY ビットまたは GTUDDTYC.OBDTY ビットを変更すると、オーバーフロー（アップカウント中に変更した場合）またはアンダーフロー（ダウンカウント中に変更した場合）発生時に、出力デューティの設定値が反映されます。カウントストップ中に GTUDDTYC.OADTYF ビットまたは GTUDDTYC.OBDTYF ビットが 0 の状態で GTUDDTYC.OADTY ビットまたは GTUDDTYC.OBDTY ビットを変更しても、出力デューティの変更値はカウントスタート時に反映されません。出力デューティはオーバーフローまたはアンダーフロー発生時に変更されます。カウントストップ中に GTUDDTYC.OADTYF ビットまたは GTUDDTYC.OBDTYF ビットを 1 にすると、そのときの GTUDDTYC.OADTY ビットまたは GTUDDTYC.OBDTY ビット値がカウントスタート時に反映されます。

三角波モードの場合、カウント動作中に GTUDDTYC.OADTY ビットまたは GTUDDTYC.OBDTY ビットを変更すると、アンダーフロー発生時に出力デューティの設定値が反映されます。

カウントストップ中に GTUDDTYC.OADTYF ビットまたは GTUDDTYC.OBDTYF ビットが 0 の状態で GTUDDTYC.OADTY ビットまたは GTUDDTYC.OBDTY ビットを変更しても、出力デューティの変更値はカウントスタート時に反映されません。アンダーフロー時に出力デューティが変更されます。カウントストップ中に GTUDDTYC.OADTYF ビットまたは GTUDDTYC.OBDTYF ビットが 1 の状態で GTUDDTYC.OADTY ビットまたは GTUDDTYC.OBDTY ビットを変更すると、出力デューティの変更値はカウントスタート時に反映されます。

0% または 100% デューティ動作の実行時、GPT は内部で以下の動作を継続します。

- コンペアマッチ動作の実行
- コンペアマッチフラグの設定
- 割り込み出力
- バッファ動作の実行

0% または 100% デューティ設定からコンペアマッチに制御が変更されると、周期の終わりでの GTIOCA 端子の出力値は、GTIOR.GTIOA[3:2] ビットと GTUDDTYC.OADTYR ビットで決定されます。周期の終わりでの GTIOCB 端子の出力値は、GTIOR.GTIOB[3:2] ビットと GTUDDTYC.OBDTYR ビットで決定されます。

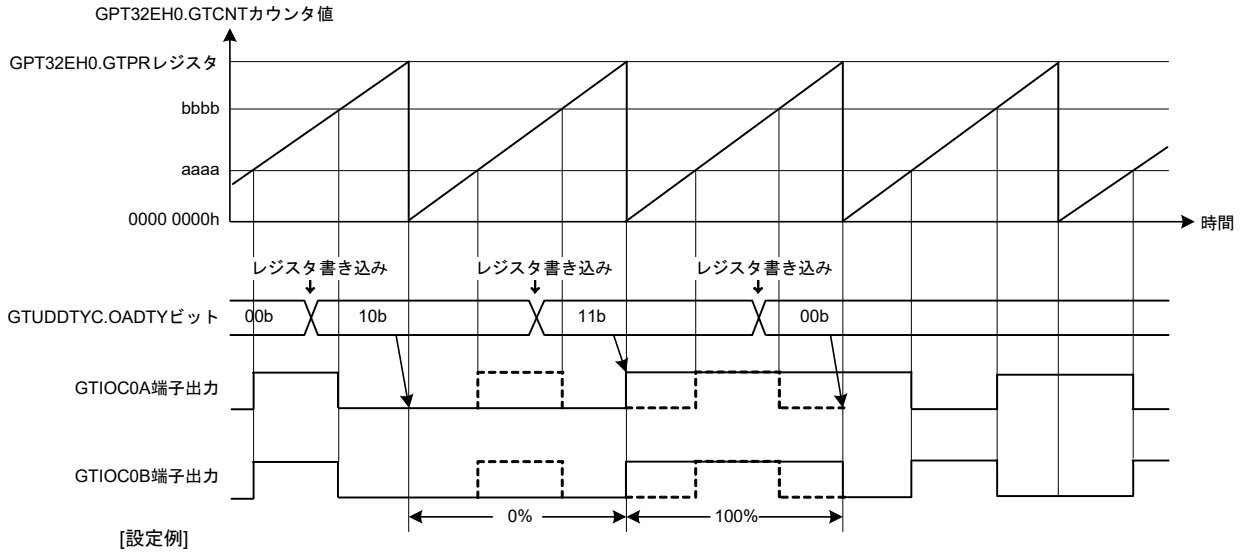
GTIOR.GTIOA[3:2] ビットと GTIOR.GTIOB[3:2] ビットを 01b にすると、出力端子は周期の終わりで Low 出力となります。GTIOR.GTIOA[3:2] ビットと GTIOR.GTIOB[3:2] ビットを 10b にすると、出力端子は周期の終わりで High 出力となります。

GTIOR.GTIOm[3:2] ビットが 00b（周期の終わりで出力保持）または 11b（周期の終わりでトグル出力）になっている場合、GTUDDTYC.OADTYR ビットでは、周期の終わりで出力保持／トグル出力の対象となる値を選択します。周期の終わりでの GTIOCA/GTIOCB 端子の出力値を表 23.7 に示します。

表 23.7　0%または100%デューティ設定解除後の出力値（m = A, B）

GTIOR.GTIOm[3:2]	0%または100%デューティ設定でマスクされた周期の終わりでのコンペアマッチ値	デューティ 0%設定時のGTUDDTYC.OmDTYR		デューティ 100%設定時のGTUDDTYC.OmDTYR	
		0	1	0	1
00（周期の終わりで出力保持）	0	0	0	1	0
	1	0	1	1	1
01（周期の終わりでLow出力）	—	0	0	0	0
10（周期の終わりでHigh出力）	—	1	1	1	1
11（周期の終わりでトグル出力）	0	1	1	0	1
	1	1	0	0	0

図 23.50 に、出力デューティが 0% および 100% の機能動作例を示します。



[設定例]

GPT32EH0.GTIOR.GTIOA[4:0]ビット：　00011b
初期出力はLow、コンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力保持

GPT32EH0.GTUDDTYC.OADTYRビット：　0b
0%/100%デューティー設定解除後にデューティー設定された出力値に対してGTIOA[3:2]ビットで設定した機能を適用

GPT32EH0.GTIOR.GTIOB[4:0]ビット：　00011b
初期出力はLow、コンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力保持

GPT32EH0.GTUDDTYC.OBDTYRビット：　1
0%/100%デューティー設定解除後にマスクされていたコンペアマッチ出力値に対してGTIOB[3:2]ビットで設定した機能を適用

図 23.50　出力デューティ 0%、100% 機能動作例

23.3.7 ハードウェアカウントスタート／カウントストップ、カウントクリア動作

下記のハードウェア要因によって、GTCNT カウンタのカウントスタート、カウントストップ、またはカウントクリアが可能です。

- 外部トリガ入力
- ELC イベント入力
- GTIOCA/GTIOCB 端子入力

23.3.7.1 ハードウェアスタート動作

GTSSR レジスタでハードウェア要因を選択することにより、GTCNT カウンタのカウントスタートが可能です。

図 23.51 にハードウェア要因によるカウントスタートの動作例を示します。図 23.52 に設定例を示します。

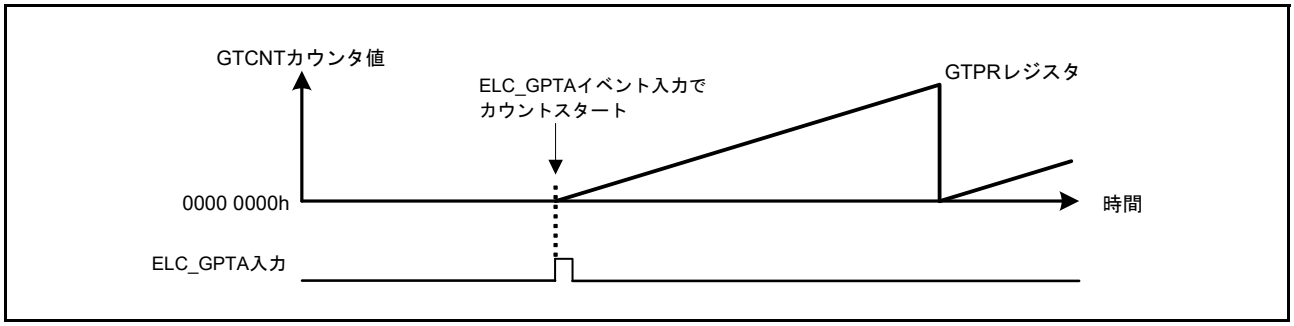


図 23.51 ハードウェア要因によるカウントスタート動作例（ELC_GPTA イベントからの信号入力時のスタート）

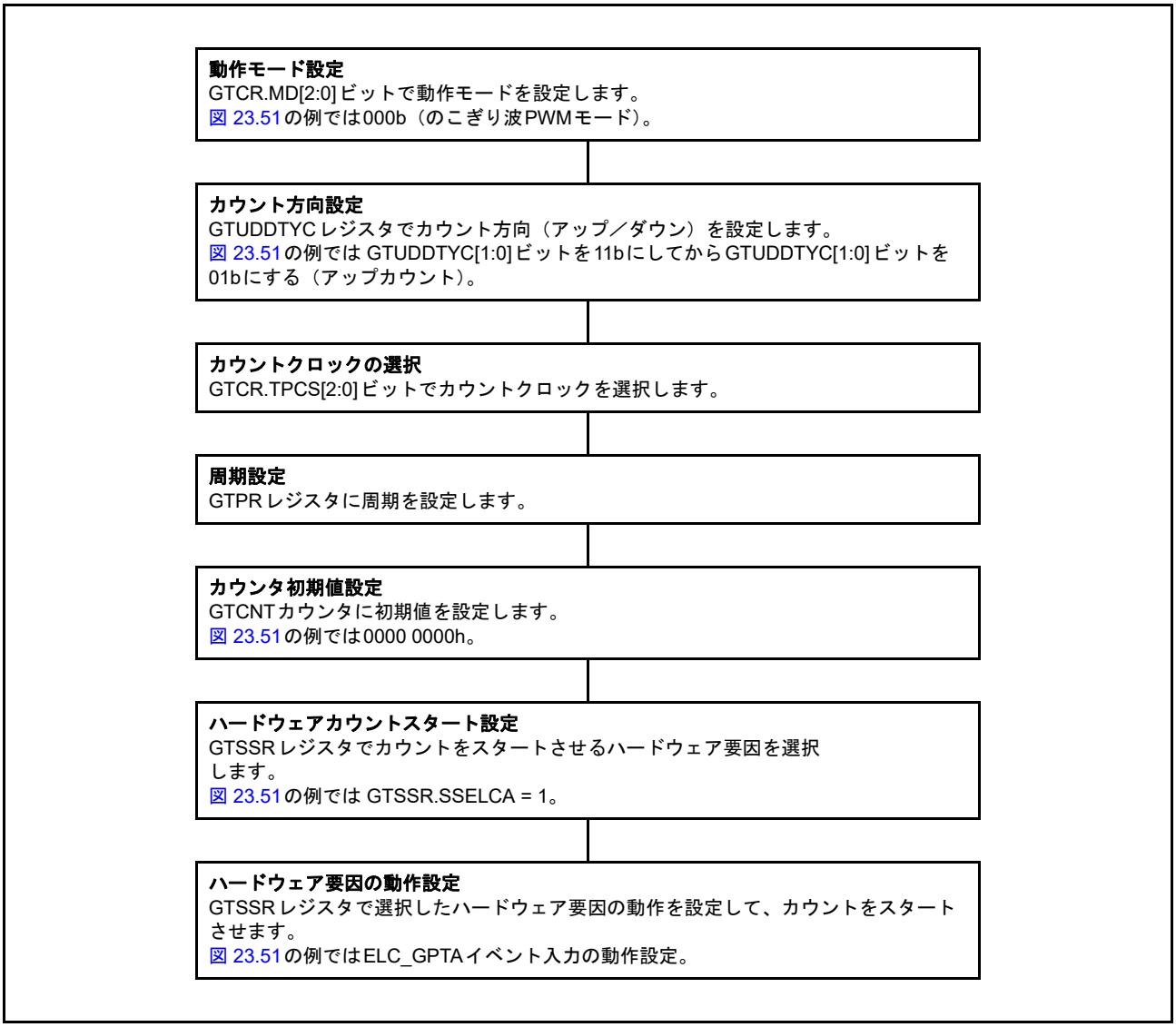


図 23.52 ハードウェア要因によるカウントスタート動作設定例

23.3.7.2 ハードウェアストップ動作

GTPSR レジスタでハードウェア要因を選択することにより、GTCNT カウンタのカウントストップが可能です。

図 23.53 にハードウェア要因によるカウントストップの動作例を示します。図 23.54 に設定例を示します。この例では、カウント動作が ELC_GPTA イベント入力のエッジでストップし、ELC_GPTB イベント入力のエッジで再スタートしています。

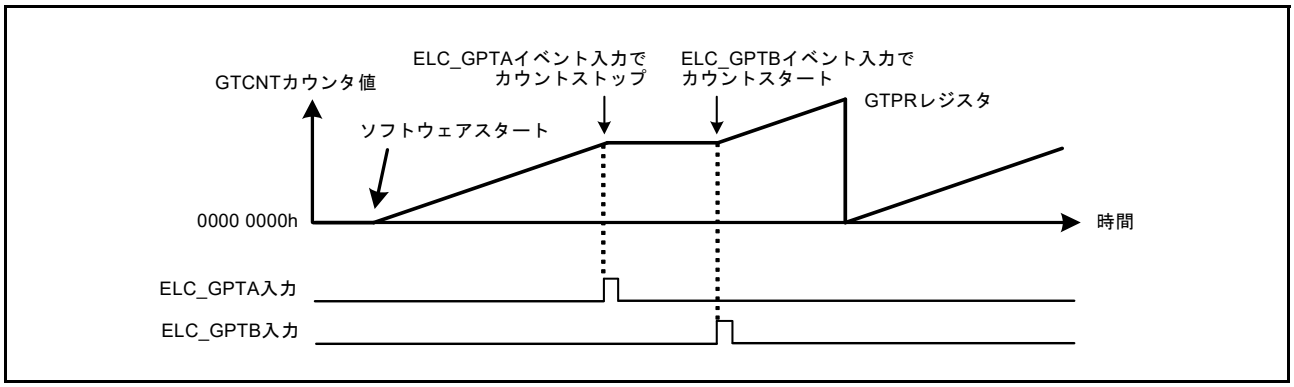


図 23.53 ハードウェア要因によるカウントストップ動作例（ソフトウェアによるスタート、ELC_GPTA 入力でのストップ、ELC_GPTB 入力での再スタートの場合）

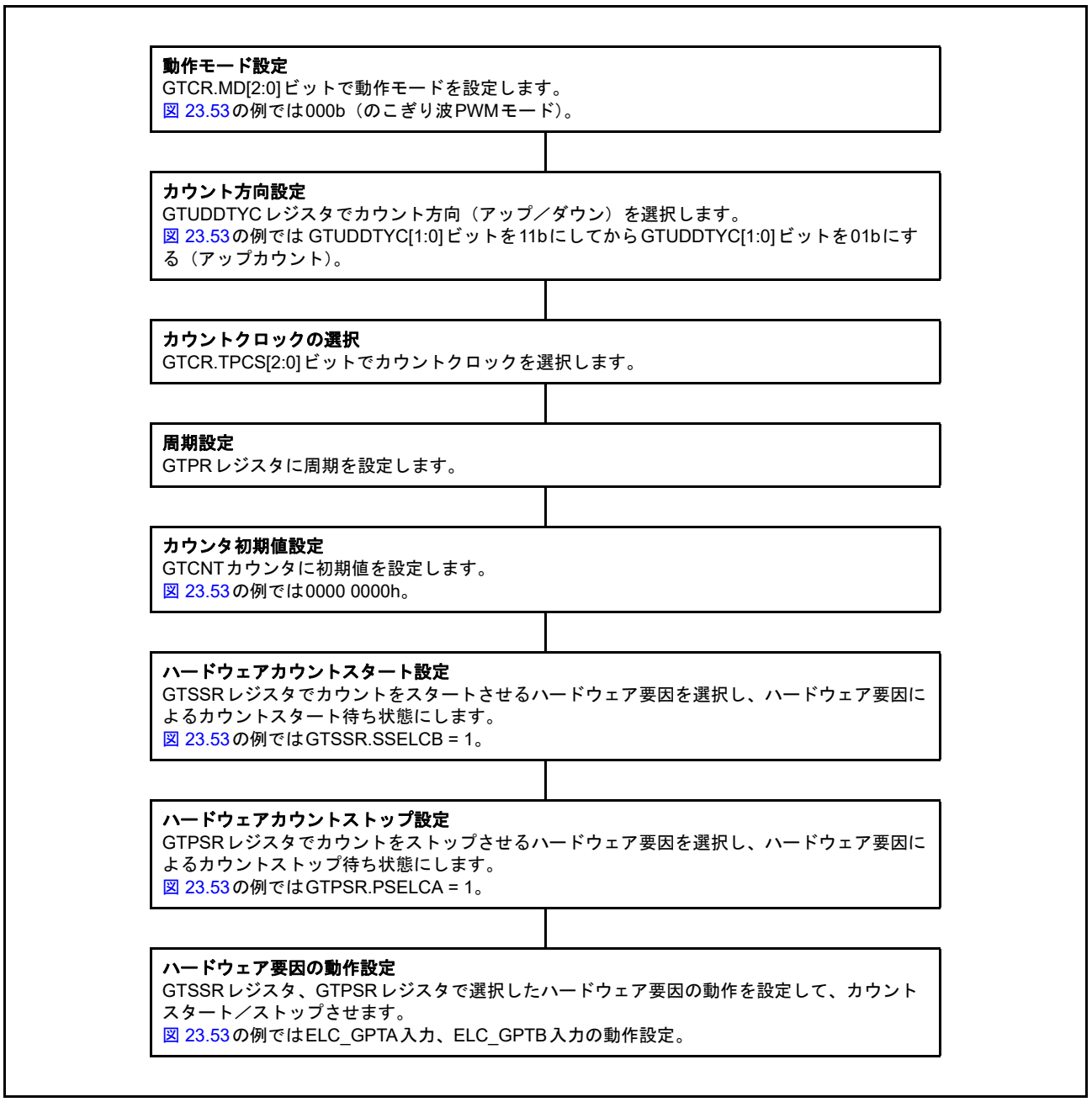


図 23.54 ハードウェア要因によるカウントストップ動作設定例

図 23.55 にハードウェア要因によるカウントスタート／ストップ動作例を示します。図 23.56 に設定例を示します。この例では、外部トリガ入力 GTETRGA 端子が High の期間に、カウンタが動作しています。

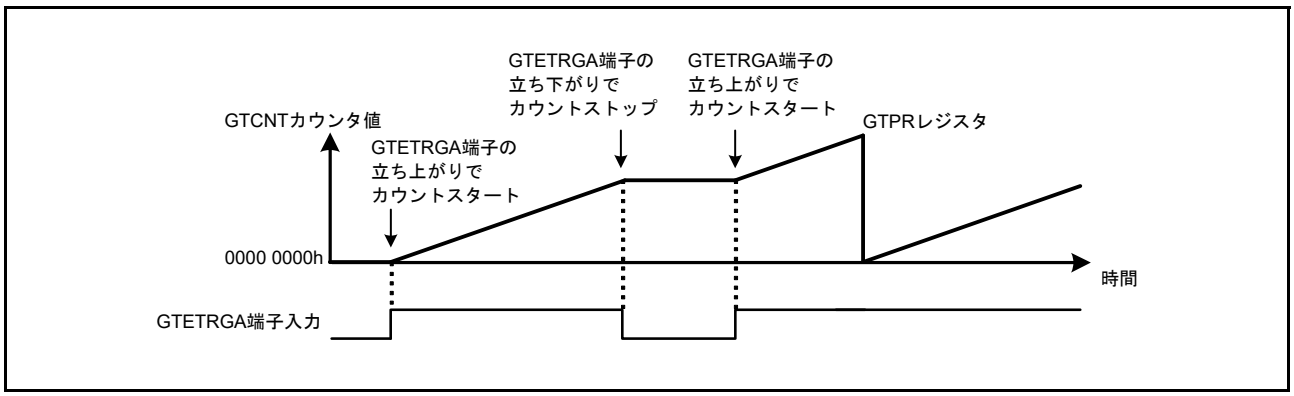


図 23.55 ハードウェア要因によるカウントスタート／ストップ動作例（GTETRGA 端子入力の立ち上がりエッジでスタート、GTETRGA 端子入力の立ち下がりエッジでストップの場合）

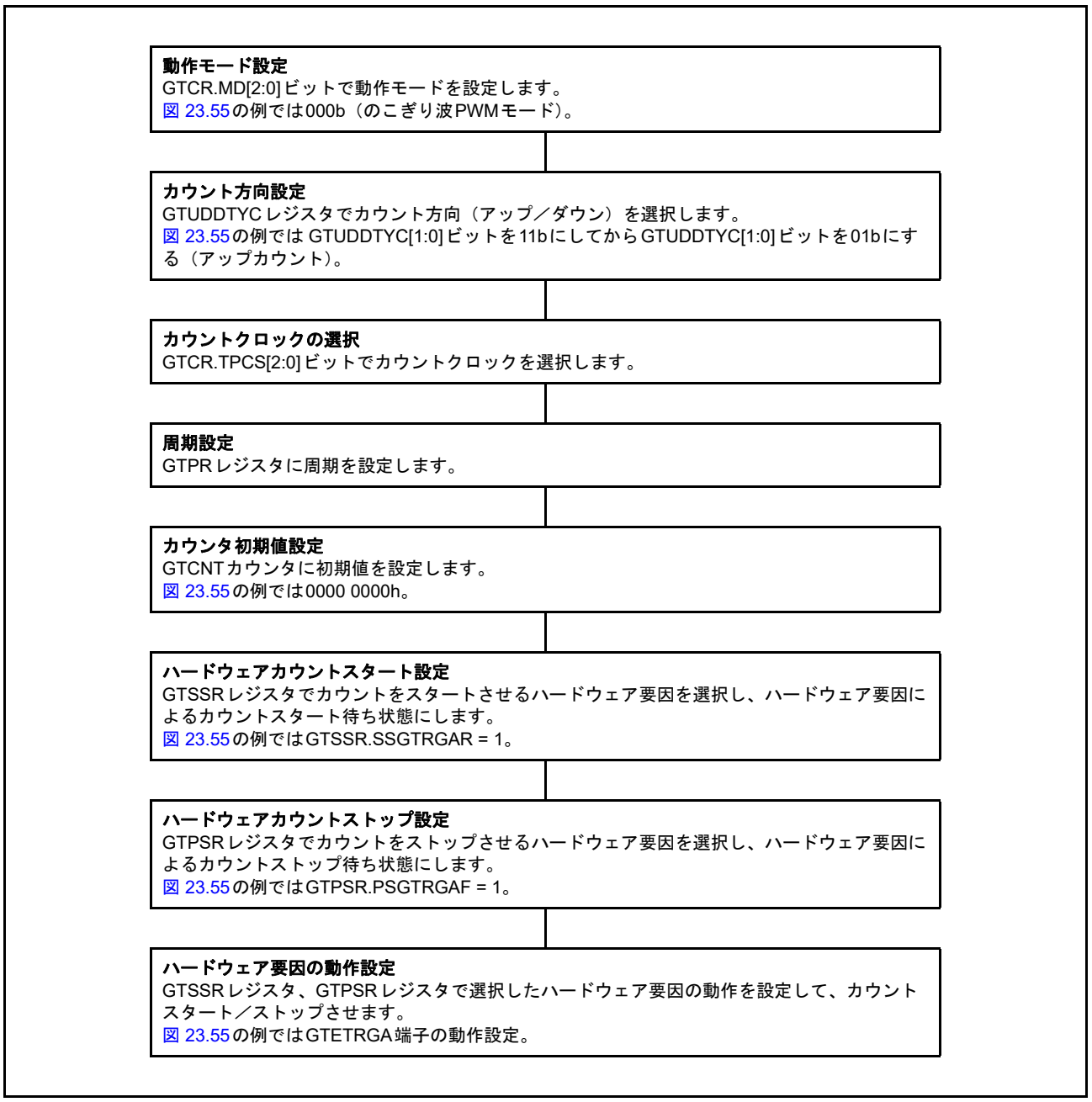


図 23.56　ハードウェア要因によるカウントスタート／ストップ動作設定例

23.3.7.3 ハードウェアクリア動作

GTCSR レジスタでハードウェア要因を選択することにより、GTCNT カウンタのカウントクリアが可能です。ハードウェア要因またはソフトウェアによって GTCNT カウンタがクリアされても、GPTn_OVF/GPTn_UDF（n = 0 ～ 12）割り込み（オーバーフロー／アンダーフロー割り込み）は発生しません。

図 23.57 および図 23.58 に、ハードウェア要因による GTCNT カウンタのクリア動作例を示します。図 23.59 に設定例を示します。この例では、GTCNT カウンタは ELC_GPTA イベント入力のエッジでスタートし、ELC_GPTB イベント入力のエッジでストップ／クリアされています。

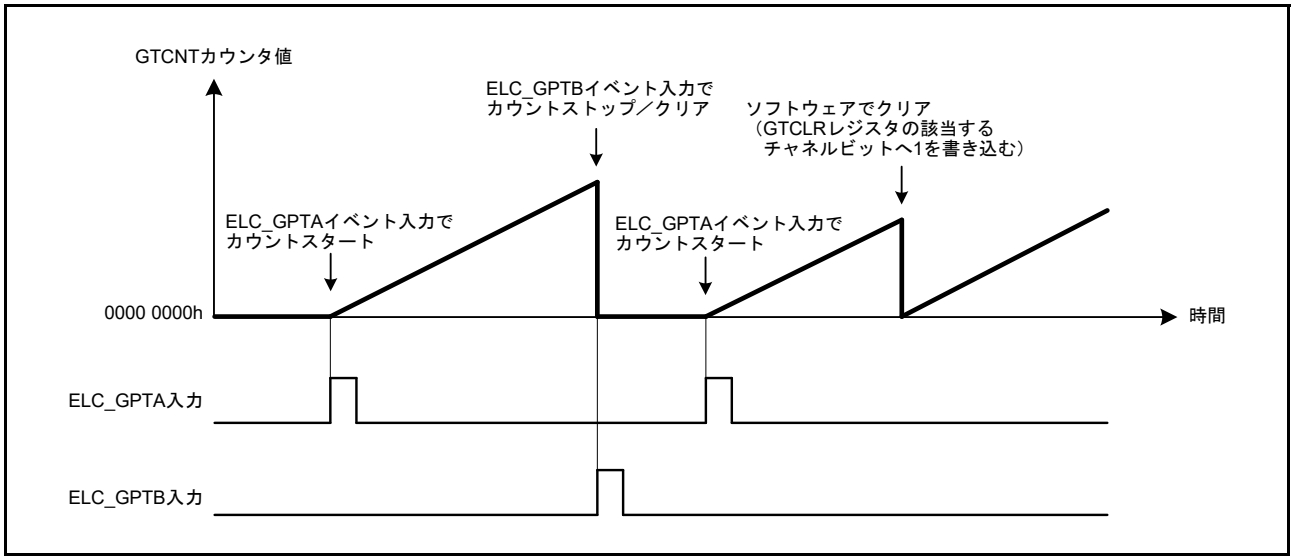


図 23.57 ハードウェア要因によるカウントクリア動作例（のこぎり波アップカウント、ELC_GPTA イベント入力でスタート、ELC_GPTB イベント入力でストップ／クリアの場合）

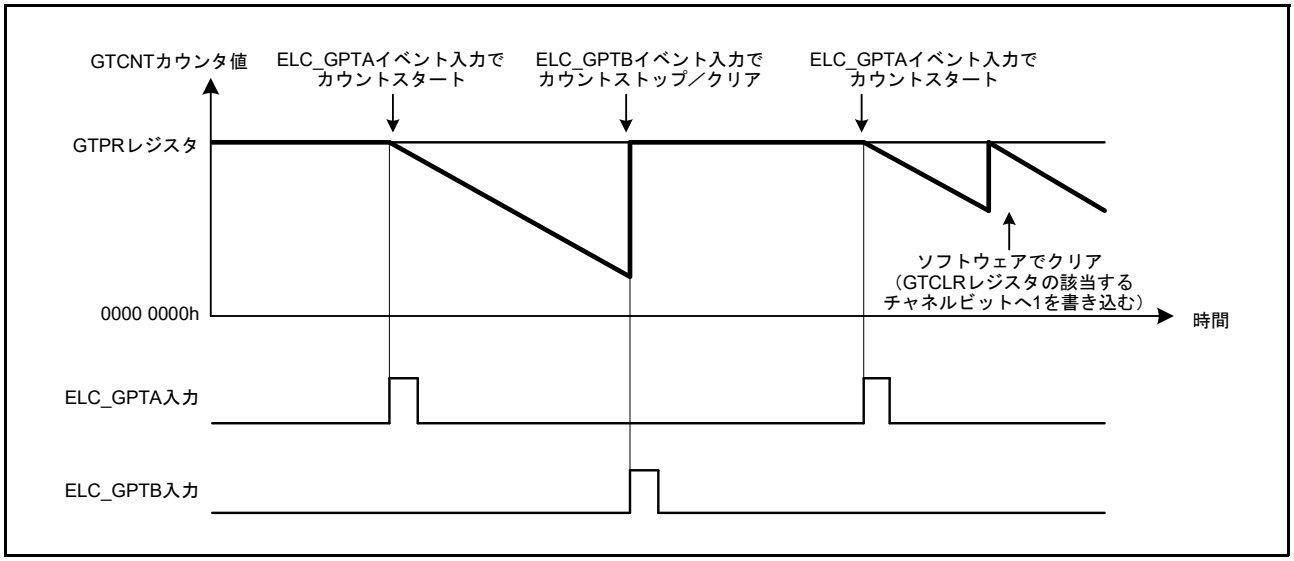


図 23.58 ハードウェア要因によるカウントクリア動作例（のこぎり波ダウンカウント、ELC_GPTA イベント入力でスタート、ELC_GPTB イベント入力でストップ／クリアの場合）

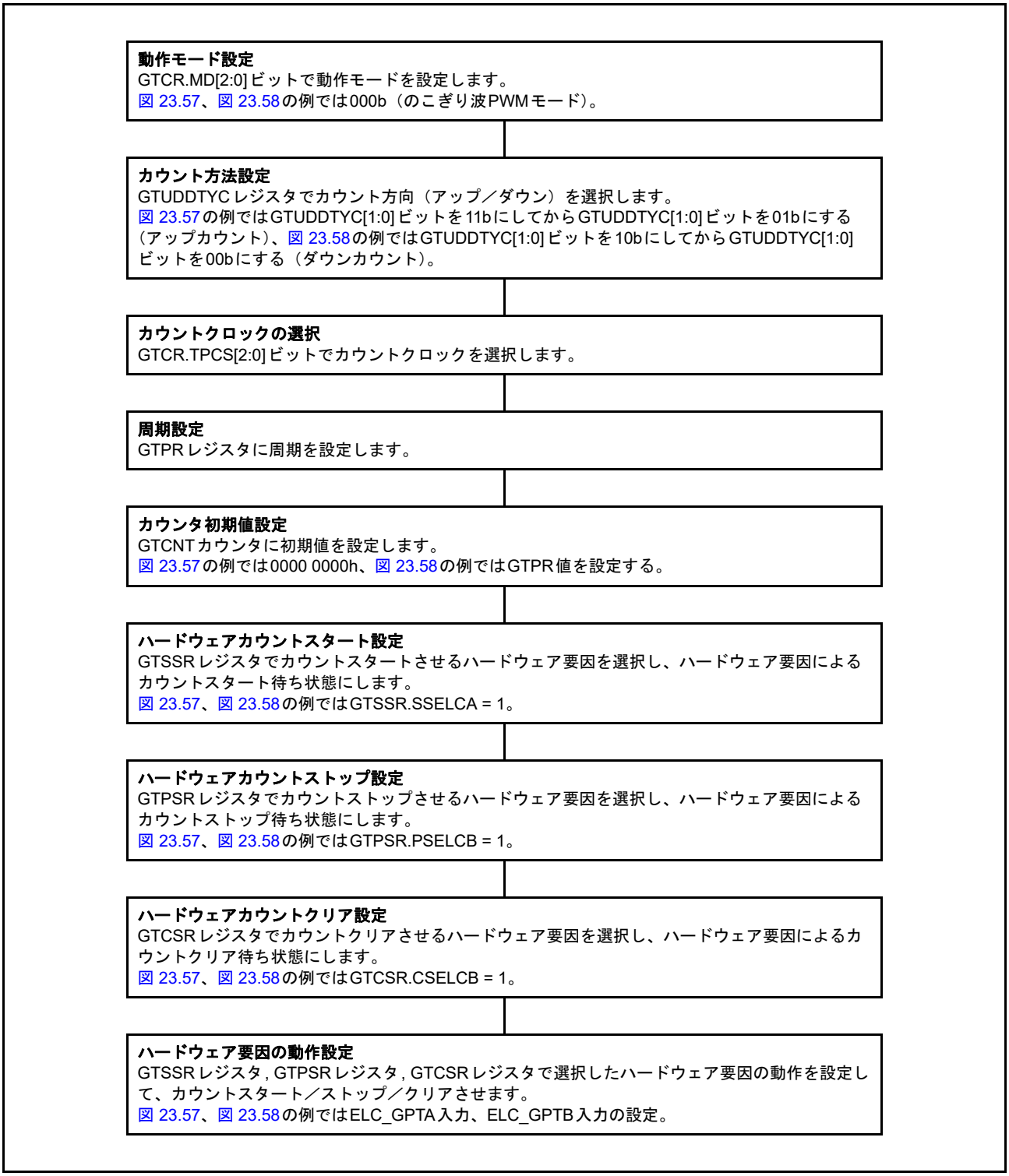


図 23.59　ハードウェア要因によるカウントクリア動作設定例

ハードウェア要因またはソフトウェアによってカウンタがクリアされても、GPTn_OVF/GPTn_UDF（n = 0 ～ 12）割り込み（オーバーフロー／アンダーフロー割り込み）は発生しません。

図 23.60 にハードウェア要因によるカウンタクリアと GPTn_OVF/GPTn_UDF（n = 0 ～ 12）割り込みの関係を示します。

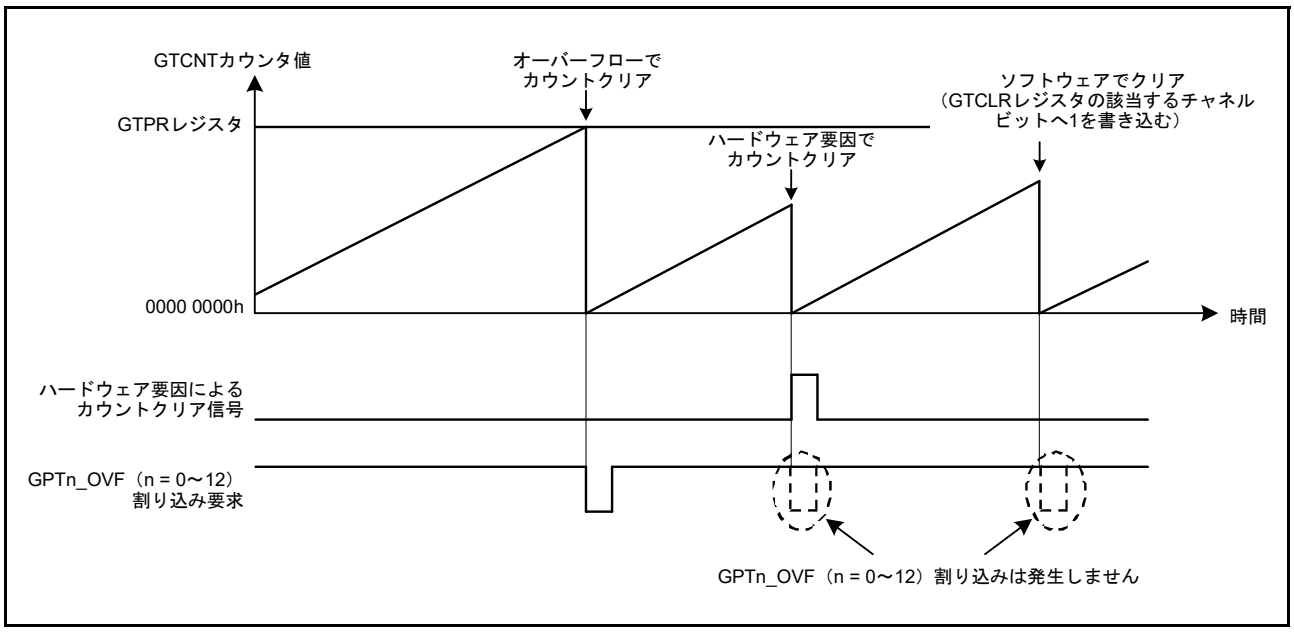


図 23.60 ハードウェア要因によるカウンタクリアと GPTn_OVF（n = 0 ～ 12）割り込みの関係

23.3.8 同期動作

同期スタート／ストップ／クリア動作など、チャネル間の同期動作を実行できます。

23.3.8.1 ソフトウェアによる同期動作

GTCNT カウンタは、対応する GTSTR ビット、GTSTP ビット、または GTCLR ビットを同時に 1 にすることにより、複数のチャネル上でスタート／ストップ／クリアが可能です。

また、GTCNT カウンタの初期値を設定し、対応する GTSTR ビットを同時に 1 にすることにより、位相の異なるカウントスタートが可能です。

図 23.61 に、ソフトウェアによる同時スタート／ストップ／クリアの動作例を示します。図 23.62 に、ソフトウェアによる位相スタートの動作例を示します。

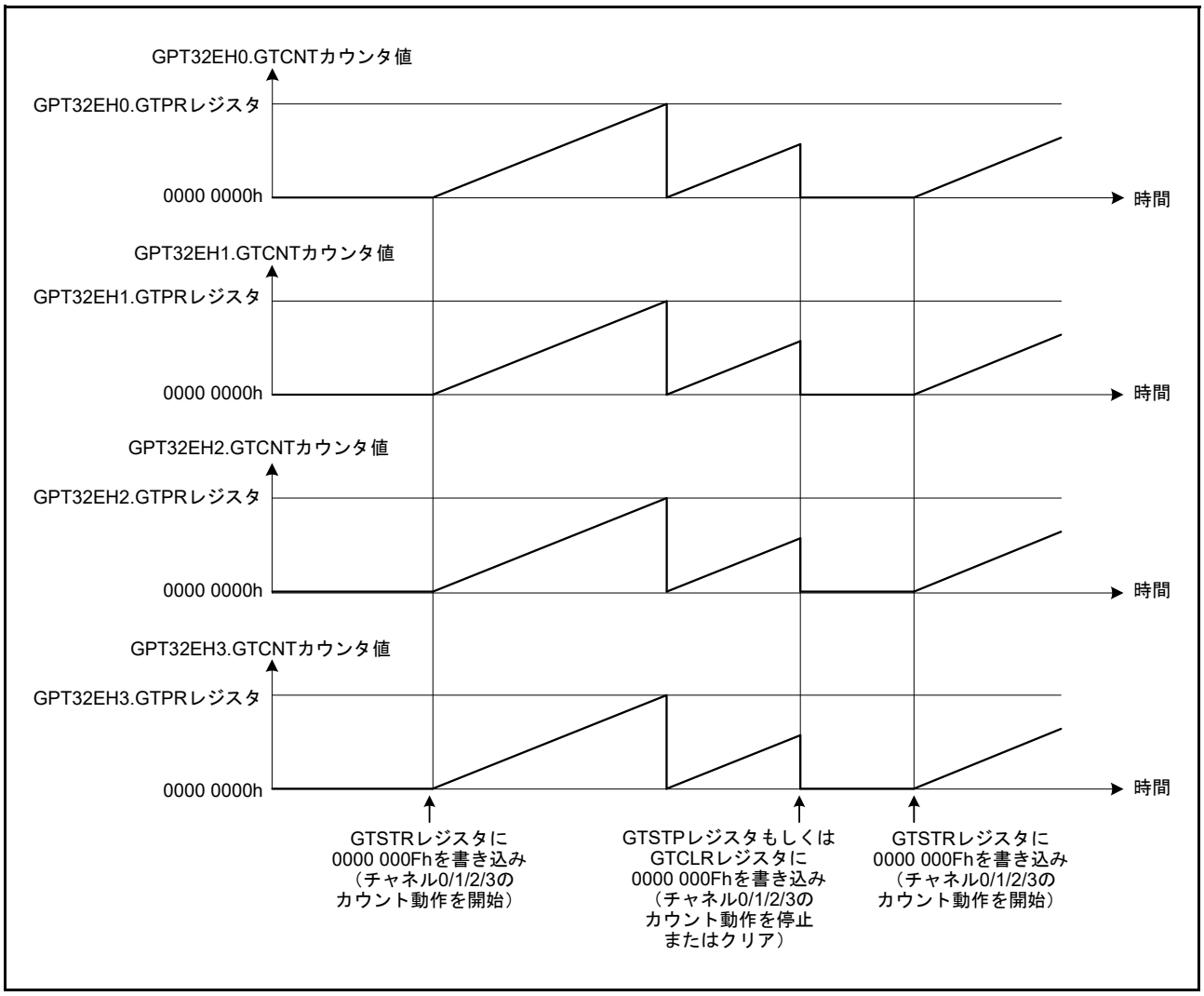


図 23.61 ソフトウェアによる同時スタート／ストップ／クリア動作例（カウント周期（GTPR レジスタ値）が同一のとき）

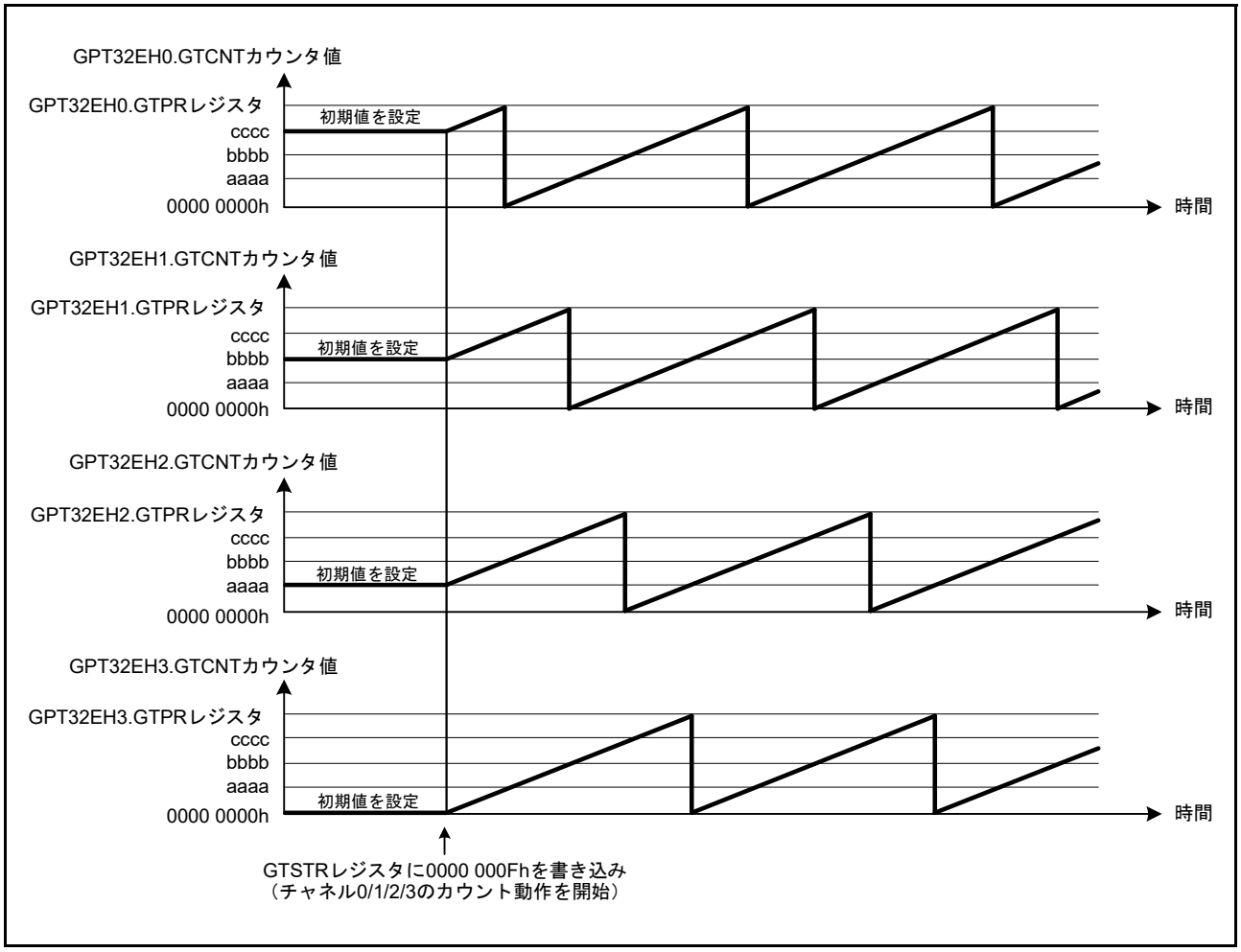


図 23.62　ソフトウェアによる位相スタート動作例（カウント周期（GTPR レジスタ値）が同一のとき）

23.3.8.2 ハードウェアによる同期動作

下記のハードウェア要因によって、GTCNT カウンタの同時スタートが可能です。

- 外部トリガ入力
- ELC イベント入力

図 23.63 にハードウェア要因による同時スタート／ストップ／クリアの動作例を示します。図 23.64 に設定例を示します。

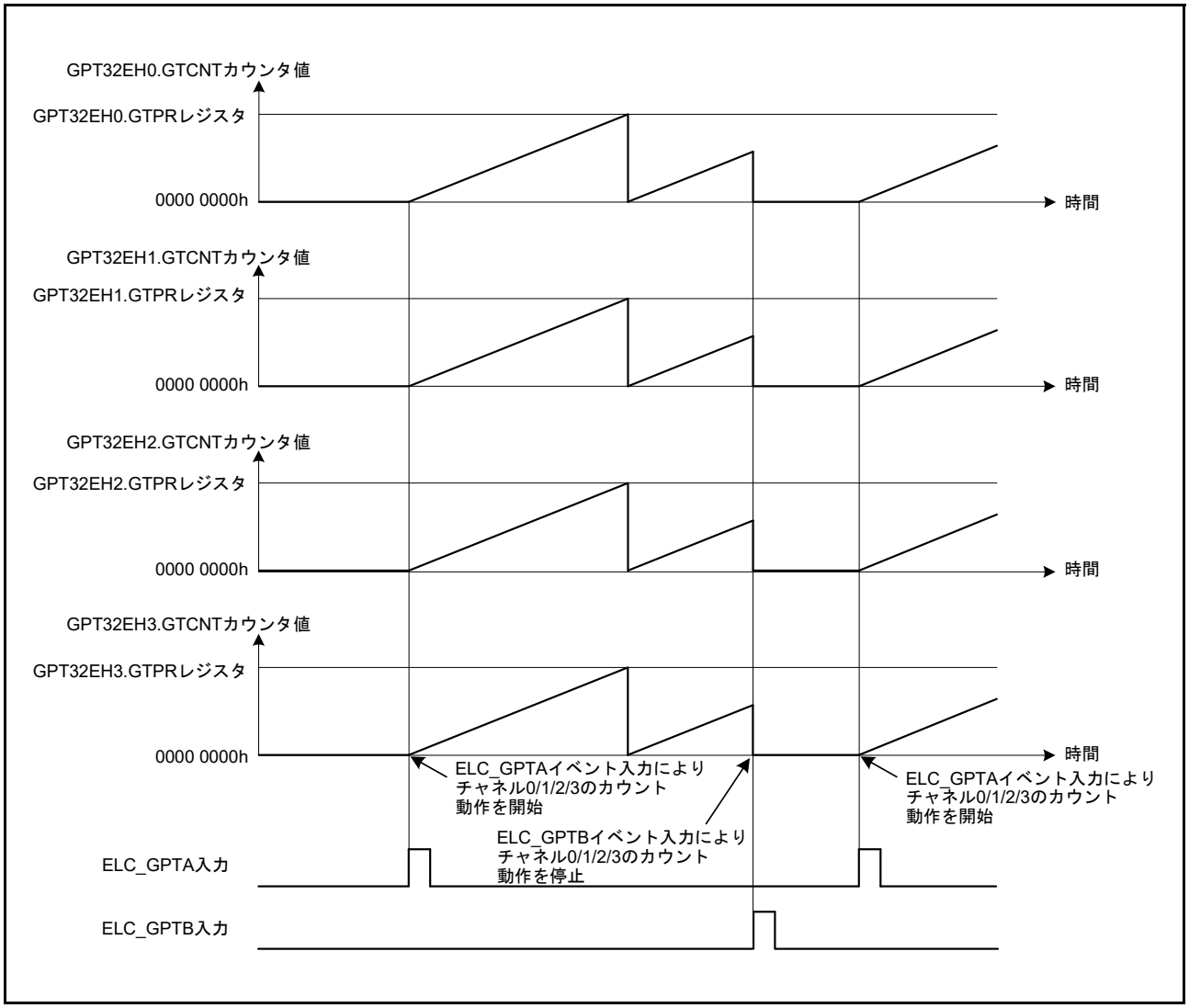


図 23.63 ハードウェア要因による同時スタート／ストップ／クリア動作例（カウント周期（GTPR レジスタ値）が同一のとき）

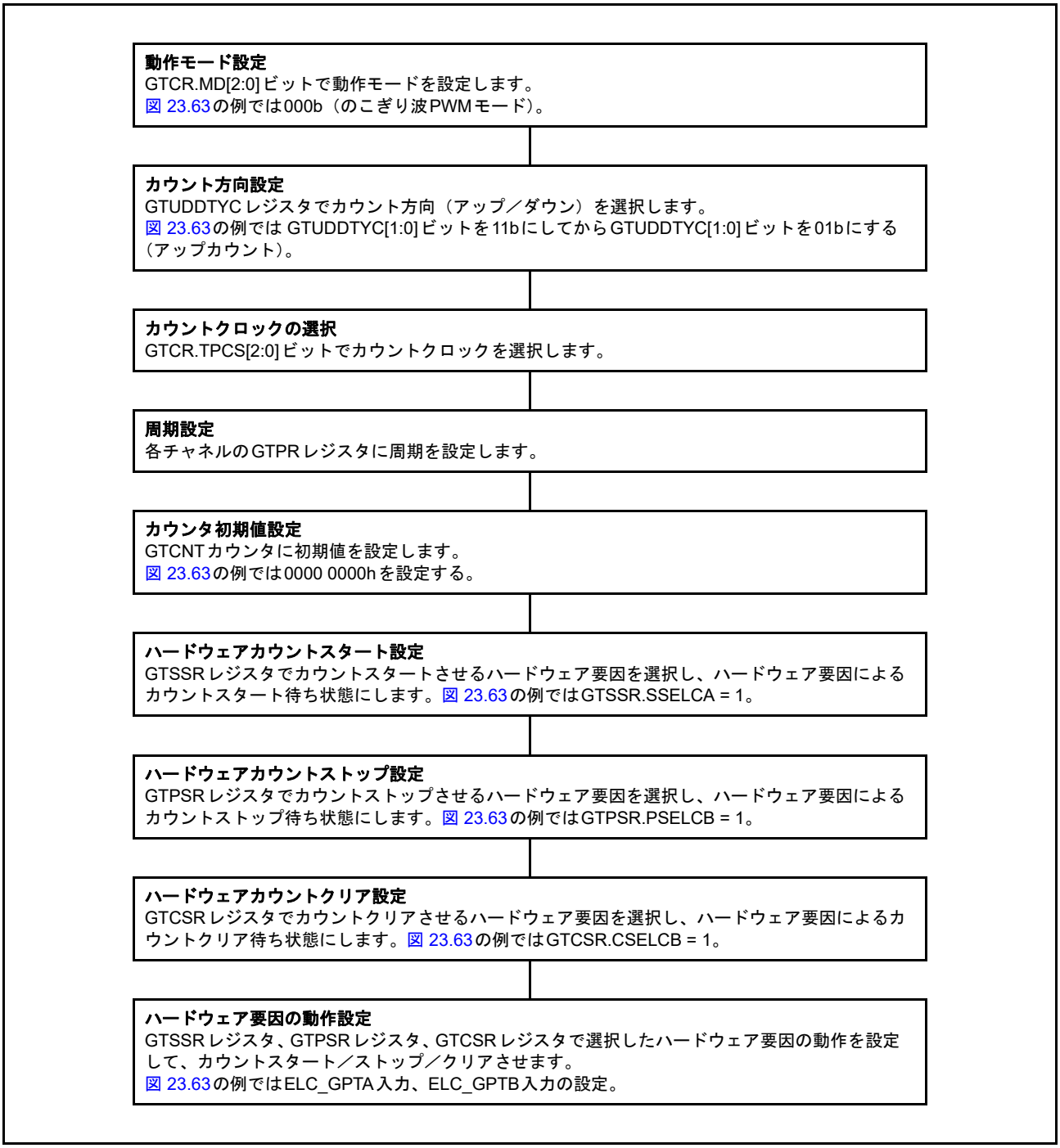


図 23.64 ハードウェア要因による同時スタート設定例

23.3.9　PWM 出力動作例

(1)　同期 PWM 出力

複数の GPT を使用することで、最大 13 チャネル 28 相の連動した PWM 波形を出力します。

図 23.65 に、4 チャネルをのこぎり波 PWM モードで同期動作させて、8 相の PWM 波形を出力させる例を示します。GTIOCA 端子は、初期値として Low 出力、GTCCRA レジスタのコンペアマッチで High 出力、周期の終わりで Low 出力するように設定されています。GTIOCB 端子は、初期値として Low 出力、GTCCRB レジスタのコンペアマッチで High 出力、周期の終わりで Low 出力するように設定されています。

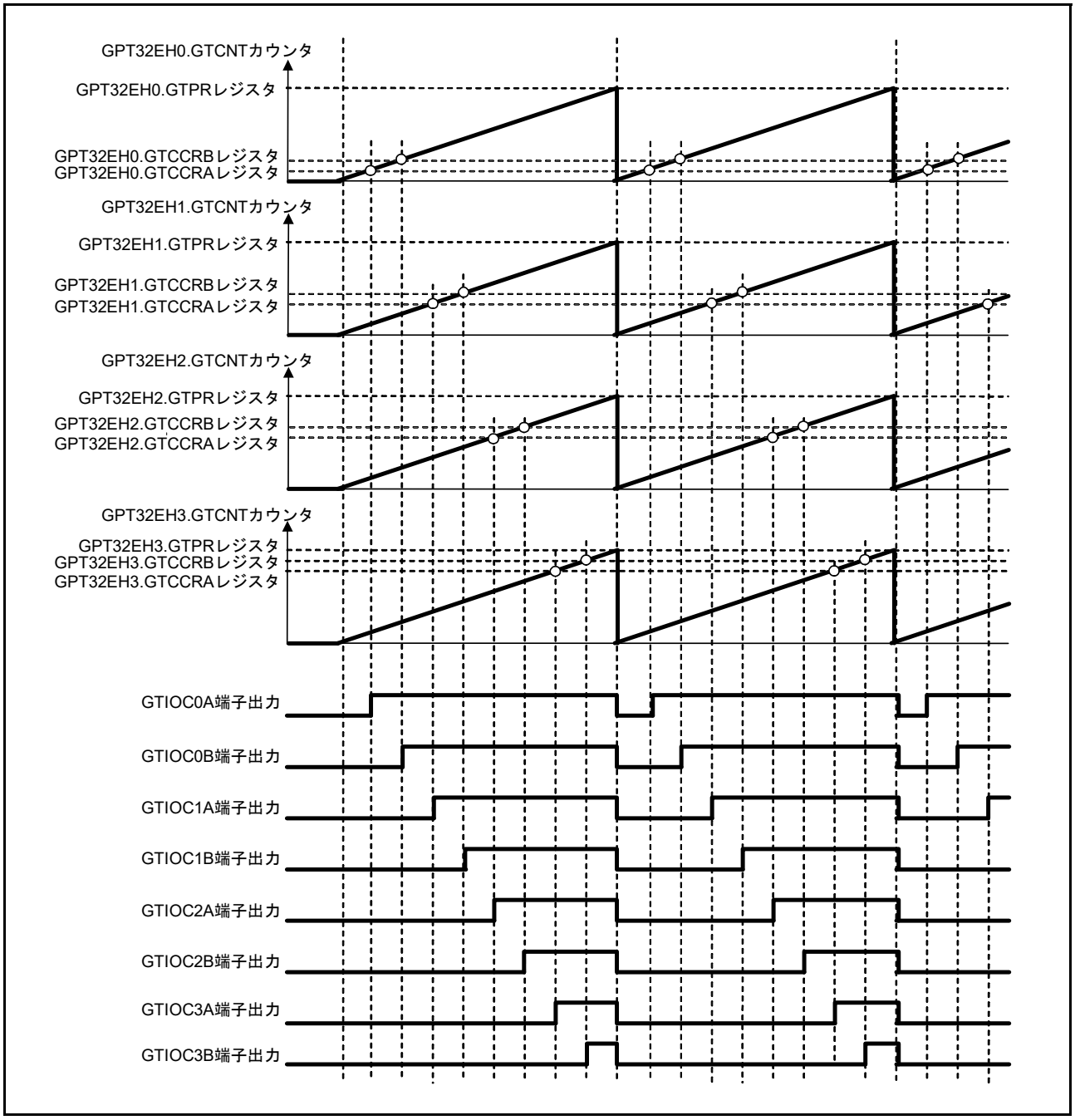


図 23.65　同期 PWM 出力例

(2) のこぎり波 3 相相補 PWM 出力

図 23.66 に、3 チャネルをのこぎり波 PWM モードで同期動作させて、3 相の相補 PWM 波形を出力させる例を示します。GTIOCA 端子は、初期値として Low 出力、GTCCRA レジスタのコンペアマッチで High 出力、周期の終わりで Low 出力するように設定されています。GTIOCB 端子は、初期値として High 出力、GTCCRB レジスタのコンペアマッチで Low 出力、周期の終わりで High 出力するように設定されています。

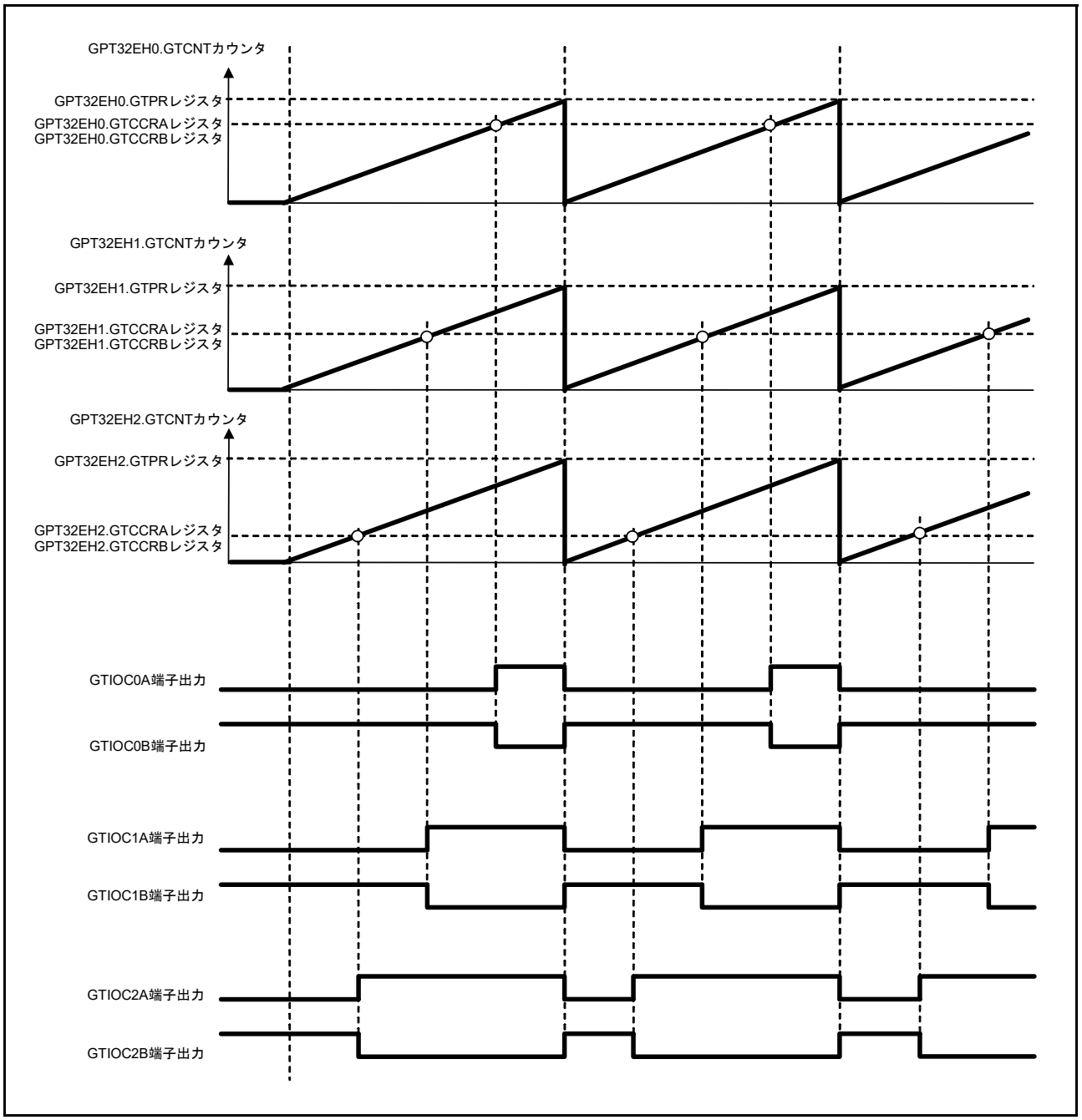


図 23.66 のこぎり波 3 相相補 PWM 出力例

(3) のこぎり波 3 相相補 PWM 出力（デッドタイム自動設定）

図 23.67 に、デッドタイム自動設定機能を使用して、3 チャネルをのこぎり波ワンショットパルスモードで同期動作させ、3 相の相補 PWM 波形を出力させる例を示します。GTIOCA 端子は、初期値として Low 出力、GTCCRA レジスタのコンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力を保持するように設定されています。GTIOCB 端子は、初期値として High 出力、GTCCRB レジスタのコンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力を保持するように設定されています。

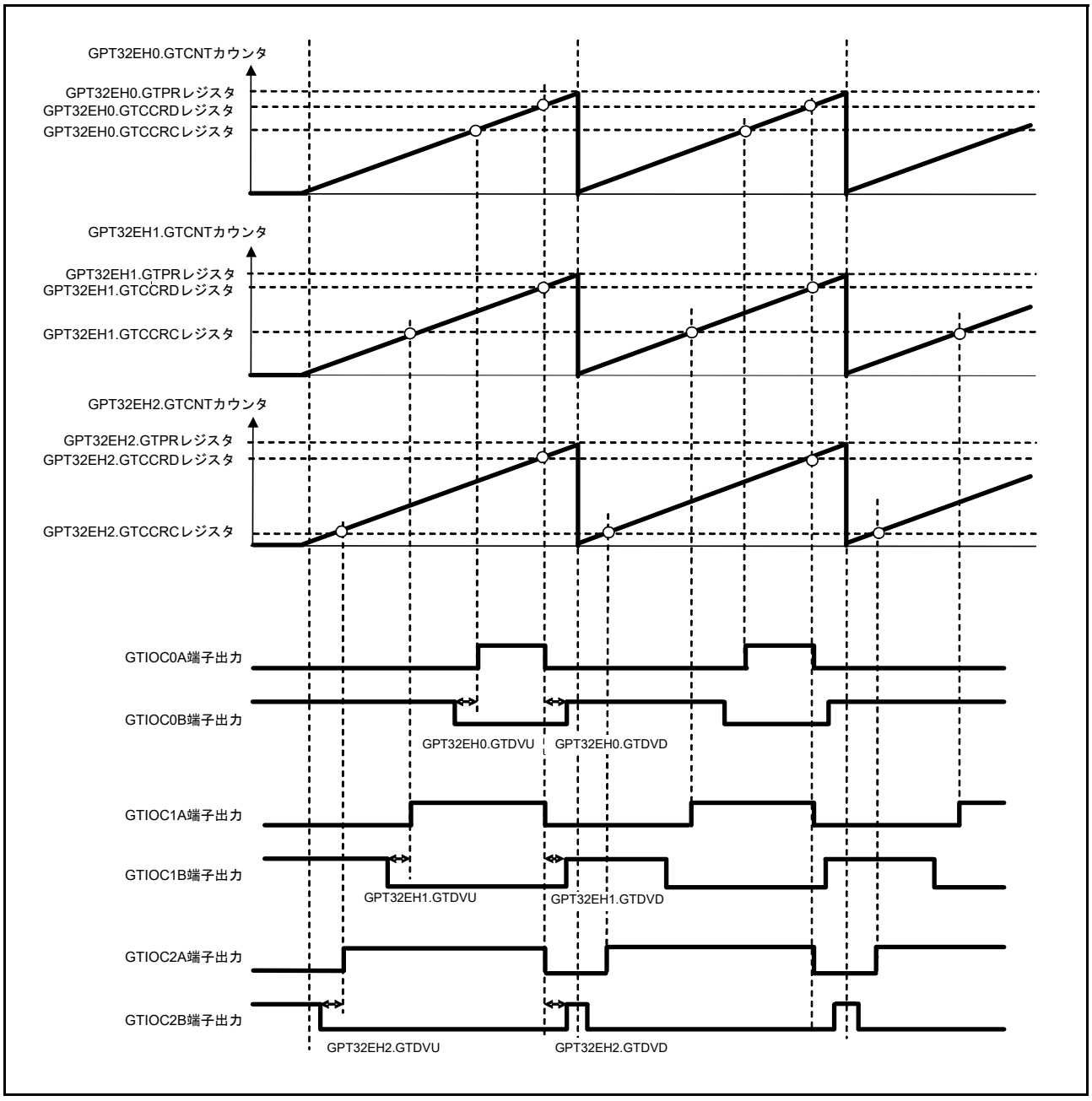


図 23.67 のこぎり波 3 相相補 PWM 出力例（デッドタイム自動設定）

(4) 三角波 3 相相補 PWM 出力

図 23.68 に、3 チャネルを三角波 PWM モード 1 で同期動作させて、3 相の相補 PWM 波形を出力させる例を示します。GTIOCA 端子は、初期値として Low 出力、GTCCRA レジスタのコンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力を保持するように設定されています。GTIOCB 端子は、初期値として High 出力、GTCCRB レジスタのコンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力を保持するように設定されています。

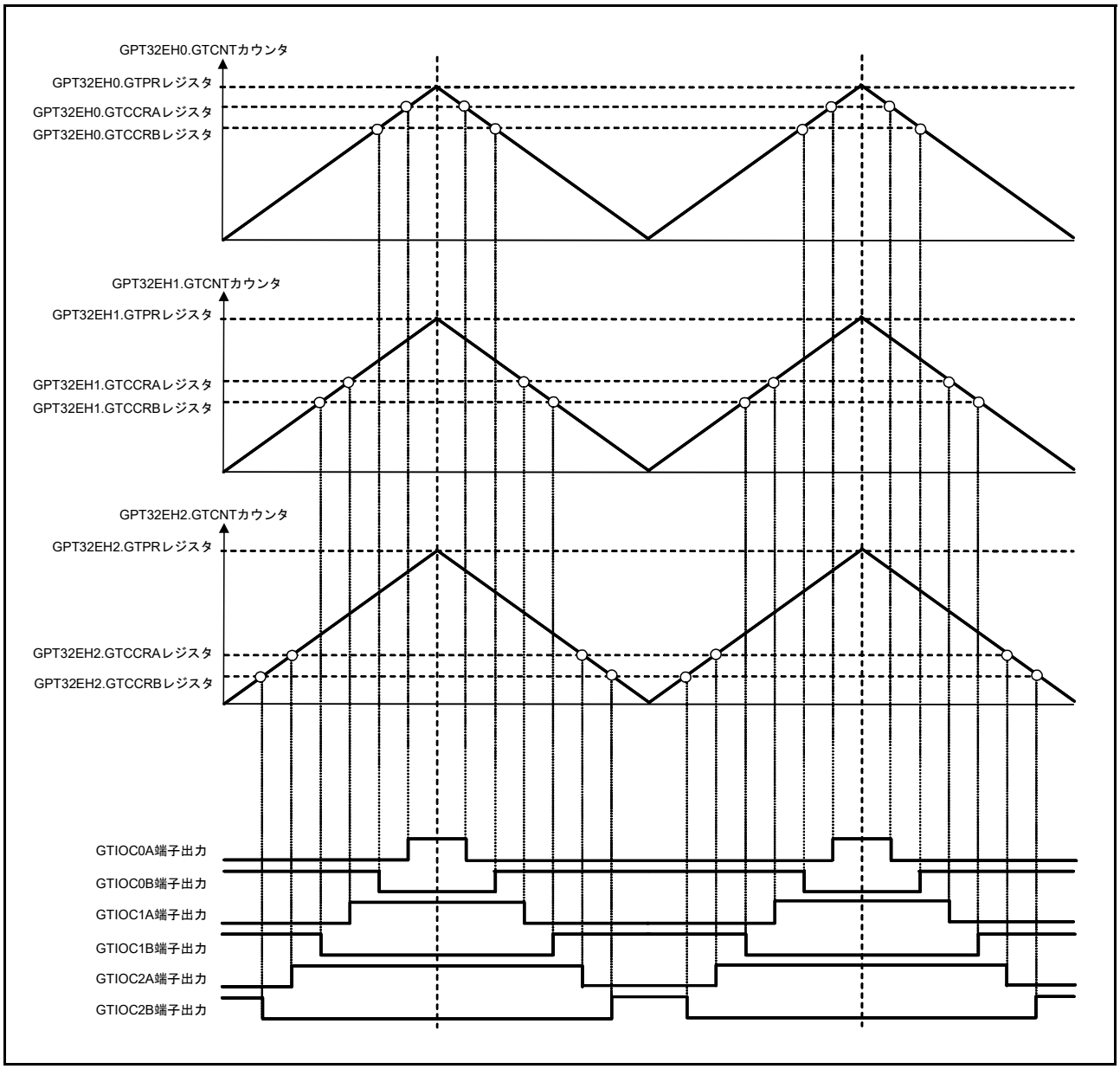


図 23.68 三角波 3 相相補 PWM 出力例

(5) 三角波 3 相相補 PWM 出力（デッドタイム自動設定）

図 23.69 に、デッドタイム自動設定機能を使用して、3 チャネルを三角波 PWM モード 1 で同期動作させ、3 相の相補 PWM 波形を出力させる例を示します。GTIOCA 端子は、初期値として Low 出力、GTCCRA レジスタのコンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力を保持するように設定されています。GTIOCB 端子は、初期値として High 出力、GTCCRB レジスタのコンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力を保持するように設定されています。

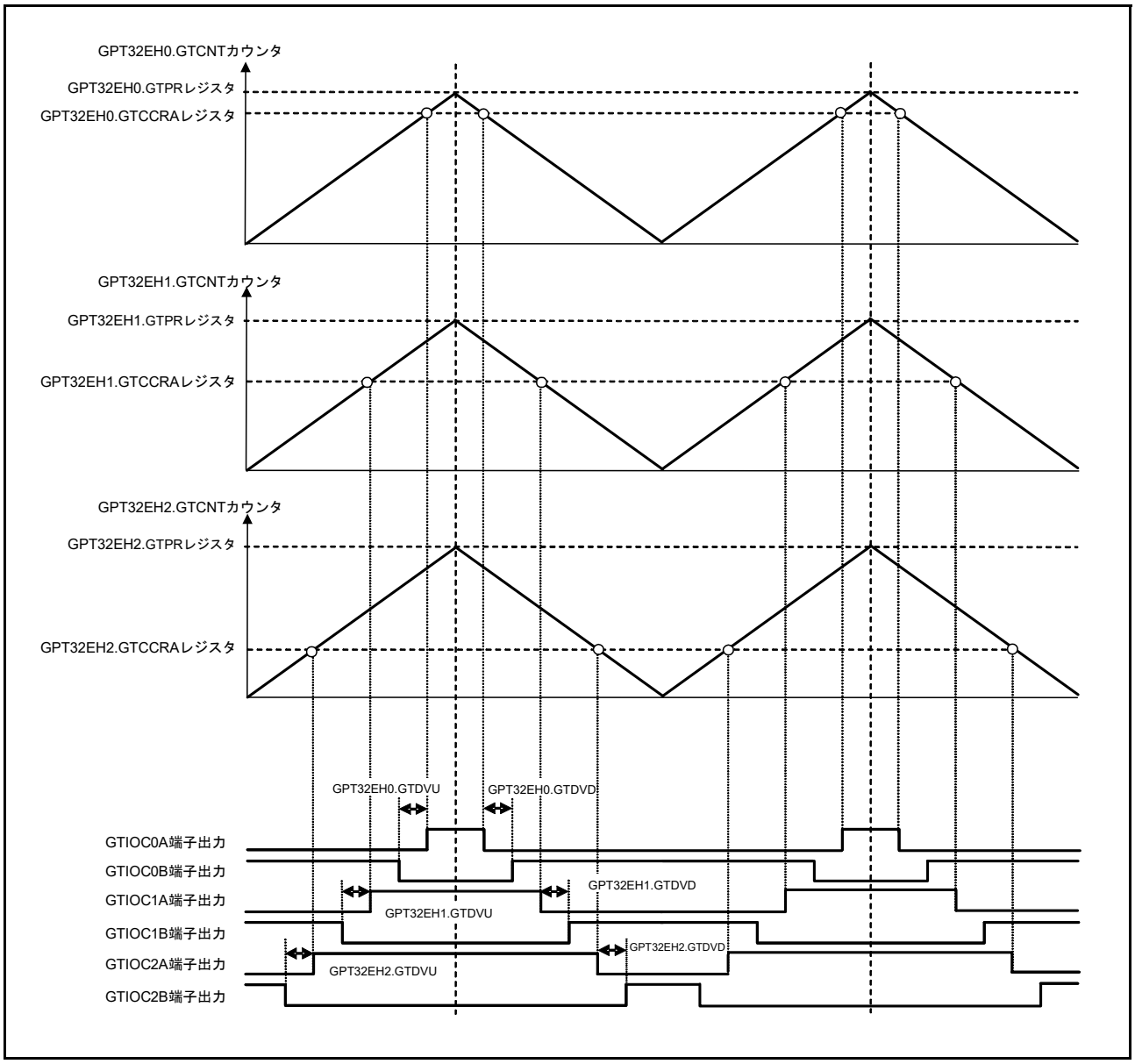


図 23.69 三角波 3 相相補 PWM 出力例（デッドタイム自動設定）

(6)　非対称三角波 3 相相補 PWM 出力（デッドタイム自動設定）

図 23.70 に、デッドタイム自動設定機能を使用して、3 チャネルを三角波 PWM モード 3 で同期動作させ、3 相の相補 PWM 波形を出力させる例を示します。GTIOCA 端子は、初期値として Low 出力、GTCCRA レジスタのコンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力を保持するように設定されています。GTIOCB 端子は、初期値として High 出力、GTCCRB レジスタのコンペアマッチでトグル出力、周期の終わりで出力を保持するように設定されています。

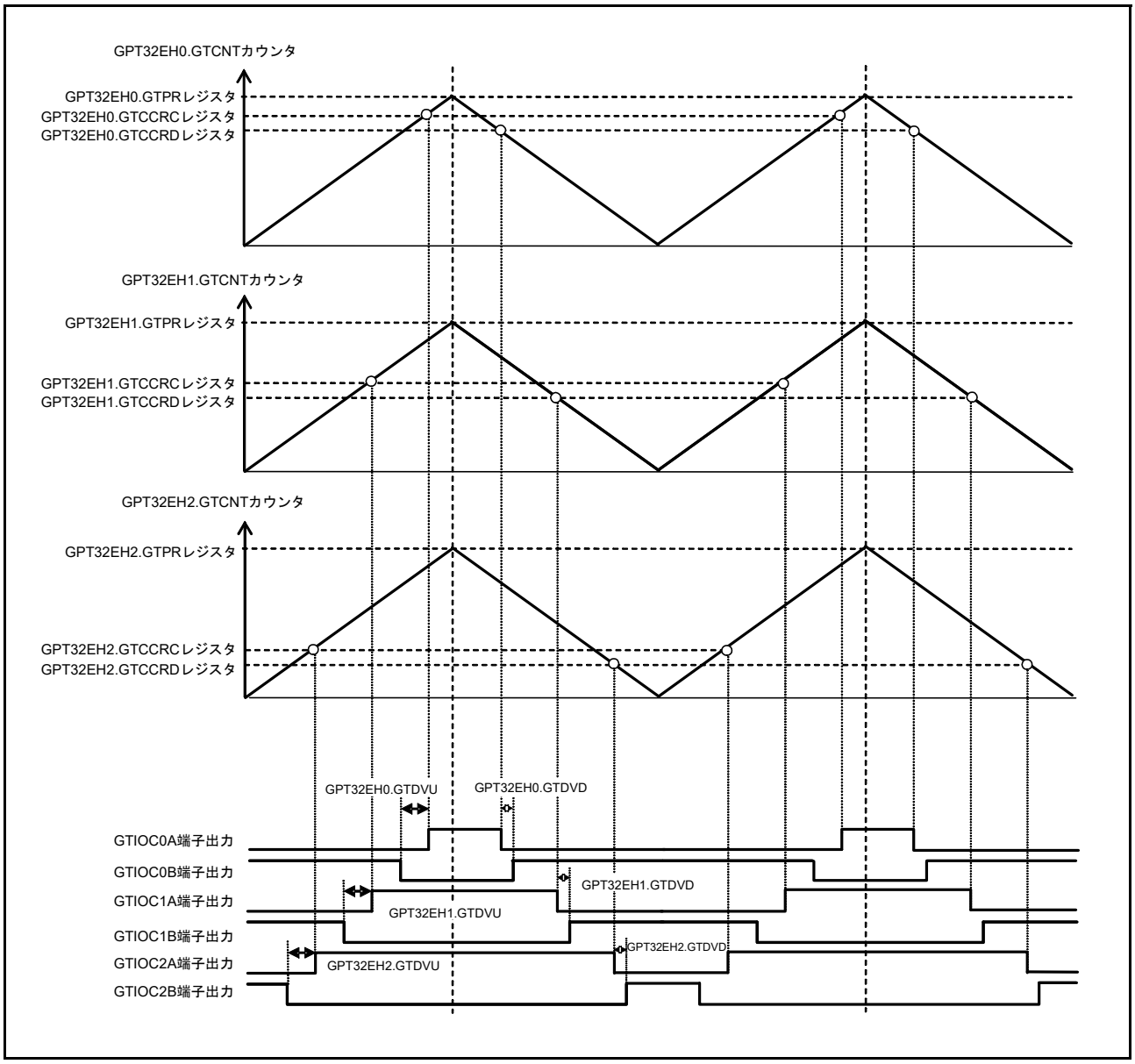


図 23.70　　非対称三角波 3 相相補 PWM 出力例（デッドタイム自動設定）

23.3.10　位相計数機能

GTIOCA 端子入力と GTIOCB 端子入力の間で位相差が検出されると、対応する GTCNT カウンタがカウントアップまたはカウントダウンを実行します。GTUPSR および GTDNSR レジスタに設定されている GTIOCA 端子入力と GTIOCB 端子入力のレベルとエッジの関係が、どのような組み合わせであっても位相差を検出できます。カウント動作については、23.3.1.1　カウンタの動作を参照してください。

図 23.71 ～図 23.80 に、位相計数モード 1 ～ 5 を示します。表 23.8 ～表 23.17 に、アップカウント／ダウンカウントの条件と、GTUPSR および GTDNSR レジスタの設定値を示します。

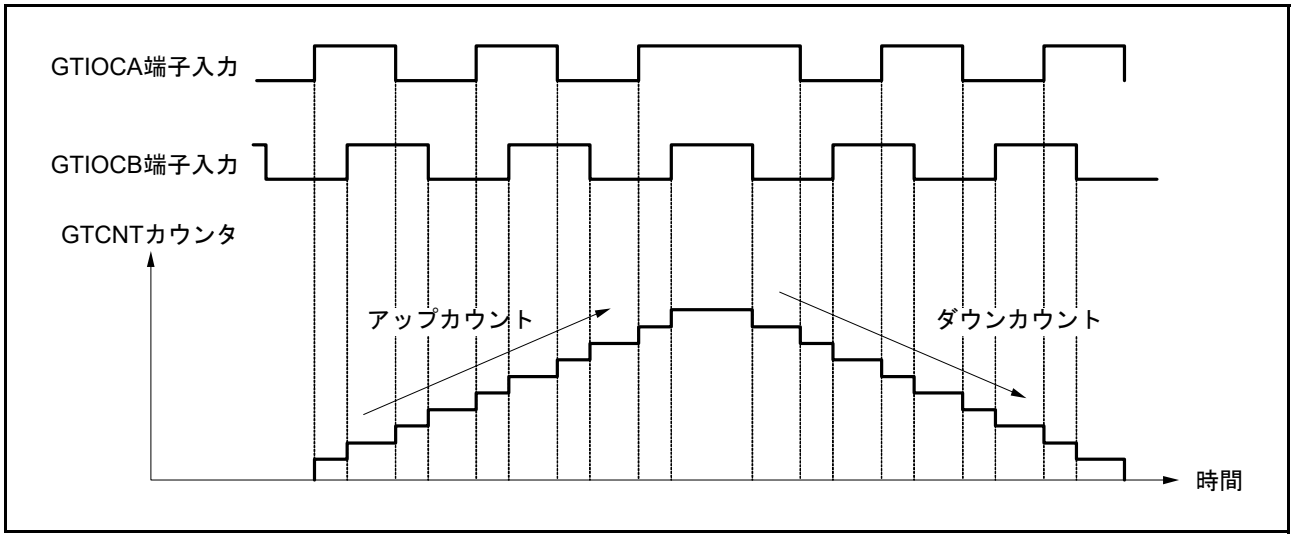


図 23.71　位相計数モード 1 の動作例

表 23.8　位相計数モード1でのアップカウント／ダウンカウントの条件

GTIOCA端子入力	GTIOCB端子入力	動作	レジスタ設定値
High	↑	アップカウント	GTUPSR = 0000 6900h GTDNSR = 0000 9600h
Low	↓		
↑	Low		
↓	High		
High	↓	ダウンカウント	
Low	↑		
↑	High		
↓	Low		

↑：立ち上がりエッジ

↓：立ち下がりエッジ

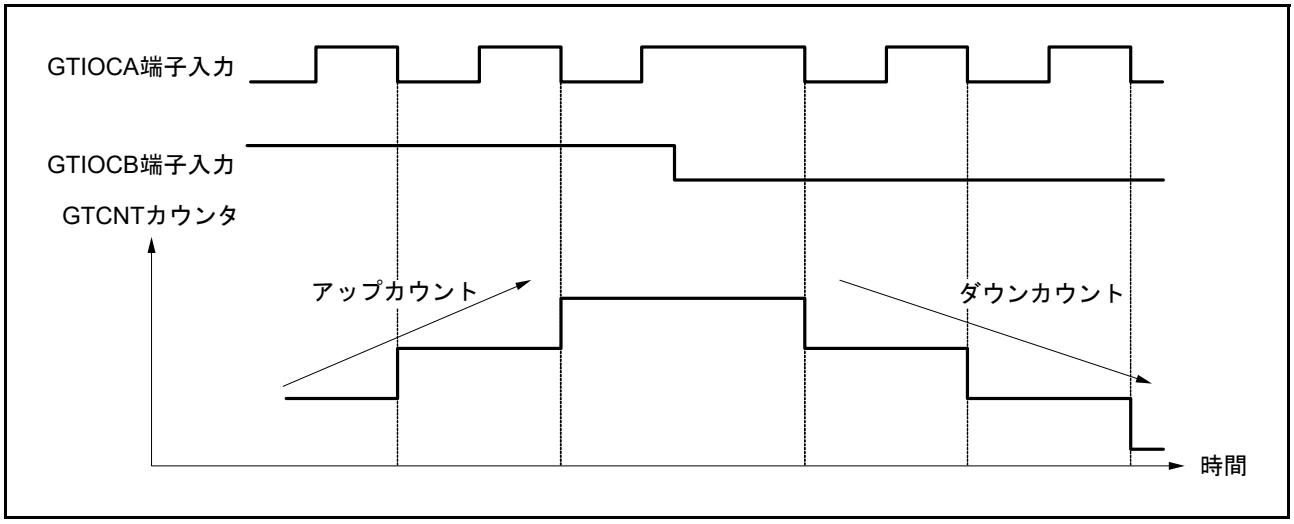


図 23.72　位相計数モード 2 の動作例（A）

表 23.9　位相計数モード2でのアップカウント／ダウンカウントの条件（A）

GTIOCA端子入力	GTIOCB端子入力	動作	レジスタ設定値
High	↓	Don't care	GTUPSR = 0000 0800h GTDNSR = 0000 0400h
Low	↓		
↑	Low		
↓	High	アップカウント	
High	↓	Don't care	
Low	↑		
↑	High		
↓	Low	ダウンカウント	

↑ ：立ち上がりエッジ

↓ ：立ち下がりエッジ

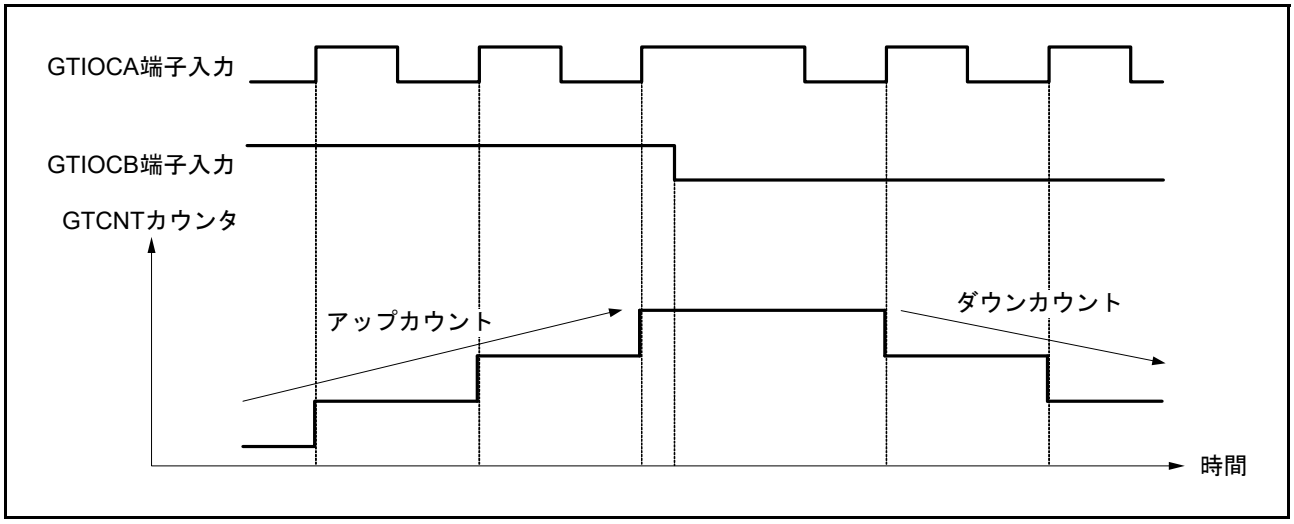


図 23.73　位相計数モード 2 の動作例（B）

表 23.10　位相計数モード2でのアップカウント／ダウンカウントの条件（B）

GTIOCA端子入力	GTIOCB端子入力	動作	レジスタ設定値
High	↓	Don’t care	GTUPSR = 0000 0200h GTDNSR = 0000 0100h
Low	↓		
↑	Low	ダウンカウント	
↓	High	Don’t care	
High	↓		
Low	↑		
↑	High	アップカウント	
↓	Low	Don’t care	

↑ ：立ち上がりエッジ

↓ ：立ち下がりエッジ

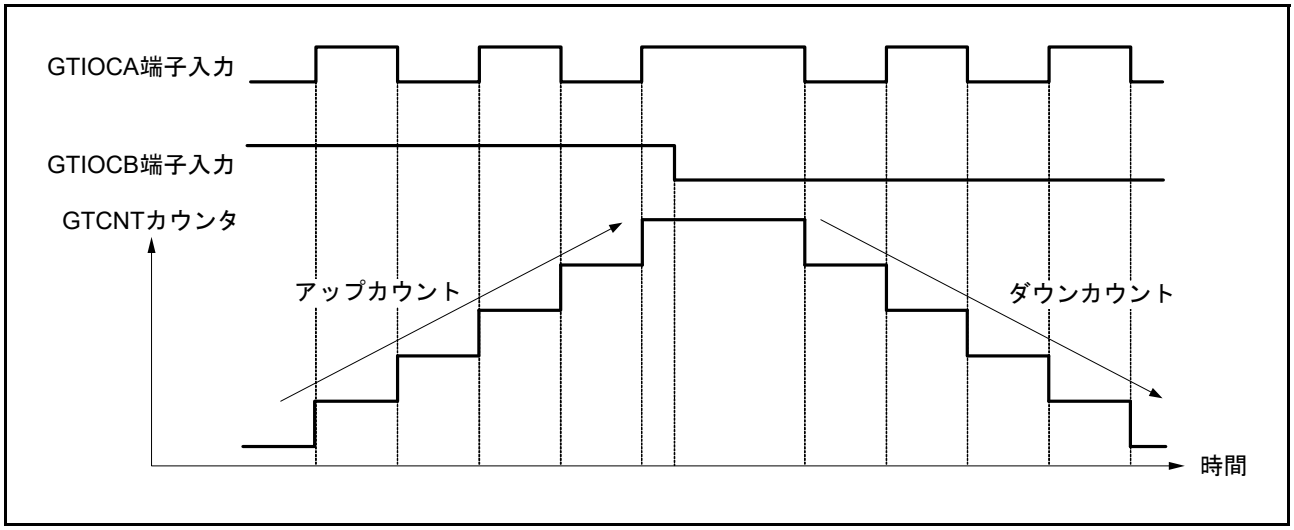


図 23.74　位相計数モード 2 の動作例（C）

表 23.11　位相計数モード2でのアップカウント／ダウンカウントの条件（C）

GTIOCA端子入力	GTIOCB端子入力	動作	レジスタ設定値
High	↑	Don’t care	GTUPSR = 0000 0A00h GTDNSR = 0000 0500h
Low	↓		
↑	Low	ダウンカウント	
↓	High	アップカウント	
High	↓	Don’t care	
Low	↑		
↑	High	アップカウント	
↓	Low	ダウンカウント	

↑ ：立ち上がりエッジ

↓ ：立ち下がりエッジ

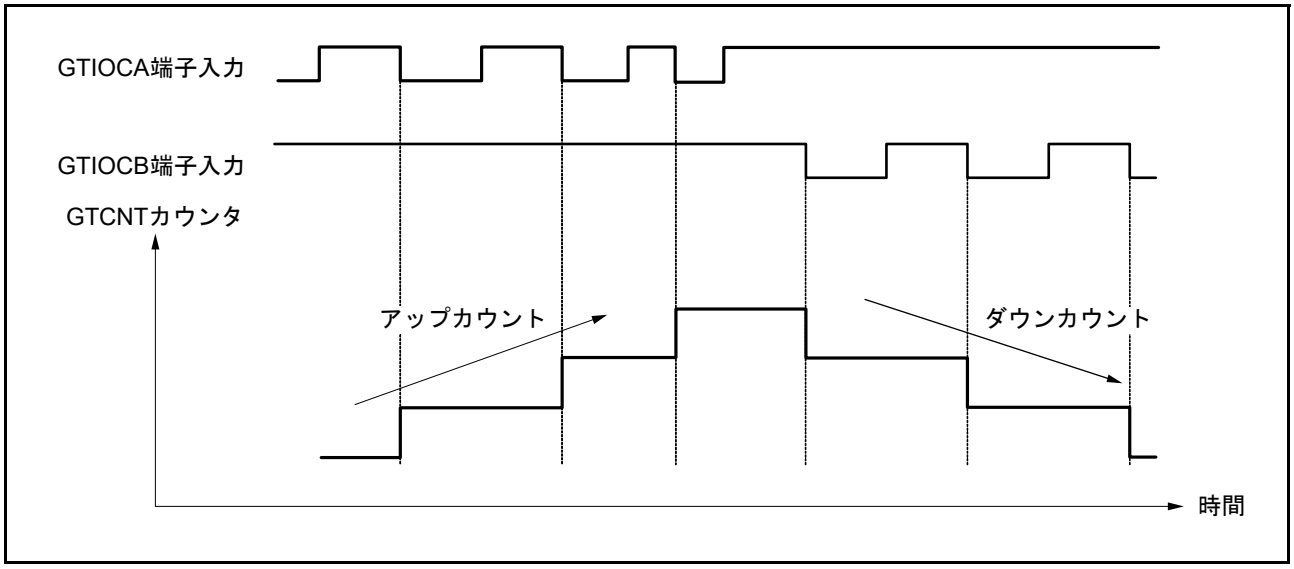


図 23.75　位相計数モード 3 の動作例（A）

表 23.12　位相計数モード3でのアップカウント／ダウンカウントの条件（A）

GTIOCA端子入力	GTIOCB端子入力	動作	レジスタ設定値
High	↑	Don't care	GTUPSR = 0000 0800h GTDNSR = 0000 8000h
Low	↓		
↑	Low		
↓	High	アップカウント	
High	↓	ダウンカウント	
Low	↑	Don't care	
↑	High		
↓	Low		

↑ ：立ち上がりエッジ

↓ ：立ち下がりエッジ

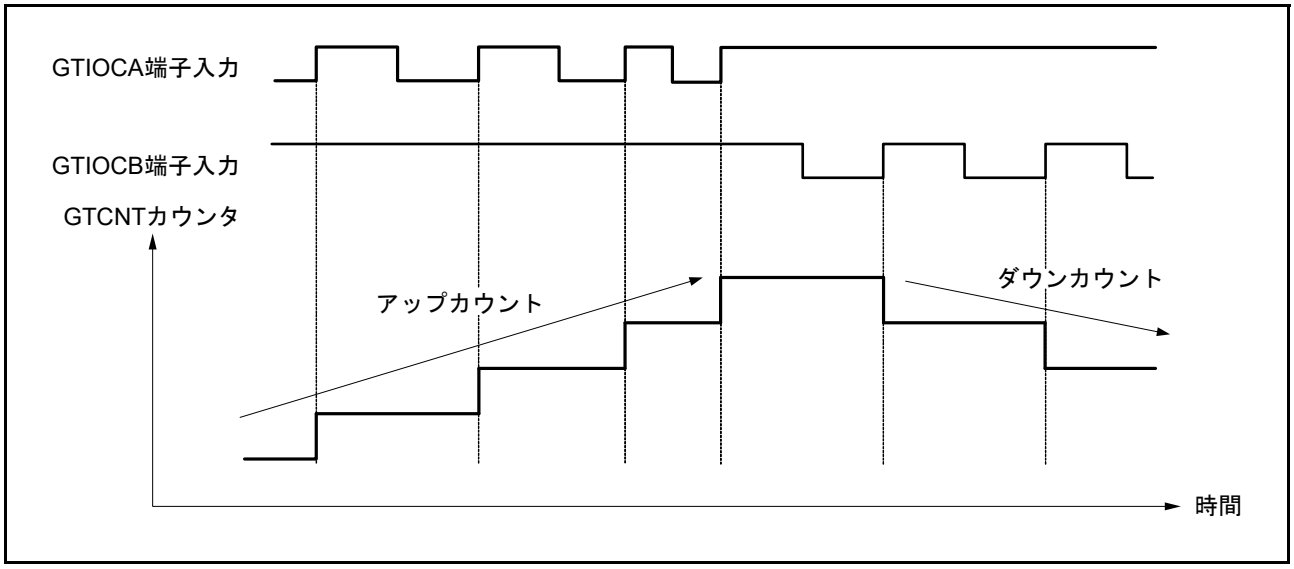


図 23.76　位相計数モード 3 の動作例（B）

表 23.13　位相計数モード3でのアップカウント／ダウンカウントの条件（B）

GTIOCA端子入力	GTIOCB端子入力	動作	レジスタ設定値
High	↓	ダウンカウント	GTUPSR = 0000 0200h GTDNSR = 0000 2000h
Low	↓	Don’t care	
↑	Low		
↓	High		
High	↓		
Low	↑		
↑	High	アップカウント	
↓	Low	Don’t care	

↑ ：立ち上がりエッジ

↓ ：立ち下がりエッジ

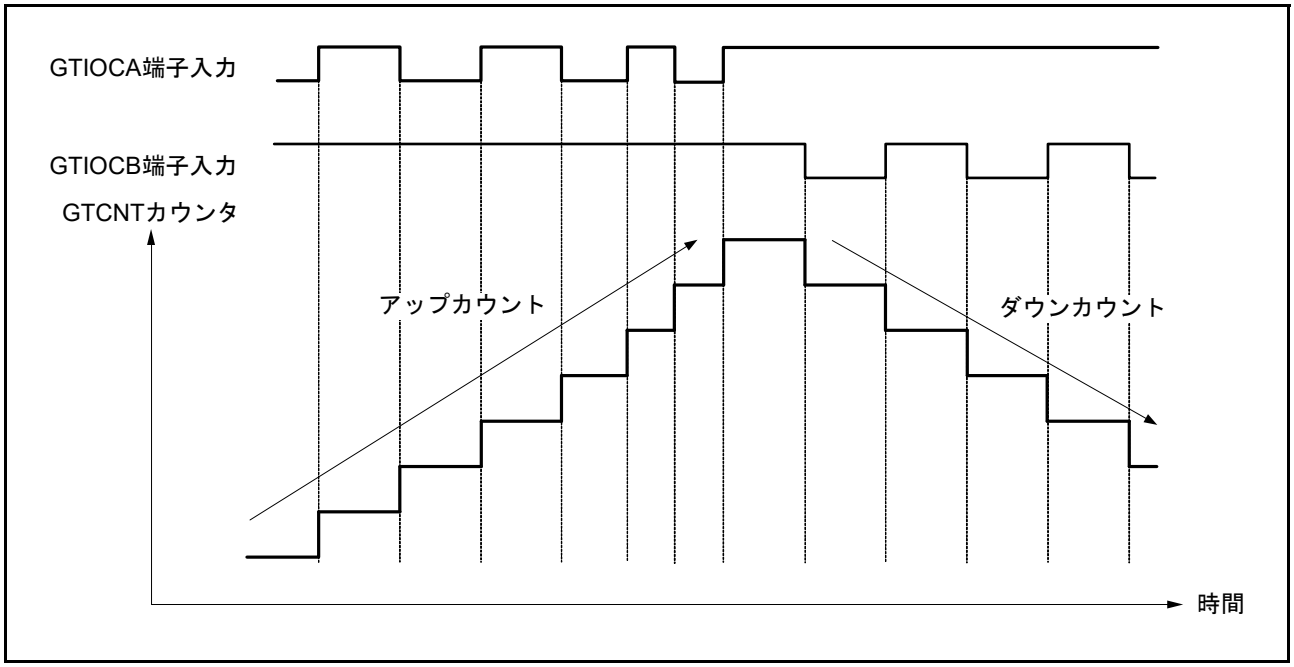


図 23.77　位相計数モード 3 の動作例（C）

表 23.14　位相計数モード3でのアップカウント／ダウンカウントの条件（C）

GTIOCA端子入力	GTIOCB端子入力	動作	レジスタ設定値
High	↑	ダウンカウント	GTUPSR = 0000 0A00h GTDNSR = 0000 A000h
Low	↓	Don't care	
↑	Low		
↓	High	アップカウント	
High	↓	ダウンカウント	
Low	↑	Don't care	
↑	High	アップカウント	
↓	Low	Don't care	

↑ ：立ち上がりエッジ

↓ ：立ち下がりエッジ

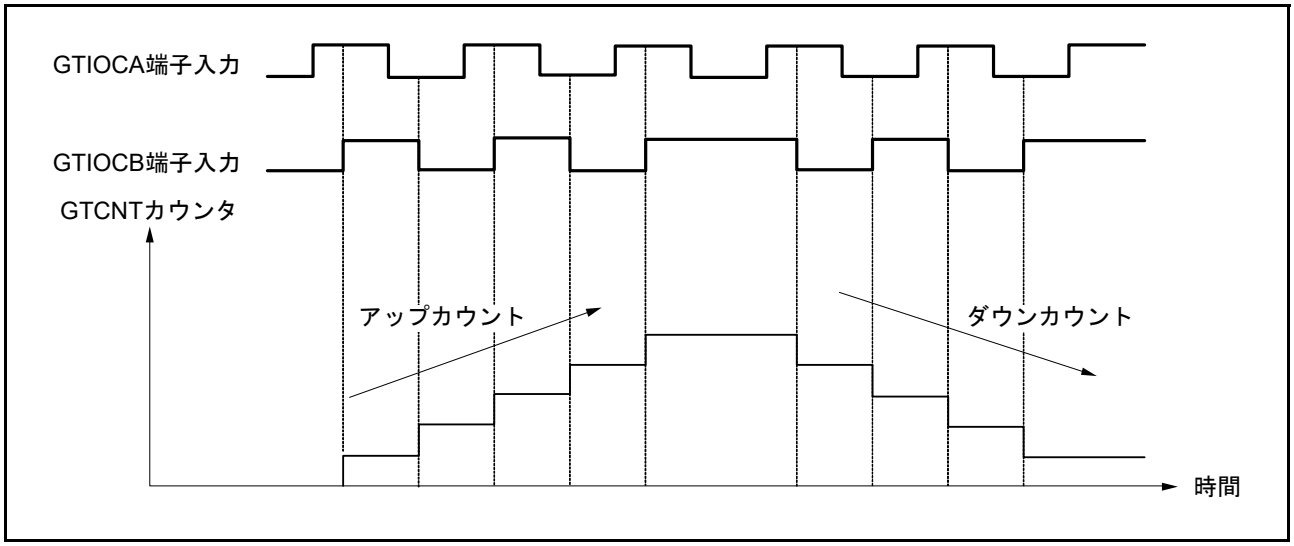


図 23.78　位相計数モード 4 の動作例

表 23.15　位相計数モード4でのアップカウント／ダウンカウントの条件

GTIOCA端子入力	GTIOCB端子入力	動作	レジスタ設定値
High	↑	アップカウント	GTUPSR = 0000 6000h GTDNSR = 0000 9000h
Low	↓		
↑	Low	Don't care	
↓	High		
High	↓	ダウンカウント	
Low	↑		
↑	High	Don't care	
↓	Low		

↑ ：立ち上がりエッジ

↓ ：立ち下がりエッジ

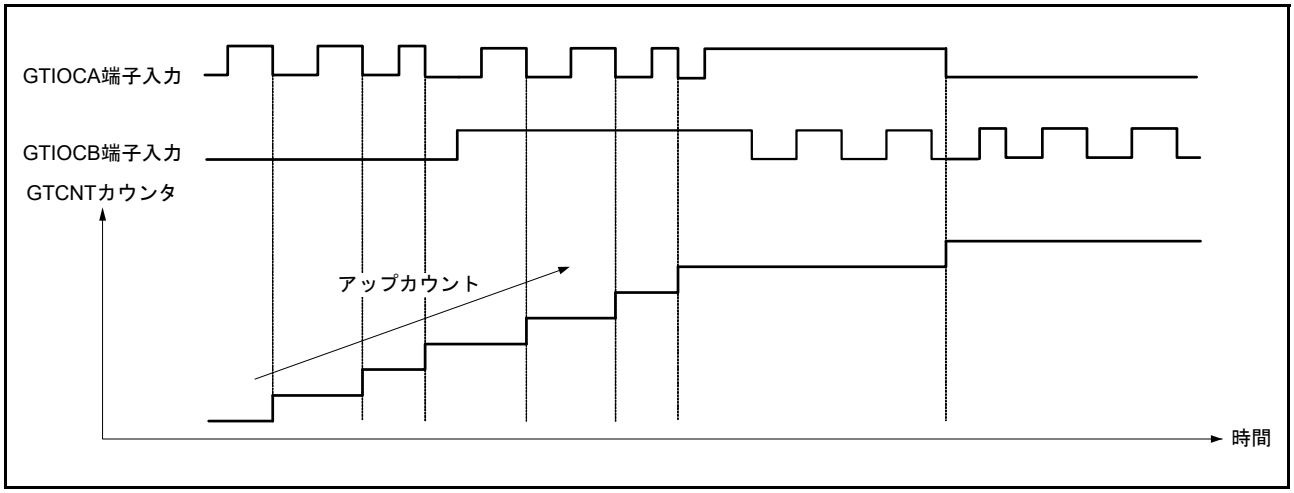


図 23.79　位相計数モード 5 の動作例（A）

表 23.16　位相計数モード5でのアップカウント／ダウンカウントの条件（A）

GTIOCA端子入力	GTIOCB端子入力	動作	レジスタ設定値
High	↓	Don't care	GTUPSR = 0000 0C00h GTDNSR = 0000 0000h
Low	↓		
↑	Low		
↓	High	アップカウント	
High	↓	Don't care	
Low	↑		
↑	High		
↓	Low	アップカウント	

↑：立ち上がりエッジ

↓：立ち下がりエッジ

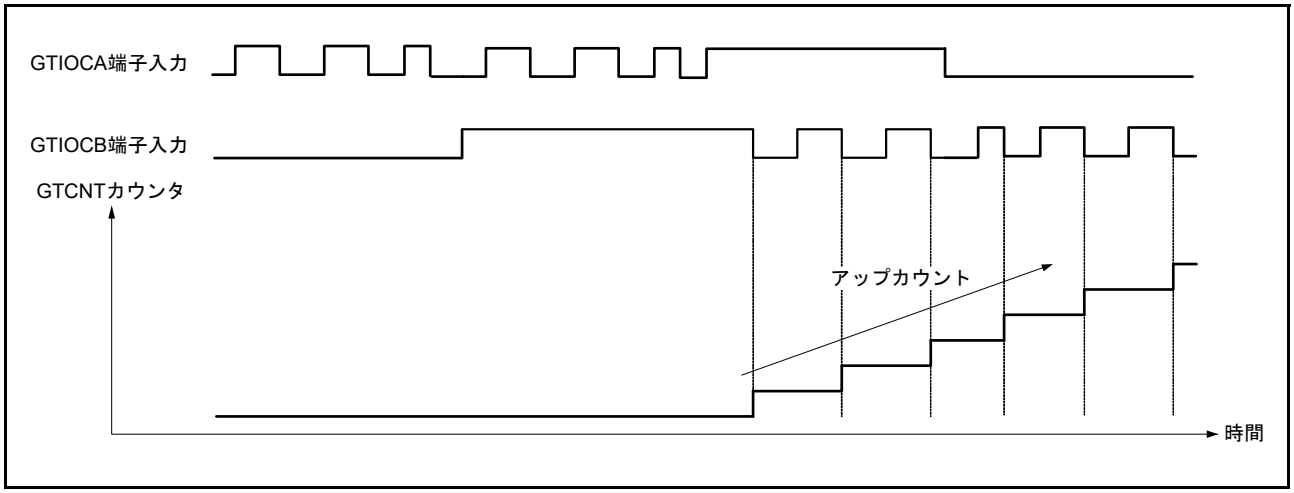


図 23.80　位相計数モード 5 の動作例（B）

表 23.17　位相計数モード5でのアップカウント／ダウンカウントの条件（B）

GTIOCA端子入力	GTIOCB端子入力	動作	レジスタ設定値
High	↓	Don't care	GTUPSR = 0000 0C00h GTDNSR = 0000 0000h
Low	↓	アップカウント	
↑	Low	Don't care	
↓	High		
High	↓	アップカウント	
Low	↑	Don't care	
↑	High		
↓	Low		

↑：立ち上がりエッジ

↓：立ち下がりエッジ

23.3.11　出力相切り替え（GPT_OPS）

GPT_OPS は、出力相切り替えコントロールレジスタ（OPSCR）によるブラシレス DC モータ動作の簡易制御機能を提供します。

GPT_OPS は、6 相モータ制御の各相（U 正相／逆相、V 正相／逆相、W 正相／逆相）のレベル信号またはチョッパ制御に使用する PWM 信号を出力します。この機能では、ソフトウェアで設定したソフト設定値（OPSCR.UF、VF、WF ビット）、ホール素子により検知した外部信号、GPT32EH0.GTIOCA 端子の PWM 波形などを使用します。

図 23.81 に GPT_OPS 制御フローの概念図を示します。

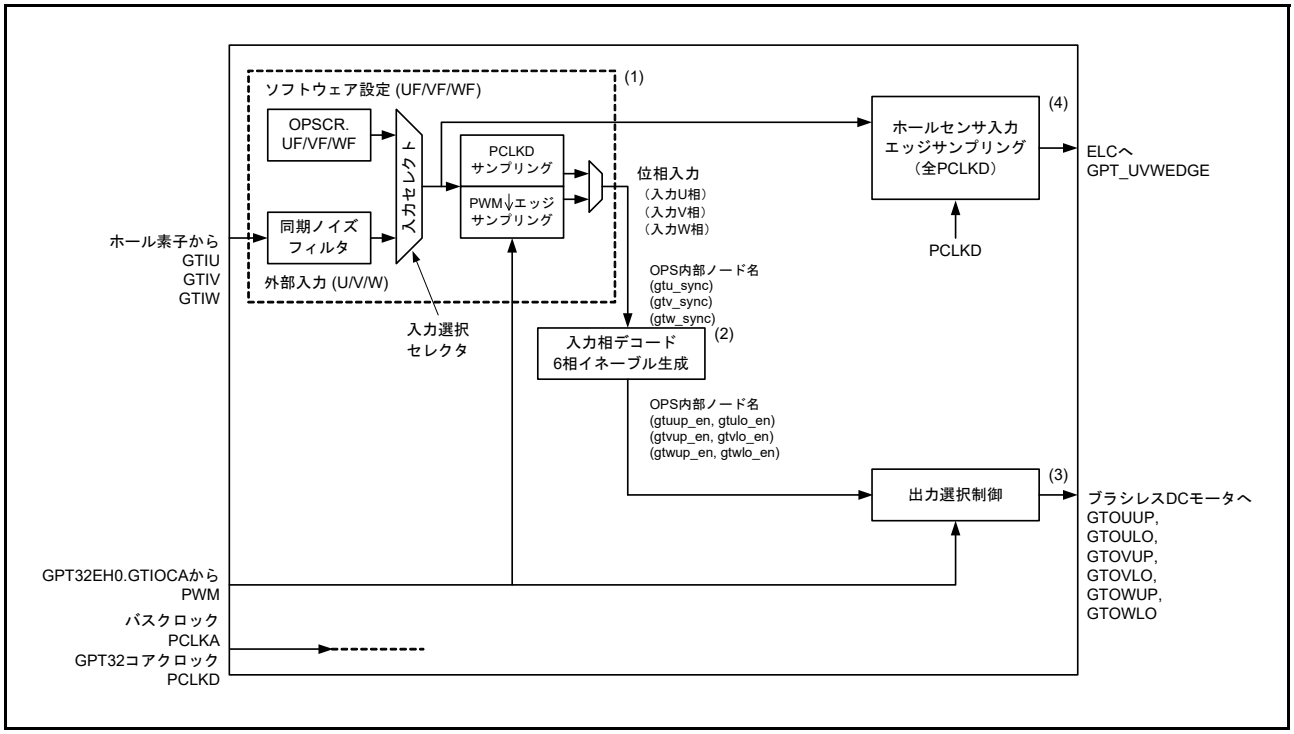
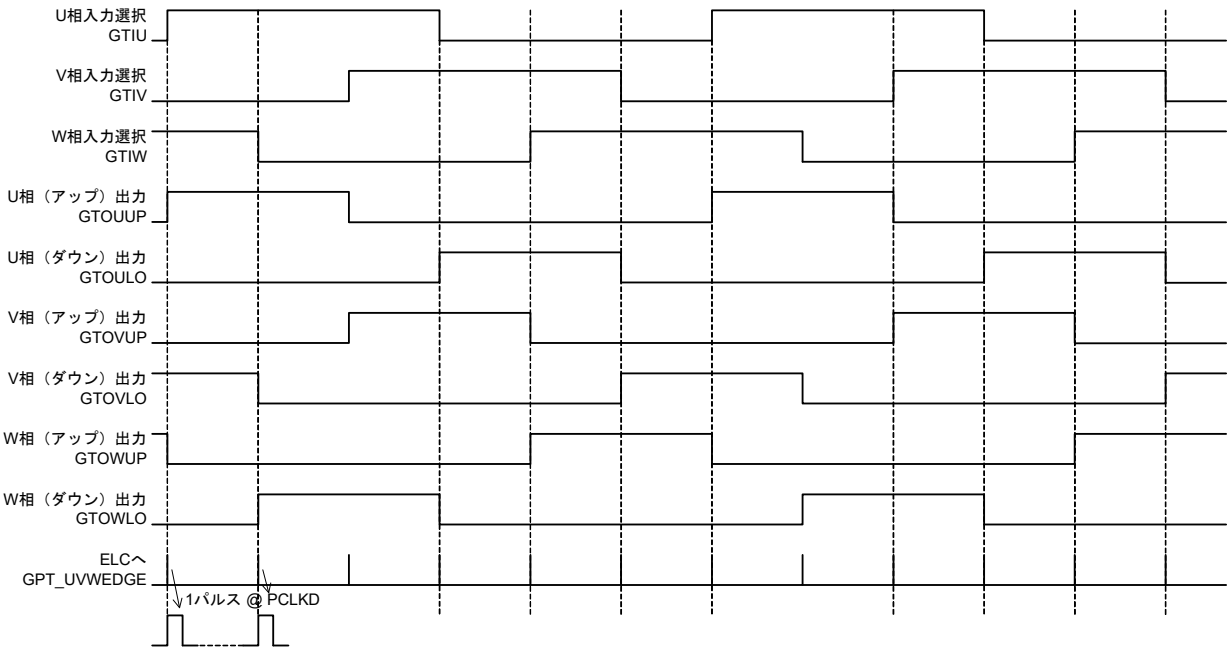


図 23.81　GPT_OPS 制御フローの概念図

図 23.82 に GPT_OPS 動作の 6 相レベル信号出力例を示します。

図 23.82 の GPT_UVWEDGE 信号は、ELC へ出力するホールセンサ入力エッジです。



注 . レジスタ設定：OPSCR.ALIGN = 0、OPSCR.EN = 1、OPSCR.P = 0、OPSCR.N = 0、OPSCR.INV = 0

図 23.82 6 相レベル出力動作例

図 23.83 に GPT_OPS 動作の 6 相 PWM 出力例（チョッパ制御）を示します。

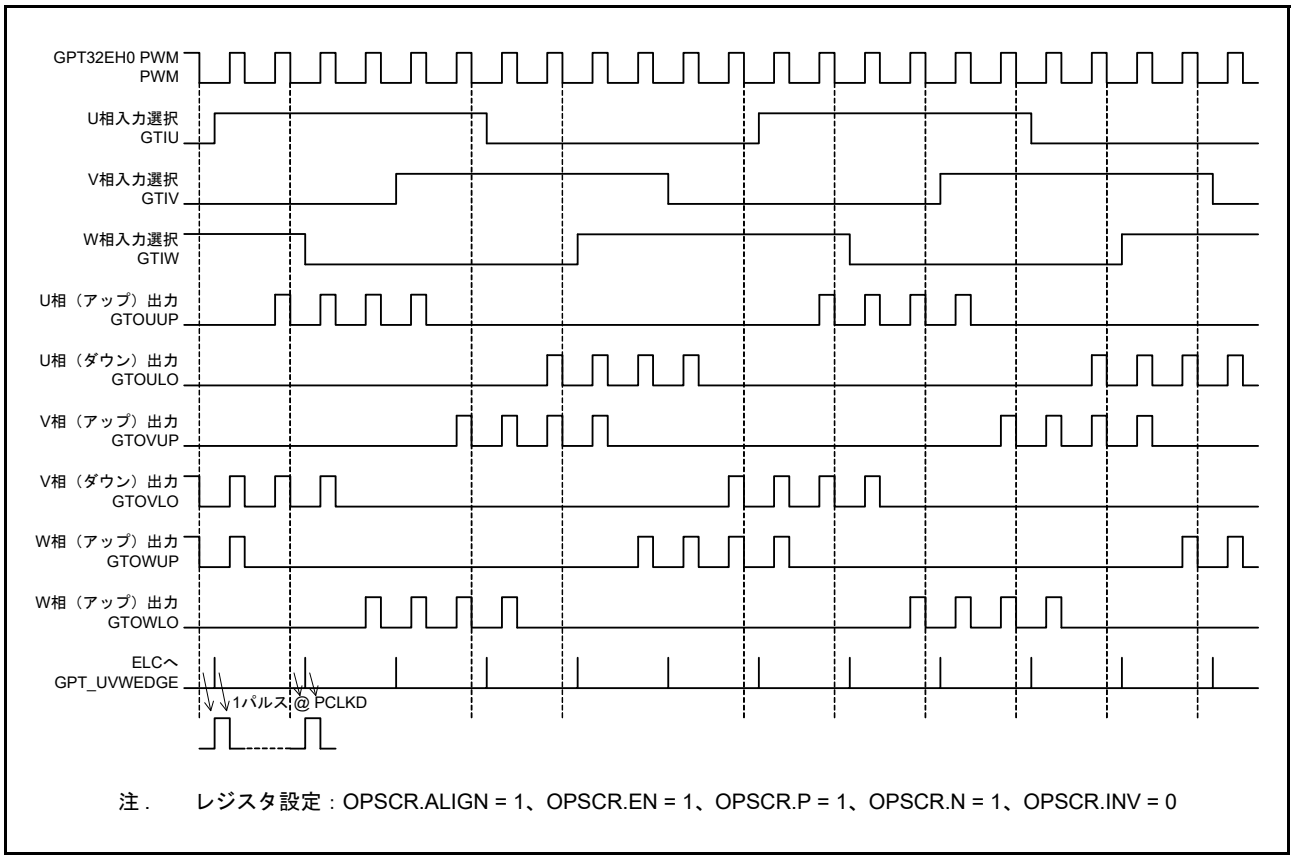
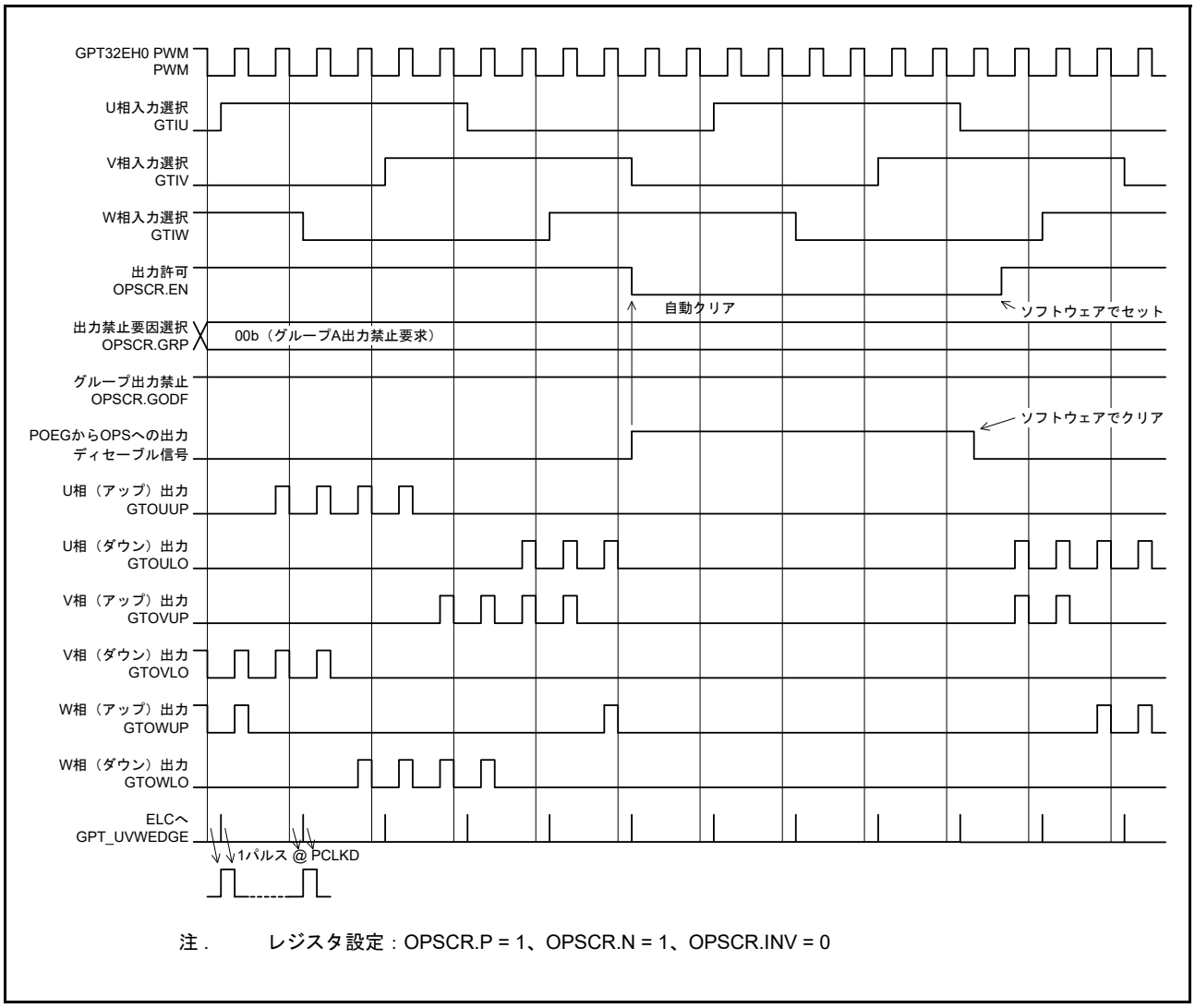


図 23.83 6 相 PWM 出力動作例（チョッパ制御）

図 23.84 に出力禁止制御の例（6 相 PWM 出力動作）を示します。



注 . レジスタ設定：OPSCR.P = 1、OPSCR.N = 1、OPSCR.INV = 0

図 23.84 グループ出力禁止制御動作例

23.3.11.1 外部入力信号の同期および入力選択

図 23.81 に示す GPT_OPS 制御フロー概念図の（1）の部分では、OPSCR.FB ビットによって“ホールセンサ入力”と“ソフトウェア設定値”から“入力相”の選択をします。

OPSCR.FB ビット = 0 の時、ホールセンサ入力を GPT_OPS の入力相に選択します。ホールセンサ入力は、PCLKD の同期化、ノイズフィルタ（任意選択）の処理を実施後、OPSCR.ALIGN = 1 によって PWM（GPT320.GTIOC0A 端子の PWM）の立ち下がり（↓）エッジサンプリングを行い入力相となります。

OPSCR.FB ビット = 1 の時、ソフトウェア設定値（OPSCR.UF、VF、WF）を選択し、OPSCR.ALIGN = 1 によって PWM（GPT320.GTIOC0A 端子の PWM）の立ち下がり（↓）エッジサンプリングを行い入力相となります。

OPSCR.ALIGN ビット = 0 の時は、OPSCR.FB = 0/1 のいずれの場合も PCLKD 同期の入力相となりますが、PWM 出力を選択（OPSCR.P/N = 1）すると出力相 U/V/W 切り替え（U => V => W => U）タイミング直前／直後の PWM パルス幅が短くなることがあります。

表 23.18 に、入力選択処理と対応する OPSCR レジスタのビット設定を示します。

表 23.18 入力選択処理方法

OPSCR レジスタ		入力相サンプリング方法の選択（U/V/W 相）	同期入出力選択処理（GPT_OPS 内部ノード名）
FB ビット	ALIGN ビット		
0	1	PWM 立ち下がりエッジサンプリングでの外部入力（PCLKD 同期 + 立ち下がりエッジサンプル）	入力相 入力 U 相（gtu_sync） 入力 V 相（gtv_sync） 入力 W 相（gtw_sync）
	0	PCLKD 同期出力での外部入力（PCLKD 同期 + スルーモード）	
1	1	PWM 立ち下がりエッジサンプリングでのソフトウェア設定（立ち下がりエッジサンプルの OPSCR.UF、VF、WF ビット）	
	0	ソフトウェア設定値選択 （= OPSCR.UF/VF/WF ビット値）（= PCLKD 同期）	

23.3.11.2 入力サンプリング

OPSCR.U、V、W ビットは、OPSCR.FB ビットで選択した入力の PCLKD サンプリング結果を示します。

OPSCR.FB ビット = 0 の場合、GPT コアクロック（PCLKD）との同期およびノイズフィルタリング（オプション）後に、OPSCR.U、V、W ビットは外部入力のサンプリング結果を示します。OPSCR.FB ビット = 1 の場合、OPSCR.U、V、W ビットはソフト設定値（OPSCR.UF、VF、WF ビット）になります。

23.3.11.3 入力相デコード

図 23.81 に示す GPT_OPS 制御フロー概念図の（2）の部分では、OPSCR.FB ビットで選択した入力相をデコードすることにより、6 相信号を有効にします。6 相許可信号は、GPT_OPS の内部処理に使用されます。

表 23.19 に入力相のデコード表を示します。

表 23.19 入力相デコード表

入力相（U/V/W）（GPT_OPS内部ノード名）			入力相のデコードによる6相許可［U/V/W（Up/Lo）］（GPT_OPS内部ノード名）					
入力U相	入力V相	入力W相	U相（Up）	U相（Lo）	V相（Up）	V相（Lo）	W相（Up）	W相（Lo）
(gtu_sync)	(gtv_sync)	(gtw_sync)	(gtuup_en)	(gtulo_en)	(gtvup_en)	(gtvlo_en)	(gtwup_en)	(gtwlo_en)
1	0	1	1	0	0	1	0	0
1	0	0	1	0	0	0	0	1
1	1	0	0	0	1	0	0	1
0	1	0	0	1	1	0	0	0
0	1	1	0	1	0	0	1	0
0	0	1	0	0	0	1	1	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	0	0	0	0	0	0

23.3.11.4 出力選択制御

図 23.81 に示す GPT_OPS 制御フロー概念図の（3）の部分では、OPSCR レジスタのビットを設定することによって出力波形を選択します。

出力選択に関連するビットを以下に示します。

- OPSCR.EN ビット：6 相出力の出力／停止を制御
- OPSCR.P ビットおよび OPSCR.N ビット：出力相に対してレベル信号／ PWM 信号（チョッパ出力）を選択可能
- 出力相の極性は、OPSCR.INV ビットで正論理／負論理に設定可能

表 23.20 および表 23.21 に、OPSCR レジスタのビットを使用した出力選択制御方法を示します。

表 23.20 出力選択制御方法（正相）(1/2)

イネーブル相出力制御	正相出力（P）制御	反転相出力制御	出力ポート名（正相 = Up）（出力選択内部ノード割り当て）	
OPSCR.EN ビット	OPSCR.P ビット	OPSCR.INV ビット	GTOUUP GTOVUP GTOWUP	モード
0	x	x	0	出力停止（外部端子Hi-Z）GPT_OPS⇒0出力
1	0	0	レベル信号（gtuup_en）（gtvup_en）（gtwup_en）	レベル出力モード（正相）（正論理）
1	0	1	レベル信号（～gtuup_en）（～gtvup_en）（～gtwup_en）	レベル出力モード（正相）（負論理）
1	1	0	PWM信号（PWM & gtuup_en）（PWM & gtvup_en）（PWM & gtwup_en）	PWM出力モード（正相）（正論理）

表 23.20 出力選択制御方法（正相）(2/2)

イネーブル相出力制御	正相出力（P）制御	反転相出力制御	出力ポート名（正相 = Up）（出力選択内部ノード割り当て）	
OPSCR.EN ビット	OPSCR.P ビット	OPSCR.INV ビット	GTOUUP GTOVUP GTOWUP	モード
1	1	1	PWM信号 (～(PWM & gtuup_en)) (～(PWM & gtvup_en)) (～(PWM & gtwup_en))	PWM出力モード （正相） （負論理）

表 23.21 出力選択制御方法（逆相）

イネーブル相出力制御	正相出力（N）制御	反転相出力制御	出力ポート名（逆相 = Lo）（出力選択内部ノード割り当て）	
OPSCR.EN ビット	OPSCR.N ビット	OPSCR.INV ビット	GTOULO GTOVLO GTOWLO	モード
0	x	x	0	出力停止 （外部端子Hi-Z） GPT_OPS⇒0出力
1	0	0	レベル信号 （gtulo_en） （gtvlo_en） （gtwlo_en）	レベル出力モード （逆相） （正論理）
1	0	1	レベル信号 （～gtulo_en） （～gtvlo_en） （～gtwlo_en）	レベル出力モード （逆相） （負論理）
1	1	0	PWM信号 （PWM & gtulo_en） （PWM & gtvlo_en） （PWM & gtwlo_en）	PWM出力モード （逆相） （正論理）
1	1	1	PWM信号 (～(PWM & gtulo_en)) (～(PWM & gtvlo_en)) (～(PWM & gtwlo_en))	PWM出力モード （逆相） （負論理）

23.3.11.5 出力選択制御（グループ出力禁止機能）

OPSCR.GODF ビット = 1 かつ OPSCR.GRP ビットで選択した信号値が High（出力禁止要求）のとき、GPT_OPS 出力端子は非同期に Hi-Z に変化し、PCLKD と同期した出力禁止要求信号により OPSCR.EN ビットは 0 になります。復帰するには、ソフトウェアで出力禁止要求をクリアした後、OPSCR.EN ビットを 1 にしてください。

OPSCR.EN ビットが 0 にクリアされるタイミングは、出力禁止要求が発生してから PCLKD の 3 周期後です。出力禁止制御を確実に実行するには、（POEG の出力禁止要求フラグのクリアによる）出力禁止要求の発生から停止まで、少なくとも PCLKD の 4 周期分待つ必要があります。グループ出力禁止制御の動作例については、図 23.84 を参照してください。

23.3.11.6 イベントリンクコントローラ（ELC）出力

図 23.81 に示す GPT_OPS 制御フロー概念図の（4）の部分では、ホールセンサ入力信号エッジを ELC に出力します。

ホールセンサ入力エッジ信号は、PCLKD でサンプリングされた U 相／V 相／W 相入力のそれぞれの立ち上がり／立ち下がりエッジとの論理和となります。すなわち、U 相／V 相／W 相入力のそれぞれの High レベル持続期間が短いと、その時点でホールセンサエッジ入力信号は出力されません。

OPSCR.FB ビット = 0 の場合、ホールセンサ入力エッジ信号は、PCLKD でサンプリングされた外部入力相

のエッジ信号の論理和となります。

OPSCR.FB ビット = 1 の場合、ホールセンサ入力エッジ信号は、PCLKD でサンプリングされたソフト設定（OPSCR.UF、VF、WF ビット）のエッジ信号の論理和となります。

ELC への出力信号の例については、図 23.82 ～図 23.84 を参照してください。

23.3.11.7　GPT_OPS スタート動作設定フロー

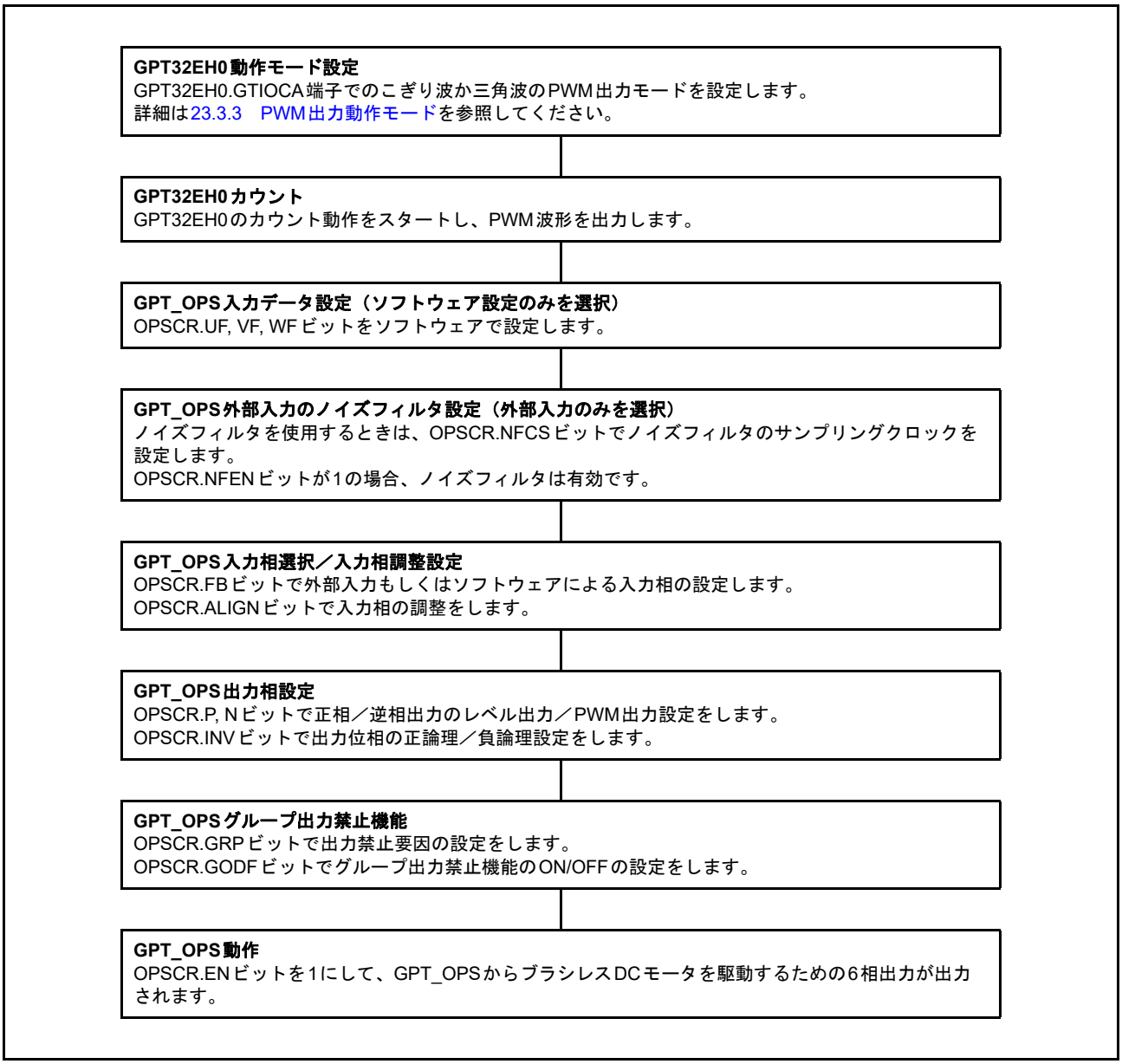


図 23.85　GPT_OPS スタート動作設定例

23.4 割り込み要因

GPT には以下の割り込み要因があります。

- GTCCR インプットキャプチャ／コンペアマッチ
- GTADTR コンペアマッチ
- GTCNT カウンタオーバーフロー（GTPR コンペアマッチ）／アンダーフロー

各割り込み要因には、それぞれ専用のステータスフラグがあります。割り込み要因信号が発生すると、GTST レジスタの対応するステータスフラグが 1 になります。GTST レジスタの対応するステータスフラグは、0 を書き込むことでクリアできます。フラグのセットとクリアが同時に発生した場合、フラグのクリアが優先されます。これらのフラグは、内部状態によって自動更新されます。

表 23.22 に GPT の割り込み要因を示します。

表 23.22 割り込み要因 (1/4)

チャネル	名称	割り込み要因	割り込みフラグ	DMAC/DTCの起動
0	GPT0_CCMPA	GPT32EH0.GTCCRAインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFA	可能
	GPT0_CCMPB	GPT32EH0.GTCCRBインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFB	可能
	GPT0_CMPC	GPT32EH0.GTCCRCコンペアマッチ	TCFC	可能
	GPT0_CMPD	GPT32EH0.GTCCRDコンペアマッチ	TCFD	可能
	GPT0_CMPE	GPT32EH0.GTCCREコンペアマッチ	TCFE	可能
	GPT0_CMPF	GPT32EH0.GTCCRFコンペアマッチ	TCFF	可能
	GPT0_ADTRGA	GPT32EH0.GTADTRAコンペアマッチ	ADTRAUF ADTRADF	可能
	GPT0_ADTRGB	GPT32EH0.GTADTRBコンペアマッチ	ADTRBUF ADTRBDF	可能
	GPT0_OVF	GPT32EH0.GTCNTオーバーフロー（GPT32EH0.GTPRコンペアマッチ）	TCFPO	可能
	GPT0_UDF	GPT32EH0.GTCNTアンダーフロー	TCFPU	可能
1	GPT1_CCMPA	GPT32EH1.GTCCRAインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFA	可能
	GPT1_CCMPB	GPT32EH1.GTCCRBインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFB	可能
	GPT1_CMPC	GPT32EH1.GTCCRCコンペアマッチ	TCFC	可能
	GPT1_CMPD	GPT32EH1.GTCCRDコンペアマッチ	TCFD	可能
	GPT1_CMPE	GPT32EH1.GTCCREコンペアマッチ	TCFE	可能
	GPT1_CMPF	GPT32EH1.GTCCRFコンペアマッチ	TCFF	可能
	GPT1_ADTRGA	GPT32EH1.GTADTRAコンペアマッチ	ADTRAUF ADTRADF	可能
	GPT1_ADTRGB	GPT32EH1.GTADTRBコンペアマッチ	ADTRBUF ADTRBDF	可能
	GPT1_OVF	GPT32EH1.GTCNTオーバーフロー（GPT32EH1.GTPRコンペアマッチ）	TCFPO	可能
	GPT1_UDF	GPT32EH1.GTCNTアンダーフロー	TCFPU	可能

表 23.22 割り込み要因 (2/4)

チャネル	名称	割り込み要因	割り込みフラグ	DMAC/DTCの起動
2	GPT2_CCMPA	GPT32EH2.GTCCRAインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFA	可能
	GPT2_CCMPB	GPT32EH2.GTCCRBインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFB	可能
	GPT2_CMPC	GPT32EH2.GTCCRCコンペアマッチ	TCFC	可能
	GPT2_CMPD	GPT32EH2.GTCCRDコンペアマッチ	TCFD	可能
	GPT2_CMPE	GPT32EH2.GTCCREコンペアマッチ	TCFE	可能
	GPT2_CMPF	GPT32EH2.GTCCRFコンペアマッチ	TCFF	可能
	GPT2_ADTRGA	GPT32EH2.GTADTRAコンペアマッチ	ADTRAUF ADTRADF	可能
	GPT2_ADTRGB	GPT32EH2.GTADTRBコンペアマッチ	ADTRBUF ADTRBDF	可能
	GPT2_OVF	GPT32EH2.GTCNTオーバーフロー（GPT32EH2.GTPRコンペアマッチ）	TCFPO	可能
	GPT2_UDF	GPT32EH2.GTCNTアンダーフロー	TCFPU	可能
3	GPT3_CCMPA	GPT32EH3.GTCCRAインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFA	可能
	GPT3_CCMPB	GPT32EH3.GTCCRBインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFB	可能
	GPT3_CMPC	GPT32EH3.GTCCRCコンペアマッチ	TCFC	可能
	GPT3_CMPD	GPT32EH3.GTCCRDコンペアマッチ	TCFD	可能
	GPT3_CMPE	GPT32EH3.GTCCREコンペアマッチ	TCFE	可能
	GPT3_CMPF	GPT32EH3.GTCCRFコンペアマッチ	TCFF	可能
	GPT3_ADTRGA	GPT32EH3.GTADTRAコンペアマッチ	ADTRAUF ADTRADF	可能
	GPT3_ADTRGB	GPT32EH3.GTADTRBコンペアマッチ	ADTRBUF ADTRBDF	可能
	GPT3_OVF	GPT32EH3.GTCNTオーバーフロー（GPT32EH3.GTPRコンペアマッチ）	TCFPO	可能
	GPT3_UDF	GPT32EH3.GTCNTアンダーフロー	TCFPU	可能
4	GPT4_CCMPA	GPT32E4.GTCCRAインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFA	可能
	GPT4_CCMPB	GPT32E4.GTCCRBインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFB	可能
	GPT4_CMPC	GPT32E4.GTCCRCコンペアマッチ	TCFC	可能
	GPT4_CMPD	GPT32E4.GTCCRDコンペアマッチ	TCFD	可能
	GPT4_CMPE	GPT32E4.GTCCREコンペアマッチ	TCFE	可能
	GPT4_CMPF	GPT32E4.GTCCRFコンペアマッチ	TCFF	可能
	GPT4_ADTRGA	GPT32E4.GTADTRAコンペアマッチ	ADTRAUF ADTRADF	可能
	GPT4_ADTRGB	GPT32E4.GTADTRBコンペアマッチ	ADTRBUF ADTRBDF	可能
	GPT4_OVF	GPT32E4.GTCNTオーバーフロー（GPT32E4.GTPRコンペアマッチ）	TCFPO	可能
	GPT4_UDF	GPT32E4.GTCNTアンダーフロー	TCFPU	可能

表 23.22 割り込み要因 (3/4)

チャネル	名称	割り込み要因	割り込みフラグ	DMAC/DTCの起動
5	GPT5_CCMPA	GPT32E5.GTCCRAインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFA	可能
	GPT5_CCMPB	GPT32E5.GTCCRBインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFB	可能
	GPT5_CMPC	GPT32E5.GTCCRCコンペアマッチ	TCFC	可能
	GPT5_CMPD	GPT32E5.GTCCRDコンペアマッチ	TCFD	可能
	GPT5_CMPE	GPT32E5.GTCCREコンペアマッチ	TCFE	可能
	GPT5_CMPF	GPT32E5.GTCCRFコンペアマッチ	TCFF	可能
	GPT5_ADTRGA	GPT32E5.GTADTRAコンペアマッチ	ADTRAUF ADTRADF	可能
	GPT5_ADTRGB	GPT32E5.GTADTRBコンペアマッチ	ADTRBUF ADTRBDF	可能
	GPT5_OVF	GPT32E5.GTCNTオーバーフロー（GPT32E5.GTPRコンペアマッチ）	TCFPO	可能
	GPT5_UDF	GPT32E5.GTCNTアンダーフロー	TCFPU	可能
6	GPT6_CCMPA	GPT32E6.GTCCRAインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFA	可能
	GPT6_CCMPB	GPT32E6.GTCCRBインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFB	可能
	GPT6_CMPC	GPT32E6.GTCCRCコンペアマッチ	TCFC	可能
	GPT6_CMPD	GPT32E6.GTCCRDコンペアマッチ	TCFD	可能
	GPT6_CMPE	GPT32E6.GTCCREコンペアマッチ	TCFE	可能
	GPT6_CMPF	GPT32E6.GTCCRFコンペアマッチ	TCFF	可能
	GPT6_ADTRGA	GPT32E6.GTADTRAコンペアマッチ	ADTRAUF ADTRADF	可能
	GPT6_ADTRGB	GPT32E6.GTADTRBコンペアマッチ	ADTRBUF ADTRBDF	可能
	GPT6_OVF	GPT32E6.GTCNTオーバーフロー（GPT32E6.GTPRコンペアマッチ）	TCFPO	可能
	GPT6_UDF	GPT32E6.GTCNTアンダーフロー	TCFPU	可能
7	GPT7_CCMPA	GPT32E7.GTCCRAインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFA	可能
	GPT7_CCMPB	GPT32E7.GTCCRBインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFB	可能
	GPT7_CMPC	GPT32E7.GTCCRCコンペアマッチ	TCFC	可能
	GPT7_CMPD	GPT32E7.GTCCRDコンペアマッチ	TCFD	可能
	GPT7_CMPE	GPT32E7.GTCCREコンペアマッチ	TCFE	可能
	GPT7_CMPF	GPT32E7.GTCCRFコンペアマッチ	TCFF	可能
	GPT7_ADTRGA	GPT32E7.GTADTRAコンペアマッチ	ADTRAUF ADTRADF	可能
	GPT7_ADTRGB	GPT32E7.GTADTRBコンペアマッチ	ADTRBUF ADTRBDF	可能
	GPT7_OVF	GPT32E7.GTCNTオーバーフロー（GPT32E7.GTPRコンペアマッチ）	TCFPO	可能
	GPT7_UDF	GPT32E7.GTCNTアンダーフロー	TCFPU	可能
8	GPT8_CCMPA	GPT328.GTCCRAインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFA	可能
	GPT8_CCMPB	GPT328.GTCCRBインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFB	可能
	GPT8_CMPC	GPT328.GTCCRCコンペアマッチ	TCFC	可能
	GPT8_CMPD	GPT328.GTCCRDコンペアマッチ	TCFD	可能
	GPT8_CMPE	GPT328.GTCCREコンペアマッチ	TCFE	可能
	GPT8_CMPF	GPT328.GTCCRFコンペアマッチ	TCFF	可能
	GPT8_OVF	GPT328.GTCNTオーバーフロー（GPT328.GTPRコンペアマッチ）	TCFPO	可能
	GPT8_UDF	GPT328.GTCNTアンダーフロー	TCFPU	可能

表 23.22 割り込み要因 (4/4)

チャネル	名称	割り込み要因	割り込みフラグ	DMAC/DTCの起動
9	GPT9_CCMPA	GPT329.GTCCRAインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFA	可能
	GPT9_CCMPB	GPT329.GTCCRBインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFB	可能
	GPT9_CMPC	GPT329.GTCCRCコンペアマッチ	TCFC	可能
	GPT9_CMPD	GPT329.GTCCRDコンペアマッチ	TCFD	可能
	GPT9_CMPE	GPT329.GTCCREコンペアマッチ	TCFE	可能
	GPT9_CMPF	GPT329.GTCCRFコンペアマッチ	TCFF	可能
	GPT9_OVF	GPT329.GTCNTオーバーフロー（GPT329.GTPRコンペアマッチ）	TCFPO	可能
	GPT9_UDF	GPT329.GTCNTアンダーフロー	TCFPU	可能
10	GPT10_CCMPA	GPT3210.GTCCRAインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFA	可能
	GPT10_CCMPB	GPT3210.GTCCRBインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFB	可能
	GPT10_CMPC	GPT3210.GTCCRCコンペアマッチ	TCFC	可能
	GPT10_CMPD	GPT3210.GTCCRDコンペアマッチ	TCFD	可能
	GPT10_CMPE	GPT3210.GTCCREコンペアマッチ	TCFE	可能
	GPT10_CMPF	GPT3210.GTCCRFコンペアマッチ	TCFF	可能
	GPT10_OVF	GPT3210.GTCNTオーバーフロー（GPT3210.GTPRコンペアマッチ）	TCFPO	可能
	GPT10_UDF	GPT3210.GTCNTアンダーフロー	TCFPU	可能
11	GPT11_CCMPA	GPT3211.GTCCRAインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFA	可能
	GPT11_CCMPB	GPT3211.GTCCRBインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFB	可能
	GPT11_CMPC	GPT3211.GTCCRCコンペアマッチ	TCFC	可能
	GPT11_CMPD	GPT3211.GTCCRDコンペアマッチ	TCFD	可能
	GPT11_CMPE	GPT3211.GTCCREコンペアマッチ	TCFE	可能
	GPT11_CMPF	GPT3211.GTCCRFコンペアマッチ	TCFF	可能
	GPT11_OVF	GPT3211.GTCNTオーバーフロー（GPT3211.GTPRコンペアマッチ）	TCFPO	可能
	GPT11_UDF	GPT3211.GTCNTアンダーフロー	TCFPU	可能
12	GPT12_CCMPA	GPT3212.GTCCRAインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFA	可能
	GPT12_CCMPB	GPT3212.GTCCRBインプットキャプチャ／コンペアマッチ	TCFB	可能
	GPT12_CMPC	GPT3212.GTCCRCコンペアマッチ	TCFC	可能
	GPT12_CMPD	GPT3212.GTCCRDコンペアマッチ	TCFD	可能
	GPT12_CMPE	GPT3212.GTCCREコンペアマッチ	TCFE	可能
	GPT12_CMPF	GPT3212.GTCCRFコンペアマッチ	TCFF	可能
	GPT12_OVF	GPT3212.GTCNTオーバーフロー（GPT3212.GTPRコンペアマッチ）	TCFPO	可能
	GPT12_UDF	GPT3212.GTCNTアンダーフロー	TCFPU	可能

(1) GPTn_ADTRGA 割り込み（n = 0 ～ 7）

GTCNT カウンタ値が GTADTRA レジスタ値と一致した場合、以下の条件で割り込み要求が発生します。

- アップカウント時、GTINTAD レジスタの割り込み許可ビット（ADTRAUEN）が 1 のとき
- ダウンカウント時、GTINTAD レジスタの割り込み許可ビット（ADTRADEN）が 1 のとき

イベントカウント動作時、この割り込み要求は発生しません。

(2) GPTn_ADTRGB 割り込み（n = 0 ～ 7）

GTCNT カウンタ値が GTADTRB レジスタ値と一致した場合、以下の条件で割り込み要求が発生します。

- アップカウント時、GTINTAD レジスタの割り込み許可ビット（ADTRBUEN）が 1 のとき
- ダウンカウント時、GTINTAD レジスタの割り込み許可ビット（ADTRBDEN）が 1 のとき

イベントカウント動作時、この割り込み要求は発生しません。

(3) GPTn_CCMPA 割り込み（n = 0 ～ 12）

割り込み要求は以下の条件で発生します。

- GTCCRA レジスタがコンペアマッチレジスタとして機能している場合、GTCNT カウンタ値が GTCCRA レジスタ値と一致したとき
- GTCCRA レジスタがインプットキャプチャレジスタとして機能している場合、インプットキャプチャ信号によって GTCNT カウンタ値が GTCCRA レジスタに転送されたとき

(4) GPTn_CCMPB 割り込み（n = 0 ～ 12）

割り込み要求は以下の条件で発生します。

- GTCCRB レジスタがコンペアマッチレジスタとして機能している場合、GTCNT カウンタ値が GTCCRB レジスタ値と一致したとき
- GTCCRB レジスタがインプットキャプチャレジスタとして機能している場合、インプットキャプチャ信号によって GTCNT カウンタ値が GTCCRB レジスタに転送されたとき

(5) GPTn_CMPC 割り込み（n = 0 ～ 12）

割り込み要求は以下の条件で発生します。

- GTCCRC レジスタがコンペアマッチレジスタとして機能している場合、GTCNT カウンタ値が GTCCRC レジスタ値と一致したとき

以下の条件ではコンペアマッチが行われないため、割り込み要求は発生しません。

- GTCR.MD[2:0] ビット = 001b（のこぎり波ワンショットパルスモード）
- GTCR.MD[2:0] ビット = 110b（三角波 PWM モード 3）
- GTBER.CCRA[1:0] ビット = 01b、10b、11b（GTCCRC レジスタがバッファ動作）

(6) GPTn_CMPD 割り込み（n = 0 ～ 12）

割り込み要求は以下の条件で発生します。

- GTCCRD レジスタがコンペアマッチレジスタとして機能している場合、GTCNT カウンタ値が GTCCRD レジスタ値と一致したとき

以下の条件ではコンペアマッチが行われないため、割り込み要求は発生しません。

- GTCR.MD[2:0] ビット = 001b（のこぎり波ワンショットパルスモード）
- GTCR.MD[2:0] ビット = 110b（三角波 PWM モード 3）
- GTBER.CCRA[1:0] ビット = 10b、11b（GTCCRD レジスタがバッファ動作）

(7) GPTn_CMPE 割り込み（n = 0 ～ 12）

割り込み要求は以下の条件で発生します。

- GTCCRE レジスタがコンペアマッチレジスタとして機能している場合、GTCNT カウンタ値が GTCCRE レジスタ値と一致したとき

以下の条件ではコンペアマッチが行われないため、割り込み要求は発生しません。

- GTCR.MD[2:0] ビット = 001b（のこぎり波ワンショットパルスモード）
- GTCR.MD[2:0] ビット = 110b（三角波 PWM モード 3）
- GTBER.CCRB[1:0] ビット = 01b、10b、11b（GTCCRE レジスタがバッファ動作）

(8) GPTn_CMPF 割り込み（n = 0 ～ 12）

割り込み要求は以下の条件で発生します。

- GTCCRF レジスタがコンペアマッチレジスタとして機能している場合、GTCNT カウンタ値が GTCCRF レジスタ値と一致したとき

以下の条件ではコンペアマッチが行われないため、割り込み要求は発生しません。

- GTCR.MD[2:0] ビット = 001b（のこぎり波ワンショットパルスモード）
- GTCR.MD[2:0] ビット = 110b（三角波 PWM モード 3）
- GTBER.CCRB[1:0] ビット = 10b、11b（GTCCRF レジスタがバッファ動作）

(9) GPTn_OVF 割り込み（n = 0 ～ 12）

割り込み要求は以下の条件で発生します。

- のこぎり波モードの場合、オーバーフロー時（アップカウント中に GTCNT カウンタ値が GTPR 値から 0 に変化）に割り込み要求が許可されているとき
- 三角波モードの場合、山（GTCNT カウンタ値が GTPR 値から GTPR 値 -1 に変化）で割り込み要求が許可されているとき
- ハードウェア要因によるカウントで、オーバーフロー（アップカウント時に GTCNT カウンタ値が GTPR 値から 0 に変化）が発生したとき

(10) GPTn_UDF 割り込み（n = 0 ～ 12）

割り込み要求は以下の条件で発生します。

- のこぎり波モードの場合、アンダーフロー時（ダウンカウント中に GTCNT カウンタ値が 0 から GTPR 値に変化）に割り込み要求が許可されているとき
- 三角波モードの場合、谷（GTCNT カウンタ値が 0 から 1 に変化）で割り込み要求が許可されているとき
- ハードウェア要因によるカウントで、アンダーフロー（ダウンカウント時に GTCNT カウンタ値が 0 から GTPR 値に変化）が発生したとき

表 23.23　割り込み信号、割り込み許可ビット、割り込みステータスフラグ

割り込み信号	割り込み許可ビット	割り込みステータスフラグ
GPTn_UDF	—（注1）	GTST[7] (TCFPU)
GPTn_OVF		GTST[6] (TCFPO)
GPTn_ADTRGB	GTINTAD[19] (ADTRBDEN) GTINTAD[18] (ADTRBUEN)	GTST[19] (ADTRBDF) GTST[18] (ADTRBUF)
GPTn_ADTRGA	GTINTAD[17] (ADTRADEN) GTINTAD[16] (ADTRAUEN)	GTST[17] (ADTRADF) GTST[16] (ADTRAUF)
GPTn_CMPF	—（注1）	GTST[5] (TCFF)
GPTn_CMPE		GTST[4] (TCFE)
GPTn_CMPD		GTST[3] (TCFD)
GPTn_CMPC		GTST[2] (TCFC)
GPTn_CCMPB		GTST[1] (TCFB)
GPTn_CCMPA		GTST[0] (TCFA)

注 1.　割り込みは常に許可されます。

23.4.1 DMAC/DTC 起動

各チャネルの割り込みによって、DMAC と DTC を起動することが可能です。詳細は、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」と「18. データトランスファコントローラ（DTC）」を参照してください。

23.4.2 割り込み、A/D 変換要求の間引き機能

GTITC レジスタを設定することにより、GTCNT カウンタのオーバーフロー（GTPR レジスタのコンペアマッチ）割り込み（GPTn_OVF）と、アンダーフロー割り込み（GPTn_UDF）を間引くことが可能です。また、他の割り込みや A/D 変換開始要求信号も、GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み間引き機能と連動して間引くことができます。

割り込み要求間引き機能は、GTITC レジスタの設定のみに依存し、GTINTAD レジスタの割り込み許可ビットの設定には依存しません。

三角波モードで谷と山の両方をカウントして間引く場合、間引き回数を奇数に設定すると、間引きカウンタの開始タイミングによっては、谷のみまたは山のみで GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み要求が発生しません。三角波モードで谷と山の両方をカウントし、谷のみまたは山のみで GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込みを発生させるには、間引き回数を偶数に設定してください。

同様に、のこぎり波モードでカウント方向を変えながらオーバーフローとアンダーフローの両方をカウントして間引く場合、オーバーフローまたはアンダーフローのいずれか一方のみでは GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込み要求が発生しません。のこぎり波モードでカウント方向を変えながらオーバーフローとアンダーフローの両方をカウントし、オーバーフローまたはアンダーフローのいずれか一方のみで GPTn_OVF/GPTn_UDF 割り込みを発生させるには、最初に間引き状態を検討する必要があります。

間引き回数を変更する前に、間引き機能をいったん解除（GTITC.IVTC[1:0] ビット = 00b）してください。

間引き機能の動作例を図 23.86 ～図 23.91 に示します。

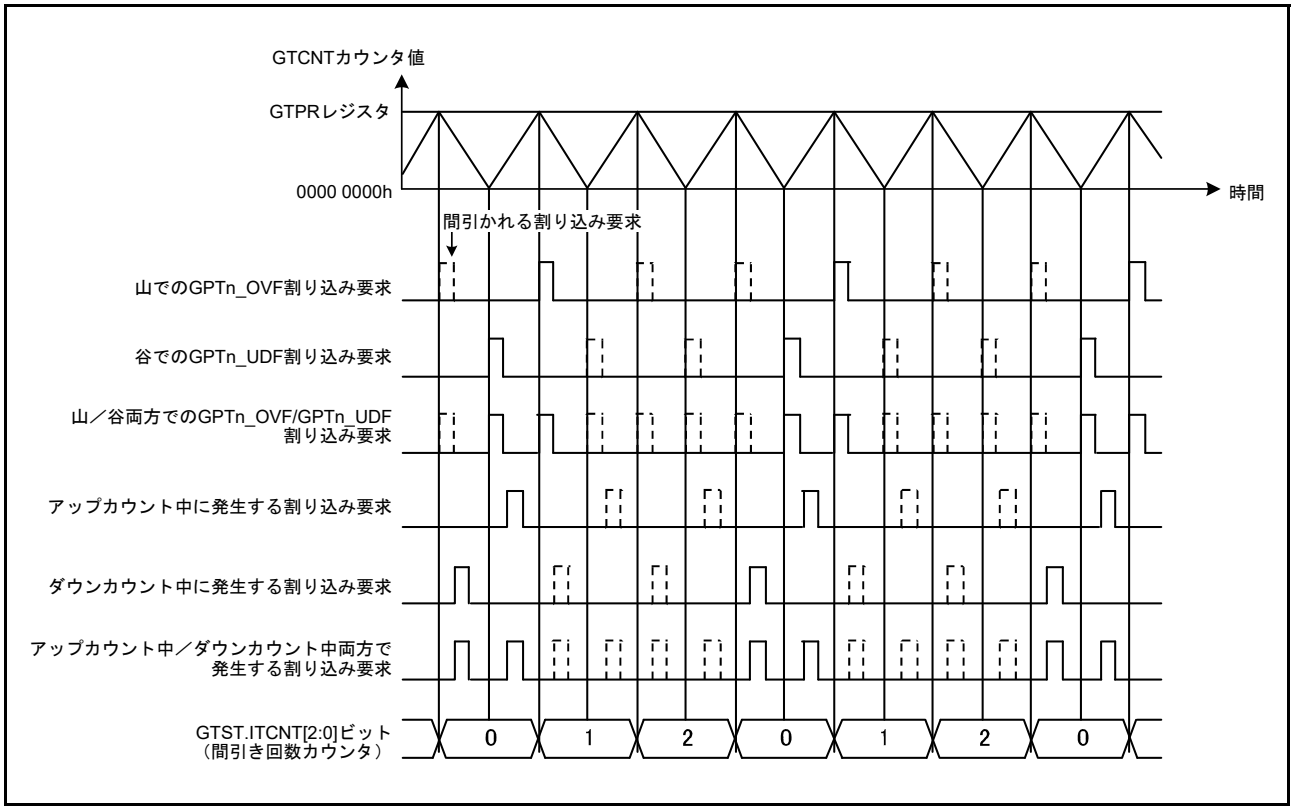


図 23.86 割り込み間引き機能の動作例（三角波、山をカウントして間引き、間引き回数 2 の場合）

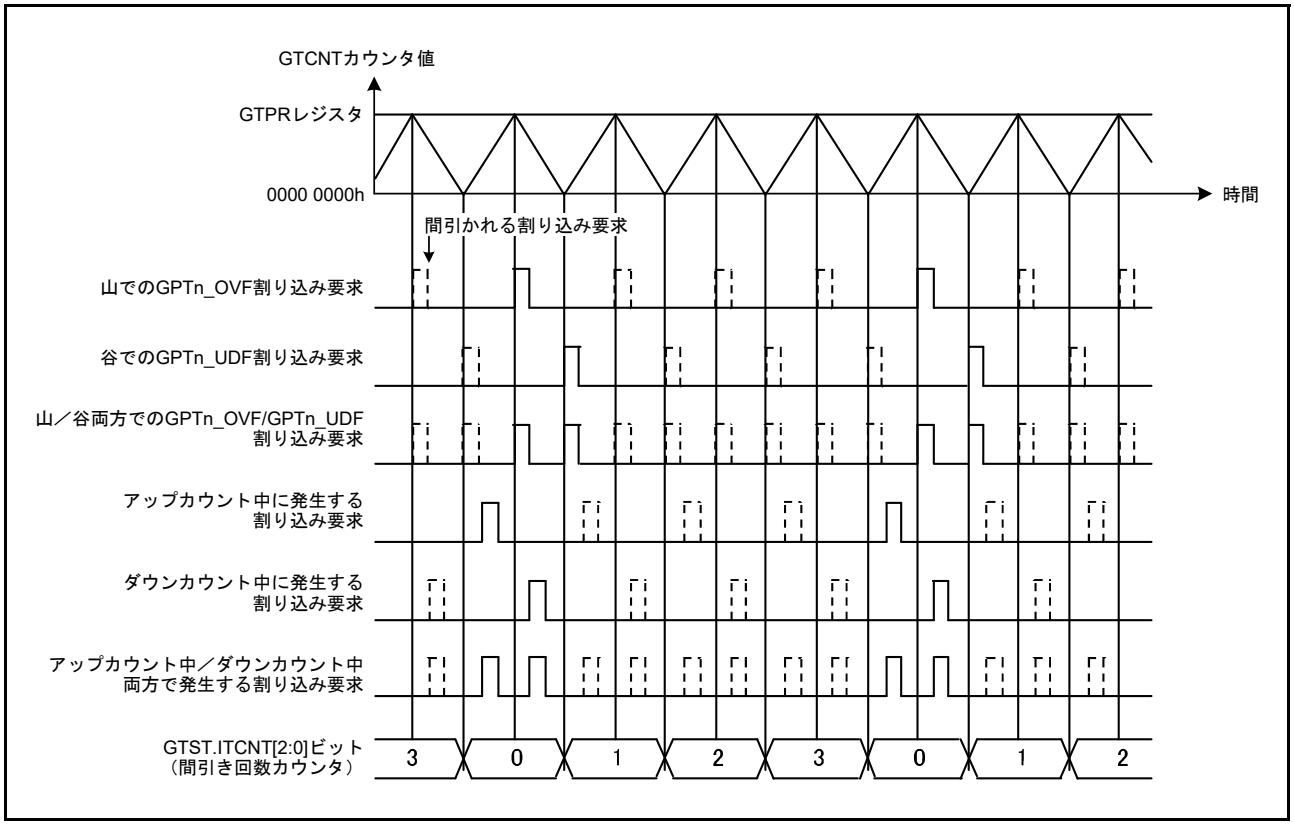


図 23.87　割り込み間引き機能の動作例（三角波、谷をカウントして間引き、間引き回数 3 の場合）

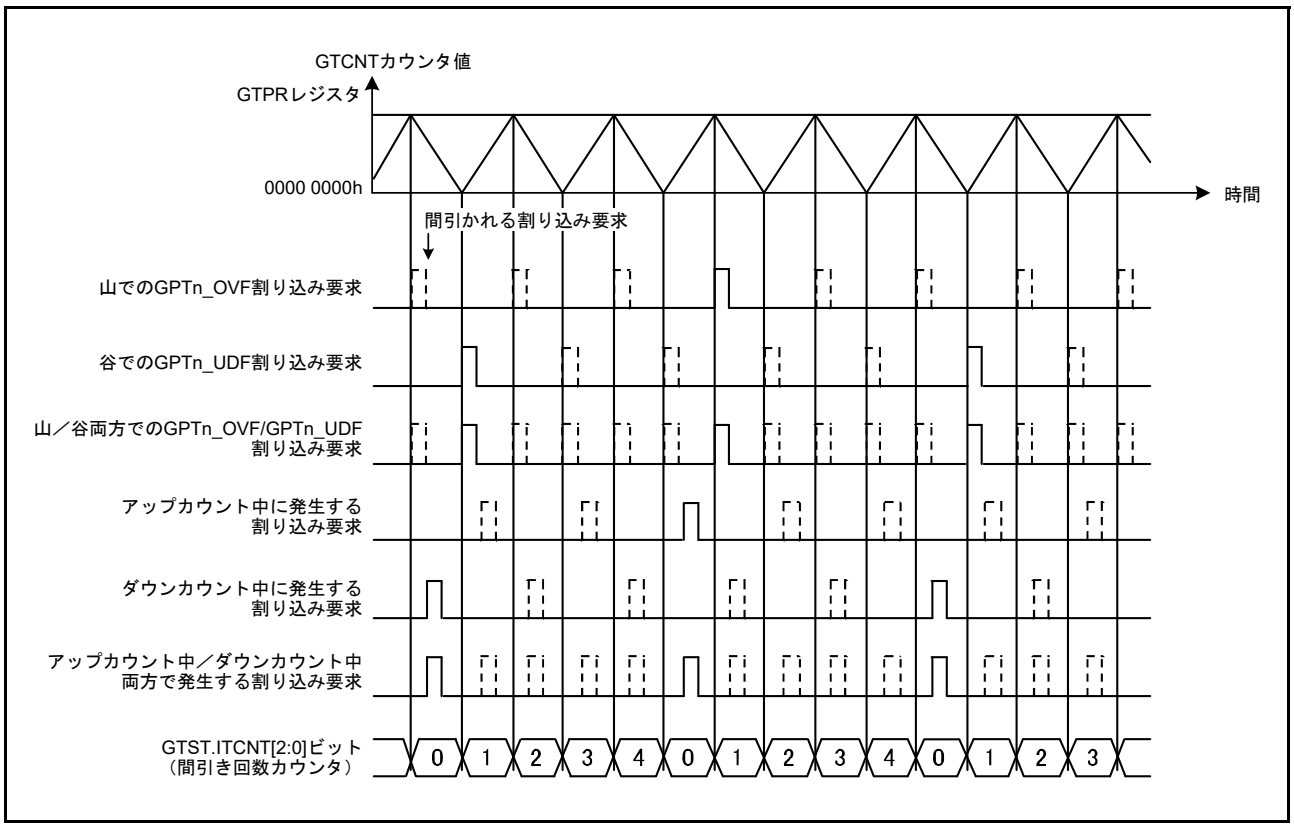


図 23.88　割り込み間引き機能の動作例（三角波、谷と山の両方をカウントして間引き、間引き回数 4 の場合）

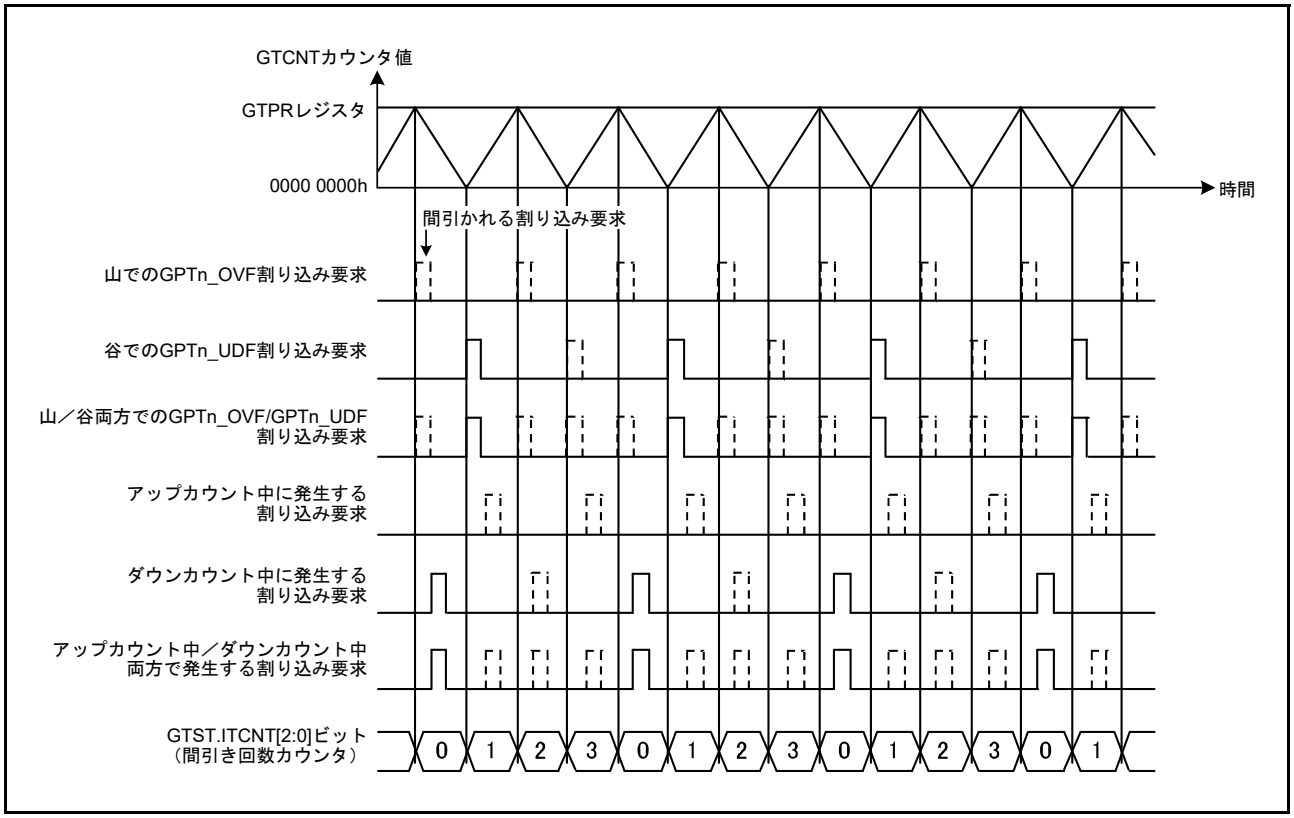


図 23.89　割り込み間引き機能の動作例（三角波、谷と山の両方をカウントして間引き、間引き回数 3、アップカウントで間引き開始の場合）

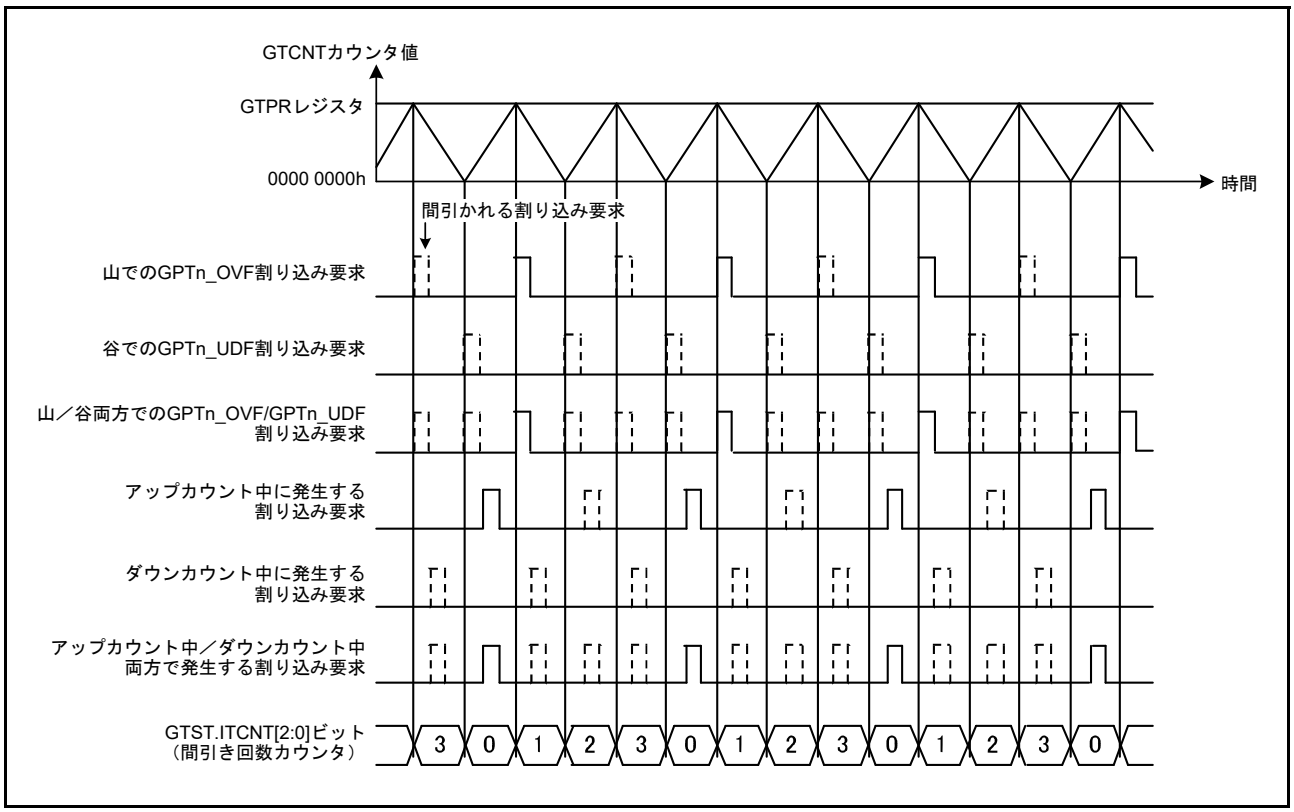


図 23.90　割り込み間引き機能の動作例（三角波、谷と山の両方をカウントして間引き、間引き回数 3、ダウンカウントで間引き開始の場合）

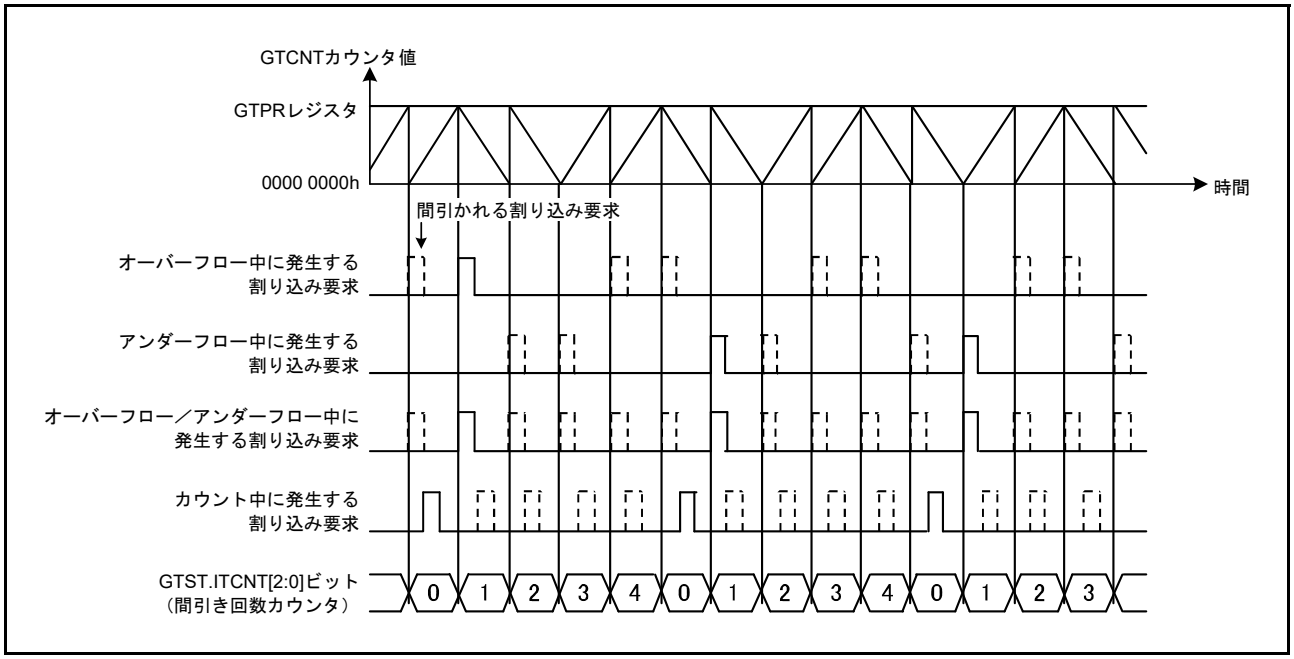


図 23.91 割り込み間引き機能の動作例（のこぎり波でカウント方向を切替えながら動作、オーバーフローとアンダーフローの両方をカウントして間引き、間引き回数 4 の場合）

23.5 A/D 変換開始要求

GTCNT カウンタと GTADTRA または GTADTRB レジスタとのコンペアマッチで、A/D 変換開始要求を発生させることができます。アップカウント時のみ、ダウンカウント時のみ、またはアップカウントとダウンカウント両方の指定ができます。

イベントカウント動作実行時は、A/D 変換開始要求割り込みを発生させることはできません。A/D 変換開始要求は、A/D コンバータモジュールに直接出力されませんが、ELC にイベント信号として出力されます。

GTADTRA および GTADTRB レジスタは、それぞれ 2 つのバッファレジスタを持ちます。GTADTRA レジスタでは、GTADTBRA レジスタと GTADTDBRA レジスタを組み合わせたバッファ動作が、GTADTRB レジスタでは、GTADTBRB レジスタと GTADTDBRB レジスタを組み合わせたバッファ動作が可能です。

図 23.92 に A/D 変換開始要求の動作例を、図 23.93 に A/D 変換開始要求動作設定例を示します。

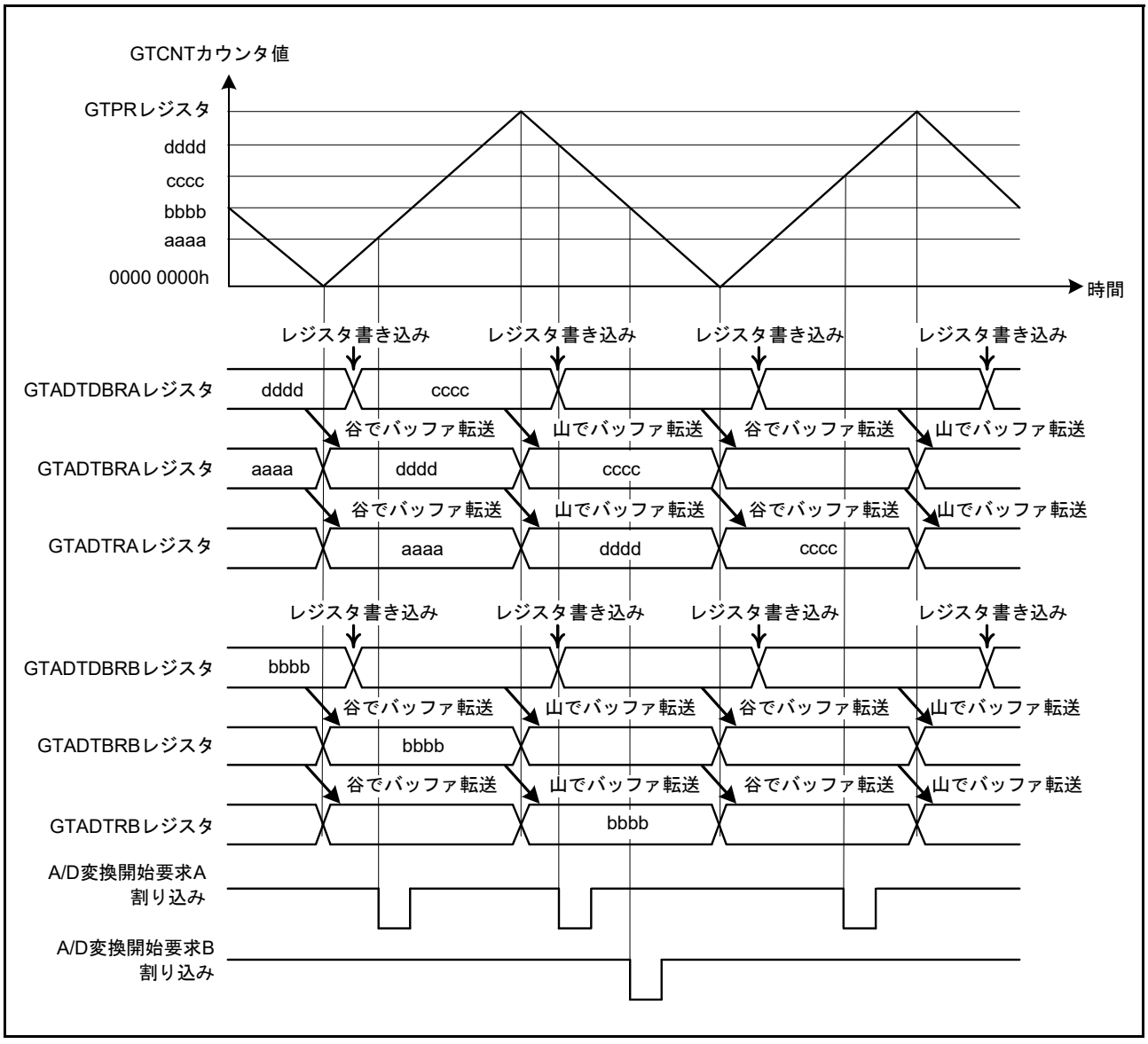


図 23.92 A/D 変換開始要求タイミング動作例（三角波、ダブルバッファ動作、谷と山の両方でバッファ転送、GTADTRA レジスタはアップカウントとダウンカウントの両方で A/D 変換開始要求割り込みを発生、GTADTRB レジスタはダウンカウントで A/D 変換開始要求割り込みを発生の場合）

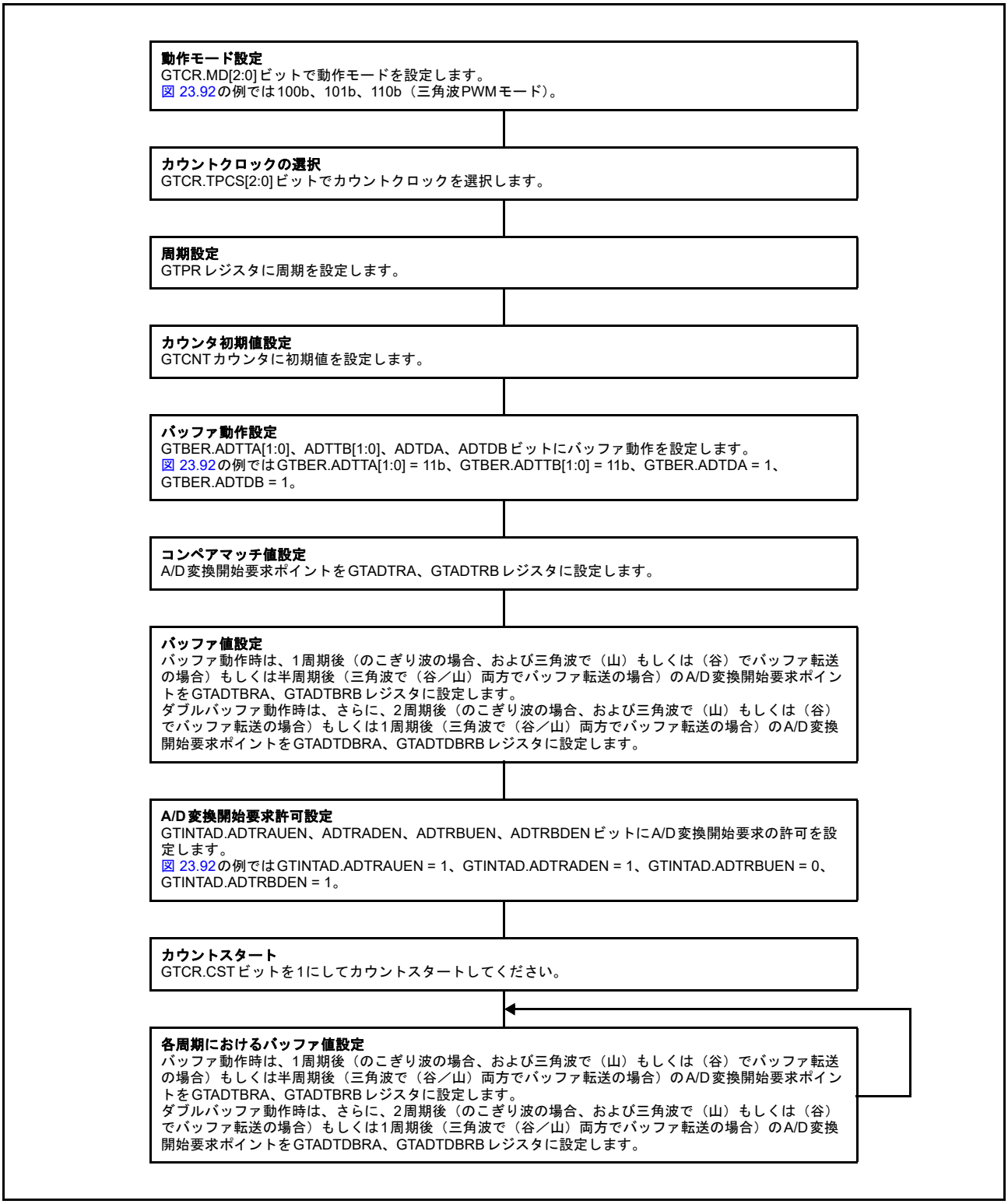


図 23.93 A/D 変換開始要求タイミング動作設定例

23.6 ELC によるリンク動作

23.6.1 ELC へのイベント信号出力

GPT では、その割り込み要求信号をイベントリンクコントローラ（ELC）でイベント信号として使用して、あらかじめ設定しておいたモジュールとのリンク動作が可能です。

A/D 変換開始要求は、割り込み要求許可ビットによって、割り込みと ELC へのイベント出力の両方に対し、アップカウントとダウンカウントでそれぞれ個別に許可または禁止できます。

GPT には以下の ELC イベント信号があります。

- コンペアマッチ A 割り込み発生（GPTn_CCMPA（n = 0 ～ 12））
- コンペアマッチ B 割り込み発生（GPTn_CCMPB（n = 0 ～ 12））
- コンペアマッチ C 割り込み発生（GPTn_CMPC（n = 0 ～ 12））
- コンペアマッチ D 割り込み発生（GPTn_CMPD（n = 0 ～ 12））
- コンペアマッチ E 割り込み発生（GPTn_CMPE（n = 0 ～ 12））
- コンペアマッチ F 割り込み発生（GPTn_CMPF（n = 0 ～ 12））
- オーバーフロー割り込み発生（GPTn_OVF（n = 0 ～ 12））
- アンダーフロー割り込み発生（GPTn_UDF（n = 0 ～ 12））
- A/D 変換開始要求 A 割り込み（GPTn_ADTRGA（n = 0 ～ 7））
- A/D 変換開始要求 B 割り込み（GPTn_ADTRGB（n = 0 ～ 7））

23.6.2 ELC からのイベント信号入力

GPT は、ELC からの最大 8 個のイベントに対して、以下の動作を実行できます。

- カウントスタート／ストップ／クリア
- アップカウント／ダウンカウント
- インプットキャプチャ

ハードウェア要因についての詳細は、23.3 動作説明を参照してください。

23.7 ノイズフィルタ機能

GPTのインプットキャプチャ入力端子とホールセンサ入力端子には、ノイズフィルタが装備されています。ノイズフィルタは、入力信号をサンプリングクロックでサンプリングし、3サンプリング周期に満たない長さのパルスを除去します。

ノイズフィルタ機能では、端子ごとにノイズフィルタ機能を有効／無効にすることや、チャネルごとにサンプリングクロックを設定することが可能です。

図 23.94 にノイズフィルタのタイミングを示します。

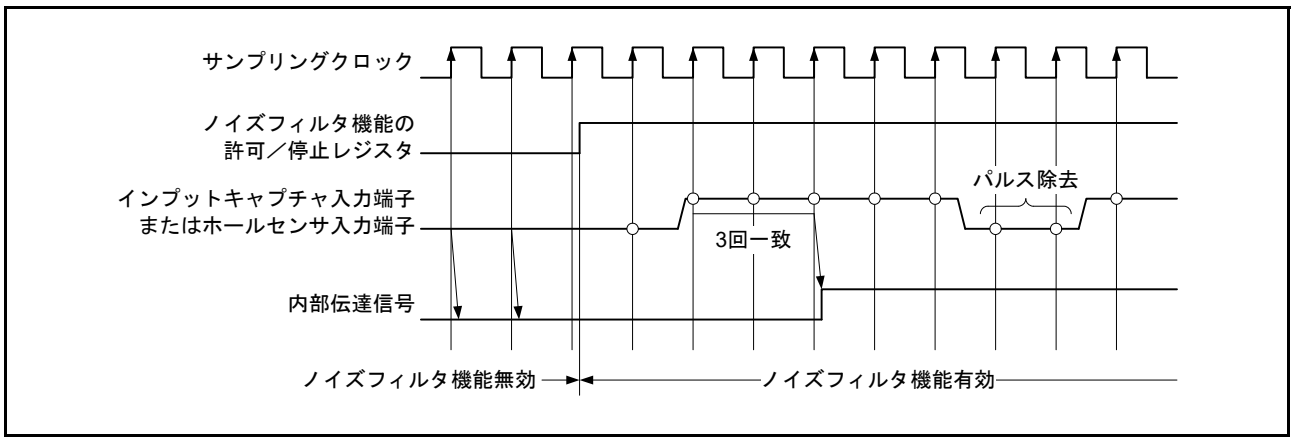


図 23.94 ノイズフィルタのタイミング

ノイズフィルタ機能を有効にすると、「サンプリング周期 × 3 + PCLKD」の遅延の後、ノイズフィルタ対象信号の両エッジでインプットキャプチャ動作またはホールセンサ入力動作が実行されます。この遅延は、インプットキャプチャ入力またはホールセンサ入力動作に対するノイズフィルタリングに起因するものです。

23.8 保護機能

23.8.1 レジスタの書き込み保護

レジスタへの誤書き込みを防止するため、GTWP.WP ビットを設定することで、チャネル単位でレジスタへの書き込みを禁止できます。下記のレジスタに対して、書き込み保護の設定が可能です。

GTSSR, GTPSR, GTCSR, GTUPSR, GTDNSR, GTICASR, GTICBSR, GTCR, GTUDDTYC, GTIOR, GTINTAD,GTST, GTBER, GTITC, GTCNT, GTCCRA, GTCCRB, GTCCRC, GTCCRD, GTCCRE, GTCCRF, GTPR, GTPBR, GTPDBR, GTADTRA, GTADTBRA, GTADTDBRA, GTADTRB, GTADTBRB, GTADTDBRB, GTDTCR, GTDVU, GTDVD, GTDBU, GTDBD, GTSOS, GTSOTR

23.8.2 バッファ動作の禁止

バッファレジスタへの書き込みタイミングが、バッファの転送タイミングに対して遅延した場合、GTBER.BD ビットの設定でバッファ動作の中断が可能です。バッファレジスタの書き込み中にバッファ転送条件が発生した場合でも、バッファ転送を一時的に禁止することが可能です。そのためには、バッファレジスタの書き込み前に対応する GTBER.BD ビットを 1（バッファ動作禁止）にしておき、すべてのバッファレジスタへの書き込み終了後に 0（バッファ動作許可）に戻します。

図 23.95 にバッファ動作を禁止するための動作例を示します。

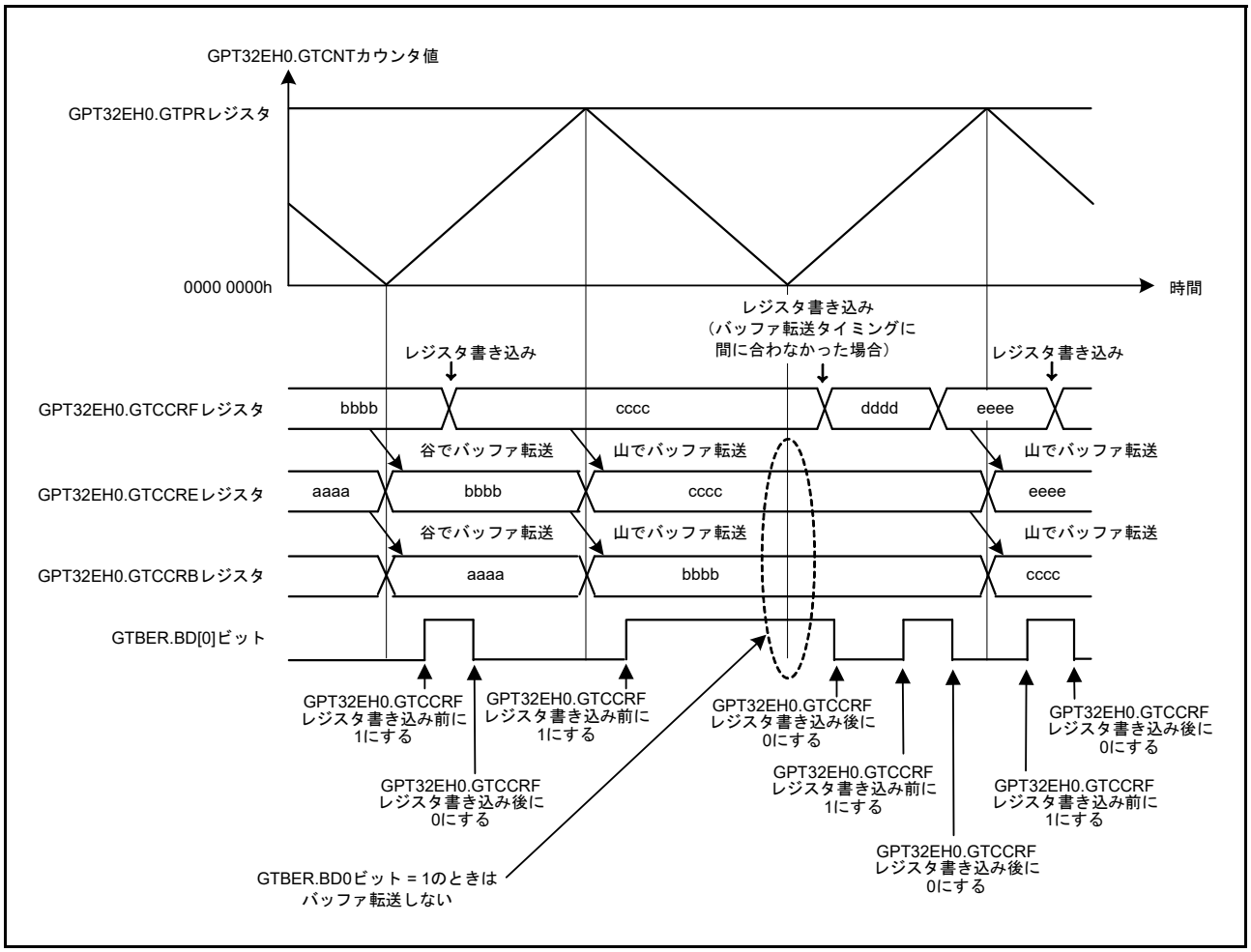


図 23.95 バッファ動作禁止の動作例（三角波、ダブルバッファ動作、谷と山の両方でバッファ転送の場合）

23.8.3 GTIOC 端子出力のネゲート制御

システム障害から保護するために、POEG からの出力禁止要求によって、GTIOC 端子の出力値を強制的に変更する出力禁止制御が備えられています。

デッドタイムエラーが発生した場合や、GTIOCA 端子の出力値が GTIOCB 端子の出力値と同じ場合には、出力保護が必要です。GPT はこのような条件を検出すると、GTINTAD.GRPDTE ビット、GTINTAD.GRPABH ビットおよび GTINTAD.GRPABL ビットなどの出力禁止要求許可ビットの設定に応じて、POEG に対して出力禁止要求を生成します。POEG は、各チャネルから出力禁止要求を受信すると、OR 演算を用いて外部入力を計算し、GPT に対して出力禁止要求を発生させます。

POEG が生成した 4 つの出力禁止要求のうちの 1 つの出力禁止要求信号（GTIOCA 端子と GTIOCB 端子の共通出力禁止要求信号）を、GTINTAD.GRP[1:0] ビットの設定で選択します。選択した禁止出力要求の状態は、GTST.ODF ビットを読むことでモニタできます。出力禁止中の出力レベルは、GTIOCA 端子については GTIOR.OADF[1:0] ビットの設定、GTIOCB 端子については GTIOR.OBDF[1:0] ビットの設定に依存します。

出力禁止状態への変更は、POEG から出力禁止要求を発生させることで非同期に実行されます。出力禁止状態の解除は、出力禁止要求を停止させることで周期の終わりに実行されます。出力禁止状態の解除タイミングは、出力禁止要求の停止から、早くとも PCLKD の 3 周期後です。出力禁止制御を確実に実行するには、（POEG で出力禁止要求フラグをクリアすることにより）出力禁止要求が発生してから停止するまでに、少なくとも PCLKD で 4 周期分待つ必要があります。

イベントカウント実行時、または出力禁止状態を周期の終わりを待たずにただちに解除する必要がある場合は、GTIOR.OADF[1:0] ビットを 00b（GTIOCA 端子の場合）にするか、または GTIOR.OBDF[1:0] ビットを 00b（GTIOCB 端子の場合）にする必要があります。

図 23.96 に GTIOC 端子出力禁止制御動作例を示します。

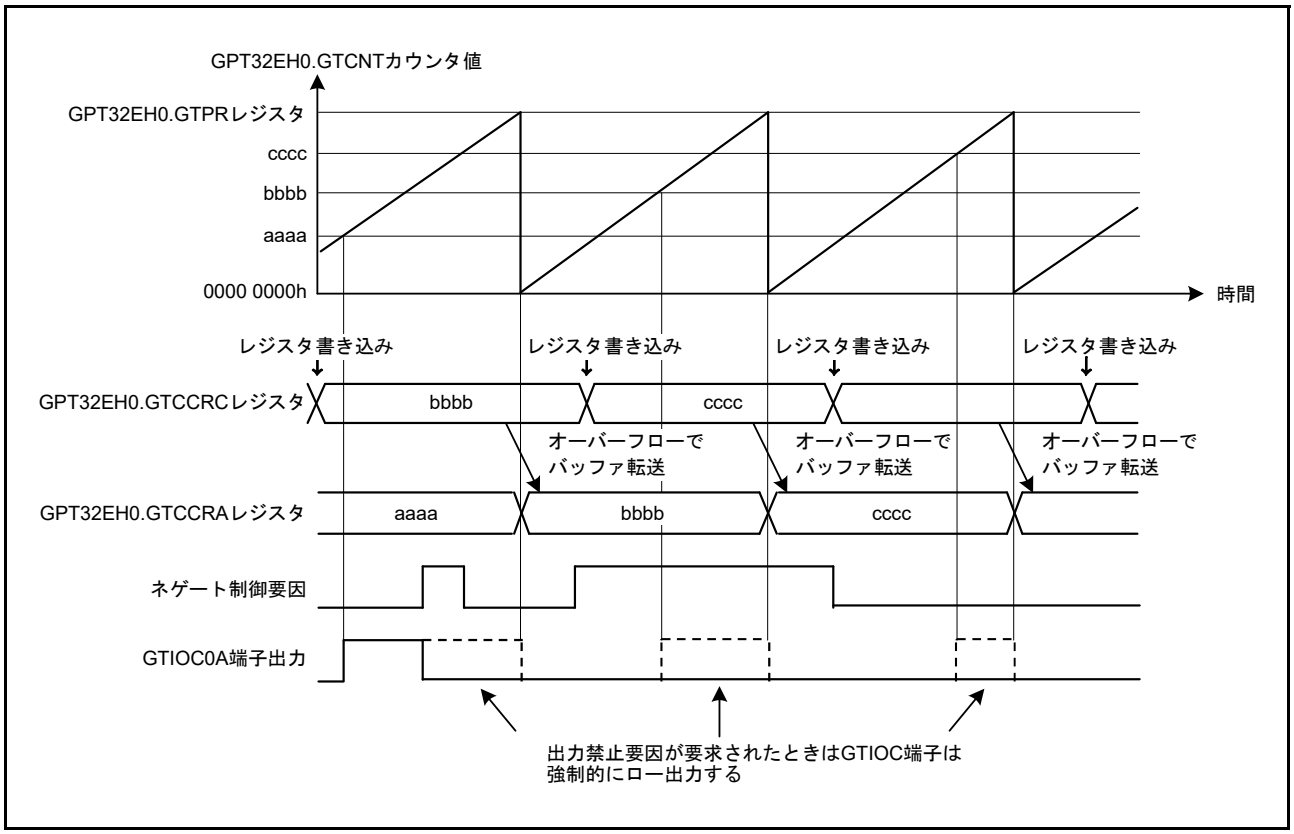


図 23.96　GTIOC 端子出力禁止制御動作例（のこぎり波でアップカウント、バッファ動作、アクティブレベル 1、GTCCRA レジスタのコンペアマッチで High 出力、周期の終わりで Low 出力、出力禁止で Low 出力の場合）

23.8.4 GTIOC 端子出力の出力保護機能

GTCCRA レジスタの誤設定（「0 ＜ GTCCRA レジスタ＜ GTPR レジスタ」の範囲外の設定）に備えて、三角波モードでデッドタイム自動設定（GTDTCR.TDE ビット = 1）が実行されると、GTIOC 端子出力の出力保護機能（禁止機能）が起動されます。出力保護機能の状態は、GTSOS.SOS[1:0] ビットを読むことで確認できます。

図 23.97 に出力保護機能の状態遷移を示します。

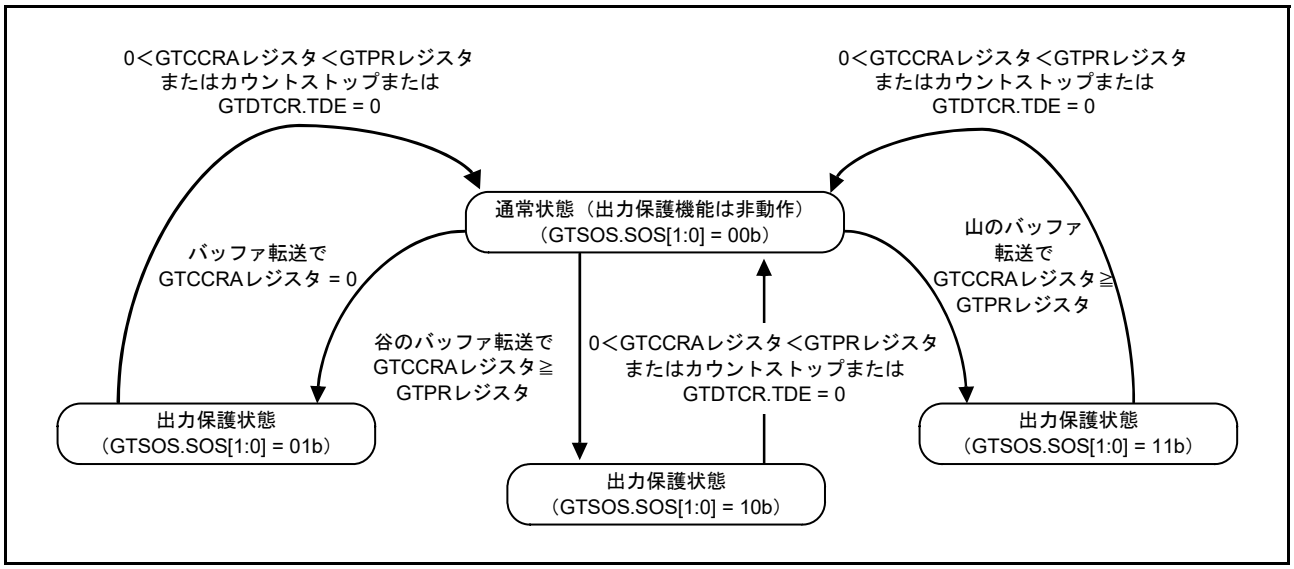
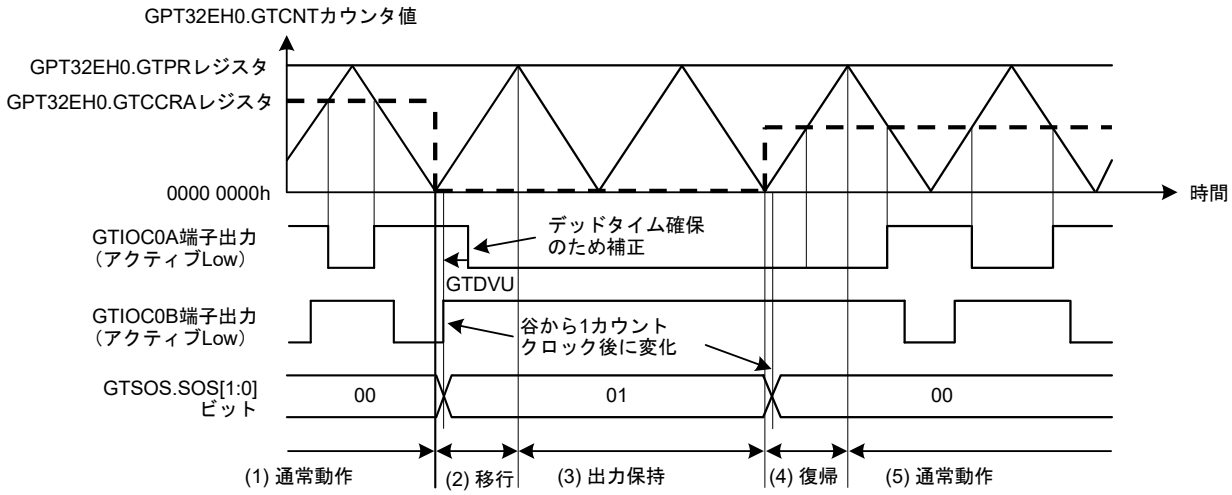


図 23.97 出力保護機能

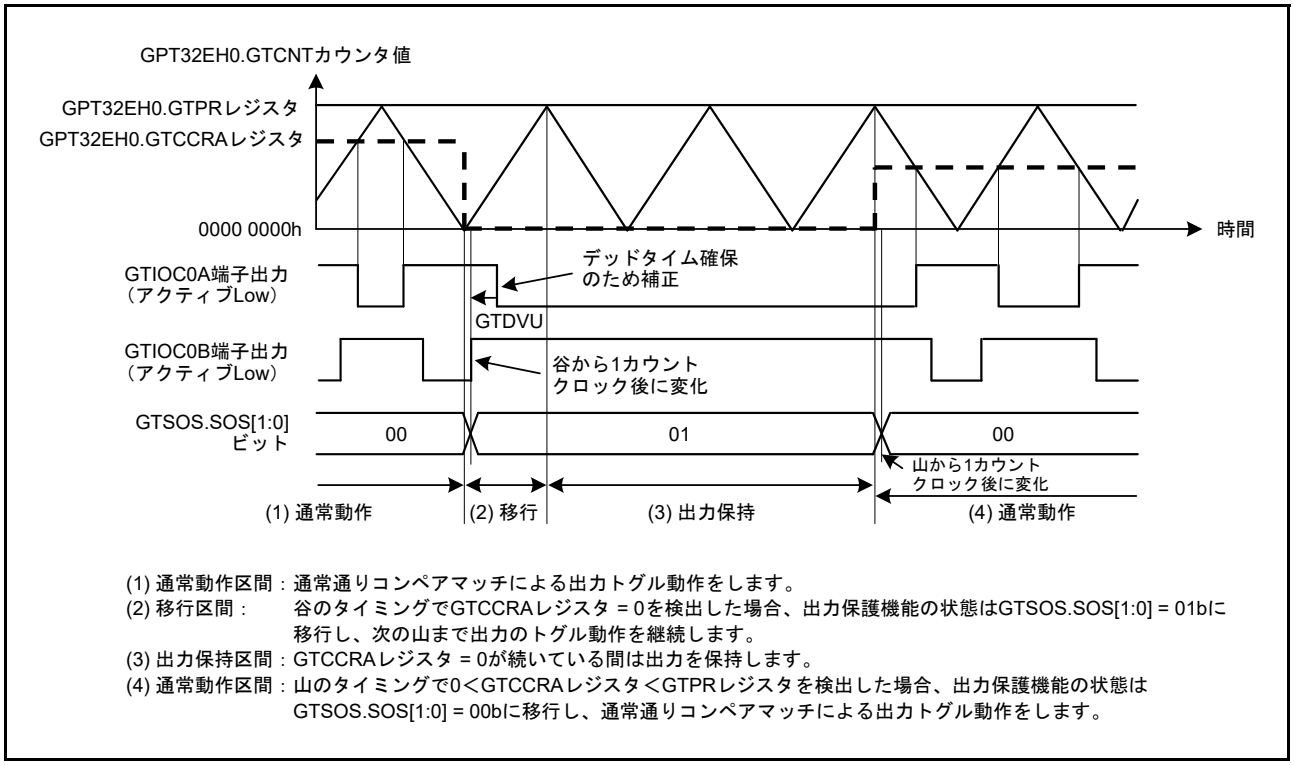
23.8.4.1 バッファ転送中に GTCCRA レジスタが 0 になった場合の出力保護機能

図 23.98 と図 23.99 に、谷でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタが 0 になった場合の出力保護機能の動作例を、図 23.100 と図 23.101 に、山でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタが 0 になった場合の出力保護機能の動作例を示します。



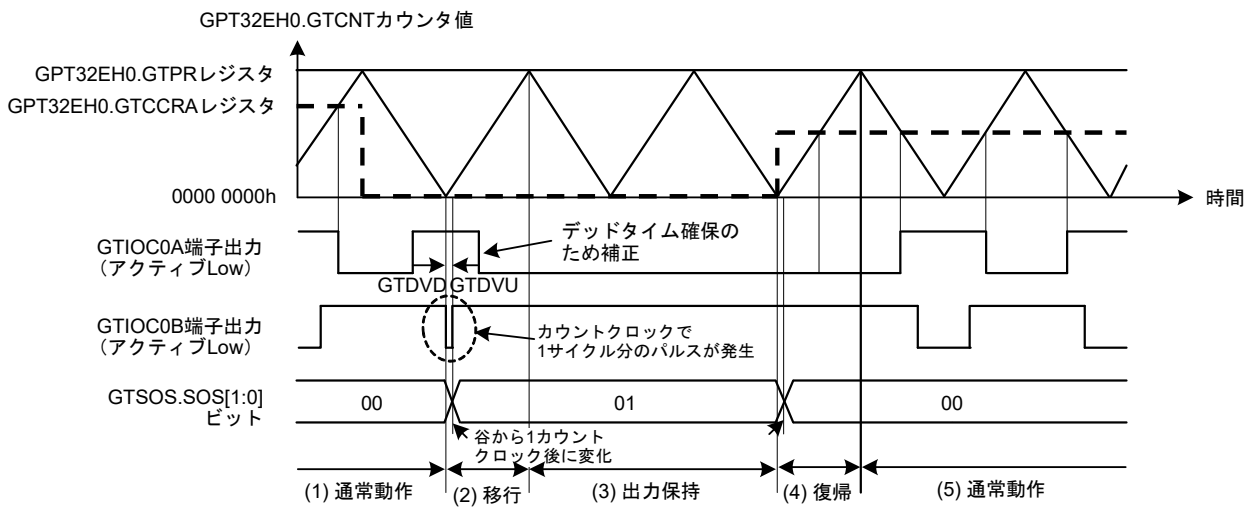
(1) 通常動作区間：通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。
(2) 移行区間： 谷のタイミングでGTCCRAレジスタ = 0を検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 01bに移行し、次の山まで出力のトグル動作を継続します。
(3) 出力保持区間：GTCCRAレジスタ = 0が続いている間は出力を保持します。
(4) 復帰区間： 谷のタイミングで0＜GTCCRAレジスタ＜GTPRレジスタを検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 00bに移行し、次の山まで出力保持を維持します。
(5) 通常動作区間：通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。

図 23.98 谷でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタが 0 になった場合の出力保護機能の動作例（谷でのバッファ転送中に 0 ＜ GTCCRA レジスタ＜ GTPR レジスタを回復、アクティブ Low の場合）



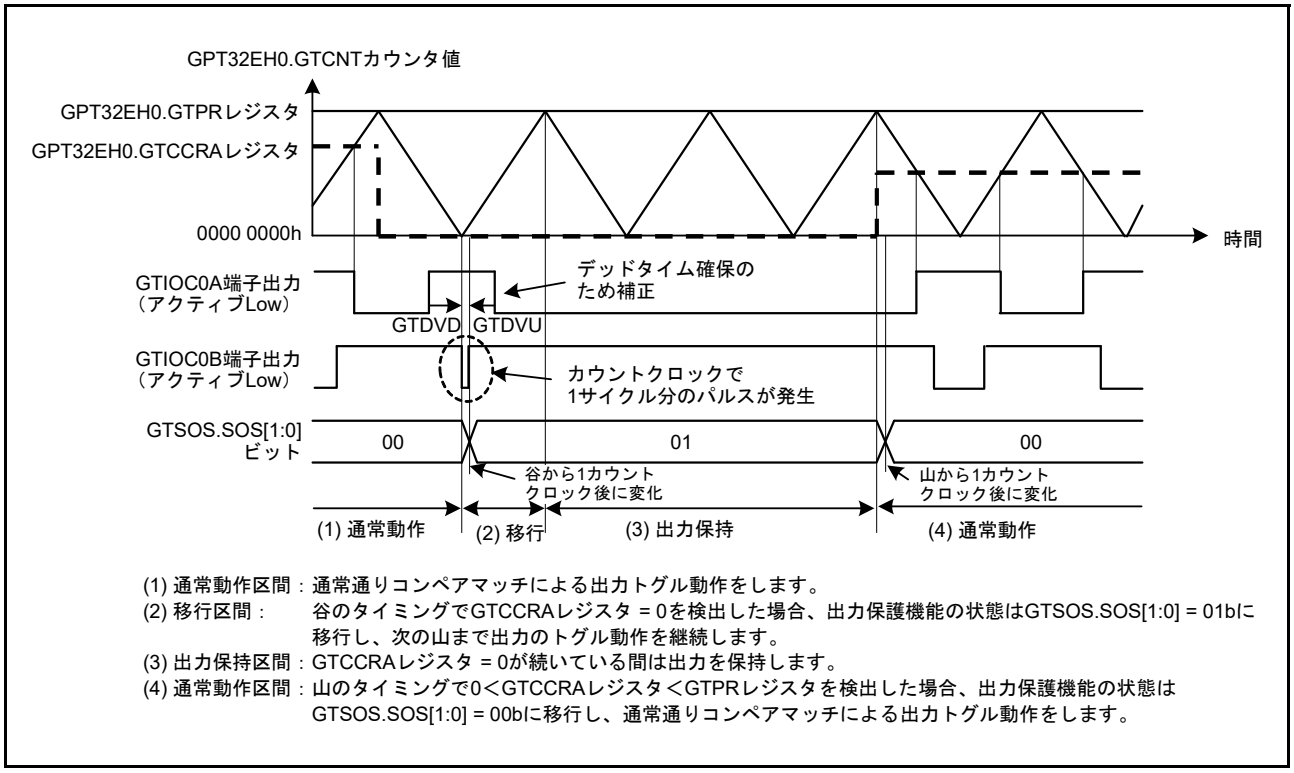
(1) 通常動作区間：通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。
(2) 移行区間： 谷のタイミングでGTCCRAレジスタ = 0を検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 01bに移行し、次の山まで出力のトグル動作を継続します。
(3) 出力保持区間：GTCCRAレジスタ = 0が続いている間は出力を保持します。
(4) 通常動作区間：山のタイミングで0＜GTCCRAレジスタ＜GTPRレジスタを検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 00bに移行し、通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。

図 23.99 谷でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタが 0 になった場合の出力保護機能の動作例（山でのバッファ転送中に 0 ＜ GTCCRA レジスタ＜ GTPR レジスタを回復、アクティブ Low の場合）



(1) 通常動作区間：通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。
(2) 移行区間： 谷のタイミングでGTCCRAレジスタ = 0を検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 01bに移行し、次の山まで出力のトグル動作を継続します。
(3) 出力保持区間：GTCCRAレジスタ = 0が続いている間は出力を保持します。
(4) 復帰区間： 谷のタイミングで0＜GTCCRAレジスタ＜GTPRレジスタを検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 00bに移行し、次の山まで出力保持を維持します。
(5) 通常動作区間：通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。

図 23.100 山でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタが 0 になった場合の出力保護機能の動作例（谷でのバッファ転送中に 0 ＜ GTCCRA レジスタ＜ GTPR レジスタを回復、アクティブ Low の場合）

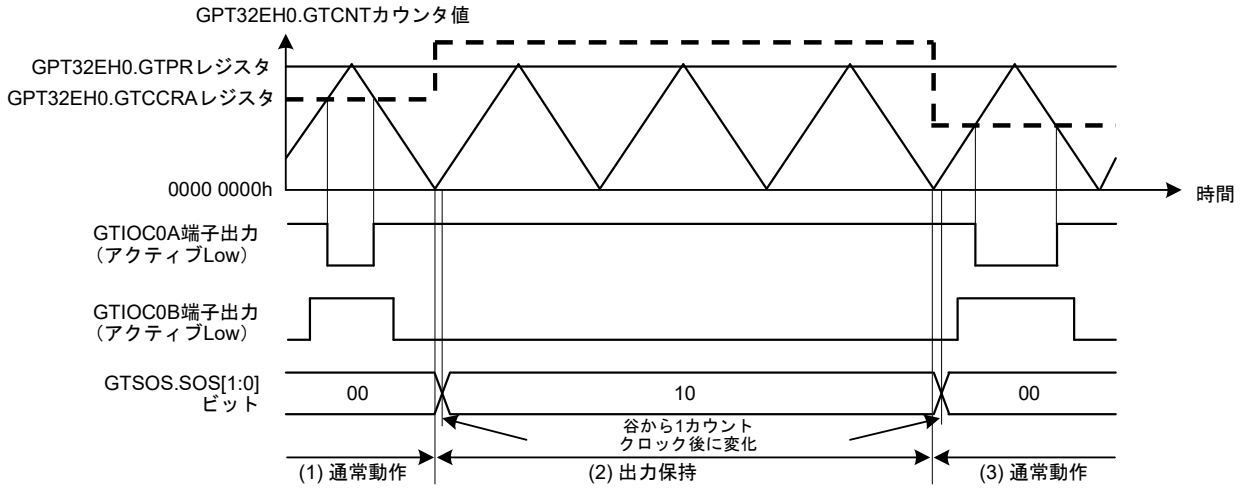


(1) 通常動作区間：通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。
(2) 移行区間： 谷のタイミングでGTCCRAレジスタ = 0を検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 01bに移行し、次の山まで出力のトグル動作を継続します。
(3) 出力保持区間：GTCCRAレジスタ = 0が続いている間は出力を保持します。
(4) 通常動作区間：山のタイミングで0＜GTCCRAレジスタ＜GTPRレジスタを検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 00bに移行し、通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。

図 23.101 山でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタが 0 になった場合の出力保護機能の動作例（山でのバッファ転送中に 0 ＜ GTCCRA レジスタ＜ GTPR レジスタを回復、アクティブ Low の場合）

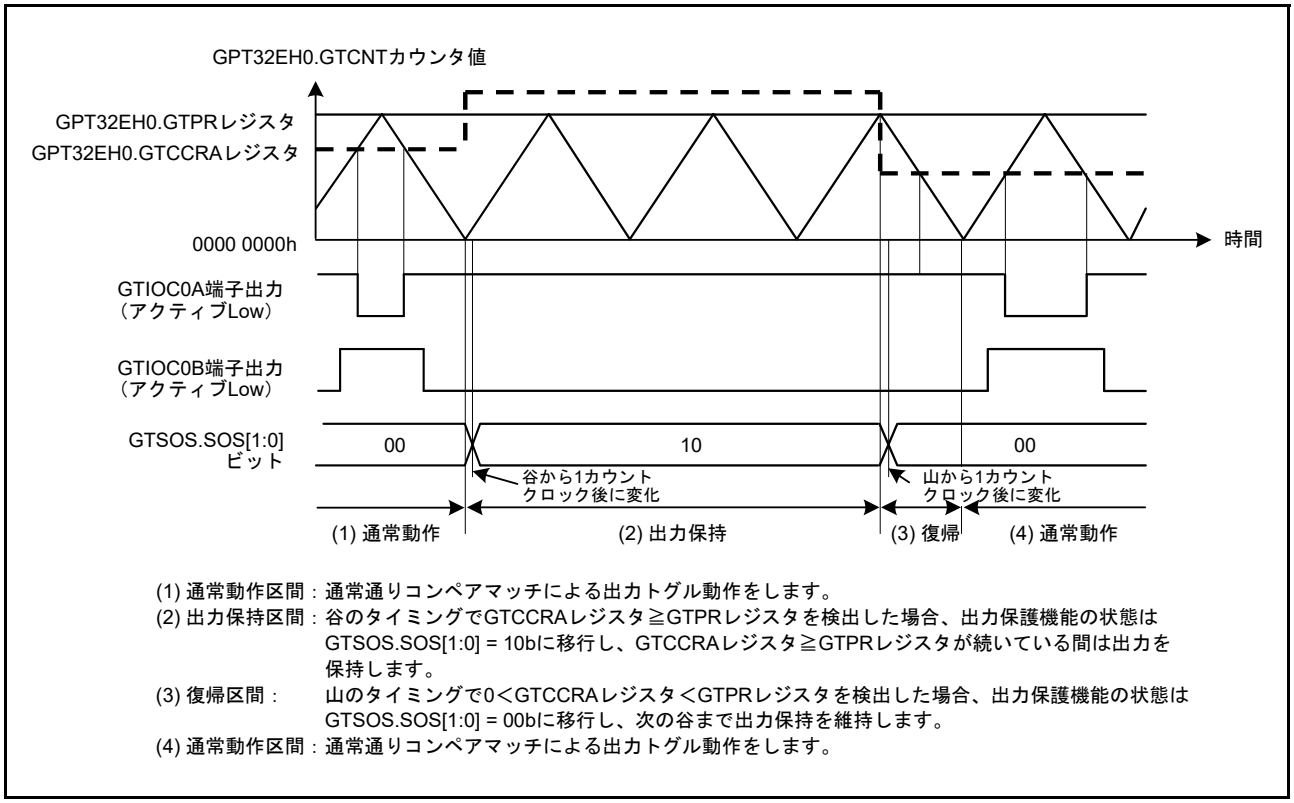
23.8.4.2　谷でのバッファ転送中にGTCCRAレジスタ≧GTPRレジスタとなった場合の出力保護機能

図 23.102 と図 23.103 に、谷でのバッファ転送中にGTCCRAレジスタ≧GTPRレジスタとなった場合の出力保護機能の動作例を示します。



(1) 通常動作区間：通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。
(2) 出力保持区間：谷のタイミングでGTCCRAレジスタ≧GTPRレジスタを検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 10bに移行し、GTCCRAレジスタ≧GTPRレジスタが続いている間は出力を保持します。
(3) 通常動作区間：谷のタイミングで0＜GTCCRAレジスタ＜GTPRレジスタを検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 00bに移行し、通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。

図 23.102　谷でのバッファ転送中にGTCCRAレジスタ≧GTPRレジスタとなった場合の出力保護機能の動作例（谷でのバッファ転送中に0＜GTCCRAレジスタ＜GTPRレジスタを回復、アクティブLowの場合）

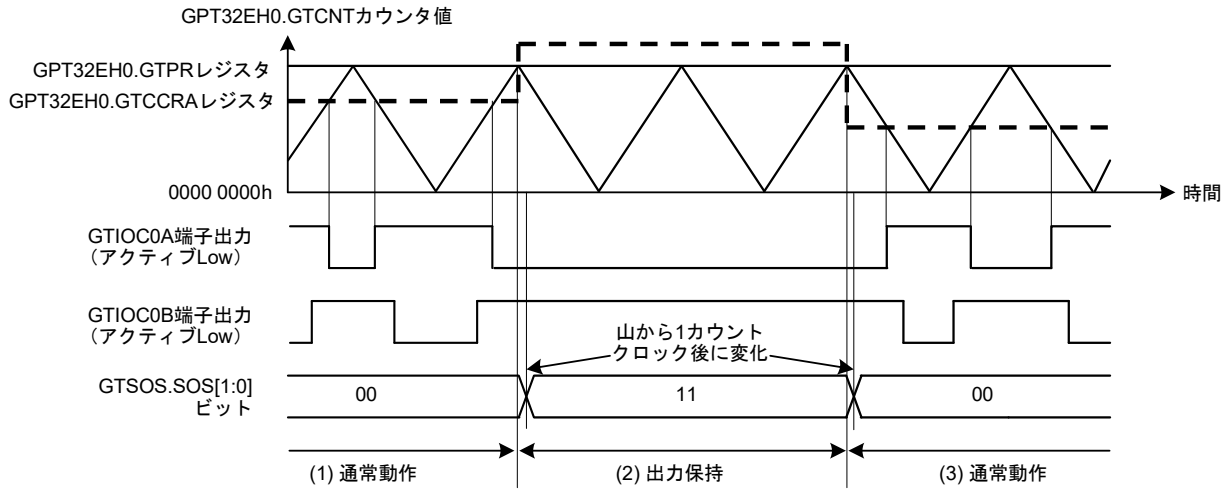


(1) 通常動作区間：通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。
(2) 出力保持区間：谷のタイミングでGTCCRAレジスタ≧GTPRレジスタを検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 10bに移行し、GTCCRAレジスタ≧GTPRレジスタが続いている間は出力を保持します。
(3) 復帰区間：山のタイミングで0＜GTCCRAレジスタ＜GTPRレジスタを検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 00bに移行し、次の谷まで出力保持を維持します。
(4) 通常動作区間：通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。

図 23.103　谷でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタ≧ GTPR レジスタとなった場合の出力保護機能の動作例（山でのバッファ転送中に 0 ＜ GTCCRA レジスタ＜ GTPR レジスタを回復、アクティブ Low の場合）

23.8.4.3 山でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタ≧ GTPR レジスタとなった場合の出力保護機能

図 23.104 と図 23.105 に、山でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタ≧ GTPR レジスタとなった場合の出力保護機能の動作例を示します。



(1) 通常動作区間：通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。
(2) 出力保持区間：山のタイミングでGTCCRAレジスタ≧GTPRレジスタを検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 11bに移行し、GTCCRAレジスタ≧GTPRレジスタが続いている間は出力を保持します。
(3) 通常動作区間：山のタイミングで0＜GTCCRAレジスタ＜GTPRレジスタを検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 00bに移行し、通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。

図 23.104 山でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタ≧ GTPR レジスタとなった場合の出力保護機能の動作例（山でのバッファ転送中に 0 ＜ GTCCRA レジスタ＜ GTPR レジスタを回復、アクティブ Low の場合）

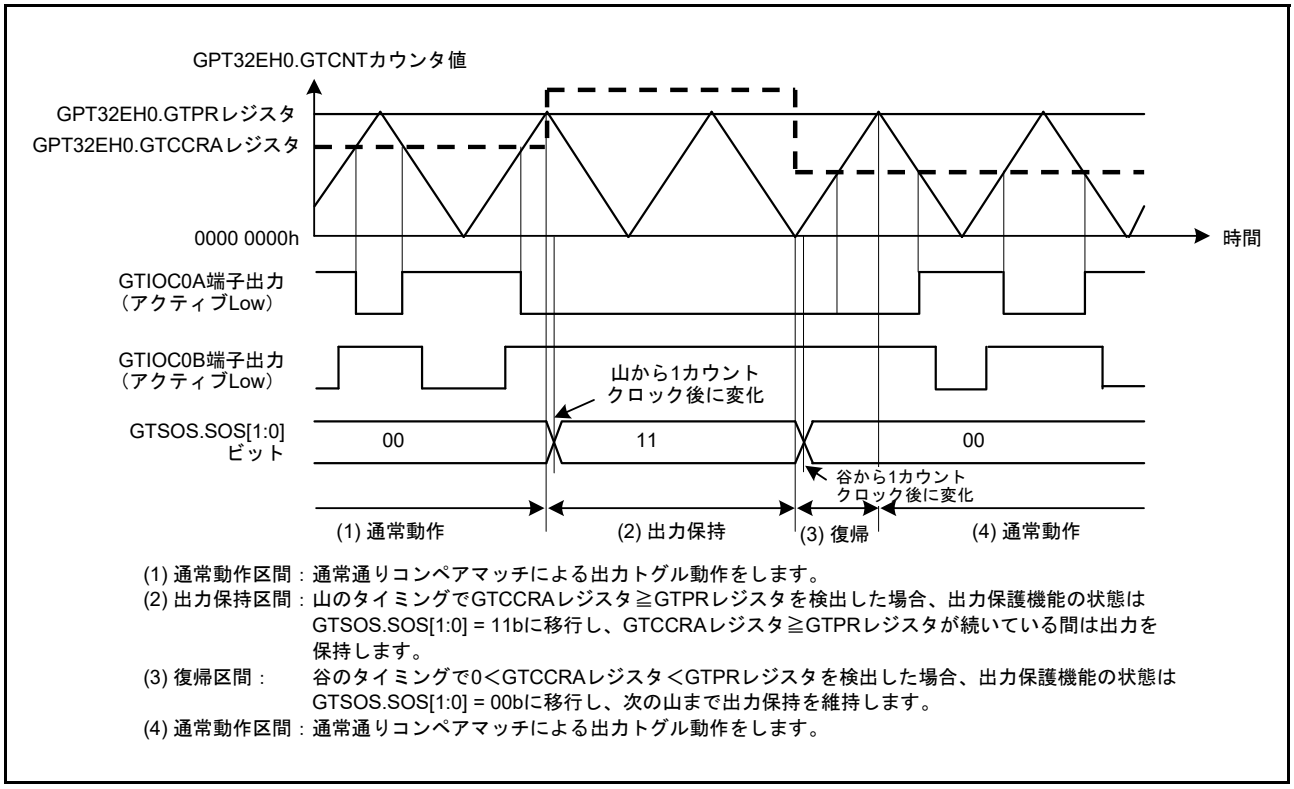


図 23.105　山でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタ≧ GTPR レジスタとなった場合の出力保護機能の動作例（谷でのバッファ転送中に 0 ＜ GTCCRA レジスタ＜ GTPR レジスタを回復、アクティブ Low の場合）

23.8.4.4　出力保護機能の注意事項

カウントスタート時に、GTCCRA レジスタの値は、0 ＜ GTCCRA レジスタ＜ GTPR レジスタの範囲に設定してください。カウント動作中に GTCCRA レジスタに異常値（0 ＜ GTCCRA レジスタ＜ GTPR レジスタの範囲外の値）が設定されると、出力保護機能は、正相出力と逆相出力のうちどちらかが非アクティブ出力となるように機能します。

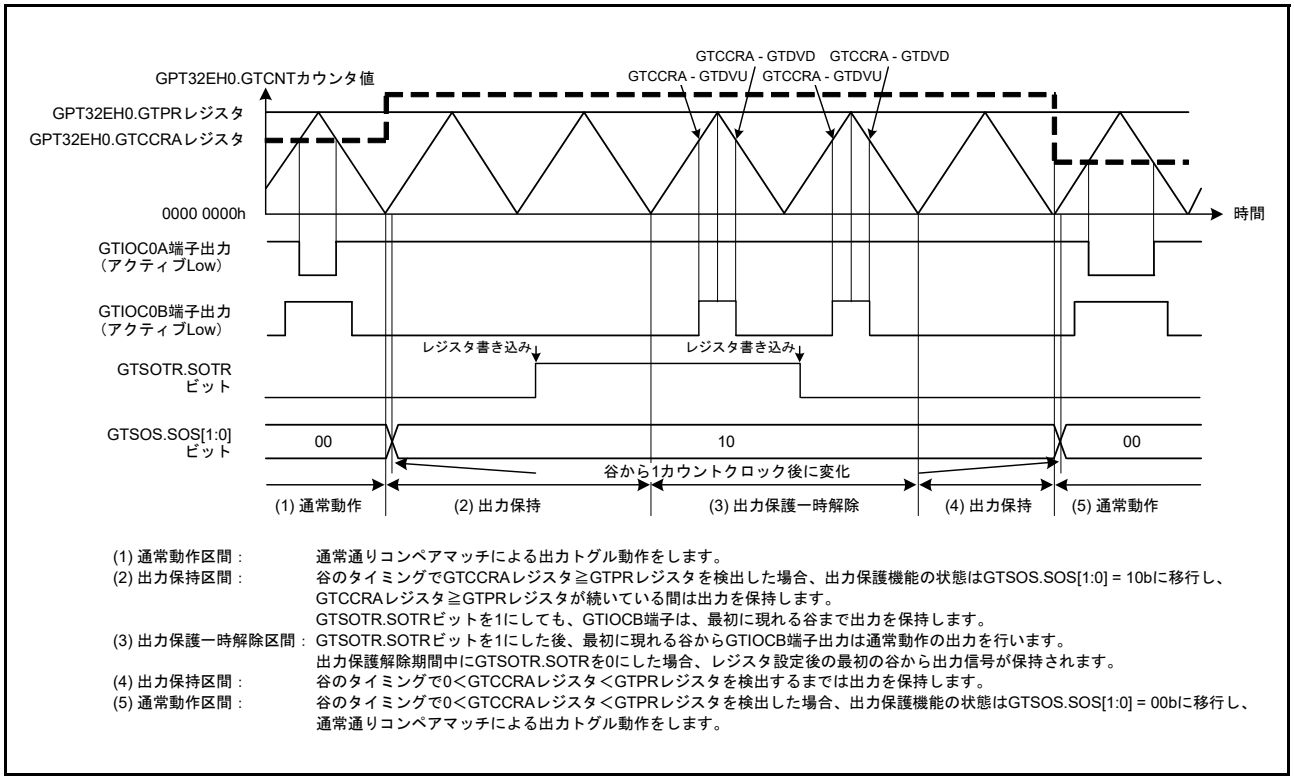
以下の条件が満たされない場合、機能は正しく動作しません。

- カウントスタート時に、0 ＜ GTCCRA ＜ GTPR である

23.8.4.5　出力保護機能の一時解除

GTSOS.SOS[1:0] ビットが 10b の状態（谷でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタ≧ GTPR レジスタとなったことによる出力保護状態）で、GTSOTR.SOTR ビットを 1 にすると、GTIOCB 端子の出力保護機能が一時的に解除されます。出力保護機能を解除しても、GTSOS.SOS[1:0] ビットは 10b の値を保持します。SOTR ビットを 0 にすると、GTIOCB 端子の出力保護機能が再開します。

図 23.106 に、谷でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタ≧ GTPR レジスタとなった場合の出力保護機能の一時解除例を示します。



(1) 通常動作区間： 通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。
(2) 出力保持区間： 谷のタイミングでGTCCRAレジスタ≧GTPRレジスタを検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 10bに移行し、GTCCRAレジスタ≧GTPRレジスタが続いている間は出力を保持します。
GTSOTR.SOTRビットを1にしても、GTIOCB端子は、最初に現れる谷まで出力を保持します。
(3) 出力保護一時解除区間： GTSOTR.SOTRビットを1にした後、最初に現れる谷からGTIOCB端子出力は通常動作の出力を行います。
出力保護解除期間中にGTSOTR.SOTRを0にした場合、レジスタ設定後の最初の谷から出力信号が保持されます。
(4) 出力保持区間： 谷のタイミングで0＜GTCCRAレジスタ＜GTPRレジスタを検出するまでは出力を保持します。
(5) 通常動作区間： 谷のタイミングで0＜GTCCRAレジスタ＜GTPRレジスタを検出した場合、出力保護機能の状態はGTSOS.SOS[1:0] = 00bに移行し、通常通りコンペアマッチによる出力トグル動作をします。

図 23.106 谷でのバッファ転送中に GTCCRA レジスタ≧ GTPR レジスタとなった場合の出力保護機能一時解除例（谷でのバッファ転送中に 0 ＜ GTCCRA レジスタ＜ GTPR レジスタを回復、アクティブ Low の場合）

23.9 出力端子の初期化方法

23.9.1 リセット後の端子設定

GPT のレジスタはリセット時に初期化されます。PmnPFS レジスタでポート端子機能を選択し、GTIOR.OAE および GTIOR.OBE ビットを設定し、GPT 機能を外部端子に出力してから、カウントを開始してください。

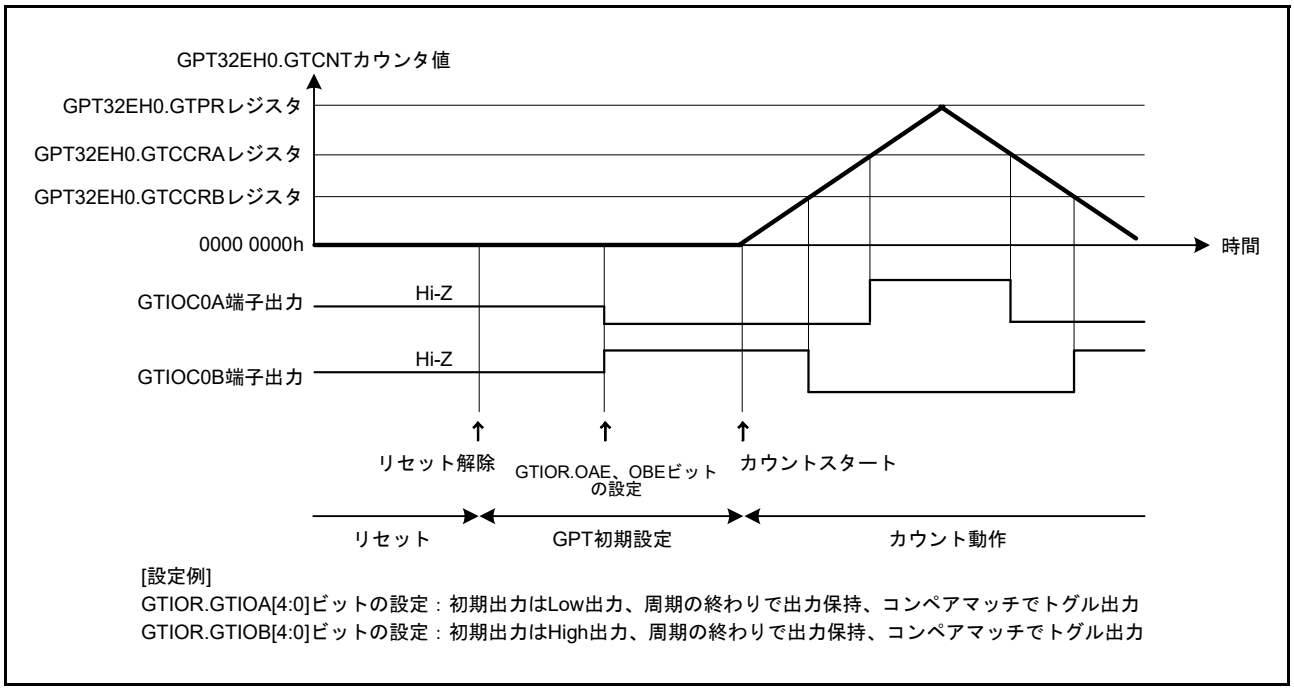


図 23.107 リセット後の端子設定例

23.9.2 動作中の異常による端子の初期化

GPT の動作中に異常が発生した場合、端子を初期化する前に、下記の 4 種類の端子処理を実行できます。

- GTIOR レジスタの OAHLD および OBHLD ビットを 1 にして、カウントストップ時の出力を保持する
- GTIOR レジスタの OAHLD および OBHLD ビットを 0 にするとともに、GTIOR レジスタの OADFLT および OBDFLT ビットに任意の出力値を設定して、カウントストップ時に任意の値を出力させる
- あらかじめ I/O ポートの PDR、PODR、PmnPFS レジスタを設定することにより、端子が汎用出力ポートとして任意の値を出力するように設定する。GTIOR レジスタの OAE および OBE ビットを 0 にするとともに、端子に対応した PmnPFS.PMR レジスタの制御ビットを 0 にして、エラー発生時に、汎用出力ポートとして設定した端子から任意の値が出力されるように設定する
- POEG 機能を使用して、出力をハイインピーダンス状態にする

デッドタイムの自動設定を行った場合、カウントストップ後に GTDTCR.TDE ビットを 0 にしてください。カウントストップ時は、GPT の外部要因によって変更されたレジスタ値のみが変化します。カウントが再開すると、停止していた状態から動作が継続します。カウント動作を停止した場合は、各レジスタを初期化してからカウントを再開してください。

23.10 使用上の注意事項

23.10.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタによって、GPT の動作を禁止／許可することが可能です。リセット後の初期状態では、GPT モジュールの動作は停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は、「11. 低消費電力モード」を参照してください。

23.10.2 コンペアマッチ動作時の GTCCRn レジスタの設定（n = A ～ F）

(1) 三角波 PWM モードでデッドタイムの自動設定を行う場合

GTCCRA レジスタは次のすべての条件を満たす必要があります。

- GTDVU ＜ GTCCRA
- GTDVD ＜ GTCCRA
- GTCCRA ＜ GTPR

カウント動作中に GTCCRA レジスタ = 0 または GTCCRA レジスタ≧ GTPR レジスタとなった場合、出力保護機能が起動します。

ただし、以下の条件が満たされない場合、機能は正しく動作しません。

- カウントスタート時に、0 ＜ GTCCRA ＜ GTPR である

詳細は、23.8.4 GTIOC 端子出力の出力保護機能を参照してください。

(2) 三角波 PWM モードでデッドタイムの自動設定を行わない場合

GTCCRA レジスタは、0 ＜ GTCCRA ＜ GTPR の範囲に収まるように設定する必要があります。GTCCRA = 0 または GTCCRA = GTPR に設定すると、GTCCRA = 0 または GTCCRA = GTPR が成立した場合にのみ、コンペアマッチが周期内で発生します。GTCCRA ＞ GTPR に設定すると、コンペアマッチは発生しません。

同様に GTCCRB レジスタも、0 ＜ GTCCRB ＜ GTPR の範囲に収まるように設定する必要があります。GTCCRB = 0 または GTCCRB = GTPR に設定すると、GTCCRB = 0 または GTCCRB = GTPR が成立した場合にのみ、コンペアマッチが周期内で発生します。GTCCRB ＞ GTPR に設定すると、コンペアマッチは発生しません。

(3) のこぎり波ワンショットパルスモードでデッドタイムの自動設定を行う場合

GTCCRC および GTCCRD レジスタは、以下の制限を満たすように設定する必要があります。この制限を満たさない場合、デッドタイムを確保した正常な出力波形が得られない場合があります。

- アップカウント時：GTCCRC ＜ GTCCRD, GTCCRC ＞ GTDVU, GTCCRD ＜ (GTPR - GTDVD)
- ダウンカウント時：GTCCRC ＞ GTCCRD, GTCCRC ＜ (GTPR - GTDVU), GTCCRD ＞ GTDVD

(4) のこぎり波ワンショットパルスモードでデッドタイムの自動設定を行わない場合

GTCCRC および GTCCRD レジスタは、以下の制限を満たすように設定する必要があります。この制限を満たさない場合、コンペアマッチが 2 回発生せず、パルス出力が得られません。

- アップカウント時：0 ＜ GTCCRC ＜ GTCCRD ＜ GTPR
- ダウンカウント時：GTPR ＞ GTCCRC ＞ GTCCRD ＞ 0

同様に、GTCCRE および GTCCRF レジスタは、以下の制限を満たすように設定する必要があります。この制限を満たさない場合、コンペアマッチが 2 回発生せず、パルス出力が得られません。

- アップカウント時：0 ＜ GTCCRE ＜ GTCCRF ＜ GTPR
- ダウンカウント時：GTPR ＞ GTCCRE ＞ GTCCRF ＞ 0

(5) のこぎり波 PWM モードの場合

GTCCRA レジスタは、0 < GTCCRA < GTPR の範囲に収まるように設定してください。GTCCRA = 0 または GTCCRA = GTPR に設定すると、GTCCRA = 0 または GTCCRA = GTPR が成立した場合にのみ、コンペアマッチが周期内で発生します。GTCCRA > GTPR に設定すると、コンペアマッチは発生しません。

同様に、GTCCRB レジスタは、0 < GTCCRB < GTPR の範囲に収まるように設定してください。GTCCRB = 0 または GTCCRB = GTPR に設定すると、GTCCRB = 0 または GTCCRB = GTPR が成立した場合にのみ、コンペアマッチが周期内で発生します。GTCCRB > GTPR に設定すると、コンペアマッチは発生しません。

23.10.3 GTCNT カウンタの範囲設定

GTCNT カウンタレジスタは、0 ≦ GTCNT ≦ GTPR の範囲に収まるように設定してください。

23.10.4 GTCNT カウンタのスタート／ストップ

GTCR.CST ビットによる GTCNT カウンタのスタート／ストップ制御タイミングは、GTCR.TPCS[2:0] ビットで選択したカウントクロックと同期しています。GTCR.CST ビットを更新すると、GTCR.TPCS[2:0] ビットで選択したカウントクロックに従って、GTCNT カウンタがスタート／ストップします。このため、GTCNT カウンタが実際にスタートする前に発生したイベントは無視されます。これに対して、GTCR.CST ビットが 0 になってからイベントが受け付けられたり、割り込みが発生する可能性があります。

23.10.5 イベントごとの優先順位

(1) GTCNT レジスタ

表 23.24 に、GTCNT レジスタを更新するイベントの優先順位を示します。

表 23.24 GTCNTを更新する要因の優先順位

GTCNTを更新する要因	優先順位
CPUによる書き込み（GTCNT/GTCLRレジスタへの書き込み）	高 ▲
GTCSRレジスタで設定したハードウェア要因によるクリア	
GTUPSR/GTDNSRレジスタで設定したハードウェア要因によるカウントアップ／ダウン	
カウント動作	低

ハードウェア要因によるアップカウントとダウンカウントが同時に発生した場合、GTCNT カウンタ値は変化しません。GTCNT レジスタの更新と CPU による読み出しの間で競合があると、更新前のデータが読み出されます。

(2) GTCR.CST ビット

GTSSR/GTPSR レジスタで設定したハードウェア要因によるスタート／ストップと CPU による書き込み（GTCR/GTSTR/GTSTP レジスタへの書き込み）の間で競合があると、CPU による書き込みが優先されます。

GTSSR レジスタで設定したハードウェア要因によるスタートと GTPSR レジスタに設定したハードウェア要因によるストップの間で競合があると、GTCR.CST ビット値は変化しません。GTCR.CST ビットの更新と CPU による読み出しの間で競合があると、更新前のデータが読み出されます。

(3) GTCCRn レジスタ（n = A ～ F）

インプットキャプチャ／バッファ転送動作と GTCCRn レジスタへの書き込みの間で競合があると、GTCCRn レジスタへの書き込みが優先されます。インプットキャプチャと CPU によるカウンタレジスタへの書き込みまたはハードウェア要因によるカウンタレジスタの更新の間で競合があると、更新前のカウンタ値がキャプチャされます。GTCCRn レジスタの更新と CPU による読み出しの間で競合があると、更新前のデータが読み出されます。

(4) GTPR レジスタ

バッファ転送動作と GTPR レジスタへの書き込みの間で競合があると、GTPR レジスタへの書き込みが優先されます。GTPR レジスタの更新と CPU による読み出しの間で競合があると、更新前のデータが読み出されます。

(5) GTADTRn レジスタ（n = A, B）

バッファ転送動作と GTADTRn レジスタへの書き込みの間で競合があると、GTADTRn レジスタへの書き込みが優先されます。GTADTRn レジスタの更新と CPU による読み出しの間で競合があると、更新前のデータが読み出されます。

(6) GTDVn レジスタ（n = U, D）

バッファ転送動作と GTDVn レジスタへの書き込みの間で競合があると、GTDVn レジスタへの書き込みが優先されます。GTDVn レジスタの更新と CPU による読み出しの間で競合があると、更新前のデータが読み出されます。

24. PWM 遅延生成回路

24.1 概要

本 MCU は、汎用 PWM タイマ（General PWM Timer：GPT）に接続可能な 4 チャネルの遅延回路を備えています。表 24.1 に PWM 遅延生成回路の仕様を、図 24.1 にブロック図を、表 24.2 に入出力端子を示します。

表 24.1 PWM遅延生成回路の仕様

項目	内容
機能	この回路は、チャネル0、1、2、3それぞれ2つのPWM出力端子の信号の立ち上がりまたは立ち下がりタイミングを、GPTクロック（PCLKD）周期の最大1/32倍の精度で制御できます。

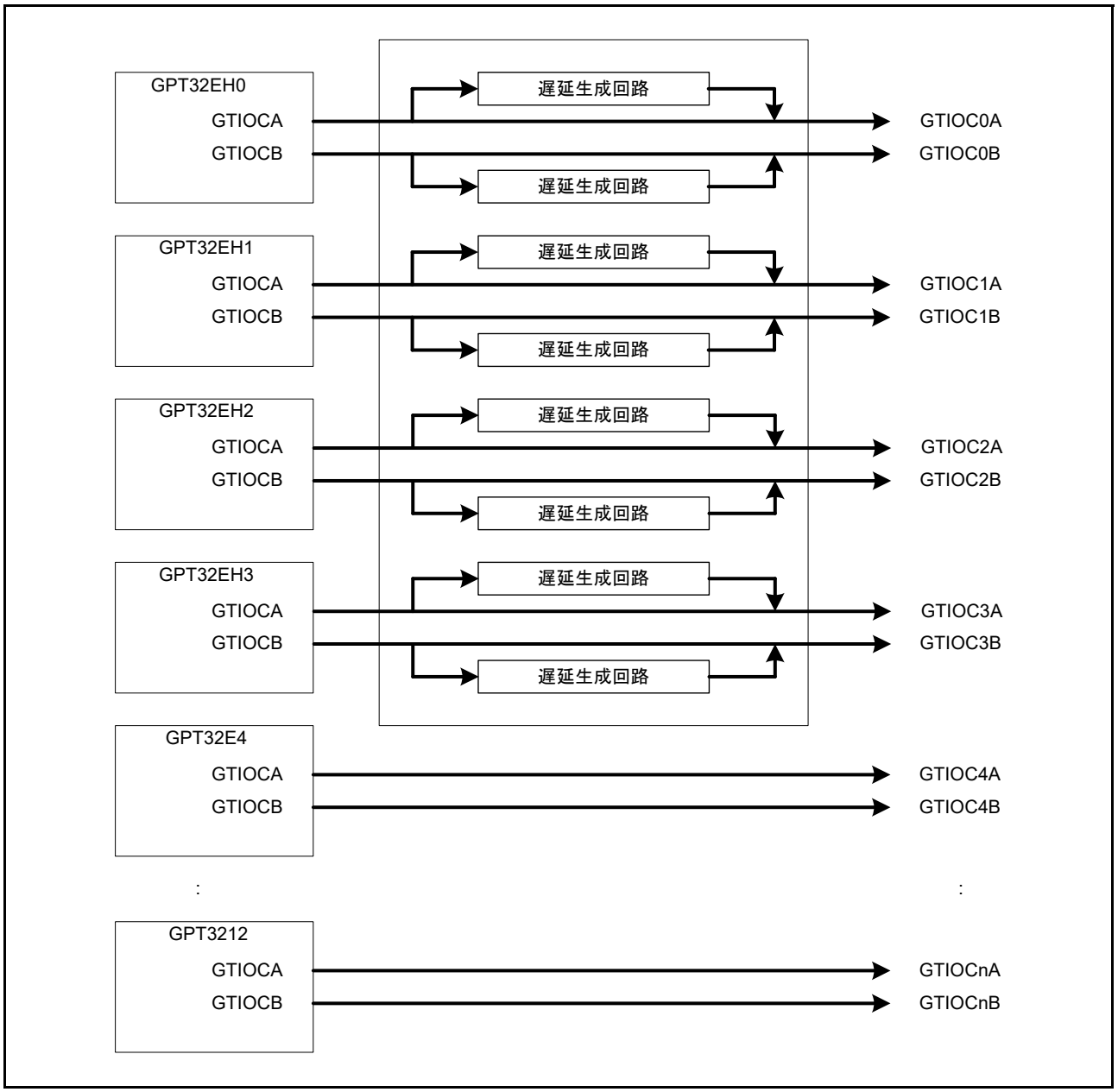


図 24.1 PWM 遅延生成回路のブロック図

表 24.2 PWM遅延生成回路の入出力端子

入出力端子	入出力	機能
GTIOC0A	出力	GPTチャネル0のGTIOCA端子の遅延出力
GTIOC0B	出力	GPTチャネル0のGTIOCB端子の遅延出力
GTIOC1A	出力	GPTチャネル1のGTIOCA端子の遅延出力
GTIOC1B	出力	GPTチャネル1のGTIOCB端子の遅延出力
GTIOC2A	出力	GPTチャネル2のGTIOCA端子の遅延出力
GTIOC2B	出力	GPTチャネル2のGTIOCB端子の遅延出力
GTIOC3A	出力	GPTチャネル3のGTIOCA端子の遅延出力
GTIOC3B	出力	GPTチャネル3のGTIOCB端子の遅延出力

24.2 レジスタの説明

24.2.1 PWM 出力遅延コントロールレジスタ（GTDLYCR）

アドレス GPT_ODC.GTDLYCR 4007 B000h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DLYRST	DLLEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DLLEN	DLL動作許可	0：DLL動作を禁止 1：DLL動作を許可	R/W
b1	DLYRST	PWM遅延生成回路リセット	0：通常動作 1：リセット	R/W
b15-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTDLYCR レジスタは、PWM 出力に遅延を適用するための PWM 遅延生成回路を制御します。GTDLYCR レジスタは、レジスタライトプロテクション機能が無効（GPT32EH0.GTWP.WP = 0）のときに書き込むことができます。

DLLEN ビット（DLL 動作許可）

PWM 遅延生成回路のオンチップ DLL を起動するかどうかを選択します。

DLYRST ビット（PWM 遅延生成回路リセット）

PWM 遅延生成回路の内部状態をリセットします。

24.2.2 PWM 出力遅延コントロールレジスタ 2（GTDLYCR2）

アドレス GPT_ODC.GTDLYCR2 4007 B002h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	DLYEN3	DLYEN2	DLYEN1	DLYEN0	—	—	—	—	DLYBS3	DLYBS2	DLYBS1	DLYBS0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DLYBS0	チャネル0のPWM遅延生成回路バイパス	0：チャネル0の遅延生成回路をバイパスする 1：チャネル0の遅延生成回路をバイパスしない	R/W
b1	DLYBS1	チャネル1のPWM遅延生成回路バイパス	0：チャネル1の遅延生成回路をバイパスする 1：チャネル1の遅延生成回路をバイパスしない	R/W
b2	DLYBS2	チャネル2のPWM遅延生成回路バイパス	0：チャネル2の遅延生成回路をバイパスする 1：チャネル2の遅延生成回路をバイパスしない	R/W
b3	DLYBS3	チャネル3のPWM遅延生成回路バイパス	0：チャネル3の遅延生成回路をバイパスする 1：チャネル3の遅延生成回路をバイパスしない	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	DLYEN0	チャネル0のPWM遅延生成回路許可	0：チャネル0の遅延生成回路を許可 1：チャネル0の遅延生成回路を禁止	R/W
b9	DLYEN1	チャネル1のPWM遅延生成回路許可	0：チャネル1の遅延生成回路を許可 1：チャネル1の遅延生成回路を禁止	R/W
b10	DLYEN2	チャネル2のPWM遅延生成回路許可	0：チャネル2の遅延生成回路を許可 1：チャネル2の遅延生成回路を禁止	R/W
b11	DLYEN3	チャネル3のPWM遅延生成回路許可	0：チャネル3の遅延生成回路を許可 1：チャネル3の遅延生成回路を禁止	R/W
b15-b12	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTDLYCR2 レジスタは、PWM 遅延生成回路の各チャネルを制御します。GTDLYCR2 レジスタは、レジスタライトプロテクション機能が無効（GPT32EH0.GTWP.WP = 0）のときに書き込むことができます。

DLYBSn（n = 0 ～ 3）ビット（チャネル n 用 PWM 遅延生成回路バイパス）

GTIOCnA および GTIOCnB 端子（n = 0 ～ 3）からの PWM 出力信号に PWM 遅延生成回路で遅延を適用するか否か、あるいは回路をバイパスするか否かを選択します。

PWM 遅延生成回路で遅延された信号は、PWM 遅延生成回路をバイパスした場合よりも、GPT 動作クロック（PCLKD）の 3 サイクル分遅れて出力されます。

DLYENn（n = 0 ～ 3）ビット（チャネル n 用 PWM 遅延生成回路許可）

PWM 遅延生成回路のチャネル n（n = 0 ～ 3）の電源をオンにするかオフにするかを選択します。PWM 遅延生成回路のチャネル n を使用しない場合、1 にしてください。

24.2.3　GTIOCnA 立ち上がり出力遅延レジスタ（GTDLYRnA）（n = 0 ～ 3）

アドレス　GPT_ODC.GTDLYR0A 4007 B018h, GPT_ODC.GTDLYR1A 4007 B01Ch,
GPT_ODC.GTDLYR2A 4007 B020h, GPT_ODC.GTDLYR3A 4007 B024h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DLY[4:0]				
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	DLY[4:0]	GTIOCnA出力立ち上がりエッジ遅延設定	b4 b0 0 0 0 0 0：立ち上がりエッジで遅延を適用しない 0 0 0 0 1：PCLKD周期の1/32倍の遅延を適用 0 0 0 1 0：PCLKD周期の2/32倍の遅延を適用 0 0 0 1 1：PCLKD周期の3/32倍の遅延を適用 0 0 1 0 0：PCLKD周期の4/32倍の遅延を適用 0 0 1 0 1：PCLKD周期の5/32倍の遅延を適用 0 0 1 1 0：PCLKD周期の6/32倍の遅延を適用 0 0 1 1 1：PCLKD周期の7/32倍の遅延を適用 0 1 0 0 0：PCLKD周期の8/32倍の遅延を適用 0 1 0 0 1：PCLKD周期の9/32倍の遅延を適用 0 1 0 1 0：PCLKD周期の10/32倍の遅延を適用 0 1 0 1 1：PCLKD周期の11/32倍の遅延を適用 0 1 1 0 0：PCLKD周期の12/32倍の遅延を適用 0 1 1 0 1：PCLKD周期の13/32倍の遅延を適用 0 1 1 1 0：PCLKD周期の14/32倍の遅延を適用 0 1 1 1 1：PCLKD周期の15/32倍の遅延を適用 1 0 0 0 0：PCLKD周期の16/32倍の遅延を適用 1 0 0 0 1：PCLKD周期の17/32倍の遅延を適用 1 0 0 1 0：PCLKD周期の18/32倍の遅延を適用 1 0 0 1 1：PCLKD周期の19/32倍の遅延を適用 1 0 1 0 0：PCLKD周期の20/32倍の遅延を適用 1 0 1 0 1：PCLKD周期の21/32倍の遅延を適用 1 0 1 1 0：PCLKD周期の22/32倍の遅延を適用 1 0 1 1 1：PCLKD周期の23/32倍の遅延を適用 1 1 0 0 0：PCLKD周期の24/32倍の遅延を適用 1 1 0 0 1：PCLKD周期の25/32倍の遅延を適用 1 1 0 1 0：PCLKD周期の26/32倍の遅延を適用 1 1 0 1 1：PCLKD周期の27/32倍の遅延を適用 1 1 1 0 0：PCLKD周期の28/32倍の遅延を適用 1 1 1 0 1：PCLKD周期の29/32倍の遅延を適用 1 1 1 1 0：PCLKD周期の30/32倍の遅延を適用 1 1 1 1 1：PCLKD周期の31/32倍の遅延を適用	R/W
b15-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTDLYRnA レジスタは、GTIOCnA 端子の出力信号の立ち上がりエッジに適用する遅延を設定します。設定値の転送タイミングについては、24.3.2　GTDLYRnA、GTLDYRnB、GTDLYFnA、GTDLYFnB レジスタ設定値の転送タイミングを参照してください。

GTDLYRnA レジスタは、レジスタライトプロテクション機能が無効（GPT32EHn.GTWP.WP = 0）のときに書き込むことができます。

24.2.4　GTIOCnA 立ち下がり出力遅延レジスタ（GTDLYFnA）（n = 0 ～ 3）

アドレス　GPT_ODC.GTDLYF0A 4007 B028h, GPT_ODC.GTDLYF1A 4007 B02Ch,
GPT_ODC.GTDLYF2A 4007 B030h, GPT_ODC.GTDLYF3A 4007 B034h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DLY[4:0]				
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	DLY[4:0]	GTIOCnA出力立ち下がりエッジ遅延設定	b4 b0 0 0 0 0 0：立ち下がりエッジで遅延を適用しない 0 0 0 0 1：PCLKD周期の1/32倍の遅延を適用 0 0 0 1 0：PCLKD周期の2/32倍の遅延を適用 0 0 0 1 1：PCLKD周期の3/32倍の遅延を適用 0 0 1 0 0：PCLKD周期の4/32倍の遅延を適用 0 0 1 0 1：PCLKD周期の5/32倍の遅延を適用 0 0 1 1 0：PCLKD周期の6/32倍の遅延を適用 0 0 1 1 1：PCLKD周期の7/32倍の遅延を適用 0 1 0 0 0：PCLKD周期の8/32倍の遅延を適用 0 1 0 0 1：PCLKD周期の9/32倍の遅延を適用 0 1 0 1 0：PCLKD周期の10/32倍の遅延を適用 0 1 0 1 1：PCLKD周期の11/32倍の遅延を適用 0 1 1 0 0：PCLKD周期の12/32倍の遅延を適用 0 1 1 0 1：PCLKD周期の13/32倍の遅延を適用 0 1 1 1 0：PCLKD周期の14/32倍の遅延を適用 0 1 1 1 1：PCLKD周期の15/32倍の遅延を適用 1 0 0 0 0：PCLKD周期の16/32倍の遅延を適用 1 0 0 0 1：PCLKD周期の17/32倍の遅延を適用 1 0 0 1 0：PCLKD周期の18/32倍の遅延を適用 1 0 0 1 1：PCLKD周期の19/32倍の遅延を適用 1 0 1 0 0：PCLKD周期の20/32倍の遅延を適用 1 0 1 0 1：PCLKD周期の21/32倍の遅延を適用 1 0 1 1 0：PCLKD周期の22/32倍の遅延を適用 1 0 1 1 1：PCLKD周期の23/32倍の遅延を適用 1 1 0 0 0：PCLKD周期の24/32倍の遅延を適用 1 1 0 0 1：PCLKD周期の25/32倍の遅延を適用 1 1 0 1 0：PCLKD周期の26/32倍の遅延を適用 1 1 0 1 1：PCLKD周期の27/32倍の遅延を適用 1 1 1 0 0：PCLKD周期の28/32倍の遅延を適用 1 1 1 0 1：PCLKD周期の29/32倍の遅延を適用 1 1 1 1 0：PCLKD周期の30/32倍の遅延を適用 1 1 1 1 1：PCLKD周期の31/32倍の遅延を適用	R/W
b15-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTDLYFnA レジスタは、GTIOCnA 端子の出力信号の立ち下がりエッジに適用する遅延を設定します。設定値の転送タイミングについては、24.3.2　GTDLYRnA、GTLDYRnB、GTDLYFnA、GTDLYFnB レジスタ設定値の転送タイミングを参照してください。

GTDLYFnA レジスタは、レジスタライトプロテクション機能が無効（GPT32EHn.GTWP.WP = 0）のときに書き込むことができます。

24.2.5　GTIOCnB 立ち上がり出力遅延レジスタ（GTDLYRnB）（n = 0 ～ 3）

アドレス　GPT_ODC.GTDLYR0B 4007 B01Ah, GPT_ODC.GTDLYR1B 4007 B01Eh, GPT_ODC.GTDLYR2B 4007 B022h, GPT_ODC.GTDLYR3B 4007 B026h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DLY[4:0]				
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	DLY[4:0]	GTIOCnB出力立ち上がりエッジ遅延設定	b4 b3 b2 b1 b0 0 0 0 0 0：立ち上がりエッジで遅延を適用しない 0 0 0 0 1：PCLKD周期の1/32倍の遅延を適用 0 0 0 1 0：PCLKD周期の2/32倍の遅延を適用 0 0 0 1 1：PCLKD周期の3/32倍の遅延を適用 0 0 1 0 0：PCLKD周期の4/32倍の遅延を適用 0 0 1 0 1：PCLKD周期の5/32倍の遅延を適用 0 0 1 1 0：PCLKD周期の6/32倍の遅延を適用 0 0 1 1 1：PCLKD周期の7/32倍の遅延を適用 0 1 0 0 0：PCLKD周期の8/32倍の遅延を適用 0 1 0 0 1：PCLKD周期の9/32倍の遅延を適用 0 1 0 1 0：PCLKD周期の10/32倍の遅延を適用 0 1 0 1 1：PCLKD周期の11/32倍の遅延を適用 0 1 1 0 0：PCLKD周期の12/32倍の遅延を適用 0 1 1 0 1：PCLKD周期の13/32倍の遅延を適用 0 1 1 1 0：PCLKD周期の14/32倍の遅延を適用 0 1 1 1 1：PCLKD周期の15/32倍の遅延を適用 1 0 0 0 0：PCLKD周期の16/32倍の遅延を適用 1 0 0 0 1：PCLKD周期の17/32倍の遅延を適用 1 0 0 1 0：PCLKD周期の18/32倍の遅延を適用 1 0 0 1 1：PCLKD周期の19/32倍の遅延を適用 1 0 1 0 0：PCLKD周期の20/32倍の遅延を適用 1 0 1 0 1：PCLKD周期の21/32倍の遅延を適用 1 0 1 1 0：PCLKD周期の22/32倍の遅延を適用 1 0 1 1 1：PCLKD周期の23/32倍の遅延を適用 1 1 0 0 0：PCLKD周期の24/32倍の遅延を適用 1 1 0 0 1：PCLKD周期の25/32倍の遅延を適用 1 1 0 1 0：PCLKD周期の26/32倍の遅延を適用 1 1 0 1 1：PCLKD周期の27/32倍の遅延を適用 1 1 1 0 0：PCLKD周期の28/32倍の遅延を適用 1 1 1 0 1：PCLKD周期の29/32倍の遅延を適用 1 1 1 1 0：PCLKD周期の30/32倍の遅延を適用 1 1 1 1 1：PCLKD周期の31/32倍の遅延を適用	R/W
b15-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTDLYRnB レジスタは、GTIOCnB 端子の出力信号の立ち上がりエッジに適用する遅延を設定します。設定値の転送タイミングについては、24.3.2　GTDLYRnA、GTLDYRnB、GTDLYFnA、GTDLYFnB レジスタ設定値の転送タイミングを参照してください。

GTDLYRnB レジスタは、レジスタライトプロテクション機能が無効（GPT32EHn.GTWP.WP = 0）のときに書き込むことができます。

24.2.6　GTIOCnB 立ち下がり出力遅延レジスタ（GTDLYFnB）（n = 0 ～ 3）

アドレス　GPT_ODC.GTDLYF0B 4007 B02Ah, GPT_ODC.GTDLYF1B 4007 B02Eh, GPT_ODC.GTDLYF2B 4007 B032h, GPT_ODC.GTDLYF3B 4007 B036h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DLY[4:0]				
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	DLY[4:0]	GTIOCnB出力立ち下がりエッジ遅延設定	b4 b0 0 0 0 0 0：立ち下がりエッジで遅延を適用しない 0 0 0 0 1：PCLKD周期の1/32倍の遅延を適用 0 0 0 1 0：PCLKD周期の2/32倍の遅延を適用 0 0 0 1 1：PCLKD周期の3/32倍の遅延を適用 0 0 1 0 0：PCLKD周期の4/32倍の遅延を適用 0 0 1 0 1：PCLKD周期の5/32倍の遅延を適用 0 0 1 1 0：PCLKD周期の6/32倍の遅延を適用 0 0 1 1 1：PCLKD周期の7/32倍の遅延を適用 0 1 0 0 0：PCLKD周期の8/32倍の遅延を適用 0 1 0 0 1：PCLKD周期の9/32倍の遅延を適用 0 1 0 1 0：PCLKD周期の10/32倍の遅延を適用 0 1 0 1 1：PCLKD周期の11/32倍の遅延を適用 0 1 1 0 0：PCLKD周期の12/32倍の遅延を適用 0 1 1 0 1：PCLKD周期の13/32倍の遅延を適用 0 1 1 1 0：PCLKD周期の14/32倍の遅延を適用 0 1 1 1 1：PCLKD周期の15/32倍の遅延を適用 1 0 0 0 0：PCLKD周期の16/32倍の遅延を適用 1 0 0 0 1：PCLKD周期の17/32倍の遅延を適用 1 0 0 1 0：PCLKD周期の18/32倍の遅延を適用 1 0 0 1 1：PCLKD周期の19/32倍の遅延を適用 1 0 1 0 0：PCLKD周期の20/32倍の遅延を適用 1 0 1 0 1：PCLKD周期の21/32倍の遅延を適用 1 0 1 1 0：PCLKD周期の22/32倍の遅延を適用 1 0 1 1 1：PCLKD周期の23/32倍の遅延を適用 1 1 0 0 0：PCLKD周期の24/32倍の遅延を適用 1 1 0 0 1：PCLKD周期の25/32倍の遅延を適用 1 1 0 1 0：PCLKD周期の26/32倍の遅延を適用 1 1 0 1 1：PCLKD周期の27/32倍の遅延を適用 1 1 1 0 0：PCLKD周期の28/32倍の遅延を適用 1 1 1 0 1：PCLKD周期の29/32倍の遅延を適用 1 1 1 1 0：PCLKD周期の30/32倍の遅延を適用 1 1 1 1 1：PCLKD周期の31/32倍の遅延を適用	R/W
b15-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

GTDLYFnB レジスタは、GTIOCnB 端子の出力信号の立ち下がりエッジに適用する遅延を設定します。設定値の転送タイミングについては、24.3.2　GTDLYRnA、GTLDYRnB、GTDLYFnA、GTDLYFnB レジスタ設定値の転送タイミングを参照してください。

GTDLYFnB レジスタは、レジスタライトプロテクション機能が無効（GPT32EHn.GTWP.WP = 0）のときに書き込むことができます。

24.3 動作説明

24.3.1 PWM 波形の立ち上がりおよび立ち下がりエッジのタイミング調整

GTIOCnA および GTIOCnB 端子（n はチャネル番号）から出力される PWM 波形の立ち上がりおよび立ち下がりエッジのタイミングは、GPT 動作クロック（PCLKD）周期の 1/32 の精度で遅延させることができます。

GTIOCnA および GTIOCnB 端子から出力される PWM 波形の立ち上がりまたは立ち下がりエッジのタイミングを調整する必要がある場合、図 24.2 の手順に従って PWM 生成回路の初期設定を行ってください。

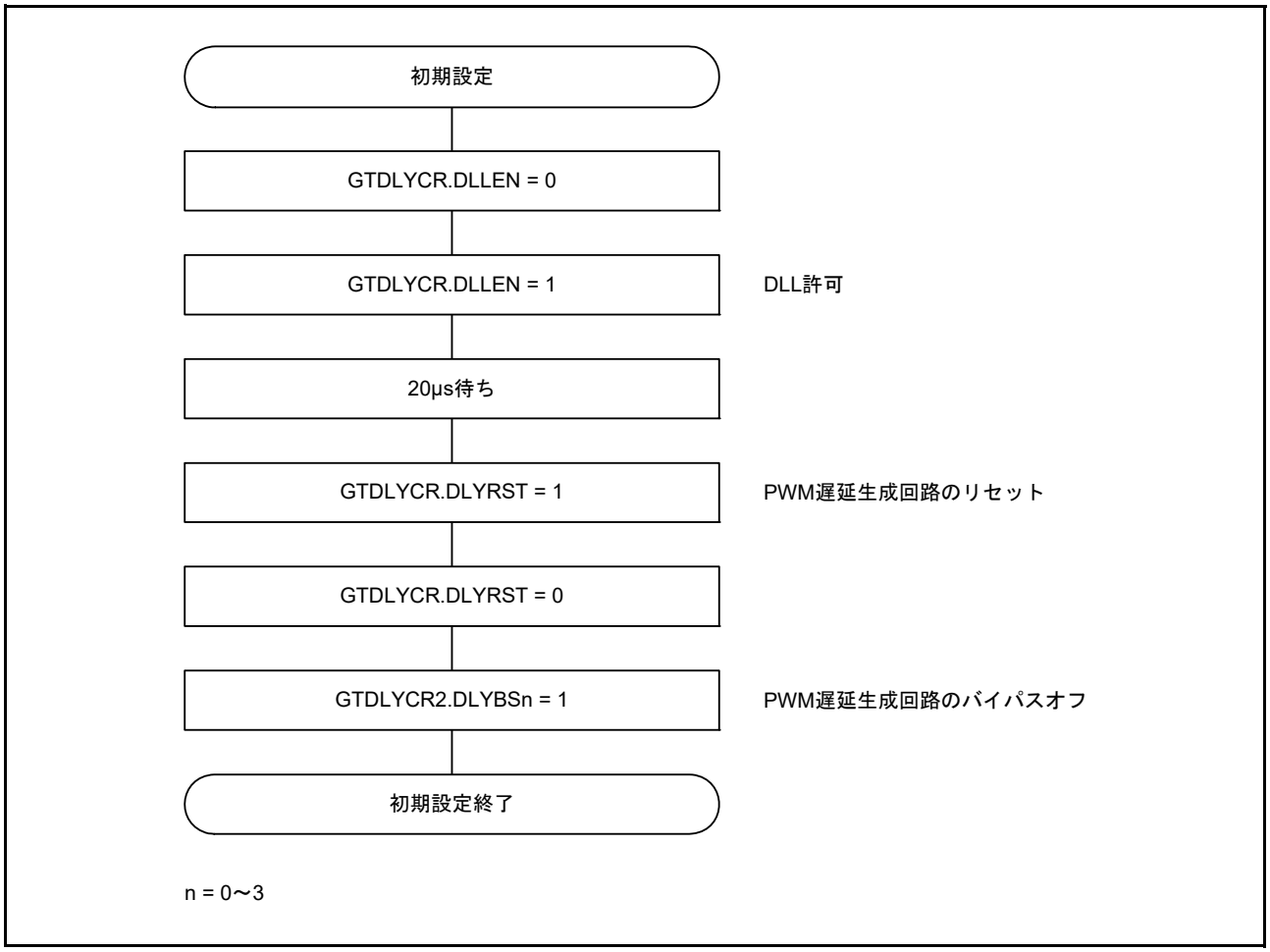


図 24.2 PWM 遅延生成回路の初期化フロー例

PWM 遅延生成回路では、PWM 出力の立ち上がりおよび立ち下がりエッジに、GPT 動作クロック（PCLKD）周期の 1/32 の精度で遅延を適用できます。詳細は、23.3.3 PWM 出力動作モードを参照してください。設定値に対応した遅延が、24.3.2 GTDLYRnA、GTLDYRnB、GTDLYFnA、GTDLYFnB レジスタ設定値の転送タイミングに示すタイミングで PWM 出力に反映されます。

GTDLYRnA、GTLDYRnB、GTDLYFnA、および GTDLYFnB レジスタと、PWM 出力との対応関係を表 24.3 に示します。

表 24.3 PWM出力端子と遅延設定レジスタの対応関係

PWM出力端子	立ち上がりエッジ遅延設定レジスタ	立ち下がりエッジ遅延設定レジスタ
GTIOC0A	GTDLYR0A	GTDLYF0A
GTIOC0B	GTDLYR0B	GTDLYF0B
GTIOC1A	GTDLYR1A	GTDLYF1A
GTIOC1B	GTDLYR1B	GTDLYF1B
GTIOC2A	GTDLYR2A	GTDLYF2A
GTIOC2B	GTDLYR2B	GTDLYF2B
GTIOC3A	GTDLYR3A	GTDLYF3A
GTIOC3B	GTDLYR3B	GTDLYF3B

PWM 遅延生成回路を使用している場合、PWM 出力信号の立ち上がりおよび立ち下がりタイミングを、GPT 動作クロック（PCLKD）周期の 1/32 の精度で制御できます。この機能を使用していない場合、PWM 出力波形の周期は、タイマカウンタの入力クロック（PCLKD）の 1 周期の精度で制御されます。PWM 遅延生成回路を使用すると、32 倍精密な精度で出力を制御できます。また、遅延設定では、PWM 波形の High レベルおよび Low レベルの周期を、特定の精度で制御することも可能です。各 PWM 遅延生成回路チャネルは、それぞれ個別に有効または無効にできます。

24.3.2 GTDLYRnA、GTLDYRnB、GTDLYFnA、GTDLYFnB レジスタ設定値の転送タイミング

GTDLYRnA、GTLDYRnB、GTDLYFnA、および GTDLYFnB レジスタの設定値は、最初に一時レジスタに転送され、その後、GTIOCnA および GTIOCnB（n = 0 ～ 3）出力の遅延量に反映されます。設定値は、のこぎり波の場合はオーバーフロー時（アップカウント中）またはアンダーフロー時（ダウンカウント中）、三角波の場合は谷のとき転送されます。

GTDLYR0A および GTDLYF0A レジスタの動作例を図 24.3 と図 24.4 に示します。

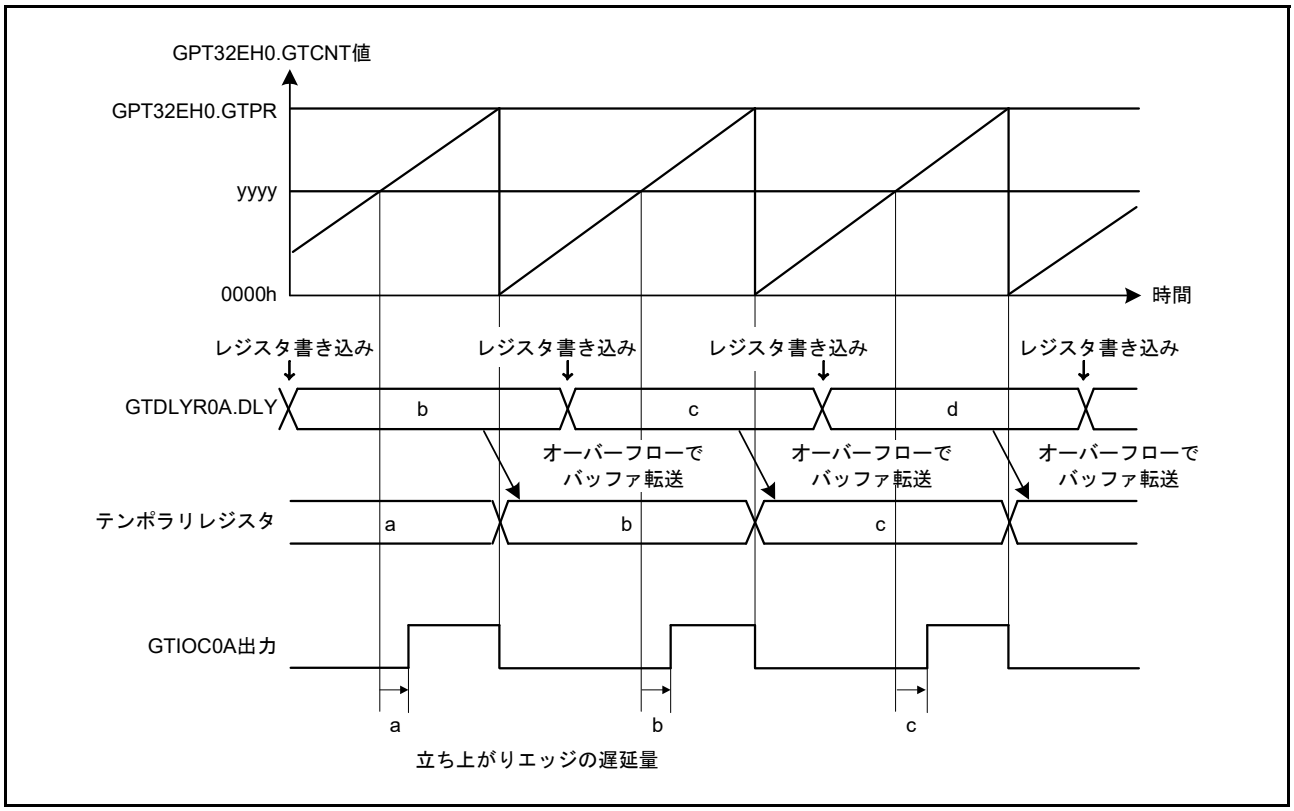


図 24.3 GTLDYR0A レジスタの動作例（PWM のこぎり波生成時）

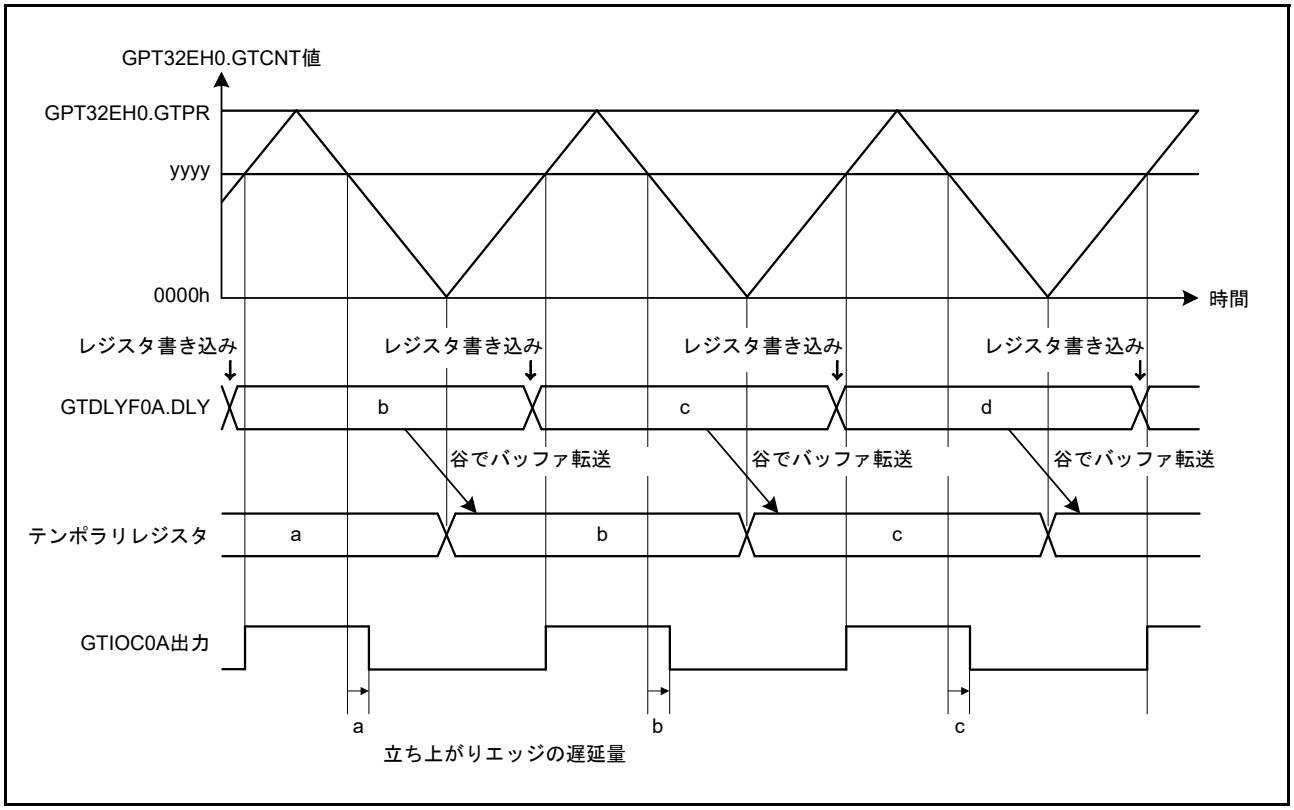


図 24.4 GTLDYF0A レジスタの動作例（PWM 三角波生成時）

24.4 使用上の注意事項

24.4.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ D（MSTPCRD）は、PWM 遅延生成回路の動作を許可／禁止できます。リセット後の初期状態では、PWM 遅延生成回路の動作は停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は、「11. 低消費電力モード」を参照してください。

24.4.2 PWM 遅延生成回路の遅延設定に関する注意事項

PWM 遅延生成回路が PWM 出力波形の遅延を生成し、その波形がコンペアマッチに対してトグルされる場合、コンペアマッチ値が表 24.4 に示す範囲にある間は、遅延の設定を変更しないでください。この制約は GTDLYFnA、GTDLYRnA、GTDLFnB、および GTDLYRnB レジスタに適用されます。

表 24.4 遅延設定の制約

モード	カウント方向	コンペアマッチ値
のこぎり波モード	アップ	GTPR - 2以上
	ダウン	2以下
三角波モード	ダウン	2以下

図 24.5 に、この制約がのこぎり波ワンショットパルスモード（カウントアップ）の GTDLYFnA レジスタの設定タイミングに適用される例を示します。GTCCRD ≧ GTPR - 2 の間は GTDLYFnA レジスタの設定値を変更しないでください。

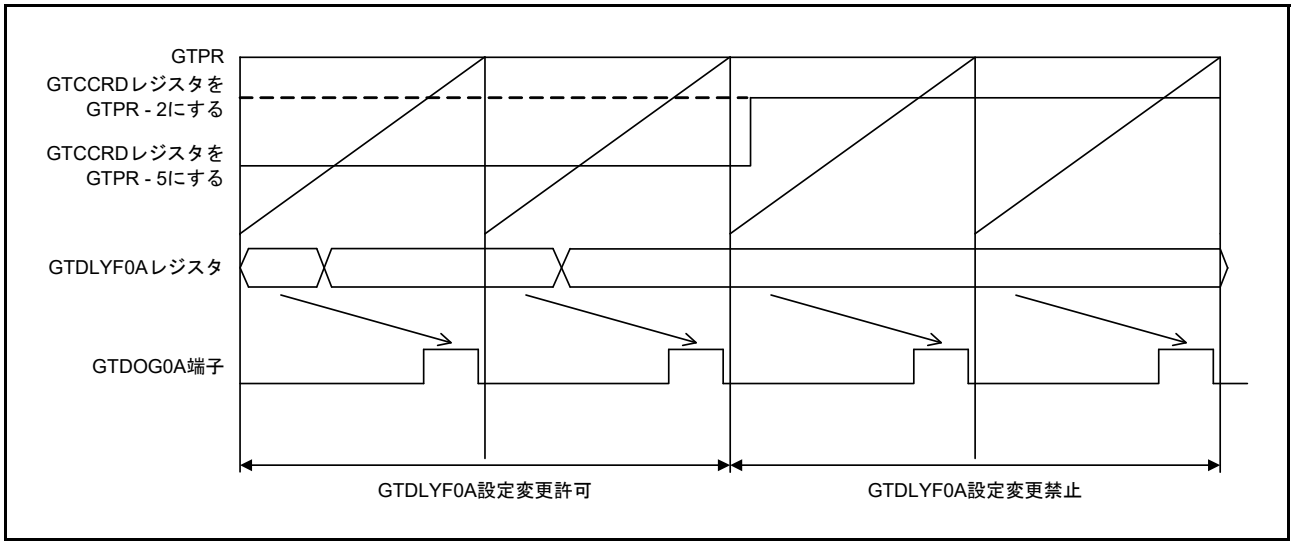


図 24.5 GTDLYF0A レジスタの設定タイミングの制約

設定変更が禁止されている期間に、GTDLYFnA、GTDLYRnA、GTDLYFnB、および GTDLYRnB レジスタの値を変更すると、出力波形の切り替わりポイントのタイミングが期待値とずれるなど、出力波形の不良の原因となる恐れがあります。

25.　低消費電力非同期汎用タイマ（AGT）

25.1　概要

低消費電力非同期汎用タイマ（AGT）は、パルス出力、外部パルスの幅または周期の測定、および外部イベントのカウントに利用可能な 16 ビットのタイマです。

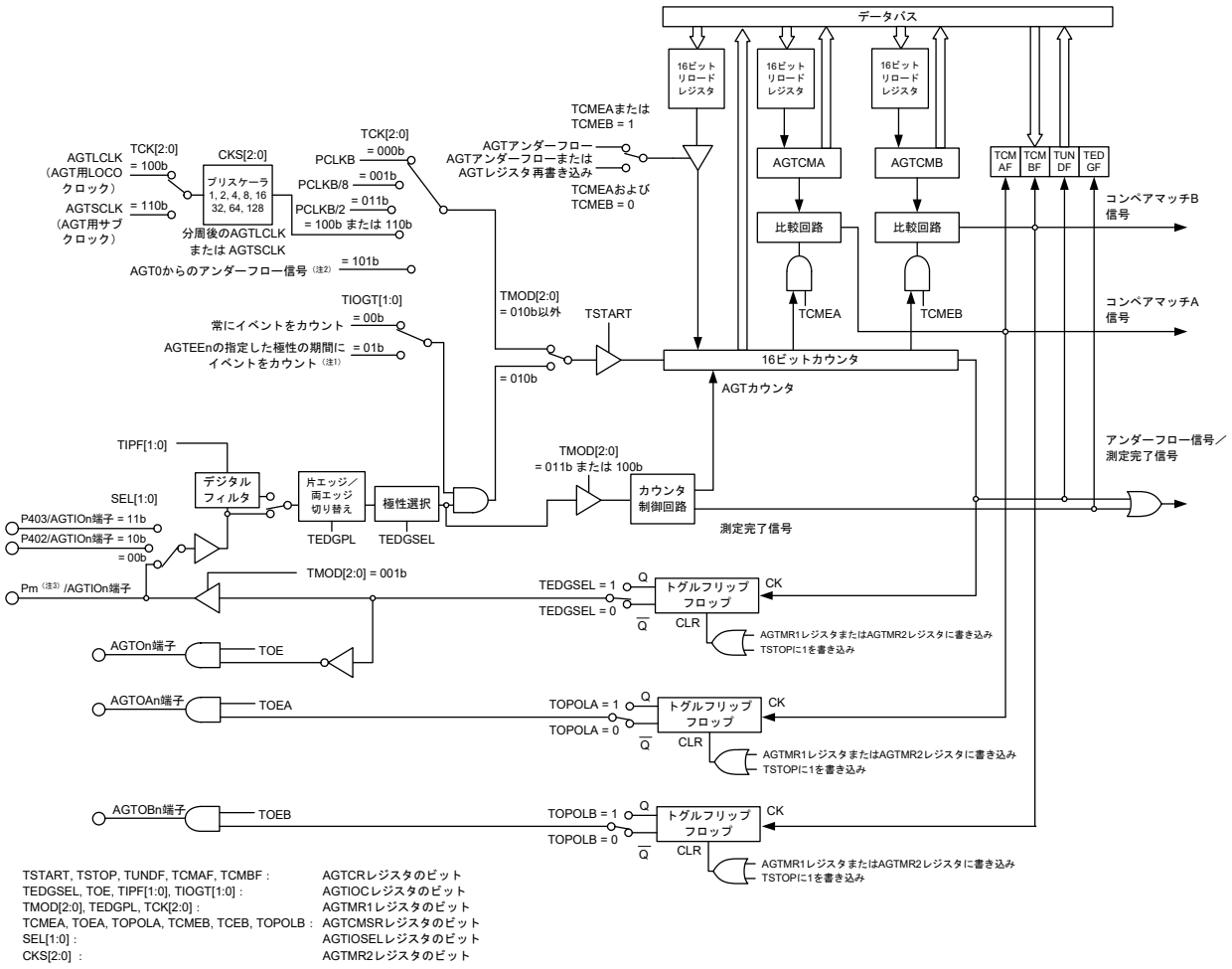
この 16 ビットタイマは、リロードレジスタとダウンカウンタで構成されています。これらのリロードレジスタとダウンカウンタは、同一アドレスに配置され、AGT レジスタでアクセス可能です。

表 25.1 に AGT の仕様を、図 25.1 にブロック図を、表 25.2 に入出力端子を示します。

表 25.1　AGTの仕様

項目		内容
動作モード	タイマモード	カウントソースをカウント
	パルス出力モード	タイマがアンダーフローするごとにカウントソースをカウントし、出力を反転
	イベントカウンタモード	外部イベントをカウント
	パルス幅測定モード	外部パルス幅を測定
	パルス周期測定モード	外部パルス周期を測定
カウントソース（動作クロック）（注2）		PCLKB、PCLKB/2、PCLKB/8、AGTLCLK、AGTLCLK/2、AGTLCLK/4、AGTLCLK/8、AGTLCLK/16、AGTLCLK/32、AGTLCLK/64、AGTLCLK/128、AGTSCLK、AGTSCLK/2、AGTSCLK/4、AGTSCLK/8、AGTSCLK/16、AGTSCLK/32、AGTSCLK/64、AGTSCLK/128、またはAGT0（注1）のアンダーフロー信号を選択可能
割り込み／イベントリンク機能（出力）		• アンダーフローイベント信号または測定完了イベント信号 – カウンタがアンダーフローしたとき – 外部入力（AGTIO）のアクティブ幅の測定がパルス幅測定モードで終了したとき – 外部入力（AGTIO）の設定エッジがパルス周期測定モードで入力されたとき • コンペアマッチAイベント信号 – AGTとAGTCMAの値が一致したとき（コンペアマッチA機能が有効） • コンペアマッチBイベント信号 – AGTとAGTCMBの値が一致したとき（コンペアマッチB機能が有効）
選択可能な機能		• コンペアマッチ機能 コンペアマッチAレジスタとコンペアマッチBレジスタの両方または一方を選択可能

注 1.　AGT0 では AGT0 アンダーフロー信号を使用できません。AGT1 が、AGT0 タイマからのアンダーフローイベント信号に直接接続します。
注 2.　周辺モジュールクロック（PCLKB）周波数≧カウントソースクロック周波数となるように設定してください。



注 1.　極性は、AGTISR レジスタの EEPS ビットで選択できます。
注 2.　AGT0 は AGT のアンダーフローイベントを使用できません。AGT1 が、AGT0 のアンダーフローを使用します。
注 3.　m = 100, 301, 407 (AGT0), m = 400 (AGT1)

図 25.1　　AGT のブロック図

表 25.2　　AGTの入出力端子

端子名	入出力	機能
AGTEEn	入力	AGTの外部イベント入力
AGTIOn（注1）	入力（注1）／出力	AGTの外部イベント入力およびパルス出力
AGTOn	出力	AGTのパルス出力
AGTOAn	出力	AGTの出力コンペアマッチA出力
AGTOBn	出力	AGTの出力コンペアマッチB出力

注 .　　チャネル番号（n = 0, 1）
注 1.　AGTIO はディープソフトウェアスタンバイモードでも使用可能です。

AGTIO は VBTICTLR レジスタで制御できます。詳細については、12.2.2　VBATT 入力コントロールレジスタ（VBTICTLR）と 20.5.5　入出力バッファの仕様を参照してください。

25.2　レジスタの説明

25.2.1　AGT カウンタレジスタ（AGT）

アドレス　AGT0.AGT 4008 4000h, AGT1.AGT 4008 4100h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

ビット	機能	設定範囲	R/W
b15-b0	16ビットのカウンタおよびリロードレジスタ（注1）（注2）	0000h～FFFFh	R/W

注 1.　AGTCR レジスタの TSTOP ビットに 1 を書き込むと、この 16 ビットカウンタは強制的に停止して、FFFFh になります。

注 2.　AGTMR1 レジスタの TCK[2:0] ビットの設定値が 001b（PCLKB/8）または 011b（PCLKB/2）以外の場合、AGT レジスタが 0000h になると、ICU、DTC、および ELC への要求信号が、カウント開始直後に一度発生します。AGTOn および AGTIOn はトグル出力となります。
イベントカウンタモードで AGT レジスタが 0000h になると、TCK[2:0] ビットの値にかかわらず、ICU、DTC、および ELC への要求信号が、カウント開始直後に一度発生します。
また、指定したカウント期間以外の期間でも AGTOn はトグル出力となります。AGT レジスタが 0001h 以上になると、AGT がアンダーフローするたびに要求信号が発生します。

AGT は 16 ビットのレジスタです。書き込み値はリロードレジスタに書き込まれ、読み出し値はカウンタから読み出されます。

リロードレジスタおよびカウンタの状態は、AGTCR レジスタの TSTART ビットおよび AGTCMSR レジスタの TCMEA/TCMEB ビットに応じて変化します。詳細は、25.3.1　リロードレジスタおよびカウンタの書き換え動作を参照してください。AGT レジスタは、16 ビットのメモリ操作命令によって設定できます。

25.2.2　AGT コンペアマッチ A レジスタ（AGTCMA）

アドレス　AGT0.AGTCMA 4008 4002h, AGT1.AGTCMA 4008 4102h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

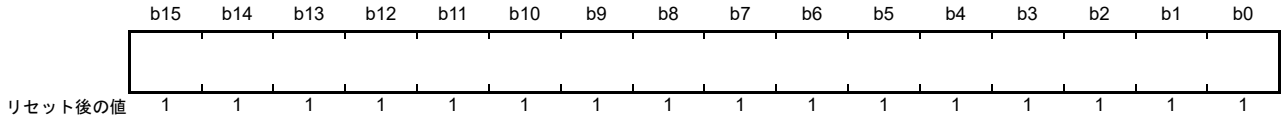
ビット	機能	設定範囲	R/W
b15-b0	16ビットのコンペアマッチAデータを格納（注1）	0000h～FFFFh	R/W

注 1.　コンペアマッチ A を使用しない場合、AGTCMA レジスタは FFFFh にしてください。

AGTCMA レジスタは、AGT カウンタとのコンペアマッチ値を設定するための、読み出し／書き込みが可能なレジスタです。リロードレジスタおよびコンペアレジスタ A の状態は、AGTCR レジスタの TSTART ビットに応じて変化します。詳細は、25.3.2　リロードレジスタおよびコンペアレジスタ A/B の書き換え動作を参照してください。AGTCMA レジスタは、16 ビットのメモリ操作命令によって設定できます。

25.2.3　AGT コンペアマッチ B レジスタ（AGTCMB）

アドレス　AGT0.AGTCMB 4008 4004h, AGT1.AGTCMB 4008 4104h



ビット	機能	設定範囲	R/W
b15-b0	16 ビットのコンペアマッチ B データを格納（注 1）	0000h～FFFFh	R/W

注 1.　コンペアマッチ B を使用しない場合、AGTCMB レジスタは FFFFh にしてください。

AGTCMB レジスタは、AGT カウンタとのコンペアマッチ値を設定するための、読み出し／書き込みが可能なレジスタです。リロードレジスタおよびコンペアレジスタ B の状態は、AGTCR レジスタの TSTART ビットに応じて変化します。詳細は、25.3.2　リロードレジスタおよびコンペアレジスタ A/B の書き換え動作を参照してください。AGTCMB レジスタは、16 ビットのメモリ操作命令によって設定できます。

25.2.4　AGT コントロールレジスタ（AGTCR）

アドレス　AGT0.AGTCR 4008 4008h, AGT1.AGTCR 4008 4108h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TCMBF	TCMAF	TUNDF	TEDGF	—	TSTOP	TCSTF	TSTART
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TSTART	AGTカウント開始（注2）	0：カウント停止 1：カウント開始	R/W
b1	TCSTF	AGTカウント状態フラグ（注2）	0：カウント停止 1：カウント実行中	R
b2	TSTOP	AGTカウント強制停止（注1）	0：書き込みは無効 1：強制的にカウント停止	W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	TEDGF	アクティブエッジ判定フラグ	0：アクティブエッジ未受信 1：アクティブエッジ受信	R/(W)（注3）
b5	TUNDF	アンダーフローフラグ	0：アンダーフローなし 1：アンダーフロー	R/(W)（注3）
b6	TCMAF	コンペアマッチAフラグ	0：不一致 1：一致	R/(W)（注3）
b7	TCMBF	コンペアマッチBフラグ	0：不一致 1：一致	R/(W)（注3）

注 1.　TSTOP ビットに 1（強制的にカウント停止）を書き込むと、TSTOP、TSTART、および TCSTF ビットが同時に初期化されます。パルス出力レベルも初期化されます。読むと 0 が読めます。
注 2.　TSTART および TCSTF ビットの使用については、25.4.1　カウント動作の開始および停止制御を参照してください。
注 3.　フラグをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。

TSTART ビット（AGT カウント開始）

TSTART ビットに 1 を書き込むとカウント動作が開始し、0 を書き込むとカウント動作が停止します。このビットを 1（カウント開始）にすると、カウントソースと同期して、TCSTF ビットが 1（カウント実行中）になります。また、TSTART ビットに 0 を書き込むと、カウントソースと同期して、TCSTF ビットが 0（カウント停止）になります。詳細は、25.4.1　カウント動作の開始および停止制御を参照してください。

TCSTF フラグ（AGT カウント状態フラグ）

AGT のカウント状態を示します。

[1 になる条件]

- TSTART ビットに 1 を書いたとき（カウントソースと同期して、TCSTF フラグが 1 になる）

[0 になる条件]

- TSTART ビットに 0 を書いたとき（カウントソースと同期して、TCSTF フラグが 0 になる）
- TSTOP ビットに 1 を書いたとき

TSTOP ビット（AGT カウント強制停止）

TSTOP ビットに 1 を書くと、強制的にカウントが停止します。読むと 0 が読めます。

TEDGF フラグ（アクティブエッジ判定フラグ）

アクティブエッジが検出されたことを示します。

[1 になる条件]

- 外部入力（AGTIO）のアクティブ幅の測定がパルス幅測定モードで終了したとき
- 外部入力（AGTIO）の設定エッジがパルス周期測定モードで入力されたとき

[0 になる条件]

- ソフトウェアで 0 を書いたとき

TUNDF フラグ（アンダーフローフラグ）

カウンタがアンダーフローしたことを示します。

[1 になる条件]

- カウンタがアンダーフローしたとき

[0 になる条件]

- ソフトウェアで 0 を書いたとき

TCMAF フラグ（コンペアマッチ A フラグ）

コンペアマッチ A が検出されたことを示します。

[1 になる条件]

- AGT レジスタ値が AGTCMA レジスタ値と一致したとき

[0 になる条件]

- ソフトウェアで 0 を書いたとき

TCMBF フラグ（コンペアマッチ B フラグ）

コンペアマッチ B が検出されたことを示します。

[1 になる条件]

- AGT レジスタ値が AGTCMB レジスタ値と一致したとき

[0 になる条件]

- ソフトウェアで 0 を書いたとき

25.2.5 AGT モードレジスタ 1（AGTMR1）

アドレス AGT0.AGTMR1 4008 4009h, AGT1.AGTMR1 4008 4109h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	TCK[2:0]			TEDGPL	TMOD[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	TMOD[2:0]	動作モード（注3）	b2 b0 0 0 0：タイマモード 0 0 1：パルス出力モード 0 1 0：イベントカウンタモード 0 1 1：パルス幅測定モード 1 0 0：パルス周期測定モード 上記以外は設定しないでください。	R/W
b3	TEDGPL	エッジ極性（注4）	0：片エッジ 1：両エッジ	R/W
b6-b4	TCK[2:0]	カウントソース（注1）（注2）（注5）	b6 b4 0 0 0：PCLKB 0 0 1：PCLKB/8 0 1 1：PCLKB/2 1 0 0：AGTMR2 レジスタの CKS[2:0] ビットで設定した分周クロック AGTLCLK 1 0 1：AGT0 からのアンダーフローイベント信号（注6） 1 1 0：AGTMR2 レジスタの CKS[2:0] ビットで設定した分周クロック AGTSCLK 上記以外は設定しないでください。	R/W
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 . AGTMR1 レジスタに書き込みを行うと、AGT の AGTOn、AGTIOn、AGTOAn、および AGTOBn 端子（n = 0, 1）からの出力が初期化されます。初期化時の出力レベルについては、25.2.7 AGT I/O コントロールレジスタ（AGTIOC）の説明を参照してください。

注 1. イベントカウンタモードを選択した場合、TCK[2:0] ビットの設定にかかわらず、カウントソースに外部入力（AGTIOn）が選択されます。

注 2. カウント動作中は、カウントソースを切り替えないでください。AGTCR レジスタの TSTART および TCSTF ビットが、どちらも 0（カウント停止）の場合にのみ、カウントソースを切り替えてください。

注 3. AGTCR レジスタの TSTART および TCSTF ビットが、どちらも 0（カウント停止）の状態で、カウントが停止した場合にのみ、動作モードを変更できます。カウント動作中は、動作モードを変更しないでください。

注 4. TEDGPL ビットは、イベントカウンタモード時に限り有効です。

注 5. ソフトウェアスタンバイモード、スヌーズモード、またはディープソフトウェアスタンバイモードで AGT を実行する場合、AGTSCLK または AGTLCLK（TCK[2:0] = 100b または 110b）をカウントソースにしてください。

注 6. AGT0 では AGT0 アンダーフローは使用できません（設定禁止）。AGT1 が、AGT0 のアンダーフローを使用します。

25.2.6 AGT モードレジスタ 2（AGTMR2）

アドレス AGT0.AGTMR2 4008 400Ah, AGT1.AGTMR2 4008 410Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	LPM	—	—	—	—	CKS[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	CKS[2:0]	AGTSCLK/AGTLCLKカウントソースクロック分周比（注1）（注2）（注3）	b2 b0 0 0 0 : 1/1 0 0 1 : 1/2 0 1 0 : 1/4 0 1 1 : 1/8 1 0 0 : 1/16 1 0 1 : 1/32 1 1 0 : 1/64 1 1 1 : 1/128	R/W
b6-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	LPM	低消費電力モード	0：通常モード 1：低消費電力モード	R/W

注 1. カウント動作中は、CKS[2:0] を書き換えないでください。AGTCR レジスタの TSTART および TCSTF ビットが、どちらも 0（カウント停止）の場合にのみ、CKS[2:0] ビットを書き換えてください。
注 2. カウントソースが AGTSCLK/AGTLCLK の場合に、CKS[2:0] の切り替えが有効です。
注 3. CKS[2:0] ビットが 000b 以外の場合は、AGTMR1 レジスタの TCK[2:0] ビットを切り替えないでください。CKS[2:0] ビットを 000b にした後、AGTMR1 レジスタの TCK[2:0] ビットを切り替えて、カウントソースの 1 サイクル分待機してください。

LPM ビット（低消費電力モード）

低消費電力モードに設定します。これによって、特定の AGT レジスタへのアクセスに影響があります。低消費電力で動作させるには 1 にしてください。本ビットが 1 の場合、下記のレジスタへはアクセスしないでください。

- AGT/AGTCMA/AGTCMB/AGTCR

本ビットを 1 から 0 に切り替えた後は、上記のレジスタへの最初のアクセスが以下のように制限されます。

- AGT：AGT レジスタを 2 回読む必要があります。2 回目の読み出しデータのみが有効です
- AGT、AGTCMA、AGTCMB、および AGTCR：レジスタに書き込む場合、少なくともカウントソースクロックの 2 サイクルは必要です

25.2.7 AGT I/O コントロールレジスタ（AGTIOC）

アドレス AGT0.AGTIOC 4008 400Ch, AGT1.AGTIOC 4008 410Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TIOGT[1:0]		TIPF[1:0]		—	TOE	—	TEDGSEL
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TEDGSEL	I/O極性切り替え	動作モードによって機能が異なります。表 25.3 と表 25.4 を参照してください。 TEDGSEL ビットは、AGTO の出力極性、および AGTIO の入出力エッジと極性を切り替えます。パルス出力モードでは、AGTOn の出力極性と AGTIOn の出力極性のみ操作します。AGTMR1 レジスタに書き込みを行った場合、および AGTCR レジスタの TSTOP ビットに 1 を書いた場合、AGTOn 出力と AGTIOn 出力が初期化されます。	R/W
b1	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b2	TOE	AGTOn 出力許可	0：AGTOn 出力を禁止 1：AGTOn 出力を許可	R/W
b3	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b5-b4	TIPF[1:0]	入力フィルタ（注3）	b5 b4 0 0：フィルタなし 0 1：PCLKB でのフィルタサンプリング 1 0：PCLKB/8 でのフィルタサンプリング 1 1：PCLKB/32 でのフィルタサンプリング これらのビットは、AGTIOn 入力用フィルタのサンプリング周波数を指定します。AGTIOn 端子への入力がサンプリングされ、3 回連続して値が一致すると、その値が入力値とみなされます。	R/W
b7-b6	TIOGT[1:0]	カウント制御（注1）（注2）（注4）	b7 b6 0 0：常にイベントをカウントする 0 1：AGTEEn に指定された極性の期間に、イベントをカウントする 上記以外は設定しないでください。	R/W

注 1. AGTEEn 端子を使用する場合、イベントをカウントするための極性は AGTISR レジスタの EEPS ビットで選択できます。
注 2. TIOGT[1:0] ビットは、イベントカウンタモード時に限り有効です。
注 3. ソフトウェアスタンバイモードとディープソフトウェアスタンバイモード中にイベントカウンタモード動作が実行される場合、デジタルフィルタ機能は使用できません。
注 4. ディープソフトウェアスタンバイモードで使用する場合、TIOGT[1:0] ビットは 00b（常にイベントをカウントする）にしてください。

表 25.3　AGTIOn の入出力エッジおよび極性切り替え

動作モード	機能
タイマモード	使用しない
パルス出力モード	0：High で出力開始（初期レベル：High） 1：Low で出力開始（初期レベル：Low）
イベントカウンタモード	0：立ち上がりエッジでカウント 1：立ち下がりエッジでカウント
パルス幅測定モード	0：Low レベル幅を測定 1：High レベル幅を測定
パルス周期測定モード	0：ある立ち上がりエッジから次の立ち上がりエッジまで測定 1：ある立ち下がりエッジから次の立ち下がりエッジまで測定

表 25.4　AGTOn の出力極性切り替え

動作モード	機能
全モード	0：Low で出力開始（初期レベル：Low） 1：High で出力開始（初期レベル：High）

25.2.8 AGT イベント端子選択レジスタ（AGTISR）

アドレス　AGT0.AGTISR 4008 400Dh, AGT1.AGTISR 4008 410Dh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	EEPS	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b2	EEPS	AGTEEn極性選択	0：Lowの期間、イベントをカウントする 1：Highの期間、イベントをカウントする	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

25.2.9 AGT コンペアマッチ機能選択レジスタ（AGTCMSR）

アドレス　AGT0.AGTCMSR 4008 400Eh, AGT1.AGTCMSR 4008 410Eh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	TOPOLB	TOEB	TCMEB	—	TOPOLA	TOEA	TCMEA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TCMEA	コンペアマッチAレジスタ許可 （注1）（注2）	0：コンペアマッチAレジスタを禁止 1：コンペアマッチAレジスタを許可	R/W
b1	TOEA	AGTOAn出力許可（注1）（注2）	0：AGTOAn出力を禁止 1：AGTOAn出力を許可	R/W
b2	TOPOLA	AGTOAn極性選択（注1）（注2）	0：AGTOAn出力をLowで開始 1：AGTOAn出力をHighで開始	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	TCMEB	コンペアマッチBレジスタ許可 （注1）（注2）	0：コンペアマッチBレジスタを禁止 1：コンペアマッチBレジスタを許可	R/W
b5	TOEB	AGTOBn出力許可（注1）（注2）	0：AGTOBn出力を禁止 1：AGTOBn出力を許可	R/W
b6	TOPOLB	AGTOBn極性選択（注1）（注2）	0：AGTOBn出力をLowで開始 1：AGTOBn出力をHighで開始	R/W
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　カウント動作中は、AGTCMSR レジスタを書き換えないでください。AGTCR レジスタの TSTART および TCSTF ビットが、どちらも 0（カウント停止）の場合にのみ、AGTCMSR レジスタを書き換えてください。

注 2.　パルス幅測定モードまたはパルス周期測定モード時は、1 にしないでください。

25.2.10 AGT 端子選択レジスタ（AGTIOSEL）

アドレス AGT0.AGTIOSEL 4008 400Fh, AGT1.AGTIOSEL 4008 410Fh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	TIES	—	—	SEL[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	SEL[1:0]	AGTIO端子選択（注1）（注3）	b1 b0 0 0：Pm（注2）/AGTIOをAGTIOとして選択 ディープソフトウェアスタンバイモード時、Pm/AGTIOはAGTIO入力端子として使用できません。 0 1：設定禁止 1 0：P402/AGTIOをAGTIOとして選択 ディープソフトウェアスタンバイモード時、P402/AGTIOはAGTIO入力端子として使用できます。 P402/AGTIOnは入力専用です。出力には使用できません。 1 1：P403/AGTIOをAGTIOとして選択 ディープソフトウェアスタンバイモード時、P403/AGTIOはAGTIO入力端子として使用できます。 P403/AGTIOnは入力専用です。出力には使用できません。	R/W（注1）
b3-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	TIES	AGTIO入力許可	0：ソフトウェアスタンバイモード中、外部イベント入力を禁止 1：ソフトウェアスタンバイモード中、外部イベント入力を許可	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　ディープソフトウェアスタンバイモード時、P402/AGTIO および P403/AGTIO は、AGT の外部イベント入力端子として使用できます。ディープソフトウェアスタンバイモード時、Pm（注 2）/AGTIO は、AGT の外部イベント入力端子として使用できません。P402/AGTIO および P403/AGTIO は入力専用です。
Pm/AGTIO を選択した場合は、ポート mn 端子機能選択（PmnPFS）レジスタの設定が必要です。「20. I/O ポート」を参照してください。

注 2.　m = 100, 301, 407（AGT0）、m = 400（AGT1）

注 3.　P402/AGTIO および P403/AGTIO 選択時は VBTICTLR レジスタを設定してください。「12. バッテリバックアップ機能」を参照してください。

ディープソフトウェアスタンバイモードおよびソフトウェアスタンバイモードで AGTIO を使用するときに、AGTIOSEL レジスタで AGTIO 端子を設定します。AGTIOSEL レジスタは、8 ビットのメモリ操作命令によって設定できます。

SEL[1:0] ビット（AGTIO 端子選択）

AGTIO 端子の機能を選択します。

TIES ビット（AGTIO 入力許可）

外部イベント入力を許可または禁止します。

25.3　動作説明

25.3.1　リロードレジスタおよびカウンタの書き換え動作

動作モードにかかわらず、リロードレジスタとカウンタへの書き換え動作のタイミングは、AGTCR レジスタの TSTART ビット値、および AGTCMSR レジスタの TCMEA および TCMEB ビット値によって異なります。TSTART ビットが 0（カウント停止）の場合、カウント値がリロードレジスタとカウンタに直接書き込まれます。TSTART ビットが 1（カウント開始）で、かつ TCMEA および TCMEB ビットが 0（コンペアマッチ A/B レジスタが無効）の場合、値がカウントソースと同期してリロードレジスタに書き込まれた後、次のカウントソースと同期してカウンタに書き込まれます。TSTART ビットが 1（カウント開始）で、かつ TCMEA ビットと TCMEB ビットのどちらかが 1（コンペアマッチ A/B レジスタが有効）の場合、値がカウントソースと同期してリロードレジスタに書き込まれた後、カウンタのアンダーフローと同期してカウンタに書き込まれます。

TSTART ビット値および TCMEA/TCMEB ビット値による書き換え動作のタイミングを図 25.2 および図 25.3 に示します。

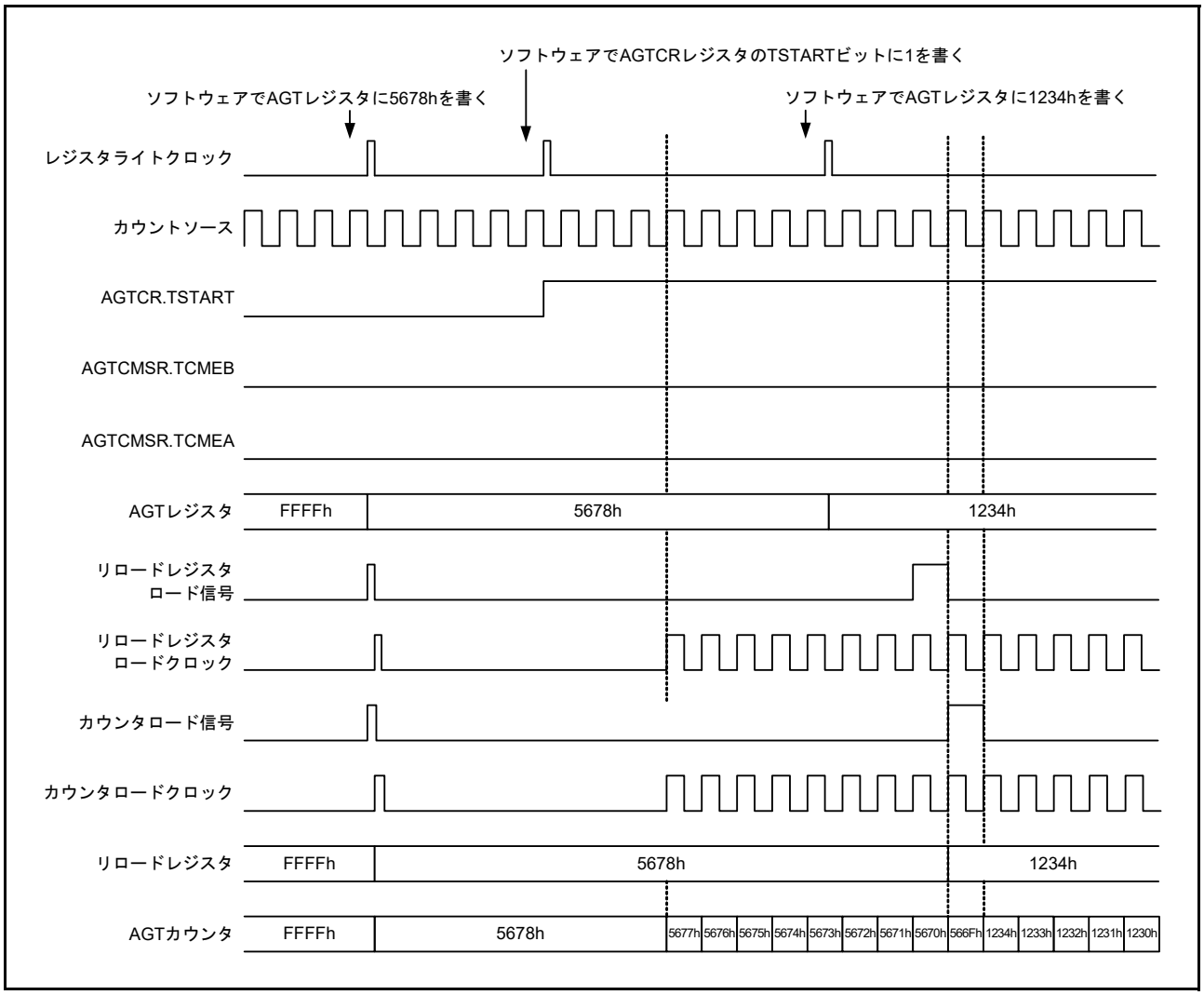


図 25.2　TSTART ビット値、TCMEA および TCMEB ビット値による書き換え動作のタイミング（コンペアマッチレジスタ A および B が無効の場合）

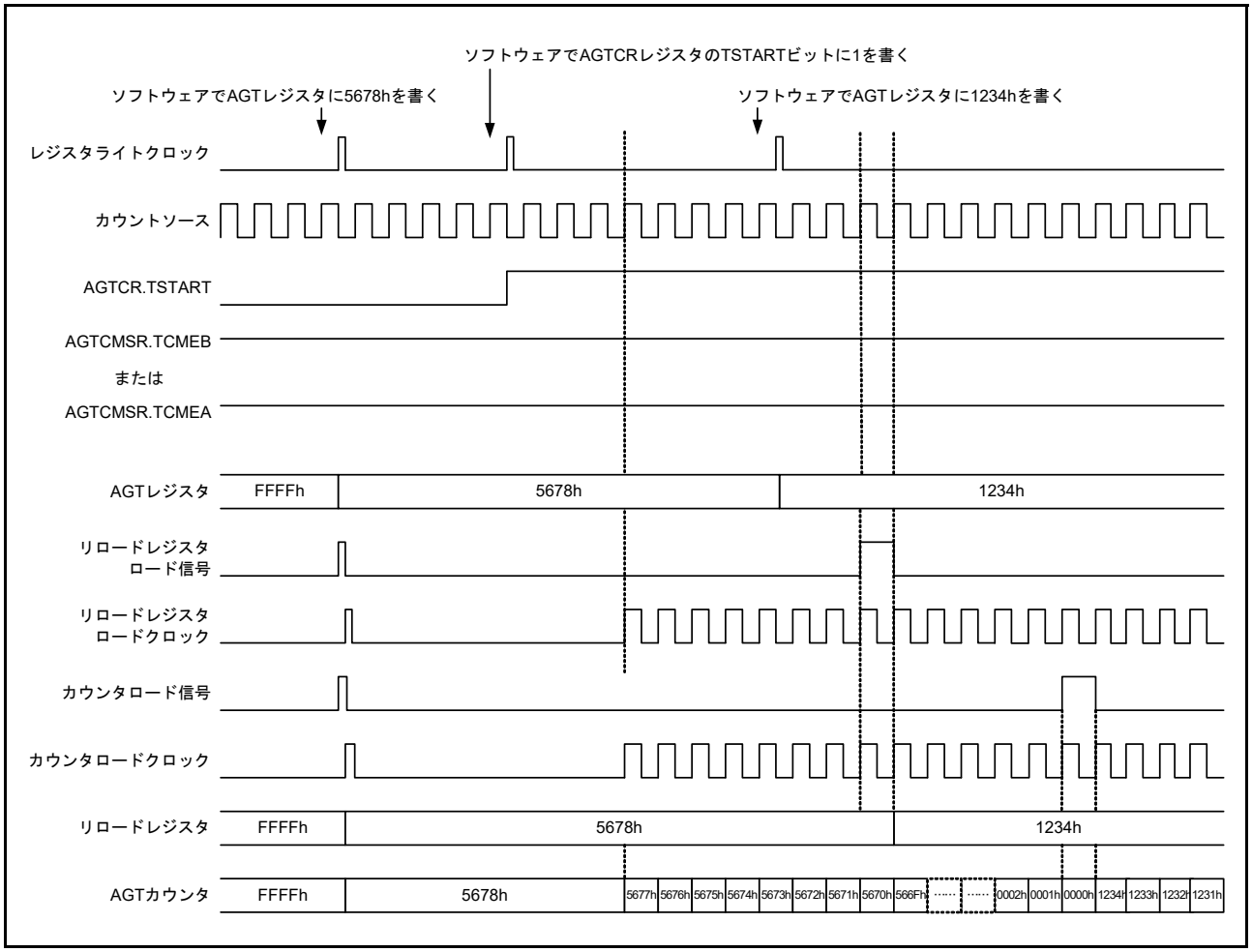


図 25.3 TSTART ビット値および TCMEA または TCMEB ビット値による書き換え動作のタイミング（コンペアマッチレジスタ A または B が有効の場合）

25.3.2　リロードレジスタおよびコンペアレジスタ A/B の書き換え動作

動作モードにかかわらず、コンペアレジスタ A/B への書き換え動作のタイミングは、AGTCR レジスタの TSTART ビット値によって異なります。TSTART ビットが 0（カウント停止）の場合、カウント値がリロードレジスタとコンペアレジスタ A/B に直接書き込まれます。TSTART ビットが 1（カウント開始）の場合、値がカウントソースと同期してリロードレジスタに書き込まれた後、カウンタのアンダーフローと同期してコンペアレジスタに書き込まれます。

TSTART ビット値によるコンペアレジスタ A への書き換え動作のタイミングを図 25.4 に示します。コンペアレジスタ B のタイミングもコンペアレジスタ A と同じです。

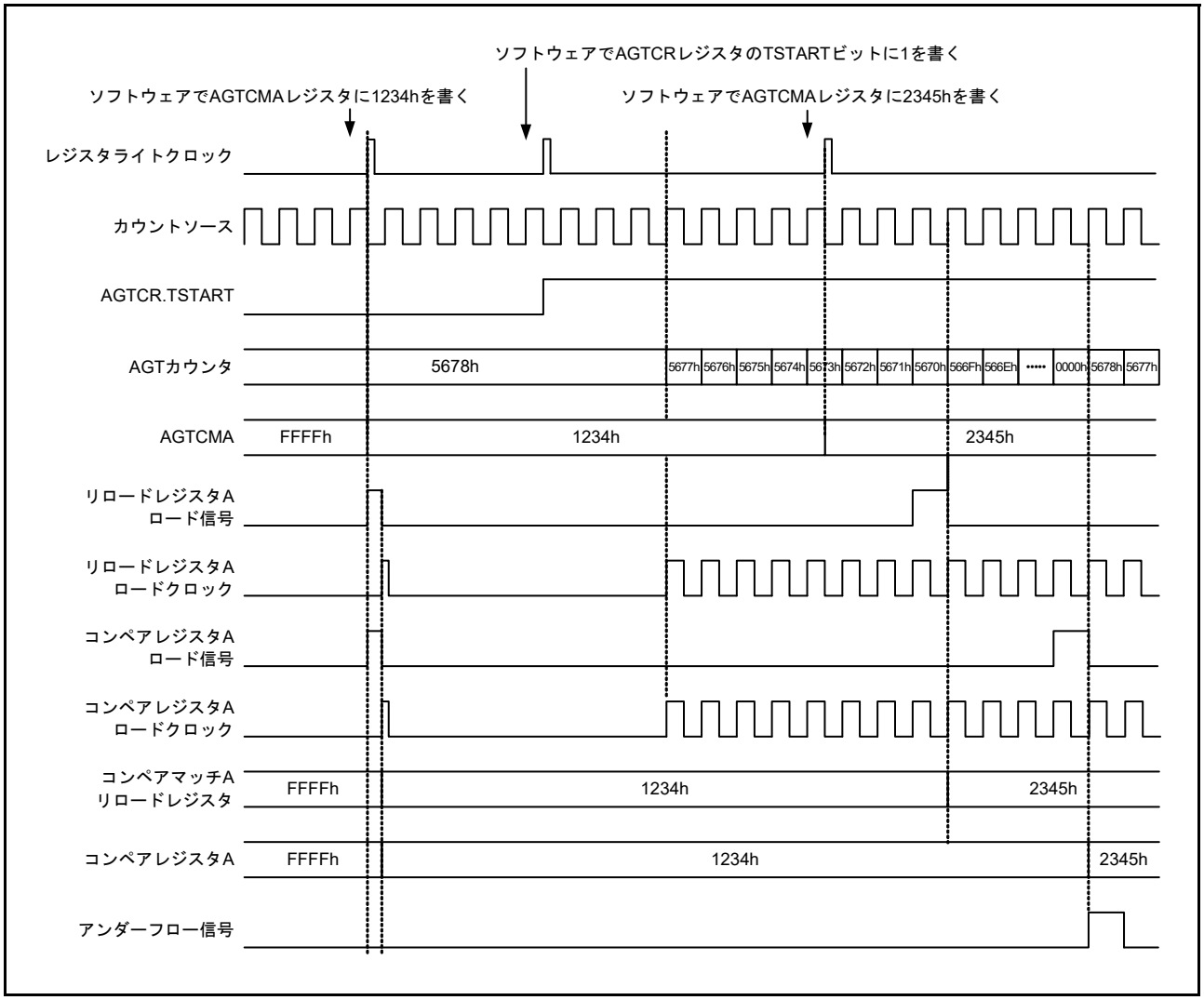


図 25.4　TSTART ビット値による書き換え動作のタイミング（コンペアレジスタ A の場合）

25.3.3 タイマモード

タイマモードでは、AGT カウンタは AGTMR1 レジスタの TCK[2:0] ビットで選択したカウントソースによってデクリメントします。タイマモードでは、カウント値がカウントソースの立ち上がりエッジごとに 1 ずつデクリメントします。カウント値が 0000h に達して、次のカウントソースが入力されると、アンダーフローが発生して割り込み要求が生成されます。

タイマモードでの動作例を図 25.5 に示します。

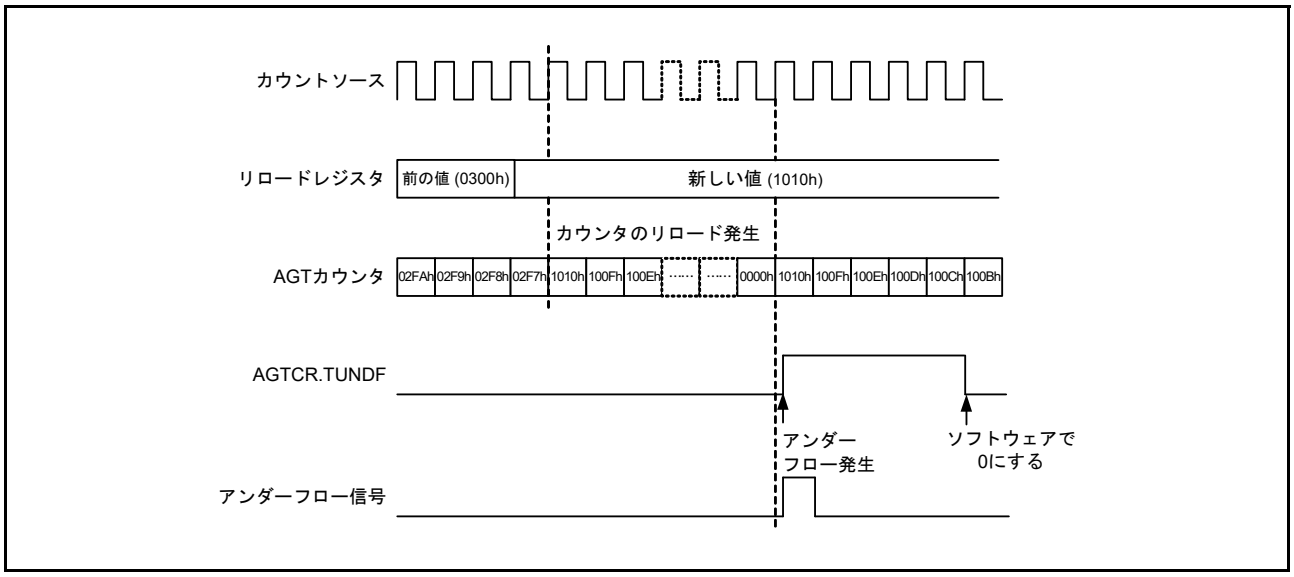


図 25.5 タイマモードでの動作例

25.3.4 パルス出力モード

パルス出力モードでは、カウンタは AGTMR1 レジスタの TCK[2:0] ビットで選択したカウントソースによってデクリメントし、アンダーフローが発生するごとに AGTIOn および AGTOn 端子の出力レベルが反転します。

パルス出力モードでは、カウント値がカウントソースの立ち上がりエッジごとに 1 ずつデクリメントします。カウント値が 0000h に達して、次のカウントソースが入力されると、アンダーフローが発生して割り込み要求が生成されます。さらに、AGTIOn および AGTOn 端子からパルスを出力できます。その出力レベルは、アンダーフローが発生するたびに反転します。AGTOn 端子からのパルス出力は、AGTIOC レジスタの TOE ビットで停止できます。出力レベルは、AGTIOC レジスタの TEDGSEL ビットで選択できます。

パルス出力モードでの動作例を図 25.6 に示します。

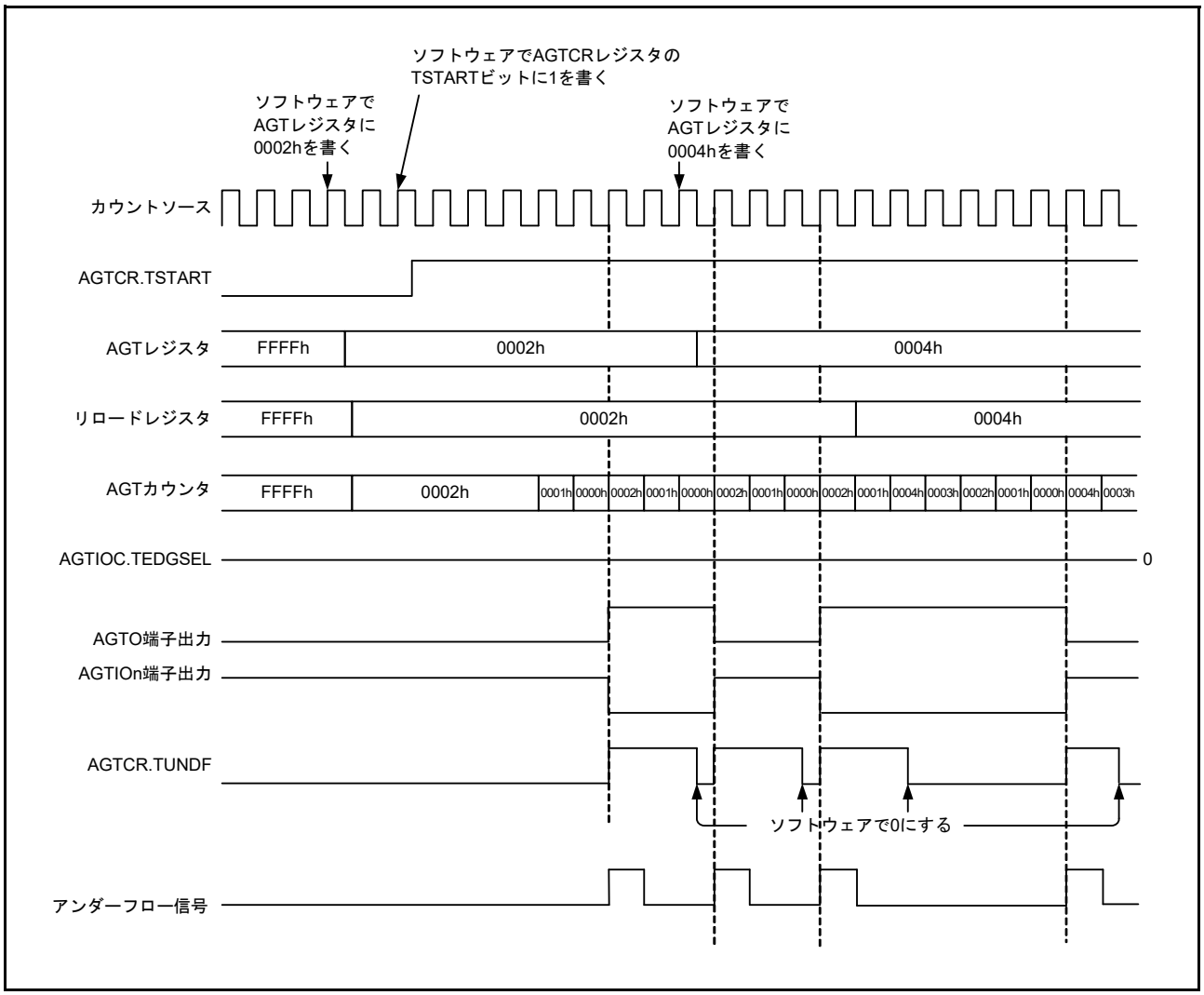


図 25.6 パルス出力モードでの動作例

25.3.5　イベントカウンタモード

イベントカウンタモードでは、カウンタは AGTIOn 端子への外部イベント信号（カウントソース）入力によってデクリメントします。イベントをカウントする期間は、AGTIOC レジスタの TIOGT[1:0] ビットと AGTISR レジスタによってさまざまな設定が可能です。さらに、AGTIOC レジスタの TIPF[1:0] ビットによって、AGTIOn 入力用のフィルタ機能を指定できます。イベントカウンタモードでも、AGTOn 端子からトグル出力が可能です。

イベントカウンタモードでの動作例を図 25.7 に示します。

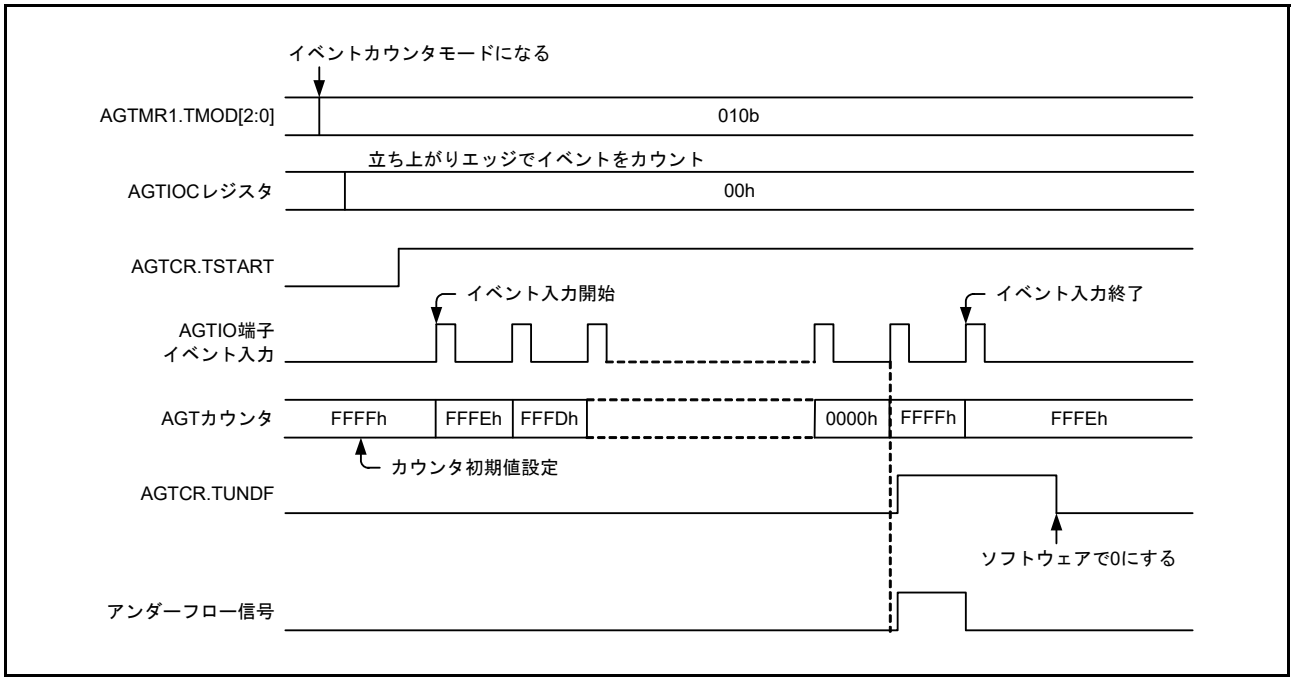
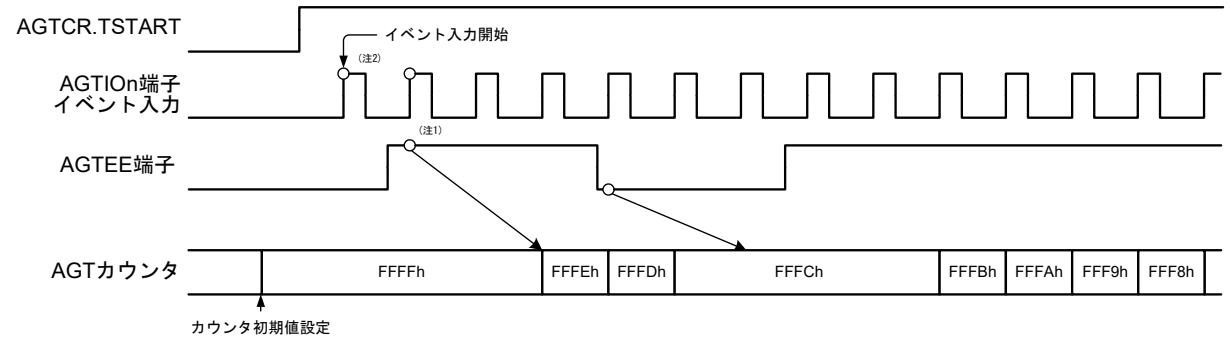


図 25.7　イベントカウンタモードでの動作例 1

イベントカウンタモードの指定期間（AGTIOC レジスタの TIOGT[1:0] ビットが 01b）中の動作例を図 25.8 に示します。

動作モード設定が下記の場合のタイミング例
AGTMR1： TMOD[2:0] = 010b（イベントカウンタモード）
AGTIOC： TIOGT[1:0] = 01b（外部割り込み端子の指定した期間イベントカウント）
TIPF[1:0] = 00b（フィルタなし）
TEDGSEL = 1（立ち上がりエッジでカウント）
AGTISR： EEPS = 1（High期間をカウント）



注 1.　同期を制御するため、カウント動作が変更されるまでに、カウントソースの 2 サイクル分遅延が生じます。また、AGTEEn とサンプリングクロックの位相差によって、カウント開始のタイミングが 1 サイクル分ずれる可能性があります。

注 2.　カウント動作は、カウント停止前の状態次第で、カウント開始直後にカウントソースの 2 サイクル内で実行される場合があります。
カウント開始直後の 2 サイクル内のカウントを無効にするには、AGTCR レジスタの TSTOP ビットに 1 を書き込んで内部回路を初期化した後、カウント動作を開始する前に動作設定を完了します。

図 25.8　　イベントカウンタモードでの動作例 2

25.3.6　パルス幅測定モード

パルス幅測定モードでは、AGTIOn 端子に入力される外部信号のパルス幅を測定します。AGTIOC レジスタの TEDGSEL ビットで指定したレベルが AGTIOn 端子に入力されると、カウンタは AGTMR1 レジスタの TCK[2:0] ビットで選択したカウントソースによってデクリメントします。指定した AGTIOn 端子レベルが終了すると、カウンタは停止して、AGTCR レジスタの TEDGF ビットが 1（アクティブエッジ受信）になり、割り込み要求が発生します。カウンタの停止中にカウント値を読み出すことで、パルス幅データが測定されます。また、測定中にカウンタがアンダーフローすると、AGTCR レジスタの TUNDF ビットが 1 になり、割り込み要求が発生します。

パルス幅測定モードでの動作例を図 25.9 に示します。

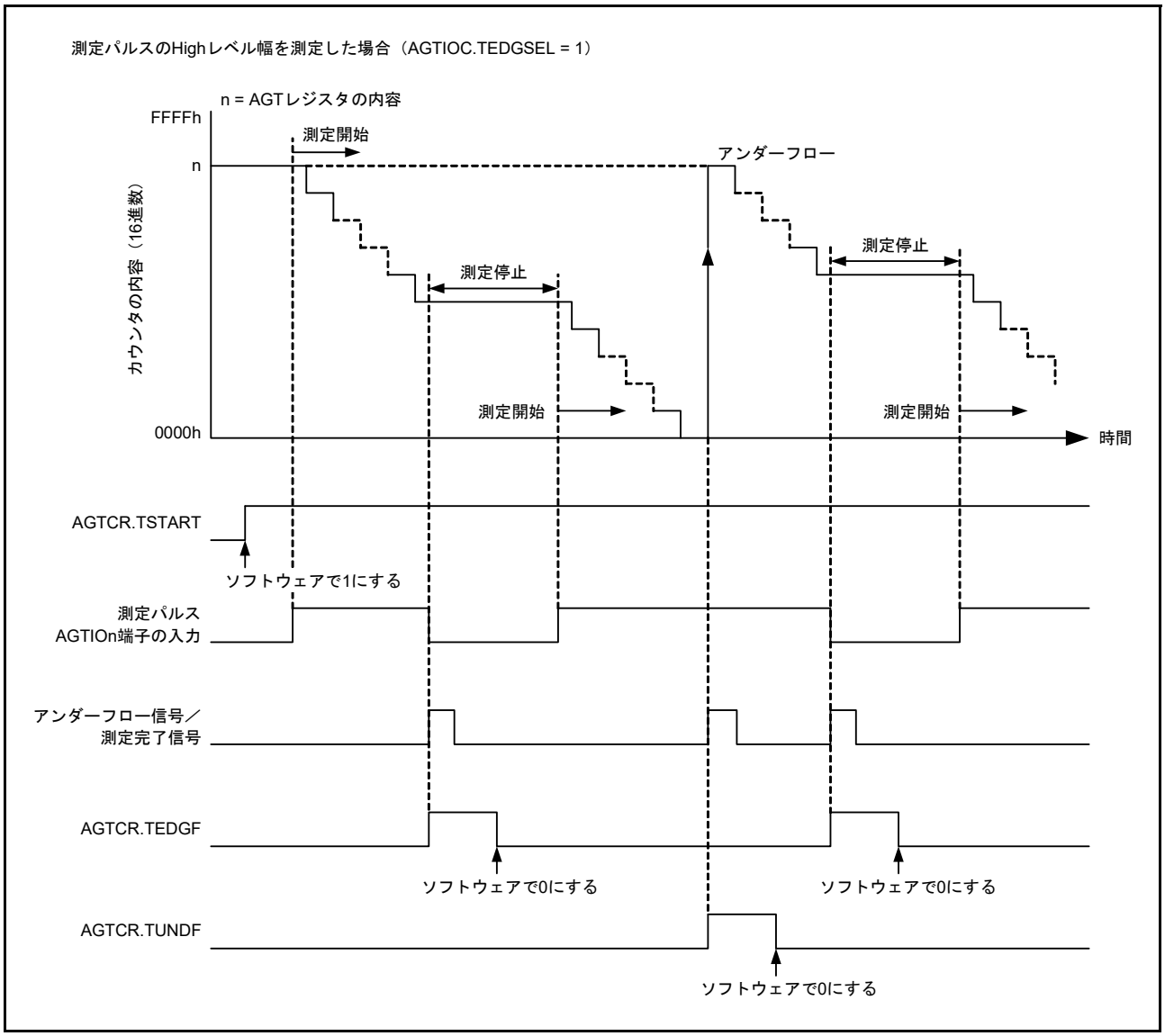


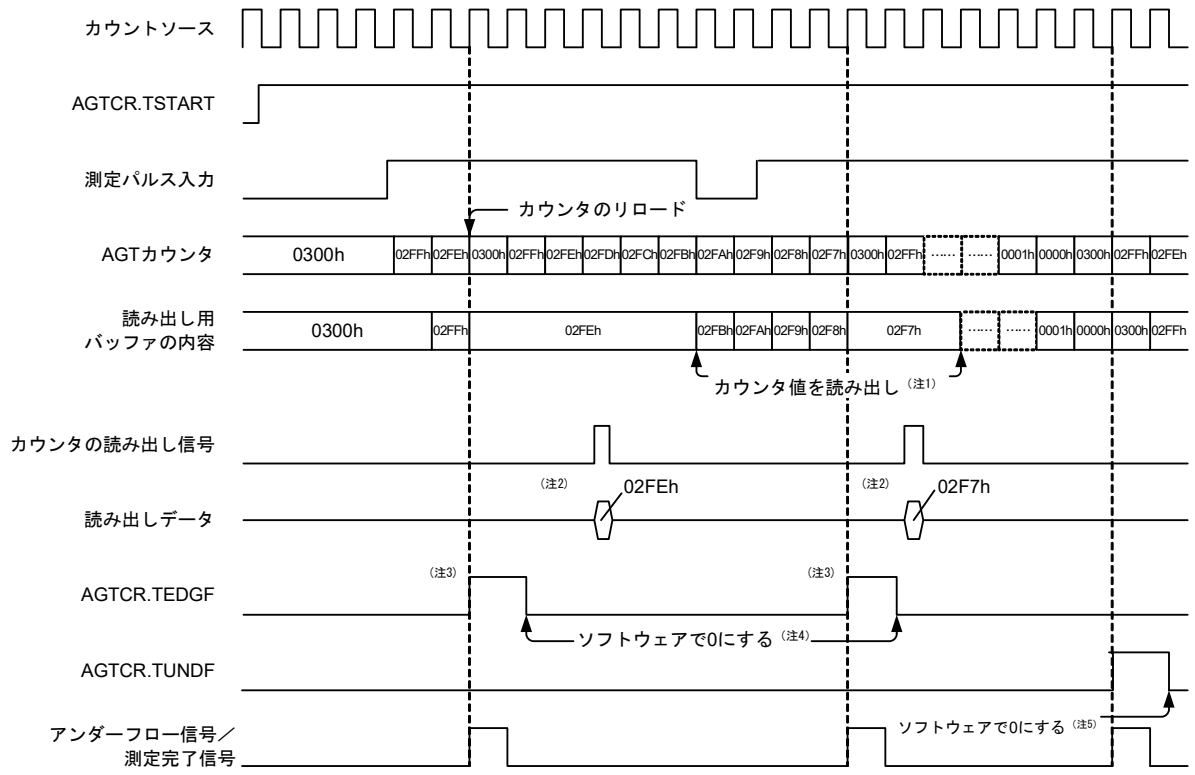
図 25.9　パルス幅測定モードでの動作例

25.3.7　パルス周期測定モード

パルス周期測定モードでは、AGTIOn 端子に入力される外部信号のパルス周期を測定します。カウンタは AGTMR1 レジスタの TCK[2:0] ビットで選択したカウントソースによってデクリメントします。AGTIOC レジスタの TEDGSEL ビットで指定した周期のパルスが AGTIOn 端子に入力されると、カウントソースの立ち上がりエッジでカウント値が読み出しバッファに転送されます。リロードレジスタの値は、次の立ち上がりエッジでカウンタにロードされます。同時に、AGTCR レジスタの TEDGF ビットが 1（アクティブエッジ受信）になり、割り込み要求が発生します。この時点で読み出しバッファ（AGT レジスタ）が読み出され、リロード値（25.4.5　イベント番号、パルス幅、およびパルス周期の計算方法を参照）との差が入力パルスの周期データとなります。この周期データは、読み出しバッファが読み出されるまで保持されます。カウンタがアンダーフローすると、AGTCR レジスタの TUNDF ビットが 1（アンダーフロー）になり、割り込み要求が発生します。

パルス周期測定モードでの動作例を図 25.10 に示します。

カウントソース周期の 2 倍よりも長い周期を持つ入力パルスのみが測定されます。また、Low 幅と High 幅は、両方ともカウントソースの周期より長くなければいけません。これらの条件よりも短いパルス周期が入力されると、その入力は無視される場合があります。



AGT レジスタの初期値を0300h とし、AGTIOC レジスタのTEDGSEL ビットを0 にし、測定パルスの立ち上がりまで測定した場合です。

注 1.　AGT レジスタの読み出しは、TEDGF ビットが 1（有効エッジあり）になってから、次の有効エッジが入力されるまでの期間で行ってください。読み出し用のバッファの内容は、AGT レジスタを読み出すまで保持されます。したがって、有効エッジが入力されるまでに読み出さない場合は、前の周期の測定結果を保持します。

注 2.　パルス周期測定モードで AGT レジスタを読み出すと、読み出し用バッファの内容が読めます。

注 3.　測定パルスの有効エッジ入力後に、外部パルス入力の設定エッジが入力されたとき、AGTCR レジスタの TEDGF ビットが 1（有効エッジあり）になります。

注 4.　ソフトウェアで 0 にするときは、8 ビットメモリ操作命令を用いて AGTCR レジスタの TEDGF ビットに 0 を書いてください。

注 5.　ソフトウェアで 0 にするときは、8 ビットメモリ操作命令を用いて AGTCR レジスタの TUNDF ビットに 0 を書いてください。

図 25.10　パルス周期測定モードでの動作例

25.3.8 コンペアマッチ機能

コンペアマッチ機能は、AGTCMA または AGTCMB レジスタの内容と AGT レジスタの内容の一致（コンペアマッチ）を検出します。この機能は、AGTCMSR レジスタの TCMEA または TCMEB ビットが 1（コンペアマッチ A レジスタまたはコンペアマッチ B レジスタが有効）の場合に有効となります。カウンタは AGTMR1 レジスタの TCK[2:0] ビットで選択したカウントソースによってデクリメントします。AGT の値と AGTCMA または AGTCMB の値が一致した場合、AGTCR レジスタの TCMAF/TCMBF ビットが 1（一致）になり、割り込み要求が発生します。

コンペアマッチ機能が有効の場合、リロードレジスタとカウンタでは、書き替え動作のタイミングが異なります。詳細は、25.3.1 リロードレジスタおよびカウンタの書き換え動作を参照してください。また、AGTOAn および AGTOBn 端子の出力レベルは、一致およびアンダーフローによって反転します。出力レベルは、AGTCMSR レジスタの TOPOLA または TOPOLB ビットで選択できます。

コンペアマッチモードでの動作例を図 25.11 に示します。

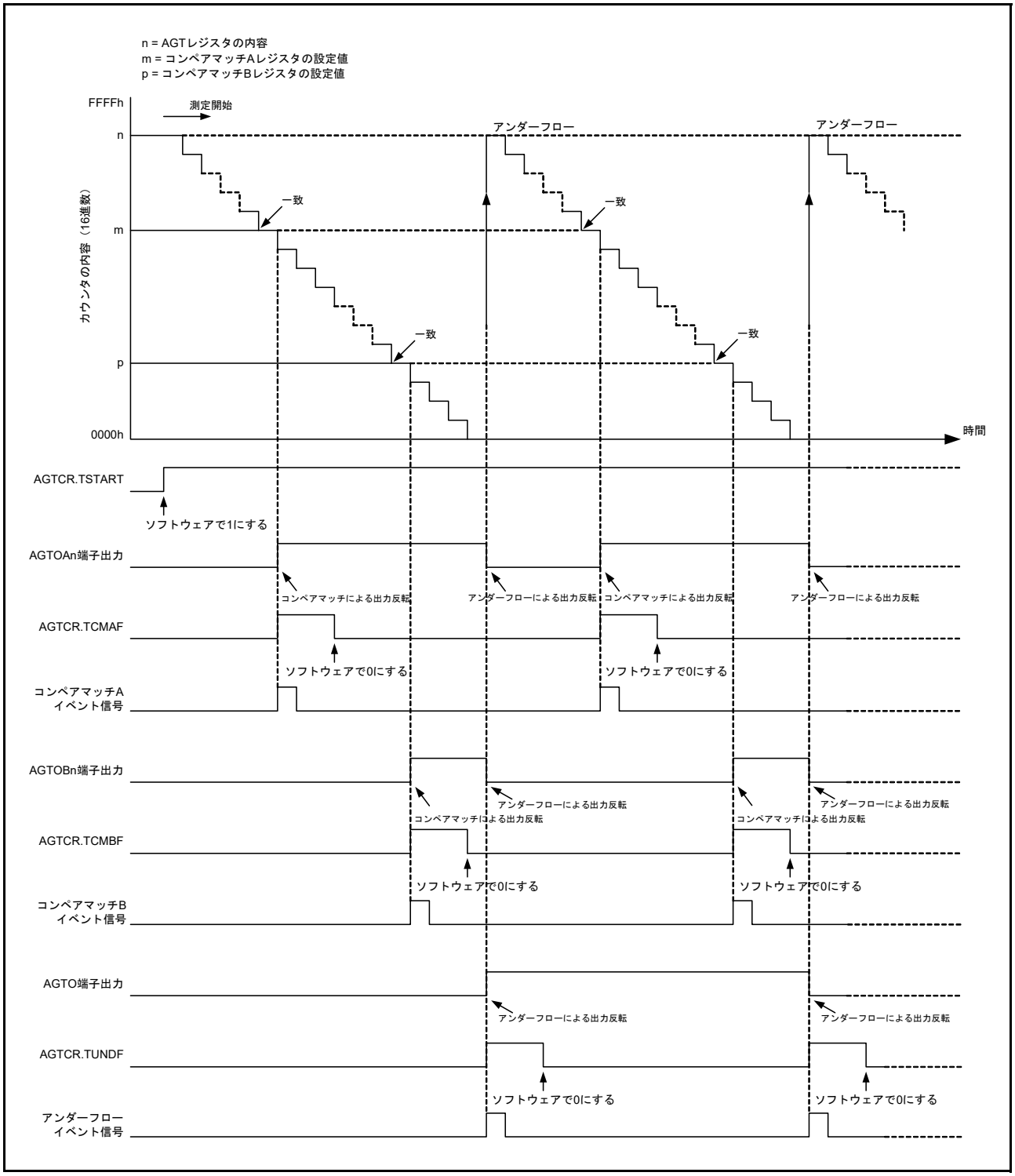


図 25.11　コンペアマッチモードでの動作例（TOPOLA = 0、TOPOLB = 0）

25.3.9　各モードの出力設定

各モードでの AGTOn、AGTIOn、AGTOAn、および AGTOBn 端子の状態を表 25.5 ～表 25.8 に示します。

表 25.5　AGTOn端子の設定

動作モード	AGTIOC レジスタ		AGTOn端子出力
	TOE ビット	TEDGSEL ビット	
全モード	1	1	反転出力
		0	通常出力
	0	0または1	出力禁止

表 25.6　AGTIOn端子の設定

動作モード	AGTIOC レジスタ	AGTIOn端子入出力
	TEDGSEL ビット	
タイマモード	0または1	入力 （使用しない）
パルス出力モード	1	通常出力
	0	反転出力
イベントカウンタモード	0または1	入力
パルス幅測定モード		
パルス周期測定モード		

表 25.7　AGTOAn端子の設定

動作モード	AGTCMSR レジスタ		AGTOAn端子出力
	TOEA ビット	TOPOLA ビット	
タイマモード	1	1	反転出力
		0	通常出力
	0	0または1	出力禁止 （使用しない）
パルス出力モード	1	1	反転出力
		0	通常出力
	0	0または1	出力禁止 （使用しない）
イベントカウンタモード	1	1	反転出力
		0	通常出力
	0	0または1	出力禁止 （使用しない）
パルス幅測定モード	0	0	禁止
パルス周期測定モード			

表 25.8　AGTOBn端子の設定

動作モード	AGTCMSRレジスタ		AGTOBn端子出力
	TOEBビット	TOPOLBビット	
タイマモード	1	1	反転出力
		0	通常出力
	0	0または1	出力禁止 （使用しない）
パルス出力モード	1	1	反転出力
		0	通常出力
	0	0または1	出力禁止 （使用しない）
イベントカウンタモード	1	1	反転出力
		0	通常出力
	0	0または1	出力禁止 （使用しない）
パルス幅測定モード	0	0	禁止
パルス周期測定モード			

25.3.10 スタンバイモード

AGT はソフトウェアスタンバイモードとディープソフトウェアスタンバイモードで動作可能です。カウント動作開始（TSTART = 1 および TCSTF = 1）の状態で、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードに設定してください。

ソフトウェアスタンバイモードとディープソフトウェアスタンバイモードで使用可能な設定を表 25.9 および表 25.10 に示します。

表 25.9 ソフトウェアスタンバイモードとディープソフトウェアスタンバイモードで使用可能な設定（AGT0）

動作モード	AGTMR1 レジスタの TCK[2:0] ビット	動作クロック	CPU の回復要因
タイマモード	100b または 110b	AGTLCLK または AGTSCLK	—
パルス出力モード	100b または 110b	AGTLCLK または AGTSCLK	—
イベントカウンタモード	–（無効）	AGTIOn	—
パルス幅測定モード	100b または 110b	AGTLCLK または AGTSCLK	—
パルス周期測定モード	100b または 110b	AGTLCLK または AGTSCLK	—

表 25.10 ソフトウェアスタンバイモードとディープソフトウェアスタンバイモードで使用可能な設定（AGT1）

動作モード	AGTMR1 レジスタの TCK[2:0] ビット	動作クロック	CPU の回復要因
タイマモード	100b、110b、または 101b（注 1）	AGTLCLK、AGTSCLK、または AGT0 アンダーフロー	• アンダーフロー • コンペアマッチ A/B
パルス出力モード	100b、110b、または 101b（注 1）	AGTLCLK、AGTSCLK、または AGT0 アンダーフロー	• アンダーフロー • コンペアマッチ A/B
イベントカウンタモード	–（無効）	AGTIOn	• アンダーフロー • コンペアマッチ A/B
パルス幅測定モード	100b、110b、または 101b（注 1）	AGTLCLK、AGTSCLK、または AGT0 アンダーフロー	• アンダーフロー • アクティブエッジ
パルス周期測定モード	100b、110b、または 101b（注 1）	AGTLCLK、AGTSCLK、または AGT0 アンダーフロー	• アンダーフロー • アクティブエッジ

注 . ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードの解除は AGT1 のみです。
注 1. AGT0 が表 25.9 に示す状態で動作している場合のみ。

25.3.11 割り込み要因

AGT には、表 25.11 に示すように 3 種類の割り込み要因があります。

表 25.11 AGT の割り込み要因

名称	割り込み要因	DMAC/DTC の起動
AGTn_AGTI	• カウンタがアンダーフローしたとき • 外部入力（AGTIO）のアクティブ幅の測定がパルス幅測定モードで終了したとき • 外部入力（AGTIO）の設定エッジがパルス周期測定モードで入力されたとき	可能
AGTn_AGTCMAI	AGT と AGTCMA の値が一致したとき	可能
AGTn_AGTCMBI	AGT と AGTCMB の値が一致したとき	可能

注 . チャネル番号（n = 0 または 1）

25.3.12 ELC へのイベント信号出力

AGT はイベントリンクコントローラ（ELC）を用いて、割り込み要求信号をイベント信号として使用することにより、指定したモジュールに対してリンク動作が可能です。AGT は、コンペアマッチ A、コンペアマッチ B、およびアンダーフロー／測定完了信号をイベント信号として出力します。詳細は、「19. イベントリンクコントローラ（ELC）」を参照してください。

25.4 使用上の注意事項

25.4.1 カウント動作の開始および停止制御

- 動作モード（表 25.1 参照）がイベントカウンタモード以外に設定されている場合、またはカウントソースが AGT0 アンダーフロー（TCK[2:0] = 101b）以外に設定されている場合：
  - カウント停止中に AGTCR レジスタの TSTART ビットに 1（カウント開始）を書き込んでも、カウントソースの 3 サイクル中は、AGTCR レジスタの TCSTF ビットは 0（カウント停止）のままです。TCSTF ビットが 1（カウント実行中）になるまで、TCSTF ビット以外の AGT 関連レジスタ（注 1）にはアクセスしないでください。
  - カウント動作中に TSTART ビットに 0（カウント停止）を書き込んでも、カウントソースの 3 サイクル中は、TCSTF ビットは 1 のままです。TCSTF ビットが 0 になったとき、カウントが停止します。TCSTF ビットが 0 になるまで、TCSTF ビット以外の AGT 関連レジスタ（注 1）にはアクセスしないでください。
  - TSTART ビットを 0 から 1 に変更する前に、割り込みレジスタをクリアしてください。詳細は、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

注 1. AGT 関連レジスタ：AGT、AGTCMA、AGTCMB、AGTCR、AGTMR1、AGTMR2、AGTIOC、AGTISR、および AGTCMSR

- 動作モード（表 25.1 参照）がイベントカウンタモードに設定されている場合、またはカウントソースが AGT0 アンダーフロー（TCK[2:0] = 101b）に設定されている場合：
  - カウント停止中に AGTCR レジスタの TSTART ビットに 1（カウント開始）を書き込んでも、PCLKB の 2 サイクル中は、AGTCR レジスタの TCSTF ビットは 0（カウント停止）のままです。TCSTF ビットが 1（カウント実行中）になるまで、TCSTF ビット以外の AGT 関連レジスタ（注 1）にはアクセスしないでください。
  - カウント動作中に TSTART ビットに 0（カウント停止）を書き込んでも、PCLKB の 2 サイクル中は、TCSTF ビットは 1 のままです。TCSTF ビットが 0 になったとき、カウントが停止します。TCSTF ビットが 0 になるまで、TCSTF ビット以外の AGT 関連レジスタ（注 1）にはアクセスしないでください。
  - TSTART ビットを 0 から 1 に変更する前に、割り込みレジスタをクリアしてください。詳細は、「14. 割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

注 1. AGT 関連レジスタ：AGT、AGTCMA、AGTCMB、AGTCR、AGTMR1、AGTMR2、AGTIOC、AGTISR、および AGTCMSR

25.4.2 カウンタレジスタへのアクセス

AGTCR レジスタの TSTART および TCSTF ビットがともに 1（カウント開始）の場合、AGT レジスタへ連続して書き込むときの書き込み間隔には、少なくともカウントソースクロックの 3 サイクル分の余裕が必要です。

25.4.3 モード変更時

AGT の動作モードに関連するレジスタ（AGTMR1、AGTMR2、AGTIOC、AGTISR、および AGTCMSR）は、TSTART および TCSTF ビットがともに 0（カウント停止）になって、カウントが停止した場合にのみ変更可能です。カウント動作中は、これらのレジスタを変更しないでください。

AGT の動作モードに関連するレジスタが変更されると、TEDGF、TUNDF、TCMAF、および TCMBF ビットの値は不定となります。カウントを開始する前に、以下のビットに 0 を書き込んでください。

- TEDGF（アクティブエッジ未受信）
- TUNDF（アンダーフローなし）
- TCMAF（不一致）
- TCMBF（不一致）

25.4.4 デジタルフィルタ

デジタルフィルタの使用時に、TIPF[1:0] ビットを設定した後、および AGTIOC レジスタの TEDGSEL ビットを変更した場合は、デジタルフィルタクロックの 5 サイクル内はタイマ動作を開始しないでください。

25.4.5 イベント番号、パルス幅、およびパルス周期の計算方法

- イベントカウントモードでは、イベント番号が以下のように計算されます。
  イベント番号 = カウンタ［AGT レジスタ］の初期値 − アクティブイベント終了のカウンタ値
- パルス幅測定モードでは、パルス幅が以下のように計算されます。
  パルス幅 = 測定停止のカウンタ値 − 次の測定停止のカウンタ値
- パルス周期測定モードでは、入力パルス周期が以下のように計算されます。
  入力パルス周期 =（カウンタ［AGT レジスタ］の初期値 − 読み出しバッファの読み出し値）+ 1

25.4.6 TSTOP ビットで強制的にカウントを停止した場合

AGTCR レジスタの TSTOP ビットでカウンタを強制的に停止した後、カウントソースの 1 サイクル間、下記の I/O レジスタにアクセスしないでください。

- AGT
- AGTCMA
- AGTCMB
- AGTCR
- AGTMR1
- AGTMR2

25.4.7 カウントソースとして AGT0 アンダーフローを選択した場合

カウントソースとして AGT のアンダーフロー信号を選択した場合、以下の手順に従って AGT を操作してください。

(1) 動作開始手順

1. AGT0 および AGT1 を設定します。
2. AGT1 のカウント動作を開始します。
3. AGT0 のカウント動作を開始します。

(2) 動作停止手順

1. AGT0 のカウント動作を停止します。
2. AGT1 のカウント動作を停止します。
3. AGT1 のカウントソースクロックを停止します。（AGT1.AGTMR1.TCK[2:0] ビットに 000b を書き込む）

25.4.8 I/O レジスタのリセット

AGT の I/O レジスタは、異なる種類のリセットでは初期化されません。詳細は、「6. リセット」を参照してください。

25.4.9 カウントソースに PCLKB、PCLKB/8、または PCLKB/2 を選択した場合

リセット発生後、AGT の動作は保証されません。AGT 関連レジスタを再設定してください。

25.4.10 カウントソースに AGTSCLK または AGTLCLK を選択した場合

MSTPCRD レジスタの MSTPD2 ビットは、AGT1 レジスタにアクセスする場合を除き、1 にする必要があります。MSTPCRD レジスタの MSTPD3 ビットは、AGT0 レジスタにアクセスする場合を除き、1 にする必要があります。MSTPD2 ビットまたは MSTPD3 ビットが 0 の状態でリセットが発生した場合、AGT1 または AGT0 の動作は保証されません。AGT 関連レジスタを再設定してください。

25.4.11 クロックソースを切り替える場合

SCKSCR.CKSEL[2:0] ビットを使用してクロックソースを切り替えた場合、セレクタからのクロック出力は切り替えたクロックの 4 サイクルの間停止します。したがって、AGTIOn、AGTEEn、もしくは両方の入力端子を外部イベント入力として使用する場合、クロックソースの切り替えはしないでください。外部イベント入力の使用中にクロックソースを切り替える場合、入力パルス幅を、切り替えたクロックソースの 4 サイクル分延長してください。

26.　リアルタイムクロック（RTC）

26.1　概要

RTC には、カレンダカウントモードとバイナリカウントモードの 2 種類のカウントモードがあり、レジスタ設定を切り替えることで使用します。カレンダカウントモードは、2000 年から 2099 年の 100 年間を、うるう年を自動で判定してカウントするモードです。バイナリカウントモードでは、RTC は秒をカウントし、その情報をシリアル値として保持します。バイナリカウントモードは、西暦以外のカレンダに利用可能です。

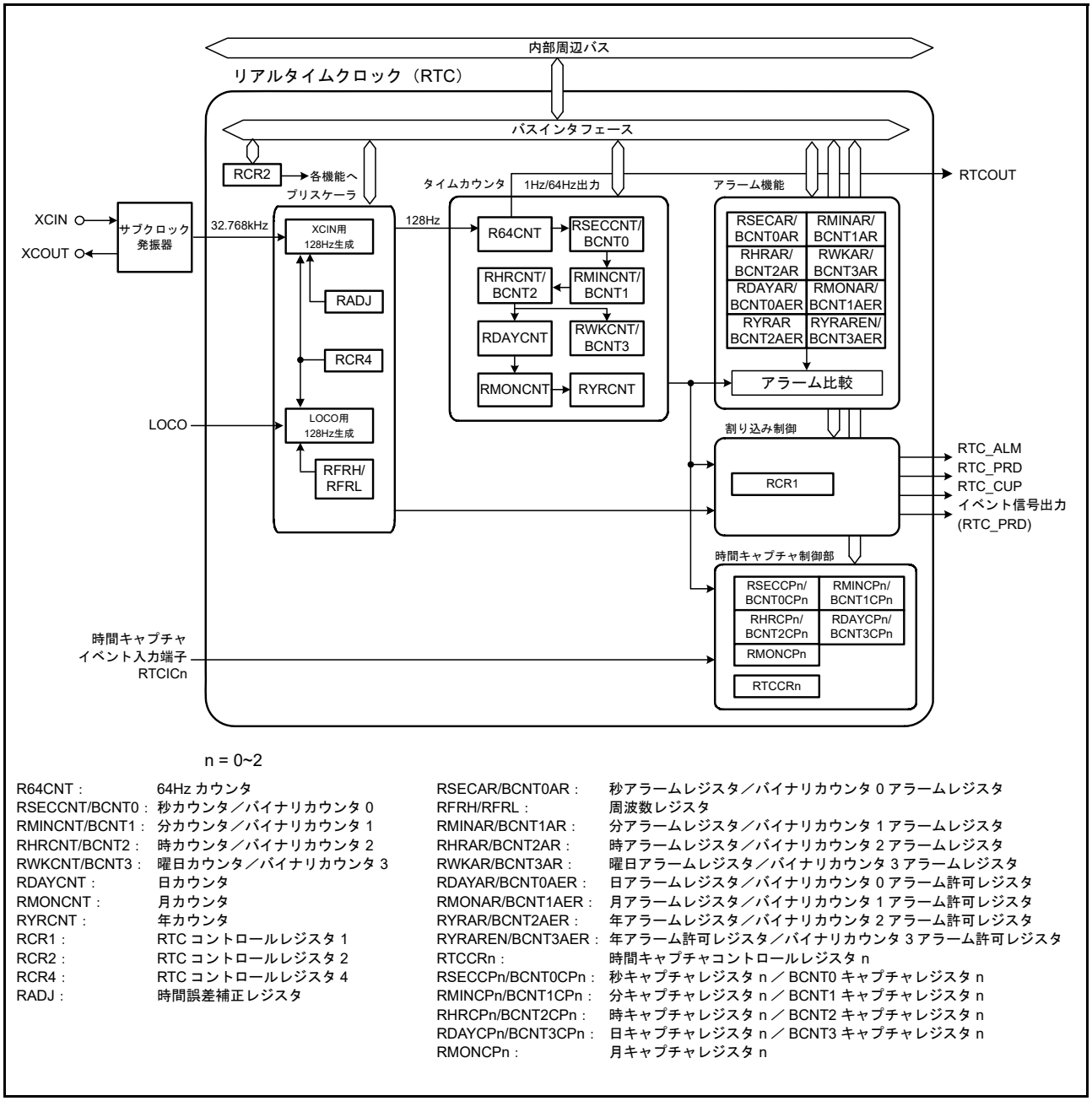
時計カウンタのカウントソースとして、サブクロック発振器または LOCO を選択できます。RTC は、カウントソースをプリスケーラで分周して得られた 128Hz クロックを使用します。年、月、日、曜日、午前／午後（12 時間モード時）、時、分、秒、または 32 ビットバイナリを 1/128 秒単位でカウントします。

表 26.1 に RTC の仕様を、図 26.1 にブロック図を、表 26.2 に入出力端子を示します。

表 26.1　RTCの仕様

項目	内容
カウントモード	カレンダカウントモード／バイナリカウントモード
カウントソース（注1）	サブクロック発振器（XCIN）またはLOCO
時計／カレンダ機能	• カレンダカウントモード 年、月、日、曜日、時、分、秒をカウント、BCD表示 12時間／24時間モード切り替え機能 30秒調整機能（30秒未満は00秒に切り捨て、30秒以上は1分に切り上げ） うるう年自動補正機能 • バイナリカウントモード 秒を32ビットでカウント、バイナリ表示 • 両モード共通 スタート／ストップ機能 秒以下の桁のバイナリ表示（1Hz、2Hz、4Hz、8Hz、16Hz、32Hz、64Hz） 時計誤差補正機能 クロック（1Hz/64Hz）出力
割り込み	• アラーム割り込み（RTC_ALM） アラーム割り込み条件として、比較対象を下記から選択可能 カレンダカウントモード：年、月、日、曜日、時、分、秒 バイナリカウントモード：32ビットバイナリカウンタの各ビット • 周期割り込み（RTC_PRD） 割り込み周期として、2秒、1秒、1/2秒、1/4秒、1/8秒、1/16秒、1/32秒、1/64秒、1/128秒、1/256秒から選択可能 • 桁上げ割り込み（RTC_CUP） 次のいずれかの条件で割り込み発生 • 64Hzカウンタから秒カウンタへ桁上げが生じたとき • 64Hzカウンタの変化とR64CNTレジスタの読み出しタイミングが重なったとき • アラーム割り込みまたは周期割り込みによる、ソフトウェアスタンバイモードまたはディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰が可能
時間キャプチャ機能	• 時間キャプチャイベント入力端子のエッジ検出時に、時間のキャプチャが可能 イベント入力ごとに、月、日、時、分、および秒をキャプチャ、または32ビットバイナリカウンタ値をキャプチャ
イベントリンク機能	周期イベント出力（RTC_PRD）

注 1.　周辺モジュールクロック（PCLKB）周波数≧カウントソースクロック周波数とする必要があります。



n = 0~2

R64CNT： 64Hz カウンタ
RSECCNT/BCNT0： 秒カウンタ／バイナリカウンタ 0
RMINCNT/BCNT1： 分カウンタ／バイナリカウンタ 1
RHRCNT/BCNT2： 時カウンタ／バイナリカウンタ 2
RWKCNT/BCNT3： 曜日カウンタ／バイナリカウンタ 3
RDAYCNT： 日カウンタ
RMONCNT： 月カウンタ
RYRCNT： 年カウンタ
RCR1： RTC コントロールレジスタ 1
RCR2： RTC コントロールレジスタ 2
RCR4： RTC コントロールレジスタ 4
RADJ： 時間誤差補正レジスタ

RSECAR/BCNT0AR： 秒アラームレジスタ／バイナリカウンタ 0 アラームレジスタ
RFRH/RFRL： 周波数レジスタ
RMINAR/BCNT1AR： 分アラームレジスタ／バイナリカウンタ 1 アラームレジスタ
RHRAR/BCNT2AR： 時アラームレジスタ／バイナリカウンタ 2 アラームレジスタ
RWKAR/BCNT3AR： 曜日アラームレジスタ／バイナリカウンタ 3 アラームレジスタ
RDAYAR/BCNT0AER： 日アラームレジスタ／バイナリカウンタ 0 アラーム許可レジスタ
RMONAR/BCNT1AER： 月アラームレジスタ／バイナリカウンタ 1 アラーム許可レジスタ
RYRAR/BCNT2AER： 年アラームレジスタ／バイナリカウンタ 2 アラーム許可レジスタ
RYRAREN/BCNT3AER： 年アラーム許可レジスタ／バイナリカウンタ 3 アラーム許可レジスタ
RTCCRn： 時間キャプチャコントロールレジスタ n
RSECCPn/BCNT0CPn： 秒キャプチャレジスタ n ／ BCNT0 キャプチャレジスタ n
RMINCPn/BCNT1CPn： 分キャプチャレジスタ n ／ BCNT1 キャプチャレジスタ n
RHRCPn/BCNT2CPn： 時キャプチャレジスタ n ／ BCNT2 キャプチャレジスタ n
RDAYCPn/BCNT3CPn： 日キャプチャレジスタ n ／ BCNT3 キャプチャレジスタ n
RMONCPn： 月キャプチャレジスタ n

図 26.1　　RTC のブロック図

表 26.2　　RTC の入出力端子

端子名	入出力	機能
XCIN	入力	32.768kHzの水晶振動子を接続します。
XCOUT	出力	
RTCOUT	出力	1Hz/64Hzの波形出力に使用します。ただし、ディープソフトウェアスタンバイモード時には出力しません。
RTCIC0	入力	時間キャプチャイベント入力端子です。 RTCIC0～RTCIC2は、VBTICTLRレジスタで制御できます。 詳細については、「12.　バッテリバックアップ機能」と「20.　I/Oポート」を参照してください。
RTCIC1	入力	
RTCIC2	入力	

26.2　レジスタの説明

RTC レジスタの書き込み／読み出しは、26.6.5　レジスタの書き込み／読み出し時の注意事項に従って行ってください。

RTC レジスタのビットで、リセット後の値が x（不定）のビットは、リセットでは初期化されません。カウント動作時（たとえば RCR2.START ビットが 1 のとき）に、RTC がリセット状態または低消費電力状態へ遷移した場合、年／月／曜日／日／時／分／秒／ 64Hz カウンタは動作を継続します。

注 .　レジスタへの書き込み中にリセットが発生すると、レジスタ値が破壊される可能性があります。また、レジスタ設定直後にソフトウェアスタンバイモードやディープソフトウェアスタンバイモードへ遷移しないでください。詳細は、26.6.4　レジスタ設定後の低消費電力モードへの遷移についてを参照してください。

26.2.1　64Hz カウンタ（R64CNT）

アドレス　RTC.R64CNT 4004 4000h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	F1HZ	F2HZ	F4HZ	F8HZ	F16HZ	F32HZ	F64HZ
リセット後の値	0	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	F64HZ	64Hz	秒以下の桁の 1Hz～64Hz の状態を示します。	R
b1	F32HZ	32Hz		R
b2	F16HZ	16Hz		R
b3	F8HZ	8Hz		R
b4	F4HZ	4Hz		R
b5	F2HZ	2Hz		R
b6	F1HZ	1Hz		R
b7	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。	R

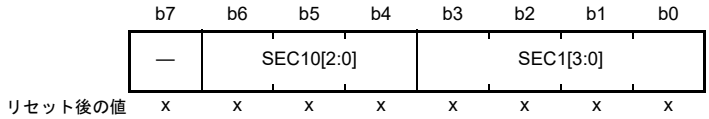
R64CNT カウンタは、カレンダカウントモード／バイナリカウントモード共通で使用します。64Hz カウンタ（R64CNT）は、128Hz クロックでアップカウントするカウンタで、秒周期を生成します。このカウンタを読み出すことで、秒以下の領域の状態を確認できます。

RTC ソフトウェアリセットまたは 30 秒調整により 00h にクリアされます。このカウンタを読み出す際は、26.3.5　64Hz カウンタと時刻の読み出しに示す手順に従ってください。

26.2.2　秒カウンタ（RSECCNT）／バイナリカウンタ 0（BCNT0）

(1)　カレンダカウントモード時

アドレス　RTC.RSECCNT 4004 4002h



x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	SEC1[3:0]	1秒カウント	1秒ごとに0から9までカウントします。桁上げが生じると、十の位が+1されます。	R/W
b6-b4	SEC10[2:0]	10秒カウント	0から5までカウントして、60秒カウントを行います。	R/W
b7	—	予約ビット	0を設定してください。読むと設定値が読めます。	R/W

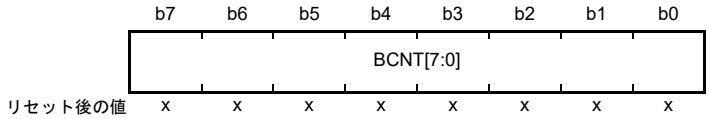
RSECCNT カウンタは、BCD コード化された秒の値の設定およびカウントに用いられます。64Hz カウンタの 1 秒ごとの桁上げによってカウント動作を行います。

設定可能範囲は 10 進で 00 ～ 59 です。これ以外の値が設定されると、RTC は正常に動作しません。このレジスタへ書き込む際は、必ず事前に RCR2 の START ビットでカウント動作を停止させてください。

このカウンタを読み出す際は、26.3.5　64Hz カウンタと時刻の読み出しに示す手順に従ってください。

(2)　バイナリカウントモード時

アドレス　RTC.BCNT0 4004 4002h



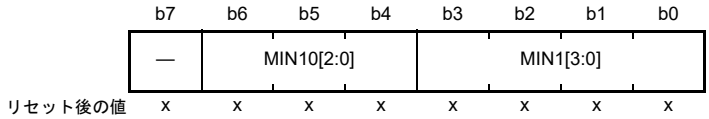
x：不定

BCNT0 は、書き込み／読み出し可能な 32 ビットバイナリカウンタの b7 ～ b0 で、64Hz カウンタの 1 秒ごとの桁上げによってカウント動作を行います。このレジスタへ書き込む際は、必ず事前に RCR2 の START ビットでカウント動作を停止させてください。このカウンタを読み出す際は、26.3.5　64Hz カウンタと時刻の読み出しに示す手順に従ってください。

26.2.3　分カウンタ（RMINCNT）／バイナリカウンタ 1（BCNT1）

(1)　カレンダカウントモード時

アドレス　RTC.RMINCNT 4004 4004h



x：不定

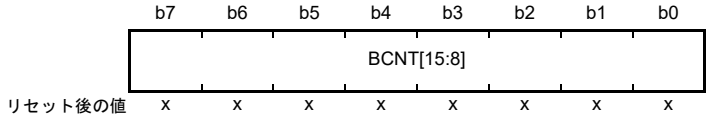
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	MIN1[3:0]	1分カウント	1分ごとに0から9までカウントします。桁上げが生じると、十の位が+1されます。	R/W
b6-b4	MIN10[2:0]	10分カウント	0から5までカウントして、60分カウントを行います。	R/W
b7	—	予約ビット	0を設定してください。読むと設定値が読めます。	R/W

RMINCNT カウンタは、BCD コード化された分の値の設定およびカウントに用いられます。秒カウンタの 1 分ごとの桁上げによってカウント動作を行います。

設定可能範囲は 10 進（BCD）で 00 ～ 59 です。この範囲にない値が設定されると、RTC は正常に動作しません。このレジスタへ書き込む際は、必ず事前に RCR2 の START ビットでカウント動作を停止させてください。このカウンタを読み出す際は、26.3.5　64Hz カウンタと時刻の読み出しに示す手順に従ってください。

(2)　バイナリカウントモード時

アドレス　RTC.BCNT1 4004 4004h



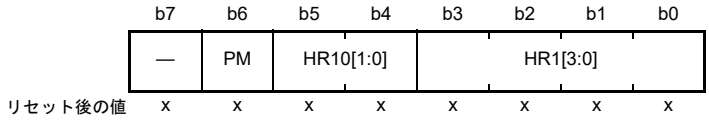
x：不定

BCNT1 は、書き込み／読み出し可能な 32 ビットバイナリカウンタの b15 ～ b8 で、64Hz カウンタの 1 秒ごとの桁上げによってカウント動作を行います。このレジスタへ書き込む際は、必ず事前に RCR2 の START ビットでカウント動作を停止させてください。このカウンタを読み出す際は、26.3.5　64Hz カウンタと時刻の読み出しに示す手順に従ってください。

26.2.4　時カウンタ（RHRCNT）／バイナリカウンタ 2（BCNT2）

(1)　カレンダカウントモード時

アドレス　RTC.RHRCNT 4004 4006h



x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	HR1[3:0]	1時間カウント	1時間に1回、0から9までカウントします。桁上げが生じると、十の位が+1されます。	R/W
b5-b4	HR10[1:0]	10時間カウント	一の位からの桁上げごとに1回、0から2までカウントします。	R/W
b6	PM	PM	時計カウンタのAM/PMの設定 0：AM 1：PM	R/W
b7	—	予約ビット	0を設定してください。読むと設定値が読めます。	R/W

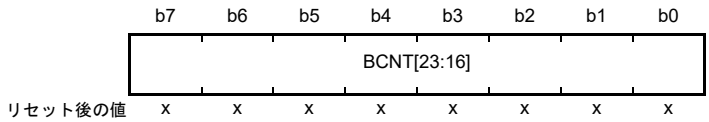
RHRCNT カウンタは、BCD コード化された時間の値の設定およびカウントに用いられます。分カウンタの 1 時間ごとの桁上げによってカウント動作を行います。設定可能範囲は、時間モードビット（RCR2.HR24）の設定値に応じて以下のように異なります。

- RCR2.HR24 ビットが 0 の場合：00 ～ 11（BCD）
- RCR2.HR24 ビットが 1 の場合：00 ～ 23（BCD）

この範囲にない値が設定されると、RTC は正常に動作しません。このレジスタへ書き込む際は、必ず事前に RCR2 の START ビットでカウント動作を停止させてください。PM ビットは、RCR2.HR24 ビットが 0 の場合にのみ有効です。それ以外では、PM ビットの値は無効です。このカウンタを読み出す際は、26.3.5 64Hz カウンタと時刻の読み出しに示す手順に従ってください。

(2)　バイナリカウントモード時

アドレス　RTC.BCNT2 4004 4006h



x：不定

BCNT2 は、書き込み／読み出し可能な 32 ビットバイナリカウンタの b23 ～ b16 で、64Hz カウンタの 1 秒ごとの桁上げによってカウント動作を行います。このレジスタへ書き込む際は、必ず事前に RCR2 の START ビットでカウント動作を停止させてください。このカウンタを読み出す際は、26.3.5　64Hz カウンタと時刻の読み出しに示す手順に従ってください。

26.2.5　曜日カウンタ（RWKCNT）／バイナリカウンタ 3（BCNT3）

(1)　カレンダカウントモード時

アドレス　RTC.RWKCNT 4004 4008h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	DAYW[2:0]		
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	DAYW[2:0]	曜日カウント	b2 b1 b0 0 0 0：日 0 0 1：月 0 1 0：火 0 1 1：水 1 0 0：木 1 0 1：金 1 1 0：土 1 1 1：設定禁止	R/W
b7-b3	—	予約ビット	0を設定してください。読むと設定値が読めます。	R/W

RWKCNT カウンタは、コード化された曜日の値の設定およびカウントに用いられます。時カウンタの 1 日ごとの桁上げによってカウント動作を行います。設定可能範囲は 0 ～ 6 です。この範囲にない値が設定されると、RTC は正常に動作しません。このレジスタへ書き込む際は、必ず事前に RCR2 の START ビットでカウント動作を停止させてください。このカウンタを読み出す際は、26.3.5　64Hz カウンタと時刻の読み出しに示す手順に従ってください。

(2)　バイナリカウントモード時

アドレス　RTC.BCNT3 4004 4008h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	BCNT[31:24]							
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

BCNT3 は、書き込み／読み出し可能な 32 ビットバイナリカウンタの b31 ～ b24 で、64Hz カウンタの 1 秒ごとの桁上げによってカウント動作を行います。このレジスタへ書き込む際は、必ず事前に RCR2 の START ビットでカウント動作を停止させてください。このカウンタを読み出す際は、26.3.5　64Hz カウンタと時刻の読み出しに示す手順に従ってください。

26.2.6　日カウンタ（RDAYCNT）

アドレス　RTC.RDAYCNT 4004 400Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	DATE10[1:0]		DATE1[3:0]			
リセット後の値	0	0	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	DATE1[3:0]	1日カウント	1日に1回、0から9までカウントします。桁上げが生じると、十の位が+1されます。	R/W
b5-b4	DATE10[1:0]	10日カウント	一の位からの桁上げごとに1回、0から3までカウントします。	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

RDAYCNT カウンタは、カレンダカウントモード時に使用され、BCD コード化された日の値を設定およびカウントします。時カウンタの 1 日ごとの桁上げによってカウント動作を行います。カウント動作は、月によっても、うるう年か否かによっても異なります。うるう年は、年カウンタ（RYRCNT）の値が 400、100、および 4 で割り切れるか否かで判定されます。

設定可能範囲は 10 進（BCD）で 01 ～ 31 です。この範囲にない値が設定されると、RTC は正常に動作しません。値を設定する際は、指定可能な日数範囲が月によっても、うるう年か否かによっても異なるので注意してください。このレジスタへ書き込む際は、必ず事前に RCR2 の START ビットでカウント動作を停止させてください。このカウンタを読み出す際は、26.3.5　64Hz カウンタと時刻の読み出しに示す手順に従ってください。

26.2.7　月カウンタ（RMONCNT）

アドレス　RTC.RMONCNT 4004 400Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	MON10	MON1[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	MON1[3:0]	1月カウント	1月に1回、0から9までカウントします。桁上げが生じると、十の位が+1されます。	R/W
b4	MON10	10月カウント	一の位からの桁上げごとに1回、0から1までカウントします。	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

RMONCNT カウンタは、カレンダカウントモード時に使用され、BCD コード化された月の値を設定およびカウントします。日カウンタの 1 月ごとの桁上げによってカウント動作を行います。

設定可能範囲は 10 進（BCD）で 01 ～ 12 です。この範囲にない値が設定されると、RTC は正常に動作しません。このレジスタへ書き込む際は、必ず事前に RCR2 の START ビットでカウント動作を停止させてください。このカウンタを読み出す際は、26.3.5　64Hz カウンタと時刻の読み出しに示す手順に従ってください。

26.2.8　年カウンタ（RYRCNT）

アドレス　RTC.RYRCNT 4004 400Eh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	YR10[3:0]				YR1[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	YR1[3:0]	1年カウント	1年に1回、0から9までカウントします。桁上げが生じると、十の位が+1されます。	R/W
b7-b4	YR10[3:0]	10年カウント	一の位からの桁上げごとに1回、0から9までカウントします。 十の位に桁上げが生じると、百の位が+1されます。	R/W
b15-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

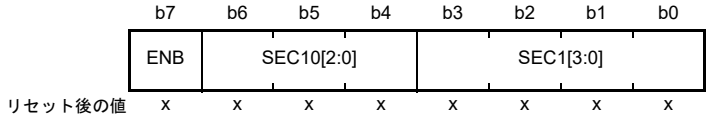
RYRCNTカウンタは、カレンダカウントモード時に使用され、BCDコード化された年の値を設定およびカウントします。月カウンタの1年ごとの桁上げによってカウント動作を行います。

設定可能範囲は10進（BCD）で00～99です。この範囲にない値が設定されると、RTCは正常に動作しません。このレジスタへ書き込む際は、必ず事前にRCR2のSTARTビットでカウント動作を停止させてください。このカウンタを読み出す際は、26.3.5　64Hzカウンタと時刻の読み出しに示す手順に従ってください。

26.2.9 秒アラームレジスタ（RSECAR）／バイナリカウンタ 0 アラームレジスタ（BCNT0AR）

(1) カレンダカウントモード時

アドレス RTC.RSECAR 4004 4010h



x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	SEC1[3:0]	1秒	一秒の位の設定値	R/W
b6-b4	SEC10[2:0]	10秒	十秒の位の設定値	R/W
b7	ENB	ENB	0：このレジスタ値とRSECCNTカウンタ値の比較を行わない 1：このレジスタ値とRSECCNTカウンタ値の比較を行う	R/W

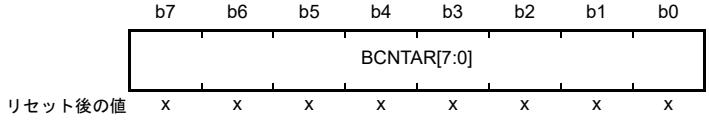
RSECAR レジスタは、BCD コード化された秒カウンタ（RSECCNT）に対応するアラームレジスタです。ENB ビットが 1 であれば、RSECAR レジスタ値が RSECCNT カウンタ値と比較されます。以下のアラームレジスタのうち、ENB ビットが 1 になっているものだけが、対応するカウンタと比較されます。

- RSECAR
- RMINAR
- RHRAR
- RWKAR
- RDAYAR
- RMONAR
- RYRAREN

それぞれの値がすべて一致すると、RTC_ALM 割り込みに対応した IR フラグが 1 になります。RSECAR レジスタの設定可能範囲は、10 進（BCD）で 00 ～ 59 です。この範囲にない値が設定されると、RTC は正常に動作しません。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT0AR 4004 4010h



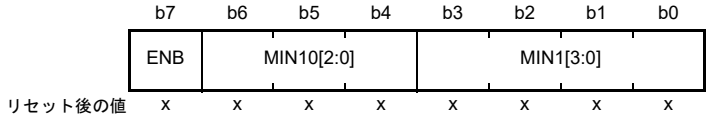
x：不定

BCNT0AR は、32 ビットバイナリカウンタの b7 ～ b0 に対応する書き込み／読み出し可能なアラームレジスタです。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。

26.2.10 分アラームレジスタ（RMINAR）／バイナリカウンタ 1 アラームレジスタ（BCNT1AR）

(1) カレンダカウントモード時

アドレス RTC.RMINAR 4004 4012h



x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	MIN1[3:0]	1分	一分の位の設定値	R/W
b6-b4	MIN10[2:0]	10分	十分の位の設定値	R/W
b7	ENB	ENB	0：このレジスタ値とRMINCNTカウンタ値の比較を行わない 1：このレジスタ値とRMINCNTカウンタ値の比較を行う	R/W

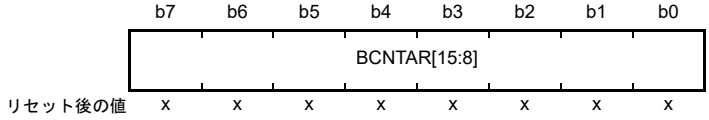
RMINAR レジスタは、BCD コード化された分カウンタ（RMINCNT）に対応するアラームレジスタです。ENB ビットが 1 であれば、RMINAR レジスタ値が RMINCNT カウンタ値と比較されます。以下のアラームレジスタのうち、ENB ビットが 1 になっているものだけが、対応するカウンタと比較されます。

- RSECAR
- RMINAR
- RHRAR
- RWKAR
- RDAYAR
- RMONAR
- RYRAREN

それぞれの値がすべて一致すると、RTC_ALM 割り込みに対応した IR フラグが 1 になります。RMINAR レジスタの設定可能範囲は、10 進（BCD）で 00 ～ 59 です。この範囲にない値が設定されると、RTC は正常に動作しません。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT1AR 4004 4012h



x：不定

BCNT1AR は、32 ビットバイナリカウンタの b15 ～ b8 に対応する書き込み／読み出し可能なアラームレジスタです。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。

26.2.11 時アラームレジスタ（RHRAR）／バイナリカウンタ 2 アラームレジスタ（BCNT2AR）

(1) カレンダカウントモード時

アドレス RTC.RHRAR 4004 4014h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ENB	PM	HR10[1:0]		HR1[3:0]			
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	HR1[3:0]	1時間	一時間の位の設定値	R/W
b5-b4	HR10[1:0]	10時間	十時間の位の設定値	R/W
b6	PM	PM	時計アラームの設定 0：AM 1：PM	R/W
b7	ENB	ENB	0：このレジスタ値とRHRCNTカウンタ値の比較を行わない 1：このレジスタ値とRHRCNTカウンタ値の比較を行う	R/W

RHRAR レジスタは、BCD コード化された時カウンタ（RHRCNT）に対応するアラームレジスタです。ENB ビットが 1 であれば、RHRAR レジスタ値が RHRCNT カウンタ値と比較されます。以下のアラームレジスタのうち、ENB ビットが 1 になっているものだけが、対応するカウンタと比較されます。

- RSECAR
- RMINAR
- RHRAR
- RWKAR
- RDAYAR
- RMONAR
- RYRAREN

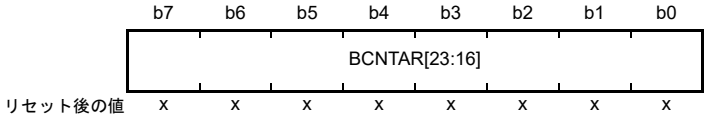
それぞれの値がすべて一致すると、RTC_ALM 割り込みに対応した IR フラグが 1 になります。設定可能範囲は、時間モードビット（RCR2.HR24）の設定値に応じて以下のように異なります。

- RCR2.HR24 ビットが 0 の場合：00 ～ 11（BCD）
- RCR2.HR24 ビットが 1 の場合：00 ～ 23（BCD）

この範囲にない値が設定されると、RTC は正常に動作しません。RCR2.HR24 ビットが 0 の場合、必ず PM ビットを設定してください。RCR2.HR24 ビットが 1 の場合、PM ビットの設定は無効です。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT2AR 4004 4014h



x：不定

BCNT2AR は、32 ビットバイナリカウンタの b23 ～ b16 に対応する書き込み／読み出し可能なアラームレジスタです。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。

26.2.12 曜日アラームレジスタ（RWKAR）／バイナリカウンタ 3 アラームレジスタ（BCNT3AR）

(1) カレンダカウントモード時

アドレス RTC.RWKAR 4004 4016h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ENB	—	—	—	—	DAYW[2:0]		
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	DAYW[2:0]	曜日設定	b2 b0 0 0 0：日 0 0 1：月 0 1 0：火 0 1 1：水 1 0 0：木 1 0 1：金 1 1 0：土 1 1 1：設定禁止	R/W
b6-b3	—	予約ビット	0を設定してください。読むと設定値が読めます。	R/W
b7	ENB	ENB	0：このレジスタ値とRWKCNTカウンタ値の比較を行わない 1：このレジスタ値とRWKCNTカウンタ値の比較を行う	R/W

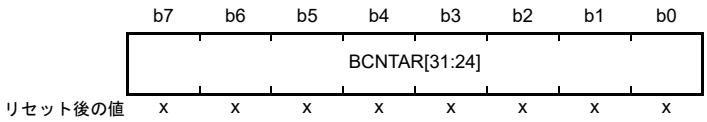
RWKAR レジスタは、コード化された曜日カウンタ（RWKCNT）に対応するアラームレジスタです。ENB ビットが 1 であれば、RWKAR レジスタ値が RWKCNT カウンタ値と比較されます。以下のアラームレジスタのうち、ENB ビットが 1 になっているものだけが、対応するカウンタと比較されます。

- RSECAR
- RMINAR
- RHRAR
- RWKAR
- RDAYAR
- RMONAR
- RYRAREN

それぞれの値がすべて一致すると、RTC_ALM 割り込みに対応した IR フラグが 1 になります。RWKAR レジスタの設定可能範囲は、10 進（BCD）で 0 ～ 6 です。この範囲にない値が設定されると、RTC は正常に動作しません。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT3AR 4004 4016h



x：不定

BCNT3AR は、32 ビットバイナリカウンタの b31 ～ b24 に対応する書き込み／読み出し可能なアラームレジスタです。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。

26.2.13 日アラームレジスタ（RDAYAR）／バイナリカウンタ 0 アラームイネーブルレジスタ（BCNT0AER）

(1) カレンダカウントモード時

アドレス RTC.RDAYAR 4004 4018h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ENB	—	DATE10[1:0]		DATE1[3:0]			
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	DATE1[3:0]	1日	一日の位の設定値	R/W
b5-b4	DATE10[1:0]	10日	十日の位の設定値	R/W
b6	—	予約ビット	0を設定してください。読むと設定値が読めます。	R/W
b7	ENB	ENB	0：このレジスタ値とRDAYCNTカウンタ値の比較を行わない 1：このレジスタ値とRDAYCNTカウンタ値の比較を行う	R/W

RDAYAR レジスタは、BCD コード化された日カウンタ（RDAYCNT）に対応するアラームレジスタです。ENB ビットが 1 であれば、RDAYAR レジスタ値が RDAYCNT カウンタ値と比較されます。以下のアラームレジスタのうち、ENB ビットが 1 になっているものだけが、対応するカウンタと比較されます。

- RSECAR
- RMINAR
- RHRAR
- RWKAR
- RDAYAR
- RMONAR
- RYRAREN

それぞれの値がすべて一致すると、RTC_ALM 割り込みに対応した IR フラグが 1 になります。RDAYAR レジスタの設定可能範囲は、10 進（BCD）で 01 ～ 31 です。この範囲にない値が設定されると、RTC は正常に動作しません。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT0AER 4004 4018h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ENB[7:0]							
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

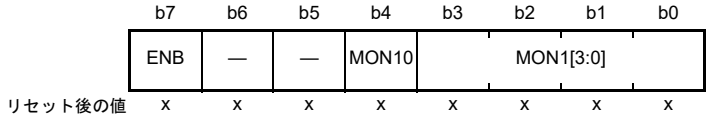
x：不定

BCNT0AER レジスタは、32 ビットバイナリカウンタの b7 ～ b0 に対応する書き込み／読み出し可能なアラーム許可設定に用いられます。ENB[31:0] ビットのうち、1 になっているビットに対応するバイナリカウンタ（BCNT[31:0]）とバイナリアラームレジスタ（BCNTAR[31:0]）を比較して、すべてが一致すると、RTC_ALM 割り込みに対応した IR フラグが 1 になります。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。

26.2.14　月アラームレジスタ（RMONAR）／バイナリカウンタ 1 アラームイネーブルレジスタ（BCNT1AER）

(1)　カレンダカウントモード時

アドレス　RTC.RMONAR 4004 401Ah



x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	MON1[3:0]	1 月	一月の位の設定値	R/W
b4	MON10	10 月	十月の位の設定値	R/W
b6-b5	—	予約ビット	0 を設定してください。読むと設定値が読めます。	R/W
b7	ENB	ENB	0：このレジスタ値と RMONCNT カウンタ値の比較を行わない 1：このレジスタ値と RMONCNT カウンタ値の比較を行う	R/W

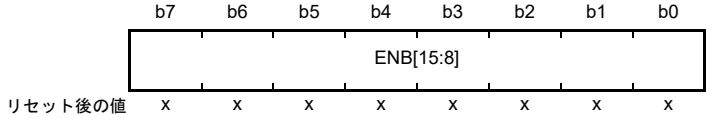
RMONAR レジスタは、BCD コード化された月カウンタ（RMONCNT）に対応するアラームレジスタです。ENB ビットが 1 であれば、RMONAR レジスタ値が RMONCNT カウンタ値と比較されます。以下のアラームレジスタのうち、ENB ビットが 1 になっているものだけが、対応するカウンタと比較されます。

- RSECAR
- RMINAR
- RHRAR
- RWKAR
- RDAYAR
- RMONAR
- RYRAREN

それぞれの値がすべて一致すると、RTC_ALM 割り込みに対応した IR フラグが 1 になります。RMONAR レジスタの設定可能範囲は、10 進（BCD）で 01 ～ 12 です。この範囲にない値が設定されると、RTC は正常に動作しません。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。

(2)　バイナリカウントモード時

アドレス　RTC.BCNT1AER 4004 401Ah



x：不定

BCNT1AER レジスタは、32 ビットバイナリカウンタの b15 ～ b8 に対応する書き込み／読み出し可能なアラーム許可設定に用いられます。ENB[31:0] ビットのうち、1 になっているビットに対応するバイナリカウンタ（BCNT[31:0]）とバイナリアラームレジスタ（BCNTAR[31:0]）を比較して、すべてが一致すると、RTC_ALM 割り込みに対応した IR フラグが 1 になります。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。

26.2.15　年アラームレジスタ（RYRAR）／バイナリカウンタ 2 アラームイネーブルレジスタ（BCNT2AER）

(1)　カレンダカウントモード時

アドレス　RTC.RYRAR 4004 401Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	YR10[3:0]				YR1[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	YR1[3:0]	1年	一年の位の設定値	R/W
b7-b4	YR10[3:0]	10年	十年の位の設定値	R/W
b15-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

RYRAR レジスタは、BCD コード化された年カウンタ（RYRCNT）に対応するアラームレジスタです。RYRAR レジスタの設定可能範囲は、10 進（BCD）で 00 ～ 99 です。この範囲にない値が設定されると、RTC は正常に動作しません。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 0000h にクリアされます。

(2)　バイナリカウントモード時

アドレス　RTC.BCNT2AER 4004 401Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	ENB[23:16]							
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

BCNT2AER レジスタは、32 ビットバイナリカウンタの b23 ～ b16 に対応する書き込み／読み出し可能なアラーム許可設定に用いられます。ENB[31:0] ビットのうち、1 になっているビットに対応するバイナリカウンタ（BCNT[31:0]）とバイナリアラームレジスタ（BCNTAR[31:0]）を比較して、すべてが一致すると、RTC_ALM 割り込みに対応した IR フラグが 1 になります。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 0000h にクリアされます。

26.2.16　年アラームイネーブルレジスタ（RYRAREN）／バイナリカウンタ 3 アラームイネーブルレジスタ（BCNT3AER）

(1)　カレンダカウントモード時

アドレス　RTC.RYRAREN 4004 401Eh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ENB	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	—	予約ビット	0を設定してください。読むと設定値が読めます。	R/W
b7	ENB	ENB	0：このレジスタ値とRYRCNTカウンタ値の比較を行わない 1：このレジスタ値とRYRCNTカウンタ値の比較を行う	R/W

RYRAREN レジスタの ENB ビットが 1 であれば、RYRAR レジスタ値が RYRCNT カウンタ値と比較されます。以下のアラームレジスタのうち、ENB ビットが 1 になっているものだけが、対応するカウンタと比較されます。

- RSECAR
- RMINAR
- RHRAR
- RWKAR
- RDAYAR
- RMONAR
- RYRAREN

それぞれの値がすべて一致すると、RTC_ALM 割り込みに対応した IR フラグが 1 になります。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。

(2)　バイナリカウントモード時

アドレス　RTC.BCNT3AER 4004 401Eh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ENB[31:24]							
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

BCNT3AER は、32 ビットバイナリカウンタの b31 ～ b24 に対応する書き込み／読み出し可能なアラーム許可設定用のレジスタです。ENB[31:0] ビットのうち、1 になっているビットに対応するバイナリカウンタ（BCNT[31:0]）とバイナリアラームレジスタ（BCNTAR[31:0]）を比較して、すべてが一致すると、RTC_ALM 割り込みに対応した IR フラグが 1 になります。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。

26.2.17 RTC コントロールレジスタ 1（RCR1）

アドレス RTC.RCR1 4004 4022h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	PES[3:0]				RTCOS	PIE	CIE	AIE
リセット後の値	x	x	x	x	0	x	0	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	AIE	アラーム割り込み許可	0：アラーム割り込み要求を禁止 1：アラーム割り込み要求を許可	R/W
b1	CIE	桁上げ割り込み許可	0：桁上げ割り込み要求を禁止 1：桁上げ割り込み要求を許可	R/W
b2	PIE	周期割り込み許可	0：周期割り込み要求を禁止 1：周期割り込み要求を許可	R/W
b3	RTCOS	RTCOUT出力選択	0：RTCOUTは1Hzを出力 1：RTCOUTは64Hzを出力	R/W
b7-b4	PES[3:0]	周期割り込み選択	b7 b4 0 1 1 0：1/256秒ごとに周期割り込みを発生（注1） 0 1 1 1：1/128秒ごとに周期割り込みを発生 1 0 0 0：1/64秒ごとに周期割り込みを発生 1 0 0 1：1/32秒ごとに周期割り込みを発生 1 0 1 0：1/16秒ごとに周期割り込みを発生 1 0 1 1：1/8秒ごとに周期割り込みを発生 1 1 0 0：1/4秒ごとに周期割り込みを発生 1 1 0 1：1/2秒ごとに周期割り込みを発生 1 1 1 0：1秒ごとに周期割り込みを発生 1 1 1 1：2秒ごとに周期割り込みを発生 上記以外の設定：周期割り込みは発生しない	R/W

注 1.　PES[3:0] ビット = 0110b のときに LOCO を選択（RCR4.RCKSEL ビット = 1）すると、周期割り込みは 1/128 秒ごとに発生します。

RCR1 レジスタは、カレンダカウントモード／バイナリカウントモード共通で使用します。AIE、PIE、PES[3:0] ビットは、カウントソースに同期して更新されます。RCR1 レジスタを書き換えた場合は、全ビットが更新されたことを確認してから次の処理を実行してください。

AIE ビット（アラーム割り込み許可）

アラーム割り込み要求を許可または禁止します。

ディープソフトウェアスタンバイモード時にカウンタとアラームの設定時刻が一致した場合、AIE ビット値とは無関係に、MCU はこのモードから復帰します。

CIE ビット（桁上げ割り込み許可）

RSECCNT/BCNT0 カウンタへの桁上げが生じたとき、または 64Hz カウンタの読み出し中に 64Hz カウンタ（R64CNT）への桁上げが生じたときの割り込み要求の許可／禁止を選択します。

PIE ビット（周期割り込み許可）

周期割り込み要求の許可／禁止を選択します。

ディープソフトウェアスタンバイモード時にカウンタと PES[3:0] ビットの設定周期が一致した場合、PIE ビット値とは無関係に、MCU はこのモードから復帰します。

RTCOS ビット（RTCOUT 出力選択）

RTCOUT の出力周期を選択します。RTCOS ビットは、カウント動作停止（RCR2.START ビット = 0）、かつ RTCOUT 出力禁止（RCR2.RTCOE ビット = 0）のときに書き換えてください。RTCOUT を外部端子に出力する場合は、RCR2.RTCOE ビットを許可にしてください。I/O ポートの制御については、20.5.1　端子機能の設定手順を参照してください。

PES[3:0] ビット（周期割り込み選択）

周期割り込みの周期を設定します。これらのビットで設定した周期に応じて周期割り込みが発生します。

26.2.18　RTC コントロールレジスタ 2（RCR2）

(1)　カレンダカウントモード時

アドレス　RTC.RCR2 4004 4024h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CNTMD	HR24	AADJP	AADJE	RTCOE	ADJ30	RESET	START
リセット後の値	x	x	x	x	0	0	0	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	START	スタート	0：プリスケーラと時計カウンタは停止 1：プリスケーラと時計カウンタは通常動作	R/W
b1	RESET	RTCソフトウェアリセット	• 書き込み時 0：無効（0の書き込みは無効です） 1：プリスケーラおよびRTCソフトウェアリセット対象レジスタ（注1）を初期化 • 読み出し時 0：通常の時計動作中またはRTCソフトウェアリセット完了 1：RTCソフトウェアリセット処理中	R/W
b2	ADJ30	30秒調整	• 書き込み時 0：無効（0の書き込みは無効です） 1：30秒調整を実行 • 読み出し時 0：通常の時計動作中または30秒調整が完了 1：30秒調整処理中	R/W
b3	RTCOE	RTCOUT出力許可	0：RTCOUT出力を禁止 1：RTCOUT出力を許可	R/W
b4	AADJE	自動補正有効（注2）	0：自動補正は無効 1：自動補正は有効	R/W
b5	AADJP	自動補正周期選択（注2）	0：1分ごとにプリスケーラのカウント値に対してRADJ.ADJ[5:0]ビット値を加減算 1：10秒ごとにプリスケーラのカウント値に対してRADJ.ADJ[5:0]ビット値を加減算	R/W
b6	HR24	時間モード	0：RTCは12時間モードで動作 1：RTCは24時間モードで動作	R/W
b7	CNTMD	カウントモード選択	0：カレンダカウントモード 1：バイナリカウントモード	R/W

注 1.　R64CNT, RSECAR/BCNT0AR, RMINAR/BCNT1AR, RHRAR/BCNT2AR, RWKAR/BCNT3AR, RDAYAR/BCNT0AER, RMONAR/BCNT1AER, RYRAR/BCNT2AER, RYRAREN/BCNT3AER, RADJ, RTCCRy, RSECCPy/BCNT0CPy, RMINCPy/BCNT1CPy, RHRCPy/BCNT2CPy, RDAYCPy/BCNT3CPy, RMONCPy, RCR2.ADJ30, RCR2.AADJE, RCR2.AADJP

注 2.　LOCO を選択した場合、本ビットの設定は無効です。

RCR2 レジスタは、時間モード、自動補正機能、RTCOUT 出力許可、30 秒調整、RTC ソフトウェアリセット、およびカウント制御に関するレジスタです。

START ビット（スタート）

プリスケーラまたは時計カウンタの動作を停止または再開します。本ビットは、カウントソースの次の周期に同期して更新されます。START ビットを書き換えた場合は、このビットが更新されたことを確認してから次の処理を実行してください。

RESET ビット（RTC ソフトウェアリセット）

プリスケーラと RTC ソフトウェアリセット対象レジスタを初期化します。RESET ビットに 1 を書くと、カウントソースに同期して初期化が始まります。初期化が完了すると RESET ビットは自動的に 0 にクリアされます。本ビットが 0 であることを確認してから次の処理を実行してください。

ADJ30 ビット（30 秒調整）

30 秒調整を行います。

ADJ30 ビットに 1 を書くと、RSECCNT カウンタ値が 30 秒未満の場合は 00 秒に切り捨てられ、30 秒以上の場合は 1 分に切り上げられます。

30 秒調整は、カウントソースに同期して行われます。ADJ30 ビットに 1 を書いた場合、30 秒調整が完了すると ADJ30 ビットは自動的に 0 になります。ADJ30 ビットに 1 を書いた場合は、このビットが 0 になったことを確認してから次の処理を実行してください。30 秒調整を実行すると、プリスケーラと R64CNT カウンタもリセットされます。RTC ソフトウェアリセットを実行すると、ADJ30 ビットは 0 にクリアされます。

RTCOE ビット（RTCOUT 出力許可）

RTCOUT 端子からの 1Hz/64Hz クロック信号出力を許可します。

RTCOE ビット値を変更する前に、START ビットでカウント動作を停止させてください。カウント動作の停止（START ビットへの 0 の書き込み）と、RTCOE ビット値の変更は、同時に行わないでください。

RTCOUT を外部端子から出力する場合は、RTCOE ビットを許可にするとともに、この端子にポート制御を設定してください。

AADJE ビット（自動補正有効）

自動補正を有効または無効にします。

AADJE ビット値を変更する前に、プラスマイナスビット（RADJ.PMADJ[1:0]）を 00b（補正を行わない）にしてください。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると、AADJE ビットは 0 にクリアされます。

AADJP ビット（自動補正周期選択）

自動補正の周期を選択します。

AADJP ビット値の変更は、プラスマイナスビット（RADJ.PMADJ[1:0]）を 00b（補正を行わない）にしてから行ってください。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると、AADJP ビットは 0 にクリアされます。

HR24 ビット（時間モード）

RTC を 12 時間モードと 24 時間モードのどちらで動作させるかを指定します。

HR24 ビット値の変更は、START ビットでカウント動作を停止させてから行ってください。カウント動作の停止（START ビットへの 0 の書き込み）と、HR24 ビット値の変更は、同時に行わないでください。

CNTMD ビット（カウントモード選択）

RTC をカレンダカウントモードとバイナリカウントモードのどちらで動作させるかを指定します。

カウントモード設定時は、RTC ソフトウェアリセットを実行し、初期設定からやり直してください。本ビットはカウントソースに同期して更新され、RTC ソフトウェアリセットが完了する前に値が確定します。

初期設定の詳細は、26.3.1　電源投入後のレジスタ初期設定の概要を参照してください。

(2)　バイナリカウントモード時

アドレス　RTC.RCR2 4004 4024h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CNTMD	—	AADJP	AADJE	RTCOE	—	RESET	START
リセット後の値	x	x	x	x	0	0	0	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	START	スタート	0：32ビットバイナリカウンタ、64Hzカウンタ、およびプリスケーラを停止 1：32ビットバイナリカウンタ、64Hzカウンタ、およびプリスケーラを通常動作	R/W
b1	RESET	RTCソフトウェアリセット	• 書き込み時 0：無効（0の書き込みは無効です） 1：プリスケーラおよびRTCソフトウェアリセット対象レジスタ（注1）を初期化 • 読み出し時 0：通常の時計動作中またはRTCソフトウェアリセット完了 1：RTCソフトウェアリセット処理中	R/W
b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b3	RTCOE	RTCOUT出力許可	0：RTCOUT出力を禁止 1：RTCOUT出力を許可	R/W
b4	AADJE	自動補正有効（注2）	0：自動補正は無効 1：自動補正は有効	R/W
b5	AADJP	自動補正周期選択（注2）	0：32秒ごとにプリスケーラのカウント値に対してRADJ.ADJ[5:0]ビット値を加減算 1：8秒ごとにプリスケーラのカウント値に対してRADJ.ADJ[5:0]ビット値を加減算	R/W
b6	—	予約ビット	読んだ場合、その値は不定。書く場合、0としてください。	R/W
b7	CNTMD	カウントモード選択	0：カレンダカウントモード 1：バイナリカウントモード	R/W

注 1.　R64CNT, RSECAR/BCNT0AR, RMINAR/BCNT1AR, RHRAR/BCNT2AR, RWKAR/BCNT3AR, RDAYAR/BCNT0AER, RMONAR/BCNT1AER, RYRAR/BCNT2AER, RYRAREN/BCNT3AER, RADJ, RTCCRy, RSECCPy/BCNT0CPy, RMINCPy/BCNT1CPy, RHRCPy/BCNT2CPy, RDAYCPy/BCNT3CPy, RMONCPy, RCR2.ADJ30, RCR2.AADJE, RCR2.AADJP

注 2.　LOCO を選択した場合、本ビットの設定は無効です。

START ビット（スタート）

プリスケーラまたはカウンタ（時計）の動作を停止または再開します。本ビットは、カウントソースに同期して更新されます。START ビットを書き換えた場合は、このビットが更新されたことを確認してから次の処理を実行してください。

RESET ビット（RTC ソフトウェアリセット）

プリスケーラと RTC ソフトウェアリセット対象レジスタを初期化します。RESET ビットに 1 を書くと、カウントソースに同期して初期化が始まります。初期化が完了すると、RESET ビットは自動的に 0 になります。RESET ビットに 1 を書いた場合は、このビットが 0 になったことを確認してから次の処理を実行してください。

RTCOE ビット（RTCOUT 出力許可）

RTCOUT 端子からの 1Hz/64Hz クロック信号出力を許可します。

RTCOE ビット値を変更する前に、START ビットでカウント動作を停止させてください。カウント動作の停止（START ビットへの 0 の書き込み）と、RTCOE ビット値の変更は、同時に行わないでください。RTCOUT 信号を外部端子から出力する場合は、このビットを許可にするとともに、ポート制御を有効にしてください。

AADJE ビット（自動補正有効）

自動補正を有効または無効にします。

AADJE ビット値を変更する前に、プラスマイナスビット（RADJ.PMADJ[1:0]）を 00b（補正を行わない）にしてください。RTC ソフトウェアリセットを実行すると、AADJE ビットは 0 にクリアされます。

AADJP ビット（自動補正周期選択）

自動補正の周期を選択します。

バイナリカウントモードでは、32 秒ごとまたは 8 秒ごとの補正周期を選択できます。

AADJP ビット値の変更は、プラスマイナスビット（RADJ.PMADJ[1:0]）を 00b（補正を行わない）にしてから行ってください。RTC ソフトウェアリセットを実行すると、AADJP ビットは 0 にクリアされます。

CNTMD ビット（カウントモード選択）

RTC をカレンダカウントモードとバイナリカウントモードのどちらで動作させるかを指定します。

カウントモード設定時は、RTC ソフトウェアリセットを実行し、初期設定からやり直してください。本ビットはカウントソースに同期して更新され、RTC ソフトウェアリセットが完了する前に値が確定します。

初期設定の詳細は、26.3.1 電源投入後のレジスタ初期設定の概要を参照してください。

26.2.19 RTC コントロールレジスタ 4（RCR4）

アドレス RTC.RCR4 4004 4028h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	RCKSEL
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RCKSEL	カウントソース選択	0：サブクロック発振器を選択 1：LOCOを選択	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

RCR4 レジスタは、カウントソースを選択するためのレジスタで、カレンダカウントモード／バイナリカウントモード共通で使用します。

RCKSEL ビットが 0 のときサブクロック発振器を使用して時計のカウント動作を行います。RCKSEL ビットを 1 にすると、LOCO を使用して時計のカウント動作を行います。

RCKSEL ビット（カウントソース選択）

カウントソースを、サブクロック発振器と LOCO から選択します。

カウントソースの選択は、電源投入後、RTC レジスタの初期設定前に一度だけ行ってください。

26.2.20　周波数レジスタ（RFRH/RFRL）

アドレス　RTC.RFRH 4004 402Ah

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RFC16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RFC16	予約ビット	コールドスタート後、RFRL レジスタに書き込む前に0を書いてください。	R/W
b15-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

アドレス　RTC.RFRL 4004 402Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	RFC[15:0]															
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	RFC[15:0]	周波数比較値	LOCO使用時は、このレジスタに00FFhを書き込んでください。	R/W

RFRL レジスタは、LOCO 選択時のプリスケーラを制御するレジスタです。

RTC の時計カウンタは、128Hz クロック信号を基本クロックとして動作します。そのため、LOCO を選択した場合、プリスケーラで LOCO が分周されて 128Hz クロック信号が生成されます。RFC[15:0] ビットには、LOCO 周波数から 128Hz クロックを生成するための周波数比較値を設定します。コールドスタート後、RFC[15:0] へ書き込む前に、RFRH レジスタに 0000h を書き込んでください。

周波数比較値の設定可能範囲は、0007h ～ 01FFh です。この範囲にない値が設定されると、RTC は正常に動作しません。このレジスタへの書き込みは、必ず事前に RCR2.START ビットでカウント動作を停止させてから行ってください。周辺モジュールクロックと LOCO の動作周波数は、「周辺モジュールクロック ≧ LOCO」となるようにしてください。

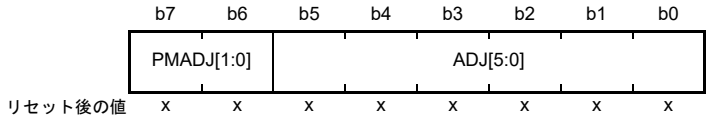
周波数比較値計算方法：

RFC[15:0] =（LOCO クロック周波数）÷ 128 - 1

LOCO 周波数が 32.768kHz の場合、RFRL レジスタは 00FFh にする必要があります。

26.2.21　時計誤差補正レジスタ（RADJ）

アドレス　RTC.RADJ 4004 402Eh



x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	ADJ[5:0]	補正値	プリスケーラに対する補正値を設定します。	R/W
b7-b6	PMADJ[1:0]	プラスマイナス	b7 b6 0 0：補正動作を行わない 0 1：プリスケーラに対して値を加算して補正を行う 1 0：プリスケーラに対して値を減算して補正を行う 1 1：設定禁止	R/W

プリスケーラに対して値を加算または減算することによって補正を行います。自動補正機能有効ビット（RCR2.AADJE）が 0 であると、RADJ レジスタへの書き込み時に補正を行います。RCR2.AADJE ビットが 1 であると、自動補正周期選択ビット（RCR2.AADJP）で設定した間隔で補正を行います。

ソフトウェア設定による補正（自動補正が無効）では、レジスタの設定後、カウントソースの 320 サイクル以内に次の補正値を設定すると、現在の補正値の設定が無効となる場合があります。連続して補正を行う場合は、レジスタの設定後、カウントソースで 320 サイクル以上待ってから次の補正値を設定してください。

RADJ レジスタは、カウントソースに同期して更新されます。RADJ レジスタを書き換えた場合は、全ビットの値が更新されたことを確認してから次の処理を実行してください。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。サブクロック発振器を選択した場合にのみ、本レジスタの設定が有効になります。LOCO を選択した場合、補正は行われません。

ADJ[5:0] ビット（補正値）

プリスケーラに対する補正値（サブクロックのサイクル数）を設定します。

PMADJ[1:0] ビット（プラスマイナス）

ADJ[5:0] ビットで設定した誤差補正値に従って、時計を進めるか、遅らせるかを選択します。

26.2.22　時間キャプチャコントロールレジスタ y（RTCCRy）（y = 0 ～ 2）

アドレス　RTC.RTCCR0 4004 4040h, RTC.RTCCR1 4004 4042h, RTC.RTCCR2 4004 4044h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TCEN	—	TCNF[1:0]		—	TCST	TCCT[1:0]	
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	TCCT[1:0]	時間キャプチャ制御	b1　b0 0　0：イベント検出なし 0　1：立ち上がりエッジを検出 1　0：立ち下がりエッジを検出 1　1：両エッジを検出	R/W
b2	TCST	時間キャプチャステータス	0：イベント検出なし 1：イベント検出あり（注1）	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5-b4	TCNF[1:0]	時間キャプチャノイズフィルタ制御	b5　b4 0　0：ノイズフィルタ OFF 0　1：設定禁止 1　0：ノイズフィルタ ON（カウントソース） 1　1：ノイズフィルタ ON（カウントソースの32分周）	R/W
b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	TCEN	時間キャプチャイベント入力端子有効	0：RTCICn端子が時間キャプチャイベント入力端子として無効 1：RTCICn端子が時間キャプチャイベント入力端子として有効（n = 0～2）	R/W

注 1.　イベントが検出されたことを示します。1 の書き込みは無効です。0 を書き込むと 0 になります。

RTCCRy レジスタは、カレンダカウントモード／バイナリカウントモード共通で使用します。RTCCR0 レジスタが RTCIC0 端子、RTCCR1 レジスタが RTCIC1 端子、RTCCR2 レジスタが RTCIC2 端子をそれぞれ制御します。

RTCCRy レジスタは、カウントソースに同期して更新されます。RTCCRy レジスタを書き換えた場合は、TCST ビット以外の全ビットが更新されたことを確認してから次の処理を実行してください。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。RTCICn を時間キャプチャ端子として使用する場合、VBTICTLR.VCHnIEN ビット（n = 0 ～ 2）を 1 にしてください。詳細は、「12.　バッテリバックアップ機能」を参照してください。

TCCT[1:0] ビット（時間キャプチャ制御）

時間キャプチャイベント入力端子（RTCIC0、RTCIC1、RTCIC2）のエッジ検出を制御します。検出するエッジの選択が可能です。TCCT[1:0] ビットは、VBTICTLR.VCHnIEN ビットが 1 の状態で設定してください。

TCST ビット（時間キャプチャステータス）

時間キャプチャイベント入力端子（RTCIC0、RTCIC1、RTCIC2）のイベントが検出されたことを示します。TCST ビットが 0 の場合、イベントは検出されていないことを示します。TCST ビットが 1 の場合、対応する端子でイベントが検出されたこと、およびキャプチャレジスタが有効であることを示します。複数回イベントが検出された場合は、最初のイベントのキャプチャ時刻を保持します。

カウント動作が停止中（RCR2.START ビットが 0 のとき）にイベントを検出した場合、そのキャプチャ値は保証されません。その場合は、TCST ビットを 0 にしてキャプチャ値を削除してください。TCST ビットに 0 を書き込むことで、TCST ビットを 0 にできます。0 以外の値の書き込みは無効です。

TCST ビットの設定は、TCCT[1:0] ビットが 00b（イベント検出しない）の状態で行ってください。TCST ビットは、カウントソースに同期して 0 になります。TCST ビットを 0 にした場合、このビットが更新されたことを確認してから追加処理を実行してください。

TCNF[1:0] ビット（時間キャプチャノイズフィルタ制御）

時間キャプチャイベント入力端子（RTCIC0、RTCIC1、RTCIC2）のノイズフィルタを制御します。

ノイズフィルタが ON の場合、カウントソースの 1 分周または 32 分周を選択できます。このとき、時間キャプチャイベント入力端子の入力レベルが設定したサンプリング周期で 3 回連続して一致すると、その入力レベルが確定します。

TCNF[1:0] ビットの設定は、TCCT[1:0] ビットが 00b（イベント検出しない）の状態で行ってください。ノイズフィルタを使用する場合は、TCNF[1:0] ビットの設定後、設定したサンプリング周期の 3 周期分待った後、TCCT[1:0] ビットの設定を行ってください。また、TCNF[1:0] ビットの設定は、VBTICTLR.VCHnIEN ビットが 1 の状態で行ってください。

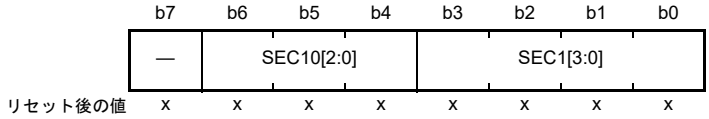
TCEN ビット（時間キャプチャイベント入力端子有効）

時間キャプチャイベント入力端子（RTCIC0、RTCIC1、および RTCIC2）を有効または無効にします。時間キャプチャイベント入力端子の機能を多重化する場合は、最初に VBTICTLR を設定してください。TCEN ビットを 0 にする場合は、TCCT[1:0] ビットも 00b にしてください。

26.2.23 秒キャプチャレジスタ y（RSECCPy）（y = 0 ～ 2）／BCNT0 キャプチャレジスタ y（BCNT0CPy）（y = 0 ～ 2）

(1) カレンダカウントモード時

アドレス RTC.RSECCP0 4004 4052h, RTC.RSECCP1 4004 4062h, RTC.RSECCP2 4004 4072h



x：不定

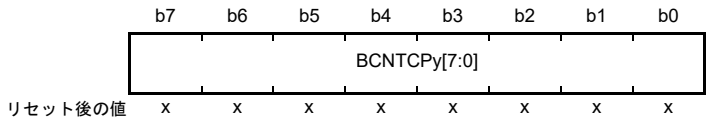
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	SEC1[3:0]	1秒キャプチャ	一秒の位のキャプチャ値を示します。	R
b6-b4	SEC10[2:0]	10秒キャプチャ	十秒の位のキャプチャ値を示します。	R
b7	—	予約ビット	RTCソフトウェアリセット後、読むと0が読めます。	R

RSECCPy レジスタは、時間キャプチャイベント検出時に RSECCNT カウンタ値をキャプチャする読み出し専用のレジスタです。

RTCIC0 端子によるイベント検出時は RSECCP0 レジスタに、RTCIC1 端子によるイベント検出時は RSECCP1 レジスタに、そして RTCIC2 端子によるイベント検出時は RSECCP2 レジスタに、それぞれイベント検出時刻を格納します。RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。このレジスタから値を読み出す際は、必ず事前に RTCCRy.TCCT[1:0] ビットで時間キャプチャイベント検出を停止させてください。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT0CP0 4004 4052h, RTC.BCNT0CP1 4004 4062h, RTC.BCNT0CP2 4004 4072h



x：不定

BCNT0CPy レジスタは、時間キャプチャイベント検出時に BCNT0 カウンタ値をキャプチャする読み出し専用のレジスタです。RTCIC0 端子によるイベント検出時は BCNT0CP0 レジスタに、RTCIC1 端子によるイベント検出時は BCNT0CP1 レジスタに、そして RTCIC2 端子によるイベント検出時は BCNT0CP2 レジスタに、それぞれイベント検出時刻を格納します。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。このレジスタから値を読み出す際は、必ず事前に RTCCRy.TCCT[1:0] ビットで時間キャプチャイベント検出を停止させてください。

26.2.24 分キャプチャレジスタ y（RMINCPy）（y = 0 ～ 2）／BCNT1 キャプチャレジスタ y（BCNT1CPy）（y = 0 ～ 2）

(1) カレンダカウントモード時

アドレス RTC.RMINCP0 4004 4054h, RTC.RMINCP1 4004 4064h, RTC.RMINCP2 4004 4074h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	MIN10[2:0]			MIN1[3:0]			
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	MIN1[3:0]	1分キャプチャ	一分の位のキャプチャ値を示します。	R
b6-b4	MIN10[2:0]	10分キャプチャ	十分の位のキャプチャ値を示します。	R
b7	—	予約ビット	RTCソフトウェアリセット後、読むと0が読めます。	R

RMINCPy レジスタは、時間キャプチャイベント検出時に RMINCNT カウンタ値をキャプチャする読み出し専用のレジスタです。

RTCIC0 端子によるイベント検出時は RMINCP0 レジスタに、RTCIC1 端子によるイベント検出時は RMINCP1 レジスタに、そして RTCIC2 端子によるイベント検出時は RMINCP2 レジスタに、それぞれイベント検出時刻を格納します。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。このレジスタから値を読み出す際は、必ず事前に RTCCRy.TCCT[1:0] ビットで時間キャプチャイベント検出を停止させてください。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT1CP0 4004 4054h, RTC.BCNT1CP1 4004 4064h, RTC.BCNT1CP2 4004 4074h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	BCNTCPy[15:8]							
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

BCNT1CPy レジスタは、時間キャプチャイベント検出時に BCNT1 カウンタ値をキャプチャする読み出し専用のレジスタです。

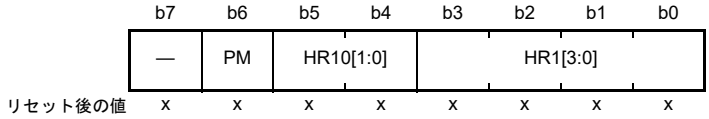
RTCIC0 端子によるイベント検出時は BCNT1CP0 レジスタに、RTCIC1 端子によるイベント検出時は BCNT1CP1 レジスタに、そして RTCIC2 端子によるイベント検出時は BCNT1CP2 レジスタに、それぞれイベント検出時刻を格納します。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。このレジスタから値を読み出す際は、必ず事前に RTCCRy.TCCT[1:0] ビットで時間キャプチャイベント検出を停止させてください。

26.2.25　時キャプチャレジスタ y（RHRCPy）（y = 0 ～ 2）／BCNT2 キャプチャレジスタ y（BCNT2CPy）（y = 0 ～ 2）

(1)　カレンダカウントモード時

アドレス　RTC.RHRCP0 4004 4056h, RTC.RHRCP1 4004 4066h, RTC.RHRCP2 4004 4076h



x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	HR1[3:0]	1時間キャプチャ	一時間の位のキャプチャ値を示します。	R
b5-b4	HR10[1:0]	10時間キャプチャ	十時間の位のキャプチャ値を示します。	R
b6	PM	PM	0：AM 1：PM	R
b7	—	予約ビット	RTCソフトウェアリセット後、読むと0が読めます。	R

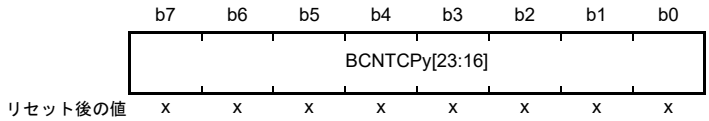
RHRCPy レジスタは、時間キャプチャイベント検出時に RHRCNT カウンタ値をキャプチャする読み出し専用のレジスタです。

RTCIC0 端子によるイベント検出時は RHRCP0 レジスタに、RTCIC1 端子によるイベント検出時は RHRCP1 レジスタに、そして RTCIC2 端子によるイベント検出時は RHRCP2 レジスタに、それぞれイベント検出時刻を格納します。RCR2.HR24 ビットが 0（12 時間モード）の場合にのみ、PM ビットが有効になります。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。このレジスタから値を読み出す際は、必ず事前に RTCCRy.TCCT[1:0] ビットで時間キャプチャイベント検出を停止させてください。

(2)　バイナリカウントモード時

アドレス　RTC.BCNT2CP0 4004 4056h, RTC.BCNT2CP1 4004 4066h, RTC.BCNT2CP2 4004 4076h



x：不定

BCNT2CPy レジスタは、時間キャプチャイベント検出時に BCNT2 カウンタ値をキャプチャする読み出し専用のレジスタです。

RTCIC0 端子によるイベント検出時は BCNT2CP0 レジスタに、RTCIC1 端子によるイベント検出時は BCNT2CP1 レジスタに、そして RTCIC2 端子によるイベント検出時は BCNT2CP2 レジスタに、それぞれイベント検出時刻を格納します。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。このレジスタから値を読み出す際は、事前に RTCCRy.TCCT[1:0] ビットで時間キャプチャイベント検出を停止させてください。

26.2.26　日キャプチャレジスタ y（RDAYCPy）（y = 0 ～ 2）／BCNT3 キャプチャレジスタ y（BCNT3CPy）（y = 0 ～ 2）

(1)　カレンダカウントモード時

アドレス　RTC.RDAYCP0 4004 405Ah, RTC.RDAYCP1 4004 406Ah, RTC.RDAYCP2 4004 407Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	DATE10[1:0]		DATE1[3:0]			
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	DATE1[3:0]	1日キャプチャ	一日の位のキャプチャ値を示します。	R
b5-b4	DATE10[1:0]	10日キャプチャ	十日の位のキャプチャ値を示します。	R
b7-b6	—	予約ビット	RTCソフトウェアリセット後、読むと0が読めます。	R

RDAYCPy レジスタは、時間キャプチャイベント検出時に RDAYCNT カウンタ値をキャプチャする読み出し専用のレジスタです。

RTCIC0 端子によるイベント検出時は RDAYCP0 レジスタに、RTCIC1 端子によるイベント検出時は RDAYCP1 レジスタに、そして RTCIC2 端子によるイベント検出時は RDAYCP2 レジスタに、それぞれイベント検出時刻を格納します。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。このレジスタから値を読み出す際は、必ず事前に RTCCRy.TCCT[1:0] ビットで時間キャプチャイベント検出を停止させてください。

(2)　バイナリカウントモード時

アドレス　RTC.BCNT3CP0 4004 405Ah, RTC.BCNT3CP1 4004 406Ah, RTC.BCNT3CP2 4004 407Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	BCNTCPy[31:24]							
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

BCNT3CPy レジスタは、時間キャプチャイベント検出時に BCNT3 カウンタ値をキャプチャする読み出し専用のレジスタです。

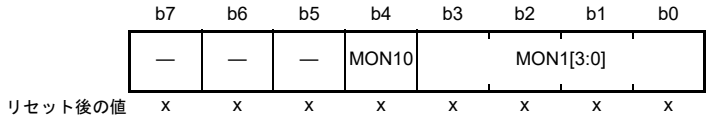
RTCTC0 端子によるイベント検出時は BCNT3CP0 レジスタに、RTCTC1 端子によるイベント検出時は BCNT3CP1 レジスタに、そして RTCTC2 端子によるイベント検出時は BCNT3CP2 レジスタに、それぞれイベント検出時刻を格納します。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。このレジスタから値を読み出す際は、必ず事前に RTCCRy.TCCT[1:0] ビットで時間キャプチャイベント検出を停止させてください。

26.2.27　月キャプチャレジスタ y（RMONCPy）（y = 0 ～ 2）

(1)　カレンダカウントモード時

アドレス　RTC.RMONCP0 4004 405Ch, RTC.RMONCP1 4004 406Ch, RTC.RMONCP2 4004 407Ch



x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	MON1[3:0]	1月キャプチャ	一月の位のキャプチャ値を示します。	R
b4	MON10	10月キャプチャ	十月の位のキャプチャ値を示します。	R
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

RMONCPy レジスタは、時間キャプチャイベント検出時に RMONCNT カウンタ値をキャプチャする読み出し専用のレジスタです。

RTCIC0 端子によるイベント検出時は RMONCP0 レジスタに、RTCIC1 端子によるイベント検出時は RMONCP1 レジスタに、そして RTCIC2 端子によるイベント検出時は RMONCP2 レジスタに、それぞれイベント検出時刻を格納します。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると 00h にクリアされます。このレジスタから値を読み出す際は、必ず事前に RTCCRy.TCCT[1:0] ビットで時間キャプチャイベント検出を停止させてください。

26.3 動作説明

26.3.1 電源投入後のレジスタ初期設定の概要

電源投入後は、クロック設定、カウントモード設定、時計誤差補正、時刻設定、アラーム、割り込み、および時間キャプチャコントロールレジスタに対して、初期設定を行ってください。

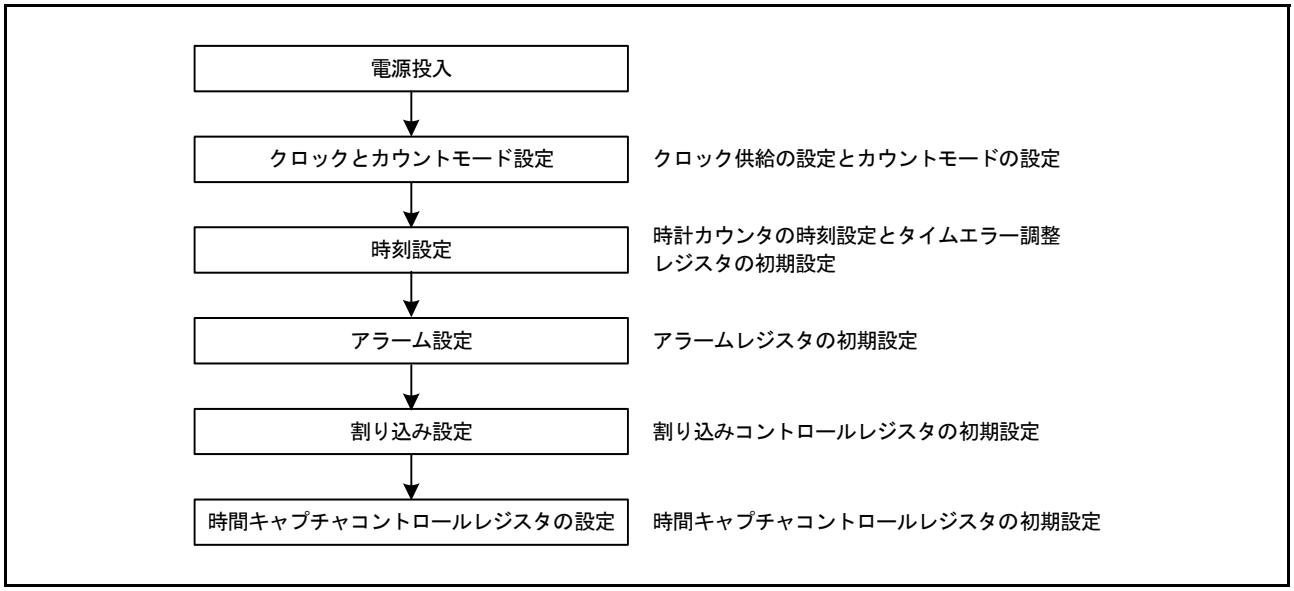
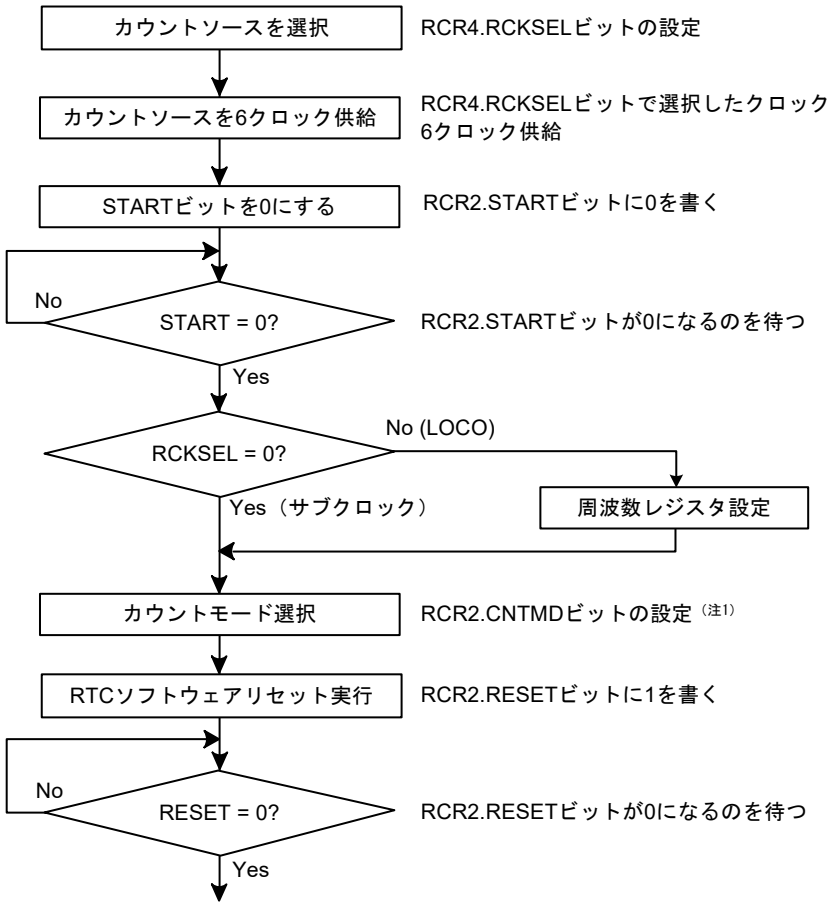


図 26.2 電源投入後の初期設定の概要

26.3.2　クロックおよびカウントモードの設定手順

図 26.3 にクロックおよびカウントモードの設定手順を示します。

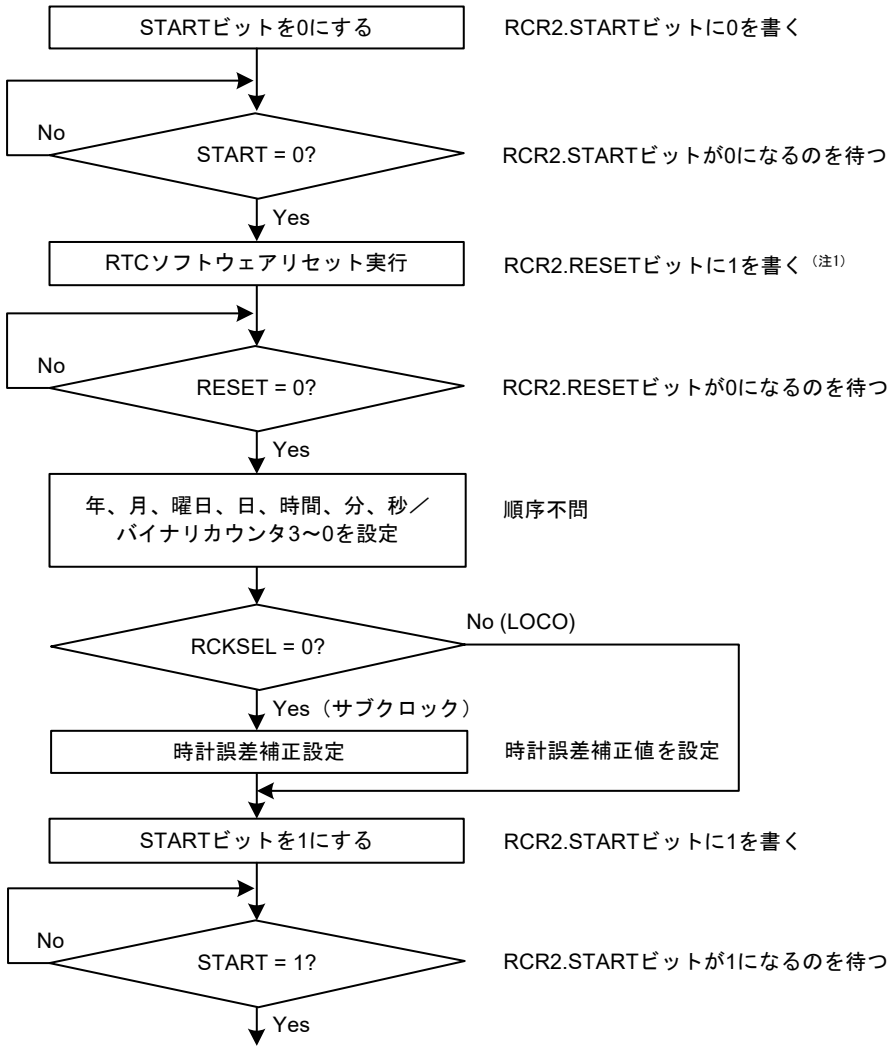


注 1.　START ビットを 0 にすると同時にカウントモードを設定する場合、本手順を省略できます。
RCR2.CNTMD ビットには、カウントモード設定に応じた値を書き込んでください。

図 26.3　クロックおよびカウントモードの設定手順

26.3.3　時刻の設定

図 26.4 に時刻の設定手順を示します。



注 1.　電源投入時の初期設定のクロック設定手順において、RTC ソフトウェアリセットを実行するため、時刻設定手順では、本手順を省略できます。

図 26.4　時刻の設定

26.3.4 30 秒調整

図 26.5 に 30 秒調整の実行手順を示します。

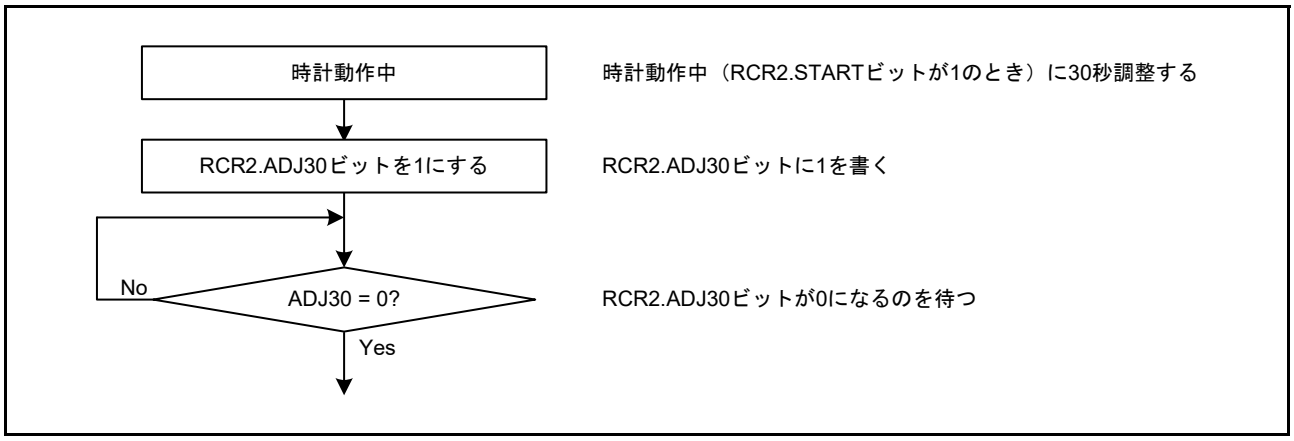


図 26.5 30 秒調整

26.3.5　64Hz カウンタと時刻の読み出し

図 26.6 に 64Hz カウンタと時刻の読み出し手順を示します。

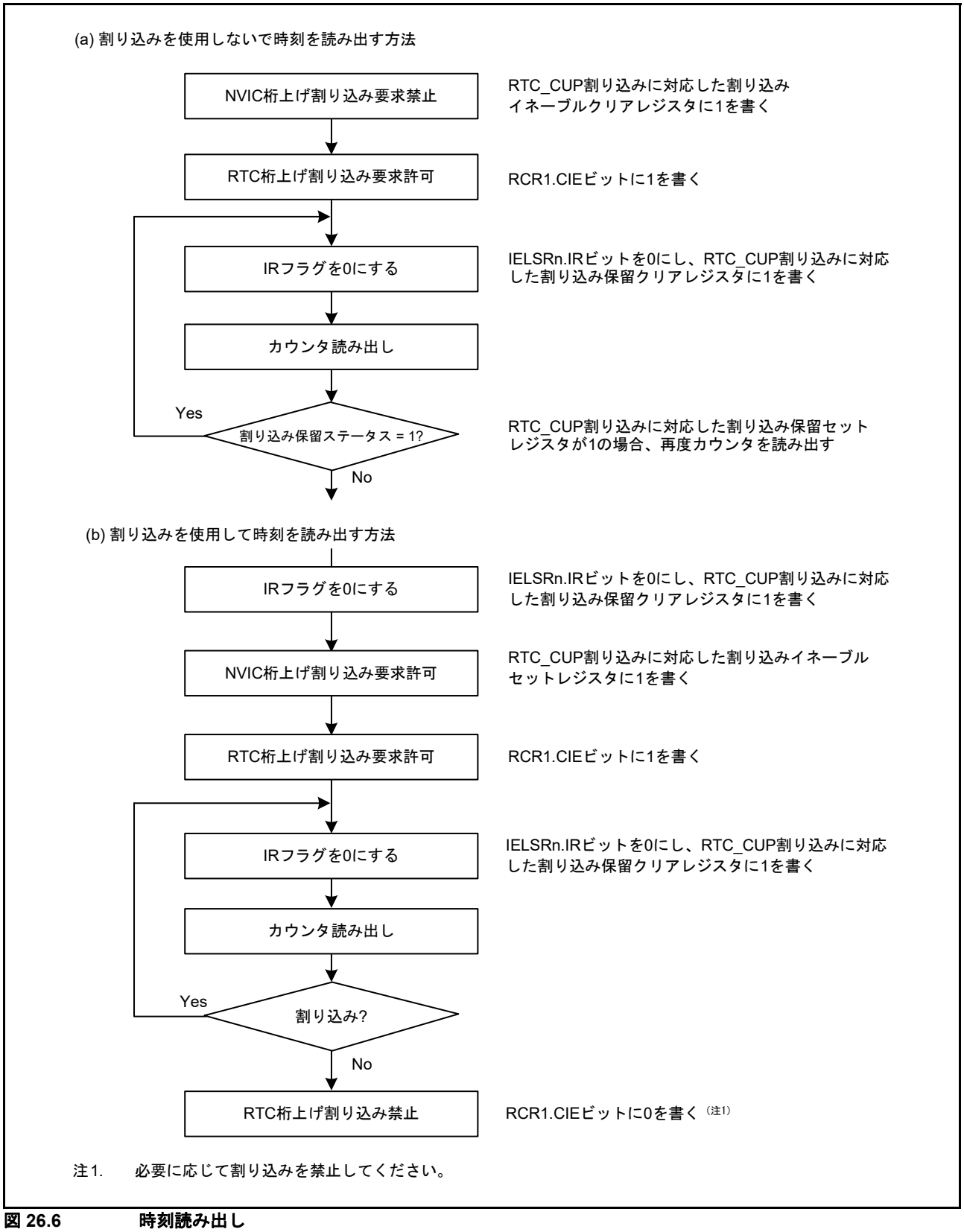


図 26.6　時刻読み出し

64Hz カウンタと時刻の読み出し中に桁上げが生じると、正しい時刻が得られないため、再度読み出す必要があります。割り込みを使用しないで時刻を読み出す場合の手順を図 26.6 の（a）に、桁上げ割り込みを使用する場合の手順を（b）に示します。通常は、プログラムを簡潔にするため、割り込みを使用しない方法（a）を推奨します。

26.3.6　アラーム機能

図 26.7 にアラーム機能の使用手順を示します。

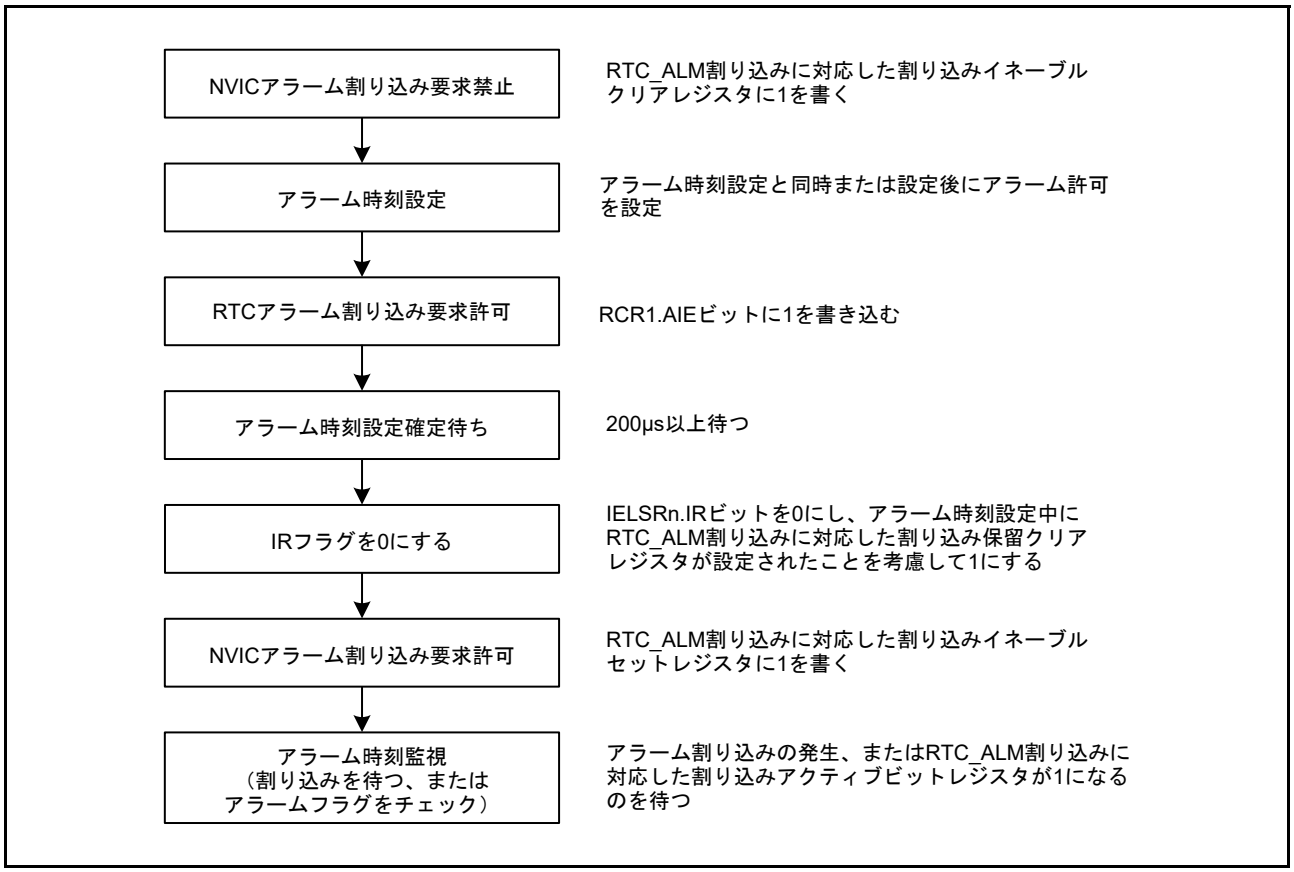


図 26.7　アラーム機能の使用手順

カレンダカウントモードでは、年、月、日、曜日、時、分、秒のいずれか 1 つ、またはこれらの任意の組み合わせで、アラームを発生させることができます。アラーム設定を必要とする各アラームレジスタの ENB ビットに 1 を書き込み、下位ビットにアラーム時刻を設定します。アラームの対象外のレジスタは ENB ビットに 0 を書き込みます。

バイナリカウントモードでは、32 ビットの任意ビットの組み合わせでアラームを発生させることができます。アラームの対象とするビットに対応するアラームイネーブルレジスタの ENB ビットに 1 を書き込み、アラームレジスタにアラーム時刻を設定します。アラームの対象外とするビットに対しては、アラームイネーブルレジスタの ENB ビットに 0 を書き込みます。

カウンタとアラーム時刻が一致すると、IELSRn.IR ビットと、RTC_ALM 割り込みに対応した割り込みセット保留／クリア保留レジスタが 1 になります。アラームの検出は、RTC_ALM 割り込みに対応した割り込みセット保留レジスタを読み出すことで確認できますが、通常は割り込みを使用してください。RTC_ALM 割り込みに対応した割り込みセットイネーブルレジスタが 1 になっている場合、アラームイベント発生時にアラーム割り込みが発生し、アラームの検出が可能になります。

RTC_ALM 割り込みに対応した IELSRn.IR ビットは、0 を書き込むと 0 になります。割り込みを許可した場合、割り込みハンドラの終了後、RTC_ALM 割り込みに対応した割り込みセット保留／クリア保留レジスタが自動的にクリアされます。割り込みを禁止した場合は、RTC_ALM 割り込みに対応した割り込みクリア保留レジスタに 1 を書き込むと、レジスタはクリアされます。

低消費電力状態のときにカウンタとアラーム時刻が一致すると、MCU は低消費電力状態から復帰します。ディープソフトウェアスタンバイモード時は、アラーム割り込み要求が禁止の場合でも、MCU はディープソフトウェアスタンバイモードから復帰します。

26.3.7 アラーム割り込み禁止手順

図 26.8 に、許可状態のアラーム割り込み要求を禁止する手順を示します。

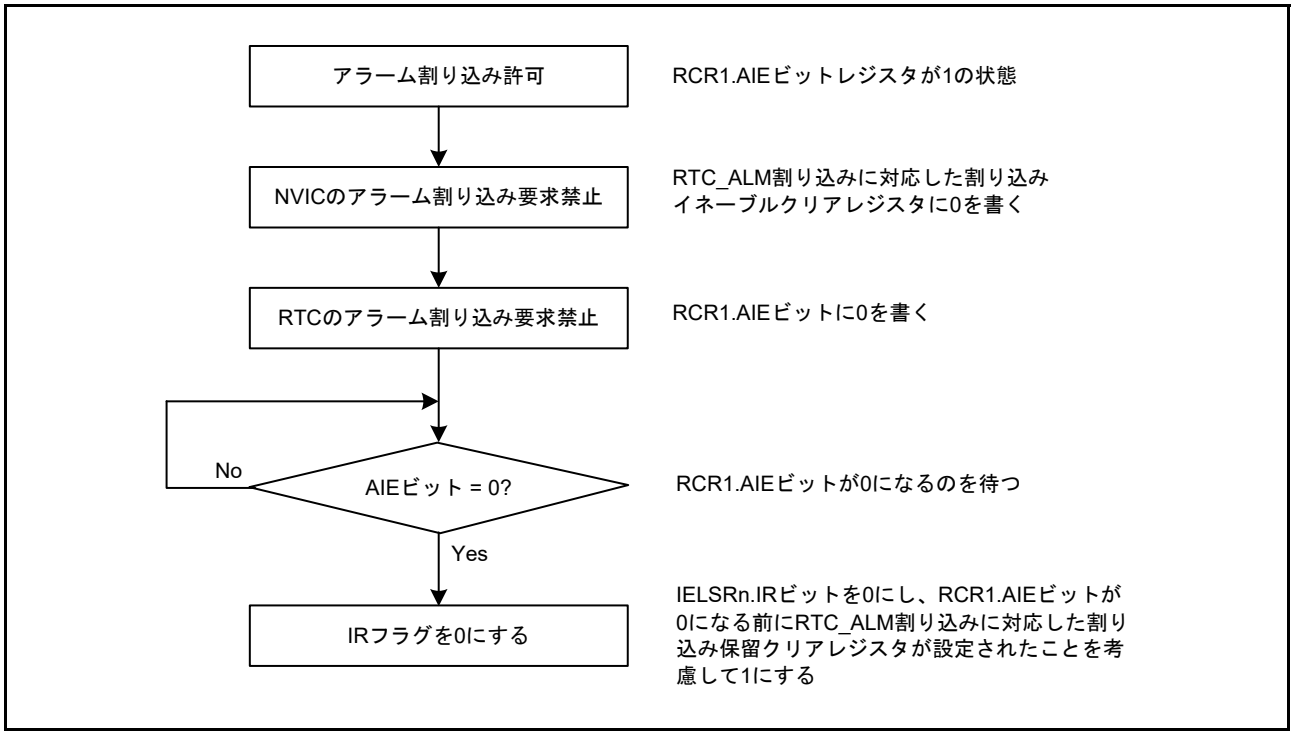


図 26.8 アラーム割り込み要求の禁止手順

26.3.8 時計誤差補正機能

時計誤差補正機能は、サブクロック発振器による発振精度の変動に起因した、時計の誤差（遅れ／進み）を補正するために使用します。サブクロック発振器を選択した場合、サブクロック発振器の 32768 サイクルが 1 秒の動作に相当するため、サブクロック発振器の周波数が高いと時計が進み、低いと時計が遅れます。

時間誤差補正機能には以下の種類があります。

- 自動補正
- ソフトウェアによる補正

自動補正またはソフトウェアによる補正は、RCR2.AADJE ビットで選択してください。

26.3.8.1 自動補正

RCR2.AADJE ビットを 1 にすると、自動補正が有効になります。自動補正機能では、RCR2.AADJP ビットで選択した補正周期ごとに、プリスケーラでカウントした値に対して RADJ レジスタ値を加算または減算します。

(1) 例 1：サブクロック発振器が 32.769kHz で動作している場合

(a) 補正方法

サブクロック発振器が 32.769kHz で動作している場合、32769 クロックサイクルごとに 1 秒経過します。RTC は、32768 クロックサイクルで動作するよう設計されているため、1 秒ごとに 1 クロックサイクル分時計が進みます。時計は、1 分当たり 60 クロックサイクルのペースで早くなるため、1 分ごとに 60 クロックサイクルだけ遅らせる方法で補正が可能です。

レジスタ設定値（RCR2.CNTMD = 0 の場合）：

- RCR2.AADJP ビット = 0（1 分ごとに補正）
- RADJ.PMADJ[1:0] ビット = 10b（プリスケーラに対して値を減算して補正）
- RADJ.ADJ[5:0] ビット = 60（3Ch）

(2) 例 2：サブクロック発振器が 32.766kHz で動作している場合

(a) 補正方法

サブクロック発振器が 32.766kHz で動作している場合、32766 クロックサイクルごとに 1 秒経過します。RTC は、32768 クロックサイクルで動作するよう設計されているため、1 秒ごとに 2 クロックサイクル分時計が遅れます。時計は、10 秒当たり 20 クロックサイクルのペースで遅くなるため、10 秒ごとに 20 クロックサイクル分時計を進める方法で補正が可能です。

レジスタ設定値（RCR2.CNTMD = 0 の場合）：

- RCR2.AADJP ビット = 1（10 秒ごとに補正）
- RADJ.PMADJ[1:0] ビット = 01b（プリスケーラに対して値を加算して補正）
- RADJ.ADJ[5:0] ビット = 20（14h）

(3) 例 3：サブクロック発振器が 32.764kHz で動作している場合

(a) 補正方法

32.764kHz で動作している場合、32764 クロックサイクルで 1 秒経過します。RTC は、32768 クロックサイクルを 1 秒として動作するため、時計は 1 秒間に 4 クロックサイクル分遅れます。8 秒間では 32 クロックサイクル分遅れるため、8 秒ごとに 32 クロックサイクル分時計を進めることで補正が可能です。

レジスタ設定値（RCR2.CNTMD = 1 の場合）：

- RCR2.AADJP ビット = 1（8 秒ごとに補正）
- RADJ.PMADJ[1:0] ビット = 01b（プリスケーラに対して値を加算して補正）
- RADJ.ADJ[5:0] ビット = 32（20h）

26.3.8.2 ソフトウェアによる補正

RCR2.AADJE ビットを 0 にすると、ソフトウェアによる補正が有効になります。ソフトウェアによる補正では、RADJ レジスタへの書き込み命令を実行したタイミングで、プリスケーラでカウントした値に対し RADJ レジスタ値を加算または減算します。

(1) 例 1：サブクロック発振器が 32.769kHz で動作している場合

(a) 補正方法

サブクロック発振器が 32.769kHz で動作している場合、32769 クロックサイクルごとに 1 秒経過します。RTC は、32768 クロックサイクルで動作するよう設計されているため、1 秒ごとに 1 クロックサイクル分時計が進みます。時計は、1 秒当たり 1 クロックサイクルのペースで早くなるため、1 秒ごとに 1 クロックサイクル分、時計を遅らせる方法で補正が可能です。

(b) レジスタ設定値

- RADJ.PMADJ[1:0] ビット = 10b（プリスケーラに対して値を減算して補正）
- RADJ.ADJ[5:0] ビット = 1（01h）
  この値を、1 秒の割り込みにつき 1 回、RADJ レジスタに書き込みます。

26.3.8.3 補正モードの変更手順

補正モードを変更する場合は、RADJ.PMADJ[1:0] ビットを 00b（補正を行わない）にした後、RCR2.AADJE ビットの値を変更してください。

ソフトウェアによる補正から自動補正へ切り替える場合

1. RADJ.PMADJ[1:0] ビットを 00b（補正を行わない）にします。
2. RCR2.AADJE ビットを 1（自動補正有効）にします。
3. RCR2.AADJP ビットで補正周期を選択します。
4. RADJ.PMADJ[1:0] ビットに加算または減算を設定し、RADJ.ADJ[5:0] ビットに時計誤差補正値を設定します。

自動補正からソフトウェアによる補正へ切り替える場合

1. RADJ.PMADJ[1:0] ビットを 00b（補正を行わない）にします。
2. RCR2.AADJE ビットを 0（ソフトウェアによる補正を有効）にします。
3. 目的のタイミングで、RADJ.PMADJ[1:0] ビットに加算または減算を設定し、RADJ.ADJ[5:0] ビットに時計誤差補正値を設定することにより、補正を開始します。以降、RADJ レジスタに値を書き込むごとに時間補正が行われます。

26.3.8.4　補正の停止手順

補正機能を停止するには、RADJ.PMADJ[1:0] ビットを 00b（補正しない）にします。

26.3.8.5　時間キャプチャ

RTC は、時間キャプチャイベント入力端子のエッジ検出によって、月、日、時、分、および秒の値、またはバイナリカウンタ 3 ～ 0 の値を格納することが可能です。

また、RTC の時間キャプチャイベント入力端子には、ノイズフィルタを使用できます。ノイズフィルタを有効にした場合、端子の入力レベルが 3 回一致すると TCST ビットが 1 になります。

時間キャプチャイベント入力端子は、端子ごとにノイズフィルタの ON/OFF を設定できます。VBTICTLR.VCHnIEN（n = 0 ～ 2）を 1 にして、RTCICn 入力を有効にしてください。ノイズフィルタ OFF の場合の動作を図 26.9 に、ノイズフィルタ ON の場合の動作を図 26.10 に示します。

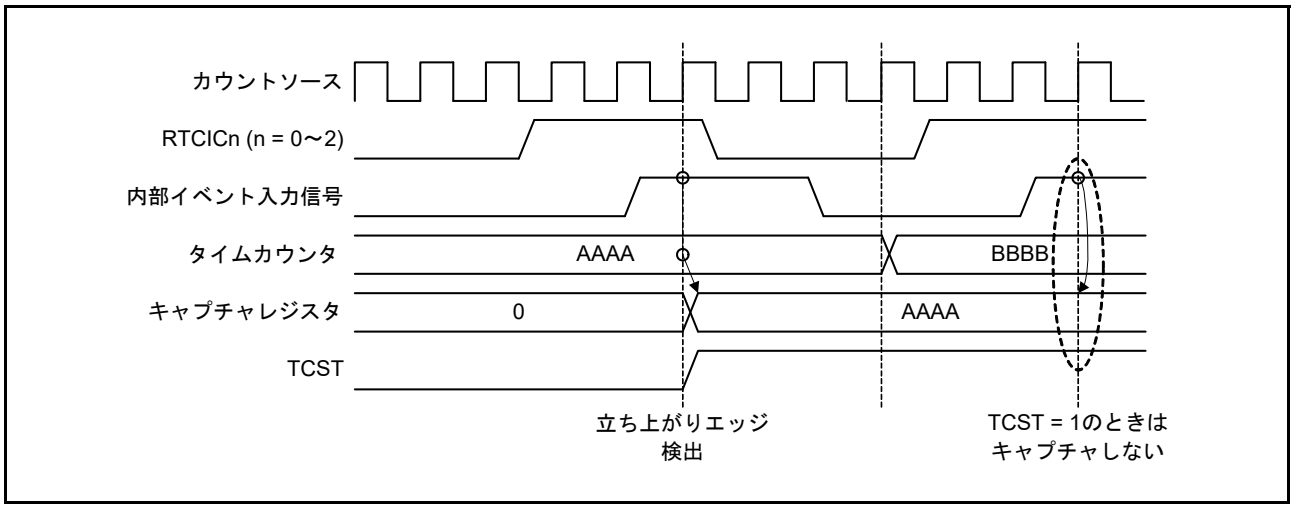


図 26.9　時間キャプチャ動作タイミング（フィルタ OFF）

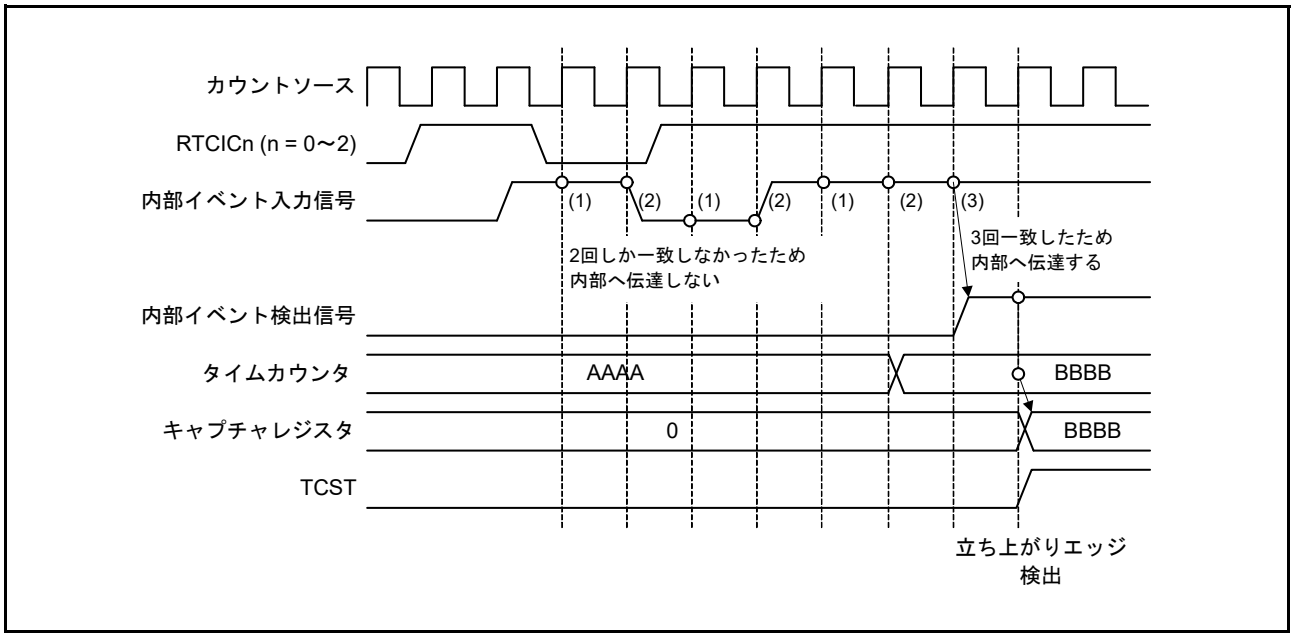


図 26.10　時間キャプチャ動作タイミング（フィルタ ON）

26.4　割り込み要因

RTC には、表 26.3 に示すように、3 種類の割り込み要因があります。

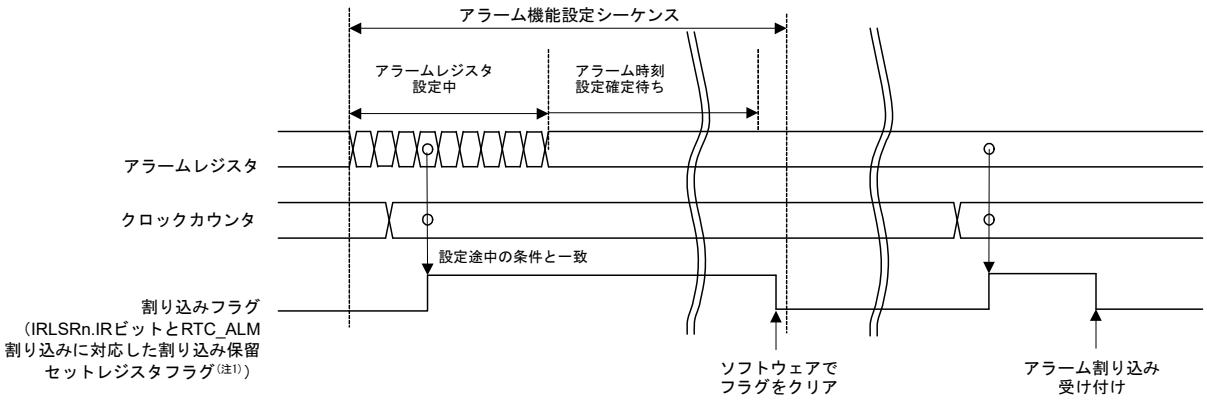
表 26.3　RTCの割り込み要因

名称	割り込み要因
RTC_ALM	アラーム割り込み
RTC_PRD	周期割り込み
RTC_CUP	桁上げ割り込み

(1)　アラーム割り込み（RTC_ALM）

この割り込みは、アラームレジスタと RTC カウンタの比較結果に基づいて発生します。詳細は、26.3.6 アラーム機能を参照してください。

アラームレジスタの設定値が時計カウンタと一致したとき、割り込みフラグが 1 になる可能性があるため、アラームレジスタの値を変更した後は、アラーム時刻の設定が確定されるまで待って、IELSRn.IR ビットと、RTC_ALM 割り込みに対応する割り込みセット保留レジスタを再び 0 にクリアしてください。アラーム割り込みの割り込みフラグが 1 になった後、アラームレジスタと時計カウンタを不一致状態に戻すと、再び一致するかアラームレジスタの値の再設定を行うまでフラグは 1 になりません。



注 1.　関連する割り込みベクタ番号の詳細は、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

図 26.11　アラーム割り込み（RTC_ALM）のタイミング図

(2)　周期割り込み（RTC_PRD）

この割り込みは、2 秒、1 秒、1/2 秒、1/4 秒、1/8 秒、1/16 秒、1/32 秒、1/64 秒、1/128 秒、または 1/256 秒周期で発生します。RCR1.PES[3:0] ビットによって割り込み周期の選択が可能です。

(3) 桁上げ割り込み（RTC_CUP）

この割り込みは、秒カウンタ／バイナリカウンタ 0 への桁上げが生じたとき、または 64Hz カウンタの読み出しと R64CNT カウンタへの桁上げが重なったときに発生します。

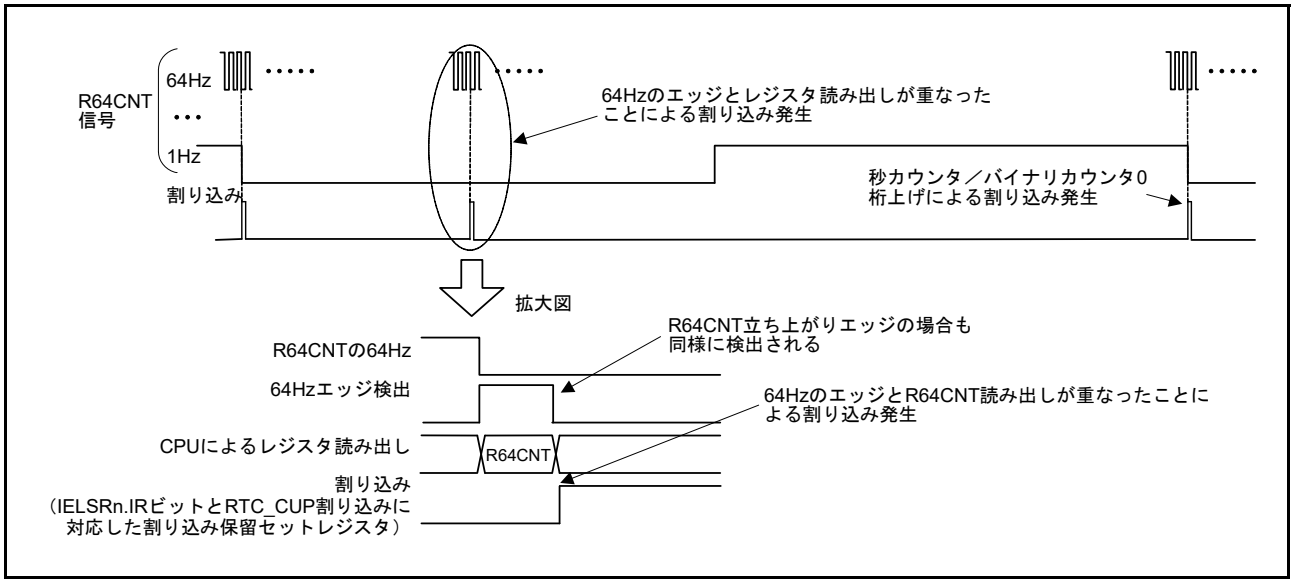


図 26.12 桁上げ割り込み（RTC_CUP）のタイミング図

26.5 イベントリンク出力

RTC は、イベントリンクコントローラ（ELC）に対して周期イベント出力（RTC_PRD）のイベント信号を発生させることで、あらかじめ選択しておいた他のモジュールを動作させることが可能です。

RCR1.PES[3:0] ビットの設定により、2 秒、1 秒、1/2 秒、1/4 秒、1/8 秒、1/16 秒、1/32 秒、1/64 秒、1/128 秒、1/256 秒から選択した周期でイベントを出力します。

イベント発生を選択した直後のイベント発生周期は保証されません。

注 . RTC からのイベントリンク機能を使用する場合は、必ず RTC の設定（初期化、時刻設定など）を行った後、ELC を設定してください。ELC の設定後に RTC を設定すると、意図しないイベント信号を出力する場合があります。

26.5.1 割り込み処理とイベントリンク機能

RTC には、周期割り込みを許可または禁止する許可ビットがあります。割り込み要因が発生すると、対応する割り込み許可ビットが許可の場合に、CPU に対して割り込み要求信号を出力します。

これに対して、イベントリンク出力信号は、対応する割り込み許可ビットの設定とは無関係に、割り込み要因が発生すると、ELC を介して他のモジュールにイベント信号として出力します。

注 . ソフトウェアスタンバイまたはディープソフトウェアスタンバイモード中も、アラーム割り込みと周期割り込みの出力は可能ですが、ELC 用の周期イベント信号は出力しません。

26.6 使用上の注意事項

26.6.1 カウント動作時のレジスタ書き込みについて

カウント動作時（RCR2.START ビットが 1 のとき）は、以下のレジスタやビットに書き込みを行わないでください。

- RSECCNT/BCNT0
- RMINCNT/BCNT1
- RHRCNT/BCNT2
- RDAYCNT
- RWKCNT/BCNT3
- RMONCNT
- RYRCNT
- RCR1.RTCOS
- RCR2.RTCOE
- RCR2.HR24
- RFRL

上記のレジスタのいずれかに書き込みを行う場合、カウントを停止してから書き込んでください。

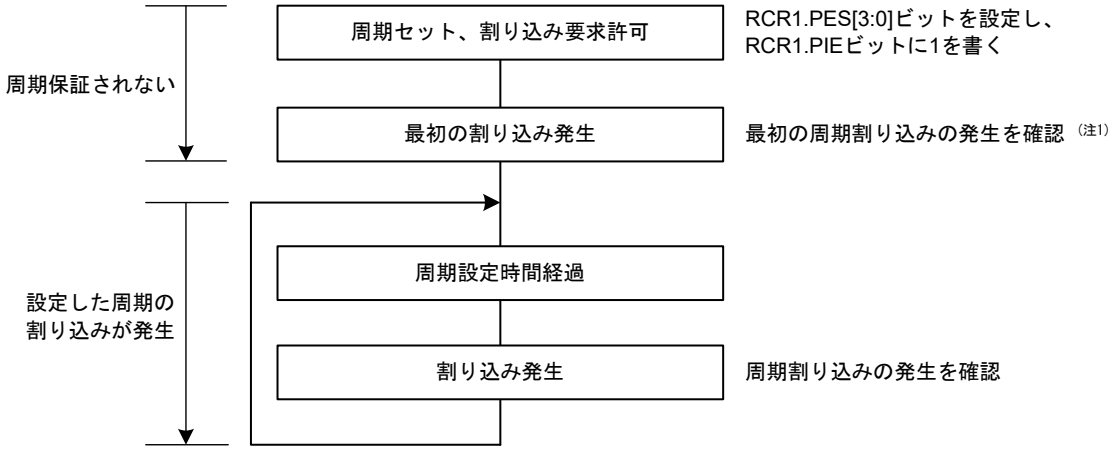
26.6.2 周期割り込みの使用について

周期割り込みの使用法を図 26.13 に示します。

周期割り込みの発生とその周期は、RCR1.PES[3:0] ビットの設定で変更できます。ただし、割り込みの生成にはプリスケーラ R64CNT と RSECCNT/BCNT0 カウンタが使用されるため、RCR1.PES[3:0] ビットの設定直後は、割り込み発生周期が保証されません。以下のいずれかによって、割り込み発生周期が影響を受ける可能性があります。

- カウンタ動作の停止／再開／リセット
- RTC ソフトウェアによるリセット
- RCR2 値の変更による 30 秒調整

時計誤差補正機能を使用した場合、補正後の割り込み発生周期は、補正値に従って加算または減算されます。



注 1. 周期割り込みを使用中に割り込み発生周期を変更した場合は、設定完了時に割り込みが発生する場合があります。設定直後に割り込みが発生している場合は、設定直後の割り込みを含めて 2 回目の割り込みまで周期が保証されません。

図 26.13 周期割り込み機能の使用方法

26.6.3 RTCOUT（1Hz/64Hz）クロック出力について

RCR2 レジスタ値を変更して、カウント動作の停止／再開／リセット、RTC ソフトウェアリセット、および 30 秒調整を行うと、RTCOUT（1Hz/64Hz）出力周期に影響を与えます。時計誤差補正機能を使用した場合、補正後の RTCOUT（1Hz/64Hz）出力周期は、補正値に従って加算または減算されます。

26.6.4 レジスタ設定後の低消費電力モードへの遷移について

RTC 内レジスタへの書き込み中に低消費電力状態（ソフトウェアスタンバイモード／ディープソフトウェアスタンバイモード／バッテリバックアップ状態）へ遷移すると、レジスタ値が破壊される可能性があります。レジスタの設定後は、設定が確定されたことを確認してから低消費電力モードへ遷移してください。

26.6.5　レジスタの書き込み／読み出し時の注意事項

- カウンタレジスタ（秒カウンタなど）へ書き込んだ後、そのカウンタレジスタを読み出す際は、26.3.5 64Hz カウンタと時刻の読み出しに示す手順に従ってください。
- カウントレジスタ、アラームレジスタ、年アラームイネーブルレジスタ、RCR2.AADJE 、AADJP 、HR24 ビット、RCR4 レジスタ、または周波数レジスタに書いた値は、書き込み後、4 回目の読み出しから反映されます。
- RCR1.CIE ビット、RCR1.RTCOS ビット、および RCR2.RTCOE ビットは、書き込み直後に書いた値を読み出すことができます。
- リセット、ソフトウェアスタンバイモード、ディープソフトウェアスタンバイモード、またはバッテリバックアップ状態から復帰した後、タイマカウンタ値を読み出す際は、時計が動作中（RCR2.START ビットが 1）の状態で 1/128 秒間待ってから読み出しを行ってください。
- リセット発生後、カウントソースクロックが 6 サイクル経過してから、RTC レジスタへ書き込んでください。

26.6.6　カウントモードの変更について

カウントモード（カレンダ／バイナリ）を変更する場合は、RCR2.START ビットを 0 にしてカウント動作を停止させた後、初期設定からやり直してください。初期設定の詳細は、26.3.1　電源投入後のレジスタ初期設定の概要を参照してください。

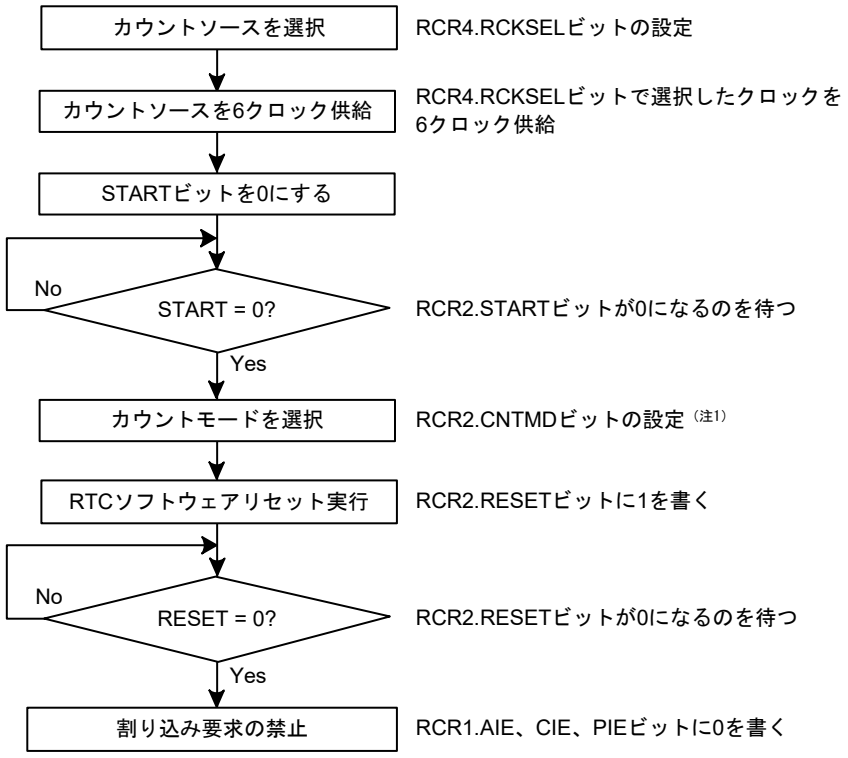
26.6.7　リアルタイムクロック（RTC）を使用しない場合の初期化手順

RTC 内のレジスタは、リセットによって初期化されません。初期状態によっては、意図しない割り込み要求の発生やカウンタの動作によって、電力消費が多くなります。

リアルタイムクロックを必要としない製品では、図 26.14 に示す初期化手順に従って、レジスタを初期化してください。

他の方法として、サブクロック発振器をシステムクロックにもリアルタイムクロックにも使用しない場合は、RCR4.RCKSEL ビットを 0（サブクロック発振器を選択）にした後、サブクロック発振器を停止させることでカウンタを停止できます。サブクロック発振器を停止するには、SOSCCR.SOSTP ビットに 1 を書き込んでください。

SOSCCR.SOSTP ビットの設定については、「9.　クロック発生回路」を参照してください。



注 1.　START ビットを 0 にすると同時にカウントモードを設定する場合、このステップは不要です。

図 26.14　初期化手順

26.6.8　クロックソースを切り替える場合

SCKSCR.CKSEL[2:0] ビットを使用してクロックソースを切り替えた場合、セレクタからのクロック出力は切り替えたクロックの 4 サイクルの間停止します。このときに発生した RTC の周期割り込みまたは周期イベント出力は無効です。

27.　ウォッチドッグタイマ（WDT）

ウォッチドッグタイマ（WDT）は14ビットのダウンカウンタです。システムが暴走してWDTをリフレッシュできなくなったため、カウンタがアンダーフローした場合にMCUをリセットするために使用できます。さらに、ノンマスカブル割り込みやアンダーフロー割り込みを発生させるためにも使用できます。ウィンドウ機能によりリフレッシュ許可期間を設定することで、カウンタのリフレッシュやシステムの暴走検知が可能になります。

27.1　概要

表 27.1 にWDTの仕様を、図 27.1 にブロック図を示します。

表 27.1　WDTの仕様

項目	内容
カウントソース	周辺クロック（PCLKB）
クロック分周比	4分周／64分周／128分周／512分周／2048分周／8192分周
カウンタ動作	14ビットのダウンカウンタによるダウンカウント
カウンタ開始条件	• オートスタートモード：リセット後、またはアンダーフロー／リフレッシュエラー発生後に自動的にカウント開始 • レジスタスタートモード：WDTRRレジスタへの書き込みによるリフレッシュ動作でカウント開始
カウンタ停止条件	• リセット（ダウンカウンタおよび他のレジスタが初期値に戻る） • カウンタのアンダーフローまたはリフレッシュエラー発生時
ウィンドウ機能	ウィンドウ開始／終了位置を設定可能（リフレッシュ許可／禁止期間）
WDTリセット要因	• ダウンカウンタがアンダーフローしたとき • リフレッシュ許可期間外でリフレッシュを行ったとき（リフレッシュエラー）
ノンマスカブル割り込み／割り込み要因	• ダウンカウンタがアンダーフローしたとき • リフレッシュ許可期間外でリフレッシュを行ったとき（リフレッシュエラー）
カウンタ値の読み出し	WDTSRレジスタを読み出すことで、ダウンカウンタ値の読み出しが可能
イベントリンク機能（出力）	• ダウンカウンタアンダーフローイベント出力 • リフレッシュエラーイベント出力
出力信号（内部信号）	• リセット出力 • 割り込み要求出力 • スリープモードカウント停止制御出力

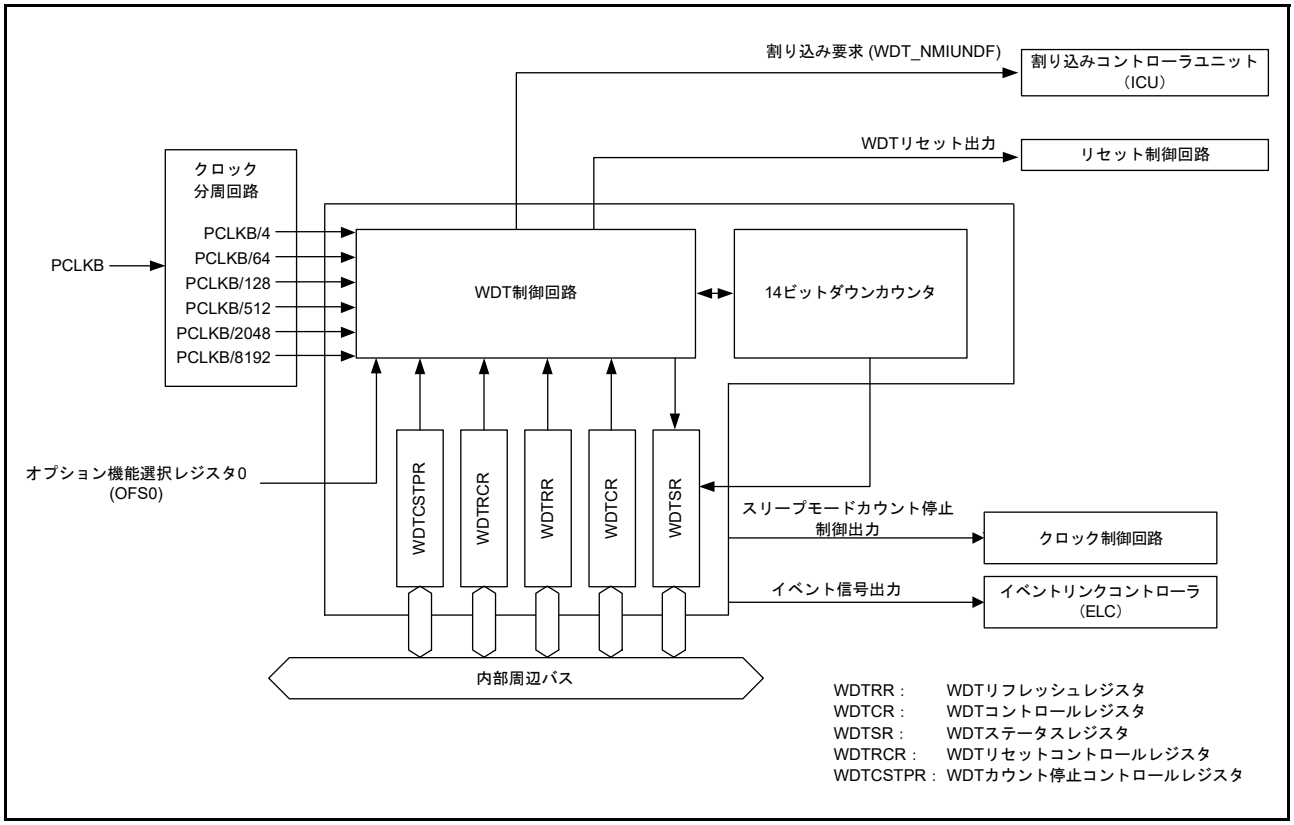
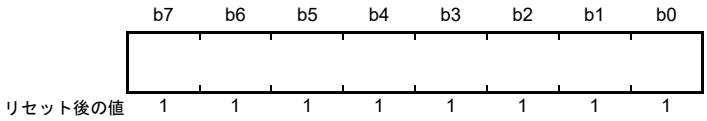


図 27.1 WDT のブロック図

27.2 レジスタの説明

27.2.1 WDT リフレッシュレジスタ（WDTRR）

アドレス WDT.WDTRR 4004 4200h



ビット	機能	R/W
b7-b0	このレジスタに対して、00hの書き込み後、FFhの書き込みでダウンカウンタがリフレッシュ	R/W

WDTRR レジスタは、WDT のダウンカウンタをリフレッシュするためのレジスタです。

リフレッシュ許可期間内に、WDTRR レジスタに 00h を書き込んだ後、FFh を書き込むこと（リフレッシュ動作）により、WDT のダウンカウンタがリフレッシュされます。

オートスタートモードでは、ダウンカウンタがリフレッシュされると、オプション機能選択レジスタ 0 の WDT タイムアウト期間選択ビット（OFS0.WDTTOPS[1:0]）で選択されている値からダウンカウントを行います。レジスタスタートモードでは、WDT コントロールレジスタのタイムアウト期間選択ビット（WDTCR.TOPS[1:0]）で選択されている値からダウンカウントを行います。

読み出し値は、00h を書き込んだ場合は 00h であり、00h 以外の値を書き込んだ場合は FFh となります。リフレッシュ動作の詳細は、27.3.3 リフレッシュ動作を参照してください。

27.2.2 WDT コントロールレジスタ（WDTCR）

アドレス WDT.WDTCR 4004 4202h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	RPSS[1:0]		—	—	RPES[1:0]		CKS[3:0]				—	—	TOPS[1:0]	
リセット後の値	0	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	TOPS[1:0]	タイムアウト期間選択	b1 b0 0 0 : 1024サイクル（03FFh） 0 1 : 4096サイクル（0FFFh） 1 0 : 8192サイクル（1FFFh） 1 1 : 16384サイクル（3FFFh）	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7-b4	CKS[3:0]	クロック分周比選択	b7 b4 0 0 0 1 : PCLKB/4 0 1 0 0 : PCLKB/64 1 1 1 1 : PCLKB/128 0 1 1 0 : PCLKB/512 0 1 1 1 : PCLKB/2048 1 0 0 0 : PCLKB/8192 上記以外は設定しないでください。	R/W
b9-b8	RPES[1:0]	ウィンドウ終了位置選択	b9 b8 0 0 : 75% 0 1 : 50% 1 0 : 25% 1 1 : 0%（ウィンドウ終了位置の設定なし）	R/W
b11-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b13-b12	RPSS[1:0]	ウィンドウ開始位置選択	b13 b12 0 0 : 25% 0 1 : 50% 1 0 : 75% 1 1 : 100%（ウィンドウ開始位置の設定なし）	R/W
b15-b14	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

WDTCR レジスタへの書き込みには、いくつかの制限があります。詳細は、27.3.2 WDTCR、WDTRCR、および WDTCSTPR レジスタへの書き込み制御を参照してください。

オートスタートモードの場合、WDTCR レジスタの設定値は無効となり、オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）の設定値が有効となります。OFS0 レジスタの設定は、WDTCR レジスタと同様の設定が可能です。詳細は、27.3.7 オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）と WDT レジスタの対応関係を参照してください。

TOPS[1:0] ビット（タイムアウト期間選択）

ダウンカウンタがアンダーフローするまでのタイムアウト期間について、CKS[3:0] ビットで設定した分周クロックを 1 サイクルとして、1024 サイクル／ 4096 サイクル／ 8192 サイクル／ 16384 サイクルから選択します。ダウンカウンタのリフレッシュ後、アンダーフローするまでの PCLKB サイクル数は、CKS[3:0] ビットと TOPS[1:0] ビットの組み合わせにより決定します。

表 27.2 に、CKS[3:0] および TOPS[1:0] ビットの設定値、タイムアウト期間、および PCLKB サイクル数の関係を示します。

表 27.2　タイムアウト期間の設定

CKS[3:0]ビット				TOPS[1:0]ビット		クロック分周比	タイムアウト期間（サイクル数）	PCLKB クロックサイクル数
b7	b6	b5	b4	b1	b0			
0	0	0	1	0	0	PCLKB/4	1024	4096
				0	1		4096	16384
				1	0		8192	32768
				1	1		16384	65536
0	1	0	0	0	0	PCLKB/64	1024	65536
				0	1		4096	262144
				1	0		8192	524288
				1	1		16384	1048576
1	1	1	1	0	0	PCLKB/128	1024	131072
				0	1		4096	524288
				1	0		8192	1048576
				1	1		16384	2097152
0	1	1	0	0	0	PCLKB/512	1024	524288
				0	1		4096	2097152
				1	0		8192	4194304
				1	1		16384	8388608
0	1	1	1	0	0	PCLKB/2048	1024	2097152
				0	1		4096	8388608
				1	0		8192	16777216
				1	1		16384	33554432
1	0	0	0	0	0	PCLKB/8192	1024	8388608
				0	1		4096	33554432
				1	0		8192	67108864
				1	1		16384	134217728

CKS[3:0] ビット（クロック分周比選択）

ダウンカウンタで使用するクロックの分周比を設定します。分周比は、周辺クロック（PCLKB）の 4 分周／ 64 分周／ 128 分周／ 512 分周／ 2048 分周／ 8192 分周から選択できます。TOPS[1:0] ビット設定と組み合わせて、WDT のカウント期間を PCLKB クロックの 4096 ～ 134217728 サイクルから選択できます。

RPES[1:0] ビット（ウィンドウ終了位置選択）

リフレッシュ許可期間を示すウィンドウの終了位置を設定します。ウィンドウ終了位置は、タイムアウト期間の 75%、50%、25%、0% から選択できます。ウィンドウ終了位置には、ウィンドウ開始位置より小さい値を選択してください（ウィンドウ開始位置＞ウィンドウ終了位置）。「ウィンドウ開始位置≦ウィンドウ終了位置」の設定を行った場合、ウィンドウ開始位置の設定のみが有効となり、ウィンドウ終了位置は 0% になります。

RPSS[1:0] ビット（ウィンドウ開始位置選択）

リフレッシュ許可期間を示すウィンドウの開始位置を設定します。ウィンドウ開始位置は、タイムアウト期間の 100%、75%、50%、25% から選択できます。ウィンドウ開始位置には、ウィンドウ終了位置より大きい値を選択してください（ウィンドウ開始位置＞ウィンドウ終了位置）。

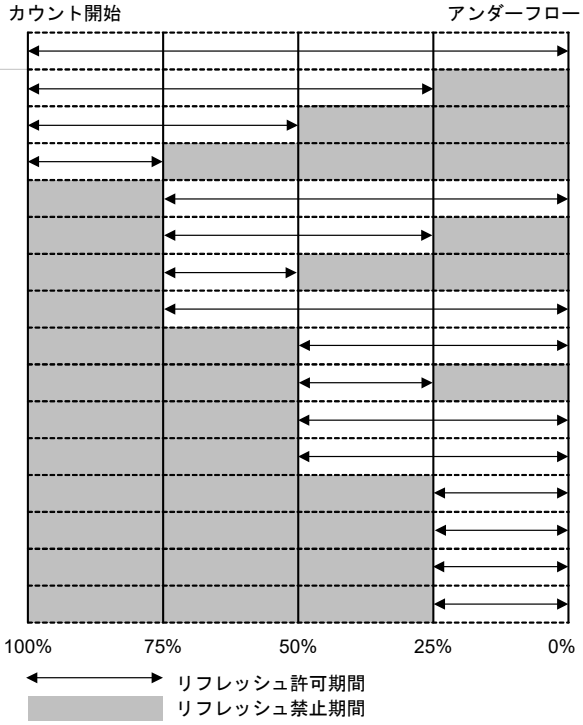
「ウィンドウ開始位置≦ウィンドウ終了位置」の設定を行った場合、ウィンドウ開始位置の設定のみが有効となり、ウィンドウ終了位置は 0% になります。

ウィンドウ開始、終了位置のカウンタ値を表 27.3 に、RPSS[1:0]、RPES[1:0]、TOPS[1:0] ビットで設定されるリフレッシュ許可期間を図 27.2 に示します。

表 27.3　タイムアウト期間とウィンドウ開始／終了カウンタ値の対応表

TOPS[1:0]ビット		タイムアウト期間		ウィンドウ開始／終了カウンタ値			
		サイクル数	カウンタ値	100%	75%	50%	25%
0	0	1024	03FFh	03FFh	02FFh	01FFh	00FFh
0	1	4096	0FFFh	0FFFh	0BFFh	07FFh	03FFh
1	0	8192	1FFFh	1FFFh	17FFh	0FFFh	07FFh
1	1	16384	3FFFh	3FFFh	2FFFh	1FFFh	0FFFh

RPSS[1:0]ビット		RPES[1:0]ビット		ウィンドウ	
b13	b12	b9	b8	開始（%）	終了（%）
1	1	1	1	100	0
		1	0		25
		0	1		50
		0	0		75
1	0	1	1	75	0
		1	0		25
		0	1		50
		0	0		75
0	1	1	1	50	0
		1	0		25
		0	1		50
		0	0		75
0	0	1	1	25	0
		1	0		25
		0	1		50
		0	0		75



注 .　「ウィンドウ終了位置」≧「ウィンドウ開始位置」設定を行った場合、「ウィンドウ終了位置」設定は 0% になります。

図 27.2　RPSS[1:0] および RPES[1:0] ビットとリフレッシュ許可期間

27.2.3 WDT ステータスレジスタ（WDTSR）

アドレス WDT.WDTSR 4004 4204h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	REFEF	UNDFF	CNTVAL[13:0]													
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b13-b0	CNTVAL[13:0]	ダウンカウンタ値	ダウンカウンタのカウンタ値	R
b14	UNDFF	アンダーフローフラグ	0：アンダーフロー発生なし 1：アンダーフロー発生あり	R(/W) （注1）
b15	REFEF	リフレッシュエラーフラグ	0：リフレッシュエラー発生なし 1：リフレッシュエラー発生あり	R(/W) （注1）

注 1.　フラグをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。

CNTVAL[13:0] ビット（ダウンカウンタ値）

CNTVAL[13:0] ビットを読み出すことにより、ダウンカウンタの値を確認できます。読み出し値は、実際のカウント値から 1 カウントずれる場合があります。

UNDFF フラグ（アンダーフローフラグ）

UNDFF フラグを読み出すことにより、ダウンカウンタのアンダーフロー発生状態を確認できます。読み出し値が 1 のとき、ダウンカウンタがアンダーフローしたことを示します。値を 0 にするには 0 を書き込んでください。1 の書き込みは無効です。

UNDFF フラグのクリアには、（N + 1）PCLKB サイクルを要します。さらに、アンダーフローの発生から（N + 1）PCLKB サイクルの間は、このフラグをクリアしても無視されます。N は、次式のように、WDTCR.CKS[3:0] ビットで指定されます。

- WDTCR.CKS[3:0] = 0001b のとき、N = 4
- WDTCR.CKS[3:0] = 0100b のとき、N = 64
- WDTCR.CKS[3:0] = 1111b のとき、N = 128
- WDTCR.CKS[3:0] = 0110b のとき、N = 512
- WDTCR.CKS[3:0] = 0111b のとき、N = 2048
- WDTCR.CKS[3:0] = 1000b のとき、N = 8192

REFEF フラグ（リフレッシュエラーフラグ）

REFEF フラグを読み出すことにより、リフレッシュエラー発生状態を確認できます。リフレッシュエラーは、リフレッシュ禁止期間中にリフレッシュ動作が実行されたことを示します。読み出し値が 1 のとき、リフレッシュエラーが発生した状態です。値を 0 にするには 0 を書き込んでください。1 の書き込みは無効です。

REFEF フラグのクリアには、（N + 1）PCLKB サイクルを要します。さらに、リフレッシュエラーの発生から（N + 1）PCLKB サイクルの間は、このフラグをクリアしても無視されます。N は、次式のように、WDTCR.CKS[3:0] ビットで指定されます。

- WDTCR.CKS[3:0] = 0001b のとき、N = 4
- WDTCR.CKS[3:0] = 0100b のとき、N = 64
- WDTCR.CKS[3:0] = 1111b のとき、N = 128
- WDTCR.CKS[3:0] = 0110b のとき、N = 512

- WDTCR.CKS[3:0] = 0111b のとき、N = 2048
- WDTCR.CKS[3:0] = 1000b のとき、N = 8192

27.2.4　WDT リセットコントロールレジスタ（WDTRCR）

アドレス　WDT.WDTRCR 4004 4206h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	RSTIRQS	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	1	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	RSTIRQS	リセット割り込み要求選択	WDT動作の選択 0：割り込み 1：リセット	R/W

WDTRCR レジスタへの書き込みには、いくつかの制限があります。詳細は、27.3.2　WDTCR、WDTRCR、および WDTCSTPR レジスタへの書き込み制御を参照してください。

オートスタートモードの場合、WDTRCR レジスタの設定値は無効となり、オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）の設定値が有効となります。OFS0 レジスタの設定は、WDTRCR レジスタと同様の設定が可能です。詳細は、27.3.7　オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）と WDT レジスタの対応関係を参照してください。

27.2.5　WDT カウント停止コントロールレジスタ（WDTCSTPR）

アドレス　WDT.WDTCSTPR 4004 4208h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SLCSTP	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	1	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	SLCSTP	スリープモードカウント停止制御	0：カウント停止を禁止 1：スリープモード遷移時にカウント停止	R/W

WDTCSTPR レジスタは、スリープモードにおいて、WDT カウンタを停止させるかどうかを制御します。WDTCSTPR レジスタへの書き込みには、いくつかの制限があります。詳細は、27.3.2　WDTCR、WDTRCR、および WDTCSTPR レジスタへの書き込み制御を参照してください。

オートスタートモードの場合、WDTCSTPR レジスタの設定値は無効となり、オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）の設定値が有効となります。OFS0 レジスタの設定は、WDTCSTPR レジスタと同様の設定が可能です。詳細は、27.3.7　オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）と WDT レジスタの対応関係を参照してください。

SLCSTP ビット（スリープモードカウント停止制御）

スリープモード遷移時に、カウントを停止させるかどうかを選択します。

27.2.6　オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）

OFS0 レジスタについては、27.3.7　オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）と WDT レジスタの対応関係を参照してください。

27.3 動作説明

27.3.1 スタートモード別のカウント動作

WDT には、次の 2 つのスタートモードがあります。

- オートスタートモード：リセット状態の解除後、自動的にカウント開始
- レジスタスタートモード：リフレッシュ（レジスタへの書き込み）によってカウント開始

オートスタートモードは、リセット解除後、フラッシュ内のオプション機能選択レジスタ 0（OFS0）の設定に従い、自動的にカウントを開始します。

レジスタスタートモードでは、リセット状態の解除後、各レジスタを設定してからリフレッシュ（レジスタへの書き込み）を行うと、カウントを開始します。

オートスタートモードまたはレジスタスタートモードの選択は、OFS0 レジスタの WDT スタートモード選択ビット（OFS0.WDTSTRT）で行います。オートスタートモードを選択した場合、WDT コントロールレジスタ（WDTCR）、WDT リセットコントロールレジスタ（WDTRCR）、および WDT カウント停止コントロールレジスタ（WDTCSTPR）の設定値は無効となり、OFS0 レジスタの設定値が有効となります。レジスタスタートモードを選択した場合、OFS0 レジスタの設定値は無効となり、WDT コントロールレジスタ（WDTCR）、WDT リセットコントロールレジスタ（WDTRCR）、および WDT カウント停止コントロールレジスタ（WDTCSTPR）の設定値が有効となります。

27.3.1.1 レジスタスタートモード

WDT スタートモード選択ビット（OFS0.WDTSTRT）が 1 の場合、レジスタスタートモードが選択されて、OFS0 レジスタの設定値は無効となり、WDT コントロールレジスタ（WDTCR）、WDT リセットコントロールレジスタ（WDTRCR）、および WDT カウント停止コントロールレジスタ（WDTCSTPR）が有効となります。

リセット状態の解除後、以下を設定してください。

- WDTCR レジスタにおいて、クロック分周比
- WDTCR レジスタにおいて、ウィンドウ開始／終了位置
- WDTCR レジスタにおいて、タイムアウト期間
- WDTRCR レジスタにおいて、リセット出力または割り込み要求出力
- WDTCSTPR レジスタにおいて、スリープモード遷移時のカウント停止制御

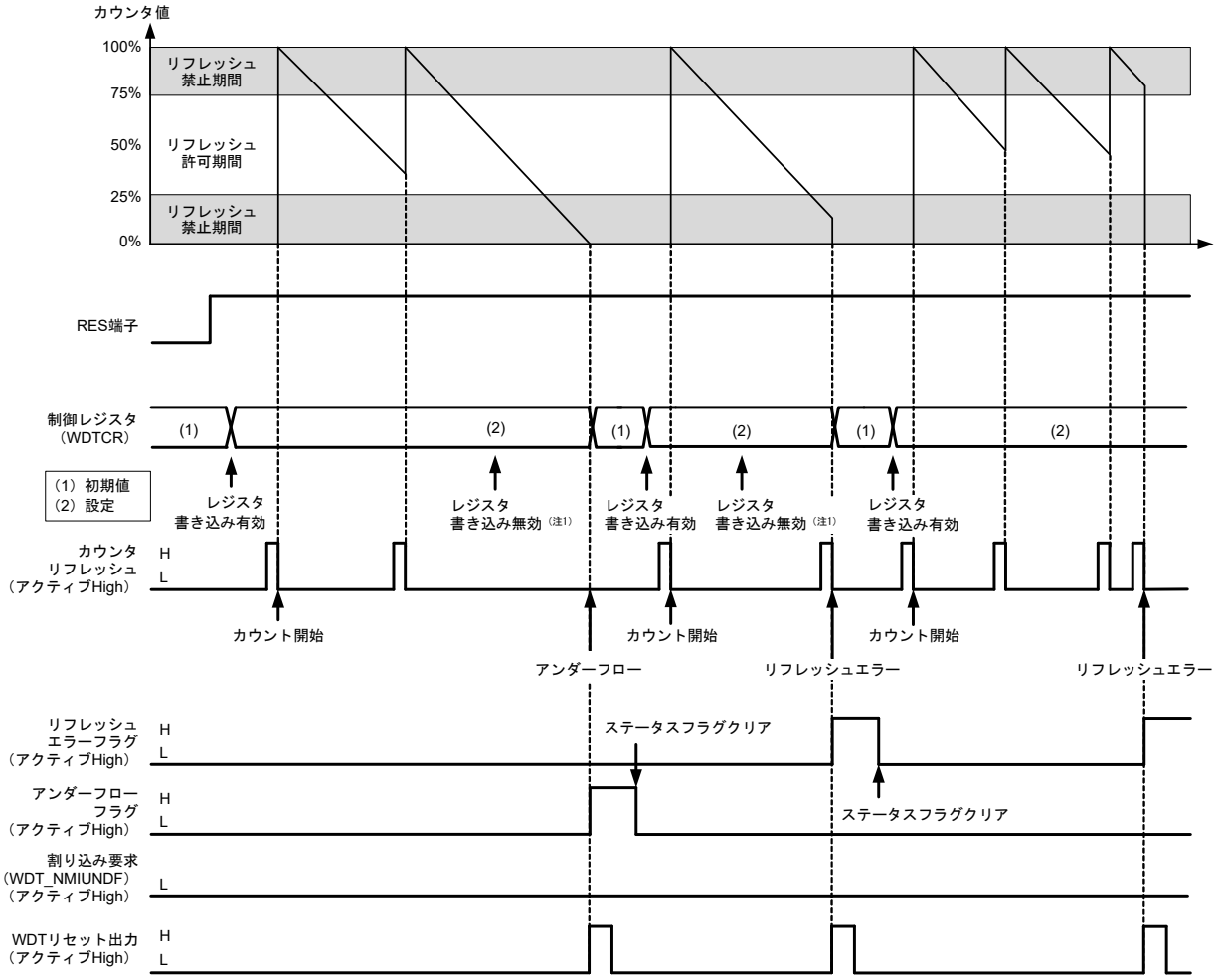
WDT リフレッシュレジスタ（WDTRR）にて、ダウンカウンタをリフレッシュしてください。

すると、タイムアウト期間選択ビット（WDTCR.TOPS[1:0]）で設定した値からダウンカウントが開始されます。

以降、リフレッシュ許可期間内にカウンタがリフレッシュされている場合は、リフレッシュごとにカウンタ値がリセットされて、ダウンカウントを継続します。カウントが継続する間、WDT はリセット信号、またはノンマスカブル割り込み要求／割り込み要求（WDT_NMIUNDF）を出力しません。ただし、プログラムの暴走によってダウンカウンタをリフレッシュできなかったため、ダウンカウンタがアンダーフローした場合や、リフレッシュ許可期間外にカウンタをリフレッシュしたため、リフレッシュエラーが発生した場合は、WDT はリセット信号を出力するか、またはノンマスカブル割り込み要求／割り込み要求（WDT_NMIUNDF）を出力します。リセット出力または割り込み要求出力の選択は、WDT リセット割り込み要求選択ビット（WDTRCR.RSTIRQS）で行います。NMI の起動要因となる割り込み許可は、WDT アンダーフロー／リフレッシュエラー割り込み許可ビット（NMIER.WDTEN）で行います。

図 27.3 に、下記の条件下での動作例を示します。

- レジスタスタートモード（OFS0.WDTSTRT = 1）
- WDT リセット割り込み要求選択（WDTRCR.RSTIRQS = 1）
- ウィンドウ開始位置 75%（WDTCR.RPSS[1:0] = 10b）
- ウィンドウ終了位置 25%（WDTCR.RPES[1:0] = 10b）



注 .　カウンタリフレッシュは、リフレッシュ要求から実行までに、カウント信号のサイクル数で最大 4 サイクルを要します。
注1.　詳細は、27.3.2　WDTCR、WDTRCR、およびWDTCSTPR レジスタへの書き込み制御を参照してください。

図 27.3　　レジスタスタートモードでの動作例

27.3.1.2 オートスタートモード

オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）の WDT スタートモード選択ビット（OFS0.WDTSTRT）が 0 の場合、オートスタートモードが選択されて、WDT コントロールレジスタ（WDTCR）、WDT リセットコントロールレジスタ（WDTRCR）、および WDT カウント停止コントロールレジスタ（WDTCSTPR）の設定値は無効となり、OFS0 レジスタの設定値が有効となります。

リセット状態の間に、オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）の下記の設定値が WDT のレジスタに設定されます。

- クロック分周比
- ウィンドウ開始／終了位置
- タイムアウト期間
- リセット出力または割り込み要求
- スリープモード遷移時のカウント停止制御

リセット状態が解除されると、WDT タイムアウト期間選択ビット（OFS0.WDTTOPS[1:0]）で設定された値からダウンカウンタが自動でダウンカウントを開始します。

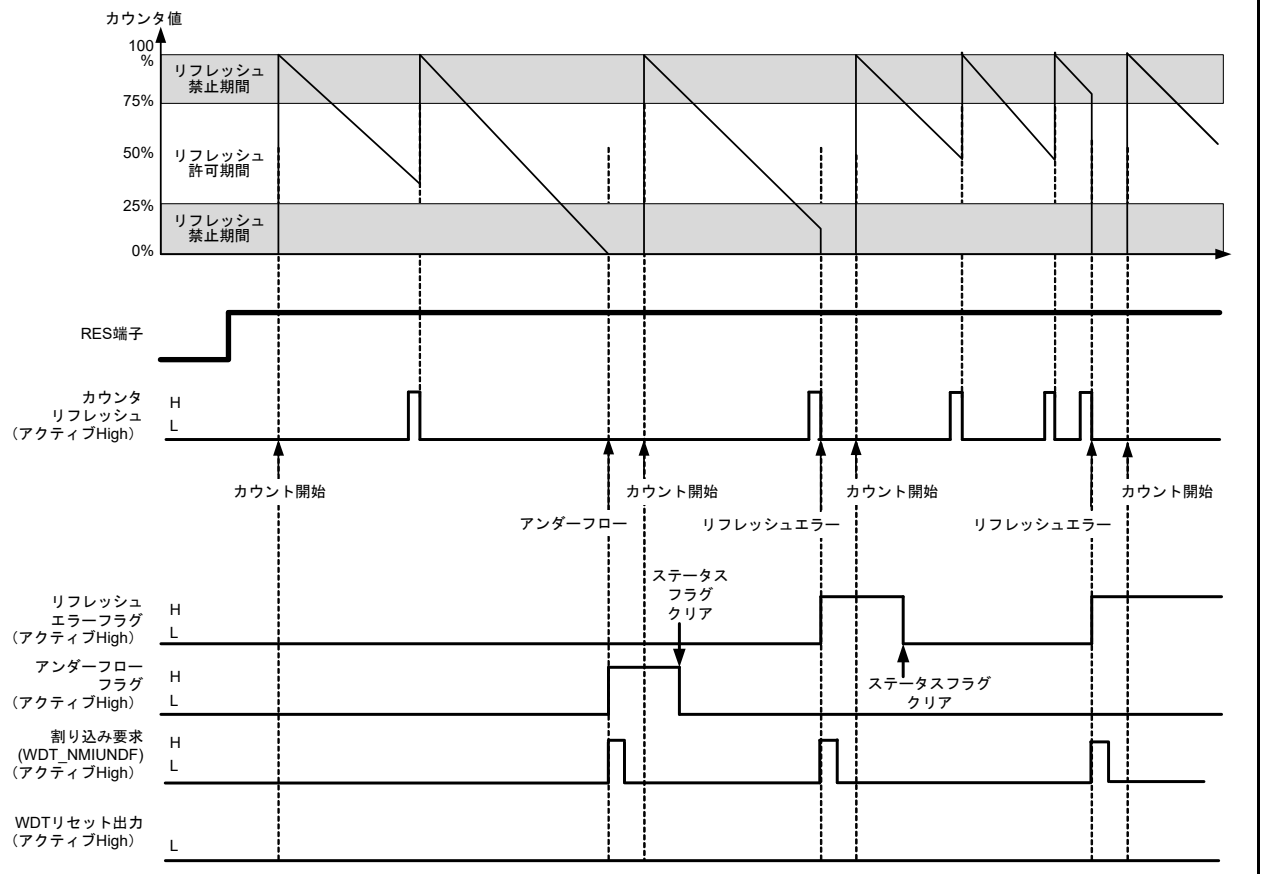
以降、リフレッシュ許可期間内にカウンタがリフレッシュされている場合は、リフレッシュごとにカウンタ値がリセットされて、ダウンカウントを継続します。カウント継続中、WDT はリセット信号、またはノンマスカブル割り込み要求／割り込み要求（WDT_NMIUNDF）を出力しません。ただし、プログラムの暴走によってダウンカウンタをリフレッシュできなかったため、ダウンカウンタがアンダーフローした場合や、リフレッシュ許可期間外にカウンタをリフレッシュしたため、リフレッシュエラーが発生した場合は、WDT はリセット信号を出力するか、またはノンマスカブル割り込み要求／割り込み要求（WDT_NMIUNDF）を出力します。

リセット信号またはノンマスカブル割り込み要求／割り込み要求が発生してから 1 サイクルカウント後に、カウンタはタイムアウト期間をリロードします。ダウンカウンタにタイムアウト期間の値が設定され、カウントが再開します。

リセット出力または割り込み要求出力の選択は、WDT リセット割り込み要求選択ビット（OFS0.WDTRSTIRQS）で行います。ノンマスカブル割り込み要求または割り込み要求の選択は、WDT アンダーフロー／リフレッシュエラー割り込み許可ビット（NMIER.WDTEN）で行います。

図 27.4 に、下記の条件下での動作（ノンマスカブル割り込み）例を示します。

- オートスタートモード（OFS0.WDTSTRT = 0）
- WDT 動作の選択：割り込み（OFS0.WDTRSTIRQS = 0）
- ノンマスカブル割り込み : WDT アンダーフロー／リフレッシュエラー割り込み許可（NMIER.WDTEN = 1）
- ウィンドウ開始位置 75%（OFS0.WDTRPSS[1:0] = 10b）
- ウィンドウ終了位置 25%（OFS0.WDTRPES[1:0] = 10b）



注 .　カウンタリフレッシュは、リフレッシュ要求から実行までに、カウント信号のサイクル数で最大 4 サイクルを要します。

図 27.4　オートスタートモードでの動作例

27.3.2　WDTCR、WDTRCR、および WDTCSTPR レジスタへの書き込み制御

WDT コントロールレジスタ（WDTCR）、WDT リセットコントロールレジスタ（WDTRCR）、および WDT カウント停止コントロールレジスタ（WDTCSTPR）への書き込みは、リセット状態の解除から最初のリフレッシュ動作までの間にそれぞれ 1 回可能です。

リフレッシュ（カウントスタート）後、あるいは WDTCR、WDTRCR、または WDTCSTPR レジスタへ書き込み後に、WDT 内部のプロテクト信号が 1 となり、以後 WDTCR、WDTRCR、および WDTCSTPR レジスタへの書き込みを保護します。この保護動作は、WDT のリセット要因によって解除されます。それ以外のリセット要因では解除されません。

図 27.5 に、WDTCR レジスタへの書き込みに対して生成される制御波形を示します。

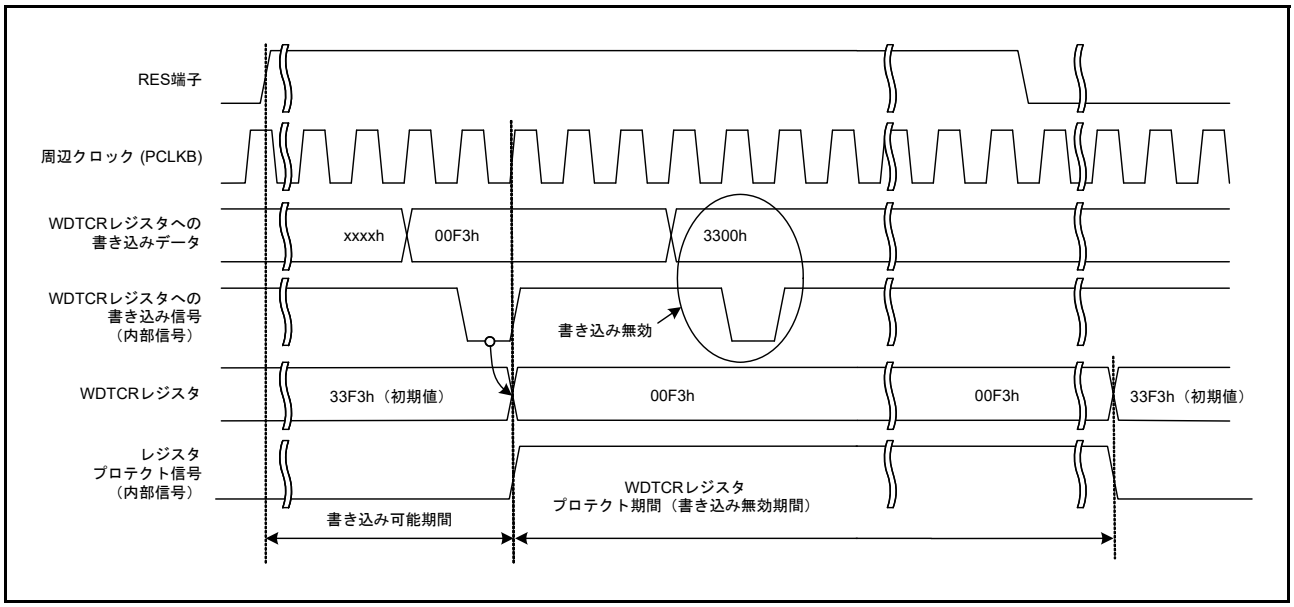


図 27.5　WDTCR レジスタへの書き込みに対して生成される制御波形

27.3.3　リフレッシュ動作

ダウンカウンタは、WDT リフレッシュレジスタ（WDTRR）に 00h → FFh の順で書き込むことによってリフレッシュされます。00h の後に FFh 以外の値を書き込むと、ダウンカウンタはリフレッシュされません。無効な値を書き込んだ場合は、WDTRR レジスタへ 00h → FFh の順で書き込むと、正常にリフレッシュが行われます。

また、WDTRR レジスタへの 00h の書き込みと FFh の書き込みの間に、WDTRR 以外のレジスタにアクセスするか、または WDTRR レジスタを読み出しても、正常にリフレッシュが行われます。

カウンタをリフレッシュするための書き込みは、リフレッシュ許可期間中に行う必要があります。この判定は FFh の書き込み時に行われます。そのため、00h の書き込みがリフレッシュ許可期間外であっても、リフレッシュは正常に行われます。

【カウンタのリフレッシュ時の有効な書き込み順序の例】

- 00h → FFh
- 00h（n - 1 回目）→ 00h（n 回目）→ FFh
- 00h →別レジスタへのアクセスまたは WDTRR レジスタの読み出し→ FFh

【カウンタのリフレッシュ時の無効な書き込み順序の例】

- 23h（00h 以外の値）→ FFh
- 00h → 54h（FFh 以外の値）
- 00h → AAh（00h および FFh 以外の値）→ FFh

ダウンカウンタのリフレッシュには、WDT リフレッシュレジスタ（WDTRR）に FFh を書き込んでから、カウント信号のサイクル数で最大 4 サイクルを要します。この要件を満たすには、ダウンカウンタのアンダーフローが発生する 4 カウントサイクル前までに、WDTRR レジスタへの FFh の書き込みを完了する必要があります。

図 27.6 に、クロック分周比が PCLKB/64 である場合の WDT リフレッシュ動作波形を示します。

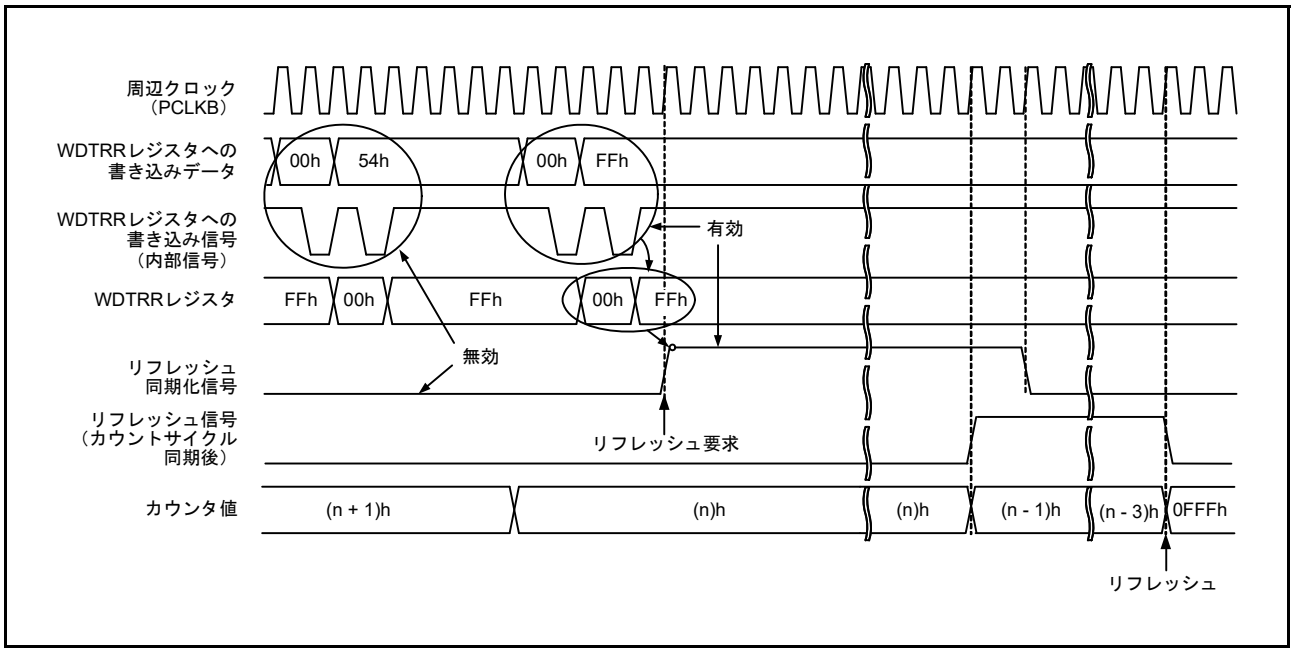


図 27.6　WDT リフレッシュ動作波形（WDTCR.CKS[3:0] = 0100b、WDTCR.TOPS[1:0] = 01b の場合）

27.3.4　リセット出力

レジスタスタートモードでリセット割り込み要求選択ビット（WDTRCR.RSTIRQS）を 1 にした場合、またはオートスタートモードでオプション機能選択レジスタ 0（OFS0）の WDT リセット割り込み要求選択ビット（OFS0.WDTRSTIRQS）を 1 にした場合、ダウンカウンタのアンダーフローまたはリフレッシュエラー発生時に、リセット信号を 1 サイクル間出力します。

レジスタスタートモードでは、リセット信号の出力後、ダウンカウンタが初期化され（全ビットが 0 になり）、その状態のまま停止します。リセット状態が解除されて、プログラムが再起動した後は、リフレッシュ動作によってカウンタが設定され、ダウンカウントを再開します。オートスタートモードでは、リセット状態の解除後、自動的にダウンカウントを開始します。

27.3.5　割り込み要因

レジスタスタートモードでリセット割り込み要求選択ビット（WDTRCR.RSTIRQS）を 0 にした場合、またはオートスタートモードでオプション機能選択レジスタ 0（OFS0）の WDT リセット割り込み要求選択ビット（OFS0.WDTRSTIRQS）を 0 にした場合、カウンタのアンダーフローまたはリフレッシュエラー発生時に、割り込み信号（WDT_NMIUNDF）が発生します。この割り込みは、ノンマスカブル割り込みと割り込みの両方に対応しています。詳細は、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

表 27.4　WDTの割り込み要因

名称	割り込み要因	DTCの起動	DMACの起動
WDT_NMIUNDF	• ダウンカウンタのアンダーフロー • リフレッシュエラー	不可能	不可能

27.3.6　ダウンカウンタ値の読み出し

WDT は、カウンタ値を WDT ステータスレジスタのダウンカウンタ値ビット（WDTSR.CNTVAL[13:0]）に格納します。これらのビットを確認して、カウンタ値を取得してください。

図 27.7 に、クロック分周比が PCLKB/64 である場合の WDT ダウンカウンタ値の読み出し処理を示します。

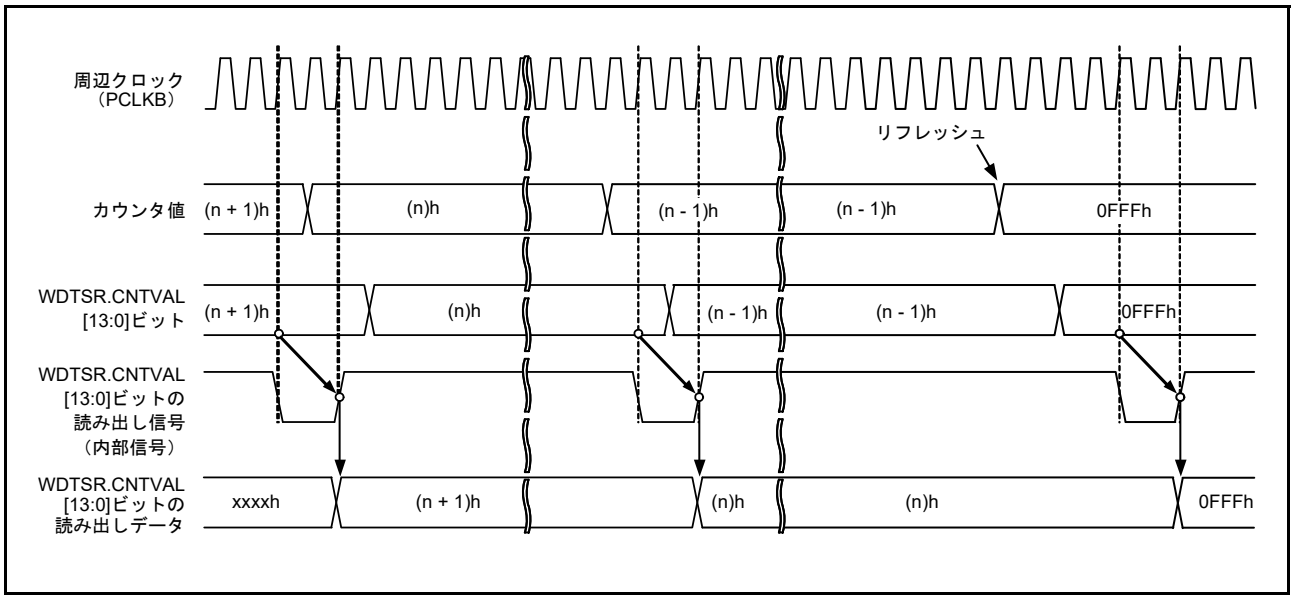


図 27.7　WDT ダウンカウンタ値の読み出し処理（WDTCR.CKS[3:0] = 0100b、WDTCR.TOPS[1:0] = 01b の場合）

27.3.7 オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）と WDT レジスタの対応関係

表 27.5 に、オートスタートモードで使用するオプション機能選択レジスタ 0（OFS0）と、レジスタスタートモードで使用するレジスタの対応関係を示します。OFS0 レジスタの設定値は、WDT 動作中は変更しないでください。オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）の詳細は、7.2.1 オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）を参照してください。

表 27.5 オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）と WDT レジスタの対応関係

制御対象	機能	OFS0 レジスタ（オートスタートモードで有効）OFS0.WDTSTRT = 0	WDT レジスタ（レジスタスタートモードで有効）OFS0.WDTSTRT = 1
ダウンカウンタ	タイムアウト期間選択	OFS0.WDTTOPS[1:0]	WDTCR.TOPS[1:0]
	クロック分周比選択	OFS0.WDTCKS[3:0]	WDTCR.CKS[3:0]
	ウィンドウ開始位置選択	OFS0.WDTRPSS[1:0]	WDTCR.RPSS[1:0]
	ウィンドウ終了位置選択	OFS0.WDTRPES[1:0]	WDTCR.RPES[1:0]
リセット出力／割り込み要求出力	リセット割り込み要求選択	OFS0.WDTRSTIRQS	WDTRCR.RSTIRQS
カウント停止	スリープモードカウント停止制御	OFS0.WDTSTPCTL	WDTCSTPR.SLCSTP

27.4 ELC によるリンク動作

ELC が割り込み要求信号をイベント信号として使用する場合、WDT は前もって設定しておいたモジュールに対してリンク動作が可能です。イベント信号はカウンタのアンダーフローまたはリフレッシュエラーによって出力されます。

イベント信号は、レジスタスタートモードにおけるリセット割り込み要求選択ビット（WDTRCR.RSTIRQS）の設定、あるいはオートスタートモードにおける WDT リセット割り込み要求選択ビット（OFS0.WDTRSTIRQS）の設定、に関係なく出力されます。リフレッシュエラーフラグ（WDTSR.REFEF）またはアンダーフローフラグ (WDTSR.UNDFF) が 1 の状態で次の割り込み要因が発生した場合も、イベント信号の出力が可能です。詳細は、「19. イベントリンクコントローラ（ELC）」を参照してください。

27.5 使用上の注意事項

27.5.1 ICU イベントリンク設定レジスタ n（IELSRn）の設定

WDT リセット割り込み要求選択ビットでリセットを有効にする場合（OFS0.WDTRSTIRQS = 1 または WDTRCR.RSTIRQS = 1）、またはイベントリンク動作を有効にする場合（ELSRn.ELS[8:0] = 47h）、ICU イベントリンク設定レジスタ n（IELSRn.IELS[8:0]）に 47h を設定することは禁止されています。

28.　独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）

28.1　概要

独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）は 14 ビットのダウンカウンタです。このカウンタは、アンダーフロー防止のため周期的に動作させる必要があります。IWDT は、MCU をリセットするため、あるいはノンマスカブル割り込みやアンダーフロー割り込みを生成するために使用できます。このタイマは独立した専用のクロックソースで動作するため、システムが暴走したとき、MCU をフェイルセーフ機構と呼ばれる状態に戻すことに特に役立ちます。IWDT は、リセット、アンダーフロー、リフレッシュエラー、またはレジスタのカウント値のリフレッシュで自動的に起動します。

IWDT の機能は、WDT とは以下の点で異なります。

- カウントソースとして IWDT 専用クロック（IWDTCLK）の分周したものを使用（PCLKB の影響を受けない）
- IWDT はレジスタスタートモードを非サポート
- 低消費電力モードへ遷移する場合（ディープソフトウェアスタンバイモードを除く）、OFS0.IWDTSTPCTL ビットを使用してカウンタを停止する／しないの選択が可能

表 28.1 に IWDT の仕様を、図 28.1 にブロック図を示します。

表 28.1　IWDTの仕様

項目	内容
カウントソース（注1）	IWDT専用クロック（IWDTCLK）
クロック分周比	1分周／16分周／32分周／64分周／128分周／256分周
カウンタ動作	14ビットのダウンカウンタによるダウンカウント
カウンタ開始条件	リセット後、自動的にカウント開始
カウンタ停止条件	• リセット（ダウンカウンタおよび他のレジスタが初期値に戻る） • カウンタのアンダーフローまたはリフレッシュエラーの発生（自動的にカウント再開）
ウィンドウ機能	ウィンドウ開始／終了位置を設定可能（リフレッシュ許可／禁止期間）
IWDTリセット要因	• ダウンカウンタがアンダーフローしたとき • リフレッシュ許可期間外でリフレッシュを行ったとき（リフレッシュエラー）
ノンマスカブル割り込み／割り込み要因	• ダウンカウンタがアンダーフローしたとき • リフレッシュ許可期間外でリフレッシュを行ったとき（リフレッシュエラー）
カウンタ値の読み出し	IWDTSRレジスタを読み出すことで、ダウンカウンタ値の読み出しが可能
イベントリンク機能（出力）	• ダウンカウンタアンダーフローイベント出力 • リフレッシュエラーイベント出力
出力信号（内部信号）	• リセット出力 • 割り込み要求出力 • スリープモードカウント停止制御出力
オートスタートモード	下記のトリガに設定可能： • リセット後のクロック分周比（OFS0.IWDTCKS[3:0]ビット） • IWDTのタイムアウト期間（OFS0.IWDTTOPS[1:0]ビット） • IWDTのウィンドウ開始位置（OFS0.IWDTRPSS[1:0]ビット） • IWDTのウィンドウ終了位置（OFS0.IWDTRPES[1:0]ビット） • リセット出力または割り込み要求出力（OFS0.IWDTRSTIRQSビット） • スリープモード、ソフトウェアスタンバイモードまたはスヌーズモード遷移時のダウンカウント停止機能（OFS0.IWDTSTPCTLビット）

注 1.　周辺モジュールクロック（PCLKB）周波数≧ 4 ×（カウントクロックソースの分周後周波数）となるように設定してください。

IWDT を使用するには、IWDT 専用クロック（IWDTCLK）を供給する必要があります。バスインタフェース部とレジスタ部は PCLKB で動作し、14 ビットカウンタと制御回路は IWDTCLK で動作します。

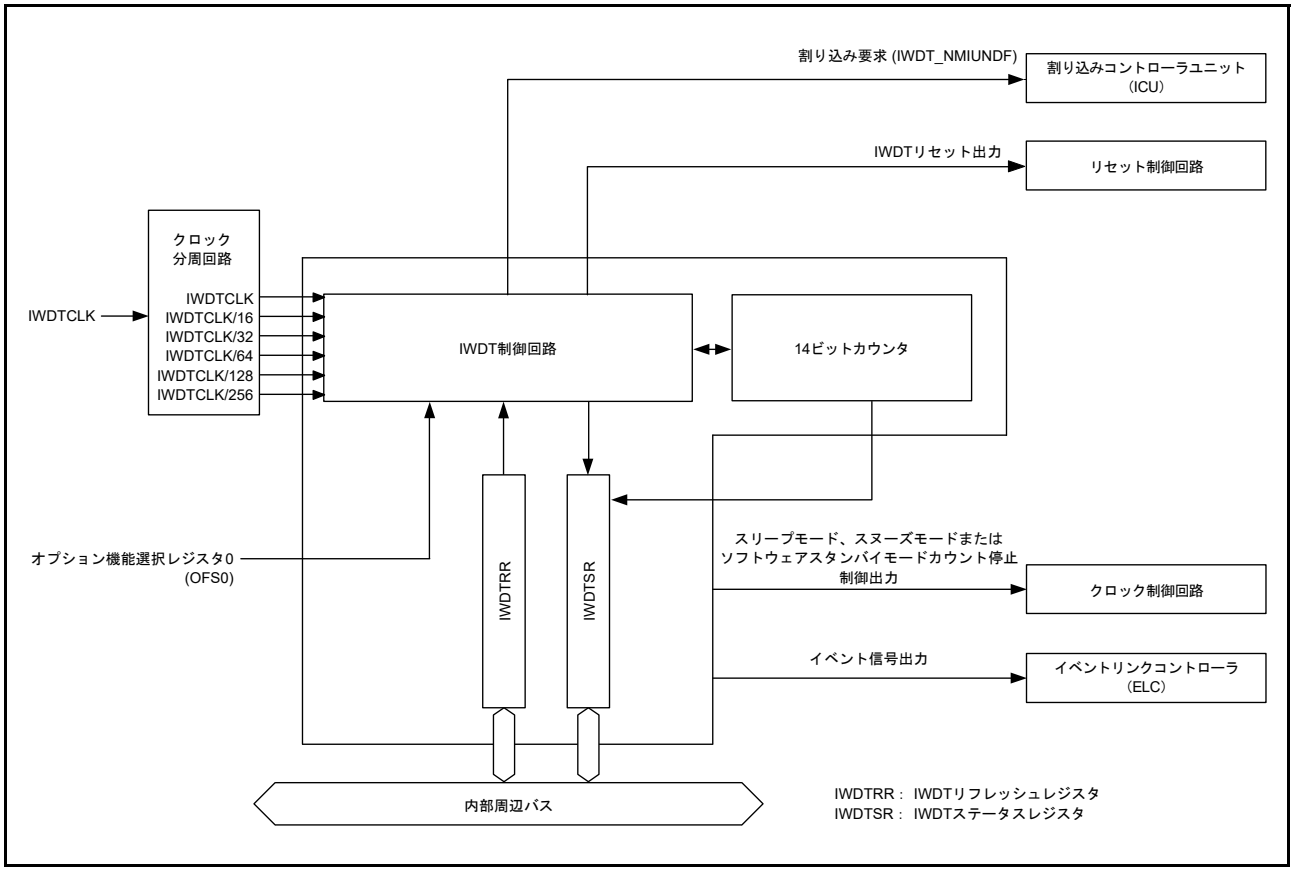
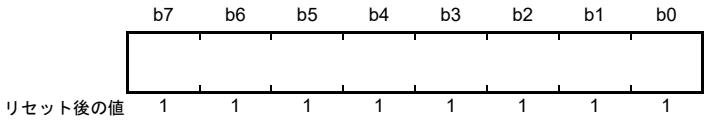


図 28.1　　IWDT のブロック図

28.2　レジスタの説明

28.2.1　IWDT リフレッシュレジスタ（IWDTRR）

アドレス　IWDT.IWDTRR 4004 4400h



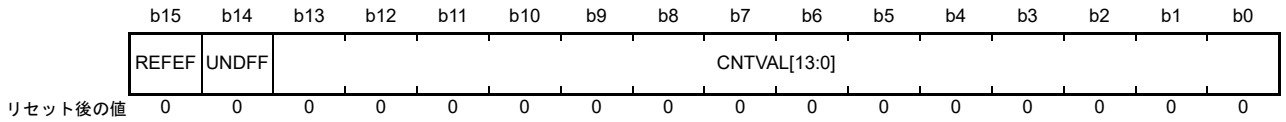
ビット	機能	R/W
b7-b0	このレジスタに対して、00hの書き込み後、FFhの書き込みでダウンカウンタがリフレッシュ	R/W

IWDTRR レジスタは、IWDT のダウンカウンタをリフレッシュするためのレジスタです。リフレッシュ許可期間内に IWDTRR レジスタに 00h を書き込んだ後、FFh を書き込むこと（リフレッシュ動作）により、IWDT のダウンカウンタがリフレッシュされます。ダウンカウンタがリフレッシュされると、オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）の IWDT タイムアウト期間選択ビット（OFS0.IWDTTOPS[1:0]）で設定した値からダウンカウントを行います。

読み出し値は、00h を書き込んだ場合は 00h であり、00h 以外の値を書き込んだ場合は FFh となります。リフレッシュ動作の詳細は、28.3.2　リフレッシュ動作を参照してください。

28.2.2 IWDT ステータスレジスタ（IWDTSR）

アドレス IWDT.IWDTSR 4004 4404h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b13-b0	CNTVAL[13:0]	カウンタ値	ダウンカウンタのカウンタ値	R
b14	UNDFF	アンダーフローフラグ	0：アンダーフロー発生なし 1：アンダーフロー発生あり	R/(W)（注1）
b15	REFEF	リフレッシュエラーフラグ	0：リフレッシュエラー発生なし 1：リフレッシュエラー発生あり	R/(W)（注1）

注 1.　フラグをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。

CNTVAL[13:0] ビット（カウンタ値）

CNTVAL[13:0] ビットを読み出すことにより、ダウンカウンタの値を確認できます。読み出し値は、実際のカウント値から 1 カウントずれる場合があります。

UNDFF ビット（アンダーフローフラグ）

UNDFF ビットを読み出すことにより、ダウンカウンタのアンダーフロー発生状態を確認できます。読み出し値が 1 のとき、ダウンカウンタがアンダーフローしたことを示します。値を 0 にするには 0 を書き込んでください。1 の書き込みは無効です。

UNDFF ビットのクリアには、（N＋2）IWDTCLK サイクルと 2PCLKB サイクルを要します。さらに、アンダーフローの発生から（N＋2）IWDTCLK サイクルの間は、このビットをクリアしても無視されます。N は、次式のように、IWDTCKS[3:0] ビットで指定されます。

- IWDTCKS[3:0] = 0000b のとき、N = 1
- IWDTCKS[3:0] = 0010b のとき、N = 16
- IWDTCKS[3:0] = 0011b のとき、N = 32
- IWDTCKS[3:0] = 0100b のとき、N = 64
- IWDTCKS[3:0] = 1111b のとき、N = 128
- IWDTCKS[3:0] = 0101b のとき、N = 256

REFEF ビット（リフレッシュエラーフラグ）

REFEF ビットを読み出すことにより、リフレッシュエラーが発生したか否かを確認できます。リフレッシュエラーは、リフレッシュ禁止期間中にリフレッシュ動作が実行されたことを示します。読み出し値が 1 のとき、リフレッシュエラーが発生したことを示します。値を 0 にするには 0 を書き込んでください。1 の書き込みは無効です。

REFEF ビットのクリアには、（N＋2）IWDTCLK サイクルと 2PCLKB サイクルを要します。さらに、リフレッシュエラーの発生から（N＋2）IWDTCLK サイクルの間は、このビットをクリアしても無視されます。N は、次式のように、IWDTCKS[3:0] ビットで指定されます。

- IWDTCKS[3:0] = 0000b のとき、N = 1
- IWDTCKS[3:0] = 0010b のとき、N = 16
- IWDTCKS[3:0] = 0011b のとき、N = 32
- IWDTCKS[3:0] = 0100b のとき、N = 64

- IWDTCKS[3:0] = 1111b のとき、N = 128
- IWDTCKS[3:0] = 0101b のとき、N = 256

28.2.3　オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）

オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）については、7.2.1　オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）を参照してください。

IWDTTOPS[1:0] ビット（IWDT タイムアウト期間選択）

タイムアウト期間（ダウンカウンタがアンダーフローするまでの期間）について、IWDTCKS[3:0] ビットで設定した分周クロックを 1 サイクルとして、128 サイクル／ 512 サイクル／ 1024 サイクル／ 2048 サイクルから選択します。

ダウンカウンタのリフレッシュ後、アンダーフローするまでの IWDTCLK サイクル数は、IWDTCKS[3:0] ビットと IWDTTOPS[1:0] ビットの組み合わせにより決定します。

表 28.2 に、IWDTCKS[3:0] および IWDTTOPS[1:0] ビットの設定値、タイムアウト期間、および IWDTCLK サイクル数の関係を示します。

表 28.2　タイムアウト期間の設定

IWDTCKS[3:0] ビット				IWDTTOPS[1:0] ビット		クロック分周比	タイムアウト期間（サイクル数）	IWDTCLK のサイクル数
b7	b6	b5	b4	b1	b0			
0	0	0	0	0	0	IWDTCLK/1	128	128
				0	1		512	512
				1	0		1024	1024
				1	1		2048	2048
0	0	1	0	0	0	IWDTCLK/16	128	2048
				0	1		512	8192
				1	0		1024	16384
				1	1		2048	32768
0	0	1	1	0	0	IWDTCLK/32	128	4096
				0	1		512	16384
				1	0		1024	32768
				1	1		2048	65536
0	1	0	0	0	0	IWDTCLK/64	128	8192
				0	1		512	32768
				1	0		1024	65536
				1	1		2048	131072
1	1	1	1	0	0	IWDTCLK/128	128	16384
				0	1		512	65536
				1	0		1024	131072
				1	1		2048	262144
0	1	0	1	0	0	IWDTCLK/256	128	32768
				0	1		512	131072
				1	0		1024	262144
				1	1		2048	524288

IWDTCKS[3:0] ビット（IWDT 専用クロック分周比選択）

ダウンカウンタで使用するクロックの分周比を設定します。分周比は、IWDT 専用クロック（IWDTCLK）の 1 分周／ 16 分周／ 32 分周／ 64 分周／ 128 分周／ 256 分周から選択できます。IWDTTOPS[1:0] ビット設定と組み合わせて、IWDT のカウント期間を IWDTCLK サイクルの 128 ～ 524288 サイクルの間で設定できます。

IWDTRPES[1:0] ビット（IWDT ウィンドウ終了位置選択）

リフレッシュ許可期間を示すウィンドウの終了位置を設定します。ウィンドウ終了位置は、タイムアウト期間の 75%、50%、25%、0% から選択できます。ウィンドウ終了位置には、ウィンドウ開始位置より小さい値を設定します（ウィンドウ開始位置＞ウィンドウ終了位置）。「ウィンドウ開始位置≦ウィンドウ終了位置」の設定を行った場合、ウィンドウ開始位置の設定のみが有効となり、ウィンドウ終了位置は 0% になります。

IWDTRPSS[1:0] ビット（IWDT ウィンドウ開始位置選択）

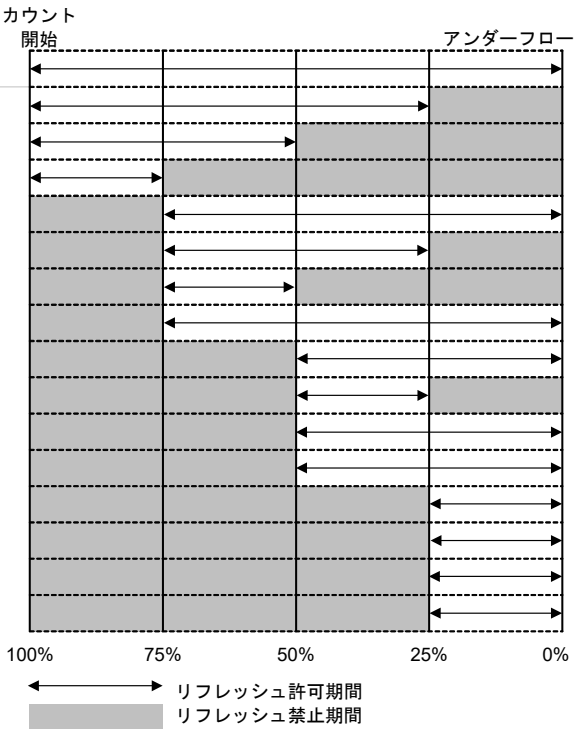
リフレッシュ許可期間を示すウィンドウの開始位置を設定します。ウィンドウ開始位置は、タイムアウト期間の 100%、75%、50%、25% から選択できます。ウィンドウ開始位置には、ウィンドウ終了位置より大きい値を設定してください（ウィンドウ開始位置＞ウィンドウ終了位置）。「ウィンドウ開始位置≦ウィンドウ終了位置」の設定を行った場合、ウィンドウ開始位置の設定のみが有効となり、ウィンドウ終了位置は 0% になります。

IWDTRPSS[1:0]、IWDTRPES[1:0]、IWDTTOPS[1:0] ビットで設定されるウィンドウ開始、終了位置のカウンタ値を表 28.3 に、設定されるリフレッシュ許可期間を図 28.2 に示します。

表 28.3　　タイムアウト期間とウィンドウ開始／終了カウンタ値の対応表

IWDTTOPS[1:0] ビット		タイムアウト期間		ウィンドウ開始／終了カウンタ値			
b1	b0	サイクル数	カウンタ値	100%	75%	50%	25%
0	0	128	007Fh	007Fh	005Fh	003Fh	001Fh
0	1	512	01FFh	01FFh	017Fh	00FFh	007Fh
1	0	1024	03FFh	03FFh	02FFh	01FFh	00FFh
1	1	2048	07FFh	07FFh	05FFh	03FFh	01FFh

IWDTRPSS[1:0]ビット		IWDTRPES[1:0]ビット		ウィンドウ	
b13	b12	b9	b8	開始 (%)	終了 (%)
1	1	1	1	100	0
		1	0		25
		0	1		50
		0	0		75
1	0	1	1	75	0
		1	0		25
		0	1		50
		0	0		75
0	1	1	1	50	0
		1	0		25
		0	1		50
		0	0		75
0	0	1	1	25	0
		1	0		25
		0	1		50
		0	0		75



注．　「ウィンドウ終了位置」≧「ウィンドウ開始位置」設定を行った場合、「ウィンドウ終了位置」設定は 0% になります。

図 28.2　　IWDTRPSS[1:0] および IWDTRPES[1:0] ビットとリフレッシュ許可期間

IWDTRSTIRQS ビット（IWDT リセット割り込み要求選択）

アンダーフローまたはリフレッシュエラー発生時の動作を指定します。1 にすると、リセットを選択します。0 にすると、割り込みを選択します。

IWDTSTPCTL ビット（IWDT 停止制御）

スリープモード、スヌーズモード、ソフトウェアスタンバイモード遷移時にカウントを停止させるかどうかを制御します。

28.3 動作説明

28.3.1 オートスタートモード

オプション機能選択レジスタ 0 の IWDT スタートモード選択ビット（OFS0.IWDTSTRT）が 0 の場合、オートスタートモードが選択されています。それ以外では IWDT は無効です。

リセット状態の間に、オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）の下記の設定値が IWDT のレジスタに設定されます。

- クロック分周比
- ウィンドウ開始および終了位置
- タイムアウト期間
- リセット出力または割り込み要求
- 低消費電力モード遷移時のカウント停止制御

リセット状態が解除されると、IWDT タイムアウト期間選択ビット（OFS0.IWDTTOPS[1:0]）で設定された値からダウンカウンタが自動でダウンカウントを開始します。

以降、プログラムが正常に動作し続けて、リフレッシュ許可期間内にカウンタがリフレッシュされている場合は、リフレッシュごとにカウンタ値がリセットされて、ダウンカウントを継続します。カウントが継続する間、IWDT はリセット信号を出力しません。ただし、プログラムのクラッシュでカウンタがアンダーフローするか、あるいはリフレッシュ許可期間外のリフレッシュ動作によってリフレッシュエラーが発生した場合に、IWDT はリセット信号またはノンマスカブル割り込み要求／割り込み要求（IWDT_NMIUNDF）をアサートします。

リセット信号またはノンマスカブル割り込み要求／割り込み要求が発生してから 1 サイクルカウント後に、カウンタはタイムアウト期間をリロードして、カウント動作を再開します。リセット出力または割り込み要求出力の選択は、IWDT リセット割り込み要求選択ビット（OFS0.IWDTRSTIRQS）で行います。NMI の起動要因となる割り込み許可は、IWDT アンダーフロー／リフレッシュエラー割り込み許可ビット（NMIER.IWDTEN）で行います。

図 28.3 に、下記の条件下での動作例を示します。

- オートスタートモード（OFS0.IWDTSTRT = 0）
- IWDT 動作の選択：割り込み（OFS0.IWDTRSTIRQS = 0）
- NMI 起動起因の割り込み要求を許可（NMIER.IWDTEN = 1）
- ウィンドウ開始位置 75%（OFS0.IWDTRPSS[1:0] = 10b）
- ウィンドウ終了位置 25%（OFS0.IWDTRPES[1:0] = 10b）

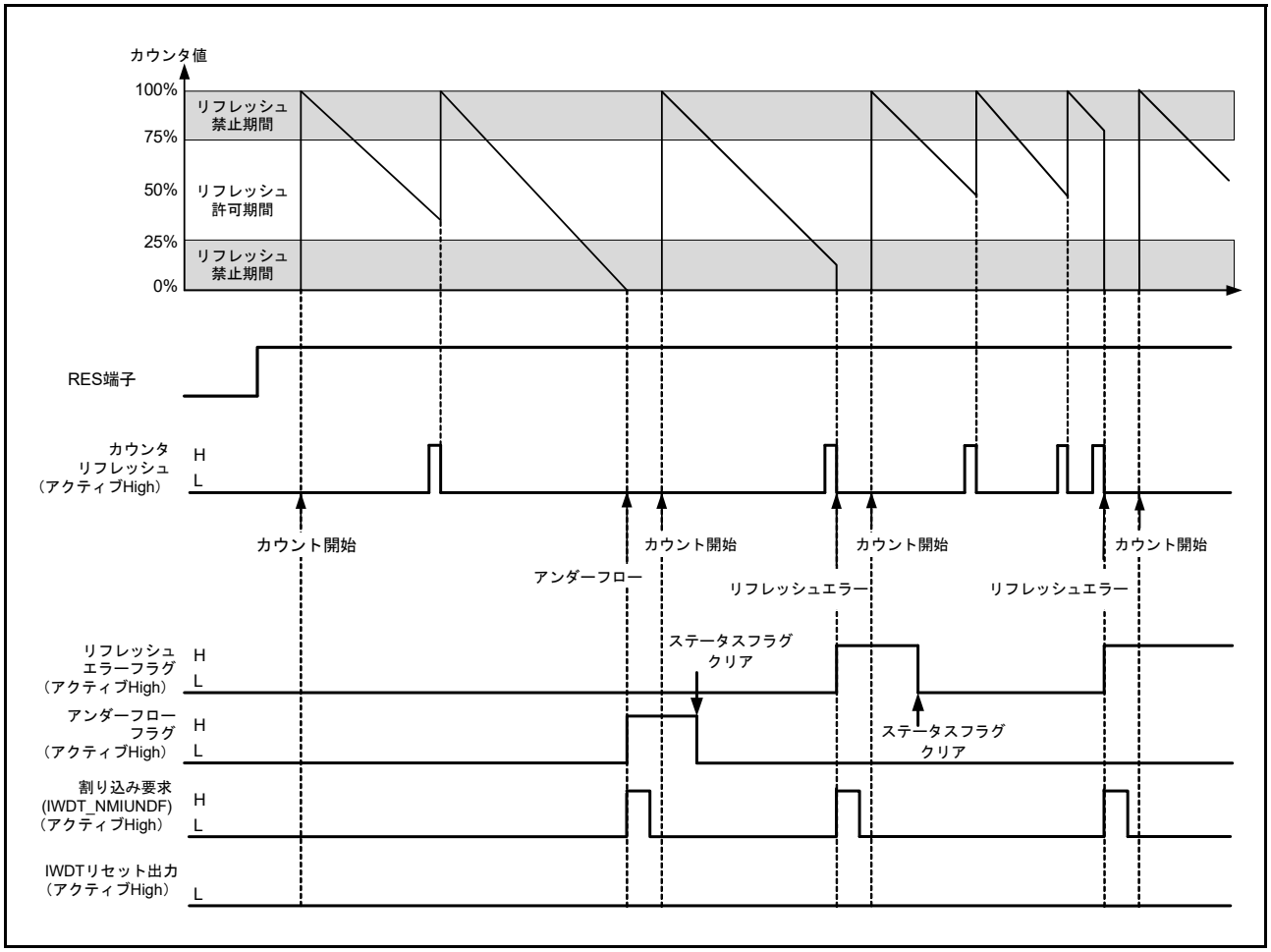


図 28.3　オートスタートモードでの動作例

28.3.2 リフレッシュ動作

ダウンカウンタは、IWDT リフレッシュレジスタ（IWDTRR）に 00h → FFh の順で書き込むことによってリフレッシュされます。00h の後に FFh 以外の値を書き込むと、ダウンカウンタはリフレッシュされません。無効な値を書き込んだ場合は、IWDTRR レジスタへ 00h → FFh の順で書き込むと、正常にリフレッシュが行われます。

00h（1 回目）→ 00h（2 回目）の順で書き込みを行った場合でも、その後に FFh を書き込めば、00h → FFh の書き込み順序が成立します。00h（n - 1 回目）→ 00h（n 回目）→ FFh という書き込み順序は有効であり、正常にリフレッシュを行います。00h より前の書き込み値が 00h 以外であっても、動作に 00h → FFh という書き込み順序が含まれている限り、正常にリフレッシュを行います。

また、IWDTRR レジスタへの 00h の書き込みと FFh の書き込みの間に、IWDTRR 以外のレジスタにアクセスするか、または IWDTRR レジスタを読み出しても、正常にリフレッシュを行います。カウンタをリフレッシュするための書き込みは、リフレッシュ許可期間中に行う必要があり、この判定は FFh の書き込み時に行われます。そのため、00h の書き込みがリフレッシュ許可期間外であっても、リフレッシュは正常に行われます。

【カウンタのリフレッシュに有効な書き込み順序の例】

- 00h → FFh
- 00h（n - 1 回目）→ 00h（n 回目）→ FFh
- 00h →別レジスタへのアクセスまたは IWDTRR レジスタの読み出し→ FFh

【カウンタのリフレッシュに無効な書き込み順序の例】

- 23h（00h 以外の値）→ FFh
- 00h → 54h（FFh 以外の値）
- 00h → AAh（00h および FFh 以外の値）→ FFh

ダウンカウンタのリフレッシュには、IWDTRR レジスタに FFh を書き込んだ後、カウント信号のサイクル数で最大 4 サイクル必要です（カウントの 1 サイクルが、IWDT 専用クロック（IWDTCLK）の何サイクルに相当するかは、IWDT 専用クロック分周比選択ビット（OFS0.IWDTCKS[3:0]）で決まります）。この要件を満たすには、リフレッシュ許可期間の終了またはカウンタのアンダーフローが発生する 4 カウントサイクル前までに、IWDTRR レジスタへの FFh 書き込みが完了している必要があります。カウンタの値はカウンタ値ビット（IWDTSR.CNTVAL[13:0]）で確認できます。

【リフレッシュ動作タイミング例】

下記の条件下でのリフレッシュ動作タイミング例を示します。

- IWDT タイムアウト期間選択：2048 サイクル（IWDTTOPS[1:0] = 11/ カウンタ値 :07FFh）
- IWDT ウインドウ開始位置：タイムアウト期間の 50%（IWDTRPSS[1:0] = 01）
- IWDT ウインドウ終了位置（①及び②の場合）タイムアウト期間の 25%（IWDTRPES[1:0] = 10）
- IWDT ウインドウ終了位置（③の場合）タイムアウト期間の 0%（IWDTRPES[1:0] = 11）

① ウィンドウ開始位置を 03FFh（07FFh の 50%）とした場合、IWDTRR レジスタへの 00h の書き込みが 03FFh より前（たとえば 0402h）であっても、ダウンカウンタの値が 03FFh になってから IWDTRR レジスタへ FFh を書き込めば、リフレッシュを行います。

② ウィンドウ終了位置を 01FFh（07FFh の 25%）とした場合、IWDTRR レジスタへ 00h → FFh を書き込んだ直後のダウンカウンタの値が 0203h（01FFh の 4 カウントサイクル前）以上であれば、リフレッシュを行います。

③ リフレッシュ許可期間が 0000h（例えばウィンドウ終了期間をタイムアウトの 0%に設定した場合）まで続く場合、アンダーフローの直前でリフレッシュが可能です。この場合、IWDTRR レジスタへ 00h → FFh を書き込んだ直後ダウンカウンタの値が 0003h（アンダーフローの 4 カウントサイクル前）以上であれば、アンダーフローは発生しないでリフレッシュを行います。

図 28.4 に、PCLKB ＞ IWDTCLK のとき、クロック分周比が IWDTCLK である場合の IWDT リフレッシュ動作波形を示します。

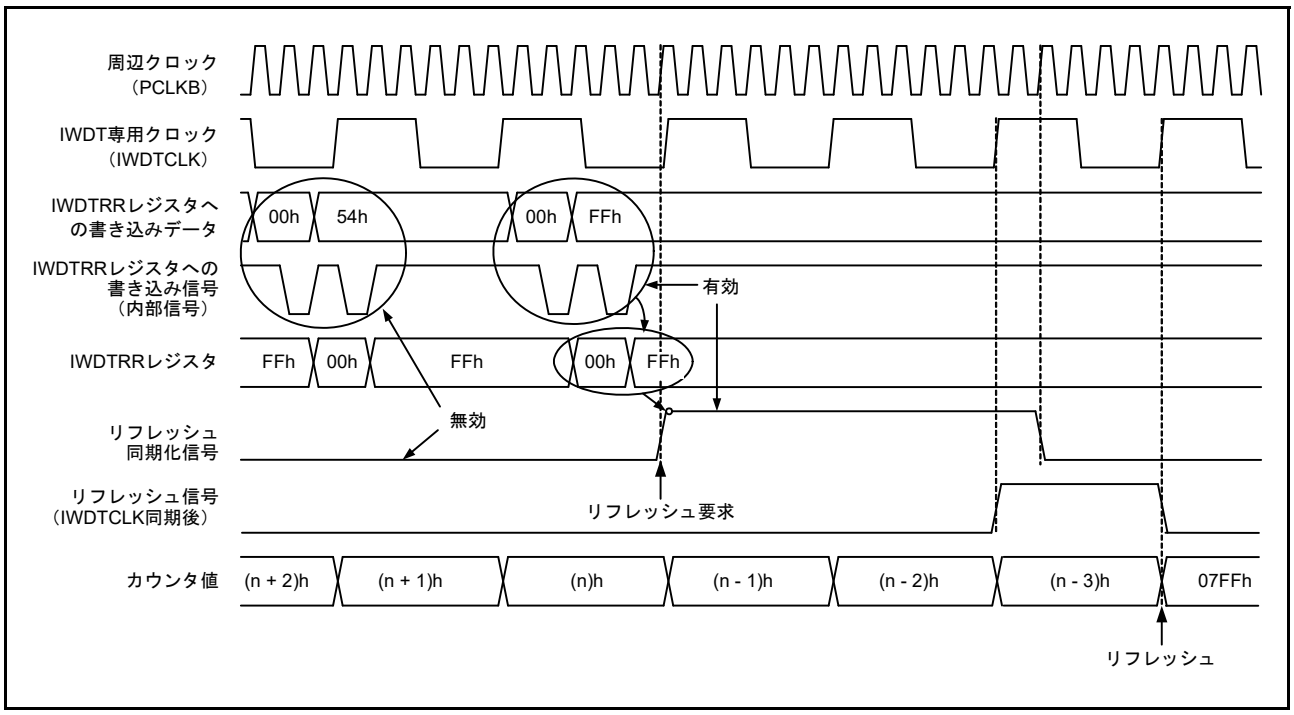


図 28.4　IWDT リフレッシュ動作波形（OFS0.IWDTCKS[3:0] = 0000b、OFS0.IWDTTOPS[1:0] = 11b の場合）

28.3.3　ステータスフラグ

リフレッシュエラーフラグ（IWDTSR.REFEF）とアンダーフローフラグ（IWDTSR.UNDFF）は、IWDT がリセット信号を出力した場合のリセット要因、または IWDT の割り込み要求が発生した場合の割り込み要因を保持します。リセット状態の解除後、または割り込み要求の発生後に、IWDTSR.REFEF フラグと UNDFF フラグを読み出すことで、リセット要因や割り込み要因の発生状態を確認できます。各フラグは、0 を書くことによってクリアされます。1 の書き込みは無効です。

ステータスフラグをそのままにしておいても、動作に影響を与えません。次に IWDT がリセットまたは割り込み要求を出力したとき、フラグがクリアされていなければ、古いリセット要因や割り込み要因はクリアされて、新しいリセット要因や割り込み要因が書き込まれます。なお、各フラグに 0 を書いてから、その値が反映されるまでに、最大で 3 IWDTCLK サイクルと 2 PCLKB サイクルを要します。

28.3.4　リセット出力

オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）の IWDT リセット割り込み要求選択ビット（OFS0.IWDTRSTIRQS）を 1 にした場合、ダウンカウンタのアンダーフローまたはリフレッシュエラー発生時に、リセット信号を出力します。リセット出力後、自動でダウンカウントを開始します。

28.3.5　割り込み要因

オプション機能選択レジスタ 0（OFS0）の IWDT リセット割り込み要求選択ビット（OFS0.IWDTRSTIRQS）を 0 にした場合、カウンタのアンダーフローまたはリフレッシュエラー発生時に、割り込み信号（IWDT_NMIUNDF）を生成します。この割り込みは、ノンマスカブル割り込みと割り込みの両方に対応しています。詳細は、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

表 28.4　IWDTの割り込み要因

名称	割り込み要因	DTCの起動	DMACの起動
IWDT_NMIUNDF	• ダウンカウンタのアンダーフロー • リフレッシュエラー	不可能	不可能

28.3.6　ダウンカウンタ値の読み出し

IWDT のカウンタは IWDT 専用クロック（IWDTCLK）で動作しているため、カウンタ値を直接読み出すことはできません。IWDT は、カウンタ値を周辺クロック（PCLKB）に同期させて、IWDT ステータスレジスタのダウンカウンタ値ビット（IWDTSR.CNTVAL[13:0]）へ格納します。これらのビットを確認して、間接的にカウンタ値を取得してください。

ただし、カウンタ値の読み出しには PCLKB で数クロックサイクル（最大 4 クロックサイクル）を要するため、読み出されるカウント値は、実際のカウンタ値から 1 カウントずれる場合があります。

図 28.5 に、PCLKB ＞ IWDTCLK のとき、クロック分周比が IWDTCLK である場合の IWDT カウンタ値の読み出し処理を示します。

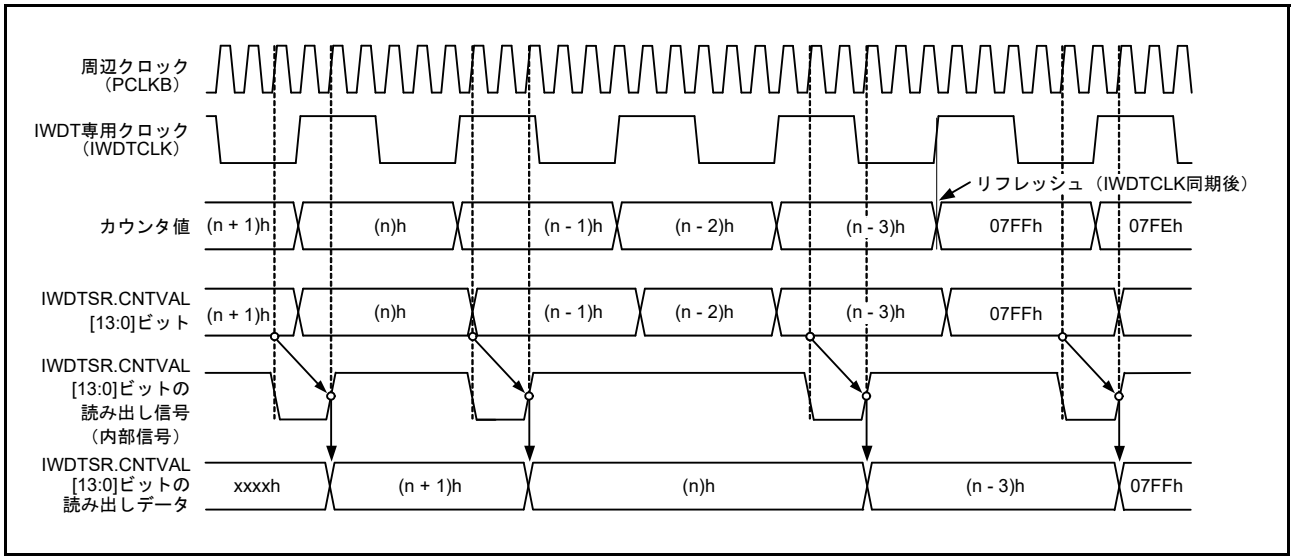


図 28.5　IWDT カウンタ値の読み出し処理（OFS0.IWDTCKS[3:0] = 0000b、OFS0.IWDTTOPS[1:0] = 11b の場合）

28.4 ELC によるリンク動作

ELC が割り込み要求信号をイベント信号として使用する場合、IWDT は設定したモジュールに対してリンク動作が可能です。イベント信号はカウンタのアンダーフローまたはリフレッシュエラーによって出力されます。

イベント信号は、OFS0.WDTRSTIRQS ビットの設定とは無関係に出力されます。リフレッシュエラーフラグ（IWDTSR.REFEF）またはアンダーフローフラグ（IWDTSR.UNDFF）が 1 の状態で次の割り込み要因が発生した場合も、イベント信号の出力が可能です。詳細は、「19. イベントリンクコントローラ（ELC）」を参照してください。

28.5 使用上の注意事項

28.5.1 リフレッシュ動作

リフレッシュ時間を設定する際は、PCLKB と IWDTCLK の精度における誤差範囲内での変動を考慮してください。その上で、リフレッシュできる値を設定してください。

28.5.2 クロック分周比の設定に関する制限

周辺モジュールクロック（PCLKB）の周波数が下記の要件を満たすように設定してください。

PCLKB ≧ 4 ×（カウントクロックソースの分周後周波数）

29.　USB2.0 フルスピードモジュール（USBFS）

29.1　概要

本 MCU は、USB（Universal Serial Bus）2.0 規格に準拠したホストコントローラまたはデバイスコントローラとして動作する USB2.0 フルスピードモジュール（USBFS）を内蔵しています。ホストコントローラは USB2.0 フルスピード転送とロースピード転送に対応し、デバイスコントローラは USB2.0 フルスピード転送に対応しています。また、USBFS は USB トランシーバを内蔵し、USB2.0 規格で定義されている全転送タイプに対応しています。

USBFS はデータ転送用に FIFO バッファを内蔵し、最大 10 本のパイプを使用できます。また、パイプ 1 ～ 9 に対しては、周辺デバイスやユーザシステムの通信要件に合わせた任意のエンドポイント番号の割り付けが可能です。

表 29.1 に USBFS の仕様を、図 29.1 にそのブロック図を、表 29.2 に入出力端子を示します。

表 29.1　　USBFSの仕様

項目	内容
機能	• USBデバイスコントローラ（UDC）およびUSB2.0トランシーバ（ホストコントローラ／デバイスコントローラ／OTG（On-The-Go）機能に対応（1チャネル）） • ホストコントローラとデバイスコントローラはソフトウェアで切り替え可能 • セルフパワーモードまたはバスパワーモードが使用可能
	ホストコントローラの特長 • フルスピード転送（12Mbps）およびロースピード転送（1.5Mbps） • SOFおよびパケット送信のスケジュールを自動化 • アイソクロナス転送およびインタラプト転送の転送インターバル設定機能
	デバイスコントローラ機能選択時 • フルスピード転送（12Mbps）（注1） • コントロール転送ステージ管理機能 • デバイスステート管理機能 • SET_ADDRESSリクエストに対する自動応答機能 • SOF補完機能
通信データ転送タイプ	• コントロール転送 • バルク転送 • インタラプト転送 • アイソクロナス転送
パイプコンフィグレーション	• USB通信用のFIFOバッファ • 最大10本のパイプを選択可能（デフォルトコントロールパイプ（DCP）を含む） • パイプ1～9は任意のエンドポイント番号を割り付け可能
	パイプごとに指定可能な転送条件： • パイプ0：64バイトシングルバッファによるコントロール転送 • パイプ1～2：64バイトダブルバッファによるバルク転送、または256バイトダブルバッファによるアイソクロナス転送 • パイプ3～5：64バイトダブルバッファによるバルク転送 • パイプ6～9：64バイトシングルバッファによるインタラプト転送
その他の機能	• トランザクションカウントによる受信終了機能 • BRDY割り込みイベント通知タイミング変更機能（BFRE） • DnFIFOポート（n = 0, 1）で指定したパイプのデータを読み出した後に自動でFIFOバッファをクリアする機能（DCLRM） • 転送終了による応答PIDのNAK設定機能（SHTNAK） • D+/D-ラインのプルアップ抵抗、プルダウン抵抗をチップに内蔵
モジュールストップ機能	モジュールストップ状態に設定して消費電力を削減

注 1.　　ロースピード転送（1.5Mbps）は未対応です。

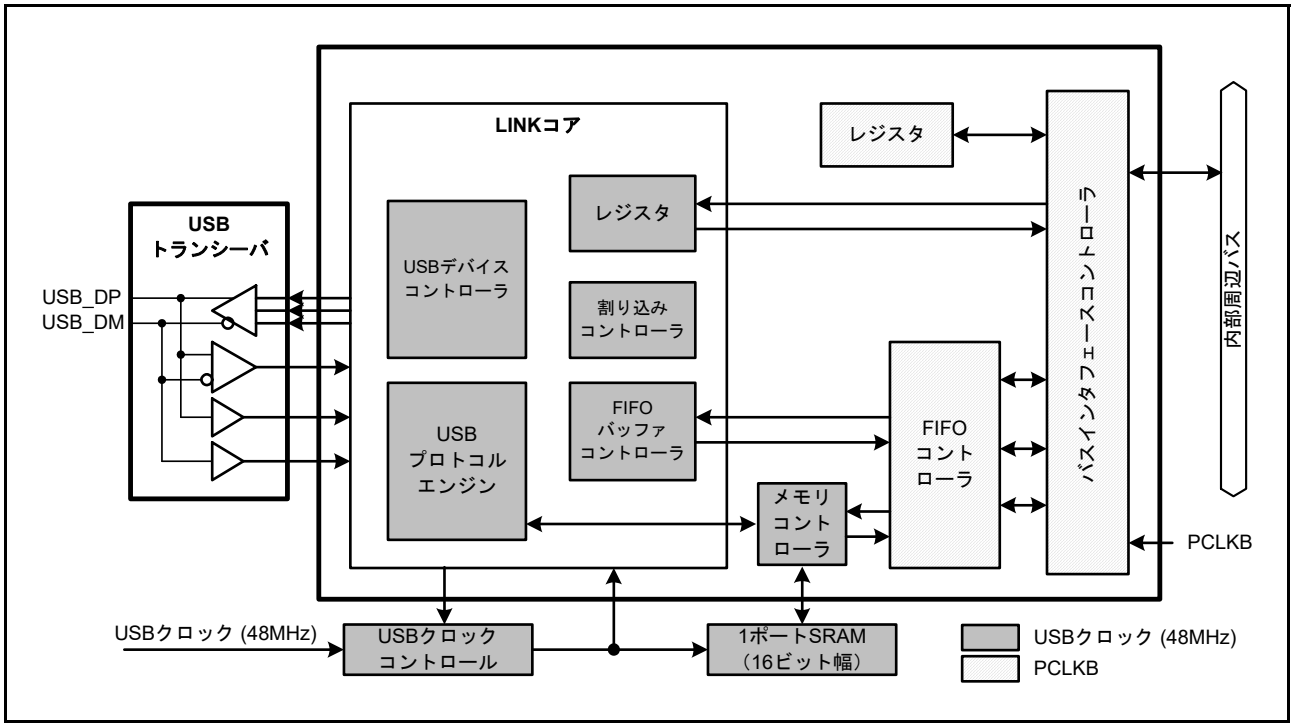


図 29.1　　USBFS のブロック図

表 29.2　　USBFSの端子構成

ポート	端子名	入出力	機能
USBFS	USB_DP	入出力	USB内蔵トランシーバD+入出力端子 USBバスのD+データ線に接続してください。
	USB_DM	入出力	USB内蔵トランシーバD-入出力端子 USBバスのD-データ線に接続してください。
	USB_VBUS	入力	USBケーブル接続モニタ端子 USBバスのVBUS信号に接続してください。USBFSがデバイスコントローラとして動作しているときにVBUS端子の状態（接続／切断）を検出することが可能です。(注1)
	USB_EXICEN	出力	OTG電源IC用ローパワー制御信号
	USB_VBUSEN	出力	外部電源IC用VBUS（5V）イネーブル信号
	USB_OVRCURA USB_OVRCURB	入力	USBFS用オーバーカレント端子 外部オーバーカレント検出信号に接続してください。OTG電源チップとの接続時にはVBUSコンパレータ信号に接続してください。
	USB_ID	入力	OTGモード時MicroABコネクタのID入力信号に接続してください。
共通	VCC_USB	入力	USBトランシーバの入力供給電圧
	VSS_USB	入力	USB用グランド端子

注 1.　　P407 は 5V トレラントです。

29.2　レジスタの説明

29.2.1　システムコンフィグレーションコントロールレジスタ（SYSCFG）

アドレス　USBFS.SYSCFG 4009 0000h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	SCKE	—	—	—	DCFM	DRPD	DPRPU	—	—	—	USBE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	USBE	USBFS動作許可	0：禁止 1：許可	R/W
b3-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	DPRPU	D+ライン抵抗制御	0：ラインのプルアップは禁止 1：ラインのプルアップは許可	R/W
b5	DRPD	D+/D-ライン抵抗制御	0：ラインのプルアップは禁止 1：ラインのプルアップは許可	R/W
b6	DCFM	コントローラ機能選択	0：デバイスコントローラを選択 1：ホストコントローラを選択	R/W
b9-b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b10	SCKE	USBクロック許可	0：USBFSへのクロック供給を停止 1：USBFSへのクロック供給を許可	R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 .　SCKE ビットに 1 を書き込んだ後、SCKE ビットを読み出して 1 になっていることを確認してください。

USBE ビット（USBFS 動作許可）

USBFS の動作許可／禁止を指定します。

USBE ビットを 1 から 0 に変更したときに初期化されるビットを表 29.3 に示します。本ビットの変更は、SCKE ビットが 1 のときに限り実施してください。ホストコントローラモード時は、DRPD ビットを 1 にした後、SYSSTS0.LNST[1:0] ビットのチャタリング除去を行い、USB バスの状態が安定したことを確認した後で、USBE ビットを 1 にしてください。

表 29.3　SYSCFG.USBE ビットへの 0 の書き込みにより初期化されるレジスタ

選択した機能	レジスタ	ビット	備考
デバイスコントローラ	SYSSTS0	LNST[1:0]	ホストコントローラモード時、値を保持
	DVSTCTR0	RHST[2:0]	-
	INTSTS0	DVSQ[2:0]	ホストコントローラモード時、値を保持
	USBADDR	USBADDR[6:0]	ホストコントローラモード時、値を保持
	USBREQ	BREQUEST[7:0]、 BMREQUESTTYPE[7:0]	ホストコントローラモード時、値を保持
	USBVAL	WVALUE[15:0]	ホストコントローラモード時、値を保持
	USBINDX	WINDEX[15:0]	ホストコントローラモード時、値を保持
	USBLENG	WLENTUH[15:0]	ホストコントローラモード時、値を保持
ホストコントローラ	DVSTCTR0	RHST[2:0]	-
	FRMNUM	FRNM[10:0]	デバイスコントローラモード時、値を保持

DPRPU ビット（D+ ライン抵抗制御）

デバイスコントローラモードで、D+ ラインのプルアップ許可／禁止を指定します。

デバイスコントローラモードで DPRPU ビットを 1 にすると、USBFS は D+ ラインをプルアップし、USB ホストに対して、アタッチされたことを通知します。DPRPU ビットを 1 から 0 に変更すると、プルアップが解除されるため、USB ホストに対して、デタッチされたことを通知します。

デバイスコントローラモードでは 1、ホストコントローラモードでは 0 にしてください。

DRPD ビット（D+/D- ライン抵抗制御）

ホストコントローラモードで、D+/D- ラインのプルダウン許可／禁止を指定します。

ホストコントローラモードでは 1、デバイスコントローラモードでは 0 にしてください。

DCFM ビット（コントローラ機能選択）

USBFS の機能をホスト機能にするかデバイス機能にするかを選択します。

DCFM ビットの変更は、DPRPU ビットおよび DRPD ビットの両方が 0 のときに行ってください。

SCKE ビット（USB クロック許可）

USBFS への 48MHz クロック供給の停止／許可を指定します。

本ビットが 0 の場合、SYSCFG レジスタのみ読み出し／書き込みが可能です。他の USB 関連レジスタの読み出し／書き込みはできません。

29.2.2 システムコンフィグレーションステータスレジスタ 0（SYSSTS0）

アドレス USBFS.SYSSTS0 4009 0004h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	OVCMON[1:0]		—	—	—	—	—	—	—	HTACT	SOFEA	—	—	IDMON	LNST[1:0]	
リセット後の値	0（注1）	0（注1）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0（注1）	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	LNST[1:0]	USB データラインステータスモニタ	USB データラインのステータスを示します。 表 29.4 を参照してください。	R
b2	IDMON	外部 ID0 入力端子モニタ	0：USB_ID 端子が Low 1：USB_ID 端子が High	R
b4-b3	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書き換えることはできません。	R
b5	SOFEA	ホストコントローラモード選択時のアクティブモニタ	0：SOF 出力停止 1：SOF 出力動作	R
b6	HTACT	USB ホストシーケンサステータスモニタ	0：ホストシーケンサが完全に停止している 1：ホストシーケンサが完全に停止していない	R
b13-b7	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書き込みは無効になります。	R
b15-b14	OVCMON[1:0]	外部 USB_OVRCURA/USB_OVRCURB 入力端子モニタ	OVCMON[1] は、USB_OVRCURA 端子のステータスを示します。OVCMON[0] は、USB_OVRCURB 端子のステータスを示します。	R

注 1.　USB_OVRCURA/USB_OVRCURB 端子および USB_ID 端子のステータスに依存します。

LNST[1:0] ビット（USB データラインステータスモニタ）

USB データライン（D+ および D-）のステータスを示します。詳細は、表 29.4 を参照してください。

デバイスコントローラモード時は、アタッチ処理（SYSCFG.DPRPU ビットを 1 にする）以降に LNST[1:0] ビットを読み出してください。ホストコントローラモード時は、ラインのプルダウンの許可（SYSCFG.DRPD ビットを 1 にする）以降に読み出してください。

表 29.4　USB データバスライン（D+ ライン、D- ライン）のステータス

LNST[1:0] ビット	フルスピード動作時	ロースピード動作時
00b	SE0	SE0
01b	J-State	K-State
10b	K-State	J-State
11b	SE1	SE1

SOFEA ビット（ホストコントローラモード選択時のアクティブモニタ）

ホストコントローラモードで、DVSTCTR0.UACT ビットが 0 のために USBFS が中断した場合、最後の SOF 出力が完了したかどうかを確認するために使用します。

ホストコントローラモードで、SYSCFG.USBE ビットを 0 にして USBFS を停止する場合、または SYSCFG.SCKE ビットを 0 にして通信時のクロック信号供給を停止する場合は、事前に HTACT ビットと SOFEA ビットがどちらも 0 であることを確認してください。

HTACT ビット（USB ホストシーケンサステータスモニタ）

USBFS のホストシーケンサが完全に停止しているとき、HTACT ビットは 0 になります。

ホストコントローラモードで、DVSTCTR0.UACT ビットを 0 にして USBFS を Suspended ステートにする場合や、SYSCFG.SCKE ビットを 0 にして通信時のクロック信号供給を停止する場合は、事前に HTACT ビットが 0 であることを確認してください。

OVCMON[1:0] ビット（外部 USB_OVRCURA/USB_OVRCURB 入力端子モニタ）

外部電源 IC からのオーバーカレント信号のステータスを示します。

29.2.3 デバイスステートコントロールレジスタ 0（DVSTCTR0）

アドレス USBFS.DVSTCTR0 4009 0008h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	HNPBTOA	EXICEN	VBUSEN	WKUP	RWUPE	USBRST	RESUME	UACT	—	RHST[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	RHST[2:0]	USBバスリセットステータス	• ホストコントローラモード時： b2 b1 b0 0 0 0：通信速度は不確定 （パワード時または非接続時） 1 x x：USBバスリセット処理中 0 0 1：ロースピード接続時 0 1 0：フルスピード接続時 • デバイスコントローラモード時： b2 b1 b0 0 0 0：通信速度は不確定 0 0 1：USBバスリセット処理中 0 1 0：USBバスリセット処理中またはフルスピード接続時	R
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	UACT	USBバス許可	0：ダウンストリームポート動作禁止（SOF送出禁止） 1：ダウンストリームポート動作許可（SOF送出許可）	R/W
b5	RESUME	レジューム出力	0：レジューム信号を出力しない 1：レジューム信号を出力する	R/W
b6	USBRST	USBバスリセット出力	0：USBバスリセット信号を出力しない 1：USBバスリセット信号を出力する	R/W
b7	RWUPE	ウェイクアップ検出許可	0：ダウンストリームポートリモートウェイクアップ禁止 1：ダウンストリームポートリモートウェイクアップ許可	R/W
b8	WKUP	ウェイクアップ出力	0：リモートウェイクアップ信号を出力しない 1：リモートウェイクアップ信号を出力する	R/W
b9	VBUSEN	USB_VBUSEN出力端子制御	0：外部USB_VBUSEN端子はLowを出力 1：外部USB_VBUSEN端子はHighを出力	R/W
b10	EXICEN	USB_EXICEN出力端子制御	0：外部USB_EXICEN端子はLowを出力 1：外部USB_EXICEN端子はHighを出力	R/W
b11	HNPBTOA	ホストネゴシエーションプロトコル（HNP）制御	OTGモードで、BデバイスからAデバイスに切り替えるときに使用します。HNPBTOAビットが1であれば、内部機能制御はSYSCFG.DPRPU = 0またはSYSCFG.DCFM = 1にしてもHNP処理が終了するまでSuspendedステートを保ちます。	R/W
b15-b12	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

x：Don’t care

デバイスコントローラモード時、USBFS コントローラはロースピード接続に対応しません。この値を読み出したときは、上位のアプリケーションソフトウェアで異常接続処理を実行する必要があります。

RHST[2:0] ビット（USB バスリセットステータス）

USB バスリセットのステータスを示します。

ホストコントローラモードでは、USBRST ビットを 1 にすると RHST[2:0] ビットが 100b になります。USBRST ビットを 0 にして USBFS が SE0 ステートを終了すると、RHST[2:0] ビットが新しい値に更新されます。

デバイスコントローラモードでは、USBFS が USB バスリセットを検出すると、DPRPU ビットが 1 の場合に RHST[2:0] ビットが 010b になり、DVST 割り込みが発生します。

UACT ビット（USB バス許可）

ホストコントローラモードで UACT ビットを 1 にすると、UACT ビットは USB バスへの SOF パケットの送信（データと受信を含む）を制御することで、USB バス動作を許可します。USBFS は、UACT ビットを 1 にすると、1 フレーム時間内に SOF パケット出力を開始します。UACT ビットを 0 にすると、USBFS は SOF パケット出力後にアイドル状態に遷移します。

以下のいずれかの場合に、USBFS は UACT ビットを 0 にします。

- 通信中（UACT ビットが 1 のとき）に DTCH 割り込みを検出したとき
- 通信中（UACT ビットが 1 のとき）に EOFERR 割り込みを検出したとき

USB バスリセット処理の終了（USBRST ビットへの 0 書き込み）、または Suspended ステートからのレジューム処理の終了（RESUME ビットへの 0 書き込み）の時には、常に UACT ビットに 1 を書き込んでください。

デバイスコントローラモードでは、常に本ビットを 0 にしてください。

RESUME ビット（レジューム出力）

ホストコントローラモードで、レジューム信号の出力制御を行います。

RESUME ビットを 1 にすると、USBFS は USB ポートを K-State にドライブし、レジューム信号を出力します。RWUPE ビットが 1 で USB Suspended ステートのとき、USBFS がリモートウェイクアップ信号を検出すると、本ビットを 1 にします。

また、RESUME ビットが 1 のとき、ソフトウェアが RESUME ビットを 0 にするまで、USBFS は K-State 出力を継続します。RESUME ビットが 1 の期間（レジューム期間）は、USB2.0 規格に定められた時間を確保してください。インタフェースが Suspended ステートのときにのみ、RESUME ビットを 1 にしてください。レジューム処理の終了（RESUME ビットへの 0 書き込み）と同時に UACT ビットに 1 を書いてください。

デバイスコントローラモードでは、常に本ビットを 0 にしてください。

USBRST ビット（USB バスリセット出力）

ホストコントローラモード時に、USB バス信号の出力制御を行います。USBRST ビットを 1 にすると、USBFS は USB ポートを SE0 ステートにドライブして、USB バスをリセットします。USBFS は、USBRST ビットが 1 の期間、ソフトウェアで USBRST ビットを 0 にするまで SE0 を出力し続けます。USBRST ビットが 1 の期間（USB バスリセット期間）は、USB2.0 規格に定められた時間を確保してください。通信中（UACT ビット = 1）またはレジューム処理中（RESUME ビット = 1）に、USBRST ビットに 1 を書き込むと、UACT ビットと RESUME ビットの両方が 0 になるまで、USBFS は USB バスリセット処理を開始できません。USB バスリセット処理の終了（USBRST ビットへの 0 書き込み）と同時に UACT ビットに 1 を書いてください。

デバイスコントローラモードでは、常に本ビットを 0 にしてください。

RWUPE ビット（ウェイクアップ検出許可）

ホストコントローラモードで、ダウンストリームポートの周辺デバイスからのリモートウェイクアップ信号（レジューム信号）の受け付けを許可または禁止します。本ビットを 1 にすると、USBFS は下流周辺デバイスからのリモートウェイクアップ信号（2.5µs 間の K-State）を検出し、レジューム処理を実行して K-State にします。

本ビットを 0 にした場合、USBFS は、USB ポートに接続された周辺デバイスからのリモートウェイクアップ信号（K-State）を検出しても無視します。RWUPE ビットが 1 のときは、Suspended ステートであっても内部クロックを停止しないでください（SYSCFG.SCKE ビットは 1 にしてください）。

デバイスコントローラモードでは、常に本ビットを 0 にしてください。

WKUP ビット（ウェイクアップ出力）

デバイスコントローラモードで、USB バスへのリモートウェイクアップ信号（レジューム信号）を許可または禁止します。

USBFS は、リモートウェイクアップ信号の出力タイミングを管理しています。WKUP ビットを 1 にすると、USBFS は 10ms の K-State を出力した後、WKUP ビットをクリアして 0 にします。USB2.0 規格では、リモートウェイクアップ信号の送信までに最短 5ms の USB バスアイドル状態を保持する必要があります。このため、USBFS は、Suspended ステートを検出した直後に WKUP ビットに 1 を書いて、2ms 待ってから K-State を出力します。

WKUP ビットへの 1 の書き込みは、デバイスが Suspended ステート（INTSTS0.DVSQ[2:0] ビットが 1xxb）であり、かつ USB ホストからリモートウェイクアップ信号が許可されている場合のみ行ってください。本ビットが 1 のときは、Suspended ステートであっても内部クロックを停止しないでください（SYSCFG.SCKE ビットは 1 にしてください）。

ホストコントローラモードでは、常に本ビットを 0 にしてください。

HNPBTOA ビット（ホストネゴシエーションプロトコル（HNP）制御）

OTG モードにて使用時に、B デバイスから A デバイスに切り替えるときに使用します。

HNPBTOA ビットが 1 の場合、SYSCFG.DPRPU ビットを 0 または SYSCFG.DCFM ビットを 1 にしても、内部機能制御は HNP 処理が終了するまで Suspended ステートを維持します。D+ の立ち下がりエッジを検出しても、レジューム（RESM）割り込みは発生しません。

1 にした後、発信側のプルアップによりホストアタッチイベントを検出するか、または HNP 処理のタイムアウトによりソフトウェアが HNPBTOA ビットを 0 にすると、HNP 処理は終了します。

29.2.4 CFIFO ポートレジスタ（CFIFO/CFIFOL）
D0FIFO ポートレジスタ（D0FIFO/D0FIFOL）
D1FIFO ポートレジスタ（D1FIFO/D1FIFOL）

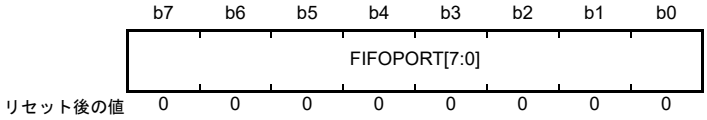
（1）MBW ビットが 1 のとき

アドレス　USBFS.CFIFO 4009 0014h, USBFS.D0FIFO 4009 0018h, USBFS.D1FIFO 4009 001Ch



（2）MBW ビットが 0 のとき

アドレス　USBFS.CFIFOL 4009 0014h, USBFS.D0FIFOL 4009 0018h, USBFS.D1FIFOL 4009 001Ch



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	FIFOPORT[15:0] （注1）	FIFOポート	これらのビットにアクセスして、FIFOバッファから受信データを読み出すか、またはFIFOバッファへ送信データを書き込みます。	R/W

注 1.　有効ビットは、関連するポート選択レジスタの MBW ビット（CFIFOSEL.MBW、D0FIFOSEL.MBW、D1FIFOSEL.MBW）の設定値と、BIGEND ビット（CFIFOSEL.BIGEND、D0FIFOSEL.BIGEND、D1FIFOSEL.BIGEND）の設定値で決まります。表 29.5、表 29.6 を参照してください。

3 つの FIFO ポートが有効です。

- CFIFO
- D0FIFO
- D1FIFO

各 FIFO ポートの構成は以下のとおりです。

- FIFO バッファからのデータの読み出しおよび FIFO バッファへのデータの書き込みを行うポートレジスタ（CFIFO、D0FIFO、または D1FIFO）
- FIFO ポートに割り当てられたパイプを選択するポート選択レジスタ（CFIFOSEL、D0FIFOSEL、または D1FIFOSEL）
- ポートコントロールレジスタ（CFIFOCTR、D0FIFOCTR、または D1FIFOCTR）

各 FIFO ポートには、下記の制限事項があります。

- DCP コントロール転送用 FIFO バッファへのアクセスは CFIFO ポートを通して行います。
- DMA/DTC 転送用 FIFO バッファへのアクセスは D0FIFO または D1FIFO ポートを通して行います。
- CPU による D0FIFO あるいは D1FIFO ポートアクセスも可能です。
- DMA/DTC 転送機能などの FIFO ポート固有の機能を使用している場合、ポート選択レジスタの CURPIPE[3:0] ビットで選択したパイプ番号は変更できません。
- FIFO ポートを設定するレジスタ群が他の FIFO ポートに影響を与えることはありません。
- 同一パイプを複数の FIFO ポートに割り当てないでください。

- FIFO バッファの状態には、アクセス権が CPU にある場合と Serial Interface Engine（SIE）にある場合の 2 種類があります。SIE にアクセス権がある場合は、CPU から FIFO バッファにアクセスできません。

FIFOPORT[15:0] ビット（FIFO ポート）

FIFOPORT[15:0] ビットへのアクセス時に、USBFS は FIFO バッファから受信データを読み出すか、または FIFO バッファへ送信データを書き込みます。

FIFO ポートレジスタへのアクセスは、関連するポートコントロールレジスタ（CFIFOCTR、D0FIFOCTR、または D1FIFOCTR）の FRDY ビットが 1 のときに限り可能です。FIFO ポートレジスタの有効ビットは、ポート選択レジスタ（CFIFOSEL、D0FIFOSEL、または D1FIFOSEL）の MBW ビットおよび BIGEND ビットの設定値により異なります。表 29.5、表 29.6 を参照してください。

表 29.5　16 ビットアクセス時のエンディアン動作

CFIFOSEL.BIGEND ビット D0FIFOSEL.BIGEND ビット D1FIFOSEL.BIGEND ビット	ビット[15:8]	ビット[7:0]
0	N + 1 データ	N + 0 データ
1	N + 0 データ	N + 1 データ

表 29.6　8 ビットアクセス時のエンディアン動作

CFIFOSEL.BIGEND ビット D0FIFOSEL.BIGEND ビット D1FIFOSEL.BIGEND ビット	ビット[15:8]	ビット[7:0]
0	アクセス禁止（注 1）	N + 0 データ
1	アクセス禁止（注 1）	N + 0 データ

注 1.　アクセス禁止領域に対する書き込みや読み出しはしないでください。

29.2.5 CFIFOポート選択レジスタ（CFIFOSEL）
D0FIFOポート選択レジスタ（D0FIFOSEL）
D1FIFOポート選択レジスタ（D1FIFOSEL）

CFIFOSEL

アドレス　USBFS.CFIFOSEL 4009 0020h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	RCNT	REW	—	—	—	MBW	—	BIGEND	—	—	ISEL	—	CURPIPE[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	CURPIPE[3:0]	CFIFOポートアクセスパイプ指定	b3 b0 0 0 0 0：DCP（デフォルトコントロールパイプ） 0 0 0 1：パイプ1 0 0 1 0：パイプ2 0 0 1 1：パイプ3 0 1 0 0：パイプ4 0 1 0 1：パイプ5 0 1 1 0：パイプ6 0 1 1 1：パイプ7 1 0 0 0：パイプ8 1 0 0 1：パイプ9 上記以外は設定しないでください。	R/W
b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5	ISEL	DCP選択時CFIFOポートアクセス方向	0：FIFOバッファ読み出し選択 1：FIFOバッファ書き込み選択	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	BIGEND	CFIFOポートエンディアン制御	0：リトルエンディアン 1：ビッグエンディアン	R/W
b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b10	MBW	CFIFOポートアクセスビット幅	0：8ビット幅 1：16ビット幅	R/W
b13-b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b14	REW	バッファポインタリワインド	0：バッファポインタのリワインドをしない 1：バッファポインタのリワインドをする	W （注1）
b15	RCNT	リードカウントモード	0：CFIFOからすべての受信データを読み出したときに、DTLN[8:0]ビット（CFIFOCTR.DTLN[8:0]、D0FIFOCTR.DTLN[8:0]、D1FIFOCTR.DTLN[8:0]）をクリア ダブルバッファモードの場合は、1面のみの全データを読み出したときにDTLN[8:0]ビット値をクリア 1：CFIFOから受信データを読み出すごとにDTLN[8:0]ビットをダウンカウント	R/W

注 1.　読むと 0 が読み出されます。

CFIFOSEL、D0FIFOSEL、および D1FIFOSEL レジスタの CURPIPE[3:0] ビットに同じパイプ番号を設定しないでください。D0FIFOSEL、D1FIFOSEL レジスタの CURPIPE[3:0] ビットの設定が 0000b の場合には、パイプ指定なしとなります。

なお、DMA または DTC 転送が許可されている状態でパイプ番号の変更は行わないでください。

CURPIPE[3:0] ビット（CFIFO ポートアクセスパイプ指定）

CFIFO ポート経由のデータの読み出し／書き込みに使用するパイプ番号を指定します。これらのビットに書き込む際は、書き込み後に読み出して、書き込み値と読み出し値が一致していることを確認してから、次の処理に進んでください。CFIFOSEL、D0FIFOSEL、および D1FIFOSEL レジスタの CURPIPE[3:0] ビットに同じパイプ番号を設定しないでください。

FIFO バッファへのアクセス中は、ソフトウェアが CURPIPE[3:0] ビットの設定値を変更しようとしても、アクセスが完了するまで現在のアクセス設定が維持されます。

ISEL ビット（DCP 選択時 CFIFO ポートアクセス方向）

選択パイプが DCP のときに ISEL ビットへの新しい値の書き込みを行ったときは、その後で ISEL ビットの読み出しを行い、書き込み値と読み出し値が一致することを確認してから次の処理に進んでください。ISEL ビットと CURPIPE[3:0] ビットの設定は同時に行ってください。

MBW ビット（CFIFO ポートアクセスビット幅）

CFIFO ポートへのアクセスビット幅を指定します。

選択パイプが受信方向の場合、CURPIPE[3:0] ビットと MBW ビットを同時に設定してください。これらのビットへの書き込みで FIFO バッファからのデータ読み出しが開始したら、すべてのデータが読み出されるまで MBW ビットの変更を行わないでください。FIFO バッファを読み出すときは、MBW に設定されているアクセスサイズで読み出してください。

選択パイプが送信方向の場合、FIFO バッファへの書き込み処理実行中に 8 ビットから 16 ビットへのビット幅切り替えは行えません。

16 ビット幅の設定でも、バイトアクセス制御することにより、奇数バイトの書き込みは可能です。

REW ビット（バッファポインタリワインド）

バッファポインタのリワインドを行うか否かを指定します。

選択パイプが受信方向の場合、FIFO バッファの読み出し中に本ビットを 1 にすると、FIFO バッファの最初のデータから再読み出しが可能になります。ダブルバッファの場合は、この設定により現在読み出し中の FIFO バッファの面の最初のデータから再読み出しすることが可能になります。

REW ビットを 1 にするとき、CURPIPE[3:0] ビットの設定変更を同時に行わないでください。REW ビットを 1 にする前に、必ず FRDY ビットが 1 であることを確認してください。

送信方向のパイプに対して FIFO バッファの最初のデータから書き込みをやり直す場合は、BCLR ビットを使用してください。

D0FIFOSEL、D1FIFOSEL

アドレス　USBFS.D0FIFOSEL 4009 0028h, USBFS.D1FIFOSEL 4009 002Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	RCNT	REW	DCLRM	DREQE	—	MBW	—	BIGEND	—	—	—	—	CURPIPE[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	CURPIPE[3:0]	FIFOポートアクセスパイプ指定	b3 b0 0 0 0 0：パイプ指定なし 0 0 0 1：パイプ1 0 0 1 0：パイプ2 0 0 1 1：パイプ3 0 1 0 0：パイプ4 0 1 0 1：パイプ5 0 1 1 0：パイプ6 0 1 1 1：パイプ7 1 0 0 0：パイプ8 1 0 0 1：パイプ9 上記以外は設定しないでください。	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	BIGEND	FIFOポートエンディアン制御	0：リトルエンディアン 1：ビッグエンディアン	R/W
b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b10	MBW	FIFOポートアクセスビット幅	0：8ビット幅 1：16ビット幅	R/W
b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b12	DREQE	DMA/DTC転送要求許可	0：DMA/DTC転送要求禁止 1：DMA/DTC転送要求許可	R/W
b13	DCLRM	指定パイプデータ読み出し後自動バッファメモリクリアモードアクセス	0：自動バッファクリアモード禁止 1：自動バッファクリアモード許可	R/W
b14	REW	バッファポインタリワインド	0：バッファポインタのリワインドをしない 1：バッファポインタのリワインドをする	R/W （注1）
b15	RCNT	リードカウントモード	0：DnFIFOからすべての受信データを読み出したときに、DTLN[8:0]ビット（CFIFOCTR.DTLN[8:0]、D0FIFOCTR.DTLN[8:0]、D1FIFOCTR.DTLN[8:0]）をクリア ダブルバッファモードの場合は、1面の全データを読み出したときにDTLN[8:0]ビット値をクリア 1：DnFIFOから受信データを読み出すごとにDTLN[8:0]ビットをダウンカウント n = 0、1	R/W

注 1.　読むと 0 が読み出されます。

CFIFOSEL、D0FIFOSEL、D1FIFOSEL レジスタの CURPIPE[3:0] ビットで同一のパイプを指定しないでください。D0FIFOSEL、D1FIFOSEL レジスタの CURPIPE[3:0] ビットの設定が 0000b の場合には、パイプ指定なしとなります。

DMA または DTC 転送が許可されている状態でパイプ番号の変更は行わないでください。

CURPIPE[3:0] ビット（FIFO ポートアクセスパイプ指定）

DnFIFO ポート経由のデータの読み出し／書き込みに使用するパイプ番号を指定します。これらのビットに書き込む際は、書き込み後に読み出して、書き込み値と読み出し値が一致していることを確認してから、次の処理に進んでください。CFIFOSEL、D0FIFOSEL、および D1FIFOSEL レジスタの CURPIPE[3:0] ビットに同じパイプ番号を設定しないでください。

FIFO バッファへのアクセス中は、CURPIPE[3:0] ビットの設定値を変更しようとしても、アクセスが完了するまで現在のアクセスの設定値が維持されます。

MBW ビット（FIFO ポートアクセスビット幅）

DnFIFO ポートへのアクセスビット幅を指定します。

選択パイプが受信方向の場合、これらのビットへの書き込みで FIFO バッファからのデータ読み出しが開始したら、全データが読み出されるまで MBW ビットの変更を行わないでください。CURPIPE[3:0] ビットと MBW ビットの設定は同時に行ってください。FIFO バッファを読み出すときは、MBW に設定されているアクセスサイズで読み出してください。

選択パイプが送信方向の場合、FIFO バッファへの書き込み処理実行中に 8 ビットから 16 ビットへのビット幅切り替えは行えません。

16 ビット幅の設定でも、バイトアクセス制御することにより、奇数バイトの書き込みは可能です。

DREQE ビット（DMA/DTC 転送要求許可）

DMA または DTC 転送要求発行の許可／禁止を指定します。DMA または DTC 転送要求を許可する場合、CURPIPE[3:0] ビット設定後に DREQE ビットを 1 にしてください。CURPIPE[3:0] ビットを書き換える場合、まず DREQE ビットを 0 にしてから書き換えてください。

DCLRM ビット（指定パイプデータ読み出し後自動バッファメモリクリアモードアクセス）

指定パイプのデータを読み出した後の自動 FIFO バッファクリアを許可または禁止します。

本ビットを 1 にすると、指定パイプに割り当てられた FIFO バッファが空のときに Zero-Length パケットを受信した場合、または PIPECFG.BFRE ビットが 1 で受信したショートパケットの読み出しが完了した場合には、USBFS は FIFO ポートコントロールレジスタの BCLR ビットを 1 にします。

SOFCFG.BRDYM ビットを 1 にして USBFS を使用する場合、DCLRM ビットを 0 にしてください。

REW ビット（バッファポインタリワインド）

バッファポインタのリワインドを行うか否かを指定します。

選択パイプが受信方向の場合、FIFO バッファの読み出し中に本ビットを 1 にすると、FIFO バッファの最初のデータから再読み出しが可能になります。ダブルバッファの場合は、この設定により現在読み出し中の FIFO バッファの面の最初のデータから再読み出しすることが可能になります。

REW ビットを 1 にするとき、CURPIPE[3:0] ビットの設定変更を同時に行わないでください。FRDY ビットが 1 であることを確認してから、本ビットを 1 にしてください。

送信方向のパイプに対して FIFO バッファの最初のデータから書き込みをやり直す場合は、BCLR ビットを使用してください。

RCNT ビット（リードカウントモード）

D0FIFOCTR.DTLN ビット、D1FIFOCTR.DTLN ビットの読み出しモードを指定します。PIPECFG.BFRE ビットを 1 にして DnFIFO にアクセスを行う場合は、RCNT ビットを 0 にしてください。

29.2.6 CFIFO ポートコントロールレジスタ（CFIFOCTR）
D0FIFO ポートコントロールレジスタ（D0FIFOCTR）
D1FIFO ポートコントロールレジスタ（D1FIFOCTR）

アドレス　USBFS.CFIFOCTR 4009 0022h, USBFS.D0FIFOCTR 4009 002Ah, USBFS.D1FIFOCTR 4009 002Eh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	BVAL	BCLR	FRDY	—	—	—	—	DTLN[8:0]								
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b8-b0	DTLN[8:0]	受信データ長	受信データ長を示します。 これらのビットが示す値は、ポート選択レジスタのRCNTビットの設定値によって異なります。詳細は、DTLN[8:0]ビットを参照してください。	R
b12-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b13	FRDY	FIFOポートレディ	0：FIFOポートアクセス禁止 1：FIFOポートアクセス許可	R
b14	BCLR	CPUバッファクリア	0：何もしない 1：CPU側FIFOバッファクリア	R/W （注1）
b15	BVAL	バッファメモリ有効フラグ	0：無効（0の書き込みは無効です） 1：書き込み終了	R/W

注 1.　読むと 0 が読み出されます。

CFIFOCTR レジスタ、D0FIFOCTR レジスタ、および D1FIFOCTR レジスタは、それぞれ CFIFO、D0FIFO、および D1FIFO バッファに対応しています。

DTLN[8:0] ビット（受信データ長）

受信データ長が表示されます。

FIFO バッファ読み出し中の DTLN[8:0] ビットの値は、DnFIFOSEL.RCNT ビット（n = 0, 1）により、以下のように異なります。

- RCNT = 0
  CPU または DMA/DTC が FIFO バッファ 1 面分の全受信データの読み出しを完了するまで、USBFS は受信データ長を DTLN[8:0] ビットに表示します。
  PIPECFG.BFRE ビットが 1 の場合、読み出しが完了しても、BCLR ビットが 1 になるまで USBFS は受信データ長を保持します。
- RCNT = 1
  FIFO バッファからデータを読み出すごとに USBFS は DTLN[8:0] ビットの表示値をダウンカウントします。MBW ビットが 0 のときは -1 ずつ、MBW ビットが 1 のときは -2 ずつ値がダウンカウントされます。
  1 面分の FIFO バッファ読み出し完了時に、USBFS は DTLN[8:0] ビットを 0 にします。ダブルバッファモード時かつ FIFO バッファ 1 面分の受信データの読み出しを完了する前にもう 1 面分の FIFO バッファにデータを受信した場合は、USBFS は先の 1 面分の読み出し完了時に後の 1 面の受信データ長を DTLN[8:0] ビットに設定します。

FRDY ビット（FIFO ポートレディ）

CPU または DMA/DTC から FIFO ポートにアクセス可能かどうかが表示されます。

以下の場合、USBFS は FRDY ビットを 1 にしますが、読み出すべきデータがないため FIFO ポートによるデータ読み出しはできません。

- 選択パイプに割り当てられている FIFO バッファが空の状態で Zero-Length パケットを受信した場合
- PIPECFG.BFRE ビットが 1 のときに、ショートパケットを受信し、データ読み出しを完了した場合

これらのケースでは、BCLR ビットを 1 にして FIFO バッファのクリアを行い、次のデータ送受信を行える状態にしてください。

BCLR ビット（CPU バッファクリア）

選択パイプの CPU 側の FIFO バッファをクリアする場合は 1 にします。

選択パイプに割り当てられている FIFO バッファにダブルバッファモードが設定されている場合、FIFO バッファの両面ともに読み出し可能な場合でも、USBFS は片面の FIFO バッファのみをクリアします。

選択パイプが DCP のときに BCLR ビットを 1 にすると、FIFO バッファへのアクセス権を持つのが CPU 側か SIE 側かにかかわらず、USBFS は FIFO バッファをクリアします。SIE 側にアクセス権があるときに FIFO バッファをクリアする場合、DCPCTR.PID[1:0] ビットを 00b（NAK 応答）にしてから BCLR ビットを 1 にしてください。

選択パイプが送信方向の場合、同時に BVAL フラグと BCLR ビットの両方に 1 を書き込むと、USBFS はすでに書き込まれたデータをクリアし、Zero-Length パケットの送信を可能にします。

選択パイプが DCP 以外の場合、BCLR ビットへの 1 の書き込みは、FIFO ポートコントロールレジスタの FRDY ビットの（USBFS による）設定値が 1 のときにのみ行ってください。

BVAL フラグ（バッファメモリ有効フラグ）

CURPIPE[3:0] ビットで選択したパイプの CPU 側の FIFO バッファへの書き込み終了時に 1 にします。

選択パイプが送信方向のとき、以下の場合に BVAL フラグを設定してください。

- ショートパケットを送信する場合は、データ書き込み後に本フラグを 1 にする
- Zero-Length パケットの送信を行いたいとき、FIFO バッファへデータを書き込む前に本フラグを 1 にする

USBFS は、この後、FIFO バッファを CPU から SIE に切り替えて、送信可能な状態にします。

連続転送モード時にパイプに対して最大パケットサイズ分のデータを書き込むと、USBFS は BVAL フラグを 1 にし、FIFO バッファを CPU から SIE に切り替え、送信可能状態にします。

BVAL フラグへの 1 の書き込みは、USBFS が FRDY ビットを 1 にしているときにのみ行ってください。選択パイプが受信方向の場合、BVAL フラグは 1 にしないでください。

29.2.7　割り込みイネーブルレジスタ 0（INTENB0）

アドレス　USBFS.INTENB0 4009 0030h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	VBSE	RSME	SOFE	DVSE	CTRE	BEMPE	NRDYE	BRDYE	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	BRDYE	バッファレディ割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b9	NRDYE	バッファノットレディ応答割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b10	BEMPE	バッファエンプティ割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b11	CTRE	コントロール転送ステージ遷移割り込み許可（注1）	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b12	DVSE	デバイスステート遷移割り込み許可（注1）	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b13	SOFE	フレーム番号更新割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b14	RSME	レジューム割り込み許可（注1）	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b15	VBSE	VBUS割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W

注 1.　RSME、DVSE、および CTRE ビットは、デバイスコントローラモード時にのみ 1 にできます。ホストコントローラモードでは、これらのビットを 1 にしないでください。

INTSTS0 レジスタのステータスフラグが 1 で、INTENB0 レジスタの関連する割り込み要求許可ビットが 1 の場合、USBFS は USBFS 割り込み要求を発行します。

INTENB0 レジスタの設定値にかかわらず、関連する条件を満たすステート切り替えに応じて、INTSTS0 レジスタのステータスフラグは 1 となります。

INTSTS0 レジスタの関連するステータスフラグが 1 の場合に INTENB0 レジスタの割り込み要求許可ビットが 0 から 1 に切り替えられると、USBFS 割り込み要求が発行されます。

29.2.8 割り込みイネーブルレジスタ 1（INTENB1）

アドレス USBFS.INTENB1 4009 0032h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	OVRCRE	BCHGE	—	DTCHE	ATTCHE	—	—	—	—	EOFERRE	SIGNE	SACKE	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	SACKE	SETUP トランザクション正常応答割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b5	SIGNE	SETUP トランザクションエラー割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b6	EOFERRE	EOF エラー検出割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b10-b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b11	ATTCHE	接続検出割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b12	DTCHE	切断検出割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b13	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b14	BCHGE	USB バス変化割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b15	OVRCRE	オーバーカレント入力変化割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W

注 . INTENB1 レジスタのビットは、ホストコントローラモード時にのみ 1 にできます。デバイスコントローラモードでは、1 にしないでください。

INTENB1 レジスタは、SETUP トランザクションに対してホストコントローラモード時の割り込みマスクを指定します。

INTSTS1 レジスタのステータスフラグが 1 で、INTENB1 レジスタの関連する割り込み要求許可ビットが 1 の場合、USBFS は USBFS 割り込み要求を発行します。

INTENB1 レジスタの設定値にかかわらず、関連する条件を満たすステート切り替えに応じて、INTSTS1 レジスタのステータスフラグは 1 となります。

INTSTS1 レジスタの関連するステータスフラグが 1 の場合に INTENB1 レジスタの割り込み要求許可ビットが 0 から 1 に切り替えられると、USBFS 割り込み要求が発行されます。

デバイスコントローラモードでは、割り込みを許可しないでください。

29.2.9 BRDY 割り込みイネーブルレジスタ（BRDYENB）

アドレス USBFS.BRDYENB 4009 0036h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	PIPE9BRDYE	PIPE8BRDYE	PIPE7BRDYE	PIPE6BRDYE	PIPE5BRDYE	PIPE4BRDYE	PIPE3BRDYE	PIPE2BRDYE	PIPE1BRDYE	PIPE0BRDYE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PIPE0BRDYE	パイプ0のBRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b1	PIPE1BRDYE	パイプ1のBRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b2	PIPE2BRDYE	パイプ2のBRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b3	PIPE3BRDYE	パイプ3のBRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b4	PIPE4BRDYE	パイプ4のBRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b5	PIPE5BRDYE	パイプ5のBRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b6	PIPE6BRDYE	パイプ6のBRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b7	PIPE7BRDYE	パイプ7のBRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b8	PIPE8BRDYE	パイプ8のBRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b9	PIPE9BRDYE	パイプ9のBRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b15-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

BRDYENB レジスタは、各パイプの BRDY 割り込み検出時に、INTSTS0.BRDY ビットへの 1 の書き込みの許可／禁止を指定します。

BRDYSTS レジスタのステータスフラグが 1 で、BRDYENB レジスタの関連する PIPEnBRDYE ビット（n = 0 ～ 9）が 1 の場合、INTSTS0.BRDY フラグは 1 になります。この場合、INTENB0 レジスタの BRDYE ビットが 1 であれば、USBFS は BRDY 割り込み要求を発生させます。

PIPEnBRDY ビットのうち、少なくとも 1 つのビットが 1 の状態で、ソフトウェアで BRDYENB レジスタの関連する割り込み要求許可ビットを 0 から 1 に変更すると、USB は BRDY 割り込み要求を発生させます。

29.2.10 NRDY 割り込みイネーブルレジスタ（NRDYENB）

アドレス USBFS.NRDYENB 4009 0038h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	PIPE9NRDYE	PIPE8NRDYE	PIPE7NRDYE	PIPE6NRDYE	PIPE5NRDYE	PIPE4NRDYE	PIPE3NRDYE	PIPE2NRDYE	PIPE1NRDYE	PIPE0NRDYE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PIPE0NRDYE	パイプ0のNRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b1	PIPE1NRDYE	パイプ1のNRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b2	PIPE2NRDYE	パイプ2のNRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b3	PIPE3NRDYE	パイプ3のNRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b4	PIPE4NRDYE	パイプ4のNRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b5	PIPE5NRDYE	パイプ5のNRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b6	PIPE6NRDYE	パイプ6のNRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b7	PIPE7NRDYE	パイプ7のNRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b8	PIPE8NRDYE	パイプ8のNRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b9	PIPE9NRDYE	パイプ9のNRDY割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b15-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

NRDYENB レジスタは、各パイプの NRDY 割り込み検出時に、INTSTS0.NRDY ビットへの 1 の書き込みの許可／禁止を指定します。

NRDYSTS レジスタのステータスフラグが 1 で、NRDYENB レジスタの関連する PIPEnNRDYE ビット（n = 0 ～ 9）が 1 の場合、INTSTS0.NRDY フラグは 1 になります。この場合、INTENB0 レジスタの NRDYE ビットが 1 であれば、USBFS は NRDY 割り込み要求を発生させます。

PIPEnNRDY ビットの少なくとも 1 つが 1 のとき、ソフトウェアで NRDYENB レジスタの関連する割り込み要求許可ビットが 0 から 1 に変更されると、USBFS は NRDY 割り込み要求を発生させます。

29.2.11 BEMP割り込みイネーブルレジスタ（BEMPENB）

アドレス USBFS.BEMPENB 4009 003Ah

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	PIPE9BEMPE	PIPE8BEMPE	PIPE7BEMPE	PIPE6BEMPE	PIPE5BEMPE	PIPE4BEMPE	PIPE3BEMPE	PIPE2BEMPE	PIPE1BEMPE	PIPE0BEMPE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PIPE0BEMPE	パイプ0のBEMP割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b1	PIPE1BEMPE	パイプ1のBEMP割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b2	PIPE2BEMPE	パイプ2のBEMP割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b3	PIPE3BEMPE	パイプ3のBEMP割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b4	PIPE4BEMPE	パイプ4のBEMP割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b5	PIPE5BEMPE	パイプ5のBEMP割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b6	PIPE6BEMPE	パイプ6のBEMP割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b7	PIPE7BEMPE	パイプ7のBEMP割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b8	PIPE8BEMPE	パイプ8のBEMP割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b9	PIPE9BEMPE	パイプ9のBEMP割り込み許可	0：割り込み要求を禁止 1：割り込み要求を許可	R/W
b15-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

BEMPENB レジスタは、各パイプの BEMP 割り込み検出時に、INTSTS0.BEMP ビットへの 1 の書き込みの許可／禁止を指定します。

BEMPSTS レジスタのステータスフラグが 1 で、BEMPENB レジスタの関連する PIPEnBEMPE ビット（n = 0 ～ 9）が 1 の場合、INTSTS0.BEMP フラグは 1 になります。この場合、INTENB0 レジスタの BEMPE ビットが 1 であれば、USBFS は BEMP 割り込み要求を発生させます。PIPEnBEMP ビットの少なくとも 1 つが 1 のとき、ソフトウェアで BEMPENB レジスタの関連する割り込み要求許可ビットが 0 から 1 に変更されると、USBFS は BEMP 割り込み要求を発生させます。

29.2.12 SOF出力コンフィグレーションレジスタ（SOFCFG）

アドレス USBFS.SOFCFG 4009 003Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	TRNENSEL	—	BRDYM	—	EDGESTS	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	EDGESTS	エッジ割り込み出力ステータスモニタ（注1）	エッジ割り込み出力信号のエッジ処理中は1となります。	R
b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6	BRDYM	BRDY割り込みステータスクリアタイミング	0：ソフトウェアによるBRDYフラグのクリア 1：FIFOバッファの読み出しまたはFIFOバッファへの書き込み動作によりUSBFSがBRDYフラグをクリア	R/W
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	TRNENSEL	トランザクション有効期間切り替え（注1）	0：ロースピード通信非対応 1：ロースピード通信対応	R/W
b15-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　USBFS へのクロック供給を停止するときは、事前に本ビットが 0 であることを確認してください。

EDGESTS ビット（エッジ割り込み出力ステータスモニタ）

エッジ割り込み出力信号のエッジ処理中は 1 となります。USBFS へのクロック供給を停止するときは、EDGESTS ビットが 0 であることを確認してください。

BRDYM ビット（BRDY 割り込みステータスクリアタイミング）

パイプの BRDY 割り込みステータスフラグのクリア方法を示します。

TRNENSEL ビット（トランザクション有効期間切り替え）

USB ポートでフルスピードまたはロースピード通信を行う場合に、1 フレーム中に USBFS がトークン発行を行う期間（トランザクション有効期間）を指定します。

ロースピードデバイスが接続されたときは、本ビットを 1 にしてください。本ビットは、ホストコントローラモードでのみ有効です。デバイスコントローラモードでは 0 にしてください。

29.2.13　割り込みステータスレジスタ 0（INTSTS0）

アドレス　USBFS.INTSTS0 4009 0040h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	VBINT	RESM	SOFR	DVST	CTRT	BEMP	NRDY	BRDY	VBSTS	DVSQ[2:0]			VALID	CTSQ[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0/1（注1）	0	0	0	0	0（注2）	0（注3）	0（注3）	0/1（注3）	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	CTSQ[2:0]	コントロール転送ステージ	b2 b0 0 0 0：アイドルまたはセットアップステージ 0 0 1：コントロールリードデータステージ 0 1 0：コントロールリードステータスステージ 0 1 1：コントロールライトデータステージ 1 0 0：コントロールライトステータスステージ 1 0 1：コントロールライト（no-Data）ステータスステージ 1 1 0：コントロール転送シーケンスエラー	R
b3	VALID	USBリクエスト受信	0：Setupパケットを受信していない 1：Setupパケットを受信した	R/W
b6-b4	DVSQ[2:0]	デバイスステート	b6 b4 0 0 0：Poweredステート 0 0 1：Defaultステート 0 1 0：Addressステート 0 1 1：Configuredステート 1 x x：Suspendedステート	R
b7	VBSTS	VBUS入力ステータス	0：USB_VBUS端子がLow 1：USB_VBUS端子がHigh	R
b8	BRDY	バッファレディ割り込みステータス	0：BRDY割り込み発生なし 1：BRDY割り込み発生あり	R
b9	NRDY	バッファノットレディ割り込みステータス	0：NRDY割り込み発生なし 1：NRDY割り込み発生あり	R
b10	BEMP	バッファエンプティ割り込みステータス	0：BEMP割り込み発生なし 1：BEMP割り込み発生あり	R
b11	CTRT	コントロール転送ステージ遷移割り込みステータス（注5）	0：コントロール転送ステージ遷移割り込み発生なし 1：コントロール転送ステージ遷移割り込み発生あり	R/W（注4）
b12	DVST	デバイスステート遷移割り込みステータス（注5）	0：デバイスステート遷移割り込み発生なし 1：デバイスステート遷移割り込み発生あり	R/W（注4）
b13	SOFR	フレーム番号更新割り込みステータス	0：SOF割り込み発生なし 1：SOF割り込み発生あり	R/W（注4）
b14	RESM	レジューム割り込みステータス（注5）（注6）	0：レジューム割り込み発生なし 1：レジューム割り込み発生あり	R/W（注4）
b15	VBINT	VBUS割り込みステータス（注6）	0：VBUS割り込み発生なし 1：VBUS割り込み発生あり	R/W（注4）

x：Don’t care

注 1.　MCU がリセットされると 0、USB バスリセットのとき 1 になります。
注 2.　USB_VBUS 端子が High のとき 1、Low のとき 0 になります。
注 3.　MCU がリセットされると 000b、USB バスリセットのとき 001b になります。
注 4.　VBINT ビット、RESM ビット、SOFR ビット、DVST ビット、CTRT ビット、または VALID ビットをクリアする場合は、クリアしたいビットにのみ 0 を書き込んでください。その他のビットには 1 を書いてください。0 を示しているステータスビットへの 0 書き込みを行わないでください。
注 5.　RESM、DVST、および CTRT ビットのステータスは、デバイスコントローラモードでのみ変化します。ホストコントローラモードでは関連する割り込み許可ビットを 0（禁止）にしてください。
注 6.　USBFS は VBINT ビットおよび RESM ビットが示すステータス変化をクロック停止中（SYSCFG.SCKE ビットが 0 のとき）でも検出し、関連する割り込み要求ビットが 1 であれば割り込みを要求します。ステータスをソフトウェアでクリアする場合は、クロック供給を許可してから行ってください。

CTSQ[2:0] ビット（コントロール転送ステージ）

ホストコントローラモード時、CTSQ[2:0] ビットの読み出し値は無効です。

VALID ビット（USB リクエスト受信）

ホストコントローラモード時、VALID ビットの読み出し値は無効です。

DVSQ[2:0] ビット（デバイスステート）

USB バスリセットで DVSQ[2:0] ビットは初期化されます。ホストコントローラモードでは、読み出し値は無効です。

BRDY ビット（バッファレディ割り込みステータス）

BRDY 割り込みステータスを示します。

USBFS は BRDY 割り込みが許可された（BRDYENB.PIPEnBRDYE が 1）パイプのうち少なくとも 1 つに対して BRDY 割り込みステータス（PIPEnBRDY が 1、n = 0 ～ 9）を検出したときに、BRDY ビットを 1 にします。

PIPEnBRDY ステータスがアサートされる条件については、29.3.3.1　BRDY 割り込みを参照してください。

ソフトウェアで、1 になっている PIPEnBRDYE ビットに対応する PIPEnBRDY ビットのすべてに 0 を書くと、USBFS は BRDY ビットを 0 にします。ソフトウェアで BRDY ビットに 0 を書いても、本ビットはクリアされません。

NRDY ビット（バッファノットレディ割り込みステータス）

NRDY 割り込みステータスを示します。

USBFS は NRDY 割り込みが許可された（NRDYENB.PIPEnNRDYE が 1）パイプのうち少なくとも 1 つに対して NRDY 割り込みステータス（PIPEnNRDY が 1、n = 0 ～ 9）を検出したときに、NRDY ビットを 1 にします。

PIPEnNRDY ステータスがアサートされる条件については、29.3.3.2　NRDY 割り込みを参照してください。

ソフトウェアで、1 になっている PIPEnNRDYE ビットに対応する PIPEnNRDY ビットのすべてに 0 を書くと、USBFS は NRDY ビットを 0 にします。ソフトウェアで NRDY ビットに 0 を書いても、本ビットはクリアされません。

BEMP ビット（バッファエンプティ割り込みステータス）

BEMP 割り込みステータスを示します。

USBFS は BEMP 割り込みが許可された（BEMPENB.PIPEnBEMPE が 1）パイプのうち少なくとも 1 つに対して BEMP 割り込みステータス（PIPEnBEMP が 1、n = 0 ～ 9）を検出したときに、BEMP ビットを 1 にします。

PIPEnBEMP ステータスのアサート条件については、29.3.3.3　BEMP 割り込みを参照してください。

ソフトウェアで、1 になっている PIPEnBEMPE ビットに対応する PIPEnBEMP ビットのすべてに 0 を書くと、USBFS は BEMP ビットを 0 にします。ソフトウェアで BEMP ビットに 0 を書いても、本ビットはクリアされません。

CTRT ビット（コントロール転送ステージ遷移割り込みステータス）

デバイスコントローラモード時、USBFS がコントロール転送のステージ遷移を検出すると、USBFS は CTSQ[2:0] ビットの値を更新し、CTRT ビットを 1 にします。コントロール転送ステージ遷移割り込みが発生した場合、USBFS が次のコントロール転送ステージ遷移を検出するまでに CTRT ビットをクリアしてください。

ホストコントローラモード時に CTRT ビットから読み出した値は無効です。

DVST ビット（デバイスステート遷移割り込みステータス）

デバイスコントローラモード時、USBFS がデバイスステートの切り替えを検出すると、USBFS は DVSQ[2:0] ビットの値を更新し、DVST ビットを 1 にします。デバイスステート遷移割り込みが発生した場合、USBFS が次のデバイスステート遷移を検出する前に DVST ビットをクリアしてください。

ホストコントローラモード時に DVST ビットから読み出した値は無効です。

SOFR ビット（フレーム番号更新割り込みステータス）

ホストコントローラモード時に、ソフトウェアで DVSTCTR0.UACT ビットを 1 にしている場合、USBFS はフレーム番号の更新タイミングで SOFR ビットを 1 にします。SOFR 割り込みの検出間隔は 1ms です。

デバイスコントローラモード時には、USBFS はフレーム番号更新時に SOFR ビットを 1 にします。フレーム番号更新割り込みは、1ms ごとに検出します。

USB ホストから受信した SOF パケットが破損していても、内部補完機能により、USBFS は SOFR 割り込みを検出できます。

RESM ビット（レジューム割り込みステータス）

デバイスコントローラモード時、USBFS は、Suspended ステート（DVSQ[2:0] = 1xxb）であり、かつ、USB_DP 端子で信号の立ち下がりを検出したときに、RESM ビットを 1 にします。ホストコントローラモード時に RESM フラグから読み出した値は無効です。

VBINT ビット（VBUS 割り込みステータス）

USBFS は、USB_VBUS 端子入力値のレベル変化（High から Low、または Low から High）を検出すると、VBINT ビットを 1 にします。USBFS は USB_VBUS 端子の入力値を、VBSTS ビットに表示します。VBUS 割り込みが発生した場合は、ソフトウェアで VBSTS ビットを 3 回以上読み出し、値が一致することを確認してチャタリング除去を行ってください。

29.2.14　割り込みステータスレジスタ 1（INTSTS1）

アドレス　USBFS.INTSTS1 4009 0042h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	OVRCR	BCHG	—	DTCH	ATTCH	—	—	—	—	EOFERR	SIGN	SACK	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b4	SACK	SETUP トランザクション正常応答割り込みステータス	0：SACK 割り込み発生なし 1：SACK 割り込み発生あり	R/W（注 1）
b5	SIGN	SETUP トランザクションエラー割り込みステータス	0：SIGN 割り込み発生なし 1：SIGN 割り込み発生あり	R/W（注 1）
b6	EOFERR	EOF エラー検出割り込みステータス	0：EOFERR 割り込み発生なし 1：EOFERR 割り込み発生あり	R/W（注 1）
b10-b7	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b11	ATTCH	ATTCH 割り込みステータス	0：ATTCH 割り込み発生なし 1：ATTCH 割り込み発生あり	R/W（注 1）
b12	DTCH	USB 切断検出割り込みステータス	0：DTCH 割り込み発生なし 1：DTCH 割り込み発生あり	R/W（注 1）
b13	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b14	BCHG	USB バス変化割り込みステータス（注 2）	0：BCHG 割り込み発生なし 1：BCHG 割り込み発生あり	R/W（注 1）
b15	OVRCR	オーバーカレント入力変化割り込みステータス（注 2）	0：OVRCR 割り込み発生なし 1：OVRCR 割り込み発生あり	R/W（注 1）

注 1.　INTSTS1 レジスタの各ビットを 0 にする場合は、クリアしたいビットにのみ 0 を書いてください。その他のビットには 1 を書いてください。

注 2.　USBFS は OVRCR ビットまたは BCHG ビットのステータス変化をクロック停止中（SYSCFG.SCKE が 0）でも検出し、関連する割り込み要求ビットが 1 であれば割り込みを要求します。ソフトウェアでステータスをクリアする前にクロック供給を許可してください（SYSCFG.SCKE を 1 にする）。その他の割り込みは、クロック停止中（SYSCFG.SCKE ビットが 0）は検出しません。

INTSTS1 レジスタは、ホストコントローラモードでの各割り込みのステータスを確認するレジスタです。INTSTS1 レジスタの各ビットが示すステータス変化による割り込みは、ホストコントローラモードでのみ許可してください。

SACK ビット（SETUP トランザクション正常応答割り込みステータス）

ホストコントローラモード時、SETUP トランザクション正常応答割り込みステータスを示します。

USBFS が発行した SETUP トランザクションにおいて周辺デバイスから ACK 応答が返されると、USBFS は SACK 割り込みを検出し、本ビットを 1 にします。ソフトウェアで関連する割り込み許可ビットを 1 にしていれば、USBFS は割り込みを発生させます。

デバイスコントローラモード時に SACK ビットから読み出した値は無効です。

SIGN ビット（SETUP トランザクションエラー割り込みステータス）

ホストコントローラモード時、SETUP トランザクションエラー割り込みステータスを示します。

USBFS が発行した SETUP トランザクションにおいて、周辺デバイスが ACK 応答を行わない事態が連続 3 回発生すると、USBFS は SIGN 割り込みを検出し、本ビットを 1 にします。ソフトウェアで関連する割り込み許可ビットを 1 にしていれば、USBFS は割り込みを発生させます。

USBFS の SIGN 割り込み検出条件は、3 回の連続した SETUP トランザクションに対して、以下のいずれかの応答条件が発生したときです。

- 周辺デバイスが何も応答しない状態で USBFS がタイムアウトを検出したとき
- 破損した ACK パケットを受信したとき
- ACK 以外のハンドシェイク（NAK、NYET、または STALL）を受信したとき

デバイスコントローラモード時に SIGN ビットから読み出した値は無効です。

EOFERR ビット（EOF エラー検出割り込みステータス）

ホストコントローラモード時、EOF エラー検出割り込みステータスを示します。

USBFS は、USB2.0 規格で定められている EOF2 タイミング時点で通信が終了しないことを検出すると、EOFERR 割り込みを検出して本ビットを 1 にします。ソフトウェアで関連する割り込み許可ビットを 1 にしていれば、USBFS は割り込みを発生させます。

USBFS は、EOFERR 割り込みを検出後、関連する割り込み許可ビットの設定値にかかわらず、以下のハードウェア制御を行います。

- EOFERR 割り込みを検出したポートの DVSTCTR0.UACT ビットを 0 にする
- EOFERR 割り込みが発生したポートをアイドル状態に遷移させる

ソフトウェアで、通信を行っているすべてのパイプを終了させ、USB ポートへの再エニュメレーションを行ってください。

デバイスコントローラモードで EOFERR ビットから読み出した値は無効です。

ATTCH ビット（ATTCH 割り込みステータス）

ホストコントローラモード時、USB アタッチ検出割り込みステータスを示します。

USBFS は、フルスピード信号レベルまたはロースピード信号レベルの J-State または K-State を 2.5µs 間検出すると、ATTCH 割り込みを検出して本ビットを 1 にします。ソフトウェアで関連する割り込み許可ビットを 1 にしていれば、USBFS は割り込みを発生させます。

USBFS の ATTCH 割り込み検出条件は以下のいずれかです。

- K-State、SE0、または SE1 から J-State に変化し、J-State のまま 2.5µs 間継続したとき
- J-State、SE0、または SE1 から K-State に変化し、K-State のまま 2.5µs 間継続したとき

デバイスコントローラモード時に ATTCH ビットから読み出した値は無効です。

DTCH ビット（USB 切断検出割り込みステータス）

ホストコントローラモード時、USB 切断検出割り込みステータスを示します。

USBFS は、USB バスデタッチイベントを検出すると、DTCH 割り込みを検出して本ビットを 1 にします。ソフトウェアで関連する割り込み許可ビットを 1 にしていれば、USBFS は割り込みを発生させます。

USBFS は、USB2.0 規格に準じてバスデタッチイベントを検出します。

USBFS は、DTCH 割り込みを検出後、関連する割り込み許可ビットの設定値にかかわらず、以下のハードウェア制御を行います。

- DTCH 割り込みを検出したポートの DVSTCTR0.UACT ビットを 0 にする
- DTCH 割り込みが発生したポートをアイドル状態に遷移させる

ソフトウェアで、通信を行っているすべてのパイプを終了させ、USB ポートへのアタッチ待ちの状態（ATTCH 割り込み発生待ちの状態）に遷移してください。

デバイスコントローラモードで DTCH ビットから読み出した値は無効です。

BCHG ビット（USB バス変化割り込みステータス）

ホストコントローラモード時、USB バス変化割り込みステータスを示します。

USBFS は、USB ポートでフルスピード信号レベルまたはロースピード信号レベルの変化が起こると、BCHG 割り込みを検出して本ビットを 1 にします。対象とする変化には、J-State、K-State、SE0 のいずれかから J-State、K-State、SE0 のいずれかへの変化すべてを含みます。ソフトウェアで関連する割り込み許可ビットを 1 にしていれば、USBFS は割り込みを発生させます。

USBFS は USB ポートの入力状態を、LNST[1:0] ビットに表示します。BCHG 割り込みが発生した場合は、ソフトウェアで LNST[1:0] ビットの読み出しを同じ値が 3 回以上得られるまで繰り返し、チャタリング除去を行ってください。

USB バスステートの変化は、内部クロック停止状態でも検出します。

デバイスコントローラモードで BCHG ビットから読み出した値は無効です。

OVRCR ビット（オーバーカレント入力変化割り込みステータス）

USB_OVRCURA および USB_OVRCURB 入力端子の変化割り込みステータスを示します。

USB_OVRCURA および USB_OVRCURB 端子の入力値の少なくともどちらか一方が変化（High から Low への変化あるいは Low から High への変化）すると、USBFS は OVRCR 割り込みを検出して本ビットを 1 にします。ソフトウェアで関連する割り込み許可ビットを 1 にしていれば、USBFS は割り込みを発生させます。

29.2.15 BRDY割り込みステータスレジスタ（BRDYSTS）

アドレス USBFS.BRDYSTS 4009 0046h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	PIPE9BRDY	PIPE8BRDY	PIPE7BRDY	PIPE6BRDY	PIPE5BRDY	PIPE4BRDY	PIPE3BRDY	PIPE2BRDY	PIPE1BRDY	PIPE0BRDY
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PIPE0BRDY	パイプ0のBRDY割り込みステータス（注2）	0：BRDY割り込み発生なし 1：BRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b1	PIPE1BRDY	パイプ1のBRDY割り込みステータス（注2）	0：BRDY割り込み発生なし 1：BRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b2	PIPE2BRDY	パイプ2のBRDY割り込みステータス（注2）	0：BRDY割り込み発生なし 1：BRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b3	PIPE3BRDY	パイプ3のBRDY割り込みステータス（注2）	0：BRDY割り込み発生なし 1：BRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b4	PIPE4BRDY	パイプ4のBRDY割り込みステータス（注2）	0：BRDY割り込み発生なし 1：BRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b5	PIPE5BRDY	パイプ5のBRDY割り込みステータス（注2）	0：BRDY割り込み発生なし 1：BRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b6	PIPE6BRDY	パイプ6のBRDY割り込みステータス（注2）	0：BRDY割り込み発生なし 1：BRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b7	PIPE7BRDY	パイプ7のBRDY割り込みステータス（注2）	0：BRDY割り込み発生なし 1：BRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b8	PIPE8BRDY	パイプ8のBRDY割り込みステータス（注2）	0：BRDY割り込み発生なし 1：BRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b9	PIPE9BRDY	パイプ9のBRDY割り込みステータス（注2）	0：BRDY割り込み発生なし 1：BRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b15-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　SOFCFG.BRDYM ビットが 0 の場合、BRDYSTS レジスタの各ビットが示すステータスをクリアする場合は、クリアしたいビットにのみ 0 を書いてください。その他のビットには 1 を書いてください。

注 2.　SOFCFG.BRDYM ビットが 0 の場合、BRDY 割り込みのクリアは、FIFO にアクセスする前に行ってください。

29.2.16 NRDY割り込みステータスレジスタ（NRDYSTS）

アドレス USBFS.NRDYSTS 4009 0048h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	PIPE9NRDY	PIPE8NRDY	PIPE7NRDY	PIPE6NRDY	PIPE5NRDY	PIPE4NRDY	PIPE3NRDY	PIPE2NRDY	PIPE1NRDY	PIPE0NRDY
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PIPE0NRDY	パイプ0のNRDY割り込みステータス	0：NRDY割り込み発生なし 1：NRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b1	PIPE1NRDY	パイプ1のNRDY割り込みステータス	0：NRDY割り込み発生なし 1：NRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b2	PIPE2NRDY	パイプ2のNRDY割り込みステータス	0：NRDY割り込み発生なし 1：NRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b3	PIPE3NRDY	パイプ3のNRDY割り込みステータス	0：NRDY割り込み発生なし 1：NRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b4	PIPE4NRDY	パイプ4のNRDY割り込みステータス	0：NRDY割り込み発生なし 1：NRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b5	PIPE5NRDY	パイプ5のNRDY割り込みステータス	0：NRDY割り込み発生なし 1：NRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b6	PIPE6NRDY	パイプ6のNRDY割り込みステータス	0：NRDY割り込み発生なし 1：NRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b7	PIPE7NRDY	パイプ7のNRDY割り込みステータス	0：NRDY割り込み発生なし 1：NRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b8	PIPE8NRDY	パイプ8のNRDY割り込みステータス	0：NRDY割り込み発生なし 1：NRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b9	PIPE9NRDY	パイプ9のNRDY割り込みステータス	0：NRDY割り込み発生なし 1：NRDY割り込み発生あり	R/W（注1）
b15-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　NRDYSTS レジスタの各ビットが示すステータスをクリアする場合は、クリアしたいビットにのみ 0 を書いてください。その他のビットには 1 を書いてください。

29.2.17 BEMP割り込みステータスレジスタ（BEMPSTS）

アドレス USBFS.BEMPSTS 4009 004Ah

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	PIPE9BEMP	PIPE8BEMP	PIPE7BEMP	PIPE6BEMP	PIPE5BEMP	PIPE4BEMP	PIPE3BEMP	PIPE2BEMP	PIPE1BEMP	PIPE0BEMP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PIPE0BEMP	パイプ0のBEMP割り込みステータス	0：BEMP割り込み発生なし 1：BEMP割り込み発生あり	R/W（注1）
b1	PIPE1BEMP	パイプ1のBEMP割り込みステータス	0：BEMP割り込み発生なし 1：BEMP割り込み発生あり	R/W（注1）
b2	PIPE2BEMP	パイプ2のBEMP割り込みステータス	0：BEMP割り込み発生なし 1：BEMP割り込み発生あり	R/W（注1）
b3	PIPE3BEMP	パイプ3のBEMP割り込みステータス	0：BEMP割り込み発生なし 1：BEMP割り込み発生あり	R/W（注1）
b4	PIPE4BEMP	パイプ4のBEMP割り込みステータス	0：BEMP割り込み発生なし 1：BEMP割り込み発生あり	R/W（注1）
b5	PIPE5BEMP	パイプ5のBEMP割り込みステータス	0：BEMP割り込み発生なし 1：BEMP割り込み発生あり	R/W（注1）
b6	PIPE6BEMP	パイプ6のBEMP割り込みステータス	0：BEMP割り込み発生なし 1：BEMP割り込み発生あり	R/W（注1）
b7	PIPE7BEMP	パイプ7のBEMP割り込みステータス	0：BEMP割り込み発生なし 1：BEMP割り込み発生あり	R/W（注1）
b8	PIPE8BEMP	パイプ8のBEMP割り込みステータス	0：BEMP割り込み発生なし 1：BEMP割り込み発生あり	R/W（注1）
b9	PIPE9BEMP	パイプ9のBEMP割り込みステータス	0：BEMP割り込み発生なし 1：BEMP割り込み発生あり	R/W（注1）
b15-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　BEMPSTS レジスタの各ビットが示すステータスをクリアする場合は、クリアしたいビットにのみ 0 を書いてください。その他のビットには 1 を書いてください。

29.2.18　フレームナンバレジスタ（FRMNUM）

アドレス　USBFS.FRMNUM 4009 004Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	OVRN	CRCE	—	—	—	FRNM[10:0]										
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b10-b0	FRNM[10:0]	フレーム番号	最新のフレーム番号	R
b13-b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b14	CRCE	受信データエラー	0：エラーなし 1：エラー発生	R/W （注1）
b15	OVRN	オーバーラン／アンダーラン検出ステータス	0：エラーなし 1：エラー発生	R/W （注1）

注 1.　ステータスをクリアする場合は、クリアしたいビットにのみ 0 を書いてください。その他のビットには 1 を書いてください。

FRNM[10:0] ビット（フレーム番号）

SOF パケットの発行時または受信時に、1ms ごとに更新される最新のフレーム番号を示します。

CRCE ビット（受信データエラー）

アイソクロナス転送中に CRC エラーやビットスタッフィングエラーが発生した場合、1 になります。ホストコントローラモードで CRC エラー検出時、USBFS は内部 NRDY 割り込みを発生させます。

CRCE ビットをクリアする場合は、本ビットに 0 を書き、FRMNUM レジスタの他のビットは 1 にします。

OVRN フラグ（オーバーラン／アンダーラン検出ステータス）

アイソクロナス転送中にオーバーランエラーやアンダーランエラーが発生した場合、1 になります。本フラグをクリアする場合は、本フラグに 0 を書き、FRMNUM レジスタの他のビットは 1 にします。

ホストコントローラモード時、以下のいずれかの場合に OVRN フラグは 1 になります。

- 転送タイプがアイソクロナスの送信方向パイプにおいて、FIFO バッファへのすべての送信データの書き込みが完了する前に OUT トークン発行タイミングに達したとき
- 転送タイプがアイソクロナスの受信方向パイプにおいて、FIFO バッファのすべての面で空きがない状態で、IN トークン発行タイミングに達したとき

デバイスコントローラモード時、以下のいずれかの場合に OVRN フラグは 1 になります。

- 転送タイプがアイソクロナスの送信方向パイプにおいて、FIFO バッファへのすべての送信データの書き込みが完了する前に IN トークンを受信したとき
- 転送タイプがアイソクロナスの受信方向パイプにおいて、FIFO バッファのすべての面で空きがない状態で、OUT トークンを受信したとき

29.2.19　デバイスステート切り替えレジスタ（DVCHGR）

アドレス　USBFS.DVCHGR 4009 004Eh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DVCHG	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b14-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15	DVCHG	デバイスステート切り替え	0：USBADDR.STSRECOV[3:0]ビットおよびUSBADDR.USBADDR[6:0]ビットへの書き込み無効 1：USBADDR.STSRECOV[3:0]ビットおよびUSBADDR.USBADDR[6:0]ビットへの書き込み有効	R/W

詳細は、29.3.1.5　USBのサスペンド／レジューム割り込みによるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を参照してください。

29.2.20　USB アドレスレジスタ（USBADDR）

アドレス　USBFS.USBADDR 4009 0050h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	STSRECOV[3:0]				—	USBADDR[6:0]						
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	USBADDR[6:0]	USBアドレス	デバイスコントローラモード時、USBFSがSET_ADDRESSリクエストを正常に処理したときに、ホストから割り付けられたUSBアドレスを表示します。	R/W
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b11-b8	STSRECOV[3:0]	ステータスリカバリ	• デバイスコントローラモード時の復帰 b11 b8 1 0 0 1：フルスピード状態に復帰（DVSTCTR0.RHST[2:0]ビットが010b）、INTSTS0.DVSQ[2:0]ビットが001b（Defaultステート） 1 0 1 0：フルスピード状態に復帰（DVSTCTR0.RHST[2:0]ビットが010b）、INTSTS0.DVSQ[2:0]ビットが010b（Addressステート） 1 0 1 1：フルスピード状態に復帰（DVSTCTR0.RHST[2:0]ビットが010b）、INTSTS0.DVSQ[2:0]ビットが011b（Configuredステート） 上記以外は設定しないでください。 • ホストコントローラモード時の復帰 b11 b8 0 1 0 0：ロースピード状態に復帰（DVSTCTR0.RHST[2:0]ビットが001b） 1 0 0 0：フルスピード状態に復帰（DVSTCTR0.RHST[2:0]ビットが010b） 上記以外は設定しないでください。	R/W
b15-b12	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

USBADDR[6:0] ビット（USB アドレス）

デバイスコントローラモード時、USBFS が SetAddress 要求の処理を正常に終了すると、USBADDR[6:0] ビットは受信した USB アドレスを表示します。USBFS は USB バスリセットを検出すると、USBADDR[6:0] ビットを 00h にします。

DVCHGR.DVCHG ビットを 1 にしているときに USBADDR[6:0] ビットに書き込み可能となります。USB 電源遮断からの復帰時に、ソフトウェアによる遮断の前に設定されていた USB アドレスから再開することが可能です。

ホストコントローラモード時、USBADDR[6:0] ビットは無効です。

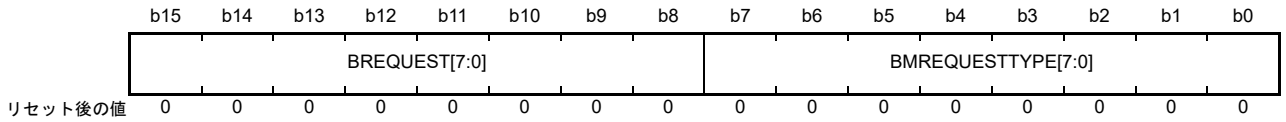
STSRECOV[3:0] ビット（ステータスリカバリ）

USB 電源遮断から復帰するときの内部シーケンサの状態を遮断前の状態に復帰させるときに使用します。詳細は、29.3.1.5　USB のサスペンド／レジューム割り込みによるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を参照してください。

DVCHGR.DVCHG ビットを 1 にしているときに STSRECOV[3:0] ビットに書き込み可能となります。

29.2.21 USB リクエストタイプレジスタ（USBREQ）

アドレス USBFS.USBREQ 4009 0054h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	BMREQUESTTYPE[7:0]	リクエストタイプ	USB リクエスト bmRequestType の値	R/W（注 1）
b15-b8	BREQUEST[7:0]	リクエスト	USB リクエスト bRequest の値	R/W（注 1）

注 1.　デバイスコントローラモードでは、読み出しのみ可能で書き込みは無効です。ホストコントローラモードでは、これらのビットは読み出し／書き込みの両方が可能です。

USBREQ レジスタは、コントロール転送のセットアップリクエストを格納します。

デバイスコントローラモード時、USBREQ レジスタは受信した bRequest および bmRequestType の値を格納します。ホストコントローラモード時には、送信する bRequest および bmRequestType の値を設定します。

USBREQ レジスタは、USB バスリセットで初期化されます。

BMREQUESTTYPE[7:0] ビット（リクエストタイプ）

USB リクエスト bmRequestType の値を保持します。

- ホストコントローラモード時：
  送信する SETUP トランザクションの USB リクエストデータ値を設定してください。DCPCTR.SUREQ ビットが 1 の状態でこれらのビットの値の書き換えは行わないでください。
- デバイスコントローラモード時：
  SETUP トランザクションで受信した USB リクエストデータ値を表示します。書き込みは無効です。

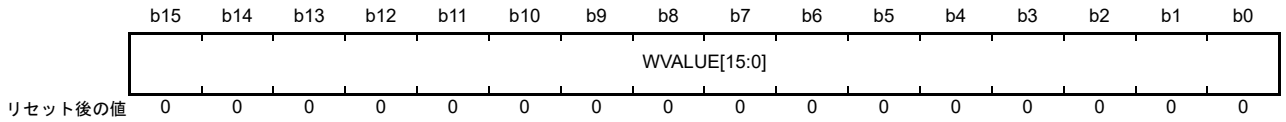
BREQUEST[7:0] ビット（リクエスト）

USB リクエスト bRequest の値を格納します。

- ホストコントローラモード時：
  送信する SETUP トランザクションの USB リクエストデータ値を設定してください。DCPCTR.SUREQ ビットが 1 の状態でこれらのビットの値の書き換えは行わないでください。
- デバイスコントローラモード時：
  SETUP トランザクションで受信した USB リクエストデータ値を表示します。書き込みは無効です。

29.2.22 USB リクエストバリューレジスタ（USBVAL）

アドレス USBFS.USBVAL 4009 0056h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	WVALUE[15:0]	バリュー	USB リクエスト wValue の値を格納	R/W（注 1）

注 1.　デバイスコントローラモードでは、読み出しのみ可能で書き込みは無効です。ホストコントローラモードでは、これらのビットは読み出し／書き込みの両方が可能です。

デバイスコントローラモードでは、USBVAL レジスタは受信した wValue の値を格納します。ホストコントローラモードでは、送信する wValue の値を設定します。

USBVAL レジスタは、USB バスリセットで初期化されます。

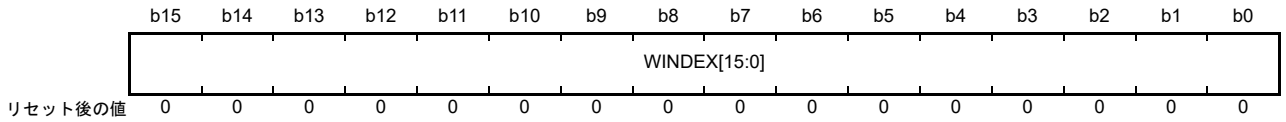
WVALUE[15:0] ビット（バリュー）

USB リクエスト wValue の値を格納します。

- ホストコントローラモード時：
  送信する SETUP トランザクションの USB リクエスト wValue の値を設定してください。
  DCPCTR.SUREQ ビットが 1 の状態でこれらのビットの値の書き換えは行わないでください。
- デバイスコントローラモード時：
  SETUP トランザクションで受信した USB リクエスト wValue の値を示します。書き込みは無効です。

29.2.23 USB リクエストインデックスレジスタ（USBINDX）

アドレス USBFS.USBINDX 4009 0058h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	WINDEX[15:0]	インデックス	USB リクエスト wIndex の値を格納	R/W（注 1）

注 1. デバイスコントローラモードでは、読み出しのみ可能で書き込みは無効です。ホストコントローラモードでは、これらのビットは読み出し／書き込みの両方が可能です。

USBINDX レジスタは、コントロール転送のセットアップリクエストを格納するためのレジスタです。

デバイスコントローラモードでは、USBINDX レジスタは受信した wIndex の値を格納します。ホストコントローラモードでは、送信する wIndex の値を設定します。

USBINDX レジスタは、USB バスリセットで初期化されます。

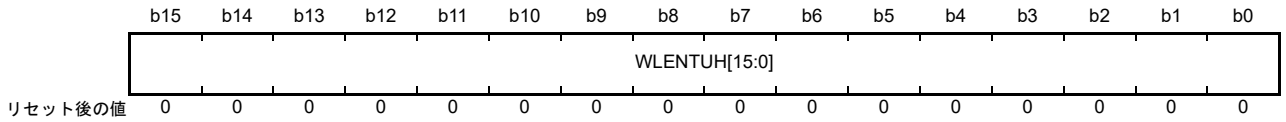
WINDEX[15:0] ビット（インデックス）

USB リクエスト wIndex の値を格納します。

- ホストコントローラモード時：
  送信する SETUP トランザクションの USB リクエスト wIndex の値を設定してください。
  DCPCTR.SUREQ ビットが 1 の状態でこれらのビットの値の書き換えは行わないでください。
- デバイスコントローラモード時：
  受信する SETUP トランザクションの USB リクエスト wIndex の値を示します。書き込みは無効です。

29.2.24 USB リクエストレングスレジスタ（USBLENG）

アドレス USBFS.USBLENG 4009 005Ah



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	WLENTUH[15:0]	レングス	USB リクエスト wLength の値を格納	R/W（注 1）

注 1.　デバイスコントローラモードでは、読み出しのみ可能で書き込みは無効です。ホストコントローラモードでは、これらのビットは読み出し／書き込みの両方が可能です。

USBLENG レジスタはコントロール転送のセットアップリクエストを格納するためのレジスタです。

デバイスコントローラモード時、受信した wLength の値を格納します。ホストコントローラモードでは、送信する wLength の値を設定します。

USBLENG レジスタは、USB バスリセットで初期化されます。

WLENTUH[15:0] ビット（レングス）

USB リクエスト wLength の値を格納します。

- ホストコントローラモード時：
  送信する SETUP トランザクションの USB リクエスト wLength の値を設定してください。
  DCPCTR.SUREQ ビットが 1 の状態でこれらのビットの値の書き換えは行わないでください。
- デバイスコントローラモード時：
  受信する SETUP トランザクションの USB リクエスト wLength の値を示します。書き込みは無効です。

29.2.25 DCP コンフィグレーションレジスタ（DCPCFG）

アドレス USBFS.DCPCFG 4009 005Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	SHTNAK	—	—	DIR	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	DIR	転送方向（注1）	0：データ受信方向 1：データ送信方向	R/W
b6-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	SHTNAK	転送終了時のパイプ禁止（注1）	0：転送終了後パイプがオープンの状態を維持 1：転送終了後にパイプを禁止	R/W
b15-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　設定は、PID = NAK の状態のときにのみ実施してください。設定する場合には、DCPCTR.PBUSY ビットが 0 であることを確認し、DCP の DCPCTR.PID[1:0] ビットを BUF から NAK へ変更してから実施してください。USBFS が PID[1:0] ビットを NAK に変更した場合には、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は必要ありません。

DIR ビット（転送方向）

ホストコントローラモード時、コントロール転送のデータステージ、ステータスステージの転送方向を設定します。デバイスコントローラモードでは、DIR ビットは 0 にしてください。

SHTNAK ビット（転送終了時のパイプ禁止）

選択パイプが受信方向の場合に、転送終了時に PID を NAK に変更するかどうかを指定します。SHTNAK ビットは、選択パイプが受信方向の場合のみ有効なビットです。

SHTNAK ビットが 1 の場合、USBFS は、転送の終了を判定したときに DCP の DCPCTR.PID[1:0] ビットを NAK に変更します。USBFS は、以下の場合に転送終了と判定します。

- ショートパケット（Zero-Length パケットを含む）を正常に受信したとき

29.2.26 DCP マックスパケットサイズレジスタ（DCPMAXP）

アドレス USBFS.DCPMAXP 4009 005Eh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DEVSEL[3:0]				—	—	—	—	—	MXPS[6:0]						
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	MXPS[6:0]	最大パケットサイズ（注1）	DCPの最大データペイロード（最大パケットサイズ）を指定します。	R/W
b11-b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15-b12	DEVSEL[3:0]	デバイス選択（注2）	b15 b12 0 0 0 0：アドレス0000b 0 0 0 1：アドレス0001b 0 0 1 0：アドレス0010b 0 0 1 1：アドレス0011b 0 1 0 0：アドレス0100b 0 1 0 1：アドレス0101b 上記以外は設定しないでください。	R/W

注 1. MXPS[6:0] ビットの設定は、PID = NAK の状態のときにのみ実施してください。これらのビットを設定する場合には、DCPCTR.PBUSY ビットが 0 であることを確認し、DCP の DCPCTR.PID[1:0] ビットを BUF から NAK へ変更してから実施してください。USBFS が PID[1:0] ビットを NAK に変更した場合には、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は必要ありません。MXPS[6:0] ビットの設定後は、ポート選択レジスタの CURPIPE[3:0] ビットに DCP を設定してから、ポートコントロールレジスタの BCLR ビットを 1 にしてバッファをクリアしてください。

注 2. DEVSEL[3:0] ビットの設定は、PID = NAK の状態および DCPCTR.SUREQ ビットが 0 の期間にのみ実施してください。これらのビットを設定する場合には、DCPCTR.PBUSY ビットが 0 であることを確認し、DCP の DCPCTR.PID[1:0] ビットを BUF から NAK へ変更してから実施してください。USBFS が PID[1:0] ビットを NAK に変更した場合には、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は必要ありません。

MXPS[6:0] ビット（最大パケットサイズ）

DCP の最大データペイロード（最大パケットサイズ）を指定します。初期値は 40h（64 バイト）です。MXPS[6:0] ビットは、USB2.0 規格に準じた値を設定してください。MXPS[6:0] ビットが 0 の状態で FIFO バッファへの書き込み、あるいは PID = BUF の設定を行わないでください。

DEVSEL[3:0] ビット（デバイス選択）

ホストコントローラモード時、コントロール転送の対象の周辺デバイスのアドレスを指定します。関連する DEVADDn（n = 0 ～ 5）レジスタにデバイスアドレスを設定した後で、DEVSEL[3:0] ビットを対応する値に設定してください。たとえば、DEVSEL[3:0] ビットを 0010b にするには、まず DEVADD2 レジスタのアドレスを設定します。

デバイスコントローラモードでは、DEVSEL[3:0] ビットを 0000b にしてください。

29.2.27 DCP コントロールレジスタ（DCPCTR）

アドレス USBFS.DCPCTR 4009 0060h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	BSTS	SUREQ	—	—	SUREQCLR	—	—	SQCLR	SQSET	SQMON	PBUSY	—	—	CCPL	PID[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	PID[1:0]	応答PID	b1 b0 0 0：NAK応答 0 1：BUF応答（バッファ状態に従う） 1 0：STALL応答 1 1：STALL応答	R/W
b2	CCPL	コントロール転送終了許可	0：コントロール転送終了を許可しない 1：コントロール転送終了を許可する	R/W
b4-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5	PBUSY	パイプビジー	0：DCPはトランザクションで未使用 1：DCPはトランザクションで使用中	R
b6	SQMON	シーケンストグルビットモニタ	0：DATA0 1：DATA1	R
b7	SQSET	シーケンストグルビットセット （注2）	DCP転送においてシーケンストグルビットを設定します。 0：無効（0の書き込みは無効です） 1：次回トランザクションの期待値をDATA1にする 読むと0が読めます。	R/W （注1）
b8	SQCLR	シーケンストグルビットクリア （注2）	DCP転送におけるシーケンストグルビットをクリアします。 0：無効（0の書き込みは無効です） 1：次回トランザクションの期待値をDATA0にクリアする 読むと0が読めます。	R/W （注1）
b10-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b11	SUREQCLR	SUREQビットクリア	ホストコントローラモード時にSUREQビットをクリアします。 0：無効（0の書き込みは無効です） 1：SUREQを0にクリアする 読むと0が読めます。	R/W
b13-b12	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b14	SUREQ	SETUP トークン送出	ホストコントローラモード時のトークン送出を設定します。 0：無効（0の書き込みは無効です） 1：Setupパケット送出	R/W
b15	BSTS	バッファステータス	0：バッファアクセス不可能 1：バッファアクセス可能	R

注 1.　読むと 0 が読めます。

注 2.　PID = NAK の状態のときに限り SQSET ビットおよび SQCLR ビットを 1 に設定してください。これらのビットを設定する場合には、PBUSY ビットが 0 であることを確認し、DCP の PID[1:0] ビットを BUF から NAK へ変更してから実施してください。USBFS が PID[1:0] ビットを NAK に変更した場合には、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は必要ありません。

PID[1:0] ビット（応答 PID）

PID[1:0] ビットは、コントロール転送における USB 応答の種類を制御します。

ホストコントローラモードでは、以下のように PID[1:0] ビットの設定を NAK から BUF に変更します。

- 送信方向設定時：
  a. DVSTCTR0.UACT ビットが 1 かつ PID = NAK の状態で FIFO バッファにすべての送信データを書き込みます。
  b. PID[1:0] ビットを 01b（BUF）にします。
  これにより、USBFS が OUT トランザクションを実行します。
- 受信方向設定時：
  a. DVSTCTR0.UACT ビットが 1 かつ PID = NAK の状態で FIFO バッファが空の状態であることを確認します（または空の状態にします）。
  b. PID[1:0] ビットを 01b（BUF）にします。
  これにより、USBFS が IN トランザクションを実行します。

USBFS は PID[1:0] ビットの設定値変更を以下のように行います。

- ソフトウェアが PID[1:0] ビットを BUF（01b）にし、USBFS が MaxPacketSize を超えるデータを受信すると、USBFS は PID[1:0] ビットを STALL（11b）にします。
- CRC エラーなどの受信エラーを 3 回連続で検出した場合、USBFS は PID[1:0] ビットを NAK（00b）にします。
- STALL ハンドシェイクを受信すると、USBFS は PID[1:0] ビットを STALL（11b）にします。

デバイスコントローラモードでは、USBFS は PID[1:0] ビットの設定値変更を以下のように行います。

- Setup パケットを受信すると、USBFS は PID[1:0] ビットを NAK（00b）にします。このとき、USBFS は INTSTS0.VALID フラグを 1 にし、ソフトウェアで VALID フラグが 0 にクリアされるまで、PID[1:0] ビットの設定値変更は不可となります。
- ソフトウェアが PID[1:0] ビットを BUF（01b）にし、USBFS が MaxPacketSize を超えるデータを受信すると、USBFS は PID[1:0] ビットを STALL（11b）にします。
- コントロール転送シーケンスエラーを検出すると、USBFS は PID[1:0] ビットを STALL（1xb）にします。
- USB バスリセットを検出したとき、USBFS は PID[1:0] ビットを NAK にします。

SET_ADDRESS リクエスト処理時には、USBFS は PID[1:0] ビットの設定値を参照しません。

PID[1:0] ビットは USB バスリセットで初期化されます。

CCPL ビット（コントロール転送終了許可）

デバイスコントローラモード時、CCPL ビットを 1 にすることによりコントロール転送のステータスステージの終了を許可します。関連する PID[1:0] ビットが BUF のとき、ソフトウェアで CCPL ビットを 1 にすると、USBFS はコントロール転送のステータスステージを完了させます。

コントロールリード転送では、USBFS は USB ホストからの OUT トランザクションに対して、ACK ハンドシェイクを送信します。コントロールライト転送またはノーデータコントロール転送では、USBFS は USB ホストからの IN トランザクションに対して、Zero-Length パケットを送信します。SET_ADDRESS リクエスト検出時は、CCPL ビットの設定値に関係なく USBFS はセットアップステージからステータスステージ完了まで自動応答モードで動作します。

新たな Setup パケットを受信したときに、USBFS は CCPL ビットを 1 から 0 に変更します。INTSTS0.VALID ビットが 1 のとき、ソフトウェアは CCPL ビットを 1 にできません。CCPL ビットは USB バスリセットで初期化されます。

ホストコントローラモードでは、必ず CCPL ビットを 0 にしてください。

PBUSY ビット（パイプビジー）

USBFS が PID[1:0] ビットを BUF から NAK に変更した場合に、DCP がトランザクションに使用されるかどうかを示します。USBFS は、選択パイプに対する USB トランザクションの開始時に、PBUSY ビットを 0 から 1 へ変更します。1 つのトランザクションの完了時に、USBFS は PBUSY ビットを 1 から 0 に変更します。

ソフトウェアが PID を NAK にすると、PBUSY ビットの値はパイプ設定の変更が可能かどうかを示します。

詳細は、29.3.4.1　パイプコントロールレジスタの切り替え手順を参照してください。

SQMON ビット（シーケンストグルビットモニタ）

DCP 転送において、次のトランザクションのシーケンストグルビットの期待値を示します。

トランザクションが正常終了すると、USBFS は SQMON ビットをトグルします。ただし、受信方向転送時に DATA-PID 不一致が発生すると、USBFS は SQMON ビットをトグルしません。

デバイスコントローラモードでは、Setup パケット正常受信時に、USBFS は SQMON ビットを 1（期待値を DATA1 に設定）にします。

デバイスコントローラモード時、USBFS はステータスステージの IN または OUT トランザクションでは SQMON ビットを参照しません。また、正常終了しても SQMON ビットをトグルしません。

SQSET ビット（シーケンストグルビットセット）

DCP 転送において、次のトランザクションのシーケンストグルビットの期待値を DATA1 に設定します。

SQCLR ビットと SQSET ビットを同時に 1 にしないでください。

SQCLR ビット（シーケンストグルビットクリア）

DCP 転送において、次のトランザクションのシーケンストグルビットの期待値を DATA0 に設定します。読むと 0 が読めます。

SQCLR ビットと SQSET ビットを同時に 1 にしないでください。

SUREQCLR ビット（SUREQ ビットクリア）

ホストコントローラモードでは、SUREQCLR ビットを 1 にすると SUREQ ビットが 0 になります。読むと 0 が読めます。

SETUP トランザクションにおいて SUREQ ビットが 1 のときに転送が停止した場合、ソフトウェアで SUREQCLR ビットを 1 にしてください。正常な SETUP トランザクションでは、その終了時に USBFS が自動的に SUREQ ビットを 0 するため、ソフトウェアによるクリア処理は必要ありません。

SUREQCLR ビットによる SUREQ ビットの制御は、DVSTCTR0.UACT ビットが 0 のときにのみ行ってください。UACT が 0 のときは、通信が停止しているか、バス切断検出により転送が行われていない状態となっています。

デバイスコントローラモードでは、必ず本ビットを 0 にしてください。

SUREQ ビット（SETUP トークン送出）

ホストコントローラモード時、SUREQ ビットを 1 にすると、USBFS による Setup パケット送信がトリガされます。SETUP トランザクション処理終了後、USBFS は SACK 割り込み、もしくは SIGN 割り込みのどちらかを発生させ、SUREQ ビットを 0 にします。また、ソフトウェアで SUREQCLR ビットを 1 にした場合も、USBFS は SUREQ ビットを 0 にクリアします。

SUREQ ビットを 1 にする前に、DCPMAXP.DEVSEL[3:0] ビット、USBREQ レジスタ、USBVAL レジスタ、USBINDX レジスタ、および USBLENG レジスタを正しく設定し、SETUP トランザクションで対象の USB リクエストを送信してください。また、DCP の PID[1:0] ビットを NAK にしていることを確認してください。SUREQ ビットを 1 にした後、SETUP トランザクションが終了するまで（SUREQ ビットが 1）の期間は DCPMAXP.DEVSEL[3:0] ビット、USBREQ レジスタ、USBVAL レジスタ、USBINDX レジスタ、および USBLENG レジスタの値を変更しないでください。SETUP トークンを出すときのみ SUREQ ビットを 1 にしてください。それ以外の場合は 0 にしてください。

デバイスコントローラモードでは、必ず本ビットを 0 にしてください。

BSTS ビット（バッファステータス）

DCP FIFO バッファへのアクセスステータスを示します。本ビットが示す内容は、CFIFOSEL.ISEL ビットの設定に応じて以下のように異なります。

- ISEL ビットが 0 のとき、本ビットはバッファから受信データの読み出しが可能かどうかを示します。
- ISEL ビットが 1 のとき、本ビットはバッファへの送信データの書き込みが可能かどうかを示します。

29.2.28　パイプウィンドウ選択レジスタ（PIPESEL）

アドレス　USBFS.PIPESEL 4009 0064h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PIPESEL[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	PIPESEL[3:0]	パイプウィンドウ選択	b3 b0 0 0 0 0：パイプ選択なし 0 0 0 1：パイプ1 0 0 1 0：パイプ2 0 0 1 1：パイプ3 0 1 0 0：パイプ4 0 1 0 1：パイプ5 0 1 1 0：パイプ6 0 1 1 1：パイプ7 1 0 0 0：パイプ8 1 0 0 1：パイプ9 上記以外は設定しないでください。	R/W
b15-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

PIPESEL レジスタ、PIPECFG レジスタ、PIPEMAXP レジスタ、PIPEPERI レジスタ、PIPEnCTR レジスタ、PIPEnTRE レジスタ、および PIPEnTRN レジスタ（n = 0 ～ 9）を使用して、パイプ 1 ～ 9 を設定します。

PIPESEL レジスタでパイプを選択した後、関連する PIPECFG、PIPEMAXP、および PIPEPERI レジスタでパイプ機能設定を行います。PIPEnCTR、PIPEnTRE、および PIPEnTRN レジスタは、PIPESEL レジスタによるパイプ選択とは無関係に設定可能です。

PIPESEL[3:0] ビット（パイプウィンドウ選択）

書き込み／読み出しに使用する PIPECFG、PIPEMAXP、PIPEPERI レジスタに関連付けるパイプ番号を指定します。PIPESEL[3:0] ビットで指定したパイプ番号に関連付けられた PIPECFG、PIPEMAXP、PIPEPERI レジスタの読み出し／書き込みができます。

PIPESEL[3:0] ビットを 0000b にしたときは、PIPECFG、PIPEMAXP、および PIPEPERI レジスタの各ビットは、すべて 0 が読めます。書き込みは無効になります。

29.2.29　パイプコンフィグレーションレジスタ（PIPECFG）

アドレス　USBFS.PIPECFG 4009 0068h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TYPE[1:0]		—	—	—	BFRE	DBLB	—	SHTNAK	—	—	DIR	EPNUM[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	EPNUM[3:0]	エンドポイント番号（注1）	選択パイプのエンドポイント番号を指定します。 0000bの設定は、未使用パイプを意味します。	R/W
b4	DIR	転送方向（注2）（注3）	0：受信方向 1：送信方向	R/W
b6-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	SHTNAK	転送終了時のパイプ禁止（注1）	0：転送終了後にパイプ動作を継続 1：転送終了後にパイプ動作を禁止	R/W
b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b9	DBLB	ダブルバッファモード（注2）（注3）	0：シングルバッファ 1：ダブルバッファ	R/W
b10	BFRE	BRDY割り込み動作指定（注2）（注3）	0：データ送受信でBRDY割り込み生成 1：データ読み出し完了時にBRDY割り込み生成	R/W
b13-b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15-b14	TYPE[1:0]	転送タイプ（注1）	• パイプ1～2 b15 b14 0 0：パイプ不使用 0 1：バルク転送 1 0：設定禁止 1 1：アイソクロナス転送 • パイプ3～5 b15 b14 0 0：パイプ不使用 0 1：バルク転送 1 0：設定禁止 1 1：設定禁止 • パイプ6～9 b15 b14 0 0：パイプ不使用 0 1：設定禁止 1 0：インタラプト転送 1 1：設定禁止	R/W

注 1.　TYPE[1:0] ビット、SHTNAK ビット、および EPNUM[3:0] ビットの設定は、PID = NAK の状態のときにのみ実施してください。本ビットを設定するときは、PIPEnCTR.PID[1:0] ビットを BUF から NAK へ変更し、PIPEnCTR.PBUSY ビットが 0 であることを確認してから設定してください。ただし、USBFS が PID[1:0] ビットを NAK に変更した場合は、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は不要です。

注 2.　BFRE ビット、DBLB ビット、および DIR ビットの設定は、PID = NAK かつポート選択レジスタの CURPIPE[3:0] ビットにパイプ未設定の状態のときにのみ実施してください。これらのビットを設定するときは、PIPEnCTR.PID[1:0] ビットを 01b（BUF）から 00b（NAK）へ変更し、PIPEnCTR.PBUSY ビットが 0 であることを確認してから設定してください。ただし、USBFS が PID[1:0] ビットを 00（NAK）に変更した場合は、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は不要です。

注 3.　選択パイプを使用した USB 通信が終了した後、BFRE、DBLB、および DIR ビットを変更する場合は、注 2. の制限事項に加えて、ソフトウェアで PIPEnCTR.ACLRM ビットに 1 と 0 を連続して書き込み、選択パイプに割り当てられた FIFO バッファをクリアしてください。

PIPECFG レジスタは、パイプ 1 ～ 9 に対して、各パイプの転送タイプ、FIFO バッファのアクセス方向、およびエンドポイント番号を指定します。またシングルバッファかダブルバッファか、および転送終了時のパイプ動作を禁止するか否かの選択をするレジスタです。

EPNUM[3:0] ビット（エンドポイント番号）

選択パイプのエンドポイント番号を指定します。0000b の設定は、未使用パイプを意味します。

DIR ビットと EPNUM[3:0] ビットの設定の組み合わせが、他のパイプの設定と重複しないように EPNUM[3:0] ビットを設定してください。（すべてのパイプに対して EPNUM[3:0] ビットの設定を 0000b とすることは可能です。）

DIR ビット（転送方向）

選択パイプの転送方向を指定します。

ソフトウェアで DIR ビットを 0 にすると、USBFS は選択パイプを受信方向に使用します。ソフトウェアで DIR ビットを 1 にすると、USBFS は選択パイプを送信方向に使用します。

SHTNAK ビット（転送終了時のパイプ禁止）

選択パイプの転送方向が受信の場合、転送終了時に PIPEnCTR.PID[1:0] ビットを 00b（NAK）に変更するかどうかを指定します。SHTNAK ビットは、受信方向のパイプ 1 ～ 5 の場合に有効なビットです。

受信方向パイプに対してソフトウェアで SHTNAK ビットを 1 にすると、USBFS は転送終了を判定したときに、関連する PIPEnCTR.PID[1:0] ビットを 00b（NAK）に変更します。USBFS は、以下の条件が満たされると転送終了を判定します。

- ショートパケットデータ（Zero-Length パケットを含む）を正常受信したとき
- トランザクションカウンタを使用し、トランザクションカウンタ分のパケットを正常受信したとき

DBLB ビット（ダブルバッファモード）

選択パイプが使用する FIFO バッファがシングルバッファかダブルバッファかを指定します。本ビットはパイプ 1 ～ 5 の場合に有効です。

BFRE ビット（BRDY 割り込み動作指定）

USBFS から CPU への選択パイプに関する BRDY 割り込みの発行タイミングを指定します。

ソフトウェアで BFRE ビットを 1 にし、かつ選択パイプを受信方向で使用している場合、USBFS は転送終了を検出し、パケットの読み出し時に BRDY 割り込みを発行します。

この設定で BRDY 割り込みが発生した場合、ソフトウェアによりポートコントロールレジスタの BCLR ビットに 1 を書く必要があります。BCLR ビットに 1 を書くまでは選択パイプに割り付けられた FIFO バッファは受信可能状態になりません。

ソフトウェアで BFRE ビットを 1 にし、かつ選択パイプを送信方向で使用している場合、USBFS は BRDY 割り込みを発生させません。詳細は、29.3.3.1　BRDY 割り込みを参照してください。

TYPE[1:0] ビット（転送タイプ）

PIPESEL.PIPESEL[3:0] ビットに指定したパイプの転送タイプを指定します。PID を BUF にして選択パイプで USB 通信を開始する前に、TYPE[1:0] ビットを 00b 以外の値にしてください。

29.2.30　パイプマックスパケットサイズレジスタ（PIPEMAXP）

アドレス　USBFS.PIPEMAXP 4009 006Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DEVSEL[3:0]				—	—	—	MXPS[8:0]								
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0/1（注1）	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b8-b0	MXPS[8:0]	最大パケットサイズ（注2）	• パイプ1および2 1バイト（001h）～256バイト（100h） • パイプ3～5 8バイト（008h）、16バイト（010h）、 32バイト（020h）、64バイト（040h） MXPS[8:7]ビット、およびMXPS[2:0]ビットはサポートされていません。 • パイプ6～9 1バイト（001h）～64バイト（040h） MXPS[8:7]ビットはサポートされていません。	R/W
b11-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15-b12	DEVSEL[3:0]	デバイス選択（注3）	b3 b0 0 0 0 0：アドレス0000b 0 0 0 1：アドレス0001b 0 0 1 0：アドレス0010b 0 0 1 1：アドレス0011b 0 1 0 0：アドレス0100b 0 1 0 1：アドレス0101b 上記以外は設定しないでください。	R/W

注 1.　MXPS[8:0] ビットの値は、PIPESEL.PIPESEL[3:0] ビットでパイプを選択していないときは 000h、選択しているときは 040h です。

注 2.　MXPS[8:0] ビットの設定は、PID = NAK かつポート選択レジスタの CURPIPE[3:0] ビットにパイプ未設定の状態のときにのみ実施してください。これらのビットを設定するときは、PIPEnCTR.PID[1:0] ビットを 01b（BUF）から 00b（NAK）へ変更し PIPEnCTR.PBUSY ビットが 0 であることを確認してから設定してください。ただし、USBFS が PID[1:0] ビットを 00（NAK）に変更した場合は、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は不要です。

注 3.　DEVSEL[3:0] ビットの設定は、PID = NAK の状態のときにのみ実施してください。これらのビットを設定するときは、PIPEnCTR.PID[1:0] ビットを 01b（BUF）から 00b（NAK）へ変更し、PIPEnCTR.PBUSY ビットが 0 であることを確認してから設定してください。ただし、USBFS が PID[1:0] ビットを 00（NAK）に変更した場合は、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は不要です。

PIPEMAXP レジスタは、パイプ 1 ～ 9 に対して、最大パケットサイズを指定するレジスタです。

MXPS[8:0] ビット（最大パケットサイズ）

選択パイプの最大データペイロード（最大パケットサイズ）を指定します。

MXPS[8:0] ビットの設定は、転送タイプごとに USB2.0 規格に準拠した値を設定してください。MXPS[8:0] ビットが 0 のとき、FIFO バッファへの書き込み、または PID = BUF の設定は行わないでください。これらの書き込みは無効です。

DEVSEL[3:0] ビット（デバイス選択）

ホストコントローラモード時、USB 通信対象デバイスのアドレスを指定します。関連する DEVADDn（n = 0 ～ 5）レジスタにデバイスアドレスを設定した後で、DEVSEL[3:0] ビットを対応する値に設定してください。たとえば、DEVSEL[3:0] ビットを 0010b にするには、まず DEVADD2 レジスタのアドレスを設定します。

デバイスコントローラモードでは、DEVSEL[3:0] ビットを 0000b にしてください。

29.2.31 パイプ周期コントロールレジスタ（PIPEPERI）

アドレス USBFS.PIPEPERI 4009 006Eh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	IFIS	—	—	—	—	—	—	—	—	—	IITV[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	IITV[2:0]（注1）	インターバルエラー検出間隔	選択パイプのインターバルエラー検出タイミングを、フレームタイミングの2のn乗で指定してください。	R/W
b11-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b12	IFIS	アイソクロナスINバッファフラッシュ	0：バッファフラッシュしない 1：バッファフラッシュする	R/W
b15-b13	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. IITV[2:0] ビットの設定は、PID = NAK の状態のときにのみ実施してください。これらのビットを設定する場合には、PBUSY ビットが 0 であることを確認し、PID[1:0] ビットを 01b（BUF）から 00b（NAK）へ変更してから実施してください。USBFS が PID[1:0] ビットを 00（NAK）に変更した場合には、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は必要ありません。

PIPEPERI レジスタはパイプ 1 ～ 9 に対して、アイソクロナス IN 転送時にインターバルエラーが発生した場合にバッファフラッシュ機能を動作させるか否かの選択、およびインターバルエラーの検出間隔の設定をするレジスタです。

IITV[2:0] ビット（インターバルエラー検出間隔）

IITV[2:0] ビットを設定し、USB 通信を行った後で IITV[2:0] ビットを別の値に変更する場合は、PIPEnCTR.PID[1:0] ビットを 00b（NAK）にしてから PIPEnCTR.ACLRM ビットを 1 にして、インターバルタイマの初期化を行ってください。

パイプ 3 ～ 5 に対しては、IITV[2:0] ビットは存在しません。パイプ 3 ～ 5 に関連する IITV[2:0] ビットの位置には、000b を書いてください。

IFIS ビット（アイソクロナス IN バッファフラッシュ）

PIPESEL でパイプを選択したときにバッファフラッシュを行うかどうかを指定します。PIPESEL[3:0] ビットはアイソクロナス IN 転送に使用されます。

デバイスコントローラモードでは、選択パイプの転送タイプがアイソクロナス、かつ転送方向が IN 転送の場合において、IITV[2:0] ビットに設定したインターバルごとのフレーム中に USB ホストから IN トークンを USBFS が受信しなかった場合に、USBFS が自動的に FIFO バッファをクリアします。

ダブルバッファ設定時（PIPECFG.DBLB ビットが 1 のとき）は、USBFS は前回使用した 1 面分のデータのみクリアします。

USBFS が FIFO バッファをクリアするタイミングは、USBFS が IN トークンを受信するはずのフレーム直後の SOF パケット受信時です。SOF パケットが破損した場合でも、内部補完機能により SOF パケットの受信が見込まれるタイミングで FIFO バッファをクリアします。

ホストコントローラ機能を選択した場合は、本ビットを 0 にしてください。選択パイプをアイソクロナス転送に使用しない場合は、本ビットを 0 にしてください。

29.2.32　パイプnコントロールレジスタ（PIPEnCTR）（n = 1 ～ 9）

PIPEnCTR（n = 1 ～ 5）

アドレス　USBFS.PIPE1CTR 4009 0070h, USBFS.PIPE2CTR 4009 0072h, USBFS.PIPE3CTR 4009 0074h, USBFS.PIPE4CTR 4009 0076h, USBFS.PIPE5CTR 4009 0078h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	BSTS	INBUFM	—	—	—	ATREPM	ACLRM	SQCLR	SQSET	SQMON	PBUSY	—	—	—	PID[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	PID[1:0]	応答PID	b1 b0 0 0：NAK応答 0 1：BUF応答（バッファ状態に従う） 1 0：STALL応答 1 1：STALL応答	R/W
b4-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5	PBUSY	パイプビジー	0：選択パイプはトランザクションで未使用 1：選択パイプはトランザクションで使用中	R
b6	SQMON	シーケンストグルビット確認	0：DATA0 1：DATA1	R
b7	SQSET	シーケンストグルビットセット（注2）	パイプnにシーケンストグルビットを設定します。 0：無効（0の書き込みは無効です） 1：次回トランザクションの期待値をDATA1にする 読むと0が読めます。	R/W（注1）
b8	SQCLR	シーケンストグルビットクリア（注2）	パイプnのシーケンストグルビットをクリアします。 0：無効（0の書き込みは無効です） 1：次回トランザクションの期待値をDATA0にクリアする 読むと0が読めます。	R/W（注1）
b9	ACLRM	自動バッファクリアモード（注3）	0：禁止 1：許可（全バッファ初期化）	R/W
b10	ATREPM	自動応答モード（注2）	0：自動応答モード禁止 1：自動応答モード許可	R/W
b13-b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b14	INBUFM	送信バッファモニタ	0：FIFOバッファに送信可能データなし 1：FIFOバッファに送信可能データあり	R
b15	BSTS	バッファステータス	0：CPUからのバッファアクセス不可能 1：CPUからのバッファアクセス可能	R

注 1.　読むと 0 が読み出されます。

注 2.　ATREPM ビットの設定および SQCLR ビットまたは SQSET ビットへの 1 書き込みは、PID = NAK の状態のときにのみ実施してください。これらのビットを設定する場合には、PBUSY ビットが 0 であることを確認し、PID[1:0] ビットを 01b（BUF）から 00b（NAK）へ変更してから実施してください。USBFS が PID[1:0] ビットを 00（NAK）に変更した場合には、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は必要ありません。

注 3.　ACLRM ビットの設定は、PID = NAK かつポート選択レジスタの CURPIPE[3:0] ビットにパイプ未設定の状態のときにのみ実施してください。ACLRM ビットを設定する場合には、PBUSY ビットが 0 であることを確認し、PID[1:0] ビットを 01b（BUF）から 00b（NAK）へ変更してから実施してください。USBFS が PID[1:0] ビットを 00（NAK）に変更した場合には、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は必要ありません。

PIPEnCTR レジスタは、PIPESEL レジスタにより選択されたどのパイプに対しても設定可能です。

PID[1:0] ビット（応答 PID）

選択パイプの次回トランザクションにおける応答の種類を指定します。

PID[1:0] ビットの初期値は NAK です。当該パイプで USBFS 転送を行う場合には PID[1:0] ビット設定値を BUF に変更してください。PID[1:0] ビット設定値ごとの USBFS の基本動作（通信パケットにエラーがない場合の動作）は表 29.7 および表 29.8 のとおりです。

選択パイプが USBFS 通信中であるときに、ソフトウェアで PID[1:0] ビットの設定を BUF から NAK に変更する場合、NAK を書いた後、実際にそのパイプの USBFS 転送が NAK 状態に遷移したことを確認するために PBUSY ビットが 1 であることを確認してください。USBFS が PID[1:0] ビットを NAK に変更した場合には、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は必要ありません。

以下の場合には、USBFS が PIPEnCTR.PID[1:0] ビット設定値を変更します。

- 選択パイプが受信方向の場合で、かつ、ソフトウェアで選択パイプの PIPECFG.SHTNAK ビットを 1 にしている場合、USBFS は転送終了を認識したときに PID = NAK を表示
- 選択パイプに対し、最大パケットサイズを超えるペイロードのデータパケットを受信した場合、USBFS は PID = STALL（11b）を表示
- デバイスコントローラモード時に USB バスリセットを検出した場合、USBFS は PID = NAK を表示
- ホストコントローラモード時に CRC エラーなどの受信エラーを 3 回連続で検出した場合、USBFS は PID = NAK を表示
- ホストコントローラモード時に STALL ハンドシェイクを受信した場合、USBFS は PID = STALL（11b）を表示

応答の種類を指定するための PID[1:0] ビットの設定は以下の手順で行ってください。

- NAK（00b）状態から STALL 状態にする場合には、10b を書く
- BUF（01b）状態から STALL 状態にする場合には、11b を書く
- STALL（11b）状態から NAK 状態にする場合には、一度 10b を書いてから 00b を書く
- STALL 状態から BUF 状態にする場合には、一度 NAK 状態にしてから BUF 状態にする

表 29.7　PID[1:0] の設定値ごとの USBFS の動作（ホストコントローラモード時）

PID[1:0] 値	転送タイプ	転送方向（DIR ビット）	USBFS 動作
00b（NAK）	設定値に依存しません。	設定値に依存しません。	トークンを発行しません。
01b（BUF）	バルクまたはインタラプト	設定値に依存しません。	DVSTCTR0.UACT ビットが 1 で、選択パイプに関連付けられている FIFO バッファが送受信可能な状態にある場合、トークンを発行します。 DVSTCTR0.UACT ビットが 0 であるか、選択パイプに関連付けられている FIFO バッファが送受信可能な状態にない場合、トークンを発行しません。
	アイソクロナス	設定値に依存しません。	選択パイプに関連付けられている FIFO バッファの状態にかかわらずトークンを発行します。
10b（STALL）または 11b（STALL）	設定値に依存しません。	設定値に依存しません。	トークンを発行しません。

表 29.8　PID[1:0]の設定値ごとのUSBFSの動作（デバイスコントローラモード時）

PID[1:0]値	転送タイプ	転送方向（DIRビット）	USBFS動作
00b（NAK）	バルクまたはインタラプト	設定値に依存しません。	USBホストからのトークンにNAK応答を行います。
	アイソクロナス	設定値に依存しません。	USBホストからのトークンに応答を行いません。
01b（BUF）	バルク	受信方向（DIR = 0）	USBホストからのOUTトークンに対し、選択パイプに関連付けられているFIFOバッファが受信可能な状態であればデータを受信しACK応答を行います。
	インタラプト	受信方向（DIR = 0）	USBホストからのOUTトークンに対し、選択パイプに関連付けられているFIFOバッファが受信可能な状態であればデータを受信しACK応答を行います。
	バルクまたはインタラプト	送信方向（DIR = 1）	USBホストからのトークンに対し、選択パイプに関連付けられているFIFOバッファが送信可能な状態であればデータを送信します。送信可能な状態でなければ、NAK応答を行います。
	アイソクロナス	受信方向（DIR = 0）	USBホストからのOUTトークンに対し、選択パイプに関連付けられているFIFOバッファが受信可能な状態であればデータを受信します。受信可能な状態でなければ、データを破棄します。
	アイソクロナス	送信方向（DIR = 1）	USBホストからのトークンに対し、関連するFIFOバッファが送信可能な状態であればデータを送信します。送信可能な状態でなければ、Zero-Lengthパケットを送信します。
10b（STALL）または 11b（STALL）	バルクまたはインタラプト	設定値に依存しません。	USBホストからのトークンにSTALL応答を行います。
	アイソクロナス	設定値に依存しません。	USBホストからのトークンに応答を行いません。

PBUSY ビット（パイプビジー）

選択パイプを現在のトランザクションで使用中かどうかが表示されます。

USBFS は、選択パイプの USBFS トランザクション開始時に PBUSY ビットを 0 から 1 に変更し、1 つのトランザクションが終了すると PBUSY ビットを 1 から 0 に変更します。

PID = NAK を設定した後、ソフトウェアで PBUSY ビットを読み出すことにより、パイプ設定変更が可能になったかどうかを確認することが可能です。詳細は、29.3.4.1　パイプコントロールレジスタの切り替え手順を参照してください。

SQMON ビット（シーケンストグルビット確認）

選択パイプの次回トランザクションにおけるシーケンストグルビットの期待値が表示されます。

選択パイプの転送タイプがアイソクロナス以外の場合、トランザクションの正常完了時に USBFS は SQMON ビットをトグルします。ただし、受信方向転送時に DATA-PID 不一致が発生すると、USBFS は SQMON ビットをトグルしません。

SQSET ビット（シーケンストグルビットセット）

ソフトウェアで SQSET ビットを 1 にすると、USBFS は選択パイプにおける次回トランザクションのシーケンストグルビットの期待値を DATA1 に設定します。USBFS は、SQSET ビットを 0 にクリアします。

SQCLR ビット（シーケンストグルビットクリア）

ソフトウェアで SQCLR ビットを 1 にすると、USBFS は選択パイプにおける次回トランザクションのシーケンストグルビットの期待値を DATA0 にクリアします。USBFS は、SQCLR ビットを 0 にクリアします。

ACLRM ビット（自動バッファクリアモード）

選択パイプの自動バッファクリアモードの禁止または許可を指定します。選択パイプに割り当てられた FIFO バッファのデータを完全にクリアする場合、ACLRM ビットに 1 と 0 を連続して書いてください。

表 29.9 は、ACLRM ビットに 1 と 0 を連続して書いた場合にクリアされるデータと、この処理が必要な状況を示しています。

表 29.9　ACLRM = 1 のときに USBFS がクリアするデータ

番号	ACLRM ビットの設定によりクリアされるデータ	データのクリアが必要な状況
1	選択パイプに割り当てられた FIFO バッファの全データ（ダブルバッファモードでは 2 つの FIFO バッファ）	選択パイプを初期化する場合
2	転送タイプがアイソクロナスの選択パイプのときはインターバルカウント値	インターバルカウント値をリセットする場合
3	PIPECFG.BFRE ビットに関する内部フラグ	PIPECFG.BFRE ビットの設定値を変更する場合
4	FIFO バッファトグル制御	PIPECFG.DBLB ビットの設定値を変更する場合
5	トランザクションカウントに関する内部フラグ	トランザクションカウント機能を強制終了する場合

ATREPM ビット（自動応答モード）

選択パイプの自動応答モードの許可／禁止を指定します。

デバイスコントローラモードで、選択パイプの転送タイプがバルク転送のとき、本ビットを 1 にすることが可能です。本ビットを 1 にした場合、USBFS は USB ホストからのトークンに対し以下のように応答します。

- 選択パイプの設定がバルク IN 転送（PIPECFG.TYPE[1:0] = 01b かつ PIPECFG.DIR = 1 のとき：
  - ATREPM ビットが 1 かつ PID = BUF の状態の場合、IN トークンに対して USBFS は Zero-Length パケットを送信します。
  - USBFS は、USB ホストから ACK を受信するごとに、シーケンストグルビット（DATA-PID）を更新します。1 トランザクションでは、IN トークン受信→ Zero-Length パケット送信→ ACK 受信がこの順序で発生します。USBFS は BRDY 割り込みや BEMP 割り込みを生成しません。
- 選択パイプの設定がバルク OUT 転送（PIPECFG.TYPE[1:0] = 01b かつ PIPECFG.DIR = 0）のとき：
  - ATREPM ビットが 1 かつ PID = BUF の状態の場合、OUT トークンに対して USBFS は NAK 応答を行い、NRDY 割り込みを発生させます。

自動応答モードで USB 通信を行う場合、FIFO バッファは空の状態で ATREPM ビットを 1 にしてください。自動応答モードで USB 通信を行っている期間は FIFO バッファへの書き込みを行わないでください。選択パイプの転送タイプがアイソクロナスの場合、本ビットは必ず 0 にしてください。

ホストコントローラモードでは、必ず ATREPM ビットは 0 にしてください。

INBUFM ビット（送信バッファモニタ）

選択パイプが送信方向の場合に、選択パイプの FIFO バッファステータスを示します。

選択パイプを送信方向（PIPECFG.DIR ビットが 1）に設定している場合、CPU または DMA/DTC が少なくとも 1 面分のデータを FIFO バッファに書き込み完了したときに、USBFS は本ビットを 1 にします。

書き込みが完了している面の FIFO バッファ上のデータを USBFS がすべて送信完了したときに、USBFS は本ビットを 0 にします。ダブルバッファモード時（PIPECFG.DBLB = 1）には、USBFS が FIFO バッファの 2 面分のデータを送信完了しかつ CPU または DMAC/DTC が FIFO バッファの 1 面分のデータ書き込みを完了していないときに、USBFS は INBUFM ビットを 0 にします。

選択パイプを受信方向（PIPECFG.DIR ビットが 0）に設定している場合には、INBUFM ビットは BSTS ビットと同じ値を示します。

BSTS ビット（バッファステータス）

選択パイプの FIFO バッファステータスを示します。

BSTS ビットの機能は、PIPECFG.DIR ビット、PIPECFG.BFRE ビット、および DnFIFOSEL.DCLRM ビットの設定値により表 29.10 に示すように異なります。

表 29.10　BSTSビットの動作

DIR値	BFRE値	DCLRM値	BSTSビットの機能
0	0	0	FIFOバッファからの受信データの読み出しが可能な場合は1になり、データ読み出し完了時には0になります。
		1	設定禁止
	1	0	FIFOバッファからの受信データの読み出しが可能な場合は1になり、データ読み出し完了後にソフトウェアがポートコントロールレジスタのBCLRビットを1にすると0になります。
		1	FIFOバッファからの受信データの読み出しが可能な場合は1になり、データ読み出し完了時には0になります。
1	0	0	FIFOバッファへの送信データ書き込みが可能な場合は1になり、データ書き込み完了時には0になります。
		1	設定禁止
	1	0	設定禁止
		1	設定禁止

PIPEnCTR （n = 6 ～ 9）

アドレス　USBFS.PIPE6CTR 4009 007Ah, USBFS.PIPE7CTR 4009 007Ch, USBFS.PIPE8CTR 4009 007Eh, USBFS.PIPE9CTR 4009 0080h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	BSTS	—	—	—	—	—	ACLRM	SQCLR	SQSET	SQMON	PBUSY	—	—	—	PID[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	PID[1:0]	応答PID	b1 b0 0 0：NAK応答 0 1：BUF応答（バッファ状態に従う） 1 0：STALL応答 1 1：STALL応答	R/W
b4-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5	PBUSY	パイプビジー	0：選択パイプはトランザクションで未使用 1：選択パイプはトランザクションで使用中	R
b6	SQMON	シーケンストグルビット確認	0：DATA0 1：DATA1	R
b7	SQSET	シーケンストグルビットセット（注2）	パイプnにシーケンストグルビットを設定します。 0：無効（0の書き込みは無効です） 1：次回トランザクションの期待値をDATA1にする 読むと0が読めます。	R/W（注1）
b8	SQCLR	シーケンストグルビットクリア（注2）	パイプnのシーケンストグルビットをクリアします。 0：無効（0の書き込みは無効です） 1：次回トランザクションの期待値をDATA0にクリアする 読むと0が読めます。	R/W（注1）
b9	ACLRM	自動バッファクリアモード（注3）	0：自動バッファクリアモードを禁止 1：自動バッファクリアモードを許可（全バッファ初期化）	R/W
b14-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15	BSTS	バッファステータス	0：バッファアクセス不可能 1：バッファアクセス可能	R

注 1.　読むと 0 が読み出されます。1 のみ書けます。

注 2.　SQCLR ビットまたは SQSET ビットへの 1 書き込みは、PID = NAK の状態のときにのみ実施してください。これらのビットを設定する場合には、PBUSY ビットが 0 であることを確認し、PID[1:0] ビットを 01b（BUF）から 00b（NAK）へ変更してから実施してください。USBFS が PID[1:0] ビットを 00（NAK）に変更した場合には、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は必要ありません。

注 3.　ACLRM ビットの設定は、PID = NAK かつポート選択レジスタの CURPIPE[3:0] ビットにパイプ未設定の状態のときにのみ実施してください。ACLRM ビットを設定する場合には、PIPEnCTR.PBUSY ビットが 0 であることを確認し、PIPEnCTR.PID[1:0] ビットを 01b（BUF）から 00b（NAK）へ変更してから実施してください。USBFS が PID[1:0] ビットを 00（NAK）に変更した場合には、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は必要ありません。

PID[1:0] ビット（応答 PID）

選択パイプの次回トランザクションにおける応答の種類を指定します。

PID[1:0] ビットの初期値は NAK です。当該パイプで USBFS 転送を行う場合には PID[1:0] ビット設定値を BUF に変更してください。PID[1:0] ビット設定値ごとの USBFS の基本動作（送受信パケットにエラーがない場合）は表 29.7 および表 29.8 のとおりです。

選択パイプが USBFS 通信中であるときに、ソフトウェアで PID[1:0] ビットの設定を BUF から NAK に変更する場合、NAK を書いた後、実際にそのパイプの USB 転送が NAK 状態に遷移したことを確認するために PBUSY ビットが 1 であることを確認してください。USBFS が PID[1:0] ビットを NAK に変更した場合には、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は必要ありません。

以下の場合には、USBFS が PIPEnCTR.PID[1:0] ビットの設定値を変更します。

- 選択パイプに対し、最大パケットサイズを超えるペイロードのデータパケットを受信した場合、USBFS は PID を STALL（11b）にする
- デバイスコントローラモード時に USB バスリセットを検出した場合、USBFS は PID を NAK にする
- ホストコントローラモード時にCRCエラーなどの受信エラーを3回連続で検出した場合、USBFSはPIDを NAK にする
- ホストコントローラモード時に STALL ハンドシェイクを受信した場合、USBFS は PID を STALL（11b）にする

応答の種類を指定するための PID[1:0] ビットの設定は以下の手順で行ってください。

- NAK（00b）状態から STALL 状態にする場合には、10b を設定
- BUF（01b）状態から STALL 状態にする場合には、11b を設定
- STALL（11b）状態から NAK 状態にする場合には、一度 10b を設定してから 00b を設定
- STALL 状態から BUF 状態にする場合には、一度 00b（NAK）を設定してから 01b（BUF）を設定

PBUSY ビット（パイプビジー）

選択パイプを現在のトランザクションで使用中かどうかが表示されます。

USBFS は、選択パイプの USB トランザクション開始時に PBUSY ビットを 0 から 1 に変更し、1 つのトランザクションが終了すると PBUSY ビットを 1 から 0 に変更します。

PID を NAK に設定した後、ソフトウェアで PBUSY ビットを読み出すことにより、パイプ設定の変更が可能かどうかを確認することができます。

SQMON ビット（シーケンストグルビット確認）

選択パイプの次回トランザクションにおけるシーケンストグルビットの期待値が表示されます。

トランザクションが正常終了すると、USBFS は SQMON ビットをトグルします。ただし、受信方向転送時に DATA-PID 不一致が発生すると、USBFS は SQMON ビットをトグルしません。

SQSET ビット（シーケンストグルビットセット）

ソフトウェアで SQSET ビットを 1 にすると、USBFS は選択パイプにおける次回トランザクションのシーケンストグルビットの期待値を DATA1 に設定します。USBFS は、SQSET ビットを 0 にします。

SQCLR ビット（シーケンストグルビットクリア）

ソフトウェアで SQCLR ビットを 1 にすると、USBFS は選択パイプの次回トランザクションにおけるシーケンストグルビットの期待値として DATA0 を設定することが可能になります。USBFS は、SQCLR ビットを 0 にします。

ACLRM ビット（自動バッファクリアモード）

選択パイプの自動バッファクリアモードの禁止または許可を指定します。選択パイプに割り当てられた FIFO バッファのデータを完全にクリアする場合、ACLRM ビットに 1 と 0 を連続して書いてください。

表 29.11 は、ACLRM ビットに 1 と 0 を連続して書いた場合にクリアされるデータと、この処理が必要な状況を示しています。

表 29.11　ACLRM = 1 のときに USBFS がクリアするデータ

番号	ACLRM ビットの設定によりクリアされるデータ	データのクリアが必要な状況
1	選択パイプに割り当てられた FIFO バッファの全データ	選択パイプを初期化する場合
2	転送タイプがアイソクロナスの選択パイプのときはインターバルカウント値	インターバルカウント値をリセットする場合
3	PIPECFG.BFRE ビットに関する内部フラグ	PIPECFG.BFRE ビットの設定値を変更する場合
4	トランザクションカウントに関する内部フラグ	トランザクションカウント機能を強制終了する場合

BSTS ビット（バッファステータス）

選択パイプの FIFO バッファステータスを示します。

BSTS ビットの機能は、PIPECFG.DIR ビット、PIPECFG.BFRE ビット、および DnFIFOSEL.DCLRM ビットの設定値により表 29.10 に示すように異なります。

29.2.33　パイプ n トランザクションカウンタイネーブルレジスタ（PIPEnTRE）（n = 1 ～ 5）

アドレス　USBFS.PIPE1TRE 4009 0090h, USBFS.PIPE2TRE 4009 0094h, USBFS.PIPE3TRE 4009 0098h, USBFS.PIPE4TRE 4009 009Ch, USBFS.PIPE5TRE 4009 00A0h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	TRENB	TRCLR	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	TRCLR	トランザクションカウンタクリア	0：無効（0の書き込みは無効です） 1：カウンタ値をクリア	R/W
b9	TRENB	トランザクションカウンタ許可	0：トランザクションカウンタ禁止 1：トランザクションカウンタ許可	R/W
b15-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 .　PIPEnTRE レジスタの各ビットの設定は、PID = NAK 時に実施してください。選択パイプの PIPEnCTR.PID[1:0] ビットを BUF から NAK へ変更した後で各ビットを設定する場合には、PIPEnCTR.PBUSY ビットが 0 であることを確認してから設定してください。ただし、USBFS が PID[1:0] ビットを NAK に変更した場合には、ソフトウェアによる PBUSY ビットの確認は必要ありません。

TRCLR ビット（トランザクションカウンタクリア）

TRCLR ビットが 1 の場合、USBFS は選択パイプに関連付けられているトランザクションカウンタの値をクリアし、その後で TRCLR ビットを 0 にします。

TRENB ビット（トランザクションカウンタ許可）

トランザクションカウンタの許可または禁止を指定します。

受信パイプに対して、ソフトウェアで PIPEnTRN.TRNCNT[15:0] ビットに総受信パケット数を設定した後で TRENB ビットを 1 にすると、USBFS は TRNCNT[15:0] ビットの設定値と同数のパケット受信を終了したときに以下のハードウェア制御を行います。

- PIPECFG.SHTNAK ビットが 1 のとき、TRNCNT[15:0] ビットの設定値と同数のパケットの受信を終了した時点で USBFS は関連するパイプの PIPEnCTR.PID[1:0] ビットを NAK に変更します
- PIPECFG.BFRE ビットが 1 のとき、TRNCNT[15:0] ビットの設定値と同数のパケットを受信しその最後の受信データを読み出し終えたときに、USBFS は BRDY 割り込みをアサートします

送信パイプについては、TRENB ビットを 0 にしてください。

トランザクションカウンタを使用しない場合は、TRENB ビットを 0 にしてください。トランザクションカウンタを使用する場合、TRENB ビットを 1 にする前に TRNCNT[15:0] ビットの設定を行ってください。トランザクションカウンタのカウント対象となる最初のパケットを受信する前に TRENB ビットを 1 にしてください。

29.2.34　パイプ n トランザクションカウンタレジスタ（PIPEnTRN）（n = 1 ～ 5）

アドレス　USBFS.PIPE1TRN 4009 0092h, USBFS.PIPE2TRN 4009 0096h, USBFS.PIPE3TRN 4009 009Ah, USBFS.PIPE4TRN 4009 009Eh, USBFS.PIPE5TRN 4009 00A2h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TRNCNT[15:0]															
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	TRNCNT[15:0]	トランザクションカウンタ	• レジスタ書き込み時、選択パイプが受信すべき総パケット数（トランザクション回数）を指定します。 • レジスタ読み出し時、PIPEnTRE.TRENB ビットが 0 の場合は、指定したトランザクション回数を示します。PIPEnTRE.TRENB ビットが 1 の場合は、現在のトランザクションカウントを示します。	R/W

PIPEnTRN レジスタは、USB バスリセット時もその設定値を保持します。

TRNCNT[15:0] ビット（トランザクションカウンタ）

USBFS は、パケット受信時の状態が以下をすべて満たしたときに TRNCNT[15:0] ビットの値を 1 インクリメントします。

- PIPEnTRE.TRENB ビットが 1 である
- パケット受信時に「TRNCNT[15:0] 設定値≠現在のカウンタ値 + 1」である
- 受信したパケットのペイロードが PIPEMAXP.MXPS[8:0] ビットの設定値と一致した

USBFS は、以下のいずれかの条件を満たした場合、TRNCNT[15:0] ビットの値を 0 にします。

以下の条件がすべて満たされたとき：

- PIPEnTRE.TRENB ビットが 1 である
- パケット受信時に「TRNCNT[15:0] 設定値 = 現在のカウンタ値 + 1」である
- 受信したパケットのペイロードが PIPEMAXP.MXPS[8:0] ビットの設定値と一致した

以下条件がどちらも満たされたとき：

- PIPEnTRE.TRENB ビットが 1 である
- USBFS がショートパケットを受信した

以下条件がどちらも満たされたとき：

- PIPEnTRE.TRENB ビットが 1 である
- PIPEnTRE.TRCLR ビットがソフトウェアによって 1 にされた

送信パイプについては、TRNCNT[15:0] ビットを 0 にしてください。トランザクションカウンタを使用しない場合は、TRNCNT[15:0] ビットを 0 にしてください。

TRNCNT[15:0] ビットのトランザクション転送回数の設定は、PIPEnTRE.TRENB ビットが 0 のときのみ可能です。トランザクション転送回数を設定するには、PIPEnTRE.TRENB ビットを 1 にする前に、TRCLR ビットを 1 にして現在のカウンタ値をクリアしてください。

29.2.35　デバイスアドレス n コンフィグレーションレジスタ（DEVADDn）（n = 0 ～ 5）

アドレス　USBFS.DEVADD0 4009 00D0h, USBFS.DEVADD1 4009 00D2h, USBFS.DEVADD2 4009 00D4h, USBFS.DEVADD3 4009 00D6h, USBFS.DEVADD4 4009 00D8h, USBFS.DEVADD5 4009 00DAh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	USBSPD[1:0]		—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b7-b6	USBSPD[1:0]	通信対象デバイス転送速度	b7 b6 0 0 : DEVADDn レジスタ未使用 0 1 : ロースピード 1 0 : フルスピード 1 1 : 設定禁止	R/W
b15-b8	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

DEVADDn レジスタは、パイプ 0 ～ 9 に対して、通信対象の周辺デバイスの転送速度を指定するレジスタです。

ホストコントローラモードでは、パイプへの通信を開始する前に、DEVADDn レジスタのビットをすべて設定してください。DEVADDn レジスタの各ビットの変更は、各ビットの設定を使用している有効なパイプが存在しないときにのみ行ってください。有効なパイプとは、以下の両方の条件を満たしているパイプです。

- DEVSEL[3:0] ビットの設定が、DEVADDn レジスタの対象デバイスを指定している
- 選択パイプの PID[1:0] ビットに BUF を設定しているか、または選択パイプが DCP であり DCPCTR.SUREQ ビットが 1 になっている

デバイスコントローラモードでは、本レジスタのすべてのビットは 0 にしてください。

USBSPD[1:0] ビット（通信対象デバイス転送速度）

対象の周辺デバイスの USB 転送速度を設定します。HUB 経由でフルスピードデバイスが接続されたときには、USBSPD[1:0] ビットを 10b にしてください。ホストコントローラモード時、USBFS は USBSPD[1:0] の設定に応じてパケットを生成します。デバイスコントローラモードでは、USBSPD[1:0] ビットを 00b にしてください。

29.2.36　PHY クロスポイント調整レジスタ（PHYSLEW）

アドレス　USBFS.PHYSLEW 4009 00F0h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	x	0	x	x	0	0	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SLEWF01	SLEWF00	SLEWR01	SLEWR00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SLEWR00	ドライバのクロスポイント調整00	1にしてください	R/W
b1	SLEWR01	ドライバのクロスポイント調整01	0にしてください	R/W
b2	SLEWF00	ドライバのクロスポイント調整00	1にしてください	R/W
b3	SLEWF01	ドライバのクロスポイント調整01	0にしてください	R/W
b15-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b17-b16	—	予約ビット	読むと不定値が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b19-b18	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b21-b20	—	予約ビット	読むと不定値が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b22	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b23	—	予約ビット	読むと不定値が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b31-b24	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

PHYSLEW レジスタは、ドライバのクロスポイントを調整します。ホストコントローラモードとデバイスコントローラモードのどちらの場合でも、コントローラを動作させる前にこのレジスタの設定を行ってください。

29.2.37　ディープソフトウェアスタンバイ USB トランシーバコントロール／端子モニタレジスタ（DPUSR0R）

アドレス　USBFS.DPUSR0R 4009 0400h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	DVBSTS0	—	—	DOVCA0	—	—	DM0	DP0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	x	0	0	x	0	0	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	FIXPHY0	DRPD0	—	RPUE0	SRPC0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SRPC0	USB シングルエンドレシーバ制御	0：DP/DM の入力を禁止 1：DP/DM の入力を許可	R/W
b1	RPUE0（注 1）	DP プルアップ抵抗制御	0：DP プルアップ抵抗を禁止 1：DP プルアップ抵抗を許可	R/W
b2	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b3	DRPD0（注 1）	D+/D- プルダウン抵抗制御	0：DP/DM プルダウン抵抗を禁止 1：DP/DM プルダウン抵抗を許可	R/W
b4	FIXPHY0	USB トランシーバ出力固定	0：通常モード時およびディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰時に出力を固定 1：ディープソフトウェアスタンバイモードへの遷移時に出力を固定	R/W
b15-b5	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b16	DP0	USB D+入力	USBFS 側の D+入力信号を示します。	R
b17	DM0	USB D-入力	USBFS 側の D-入力信号を示します。	R
b19-b18	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b20	DOVCA0	USB OVRCURA 入力	USBFS 側の OVRCURA 入力信号を示します。	R
b22-b21	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b23	DVBSTS0	USB VBUS 入力	USBFS 側の VBUS 入力信号を示します。	R
b31-b24	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

注 1.　本ビットは、ディープソフトウェアスタンバイモードでの動作時に使用してください。詳細は、29.3.1.5　USB のサスペンド／レジューム割り込みによるディープソフトウェアスタンバイモードの解除を参照してください。

SRPC0 ビット（USB シングルエンドレシーバ制御）

USB トランシーバの D+/D- 入力制御を行います。FIXPHY0 ビットが 1 のときのみに有効となります。

FIXPHY0 ビット（USB トランシーバ出力固定）

USB トランシーバの出力を不可に固定します。

29.2.38 ディープソフトウェアスタンバイ USB サスペンド／レジューム割り込みレジスタ（DPUSR1R）

アドレス USBFS.DPUSR1R 4009 0404h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	DVBINT0	—	—	DOVRCRA0	—	—	DMINT0	DPINT0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	DVBSE0	—	—	DOVRCRAE0	—	—	DMINTE0	DPINTE0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DPINTE0	USB DP割り込み許可／クリア	0：DP入力によるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰を禁止 1：DP入力によるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰を許可	R/W
b1	DMINTE0	USB DM割り込み許可／クリア	0：DM入力によるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰を禁止 1：DM入力によるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰を許可	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	DOVRCRAE0	USB OVRCURA割り込み許可／クリア	0：OVRCURA入力によるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰を禁止 1：OVRCURA入力によるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰を許可	R/W
b6-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	DVBSE0	USB VBUS割り込み許可／クリア	0：VBUS入力によるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰を禁止 1：VBUS入力によるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰を許可	R/W
b15-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b16	DPINT0	USB DP割り込み要因による復帰	0：ディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰なし 1：DP入力よるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰あり	R
b17	DMINT0	USB DM割り込み要因による復帰	0：ディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰なし 1：DM入力によるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰あり	R
b19-b18	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b20	DOVRCRA0	USB OVRCURA割り込み要因による復帰	0：ディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰なし 1：OVRCURA入力によるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰あり	R
b22-b21	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b23	DVBINT0	USB VBUS割り込み要因による復帰	0：ディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰なし 1：VBUS入力によるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰あり	R
b31-b24	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

DPINTE0 ビット（USB DP 割り込み許可／クリア）

USBFS の DP 入力によるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰の許可／禁止を指定します。DPINT0 ビットが 1 のときに本ビットに 0 を書くことにより、DPINT0 ビットが 0 になります。

DMINTE0 ビット（USB DM 割り込み許可／クリア）

USBFS の DM 入力によるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰の許可／禁止を指定します。DMINT0 ビットが 1 のときに本ビットに 0 を書くことにより、DMINTE0 ビットが 0 にクリアされます。

DOVRCRAE0 ビット （USB OVRCURA 割り込み許可／クリア）

USBFS の OVRCURA 入力によるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰の許可／禁止を指定します。DOVRCRA0 ビットが 1 のときに本ビットに 0 を書くことにより、DOVRCRAE0 ビットが 0 にクリアされます。

DVBSE0 ビット （USB VBUS 割り込み許可／クリア）

USBFS の VBUS 入力によるディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰の許可／禁止を指定します。DVBINT0 ビットが 1 のときに本ビットに 0 を書くことにより、DVBINT0 ビットが 0 にクリアされます。

DPINT0 ビット （USB DP 割り込み要因による復帰）

USBFS の DP 入力が要因でディープソフトウェアスタンバイモードから復帰したことを表示します。この復帰は、DPINTE0 ビットが 1 のときのみ許可されます。本ビットが 1 のときに DPINTE0 ビットに 0 を書くことにより、本ビットは 0 にクリアされます。

DMINT0 ビット （USB DM 割り込み要因による復帰）

USBFS の DM 入力が要因でディープソフトウェアスタンバイモードから復帰したことを表示します。この復帰は、DMINTE0 ビットが 1 のときのみ許可されます。本ビットが 1 のときに DPINTE0 ビットに 0 を書くことにより、本ビットは 0 にクリアされます。

DOVRCRA0 ビット （USB OVRCURA 割り込み要因による復帰）

USBFS の OVRCURA 入力が要因でディープソフトウェアスタンバイモードから復帰したことを表示します。この復帰は、DOVRCRAE0 ビットが 1 のときのみ許可されます。本ビットが 1 のときに DOVRCRAE0 ビットに 0 を書くことにより、本ビットは 0 にクリアされます。

DVBINT0 ビット （USB VBUS 割り込み要因による復帰）

USBFS の VBUS 入力が要因でディープソフトウェアスタンバイモードから復帰したことを表示します。この復帰は、DVBSE0 ビットが 1 のときのみ許可されます。本ビットが 1 のときに DVBSE0 ビットに 0 を書くことにより、本ビットは 0 にクリアされます。

29.3　動作説明

29.3.1　システム制御

USBFS の初期化および消費電力の制御に必要なレジスタの設定について説明します。

29.3.1.1　USBFS 関連レジスタへのデータ設定

クロック供給が開始された（SYSCFG.SCKE ビットが 1）状態で、SYSCFG.USBE ビットを 1 にすることにより、USBFS は動作が許可され、動作を開始します。

29.3.1.2　コントローラ機能の選択

USBFS の動作は、ホストコントローラとデバイスコントローラの 2 種類の機能から選択できます。

どちらの機能にするかは、SYSCFG.DCFM ビットで選択できます。DCFM ビットの変更は、リセット解除直後の初期設定時、または D+ プルアップ禁止（SYSCFG.DPRPU ビットは 0）かつ D+/D- プルダウン禁止（SYSCFG.DRPD ビットは 0）のときに行ってください。

29.3.1.3　抵抗による USB データバス制御

USBFS は、D+/D- ラインのプルアップ抵抗およびプルダウン抵抗を内蔵しています。SYSCFG.DPRPU、SYSCFG.DRPD ビットの設定によりラインのプルアップ、プルダウンを設定してください。

デバイスコントローラモードでは、USB ホストへの接続を確認した後で、SYSCFG.DPRPU ビットを 1 にし、D+ ライン（フルスピード通信時）をプルアップしてください。

PC と通信中に SYSCFG.DPRPU ビットに 0 を設定した場合は、USBFS は USB データラインのプルアップ抵抗を無効にするので、USB ホストにデバイス切断を通知することが可能です。

ホストコントローラモード時は、SYSCFG.DRPD ビットを 1 に設定し、D+/D- ラインをプルダウンしてください。

表 29.12　USB データバス抵抗制御

SYSCFG レジスタ設定		USB データバス制御		
DRPD ビット	DPRPU ビット	D-	D+	機能
0	0	オープン	オープン	抵抗未使用時
0	1	オープン	プルアップ	デバイスコントローラとしてフルスピードで動作させる場合
1	0	プルダウン	プルダウン	ホストコントローラとして動作させる場合
1	1	—	—	設定禁止

29.3.1.4　外部接続回路例

図 29.2 に、セルフパワード状態での USB コネクタの OTG 接続例を示します。USBFS は、D+ ラインのプルアップ抵抗と D+、D- ラインのプルダウン抵抗を制御します。SYSCFG.DPRPU ビットおよび SYSCFG.DRPD ビットでラインのプルアップとプルダウンを選択してください。デバイスコントローラモードでは、USB ホストとの通信中に SYSCFG.DPRPU ビットを 0 にすると、USB データラインのプルアップ抵抗が無効になります。USBFS はこれを使用して、USB ホストに対してデバイスの切断を知らせることができます。

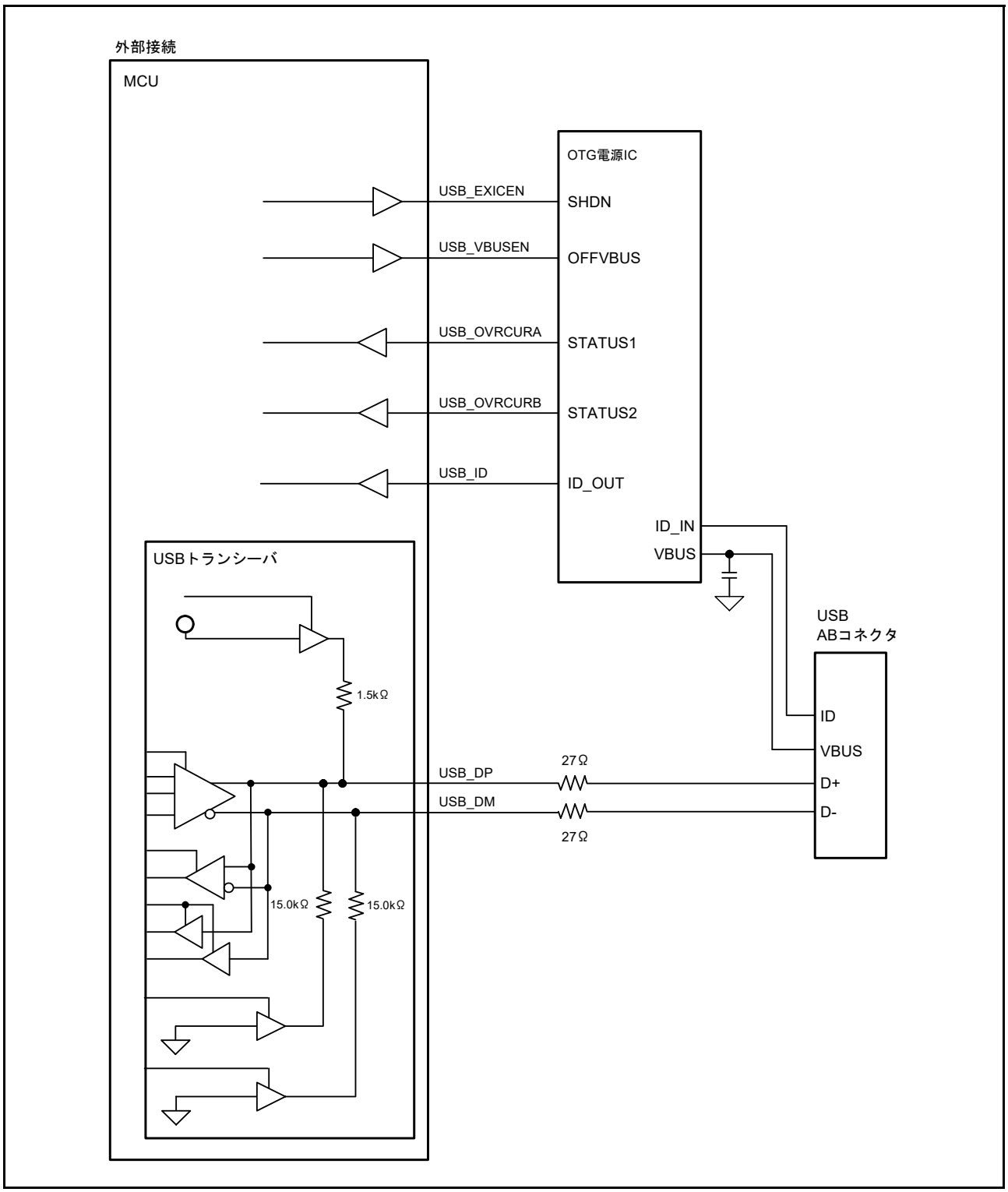
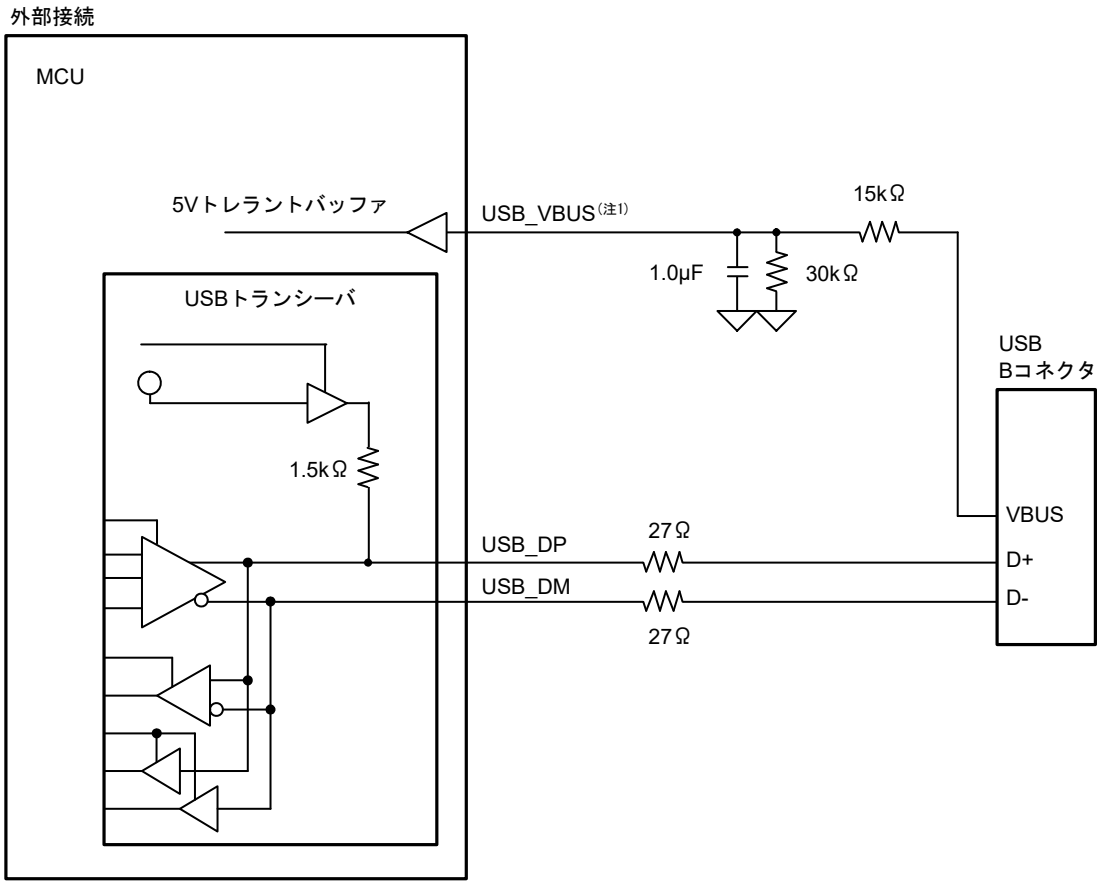


図 29.2　セルフパワード状態での OTG 接続例

図 29.3 にセルフパワード状態でのデバイス接続例を示します。



注 1.　USB 接続時に、MCU の VCC 電源が OFF されない場合は、VBUS（5V）を直接 MCU に接続できます。
MCU の VCC 電源が OFF される場合は、VBUS を 3.6V まで降圧して、接続してください。

図 29.3　セルフパワード状態でのデバイス接続例

図 29.4 にホスト接続例を示します。

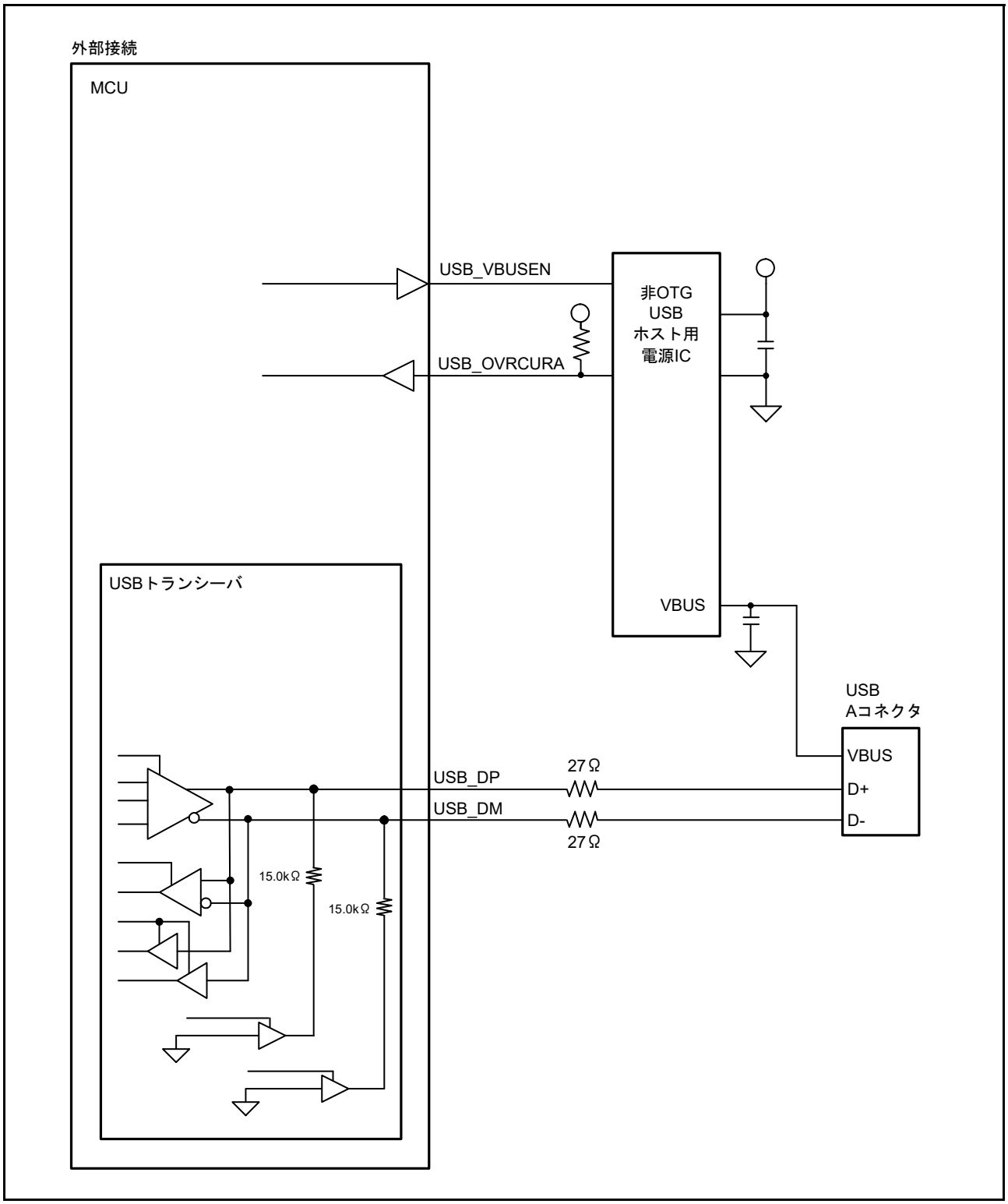


図 29.4　ホスト接続例

図 29.5 にバスパワード状態でのデバイス接続例を示します。

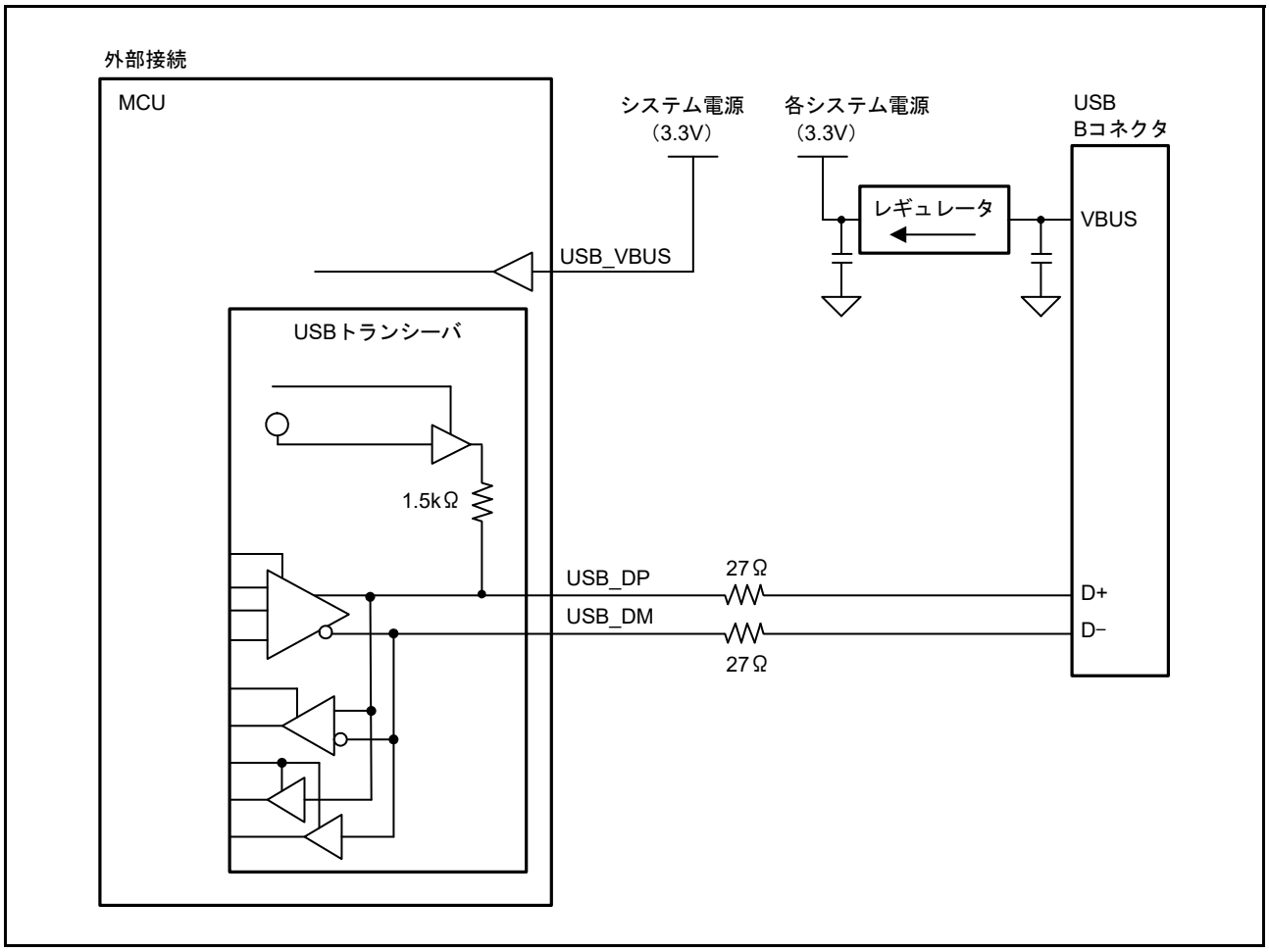


図 29.5　バスパワード状態でのデバイス接続例

本項に記載した各外部回路例は、概略回路であり、すべてのシステムにおいて動作保証するものではありません。

29.3.1.5　USB のサスペンド／レジューム割り込みによるディープソフトウェアスタンバイモードの解除

ディープソフトウェアスタンバイモードは、USB のサスペンド／レジューム割り込みにより解除できます。USB のサスペンド／レジューム割り込みの検出は、USB レジューム検出部が行います。USB レジューム検出部は、USB 用の入出力端子の制御およびモニタを行い、割り込みを検出する機能を果たします。

図 29.6 に USB レジューム検出部と USB 用の入出力端子の接続概略図を示します。

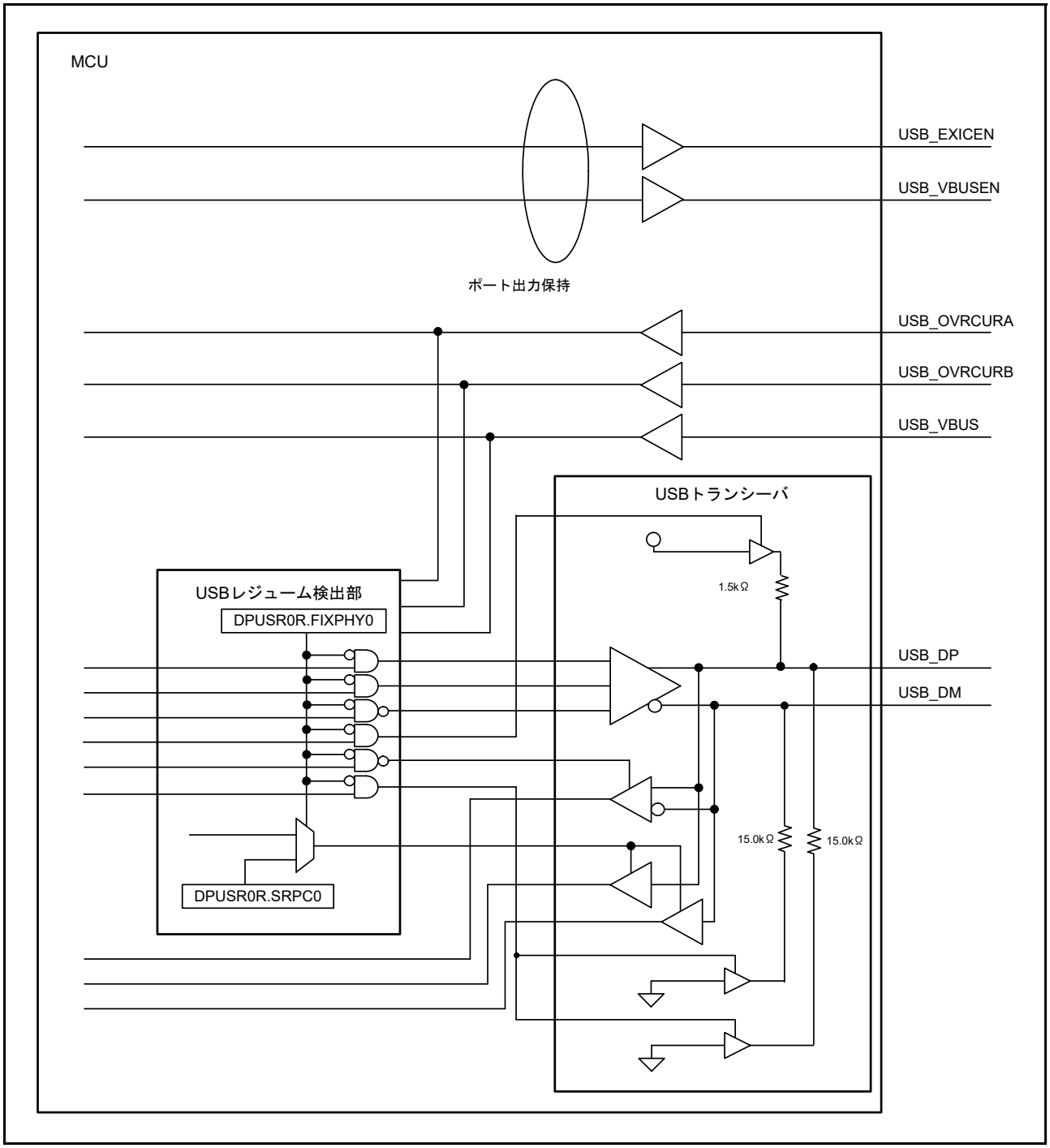


図 29.6　USB レジューム検出部と USB 用の入出力端子の接続

表 29.13 に、USB のサスペンド／レジューム割り込みの要因およびそれらに関連する入出力端子を示します。

表 29.13　USBのサスペンド／レジューム割り込みの要因およびそれらに関連する入出力端子

USB動作モード	要因	端子名
デバイス、OTG	レジューム	USB_DP
ホスト、OTG	アタッチまたはデタッチ	USB_DP、USB_DM
デバイス	アタッチまたはデタッチ	USB_VBUS
ホスト	過電流検出	USB_OVRCURA
OTG	過電流検出	USB_OVRCURA、USB_OVRCURB

図 29.7 に、ホストコントローラモードまたはデバイスコントローラモードからディープソフトウェアスタンバイモードに遷移するときの USBFS 設定フローを示します。図 29.8 に、ホストコントローラモードからディープソフトウェアスタンバイモードを解除するときの USBFS 設定フローを示します。図 29.9 に、デバイスコントローラモードからディープソフトウェアスタンバイモードを解除するときの USBFS 設定フローを示します。

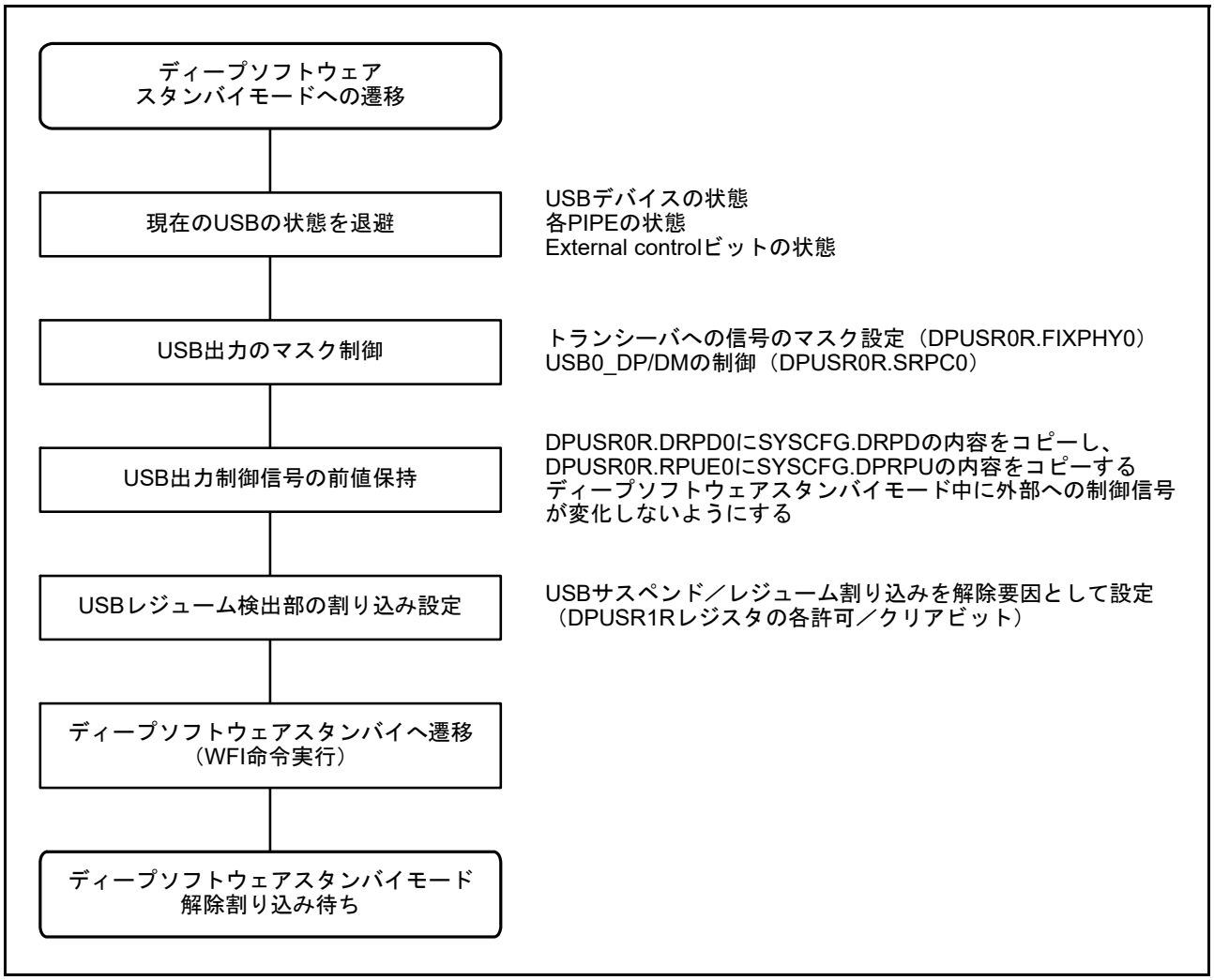


図 29.7　ホストコントローラ機能またはデバイスコントローラ機能選択時におけるディープソフトウェアスタンバイモード遷移時の USBFS 設定フロー

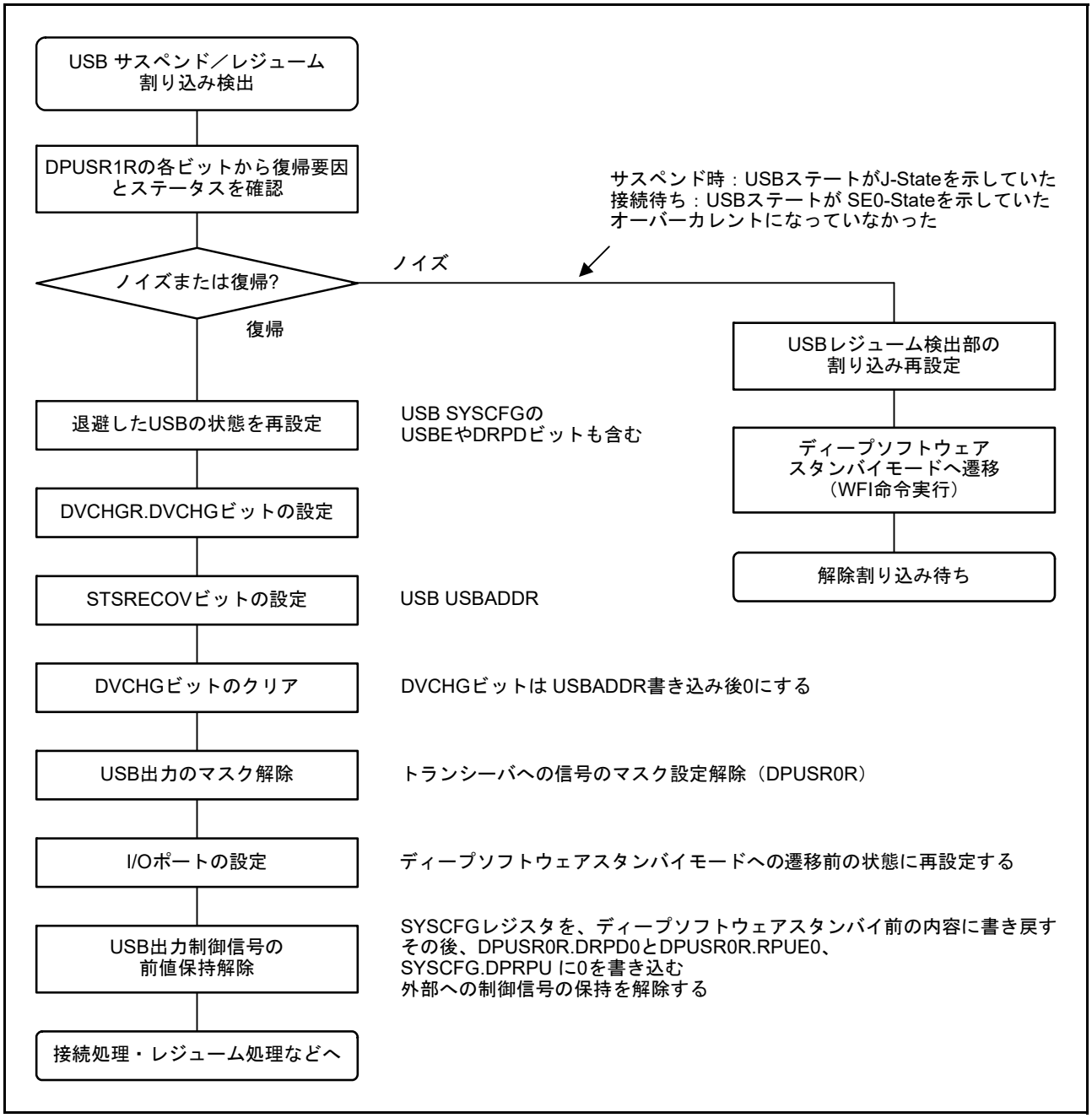


図 29.8　ホストコントローラ機能選択時におけるディープソフトウェアスタンバイモード解除時の USBFS 設定フロー

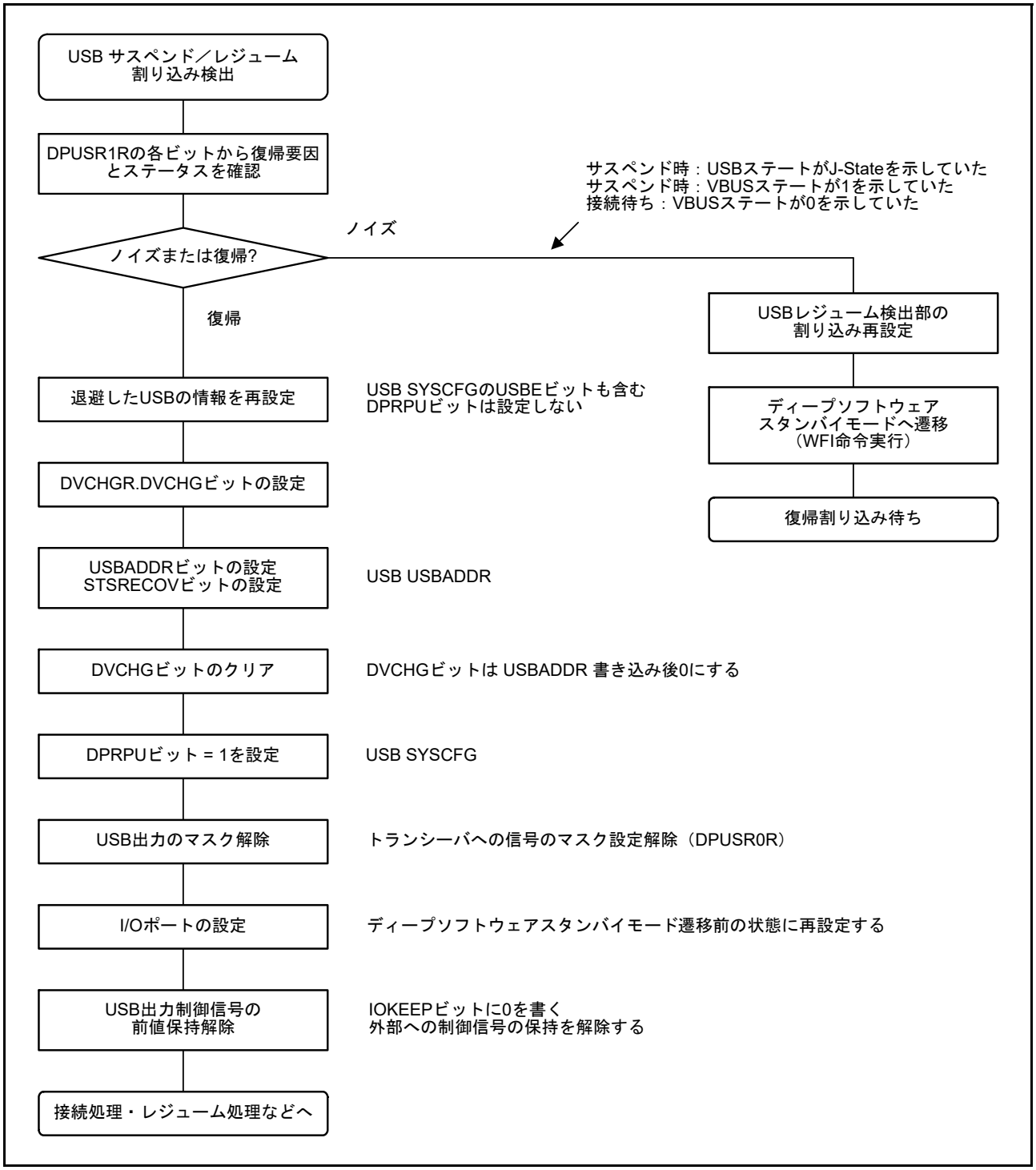


図 29.9　デバイスコントローラ機能選択時におけるディープソフトウェアスタンバイモード解除時の USBFS 設定フロー

29.3.2　割り込み

表 29.14 に USBFS の割り込み要因一覧を示します。これらの割り込み発生条件が成立し、関連する割り込み許可レジスタにて割り込み出力許可に設定されているとき、USBFS は割り込みコントローラユニット（ICU）に対して USBFS 割り込み要求を発行し、USBFS 割り込みが発生します。

表 29.14　割り込み要因 (1/2)

1にするビット	名称	割り込み要因	対象となるコントローラ機能	ステータスフラグ
VBINT	VBUS割り込み	• USB_VBUS入力端子の状態変化を検出したとき（Low→HighまたはHigh→Low）	ホストまたはデバイス（注1）	INTSTS0.VBSTS
RESM	レジューム割り込み	• SuspendedステートにおいてUSBバスの状態変化を検出したとき（J-State→K-StateまたはJ-State→SE0）	デバイス	—
SOFR	フレーム番号更新割り込み	ホストコントローラモード時： • フレーム番号の異なるSOFパケットを送信したとき デバイスコントローラモード時： • フレーム番号の異なるSOFパケットを受信したとき	ホストまたはデバイス	—
DVST	デバイスステート遷移割り込み	• 以下のいずれかのデバイスステート遷移を検出したとき： - USBバスリセットを検出 - Suspendedステートを検出 - SET_ADDRESSリクエストを受信 - SET_CONFIGURATIONリクエストを受信	デバイス	INTSTS0.DVSQ[2:0]
CTRT	コントロール転送ステージ遷移割り込み	• コントロール転送ステージ遷移を、以下のいずれかの状態の発生により検出したとき： - セットアップステージ完了 - コントロールライト転送ステータスステージ遷移発生 - コントロールリード転送ステータスステージ遷移発生 - コントロール転送完了 - コントロール転送シーケンスエラー発生	デバイス	INTSTS0.CTSQ[2:0]
BEMP	バッファエンプティ割り込み	• FIFOバッファ中の全データを送信しバッファが空になったとき • 最大パケットサイズを超えたパケットを受信したとき	ホストまたはデバイス	BEMPSTS.PIPEnBEMP
NRDY	バッファノットレディ割り込み	ホストコントローラモード時： • 発行したトークンに対して周辺デバイス側からのSTALL応答を受信したとき • 発行したトークンに対して、周辺デバイス側から応答が正しく受信できなかったとき（無応答が3回連続、またはパケット受信エラーが3回連続） • アイソクロナス転送時にオーバーランエラーまたはアンダーランエラーが発生したとき デバイスコントローラモード時： • PID[1:0]ビットが01b（BUF）のときに、INトークンまたはOUTトークンに対してNAKを応答したとき • アイソクロナス転送でデータ受信時にCRCエラーまたはビットスタッフィングエラーが発生したとき • アイソクロナス転送でデータ受信時にオーバーラン／アンダーランが発生したとき	ホストまたはデバイス	NRDYSTS.PIPEnNRDY
BRDY	バッファレディ割り込み	• バッファがレディ（読み出しもしくは書き込み可能状態）になったとき	ホストまたはデバイス	BRDYSTS.PIPEnBRDY
OVRCR	オーバーカレント入力変化割り込み	• USB_OVRCURA入力端子、またはUSB_OVRCURB入力端子の状態変化を検出したとき（Low→HighまたはHigh→Low）	ホスト	INTSTS1.OVRCR
BCHG	バス変化割り込み	• USBバスステートの変化を検出したとき	ホストまたはデバイス	SYSSTS0.LNST[1:0]
DTCH	フルスピード動作時切断検出	• フルスピード動作時に周辺デバイスの切断を検出したとき	ホスト	DVSTCTR0.RHST[2:0]
ATTCH	デバイス接続検出割り込み	• USBバスでJ-StateまたはK-Stateを継続的に2.5μs検出したときこの割り込みを使って、周辺デバイスが接続されているかどうかを確認できます。	ホスト	—

表 29.14　割り込み要因 (2/2)

1にするビット	名称	割り込み要因	対象となるコントローラ機能	ステータスフラグ
EOFERR	EOFエラー検出割り込み	• 周辺デバイスのEOFエラーを検出したとき	ホスト	—
SACK	SETUP正常割り込み	• SETUPトランザクションの正常応答（ACK）を受信したとき	ホスト	—
SIGN	SETUPエラー割り込み	• SETUPトランザクションのエラー（無応答またはACKパケット破損）を3回連続で検出したとき	ホスト	—

注 1.　この割り込みは、ホストコントローラモードでも発生しますが、通常はホストコントローラモードでは使用しません。

図 29.10 に USBFS 割り込みに関連する回路を示します。

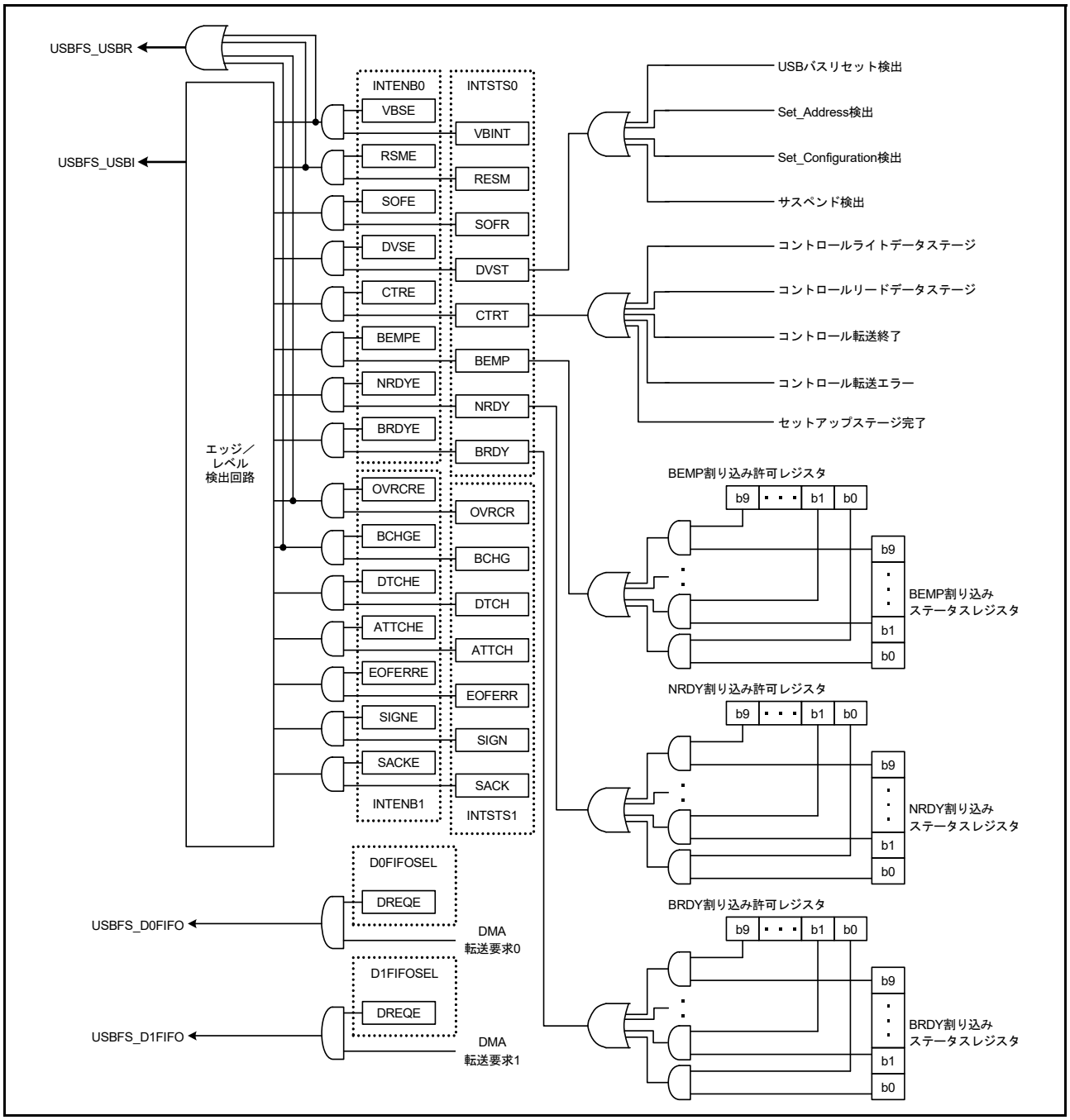


図 29.10　USBFS 割り込みに関連する回路

表 29.15 に USBFS が発生させる割り込みの一覧を示します。

表 29.15　USBFSの割り込み

割り込み名	割り込みステータスフラグ	DTCの起動	DMACの起動	優先順位
USBFS_D0FIFO	DMA転送要求0	可能	可能	高 ▲
USBFS_D1FIFO	DMA転送要求1	可能	可能	
USBFS_USBI	VBUS割り込み、レジューム割り込み、フレーム番号更新割り込み、デバイスステート遷移割り込み、コントロール転送ステージ遷移割り込み、バッファエンプティ割り込み、バッファノットレディ割り込み、バッファレディ割り込み、オーバーカレント入力変化割り込み、バス変化割り込み、フルスピード動作時切断検出割り込み、デバイス接続検出割り込み、EOFエラー検出割り込み、SETUP正常動作割り込み、SETUPエラー割り込み	不可能	不可能	
USBFS_USBR	VBUS割り込み、レジューム割り込み、オーバーカレント入力変化割り込み、バス変化割り込み	不可能	不可能	▼ 低

29.3.3　割り込みの説明

29.3.3.1　BRDY 割り込み

BRDY 割り込みは、ホストコントローラモードとデバイスコントローラモードのどちらを選択しても発生します。ここでは、USBFS が BRDYSTS の関連するビットを 1 にする条件について説明します。これらの条件の下では、ソフトウェアで当該パイプに関連付けられている BRDYENB レジスタのビットを 1 にし、かつ、INTENB0.BRDYE ビットを 1 にしていれば、USBFS は BRDY 割り込みを発生させます。

BRDY 割り込みは、各パイプの SOFCFG.BRDYM ビットおよび PIPECFG.BFRE ビットの設定により、発生条件およびクリア条件が異なります。

(1)　SOFCFG.BRDYM ビットが 0 かつ PIPECFG.BFRE ビットが 0 のとき

この設定の場合、BRDY 割り込みは FIFO ポートにアクセス可能になったことを示す割り込みになります。

USBFS は、以下のいずれかの条件のときに、内部 BRDY 割り込み要求トリガを発生させ、選択パイプに関連付けられている BRDYSTS.PIPEnBRDY ビットを 1 にします。

(a)　送信パイプの場合

- ソフトウェアで DIR ビットを 0 から 1 に変更したとき
- CPU からパイプの FIFO バッファへのライトアクセスが不可能な（BSTS ビットの読み出し値が 0 の）状態で、そのパイプのパケット送信が完了したとき
- ダブルバッファモードにおいて、一方の FIFO バッファへの書き込み完了時に、もう一方の FIFO バッファが空であったとき
- 一方の FIFO バッファへの送信が完了しても、現在書き込み中の FIFO バッファへの書き込みが完了するまで、要求トリガは発生しません
- アイソクロナス転送のパイプにおいて、ハードウェアによるバッファフラッシュが発生したとき
- PIPEnCTR.ACLRM ビットに 1 を書くことより、FIFO バッファが書き込み不可能な状態から書き込み可能な状態になったとき

DCP に対しては（コントロール転送でのデータ送信においては）要求トリガは発生しません。

(b)　受信パイプの場合

- 当該パイプに割り付けた FIFO バッファへの CPU からの読み出しが不可能な状態のとき（BSTS ビットの読み出し値が 0 のとき）に、パケット受信が正常に完了し、FIFO バッファが読み出し可能状態になったとき。DATA-PID 不一致のトランザクションに対し、要求トリガは発生しません。
- FIFO バッファをダブルバッファモードに設定しているときで、片方の FIFO バッファ読み出し完了時にもう一方の FIFO バッファも読み出し可能であったとき。FIFO バッファからの読み出し中にもう一方の FIFO バッファが受信を完了しても、現在読み出し中の面が読み出し完了になるまで要求トリガは発生しません。

デバイスコントローラモードでは、コントロール転送のステータスステージでは BRDY 割り込みは発生しません。選択パイプの PIPEnBRDY 割り込みステータスは、関連する PIPEnBRDY ビットにソフトウェアで 0 を書くことにより 0 にすることが可能です。この場合、他の PIPEnBRDY ビットは 1 にしてください。

BRDY ステータスのクリアは、FIFO バッファへのアクセスを行う前に実施してください。

(2)　SOFCFG.BRDYM ビットが 0 かつ PIPECFG.BFRE ビットが 1 のとき

この設定の場合、USBFS は、受信パイプにおいて 1 転送分の全データ読み出し完了時に BRDY 割り込みを発生させ、BRDYSTS レジスタの当該パイプに関連付けられているビットを 1 にします。

USBFS は、以下のいずれかのときに、1 転送における最後のデータを受信したと判定します。

- Zero-Length パケットを含むショートパケットを受信したとき
- パイプ n トランザクションカウンタレジスタ（PIPEnTRN）を使用し、PIPEnTRN.TRNCNT[15:0] ビット

設定値分のパケットを受信したとき

上記判定条件を満たした後、そのデータの読み出しが完了したときに、USBFS は 1 転送分の全データ読み出し完了と判断します。

FIFO バッファが空の状態で Zero-Length パケットを受信した場合は、FIFO ポートコントロールレジスタの FRDY ビットが 1、DTLN[8:0] ビットが 0 の状態になった時点で、USBFS は 1 転送分の全データ読み出し完了と判断します。この場合、次の転送を開始するためには、関連するポートコントロールレジスタの BCLR ビットにソフトウェアで 1 を書いてください。この設定の場合には、USBFS は送信パイプに対して BRDY 割り込みを検出しません。

パイプの PIPEnBRDY 割り込みステータスは、関連する BRDYSTS.PIPEnBRDY ビットにソフトウェアで 0 を書くことにより 0 にすることが可能です。この場合、他の PIPEnBRDY ビットは 1 にしてください。

このモードを使用するときには、1 転送分のすべてのデータの処理を終了するまで PIPECFG.BFRE ビットの設定値を変更しないでください。処理が完了する前に PIPECFG.BFRE ビットの変更が必要なときは、PIPEnCTR.ACLRM ビットで当該パイプのすべての FIFO バッファをクリアしてください。

(3)　SOFCFG.BRDYM ビットが 1 かつ PIPECFG.BFRE ビットが 0 のとき

この設定の場合、BRDYSTS.PIPEnBRDY ビットの値は各パイプの BSTS ビットに連動します。すなわち、BRDY 割り込みステータスビット（PIPEnBRDY）は FIFO バッファの状態によって USBFS が 1 または 0 にします。

(a)　送信パイプの場合

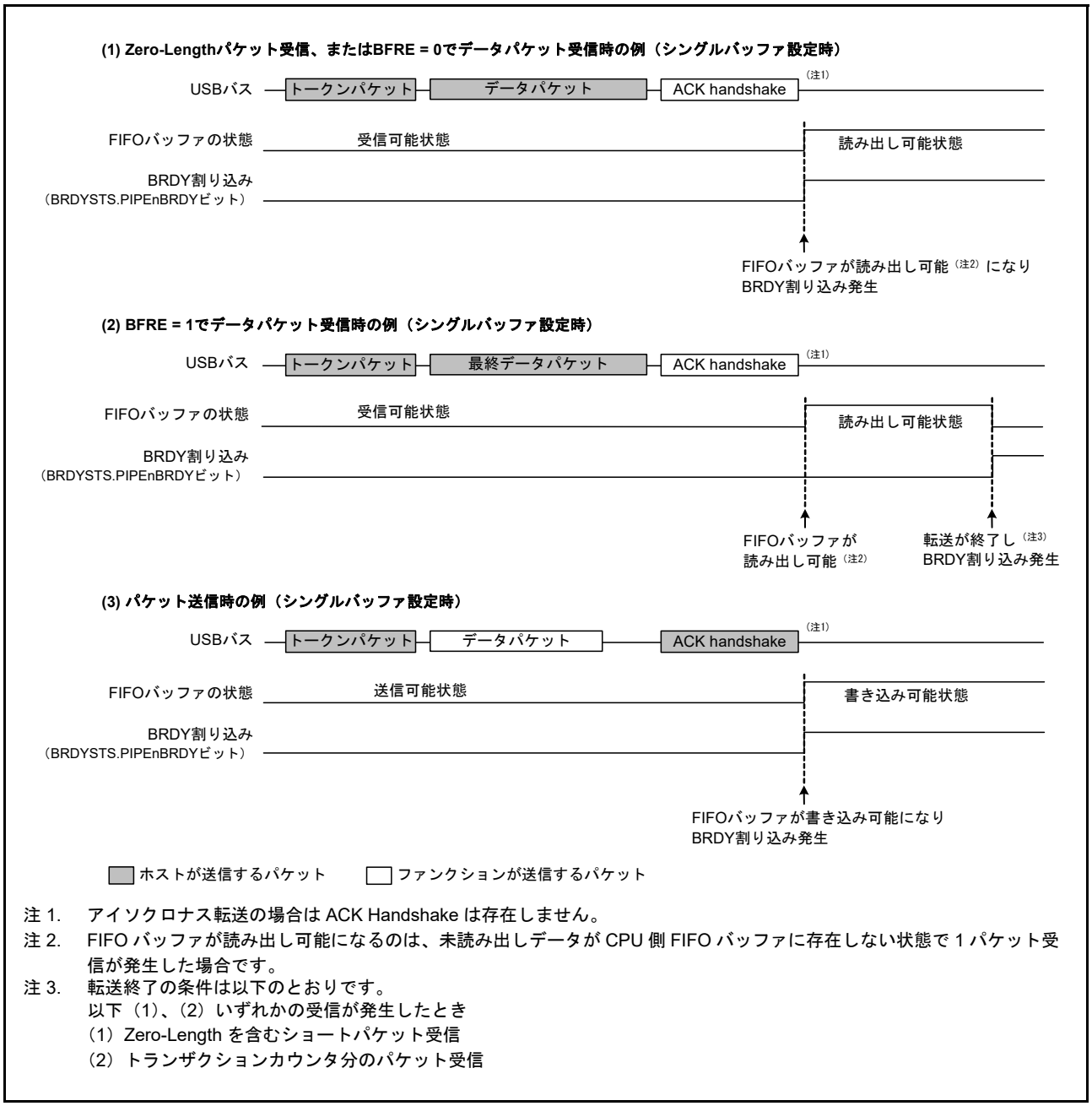
BRDY 割り込みステータスビットは、FIFO バッファにデータが書き込み可能な状態であれば 1 になり、書き込み不可能な状態になれば 0 になります。送信方向の DCP が書き込み可能であっても、BRDY 割り込みは発生しません。

(b)　受信パイプの場合

BRDY 割り込みステータスビットは、FIFO バッファからデータが読み出し可能であれば 1 になり、すべてのデータを読み出したら（読み出しが不可能になったら）0 になります。

FIFO バッファが空の状態で Zero-Length パケットを受信した場合、ソフトウェアで BCLR に 1 を書くまで、関連するビットには 1 が表示され BRDY 割り込みは発生し続けます。この設定の場合、ソフトウェアで PIPEnBRDY ビットを 0 にすることはできません。SOFCFG.BRDYM ビットが 1 のときは、全パイプの PIPECFG.BFRE ビットは 0 にしてください。

図 29.11 に、BRDY 割り込み発生タイミングを示します。



注 1.　アイソクロナス転送の場合は ACK Handshake は存在しません。
注 2.　FIFO バッファが読み出し可能になるのは、未読み出しデータが CPU 側 FIFO バッファに存在しない状態で 1 パケット受信が発生した場合です。
注 3.　転送終了の条件は以下のとおりです。
以下（1）、（2）いずれかの受信が発生したとき
（1）Zero-Length を含むショートパケット受信
（2）トランザクションカウンタ分のパケット受信

図 29.11　BRDY 割り込み発生タイミング

INTSTS0.BRDY ビットがクリアされる条件は、表 29.16 に示すように、SOFCFG.BRDYM ビットの設定値によって異なります。

表 29.16　BRDY ビットクリア条件

BRDYM ビット	BRDY ビットのクリア条件
0	ソフトウェアで BRDYSTS レジスタの全ビットを 0 にしたとき
1	全パイプの BSTS ビットが 0 になったとき

29.3.3.2　NRDY 割り込み

ソフトウェアで PID = BUF に設定したパイプに対して、USBFS が内部 NRDY 割り込み要求を発生させた場合に、USBFS は関連する NRDYSTS.PIPEnNRDY ビットを 1 にします。ソフトウェアによって NRDYENB レジスタの関連するビットを 1 にしている場合、USBFS は INTSTS0.NRDY ビットを 1 にし、USBFS 割り込みを発生させます。

USBFS が、あるパイプに対して内部 NRDY 割り込み要求を発生させる条件を以下に示します。

ホストコントローラモードでの SETUP トランザクション実行時は、内部 NRDY 割り込み要求を発生させません。ホストコントローラモード時の SETUP トランザクションでは、SACK 割り込みまたは SIGN 割り込みを検出します。

デバイスコントローラモードでのコントロール転送ステータスステージ実行時は、内部 NRDY 割り込み要求を発生させません。

(1)　ホストコントローラモード時

(a)　送信パイプの場合

USBFS は、以下のいずれかの条件を満たした場合に、NRDY 割り込みを検出します。

- 転送タイプがアイソクロナスのパイプにおいて、FIFO バッファに送信データがない状態で OUT トークン発行タイミングに達したとき。このとき USBFS は、OUT トークンに続けて Zero-Length パケットを送信し、関連する NRDYSTS.PIPEnNRDY ビットを 1 にし、FRMNUM.OVRN ビットも 1 にします。
- 転送タイプがアイソクロナス以外のパイプ、かつ SETUP トランザクション以外の通信において、以下の 2 つのケースが任意の組み合わせで 3 回連続で発生したとき：
  - 周辺デバイスからの応答がないとき（周辺デバイスからのハンドシェイクパケットを検出する前にタイムアウトが検出されるとき）
  - 周辺デバイスからのパケットにエラーが検出されるとき。このとき USBFS は、関連する PIPEnNRDY ビットを 1 にし、当該パイプの関連する PID[1:0] ビットの設定値を NAK に変更します。
- SETUP トランザクション以外の通信において、周辺デバイスから STALL ハンドシェイクを受信したとき。このとき USBFS は、関連する PIPEnNRDY ビットを 1 にし、関連するパイプの PID[1:0] ビットの設定値を STALL（11b）に変更します。

(b)　受信パイプの場合

- 転送タイプがアイソクロナスのパイプにおいて、IN トークン発行タイミングに達したが、FIFO バッファに空きがないとき。このとき USBFS は、IN トークンに対する受信データを破棄し、当該パイプの関連する PIPEnNRDY ビットを 1 にし、OVRN ビットも 1 にします。さらに、IN トークンに対する受信データにパケットエラーを検出した場合には、USBFS は FRMNUM.CRCE ビットも 1 にします。
- 転送タイプがアイソクロナス以外のパイプにおいて、以下の 2 つのケースが任意の組み合わせで 3 回連続で発生したとき：
  - USBFS が発行した IN トークンに対して周辺デバイスから応答がないとき（周辺デバイスからの DATA パケットを検出する前にタイムアウトが検出されるとき）
  - 周辺デバイスからのパケットにエラーが検出されるとき。このとき USBFS は、関連する PIPEnNRDY ビットを 1 にし、当該パイプの関連する PID[1:0] ビットの設定値を NAK に変更します。
- 転送タイプがアイソクロナスのパイプにおいて、IN トークンに対して周辺デバイスから応答がない（周辺デバイスからの DATA パケットを検出する前にタイムアウトが検出されるとき）、または周辺デバイスからのパケットにエラーが検出されるとき。このとき USBFS は、当該パイプの関連する PIPEnNRDY ビットを 1 にします。当該パイプの PID[1:0] ビットの設定値変更は行いません。
- 転送タイプがアイソクロナスのパイプにおいて、受信したデータパケットに CRC エラーまたはビットスタッフィングエラーが検出されるとき。このとき USBFS は、当該パイプの関連する PIPEnNRDY ビットを 1 にし、CRCE ビットを 1 にします。

- STALL ハンドシェイクを受信したとき。このとき USBFS は、当該パイプの関連する PIPEnNRDY ビットを 1 にし、関連するパイプの PID[1:0] ビットの設定値を STALL に変更します。

(2) デバイスコントローラモード時

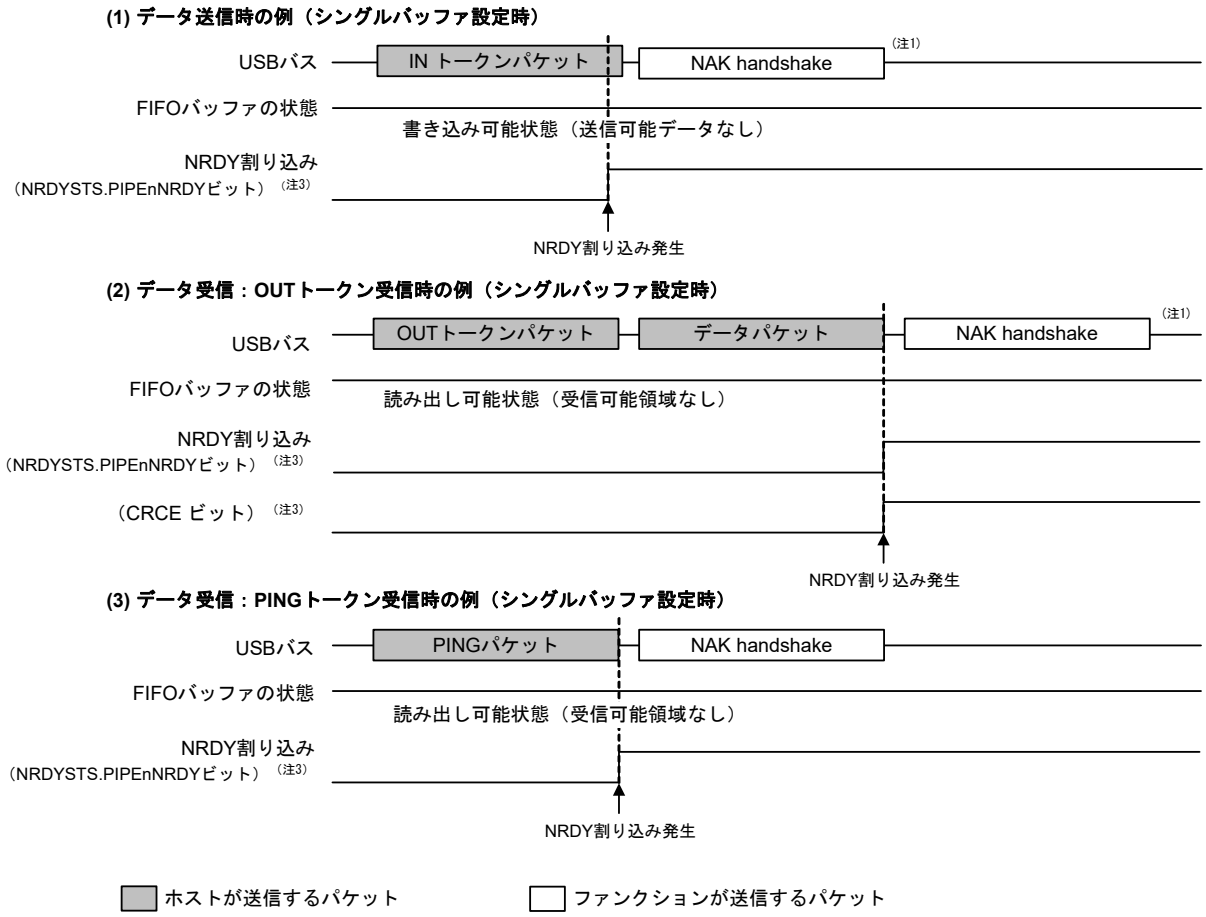
(a) 送信パイプの場合

- FIFO バッファに送信データがない状態で IN トークンを受信したとき。このとき USBFS は、IN トークン受信時に NRDY 割り込み要求を発生させ NRDYSTS.PIPEnNRDY ビットを 1 にします。割り込み発生パイプの転送タイプがアイソクロナスの場合、USBFS は Zero-Length パケットを送信し、FRMNUM.OVRN ビットを 1 にします。

(b) 受信パイプの場合

- OUT トークンを受信したが、FIFO バッファに空きがないとき。割り込み発生パイプの転送タイプがアイソクロナスの場合、OUT トークン受信時に USBFS は NRDY 割り込み要求を発生させ、PIPEnNRDY ビットを 1 にし、OVRN ビットを 1 にします。割り込み発生パイプの転送タイプがアイソクロナス以外の場合、OUT トークンに続くデータ受信後 NAK ハンドシェイクが送信されるときに USBFS は NRDY 割り込み要求を発生させ、PIPEnNRDY ビットを 1 にします。DATA-PID 不一致の発生による再送時には、NRDY 割り込み要求を発生させません。また、DATA パケットにエラーがある場合にも、NRDY 割り込み要求を発生させません。
- 転送タイプがアイソクロナスのパイプにおいて、インターバルフレーム内にトークンが正常受信されなかったとき。このとき USBFS は、SOF 受信のタイミングで NRDY 割り込み要求を発生させ、PIPEnNRDY ビットを 1 にします。

図 29.12 に、デバイスコントローラモード時の NRDY 割り込み発生タイミングを示します。



注 1.　アイソクロナス転送の場合は handshake は存在しません。
注 2.　当該パイプの転送タイプがアイソクロナス転送の場合のときのみ CRCE ビットなどが変化します。
注 3.　PIPEnPID[1:0] ビットが 01b に設定（BUF 応答）されたときのみ、PIPEnNRDY ビットの値が 1 に変わります。

図 29.12　デバイスコントローラモード時の NRDY 割り込み発生タイミング

29.3.3.3　BEMP 割り込み

ソフトウェアで PID = BUF に設定したパイプに対して、BEMP 割り込みを検出すると、USBFS は関連する BEMPSTS.PIPEnBEMP ビットを 1 にします。ソフトウェアによって BEMPENB レジスタの関連するビットを 1 にしている場合、USBFS は INTSTS0.BEMP ビットを 1 にし、USBFS 割り込みを発生させます。以下に、USBFS が内部 BEMP 割り込み要求を発生させる条件を示します。

(1)　送信パイプの場合

送信完了時（Zero-Length パケットの送信時を含む）に、関連するパイプの FIFO バッファが空のとき、シングルバッファモード時は、DCP 以外のパイプに対しては BRDY 割り込みと同時に内部 BEMP 割り込み要求を発生させます。以下のいずれかの場合は、内部 BEMP 割り込み要求を発生させません。

- ダブルバッファモードで、片方の FIFO バッファからのデータ送信完了時に、CPU または DMAC/DTC が CPU 側の FIFO バッファに対する書き込みを開始しているとき
- PIPEnCTR.ACLRM ビットまたはポートコントロールレジスタの BCLR ビットを 1 にしてバッファをクリア（空に）したとき
- デバイスコントローラモードでのコントロール転送ステータスステージの IN 転送（Zero-Length パケット送信）を実行したとき

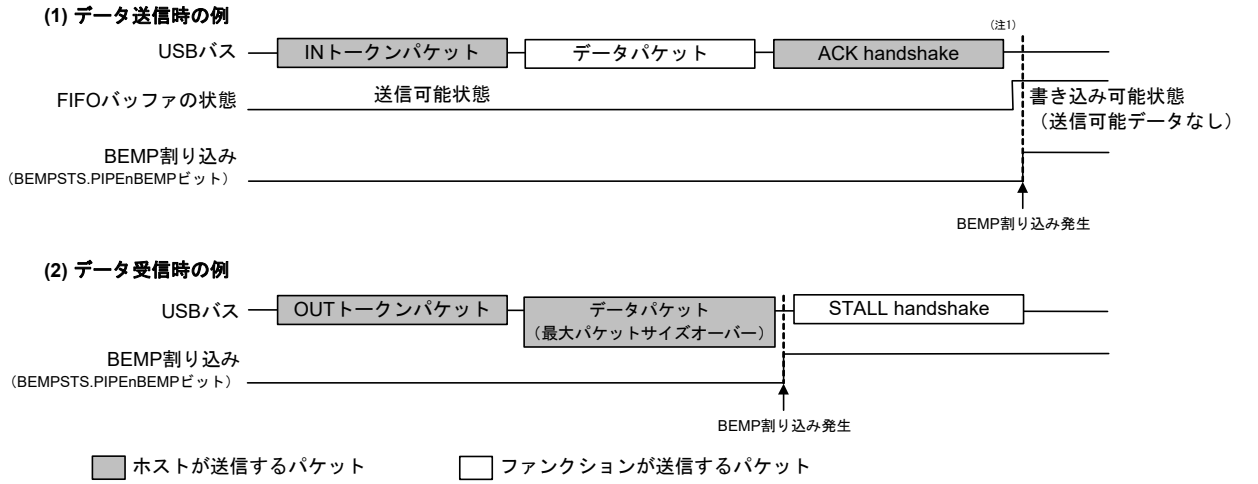
(2)　受信パイプの場合

指定された最大パケットサイズより大きなデータパケットサイズを正常受信したとき。このとき USBFS は、BEMP 割り込み要求を発生させ、関連する BEMPSTS.PIPEnBEMP ビットを 1 にし、受信データを破棄し、当該パイプの関連する PID[1:0] ビットの設定を STALL（11b）に変更します。USBFS は、ホストコントローラモードでは応答を返さず、デバイスコントローラモードでは STALL 応答を行います。

以下のいずれかの場合は、内部 BEMP 割り込み要求を発生させません。

- 受信データに CRC エラーまたはビットスタッフィングエラーを検出したとき
- SETUP トランザクション実行時
  - BEMPSTS.PIPEnBEMP ビットに 0 を書くことにより、ステータスをクリアすることが可能です
  - BEMPSTS.PIPEnBEMP ビットに 1 を書いても、動作に影響ありません

図 29.13 に、デバイスコントローラモード時の BEMP 割り込み発生タイミングを示します。



注 1.　アイソクロナス転送の場合は handshake は存在しません。

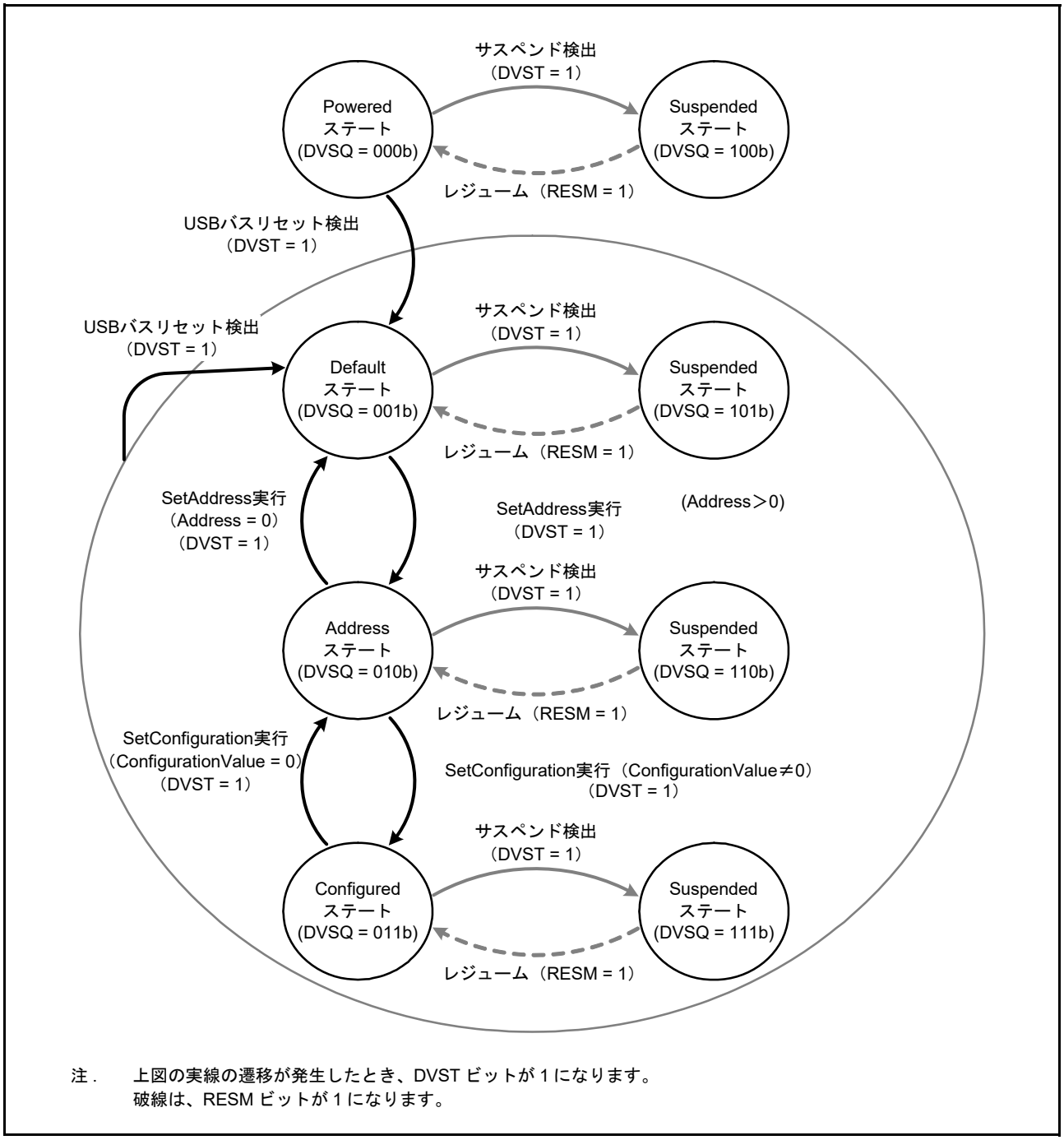
図 29.13　　デバイスコントローラモード時の BEMP 割り込み発生タイミング

29.3.3.4　デバイスステート遷移割り込み（デバイスコントローラモード）

図 29.14 に、USBFS のデバイスステート遷移図を示します。USBFS はデバイスステートを制御し、デバイスステート遷移割り込みを発生させます。ただし、Suspended ステートからの復帰（レジューム信号検出）は、レジューム割り込みで検出します。デバイスステート遷移割り込みの許可／禁止は、INTENB0 レジスタで個別に指定できます。状態が変化したデバイスは、INTSTS0.DVSQ[2:0] ビットで確認できます。

Default ステートに遷移する場合には、USB バスリセット検出後に、デバイスステート遷移割り込みが発生します。

デバイスステートは USBFS が制御し、デバイスステート遷移割り込みはデバイスコントローラモードでのみ発生させることが可能です。



注．　上図の実線の遷移が発生したとき、DVST ビットが 1 になります。
　　破線は、RESM ビットが 1 になります。

図 29.14　デバイスステートの遷移

29.3.3.5　コントロール転送ステージ遷移割り込み（デバイスコントローラモード時）

図 29.15 に USBFS のコントロール転送ステージ遷移図を示します。USBFS はコントロール転送のシーケンスを制御し、コントロール転送ステージ遷移割り込みを発生させます。コントロール転送ステージ遷移割り込みは、INTENB0 レジスタで個別に許可または禁止できます。遷移が発生した転送ステージは、INTSTS0.CTSQ[2:0] ビットで確認できます。

コントロール転送ステージ遷移割り込みは、デバイスコントローラモードでのみ発生します。ここではコントロール転送のシーケンスエラーについて説明します。エラーが発生した場合は、DCPCTR.PID[1:0] ビットが 1xb（STALL 応答）になります。

(1)　コントロールリード転送エラー

- データステージの IN トークンに対して一度もデータ転送していない状態で OUT トークンを受信
- ステータスステージで IN トークンを受信
- ステータスステージで DATAPID = DATA0 のデータパケットを受信

(2)　コントロールライト転送エラー

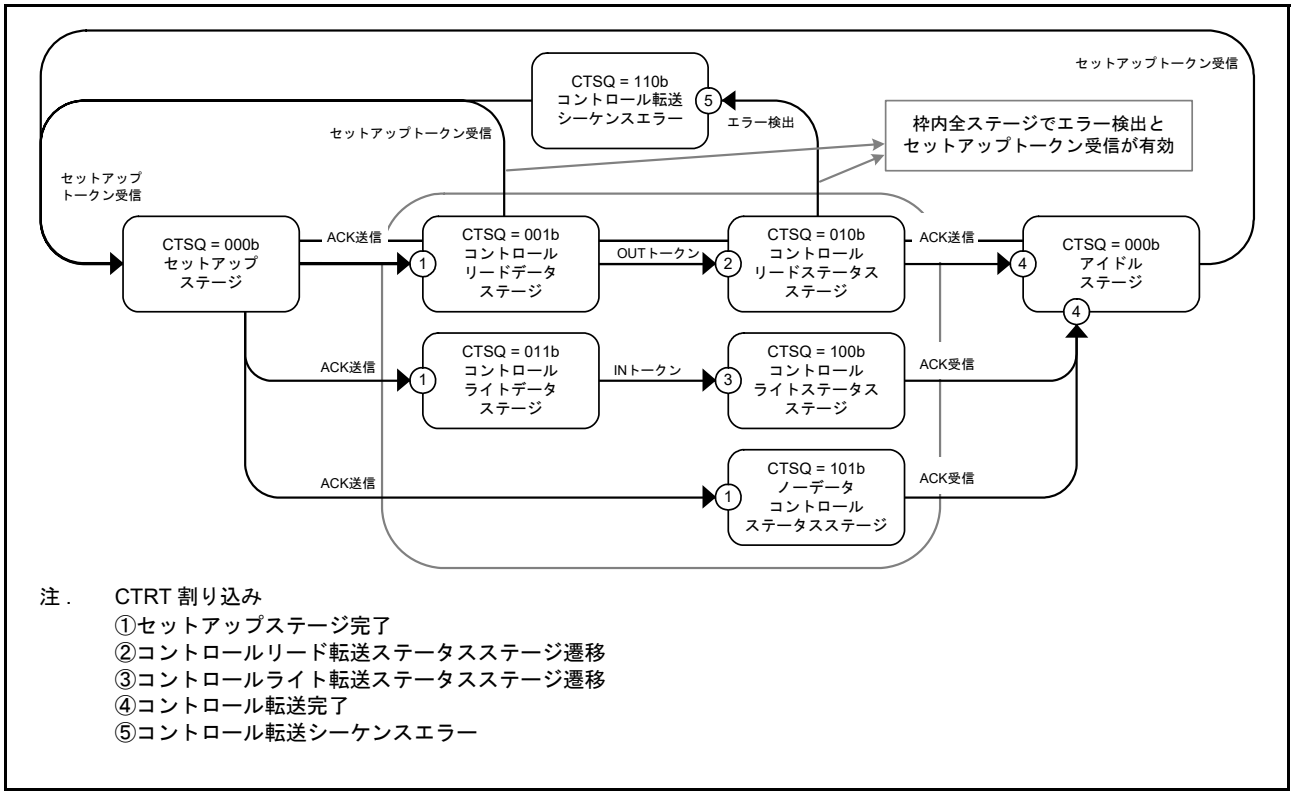
- データステージの OUT トークンに対して一度も ACK 応答していない状態で IN トークンを受信
- データステージで最初のデータパケットとして DATAPID = DATA0 のデータパケットを受信
- ステータスステージで OUT トークンを受信

(3)　コントロールライトノーデータ転送エラー

- ステータスステージで OUT トークンを受信

コントロールライト転送データステージで、受信データ長が USB リクエストの wLength 値を超えた場合は、コントロール転送シーケンスエラーと認識されません。コントロールリード転送ステータスステージで、Zero-Length パケット以外のパケット受信には、ACK 応答を行い転送は正常終了します。

シーケンスエラーによる CTRT 割り込み発生時（INTSTS0.CTRT = 1）は、CTRT ビットに 0 を書いて割り込みステータスクリアが行われるまで、CTSQ[2:0] = 110b の値が保持されます。CTSQ[2:0] = 110b が保持されている状態では、新しい USB リクエストを受信しても、セットアップステージ完了の CTRT 割り込みは発生しません。セットアップステージ完了ステータスは USBFS が保持しており、ソフトウェアによる割り込みステータスクリア後に、USBFS が CTRT 割り込みを発生させます。



注 .　CTRT 割り込み
①セットアップステージ完了
②コントロールリード転送ステータスステージ遷移
③コントロールライト転送ステータスステージ遷移
④コントロール転送完了
⑤コントロール転送シーケンスエラー

図 29.15　コントロール転送ステージの遷移

29.3.3.6　フレーム番号更新割り込み

ホストコントローラモードでは、フレーム番号が更新されると割り込みが発生します。

デバイスコントローラモードでは、フレーム番号が更新されると SOFR 割り込みが発生します。USBFS は、フルスピード動作中に新しい SOF パケットを検出すると、フレーム番号を更新して SOFR 割り込みを発生させます。

29.3.3.7　VBUS 割り込み

USB_VBUS 端子レベルに変化があった場合に VBUS 割り込みが発生します。INTSTS0.VBSTS ビットにて USB_VBUS 端子のレベルを確認できます。VBUS 割り込みによって、ホストコントローラの接続および切断の確認ができます。ホストコントローラが接続された状態でシステムが起動された場合は、USB_VBUS 端子レベルが変化しないため、最初の VBUS 割り込みは発生しません。

29.3.3.8　レジューム割り込み

デバイスコントローラモードでは、デバイスステートが Suspended ステートで USB バスステートが変化（J-State → K-State または J-State → SE0）したときにレジューム割り込みが発生します。レジューム割り込みによって Suspended ステートからの復帰を検出します。

ホストコントローラモードでは、レジューム割り込みは発生しません。USB バスステートの変化は BCHG 割り込みを用いて検出してください。

29.3.3.9　OVRCR 割り込み

USB_OVRCURA 端子レベルまたは USB_OVRCURB 端子レベルに変化があった場合に、OVRCR 割り込みが発生します。SYSSTS0.OVCMON[1:0] ビットで、USB_OVRCURA 端子および USB_OVRCURB 端子のレベルを確認できます。OVRCR 割り込みによって外部電源 IC からオーバーカレント検出の確認ができます。

OTG 接続時には、OVRCR 割り込みで VBUS コンパレータ変化検出の確認ができます。

29.3.3.10 BCHG 割り込み

USB バスステートに変化があった場合に、BCHG 割り込みが発生します。BCHG 割り込みは、ホストコントローラモードでの周辺デバイスの接続、リモートウェイクアップの検出に使用します。BCHG 割り込みは、ホストコントローラモードとデバイスコントローラモードの両方で発生します。

29.3.3.11 DTCH 割り込み

ホストコントローラモード時に USB バス切断を検出した場合、DTCH 割り込みが発生します。USBFS は、USB2.0 規格に準じてバス切断を検出します。

割り込みが検出されたら、当該ポートに対して通信を行っているすべてのパイプをソフトウェアで終了させてください。通信を終了したパイプは、当該ポートへのバス接続（ATTCH 割り込み発生）待ちの状態に遷移します。関連する割り込み許可ビットの設定値にかかわらず、USBFS ハードウェアは以下の処理を行います。

- DTCH 割り込みを検出したポートの DVSTCTR0.UACT ビットを 0 にする
- DTCH 割り込みが発生したポートをアイドル状態に遷移させる

29.3.3.12 SACK 割り込み

ホストコントローラモード時に、送信した Setup パケットに対して周辺デバイスからの ACK 応答を受信した場合に、SACK 割り込みが発生します。SACK 割り込みにより、SETUP トランザクションが正常に終了したことを知ることができます。

29.3.3.13 SIGN 割り込み

ホストコントローラモード時に、送信した Setup パケットに対して周辺デバイスからの ACK 応答を 3 回連続で正常に受信できなかった場合、SIGN 割り込みが発生します。SIGN 割り込みを使用して、周辺デバイスが ACK を送信しなかった場合や、ACK パケットの破損を検出することが可能です。

29.3.3.14 ATTCH 割り込み

ホストコントローラモード時、USB ポートにフルスピード信号レベルの J-State または K-State を 2.5µs 間検出した場合、ATTCH 割り込みが発生します。ATTCH 割り込み検出条件は、具体的には以下のとおりです。

- K-State、SE0、または SE1 から J-State に変化し、J-State のまま 2.5µs 間継続したとき
- J-State、SE0、または SE1 から K-State に変化し、K-State のまま 2.5µs 間継続したとき

29.3.3.15 EOFERR 割り込み

USB2.0 規格で定められている EOF2 タイミング時点で通信が終了しないことを USBFS が検出した場合、EOFERR 割り込みが発生します。

割り込み検出時には、該当ポートに対して通信を行っているパイプをすべてソフトウェアで終了させ、該当ポートへの再エニュメレーションを行ってください。関連する割り込み許可ビットの設定値にかかわらず、USBFS ハードウェアは以下の処理を行います。

- EOFERR 割り込みを検出したポートの DVSTCTR0.UACT ビットを 0 にする
- EOFERR 割り込みが発生したポートをアイドル状態に遷移させる

29.3.4　パイプコントロール

表 29.17 に USBFS のパイプ設定項目一覧を示します。USB データ転送は、ソフトウェアがエンドポイントと関連付けた論理パイプにて行います。USBFS にはデータ転送用に 10 本のパイプがあります。各パイプは、ユーザシステムの仕様に合わせて設定を行ってください。

表 29.17　パイプ設定項目

レジスタ名	ビット名	設定内容	備考
DCPCFG PIPECFG	TYPE	転送タイプ	パイプ1～9：設定可能
	BFRE	BRDY割り込みモード	パイプ1～5：設定可能
	DBLB	ダブルバッファ選択	パイプ1～5：設定可能
	DIR	転送方向選択	INまたはOUT設定可能
	EPNUM	エンドポイント番号	パイプ1～9：設定可能 パイプ使用時は0000b以外に設定
	SHTNAK	転送終了時のパイプ禁止選択	パイプ1～2：バルク転送時のみ設定可能 パイプ3～5：設定可能
DCPMAXP PIPEMAXP	DEVSEL	デバイス選択	ホストコントローラモード時のみ参照
	MXPS	最大パケットサイズ	USB2.0規格準拠
PIPEPERI	IFIS	バッファフラッシュ	パイプ1～2：アイソクロナス転送時のみ設定可能 パイプ3～9：設定不可能
	IITV	インターバルカウンタ	パイプ1～2：アイソクロナス転送時のみ設定可能 パイプ3～5：設定不可能 パイプ6～9：ホストコントローラモード時のみ設定可能
DCPCTR PIPEnCTR	BSTS	バッファステータス	DCPはISELビットにより、受信／送信バッファ状態を切り替えます。
	INBUFM	INバッファモニタ	パイプ1～5のみ搭載
	SUREQ	SETUPリクエスト	DCPのみ設定可能、ホストコントローラモード時のみ制御
	SUREQCLR	SUREQクリア	DCPのみ設定可能、ホストコントローラモード時のみ制御
	ATREPM	自動応答モード	パイプ1～5：デバイスコントローラモード時のみ設定可能
	ACLRM	自動バッファクリア	パイプ1～9：設定可能
	SQCLR	シーケンスクリア	データトグルビットのクリア
	SQSET	シーケンスセット	データトグルビットのセット
	SQMON	シーケンスモニタ	データトグルビットの監視
	PBUSY	パイプビジーステータス	-
	PID	応答PID	29.3.4.6　応答PIDを参照してください。
PIPEnTRE	TRENB	トランザクションカウンタ許可	パイプ1～5：設定可能
	TRCLR	カレントトランザクションカウンタのクリア	パイプ1～5：設定可能
PIPEnTRN	TRNCNT	トランザクションカウンタ	パイプ1～5：設定可能

29.3.4.1　パイプコントロールレジスタの切り替え手順

USB 通信が許可（PID = BUF）されているときは、以下のビットを変更しないでください。パイプコントロールレジスタの以下のビットを変更できるのは、USB 通信が禁止（PID = NAK）されている場合のみです。

- DCPCFG レジスタ、DCPMAXP レジスタの各ビット
- DCPCTR.SQCLR、SQSET ビット
- PIPECFG レジスタ、PIPEMAXP レジスタ、PIPEPERI レジスタの各ビット
- PIPEnCTR.ATREPM、ACLRM、SQCLR、SQSET ビット
- PIPEnTRE レジスタ、PIPEnTRN レジスタの各ビット

USB 通信が許可（PID = BUF）されている状態で、上記の各ビットを設定する場合は、以下の手順で行ってください。

1. パイプコントロールレジスタのビット変更要求が発生します。
2. 当該パイプの PID[1:0] ビットを NAK にします。
3. 当該パイプの PBUSY ビットが 0 になるまで待ちます。
4. パイプコントロールレジスタのビット設定を開始します。

CURPIPE[3:0] ビットが設定されているときは、以下のビットを設定しないでください。パイプコントロールレジスタの以下のビットを変更できるのは、CFIFOSEL レジスタ、D0FIFOSEL レジスタ、および D1FIFOSEL レジスタの CURPIPE[3:0] ビットに選択パイプ情報が設定されていない場合のみです。

- DCPCFG レジスタ、DCPMAXP レジスタの各ビット
- PIPECFG レジスタ、PIPEMAXP レジスタ、PIPEPERI レジスタの各ビット

パイプ情報を変更する場合には、ポート選択レジスタの CURPIPE[3:0] ビットの設定を変更パイプ以外に指定してください。DCP についてはパイプ情報修正後、ポートコントロールレジスタの BCLR ビットにてバッファのクリア処理をしてください。

29.3.4.2　転送タイプ

PIPECFG.TYPE[1:0] ビットで各パイプに以下の転送タイプを設定します。

- DCP：設定不要（コントロール転送固定）
- パイプ 1 ～ 2：バルク転送またはアイソクロナス転送を設定
- パイプ 3 ～ 5：バルク転送を設定
- パイプ 6 ～ 9：インタラプト転送を設定

29.3.4.3　エンドポイント番号

PIPECFG.EPNUM[3:0] ビットにて、各パイプのエンドポイント番号を設定します。DCP は、エンドポイント 0 に固定されています。他のパイプは、エンドポイント 1 からエンドポイント 15 までの設定が可能です。

- DCP：設定不要（エンドポイント 0 固定）
- パイプ 1 ～ 9：1 から 15 までのエンドポイント番号を選択して設定してください。ただし、PIPECFG.DIR ビットと EPNUM[3:0] ビットの組み合わせが重複しないようにしてください

29.3.4.4　最大パケットサイズ設定

DCPMAXP.MXPS[6:0] ビットおよび PIPEMAXP.MXPS[8:0] ビットにて各パイプの最大パケットサイズを設定します。DCP およびパイプ 1 ～ 5 は USB2.0 規格で定義されているすべての最大パイプサイズに設定が可能です。パイプ 6 ～ 9 では、64 バイトが最大パケットサイズです。最大パケットサイズは、転送を開始（PID = BUF）する前に、以下のように設定してください。

- DCP：8、16、32、64 から選択して設定
- パイプ 1 ～ 5：バルク転送時は 8、16、32、64 から選択して設定
- パイプ 1 ～ 2：アイソクロナス転送時は 1 から 256 の値を設定
- パイプ 6 ～ 9：1 から 64 の値を設定

29.3.4.5　トランザクションカウンタ（受信方向パイプ 1 ～ 5）

USBFS は、データパケット受信方向で、指定回数のトランザクションが終了した場合に、転送終了と認識します。トランザクションカウンタには以下の 2 つがあります。

- 実行するトランザクション回数を指定する PIPEnTRN レジスタ
- 実行されたトランザクション回数を内部でカウントするカレントカウンタ

PIPECFG.SHTNAK ビットが 1 の状態でカレントカウンタの値がトランザクションの指定回数と一致すると、関連する PIPEnCTR.PID[1:0] ビットが NAK に設定され、次の転送を禁止状態にします。PIPEnTRE.TRCLR ビットにて、トランザクションカウンタ機能のカレントカウンタを初期化し、トランザクションを最初からカウントし直すことができます。PIPEnTRE.TRENB ビットの設定により、PIPEnTRN レジスタ読み出し時のデータは以下のように異なります。

- TRENB ビットが 0：トランザクションカウンタの設定値を読み出し可能
- TRENB ビットが 1：内部でカウントした実行済みトランザクション数を示すカレントカウンタ値を読み出し可能

TRCLR ビットの操作には、以下の制限事項があります。

- トランザクションカウント中かつ PID = BUF の場合、カレントカウンタはクリア不可
- バッファ内にデータが残っている状態ではカレントカウンタはクリア不可

29.3.4.6　応答 PID

DCPCTR レジスタおよび PIPEnCTR レジスタの PID[1:0] ビットで、各パイプの応答 PID を設定します。ここでは、各応答 PID 設定における USBFS の動作について説明します。

(1)　ソフトウェアの応答 PID 設定（ホストコントローラモード時）

応答 PID を選択して、以下のようにトランザクションの実行について指定します。

- NAK 設定：パイプ禁止状態かつトランザクション実行なし
- BUF 設定：FIFO バッファの状態に応じて下記のトランザクションを実行
  - OUT 方向の場合：FIFO バッファに送信データがある場合、OUT トークンを発行
  - IN 方向の場合：FIFO バッファに空きがあり受信可能な場合に、IN トークンを発行
- STALL 設定：パイプ禁止状態かつトランザクション実行なし

注 .　DCP の SETUP トランザクションを実行するには、DCPCTR.SUREQ ビットを使用してください。

(2)　ソフトウェアの応答 PID 設定（デバイスコントローラモード時）

応答 PID を選択して、以下のようにホストからのトランザクションに応答します。

- NAK 設定：発生したすべてのトランザクションに対して NAK 応答を返答

- BUF 設定：FIFO バッファの状態に応じてトランザクションに応答
- STALL 設定：発生したすべてのトランザクションに対して STALL 応答を返答

注 .　SETUP トランザクションに対しては、PID[1:0] ビットの設定にかかわらず、常に ACK 応答し、レジスタに USB リクエストを格納します。

以下の (3) および (4) では、特定のトランザクションの結果に従って USBFS が PID[1:0] ビットに書き込みを行う状況について説明します。

(3)　ハードウェアの応答 PID 設定（ホストコントローラモード時）

- NAK 設定：以下の場合に PID＝NAK となり、トークンの発行が自動的に停止
  - アイソクロナス以外の転送で、NRDY 割り込みが発生したとき
    （詳細は、29.3.3.2　NRDY 割り込みを参照してください。）
  - バルク転送時で PIPECFG.SHTNAK ビットが 1 の場合にショートパケットを受信したとき
  - バルク転送時で PIPECFG.SHTNAK ビットが 1 の場合にトランザクションカウンタが終了したとき
- BUF 設定：USBFS によるこの設定の書き込みはなし
- STALL 設定：以下の場合に PID＝STALL となり、トークンの発行が自動的に停止
  - 送信したトークンに対して STALL を受信したとき
  - 最大パケットサイズより大きなデータパケットを受信したとき

(4)　ハードウェアの応答 PID 設定（デバイスコントローラモード時）

- NAK 設定：以下の場合に PID＝NAK となり、トランザクションに対し NAK 応答が発生
  - SETUP トークンを正常に受信したとき（DCP のみ）
  - バルク転送時で PIPECFG.SHTNAK ビットが 1 の場合に、トランザクションカウンタが終了したとき、またはショートパケットを受信したとき
- BUF 設定：USBFS による BUF 書き込みはなし
- STALL 設定：以下の場合に PID＝STALL となり、トランザクションに対し STALL 応答が発生
  - 最大パケットサイズより大きなデータパケットを受信したとき
  - コントロール転送シーケンスエラーを検出したとき（DCP のみ）

29.3.4.7　データ PID シーケンスビット

コントロール転送のデータステージ、バルク転送、インタラプト転送において正常なデータ転送が行われると、USBFS がデータ PID のシーケンスビットを自動的にトグルします。次に送出されるデータ PID のシーケンスビットは、DCPCTR レジスタおよび PIPEnCTR レジスタの SQMON ビットにて確認できます。データ送信時は ACK ハンドシェイク受信のタイミングでシーケンスビットが切り替わります。データ受信時は ACK ハンドシェイク送信のタイミングでシーケンスビットが切り替わります。DCPCTR レジスタおよび PIPEnCTR レジスタの SQCLR ビット、SQSET ビットにてデータ PID シーケンスビットを変更可能です。

デバイスコントローラモードでのコントロール転送では、ステージ遷移時に USBFS が自動的にシーケンスビットを設定します。セットアップステージ終了時は DATA1 が返されます。ステータスステージではシーケンスビットは参照せず、PID＝DATA1 で応答します。このため、ソフトウェアによる設定は必要ありません。ただし、ホストコントローラモードでのコントロール転送では、ステージ遷移時にシーケンスビットをソフトウェアで設定する必要があります。

ホストコントローラモードとデバイスコントローラモードのどちらの場合でも、ClearFeature リクエストの送信または受信時には、ソフトウェアでデータ PID シーケンスビットを設定する必要があります。

29.3.4.8 応答 PID = NAK 機能

USBFS には、トランザクションの最後のデータパケットの受信タイミングで、パイプ動作を禁止（応答 PID = NAK）する機能があります。USBFS は、ショートパケット受信またはトランザクションカウンタでトランザクションの終了を自動識別します。PIPECFG.SHTNAK ビットが 1 の場合、この機能が有効です。

この機能を使用することで、FIFO バッファをダブルバッファモードで使用している場合に、転送単位でのデータパケットの受信が可能です。パイプ動作が禁止された場合は、ソフトウェアで再度パイプを許可（応答 PID = BUF）する必要があります。

なお、応答 PID = NAK 機能はバルク転送時のみ動作することが可能です。

29.3.4.9 自動応答モード

バルク転送のパイプ 1 ～ 5 において、PIPEnCTR.ATREPM ビットを 1 にすると、自動応答モードとなります。OUT 転送時（PIPECFG.DIR ビットが 0）には OUT-NAK モードとなり、IN 転送時（DIR ビットが 1）には Null 自動応答モードとなります。

29.3.4.10 OUT-NAK モード

バルク OUT 転送のパイプにおいて、PIPEnCTR.ATREPM ビットを 1 にすると、OUT トークンに対して NAK 応答し、NRDY 割り込みを出力します。通常モードから OUT-NAK モードへ遷移させるためには、パイプ動作禁止状態（PID[1:0] ビットが 00b（NAK 応答））で、OUT-NAK モードを指定してください。次に、パイプ動作を許可（PID[1:0] ビットが 01b（BUF 応答））にすると、OUT-NAK モードが有効になります。パイプ動作禁止にする直前で OUT トークンを受け付けた場合は、そのトークンのデータは正常に受信され、ホストへ ACK 応答されます。

OUT-NAK モードから通常モードへ遷移させるためには、パイプ動作禁止状態（NAK）で、OUT-NAK モードを解除してください。次に、パイプ動作を許可（BUF）します。通常モードでは、OUT データ受信が可能となります。

29.3.4.11 Null 自動応答モード

バルク IN 転送のパイプにおいて、PIPEnCTR.ATREPM ビットを 1 にすると、Zero-Length パケットを送信し続けます。

通常モードから Null 自動応答モードへ遷移させるためには、パイプ動作禁止状態（応答 PID = NAK）で、Null 自動応答モードを指定してください。次に、パイプ動作を許可（応答 PID = BUF）すると、Null 自動応答モードが有効になります。ただし、Null 自動応答モードを設定する場合は、バッファ内は空である必要があります。PIPEnCTR.INBUFM ビットが 0 であることを確認してください。INBUFM ビットが 1 の場合には、PIPEnCTR.ACLRM ビットによりバッファを空にしてください。また、Null 自動応答モードへの遷移中は、FIFO ポートからのデータ書き込みは行わないでください。

Null 自動応答モードから通常モードへ遷移させるためには、パイプ動作禁止状態（応答 PID = NAK）を Zero-Length パケット送信分ウェイト（約 10µs）した後、Null 自動応答モードを解除してください。通常モードでは、FIFO ポートからの書き込みが可能となり、パイプ動作許可（応答 PID = BUF）を行うことにより、ホストへのパケット送信が可能となります。

29.3.5　FIFOバッファメモリ

USBFSはデータ転送用のFIFOバッファを備えており、これによって各パイプに使用されるメモリ領域を管理します。FIFOバッファの状態には、アクセス権がシステム（CPU側）にある場合とUSBFS（SIE側）にある場合があります。

(1)　バッファステータス

表29.18および表29.19に、USBFSのバッファステータスを示します。FIFOバッファステータスは、DCPCTR.BSTSビットおよびPIPEnCTR.INBUFMビットを使用して確認できます。FIFOバッファの転送方向は、PIPECFG.DIRビットまたはCFIFOSEL.ISELビット（DCP選択時）で指定します。INBUFMビットは送信方向のパイプ1～5でのみ有効です。

送信側の転送パイプがダブルバッファモードを使用している場合、ソフトウェアはBSTSビットを読み出してCPU側のFIFOバッファステータスを監視し、INBUFMビットを読み出してSIE側のFIFOバッファステータスを監視します。CPUまたはDMA/DTCによるFIFOポートへの書き込みが遅く、BEMP割り込みではバッファの空き状態が判別できない場合に、ソフトウェアはINBUFMビットで送信完了を確認できます。

表29.18　BSTSビットが示すバッファステータス

ISELまたはDIR	BSTS	FIFOバッファステータス
0（受信方向）	0	受信データなし、または受信中。 FIFOポートからの読み出し不可能。
0（受信方向）	1	受信データあり、またはZero-Lengthパケット受信。 FIFOポートからの読み出し可能。 Zero-Lengthパケット受信時は読み出し不可能のためバッファクリアが必要。
1（送信方向）	0	送信未完了。 FIFOポートへの書き込み不可能。
1（送信方向）	1	送信完了。 CPUは書き込み可能。

表29.19　INBUFMビットが示すバッファステータス

DIR	INBUFM	FIFOバッファステータス
0（受信方向）	無効	無効。
1（送信方向）	0	送信完了。 送信可能データなし。
1（送信方向）	1	データがFIFOポートからバッファへ書き込まれた。 送信可能データあり。

29.3.6　FIFOバッファクリア

表 29.20 に、FIFOバッファのクリア方式一覧を示します。FIFOバッファは、ポートコントロールレジスタのBCLRビット、DnFIFOSEL.DCLRMビット、またはPIPEnCTR.ACLRMビットでクリアできます。パイプ1～5は、PIPECFG.DBLBビットにてシングルバッファまたはダブルバッファを選択できます。

表 29.20　バッファクリア方式一覧

FIFOバッファクリアモード	CPU側FIFOバッファクリアモード	指定パイプのデータ読み出し後にFIFOバッファを自動でクリアするモード	すべての受信パケットを破棄するための自動バッファクリアモード
使用するレジスタ	CFIFOCTR DnFIFOCTR	DnFIFOSEL	PIPEnCTR
使用するビット	BCLR	DCLRM	ACLRM
クリア条件	1書き込みでクリア	1：モード有効 0：モード無効	1：モード有効 0：モード無効

(1)　自動バッファクリアモード機能

PIPEnCTR.ACLRMビットが1の場合、USBFSは受信したすべてのデータパケットを破棄します。正常なデータパケットを受信した場合は、ホストコントローラに対してACK応答を行います。自動バッファクリアモード機能は、FIFOバッファ読み出し方向にのみ設定可能です。

ACLRMビットを1にし、続けて0にすると、アクセス方向に関係なく、選択パイプのFIFOバッファがクリアされます。ハードウェアの内部シーケンス実行時間として、ACLRMビットへの1書き込みと0書き込みの間隔を100ns以上とってください。

29.3.7　FIFOポートの機能

表 29.21 にFIFOポート機能設定を示します。データ書き込み時は、最大パケットサイズまで書き込みを行うと、自動的にデータが送信可能状態となります。最大パケットサイズ未満のデータを送信可能状態にするには、ポートコントロールレジスタのBVALフラグを書き込み終了に設定してください。Zero-Lengthパケットを送信するには、BCLRビットでバッファをクリアし、BVALフラグを書き込み終了に設定してください。

読み出し時は、すべてのデータを読み出すと、自動的に新しいパケットを受信可能な状態になります。Zero-Lengthパケット受信時（DTLN[8:0]ビットが0）は、データは読み出せないので、BCLRビットによるバッファクリアが必要です。受信データ長は、ポートコントロールレジスタのDTLN[8:0]ビットにて確認します。

表 29.21　FIFOポート機能設定

レジスタ名	ビット名	機能
CFIFOSEL、 DnFIFOSEL （n = 0, 1）	RCNT	DTLN[8:0]読み出しモード選択
	REW	FIFOバッファリワインド（再読み出し、再書き込み）
	DCLRM	指定パイプの受信データ読み出し後、受信データの自動クリア（DnFIFO専用）
	DREQE	DMA/DTC転送許可（DnFIFO専用）
	MBW	FIFOポートアクセスビット幅
	BIGEND	FIFOポートエンディアン選択
	ISEL	FIFOポートアクセス方向（DCP専用）
	CURPIPE	カレントパイプ選択
CFIFOCTR、 DnFIFOCTR （n = 0, 1）	BVAL	FIFOバッファ書き込み終了
	BCLR	CPU側FIFOバッファクリア
	DTLN	受信データ長確認

(1) FIFO ポート選択

表 29.22 に各 FIFO ポートで選択可能なパイプを示します。ポート選択レジスタの CURPIPE[3:0] ビットにて、アクセスするパイプを選択します。パイプ選択後、書き込んだ CURPIPE[3:0] ビット値が正しく読み出せたかどうかをソフトウェアで確認する必要があります。前回のパイプ番号が読み出された場合には、USBFS がパイプ変更処理中であることを示します。次に、ポートコントロールレジスタの FRDY ビットが 1 であることをソフトウェアで確認します。

また、ポート選択レジスタの MBW ビットでアクセスするバス幅をソフトウェアで指定する必要があります。FIFO バッファアクセス方向は、PIPECFG.DIR ビットの設定値に従います。DCP のみ、ポート選択レジスタの ISEL ビットにより方向を決定します。

表 29.22 パイプ別FIFOポートアクセス

パイプ	アクセス方法	使用可能なポート
DCP	CPUアクセス	CFIFOポートレジスタ
パイプ1～9	CPUアクセス	• CFIFOポートレジスタ • D0FIFO/D1FIFOポートレジスタ
	DMA/DTCアクセス	D0FIFO/D1FIFOポートレジスタ

(2) REW ビット

実行中のパイプアクセスを一時的に中断し、別のパイプに対するアクセスを行ってから、再度最初のパイプの処理を続行することが可能です。このような処理には、ポート選択レジスタの REW ビットを使用します。

ポート選択レジスタの CURPIPE[3:0] ビットでパイプ選択を行うのと同時に REW ビットを 1 にすると、FIFO バッファの読み出しまたは書き込みポインタをリセットし、最初のバイトから読み出しまたは書き込みを行うことができます。REW ビットを 0 にしてパイプ選択を行うと、バッファの読み出しまたは書き込みポインタをリセットせずに、前回選択時の続きから継続してデータの読み出しおよび書き込みができます。FIFO ポートにアクセスするには、パイプ選択後、ポートコントロールレジスタの FRDY ビットが 1 であることをソフトウェアで確認する必要があります。

29.3.8 DMA 転送（D0FIFO/D1FIFO ポート）

(1) DMA 転送概要

パイプ 1 ～ 9 に対して、DMAC による FIFO ポートアクセスが可能です。DMA 転送用のパイプのバッファがアクセス可能になったとき、DMA 転送要求を出力します。

DnFIFOSEL.MBW ビットにて FIFO ポートへの転送単位を、DnFIFOSEL.CURPIPE[3:0] ビットにて DMA 転送するパイプを選択してください。なお、DMA 転送中は選択しているパイプを変更しないでください。

(2) DnFIFO 自動クリアモード（D0FIFO/D1FIFO ポート読み出し方向）

USBFS は、DnFIFOSEL.DCLRM ビットを 1 にすることで、FIFO バッファからのデータ読み出しを完了したとき、選択パイプの FIFO バッファを自動的にクリアします。

表 29.23 に各設定での、パケット受信とソフトウェアによる FIFO バッファクリア処理の関連を示します。表に示すように、PIPECFG.BFRE ビットの設定値によりバッファクリア条件が異なります。バッファクリアが必要などのような状態においても、DnFIFOSEL.DCLRM ビットを使用することでソフトウェアによるバッファクリアが不要になります。ソフトウェアを介在させない DMA 転送が可能となります。

DnFIFO 自動クリアモードは、FIFO バッファ読み出し方向のみ設定できます。

表 29.23　パケット受信とソフトウェアによるFIFOバッファクリア処理

パケット受信時のバッファステータス	レジスタ設定			
	DCLRM = 0		DCLRM = 1	
	BFRE = 0	BFRE = 1	BFRE = 0	BFRE = 1
バッファフル	クリア不要	クリア不要	クリア不要	クリア不要
Zero-Lengthパケット受信	クリア必要	クリア必要	クリア不要	クリア不要
通常のショートパケット受信	クリア不要	クリア必要	クリア不要	クリア不要
トランザクションカウント終了	クリア不要	クリア必要	クリア不要	クリア不要

29.3.9　DCP を使用したコントロール転送

コントロール転送データステージでは、デフォルトコントロールパイプ（DCP）を使用してデータ転送が行われます。DCP の FIFO バッファは、コントロールリードおよびコントロールライト共用の固定領域を持つ 64 バイトシングルバッファです。FIFO バッファへのアクセスは、CFIFO ポートのみ可能です。

29.3.9.1　ホストコントローラモードでのコントロール転送

(1)　セットアップステージ

USBREQ レジスタ、USBVAL レジスタ、USBINDX レジスタ、および USBLENG レジスタは、SETUP トランザクションの USB リクエスト送信用のレジスタです。Setup パケットのデータをレジスタに書き込み、DCPCTR.SUREQ ビットに 1 を書き込むことで、設定されているデータが SETUP トランザクションとして送出されます。SUREQ ビットは、トランザクションが終了すると 0 にクリアされます。SUREQ ビットが 1 のとき、上記 USB リクエストレジスタを操作しないでください。

アタッチされたファンクションデバイスが検出された場合、ソフトウェアで DCPMAXP.DEVSEL[3:0] ビットを 0 に、DEVADD0.USBSPD[1:0] ビットを適切に設定し、前述のシーケンスに従って当該デバイスの最初の SETUP トランザクションを発行してください。

アタッチされたファンクションデバイスが Address ステートに遷移したとき、ソフトウェアによって、DEVSEL[3:0] ビットに割り付けた USB アドレス値を設定し、指定 USB アドレスに対応する DEVADDn レジスタの各ビットを適切に設定した後に、前述のシーケンスに従って SETUP トランザクションを発行してください。たとえば、PIPEMAXP.DEVSEL[3:0] = 0010b のときは、DEVADD2 レジスタを適切に設定してください。PIPEMAXP.DEVSEL[3:0] = 0101b のときは、DEVADD5 レジスタを適切に設定してください。

SETUP トランザクションデータを送信すると、周辺デバイスからの応答に基づき割り込み要求が発生します（INTSTS1 レジスタの SIGN ビットまたは SACK ビット）。この割り込み要求によりソフトウェアで SETUP トランザクション結果を確認できます。

SETUP トランザクションの DATA0 データパケット（USB リクエスト）は、DCPCTR.SQMON ビットのステータスにかかわらず常に送信されます。

(2)　データステージ

DCP の FIFO バッファを使用してデータの転送を行うためにデータステージを使用します。

DCP の FIFO バッファにアクセスする前に、CFIFOSEL.ISEL ビットでアクセス方向を指定してください。DCPCFG.DIR ビットで転送方向を指定してください。

データステージの第 1 データパケットは、データ PID を DATA1 として転送する必要があります。DCPCTR.SQSET ビットでデータ PID を DATA1 に設定し、PID ビットを BUF に設定します。データ転送の完了は、BRDY 割り込みまたは BEMP 割り込みによって検出します。

コントロールライト転送の場合、送信データバイト数が最大パケットサイズの整数倍の場合は、ソフトウェアで最後に Zero-Length パケットを送出してください。

(3)　ステータスステージ

データステージと逆方向の Zero-Length パケットのデータ転送を行うためにステータスステージを使用します。データステージ同様に DCP の FIFO バッファを使用したデータ転送になります。データステージと同様の手順でトランザクションを実行します。

ステータスステージのデータパケットは、DCPCTR.SQSET ビットを使用してデータ PID を DATA1 として送受信する必要があります。

Zero-Length パケットを受信した場合、BRDY 割り込み発生後に CFIFOCTR.DTLN[8:0] ビットで受信データ長を確認してから、BCLR ビットで FIFO バッファをクリアしてください。

29.3.9.2　デバイスコントローラモードでのコントロール転送

(1)　セットアップステージ

USBFS は、USBFS に対する正常な Setup パケットに対して ACK 応答します。セットアップステージの USBFS の動作を以下に示します。

新しい Setup パケットを受信すると、USBFS は以下のビットを設定します。

- INTSTS0.VALID ビットを 1 にする
- DCPCTR.PID[1:0] ビットを NAK にする
- DCPCTR.CCPL ビットを 0 にする

Setup パケットの後にデータパケットを受信すると、USBFS は、USB リクエストのパラメータを、USBREQ レジスタ、USBVAL レジスタ、USBINDX レジスタ、および USBLENG レジスタに格納します。

コントロール転送に対する応答処理は、VALID ビットを 0 にしてから実行してください。VALID ビットが 1 の状態では PID = BUF 設定が行えず、データステージを終了することができません。

VALID ビットの機能により、USBFS は、コントロール転送中に新しい USB リクエストを受信すると、実行中のリクエスト処理を中断し、最新のリクエストに対する応答を行うことができます。

また、USBFS は、受信した USB リクエストの方向ビット（bmRequestType のビット 8）と、リクエストデータ長（wLength）を自動検出します。USBFS は他にも、コントロールリード転送、コントロールライト転送、およびノーデータコントロール転送を判別し、ステージ遷移を管理します。間違ったシーケンスに対しては、コントロール転送ステージ遷移割り込み中にシーケンスエラーが発生し、ソフトウェアに割り込みが報告されます。USBFS のステージ管理を示す図については、図 29.15 を参照してください。

(2)　データステージ

受信した USB リクエストに対応したデータ転送を DCP にて行ってください。DCP の FIFO バッファにアクセスする前に、CFIFOSEL.ISEL ビットでアクセス方向を指定してください。転送データが DCP の FIFO バッファのサイズより大きい場合には、コントロールライト転送では BRDY 割り込みを、コントロールリード転送では BEMP 割り込みを使用してデータ転送を行ってください。

(3)　ステータスステージ

DCPCTR.PID[1:0] ビットが BUF に設定された状態で、DCPCTR.CCPL ビットを 1 にすることによりコントロール転送を終了します。

上記設定後、セットアップステージで確定したデータ転送方向に従い、USBFS が自動的にステータスステージを実行します。手順は以下です。

- コントロールリード転送の場合
  USBFS は、USB ホストから Zero-Length パケットを受信し、ACK 応答を送信します。
- コントロールライト転送、ノーデータコントロール転送の場合
  USBFS は、Zero-Length パケットを送信し、USB ホストから ACK 応答を受信します。

(4)　コントロール転送自動応答機能

USBFS は、正常な SET_ADDRESS リクエストに自動応答します。SET_ADDRESS リクエストに下記のエラーのいずれかが発生した場合は、ソフトウェアによる応答が必要です。

- bmRequestType が 00h でない場合：コントロールライト転送以外
- wIndex が 00h でない場合：リクエストエラー
- wLength が 00h でない場合：ノーデータコントロール転送以外
- wValue が 7Fh より大きい場合：リクエストエラー
- INTSTS0.DVSQ[2:0] ビットが 011b（Configured ステート）の場合：デバイスステートエラーのコントロール転送

SET_ADDRESS リクエスト以外のすべてのリクエストには、対応するソフトウェアによる応答が必要です。

29.3.10　バルク転送（パイプ 1 ～ 5）

バルク転送は、FIFO バッファ使用方法（シングル／ダブルバッファ設定）の設定ができます。USBFS は、バルク転送専用として下記の機能を備えています。

- BRDY 割り込み機能（PIPECFG.BFRE ビット）：29.3.3.1,(2)　SOFCFG.BRDYM ビットが 0 かつ PIPECFG.BFRE ビットが 1 のとき参照
- トランザクションカウント機能（PIPEnTRE.TRENB、TRCLR ビット、PIPEnTRN.TRNCNT[15:0] ビット）：29.3.4.5　トランザクションカウンタ（受信方向パイプ 1 ～ 5）参照
- 応答 PID = NAK 機能（PIPECFG.SHTNAK ビット）：29.3.4.8　応答 PID = NAK 機能参照
- 自動応答モード（PIPEnCTR.ATREPM ビット）：29.3.4.9　自動応答モード参照

29.3.11　インタラプト転送（パイプ 6 ～ 9）

デバイスコントローラモードでは、USBFS は、ホストコントローラが指示しているタイミングに基づいてインタラプト転送を行います。ホストコントローラモードでは、インターバルカウンタを使用してソフトウェアでトークン発行タイミングを設定できます。

29.3.11.1　ホストコントローラモードでのインタラプト転送時のインターバルカウンタ

インタラプト転送を行う場合、PIPEPERI.IITV[2:0] ビットにトランザクションのインターバルを指定します。USBFS は、指定されたインターバルに従ってインタラプト転送のトークンを発行します。

(1)　カウンタの初期化

USBFS は、以下の条件でインターバルカウンタを初期化します。

- パワーオンリセット
  IITV[2:0] ビットが初期化されます。
- PIPEnCTR.ACLRM ビットを使用した FIFO バッファの初期化
  IITV[2:0] ビットは初期化されませんが、カウント値は初期化されます。PIPEnCTR.ACLRM ビットを 0 にすると、IITV[2:0] ビット設定値からカウントが開始します。

なお、下記の場合にはインターバルカウンタは初期化されません。

- USB バスリセットまたは USB Suspended
  IITV[2:0] ビットは初期化されません。DVSTCTR0.UACT ビットを 1 にすることにより、USB バスリセット状態または USB Suspended ステートとなる前に保存された値からカウントが開始します。

(2)　トークン発生タイミングであってもトークンの送受信ができない場合の動作

以下の場合、トークンの発生タイミングであってもトークンは発生しません。このような場合、USBFS は次のインターバルにトランザクションの実行を試みます。

- PID を NAK または STALL に設定した場合
- IN 方向（受信）の転送でトークンの送信タイミングに FIFO バッファに空き領域がない場合
- OUT 方向（送信）の転送でトークンの送信タイミングに FIFO バッファに送信データがない場合

29.3.12　アイソクロナス転送（パイプ 1 ～ 2）

USBFS は、アイソクロナス転送専用として下記の機能を備えています。

- アイソクロナス転送のエラー通知
- PIPEPERI.IITV[2:0] ビットで指定されたインターバルカウンタ
- アイソクロナス IN 転送データセットアップコントロール（IDLY 機能）
- PIPEPERI.IFIS ビットで指定されたアイソクロナス IN 転送バッファフラッシュ機能

29.3.12.1　アイソクロナス転送のエラー検出

USBFS は、アイソクロナス転送時に発生したエラーをソフトウェアで管理できるようにするために、下記のエラーの検出機能を備えています。表 29.24 および表 29.25 に、USBFS によるエラー検出の優先順位、および関連する割り込みを示します。

(a)　PID エラー

- 受信パケットの PID 値が不正な場合

(b)　CRC エラー、ビットスタッフィングエラー

- 受信パケットに CRC エラーがあった場合、またはビットスタッフィングが不正な場合

(c)　最大パケットサイズオーバー

- 受信パケットのデータサイズが、最大パケットサイズの設定値を越える場合

(d)　オーバーラン、アンダーランエラー

ホストコントローラモード時：

- IN 方向（受信）の転送時にトークンの送信タイミングに FIFO バッファに空き領域がない場合
- OUT 方向（送信）の転送時にトークンの送信タイミングに FIFO バッファに送信データがない場合

デバイスコントローラモード時：

- IN 方向（送信）の転送時にトークンの受信タイミングに FIFO バッファに送信データがない場合
- OUT 方向（受信）の転送時にトークンの受信タイミングに FIFO バッファに空き領域がない場合

(e)　インターバルエラー

デバイスコントローラモードでは、以下の場合にインターバルエラーとして処理されます。

- アイソクロナス IN 転送時に、インターバルフレーム内に IN トークンを受信できなかった場合
- アイソクロナス OUT 転送時に、インターバルフレーム内に OUT トークンを受信できなかった場合

表 29.24　トークン送受信エラーの検出

検出の優先順位	エラー	発生する割り込みとステータス
1	PIDエラー	ホストコントローラモードとデバイスコントローラモードのどちらの場合でも割り込みを発生させません。（破損パケットとして無視）
2	CRCエラー、ビットスタッフィングエラー	ホストコントローラモードとデバイスコントローラモードのどちらの場合でも割り込みを発生させません。（破損パケットとして無視）
3	オーバーランエラー、アンダーランエラー	ホストコントローラモードとデバイスコントローラモードのどちらの場合でも、NRDY割り込みを発生させ、FRMNUM.OVRNビットを1にします。 デバイスコントローラモードでは、INトークンに対して、Zero-Lengthパケットを送信します。OUTトークンに対してはデータパケットを受信しません。
4	インターバルエラー	デバイスコントローラモード時はNRDY割り込みを発生させます。ホストコントローラモード時は割り込みを発生させません。

表 29.25　データパケット受信エラーの検出

検出の優先順位	エラー	発生する割り込みとステータス
1	PIDエラー	割り込みを発生させません。（破損パケットとして無視）
2	CRCエラー、ビットスタッフィングエラー	ホストコントローラモードとデバイスコントローラモードのどちらの場合でも、NRDY割り込みを発生させ、FRMNUM.CRCEビットを1にします。
3	最大パケットサイズオーバーエラー	ホストコントローラモードとデバイスコントローラモードのどちらの場合でも、BEMP割り込みを発生させ、PID[1:0]ビットをSTALLにします。

29.3.12.2　DATA-PID

デバイスコントローラモードでの受信 PID に対する USBFS の対応を以下に示します。

(1)　IN 方向の場合

- DATA0：データパケットの PID として送信
- DATA1：送信しない
- DATA2：送信しない
- mDATA：送信しない

(2)　OUT 方向の場合

- DATA0：データパケットの PID として正常受信
- DATA1：データパケットの PID として正常受信
- DATA2：パケットを無視
- mDATA：パケットを無視

29.3.12.3　インターバルカウンタ

アイソクロナス転送のインターバルは、PIPEPERI.IITV[2:0] ビットで設定できます。デバイスコントローラモードでは、インターバルカウンタにより、表 29.26 に示す機能を実現します。ホストコントローラモードでは、USBFS はトークン発行タイミングを生成し、インターバルカウンタはインタラプト転送と同じように動作します。

表 29.26　デバイスコントローラモード時のインターバルカウンタ機能

転送方向	機能	検出条件
IN	送信バッファフラッシュ	アイソクロナス IN 転送でインターバルフレーム内に IN トークンを正常受信できない。
OUT	トークン未受信の通知	アイソクロナス OUT 転送でインターバルフレーム内に OUT トークンを正常受信できない。

インターバルのカウントは、SOF の受信時または補完された SOF で行いますので、SOF が破損しても等時性を保つことができます。設定できるフレーム間隔は 2^{IITV} フレームです。

(1)　デバイスコントローラモード時のカウンタの初期化

USBFS は、以下の条件でインターバルカウンタを初期化します。

- パワーオンリセット
  PIPEPERI.IITV[2:0] ビットが初期化されます。
- ACLRM ビットを使用した FIFO バッファの初期化
  IITV[2:0] ビットは初期化されませんが、カウント値は初期化されます。

インターバルカウンタが初期化されると、パケットを正常転送した後に、下記の一方の条件でインターバルのカウントを開始します。

- PID = BUF のときに IN トークンに対してデータを送信後の SOF 受信
- PID = BUF のときに OUT トークンに対してデータを受信後の SOF 受信

なお、下記の条件ではインターバルカウンタは初期化されません。

- PID[1:0] ビットを NAK または STALL に設定した場合
  インターバルタイマは停止しません。USBFS は次のインターバルにトランザクションの実行を試みます。
- USB バスリセットまたは USBFS サスペンドの場合
  IITV[2:0] ビットは初期化されません。SOF を受信すると、SOF 受信前に設定された値からインターバルカウンタのカウントを開始します。

(2)　ホストコントローラモード時のインターバルカウントと転送制御

USBFS は、PIPEPERI.IITV[2:0] ビットの設定値に従い、トークン発行間隔を制御します。具体的には、USBFS は 2^{IITV} 回のフレームに 1 回の間隔で、選択パイプに対するトークンを発行します。

USBFS は、ソフトウェアで PID[1:0] ビットを BUF に設定したフレームの次のフレームからトークン発行間隔のカウントを開始します。

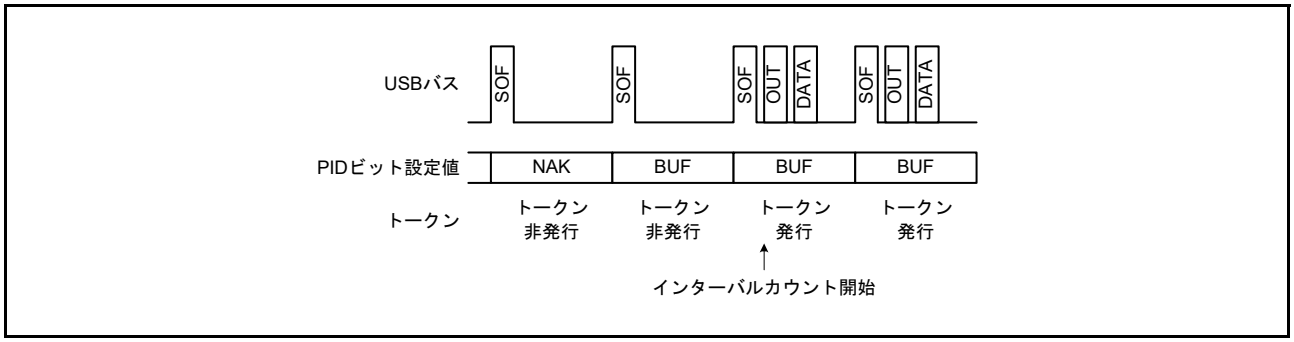


図 29.16　IITV = 0 の場合のトークン発行の有無

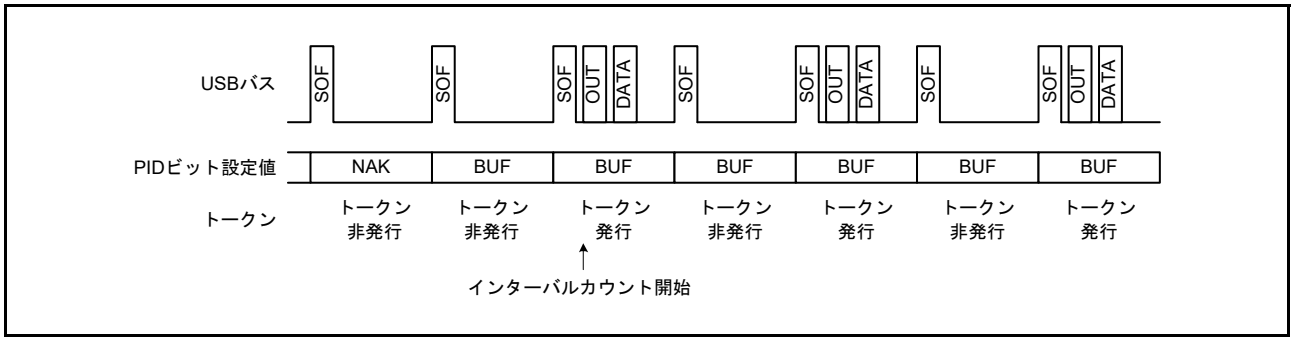


図 29.17　IITV = 1 の場合のトークン発行の有無

選択パイプの転送タイプがアイソクロナスの場合、USBFS はトークン発行間隔の制御に付随して以下の動作を行います。NRDY 割り込み発生条件を満たした場合でも、USBFS はトークンを発行します。

(a)　選択パイプがアイソクロナス IN 転送パイプの場合

USBFS は、IN トークンを発行しても周辺デバイスからパケットを正常受信しなかった場合（無応答やパケットエラーの場合）、NRDY 割り込みを発生させます。

CPU または DMAC/DTC が FIFO バッファからデータを読み出すのが遅いなどの原因で FIFO バッファがフルのために、USBFS がデータを受信できない状態で、IN トークン発行タイミングになった場合、USBFS は FRMNUM.OVRN ビットを 1 にし、NRDY 割り込みを発生させます。

(b)　選択パイプがアイソクロナス OUT 転送パイプの場合

CPU または DMAC/DTC が FIFO バッファにデータを書き込むのが遅いなどの原因で送信可能なデータが FIFO バッファにない状態で OUT トークン発行タイミングに至った場合、USBFS は OVRN ビットを 1 にし、NRDY 割り込みを発生させ、Zero-Length パケットを送信します。

以下の条件を満たす場合、トークン発行間隔はリセットされます。

- USBFS がリセット端子でリセットされた場合
  IITV[2:0] ビットが初期化されます。
- ソフトウェアが PIPEnCTR.ACLRM ビットを 1 にした場合

(3)　デバイスコントローラモード時のインターバルカウントと転送制御

(a)　選択パイプがアイソクロナス OUT 転送パイプの場合

PIPEPERI.IITV[2:0] ビットに設定したインターバル中にデータパケットを受信しなかったとき、USBFS は NRDY 割り込みを発生させます。

データパケットに CRC エラーなどのエラーが発生したため、または FIFO バッファがフルのために USBFS がデータを受信できなかったときにも USBFS は NRDY 割り込みを発生させます。

NRDY 割り込みの発生のタイミングは、SOF パケット受信時です。SOF パケットが破損した場合でも内部補完機能により SOF パケットを受信したタイミングに割り込みを発生させます。ただし、IITV ビットが 0 以外のときには、インターバルカウント開始後のインターバルごとに、USBFS は SOF パケット受信のタイミングで NRDY 割り込みを発生させます。

インターバルタイマ起動後、ソフトウェアで PID[1:0] ビットに NAK を設定した場合、USBFS は SOF パケットを受信しても NRDY 割り込みを発生させません。

インターバルのカウント開始タイミングは、IITV[2:0] ビットの設定値により下記のように異なります。

- IITV[2:0] ビットが 0 のとき：
  選択パイプの PID[1:0] ビットを 01b（BUF）に変更した時点でインターバルのカウントを開始します。

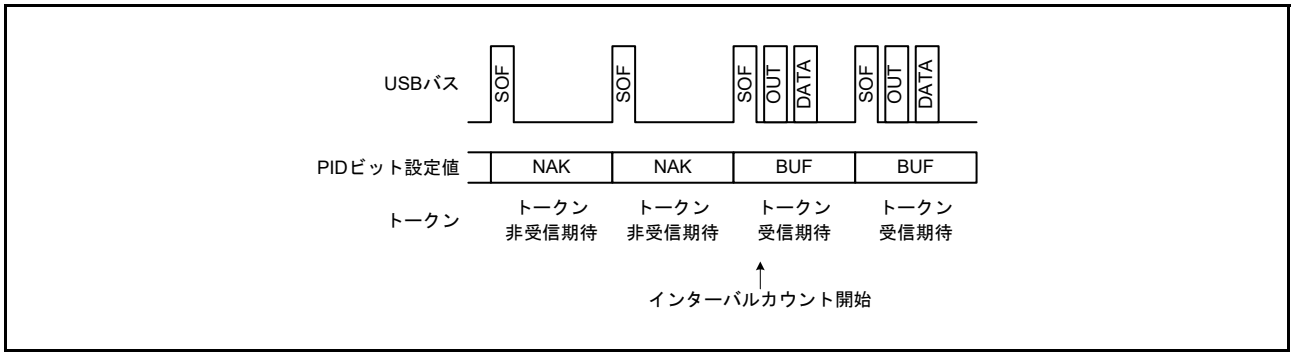


図 29.18　IITV[2:0] = 0 の場合のフレームとトークン受信期待の関係

- IITV[2:0] ビットが 0 ではないとき：
  選択パイプの PID[1:0] ビットを BUF に変更した後、最初のデータパケットの正常受信完了時点からインターバルのカウントを開始します。

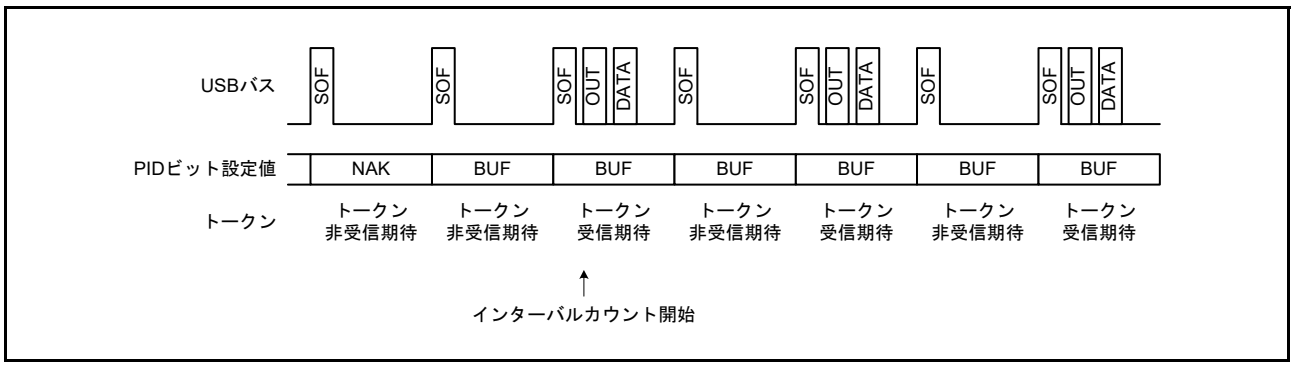


図 29.19　IITV[2:0] ≠ 0 の場合のフレームとトークン受信期待の関係

(b)　選択パイプがアイソクロナス IN 転送パイプの場合

この場合、PIPEPERI.IFIS ビットを 1 にする必要があります。IFIS ビットが 0 の場合、PIPEPERI.IITV[2:0] ビットの設定に関係なく、USBFS は IN トークン受信時にデータパケットを送信します。

IFIS ビットが 1 で、FIFO バッファに送信可能なデータがある場合、IITV[2:0] ビットに設定したインターバルごとのフレーム中に IN トークンを受信できなければ、USBFS は FIFO バッファをクリアします。

USBFS は、IN トークンに CRC エラーなどのバスエラーが発生したために正常受信できなかった場合も、FIFO バッファをクリアします。

FIFO バッファクリアのタイミングは、SOF パケット受信時です。また、SOF パケットが破損した場合でも、内部補完機能により、SOF パケットを受信したタイミングで FIFO バッファをクリアします。

インターバルのカウント開始タイミングは、OUT 転送と同様に、IITV[2:0] ビットの設定値により異なります。

デバイスコントローラモード時は、以下のいずれかの条件でインターバルカウントを行います。

- USBFS がハードウェアリセットされた場合（IITV[2:0] ビットの設定値も 000b になります）
- ソフトウェアが PIPEnCTR.ACLRM ビットを 1 にした場合
- USBFS が USB バスリセットを検出した場合

(4)　デバイスコントローラモード時のアイソクロナス転送用送信データセットアップ

デバイスコントローラモードでの USBFS のアイソクロナスデータ送信では、FIFO バッファへのデータ書き込み後、SOF パケットを検出した後の最初のフレームでデータパケットの送出が可能になります。このアイソクロナス転送送信データセットアップ機能により、送信を開始したフレームを特定することができます。

ダブルバッファモードを使用している場合、両方のバッファへの書き込みが完了した後であっても、先にデータ書き込みが終了したバッファだけが送信可能状態になります。このため、複数の IN トークンを受信しても、送出される FIFO バッファデータは 1 パケット分のみとなります。

IN トークン受信時に FIFO バッファがデータを送信できる状態であれば、データが転送されて正常応答が返されます。しかし、FIFO バッファがデータ送信不能であれば、Zero-Length パケットを送出しアンダーランエラーとなります。

図 29.20 に、IITV = 0（毎フレーム）にした場合のアイソクロナス転送送信データセットアップ機能による送信例を示します。

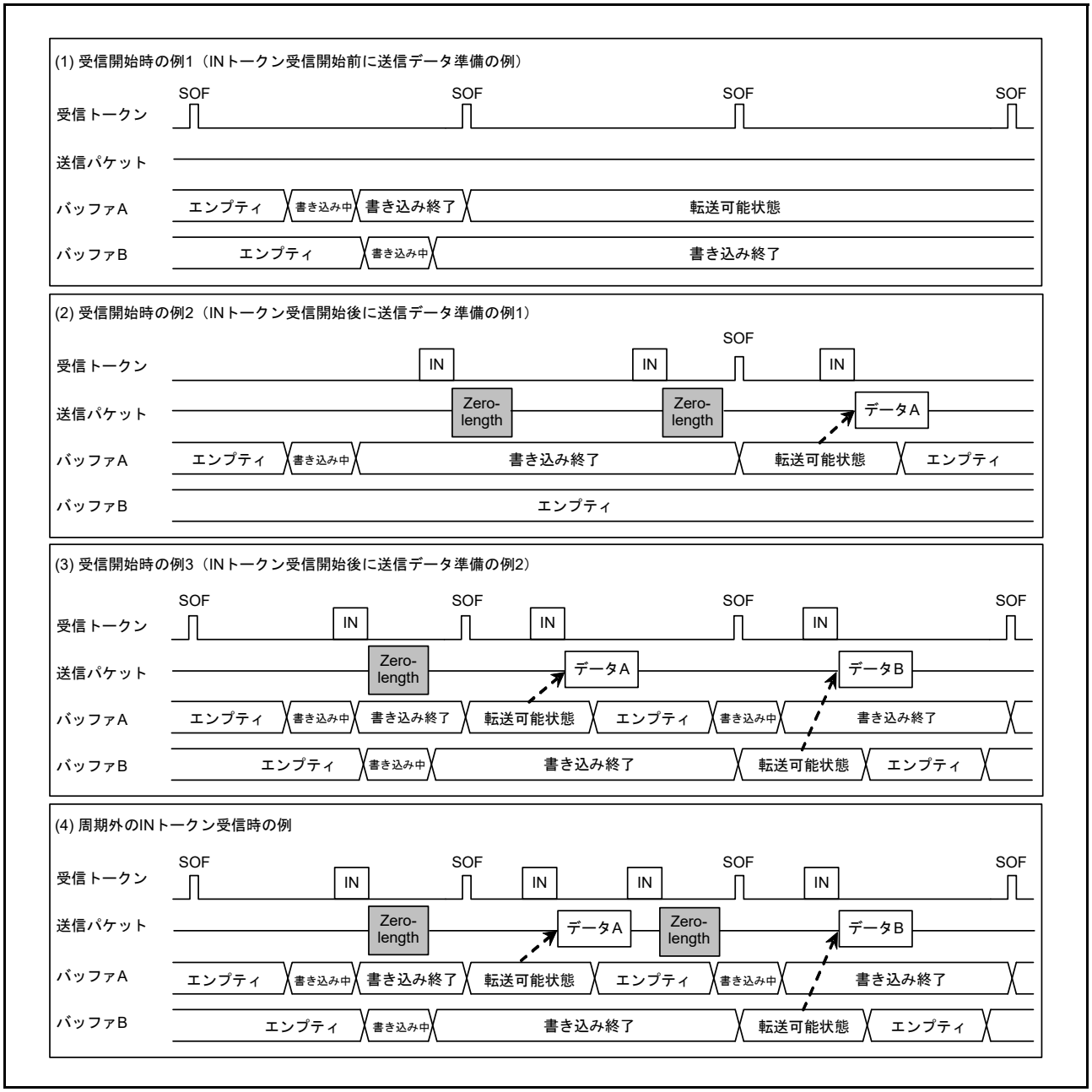


図 29.20　　データセットアップ動作例

(5)　デバイスコントローラモード時のアイソクロナス転送用送信バッファフラッシュ

デバイスコントローラモードでのアイソクロナスデータ転送時に、USBFS がインターバルフレーム内に IN トークンを受信しないまま、次フレームの SOF パケットを受信した場合は、USBFS はそれを IN トークン破損として扱い、送信可能状態となっているバッファをクリアし、そのバッファを書き込み可能状態とします。

このときにバッファをダブルバッファモードで使用しており、両方のバッファの書き込みが終了している場合は、クリアされた FIFO バッファ内のデータが上記の同インターバルフレーム内に送信されたものとみなされて、SOF パケット受信でクリアされていない FIFO バッファを送信可能状態とします。

バッファフラッシュ機能は、以下のように PIPEPERI.IITV[2:0] ビットの設定値により動作開始タイミングが異なります。

- IITV = 0 の場合：
  パイプが有効となった後の最初のフレームからバッファフラッシュ動作を開始します。
- IITV ≠ 0 の場合：
  最初の正常なトランザクション以降にバッファフラッシュ動作を開始します。

図 29.21 にバッファフラッシュの例を示します。インターバルフレーム前に予期しないトークンを受信した場合、データセットアップ状態に応じ、USBFS は書き込みデータを送出またはアンダーランエラーとして Zero-Length パケットを送出します。

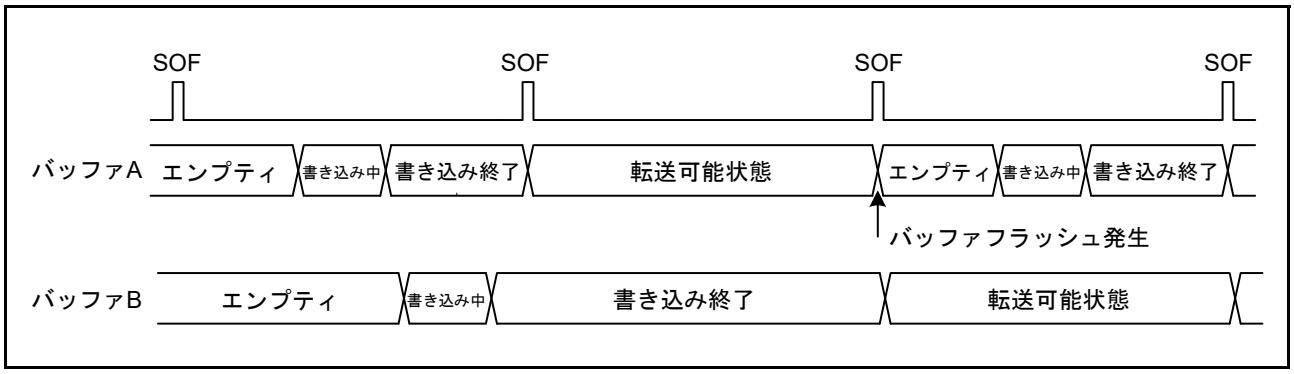


図 29.21　　バッファフラッシュ動作例

図 29.22 にインターバルエラー発生例を示します。図に示すとおり、インターバルエラーは 5 種類あります。図中の①のタイミングでインターバルエラーが発生し、バッファフラッシュ機能が動作します。

IN 転送時にインターバルエラーが発生した場合は、バッファフラッシュ機能が動作します。OUT 転送時にインターバルエラーが発生した場合は、NRDY 割り込みが発生します。この NRDY 割り込みや受信パケットエラーによる NRDY 割り込みとオーバーランエラーとの区別は、FRMNUM.OVRN ビットで判定してください。

図中網掛けのトークンに対しては、FIFO バッファステータスに応じた応答になります。

- IN 方向の場合：
  - バッファがデータ転送可能であれば、データを転送して正常応答
  - バッファがデータ転送不能であれば、Zero-Length パケットを送信してアンダーランエラー
- OUT 方向の場合：
  - バッファがデータ受信可能であれば、データを受信して正常応答
  - バッファがデータ受信不能であれば、受信データを破棄してオーバーランエラー

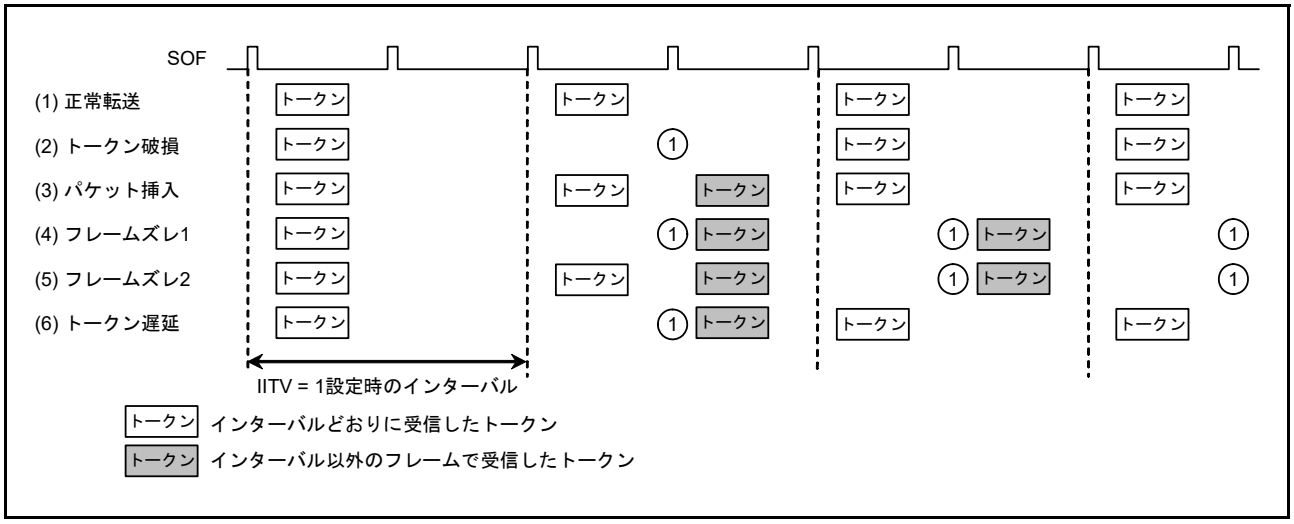


図 29.22　IITV = 1 のときのインターバルエラー発生例

29.3.13　SOF 補完機能

デバイスコントローラモードでは、SOF パケットの破損または欠落のために、1ms 間隔でパケットを受信できなかった場合に、USBFS は SOF を補完します。SOF 補完の開始は、SYSCFG.USBE ビットと SYSCFG.SCKE ビットがともに 1 であること、および SOF パケットの受信が条件となります。

下記の条件で補完機能が初期化されます。

- MCU のリセット
- USB バスリセット
- Suspended ステート検出

SOF 補完は次の仕様で動作します。

- SOF パケット受信までは補完機能は動作しない
- 最初の SOF パケットを受信すると 48MHz の内部クロックで 1ms をカウントし補完する
- 2 回目以降の SOF パケットを受信したときは前回の受信間隔を用いて補完する
- Suspended ステート時または USB バスリセット受信時は補完しない

USBFS は、SOF パケットの受信で制御される下記の機能を動作させます。SOF パケットが欠落した場合はこれらの機能により SOF 補完を行うため、正常動作を継続させることができます。

- フレーム番号の更新
- SOFR 割り込みタイミング
- アイソクロナス転送インターバルカウント

フルスピード動作時に SOF パケットが欠落した場合には、FRMNUM.FRNM[10:0] ビットは更新されません。

29.3.14　パイプスケジュール

29.3.14.1　トランザクション発行条件

ホストコントローラモードで DVSTCTR0.UACT ビットを 1 にすると、USBFS は表 29.27 に示す条件でトランザクションを発行します。

表 29.27　トランザクション発行条件

トランザクション	発行条件				
	DIR	PID	IITV[0]	バッファステート	SUREQ
SETUP	—（注1）	—（注1）	—（注1）	—（注1）	1設定
コントロール転送のデータステージ、ステータスステージ、バルク転送	IN	BUF	無効	受信領域あり	—（注1）
	OUT	BUF	無効	送信データあり	—（注1）
インタラプト転送	IN	BUF	有効	受信領域あり	—（注1）
	OUT	BUF	有効	送信データあり	—（注1）
アイソクロナス転送	IN	BUF	有効	（注2）	—（注1）
	OUT	BUF	有効	（注3）	—（注1）

注 1.　表中の「ー」は、トークンの発行に関係のない条件であることを示します。「有効」はインタラプト転送とアイソクロナス転送において、インターバルカウンタによる転送フレームでのみトランザクションが発行されることを示します。「無効」はインターバルカウンタにかかわらずトランザクションが発行されることを示します。
注 2.　受信領域の有無にかかわらずトランザクションを発行します。ただし受信領域がなかった場合は、受信データを破棄します。
注 3.　送信データの有無にかかわらずトランザクションを発行します。ただし送信データがなかった場合は、Zero-Length パケットを送信します。

29.3.14.2　転送スケジュール

USBFS のフレーム内の転送スケジューリング方法について説明します。USBFS は、SOF を送信後、以下の順番で転送を行います。

1. 周期的転送の実行：
   パイプ 1 →パイプ 2 →パイプ 6 →パイプ 7 →パイプ 8 →パイプ 9 の順にパイプを検索し、アイソクロナス転送またはインタラプト転送のトランザクションの発行が可能なパイプがあれば、トランザクションを発行します。
2. コントロール転送の SETUP トランザクション：
   DCP を確認して、SETUP トランザクションが可能であれば送信します。
3. バルク転送、コントロール転送データステージ、コントロール転送ステータスステージの実行：
   DCP →パイプ 1 →パイプ 2 →パイプ 3 →パイプ 4 →パイプ 5 の順にパイプを検索し、バルク転送、コントロール転送データステージ、コントロール転送ステータスステージのトランザクションの発行が可能なパイプがあれば、トランザクションを発行します。
   トランザクションを発行したとき、周辺デバイスからの応答が ACK であっても NAK であっても、処理は次のパイプのトランザクションに移ります。また、フレーム内に転送を行う時間があれば、3. を繰り返します。

29.3.14.3　USB 通信許可

DVSTCTR0.UACT ビットを 1 にすると、SOF の送信が開始され、トランザクションの発行が可能となります。UACT ビットを 0 にすると、SOF の送信を停止し Suspended ステートとなります。UACT ビットを 1 から 0 にする場合、次の SOF を送信してから処理を停止します。

29.4　使用上の注意事項

29.4.1　モジュールストップ状態の設定

モジュールストップコントロールレジスタ B（MSTPCRB）により、USBFS の動作を禁止／許可することが可能です。USBFS は、リセット後の初期状態では動作が停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は、「11.　低消費電力モード」を参照してください。

29.4.2　ソフトウェアスタンバイモード終了時の割り込みステータスレジスタのクリア

ソフトウェアスタンバイモードでは入力バッファが常に有効となるため、以下の各条件を満たすとき、予期せぬ割り込みが発生することがあります。

- 通常モードで割り込みを許可する
- ソフトウェアスタンバイモードで割り込みを禁止する
- ソフトウェアスタンバイモードを解除する端子の入力レベルが SSTBY モードで変更されている

これらの条件を満たすと、割り込みステータスレジスタの関連する割り込みフラグが予期せず設定されることがあります。MCU がソフトウェアスタンバイモードを終了した後に、予期せぬ割り込みが割り込みコントローラに送信される場合があります。この問題を避けるために、解除シーケンスで INTSTS0 および INTSTS1 レジスタを必ずクリアしてください。

29.4.3　ポート機能設定後の割り込みステータスレジスタのクリア

入力バッファは PmnPFS.PSEL[4:0] および PmnPFS.PMR でポートを設定する前は無効であるため、内部信号は High または Low に固定されます。入力バッファはポート設定後に有効にされるので、外部端子の状態が MCU に伝播します。このとき、予期せぬ割り込みが発生する場合があり、INTSTS0 と INTSTS1 レジスタの VBINT と OVRCR ビット、またはその他の割り込みステータフラグが 1 になります。誤作動を避けるために、ポート設定後は INTSTS0 および INTSTS1 レジスタを必ずクリアしてください。

30.　シリアルコミュニケーションインタフェース（SCI）

30.1　概要

シリアルコミュニケーションインタフェース（SCI）は、下記の 5 種類の調歩同期式および同期式シリアルインタフェースとして設定が可能です。

- 調歩同期式インタフェース（UART および調歩同期式通信インタフェースアダプタ（ACIA））
- 8 ビットクロック同期式インタフェース
- 簡易 IIC（マスタのみ）
- 簡易 SPI
- スマートカードインタフェース

スマートカードインタフェースは、電子信号と伝送プロトコルに関して ISO/IEC 7816-3 規格に準拠しています。各 SCI は FIFO バッファを内蔵しており、連続した全二重通信が可能です。また、内蔵のボーレートジェネレータを用いて、データの転送速度を個別に設定することが可能です。

表 30.1 に SCI の仕様を、図 30.1 に SCI チャネル n のブロック図を、表 30.2 にモードごとの入出力端子を示します。

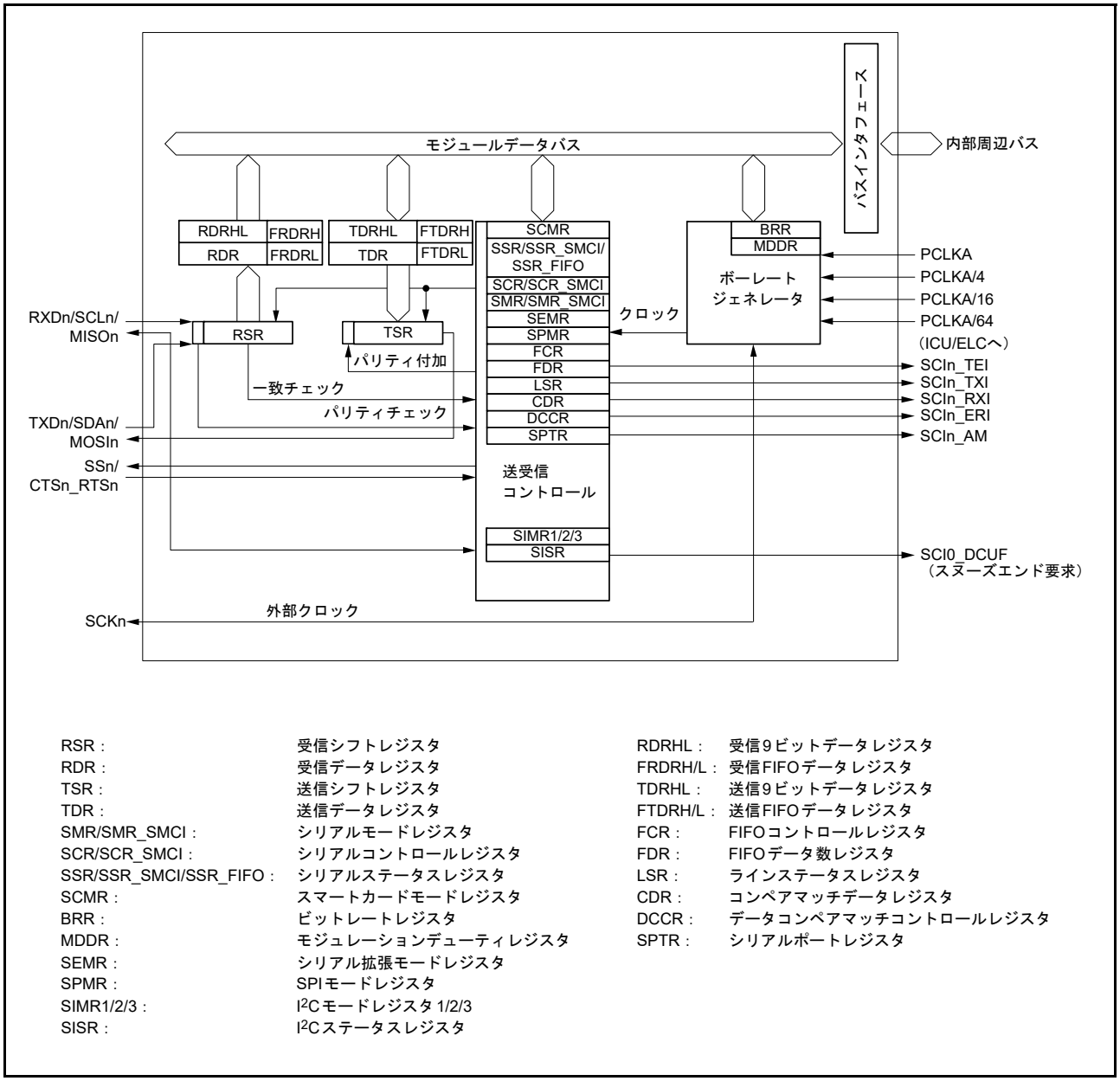
表 30.1　SCIの仕様 (1/2)

項目	内容
シリアル通信方式	• 調歩同期式 • クロック同期式 • スマートカードインタフェース • 簡易IIC • 簡易SPI
転送速度	内蔵のボーレートジェネレータにより任意のビットレートを設定可能
全二重通信	• 送信部：ダブルバッファによる連続送信が可能 • 受信部：ダブルバッファによる連続受信が可能
入出力端子	表 30.2を参照してください。
データ転送	LSBファースト／MSBファースト転送を選択可能
割り込み要因	• 送信終了、送信データエンプティ、受信データフル、受信エラー、受信データレディ、およびアドレス一致 • 開始条件／再開始条件／停止条件の生成完了（簡易IICモード用）
モジュールストップ機能	チャネルごとにモジュールストップ状態の設定が可能
スヌーズ終了要求	SCI0アドレス不一致（SCI0_DCUF）

表 30.1　SCIの仕様 (2/2)

項目		内容
調歩同期式モード	データ長	7ビット／8ビット／9ビット
	送信ストップビット	1ビット／2ビット
	パリティ	偶数パリティ／奇数パリティ／パリティなし
	受信エラー検出	パリティエラー、オーバーランエラー、フレーミングエラー
	ハードウェアフロー制御	CTSn_RTSn端子を用いた送受信制御が可能
	送信／受信	1段レジスタ／16段FIFOを選択可能
	アドレス一致	受信データとコンペアマッチレジスタの値が一致したとき、割り込み要求／イベント出力の発行が可能
	アドレス不一致（SCI0のみ）受信データ	受信データとコンペアマッチレジスタの値が一致しないとき、スヌーズ終了要求の発行が可能
	スタートビットの検出	Low検出／立ち下がりエッジ検出を選択可能
	ブレークの検出	SPTRレジスタを読み出すことで、フレーミングエラーからのブレークの検出が可能
	クロックソース	内部クロック／外部クロックを選択可能
	倍速モード	ボーレートジェネレータ倍速モードを選択可能
	マルチプロセッサ通信機能	複数プロセッサ間でシリアル通信が可能
	ノイズ除去	RXDn端子入力経路にデジタルノイズフィルタを内蔵
クロック同期式モード	データ長	8ビット
	受信エラー検出	オーバーランエラー
	クロックソース	内部クロック（マスタモード）／外部クロック（スレーブモード）を選択可能
	ハードウェアフロー制御	CTSn_RTSn端子を用いた送受信制御が可能
	送信／受信	1段レジスタ／16段FIFOを選択可能
スマートカードインタフェースモード	エラー処理	受信中にパリティエラーを検出するとエラーシグナルを自動送出
		送信中にエラーシグナルを受信するとデータを自動再送信
	データタイプ	ダイレクトコンベンション／インバースコンベンションをサポート
簡易IICモード	通信フォーマット	I^2Cバスフォーマット（MSBファーストのみ）
	動作モード	マスタ（シングルマスタ動作のみ）
	転送速度	最大400kbps
	ノイズ除去	SCLn端子とSDAn端子の入力経路にデジタルノイズフィルタを内蔵し、ノイズ除去幅の調整が可能
簡易SPIモード	データ長	8ビット
	エラー検出	オーバーランエラー
	クロックソース	内部クロック（マスタモード）／外部クロック（スレーブモード）を選択可能
	SS入力端子機能	SSn端子をHighにすることで、出力端子をハイインピーダンスにすることが可能
	クロック設定	クロック位相、クロック極性の設定を4種類から選択可能
ビットレートモジュレーション機能		内蔵ボーレートジェネレータの出力補正により誤差の低減が可能
イベントリンク機能		受信エラーまたはエラーシグナル検出におけるエラーイベント出力（SCIn_ERI）（注1）
		受信データフルイベント出力（SCIn_RXI）（注1）（注2）
		送信データエンプティイベント出力（SCIn_TXI）（注1）（注2）
		送信終了イベント出力（SCIn_TEI）（注1）（注2）
		アドレス一致イベント出力（SCIn_AM）（注1）

注 1.　チャネル番号（n = 0 ～ 4、8、9）
注 2.　本イベントリンク機能は、調歩同期式モードにおいて FIFO 動作が選択された場合、使用禁止となります。



RSR：	受信シフトレジスタ	RDRHL：	受信9ビットデータレジスタ
RDR：	受信データレジスタ	FRDRH/L：	受信FIFOデータレジスタ
TSR：	送信シフトレジスタ	TDRHL：	送信9ビットデータレジスタ
TDR：	送信データレジスタ	FTDRH/L：	送信FIFOデータレジスタ
SMR/SMR_SMCI：	シリアルモードレジスタ	FCR：	FIFOコントロールレジスタ
SCR/SCR_SMCI：	シリアルコントロールレジスタ	FDR：	FIFOデータ数レジスタ
SSR/SSR_SMCI/SSR_FIFO：	シリアルステータスレジスタ	LSR：	ラインステータスレジスタ
SCMR：	スマートカードモードレジスタ	CDR：	コンペアマッチデータレジスタ
BRR：	ビットレートレジスタ	DCCR：	データコンペアマッチコントロールレジスタ
MDDR：	モジュレーションデューティレジスタ	SPTR：	シリアルポートレジスタ
SEMR：	シリアル拡張モードレジスタ		
SPMR：	SPIモードレジスタ		
SIMR1/2/3：	I^2Cモードレジスタ1/2/3		
SISR：	I^2Cステータスレジスタ		

図 30.1　SCI チャネル n のブロック図

表 30.2　SCIの入出力端子 (1/2)

チャネル	端子名	入出力	機能
SCI0	SCK0	入出力	SCI0のクロック入出力端子
	RXD0/SCL0/MISO0	入出力	SCI0の受信データ入力端子 SCI0のI²Cクロック入出力端子 SCI0のスレーブ送出データ入出力端子
	TXD0/SDA0/MOSI0	入出力	SCI0の送信データ出力端子 SCI0のI²Cデータ入出力端子 SCI0のマスタ送出データ入出力端子
	SS0/CTS0_RTS0	入出力	SCI0のチップセレクト入力端子、アクティブLow SCI0の送受信開始制御用入出力端子、アクティブLow
SCI1	SCK1	入出力	SCI1のクロック入出力端子
	RXD1/SCL1/MISO1	入出力	SCI1の受信データ入力端子 SCI1のI²Cクロック入出力端子 SCI1のスレーブ送出データ入出力端子
	TXD1/SDA1/MOSI1	入出力	SCI1の送信データ出力端子 SCI1のI²Cデータ入出力端子 SCI1のマスタ送出データ入出力端子
	SS1/CTS1_RTS1	入出力	SCI1のチップセレクト入力端子、アクティブLow SCI1の送受信開始制御用入出力端子、アクティブLow
SCI2	SCK2	入出力	SCI2のクロック入出力端子
	RXD2/SCL2/MISO2	入出力	SCI2の受信データ入力端子 SCI2のI²Cクロック入出力端子 SCI2のスレーブ送出データ入出力端子
	TXD2/SDA2/MOSI2	入出力	SCI2の送信データ出力端子 SCI2のI²Cデータ入出力端子 SCI2のマスタ送出データ入出力端子
	SS2/CTS2_RTS2	入出力	SCI2のチップセレクト入力端子、アクティブLow SCI2の送受信開始制御用入出力端子、アクティブLow
SCI3	SCK3	入出力	SCI3のクロック入出力端子
	RXD3/SCL3/MISO3	入出力	SCI3の受信データ入力端子 SCI3のI²Cクロック入出力端子 SCI3のスレーブ送出データ入出力端子
	TXD3/SDA3/MOSI3	入出力	SCI3の送信データ出力端子 SCI3のI²Cデータ入出力端子 SCI3のマスタ送出データ入出力端子
	SS3/CTS3_RTS3	入出力	SCI3のチップセレクト入力端子、アクティブLow SCI3の送受信開始制御用入出力端子、アクティブLow
SCI4	SCK4	入出力	SCI4のクロック入出力端子
	RXD4/SCL4/MISO4	入出力	SCI4の受信データ入力端子 SCI4のI²Cクロック入出力端子 SCI4のスレーブ送出データ入出力端子
	TXD4/SDA4/MOSI4	入出力	SCI4の送信データ出力端子 SCI4のI²Cデータ入出力端子 SCI4のマスタ送出データ入出力端子
	SS4/CTS4_RTS4	入出力	SCI4のチップセレクト入力端子、アクティブLow SCI4の送受信開始制御用入出力端子、アクティブLow
SCI8	SCK8	入出力	SCI8のクロック入出力端子
	RXD8/SCL8/MISO8	入出力	SCI8の受信データ入力端子 SCI8のI²Cクロック入出力端子 SCI8のスレーブ送出データ入出力端子
	TXD8/SDA8/MOSI8	入出力	SCI8の送信データ出力端子 SCI8のI²Cデータ入出力端子 SCI8のマスタ送出データ入出力端子
	SS8/CTS8_RTS8	入出力	SCI8のチップセレクト入力端子、アクティブLow SCI8の送受信開始制御用入出力端子、アクティブLow

表 30.2　SCIの入出力端子 (2/2)

チャネル	端子名	入出力	機能
SCI9	SCK9	入出力	SCI9のクロック入出力端子
	RXD9/SCL9/MISO9	入出力	SCI9の受信データ入力端子 SCI9のI²Cクロック入出力端子 SCI9のスレーブ送出データ入出力端子
	TXD9/SDA9/ MOSI9	入出力	SCI9の送信データ出力端子 SCI9のI²Cデータ入出力端子 SCI9のマスタ送出データ入出力端子
	SS9/CTS9_RTS9	入出力	SCI9のチップセレクト入力端子、アクティブLow SCI9の送受信開始制御用入出力端子、アクティブLow

30.2　レジスタの説明

30.2.1　受信シフトレジスタ（RSR）

RSR レジスタは、RXDn 端子から入力されたシリアルデータをパラレルデータに変換するための受信用シフトレジスタです。1 フレーム分のデータを受信すると、データは自動的に RDR レジスタ、RDRHL レジスタ、または受信 FIFO へ転送されます。CPU から RSR レジスタに直接アクセスすることはできません。

30.2.2　受信データレジスタ（RDR）

アドレス　SCI0.RDR 4007 0005h, SCI1.RDR 4007 0025h, SCI2.RDR 4007 0045h, SCI3.RDR 4007 0065h, SCI4.RDR 4007 0085h, SCI8.RDR 4007 0105h, SCI9.RDR 4007 0125h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

RDR レジスタは、受信データを格納するための 8 ビットのレジスタです。1 フレーム分のシリアルデータを受信すると、受信データは RSR レジスタから RDR レジスタへ転送され、RSR レジスタは次のデータを受信できるようになります。RSR レジスタと RDR レジスタはダブルバッファとして機能するため、連続受信動作が可能になります。

RDR レジスタの読み出しは、受信データフル割り込み（SCIn_RXI）要求が発生したときに 1 回だけ行ってください。

注 .　受信データを RDR から読み出す前に次の 1 フレーム分のデータを受け取ると、オーバーランエラーになります。CPU から RDR レジスタに書き込むことはできません。

30.2.3　受信 9 ビットデータレジスタ（RDRHL）

アドレス　SCI0.RDRHL 4007 0010h, SCI1.RDRHL 4007 0030h, SCI2.RDRHL 4007 0050h, SCI3.RDRHL 4007 0070h, SCI4.RDRHL 4007 0090h, SCI8.RDRHL 4007 0110h, SCI9.RDRHL 4007 0130h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

RDRHL レジスタは、受信データを格納するための 16 ビットのレジスタです。調歩同期式モードおよび 9 ビットデータ長選択時に使用します。

RDRHL レジスタの下位 8 ビットは RDR レジスタのシャドーレジスタであるため、RDRHL レジスタへアクセスすると RDR レジスタに影響を与えます。7 ビットまたは 8 ビットのデータ長を選択した場合、RDRHL レジスタへのアクセスはしないでください。

1 フレーム分のデータを受信すると、受信データは RSR レジスタから RDR レジスタまたは RDRHL レジスタへ転送されるため、RSR レジスタは次のデータを受信できるようになります。

RSR レジスタと RDRHL レジスタはダブルバッファとして機能するため、連続受信動作が可能になります。RDRHL レジスタの読み出しは、受信データフル割り込み（SCIn_RXI）要求が発生した場合にのみ行ってください。受信データを RDRHL レジスタから読み出す前に次の 1 フレーム分のデータを受け取ると、オーバーランエラーになります。CPU から RDRHL レジスタに書き込むことはできません。RDRHL[15:9] ビットは 0 に固定されているため、読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。

30.2.4　受信 FIFO データレジスタ H, L, HL（FRDRH, FRDRL, FRDRHL）

受信 FIFO データレジスタ H（FRDRH）

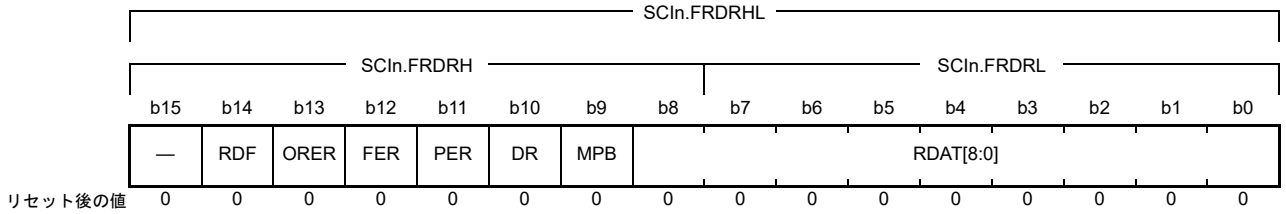
アドレス　SCI0.FRDRH 4007 0010h, SCI1.FRDRH 4007 0030h, SCI2.FRDRH 4007 0050h, SCI3.FRDRH 4007 0070h, SCI4.FRDRH 4007 0090h, SCI8.FRDRH 4007 0110h, SCI9.FRDRH 4007 0130h

受信 FIFO データレジスタ L（FRDRL）

アドレス　SCI0.FRDRL 4007 0011h, SCI1.FRDRL 4007 0031h, SCI2.FRDRL 4007 0051h, SCI3.FRDRL 4007 0071h, SCI4.FRDRL 4007 0091h, SCI8.FRDRL 4007 0111h, SCI9.FRDRL 4007 0131h

受信 FIFO データレジスタ HL（FRDRHL）

アドレス　SCI0.FRDRHL 4007 0010h, SCI1.FRDRHL 4007 0030h, SCI2.FRDRHL 4007 0050h, SCI3.FRDRHL 4007 0070h, SCI4.FRDRHL 4007 0090h, SCI8.FRDRHL 4007 0110h, SCI9.FRDRHL 4007 0130h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b8-b0	RDAT[8:0]	シリアル受信データ	調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）およびクロック同期式モードにおいて、FIFO選択時にのみ有効です。シリアル受信データを格納します。	R
b9	MPB	マルチプロセッサビットフラグ	シリアル受信データ（RDAT[8:0]）のマルチプロセッサビットの値を格納します。 0：データ送信サイクル 1：ID送信サイクル 調歩同期式モードにおいて、SMR.MP = 1およびFIFO選択時にのみ有効です。	R
b10	DR	受信データレディフラグ	本フラグはSSR_FIFO.DRと同じです。 0：受信中であるか、または正常に受信を完了した後、FRDRHおよびFRDRLレジスタに受信データが残っていない 1：正常に受信を完了した後、次の受信データが一定期間来ない	R （注1）
b11	PER	パリティエラーフラグ	0：FRDRHおよびFRDRLの第1データにパリティエラーの発生なし 1：FRDRHおよびFRDRLの第1データにパリティエラーの発生あり	R
b12	FER	フレーミングエラーフラグ	0：FRDRHおよびFRDRLの第1データにフレーミングエラーの発生なし 1：FRDRHおよびFRDRLの第1データにフレーミングエラーの発生あり	R
b13	ORER	オーバーランエラーフラグ	本フラグはSSR_FIFO.ORERと同じです。 0：オーバーランエラーの発生なし 1：オーバーランエラーの発生あり	R （注1）
b14	RDF	受信FIFOデータフルフラグ	本フラグはSSR_FIFO.RDFと同じです。 0：FRDRHおよびFRDRLに書き込まれた受信データ量が指定された受信トリガ数より少ない 1：FRDRHおよびFRDRLに書き込まれた受信データ量が指定された受信トリガ数以上である	R （注1）
b15	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

注 1.　本フラグを読むと、SSR_FIFO レジスタと同じ値が読み出されます。フラグをクリアする場合は、SSR_FIFO レジスタに 0 を書いてください。

FRDRHL レジスタは、それぞれ 8 ビットの FRDRH と FRDRL からなる 16 ビットのレジスタです。

FRDRH と FRDRL は、ソフトウェアで読み出し可能なシリアル受信データと関連するステータス情報を格納するための 16 段の FIFO レジスタを構成します。このレジスタは、調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）またはクロック同期式モードでのみ有効です。

SCI は、受信データを受信シフトレジスタ（RSR）から FRDRH と FRDRL へ転送し格納することで、1 フレーム分のシリアルデータの受信動作を完了します。16 段が格納されるまで連続受信が実行されます。FRDRH と FRDRL に受信データが存在しない場合、データを読み出すと、その値は不定です。FRDRH と FRDRL がいっぱいになると、それ以降のシリアル受信データは失われます。CPU から FRDRH レジスタと FRDRL レジスタを読み出すことはできますが、書き込むことはできません。

FRDRH レジスタの RDF、ORER、または DR フラグから 1 を読むことは、SSR_FIFO レジスタの対応するビットを読むことと同等です。FRDRH レジスタの読み出し後、SSR_FIFO レジスタのフラグに 0 を書いてクリアする場合は、クリアするフラグにのみ 0 を書いて、他のフラグには 1 を書いてください。

FRDRH レジスタと FRDRL レジスタの両方を読み出す場合は、FRDRH から FRDRL の順に読んでください。FDRHL レジスタは、16 ビット単位でアクセスが可能です。

30.2.5 送信データレジスタ（TDR）

アドレス SCI0.TDR 4007 0003h, SCI1.TDR 4007 0023h, SCI2.TDR 4007 0043h, SCI3.TDR 4007 0063h, SCI4.TDR 4007 0083h, SCI8.TDR 4007 0103h, SCI9.TDR 4007 0123h



TDR レジスタは、送信データを格納するための 8 ビットのレジスタです。

SCI は、TSR レジスタに空きを検出すると、TDR レジスタに書き込まれた送信データを TSR レジスタへ転送し、送信を開始します。

TDR レジスタと TSR レジスタはダブルバッファとして機能するため、連続送信動作が可能になります。1 フレーム分のデータを送信したとき、TDR レジスタに次の送信データが書き込まれていれば、SCI はそれを TSR レジスタへ転送して送信を続けます。

CPU からいつでも TDR レジスタの読み出し／書き込みが可能です。TDR レジスタへの送信データの書き込みは、送信データエンプティ割り込み（SCIn_TXI）要求が発生するごとに 1 回だけ行ってください。

30.2.6 送信 9 ビットデータレジスタ（TDRHL）

アドレス SCI0.TDRHL 4007 000Eh, SCI1.TDRHL 4007 002Eh, SCI2.TDRHL 4007 004Eh, SCI3.TDRHL 4007 006Eh, SCI4.TDRHL 4007 008Eh, SCI8.TDRHL 4007 010Eh, SCI9.TDRHL 4007 012Eh



TDRHL レジスタは、送信データを格納するための 16 ビットのレジスタです。調歩同期式モードおよび 9 ビットデータ長選択時に使用します。

TDRHL レジスタの下位 8 ビットは TDR レジスタのシャドーレジスタであるため、TDRHL レジスタへアクセスすると TDR レジスタに影響を与えます。7 ビットまたは 8 ビットのデータ長を選択した場合、TDRHL レジスタへのアクセスはしないでください。TSR レジスタに空きが検出されると、TDRHL レジスタに書き込まれている送信データが TSR レジスタへ転送されて、送信が開始されます。

TSR レジスタと TDRHL レジスタはダブルバッファとして機能するため、連続送信動作が可能になります。1 フレーム分のデータを送信したとき、TDRHL レジスタに次の送信データが書き込まれていれば、TDRHL レジスタから TSR レジスタへデータが転送されて、送信動作が継続します。

CPU から TDRHL レジスタの読み出し／書き込みが可能です。TDRHL[15:9] ビットは 1 に固定されているため、読むと 1 が読めます。書く場合、1 としてください。TDRHL レジスタへの送信データの書き込みは、送信データエンプティ割り込み（SCIn_TXI）要求が発生したときに 1 回だけ行ってください。

30.2.7　送信 FIFO データレジスタ H, L, HL（FTDRH, FTDRL, FTDRHL）

送信 FIFO データレジスタ H（FTDRH）

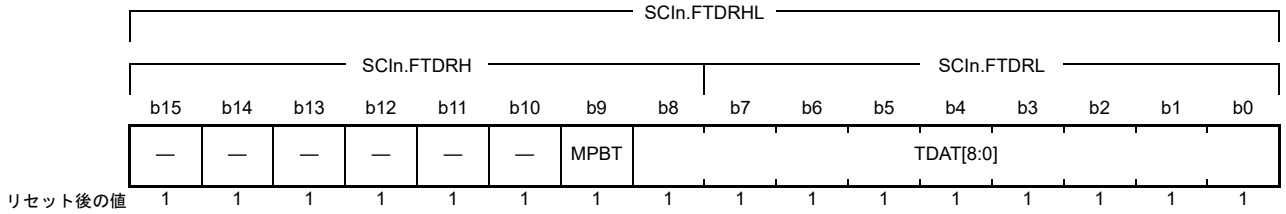
アドレス　SCI0.FTDRH 4007 000Eh, SCI1.FTDRH 4007 002Eh, SCI2.FTDRH 4007 004Eh, SCI3.FTDRH 4007 006Eh, SCI4.FTDRH 4007 008Eh, SCI8.FTDRH 4007 010Eh, SCI9.FTDRH 4007 012Eh

送信 FIFO データレジスタ L（FTDRL）

アドレス　SCI0.FTDRL 4007 000Fh, SCI1.FTDRL 4007 002Fh, SCI2.FTDRL 4007 004Fh, SCI3.FTDRL 4007 006Fh, SCI4.FTDRL 4007 008Fh, SCI8.FTDRL 4007 010Fh, SCI9.FTDRL 4007 012Fh

送信 FIFO データレジスタ HL（FTDRHL）

アドレス　SCI0.FTDRHL 4007 000Eh, SCI1.FTDRHL 4007 002Eh, SCI2.FTDRHL 4007 004Eh, SCI3.FTDRHL 4007 006Eh, SCI4.FTDRHL 4007 008Eh, SCI8.FTDRHL 4007 010Eh, SCI9.FTDRHL 4007 012Eh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b8-b0	TDAT[8:0]	シリアル送信データ	シリアル送信データを設定します。 調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）またはクロック同期式モードにおいて、FIFO選択時にのみ有効です。 シリアル送信データを設定します。	W
b9	MPBT	マルチプロセッサ通信ビットフラグ	送信フレーム中のマルチプロセッサビットを設定します。 0：データ送信サイクル 1：ID送信サイクル 調歩同期式モードにおいて、SMR.MP = 1およびFIFO選択時にのみ有効です。	W
b15-b10	—	予約ビット	書く場合、1としてください。	W

FTDRHL レジスタは、8 ビットレジスタの FTDRH と FTDRL からなる 16 ビットのレジスタです。

FTDRH レジスタと FTDRL レジスタは、シリアル送信データとマルチプロセッサ通信ビットを格納するための 16 段の FIFO レジスタを構成します。このレジスタは、調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）またはクロック同期式モードでのみ有効です。

SCI は、送信シフトレジスタ（TSR）に空きを検出すると、FTDRH と FTDRL に書き込まれたデータを TSR レジスタに転送し、シリアル送信を開始します。FTDRH と FTDRL に送信データが残っていない状態になるまで、連続シリアル送信が実行されます。FTDRHL レジスタが送信データでいっぱいになると、次のデータを書き込むことはできません。新たに書き込みを試みても、そのデータは無視されます。CPU から FTDRH レジスタと FTDRL レジスタに書き込むことはできますが、読み出すことはできません。

FTDRH レジスタと FTDRL レジスタの両方に書き込む場合は、FTDRH から FTDRL の順に書いてください。

MPBT フラグ（マルチプロセッサ通信ビットフラグ）

MPBT フラグは、送信フレームのマルチプロセッサビットの値を指定します。FCR.FM = 1 の場合、SSR.MPBT ビットは無効です。

30.2.8　送信シフトレジスタ（TSR）

TSR レジスタは、シリアルデータを送信するためのシフトレジスタです。シリアルデータ送信を行う場合、SCI ははじめに TDR、TDRHL、または送信 FIFO から TSR レジスタへ送信データを自動転送し、そのデータを TXDn 端子に送出します。CPU から TSR レジスタに直接アクセスすることはできません。

30.2.9　非スマートカードインタフェースモード用シリアルモードレジスタ（SMR）（SCMR.SMIF = 0）

アドレス　SCI0.SMR 4007 0000h, SCI1.SMR 4007 0020h, SCI2.SMR 4007 0040h, SCI3.SMR 4007 0060h, SCI4.SMR 4007 0080h, SCI8.SMR 4007 0100h, SCI9.SMR 4007 0120h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CM	CHR	PE	PM	STOP	MP	CKS[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	CKS[1:0]	クロック選択	b1 b0 0 0：PCLKAクロック（n = 0）（注1） 0 1：PCLKA/4クロック（n = 1）（注1） 1 0：PCLKA/16クロック（n = 2）（注1） 1 1：PCLKA/64クロック（n = 3）（注1）	R/W（注4）
b2	MP	マルチプロセッサモード	調歩同期式モードでのみ有効です。 0：マルチプロセッサ通信機能は無効 1：マルチプロセッサ通信機能は有効	R/W（注4）
b3	STOP	ストップビット長	調歩同期式モードでのみ有効です。 0：1ストップビット 1：2ストップビット	R/W（注4）
b4	PM	パリティモード	PEビット = 1の場合にのみ有効です。 0：偶数パリティを選択 1：奇数パリティを選択	R/W（注4）
b5	PE	パリティ許可	調歩同期式モードでのみ有効です。 • 送信時 0：パリティビットを付加しない 1：パリティビットを付加する • 受信時 0：パリティビットをチェックしない 1：パリティビットをチェックする	R/W（注4）
b6	CHR	キャラクタ長	調歩同期式モードでのみ有効です。（注2） SCMR.CHR1ビットと組み合わせて送受信キャラクタ長を選択します。 CHR1 CHR 0 0：データ長9ビットで送受信 0 1：データ長9ビットで送受信 1 0：データ長8ビットで送受信（初期値） 1 1：データ長7ビットで送受信（注3）	R/W（注4）
b7	CM	通信モード	0：調歩同期式モード、または簡易IICモード 1：クロック同期式モード、または簡易SPIモード	R/W（注4）

注 1.　n は BRR レジスタの設定値を 10 進表記で示します。30.2.17　ビットレートレジスタ（BRR）を参照してください。
注 2.　調歩同期式モード以外では、本ビットの設定は無効であり、データ長は 8 ビット固定です。
注 3.　LSB ファースト固定となり、送信モードでは TDR レジスタの MSB（ビット 7）は送信されません。
注 4.　SCR.TE ビットと SCR.RE ビットが 0（シリアル送信動作およびシリアル受信動作を禁止）の場合にのみ書き込み可能です。

SMR レジスタは、通信フォーマットと、内蔵ボーレートジェネレータのクロックソースを設定するためのレジスタです。

CKS[1:0] ビット（クロック選択）

CKS[1:0] ビットは、内蔵ボーレートジェネレータのクロックソースを選択します。これらのビットの設定値とボーレートの関係については、30.2.17　ビットレートレジスタ（BRR）を参照してください。

MP ビット（マルチプロセッサモード）

MP ビットは、マルチプロセッサ通信機能を有効または無効にします。マルチプロセッサモードでは、PE および PM ビットの設定は無効です。

STOP ビット（ストップビット長）

STOP ビットは、送信データのストップビット長を選択します。

受信時には、本ビットの設定にかかわらず、受信したストップビットの 1 ビット目のみがチェックされます。2 ビット目が 0 の場合は、次の送信フレームのスタートビットとみなされます。

PM ビット（パリティモード）

PM ビットは、送受信時のパリティ（偶数パリティ／奇数パリティ）を選択します。マルチプロセッサモードでは、PM ビットの設定は無効です。

PE ビット（パリティ許可）

PE ビットが 1 のとき、送信時はパリティビットを付加し、受信時はパリティチェックを行います。マルチプロセッサフォーマットでは、PE ビットの設定にかかわらず、パリティビットの付加、チェックは行いません。

CHR ビット（キャラクタ長）

CHR ビットは、SCMR.CHR1 ビットと組み合わせて、送受信データのデータ長を選択します。

調歩同期式モード以外では、データ長は 8 ビット固定です。

CM ビット（通信モード）

CM ビットは、通信モードを以下から選択します。

- 調歩同期式モード、または簡易 IIC モード
- クロック同期式モード、または簡易 SPI モード

30.2.10　スマートカードインタフェースモード用シリアルモードレジスタ（SMR_SMCI）（SCMR.SMIF = 1）

アドレス　SCI0.SMR_SMCI 4007 0000h, SCI1.SMR_SMCI 4007 0020h, SCI2.SMR_SMCI 4007 0040h, SCI3.SMR_SMCI 4007 0060h, SCI4.SMR_SMCI 4007 0080h, SCI8.SMR_SMCI 4007 0100h, SCI9.SMR_SMCI 4007 0120h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	GM	BLK	PE	PM	BCP[1:0]		CKS[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	CKS[1:0]	クロック選択	b1　b0 0　0：PCLKAクロック（n = 0）（注1） 0　1：PCLKA/4クロック（n = 1）（注1） 1　0：PCLKA/16クロック（n = 2）（注1） 1　1：PCLKA/64クロック（n = 3）（注1）	R/W（注2）
b3-b2	BCP[1:0]	基本クロックパルス	SCMR.BCP2ビットと組み合わせて基本クロックのサイクル数を選択します。表 30.3に、SCMR.BCP2ビットとSMR.BCP[1:0]ビットの組み合わせを示します。	R/W（注2）
b4	PM	パリティモード	PEビット = 1の場合にのみ有効です。 0：偶数パリティを選択 1：奇数パリティを選択	R/W（注2）
b5	PE	パリティ許可	PEビットが1のとき、送信時はパリティビットを付加し、受信時はパリティチェックを行います。スマートカードインタフェースモードでは、本ビットを1にしてください。	R/W（注2）
b6	BLK	ブロック転送モード	0：非ブロック転送モードで動作 1：ブロック転送モードで動作	R/W（注2）
b7	GM	GSMモード	0：非GSMモードで動作 1：GSMモードで動作	R/W（注2）

注 1.　n は BRR レジスタの設定値を 10 進表記で示します。30.2.17　ビットレートレジスタ（BRR）を参照してください。
注 2.　SCR_SMCI.TE ビットと SCR_SMCI.RE ビットが 0（シリアル送信動作およびシリアル受信動作を禁止）の場合にのみ書き込み可能です。

SMR_SMCI レジスタは、通信フォーマットと、内蔵ボーレートジェネレータのクロックソースを設定するためのレジスタです。

CKS[1:0] ビット（クロック選択）

CKS[1:0] ビットは、内蔵ボーレートジェネレータのクロックソースを選択します。

これらのビットの設定値とボーレートの関係については、30.2.17　ビットレートレジスタ（BRR）を参照してください。

BCP[1:0] ビット（基本クロックパルス）

BCP[1:0] ビットは、スマートカードインタフェースモードにおいて、1 ビット転送時間中の基本クロックのサイクル数を選択します。

SCMR.BCP2 ビットと組み合わせて選択します。

詳細は、30.6.4　受信データのサンプリングタイミングと受信マージンを参照してください。

表 30.3　SCMR.BCP2ビットとSMR_SMCI.BCP[1:0]ビットの組み合わせ

SCMR.BCP2ビット	SMR_SMCI.BCP[1:0]ビット	1ビット転送時間中の基本クロックのサイクル数
0	00	93クロックサイクル（S = 93）（注1）
0	01	128クロックサイクル（S = 128）（注1）
0	10	186クロックサイクル（S = 186）（注1）
0	11	512クロックサイクル（S = 512）（注1）
1	00	32クロックサイクル（S = 32）（注1）（初期値）
1	01	64クロックサイクル（S = 64）（注1）
1	10	372クロックサイクル（S = 372）（注1）
1	11	256クロックサイクル（S = 256）（注1）

注 1.　S は BRR レジスタの S の値を表します。30.2.17　ビットレートレジスタ（BRR）を参照してください。

PM ビット（パリティモード）

PM ビットは、送受信時のパリティモード（偶数パリティ／奇数パリティ）を選択します。スマートカードインタフェースモードにおける本ビットの使用方法については、30.6.2　データフォーマット（ブロック転送モード時を除く）を参照してください。

PE ビット（パリティ許可）

PE ビットは 1 にしてください。送信前、送信データにパリティビットを付加し、受信時はパリティチェックを行います。

BLK ビット（ブロック転送モード）

BLK ビットを 1 にすると、ブロック転送モードで動作します。詳細は、30.6.3　ブロック転送モードを参照してください。

GM ビット（GSM モード）

GM ビットを 1 にすると、GSM モードで動作します。GSM モードでは、SSR_SMCI.TEND フラグのセットタイミングが、先頭ビットから 11.0ETU（ETU：Elementary Time Unit = 1 ビット転送時間）に繰り上げられ、クロック出力制御機能が有効になります。詳細は、30.6.6　シリアルデータの送信（ブロック転送モード時を除く）および 30.6.8　クロック出力制御を参照してください。

30.2.11　非スマートカードインタフェースモード用シリアルコントロールレジスタ（SCR）（SCMR.SMIF = 0）

アドレス　SCI0.SCR 4007 0002h, SCI1.SCR 4007 0022h, SCI2.SCR 4007 0042h, SCI3.SCR 4007 0062h, SCI4.SCR 4007 0082h, SCI8.SCR 4007 0102h, SCI9.SCR 4007 0122h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TIE	RIE	TE	RE	MPIE	TEIE	CKE[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	CKE[1:0]	クロック許可	• 調歩同期式モード b1 b0 0 0：内蔵ボーレートジェネレータ I/Oポートの設定によって、SCKn端子は入出力ポートとして使用できます。 0 1：内蔵ボーレートジェネレータ SCKn端子からビットレートと同じ周波数のクロックを出力します。 1 x：外部クロック SEMR.ABCSビットが0の場合、SCKn端子からビットレートの16倍の周波数のクロックを入力してください。 SEMR.ABCSビットが1の場合、8倍の周波数のクロック信号を入力してください。 • クロック同期式モード b1 b0 0 x：内部クロック SCKn端子はクロック出力端子となります。 1 x：外部クロック SCKn端子はクロック入力端子となります。	R/W （注1）
b2	TEIE	送信終了割り込み許可	0：SCIn_TEI割り込み要求を禁止 1：SCIn_TEI割り込み要求を許可	R/W
b3	MPIE	マルチプロセッサ割り込み許可	調歩同期式モードで、SMR.MPビット = 1のとき有効です。 0：非マルチプロセッサ受信動作 1：マルチプロセッサビットが0のデータを受信した場合、そのデータは読み飛ばし、SSRレジスタのRDRF、ORERおよびFERの各ステータスフラグを1にすることはできない。マルチプロセッサビットが1のデータを受信した場合、MPIEビットは自動的に0になり、れ、非マルチプロセッサ受信動作に戻る	R/W （注3）
b4	RE	受信許可	0：シリアル受信動作を禁止 1：シリアル受信動作を許可	R/W （注2）
b5	TE	送信許可	0：シリアル送信動作を禁止 1：シリアル送信動作を許可	R/W （注2）
b6	RIE	受信割り込み許可	0：SCIn_RXIおよびSCIn_ERI割り込み要求を禁止 1：SCIn_RXIおよびSCIn_ERI割り込み要求を許可	R/W
b7	TIE	送信割り込み許可	0：SCIn_TXI割り込み要求を禁止 1：SCIn_TXI割り込み要求を許可	R/W

x：Don’t care

注 1.　TE ビット = 0 かつ RE ビット = 0 の場合にのみ書き込み可能です。

注 2.　SMR.CM ビットが 1 のとき、TE ビット = 0 かつ RE ビット = 0 の場合にのみ 1 の書き込みが可能です。TE ビットまたは RE ビットを 1 にした後は、TE ビットと RE ビットには 0 の書き込みのみが可能です。SMR.CM ビットが 0、かつ SIMR1.IICM ビットが 0 の場合、任意のタイミングで書き込みが可能です。

注 3.　マルチプロセッサモード（SMR.MP ビット = 1）では、このレジスタの MPIE ビット以外のビットに新しい値を書き込む場合、ビット操作命令を用いたときにリードモディファイライト命令によって MPIE ビットが誤って 1 になってしまうのを防ぐため、ストア命令を用いて MPIE ビットに 0 を書いてください。

SCR レジスタは、送受信の制御とクロックソース選択を行うためのレジスタです。

CKE[1:0] ビット（クロック許可）

CKE[1:0] ビットは、クロックソースと SCKn 端子機能を選択します。

TEIE ビット（送信終了割り込み許可）

TEIE ビットは、SCIn_TEI 割り込み要求を許可または禁止します。SCIn_TEI 割り込み要求を禁止にするには、TEIE ビットを 0 にしてください。

簡易 IIC モードでは、開始／再開始／停止条件の発行完了時の割り込み（STIn 割り込み）に SCIn_TEI 割り込みが割り当てられます。この場合、TEIE ビットによって STI 割り込み要求を許可／禁止することが可能です。

MPIE ビット（マルチプロセッサ割り込み許可）

MPIE ビットを 1 にすると、マルチプロセッサビットが 0 のデータを受信した場合、そのデータは読み飛ばされて、SSR/SSR_FIFO レジスタの RDRF、RDF、ORER および FER の各ステータスフラグを 1 にすることはできません。マルチプロセッサビットが 1 のデータを受信した場合、MPIE ビットは自動的に 0 にクリアされ、通常の受信動作に戻ります。詳細は、30.4　マルチプロセッサ通信機能を参照してください。

SSR レジスタの MPB ビットが 0 のときは、RSR レジスタから RDR レジスタへ受信データは転送されず、受信エラーも検出されません。また、ORER および FER フラグを 1 にすることはできません。

MPB ビットが 1 であると、MPIE ビットは自動的に 0 に設定され、SCIn_RXI および SCIn_ERI 割り込み要求が許可されます（SCR.RIE ビットが 1 の場合）。また、ORER および FER フラグを 1 に設定できます。

マルチプロセッサ通信機能を使用しない場合、MPIE ビットを 0 にしてください。

RE ビット（受信許可）

RE ビットは、シリアル受信動作を許可または禁止します。RE ビットを 1 にすると、調歩同期式モードの場合はスタートビットを、クロック同期式モードの場合は同期クロック入力を検出することで、シリアル受信を開始します。RE ビットを 1 にする前に、SMR レジスタに受信フォーマットを設定してください。

非 FIFO 動作選択時は、RE ビットを 0 にして受信動作を停止させても、SSR レジスタの RDRF、ORER、FER、および PER の各フラグは影響を受けず、以前の値が保持されます。

FIFO 選択時は、RE ビットを 0 にして受信動作を停止させても、SSR_FIFO レジスタの RDF、ORER、FER、PER、および DR の各フラグは影響を受けず、以前の値が保持されます。

TE ビット（送信許可）

TE ビットは、シリアル送信動作を許可または禁止します。

TE ビットを 1 にすると、TDR レジスタに送信データを書き込むことでシリアル送信を開始します。TE ビットを 1 にする前に、SMR レジスタに送信フォーマットを設定してください。

RIE ビット（受信割り込み許可）

RIE ビットは、SCIn_RXI および SCIn_ERI 割り込み要求を許可または禁止します。

RIE ビットを 0 にすると、SCIn_RXI および SCIn_ERI の割り込み要求は禁止されます。

SCIn_ERI 割り込み要求の解除は、SSR/SSR_FIFO レジスタの ORER、FER、または PER フラグから 1 を読み出した後に 0 にするか、RIE ビットを 0 にすることで行うことができます。

TIE ビット（送信割り込み許可）

TIE ビットは、SCIn_TXI 割り込み要求を許可または禁止します。

SCIn_TXI 割り込み要求を禁止にするには、TIE ビットを 0 にしてください。TE ビットが 1 のときに、TIE ビットを 1 にしてください。SCIn_TXI 割り込みを発生させるには、転送が開始する前に TE と TIE を同時に 1 に設定してください。

30.2.12　スマートカードインタフェースモード用シリアルコントロールレジスタ（SCR_SMCI）（SCMR.SMIF = 1）

アドレス　SCI0.SCR_SMCI 4007 0002h, SCI1.SCR_SMCI 4007 0022h, SCI2.SCR_SMCI 4007 0042h, SCI3.SCR_SMCI 4007 0062h, SCI4.SCR_SMCI 4007 0082h, SCI8.SCR_SMCI 4007 0102h, SCI9.SCR_SMCI 4007 0122h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TIE	RIE	TE	RE	MPIE	TEIE	CKE[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	CKE[1:0]	クロック許可	• SMR_SMCI.GMビット= 0の場合 b1 b0 0 0：出力を禁止 （SCKn端子は、I/Oポートの設定でセットアップすれば、入出力ポートとして使用可能です 0 1：クロックを出力 1 x：設定禁止 • SMR_SMCI.GMビット= 1の場合 b1 b0 0 0：出力をLowに固定 x 1：クロックを出力 1 0：出力をHighに固定	R/W （注1）
b2	TEIE	送信終了割り込み許可	スマートカードインタフェースモードでは、本ビットを0にしてください。	R/W
b3	MPIE	マルチプロセッサ割り込み許可	スマートカードインタフェースモードでは、本ビットを0にしてください。	R/W
b4	RE	受信許可	0：シリアル受信動作を禁止 1：シリアル受信動作を許可	R/W （注2）
b5	TE	送信許可	0：シリアル送信動作を禁止 1：シリアル送信動作を許可	R/W （注2）
b6	RIE	受信割り込み許可	0：SCIn_RXIおよびSCIn_ERI割り込み要求を禁止 1：SCIn_RXIおよびSCIn_ERI割り込み要求を許可	R/W
b7	TIE	送信割り込み許可	0：SCIn_TXI割り込み要求を禁止 1：SCIn_TXI割り込み要求を許可	R/W

x：Don’t care

注 1.　TE ビット = 0 かつ RE ビット = 0 の場合にのみ書き込み可能です。
注 2.　TE ビット = 0 かつ RE ビット = 0 の場合にのみ 1 の書き込みが可能です。TE ビットまたは RE ビットを 1 にした後は、TE ビットと RE ビットには 0 の書き込みのみが可能です。

SCR_SMCI レジスタは、送受信制御、割り込み制御、および送受信のクロックソース選択を行うためのレジスタです。

各割り込み要求については、30.10　割り込み要因を参照してください。

CKE[1:0] ビット（クロック許可）

CKE[1:0] ビットは、SCKn 端子からのクロック出力を制御します。

GSM モードでは、クロック出力を動的に切り替えることが可能です。詳細は、30.6.8　クロック出力制御を参照してください。

TEIE ビット（送信終了割り込み許可）

スマートカードインタフェースモードでは、TEIE ビットを 0 にしてください。

MPIE ビット（マルチプロセッサ割り込み許可）

スマートカードインタフェースモードでは、MPIE ビットを 0 にしてください。

RE ビット（受信許可）

RE ビットは、シリアル受信動作を許可または禁止します。

RE ビットを 1 にすると、スタートビットを検出することでシリアル受信を開始します。RE ビットを 1 にする前に、SMR_SMCI レジスタに受信フォーマットを設定してください。

RE ビットを 0 にして受信動作を停止しても、SSR_SMCI レジスタの ORER、FER、および PER の各フラグは影響を受けず、以前の値を保持します。

TE ビット（送信許可）

TE ビットは、シリアル送信動作を許可または禁止します。TE ビットを 1 にすると、TDR レジスタに送信データを書き込むことでシリアル送信を開始します。TE ビットを 1 にする前に、SMR_SMCI レジスタに送信フォーマットを設定してください。

RIE ビット（受信割り込み許可）

RIE ビットは、SCIn_RXI および SCIn_ERI 割り込み要求を許可または禁止します。RIE ビットを 0 にすると、SCIn_RXI および SCIn_ERI の割り込み要求は禁止されます。

SCIn_ERI 割り込み要求の解除は、SSR_SMCI レジスタの ORER、FER、または PER フラグから 1 を読み出した後に 0 にするか、RIE ビットを 0 にすることで行うことができます。

TIE ビット（送信割り込み許可）

TIE ビットは、SCIn_TXI 割り込み要求を許可または禁止します。

SCIn_TXI 割り込み要求を禁止にするには、TIE ビットを 0 にしてください。TE ビットが 1 のときに、TIE ビットを 1 にしてください。SCIn_TXI 割り込みを発生させるには、転送が開始する前に TE ビットと TIE ビットを同時に 1 に設定してください。

30.2.13　非スマートカードインタフェースおよび非 FIFO モード用シリアルステータスレジスタ（SSR）（SCMR.SMIF = 0 および FCR.FM = 0）

アドレス　SCI0.SSR 4007 0004h, SCI1.SSR 4007 0024h, SCI2.SSR 4007 0044h, SCI3.SSR 4007 0064h, SCI4.SSR 4007 0084h, SCI8.SSR 4007 0104h, SCI9.SSR 4007 0124h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TDRE	RDRF	ORER	FER	PER	TEND	MPB	MPBT
リセット後の値	1	0	0	0	0	1	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MPBT	マルチプロセッサビット転送	送信フレーム中のマルチプロセッサビットの値を設定します。 0：データ送信サイクル 1：ID送信サイクル	R/W
b1	MPB	マルチプロセッサ	受信フレーム中のマルチプロセッサビットの値を設定します。 0：データ送信サイクル 1：ID送信サイクル	R
b2	TEND	送信終了フラグ	0：キャラクタを送信中 1：キャラクタを送信終了	R
b3	PER	パリティエラーフラグ	0：パリティエラーの発生なし 1：パリティエラーの発生あり	R/(W) （注1）
b4	FER	フレーミングエラーフラグ	0：フレーミングエラーの発生なし 1：フレーミングエラーの発生あり	R/(W) （注1）
b5	ORER	オーバーランエラーフラグ	0：オーバーランエラーの発生なし 1：オーバーランエラーの発生あり	R/(W) （注1）
b6	RDRF	受信データフルフラグ	0：RDR レジスタに受信データなし 1：RDR レジスタに受信データあり	R/(W) （注1）
b7	TDRE	送信データエンプティフラグ	0：TDR レジスタに送信データあり 1：TDR レジスタに送信データなし	R/(W) （注1）

注 1.　フラグをクリアするため、1 を読んだ後に 0 を書き込むことのみ可能です。

SSR レジスタは、SCI ステータスフラグと送受信マルチプロセッサビットを設定するためのレジスタです。

MPBT ビット（マルチプロセッサビット転送）

MPBT ビットは、送信フレームのマルチプロセッサビットの値を設定します。

MPB ビット（マルチプロセッサ）

MPB ビットは、受信フレーム中のマルチプロセッサビットの値を格納します。SCR.RE ビットが 0 のときは変化しません。

TEND フラグ（送信終了フラグ）

TEND フラグは、送信が終了したことを示します。

［1 になる条件］

- SCR.TE ビットが 0（シリアル送信動作を禁止）、かつ FCR.FM ビットが 0（非 FIFO 選択時）のとき

  SCR.TE ビットが 1 のときは、TEND フラグは影響を受けず、1 の値を保持します。
- 送信キャラクタの最後尾ビットの送信時、TDR レジスタが更新されないとき

［0 になる条件］

- SCR.TE ビットが 1 の状態で、TDR レジスタに送信データを書いたとき
- SCR.TE ビットが 1 の状態で、TDRE = 1 を読んだ後、TDRE に 0 を書いたとき

PER フラグ（パリティエラーフラグ）

PER フラグは、調歩同期式モードで、受信中にパリティエラーが発生して異常終了したことを示します。

［1 になる条件］

- 調歩同期式モードでの受信時に、アドレス一致検出機能が無効（DCCR.DCME = 0）の状態で、パリティエラーが検出されたとき

  パリティエラーが発生した場合、受信データは RDR レジスタへ転送されますが、SCIn_RXI 割り込み要求は発生しません。PER フラグが 1 の状態では、以降の受信データは RDR レジスタへ転送されません。

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

  PER フラグに 0 を書いた後は、PER フラグを読み出して、実際に 0 になっていることを確認してください。

SCR.RE ビットを 0（シリアル受信動作を禁止）にしても、PER フラグは影響を受けず、以前の値を保持します。

FER フラグ（フレーミングエラーフラグ）

FER フラグは、調歩同期式モードで、受信中にフレーミングエラーが発生して異常終了したことを示します。

［1 になる条件］

- 調歩同期式モードでの受信時に、アドレス一致検出機能が無効（DCCR.DCME = 0）の状態で、ストップビットとして 0 がサンプリングされたとき

  2 ストップビットモードでは、ストップビットの 1 ビット目のみがチェックされます。2 ビット目はチェックされません。フレーミングエラーが発生した場合、受信データは RDR レジスタへ転送されますが、SCIn_RXI 割り込み要求は発生しません。FER フラグが 1 の状態では、以降の受信データは RDR レジスタへ転送されません。

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

  FER フラグに 0 を書いた後は、FER フラグを読み出して、実際に 0 になっていることを確認してください。

SCR.RE ビットを 0（シリアル受信動作を禁止）にしても、FER フラグは影響を受けず、以前の値を保持します。

ORER フラグ（オーバーランエラーフラグ）

ORER フラグは、受信中にオーバーランエラーが発生して異常終了したことを示します。

［1 になる条件］

- RDR レジスタからパリティエラーもフレーミングエラーもない受信データを読み出す前に、次のデータを受信したとき

  オーバーランエラーが発生する前に受信したデータは RDR レジスタに保持されますが、発生後に受信したデータは失われます。ORER フラグが 1 の状態では、受信データは RDR レジスタへ転送されません。クロック同期式モードでは、シリアル送受信は停止します。

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

  ORER フラグに 0 を書いた後は、ORER フラグを読み出して、実際に 0 になっていることを確認してください。

SCR.RE ビットを 0（シリアル受信動作を禁止）にしても、ORER フラグは影響を受けず、以前の値を保持します。

RDRF フラグ（受信データフルフラグ）

RDRF フラグは、RDR レジスタ内の受信データの有無を示します。

［1 になる条件］

- 受信が正常終了し、RSR レジスタから RDR レジスタへ受信データが転送されたとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- RDR レジスタからデータを読み出したとき

注 .　通信が中断しない限り、SSR レジスタの RDRF ビットにアクセスすることによって RDRF フラグをクリアしないでください。

TDRE フラグ（送信データエンプティフラグ）

TDRE フラグは、TDR レジスタ内の送信データの有無を示します。

［1 になる条件］

- SCR.TE ビットが 0 のとき
- TDR レジスタから TSR レジスタへデータが転送されたとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- SCR.TE ビットが 1 の状態で、データを TDR レジスタに書き込んだとき

注 .　通信が中断しない限り、SSR レジスタの TDRE にアクセスすることによって TDRE フラグをクリアしないでください。

30.2.14　非スマートカードインタフェースおよびFIFOモード用シリアルステータスレジスタ（SSR_FIFO）（SCMR.SMIF = 0 および FCR.FM = 1）

アドレス　SCI0.SSR_FIFO 4007 0004h, SCI1.SSR_FIFO 4007 0024h, SCI2.SSR_FIFO 4007 0044h, SCI3.SSR_FIFO 4007 0064h, SCI4.SSR_FIFO 4007 0084h, SCI8.SSR_FIFO 4007 0104h, SCI9.SSR_FIFO 4007 0124h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TDFE	RDF	ORER	FER	PER	TEND	—	DR
リセット後の値	1	0	0	0	0	0	x	0

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DR	受信データレディフラグ	0：受信中であるか、または正常に受信を完了した後、FRDRHLに受信データが残っていない（受信FIFOが空である） 1：FIFOに格納されているデータ量が受信トリガ数以下であるとき、正常に受信を完了した後、次の受信データが一定期間来ない	R/(W)（注1）
b1	—	予約ビット	読むと不定値が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b2	TEND	送信終了フラグ	0：キャラクタを送信中 1：キャラクタを送信終了	R/(W)（注1）
b3	PER	パリティエラーフラグ	0：パリティエラーの発生なし 1：パリティエラーの発生あり	R/(W)（注1）
b4	FER	フレーミングエラーフラグ	0：フレーミングエラーの発生なし 1：フレーミングエラーの発生あり	R/(W)（注1）
b5	ORER	オーバーランエラーフラグ	0：オーバーランエラーの発生なし 1：オーバーランエラーの発生あり	R/(W)（注1）
b6	RDF	受信FIFOデータフルフラグ	0：FRDRHLに書き込まれた受信データ量が指定された受信トリガ数より少ない 1：FRDRHLに書き込まれた受信データ量が指定された受信トリガ数以上である	R/(W)（注1）
b7	TDFE	送信FIFOデータエンプティフラグ	0：FTDRHLに書き込まれた送信データ量が指定された送信トリガ数を超えている 1：FTDRHLに書き込まれた送信データ量が指定された送信トリガ数以下である	R/(W)（注1）

注 1.　フラグをクリアするため、1 を読んだ後に 0 を書き込むことのみ可能です。

SSR_FIFO レジスタは、FIFO モード用のステータスフラグのためのレジスタです。

DR フラグ（受信データレディフラグ）

DR フラグは、受信 FIFO データレジスタ（FRDRHL）に格納されたデータ量が指定された受信トリガ数より少ないこと、および、調歩同期式モードにおいて最後のストップビットから 15ETU（Elementary Time Unit）経過しても次のデータが受信されていないことを示します。本フラグは、調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）において、FIFO 選択時にのみ有効です。クロック同期式モードでは、DR フラグは 1 になりません。

［1 になる条件］

- FRDRHL 内のデータ数が指定された受信トリガ数より少なく、最後のストップビットから 15ETU（注 1）経過しても次のデータが受信されておらず、かつ SSR_FIFO.FER および SSR_FIFO.PER フラグが 0 のとき

［0 になる条件］

- 受信データをすべて読み出した後、DR フラグから 1 を読み出したとき
- FCR.FM ビットが 0 から 1 に切り替わったとき

注 1.　15ETU は、8 ビットフォーマットで 1 ストップビットが選択されている場合の 1.5 フレーム分に相当します。DR フラグは、調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）において、FIFO 選択時にのみ 1 になります。他の動作モードでは 1 になりません。

TEND フラグ（送信終了フラグ）

TEND フラグは、シリアルキャラクタの最後尾ビットの送信時に、FTDRHL レジスタに有効なデータがなく、送信が停止したことを示します。

［1 になる条件］

- 1 バイトのシリアル送信キャラクタの最後尾ビット送信時に、FTDRHL レジスタに送信データがないとき

［0 になる条件］

- SCR.TE ビットが 1 の状態で、FTDRHL レジスタに送信データを書いたとき
- SCR.TE ビットが 1 の状態で、TEND から 1 を読んだ後、TEND に 0 を書いたとき
- FCR.FM ビットが 0 から 1 に切り替わったとき

PER フラグ（パリティエラーフラグ）

PER フラグは、アドレス一致検出機能が無効（DCCR.DCME = 0）のとき、調歩同期式モードで FRDRHL レジスタから読み出したデータにパリティエラーが存在するか否かを示します。

［1 になる条件］

- アドレス一致検出機能が無効（DCCR.DCME = 0）の状態で、データ受信時にパリティエラーが検出されたとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

データ受信中にパリティエラーが発生しても、受信動作は継続し、受信データが FRDRHL レジスタに格納されます。

SCR.RE ビットを 0（シリアル受信動作を禁止）にしても、PER フラグは影響を受けず、以前の値を保持します。

FER フラグ（フレーミングエラーフラグ）

FER フラグは、アドレス一致検出機能が無効（DCCR.DCME = 0）のとき、調歩同期式モードで FRDRHL レジスタから読み出したデータにフレーミングエラが存在するか否かを示します。

［1 になる条件］

- アドレス一致検出機能が無効（DCCR.DCME = 0）の状態で、受信時にストップビットとして 0 がサンプリングされたとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

データ受信中にフレーミングエラーが発生しても、受信動作は継続し、受信データが FRDRHL レジスタに格納されます。

SCR.RE ビットを 0（シリアル受信動作を禁止）にしても、FER フラグは影響を受けず、以前の値を保持します。

ORER フラグ（オーバーランエラーフラグ）

ORER フラグは、オーバーランエラーの発生が原因で受信動作が異常停止したことを示します。

［1 になる条件］

- 受信 FIFO が 16 バイトの受信データでいっぱいになった状態で、次のシリアル受信を完了したとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

SCR.RE ビットを 0（シリアル受信動作を禁止）にしても、ORER フラグは影響を受けず、以前の値を保持します。

RDF フラグ（受信 FIFO データフルフラグ）

RDF フラグは、受信データが FRDRHL レジスタへ転送されて、FRDRHL のデータ量が指定された受信トリガ数と等しいか、または超えたことを示します。RTRG が 0 の場合は、受信 FIFO のデータ量が 0 であっても、RDF フラグはセットされません。

［1 になる条件］

- 指定された受信トリガ数以上の受信データ量が FRDRHL レジスタ（注 1）に格納され、かつ FIFO が空状態でないとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- FRDRHL レジスタが DMAC または DTC によって読み出されたとき（ブロック転送が最終送信の場合のみ）
- 1 になる条件と 0 になる条件が同時に発生したとき

  この場合、RDF フラグは 0 になります。その後、FRDRHL レジスタに格納されたデータ量が RTRG の値以上になると、1PCLKA 後に RDF フラグは 1 になります。

注 .　通信が中断しない限り、受信データを読み出す前に SSR レジスタの RDF にアクセスすることによって RDF フラグをクリアしないでください。

注 1.　FRDRHL は 16 段の FIFO レジスタであるため、RDF が 1 のときに読み出し可能な最大データ量は、指定された受信トリガ数と同等です。FRDRHL 内のデータをすべて読み出した後に、さらに読み出しを実行すると、不定値が読み出されます。

TDFE フラグ（送信 FIFO データエンプティフラグ）

TDFE フラグは、データが FTDRHL レジスタから TSR レジスタへ転送されて、FTDRHL のデータ量が指定された送信トリガ数を下回り、FTDRHL への送信データの書き込みが可能になったことを示します。

［1 になる条件］

- SCR.TE ビットが 0 のとき
- FTDRHL に書き込まれた送信データ量が、指定された送信トリガ数以下であるとき（注 1）

［0 になる条件］

- DMAC または DTC が起動している状態で、最終送信に対する FTDRHL への書き込みが実行されたとき
- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
  TE = 0 のときは、1 になる条件が優先されます。1 になる条件と 0 になる条件が同時に発生した場合、TDFE フラグは 0 になります。その後、FTDRHL レジスタに格納されたデータ量が TTRG の値と同じまたは以下になると、1PCLKA 後に TDFE フラグは 1 になります。

注 .　通信が中断しない限り、送信データを書き込む前に SSR レジスタの TDFE にアクセスすることによって TDFE フラグをクリアしないでください。

注 1.　FTDRHL レジスタは 16 段の FIFO レジスタであるため、TDFE フラグが 1 のときに FTDRHL レジスタに書き込み可能なデータの最大バイト数は 16 - FDR.T[4:0] になります。さらにデータを書き込んでも、そのデータは破棄されます。

30.2.15　スマートカードインタフェースモード用シリアルステータスレジスタ（SSR_SMCI）（SCMR.SMIF = 1）

アドレス　SCI0.SSR_SMCI 4007 0004h, SCI1.SSR_SMCI 4007 0024h, SCI2.SSR_SMCI 4007 0044h, SCI3.SSR_SMCI 4007 0064h, SCI4.SSR_SMCI 4007 0084h, SCI8.SSR_SMCI 4007 0104h, SCI9.SSR_SMCI 4007 0124h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TDRE	RDRF	ORER	ERS	PER	TEND	MPB	MPBT
リセット後の値	1	0	0	0	0	1	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MPBT	マルチプロセッサビット転送	スマートカードインタフェースモードでは、本ビットを0にしてください。	R/W
b1	MPB	マルチプロセッサ	スマートカードインタフェースモードでは、本ビットを0にしてください。	R
b2	TEND	送信終了フラグ	0：キャラクタを送信中 1：キャラクタを送信終了	R
b3	PER	パリティエラーフラグ	0：パリティエラーの発生なし 1：パリティエラーの発生あり	R/(W) （注1）
b4	ERS	エラーシグナルステータスフラグ	0：エラーシグナルLowをサンプリングしない 1：エラーシグナルLowをサンプリングする	R/(W) （注1）
b5	ORER	オーバーランエラーフラグ	0：オーバーランエラーの発生なし 1：オーバーランエラーの発生あり	R/(W) （注1）
b6	RDRF	受信データフルフラグ	0：RDRレジスタに受信データなし 1：RDRレジスタに受信データあり	R/(W) （注1）
b7	TDRE	送信データエンプティフラグ	0：TDRレジスタに送信データあり 1：TDRレジスタに送信データなし	R/(W) （注1）

注 1.　フラグをクリアするため、1 を読んだ後に 0 を書き込むことのみ可能です。

SSR_SMCI レジスタは、スマートカードインタフェースモード用のステータスフラグのためのレジスタです。

TEND フラグ（送信終了フラグ）

受信側からエラー信号がなく、次の送信データが TDR レジスタに転送可能となったとき、TEND フラグは 1 になります。

［1 になる条件］

- SCR_SMCI.TE ビット = 0（シリアル送信動作を禁止）のとき

  SCR_SMCI.TE ビットを 0 から 1 に変更しても、TEND フラグは影響を受けず、1 の値を保持します。
- 1 バイトのデータを送信してから指定した期間が経過した後、ERS フラグが 0 で、かつ TDR レジスタが更新されないとき

  1 になるタイミングは、以下のように、レジスタの設定値によって決定されます。
  - SMR_SMCI.GM = 0、SMR_SMCI.BLK = 0 のとき、送信開始から 12.5ETU 経過後
  - SMR_SMCI.GM = 0、SMR_SMCI.BLK = 1 のとき、送信開始から 11.5ETU 経過後
  - SMR_SMCI.GM = 1、SMR_SMCI.BLK = 0 のとき、送信開始から 11.0ETU 経過後
  - SMR_SMCI.GM = 1、SMR_SMCI.BLK = 1 のとき、送信開始から 11.0ETU 経過後

［0 になる条件］

- SCR_SMCI.TE ビットが 1 の状態で、TDR レジスタに送信データを書いたとき

- SCR_SMCI.TE ビットが 1 の状態で、TDRE = 1 を読んだ後、TDRE に 0 を書いたとき

PER フラグ（パリティエラーフラグ）

PER フラグは、調歩同期式モードで、受信中にパリティエラーが発生して異常終了したことを示します。

[1 になる条件]

- 受信中にパリティエラーが検出されたとき

  パリティエラーが発生した場合、受信データは RDR レジスタへ転送されますが、SCIn_RXI 割り込み要求は発生しません。PER フラグが 1 になった後は、以降の受信データは RDR レジスタへ転送されません。

[0 になる条件]

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

  PER フラグに 0 を書いた後は、PER フラグを読み出して、実際に 0 になっていることを確認してください。

SCR_SMCI.RE ビットを 0（シリアル受信動作を禁止）にしても、PER フラグは影響を受けず、以前の値を保持します。

ERS フラグ（エラーシグナルステータスフラグ）

[1 になる条件]

- エラーシグナル Low をサンプリングしたとき

[0 になる条件]

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

ORER フラグ（オーバーランエラーフラグ）

ORER フラグは、受信中にオーバーランエラーが発生して異常終了したことを示します。

[1 になる条件]

- RDR レジスタからパリティエラーのない受信データを読み出す前に、次のデータを受信したとき

  オーバーランエラーが発生する前に受信したデータは RDR レジスタに保持されますが、発生後に受信したデータは失われます。ORER フラグが 1 の状態では、受信データは RDR レジスタへ転送されません。

[0 になる条件]

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

  ORER フラグに 0 を書いた後は、ORER フラグを読み出して、実際に 0 になっていることを確認してください。

SCR_SMCI.RE ビットを 0 にしても、ORER フラグは影響を受けず、以前の値を保持します。

RDRF フラグ（受信データフルフラグ）

RDRF フラグは、RDR レジスタ内の受信データの有無を示します。

[1 になる条件]

- 受信が正常終了し、RSR レジスタから RDR レジスタへ受信データが転送されたとき

[0 になる条件]

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- RDR レジスタからデータを読み出したとき

注 .　通信が中断しない限り、SSR レジスタの RDRF にアクセスすることによって RDRF フラグをクリアしないでください。

TDRE フラグ（送信データエンプティフラグ）

TDRE フラグは、TDR レジスタ内の送信データの有無を示します。

［1 になる条件］

- SCR_SMCI.TE ビットが 0 のとき
- TDR レジスタから TSR レジスタへデータが転送されたとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- SCR_SMCI.TE ビットが 1 の状態で、データを TDR レジスタに書き込んだとき

注 .　通信が中断しない限り、SSR レジスタの TDRE にアクセスすることによって TDRE フラグをクリアしないでください。

30.2.16 スマートカードモードレジスタ（SCMR）

アドレス SCI0.SCMR 4007 0006h, SCI1.SCMR 4007 0026h, SCI2.SCMR 4007 0046h, SCI3.SCMR 4007 0066h, SCI4.SCMR 4007 0086h, SCI8.SCMR 4007 0106h, SCI9.SCMR 4007 0126h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	BCP2	—	—	CHR1	SDIR	SINV	—	SMIF
リセット後の値	1	1	1	1	0	0	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SMIF	スマートカードインタフェースモード選択	0：非スマートカードインタフェースモード（調歩同期式モード、クロック同期式モード、簡易SPIモード、または簡易IICモード） 1：スマートカードインタフェースモード	R/W（注1）
b1	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b2	SINV	送受信データ反転	0：TDRレジスタはそのまま送信。受信データをそのままRDRレジスタに格納 1：TDRレジスタの内容を反転して送信。受信データを反転してRDRレジスタに格納 以下のモードで使用可能です。 • スマートカードインタフェースモード • 調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む） • クロック同期式モード • 簡易SPIモード 簡易IICモードで動作させる場合は、SINVビットを0にしてください。	R/W（注1）
b3	SDIR	送受信データ転送方向	0：LSBファースト転送 1：MSBファースト転送 このビットは以下のモードで使用可能です。 • スマートカードインタフェースモード • 調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む） • クロック同期式モード • 簡易SPIモード 簡易IICモードで動作させる場合は、SDIRビットを1にしてください。	R/W（注1）
b4	CHR1	キャラクタ長1	調歩同期式モードでのみ有効です。（注2） SMR.CHRビットと組み合わせて送受信キャラクタ長を選択します。 CHR1　CHR 0　0：データ長9ビットで送受信 0　1：データ長9ビットで送受信 1　0：データ長8ビットで送受信（初期値） 1　1：データ長7ビットで送受信（注3）	R/W（注1）
b6-b5	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b7	BCP2	基本クロックパルス2	SMR_SMCI.BCP[1:0]ビットと組み合わせて基本クロックのサイクル数を選択します。 表 30.4に、SCMR.BCP2ビットとSMR_SMCI.BCP[1:0]ビットの組み合わせを示します。	R/W（注1）

注 1.　SCR/SCR_SMCI レジスタの TE ビットと RE ビットが 0（シリアル送信動作およびシリアル受信動作を禁止）の場合にのみ書き込み可能です。
注 2.　調歩同期式モード以外では、本ビットの設定は無効であり、データ長は 8 ビット固定となります。
注 3.　LSB ファーストを選択する必要があります。TDR レジスタの MSB（ビット 7）の値は送信されません。

SCMR レジスタは、スマートカードインタフェースと通信フォーマットを選択するためのレジスタです。

SMIF ビット（スマートカードインタフェースモード選択）

SMIF ビットを 1 にすると、スマートカードインタフェースモードが選択されます。SMIF ビットを 0 にすると、下記のすべてのモードが選択されます。

- マルチプロセッサモードを含む調歩同期式モード
- クロック同期式モード
- 簡易 SPI モード
- 簡易 IIC モード

SINV ビット（送受信データ反転）

SINV ビットは、送受信データのロジックレベルを反転します。本ビットは、パリティビットのロジックレベルには影響を与えません。パリティビットを反転させる場合は、SMR または SMR_SMCI レジスタの PM ビットを反転してください。

CHR1 ビット（キャラクタ長 1）

CHR1 ビットは、SMR レジスタの CHR ビットと組み合わせて、送受信データのデータ長を選択します。

調歩同期式モード以外では、データ長は 8 ビット固定です。

BCP2 ビット（基本クロックパルス 2）

BCP2 ビットは、スマートカードインタフェースモードにおける、1 ビット転送時間中の基本クロックのサイクル数を選択します。SMR_SMCI.BCP[1:0] ビットと組み合わせて設定します。

表 30.4　SCMR.BCP2 ビットと SMR_SMCI.BCP[1:0] ビットの組み合わせ

SCMR.BCP2 ビット	SMR_SMCI.BCP[1:0] ビット	1 ビット転送時間中の基本クロックのサイクル数
0	00	93 クロックサイクル（S = 93）（注 1）
0	01	128 クロックサイクル（S = 128）（注 1）
0	10	186 クロックサイクル（S = 186）（注 1）
0	11	512 クロックサイクル（S = 512）（注 1）
1	00	32 クロックサイクル（S = 32）（注 1）（初期値）
1	01	64 クロックサイクル（S = 64）（注 1）
1	10	372 クロックサイクル（S = 372）（注 1）
1	11	256 クロックサイクル（S = 256）（注 1）

注 1.　S については、30.2.17　ビットレートレジスタ（BRR）を参照してください。

30.2.17　ビットレートレジスタ（BRR）

アドレス　SCI0.BRR 4007 0001h, SCI1.BRR 4007 0021h, SCI2.BRR 4007 0041h, SCI3.BRR 4007 0061h, SCI4.BRR 4007 0081h, SCI8.BRR 4007 0101h, SCI9.BRR 4007 0121h



BRR レジスタは、ビットレートを調整するための 8 ビットのレジスタです。

SCI はチャネルごとにボーレートジェネレータが独立しているため、それぞれ異なるビットレートの設定が可能です。通常の調歩同期式モード、マルチプロセッサ通信、クロック同期式モード、スマートカードインタフェースモード、簡易 SPI モード、および簡易 IIC モードにおける、BRR レジスタの設定値 N とビットレート B の関係を表 30.5 に示します。

BRR レジスタの初期値は FFh です。BRR レジスタは、CPU から読み出しは可能ですが、書き込みは SCR/SCR_SMCI レジスタの TE および RE ビットが 0 の場合にのみ可能です。

表 30.5　BRR レジスタの設定値 N とビットレート B の関係

モード	SEMR レジスタの設定値 BGDM ビット	SEMR レジスタの設定値 ABCS ビット	SEMR レジスタの設定値 ABCSE ビット	BRR レジスタの設定値	誤差
調歩同期式、マルチプロセッサ通信	0	0	0	$N = \frac{PCLKA \times 10^6}{64 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	誤差 (%) = $\{\frac{PCLKA \times 10^6}{B \times 64 \times 2^{2n-1} \times (N+1)} - 1\} \times 100$
	1	0	0	$N = \frac{PCLKA \times 10^6}{32 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	誤差 (%) = $\{\frac{PCLKA \times 10^6}{B \times 32 \times 2^{2n-1} \times (N+1)} - 1\} \times 100$
	0	1	0		
	1	1	0	$N = \frac{PCLKA \times 10^6}{16 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	誤差 (%) = $\{\frac{PCLKA \times 10^6}{B \times 16 \times 2^{2n-1} \times (N+1)} - 1\} \times 100$
	Don't care	Don't care	1	$N = \frac{PCLKA \times 10^6}{12 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	誤差 (%) = $\{\frac{PCLKA \times 10^6}{B \times 12 \times 2^{2n-1} \times (N+1)} - 1\} \times 100$
クロック同期式、簡易SPI				$N = \frac{PCLKA \times 10^6}{8 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	-
スマートカードインタフェース				$N = \frac{PCLKA \times 10^6}{S \times 2^{2n+1} \times B} - 1$	誤差 (%) = $\{\frac{PCLKA \times 10^6}{B \times S \times 2^{2n+1} \times (N+1)} - 1\} \times 100$
簡易 IIC（注 1）				$N = \frac{PCLKA \times 10^6}{64 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	-

B：ビットレート（bps）

N：内蔵ボーレートジェネレータの BRR の設定値（0 ≦ N ≦ 255）

PCLKA：動作周波数（MHz）

n および S：表 30.7 および表 30.8 に示すように、SMR/SMR_SMCI レジスタと SCMR レジスタの設定値によって決まります。

注 1.　簡易 IIC モードでは、SCLn 出力の High/Low 幅が I^2C バス規格を満たすように、ビットレートを調整してください。

表 30.6　SCL High/Low幅算出式

モード	SCL	算出式（結果は秒単位）
簡易IIC	High幅（min値）	$(N + 1) \times 4 \times 2^{2n-1} \times 7 \times \frac{1}{PCLKA \times 10^6}$
	Low幅（min値）	$(N + 1) \times 4 \times 2^{2n-1} \times 8 \times \frac{1}{PCLKA \times 10^6}$

表 30.7　クロックソースの設定

SMR/SMR_SMCI.CKS[1:0]ビットの設定		
CKS[1:0]ビット	クロックソース	n
0 0	PCLKAクロック	0
0 1	PCLKA/4クロック	1
1 0	PCLKA/16クロック	2
1 1	PCLKA/64クロック	3

表 30.8　スマートカードインタフェースモード時の基本クロックの設定

SCMR.BCP2ビットの設定	SMR_SMCI.BCP[1:0]ビットの設定	1ビット期間中の基本クロックのサイクル数	S
0	0 0	93クロックサイクル	93
0	0 1	128クロックサイクル	128
0	1 0	186クロックサイクル	186
0	1 1	512クロックサイクル	512
1	0 0	32クロックサイクル	32
1	0 1	64クロックサイクル	64
1	1 0	372クロックサイクル	372
1	1 1	256クロックサイクル	256

通常の調歩同期式モードにおける、BRR レジスタ値 N の設定例を表 30.9 と表 30.10 に示します。各動作周波数において選択可能な最大ビットレートを表 30.11 に示します。また、スマートカードインタフェースモードにおける、BRR レジスタ値 N の設定例を表 30.15 に示します。

簡易 IIC モードにおける、BRR レジスタ値 N の設定例を表 30.17 に示します。スマートカードインタフェースモードでは、1 ビット転送時間における基本クロックのサイクル数 S を選択できます。詳細は、30.6.4　受信データのサンプリングタイミングと受信マージンを参照してください。また、表 30.12 と表 30.14 に、外部クロック入力時の最大ビットレートを示します。

調歩同期式モードにおいて、シリアル拡張モードレジスタ（SEMR）の調歩同期基本クロック選択ビット（ABCS）またはボーレートジェネレータ倍速モード選択ビット（BGDM）のいずれか一方を 1 にした場合、ビットレートは表 30.16 に記載された値の 2 倍になります。両ビットとも 1 にした場合、ビットレートは記載値の 4 倍になります。

表 30.9　各ビットレートに対するBRRの設定例（調歩同期式モード）（1）

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）														
	8			9.8304			10			12			12.288		
	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）
110	2	141	0.03	2	174	-0.26	2	177	-0.25	2	212	0.03	2	217	0.08
150	2	103	0.16	2	127	0.00	2	129	0.16	2	155	0.16	2	159	0.00
300	1	207	0.16	1	255	0.00	2	64	0.16	2	77	0.16	2	79	0.00
600	1	103	0.16	1	127	0.00	1	129	0.16	1	155	0.16	1	159	0.00
1200	0	207	0.16	0	255	0.00	1	64	0.16	1	77	0.16	1	79	0.00
2400	0	103	0.16	0	127	0.00	0	129	0.16	0	155	0.16	0	159	0.00
4800	0	51	0.16	0	63	0.00	0	64	0.16	0	77	0.16	0	79	0.00
9600	0	25	0.16	0	31	0.00	0	32	-1.36	0	38	0.16	0	39	0.00
19200	0	12	0.16	0	15	0.00	0	15	1.73	0	19	-2.34	0	19	0.00
31250	0	7	0.00	0	9	-1.70	0	9	0.00	0	11	0.00	0	11	2.40
38400	—	—	—	0	7	0.00	0	7	1.73	0	9	-2.34	0	9	0.00

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）														
	14			16			17.2032			18			19.6608		
	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）
110	2	248	-0.17	3	70	0.03	3	75	0.48	3	79	-0.12	3	86	0.31
150	2	181	0.16	2	207	0.16	2	223	0.00	2	233	0.16	2	255	0.00
300	2	90	0.16	2	103	0.16	2	111	0.00	2	116	0.16	2	127	0.00
600	1	181	0.16	1	207	0.16	1	223	0.00	1	233	0.16	1	255	0.00
1200	1	90	0.16	1	103	0.16	1	111	0.00	1	116	0.16	1	127	0.00
2400	0	181	0.16	0	207	0.16	0	223	0.00	0	233	0.16	0	255	0.00
4800	0	90	0.16	0	103	0.16	0	111	0.00	0	116	0.16	0	127	0.00
9600	0	45	-0.93	0	51	0.16	0	55	0.00	0	58	-0.69	0	63	0.00
19200	0	22	-0.93	0	25	0.16	0	27	0.00	0	28	1.02	0	31	0.00
31250	0	13	0.00	0	15	0.00	0	16	1.20	0	17	0.00	0	19	-1.70
38400	—	—	—	0	12	0.16	0	13	0.00	0	14	-2.34	0	15	0.00

注 .　この例は、SEMR.ABCS = 0、SEMR.ABCSE = 0、および SEMR.BGDM = 0 の場合を示しています。
ABCS ビットまたは BGDM ビットのいずれか一方を 1 にした場合は、ビットレートが 2 倍になります。
ABCS および BGDM を両方に 1 にした場合は、ビットレートが 4 倍になります。

表 30.10　各ビットレートに対するBRRの設定例（調歩同期式モード）（2）

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）														
	20			25			30			33			40		
	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）
110	3	88	-0.25	3	110	-0.02	3	132	0.13	3	145	0.33	3	177	-0.25
150	3	64	0.16	3	80	0.47	3	97	-0.35	3	106	0.39	3	129	0.16
300	2	129	0.16	2	162	-0.15	2	194	0.16	2	214	-0.07	3	64	0.16
600	2	64	0.16	2	80	0.47	2	97	-0.35	2	106	0.39	2	129	0.16
1200	1	129	0.16	1	162	-0.15	1	194	0.16	1	214	-0.07	2	64	0.16
2400	1	64	0.16	1	80	0.47	1	97	-0.35	1	106	0.39	1	129	0.16
4800	0	129	0.16	0	162	-0.15	0	194	0.16	0	214	-0.07	1	64	0.16
9600	0	64	0.16	0	80	0.47	0	97	-0.35	0	106	0.39	0	129	0.16
19200	0	32	-1.36	0	40	-0.76	0	48	-0.35	0	53	-0.54	0	64	0.16
31250	0	19	0.00	0	24	0.00	0	29	0.00	0	32	0.00	0	39	0.00
38400	0	15	1.73	0	19	1.73	0	23	1.73	0	26	-0.54	0	32	-1.36

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）								
	50			60			120		
	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）
110	3	221	-0.02	—	—	—	—	—	—
150	3	162	-0.15	3	194	0.16	—	—	—
300	3	80	0.47	3	97	-0.35	3	194	0.16
600	2	162	-0.15	3	48	-0.35	3	97	-0.35
1200	2	80	0.47	2	97	-0.35	3	48	-0.35
2400	1	162	-0.15	2	48	-0.35	2	97	-0.35
4800	1	80	0.47	1	97	-0.35	2	48	-0.35
9600	0	162	-0.15	1	48	-0.35	1	97	-0.35
19200	0	80	0.47	0	97	-0.35	1	48	-0.35
31250	0	49	0.00	0	59	0.00	0	119	0
38400	0	40	-0.76	0	48	-0.35	0	97	-0.35

注 .　この例は、SEMR.ABCS = 0、SEMR.ABCSE = 0、および SEMR.BGDM = 0 の場合を示しています。
ABCS ビットまたは BGDM ビットのいずれか一方を 1 にした場合は、ビットレートが 2 倍になります。
ABCS = 1 かつ BGDM = 1 の場合は、ビットレートが 4 倍になります。

表 30.11　各動作周波数における最大ビットレート（調歩同期式モード）(1/2)

PCLKA（MHz）	SEMR レジスタの設定値					最大ビットレート（bps）	PCLKA（MHz）	SEMR レジスタの設定値					最大ビットレート（bps）
	BGDM ビット	ABCS ビット	ABCSE ビット	n	N			BGDM ビット	ABCS ビット	ABCSE ビット	n	N	
8	0	0	0	0	0	250000	16	0	0	0	0	0	500000
		1	0	0	0	500000			1	0	0	0	1000000
	1	0	0	0	0			1	0	0	0	0	
		1	0	0	0	1000000			1	0	0	0	2000000
	Don't care	Don't care	1	0	0	1333333		Don't care	Don't care	1	0	0	2666666
9.8304	0	0	0	0	0	307200	17.2032	0	0	0	0	0	537600
		1	0	0	0	614400			1	0	0	0	1075200
	1	0	0	0	0			1	0	0	0	0	
		1	0	0	0	1228800			1	0	0	0	2150400
	Don't care	Don't care	1	0	0	1638400		Don't care	Don't care	1	0	0	2867200
10	0	0	0	0	0	312500	18	0	0	0	0	0	562500
		1	0	0	0	625000			1	0	0	0	1125000
	1	0	0	0	0			1	0	0	0	0	
		1	0	0	0	1250000			1	0	0	0	2250000
	Don't care	Don't care	1	0	0	1666666		Don't care	Don't care	1	0	0	3000000
12	0	0	0	0	0	375000	19.6608	0	0	0	0	0	614400
		1	0	0	0	750000			1	0	0	0	1228800
	1	0	0	0	0			1	0	0	0	0	
		1	0	0	0	1500000			1	0	0	0	2457600
	Don't care	Don't care	1	0	0	2000000		Don't care	Don't care	1	0	0	3276800
12.288	0	0	0	0	0	384000	20	0	0	0	0	0	625000
		1	0	0	0	768000			1	0	0	0	1250000
	1	0	0	0	0			1	0	0	0	0	
		1	0	0	0	1536000			1	0	0	0	2500000
	Don't care	Don't care	1	0	0	2048000		Don't care	Don't care	1	0	0	3333333
14	0	0	0	0	0	437500	25	0	0	0	0	0	781250
		1	0	0	0	875000			1	0	0	0	1562500
	1	0	0	0	0			1	0	0	0	0	
		1	0	0	0	1750000			1	0	0	0	3125000
	Don't care	Don't care	1	0	0	2333333		Don't care	Don't care	1	0	0	4166666
30	0	0	0	0	0	937500	50	0	0	0	0	0	1562500
		1	0	0	0	1875000			1	0	0	0	3125000
	1	0	0	0	0			1	0	0	0	0	
		1	0	0	0	3750000			1	0	0	0	6250000
	Don't care	Don't care	1	0	0	5000000		Don't care	Don't care	1	0	0	8333333

表 30.11　各動作周波数における最大ビットレート（調歩同期式モード）(2/2)

PCLKA（MHz）	SEMR レジスタの設定値					最大ビットレート（bps）	PCLKA（MHz）	SEMR レジスタの設定値					最大ビットレート（bps）
	BGDM ビット	ABCS ビット	ABCSE ビット	n	N			BGDM ビット	ABCS ビット	ABCSE ビット	n	N	
33	0	0	0	0	0	1031250	60	0	0	0	0	0	1875000
		1	0	0	0	2062500			1	0	0	0	3750000
	1	0	0	0	0			1	0	0	0	0	
		1	0	0	0	4125000			1	0	0	0	7500000
	Don't care	Don't care	1	0	0	5500000		Don't care	Don't care	1	0	0	10000000
40	0	0	0	0	0	1250000	120	0	0	0	0	0	3750000
		1	0	0	0	2500000			1	0	0	0	7500000
	1	0	0	0	0			1	0	0	0	0	
		1	0	0	0	5000000			1	0	0	0	15000000
	Don't care	Don't care	1	0	0	6666666		Don't care	Don't care	1	0	0	20000000

表 30.12　外部クロック入力時の最大ビットレート（調歩同期式モード）

PCLKA（MHz）	外部入力クロック（MHz）	最大ビットレート（bps）	
		SEMR.ABCS ビット = 0	SEMR.ABCS ビット = 1
8	2.0000	125000	250000
9.8304	2.4576	153600	307200
10	2.5000	156250	312500
12	3.0000	187500	375000
12.288	3.0720	192000	384000
14	3.5000	218750	437500
16	4.0000	250000	500000
17.2032	4.3008	268800	537600
18	4.5000	281250	562500
19.6608	4.9152	307200	614400
20	5.0000	312500	625000
25	6.2500	390625	781250
30	7.5000	468750	937500
33	8.2500	515625	1031250
40	10.0000	625000	1250000
50	12.5000	781250	1562500
60	15.0000	937500	1875000
120	30.0000	1875000	3750000

表 30.13　各ビットレートに対するBRRの設定例（クロック同期式モード、簡易SPIモード）

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）																					
	8		10		16		20		25		30		33		40		50		60		120	
	n	N	n	N	n	N	n	N	n	N	n	N	n	N	n	N	n	N	n	N	n	N
110																						
250	3	124	—	—	3	249																
500	2	249	—	—	3	124	—	—			3	233										
1k	2	124	—	—	2	249	—	—	3	97	3	116	3	128	3	155	3	194	3	233		
2.5k	1	199	1	249	2	99	2	124	2	155	2	187	2	205	2	249	3	77	3	93	3	186
5k	1	99	1	124	1	199	1	249	2	77	2	93	2	102	2	124	2	155	3	46	3	93
10k	0	199	0	249	1	99	1	124	1	155	1	187	1	205	1	249	2	77	2	93	3	46
25k	0	79	0	99	0	159	0	199	0	249	1	74	1	82	1	99	1	124	1	149	2	74
50k	0	39	0	49	0	79	0	99	0	124	0	149	0	164	1	49	1	61	1	74	1	149
100k	0	19	0	24	0	39	0	49	0	62	0	74	0	82	0	99	0	124	0	149	1	74
250k	0	7	0	9	0	15	0	19	0	24	0	29	0	32	0	39	0	49	0	59	1	29
500k	0	3	0	4	0	7	0	9	—	—	0	14	—	—	0	19	0	24	0	29	1	14
1M	0	1			0	3	0	4	—	—	—	—	—	—	0	9	—	—	0	14	0	29
2.5M			0	0（注1）			0	1	—	—	0	2	—	—	0	3	0	4	0	5	0	11
5M							0	0（注1）	—	—	—	—	—	—	0	1	—	—	0	2	0	5
7.5M											0	0（注1）							0	1	0	3
10M															0	0（注1）					0	2

空欄：設定禁止
—：設定可能ですが誤差が生じます。

注 1.　連続送受信はできません。1 フレームの送受信後、次のフレームの送受信を開始するまでに 1 ビット期間の間隔が空きます。すなわち、同期クロックの出力が 1 ビット期間停止します。そのため、1 フレーム（8 ビット）のデータ転送に 9 ビット分の時間がかかり、平均転送レートはビットレートの 8/9 倍になります。FIFO 選択時は、この設定（BRR = 00h かつ SMR.CKS[1:0] = 00b）は利用できません。

表 30.14　外部クロック入力時の最大ビットレート（クロック同期式モード、簡易SPIモード）

PCLKA（MHz）	外部入力クロック（MHz）	最大ビットレート（Mbps）
8	1.3333	1.3333333
10	1.6667	1.6666667
12	2.0000	2.0000000
14	2.3333	2.3333333
16	2.6667	2.6666667
18	3.0000	3.0000000
20	3.3333	3.3333333
25	4.1667	4.1666667
30	5.0000	5.0000000
33	5.5000	5.5000000
40	6.6667	6.6666667
50	8.3333	8.3333333
60	10.0000	10.0000000
120	20.0000（クロック同期式モード）	20.00000000
	10.0000（簡易SPIモード）	10.00000000

表 30.15　各ビットレートに対するBRRの設定例（スマートカードインタフェースモード、n = 0, S = 372の場合）

	動作周波数PCLKA（MHz）											
	7.1424			10.00			10.7136			13.00		
ビットレート（bps）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）
9600	0	0	0.00	0	1	30	0	1	25	0	1	8.99

	動作周波数PCLKA（MHz）											
	14.2848			16.00			18.00			20.00		
ビットレート（bps）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）
9600	0	1	0.00	0	1	12.01	0	2	15.99	0	2	6.66

	動作周波数PCLKA（MHz）											
	25.00			30.00			33.00			40.00		
ビットレート（bps）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）
9600	0	3	12.49	0	3	5.01	0	4	7.59	0	5	-6.66

	動作周波数PCLKA（MHz）								
	50.00			60.00			120.00		
ビットレート（bps）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）
9600	0	6	0.01	0	7	5.01	0	16	-1.17

表 30.16　各動作周波数における最大ビットレート（スマートカードインタフェースモード、S = 32の場合）

PCLKA（MHz）	最大ビットレート（bps）	n	N
10.00	156250	0	0
10.7136	167400	0	0
13.00	203125	0	0
16.00	250000	0	0
18.00	281250	0	0
20.00	312500	0	0
25.00	390625	0	0
30.00	468750	0	0
33.00	515625	0	0
40.00	625000	0	0
50.00	781250	0	0
60.00	937500	0	0
120.00	1875000	0	0

表 30.17　各ビットレートに対するBRRの設定例（簡易IICモード）

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）														
	8			10			16			20			25		
	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）
10k	0	24	0.0	0	30	0.8	1	12	-3.8	1	15	-2.3	1	19	-2.3
25k	0	9	0.0	0	12	-3.8	1	4	0.0	1	5	4.2	1	7	-2.3
50k	0	4	0.0	0	5	4.2	1	2	-16.7	1	2	4.2	1	3	-2.3
100k（注1）	0	2	-16.7	0	3	-21.9	0	4	0.0	0	6	-10.7	1	1	-2.3
250k	0	0	0.0	0	0	25	0	1	0.0	0	2	-16.7	0	2	4.2
350k										0	1	-10.7	0	1	11.6（注2）
400k（注1）										0	1	-21.9	0	1	-2.3（注2）

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）														
	30			33			40			50			60		
	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）	n	N	誤差（%）
10k	1	22	1.9	1	25	-0.8	0	124	0.0	2	9	-2.3	1	46	-0.3
25k	1	8	4.2	1	9	3.1	0	49	0.0	2	3	-2.3	0	74	0.0
50k	1	4	-6.3	1	4	3.1	0	24	0.0	2	1	-2.3	0	37	-1.3
100k（注1）	1	2	-21.9	1	2	-14.1	0	12	-3.9	1	3	-2.3	0	18	-1.3
250k	0	3	-6.3	0	3	3.1	0	4	0.0	0	5	4.2	0	7	-6.3
350k	0	2	-10.7	0	2	-1.8	0	3	-10.7	0	4	-10.7	0	4	7.1
400k（注1）	0	1	17.2	0	2	-14.1	0	3	-21.9	0	3	-2.3（注2）	0	4	-6.3

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）		
	120		
	n	N	誤差（%）
10k	1	93	-0.3
25k	0	149	0.0
50k	0	74	0.0
100k（注1）	0	37	-1.3
250k	0	14	0.0
350k	0	10	-2.6
400k（注1）	0	8	-6.3

注 1.　100kbps と 400kbps のビットレートは、設定値の誤差が負の側にあることを意味しています。
注 2.　Low 幅の最小値は、ファストモードでの標準値である 1.3μs 未満です。

表 30.18　各ビットレート設定でのSCL High/Low幅最小値（簡易IICモード）

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）											
	8			10			16			20		
	n	N	SCL High/Low幅最小値（μs）	n	N	SCL High/Low幅最小値（μs）	n	N	SCL High/Low幅最小値（μs）	n	N	SCL High/Low幅最小値（μs）
10k	0	24	43.75/50.00	0	30	43.40/49.60	1	12	45.5/52.00	1	15	44.80/51.20
25k	0	9	17.50/20.00	0	12	18.2/20.80	1	4	17.50/20.00	1	5	16.80/19.20
50k	0	4	8.75/10.00	0	5	8.40/9.60	1	2	10.50/12.00	1	2	8.40/9.60
100k	0	2	5.25/6.00	0	3	5.60/6.40	0	4	4.38/5.00	0	6	4.90/5.60
250k	0	0	1.75/2.00	0	0	1.40/1.60	0	1	1.75/2.00	0	2	2.10/2.40
350k										0	1	1.40/1.60
400k										0	1	1.40/1.60

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）											
	25			30			33			40		
	n	N	SCL High/Low幅最小値（μs）	n	N	SCL High/Low幅最小値（μs）	n	N	SCL High/Low幅最小値（μs）	n	N	SCL High/Low幅最小値（μs）
10k	1	19	44.80/51.20	1	22	42.93/49.60	1	25	44.12/50.42	0	124	43.75/50.00
25k	1	7	17.92/20.48	1	8	16.80/19.20	1	9	16.97/19.39	0	49	17.50/20.00
50k	1	3	8.96/10.24	1	4	9.33/10.66	1	4	8.48/9.70	0	24	8.75/10.00
100k	1	1	4.48/5.12	1	2	5.60/6.40	1	2	5.09/5.82	0	12	4.55/5.20
250k	0	2	1.68/1.92	0	3	1.86/2.13	0	3	1.70/1.94	0	4	1.75/2.00
350k	0	1	1.12/1.28（注1）	0	2	1.40/1.60	0	2	1.27/1.45	0	3	1.40/1.60
400k	0	1	1.12/1.28（注1）	0	2	1.40/1.60	0	2	1.27/1.45	0	2	1.05/1.20

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）								
	50			60			120		
	n	N	SCL High/Low幅最小値（μs）	n	N	SCL High/Low幅最小値（μs）	n	N	SCL High/Low幅最小値（μs）
10k	2	9	44.80/51.20	1	46	43.87/50.13	1	93	43.87/50.13
25k	2	3	17.92/20.48	0	74	17.50/20.00	0	149	17.50/20.00
50k	2	1	8.96/10.24	0	37	8.87/10.13	0	74	8.75/10.00
100k	1	3	4.48/5.12	0	18	4.43/5.07	0	37	4.43/5.07
250k	0	5	1.68/1.92	0	7	1.87/2.13	0	14	1.75/2.00
350k	0	4	1.40/1.60	0	4	1.17/1.33	0	10	1.28/1.47
400k	0	3	1.12/1.28	0	4	1.17/1.33	0	8	1.05/1.20

注 1.　Low 幅の最小値は、ファストモードでの標準値である 1.3μs 未満です。
設定値は表 30.17 と同一です。

30.2.18　モジュレーションデューティレジスタ（MDDR）

アドレス　SCI0.MDDR 4007 0012h, SCI1.MDDR 4007 0032h, SCI2.MDDR 4007 0052h, SCI3.MDDR 4007 0072h, SCI4.MDDR 4007 0092h, SCI8.MDDR 4007 0112h, SCI9.MDDR 4007 0132h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1

MDDR レジスタは、BRR レジスタで調整されたビットレートを補正するためのレジスタです。

SEMR.BRME ビットが 1 のとき、内蔵ボーレートジェネレータにより生成されるビットレートは、MDDR レジスタの設定に応じて均一に補正されます（M/256）。MDDR レジスタの設定値 M とビットレート B の関係を表 30.19 に示します。

MDDR レジスタの初期値は FFh です。ビット 7 は 1 に固定されています。MDDR レジスタは、CPU から読み出しは可能ですが、書き込みは SCR/SCR_SMCI レジスタの TE ビットと RE ビットが 0 の場合にのみ可能です。

表 30.19　ビットレートモジュレーション機能使用時の MDDR レジスタ設定値 M とビットレート B の関係

モード	SEMR レジスタの設定値 BGDM ビット	SEMR レジスタの設定値 ABCS ビット	SEMR レジスタの設定値 ABCSE ビット	BRR レジスタの設定値	誤差
調歩同期式マルチプロセッサ通信	0	0	0	$N = \frac{PCLKA \times 10^6}{64 \times 2^{2n-1} \times (256/M) \times B} - 1$	誤差（%）$= \{\frac{PCLKA \times 10^6}{B \times 64 \times 2^{2n-1} \times (256/M) \times (N+1)} - 1\} \times 100$
	1	0	0	$N = \frac{PCLKA \times 10^6}{32 \times 2^{2n-1} \times (256/M) \times B} - 1$	誤差（%）$= \{\frac{PCLKA \times 10^6}{B \times 32 \times 2^{2n-1} \times (256/M) \times (N+1)} - 1\} \times 100$
	0	1	0		
	1	1	0	$N = \frac{PCLKA \times 10^6}{16 \times 2^{2n-1} \times (256/M) \times B} - 1$	誤差（%）$= \{\frac{PCLKA \times 10^6}{B \times 16 \times 2^{2n-1} \times (256/M) \times (N+1)} - 1\} \times 100$
	Don't care	Don't care	1	$N = \frac{PCLKA \times 10^6}{12 \times 2^{2n-1} \times (256/M) \times B} - 1$	誤差（%）$= \{\frac{PCLKA \times 10^6}{B \times 12 \times 2^{2n-1} \times (256/M) \times (N+1)} - 1\} \times 100$
クロック同期式、簡易SPI（注1）				$N = \frac{PCLKA \times 10^6}{8 \times 2^{2n-1} \times (256/M) \times B} - 1$	—
スマートカードインタフェース				$N = \frac{PCLKA \times 10^6}{S \times 2^{2n+1} \times (256/M) \times B} - 1$	誤差（%）$= \{\frac{PCLKA \times 10^6}{B \times S \times 2^{2n+1} \times (256/M) \times (N+1)} - 1\} \times 100$
簡易IIC（注2）				$N = \frac{PCLKA \times 10^6}{64 \times 2^{2n-1} \times (256/M) \times B} - 1$	—

B：ビットレート（bps）
M：MDDR レジスタの設定値（128 ≦ MDDR ≦ 255）
N：ボーレートジェネレータの BRR の設定値（0 ≦ N ≦ 255）
PCLKA：動作周波数（MHz）
n および S：「30.　ビットレートレジスタ（BRR）」の表 30.7 と表 30.8 に示すように、SMR/SMR_SMCI レジスタと SCMR レジスタの設定値によって決まります。

注 1.　クロック同期式モードと、簡易 SPI モードの最高速設定（SMR.CKS[1:0] ビット = 00b、SCR.CKE[1] ビット = 0、および BRR = 0）では、この機能を使用しないでください。
注 2.　簡易 IIC モードでは、SCL 出力の High/Low 幅が I²C 規格を満たすように、ビットレートを調整してください。

通常の調歩同期式モードにおける BRR レジスタの設定値 N と MDDR レジスタの設定値 M の設定例を表

30.20 と表 30.21 に示します。

表 30.20　各ビットレートに対するBRRとMDDRの設定例（調歩同期式モード）（1）

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）														
	8					9.8304					16				
	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）
38400	0	5	236	0	0.03	0	7	(256)（注1）	0	0.00	0	10	173	1	-0.01
57600	0	3	236	0	0.03	0	4	240	0	0.00	0	4	236	0	0.03
115200	0	1	236	0	0.03	0	1	192	0	0.00	0	4	236	1	0.03
230400	0	0	236	0	0.03	0	0	192	0	0.00	0	1	189	1	0.14
460800	0	0	236	1	0.03	0	0	192	1	0.00	0	0	189	1	0.14

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）														
	12					12.288					14				
	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）
38400	0	8	236	0	0.03	0	9	(256)（注1）	0	0.00	0	16	191	1	0.00
57600	0	5	236	0	0.03	0	4	192	0	0.00	0	13	236	1	0.03
115200	0	2	236	0	0.03	0	4	192	1	0.00	0	6	236	1	0.03
230400	0	2	236	1	0.03	0	2	230	1	-0.17	0	2	202	1	-0.11
460800	0	0	157	1	-0.18	0	0	154	1	-0.26	0	0	135	1	0.14

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）														
	16					17.2032					18				
	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）
38400	0	11	236	0	0.03	0	13	(256)（注1）	0	0.00	0	18	166	1	-0.01
57600	0	7	236	0	0.03	0	6	192	0	0.00	0	18	249	1	-0.01
115200	0	3	236	0	0.03	0	6	192	1	0.00	0	8	236	1	0.03
230400	0	1	236	0	0.03	0	3	219	1	-0.20	0	1	210	0	0.14
460800	0	1	236	1	0.03	0	1	219	1	-0.20	0	0	210	0	0.14

注 1.　この例は、SEMR レジスタの ABCS ビットと ABCSE ビットが 0 の場合を示しています。
SEMR.BRME = 0（M = 256）の場合、ビットレートモジュレーション機能は無効になります。

表 30.21　各ビットレートに対するBRRとMDDRの設定例（調歩同期式モード）（2）

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）														
	19.6608					20					25				
	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）
38400	0	15	(256)（注2）	0	0.00	0	10	173	0	-0.01	0	11	151	0	0.00
57600	0	9	240	0	0.00	0	9	236	0	0.03	0	7	151	0	0.00
115200	0	4	240	0	0.00	0	4	236	0	0.03	0	3	151	0	0.00
230400	0	1	192	0	0.00	0	4	236	1	0.03	0	1	151	0	0.00
460800	0	0	192	0	0.00	0	0	189	0	0.14	0	0	151	0	0.00

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）														
	30					33					40				
	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）
38400	0	36	194	1	0.01	0	14	143	0	0.01	0	21	173	0	-0.01
57600	0	10	173	0	-0.01	0	9	143	0	0.01	0	38	230	1	-0.01
115200	0	10	173	1	-0.01	0	4	143	0	0.01	0	9	236	0	0.03
230400	0	6	220	1	-0.09	0	4	143	1	0.01	0	4	236	0	0.03
460800	0	3	252	1	0.14	0	1	229	0	0.10	0	4	236	1	0.03

ビットレート（bps）	動作周波数PCLKA（MHz）														
	50					60					120				
	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）	n	N	M	BGDMビット	誤差（%）
38400	0	23	151	0	0.00	0	36	194	0	0.01	0	73	194	0	0.01
57600	0	15	151	0	0.00	0	21	173	0	-0.01	0	58	232	0	0.00
115200	0	7	151	0	0.00	0	10	173	0	-0.01	0	21	173	0	-0.01
230400	0	3	151	0	0.00	0	10	173	1	-0.01	0	10	173	0	-0.01
460800	0	1	151	0	0.00	0	6	220	1	-0.09	0	10	173	1	-0.09

注 2.　この例は、SEMR レジスタの ABCS ビットと ABCSE ビットが 0 の場合を示しています。
SEMR.BRME = 0（M = 256）の場合、ビットレートモジュレーション機能は無効になります。

30.2.19　シリアル拡張モードレジスタ（SEMR）

アドレス　SCI0.SEMR 4007 0007h, SCI1.SEMR 4007 0027h, SCI2.SEMR 4007 0047h, SCI3.SEMR 4007 0067h, SCI4.SEMR 4007 0087h, SCI8.SEMR 4007 0107h, SCI9.SEMR 4007 0127h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	RXDESEL	BGDM	NFEN	ABCS	ABCSE	BRME	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b2	BRME	ビットレートモジュレーション有効	0：ビットレートモジュレーション機能は無効 1：ビットレートモジュレーション機能は有効	R/W（注1）
b3	ABCSE	調歩同期拡張基本クロック選択1	調歩同期式モードにおいて、SCR.CKE[1] = 0の場合にのみ有効です。 0：1ビット期間のクロックサイクル数は、SEMRレジスタのBGDMとABCSの組み合わせにより決定 1：ボーレートは1ビット期間に対して基本クロックの6サイクル	R/W（注1）
b4	ABCS	調歩同期基本クロック選択	調歩同期式モードでのみ有効です。 0：基本クロックの16サイクルを1ビット期間として選択 1：基本クロックの8サイクルを1ビット期間として選択	R/W（注1）
b5	NFEN	デジタルノイズフィルタ機能有効	調歩同期モードの場合 0：RXDn入力信号のノイズ除去機能は無効 1：RXDn入力信号のノイズ除去機能は有効 簡易IICモードの場合 0：SCLnおよびSDAn入力信号のノイズ除去機能は無効 1：SCLnおよびSDAn入力信号のノイズ除去機能は有効 他のすべてのモードでは、NFENビットは0でなければなりません。	R/W（注1）
b6	BGDM	ボーレートジェネレータ倍速モード選択	調歩同期式モードにおいて、SCR.CKE[1] = 0の場合にのみ有効です。 0：通常の周波数のクロックを出力 1：2倍の周波数のクロックを出力	R/W（注1）
b7	RXDESEL	調歩同期スタートビットエッジ検出選択	調歩同期式モードでのみ有効です。 0：RXDn端子入力のLowレベルでスタートビットを検出 1：RXDn端子入力の立ち下がりエッジでスタートビットを検出	R/W（注1）

注 1.　SCR/SCR_SMCI レジスタの TE ビットと RE ビットが 0（シリアル送信動作およびシリアル受信動作を禁止）の場合にのみ書き込み可能です。

SEMR レジスタは、調歩同期式モードにおいて、1 ビット期間のクロックソースを選択するためのレジスタです。

BRME ビット（ビットレートモジュレーション有効）

BRME ビットは、ビットレートモジュレーション機能を有効または無効にします。有効にすると、内蔵ボーレートジェネレータによって生成されるビットレートが均一に補正されます。

ABCSE ビット（調歩同期拡張基本クロック選択 1）

ABCSE ビットは、1 ビット期間における基本クロックのパルス数を 6 に設定します。ボーレートジェネレータからは 2 倍の周波数のクロックが出力されます。バスクロック周波数を分周しているときにビットレートを 6 にする場合、本ビットを使用し、かつ SMR.CKS[1:0] = 00b、BRR = 0 に設定してください。本ビットは、調歩同期式モード以外では 0 にしてください。

ABCS ビット（調歩同期基本クロック選択）

ABCS ビットは、1 ビット期間のクロックサイクル数を選択します。本ビットは、調歩同期式モード以外では 0 にしてください。

NFEN ビット（デジタルノイズフィルタ機能有効）

NFEN ビットは、デジタルノイズフィルタ機能を有効または無効にします。

デジタルノイズフィルタ機能を有効にした場合：

- 調歩同期式モードでは、RXDn 入力信号のノイズを除去する
- 簡易 IIC モードでは、SDAn および SCLn の入力信号のノイズを除去する

他のすべてのモードでは、NFEN ビットを 0 にして、デジタルノイズフィルタ機能を無効にしてください。デジタルノイズフィルタ機能を無効にすると、受信した入力信号がそのまま転送されます。

BGDM ビット（ボーレートジェネレータ倍速モード選択）

BGDM ビットは、ボーレートジェネレータから出力する基本クロックの周波数を 2 倍にするかどうかを選択します。

BGDM ビットは、調歩同期式モード（SMR.CM ビット = 0）において、クロックソースに内蔵ボーレートジェネレータ（SCR.CKE[1] ビット = 0）を選択したとき有効です。ボーレートジェネレータから出力されるクロックは基本クロックの生成に使用されます。BGDM ビットを 1 にすると、基本クロックの周期が 1/2 倍になり、ビットレートが 2 倍になります。

本ビットは、調歩同期式モード以外では 0 にしてください。

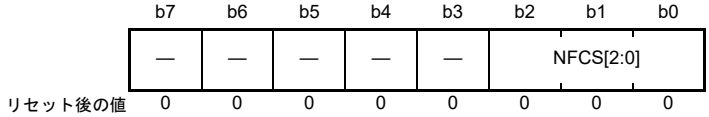
RXDESEL ビット（調歩同期スタートビットエッジ検出選択）

RXDSEL ビットは、調歩同期式モードにおいて、受信時のスタートビットの検出方法を選択します。ブレーク中に受信を停止する場合、またはブレーク終了後に RXDn 端子入力を 1 フレーム期間以上 High レベルに保持せずに受信を開始する場合、本ビットを 1 にしてください。

本ビットは、調歩同期式モード以外では 0 にしてください。

30.2.20　ノイズフィルタ設定レジスタ（SNFR）

アドレス　SCI0.SNFR 4007 0008h, SCI1.SNFR 4007 0028h, SCI2.SNFR 4007 0048h, SCI3.SNFR 4007 0068h, SCI4.SNFR 4007 0088h, SCI8.SNFR 4007 0108h, SCI9.SNFR 4007 0128h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	NFCS[2:0]	ノイズフィルタクロック選択	調歩同期式モードの場合、基本クロックの標準設定を次のように選択します。 b2 b0 0 0 0 : 1分周のクロックをノイズフィルタに使用 簡易IICモードの場合、SMR.CKS[1:0]ビットで選択した内蔵ボーレートジェネレータのクロックソースの標準設定を選択します。 b2 b0 0 0 1 : 1分周のクロックをノイズフィルタに使用 0 1 0 : 2分周のクロックをノイズフィルタに使用 0 1 1 : 4分周のクロックをノイズフィルタに使用 1 0 0 : 8分周のクロックをノイズフィルタに使用 上記以外は設定しないでください。	R/W （注1）
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　SCR/SCR_SMCI レジスタの TE ビットと RE ビットが 0（シリアル送信動作およびシリアル受信動作を禁止）の場合にのみ書き込み可能です。

SNFR レジスタは、デジタルノイズフィルタのクロックを設定するためのレジスタです。

NFCS[2:0] ビット（ノイズフィルタクロック選択）

NFCS[2:0] ビットは、デジタルノイズフィルタのサンプリングクロックを選択します。調歩同期式モードでノイズフィルタを使用する場合、これらのビットを 000b にしてください。簡易 IIC モードでは、これらのビットを 001b ～ 100b の範囲で設定してください。

30.2.21 I²C モードレジスタ 1（SIMR1）

アドレス SCI0.SIMR1 4007 0009h, SCI1.SIMR1 4007 0029h, SCI2.SIMR1 4007 0049h, SCI3.SIMR1 4007 0069h, SCI4.SIMR1 4007 0089h, SCI8.SIMR1 4007 0109h, SCI9.SIMR1 4007 0129h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	IICDL[4:0]					—	—	IICM
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IICM	簡易IICモード選択	SMIF　IICM 0　0：調歩同期式モード、マルチプロセッサモード、クロック同期式モード、または簡易SPIモード 0　1：簡易IICモード 1　0：スマートカードインタフェースモード 1　1：設定禁止	R/W（注1）
b2-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7-b3	IICDL[4:0]	SDA遅延出力選択	下記のサイクル数は、内蔵ボーレートジェネレータからのクロック信号のサイクル数です。 b7　b3 0 0 0 0 0：出力遅延なし 0 0 0 0 1：0～1サイクル 0 0 0 1 0：1～2サイクル 0 0 0 1 1：2～3サイクル 0 0 1 0 0：3～4サイクル 0 0 1 0 1：4～5サイクル ： 1 1 1 1 0：29～30サイクル 1 1 1 1 1：30～31サイクル	R/W（注1）

注 1.　SCR.TE ビットと SCR.RE ビットが 0（シリアル送信動作およびシリアル受信動作を禁止）の場合にのみ書き込み可能です。

SIMR1 レジスタは、簡易 IIC モードと、SDAn 出力の遅延段数を選択するためのレジスタです。

IICM ビット（簡易 IIC モード選択）

IICM ビットは、SCMR.SMIF ビットとの組み合わせで動作モードを選択します。

IICDL[4:0] ビット（SDA 遅延出力選択）

IICDL[4:0] ビットは、SCLn 端子出力の立ち下がりに対する SDAn 端子出力の遅延を指定します。

内蔵ボーレートジェネレータのクロック信号を基準として、「遅延なし」から 31 サイクルまでの範囲で設定が可能です。SMR.CKS[1:0] ビットの設定によって分周された PCLKA クロックが、内蔵ボーレートジェネレータからのクロック信号として供給されます。簡易 IIC モード以外では、これらのビットを 00000b にしてください。簡易 IIC モードでは、これらのビットを 00001b ～ 11111b の範囲で設定してください。

30.2.22 I²C モードレジスタ 2（SIMR2）

アドレス SCI0.SIMR2 4007 000Ah, SCI1.SIMR2 4007 002Ah, SCI2.SIMR2 4007 004Ah, SCI3.SIMR2 4007 006Ah, SCI4.SIMR2 4007 008Ah, SCI8.SIMR2 4007 010Ah, SCI9.SIMR2 4007 012Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	IICACKT	—	—	—	IICCSC	IICINTM
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IICINTM	IIC割り込みモード選択	0：ACK/NACK割り込みを使用 1：受信割り込み、送信割り込みを使用	R/W （注1）
b1	IICCSC	クロック同期化	0：クロック信号と同期しない 1：クロック信号と同期する	R/W （注1）
b4-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5	IICACKT	ACK送信データ	0：ACK送信 1：NACK送信またはACK/NACK受信	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　SCR.RE ビットと SCR.TE ビットが 0（シリアル受信動作およびシリアル送信動作を禁止）の場合にのみ書き込み可能です。

SIMR2 レジスタは、簡易 IIC モードにおいて、送受信の制御方法を選択するためのレジスタです。

IICINTM ビット（IIC 割り込みモード選択）

IICINTM ビットは、簡易 IIC モードにおいて、割り込み要求の要因を選択します。

IICCSC ビット（クロック同期化）

たとえば、他のデバイスがウェイトを挿入したため SCLn 端子が Low になったとき、内部で生成する SCLn クロック信号を同期化する場合は、IICCSC ビットを 1 にしてください。

IICCSC ビットを 0 にすると、SCL クロック信号の同期化を行いません。SCLn 端子の入力レベルにかかわらず、BRR レジスタで選択したビットレートに従って SCLn クロック信号を生成します。

デバッグ時を除いて、IICCSC ビットは 1 にしてください。

IICACKT ビット（ACK 送信データ）

ACK ビットを含むデータを送信します。ACK/NACK ビット受信時は、IICACKT ビットを 1 にしてください。

30.2.23 I²C モードレジスタ 3（SIMR3）

アドレス SCI0.SIMR3 4007 000Bh, SCI1.SIMR3 4007 002Bh, SCI2.SIMR3 4007 004Bh, SCI3.SIMR3 4007 006Bh, SCI4.SIMR3 4007 008Bh, SCI8.SIMR3 4007 010Bh, SCI9.SIMR3 4007 012Bh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	IICSCLS[1:0]		IICSDAS[1:0]		IICSTIF	IICSTP REQ	IICRST AREQ	IICSTA REQ
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IICSTAREQ	開始条件生成	0：開始条件を生成しない 1：開始条件を生成する（注1）（注3）（注5）（注6）	R/W
b1	IICRSTAREQ	再開始条件生成	0：再開始条件を生成しない 1：再開始条件を生成する（注2）（注3）（注5）（注6）	R/W
b2	IICSTPREQ	停止条件生成	0：停止条件を生成しない 1：停止条件を生成する（注2）（注3）（注5）（注6）	R/W
b3	IICSTIF	開始／再開始／停止条件生成完了フラグ	0：各条件の生成要求がない状態、または生成中の状態 1：開始条件、再開始条件、停止条件の生成が完了した状態 IICSTIF ビットに0を書くと、0になります（注4）	R/W（注4）
b5-b4	IICSDAS[1:0]	SDA出力選択	b5 b4 0 0：シリアルデータ出力 0 1：開始条件、再開始条件、停止条件の生成 1 0：SDAn端子はLowを出力 1 1：SDAn端子はハイインピーダンス状態	R/W
b7-b6	IICSCLS[1:0]	SCL出力選択	b7 b6 0 0：シリアルクロック出力 0 1：開始条件、再開始条件、停止条件の生成 1 0：SCLn端子はLowを出力 1 1：SCLn端子はハイインピーダンス状態	R/W

注 1.　バスの状態を確認し、バスフリー状態のときにのみ開始条件を生成してください。
注 2.　バスの状態を確認し、バスビジー状態のときに再開始条件または停止条件を生成してください。
注 3.　IICSTAREQ ビット、IICRSTAREQ ビット、IICSTPREQ ビットは、2 つ以上を 1 にしないでください。
注 4.　0 のみを書いてください。1 を書くと、その値は無視されます。
注 5.　IICSTIF フラグを 0 にしてから、各条件生成を行ってください。
注 6.　1 の状態にあるとき、0 を書かないでください。本ビットが 1 の状態にあるとき 0 を書くと、条件生成が中断します。

IICSTAREQ ビット（開始条件生成）

開始条件の生成を行うときは、IICSTAREQ ビットを 1 にするとともに、IICSDAS[1:0] ビットと IICSCLS[1:0] ビットをそれぞれ 01b にしてください。

[1 になる条件]

- 1 を書いたとき

[0 になる条件]

- 開始条件の生成が完了したとき

IICRSTAREQ ビット（再開始条件生成）

再開始条件の生成を行うときは、IICRSTAREQ ビットを 1 にするとともに、IICSDAS[1:0] ビットと IICSCLS[1:0] ビットをそれぞれ 01b にしてください。

[1 になる条件]

- 1 を書いたとき

[0 になる条件]

- 再開始条件の生成が完了したとき

IICSTPREQ ビット（停止条件生成）

停止条件の生成を行うときは、IICSTPREQ ビットを 1 にするとともに、IICSDAS[1:0] ビットと IICSCLS[1:0] ビットをそれぞれ 01b にしてください。

［1 になる条件］

- 1 を書いたとき

［0 になる条件］

- 停止条件の生成が完了したとき

IICSTIF フラグ（開始／再開始／停止条件生成完了フラグ）

IICSTIF フラグは、各条件の生成後に、生成が完了したことを示します。IICSTAREQ ビット、IICRSTAREQ ビット、または IICSTPREQ ビットを用いて各条件の生成を行うときは、IICSTIF フラグを 0 にしてから生成を実行してください。

SCR.TEIE ビットで割り込み要求が許可されているとき、IICSTIF フラグが 1 の場合に STI 要求が出力されます。

［1 になる条件］

- 開始条件、再開始条件、停止条件の生成が完了したとき

  1 になる条件が 0 になる条件と競合した場合は、0 になる条件が優先されます。

［0 になる条件］

- 0 を書いたとき
  IICSTIF ビットに 0 を書いた後は、IICSTIF ビットを読み出して、実際に 0 になっていることを確認してください。
- SIMR1.IICM ビットに 0 を書いたとき（簡易 IIC モード以外の場合）
- SCR.TE ビットに 0 を書いたとき

IICSDAS[1:0] ビット（SDA 出力選択）

IICSDAS[1:0] ビットは、SDAn 端子からの出力を制御します。通常動作時は、IICSDAS[1:0] ビットと IICSCLS[1:0] ビットは同じ値にしてください。

IICSCLS[1:0] ビット（SCL 出力選択）

IICSCLS[1:0] ビットは、SCLn 端子からの出力を制御します。通常動作時は、IICSCLS[1:0] ビットと IICSDAS[1:0] ビットは同じ値にしてください。

30.2.24 I2C ステータスレジスタ（SISR）

アドレス SCI0.SISR 4007 000Ch, SCI1.SISR 4007 002Ch, SCI2.SISR 4007 004Ch, SCI3.SISR 4007 006Ch, SCI4.SISR 4007 008Ch, SCI8.SISR 4007 010Ch, SCI9.SISR 4007 012Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	IICACKR
リセット後の値	0	0	x	x	0	x	0	0

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IICACKR	ACK受信データフラグ	0：ACK受信 1：NACK受信	R
b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b2	—	予約ビット	読むと不定値が読めます。	R
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b5-b4	—	予約ビット	読むと不定値が読めます。	R
b7-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

SISR レジスタは、簡易 IIC モードにおける状態をモニタするためのレジスタです。

IICACKR フラグ（ACK 受信データフラグ）

IICACKR フラグから、受信された ACK/NACK ビットを読み出すことができます。IICACKR フラグは、ACK/NACK ビット受信時の SCLn クロックの立ち上がりのタイミングで更新されます。

30.2.25 SPI モードレジスタ（SPMR）

アドレス SCI0.SPMR 4007 000Dh, SCI1.SPMR 4007 002Dh, SCI2.SPMR 4007 004Dh, SCI3.SCI3 4007 006Dh, SCI4.SPMR 4007 008Dh, SCI8.SPMR 4007 010Dh, SCI9.SPMR 4007 012Dh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CKPH	CKPOL	—	MFF	—	MSS	CTSE	SSE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SSE	SSn端子機能有効	0：SSn端子機能は無効 1：SSn端子機能は有効	R/W （注1）
b1	CTSE	CTS有効	0：CTS機能は無効（RTS出力機能は有効） 1：CTS機能は有効	R/W （注1）
b2	MSS	マスタスレーブ選択	0：TXDn端子は送信、RXDn端子は受信（マスタモード） 1：TXDn端子は受信、RXDn端子は送信（スレーブモード）	R/W （注1）
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	MFF	モードフォルトフラグ	0：モードフォルトエラーなし 1：モードフォルトエラーあり	R/W （注2）
b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6	CKPOL	クロック極性選択	0：クロック極性反転なし 1：クロック極性反転あり	R/W （注1）
b7	CKPH	クロック位相選択	0：クロック遅延なし 1：クロック遅延あり	R/W （注1）

注 1.　SCR.TE ビットと SCR.RE ビットが 0（シリアル送信動作およびシリアル受信動作を禁止）の場合にのみ書き込み可能です。
注 2.　フラグをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。

SPMR レジスタは、簡易 SPI モードの設定を選択するためのレジスタです。

SSE ビット（SSn 端子機能有効）

簡易 SPI モードで SSn 端子を用いて送受信制御を行う場合、SSE ビットを 1 にしてください。他のすべてのモードでは 0 にしてください。簡易 SPI モードでは、マスタモード（SCR.CKE[1:0] ビット = 00b、SPMR.MSS ビット = 0）を選択し、かつシングルマスタで使用する場合、マスタ側の SSn 端子を用いた送受信制御は不要です。そのような場合は、SSE ビットを 0 にします。SSE ビットと CTSE ビットの両方を 1 にしないでください。両方を 1 にした場合、これらのビットを 0 にしたときと同じ動作になります。

CTSE ビット（CTS 有効）

SSn 端子を CTS 制御信号入力として用いて送受信制御を行う場合、CTSE ビットを 1 にしてください。本ビットを 0 にした場合は RTS 信号が出力されます。スマートカードインタフェースモード、簡易 SPI モード、および簡易 IIC モードでは、本ビットを 0 にしてください。CTSE ビットと SSE ビットの両方を 1 にしないでください。両方を 1 にした場合、これらのビットを 0 にしたときと同じ動作になります。

MSS ビット（マスタスレーブ選択）

MSS ビットは、簡易 SPI モードにおいて、マスタ動作またはスレーブ動作を選択します。本ビットを 1 にすると、TXDn 端子と RXDn 端子の機能が逆になり、データは TXDn 端子を介して受信され、RXDn 端子を介して送信されます。簡易 SPI モード以外では 0 にしてください。

MFF フラグ（モードフォルトフラグ）

MFF フラグは、モードフォルトエラーが発生したことを示します。マルチマスタ構成では、本フラグを読み出すことでモードフォルトエラーの発生を判定できます。

［1 になる条件］

- 簡易 SPI モードでマスタモード（SSE ビット = 1 かつ MSS ビット = 0）の場合に、SSn 端子入力が Low になったとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

CKPOL ビット（クロック極性選択）

CKPOL ビットは、SCKn 端子からのクロック出力の極性を選択します。詳細は、図 30.70 を参照してください。簡易 SPI モードおよびクロック同期式モード以外のすべてのモードで、CKPOL ビットを 0 としてください。

CKPH ビット（クロック位相選択）

CKPH ビットは、SCKn 端子からのクロック出力の位相を選択します。詳細は、図 30.70 を参照してください。簡易 SPI モードおよびクロック同期式モード以外のすべてのモードで、CKPH ビットを 0 としてください。

30.2.26 FIFO コントロールレジスタ（FCR）

アドレス SCI0.FCR 4007 0014h, SCI1.FCR 4007 0034h, SCI2.FCR 4007 0054h, SCI3.FCR 4007 0074h, SCI4.FCR 4007 0094h, SCI8.FCR 4007 0114h, SCI9.FCR 4007 0134h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	RSTRG[3:0]				RTRG[3:0]				TTRG[3:0]				DRES	TFRST	RFRST	FM
リセット後の値	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	FM	FIFOモード選択	調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）またはクロック同期式モードでのみ有効です。 0：非FIFOモード 通信にはTDR/RDRまたはTDRHL/RDRHL レジスタが選択されます。 1：FIFOモード 通信にはFTDRHL/FRDRHL レジスタが選択されます。	R/W （注1）
b1	RFRST	受信FIFOデータレジスタリセット	FCR.FM = 1の場合にのみ有効です。 0：FRDRHL レジスタをリセットしない 1：FRDRHL レジスタをリセットする	R/W
b2	TFRST	送信FIFOデータレジスタリセット	FCR.FM = 1の場合にのみ有効です。 0：FTDRHL レジスタをリセットしない 1：FTDRHL レジスタをリセットする	R/W
b3	DRES	受信データレディエラー選択	受信データレディ検出時に要求する割り込みを選択します。 0：受信データフル割り込み（SCIn_RXI） 1：受信エラー割り込み（SCIn_ERI）	R/W
b7-b4	TTRG[3:0]	送信FIFOデータトリガ数	調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）またはクロック同期式モードでのみ有効です。 0000：トリガ数0 ： 1111：トリガ数15	R/W
b11-b8	RTRG[3:0]	受信FIFOデータトリガ数	調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）またはクロック同期式モードでのみ有効です。 0000：トリガ数0 ： 1111：トリガ数15	R/W
b15-b12	RSTRG[3:0]	RTS出力アクティブトリガ数選択	調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）またはクロック同期式モードにおいて、FCR.FM = 1、SPMR.CTSE = 0、およびSPMR.SSE = 0の場合にのみ有効です。 0000：トリガ数0 ： 1111：トリガ数15	R/W

注 1.　TE ビット = 0 かつ RE ビット = 0 の場合にのみ書き込み可能です。

FCR レジスタは、FIFO モードの選択、FTDRHL/FRDRHL レジスタのリセット、送受信用の FIFO データトリガ数の選択、および RTS 出力アクティブトリガ数の選択を行うためのレジスタです。

FM ビット（FIFO モード選択）

FM ビットを 1 にすると、通信には FTDRHL と FRDRHL が選択されます。FM ビットを 0 にすると、通信には TDR と RDR または TDRHL と RDRHL が選択されます。

RFRST ビット（受信 FIFO データレジスタリセット）

RFRST ビットを 1 にすると、FRDRHL レジスタがリセットされ、受信データ数は 0 にリセットされます。1 を書いてから 1PCLKA 経過後、RFRST ビットは 0 に設定されます。

TFRST ビット（送信 FIFO データレジスタリセット）

TFRST ビットを 1 にすると、FTDRHL レジスタがリセットされ、送信データ数は 0 にリセットされます。1 を書いてから 1PCLKA 経過後、TFRST ビットは 0 に設定されます。

DRES ビット（受信データレディエラー選択）

受信データレディエラーを検出する場合、SCIn_TXI 割り込み要求または SCIn_ERI 割り込み要求から選択できます。

TTRG[3:0] ビット（送信 FIFO データトリガ数）

FTDRHL レジスタ内の送信データ数が、TTRG[3:0] ビットに指定された送信トリガ数以下の場合、TDFE フラグが 1 になり、ソフトウェアによる FTDRHL レジスタへのデータ書き込みが可能になります。SCR.TIE = 1 の場合は、SCIn_TXI 割り込み要求が発生します。

RTRG[3:0] ビット（受信 FIFO データトリガ数）

FRDRHL レジスタ内の受信データ数が、RTRG[3:0] ビットに指定された受信トリガ数以上の場合、RDF フラグが 1 になり、ソフトウェアによる FRDRHL レジスタからのデータ読み出しが可能になります。SCR.RIE = 1 の場合は、SCIn_RXI 割り込み要求が発生します。

RTRG[3:0] ビットが 0 の場合は、受信 FIFO 内のデータ数が 0 であっても、RDF フラグはセットされません。また、SCIn_RXI 割り込みは発生しません。

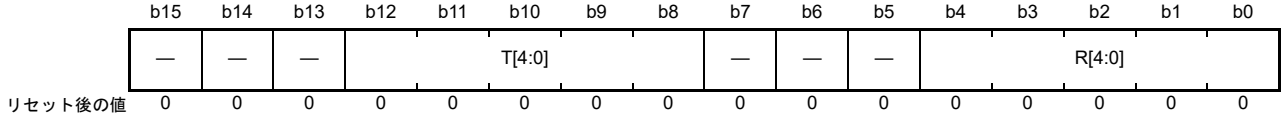
RSTRG[3:0] ビット（RTS 出力アクティブトリガ数選択）

FRDRHL レジスタに格納された受信データ数が、RSTRG[3:0] ビットに指定された受信トリガ数以上の場合、RTS 信号は High 状態になります。

RSTRG[3:0] ビットが 0 の場合は、FRDRHL レジスタのデータ数が 0 であっても、RTS 信号は High 状態になりません。

30.2.27　FIFO データ数レジスタ（FDR）

アドレス　SCI0.FDR 4007 0016h, SCI1.FDR 4007 0036h, SCI2.FDR 4007 0056h, SCI3.FDR 4007 0076h, SCI4.FDR 4007 0096h, SCI8.FDR 4007 0116h, SCI9.FDR 4007 0136h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	R[4:0]	受信FIFOデータ数	調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）またはクロック同期式モードにおいて、FCR.FM = 1の場合にのみ有効です。 FRDRHL レジスタに格納された受信データ数を示します。	R
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b12-b8	T[4:0]	送信FIFOデータ数	調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）またはクロック同期式モードにおいて、FCR.FM = 1の場合にのみ有効です。 FTDRHL レジスタに格納された未送信データ数を示します。	R
b15-b13	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

FDR レジスタは、FRDRHL/FTDRHL レジスタに格納されたデータ数を示します。

R[4:0] ビット（受信 FIFO データ数）

R[4:0] ビットは、FRDRHL レジスタに格納された受信データ数を示します。値 00h は受信データがないことを示します。また、値 10h は最大数の受信データが FRDRHL レジスタに格納されていることを示します。

T[4:0] ビット（送信 FIFO データ数）

T[4:0] ビットは、FTDRHL レジスタに格納された未送信データ数を示します。値 00h は送信データがないことを示します。また、値 10h は全送信データ（最大数）が FTDRHL レジスタに格納されていることを示します。

30.2.28　ラインステータスレジスタ（LSR）

アドレス　SCI0.LSR 4007 0018h, SCI1.LSR 4007 0038h, SCI2.LSR 4007 0058h, SCI3.LSR 4007 0078h, SCI4.LSR 4007 0098h, SCI8.LSR 4007 0118h, SCI9.LSR 4007 0138h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	PNUM[4:0]					—	FNUM[4:0]					—	ORER
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ORER	オーバーランエラーフラグ	調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）またはクロック同期式モードにおいて、FIFO動作選択時にのみ有効です。 0：オーバーランエラーの発生なし 1：オーバーランエラーの発生あり	R （注1）
b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b6-b2	FNUM[4:0]	フレーミングエラー数	受信FIFOデータレジスタ（FRDRHL）に格納された受信データの中でフレーミングエラーを含むデータ数を示します。	R
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b12-b8	PNUM[4:0]	パリティエラー数	受信FIFOデータレジスタ（FRDRHL）に格納された受信データの中でパリティエラーを含むデータ数を示します。	R
b15-b13	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

注 1.　本フラグが 1 の場合は、SSR_FIFO.ORER に 0 を書いて、フラグをクリアしてください。

LSR レジスタは、受信エラーのステータスを示すレジスタです。

ORER フラグ（オーバーランエラーフラグ）

ORER フラグは、SSR_FIFO.ORER の値を反映します。

FNUM[4:0] ビット（フレーミングエラー数）

FNUM[4:0] ビットの値は、FRDRHL レジスタに格納されたフレーミングエラーを含むデータ数を示します。

PNUM[4:0] ビット（パリティエラー数）

PNUM[4:0] ビットの値は、FRDRHL レジスタに格納されたパリティエラーを含むデータ数を示します。

30.2.29　コンペアマッチデータレジスタ（CDR）

アドレス　SCI0.CDR 4007 001Ch, SCI1.CDR 4007 003Ah, SCI2.CDR 4007 005Ah, SCI3.CDR 4007 007Ah, SCI4.CDR 4007 009Ah, SCI8.CDR 4007 011Ah, SCI9.CDR 4007 013Ah

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	CMPD[8:0]								
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b8-b0	CMPD[8:0]	コンペアマッチデータ	アドレス一致ウェイクアップ機能用の比較データパターンを格納します。	R/W
b15-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CDR レジスタは、アドレス一致検出機能の比較データを設定するためのレジスタです。

CMPD[8:0] ビット（コンペアマッチデータ）

CMPD[8:0] ビットは、アドレス一致検出機能が有効（DCCR.DCME = 1）のとき、アドレス一致検出機能で受信データと比較するデータを設定します。

3 種類のビット長から 1 つ選択できます。

- 7 ビット長の CMPD[6:0]
- 8 ビット長の CMPD[7:0]
- 9 ビット長の CMPD[8:0]

30.2.30　データコンペアマッチコントロールレジスタ（DCCR）

アドレス　SCI0.DCCR 4007 0013h, SCI1.DCCR 4007 0033h, SCI2.DCCR 4007 0053h, SCI3.DCCR 4007 0073h, SCI4.DCCR 4007 0093h, SCI8.DCCR 4007 0113h, SCI9.DCCR 4007 0133h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DCME	IDSEL	—	DFER	DPER	—	—	DCMF
リセット後の値	0	1	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DCMF	データコンペアマッチフラグ	0：不一致 1：一致	R/(W) （注1）
b2-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b3	DPER	データコンペアマッチパリティエラーフラグ	0：パリティエラーの発生なし 1：パリティエラーの発生あり	R/(W) （注1）
b4	DFER	データコンペアマッチフレーミングエラーフラグ	0：フレーミングエラーの発生なし 1：フレーミングエラーの発生あり	R/(W) （注1）
b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6	IDSEL	IDフレーム選択	調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）でのみ有効です。 0：MPBビット値とは無関係に、常にデータを比較する 1：MPBビットが1（IDフレーム）の場合にのみデータを比較する	R/W
b7	DCME	データコンペアマッチ有効	調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）でのみ有効 0：アドレス一致検出機能は無効 1：アドレス一致検出機能は有効	R/W

注 1.　フラグをクリアするため、1 を読んだ後に 0 を書き込むことのみ可能です。

DCCR レジスタは、アドレス一致検出機能を制御するためのレジスタです。

DCMF フラグ（データコンペアマッチフラグ）

DCMF フラグは、SCI が受信データと比較データ（CDR.CMPD）の一致を検出したことを示します。

［1 になる条件］

- DCCR.DCME = 1 の状態で、受信データが比較データ（CDR.CMPD）と一致したとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

SCR.RE ビットを 0 にしても、DCMF フラグは影響を受けず、以前の値を保持します。

DPER フラグ（データコンペアマッチパリティエラーフラグ）

DPER フラグは、アドレス一致検出（受信データの一致検出）時に、パリティエラーが発生したことを示します。

［1 になる条件］

- アドレス一致が検出されたフレームでパリティエラーが検出されたとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

  SCR.RE ビットを 0（シリアル受信動作を禁止）にしても、DPER フラグは影響を受けず、以前の値を保持します。

DFER フラグ（データコンペアマッチフレーミングエラーフラグ）

DFER フラグは、アドレス一致検出（受信データの一致検出）時に、フレーミングエラーが発生したことを示します。

［1 になる条件］

- アドレス一致が検出されたフレームのストップビットが 0 のとき

2 ストップビットモードの場合、ストップビットの 1 ビット目のみが 1 であるかチェックされます（2 ビット目はチェックされません）。

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

SCR.RE ビットを 0（シリアル受信動作を禁止）にしても、DFER フラグは影響を受けず、以前の値を保持します。

IDSEL ビット（ID フレーム選択）

IDSEL ビットは、アドレス一致検出機能が有効な場合、MPB ビットの値とは無関係に比較を行うか、または MPB ビット = 1（ID フレーム）の場合にのみ比較を行うかを選択します。

DCME ビット（データコンペアマッチ有効）

DCME ビットは、アドレス一致検出機能（データコンペアマッチ機能）の有効／無効を選択します。

SCI によって受信データと比較データ（CDR.CMPD）の一致が検出された場合、DCME ビットは自動的にクリアされ、その後、SCI の動作はデータコンペアマッチ機能なしの受信モードになります。30.3.6　アドレス一致（受信データ一致）検出機能を参照してください。

調歩同期式モード以外では、書き込み値は 0 にする必要があります。

30.2.31　シリアルポートレジスタ（SPTR）

アドレス　SCI0.SPTR 4007 001Ch, SCI1.SPTR 4007 003Ch, SCI2.SPTR 4007 005Ch, SCI3.SPTR 4007 007Ch, SCI4.SPTR 4007 009Ch, SCI8.SPTR 4007 011Ch, SCI9.SPTR 4007 013Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	SPB2IO	SPB2DT	RXDMON
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RXDMON	シリアル入力データモニタ	RXDn端子の状態を示します。 0：RXDn端子はLow 1：RXDn端子はHigh	R
b1	SPB2DT	シリアルポートブレークデータ選択	SCR.TE = 0の場合、TXDn端子の出力レベルを選択します。 0：TXDn端子にはLowを出力 1：TXDn端子にはHighを出力	R/W
b2	SPB2IO	シリアルポートブレーク入出力	TXDn端子へSPB2DTの値を出力するか否かを選択します。 0：SPB2DTビットの値をTXDn端子に出力しない 1：SPB2DTビットの値をTXDn端子に出力する	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

SPTR レジスタは、シリアル受信端子（RXDn 端子）の状態を確認し、送信端子（TXDn 端子）の状態を設定するためのレジスタです。

このレジスタは調歩同期式モードでのみ使用可能です。

表 30.22 に示すように、TXDn 端子の状態は、SCR.TE、SPTR.SPB2IO、SPTR.SPB2DT の各ビット設定値の組み合わせで決定されます。

表 30.22　TXD 端子の状態

SCR.TE ビットの値	SPTR.SPB2IO ビットの値	SPTR.SPB2DT ビットの値	TXD 端子の状態
0	0	x	Hi-Z（初期値）
0	1	0	Low を出力
0	1	1	High を出力
1	x	x	シリアル送信データを出力

x：Don’t care

注 .　SPTR レジスタは調歩同期式モードでのみ使用してください。他のモードでの使用は保証されません。

30.3　調歩同期式モードの動作

調歩同期式シリアル通信の一般的なデータフォーマットを、図 30.2 に示します。1 フレームは、スタートビット（Low）で始まり、送受信データ、パリティビット、ストップビット（High）の順に構成されます。調歩同期式シリアル通信では、通信していないときの通信回線はマーク状態（High）に保たれています。

SCI は通信回線を監視しています。Low を検出すると、スタートビットとみなしてシリアル通信を開始します。

SCI 内部では送信部と受信部は独立しており、全二重通信が可能です。また、送信部と受信部はどちらも FIFO モードに加えてダブルバッファ構成になっているため、送受信中でもデータの読み出し／書き込みが可能であり、連続送受信動作が実現されます。

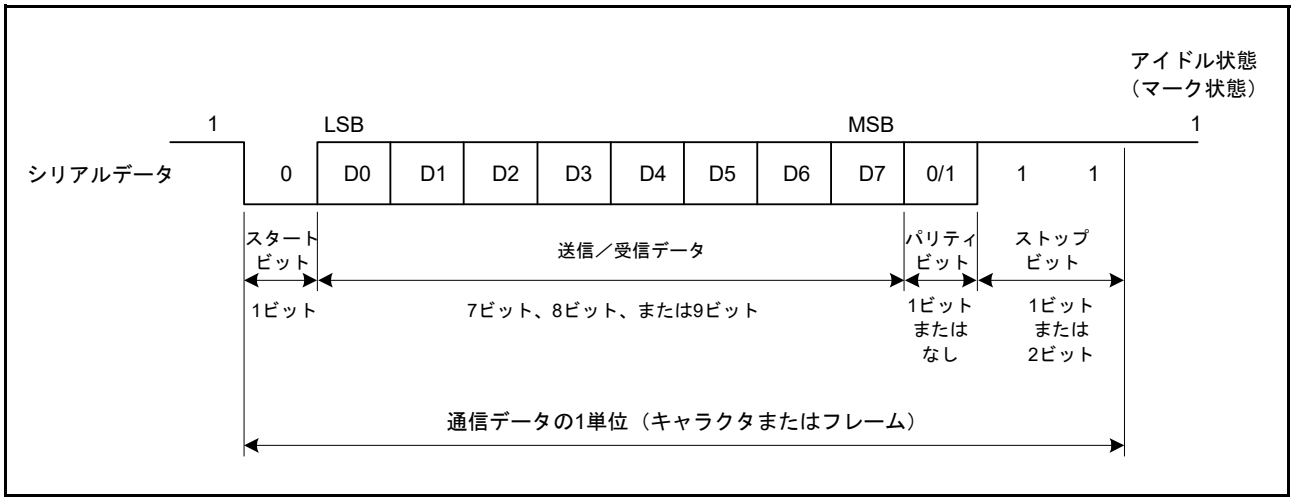


図 30.2　調歩同期式シリアル通信のデータフォーマット（8 ビットデータ／パリティあり／2 ストップビットの場合）

30.3.1　シリアル転送フォーマット

調歩同期式モードで設定できるシリアル転送フォーマットを表 30.23 に示します。フォーマットは 18 種類あり、SMR レジスタおよび SCMR レジスタの設定で選択できます。マルチプロセッサ機能の詳細については 30.4　マルチプロセッサ通信機能を参照してください。

表 30.23　シリアル転送フォーマット（調歩同期式モード）(1/2)

SCMR の設定	SMR の設定				シリアル転送フォーマットとフレーム長
CHR1	CHR	PE	MP	STOP	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
0	0	0	0	0	S 9ビットデータ STOP
0	0	0	0	1	S 9ビットデータ STOP STOP
0	0	1	0	0	S 9ビットデータ P STOP
0	0	1	0	1	S 9ビットデータ P STOP STOP
1	0	0	0	0	S 8ビットデータ STOP
1	0	0	0	1	S 8ビットデータ STOP STOP
1	0	1	0	0	S 8ビットデータ P STOP
1	0	1	0	1	S 8ビットデータ P STOP STOP
1	1	0	0	0	S 7ビットデータ STOP
1	1	0	0	1	S 7ビットデータ STOP STOP
1	1	1	0	0	S 7ビットデータ P STOP

表 30.23　シリアル転送フォーマット（調歩同期式モード）(2/2)

SCMRの設定	SMRの設定				シリアル転送フォーマットとフレーム長
CHR1	CHR	PE	MP	STOP	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
1	1	1	0	1	S 7ビットデータ P STOP STOP
0	0	—	1	0	S 9ビットデータ MPB STOP
0	0	—	1	1	S 9ビットデータ MPB STOP STOP
1	0	—	1	0	S 8ビットデータ MPB STOP
1	0	—	1	1	S 8ビットデータ MPB STOP STOP
1	1	—	1	0	S 7ビットデータ MPB STOP
1	1	—	1	1	S 7ビットデータ MPB STOP STOP

S：スタートビット
STOP：ストップビット
P：パリティビット
MPB：マルチプロセッサビット

30.3.2　調歩同期式モードの受信データサンプリングタイミングと受信マージン

調歩同期式モードでは、SCI はビットレートの 16 倍（注 1）の周波数の基本クロックで動作します。

受信時はスタートビットの立ち下がりを基本クロックでサンプリングして内部を同期化します。

また、図 30.3 に示すように、受信データは基本クロックの 8 パルス目（注 1）の立ち上がりエッジでサンプリングされるため、各ビットの中間でデータが取り込まれます。調歩同期式モードでの受信マージンは以下の式（1）のように表すことができます。

$$M = \left| (0.5 - \frac{1}{2N}) - (L - 0.5)\, F - \frac{D - 0.5}{N} (1 + F) \right| \times 100\ [\%] \cdots \text{Formula (1)}$$

M：受信マージン
N：クロックに対するビットレートの比
　N = 16 となるときの条件：SEMR.ABCSE ビット = 0、かつ SEMR.ABCS ビット = 0
　N = 8 となるときの条件：SEMR.ABCS ビット = 1
　N = 6 となるときの条件：SEMR.ABCSE ビット = 1
D：クロックのデューティサイクル（D = 0.5 ～ 1.0）
L：フレーム長（L = 9 ～ 13）
F：クロック周波数の偏差の絶対値

式（1）で、F（クロック周波数の偏差の絶対値）= 0、D（クロックのデューティ）= 0.5 とすると、受信マージンは下記の式で算出されます。

$M = \{0.5 - 1/(2 \times 16)\} \times 100\ (\%) = 46.875\%$

これは計算上の値を表しています。システム設計の際には 20 ～ 30% の余裕を持たせることが推奨されます。

注 1.　この例では、SEMR.ABCS ビットと SEMR.ABCSE ビットが 0 です。ABCS ビットが 1 で ABCSE ビットが 0 の場合は、ビットレートの 8 倍の周波数が基本クロックとなり、受信データは基本クロックの 4 パルス目の立ち上がりエッジでサンプリングされます。
ABCSE ビットが 1 の場合は、ビットレートの 6 倍の周波数が基本クロックとなり、受信データは基本クロックの 3 パルス目の立ち上がりエッジでサンプリングされます。

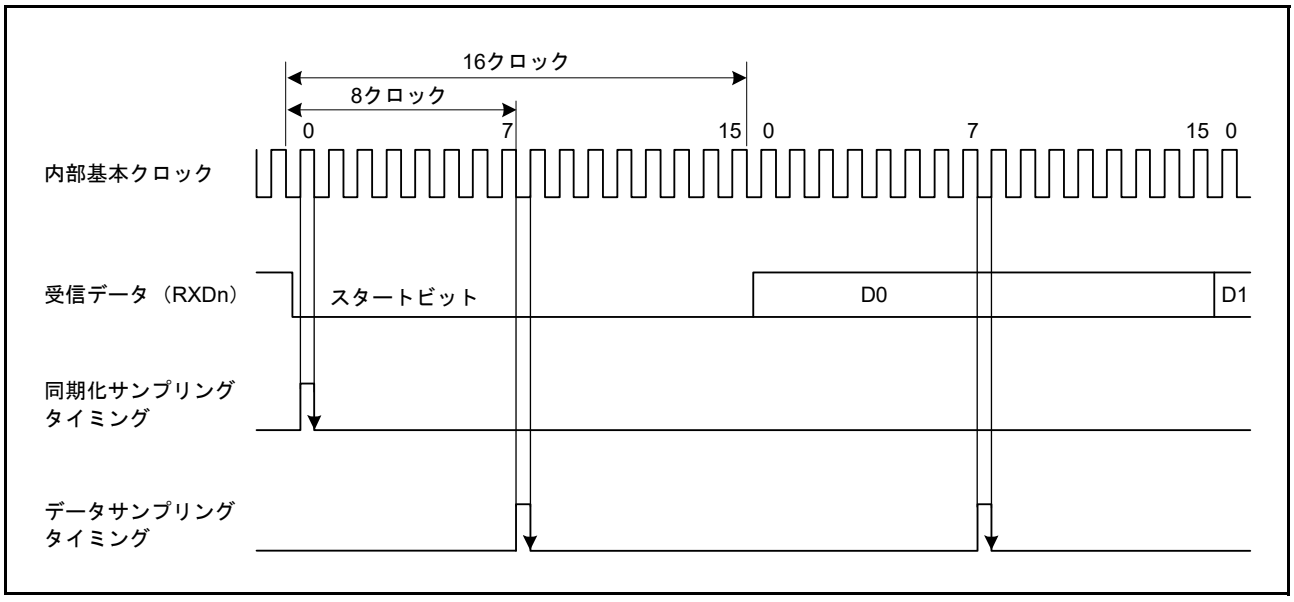


図 30.3　調歩同期式モードでの受信データのサンプリングタイミング

30.3.3　クロック

SCI の送受信クロックは、SMR.CM ビットと SCR.CKE[1:0] ビットの設定により、内蔵ボーレートジェネレータが生成する内部クロック、または SCKn 端子に入力される外部クロックのいずれかを選択できます。

外部クロックを使用する場合は、SCKn 端子にビットレートの 16 倍（SEMR.ABCS ビット = 0 のとき）、または 8 倍（SEMR.ABCS ビット = 1 のとき）の周波数のクロックを入力する必要があります。

内部クロックで動作させるときは、SCKn 端子からクロックを出力させることができます。このとき出力されるクロックの周波数はビットレートと等しく、位相は図 30.4 に示すように、送信データの中間でクロックが立ち上がるように設定されます。

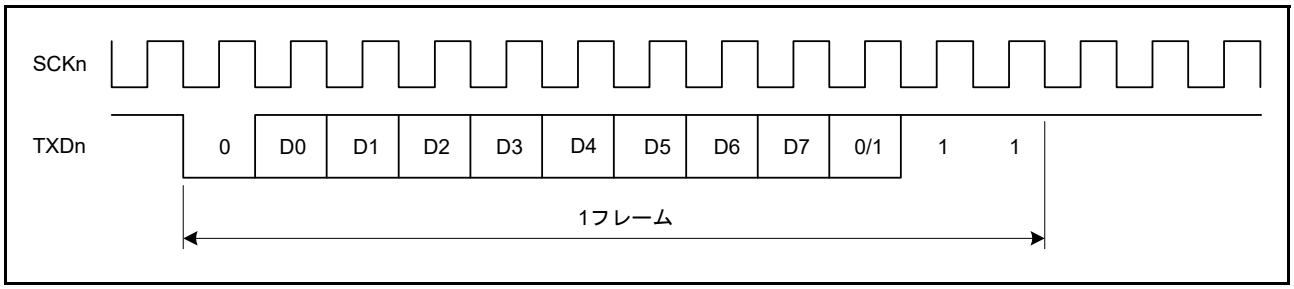


図 30.4　出力クロックと送信データの位相関係（調歩同期式モード：SMR.CHR = 0、PE = 1、MP = 0、STOP = 1）

30.3.4　倍速動作とビットレートの 6 倍の周波数

SEMR.ABCS ビットを 1 にして、1 ビット期間として基本クロックの 8 パルスを選択した場合、ABCS ビットが 0 の場合に比べて、SCI は 2 倍のビットレートで動作します。SEMR.BGDM ビットが 1 になっていると、基本クロックの周期は 1/2 倍になり、ビットレートは BGDM ビットが 0 の場合の 2 倍になります。SCR.CKE[1] ビットを 0 にして、内蔵ボーレートジェネレータを選択した場合、ABCS ビットと BGDM ビットを 1 にすることにより、ABCS ビットと BGDM ビットが 0 の場合に比べて、SCI は 4 倍のビットレートで動作できるようになります。SEMR.ABCSE ビットが 1 になっている場合、基本クロックのパルス数は 1 ビット期間中 6 になり、SEMR.ABCS、SEMR.BGDM、および SMER.ABCSE が 0 の場合に比べて、SCI は 16/3 倍のビットレートで動作します。

30.3.2　調歩同期式モードの受信データサンプリングタイミングと受信マージンの式（1）に示すとおり、SEMR.ABCS ビットまたは SEMR.ABCSE ビットが 1 の場合、受信マージンは減少します。そのため、ABCS ビットまたは ABCSE ビットが 0 の状態で目的とするビットレートが達成できるのであれば、ABCS ビットと ABCSE ビットを 0 にして SCI を使用することが推奨されます。

30.3.5　CTS、RTS 機能

CTS 機能は、CTSn_RTSn 端子入力を使用して送信制御を行います。SPMR.CTSE ビットを 1 にすると、CTS 機能が有効になります。CTS 機能が有効な場合、CTSn_RTSn 端子入力が Low になると送信が開始されます。

送信中に CTSn_RTSn 端子入力を High にしても、送信中のフレームは影響を受けません。

RTS 機能は、CTSn_RTSn 端子出力を用いる機能であり、受信可能な状態になると Low が出力されます。Low および High を出力する条件は以下のとおりです。

［Low になる条件］

(a)　非 FIFO 選択時に、下記条件がすべて満たされたとき

- SCR.RE ビットが 1
- 受信動作中でない
- 読み出し前の受信データがない

- SSR レジスタの ORER、FER、PER フラグがすべて 0

(b)　FIFO 選択時に、下記条件がすべて満たされたとき

- SCR.RE ビットが 1
- FRDRHL に書き込まれた受信データ数が指定された受信トリガ数以下
- SSR_FIFO レジスタの ORER ビット（FRDRH.ORER）が 0

[High になる条件]

(a)　非 FIFO 選択時

- Low になる条件を満たさない場合
- 受信完了後に RDR レジスタを読み出すことなく、SCR.RE = 0 によって受信を終了させた場合、RTS は High を維持します。このとき、SCR.RE に 0 を書き込んだ後に SCR レジスタをダミーリードしてください

(b)　FIFO 選択時

- Low になる条件を満たさない場合

30.3.6　アドレス一致（受信データ一致）検出機能

アドレス一致検出機能は、調歩同期式モードでのみ使用可能です。

DCCR.DCME ビットを 1 にした場合（注 4）、1 フレーム分のデータを受信すると、SCI は受信データと CDR.CMPD ビットの値を比較します。SCI によって受信データと比較データ（CDR.CMPD（注 3））の一致が検出された場合、SCIn_RXI 割り込み要求を発生させることができます。

SMR.MP ビットが 0 の場合は、受信フォーマットの有効データのみが比較対象になります。マルチプロセッサモード（SMR.MP ビット = 1）では、DCCR.IDSEL ビットが 1 の場合、MPB ビット = 1 の受信データがアドレス一致の比較対象になり、MPB ビット = 0 の受信データは、常に不一致として処理されます。

DCCR.IDSEL ビットが 0 の場合、受信データの MPB ビットの値にかかわらず、SCI はアドレス一致検出を実行します。受信データと比較データ（CDR.CMPD（注 3））の一致が検出されるまで、受信データが読み飛ばされる（廃棄される）ので、SCI はパリティエラーもフレーミングエラーも検出することができません。SCI が一致を検出すると、DCCR.DCME ビットは自動的にクリアされ、DCCR.DCMF フラグは 1 になります。

DCCR.IDSEL ビットが 1 であれば、SCR.MPIE ビットが自動的にクリアされます。また、DCCR.IDSEL ビットが 0 であれば、SCR.MPIE ビットの値が保持されます。SCR.RIE ビットが 1 になっていると、SCI は SCIn_RXI 割り込み要求を発行します。

一致が検出された受信データに対して、SCI がフレーミングエラーを検出すると、DCCR.DFER ビットが 1 になります。また、そのフレームにパリティエラーを検出すると、DCCR.DPER ビットが 1 になります。比較された受信データは RDR レジスタ（注 1）に格納されません。また、SSR.RDRF フラグ（注 2）は 0 を保持します。

SCI が一致を検出すると、DCCR.DCME ビットは自動的にクリアされ、SCI は現在のレジスタ設定に基づいて次のデータを連続して受信します。

DCCR.DFER フラグまたは DCCR.DPER フラグが 1 の状態では、アドレス一致検出は実行されません。アドレス一致検出機能を有効にする場合は、事前に DCCR.DFER フラグと DCCR.DPER フラグを 0 にしてください。

アドレス一致検出機能の例を図 30.5 および図 30.6 に示します。

注 1.　FCR.FM = 1 の場合、これは FRDRHL レジスタになります。
注 2.　FCR.FM = 1 の場合、これは SSR_FIFO.RDF フラグになります。
注 3.　比較対象は、3 種類のビット長（7 ビット長の CMPD[6:0]、8 ビット長の CMPD[7:0]、または 9 ビット長の CMPD[8:0]）から 1 つ選択できます。
注 4.　アドレス一致検出を実行する受信フレームのスタートビットを受信する前に、DCCR.DCME ビットを 1 にしてください。

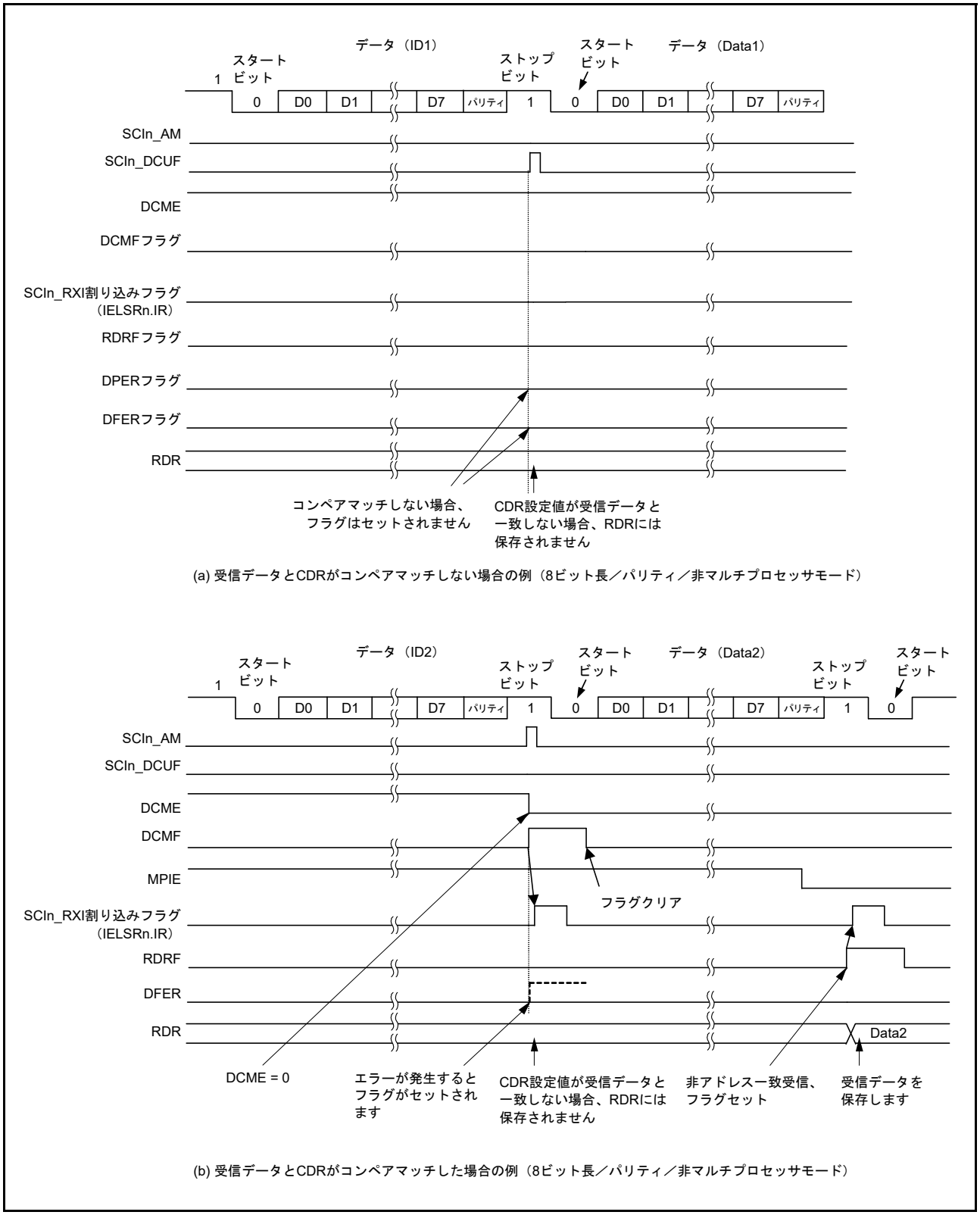


図 30.5　アドレス一致検出の例（1）（非マルチプロセッサモード）

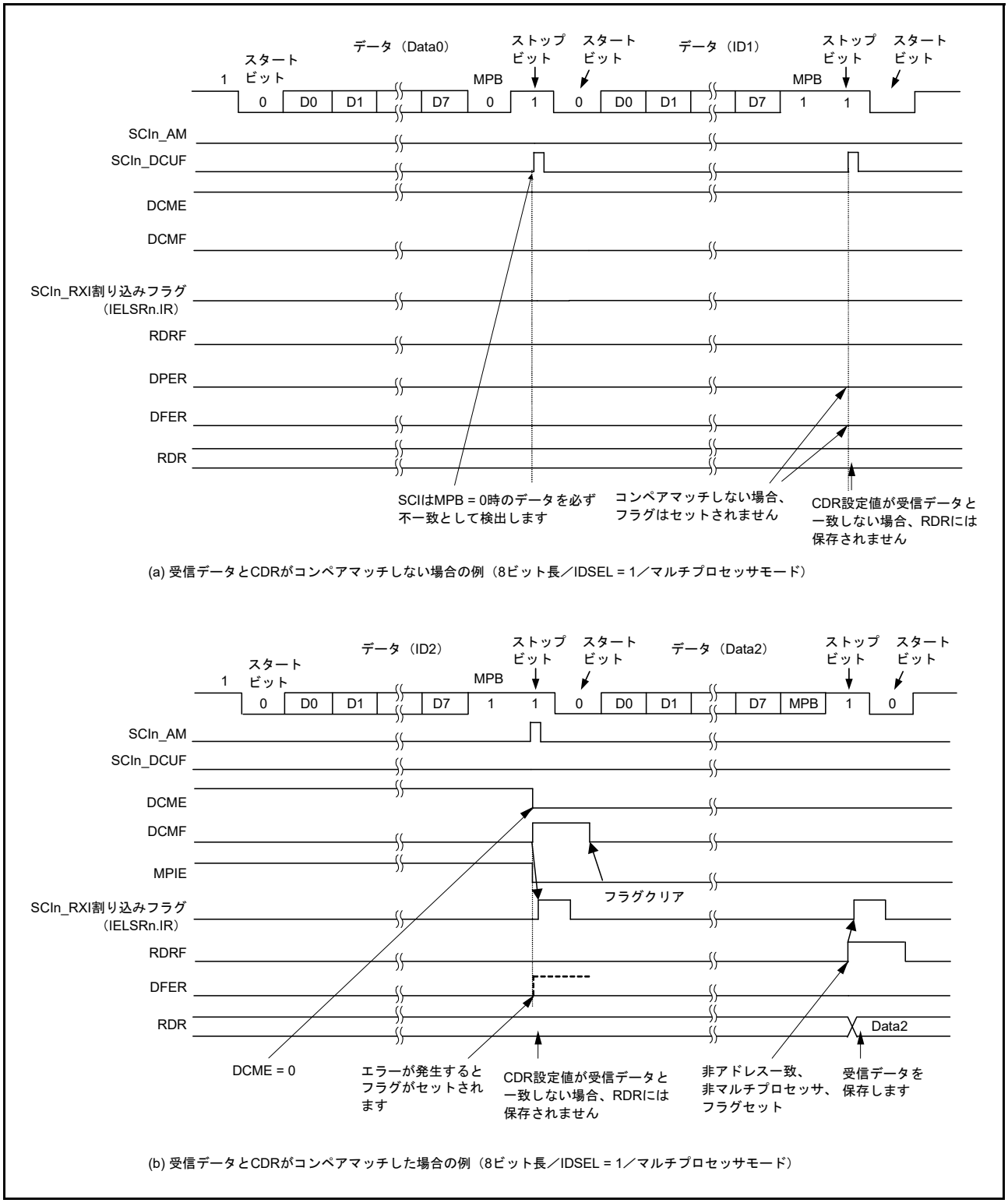


図 30.6　アドレス一致検出の例（2）（マルチプロセッサモード）

30.3.7　SCI の初期化（調歩同期式モード）

データを送受信する前に、最初に SCR レジスタに初期値 00h を書き込み、次に図 30.7 と図 30.8 のフローチャートに従って SCI の初期設定（非 FIFO 選択時または FIFO 選択時）を続けてください。動作モードまたは通信フォーマットを変更する場合も、SCR レジスタを初期値にしてから変更してください。

調歩同期式モードで外部クロックを使用する場合は、初期化の期間も含めてクロックを供給してください。

注 .　SCR.RE ビットを 0 にしても、SSR/SSR_FIFO レジスタの ORER、FER、RDRF、RDF、PER、DR の各フラグは初期化されません。また、RDR レジスタと RDRHL レジスタも初期化されません。TE ビットが 0 の場合、選択した FIFO バッファに対する TEND フラグは初期化されません。

注 .　SCR.TIE ビットが 1 の状態で、SCR.TE ビットを 1 から 0、または 0 から 1 に変更すると、SCIn_TXI 割り込み要求が発生します。

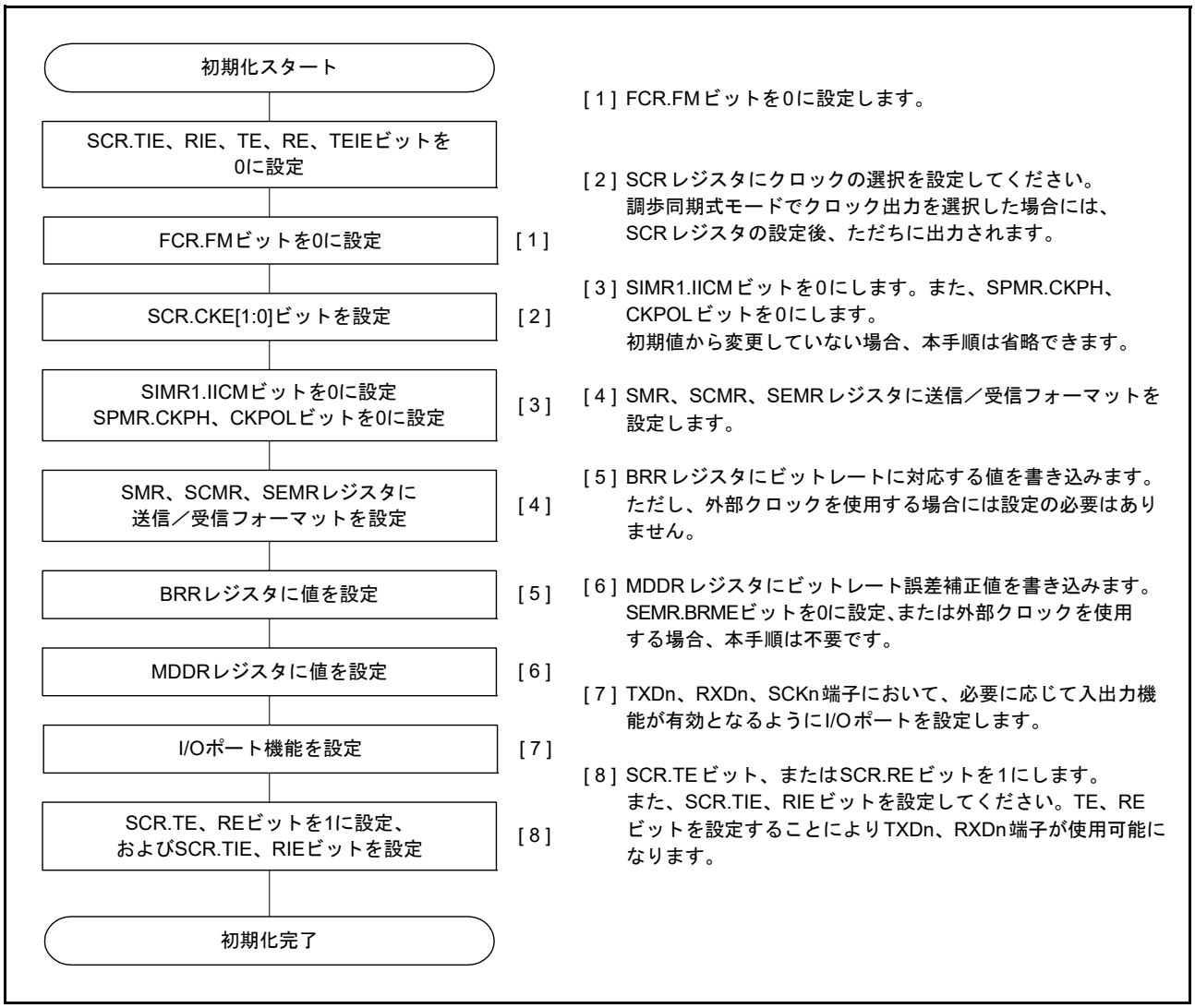


図 30.7　調歩同期式モードにおける SCI の初期化フローチャート例（非 FIFO 選択時）

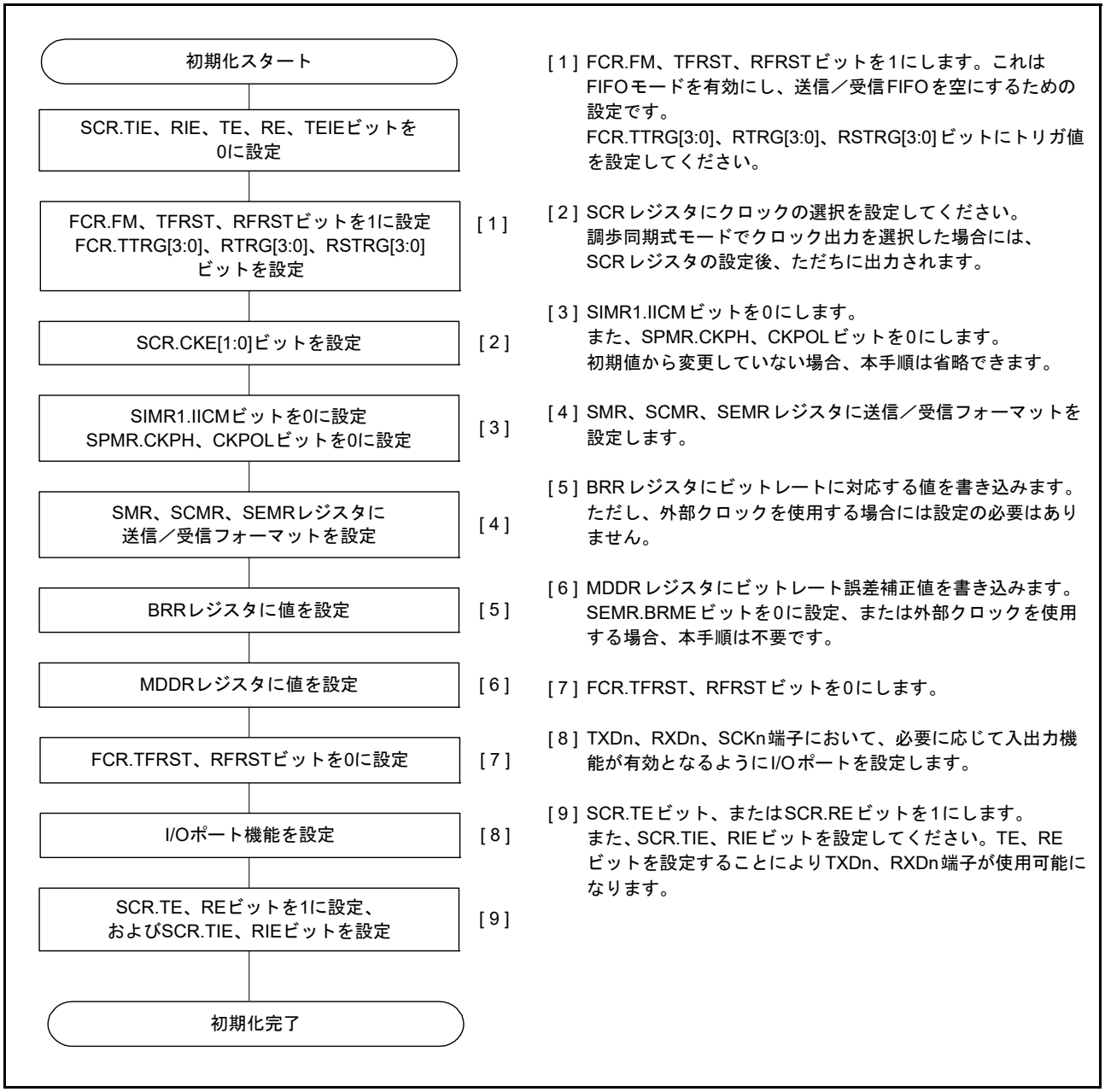


図 30.8　調歩同期式モードにおける SCI の初期化フローチャート例（FIFO 選択時）

30.3.8　シリアルデータの送信（調歩同期式モード）

(1)　非 FIFO 選択時

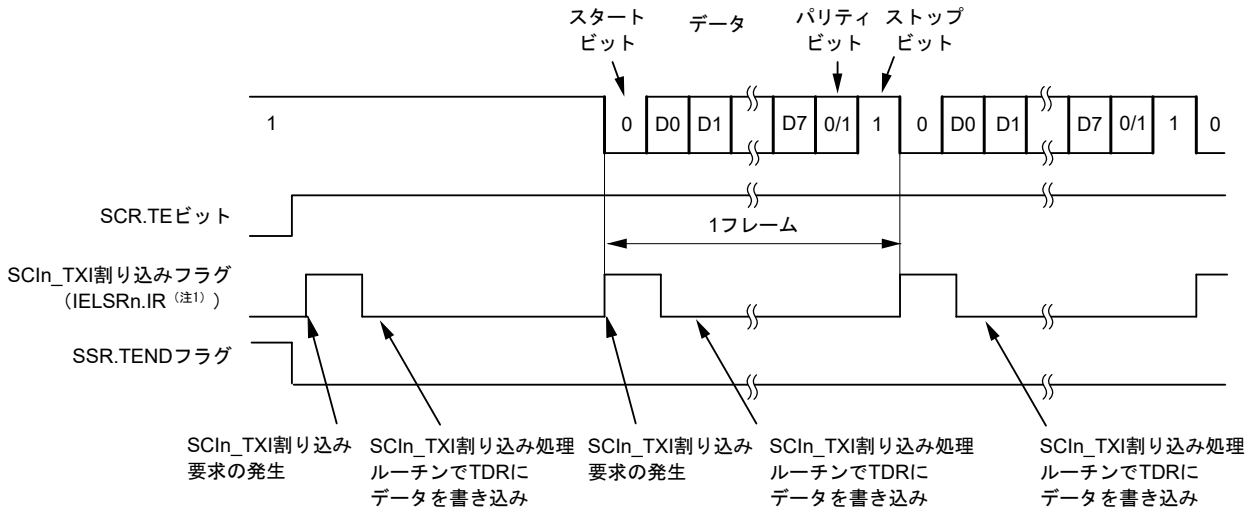
図 30.9、図 30.10、および図 30.11 に、調歩同期式モードにおけるシリアル送信の動作例を示します。

本節では、シリアルデータ送信時の SCI の動作について説明します。SCR.TE ビットが 1 の場合、1 フレーム（プリアンブル）分の High レベルが TXDn 端子に出力されます。

1. SCIn_TXI 割り込み処理ルーチンで TDR レジスタ（注 1）にデータが書き込まれると、SCI は TDR レジスタ（注 1）から TSR レジスタへデータを転送します。
   なお、送信開始時の SCIn_TXI 割り込み要求は、SCR.TE ビットと SCR.TIE ビットを 1 命令で同時に 1 にすることで発生します。
2. SPMR.CTSE ビットが 0（CTS 機能は無効）であるか、または CTSn_RTSn 端子入力が Low であると、TDR レジスタ（注 1）から TSR レジスタへデータが転送され、送信が開始されます。SCR.TIE ビットが 1 であれば、SCIn_TXI 割り込み要求が発生します。この SCIn_TXI 割り込み処理ルーチンにおいて、現在のデータ送信が終了する前に、TDR レジスタ（注 1）に次の送信データを書き込むことで連続送信が可能になります。SCIn_TEI 割り込み要求を使用する場合、SCIn_TXI 割り込み要求に対応する処理ルーチン内で最終送信データを TDR レジスタ（注 1）に書き込んだ後、SCR.TIE ビットを 0（SCIn_TXI 割り込み要求を禁止）にして、SCR.TEIE ビットを 1（SCIn_TEI 割り込み要求を許可）にします。
3. データは、以下の順に TXDn 端子から送り出されます。
   - スタートビット
   - 送信データ
   - パリティビットまたはマルチプロセッサビット（フォーマットによっては、ない場合もある）
   - ストップビット
4. ストップビットを送り出すタイミングで、SCI は TDR レジスタの更新をチェックします。
5. TDR レジスタが更新されていると、SPMR.CTSE ビットが 0（CTS 機能は無効）、または CTSn_RTSn 端子入力が Low に設定されていれば、次の送信データが TDR レジスタ（注 1）から TSR レジスタへ転送され、ストップビット送出後、次のフレームのシリアル送信が開始されます。
6. TDR レジスタが更新されていない場合は、SSR.TEND フラグが 1 になり、ストップビットを送り出した後、1 を出力するマーク状態になります。このとき、SCR.TEIE ビットが 1 になっていると、SSR.TEND フラグが 1 になり、SCIn_TEI 割り込み要求が発生します。

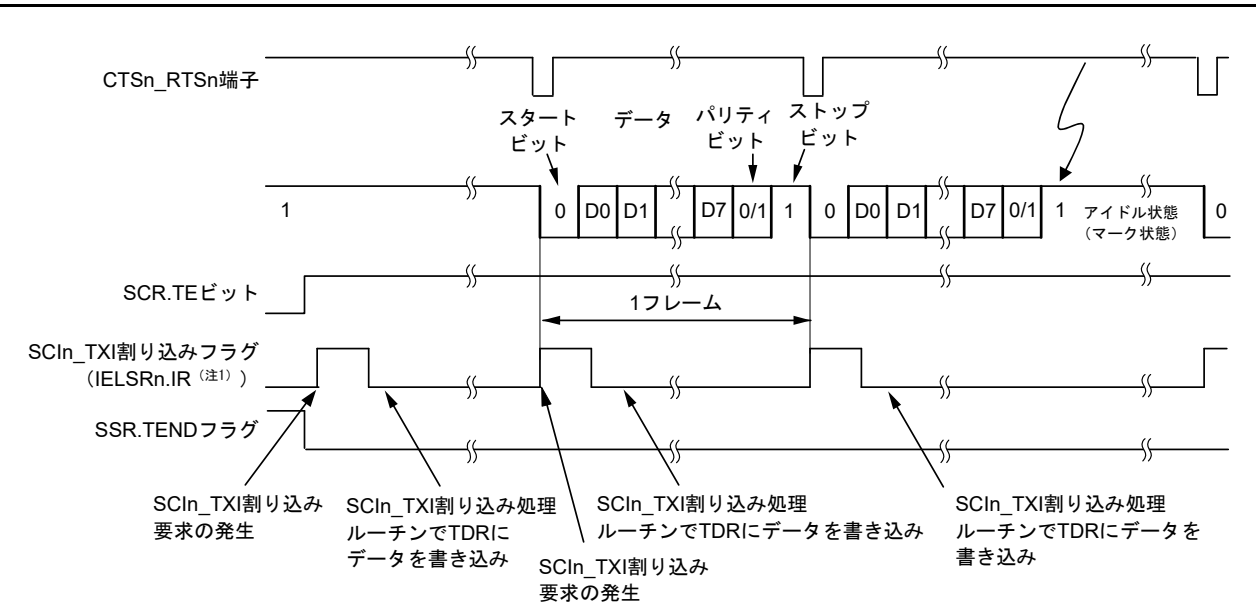
注 1.　データ長 9 ビット選択時は、TDRHL レジスタになります。

図 30.9、図 30.10、および図 30.11 に調歩同期式モードにおけるシリアル送信の動作例を示します。



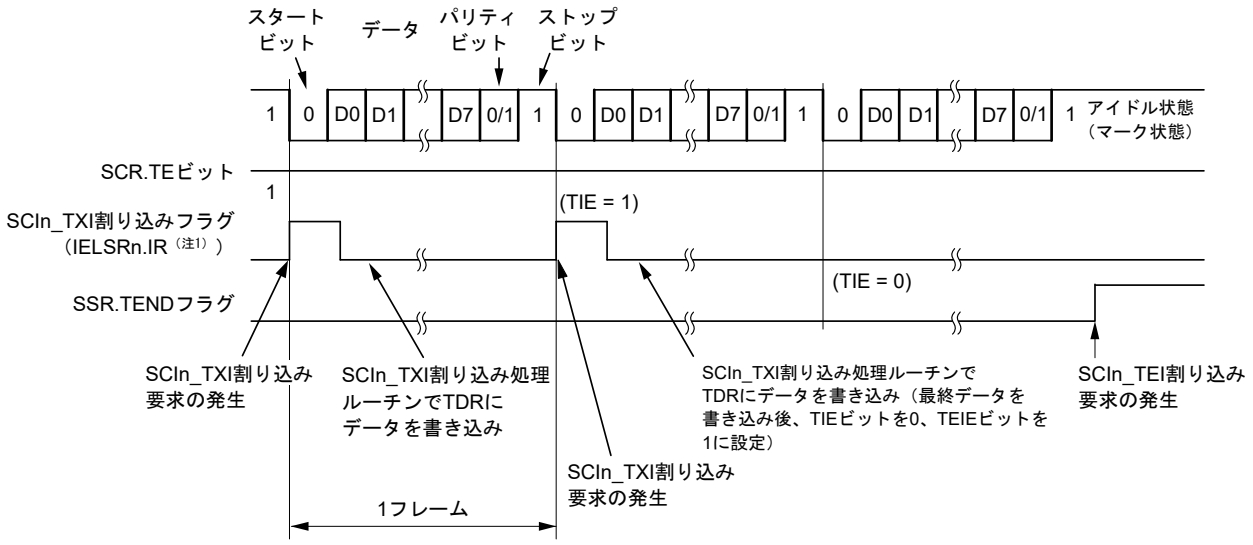
注 1.　対応する割り込みイベント番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

図 30.9　調歩同期式モードにおけるシリアル送信の動作例（1）（8 ビットデータ／パリティあり／1 ストップビット／ CTS 機能不使用／送信開始時）



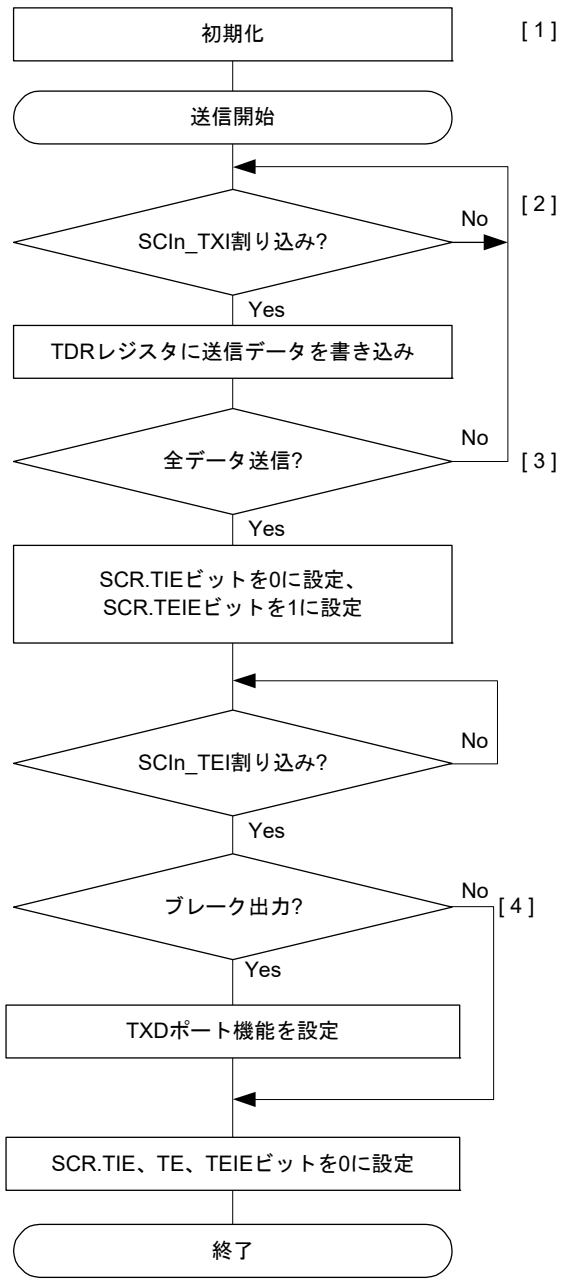
注 1.　対応する割り込みイベント番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

図 30.10　調歩同期式モードにおけるシリアル送信の動作例（2）（8 ビットデータ／パリティあり／1 ストップビット／ CTS 機能使用／送信開始時）



注 1.　対応する割り込みイベント番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

図 30.11　調歩同期式モードにおけるシリアル送信の動作例（3）（8 ビットデータ／パリティあり／1 ストップビット／CTS 機能不使用／送信中～送信終了時）



[1] SCIの初期化：
データ送信に設定します。
SCR.TEビットを1にした後、1フレーム分の1（プリアンブル）を出力して送信可能状態になります。

[2] SCIn_TXI割り込み要求で送信データをTDRレジスタに書き込み：
送信データがTDRレジスタからTSRレジスタに転送されると、送信データエンプティ割り込み（SCIn_TXI）要求が発生します。SCIn_TXI割り込み処理ルーチンの間にTDRレジスタに送信データを書き込みしてください。

[3] シリアル送信の継続手順：
シリアル送信を続けるときには、SCIn_TXI割り込み要求でTDRレジスタに送信データを1回だけ書き込みしてください。送信データは、DMACまたはDTCを軌道してTDRに書き込みすることも可能です。
SCIn_TEI割り込み要求を使用しているときは、送信する最終データをTDRに書き込み後、SCR.TIEビットを0、SCR.TEIEビットを1にしてください。

[4] シリアル送信の終了時にブレークを出力：
シリアル送信時にブレークを出力する場合、SPTR.SPB2IO、SPTR.SPB2DTビットでTXDn端子の出力状態（Lowレベル出力）を設定後、SCR.TEビットを0にしてください。

注．　9ビットデータ長を選択時、TDR レジスタが TDRHL レジスタになります。

図 30.12　調歩同期式モードにおけるシリアル送信のフローチャート例（非 FIFO 選択時）

(2)　FIFO 選択時

図 30.13 に、調歩同期式モードにおいて FTDRH レジスタと FTDRL レジスタに書き込まれるデータフォーマットの例を示します。

データ長に対応したデータが FTDRH レジスタと FTDRL レジスタに設定されます。使用しないビットには 0 を書いてください。FTDRH から FTDRL の順に書いてください。

データ長	レジスタ設定		FTDRH、FTDRLの送信データ															
			FTDRHL															
			FTDRH								FTDRL							
	SCMR.CHR1	SMR.CHR	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
7ビット	1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7ビット送信データ						
8ビット	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	8ビット送信データ							
9ビット	0	Don't care	—	—	—	—	—	—	—	9ビット送信データ								

—：無効ビット。書く場合、0 としてください。

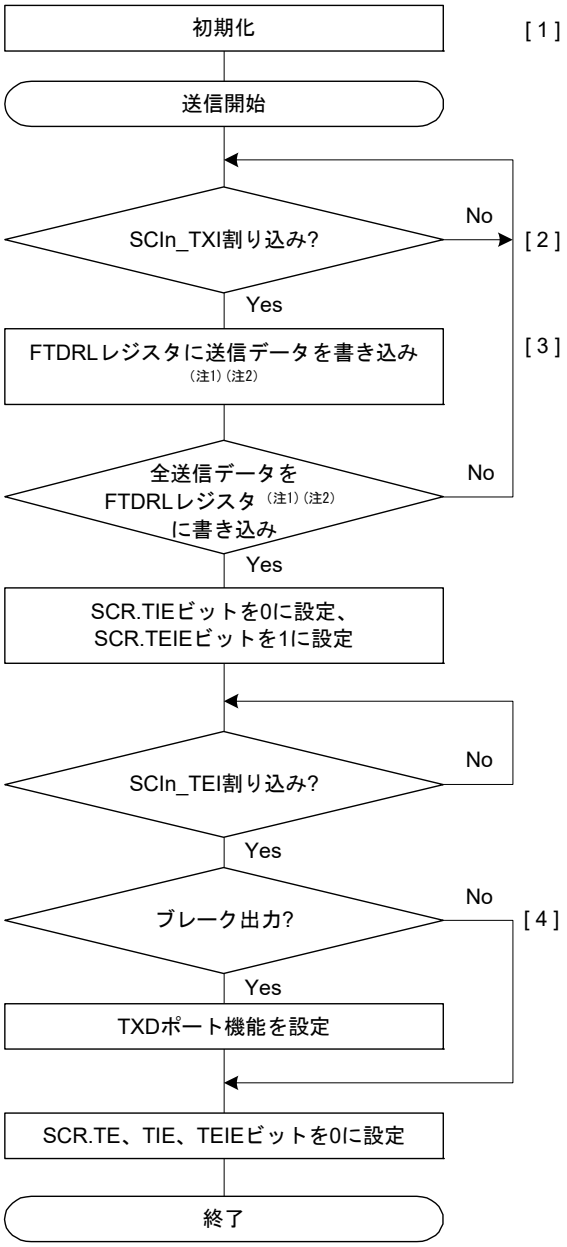
図 30.13　　FTDRH と FTDRL に書き込まれるデータフォーマット（FIFO 選択時）

本節では、シリアルデータ送信時の SCI の動作について説明します。TE ビットが 1 の場合、1 フレーム（プリアンブル）分の High レベルが TXD 端子に出力されます。

1. SCIn_TXI 割り込み処理ルーチンで FTDRL レジスタ（注 1）にデータが書き込まれると、SCI は FTDRL レジスタ（注 1）から TSR レジスタへデータを転送します。FTDRL レジスタに書き込み可能なデータのバイト数は 16 - FDR.T[4:0] です。なお、送信開始時の SCIn_TXI 割り込み要求は、SCR.TE ビットと SCR.TIE ビットを 1 命令で同時に 1 にすることで発生します。
2. SPMR.CTSE ビットが 0（CTS 機能は無効）であるか、または CTSn_RTSn 端子入力が Low であると、FTDRL レジスタ（注 1）から TSR レジスタへデータが転送され、送信が開始されます。FTDRL に書き込まれた送信データ数が指定された送信トリガ数以下のとき、SSR_FIFO.TDFE ビットが 1 になります。SCR.TIE ビットが 1 であれば、SCIn_TXI 割り込み要求が発生します。この SCIn_TXI 割り込み処理ルーチンにおいて、現在のデータ送信が終了する前に、FTDRL レジスタ（注 1）に次の送信データを書き込むことで連続送信が可能になります。SCIn_TEI 割り込み要求を使用する場合、SCIn_TXI 割り込み要求に対応する処理ルーチン内で最終送信データを FTDRL レジスタ（注 1）（注 2）に書き込んだ後、SCR.TIE ビットを 0（SCIn_TXI 割り込み要求を禁止）にして、SCR.TEIE ビットを 1（SCIn_TEI 割り込み要求を許可）にします。
3. データは、以下の順に TXDn 端子から送り出されます。
   - スタートビット
   - 送信データ
   - パリティビットまたはマルチプロセッサビット（フォーマットによっては、ない場合もある）
   - ストップビット
4. ストップビットを送り出すタイミングで、SCI は FTDRL レジスタ（注 3）に未送信データが残っていないかチェックします。
5. FTDRL レジスタ（注 3）にデータがある場合、SPMR.CTSE ビットが 0（CTS 機能は無効）であるか、または CTSn_RTSn 端子入力が Low であると、次の送信データが FTDRL レジスタ（注 1）から TSR レジスタへ転送され、ストップビット送出後、次のフレームのシリアル送信が開始されます。
6. FTDRL レジスタ（注 3）にデータがない場合、SSR_FIFO レジスタの TEND フラグが 1 になり、ストップビットを送り出した後、1 を出力するマーク状態になります。このとき、SCR.TEIE ビットが 1 になっていると、SSR_FIFO.TEND フラグが 1 になり、SCIn_TEI 割り込み要求が発生します。

注 1.　データ長 9 ビット選択時は、データを FTDRH レジスタおよび FTDRL レジスタに書き込んでください。
注 2.　データ長 9 ビット選択時は、FTDRH レジスタ→FTDRL レジスタの順にデータを書き込んでください。
注 3.　データ長 9 ビット選択時は、SCI によって FTDRL レジスタの更新のみがチェックされ、FTDRH レジスタの更新はチェックされません。

図 30.14 に、調歩同期式モードにおける FIFO 選択時のシリアル送信のフローチャート例を示します。



[1] SCIの初期化：
データ送信に設定します。SCR.TE ビットを1にした後、1フレーム分の1（プリアンブル）を出力して送信可能状態になります。

[2] SCIn_ TXI割り込み要求で送信データをFTDRL（注1）に書き込み：
FTDRLからTSRへのデータ送信において、FTDRLに書き込んだ送信データ量が指定の送信トリガ数以下の場合、送信データエンプティ割り込み（SCIn_TXI）要求が発生します。SCIn_TXI割り込み処理ルーチンでFTDRL（注1）（注2）に送信データを1回だけ書き込みしてください。

[3] シリアル送信の継続手順：
シリアル送信を続けるときには、SCIn_TXI割り込み要求でFTDRLに全送信データを書き込みし、SSR_FIFO.TDFEフラグを0にクリアしてください。書き込み可能な送信データ数は、(16 - (送信FIFOに保存したデータ数)) です。また、送信データは、DMACまたはDTCを起動して書き込みすることも可能です。DMACまたはDTCでFTDRLにデータを書き込むと、TDFE フラグは自動的にクリアされるため、TDFE フラグへ書き込みはしないでください。SCIn_TEI割り込み要求を使用する場合、最終送信データをFTDRLに書き込みした後、SCR.TIE ビットを0に、SCR.TEIE ビットを1にします。

[4] シリアル送信の終了時にブレークを出力：
シリアル送信時にブレークを出力するときには、SPTR.SPB2IO、SPTR.SPB2DT ビットでTXDn端子を出力状態（Low レベル出力）に設定した後、SCR.TE ビットを0にします。

注 1.　データ長が 9 ビットの場合は、FTDRH/FTDRL レジスタが使用されます。
注 2.　データ長が 9 ビットの場合は、FTDRH、FTDRL の順番で書き込みしてください。

図 30.14　調歩同期式モードにおけるシリアル送信のフローチャート例（FIFO 選択時）

30.3.9　シリアルデータの受信（調歩同期式モード）

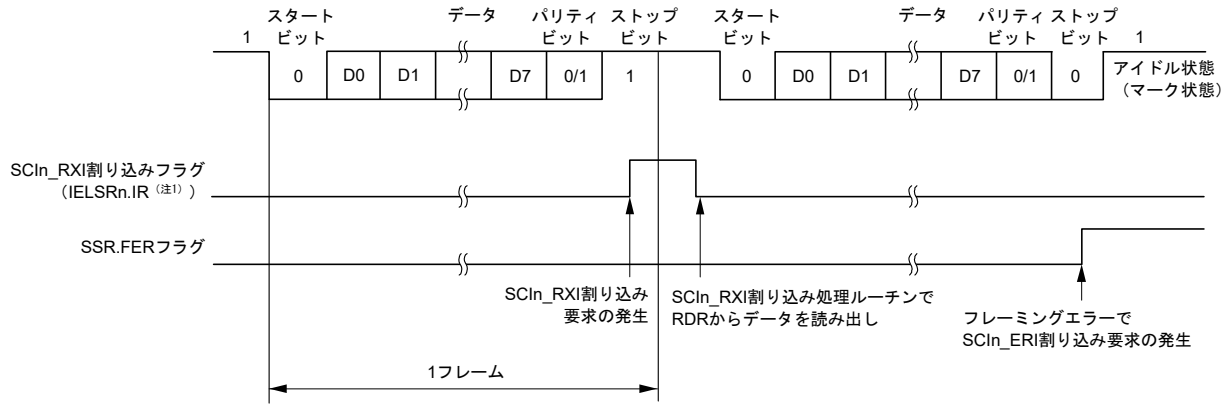
(1)　非 FIFO 選択時

図 30.15 と図 30.16 に、調歩同期式モードにおけるシリアル受信の動作例を示します。

シリアルデータの受信時、SCI は以下のように動作します。

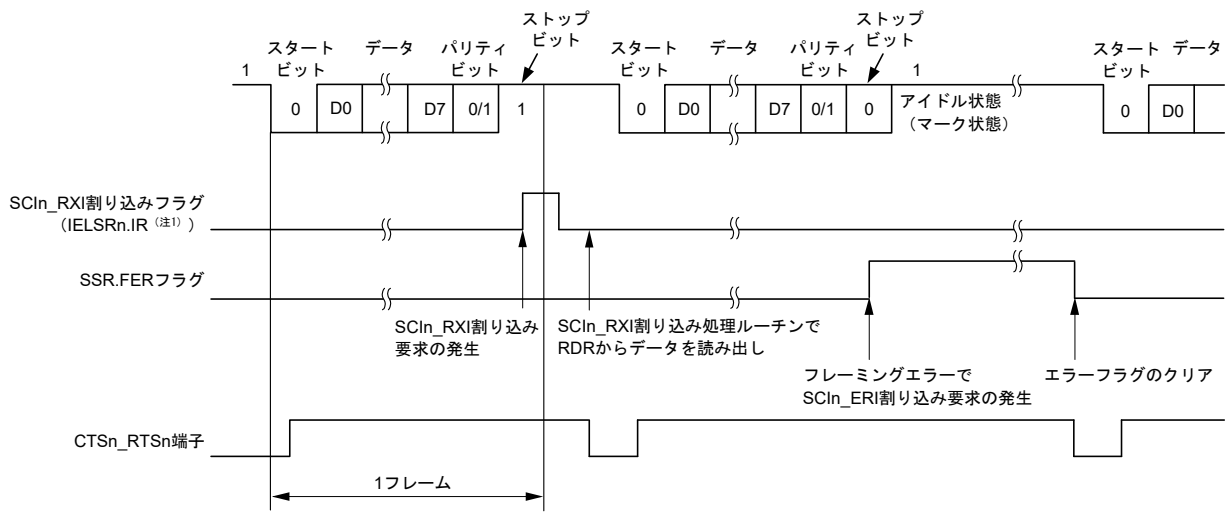
1. SCR.RE ビットが 1 になると、CTSn_RTSn 端子出力が Low になります。
2. SCI が通信回線を監視し、スタートビットを検出すると、内部を同期化して受信データを RSR レジスタに取り込み、パリティビットとストップビットをチェックします。
3. オーバーランエラーが発生した場合、SSR.ORER フラグが 1 になります。SCR.RIE ビットが 1 であれば、SCIn_ERI 割り込み要求が発生します。受信データは RDR レジスタ（注 1）へ転送されません。
4. パリティエラーが検出された場合は、SSR.PER フラグが 1 になり、受信データが RDR レジスタ（注 1）へ転送されます。SCR.RIE ビットが 1 であれば、SCIn_ERI 割り込み要求が発生します。
5. フレームエラーが検出された場合は、SSR.FER フラグが 1 になり、受信データが RDR レジスタ（注 1）へ転送されます。SCR.RIE ビットが 1 であれば、SCIn_ERI 割り込み要求が発生します。
6. 正常に受信したときは、受信データが RDR レジスタ（注 1）へ転送されます。SCR.RIE ビットが 1 であれば、SCIn_RXI 割り込み要求が発生します。この SCIn_RXI 割り込み処理ルーチンにおいて、次のデータ受信が終了する前に、RDR レジスタへ転送された受信データを読み出すことで連続受信が可能になります。RDR レジスタへ転送された受信データが読み出されると、CTSn_RTSn 端子出力が Low になります。

注 1.　データ長 9 ビット選択時は、RDRHL レジスタになります。



注 1.　対応する割り込みイベント番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

図 30.15　調歩同期式モードにおけるシリアル受信の動作例（1）（RTS 機能を使用しない場合）（8 ビットデータ／パリティあり／1 ストップビットの場合）



注 1.　対応する割り込みイベント番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

図 30.16　調歩同期式モードにおけるシリアル受信の動作例（2）（RTS 機能を使用する場合）（8 ビットデータ／パリティあり／1 ストップビットの場合）

受信エラーを検出した場合の SSR レジスタの各ステータスフラグの状態と受信データの処理を表 30.24 に示します。

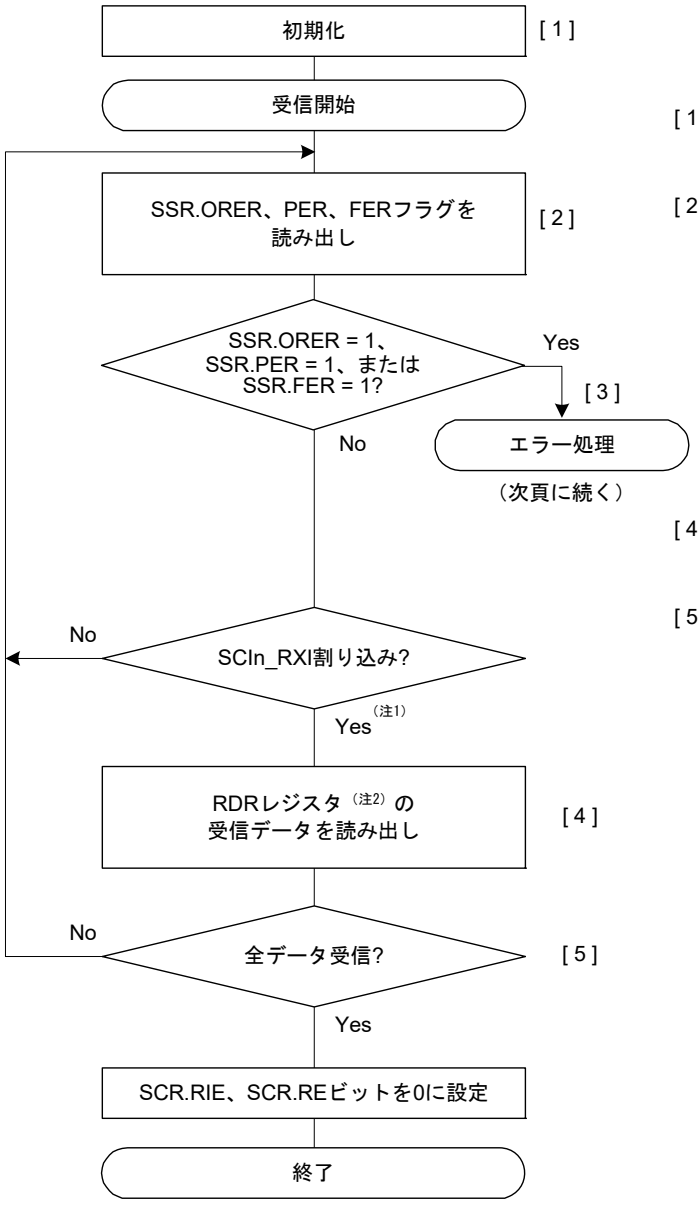
受信エラーが検出されると、SCIn_ERI 割り込み要求は発生しますが、SCIn_RXI 割り込み要求は発生しません。受信エラーフラグが 1 の状態では、受信動作を再開できません。受信を再開する前に、ORER、FER、および PER の各フラグを 0 にする必要もあります。また、オーバーランエラー処理では、必ず RDR または RDRHL レジスタを読み出してください。受信動作中に SCR.RE ビットを 0 にして受信動作を強制終了させた場合、RDR または RDRHL レジスタに読み出し前の受信データが残っている可能性があるため、RDR または RDRHL レジスタを読み出す必要があります。

図 30.17 と図 30.18 に、シリアル受信のフローチャート例を示します。

表 30.24　SSR レジスタのステータスフラグの状態と受信データの処理

SSR レジスタのステータスフラグ			受信データ	受信エラーの種類
ORER	FER	PER		
1	0	0	消失	オーバーランエラー
0	1	0	RDR へ転送	フレーミングエラー
0	0	1	RDR へ転送	パリティエラー
1	1	0	消失	オーバーランエラー＋フレーミングエラー
1	0	1	消失	オーバーランエラー＋パリティエラー
0	1	1	RDR へ転送	フレーミングエラー＋パリティエラー
1	1	1	消失	オーバーランエラー＋フレーミングエラー＋パリティエラー

注 1.　データ長 9 ビット選択時は、RDRHL レジスタになります。



[1] SCIの初期化：
データ受信に設定します。

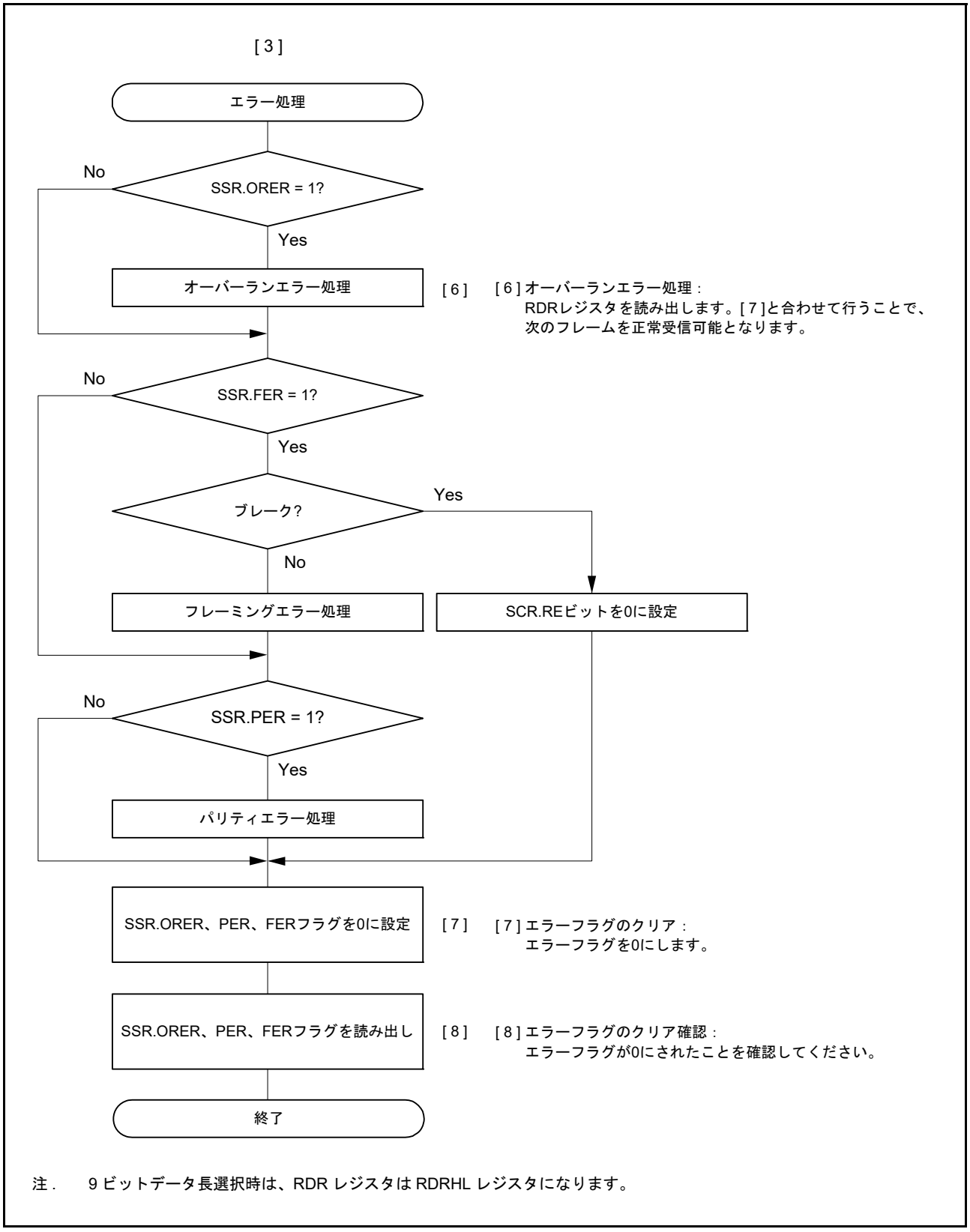
[2] [3] 受信エラー処理とブレーク検出：
受信エラーが発生したときには、SCIn_ERI割り込みが発生します。SSR.ORER、PER、FERフラグを読み出すことでエラーの種類を判定します。所定のエラー処理を行った後、ORER、PER、FERフラグをすべて0にしてください。これらいずれかのフラグが1に設定された状態では受信を再開できません。フレーミングエラーの場合は、RXDn端子に対応する入力ポートの値を読み出すことによってブレークの検出ができます。

[4] SCIn_ RXI割り込みルーチンで、RDRレジスタの受信データを1回読み出します。

[5] シリアル受信の継続手順：
シリアル受信を続けるときには、現フレームのストップビットを受信する前に、SCIn_RXI割り込みルーチンでRDRレジスタの値を読み出します。RDRレジスタはDMACまたはDTCを起動して値を読み出すことも可能です。

注 1.　RDR（レジスタ）の読み出しは必ず RE（ビット）を 0 にしてから行ってください。
注 2.　9 ビットデータ長選択時は、RDR レジスタは RDRHL レジスタになります。

図 30.17　調歩同期式モードにおけるシリアル受信のフローチャート例（非 FIFO 選択時）（1）



注 .　9 ビットデータ長選択時は、RDR レジスタは RDRHL レジスタになります。

図 30.18　調歩同期式モードにおけるシリアル受信のフローチャート例（非 FIFO 選択時）（2）

(2)　FIFO 選択時

図 30.19 に、調歩同期式モードにおいて FRDRH レジスタと FRDRL レジスタに書き込まれるデータフォーマットの例を示します。

調歩同期式モードでは、FRDRH レジスタの MPB フラグに 0 が書き込まれます。データ長に対応したデータが FRDRH レジスタと FRDRL レジスタに書き込まれます。使用されないビットには、0 が書き込まれます。FRDRH から FRDRL の順に読み出してください。ソフトウェアが FRDRL レジスタを読み出すと、SCI は FER、PER、および FRDRL レジスタの受信データ（RDAT[8:0]）を次のデータで更新します。FRDRH レジスタの RDF、ORER、および DR フラグは、常に SSR_FIFO レジスタの対応するフラグを反映しています。

データ長	レジスタ設定		FRDRH、FRDRLの受信データ															
			FRDRHL															
			FRDRH								FRDRL							
	SCMR.CHR1	SMR.CHR	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
7ビット	1	0	—	RDF	ORER	FER	PER	DR	0	0	0	7ビット受信データ						
8ビット	1	1	—	RDF	ORER	FER	PER	DR	0	0	8ビット受信データ							
9ビット	0	Don't care	—	RDF	ORER	FER	PER	DR	0	9ビット受信データ								

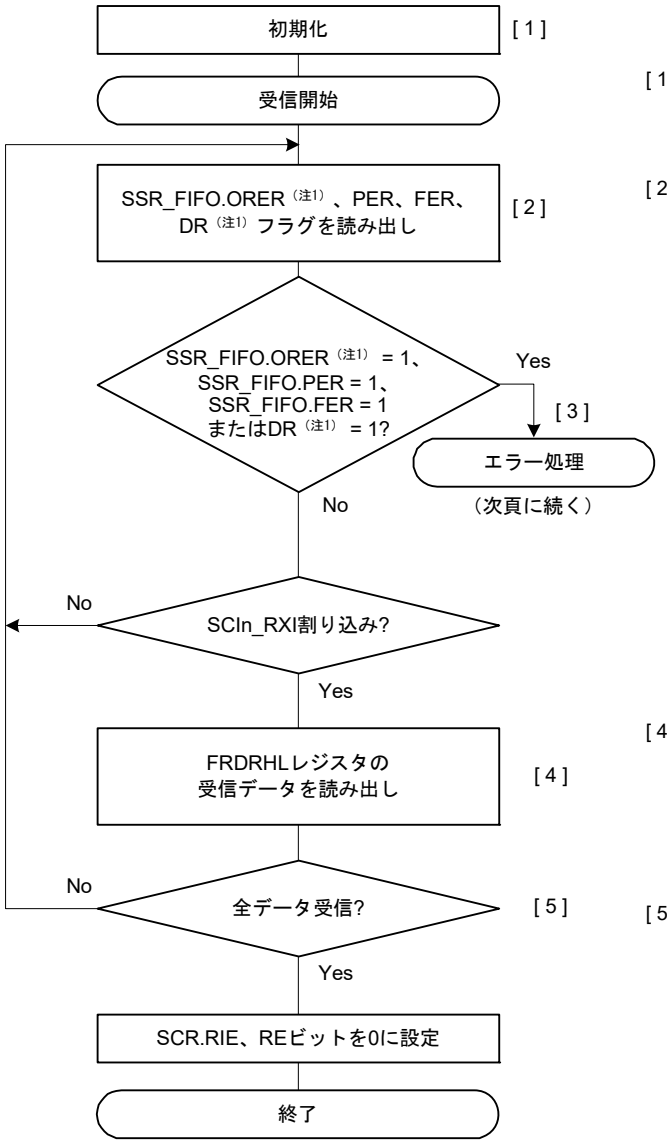
注 .　MPB フラグからは常に 0 が読み出されます (FRDRH[1])。
データ長が 7 ビットのとき、FRDRH[0], FRDRL[7] からは常に 0 が読み出されます。
データ長が 8 ビットのとき、FRDRH[0] から常に 0 が読み出されます。
FRDRH[7] ビットの読み出し値は不定です。

図 30.19　FRDRH と FRDRL に格納されるデータフォーマット（FIFO 選択時）

シリアルデータの受信時、SCI は以下のように動作します。

1. SCR.RE ビットが 1 になると、CTSn_RTSn 端子出力が Low になります。
2. SCI が通信回線を監視し、スタートビットを検出すると、内部を同期化して受信データを RSR レジスタに取り込み、パリティビットとストップビットをチェックします。
3. FRDRL レジスタがいっぱいであると、オーバーランエラーが発生します。オーバーランエラーが発生した場合、SSR_FIFO.ORER フラグが 1 になります。このとき、SCR.RIE ビットが 1 になっていると、SCIn_ERI 割り込み要求が発生します。受信データは FRDRL レジスタ（注 1）へ転送されません。
4. パリティエラーが検出された場合は、PER フラグと受信データが FRDRL レジスタ（注 1）へ転送されます。このとき、RIE ビットが 1 になっていると、SCIn_ERI 割り込み要求が発生します。
5. フレームエラーが検出された場合は、FER フラグと受信データが FRDRL レジスタ（注 1）へ転送されます。このとき、RIE ビットが 1 になっていると、SCIn_ERI 割り込み要求が発生します。
6. フレームエラーが検出された後、SCI によって連続受信データが 1 フレーム分であることが検出された場合、受信動作が停止します。
7. FRDRL レジスタに格納されたデータ数が、指定された受信トリガ数より少なく、かつ、調歩同期式モードにおいて最後のストップビットから 15ETU 経過しても次のデータが受信されていない場合は、SSR_FIFO.DR ビットが 1 になります。RIE ビットが 1 で、FCR.DRES ビットが 0 の場合、SCI は SCIn_RXI 割り込み要求を発生させます。FCR.DRES ビットが 1 の場合、SCI は SCIn_ERI 割り込み要求を発生させます。
8. 正常に受信したときは、受信データが FRDRL レジスタ（注 1）へ転送されます。FRDRHL に書き込まれた受信データ数が、指定された受信トリガ数以上であると、RDF ビットが 1 になります。このとき、SCR.RIE ビットが 1 になっていると、SCIn_RXI 割り込み要求が発生します。この SCIn_RXI 割り込み処理ルーチンにおいて、オーバーランエラーが発生する前に、FRDRL レジスタ（注 2）へ転送された受信データを読み出すことで連続受信が可能になります。FRDRL レジスタ（注 3）へ転送された受信データ数が RTS トリガ数未満であると、CTSn_RTSn 端子出力が Low になります。

注 1.　データ長 9 ビット選択時は、FRDRH レジスタと FRDRL レジスタのデータだけを読み出してください。
注 2.　データ長 9 ビット選択時は、FRDRH レジスタ→ FRDRL レジスタの順にデータを読み出してください。
注 3.　データ長 9 ビット選択時は、SCI によって FRDRL レジスタの更新のみがチェックされ、FRDRH レジスタの更新はチェックされません。



[1] SCIの初期化：
データ受信に設定します。

[2][3] 受信エラー処理とブレークの検出：
受信エラーが発生したときには、SCIn_ERI割り込みが発生します。SPTR.RXDMONを読み出しすることにより、ブレークを検出できます。
SSR_FIFO.ORER(注1)、PER、DR(注1)、FERの各フラグを読み出しすることによりエラーを判定します。所定のエラー処理を行った後、ORER(注1) フラグを0にしてください。
ORER(注1) フラグが1にされた状態では受信を再開できません。FER = 1、PER = 1、またはDR(注1) = 1であっても受信動作は継続されます。

[4] RXI割り込み処理ルーチンでFRDRHLの受信データを読み出し：
FRDRHLレジスタに保存した受信データは、保存したデータ数が少なくともFCR.RTRG[3:0]値未満になるまで読み出されます。FDR.R[4:0]ビットで、FIFOの受信データビット数を確認します。

[5] シリアル受信の継続手順：
シリアル受信を続けるときには、オーバーランエラーが発生する前に、SCIn_RXI割り込み処理ルーチンでFRDRHLからデータを読み出し、RDFフラグとDRフラグを0にクリアします。DMACまたはDTCを起動し、FRDRHLのデータを読み出しすることも可能です。この場合、RDFフラグは自動的にクリアされますので、RDFフラグへ書き込みはしないでください。

注 1.　FRDRHL.ORER フラグおよび DR フラグで読み出すこともできます。

図 30.20　調歩同期式モードにおけるシリアル受信のフローチャート例（FIFO 選択時）（1）

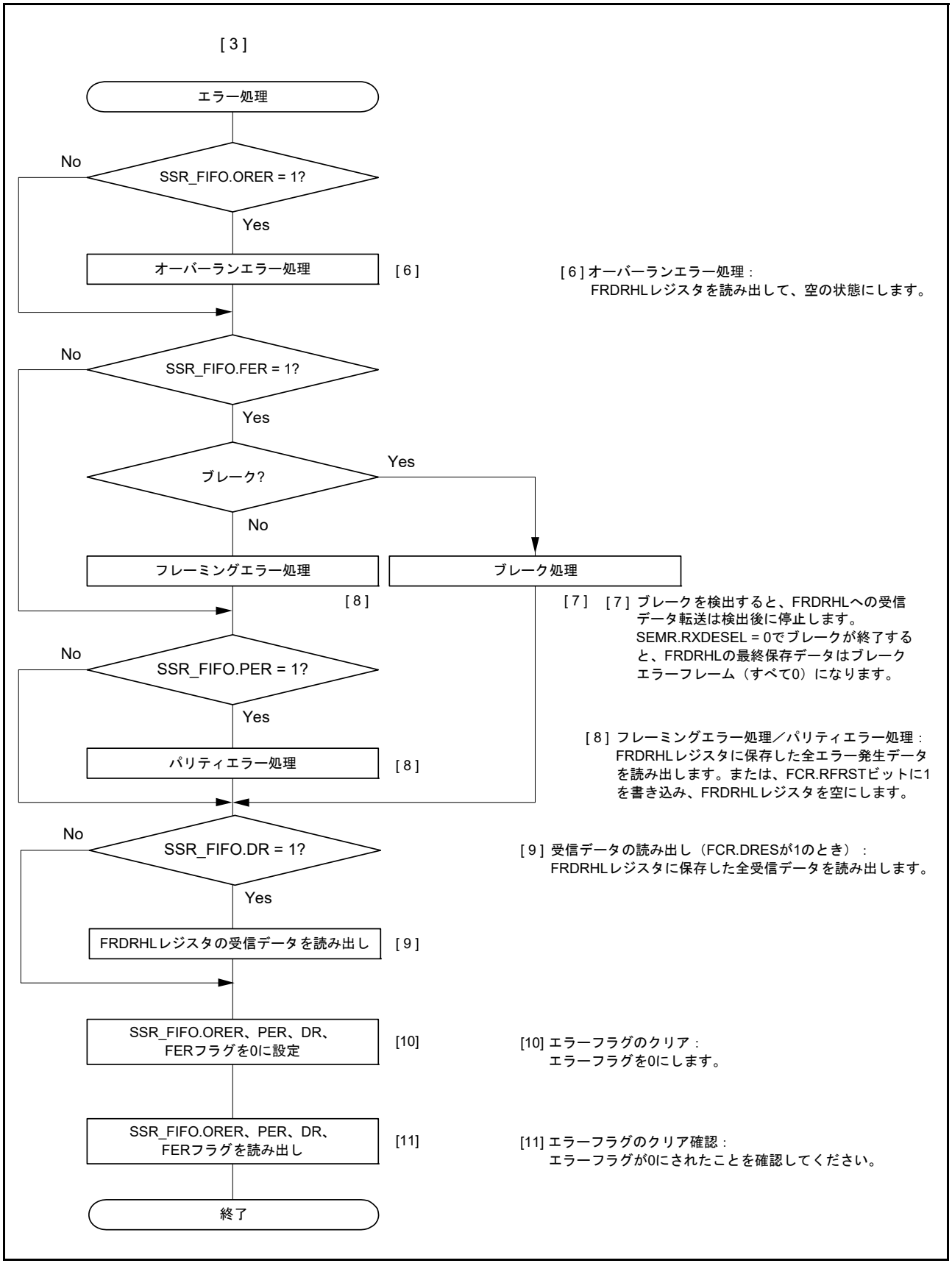


図 30.21　調歩同期式モードにおけるシリアル受信のフローチャート例（FIFO 選択時）（2）

30.4　マルチプロセッサ通信機能

マルチプロセッサ通信機能を使用すると、マルチプロセッサビットを付加した調歩同期式シリアル通信により、複数のプロセッサ間で通信回線を共有したデータの送受信が可能になります。マルチプロセッサ通信では、各受信局にそれぞれ固有の ID コードが割り付けられます。シリアル通信サイクルは、受信局を指定する ID 送信サイクルと、指定された受信局にデータを送信するためのデータ送信サイクルで構成されます。

ID 送信サイクルとデータ送信サイクルの区別はマルチプロセッサビットで行います。

- マルチプロセッサビットが 1 のとき、送信サイクルは ID 送信サイクル
- マルチプロセッサビットが 0 のとき、送信サイクルはデータ送信サイクル

図 30.22 に、マルチプロセッサフォーマットを使用したプロセッサ間通信の例を示します。送信局は、まず受信局の ID コードにマルチプロセッサビット 1 を付加した通信データを送信します。続いて、送信データにマルチプロセッサビット 0 を付加した通信データを送信します。受信局は、マルチプロセッサビットが 1 の通信データを受信すると、受信した ID を自局の ID と比較します。2 つが一致した場合、受信局は、続いて送信される通信データを受信します。一致しなかった場合、マルチプロセッサビットが 1 の通信データを受信するまで、受信局は通信データを読み飛ばします。

(1)　非 FIFO 選択時

SCI はこの機能をサポートするため、SCR.MPIE ビットを設けています。MPIE ビットを 1 にすると、マルチプロセッサビットが 1 のデータを受信するまで、下記の動作が禁止されます。

- RSR レジスタから RDR レジスタ（データ長 9 ビット選択時は RDRHL レジスタ）への受信データの転送
- 受信エラーの検出
- SSR レジスタの RDRF、ORER、FER の各ステータスフラグのセット

マルチプロセッサビットが 1 のキャラクタを受信すると、SSR.MPBT ビットが 1 になるとともに、SCR.MPIE ビットが自動的にクリアされ、SCI は非マルチプロセッサ受信動作に戻ります。このとき、SCR.RIE ビットがセットされていると、SCIn_RXI 割り込みが発生します。

マルチプロセッサフォーマットを指定した場合は、パリティビット機能は無効です。それ以外は、非マルチプロセッサ調歩同期式モードでの動作と変わりません。マルチプロセッサ通信を行うときのクロックも、非マルチプロセッサ調歩同期式モードで使用するクロックと同一です。

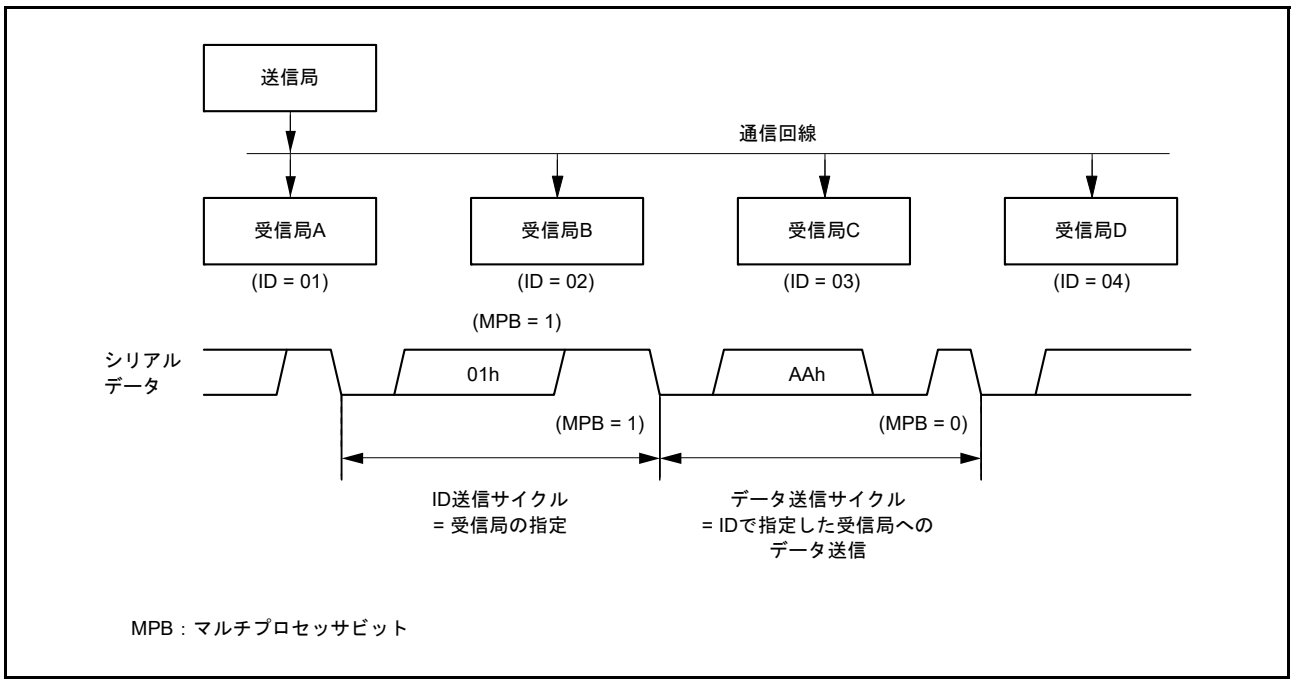


図 30.22　マルチプロセッサフォーマットを使用した通信例（データ AAh を受信局 A に送信する場合）

(2) FIFO 選択時

データ送信では、ソフトウェアにおいて、FTDRHL.TDAT 内の送信データに対応する FTDRHL.MPBT ビットにデータを書き込む必要があります。データ受信では、受信データの一部であるマルチプロセッサビットが FRDRHL.MPB ビットに書き込まれ、受信データは FRDRL レジスタに書き込まれます。

MPIE ビットを 1 にすると、マルチプロセッサビットが 1 のデータを受信するまで、下記の動作が禁止されます。

- RSR レジスタから FRDRHL レジスタへの受信データの転送
- 受信エラーの検出
- ブレーク
- SSR_FIFO レジスタの RDF、ORER、FER の各ステータスフラグのセット

マルチプロセッサビットが 1 の 8 ビットキャラクタを受信すると、FRDRHL.MPB ビットが 1 になるとともに、受信データが FRDRHL.RDAT ビットに書き込まれます。SCR.MPIE ビットが自動的にクリアされるので、SCI は非マルチプロセッサ受信動作に戻ります。このとき、SCR.RIE ビットがセットされていると、SCIn_RXI 割り込みが発生します。

マルチプロセッサフォーマットを指定した場合は、パリティビット機能は無効です。それ以外は、非マルチプロセッサ調歩同期式モードでの非 FIFO 選択時の動作と変わりません。

30.4.1　マルチプロセッサシリアルデータ送信

(1)　非 FIFO 選択時

図 30.23 に、マルチプロセッサデータ送信のフローチャート例を示します。ID 送信サイクルでは、SSR.MPBT ビットを 1 にして ID を送信してください。データ送信サイクルでは、MPBT ビットを 0 にしてデータを送信してください。その他の動作は、調歩同期式モードの動作と同じです。

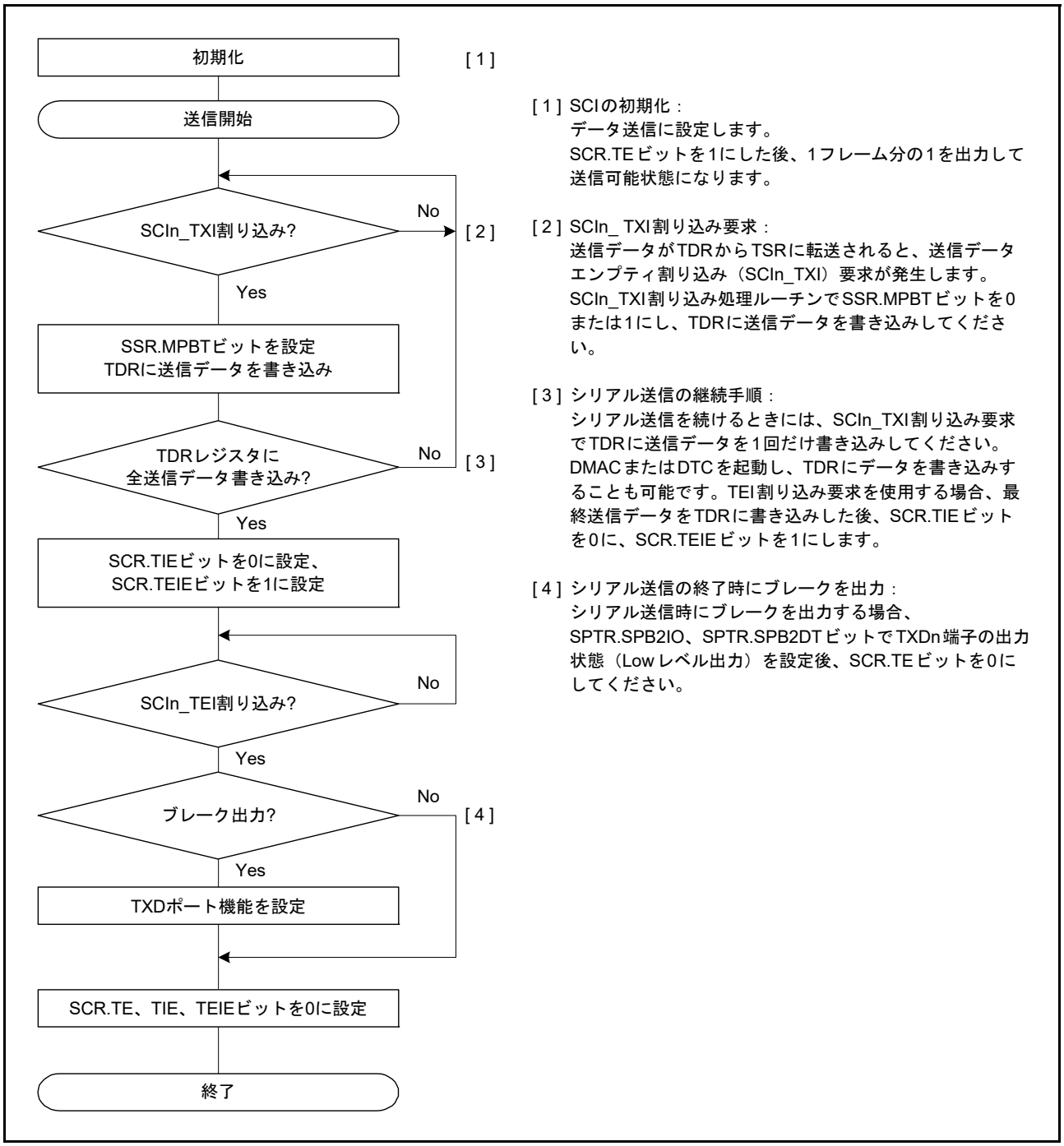


図 30.23　マルチプロセッサシリアル送信のフローチャート例（非 FIFO 選択時）

(2)　FIFO 選択時

図 30.24 に、マルチプロセッサモードにおいて FTDRH レジスタと FTDRL レジスタに書き込まれるデータフォーマットの例を示します。

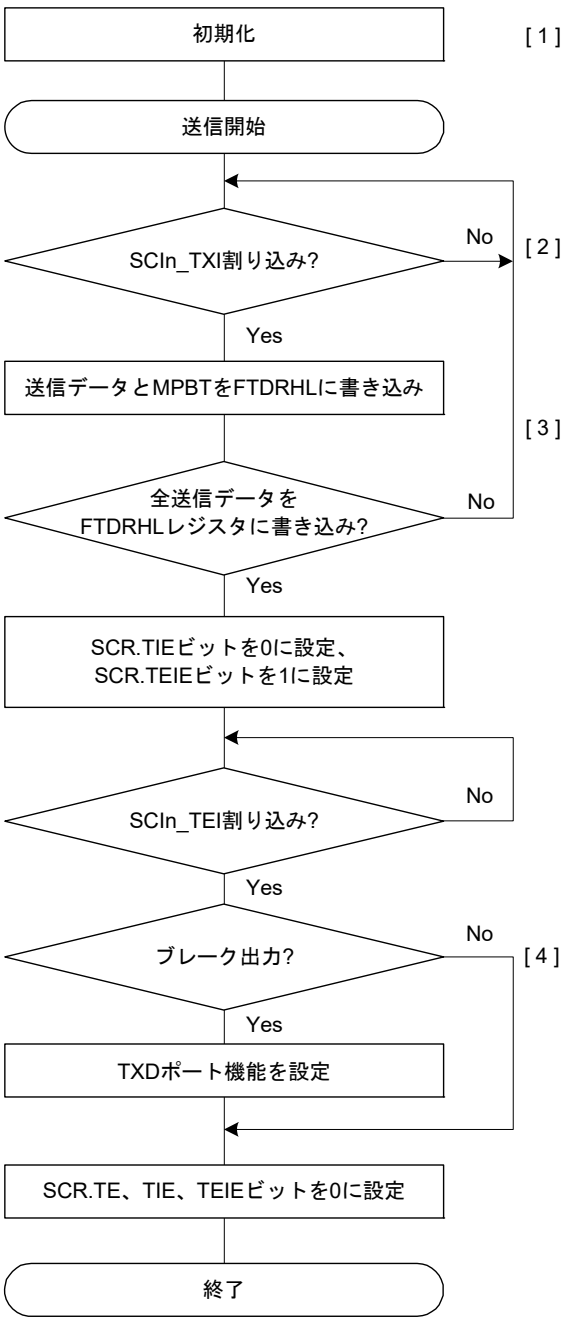
FTDRH.MPBT ビットは 1 になります。適切なデータ長のデータが FTDRH レジスタと FTDRL レジスタに書き込まれます。使用しないビットには 0 を書いてください。FTDRH レジスタ→ FTDRL レジスタの順に書いてください。

データ長	レジスタ設定		FTDRH、FTDRLの送信データ															
			FTDRHL															
			FTDRH								FTDRL							
	SCMR.CHR1	SMR.CHR	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
7ビット	1	0	—	—	—	—	—	—	MPBT	—	—	7ビット送信データ						
8ビット	1	1	—	—	—	—	—	—	MPBT	—	8ビット送信データ							
9ビット	0	Don't care	—	—	—	—	—	—	MPBT	9ビット送信データ								

—：無効ビット。書く場合、0 としてください。

図 30.24　マルチプロセッサモードにおいて FTDRH と FTDRL に書き込まれるデータフォーマット（FIFO 選択時）

図 30.25 に、FIFO 選択時のマルチプロセッサデータ送信のフローチャート例を示します。ID 送信サイクルでは、FTDRH.MPBT ビットを 1 にして ID を送信してください。データ送信サイクルでは、MPBT ビットを 0 にしてデータを送信してください。その他の動作は、調歩同期式モードにおける非 FIFO 選択時の動作と同じです。



[1] SCIの初期化：
データ送信に設定します。
SCR.TEビットを1にした後、1フレーム分の1を出力して送信可能状態になります。

[2] SCIn_TXI割り込み要求によるFTDRHLへの送信データを書き込み：
FTDRHLからTSRへのデータ送信において、FTDRHLに書き込んだ送信データ量が指定の送信トリガ数以下の場合、送信データエンプティ割り込み（SCIn_TXI）要求が発生します。

[3] シリアル送信の継続手順：
シリアル送信を続けるときには、SCIn_TXI割り込み要求でFTDRHLに送信データとMPBTを1回だけ書き込みしてください。
DMACまたはDTCを起動し、FTDRHLにデータを書き込みすることも可能です。SCIn_TEI割り込み要求を使用する場合、最終送信データをFTDRHLに書き込みした後、SCR.TIEビットを0に、SCR.TEIEビットを1にします。

[4] シリアル送信の終了時にブレークを出力：
シリアル送信時にブレークを出力する場合、SPTR.SPB2IO、SPTR.SPB2DTビットでTXDn端子の出力状態（Lowレベル出力）を設定後、SCR.TEビットを0にしてください。

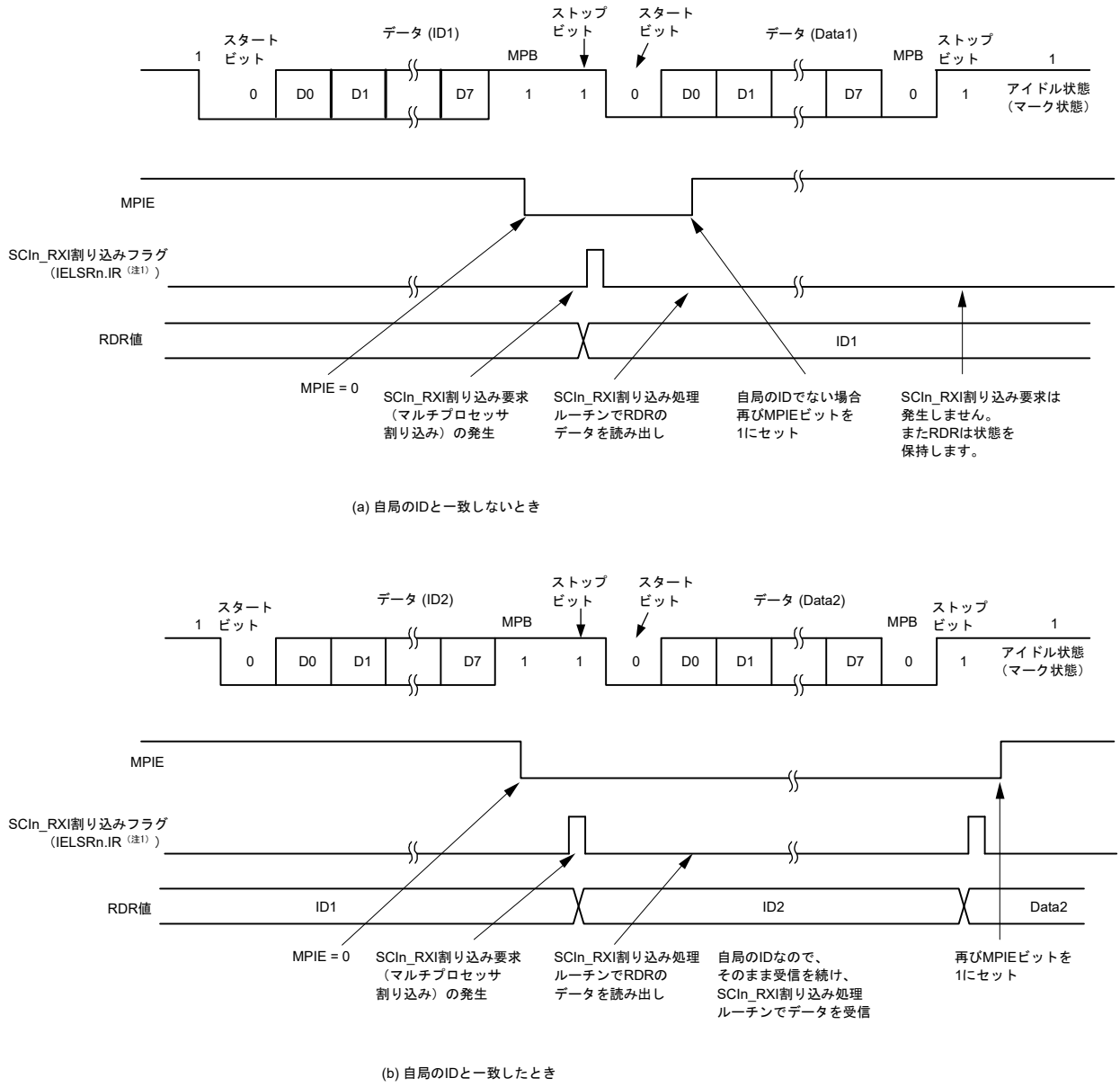
図 30.25　マルチプロセッサモードにおけるシリアル送信のフローチャート例（FIFO 選択時）

30.4.2　マルチプロセッサシリアルデータ受信

(1)　非 FIFO 選択時

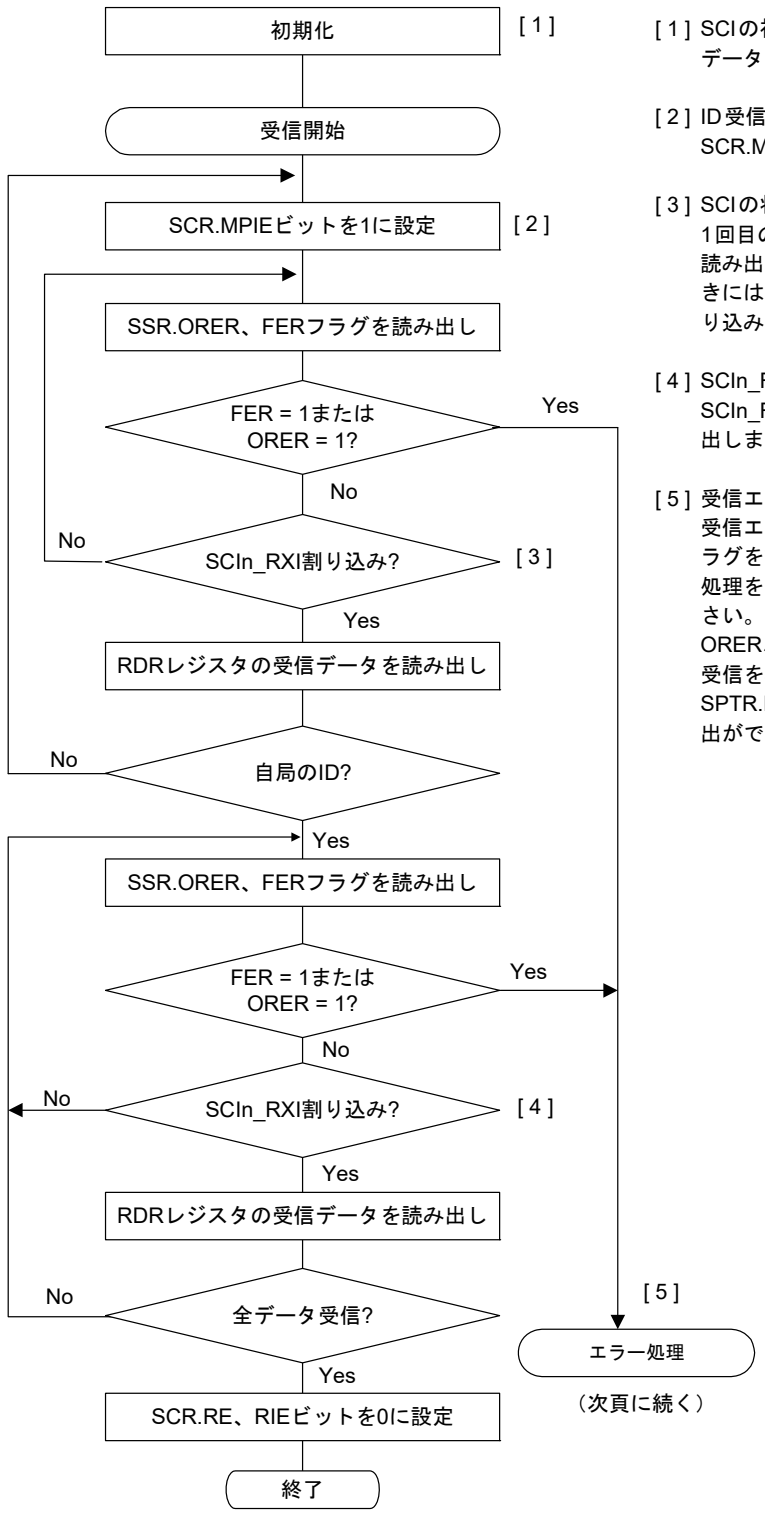
図 30.27 と図 30.28 に、マルチプロセッサデータ受信のフローチャート例を示します。SCR.MPIE ビットを 1 にすると、マルチプロセッサビットが 1 の通信データを受信するまで、通信データは読み飛ばされます。マルチプロセッサビットが 1 の通信データを受信すると、その受信データは RDR レジスタ（データ長 9 ビット選択時は RDRHL レジスタ）へ転送され、SCIn_RXI 割り込み要求が発生します。その他の動作は、調歩同期式モードの動作と同じです。

図 30.26 に、データ受信時の動作例を示します。



注 1.　対応する割り込みイベント番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

図 30.26　SCI の受信時の動作例（8 ビットデータ／マルチプロセッサビットあり／1 ストップビットの場合）



[1] SCIの初期化：
データ受信に設定します。

[2] ID受信サイクル：
SCR.MPIEビットを1にし、ID受信を待ちます。

[3] SCIの状態を確認して、IDの受信と比較：
1回目のSCIn_RXI割り込みで、RDR（注1）のデータを読み出し、自局のIDと比較します。自局のIDでないときには、再びMPIEビットを1にして別のSCIn_RXI割り込み要求を待ちます。

[4] SCIn_RXI割り込みでデータの受信：
SCIn_RXI割り込みルーチンで、RDRのデータを読み出します。

[5] 受信エラー処理とブレークの検出：
受信エラーが発生したときには、SSR.ORER、FERフラグを読み出してエラーを判定します。所定のエラー処理を行った後、ORER、FERフラグを0にしてください。
ORER、FERフラグのいずれかが1にされた状態では受信を再開できません。フレーミングエラーの場合、SPTR.RXDMONビットを読み出すことでブレークの検出ができます。

注 1.　9 ビットデータ長選択時は、RDR レジスタは RDRHL レジスタになります。

図 30.27　マルチプロセッサシリアル受信のフローチャート例（非 FIFO 選択時）（1）

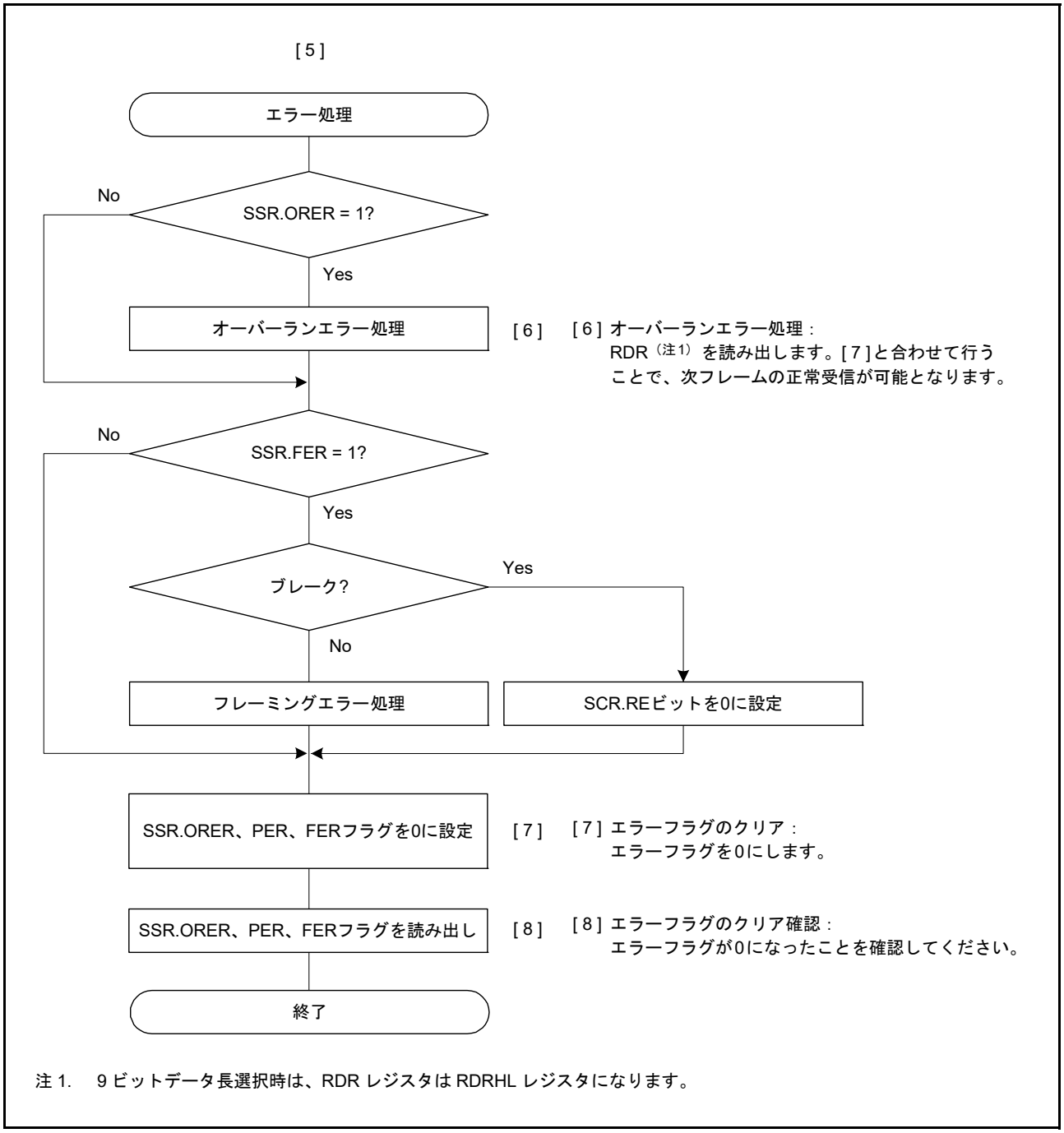


図 30.28　マルチプロセッサシリアル受信のフローチャート例（非 FIFO 選択時）（2）

(2)　FIFO 選択時

図 30.29 に、マルチプロセッサモードにおいて FRDRH レジスタと FRDRL レジスタに書き込まれるデータフォーマットの例を示します。

マルチプロセッサモードでは、受信データの一部である MPB の値が FRDRH.MPB フラグに書き込まれます。FRDRH.PER フラグに 0 が書き込まれます。適切なデータ長のデータが FRDRH レジスタと FRDRL レジスタに書き込まれます。使用されないビットには、0 が書き込まれます。

FRDRH から FRDRL の順に読み出してください。ソフトウェアが FRDRL レジスタを読み出すと、SCI は FER、MPB、および FRDRL レジスタの受信データ（RDAT[8:0]）を次のデータで更新します。FRDRH レジスタの RDF、ORER、および DR フラグは、常に SSR_FIFO レジスタの対応するフラグを反映しています。

データ長	レジスタ設定		FRDRH、FRDRLの受信データ															
			FRDRHL															
			FRDRH								FRDRL							
	SCMR.CHR1	SMR.CHR	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
7ビット	1	0	—	RDF	ORER	FER	0	DR	MPB	0	0	7ビット受信データ						
8ビット	1	1	—	RDF	ORER	FER	0	DR	MPB	0	8ビット受信データ							
9ビット	0	Don't care	—	RDF	ORER	FER	0	DR	MPB	9ビット受信データ								

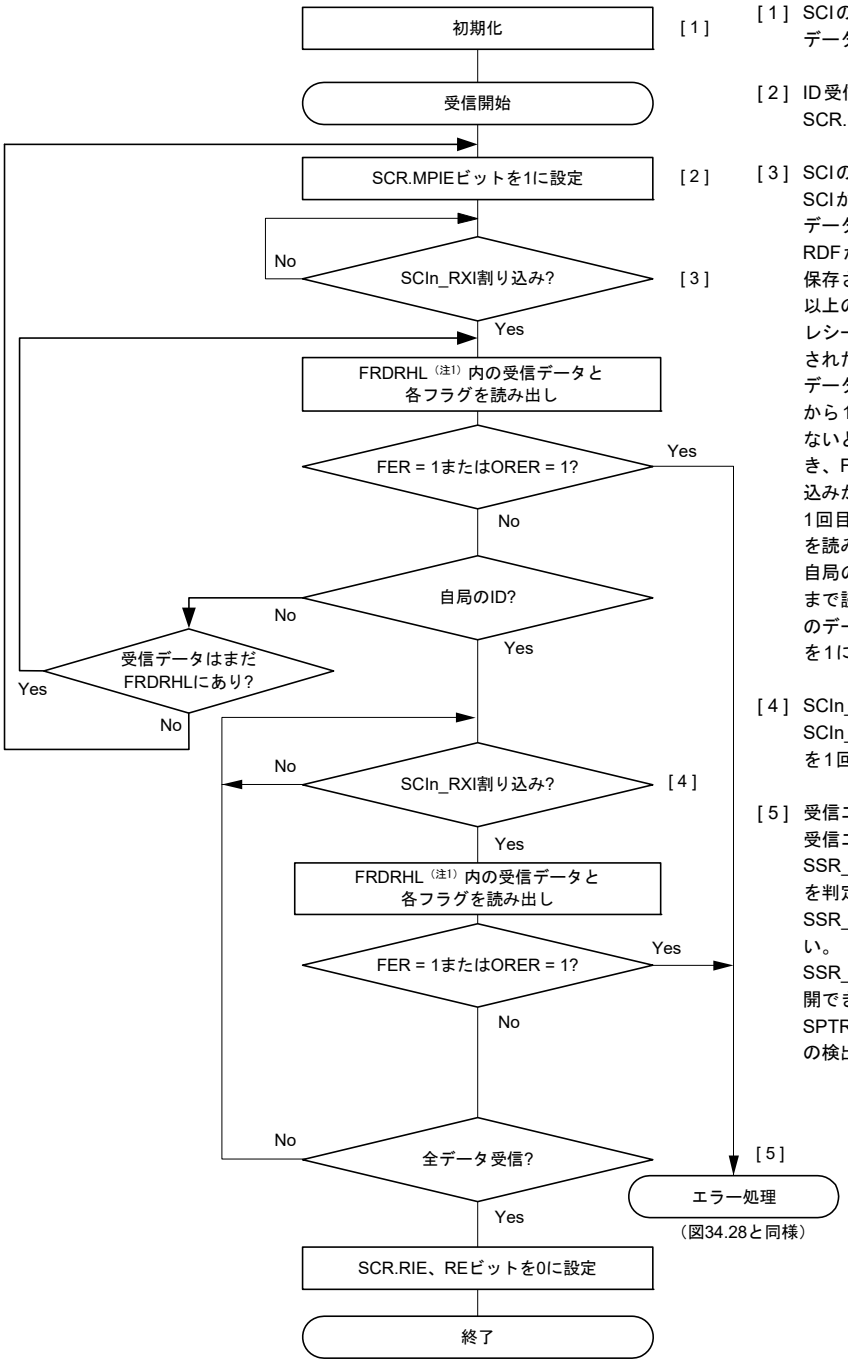
注 .　データ長が 7 ビットのとき、FRDRH[0], FRDRL[7] からは常に 0 が読み出されます。
データ長が 8 ビットのとき、FRDRH[0] から常に 0 が読み出されます。
FRDRH[7] ビットの読み出し値は不定です。

図 30.29　マルチプロセッサモードにおいて FRDRH と FRDRL に格納されるデータフォーマット（FIFO 選択時）

図 30.30 に、FIFO 選択時のマルチプロセッサデータ受信のフローチャート例を示します。

SCR.MPIE ビットを 1 にすると、マルチプロセッサビットが 1 の通信データを受信するまで、通信データは読み飛ばされます。マルチプロセッサビットが 1 の通信データを受信すると、その受信データ、MPB、および関連のエラーが FRDRHL レジスタへ転送されます。SCR.MPIE ビットは自動的にクリアされ、非マルチプロセッサ受信動作が継続します。

フレームエラーが発生して SSR_FIFO.FER フラグが 1 になると、SCI はデータ受信を継続します。その他の動作は、調歩同期式モードにおける非 FIFO 選択時の動作と同じです。



[1] SCIの初期化：
データ受信に設定します。

[2] ID受信サイクル：
SCR.MPIEビットを1にし、ID受信を待ちます。

[3] SCIの状態を確認して、IDの受信と比較：
SCIが最初のデータ（MPB = 1）を保存後、全受信データはFRDRHLに保存されます。
RDFが1にセットされます。このとき、FTDRHLに保存されている受信データ量が指定の受信トリガ数以上の場合、SCIn_RXI割り込み要求が発生します。
レシーブFIFOデータレジスタ（FRDRHL）に保存されたデータ量が指定の受信トリガ数未満で、受信データが1以上のとき、そして最終ストップビットから15 FTU経過しても新しいデータを受信していないとき、SSR_FIFO.DRが1になります。このとき、FCR.DRESビットが0のときはSCIn_RXI割り込みが発生します。
1回目のSCIn_RXI割り込みで、FRDRHLのデータを読み出し、自局のIDと比較します。
自局のIDでないときには、MPB = 1のデータになるまで読み出しし、次のIDと比較します。FRDRHLのデータがMPB =1でない場合、再びMPIEビットを1にしてSCIn_RXI割り込み要求を待ちます。

[4] SCIn_RXI割り込みでデータの受信：
SCIn_RXI割り込みルーチンで、FRDRHLのデータを1回読み出します。

[5] 受信エラー処理とブレークの検出：
受信エラーが発生したときには、SSR_FIFO.ORER、FERフラグを読み出してエラーを判定します。所定のエラー処理を行った後、SSR_FIFO.ORER、FERフラグを0にしてください。
SSR_FIFO.ORERが1にされた状態では、受信を再開できません。フレーミングエラー発生時、SPTR.RXDMONビットを読み出すことでブレークの検出ができます。

注 1.　FRDRHL の代わりに FRDRH、FRDRL を使用した場合、FRDRH → FRDRL の順に読み出してください。

図 30.30　マルチプロセッサモードにおけるシリアル受信のフローチャート例（FIFO 選択時）

30.5　クロック同期式モードの動作

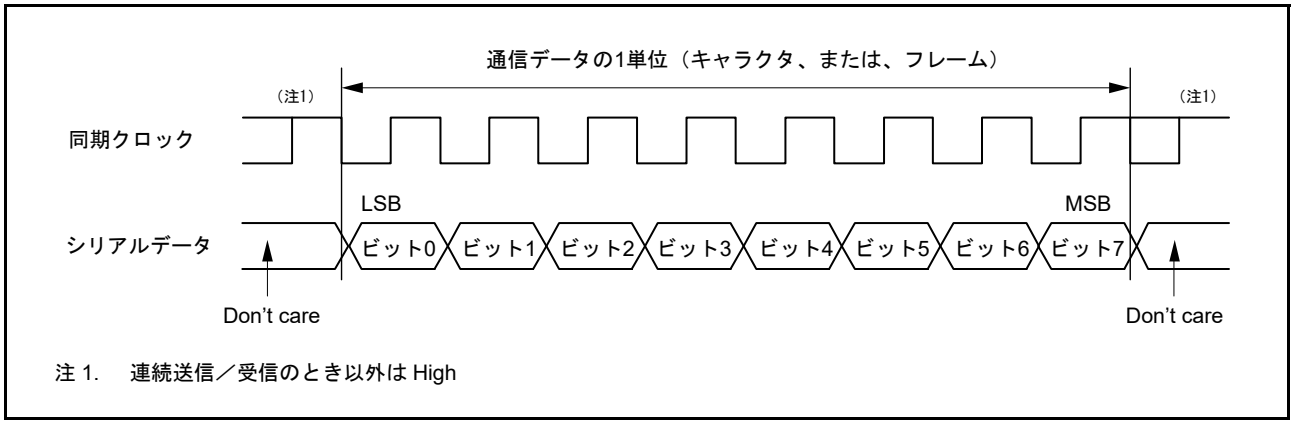
クロック同期式シリアル通信のデータフォーマットを図 30.31 に示します。

クロック同期式モードでは、クロックパルスに同期してデータを送受信します。通信データの 1 キャラクタは 8 ビットデータで構成されます。クロック同期式モードでは、パリティビットの付加はできません。

SCI は、データ送信時は同期クロックの立ち下がりから次の立ち下がりまで出力します。データ受信時は同期クロックの立ち上がりに同期してデータを取り込みます。8 ビット出力後の送信ラインは、最終ビットの出力状態を保ちます。スレーブモードにおいて SPMR.CKPH ビットが 1 の場合、送信ラインは第 1 ビットの出力状態を保ちます。

SCI 内部では送信部と受信部は独立しており、クロックを共有することで全二重通信が可能です。また、送信部と受信部はどちらもダブルバッファ構成になっているため、送信中に次の送信データの書き込み、受信中に前の受信データの読み出しが可能であり、連続送受信動作が実現されます。

ただし、最高速ビットレートの設定（BRR[7:0] = 00h かつ SMR.CKS[1:0] = 00b）では、連続送受信動作が不可能です。そのため FIFO 選択時は、この設定（BRR[7:0] = 00h かつ SMR.CKS[1:0] = 00b）は利用できません。



注 1.　連続送信／受信のとき以外は High

図 30.31　クロック同期式シリアル通信のデータフォーマット（LSB ファーストの場合）

30.5.1　クロック

SCR.CKE[1:0] ビットの設定により、内蔵ボーレートジェネレータが生成する内部クロック、または SCKn 端子に入力される外部同期クロックのいずれかを選択できます。

SCI が内部クロックで動作する場合は、SCKn 端子から同期クロックが出力されます。1 キャラクタの送受信で 8 パルスの同期クロックが出力されます。送受信を行わないとき、クロックは High に固定されます。ただし、受信動作のみで CTS 機能が無効な場合、SCR.RE ビットが 1 になると、同期クロックの出力が始まります。オーバーランエラーが発生するか、または SCR.RE ビットが 0 になると、同期クロックは High レベル（注 1）になったところで停止します。

受信動作のみで CTS 機能が有効な場合は、SCR.RE ビットが 1 になっても CTSn_RTSn 端子入力が High であれば、クロック出力は始まりません。SCR.RE ビットが 1 になったとき、CTSn_RTSn 端子入力が Low であれば、同期クロックの出力が始まります。その後、フレームの受信が完了した時点で CTSn_RTSn 端子入力が High であれば、同期クロック出力は High レベルになったところで停止します。CTSn_RTSn 端子入力が引き続き Low であれば、オーバーランエラーが発生するか、または SCR.RE ビットが 0 になったときに、同期クロックは High レベル（注 1）になったところで停止します。

注 1.　「SPMR.CKPH = 0、かつ SPMR.CKPOL = 0」または「SPMR.CKPH = 1、かつ SPMR.CKPOL = 1」の状態にあるとき、信号は High に固定されます。
「SPMR.CKPH = 0、かつ SPMR.CKPOL = 1」または「SPMR.CKPH = 1、かつ SPMR.CKPOL = 0」の状態にあるとき、信号は Low に固定されます。

30.5.2　CTS、RTS 機能

CTS 機能では、クロックソースが内部クロックの場合に、CTSn_RTSn 端子入力を使用してデータ送受信の開始制御を行います。SPMR.CTSE ビットを 1 にすると、CTS 機能が有効になります。CTS 機能が有効な場合、CTSn_RTSn 端子入力が Low になると、データの送受信が開始されます。

送受信中に CTSn_RTSn 端子入力を High にしても、処理中のフレームの送受信には影響を与えません。

RTS 機能では、クロックソースが外部同期クロックの場合に、CTSn_RTSn 端子出力を使用してデータ送受信の開始要求を行います。シリアル通信が可能な状態になると、CTSn_RTSn 端子出力が Low になります。CTSn_RTSn 端子出力が Low および High となる条件は以下のとおりです。

［Low になる条件］

(a)　非 FIFO 選択時に、下記条件がすべて満たされたとき

- SCR.RE ビットまたは SCR.TE ビットが 1
- シリアル通信が許可されている
- 読み出し前の受信データがない（SCR.RE ビットが 1 のとき）
- 送信データを書き込み済み（SCR.TE ビットが 1、SCR.CKE[1] ビットが 0 の場合）
- TSR レジスタに送信用データがある（SCR.TE ビットが 1、SCR.CKE[1] ビットが 1 の場合）
- SSR.ORER フラグが 0

(b)　FIFO 選択時に、下記条件がすべて満たされたとき

- SCR.RE ビットまたは SCR.TE ビットが 1
- シリアル通信が許可されている
- FRDRHL に書き込まれた受信データ数が指定された CTSn_RTSn 出力トリガ数より少ない（SCR.RE = 1 の場合）
- FTDRHL レジスタに未送信データがある（SCR.TE ビットが 1、SCR.CKE[1] ビットが 0 の場合）
- TSR レジスタに送信用データがある（SCR.TE ビットが 1、SCR.CKE[1] ビットが 1 の場合）
- SSR_FIFO.ORER フラグが 0

［High になる条件］

(a)　非 FIFO 選択時

- Low になる条件を満たさない場合
- 受信完了後に RDR レジスタを読み出すことなく、SCR.RE = 0 によって受信を終了させた場合、RTS は High を維持します。このとき、SCR.RE に 0 を書き込んだ後に SCR レジスタをダミーリードしてください。

(b)　FIFO 選択時

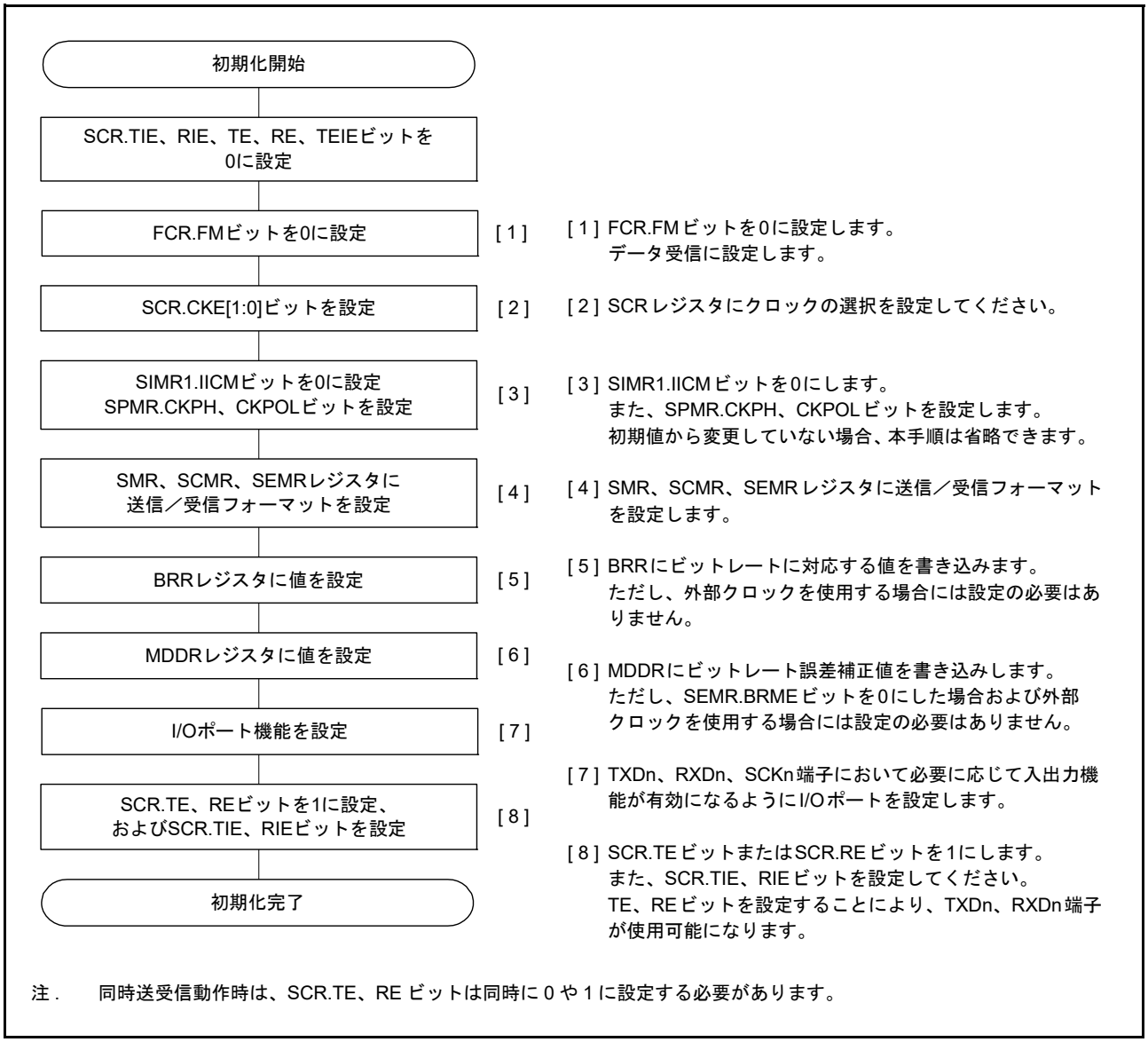
- Low になる条件を満たさない場合

30.5.3　SCI の初期化（クロック同期式モード）

データを送受信する前に、最初に SCR レジスタに初期値 00h を書き込み、次に 30.5.2　CTS、RTS 機能の SCI 手順を続けてください。動作モードまたは転送フォーマットを変更する場合も、SCR レジスタを初期値にしてから変更してください。

注 .　SCR.RE ビットを 0 にしても、SSR/SSR_FIFO レジスタの ORER、FER、RDRF、RDF、PER、DR の各フラグ、ならびに RDR レジスタと RDRHL レジスタは初期化されません。TE ビットが 0 の場合、選択した FIFO バッファに対する TEND フラグは初期化されません。

注 .　SCR.TIE ビットが 1 の状態で、SCR.TE ビットを 1 から 0、または 0 から 1 に変更すると、SCIn_TXI 割り込み要求が発生します。



注 .　同時送受信動作時は、SCR.TE、RE ビットは同時に 0 や 1 に設定する必要があります。

図 30.32　クロック同期式モードにおける SCI の初期化フローチャート例（非 FIFO 選択時）



注 .　同時送受信動作時は、SCR.TE、RE ビットは同時に 0 や 1 に設定する必要があります。

図 30.33　クロック同期式モードにおける SCI の初期化フローチャート例（FIFO 選択時）

30.5.4　シリアルデータの送信（クロック同期式モード）

(1)　非 FIFO 選択時

図 30.34、図 30.35、および図 30.36 に、クロック同期式モードにおけるシリアル送信の動作例を示します。

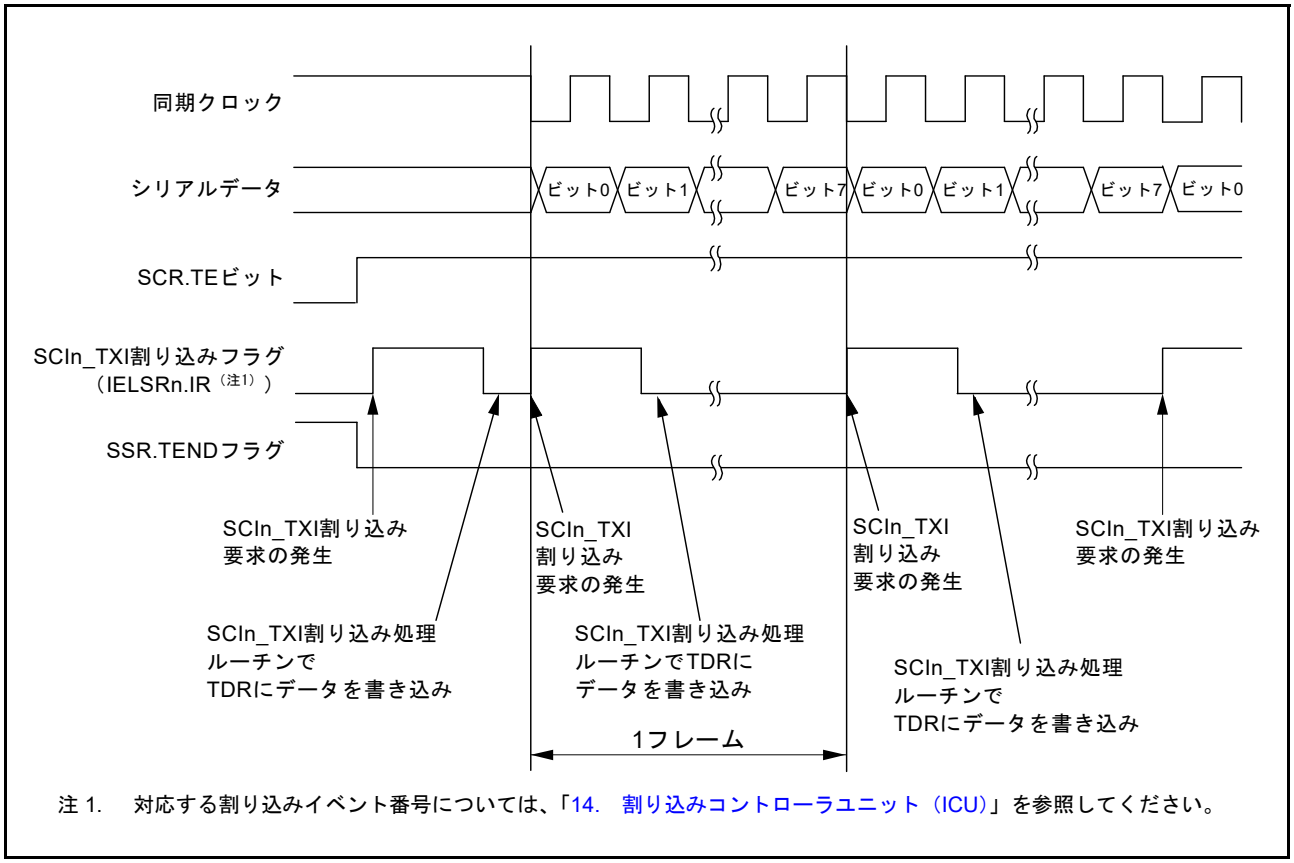
シリアルデータの送信時、SCI は以下のように動作します。

1. SCIn_TXI 割り込み処理ルーチンで TDR レジスタにデータが書き込まれると、SCI は TDR レジスタから TSR レジスタへデータを転送します。なお、送信開始時の SCIn_TXI 割り込み要求は、SCR.TIE ビットを 1 にした後に SCR.TE ビットを 1 にするか、SCR.TE ビットと SCR.TIE ビットを 1 命令で同時に 1 にすることで発生します。
2. SCI は、TDR レジスタから TSR レジスタへデータを転送した後、送信を開始します。このとき、SCR.TIE ビットが 1 になっていると、SCIn_TXI 割り込み要求が発生します。この SCIn_TXI 割り込み処理ルーチンにおいて、現在のデータ送信が終了する前に、TDR レジスタに次の送信データを書き込むことで連続送信が可能になります。SCIn_TEI 割り込み要求を使用する場合は、SCIn_TXI 割り込み要求に対応する処理ルーチン内で最終送信データを TDR レジスタに書き込んだ後、SCR.TIE ビットを 0 にして、SCR.TEIE ビットを 1 にします。
3. クロック出力モードを指定したときは出力クロックに同期して、外部クロックを指定したときは入力クロックに同期して、TXDn 端子から 8 ビットのデータが送信されます。クロック信号出力は、SPMR.CTSE ビットが 1 のとき、CTS 信号入力が Low になるまで待機します。
4. 最終ビットを送り出すタイミングで、SCI は TDR レジスタの更新をチェックします。
5. TDR レジスタが更新されていれば、TDR レジスタから TSR レジスタにデータを転送し、次のフレームの送信を開始します。
6. TDR レジスタが更新されていなければ、SSR.TEND フラグを 1 にします。TXDn 端子は最終ビットの出力状態を保持します。このとき、SCR.TEIE ビットが 1 になっていると、SCIn_TEI 割り込み要求が発生し、SCKn 端子は High に固定されます。

図 30.34、図 30.35、および図 30.36 に、シリアル送信のフローチャート例を示します。

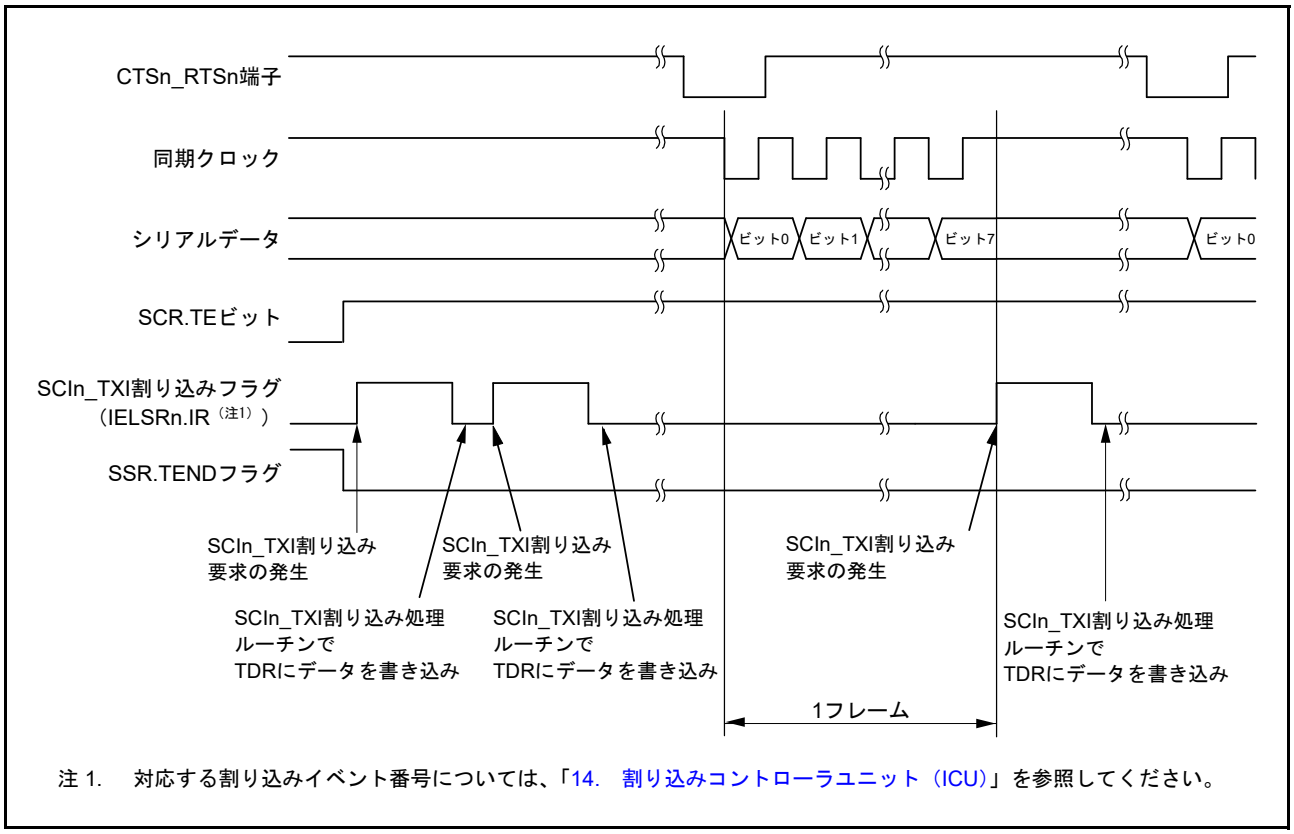
受信エラーフラグ（SSR.ORER、FER、または PER）が 1 の状態では、送信は開始されません。送信を開始する前に、受信エラーフラグを 0 にしてください。

注 .　受信エラーフラグは、SCR.RE ビットを 0 にしてもクリアされません。



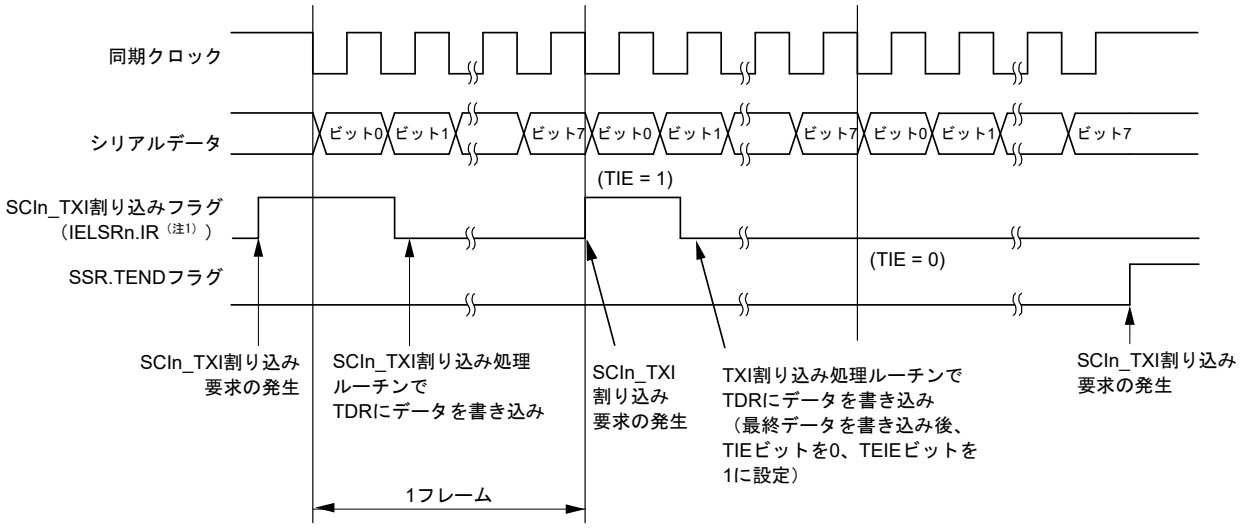
注 1.　対応する割り込みイベント番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

図 30.34　クロック同期式モードにおけるシリアル送信の動作例（送信開始時に CTS 機能を使用しない場合）



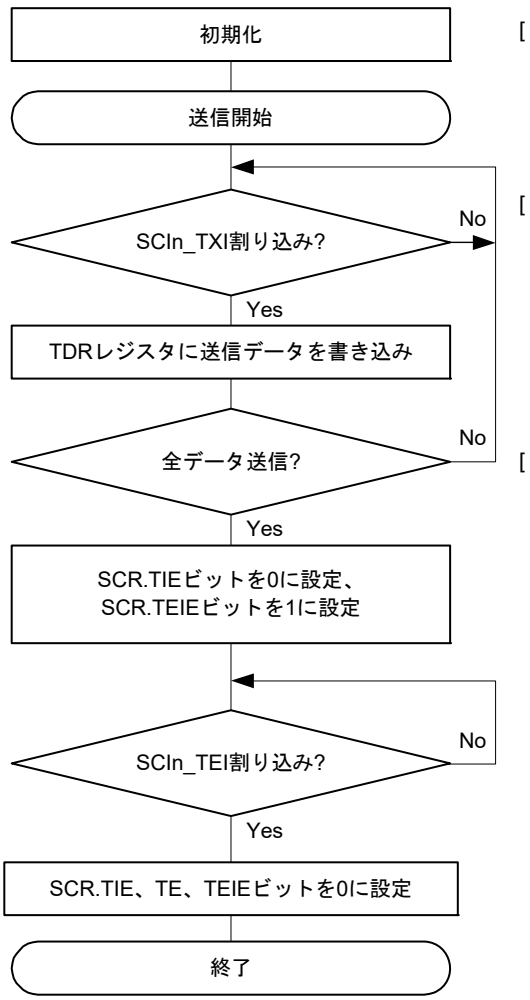
注 1.　対応する割り込みイベント番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

図 30.35　クロック同期式モードにおけるシリアル送信の動作例（送信開始時に CTS 機能を使用する場合）



注 1.　対応する割り込みイベント番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

図 30.36　　クロック同期式モードにおけるシリアル送信の動作例（送信中～送信終了時）



[1] [1] SCIの初期化：
データ送信に設定します。

[2] [2] SCIn_ TXI割り込み要求で送信データをTDR レジスタへ書き込み：
送信データがTDR レジスタからTSR レジスタへ送信されると、送信データエンプティ割り込み要求（SCIn_TXI）が発生します。SCIn_TXI割り込み処理ルーチン内で送信データをTDR レジスタへ1回書き込みます。

[3] [3] シリアル送信の継続手順：
シリアル送信を続けるときは、送信データエンプティ割り込み要求（SCIn_TXI）により送信データをTDR レジスタへ書き込みしてください。送信データはSCIn_TXI割り込み要求でDMAC あるいはDTC を起動してTDR レジスタへ書き込むことも可能です。
SCIn_TEI割り込み要求を使用するときには、最終送信データをTDR レジスタへ書き込んだ後にSCR.TIE ビットを0に、SCR.TEIE ビットを1にしてください。

注 . 外部クロック（SCR.CKE[1:0] = 10b, 11b）のときは、最終ビットの SCK 端子の立ち上がりで SSR.TEND フラグが 1 になります。このあと、SCR.TE ビットをすぐに 0 に設定すると、受信デバイス側で受信データホールド時間が不足する場合があります。

図 30.37　クロック同期式モードにおけるシリアル送信のフローチャート例（非 FIFO 選択時）

(2)　FIFO 選択時

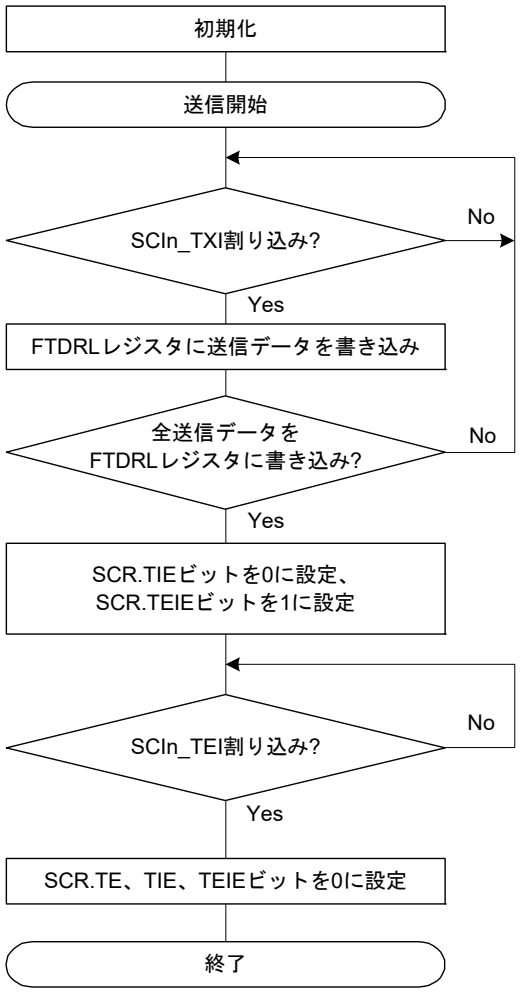
図 30.38 に、クロック同期式モードにおける FIFO 選択時のシリアル送信のフローチャート例を示します。

シリアルデータの送信時、SCI は以下のように動作します。

1. SCIn_TXI 割り込み処理ルーチンで FTDRL レジスタ（注 1）にデータが書き込まれると、SCI は FTDRL レジスタ（注 1）から TSR レジスタへデータを転送します。FTDRL レジスタに書き込み可能なデータのバイト数は 16 - FDR.T[4:0] です。なお、送信開始時の SCIn_TXI 割り込み要求は、SCR.TIE ビットを 1 にした後に SCR.TE ビットを 1 にするか、SCR.TE ビットと SCR.TIE ビットを 1 命令で同時に 1 にすることで発生します。
2. SCI は、FTDRL レジスタから TSR レジスタにデータを転送した後、送信を開始します。FTDRL に書き込まれた送信データ数が、指定された送信トリガ数以下のとき、SSR_FIFO.TDFE ビットが 1 になります。このとき、SCR.TIE ビットが 1 になっていると、SCIn_TXI 割り込み要求が発生します。SCIn_TXI 割り込み処理ルーチンにおいて、現在のデータ送信が終了する前に、FTDRL レジスタに次の送信データを書き込むことで連続送信が可能になります。SCIn_TEI 割り込み要求を使用する場合は、TXI 割り込み要求に対応する処理ルーチン内で最終送信データを FTDRL レジスタに書き込んだ後、SCR.TIE ビットを 0 にして、SCR.TEIE ビットを 1 にします。

3. クロック出力モードを指定したときは出力クロックに同期して、外部クロックを指定したときは入力クロックに同期して、TXDn 端子から 8 ビットのデータが送信されます。クロック信号出力は、SPMR.CTSE ビットが 1 のとき、CTS 信号入力が Low になるまで待機します。
4. ストップビットを送り出すタイミングで、SCI は FTDRL レジスタに未送信データが残っていないかチェックします。
5. FTDRL レジスタが更新されていれば、FTDRL レジスタから TSR レジスタにデータを転送し、次のフレームの送信を開始します。
6. FTDRL レジスタが更新されていなければ、SSR_FIFO.TEND フラグを 1 にします。TXDn 端子は最終ビットの出力状態を保持します。このとき、SCR.TEIE ビットが 1 になっていると、SCIn_TEI 割り込み要求が発生し、SCKn 端子は High に固定されます。

注 1.　クロック同期式モードでは、FTDRH レジスタを使用しません。



[1] SCIの初期化：
データ送信に設定します。SCR.TEビットを1にした後、1フレーム分の1を出力して送信可能状態になります。

[2] SCIn_TXI割り込み要求で送信データをFTDRLレジスタへ書き込み：
送信データがFTDRLレジスタからTSRレジスタへ送信されると、FTDRLレジスタに書き込まれた送信データ数が指定の送信トリガ数以下である場合、送信データFIFOエンプティ割り込み要求（SCIn_TXI）が発生します。SCIn_TXI割り込み処理ルーチンで送信データをFTDRLレジスタへ1回書き込んでください。

[3] シリアル送信の継続手順：
シリアル送信を続けるときには、SCIn_TXI割り込み処理ルーチンで次の送信データをFTDRLへ書き込み、現在の送信データの送信が完了する前にSSR_FIFO.TDFEフラグを0にクリアします。送信データはDMACやDTCを起動してFTDRLレジスタへ書き込むことも可能です。このとき、TDFEフラグは自動でクリアされます。TDFEフラグへの書き込みは行わないでください。TEI割り込み要求を使用するときには、最終送信データをFTDRLレジスタへ書き込んだ後にSCR.TIEビットを0に、SCR.TEIEビットを1にしてください。

注 .　外部クロック（SCR.CKE[1:0] = 10b, 11b）のときは、最終ビットの SCK 端子の立ち上がりで SSR_FIFO.TEND フラグが 1 になります。このあと、SCR.TE ビットをすぐに 0 に設定すると、受信デバイス側で受信データホールド時間が不足する場合があります。

図 30.38　クロック同期式モードにおけるシリアル送信のフローチャート例（FIFO 選択時）

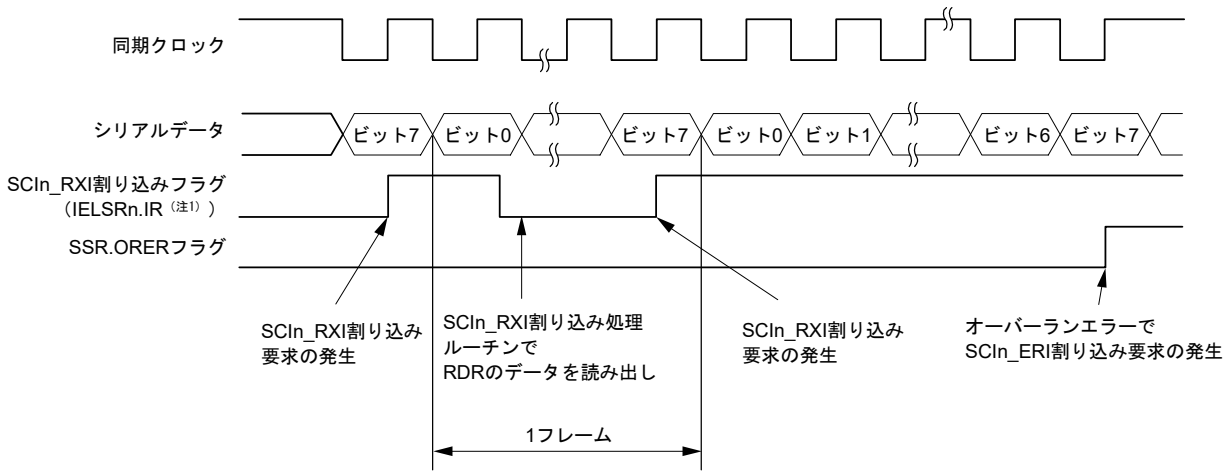
30.5.5　シリアルデータの受信（クロック同期式モード）

(1)　非 FIFO 選択時

図 30.39 と図 30.40 に、クロック同期式モードにおけるシリアル受信での SCI の動作例を示します。

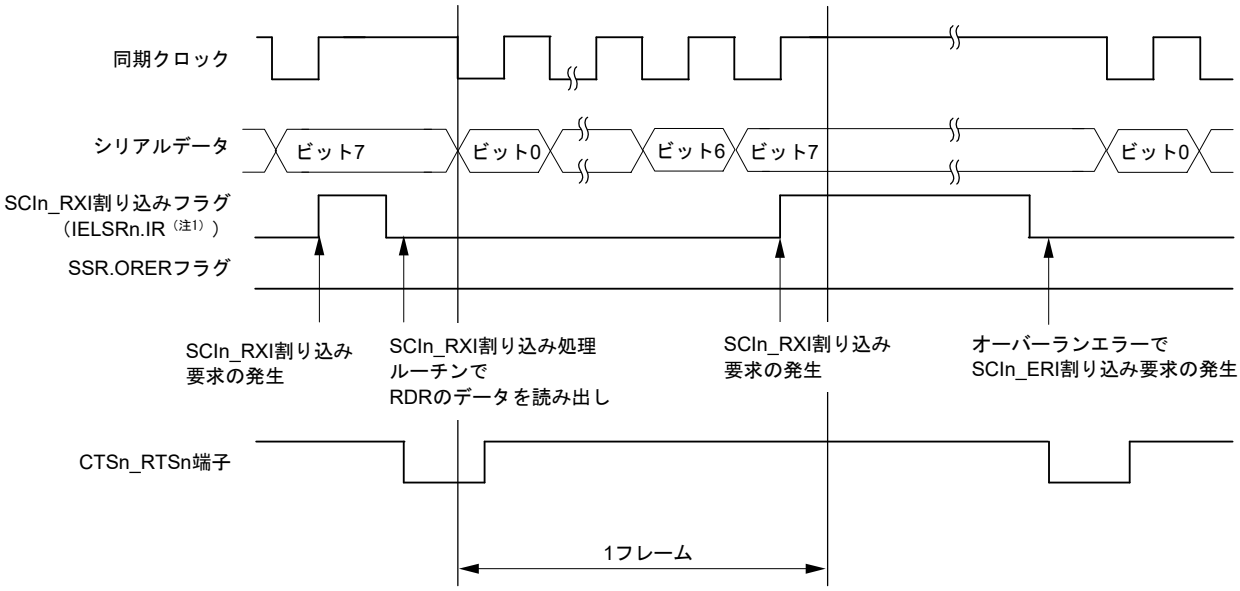
シリアルデータの受信時、SCI は以下のように動作します。

1. SCR.RE ビットの値が 1 になると、CTSn_RTSn 端子出力は Low になります。
2. SCI は内部を初期化し、同期クロックの入力または出力に同期して受信を開始して、受信データを RSR レジスタに取り込みます。
3. オーバーランエラーが発生した場合、SSR.ORER フラグが 1 になります。SCR.RIE ビットが 1 であれば、SCIn_ERI 割り込み要求が発生します。受信データは RDR レジスタへ転送されません。
4. 正常に受信したときは、受信データが RDR レジスタへ転送されます。SCR.RIE ビットが 1 であれば、SCIn_RXI 割り込み要求が発生します。この SCIn_RXI 割り込み処理ルーチンにおいて、次のデータ受信が終了する前に、RDR レジスタへ転送された受信データを読み出すことで連続受信が可能になります。RDR レジスタから受信データが読み出されると、CTSn_RTSn 端子出力が Low になります。



注 1.　対応する割り込みイベント番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

図 30.39　クロック同期式モードにおけるシリアル受信の動作例（1）（RTS 機能を使用しない場合）

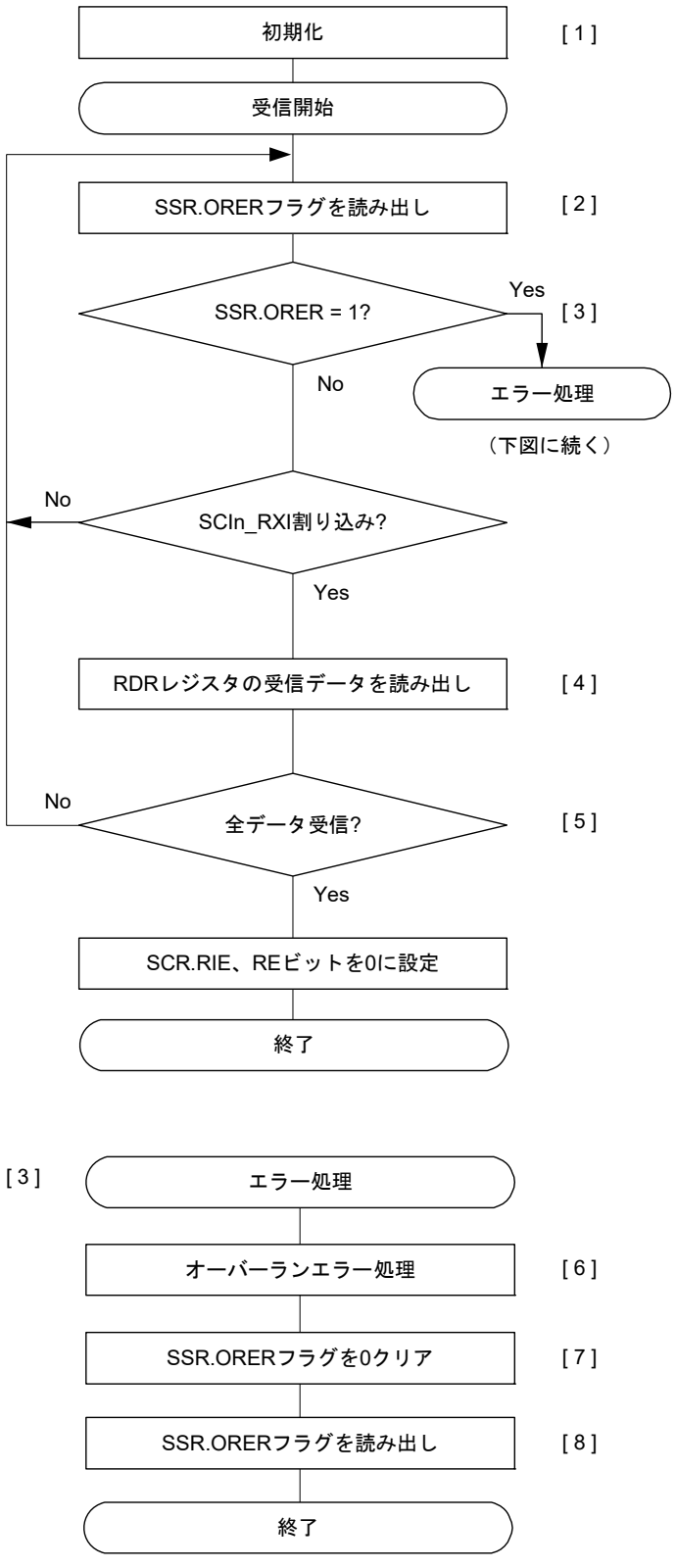


注 1.　対応する割り込みイベント番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

図 30.40　　クロック同期式モードにおけるシリアル受信の動作例（2）（RTS 機能を使用する場合）

受信エラーフラグが 1 の状態では、送受信動作を再開できません。したがって、SSR レジスタの ORER、FER、および PER の各フラグを 0 にしてから受信を再開してください。また、オーバーランエラー処理では、必ず RDR レジスタを読み出してください。受信動作中に SCR.RE ビットに 0 を書いてデータ受信動作を強制終了させた場合、RDR レジスタに読み出し前の受信データが残っている可能性があるため、RDR レジスタを読み出す必要があります。

図 30.41 に、シリアルデータ受信のフローチャート例を示します。



[1] SCIの初期化：
RXDnとして使用する端子に対して入力ポートの設定をします。

[2] [3] 受信エラー処理：
受信エラーが発生したときには、SSRレジスタのORERフラグを読み出して、所定のエラー処理を行ってからORERフラグを0にしてください。ORERフラグが1の間はデータ受信を再開できません。

[4] 受信データフル割り込み要求（SCIn_RXI）処理ルーチンで受信データをRDRレジスタから1回読み出してください。

[5] シリアル受信の継続手順：
シリアル受信を続けるときには、現フレームのMSB（ビット7）が受信される前にRDRレジスタから受信データの読み出しを完了させてください。RDRレジスタは、SCIn_RXI割り込み要求でDMACやDTCを起動して読み出すことも可能です。

[6] オーバーランエラー処理：
RDRレジスタを読み出します。手順[7]と合わせて実施すると、正しい次フレームの受信が可能になります。

[7] エラーフラグのクリア：
エラーフラグを0にクリアします。

[8] エラーフラグのクリア確認：
エラーフラグを読み出し、値が0になっていることを確認します。

図 30.41　クロック同期式モードにおけるシリアル受信のフローチャート例（非 FIFO 選択時）

(2) FIFO 選択時

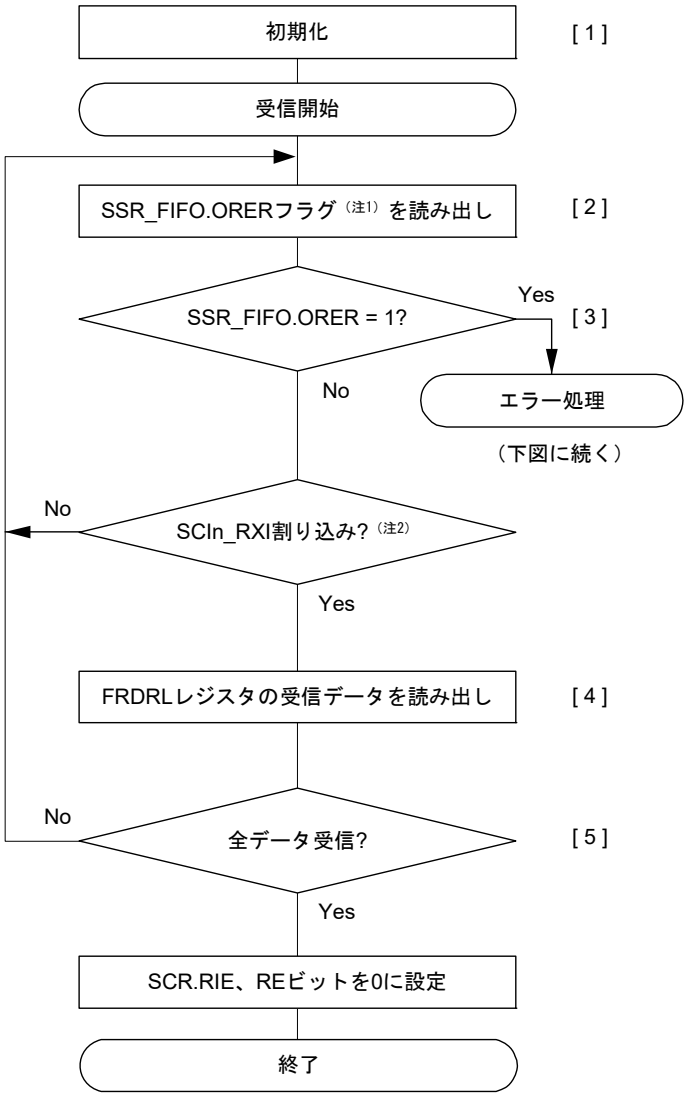
図 30.42 に、クロック同期式モードにおける FIFO 選択時のシリアル受信のフローチャート例を示します。

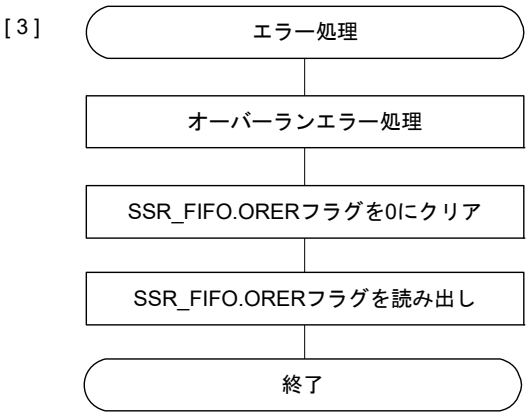
シリアルデータの受信時、SCI は以下のように動作します。

1. SCR.RE ビットの値が 1 になると、CTSn_RTSn 端子出力は Low になります。
2. SCI は内部を初期化し、同期クロックの入力または出力に同期して受信を開始して、受信データを RSR レジスタに取り込みます。
3. オーバーランエラーが発生した場合、SSR_FIFO.ORER フラグが 1 になります。SCR.RIE ビットが 1 であれば、SCIn_ERI 割り込み要求が発生します。受信データは FRDRL レジスタ（注 1）へ転送されません。
4. 正常に受信したときは、受信データが FRDRL レジスタ（注 1）へ転送されます。FRDRL に格納された受信データ数が、指定された受信トリガ数以上であると、RDF ビットが 1 になります。SCR.RIE ビットが 1 であれば、SCIn_RXI 割り込み要求が発生します。SCIn_RXI 割り込み処理ルーチンにおいて、オーバーランエラーが発生する前に、FRDRL レジスタ（注 2）へ転送された受信データを読み出すことで連続受信が可能になります。FRDRL レジスタへ転送された受信データ数が RTS トリガ数未満であると、CTSn_RTSn 端子出力が Low になります。

注 1. クロック同期式モードでは、FRDRH レジスタを使用しません。

注 2. RDF と ORER フラグを受信データとともに読み出す場合は、FRDRH → FRDRL の順に読み出してください。





[1] SCIの初期化：
RXDnとして使用する端子に対して入力ポート端子の設定をします。

[2][3] 受信エラー処理：
受信エラーが発生したときには、SSR_FIFOレジスタのORERフラグを読み出して、所定のエラー処理を行ってからSSR_FIFO.ORERフラグを0にしてください。ORERフラグが1の間はデータ受信を再開できません。

[4] FRDRLレジスタに格納された受信データを格納データ数がFCR.RTRG[3:0]の値よりも小さくなるまで読みます。ソフトウェアでFDR.R[4:0]ビットを読み出して、読み出し可能なデータ数の確認ができます。

[5] シリアル受信の継続手順：
シリアル受信を続けるときには、オーバーランエラーが発生する前に、FRDRLレジスタ内の受信データの読み出しを完了し、SSR_FIFO.RDFフラグを0にクリアしてください。FRDRLレジスタは、SCIn_RXI割り込み要求でDMACやDTCを起動して読み出すことも可能です。この場合、RDFフラグは自動でクリアされますので、RDFフラグへの書き込みは行わないでください。

[6] オーバーランエラー処理：
FRDRLレジスタとFIFO内にある使用可能な格納データを読み出します。手順[7]と合わせて実施すると、正しい次フレームの受信が可能になります。

[7] エラーフラグのクリア：
エラーフラグを0にクリアします。

[8] エラーフラグのクリア確認：
エラーフラグを読み出し、値が0になっていることを確認します。

注 1.　FRDRH.ORER から読み出すことも可能ですが、ORER フラグをクリアするためには、SSR_FIFO レジスタ内の該当ビットを 0 にする必要があります。
注 2.　全受信データ数は FIFO トリガ数の整数倍です。

図 30.42　クロック同期式モードにおけるシリアル受信のフローチャート例（FIFO 選択時）

30.5.6　シリアルデータの同時送受信動作（クロック同期式モード）

(1)　非 FIFO 選択時

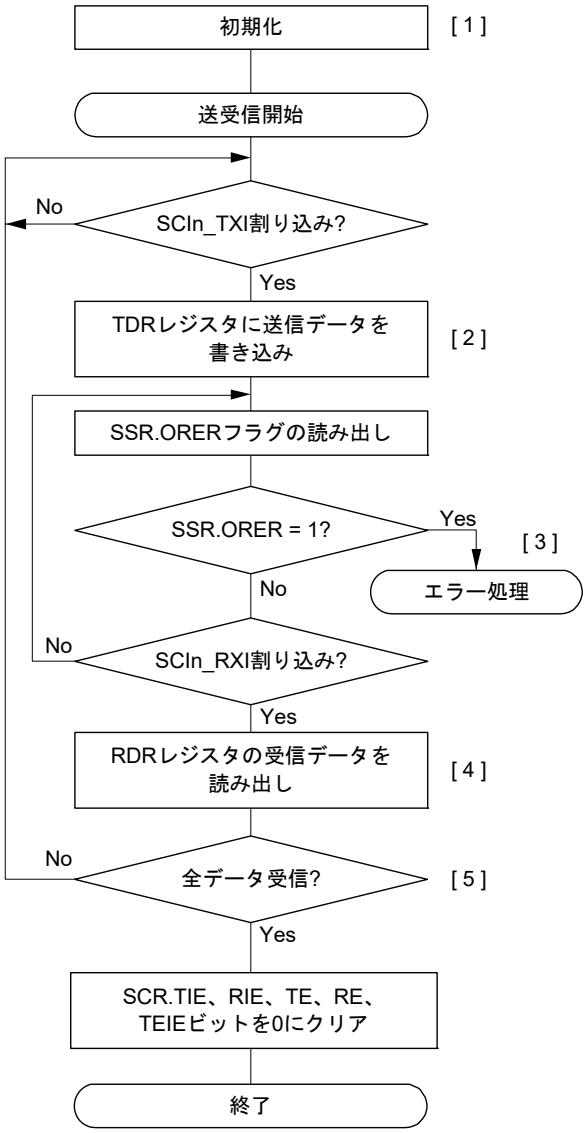
図 30.43 に、クロック同期式モードにおけるシリアル同時送受信動作のフローチャート例を示します。シリアル同時送受信動作は、SCI の初期化後、以下の手順に従って行ってください。

送信モードから同時送受信モードへの切り替えは、次の手順で行います。

1. SCI が送信完了状態であることを SSR.TEND フラグが 1 になっていることで確認してください。
2. その後、SCR レジスタを初期化してから、SCR レジスタの TIE、RIE、TE、RE の各ビットを 1 命令で同時に 1 にしてください。

受信モードから同時送受信モードへの切り替えは、次の手順で行います。

1. SCI が受信完了状態であることを確認してください。
2. SCR レジスタの RIE ビットと RE ビットを 0 にした後、SSR レジスタの受信エラーフラグ（ORER）が 0 になっていることを確認します。
3. その後、SCR レジスタの TIE、RIE、TE、RE の各ビットを 1 命令で同時に 1 にしてください。



[1] SCIの初期化：
TXDn端子は送信時に出力端子として、RXDn端子は受信時に入力端子として同時に機能します。

[2] 送信データ書き込み：
SCIn_TXI割り込み要求処理ルーチンで送信データをTDRレジスタへ1回書き込みます。

[3] 受信エラー処理：
受信エラーが発生したときには、SSRレジスタのORERフラグを読み出して、所定のエラー処理を行ってからORERフラグを0にしてください。
ORERフラグが1の間はデータ受信を再開できません。

[4] 受信データ読み出し：
SCIn_RXI割り込み要求処理ルーチンでRDRレジスタ内の受信データを1回読み出します。

[5] シリアル送受信の継続手順：
シリアル送受信を続けるときには、現在のフレームのMSBビット7が受信される前にSCIn_RXI割り込みでRDRレジスタ内の受信データ読み出しを完了させてください。また、現在のフレームのMSBビット7が送信される前にSCIn_TXI割り込みでTDRレジスタへデータを書き込んでください。
送信データは、送信データエンプティ割り込み要求（SCIn_TXI）でDMACやDTCを起動してTDRレジスタへ書き込むことも可能です。同様に、受信データフル割り込み要求（SCIn_RXI）でDMACやDTCを起動してRDRレジスタのデータを読み出すことも可能です。

注．　送信または受信動作から同時送受信動作に切り替えるときには、まず SCR.TIE、RIE、TE、RE、TEIE ビットを 0 にして、その後 TIE、RIE、TE、RE ビットを同時に 1 に設定します。

図 30.43　クロック同期式モードにおけるシリアル同時送受信動作のフローチャート例（非 FIFO 選択時）

(2)　FIFO 選択時

図 30.44 に、クロック同期式モードにおける FIFO 選択時のシリアル同時送受信動作のフローチャート例を示します。

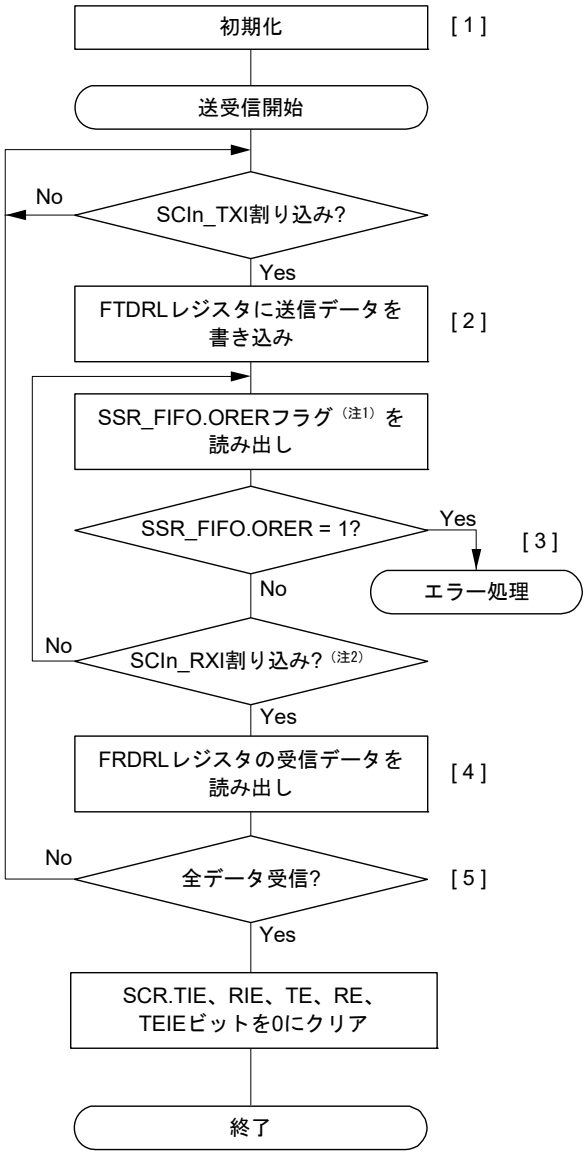
シリアル同時送受信動作は、SCI の初期化後、以下の手順に従って行ってください。

送信モードから同時送受信モードへの切り替えは、次の手順で行います。

1. SCI が送信完了状態であることを SSR_FIFO.TEND フラグが 1 になっていることで確認してください。
2. その後、SCR レジスタを初期化してから、SCR レジスタの TIE、RIE、TE、RE の各ビットを 1 命令で同時に 1 にしてください。

受信モードから同時送受信モードへの切り替えは、次の手順で行います。

1. SCI が受信完了状態であることを確認してください。
2. RIE ビットと RE ビットを 0 にした後、SSR_FIFO レジスタの受信エラーフラグ（ORER）が 0 になっていることを確認してください。
3. その後、SCR レジスタの TIE、RIE、TE、RE の各ビットを 1 命令で同時に 1 にしてください。



[1] SCIの初期化：
TXDn端子は送信時に出力端子として、RXDn端子は受信時に入力端子として同時に機能します。

[2] 送信データ書き込み：
SCIn_TXI割り込み処理ルーチンで送信データをFTDRLレジスタへ書き込んでください。書き込み可能な送信データ数は（16 - 送信FIFOに格納されているデータ数）です。

[3] 受信エラー処理：
受信エラーが発生したときには、SSR_FIFOレジスタのORERフラグを読み出して、所定のエラー処理を行ってからORERフラグを0にしてください。ORERフラグが1の間はデータ受信を再開できません。

[4] 受信データ読み出し：
FRDRLレジスタに格納された受信データを格納データ数がFCR.RTRGの値よりも小さくなるまで読みます。ソフトウェアでFDR.R[4:0]ビットを読み出して、読み出し可能なデータ数の確認ができます。

[5] シリアル送受信の継続手順：
シリアル受信を続けるときには、オーバーランエラーが発生する前にFRDRLレジスタ内の受信データ読み出しを完了し、SSR_FIFO.RDFフラグを0にしてください。シリアル送信を続けるときには、現在の送信データの送信が完了する前に、SCIn_TXI割り込み処理ルーチンで次の送信データをFTDRLレジスタに書き込み、SSR_FIFO.TDFEフラグを0にクリアしてください。送信データは、送信FIFOデータエンプティ割り込み要求（TXI）でDMACやDTCを起動してFTDRLレジスタへ書き込むことも可能です。同様に、受信FIFOデータフル割り込み要求（SCIn_RXI）でDMACやDTCを起動してFRDRLレジスタのデータを読み出すことも可能です。この場合、RDFフラグとTDFEフラグは自動でクリアされるので、RDFフラグとTDFEフラグへの書き込みは行わないでください。

注 1.　ORER は FRDRH.ORER から読み出すことも可能です。ORER フラグをクリアするためには、SSR_FIFO.ORER に 0 を書き込む必要があります。
注 2.　全受信データ数は FIFO トリガ数の整数倍である必要があります。

図 30.44　クロック同期式モードにおけるシリアル同時送受信動作のフローチャート例（FIFO 選択時）

30.6　スマートカードインタフェースモードの動作

SCI は拡張機能として、ISO/IEC 7816-3（Identification Card 規格）に対応したスマートカード（IC カード）インタフェースをサポートしています。

スマートカードインタフェースモードへの切り替えはレジスタにより行います。

30.6.1　接続例

図 30.45 に、スマートカード（IC カード）と本 MCU の接続例を示します。

図 30.45 に示すように、MCU と IC カードは 1 本のデータ伝送線で通信を行うため、TXDn 端子と RXDn 端子を結線し、データ伝送線を抵抗で電源 VCC 側にプルアップしてください。

IC カードを接続しない状態で SCR_SMCI レジスタの TE ビットと RE ビットを 1 にすると、閉ループの送受信が実現され、自己診断が可能になります。SCI で生成するクロックを IC カードに供給する場合は、SCKn 端子出力を IC カードの CLK 端子に入力してください。リセット信号の出力には、MCU の出力ポートを使用できます。

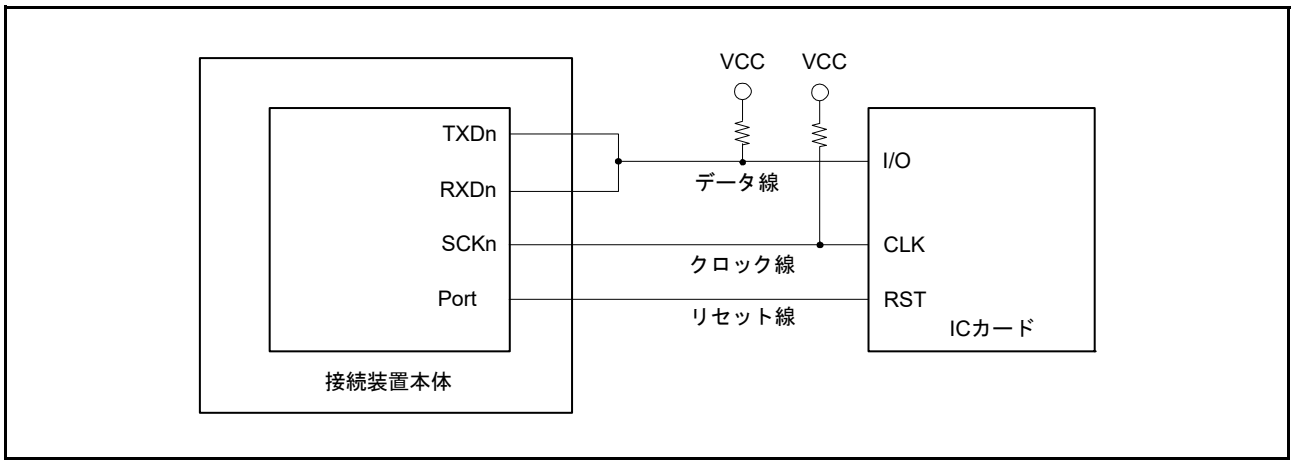


図 30.45　スマートカード（IC カード）との接続例

30.6.2　データフォーマット（ブロック転送モード時を除く）

図 30.46 に、スマートカードインタフェースモードでの送受信フォーマットを示します。

- 調歩同期式モードでは、1 フレームは 8 ビットデータとパリティビットで構成
- 送信中は、パリティビットの終了から次のフレーム開始まで、2ETU（Elementary Time Unit = 1 ビット転送時間）以上のガードタイムが必要
- 受信中にパリティエラーを検出した場合、スタートビットから 10.5ETU 経過後、エラーシグナル（Low）を 1ETU 期間出力
- 送信時にエラーシグナルをサンプリングすると、2ETU 以上経過後、自動的に同じデータを再送信

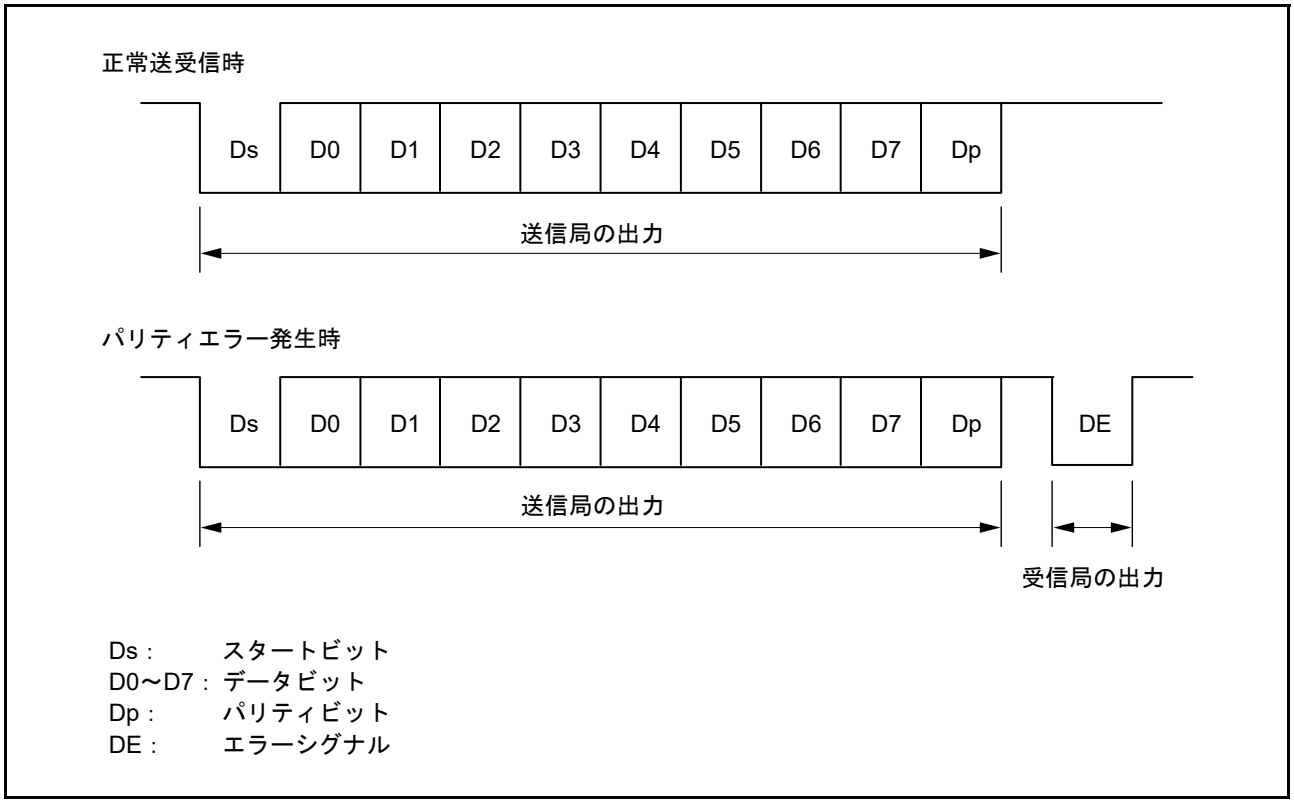


図 30.46　スマートカードインタフェースモードにおけるデータフォーマット

本項では、ダイレクトコンベンションタイプと、インバースコンベンションタイプの 2 種類の IC カードと送受信する場合について説明します。

(1)　ダイレクトコンベンションタイプ

ダイレクトコンベンションタイプでは、図 30.47 に示すように、ロジックレベル 1 は状態 Z を、ロジックレベル 0 は状態 A をそれぞれ表し、開始キャラクタに対して LSB ファーストでデータが転送されます。したがって、この図の開始キャラクタでは、データは 3Bh となります。

ダイレクトコンベンションタイプを使用する場合、SCMR.SDIR ビットと SCMR.SINV ビットの両方を 0 にしてください。また、スマートカード規格に従って偶数パリティとするため、SMR_SMCI.PM ビットは 0 にしてください。

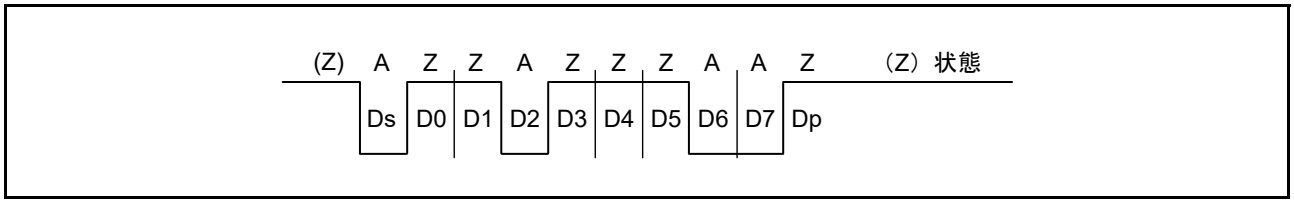


図 30.47　ダイレクトコンベンション（SCMR.SDIR ビット = 0、SCMR.SINV ビット = 0、SMR_SMCI.PM ビット = 0）

(2)　インバースコンベンションタイプ

インバースコンベンションタイプでは、図 30.48 に示すように、ロジックレベル 1 は状態 A を、ロジックレベル 0 は状態 Z をそれぞれ表し、開始キャラクタに対して MSB ファーストでデータが転送されます。したがって、この図の開始キャラクタでは、データは 3Fh となります。

インバースコンベンションタイプを使用する場合、SCMR.SDIR ビットと SCMR.SINV ビットの両方を 1 にしてください。また、スマートカード規格に従って偶数パリティとするため、パリティビットは状態 Z に対応するロジックレベル 0 になります。本 MCU では、SINV ビットはデータビット D7 ～ D0 のみを反転させます。そのため、送信時と受信時の両方において、SMR_SMCI.PM ビットに 1 を書いてパリティビットを反転させてください。

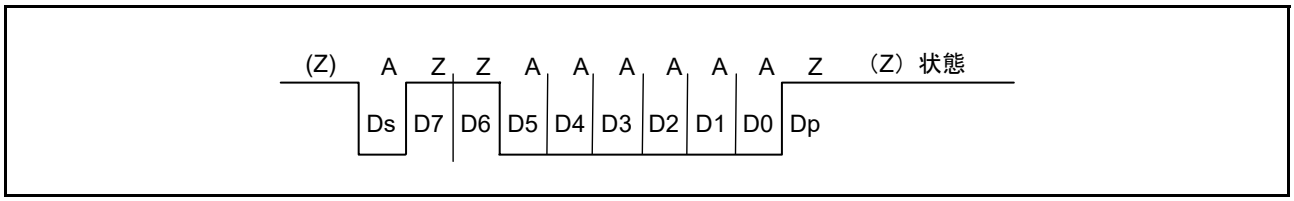


図 30.48　インバースコンベンション（SCMR.SDIR ビット = 1、SCMR.SINV ビット = 1、SMR_SMCI.PM ビット = 1）

30.6.3　ブロック転送モード

ブロック転送モードは、スマートカードインタフェースモードの非ブロック転送モードと比較して以下の点が異なります。

- 受信中にパリティエラーが検出されても、エラーシグナルは出力されません。エラー検出時に SSR_SMCI.PER フラグがセットされるので、次のフレームのパリティビットを受信する前にクリアしてください。
- 送信中は、パリティビットの終了から次のフレーム開始までのガードタイムとして 1ETU 以上が必要です。
- 同じデータの再送信を行わないため、送信開始から 11.5ETU 経過後に、SSR_SMCI.TEND フラグがセットされます。
- ブロック転送モードでは、SSR_SMCI.ERS フラグは、スマートカードインタフェースモードの非ブロック転送モードと同様に、エラーシグナル状態を示しますが、エラーシグナルの転送を行わないため、読むと 0 が読めます。

30.6.4　受信データのサンプリングタイミングと受信マージン

スマートカードインタフェースモードで使用できる送受信クロックは、内蔵ボーレートジェネレータが生成するクロックのみです。

スマートカードインタフェースモードでは、SCMR.BCP2 ビットと SMR_SMCI.BCP[1:0] ビットの設定により、SCI はビットレートの 32 倍、64 倍、372 倍、256 倍、93 倍、128 倍、186 倍、または 512 倍の周波数の基本クロックで動作します。

データ受信時、SCI はスタートビットの立ち下がりを基本クロックでサンプリングして同期化します。

また、図 30.49 に示すように、受信データは基本クロックのそれぞれ 16、32、186、128、46、64、93、256 サイクルの立ち上がりエッジでサンプリングされるため、各ビットの中間でデータが取り込まれます。このときの受信マージンは次式で表わすことができます。

$$M = \left| (0.5 - \frac{1}{2N}) - (L - 0.5)F - \frac{D - 0.5}{N}(1 + F) \right| \times 100\ [\%]$$

M：受信マージン（%）

N：クロックに対するビットレートの比（N = 32, 64, 372, 256）

D：クロックのデューティ（D = 0 ～ 1.0）

L：フレーム長（L = 10）

F：クロック周波数の偏差の絶対値

上の式で、F = 0、D = 0.5、N = 372 とすると、受信マージンは次式のようになります。

M = {0.5 - 1/(2 × 372)} × 100 [%] = 49.866%

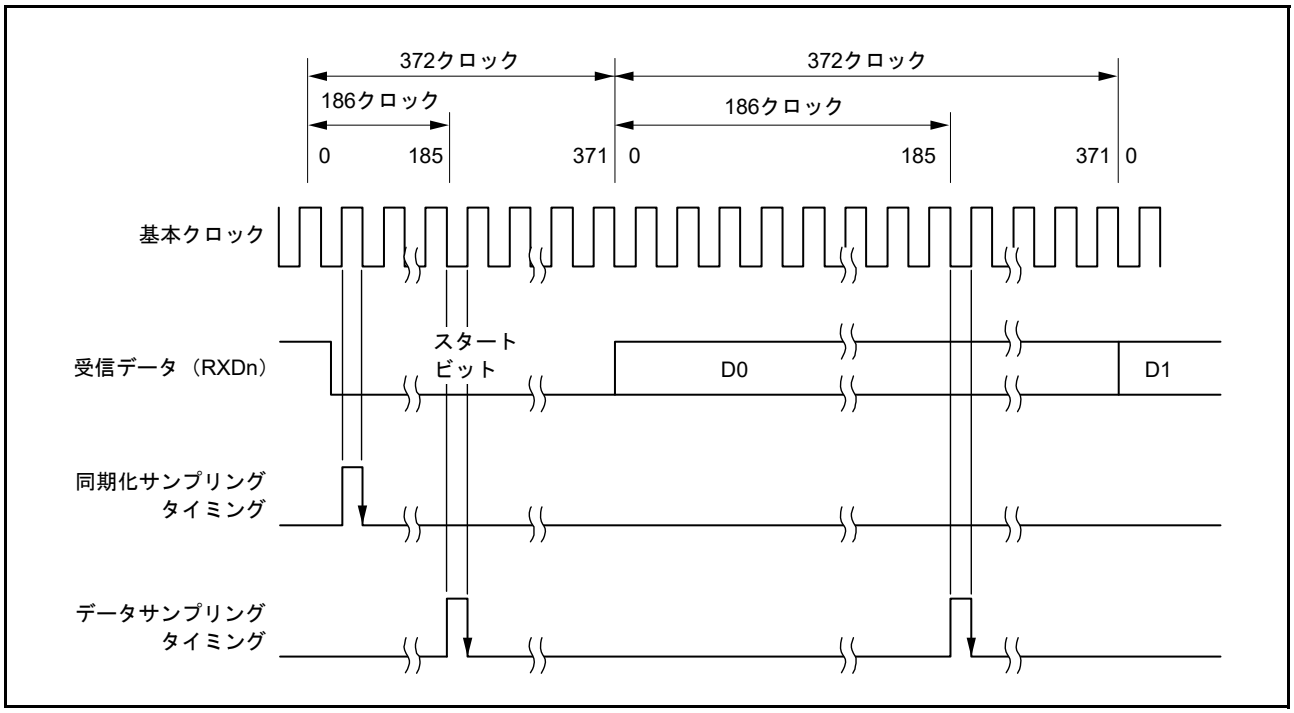


図 30.49　スマートカードインタフェースモードにおける受信データのサンプリングタイミング（ビットレートの 372 倍のクロック周波数の場合）

30.6.5　SCI の初期化

データの送受信前に、SCR_SMCI レジスタに初期値 00h を書き込み、図 30.50 に示すフローチャートの例に従って、SCI を初期化してください。

送信モードから受信モードへ（またはその逆へ）切り替える場合、必ず事前に SCR_SMCI レジスタの TIE、RIE、TE、RE、および TEIE ビットに初期値を設定してください。なお、SCR_SMCI.RE ビットを 0 にしても RDR レジスタは初期化されません。

受信モードから送信モードへ切り替える場合、受信動作が完了していることを確認してから、SCI を初期化してください。初期化の最後では、SSR_SMCI.TE ビット = 1、SSR_SMCI.RE ビット = 0 にしてください。受信動作の完了は、SCIn_RXI 割り込み要求、SSR_SMCI.ORER フラグ、あるいは SSR_SMCI.PER フラグで確認できます。

送信モードから受信モードへ切り替える場合、送信動作が完了していることを確認してから、SCI を初期化してください。初期化の最後では、SSR_SMCI.TE ビット = 0 および SSR_SMCI.RE ビット = 1 にしてください。送信動作の完了は SSR_SMCI.TEND フラグで確認できます。

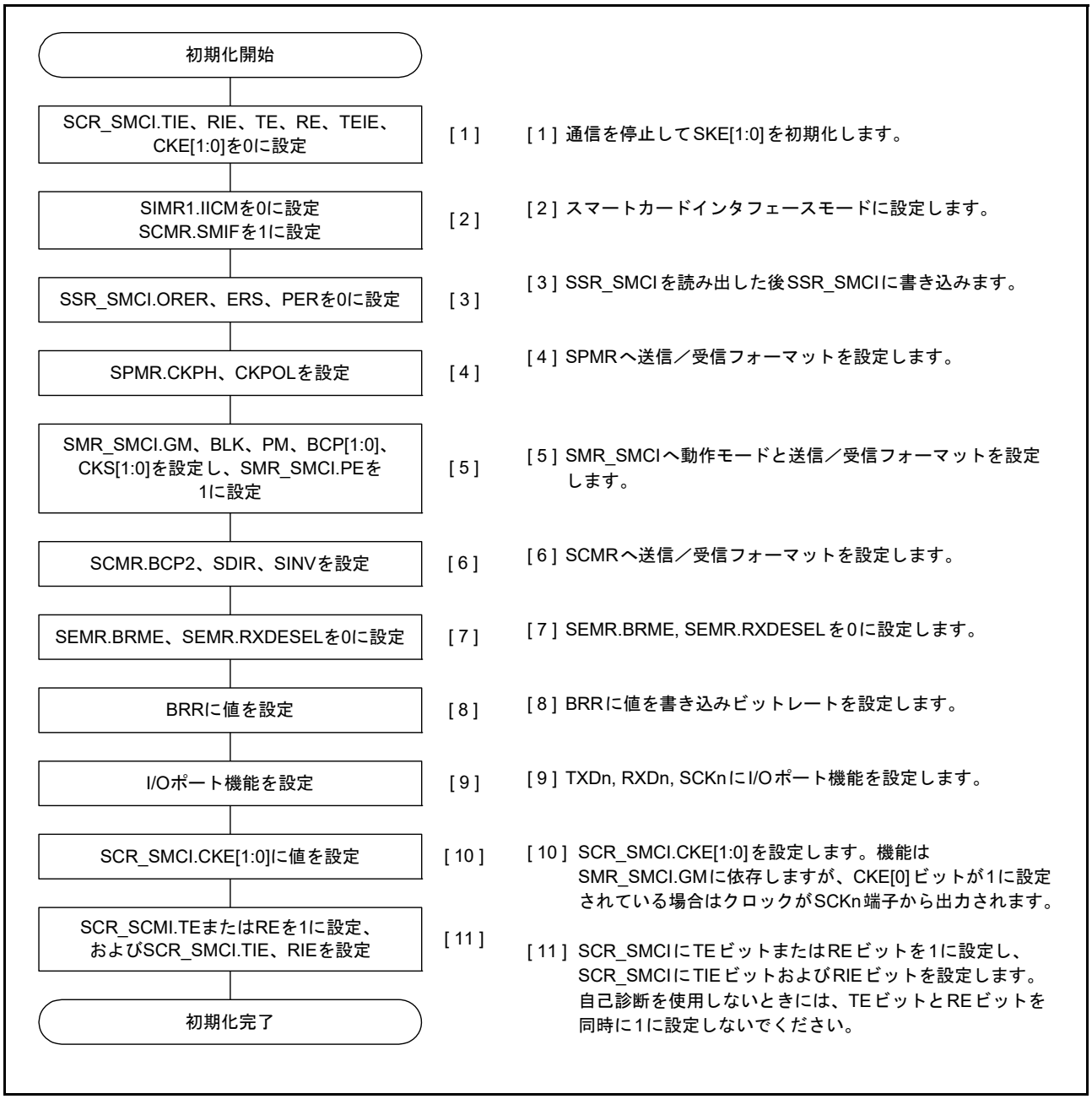


図 30.50　SCI の初期化フローチャート例（スマートカードインタフェースモード）

図 30.50 のフローに従ってスマートカードインタフェースモードに遷移することでデータ送信が行われるときのタイミング図を図 30.51 に示します。図 30.51 は、SMR_SMCI.GM ビットが 0 になるタイミングを示します。図 30.51 のタイミングは、ポートが SCKn および TXDn として接続されている場合、SCR_SMCI レジスタの CKE[0] ビットは 0 になるため、SCKn 端子および TXDn 端子は Hi-Z となることを示します。

SCR_SMCI.CKE[0] ビットを 1 にすることによって SCK 端子へのクロック出力を開始します。そして、SCR_SMCI.TE ビットを 1 にした後、送信データを書き込むことでデータ送信を開始します。SCR_SMCI.TE ビットを 0 から 1 に変更すると、データ送信の開始前に 1 フレーム分のプリアンブル期間が生じます。スマートカードインタフェースモードでは、プリアンブル期間がある場合、TXDn 端子は Hi-Z となります。MCU 外部で SCKn 端子および TXDn 端子に対するプルアップまたはプルダウンが必要です。

スマートカードインタフェースモードでは、SCR_SMCI レジスタの TE ビットおよび RE ビットが 0 であっても、クロック出力設定を使用すればクロック出力は継続されます。

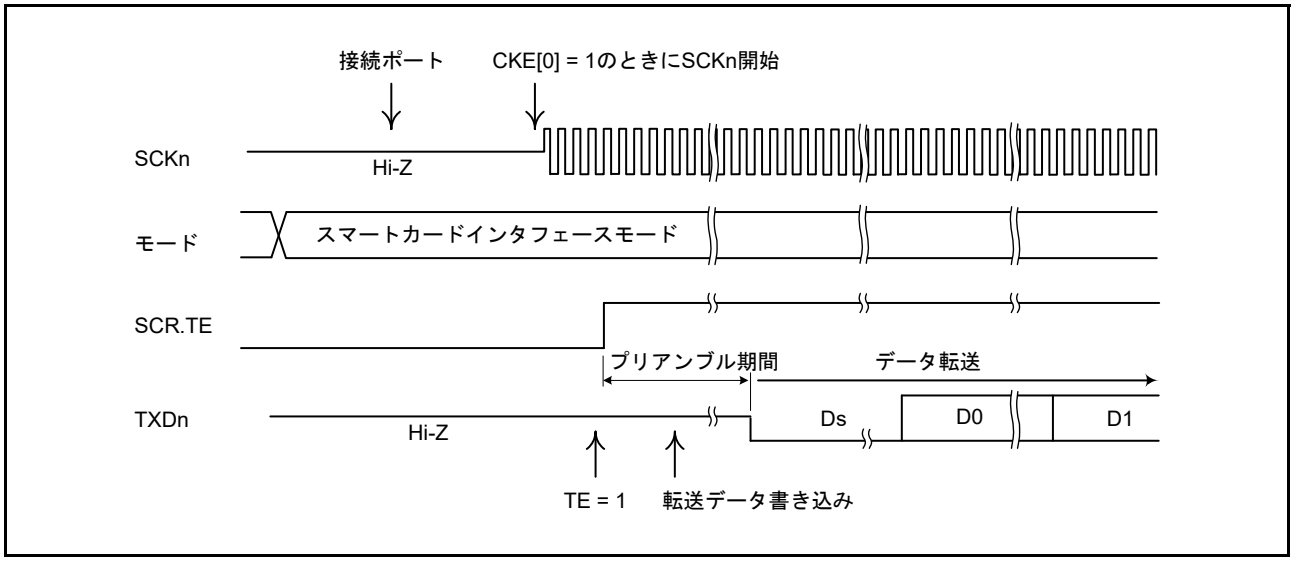


図 30.51　スマートカードインタフェースモードにおけるデータ送信のタイミング例

30.6.6　シリアルデータの送信（ブロック転送モード時を除く）

スマートカードインタフェースモードにおけるシリアルデータ送信（ブロック転送モード時を除く）では、エラーシグナルのサンプリングと再送信処理があるため、非スマートカードインタフェースモードと動作が異なります。送信中の再転送動作を図 30.52 に示します。

図 30.52 では、以下のように設定しています。

- ［1］1 フレーム分のデータ送信を完了した後、受信側からのエラーシグナルがサンプリングされると、SSR_SMCI.ERS フラグが 1 になります。SCR_SMCI.RIE ビットが 1 であれば、SCIn_ERI 割り込み要求が発生します。次のパリティビットがサンプリングされる前に、ERS フラグを 0 にクリアしてください。
- ［2］エラーシグナルを受信したフレームでは、SSR_SMCI.TEND フラグはセットされません。TDR レジスタから TSR レジスタへ再度データが転送され、自動的に再送信が行われます。
- ［3］受信側からエラーシグナルが返ってこない場合、ERS フラグは 1 になりません。
- ［4］SCI は再転送を含む 1 フレーム分の送信が完了したと判断し、TEND フラグがセットされます。SCR_SMCI.TIE ビットが 1 であれば、SCIn_TXI 割り込み要求が発生します。送信データを TDR レジスタに書き込むことにより次のデータが送信されます。

図 30.54 に、シリアル送信のフローチャート例を示します。これら一連の処理は、SCIn_TXI 割り込み要求で DMAC または DTC を起動することによって、自動的に行うことができます。

送信動作では、SSR_SMCI.TEND フラグが 1 になっていると、SCR_SMCI.TIE ビットが 1 の場合、SCIn_TXI 割り込み要求が発生します。

あらかじめ DMAC または DTC の起動要因として SCIn_TXI 割り込み要求を設定しておけば、SCIn_TXI 割り込み要求によって DMAC または DTC が起動され、送信データの転送が可能になります。TEND フラグは、DMAC または DTC によるデータ転送時に自動的に 0 になります。

エラーが発生した場合は、SCI が自動的に同じデータを再送信します。再送信中、TEND フラグは 0 のまま保持され、DMAC または DTC は起動されません。したがって、エラー発生時の再送信を含め、SCI および DMAC または DTC が、指定されたバイト数を自動的に送信します。ただし、ERS フラグは自動的にはクリアされないため、RIE ビットを 1 にしておくことで、エラー発生時に SCIn_ERI 割り込み要求を発生させて、ERS フラグを 0 にクリアしてください。

なお、DMAC または DTC を使用して送受信を行う場合は、必ず DMAC または DTC を有効にしてから SCI の設定を行ってください。

DMAC または DTC の設定方法については、「17.　DMA コントローラ（DMAC）」と「18.　データトランスファコントローラ（DTC）」を参照してください。

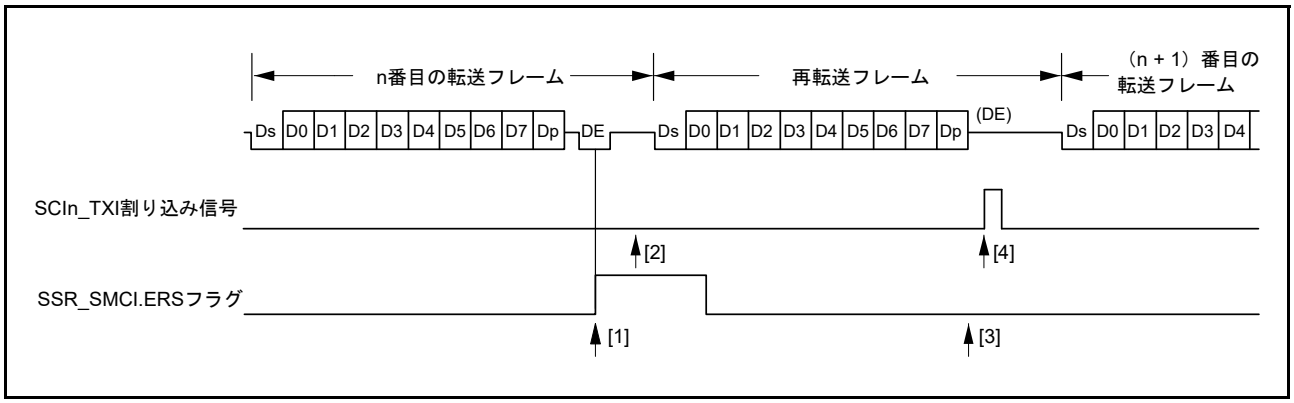


図 30.52　SCI 送信モードでの再転送動作

図 30.53 に、TEND フラグの発生タイミングを示します。

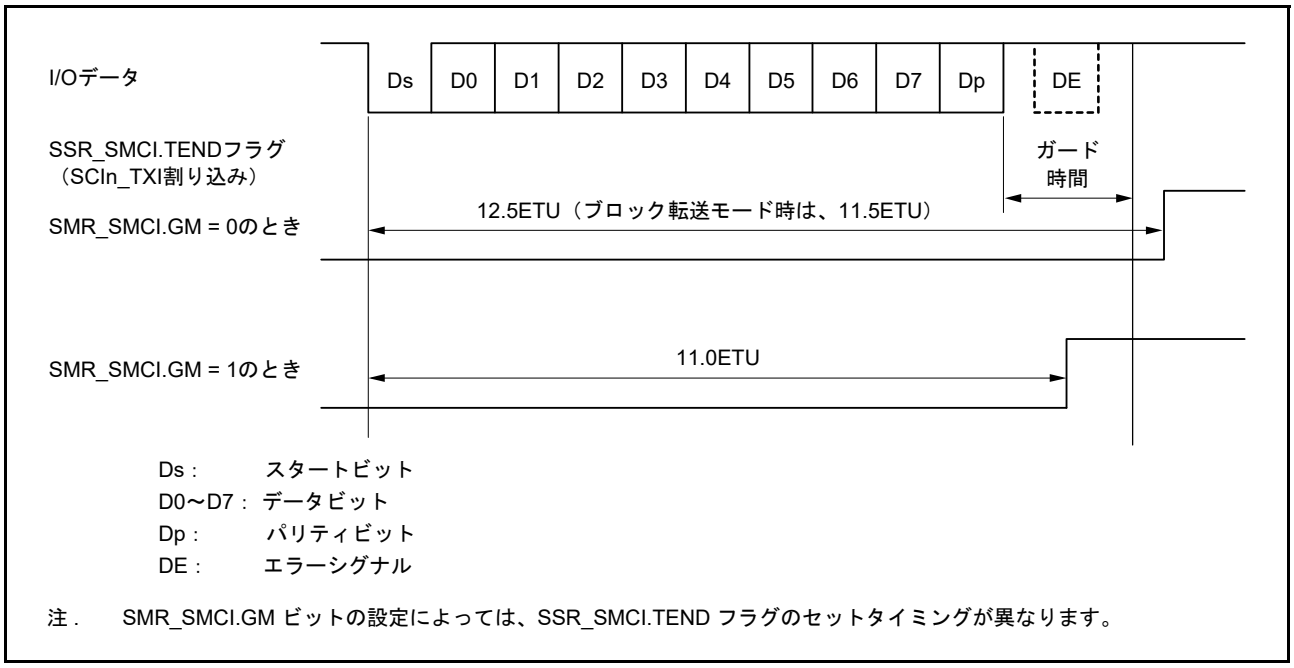


図 30.53　送信中の SSR.TEND フラグの発生タイミング

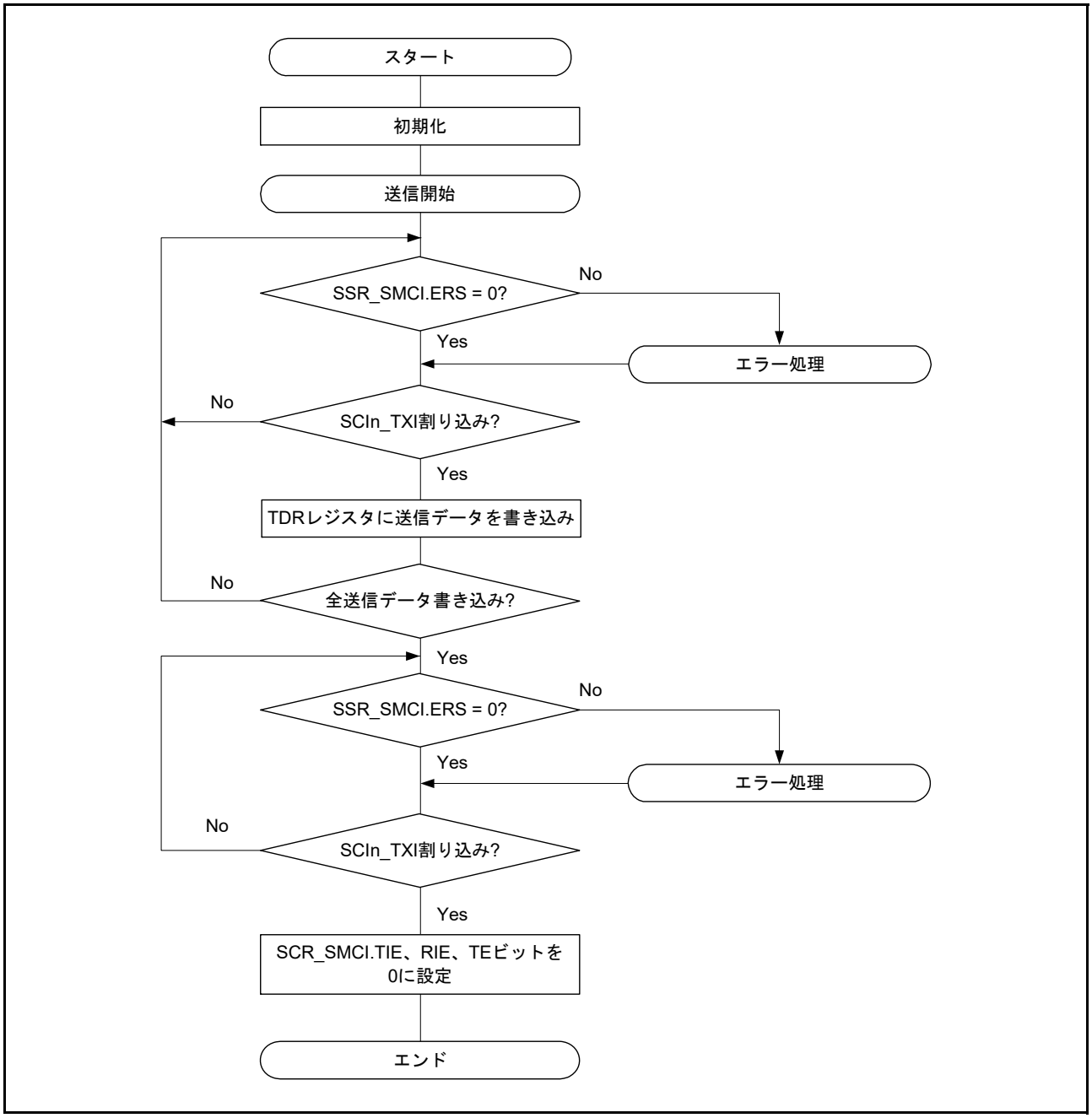


図 30.54　スマートカードインタフェース送信のフローチャート例

30.6.7　シリアルデータの受信（ブロック転送モード時を除く）

スマートカードインタフェースモードにおけるシリアル受信は、非スマートカードインタフェースモードと同様の処理手順になります。受信モードでのデータ再転送動作を図 30.55 に示します。

- ［1］受信データにパリティエラーが検出されると、SSR_SMCI.PER フラグが 1 になります。このとき、SCR_SMCI.RIE ビットが 1 になっていると、SCIn_ERI 割り込み要求が発生します。次のパリティビットがサンプリングされる前に、PER フラグをクリアしてください。
- ［2］パリティエラーが検出されたフレームに対しては、SCIn_RXI 割り込みは発生しません。
- ［3］パリティエラーが検出されない場合、SCR_SMCI.PER フラグは 1 になりません。
- ［4］正常に受信が完了したと判断されます。このとき、SCR_SMCI.RIE ビットが 1 になっていると、SCIn_RXI 割り込み要求が発生します。

図 30.56 に、シリアル受信のフローチャート例を示します。これら一連の処理は、SCIn_RXI 割り込み要求で DMAC または DTC を起動することによって、自動的に行うことができます。

受信動作では、RIE ビットを 1 にしておくと、SCIn_RXI 割り込み要求が発生します。あらかじめ DMAC または DTC の起動要因として SCIn_RXI 割り込み要求を設定しておけば、SCIn_RXI 割り込み要求によって DMAC または DTC が起動され、受信データの転送が可能になります。

また、受信中にエラーが発生して SSR_SMCI.ORER フラグまたは SSR_SMCI.PER フラグのいずれかが 1 になると、受信エラー割り込み（SCIn_ERI）要求が発生します。エラー発生後に、エラーフラグをクリアしてください。エラーが発生した場合、DMAC または DTC は起動されず、受信データはスキップされます。そのため、DMAC または DTC に指定されたバイト数だけ受信データが転送されます。

なお、受信中にパリティエラーが発生して PER フラグが 1 になった場合でも、受信したデータは RDR レジスタへ転送されるので、このデータを読み出すことは可能です。

また、受信動作中に SCR_SMCI.RE ビットを 0 にして受信動作を強制終了させた場合、RDR レジスタに読み出し前の受信データが残っている可能性があるため、RDR レジスタを読み出す必要があります。

注 1.　ブロック転送モードの場合は、30.3.9　シリアルデータの受信（調歩同期式モード）を参照してください。

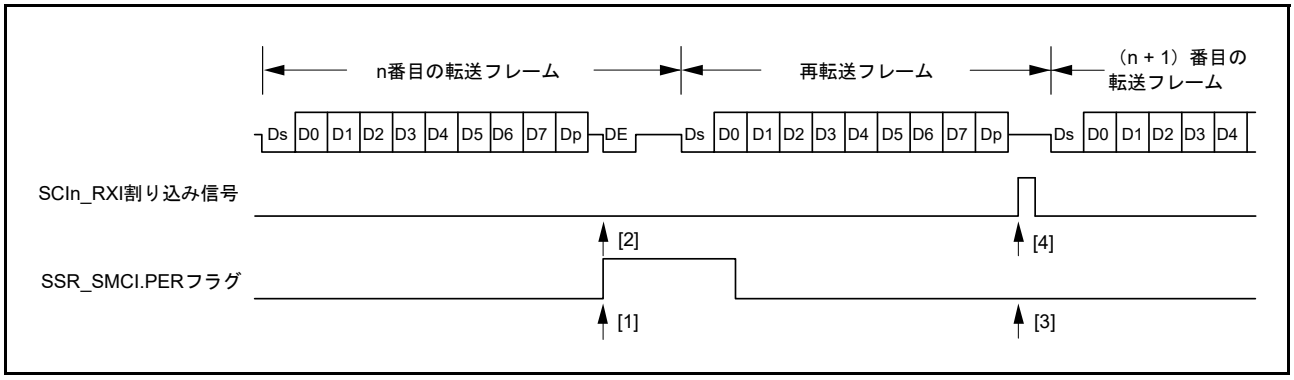


図 30.55　SCI 受信モードでの再転送動作

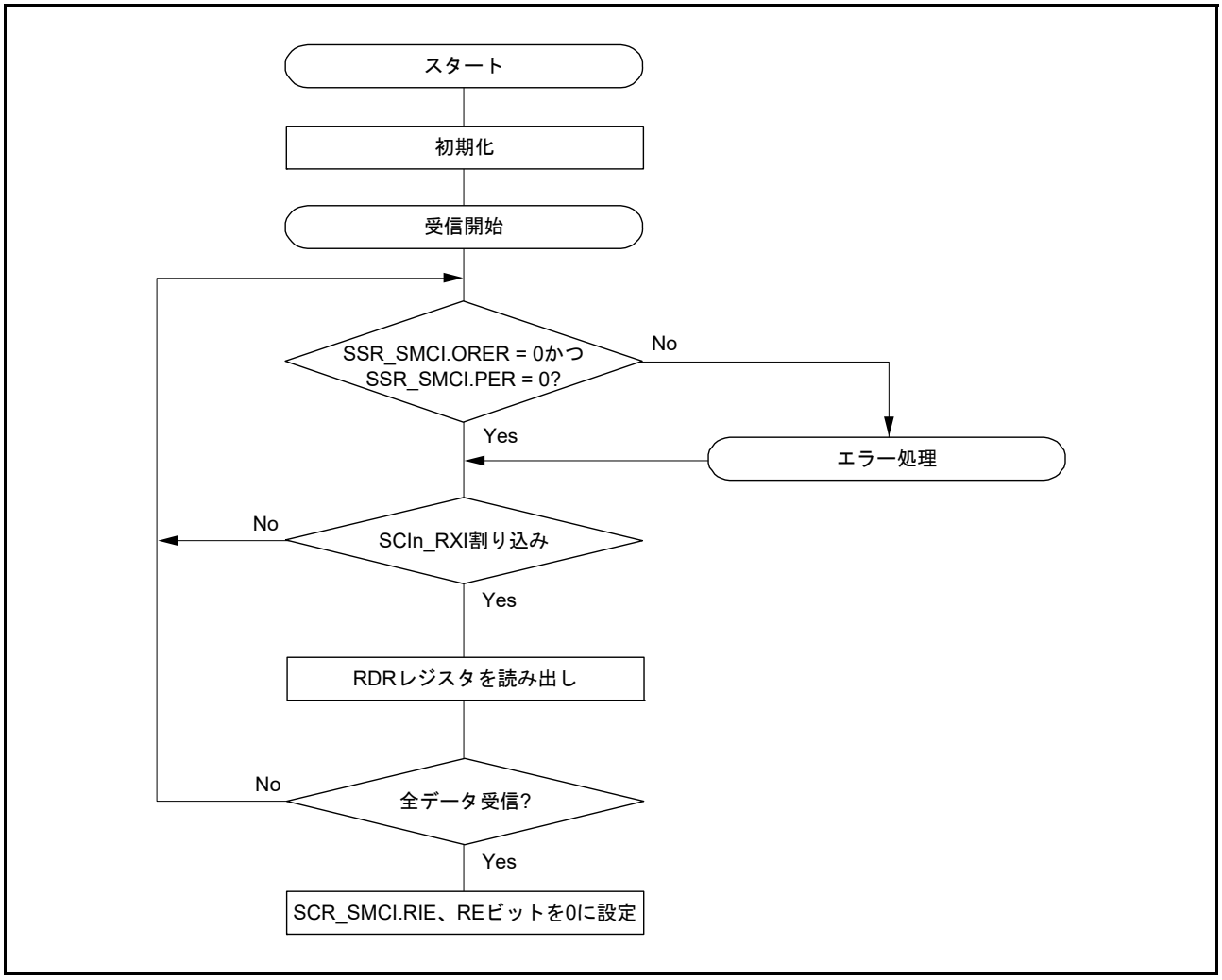


図 30.56　スマートカードインタフェース受信のフローチャート例

30.6.8　クロック出力制御

SMR_SMCI.GM ビットを 1 にすると、SCR_SMCI.CKE[1:0] ビットでクロック出力の制御が行えます。CKE[1:0] ビットの詳細については、32.2.12　スマートカードインタフェースモード用シリアルコントロールレジスタ（SCR_SMCI）（SCMR.SMIF = 1）を参照してください。クロック出力を設定すると、32.6.4　受信データのサンプリングタイミングと受信マージンで説明されている基本クロックが出力されます。

図 30.57 に、SCR_SMCI レジスタの CKE[1] ビットを 0 にして SCR_SMCI レジスタの CKE[0] ビットを制御する場合のクロック出力制御のタイミング例を示します。

SMR_SMCI.GM ビットを 0 にすると、SCR_SMCI.CKE[0] ビットによる出力制御がただちに SCK 端子に反映されるため、SCK 端子から意図しない幅のパルスが出力される可能性があります。

SMR_SMCI.GM ビットを 1 にすると、SCR_SMCI.CKE[0] ビットが変更されても基本クロックと同じパルス幅のクロックが出力されます。

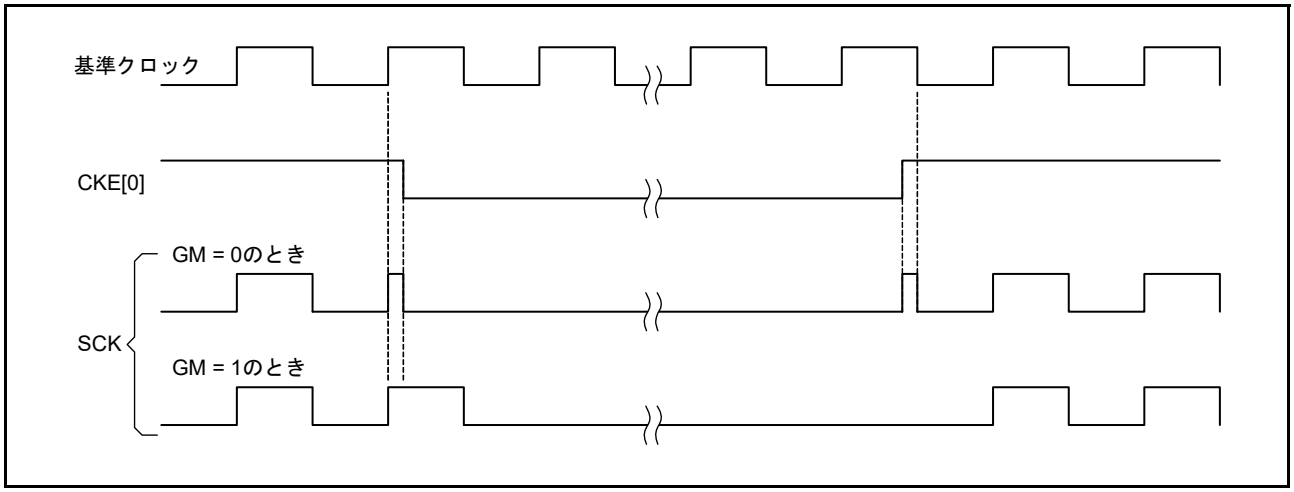


図 30.57　クロック出力制御

30.7　簡易 IIC モードの動作

簡易 I²C バスフォーマットは、8 ビットのデータと 1 ビットのアクノリッジから構成されます。開始条件および再開始条件に続くフレームはスレーブアドレスのフレームであり、マスタデバイスは、通信先であるスレーブデバイスを指定するために使用します。指定されたスレーブデバイスは、新たにスレーブデバイスが指定されるか、または停止条件が満たされるまで有効です。各フレーム内の 8 ビットのデータは、MSB から順に送信されます。

図 30.58 に、I²C バスフォーマットを、図 30.59 に、I²C バスタイミングを示します。

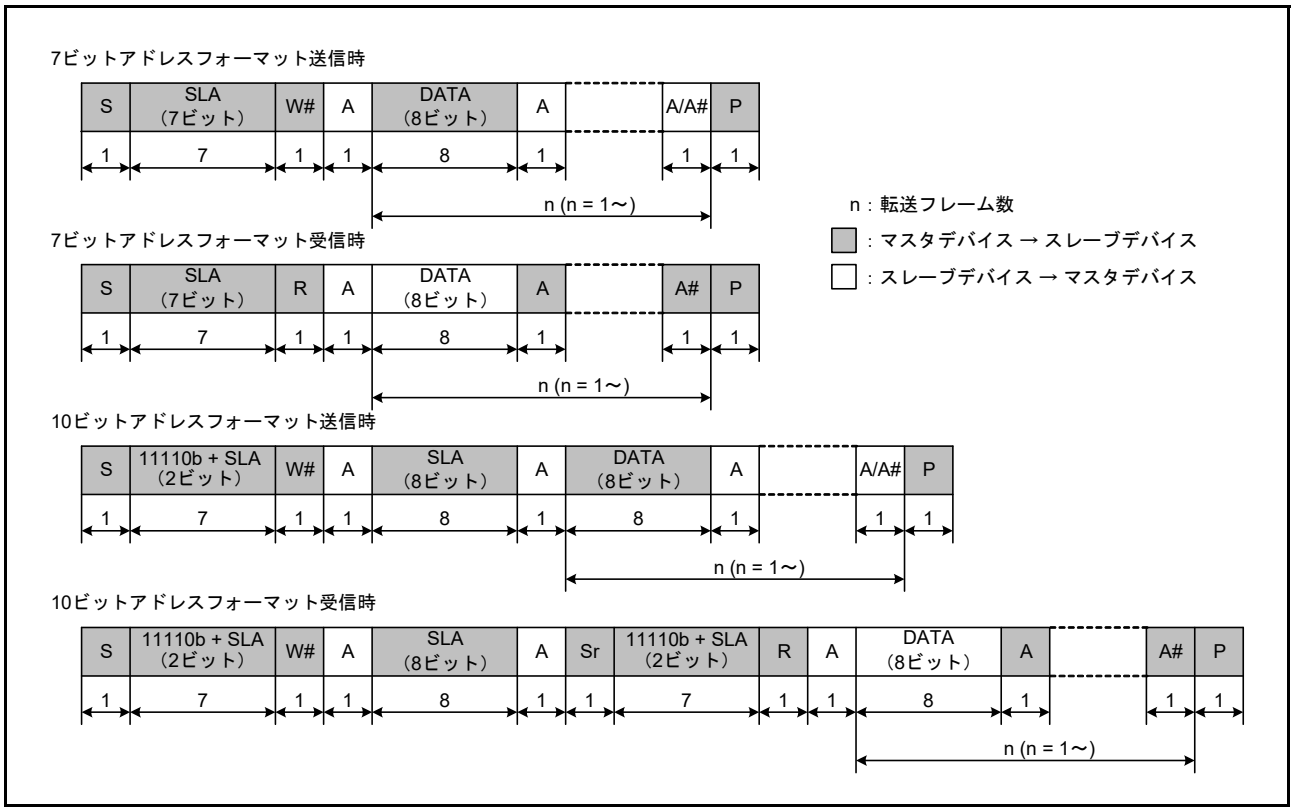


図 30.58　I²C バスフォーマット

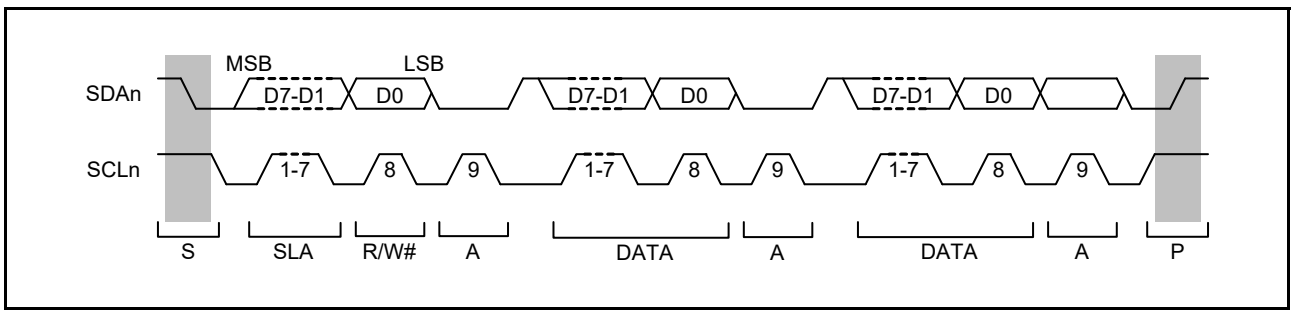


図 30.59　I²C バスタイミング（SLA = 7 ビットの場合）

S：開始条件を示します。マスタデバイスは、SCLn ラインが High 状態にあるとき、SDAn ラインのレベルを High から Low へ変化させます

SLA：スレーブアドレスを示します。これによってマスタデバイスがスレーブデバイスを選択します

R/W#：転送方向（送信／受信）を示します。値 1 のときはスレーブデバイスからマスタデバイスへ、値 0 のときはマスタデバイスからスレーブデバイスへデータを送信します

A/A#：アクノリッジを示します。マスタ送信モードでは、スレーブデバイスがアクノリッジを返します。マスタ受信モードでは、マスタデバイスがアクノリッジを返します。Low を返すことで ACK を、High を返すことで NACK を示します

Sr：再開始条件を示します。マスタデバイスは、SCLn ラインが High 状態にあるとき、セットアップ時間経過後に SDAn ラインのレベルを High から Low へ変化させます

DATA：送受信データを示します

P：停止条件を示します。マスタデバイスは、SCLn ラインが High 状態にあるとき、SDAn ラインのレベルを Low から High へ変化させます

30.7.1 開始条件、再開始条件、停止条件の生成

SIMR3.IICSTAREQ ビットに 1 を書き込むことにより、開始条件の生成を行います。開始条件の生成では、以下の動作が行われます。

- SDAn ラインを立ち下げ（High から Low へ変化）、SCLn ラインは開放状態を保持
- BRR レジスタで設定したビットレートでの 1 ビット期間の半分を、開始条件のホールド時間に設定
- SCLn ラインを立ち下げ（High から Low へ変化）、SIMR3.IICSTAREQ ビットを 0 にして、開始条件生成割り込み要求を出力

SIMR3.IICRSTAREQ ビットに 1 を書き込むことにより、再開始条件の生成を行います。再開始条件の生成では、以下の動作が行われます。

- SDAn ラインを開放、SCLn ラインは Low を保持
- BRR レジスタで設定したビットレートでの 1 ビット期間の半分を、SCLn ラインの Low 期間に設定
- SCLn ラインを開放（Low から High へ変化）
- SCLn ラインの High を検出後、BRR レジスタで設定したビットレートでの 1 ビット期間の半分を、再開始条件のセットアップ時間に設定
- SDAn ラインを立ち下げ（High から Low へ変化）
- BRR レジスタで設定したビットレートでの 1 ビット期間の半分を、再開始条件のホールド時間に設定
- SCLn ラインを立ち下げ（High から Low へ変化）、SIMR3.IICRSTAREQ ビットを 0 にして、再開始条件生成割り込み要求を出力

SIMR3.IICSTPREQ ビットに 1 を書き込むことにより、停止条件の生成を行います。停止条件の生成では、以下の動作が行われます。

- SDAn ラインを立ち下げ（High から Low へ変化）、SCLn ラインは Low を保持
- BRR レジスタで設定したビットレートでの 1 ビット期間の半分を、SCLn ラインの Low 期間に設定
- SCLn ラインを開放（Low から High へ変化）
- SCLn ラインの High を検出後、BRR レジスタで設定したビットレートでの 1 ビット期間の半分を、停止条件のセットアップ時間に設定
- SDAn ラインを開放（Low から High へ変化）、SIMR3.IICSTPREQ ビットを 0 にして、停止条件生成割り込み要求を出力

図 30.60 に、開始条件、再開始条件、停止条件生成の動作タイミングを示します。

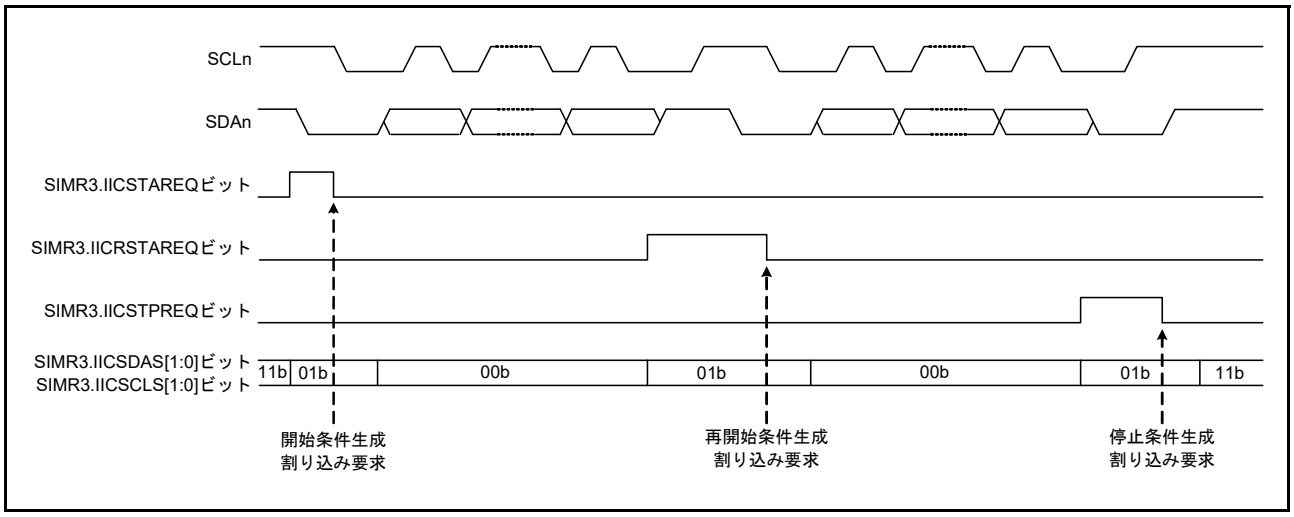


図 30.60　開始条件、再開始条件、停止条件生成の動作タイミング

30.7.2　クロック同期化

通信先のスレーブデバイスがウェイトを挿入する目的で、SCLn ラインを Low にする場合があります。内部 SCLn クロック信号と SCLn 端子入力のレベルに差異が生じる場合、SIMR2.IICCSC ビットを 1 にすることで、クロック同期の制御が可能になります。

SIMR2.IICCSC ビットが 1 の場合、内部 SCLn クロック信号が Low から High へ変化すると、SCLn 端子入力が Low の間は High 期間のカウントを停止し、SCLn 端子入力が High へ変化すると、High 期間のカウントを開始します。

このとき、SCLn 端子が High へ変化して High 期間のカウントを開始するまでの間隔は、SCLn 端子入力遅延、SCLn 端子入力のノイズフィルタ遅延（ノイズフィルタのサンプリングクロックで 2 ～ 3 サイクル）、および内部処理遅延（PCLKA で 1 ～ 2 サイクル）の合計になります。この間、他のデバイスが SCLn ラインを Low にしていなくても、内部 SCLn クロックの High 期間が延長されます。

SIMR2.IICCSC ビットが 1 の場合、データの送受信は、SCLn 端子入力と内部 SCLn クロックの論理積に同期して行われます。SIMR2.IICCSC ビットが 0 の場合は、データの送受信は、内部 SCLn クロックに同期して行われます。

開始条件、再開始条件、または停止条件の生成要求発行後、内部 SCLn クロックが Low から High へ変化するまでの間にスレーブデバイスからウェイトが挿入された場合、その期間分、生成までの時間が延長されます。

内部 SCLn クロック信号が Low から High へ変化した後、スレーブデバイスがウェイトを挿入した場合は、そのウェイト期間も停止はせず、生成完了割り込み要求を発行しますが、条件生成自体は保証されません。
図 30.61 に、クロック同期化の動作例を示します。

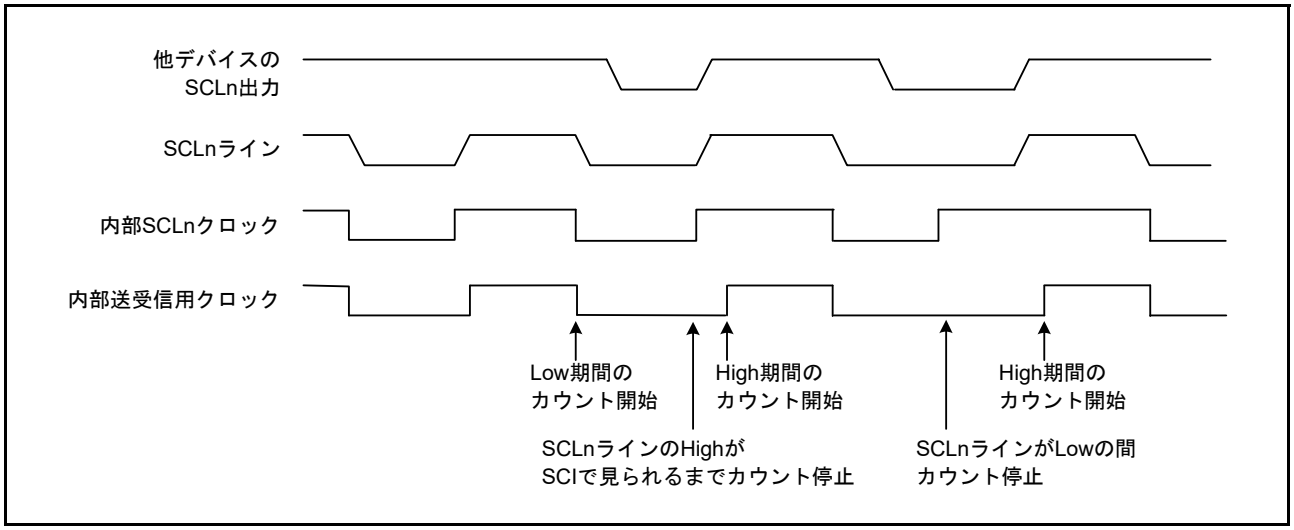


図 30.61　クロック同期化の動作例

30.7.3　SDA 出力遅延

SIMR1.IICDL[4:0] ビットを用いて、SCLn 端子出力の立ち下がりに対し、SDAn 端子出力を遅延させることが可能です。遅延時間は 0 ～ 31 サイクルから選択できます。遅延設定は、対応する内蔵ボーレートジェネレータからのクロック信号のサイクル数を表します（SMR.CKS[1:0] ビットで選択した分周ベースクロック（PCLKA）を基準とします）。SDAn 端子出力の遅延は、開始条件／再開始条件／停止条件の各信号、8 ビットの送信データ、およびアクノリッジビットに適用されます。

SDA 出力遅延が SCLn 端子出力の立ち下がり時間より短い場合、SCLn 端子出力の立ち下がり中に SDAn 端子出力が変化を開始して、スレーブデバイスが誤動作する可能性があります。SDAn 出力遅延は、SCLn 端子出力の立ち下がり時間の最大値（IIC の標準モード、ファストモードでは 300ns）より大きくなるように設定してください。

図 30.62 に、SDA 出力遅延のタイミングを示します。

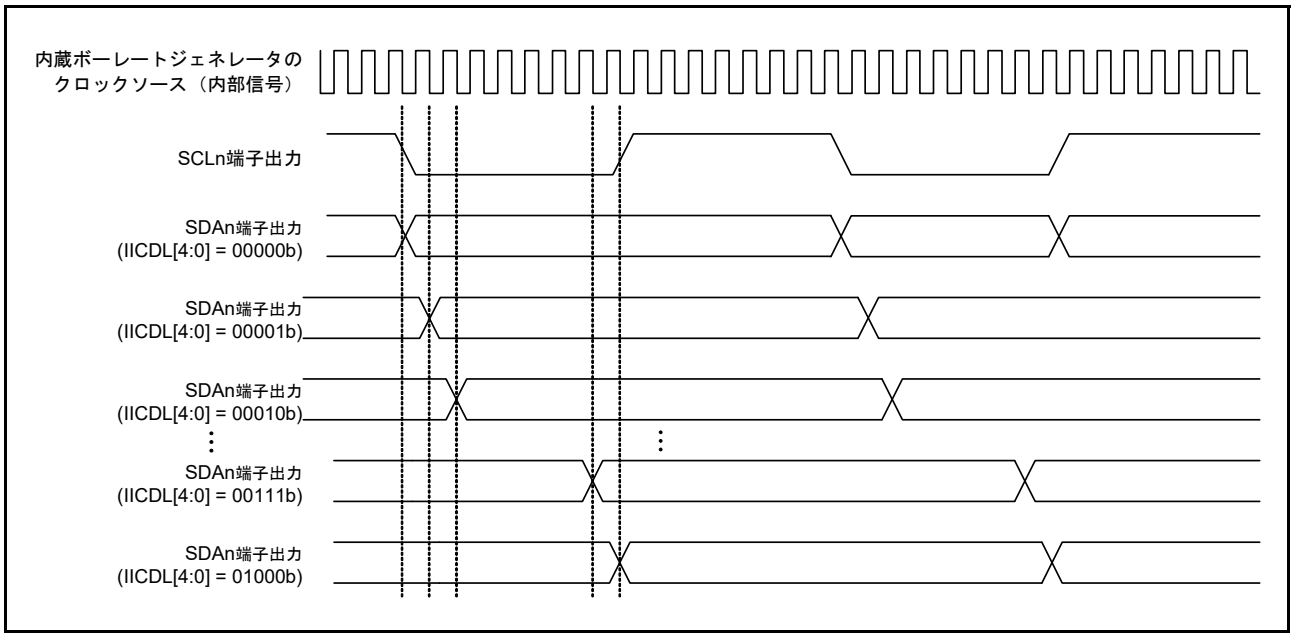


図 30.62　SDA 出力遅延のタイミング

30.7.4　SCI の初期化（簡易 IIC モード）

データの送受信前に、SCR レジスタに初期値 00h を書き込み、図 30.63 の例に示すように、インタフェースを初期化してください。動作モードまたは通信フォーマットを変更する前に、必ず SCR レジスタを初期値にしてください。また、簡易 IIC モード時の通信ポートのオープンドレイン設定は、ポート側で行ってください。

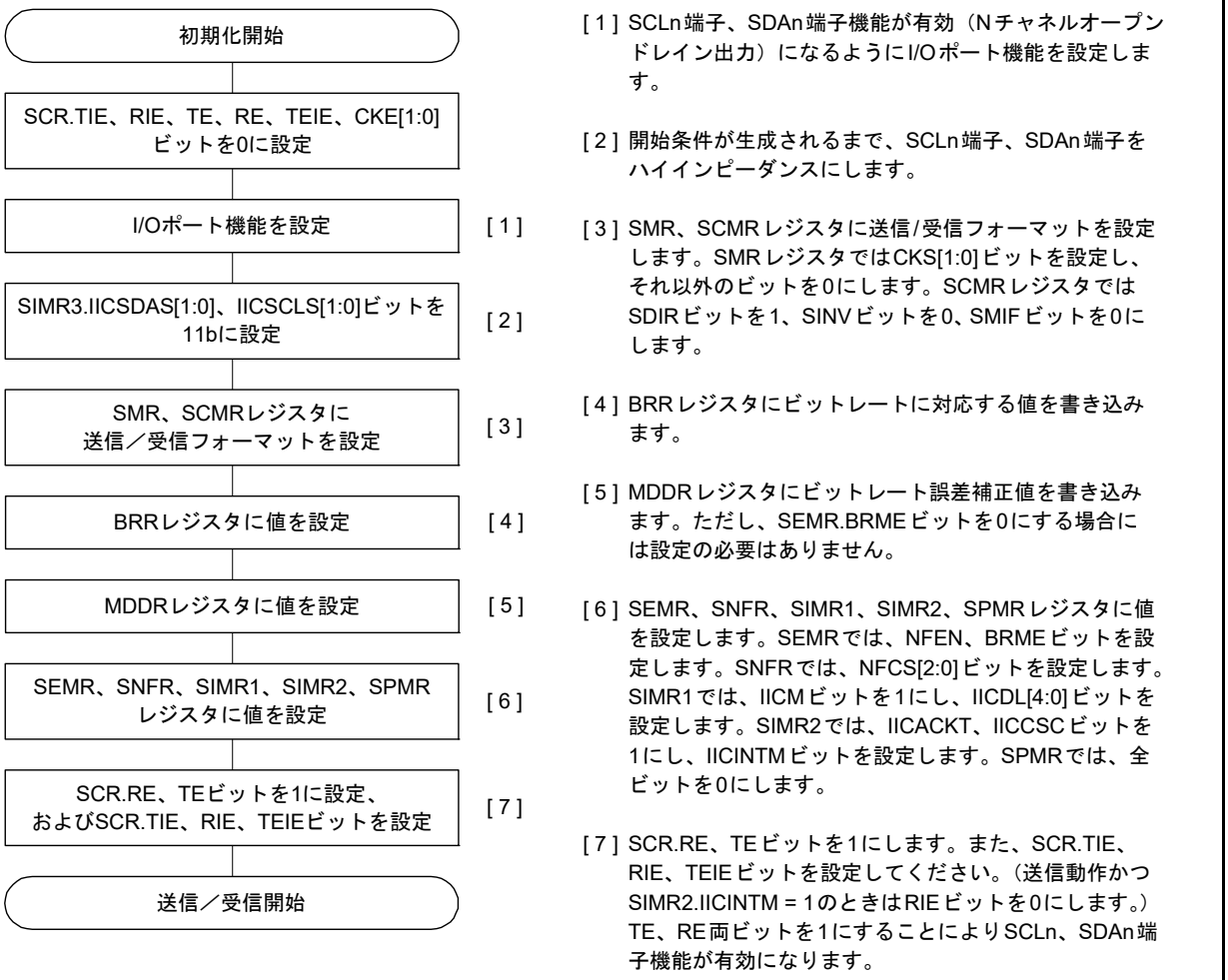


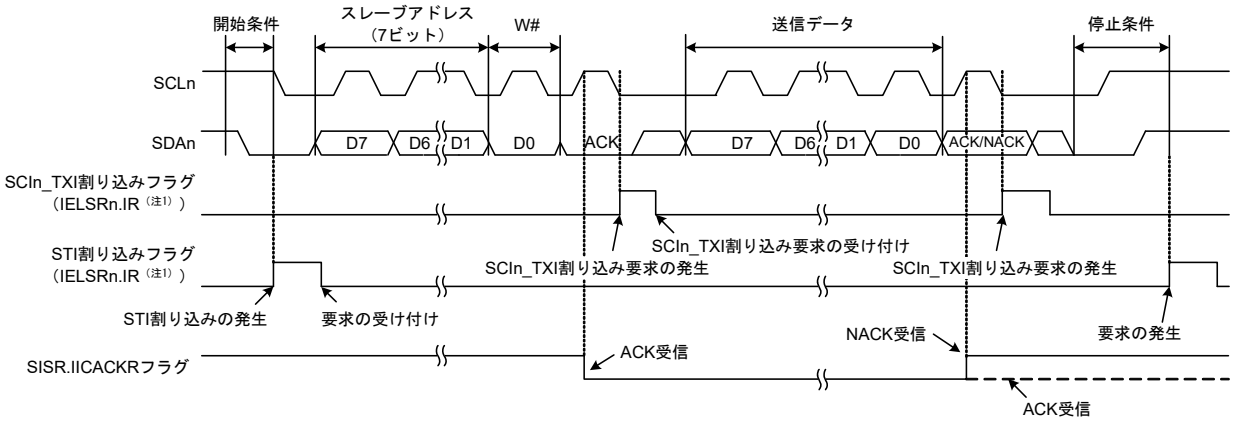
図 30.63　SCI の初期化フローチャート例（簡易 IIC モード）

30.7.5　マスタ送信動作（簡易 IIC モード）

図 30.64 と図 30.65 に、マスタ送信の動作例を、図 30.66 に、データ送信のフローチャート例を示します。下図では、SIMR2.IICINTM ビットが 1（受信割り込み、送信割り込みを使用）で、かつ SCR.RIE ビットが 0（SCIn_RXI および SCIn_ERI 割り込み要求を禁止）の場合を想定しています。STI 割り込みについては、表 30.29 を参照してください。

10 ビットスレーブアドレス使用時は、図 30.66 の [3] ～ [4] の手順を 2 回繰り返します。

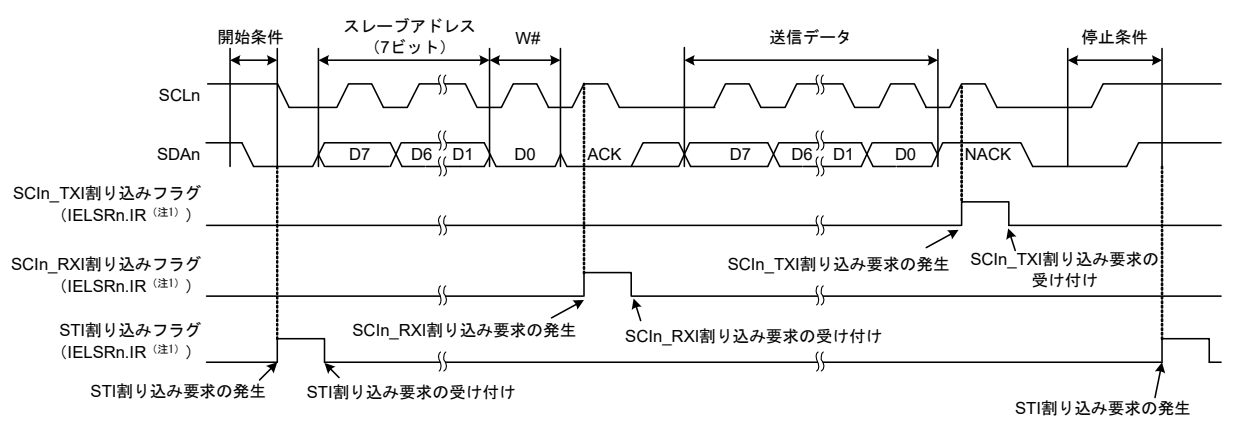
簡易 IIC モードでの送信データエンプティ割り込み（SCIn_TXI）は、クロック同期式送信時の SCIn_TXI 割り込み要求の発生タイミングとは異なり、1 フレームの通信を完了した時点で発生します。



注 1.　対応する割り込みイベント番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

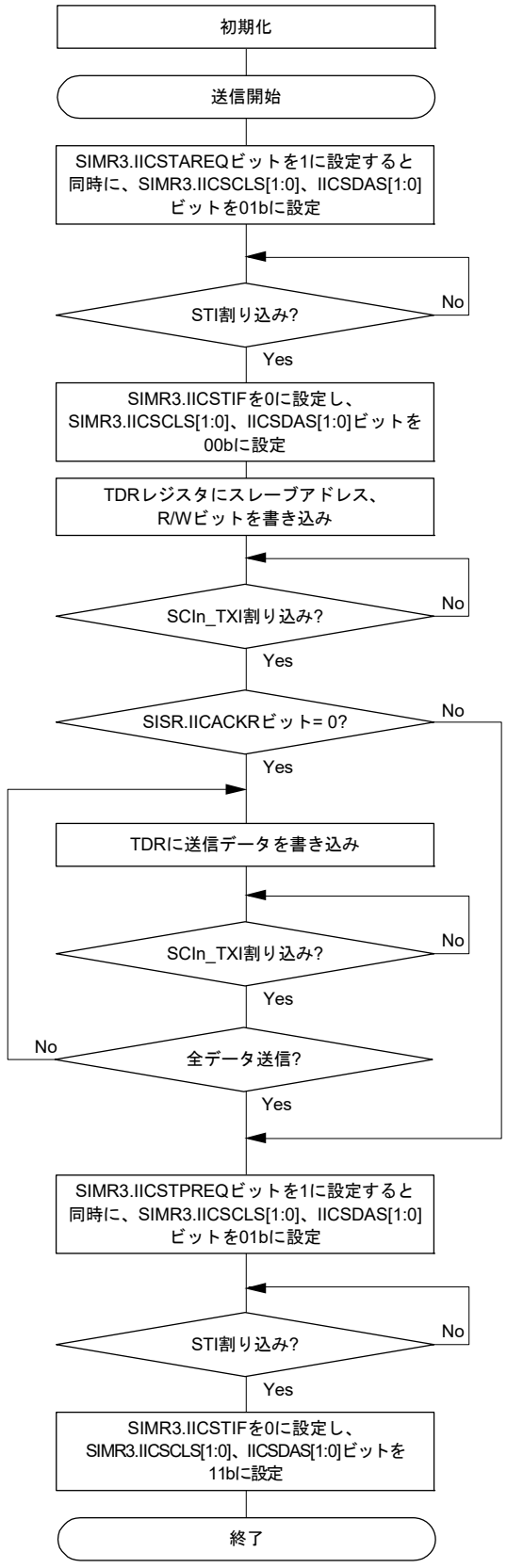
図 30.64　簡易 IIC モードにおけるマスタ送信の動作例 1（7 ビットスレーブアドレス、送信割り込み、受信割り込み使用時）

マスタ送信で、SIMR2.IICINTM ビットを ACK 割り込み、NACK 割り込みを使用して 0 にした場合、ACK 割り込みをトリガにして DMAC または DTC を起動し、データを必要バイト数送信します。NACK を受信した場合は、NACK 割り込みをトリガにして、送信中止や再送信などのエラー処理を行います。



注 1.　対応する割り込みイベント番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

図 30.65　簡易 IIC モードにおけるマスタ送信の動作例 2（7 ビットスレーブアドレス、ACK 割り込み、NACK 割り込み使用時）



[1]

[1] 簡易IICモード時の初期化：
送信の場合、SCR.RIEを0（RXIとERI割り込みを禁止）にします。

[2]

[2] 開始条件生成

[3]

[3] TDRの書き込み：
TDRレジスタにスレーブアドレス、R/Wビット値を書き込みます。

[4]

10ビットスレーブアドレス使用時は[3]～[4]の処理を2回実行

[4] スレーブデバイスからのACK応答の確認：
SISR.IICACKRビットを確認します。SISR.IICACKRの値が0の場合、スレーブデバイスがACKを返したため、動作は継続されます。
SISR.IICACKRの値が1の場合、スレーブデバイスから返信がなく、次の処理として停止条件が生成されます。

[5]

[5] シリアル送信の継続手順：
送信を続けるときには、TDRに追加の送信データを書き込みます。送信する最初のデータを除いて、TXI割り込み要求を用いてDTCを起動し、TDRにデータを書き込むことができます。

[6]

[6] 停止条件生成

注．　簡易 IIC モードでは SCIn_TXI 割り込みは通信を完了した時点で発生します。

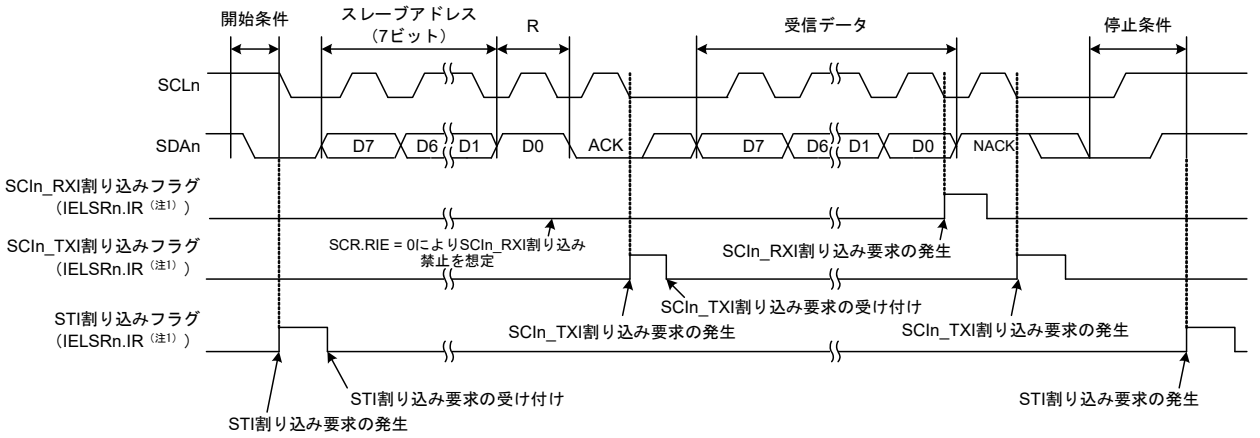
図 30.66　簡易 IIC モードにおけるマスタ送信のフローチャート例（送信割り込み、受信割り込み使用時）

30.7.6　マスタ受信動作（簡易 IIC モード）

図 30.67 に簡易 IIC モードにおけるマスタ受信の動作例を、図 30.68 にマスタ受信のフローチャート例を示します。

下図では、SIMR2.IICINTM ビットが 1（受信割り込み、送信割り込みを使用）の場合を想定しています。

簡易 IIC モードでの送信データエンプティ割り込み（SCIn_TXI）は、クロック同期式送信時の SCIn_TXI 割り込み要求の発生タイミングとは異なり、1 フレームの通信を完了した時点で発生します。



注 1.　対応する割り込みイベント番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

図 30.67　簡易 IIC モードにおけるマスタ受信の動作例（7 ビットスレーブアドレス、送信割り込み、受信割り込み使用時）

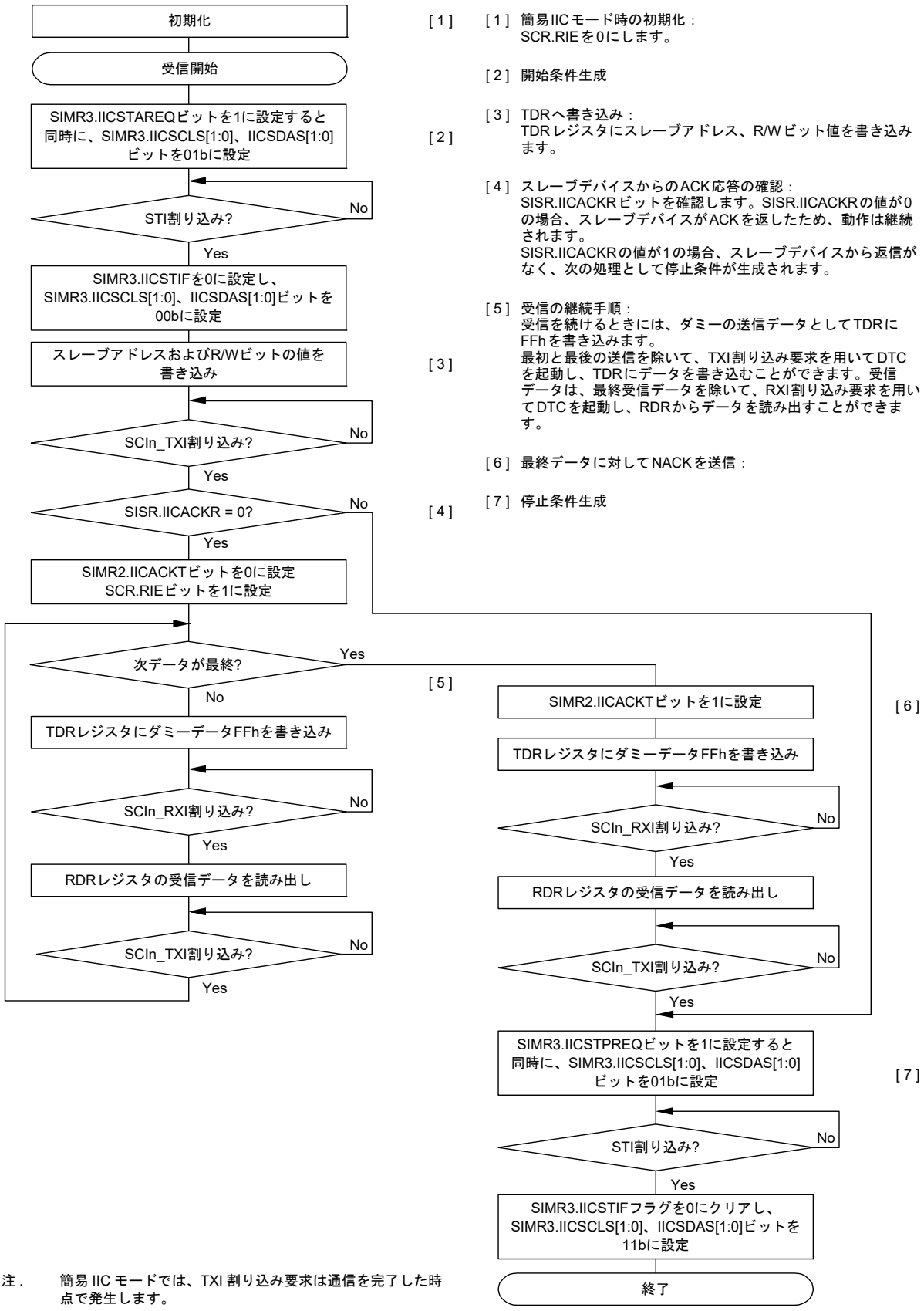


図 30.68　簡易 IIC モードにおけるマスタ受信のフローチャート例（送信割り込み、受信割り込み使用時）

30.8　簡易 SPI モードの動作

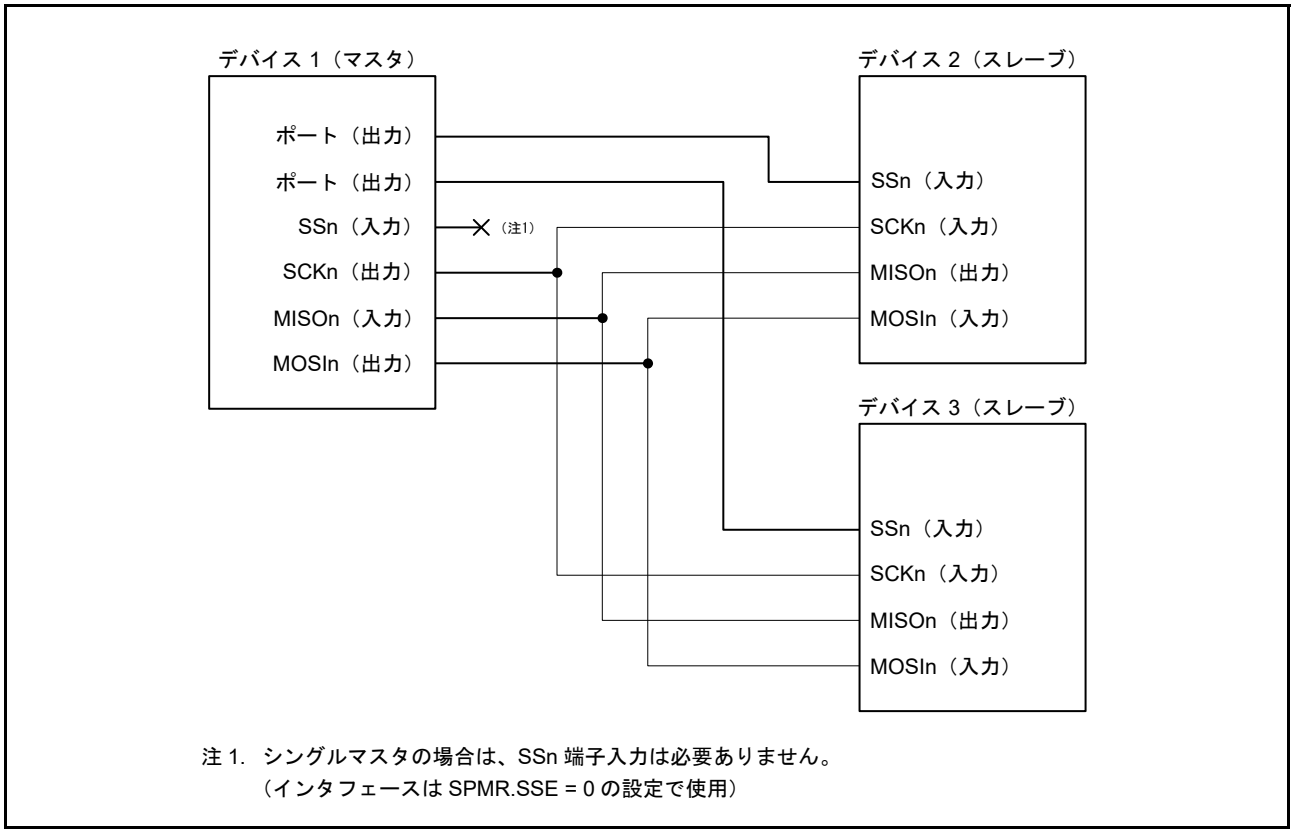
SCI は拡張機能として、1 つまたは複数のマスタと複数のスレーブとの間で通信が可能な、簡易 SPI モードをサポートしています。

SCI を簡易 SPI モードにするには、クロック同期式モードの設定（SCMR.SMIF = 0、SIMR1.IICM = 0、SMR.CM = 1）を使用し、SPMR.SSE ビットを 1 にします。マスタが一つしかない構成では、簡易 SPI モードでマスタとして使用されているデバイスへの接続に、マスタ側の SSn 端子機能は必要ありません。したがってそのような場合は、SPMR.SSE ビットを 0 にします。

図 30.69 に、簡易 SPI モードの接続例を示します。汎用ポート端子を使用して、マスタからの SSn 出力信号を生成してください。

簡易 SPI モードでは、クロック同期式モードと同様に、クロックパルスに同期してデータを送受信します。通信データの 1 キャラクタは 8 ビットデータで構成され、パリティビットの付加はできません。SCMR.SINV ビットを 1 にすることで、送受信データを反転できます。

SCI 内部では送信部と受信部は独立しており、クロックを共有することで全二重通信が可能です。また、送信部と受信部はどちらもバッファ構成になっているため、送信中に次の送信データを書き込むことや、受信中に前の受信データを読み出すことが可能です。これにより、連続転送が可能となります。



注 1.　シングルマスタの場合は、SSn 端子入力は必要ありません。
（インタフェースは SPMR.SSE = 0 の設定で使用）

図 30.69　簡易 SPI モードでの接続例（シングルマスタ時、SPMR.SSE ビット = 0）

30.8.1　マスタモード、スレーブモードと各端子の状態

簡易 SPI モードでは、マスタモード（SCR.CKE[1:0] = 00b または 01b、かつ SPMR.MSS = 0）と、スレーブモード（SCR.CKE[1:0] = 10b または 11b、かつ SPMR.MSS = 1）で、各端子の入出力方向が異なります。

表 30.25 に、端子状態、モード、および SSn 端子入力レベルの間の関係を示します。

表 30.25　モードおよびSSn端子入力と各端子状態の関係

モード	SSn端子入力	TXDn端子状態	RXDn端子状態	SCKn端子状態
マスタモード（注1）	High レベル（通信可能）	送信データ出力（注2）	受信データ入力	クロック出力（注3）
	Low レベル（通信不可能）	ハイインピーダンス	受信データ入力（無効）	ハイインピーダンス
スレーブモード	High レベル（通信不可能）	受信データ入力（無効）	ハイインピーダンス	クロック入力（無効）
	Low レベル（通信可能）	受信データ入力	送信データ出力	クロック入力

注 1.　シングルマスタ構成（SPMR.SSE ビット = 0）のみの場合、SSn 端子の入力レベルにかかわらず、通信可能となります。これは、SSn 端子入力が High のときと等価です。SSn 端子機能は不要であり、別の用途に使用できます。
注 2.　シリアル送信禁止（SCR.TE ビット = 0）の場合、MOSIn 端子出力はハイインピーダンスです。
注 3.　マルチマスタ構成（SPMR.SSE ビット = 1）では、シリアル送受信禁止（SCR.TE および SCR.RE ビット = 00b）の場合、SCKn 端子出力はハイインピーダンスです。

30.8.2　マスタモード時の SS 機能

SCR.CKE[1:0] ビットを 00b にして、SPMR.MSS ビットを 0 にすると、マスタモードになります。

シングルマスタ構成（SPMR.SSE ビット = 0）では、SSn 端子が使用されないため、SSn 端子の値にかかわらず送受信が可能です。

マルチマスタ構成（SPMR.SSE ビット = 1）では、SSn 端子入力が High の場合、他にマスタが存在しないこと、あるいは別のマスタが送受信動作を行っていないことを示すために、マスタデバイスは送受信動作を開始する前に、SCKn 端子からクロック信号を出力します。

マルチマスタ構成（SPMR.SSE = 1）において SSn 端子入力が Low の場合は、別のマスタが存在し、送受信を行っていることを示しています。MOSIn 端子出力と SCKn 端子出力はハイインピーダンス状態になり、送受信動作を開始することができません。また、SPMR.MFF ビットが 1 のときは、モードフォルトエラーを示します。マルチマスタ構成では、SPMR.MFF フラグを読むことでエラー処理を開始してください。なお、送受信動作中にモードフォルトが発生しても、送受信動作は停止せず、送受信動作完了後に MOSIn 端子出力および SCKn 端子出力がハイインピーダンス状態になります。マスタからの SS 出力信号については、汎用ポート端子で制御してください。

30.8.3　スレーブモード時の SS 機能

SCR.CKE[1:0] ビットを 10b にして、SPMR.MSS ビットを 1 にすると、スレーブモードになります。SSn 端子入力が High のとき、MISOn 出力端子の状態はハイインピーダンスになり、SCKn 端子からのクロック入力は無視されます。SSn 端子入力が Low のとき、SCKn 端子からのクロック入力が有効になり、送信または受信動作が可能になります。

送信または受信動作中に SSn 端子入力が Low から High に変化した場合、MISOn 出力端子の状態をハイインピーダンスにします。なお、内部的な送信または受信処理は、SCKn 端子から入力されるクロックレートで継続し、1 キャラクタ分の送受信が完了すると、動作が停止して、割り込み（SCIn_TXI、SCIn_RXI、SCIn_TEI のいずれか）が発生します。

30.8.4　クロックと送受信データの関係

SPMR.CKPOL ビットと SPMR.CKPH ビットを用いて、送受信に用いるクロックを 4 種類から選択できます。クロック信号と送受信データの関係を図 30.70 に示します。マスタモードとスレーブモードの両方で、クロックと送受信データの関係は同一です。これは、SSn 端子入力が High のときと等価です。

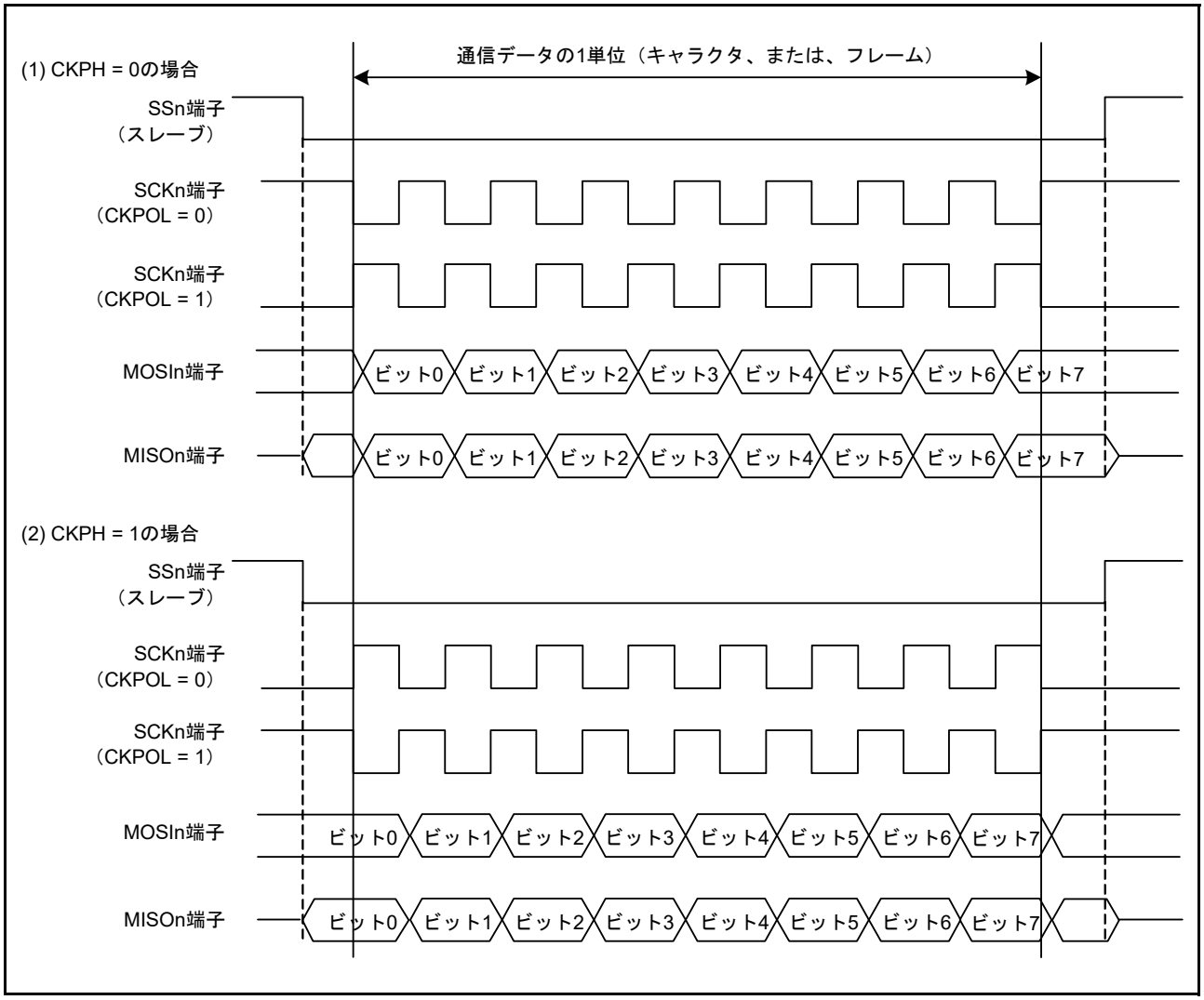


図 30.70　簡易 SPI モードにおけるクロックと送受信データの関係

30.8.5　SCI の初期化（簡易 SPI モード）

簡易 SPI モードでの初期化は、クロック同期式モードの場合と同じです。初期化フローの例は、図 30.32 を参照してください。SPMR.CKPOL ビットと SPMR.CKPH ビットは、マスタデバイスとスレーブデバイスの両方に適切なクロック信号となるように設定する必要があります。

動作モードや転送フォーマットに変更を加える場合は、必ず SCR レジスタを初期化してから行ってください。

注 .　0 になるのは RE ビットのみです。SSR.ORER、FER、PER、および RDR の各フラグは初期化されません。

SCR レジスタの TIE ビットが 1 のときに、TE ビットの値を 1 から 0、または 0 から 1 に変更すると、送信データエンプティ割り込み（SCIn_TXI）が発生します。

30.8.6　シリアルデータの送受信（簡易 SPI モード）

マスタモードでは、送受信先のスレーブデバイスの SSn 端子を、送受信開始前に Low にして、送受信終了後に High にしてください。それ以外の手順はクロック同期式モードと同様です。

30.9　ビットレートモジュレーション機能

ビットレートモジュレーション機能では、PCLKA が SMR/SMR_SMCI レジスタの CKS[1:0] ビットで選択された場合に、MDDR レジスタで指定した数を用いて、ビットレートを均一に補正することが可能です。

調歩同期式モードにおいて、PCLKA が SMR/SMR_SMCI レジスタの CKS[1:0] ビットで選択されたとき、BRR と MDDR がそれぞれ 0 と 160 の場合の例を図 30.71 に示します。この例では、基本クロックの周期が均一に 256/160 に補正され、同時にビットレートも 160/256 に補正されています。

注 .　内部クロックを有効にするとバイアスが発生し、内部基本クロックのパルス幅に伸縮が生じます。

クロック同期式モードと、簡易 SPI モードでの最高速設定（SMR.CKS[1:0] = 00b、SCR.CKE[1] = 0、および BRR = 0）では、この機能を使用しないでください。

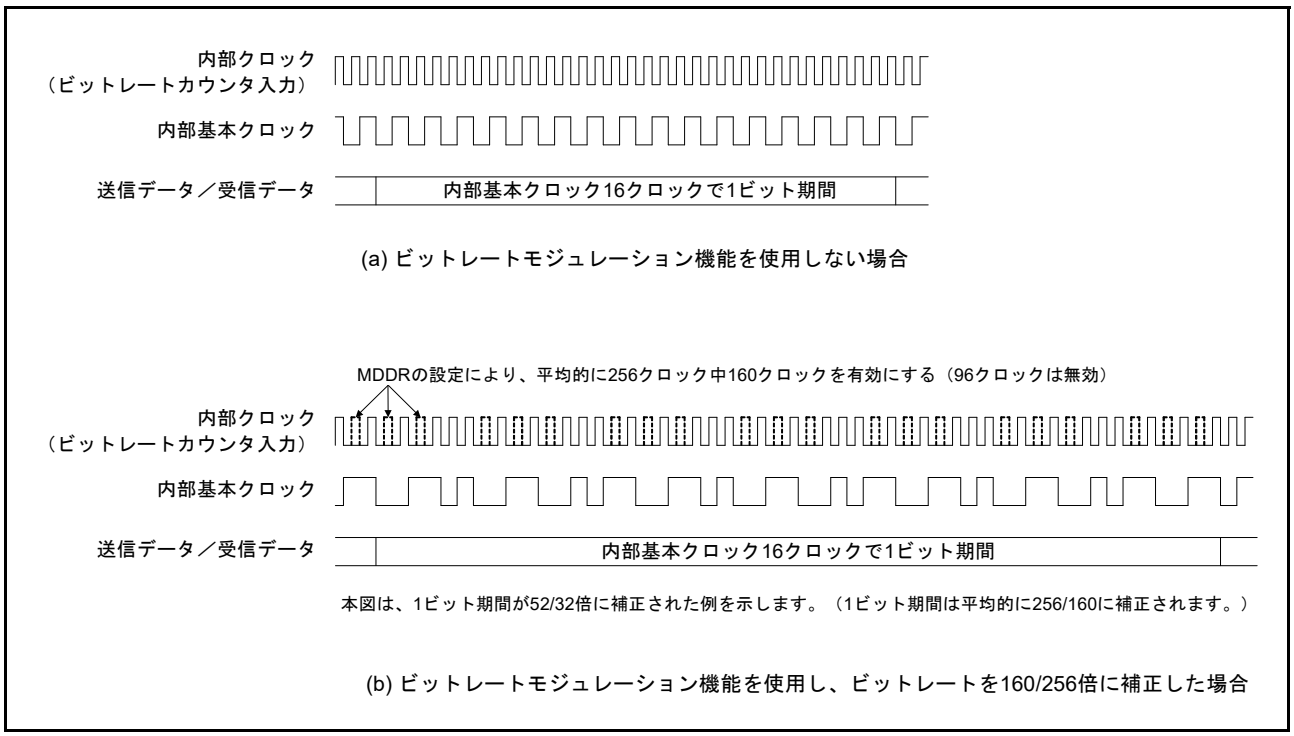


図 30.71　ビットレートモジュレーション機能使用時の内部基本クロックの例

30.10　割り込み要因

30.10.1　SCIn_TXI および SCIn_RXI 割り込みのバッファ動作（非 FIFO 選択時）

割り込みコントローラ（ICU）の割り込みステータスフラグが 1 のときは、SCIn_TXI 割り込みと SCIn_RXI 割り込みの発生条件が成立していても、ICU は割り込み要求を出力せず、内部で保持します。内部で保持できる容量は、1 要因ごとに 1 要求までです。

ICU の割り込みステータスフラグが 0 になると、ICU 内に保持されていた割り込み要求が出力されます。割り込み要求が出力されると、内部で保持されていた割り込みは自動的に破棄されます。また、内部で保持されていた割り込み要求は、対応する割り込み許可ビット（SCR/SCR_SMCI レジスタの TIE ビットまたは RIE ビット）をクリアすることでも破棄できます。

30.10.2　SCIn_TXI および SCIn_RXI 割り込みのバッファ動作（FIFO 選択時）

SCIn_TXI 割り込みと SCIn_RXI 割り込みは、ICU の割り込みステータスフラグが 1 であっても、ICU に対して割り込み要求を出力しません。ICU の割り込みステータスフラグが 0 にクリアされた場合に SCIn_TXI 割り込みと SCIn_RXI 割り込みの条件が満たされていれば、割り込み要求が発生します。

30.10.3　調歩同期式モード、クロック同期式モード、および簡易 SPI モードにおける割り込み

(1)　非 FIFO 選択時

表 30.26 に、調歩同期式モード、クロック同期式モード、および簡易 SPI モードにおける割り込み要因を示します。各割り込み要因には、異なる割り込みベクタの割り当てが可能です。SCR レジスタの許可ビットによって、割り込み要因を個別に許可／禁止することが可能です。

SCR.TIE ビットが 1 のとき、送信データが TDR レジスタまたは TDRHL レジスタ（注 1）から TSR レジスタへ転送されると、SCIn_TXI 割り込み要求が発生します。また、SCIn_TXI 割り込み要求は、SCR.TE ビットと SCR.TIE ビットを 1 命令で同時に 1 にすることでも発生します。SCIn_TXI 割り込み要求を用いて DMAC または DTC を起動し、データ転送を行うことができます。

SCIn_TXI 割り込み要求は、SCR.TIE ビットが 0 の状態で SCR.TE ビットを 1 にした場合、または SCR.TE ビットが 1 の状態で SCR.TIE ビットを 1 にした場合には発生しません。（注 2）

SCR.TEIE ビットが 1 のとき、送信データの最終ビットを送信するタイミングまでに次のデータが書き込まれていないと、SSR.TEND フラグが 1 になり、SCIn_TEI 割り込み要求が発生します。また、SCR.TE ビットを 1 にしてから TDR レジスタまたは TDRHL レジスタ（注 1）に送信データを書き込むまでの間は、SSR.TEND フラグは 1 を保持しており、SCR.TEIE ビットを 1 にすると SCIn_TEI 割り込み要求が発生します。

TDR レジスタまたは TDRHL レジスタ（注 1）にデータを書き込むと、SSR.TEND フラグがクリアされて SCIn_TEI 割り込み要求は取り消されますが、取り消されるまである程度時間がかかります。

SCR.RIE ビットが 1 のとき、受信データが RDR レジスタに格納されると、SCIn_RXI 割り込み要求が発生します。SCIn_RXI 割り込み要求を用いて DMAC または DTC を起動し、データ転送を行うことができます。

SCR.RIE ビットが 1 のとき、SSR.ORER、FER、PER のいずれかのフラグが 1 になると、SCIn_ERI 割り込み要求が発生します。このとき、SCIn_RXI 割り込み要求は発生しません。これら 3 つのフラグ（ORER、FER、PER）のすべてをクリアすることによって、SCIn_ERI 割り込み要求を取り消すことができます。

(2)　FIFO 選択時

表 30.27 に、FIFO モード選択時の割り込み要因を示します。

SCR.TIE ビットが 1 のとき、FTDRL レジスタに格納されたデータ数が FCR.TTRG で指示されたしきい値以下になると、SCIn_TXI 割り込み要求が発生します。また、SCIn_TXI 割り込み要求は、SCR.TE ビットと SCR.TIE ビットを 1 命令で同時に 1 にすることでも発生します。

SCIn_TXI 割り込み要求は、SCR.TIE ビットが 0 の状態で SCR.TE ビットを 1 にした場合、または SCR.TE ビットが 1 の状態で SCR.TIE ビットを 1 にした場合には発生しません。

SCR.TEIE ビットが 1 のとき、送信データの最終ビットを送信するタイミングまでに次のデータが FTDRL レジスタに書き込まれていないと、SSR_FIFO.TEND フラグが 1 になり、SCIn_TEI 割り込み要求が発生します。

SCR.RIE ビットが 1 のとき、FRDRL レジスタに格納されたデータ数が FCR.RTRG で指示されたしきい値以上になると、SCIn_RXI 割り込み要求が発生します。RTRG が 0 の場合は、受信 FIFO 内のデータ数が 0 であっても、SCIn_RXI 割り込み要求は発生しません。

SCR.RIE ビットが 1 のとき、SSR_FIFO.ORER フラグが 1 になるか、あるいは、フレーミングエラーまたはパリティエラーのあるデータが FRDRL レジスタに格納されると、SCIn_ERI 割り込み要求が発生します。FRDRL レジスタに格納されたデータ数がしきい値以上であると、同時に SCIn_RXI 割り込み要求も発生します。SSR_FIFO.ORER、FER、および PER フラグをすべてクリアすることで、SCIn_ERI 割り込み要求を取り消すことができます。

注 1.　調歩同期式モードにおいて、データ長 9 ビットを選択した場合です。

注 2.　最終データの送信時に SCIn_TXI 割り込みを一時的に禁止して、送信終了割り込みによる処理を行った後、新たにデータ送信を開始したい場合は、SCR.TIE ビットではなく、ICU の割り込み要求許可ビットを用いて、割り込みの発行を制御してください。この方法によって、新しいデータの送信時に、SCIn_TXI 割り込み要求の発生が抑止されるのを防ぐことができます。

表 30.26　SCIの割り込み要因（非FIFO選択時）

名称	割り込み要因	割り込みフラグ	割り込み許可	DTCの起動	DMACの起動
SCIn_ERI	受信エラー（注1）	ORER, FER, PER, DFER, DPER	RIE	不可能	不可能
SCIn_RXI	受信データフル	RDRF	RIE	可能	可能
	アドレス一致	DCMF	RIE	可能	可能
SCIn_AM	アドレス一致	DCMF	—	可能	可能
SCIn_TXI	送信データエンプティ	TDRE	TIE	可能	可能
SCIn_TEI	送信終了	TEND	TEIE	不可能	不可能

注 1.　割り込みフラグが ORER になるのはクロック同期式モードおよび簡易 SPI モードのみです。

表 30.27　SCIの割り込み要因（FIFO選択時）

名称	割り込み要因	割り込みフラグ	割り込み許可	DTCの起動	DMACの起動
SCIn_ERI	受信エラー（注1）	ORER, FER, PER, DFER, DPER	RIE	不可能	不可能
		DR（FCR.DRES = 1の場合）	RIE	不可能	不可能
SCIn_RXI	受信データフル	RDF	RIE	可能	可能
	受信データレディ	DR（FCR.DRES = 0の場合）	RIE	可能	可能
	アドレス一致	DCMF	RIE	可能	可能
SCIn_AM	アドレス一致	DCMF	—	可能	可能
SCIn_TXI	送信データエンプティ	TDFE	TIE	可能	可能
SCIn_TEI	送信終了	TEND	TEIE	不可能	不可能

注 1.　割り込みフラグが ORER になるのはクロック同期式モードおよび簡易 SPI モードのみです。

30.10.4　スマートカードインタフェースモードにおける割り込み

スマートカードインタフェースモードにおける割り込み要因を表 30.28 に示します。このモードでは、送信終了割り込み（SCIn_TEI）要求とアドレス一致（SCIn_AM）要求は使用できません。

表 30.28　SCIの割り込み要因

名称	割り込み要因	割り込みフラグ	割り込み許可	DTCの起動	DMACの起動
SCIn_ERI	受信エラー、 エラーシグナル検出	ORER, FER, ERS	RIE	不可能	不可能
SCIn_RXI	受信データフル	RDRF	RIE	可能	可能
SCIn_TXI	送信終了	TEND	TIE	可能	可能

スマートカードインタフェースモードの場合も、DMAC または DTC を使用した送受信が可能です。送信動作では、SSR_SMCI.TEND フラグが 1 になると、SCIn_TXI 割り込み要求が発生します。あらかじめ DMAC または DTC の起動要因として SCIn_TXI 割り込み要求を設定しておけば、SCIn_TXI 割り込み要求によって DMAC または DTC が起動され、送信データの転送が可能になります。TEND フラグは、DMAC または DTC によるデータ転送時に自動的に 0 になります。

エラーが発生した場合は、SCI が自動的に同じデータを再送信します。再送信中、TEND フラグは 0 のまま保持され、DMAC または DTC は起動されません。したがって、エラー発生後の再送信を含め、SCI と DMAC または DTC が、指定されたバイト数を自動的に送信します。ただし、エラー発生時に SSR_SMCI.ERS フラグは自動的に 0 にクリアされません。そのため、あらかじめ SCR_SMCI.RIE ビットを 1 にしておき、エラー発生時に SCIn_ERI 割り込み要求を発生させることで、ERS フラグをクリアしてください。

なお、DMAC または DTC を使用して送受信を行う場合は、必ず DMAC または DTC を有効にしてから SCI の設定を行ってください。DMAC または DTC の設定方法については、「17.　DMA コントローラ（DMAC）」と「18.　データトランスファコントローラ（DTC）」を参照してください。

受信動作では、受信データが RDR レジスタに格納されると、SCIn_RXI 割り込み要求が発生します。あらかじめ DMAC または DTC の起動要因として SCIn_RXI 割り込み要求を設定しておけば、SCIn_RXI 割り込み要求によって DMAC または DTC が起動され、受信データの転送が可能になります。エラーが発生した場合は、エラーフラグがセットされます。そのため、DMAC または DTC は起動せず、代わりに CPU に対して SCIn_ERI 割り込み要求が発行されます。エラーフラグをクリアしてください。

30.10.5　簡易 IIC モードにおける割り込み

簡易 IIC モードにおける割り込み要因を表 30.29 に示します。STI 割り込みは、送信終了割り込み（SCIn_TEI）要求に割り当てられます。受信エラー割り込み（SCIn_ERI）要求とアドレス一致（SCIn_AM）要求は使用できません。

簡易 IIC モードにおいても、DMAC または DTC を使用した送受信が可能です。

SIMR2.IICINTM ビットが 1 のときは、次の設定を行ってください。

- SCLn 信号の 8 ビット目の立ち下がりで、SCIn_RXI 割り込み要求が発生します。あらかじめ DMAC または DTC の起動要因として SCIn_RXI 割り込み要求を設定しておけば、SCIn_RXI 割り込み要求によって DMAC または DTC が起動され、受信データの転送が可能になります。
- また、SCLn 信号の 9 ビット目（アクノリッジビット）の立ち下がりで、SCIn_TXI 割り込み要求が発生します。あらかじめ DMAC または DTC の起動要因として SCIn_TXI 割り込み要求を設定しておけば、SCIn_TXI 割り込み要求によって DMAC または DTC が起動され、送信データの転送が可能になります。

SIMR2.IICINTM ビットが 0 のときは、次の設定を行ってください。

- SCLn 信号の 9 ビット目（アクノリッジビット）の立ち上がりで、SDAn 端子入力が Low であると、SCIn_RXI 割り込み要求（ACK 検出）が発生します。
- SCLn 信号の 9 ビット目（アクノリッジビット）の立ち上がりで、SDAn 端子入力が High であると、SCIn_TXI 割り込み要求（NACK 検出）が発生します。
- あらかじめ DMAC または DTC の起動要因として SCIn_RXI 割り込み要求を設定しておけば、SCIn_RXI 割り込み要求によって DMAC または DTC が起動されて、受信データの転送が可能になります。

なお、DMAC または DTC を使用して送受信を行う場合は、必ず DMAC または DTC を有効にしてから SCI の設定を行ってください。

SIMR3.IICSTAREQ、IICRSTAREQ、IICSTPREQ の各ビットを用いて開始条件、再開始条件、停止条件を生成した場合、生成が完了すると STI 割り込み要求が発生します。

表 30.29　SCIの割り込み要因

名称	割り込み要因	割り込みフラグ	割り込み許可	DTCの起動	DMACの起動
SCIn_RXI	受信、ACK検出	—	RIE	可能	可能
SCIn_TXI	送信、NACK検出	—	TIE	可能	可能
STIn	開始条件、再開始条件、停止条件生成終了	IICSTIF	TEIE	不可能	不可能

注 1.　SIMR2.IICINTM ビットが 1（受信割り込み、送信割り込みを使用）の場合にのみ、DTC の起動が可能です。

30.11　イベントリンク機能

SCI は、各割り込み要因をイベントとしてイベントリンクコントローラ（ELC）へ出力し、あらかじめ設定しておいたモジュールを動作させることが可能です。

イベントは、対応する割り込みの割り込み要求許可ビットの設定に関係なく出力させることができます。

(1)　エラーイベント出力（受信エラーまたはエラーシグナル検出時）

- 調歩同期式モードで、受信中にパリティエラーが発生して異常終了したことを示します。
- 調歩同期式モードで、受信中にフレーミングエラーが発生して異常終了したことを示します。
- 受信中にオーバーランエラーが発生して異常終了したことを示します。
- スマートカードインタフェースモードで、送信時にエラー信号が検出されたことを示します。
- FIFO 選択時かつ FCR.DRES ビットが 1 の場合、SSR_FIFO.FER フラグと SSR_FIFO.PER フラグが 0 であり、受信 FIFO データトリガ数より少ない受信データが受信 FIFO バッファに格納され、15ETU 経過したことを示します。

(2)　受信データフルイベント出力

- 簡易 IIC モードで、SIMR2.IICINTM ビットが 0 のとき、ACK が検出されたことを示します。
- 簡易 IIC モードで、SIMR2.IICINTM ビットが 1 のとき、SCLn 信号の 8 ビット目の立ち下がりが検出されたことを示します。
- 簡易 IIC モードでのマスタ送信時に、SIMR2.IICINTM ビットが 1 のときは、受信データフルイベントを使用しないようにイベントリンクコントローラ（ELC）を設定してください。

(a)　非 FIFO 選択時

- 受信データが受信データレジスタ（RDR または RDRHL）に格納されたことを示します。

(b)　FIFO 選択時

- このイベント出力は使用しないでください。

(3)　送信データエンプティイベント出力

- SCR/SCR_SMCI.TE ビットが 0 から 1 に変化したことを示します。
- スマートカードインタフェースモードで、送信が完了したことを示します。
- 簡易 IIC モードで、SIMR2.IICINTM ビットが 0 のとき、NACK が検出されたことを示します。
- 簡易 IIC モードで、SIMR2.IICINTM ビットが 1 のとき、SCLn 信号の 9 ビット目の立ち下がりが検出されたことを示します。

(a)　非 FIFO 選択時

- 送信データが送信データレジスタ（TDR または TDRHL）から送信シフトレジスタ（TSR）へ転送されたことを示します。

(b)　FIFO 選択時

- このイベント出力は使用しないでください。

(4)　送信終了イベント出力

- 送信が完了したことを示します。
- 簡易 IIC モードで、開始条件、再開始条件、停止条件の生成が完了したことを示します。

注 .　FIFO が選択されている場合、このイベント出力は使用しないでください。

(5) アドレス一致イベント出力

- 調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）において、DCCR.DCME ビットが 1 の場合、比較データ（CDR.CMPD）と受信データの 1 フレームが一致したことを示します。

30.12 アドレス不一致イベント出力（SCI0_DCUF）

アドレス不一致イベント出力（SCI0_DCUF）は、調歩同期式モード（マルチプロセッサモードを含む）において、DCCR.DCME ビットが 1 に設定されている場合、比較データ（CDR.CMPD）と受信データの 1 フレームが一致しないことを示します。このイベントは、スヌーズ終了要求に対してのみ使用可能です。

30.13　ノイズ除去機能

ノイズ除去機能に用いるノイズフィルタの構成を図 30.72 に示します。ノイズフィルタは 2 段のフリップフロップ回路と一致検出回路で構成されます。ノイズフィルタの入力信号と、2 段のフリップフロップ回路の出力信号が完全に一致したとき、一致したレベルが内部信号として伝えられます。一致しない場合は前の値が保持されます。ノイズフィルタのサンプリングクロックで、同じレベルが 3 サイクル以上保持された場合、有効な受信信号とみなされます。3 サイクルに達する前にパルスが変化した場合、それは受信信号ではなく、ノイズとみなされます。

SEMR.ABCS = 0 かつ SEMR.ABCSE = 0 の場合、周期は 1 ビット転送期間の 1/16 となります。

SEMR.ABCS = 1 かつ SEMR.ABCSE = 0 の場合、周期は 1 ビット転送期間の 1/8 となります。

SEMR.ABCSE = 1 の場合、周期は 1 ビット転送期間の 1/6 となります。

調歩同期式モードでは、RXDn 端子に入力される受信信号にノイズ除去機能を使用できます。RXDn 端子の受信レベルは、調歩同期式モードの基本クロックを使用して、ノイズフィルタのフリップフロップ回路に取り込まれます。

簡易 IIC モードでは、SDAn 端子と SCLn 端子の各入力信号に、この機能を使用できます。ノイズ除去機能のサンプリングクロックは、ボーレートジェネレータソースクロックを 1、2、4、または 8 で分周することによって SNFR.NFCS[2:0] ビットで選択されます。

ノイズフィルタが有効な状態で基本クロックをいったん停止させ、その後、基本クロック入力を再開させた場合、ノイズフィルタは、クロック停止時の状態から動作を再開します。基本クロックの入力中に SCR.TE ビットと SCR.RE ビットを 0 にすると、ノイズフィルタのフリップフロップ値はすべて 1 に初期化されます。したがって、受信再開時の入力データが 1 の場合は、レベル一致が検出されたと判断され、その結果が内部信号として伝えられます。入力レベルが 0 の場合は、サンプリングサイクルで連続して 3 回信号のレベルが一致するまで、ノイズフィルタの最初の出力値が保持されます。

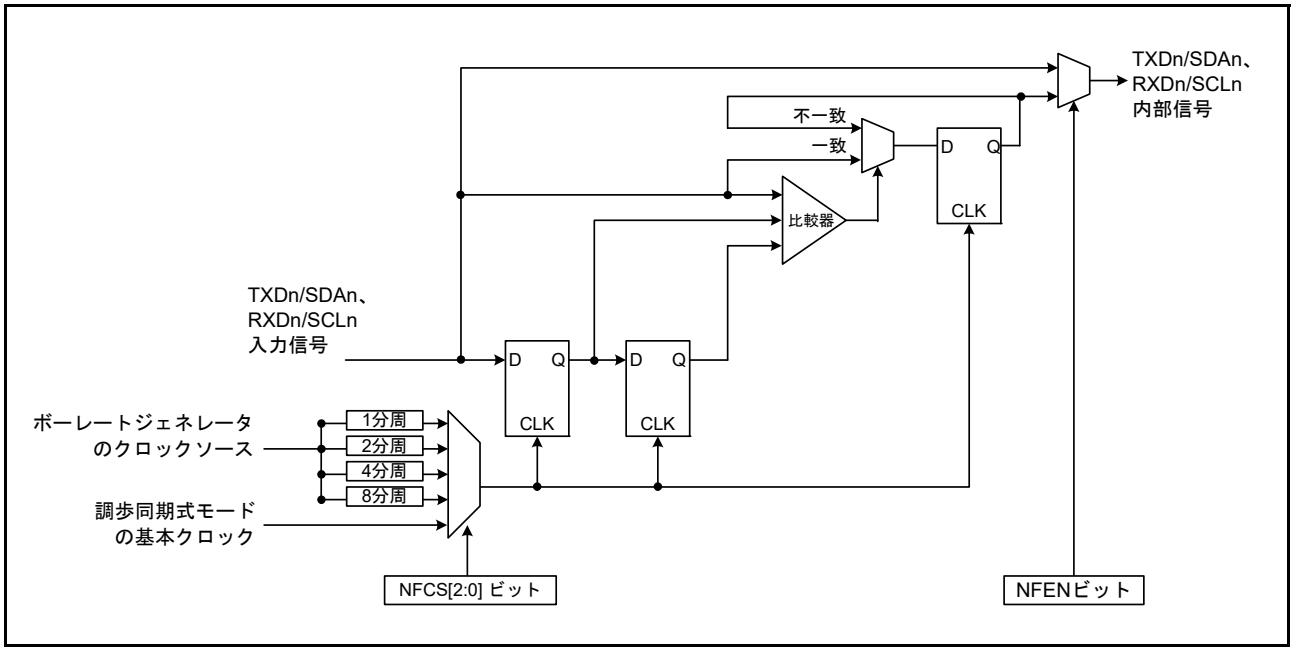


図 30.72　　デジタルノイズフィルタ回路のブロック図

30.14　使用上の注意事項

30.14.1　モジュールストップ状態の設定

モジュールストップコントロールレジスタ B（MSTPCRB）により、SCI の動作禁止／許可を設定できます。SCI は、リセット後の初期状態では動作が停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は、「11.　低消費電力モード」を参照してください。

30.14.2　低消費電力状態での SCI の動作について

(1)　送信

モジュールストップ状態を設定する場合、またはソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、TXDn 端子を汎用入出力ポート機能に切り替えた後、送信動作を停止（SCR/SCR_SMCI レジスタの TIE、TE、TEIE ビットを 0）にしてください。入出力ポートを SCI 接続に設定すると、SPTR レジスタによって TXDn 端子状態の制御が可能になります。TE ビットを 0 にすることにより、TSR レジスタが初期化され、SSR/SSR_SMCI レジスタの TEND ビットは、非 FIFO 選択時には 1 にリセットされ、FIFO 選択時には値が保持されます。モジュールストップ状態またはソフトウェアスタンバイモードから復帰した後の出力端子の状態は、ポートの設定と SPTR レジスタの設定に依存し、低消費電力状態へ遷移する前のレベルを出力する場合があります。送信中に低消費電力状態へ遷移すると、送信中のデータは不定になります。

低消費電力状態を解除した後、同じ送信モードでデータを送信する場合は、以下の手順を実行します。

1. TE ビットを 1 にします。
2. SSR/SSR_FIFO/SSR_SMCI レジスタを読み出します。
3. 連続して TDR レジスタへの書き込みを行い、データ送信を開始します。

異なる送信モードで送信する場合は、SCI の初期化からやり直してください。

図 30.73 に、送信中にソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合のフローチャート例を示します。図 30.74 と図 30.75 に、ソフトウェアスタンバイモード遷移時のポートの端子状態を示します。

DTC 転送による送信モードから、モジュールストップ状態を設定する場合、またはソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、最初に、送信動作を停止（TE ビットを 0）にしてください。低消費電力状態の解除後に DTC による送信を開始する場合は、TE ビットを 1 にしてください。SCIn_TXI 割り込みフラグが 1 になり、DTC による送信が始まります。

(2)　受信

(a)　ウェイクアップ条件としてアドレス一致検出機能を使用しない場合

モジュールストップ状態を設定する場合、またはソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、最初に、受信動作を停止（SCR/SCR_SMCI.RE ビットを 0）にしてください。受信中に遷移すると、受信中のデータは無効になります。

図 30.76 に、受信中にソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合のフローチャート例を示します。

(b)　ウェイクアップ条件としてアドレス一致検出機能を使用する場合

モジュールストップ状態を設定する場合、またはソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、以下の手順を実行します。

1. 低消費電力状態解除後の動作を設定します。
2. CDR.CMPD ビットと DCCR.DCME ビットを 1 にします。
3. 受信動作を許可（SCR/SCR_SMCI.RE = 1）にします。
4. モジュールストップ状態またはソフトウェアスタンバイモードを設定します。

SCI が低消費電力モードへ遷移するとき、受信データ端子（RXD）が Low であれば、SEMR.RXDESEL を 0 にしてください。SEMR.RXDESEL が 1 になっていると、低消費電力モードの解除時にスタートビット（RXD 端子の立ち下がり）が検出されない可能性があります。

図 30.77 に、アドレス一致を用いて受信中にソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合のフローチャート例を示します。

(c)　SCI0 をスヌーズモードで使用する場合

SCI0 をスヌーズモードで使用する場合は、最大ビットレートなどのいくつかの制限事項があります。詳細は、「11.　低消費電力モード」を参照してください。

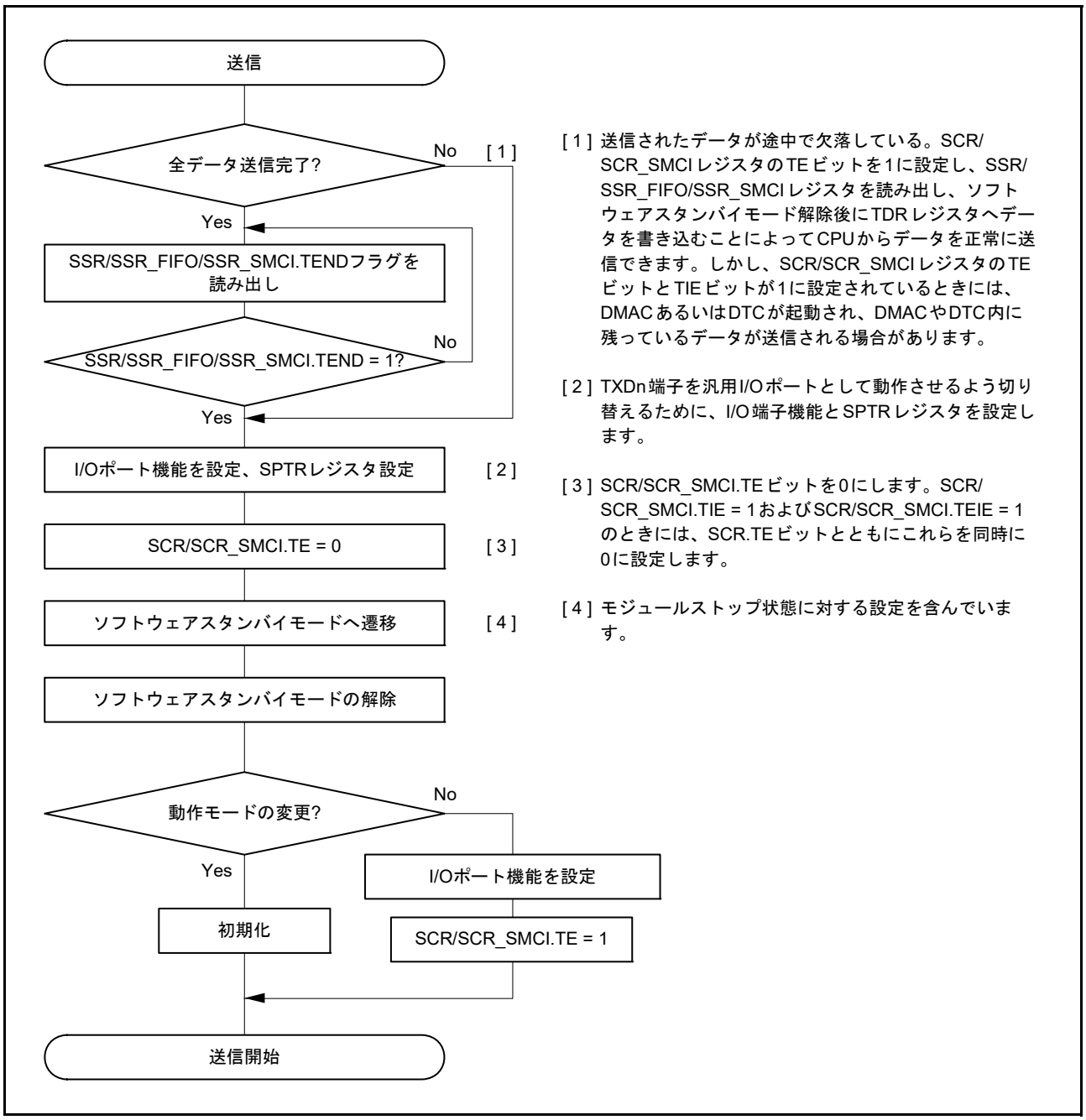


図 30.73　　送信中にソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合のフローチャート例

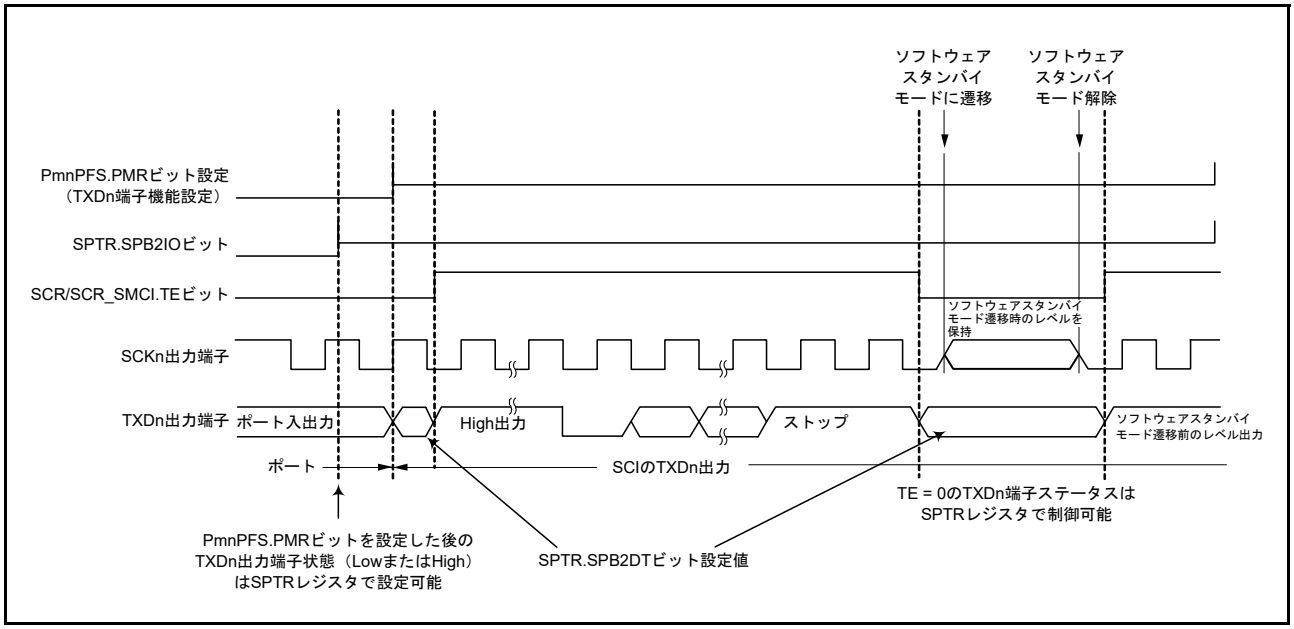


図 30.74　　ソフトウェアスタンバイモード遷移中のポートの端子状態（内部クロック、調歩同期送信）

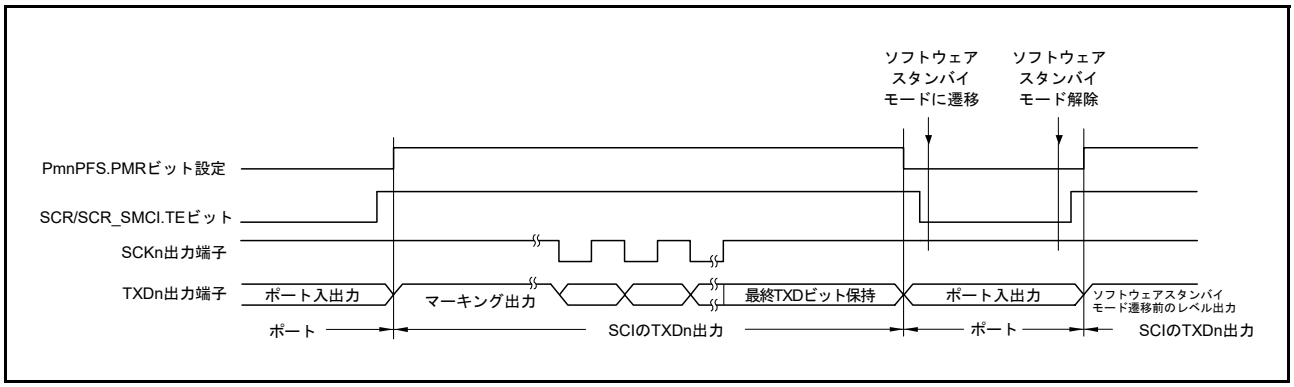


図 30.75　　ソフトウェアスタンバイモード遷移中のポートの端子状態（内部クロック、クロック同期送信）

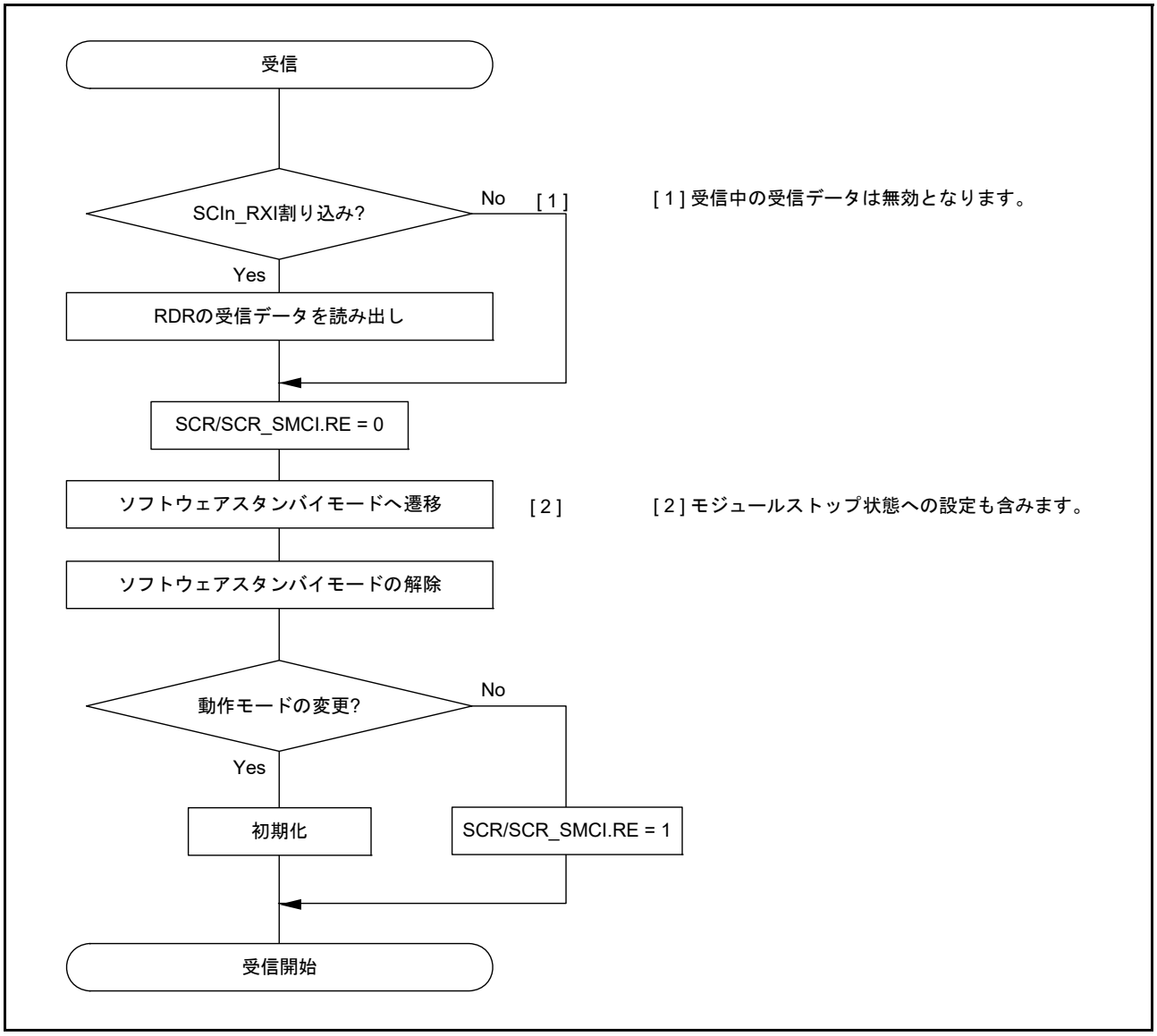


図 30.76　受信中にソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合のフローチャート例

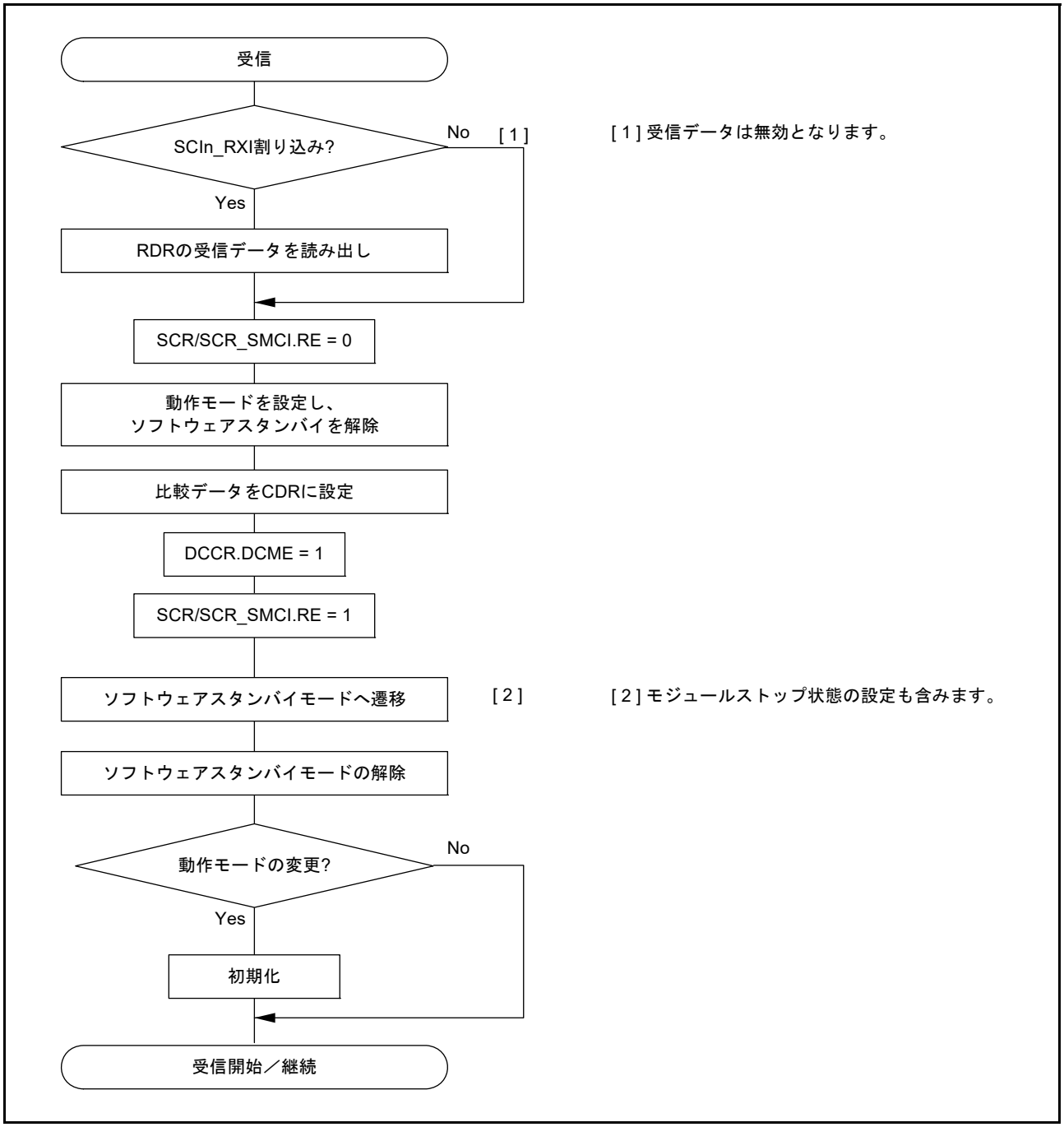


図 30.77　アドレス一致を用いて受信中にソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合のフローチャート例

30.14.3　ブレークの検出と処理について

(1)　非 FIFO 選択時

フレーミングエラー検出時に、RXDn 端子の値を直接読み出すことでブレークを検出できます。ブレークでは、RXDn 端子からの入力がすべて 0 になるため、SSR.FER フラグが 1（フレーミングエラーの発生あり）になり、さらに SSR.PER フラグも 1（パリティエラーの発生あり）になる可能性があります。SCI は、ブレークを受信した後も受信動作を続けます。したがって、FER フラグを 0（フレーミングエラーの発生なし）にしても、再び FER フラグが 1 になります。SEMR.RXDESEL ビットが 1 のとき、SCI は、SSR.FER フラグを 1 にして、次のデータフレームのスタートビットが検出されるまで、受信動作を停止します。このとき、SSR.FER フラグが 0 であれば、ブレーク中は SSR.FER フラグは 0 を保持します。

RXDn 端子が 1 になってブレークが終了した後、最初の RXDn 端子の立ち下がりでスタートビットの先頭を検出すれば、受信動作を開始させることが可能です。

(2)　FIFO 選択時

フレーミングエラーが検出された後、SCI によって 1 フレーム分の連続する受信データが 0 であることが検出された場合、受信動作が停止します。フレーミングエラー検出時に、SPTR.RXDMON ビットの値を読み出すことでブレークを検出できます。RXD 信号がマーク状態になってブレークが終了した後、FRDRHL レジスタへのデータ受信が再開されます。

30.14.4　マーク状態とブレークの送出

SCR/SCR_SMCI.TE ビットが 0（シリアル送信動作を禁止）のとき、SPTR.SPB2IO ビットと SPTR.SPB2DT ビットを用いて TXDn 端子状態の設定が可能です。この方法により、TXDn 端子をマーク状態にしてブレークを送出できます。

SCR/SCR_SMCI.TE ビットを 1（シリアル送信動作を許可）にする前に、SPB2IO ビットと SPB2DT ビットによって通信回線をマーク状態（1 の状態）に設定し、I/O ポート機能を用いて TXDn 端子を変更してください。データ送信時にブレークを出力したいときは、SPB2IO ビットと SPB2DT ビットによって TXDn 端子を 0 出力に設定した後、I/O ポート機能を用いて TXDn 端子を変更し、SCR/SCR_SMCI.TE ビットを 0 にしてください。SCR/SCR_SMCI.TE ビットを 0 にすると、現在の送信状態とは無関係に送信部は初期化されます。

30.14.5　受信エラーフラグと送信動作（クロック同期式モードおよび簡易 SPI モード）

受信エラーフラグ（SSR/SSR_FIFO.ORER）が 1 の状態では、TDR または FTDRL（注 1）レジスタにデータを書き込んでも、送信は開始されません。送信を開始する前に、受信エラーフラグは必ず 0 にしてください。

注 .　SCR/SCR_SMCI.RE ビットを 0 にしてシリアル受信を禁止すると、受信エラーフラグは 0 になりません。
注 1.　簡易 SPI モードでは、FTDRH レジスタを使用しないでください。

30.14.6 クロック同期送信に関する制限事項（クロック同期式モードおよび簡易 SPI モード）

同期クロックに外部クロックソースを使用する場合、以下の制限事項があります。

(1) 送信開始時

TDR レジスタへの送信データの書き込みから、外部クロック入力の開始まで、下記に示す以上の待機時間を確保してください

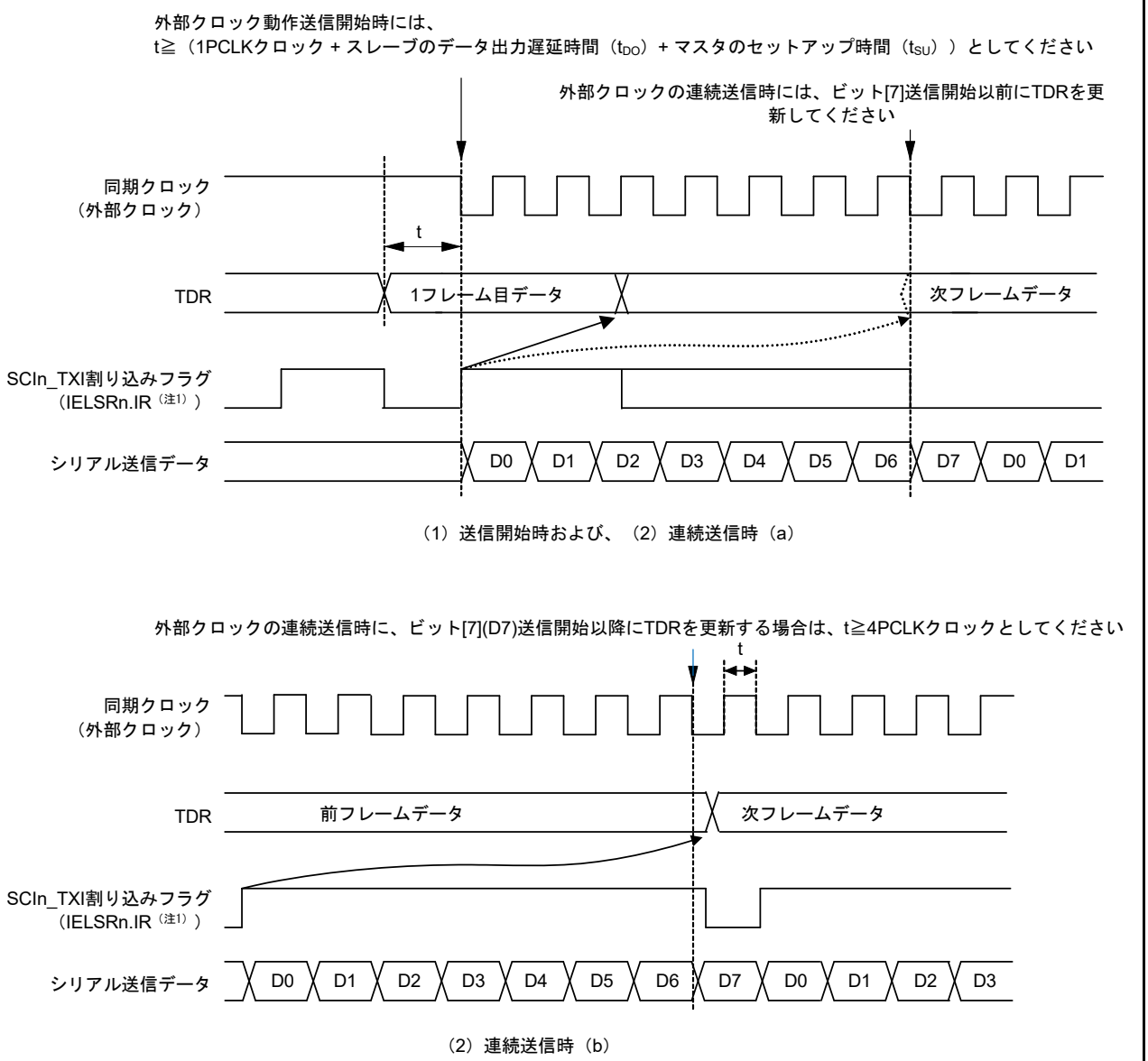
1PCLKA + スレーブのデータ出力遅延時間（t_{DO}）+ マスタのセットアップ時間（t_{SU}）。

図 30.78 を参照してください。

(2) 連続送信時

送信クロックのビット 7 の立ち下がり以前に、TDR または TDRHL レジスタに次の送信データを書き込んでください。図 30.78 を参照してください。

ビット [7] 送信開始以降に TDR をレジスタ更新する場合は、同期クロックが Low の期間に TDR を更新し、かつ送信クロックの 7 ビット目の High 幅を、4PCLKA 以上にしてください。図 30.78 を参照してください。



注 1.　対応する割り込みイベント番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

図 30.78　　クロック同期送信時の外部クロック使用に関する制限事項

30.14.7　DMAC または DTC 使用時の制限事項

DMAC または DTC による送受信動作中は、DMAC/DTC に転送データを設定しないでください。

(1)　TDR（FTDRHL）レジスタへの書き込み

(a)　非 FIFO 選択時

TDR および TDRHL レジスタにデータを書き込むことが可能です。ただし、TDR または TDRHL レジスタに送信データが残っている状態で、TDR または TDRHL レジスタに新しいデータを書き込むと、残っていたデータは TSR レジスタへ転送されず、失われます。DMAC または DTC を使用する場合、TDR または TDRHL レジスタへの送信データの書き込みは、必ず SCIn_TXI 割り込み要求の処理ルーチンで行ってください。

(b)　FIFO 選択時

SCR.TE ビットが 1 の場合に、FTDRH および FTDRL レジスタにデータを書き込むことが可能です。FDR.T[4:0] ビットによって、書き込み可能なデータ数を確認してください。

(2)　RDR（FRDRHL）レジスタからの読み出し

DMAC または DTC を用いて RDR および RDRHL レジスタを読み出すときは、対応する SCI の起動要因として、必ず受信データフル割り込み（SCIn_RXI）を設定してください。

30.14.8　通信の開始に関する注意事項

ICU の割り込みステータスフラグ（IELSRn.IR フラグ）が 1 の状態で転送を開始する場合は、動作を許可する（SCR ／ SCR_SMCI.TE ビットを 1 にするか、SCR ／ SCR_SMCI.RE ビットを 1 にする）前に、以下の手順で割り込み要求をクリアしてください。

割り込みステータスフラグの詳細については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

1. 通信が停止していること（SCR/SCR_SMCI.TE ビットまたは SCR/SCR_SMCI.RE ビットが 0 になっていること）を確認します。
2. 対応する割り込み許可ビット（SCR/SCR_SMCI.TIE ビットまたは SCR/SCR_SMCI.RIE ビット）を 0 にします。
3. 対応する割り込み許可ビット（SCR/SCR_SMCI.TIE ビットまたは SCR/SCR_SMCI.RIE ビット）を読み出して、実際に 0 になっていることを確認します。
4. ICU の割り込みステータスフラグ（IRn.IR フラグ）を 0 にします。

30.14.9　クロック同期式モードおよび簡易 SPI モードにおける外部クロック入力

クロック同期式モードと簡易 SPI モードでは、外部クロック SCKn 入力を下記のように設定してください。

High パルス期間および Low パルス期間は 2PCLKA 以上、周期は 6PCLKA 以上。

30.14.10　簡易 SPI モードの制限事項

(1)　マスタモード

- SPMR.SSE ビットが 1 の場合、SPMR.CKPH ビットと SPMR.CKPOL ビットで設定した送受信クロックの初期値に合わせて、クロック線を抵抗でプルアップまたはプルダウンしてください。これによって、SCR.TE ビットを 0 にしたときにクロック線がハイインピーダンス状態になったり、SCR.TE ビットを 0 から 1 に変更したときにクロック線に意図しないエッジが発生したりするのを防止できます。シングルマスタモードで SPMR.SSE ビットが 0 の場合は、SCR.TE ビットを 0 にしてもクロック線はハイインピーダンスにならないので、プルアップまたはプルダウンは不要です。
- クロック遅れありの設定（SPMR.CKPH ビット = 1）では、図 30.79 に示すように、SCKn 端子の最終クロックエッジ手前のクロックエッジで受信データフル割り込み（SCIn_RXI）が発生します。SCR.TE ビットと SCR.RE ビットを SCKn 端子の最終クロックエッジより前に 0 にすると、SCKn 端子出力がハイインピーダンスとなり、送受信クロックの最後のクロックパルス幅が短くなります。また、SCIn_RXI 割り込みの発生によって、SCKn 端子の最終クロックエッジより前に接続先スレーブの SSn 端子入力信号が High になった場合、スレーブが誤動作する可能性があります。
- マルチマスタ構成では、キャラクタ転送中にモードフォルトエラーが発生すると、SSn 端子入力が Low の間に、SCKn 端子出力がハイインピーダンスとなり、接続先スレーブへの送受信クロック供給が停止します。送受信動作再開時のビットずれを回避するために、接続先スレーブの再設定を行ってください。

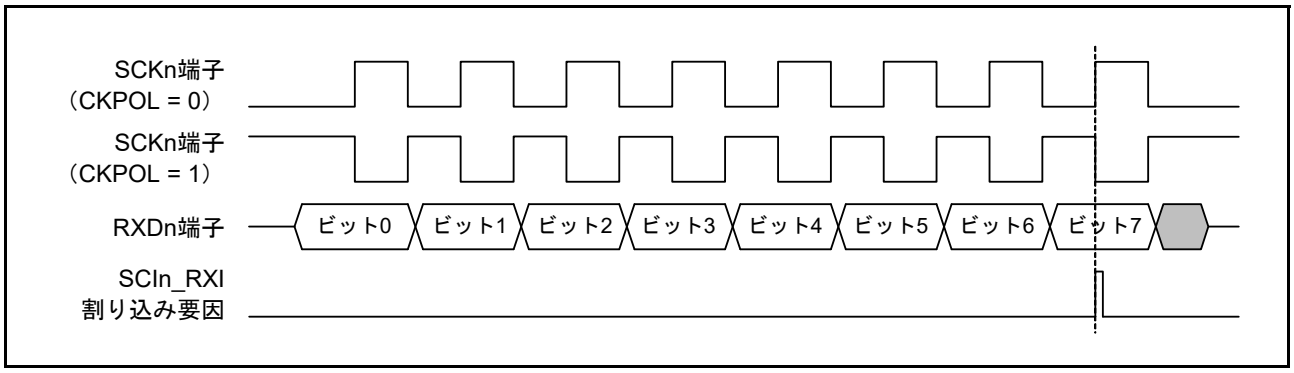


図 30.79　簡易 SPI モードにおける SCIn_RXI 割り込みの発生タイミング（クロック遅れあり）

(2)　スレーブモード

- TDR レジスタへの送信データの書き込みから、外部クロック入力の開始まで、下記に示す以上の待機時間を確保してください。

  1PCLKA + スレーブのデータ出力遅延時間（t_{DO}）+ マスタのセットアップ時間（t_{SU}）

  また、SSn 端子への Low 入力から、外部クロック入力の開始までについても、5PCLKA 以上の待機時間を確保してください。
- マスタからの外部クロックの供給は、転送データ長に合わせてください
- SSn 端子入力は、データ転送開始前と完了後に制御する必要があります
- キャラクタの転送中に SSn 端子への入力レベルが Low から High に変化した場合は、SCR.TE ビットと SCR.RE ビットを 0 にして、再設定後に 1 バイト目から転送をやり直してください

31. IrDA インタフェース

31.1 概要

IrDA インタフェースは、SCI1 と連携して IrDA（Infrared Data Association）規格バージョン 1.0 に基づく IrDA データ通信波形の送受信を行います。

IRCR レジスタの IRE ビットで IrDA 機能を有効にすると、SCI1 の TXD1、RXD1 信号は IrDA 規格バージョン 1.0 に準拠した波形にエンコード／デコードされます（IRTXD1/IRRXD1 端子）。

この波形を赤外線送受信機と接続することにより、IrDA 規格バージョン 1.0 システムに準拠した赤外線データ通信を実現します。

IrDA 規格バージョン 1.0 システムでは、9600bps の転送レートで通信を開始し、その後、必要に応じて転送レートを変化させることができます。IrDA インタフェースは、自動的に転送レートを変更する機能を内蔵していないため、転送レートは、ソフトウェアで変更する必要があります。

図 31.1 に、IrDA インタフェースと SCI1 の連携を示します。

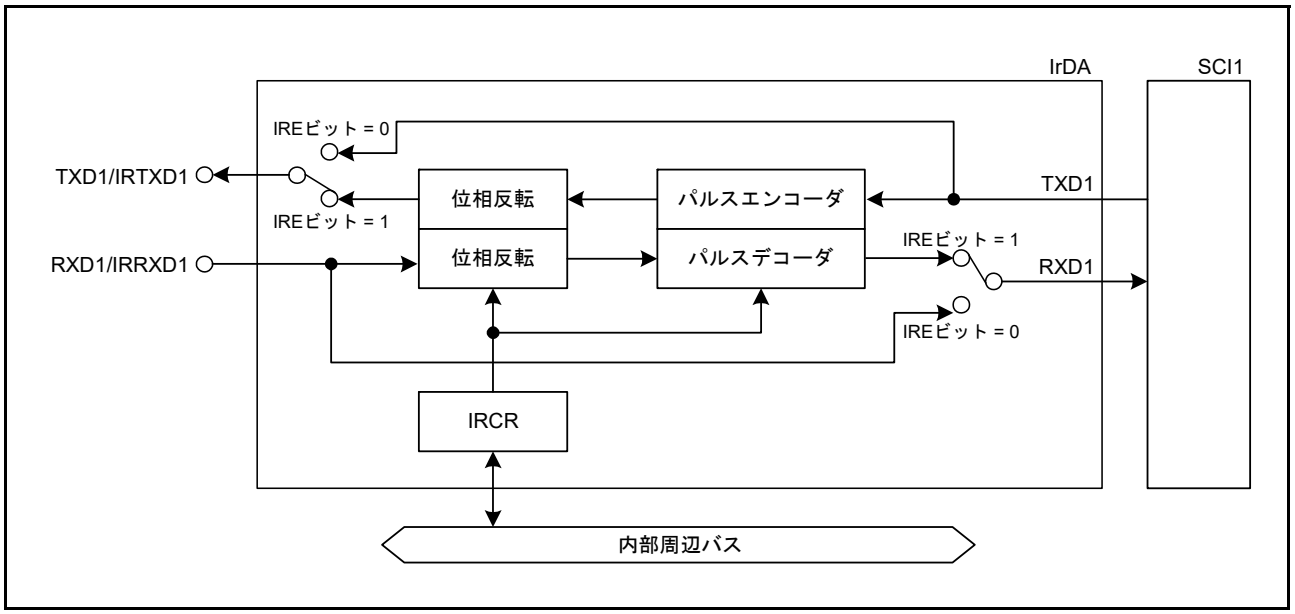


図 31.1 IrDA インタフェースと SCI1 の連携

表 31.1 IrDA インタフェースの入出力端子

端子名	入出力	機能
IRTXD1	出力	送信データ
IRRXD1	入力	受信データ

31.2 レジスタの説明

31.2.1 IrDA コントロールレジスタ（IRCR）

アドレス IRDA.IRCR 4007 0F00h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	IRE	—	—	—	IRTXINV	IRRXINV	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b2	IRRXINV	IRRXD極性切り替え	0：IRRXD入力を受信データとしてそのまま使用 1：IRRXD入力を極性反転して受信データとして使用	R/W
b3	IRTXINV	IRTXD極性切り替え	0：送信データをそのままIRTXD出力 1：送信データを極性反転してIRTXD出力	R/W
b6-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	IRE	IrDA有効	0：シリアル入出力端子を通常のシリアル通信に使用 1：シリアル入出力端子をIrDAデータ通信に使用	R/W

注 . IRCR レジスタの値は、スリープモード、ソフトウェアスタンバイモード、およびディープソフトウェアスタンバイモード時に保持されます。

IRRXINV ビット（IRRXD 極性切り替え）

IRRXINV ビットは、IRRXD 入力のロジックレベルを反転します。反転したとき、High パルス幅は Low パルス幅となります。

IRTXINV ビット（IRTXD 極性切り替え）

IRTXINV ビットは、IRTXD 出力のロジックレベルを反転します。反転したとき、High パルス幅は Low パルス幅となります。

IRE ビット（IrDA 有効）

IRE ビットは、入出力端子を通常の通信モード用、または IrDA 通信モード用にするかを設定します。

31.3 動作説明

31.3.1 IrDA インタフェースの設定手順

IrDA インタフェースの動作設定方法：

1. 端子機能コントロールレジスタで、当該端子の I/O ポート機能を IRTXD1 端子と IRRXD1 端子に割り当てます（PmnPFS.PSEL = 00101b）。
2. 端子機能コントロールレジスタで、I/O ポート機能を周辺機能に設定します（PmnPFS.PMR = 1）。
3. IRCR レジスタで IrDA 機能を設定します。
4. シリアルコミュニケーションインタフェース（SCI）の SCI1 関連レジスタを設定します。

31.3.2 送信

送信時には、SCI1 からの出力信号（UART フレーム）は IrDA インタフェースによって IR フレームに変換されます（図 31.2 参照）。IRCR.IRTXINV ビットが 0 で、シリアルデータが 0 の場合、ビット周期（1 ビット幅の期間）の 3/16 の High パルスが出力されます（初期設定）。規格では、High パルス幅は、最小で 1.41µs、最大で（3/16 + 2.5%）× ビット周期、または（3/16 × ビット周期）＋ 1.08µs と定められています。シリアルデータが 1 の場合、パルスは出力されません。

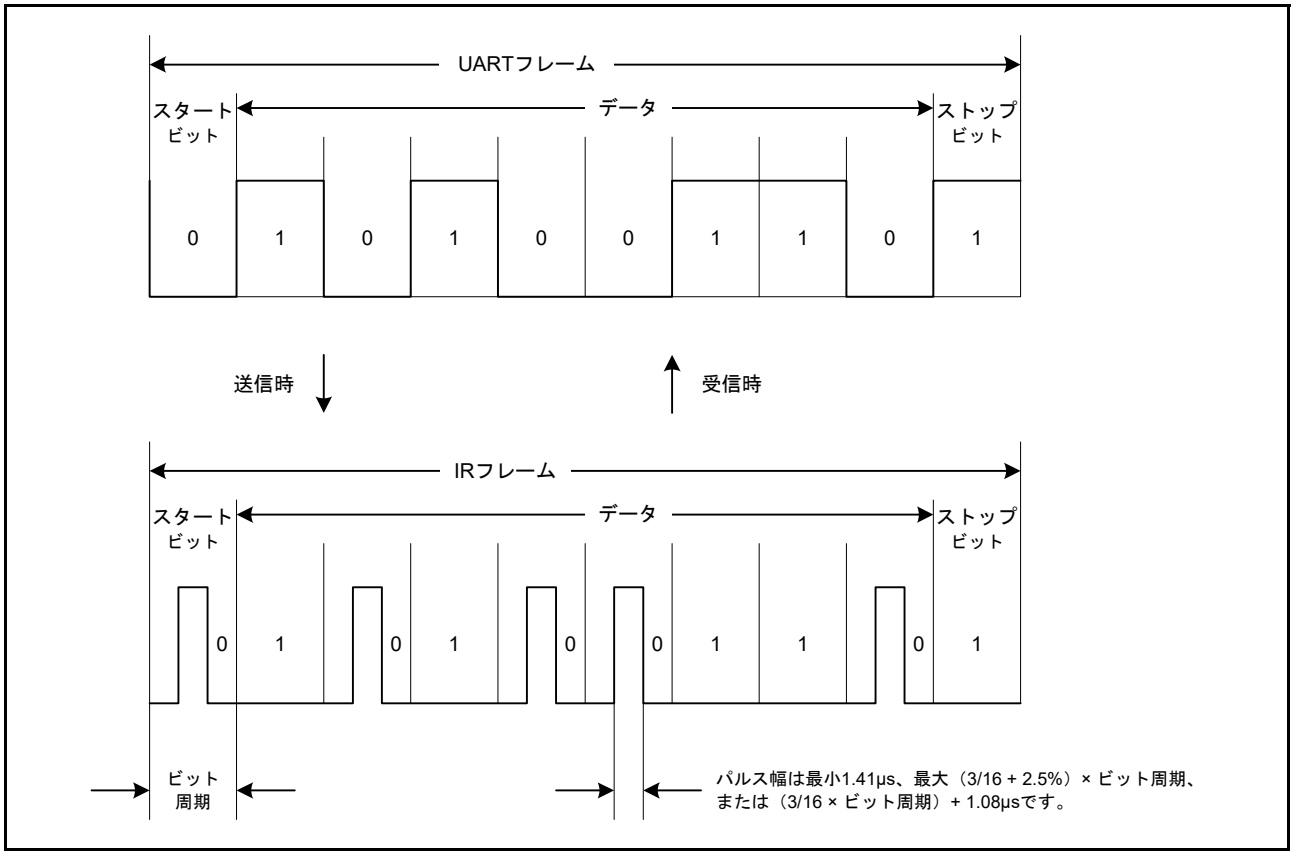


図 31.2 IrDA の送信／受信動作

31.3.3 受信

受信時には、IR フレームのデータは IrDA インタフェースによって UART フレームに変換され、SCI1 に入力されます。

IRCR.IRRXINV ビットが 0 で、High パルスが検出されたときに、Low データが SCI1 に入力されます。1 ビット期間中にパルスが検出されないと、High データが SCI1 に入力されます。

31.4 使用上の注意事項

31.4.1 モジュールストップ状態の設定

モジュールストップコントロールレジスタによって、IrDA の動作を禁止／許可することが可能です。IrDA は、リセット後の初期状態では動作が停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は、「11. 低消費電力モード」を参照してください。

31.4.2 調歩同期式モードにおける SCI1 の基準クロック

IrDA はビットレートの 16 倍の周波数のクロックを SCI1 から受信し、SCI1 と連携して動作します。

IrDA を使用する場合は、SCI1.SEMR.ABCS ビットを 0 にしてください。

32. I²C バスインタフェース（IIC）

32.1 概要

3 チャネルの I²C バスインタフェース（IIC）モジュールは、NXP 社の I²C バス（inter-integrated circuit bus）インタフェース方式に準拠しており、そのサブセット機能を内蔵しています。

表 32.1 に IIC の仕様を、図 32.1 にブロック図を、図 32.2 に入出力端子の外部回路接続例（I²C バス構成例）を示します。表 32.2 に入出力端子を示します。

表 32.1　IICの仕様 (1/2)

項目	内容
通信フォーマット	• I²Cバスフォーマットまたは SMBus フォーマット • マスタ／スレーブモードを選択可能 • 転送速度に応じたセットアップ時間、ホールド時間、バスフリー時間を自動確保
転送速度	ファストモードプラス対応（～1Mbps）
SCLクロック	マスタ時、SCLクロックのデューティ比を4%～96%の範囲で設定可能
コンディション発行・ コンディション検出	• スタートコンディション／リスタートコンディション／ストップコンディションの自動生成 • スタートコンディション（リスタートコンディション含む）／ストップコンディション検出可能
スレーブアドレス	• 異なるスレーブアドレスを3種類まで設定可能 • 7ビット／10ビットアドレスフォーマット対応（混在可能） • ジェネラルコールアドレス検出、デバイスIDアドレス検出、SMBusのホストアドレス検出が可能
アクノリッジ応答	• 送信時、アクノリッジビットの自動ロード ノットアクノリッジビット検出時に次送信データ転送の自動中断が可能 • 受信時、アクノリッジビットの自動送出 8クロック目と9クロック目の間にウェイトありを選択すると、受信値に応じたアクノリッジビット値のソフトウェア制御が可能
ウェイト機能	受信時、SCLクロックのLowホールドによる下記期間のウェイトが可能 • 8クロック目と9クロック目の間をウェイト • 9クロック目と次の転送の1クロック目の間をウェイト
SDA出力遅延機能	アクノリッジ送信を含むデータ送信の出力タイミングを遅延させることが可能
アービトレーション	• マルチマスタ対応 - 他のマスタとのSCLクロック衝突時、SCLクロックの同期が可能 - スタートコンディション発行がバスで競合した場合、SDAライン用の内部信号とSDAラインのレベルの間に不一致があるかどうかのテストによるアービトレーションロストを検出可能 - マスタ動作時、SDA内部信号とSDAラインの状態が不一致ならアービトレーションロストを検出可能 • バスビジー中のスタートコンディション発生によるアービトレーションロストを検出可能（スタートコンディションの二重発行防止） • ノットアクノリッジビット転送時、SDA内部信号とSDAラインの状態の不一致でアービトレーションロストを検出可能 • スレーブ送信時、データのSDA内部信号とSDAラインの状態の不一致でアービトレーションロストを検出可能
タイムアウト検出機能	SCLクロックの長時間停止を内部で検出
ノイズ除去	• SCLおよびSDA信号用のデジタルノイズフィルタ • フィルタによるノイズ除去幅をプログラマブルに調整可能
割り込み要因	• 転送エラー／イベント発生：アービトレーション検出、NACK、タイムアウト、スタートまたはリスタートコンディション、ストップコンディション • 受信データフル（スレーブアドレス一致時含む） • 送信データエンプティ（スレーブアドレス一致時含む） • 送信終了
モジュールストップ機能	モジュールストップ状態を設定して消費電力を削減可能
IICの動作モード	• マスタ送信 • マスタ受信 • スレーブ送信 • スレーブ受信

表 32.1　IICの仕様 (2/2)

項目	内容
イベントリンク機能（出力）	• 転送エラー／イベント発生：アービトレーション検出、NACK、タイムアウト、スタートまたはリスタートコンディション、ストップコンディション • 受信データフル（スレーブアドレス一致時含む） • 送信データエンプティ（スレーブアドレス一致時含む） • 送信終了
ウェイクアップ機能（注1）	ウェイクアップイベントを使用したCPUのソフトウェアスタンバイモードからの復帰が可能

注 1.　IIC0 の場合のみサポート。IIC1 と IIC2 は非サポート。

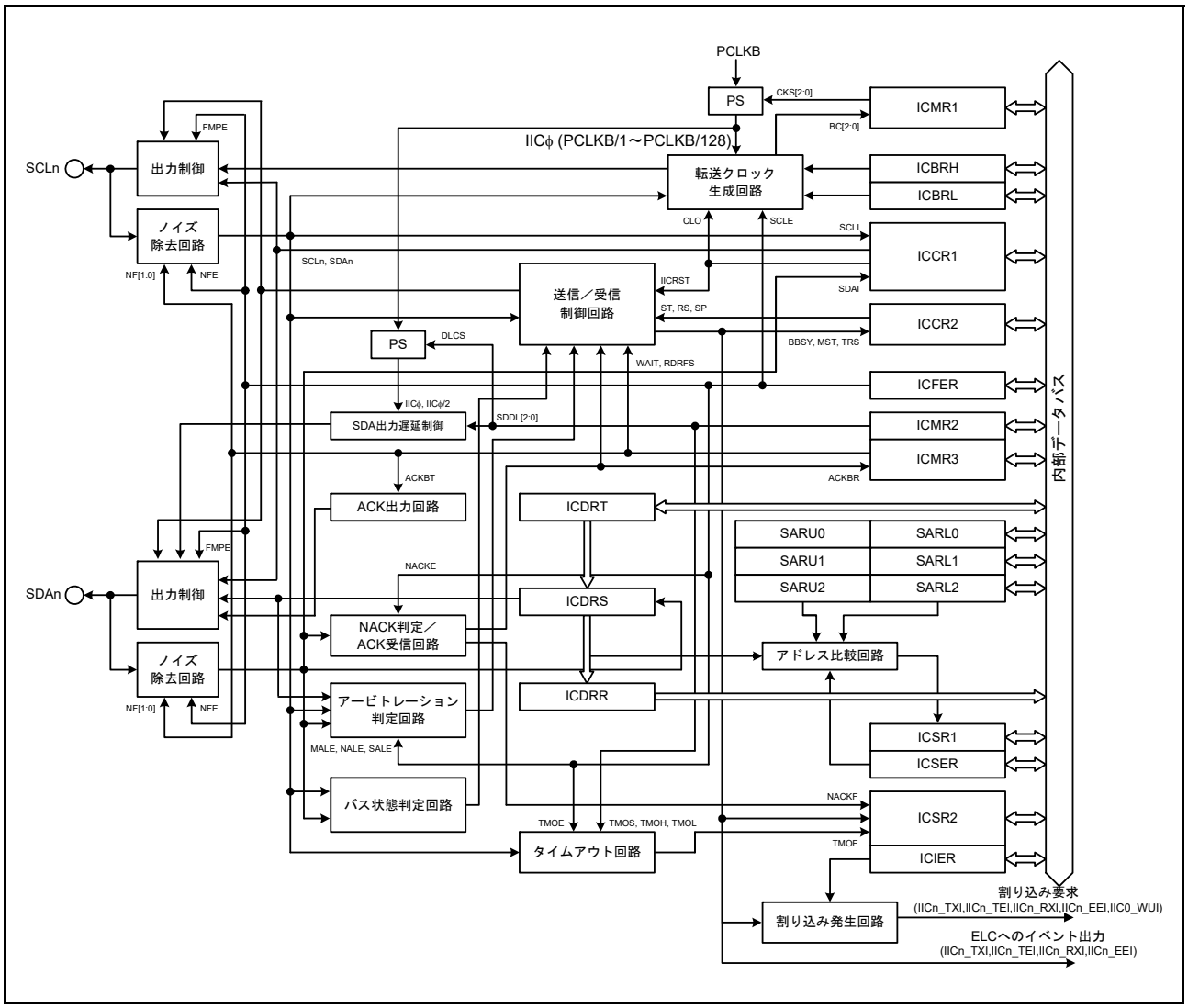


図 32.1　IIC のブロック図

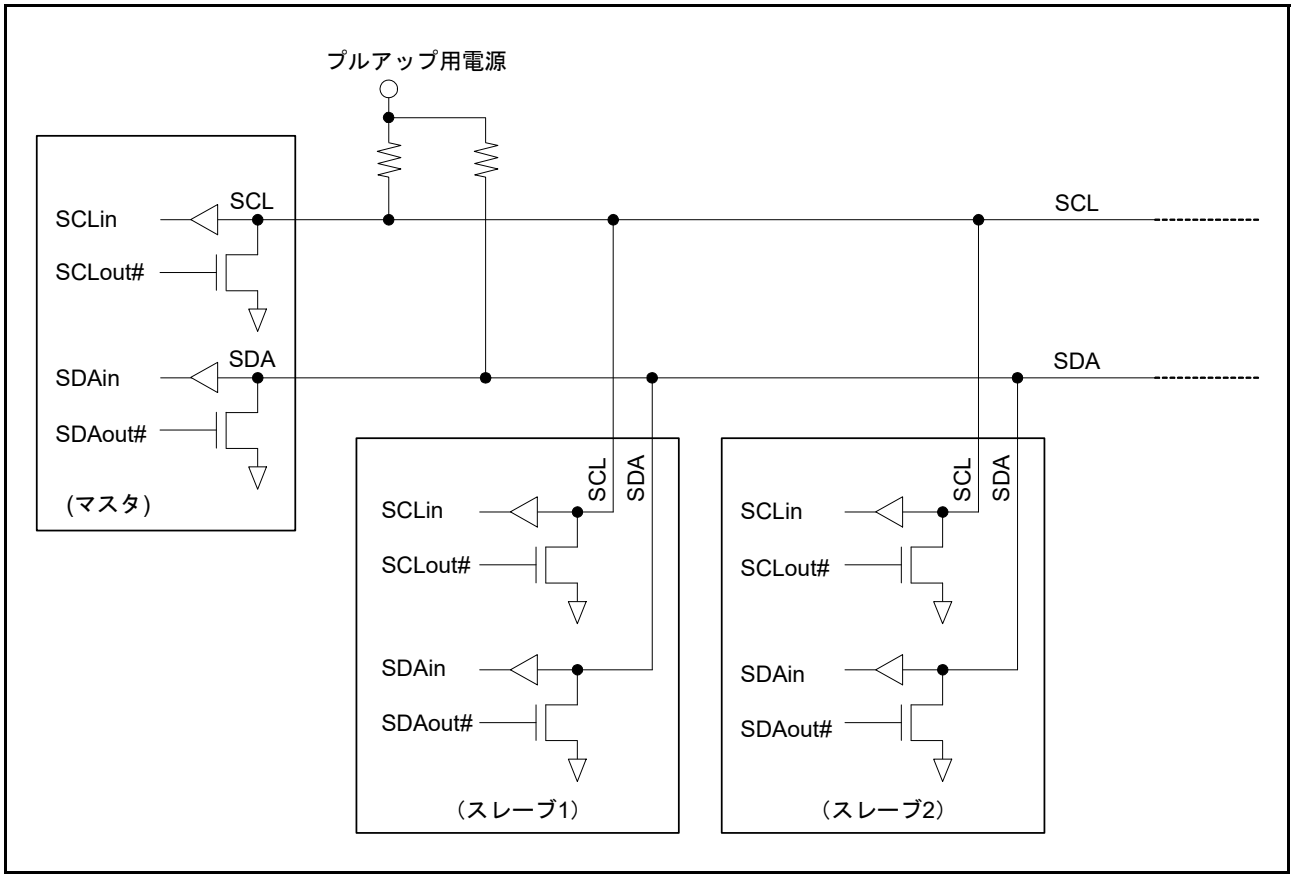


図 32.2　　入出力端子の外部回路接続例（I2C バス構成例）

IIC の各信号の入力レベルは、I2C バス選択時（ICMR3.SMBS = 0）は CMOS レベルであり、SMBus 選択時（ICMR3.SMBS = 1）は TTL レベルです。

表 32.2　　IIC の入出力端子

チャネル	端子名	入出力	機能
IIC0	SCL0	入出力	IIC0 シリアルクロック入出力端子
	SDA0	入出力	IIC0 シリアルデータ入出力端子
IIC1	SCL1	入出力	IIC1 シリアルクロック入出力端子
	SDA1	入出力	IIC1 シリアルデータ入出力端子

32.2　レジスタの説明

32.2.1　I2C バスコントロールレジスタ 1（ICCR1）

アドレス　IIC0.ICCR1 4005 3000h, IIC1.ICCR1 4005 3100h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ICE	IICRST	CLO	SOWP	SCLO	SDAO	SCLI	SDAI
リセット後の値	0	0	0	1	1	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SDAI	SDAラインモニタ	0：SDAnラインはLow 1：SDAnラインはHigh	R
b1	SCLI	SCLラインモニタ	0：SCLnラインはLow 1：SCLnラインはHigh	R
b2	SDAO	SDA出力制御／モニタ	• 読み出し時 0：SDAn端子をLowにしている 1：SDAn端子を解放している • 書き込み時 0：SDAn端子をLowにする 1：SDAn端子を解放する	R/W
b3	SCLO	SCL出力制御／モニタ	• 読み出し時 0：SCLn端子をLowにしている 1：SCLn端子を解放している • 書き込み時 0：SCLn端子をLowにする 1：SCLn端子を解放する 外部プルアップ抵抗を使用して信号をHighにしてください。	R/W
b4	SOWP	SCLO/SDAOライトプロテクト	0：SCLOおよびSDAOビットの書き込みを許可 1：SCLOおよびSDAOビットの書き込みを禁止 読むと1が読めます。	R/W
b5	CLO	SCLクロック追加出力	0：SCLクロックを追加で出力しない（デフォルト） 1：SCLクロックを追加で出力する 1クロック出力後、自動的に0になります。	R/W
b6	IICRST	IICバスインタフェース内部リセット	0：IICリセットまたは内部リセットを解除する 1：IICリセットまたは内部リセットを行う これにより、ビットカウンタをクリアし、SCLn/SDAn出力ラッチを解除します。	R/W
b7	ICE	IICバスインタフェース許可	0：禁止（SCLnおよびSDAn端子は非駆動状態） 1：許可（SCLnおよびSDAn端子は駆動状態） IICRSTビットとの組み合わせで、IICリセット、または内部リセットを選択します。	R/W

SDAO ビット（SDA 出力制御／モニタ）、SCLO ビット（SCL 出力制御／モニタ）

IIC が出力する SDAn 信号、SCLn 信号を直接操作するビットです。

これらのビットに値を書く場合は、同時に SOWP ビットにも 0 を書いてください。これらのビットを設定すると、入力バッファによって IIC に入力されます。スレーブモードに設定していると、ビットの設定によってはスタートコンディションを検出してバスを解放することがあります。

スタートコンディション、ストップコンディション、リスタートコンディションの期間中、または送受信中に、これらのビットを書き換えないでください。これらの期間に書き換えた場合の動作は保証されません。これらのビットを読んだ場合は、そのとき IIC が出力している信号の状態が読めます。

CLO ビット（SCL クロック追加出力）

CLO ビットは、SCL クロックを 1 クロック単位で追加出力できるようにするもので、デバッグ時またはエラー処理時に使用します。通常動作では、本ビットを 0 にしてください。通常の通信状態で CLO ビットを 1 にすると、通信エラーの原因になります。この機能の詳細については、32.12.2　SCL クロック追加出力機能を参照してください。

IICRST ビット（IIC バスインタフェース内部リセット）

IICRST ビットは、IIC の内部状態をリセットします。本ビットを 1 にすると、IIC リセットまたは内部リセットを起動できます。IIC リセットまたは内部リセットのどちらが起動するかは、ICE ビットと組み合わせた IICRST ビットの設定によって決定されます。表 32.3 に IIC のリセットの種類を示します。

IIC リセットでは、ICCR1.ICE ビットと ICCR1.IICRST ビットを除くすべてのレジスタと IIC の内部状態が初期化されます。IIC の内部状態の他に、内部リセットでは以下が初期化されます。

- ビットカウンタ（ICMR1.BC[2:0] ビット）
- I2C バスシフトレジスタ（ICDRS）
- I2C バスステータスレジスタ（ICSR1 と ICSR2）
- SDAO と SCLO の出力制御／モニタ（ICCR1.SCLO ビットと ICCR1.SDAO ビット）
- I2C バスコントロールレジスタ 2（ICCR2.BBSY ビットを除く）

各レジスタのリセット条件については、32.15　各コンディション発行時のリセット、レジスタ、機能の状態を参照してください。

動作中に（ICE ビット = 1 の状態で）IICRST ビットを 1 にして内部リセットを行うと、通信不具合によってバスや IIC がハングしたとき、ポートの設定と IIC のコントロールレジスタや設定レジスタを初期化することなく、IIC の内部状態がリセットされます。また、IIC が Low を出力したままハングアップした場合、内部状態をリセットすることで、Low 出力状態が解除され、SCLn 端子と SDAn 端子がハイインピーダンスの状態でバスが解放されます。

注 .　スレーブモード時に、マスタデバイスとの通信中に生じたバスのハングアップに対して IICRST ビットで内部リセットを行うと、ビットカウンタ情報の差異が原因で、スレーブデバイスとマスタデバイスが異なる状態になる可能性があります。そのため、スレーブモード時には内部リセットは行わないでください。復帰処理はマスタデバイスから行うようにしてください。スレーブモード時に SCLn ラインが Low 出力状態のまま IIC がハングアップしたため、内部リセットが必要になった場合は、内部リセット後にマスタデバイスからリスタートコンディションを発行するか、またはストップコンディションを発行して、スタートコンディションから通信をやり直してください。スレーブデバイスのみ単独でリセットを行い、マスタデバイスからスタートコンディションまたはリスタートコンディション発行がないまま通信が再開された場合、双方の動作状態に差異が生じたまま動作することになるため同期ズレの原因になります。

表 32.3　IIC のリセット

IICRST	ICE	状態	内容
1	0	IIC リセット	ICCR1.ICE ビットと ICCR1.IICRST ビットを除くすべてのレジスタと IIC の内部状態がリセットされます
	1	内部リセット	以下がリセットされます • ICMR1.BC[2:0] ビット • ICSR1 レジスタ、ICSR2 レジスタ、ICDRS レジスタ • SDAO と SCLO の出力制御／モニタ（ICCR1.SCLO ビットと ICCR1.SDAO ビット） • I2C バスコントロールレジスタ 2（ICCR2.BBSY ビットを除く） • IIC の内部状態

ICE ビット（IIC バスインタフェース許可）

ICE ビットは、SCLn および SDAn 端子の駆動状態／非駆動状態を選択します。また、IICRST ビットと組み合わせて、実行するリセットを 2 種類から 1 つ選択できます。リセットの種類については表 32.3 を参照してください。

IIC を使用するときは、ICE ビットを 1 にしてください。ICE ビットを 1 にすると、SCLn および SDAn 端子は駆動状態になります。IIC を使用しないときは、ICE ビットを 0 にしてください。ICE ビットを 0 にすると、SCLn および SDAn 端子は非駆動状態になります。端子機能制御を設定するときに、SCLn または SDAn 端子を IIC に割り当てないでください。これらの端子が IIC に割り当てられると、スレーブアドレス比較が行われます。

32.2.2 I²C バスコントロールレジスタ 2（ICCR2）

アドレス IIC0.ICCR2 4005 3001h, IIC1.ICCR2 4005 3101h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	BBSY	MST	TRS	—	SP	RS	ST	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b1	ST	スタートコンディション発行要求	0：スタートコンディション要求を発行しない 1：スタートコンディション要求を発行する	R/W
b2	RS	リスタートコンディション発行要求	0：リスタートコンディション要求を発行しない 1：リスタートコンディション要求を発行する	R/W
b3	SP	ストップコンディション発行要求	0：ストップコンディション要求を発行しない 1：ストップコンディション要求を発行する	R/W
b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5	TRS	送信／受信モード	0：受信モード 1：送信モード	R/W （注1）
b6	MST	マスタ／スレーブモード	0：スレーブモード 1：マスタモード	R/W （注1）
b7	BBSY	バスビジー検出フラグ	0：I²Cバスは解放状態（バスフリー状態） 1：I²Cバスは占有状態（バスビジー状態）	R

注 1.　ICMR1.MTWP ビットが 1 の場合に、MST および TRS ビットへの書き込みが可能です。

ST ビット（スタートコンディション発行要求）

ST ビットは、マスタモードへの遷移を要求し、スタートコンディションをトリガします。

本ビットを 1 にすると、BBSY フラグが 0（バスフリー状態）のときにスタートコンディションが発行されます。スタートコンディション発行の詳細については、32.11　スタートコンディション、リスタートコンディション、ストップコンディション発行機能を参照してください。

［1 になる条件］

- 1 を書いたとき

［0 になる条件］

- 0 を書いたとき
- スタートコンディションが発行されたとき（スタートコンディションが検出されたとき）
- ICSR2.AL（アービトレーションロスト）フラグが 1 になったとき
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

注 .　ST ビットは、BBSY フラグが 0（バスフリー状態）のときに 1（スタートコンディション発行要求）にしてください。BBSY フラグが 1（バスビジー状態）のときに、ST ビットを 1（スタートコンディション要求）にすると、アービトレーションロストが発生する場合があります。

RS ビット（リスタートコンディション発行要求）

RS ビットは、マスタモード時にリスタートコンディションの発行を要求します。

本ビットを 1 にしてリスタートコンディションを要求すると、BBSY フラグが 1（バスビジー状態）かつ MST ビットが 1（マスタモード）のときに、リスタートコンディションが発行されます。リスタートコンディション発行の詳細については、32.11　スタートコンディション、リスタートコンディション、ストップコンディション発行機能を参照してください。

[1 になる条件]

- ICCR2.BBSY フラグが 1 の状態で、1 を書いたとき

[0 になる条件]

- 0 を書いたとき
- リスタートコンディションが発行されたとき（スタートコンディションが検出されたとき）
- ICSR2.AL（アービトレーションロスト）フラグが 1 になったとき
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

注 .　ストップコンディション発行中に RS ビットを 1 にしないでください。

注 .　スレーブモードで RS ビットを 1（リスタートコンディション要求）にすると、リスタートコンディションは発行されず、RS ビットは 1 のままになります。本ビットがクリアされていない状態で動作モードをマスタモードに変更すると、リスタートコンディションが発行される場合があります。

SP ビット（ストップコンディション発行要求）

SP ビットは、マスタモード時にストップコンディションの発行を要求します。

本ビットが 1 になると、BBSY フラグが 1（バスビジー状態）でかつ MST ビットが 1（マスタモード）のとき、ストップコンディションの発行を行います。ストップコンディション発行の詳細については、32.11　スタートコンディション、リスタートコンディション、ストップコンディション発行機能を参照してください。

[1 になる条件]

- ICCR2.BBSY フラグと ICCR2.MST ビットが両方とも 1 の状態で、1 を書いたとき

[0 になる条件]

- 0 を書いたとき
- ストップコンディションが発行されたとき（ストップコンディションが検出されたとき）
- ICSR2.AL（アービトレーションロスト）フラグが 1 になったとき
- スタートコンディションおよびリスタートコンディションが検出されたとき
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

注 .　BBSY フラグが 0（バスフリー状態）のとき、SP ビットへの書き込みはできません。

注 .　リスタートコンディション発行中に SP ビットを 1 にしないでください。

TRS ビット（送信／受信モード）

TRS ビットは、送信／受信モードを示します。

IIC は、TRS ビットが 0 のときは受信モード、1 のときは送信モードになります。本ビットと MST ビットの組み合わせで IIC の動作モードを示します。

スタートコンディションの発行または検出時、および R/W# ビットの設定時に、TRS ビット値は自動的に 1（送信モード）または 0（受信モード）に変化します。ICMR1.MTWP ビットが 1 のとき書き込みはできますが、通常では書き込みの必要はありません。

［1 になる条件］

- スタートコンディション要求によってスタートコンディションが正常に発行されたとき（ST ビットが 1 の状態で、スタートコンディションが検出されたとき）
- リスタートコンディション要求によってリスタートコンディションが正常に発行されたとき（RS ビットが 1 の状態で、リスタートコンディションが検出されたとき）
- マスタモード時、スレーブアドレスに付加した R/W# ビットが 0 になったとき
- スレーブモードで受信したアドレスが、ICSER レジスタで有効にしたアドレスと一致し、かつ R/W# ビットが 1 のとき
- ICMR1.MTWP ビットが 1 の状態で、TRS ビットに 1 を書いたとき

［0 になる条件］

- ストップコンディションが検出されたとき
- ICSR2.AL（アービトレーションロスト）フラグが 1 になったとき
- マスタモード時、値が 1 の R/W# ビットが付加されたスレーブアドレスを受信したとき
- スレーブモード時、受信したスレーブアドレスが ICSER レジスタで有効にしたアドレスと一致し、かつ R/W# ビットに 0 を受信したとき（ジェネラルコールアドレスを受信した場合を含む）
- スレーブモード時、リスタートコンディションが検出されたとき（ICCR2.BBSY = 1、ICCR2.MST = 0 の状態でリスタートコンディションが検出されたとき）
- ICMR1.MTWP ビットが 1 の状態で、TRS ビットに 0 を書いたとき
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

MST ビット（マスタ／スレーブモード）

MST ビットは、マスタモード／スレーブモードを示します。IIC は、MST ビットが 0 のときはスレーブモード、1 のときはマスタモードになります。MST ビットと TRS ビットの組み合わせで IIC の動作モードを示します。

スタートコンディションの発行時、あるいはストップコンディションの発行または検出時、MST ビットの値は自動的に 1（マスタモード）または 0（スレーブモード）に変化します。ICMR1.MTWP ビットが 1 のとき、MST ビットへ書き込みはできますが、通常では書き込みの必要はありません。

［1 になる条件］

- スタートコンディション要求によってスタートコンディションが正常に発行されたとき（ST ビットが 1 の状態で、スタートコンディションが検出されたとき）
- ICMR1.MTWP ビットが 1 の状態で、MST ビットに 1 を書いたとき

［0 になる条件］

- ストップコンディションが検出されたとき
- ICSR2.AL（アービトレーションロスト）フラグが 1 になったとき
- ICMR1.MTWP ビットが 1 の状態で、MST ビットに 0 を書いたとき
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

BBSY フラグ（バスビジー検出フラグ）

BBSY フラグは、I²C バスが占有されているか（バスビジー状態）、解放されているか（バスフリー状態）を示します。

SCLn ラインが High のときに SDAn ラインが High から Low に変化すると、スタートコンディションが発行されたと認識してフラグが 1 になります。

SCLn ラインが High の状態で SDAn ラインが Low から High に変化するときに、バスフリー時間（ICBRL レジスタの設定）のスタートコンディションが検出されないと、ストップコンディションが発行されたとみなされて、本フラグは 0 になります。

［1 になる条件］

- スタートコンディションが検出されたとき

［0 になる条件］

- ストップコンディション検出後、バスフリー時間（ICBRL レジスタの設定）のスタートコンディションが検出されないとき
- ICCR1.ICE ビットが 0 の状態で、ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いたとき（IIC リセット）

32.2.3 I²C バスモードレジスタ 1（ICMR1）

アドレス IIC0.ICMR1 4005 3002h, IIC1.ICMR1 4005 3102h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	MTWP	CKS[2:0]			BCWP	BC[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	1	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	BC[2:0]	ビットカウンタ	b2 b0 0 0 0：9ビット 0 0 1：2ビット 0 1 0：3ビット 0 1 1：4ビット 1 0 0：5ビット 1 0 1：6ビット 1 1 0：7ビット 1 1 1：8ビット	R/W （注1）
b3	BCWP	BCライトプロテクト	0：BC[2:0]ビットへの書き込み許可 1：BC[2:0]ビットへの書き込み禁止 読むと1が読めます。	R/W （注1）
b6-b4	CKS[2:0]	内部基準クロック選択	IICの内部基準クロックソース（IICφ）を選択します。 b6 b4 0 0 0：PCLKBクロック 0 0 1：PCLKB/2クロック 0 1 0：PCLKB/4クロック 0 1 1：PCLKB/8クロック 1 0 0：PCLKB/16クロック 1 0 1：PCLKB/32クロック 1 1 0：PCLKB/64クロック 1 1 1：PCLKB/128クロック	R/W
b7	MTWP	MST/TRSライトプロテクト	0：ICCR2.MST、TRSビットへの書き込み禁止 1：ICCR2.MST、TRSビットへの書き込み許可	R/W

注 1.　BC[2:0] ビットを書き換える場合は、同時に BCWP ビットを 0 にしてください。

BC[2:0] ビット（ビットカウンタ）

BC[2:0] ビットは、SCLn ラインの立ち上がりエッジの検出時に、残りの転送ビット数を示すカウンタです。BC[2:0] ビットは読み出し／書き込みが可能なビットですが、通常はこれらのビットへのアクセスは不要です。

なお、これらのビットへ書き込む場合は、SCLn ラインが Low の状態で、転送するデータのビット数 + 1（追加のアクノリッジビット分）を転送フレーム間で指定してください。

BC[2:0] ビットの値は、アクノリッジビットを含むデータ転送の終了時、あるいはスタートコンディション／リスタートコンディションの検出時に 000b に戻ります。

32.2.4 I²C バスモードレジスタ 2（ICMR2）

アドレス　IIC0.ICMR2 4005 3003h, IIC1.ICMR2 4005 3103h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DLCS	SDDL[2:0]			—	TMOH	TMOL	TMOS
リセット後の値	0	0	0	0	0	1	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TMOS	タイムアウト検出時間選択	0：ロングモードを選択 1：ショートモードを選択	R/W
b1	TMOL	タイムアウトLカウント制御	0：SCLnラインがLowの間カウントを禁止 1：SCLnラインがLowの間カウントを許可	R/W
b2	TMOH	タイムアウトHカウント制御	0：SCLnラインがHighの間カウントを禁止 1：SCLnラインがHighの間カウントを許可	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6-b4	SDDL[2:0]	SDA出力遅延カウンタ	• ICMR2.DLCS = 0（IICφ）のとき b6 b4 0 0 0：出力遅延なし 0 0 1：IICφの1サイクル 0 1 0：IICφの2サイクル 0 1 1：IICφの3サイクル 1 0 0：IICφの4サイクル 1 0 1：IICφの5サイクル 1 1 0：IICφの6サイクル 1 1 1：IICφの7サイクル • ICMR2.DLCS = 1（IICφ/2）のとき b6 b4 0 0 0：出力遅延なし 0 0 1：IICφの1または2サイクル 0 1 0：IICφの3または4サイクル 0 1 1：IICφの5または6サイクル 1 0 0：IICφの7または8サイクル 1 0 1：IICφの9または10サイクル 1 1 0：IICφの11または12サイクル 1 1 1：IICφの13または14サイクル	R/W
b7	DLCS	SDA出力遅延クロックソース選択	0：SDA出力遅延カウンタのクロックソースに内部基準クロック（IICφ）を選択 1：SDA出力遅延カウンタのクロックソースに内部基準クロックの2分周（IICφ/2）を選択（注1）	R/W

注 1.　DLCS = 1（IICφ/2）の設定は、SCL が Low のときのみ有効です。SCL が High のとき、DLCS = 1 の設定は無効となり、クロックソースは内部基準クロック（IICφ）となります。

TMOS ビット（タイムアウト検出時間選択）

TMOS ビットは、タイムアウト検出機能有効時（ICFER.TMOE ビット = 1）に、タイムアウト検出時間のロングモードまたはショートモードを選択します。

本ビットを 0 にすると、ロングモードが選択されます。本ビットを 1 にすると、ショートモードが選択されます。

ロングモードでは、タイムアウト検出用の内部カウンタが 16 ビットカウンタとして機能します。ショートモードでは、このカウンタが 14 ビットカウンタとして機能します。TMOH ビットと TMOL ビットで指定されたカウンタが有効なステートに SCLn ラインがあるとき、カウンタは内部基準クロック（IICφ）をカウントソースとしてアップカウントを行います。

この機能の詳細については、32.12.1　タイムアウト検出機能を参照してください。

TMOL ビット（タイムアウト L カウント制御）

TMOL ビットは、SCLn ラインが Low ホールドであり、かつタイムアウト検出機能有効時（ICFER.TMOE = 1）に、タイムアウト検出機能の内部カウンタによるカウントアップを許可または禁止します。

TMOH ビット（タイムアウト H カウント制御）

TMOH ビットは、SCLn ラインが High ホールドであり、かつタイムアウト検出機能が有効時（ICFER.TMOE = 1）に、タイムアウト検出機能の内部カウンタによるカウントアップを許可または禁止します。

SDDL[2:0] ビット（SDA 出力遅延カウンタ）

SDDL[2:0] ビットを使用して、SDA 出力を遅延させることができます。SDA 出力遅延カウンタは、DLCS ビットで選択したクロックソースで動作します。この設定値は、アクノリッジビット送出を含むすべての種類の SDA 出力に適用されます。

SDA 出力遅延の設定は、データ有効時間／アクノリッジ有効時間（注 1）の I2C バス規格、または SMBus 規格に収まるようにしてください。SMBus 規格は、「データホールド時間（300ns 以上 + SCL クロックの Low 幅）- データセットアップ時間（250ns）」です。規格外に設定すると、デバイス間の通信に誤動作を引き起こすか、バスの状態によってはスタートコンディションまたはストップコンディションを誤って表示する可能性があります。

この機能の詳細については、32.5　SDA 出力遅延機能を参照してください。

注 1.　データ有効時間／アクノリッジ有効時間
3450ns ～ 100kbps：スタンダードモード（Sm）
900ns ～ 400kbps：ファストモード（Fm）
450ns ～ 1Mbps：ファストモードプラス（Fm+）

32.2.5 I²C バスモードレジスタ 3（ICMR3）

アドレス IIC0.ICMR3 4005 3004h, IIC1.ICMR3 4005 3104h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SMBS	WAIT	RDRFS	ACKWP	ACKBT	ACKBR	NF[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	NF[1:0]	ノイズフィルタ段数選択	b1 b0 0 0：1IICφサイクル以下のノイズを除去（フィルタは1段） 0 1：2IICφサイクル以下のノイズを除去（フィルタは2段） 1 0：3IICφサイクル以下のノイズを除去（フィルタは3段） 1 1：4IICφサイクル以下のノイズを除去（フィルタは4段）	R/W
b2	ACKBR	受信アクノリッジ	0：アクノリッジビットに0を受信（ACK受信） 1：アクノリッジビットに1を受信（NACK受信）	R
b3	ACKBT	送信アクノリッジ	0：アクノリッジビットに0を送出（ACK送信） 1：アクノリッジビットに1を送出（NACK送信）	R/W （注1）
b4	ACKWP	ACKBTライトプロテクト	0：ACKBTビットへの書き込み禁止 1：ACKBTビットへの書き込み許可	R/W （注1）
b5	RDRFS	RDRFフラグセットタイミング選択	0：SCLクロックの9クロック目の立ち上がりでRDRFフラグをセット。8クロック目の立ち下がりでSCLnラインのLowホールドを行わない 1：SCLクロックの8クロック目の立ち上がりでRDRFフラグをセット。8クロック目の立ち下がりでSCLnラインをLowホールドを行う LowホールドはACKBTビットへの書き込みで解除	R/W （注2）
b6	WAIT	WAIT	0：ウェイトなし。9クロック目と1クロック目の間にLowホールドを行わない 1：ウェイトあり。9クロック目と1クロック目の間にLowホールドを行う LowホールドはICDRRレジスタの読み出しで解除	R/W （注2）
b7	SMBS	SMBus/I²Cバス選択	0：I²Cバスを選択 1：SMBusを選択	R/W

注 1.　ACKBT ビットに書き込む場合には、ACKWP ビットが 1 の状態で行ってください。アプリケーションが ACKWP ビットと ACKBT ビットに同時に 1 を書き込んでも、ACKBT ビットは 1 になりません。

注 2.　WAIT ビットと RDRFS ビットは、受信モード時のみ有効、送信モード時は無効です。

NF[1:0] ビット（ノイズフィルタ段数選択）

NF[1:0] ビットは、デジタルノイズフィルタの段数を選択します。

この機能の詳細については、32.6　デジタルノイズフィルタ回路を参照してください。

注 .　除去するノイズ幅は、SCLn ラインの High 幅または Low 幅よりも狭くなるように設定してください。ノイズ幅の設定が［SCL クロックの幅：High 幅または Low 幅のいずれか短い方］—［1.5 内部基準クロック（IICφ）サイクル + アナログノイズフィルタ：120ns（参考値）］の値以上の場合、SCL クロックはノイズとみなされ、IIC が正常に動作しない可能性があります。

ACKBR ビット（受信アクノリッジ）

ACKBR ビットは、送信モード時に受信デバイスから受け取ったアクノリッジビットの内容を格納します。

［1 になる条件］

- ICCR2.TRS ビットが 1 の状態でアクノリッジビットに 1 を受信したとき

［0 になる条件］

- ICCR2.TRS ビットが 1 の状態でアクノリッジビットに 0 を受信したとき

- ICCR1.ICE ビットが 0 の状態で ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いたとき（IIC リセット）

ACKBT ビット（送信アクノリッジ）

ACKBT ビットは、受信モード時に送出されるアクノリッジビットを設定します。

［1 になる条件］

- ACKWP ビットが 1 の状態で本ビットに 1 を書いたとき

［0 になる条件］

- ACKWP ビットが 1 の状態で本ビットに 0 を書いたとき
- ICCR2.SP ビットが 1 の状態で、ストップコンディションの発行を検出したとき
- ICCR1.ICE ビットが 0 の状態で ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いたとき（IIC リセット）

ACKWP ビット（ACKBT ライトプロテクト）

ACKWP ビットは、ACKBT ビットの書き込み許可を制御します。

RDRFS ビット（RDRF フラグセットタイミング選択）

RDRFS ビットは、受信モード時の RDRF フラグのセットタイミングと、SCL クロックの 8 クロック目の立ち下がりで SCLn ラインの Low ホールドを行うか否かを選択します。

RDRFS ビットが 0 のとき、SCL クロックの 8 クロック目の立ち下がりで SCLn ラインの Low ホールドは行わず、SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで RDRF フラグを 1 にします。

RDRFS ビットが 1 のとき、SCL クロックの 8 クロック目の立ち上がりで RDRF フラグを 1 にし、SCL クロックの 8 クロック目の立ち下がりで SCLn ラインの Low ホールドを行います。この SCLn ラインの Low ホールドは、ACKBT ビットへの書き込みによって解除されます。

この設定でデータを受信した後、アクノリッジビット送出前に、SCLn ラインは自動的に Low ホールドされます。これによって、受信データの内容に応じた ACK（ACKBT ビットが 0）または NACK（ACKBT ビットが 1）の送出処理が可能となります。

WAIT ビット（WAIT）

WAIT ビットは、受信モードにおいて 1 バイト受信ごとに、受信データバッファ（ICDRR レジスタ）の読み出しが完了するまで、SCL クロックの 9 クロック目と 1 クロック目の間を強制的に Low ホールドするか否かを制御します。

WAIT ビットが 0 のとき、SCL クロックの 9 クロック目と 1 クロック目の間の Low ホールドは行わず、受信動作をそのまま継続します。RDRFS ビットと WAIT ビットがともに 0 のとき、ダブルバッファによる連続受信動作が可能です。

WAIT ビットが 1 のとき、1 バイト受信ごとに、9 クロック目の立ち下がり以降、ICDRR レジスタ値が読み出されるまでの間、SCLn ラインを Low にホールドします。これによって、1 バイトごとの受信動作が可能になります。

注 .　WAIT ビットの値を読み出す場合は、必ず最初に ICDRR レジスタを読み出してください。

SMBS ビット（SMBus/I²C バス選択）

SMBS ビットを 1 にすると、SMBus が選択されて、ICSER.HOAE ビットが有効になります。

32.2.6 I2C バスファンクションイネーブルレジスタ（ICFER）

アドレス　IIC0.ICFER 4005 3005h, IIC1.ICFER 4005 3105h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	FMPE	SCLE	NFE	NACKE	SALE	NALE	MALE	TMOE
リセット後の値	0	1	1	1	0	0	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TMOE	タイムアウト検出機能有効	0：タイムアウト検出機能は無効 1：タイムアウト検出機能は有効	R/W
b1	MALE	マスタアービトレーションロスト検出有効	0：アービトレーションロスト検出機能を無効にして、アービトレーションロスト発生によるICCR2.MSTおよびTRSビットの自動クリアを禁止 1：アービトレーションロスト検出機能を有効にして、アービトレーションロスト発生によるICCR2.MSTおよびTRSビットの自動クリアを許可	R/W
b2	NALE	NACK送信アービトレーションロスト検出有効	0：NACK送信アービトレーションロスト検出は無効 1：NACK送信アービトレーションロスト検出は有効	R/W
b3	SALE	スレーブアービトレーションロスト検出有効	0：スレーブアービトレーションロスト検出は無効 1：スレーブアービトレーションロスト検出は有効	R/W
b4	NACKE	NACK受信転送中断許可	0：NACK受信時、転送を中断しない（転送中断禁止） 1：NACK受信時、転送を中断する（転送中断許可）	R/W
b5	NFE	デジタルノイズフィルタ回路有効	0：デジタルノイズフィルタ回路を使用しない 1：デジタルノイズフィルタ回路を使用する	R/W
b6	SCLE	SCL同期回路有効	0：SCL同期回路を使用しない 1：SCL同期回路を使用する	R/W
b7	FMPE （注1）	ファストモードプラス有効	0：SCLnおよびSDAn端子にファストモードプラスのスロープ制御回路を使用しない 1：SCLnおよびSDAn端子にファストモードプラスのスロープ制御回路を使用する	R/W

注 1.　ファストモードプラス有効ビット（FMPE）は、IIC0（SCL0-A、SDA0-A）のみ対応しています。IIC1 では、ビット 7 は予約ビットです。

TMOE ビット（タイムアウト検出機能有効）

TMOE ビットは、タイムアウト検出機能を有効または無効にします。

この機能の詳細については、32.12.1　タイムアウト検出機能を参照してください。

MALE ビット（マスタアービトレーションロスト検出有効）

MALE ビットは、マスタモード時にアービトレーションロスト検出機能を使用するか否かを指定します。通常の動作では、本ビットを 1 にしてください。

NALE ビット（NACK 送信アービトレーションロスト検出有効）

NALE ビットは、受信モード時の NACK 送出中に ACK が検出された場合（同じアドレスのスレーブがバス上に存在した場合や、2 つ以上のマスタが同時に同一のスレーブデバイスを選択し、それぞれ受信バイト数が異なる場合など）に、アービトレーションロストを発生させるか否かを選択します。

SALE ビット（スレーブアービトレーションロスト検出有効）

SALE ビットは、スレーブ送信モード時に送出中の値と異なる値がバス上で検出された場合（同じアドレスのスレーブがバス上に存在した場合や、ノイズが原因で送信データとの不一致が生じた場合など）に、アービトレーションロストを発生させるか否かを選択します。

NACKE ビット（NACK 受信転送中断許可）

NACKE ビットは、送信モード時に NACK を受信した場合、転送動作を継続するか中断するかを選択します。通常の動作では、本ビットを 1 にしてください。

NACKE ビットが 1 の状態で NACK を受信した場合、次の転送動作が中断されます。NACKE ビットが 0 のとき、受信したアクノリッジの内容にかかわらず、次の転送動作が継続されます。

詳細は、32.9.2　NACK 受信転送中断機能を参照してください。

SCLE ビット（SCL 同期回路有効）

SCLE ビットは、SCL クロックを SCL 入力クロックと同期させるか否かを選択します。通常の動作では、本ビットを 1 にしてください。

SCLE ビットを 0（SCL 同期回路を使用しない）にすると、IIC は SCL クロックを SCLn 入力クロックと同期させません。この設定の場合、SCLn ラインの状態にかかわらず、IIC は、ICBRH および ICBRL レジスタで設定した転送速度の SCL クロックを出力します。そのため、I²C バスラインのバス負荷が規格値よりも大幅に大きい場合や、マルチマスタにおいて SCLn クロック出力が重なった場合など、規格外の短いクロックになる可能性がありますので注意してください。また SCL 同期回路を使用しない場合、スタートコンディション、リスタートコンディション、ストップコンディションの発行および SCL クロック追加出力の連続出力にも影響します。

本ビットは、設定した転送速度が出力されているかどうかを確認する場合などを除き 0 にしないでください。

FMPE ビット（ファストモードプラス有効）

FMPE ビットは、ファストモードプラス（Fm+）用のスロープ制御回路を使用するか否かを指定します。

本ビットを 1 にすると、I²C バスのファストモードプラス（Fm+）規格（tof）に準拠したスロープ制御回路が選択されます。本ビットを 0 にすると、I²C バスの標準モード（Sm）およびファストモード（Fm）規格（tof）に準拠したスロープ制御回路が選択されます。

通信速度を～ 1Mbps（ファストモードプラス（Fm+））で使用する場合、本ビットを 1 にしてください。それ以外の通信速度（～ 100kbps（Sm）、～ 400kbps（Fm））または SMBus（10kbps ～ 100kbps）で使用する場合は、本ビットを 0 にしてください。

32.2.7 I²C バスステータスイネーブルレジスタ（ICSER）

アドレス　IIC0.ICSER 4005 3006h, IIC1.ICSER 4005 3106h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	HOAE	—	DIDE	—	GCAE	SAR2E	SAR1E	SAR0E
リセット後の値	0	0	0	0	1	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SAR0E	スレーブアドレスレジスタ0有効	0：SARL0およびSARU0のスレーブアドレスは無効 1：SARL0およびSARU0のスレーブアドレスは有効	R/W
b1	SAR1E	スレーブアドレスレジスタ1有効	0：SARL1およびSARU1のスレーブアドレスは無効 1：SARL1およびSARU1のスレーブアドレスは有効	R/W
b2	SAR2E	スレーブアドレスレジスタ2有効	0：SARL2およびSARU2のスレーブアドレスは無効 1：SARL2およびSARU2のスレーブアドレスは有効	R/W
b3	GCAE	ジェネラルコールアドレス有効	0：ジェネラルコールアドレス検出は無効 1：ジェネラルコールアドレス検出は有効	R/W
b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5	DIDE	デバイスIDアドレス検出有効	0：デバイスIDアドレス検出は無効 1：デバイスIDアドレス検出は有効	R/W
b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	HOAE	ホストアドレス有効	0：ホストアドレス検出は無効 1：ホストアドレス検出は有効	R/W

SARyE ビット（スレーブアドレスレジスタ y 有効）（y = 0 ～ 2）

SARyE ビットは、受信したスレーブアドレスと、SARLy および SARUy レジスタで設定したスレーブアドレスを有効または無効にします。

本ビットを 1 にすると、SARLy および SARUy レジスタで設定したスレーブアドレスが有効になり、受信したスレーブアドレスと比較されます。本ビットを 0 にすると、SARLy および SARUy レジスタで設定したスレーブアドレスが無効になり、受信したスレーブアドレスと一致しても無視されます。

GCAE ビット（ジェネラルコールアドレス有効）

GCAE ビットは、ジェネラルコールアドレス（0000 000b + 0[W]：すべて 0）を受信した場合、無視するかどうかを選択します。

本ビットが 1 の場合、受信したスレーブアドレスがジェネラルコールアドレスと一致すると、IIC は SARLy および SARUy レジスタ（y = 0 ～ 2）で設定したスレーブアドレスとは無関係に、受信したスレーブアドレスをジェネラルコールアドレスと認識し、データ受信動作を行います。本ビットが 0 の場合、受信したスレーブアドレスは、ジェネラルコールアドレスと一致しても無視されます。

DIDE ビット（デバイス ID アドレス検出有効）

DIDE ビットは、スタートコンディションまたはリスタートコンディション検出後の第 1 フレームでデバイス ID（1111 100b）を受信した場合、デバイス ID アドレスと認識して動作させるかどうかを選択します。

本ビットが 1 のときに、受信した第 1 フレームがデバイス ID と一致すると、IIC はデバイス ID アドレスを受信したと認識します。続く R/W# ビットが 0（W）の場合、IIC は第 2 フレーム以降をスレーブアドレスとみなして、受信動作を継続します。本ビットが 0 の場合、IIC は受信した第 1 フレームがデバイス ID アドレスと一致してもそれを無視し、第 1 フレームを通常のスレーブアドレスと認識します。

この機能の詳細については、32.7.3　デバイス ID アドレス検出機能を参照してください。

HOAE ビット（ホストアドレス有効）

HOAE ビットは、ICMR3.SMBS ビットが 1 の場合、受信したホストアドレス（0001 000b）を無視するかどうかを選択します。

本ビットが 1 で、かつ ICMR3.SMBS ビットも 1 の場合、受信したスレーブアドレスがホストアドレスと一致すると、IIC は SARLy および SARUy レジスタ（y = 0 ～ 2）で設定したスレーブアドレスとは無関係に、受信したスレーブアドレスをホストアドレスとして認識し、受信動作を行います。

ICMR3.SMBS ビットまたは HOAE ビットが 0 の場合、受信したスレーブアドレスがホストアドレスと一致しても無視されます。

32.2.8 I²C バス割り込みイネーブルレジスタ（ICIER）

アドレス IIC0.ICIER 4005 3007h, IIC1.ICIER 4005 3107h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TIE	TEIE	RIE	NAKIE	SPIE	STIE	ALIE	TMOIE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TMOIE	タイムアウト割り込み要求許可	0：タイムアウト割り込み（TMOIn）要求を禁止 1：タイムアウト割り込み（TMOIn）要求を許可	R/W
b1	ALIE	アービトレーションロスト割り込み要求許可	0：アービトレーションロスト割り込み（ALIn）要求を禁止 1：アービトレーションロスト割り込み（ALIn）要求を許可	R/W
b2	STIE	スタートコンディション検出割り込み要求許可	0：スタートコンディション検出割り込み（STIn）要求を禁止 1：スタートコンディション検出割り込み（STIn）要求を許可	R/W
b3	SPIE	ストップコンディション検出割り込み要求許可	0：ストップコンディション検出割り込み（SPIn）要求を禁止 1：ストップコンディション検出割り込み（SPIn）要求を許可	R/W
b4	NAKIE	NACK 受信割り込み要求許可	0：NACK 受信割り込み（NAKIn）要求を禁止 1：NACK 受信割り込み（NAKIn）要求を許可	R/W
b5	RIE	受信データフル割り込み要求許可	0：受信データフル割り込み（IICn_RXI）要求を禁止 1：受信データフル割り込み（IICn_RXI）要求を許可	R/W
b6	TEIE	送信終了割り込み要求許可	0：送信終了割り込み（IICn_TEI）要求を禁止 1：送信終了割り込み（IICn_TEI）要求を許可	R/W
b7	TIE	送信データエンプティ割り込み要求許可	0：送信データエンプティ割り込み（IICn_TXI）要求を禁止 1：送信データエンプティ割り込み（IICn_TXI）要求を許可	R/W

TMOIE ビット（タイムアウト割り込み要求許可）

TMOIE ビットは、ICSR2.TMOF フラグが 1 のとき、タイムアウト割り込み（TMOIn）要求を許可または禁止します。TMOI 割り込み要求を解除するには、TMOF フラグまたは TMOIE ビットを 0 にします。

ALIE ビット（アービトレーションロスト割り込み要求許可）

ALIE ビットは、ICSR2.AL フラグが 1 のとき、アービトレーションロスト割り込み（ALIn）要求を許可または禁止します。ALI 割り込み要求を解除するには、AL フラグまたは ALIE ビットを 0 にします。

STIE ビット（スタートコンディション検出割り込み要求許可）

STIE ビットは、ICSR2.START フラグが 1 のとき、スタートコンディション検出割り込み（STIn）要求を許可または禁止します。STI 割り込み要求を解除するには、START フラグまたは STIE ビットを 0 にします。

SPIE ビット（ストップコンディション検出割り込み要求許可）

SPIE ビットは、ICSR2.STOP フラグが 1 のとき、ストップコンディション検出割り込み（SPIn）要求を許可または禁止します。SPI 割り込み要求を解除するには、STOP フラグまたは SPIE ビットを 0 にします。

NAKIE ビット（NACK 受信割り込み要求許可）

NAKIE ビットは、ICSR2.NACKF フラグが 1 のとき、NACK 受信割り込み（NAKIn）要求を許可または禁止します。NAKI 割り込み要求を解除するには、NACKF フラグまたは NAKIE ビットを 0 にします。

RIE ビット（受信データフル割り込み要求許可）

RIE ビットは、ICSR2.RDRF フラグが 1 のとき、受信データフル割り込み（IICn_RXI）要求を許可または禁止します。

TEIE ビット（送信終了割り込み要求許可）

TEIE ビットは、ICSR2.TEND フラグが 1 のとき、送信終了割り込み（IICn_TEI）要求を許可または禁止します。IICn_TEI 割り込み要求を解除するには、TEND フラグまたは TEIE ビットを 0 にします。

TIE ビット（送信データエンプティ割り込み要求許可）

TIE ビットは、ICSR2.TDRE フラグが 1 のとき、送信データエンプティ割り込み（IICn_TXI）要求を許可または禁止します。

32.2.9 I²C バスステータスレジスタ 1（ICSR1）

アドレス　IIC0.ICSR1 4005 3008h, IIC1.ICSR1 4005 3108h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	HOA	—	DID	—	GCA	AAS2	AAS1	AAS0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	AAS0	スレーブアドレス0検出フラグ	0：スレーブアドレス0未検出 1：スレーブアドレス0検出	R/(W) （注1）
b1	AAS1	スレーブアドレス1検出フラグ	0：スレーブアドレス1未検出 1：スレーブアドレス1検出	R/(W) （注1）
b2	AAS2	スレーブアドレス2検出フラグ	0：スレーブアドレス2未検出 1：スレーブアドレス2検出	R/(W) （注1）
b3	GCA	ジェネラルコールアドレス検出フラグ	0：ジェネラルコールアドレス未検出 1：ジェネラルコールアドレス検出	R/(W) （注1）
b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5	DID	デバイスIDアドレス検出フラグ	0：デバイスIDコマンド未検出 1：デバイスIDコマンド検出 スタートコンディション検出直後に受信した第1フレームがデバイスIDアドレス（1111 100b）+ 0[W]と一致した場合、1になります。	R/(W) （注1）
b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	HOA	ホストアドレス検出フラグ	0：ホストアドレス未検出 1：ホストアドレス検出 受信したスレーブアドレスがホストアドレス（0001 000b）と一致した場合、1になります。	R/(W) （注1）

注 1.　フラグをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。

AASy フラグ（スレーブアドレス y 検出フラグ）（y = 0 ～ 2）

AASy フラグは、スレーブアドレス y が検出されたかどうかを示します。

［1 になる条件］

【7 ビットアドレスフォーマット選択時（SARUy.FS = 0）】

- ICSER.SARyE ビットが 1（スレーブアドレス y 検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスが SARLy.SVA[6:0] ビット値と一致したとき
  AASy フラグは、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 1 になります。

【10 ビットアドレスフォーマット選択時（SARUy.FS = 1）】

- ICSER.SARyE ビットが 1（スレーブアドレス y 検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスが（11110b + SARUy.SVA[1:0]）の値と一致し、かつ、それに続くアドレスが SARLy レジスタの値と一致したとき
  AASy フラグは、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 1 になります。

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- ストップコンディションが検出されたとき
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

【7 ビットアドレスフォーマット選択時（SARUy.FS = 0）】

- ICSER.SARyE ビットが 1（スレーブアドレス y 検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスが SARLy.SVA[6:0] ビット値と一致しなかったとき
  AASy フラグは、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 0 になります。

【10 ビットアドレスフォーマット選択時（SARUy.FS = 1）】

- ICSER.SARyE ビットが 1（スレーブアドレス y 検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスが（11110b + SARUy.SVA[1:0]）の値と一致しなかったとき
  AASy フラグは、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 0 になります。
- ICSER.SARyE ビットが 1（スレーブアドレス y 検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスが（11110b + SARUy.SVA[1:0]）の値と一致し、かつ、それに続くアドレスが SARLy レジスタの値と一致しなかったとき
  AASy フラグは、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 0 になります。

GCA フラグ（ジェネラルコールアドレス検出フラグ）

GCA フラグは、ジェネラルコールアドレスが検出されたかどうかを示します。

［1 になる条件］

- ICSER.GCAE ビットが 1（ジェネラルコールアドレス検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスがジェネラルコールアドレス（0000 000b ＋ 0[W]）と一致したとき
  GCA フラグは、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 1 になります。

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- ストップコンディションが検出されたとき
- ICSER.GCAE ビットが 1（ジェネラルコールアドレス検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスがジェネラルコールアドレス（0000 000b ＋ 0[W]）と一致しなかったとき
  GCA フラグは、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 0 になります。
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

DID フラグ（デバイス ID アドレス検出フラグ）

DID フラグは、デバイス ID アドレスが検出されたかどうかを示します。

［1 になる条件］

- ICSER.DIDE ビットが 1（デバイス ID アドレス検出有効）の状態で、スタートコンディションまたはリスタートコンディション検出直後に受信した第 1 フレームが（デバイス ID（1111 100b）＋ 0[W]）の値と一致したとき
  DID フラグは、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 1 になります。

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- ストップコンディションが検出されたとき
- ICSER.DIDE ビットが 1（デバイス ID アドレス検出有効）の状態で、スタートコンディションまたはリスタートコンディション検出直後に受信した第 1 フレームが（デバイス ID（1111 100b））の値と一致しなかったとき
  DID フラグは、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 0 になります。
- ICSER.DIDE ビットが 1（デバイス ID アドレス検出有効）の状態で、スタートコンディションまたはリスタートコンディション検出直後に受信した第 1 フレームが（デバイス ID（1111 100b）＋ 0[W]）の値と一致し、かつ、第 2 フレームがスレーブアドレス 0 ～ 2 のすべてと一致しなかったとき
  DID フラグは、第 2 フレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 0 になります。

- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

HOA フラグ（ホストアドレス検出フラグ）

HOA フラグは、ホストアドレスが検出されたかどうかを示します。

［1 になる条件］

- ICSER.HOAE ビットが 1（ホストアドレス検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスがホストアドレス（0001 000b）と一致したとき
  HOA フラグは、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 1 になります。

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- ストップコンディションが検出されたとき
- ICSER.HOAE ビットが 1（ホストアドレス検出有効）の状態で、受信したスレーブアドレスがホストアドレス（0001 000b）と一致しなかったとき
  HOA フラグは、そのフレームの SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 0 になります。
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

32.2.10 I²C バスステータスレジスタ 2（ICSR2）

アドレス IIC0.ICSR2 4005 3009h, IIC1.ICSR2 4005 3109h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TDRE	TEND	RDRF	NACKF	STOP	START	AL	TMOF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TMOF	タイムアウト検出フラグ	0：タイムアウト未検出 1：タイムアウト検出	R/(W)（注1）
b1	AL	アービトレーションロストフラグ	0：アービトレーションロスト未発生 1：アービトレーションロスト発生	R/(W)（注1）
b2	START	スタートコンディション検出フラグ	0：スタートコンディション未検出 1：スタートコンディション検出	R/(W)（注1）
b3	STOP	ストップコンディション検出フラグ	0：ストップコンディション未検出 1：ストップコンディション検出	R/(W)（注1）
b4	NACKF	NACK検出フラグ	0：NACK未検出 1：NACK検出	R/(W)（注1）
b5	RDRF	受信データフルフラグ	0：ICDRR レジスタに受信データなし 1：ICDRR レジスタに受信データあり	R/(W)（注1）
b6	TEND	送信終了フラグ	0：データ送信中 1：データ送信完了	R/(W)（注1）
b7	TDRE	送信データエンプティフラグ	0：ICDRT レジスタに送信データあり 1：ICDRT レジスタに送信データなし	R

注 1.　フラグをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。

TMOF フラグ（タイムアウト検出フラグ）

TMOF フラグは、SCLn ラインの状態が一定期間変化しないために、IIC がタイムアウトを検出したときに 1 になります。

［1 になる条件］

- マスタモードまたはスレーブモード時に、ICFER.TMOE ビットが 1（タイムアウト検出機能有効）で、かつ、受信したスレーブアドレスが一致した状態で、ICMR2.TMOH、TMOL、TMOS ビットで指定した期間 SCLn ライン状態が変化しなかったとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

AL フラグ（アービトレーションロストフラグ）

AL フラグは、スタートコンディション発行時やアドレスおよびデータ送信時に、バス競合などが原因で、バス占有権がアービトレーションロストしたことを示します。

IIC は、送信中に SDAn ラインのレベルを監視し、SDAn ラインのレベルと出力中のビット値が一致していないと、AL フラグを 1 にすることで、バスが他のデバイスによって占有されていることを示します。さらに IIC は、本フラグをセットすることで、NACK 送信中またはデータ送信中に、アービトレーションロストが検出されたことも示します。

［1 になる条件］

【マスタアービトレーションロスト検出有効時（ICFER.MALE = 1）】

- マスタ送信モード時のデータ送信において、ACK 期間を除く SCL クロックの立ち上がりで出力した SDA 信号と SDAn ライン上の信号の状態が一致しなかったとき
- ICCR2.ST ビットが 1（スタートコンディション要求）の状態でスタートコンディションが検出されたとき、または、出力した SDA 信号と SDAn ライン上の信号の状態が一致しなかったとき
- ICCR2.BBSY フラグが 1 の状態で、ICCR2.ST ビットが 1（スタートコンディション要求）のとき

【NACK アービトレーションロスト検出有効時（ICFER.NALE = 1）】

- 受信モードでの NACK 送信中に、ACK 期間において、内部の SDA 出力状態が SCL クロックの立ち上がりで SDAn ラインレベルと一致しなかったとき

【スレーブアービトレーションロスト検出有効時（ICFER.SALE = 1）】

- スレーブ送信モードでのデータ送信中に、ACK 期間を除き、内部の SDA 出力状態が SCL クロックの立ち上がりで SDAn ラインレベルと一致しなかったとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

表 32.4　アービトレーションロスト発生要因と各アービトレーションロスト有効機能との関係

ICFER			ICSR2		
MALE	NALE	SALE	AL	エラー内容	アービトレーションロスト発生要因
1	x	x	1	スタートコンディション発行エラー	ICCR2.ST が 1 の状態でスタートコンディション検出時に出力した SDA 信号と SDAn ライン上の信号の状態が一致しなかったとき
					ICCR2.BBSY が 1 のときに、ICCR2.ST を 1 にしたとき
			1	送信データ不一致	マスタ送信モードで、送信データ（スレーブアドレス含む）とバス状態が一致しなかったとき
x	1	x	1	NACK 送信不一致	マスタまたはスレーブ受信モードで、NACK 送信時に ACK を検出したとき
x	x	1	1	送信データ不一致	スレーブ送信モードで、送信データとバス状態が一致しなかったとき

x：Don’t care

START フラグ（スタートコンディション検出フラグ）

START フラグは、スタートコンディションまたはリスタートコンディションが検出されたかどうかを示します。

［1 になる条件］

- スタートコンディションまたはリスタートコンディションが検出されたとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- ストップコンディションが検出されたとき
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

STOP フラグ（ストップコンディション検出フラグ）

STOP フラグは、ストップコンディションが検出されたかどうかを示します。

［1 になる条件］

- ストップコンディションが検出されたとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

NACKF フラグ（NACK 検出フラグ）

NACKF フラグは、NACK が検出されたかどうかを示します。

［1 になる条件］

- ICFER.NACKE ビットが 1（転送中断許可）の状態で、送信モード時に受信デバイスからアクノリッジを受信しなかった（NACK を受信した）とき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

注 . NACKF フラグが 1 になると IIC はデータ送受信動作を中断します。NACKF フラグが 1 の状態で送信モード時に ICDRT レジスタへの書き込みや、受信モード時に ICDRR レジスタの読み出しを行っても、データ送受信動作は許可されません。データ送受信動作を再開するには、NACKF フラグを 0 にしてください。

RDRF フラグ（受信データフルフラグ）

RDRF フラグは、IDCRR レジスタに受信データが含まれているかどうかを示します。

［1 になる条件］

- ICDRS レジスタから ICDRR レジスタに受信データが転送されたとき
  RDRF フラグは、SCL クロックの 8 クロック目または 9 クロック目（ICMR3.RDRFS ビットで選択）の立ち上がりで 1 になります。
- スタート（またはリスタート）コンディション検出後、受信したスレーブアドレスが一致し ICCR2.TRS ビットが 0 のとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- ICDRR レジスタからデータを読んだとき
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

TEND フラグ（送信終了フラグ）

TEND フラグは、データ送信がまだ送信中であるか、完了したかを示します。

［1 になる条件］

- TDRE フラグが 1 の状態での SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がり時

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- ICDRT レジスタへデータを書いたとき
- ストップコンディションが検出されたとき
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

TDRE フラグ（送信データエンプティフラグ）

TDRE フラグは、ICDRT レジスタに送信データが含まれているかどうかを示します。

［1 になる条件］

- ICDRT レジスタから ICDRS レジスタへデータ転送が行われ、ICDRT レジスタが空になったとき
- ICCR2.TRS ビットが 1 になったとき
- 受信したスレーブアドレスが一致し、TRS ビットが 1 のとき

［0 になる条件］

- ICDRT レジスタへデータを書いたとき
- ICCR2.TRS ビットが 0 になったとき
- ICCR1.IICRST ビットに 1 を書いて、IIC リセットまたは内部リセットを行ったとき

注 .　ICFER.NACKE ビットが 1 の状態で NACKF フラグが 1 になると IIC はデータ送受信動作を中断します。このとき、TDRE フラグが 0（次の送信データがすでに書き込まれている状態）の場合、9 クロック目の立ち上がりで ICDRS レジスタへのデータ転送が行われて ICDRT レジスタは空になりますが、TDRE フラグは 1 になりません。

32.2.11 I2C バスウェイクアップユニットレジスタ（ICWUR）

アドレス IIC0.ICWUR 4005 3016h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	WUE	WUIE	WUF	WUACK	—	—	—	WUAFA
リセット後の値	0	0	0	1	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	WUAFA	ウェイクアップアナログフィルタ追加選択	0：ウェイクアップアナログフィルタを追加しない 1：ウェイクアップアナログフィルタを追加する	R/W
b3-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	WUACK	ウェイクアップモード用ACK	ICCR1.IICRSTビットとWUACKビットの組み合わせで、4つの応答モードから選択します。表 32.5を参照してください。	R/W
b5	WUF	ウェイクアップイベント発生フラグ	0：ウェイクアップ時にスレーブアドレス不一致 1：ウェイクアップ時にスレーブアドレス一致	R/W
b6	WUIE	ウェイクアップ割り込み要求許可	0：ウェイクアップ割り込み要求（IIC0_WUI）を禁止 1：ウェイクアップ割り込み要求（IIC0_WUI）を許可	R/W
b7	WUE	ウェイクアップ機能有効	0：ウェイクアップ機能は無効 1：ウェイクアップ機能は有効	R/W

表 32.5　ウェイクアップモード

IICRST	WUACK	動作モード	機能
0	0	ノーマルウェイクアップモード1	SCLクロックの9クロック目でACK応答を行い、9クロック目の後でSCLのLowホールドを行う。
0	1	ノーマルウェイクアップモード2	即時ACK応答せず、SCLクロックの8クロック目と9クロック目の間でSCLのLowホールドを行う。SCLのLowホールドを解除し、SCLクロックの9クロック目でACK応答を行う。
1	0	コマンドリカバリモード	SCLクロックの9クロック目でACK応答を行い、SCLのLowホールドは行わない。
1	1	EEP応答モード	SCLクロックの9クロック目でNACK応答を行い、SCLのLowホールドは行わない。

WUF フラグ（ウェイクアップイベント発生フラグ）

WUF フラグは、ウェークアップ時にスレーブアドレスが一致しているかどうかを示します。

[1 になる条件]

- ウェイクアップモード時、スレーブアドレスが一致し、SCL クロックが Low ホールドされた後、PCLKB が供給されたとき

[0 になる条件]

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき
- ICE ビットが 0 で IICRST ビットが 1 のとき

32.2.12 I²C バスウェイクアップユニットレジスタ 2（ICWUR2）

アドレス IIC0.ICWUR2 4005 3017h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	WUSYF	WUASYF	WUSEN
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	WUSEN	ウェイクアップ機能同期許可	0：IIC 非同期動作を許可 1：IIC 同期動作を許可	R/W
b1	WUASYF	ウェイクアップ機能非同期動作ステータスフラグ	0：IIC 同期動作を許可 1：IIC 非同期動作を許可	R
b2	WUSYF	ウェイクアップ機能同期動作ステータスフラグ	0：IIC 非同期動作を許可 1：IIC 同期動作を許可	R
b7-b3	—	予約ビット	読むと 1 が読めます。書く場合、1 としてください。	R/W

WUSEN ビット（ウェイクアップ機能同期許可）

ウェイクアップ有効機能が有効（ICWUR.WUE = 1）のとき、WUSEN ビットは、WUASYF フラグ（または WUSYF フラグ）との組み合わせで、PCLKB の動作（同期動作／非同期動作）の切り替えに使用されます。

PCLKB の動作は、以下の場合に同期動作から非同期動作に切り替わります：

- WUASYF フラグが 0 の状態で WUSEN ビットに 0 が書き込まれ、ICCR2.BBSY フラグが 0 のとき。PCLKB 非同期動作に切り替わった後、ウェイクアップイベントを検出すると、PCLKB の動作状態に関係なく、（PCLKB 停止状態で）受信が実行される

PCLKB の動作は、以下の場合に非同期動作から同期動作に切り替わります：

- WUASYF フラグが 1 の状態で WUSEN ビットに 1 が書き込まれ、ウェイクアップイベントを検出したとき。1 が書き込まれると、WUASYF フラグはただちに 0 になる
- ウェイクアップイベントが未検出の状態でストップコンディションを検出したとき

WUASYF フラグ（ウェイクアップ機能非同期動作ステータスフラグ）

ウェイクアップ有効機能が有効（ICWUR.WUE = 1）のとき、IIC を PCLKB 非同期動作に切り替えることが可能です。

［1 になる条件］

- ICCR2.BBSY フラグが 0 の場合に、ICWUR.WUE ビットが 1 の状態で WUSEN ビットを 0 にしたとき

［0 になる条件］

- ICWUR.WUE ビットが 1 の状態でウェイクアップイベント検出後、WUSEN ビットに 1 が書き込まれたとき
- WUASYF フラグが 1 で ICWUR.WUE ビットも 1 の状態でウェイクアップイベントを検出する前に、WUSEN ビットが 1 の状態でストップコンディションが検出されたとき
- WUASYF フラグが 1 でウェイクアップイベントが ICWUR.WUE=1 の状態で、WUSEN ビットに 1 が書き込まれたとき
- ICCR1.ICE = 0 かつ ICCRST = 1（ICC リセット）
- ICWUR.WUE = 0

WUSYF フラグ（ウェイクアップ機能同期動作ステータスフラグ）

ウェイクアップ有効機能が有効（ICWUR.WUE = 1）のとき、IIC を PCLKB 同期動作に切り替えることが可能です。本フラグを使用すると、WUASYF フラグが常に予約されます。

［1 になる条件］

- ICWUR.WUE ビットが 1 かつ WUSYF フラグが 0 の状態でウェイクアップイベント検出後、WUSEN ビットに 1 が書き込まれたとき
- WUSYF フラグが 0、ICWUR.WUE ビットが 1 の状態でウェイクアップイベントを検出する前に、WUSEN ビットが 1 の状態でストップコンディションが検出されたとき
- ICCR1.ICE = 0 かつ ICCRST = 1（ICC リセット）
- ICWUR.WUE = 0

［0 になる条件］

- ICCR2.BBSY フラグが 0 の場合に、ICWUR.WUE ビットが 1 の状態で WUSEN ビットを 0 にしたとき

32.2.13　スレーブアドレスレジスタ Ly（SARLy）（y = 0 ～ 2）

アドレス　IIC0.SARL0 4005 300Ah, IIC1.SARL0 4005 310Ah,
IIC0.SARL1 4005 300Ch, IIC1.SARL1 4005 310Ch,
IIC0.SARL2 4005 300Eh, IIC1.SARL2 4005 310Eh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SVA0	10 ビットアドレス最下位ビット	スレーブアドレス設定	R/W
b7-b1	SVA[6:0]	7 ビットアドレス／10 ビットアドレス下位ビット	スレーブアドレス設定	R/W

SVA0 ビット（10 ビットアドレス最下位ビット）

10 ビットアドレスフォーマット選択時（SARUy.FS ビット = 1）、SVA0 ビットは 10 ビットアドレスの最下位ビットとして機能します。また、SVA[6:0] ビットと組み合わせて 10 ビットアドレスの下位 8 ビットを形成します。

本ビットは、ICSER.SARyE ビットが 1（SARLy および SARUy レジスタ有効）で、かつ SARUy.FS ビットが 1 の場合に有効です。SARUy.FS ビットまたは SARyE ビットが 0 の場合、本ビットの設定値は無視されます。

SVA[6:0] ビット（7 ビットアドレス／10 ビットアドレス下位ビット）

7 ビットアドレスフォーマット選択時（SARUy.FS ビット = 0）、SVA[6:0] ビットは 7 ビットアドレスとして機能します。10 ビットアドレスフォーマット選択時（SARUy.FS ビット = 1）、これらのビットは、SVA0 ビットと組み合わせて 10 ビットアドレスの下位 8 ビットを形成します。ICSER.SARyE ビットが 0 のとき設定値は無視されます。

32.2.14　スレーブアドレスレジスタ Uy（SARUy）（y = 0 ～ 2）

アドレス　IIC0.SARU0 4005 300Bh, IIC1.SARU0 4005 310Bh,
IIC0.SARU1 4005 300Dh, IIC1.SARU1 4005 310Dh,
IIC0.SARU2 4005 300Fh, IIC1.SARU2 4005 310Fh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	SVA[1:0]		FS
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	FS	7 ビット／10 ビットアドレスフォーマット選択	0：7 ビットアドレスフォーマット選択 1：10 ビットアドレスフォーマット選択	R/W
b2-b1	SVA[1:0]	10 ビットアドレス上位ビット	スレーブアドレス設定	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

FS ビット（7 ビット／10 ビットアドレスフォーマット選択）

FS ビットは、スレーブアドレス y（SARLy および SARUy レジスタ）に対して、7 ビットアドレスフォーマットまたは 10 ビットアドレスフォーマットを選択します。

ICSER.SAReE ビットが 1（SARLy および SARUy レジスタ有効）で、かつ SARUy.FS ビットが 0 の場合、スレーブアドレス y には 7 ビットアドレスフォーマットが選択されて、SARLy.SVA[6:0] ビットの設定値が有効になり、SVA[1:0] ビットと SARLy.SVA0 ビットの設定値は無視されます。

ICSER.SAReE ビットが 1（SARLy および SARUy レジスタ有効）で、かつ SARUy.FS ビットが 1 の場合、スレーブアドレス y には 10 ビットアドレスフォーマットが選択されて、SVA[1:0] ビットおよび SARLy レジスタの設定値が有効になります。

ICSER.SAReE ビットが 0（SARLy および SARUy レジスタ無効）の場合、SARUy.FS ビットの設定値は無効です。

SVA[1:0] ビット（10 ビットアドレス上位ビット）

10 ビットアドレスフォーマット選択時（FS ビット = 1）、SVA[1:0] ビットは 10 ビットアドレスの上位 2 ビットとして機能します。

これらのビットは、ICSER.SAReE ビットが 1（SARLy および SARUy レジスタ有効）で、かつ SARUy.FS ビットが 1 の場合に有効です。SARUy.FS ビットまたは SAReE ビットが 0 の場合、これらのビットの設定値は無視されます。

32.2.15 I2C バスビットレート Low レジスタ（ICBRL）

アドレス　IIC0.ICBRL 4005 3010h, IIC1.ICBRL 4005 3110h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	BRL[4:0]				
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	BRL[4:0]	ビットレートLow幅設定	SCLクロックのLow幅	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W

ICBRL レジスタは、SCL クロックの Low 幅を設定する 5 ビットのレジスタです。ICBRL レジスタは、SCL 自動 Low ホールド機能（32.9　SCL の自動 Low ホールド機能を参照）のデータセットアップ時間も生成します。

BRL[4:0] ビット（ビットレート Low 幅設定）

SCL クロックの Low 幅を設定します。ICBRL レジスタは、ICMR1.CKS[2:0] ビットで指定した内部基準クロックソース（IICφ）で Low 幅をカウントします。IIC をスレーブモードのみで使用する場合、BRL[4:0] ビットにはデータセットアップ時間（注 1）以上の値を設定してください。

デジタルノイズフィルタ回路の使用を許可（ICFER.NFE ビット =1）した場合、BRL[4:0] ビットには、ノイズフィルタの段数 +1 以上の値を設定してください。この段数については、ICMR3.NF[1:0] ビットの説明を参照してください。

注 1.　データセットアップ時間（tSU:DAT）
250ns ～ 100kbps：スタンダードモード（Sm）
100ns ～ 400kbps：ファストモード（Fm）
50ns ～ 1Mbps：ファストモードプラス (Fm+)

32.2.16 I2C バスビットレート High レジスタ（ICBRH）

アドレス　IIC0. ICBRH 4005 3011h, IIC1.ICBRH 4005 3111h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	BRH[4:0]				
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	BRH[4:0]	ビットレートHigh幅設定	SCLクロックのHigh幅	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W

ICBRH レジスタは、SCL クロックの High 幅を設定する 5 ビットのレジスタです。ICBRH レジスタはマスタモードで有効になります。

BRH[4:0] ビット（ビットレート High 幅設定）

SCL クロックの High 幅を設定します。IIC をスレーブモードのみで使用する場合は、BRH[4:0] ビットを設定しないでください。

ICBRH レジスタは、ICMR1.CKS[2:0] ビットで選択された内部基準クロックソース（IICφ）で High 幅をカウントします。

デジタルノイズフィルタ回路を許可（ICFER.NFE ビット = 1）した場合、ICBRH レジスタにはノイズフィルタの段数 + 1 以上の値を設定してください。この段数については、ICMR3.NF[1:0] ビットの説明を参照してください。

IIC 転送速度と SCL クロックのデューティ比は、下記の式（1）～（5）で計算されます。

1. ICFER.SCLE = 0 の場合
   転送速度 = 1/{[(BRH + 1) + (BRL + 1)]/IICφ（注 1）+ tr（注 2）+ tf（注 2）}
   デューティ比 = {tr + [(BRH + 1)/IICφ]}/{tr + tf + [(BRH + 1) + (BRL + 1)]/IICφ}
2. ICFER.SCLE = 1、ICFER.NFE = 0、CKS[2:0] = 000b（IICφ = PCLKB）の場合
   転送速度 = 1/{[(BRH + 3) + (BRL + 3)]/IICφ + tr + tf}
   デューティ比 = {tr + [(BRH + 3)/IICφ]}/{tr + tf + [(BRH + 3) + (BRL + 3)]/IICφ}
3. ICFER.SCLE = 1、ICFER.NFE = 1、CKS[2:0] = 000b（IICφ = PCLKB）の場合
   転送速度 = 1/{[BRH + 3 + nf（注 3）) + (BRL + 3 + nf)]/IICφ + tr + tf}
   デューティ比 = {tr + [(BRH + 3 + nf)/IICφ]}/{tr + tf + [(BRH + 3 + nf) + (BRL + 3 + nf)]/IICφ}
4. ICFER.SCLE = 1、ICFER.NFE = 0、CKS[2:0] ≠ 000b の場合
   転送速度 = 1/{[(BRH + 2) + (BRL + 2)]/IICφ + tr + tf}
   デューティ比 = {tr + [(BRH + 2)/IICφ]}/{tr + tf + [(BRH + 2) + (BRL + 2)]/IICφ}
5. ICFER.SCLE = 1、ICFER.NFE = 1、CKS[2:0] ≠ 000b の場合
   転送速度 = 1/{[BRH + 2 + nf) + (BRL + 2 + nf)]/IICφ + tr + tf}
   デューティ比 = {tr + [(BRH + 2 + nf)/IICφ]}/{tr + tf + [(BRH + 2 + nf) + (BRL + 2 + nf)]/IICφ}

注 1.　IICφ = PCLKB × 分周比

注 2.　SCLn ライン立ち上がり時間（tr）および SCLn ライン立ち下がり時間（tf）は、バスライン総容量（Cb）とプルアップ抵抗（Rp）に依存します。詳細については、NXP 社の I2C バス規格書を参照してください。

注 3.　nf = ICMR3.NF ビットで選択したデジタルノイズフィルタの段数

表 32.6　SCLE = 0のときの転送速度に対するICBRH、ICBRLレジスタの設定例

転送速度（kbps）	CKS[2:0]	BRH[4:0]	BRL[4:0]	PCLKB（MHz）	NF[1:0]	計算式
100	100b	14 (EEh)	17 (F1h)	60	—	(1)
400	010b	8 (E8h)	19 (F3h)	60	—	(1)
1000	000b	15 (EFh)	29 (FDh)	60	—	(1)

表 32.7　SCLE = 1かつNFE = 0のときの転送速度に対するICBRH、ICBRLレジスタの設定例

転送速度（kbps）	CKS[2:0]	BRH[4:0]	BRL[4:0]	PCLKB（MHz）	NF[1:0]	計算式
100	011b	13 (EDh)	16 (F0h)	60	—	(4)
400	010b	7 (E7h)	18 (F2h)	60	—	(4)
1000	000b	13 (EDh)	27 (FBh)	60	—	(2)

表 32.8　SCLE = 1かつNFE = 1のときの転送速度に対するICBRH、ICBRLレジスタの設定例

転送速度（kbps）	CKS[2:0]	BRH[4:0]	BRL[4:0]	PCLKB（MHz）	NF[1:0]	計算式
100	011b	11 (EBh)	14 (EEh)	60	01b	(5)
400	010b	5 (E5h)	16 (F0h)	60	01b	(5)
1000	000b	11 (EBh)	25 (F9h)	60	01b	(3)

32.2.17 I2C バス送信データレジスタ（ICDRT）

アドレス IIC0.ICDRT 4005 3012h, IIC1.ICDRT 4005 3112h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1

ICDRT レジスタは、I2C バスシフトレジスタ（ICDRS）の空きを検出すると、ICDRT レジスタに書き込まれた送信データを ICDRS レジスタへ転送し、送信モードでデータ送信を開始します。

ICDRT レジスタと ICDRS レジスタはダブルバッファ構造になっているため、ICDRS レジスタのデータ送信中に、次に送信するデータを ICDRT レジスタに書けば連続送信動作が可能です。

ICDRT レジスタは常に読み出し／書き込みが可能です。ICDRT レジスタへの送信データの書き込みは、送信データエンプティ割り込み（IICn_TXI）要求が発生したときに行ってください。

32.2.18 I2C バス受信データレジスタ（ICDRR）

アドレス IIC0.ICDRR 4005 3013h, IIC1.ICDRR 4005 3113h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

1 バイトのデータを受信すると、受信したデータは I2C バスシフトレジスタ（ICDRS）から ICDRR レジスタへ転送され、次のデータを受信可能にします。

ICDRS レジスタと ICDRR レジスタはダブルバッファ構造になっているため、ICDRS レジスタのデータ受信中に、すでに受信したデータを ICDRR レジスタから読めば連続受信動作が可能です。ICDRR レジスタに書き込むことはできません。ICDRR レジスタからの読み出しは、受信データフル割り込み（IICn_RXI）要求が発生したときに行ってください。

現在のデータを ICDRR レジスタから読み出す前に（ICSR2.RDRF フラグが 1 の状態のまま）ICDRR レジスタが次の受信データを受け取ると、IIC は RDRF フラグが再び 1 になる前に自動的に SCL クロックを 1 クロックサイクル分 Low ホールドします。

32.2.19 I2C バスシフトレジスタ（ICDRS）

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	—	—	—	—	—	—	—	—

ICDRS レジスタは、データを送受信するための 8 ビットのシフトレジスタです。

送信時は、送信データが ICDRT レジスタから ICDRS レジスタへ転送されて、SDAn 端子からデータが送信されます。受信時は、1 バイトのデータ受信後に、データが ICDRS レジスタから ICDRR レジスタへ転送されます。ICDRS レジスタは、直接アクセスすることはできません。

32.3 動作説明

32.3.1 通信データフォーマット

I²C バスフォーマットは、8 ビットのデータと 1 ビットのアクノリッジで構成されています。スタートコンディションまたはリスタートコンディションに続くフレームは、マスタデバイスの通信先であるスレーブデバイスを指定するアドレスフレームです。指定されたスレーブは、新たにスレーブが指定されるか、またはストップコンディションが発行されるまで有効です。

図 32.3 に I²C バスフォーマットを、図 32.4 に I²C バスタイミングを示します。

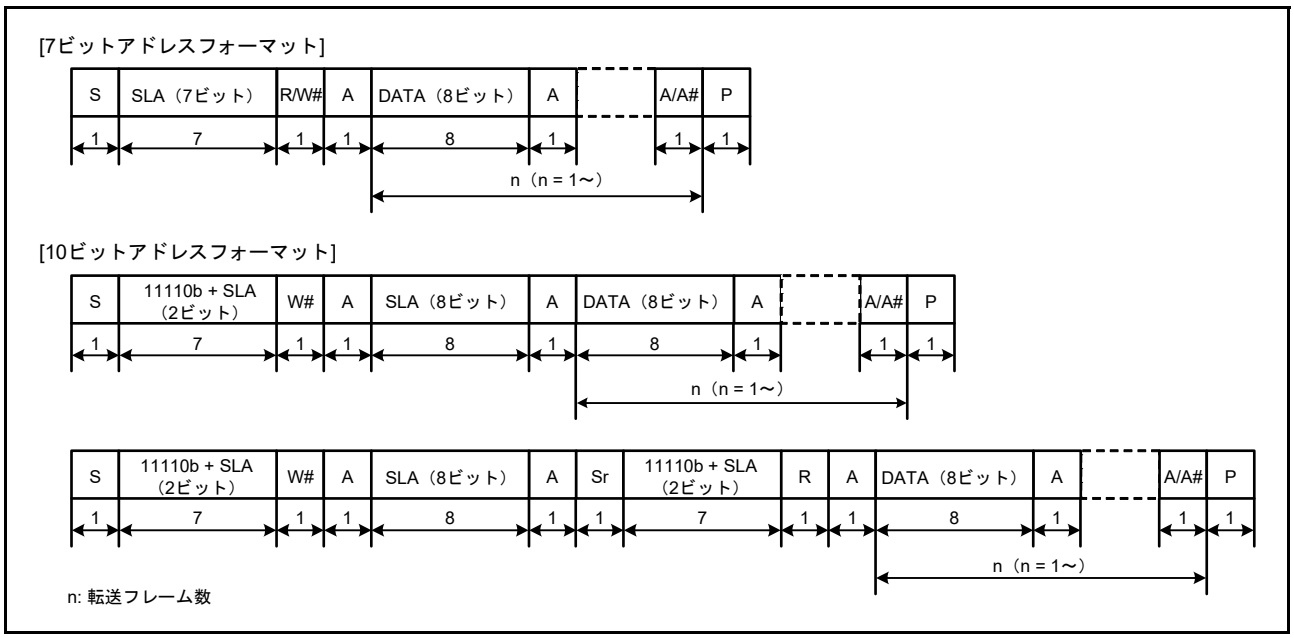


図 32.3　I²C バスフォーマット

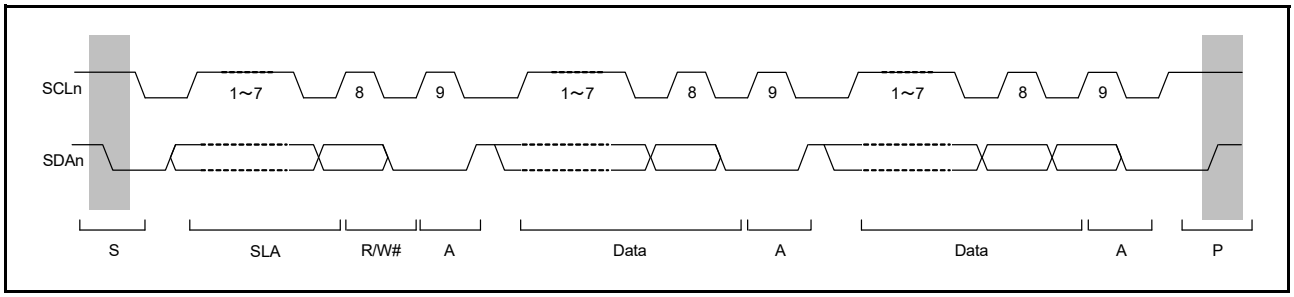


図 32.4　I²C バスタイミング（SLA 設定値 = 7 ビットの場合）

S：　スタートコンディションを表します。SCLn ラインが High のとき、マスタデバイスが SDAn ラインを High から Low に変化させます。

SLA：　スレーブアドレスを表します。これによって、マスタデバイスがスレーブデバイスを選択します。

R/W#：　データ転送の方向を表します。R/W# が 1 のとき、スレーブデバイスからマスタデバイスの方向、R/W が 0 のとき、マスタデバイスからスレーブデバイスの方向になります。

A：　アクノリッジを表します。受信デバイスが SDAn ラインを Low にします。マスタ送信モード時はスレーブデバイスがアクノリッジを返します。マスタ受信モード時はマスタデバイスがアクノリッジを返します。

A#：　ノットアクノリッジを表します。受信デバイスが SDAn ラインを High にします。

Sr：　リスタートコンディションを表します。SCLn ラインが High のときに、セットアップ時間が経過した後、マスタデバイスが SDAn ラインを High から Low に変化させます。

DATA：　送信データまたは受信データを示します。

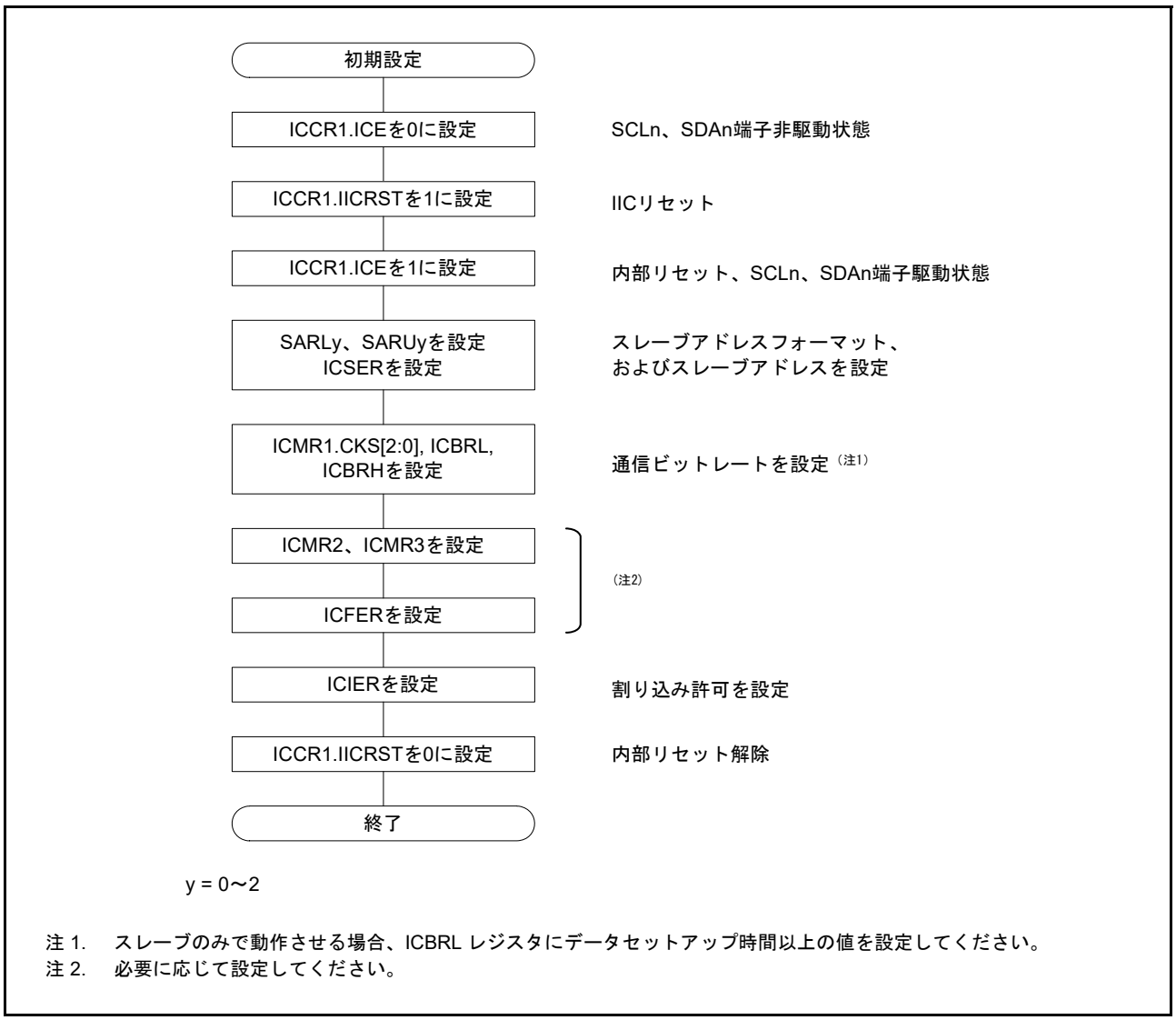
P：　ストップコンディションを表します。SCLn ラインが High のときに、マスタデバイスが SDAn ラインを Low から High に変化させます。

32.3.2　初期設定

データの送受信を開始する前に、図 32.5 に示す手順に従って IIC を初期化してください。

1. ICCR1.ICE ビットを 0 にして SCLn 端子と SDAn 端子を非駆動状態します。
2. ICCR1.IICRST ビットを 1 にして、IIC リセットを行います。
3. ICCR1.ICE ビットを 1 にして内部リセットを起動し、ICSR1 レジスタの各フラグや内部状態を初期化します。
4. SARLy、SARUy、ICSER、ICMR1、ICBRH、ICBRL の各レジスタ（y = 0 ～ 2）を設定します。必要に応じて、それ以外のレジスタも設定します。IIC の初期設定は、図 34.5 を参照してください。
5. 必要なレジスタの設定が完了したら、ICCR1.IICRST ビットを 0 にして IIC リセットを解除してください。

注 .　すでに IIC の初期化が完了している場合、この手順は不要です。



注 1.　スレーブのみで動作させる場合、ICBRL レジスタにデータセットアップ時間以上の値を設定してください。
注 2.　必要に応じて設定してください。

図 32.5　IIC の初期化フローチャート例

32.3.3　マスタ送信動作

マスタ送信動作では、マスタデバイスである IIC が SCL クロックと送信データ信号を出力し、スレーブデバイスがアクノリッジを返します。図 32.6 にマスタ送信の例を、図 32.7 ～図 32.9 にマスタ送信の動作タイミングを示します。

マスタ送信の設定および実行は以下の手順で行います。

1. 初期設定を行います。詳細は、32.3.2　初期設定を参照してください。
2. ICCR2.BBSY フラグを読んでバスが解放状態であることを確認した後、ICCR2.ST ビットを 1（スタートコンディション要求）にします。IIC はスタートコンディション要求を受け付けると、スタートコンディションを発行します。同時に、BBSY フラグと ICSR2.START フラグが自動的に 1 になり、ST ビットが自動的に 0 になります。このとき、ST ビットが 1 の状態でスタートコンディションが検出され、かつ、SDA 出力状態の内部レベルと SDAn ラインのレベルが一致していれば、IIC は ST ビットによるスタートコンディション発行が正しく行われたと認識し、ICCR2.MST、TRS ビットが自動的に 1 になり、IIC はマスタ送信モードになります。TRS ビットが 1 になることにより、ICSR2.TDRE フラグが自動的に 1 になります。
3. ICSR2.TDRE フラグが 1 であることを確認した後、ICDRT レジスタに送信データ（スレーブアドレスと R/W# ビット）を書いてください。ICDRT レジスタに送信データを書くと、TDRE フラグは自動的に 0 になり、ICDRT レジスタから ICDRS レジスタにデータが転送されて、再び TDRE フラグが 1 になります。スレーブアドレスと R/W# ビットを含むバイトの送信後、送信された R/W# ビットの値に応じて TRS ビットの値が自動的に更新され、マスタ送信モードまたはマスタ受信モードが選択されます。R/W# ビットの値が 0 であったなら、IIC はマスタ送信モードの状態を継続します。このとき ICSR2.NACKF フラグが 1 であると、アドレスを認識したスレーブデバイスが存在しないか、または通信エラーが発生していることを示しているため、ICCR2.SP ビットに 1 を書いて、ストップコンディションを発行してください。
データを 10 ビットフォーマットのアドレスで送信する場合は、まず 1 回目のアドレス送信処理で ICDRT レジスタに 1111 0b + スレーブアドレスの上位 2 ビットと W を書きます。2 回目のアドレス送信処理では、ICDRT レジスタにスレーブアドレスの下位 8 ビットを書いてください。
4. ICSR2.TDRE フラグが 1 であることを確認した後、送信データを ICDRT レジスタに書いてください。なお、送信データの準備ができるまで、またはストップコンディションが発行されるまで、IIC は自動的に SCLn ラインを Low にホールドします。
5. 送信データの全バイトを ICDRT レジスタに書いた後、ICSR2.TEND フラグが 1 に戻るまで待ってから、ICCR2.SP ビットを 1（ストップコンディション要求）にしてください。IIC は、ストップコンディション要求を受け付けると、ストップコンディションを発行します。詳細は、32.11.3　ストップコンディション発行動作を参照してください。
6. IIC はストップコンディションを検出すると、ICCR2.MST ビットと ICCR2.TRS ビットを自動的に 0 にして、スレーブ受信モードへ遷移します。さらに IIC は、TDRE フラグと TEND フラグを自動的に 0 にして、ICSR2.STOP フラグを 1 にします。
7. ICSR2.STOP フラグが 1 であることを確認した後、次の転送動作のために、ICSR2.NACKF フラグと ICSR2.STOP フラグを 0 にしてください。

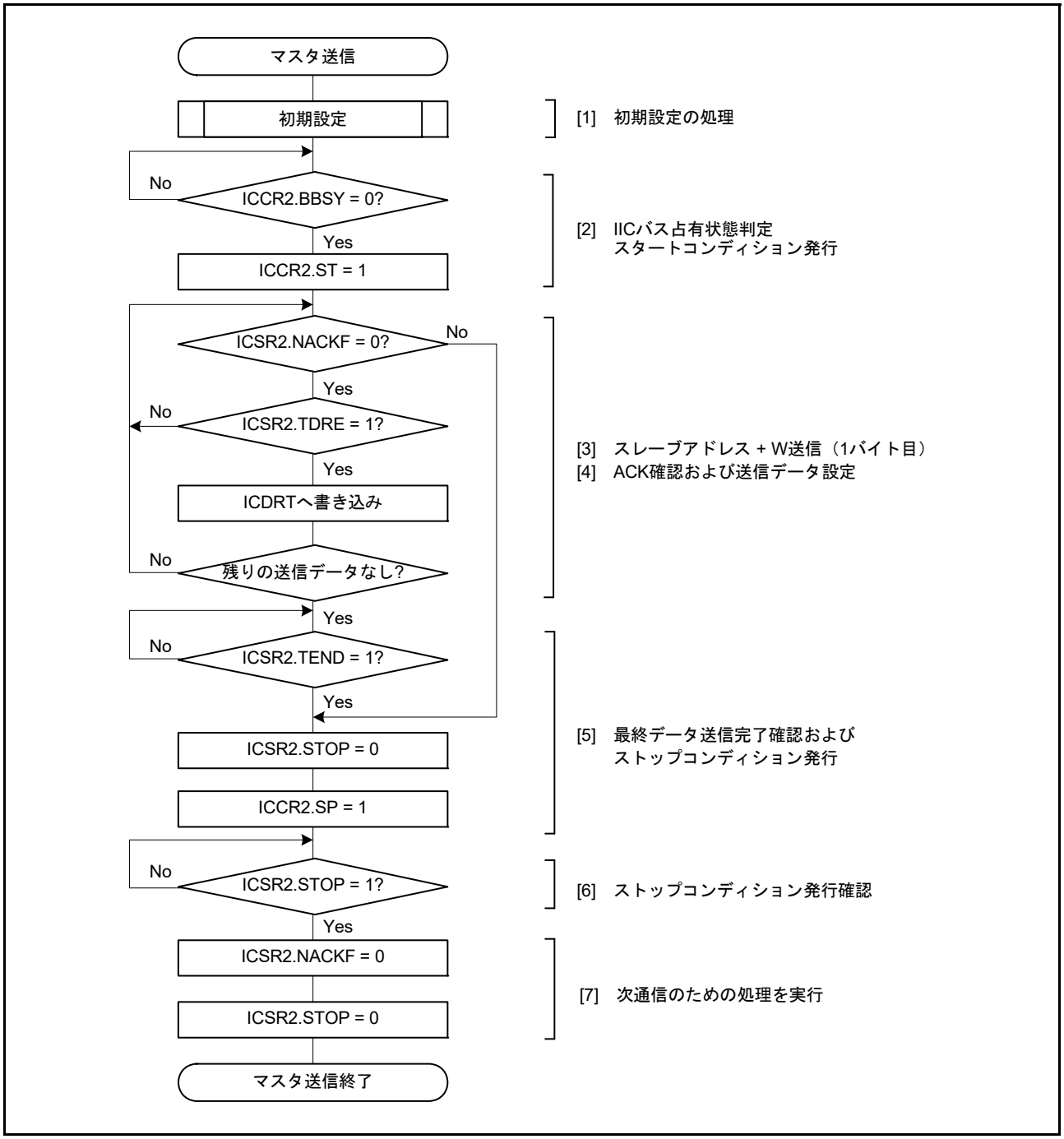


図 32.6　　マスタ送信のフロー例

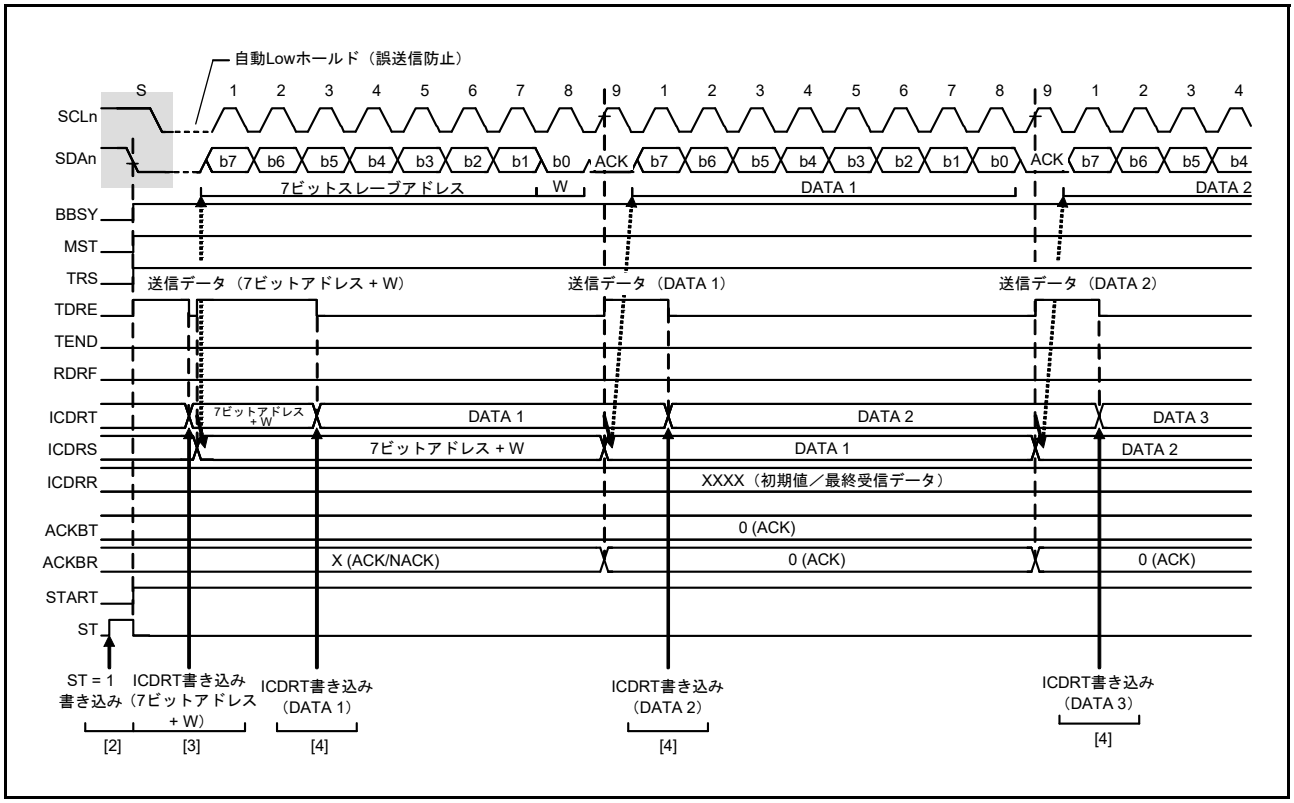


図 32.7　　マスタ送信の動作タイミング（1）（7 ビットアドレスフォーマット）

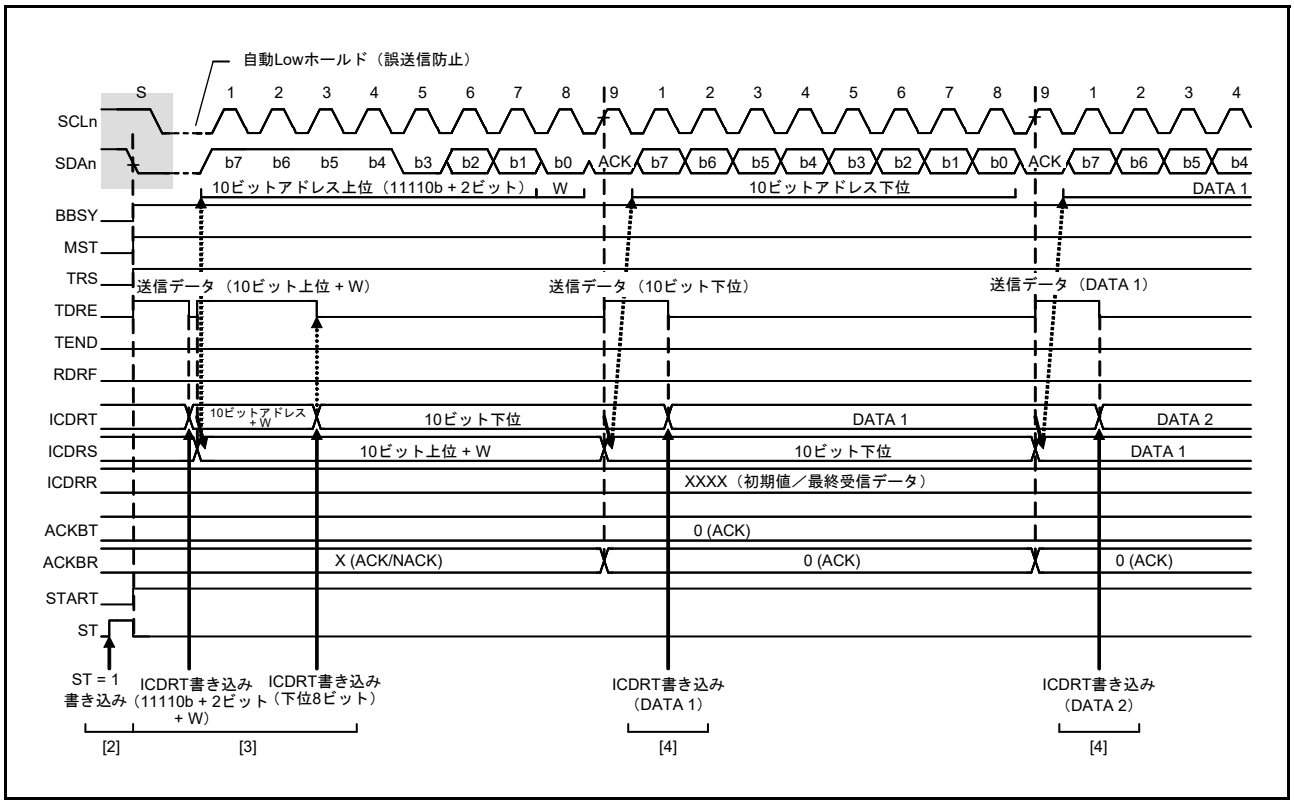


図 32.8　　マスタ送信の動作タイミング（2）（10 ビットアドレスフォーマット）

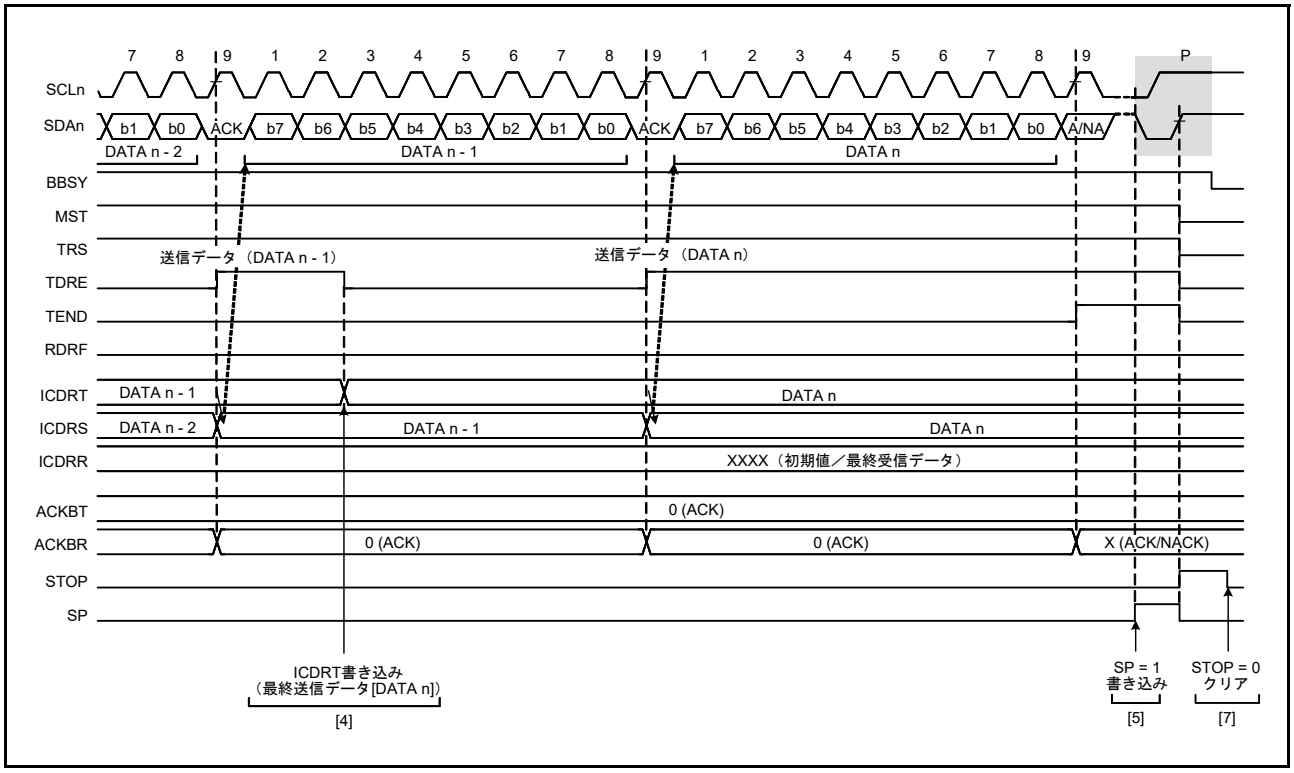


図 32.9　　マスタ送信の動作タイミング（3）

32.3.4　マスタ受信動作

マスタ受信動作では、マスタデバイスである IIC が SCL クロックを出力し、スレーブデバイスからデータを受信して、アクノリッジを返します。最初に、対応するスレーブデバイスにスレーブアドレスを送信する必要があるため、手順のスレーブアドレスパートはマスタ送信モードで実行し、その後の手順はマスタ受信モードで実行します。

図 32.10 と図 32.11 にマスタ受信の例（7 ビットアドレスフォーマットの場合）を、図 32.12 ～図 32.14 にマスタ受信の動作タイミングを示します。

マスタ受信の設定および実行は以下の手順で行います。

1. 初期設定を行います。詳細は、32.3.2　初期設定を参照してください。
2. ICCR2.BBSY フラグを読んでバスが解放状態であることを確認した後、ICCR2.ST ビットを 1 にしてスタートコンディションの発行を要求します。IIC はスタートコンディション要求を受け付けると、スタートコンディションを発行します。IIC がスタートコンディションを検出すると、BBSY フラグと ICSR2.START フラグが自動的に 1 になり、ST ビットは自動的に 0 になります。このとき、ST ビットが 1 の状態でスタートコンディションが検出され、かつ SDA 出力のレベルと SDAn ラインのレベルが一致したとき、IIC は ST ビットで要求したスタートコンディション発行が正しく完了したと認識し、ICCR2.MST ビットと ICCR2.TRS ビットが自動的に 1 になって、IIC はマスタ送信モードになります。TRS ビットが 1 になることにより、ICSR2.TDRE フラグが自動的に 1 になります。
3. ICSR2.TDRE フラグが 1 であることを確認した後、ICDRT レジスタに送信データ（1 バイト目はスレーブアドレスと R/W# ビットの値を示す）を書いてください。ICDRT レジスタに送信データを書くと、TDRE フラグは自動的に 0 になり、ICDRT レジスタから ICDRS レジスタにデータが転送されて、再び TDRE フラグが 1 になります。スレーブアドレスと R/W# ビットを含むバイトが送信されると、送信された R/W# ビットの値に応じて ICCR2.TRS ビットの値が自動的に更新され、送信モードまたは受信モードが選択されます。R/W# ビットが 1 の場合、9 クロック目の立ち上がりで TRS ビットが 0 になり、IIC はマスタ受信モードになります。このとき TDRE フラグは 0 に、ICSR2.RDRF フラグは自動的に 1 になります。このとき ICSR2.NACKF フラグが 1 であると、アドレスを認識したスレーブデバイスが存在しないか、または通信エラーが発生していることを示しているため、ICCR2.SP ビットに 1 を書いて、ストップコンディションを発行してください。なお、10 ビットアドレスフォーマットでマスタ受信を行う場合は、まずマスタ送信で 10 ビットアドレスを送信した後、リスタートコンディションを発行します。その後、1111 0b（スレーブアドレスの上位 2 ビット）と R ビットを送信することで、IIC はマスタ受信モードになります。
4. ICSR2.RDRF フラグが 1 であることを確認した後、ICDRR レジスタをダミーリードします。これにより、IIC は SCL クロックの出力とデータ受信動作を開始します。
5. 1 バイトのデータの受信後、ICMR3.RDRFS ビットで選択した SCL クロックの 8 クロック目、あるいは 9 クロック目の立ち上がりで、ICSR2.RDRF フラグが 1 になります。このとき ICDRR レジスタを読むと、受信したデータを読むことができ、同時に RDRF フラグは自動的に 0 になります。また、SCL クロックの 9 クロック目のアクノリッジビットには、ICMR3.ACKBT ビットに設定した値が返信されます。次に受信するバイトが最後から 2 番目のバイトの場合、そのデータ（最後から 2 番目のバイト）を含む ICDRR レジスタを読む前に、ICMR3.WAIT ビットを 1（WAIT あり）にしてください。これにより、手順（6）の ICMR3.ACKBT ビットを 1（NACK）にする処理が割り込みなどの他の処理によって遅れた場合でも、NACK 出力が可能になるとともに、最終バイトの受信時に 9 クロック目の立ち上がりで SCLn ラインを Low に固定して、ストップコンディションの発行が可能になります。
6. ICMR3.RDRFS ビットが 0 で、かつスレーブデバイスに対して、次および最終バイトの転送でデータ受信が終了することを通知する必要がある場合は、ICMR3.ACKBT ビットを 1（NACK）にしてください。
7. 最後から 2 番目のバイトを ICDRR レジスタから読み出した後、ICSR2.RDRF フラグが 1 であれば、ICCR2.SP ビットを 1（ストップコンディション要求）にした後、ICDRR レジスタの最終バイトを読み出してください。ICDRR レジスタの読み出し時、IIC はウェイト状態から解除され、9 クロック目の Low 出力終了後または SCLn ラインの Low ホールド解除後に、ストップコンディションを発行します。
8. IIC はストップコンディションを検出すると、ICCR2.MST ビットと ICCR2.TRS ビットを自動的に 0 にして、スレーブ受信モードへ遷移します。また、ストップコンディションの検出によって、ICSR2.STOP フラグが 1 になります。
9. ICSR2.STOP フラグが 1 であることを確認した後、次の転送動作のために、ICSR2.NACKF フラグと ICSR2.STOP フラグを 0 にしてください。

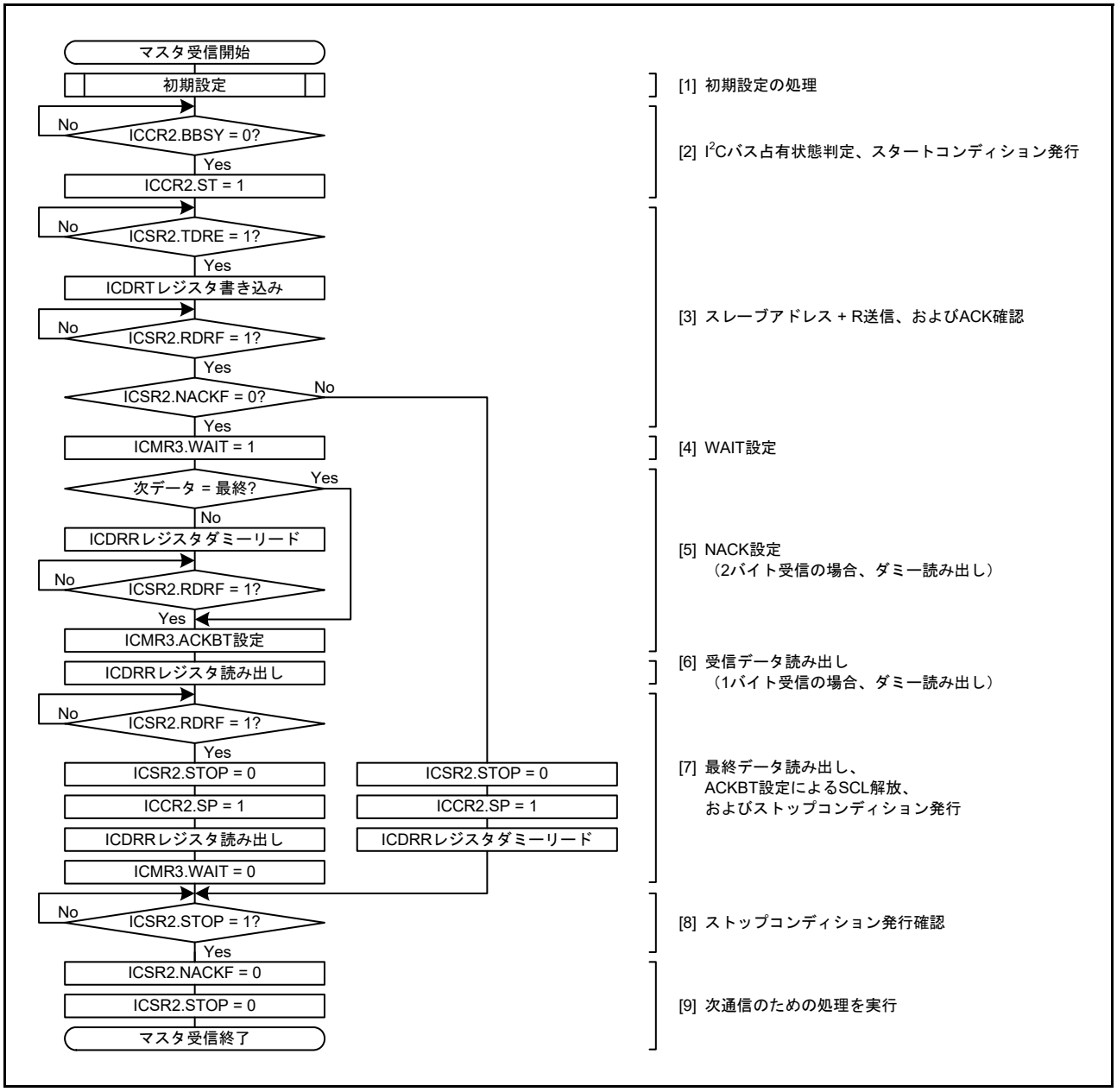


図 32.10　マスタ受信のフローチャート例（7 ビットアドレスフォーマットで 1 または 2 バイト受信の場合）

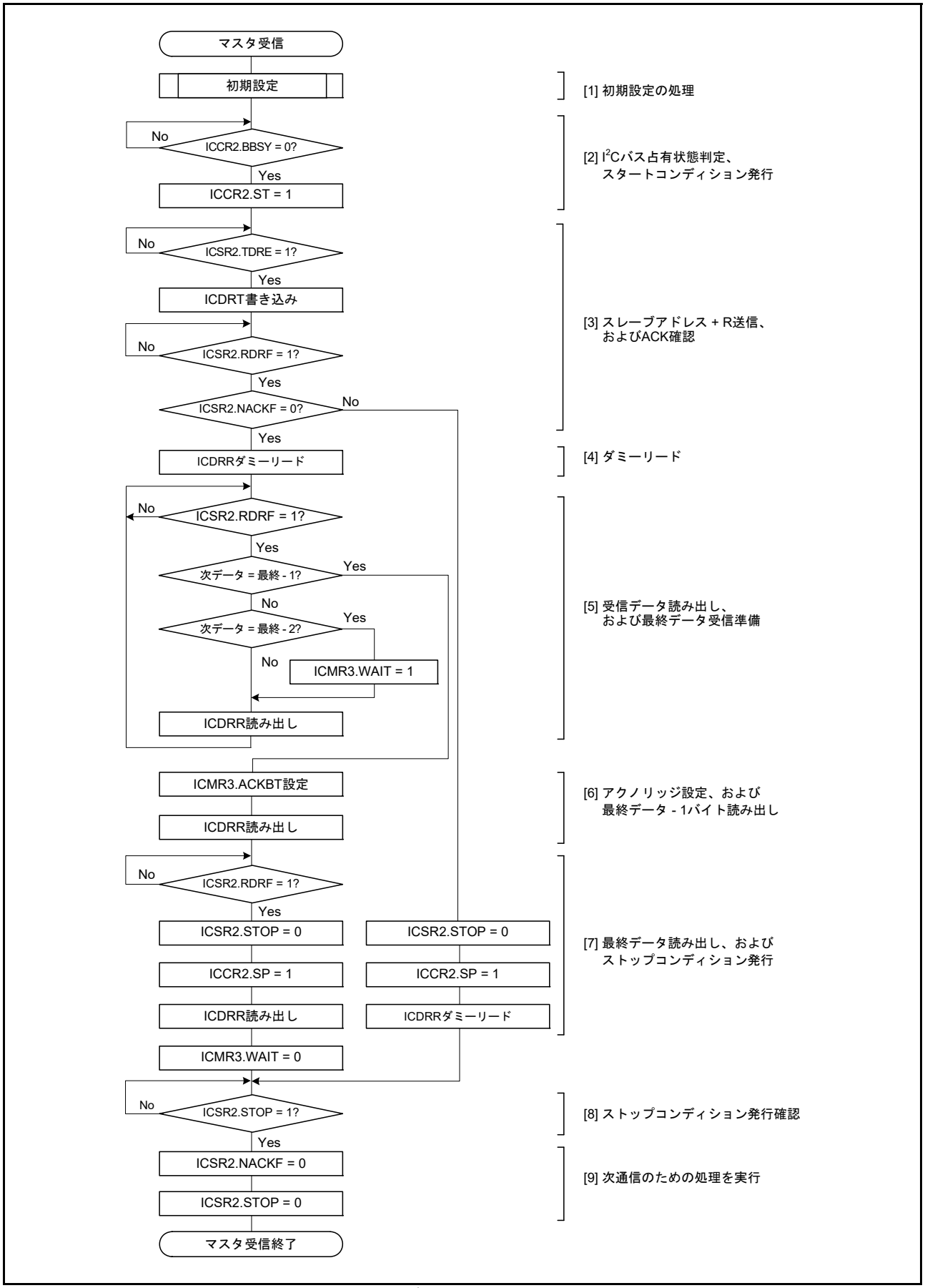


図 32.11 マスタ受信のフローチャート例（7 ビットアドレスフォーマットで 3 バイト以上受信の場合）

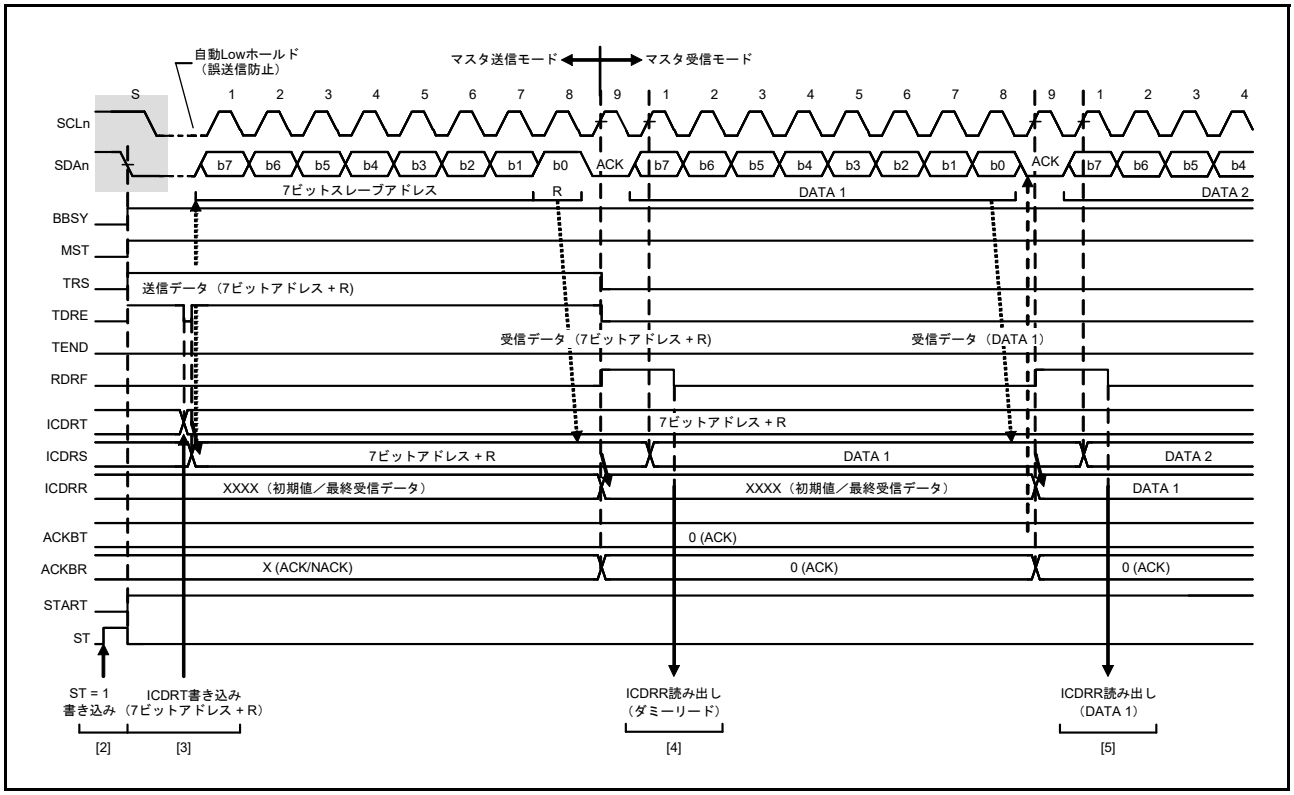


図 32.12　　マスタ受信の動作タイミング（1）（7 ビットアドレスフォーマットで RDRFS = 0 の場合）

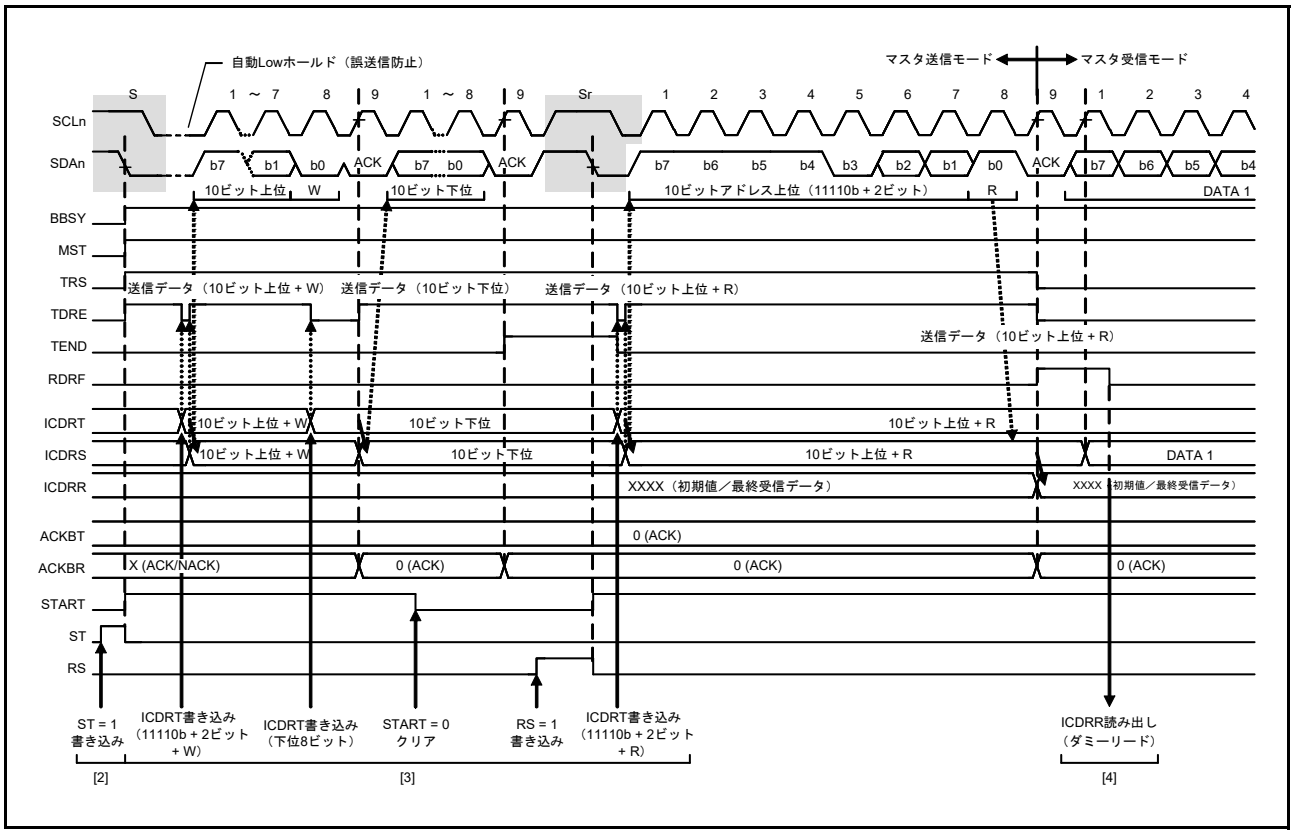


図 32.13　　マスタ受信の動作タイミング（2）（10 ビットアドレスフォーマットで RDRFS = 0 の場合）

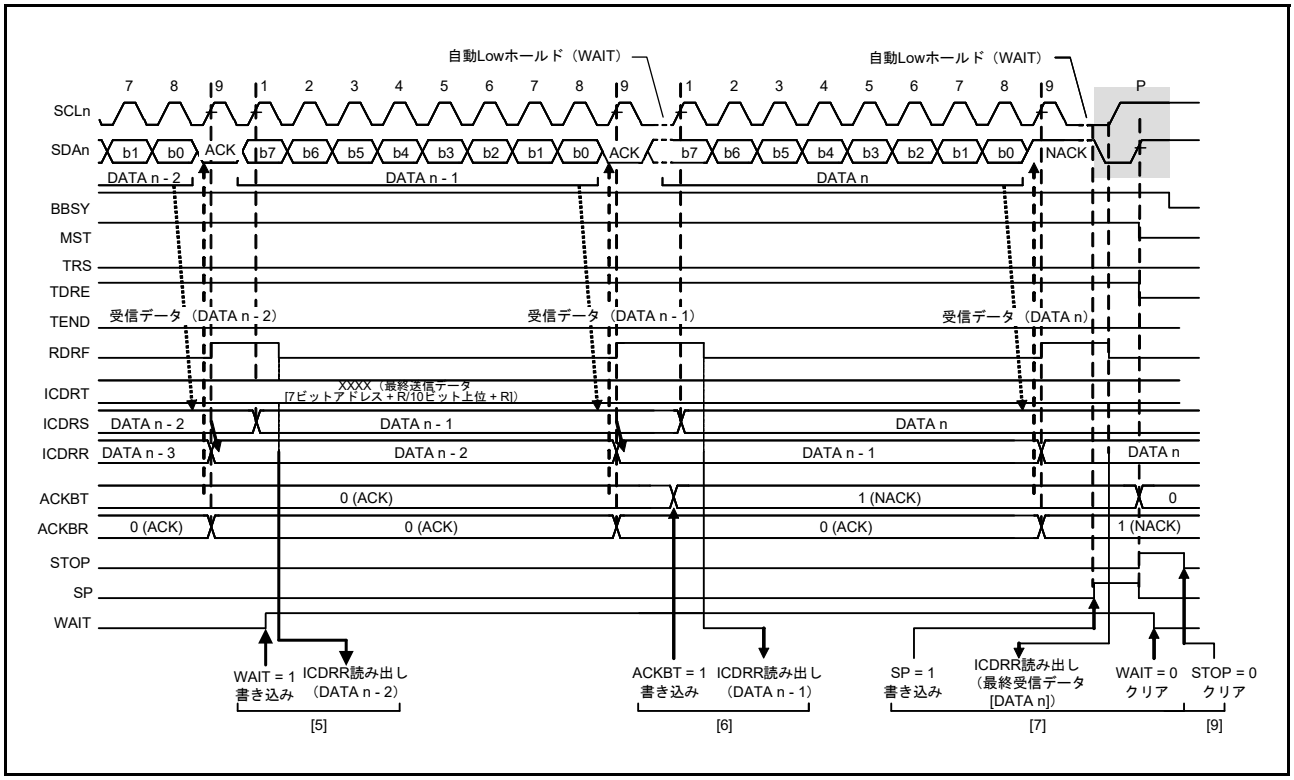


図 32.14　マスタ受信の動作タイミング（3）（RDRFS = 0 の場合）

32.3.5　スレーブ送信動作

スレーブ送信動作では、マスタデバイスが SCL クロックを出力し、スレーブデバイスである IIC がデータを送信し、マスタデバイスがアクノリッジを返します。

図 32.15 にスレーブ送信の例を、図 32.16 ～図 32.17 にスレーブ送信の動作タイミングを示します。

スレーブ送信の設定および実行は以下の手順で行います。

1. 初期設定を行います。詳細は、32.3.2　初期設定を参照してください。
   初期設定完了後、IIC は受信したスレーブアドレスが一致するまで待機状態となります。
2. スレーブアドレスが一致した後、IIC は対応する ICSR1.HOA, GCA, AASy フラグ（y = 0 ～ 2）のいずれかを SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 1 にし、SCL クロックの 9 クロック目のアクノリッジビットに ICMR3.ACKBT ビットの設定値を出力します。このとき、受信した R/W# ビットの値が 1 であれば、IIC は ICCR2.TRS ビットと ICSR2.TDRE フラグの両方を 1 にすることで、自動的にスレーブ送信モードに切り替わります。
3. ICSR2.TEND フラグが 1 であることを確認した後、送信データを ICDRT レジスタに書いてください。このとき、ICFER.NACKE ビットが 1 の状態でマスタデバイスからアクノリッジを受信しなかった（NACK を受信した）場合、IIC は次の転送動作を中断します。
4. ICSR2.NACKF フラグが 1 になるか、または最終送信データを ICDRT レジスタに書いた後、ICSR2.TDRE フラグが 1 の状態で、ICSR2.TEND フラグが 1 になるまで待ってください。ICSR2.NACKF フラグが 1 または TEND フラグが 1 の場合、IIC は SCL クロックの 9 クロック目の立ち下がりで SCLn ラインを Low にします。
5. ICSR2.NACKF フラグが 1 または ICSR2.TEND フラグが 1 の場合、終了処理のため ICDRR レジスタをダミーリードしてください。これによって SCLn ラインが開放されます。
6. IIC はストップコンディションを検出すると、ICSR1.HOA、GCA、AASy フラグ（y = 0 ～ 2）、ICSR2.TDRE、TEND フラグ、および ICCR2.TRS ビットを自動的に 0 にして、スレーブ受信モードへ遷移します。
7. ICSR2.STOP フラグが 1 であることを確認した後、次の転送動作のために、ICSR2.NACKF フラグと ICSR2.STOP フラグを 0 にしてください。

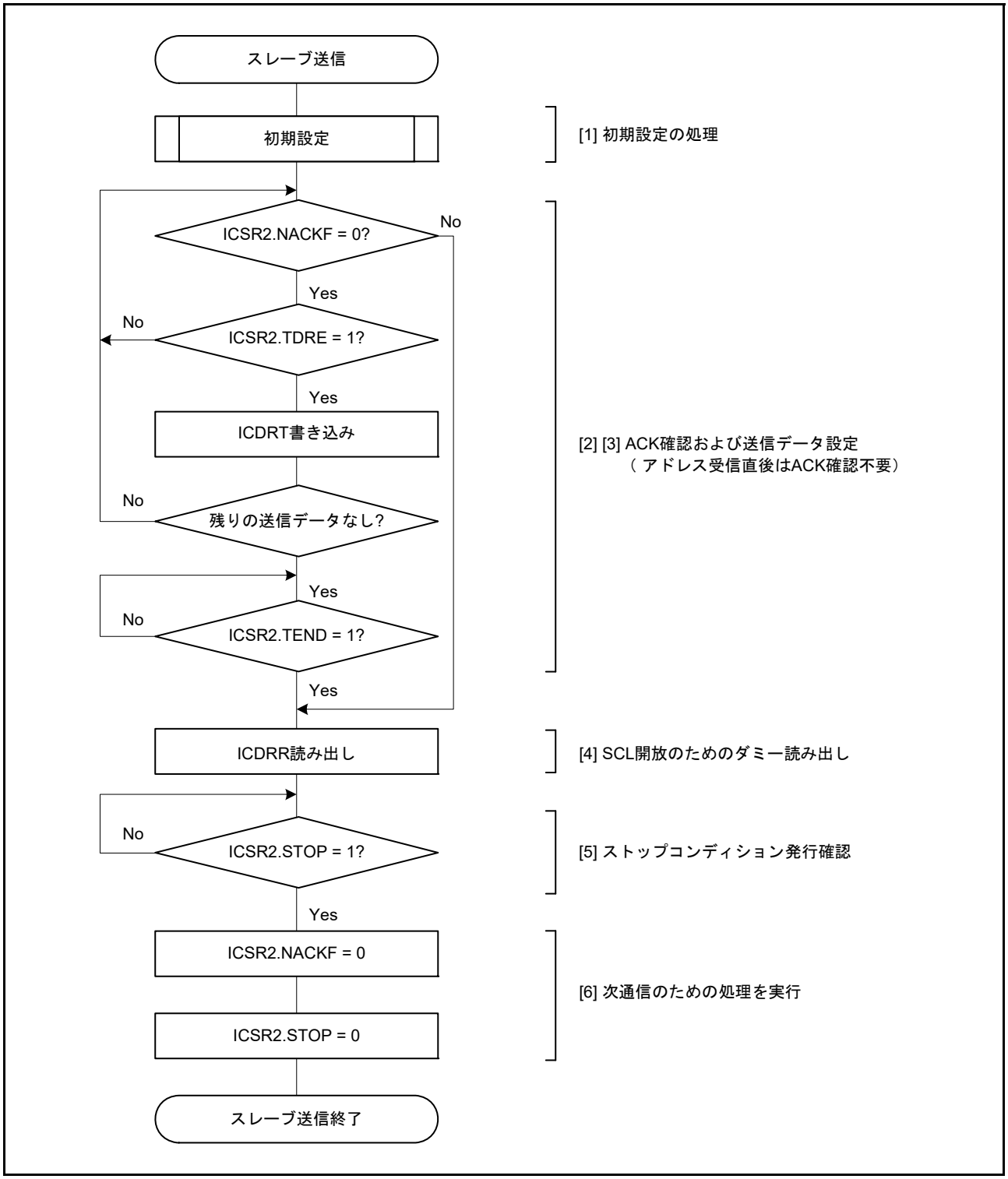


図 32.15　スレーブ送信のフロー例

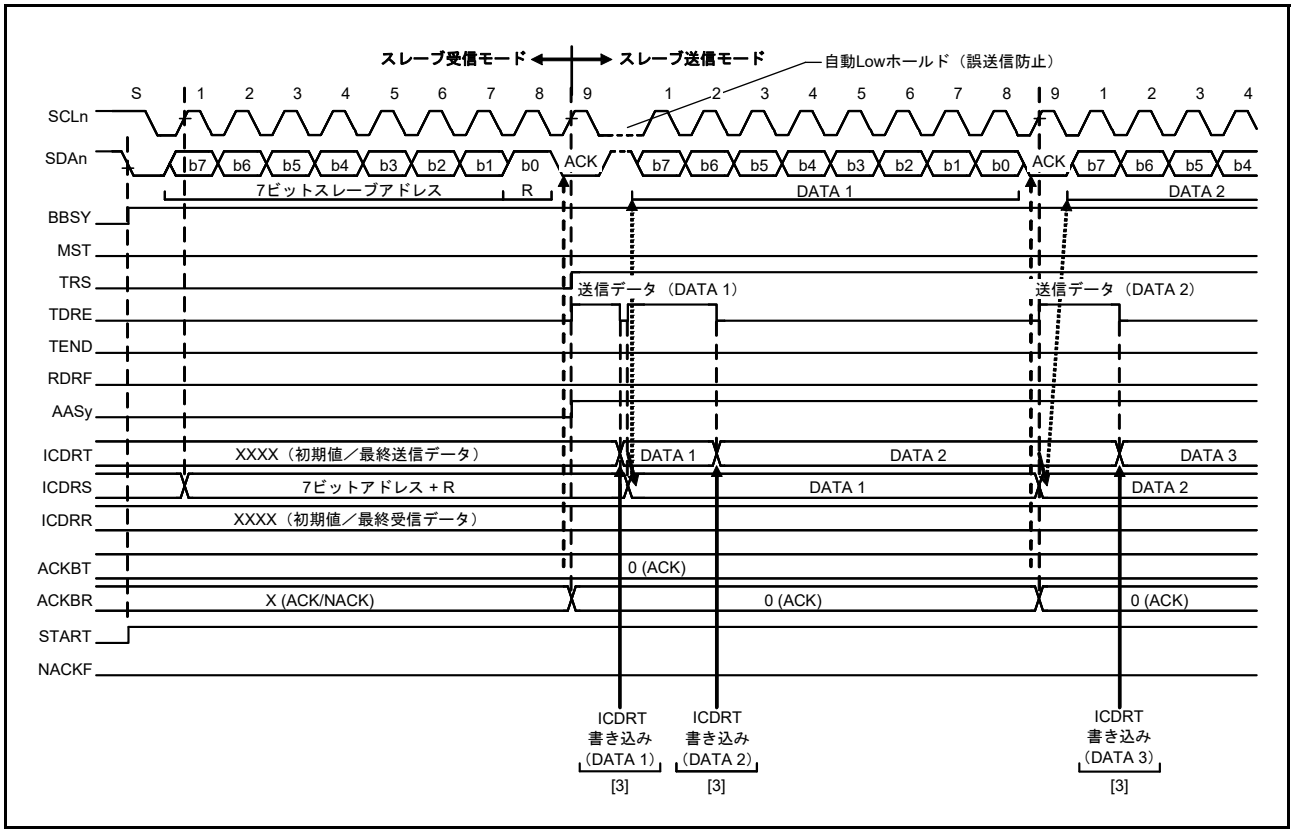


図 32.16　スレーブ送信の動作タイミング（1）（7 ビットアドレスフォーマット）

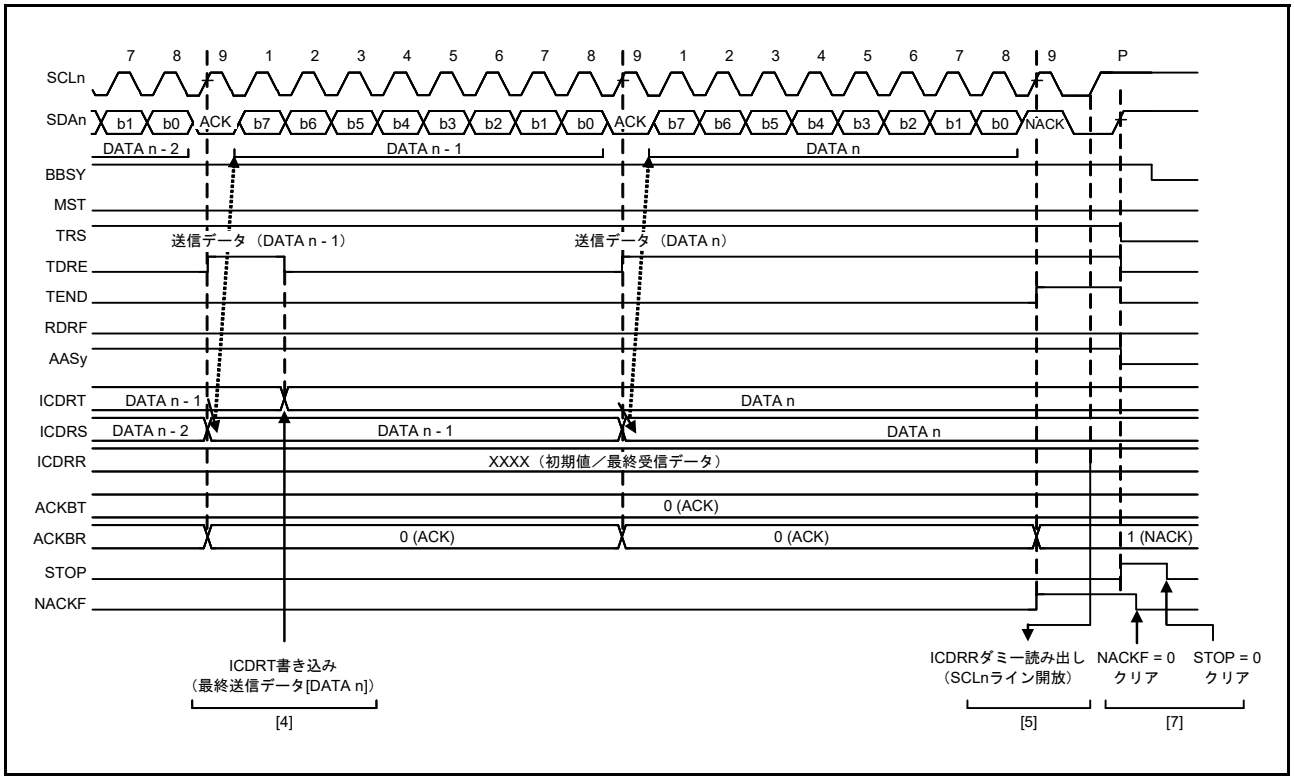


図 32.17　スレーブ送信の動作タイミング（2）

32.3.6　スレーブ受信動作

スレーブ受信動作では、マスタデバイスが SCL クロックと送信データを出力し、スレーブデバイスである IIC がアクノリッジを返します。

図 32.18 にスレーブ受信の例を、図 32.19 ～図 32.20 にスレーブ受信の動作タイミングを示します。

スレーブ受信の設定および実行は以下の手順で行います。

1. 初期設定を行います。詳細は、32.3.2　初期設定を参照してください。
   初期設定完了後、IIC は受信したスレーブアドレスが一致するまで待機状態となります。
2. スレーブアドレスが一致した後、IIC は対応する ICSR1.HOA, GCA, AASy フラグ（y = 0 ～ 2）のいずれかを SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 1 にし、SCL クロックの 9 クロック目のアクノリッジビットに ICMR3.ACKBT ビットの設定値を出力します。このとき、受信した R/W# ビットの値が 0 であれば、IIC はスレーブ受信モードを継続し、ICSR2.RDRF フラグを 1 にします。
3. ICSR2.STOP フラグが 0 であることと、ICSR2.RDRF フラグが 1 であることを確認し、ICDRR レジスタをダミーで読んでください。ダミーリードした値は、7 ビットアドレスフォーマット選択時はスレーブアドレス + R/W# ビット、10 ビットアドレスフォーマット選択時は下位 8 ビットアドレスです。
4. ICDRR レジスタが読み出されると、IIC は ICSR2.RDRF フラグを自動的に 0 にします。なお、ICDRR レジスタの読み出しが遅れて、RDRF フラグが 1 になった状態で次のバイトを受信すると、IIC は RDRF フラグが設定されるポイントの 1 つ手前の SCL クロックで SCLn ラインを Low にホールドします。この Low ホールドは ICDRR レジスタを読むことで解除され、IIC は SCLn ラインを開放します。ICSR2.STOP フラグが 1 で、かつ ICSR2.RDRF フラグが 1 の場合、全データの受信が完了するまで ICDRR レジスタを読み出してください。
5. IIC はストップコンディションを検出すると、ICSR1.HOA、GCA、AASy フラグ（y = 0 ～ 2）を自動的に 0 にします。
6. ICSR2.STOP フラグが 1 であることを確認した後、次の転送動作のために ICSR2.STOP フラグを 0 にしてください。

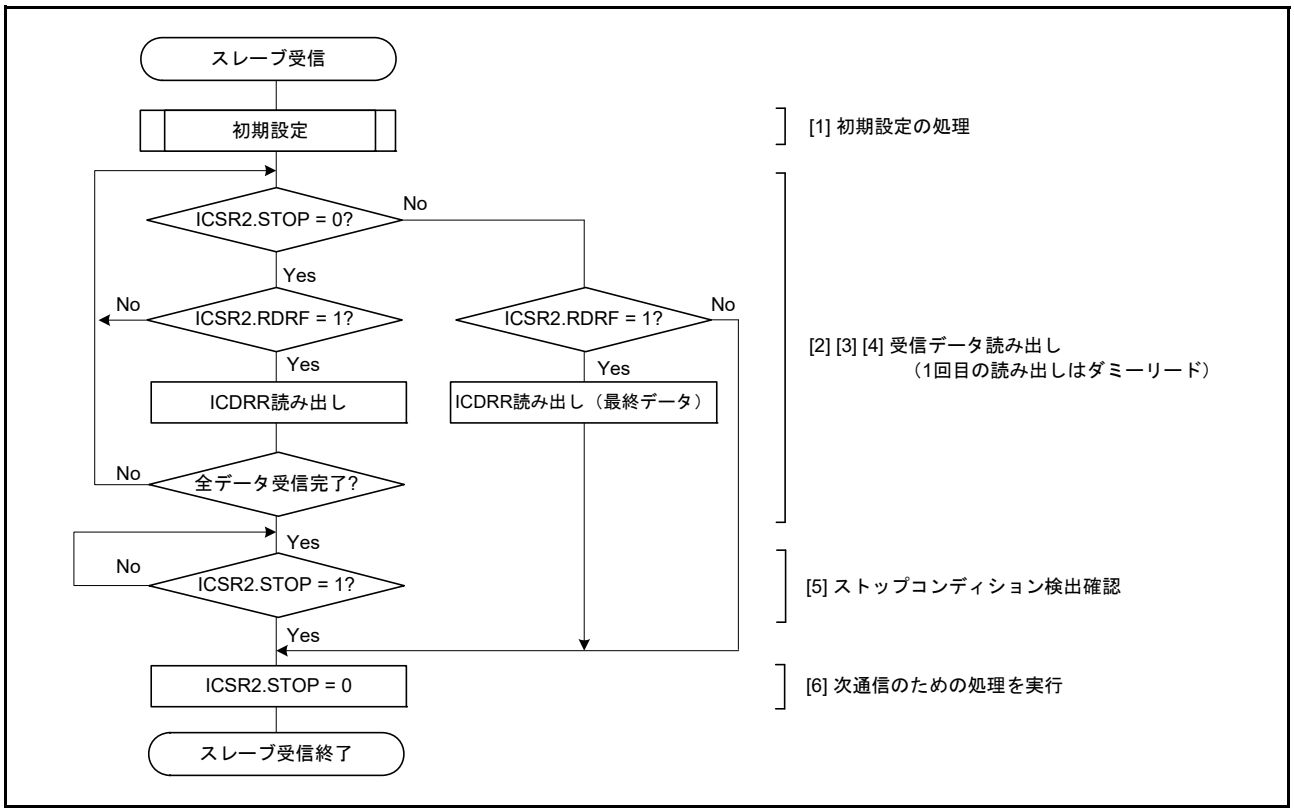


図 32.18　スレーブ受信のフロー例

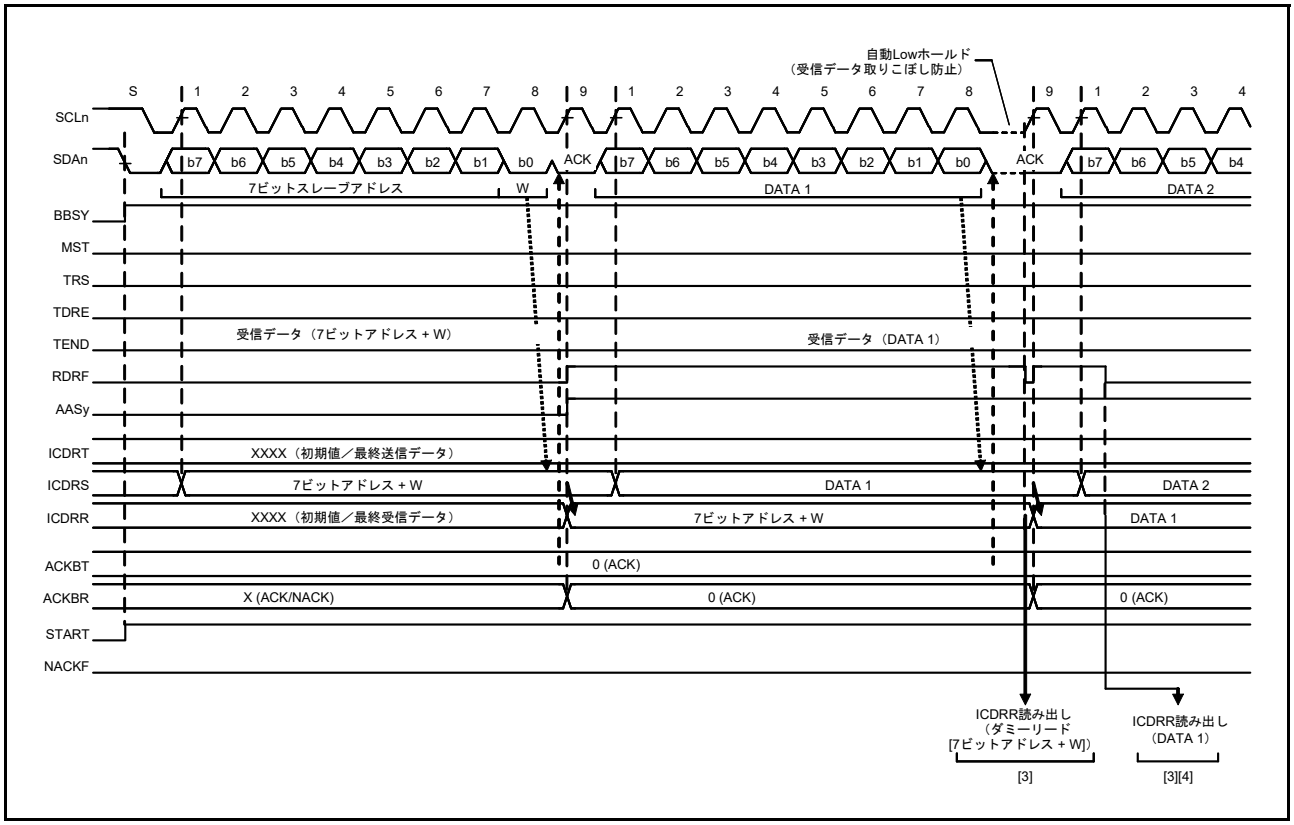


図 32.19　スレーブ受信の動作タイミング（1）（7 ビットアドレスフォーマットで RDRFS = 0 の場合）

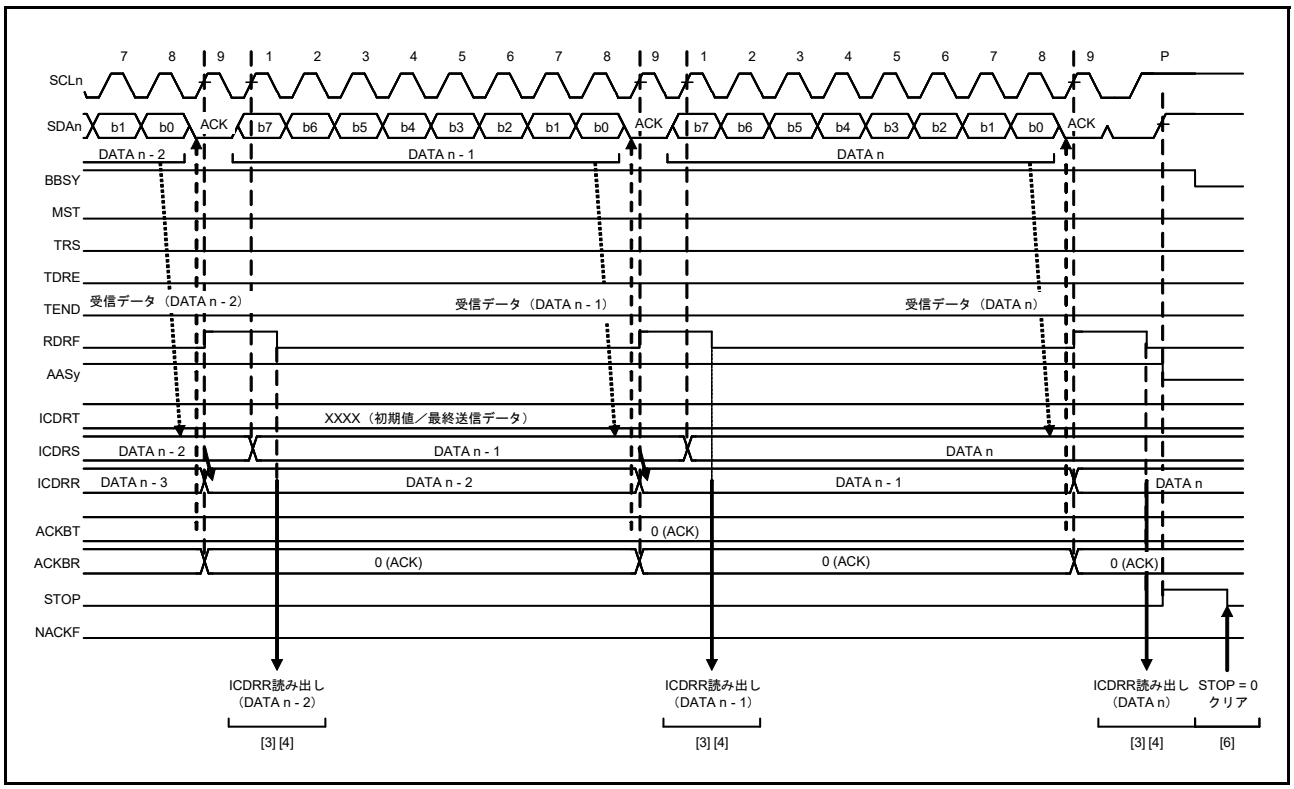


図 32.20　スレーブ受信の動作タイミング（2）（RDRFS = 0 の場合）

32.4　SCL 同期回路

SCL クロック生成では、IIC が SCLn ラインの立ち上がりを検出すると、ICBRH レジスタで設定した High 幅のカウントを開始し、カウントが終了すると SCLn ラインを Low にします。また、IIC が SCLn ラインの立ち下がりを検出すると、ICBRL レジスタで設定した Low 幅のカウントを開始し、カウントが終了すると SCLn ラインを開放します。IIC はこのプロセスを繰り返すことによって、SCL クロックを生成します。

I²C バスをマルチマスタで使用する場合、他のマスタデバイスとの競合により SCL クロック同士が衝突する場合があります。SCL クロックが衝突した場合、マスタデバイスは SCL 信号の同期化を行う必要があります。この SCL 信号の同期はビットごとに行う必要があるため、IIC はマスタモード時に SCLn ラインを監視することで、ビットごとに SCL クロック信号の同期を取る SCL 同期回路を備えています。

IIC が SCLn ラインの立ち上がりエッジを検出して、ICBRH レジスタで指定した High 幅のカウントを開始し、他のマスタデバイスが生成している SCL 信号によって SCLn ラインのレベルが Low になると、IIC は以下の処理を実行します。

1. 立ち下がりエッジを検出すると、カウントを停止します。
2. SCLn ラインのレベルを Low に変化させます。
3. ICBRL レジスタで指定した Low 幅のカウントを開始します。

Low 幅のカウントが終了すると、IIC は、SCLn ラインのレベルを Low にするのを停止し、SCLn ラインを開放します。他のマスタデバイスからの SCL クロック信号の Low 幅が、IIC 側で設定した Low 幅よりも長いと、SCL 信号の Low 幅が延長されます。他のマスタデバイスの Low 幅出力が終了すると、SCLn ラインの解放によって SCL クロック信号が立ち上がります。

IIC が SCL クロックの Low 幅の出力を終了すると、SCLn ラインが開放され、SCL クロックが立ち上がります。すなわち、マルチマスタによる SCL 信号衝突時の SCL 信号の High 幅は、High 幅の短いクロックに同期化され、SCL 信号の Low 幅は、Low 幅の長いクロックに同期化されます。なお、この SCL 信号同期は、ICFER.SCLE ビットが 1 のときのみ有効です。

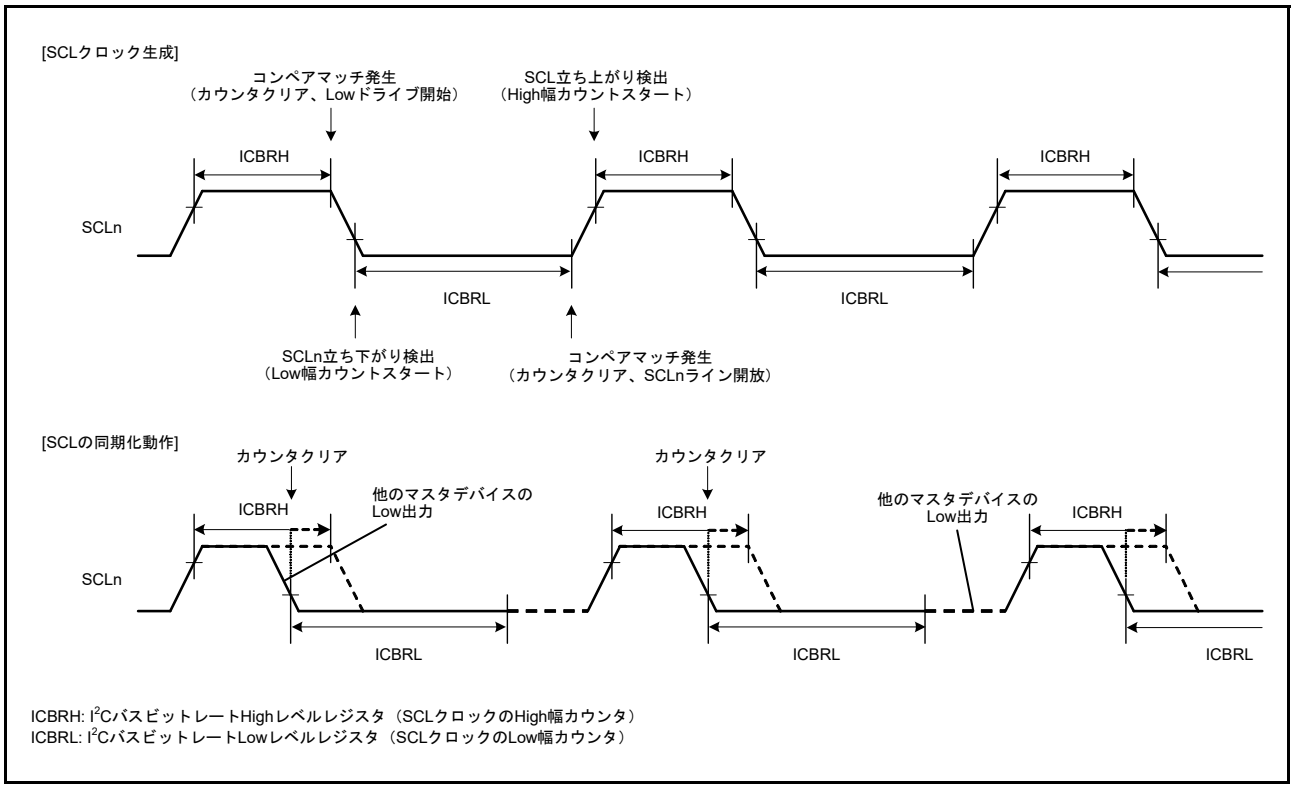


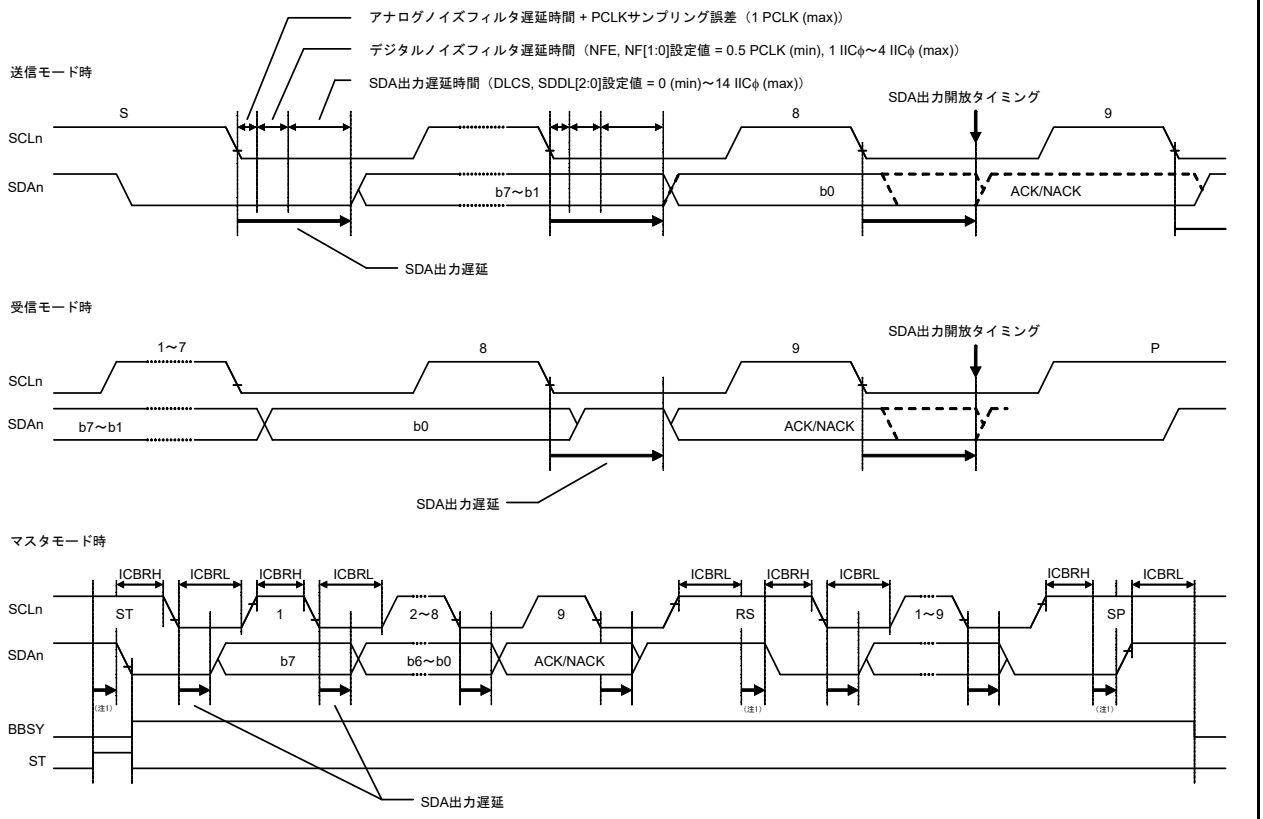
図 32.21　IIC の SCL クロック生成および SCL 同期化動作

32.5　SDA 出力遅延機能

IIC モジュールは SDA 出力遅延機能を備えています。SDA 出力遅延機能は、すべての SDA 出力タイミング（スタート／リスタート／ストップコンディションの発行、データ出力、ACK/NACK 出力）を遅延させることができます。

この機能は、SCL 信号の立ち下がり検出から SDA 出力を遅延させ、SCL クロックが Low である期間中に確実に SDA 信号が出力されるようにします。この方法により、SMBus 仕様の最小データホールド時間（300ns）の要件を満たして、通信デバイスの誤動作を防止できるようになります。この SDA 出力遅延機能は、ICMR2.SDDL[2:0] ビットが 000b 以外のとき有効で、SDDL[2:0] ビットが 000b のとき無効です。

SDA 出力遅延機能が有効のとき、たとえば ICMR2.DLCS ビットは、IIC モジュール用の内部基本クロック（IICφ）とその 2 分周クロック（IICφ/2）のどちらを SDA 出力遅延カウンタのクロックソースとして使用するかを選択します。カウンタは、ICMR2.SDDL[2:0] ビットに設定されたサイクル数をカウントします。遅延カウントに達すると、IIC モジュールは SDA ライン上で必要な出力（スタート／リスタート／ストップコンディション、データ、ACK/NACK 信号）を行います。



注 1.　スタートコンディション（ST）、リスタートコンディション（RS）、ストップコンディション（SP）発行時は DLCS, SDDL[2:0] 設定値分の遅延

図 32.22　SDA 出力遅延機能

32.6　デジタルノイズフィルタ回路

SCLn 端子および SDAn 端子の状態は、内部からはアナログノイズフィルタ回路およびデジタルノイズフィルタ回路を通じて確認できます。図 32.23 にデジタルノイズフィルタ回路のブロック図を示します。

IIC に内蔵されているデジタルノイズフィルタ回路は、4 段の直列に接続されたフリップフロップ回路と一致検出回路で構成されています。

デジタルノイズフィルタの有効段数は ICMR3.NF[1:0] ビットで選択します。ノイズ除去能力は、選択した有効段数に応じて 1IICφ ～ 4IICφ サイクル分となります。

SCLn 端子入力信号（または SDAn 端子入力信号）は IICφ の立ち下がりでサンプリングされます。入力信号レベルが、ICMR3.NF[1:0] ビットで選択した有効なフリップフロップ回路段数の出力レベルと一致したとき、その信号レベルが後続の段数に伝えられます。一致しない場合は前のレベルを保持します。

なお、内部動作クロック（PCLKB）の周波数と転送速度の比が小さい場合、たとえば PCLKB = 4MHz 時の 400kbps データ転送では、デジタルノイズフィルタは有効信号をノイズとして処理する可能性があります。そのような場合は、ICFER.NFE ビットを 0 にすることでデジタルノイズフィルタ回路を無効にし、アナログノイズフィルタ回路のみを使用することが可能です。

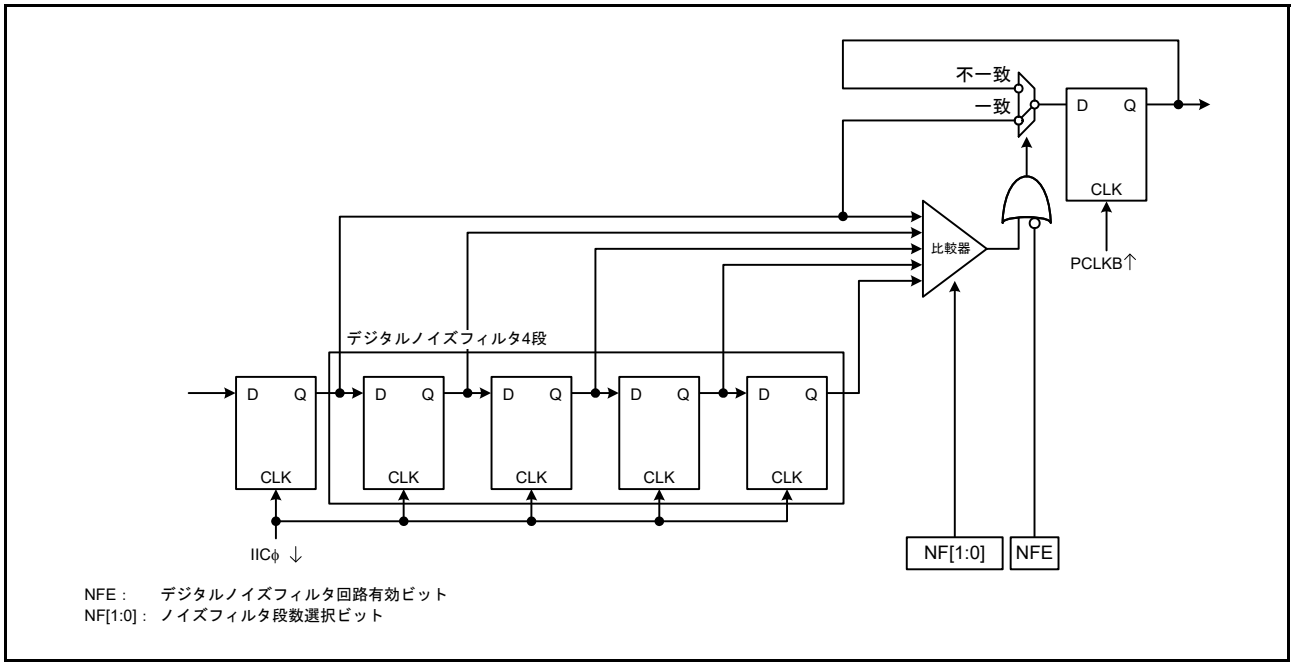


図 32.23　デジタルノイズフィルタ回路のブロック図

32.7　アドレス一致検出機能

IIC は、ジェネラルコールアドレス、ホストアドレスの他に 3 種類の固有のスレーブアドレスの設定が可能です。またスレーブアドレスには、7 ビットアドレスまたは 10 ビットアドレスを設定できます。

32.7.1　スレーブアドレス一致検出機能

IIC は 3 種類の固有のスレーブアドレスの設定が可能であり、それぞれに対してスレーブアドレス検出機能を備えています。ICSER.SARyE ビット（y = 0 ～ 2）が 1 のとき、SARUy および SARLy レジスタ（y = 0 ～ 2）に設定されたスレーブアドレスを検出できます。

IIC が設定されたスレーブアドレス一致を検出すると、対応する ICSR1.AASy フラグ（y = 0 ～ 2）が SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 1 になり、続く R/W# ビットにより ICSR2.RDRF フラグまたは ICSR2.TDRE フラグが 1 になります。これによって、受信データフル割り込み（IICn_RXI）または送信データエンプティ割り込み（IICn_TXI）を発生させることができます。どのスレーブアドレスが指定されたかは AASy フラグで識別できます。

図 32.24 ～図 32.26 に AASy フラグが 1 になるタイミングを 3 つのケースで示します。

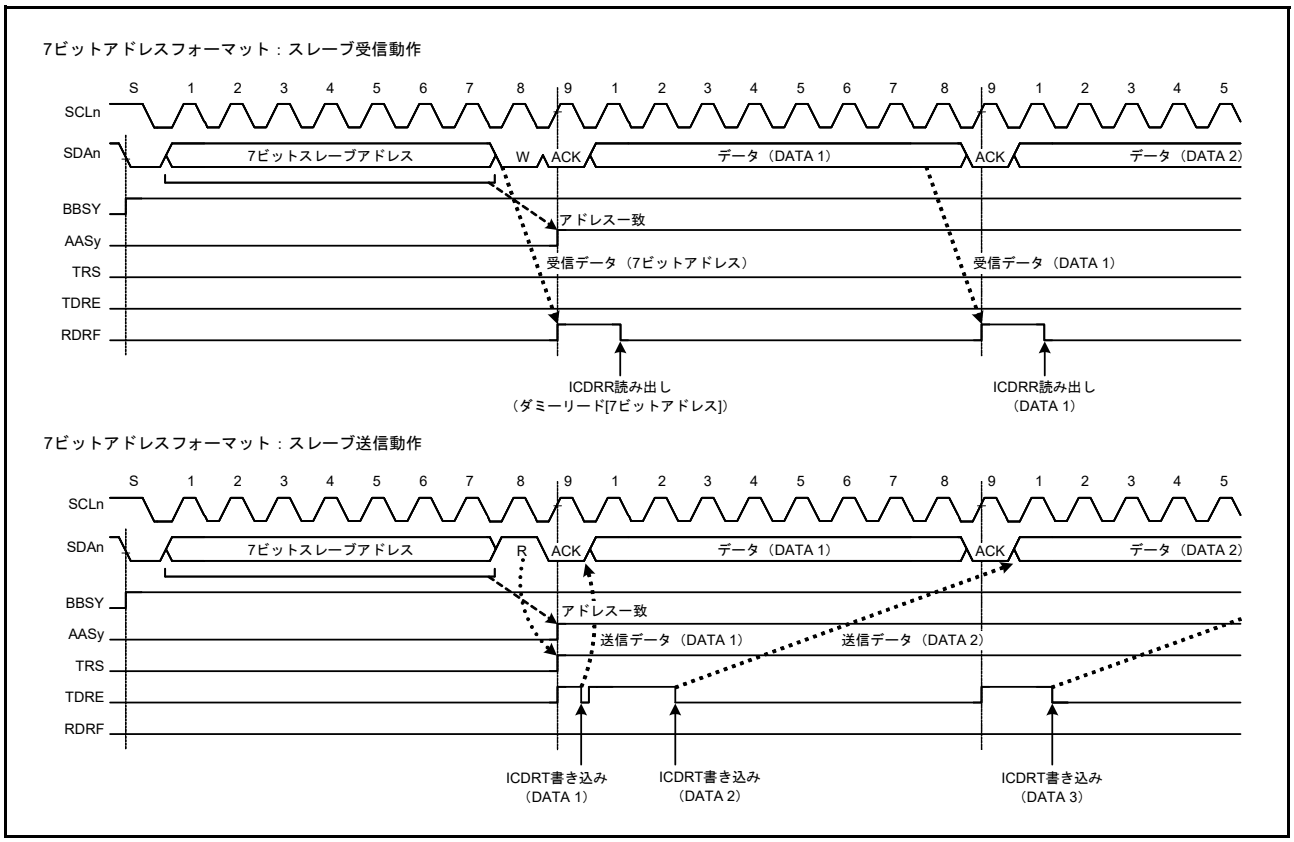


図 32.24　AASy フラグが 1 になるタイミング（7 ビットアドレスフォーマット）

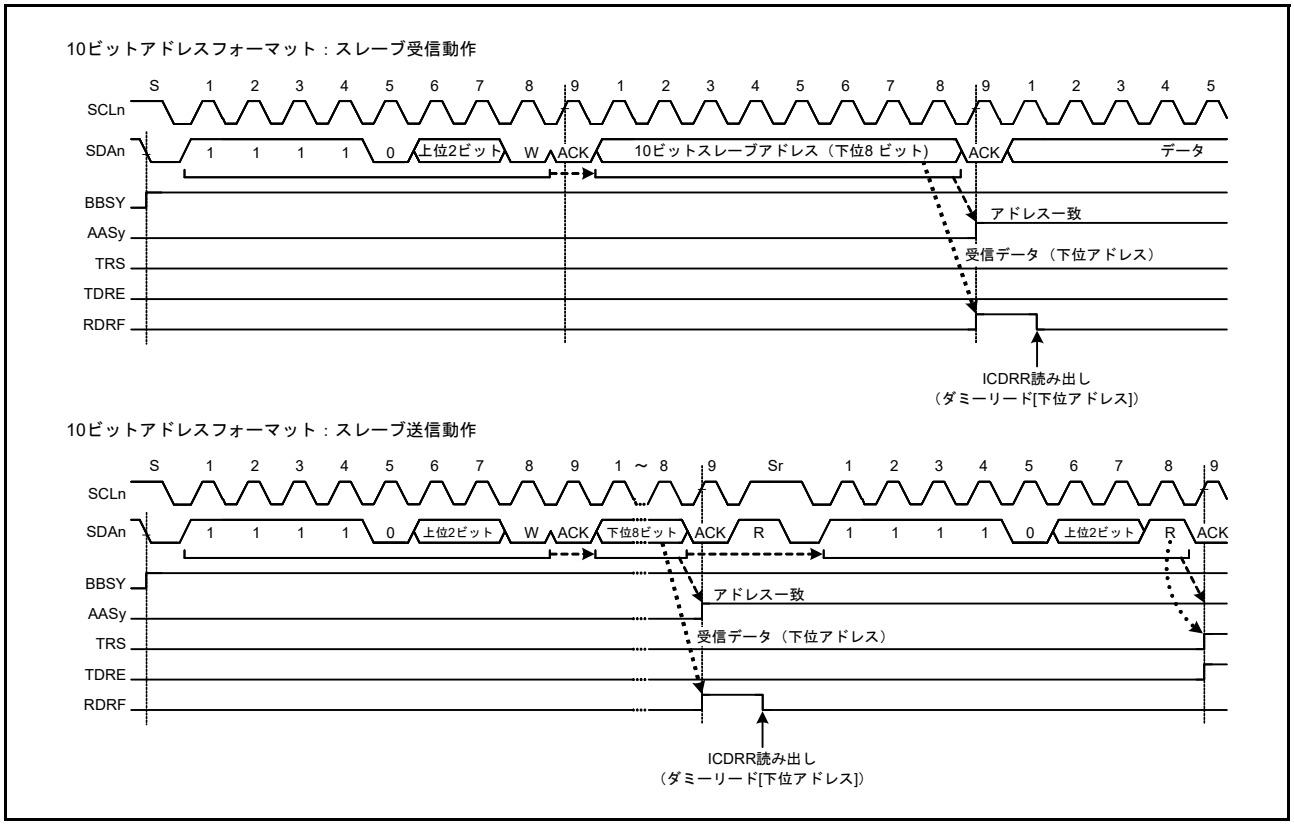


図 32.25　AASy フラグが 1 になるタイミング（10 ビットアドレスフォーマット）

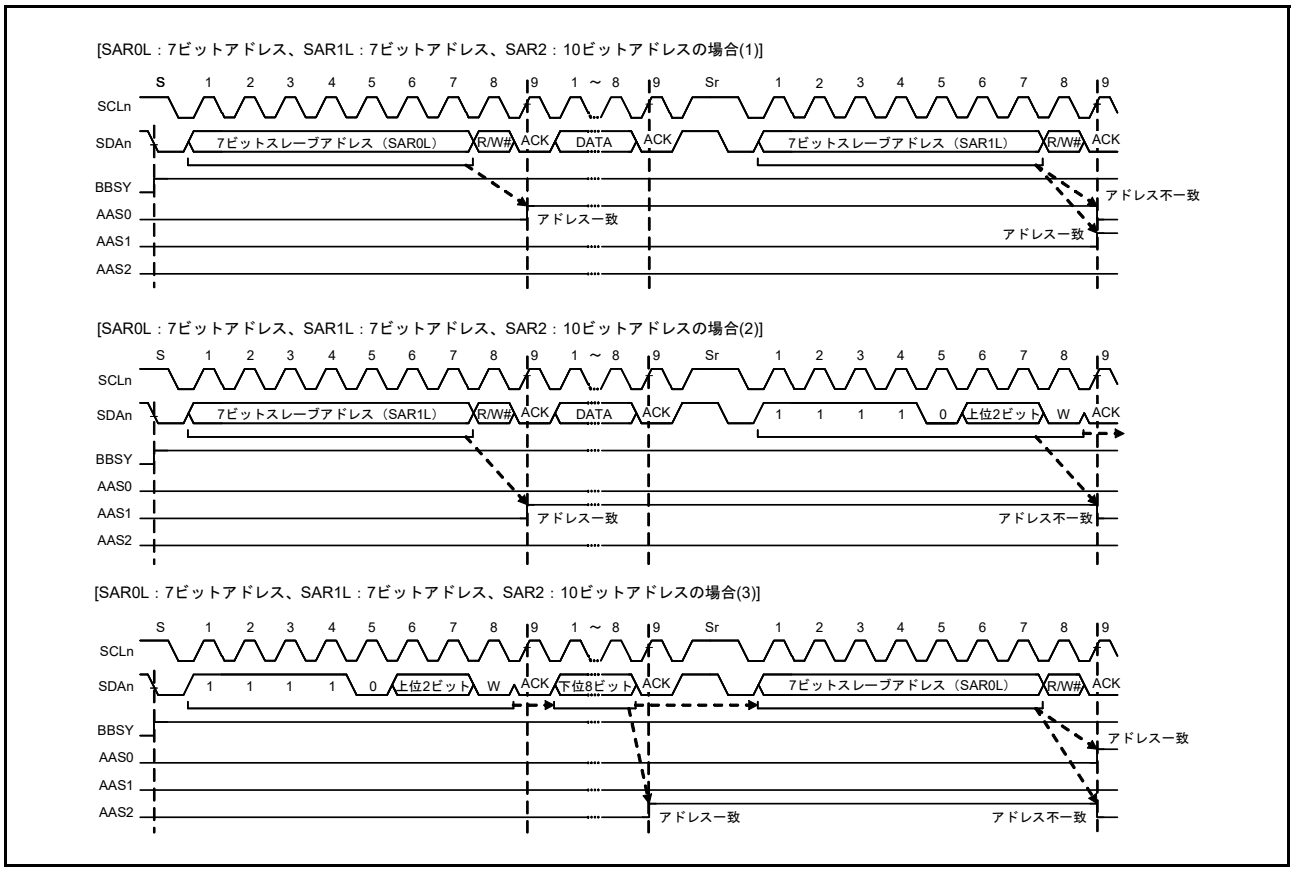


図 32.26　AASy フラグが 1 または 0 になるタイミング（7 ビット／10 ビットアドレスフォーマット混在）

32.7.2　ジェネラルコールアドレス検出機能

IIC は、ジェネラルコールアドレス（0000 000b ＋ 0[W]）の検出機能を備えています。この機能は、ICSER.GCAE ビットを 1 にすることで有効になります。

スタートコンディションまたはリスタートコンディション発行後に受信したアドレスが 0000 000b ＋ 1[R]（開始バイト）の場合は、IIC はスレーブアドレスの内容はすべて 0 であるとみなし、ジェネラルコールアドレスは認識しません。

IIC がジェネラルコールアドレスを検出すると、SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで ICSR1.GCA フラグと ICSR2.RDRF フラグが 1 になります。これによって、受信データフル割り込み（IICn_RXI）が発生します。GCA フラグを確認することで、ジェネラルコールアドレスが送信されたことを確認できます。

なお、ジェネラルコールアドレス検出後の動作は、通常のスレーブ受信動作と同じです。

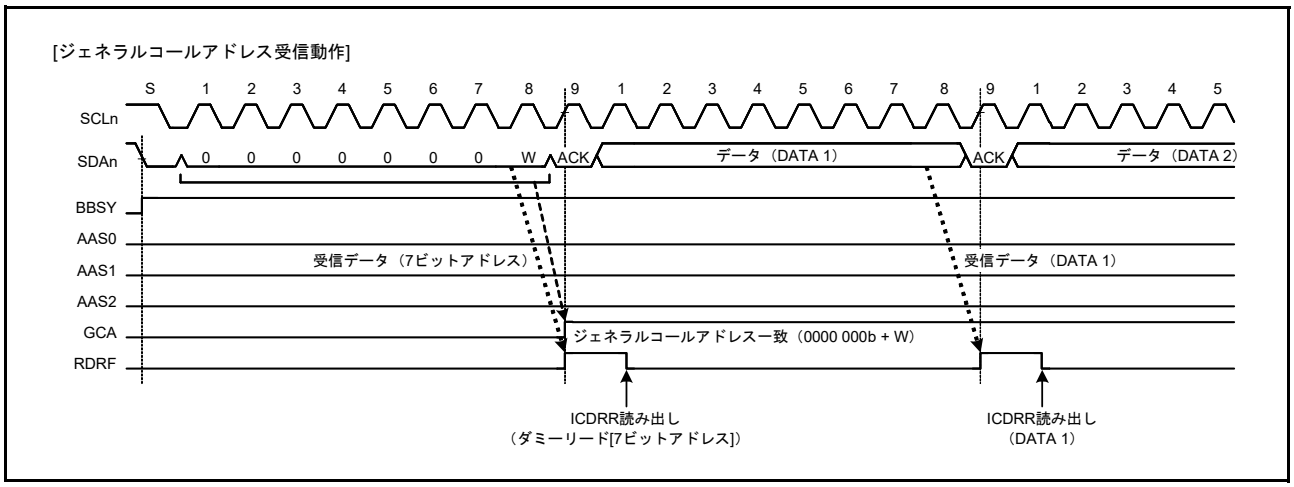


図 32.27　ジェネラルコールアドレス受信時に GCA フラグが 1 になるタイミング

32.7.3　デバイス ID アドレス検出機能

IIC では、I²C バスの仕様（リビジョン 03）に準拠したデバイス ID アドレスの検出が可能です。ICSER.DIDE ビットを 1 にした状態で、スタートコンディションまたはリスタートコンディション発行後の 1 バイト目に 1111 100b を受信すると、IIC はこのアドレスをデバイス ID アドレスと認識し、続く R/W# ビットが 0 のとき、SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで ICSR1.DID フラグを 1 にした後、2 バイト目以降と自スレーブアドレスとの比較動作を行います。この 2 バイト目以降のアドレスがスレーブアドレスレジスタの値と一致した場合、IIC は対応する ICSR1.AASy フラグ（y = 0 ～ 2）を 1 にします。

スタートコンディションまたはリスタートコンディション発行後の 1 バイト目が再びデバイス ID アドレス（1111 100b）と一致し、続く R/W# ビットが 1 のとき、IIC は続く 2 バイト目以降はアドレス比較を行わず、ICSR2.TDRE フラグを 1 にします。

デバイス ID アドレス検出機能では、IIC スレーブアドレスと一致しなかった場合、あるいは IIC スレーブアドレスが一致し、リスタートコンディションの検出後のアドレスがデバイス ID アドレスと一致しなかった場合、IIC は DID フラグを 0 にします。スタートコンディションまたはリスタートコンディション検出後の 1 バイト目がデバイス ID アドレス（1111 100b）と一致し、かつ R/W# ビットが 0 の場合は、IIC は DID フラグを 1 にして、続く 2 バイト目以降を IIC のスレーブアドレスと比較します。R/W# ビットが 1 の場合、DID フラグは前値の状態を継続し、IIC は 2 バイト目以降の比較を行いません。このようにして、TDRE = 1 の確認後、DID フラグを読むことで、デバイス ID アドレスを受信したことを確認することが可能です。

なお、一連のデバイス ID フィールド受信後にホストに送信するデバイス ID フィールドとして必要な情報（3 バイトデータ：メーカ情報［12 ビット］＋部品識別［9 ビット］＋リビジョン［3 ビット］）を、通常の送信データとして準備しておいてください。デバイス ID フィールドに含める必要のある情報については、NXP 社にお問い合わせください。

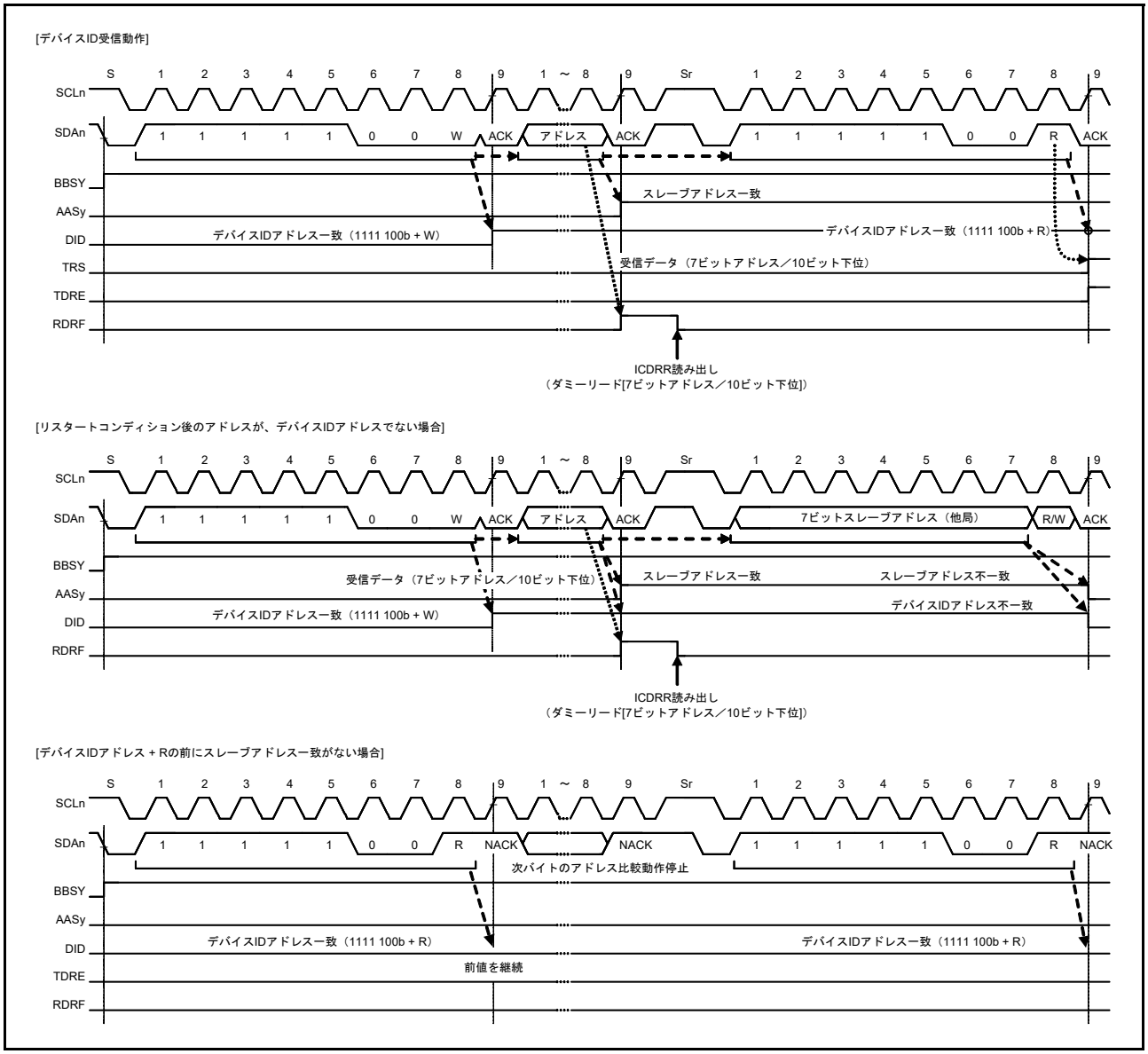


図 32.28　デバイス ID 受信時の AASy および DID フラグのセット／クリアタイミング

32.7.4　ホストアドレス検出機能

IIC は、SMBus 動作時のホストアドレス検出機能を備えています。ICMR3.SMBS ビットが 1 のとき ICSER.HOAE ビットを 1 にすると、スレーブ受信モード（ICCR2.MST、TRS ビット = 00b）時に、ホストアドレス（0001 000b）の検出が可能です。

IIC がホストアドレスを検出すると、SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで ICSR1.HOA フラグが 1 になり、R/W# ビットが 0（Wr ビット）のとき、ICSR2.RDRF フラグが 1 になります。これによって、受信データフル割り込み（IICn_RXI）が発生します。HOA フラグは、他のデバイスからホストアドレスが送信されたことを示します。

なお、ホストアドレス（0001 000b）に続くビットが読み出しビット（R/W# ビット = 1）の場合にも、ホストアドレスの検出が可能です。ホストアドレス検出後の動作は、通常のスレーブ動作と同じです。

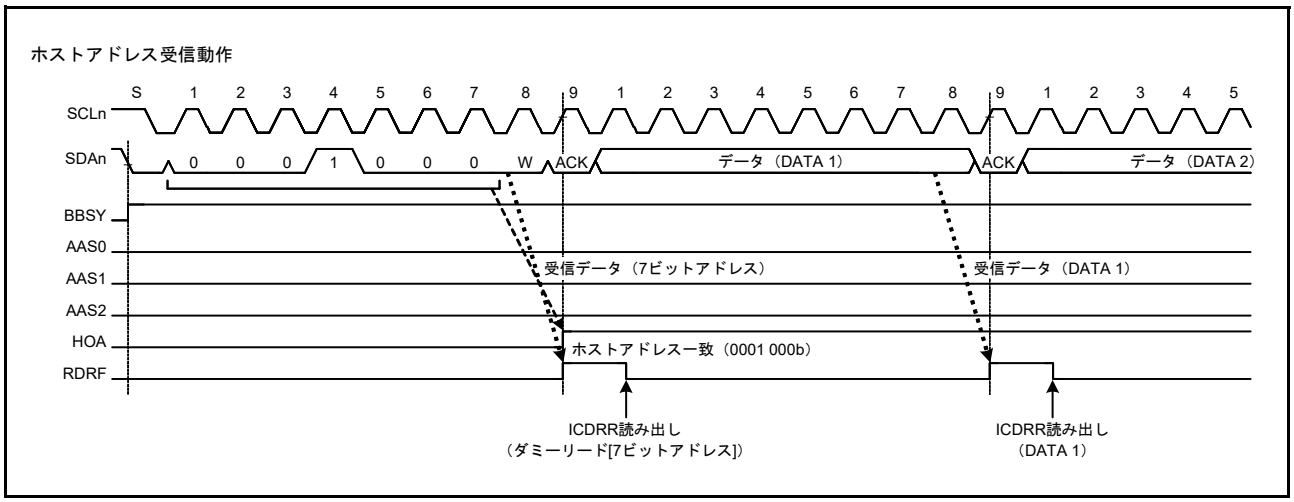


図 32.29　ホストアドレス受信時に HOA フラグが 1 になるタイミング

32.8　ウェイクアップ機能

IIC は、MCU をソフトウェアスタンバイモードから通常動作に遷移させるウェイクアップ機能を備えています。ウェイクアップ機能は、システムクロック停止時にデータの受信を許可し、受信データのスレーブアドレスが一致した場合にウェイクアップ割り込み信号を生成します。この割り込み信号が、通常動作への復帰をトリガします。

ウェイクアップ機能には、下記の 4 つの動作モードがあります。

- ノーマルウェイクアップモード 1
- ノーマルウェイクアップモード 2
- コマンドリカバリモード
- EEP 応答モード

表 32.9 に各モードの動作を示します。

表 32.9　ウェイクアップ動作モード

動作モード	ACK応答タイミング	ウェイクアップ前のACK応答	ウェイクアップ時のSCL状態
ノーマルウェイクアップモード1	ウェイクアップ前	ACK	Lowに固定
ノーマルウェイクアップモード2	ウェイクアップ後	ウェイクアップ前：応答なし ウェイクアップ後：ACK応答	Lowに固定
コマンドリカバリモード	ウェイクアップ前	ACK	解放
EEP応答モード	ウェイクアップ前	NACK	解放

ウェイクアップ機能使用時の注意事項

1. ウェイクアップ割り込みによってソフトウェアスタンバイモードから通常動作へ遷移させた後、ウェイクアップ機能を無効（WUE = 0）にしてください。
2. WUF が 0 の場合は、ウェイクアップ割り込みによってシステムクロックが回復しても、IIC レジスタの内容を変更しないでください。WUF が 1 であることを確認してから、レジスタ設定を行ってください。
3. ソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、WUE、WUIE ビットを 1 に、MST、TRS ビットを 0（スレーブ受信モード）にしてください。
4. BBSY が 1 のときは、ソフトウェアスタンバイモードにしないでください。
5. ウェイクアップ機能は、スレーブアドレスレジスタ SARL0 の 7 ビットスレーブアドレス、ジェネラルコールアドレス、およびホストアドレスをサポートしています。10 ビットスレーブアドレス、SARL1、SARL2 はサポートされていません。
6. ウェイクアップ機能を有効にする場合、ICIER レジスタの TIE、TEIE、RIE、NAKIE、SPIE、STIE、ALIE、および TMOIE の各ビットで選択可能な割り込みは禁止してください。
7. ウェイクアップ機能を有効にする場合、タイムアウト機能を使用しないでください。
8. ウェイクアップ割り込み以外の割り込み（IRQn など）で、ソフトウェアスタンバイモードからの遷移がトリガされると、WUF フラグは 1 になりません。図 32.31 および図 32.36 に示す処理に従ってください。

32.8.1 ノーマルウェイクアップモード 1

以下では、ノーマルウェイクアップモード 1 の動作、タイミング、および動作例について説明します。

ノーマルウェイクアップモード 1 では、スレーブアドレスの一致によってトリガされたウェイクアップ割り込みにより、以下のような通常動作への遷移が行われます。

ウェイクアップ前 : IIC の自スレーブアドレスとともに受信したデータに対して ACK を送信する。

ウェイクアップ中 : SCL の 9 クロック目で ACK 応答を行ってから、SCL の Low ホールドを行う。(注 1)

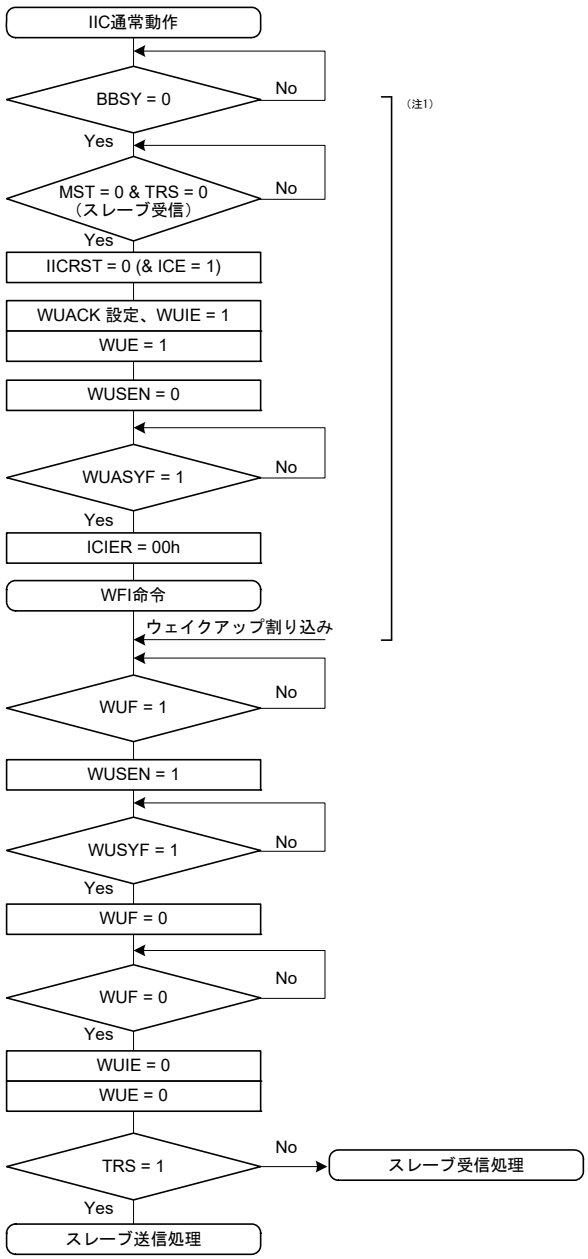
ウェイクアップ後 : 通常動作が継続する。

スレーブアドレスが不一致の場合、SCL の 9 クロック目の立ち下がり後に SCL ラインの Low ホールドは行われず、スレーブ動作が継続します。

図 32.30 に動作例を、図 32.32 に詳細なタイミングを示します。

注 1. ウェイクアップ中の 9 クロック目と 1 クロック目の間では、WAIT = 1 は無効です。

ウェイクアップ割り込み以外の割り込み（IRQn など）で、ソフトウェアスタンバイモードからの遷移がトリガされると、WUF フラグは 1 になりません。図 32.31 に動作例を示します。



[1] I²Cバスがオープンでスタンバイ状態になるのを待つ

[2] 内部リセットのアサート時は内部リセットをネゲート

[3] モードに応じてWUACKを設定
ウェイクアップ割り込みを許可
[4] ウェイクアップ機能を許可
[5] WUSENを0に設定

[6] WUI以外の割り込み要求を禁止

[7] IICへのPCLK供給を停止（IICは受信を続ける）
[8] ウェイクアップ割り込み（アドレス一致）によるIICへのPCLKBとシステムクロック供給を開始

[9] WUFフラグが1になるのを待つ

[10] WUSENを1に設定

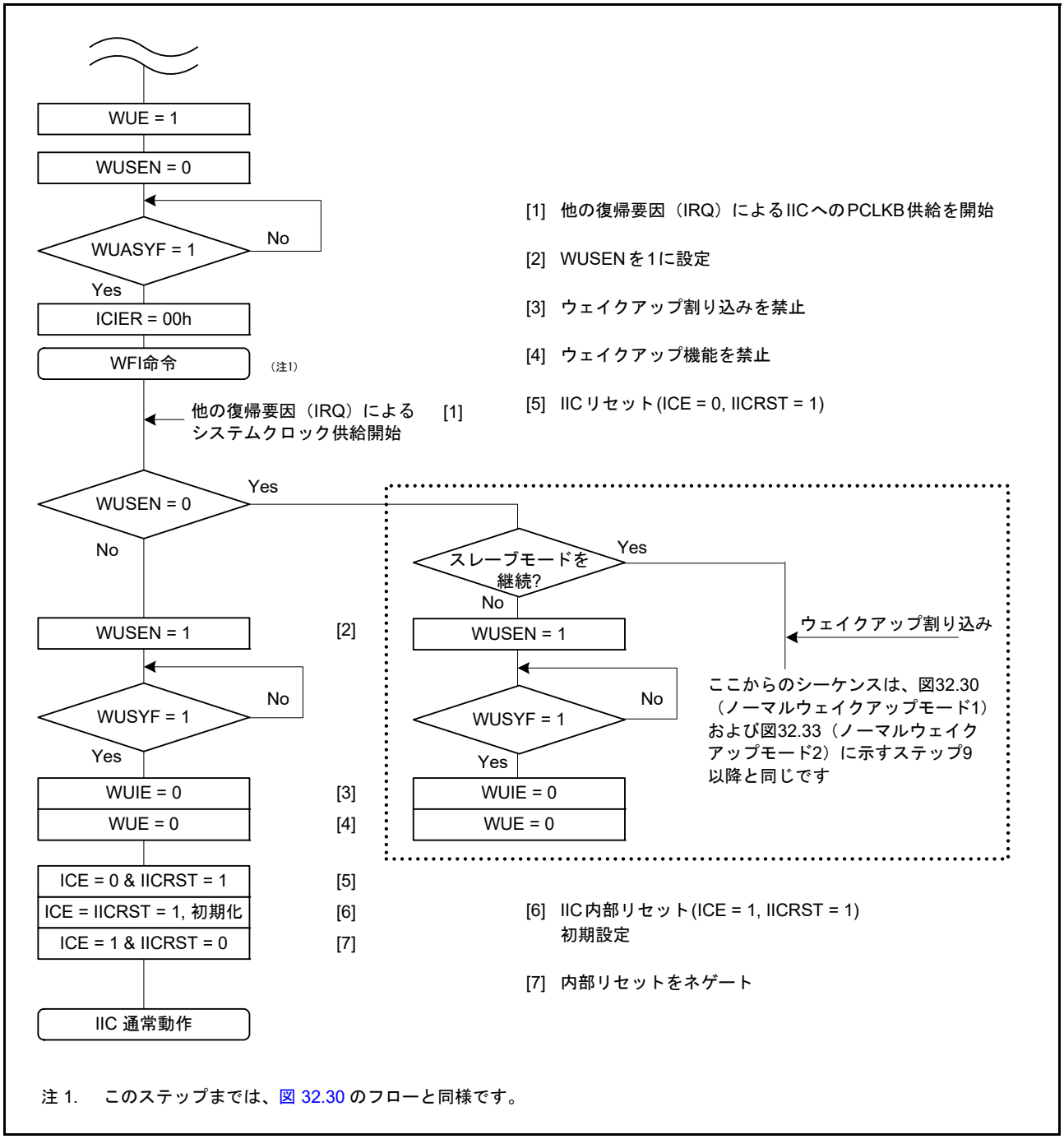
[11] WUFに0を書く
（割り込み処理から復帰する前に読み出しをしてクリアの完了を確認してください）

[12] ウェイクアップ割り込みを禁止
[13] ウェイクアップ機能を禁止

注 1.　BBSY = 0 設定から WFI 命令実行までの間にスタートコンディションが発行されないようにしてください。

図 32.30　ノーマルウェイクアップモード 1 の動作例（スレーブアドレス一致時のウェイクアップ割り込みによるウェイクアップの場合）

注 .　ウェイクアップ機能使用時の注意事項を参照してください。



注 1.　このステップまでは、図 32.30 のフローと同様です。

図 32.31　ノーマルウェイクアップモード 1 および 2 の動作例（IIC ウェイクアップ割り込み以外の割り込み（たとえば IRQn）によるウェイクアップの場合）

注 .　IIC 初期設定の詳細は、32.3.2　初期設定を参照してください。

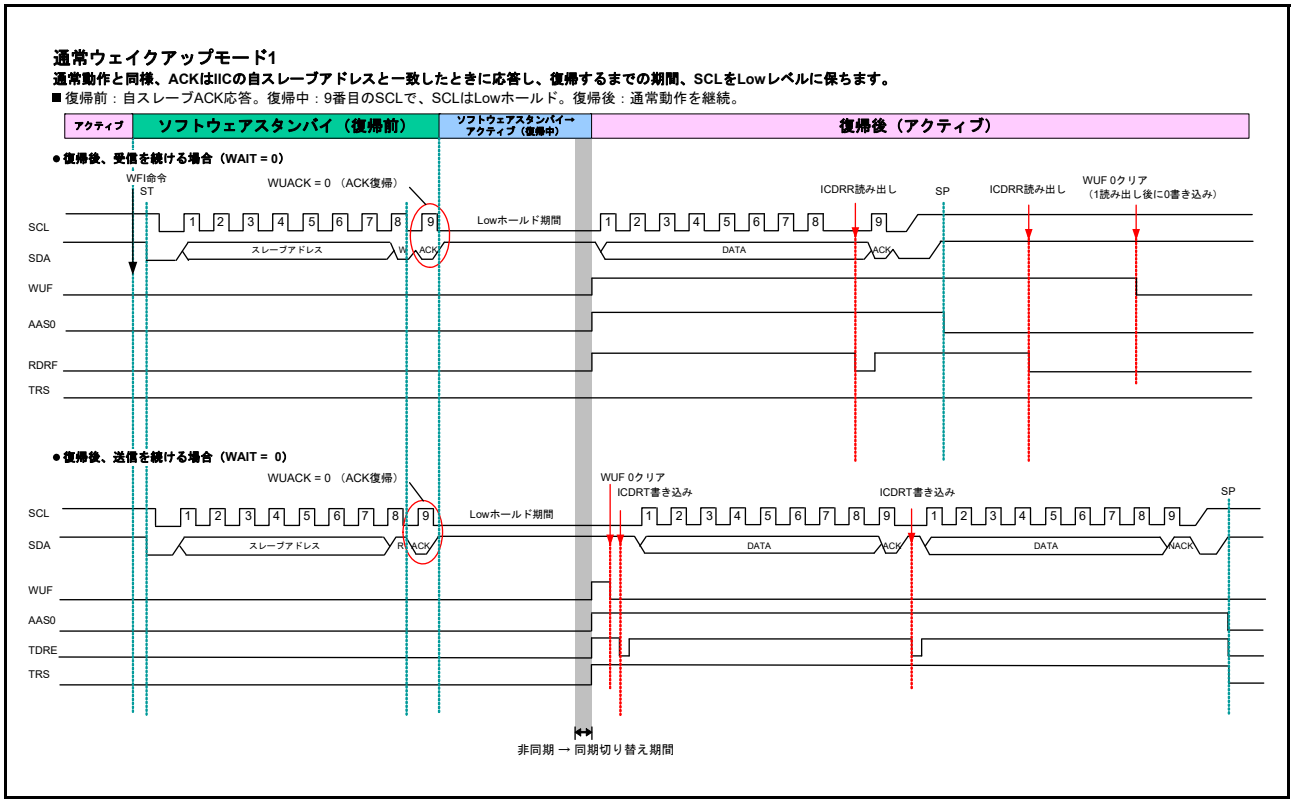


図 32.32　　ノーマルウェイクアップモード 1 のタイミング

32.8.2　　ノーマルウェイクアップモード 2

以下では、ノーマルウェイクアップモード 2 の動作、タイミング、および動作例について説明します。

スレーブアドレスの一致によってトリガされたウェイクアップ割り込みにより、以下のように通常動作への遷移が行われます。

ウェイクアップ前：IIC の自スレーブアドレスとともに受信したデータに対して SCL の 8 クロック目の終わりまで応答しない。

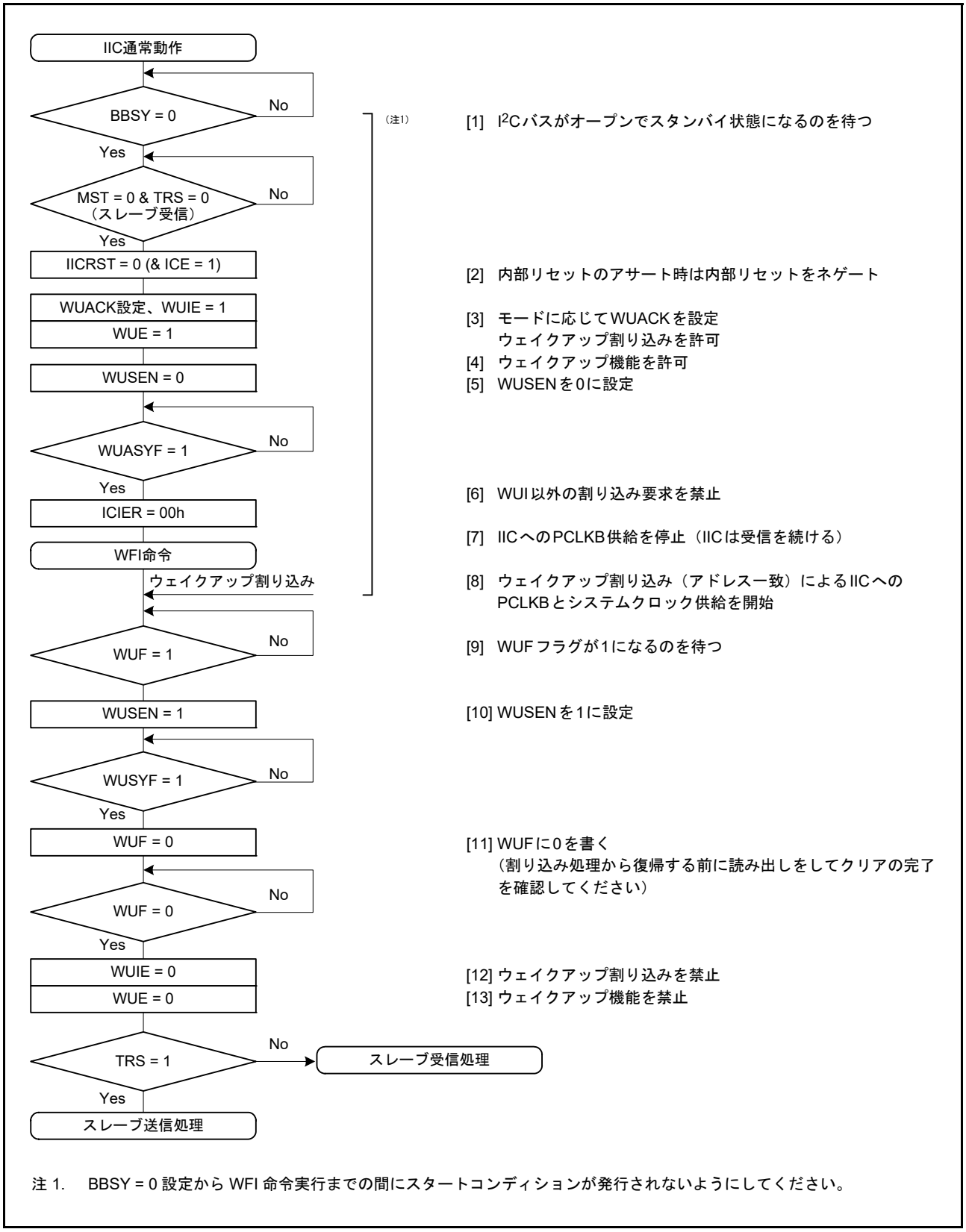
ウェイクアップ中：8 クロック目と 9 クロック目の間で SCL ラインの Low ホールドを行う。

ウェイクアップ後：SCL の 9 クロック目で ACK を返し、通常動作が継続する。

スレーブアドレスが不一致の場合、SCL の 8 クロック目の後に SCL ラインの Low ホールドは行われず、スレーブ動作が継続します。

図 32.33 に動作例を、図 32.34 に詳細なタイミングを示します。

ウェイクアップ割り込み以外の割り込み（IRQn など）で、ソフトウェアスタンバイモードからの遷移がトリガされると、WUF フラグは 1 になりません。図 32.31 に示す処理に従ってください。



注 1.　BBSY = 0 設定から WFI 命令実行までの間にスタートコンディションが発行されないようにしてください。

図 32.33　ノーマルウェイクアップモード 2 の動作例（スレーブアドレス一致時のウェイクアップ割り込みによるウェイクアップの場合）

注 .　ウェイクアップ機能使用時の注意事項を参照してください。

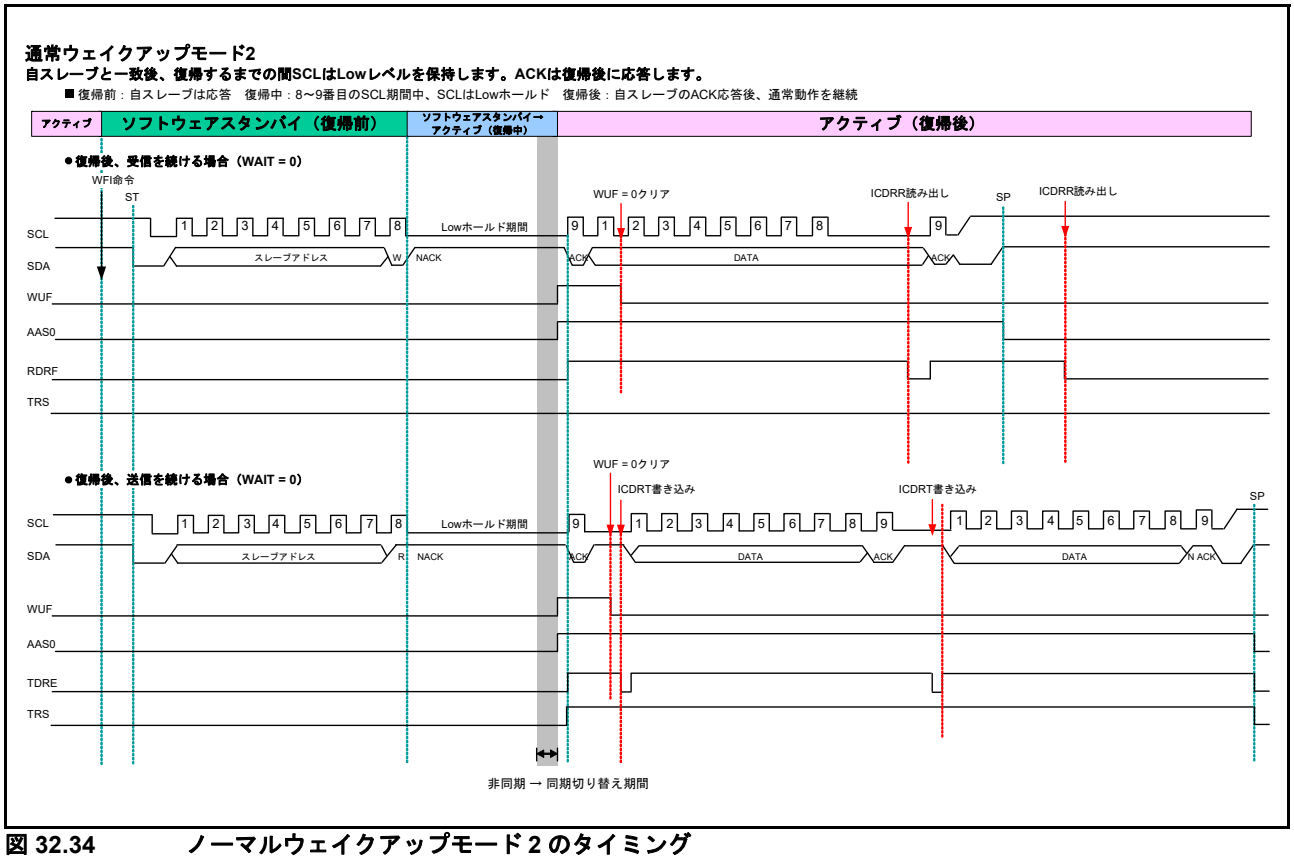


図 32.34　　ノーマルウェイクアップモード 2 のタイミング

32.8.3　コマンドリカバリモードと EEP 応答モード（特殊ウェイクアップモード）

以下では、コマンドリカバリモードと EEP 応答モードの動作、タイミング、および動作例について説明します。

コマンドリカバリモードと EEP 応答モードでは、ウェイクアップ期間中（SCL の 9 クロック目の立ち上がり後）に SCL ラインの Low ホールドは行われません。したがって、他の IIC デバイスはこの期間に I²C バスを利用できます。

スレーブアドレスの一致によってトリガされたウェイクアップ割り込みにより、以下のように通常動作への遷移が行われます。

ウェイクアップ前：IIC の自スレーブアドレスとともに受信したデータに対して ACK（コマンドリカバリモードの場合）または NACK（EEP 応答モードの場合）を返す。

ウェイクアップ中：SCL ラインの Low ホールドを行わない。

ウェイクアップ後：IIC の初期設定後、通常動作が継続する。

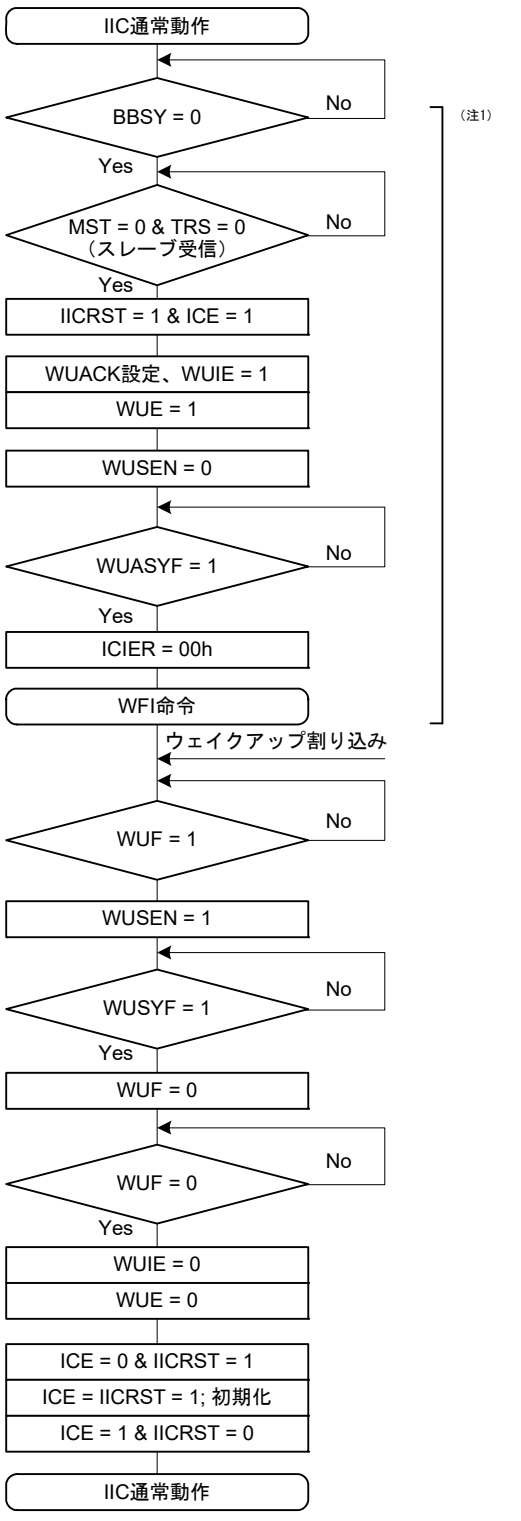
スレーブアドレスが不一致の場合、スレーブ動作が継続します。

注 .　ウェイクアップ中に SCL ラインの Low ホールドは行われないので、スレーブアドレスの後続データは送受信できません。

注 .　コマンドリカバリモードと EEP 応答モードは、内部リセット状態（ICE = IICRST = 1）です。したがって、スレーブアドレスが一致しても、ICSR1 レジスタの HOA、GCA、ASS0、ASS1、および ASS2 の各フラグは設定されません。

図 32.35 に、コマンドリカバリモードおよび EEP 応答モードの動作例を示します。図 32.37 に、詳細なタイミングを示します。

ウェイクアップ割り込み以外の割り込み（IRQn など）で、ソフトウェアスタンバイモードからの遷移がトリガされると、WUF フラグは 1 になりません。図 32.36 に示す処理に従ってください。



[1] I²Cバスがオープンでスタンバイ状態になるのを待つ

[2] 内部リセットのアサート

[3] モードに応じてWUACKを設定
ウェイクアップ割り込みを許可
[4] ウェイクアップ機能を許可
[5] WUSENを0に設定

[6] WUI以外の割り込み要求を禁止

[7] IICへのPCLK供給を停止（IICは受信を続ける）

[8] ウェイクアップ割り込み（アドレス一致）によるIICへの
PCLKBとシステムクロック供給を開始

[9] WUFフラグが1になるのを待つ

[10] WUSENを1に設定

[11] WUFに0を書く
（割り込み処理から復帰する前に読み出しをしてクリアの完了
を確認してください）

[12] ウェイクアップ割り込みを禁止
[13] ウェイクアップ機能を禁止

[14] IICリセット（ICE = 0, IICRST = 1）
[15] IIC内部リセット（ICE = 1, IICRST = 1）
初期設定を行う
[16] 内部リセットをネゲート

注 1.　BBSY = 0 設定から WFI 命令実行までの間にスタートコンディションが発行されないようにしてください。

図 32.35　コマンドリカバリモードと EEP 応答モードの動作例（スレーブアドレス一致時のウェイクアップ割り込みによるウェイクアップの場合）

注 .　ウェイクアップ機能使用時の注意事項を参照してください。

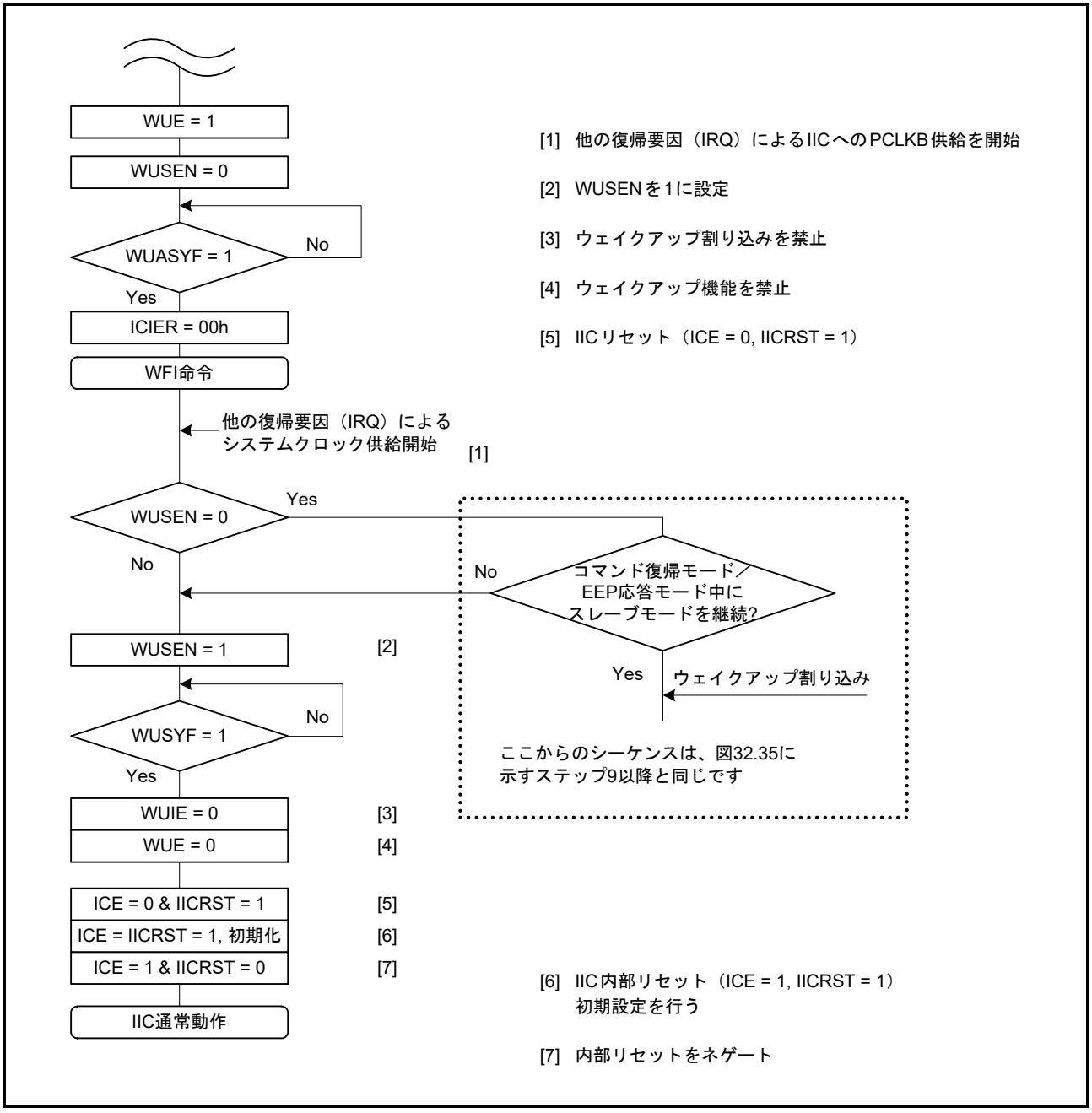


図 32.36　コマンドリカバリモードと EEP 応答モードの動作例（IIC ウェイクアップ割り込み以外の割り込み（たとえば IRQn）によるウェイクアップの場合）

注 .　IIC 初期設定の詳細は、32.3.2　初期設定を参照してください。

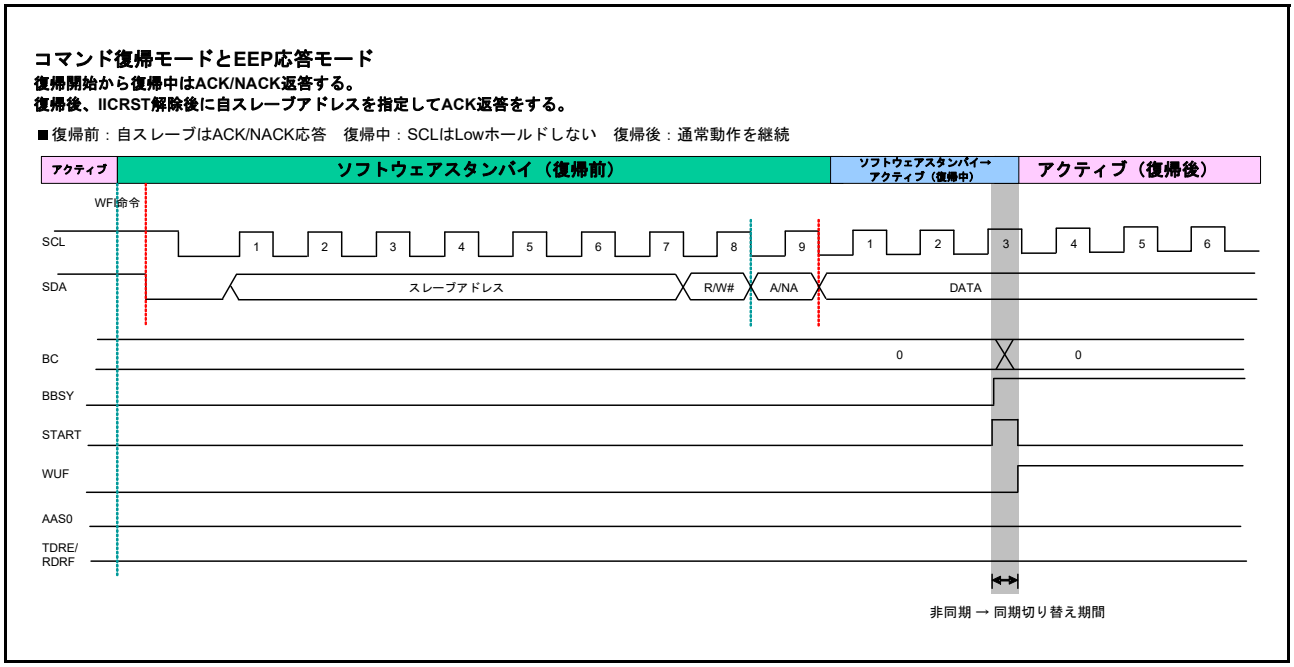


図 32.37　　コマンドリカバリモードと EEP 応答モードのタイミング

32.8.4　　WFI 命令の実行に関する注意事項

図 32.30、図 32.33、図 32.35 に示すウェイクアップモードの動作例では、BBSY = 0 を設定してから WFI 命令を実行するまでの間は、スタートコンディションを発行しないようにしてください。

この間にスタートコンディションを発行すると、先頭データブロックの 1 バイト目の受信後に NACK が返されます。その後、スタートコンディションまたはリスタートコンディションの検出によって、ウェイクアップ機能が有効になります。

32.9　SCL の自動 Low ホールド機能

32.9.1　送信データの誤送信防止機能

IIC が送信モード（ICCR2.TRS ビット = 1）のとき、I²C バス送信データレジスタ（ICDRT）にデータが書かれていない場合で、I²C バスシフトレジスタ（ICDRS）が空の場合、以下に示す区間、自動的に SCLn ラインの Low ホールドを行います。この Low ホールドは、送信データの書き込みが行われるまでの期間 Low 区間を延長し、意図しない送信データの誤送信を防止します。

マスタ送信モード

- スタートコンディション／リスタートコンディション発行後の Low 区間
- ある転送の 9 クロック目とその次の転送の 1 クロック目の間の Low 区間

スレーブ送信モード

- ある転送の 9 クロック目とその次の転送の 1 クロック目の間の Low 区間

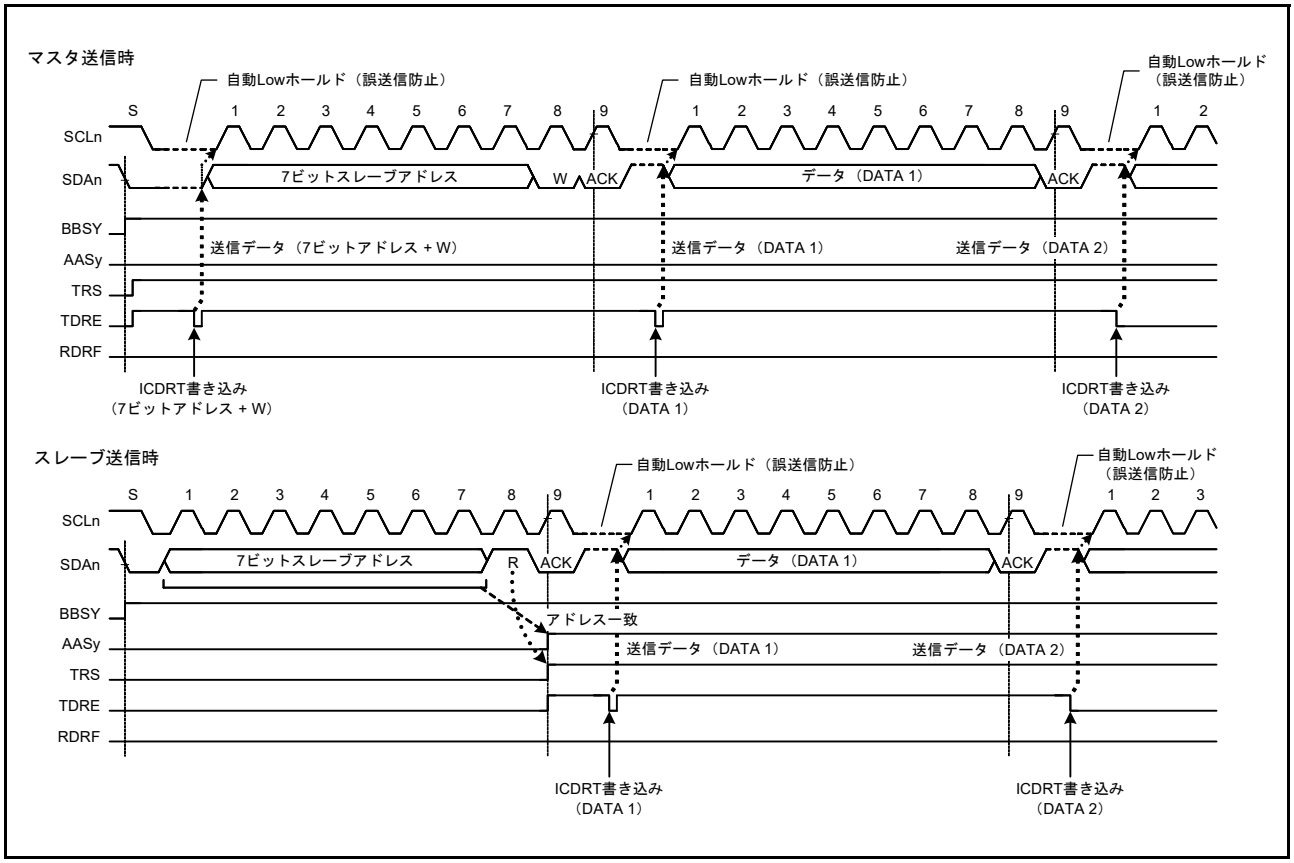


図 32.38　送信モード時の自動 Low ホールド動作

32.9.2　NACK 受信転送中断機能

この機能は、送信モード時（ICCR2.TRS ビット = 1）、NACK を受信した場合に転送動作を中断します。この機能は、ICFER.NACKE ビットが 1（転送中断許可）のとき有効になります。NACK 受信時にすでに次の送信データが書き込まれていた場合（ICSR2.TDRE フラグ = 0）、SCL クロックの 9 クロック目の立ち下がりで、次のデータ送信を自動的に中断します。これによって、次送信データの MSB が 0 の場合、SDAn ライン Low 出力固定を防止することが可能です。

この機能によって転送動作が中断された場合（ICSR2.NACKF フラグ = 1）、以後の送受信動作は行われません。送受信動作を再開するには、NACKF フラグを 0 にする必要があります。マスタ送信モードでは、リスタートコンディションまたはストップコンディション発行後に、NACKF フラグを 0 にしてから、再度スタートコンディションを発行してください。

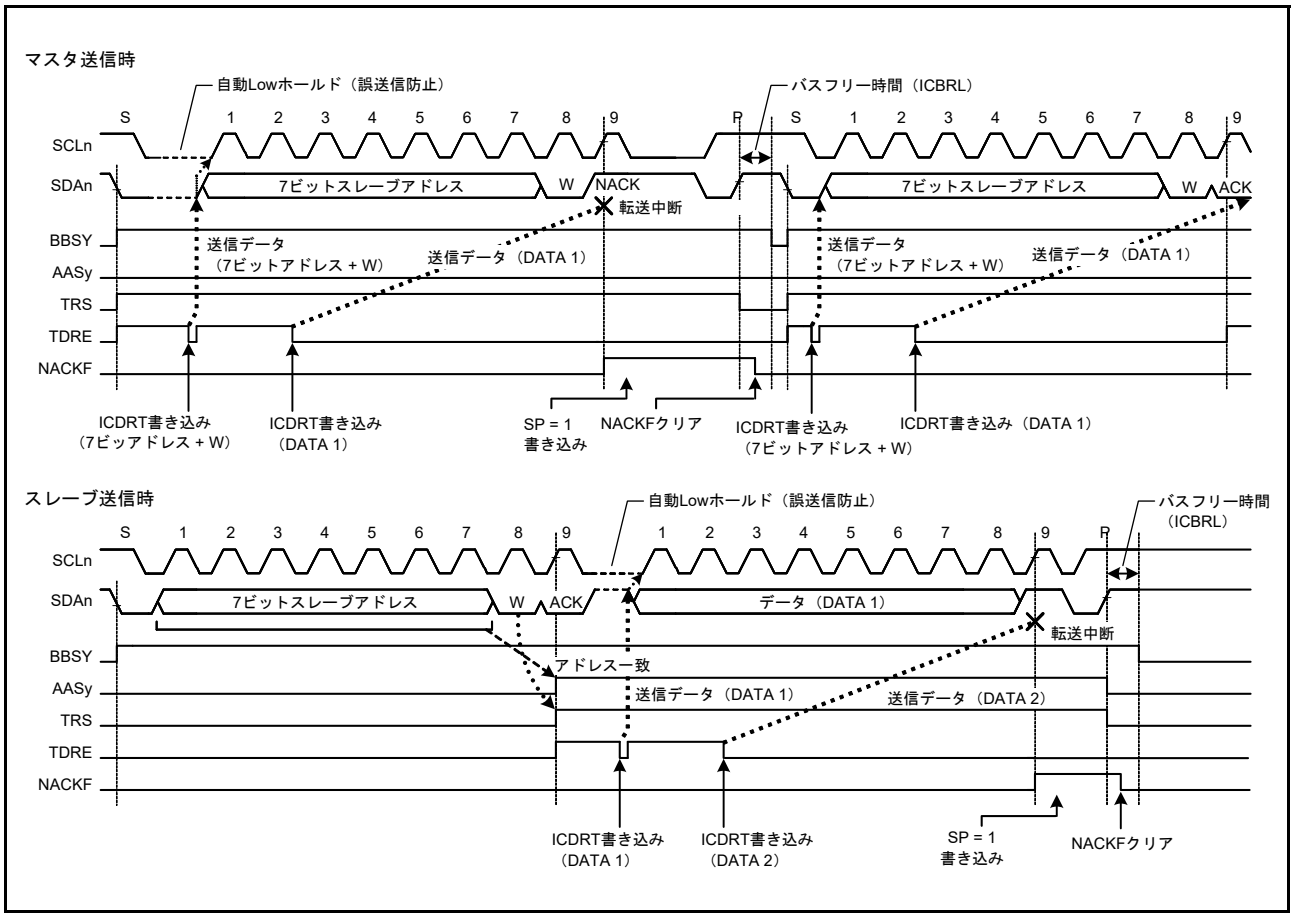


図 32.39　NACK 受信時のデータ転送中断動作（NACKE = 1 の場合）

32.9.3 受信データ取りこぼし防止機能

受信モード時（ICCR2.TRS ビット = 0）に、受信データフル（ICSR2.RDRF フラグ = 1）の状態で受信データ（ICDRR レジスタ）の読み出しが 1 転送フレーム以上遅れるなどの応答処理遅延が発生した場合、IIC は次のデータ受信の直前で自動的に SCLn ラインの Low ホールドを行い、受信データの取りこぼしを防止します。

この機能は、最終受信データの読み出し処理が遅れて、その間にストップコンディションが発行され、IIC スレーブアドレスが指定された場合でも有効です。ストップコンディション発行後に自スレーブアドレスとの不一致が発生した場合は、IIC は SCLn ラインの Low ホールドを行わないため、本機能によって他の通信を妨げることはありません。

また、ICMR3 レジスタの WAIT ビットと RDRFS ビットの組み合わせにより、SCLn ラインが Low ホールドされる期間を選択できます。

(1) WAIT ビットによる 1 バイト受信動作／自動 Low ホールド機能

ICMR3.WAIT ビットを 1 にすると、IIC は WAIT ビット機能を用いた 1 バイト受信動作を行います。また、ICMR3.RDRFS ビットが 0 の場合、SCL クロックの 8 クロック目の立ち下がりから 9 クロック目の立ち下がりまでの期間、IIC はアクノリッジビットに対し自動的に ICMR3.ACKBT ビットの内容を送出し、9 クロック目の立ち下がりを検出すると、WAIT ビット機能を用いて自動的に SCLn ラインの Low ホールドを行います。この Low ホールドは、ICDRR レジスタからデータを読み出すことで解除されます。そのため 1 バイトごとの受信動作が可能となります。

なお WAIT ビット機能は、マスタ受信モードまたはスレーブ受信モード時に、ジェネラルコールアドレスとホストアドレスを含む IIC スレーブアドレスとの一致があった以降の受信フレームから有効になります。

(2) RDRFS ビットによる 1 バイト受信動作（ACK/NACK 送出制御）／自動 Low ホールド機能

ICMR3.RDRFS ビットを 1 にすると、IIC は RDRFS ビット機能を用いた 1 バイト受信動作を行います。RDRFS ビットを 1 にすると、SCL の 8 クロック目の立ち上がりで ICSR2.RDRF フラグが 1（受信データフル）になり、8 クロック目の立ち下がりで自動的に SCLn ラインの Low ホールドが行われます。この Low ホールドは、ICMR3.ACKBT ビットに値を書き込むことで解除されますが、ICDRR レジスタからデータを読み出しても解除されません。そのため、1 バイトごとに受信したデータの内容に応じて ACK/NACK の送信を制御することにより、受信動作が可能となります。

なお RDRFS ビット機能は、マスタ受信モードまたはスレーブ受信モード時に、ジェネラルコールアドレスとホストアドレスを含む IIC スレーブアドレスとの一致があった以降の受信フレームから有効になります。

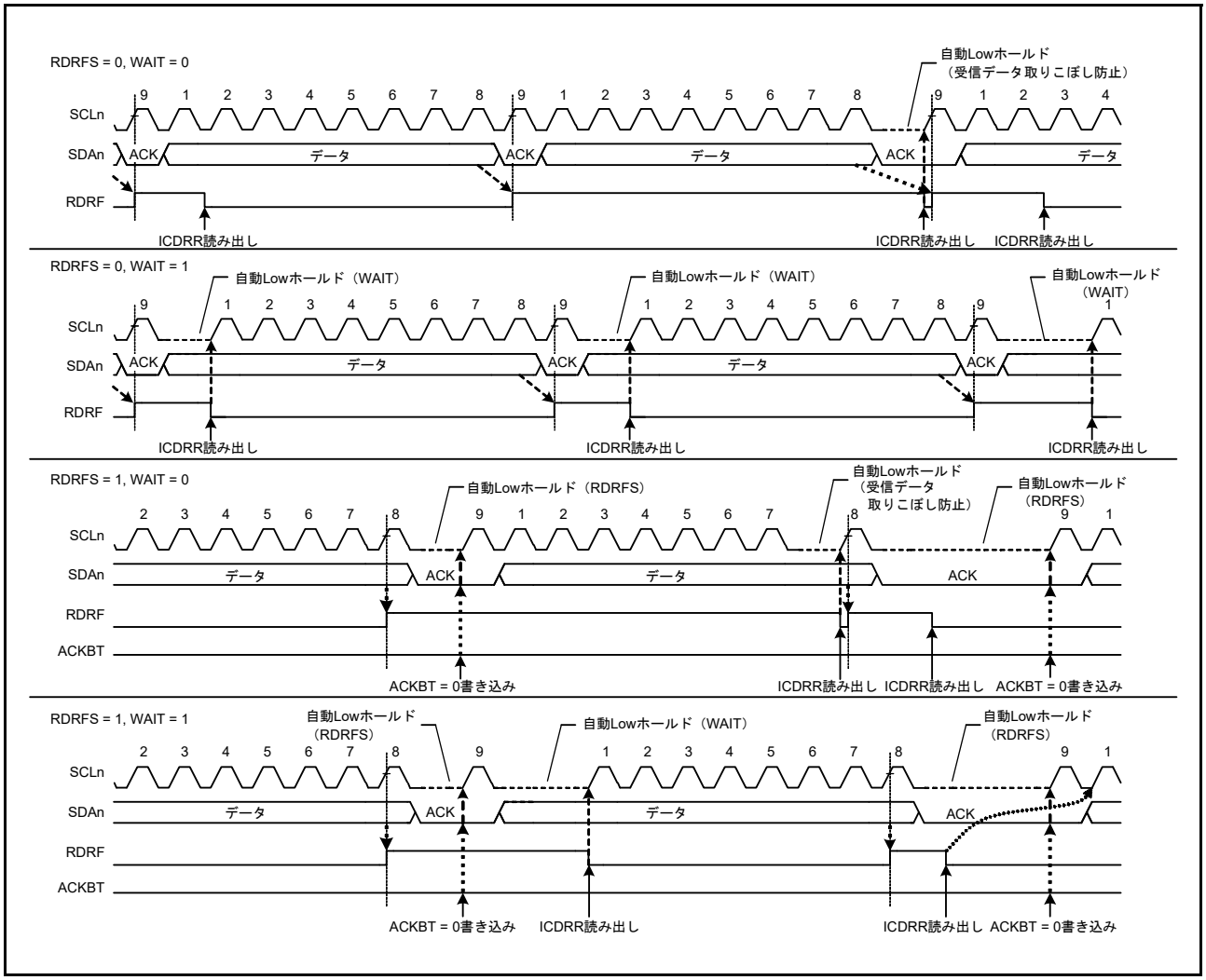


図 32.40　受信モード時の自動 Low ホールド動作（RDRFS および WAIT ビットの使用）

32.10 アービトレーションロスト検出機能

IIC には I²C バス規格で定められている通常のアービトレーションロスト検出機能の他に、スタートコンディションの二重発行防止機能、NACK 送信時のアービトレーションロスト検出機能やスレーブ送信モードにおけるアービトレーションロスト検出機能も備えています。

32.10.1 マスタアービトレーションロスト検出機能（MALE ビット）

IIC はスタートコンディション発行の際、SDAn ラインを Low にします。ただし、これよりも早く他のマスタデバイスがスタートコンディションを発行して SDAn ラインを Low にした場合、IIC は自身のスタートコンディションをエラーと判断し、これをアービトレーションロストとみなします。他のマスタデバイスによる転送の方が優先されます。同様に、バスビジー（ICCR2.BBSY フラグ = 1）の状態で ICCR2.ST ビットを 1 にすることでスタートコンディション発行を要求すると、IIC はこれをスタートコンディションの二重発行エラーと判断し、自身がアービトレーションロストを発生させたとみなします。この機能は、転送中のスタートコンディション発行により転送の失敗を防止します。

スタートコンディション発行が正常に行われた場合、アドレスビットを含む送信データ（内部の SDA 出力レベル）と SDAn ラインのレベルが不一致（内部 SDA 出力が High 出力、すなわち SDAn 端子がハイインピーダンス状態であれば、SDAn ラインに Low が検出されたとき）の場合、IIC はアービトレーションロストを発生させます。

マスタアービトレーションロストが発生した後、IIC はただちにスレーブ受信モードへ遷移します。このとき、ジェネラルコールアドレスを含むスレーブアドレスが自身のアドレスと一致していれば、IIC はスレーブ動作を継続します。

なお、マスタアービトレーションロストは、ICFER.MALE ビットが 1（マスタアービトレーションロスト検出有効）の状態で、以下に示す条件が成立したとき検出されます。

［マスタアービトレーションロスト条件］

- ICCR2.BBSY フラグが 0 の状態で ICCR2.ST ビットを 1 にしてスタートコンディションを発行した後、SDA の内部出力レベルと SDAn ラインのレベルが不一致のとき（スタートコンディション発行エラー）
- ICCR2.BBSY フラグが 1 の状態で ICCR2.ST ビットを 1 にしたとき（スタートコンディション二重発行エラー）
- マスタ送信モード時（ICCR2.MST、TRS ビット = 11b）、アクノリッジを除く送信データ（内部の SDA 出力レベル）と SDAn ラインのレベルが不一致のとき

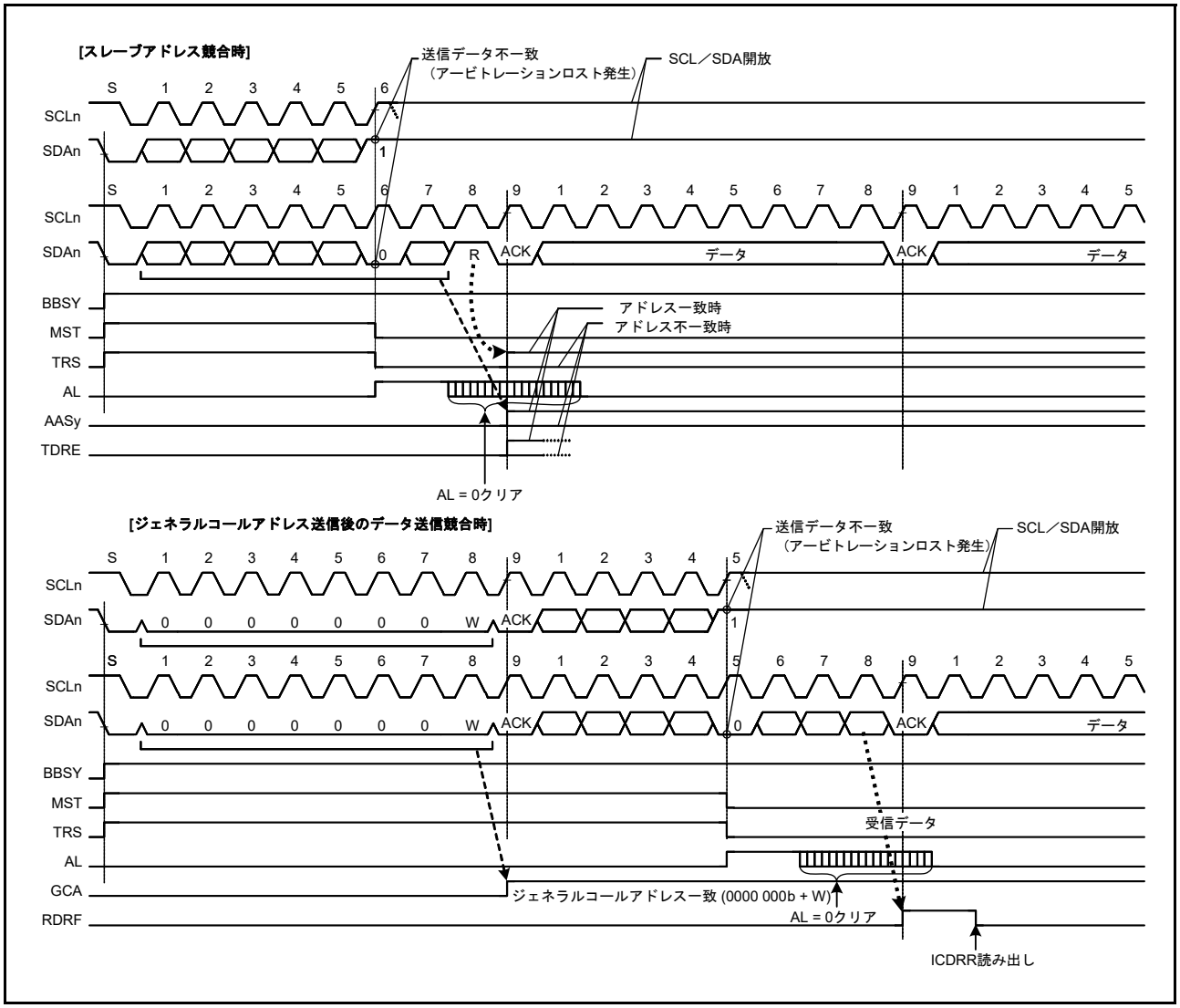


図 32.41　　マスタアービトレーションロスト検出の動作例（MALE = 1 の場合）

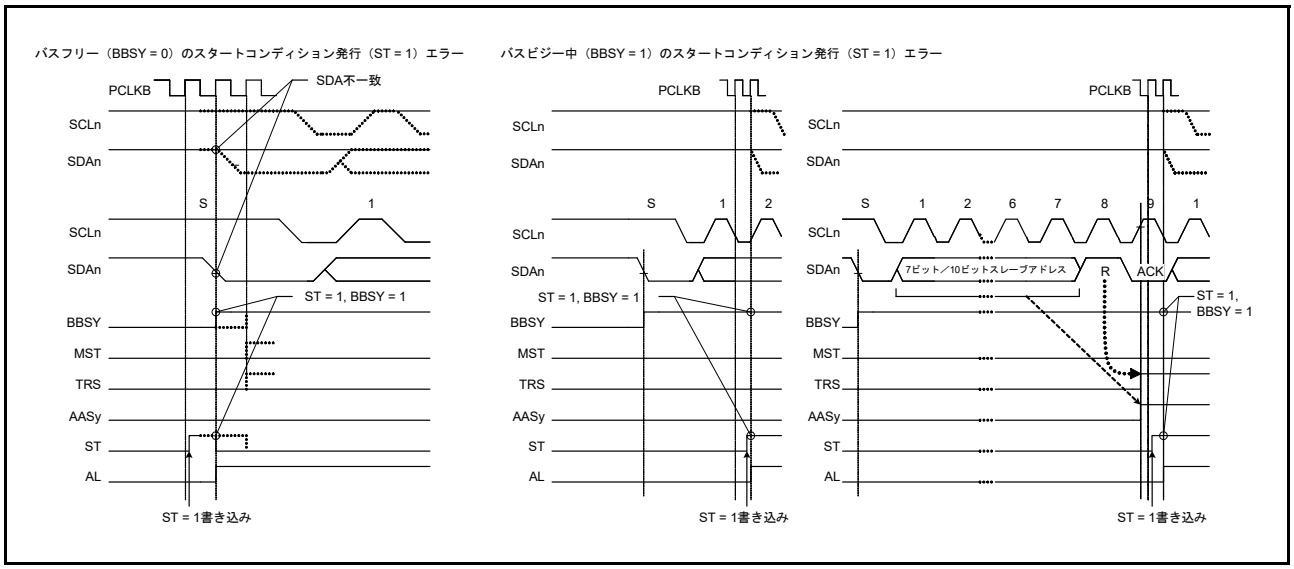


図 32.42　　スタートコンディション発行時のアービトレーションロスト（MALE = 1 の場合）

32.10.2　NACK 送信中のアービトレーションロスト検出機能（NALE ビット）

この機能は、受信モードで NACK 送信時に、内部の SDA 出力レベルと SDAn ラインのレベルが不一致の場合、本機能はアービトレーションロストを発生させます。マルチマスタのシステムにおいて、2 つ以上のマスタデバイスが同じスレーブデバイスから同時にデータを受信するとき、NACK 送信と ACK 送信の衝突が原因で、アービトレーションロストが発生します。このような衝突は、複数のマスタデバイスが 1 つのスレーブデバイスに対して同じ情報を送受信する際に生じます。図 32.43 に、NACK 送信中のアービトレーションロスト検出の動作例を示します。

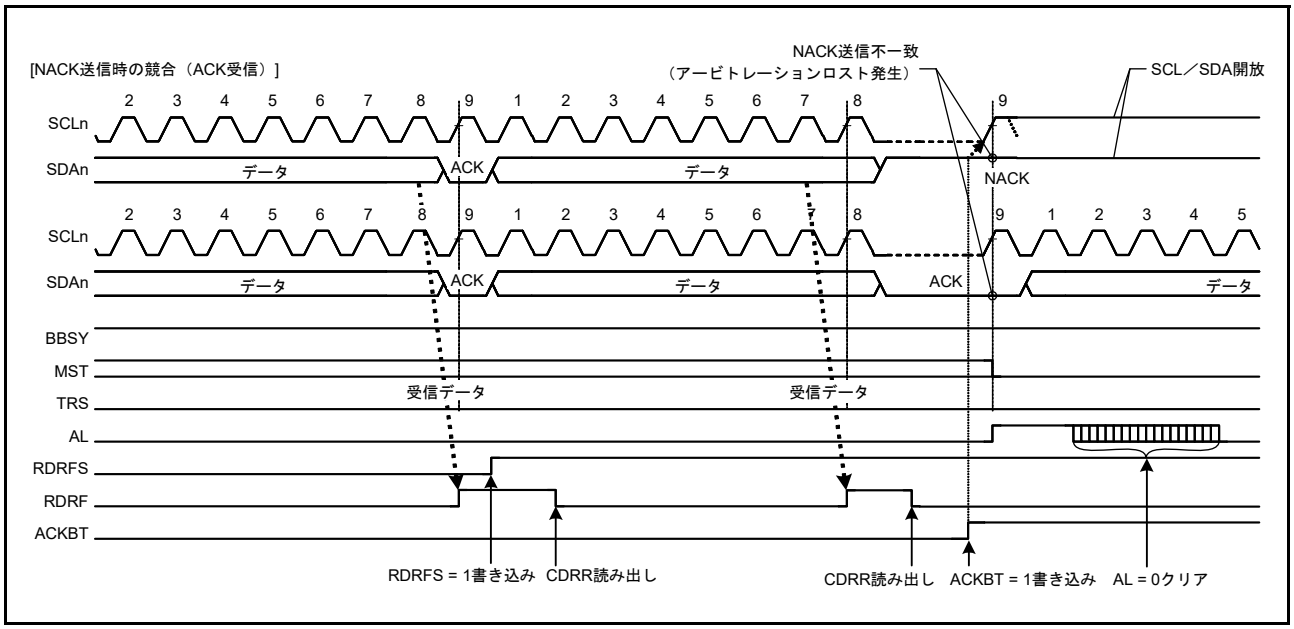


図 32.43　NACK 送信中のアービトレーションロスト検出の動作例（NALE = 1 の場合）

以下では、2 つのマスタデバイス（マスタ A、B）と 1 つのスレーブデバイスがバス上に接続されている場合を例に挙げてアービトレーションロストを説明します。マスタ A はスレーブデバイスから 2 バイト受信、マスタ B はスレーブデバイスから 4 バイト分のデータ受信を行うものとします。

マスタ A とマスタ B が同時にスレーブデバイスにアクセスした場合、スレーブアドレスが同じであるため、スレーブデバイスアクセス中にマスタ A にも B にもアービトレーションロストは発生しません。マスタ A とマスタ B は、どちらもバス権を取得したものと認識して動作します。ここでマスタ A は、スレーブデバイスから最終バイトである 2 バイト分の受信が完了した時点で NACK を送信します。一方マスタ B は、スレーブデバイスからの受信データが必要な 4 バイト受信に満たないため ACK 送信を行います。

このときマスタ A の NACK 送信とマスタ B の ACK 送信の衝突が発生します。一般的に、このような衝突が発生した場合、マスタ A はマスタ B が出した ACK 送信を検出できずにストップコンディションを発行します。このストップコンディションの発行は、マスタ B の SCL クロック出力と競合し、通信を中断させます。

IIC は、NACK 送信時に ACK を受信した場合、他のマスタデバイスと競合負けが発生したことを検知し、アービトレーションロストを発生させることができます。NACK 送信時にアービトレーションロストが発生すると、IIC はただちにスレーブ一致状態を解除して、スレーブ受信モードへ遷移します。この機能は、ストップコンディション発行を未然に防ぎ、バスの通信エラーを防止します。

同様に、SMBus の ARP コマンド処理においても、NACK 送信中のアービトレーションロスト検出機能を用いて、割り付けられたアドレスコマンド後の Get UDID 汎用処理で割り付けられたアドレスの UDID（ユニークデバイス ID）が不一致の場合に、FFh 送信処理などの追加クロック処理を省くことができます。

ICFER.NALE ビットが 1（NACK 送信中アービトレーションロスト検出有効）の状態で、以下に示す条件が成立したとき、IIC は NACK 送信中のアービトレーションロストを検出します。

［NACK 送信中アービトレーションロスト条件］

- NACK 送信時（ICMR3.ACKBT ビット = 1）、内部の SDA 出力レベルと SDAn ラインの状態（ACK 受信）が不一致のとき

32.10.3　スレーブアービトレーションロスト検出機能（SALE ビット）

この機能は、スレーブ送信モード時に、送信データ（内部の SDA 出力レベル）と SDAn ラインのレベルが不一致（内部 SDA 出力が High 出力、すなわち SDAn 端子がハイインピーダンス状態であれば、SDAn ラインに Low が検出されたとき）の場合、アービトレーションロストを発生させます。このアービトレーションロスト検出機能は、主に SMBus での UDID（ユニークデバイス ID）送信時に使用します。

IIC でスレーブアービトレーションロストが発生した場合、IIC はただちにスレーブ一致状態を解除してスレーブ受信モードへ遷移します。この機能によって、SMBus での UDID 送信時のデータ衝突を検出し、以降の余剰な FFh 送信処理を省くことができます。

ICFER.SALE ビットが 1（スレーブアービトレーションロスト検出有効）の状態で、以下に示す条件が成立したとき、IIC はスレーブアービトレーションロストを検出します。

［スレーブアービトレーションロスト条件］

- スレーブ送信モード時（ICCR2.MST、TRS ビット = 01b）、アクノリッジを除く送信データ（内部 SDA 出力レベル）と SDAn ラインが不一致のとき

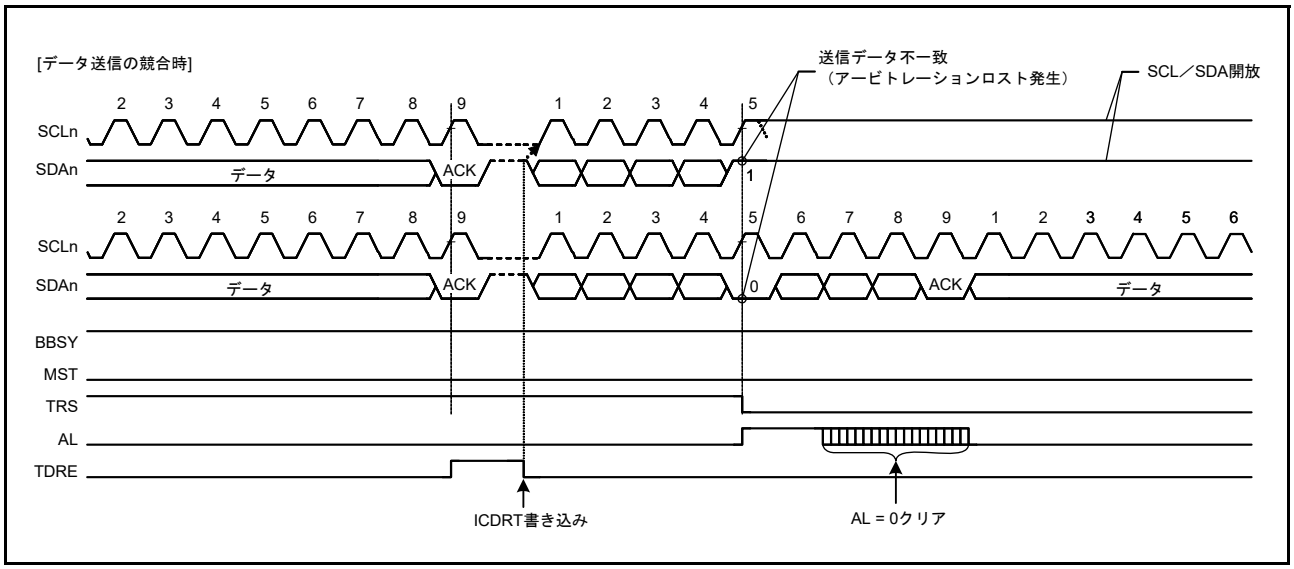


図 32.44　スレーブアービトレーションロスト検出の動作例（SALE = 1 の場合）

32.11 スタートコンディション、リスタートコンディション、ストップコンディション発行機能

32.11.1 スタートコンディション発行動作

IIC は、ICCR2.ST ビットが 1 のときにスタートコンディションを発行します。

ST ビットを 1 にすると、スタートコンディション要求が行われ、ICCR2.BBSY フラグが 0（バスフリー状態）の場合、IIC はスタートコンディションを発行します。スタートコンディションが正常に発行された場合、IIC は自動的にマスタ送信モードへ遷移します。

スタートコンディションの発行方法：

1. SDAn ラインを立ち下げる（High から Low に遷移）。
2. ICBRH レジスタで設定した時間とスタートコンディションのホールド時間が経過したことを確認する。
3. SCLn ラインを立ち下げる（High から Low に遷移）。
4. SCLn ラインの Low を検出後、ICBRL レジスタで設定した SCLn ラインの Low 幅が経過したことを確認する。

32.11.2 リスタートコンディション発行動作

IIC は、ICCR2.RS ビットが 1 のときリスタートコンディションを発行します。

RS ビットを 1 にすると、リスタートコンディション要求が行われ、ICCR2.BBSY フラグが 1（バスビジー状態）で、かつ ICCR2.MST ビットが 1（マスタモード）の場合、IIC はリスタートコンディションを発行します。

リスタートコンディションの発行方法：

1. SDAn ラインを開放する。
2. ICBRL レジスタで設定した SCLn ラインの Low 幅が経過したことを確認する。
3. SCLn ラインを開放する（Low から High に遷移）。
4. SCLn ラインの High を検出後、ICBRL レジスタで設定した時間とリスタートコンディションのセットアップ時間が経過したことを確認する。
5. SDAn ラインを立ち下げる（High から Low に遷移）。
6. ICBRH レジスタで設定した時間とリスタートコンディションのホールド時間が経過したことを確認する。
7. SCLn ラインを立ち下げる（High から Low に遷移）。
8. SCLn ラインの Low を検出後、ICBRL レジスタで設定した SCLn ラインの Low 幅が経過したことを確認する。

注 . リスタートコンディション要求の発行時、ICCR2.RS が 0 であることを確認してから、ICDRT レジスタにスレーブアドレスを書いてください。ICCR2.RS が 1 のときに書き込まれたデータは、以前の再送条件と判断されるため、転送されません。

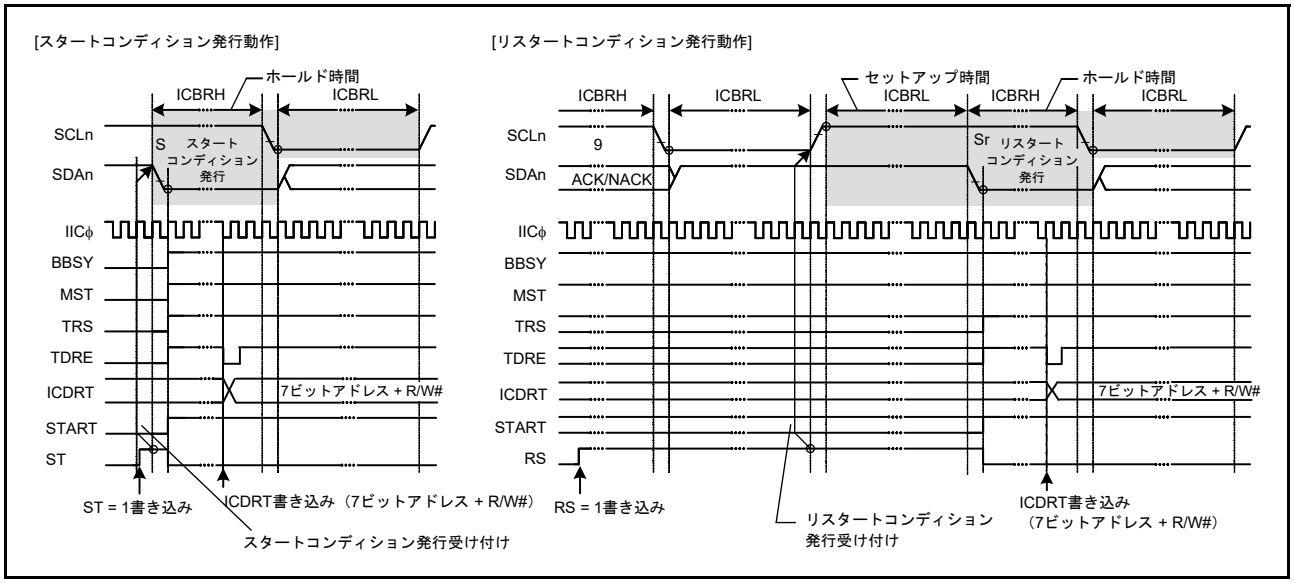


図 32.45　スタートコンディション、リスタートコンディションの発行動作タイミング（ST および RS ビットの使用）

図 32.46 に、マスタ送信後にリスタートコンディションが発行されたときの動作タイミングを示します。

マスタ送信後にリスタートコンディションを発行するには：

1. 32.3.2　初期設定の内容に従って、IIC を初期化します。
2. IICR2.BBSY フラグを読んでバスが解放状態であることを確認した後、ICCR2.ST ビットを 1（スタートコンディション要求）にします。IIC はスタートコンディション発行要求を受け付けると、スタートコンディションを発行します。同時に、ICSR2.BBSY フラグと ICSR2.START フラグが自動的に 1 になり、ST ビットが自動的に 0 になります。このとき、ST ビットが 1 の状態でスタートコンディションが検出され、かつ、内部の SDA 出力レベルと SDAn ラインのレベルが一致していれば、IIC は ST ビットによるスタートコンディション発行が正常に行われたと認識します。ICCR2.MST、TRS ビットは自動的に 1 になり、IIC はマスタ送信モードになります。TRS ビットが 1 になると、ICSR2.TDRE フラグも自動的に 1 になります。
3. ICSR2.TDRE フラグが 1 であることを確認した後、ICDRT レジスタに送信データ（スレーブアドレスと R/W# ビット）を書いてください。ICDRT レジスタに送信データが書き込まれると、TDRE フラグは自動的に 0 になり、ICDRT レジスタから ICDRS レジスタへデータが転送されて、再び TDRE フラグが 1 になります。スレーブアドレスと R/W# ビットを含むバイトの送信が完了すると、送信された R/W# ビットの値に応じて自動的に TRS ビットの値が更新され、マスタ送信モードまたはマスタ受信モードが選択されます。R/W# ビットの値が 0 であったなら、IIC はマスタ送信モードの状態を継続します。このとき ICSR2.NACKF フラグが 1 であると、アドレスを認識したスレーブデバイスが存在しないか、または通信エラーが発生していることを示しているため、ICCR2.SP ビットに 1 を書いて、ストップコンディションを発行してください。
   データを 10 ビットフォーマットのアドレスで送信する場合は、最初に、1 回目のアドレス送信処理で ICDRT レジスタに 1111 0b + スレーブアドレスの上位 2 ビットと W を書きます。次に、2 回目のアドレス送信処理では、ICDRT レジスタにスレーブアドレスの下位 8 ビットを書いてください。
4. ICSR2.TDRE フラグが 1 であることを確認した後、送信データを ICDRT レジスタに書いてください。なお、送信データの準備ができて、リスタートコンディションまたはストップコンディションが発行されるまで、IIC は自動的に SCLn ラインを Low にホールドします。
5. 送信する全バイトを ICDRT レジスタに書いた後、ICSR2.TEND フラグが 1 に戻るのを待ちます。次に、ICSR2.START フラグが 1 であることを確認した後、ICSR2.START フラグを 0 にしてください。
6. ICCR2.RS ビットを 1（リスタートコンディション要求）にします。IIC はこの要求を受け付けると、リスタートコンディションを発行します。
7. ICSR2.START フラグが 1 であることを確認した後、ICDRT レジスタに送信データ（スレーブアドレスと R/W# ビット）を書いてください。

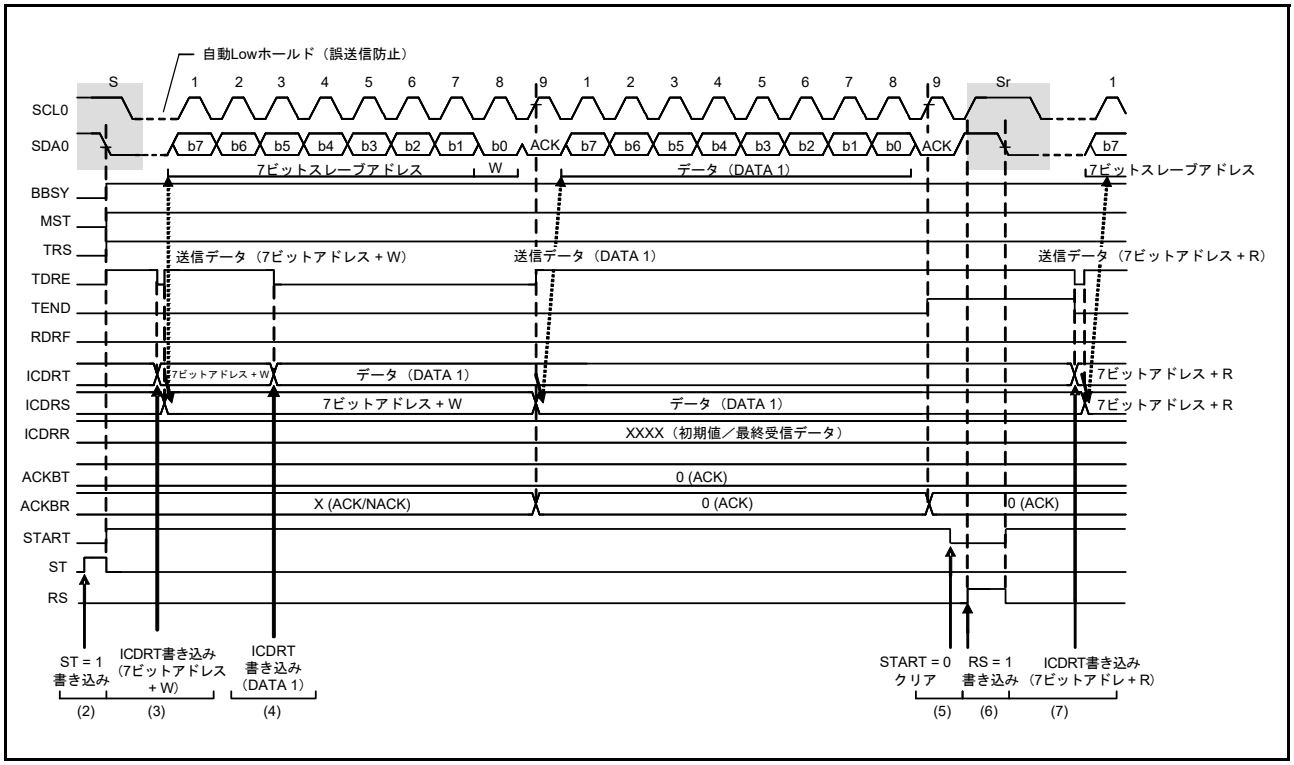


図 32.46　　マスタ送信後のリスタートコンディション発行タイミング

32.11.3　ストップコンディション発行動作

IIC は、ICCR2.SP ビットが 1 のときストップコンディションを発行します。

SP ビットを 1 にすると、ストップコンディション要求が行われ、ICCR2.BBSY フラグが 1（バスビジー状態）で、かつ ICCR2.MST ビットが 1（マスタモード）の場合、IIC はストップコンディションを発行します。

ストップコンディションの発行方法：

1. SDAn ラインを立ち下げる（High から Low に遷移）。
2. ICBRL レジスタで設定した SCLn ラインの Low 幅が経過したことを確認する。
3. SCLn ラインを開放する（Low から High に遷移）。
4. SCLn ラインの High 検出後、ICBRH レジスタで設定した時間とストップコンディションのセットアップ時間が経過したことを確認する。
5. SDAn ラインを開放する（Low から High に遷移）。
6. ICBRL レジスタで設定した時間とバスフリー時間が経過したことを確認する。
7. BBSY フラグをクリアしてバス権を解放する。

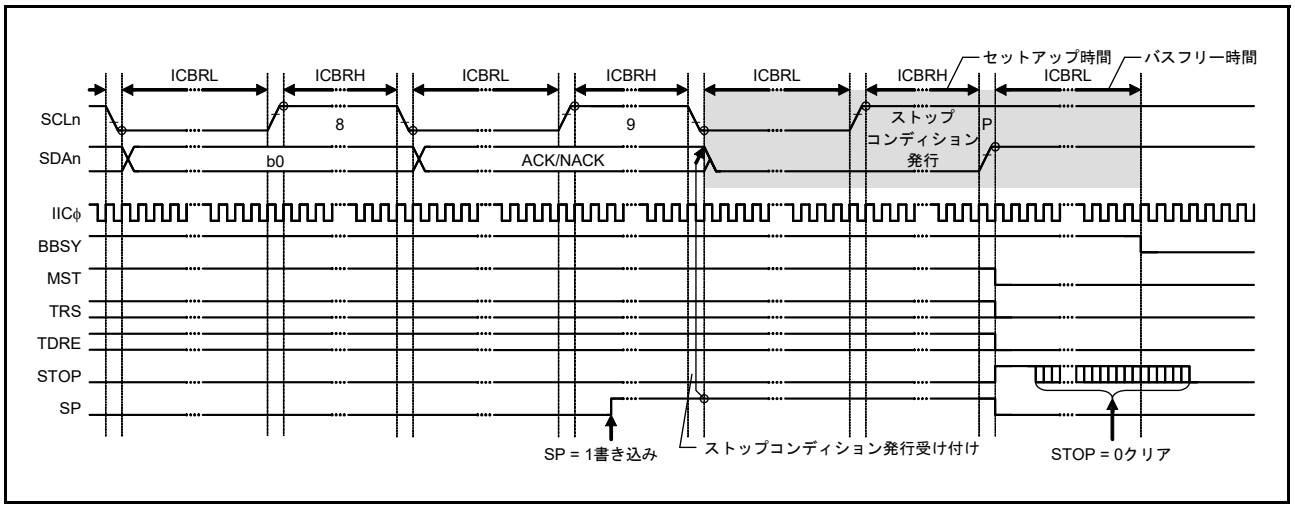


図 32.47　ストップコンディション発行動作タイミング（SP ビットの使用）

32.12 バスハングアップ

I²C バスではノイズなどの影響によりマスタデバイスとスレーブデバイス間で同期ズレが発生すると、SCLn ラインや SDAn ライン上のレベルが固定されたままバスハングアップを起こす場合があります。

バスハングアップを管理するため、IIC は以下の機能を備えています。

- SCLn ラインを監視してハングアップを検出するためのタイムアウト検出機能
- クロック信号の同期ズレによるバスのハングアップ状態を解除するための SCL クロックサイクル追加出力機能
- IIC リセット機能
- 内部リセット機能

ICCR1.SCLO、SDAO、SCLI、SDAI の各ビットをチェックすることで、IIC 自身と通信相手のどちらが SCLn ラインまたは SDAn ラインを Low にしているのか確認することが可能です。

32.12.1 タイムアウト検出機能

タイムアウト検出機能では、SCLn ラインに一定時間以上変化が見られない状態を検出できます。IIC は、SCLn ラインが Low または High に固定されたまま一定時間以上経過したことを監視して、バスの異常状態を検出することが可能です。

タイムアウト検出機能は SCLn ラインの状態を監視し、Low または High の時間を内部カウンタでカウントします。タイムアウト検出機能は、SCLn ラインが変化（立ち上がり／立ち下がり）があった場合、内部カウンタをリセットし、変化がない場合カウント動作を続けます。SCLn ラインに変化がないために内部カウンタがオーバーフローすると、IIC はタイムアウトを検出してバスハングアップ状態を報告します。

タイムアウト検出機能は、ICFER.TMOE ビットが 1 のときのみ有効です。以下の条件で SCLn ラインが Low 固定または High 固定の場合にバスハングアップを検出します。

- マスタモード（ICCR2.MST ビット = 1）で、バスビジー（ICCR2.BBSY フラグ = 1）
- スレーブモード（ICCR2.MST ビット = 0）で、IIC スレーブアドレス検出（ICSR1 レジスタ ≠ 00h）かつバスビジー（ICCR2.BBSY フラグ = 1）
- スタートコンディション要求中（ICCR2.ST ビット = 1）で、バスフリー（ICCR2.BBSY フラグ = 0）

タイムアウト検出機能の内部カウンタは、ICMR1.CKS[2:0] ビットで設定された内部基準クロック（IICφ）をカウントソースとして使用します。このカウンタは、ロングモード選択時（ICMR2.TMOS ビット = 0）は 16 ビットカウンタ、ショートモード選択時（TMOS ビット = 1）は 14 ビットカウンタとして機能します。

また、内部カウンタのカウント動作は、SCLn ラインが Low のときカウントさせるか、High のときカウントさせるか、あるいはその両方をカウントさせるかを ICMR2.TMOH、TMOL ビットで選択することが可能です。TMOL ビットと TMOH ビットの両方を 0 にした場合、内部カウンタは動作しません。

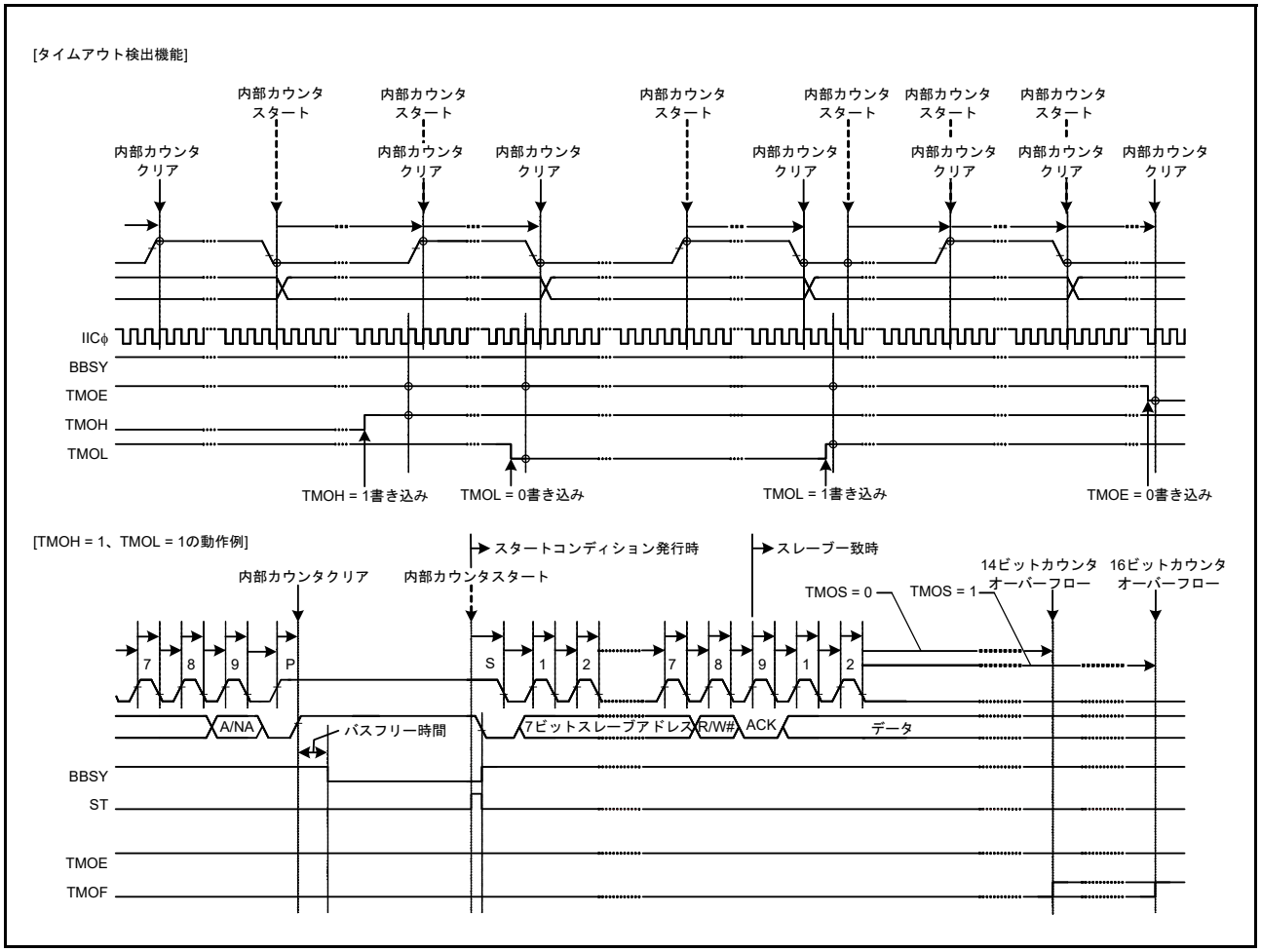


図 32.48　タイムアウト検出機能（TMOE、TMOS、TMOH および TMOL ビットの使用）

32.12.2　SCL クロック追加出力機能

マスタモード時、この機能は SCL クロックを追加出力して、スレーブデバイスとの同期ズレによるスレーブデバイスの SDAn ライン Low 固定状態を開放します。

この機能は主にマスタモードで使用され、SCL クロックを IIC から追加出力することによって、スレーブデバイスの SDAn ラインを Low 固定から開放します。この機能は、スレーブデバイスが SDAn ラインを Low 固定しているため、IIC がストップコンディションを発行できない状態のバスエラー発生時に、SCL クロックを 1 クロック単位で使用します。通常はこの機能を使用しないでください。正常な通信動作中に使用すると通信異常の原因になります。

マスタモードで ICCR1.CLO ビットを 1 にすると、ICMR1.CKS[2:0] ビットおよび ICBRH、ICBRL レジスタで設定した転送速度で、SCL クロックが 1 クロック分追加クロックとして出力されます。1 クロック分の追加クロック出力が終了すると CLO ビットは自動的に 0 になります。このとき、ICCR2.BBSY = 1 の場合、SCL 端子は Low を出力し、ICCR2.BBSY = 0 の場合、SCL 端子は High になります。また、ソフトウェアで CLO ビットが 0 であることを確認した後、CLO ビットに 1 を書くことにより、追加クロックを連続的に出力することが可能です。

IIC モジュールがマスタモードであるとき、ノイズなどによるスレーブデバイスとの同期ズレが原因で、スレーブデバイスが SDAn ラインを Low に固定したままであると、ストップコンディションを出力できません。この機能を使用して SCL 追加クロックを 1 クロックずつ出力することで、スレーブデバイスの SDAn ラインの Low 固定状態を開放させ、バスを使用できない状態から回復させることができます。スレーブデバイスによる SDAn ラインの開放は、ICCR1.SDAI ビットを読みだすことで確認できます。スレーブデバイスによる SDAn ラインの開放を確認した後、通信を終了させるため再度ストップコンディション発行を行ってください。

［ICCR1.CLO ビット使用時の出力条件］

- バスフリー状態（ICCR2.BBSY フラグ = 0）またはマスタモード（ICCR2.MST ビット = 1、BBSY フラグ = 1）のとき
- 通信デバイスが SCLn ラインを Low ホールドにしていない状態のとき

図 32.49 に SCL クロック追加出力機能（CLO ビット）の動作タイミングを示します。

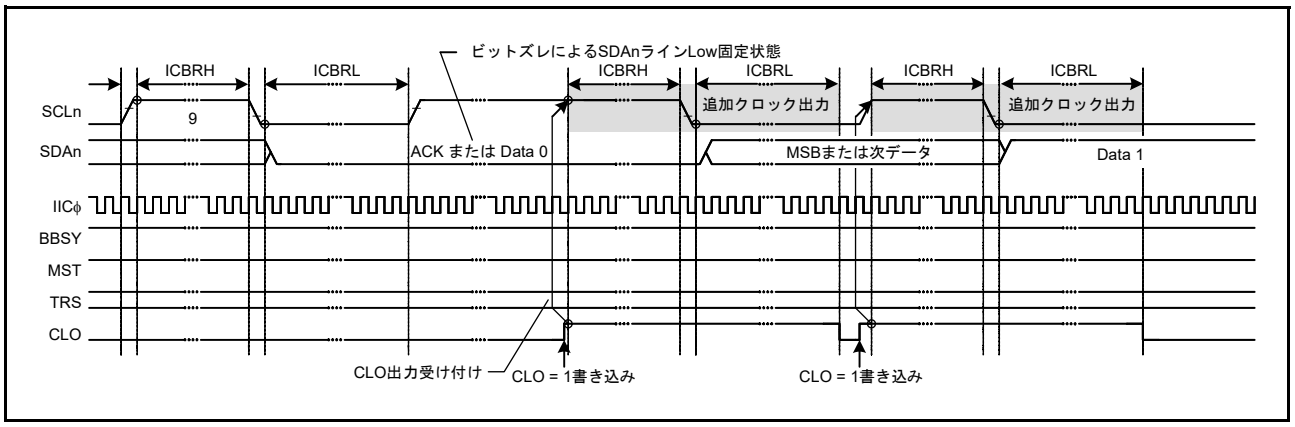


図 32.49　SCL クロック追加出力機能（CLO ビットの使用）

32.12.3 IIC リセット、内部リセット

IIC モジュールがサポートするリセットには 2 種類あります。

- IIC リセット： ICCR2.BBSY フラグを含めたすべてのレジスタを初期化
- 内部リセット：他の設定を保持したまま IIC をスレーブアドレス一致状態から解放し、内部カウンタを初期化

リセット後は、必ず ICCR1.IICRST ビットを 0 にしてください。いずれのリセットも、SCLn 端子／ SDAn 端子の出力状態を解除してハイインピーダンスに戻すため、バスハングアップ状態の解除に有効です。

なおスレーブ動作時のリセットは、マスタデバイスとの同期ズレを引き起こす原因になるので、使用は極力避けてください。また、IIC リセット（ICCR1.ICE、IICRST ビット = 01b）中は、スタートコンディションの有無など、バス状態の監視はできません。

IIC リセットと内部リセットの詳細については、32.15 各コンディション発行時のリセット、レジスタ、機能の状態を参照してください。

32.13 SMBus 動作

IIC は、SMBus 仕様（Ver.2.0）に準拠した通信動作が可能です。SMBus 通信を行うには、ICMR3.SMBS ビットを 1 にしてください。転送速度が SMBus 規格の 10kbps ～ 100kbps の範囲に収まるように、ICMR1.CKS[2:0] ビットと ICBRH および ICBRL レジスタを設定してください。また、データホールド時間の規定値 300ns 以上を満たすように、ICMR2.DLCS ビットおよび ICMR2.SDDL[2:0] ビットの値を指定してください。IIC をスレーブデバイスとしてのみ使用する場合は、転送速度の設定は不要ですが、ICBRL レジスタにはデータセットアップ時間（250ns）以上の値を設定してください。

なお、SMBus デバイスデフォルトアドレス（1100 001b）には、スレーブアドレスレジスタ L0 ～ L2（SARL0、SARL1、SARL2）のいずれか 1 本を使用し、対応する SARUy.FS ビット（y = 0 ～ 2）（7 ビットまたは 10 ビットアドレスフォーマット選択ビット）を 0（7 ビットアドレスフォーマット）にしてください。

また、UDID（ユニークデバイス ID）送信時には、ICFER.SALE ビットを 1 にして、スレーブアービトレーションロスト検出機能を有効にしてください。

32.13.1 SMBus タイムアウト測定

(1) スレーブデバイスのタイムアウト測定

SMBus 通信では、スレーブデバイスは以下に示す区間（タイムアウト間隔：$T_{LOW:SEXT}$）を計測する必要があります。

- スタートコンディションからストップコンディションまで

スレーブデバイスでタイムアウト測定を行うには、IIC スタートコンディション検出割り込み（STIn）とストップコンディション検出割り込み（SPIn）を利用して、スタートコンディション検出からストップコンディション検出までの期間を GPT を使用して計測してください。測定したタイムアウト時間は、SMBus 規格のクロック Low 累積時間（スレーブデバイス）$T_{LOW:SEXT}$：25ms（max）以内である必要があります。

GPT で計測した時間が、SMBus 規格のクロック Low 検出のタイムアウト（$T_{TIMEOUT}$：25ms（min））を超えた場合、スレーブデバイスは ICCR1.IICRST ビットに 1 を書き込み IIC の内部リセットを発行してバス解放動作を行う必要があります。内部リセットを行うと IIC は SCLn 端子と SDAn 端子のバス駆動を中止し、両端子の出力をハイインピーダンスにします。これによりバス解放を行うことができます。

(2) マスタデバイスのタイムアウト測定

SMBus 通信のマスタデバイスは以下に示す区間（タイムアウト間隔：$T_{LOW:MEXT}$）を計測する必要があります。

- スタートコンディションからアクノリッジビットまで
- アクノリッジビットから次のアクノリッジビットまで
- アクノリッジビットからストップコンディションまで

マスタデバイスでタイムアウト測定を行うには、IIC スタートコンディション検出割り込み（STIn）、ストップコンディション検出割り込み（SPIn）、送信終了割り込み（IICn_TEI）、または受信データフル割り込み（IICn_RXI）を利用して、GPT を使用して計測してください。測定したタイムアウト時間は、SMBus 規格のクロック Low 累積延長時間（マスタデバイス）$T_{LOW:MEXT}$：10ms（max）以内である必要があり、かつスタートコンディションからストップコンディションまでのすべての $T_{LOW:MEXT}$ の値の合計が $T_{LOW:SEXT}$：25ms（max）以内である必要があります。

ACK 受信タイミング（SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がり）は、マスタ送信モード時（マスタトランスミッタ）は ICSR2.TEND フラグ、マスタ受信モード時（マスタレシーバ）は ICSR2.RDRF フラグで監視します。マスタ送信モード時は 1 バイト送信動作を行い、マスタ受信モード時は最終バイト受信の直前まで ICMR3.RDRFS ビットを 0 に保持してください。RDRFS ビットが 0 のとき、RDRF フラグは SCL クロックの 9 クロック目の立ち上がりで 1 になります。

GPT で計測した時間が、SMBus 規格のクロック Low 累積延長時間（マスタデバイス）$T_{LOW:MEXT}$：10ms（max）を超えた場合、または各計測時間の合計が、SMBus 規格のクロック Low 検出のタイムアウト $T_{TIMEOUT}$：25ms（min）を超えた場合は、マスタデバイスはストップコンディションを発行してトランザクションを中止する必要があります。マスタ送信モード時には即座に送信動作（ICDRT レジスタへの書き込み）を中止してください。

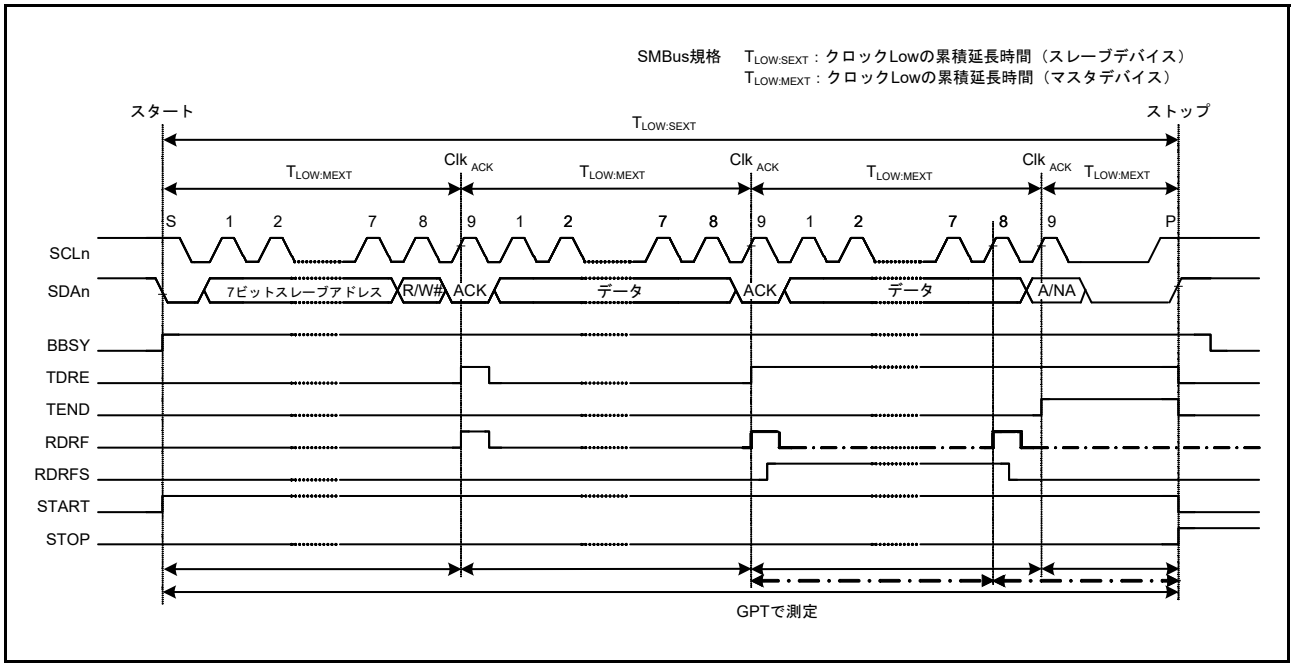


図 32.50　SMBus タイムアウト測定

32.13.2　パケットエラーコード（PEC）

本 MCU は CRC 演算器を内蔵しており、この CRC 演算器を利用して、パケットエラーコード（PEC）の送信や IIC の SMBus データ通信時の受信データチェックを行うことが可能です。CRC 演算器の生成多項式については「36.　巡回冗長検査（CRC）演算器」を参照してください。

マスタ送信モード時の PEC データは、全送信データを CRC 演算器の CRC データ入力レジスタ（CRCDIR）に書くことで生成することができます。

マスタ受信モード時の PEC データは、全受信データを CRC 演算器の CRCDIR レジスタに書き、取得した CRC データ出力レジスタ（CRCDOR）の値と受信した PEC データを比較することでチェックできます。

PEC コードチェックの結果として最終バイトを受信したとき、結果（一致／不一致）に応じて ACK/NACK 送出を行う場合は、最終バイト受信時の SCL の 8 クロック目の立ち上がりまでに ICMR3.RDRFS ビットを 1 にし、8 クロック目の立ち下がりで SCLn ラインを Low にホールドしてください。

32.13.3　SMBus ホスト通知プロトコル（Notify ARP Master コマンド）

SMBus 通信では、スレーブデバイスが一時的にマスタデバイスとなり、SMBus ホスト（または ARP マスタ）に対して自スレーブアドレスを通知したり、SMBus ホストに対して自スレーブアドレスを要求したりできます。

本 MCU を使用する製品を SMBus ホストまたは ARP マスタとして動作させる場合、スレーブデバイスからのホストアドレス（0001 000b）送信をスレーブアドレスとして検出する必要があるため、IIC はホストアドレス検出機能を備えています。ホストアドレスをスレーブアドレスとして検出するには、ICMR3.SMBS ビットを 1、ICSER.HOAE ビットを 1 にしてください。ホストアドレス検出後の動作は、通常のスレーブ動作と同じです。

32.14　割り込み要因

IIC が発行する割り込み要求には 4 種類あります。

- 転送エラー／イベント発生（アービトレーションロスト、NACK、タイムアウト、スタートまたはリスタートコンディション、ストップコンディションの検出）
- 受信データフル
- 送信データエンプティ
- 送信終了

表 32.10 に割り込み要求の詳細を示します。受信データフル割り込みと送信データエンプティ割り込みは、どちらも DTC または DMAC を起動してデータ転送を可能にします。

表 32.10　割り込み要因

シンボル	割り込み要因	割り込みフラグ	DMAC/DTC の起動	割り込み条件
IICn_EEI（注5）	通信エラー／イベント発生	AL	不可能	AL = 1 かつ ALIE = 1
		NACKF		NACKF = 1 かつ NAKIE = 1
		TMOF		TMOF = 1 かつ TMOIE = 1
		START		START = 1 かつ STIE = 1
		STOP		STOP = 1 かつ SPIE = 1
IICn_RXI（注2）（注5）	受信データフル	RDRF	可能	RDRF = 1 かつ RIE = 1
IICn_TXI（注1）（注5）	送信データエンプティ	TDRE	可能	TDRE = 1 かつ TIE = 1
IICn_TEI（注3）（注5）	送信終了	TEND	不可能	TEND = 1 かつ TEIE = 1
IIC0_WUI（注4）	ウェイクアップ機能時にスレーブアドレス一致	WUF	不可能	スレーブアドレス一致 スレーブ受信完了 RWAK 動作 AAS0 = 1 WUIE = 1

注 .　CPU による周辺モジュールへの書き込み命令の実行と、実際にモジュールに書き込まれるタイミングとの間には、遅延があります。割り込みフラグをクリアまたはマスクした場合は、関連するフラグを再度読み出し、クリアまたはマスク処理の完了を確認した後、割り込み処理から復帰させてください。そうしないと、同じ割り込み処理が繰り返される可能性があります。

注 1.　IICn_TXI 割り込みはエッジ検出割り込みであるため、クリアの必要はありません。また IICn_TXI 割り込みの条件となる ICSR2.TDRE フラグは、ICDRT レジスタへの送信データの書き込み、あるいはストップコンディションの検出（ICSR2.STOP フラグ = 1）で自動的に 0 になります。

注 2.　IICn_RXI 割り込みはエッジ検出割り込みであるため、クリアの必要はありません。また IICn_RXI 割り込みの条件となる ICSR2.RDRF フラグは、ICDRR レジスタの読み出しで自動的に 0 になります。

注 3.　IICn_TEI 割り込みを使用する場合、IICn_TEI 割り込み処理で ICSR2.TEND フラグをクリアしてください。ICSR2.TEND フラグは、ICDRT レジスタへの送信データの書き込み、あるいはストップコンディションの検出（ICSR2.STOP フラグ = 1）で自動的に 0 になります。

注 4.　ウェイクアップ機能はチャネル 0 にしかないので、IIC0_WUI はチャネル 0 の場合しか使用しません。

注 5.　チャネル番号（n = 0 または 1）

割り込み処理の中でそれぞれのフラグをクリアまたはマスクしてください。

32.14.1　IICn_TXI 割り込みおよび IICn_RXI 割り込みのバッファ動作

対応する IR フラグが 1 のときに、IICn_TXI 割り込みまたは IICn_RXI 割り込みの発生条件が成立した場合、割り込み要求は ICU へ出力されず、内部に保存されます。1 要因あたり 1 要求を内部に保持できます。

ICU.IELSRn.IR フラグが 0 になると、ICU に保持していた割り込み要求を出力します。通常の状態では、内部的に保存されていた割り込み要求が自動的にクリアされます。これらは、対応する周辺モジュール側の割り込み許可ビットを 0 にすることでもクリアが可能です。

32.15 各コンディション発行時のリセット、レジスタ、機能の状態

IIC は 2 種類の専用リセット機能、すなわち IIC リセットと内部リセットを備えています。表 32.11 に、各コンディション発行時のレジスタの状態を示します。

表 32.11　各コンディション発行時のリセット、レジスタ、機能の状態

レジスタ		チップリセット	IICリセット（ICEビット = 0、IICRSTビット = 1）	内部リセット（ICEビット = 1、IICRSTビット = 1）	スタートコンディションまたはリスタートコンディション検出	ストップコンディション検出
ICCR1	ICE, IICRST	リセット	保持	保持	保持	保持
	SCLO, SDAO		リセット	リセット		
	その他			保持		
ICCR2	BBSY	リセット	リセット	保持	セット	リセット
	ST, RS			リセット	リセット	保持
	SP					リセット
	TRS				セットまたは保持	
	MST					
ICMR1	BC[2:0]	リセット	リセット	リセット	リセット	保持
	その他			保持	保持	
ICMR2		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICMR3	ACKBIT	リセット	リセット	保持	保持	リセット
	その他					保持
ICFER		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICSER		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICIER		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICSR1		リセット	リセット	リセット	保持	リセット
ICSR2	TEND	リセット	リセット	リセット	保持	リセット
	TDRE				セットまたは保持	
	START				セット	
	STOP				保持	セット
	その他				保持	保持
ICWUR		リセット	リセット	保持	保持	保持
SARL0～SARL2 SARU0～SARU2		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICBRH、ICBRL		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICDRT		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICDRR		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICDRS		リセット	リセット	リセット	保持	保持
タイムアウト検出機能		リセット	リセット	リセット	動作	動作
バスフリー時間計測		リセット	リセット	動作	動作	動作
ICUWR2	WUSEN	リセット	リセット	保持	保持	保持
	その他					保持、セットまたはリセット

32.16　イベントリンク出力

IIC0 モジュールおよび IIC1 モジュールは、イベントリンクコントローラ（ELC）に対して以下の要因によってイベント出力を行います。

(1)　通信エラーイベント

通信エラーイベントが発生すると、対応するイベント信号を ELC によって他のモジュールに出力できます。

(2)　受信データフル

受信データレジスタが受信データフルになると、対応するイベント信号を ELC によって他のモジュールに出力できます。

(3)　送信データエンプティ

送信データレジスタが送信データエンプティになると、対応するイベント信号を ELC によって他のモジュールに出力できます。

(4)　送信終了

転送が終了すると、対応するイベント信号を ELC によって他のモジュールに出力できます。

32.16.1　割り込み処理とイベントリンク機能

IIC の各割り込み（表 32.10 参照）には、対応する割り込み信号の許可または禁止を制御する許可ビットがあります。対応する割り込み許可ビットがセットされている場合に割り込み要因の条件が成立すると、CPU に対して割り込み要求信号が出力されます。

割り込み要因が発生すると、割り込み許可ビットの設定にかかわらず、対応するイベントリンク出力信号が ELC によって他のモジュールにイベント信号として出力されます。各割り込み要因については、表 32.10 を参照してください。

32.17　使用上の注意事項

32.17.1　モジュールストップ状態の設定

モジュールストップコントロールレジスタ B（MSTPCRB）によって、IIC の動作を許可または禁止することが可能です。IIC は、リセット後の初期状態では動作が停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。

詳細は、「11.　低消費電力モード」を参照してください。

32.17.2　転送開始に関する注意事項

転送開始（ICCR1.ICE ビット = 1）時点で IIC の割り込みに対応した IR フラグが 1 であれば、動作を許可する前に下記の手順で割り込み要求をクリアしてください。ICCR1.ICE ビットが 1 の状態で IR フラグを 1 にして転送を開始すると、転送開始後、割り込み要求が内部で保持されるため、IR フラグが予期しない動作となる可能性があります。

転送開始前に割り込みをクリアする方法：

1. ICCR1.ICE ビットが 0 であることを確認する。
2. 対応する割り込み許可ビット（ICIER.TIE など）を 0 にする。
3. 対応する割り込み許可ビット（ICIER.TIE など）を読み出して、それらの値が 0 であることを確認する。
4. IR フラグを 0 にする。

33. CAN（Controller Area Network）モジュール

33.1 概要

CAN（Controller Area Network）モジュールは、電磁的ノイズの多いアプリケーションにおいて、メッセージベースのプロトコルを用いて複数のスレーブとマスタ間でデータの送受信を行います。このモジュールは、ISO 11898-1（CAN 2.0A/CAN 2.0B）規格に準拠し、最大 32 個のメールボックスをサポートしています。これらは、通常のメールボックスモードと FIFO モードでの送受信用に設定可能です。標準（11 ビット）と拡張（29 ビット）の両方のメッセージフォーマットに対応しています。CAN モジュールには、追加の外部 CAN トランシーバが必要です。

表 33.1 に CAN モジュールの仕様を、図 33.1 にブロック図を示します。

表 33.1 CANモジュールの仕様 (1/2)

項目	内容
データ転送レート	ISO11898-1準拠の標準フレームと拡張フレーム
ビットレート	最大1Mbpsのデータ転送レートをプログラム可能（fCAN≧8MHz） fCAN：CANクロックソース
メッセージボックス	32個のメールボックスに対し、下記の2種類のメールボックスモードを選択可能 • 通常モード：32個のメールボックスを送信または受信用に個別に設定可能 • FIFOモード：24個のメールボックスを送信または受信用に個別に設定可能、残りのメールボックスは受信用（RX）および送信用（TX）の4段FIFOで使用
受信	• データフレームとリモートフレームの受信をサポート • 受信IDフォーマットは、標準IDのみ、拡張IDのみ、またはミックスIDを選択可能 • ワンショット受信機能をプログラム可能 • オーバーライトモード（未読メッセージ上書き）またはオーバーランモード（未読メッセージ保持）を選択可能 • メールボックスごとに個別に受信完了割り込みを許可または禁止に設定可能
アクセプタンスフィルタ	• 8つのアクセプタンスマスク（4メールボックスごとに1つ） • メールボックスごとに個別にマスクを有効または無効に設定可能
送信	• データフレームとリモートフレームの送信をサポート • 送信IDフォーマットは、標準IDのみ、拡張IDのみ、またはミックスIDに選択可能 • ワンショット送信機能を選択可能 • ブロードキャストメッセージ機能 • メッセージIDまたはメールボックス番号に基づく優先モードを選択可能 • 送信要求アボートをサポート、アボート完了はステータスフラグで確認可能 • メールボックスごとに個別に送信完了割り込みを許可または禁止に設定可能
バスオフ復帰のモード遷移	バスオフ状態からの復帰のモード遷移を選択可能： • ISO11898-1仕様準拠 • バスオフ開始で自動的にCAN haltモードへ遷移 • バスオフ終了で自動的にCAN haltモードへ遷移 • ソフトウェアによりCAN haltモードへ遷移 • ソフトウェアによりエラーアクティブ状態へ遷移
エラー状態の監視	• CANバスエラー（スタッフエラー、フォームエラー、ACKエラー、15ビットCRCエラー、ビットエラー、ACKデリミタエラー）の監視 • エラー状態（エラーワーニング、エラーパッシブ、バスオフ開始、バスオフ復帰）への遷移の検出 • エラーカウンタ読み出しのサポート
タイムスタンプ機能	• 16ビットカウンタによるタイムスタンプ機能 • 基準クロックは、1、2、4、8ビットタイム期間から選択可能
割り込み機能	5種類の割り込み要因をサポート： • 受信完了割り込み • 送信完了割り込み • 受信FIFO割り込み • 送信FIFO割り込み • エラー割り込み
CANスリープモード1	CANクロック停止による消費電力の削減

表 33.1　CANモジュールの仕様 (2/2)

項目	内容
ソフトウェアサポートユニット	3つのソフトウェアサポートユニット： • アクセプタンスフィルタサポート • メールボックス検索サポート（受信メールボックス検索、送信メールボックス検索、メッセージロスト検索） • チャネル検索サポート
CANクロックソース	PCLKBまたはCANMCLK
テストモード	評価用に3つのテストモードを用意： • リッスンオンリモード • セルフテストモード0（外部ループバック） • セルフテストモード1（内部ループバック）
モジュールストップ機能	モジュールストップ状態に設定して消費電力を削減

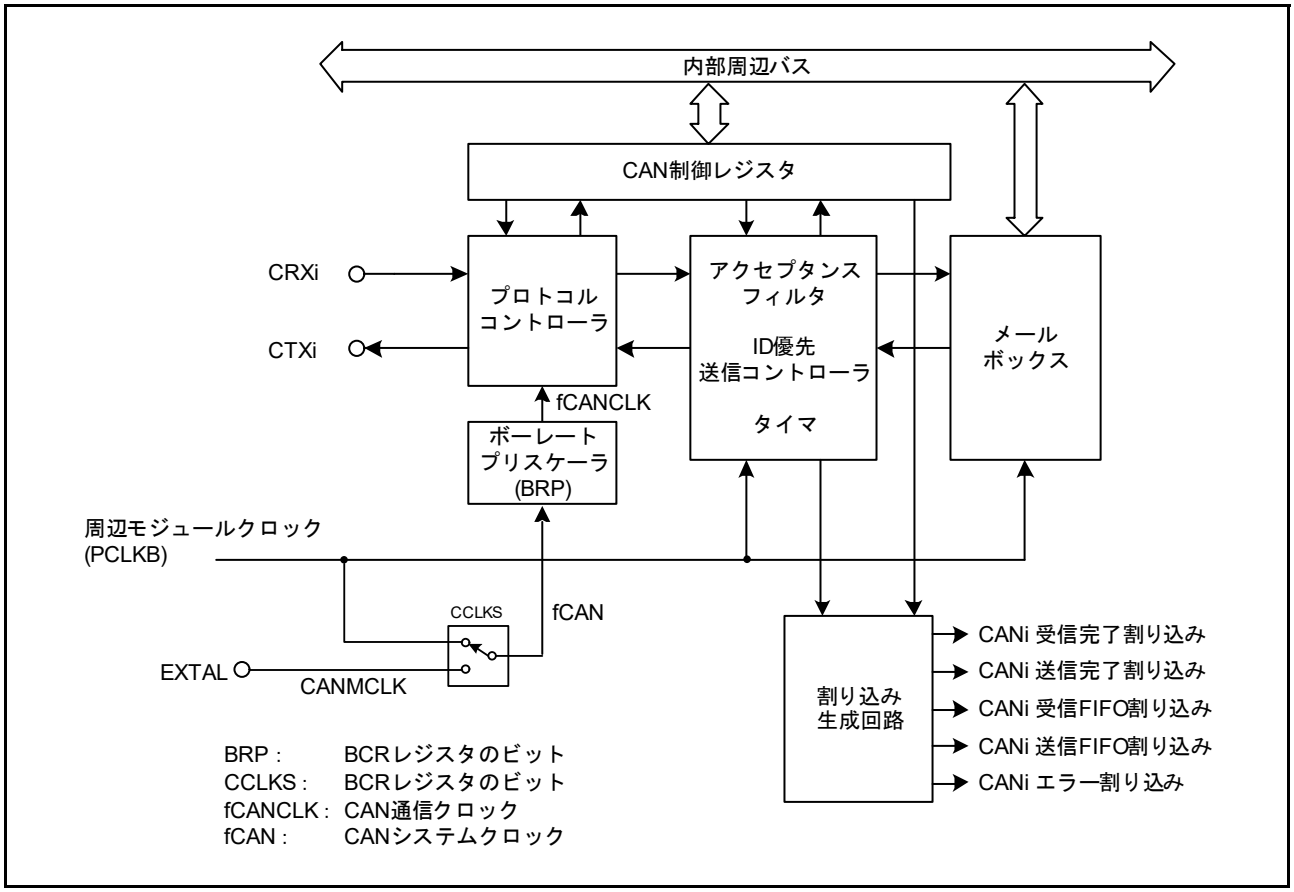


図 33.1　CAN モジュールブロック図（i = 0, 1）

CAN モジュールには、次のブロックが含まれます。

- CAN の入出力端子
  CRXi および CTXi (i = 0, 1)
- プロトコルコントローラ
  バスアービトレーション、送受信時のビットタイミング、スタッフ処理、エラー処理などの CAN プロトコル処理を行います。
- メールボックス
  送信または受信のいずれかに設定可能な 32 個のメールボックスで構成されます。各メールボックスは、固有の ID、データ長コード（DLC）、データフィールド（8 バイト）、およびタイムスタンプを持ちます。
- アクセプタンスフィルタ
  受信メッセージのフィルタ処理を行います。このフィルタ処理には、MKR0 ～ MKR7 レジスタを使用します。
- タイマ
  タイムスタンプ機能に使用します。メールボックスにメッセージを格納するときのタイマ値がタイムスタンプ値として書き込まれます。
- 割り込み発生回路
  下記の 5 種類の割り込みを生成します。
  - CANi 受信完了割り込み
  - CANi 送信完了割り込み
  - CANi 受信 FIFO 割り込み
  - CANi 送信 FIFO 割り込み
  - CANi エラー割り込み

CAN モジュールは、表 33.2 に示す端子で通信を行います。これらは、本 MCU の他の信号との兼用端子です。詳細は、「20.　I/O ポート」を参照してください。

表 33.2　CAN モジュールの入出力端子

端子名	入出力	機能
CRX0	入力	データ受信端子
CTX0	出力	データ送信端子
CRX1	入力	データ受信端子
CTX1	出力	データ送信端子

33.2　レジスタの説明

33.2.1　コントロールレジスタ（CTLR）

アドレス　CAN0.CTLR 4005 0840h, CAN1.CTLR 4005 1840h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	RBOC	BOM[1:0]		SLPM	CANM[1:0]		TSPS[1:0]		TSRC	TPM	MLM	IDFM[1:0]		MBM
リセット後の値	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MBM	CANメールボックスモード選択（注1）	0：通常メールボックスモード 1：FIFOメールボックスモード	R/W
b2-b1	IDFM[1:0]	IDフォーマットモード選択（注1）	b2　b1 0　0：標準IDモード FIFOメールボックスを含むすべてのメールボックスは標準IDのみを処理します。 0　1：拡張IDモード FIFOメールボックスを含むすべてのメールボックスは拡張IDのみを処理します。 1　0：ミックスIDモード FIFOメールボックスを含むすべてのメールボックスは標準IDと拡張IDの両方を処理します。通常メールボックスモードでは、対応するIDEビットを使用して標準IDと拡張IDを識別してください。FIFOメールボックスモードでは、対応するIDEビットはメールボックス0～23に使用します。FIDCR0およびFIDCR1レジスタのIDEビットは受信FIFO用に、メールボックス24に対応するIDEビットは送信FIFO用に使用します。 1　1：設定禁止	R/W
b3	MLM	メッセージロストモード選択（注1）	0：オーバーライトモード 1：オーバーランモード	R/W
b4	TPM	送信優先順位モード選択（注1）	0：ID優先送信モード 1：メールボックス番号優先送信モード	R/W
b5	TSRC	タイムスタンプカウンタリセットコマンド（注4）	0：タイムスタンプカウンタをリセットしない 1：タイムスタンプカウンタをリセットする（注3）	R/W
b7-b6	TSPS[1:0]	タイムスタンププリスケーラ選択（注1）	b7　b6 0　0：1ビットタイムごと 0　1：2ビットタイムごと 1　0：4ビットタイムごと 1　1：8ビットタイムごと	R/W
b9-b8	CANM[1:0]	CANオペレーションモード選択（注5）	b9　b8 0　0：CANオペレーションモード 0　1：CANリセットモード 1　0：CANhaltモード 1　1：CANリセットモード（強制遷移）	R/W
b10	SLPM	CANスリープモード（注5）（注6）	0：CANスリープモードの終了 1：CANスリープモードの開始	R/W
b12-b11	BOM[1:0]	バスオフ復帰モード（注1）	b12　b11 0　0：通常モード（ISO11898-1準拠） 0　1：バスオフ開始で自動的にCANhaltモードへ遷移 1　0：バスオフ終了で自動的にCANhaltモードへ遷移 1　1：ソフトウェア要求によりバスオフ復帰期間中にCANhaltモードへ遷移	R/W
b13	RBOC	バスオフ強制復帰（注2）	0：復帰しない 1：バスオフ状態から強制復帰（注3）	R/W
b15-b14	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　BOM[1:0]、TSPS[1:0]、TPM、MLM、IDFM[1:0]、および MBM ビットへの書き込みは、CAN リセットモード時に行ってください。
注 2.　RBOC ビットはバスオフ状態で 1 にしてください。
注 3.　本ビットは、1 にした後、自動的に 0 になります。読むと 0 が読めます。
注 4.　TSRC ビットは CAN オペレーションモード時に 1 にしてください。
注 5.　CANM[1:0] および SLPM ビットを変更した場合は、STR レジスタでモードが切り替わったことを確認してください。モードが切り替わるまで、CANM[1:0] ビットまたは SLPM ビットを変更しないでください。
注 6.　SLPM ビットへの書き込みは、CAN リセットモードまたは CAN halt モード時に行ってください。SLPM ビットを変更する場合は、SLPM ビットのみに 0 または 1 を書いてください。

MBM ビット（CAN メールボックスモード選択）

MBM ビットが 0（通常メールボックスモード）の場合、メールボックス 0 ～ 31 は送信または受信メールボックスに設定されます。

MBM ビットが 1（FIFO メールボックスモード）の場合：

- メールボックス 0 ～ 23 は送信または受信メールボックスに設定される
- メールボックス 24 ～ 27 は送信 FIFO に設定される
- メールボックス 28 ～ 31 は受信 FIFO に設定される

送信データは、メールボックス 24（送信 FIFO のウィンドウメールボックス）に書き込まれます。受信データは、メールボックス 28（受信 FIFO のウィンドウメールボックス）から読み出されます。

表 33.3 にメールボックスの構成を示します。

IDFM[1:0] ビット（ID フォーマットモード選択）

IDFM[1:0] ビットは、ID フォーマットを指定します。

MLM ビット（メッセージロストモード選択）

MLM ビットは、未読メールボックスに新しいメッセージを取り込む場合の動作を指定します。オーバーライトモードまたはオーバーランモードを選択できます。いずれの場合も、選択したモードが受信 FIFO を含めたすべてのメールボックスに適用されます。

MLM ビットが 0 の場合、すべてのメールボックスはオーバーライトモードになります。新しいメッセージを受信すると、それによって既存のメッセージが上書きされます。

MLM ビットが 1 の場合、すべてのメールボックスはオーバーランモードになります。新しいメッセージは、古いメッセージを上書きすることなく、破棄されます。

TPM ビット（送信優先順位モード選択）

TPM ビットは、メッセージを送信する場合の優先順位を指定します。

ID 優先送信モードまたはメールボックス番号送信モードから選択できます。すべてのメールボックスは、ID 優先送信またはメールボックス番号優先送信のどちらかになります。

TPM ビットが 0 の場合、ID 優先送信モードが選択され、送信優先順位は ISO11898-1 の CAN 仕様に定められているように調停されます。ID 優先送信モードでは、メールボックス 0 ～ 31（通常メールボックスモード時）、メールボックス 0 ～ 23（FIFO メールボックスモード時）、および送信 FIFO が、送信用に設定されたメールボックスの ID と比較されます。2 つ以上のメールボックス ID が同一であると、小さい番号のメールボックスが優先されます。

送信 FIFO から送信される次のメッセージのみが、送信アービトレーションの対象となります。FIFO メッセージを送信中の場合、送信 FIFO 内の次の待機メッセージが送信アービトレーションの対象となります。

TPM ビットが 1 の場合、メールボックス番号送信モードが選択され、一番小さい番号の送信メールボックスが最優先されます。FIFO メールボックスモードでは、送信 FIFO は通常メールボックス（0 ～ 23）よりも優先順位が低くなります。

TSRC ビット（タイムスタンプカウンタリセットコマンド）

TSRC ビットは、タイムスタンプカウンタをリセットします。本ビットを 1 にすると、TSR レジスタは 0000h になります。TSRC ビットは、自動的に 0 になります。

TSPS[1:0] ビット（タイムスタンププリスケーラ選択）

TSPS[1:0] ビットは、タイムスタンプ用のプリスケーラを選択します。タイムスタンプ用の基準クロックは、1、2、4、または 8 ビットタイム期間から選択できます。

CANM[1:0] ビット（CAN オペレーションモード選択）

CAN モジュールのモードを下記から 1 つ選択します。

- CAN オペレーションモード
- CAN リセットモード
- CAN halt モード

CAN スリープモードは SLPM ビットで設定します。詳細は、33.3　動作モードを参照してください。CAN モジュールが、BOM[1:0] ビットの設定値に基づいて CAN halt モードへ遷移した場合、CANM[1:0] ビットは自動的に 10b になります。

SLPM ビット（CAN スリープモード）

SLPM ビットを 1 にすると、CAN モジュールは CAN スリープモードへ遷移します。SLPM ビットを 0 にすると、CAN モジュールは CAN スリープモードから復帰します。詳細は、33.3　動作モードを参照してください。

BOM[1:0] ビット（バスオフ復帰モード）

BOM[1:0] ビットは、CAN モジュールのバスオフ復帰モードを選択します。

BOM[1:0] ビットが 00b の場合、ISO11898-1 仕様に準拠してバスオフから復帰します。CAN モジュールは、11 の連続するレセシブビットを 128 回検出すると、CAN 通信（エラーアクティブ状態）を回復させます。バスオフからの復帰時に、バスオフ復帰割り込み要求が発生します。

BOM[1:0] ビットが 01b の場合、CAN モジュールがバスオフ状態に達すると、CTLR.CANM[1:0] ビットが 10b になり CAN halt モードへ遷移します。バスオフからの復帰時にバスオフ復帰割り込み要求は発生せず、TECR レジスタと RECR レジスタは 00h になります。

BOM[1:0] ビットが 10b の場合、CAN モジュールがバスオフ状態に達すると、ただちに CANM[1:0] ビットが 10b になります。CAN モジュールは、11 の連続するレセシブビットを 128 回検出してバスオフ状態から復帰した後、CAN halt モードへ遷移します。バスオフからの復帰時にバスオフ復帰割り込み要求が発生し、TECR レジスタと RECR レジスタは 00h になります。

BOM[1:0] ビットが 11b の場合、CAN モジュールがまだバスオフ状態のときに CANM[1:0] ビットを 10b にすると、CAN halt モードへ遷移します。バスオフからの復帰時にバスオフ復帰割り込み要求は発生せず、TECR レジスタと RECR レジスタは 00h になります。ただし、CANM[1:0] ビットを 10b にする前に、11 の連続するレセシブビットを 128 回検出して CAN モジュールがバスオフから復帰した場合は、割り込みが発生します。

CAN モジュールが CAN halt モードへ遷移しようとしたとき（BOM[1:0] ビット = 01b のときはバスオフ開始時、BOM[1:0] ビット = 10b のときはバスオフ終了時）、同時に CPU が CAN リセットモードへの遷移を要求した場合は、CPU 要求の CAN リセットモードへの遷移が優先されます。

RBOC ビット（バスオフ強制復帰）

バスオフ状態のとき RBOC ビットを 1 にすると、CAN モジュールは強制的にバスオフを終了させます。RBOC ビットは自動的に 0 になり、エラー状態はバスオフからエラーアクティブに変化します。RBOC ビットを 1 にすると、RECR、TECR は 00h になり、STR の BOST ビットは 0 になり、バスオフ状態ではないことを示します。他のレジスタは RBOC ビットを 1 にしても変化しません。バスオフ復帰割り込み要求は発生しません。RBOC ビットは、BOM[1:0] ビットが 00b（通常モード）の場合にのみ使用してください。

表 33.3　メールボックスの構成

メールボックス	MBM ビット = 0（通常メールボックスモード）	MBM ビット = 1（FIFO メールボックスモード）（注1）～（注5）
メールボックス 0～23	通常メールボックス	通常メールボックス
メールボックス 24～27		送信 FIFO
メールボックス 28～31		受信 FIFO

注 1.　送信 FIFO は TFCR レジスタで制御します。メールボックス 24 ～ 27 に対応する MCTL_TXj レジスタは無効です。MCTL_TX24 ～ MCTL_TX27 レジスタは送信 FIFO では使用できません。
注 2.　受信 FIFO は RFCR レジスタで制御します。メールボックス 28 ～ 31 に対応する MCTL_RXj レジスタは無効です。MCTL_RX28 ～ MCTL_RX31 レジスタは受信 FIFO では使用できません。
注 3.　FIFO 割り込みについては、MIER_FIFO レジスタの説明を参照してください。
注 4.　メールボックス 24 ～ 31 に対応する MKIVLR レジスタのビットは無効です。これらのビットは 0 にしてください。
注 5.　送信および受信 FIFO は、データフレームとリモートフレームの両方に使用可能です。

33.2.2 ビットコンフィグレーションレジスタ（BCR）

アドレス CAN0.BCR 4005 0844h, CAN1.BCR 4005 1844h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	TSEG1[3:0]				—	—	BRP[9:0]									
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	SJW[1:0]		—	TSEG2[2:0]			—	—	—	—	—	—	—	CCLKS
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CCLKS	CANクロックソース選択	0：PCLKB（PLLクロックで生成） 1：CANMCLK（メインクロック発振器で生成）	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b10-b8	TSEG2[2:0]	タイムセグメント2制御	b10 b9 b8 0 0 0：設定禁止 0 0 1：2Tq 0 1 0：3Tq 0 1 1：4Tq 1 0 0：5Tq 1 0 1：6Tq 1 1 0：7Tq 1 1 1：8Tq	R/W
b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b13-b12	SJW[1:0]	同期ジャンプ幅制御	b13 b12 0 0：1Tq 0 1：2Tq 1 0：3Tq 1 1：4Tq	R/W
b15-b14	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b25-b16	BRP[9:0]	ボーレートプリスケーラ選択 （注1）	CAN通信クロック（fCANCLK）の周波数を設定します。	R/W
b27-b26	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b31-b28	TSEG1[3:0]	タイムセグメント1制御	b31 b30 b29 b28 0 0 0 0：設定禁止 0 0 0 1：設定禁止 0 0 1 0：設定禁止 0 0 1 1：4Tq 0 1 0 0：5Tq 0 1 0 1：6Tq 0 1 1 0：7Tq 0 1 1 1：8Tq 1 0 0 0：9Tq 1 0 0 1：10Tq 1 0 1 0：11Tq 1 0 1 1：12Tq 1 1 0 0：13Tq 1 1 0 1：14Tq 1 1 1 0：15Tq 1 1 1 1：16Tq	R/W

Tq：Time Quantum

注 1.　SCKSCR.CKSEL[2:0] ビットが 011b（メインクロック発振器選択）の場合、1 以下の値を選択しないでください。

ビットタイミングの設定については、33.4　データ転送レートの設定を参照してください。BCR レジスタは、CAN リセットモードから CAN halt モード、または CAN リセットモードから CAN オペレーションモードへ遷移する前に設定してください。このレジスタは、いったん設定した後も、CAN リセットモードまたは CAN halt モードで書き込みが可能です。32 ビットでリード／ライトアクセスする場合、ビット 0 ～ 7 を変更しないように注意して行う必要があります。

CCLKS ビット（CAN クロックソース選択）

CCLKS ビットが 0 の場合、CAN クロックソース（fCAN）には、PLL 周波数シンセサイザで生成された周辺クロック（PCLKB）が使用されます。CCLKS ビットが 1 の場合、CAN クロックソース（fCAN）には、外部の EXTAL 端子で生成された CANMCLK が使用されます。

TSEG2[2:0] ビット（タイムセグメント 2 制御）

TSEG2[2:0] ビットは、フェーズバッファセグメント 2（PHASE_SEG2）の長さを Tq 値で指定します。2 ～ 8Tq の値が設定可能です。TSEG1[3:0] ビット値未満の値を設定してください。

SJW[1:0] ビット（同期ジャンプ幅制御）

SJW[1:0] ビットは、同期ジャンプ幅を Tq 値で指定します。1 ～ 4Tq の値が設定可能です。TSEG2[2:0] ビット値以下の値を設定してください。

BRP[9:0] ビット（ボーレートプリスケーラ選択）

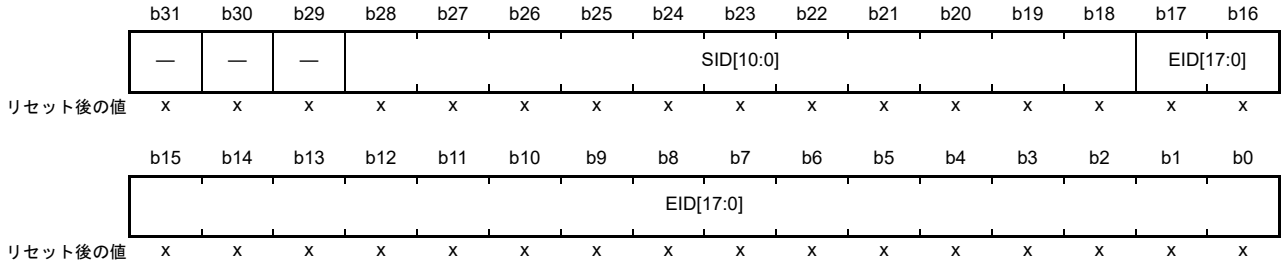
BRP[9:0] ビットは、CAN 通信クロック（fCANCLK）の周波数を設定します。fCANCLK の周期が 1Tq となります。設定値を P（0 ～ 1023）とすると、ボーレートプリスケーラは fCAN を P + 1 で分周します。

TSEG1[3:0] ビット（タイムセグメント 1 制御）

TSEG1[3:0] ビットは、プロパゲーションタイムセグメント（PROP_SEG）とフェーズバッファセグメント 1（PHASE_SEG1）の合計長を Tq 値で指定します。4 ～ 16Tq の値が設定可能です。

33.2.3　マスクレジスタ k（MKRk）（k = 0 ～ 7）

アドレス　CAN0.MKR[0] 4005 0400h ～ CAN0.MKR[7] 4005 041Ch, CAN1.MKR[0] 4005 1400h ～ CAN1.MKR[7] 4005 141Ch



x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b17-b0	EID[17:0]	拡張ID	0：対応するEID[17:0]ビットを比較しない 1：対応するEID[17:0]ビットを比較する	R/W
b28-b18	SID[10:0]	標準ID	0：対応するSID[10:0]ビットを比較しない 1：対応するSID[10:0]ビットを比較する	R/W
b31-b29	—	予約ビット	読むと不定値が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

FIFO メールボックスモードでのマスク機能については、33.6　アクセプタンスフィルタ機能とマスク機能を参照してください。MKR0 ～ MKR7 レジスタへの書き込みは、CAN リセットモードまたは CAN halt モード時に行ってください。

EID[17:0] ビット（拡張 ID）

EID[17:0] ビットは、CAN 拡張 ID ビットに対応するフィルタマスクビットです。拡張 ID のメッセージを受信するために使用します。EID[17:0] ビットを 0 にした場合、受信した ID は、対応するメールボックスの ID と比較されません。EID[17:0] ビットを 1 にした場合、受信した ID は、対応するメールボックスの ID と比較されます。

SID[10:0] ビット（標準 ID）

SID[10:0] ビットは、CAN 標準 ID ビットに対応するフィルタマスクビットです。標準 ID と拡張 ID の両メッセージを受信するために使用します。SID[10:0] ビットを 0 にした場合、受信した ID は、対応するメールボックスの ID と比較されません。SID[10:0] ビットを 1 にした場合、受信した ID は、対応するメールボックスの ID と比較されます。

33.2.4　FIFO 受信 ID 比較レジスタ 0、1（FIDCR0、FIDCR1）

アドレス　CAN0.FIDCR0 4005 0420h, CAN0.FIDCR1 4005 0424h, CAN1.FIDCR0 4005 1420h, CAN1.FIDCR1 4005 1424h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	IDE	RTR	—	SID[10:0]											EID[17:0]	
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	EID[17:0]															
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b17-b0	EID[17:0]	拡張ID	データフレームとリモートフレームの拡張ID	R/W
b28-b18	SID[10:0]	標準ID	データフレームとリモートフレームの標準ID	R/W
b29	—	予約ビット	読むと不定値が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b30	RTR	リモート送信要求	0：データフレーム 1：リモートフレーム	R/W
b31	IDE	ID拡張（注1）	0：標準ID 1：拡張ID	R/W

注 1.　IDE ビットは、CTLR.IDFM[1:0] ビットが 10b（ミックス ID モード）の場合に有効です。IDFM[1:0] ビットが 10b 以外の場合、IDE には 0 のみを書いてください。読むと 0 が読めます。

FIDCR0 および FIDCR1 レジスタは、CTLR.MBM ビットが 1（FIFO メールボックスモード）のとき有効です。このモードでは、MB28 ～ MB31 レジスタの EID[17:0]、SID[10:0]、RTR、および IDE ビットは無効です。FIDCR0 および FIDCR1 レジスタへの書き込みは、CAN リセットモードまたは CAN halt モード時に行ってください。FIDCR0 および FIDCR1 レジスタの使用方法については、33.6　アクセプタンスフィルタ機能とマスク機能を参照してください。

EID[17:0] ビット（拡張 ID）

EID[17:0] ビットはデータフレームとリモートフレームの拡張 ID を設定します。拡張 ID のメッセージを受信するために使用します。

SID[10:0] ビット（標準 ID）

SID[10:0] ビットはデータフレームとリモートフレームの標準 ID を設定します。標準 ID と拡張 ID の両メッセージを受信するために使用します。

RTR ビット（リモート送信要求）

RTR ビットは、フレームフォーマットをデータフレームまたはリモートフレームに設定します：

- FIDCR0 レジスタと FIDCR1 レジスタの RTR ビットが両方とも 0 の場合、データフレームのみを受信
- FIDCR0 レジスタと FIDCR1 レジスタの RTR ビットが両方とも 1 の場合、リモートフレームのみを受信
- FIDCR0 レジスタと FIDCR1 レジスタの RTR ビット同士が異なる値の場合、データフレームとリモートフレームの両方を受信

IDE ビット（ID 拡張）

IDE ビットは、ID フォーマットを標準 ID または拡張 ID に設定します。IDE ビットは、CTLR.IDFM[1:0] ビットが 10b（ミックス ID モード）の場合に有効です：

- FIDCR0 レジスタと FIDCR1 レジスタの IDE ビットが両方とも 0 の場合、標準 ID フレームのみを受信
- FIDCR0 レジスタと FIDCR1 レジスタの IDE ビットが両方とも 1 の場合、拡張 ID フレームのみを受信
- FIDCR0 レジスタと FIDCR1 レジスタの IDE ビット同士が異なる値の場合、標準 ID フレームと拡張 ID フレームの両方を受信

33.2.5　マスク無効レジスタ（MKIVLR）

アドレス　CAN0.MKIVLR 4005 0428h, CAN1.MKIVLR 4005 1428h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	MB31	MB30	MB29	MB28	MB27	MB26	MB25	MB24	MB23	MB22	MB21	MB20	MB19	MB18	MB17	MB16
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	MB15	MB14	MB13	MB12	MB11	MB10	MB9	MB8	MB7	MB6	MB5	MB4	MB3	MB2	MB1	MB0
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b0	MB31 ～ MB0	マスク無効	0：マスク有効 1：マスク無効	R/W

MKIVLR レジスタの各ビットは、同じ番号のメールボックスに対応しています。MKIVLR レジスタのビット 0 はメールボックス 0（MB0）に対応し、ビット 31 はメールボックス 31（MB31）にそれぞれ対応しています。

注 .　FIFO メールボックスモード時は、ビット 31 ～ 24 を 0 にしてください。

ビットを 1 にすると、対応するメールボックスのアクセプタンスマスクレジスタが無効になります。マスク無効ビットを 1 にすると、受信メッセージの ID がメールボックスの ID に完全に一致する場合にのみ、対応するメールボックスによってメッセージ受信が行われます。MKIVLR レジスタへの書き込みは、CAN リセットモードまたは CAN halt モード時に行ってください。

33.2.6 メールボックスレジスタ j（MBj_ID、MBj_DL、MBj_Dm、MBj_TS）（j = 0 ～ 31; m = 0 ～ 7）

表 33.4 に CANi メールボックスのメモリ配置を、表 33.5 に CAN データフレームの構成を示します。CANi メールボックスのリセット後の値は不定です。

MBj_ID、MBj_DL、MBj_Dm、MBj_TS レジスタは、関連する MCTL_TXj または MCTL_RXj（j = 0 ～ 31）レジスタが 00h で、かつ対応するメールボックスがアボート処理中でないときにのみ変更してください。レジスタアドレスの詳細については、表 33.4 を参照してください。

表 33.4 CANiメールボックスのメモリ配置

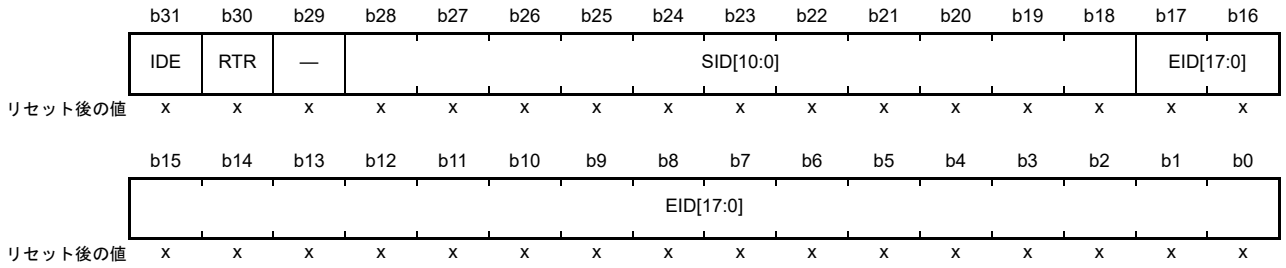
アドレス		メッセージ内容
CAN0	CAN1	メモリ配置
4005 0200h + 16 × j + 0	4005 1200h + 16 × j + 0	IDE、RTR、SID10～SID6
4005 0200h + 16 × j + 1	4005 1200h + 16 × j + 1	SID5～SID0、EID17、EID16
4005 0200h + 16 × j + 2	4005 1200h + 16 × j + 2	EID15～EID8
4005 0200h + 16 × j + 3	4005 1200h + 16 × j + 3	EID7～EID0
4005 0200h + 16 × j + 4	4005 1200h + 16 × j + 4	—
4005 0200h + 16 × j + 5	4005 1200h + 16 × j + 5	データ長コード（DLC[3:0]）
4005 0200h + 16 × j + 6	4005 1200h + 16 × j + 6	データバイト0
4005 0200h + 16 × j + 7	4005 1200h + 16 × j + 7	データバイト1
4005 0200h + 16 × j + 8	4005 1200h + 16 × j + 8	データバイト2
4005 0200h + 16 × j + 9	4005 1200h + 16 × j + 9	データバイト3
4005 0200h + 16 × j + 10	4005 1200h + 16 × j + 10	データバイト4
4005 0200h + 16 × j + 11	4005 1200h + 16 × j + 11	データバイト5
4005 0200h + 16 × j + 12	4005 1200h + 16 × j + 12	データバイト6
4005 0200h + 16 × j + 13	4005 1200h + 16 × j + 13	データバイト7
4005 0200h + 16 × j + 14	4005 1200h + 16 × j + 14	タイムスタンプ上位バイト
4005 0200h + 16 × j + 15	4005 1200h + 16 × j + 15	タイムスタンプ下位バイト

表 33.5 CANデータフレームの構成

SID10～SID6	SID5～SID0	EID17～EID16	EID15～EID8	EID7～EID0	DLC3～DLC1	DATA0	DATA1	…	DATA7

各メールボックスの内容は、新しいメッセージを受信しないかぎり、以前の値を保持します。

アドレス CAN0.MB0_ID 4005 0200h～CAN0.MB31_ID 4005 03F0h, CAN1.MB0_ID 4005 1200h～CAN1.MB31_ID 4005 13F0h

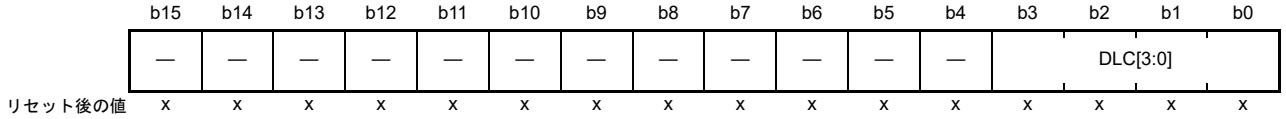


x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b17-b0	EID[17:0]	拡張ID（注1）	データフレームとリモートフレームの拡張ID	R/W
b28-b18	SID[10:0]	標準ID	データフレームとリモートフレームの標準ID	R/W
b29	—	予約ビット	読むと不定値が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b30	RTR	リモート送信要求	0：データフレーム 1：リモートフレーム	R/W
b31	IDE	ID拡張（注2）	0：標準ID 1：拡張ID	R/W

注 1.　メールボックスが標準 ID のメッセージを受信すると、そのメールボックスの EID ビット値は不定になります。
注 2.　IDE ビットは、CTLR.IDFM[1:0] ビットが 10b（ミックス ID モード）の場合に有効です。IDFM[1:0] ビットが 10b 以外の場合、IDE には 0 のみを書いてください。読むと 0 が読めます。

アドレス CAN0.MB0_DL 4005 0204h～CAN0.MB31_DL 4005 03F4h, CAN1.MB0_DL 4005 1204h～CAN1.MB31_DL 4005 13F4h



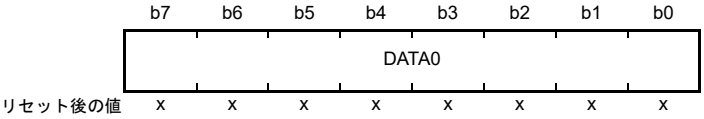
x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	DLC[3:0]	データ長コード（注1）	b3 b0 0 0 0 0：データ長 = 0バイト 0 0 0 1：データ長 = 1バイト 0 0 1 0：データ長 = 2バイト 0 0 1 1：データ長 = 3バイト 0 1 0 0：データ長 = 4バイト 0 1 0 1：データ長 = 5バイト 0 1 1 0：データ長 = 6バイト 0 1 1 1：データ長 = 7バイト 1 x x x：データ長 = 8バイト	R/W
b15-b4	—	予約ビット	読むと不定値が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

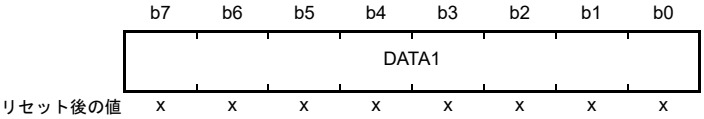
x：Don’t care

注 1.　メールボックスが n バイト（n は 8 未満）のデータ長（DLC[3:0] ビットで設定）のメッセージを受信すると、メールボックスの DATAn ～ DATA7 レジスタのデータは不定になります。DATA0 ～ DATA7 は該メールボックスにおけるデータレジスタです。たとえば、データ長が 6 バイト（DLC[3:0] = 6h）であれば、DATA6 レジスタと DATA7 レジスタのデータが不定になります。

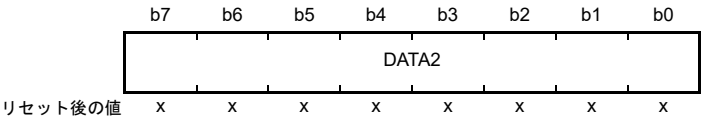
アドレス CAN0.MB0_D0 4005 0206h～CAN0.MB31_D0 4005 03F6h, CAN1.MB0_D0 4005 1206h～CAN1.MB31_D0 4005 13F6h



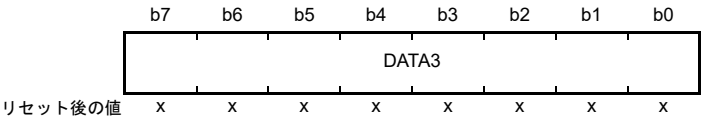
アドレス CAN0.MB0_D1 4005 0207h～CAN0.MB31_D1 4005 03F7h, CAN1.MB0_D1 4005 1207h～CAN1.MB31_D1 4005 13F7h



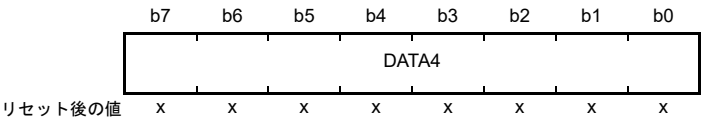
アドレス CAN0.MB0_D2 4005 0208h～CAN0.MB31_D2 4005 03F8h, CAN1.MB0_D2 4005 1208h～CAN1.MB31_D2 4005 13F8h



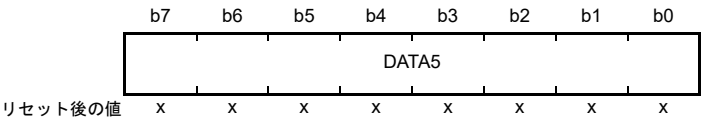
アドレス CAN0.MB0_D3 4005 0209h～CAN0.MB31_D3 4005 03F9h, CAN1.MB0_D3 4005 1209h～CAN1.MB31_D3 4005 13F9h



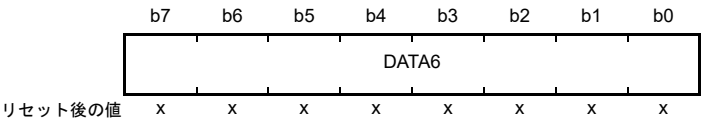
アドレス CAN0.MB0_D4 4005 020Ah～CAN0.MB31_D4 4005 03FAh, CAN1.MB0_D4 4005 120Ah～CAN1.MB31_D4 4005 13FAh



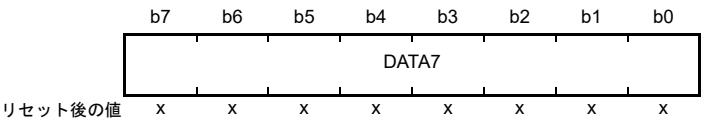
アドレス CAN0.MB0_D5 4005 020Bh～CAN0.MB31_D5 4005 03FBh, CAN1.MB0_D5 4005 120Bh～CAN1.MB31_D5 4005 13FBh



アドレス CAN0.MB0_D6 4005 020Ch～CAN0.MB31_D6 4005 03FCh, CAN1.MB0_D6 4005 120Ch～CAN1.MB31_D6 4005 13FCh



アドレス CAN0.MB0_D7 4005 020Dh～CAN0.MB31_D7 4005 03FDh, CAN1.MB0_D7 4005 120Dh～CAN1.MB31_D7 4005 13FDh

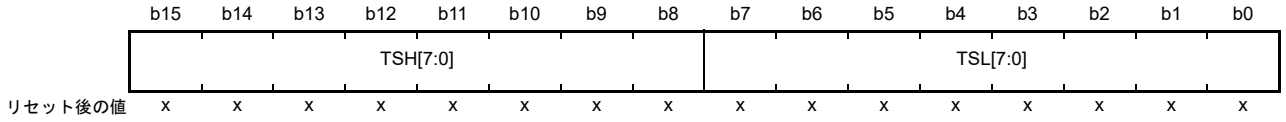


x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	DATA0 ～ DATA7	データバイト 0～7 （注 1）（注 2）	DATA0～7 は送信または受信した CAN メッセージデータを格納します。送受信は、DATA0 から開始されます。CAN バス上のビットオーダは MSB ファーストであり、ビット 7 から送受信が開始されます。	R/W

注 1.　メールボックスが 8 バイトよりも少ない n バイトのメッセージを受信すると、メールボックスの DATAn ～ DATA7 の値は不定になります。
注 2.　メールボックスがリモートフレームを受信した場合、そのメールボックスの DATA0 ～ DATA7 は以前の値を保持します。

アドレス　CAN0.MB0_TS 4005 020Eh～CAN0.MB31_TS 4005 03FEh, CAN1.MB0_TS 4005 120Eh～CAN1.MB31_TS 4005 13FEh



x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	TSL[7:0]	タイムスタンプ下位バイト	TSH[7:0] ビットと TSL[7:0] ビットは、受信メッセージがメールボックスに取り込まれた時点のタイムスタンプのカウンタ値を格納します。	R/W
b15-b8	TSH[7:0]	タイムスタンプ上位バイト		R/W

EID[17:0] ビット（拡張 ID）

EID[17:0] ビットはデータフレームとリモートフレームの拡張 ID を設定します。拡張 ID のメッセージを送受信するために使用します。

SID[10:0] ビット（標準 ID）

SID[10:0] ビットはデータフレームとリモートフレームの標準 ID を設定します。標準 ID と拡張 ID の両メッセージを送受信するために使用します。

RTR ビット（リモート送信要求）

RTR ビットは、データフレームまたはリモートフレームのフレームフォーマットを設定します。

- 受信メールボックスは、RTR ビットで指定されたフォーマットのフレームのみを受信する
- 送信メールボックスは、RTR ビットで指定されたフレームフォーマットで送信する
- 受信 FIFO メールボックスは、FIDCR0 および FIDCR1 レジスタの RTR ビットで指定されたデータフレーム、リモートフレーム、またはその両方を受信する
- 送信 FIFO メールボックスは、送信メッセージ内の RTR ビットで指定されたデータフレームまたはリモートフレームを送信する

IDE ビット（ID 拡張）

IDE ビットは、ID フォーマットを標準 ID または拡張 ID に設定します。IDE ビットは、CTLR.IDFM[1:0] ビットが 10b（ミックス ID モード）の場合に有効です。

- 受信メールボックスは、IDE ビットで指定された ID フォーマットのみを受信する
- 送信メールボックスは、IDE ビットで指定された ID フォーマットで送信する
- 受信 FIFO メールボックスは、FIDCR0 および FIDCR1 レジスタの IDE ビットで指定された標準 ID と拡張 ID の設定でメッセージを受信する
- 送信 FIFO メールボックスは、送信メッセージ内の IDE ビットで指定された標準 ID または拡張 ID の設定でメッセージを送信する

DLC[3:0] ビット（データ長コード）

DLC[3:0] ビットは、データフレームで送信されるデータ長を指定します。リモートフレームを使用してデータを要求する場合、DLC[3:0] ビットは要求するデータ長を指定します。

データフレームを受信した場合、DLC[3:0] ビットには受信したデータ長が格納されます。リモートフレームを受信した場合、DLC[3:0] ビットには要求されたデータ長が格納されます。

33.2.7 メールボックス割り込みイネーブルレジスタ（MIER）

アドレス CAN0.MIER 4005 042Ch, CAN1.MIER 4005 142Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	MB31	MB30	MB29	MB28	MB27	MB26	MB25	MB24	MB23	MB22	MB21	MB20	MB19	MB18	MB17	MB16
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	MB15	MB14	MB13	MB12	MB11	MB10	MB9	MB8	MB7	MB6	MB5	MB4	MB3	MB2	MB1	MB0
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b0	MB31 ～MB0	割り込み許可	0：割り込み禁止 1：割り込み許可 ビット31はメールボックス31（MB31）に、ビット0はメールボックス0（MB0）に対応しています。	R/W

MIER レジスタは、メールボックスごとに個別に割り込みを許可できます。このレジスタは、通常メールボックスモードで利用可能です。FIFO メールボックスモードでは、このレジスタにアクセスしないでください。

各ビットは、同じ番号のメールボックスに対応しています。これらのビットは、対応するメールボックスの送信完了割り込みと受信完了割り込みを許可または禁止します：

- MIER レジスタのビット 0 はメールボックス 0（MB0）に対応
- MIER レジスタのビット 31 はメールボックス 31（MB31）に対応

MIER レジスタは、関連する MCTL_TXj または MCTL_RXj（j = 0 ～ 31）レジスタが 00h で、関連するメールボックスが送受信アボートの処理をしていないときにのみ変更してください。

33.2.8 FIFO メールボックスモード用メールボックス割り込みイネーブルレジスタ（MIER_FIFO）

アドレス CAN0.MIER_FIFO 4005 042Ch, CAN1.MIER_FIFO 4005 142Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	MB29	MB28	—	—	MB25	MB24	MB23	MB22	MB21	MB20	MB19	MB18	MB17	MB16
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	MB15	MB14	MB13	MB12	MB11	MB10	MB9	MB8	MB7	MB6	MB5	MB4	MB3	MB2	MB1	MB0
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b23-b0	MB23～MB0	割り込み許可	0：割り込み禁止 1：割り込み許可 ビット23はメールボックス23（MB23）に、ビット0はメールボックス0（MB0）に対応しています。	R/W
b24	MB24	送信FIFO割り込み許可	0：割り込み禁止 1：割り込み許可	R/W
b25	MB25	送信FIFO割り込み発生タイミング制御	0：送信完了ごとに発生 1：送信完了時に送信FIFOが空になると発生	R/W
b27-b26	—	予約ビット	読むと不定値が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b28	MB28	受信FIFO割り込み許可	0：割り込み禁止 1：割り込み許可	R/W
b29	MB29	受信FIFO割り込み発生タイミング制御（注1）	0：受信完了ごとに発生 1：受信完了時に受信FIFOがバッファワーニング（注2）になると発生	R/W
b31-b30	—	予約ビット	読むと不定値が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　受信 FIFO がフルのためにバッファワーニングとなった場合、割り込み要求は発生しません。
注 2.　バッファワーニングとは、受信 FIFO に 3 つ目のメッセージが格納された状態です。

MIER_FIFO レジスタは、メールボックスごと、FIFO ごとに個別に割り込みを許可できます。このレジスタは、FIFO メールボックスモードで利用可能です。通常メールボックスモードではアクセスしないでください。

MB0 ～ MB23 ビットは、同じ番号のメールボックスに対応しています。これらのビットは、対応するメールボックスの送信完了割り込みと受信完了割り込みを許可または禁止します。

- MIER_FIFO レジスタのビット 0 はメールボックス 0（MB0）に対応
- MIER_FIFO レジスタのビット 23 はメールボックス 23（MB23）に対応

MB24、MB25、MB28、MB29 は、送信／受信 FIFO 割り込みを許可するか否か、および割り込み要求のタイミングを指定します。

MIER_FIFO レジスタは、関連する MCTL_TXj または MCTL_RXj（j = 0 ～ 31）レジスタが 00h で、関連するメールボックスが送受信アボートの処理をしていないときにのみ変更してください。また、対応する FIFO の MIER_FIFO レジスタのビットは、以下の条件がすべて満たされている場合にのみ変更してください。

- TFCR.TFE ビットが 0 で、かつ TFEST ビットが 1
- RFCR.RFE ビットが 0 で、かつ RFCR.RFEST フラグが 1

33.2.9 送信用メッセージコントロールレジスタ（MCTL_TXj）（j = 0 ～ 31）

• 送信モード（TRMREQビットが1、RECREQビットが0の場合）

アドレス CAN0.MCTL_TX[0] 4005 0820h～CAN0.MCTL_TX[31] 4005 083Fh,
CAN1.MCTL_TX[0] 4005 1820h～CAN1.MCTL_TX[31] 4005 183Fh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TRMREQ	RECREQ	—	ONESHOT	—	TRMABT	TRMACTIVE	SENTDATA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SENTDATA	送信完了フラグ（注1）（注2）	0：送信未完了 1：送信完了	R/W
b1	TRMACTIVE	送信中ステータスフラグ	0：送信待機中または送信要求なし 1：送信中	R
b2	TRMABT	送信アボート完了フラグ （注1）（注2）	0：送信開始、送信完了により送信アボート失敗、または送信アボート要求なし 1：送信アボート完了	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	ONESHOT	ワンショット許可（注2）（注3）	0：ワンショット送信禁止 1：ワンショット送信許可	R/W
b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6	RECREQ	受信メールボックス要求 （注2）（注3）（注4）（注5）	0：受信用に設定しない 1：受信用に設定する	R/W
b7	TRMREQ	送信メールボックス要求 （注2）（注4）	0：送信用に設定しない 1：送信用に設定する	R/W

注 1. 0 のみ書けます。1 の書き込みは無効です。
注 2. このレジスタに書き込むとき、SENTDATA および TRMABT フラグが書き込み対象でない場合はこれらのフラグに 1 を書いてください。
注 3. ワンショット送信モードへ遷移するためには、TRMREQ ビットを 1 にすると同時に、ONESHOT ビットに 1 を書いてください。ワンショット送信モードを解除するには、メッセージが送信またはアボートされた後、ONESHOT ビットに 0 を書いてください。
注 4. RECREQ ビットと TRMREQ ビットの両方を 1 にしないでください。
注 5. RECREQ ビットを 0 にするときは、SENTDATA、TRMACTIVE、および TRMABT フラグを同時に 0 にしてください。

MCTL_TXj は、メールボックス j を送信モードまたは受信モードに設定します。送信モードでは、MCTL_TXj は送信状態の制御と表示も行います。メールボックス j が受信モードのときは、MCTL_TXj にアクセスしないでください。MCTL_TXj は、CAN オペレーションモードまたは CAN halt モード時に変更してください。FIFO メールボックスモードでは、MCTL_TX24 ～ MCTL_TX31 レジスタを使用しないでください。

SENTDATA フラグ（送信完了フラグ）

SENTDATA フラグは、対応するメールボックスからのデータ送信が完了すると 1 になります。SENTDATA フラグは、ソフトウェア書き込みにより 0 になります。本フラグを 0 にする場合、最初に TRMREQ ビットを 0 にしてください。SENTDATA フラグと TRMREQ フラグを同時に 0 にすることはできません。対応するメールボックスから新しいメッセージを送信するには、SENTDATA フラグを 0 にしてください。

TRMACTIVE フラグ（送信中ステータスフラグ）

TRMACTIVE フラグは、CAN モジュールの対応するメールボックスがメッセージ送信を開始すると 1 になります。CAN モジュールが CAN バスアービトレーションに負けるか、CAN バスエラーが起こるか、あるいはデータ送信が完了すると 0 になります。

TRMABT フラグ（送信アボート完了フラグ）

TRMABT フラグは、次の場合、1（送信アボート完了）になります。

- 送信アボート要求に続いて、送信開始前に送信アボートが完了したとき
- 送信アボート要求に続いて、CAN モジュールが CAN バスアービトレーションロストまたは CAN バスエラーを検出したとき
- ワンショット送信モード時（RECREQ = 0、TRMREQ = 1、ONESHOT = 1）に、CAN モジュールが CAN バスアービトレーションロストまたは CAN バスエラーを検出したとき

TRMABT フラグは、データ送信が完了しても 1 になりません。SENTDATA フラグは 1 になります。TRMABT フラグは、ソフトウェア書き込みにより 0 になります。

ONESHOT ビット（ワンショット許可）

送信モード時（RECREQ = 0、TRMREQ = 1）に ONESHOT ビットを 1 にすると、CAN モジュールはメッセージを 1 回だけ送信します。（CAN バスエラーまたは CAN バスアービトレーションロストが発生しても、CAN モジュールはメッセージを再送信しません）送信が完了したとき、SENTDATA フラグが 1 になります。CAN バスエラーまたは CAN バスアービトレーションロストエラーが原因で送信が完了しないと、TRMABT フラグが 1 になります。ONESHOT ビットは、SENTDATA または TRMABT フラグが 1 になった後に 0 にしてください。

RECREQ ビット（受信メールボックス要求）

RECREQ ビットは、表 33.10 に示す受信モードを選択します。

RECREQ ビットを 1 にすると、対応するメールボックスはデータフレームまたはリモートフレームの受信用に設定されます。

RECREQ ビットを 0 にすると、対応するメールボックスはデータフレームまたはリモートフレームの受信用に設定されません。

以下の期間は、ハードウェアプロテクトのため、RECREQ ビットはソフトウェアで書き込みをしても 0 になりません。

- ハードウェアプロテクトは、アクセプタンスフィルタ処理から開始されます（CRC フィールドの始まり）
- ハードウェアプロテクトの解除
  - メッセージの受信用に指定されたメールボックスで、受信したデータがメールボックスに格納された後、または CAN バスエラーが発生した後。すなわち、ハードウェアプロテクトの最長期間は、CRC フィールドの始まりから EOF の 7 ビット目の終わりまでの期間
  - その他のメールボックスは、アクセプタンスフィルタ処理後
  - 受信メッセージに指定されたメールボックスがない場合は、アクセプタンスフィルタ処理後

RECREQ ビットを 1 にする場合は、TRMREQ ビットを 1 にしないでください。メールボックスの設定を送信から受信に変更する場合は、受信に変更する前に、まず送信をアボートし、そして SENTDATA ビットと TRMABT フラグを 0 にしてください。

注 .　MCTL_TXj.RECREQ は、MCTL_RXj.RECREQ のミラービットです。

TRMREQ ビット（送信メールボックス要求）

TRMREQ ビットは、表 33.10 に示す送信モードを選択します。

TRMREQ ビットを 1 にすると、対応するメールボックスはデータフレームまたはリモートフレームの送信用に設定されます。

TRMREQ ビットを 0 にすると、対応するメールボックスはデータフレームまたはリモートフレームの送信用に設定されません。

TRMREQ ビットを 1 から 0 に変更して、対応する送信要求を解除すると、TRMABT フラグまたは SENTDATA フラグのいずれかが 1 になります。TRMREQ ビットを 1 にする場合は、RECREQ ビットを 1 にしないでください。メールボックスの設定を受信から送信に変更する場合は、送信に変更する前に、まず受信をアボートし、それから NEWDATA ビットと MSGLOST ビットを 0 にしてください。

注 . MCTL_TXj.TRMREQ は、MCTL_RXj.TRMREQ のミラービットです。

33.2.10 受信用メッセージコントロールレジスタ（MCTL_RXj）（j = 0 ～ 31）

• 受信モード（TRMREQ ビットが 0、RECREQ ビットが 1 の場合）

アドレス CAN0.MCTL_RX[0] 4005 0820h ～ CAN0.MCTL_RX[31] 4005 083Fh,
CAN1.MCTL_RX[0] 4005 1820h ～ CAN1.MCTL_RX[31] 4005 183Fh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TRMREQ	RECREQ	—	ONESHOT	—	MSGLOST	INVALDATA	NEWDATA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	NEWDATA	受信完了フラグ（注 1）（注 2）	0：受信データなし、または本フラグに 0 を書いた場合 1：新しいメッセージをメールボックスに格納中または格納済み	R/W
b1	INVALDATA	受信中ステータスフラグ	0：メッセージは有効 1：メッセージを更新中	R
b2	MSGLOST	メッセージロストフラグ（注 1）（注 2）	0：メッセージのオーバーライトまたはオーバーランなし 1：メッセージのオーバーライトまたはオーバーランあり	R/W
b3	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b4	ONESHOT	ワンショット許可（注 2）（注 3）	0：ワンショット受信禁止 1：ワンショット受信許可	R/W
b5	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b6	RECREQ	受信メールボックス要求（注 2）（注 3）（注 4）（注 5）	0：受信用に設定しない 1：受信用に設定する	R/W
b7	TRMREQ	送信メールボックス要求（注 2）（注 4）	0：送信用に設定しない 1：送信用に設定する	R/W

注 1. 0 のみ書けます。1 の書き込みは無効です。
注 2. このレジスタの各ビットに書き込む際は、NEWDATA および MSGLOST フラグが書き込み対象でない場合、これらのフラグには 1 を書いてください。
注 3. ワンショット受信モードへ遷移するには、RECREQ ビットを 1 にすると同時に、ONESHOT ビットに 1 を書いてください。ワンショット受信モードを解除するときは、RECREQ ビットに 0 を書いた後、RECREQ ビットが 0 であることを確認してから ONESHOT ビットに 0 を書いてください。
注 4. RECREQ ビットと TRMREQ ビットの両方を 1 にしないでください。
注 5. RECREQ ビットを 0 にする場合、MSGLOST、NEWDATA、および RECREQ ビットを同時に 0 にしてください。

MCTL_RXj は、メールボックス j を送信モードまたは受信モードに設定します。受信モードでは、MCTL_RXj は受信状態の制御と表示も行います。

メールボックス j が送信モードのときは、MCTL_RXj にアクセスしないでください。MCTL_RXj レジスタは、CAN オペレーションモードまたは CAN halt モード時に変更してください。FIFO メールボックスモードでは、MCTL_RX24 ～ MCTL_RX31 を使用しないでください。

NEWDATA フラグ（受信完了フラグ）

NEWDATA フラグは、メールボックスに新しいメッセージを格納中または格納が完了したときに 1 になります。常に INVALDATA フラグと同時に 1 にしてください。NEWDATA フラグは、ソフトウェア書き込みにより 0 になります。対応する INVALDATA フラグが 1 の場合、NEWDATA フラグをソフトウェア書き込みで 0 にすることはできません。

INVALDATA フラグ（受信中ステータスフラグ）

INVALDATA フラグは、メッセージの受信完了後、対応するメールボックスに受信したメッセージを更新中に 1 になります。INVALDATA フラグは、メッセージの格納完了時点で 0 になります。INVALDATA フラグが 1 のときにメールボックスを読み出すと、そのデータは不定です。

MSGLOST フラグ（メッセージロストフラグ）

MSGLOST フラグは、NEWDATA フラグが 1 のとき、メールボックスのメッセージが新規の受信メッセージによって上書きまたはオーバーランされた場合、1 に設定されます。MSGLOST フラグは、EOF の 6 番目のビットの終わりで 1 に設定されます。MSGLOST フラグは、ソフトウェア書き込みで 0 にクリアされます。

オーバーライトモードとオーバーランモードの両方において、EOF の 6 番目のビットの終わりから、PCLKB の 5 サイクルの間は、MSGLOST フラグをソフトウェア書き込みで 0 にすることはできません。

ONESHOT ビット（ワンショット許可）

受信モード時（RECREQ = 1、TRMREQ = 0）に ONESHOT ビットを 1 にすると、メールボックスはメッセージを 1 回だけ受信します。メールボックスがメッセージを 1 回受信すると、その後、受信メールボックスとして動作しません。NEWDATA フラグと INVALDATA フラグの動作は、通常の受信モードと同じです。ワンショット受信モードでは、MSGLOST フラグは 1 になりません。ONESHOT ビットを 0 にする場合、最初に RECREQ ビットに 0 を書いて、RECREQ ビットが 0 であることを確認してから行ってください。

RECREQ ビット（受信メールボックス要求）

RECREQ ビットは、表 33.10 に示す受信モードを選択します。

RECREQ ビットを 1 にすると、対応するメールボックスはデータフレームまたはリモートフレームの受信用に設定されます。

RECREQ ビットを 0 にすると、対応するメールボックスはデータフレームまたはリモートフレームの受信用に設定されません。

ハードウェア保護により、以下の期間はソフトウェア書き込みにより RECREQ ビットは 0 にすることはできません。

- ハードウェアプロテクトがアクセプタンスフィルタ処理から開始（CRC フィールドの始まり）
- ハードウェアプロテクトが解除されるとき：
  - メッセージの受信に指定されたメールボックスについては、受信メッセージがメールボックスに格納された後、または CAN バスエラーが発生した後。すなわち、ハードウェアプロテクトの最長期間は CRC フィールドの始まりから EOF の 7 番目のビットの終わりまで
  - その他のメールボックスについては、アクセプタンスフィルタ処理後
  - メッセージ受信用に指定されたメールボックスがない場合は、アクセプタンスフィルタ処理後

RECREQ ビットを 1 にする場合は、TRMREQ ビットを 1 にしないでください。メールボックスの設定を送信から受信に変更する場合、受信に変更する前にまず送信をアボートしてから、SENTDATA ビットと TRMABT フラグを 0 に設定してください。

注 .　MCTL_RXj.RECREQ は、MCTL_TXj.RECREQ のミラービットです。

TRMREQ ビット（送信メールボックス要求）

TRMREQ ビットは、表 33.10 に示す送信モードを選択します。

TRMREQ ビットを 1 にすると、対応するメールボックスはデータフレームまたはリモートフレームの送信用に設定されます。

TRMREQ ビットを 0 にすると、対応するメールボックスはデータフレームまたはリモートフレームの送信用に設定されません。

TRMREQ ビットを 1 から 0 に変更して、対応する送信要求を解除すると、TRMABT フラグまたは SENTDATA フラグのいずれかが 1 になります。TRMREQ ビットを 1 にする場合は、RECREQ ビットを 1 にしないでください。メールボックスの設定を受信から送信に変更する場合、最初に受信をアボートし、次に NEWDATA ビットと MSGLOST ビットを 0 にしてから、送信に変更してください。

注 .　MCTL_RXj.TRMREQ は、MCTL_TXj.TRMREQ のミラービットです。

33.2.11　受信 FIFO コントロールレジスタ（RFCR）

アドレス　CAN0.RFCR 4005 0848h, CAN1.RFCR 4005 1848h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	RFEST	RFWST	RFFST	RFMLF	RFUST[2:0]			RFE
リセット後の値	1	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RFE	受信FIFO許可	0：受信FIFO禁止 1：受信FIFO許可	R/W
b3-b1	RFUST[2:0]	受信FIFO未読メッセージ数ステータス	b3 b2 b1 0 0 0：未読メッセージなし 0 0 1：未読メッセージ1件あり 0 1 0：未読メッセージ2件あり 0 1 1：未読メッセージ3件あり 1 0 0：未読メッセージ4件あり 1 0 1：予約 1 1 0：予約 1 1 1：予約	R
b4	RFMLF	受信FIFOメッセージロストフラグ	0：受信FIFOメッセージロスト発生なし 1：受信FIFOメッセージロスト発生あり	R/W
b5	RFFST	受信FIFOフルステータスフラグ	0：受信FIFOはフルでない 1：受信FIFOはフル（未読メッセージ4件）	R
b6	RFWST	受信FIFOバッファワーニングステータスフラグ	0：受信FIFOにバッファワーニングなし 1：受信FIFOにバッファワーニングあり（未読メッセージ3件）	R
b7	RFEST	受信FIFO空ステータスフラグ	0：受信FIFOに未読メッセージあり 1：受信FIFOに未読メッセージなし	R

RFCR レジスタへの書き込みは、CAN オペレーションモードまたは CAN halt モード時に行ってください。

RFE ビット（受信 FIFO 許可）

RFE ビットを 1 にすると、受信 FIFO が許可されます。

RFE ビットを 0 にすると、受信 FIFO は受信禁止になり、空状態（RFEST ビット = 1）になります。RFMLF フラグの設定と同時に RFE ビットに 0 を書いてください。

通常メールボックスモード（CTLR.MBM が 0）では、本ビットを 1 にしないでください。ハードウェアプロテクトのため、下記の期間中、RFE ビットをソフトウェア書き込みで 0 にすることはできません。

- ハードウェアプロテクトは、アクセプタンスフィルタ処理から開始されます（CRC フィールドの始まり）
- ハードウェアプロテクトが解除されるとき：
  - メッセージの受信用に受信 FIFO が指定されている場合に、受信したデータが受信 FIFO に格納された後、または CAN バスエラーが発生した後。すなわち、ハードウェアプロテクトの最長期間は CRC フィールドの始まりから EOF の 7 番目のビットの終わりまで
  - メッセージの受信用に受信 FIFO が指定されていない場合は、アクセプタンスフィルタ処理後

RFUST[2:0] ビット（受信 FIFO 未読メッセージ数ステータス）

RFUST[2:0] ビットは、受信 FIFO 内の未読メッセージの数を示します。RFE ビットを 0 にすると、RFUST[2:0] ビットの値は 000b に初期化されます。

RFMLF フラグ（受信 FIFO メッセージロストフラグ）

受信 FIFO がフルのときに新しいメッセージを受信すると、RFMLF ビットは 1（受信 FIFO メッセージロスト発生）になります。EOF の 6 番目のビットの終わりで 1 になります。

RFMLF フラグは、ソフトウェア書き込みにより 0 になります。(1 を書いても無効です)。オーバーライトモードとオーバーランモードの両方において、受信 FIFO がフルのときにメッセージを受信したことが確認された場合、ハードウェアプロテクトにより、EOF の 6 番目のビットの終わりから PCLKB の 5 サイクルの間は、RFMLF フラグをソフトウェア書き込みで 0（受信 FIFO メッセージロスト未発生）にできません。

RFFST フラグ（受信 FIFO フルステータスフラグ）

受信 FIFO 内の未読メッセージが 4 件になると、RFFST フラグは 1（受信 FIFO はフル）になります。受信 FIFO 内の未読メッセージが 4 件より少なくなると、0（受信 FIFO はフルでない）になります。本フラグは、RFE ビットを 0 にすると 0 になります。

RFWST フラグ（受信 FIFO バッファワーニングステータスフラグ）

受信 FIFO 内の未読メッセージが 3 件になると、RFWST フラグは 1（受信 FIFO はバッファワーニングあり）になります。受信 FIFO 内の未読メッセージの数が 3 件未満または 4 件になると、0（受信 FIFO はバッファワーニングなし）になります。RFWST フラグは、RFE ビットを 0 にすると 0 になります。

RFEST フラグ（受信 FIFO 空ステータスフラグ）

受信 FIFO 内の未読メッセージがなくなると、RFEST フラグは 1（受信 FIFO に未読メッセージなし）になります。RFE ビットを 0 にすると 1 になります。受信 FIFO 内の未読メッセージ数が 1 件以上になると、本フラグは 0（受信 FIFO に未読メッセージあり）になります。

図 33.2 に受信 FIFO メールボックスの動作を示します。

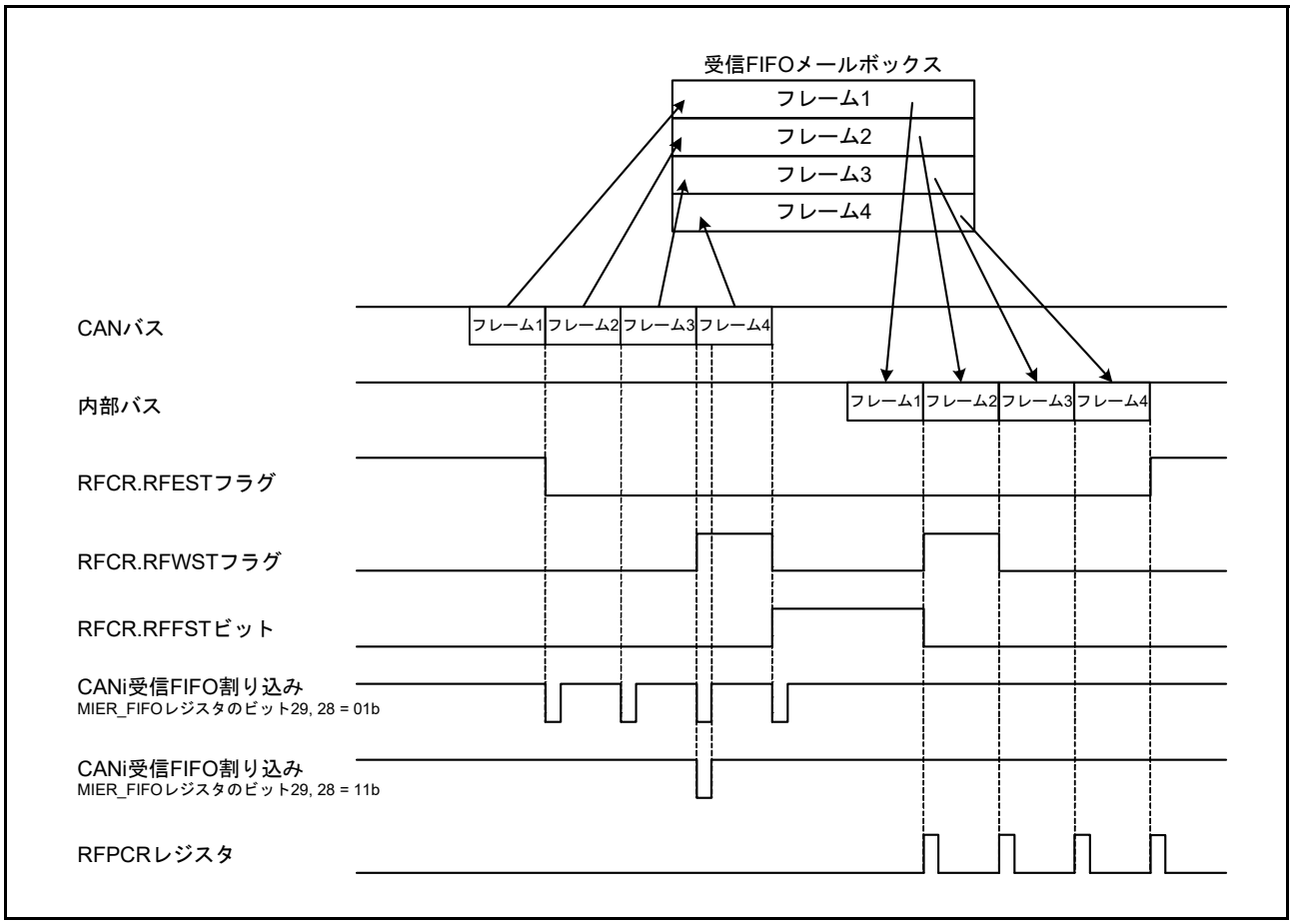
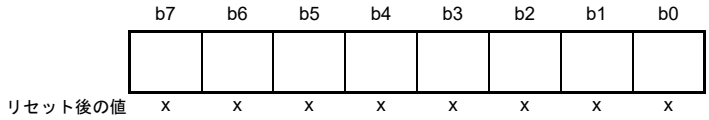


図 33.2　受信 FIFO メールボックスの動作（MIER_FIFO レジスタのビット 29、28 が 01b または 11b のとき）

33.2.12 受信 FIFO ポインタコントロールレジスタ（RFPCR）

アドレス CAN0.RFPCR 4005 0849h, CAN1.RFPCR 4005 1849h



x：不定

ビット	機能	R/W
b7-b0	RFPCRにFFhを書き込むと、受信FIFOのCPU側ポインタが増加	W

受信 FIFO が空状態でないとき、CPU ポインタを増加させて次のメールボックス位置に移動させるには、RFPCR レジスタにソフトウェアで FFh を書いてください。RFCR.RFE ビットが 0（受信 FIFO 禁止）のときは、RFPCR レジスタに書かないでください。

オーバーライトモードで RFFST フラグが 1（受信 FIFO はフル）のときに新しいメッセージが受信されると、CAN ポインタと CPU ポインタの両方が増加します。この状態で RFMLF フラグが 1 のとき、RFPCR レジスタにソフトウェア書き込みを行っても CPU ポインタは増加しません。

33.2.13 送信 FIFO コントロールレジスタ（TFCR）

アドレス CAN0.TFCR 4005 084Ah, CAN1.TFCR 4005 184Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TFEST	TFFST	—	—	TFUST[2:0]			TFE
リセット後の値	1	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TFE	送信FIFO許可	0：送信FIFO禁止 1：送信FIFO許可	R/W
b3-b1	TFUST[2:0]	送信FIFO未送信メッセージ数ステータス	b3 b2 b1 0 0 0：未送信メッセージなし 0 0 1：未送信メッセージ1件 0 1 0：未送信メッセージ2件 0 1 1：未送信メッセージ3件 1 0 0：未送信メッセージ4件 1 0 1：予約 1 1 0：予約 1 1 1：予約	R
b5-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6	TFFST	送信FIFOフルステータス	0：送信FIFOはフルでない 1：送信FIFOはフル（未送信メッセージ4件）	R
b7	TFEST	送信FIFO空ステータス	0：送信FIFOに未送信メッセージあり 1：送信FIFOに未送信メッセージなし	R

TFCR レジスタへの書き込みは、CAN オペレーションモードまたは CAN halt モード時に行ってください。

TFE ビット（送信 FIFO 許可）

TFE ビットを 1 にすると、送信 FIFO が許可されます。

TFE ビットを 0 にすると、送信 FIFO は空状態（TFEST ビット = 1）になり、下記のように送信 FIFO から未送信メッセージが失われます。

- 送信 FIFO から次のメッセージ送信予定がなく、まだ送信中でもない場合はただちに
- 送信 FIFO から次のメッセージ送信予定があるか、あるいはすでに送信中の場合、送信完了、CAN バスエラー、CAN バスアービトレーションロスト、または CAN halt モードへの遷移が発生した時点

TFE ビットを再度 1 にする前に、TFEST ビットが 1 になっていることを確認してください。TFE ビットを 1 にした後、送信データを MB24 レジスタに書いてください。

通常メールボックスモード（CTLR.MBM が 0）では、TFE ビットを 1 にしないでください。

TFUST[2:0] ビット（送信 FIFO 未送信メッセージ数ステータス）

TFUST[2:0] ビットは、送信 FIFO 内の未送信メッセージの数を示します。TFE ビットを 0 にした後、送信アボートまたは送信が完了すると、これらのビットは 000b になります。

TFFST ビット（送信 FIFO フルステータス）

送信 FIFO 内の未送信メッセージの数が 4 件になると、TFFST ビットは 1（送信 FIFO はフル）になります。送信 FIFO 内の未送信メッセージの数が 4 件より少なくなると、TFFST ビットは 0（送信 FIFO はフルではない）になります。送信 FIFO の送信アボートが完了すると、TFFST ビットは 0 になります。

TFEST ビット（送信 FIFO 空ステータス）

送信 FIFO 内の未送信メッセージがなくなると、TFEST ビットは 1（送信 FIFO にメッセージなし）になります。送信 FIFO の送信アボートが完了すると、TFEST ビットは 1 になります。送信 FIFO 内の未送信メッセージの数が 1 件以上になると、TFEST ビットは 0（送信 FIFO にメッセージあり）になります。

図 33.3 に送信 FIFO メールボックスの動作を示します。

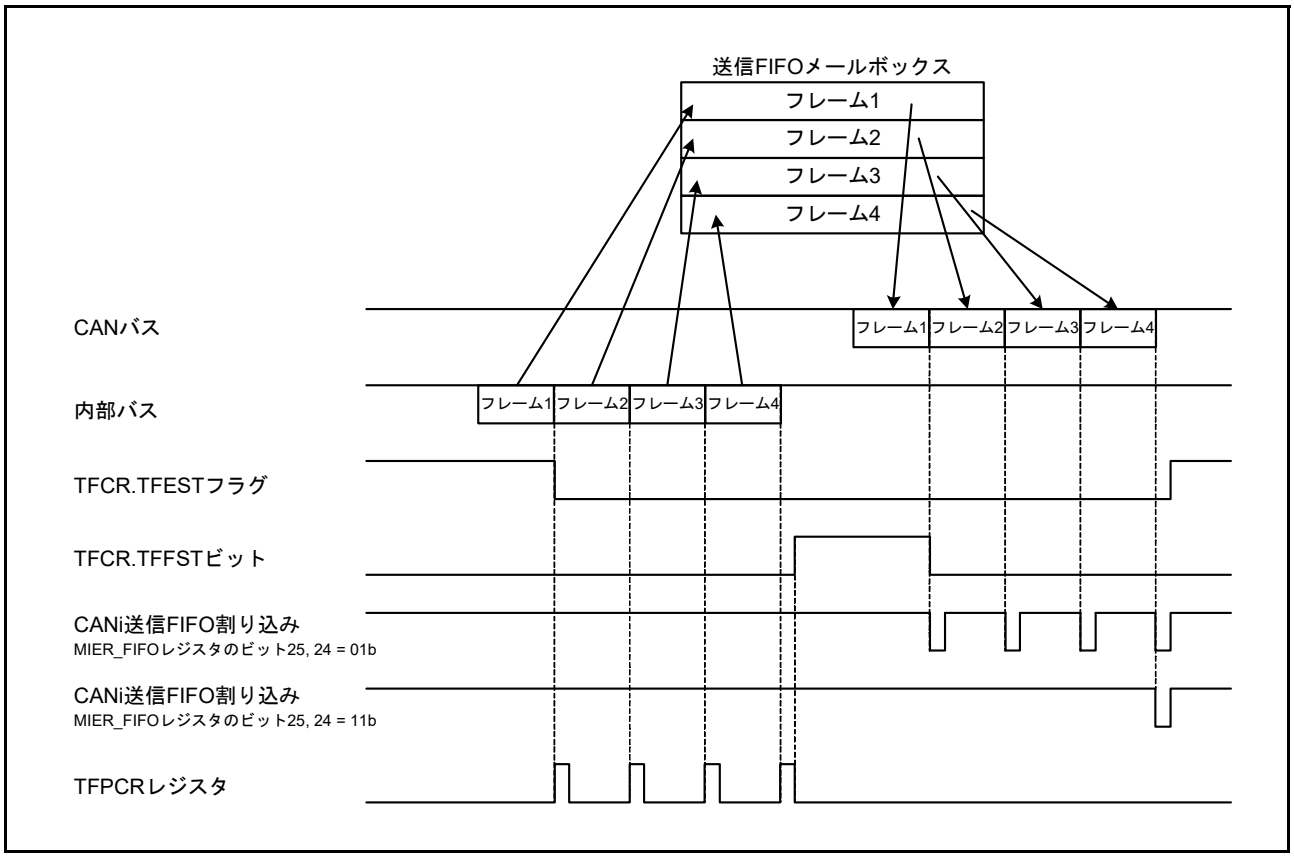


図 33.3 送信 FIFO メールボックスの動作（MIER_FIFO レジスタのビット 25、24 が 01b または 11b のとき）

33.2.14　送信 FIFO ポインタコントロールレジスタ（TFPCR）

アドレス　CAN0.TFPCR 4005 084Bh, CAN1.TFPCR 4005 184Bh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	機能	R/W
b7-b0	TFPCRにFFhを書き込むと、送信FIFOのCPUポインタが増加	W

送信 FIFO がフルでないとき、送信 FIFO の CPU ポインタを増加させて次のメールボックス位置に移動させるには、ソフトウェアで TFPCR レジスタに FFh を書いてください。

TFCR.TFE ビットが 0（送信 FIFO 禁止）のときは、TFPCR レジスタに書かないでください。

33.2.15　ステータスレジスタ（STR）

アドレス　CAN0.STR 4005 0842h, CAN1.STR 4005 1842h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	RECST	TRMST	BOST	EPST	SLPST	HLTST	RSTST	EST	TABST	FMLST	NMLST	TFST	RFST	SDST	NDST
リセット後の値	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	NDST	NEWDATAステータスフラグ	0：NEWDATAビットが1のメールボックスなし 1：NEWDATAビットが1のメールボックスあり	R
b1	SDST	SENTDATAステータスフラグ	0：SENTDATAビットが1のメールボックスなし 1：SENTDATAビットが1のメールボックスあり	R
b2	RFST	受信FIFOステータスフラグ	0：受信FIFOにメッセージなし 1：受信FIFOにメッセージあり	R
b3	TFST	送信FIFOステータスフラグ	0：送信FIFOはフル 1：送信FIFOはフルではない	R
b4	NMLST	通常メールボックスメッセージロストステータスフラグ	0：MSGLOSTビットが1のメールボックスなし 1：MSGLOSTビットが1のメールボックスあり	R
b5	FMLST	FIFOメールボックスメッセージロストステータスフラグ	0：RFMLFビットが0 1：RFMLFビットが1	R
b6	TABST	送信アボートステータスフラグ	0：TRMABTビットが1のメールボックスなし 1：TRMABTビットが1のメールボックスあり	R
b7	EST	エラーステータスフラグ	0：エラー発生なし 1：エラー発生あり	R
b8	RSTST	CANリセットステータスフラグ	0：CANリセットモードではない 1：CANリセットモード	R
b9	HLTST	CAN haltステータスフラグ	0：CAN haltモードではない 1：CAN haltモード	R
b10	SLPST	CANスリープステータスフラグ	0：CANスリープモードではない 1：CANスリープモード	R
b11	EPST	エラーパッシブステータスフラグ	0：エラーパッシブ状態ではない 1：エラーパッシブ状態	R
b12	BOST	バスオフステータスフラグ	0：バスオフ状態ではない 1：バスオフ状態	R
b13	TRMST	送信ステータスフラグ	0：バスアイドルまたは受信中 1：送信中またはモジュールがバスオフ状態	R
b14	RECST	受信ステータスフラグ	0：バスアイドルまたは送信中 1：受信中	R
b15	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

NDST フラグ（NEWDATA ステータスフラグ）

MCTL_RXj.NEWDATA フラグ（j = 0 ～ 31）が 1 つでも 1 であると、MIER または MIER_FIFO の値にかかわらず、NDST フラグは 1 になります。NEWDATA フラグがすべて 0 のとき、0 になります。

SDST フラグ（SENTDATA ステータスフラグ）

MCTL_TXj.SENTDATA フラグ（j = 0 ～ 31）が 1 つでも 1 であると、MIER または MIER_FIFO の値にかかわらず、SDST フラグは 1 になります。SENTDATA フラグがすべて 0 のとき、0 になります。

RFST フラグ（受信 FIFO ステータスフラグ）

RFST フラグは、受信 FIFO が空状態でないとき 1 になります。受信 FIFO が空状態か、または通常メールボックスモードが選択されている場合、0 になります。

TFST フラグ（送信 FIFO ステータスフラグ）

TFST フラグは、送信 FIFO がフルでないとき 1 になります。送信 FIFO がフルか通常メールボックスモードになると 0 になります。

NMLST フラグ（通常メールボックスメッセージロストステータスフラグ）

MCTL_RXj.MSGLOST フラグ（j = 0 ～ 31）が 1 つでも 1 になると、MIER または MIER_FIFO の値にかかわらず、NMLST フラグは 1 になります。MSGLOST フラグがすべて 0 のとき、0 になります。

FMLST フラグ（FIFO メールボックスメッセージロストステータスフラグ）

RFCR.RFMLF フラグが 1 になると、MIER_FIFO の値にかかわらず、FMLST フラグは 1 になります。FMLST フラグは、RFMLF フラグが 0 のとき 0 になります。

TABST フラグ（送信アボートステータスフラグ）

MCTL_TXj.TRMABT フラグ（j = 0 ～ 31）が 1 つでも 1 になると、MIER または MIER_FIFO の値にかかわらず、TABST フラグは 1 になります。TRMABT フラグがすべて 0 のとき、0 になります。

EST フラグ（エラーステータスフラグ）

EIFR レジスタで 1 つでもエラーが検出されると、EIER の値にかかわらず、EST フラグは 1 になります。EIFR レジスタで 1 つもエラーが検出されない場合は 0 になります。

RSTST フラグ（CAN リセットステータスフラグ）

RSTST フラグは、CAN モジュールが CAN リセットモードになると 1 になります。CAN モジュールが CAN リセットモード以外のとき、0 になります。CAN リセットモードからスリープモードへ遷移しても 1 のままです。

HLTST フラグ（CAN halt ステータスフラグ）

HLTST フラグは、CAN モジュールが CAN halt モードになると 1 になります。CAN モジュールが CAN halt モード以外のとき、0 になります。CAN halt モードからスリープモードへ遷移しても 1 のままです。

SLPST フラグ（CAN スリープステータスフラグ）

SLPST フラグは、CAN モジュールが CAN スリープモードになると 1 になります。CAN モジュールが CAN スリープモード以外のとき、0 になります。

EPST フラグ（エラーパッシブステータスフラグ）

TECR または RECR レジスタの値が 127 を超えて、CAN モジュールがエラーパッシブ状態（128 ≦ TEC ＜ 256 または 128 ≦ REC ＜ 256）になると、EPST フラグは 1 になります。CAN モジュールがエラーパッシブ状態以外のとき、0 になります。

BOST フラグ（バスオフステータスフラグ）

TECR レジスタの値が 255 を超えて CAN モジュールがバスオフ状態（TEC ≧ 256）になると、BOST フラグは 1 になります。CAN モジュールがバスオフ状態以外のとき、0 になります。

TRMST フラグ（送信ステータスフラグ）

TRMST フラグは、CAN モジュールが送信ノードとして動作するか、またはバスオフ状態になると 1 になります。CAN モジュールが受信ノードとして動作するか、またはバスアイドル状態になると 0 になります。

RECST フラグ（受信ステータスフラグ）

RECST フラグは、CAN モジュールが受信ノードとして動作すると 1 になります。CAN モジュールが送信ノードとして動作するか、またはバスアイドル状態になると 0 になります。

33.2.16　メールボックスサーチモードレジスタ（MSMR）

アドレス　CAN0.MSMR 4005 0853h, CAN1.MSMR 4005 1853h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	MBSM[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	MBSM[1:0]	メールボックス検索モード選択	b1 b0 0 0：受信メールボックス検索モード 0 1：送信メールボックス検索モード 1 0：メッセージロスト検索モード 1 1：チャネル検索モード	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

MSMR レジスタへの書き込みは、CAN オペレーションモードまたは CAN halt モード時に行ってください。

MBSM[1:0] ビット（メールボックス検索モード選択）

MBSM[1:0] ビットは、メールボックス検索機能の検索モードを選択します。

MBSM[1:0] ビットが 00b の場合、受信メールボックス検索モードになります。このモードでの検索対象は、通常メールボックスでの MCTL_RXj.NEWDATA（j = 0 ～ 31）フラグと、RFCR.RFEST ビットです。

MBSM[1:0] ビットが 01b の場合、送信メールボックス検索モードになります。このモードでの検索対象は、MCTL_TXj.SENTDATA フラグです。

MBSM[1:0] ビットが 10b の場合、メッセージロスト検索モードになります。このモードでの検索対象は、通常メールボックスでの MCTL_RXj.MSGLOST フラグと、RFCR.RFMLF フラグです。

MBSM[1:0] ビットが 11b の場合、チャネル検索モードになります。このモードで検索対象となるレジスタは、CSSR レジスタです。33.2.18　チャネルサーチサポートレジスタ（CSSR）を参照してください。

33.2.17 メールボックスサーチステータスレジスタ（MSSR）

アドレス CAN0.MSSR 4005 0852h, CAN1.MSSR 4005 1852h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	MBNST[4:0]	検索結果メールボックス番号ステータス	MSMRレジスタの各モードで検索された最小メールボックス番号を表示	R
b6-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b7	SEST	検索結果ステータス	0：検索結果あり 1：検索結果なし	R

MBNST[4:0] ビット（検索結果メールボックス番号ステータス）

MBNST[4:0] ビットは、すべての MSMR モードで検索された最小のメールボックス番号を出力します。受信メールボックス検索モード、送信メールボックス検索モード、およびメッセージロスト検索モードでは、メールボックスの値（検索結果出力）が次の場合に更新されます。

- MBNST ビットで出力されたメールボックスの NEWDATA、SENTDATA、または MSGLOST フラグが 0 の場合
- MBNST ビットより小さな番号のメールボックスの NEWDATA、SENTDATA、または MSGLOST フラグが 1 の場合

MBSM[1:0] ビットが 00b（受信メールボックス検索モード）または 10b（メッセージロスト検索モード）の場合、受信 FIFO（メールボックス 28）が空状態ではなく、すべての通常メールボックス（メールボックス 0 ～ 23）に未読の受信メッセージもロストメッセージもないと、受信 FIFO が出力されます。MBSM[1:0] ビットが 01b（送信メールボックス検索モード）の場合、送信 FIFO（メールボックス 24）は出力されません。表 33.6 に、FIFO メールボックスモードでの MBNST[4:0] ビットの動作を示します。

チャネル検索モードでは、MBNST[4:0] ビットは対応するチャネル番号を出力します。MSSR レジスタがソフトウェアで読み出された後に、次のターゲットチャネル番号が出力されます。

SEST ビット（検索結果ステータス）

すべてのメールボックスの検索で対応するメールボックスがない場合、SEST ビットは 1（検索結果なし）になります。たとえば送信メールボックス検索モードで、該当するすべてのメールボックスの SENTDATA フラグが 1 以外の場合は、SEST ビットが 1 になります。少なくとも 1 つの SENTDATA フラグが 1 のとき、SEST ビットは 0 になります。SEST ビットが 1 の場合、MBNST[4:0] ビットの値は不定です。

表 33.6　FIFOメールボックスモードでのMBNST[4:0]ビットの動作

MBSM[1:0]ビット	メールボックス24（送信FIFO）	メールボックス28（受信FIFO）
00b	メールボックス24は表示されない	通常メールボックスのどのMCTL_RXj.NEWDATAフラグも1（新しいメッセージがメールボックスに格納中または格納済み）ではなく、かつ受信FIFOが空状態でない場合、メールボックス28が表示される
01b		メールボックス28は表示されない
10b		通常メールボックスのどのMCTL_RXj.MSGLOSTフラグも1（メッセージのオーバーライトまたはオーバーランあり）ではなく、かつ受信FIFOのRFCR.RFMLFフラグが1（受信FIFOメッセージロスト発生）になった場合、メールボックス28が表示される
11b		メールボックス28は表示されない

33.2.18 チャネルサーチサポートレジスタ（CSSR）

アドレス CAN0.CSSR 4005 0851h, CAN1.CSSR 4005 1851h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	機能	R/W
b7-b0	チャネル検索の値が入力された場合、チャネル番号をMSSRレジスタに出力	R/W

1 になった CSSR レジスタのビットは、8/3 エンコーダ（最小ビット位置がより高い優先順位）によってエンコードされ、MSSR.MBNST[4:0] ビットに出力されます。MSSR レジスタは、MSSR レジスタをソフトウェアで読み出すたびに更新された値が表示されます。

なお、CSSR レジスタは、MSMR.MBSM[1:0] ビットが 11b（チャネル検索モード）のときのみ変更してください。また、CSSR レジスタへの書き込みは、CAN オペレーションモードまたは CAN halt モード時に行ってください。

図 33.4 に、CSSR および MSSR レジスタに対する書き込みと読み出しについて示します。

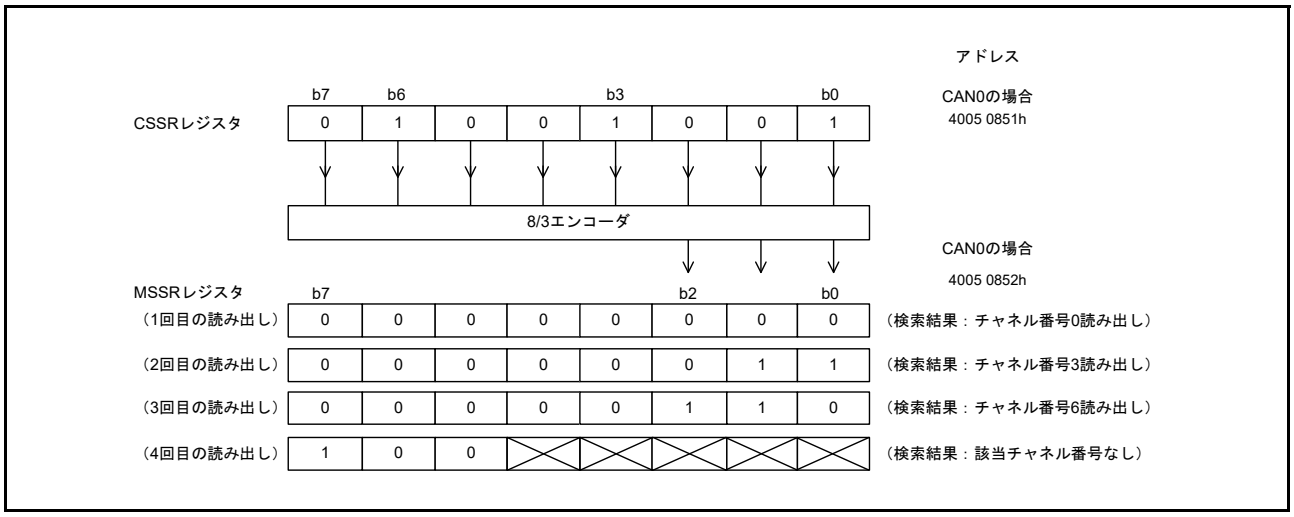


図 33.4　CSSR および MSSR レジスタに対する書き込みと読み出し

CSSR レジスタの値も MSSR レジスタを読み出すたびに更新されます。読んだ場合、8/3 エンコーダ変換前の値が読めます。

33.2.19 アクセプタンスフィルタサポートレジスタ（AFSR）

アドレス CAN0.AFSR 4005 0856h, CAN1.AFSR 4005 1856h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	機能	R/W
b15-b0	受信メッセージの標準 ID を書いた後に、データテーブル検索用に変換された値が読める	R/W

注．　AFSR レジスタへの書き込みは、CAN オペレーションモードまたは CAN halt モード時に行ってください。

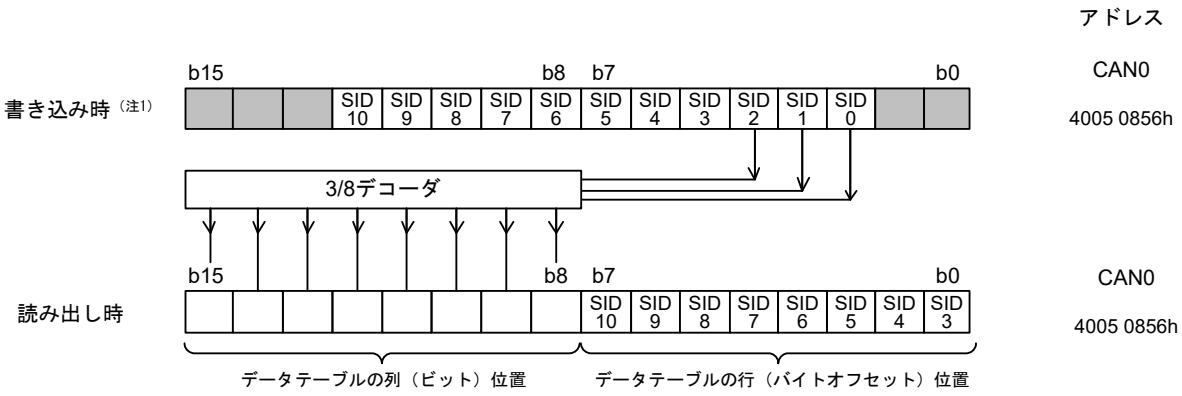
アクセプタンスフィルタサポートユニット（ASU）が、データテーブル（8 ビット × 256）の検索に使用可能です。このデータテーブルには、ユーザにより作成されたすべての標準 ID の有効／無効が 1 ビット単位で設定されています。受信した標準 ID が格納された MBj_ID.SID[10:0] ビット（j = 0 ～ 31）を含む 16 ビット単位のデータを AFSR に書き込むと、デコードされたデータテーブル検索用の行（バイトオフセット）位置と、列（ビット）位置が読み出せます。ASU は、標準（11 ビット）ID にのみ使用できます。

ASU は、次の場合に有効です。

- 受信する ID がアクセプタンスフィルタでマスクできない場合。
  たとえば、受信する ID が 078h、087h、111h の場合
- 受信する ID が多すぎるため、ソフトウェアによるフィルタリング処理時間を短縮したい場合

注．　AFSR レジスタは、CAN リセットモードでは設定できません。

図 33.5 に、AFSR レジスタに対する書き込みと読み出しについて示します。



注 1.　MBj_ID（j = 0 ～ 31）レジスタの SID[10:0] ビットを含む 16 ビット単位のデータと同じ値を書き込みます。

図 33.5　AFSR レジスタに対する書き込みと読み出し

33.2.20 エラー割り込みイネーブルレジスタ（EIER）

アドレス CAN0.EIER 4005 084Ch, CAN1.EIER 4005 184Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	BLIE	OLIE	ORIE	BORIE	BOEIE	EPIE	EWIE	BEIE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	BEIE	バスエラー割り込み許可	0：割り込み禁止 1：割り込み許可	R/W
b1	EWIE	エラーワーニング割り込み許可	0：割り込み禁止 1：割り込み許可	R/W
b2	EPIE	エラーパッシブ割り込み許可	0：割り込み禁止 1：割り込み許可	R/W
b3	BOEIE	バスオフ開始割り込み許可	0：割り込み禁止 1：割り込み許可	R/W
b4	BORIE	バスオフ復帰割り込み許可	0：割り込み禁止 1：割り込み許可	R/W
b5	ORIE	オーバーラン割り込み許可	0：割り込み禁止 1：割り込み許可	R/W
b6	OLIE	オーバーロードフレーム送信割り込み許可	0：割り込み禁止 1：割り込み許可	R/W
b7	BLIE	バスロック割り込み許可	0：割り込み禁止 1：割り込み許可	R/W

EIER レジスタは、EIFR レジスタの個々のエラー割り込み要因を許可または禁止するためのレジスタです。EIER レジスタへの書き込みは、CAN リセットモード時に行ってください。

BEIE ビット（バスエラー割り込み許可）

BEIE ビットが 0 の場合、EIFR.BEIF フラグが 1 であっても、エラー割り込み要求は発生しません。BEIE ビットが 1 の場合、BEIF フラグが 1 になると、エラー割り込み要求が発生します。

EWIE ビット（エラーワーニング割り込み許可）

EWIE ビットが 0 の場合、EIFR.EWIF フラグが 1 であっても、エラー割り込み要求は発生しません。EWIE ビットが 1 の場合、EWIF フラグが 1 になると、エラー割り込み要求が発生します。

EPIE ビット（エラーパッシブ割り込み許可）

EPIE ビットが 0 の場合、EIFR.EPIF フラグが 1 であっても、エラー割り込み要求は発生しません。EPIE ビットが 1 の場合、EPIF フラグが 1 になると、エラー割り込み要求が発生します。

BOEIE ビット（バスオフ開始割り込み許可）

BOEIE ビットが 0 の場合、EIFR.BOEIF フラグが 1 であっても、エラー割り込み要求は発生しません。BOEIE ビットが 1 の場合、BOEIF フラグが 1 になると、エラー割り込み要求が発生します。

BORIE ビット（バスオフ復帰割り込み許可）

BORIE ビットが 0 の場合、EIFR.BORIF フラグが 1 であっても、エラー割り込み要求は発生しません。BORIE ビットが 1 の場合、BORIF フラグが 1 になると、エラー割り込み要求が発生します。

ORIE ビット（オーバーラン割り込み許可）

ORIE ビットが 0 の場合、EIFR.ORIF フラグが 1 であっても、エラー割り込み要求は発生しません。ORIE ビットが 1 の場合、ORIF フラグが 1 になると、エラー割り込み要求が発生します。

OLIE ビット（オーバーロードフレーム送信割り込み許可）

OLIE ビットが 0 の場合、EIFR.OLIF フラグが 1 であっても、エラー割り込み要求は発生しません。OLIE ビットが 1 の場合、OLIF フラグが 1 になると、エラー割り込み要求が発生します。

BLIE ビット（バスロック割り込み許可）

BLIE ビットが 0 の場合、EIFR.BLIF フラグが 1 であっても、エラー割り込み要求は発生しません。BLIE ビットが 1 の場合、BLIF フラグが 1 になると、エラー割り込み要求が発生します。

33.2.21　エラー割り込み要因判定レジスタ（EIFR）

アドレス　CAN0.EIFR 4005 084Dh, CAN1.EIFR 4005 184Dh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	BLIF	OLIF	ORIF	BORIF	BOEIF	EPIF	EWIF	BEIF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	BEIF	バスエラー検出フラグ	0：バスエラー未検出 1：バスエラー検出	R/W
b1	EWIF	エラーワーニング検出フラグ	0：エラーワーニング未検出 1：エラーワーニング検出	R/W
b2	EPIF	エラーパッシブ検出フラグ	0：エラーパッシブ未検出 1：エラーパッシブ検出	R/W
b3	BOEIF	バスオフ開始検出フラグ	0：バスオフ開始未検出 1：バスオフ開始検出	R/W
b4	BORIF	バスオフ復帰検出フラグ	0：バスオフ復帰未検出 1：バスオフ復帰検出	R/W
b5	ORIF	受信オーバーラン検出フラグ	0：受信オーバーラン未検出 1：受信オーバーラン検出	R/W
b6	OLIF	オーバーロードフレーム送信検出フラグ	0：オーバーロードフレーム送信未検出 1：オーバーロードフレーム送信検出	R/W
b7	BLIF	バスロック検出フラグ	0：バスロック未検出 1：バスロック検出	R/W

これらのビットの 1 つに対応したイベントが発生すると、EIER レジスタの設定にかかわらず、EIFR レジスタの対応するビットが 1 になります。

これらのビットは、ソフトウェア書き込みで 0 にしてください。ソフトウェアによるクリアと同時にビットが 1 になると、そのビットは 1 になります。個々のビットをソフトウェアで 0 にする場合、転送（MOV）命令を使用して、必ず指定されたビットのみを 0 にし、その他のビットは 1 にしてください。1 を書いてもこれらのビットの値は変化しません。

BEIF フラグ（バスエラー検出フラグ）

バスエラーが検出されると、BEIF フラグは 1 になります。

EWIF フラグ（エラーワーニング検出フラグ）

受信エラーカウンタ（REC）または送信エラーカウンタ（TEC）の値が 95 を超えると、EWIF フラグは 1 になります。REC または TEC が最初に 95 を超えたときのみ 1 になります。REC または TEC が 95 を超えたまま、EWIF フラグにソフトウェアで 0 を書いた場合、REC または TEC が 95 以下になった後、再び 95 を超えるまで、EWIF フラグは 1 にはなりません。

EPIF フラグ（エラーパッシブ検出フラグ）

CAN エラーの状態がエラーパッシブになったとき、受信エラーカウンタ（REC）または送信エラーカウンタ（TEC）の値が 127 を超えると、EPIF フラグは 1 になります。REC または TEC が最初に 127 を超えたときのみ 1 になります。REC または TEC が 127 を超えたまま、EPIF フラグにソフトウェアで 0 を書いた場合、REC または TEC が 127 以下になった後、再び 127 を超えるまで、本フラグは 1 にはなりません。

BOEIF フラグ（バスオフ開始検出フラグ）

CAN エラーステートがバスオフ状態で、送信エラーカウンタ（TEC）の値が 255 を超えると、BOEIF フラグは 1 になります。CTLR レジスタの BOM[1:0] ビットが 01b（バスオフ開始で自動的に CAN halt モードへ遷移）で、CAN モジュールがバスオフ状態になった場合も 1 になります。

BORIF フラグ（バスオフ復帰検出フラグ）

CAN モジュールが、下記の条件下でバスオフ状態から通常復帰（11 の連続するレセシブビットを 128 回検出）した場合、BORIF フラグは 1 になります。

- CTLR.BOM[1:0] ビットが 00b の場合
- CTLR.BOM[1:0] ビットが 10b の場合
- CTLR.BOM[1:0] ビットが 11b の場合

ただし、CAN モジュールが、下記の条件下でバスオフ状態から復帰した場合、BORIF フラグは 1 になりません。

- CTLR.CANM[1:0] ビットが 01b または 11b（CAN リセットモード）の場合
- CTLR.RBOC ビットが 1（バスオフからの強制復帰）の場合
- CTLR.BOM[1:0] ビットが 01b の場合
- CTLR.BOM[1:0] ビットが 11b で、通常復帰が発生する前に、CTLR.CANM[1:0] ビットを 10b（CAN halt モード）にした場合

表 33.7 に、CTLR.BOM[1:0] ビットの設定値ごとの BOEIF および BORIF フラグの動作を示します。

表 33.7　CTLR.BOM[1:0]の設定値ごとのBOEIF、BORIF フラグの動作

BOM[1:0] ビット	BOEIF ビット	BORIF ビット
00b	バスオフ状態への遷移時に1になる	バスオフ状態からの復帰時に1になる
01b		1にはならない
10b		バスオフ状態からの復帰時に1になる
11b		CANM[1:0]ビットが10b（CAN haltモード）になる前に、通常のバスオフ状態からの復帰が発生した場合1になる

ORIF フラグ（受信オーバーラン検出フラグ）

ORIF フラグは、受信オーバーランが発生すると 1 になります。オーバーライトモードでは 1 になりません。オーバーライトモードでは、オーバーライト条件が発生すると受信完了割り込み要求が発生し、ORIF ビットは 1 になりません。

通常メールボックスモードの場合、オーバーランモードでは、メールボックス 0 ～ 31 のいずれかでオーバーランが発生すると、本フラグが 1 になります。FIFO メールボックスモードの場合、オーバーランモードで、メールボックス 0 ～ 23 のいずれかまたは受信 FIFO でオーバーランが発生すると、本ビットは 1 になります。

OLIF フラグ（オーバーロードフレーム送信検出フラグ）

CAN モジュールが送信または受信動作中であるとき、オーバーロードフレームの送信条件が検出されると、OLIF フラグは 1 になります。

BLIF フラグ（バスロック検出フラグ）

CAN モジュールが CAN オペレーションモードのとき、CAN バス上に 32 の連続するドミナントビットが検出されると、BLIF フラグは 1 になります。

BLIF フラグが 1 になった後、次のいずれかの条件下では、32 の連続するドミナントビットが再検出されます。

- 本フラグが 1 から 0 に変化した後、レセシブビットが検出された場合
- 本フラグが 1 から 0 に変化した後、CAN モジュールが CAN リセットモードまたは CAN halt モードになり、その後、再び CAN オペレーションモードになった場合

33.2.22　受信エラーカウントレジスタ（RECR）

アドレス　CAN0.RECR 4005 084Eh, CAN1.RECR 4005 184Eh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	機能	R/W
b7-b0	受信エラーカウント機能 受信中のCANモジュールのエラー状態に基づいて、RECRはカウンタ値をインクリメントまたはデクリメント	R

RECR レジスタは、受信エラーカウンタの値を示します。受信エラーカウンタの増減条件については、CAN 仕様（ISO11898-1）を参照してください。バスオフ状態時の RECR レジスタの値は不定になります。

33.2.23　送信エラーカウントレジスタ（TECR）

アドレス　CAN0.TECR 4005 084Fh, CAN1.TECR 4005 184Fh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	機能	R/W
b7-b0	送信エラーカウント機能 送信中のCANモジュールのエラー状態に基づいて、TECRはカウンタ値をインクリメントまたはデクリメント	R

TECR レジスタは、送信エラーカウンタの値を示します。送信エラーカウンタの増減条件については、CAN 仕様（ISO11898-1）を参照してください。バスオフ状態時の TECR レジスタの値は不定になります。

33.2.24　エラーコード格納レジスタ（ECSR）

アドレス　CAN0.ECSR 4005 0850h, CAN1.ECSR 4005 1850h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	EDPM	ADEF	BE0F	BE1F	CEF	AEF	FEF	SEF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SEF	スタッフエラーフラグ（注1）（注2）	0：スタッフエラー未検出 1：スタッフエラー検出	R/W
b1	FEF	フォームエラーフラグ（注1）（注2）	0：フォームエラー未検出 1：フォームエラー検出	R/W
b2	AEF	ACKエラーフラグ（注1）（注2）	0：ACKエラー未検出 1：ACKエラー検出	R/W
b3	CEF	CRCエラーフラグ（注1）（注2）	0：CRCエラー未検出 1：CRCエラー検出	R/W
b4	BE1F	ビットエラー（レセシブ）フラグ（注1）（注2）	0：ビットエラー（レセシブ）未検出 1：ビットエラー（レセシブ）検出	R/W
b5	BE0F	ビットエラー（ドミナント）フラグ（注1）（注2）	0：ビットエラー（ドミナント）未検出 1：ビットエラー（ドミナント）検出	R/W
b6	ADEF	ACKデリミタエラーフラグ（注1）（注2）	0：ACKデリミタエラー未検出 1：ACKデリミタエラー検出	R/W
b7	EDPM	エラー表示モード選択（注3）（注4）	0：最初に検出されたエラーコードを出力 1：蓄積したエラーコードを出力	R/W

注 1.　1 を書いても、これらのビットの値は影響されません。
注 2.　SEF、FEF、AEF、CEF、BE1F、BE0F、ADEF ビットに 0 を書く場合は、転送（MOV）命令を使用して、必ず指定されたビットのみを 0 にし、その他のビットは 1 にしてください。
注 3.　EDPM ビットへの書き込みは、CAN リセットモードまたは CAN halt モード時に行ってください。
注 4.　同時に 2 つ以上のエラー条件が検出された場合は、関係するすべてのビットが 1 になります。

ECSR レジスタは、CAN バス上のエラー発生の有無を示します。各エラーの発生条件については、CAN 仕様（ISO11898-1）を参照してください。

ソフトウェア書き込みで EDPM ビット以外のビットをすべて 0 にしてください。ソフトウェアによるクリアの実行と同時にビットを 1 にすると、そのビットは 1 になります。

SEF フラグ（スタッフエラーフラグ）

スタッフエラーが検出されると、SEF フラグは 1 になります。

FEF フラグ（フォームエラーフラグ）

フォームエラーが検出されると、FEF フラグは 1 になります。

AEF フラグ（ACK エラーフラグ）

ACK エラーが検出されると、AEF フラグは 1 になります。

CEF フラグ（CRC エラーフラグ）

CRC エラーが検出されると、CEF フラグは 1 になります。

BE1F フラグ（ビットエラー（レセシブ）フラグ）

レセシブビットエラーが検出されると、BE1F フラグは 1 になります。

BE0F フラグ（ビットエラー（ドミナント）フラグ）

ドミナントビットエラーが検出されると、BE0F フラグは 1 になります。

ADEF フラグ（ACK デリミタエラーフラグ）

送信中に ACK デリミタでフォームエラーが検出されると、ADEF フラグは 1 になります。

EDPM ビット（エラー表示モード選択）

EDPM ビットは、ECSR レジスタの出力モードを選択します。EDPM ビットを 0 にすると、ECSR レジスタは最初のエラーコードを出力します。EDPM ビットを 1 にすると、ECSR レジスタは蓄積したエラーコードを出力します。

33.2.25　タイムスタンプレジスタ（TSR）

アドレス　CAN0.TSR 4005 0854h, CAN1.TSR 4005 1854h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	機能	R/W
b15-b0	タイムスタンプ機能のためのフリーランカウンタ値	R

注 .　TSR レジスタの読み出しは 16 ビット単位で実行してください。

TSR レジスタを読むと、その時点のタイムスタンプカウンタ（16 ビットフリーランカウンタ）の値が読み出せます。タイムスタンプカウンタの基準クロックは、CTLR.TSPS[1:0] ビットで設定します。カウンタは、CAN スリープモードおよび CAN halt モードで停止し、CAN リセットモードで初期化されます。カウンタの値は、受信メッセージが受信メールボックスに格納されるとき、MBj_TS レジスタの TSL[7:0] ビットと TSH[7:0] ビットに格納されます。

33.2.26　テストコントロールレジスタ（TCR）

アドレス　CAN0.TCR 4005 0858h, CAN1.TCR 4005 1858h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	TSTM[1:0]		TSTE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TSTE	CANテストモード許可	0：CANテストモード禁止 1：CANテストモード許可	R/W
b2-b1	TSTM[1:0]	CANテストモード選択	b2　b1 0　0：CANテストモードではない 0　1：リッスンオンリモード 1　0：セルフテストモード0（外部ループバック） 1　1：セルフテストモード1（内部ループバック）	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

TCR レジスタは、CAN テストモードの制御を行います。TCR レジスタは、CAN halt モード時のみ変更してください。

(1)　リッスンオンリモード

CAN 仕様（ISO11898-1）では、オプションのバスモニタモードが推奨されています。リッスンオンリモードでは、有効なデータフレームとリモートフレームを受信できます。ただし、CAN バスではレセシブビットのみが送信可能であり、ACK ビット、オーバーロードフラグ、アクティブエラーフラグは送信できません。リッスンオンリモードは、ボーレート検出に使用できます。リッスンオンリモードでは、どのメールボックスからも送信要求を行わないでください。

図 33.6 にリッスンオンリモード選択時の接続を示します。

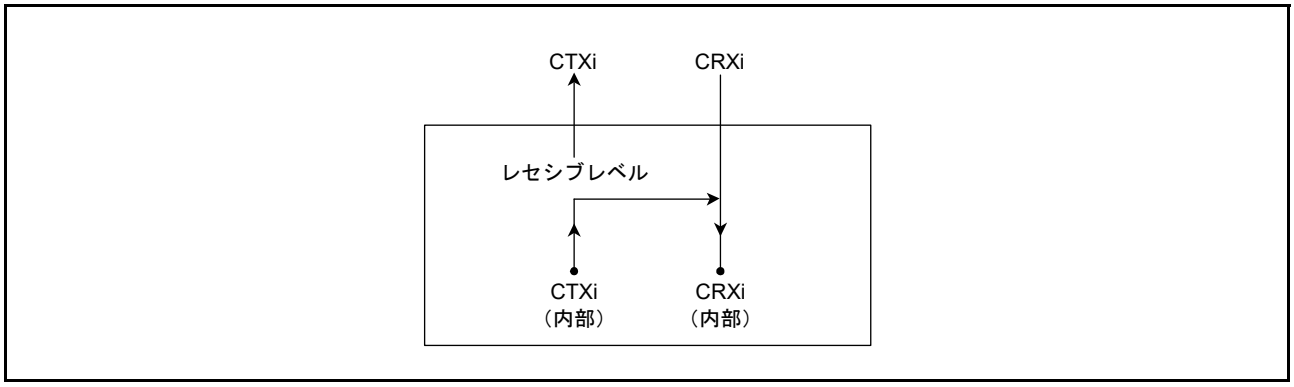


図 33.6　リッスンオンリモード選択時の接続（i = 0, 1）

(2)　セルフテストモード 0（外部ループバック）

セルフテストモード 0 は、CAN トランシーバテスト用です。このモードでは、プロトコルモジュールは、送信したメッセージを CAN トランシーバ経由で受信したメッセージとして取り扱い、送信したメッセージを受信メールボックスに格納します。外部の刺激に影響されないようにするため、プロトコルモジュールは ACK ビットを生成します。CTXi および CRXi 端子はトランシーバに接続してください。

図 33.7 にセルフテストモード 0 選択時の接続を示します。

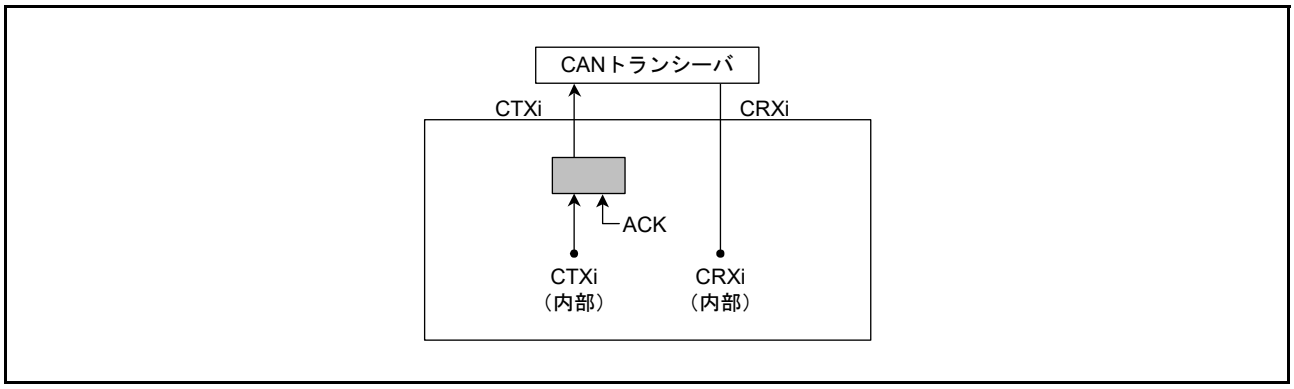


図 33.7　セルフテストモード 0 選択時の接続（i = 0, 1）

(3)　セルフテストモード 1（内部ループバック）

セルフテストモード 1 は、セルフテスト機能用です。セルフテストモード 1 では、プロトコルコントローラは送信したメッセージを受信したメッセージとして取り扱い、送信したメッセージを受信メールボックスに格納します。外部の刺激に影響されないようにするため、プロトコルコントローラは ACK ビットを生成します。

セルフテストモード 1 では、内部 CTXi 端子から内部 CRXi 端子への内部フィードバックを行います。外部 CRXi 端子の入力値は無視されます。外部 CTXi 端子はレセシブビットのみを出力します。CTXi および CRXi 端子は、CAN バスや他のどの外部デバイスにも接続する必要がありません。

図 33.8 にセルフテストモード 1 選択時の接続を示します。

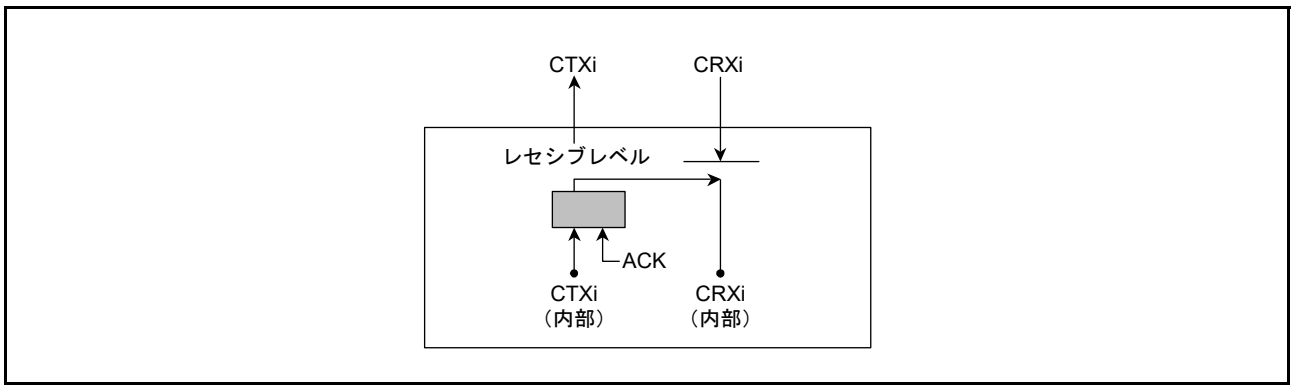


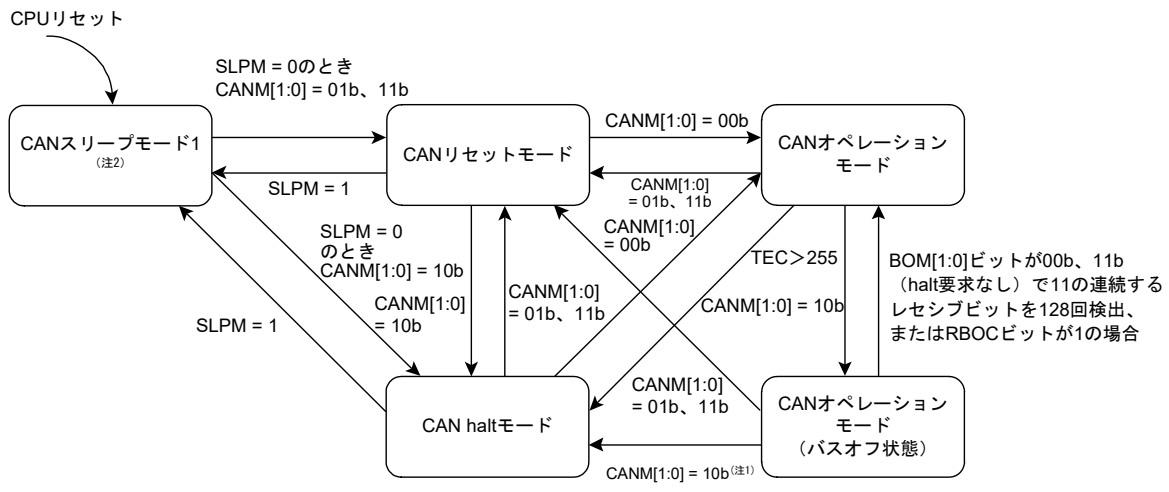
図 33.8　セルフテストモード 1 選択時の接続（i = 0, 1）

33.3 動作モード

CAN モジュールには以下の動作モードがあります。

- CAN リセットモード
- CAN halt モード
- CAN オペレーションモード
- CAN スリープモード

図 33.9 に、動作モード間の遷移を示します。



CANM、SLPM、BOM、RBOC: CTLRレジスタのビット

注 1. バスオフ状態から CAN Halt モードへの送信タイミングは、CTLR.BOM[1:0] ビットの設定に依存します。
CTLR.BOM[1:0] ビットが 01b のとき、状態遷移のタイミングはバスオフ状態への遷移直後になります。
CTLR.BOM[1:0] ビットが 10b のとき、状態遷移のタイミングはバスオフ状態終了時になります。
CTLR.BOM[1:0] ビットが 11b のとき、状態遷移のタイミングは CTLR.CANM[1:0] ビットが 10b（CAN Halt モード）の設定時になります。

注 2. CAN スリープモードを設定／解除する場合は、CTLR.SLPM ビットを変更してください。

図 33.9 各動作モード間の遷移

33.3.1 CAN リセットモード

CAN リセットモードは、CAN 通信を設定するためのモードです。CTLR.CANM[1:0] ビットを 01b または 11b にすると、CAN モジュールは CAN リセットモードになります。そのとき、STR.RSTST フラグが 1 になります。RSTST フラグが 1 になるまで、CTLR.CANM[1:0] ビットを変更しないでください。CAN リセットモードから他のモードへ遷移する前に、BCR レジスタを設定してください。

以下のレジスタは、CAN リセットモードへ遷移すると、それぞれのリセット後の値に初期化され、CAN リセットモード中はその初期値を保持します。

- MCTL_TXj、MCTL_RXj
- STR（SLPST ビットと TFST ビットを除く）
- EIFR
- RECR
- TECR
- TSR
- MSSR
- MSMR
- RFCR
- TFCR
- TCR
- ECSR（EDPM ビットを除く）

以下のレジスタは、CAN リセットモードへ遷移後も以前の値を保持します。

- CTLR
- STR（SLPST ビットと TFST ビットのみ）
- MIER および MIER_FIFO
- EIER
- BCR
- CSSR
- ECSR（EDPM ビットのみ）
- MBj_ID、MBj_DL、MBj_Dm、MBj_TS
- MKRk
- FIDCR0 および FIDCR1
- MKIVLR
- AFSR
- RFPCR
- TFPCR

33.3.2 CAN halt モード

CAN halt モードは、メールボックスの設定とテストモードの設定のためのモードです。CTLR.CANM[1:0] ビットを 10b にすると、CAN halt モードになります。そのとき、STR.HLTST ビットが 1 になります。HLTST ビットが 1 になるまで、CTLR.CANM[1:0] ビットを変更しないでください。送信または受信時の状態遷移条件については、表 33.8 を参照してください。

CAN halt モードへの遷移では、STR レジスタの RSTST、HLTST、および SLPST ビット以外、すべてのレジスタは変化しません。CAN halt モードでは、CTLR レジスタ（CANM[1:0] ビットおよび SLPM ビットを除く）および EIER レジスタを変更しないでください。自動ボーレート検出のためにリッスンオンリモードを選択している場合のみ、CAN halt モードで BCR レジスタを変更できます。

表 33.8　CAN リセットモードと CAN halt モードでの動作

動作モード	受信	送信	バスオフ
CAN リセットモード（強制遷移） CANM[1:0] = 11b	CAN モジュールはメッセージ受信の終了を待たずに CAN リセットモードへ遷移	CAN モジュールはメッセージ送信の終了を待たずに CAN リセットモードへ遷移	CAN モジュールはバスオフ復帰の終了を待たずに CAN リセットモードへ遷移
CAN リセットモード CANM[1:0] = 01b	CAN モジュールはメッセージ受信の終了を待たずに CAN リセットモードへ遷移	CAN モジュールはメッセージ送信の終了を待って CAN リセットモードへ遷移 （注 1）（注 4）	CAN モジュールはバスオフ復帰の終了を待たずに CAN リセットモードへ遷移
CAN halt モード	CAN モジュールはメッセージ受信の終了を待って CAN halt モードへ遷移（注 2）（注 3）	CAN モジュールはメッセージ送信の終了を待って CAN halt モードへ遷移（注 1）（注 4）	• BOM[1:0] ビットが 00b のとき：バスオフ復帰後のみ、ソフトウェアからの Halt 要求を受け付ける • BOM[1:0] ビットが 01b のとき：CAN モジュールは、ソフトウェアからの Halt 要求とは無関係に、バスオフ復帰の終了を待たずに自動的に CAN halt モードへ遷移 • BOM[1:0] ビットが 10b のとき：CAN モジュールは、ソフトウェアからの Halt 要求とは無関係に、バスオフ復帰の終了を待って自動的に CAN halt モードへ遷移 • BOM[1:0] ビットが 11b のとき：CAN モジュールは、バスオフ中にソフトウェアによる Halt 要求があると、バスオフ復帰の終了を待たずに CAN halt モードへ遷移

BOM[1:0] ビット：CTLR レジスタのビット

注 1.　複数メッセージの送信要求があると、最初の送信完了時にモード遷移が発生します。送信のサスペンド中に CAN リセットモードが要求されている状態では、バスアイドルになったとき、次の送信が終了したとき、または CAN モジュールがレシーバになったときに、モード遷移が発生します。

注 2.　CAN バスがドミナントレベルでロックされた場合、EIFR レジスタの BLIF フラグをモニタすると、プログラムはバスロック状態を検出できます。

注 3.　CAN halt モードが要求された後、受信中に CAN バスエラーが発生すると、CAN モジュールは CAN halt モードへ遷移します。

注 4.　CAN リセットモードまたは CAN halt モードが要求された後、送信中に CAN バスエラーまたはアービトレーションロストが発生すると、CAN モジュールは要求された CAN モードへ遷移します。

33.3.3 CAN スリープモード

CAN スリープモードは、CAN モジュールへのクロック供給を停止することで、消費電力を削減します。MCU の端子リセットまたはソフトウェアリセット後、CAN モジュールは、CAN スリープモードから動作を開始します。

CTLR.SLPM ビットを 1 にすると、CAN モジュールは CAN スリープモードへ遷移します。そのとき、STR レジスタの SLPST ビットが 1 になります。SLPST ビットが 1 になるまで、SLPM ビットの値を変更しないでください。CAN モジュールが CAN スリープモードへ遷移しても、他のレジスタが変化することはありません。

SLPM ビットへの書き込みは、CAN リセットモードおよび CAN halt モード時に行ってください。CAN スリープモード時には、どのレジスタも変更しないでください（SLPM ビットは除く）。ただし、読み出し動作は許可されます。

SLPM ビットを 0 にすると、CAN スリープモードから解除されます。CAN モジュールが CAN スリープモードから復帰しても、他のレジスタが変化することはありません。

33.3.4 CAN オペレーションモード（バスオフ状態以外）

CAN オペレーションモードは、CAN 通信を行うためのモードです。CTLR.CANM[1:0] ビットを 00b にすると、CAN モジュールは CAN オペレーションモードになります。そのとき、STR レジスタの RSTST ビットと HLTST ビットが 0 になります。RSTST ビットと HLTST ビットが 0 になるまで、CANM[1:0] ビットの値を変更しないでください。

CAN オペレーションモードへ遷移後、11 の連続するレセシブビットが検出されると、以下の状態になります。

- CAN モジュールは、ネットワーク上でアクティブノードとなり、CAN メッセージの送受信が可能になる
- 受信エラーカウンタや送信エラーカウンタなど、CAN バスのエラー監視処理が行われる

CAN モジュールは、CAN バスの状態によって、CAN オペレーションモード中に、次の 3 つのいずれかのサブモードになります。

- アイドルモード：送受信は行われない
- 受信モード：他のノードが送信した CAN メッセージを受信中
- 送信モード：CAN メッセージを送信中。セルフテストモード 0（TCR.TSTM[1:0] = 10b）またはセルフテストモード 1（TCR.TSTM[1:0] = 11b）を選択した場合、CAN モジュールは同時に自ノードが送信したメッセージを受信する

図 33.10 に CAN オペレーションモードのサブモードを示します。

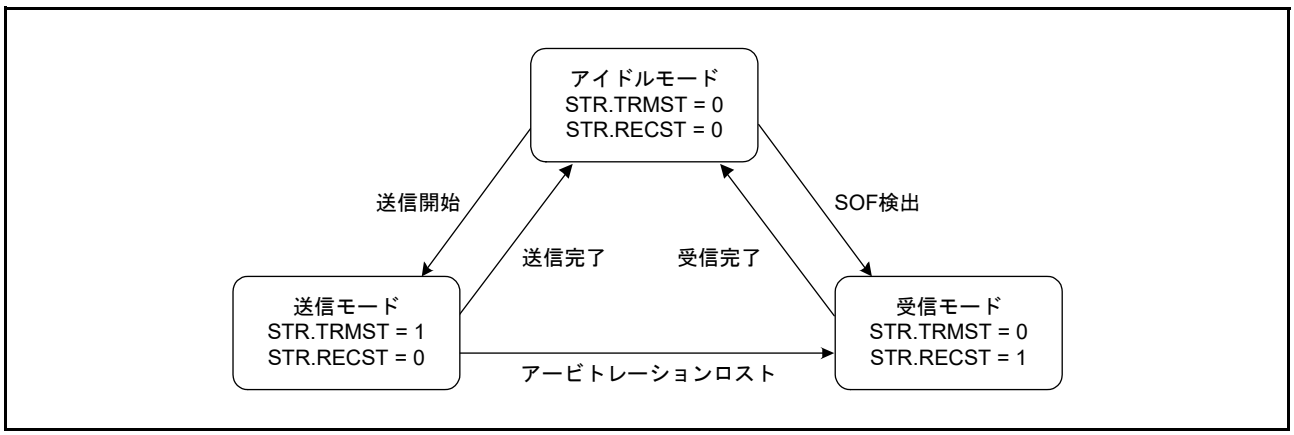


図 33.10　CAN オペレーションモードのサブモード

33.3.5　CAN オペレーションモード（バスオフ状態）

CAN 仕様に定められた送信または受信エラーカウンタの増減ルールに従って、CAN モジュールはバスオフ状態へ遷移します。CAN モジュールがバスオフ状態から復帰するとき、下記のケースがあります。CAN モジュールがバスオフ状態のとき、STR、EIFR、RECR、TECR、TSR を除いて、CAN 関連レジスタの値は変化しません。

(1)　CTLR.BOM[1:0] = 00b（通常モード）の場合

CAN モジュールは、バスオフ状態からの復帰を完了すると、エラーアクティブ状態となり、CAN 通信が可能になります。このとき、EIFR レジスタの BORIF フラグが 1（バスオフ復帰検出）になります。

(2)　CTLR.RBOC = 1（バスオフ強制復帰）の場合

CAN モジュールは、バスオフ状態時に RBOC ビットが 1 であると、エラーアクティブ状態になります。11 の連続するレセシブビットを検出した後、再び CAN 通信が可能になります。このとき、BORIF フラグは 1 になりません。

(3)　CTLR.BOM[1:0] = 01b（バスオフ開始で自動的に CAN halt モードへ遷移）の場合

CAN モジュールは、バスオフ状態に達したとき、CAN halt モードになります。このとき、BORIF フラグは 1 になりません。

(4)　CTLR.BOM[1:0] = 10b（バスオフ終了で自動的に CAN halt モードへ遷移）の場合

CAN モジュールは、バスオフからの復帰を完了すると、CAN halt モードになります。このとき、BORIF フラグは 1 になります。

(5)　CTLR.BOM[1:0] = 11b（ソフトウェアにより自動的に CAN halt モードへ遷移）およびバスオフ状態時に CTLR.CANM[1:0] = 10b（CAN halt モード）の場合

CAN モジュールは、バスオフ状態時に CANM[1:0] ビットが 10b（CAN halt モード）になっていると、CAN halt モードになります。このとき、BORIF フラグは 1 になりません。バスオフ時に CANM[1:0] ビットが 10b にされていないと、(1) と同じ動作になります。

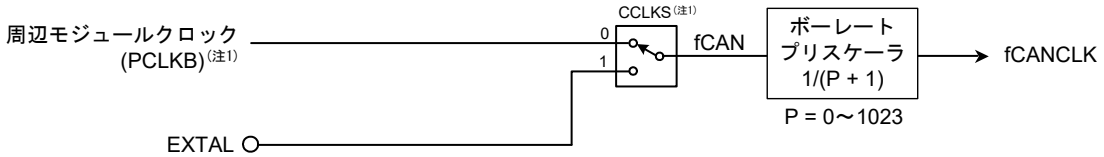
33.4　データ転送レートの設定

以下では、データ転送レートの設定方法について説明します。

33.4.1　クロックの設定

CAN モジュールは、BCR レジスタの CCLK ビットと BRP[9:0] ビットで設定可能な CAN クロック発生回路を内蔵しています。

図 33.11 に CAN クロック発生回路のブロック図を示します。



CCLKS：　BCRレジスタのビット
fCAN：　CANシステムクロック
P：　BCRレジスタのBRPビットの選定値。P = 0～1023
fCANCLK：　CAN通信クロックfCANCLK = fCAN/(P + 1)

注 1.　「9.　クロック発生回路」を参照してください。CCLKS ビットが 0 のときに CAN モジュールを使用する場合、周辺モジュールクロックのソースには必ず PLL を選択してください。

図 33.11　CAN クロック発生回路のブロック図

33.4.2　ビットタイミングの設定

ビットタイミングは、図 33.12 に示す 3 つのセグメントで構成されます。



各セグメントの範囲：　ビットタイム = 8 Tq～25 Tq
SS = 1 Tq
TSEG1 = 4 Tq～16 Tq
TSEG2 = 2 Tq～8 Tq
SJW = 1 Tq～4 Tq
TSEG1とTSEG2の設定：　TSEG1＞TSEG2≧SJW

図 33.12　ビットタイミング

33.4.3　データ転送レート

データ転送レートは、fCAN（CAN システムクロック）の分周値、ボーレートプリスケーラ分周値、および 1 ビットタイムの Tq 数に依存します。

$$\text{データ転送レート（bps）} = \frac{\text{fCAN}}{\text{ボーレートプリスケーラ分周値（注1）} \times \text{1ビットタイムのTq数}} = \frac{\text{fCANCLK}}{\text{1ビットタイムのTq数}}$$

注 1.　ボーレートプリスケーラ分周値 = P + 1（P = 0 ～ 1023）、ここで P は、BCR.BRP[9:0] ビットの設定値

表 33.9 に、データ転送レートの例を示します。

表 33.9　データ転送レート例

fCAN	50MHz		48MHz		40MHz		32MHz	
データ転送レート	Tq数	P + 1	Tq数	P + 1	Tq数	P + 1	Tq数	P + 1
1Mbps	10Tq 25Tq	5 2	8Tq 12Tq 16Tq	6 4 3	10Tq 20Tq	4 2	8Tq 16Tq	4 2
500kbps	10Tq 25Tq	10 4	8Tq 12Tq 16Tq	12 8 6	10Tq 20Tq	8 4	8Tq 16Tq	8 4
250kbps	10Tq 25Tq	20 8	8Tq 12Tq 16Tq	24 16 12	10Tq 20Tq	16 8	8Tq 16Tq	16 8
125kbps	10Tq 25Tq	40 16	8Tq 12Tq 16Tq	48 32 24	10Tq 20Tq	32 16	8Tq 16Tq	32 16
83.3kbps	10Tq 25Tq	60 24	8Tq 12Tq 16Tq	72 48 36	8Tq 10Tq 16Tq 20Tq	60 48 30 24	8Tq 16Tq	48 24
33.3kbps	10Tq 25Tq	150 60	8Tq 12Tq 16Tq	180 120 90	8Tq 10Tq 20Tq	150 120 60	8Tq 10Tq 16Tq 20Tq	120 96 60 48

33.5　メールボックスとマスクレジスタの構成

図 33.13 に、32 本のメールボックスレジスタ（MBj_ID、MBj_DL、MBj_Dm、MBj_TS）の構成を示します。

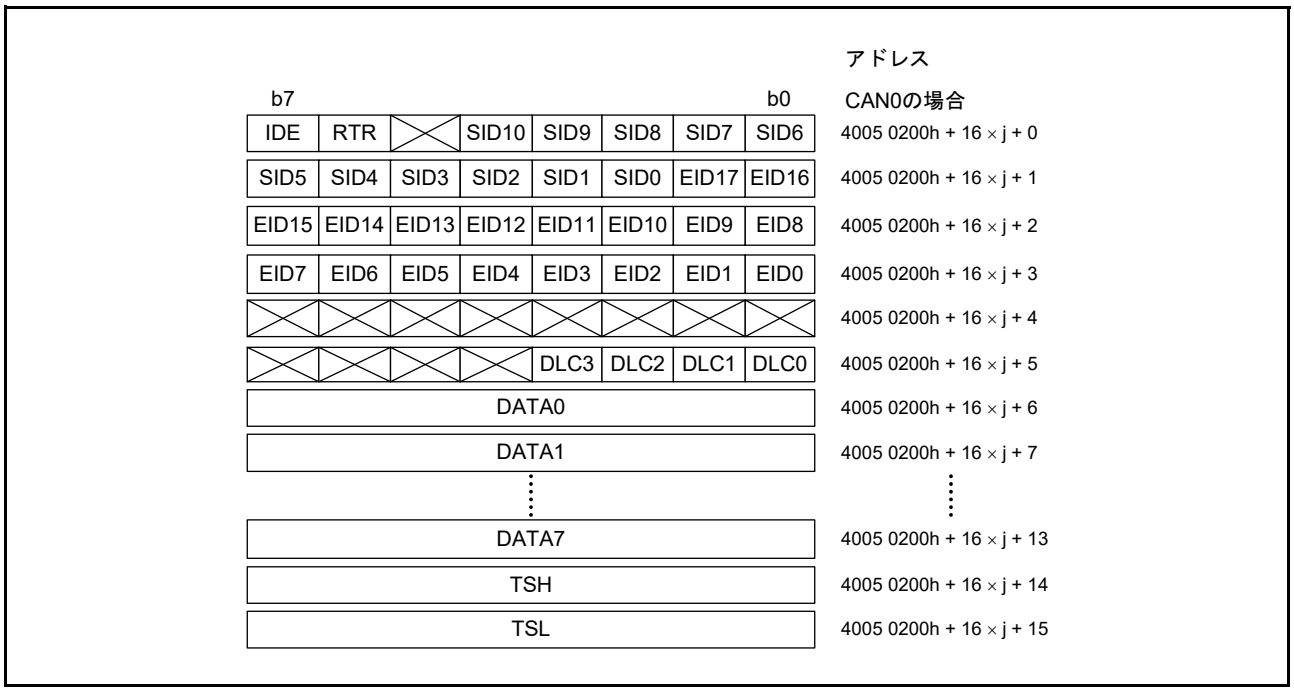


図 33.13　メールボックスレジスタの構成（j = 0 ～ 31）

図 33.14 に、8 本のマスクレジスタ（MKRk）の構成を示します。

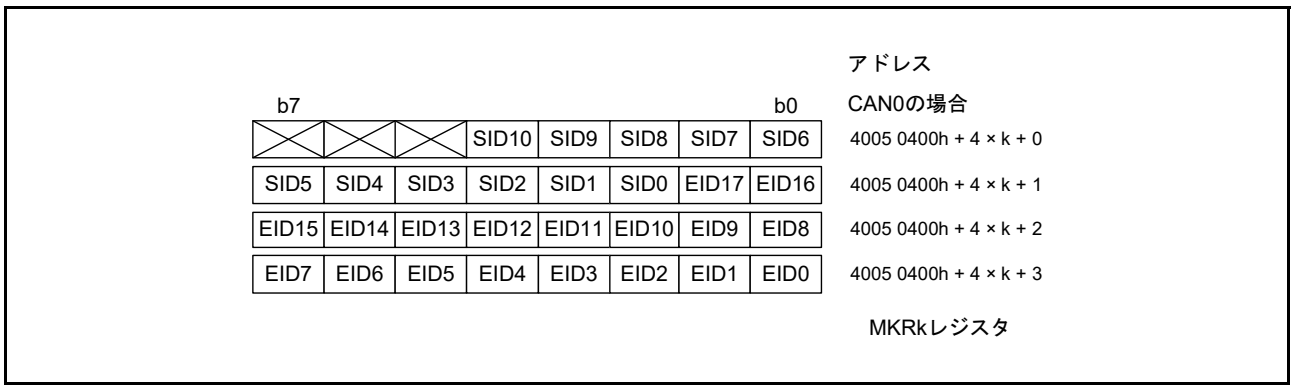


図 33.14　MKRk レジスタの構成（k = 0 ～ 7）

図 33.15 に、2 本の FIFO 受信 ID 比較レジスタ（FIDCR0 および FIDCR1）の構成を示します。

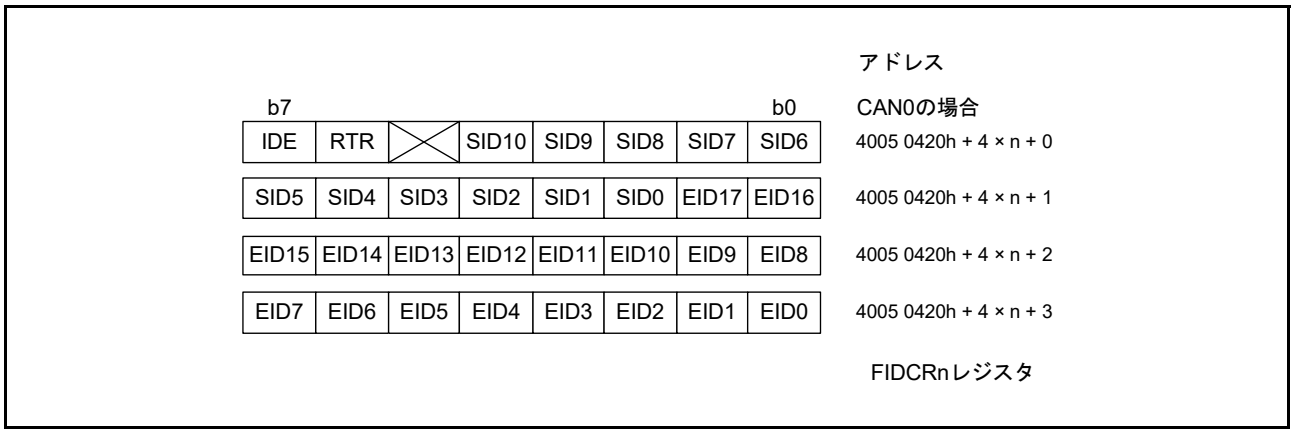


図 33.15　FIDCRn レジスタの構成（n = 0, 1）

33.6 アクセプタンスフィルタ機能とマスク機能

アクセプタンスフィルタ機能とマスク機能によって、指定範囲内のメールボックスに対して、複数 ID のメッセージを選択および受信することが可能になります。

MKRk レジスタは、標準 ID と 29 ビットの拡張 ID をマスクできます。

- MKR0 レジスタは、メールボックス 0 ～ 3 を制御
- MKR1 レジスタは、メールボックス 4 ～ 7 を制御
- MKR2 レジスタは、メールボックス 8 ～ 11 を制御
- MKR3 レジスタは、メールボックス 12 ～ 15 を制御
- MKR4 レジスタは、メールボックス 16 ～ 19 を制御
- MKR5 レジスタは、メールボックス 20 ～ 23 を制御
- MKR6 レジスタは、通常メールボックスモードの場合はメールボックス 24 ～ 27、FIFO メールボックスモードの場合は受信 FIFO メールボックス 28 ～ 31 を制御
- MKR7 レジスタは、通常メールボックスモードの場合はメールボックス 28 ～ 31、FIFO メールボックスモードの場合は受信 FIFO メールボックス 28 ～ 31 を制御

MKIVLR レジスタは、各メールボックスに対して個別にアクセプタンスフィルタ処理を禁止します。

MBj_ID.IDE ビットは、CTLR.IDFM[1:0] ビットが 10b（ミックス ID モード）のときに有効です。

MBj_ID.RTR ビットは、データフレームまたはリモートフレームを選択します。

FIFO メールボックスモードの場合、通常メールボックス（0 ～ 23）は、アクセプタンスフィルタ処理に MKR0 ～ MKR5 レジスタの中から対応する 1 つのレジスタを使用します。受信 FIFO メールボックス（28 ～ 31）は、アクセプタンスフィルタ処理に MKR6 および MKR7 レジスタの 2 つを使用します。

また、受信 FIFO は、FIDCR0 および FIDCR1 レジスタの 2 つを使用して、ID の比較を行います。受信 FIFO の MB28 ～ MB31 レジスタの EID[17:0]、SID[10:0]、RTR、IDE ビットは無効になります。2 つの論理和の結果でアクセプタンスフィルタ処理を行うので、受信 FIFO は 2 つの範囲の ID を受信することが可能です。MKIVLR レジスタは、受信 FIFO に対しては無効です。

異なる標準 ID と拡張 ID の値が、FIDCR0 レジスタと FIDCR1 レジスタの IDE ビットに設定された場合、両方の ID フォーマットが受信されます。異なるデータフレームとリモートフレームの値が、FIDCR0 レジスタと FIDCR1 レジスタの RTR ビットに設定された場合、データフレームとリモートフレームの両方が受信されます。

2 つの範囲の ID の組み合わせを必要としない場合は、FIFO ID とマスクレジスタの両方に同じマスク値と同じ ID を設定してください。

図 33.16 は、マスクレジスタとメールボックスの対応関係を示しています。図 33.17 は、アクセプタンスフィルタ機能を示しています。

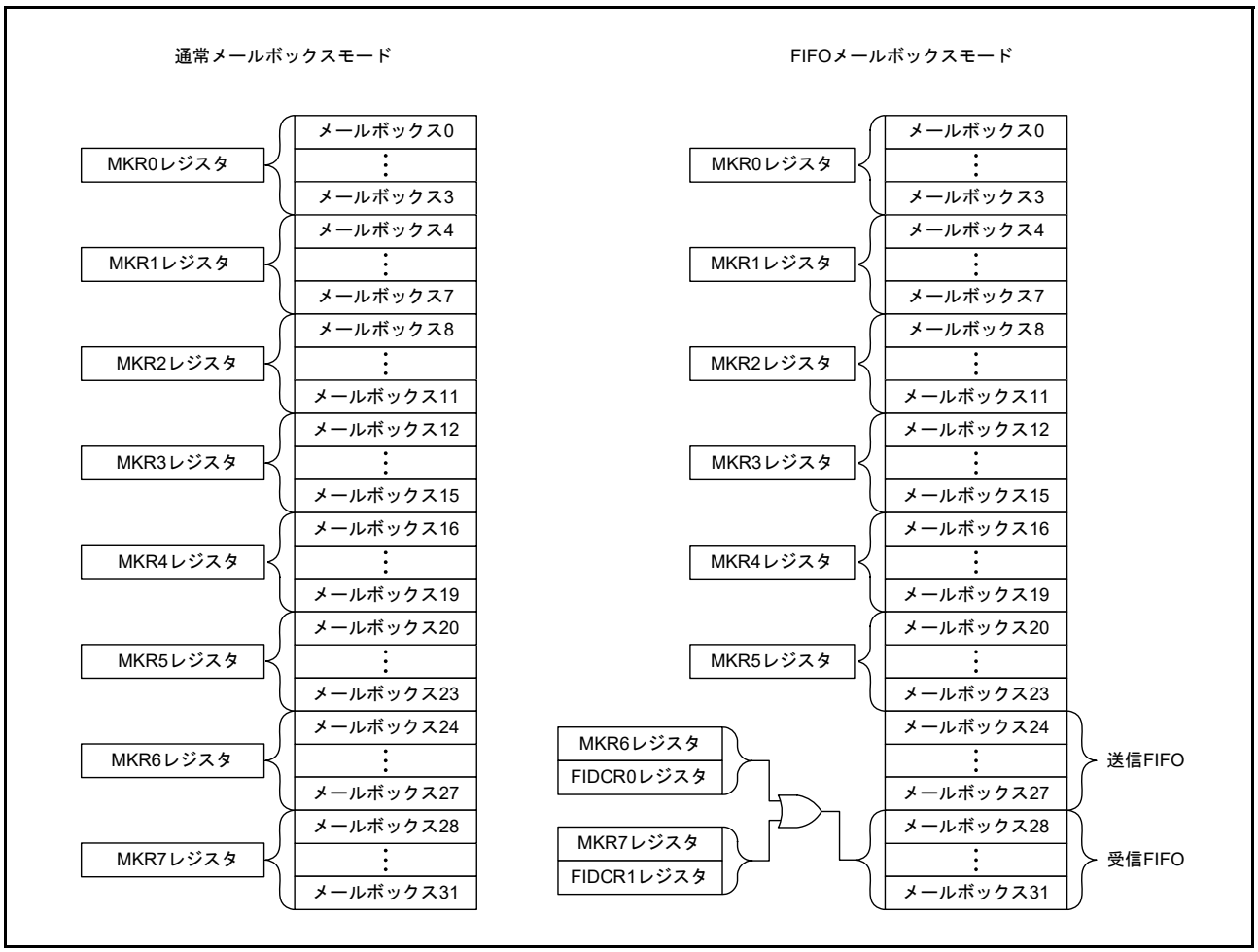
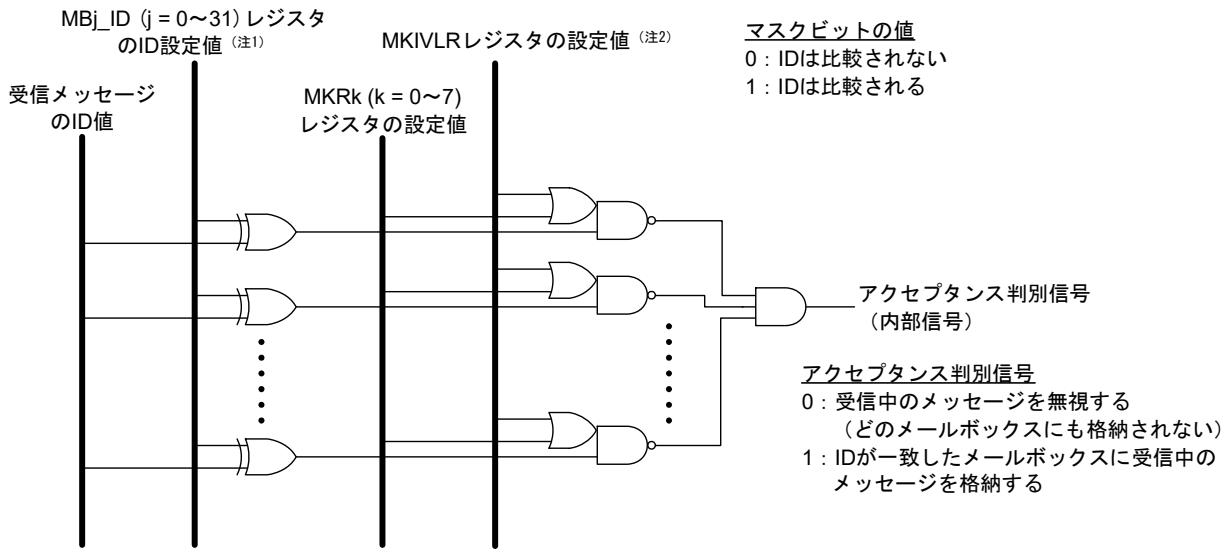


図 33.16　　マスクレジスタとメールボックスの対応関係



注 1.　FIFO メールボックスモードでは、FIDCR0、FIDCR1 レジスタの設定値を使用します。
注 2.　FIFO メールボックスでは無効です。

図 33.17　アクセプタンスフィルタ機能

33.7　受信／送信

表 33.10 に、CAN 通信モードの設定方法を示します。

表 33.10　CAN受信モードと送信モードの設定

MCTL_TXj.TRMREQ および MCTL_RXj.TRMREQ	MCTL_TXj.RECREQ および MCTL_RXj.RECREQ	MCTL_TXj.ONESHOT および MCTL_RXj.ONESHOT	メールボックス通信モード
0	0	0	メールボックス使用不可、または送信アボート中
0	0	1	ワンショットモードでプログラムされたメールボックスからの送受信がアボートされた場合のみ、設定可能
0	1	0	データフレームまたはリモートフレーム用の受信メールボックスとして設定
0	1	1	データフレームまたはリモートフレーム用のワンショット受信メールボックスとして設定
1	0	0	データフレームまたはリモートフレーム用の送信メールボックスとして設定
1	0	1	データフレームまたはリモートフレーム用のワンショット送信メールボックスとして設定
1	1	0	設定禁止
1	1	1	設定禁止

j = 0 ～ 31

メールボックスを受信メールボックスまたはワンショット受信メールボックスとして設定する場合、以下の制限が適用されます。

- メールボックスを設定する前に、MCTL_RXj レジスタを 00h にしてください。
- 受信メッセージは、受信モード設定とアクセプタンスフィルタ機能に基づく条件に一致する最初のメールボックスに格納されます。このとき、最も番号の小さいメールボックスを優先して受信メッセージが格納されます。
- CAN オペレーションモードでは、ID が一致していても、CAN モジュールは自ら送信したデータを受信しません。ただし、セルフテストモードでは、CAN モジュールは自ら送信したデータを受信し、ACK を返します。

メールボックスを送信メールボックスまたはワンショット送信メールボックスとして設定する場合、以下の制約が適用されます。

- メールボックスを設定する前に、MCTL_TXj レジスタが 00h であり、かつ保留中のアボート処理がないことを確認してください。

33.7.1　受信

図 33.18 に、データフレーム受信時の動作例（オーバーライトモードの場合）を示します。

この例は、MCTL_RXj レジスタ（j = 0 ～ 31）の受信条件に一致する 2 つの連続した CAN メッセージを受信したときに、CAN モジュールが最初のメッセージを上書きする場合の動作です。

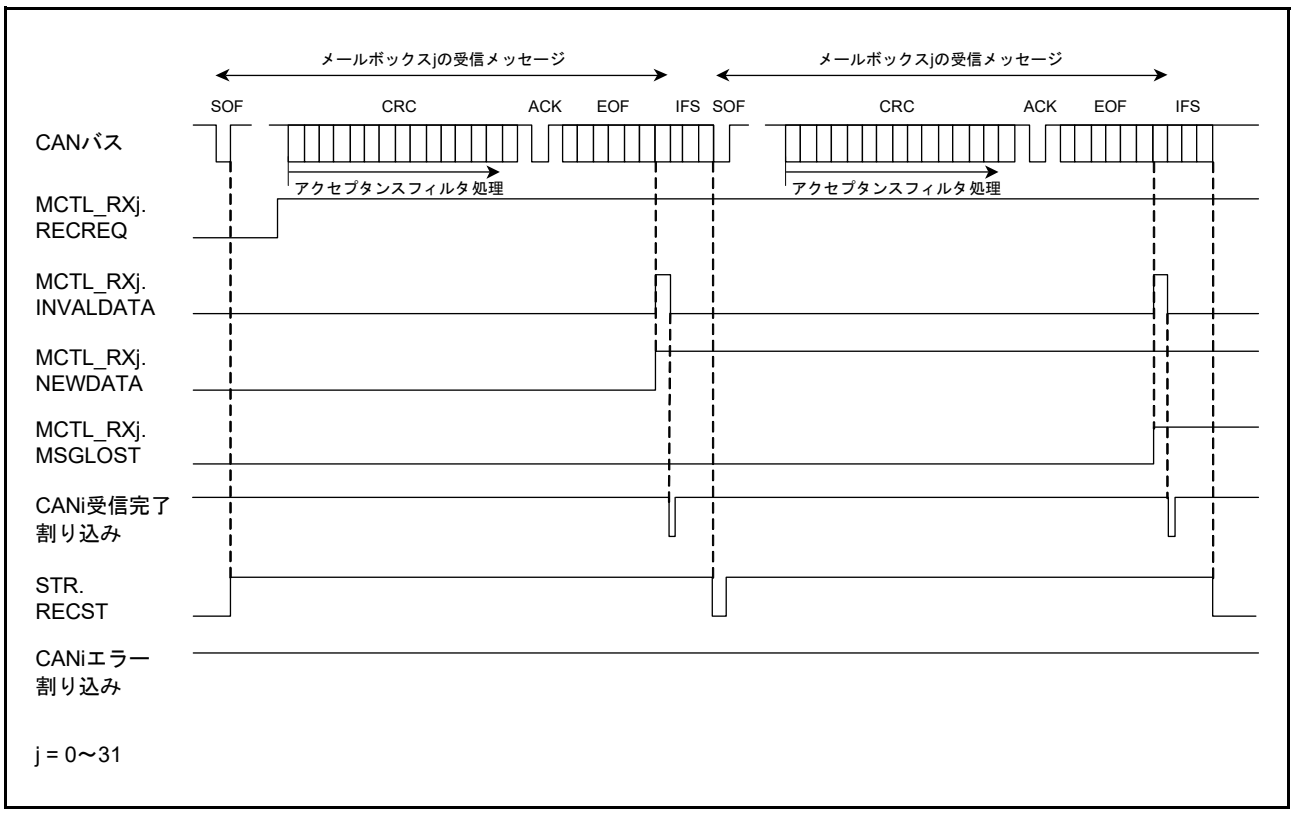


図 33.18　データフレーム受信時の動作例（オーバーライトモードの場合）

1. CAN バス上で SOF を検知すると、CAN モジュールに送信開始するメッセージがない場合、STR.RECST ビットが 1（受信中）になります。
2. 受信メールボックスを選択するために、CRC フィールドの最初からアクセプタンスフィルタ処理が開始されます。
3. メッセージの受信を完了すると、受信メールボックスの MCTL_RXj.NEWDATA フラグが 1（新しいメッセージをメールボックスに格納中または格納された）になります。同時に MCTL_RXj.INVALDATA フラグが 1（メッセージを更新中）になり、そのメールボックスにメッセージ全体が転送された後、INVALDATA フラグは 0（メッセージは有効）に戻ります。
4. 受信メールボックスの MIER レジスタの割り込み許可ビットが 1（割り込み許可）の場合、INVALDATA フラグは 0 になり、CAN0 受信完了割り込み要求がトリガされます。
5. メールボックスからメッセージを読み出した後、NEWDATA フラグをソフトウェアで 0 にする必要があります。
6. オーバーライトモードでは、MCTL_RXj.NEWDATA フラグが 1 のときに、次の CAN メッセージを受信すると、MCTL_RXj.MSGLOST フラグが 1（メッセージはオーバーライトされた）になります。新しく受信したメッセージはメールボックスに転送されます。CAN0 受信完了割り込み要求が、手順 4. と同様に発生します。

図 33.19 に、データフレーム受信時の動作例（オーバーランモードの場合）を示します。この例は、MCTL_RXj レジスタ（j = 0 ～ 31）の受信条件に一致する 2 つの連続した CAN メッセージを受信したときに、CAN モジュールが 2 番目のメッセージをオーバーランする場合の動作です。

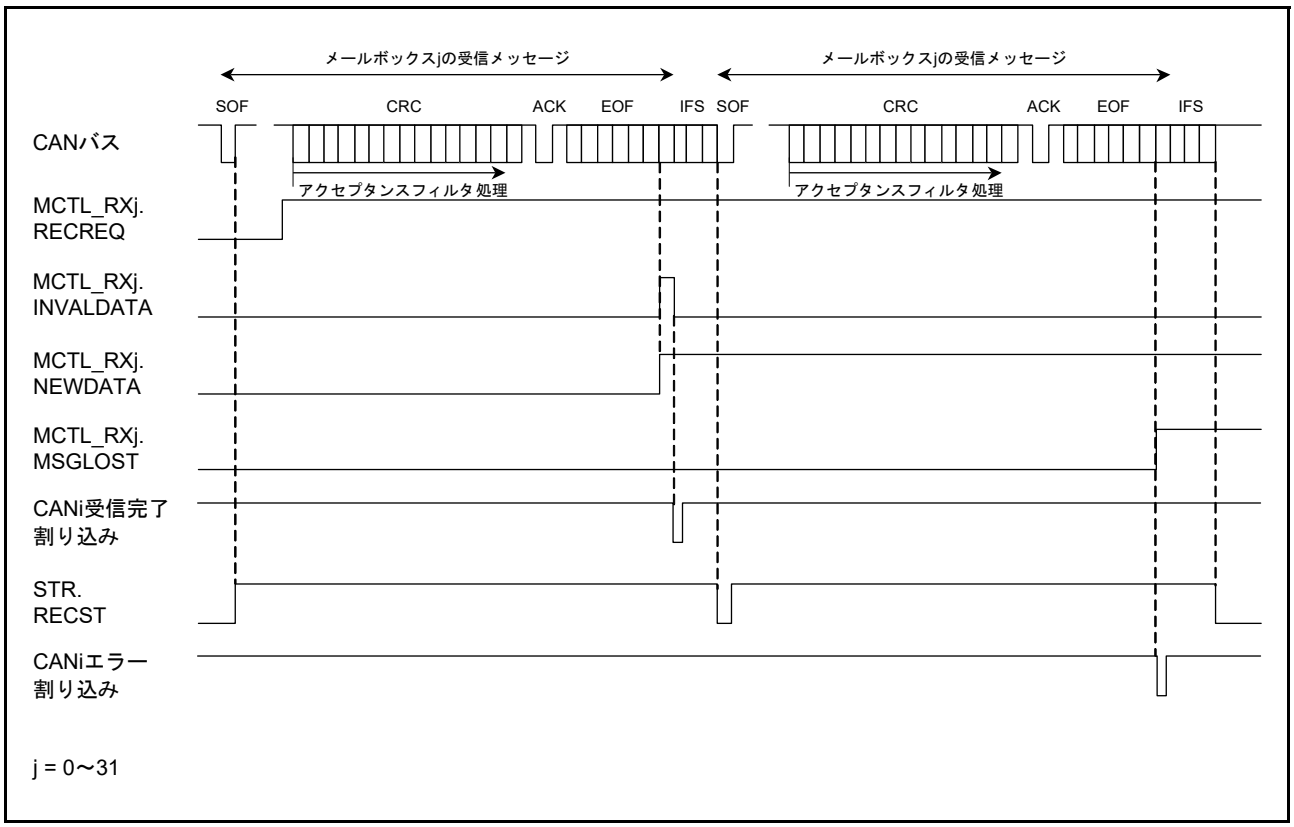


図 33.19　データフレーム受信時の動作例（オーバーランモードの場合）

手順 1. ～ 5. はオーバーライトモードと同じです。

6. オーバーランモードでは、MCTL_RXj.NEWDATA フラグが 0 になる前に、次の CAN メッセージを受信すると、MCTL_RXj.MSGLOST フラグが 1（メッセージオーバーラン）になります。新しく受信したメッセージは破棄され、EIER レジスタの対応する割り込み許可ビットが 1（割り込み許可）の場合、CANi エラー割り込み要求が発生します。

33.7.2 送信

図 33.20 に、データフレーム送信時の動作例を示します。

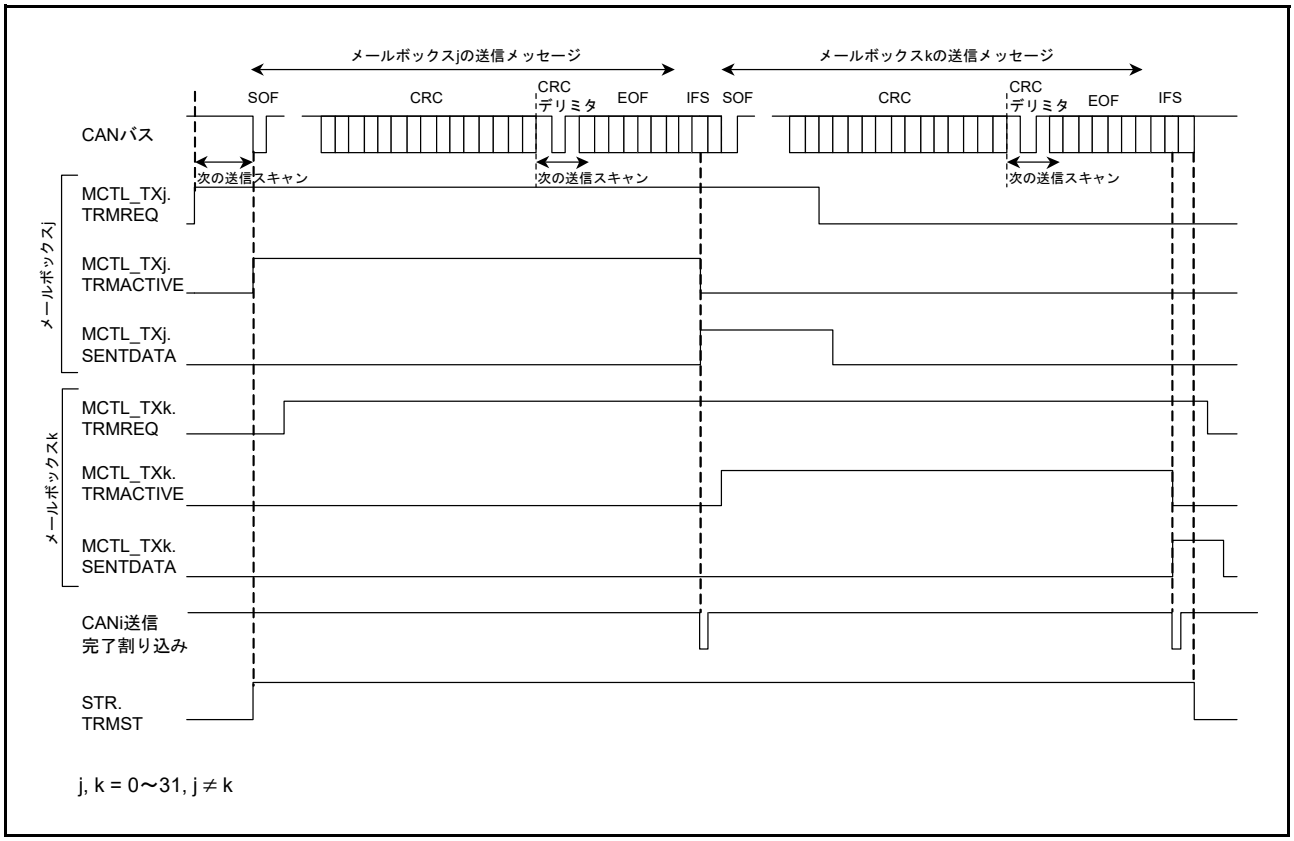


図 33.20 データフレーム送信時の動作例

1. バスアイドル状態で、MCTL_TXj.TRMREQ ビット（j = 0 ～ 31）を 1（送信メールボックス）にすると、最も優先順位の高い送信メールボックスを決定するために、メールボックススキャンが開始されます。送信メールボックスが決定されると、MCTL_TXj.TRMACTIVE フラグが 1（送信要求の取り込みから、送信完了まで、あるいは、エラー発生またはアービトレーションロスト発生まで）になり、さらに STR.TRMST ビットが 1（送信中）になって、CAN モジュールは送信を開始します（注 1）。
2. 他の TRMREQ ビットが設定されている場合は、次の送信の CRC デリミタから送信スキャンが開始されます。
3. アービトレーションロストが発生せずに送信が完了すると、MCTL_TXj.SENTDATA フラグが 1（送信完了）になり、TRMACTIVE フラグが 0（送信待機中または送信要求なし）になります。そして、MIER レジスタの割り込み許可ビットが 1（割り込み許可）の場合は、CANi 送信完了割り込み要求が発生します。
4. 同一のメールボックスから次の送信を要求する場合は、SENTDATA フラグおよび TRMREQ ビットを 0 にした後、SENTDATA フラグおよび TRMREQ ビットが 0 になったことを確認してから、TRMREQ ビットを 1 にしてください。

注 1. CAN モジュールが送信開始した後でアービトレーションロストが発生した場合、TRMACTIVE フラグは 0 になります。CRC デリミタの始めから最も優先順位の高い送信メールボックスを検索するために、再び送信スキャンが行われます。送信中またはアービトレーションロストに続いてエラーが発生すると、CRC デリミタの始めから最も優先順位の高い送信メールボックスを検索するために、再び送信スキャンが行われます。

33.8　割り込み

CAN モジュールには、チャネルごとに下記の割り込みがあります。

- メールボックス 0 ～ 31 の CANi 受信完了割り込み（CANi_RXM）
- メールボックス 0 ～ 31 の CANi 送信完了割り込み（CANi_TXM）
- CANi 受信 FIFO 割り込み（CANi_RXF）
- CANi 送信 FIFO 割り込み（CANi_TXF）
- CANi エラー割り込み（CANi_ERS）

CANi エラー割り込みには、下記の 8 つの割り込み要因が利用可能です。EIFR レジスタを確認して、これらの要因がトリガされたかどうかを判定してください。

- バスエラー
- エラーワーニング
- エラーパッシブ
- バスオフ開始
- バスオフ復帰
- 受信オーバーラン
- オーバーロードフレーム送信
- バスロック

表 33.11 に CAN の割り込み一覧を示します。

表 33.11　CANの割り込み

モジュール	割り込み名称	割り込み要因	要因フラグ
CANi i = 0, 1	CANi_ERS	バスロック検出	EIFR.BLIF
		オーバーロードフレーム送信検出	EIFR.OLIF
		オーバーラン検出	EIFR.ORIF
		バスオフ復帰検出	EIFR.BORIF
		バスオフ開始検出	EIFR.BOEIF
		エラーパッシブ検出	EIFR.EPIF
		エラーワーニング検出	EIFR.EWIF
		バスエラー検出	EIFR.BEIF
	CANi_RXF	受信FIFOメッセージ受信（MIER_FIFO.MB29 = 0）	RFCR.RFUST[2:0]
		受信FIFOワーニング（MIER_FIFO.MB29 = 1）	
	CANi_TXF	送信FIFOメッセージ送信完了（MIER_FIFO.MB25 = 0）	TFCR.TFUST[2:0]
		FIFOラストメッセージ送信完了（MIER_FIFO.MB25 = 1）	
	CANi_RXM	メールボックス0～31メッセージ受信	MCTL_RX0.NEWDATA～ MCTL_RX31.NEWDATA
	CANi_TXM	メールボックス0～31メッセージ送信完了	MCTL_TX0.SENTDATA～ MCTL_TX31.SENTDATA

33.9 使用上の注意事項

33.9.1 モジュールストップ状態の設定

モジュールストップコントロールレジスタ B（MSTPCRB）によって、CAN の動作を禁止または許可することが可能です。CAN モジュールは、リセット後の初期状態では動作が停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は、「11. 低消費電力モード」を参照してください。

33.9.2 動作クロックの設定

動作クロックの設定方法を次に示します。

- CCLKS ビットが 1 のとき、CAN モジュールは下記のクロック制約を満たす必要があります。

  fPCLKB ≧ fCANMCLK

- CCLKS ビットが 0 のとき、CAN モジュールの周辺モジュールクロックソースは PLL でなければなりません。

34.　シリアルペリフェラルインタフェース（SPI）

34.1　概要

本 MCU は、独立した 2 チャネルのシリアルペリフェラルインタフェース（SPI）を内蔵しています。SPI チャネルによって、複数のプロセッサや周辺デバイスとの高速な全二重同期式のシリアル通信が可能です。

表 34.1 に SPI の仕様を、図 34.1 にブロック図を示します。

本章では、*n* は A または B を指し、*i* は 0 または 1 を指します。端子または信号名の小文字の *i* は 0 ～ 3 の値を指し、SPI コマンドレジスタ m（SPCMDm）の小文字の *m* は 0 ～ 7 の値を指します。

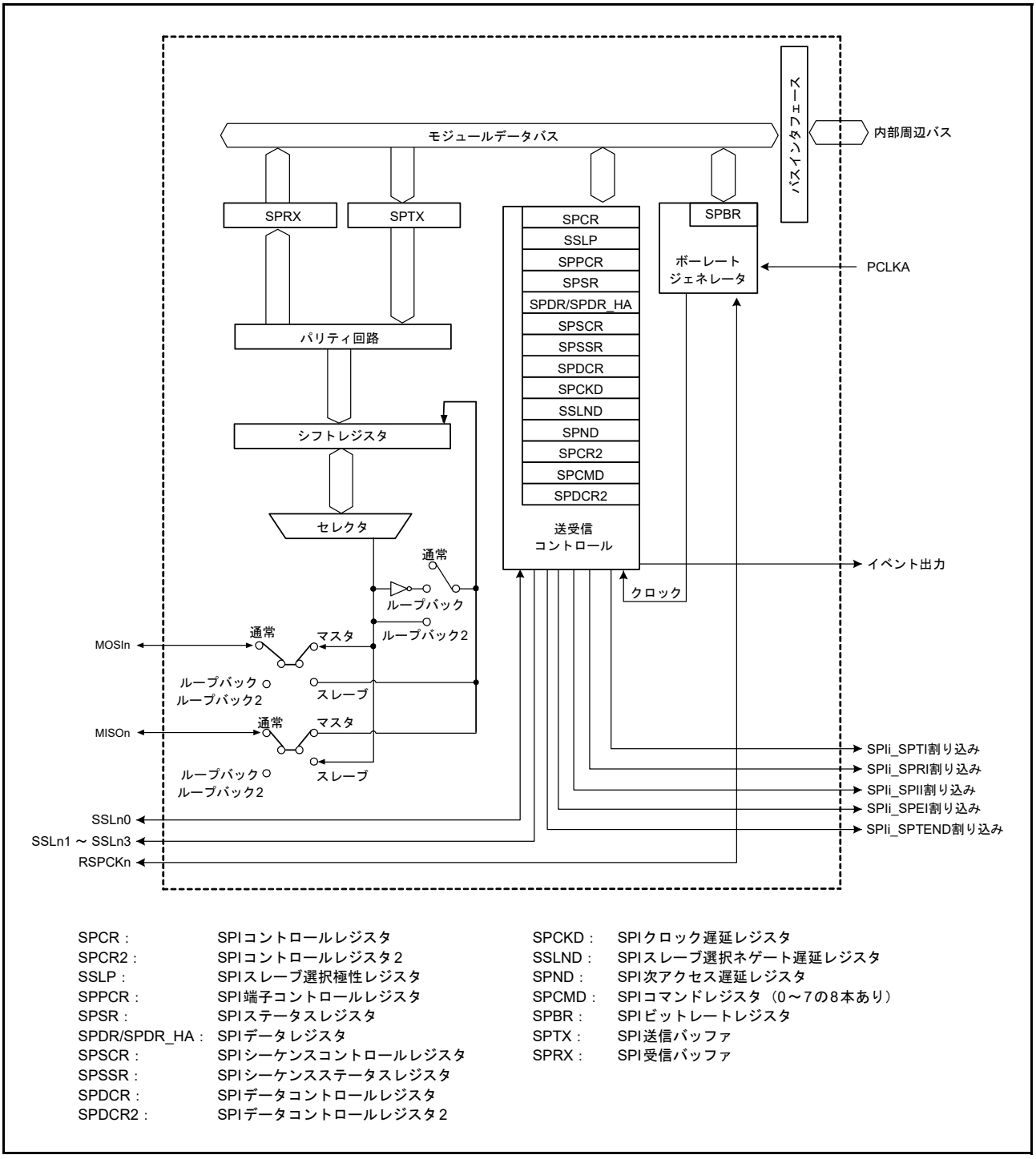
表 34.1　SPIの仕様 (1/2)

項目	内容
チャネル数	2チャネル
SPI転送機能	• MOSI（Master Out/Slave In）、MISO（Master In/Slave Out）、SSL（Slave Select）、RSPCK（SPIClock）の各信号を使用して、SPI動作（4線式）またはクロック同期式動作（3線式）によるシリアル通信が可能 • 送信のみの動作が可能 • 全二重または送信のみの通信モードを選択可能 • RSPCK極性切り替え • RSPCK位相切り替え
データフォーマット	• MSBファースト／LSBファースト選択可能 • 転送ビット長を8、9、10、11、12、13、14、15、16、20、24、32ビットから選択可能 • 送信／受信バッファは128ビット • 一度の送受信で最大4フレームを転送（1フレームは最大32ビット） • バイトスワップ動作機能
ビットレート	• マスタモード時、内蔵ボーレートジェネレータでPCLKAを分周してRSPCKを生成（分周比は2～4096分周） • スレーブモード時は、PCLKAの最小4分周のクロックを、RSPCKとして入力可能（RSPCKの最大周波数はPCLKAの4分周） High幅：PCLKAの2サイクル、Low幅：PCLKAの2サイクル
バッファ構成	• 送信および受信バッファはそれぞれダブルバッファ構造 • 送信および受信バッファは128ビット
エラー検出	• モードフォルトエラー検出 • アンダーランエラー検出 • オーバーランエラー検出（注1） • パリティエラー検出
SSL制御機能	• 1チャネルあたり4本のSSL端子（SSLn0～SSLn3） • シングルマスタモード時、SSLn0～SSLn3端子は出力 • マルチマスタモード時、SSLn0端子は入力、SSLn1～SSLn3端子は出力または不使用 • スレーブモード時、SSLn0端子は入力、SSLn1～SSLn3端子は不使用 • SSL出力のアサートからRSPCK動作までの遅延（RSPCK遅延）を制御可能 設定範囲：1～8RSPCK周期（設定単位：1RSPCK周期） • RSPCK停止からSSL出力のネゲートまでの遅延（SSLネゲート遅延）を制御可能 設定範囲：1～8RSPCK周期（設定単位：1RSPCK周期） • 次アクセスのSSL出力アサートのウェイト（次アクセス遅延）を制御可能 設定範囲：1～8RSPCK周期（設定単位：1RSPCK周期） • SSL極性変更機能
マスタ転送時の制御方式	• 最大8コマンドで構成された転送を連続してループ実行可能 • 各コマンドに以下の項目を設定可能： SSL信号値、ビットレート、RSPCK極性／位相、転送データ長、MSB/LSBファースト、バースト、RSPCK遅延、SSLネゲート遅延、次アクセス遅延 • 送信バッファへの書き込みで転送を起動可能 • SSLネゲート時のMOSI信号値を設定可能 • RSPCK自動停止機能
割り込み要因	• 受信バッファフル割り込み • 送信バッファエンプティ割り込み • SPIエラー割り込み（モードフォルト、オーバーラン、パリティエラー） • SPIアイドル割り込み（SPIアイドル） • 送信完了割り込み

表 34.1　SPIの仕様 (2/2)

項目	内容
イベントリンク機能（出力）	以下のイベントをイベントリンクコントローラ（ELC）へ出力可能 : • 受信バッファフル信号 • 送信バッファエンプティ信号 • モードフォルト／アンダーラン／オーバーラン／パリティエラー信号 • SPIアイドル信号 • 送信完了信号
その他の機能	• CMOS出力／オープンドレイン出力の切り替え • SPIの初期化機能 • ループバックモード
モジュールストップ機能	モジュールストップ状態を設定して消費電力を削減可能

注 1.　マスタ受信時に RSPCK 自動停止機能が有効な場合は、オーバーランエラーが検出されると転送クロックが停止するため、オーバーランエラーは発生しません。



SPCR：	SPIコントロールレジスタ	SPCKD：	SPIクロック遅延レジスタ
SPCR2：	SPIコントロールレジスタ2	SSLND：	SPIスレーブ選択ネゲート遅延レジスタ
SSLP：	SPIスレーブ選択極性レジスタ	SPND：	SPI次アクセス遅延レジスタ
SPPCR：	SPI端子コントロールレジスタ	SPCMD：	SPIコマンドレジスタ（0～7の8本あり）
SPSR：	SPIステータスレジスタ	SPBR：	SPIビットレートレジスタ
SPDR/SPDR_HA：	SPIデータレジスタ	SPTX：	SPI送信バッファ
SPSCR：	SPIシーケンスコントロールレジスタ	SPRX：	SPI受信バッファ
SPSSR：	SPIシーケンスステータスレジスタ		
SPDCR：	SPIデータコントロールレジスタ		
SPDCR2：	SPIデータコントロールレジスタ2		

図 34.1　SPI のブロック図

表 34.2 に SPI で使用する入出力端子を示します。SSLn0 端子の入出力方向は、SPI が自動的に切り替えます。SSLn0 は、SPI がシングルマスタの場合は出力に、マルチマスタまたはスレーブの場合は入力に設定されます。RSPCKn、MOSIn、および MISOn 端子の入出力方向は、マスタ／スレーブ設定と SSLn0 端子の入力レベルに応じて、SPI が自動的に切り替えます。詳細は、34.3.2　SPI 端子の制御を参照してください。

表 34.2　SPIの入出力端子

チャネル	端子名	入出力	機能
SPI0	RSPCKA	入出力	クロック入出力
	MOSIA	入出力	マスタ送出データ入出力
	MISOA	入出力	スレーブ送出データ入出力
	SSLA0	入出力	スレーブセレクト入出力
	SSLA1	出力	スレーブセレクト出力
	SSLA2	出力	スレーブセレクト出力
	SSLA3	出力	スレーブセレクト出力
SPI1	RSPCKB	入出力	クロック入出力
	MOSIB	入出力	マスタ送出データ入出力
	MISOB	入出力	スレーブ送出データ入出力
	SSLB0	入出力	スレーブセレクト入出力
	SSLB1	出力	スレーブセレクト出力
	SSLB2	出力	スレーブセレクト出力
	SSLB3	出力	スレーブセレクト出力

34.2　レジスタの説明

34.2.1　SPI コントロールレジスタ（SPCR）

アドレス　SPI0.SPCR 4007 2000h, SPI1.SPCR 4007 2100h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SPRIE	SPE	SPTIE	SPEIE	MSTR	MODFEN	TXMD	SPMS
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SPMS	SPIモード選択	0：SPI動作（4線式）を選択 1：クロック同期式動作（3線式）を選択	R/W
b1	TXMD	通信動作モード選択	0：全二重同期式シリアル通信を選択 1：送信のみのシリアル通信を選択	R/W
b2	MODFEN	モードフォルトエラー検出許可	0：モードフォルトエラー検出を禁止 1：モードフォルトエラー検出を許可	R/W
b3	MSTR	SPIマスタ／スレーブモード選択	0：スレーブモードを選択 1：マスタモードを選択	R/W
b4	SPEIE	SPIエラー割り込み許可	0：SPIエラー割り込み要求を禁止 1：SPIエラー割り込み要求を許可	R/W
b5	SPTIE	送信バッファエンプティ割り込み許可	0：送信バッファエンプティ割り込み要求を禁止 1：送信バッファエンプティ割り込み要求を許可	R/W
b6	SPE	SPI機能有効	0：SPI機能は無効 1：SPI機能は有効	R/W
b7	SPRIE	SPI受信バッファフル割り込み許可	0：SPI受信バッファフル割り込み要求を禁止 1：SPI受信バッファフル割り込み要求を許可	R/W

SPCR.SPE ビットが 1 の状態で、SPCR.MSTR ビット、SPCR.MODFEN ビット、または SPCR.TXMD ビットを変更した場合、以降の動作を行わないでください。

SPMS ビット（SPI モード選択）

SPI 動作（4 線式）またはクロック同期式動作（3 線式）を選択します。

クロック同期式動作では、SSLn0 ～ SSLn3 端子は使用されません。RSPCKn 端子、MOSIn 端子、MISOn 端子の 3 端子を用いて通信を行います。また、マスタモード（SPCR.MSTR = 1）でクロック同期式動作を行う場合は、SPCMDm.CPHA ビットを 0 または 1 にしてください。スレーブモード（SPCR.MSTR = 0）でクロック同期式動作を行う場合は、必ず CPHA ビットを 1 にしてください。スレーブモード（SPCR.MSTR = 0）でクロック同期式動作を行う場合、CPHA ビットが 0 であれば、動作を行わないでください。

TXMD ビット（通信動作モード選択）

全二重同期式のシリアル通信または送信のみの動作を選択します。本ビットを 1 にした場合、SPI は送信動作のみを行い、受信動作を行いません（34.3.6　データ転送モードを参照）。また、受信バッファフル割り込み要求を使用することはできません。

MODFEN ビット（モードフォルトエラー検出許可）

モードフォルトエラーの検出を許可または禁止します（34.3.8　エラー検出を参照）。また、SPI は MODFEN ビットと MSTR ビットの組み合わせに従って、SSLn0 ～ SSLn3 端子の入出力方向を決定します（34.3.2　SPI 端子の制御を参照）。

MSTR ビット（SPI マスタ／スレーブモード選択）

SPI に対してマスタモードまたはスレーブモードを選択します。SPI は MSTR ビットの設定に従って、RSPCKn、MOSIn、MISOn、および SSLn0 ～ SSLn3 端子の方向を決定します。

SPEIE ビット（SPI エラー割り込み許可）

以下のいずれかが発生した場合に、SPI エラー割り込み要求の発生を許可または禁止します。

- SPI がモードフォルトエラーまたはアンダーランエラーを検出し、SPSR.MODF フラグを 1 にした場合
- SPI がオーバーランエラーを検出し、SPSR.OVRF フラグを 1 にした場合
- SPI がパリティエラーを検出し、SPSR.PERF フラグを 1 にした場合

詳細は、34.3.8　エラー検出を参照してください。

SPTIE ビット（送信バッファエンプティ割り込み許可）

SPI が送信バッファエンプティを検出したときの、送信バッファエンプティ割り込み要求の発生を許可または禁止します。送信開始時の送信バッファエンプティ割り込み要求は、SPE ビットと SPTIE ビットを同時に 1 にするか、または SPTIE ビットを 1 にした後、SPE ビットを 1 にすることで発生します。

SPI 機能を無効（SPTIE ビットを 0 に変更）にしても、SPTIE ビットが 1 であると、送信バッファ割り込みが発生します。

SPE ビット（SPI 機能有効）

SPI 機能を有効または無効にします。SPSR.MODF フラグが 1 の場合、SPE ビットを 1 にすることはできません。詳細は、34.3.8　エラー検出を参照してください。

SPE ビットを 0 にすると、SPI 機能が無効になり、このモジュール機能の一部が初期化されます。詳細は、34.3.9　SPI の初期化を参照してください。また、SPE ビットを 0 から 1、または 1 から 0 に変更すると、送信バッファエンプティ割り込み要求が発生します。

SPRIE ビット（SPI 受信バッファフル割り込み許可）

SPI がシリアル転送完了後の受信バッファフルを検出したときの、SPI 受信バッファフル割り込み要求の発生を許可または禁止します。

34.2.2 SPI スレーブ選択極性レジスタ（SSLP）

アドレス SPI0.SSLP 4007 2001h, SPI1.SSLP 4007 2101h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	SSL3P	SSL2P	SSL1P	SSL0P
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SSL0P	SSL0信号極性設定	0：SSL0信号はアクティブLow 1：SSL0信号はアクティブHigh	R/W
b1	SSL1P	SSL1信号極性設定	0：SSL1信号はアクティブLow 1：SSL1信号はアクティブHigh	R/W
b2	SSL2P	SSL2信号極性設定	0：SSL2信号はアクティブLow 1：SSL2信号はアクティブHigh	R/W
b3	SSL3P	SSL3信号極性設定	0：SSL3信号はアクティブLow 1：SSL3信号はアクティブHigh	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

SPCR.SPE ビットが 1 の状態で、SSLP レジスタの内容を変更した場合、以降の動作を行わないでください。

34.2.3 SPI 端子コントロールレジスタ（SPPCR）

アドレス SPI0.SPPCR 4007 2002h, SPI1.SPPCR 4007 2102h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	MOIFE	MOIFV	—	—	SPLP2	SPLP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SPLP	SPIループバック	0：通常モード 1：ループバックモード（データを反転して送信）	R/W
b1	SPLP2	SPIループバック2	0：通常モード 1：ループバックモード（データを反転せずに送信）	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	MOIFV	MOSIアイドル固定値	0：MOSIアイドル時のMOSIn端子の出力レベルをLowに設定 1：MOSIアイドル時のMOSIn端子の出力レベルをHighに設定	R/W
b5	MOIFE	MOSIアイドル値固定許可	0：MOSI出力値を前回転送の最終データに設定 1：MOSI出力値をMOIFVビットの設定値に設定	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

SPCR.SPE ビットが 1 の状態で、SPPCR レジスタの内容を変更した場合、以降の動作は行わないでください。

SPLP ビット（SPI ループバック）

SPI の端子モードを選択します。本ビットが 1 の場合、SPCR.MSTR ビットが 1 であれば、SPI は MISOn 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断し、SPCR.MSTR ビットが 0 であれば、MOSIn 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断します。その後、SPI はシフトレジスタの入力経路と出力経路を接続します（ループバックモード）。

SPLP2 ビット（SPI ループバック 2）

SPI の端子モードを選択します。本ビットが 1 の場合、SPCR.MSTR ビットが 1 であれば、SPI は MISOn 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断し、SPCR.MSTR ビットが 0 であれば、MOSIn 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断します。その後、SPI はシフトレジスタの入力経路と出力経路を接続します（ループバックモード）。

MOIFV ビット（MOSI アイドル固定値）

マスタモードで MOIFE ビットが 1 の場合、MOIFV ビットは、バースト転送における SSL 保持期間を含む SSL ネゲート期間中の MOSIn 端子の出力値を決定します。

MOIFE ビット（MOSI アイドル値固定許可）

マスタモードの SPI が SSL ネゲート期間中（バースト転送における SSL 保持期間を含む）のとき、MOIFE ビットは MOSIn 出力値を固定します。MOIFE ビットが 0 の場合、SPI は SSL ネゲート期間中に前回のシリアル転送の最終データを MOSIn 端子に出力します。MOIFE ビットが 1 の場合、SPI は MOIFV ビットに設定された固定値を MOSIn 端子に出力します。

34.2.4 SPI ステータスレジスタ（SPSR）

アドレス SPI0.SPSR 4007 2003h, SPI1.SPSR 4007 2103h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SPRF	—	SPTEF	UDRF	PERF	MODF	IDLNF	OVRF
リセット後の値	0	0	1	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	OVRF	オーバーランエラーフラグ	0：オーバーランエラーの発生なし 1：オーバーランエラーの発生あり	R/(W) （注1）
b1	IDLNF	SPIアイドルフラグ	0：SPIはアイドル状態 1：SPIは転送状態	R
b2	MODF	モードフォルトエラーフラグ	0：モードフォルトエラーおよびアンダーランエラー発生なし 1：モードフォルトエラーまたはアンダーランエラー発生あり	R/(W) （注1）
b3	PERF	パリティエラーフラグ	0：パリティエラーの発生なし 1：パリティエラーの発生あり	R/(W) （注1）
b4	UDRF	アンダーランエラーフラグ	0：モードフォルトエラー発生（MODF = 1） 1：アンダーランエラー発生（MODF = 1） 本ビットはMODFフラグが0の場合、無効です。	R/W （注1）（注2）
b5	SPTEF	SPI送信バッファエンプティフラグ	0：送信バッファにデータあり 1：送信バッファにデータなし	R/(W) （注1）（注3）
b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	SPRF	SPI受信バッファフルフラグ	0：SPDR/SPDR_HAに有効なデータなし 1：SPDR/SPDR_HAに有効なデータあり	R/(W) （注1）（注3）

注 1.　フラグをクリアするため、1 を読んだあとに 0 を書き込むことのみ可能です。
注 2.　UDRF フラグは、MODF フラグをソフトウェアでクリアすると同時にクリアされます。
注 3.　書く場合、1 としてください。

OVRF フラグ（オーバーランエラーフラグ）

オーバーランエラーの発生を示します。マスタモード（SPCR.MSTR = 1）時に RSPCK クロック自動停止機能が有効（SPCR1.SCKASE = 1）の場合、オーバーランエラーは発生しません。このフラグは 1 になりません。詳細は、34.3.8.1　オーバーランエラーを参照してください。

［1 になる条件］

- SPCR.TXMD ビットが 0 かつ受信バッファフルの状態で、次のシリアル転送が終了したとき

［0 になる条件］

- SPSR レジスタを読んで OVRF フラグが 1 であることを確認した後、OVRF フラグに 0 を書いたとき

IDLNF フラグ（SPI アイドルフラグ）

SPI の転送状況を示します。

［1 になる条件］

マスタモード

- 0 になる条件に示したマスタモード時の条件 1. および 2. が成立しないとき

スレーブモード

- SPCR.SPE ビットが 1（SPI 機能が有効）のとき

［0 になる条件］

マスタモード

- 条件 1. が成立したとき、または条件 2.、3.、および 4. が成立したとき

1. SPCR.SPE ビットが 0（SPI 初期化）
2. 送信バッファ（SPTX）が空である（次転送データがセットされていない）
3. SPSSR.SPCP[2:0] ビットが 000b である（シーケンス制御の先頭）
4. SPI 内部シーケンサがアイドル状態へ遷移した（次アクセス遅延までの動作が完了した状態）

スレーブモード

- 条件 1. が成立したとき

MODF フラグ（モードフォルトエラーフラグ）

モードフォルトエラーまたはアンダーランエラーの発生を示します。UDRF フラグを使用して、どちらのエラーが発生したかを識別してください。

［1 になる条件］

マルチマスタモード

- SPCR.MSTR ビットが 1（マスタモード）、かつ SPCR.MODFEN ビットが 1（モードフォルトエラー検出を許可）の状態で、SSLni 端子の入力レベルがアクティブレベルに変化し、SPI がモードフォルトエラーを検出したとき

スレーブモード

- 条件 1. または 2. が成立したとき

1. SPCR.MSTR ビットが 0（スレーブモード）、かつ SPCR.MODFEN ビットが 1（モードフォルトエラー検出を許可）の状態で、データ転送に必要な RSPCK サイクルが終了する前に SSLni 端子がネゲートされ、SPI がモードフォルトエラーを検出したとき
2. SPCR.MSTR ビットが 0（スレーブモード）、SPCR.SPE ビットが 1、かつ送信データが用意されていない状態で、シリアル転送が開始され、SPI がアンダーランエラーを検出したとき

なお、SSLni 信号のアクティブレベルは、SSLP.SSLiP ビット（SSLi 信号極性設定ビット）によって決定されます。

［0 になる条件］

- SPSR レジスタを読んで MODF フラグが 1 であることを確認した後、MODF フラグに 0 を書いたとき

PERF フラグ（パリティエラーフラグ）

パリティエラーの発生を示します。

［1 になる条件］

- SPCR.TXMD ビットが 0、かつ SPCR2.SPPE ビットが 1 の状態で、シリアル転送が終了し、SPI がパリティエラーを検出したとき

［0 になる条件］

- SPSR レジスタを読んで PERF フラグが 1 であることを確認した後、PERF フラグに 0 を書いたとき

UDRF フラグ（アンダーランエラーフラグ）

アンダーランエラーの発生を示します。

［1 になる条件］

- SPCR.MSTR ビットが 0（スレーブモード）、SPCR.SPE ビットが 1、かつ送信データが用意されていない状態で、シリアル転送が開始され、SPI がアンダーランエラーを検出したとき

［0 になる条件］

- SPSR レジスタを読んで UDRF フラグが 1 であることを確認した後、UDRF フラグに 0 を書いたとき

SPTEF フラグ（SPI 送信バッファエンプティフラグ）

SPI データレジスタ（SPDR/SPDR_HA）の送信バッファの状態を示します。

［1 になる条件］

- 条件 1. または 2. が成立したとき

1. SPCR.SPE ビットが 0（SPI 初期化）であるとき
2. 送信データが送信バッファからシフトレジスタに転送されたとき

［0 になる条件］

- SPDR/SPDR_HA レジスタに書き込まれたデータが、SPI データコントロールレジスタ（SPDCR）の SPFC[1:0] ビットに設定したフレーム数に等しいとき

SPTEF フラグが 1 の場合のみ、データを SPDR/SPDR_HA レジスタに書き込むことができます。SPTEF フラグが 0 のときに SPDR/SPDR_HA レジスタの送信バッファにデータが書き込まれた場合、送信バッファのデータは更新されません。

SPRF フラグ（SPI 受信バッファフルフラグ）

SPI データレジスタ（SPDR/SPDR_HA）の受信バッファの状態を示します。

［1 になる条件］

- SPI コントロールレジスタ（SPCR）の通信動作モード選択ビット（TXMD）が 0、かつ SPRF フラグが 0 の状態で、シリアル転送が終了し、SPI がシフトレジスタから SPDR/SPDR_HA へ受信データを転送したとき。ただし、OVRF フラグが 1 の場合、SPRF フラグは 0 から 1 に変化しない

［0 になる条件］

- 受信データが SPDR/SPDR_HA レジスタから読み出されたとき

34.2.5 SPI データレジスタ（SPDR/SPDR_HA）

アドレス　SPI0.SPDR 4007 2004h, SPI1.SPDR 4007 2104h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

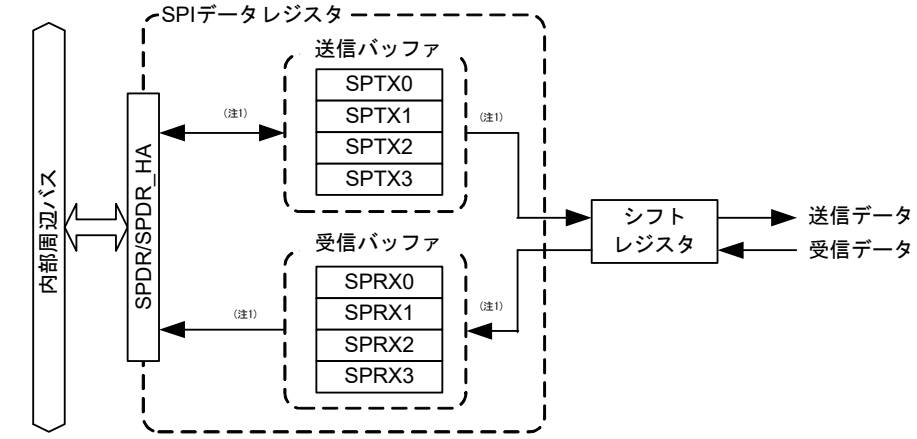
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

アドレス　SPI0.SPDR_HA 4007 2004h, SPI1.SPDR_HA 4007 2104h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

SPDR/SPDR_HA レジスタは、SPI 送受信用のデータを格納するバッファとのインタフェースです。ワードアクセス（SPLW ビットが 1）の場合は、SPDR レジスタにアクセスしてください。ハーフワードアクセス（SPLW ビットが 0）の場合は、SPDR_HA レジスタにアクセスしてください。

送信バッファ（SPTX）と受信バッファ（SPRX）は独立したバッファですが、SPDR/SPDR_HA レジスタにマッピングされています。図 34.2 に構成図を示します。



注 1.　アクセス先のバッファはハードウェアにより自動的に切り替えます。

図 34.2　SPDR/SPDR_HA レジスタの構成図

送信バッファと受信バッファには、それぞれ 4 ステージあります。使用するステージ数は、SPI データコントロールレジスタのフレーム数設定ビット（SPDCR.SPFC[1:0]）で設定できます。SPDR/SPDR_HA レジスタの 1 アドレスに、この合計 8 バッファステージすべてがマッピングされます。

SPDR/SPDR_HA レジスタへ書き込まれたデータは、送信バッファステージ（SPTXn）（n = 0 ～ 3）へ書き込まれた後、バッファから送信されます。受信バッファは、受信完了時に受信データを格納します。オーバーランが発生すると、受信バッファは更新されません。

また、データ長が 32 ビット以外の場合、SPRXn（n = 0 ～ 3）の対応するビットには、SPTXn（n = 0 ～ 3）の非参照ビットが格納されます。たとえば、データ長が 9 ビットのデータを受信した場合、SPRXn[8:0] ビットには受信データが格納され、SPRXn[31:9] ビットには SPTXn[31:9] ビットが格納されます。

(1)　バスインタフェース

SPDR/SPDR_HA レジスタは、32 ビットの送信および受信バッファとのインタフェースであり、それぞれのバッファには 4 ステージあり、合計 32 バイトになります。すなわち、これらの 32 バイトを SPDR/SPDR_HA レジスタの 4 バイトのアドレス空間にマッピングしています。また、SPDR/SPDR_HA レジスタへのアクセスは、SPI データコントロールレジスタの SPI ワードアクセス／ハーフワードアクセス設定ビット（SPDCR.SPLW）で設定したアクセスサイズで行ってください。SPDR レジスタへのアクセスは、SPI データコントロールレジスタの SPI バイトアクセスビット（SPDCR.SPBYT）で設定したアクセスサイズで行ってください。

送信データは LSB 詰めで書いてください。受信データは LSB 詰めで格納されます。

以下では、SPDR/SPDR_HA レジスタに対する書き込みおよび読み出しに関連する動作について説明します。

(a)　書き込み

SPDR/SPDR_HA レジスタに書き込むことによって、送信バッファ（SPTXn）にデータを書くことができます。SPDR/SPDR_HA レジスタの読み出し時と異なり、書き込みは SPDCR.SPRDTD ビットの値に影響されません。送信バッファには送信バッファライトポインタがあり、SPDR/SPDR_HA レジスタへデータを書き込むたびに、ポインタが自動更新され、次のステージを参照するようになります。

図 34.3 に、SPDR/SPDR_HA レジスタへの書き込み時の送信バッファのバスインタフェースの構成図を示します。

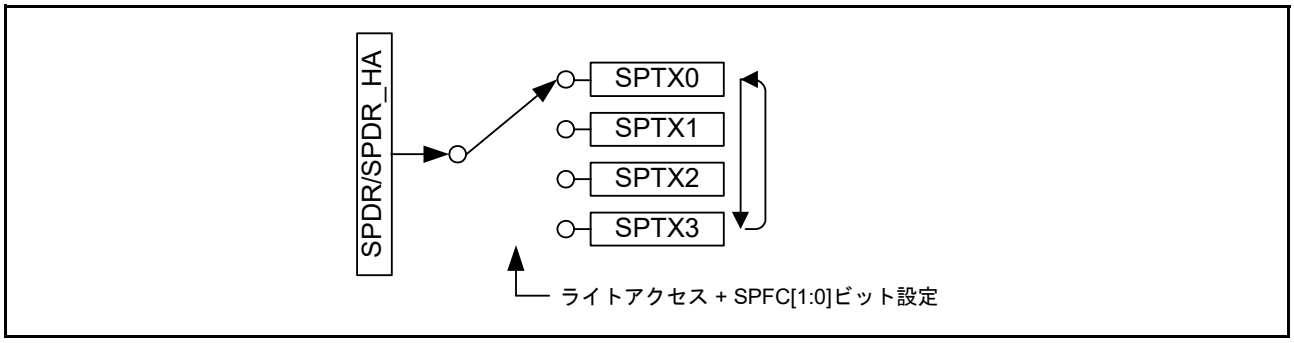


図 34.3　　書き込み時の SPDR/SPDR_HA レジスタの構成図

送信バッファライトポインタの切り替え順序は、SPI データコントロールレジスタのフレーム数設定ビット（SPDCR.SPFC[1:0]）の設定値によって異なります。

SPFC[1:0] ビットの設定値と、SPTX0 ～ SPTX3 間のポインタ切り替え順序との関係は以下のとおりです。

- SPFC[1:0] = 00b のとき：SPTX0 → SPTX0 → SPTX0 →・・・
- SPFC[1:0] = 01b のとき：SPTX0 → SPTX1 → SPTX0 → SPTX1 →・・・
- SPFC[1:0] = 10b のとき：SPTX0 → SPTX1 → SPTX2 → SPTX0 → SPTX1 →・・・
- SPFC[1:0] = 11b のとき：SPTX0 → SPTX1 → SPTX2 → SPTX3 → SPTX0 → SPTX1 →・・・

SPI コントロールレジスタの SPI 機能有効ビット（SPCR.SPE）の値が 0 の状態で、同ビットに 1 を書くと、次の書き込み先は SPTX0 になります。

送信バッファ（SPTXn）へ書き込む際は、送信バッファエンプティ割り込みの発生後（SPSR.SPTEF ビット = 1）、SPI データコントロールレジスタ（SPDCR）の SPFC[1:0] ビットで設定したフレーム数分を書き込んでください。書き込み完了から次の送信バッファエンプティ割り込み発生（SPTEF = 0）までの期間は、送信バッファ（SPTXn）に対して、設定したフレーム数分の書き込みを行っても、バッファの値は更新されません。

(b)　読み出し

SPDR/SPDR_HA レジスタにアクセスすることによって、受信バッファ（SPRXn）または送信バッファ（SPTXn）の値を読むことができます。SPI データコントロールレジスタの SPI 受信／送信データ選択ビット（SPDCR.SPRDTD）の設定によって、受信バッファと送信バッファのどちらを読み出すか選択できます。

SPDR/SPDR_HA レジスタの読み出し順序は、独立した受信バッファリードポインタと送信バッファリードポインタによって制御されます。

図 34.4 に、SPDR/SPDR_HA レジスタからの読み出し時の受信および送信バッファのバスインタフェースの構成図を示します。

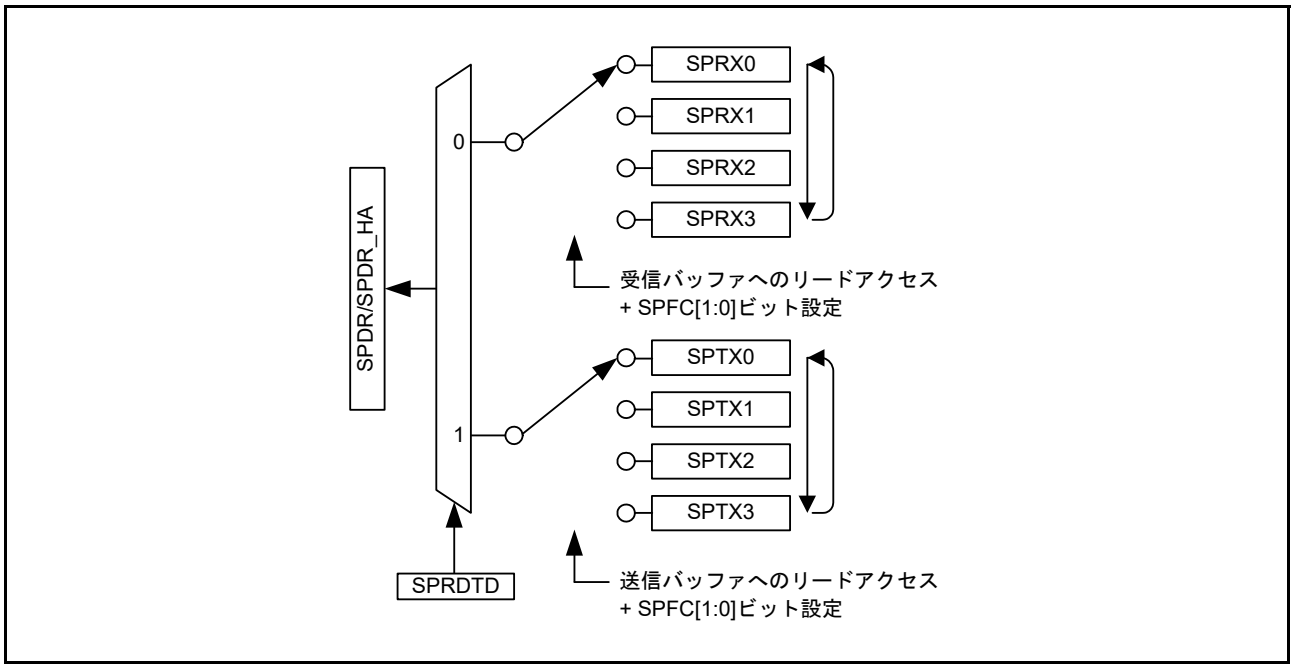


図 34.4　読み出し時の SPDR/SPDR_HA レジスタの構成図

受信バッファを読み出すと、受信バッファリードポインタが次のバッファに自動的に切り替わります。受信バッファリードポインタの切り替え順序は、送信バッファライトポインタと同じです。ただし、SPI コントロールレジスタの SPI 機能有効ビット（SPCR.SPE）が 1 の状態で、本ビットに 1 を書くと、次の読み出し時はバッファリードポインタによって SPRX0 が参照されます。

送信バッファリードポインタは、SPDR/SPDR_HA レジスタへの書き込み時に更新され、送信バッファからの読み出し時には更新されません。送信バッファを読み出すと、SPDR/SPDR_HA レジスタに最後に書き込まれた値が読み出せます。

ただし、送信バッファエンプティ割り込み発生後、SPDCR.SPFC[1:0] ビットで設定したフレーム数分のデータ書き込み完了から次の送信バッファエンプティ割り込み発生（SPTEF = 0）までの期間は、送信バッファからの読み出し値がすべて 0 となります。

34.2.6 SPI シーケンスコントロールレジスタ（SPSCR）

アドレス SPI0.SPSCR 4007 2008h, SPI1.SPSCR 4007 2108h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	SPSLN[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	SPSLN[2:0]	SPIシーケンス長設定	b2 b0 シーケンス長 参照するSPCMD0～7レジスタ（番号） 0 0 0 : 1 0→0→… 0 0 1 : 2 0→1→0→… 0 1 0 : 3 0→1→2→0→… 0 1 1 : 4 0→1→2→3→0→… 1 0 0 : 5 0→1→2→3→4→0→… 1 0 1 : 6 0→1→2→3→4→5→0→… 1 1 0 : 7 0→1→2→3→4→5→6→0→… 1 1 1 : 8 0→1→2→3→4→5→6→7→0→… これらのビットで設定したシーケンス長によって、SPCMD0～SPCMD07レジスタの参照順序が決まります。また、シーケンス長と、SPIが参照するSPCMD0～SPCMD7レジスタの関係が定義されます。 スレーブモードでは、SPIはSPCMD0レジスタを参照します。	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

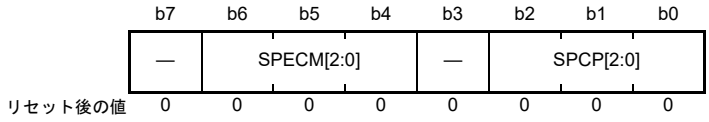
SPSCR レジスタは、SPI がマスタモードで動作する場合のシーケンス長を指定するためのレジスタです。SPCR.MSTR および SPCR.SPE ビットがともに 1 の状態で SPSCR.SPSLN[2:0] ビットを変更する場合、必ず事前に SPSR.IDLNF フラグが 0 であることを確認してください。

SPSLN[2:0] ビット（SPI シーケンス長設定）

マスタモードの SPI がシーケンス動作する場合のシーケンス長を指定します。マスタモードの SPI は、このシーケンス長の設定に応じて、参照する SPCMD0 ～ SPCMD7 レジスタとその参照順序を変更します。スレーブモードでは、SPCMD0 レジスタが参照されます。

34.2.7　SPI シーケンスステータスレジスタ（SPSSR）

アドレス　SPI0.SPSSR 4007 2009h, SPI1.SPSSR 4007 2109h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	SPCP[2:0]	SPIコマンドポインタ	b2 b0 0 0 0 : SPCMD0 0 0 1 : SPCMD1 0 1 0 : SPCMD2 0 1 1 : SPCMD3 1 0 0 : SPCMD4 1 0 1 : SPCMD5 1 1 0 : SPCMD6 1 1 1 : SPCMD7	R
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b6-b4	SPECM[2:0]	SPIエラーコマンド	b6 b4 0 0 0 : SPCMD0 0 0 1 : SPCMD1 0 1 0 : SPCMD2 0 1 1 : SPCMD3 1 0 0 : SPCMD4 1 0 1 : SPCMD5 1 1 0 : SPCMD6 1 1 1 : SPCMD7	R
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

SPSSR レジスタは、SPI がマスタモードで動作する場合のシーケンス制御の状態を示します。SPSSR レジスタへの書き込みは無効です。

SPCP[2:0] ビット（SPI コマンドポインタ）

SPI によるシーケンス制御中に、ポインタで参照されている SPCMDm レジスタを示します。SPI のシーケンス制御については、34.3.10.1　マスタモード動作を参照してください。

SPECM[2:0] ビット（SPI エラーコマンド）

SPI によるシーケンス制御中にエラーが検出されたとき、SPCP[2:0] ビットで指定した SPCMDm レジスタを示します。SPI は、エラー検出時にのみ SPECM[2:0] ビットを更新します。SPSR.OVRF および SPSR.MODF フラグがともに 0 で、エラーが発生していない場合、SPECM[2:0] ビット値には意味がありません。

SPI のエラー検出機能については、34.3.8　エラー検出を参照してください。SPI のシーケンス制御については、34.3.10.1　マスタモード動作を参照してください。

34.2.8 SPI ビットレートレジスタ（SPBR）

アドレス SPI0.SPBR 4007 200Ah, SPI1.SPBR 4007 210Ah



SPBR レジスタは、マスタモード時のビットレートを設定するレジスタです。SPCR.MSTR ビットと SPCR.SPE ビットがともに 1 の状態で、SPBR レジスタの内容を変更した場合、以降の動作は行わないでください。

SPI をスレーブモードで使用する場合、SPBR レジスタと SPCMDm.BRDV[1:0] ビット（ビットレート分周設定ビット）の設定に関係なく、ビットレートは入力クロックのビットレートに依存します。電気的特性を満たすビットレートを使用してください。

ビットレートは、SPBR レジスタの設定値と SPCMDm.BRDV[1:0] ビット（SPI コマンドレジスタ）の設定値の組み合わせで決定されます。ビットレートの計算式は下記のとおりです。

$$\text{Bit rate} = \frac{f(\text{PCLKA})}{2 \times (n + 1) \times 2^{N}}$$

この式で、n は SPBR レジスタの設定値（0, 1, 2, …, 255）、N は BRDV[1:0] ビットの設定値（0, 1, 2, 3）です。

SPBR レジスタの設定値、BRDV[1:0] ビットの設定値、およびビットレートの関係の例を表 34.3 に示します。

表 34.3　SPBR レジスタ設定値、BRDV[1:0] ビット設定値、およびビットレートの関係

SPBR（n）	BRDV[1:0] ビット（N）	分周比	ビットレート							
			PCLKA = 32MHz	PCLKA = 36MHz	PCLKA = 40MHz	PCLKA = 50MHz	PCLKA = 60MHz	PCLKA = 80MHz	PCLKA = 100MHz	PCLKA = 120MHz
0	0	2	16.0Mbps	18.0Mbps	20.0Mbps	25.0Mbps	30.0Mbps	なし		
1	0	4	8.00Mbps	9.00Mbps	10.0Mbps	12.5Mbps	15.0Mbps	20.0Mbps	25.0Mbps	30.0Mbps
2	0	6	5.33Mbps	6.00Mbps	6.67Mbps	8.33Mbps	10.0Mbps	13.3Mbps	16.7Mbps	20.0Mbps
3	0	8	4.00Mbps	4.50Mbps	5.00Mbps	6.25Mbps	7.50Mbps	10.0Mbps	12.5Mbps	15.0Mbps
4	0	10	3.20Mbps	3.60Mbps	4.00Mbps	5.00Mbps	6.00Mbps	8.00Mbps	10.0Mbps	12.0Mbps
5	0	12	2.67Mbps	3.00Mbps	3.33Mbps	4.16Mbps	5.00Mbps	6.67Mbps	8.33Mbps	10.0Mbps
5	1	24	1.33Mbps	1.50Mbps	1.67Mbps	2.08Mbps	2.50Mbps	3.33Mbps	4.17Mbps	5.00Mbps
5	2	48	667kbps	750kbps	833kbps	1.04Mbps	1.25Mbps	1.67Mbps	2.08Mbps	2.50Mbps
5	3	96	333kbps	375kbps	417kbps	521kbps	625kbps	833kbps	1.04Mbps	1.25Mbps
255	3	4096	7.81kbps	8.80kbps	9.78kbps	12.2kbps	14.6kbps	19.5kbps	24.4kbps	29.3kbps

34.2.9 SPI データコントロールレジスタ（SPDCR）

アドレス SPI0.SPDCR 4007 200Bh, SPI1.SPDCR 4007 210Bh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	SPBYT	SPLW	SPRDTD	—	—	SPFC[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	SPFC[1:0]	フレーム数設定	b1 b0 0 0：1フレーム 0 1：2フレーム 1 0：3フレーム 1 1：4フレーム	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	SPRDTD	SPI受信／送信データ選択	0：SPDR/SPDR_HAの値は受信バッファから読み出す 1：SPDR/SPDR_HAの値は送信バッファから読み出す（送信バッファが空の場合のみ）	R/W
b5	SPLW	SPIワードアクセス／ハーフワードアクセス設定	0：SPDR_HAが有効（ハーフワードアクセス） 1：SPDRが有効（ワードアクセス）	R/W
b6	SPBYT	SPIバイトアクセス設定	0：SPDRへのアクセスはハーフワードアクセスまたはワードアクセス（SPLW有効） 1：SPDRへのアクセスはバイトアクセス（SPLW無効）	R/W
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

1 回の送受信で最大 4 フレームを送受信できます。各転送におけるデータ量は、SPCMDm.SPB[3:0] ビット、SPSCR.SPSLN[2:0] ビット、および SPDCR.SPFC[1:0] ビットの組み合わせで制御されます。

SPCR.SPE ビットが 1 の状態で、SPDCR.SPFC[1:0] ビットを変更する場合、必ず SPSR.IDLNF フラグが 0 であることを確認してください。

SPFC[1:0] ビット（フレーム数設定）

1 回の転送起動で SPDR/SPDR_HA レジスタに格納できるフレーム数を設定します。1 回の送受信で最大 4 フレームを送受信できます。

SPFC[1:0] ビットで指定したフレーム数分の送信データが、SPDR/SPDR_HA レジスタに書き込まれると、SPI は SPSR.SPTEF フラグを 0 にして送信を開始します。その後、SPFC[1:0] ビットで指定されたフレーム数分の送信データがシフトレジスタに送信されると、SPI は送信バッファエンプティ割り込みを発生させます（SPSR.SPTEF が 1 になります）。

SPFC[1:0] ビットで指定されたフレーム数分のデータが受信されると、SPI は受信バッファフル割り込みを発生させます（SPSR.SPRF が 1 になります）。

表 34.4　SPSLN[2:0] ビットと SPFC[1:0] ビットの設定可能な組み合わせ (1/2)

設定	SPSLN[2:0]	SPFC[1:0]	1シーケンスで転送するフレーム数	送信バッファ／受信バッファがフルになるフレーム数
1-1	000b	00b	1	1
1-2	000b	01b	2	2
1-3	000b	10b	3	3
1-4	000b	11b	4	4
2-1	001b	01b	2	2
2-2	001b	11b	4	4
3	010b	10b	3	3
4	011b	11b	4	4
5	100b	00b	5	1

表 34.4　SPSLN[2:0] ビットと SPFC[1:0] ビットの設定可能な組み合わせ (2/2)

設定	SPSLN[2:0]	SPFC[1:0]	1シーケンスで転送するフレーム数	送信バッファ／受信バッファがフルになるフレーム数
6	101b	00b	6	1
7	110b	00b	7	1
8	111b	00b	8	1

SPRDTD ビット（SPI 受信／送信データ選択）

SPDR/SPDR_HA レジスタが、値を受信バッファと送信バッファのどちらから読み出すかを選択します。

送信バッファから読み出す場合、SPDR/SPDR_HA レジスタへ直前に書き込まれた値が読み出されます。送信バッファの読み出しは、SPFC[1:0] ビットで設定したフレーム数の書き込み終了前、かつ送信バッファエンプティ割り込みの発生後（SPSR.SPTEF = 1 のとき）に行ってください。

詳細は、34.2.5　SPI データレジスタ（SPDR/SPDR_HA）を参照してください。

SPLW ビット（SPI ワードアクセス／ハーフワードアクセス設定）

SPDR レジスタへのアクセス幅を設定します。SPLW ビットが 0 の場合、SPDR_HA レジスタへのハーフワードアクセスが有効となり、SPLW ビットが 1 の場合、SPDR レジスタへのワードアクセスが有効となります。また、本ビットが 0 の場合、SPCMDm.SPB[3:0] ビット（SPI データ長設定ビット）は 8 ～ 16 ビットに設定してください。20、24、または 32 ビットに設定した場合、すべての動作を行わないでください。

SPBYT ビット（SPI バイトアクセス設定）

本ビットは、SPI データレジスタ（SPDR）にアクセスする際のデータ幅を設定するのに使用します。SPBYT = 0 の場合、SPDR へのアクセスにはワードアクセスまたはハーフワードアクセスを使用してください。SPBYT = 1（この場合 SPLW は無効）の場合、SPDR へのアクセスにはバイトアクセスを使用してください。

SPBYT = 1 の場合、SPI コマンドレジスタ n（SPCMDn）の SPI データ長ビット（SPB[3:0]）を 8 ビットに設定してください。SPB[3:0] を 9 ～ 16、20、24 または 32 ビットに設定した場合、その後の動作は保証されません。

34.2.10 SPI クロック遅延レジスタ（SPCKD）

アドレス SPI0.SPCKD 4007 200Ch, SPI1.SPCKD 4007 210Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	SCKDL[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	SCKDL[2:0]	RSPCK遅延設定	b2 b0 0 0 0 : 1RSPCK 0 0 1 : 2RSPCK 0 1 0 : 3RSPCK 0 1 1 : 4RSPCK 1 0 0 : 5RSPCK 1 0 1 : 6RSPCK 1 1 0 : 7RSPCK 1 1 1 : 8RSPCK	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

SPCKD レジスタは、SPCMDm.SCKDEN ビットが 1 の場合、SSLni 信号アサート開始から RSPCK 発振までの期間（RSPCK 遅延）を設定するためのレジスタです。SPCR.MSTR ビットと SPCR.SPE ビットがともに 1 の状態で、SPCKD レジスタの内容を変更した場合、以降の動作は行わないでください。

SCKDL[2:0] ビット（RSPCK 遅延設定）

SPCMDm.SCKDEN ビットが 1 の場合の RSPCK 遅延値を指定します。SPI をスレーブモードで使用する場合は、SCKDL[2:0] ビットを 000b にしてください。

34.2.11 SPI スレーブ選択ネゲート遅延レジスタ（SSLND）

アドレス SPI0.SSLND 4007 200Dh, SPI1.SSLND 4007 210Dh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	SLNDL[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	SLNDL[2:0]	SSL ネゲート遅延設定	b2 b0 0 0 0 : 1RSPCK 0 0 1 : 2RSPCK 0 1 0 : 3RSPCK 0 1 1 : 4RSPCK 1 0 0 : 5RSPCK 1 0 1 : 6RSPCK 1 1 0 : 7RSPCK 1 1 1 : 8RSPCK	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

SSLND レジスタは、マスタモードの SPI がシリアル転送の最終 RSPCK エッジを送信してから SSLni 信号をネゲートするまでの期間（SSL ネゲート遅延）を指定するためのレジスタです。SPCR.MSTR ビットと SPCR.SPE ビットがともに 1 の状態で、SSLND レジスタの内容を変更した場合、以降の動作は行わないでください。

SLNDL[2:0] ビット（SSL ネゲート遅延設定）

SPI がマスタモードのとき、SSL ネゲート遅延値を指定します。SPI をスレーブモードで使用する場合は、SLNDL[2:0] ビットを 000b にしてください。

34.2.12 SPI 次アクセス遅延レジスタ（SPND）

アドレス SPI0.SPND 4007 200Eh, SPI1.SPND 4007 210Eh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	SPNDL[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	SPNDL[2:0]	SPI次アクセス遅延設定	b2 b1 b0 0 0 0 : 1RSPCK + 2PCLKA 0 0 1 : 2RSPCK + 2PCLKA 0 1 0 : 3RSPCK + 2PCLKA 0 1 1 : 4RSPCK + 2PCLKA 1 0 0 : 5RSPCK + 2PCLKA 1 0 1 : 6RSPCK + 2PCLKA 1 1 0 : 7RSPCK + 2PCLKA 1 1 1 : 8RSPCK + 2PCLKA	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

SPND レジスタは、SPCMDm.SPNDEN ビットが 1 の場合、シリアル転送終了後の SSLni 信号の非アクティブ期間（次アクセス遅延）を指定するためのレジスタです。SPCR.MSTR ビットと SPCR.SPE ビットがともに 1 の状態で、SPND レジスタの内容を変更した場合、以降の動作は行わないでください。

SPNDL[2:0] ビット（SPI 次アクセス遅延設定）

SPCMDm.SPNDEN ビットが 1 の場合に、次アクセス遅延を指定します。SPI をスレーブモードで使用する場合は、SPNDL[2:0] ビットを 000b にしてください。

34.2.13 SPI コントロールレジスタ 2（SPCR2）

アドレス SPI0.SPCR2 4007 200Fh, SPI1.SPCR2 4007 210Fh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	SCKASE	PTE	SPIIE	SPOE	SPPE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SPPE	パリティ有効	0：送信データにパリティビットを付加せず、受信データのパリティビットをチェックしない 1：SPCR.TXMD = 0の場合：送信データにパリティビットを付加し、受信データのパリティビットをチェックする SPCR.TXMD = 1の場合：送信データにパリティビットを付加するが、受信データのパリティビットをチェックしない	R/W
b1	SPOE	パリティモード	0：送受信用に偶数パリティを選択 1：送受信用に奇数パリティを選択	R/W
b2	SPIIE	SPIアイドル割り込み許可	0：アイドル割り込み要求を禁止 1：アイドル割り込み要求を許可	R/W
b3	PTE	パリティ自己診断	0：パリティ回路自己診断機能は無効 1：パリティ回路自己診断機能は有効	R/W
b4	SCKASE	RSPCK自動停止機能有効	0：RSPCK自動停止機能は無効 1：RSPCK自動停止機能は有効	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

SPCR.SPE ビットが 1 の状態で、SPCR2 レジスタの SPPE、SPOE、または SCKASE ビットを変更した場合、以降の動作は行わないでください。

SPPE ビット（パリティ有効）

パリティ機能を有効または無効にします。

SPCR.TXMD ビットが 0 で、本ビットが 1 のとき、送信データにパリティビットを付加し、受信データのパリティチェックを行います。

SPCR.TXMD ビットが 1 で、本ビットが 1 のとき、送信データにパリティビットを付加するが、受信データのパリティチェックは行いません。

SPOE ビット（パリティモード）

偶数パリティまたは奇数パリティを指定します。

偶数パリティが設定された場合、パリティビットと送受信キャラクタを合わせて、値が 1 のビットの個数の合計が偶数になるように、パリティビットが付加されます。同様に、奇数パリティが設定された場合、パリティビットと送受信キャラクタを合わせて、値が 1 のビットの個数の合計が奇数になるように、パリティビットが付加されます。

SPOE ビットは、SPPE ビットが 1 のときのみ有効です。

SPIIE ビット（SPI アイドル割り込み許可）

SPI のアイドル状態が検出されて SPSR.IDLNF フラグが 0 になった場合に、SPI アイドル割り込み要求の発生を許可または禁止します。

PTE ビット（パリティ自己診断）

パリティ機能が正常であることを確認するため、パリティ回路の自己診断機能を有効にします。

SCKASE ビット（RSPCK 自動停止機能有効）

RSPCK 自動停止機能を有効または無効にします。この機能を有効にすると、マスタモードでのデータ受信時に、オーバーランエラーが発生する前に RSPCK クロックが停止します。詳細は、34.3.8.1　オーバーランエラーを参照してください。

34.2.14　SPI コマンドレジスタ 0 ～ 7（SPCMD0 ～ SPCMD7）

アドレス　SPI0.SPCMD0 4007 2010h, SPI0.SPCMD1 4007 2012h, SPI0.SPCMD2 4007 2014h, SPI0.SPCMD3 4007 2016h, SPI0.SPCMD4 4007 2018h, SPI0.SPCMD5 4007 201Ah, SPI0.SPCMD6 4007 201Ch, SPI0.SPCMD7 4007 201Eh, SPI1.SPCMD0 4007 2110h, SPI1.SPCMD1 4007 2112h, SPI1.SPCMD2 4007 2114h, SPI1.SPCMD3 4007 2116h, SPI1.SPCMD4 4007 2118h, SPI1.SPCMD5 4007 211Ah, SPI1.SPCMD6 4007 211Ch, SPI1.SPCMD7 4007 211Eh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]		CPOL	CPHA
リセット後の値	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CPHA	RSPCK位相設定	0：立ち上がりエッジでデータサンプリング、立ち下がりエッジでデータ変化を選択 1：立ち上がりエッジでデータ変化、立ち下がりエッジでデータサンプリングを選択	R/W
b1	CPOL	RSPCK極性設定	0：アイドル時のRSPCKをLowに設定 1：アイドル時のRSPCKをHighに設定	R/W
b3-b2	BRDV[1:0]	ビットレート分周設定	b3 b2 0 0：ベースのビットレート 0 1：ベースのビットレートの2分周 1 0：ベースのビットレートの4分周 1 1：ベースのビットレートの8分周	R/W
b6-b4	SSLA[2:0]	SSL信号アサート設定	b6 b4 0 0 0：SSL0 0 0 1：SSL1 0 1 0：SSL2 0 1 1：SSL3 1 x x：設定禁止 x：Don’t care	R/W
b7	SSLKP	SSL信号レベル保持	0：転送完了時にすべてのSSL信号をネゲート 1：SSL信号レベルを転送後から次のアクセス開始まで保持	R/W
b11-b8	SPB[3:0]	SPIデータ長設定	b11 b8 0100～0111：8ビット 1 0 0 0：9ビット 1 0 0 1：10ビット 1 0 1 0：11ビット 1 0 1 1：12ビット 1 1 0 0：13ビット 1 1 0 1：14ビット 1 1 1 0：15ビット 1 1 1 1：16ビット 0 0 0 0：20ビット 0 0 0 1：24ビット 0010、0011：32ビット	R/W
b12	LSBF	SPI LSBファースト	0：MSBファースト 1：LSBファースト	R/W
b13	SPNDEN	SPI次アクセス遅延許可	0：次アクセス遅延に1RSPCK + 2PCLKAを選択 1：次アクセス遅延にSPI次アクセス遅延レジスタ（SPND）の設定値を選択	R/W
b14	SLNDEN	SSLネゲート遅延設定許可	0：SSLネゲート遅延に1RSPCKを選択 1：SSLネゲート遅延にSPIスレーブセレクトネゲート遅延レジスタ（SSLND）の設定値を選択	R/W
b15	SCKDEN	RSPCK遅延設定許可	0：RSPCK遅延に1RSPCKを選択 1：RSPCK遅延にSPIクロック遅延レジスタ（SPCKD）の設定値を選択	R/W

SPCMDm レジスタは、マスタモードの SPI に対して転送フォーマットを指定するレジスタです。チャネルごとに 8 つの SPI コマンドレジスタ（SPCMD0 ～ SPCMD7）があります。SPCMD0 レジスタの一部のビットは、スレーブモードの SPI に対して転送モードを設定するために使用されます。マスタモードの SPI は、SPSCR.SPSLN[2:0] ビットの設定に従ってシーケンシャルに SPCMDm レジスタを参照し、参照した

SPCMDm レジスタに設定されたシリアル転送を実行します。

SPCMDm レジスタの設定は、送信バッファが空の（SPSR.SPTEF = 1 で、次転送のデータがセットされていない）状態で、その SPCMDm レジスタが参照されたときに送信されるデータの設定前に行ってください。

マスタモードの SPI が参照している SPCMDm レジスタは、SPSSR.SPCP[2:0] ビットで確認できます。SPCR.MSTR ビットが 0、かつ SPCR.SPE ビットが 1 の状態で、SPCMDm レジスタの内容を変更した場合、以降の動作は行わないでください。

CPHA ビット（RSPCK 位相設定）

マスタモードまたはスレーブモードの SPI に対して、RSPCK の位相を選択します。SPI モジュール間でデータ通信を行う場合、モジュール間では同一の RSPCK 位相を設定する必要があります。

CPOL ビット（RSPCK 極性設定）

マスタモードまたはスレーブモードの SPI に対して、RSPCK の極性を選択します。SPI モジュール間でデータ通信を行う場合、モジュール間では同一の RSPCK 極性を設定する必要があります。

BRDV[1:0] ビット（ビットレート分周設定）

ビットレートを決定します。ビットレートは、この BRDV[1:0] ビットと SPBR レジスタの設定値の組み合わせで決定します（34.2.8　SPI ビットレートレジスタ（SPBR）を参照してください）。SPBR レジスタの設定値は、ベースとなるビットレートを決定します。BRDV[1:0] ビットの設定値は、ベースのビットレートに対して分周なし／2 分周／4 分周／8 分周したビットレートを選択します。SPCMDm レジスタには、それぞれ異なる BRDV[1:0] ビット値を指定できます。このため、コマンドごとに異なるビットレートでシリアル転送を実行できます。

SSLA[2:0] ビット（SSL 信号アサート設定）

マスタモードの SPI がシリアル転送を行う際の、SSLni 信号のアサートを制御します。SSLni 信号アサート時の信号極性は、対応する SSLP レジスタの設定値により決定します。マルチマスタモードで SSLA[2:0] ビットを 000b にした場合、SSLn0 端子は入力になるため、全 SSL 信号がネゲート状態でシリアル転送が実行されます。SPI をスレーブモードで使用する場合は、SSLA[2:0] ビットを 000b にしてください。

SSLKP ビット（SSL 信号レベル保持）

マスタモード SPI がシリアル転送を行う際、SSLKP ビットは現在のコマンドに関連する SSL ネゲーションおよび次のコマンドに関連する SSL アサーション間と、現在の SSLni 信号レベルをキープするまたはネゲートするかを指定します。

SSLKP ビットを 1 にすると、バースト転送が有効になります。詳細は、34.3.10.1　マスタモード動作の (4)　バースト転送を参照してください。SPI スレーブモードを使用する際は SSLKP ビットを 0 にしてください。

SPB[3:0] ビット（SPI データ長設定）

マスタモードまたはスレーブモードの SPI に対して、転送データ長を指定します。SPLW ビットが 0 の場合、これらのビットは 8 ～ 16 ビットに設定してください。

LSBF ビット（SPI LSB ファースト）

マスタモードまたはスレーブモードの SPI に対して、そのデータフォーマットを MSB ファーストまたは LSB ファーストに指定します。

SPNDEN ビット（SPI 次アクセス遅延許可）

マスタモードの SPI がシリアル転送を終了して SSLni 信号を非アクティブにしてから、次アクセスの SSLni 信号アサートを可能にするまでの期間（次アクセス遅延）を指定します。SPNDEN ビットが 0 のとき、SPI は次アクセス遅延を 1RSPCK + 2PCLKA に設定します。SPNDEN ビットが 1 のとき、SPI は SPND レジスタの設定値に従って次アクセス遅延を挿入します。

SPI をスレーブモードで使用する場合は、SPNDEN ビットを 0 にしてください。

SLNDEN ビット（SSL ネゲート遅延設定許可）

マスタモードの SPI が、RSPCK の発振を停止してから SSLni 信号を非アクティブにするまでの期間（SSL ネゲート遅延）を指定します。SLNDEN ビットが 0 のとき、SPI は SSL ネゲート遅延を 1RSPCK に設定します。SLNDEN ビットが 1 のとき、SPI は SSLND レジスタの設定に従った SSL ネゲート遅延値で SSL 信号をネゲートします。

SPI をスレーブモードで使用する場合は、SLNDEN ビットを 0 にしてください。

SCKDEN ビット（RSPCK 遅延設定許可）

マスタモードの SPI が、SSLni 信号をアサートしてから RSPCK の発振を開始するまでの期間（SPI クロック遅延）を指定します。SCKDEN ビットが 0 のとき、SPI は RSPCK 遅延を 1RSPCK に設定します。SCKDEN ビットが 1 のとき、SPI は SPCKD レジスタの設定で決まる RSPCK 遅延値で RSPCK の発振を開始します。

SPI をスレーブモードで使用する場合は、SCKDEN ビットを 0 にしてください。

34.2.15 SPI データコントロールレジスタ 2（SPDCR2）

アドレス SPI0.SPDCR24007 2020h, SPI1.SPDCR2 4007 2120h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	BYSW
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	BYSW	バイトスワップ動作モード選択	0：バイトスワップOFF 1：バイトスワップON	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

SPI データコントロールレジスタ 2（SPDCR2）は、送受信データのバイト単位スワップを設定するレジスタです。送信バッファのデータがシフトレジスタにコピーされると、そのデータはバイト単位でスワップされます。シフトレジスタのデータが受信バッファにコピーされると、そのデータはバイト単位でスワップされます。

BYSW ビット（バイトスワップ動作モード選択）

本ビットは、送受信データのバイト単位スワップを設定するビットです。バイトアクセスが有効（SPDCR.SPBYT = 1）の場合、バイトスワップは無効です。バイトスワップが有効の場合、パリティ機能は無効でなければなりません（SPCR2.SPPE ビット = 0）。BYSW ビットの設定を変更するには、SPCR.SPE ビット = 0 にしてください。

バイトスワップ後のデータは、指定のデータ長だけ異なります（SPCMD.SPB[3:0] の設定）。

バイトスワップの場合は、データ長（SPB[3:0] の設定）は、32 ビットまたは 16 ビットに設定してください。その他のデータ長（すなわち 8 ～ 15、20、24 ビット長）の場合、バイトスワップは保証されません。スワップ前およびスワップ後（データ長：32 ビット／ 16 ビット）を以下に示します。

- データ長 32 ビット（SPB[3:0] = 0010 または 0011）

  スワップ前：[31:24] [23:16] [15:8] [7:0]

  スワップ後：[7:0] [15:8] [23:16] [31:24]

- データ長 16 ビット（SPB[3:0] = 1111）

  スワップ前：[31:24] [23:16]

  スワップ後：[23:16] [31:24]

バイトアクセスモード（SPDCR.SPBT = 1）の場合、バイトスワップ設定は無効です。

バイトスワップが有効の場合、パリティ機能は無効に設定してください（SPCR2.SPPE = 0）。パリティ機能を有効に設定した場合の動作は保証されません。

34.3　動作説明

本項では、「シリアル転送期間」という用語を、有効データのドライブ開始から最終有効データの取り込みまでの期間という意味で使用します。

34.3.1　SPI 動作の概要

SPI は、下記のモードでの同期式シリアル転送が可能です。

- スレーブモード（SPI 動作）
- シングルマスタモード（SPI 動作）
- マルチマスタモード（SPI 動作）
- スレーブモード（クロック同期式動作）
- マスタモード（クロック同期式動作）

SPI のモードは、SPCR.MSTR、MODFEN、および SPMS ビットで選択できます。表 34.5 に、SPI のモードと SPCR レジスタの設定値との関係、および各モードの概要を示します。

表 34.5　SPCR レジスタの設定値と SPI のモードの関係 (1/2)

モード	スレーブ（SPI動作）	シングルマスタ（SPI動作）	マルチマスタ（SPI動作）	スレーブ（クロック同期式動作）	マスタ（クロック同期式動作）
MSTRビット設定値	0	1	1	0	1
MODFENビット設定値	0または1	0	1	0	0
SPMSビット設定値	0	0	0	1	1
RSPCKn信号	入力	出力	出力／Hi-Z	入力	出力
MOSIn信号	入力	出力	出力／Hi-Z	入力	出力
MISOn信号	出力／Hi-Z	入力	入力	出力	入力
SSLn0信号	入力	出力	入力	Hi-Z（注1）	Hi-Z（注1）
SSLn1～SSLn3信号	Hi-Z（注1）	出力	出力／Hi-Z	Hi-Z（注1）	Hi-Z（注1）
SSL極性変更機能	あり	あり	あり	-	-
最大転送速度	PCLKA/4	PCLKA/2	PCLKA/2	PCLKA/4	PCLKA/2
クロックソース	RSPCK入力	内蔵ボーレートジェネレータ	内蔵ボーレートジェネレータ	RSPCK入力	内蔵ボーレートジェネレータ
クロック極性	2種				
クロック位相	2種	2種	2種	1種（CPHA = 1）	2種
先頭転送ビット	MSB/LSB				
転送データ長	8～16、20、24、32ビット				
バースト転送	可能（CPHA = 1）	可能（CPHA = 0, 1）	可能（CPHA = 0, 1）	-	-
RSPCK遅延制御	なし	あり	あり	なし	あり
SSLネゲート遅延制御	なし	あり	あり	なし	あり
次アクセス遅延制御	なし	あり	あり	なし	あり
転送起動方法	SSL入力アクティブまたはRSPCK発振	送信バッファエンプティ割り込み要求発生で送信バッファ書き込み（SPTEF = 1）	送信バッファエンプティ割り込み要求発生で送信バッファ書き込み（SPTEF = 1）	RSPCK発振	送信バッファエンプティ割り込み要求発生で送信バッファ書き込み（SPTEF = 1）
シーケンス制御	なし	あり	あり	なし	あり
送信バッファエンプティ検出	あり				
受信バッファフル検出	あり（注2）				
オーバーランエラー検出	あり（注2）	あり（注2）（注4）	あり（注2）（注4）	あり（注2）	あり（注2）

表 34.5　SPCR レジスタの設定値と SPI のモードの関係 (2/2)

モード	スレーブ（SPI動作）	シングルマスタ（SPI動作）	マルチマスタ（SPI動作）	スレーブ（クロック同期式動作）	マスタ（クロック同期式動作）
パリティエラー検出	あり（注2）（注3）				
モードフォルトエラー検出	あり（MODFEN = 1）	なし	あり	なし	なし
アンダーランエラー検出	あり	なし	なし	あり	なし

注 1.　この機能は本モードでは使用しません。
注 2.　SPCR.TXMD ビットが 1 のときは、受信バッファフル検出、オーバーランエラー検出、パリティエラー検出を行いません。
注 3.　SPCR2.SPPE ビットが 0 のときは、パリティエラー検出を行いません。
注 4.　SPCR2.SCKASE ビットが 1 のときは、オーバーランエラー検出を行いません。

34.3.2　SPI 端子の制御

SPI は、SPCR.MSTR、MODFEN、SPMS ビット、および入出力ポートの PmnPFS.NCODR ビットの設定値に基づいて、端子状態を切り替えます。端子状態とビット設定値との関係を表 34.6 に示します。入出力ポートの PmnPFS.NCODR ビットの設定値を 0 にすると、CMOS 出力となります。設定値を 1 にするとオープンドレイン出力となります。入出力ポートの設定も同じとなるよう設定してください。

表 34.6　端子状態とビット設定値の関係

モード	端子	端子状態（注2）	
		入出力ポートの PmnPFS.NCODR ビット = 0	入出力ポートの PmnPFS.NCODR ビット = 1
シングルマスタモード（SPI動作）（MSTR = 1、MODFEN = 0、SPMS = 0）	RSPCKn	CMOS出力	オープンドレイン出力
	SSLn0～SSLn3	CMOS出力	オープンドレイン出力
	MOSIn	CMOS出力	オープンドレイン出力
	MISOn	入力	入力
マルチマスタモード（SPI動作）（MSTR = 1、MODFEN = 1、SPMS = 0）	RSPCKn（注3）	CMOS出力／Hi-Z	オープンドレイン出力／Hi-Z
	SSLn0	入力	入力
	SSLn1～SSLn3（注3）	CMOS出力／Hi-Z	オープンドレイン出力／Hi-Z
	MOSIn（注3）	CMOS出力／Hi-Z	オープンドレイン出力／Hi-Z
	MISOn	入力	入力
スレーブモード（SPI動作）（MSTR = 0、SPMS = 0）	RSPCKn	入力	入力
	SSLn0	入力	入力
	SSLn1～SSLn3（注5）	Hi-Z（注1）	Hi-Z（注1）
	MOSIn	入力	入力
	MISOn（注4）	CMOS出力／Hi-Z	オープンドレイン出力／Hi-Z
マスタモード（クロック同期式動作）（MSTR = 1、MODFEN = 0、SPMS = 1）	RSPCKn	CMOS出力	オープンドレイン出力
	SSLn0～SSLn3（注5）	Hi-Z（注1）	Hi-Z（注1）
	MOSIn	CMOS出力	オープンドレイン出力
	MISOn	入力	入力
スレーブモード（クロック同期式動作）（MSTR = 0、SPMS = 1）	RSPCKn	入力	入力
	SSLn0～SSLn3（注5）	Hi-Z（注1）	Hi-Z（注1）
	MOSIn	入力	入力
	MISOn	CMOS出力	オープンドレイン出力

注 1.　この機能は本モードでは使用しません。
注 2.　SPI 機能が選択されていない兼用端子には、SPI の設定値は反映されません。
注 3.　SSLn0 がアクティブレベルの場合、端子状態が Hi-Z になります。
注 4.　SSLn0 が非アクティブレベルまたは SPCR.SPE ビットが 0 の場合、端子状態が Hi-Z になります。
注 5.　これらの端子は入出力ポート端子として使用できます。

シングルマスタモード（SPI 動作）またはマルチマスタモード（SPI 動作）の SPI は、SPPCR.MOIFE ビットと SPPCR.MOIFV ビットの設定値に基づいて、SSL ネゲート期間（バースト転送における SSL 保持期間を含む）の MOSI 信号値を表 34.7 のように決定します。

表 34.7　SSL ネゲート期間の MOSI 信号値の決定方法

MOIFE ビット	MOIFV ビット	SSL ネゲート期間の MOSIn 信号値
0	0, 1	前回転送の最終データ
1	0	Low
1	1	High

34.3.3　SPI システム構成例

34.3.3.1　シングルマスタ／シングルスレーブ（MCU はマスタ）

図 34.5 に、MCU をマスタとして使用する場合のシングルマスタ／シングルスレーブの SPI システム構成例を示します。シングルマスタ／シングルスレーブの構成では、MCU（マスタ）の SSLn0 ～ SSLn3 出力は使用しません。SPI スレーブの SSL 入力は Low に固定して、SPI スレーブは選択状態を維持します。(注 1)

MCU（マスタ）は、RSPCKn および MOSIn 信号をドライブします。SPI スレーブは、MISO 信号をドライブします。

注 1.　SPCMDm.CPHA ビットが 0 のときに設定される転送フォーマットでは、SSL 信号をアクティブレベルに固定することができないスレーブデバイスも存在します。SSL 信号を固定できない場合は、MCU の SSLni 出力をスレーブデバイスの SSL 入力に接続してください。

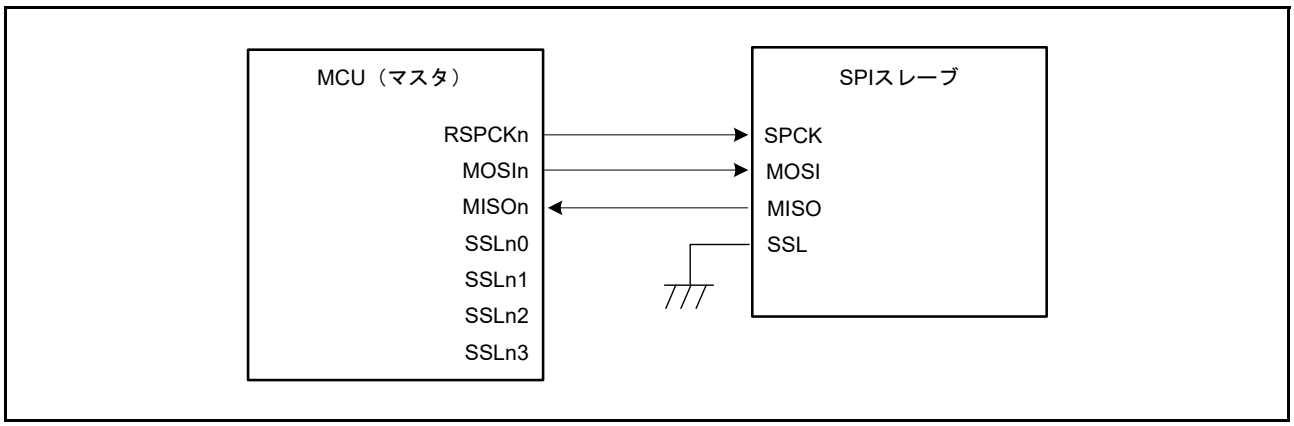


図 34.5　シングルマスタ／シングルスレーブの構成例（MCU はマスタ）

34.3.3.2　シングルマスタ／シングルスレーブ（MCU はスレーブ）

図 34.6 に、MCU をスレーブとして使用する場合のシングルマスタ／シングルスレーブの SPI システム構成例を示します。MCU をスレーブとして使用する場合は、SSLn0 端子は SSL 入力として使用されます。SPI マスタは、RSPCK および MOSI 信号をドライブします。MCU（スレーブ）は、MISOn 信号をドライブします。（注 1）

SPCMDm.CPHA ビットを 1 にしたシングルスレーブ構成の場合には、MCU（スレーブ）の SSLn0 入力は Low に固定され、MCU（スレーブ）は選択状態を維持します。これによって、シリアル転送の実行が可能になります（図 34.7）。

注 1.　SSLn0 が非アクティブレベルの場合、端子状態が Hi-Z になります。

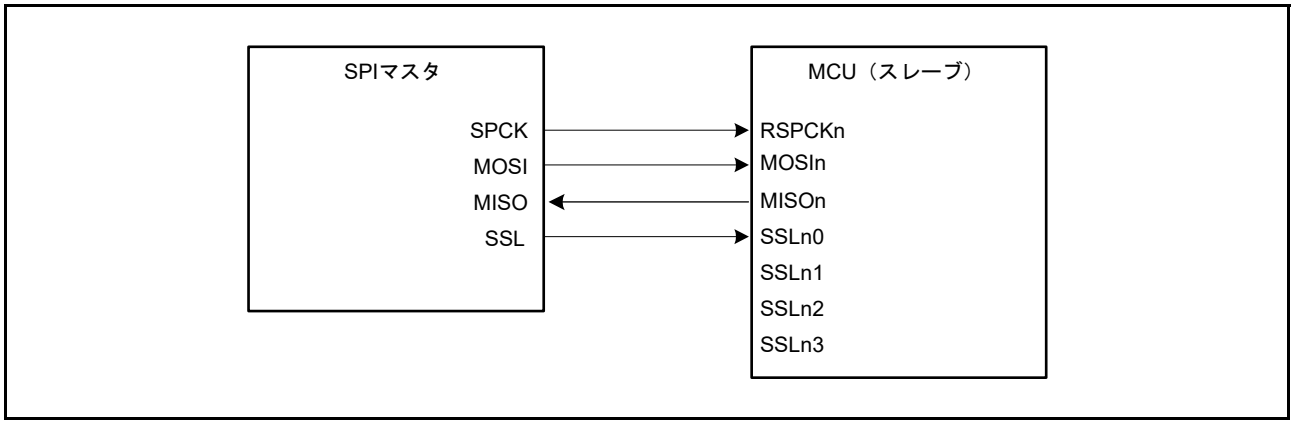


図 34.6　シングルマスタ／シングルスレーブの構成例（MCU はスレーブ、CPHA = 0）

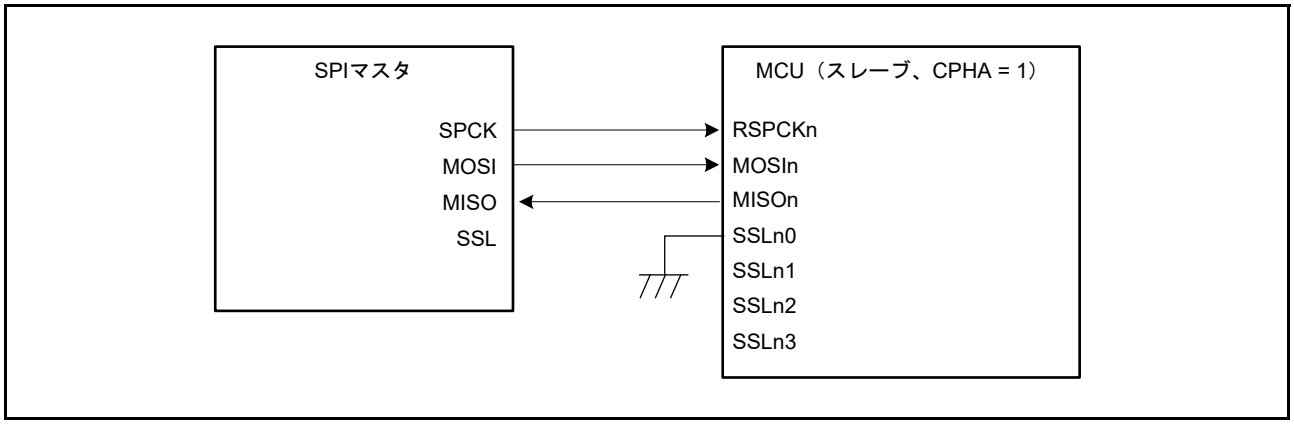


図 34.7　シングルマスタ／シングルスレーブの構成例（MCU はスレーブ、CPHA = 1）

34.3.3.3　シングルマスタ／マルチスレーブ（MCU はマスタ）

図 34.8 に、MCU をマスタとして使用する場合のシングルマスタ／マルチスレーブの SPI システム構成例を示します。この例では、MCU（マスタ）と 4 つのスレーブ（SPI スレーブ 0 ～ SPI スレーブ 3）から SPI システムを構成しています。

MCU（マスタ）の RSPCKn 出力と MOSIn 出力は、SPI スレーブ 0 ～ SPI スレーブ 3 の RSPCK 入力と MOSI 入力に接続します。SPI スレーブ 0 ～ SPI スレーブ 3 の MISO 出力は、すべて MCU（マスタ）の MISOn 入力に接続します。MCU（マスタ）の SSLn0 ～ SSLn3 出力は、それぞれ SPI スレーブ 0 ～ SPI スレーブ 3 の SSL 入力に接続します。

MCU（マスタ）は、RSPCKn、MOSIn、および SSLn0 ～ SSLn3 の各端子をドライブします。SPI スレーブ 0 ～ SPI スレーブ 3 のうち、SSL 入力に Low を入力されているスレーブが、MISO 信号をドライブします。

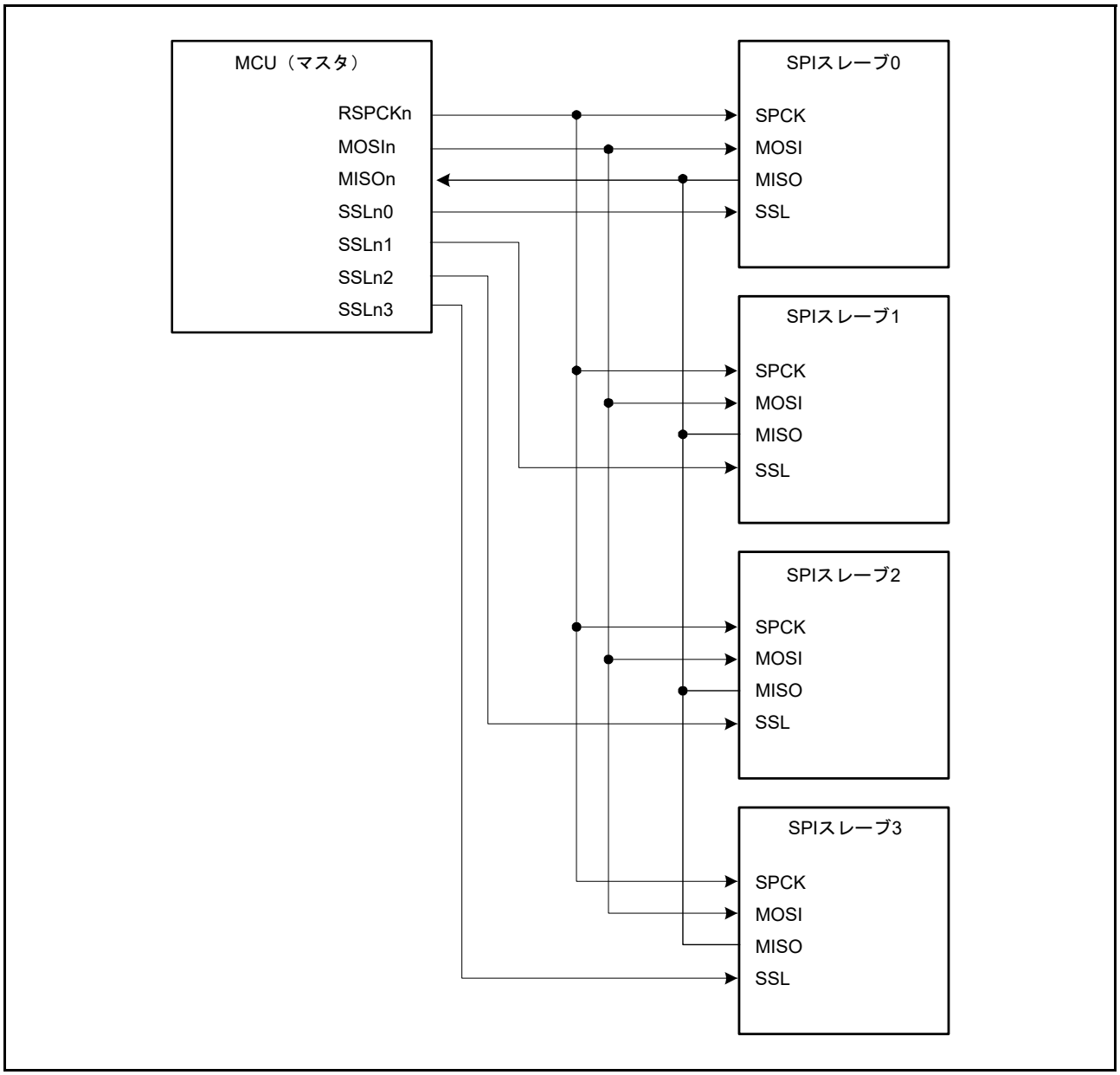


図 34.8　シングルマスタ／マルチスレーブの構成例（MCU はマスタ）

34.3.3.4　シングルマスタ／マルチスレーブ（MCU はスレーブ）

図 34.9 に、MCU をスレーブとして使用する場合のシングルマスタ／マルチスレーブの SPI システム構成例を示します。この例では、SPI マスタと 2 つの MCU（スレーブ X、スレーブ Y）から SPI システムを構成しています。

SPI マスタの SPCK 出力と MOSI 出力は、MCU（スレーブ X、スレーブ Y）の RSPCKn 入力と MOSIn 入力に接続します。MCU（スレーブ X、スレーブ Y）の MISOn 出力は、すべて SPI マスタの MISO 入力に接続します。SPI マスタの SSLX 出力と SSLY 出力は、MCU（それぞれ、スレーブ X とスレーブ Y）の SSLn0 入力に接続します。

SPI マスタは、SPCK、MOSI、SSLX、および SSLY 信号をドライブします。MCU（スレーブ X、スレーブ Y）のうち、SSLn0 入力に Low を入力されているスレーブが、MISOn 信号をドライブします。

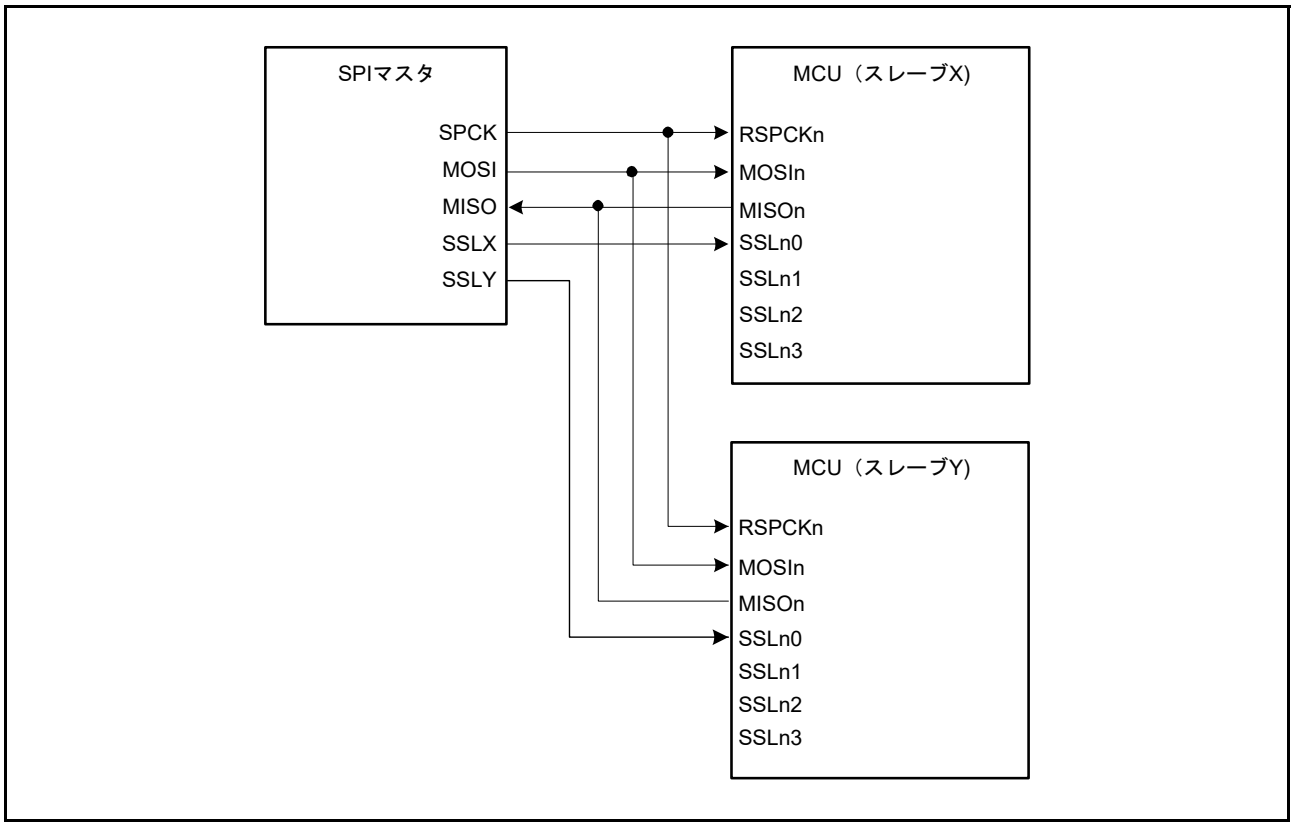


図 34.9　シングルマスタ／マルチスレーブの構成例（MCU はスレーブ）

34.3.3.5　マルチマスタ／マルチスレーブ（MCU はマスタ）

図 34.10 に、MCU をマスタとして使用する場合のマルチマスタ／マルチスレーブの SPI システム構成例を示します。この例では、2 つの MCU（マスタ X、マスタ Y）と 2 つの SPI スレーブ（SPI スレーブ 1、SPI スレーブ 2）から SPI システムを構成しています。

MCU（マスタ X、マスタ Y）の RSPCKn 出力と MOSIn 出力は、SPI スレーブ 1、SPI スレーブ 2 の RSPCK 入力と MOSI 入力に接続します。SPI スレーブ 1、SPI スレーブ 2 の MISO 出力は、MCU（マスタ X、マスタ Y）の MISOn 入力に接続します。MCU（マスタ X）の任意の汎用ポート Y 出力は、MCU（マスタ Y）の SSLn0 入力に接続します。MCU（マスタ Y）の任意の汎用ポート X 出力は、MCU（マスタ X）の SSLn0 入力に接続します。MCU（マスタ X、マスタ Y）の SSLn1 出力と SSLn2 出力は、SPI スレーブ 1、SPI スレーブ 2 の SSL 入力に接続します。この構成例では、SSLn0 入力と、スレーブ接続用の SSLn1 出力および SSLn2 出力のみでシステムを構成できるため、MCU の SSLn3 出力は必要ありません。

SSLn0 入力レベルが High の場合、MCU は RSPCKn、MOSIn、SSLn1、および SSLn2 信号をドライブします。SSLn0 入力レベルが Low の場合、MCU はモードフォルトエラーを検出し、RSPCKn、MOSIn、SSLn1、および SSLn2 を Hi-Z にして、他方のマスタに SPI バスを直接解放します。SPI スレーブ 1 ～ SPI スレーブ 2 のうち、SSL 入力に Low を入力されているスレーブが、MISO 信号をドライブします。

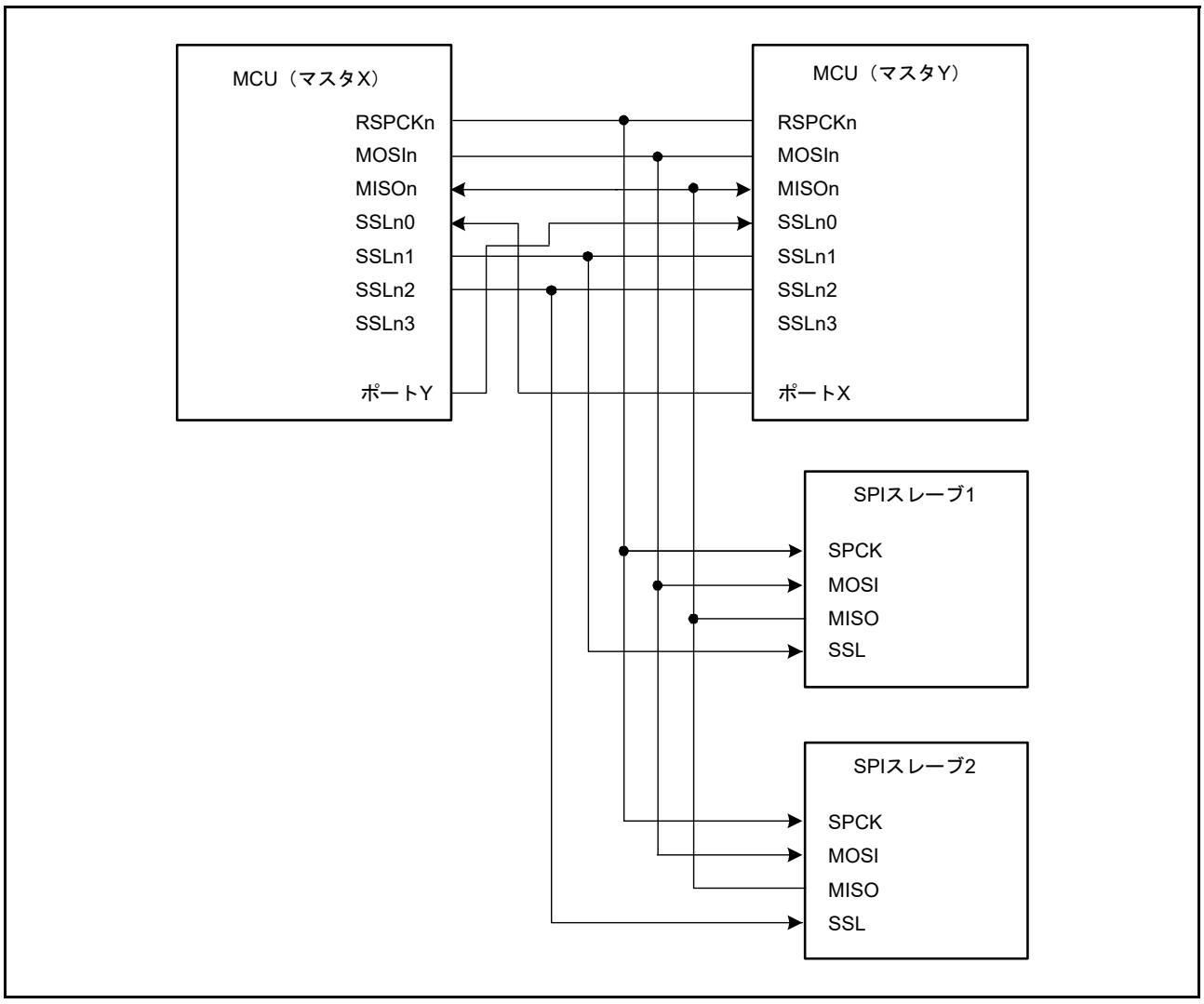


図 34.10　マルチマスタ／マルチスレーブの構成例（MCU はマスタ）

34.3.3.6　クロック同期式動作のマスタ／スレーブの構成（MCU はマスタ）

図 34.11 に、MCU をマスタとして使用する場合のマスタ（クロック同期式動作）／スレーブ（クロック同期式動作）の SPI システム構成例を示します。この構成では、MCU（マスタ）の SSLn0 ～ SSLn3 は使用しません。

MCU（マスタ）は、RSPCKn および MOSIn 信号をドライブします。SPI スレーブは、MISO 信号をドライブします。

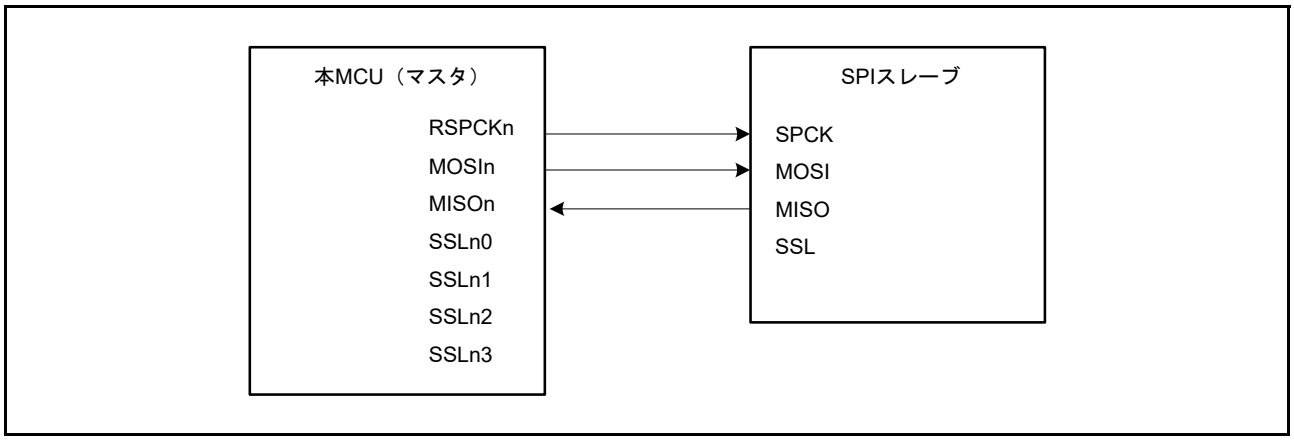


図 34.11　クロック同期式動作のマスタ／スレーブの構成例（MCU はマスタ）

34.3.3.7　クロック同期式動作のマスタ／スレーブの構成（MCU はスレーブ）

図 34.12 に、MCU をスレーブとして使用する場合のマスタ（クロック同期式動作）／スレーブ（クロック同期式動作）の SPI システム構成例を示します。MCU をスレーブ（クロック同期式動作）として使用する場合は、MCU（スレーブ）は MISOn 信号をドライブし、SPI マスタは SPCK および MOSI 信号をドライブします。また、MCU（スレーブ）の SSLn0 ～ SSLn3 は使用しません。

SPCMDm.CPHA ビットを 1 にしたシングルスレーブ構成の場合にのみ、MCU（スレーブ）はシリアル転送の実行が可能です。

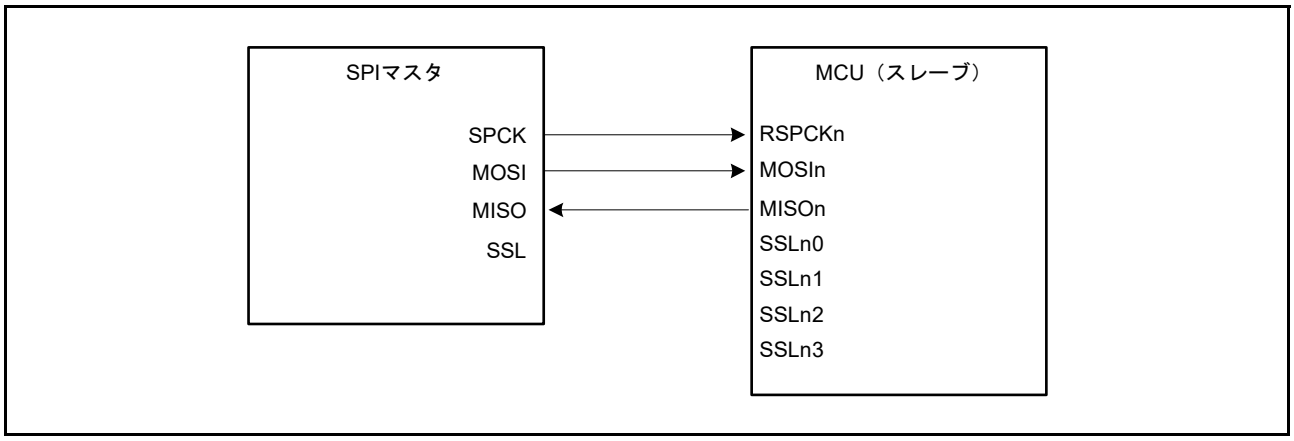


図 34.12　クロック同期式動作のマスタ／スレーブの構成例（MCU はスレーブ、CPHA = 1）

34.3.4　データフォーマット

SPI のデータフォーマットは、SPI コマンドレジスタ m（SPCMDm）（m = 0 ～ 7）と、SPI コントロールレジスタ 2 のパリティ有効ビット（SPCR2.SPPE）の設定値で決まります。MSB ファーストか LSB ファーストかにかかわらず、SPI は SPI データレジスタ（SPDR/SPDR_HA）の LSB ビットから、選択したデータ長に対応するビットまでの範囲を転送データとして扱います。

以下では、転送前または転送後のデータの 1 フレーム分のデータフォーマットについて説明します。

(a)　パリティ機能無効時のデータフォーマット

パリティ機能が無効の場合、SPI コマンドレジスタ m の SPI データ長設定ビット（SPCMDm.SPB[3:0]）で選択したビット長でデータの送受信を行います。

(b)　パリティ機能有効時のデータフォーマット

パリティ機能が有効の場合、SPI コマンドレジスタ m の SPI データ長設定ビット（SPCMDm.SPB[3:0]）で選択したビット長でデータの送受信を行います。ただし、最終ビットはパリティビットです。

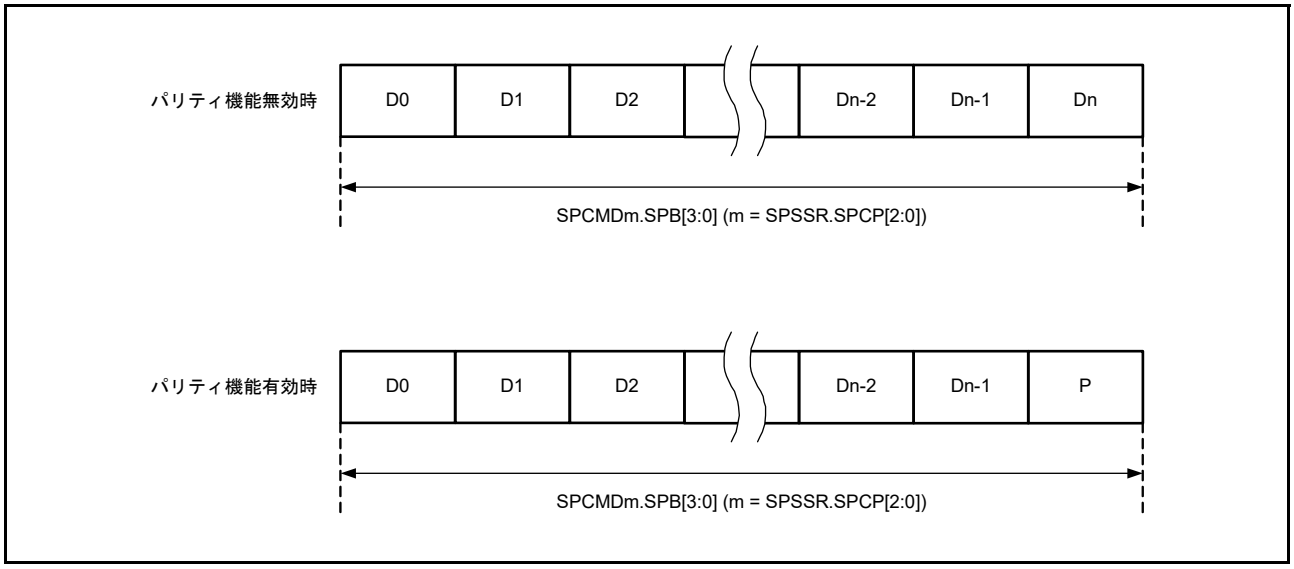


図 34.13　パリティ機能無効時と有効時のデータフォーマット

34.3.4.1　パリティ機能無効時（SPCR2.SPPE = 0）の動作

パリティ機能が無効の場合、送信データを加工せず、シフトレジスタにコピーします。以下では、SPI データレジスタ（SPDR/SPDR_HA）とシフトレジスタの関係を、MSB/LSB ファーストとビット長の組み合わせで説明します。

(1)　MSB ファースト転送（32 ビットデータ）

図 34.14 に、パリティ機能無効時、SPI データ長 32 ビットの MSB ファースト転送を実施する場合の SPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、送信バッファの現ステージのビット T31 ～ T00 をシフトレジスタにコピーします。送信データは、T31 → T30 →・・・T00 の順にシフトレジスタの値をシフトして送信されます。

受信時は、受信データをシフトレジスタのビット 0 から格納し始め、1 ビットごと受信データをシフトします。必要数分の RSPCK 周期が入力され、R31 ～ R00 ビットまでデータがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。

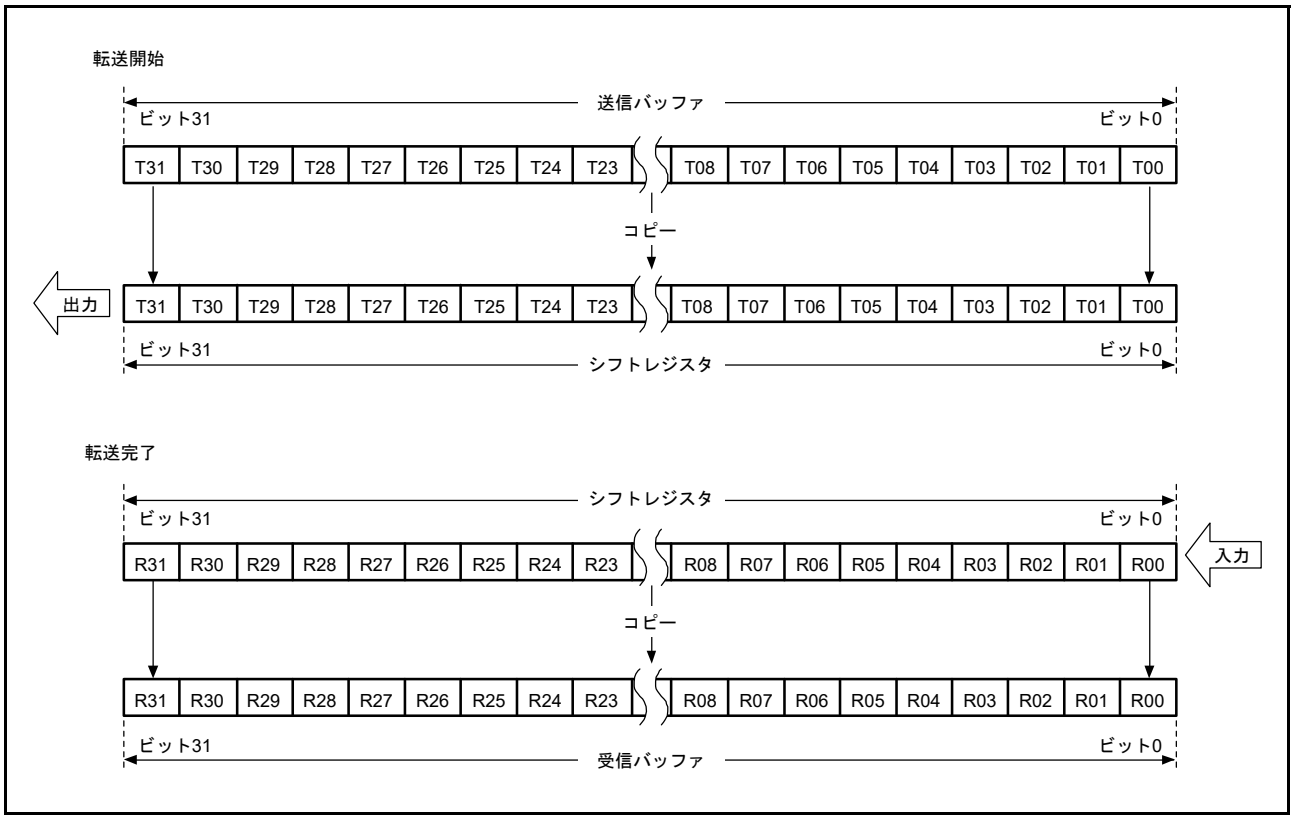


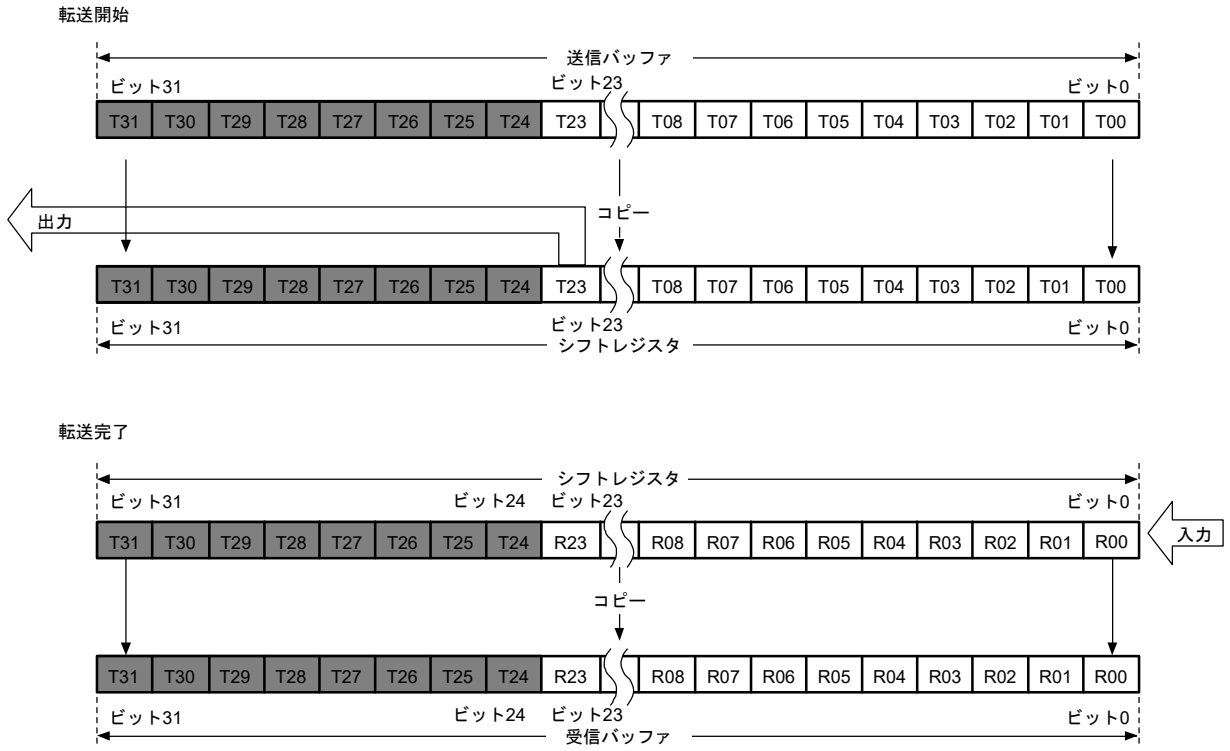
図 34.14　MSB ファースト転送（32 ビットデータ／パリティ機能無効）

(2)　MSB ファースト転送（24 ビットデータ）

図 34.15 に、パリティ機能無効時に、SPI がデータ長 24 ビットの MSB ファースト転送を実施する場合の SPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、送信バッファの現ステージの下位 24 ビット（T23 ～ T00）をシフトレジスタにコピーします。送信データは、T23 → T22 →・・・T00 の順にシフトレジスタの値をシフトして送信されます。

受信時は、受信データをシフトレジスタのビット 0 から格納し始め、1 ビットごと受信データをシフトします。必要数分の RSPCK 周期が入力され、R23 ～ R00 ビットまでデータがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。このとき、受信バッファの上位 8 ビットには送信バッファの上位 8 ビットの値が格納されます。送信時にビット T31 ～ T24 に 0 を書き込んでおくことにより、受信バッファの上位 8 ビットに 0 を入れることができます。



注 .　出力 = MOSI（マスタ）／ MISO（スレーブ）、入力 = MISO（マスタ）／ MOSI（スレーブ）

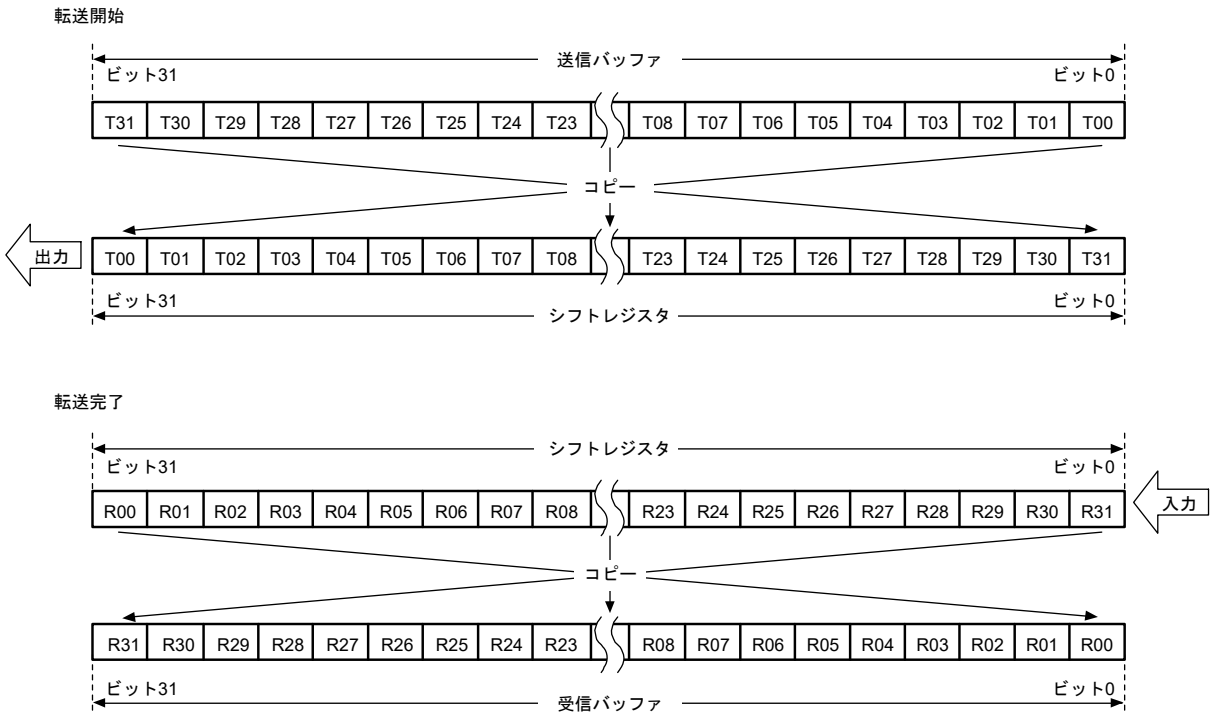
図 34.15　MSB ファースト転送（24 ビットデータ／パリティ機能無効）

(3)　LSB ファースト転送（32 ビットデータ）

図 34.16 に、パリティ機能無効時、SPI データ長 32 ビットの LSB ファースト転送を実施する場合の SPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、送信バッファの現ステージのビット T31 ～ T00 をビット単位で T00 ～ T31 の順序に並び替えて、シフトレジスタにコピーします。送信データは、T00 → T01 →・・・T31 の順にシフトレジスタの値をシフトして送信されます。

受信時は、受信データをシフトレジスタのビット 0 から格納し始め、1 ビットごと受信データをシフトします。必要数分の RSPCK 周期が入力され、R00 ～ R31 ビットまでデータがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。



注．　出力 = MOSI（マスタ）／ MISO（スレーブ）、入力 = MISO（マスタ）／ MOSI（スレーブ）

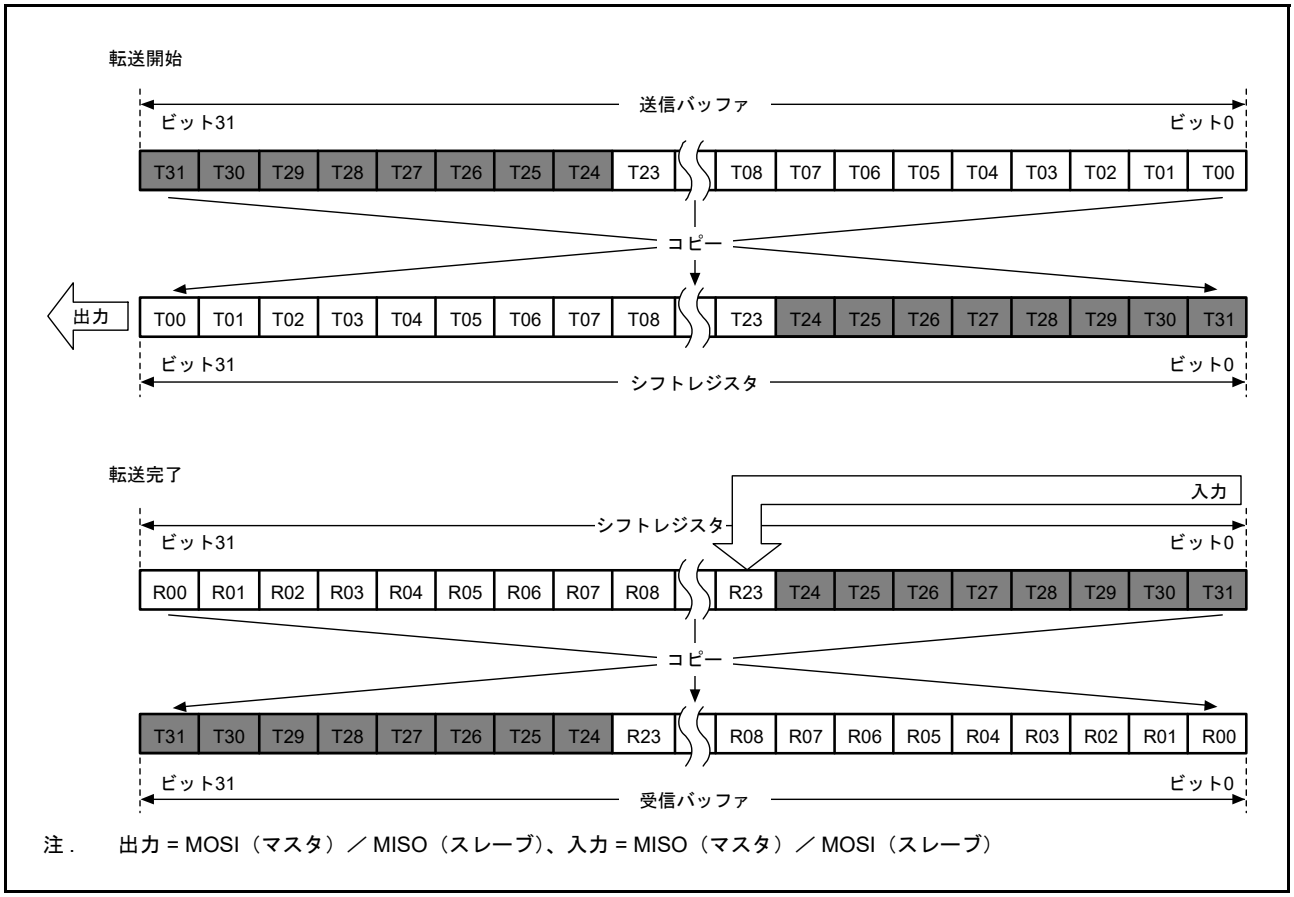
図 34.16　　LSB ファースト転送（32 ビットデータ／パリティ機能無効）

(4)　LSB ファースト転送（24 ビットデータ）

図 34.17 に、パリティ機能無効時に、SPI がデータ長 24 ビットの LSB ファースト転送を実施する場合の SPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、送信バッファの現ステージの下位 24 ビット（T23 ～ T00）をビット単位で T00 ～ T23 の順序に並び換えて、シフトレジスタにコピーします。送信データは、T00 → T01 →・・・T23 の順にシフトレジスタの値をシフトして送信されます。

受信時は、受信データをシフトレジスタのビット 8 から格納し始め、1 ビットごと受信データをシフトします。必要数分の RSPCK 周期が入力され、R00 ～ R23 ビットまでデータがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。このとき、受信バッファの上位 8 ビットには送信バッファの上位 8 ビットの値が格納されます。送信時にビット T31 ～ T24 に 0 を書き込んでおくことにより、受信バッファの上位 8 ビットに 0 を入れることができます。



注．　出力 = MOSI（マスタ）／ MISO（スレーブ）、入力 = MISO（マスタ）／ MOSI（スレーブ）

図 34.17　　LSB ファースト転送（24 ビットデータ／パリティ機能無効）

34.3.4.2　パリティ機能有効時（SPCR2.SPPE = 1）の動作

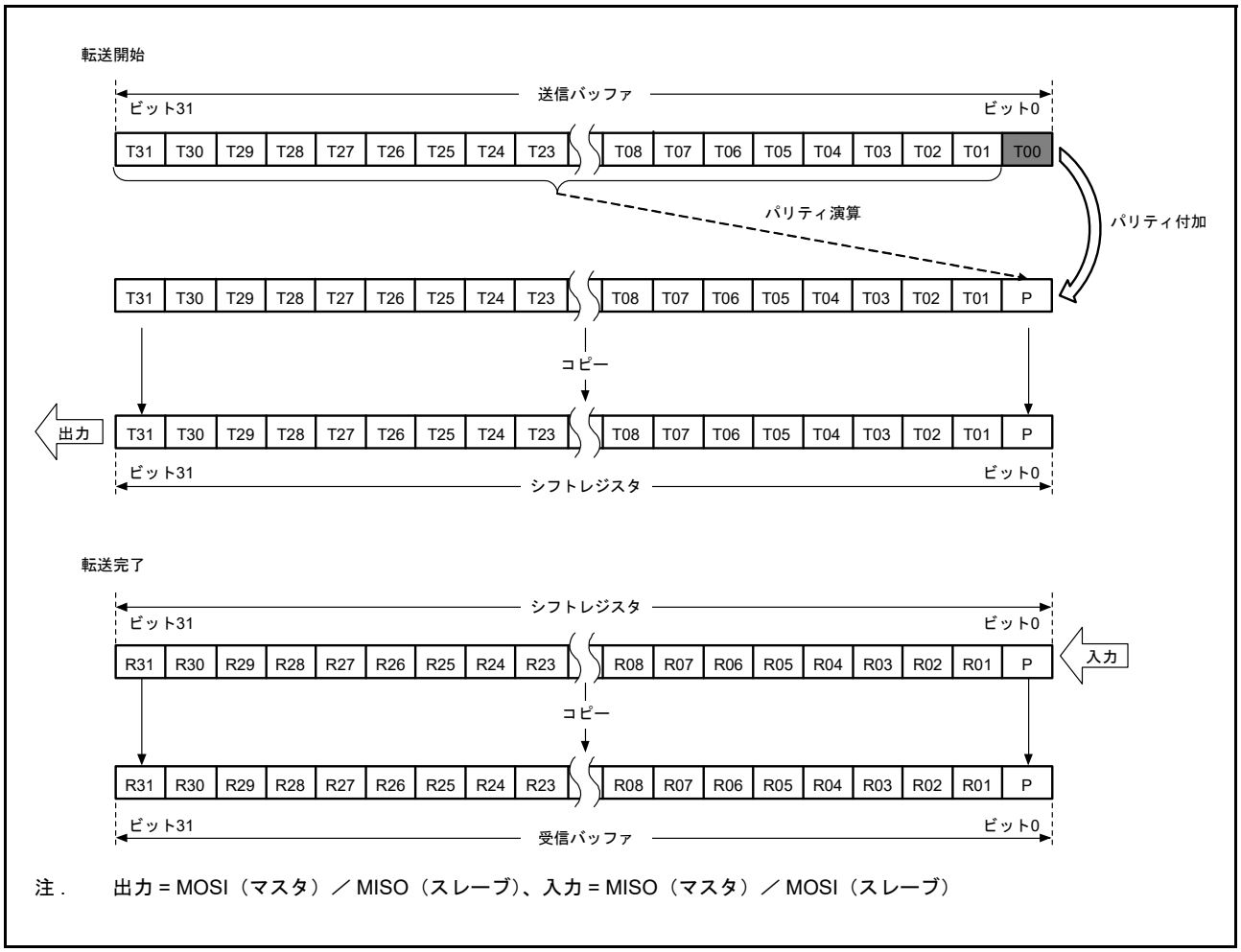
パリティ機能が有効の場合、送信データの最下位ビットはパリティビットになります。パリティビットの値は、ハードウェアが計算します。

(1)　MSB ファースト転送（32 ビットデータ）

図 34.18 に、パリティ機能有効時に、SPI がデータ長 32 ビットの MSB ファースト転送を実施する場合の SPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、最初に T31 ～ T01 ビットからパリティビット（P）の値を計算し、最終ビットである T00 と置き換えて、値全体をシフトレジスタにコピーします。データは、T31 → T30 →・・・T01 → P の順に送信します。

受信時は、受信データをシフトレジスタのビット 0 から格納し始め、1 ビットごと受信データをシフトします。必要数分の RSPCK 周期が入力され、R31 ～ P ビットまでデータがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。シフトレジスタにデータをコピーするとき、パリティエラーがないか R31 ～ P のデータをチェックします。



注 .　出力 = MOSI（マスタ）／ MISO（スレーブ）、入力 = MISO（マスタ）／ MOSI（スレーブ）

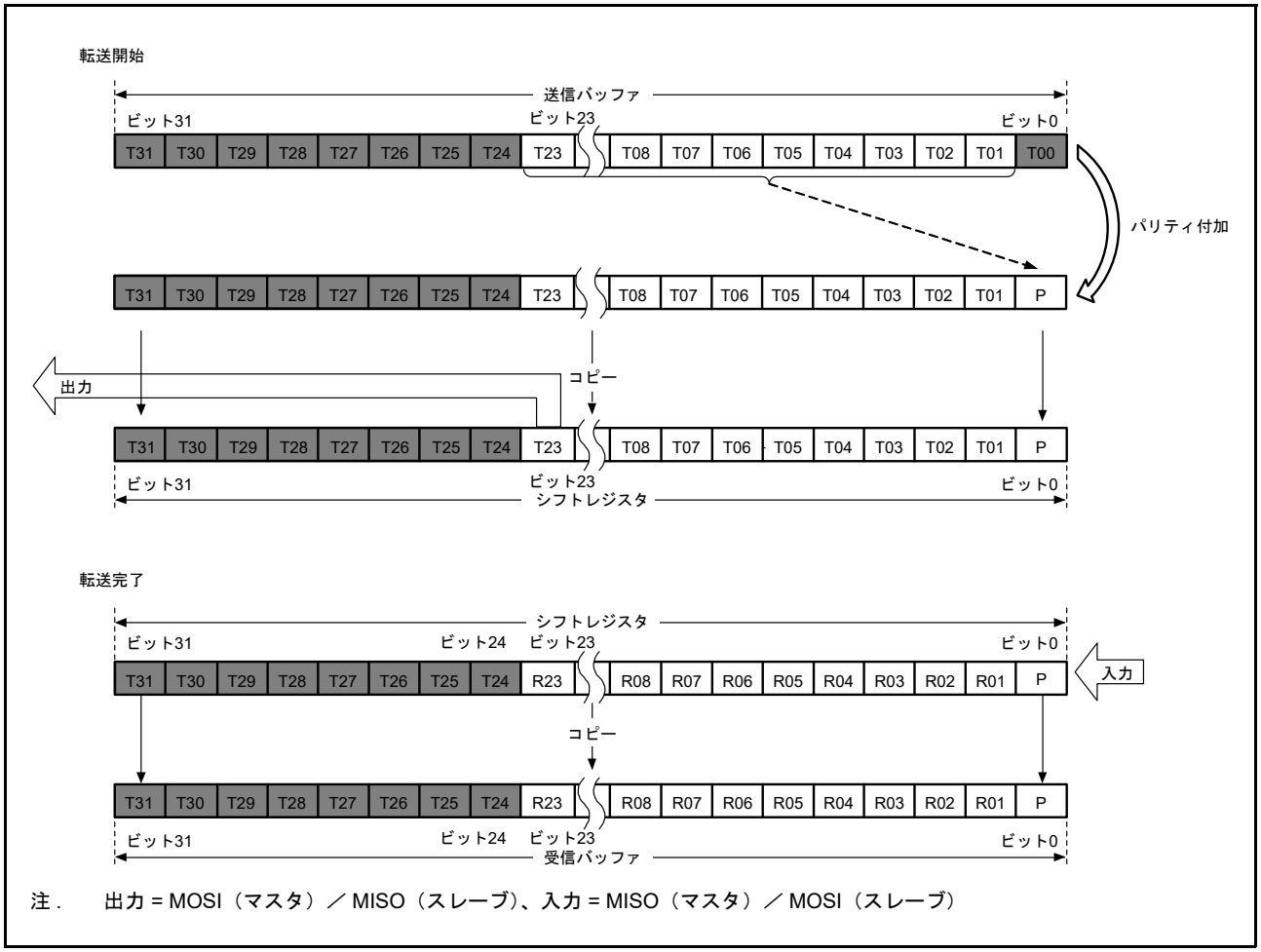
図 34.18　MSB ファースト転送（32 ビットデータ／パリティ機能有効）

(2)　MSB ファースト転送（24 ビットデータ）

図 34.19 に、パリティ機能有効時に、SPI がデータ長 24 ビットの MSB ファースト転送を実施する場合の SPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、T23 ～ T01 ビットからパリティビット（P）の値を計算し、最終ビットである T00 と置き換えて、全体をシフトレジスタにコピーします。データは、T23 → T22 →・・・T01 → P の順に送信されます。

受信時は、受信データをシフトレジスタのビット 0 から格納し始め、1 ビットごと受信データをシフトします。必要数分の RSPCK 周期が入力され、R23 ～ P ビットまでデータがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。シフトレジスタにデータをコピーするとき、パリティエラーがないか R23 ～ P のデータをチェックします。このとき、受信バッファの上位 8 ビットには送信バッファの上位 8 ビットの値が格納されます。送信時にビット T31 ～ T24 に 0 を書き込んでおくことにより、受信バッファの上位 8 ビットに 0 を入れることができます。



注 .　出力 = MOSI（マスタ）／ MISO（スレーブ）、入力 = MISO（マスタ）／ MOSI（スレーブ）

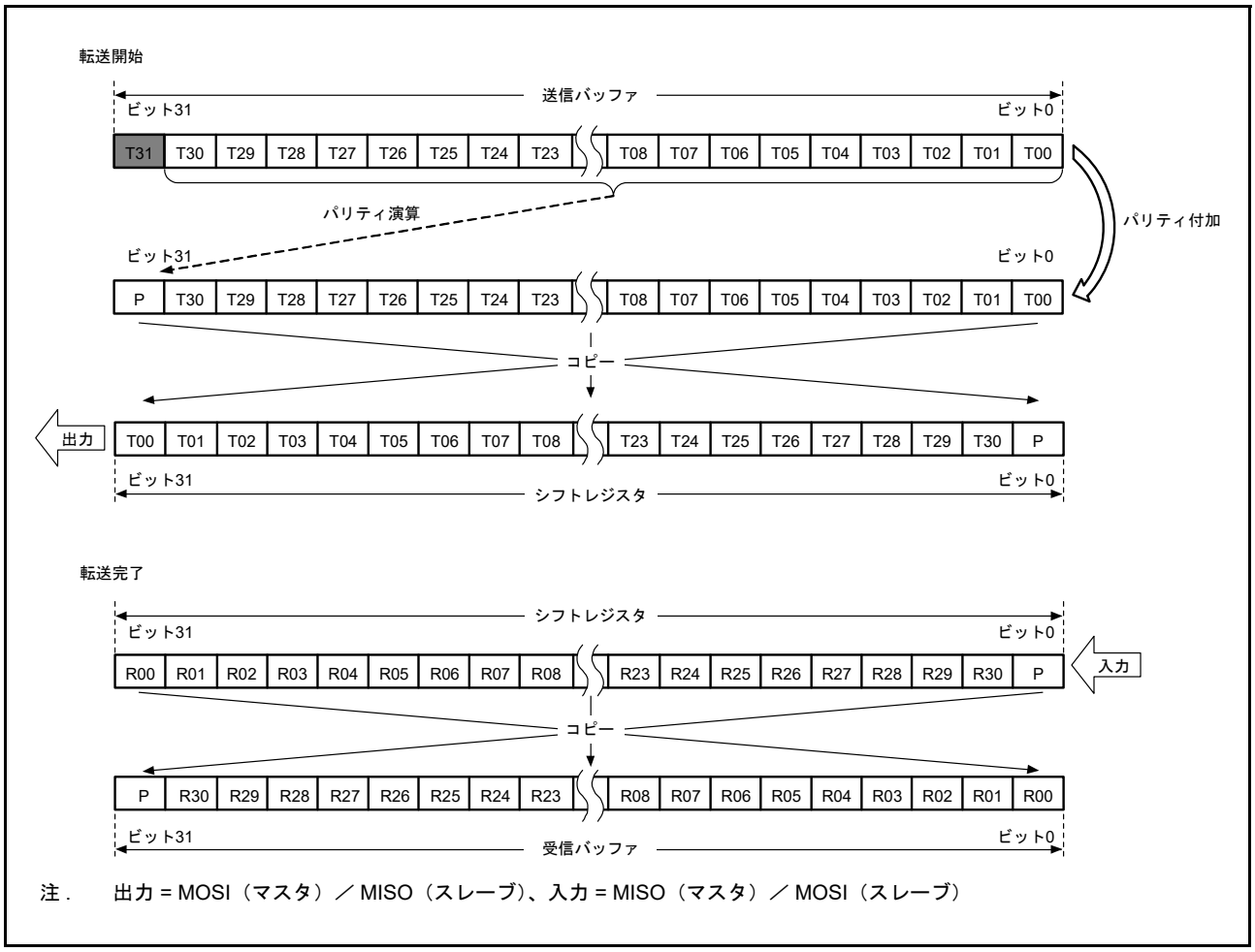
図 34.19　MSB ファースト転送（24 ビットデータ／パリティ機能有効）

(3)　LSB ファースト転送（32 ビットデータ）

図 34.20 に、パリティ機能有効時に、SPI がデータ長 32 ビットの LSB ファースト転送を実施する場合の SPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、T30 ～ T00 ビットからパリティビット（P）の値を計算し、最終ビットである T31 と置き換えて、全体をシフトレジスタにコピーします。データは、T00 → T01 →・・・T30 → P の順に送信されます。

受信時は、受信データをシフトレジスタのビット 0 から格納し始め、1 ビットごと受信データをシフトします。必要数分の RSPCK 周期が入力され、R00 ～ P ビットまでデータがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。シフトレジスタにデータをコピーするとき、パリティエラーがないか R00 ～ P のデータをチェックします。



注 .　出力 = MOSI（マスタ）／ MISO（スレーブ）、入力 = MISO（マスタ）／ MOSI（スレーブ）

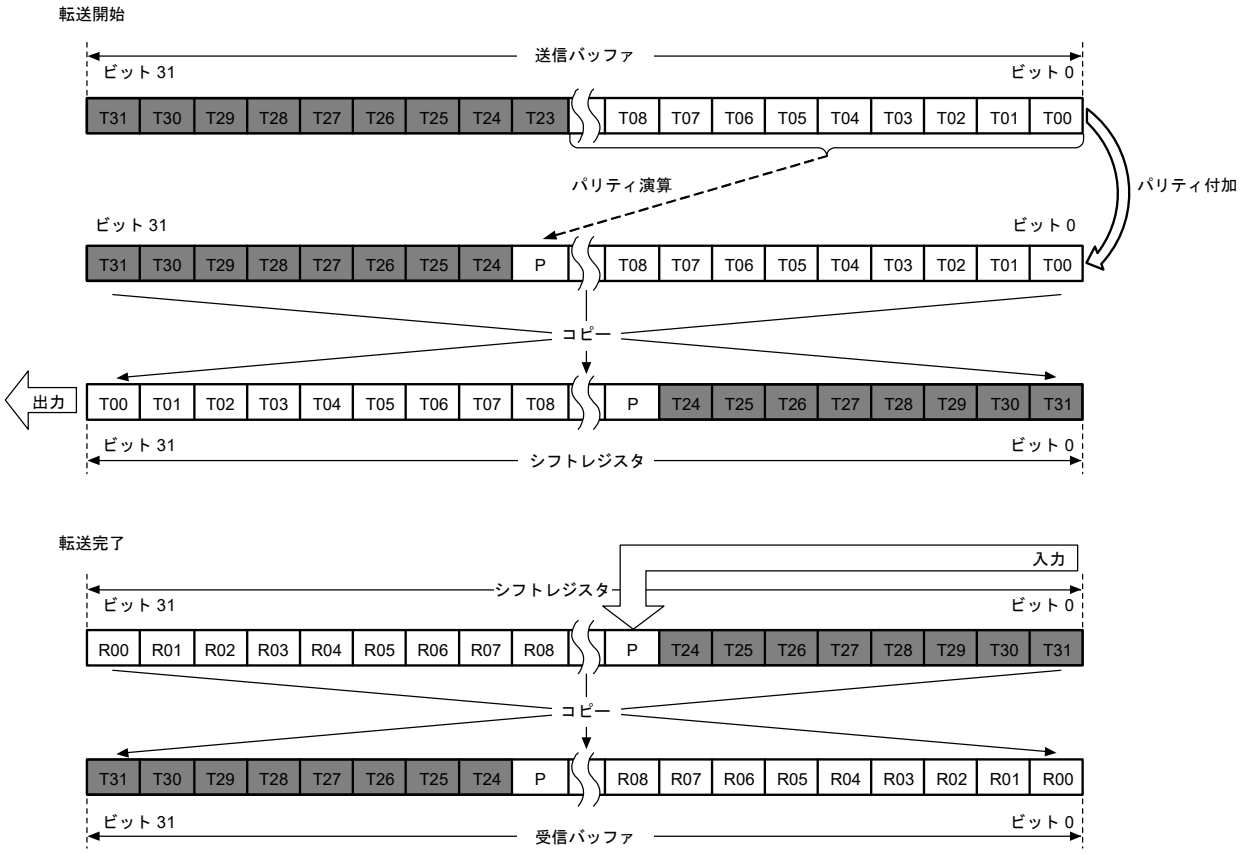
図 34.20　　LSB ファースト転送（32 ビットデータ／パリティ機能有効）

(4)　LSB ファースト転送（24 ビットデータ）

図 34.21 に、パリティ機能有効時に、SPI がデータ長 24 ビットの LSB ファースト転送を実施する場合の SPI データレジスタ（SPDR）とシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、T22 ～ T00 ビットからパリティビット（P）の値を計算し、最終ビットである T23 と置き換えて、全体をシフトレジスタにコピーします。データは、T00 → T01 →・・・T22 → P の順に送信されます。

受信時は、受信データをシフトレジスタのビット 8 から格納し始め、1 ビットごと受信データをシフトします。必要数分の RSPCK 周期が入力され、R00 ～ P ビットまでデータがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。シフトレジスタにデータをコピーするとき、パリティエラーがないか R00 ～ P のデータをチェックします。このとき、受信バッファの上位 8 ビットには送信バッファの上位 8 ビットの値が格納されます。送信時にビット T31 ～ T24 に 0 を書き込んでおくことにより、受信バッファの上位 8 ビットに 0 を入れることができます。



注 .　出力 = MOSI（マスタ）／ MISO（スレーブ）、入力 = MISO（マスタ）／ MOSI（スレーブ）

図 34.21　LSB ファースト転送（24 ビットデータ／パリティ機能有効）

34.3.5　転送フォーマット

34.3.5.1　CPHA ビット = 0 の場合の転送フォーマット

図 34.22 に、SPCMDm.CPHA ビットが 0 の場合に、8 ビットのデータをシリアル転送した場合の転送フォーマット例を示します。SPI がスレーブモード（SPCR.MSTR = 0）で、CPHA ビットが 0 の場合、クロック同期式動作（SPCR.SPMS = 1）は行わないでください。この図において、RSPCKn（CPOL = 0）は、SPCMDm.CPOL ビットが 0 の場合の RSPCKn 信号波形を示し、RSPCKn（CPOL = 1）は、SPCMDm.CPOL ビットが 1 の場合の RSPCKn 信号波形を示します。サンプリングタイミングは、SPI がシフトレジスタにシリアル転送データを取り込むタイミングを表します。各信号の入出力方向は、SPI の設定に依存します。詳細は、34.3.2　SPI 端子の制御を参照してください。

SPCMDm.CPHA ビットが 0 の場合には、SSLni 信号のアサートタイミングで、MOSIn 信号と MISOn 信号への有効データのドライブが開始されます。SSLni 信号のアサート後に発生する最初の RSPCKn 信号変化が、最初の転送データ取り込みになり、これ以降、1RSPCK 周期ごとにデータがサンプリングされます。MOSIn 信号と MISOn 信号の変化タイミングは、転送データ取り込みタイミングの 1/2RSPCK 周期後になります。CPOL ビットの設定値は、RSPCK 信号の動作タイミングには影響を与えず、信号極性のみに影響を与えます。

t1 は、SSLni 信号のアサートから RSPCKn 発振までの期間（RSPCK 遅延）です。t2 は、RSPCKn 発振停止から SSLni 信号のネゲートまでの期間（SSL ネゲート遅延）です。t3 は、シリアル転送終了後に次転送のための SSLni 信号アサートを抑制するための期間（次アクセス遅延）です。t1、t2、t3 は、SPI システム上のマスタデバイスによって制御されます。SPI がマスタモードである場合の t1、t2、t3 については、34.3.10.1　マスタモード動作を参照してください。

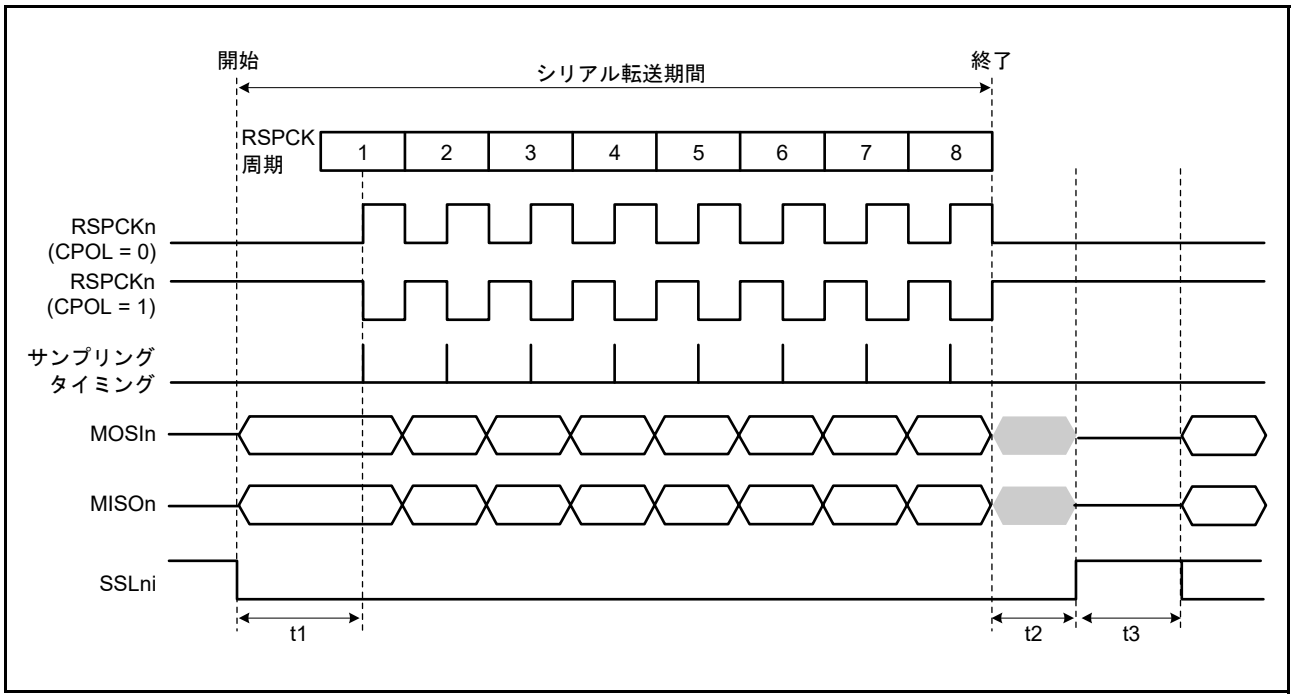


図 34.22　SPI 転送フォーマット（CPHA ビット = 0）

34.3.5.2　CPHA ビット = 1 の場合

図 34.23 に、SPCMDm.CPHA ビットが 1 の場合に、8 ビットのデータをシリアル転送した場合の転送フォーマット例を示します。ただし、SPCR.SPMS ビットが 1 の場合は SSLni 信号を用いず、RSPCKn 信号、MOSIn 信号、MISOn 信号の 3 つの信号のみで通信を行います。図 34.23 において、RSPCK（CPOL = 0）は、SPCMDm.CPOL ビットが 0 の場合の RSPCKn 信号波形を示し、RSPCK（CPOL = 1）は、SPCMDm.CPOL ビットが 1 の場合の RSPCKn 信号波形を示します。サンプリングタイミングは、SPI がシフトレジスタにシリアル転送データを取り込むタイミングを表します。各信号の入出力方向は、SPI のモード（マスタ／スレーブ）に依存します。詳細は、34.3.2　SPI 端子の制御を参照してください。

SPCMDm.CPHA ビットが 1 の場合には、SSLni 信号のアサートタイミングで、MISOn 信号への無効データのドライブが開始されます。SSLni 信号のアサート後に発生する最初の RSPCKn 信号変化で、MOSIn 信号と MISOn 信号への有効データの出力が開始され、これ以降、1RSPCK 周期ごとにデータが更新されます。転送データの取り込みは、このデータ更新タイミングの 1/2RSPCK 周期後になります。SPCMDm.CPOL ビットの設定値は、RSPCKn 信号の動作タイミングには影響を与えず、信号極性のみに影響を与えます。

t1、t2、t3 の内容は、CPHA ビット = 0 の場合と同様です。MCU の SPI がマスタモードである場合の t1、t2、t3 については、34.3.10.1　マスタモード動作を参照してください。

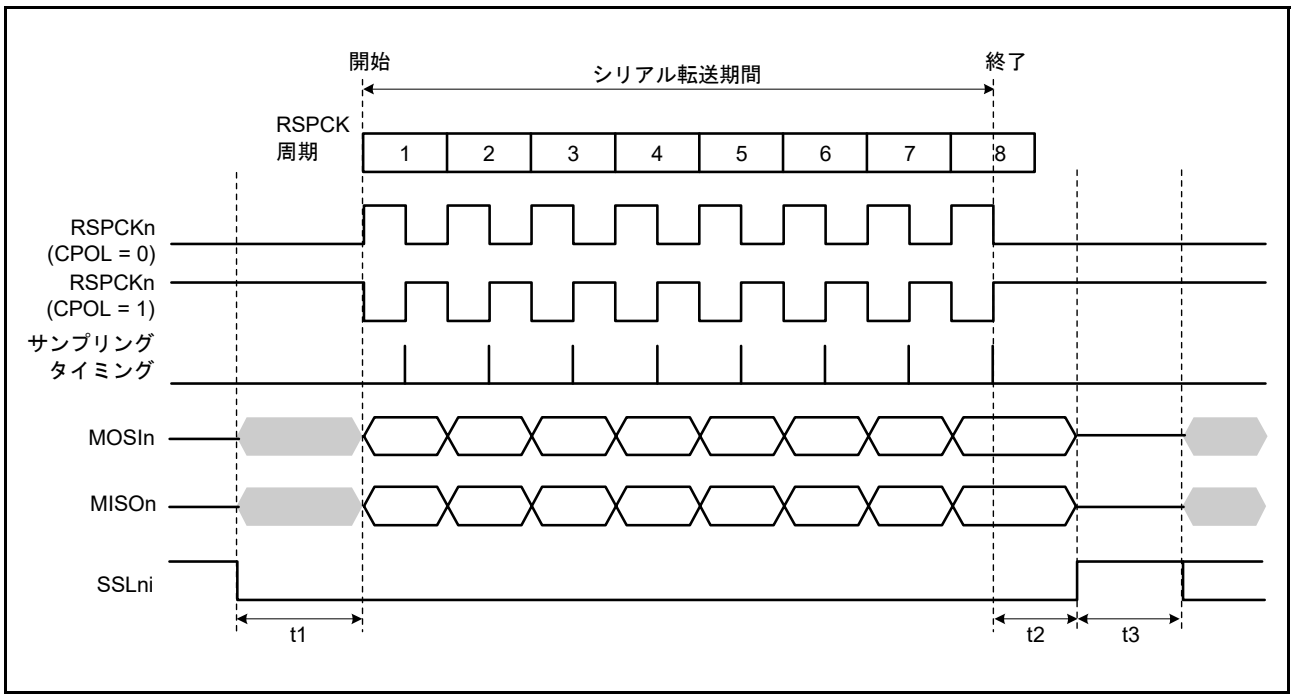


図 34.23　SPI 転送フォーマット（CPHA ビット = 1）

34.3.6　データ転送モード

通信動作モード選択ビット（SPCR.TXMD）の設定により、全二重同期式シリアル通信または送信のみの動作を選択できます。図 34.24、図 34.25 に記載の SPDR/SPDR_HA アクセスは、SPDR/SPDR_HA レジスタへのアクセス状況を示しています。W はライトサイクルを示しています。

34.3.6.1　全二重同期式シリアル通信（SPCR.TXMD = 0）

図 34.24 に、通信動作モード選択ビット（SPCR.TXMD）を 0 にした場合の動作例を示します。この例では、SPDCR.SPFC[1:0] ビットが 00b、SPCMDm.CPHA ビットが 1、SPCMDm.CPOL ビットが 0 の設定で、SPI が 8 ビットのシリアル転送を実行しています。RSPCKn 波形の下に記載した数字は、RSPCK サイクル数（= 転送ビット数）を示しています。

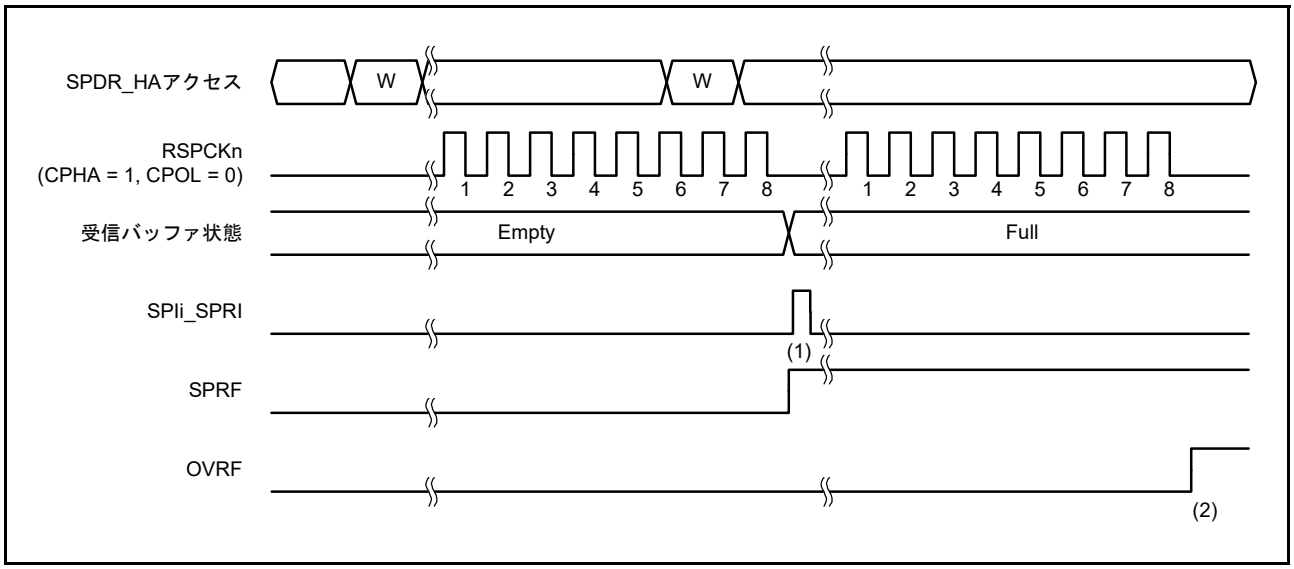


図 34.24　SPCR.TXMD = 0 の動作例

以下に、図中の（1）、（2）に示したタイミングでのフラグ動作を説明します。

1. SPDR_HA レジスタの受信バッファが空の状態でシリアル転送が終了すると、SPI は受信バッファフル割り込み要求（SPIi_SPRI）を発生させて（SPSR.SPRF フラグを 1 にして）、シフトレジスタの受信データを受信バッファにコピーします。
2. SPDR_HA レジスタの受信バッファに以前のシリアル転送の受信データがある状態でシリアル転送が終了すると、SPI は SPSR.OVRF フラグを 1 にして、シフトレジスタの受信データを破棄します。

34.3.6.2　送信のみ動作（SPCR.TXMD = 1）

図 34.25 に、通信動作モード選択ビット（SPCR.TXMD）を 1 にした場合の動作例を示します。この例では、SPDCR.SPFC[1:0] ビットが 00b、SPCMDm.CPHA ビットが 1、SPCMDm.CPOL ビットが 0 の設定で、SPI が 8 ビットのシリアル転送を実行しています。RSPCKn 波形の下に記載した数字は、RSPCK サイクル数（= 転送ビット数）を示しています。

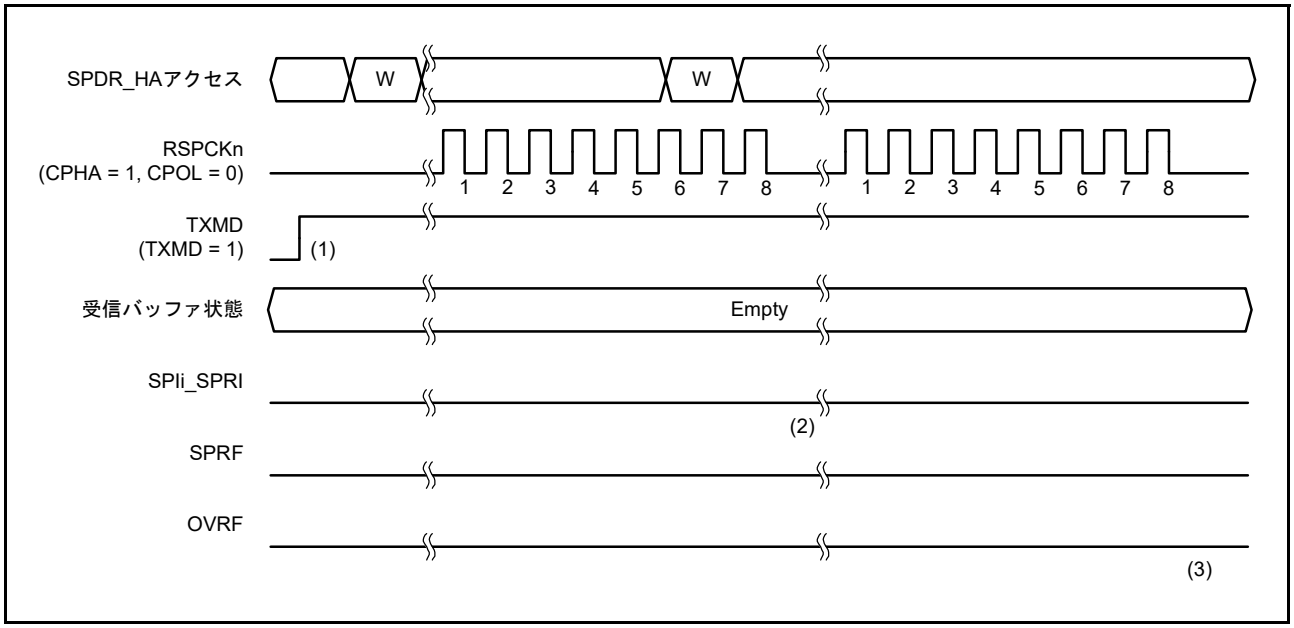


図 34.25　SPCR.TXMD = 1 の動作例

以下に、図中の（1）～（3）に示したタイミングでのフラグ動作を説明します。

1. 送信のみモード（SPCR.TXMD = 1）へ遷移する前に、受信バッファにデータが残っていないこと（SPSR.SPRF フラグ = 0）、および SPSR.OVRF フラグが 0 であることを確認してください。
2. SPDR_HA レジスタの受信バッファが空の状態でシリアル転送が終了すると、送信のみモード（SPCR.TXMD = 1）を選択している場合、SPSR.SPRF フラグは 0 を保持し、SPI はシフトレジスタのデータを受信バッファへコピーしません。
3. SPDR_HA レジスタの受信バッファに以前のシリアル転送の受信データは存在しないため、シリアル転送が終了しても、SPSR.OVRF フラグは 0 を保持し、シフトレジスタのデータを受信バッファへコピーしません。

送信のみモード（SPCR.TXMD = 1）では、SPI はデータを送信しますが、受信しません。そのため、SPSR.SPRF および SPSR.OVRF フラグは（1）～（3）それぞれのタイミングで 0 を保持します。

34.3.7　送信バッファエンプティ／受信バッファフル割り込み

図 34.26 および図 34.27 に、送信バッファエンプティ割り込み（SPIi_SPTI）と受信バッファフル割り込み（SPIi_SPRI）の動作例を示します。これらの図に記載の SPDR_HA アクセスは、SPDR_HA レジスタへのアクセス状況を示しています。W はライトサイクル、R はリードサイクルを示しています。図 34.26 の例では、SPCR.TXMD ビットが 0、SPDCR.SPFC[1:0] ビットが 00b、SPCMDm.CPHA ビットが 0、SPCMDm.CPOL ビットが 0 の設定で、SPI が 8 ビットのシリアル転送を実行しています。

図 34.27 の例では、SPCR.TXMD ビットが 0、SPDCR.SPFC[1:0] ビットが 00b、SPCMDm.CPHA ビットが 1、SPCMDm.CPOL ビットが 0 の設定で、SPI が 8 ビットのシリアル転送を実行しています。RSPCKn 波形の下に記載した数字は、RSPCK サイクル数（= 転送ビット数）を示しています。

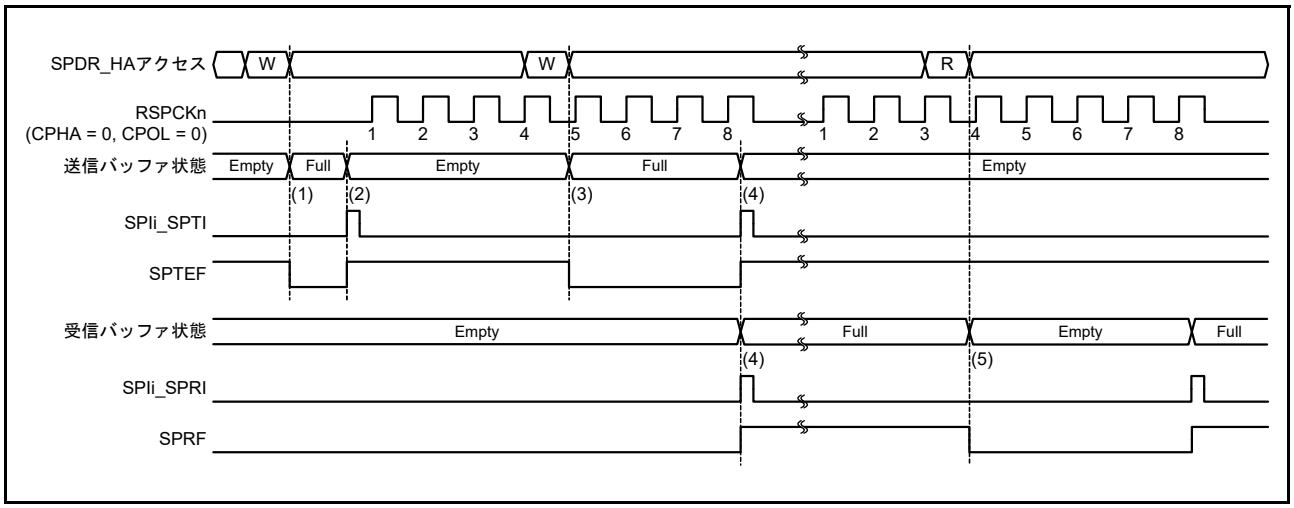


図 34.26　SPIi_SPTI および SPIi_SPRI 割り込みの動作例（CPHA = 0、CPOL = 0）

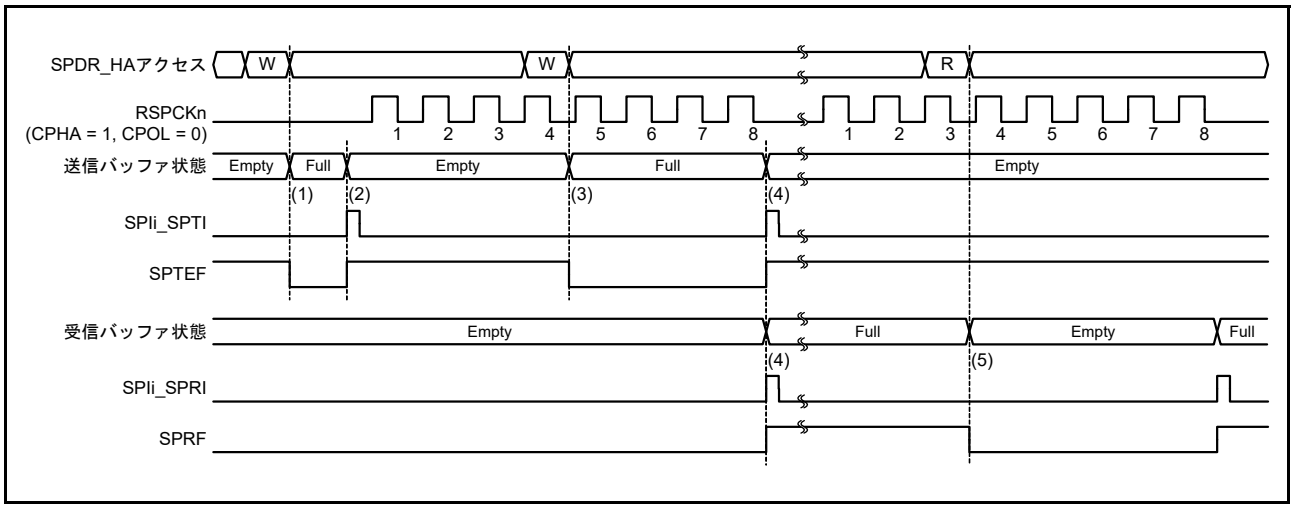


図 34.27　SPIi_SPTI および SPIi_SPRI 割り込みの動作例（CPHA = 1、CPOL = 0）

以下に、図中の（1）～（5）に示したタイミングでの SPI の動作を説明します。

1. SPDR_HA レジスタの送信バッファが空の（次転送のデータがセットされていない）状態で、SPDR_HA レジスタに送信データを書き込むと、SPI は送信バッファにデータを書き込み、SPSR.SPTEF フラグを 0 にクリアします。
2. シフトレジスタが空の場合には、SPI は送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーして送信バッファエンプティ割り込み要求（SPIi_SPTI）を発生させ、SPSR.SPTEF フラグを 1 にします。なお、シリアル転送の開始方法は、SPI のモードに依存します。詳細は、34.3.10　SPI 動作および 34.3.11　クロック同期式動作を参照してください。

3. 送信バッファエンプティ割り込みルーチン、またはSPTEFフラグによる送信バッファエンプティ状態の処理で、SPDR_HAレジスタに送信データを書き込むと、SPIは送信バッファにデータを書き込み、SPTEFフラグを0にクリアします。シフトレジスタにはシリアル転送中のデータが格納されているため、SPIは送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーしません。
4. SPDR_HAレジスタの受信バッファが空の状態でシリアル転送が終了すると、SPIはシフトレジスタの受信データを受信バッファにコピーし、受信バッファフル割り込み要求（SPIi_SPRI）を発生させ、SPRFフラグを1にします。また、シリアル転送が終了するとシフトレジスタが空になるため、シリアル転送が終了する前に送信バッファがフルであった場合には、SPIがSPTEFフラグを1にして、送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーします。なお、オーバーランエラー発生状態で、シフトレジスタから受信バッファへ受信データをコピーしなかった場合でも、シリアル転送が終了すると、SPIはシフトレジスタが空であると判断し、送信バッファからシフトレジスタへのデータ転送が可能な状態になります。
5. 受信バッファフル割り込みルーチン、またはSPRFフラグによる受信バッファフル状態の処理でSPDR_HAレジスタを読み出すと、受信データが読み出せます。

送信バッファに未送信のデータがある（SPTEFフラグが0の）状態で、SPDR_HAレジスタへ書き込みが行われた場合には、SPIは送信バッファのデータを更新しません。SPDR_HAレジスタへ書き込みを行う場合は、必ず送信バッファエンプティ割り込み要求を使用するか、またはSPTEFフラグによる送信バッファエンプティ割り込み処理を行ってください。また、送信バッファエンプティ割り込みを利用する場合には、SPCR.SPTIEビットを1にしてください。SPI機能が無効（SPCR.SPEビットが0）の場合には、SPTIEビットを0にしてください。

受信バッファフルの状態（SPRFフラグ＝1）で、シリアル転送が終了した場合には、SPIはシフトレジスタから受信バッファへデータをコピーせず、オーバーランエラーを検出します（34.3.8　エラー検出を参照）。受信データのオーバーランエラーを防ぐために、受信バッファフル割り込み要求で、次のシリアル転送終了よりも前に受信データを読み出してください。また、SPI受信バッファフル割り込みを利用する場合には、SPCR.SPRIEビットを1にしてください。

送信／受信バッファの状態は、送信／受信割り込み、またはICUの関連するIELSRn.IRフラグ（nは割り込みベクタ番号）によって確認できます。同様に、SPTEFおよびSPRFフラグによっても、送信／受信バッファの状態を確認できます。割り込みベクタ番号については、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

34.3.8　エラー検出

通常の SPI のシリアル転送では、SPDR/SPDR_HA レジスタの送信バッファに書き込んだデータが送信され、受信されたデータを SPDR/SPDR_HA レジスタの受信バッファから読み出すことができます。SPDR/SPDR_HA レジスタにアクセスがあった場合、送信または受信バッファの状態やシリアル転送の開始時または終了時の SPI の状態によっては、通常以外の転送となることがあります。

通常以外の転送動作が発生した場合には、SPI はアンダーランエラー、オーバーランエラー、パリティエラー、またはモードフォルトエラーとして検出します。表 34.8 に、通常以外の転送動作と SPI のエラー検出機能の関係を示します。

表 34.8　通常以外の転送動作と SPI のエラー検出機能の関係

動作	発生条件	SPI 動作	エラー検出
1	送信バッファフルの状態で SPDR/SPDR_HA レジスタに書き込み	• 送信バッファ内容を保持 • 書き込みデータ欠落	なし
2	受信バッファエンプティの状態で SPDR/SPDR_HA レジスタを読み出し	受信バッファ内容および受信済みデータを出力	なし
3	SPI がデータ送信不能のときに、スレーブモードでシリアル転送が開始	• シリアル転送を中断 • 送受信データ欠落 • MISOA 出力信号のドライブ停止 • SPI 機能は無効	アンダーランエラー
4	受信バッファフルの状態で、シリアル転送が終了	• 受信バッファ内容を保持 • 受信データ欠落	オーバーランエラー
5	全二重同期式シリアル通信時にパリティ機能が有効な状態で誤ったパリティビットを受信	パリティエラーフラグのアサート	パリティエラー
6	マルチマスタモードでシリアル転送アイドル時に SSLn0 入力信号アサート	• RSPCKn、MOSIn、SSLn1～SSLn3 出力信号のドライブ停止 • SPI 機能は無効	モードフォルトエラー
7	マルチマスタモードでシリアル転送中に SSLn0 入力信号アサート	• シリアル転送を中断 • 送受信データ欠落 • RSPCKn、MOSIn、SSLn1～SSLn3 出力信号のドライブ停止 • SPI 機能は無効	モードフォルトエラー
8	スレーブモードでシリアル転送中に SSLn0 入力信号ネゲート	• シリアル転送を中断 • 送受信データ欠落 • MISOn 出力信号のドライブ停止 • SPI 機能は無効	モードフォルトエラー

表 34.8 の 1 に示した動作に対しては、SPI はエラーを検出しません。SPDR/SPDR_HA レジスタへの書き込み時にデータを欠落させないために、送信バッファエンプティ割り込み要求で SPDR/SPDR_HA レジスタへの書き込みを実行してください（SPSR.SPTEF フラグ = 1 の場合）。2 に示した動作に対しても、SPI はエラーを検出しません。不要なデータを読み出さないようにするには、SPI 受信バッファフル割り込み要求で SPDR/SPDR_HA レジスタの読み出しを実行するようにしてください（SPSR.SPRF フラグ = 1 の場合）。

表中のその他のエラーについては、下記の節を参照してください。

- アンダーランエラー（動作 3）：34.3.8.4　アンダーランエラー
- オーバーランエラー（動作 4）：34.3.8.1　オーバーランエラー
- パリティエラー（動作 5）：34.3.8.2　パリティエラー
- モードフォルトエラー（動作 6 ～ 8）：34.3.8.3　モードフォルトエラー

送受信の割り込みについては、34.3.7　送信バッファエンプティ／受信バッファフル割り込みを参照してください。

34.3.8.1　オーバーランエラー

SPDR/SPDR_HA レジスタの受信バッファフル状態でシリアル転送が終了すると、SPI はオーバーランエラーを検出して SPSR.OVRF フラグを 1 にします。OVRF フラグが 1 の状態では、SPI はシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしないので、受信バッファにはエラー発生前のデータが保持されます。OVRF フラグを 0 にするには、OVRF フラグが 1 の状態の SPSR レジスタを CPU が読み出した後に、OVRF フラグに 0 を書いてください。

図 34.28 に、OVRF フラグと SPRF フラグの動作例を示します。この図に記載の SPSR アクセス と SPDR_HA アクセス は、それぞれ SPSR レジスタと SPDR_HA レジスタへのアクセス状況を示しています。W はライトサイクル、R はリードサイクルを示しています。この例では、SPCMDm.CPHA ビットが 1、SPCMDm.CPOL ビットが 0 の設定で、SPI が 8 ビットのシリアル転送を実行しています。RSPCKn 波形の下に記載した数字は、RSPCK サイクル数（= 転送ビット数）を示しています。

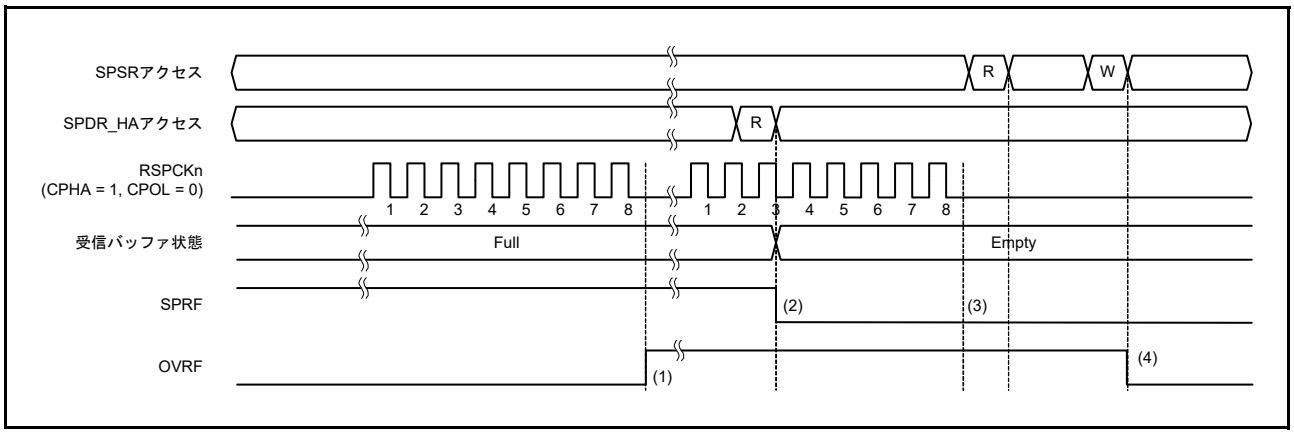


図 34.28　OVRF フラグおよび SPRF フラグの動作例

以下に、図中の（1）～（4）に示したタイミングでのフラグ動作を説明します。

1. SPRF フラグが 1（受信バッファフル）の状態でシリアル転送が終了すると、SPI がオーバーランエラーを検出し、OVRF フラグを 1 にします。SPI はシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしません。また、SPPE ビットが 1 であってもパリティエラーの検出は行いません。マスタモードの場合、SPI は SPCMDm レジスタに対するポインタの値を SPSSR.SPECM[2:0] ビットにコピーします。
2. SPDR_HA レジスタを読み出すと、SPI は受信バッファのデータを出力します。その後、SPRF フラグが 0 になります。受信バッファが空になっても、OVRF フラグは 0 になりません。
3. OVRF フラグが 1（オーバーランエラー）の状態でシリアル転送が終了すると、SPI はシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしません（SPRF フラグは 1 になりません）。受信バッファフル割り込みも発生しません。また、SPPE ビットが 1 であってもパリティエラーの検出は行いません。マスタモードの場合、SPI は SPSSR.SPECM[2:0] ビットを更新しません。オーバーランエラー状態で、SPI がシフトレジスタから受信バッファへ受信データをコピーしなかった場合でも、シリアル転送が終了すると、SPI はシフトレジスタが空であると判断します。これによって、送信バッファからシフトレジスタへのデータ転送が可能になります。
4. OVRF フラグが 1 の状態で SPSR レジスタを読んだ後、OVRF フラグに 0 を書くと、OVRF フラグは 0 にクリアされます。

オーバーランの発生は、SPSR レジスタの読み出し、あるいは SPI エラー割り込みと SPSR レジスタの読み出しによって確認できます。シリアル転送を実行する際は、SPDR_HA レジスタの読み出し直後に SPSR レジスタを読み出すなどの方法で、オーバーランエラー発生を早期に検出できるように対処してください。マスタモード時は、SPSSR.SPECM[2:0] ビットを読み出すことで、エラー発生時の SPCMDm レジスタに対するポインタ値を確認できます。

オーバーランエラーが発生して OVRF フラグが 1 になると、OVRF フラグが 0 にクリアされるまで正常な受信動作ができなくなります。

マスタモードで RSPCK 自動停止機能を有効にした場合は、オーバーランエラーが発生しません。図 34.29、図 34.30 にマスタモードの受信バッファフル状態でシリアル転送が継続するときのクロック停止波形を示します。

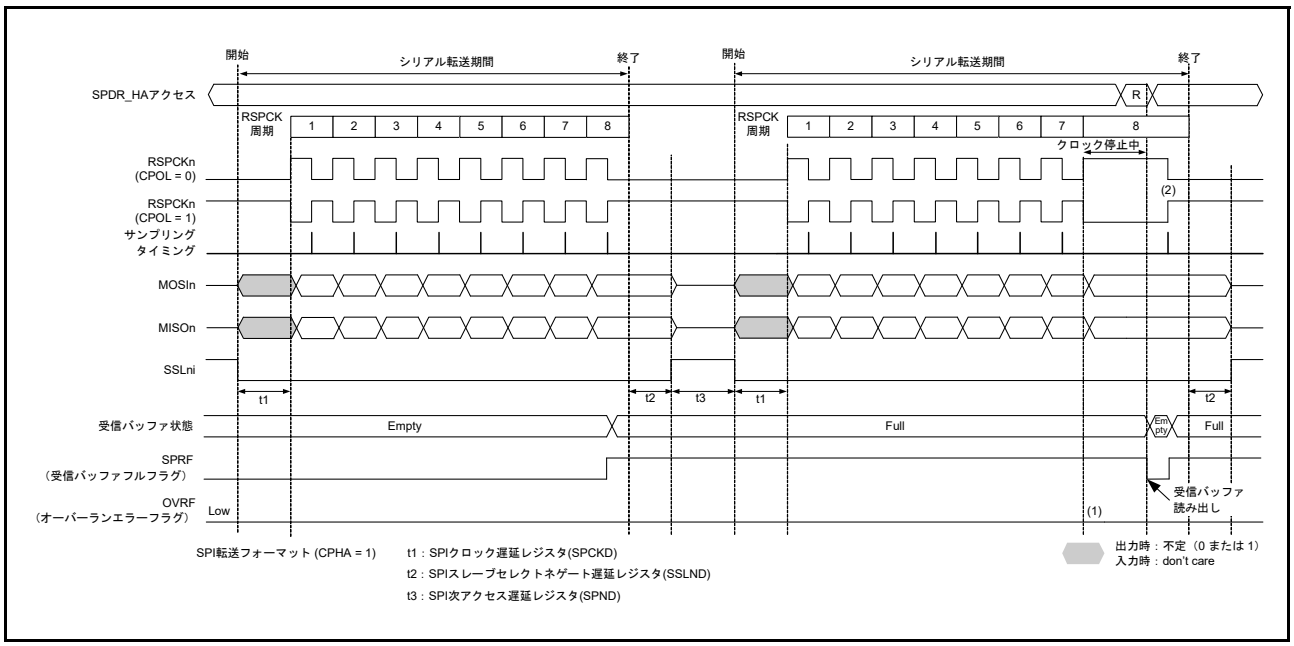


図 34.29　マスタモードの受信バッファフル状態でシリアル転送が継続するときのクロック停止波形（CPHA = 1）

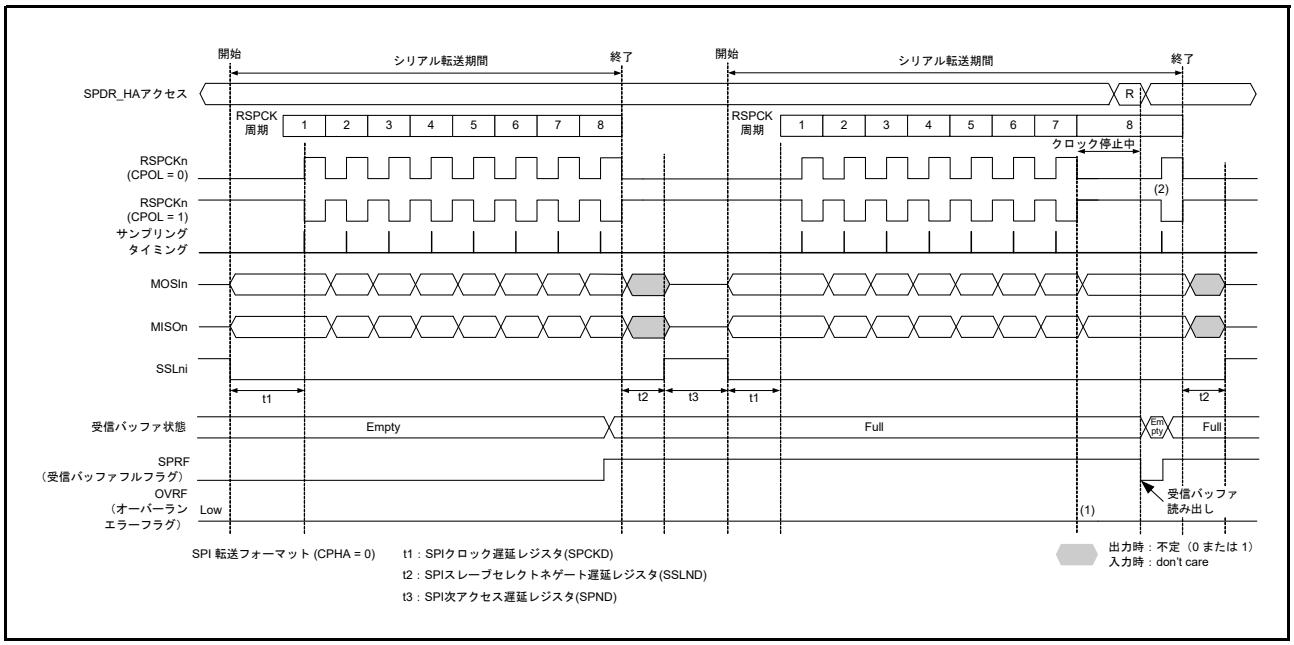


図 34.30　マスタモードの受信バッファフル状態でシリアル転送が継続するときのクロック停止波形（CPHA = 0）

以下に、図 34.29 および図 34.30 の（1）、（2）に示したタイミングでのフラグ動作を説明します。

1. 受信バッファフルの場合は、RSPCK クロックが停止するためオーバーランエラーは発生しません。
2. クロック停止中に SPDR_HA レジスタを読み出すと、受信バッファのデータが読み出せます。受信バッファの読み出し後（SPSR.SPRF フラグが 0 にクリアされた後）、RSPCK クロックが再開します。

34.3.8.2　パリティエラー

SPCR.TXMD ビットが 0、SPCR2.SPPE ビットが 1 の状態で、全二重同期式シリアル通信を行い、転送が終了すると、SPI はパリティエラーの判定を行います。SPI は、受信データにパリティエラーを検出すると、SPSR.PERF フラグを 1 にします。SPSR.OVRF フラグが 1 の状態では、SPI はシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしないので、受信データに対するパリティエラーの検出は行いません。PERF フラグを 0 にするには、PERF フラグが 1 の状態の SPSR レジスタを読んだ後、PERF フラグに 0 を書いてください。

図 34.31 に、OVRF フラグと PERF フラグの動作例を示します。図 34.31 に記載の SPSR アクセスは、SPSR レジスタへのアクセス状況を示しています。W はライトサイクル、R はリードサイクルを示しています。この例では、SPCR.TXMD ビットが 0、SPCR2.SPPE ビットが 1 の状態で全二重同期式シリアル通信を行います。SPCMDm.CPHA ビットが 1、SPCMDm.CPOL ビットが 0 の設定で、SPI が 8 ビットのシリアル転送を実行しています。RSPCKn 波形の下に記載した数字は、転送ビット数などの RSPCK サイクル数を示しています。

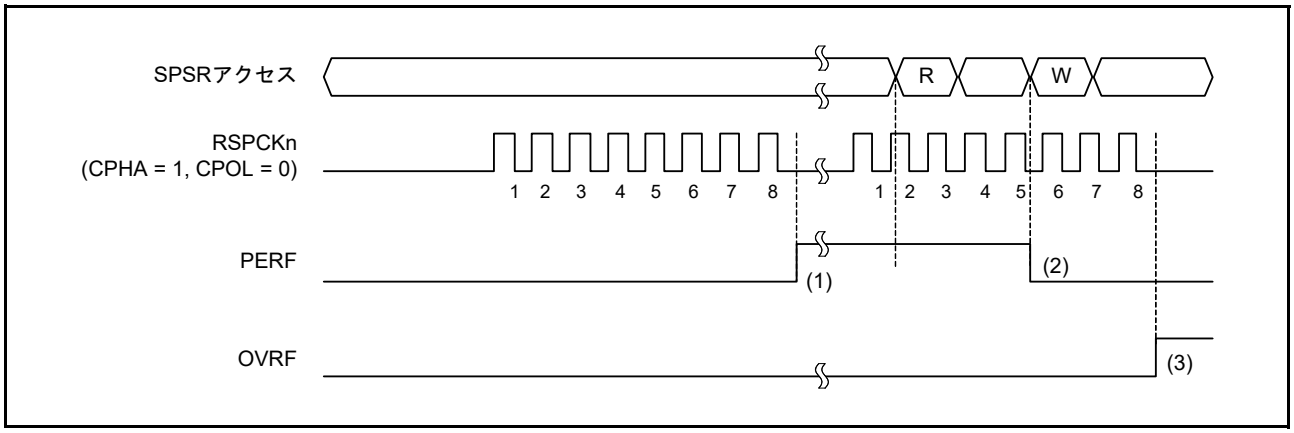


図 34.31　PERF フラグの動作例

以下に、図中の（1）～（3）に示したタイミングでのフラグ動作を説明します。

1. SPI がオーバーランエラーを検出せず、シリアル転送が終了すると、SPI はシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーします。このとき、SPI が受信データをチェックし、パリティエラーを検出すると PERF フラグを 1 にします。マスタモードの場合、SPI は SPCMDm レジスタに対するポインタの値を SPSSR.SPECM[2:0] ビットにコピーします。
2. PERF フラグが 1 の状態で SPSR レジスタを読んだ後、PERF フラグに 0 を書くと、PERF フラグが 0 にクリアされます。
3. SPI がオーバーランエラーを検出し、シリアル転送が終了すると、シフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしません。このとき、SPI はパリティエラーを検出しません。

パリティエラーの発生は、SPSR レジスタの読み出し、あるいは SPI エラー割り込みと SPSR レジスタの読み出しによって確認できます。シリアル転送を実行する場合は、SPSR レジスタエラーを読み出すなどの方法で、パリティエラー発生を早期に検出できるように対処してください。SPI がマスタモードの場合、SPSSR.SPECM[2:0] ビットを読み出すことで、エラー発生時の SPCMDm レジスタに対するポインタ値を確認できます。

34.3.8.3　モードフォルトエラー

SPCR.MSTR ビットが 1、SPCR.SPMS ビットが 0、SPCR.MODFEN ビットが 1 の場合には、SPI はマルチマスタモードで動作します。マルチマスタモードの SPI の SSLn0 入力信号に対してアクティブレベルが入力されると、シリアル転送状態にかかわらず、SPI はモードフォルトエラーを検出して SPSR.MODF フラグを 1 にします。SPI はモードフォルトエラーを検出すると、SPCMDm レジスタに対するポインタの値を SPSSR.SPECM[2:0] ビットにコピーします。なお、SSLn0 信号のアクティブレベルは、SSLP.SSL0P ビットによって決定されます。

MSTR ビットが 0 の場合には、SPI はスレーブモードで動作します。スレーブモードの SPI の MODFEN ビットが 1、SPMS ビットが 0 の場合、シリアル転送期間（有効データのドライブ開始から最終有効データの取り込みまで）に SSLn0 入力信号がネゲートされると、SPI はモードフォルトエラーを検出します。

SPI はモードフォルトエラーを検出すると、出力信号のドライブを停止して、SPCR.SPE ビットを 0 にクリアします（34.3.9　SPI の初期化を参照）。マルチマスタ構成では、モードフォルトエラーの検出によって、出力信号のドライブと SPI 機能を停止させ、マスタであることを解除できます。

モードフォルトエラーの発生は、SPSR レジスタの読み出し、あるいは SPI エラー割り込みと SPSR レジスタの読み出しによって確認できます。SPI エラー割り込みを利用せずにモードフォルトエラーを検出するには、SPSR レジスタをポーリングする必要があります。SPI をマスタモードで使用する場合、SPSSR.SPECM[2:0] ビットを読み出すことで、エラー発生時の SPCMDm レジスタに対するポインタ値を確認できます。

MODF フラグが 1 の状態では、SPI は SPE ビットへの 1 の書き込みを無視します。モードフォルトエラー検出後に SPI 機能を有効にするには、MODF フラグを 0 にしてください。

34.3.8.4　アンダーランエラー

SPCR.MSTR ビットが 0（スレーブモード）、SPCR.SPE ビットが 1、送信データが用意されていない状態でシリアル転送が開始すると、SPI はアンダーランエラーを検出します。その後、SPI は SPSR.MODF および SPSR.UDRF フラグを 1 にします。SPI はアンダーランエラーを検出すると、出力信号のドライブを停止して、SPCR.SPE ビットを 0 にクリアします（34.3.9　SPI の初期化を参照）。

アンダーランエラーの発生は、SPSR レジスタの読み出し、あるいは SPI エラー割り込みと SPSR レジスタの読み出しによって確認できます。SPI エラー割り込みを利用せずにアンダーランエラーを検出するには、SPSR レジスタをポーリングする必要があります。

MODF フラグが 1 の状態では、SPI は SPE ビットへの 1 の書き込みを無視します。アンダーランエラー検出後に SPI 機能を有効にするには、MODF フラグを 0 にする必要があります。

34.3.9 SPI の初期化

SPCR.SPE ビットに 0 を書いた場合、あるいは SPI がモードフォルトエラーまたはアンダーランエラーを検出して SPE ビットを 0 にした場合は、SPI は SPI 機能を無効にして、モジュール機能の一部を初期化します。また、システムリセットが発生した場合には、SPI はモジュール機能をすべて初期化します。以下では、SPCR.SPE ビットのクリアによる初期化と、システムリセットによる初期化について説明します。

34.3.9.1 SPE ビットのクリアによる初期化

SPCR.SPE ビットを 0 にしたとき、SPI は以下に示す初期化を実施します。

- 実行中のシリアル転送を中断
- スレーブモードの場合、出力信号のドライブ停止（Hi-Z）
- SPI 内部ステートの初期化
- SPI 送信バッファの初期化（SPSR.SPTEF フラグを 1 にする）

SPE ビットのクリアによる初期化では、SPI の制御ビットは初期化されません。このため、再度 SPE ビットを 1 にすると、初期化前と同じ転送モードで SPI を起動できます。

SPSR.SPRF、SPSR.OVRF、SPSR.MODF、SPSR.PERF、および SPSR.UDRF フラグの値は初期化されません。また、SPI シーケンスステータスレジスタ（SPSSR）の値も初期化されません。このため、SPI の初期化後も受信バッファからデータを読み出すことで、SPI 転送時のエラー発生状況を確認できます。

送信バッファは空の状態に初期化されます（SPSR.SPTEF フラグが 1 になる）。このため、SPI 初期化後に SPCR.SPTIE ビットを 1 にしていると、送信バッファエンプティ割り込みが発生します。SPI を初期化する場合に、送信バッファエンプティ割り込みを禁止するには、SPE ビットへ 0 を書くと同時に、SPTIE ビットにも 0 を書いてください。

34.3.9.2 システムリセットによる初期化

システムリセットによる初期化では、34.3.9.1 SPE ビットのクリアによる初期化に記載の事項に加え、すべての SPI 制御用ビット、ステータスビット、およびデータレジスタが初期化され、SPI が完全に初期化されます。

34.3.10　SPI 動作

34.3.10.1　マスタモード動作

シングルマスタモード動作とマルチマスタモード動作の違いは、モードフォルトエラー検出の有無のみです（34.3.8　エラー検出を参照）。SPI は、シングルマスタモードではモードフォルトエラーを検出しませんが、マルチマスタモードでは検出します。以下では、シングル／マルチマスタモードで共通する動作について説明します。

(1)　シリアル転送の開始

SPI 送信バッファが空の状態で SPI データレジスタ（SPDR ／ SPDR_HA）にデータが書き込まれ、次回の転送用のデータがセットされていない場合（SPSR.SPTEF フラグが 1）、SPI は送信バッファ（SPTX）のデータを更新します。SPDCR.SPFC[1:0] ビットで設定したフレーム数分のデータを、SPDR/SPDR_HA レジスタへ書き込んだ後、シフトレジスタが空の場合は、SPI は送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーしてシリアル転送を開始します。SPI はシフトレジスタに送信データをコピーすると、シフトレジスタのステータスを「フル」に変更します。シリアル転送が終了すると、シフトレジスタのステータスを「空」に変更します。シフトレジスタのステータスを参照することはできません。

SSLni 出力端子の極性は、SSLP レジスタの設定値で決まります。SPI の転送フォーマットの詳細については、34.3.5　転送フォーマットを参照してください。

(2)　シリアル転送の終了

SPCMDm.CPHA ビットの設定にかかわらず、SPI は最終サンプリングタイミングに対応する RSPCKn エッジを送出するとシリアル転送を終了します。受信バッファ（SPRX）が空（SPSR.SPRF フラグ = 0）の場合には、シリアル転送終了後に、SPI はシフトレジスタから SPDR/SPDR_HA レジスタの受信バッファにデータをコピーします。

なお、最終サンプリングタイミングは転送データのビット長に依存して変化します。マスタモードの SPI のデータ長は、SPCMDm.SPB[3:0] ビットの設定値で決まります。SSLni 出力端子の極性は、SSLP レジスタの設定値で決まります。SPI の転送フォーマットの詳細については、34.3.5　転送フォーマットを参照してください。

(3)　シーケンス制御

マスタモード時の転送フォーマットは、SPSCR レジスタ、SPCMDm レジスタ、SPBR レジスタ、SPCKD レジスタ、SSLND レジスタ、および SPND レジスタによって決定されます。

SPSCR レジスタは、マスタモードの SPI で実行するシリアル転送のシーケンス構成を決定するためのレジスタです。SPCMDm レジスタでは、以下の項目を設定します。

- SSLni 端子の出力信号値
- MSB/LSB ファースト
- データ長
- ビットレート設定の一部
- RSPCK 極性／位相
- SPCKD レジスタの参照要否
- SSLND レジスタの参照要否
- SPND レジスタの参照要否

SPBR レジスタは、SPI クロック遅延（SPCKD）、SSL ネゲート遅延（SSLND）、次アクセス遅延（SPND）などの、ビットレート設定値の一部を保持しています。

SPI は、SPSCR レジスタに設定されたシーケンス長に従って、SPCMDm レジスタの一部／全部からなるシーケンスを構成します。SPI には、シーケンスを構成している SPCMDm レジスタに対するポインタが存在します。このポインタの値は、SPSSR.SPCP[2:0] ビットの読み出しによって確認できます。SPCR.SPE ビットを 1 にして SPI 機能を有効にすると、SPI はコマンドに対するポインタを SPCMD0 レジスタにセットし、シリアル転送の開始時に SPCMD0 レジスタの設定内容を転送フォーマットに反映します。SPI は、各

データ転送の次アクセス遅延期間が終了するたびにポインタをインクリメントします。シーケンスの最終コマンドに対応するシリアル転送が終了すると、SPI はポインタを SPCMD0 レジスタにセットするため、シーケンスが繰り返し実行されます。

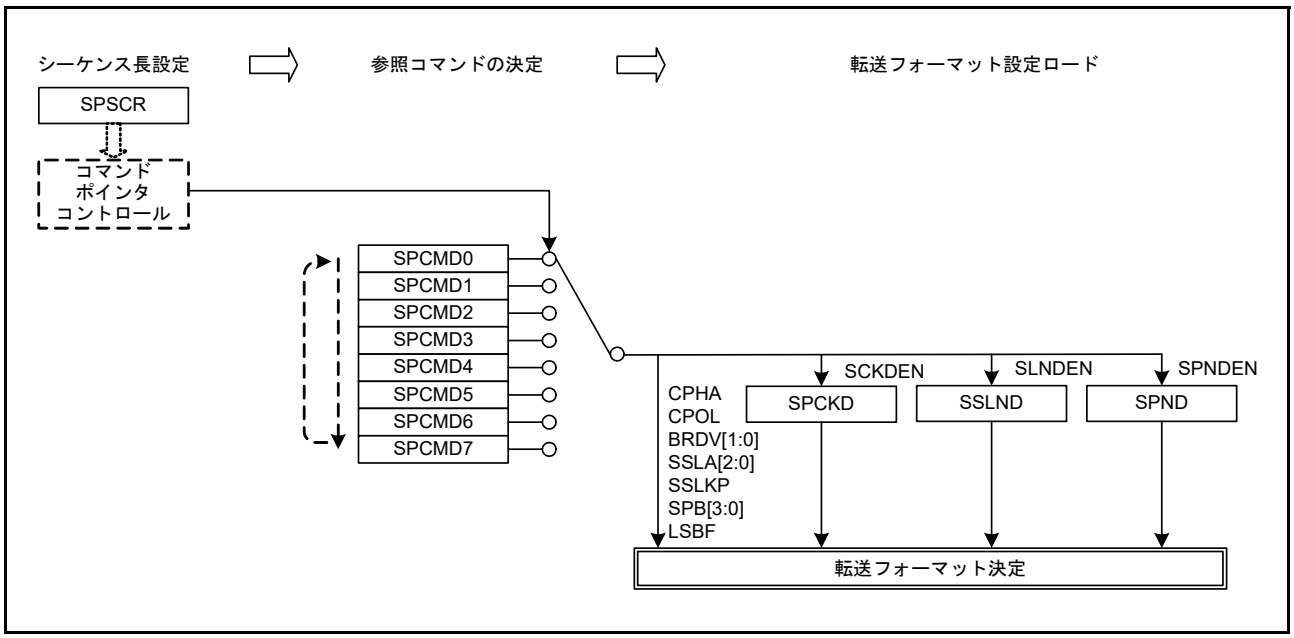


図 34.32　　マスタモードでのシリアル転送方式の決定方法

ここでは、データ（SPDR/SPDR_HA）と設定（SPCMDm）の 2 つを合わせてフレームとします。

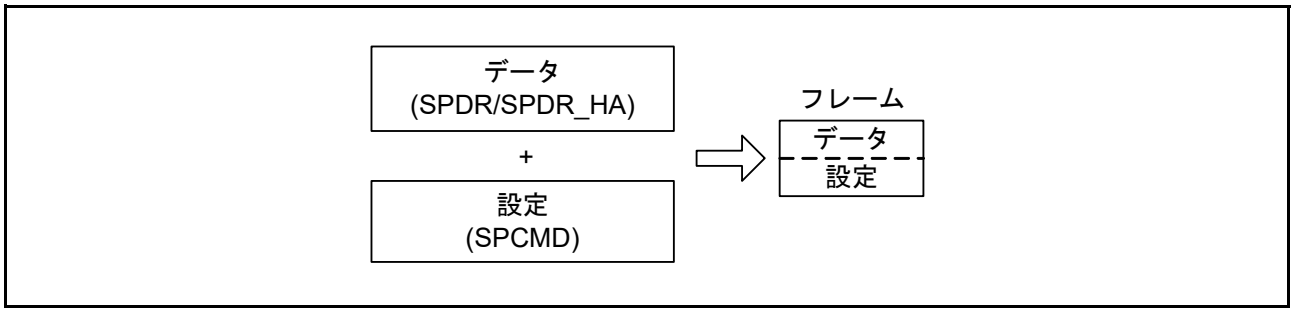


図 34.33　　フレームの概念図

表 34.4 の設定でシーケンス動作を行ったときのコマンドと送信バッファ／受信バッファの対応関係を図 34.34 に示します。

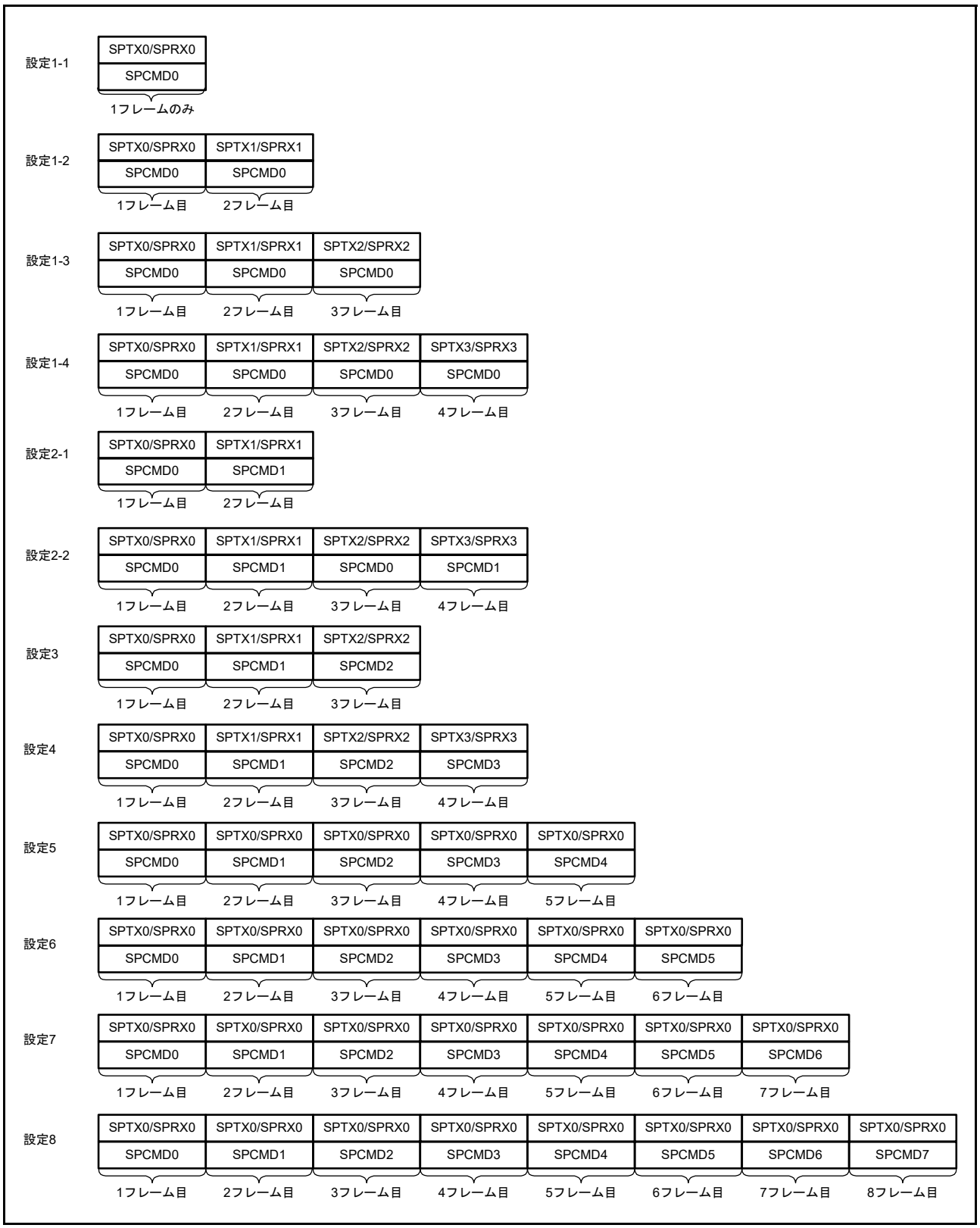


図 34.34　シーケンス動作時の SPI コマンドレジスタと送受信バッファの対応関係

(4)　バースト転送

SPI が現在のシリアル転送で参照している SPCMDm.SSLKP ビットが 1 の場合には、SPI はシリアル転送中の SSLni 信号レベルを次のシリアル転送の SSLni 信号アサート開始まで保持します。次のシリアル転送での SSLni 信号レベルが、現在のシリアル転送での SSLni 信号レベルと同じであれば、SPI は SSLni 信号アサート状態を保持したまま連続的にシリアル転送を実行することが可能です（バースト転送）。

図 34.35 に、SPCMD0 および SPCMD1 レジスタの設定値を使用してバースト転送を実現した場合の SSLni 信号の動作例を示します。以下では、図 34.35 に示す（1）～（7）の SPI 動作内容について説明します。

注 .　SSLni 出力信号の極性は、SSLP レジスタの設定値で決まります。

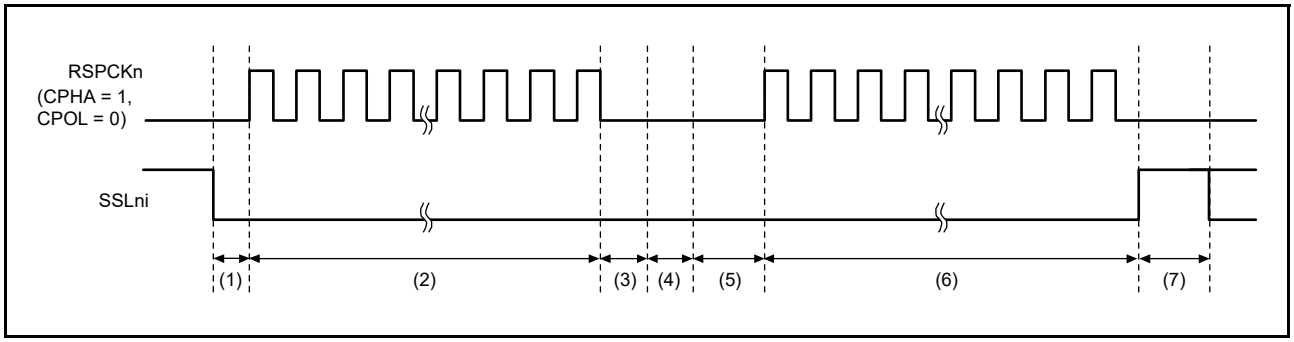


図 34.35　SSLKP ビットを利用したバースト転送の動作例

図中の（1）～（7）に示したタイミングでの SPI の動作は以下のとおりです。

1. SPI は、SPCMD0 レジスタの設定値に従って SSLni 信号をアサートし、RSPCK 遅延を挿入します。
2. SPI は SPCMD0 レジスタの設定に従ったシリアル転送を実行します。
3. SPI は、SSL ネゲート遅延を挿入します。
4. SPCMD0.SSLKP ビットが 1 であるため、SPI は SPCMD0 レジスタで指定した SSLni 信号値を保持します。この期間は、最短でも SPCMD0 レジスタの次アクセス遅延と同じだけ継続されます。最短期間が経過してもシフトレジスタが空の場合は、次転送のための送信データがシフトレジスタに格納されるまで、この期間は継続します。
5. SPI は、SPCMD1 レジスタの設定値に従って SSLni 信号をアサートし、RSPCK 遅延を挿入します。
6. SPI は SPCMD1 レジスタの設定に従ったシリアル転送を実行します。
7. SPCMD1.SSLKP ビットが 0 であるため、SPI は SSLni 信号をネゲートします。また、SPCMD1 レジスタに従った次アクセス遅延が挿入されます。

SSLKP ビットを 1 にした SPCMDm レジスタでの SSLni 信号出力設定と、次転送で使用する SPCMDm レジスタでの SSLni 信号出力設定が異なる場合、SPI は図 34.35 の（5）で示すように、SSLni 信号状態を SSLni 信号アサートに切り替えます。この SSLni 信号は次転送のコマンドに対応しています。

注 .　このような SSLni 信号の切り替えが発生した場合、MISOn 信号をドライブするスレーブが競合して信号レベルの衝突が発生する可能性があります。

マスタモードの SPI は、SSLKP ビットを使用しない場合は、SSLni 信号動作をモジュール内部で参照しています。SPCMDm.CPHA ビットが 0 であると、SPI は内部で検出した次転送の SSLni 信号のアサートを使用してシリアル転送を正確に開始できます。

(5)　RSPCK 遅延（t1）

マスタモードの SPI の RSPCK 遅延値は、SPCMDm.SCKDEN ビットの設定と SPCKD レジスタの設定で決まります。SPI は、ポインタ制御によってシリアル転送中に参照する SPCMDm レジスタを決定し、SPCMDm.SCKDEN ビットと SPCKD レジスタを使用して、表 34.9 のように RSPCK 遅延値を決定します。なお、RSPCK 遅延の定義については、34.3.5　転送フォーマットを参照してください。

表 34.9　　SCKDEN ビット、SPCKD レジスタ、RSPCK 遅延の関係

SPCMDm.SCKDEN ビット	SPCKD.SCKDL[2:0] ビット	RSPCK 遅延
0	000b ～ 111b	1RSPCK
1	000b	1RSPCK
	001b	2RSPCK
	010b	3RSPCK
	011b	4RSPCK
	100b	5RSPCK
	101b	6RSPCK
	110b	7RSPCK
	111b	8RSPCK

(6)　SSL ネゲート遅延（t2）

マスタモードの SPI の SSL ネゲート遅延値は、SPCMDm.SLNDEN ビットの設定と SSLND レジスタの設定で決まります。SPI は、ポインタ制御によってシリアル転送中に参照する SPCMDm レジスタを決定し、SPCMDm.SLNDEN ビットと SSLND レジスタを使用して、表 34.10 のように SSL ネゲート遅延値を決定します。なお、SSL ネゲート遅延の定義については、34.3.5　転送フォーマットを参照してください。

表 34.10　　SLNDEN ビット、SSLND レジスタ、SSL ネゲート遅延の関係

SPCMDm.SLNDEN ビット	SSLND.SLNDL[2:0] ビット	SSL ネゲート遅延
0	000b ～ 111b	1RSPCK
1	000b	1RSPCK
	001b	2RSPCK
	010b	3RSPCK
	011b	4RSPCK
	100b	5RSPCK
	101b	6RSPCK
	110b	7RSPCK
	111b	8RSPCK

(7)　次アクセス遅延（t3）

マスタモードの SPI の次アクセス遅延値は、SPCMDm.SPNDEN ビットの設定と SPND レジスタの設定で決まります。SPI は、ポインタ制御によってシリアル転送中に参照する SPCMDm レジスタを決定し、SPCMDm.SPNDEN ビットと SPND.SPNDL[2:0] ビットを使用して、表 34.11 のようにシリアル転送時の次アクセス遅延値を決定します。なお、次アクセス遅延の定義については、34.3.5　転送フォーマットを参照してください。

表 34.11　　SPNDEN ビット、SPND レジスタ、次アクセス遅延の関係

SPCMDm.SPNDEN ビット	SPND.SPNDL[2:0] ビット	次アクセス遅延
0	000b～111b	1RSPCK + 2PCLKA
1	000b	1RSPCK + 2PCLKA
	001b	2RSPCK + 2PCLKA
	010b	3RSPCK + 2PCLKA
	011b	4RSPCK + 2PCLKA
	100b	5RSPCK + 2PCLKA
	101b	6RSPCK + 2PCLKA
	110b	7RSPCK + 2PCLKA
	111b	8RSPCK + 2PCLKA

(8)　初期化フロー

図 34.36 に、SPI をマスタモードで使用する場合の SPI 動作の初期化フロー例を示します。なお、割り込みコントローラユニット（ICU）、DMAC、および入出力ポートの設定方法については、各ブロックの説明を参照してください。

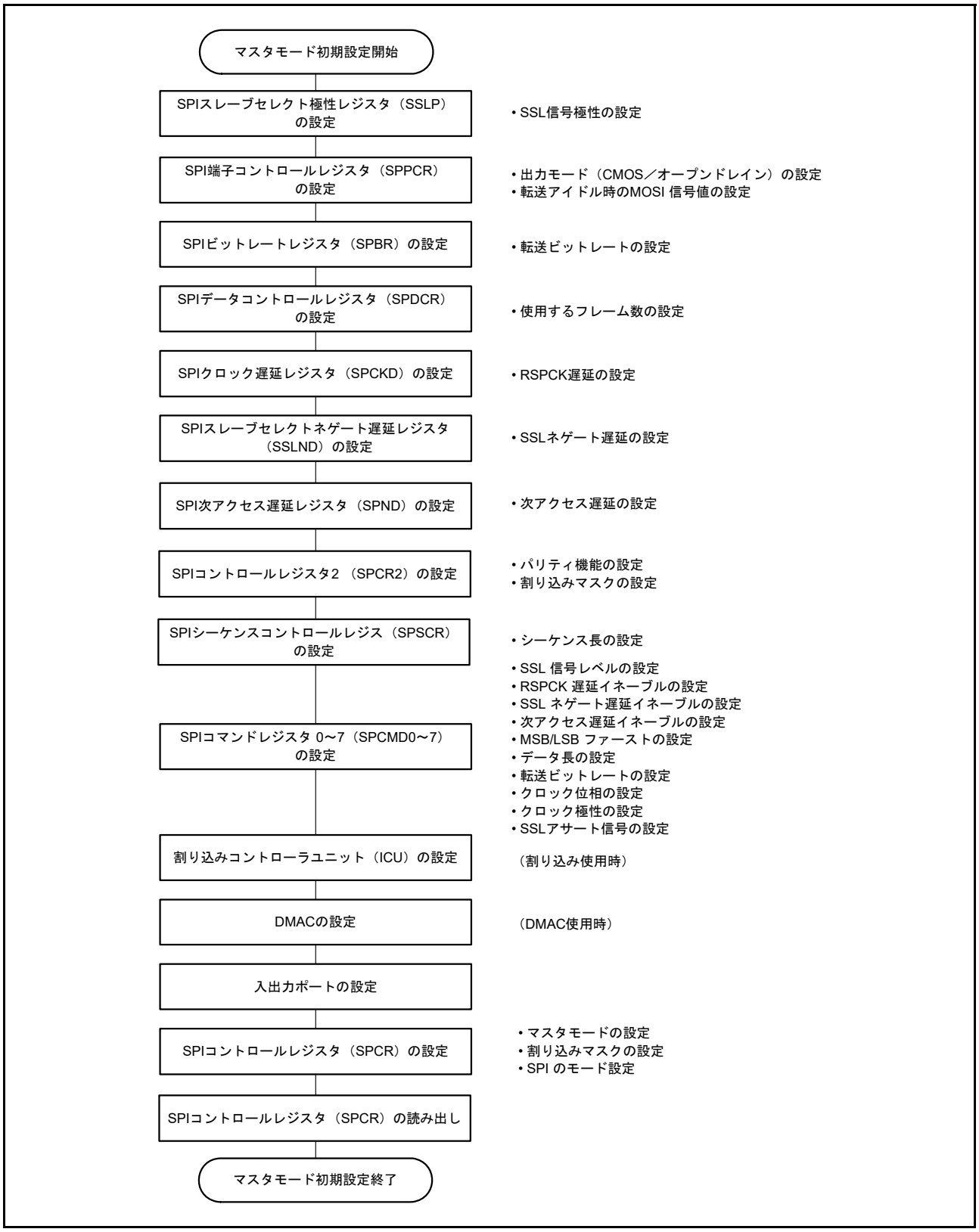


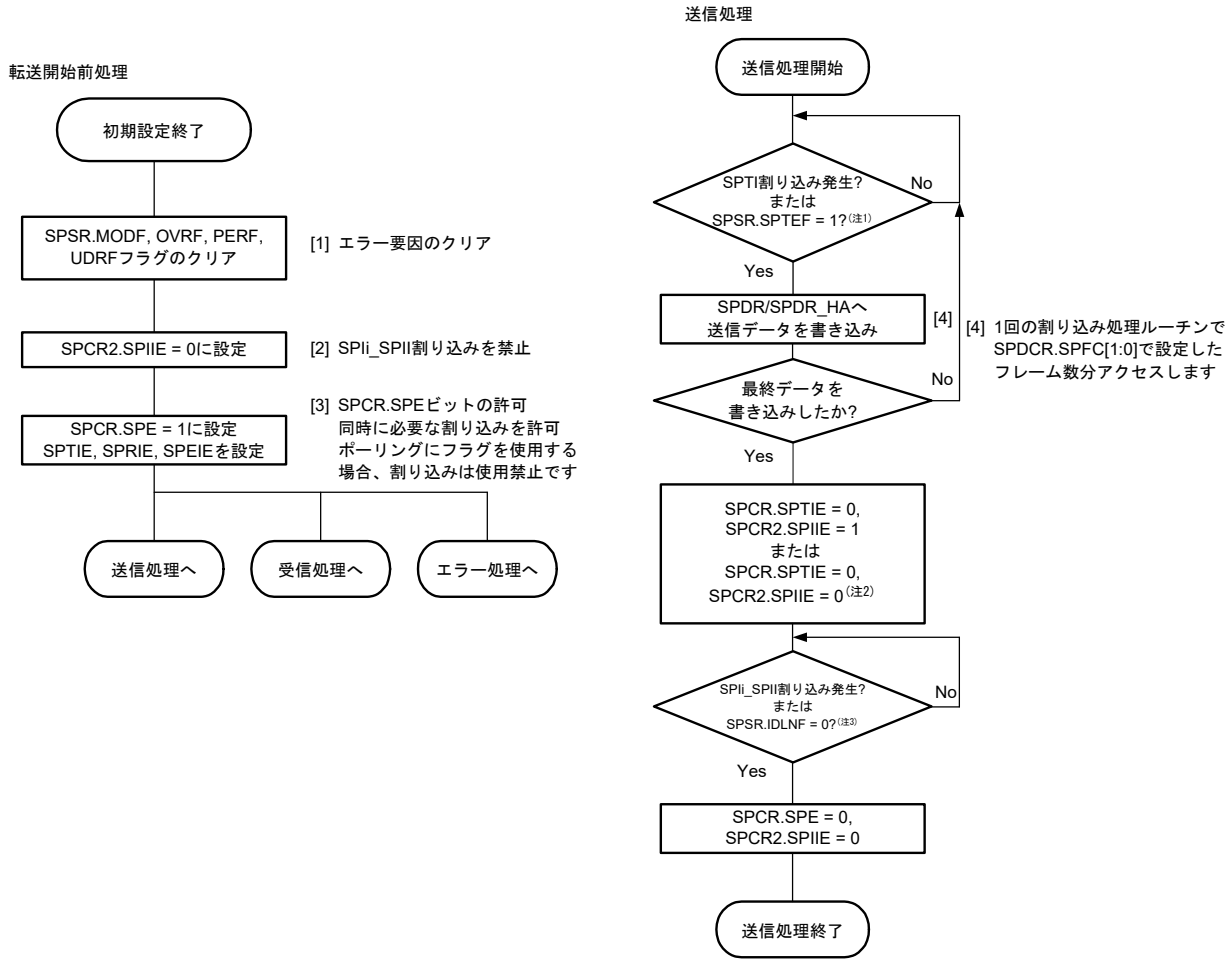
図 34.36　　マスタモード時の SPI 動作の初期化フロー例

(9)　ソフトウェア処理フロー

ソフトウェア処理フローの例を図 34.37 ～図 34.39 に示します。

(a)　送信処理フロー

データの送信時、SPIi_SPII 割り込みが許可されていれば、最終データの書き込み完了後に、データ送信完了が CPU に通知されます。



注 1.　ポーリングにフラグを使用する場合、SPSR.SPTEF フラグで送信バッファエンプティ割り込みを確認してから SPDR/SPDR_HA への送信データ書き込み処理を行ってください。
注 2.　ポーリング用のフラグを使用中の場合、アイドル割り込みを設定することはできません (SPCR2.SPIIE = 0)。
注 3.　ポーリング用のフラグを使用中の場合、SPDR への送信データを書き込んだ後と、PSR.IDLNF のポーリングを開始する前に 1PCLKA の時間を待ってください。

図 34.37　　マスタモードでの送信フロー

(b)　受信処理フロー

SPI は受信のみの動作を行わないため、送信を必要とします。

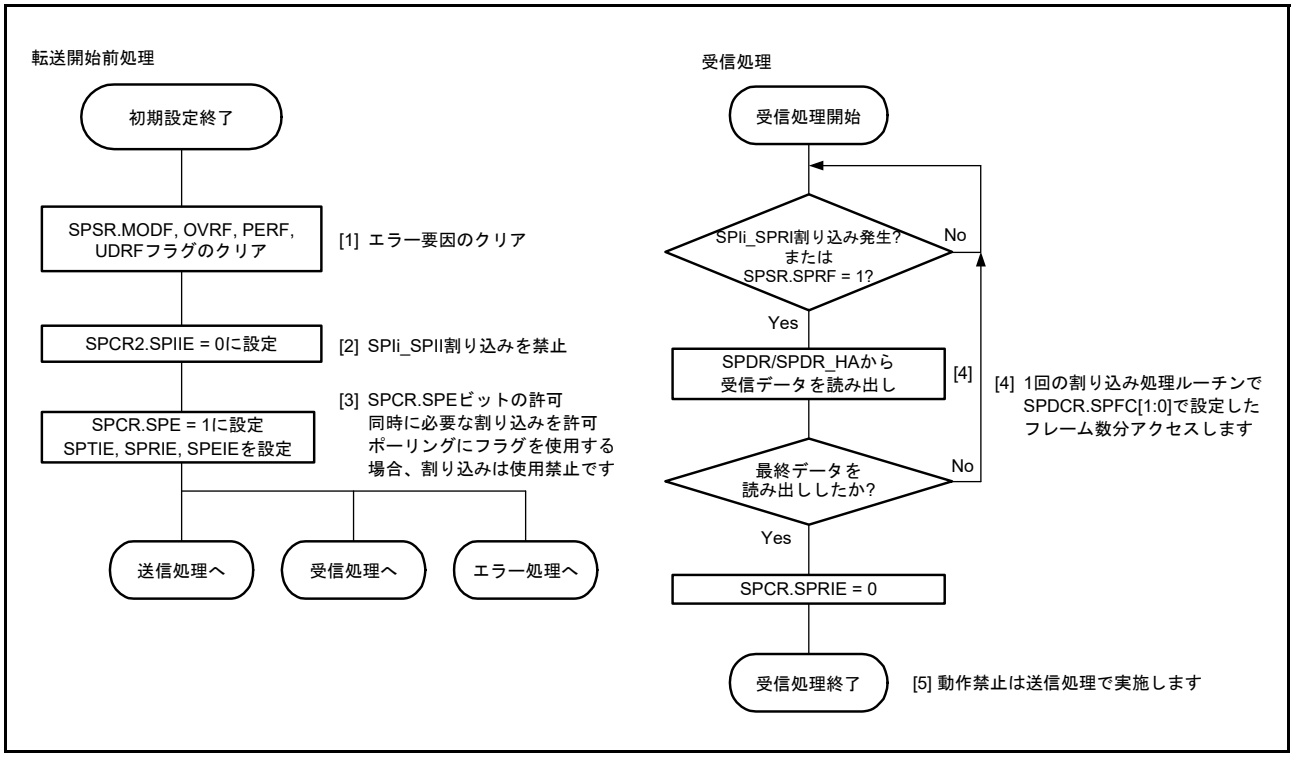


図 34.38　　マスタモードでの受信フロー

(c)　エラー処理フロー

SPI が検出するのは次のエラーです。

- モードフォルト
- アンダーラン
- オーバーラン
- パリティ

モードフォルトエラー発生時は、SPCR.SPE ビットが自動的にクリアされ、送信／受信動作を停止させます。その他のエラー要因では、SPCR.SPE ビットはクリアされず、送信／受信動作は継続します。モードフォルトエラー以外のエラーの場合は、SPCR.SPE ビットをクリアし、動作を停止することが推奨されます。動作を停止しないと、SPSSR.SPECM[2:0] ビットが更新されます。

割り込みによるエラー検出時は、エラー処理ルーチンにて ICU.IELSRn.IR フラグをクリアしてください。クリアしないと、ICU.IELSRn.IR フラグに SPIi_SPTI または SPIi_SPRI 割り込み要求が保持されている可能性があります。また、SPIi_SPRI 割り込み要求が保持されている場合は、受信バッファを読み出して SPI の内部シーケンサを初期化してください。

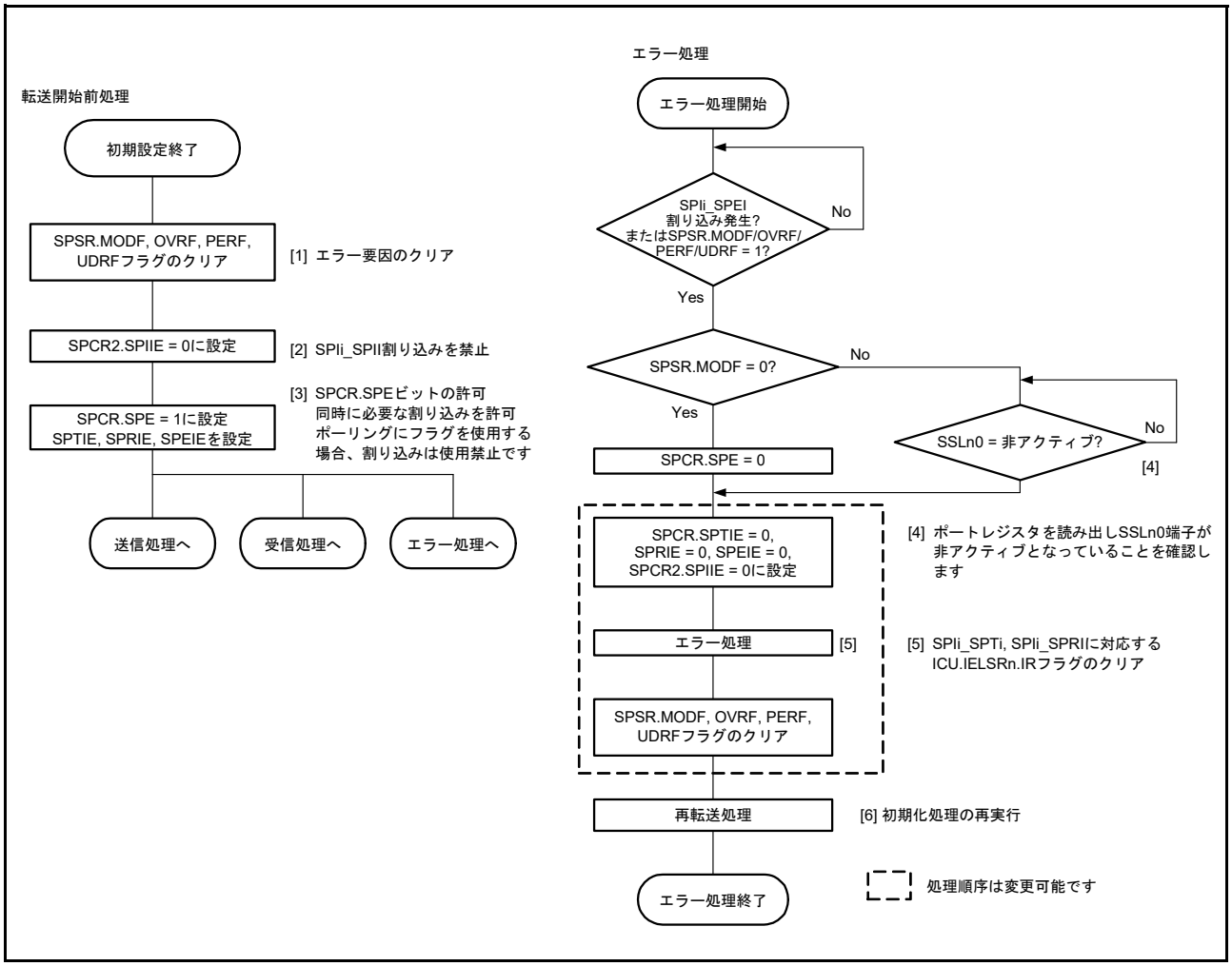


図 34.39　　マスタモードでのエラー処理フロー

34.3.10.2　スレーブモード動作

(1)　シリアル転送の開始

SPCMD0.CPHA ビットが 0 の場合、SPI は SSLn0 入力信号のアサートを検出すると、MISOn 出力信号への有効データのドライブを実行する必要があります。このため、CPHA ビットが 0 の場合には、SSLn0 入力信号のアサートがシリアル転送開始のトリガになります。

CPHA ビットが 1 の場合には、SPI は SSLn0 入力信号のアサート状態で最初の RSPCKn エッジを検出すると、MISOn 出力信号への有効データのドライブを実行する必要があります。このため、CPHA ビットが 1 の場合には、SSLn0 信号アサート状態における最初の RSPCKn エッジがシリアル転送開始のトリガになります。

CPHA ビットの設定にかかわらず、SPI は SSLn0 信号のアサート時に、MISOn 出力信号のドライブを実行します。CPHA ビットの設定によって、SPI が出力するデータの有効／無効が異なります。

SSLn0 入力信号の極性は、SSLP.SSL0P ビットの設定値で決まります。SPI の転送フォーマットの詳細については、34.3.5　転送フォーマットを参照してください。

(2)　シリアル転送の終了

SPCMD0.CPHA ビットの設定にかかわらず、SPI は最終サンプリングタイミングに対応する RSPCKn エッジを検出するとシリアル転送を終了します。受信バッファが空（SPSR.SPRF フラグ = 0）の場合には、シリアル転送の終了後、SPI はシフトレジスタから SPDR/SPDR_HA レジスタの受信バッファに受信データをコピーします。また、受信バッファの状態にかかわらず、SPI はシリアル転送の終了時にシフトレジスタの状態を「空」に変更します。シリアル転送開始からシリアル転送終了までの間に SPI が SSLn0 入力信号のネゲートを検出すると、モードフォルトエラーが発生します（34.3.8　エラー検出を参照）。

なお、最終サンプリングタイミングは転送データのビット長に依存して変化します。スレーブモードの SPI のデータ長は SPCMD0.SPB[3:0] ビットの設定値で決まります。SSLn0 入力信号の極性は、SSLP.SSL0P ビットの設定値で決まります。SPI の転送フォーマットの詳細については、34.3.5　転送フォーマットを参照してください。

(3)　シングルスレーブ動作時の注意点

SPCMD0.CPHA ビットが 0 の場合、SPI は SSLn0 入力信号のアサートエッジを検出するとシリアル転送を開始します。図 34.7 の例に示したような構成で SPI をシングルスレーブモードで使用する場合は、SSLn0 入力信号がアクティブ状態に固定されます。そのため、CPHA ビットを 0 に設定した SPI では、シリアル転送を正しく開始できません。SSLn0 入力信号がアクティブ状態に固定されているときに、スレーブモードの SPI の送受信を正しく実行するには、CPHA ビットを 1 にしてください。CPHA ビットを 0 にする必要がある場合は、SSLn0 入力信号を固定しないでください。

(4)　バースト転送

SPCMD0.CPHA ビットが 1 であれば、SSLn0 入力信号のアサート状態を保持したままで連続的なシリアル転送（バースト転送）を実行できます。CPHA ビットが 1 の場合、シリアル転送期間は、SSLn0 入力信号アクティブ状態における最初の RSPCKn エッジから、最終ビット受信のためのサンプリングタイミングまでとなります。SSLn0 入力信号がアクティブレベルのままであっても、SPI はアクセスの開始を検出できるため、バースト転送に対応できます。

CPHA ビットが 0 の場合、バースト転送の 2 回目以降のシリアル転送を正しく実行できません。

(5)　初期化フロー

図 34.40 に、SPI をスレーブモードで使用する場合の SPI 動作の初期化フロー例を示します。なお、割り込みコントローラユニット（ICU）、DMAC、および入出力ポートの設定方法については、各ブロックの説明を参照してください。

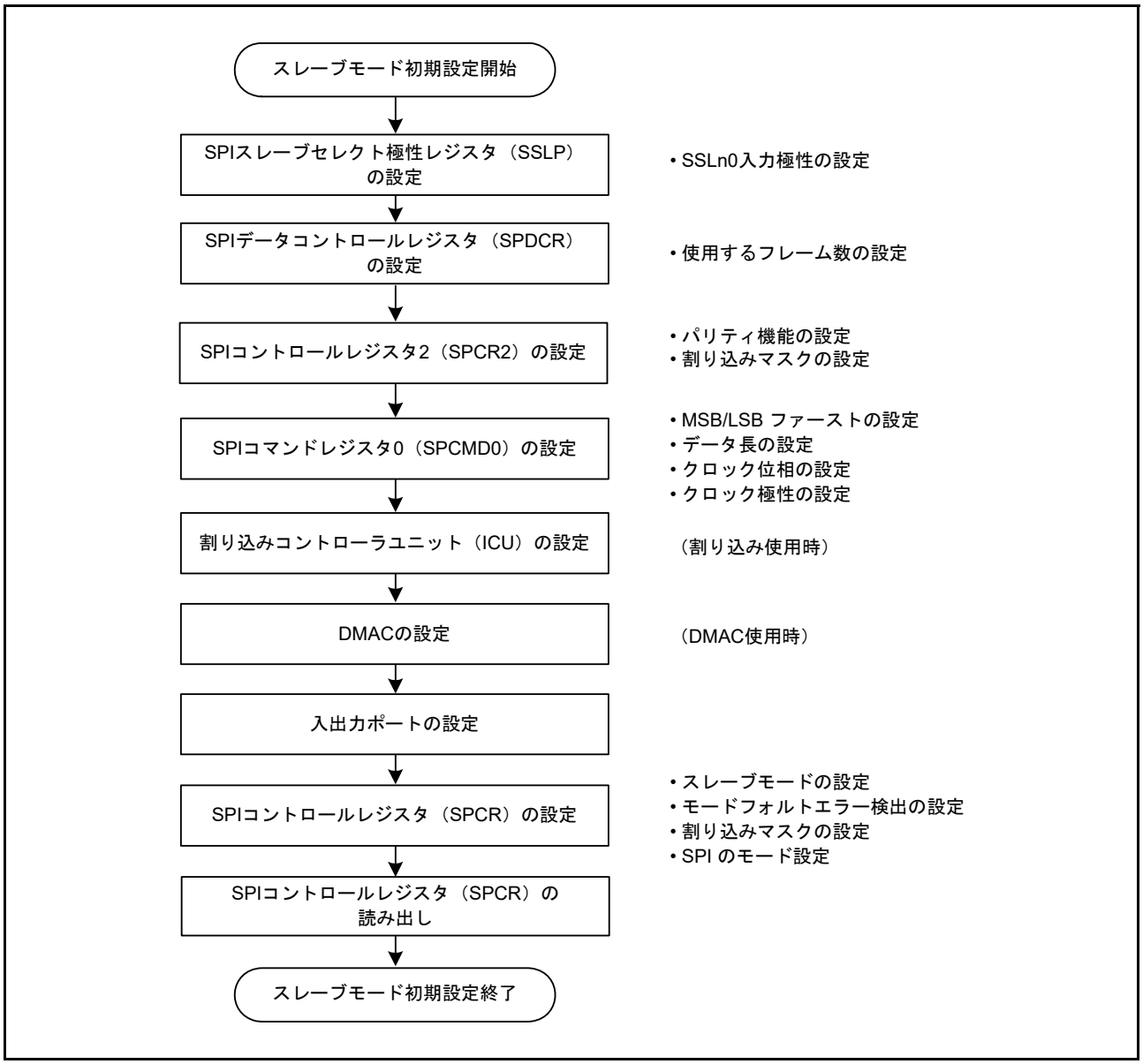
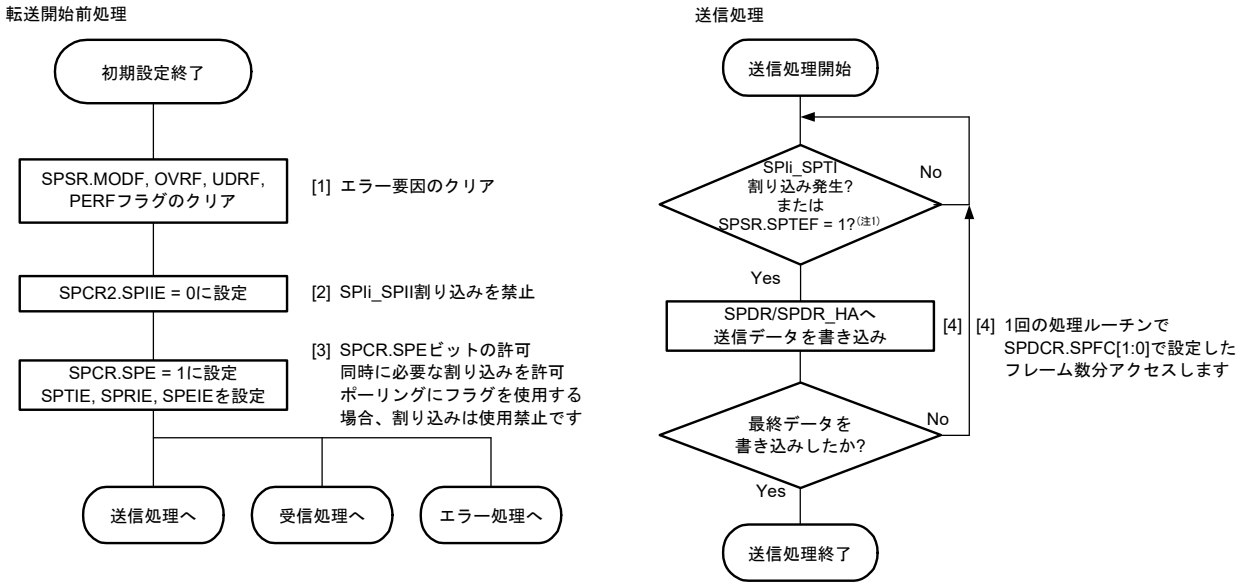


図 34.40　スレーブモード時の SPI 動作の初期化フロー例

(6)　ソフトウェア処理フロー

ソフトウェア処理フローの例を図 34.41 ～図 34.43 に示します。

(a)　送信処理フロー



注 1.　ポーリングにフラグを使用する場合、SPDR/SPDR_HA に送信データを書き込む前に、SPSR.SPTEF フラグで送信バッファエンプティ割り込みを確認してください。

図 34.41　　スレーブモードでの送信フロー

(b)　受信処理フロー

SPI は受信のみの動作を行わないため、送信を必要とします。

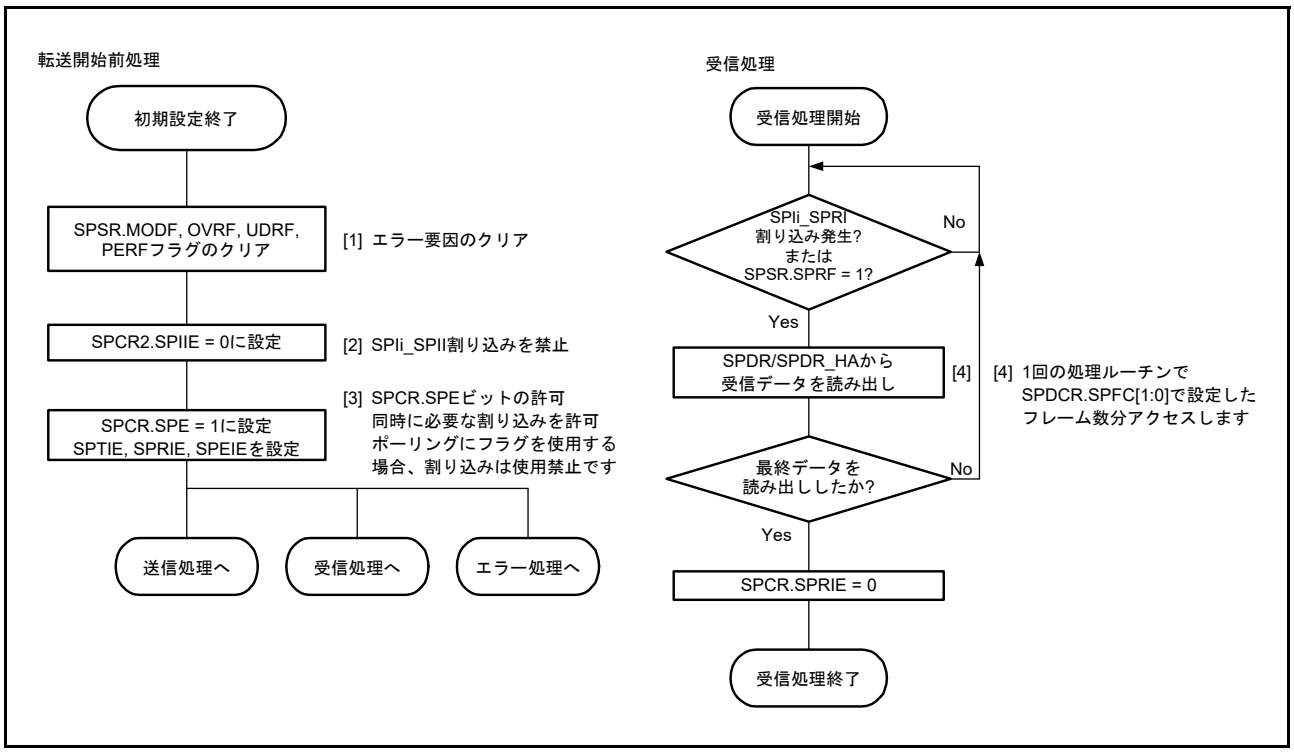


図 34.42　　スレーブモードでの受信フロー

(c)　エラー処理フロー

スレーブ動作では、モードフォルトエラーが発生しても、SSLn0 端子の状態にかかわらず SPSR.MODF フラグをクリアすることが可能です。

割り込みによるエラー検出時は、エラー処理ルーチンにて ICU.IELSRn.IR フラグをクリアしてください。クリアしないと、ICU.IELSRn.IR フラグに SPIi_SPTI または SPIi_SPRI 割り込み要求が保持されている可能性があります。また、SPIi_SPRI 割り込み要求が保持されている場合は、受信バッファを読み出して SPI の内部シーケンサを初期化してください。

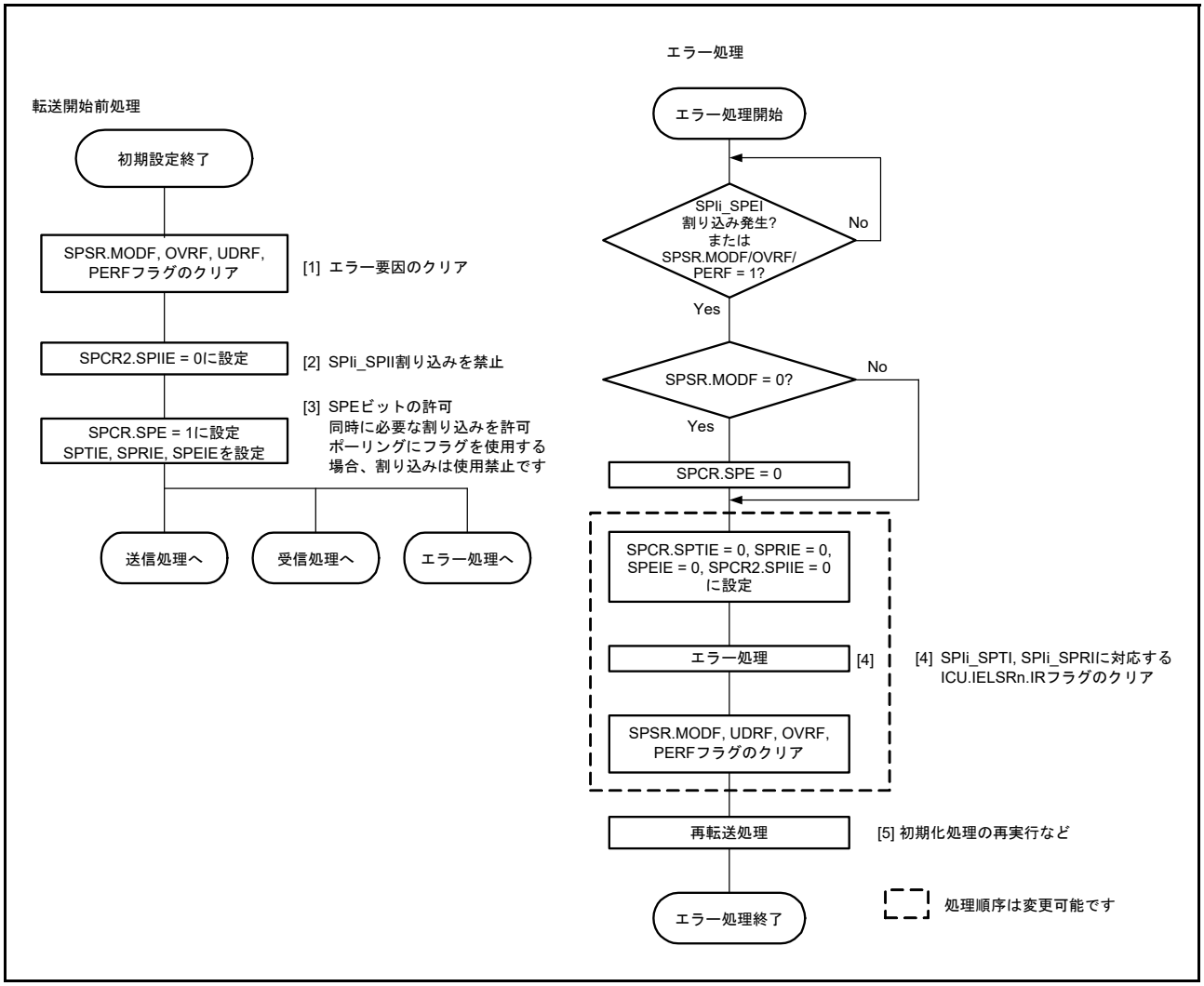


図 34.43　　スレーブモードでのエラー処理フロー

34.3.11　クロック同期式動作

SPI は、SPCR.SPMS ビットが 1 であるとき、クロック同期式動作となります。クロック同期式動作は、SSLni 端子を使用せず、RSPCKn、MOSIn、および MISOn 端子を用いて通信を行います。SSLni 端子はすべて入出力ポート端子として使用することが可能です。

クロック同期式動作は、SSLni 端子を使用せずに通信を行いますが、モジュールの動作は SPI 動作と同様です。マスタ動作とスレーブ動作のいずれにおいても、SPI 動作時と同様のフローで通信を行うことができます。ただし、SSLni 端子を使用しないので、モードフォルトエラーは検出されません。

また、クロック同期式動作では、スレーブモード時（SPCR.MSTR = 0）に SPCMDm.CPHA ビットを 0 にした場合の動作を行わないでください。

34.3.11.1　マスタモード動作

(1)　シリアル転送の開始

送信バッファが空（次転送のデータがセットされておらず、SPSR.SPTEF フラグが 1）の状態で、SPDR/SPDR_HA レジスタへデータを書くと、SPI は SPDR/SPDR_HA レジスタの送信バッファ（SPTX）のデータを更新します。SPDCR.SPFC[1:0] ビットで設定したフレーム数分のデータを、SPDR/SPDR_HA レジスタへ書き込んだ後、シフトレジスタが空の場合は、SPI は送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーしてシリアル送信を開始します。SPI は、シフトレジスタに送信データをコピーすると、シフトレジスタのステータスを「フル」に変更し、シリアル転送が終了すると、シフトレジスタのステータスを「空」に変更します。シフトレジスタのステータスを参照することはできません。

クロック同期式動作時は、SSLn0 出力信号を用いずに転送を行います。SPI の転送フォーマットの詳細については、34.3.5　転送フォーマットを参照してください。

(2)　シリアル転送の終了

SPI はサンプリングタイミングに対応する RSPCKn エッジを送出するとシリアル転送を終了します。受信バッファが空（SPSR.SPRF フラグ = 0）の場合には、シリアル転送終了後に SPI はシフトレジスタから SPI データレジスタ（SPDR/SPDR_HA）の受信バッファにデータをコピーします。

なお、最終サンプリングタイミングは転送データのビット長に依存して変化します。マスタモードの SPI のデータ長は、SPCMDm.SPB[3:0] ビットの設定値で決まります。クロック同期式動作時は、SSLn0 出力信号を用いずに転送を行います。SPI の転送フォーマットの詳細については、34.3.5　転送フォーマットを参照してください。

(3)　シーケンス制御

マスタモード時の転送フォーマットは、SPSCR レジスタ、SPCMDm レジスタ、SPBR レジスタ、SPCKD レジスタ、SSLND レジスタ、および SPND レジスタによって決定されます。クロック同期式動作時は、SSLni 信号の出力を行いませんが、これらの設定は有効です。

SPSCR レジスタは、マスタモードの SPI で実行するシリアル転送のシーケンス構成を決定するためのレジスタです。SPCMDm レジスタでは、以下の項目を指定します。

- SSLni 端子の出力信号値
- MSB/LSB ファースト
- データ長
- ビットレート設定の一部
- RSPCKn 極性／位相
- SPCKD レジスタの参照要否
- SSLND レジスタの参照要否
- SPND レジスタの参照要否

SPI は、SPSCR レジスタに設定されたシーケンス長に従って、SPCMDm レジスタの一部／全部からなるシーケンスを構成します。SPI には、シーケンスを構成している SPCMDm レジスタに対するポインタが存在します。このポインタの値は、SPSSR.SPCP[2:0] ビットの読み出しによって確認できます。SPCR.SPE

ビットを 1 にして SPI 機能を有効にすると、SPI はコマンドに対するポインタを SPCMD0 レジスタにセットし、シリアル転送の開始時に SPCMD0 レジスタの設定内容を転送フォーマットに反映します。SPI は、各データ転送の次アクセス遅延期間が終了するたびにポインタをインクリメントします。シーケンスを構成している最終コマンドに対応するシリアル転送が終了すると、SPI はポインタを SPCMD0 レジスタにセットするので、シーケンスが繰り返し実行されます。

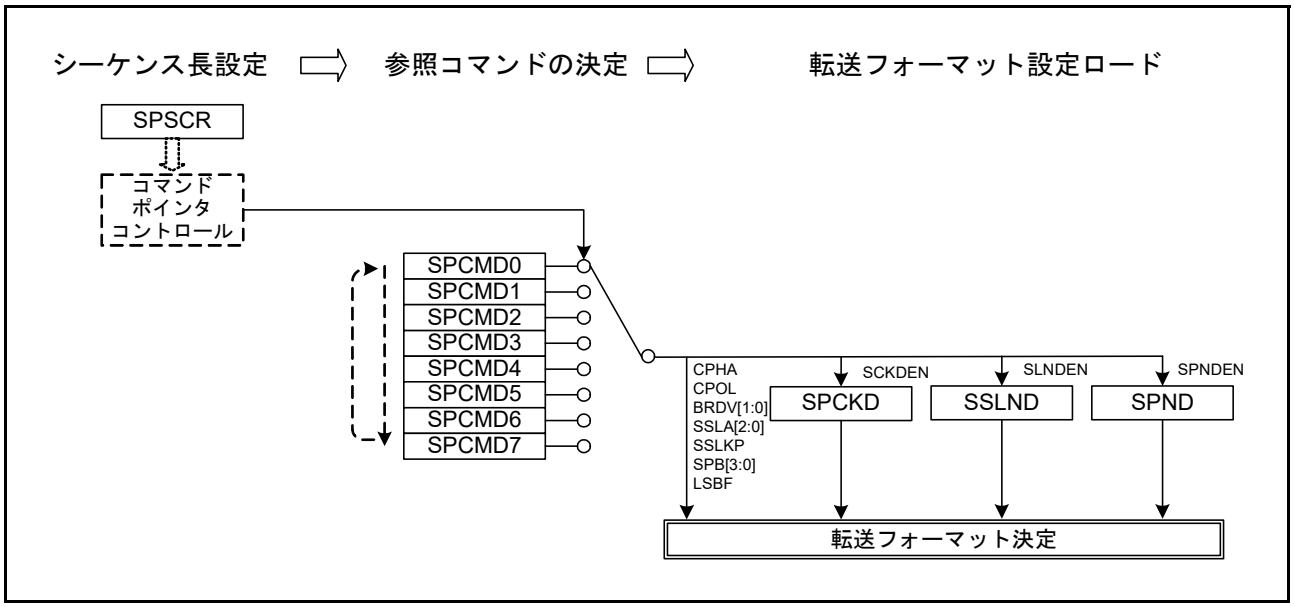


図 34.44　　マスタモードでのシリアル転送方式の決定方法

ここでは、データ（SPDR/SPDR_HA）と設定（SPCMDm）の 2 つを合わせてフレームとします。

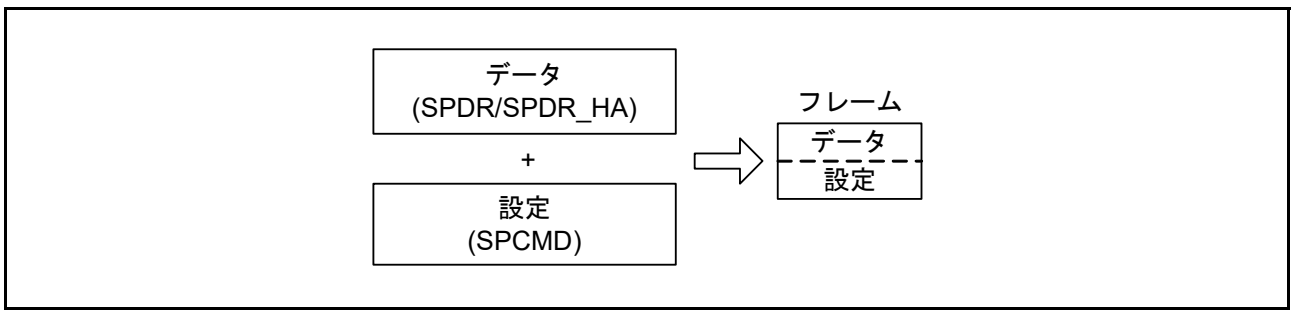


図 34.45　　フレームの概念図

表 34.4 の設定でシーケンス動作を行ったときのコマンドと送信バッファ／受信バッファの対応関係を図 34.46 に示します。

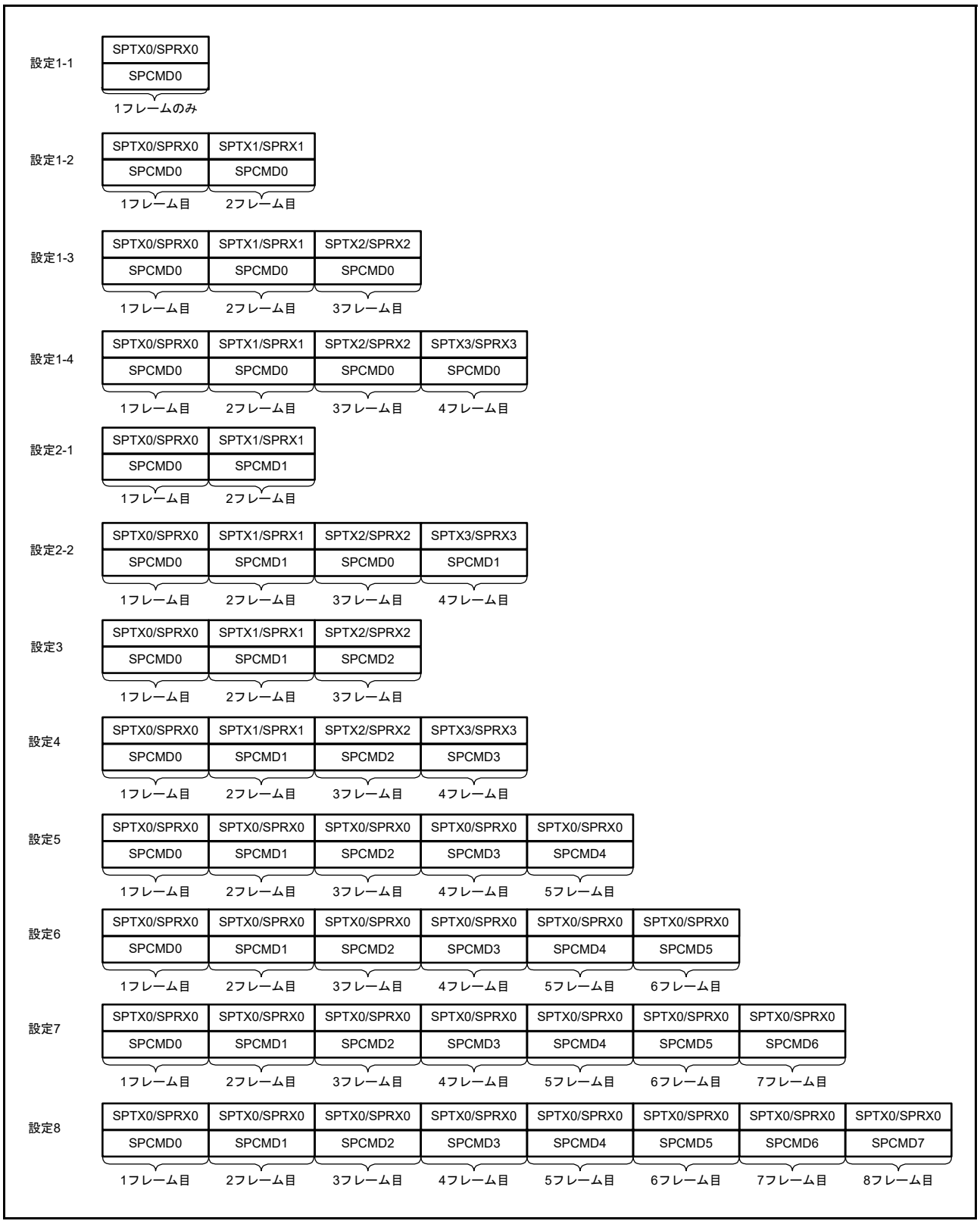


図 34.46　シーケンス動作時の SPI コマンドレジスタと送受信バッファの対応関係

(4)　初期化フロー

図 34.47 に、SPI をマスタモードで使用する場合のクロック同期式動作の初期化フローの例を示します。なお、割り込みコントローラユニット（ICU）、DMAC、および入出力ポートの設定方法については、各ブロックの説明を参照してください。

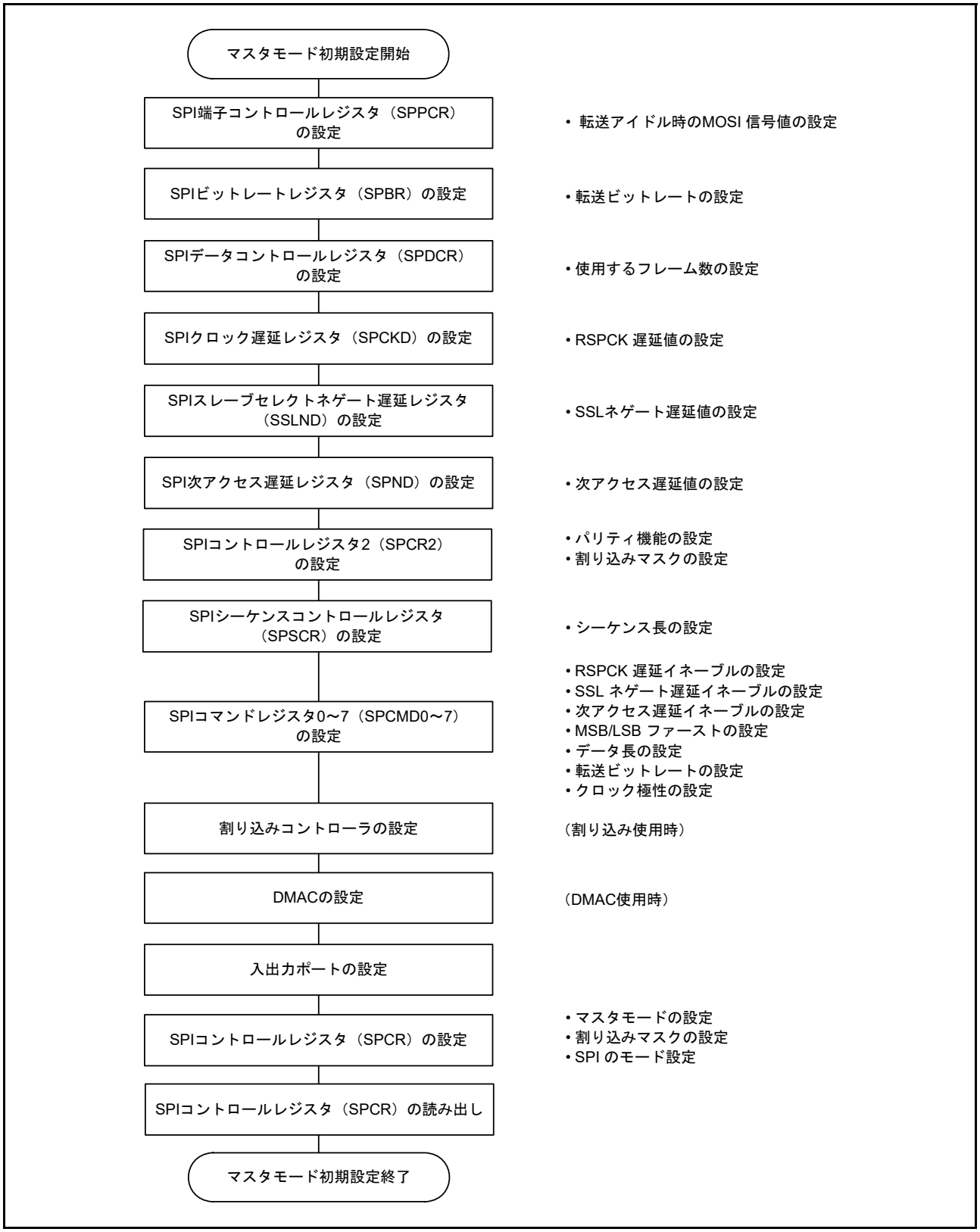


図 34.47　　マスタモード時のクロック同期式動作の初期化フロー例

(5)　ソフトウェア処理フロー

クロック同期式動作時のマスタモードでのソフトウェア処理は、SPI 動作時のマスタモードでのソフトウェア処理と同様になります。詳細は、34.3.10.1　マスタモード動作の (9)　ソフトウェア処理フローを参照してください。クロック同期式動作では、モードフォルトエラーは発生しません。

34.3.11.2　スレーブモード動作

(1)　シリアル転送の開始

SPCR.SPMS ビットが 1 であるとき、最初の RSPCKn エッジが SPI のシリアル転送開始のトリガになり、SPI は MISOn 出力信号をドライブします。クロック同期式動作時は SSL0 入力信号を使用しません。SPI の転送フォーマットの詳細については、34.3.5　転送フォーマットを参照してください。

(2)　シリアル転送の終了

SPI は最終サンプリングタイミングに対応する RSPCKn エッジを検出するとシリアル転送を終了します。受信バッファが空（SPSR.SPRF フラグ = 0）の場合には、シリアル転送終了後に SPI はシフトレジスタから SPDR/SPDR_HA レジスタの受信バッファに受信データをコピーします。また、受信バッファの状態にかかわらず、SPI はシリアル転送の終了時にシフトレジスタの状態を「空」に変更します。

なお、最終サンプリングタイミングは転送データのビット長に依存して変化します。スレーブモードの SPI のデータ長は SPCMD0.SPB[3:0] ビットの設定値で決まります。SPI の転送フォーマットの詳細については、34.3.5　転送フォーマットを参照してください。

(3)　初期化フロー

図 34.48 に、SPI をスレーブモードで使用する場合のクロック同期式動作の初期化フロー例を示します。なお、割り込みコントローラユニット（ICU）、DMAC、および入出力ポートの設定方法については、各ブロックの説明を参照してください。

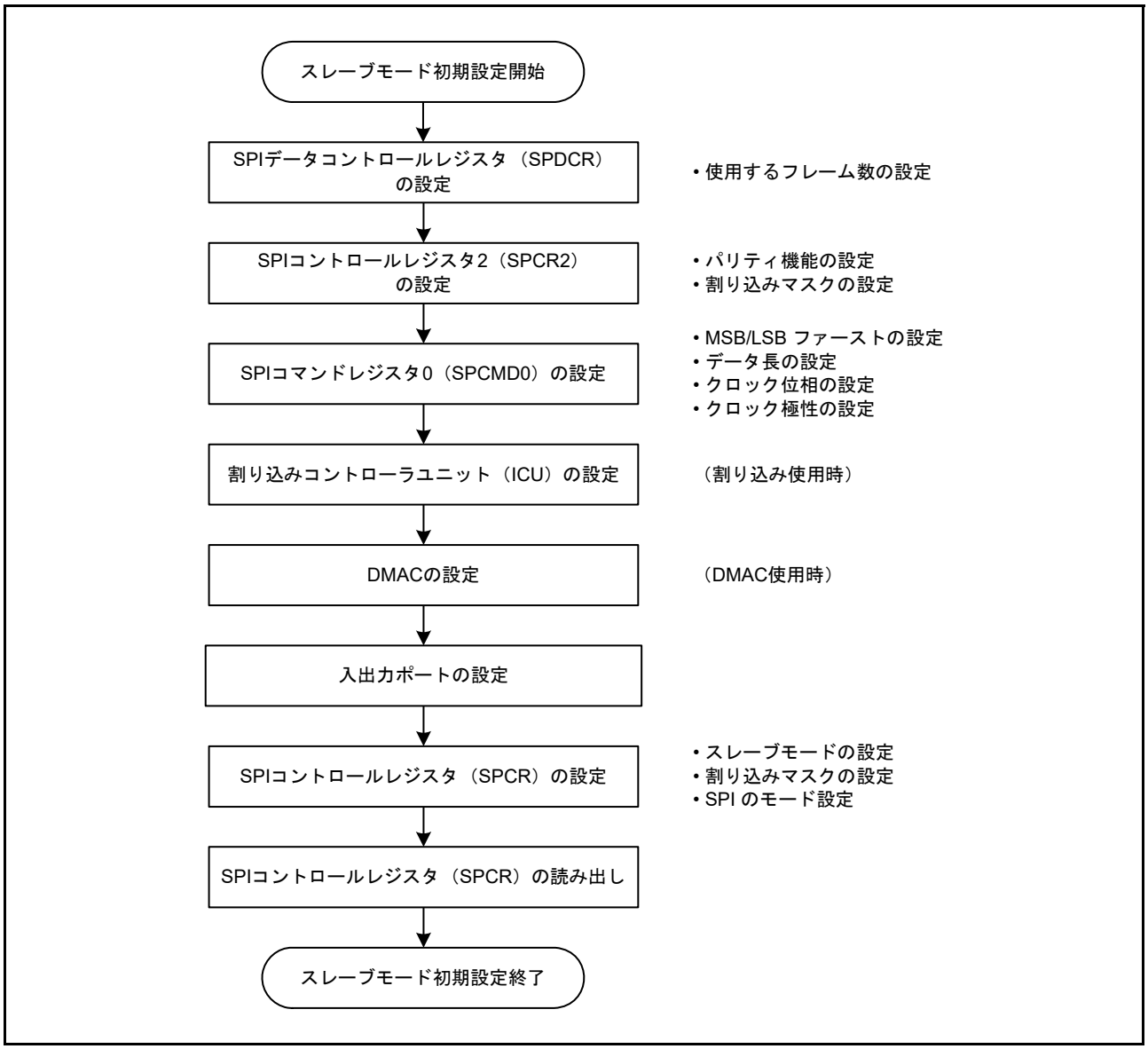


図 34.48　　スレーブモード時のクロック同期式動作の初期化フロー例

(4)　ソフトウェア処理フロー

クロック同期式動作時のスレーブモードでのソフトウェア処理は、SPI 動作時のスレーブモードでのソフトウェア処理と同様になります。詳細は、34.3.10.2　スレーブモード動作の (6)　ソフトウェア処理フローを参照してください。

注 .　　クロック同期式モードでは、モードフォルトエラーは発生しません。

34.3.12　ループバックモード

SPPCR.SPLP2 ビットまたは SPPCR.SPLP ビットに 1 を書き込むと、SPI は、SPCR.MSTR ビットが 1 であれば、MISOn 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断し、SPCR.MSTR ビットが 0 であれば、MOSIn 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断して、シフトレジスタの入力経路と出力経路を接続します。また、SPCR.MSTR ビットが 1 であれば、SPI は MOSIn 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断せず、SPCR.MSTR ビットが 0 であれば、MISOn 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断しません。これをループバックモードと呼びます。ループバックモードでシリアル転送を実行すると、SPI の送信データまたは送信データの反転が SPI の受信データになります。

表 34.12 に、SPLP2 ビット、SPLP ビット、および受信データの関係を示します。また、図 34.49 に、マスタモードの SPI をループバックモード（SPPCR.SPLP2 = 1、SPPCR.SPLP = 0 または 1）に設定した場合のシフトレジスタ入出力経路の構成を示します。

表 34.12　SPLP2 ビット、SPLP ビットの設定と受信データ

SPPCR.SPLP2 ビット	SPPCR.SPLP ビット	受信データ
0	0	MOSIn 端子または MISOn 端子からの入力データ
0	1	送信データの反転
1	0	送信データ
1	1	送信データ

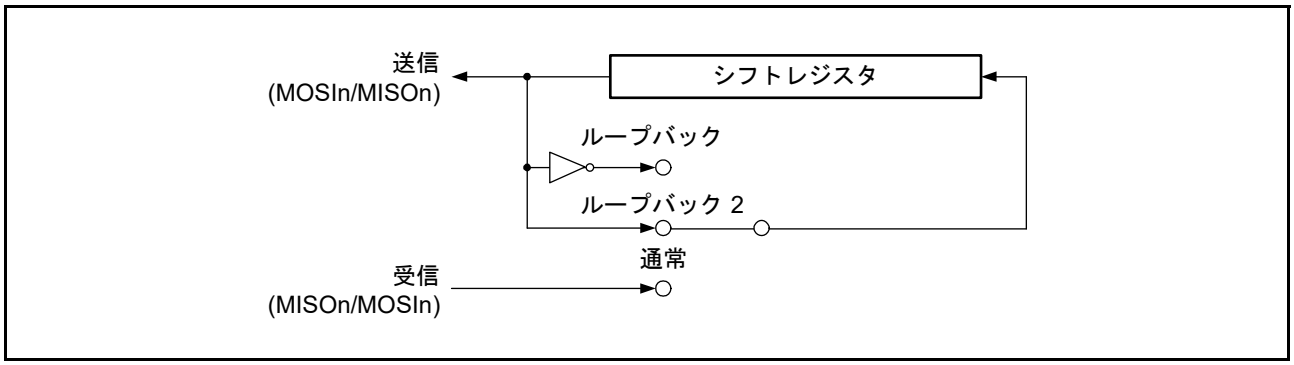


図 34.49　ループバックモード時のシフトレジスタ入出力経路の構成（マスタモード）

34.3.13　パリティビット機能の自己診断

パリティ回路は、送信データに対するパリティ付加部と、受信データに対するエラー検出部で構成されます。パリティ回路のパリティ付加部とエラー検出部の故障を検出するため、図 34.50 に示すフローに従って、パリティ回路の自己診断が実行されます。

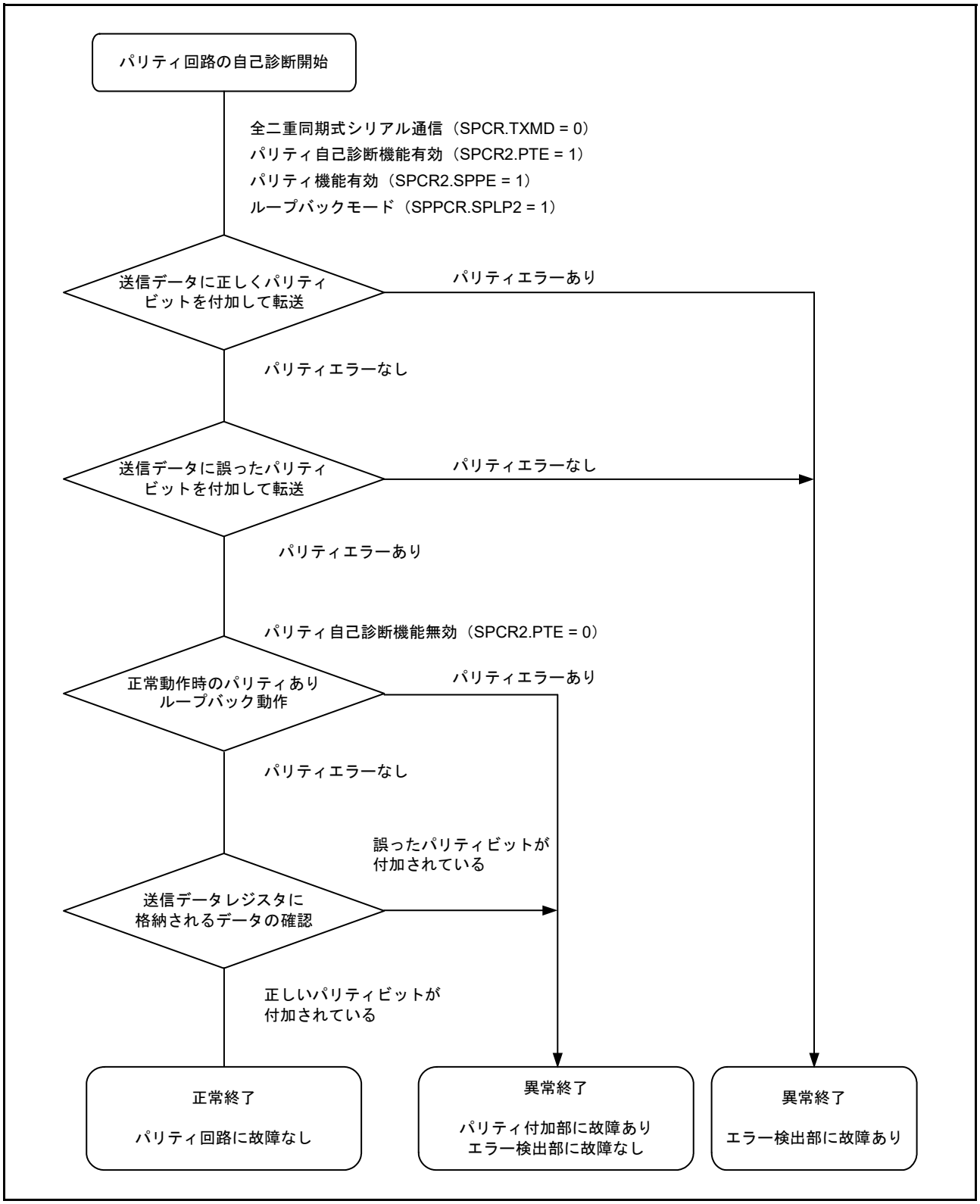


図 34.50　パリティ回路の自己診断フロー

34.3.14　割り込み要因

SPI には以下の割り込み要因があります。

- 受信バッファフル
- 送信バッファエンプティ
- SPI エラー（モードフォルト、アンダーラン、オーバーラン、パリティエラー）
- SPI アイドル
- 送信終了

受信バッファフルまたは送信バッファエンプティ割り込みによって DTC または DMAC を起動し、データ転送を行うことが可能です。

SPIi_SPEI（SPI エラー割り込み）のベクタアドレスが、モードフォルト、アンダーラン、オーバーラン、パリティエラー時の割り込み要求に割り付けられるため、実際の割り込み要因は、フラグから判断する必要があります。表 34.13 に SPI の割り込み要因を示します。表 34.13 のいずれかの割り込み条件が成立すると、割り込みが発生します。受信バッファフルと送信バッファエンプティの要因に対しては、データ転送でクリアしてください。

DTC または DMAC を使用して送受信を行う場合、最初に DTC または DMAC を転送許可状態に設定してから SPI の設定を行ってください。DTC または DMAC の設定については、それぞれ「17.　DMA コントローラ（DMAC）」と「18.　データトランスファコントローラ（DTC）」を参照してください。

ICU.IELSRn.IR フラグが 1 の状態で、送信バッファエンプティ割り込みまたは受信バッファフル割り込みの発生条件が生じても、ICU に対して割り込み要求は出力されず、内部で保持されます（内部で保持できる容量は、1 要因ごとに 1 要求までです）。ICU.IELSRn.IR フラグが 0 にクリアされると、ICU に対して保持されていた割り込み要求を出力します。保持されていた割り込み要求が出力されると、その割り込み要求は自動的に破棄されます。また、内部で保持されている割り込み要求は、対応する割り込み許可ビット（SPCR.SPTIE ビットまたは SPCR.SPRIE ビット）を 0 にすることでクリアできます。

表 34.13　SPIの割り込み要因

割り込み要因	シンボル	割り込み条件	DMAC/DTC起動
受信バッファフル	SPIi_SPRI	SPCR.SPRIEビットが1の状態で受信バッファフル（SPSR.SPRFフラグ = 1）になったとき	可能
送信バッファエンプティ	SPIi_SPTI	SPCR.SPTIEビットが1の状態で送信バッファエンプティ（SPSR.SPTEFフラグ = 1）になったとき	可能
SPIエラー（モードフォルト、アンダーラン、オーバーラン、パリティエラー）	SPIi_SPEI	SPCR.SPEIEビットが1の状態でSPSR.MODF、OVRF、PERF、またはUDRFフラグが1になったとき	不可能
SPIアイドル	SPIi_SPII	SPCR2.SPIIEビットが1の状態でSPSR.IDLNFフラグが0にクリアされたとき	不可能
送信終了	SPIi_SPTEND	マスタモードのときは、IDLNFフラグ（SPIアイドルフラグ）が1から0になる条件で割り込みが発生します。スレーブモードのときは、表 34.15に示す条件で割り込みが発生します。	不可能

34.4　イベントリンクコントローラ（ELC）への出力

ELC は、下記のイベント出力信号を生成することが可能です。

- 受信バッファフルイベント出力
- 送信バッファエンプティイベント出力
- モードフォルト／アンダーラン／オーバーラン／パリティエラーイベント出力
- SPI アイドルイベント出力
- 送信完了イベント出力

イベントリンク出力信号は、割り込み許可ビットの設定に関係なく出力されます。

34.4.1　受信バッファフルイベント出力

このイベント信号は、シリアル転送の終了時に、受信したデータがシフトレジスタから SPDR/SPDR_HA レジスタへ転送されたときに出力されます。

34.4.2　送信バッファエンプティイベント出力

このイベント信号は、送信用のデータが送信バッファからシフトレジスタへ転送されたとき、および SPE ビットの値が 0 から 1 に変化したときに出力されます。

34.4.3　モードフォルト／アンダーラン／オーバーラン／パリティエラーイベント出力

このイベント信号は、モードフォルト、アンダーラン、オーバーラン、またはパリティエラーが検出されたときに出力されます。このイベント信号を使用する場合は、34.5.4　モードフォルト／アンダーラン／オーバーラン／パリティエラーイベント出力に関する制限を参照してください。

(1)　モードフォルト

表 34.14 にモードフォルトイベントの発生条件を示します。

表 34.14　モードフォルトの発生条件

SPI モード	SPCR.MODFEN ビット	SSLn0 端子	備考
SPI 動作（SPMS = 0）スレーブ（SPCR.MSTR ビット = 0）	1	非アクティブ	通信動作中に SSLn0 端子が非アクティブになった場合のみイベント出力

(2)　アンダーラン

アンダーランイベント信号は、送信データが準備されておらず、SPCR.MSTR ビットが 0 かつ SPCR.SPE ビットが 1 の状態でシリアル転送が開始されたときに出力されます。この場合、MODF フラグと UDRF フラグが 1 になります。

(3)　オーバーラン

オーバーランイベント信号は、受信バッファに未読データがあり、かつ SPCR.TXMD ビットが 0 の状態でシリアル転送が終了したときに出力されます。この場合、OVRF フラグは 1 になります。

(4)　パリティエラー

パリティエラーイベント信号は、SPCR.TXMD ビットが 0 かつ SPCR2.SPPE ビットが 1 の状態でシリアル転送が終了したとき、パリティエラーの検出時に出力されます。

34.4.4　SPI アイドルイベント出力

(1)　マスタモード時

マスタモードの場合、IDLNF フラグ（SPI アイドルフラグ）が 0 になる条件が成立すると、イベントが出力されます。

(2)　スレーブモード時

スレーブモードの場合、SPCR.SPE ビットが 0（SPI 初期化）のとき、イベントが出力されます。

34.4.5　送信完了イベント出力

SPI 動作とクロック同期式動作ともに、マスタモード時に IDLNF フラグ（SPI アイドルフラグ）が 1 から 0 に変化すると、イベントが出力されます。表 34.15 に、スレーブモード時の送信完了イベントの発生条件を示します。

表 34.15　送信完了イベントの発生条件（スレーブモード時）

SPIモード	送信バッファ状態	シフトレジスタ状態	その他
SPI動作（SPMS = 0）	エンプティ	エンプティ	SSLn0入力ネゲート
クロック同期式動作（SPMS = 1）	エンプティ	エンプティ	最終RSPCKnのエッジ検出

動作がマスタモードまたはスレーブモードのどちらであっても、送信中に SPCR.SPE ビットに 0 が書き込まれた場合、あるいは、モードフォルトエラーまたはアンダーランエラーの発生によって SPCR.SPE ビットがクリアされた場合、イベントは出力されません。

34.5 使用上の注意事項

34.5.1 モジュールストップ状態の設定

モジュールストップコントロールレジスタ B（MSTPCRB）によって、SPI の動作を禁止または許可することが可能です。リセット後の初期状態では、SPI の動作は停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は、「11. 低消費電力モード」を参照してください。

34.5.2 低消費電力機能に関する制約

モジュールストップ機能を使用する場合、およびスリープモード以外の低消費電力モードへ遷移する場合は、あらかじめ SPCR.SPE ビットを 0 にしてから通信を終了させてください。

34.5.3 転送の開始に関する制限

ICU.IELSRn.IR フラグが 1 で転送を開始すると、割り込み要求が内部で保持されるため、ICU.IELSRn.IR フラグが予期しない挙動となる可能性があります。

これを避けるには、動作を許可する（SPCR.SPE ビットを 1 にする）前に、下記の手順で割り込み要求をクリアしてください。

1. 転送が停止していること（SPCR.SPE ビットが 0 であること）を確認する。
2. 対応する割り込み許可ビット（SPCR.SPTIE ビットまたは SPCR.SPRIE ビット）を 0 にする。
3. 対応する割り込み許可ビット（SPCR.SPTIE ビットまたは SPCR.SPRIE ビット）を読み出して、その値が 0 であることを確認する。
4. ICU.IELSRn.IR フラグを 0 にする。

34.5.4 モードフォルト／アンダーラン／オーバーラン／パリティエラーイベント出力に関する制限

SPI がマルチマスタモード（SPCR.SPMS ビット = 0、SPCR.MSTR ビット = 1、SPCR.MODFEN ビット = 1）の場合は、モードフォルト、アンダーラン、オーバーラン、およびパリティエラーイベントを使用することはできません。

34.5.5 SPRF および SPTEF フラグに関する制限

ポーリング用のフラグ（SPRF および SPTEF）を使用している場合、割り込みを使用することはできません。SPCR.SPRIE および SPCR.SPTIE ビットは 0 にしてください。割り込みまたはフラグのどちらか一方のみ使用可能です。

35.　クワッドシリアルペリフェラルインタフェース（QSPI）

35.1　概要

クワッドシリアルペリフェラルインタフェース（QSPI）モジュールは、SPI 互換インタフェースを実装したシリアル ROM（シリアルフラッシュメモリ、シリアル EEPROM、シリアル FeRAM などの不揮発性メモリ）に接続するためのメモリコントローラです。

表 35.1 に QSPI の仕様を、図 35.1 にブロック図を、表 35.2 に入出力端子を示します。

表 35.1　QSPIの仕様

項目	内容
チャネル数	1チャネル
SPI	• 拡張SPI、Dual-SPI、Quad-SPIの各プロトコルをサポート • SPIモード0とSPIモード3の構成が可能 • アドレス幅として8、16、24、32ビットから選択可能
タイミング補正機能	各種シリアルフラッシュに対応した構成が可能
フラッシュリード機能	• リード、ファストリード、ファストリードDual出力、ファストリードDual I/O、ファストリードQuad出力、ファストリードQuad I/Oの各命令をサポート • 命令コードの代替が可能 • ダミーサイクル数の補正が可能 • プリフェッチ機能 • ポーリング処理 • SPIバスサイクル拡張機能
直接通信機能	ソフトウェア制御による、イレース、ライト、IDリード、パワーダウン制御を含む各種シリアルフラッシュ命令／機能を柔軟にサポート
割り込み要因	エラー割り込み
モジュールストップ機能	モジュールストップ状態を設定して消費電力を削減可能

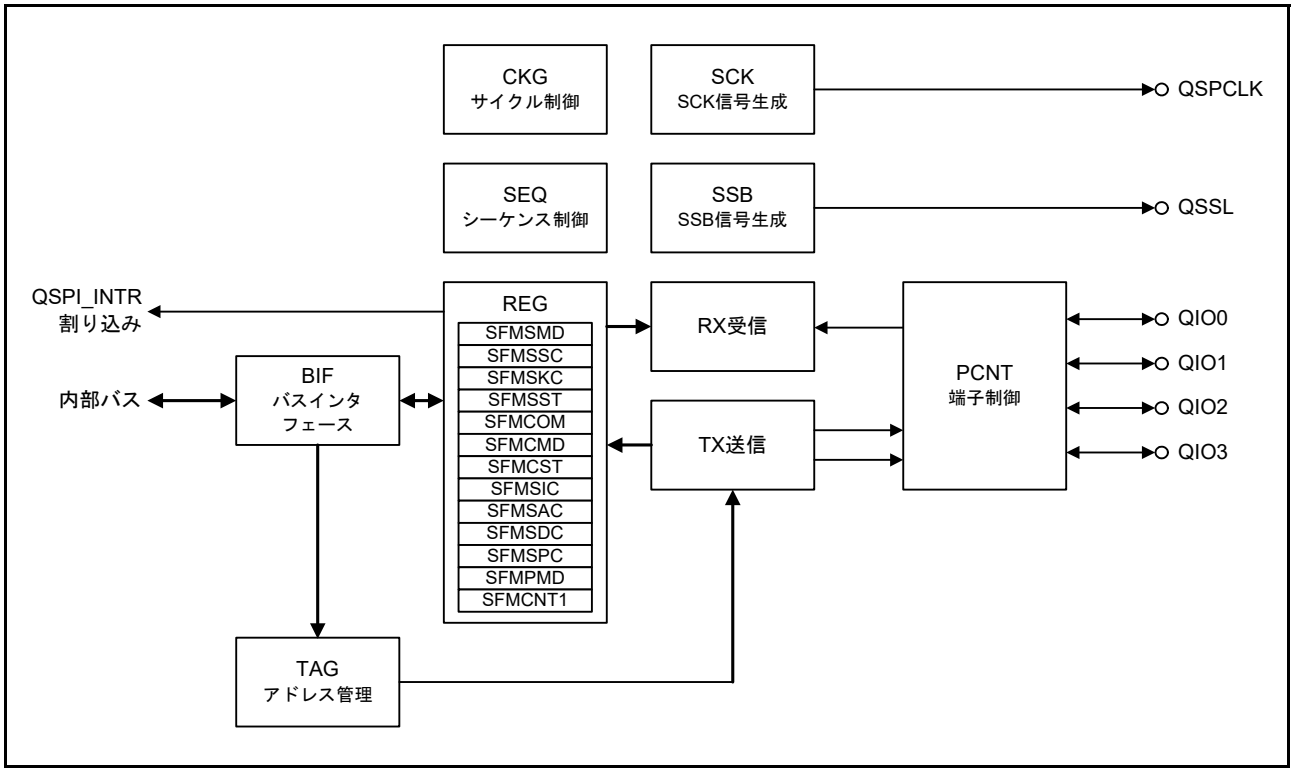


図 35.1　QSPI のブロック図

表 35.2　QSPIの入出力端子

端子名	入出力	機能
QSPCLK	出力	QSPIのクロック出力端子
QSSL	出力	QSPIのスレーブ選択端子
QIO0	入出力	データ0入出力
QIO1	入出力	データ1入出力
QIO2	入出力	データ2入出力
QIO3	入出力	データ3入出力

35.2　レジスタの説明

35.2.1　転送モードコントロールレジスタ（SFMSMD）

アドレス　QSPI.SFMSMD 6400 0000h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SFMCCE	—	—	—	SFMOSW	SFMOHW	SFMOEX	SFMMD3	SFMPAE	SFMPFE	SFMSE[1:0]		—	SFMRM[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	SFMRM[2:0]	シリアルインタフェースリードモード選択	b2 b0 0 0 0：標準リード 0 0 1：ファストリード 0 1 0：ファストリードDual出力 0 1 1：ファストリードDualI/O 1 0 0：ファストリードQuad出力 1 0 1：ファストリードQuadI/O 1 1 0：設定禁止（動作が予測不能） 1 1 1：設定禁止（動作が予測不能）	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5-b4	SFMSE[1:0]	SPIバスアクセス後のQSSL拡張機能選択	b5 b4 0 0：QSSLの拡張なし 0 1：QSPCLK33クロックでQSSLを拡張 1 0：QSPCLK129クロックでQSSLを拡張 1 1：無限にQSSLを拡張	R/W
b6	SFMPFE	プリフェッチ機能選択	0：プリフェッチ禁止 1：プリフェッチ許可	R/W
b7	SFMPAE	バイト境界以外でのプリフェッチ停止機能選択	0：機能禁止 1：機能許可	R/W
b8	SFMMD3	SPIモード選択	0：SPIモード0 1：SPIモード3	R/W
b9	SFMOEX	シリアルインタフェースの入出力バッファ出力許可信号拡張選択	0：拡張なし 1：QSPCLK 1クロックで拡張	R/W
b10	SFMOHW	シリアル送信のホールド時間補正	0：送信時にQSPCLKのHighレベル幅を拡張しない 1：送信時にQSPCLKのHighレベル幅をPCLKA 1クロック分拡張	R/W
b11	SFMOSW	シリアル送信のセットアップ時間補正	0：送信時にQSPCLKのLowレベル幅を拡張しない 1：送信時にQSPCLKのLowレベル幅をPCLKA 1クロック分拡張	R/W
b14-b12	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15	SFMCCE	リード命令コード選択	0：命令ごとにデフォルト命令コードを設定 1：SFMSICレジスタに設定した命令コードを使用	R/W
b31-b16	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

35.2.2 チップ選択コントロールレジスタ（SFMSSC）

アドレス QSPI.SFMSSC 6400 0004h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SFMSLD	SFMSHD	SFMSW[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	SFMSW[3:0]	QSSL信号の最小Highレベル幅選択	b3 b2 b1 b0 0 0 0 0：1QSPCLK 0 0 0 1：2QSPCLK 0 0 1 0：3QSPCLK 0 0 1 1：4QSPCLK 0 1 0 0：5QSPCLK 0 1 0 1：6QSPCLK 0 1 1 0：7QSPCLK 0 1 1 1：8QSPCLK 1 0 0 0：9QSPCLK 1 0 0 1：10QSPCLK 1 0 1 0：11QSPCLK 1 0 1 1：12QSPCLK 1 1 0 0：13QSPCLK 1 1 0 1：14QSPCLK 1 1 1 0：15QSPCLK 1 1 1 1：16QSPCLK	R/W
b4	SFMSHD	QSSL信号解除タイミング選択	0：QSPCLKの最後の立ち上がりエッジからQSPCLK 0.5クロック後にQSSLを解除 1：QSPCLKの最後の立ち上がりエッジからQSPCLK 1.5クロック後にQSSLを解除	R/W
b5	SFMSLD	QSSL信号出力タイミング選択	0：QSPCLKの最初の立ち上がりエッジよりQSPCLK 0.5クロック前にQSSLを出力 1：QSPCLKの最初の立ち上がりエッジよりQSPCLK 1.5クロック前にQSSLを出力	R/W
b31-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

35.2.3 クロックコントロールレジスタ（SFMSKC）

アドレス QSPI.SFMSKC 6400 0008h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SFMDTY	SFMDV[4:0]				
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	SFMDV[4:0]	シリアルインタフェース基準周期選択（不規則性に注意）	b4 b0 0 0 0 0 0：2PCLKA 0 0 0 0 1：3PCLKA（奇数で逓倍）（注1） 0 0 0 1 0：4PCLKA 0 0 0 1 1：5PCLKA（奇数で逓倍）（注1） 0 0 1 0 0：6PCLKA 0 0 1 0 1：7PCLKA（奇数で逓倍）（注1） 0 0 1 1 0：8PCLKA 0 0 1 1 1：9PCLKA（奇数で逓倍）（注1） 0 1 0 0 0：10PCLKA 0 1 0 0 1：11PCLKA（奇数で逓倍）（注1） 0 1 0 1 0：12PCLKA 0 1 0 1 1：13PCLKA（奇数で逓倍）（注1） 0 1 1 0 0：14PCLKA 0 1 1 0 1：15PCLKA（奇数で逓倍）（注1） 0 1 1 1 0：16PCLKA 0 1 1 1 1：17PCLKA（奇数で逓倍）（注1） 1 0 0 0 0：18PCLKA 1 0 0 0 1：20PCLKA 1 0 0 1 0：22PCLKA 1 0 0 1 1：24PCLKA 1 0 1 0 0：26PCLKA 1 0 1 0 1：28PCLKA 1 0 1 1 0：30PCLKA 1 0 1 1 1：32PCLKA 1 1 0 0 0：34PCLKA 1 1 0 0 1：36PCLKA 1 1 0 1 0：38PCLKA 1 1 0 1 1：40PCLKA 1 1 1 0 0：42PCLKA 1 1 1 0 1：44PCLKA 1 1 1 1 0：46PCLKA 1 1 1 1 1：48PCLKA	R/W
b5	SFMDTY	QSPCLK信号のデューティ比補正機能選択	0：補正なし 1：QSPCLK信号の立ち上がりをPCLKA 0.5クロック分遅延。PCLKAを奇数で逓倍した場合に有効	R/W
b31-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　奇数で逓倍した PCLKA を選択すると、デューティ比補正前の QSPCLK 信号の High レベル幅は、Low レベル幅よりも PCLKA 1 クロック分長くなります。

35.2.4 ステータスレジスタ（SFMSST）

アドレス QSPI.SFMSST 6400 000Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	PFOFF	PFFUL	—	PFCNT[4:0]				
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	PFCNT[4:0]	プリフェッチデータのバイト数	b4 b0 0 0 0 0 0：0バイト 0 0 0 0 1：1バイト 0 0 0 1 0：2バイト 0 0 0 1 1：3バイト 0 0 1 0 0：4バイト 0 0 1 0 1：5バイト 0 0 1 1 0：6バイト 0 0 1 1 1：7バイト 0 1 0 0 0：8バイト 0 1 0 0 1：9バイト 0 1 0 1 0：10バイト 0 1 0 1 1：11バイト 0 1 1 0 0：12バイト 0 1 1 0 1：13バイト 0 1 1 1 0：14バイト 0 1 1 1 1：15バイト 1 0 0 0 0：16バイト 1 0 0 0 1：17バイト 1 0 0 1 0：18バイト 上記以外の設定は予約されています。	R
b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b6	PFFUL	プリフェッチバッファ状態	0：プリフェッチバッファに空きあり 1：プリフェッチバッファに空きなし	R
b7	PFOFF	プリフェッチ機能動作状態	0：プリフェッチ機能は動作中 1：プリフェッチ機能は無効または動作していない	R
b31-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

35.2.5 通信ポートレジスタ（SFMCOM）

アドレス QSPI.SFMCOM 6400 0010h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	SFMD[7:0]							
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	SFMD[7:0]	SPIバスとの直接通信用ポート	直接通信モード（SFMCMD.DCOM = 1）ではこのレジスタの入出力はSPIバスサイクルに変換されます。ROMアクセスモードでは、このレジスタへのアクセスは無視されます。	R/W
b31-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

35.2.6 通信モードコントロールレジスタ（SFMCMD）

アドレス QSPI.SFMCMD 6400 0014h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DCOM
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DCOM	SPIバスとの通信モード選択	0：ROMアクセスモード 1：直接通信モード	R/W
b31-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

35.2.7　通信ステータスレジスタ（SFMCST）

アドレス　QSPI.SFMCST 6400 0018h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	EROMR	—	—	—	—	—	—	COMBSY
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	COMBSY	直接通信時SPIバスサイクル完了状態	0：処理中のシリアル転送なし 1：処理中のシリアル転送あり	R
b6-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	EROMR	直接通信モード時ROMアクセス検出状態	0：ROMアクセスの検出なし 1：ROMアクセスの検出あり	R/(W) （注1）
b31-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　このビットには 0 のみ書けます。

35.2.8　命令コードレジスタ（SFMSIC）

アドレス　QSPI.SFMSIC 6400 0020h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	SFMCIC[7:0]							
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	SFMCIC[7:0]	代替シリアルフラッシュ命令コード	この設定値が命令コードとして使用されます。 SFMSMD.SMFCCEが0のときは無視されます。	R/W
b31-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

35.2.9 アドレスモードコントロールレジスタ（SFMSAC）

アドレス QSPI.SFMSAC 6400 0024h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SFM4BC	—	—	SFMAS[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	SFMAS[1:0]	シリアルインタフェースのアドレスバイト数選択	b1 b0 0 0：1バイト 0 1：2バイト 1 0：3バイト 1 1：4バイト	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	SFM4BC	デフォルト命令コード選択（シリアルインタフェースアドレス幅が4バイトの場合）	0：4バイトアドレスリード命令コードを使用しない 1：4バイトアドレスリード命令コードを使用する	R/W
b31-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

35.2.10 ダミーサイクルコントロールレジスタ（SFMSDC）

アドレス QSPI.SFMSDC 6400 0028h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SFMXD[7:0]								SFMXEN	SFMXST	—	—	SFMDN[3:0]			
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	SFMDN[3:0]	ファストリード命令のダミーサイクル数選択	b3 b0 0 0 0 0：命令ごとのデフォルトダミーサイクル -ファストリードQuadI/O：6QSPCLK -ファストリードQuad出力：8QSPCLK -ファストリードDualI/O：4QSPCLK -ファストリードDual出力：8QSPCLK -ファストリード：8QSPCLK 0 0 0 1：3QSPCLK（注1） 0 0 1 0：4QSPCLK 0 0 1 1：5QSPCLK 0 1 0 0：6QSPCLK 0 1 0 1：7QSPCLK 0 1 1 0：8QSPCLK 0 1 1 1：9QSPCLK 1 0 0 0：10QSPCLK 1 0 0 1：11QSPCLK 1 0 1 0：12QSPCLK 1 0 1 1：13QSPCLK 1 1 0 0：14QSPCLK 1 1 0 1：15QSPCLK 1 1 1 0：16QSPCLK 1 1 1 1：17QSPCLK	R/W
b5-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6	SFMXST	XIPモード状態	0：通常（非XIP）モード 1：XIPモード	R
b7	SFMXEN	QSPIでのXIPモード許可	0：XIPモード禁止 1：XIPモード許可	R/W
b15-b8	SFMXD[7:0]	シリアルフラッシュのモードデータ（XIPモードを制御）（注2）	XIPモードを制御します。	R/W
b31-b16	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　QIO0 端子に接続したシリアルフラッシュ端子の入出力切り替えと競合しないように、SFMSMD.SFMOEX ビットを 1 にして出力許可信号を拡張した場合は、QSPCLK の 4 クロック分より長いダミーサイクルを選択してください。

注 2.　シリアルフラッシュメモリのモードデータとして、実際のシリアルフラッシュメモリに設定された XIP モード設定データを指定してください。

35.2.11 SPI プロトコルコントロールレジスタ（SFMSPC）

アドレス QSPI.SFMSPC 6400 0030h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SFMSDE	—	—	SFMSPI[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	SFMSPI[1:0]	SPIプロトコル選択	b1 b0 0 0：拡張SPIプロトコル 0 1：Dual-SPIプロトコル 1 0：Quad-SPIプロトコル 1 1：設定禁止	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	SFMSDE	最小入出力切り換え時間選択（標準リードモードでDual-SPIプロトコルまたはQuad-SPIプロトコルを選択した場合）	0：最小切り換え時間を割り当てない 1：QSPCLK 1クロック分の最小切り換え時間を割り当てる	R/W
b31-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

35.2.12 ポートコントロールレジスタ（SFMPMD）

アドレス QSPI.SFMPMD 6400 0034h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SFMWPL	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b2	SFMWPL	WP端子レベル指定	0：Lowレベル 1：Highレベル	R/W
b31-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

35.2.13　外部 QSPI アドレスレジスタ（SFMCNT1）

アドレス　QSPI.SFMCNT1 6400 0804h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	QSPI_EXT[5:0]						—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b25-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b31-b26	QSPI_EXT[5:0]	バンク切り替えアドレス	6000 0000h～63FF FFFFhまでアクセスする場合、アドレスバスは、QSPI_EXT[5:0]ビットを内部バスアドレスの上位6ビットに設定します。	R/W

35.3　メモリマップ

35.3.1　内部バス空間

AHB 空間のシリアルフラッシュとコントロールレジスタの場所は、構成された領域のアドレス範囲で決まります。

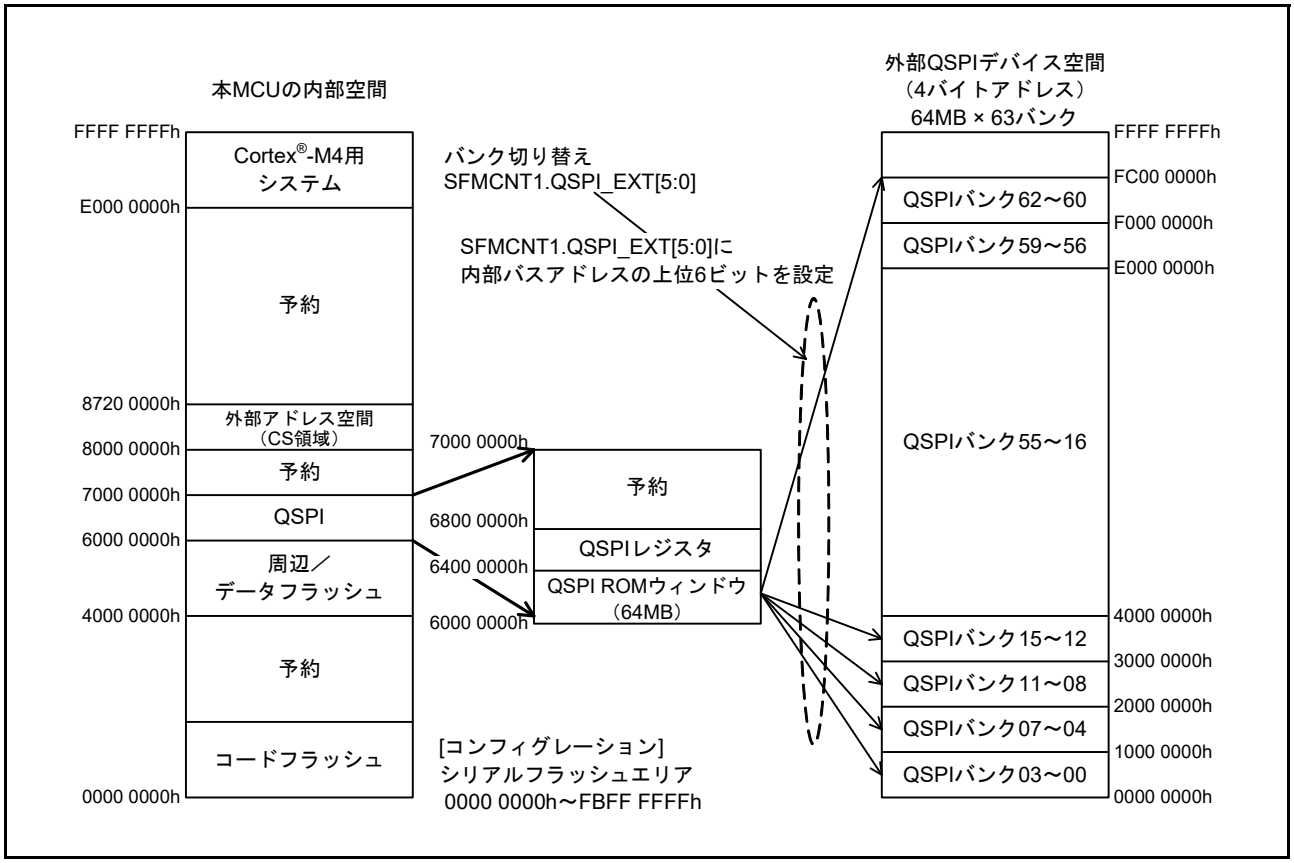


図 35.2　デフォルト領域設定および AHB 空間メモリマップ

35.3.2　SPI 空間と SPI バスのアドレス幅

SPI 空間は、シリアルフラッシュを参照するための 32 ビットアドレス幅を持っています。SPI 空間にリードアクセスをすると、SPI バスサイクルが自動的に開始し、シリアルフラッシュから読み出されたデータが返されます。

SPI 空間のアドレス幅は 32 ビット固定です。ただし、SPI バスのアドレス幅は、SFMSAC.SFMAS[1:0] ビットによって、8 ビット、16 ビット、24 ビット、32 ビットから選択できます。

SPI バスのアドレス幅として 8 ビット、16 ビット、24 ビットを選択すると、SPI 空間へのアクセスに使用するアドレスの下位部分のみが、SPI バスを介してシリアルフラッシュに送られます。結果として、SPI バスのアドレス幅に対応したシリアルフラッシュのミラーイメージが SPI 空間に繰り返し現れます。

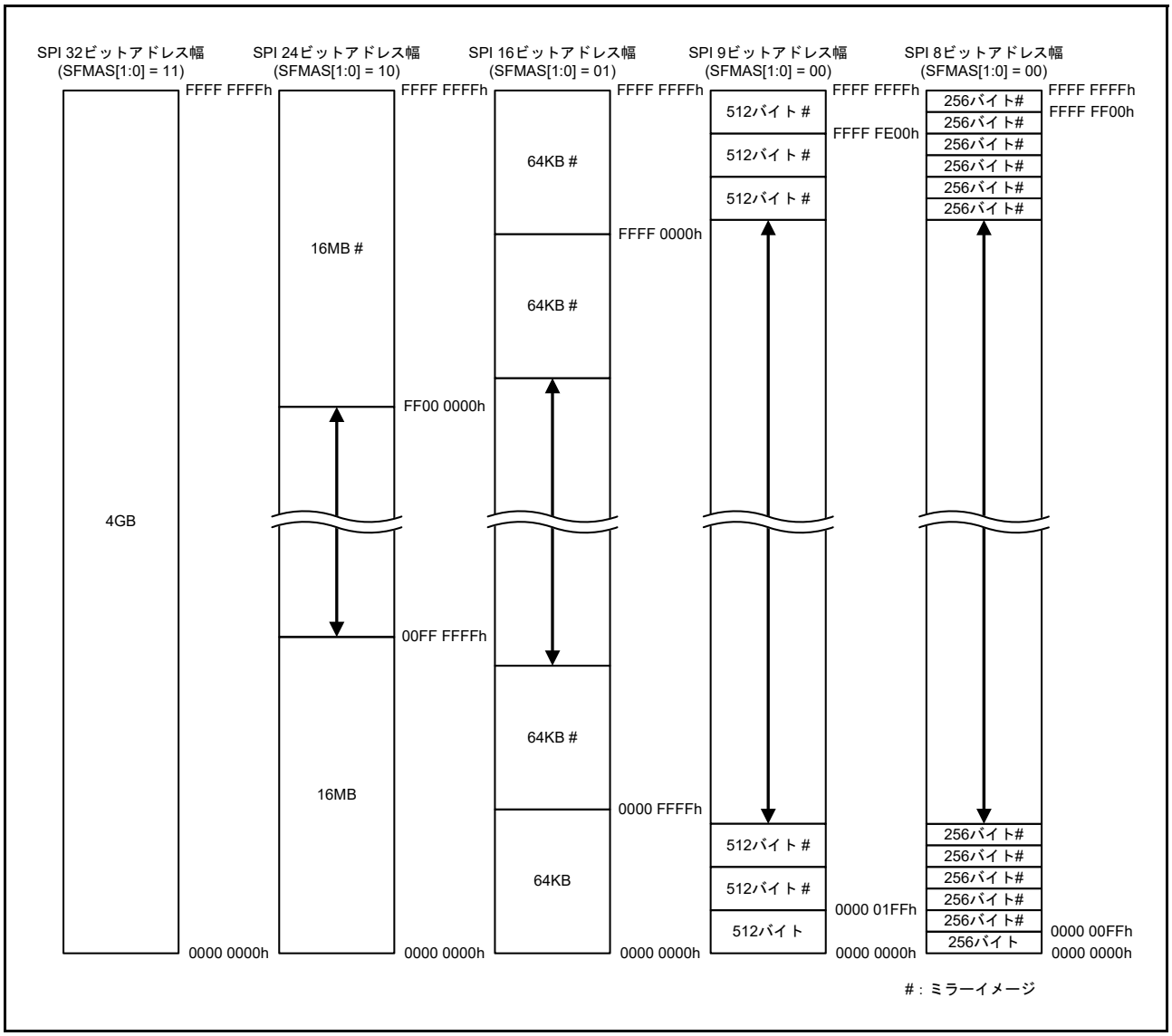


図 35.3　SPI 空間のメモリマップ

注 .　SFMSAC.SFMAS[1:0] ビットにより、SPI バスのアドレス幅は 8 ビット、16 ビット、24 ビット、32 ビットから選択できます。8 ビットのアドレス幅を選択すると、9 番目のビットのアドレス情報をリード命令コードに埋め込むことが可能です。この図のアドレスマップは、アドレス幅が 9 ビットの SPI の場合です。リード命令の詳細は、35.6.2　標準リード命令を参照してください。

35.4　SPI バス

35.4.1　SPI プロトコル

QSPI は、シリアルフラッシュ接続に使用する SPI プロトコルの他に、拡張 SPI、Dual-SPI、および Quad-SPI をサポートしています。SPI プロトコルの初期状態は拡張 SPI です。プロトコルを変更するには、SFMSPC.SFMSPI ビットを設定してください。

拡張 SPI プロトコルは、常に単一の QIO0 端子から命令コードを出力します。命令コードのフォーマットに従い、1 ～ 4 端子を使用して、後続アドレス／データの入出力動作を実行します。

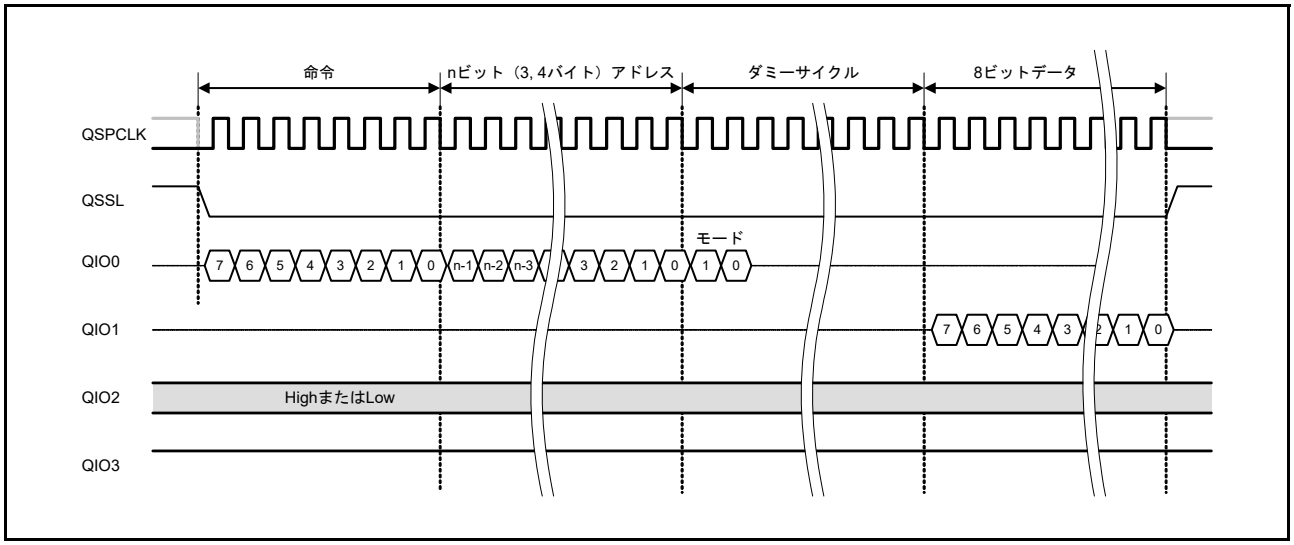


図 35.4　拡張 SPI プロトコル例 1（ファストリード）

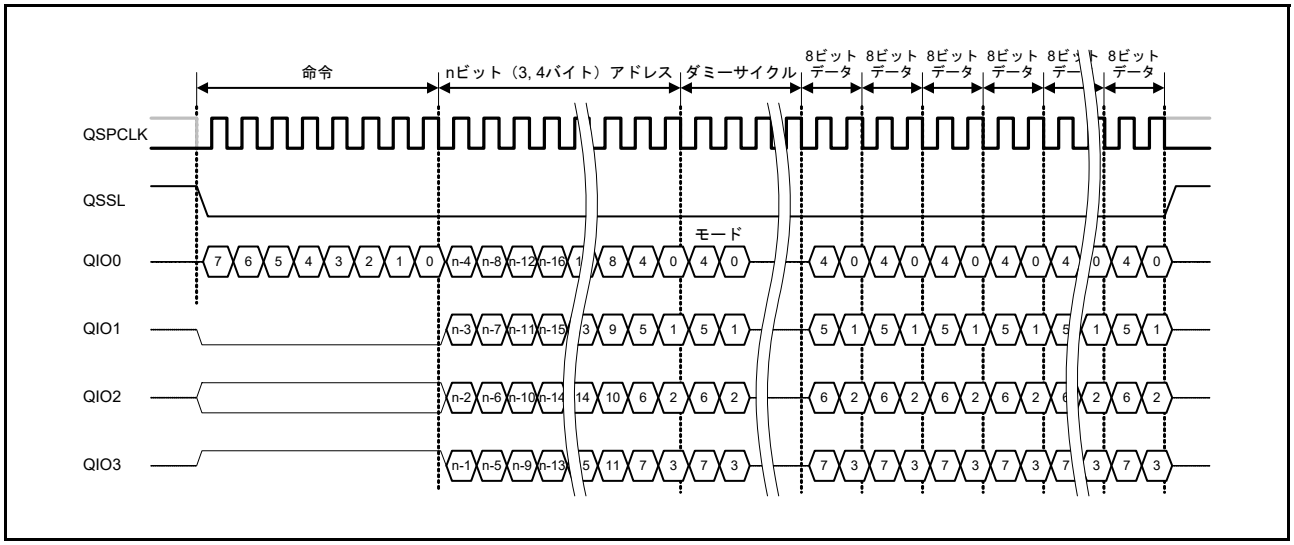


図 35.5　拡張 SPI プロトコル例 2（ファストリード Quad I/O）

Dual-SPI プロトコルは、QIO0 および QIO1 の 2 端子を使用して、命令コード、アドレス、データなど、すべての信号の入出力動作を実行します。

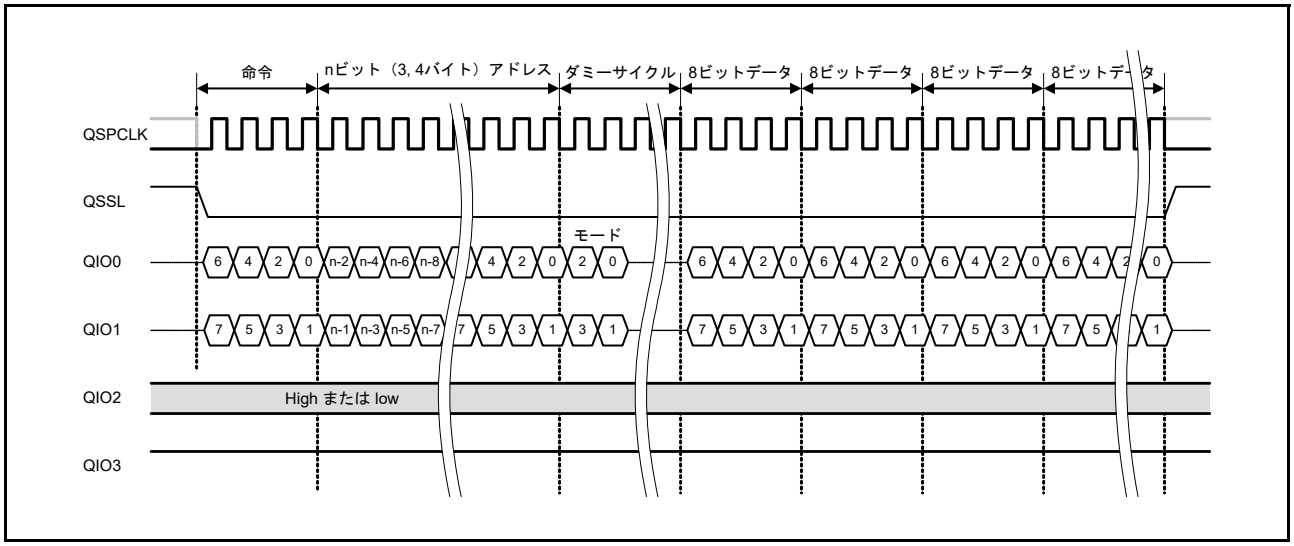


図 35.6　　Dual-SPI プロトコル例（ファストリード Dual I/O）

Quad-SPI プロトコルは、QIO0、QIO1、QIO2、QIO3 の 4 端子を使用して、命令コード、アドレス、データなど、すべての信号の入出力動作を実行します。

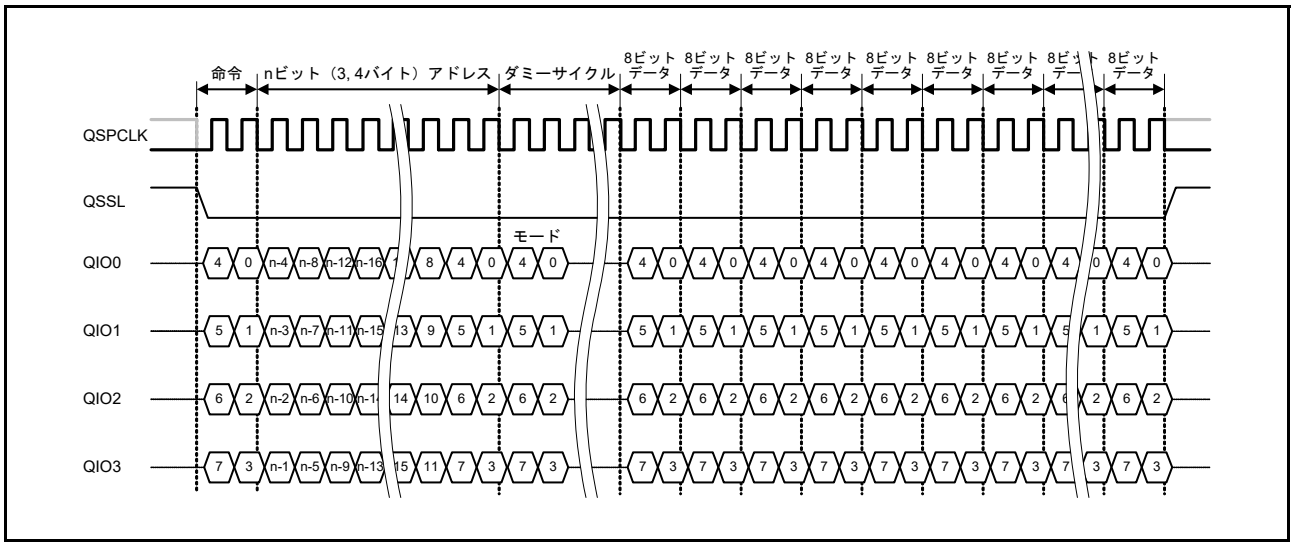


図 35.7　　Quad-SPI プロトコル例（ファストリード Quad I/O）

35.4.2　SPI モード

SPI モードは SFMSMD.SFMMD3 ビットにより SPI モード 0 または SPI モード 3 に設定されています。この設定は、動作中にレジスタ設定を変更して切り替えることができます。SPI モード 0 と SPI モード 3 の違いは、QSPCLK 信号のスタンバイレベルです。QSPCLK 信号のスタンバイレベルは、SPI モード 0 では Low、SPI モード 3 では High です。

シリアルデータは、シリアルクロックの立ち下がりエッジで QSPI から出力され、シリアルクロックの立ち上がりエッジで外部フラッシュに読み込まれます。シリアルデータは、シリアルクロックの立ち下がりエッジで外部フラッシュから出力され、シリアルクロックの次の立ち下がりエッジで QSPI に読み込まれます。

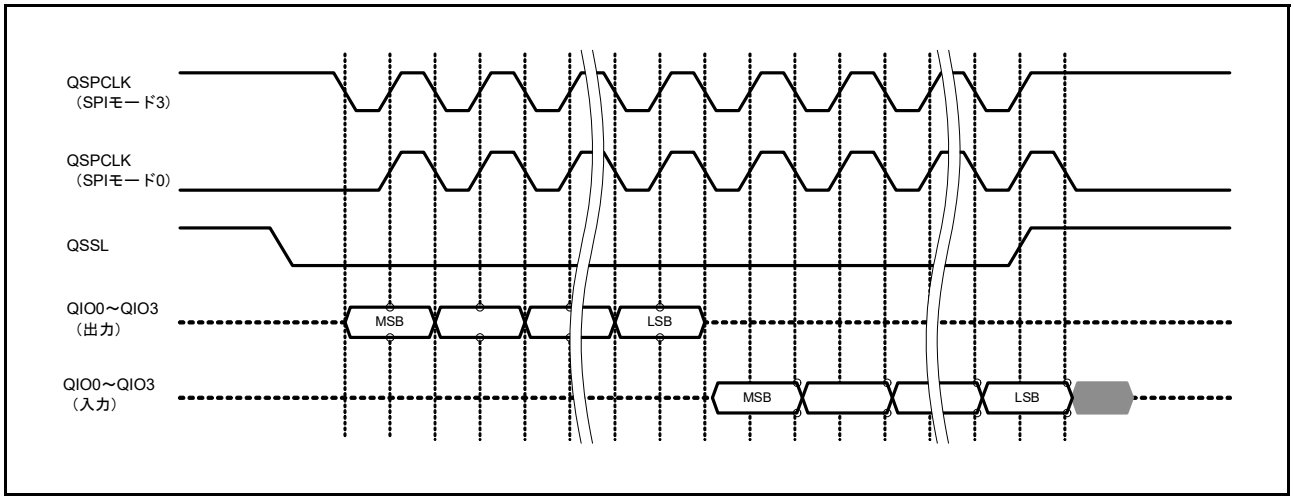


図 35.8　シリアルインタフェースの基本タイミング

35.5　SPI バスタイミング補正

SPI バス信号のタイミングは、レジスタで補正可能です。設定されたタイミングは、ROM アクセスと直接通信の全 SPI バスアクセスに適用されます。

35.5.1　SPI バス基準周期

SPI バスは、PCLKA を整数で逓倍して得られる基準周期に従って動作します。基準周期は、SFMSKC.SFMDV[4:0] ビットで、PCLKA の逓倍値 2 ～ 48 の範囲で選択できます。

表 35.3　SFMDV[4:0] ビット、逓倍値、およびシリアルクロック周波数の関係

SFMDV[4:0]	逓倍値	PCLKA 周波数（MHz）
		120
11111	48	2.50
11110	46	2.61
11101	44	2.73
11100	42	2.86
11011	40	3.00
11010	38	3.16
11001	36	3.33
11000	34	3.53
10111	32	3.75
10110	30	4.00
10101	28	4.29
10100	26	4.62
10011	24	5.00
10010	22	5.45
10001	20	6.00
10000	18	6.67
01111	17	7.06
01110	16	7.50
01101	15	8.00
01100	14	8.57
01011	13	9.23
01010	12	10.00
01001	11	10.91
01000	10	12.00
00111	9	13.33
00110	8	15.00
00101	7	17.14
00100	6	20.00
00011	5	24.00
00010	4	30.00
00001	3	40.00
00000	2	60.00

35.5.2　QSPCLK 信号デューティ比

基準クロックが偶数で逓倍された PCLKA に設定されている場合、QSPCLK 信号の High レベル幅と Low レベル幅は互いに一致します。一方、PCLKA が奇数で逓倍される場合は、QSPCLK 信号の High レベル幅は Low レベル幅よりも PCLKA の 1 クロック分長くなります。

奇数で逓倍した PCLKA が基準クロックの場合、QSPCLK 信号のデューティ比を 50% に近づけるには、SFMSKC.SFMDTY ビットを 1 にしてください。この設定では、QSPCLK 出力信号の立ち上がりエッジは PCLKA の半周期分遅れ、デューティ比 50% と同等のインタフェース動作が実行されます。

基準クロックが偶数で逓倍された PCLKA の場合、SFMSKC レジスタの SFMDTY ビット設定は無視されます。

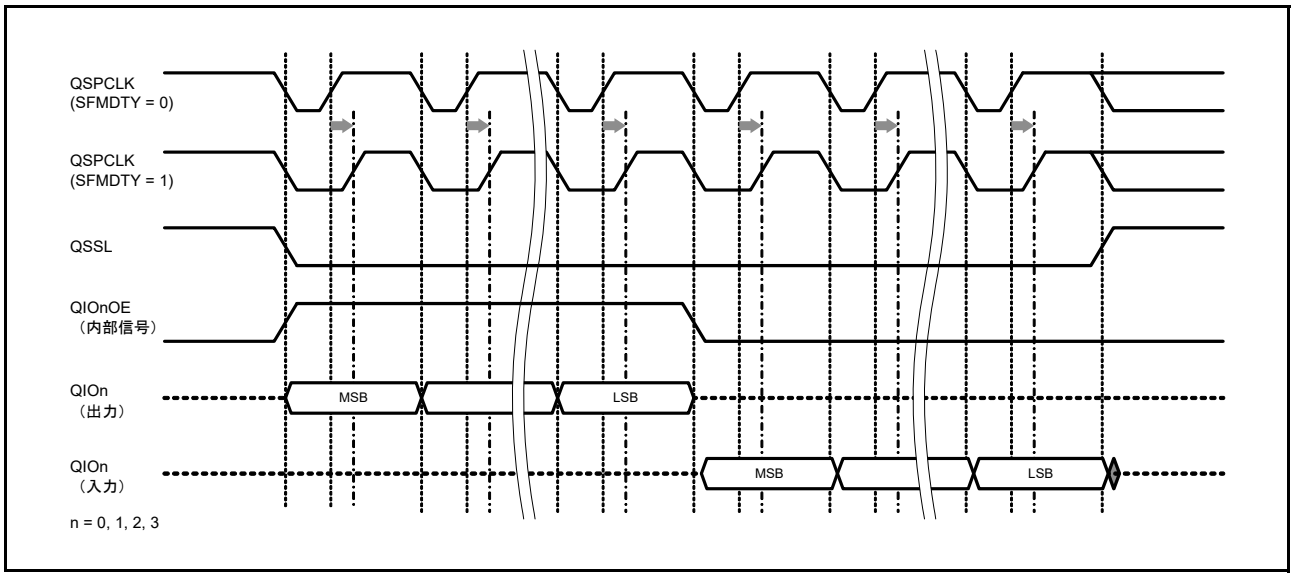


図 35.9　SFMDTY ビットを使用した QSPCLK 信号デューティ比の補正例（PCLKA を 3 逓倍した場合）

35.5.3　QSSL 信号の最小 High レベル幅

隣り合う SPI バスサイクル間では、QSSL 信号を十分な期間 High（非アクティブ）に保持して、シリアルフラッシュに必要な非選択時間を確保する必要があります。QSSL 出力信号の最小 High レベル幅は、SFMSSC.SFMSW[3:0] ビットで、1 ～ 16 の整数で逓倍して得られる基準周期として選択可能です。

35.5.4　QSSL 信号セットアップ時間

QSSL 信号が Low になってから QSPCLK 信号の最初の立ち上がりエッジまでに、シリアルフラッシュに必要な QSSL 信号セットアップ時間を設定できます。このセットアップ時間は、SFMSSC.SFMSLD ビットで、QSPCLK の 0.5 クロック分または 1.5 クロック分から選択できます。

SFMSSC.SFMSLD ビットの設定は、シリアルデータ出力許可信号（QIO0OE/QIO1OE/QIO2OE/QIO3OE）の出力から QSPCLK 信号の最初の立ち上がりエッジまでのセットアップ時間の割り当てに適用されます。アプリケーションの最も制約の厳しいタイミング条件を満たすように、値を設定してください。

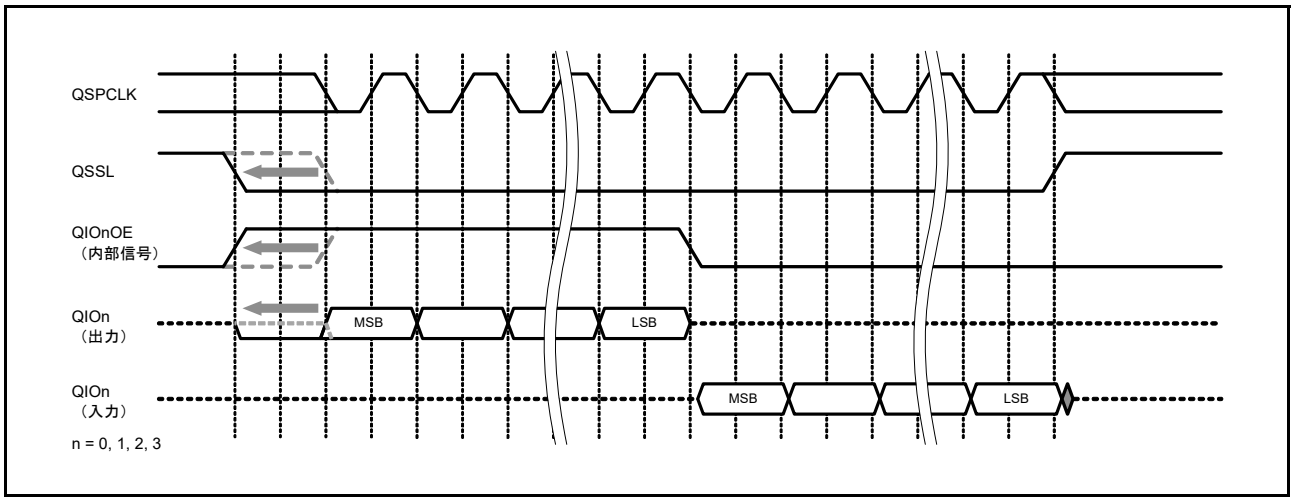


図 35.10　SFMSLD ビットを使用した QSSL 信号のセットアップ時間調整

35.5.5　QSSL 信号ホールド時間

デバイスの制約を満足するように、QSPCLK 信号の最後の立ち上がりエッジから QSSL 信号を High にするまでの QSSL 信号ホールド時間を設定できます。このホールド時間は、SFMSSC.SFMSHD ビットで、QSPCLK の 0.5 クロック分または 1.5 クロック分から選択できます。

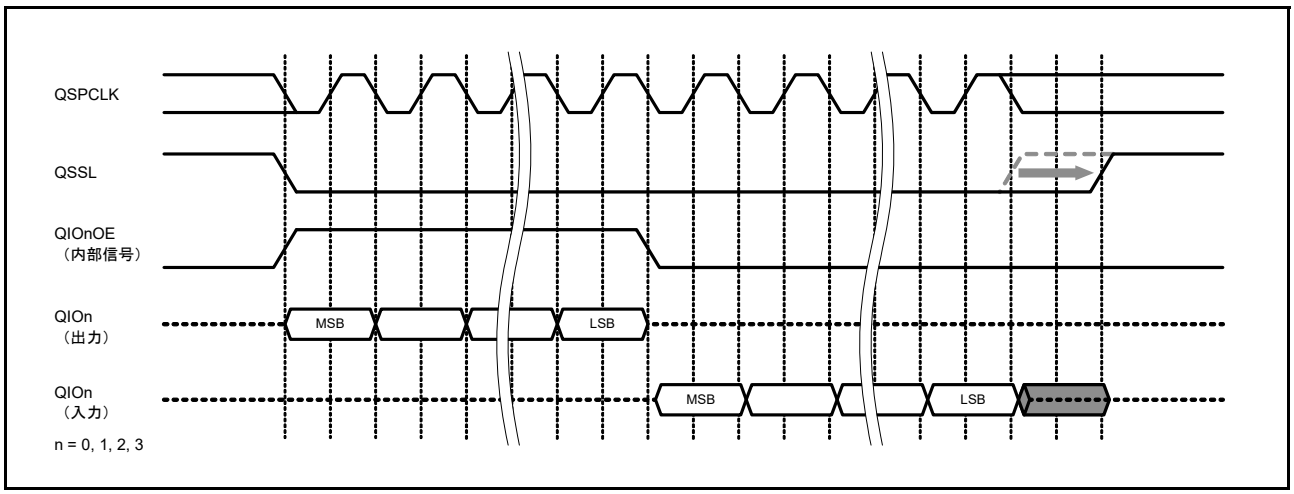


図 35.11　SFMSHD ビットを使用した QSSL 信号のホールド時間調整

35.5.6　シリアルデータ出力許可のホールド時間

QIO0 端子、QIO1 端子、QIO2 端子、QIO3 端子のバッファ出力許可は、SFMSMD.SFMOEX ビットを使用して QSPCLK の 1 クロック分拡張できます。拡張対象の信号は、出力許可信号である QIO0OE 信号、QIO1OE 信号、QIO2OE 信号、および QIO3OE 信号のみです。QIO0O、QIO1O、QIO2O、QIO3O の出力データ信号は含まれません。

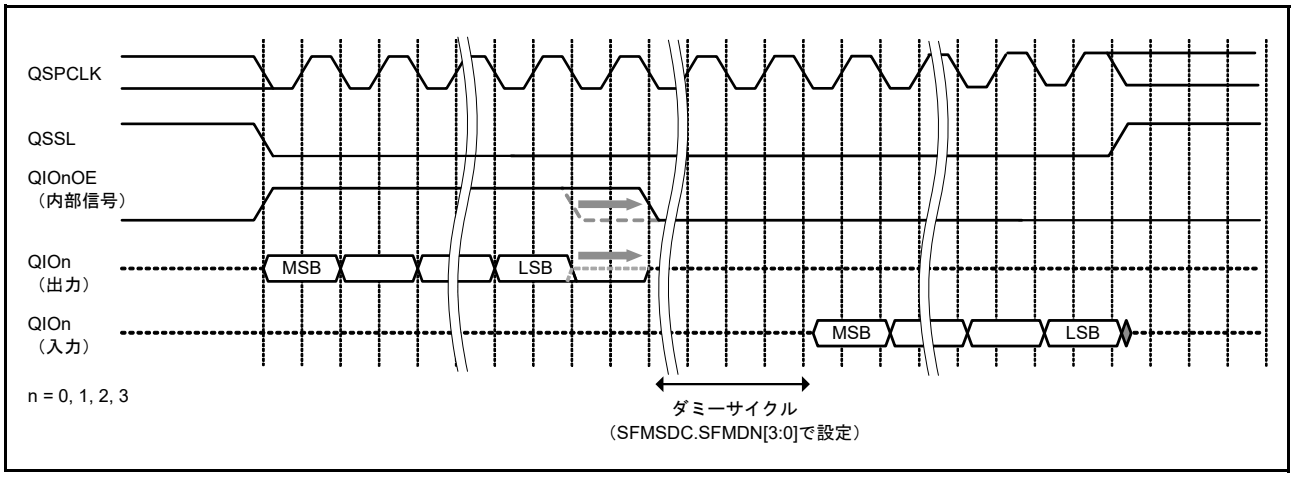


図 35.12　SFMOEX ビットを使用した出力許可ホールド時間調整

35.5.7　シリアルデータ出力のセットアップ時間

コマンドまたはアドレスをシリアルフラッシュに送信する場合、セットアップ時間はシリアルデータ出力で開始し、QSPCLK 信号の立ち上がりで終了します。このセットアップ時間が不十分な場合は、SFMSMD.SFMOSW ビットを使用して PCLKA の 1 クロック分拡張できます。SFMOSW ビットを 1 にすると、QSPI からデータが出力されている間、シリアルデータ送信時の QSPCLK の Low レベル幅が PCLKA の 1 クロック分拡張されます。この機能はシリアルデータ受信には影響しません。

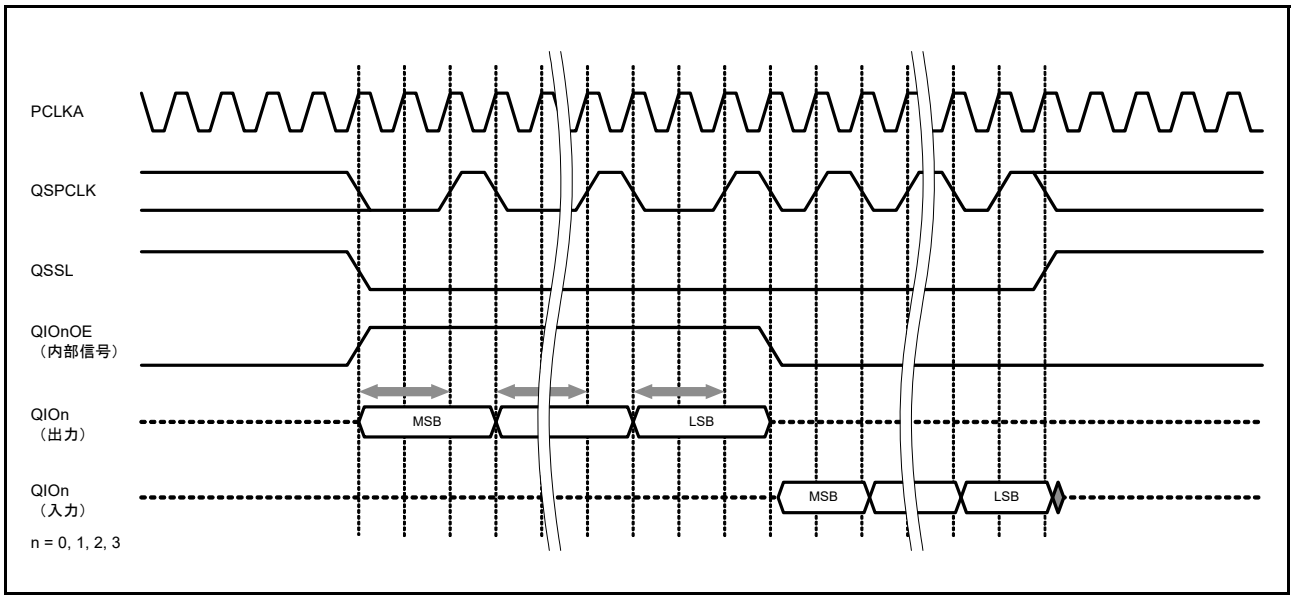


図 35.13　SFMOSW ビットを使用したシリアルデータ出力のセットアップ時間調整

35.5.8　シリアルデータ出力のホールド時間

コマンドまたはアドレスをシリアルフラッシュに送信する場合、ホールド時間は QSPCLK の立ち上がりエッジで開始し、シリアルデータの次の送信で終了します。このホールド時間が不十分な場合は、SFMSMD.SFMOHW ビットを使用して PCLKA の 1 クロック分拡張できます。SFMOHW ビットを 1 にすると、QSPI からデータが出力されている間、シリアルデータ送信時の QSPCLK の High レベル幅が PCLKA の 1 クロック分拡張されます。この機能はシリアルデータ受信には影響しません。

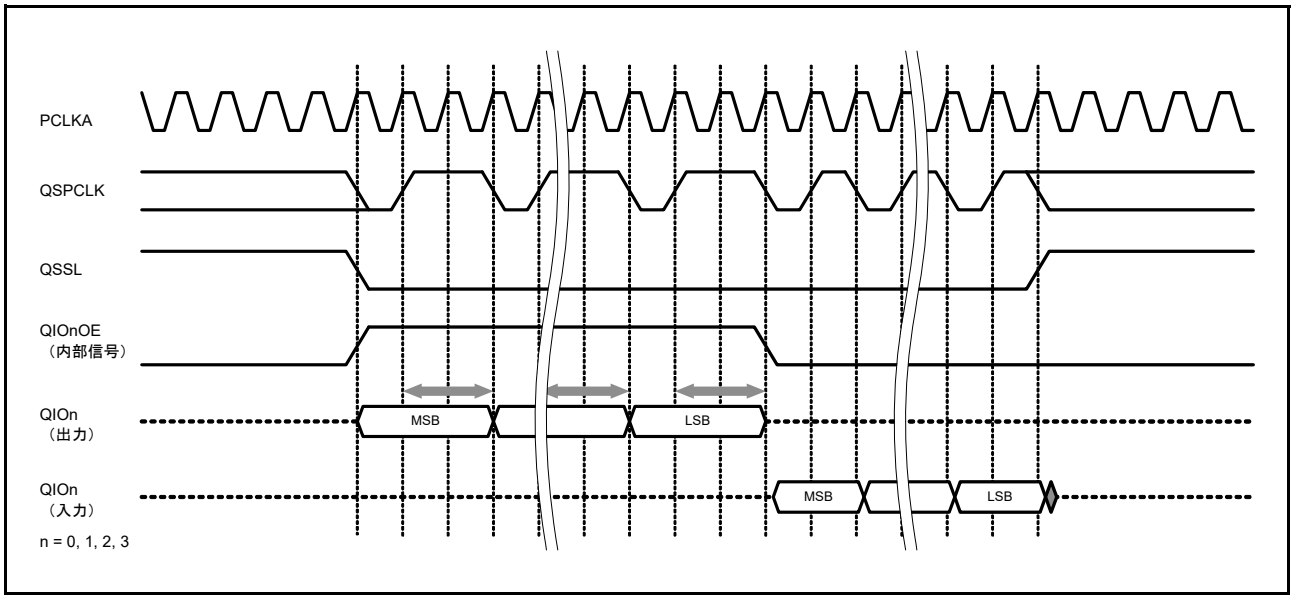


図 35.14　SFMOHW ビットを使用したシリアルデータ出力のホールド時間調整

35.6　フラッシュアクセスに使用される SPI 命令セット

35.6.1　自動生成される SPI 命令の種類

シリアルフラッシュがアクセスされると、SFMSAC.SFMAS[1:0] ビットと SFMSMD レジスタの設定値に基づいて、表 35.4 ～表 35.8 に示す命令の 1 つを用いた SPI バスサイクルが自動的に生成されます。

表 35.4　SFMAS[1:0] = 00bの場合に自動生成されるSPI命令

命令フォーマット	命令コード	アドレスバイト数	ダミーサイクル数	データバイト数	備考
リード	03h（注1）	1	—	1～∞	SFMRM[2:0] = 000, A8 = 0
	0Bh（注1）	1	—	1～∞	SFMRM[2:0] = 000, A8 = 1

注 1.　SFMSMD.SFMCCE ビットが 1 のとき、SFMSIC.SFMCIC[7:0] ビットの設定値が命令コードとして使用されます。

表 35.5　SFMAS[1:0] = 01bの場合に自動生成されるSPI命令

命令フォーマット	命令コード	アドレスバイト数	ダミーサイクル数	データバイト数	備考
リード	03h（注1）	2	—	1～∞	SFMRM[2:0] = 000

注 1.　SFMSMD.SFMCCE ビットが 1 のとき、SFMSIC.SFMCIC[7:0] ビットの設定値が命令コードとして使用されます。

表 35.6　SFMAS[1:0] = 10bの場合に自動生成されるSPI命令

命令フォーマット	命令コード	アドレスバイト数	ダミーサイクル数	データバイト数	備考
リード	03h（注1）	3	—	1～∞	SFMRM[2:0] = 000
ファストリード	0Bh（注1）	3	8（注2）	1～∞	選択可能：SFMRM[2:0] = 001
ファストリードDual出力	3Bh（注1）	3	8（注2）	1～∞	選択可能：SFMRM[2:0] = 010
ファストリードDual I/O	BBh（注1）	3	4（注2）	1～∞	選択可能：SFMRM[2:0] = 011
ファストリードQuad出力	6Bh（注1）	3	8（注2）	1～∞	選択可能：SFMRM[2:0] = 100
ファストリードQuad I/O	EBh（注1）	3	6（注2）	1～∞	選択可能：SFMRM[2:0] = 101

注 1.　SFMSMD.SFMCCE ビットが 1 のとき、SFMSIC.SFMCIC[7:0] ビットの設定値が命令コードとして使用されます。
注 2.　SFMSDC.SFMDN[3:0] ビットで、ダミーサイクル数を設定できます。

表 35.7　SFMAS[1:0] = 11b、SFM4BC = 0の場合に自動生成されるSPI命令

命令フォーマット	命令コード	アドレスバイト数	ダミーサイクル数	データバイト数	備考
リード	03h（注1）	4	—	1～∞	SFMRM[2:0] = 000
ファストリード	0Bh（注1）	4	8（注2）	1～∞	選択可能：SFMRM[2:0] = 001
ファストリードDual出力	3Bh（注1）	4	8（注2）	1～∞	選択可能：SFMRM[2:0] = 010
ファストリードDual I/O	BBh（注1）	4	4（注2）	1～∞	選択可能：SFMRM[2:0] = 011
ファストリードQuad出力	6Bh（注1）	4	8（注2）	1～∞	選択可能：SFMRM[2:0] = 100
ファストリードQuad I/O	EBh（注1）	4	6（注2）	1～∞	選択可能：SFMRM[2:0] = 101

注 1.　SFMSMD.SFMCCE ビットが 1 のとき、SFMSIC.SFMCIC[7:0] ビットの設定値が命令コードとして使用されます。
注 2.　SFMSDC.SFMDN[3:0] ビットで、ダミーサイクル数を設定できます。

表 35.8　SFMAS[1:0] = 11b、SFM4BC = 1の場合に自動生成されるSPI命令

命令フォーマット	命令コード	アドレス バイト数	ダミー サイクル数	データ バイト数	備考
リード	13h（注1）	4	—	1～∞	SFMRM[2:0] = 000
ファストリード	0Ch（注1）	4	8（注2）	1～∞	選択可能：SFMRM[2:0] = 001
ファストリードDual出力	3Ch（注1）	4	8（注2）	1～∞	選択可能：SFMRM[2:0] = 010
ファストリードDual I/O	BCh（注1）	4	4（注2）	1～∞	選択可能：SFMRM[2:0] = 011
ファストリードQuad出力	6Ch（注1）	4	8（注2）	1～∞	選択可能：SFMRM[2:0] = 100
ファストリードQuad I/O	ECh（注1）	4	6（注2）	1～∞	選択可能：SFMRM[2:0] = 101

注 1.　SFMSMD.SFMCCE ビットが 1 のとき、SFMSIC.SFMCIC[7:0] ビットの設定値が命令コードとして使用されます。
注 2.　SFMSDC.SFMDN[3:0] ビットで、ダミーサイクル数を設定できます。

35.6.2　標準リード命令

標準リード命令は、大部分のシリアルフラッシュデバイスでサポートされている一般的なリード命令です。SPI バスサイクルの開始時に、シリアルフラッシュ選択信号がアサートされ、命令コード（03h/13h）（注1）が出力されます。次に、SFMSAC.SFMAS[1:0] ビットで指定した 1 ～ 4 バイト幅のアドレスが送信されます。その後、データが受信されます。この標準リード命令は、QSPI の初期設定で選択されます。

注 1.　多くの 4KB シリアルフラッシュデバイスは、オーバーヘッドを最小化しリード命令コードのビット [3] から A8 情報を受信するために、1 バイト（A7 ～ A0）以内のアドレスフィールドを持っています。これらのデバイスをサポートするため、1 バイトのアドレス幅（SFMAS[1:0] ビット = 00）が指定されている場合、QSPI は標準リード命令コードのビット [3] に A8（アドレスビット 8）だけを出力します。そのため、標準リード命令コードとして 03h の代わりに 0Bh が出力される場合があります。このコードはファストリード命令コードと重複します。ただし、1 バイトのアドレス幅を持つほとんどの 2KB 以下のシリアルフラッシュデバイスでは、コマンドのビット [3] は don't-care ビットとしてデコードから除外するよう設計されているため、このようなリード命令コードは標準リード命令コードとして正しく認識されます。まれに、ビット [3] のデコードを許可しているシリアルフラッシュデバイスがあります。そのようなシリアルフラッシュを接続する場合、A8 = 1 になるアクセスを回避するようにアプリケーションを設定してください。

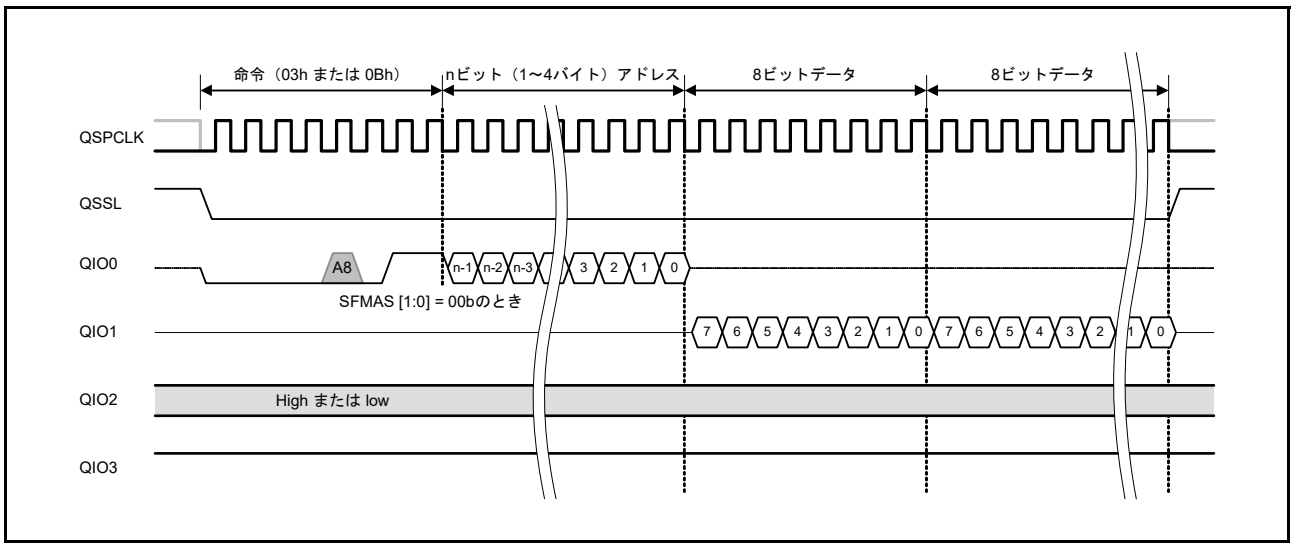


図 35.15　標準リードバスサイクル

35.6.3　ファストリード命令

ファストリード命令は、標準リード命令よりも高速の通信クロックをサポートするリード命令です。SPI バスサイクルの開始時に、シリアルフラッシュ選択信号がアサートされ、命令コード（0Bh/0Ch）が出力されます。次に、SFMSAC.SFMAS[1:0] ビットで指定した 3, 4 バイト幅のアドレスと、SFMSDC レジスタで指定した数のダミーサイクルが送信されます。その後、データが受信されます。

ダミーサイクルの最初の 2 サイクルは、XIP モードの選択／非選択に使用します。XIP モードを選択した場合、同じ命令が次の SPI バスサイクルにも適用され、次の SPI バスサイクルで命令コード送信はスキップされます。XIP モードの詳細は、35.8　XIP 制御を参照してください。

ファストリード命令への切り替えは、SFMSMD レジスタで制御します。

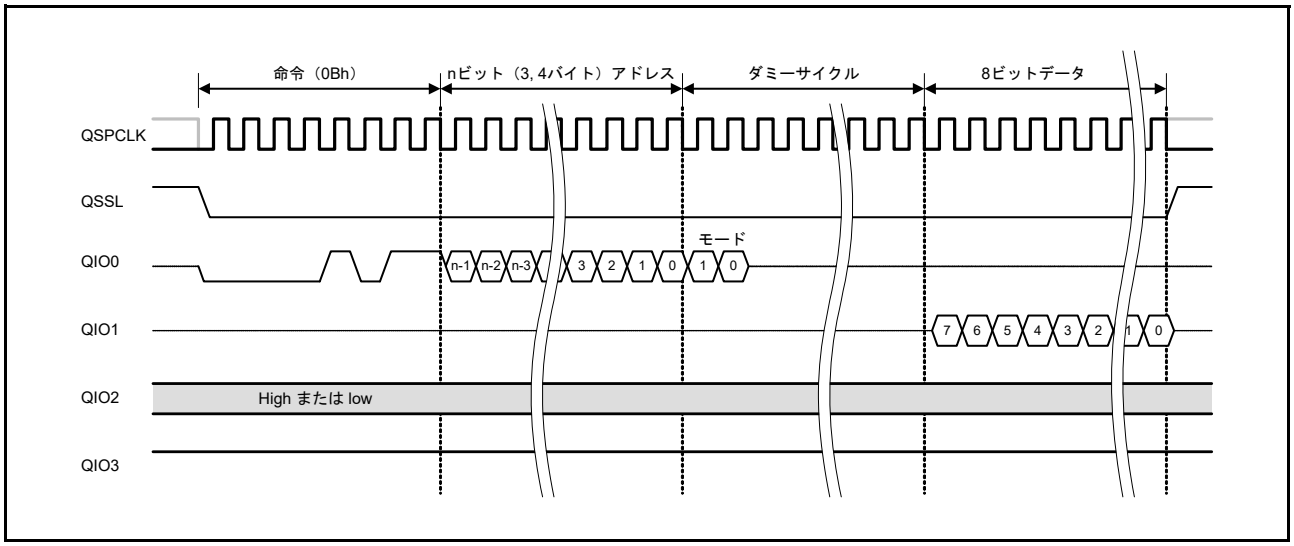


図 35.16　ファストリードバスサイクル

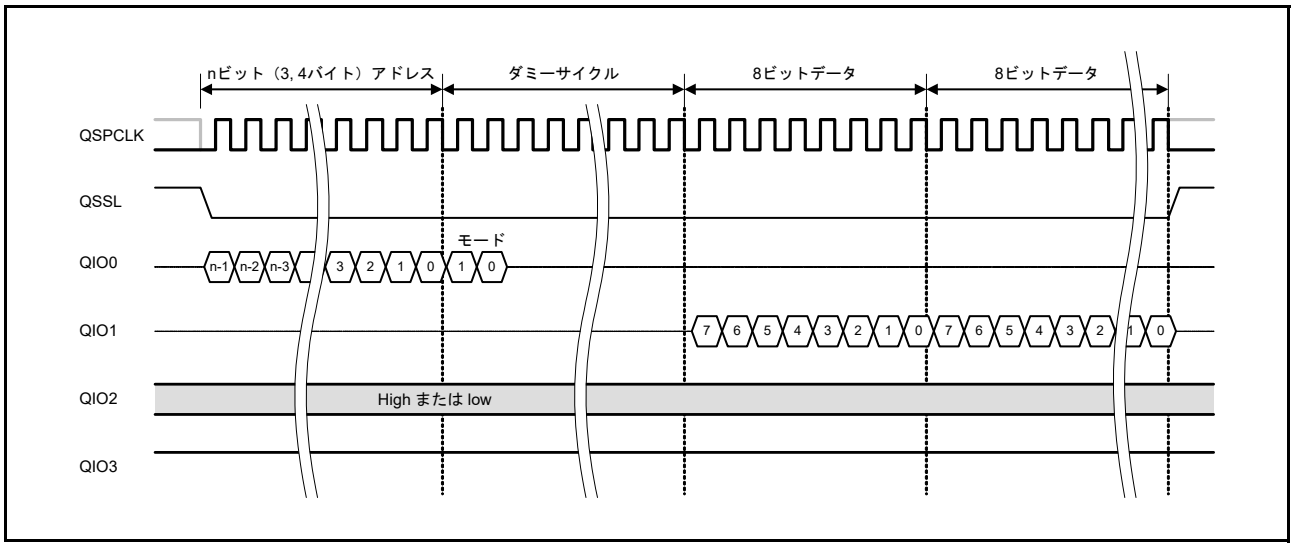


図 35.17　XIP モード時のファストリードバスサイクル

注 .　ファストリード命令を使用するには、ファストリード転送をサポートするシリアルフラッシュデバイスが必要です。

35.6.4　ファストリード Dual 出力命令

ファストリード Dual 出力命令は、データ受信に 2 本の信号線を使用するリード命令です。SPI バスサイクルの開始時に、シリアルフラッシュ選択信号がアサートされます。命令コード（3Bh/3Ch）および SFMSAC.SFMAS[1:0] ビットで指定した 3, 4 バイト幅のアドレスが QIO0 端子から送信されます。次に、SFMSDC レジスタで指定した数のダミーサイクルが生成されます。その後、QIO0 端子と QIO1 端子経由でデータを受信します。QIO0 端子からは偶数ビットのデータを受信し、QIO1 端子からは奇数ビットのデータを受信します。

ダミーサイクルの最初の 2 サイクルは、XIP モードの選択／非選択に使用されます。XIP モードを選択した場合、このとき使用される命令と同じ命令が次の SPI バスサイクルにも適用され、次の SPI バスサイクルで命令コード送信はスキップされます。XIP モードの詳細は、35.8　XIP 制御を参照してください。

ファストリード Dual 出力への切り替えは、SFMSMD レジスタで制御します。

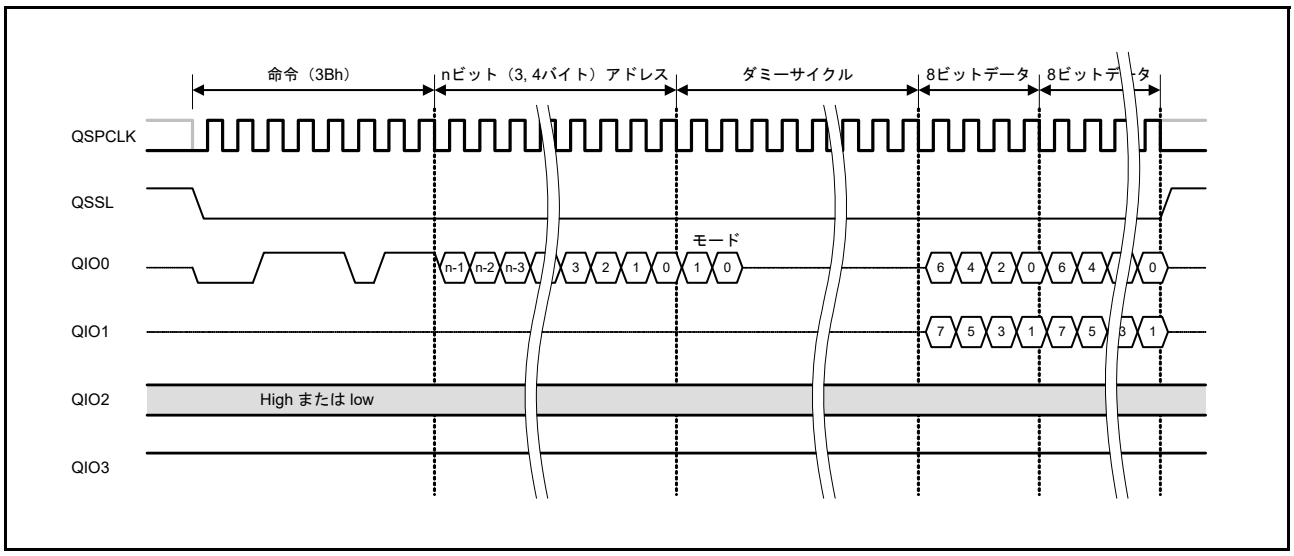


図 35.18　ファストリード Dual 出力バスサイクル

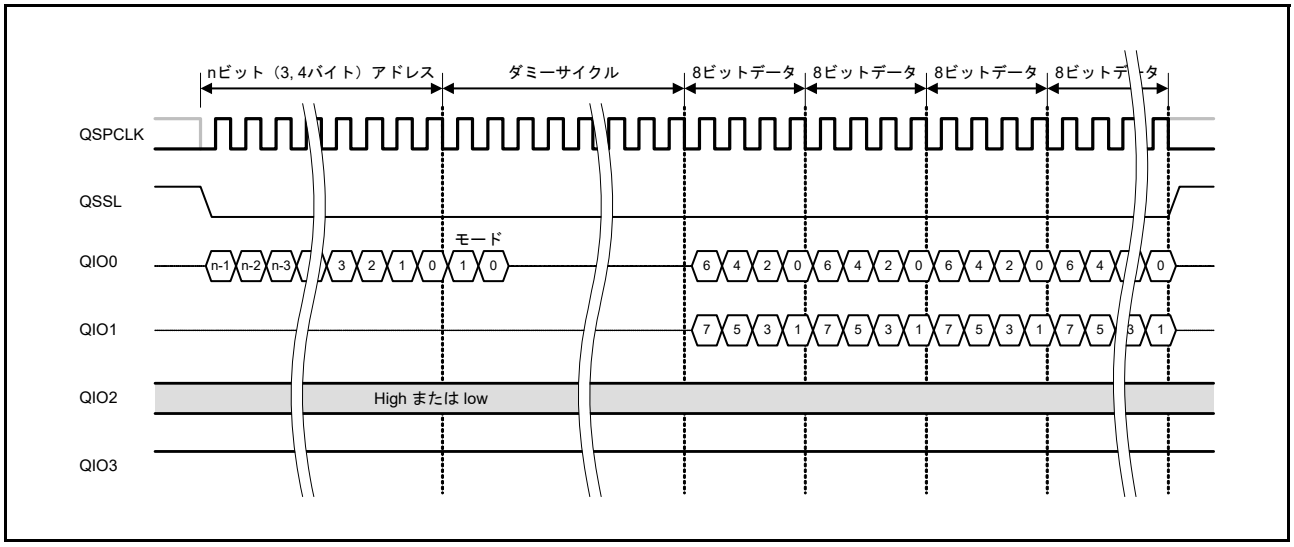


図 35.19　XIP モード時のファストリード Dual 出力バスサイクル

注 .　ファストリード Dual 出力命令を使用するには、ファストリード Dual 出力転送をサポートするシリアルフラッシュデバイスが必要です。

35.6.5　ファストリード Dual I/O 命令

ファストリード Dual I/O 命令は、アドレス送信とデータ受信に 2 本の信号線を使用するリード命令です。SPI バスサイクルの開始時に、シリアルフラッシュ選択信号がアサートされ、命令コード（BBh/BCh）が QIO0 端子から出力されます。次に、SFMSAC.SFMAS[1:0] ビットで指定した 3, 4 バイト幅のアドレスが QIO0 端子および QIO1 端子経由で送信され、SFMSDC レジスタで指定した数のダミーサイクルが生成されます。その後、QIO0 端子、QIO1 端子からデータを受信します。アドレスとダミーサイクルの送信およびデータ受信は、偶数ビットについては QIO0 端子経由で、奇数ビットについては QIO1 端子経由で行われます。

ダミーサイクルの最初の 2 サイクルは、XIP モードの選択／非選択に使用します。XIP モードを選択した場合、このとき使用される命令と同じ命令が次の SPI バスサイクルにも適用され、次の SPI バスサイクルで命令コード送信はスキップされます。XIP モードの詳細は、35.8　XIP 制御を参照してください。

ファストリード Dual I/O への切り替えは、SFMSMD レジスタで制御します。

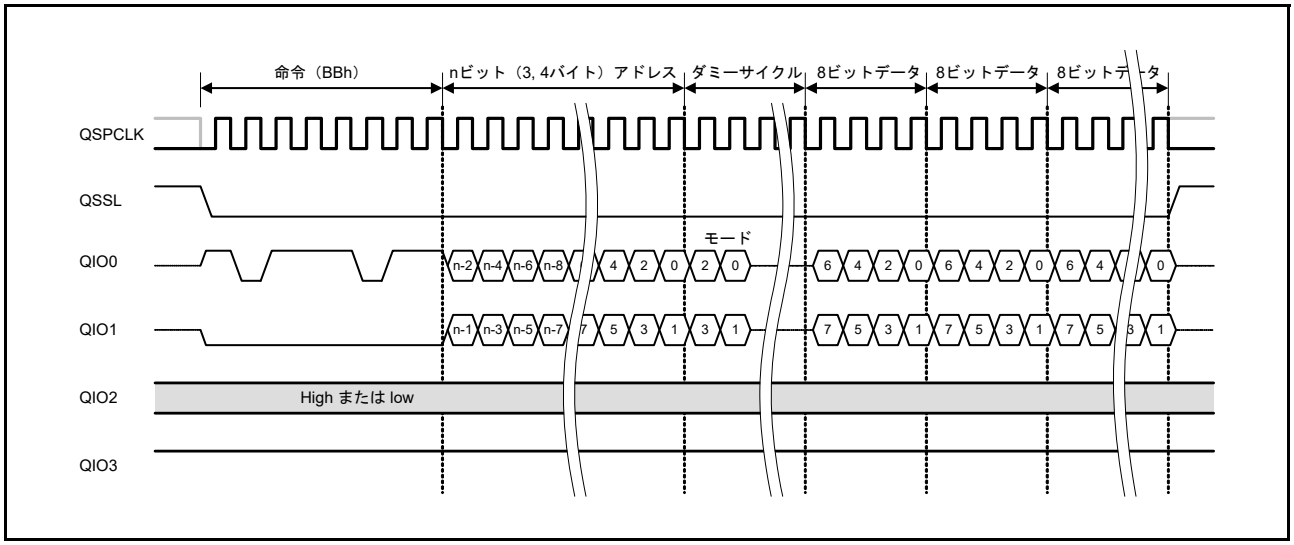


図 35.20　ファストリード Dual I/O バスサイクル

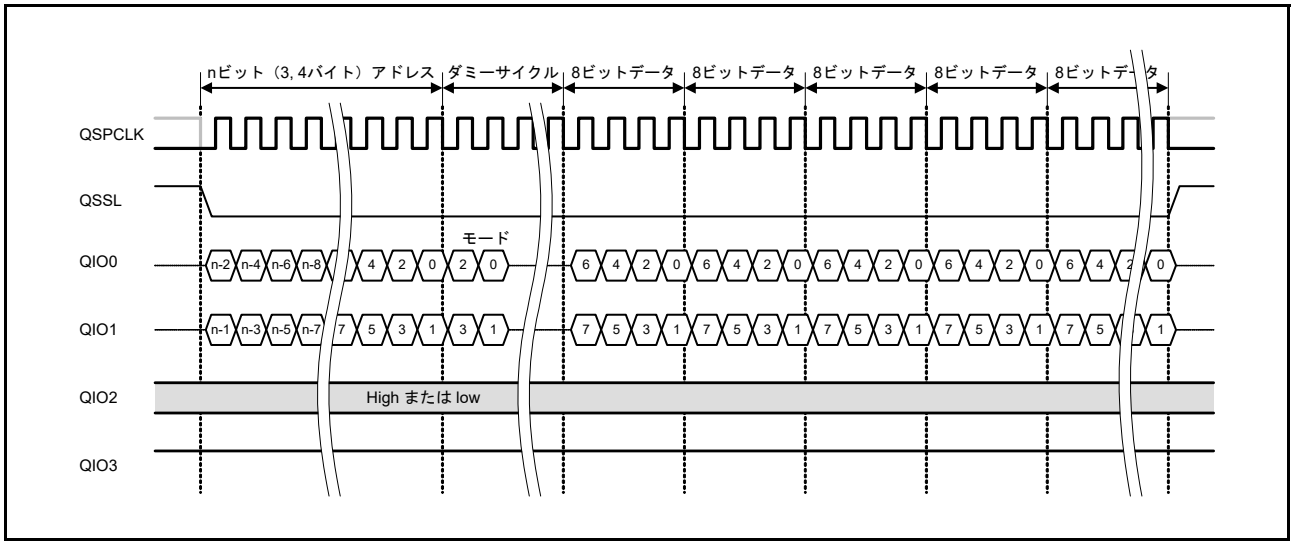


図 35.21　XIP モード時のファストリード Dual I/O バスサイクル

注 .　ファストリード Dual I/O 命令を使用するには、ファストリード Dual I/O 転送をサポートするシリアルフラッシュデバイスが必要です。

35.6.6　ファストリード Quad 出力命令

ファストリード Quad 出力命令は、データ受信に 4 本の信号線を使用するリード命令です。SPI バスサイクルの開始時に、シリアルフラッシュ選択信号がアサートされます。命令コード（6Bh/6Ch）および SFMSAC.SFMAS[1:0] ビットで指定した 3, 4 バイト幅のアドレスが QIO0 端子から出力されます。次に、SFMSDC.SFMDN[3:0] ビットで指定した数のダミーサイクルが生成されます。その後、QIO0 端子、QIO1 端子、QIO2 端子、および QIO3 端子経由でデータを受信します。

ダミーサイクルの最初の 2 サイクルは、XIP モードの選択／非選択に使用されます。XIP モードを選択した場合、このとき使用される命令と同じ命令が次の SPI バスサイクルにも適用され、次の SPI バスサイクルで命令コード送信はスキップされます。XIP モードの詳細は、35.8　XIP 制御を参照してください。

ファストリード Quad 出力への切り替えは、SFMSMD レジスタで制御します。

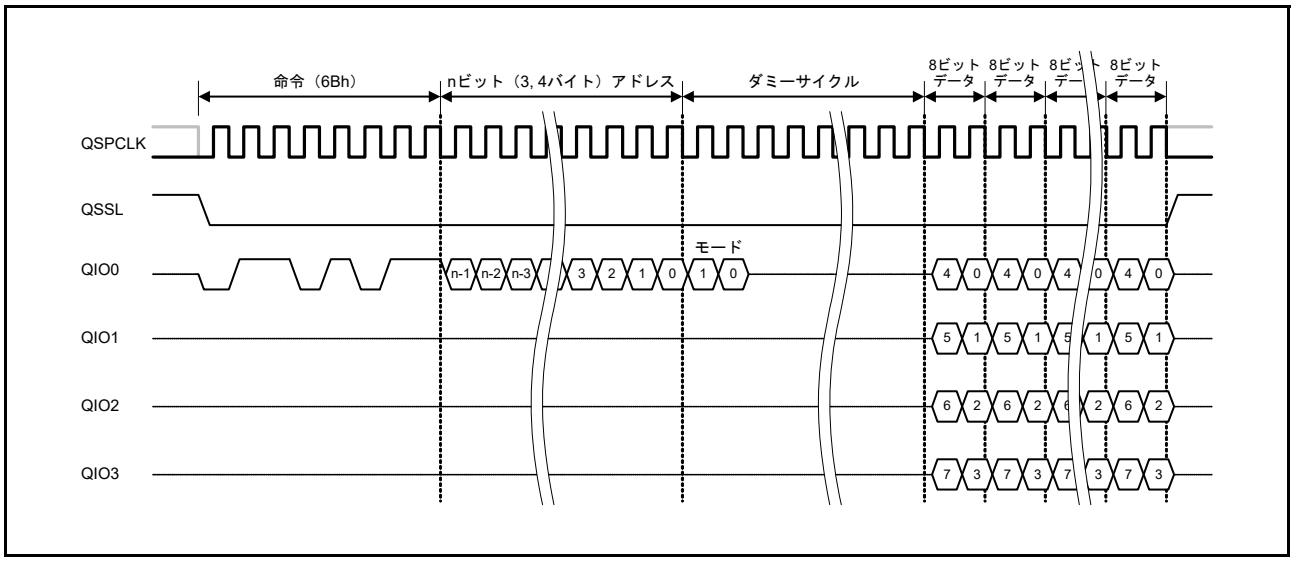


図 35.22　ファストリード Quad 出力バスサイクル

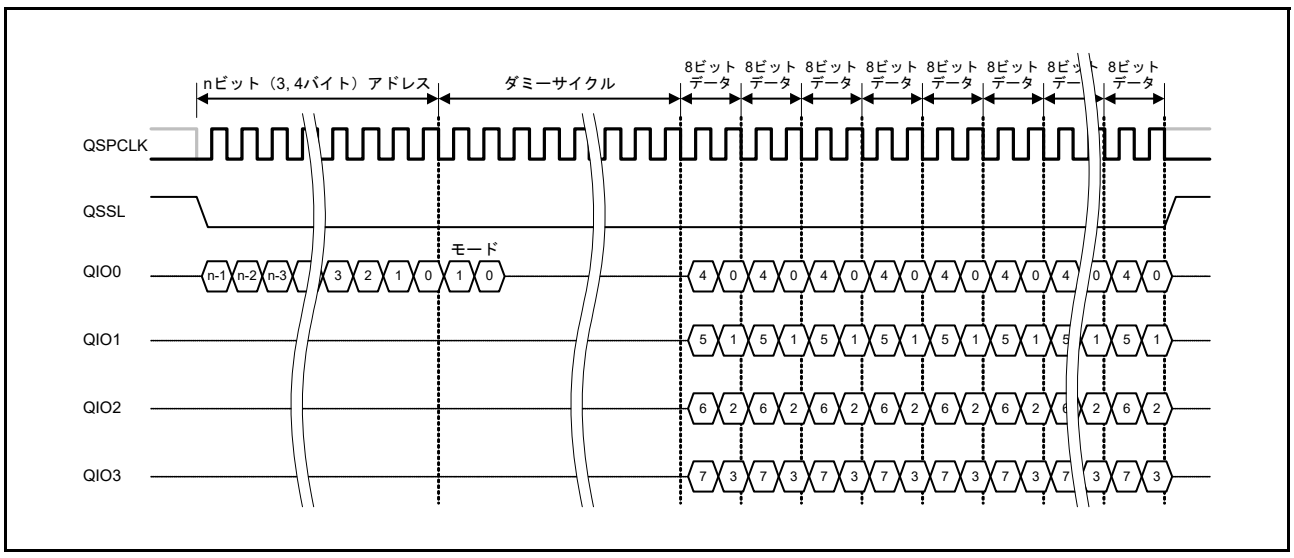


図 35.23　XIP モード時のファストリード Quad 出力バスサイクル

注 .　ファストリード Quad 出力を使用するには、ファストリード Quad 出力転送をサポートするシリアルフラッシュが必要です。

35.6.7　ファストリード Quad I/O 命令

ファストリード Quad I/O 命令は、アドレス送信とデータ受信に 4 本の信号線を使用するリード命令です。SPI バスサイクルの開始時に、シリアルフラッシュ選択信号がアサートされ、命令コード（EBh/ECh）が出力されます。次に、SFMSAC.SFMAS[1:0] ビットで指定した 3, 4 バイト幅のアドレスが QIO0 端子、QIO1 端子、QIO2 端子、QIO3 端子経由で送信され、SFMSDC.SFMDN[3:0] ビットで指定した数のダミーサイクルが生成されます。その後、QIO0 端子、QIO1 端子、QIO2 端子、および QIO3 端子経由でデータを受信します。

ダミーサイクルの最初の 2 サイクルは、XIP モードの選択／非選択に使用されます。XIP モードを選択した場合、このとき使用される命令と同じ命令が次の SPI バスサイクルにも適用され、次の SPI バスサイクルで命令コード送信はスキップされます。XIP モードの詳細は、35.8　XIP 制御を参照してください。

ファストリード Quad I/O への切り替えは、SFMSMD レジスタで制御します。

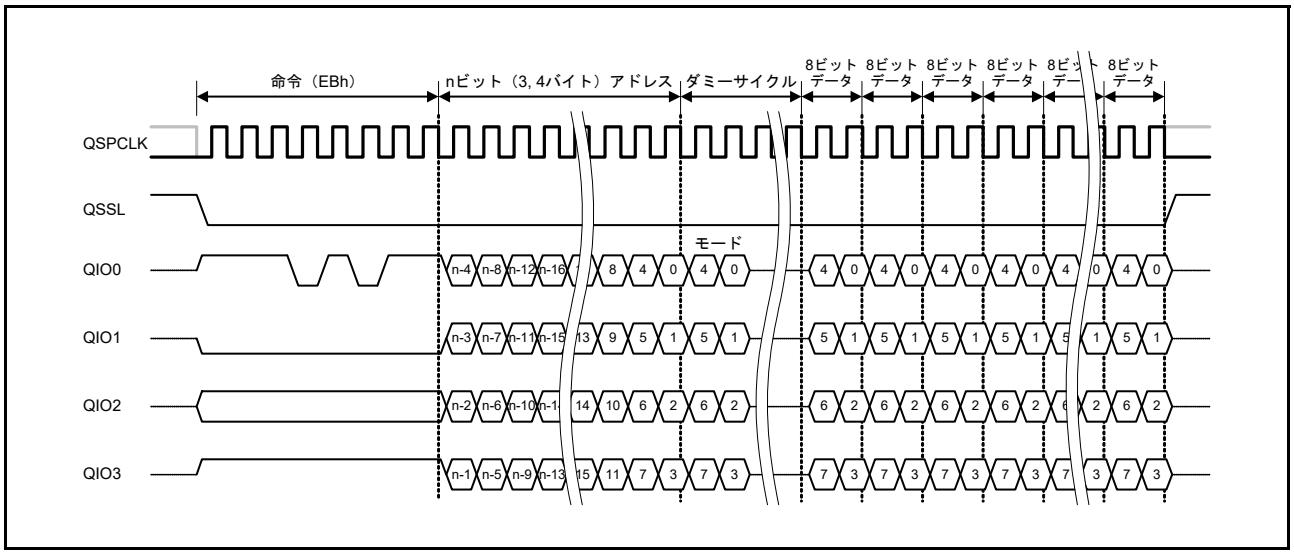


図 35.24　ファストリード Quad I/O バスサイクル

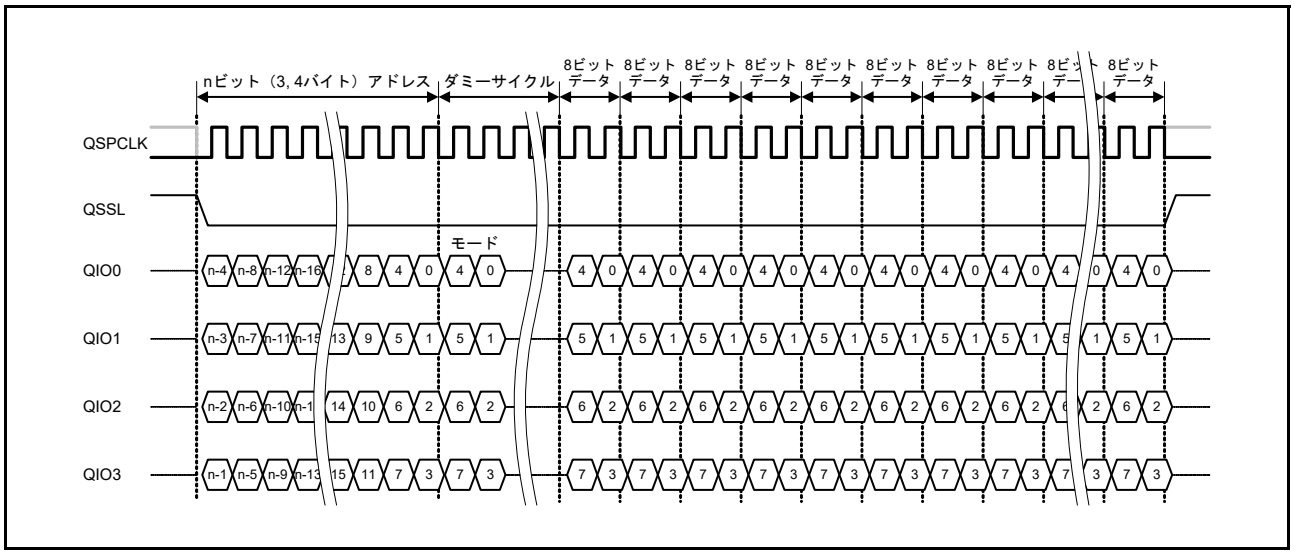


図 35.25　XIP モード時のファストリード Quad I/O バスサイクル

注 .　ファストリード Quad I/O 命令を使用するには、ファストリード Quad I/O 転送をサポートするシリアルフラッシュデバイスが必要です。

35.6.8　4バイトモード遷移命令

4バイトモード遷移命令では、シリアルフラッシュのアドレス幅を4バイトに設定します。SPIバスサイクルの開始時に、シリアルフラッシュ選択信号がアサートされ、命令コード（B7h）が出力されます。

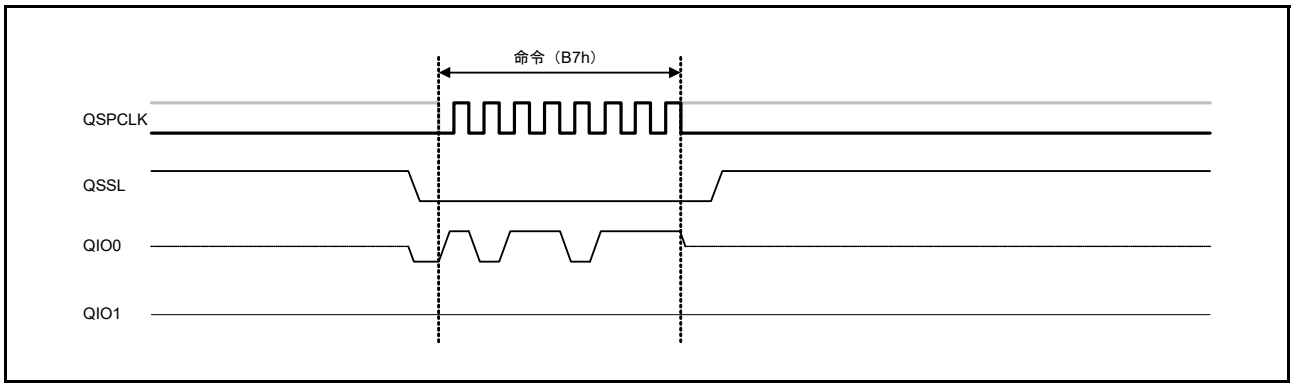


図 35.26　4バイトモード遷移バスサイクル

注 .　4バイトモード遷移命令の発行は、シリアルフラッシュが3バイトモード／4バイトモードのいずれであるかにかかわらず実行されます。

35.6.9　4バイトモード解除命令

4バイトモード解除命令では、シリアルフラッシュのアドレス幅を3バイトに設定します。SPIバスサイクルの開始時に、シリアルフラッシュ選択信号がアサートされ、命令コード（E9h）が出力されます。

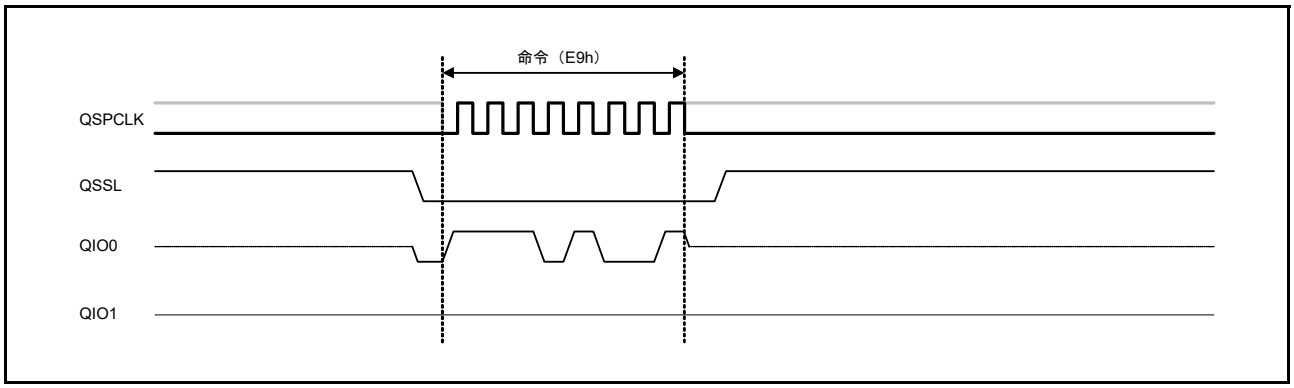


図 35.27　4バイトモード解除バスサイクル

注 .　4バイトモード解除命令の発行は、シリアルフラッシュが3バイトモード／4バイトモードのいずれであるかにかかわらず実行されます。

35.6.10　ライトイネーブル命令

ライトイネーブル命令は、シリアルフラッシュのアドレス幅の変更を許可します。SPI バスサイクルの開始時に、シリアルフラッシュ選択信号がアサートされ、命令コード（06h）が出力されます。

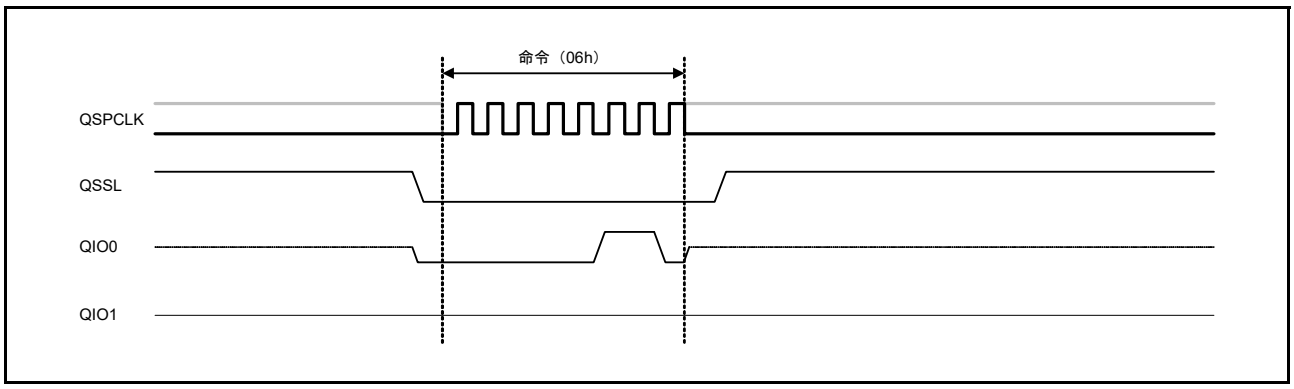


図 35.28　ライトイネーブルバスサイクル

35.7　SPI バスサイクル配置

35.7.1　個々の変換に基づくフラッシュリード

ROM リード内部バスサイクルは、サイクルごとに 1 対 1 で SPI バスサイクルに変換されます。ROM リードバスサイクルが検出されると、QSSL 信号がアサートされ、SPI バスサイクルがスタートします。シリアルフラッシュからデータを受信すると、QSSL 信号がデアサートされ、SPI バスサイクルが終了します。

別の ROM リードバスサイクルが検出されると、QSSL 信号の最小 High 幅が確保されていることを確認した後、QSSL 信号が再びアサートされます。その後、別の SPI バスサイクルが始まります。

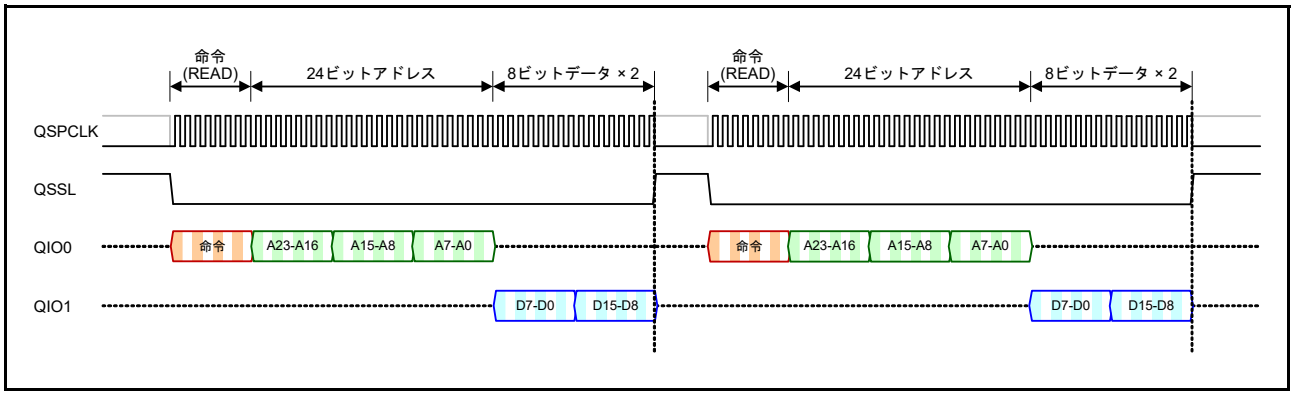


図 35.29　個々の変換に基づく連続データリード動作

35.7.2　プリフェッチ機能を使用したフラッシュリード

CPU 命令実行やブロックデータ転送のような動作では、多くの場合、データは連続したフラッシュアドレスから昇順に読み出されます。シリアルフラッシュには、命令コードやアドレスを再発行せずにデータ受信を繰り返す機能があります。ただし、MCU が発行したバスサイクルが個々に変換される場合、SPI バスサイクルは互いに切り離され、シリアルフラッシュが持つこの機能の利点を活用できなくなります。QSPI は、連続してデータを受信するためのプリフェッチ機能を備えています。

プリフェッチ機能を有効にするには、SFMSMD.SFMPFE ビットを 1 にします。プリフェッチ機能を有効にすると、データは別のフラッシュリード要求を待つことなく、連続的に受信されてバッファに格納されます。MCU がフラッシュリード動作を行うと、アドレスチェックが実行されます。アドレス一致が確認されると、バッファ内のデータは MCU に送られます。アドレスの不一致が見つかると、バッファ内のデータが廃棄され、新しい SPI バスサイクルが発行されます。

プリフェッチ用バッファの長さは 18 バイトです。このバッファがいっぱいになると、SPI バスサイクルが終了します。バッファデータが読み出されて空きができると、新しい SPI バスサイクルが自動的に開始され、プリフェッチが再開されます。

命令フェッチやブロックデータ転送のように連続アドレスから昇順でデータを読み出す場合、プリフェッチ機能は効率的な転送動作を可能にします。

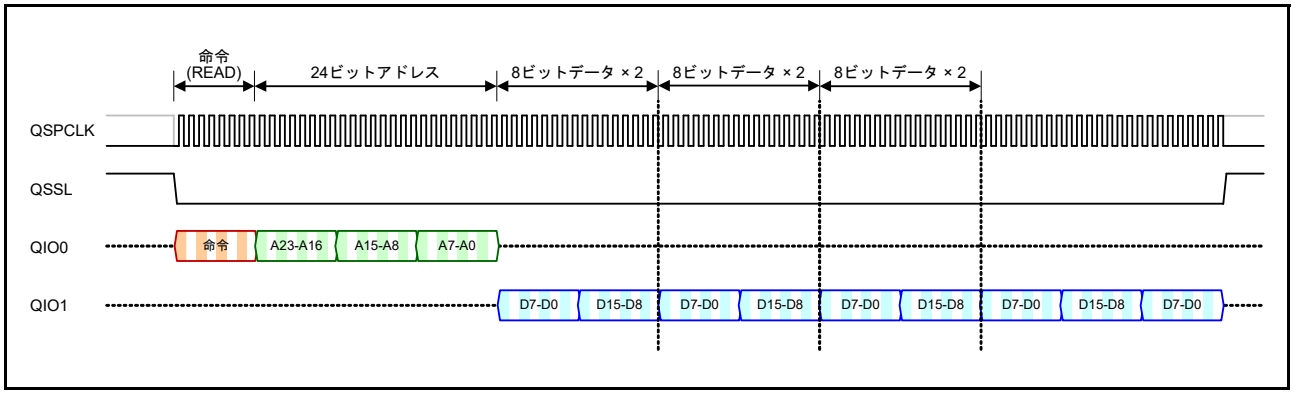


図 35.30　　プリフェッチ機能を使用した連続データのリード動作

35.7.3　　プリフェッチの停止

プリフェッチのシリアル転送中に別のアドレスから読み出すための ROM リードバスサイクルが発生すると、実行中の不要なシリアル転送が停止して、新しい SPI バスサイクルが開始されます。通常、このようなシリアル転送の停止は、データ受信のバイト境界で発生します。ただし、SFMSMD.SFMPAE ビットを 1 にすると、バイト境界以外の場所で停止することが可能です。この機能を使用するには、シリアルフラッシュデバイスがバイト境界以外での停止をサポートしている必要があります。

35.7.4　　プリフェッチ先の直接指定

SFMPFE ビットを設定して、QSPI が QSPI ウィンドウ領域への内部バスライトアクセスを受信すると、システムはそれをプリフェッチアドレスとして入手し、プリフェッチを開始します。QSPI ウィンドウ領域への内部バスライトアクセスは、プリフェッチアドレスデータの入手のためにのみ使用できます。シリアルフラッシュに書き込むことはできません。

この機能を 35.7.5　プリフェッチ状態ポーリングで述べるプリフェッチ状態ポーリング機能と組み合わせると、低速シリアルフラッシュからデータを読み出す際に、内部バスの負荷を削減できます。

注 .　QSPI ウィンドウ領域に書き込みを行ってプリフェッチ先を指定する場合は、プリフェッチを開始するアドレスの先頭バイトに書き込んでください。2 バイト以上のデータサイズで QSPI ウィンドウ領域に書き込みを行うと、エラー応答が返ります。

35.7.5　　プリフェッチ状態ポーリング

低速シリアルフラッシュからデータを読み出すと、SPI 受信バスサイクルが完了するまで内部バスは待機状態になるため、システム負荷が増大します。プリフェッチ状態ポーリング機能は、この負荷を軽減するための機能です。

SFMSST.PFOFF ビットはプリフェッチ機能の状態を示し、SFMSST.PFCNT[4:0] ビットはプリフェッチ済みのデータバイト数を示します。そのため、プリフェッチ状態は単一の CPU 動作で確認できます。

```
//
// 1Kバイト（32ビット × 256ワード）データをシリアルフラッシュから外部メモリへコピー
//
unsigned long *sptr;                    // シリアルフラッシュのポインタ
unsigned long *dptr;                    // 外部メモリのポインタ
int i;

SFMSMD |= 0x0040;                       // SFMPFEビットを設定して、プリフェッチを許可
*( (volatile unsigned char *) sptr ) = 0;   // TAGを有効にして、プリフェッチを開始

for ( i = 0 ; i＜256 ; i++ ){
while ( ( SFMSST & 0x00FF )＜0x04 ){}; // 4バイトデータの受信待ち
*(dptr++) = *(sptr++);
}
```

注 .　ポーリングプログラムを実行する場合、プログラムをシリアルフラッシュの外部に置くか、命令キャッシュを有効にしてください。ポーリングプログラムを実行するとき、そのプログラムがシリアルフラッシュに置かれていた場合、または命令キャッシュを使わずにプログラムを実行した場合、プリフェッチの対象がしばしば命令コードに切り替わります。その結果、ポーリングの効果が損なわれ、プリフェッチバッファに空きができるために無限ループに陥ることがあります。

35.7.6　SPI バスサイクル拡張機能を使用したフラッシュリード

SFMSMD.SFMSE[1:0] ビットを 00b 以外の値にすると、QSPI は次のフラッシュリードを待ちます。このとき、QSPCLK 信号は停止し、シリアルフラッシュからデータを入手した後も QSSL 信号が Low に保持され、SPI バスサイクルが中断されます。

次のフラッシュリードのアドレスが昇順の連続アドレスの場合、QSPCLK 信号のトグルが再開され、後続データの受信が継続します。次のフラッシュリードのアドレスが昇順の連続アドレスではない場合、QSSL 信号はいったん High になり、中断されていた SPI バスサイクルを終了させます。その後、新しい SPI バスサイクルが開始されます。

昇順の連続アドレスからデータが断続的に読み出される場合、この機能は、命令コードとアドレス送信の負荷を削減することにより、効率的な転送動作を実現します。

SPI バスサイクル拡張時間は、SFMSMD.SFMSE[1:0] ビットで選択できます。指定した拡張時間が経過すると、QSSL 信号は High レベルに戻り、中断されていた SPI バスサイクルを自動的に終了させます。

SFMSE[1:0] ビットを 11b にすると、QSSL は無限に拡張されます。その場合、シリアルフラッシュの消費電力が増大するので、それに対応できるようにシステムを設計する必要があります。

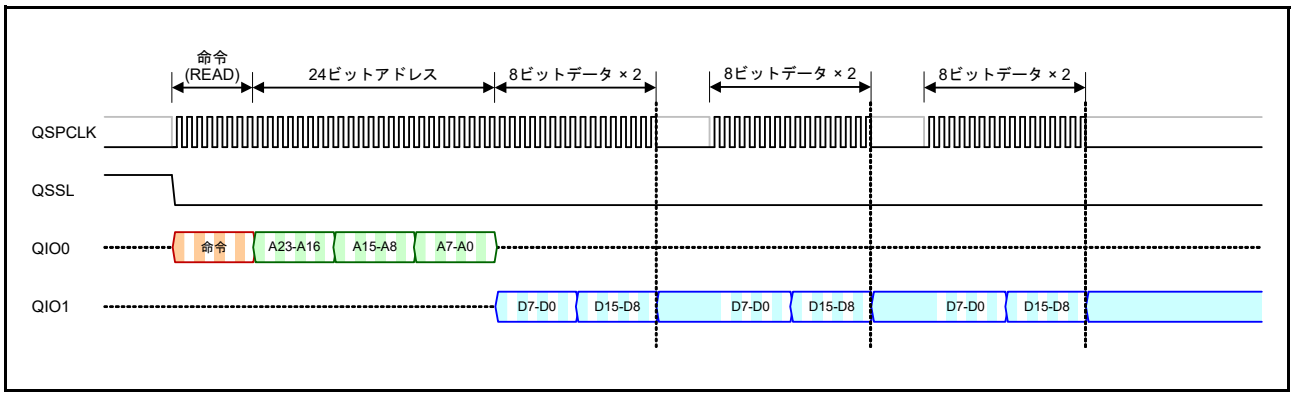


図 35.31　SPI バスサイクル拡張を使用した連続データのリード動作

35.8　XIP 制御

シリアルフラッシュデバイスの中には、フラッシュリードのための命令コード受信をスキップすることで、待ち時間を削減できるものもあります。この命令コードスキップ機能は、前回のシリアルバスサイクルのダミーサイクル期間中に受信したモードデータで選択されます。

ファストリード命令のダミーサイクルでは、図 35.32 に示すように、QSPI は最初の 2 サイクル中に SFMSDC.SFMXD[7:0] ビットで設定したモードデータを、シリアルデータ信号を使用して送信することによって、シリアルフラッシュの XIP モードを制御します。

XIP モードを有効にするモードデータは、シリアルフラッシュごとに異なります。そのため、SFMXD[7:0] ビットには適切なモードデータを設定してください。

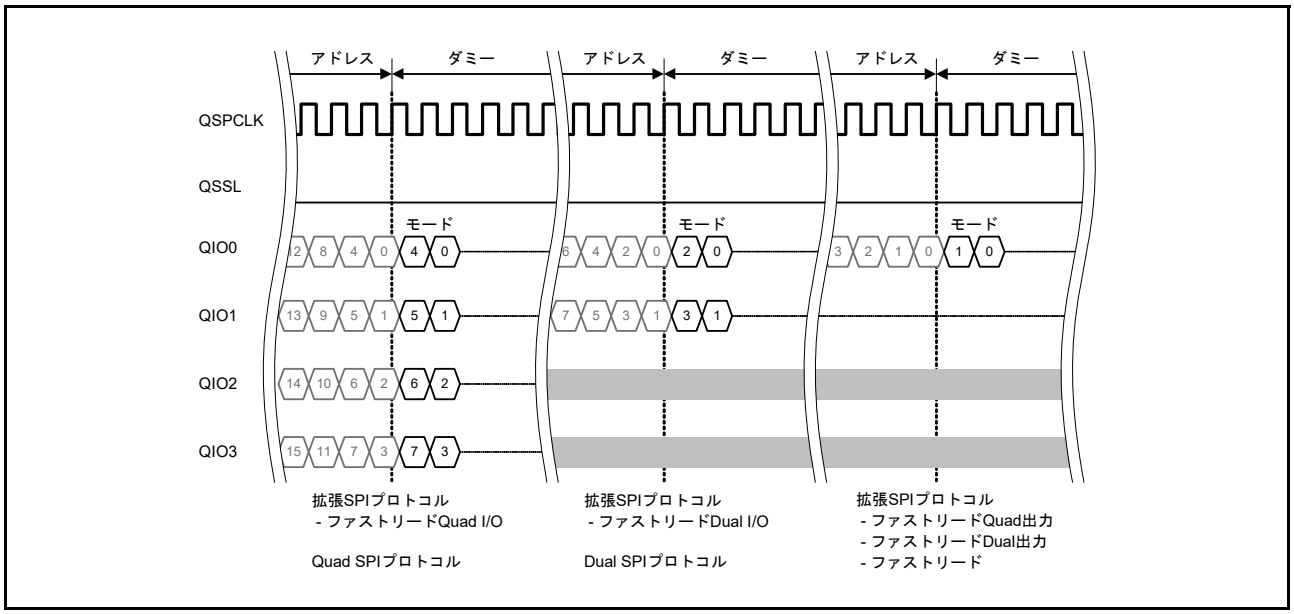


図 35.32　　XIP モード制御データ

35.8.1　XIP モードの選択

XIP モードを選択するには、SFMSDC.SFMXD[7:0] ビットでシリアルフラッシュデバイスの XIP モード設定を指定し、SFMXEN ビットを 1 にします。次のファストリード命令のダミーサイクルでは、SFMXD[7:0] ビットで指定したモードデータがシリアルフラッシュデバイスへ転送されます。その時点から、シリアルフラッシュコントローラとシリアルフラッシュデバイスの両方で XIP モードが有効になります。XIP モード選択の完了を確認するには、SFMSDC.SFMXST ビットから 1 を読み出します。

注 .　SFMSDC.SFMXD[7:0] ビットでは、実際のシリアルフラッシュデバイスに指定された XIP モード設定データを指定してください。シリアルフラッシュコントローラの XIP モードは、SFMSDC.SFMXD[7:0] ビットの設定にかかわらず、SFMXEN ビットでのみ有効にできます。

35.8.2　XIP モードの解除

XIP モードを解除するには、SFMSDC.SFMXD[7:0] ビットでシリアルフラッシュの解除設定を指定し、SFMXEN ビットを 0 にします。次のファストリード命令のダミーサイクルでは、SFMXD[7:0] ビットで指定したモードデータが、最初の 2 サイクルの間にシリアルフラッシュへ転送されます。その時点から、QSPI とシリアルフラッシュデバイスの両方で XIP モードが無効になります。XIP モード解除の完了を確認するには、SFMSDC.SFMXST ビットから 0 を読み出します。

注 .　SFMSDC.SFMXD[7:0] ビットでは、実際のシリアルフラッシュデバイスに指定された XIP モード設定データを指定してください。シリアルフラッシュコントローラの XIP モードは、SFMSDC.SFMXD[7:0] ビットの設定にかかわらず、SFMXEN ビットでのみ無効にできます。

35.9　QIO2 端子、QIO3 端子の状態

QIO2 端子と QIO3 端子の状態は、SFMSMD.SFMRM[2:0] ビットに指定されたシリアルインタフェースのリードモードに依存します。

表 35.9　QIO2端子とQIO3端子の状態

SFMSMD.SFMRM[2:0] ビット	QIO2端子の状態（注1）	QIO3端子の状態（注2）	備考
111	設定禁止		
110			
101	シリアルデータ信号としての入力／出力（スタンバイレベルはHi-Z）	シリアルデータ信号としての入力／出力（スタンバイレベルはHi-Z）	ファストリードQuad I/O
100			ファストリードQuad出力
011	SFMPMD.SFMWPLビット変数出力（初期出力変数はLowレベル）	出力Highレベル	ファストリードDual I/O
010			ファストリードDual出力
001			ファストリード
000			リード（初期状態）

注 1.　シリアルフラッシュは、WP 機能用に QIO2 端子も使用できます。
注 2.　シリアルフラッシュは、HOLD または RESET 機能用に QIO3 端子も使用できます。

35.10　直接通信モード

35.10.1　直接通信

QSPI は、ROM リードバスサイクルを SPI バスサイクルに自動変換することにより、シリアルフラッシュの内容を読み出すことが可能です。ただし、シリアルフラッシュデバイスはメモリデータリードの他にも、ID 情報のリード、イレース、プログラミング、状態情報リードなどの各種機能を備えています。これらの機能を使用するための標準命令セットは存在せず、多くのベンダーが様々なデバイスに次々と機能を追加しています。そのため、これらの機能をハードウェア制御でサポートすることは困難です。

ソフトウェアが直接シリアルフラッシュと通信できる手段を提供することで、QSPI はこれらのシリアルフラッシュデバイスを柔軟にサポートしています。結果として、ソフトウェアで必要な SPI バスサイクルを作成することが可能です。

35.10.2　直接通信モードの使用

シリアルフラッシュと直接通信するには、SFMCMD.DCOM ビットを 1 にして直接通信モードへ遷移してください。直接通信モードを選択している間は、通常のフラッシュリード動作は無効になります。直接通信後の通常のフラッシュアクセスでは、SFMCMD.DCOM ビットを 0 にして直接通信モードを停止してください。

注 .　QSPI を XIP モードに設定している場合、XIP モードを停止してから直接通信モードを開始してください。

35.10.3　直接通信時の SPI バスサイクルの発生

直接通信での SPI バスサイクルは、SFMCOM ポートへの最初のアクセスで開始し、SFMCOM ポート経由で一連の入出力動作が実行された後、SFMCMD レジスタへの書き込みで終了します。その時点で、SFMCOM ポートへの書き込みは SPI バスへの 1 バイト送信に変換され、SFMCOM ポートからの読み出しは SPI バスからの 1 バイト受信に変換されます。

SFMCOM ポートへの最初のアクセスから SFMCMD レジスタへの最後の書き込み動作までの期間中、シリアルフラッシュ選択信号はアクティブに保持され、シリアルフラッシュに一連の SPI バスサイクルが進行中であることを通知します。

注 .　直接通信モードでは、SFMCMD および SFMCOM 以外のレジスタ（SFMSMD、SFMSSC、SFMSKC、SFMSST、SFMCST、SFMSIC、SFMSAC、SFMSDC、SFMSPC、SFMPMD を含む）への書き込みはすべて禁止されており、設定値は無効となります。直接通信モードでは、SFMCOM ポート以外のレジスタ領域への書き込みによって SPI バスサイクルが停止します。ただし、SPI バスサイクルを停止させる目的で、SFMCMD 以外のレジスタ領域に書き込みを行わないでください。このような動作は、通常機能として保証されていません。

以下に、直接通信のプログラム例を示します。

```
//### 注意！ ### このコードは、制御するシリアルフラッシュの外部に配置してください。

// 対象シリアルフラッシュデバイスの具体的な命令コードを定義
#define  Instruction_FREAD  0x0B // ファストリード
#define  Instruction_RDSR   0x05  // ステータスレジスタリード
#define  Instruction_RDID   0x9F   // IDリード
#define  Instruction_WREN   0x06 // ライトイネーブル
#define  Instruction_CERA   0xC7  // チップイレース

unsigned char  mfid, mtype, mcap, data, temp;

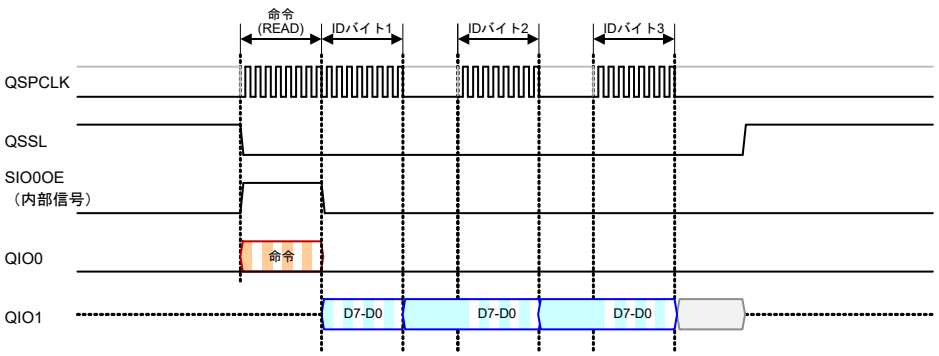
SFMCMD = 0x01;                          // 直接動作を許可

// JEDECにより割り当てられたデバイスIDを取得
SFMCOM = Instruction_RDID;         // "IDリード"命令（SPIバスサイクルをオープン）
mfid   = (unsigned char) SFMCOM;  // "メーカーID"を取得
mtype  = (unsigned char) SFMCOM; // "メモリタイプ"を取得
mcap   = (unsigned char) SFMCOM; // "メモリ容量"を取得
SFMCMD = 0x01h;                         // SPIバスサイクルをクローズ

// アドレス0x012345hから1バイト取得
SFMCOM = Instruction_FREAD;       // "ファストリード"命令（SPIバスサイクルをオープン）
SFMCOM = 0x01;                          // アドレス0x012345の上位バイトを入力
SFMCOM = 0x23;                          // 対象アドレス0x012345の中間バイトを入力
SFMCOM = 0x45;                          // 対象アドレス0x012345の下位バイトを入力
temp   = (unsigned char)SFMCOM;  // FAST READ トランザクションの1バイトダミーコードを取得
data   = (unsigned char)SFMCOM;  // データを取得
SFMCMD = 0x01;                          // SPIバスサイクルをクローズ

// すべての内容を消去
SFMCOM = Instruction_WREN; // "ライトイネーブル"命令（SPIバスサイクルをオープン）
SFMCMD = 0x01;                  // SPIバスサイクルをクローズ
SFMCOM = Instruction_CERA;  // "チップイレース"命令（SPIバスサイクルをオープン）
SFMCMD = 0x01;                  // SPIバスサイクルをクローズ
SFMCOM = Instruction_RDSR;  // "ステータスレジスタリード"命令（SPIバスサイクルをオープン）
while (SFMCOM & 0x01){};        // 完了するまで"ライト進捗ビット"をポーリング
SFMCMD = 0x01;                  // SPIバスサイクルをクローズ

SFMCMD = 0x00;                  // 直接動作を禁止
```




```
(1)  SFMCMD = 01h;                          // 直接動作を許可
                                            // JEDECにより割り当てられたデバイスIDの取得
(2)  SFMCOM = Instruction_RDID;             // “IDリード”命令をプット（トランザクションをオープン）
(3)  mfid = (unsigned char) SFMCOM;         // IDバイト1“メーカID”を取得
(4)  mtype = (unsigned char) SFMCOM;        // IDバイト2“メモリタイプ”を取得
(5)  mcap = (unsigned char) SFMCOM;         // IDバイト3“メモリ容量”を取得
(6)  SFMCMD = 01h;                          // トランザクションをクローズ
(7)  SFMCMD = 00h;                          // 直接動作を禁止
```

図 35.33　　ID リードの直接通信タイミング例

注 .　直接通信モードで拡張 SPI プロトコルを使用している場合、シリアルフラッシュの内容を参照するために標準リード命令またはファストリード命令を使用する必要があります。この構成では、QSPI はファストリード Dual 出力、ファストリード Dual I/O、ファストリード Quad 出力、ファストリード Quad I/O の各転送をサポートしていません。これらの高速リード動作が必要な場合、通常のフラッシュアクセスを使用してください。

35.11　動作説明

35.11.1　複数のコントロールレジスタの設定変更手順

QSPI コントロールレジスタの設定は、システム動作中に動的に変更できます。ただし、複数のコントロールレジスタの設定を連続して変更する場合、すべてのレジスタの更新が完了する前に SPI バスサイクルが発生する場合があります。すべてのレジスタ設定変更段階では、SPI バスタイミング仕様を満たすように、レジスタ設定シーケンスを慎重に設計する必要があります。

```
//
// QSPCLKの高速化
//
SFMSMD = 0x0041;   // SFMPAE：0 SFMPFE：1 SFMSE：00 SFMRM：01（プリフェッチ許可ファストリード）
SFMSSC = 0x04;     // SFMSLD：0 SFMSHD：0 SFMSW：4（最小QSSL High幅 = 5sck）
SFMSKC = 0x00;     // SFMDTY：0 SFMDV：0（1/2モード）### 最後にクロック速度切り替え ###

//
// QSPCLKの低速化
//
SFMSKC = 0x06;     // SFMDTY：0 SFMDV：（1/8モード）### 最初にクロック速度切り替え ###
SFMSSC = 0x01;     // SFMSLD：0 SFMSHD：0 SFMSW：1（最小QSSL High幅 = 2sck）
SFMSMD = 0x0040;   // SFMPAE：0 SFMPFE：1 SFMSE：00 SFMRM：00（プリフェッチ許可、標準リード）
```

35.12　割り込み

SFMCST.EROMR ビットを 1 にすると、QSPI は割り込みを要求します。直接通信モードで ROM リードアクセスが検出されると、EROMR ビットは 1 になります。0 書き込みによって EROMR ビットがクリアされるまで、割り込み要求は保持されます。詳細は、「14.　割り込みコントローラユニット（ICU）」を参照してください。

35.13　使用上の注意事項

35.13.1　モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ B（MSTPCRB）によって、QSPI の動作を禁止または許可することが可能です。リセット後の初期状態では、QSPI の動作は停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は、「11.　低消費電力モード」を参照してください。

36.　巡回冗長検査（CRC）演算器

36.1　概要

巡回冗長検査（CRC: Cyclic Redundancy Check）演算器は、CRC コードを生成してデータエラーを検出します。LSB ファーストまたは MSB ファーストでの通信用に、CRC 演算結果のビットオーダを切り替えることができます。さらに、アプリケーションに合わせて、いくつかの CRC 生成多項式を使用できます。スヌープ機能により、特定のアドレスに対する読み出しと書き込みをモニタできます。この機能は、シリアル送信バッファへの書き込みとシリアル受信バッファからの読み出しをモニタする場合など、特定のイベントで CRC コードの自動生成が必要となるアプリケーションで役立ちます。

表 36.1 に CRC 演算器の仕様を、図 36.1 にブロック図を示します。

表 36.1　　CRC 演算器の仕様

項目	8 ビットデータ用の仕様	32 ビットデータ用の仕様
データサイズ	8 ビット	32 ビット
CRC 演算対象データ（注 1）	8n ビット単位のデータに対し CRC コードを生成（n = 自然数）	32n ビット単位のデータに対し CRC コードを生成（n = 自然数）
CRC 演算処理方式	8 ビット並列実行	32 ビット並列実行
CRC 生成多項式	3 つの生成多項式から 1 つ選択可能 [8 ビット CRC] • X^8+X^2+X+1（CRC-8） [16 ビット CRC] • $X^{16}+X^{15}+X^2+1$（CRC-16） • $X^{16}+X^{12}+X^5+1$（CRC-CCITT）	2 つの生成多項式から 1 つ選択可能 [32 ビット CRC] • $X^{32}+X^{26}+X^{23}+X^{22}+X^{16}+X^{12}+X^{11}+X^{10}+X^8+X^7+X^5+X^4+X^2+X+1$（CRC-32） • $X^{32}+X^{28}+X^{27}+X^{26}+X^{25}+X^{23}+X^{22}+X^{20}+X^{19}+X^{18}+X^{14}+X^{13}+X^{11}+X^{10}+X^9+X^8+X^6+1$（CRC-32C）
CRC 演算切り替え	LSB ファーストまたは MSB ファーストでの通信用に、CRC 演算結果のビットオーダの切り替えが可能	
モジュールストップ機能	モジュールストップ状態を設定して消費電力を削減可能	
CRC スヌープ	特定のレジスタアドレスに対する読み出しと書き込みのモニタ	—

注 1.　回路は、CRC 演算で使用するデータを分割できません。8 または 32 ビット単位で書いてください。

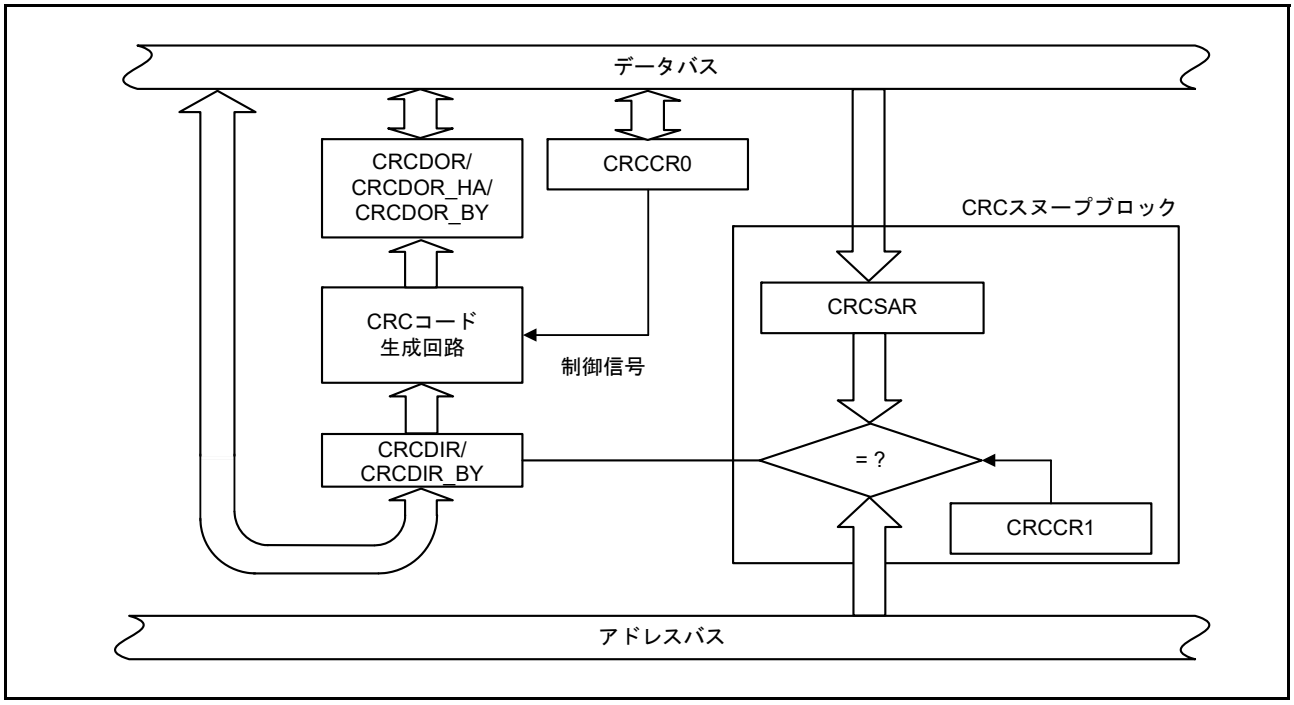


図 36.1　　CRC 演算器のブロック図

36.2　レジスタの説明

36.2.1　CRC コントロールレジスタ 0（CRCCR0）

アドレス　CRC.CRCCR0 4007 4000h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DORCLR	LMS	—	—	—	GPS[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	GPS[2:0]	CRC 生成多項式切り替え	b2 b1 b0 0 0 0：演算しない 0 0 1：8 ビット CRC-8（X^8+X^2+X+1） 0 1 0：16 ビット CRC-16（$X^{16}+X^{15}+X^2+1$） 0 1 1：16 ビット CRC-CCITT（$X^{16}+X^{12}+X^5+1$） 1 0 0：32 ビット CRC-32（$X^{32}+X^{26}+X^{23}+X^{22}+X^{16}+X^{12}+X^{11}+X^{10}+X^8+X^7+X^5+X^4+X^2+X+1$） 1 0 1：32 ビット CRC-32C（$X^{32}+X^{28}+X^{27}+X^{26}+X^{25}+X^{23}+X^{22}+X^{20}+X^{19}+X^{18}+X^{14}+X^{13}+X^{11}+X^{10}+X^9+X^8+X^6+1$） その他：演算しない	R/W
b5-b3	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b6	LMS	CRC 演算切り替え	0：LSB ファースト通信用に CRC を生成 1：MSB ファースト通信用に CRC を生成	R/W
b7	DORCLR	CRCDOR/CRCDOR_HA/CRCDOR_BY レジスタクリア	1：CRCDOR/CRCDOR_HA/CRCDOR_BY レジスタをクリア 読むと 0 が読めます。	W（注 1）

注 1.　このレジスタに書き込みを行うときは、本ビットを必ず 1 にしてください。

GPS[2:0] ビット（CRC 生成多項式切り替え）

CRC 生成多項式を選択します。

LMS ビット（CRC 演算切り替え）

生成した CRC コードのビットオーダを選択します。LSB ファーストで通信を行う場合は CRC コードの下位バイトから先に、MSB ファーストで通信を行う場合は CRC コードの上位バイトから先に送信してください。CRC コードの送信および受信については、36.3　動作説明を参照してください。

DORCLR ビット（CRCDOR/CRCDOR_HA/CRCDOR_BY）

DORCLR ビットを 1 にすると、CRCDOR/CRCDOR_HA/CRCDOR_BY レジスタが 0000_0000h になります。読むと 0 が読めます。1 のみ書けます。

36.2.2 CRC コントロールレジスタ 1（CRCCR1）

アドレス CRC.CRCCR1 4007 4001h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CRCSEN	CRCSWR	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6	CRCSWR	スヌープオンライト／リード切り替え	0：スヌープオンリード 1：スヌープオンライト	R/W
b7	CRCSEN	スヌープ許可	0：禁止 1：許可	R/W

CRCSWR ビット（スヌープオンライト／リード切り替え）

アドレスモニタ機能でのアクセス方向を選択します。

本ビットを 0（初期値）にすると、特定のレジスタアドレスの読み出しに対して CRC スヌープ動作が有効になります。本ビットを 1 にすると、特定のレジスタアドレスの書き込みに対して CRC スヌープ動作が有効になります。

CRCSEN ビット（スヌープ許可）

CRCSEN ビットを 1 にすると、CRC スヌープ動作が有効になります。本ビットを 0 にすると、CRC スヌープ動作が無効になります。

36.2.3 CRC データ入力レジスタ（CRCDIR/CRCDIR_BY）

アドレス CRC.CRCDIR/CRCDIR_BY 4007 4004h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

CRCDIR レジスタは、CRC-32 または CRC-32C 演算用データを書き込む 32 ビットの読み出し／書き込みレジスタです。CRCDIR_BY レジスタは、CRC-8、CRC-16、または CRC-CCITT 演算用データを書き込む 8 ビットの読み出し／書き込みレジスタです。

36.2.4 CRC データ出力レジスタ（CRCDOR/CRCDOR_HA/CRCDOR_BY）

アドレス CRC.CRCDOR/CRCDOR_HA/CRCDOR_BY 4007 4008h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

CRCDOR レジスタは、CRC-32 または CRC-32C 用の 32 ビットの読み出し／書き込みレジスタです。CRCDOR_HA レジスタは、CRC-16 または CRC-CCITT 用の 16 ビットの読み出し／書き込みレジスタです。CRCDOR_BY レジスタは、CRC-8 用の 8 ビットの読み出し／書き込みレジスタです。初期値は 0000_0000h であるため、初期値以外の値を用いて演算する場合は、CRCDOR/CRCDOR_HA/CRCDOR_BY レジスタを書き換えてください。

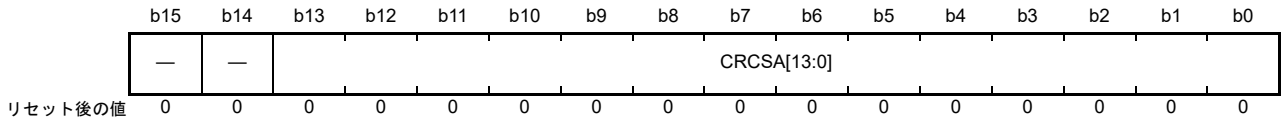
CRCDIR/CRCDIR_BY レジスタに書き込まれたデータに対して CRC 演算が実行され、結果が CRCDOR/CRCDOR_HA/CRCDOR_BY レジスタに格納されます。転送データに続いて CRC コードを計算し、その結果が 0000_0000h であると、CRC エラーなしと判断できます。

8 ビット CRC（$X^8 + X^2 + X + 1$ の多項式）を使用した場合、CRCDOR_BY レジスタに有効な CRC コードが得られます。

16 ビット CRC（$X^{16} + X^{15} + X^2 + 1$、または $X^{16} + X^{12} + X^5 + 1$ の多項式）を使用した場合、CRCDOR_HA レジスタに有効な CRC コードが得られます。

36.2.5 スヌープアドレスレジスタ（CRCSAR）

アドレス CRC.CRCSAR 4007 400Ch



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b13-b0	CRCSA[13:0]	レジスタスヌープアドレス	スヌープ対象となる、SCIモジュールのTDRまたはRDRアドレスを格納します。	R/W
b15-b14	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CRCSA[13:0] ビット（レジスタスヌープアドレス）

CRCSA[13:0] ビットは、CRC スヌープ動作でモニタされるレジスタアドレスの下位 14 ビットを指定します。

CRCSA[13:0] ビットで使用できるのは、以下のアドレスのみです。

- 4007 0003h: SCI0.TDR, 4007 0005h: SCI0.RDR
- 4007 0023h: SCI1.TDR, 4007 0025h: SCI1.RDR
- 4007 0043h: SCI2.TDR, 4007 0045h: SCI2.RDR
- 4007 0063h: SCI3.TDR, 4007 0065h: SCI3.RDR
- 4007 0083h: SCI4.TDR, 4007 0085h: SCI4.RDR
- 4007 0103h: SCI8.TDR, 4007 0105h: SCI8.RDR
- 4007 0123h: SCI9.TDR, 4007 0125h: SCI9.RDR
- 4007 000Fh: SCI0.FTDRL, 4007 0011h: SCI0.FRDRL
- 4007 002Fh: SCI1.FTDRL, 4007 0031h: SCI1.FRDRL
- 4007 004Fh: SCI2.FTDRL, 4007 0051h: SCI2.FRDRL
- 4007 006Fh: SCI3.FTDRL, 4007 0071h: SCI3.FRDRL
- 4007 008Fh: SCI4.FTDRL, 4007 0091h: SCI4.FRDRL
- 4007 010Fh: SCI8.FTDRL, 4007 0111h: SCI8.FRDRL
- 4007 012Fh: SCI9.FTDRL, 4007 0131h: SCI9.FRDRL

36.3　動作説明

36.3.1　基本動作

CRC 演算器は、LSB ファーストまたは MSB ファースト転送用の CRC コードを生成します。

16 ビットの CRC-CCITT 生成多項式（$X^{16} + X^{12} + X^5 + 1$）を使用して、入力データ（F0h）に対し CRC コードを生成する例を以下に示します。この例では、CRC 演算の前に、CRC データ出力レジスタ（CRCDOR_HA）の値をクリアします。

8 ビット CRC（$X^8 + X^2 + X + 1$ の多項式）を使用している場合は、CRCDOR_BY レジスタに有効な CRC コードのビットが得られます。32 ビット CRC を使用している場合は、CRCDOR レジスタに有効な CRC コードのビットが得られます。

図 36.2 と図 36.3 に LSB ファーストと MSB ファーストのデータ送信例を、図 36.4 と図 36.5 に LSB ファーストと MSB ファーストのデータ受信例をそれぞれ示します。

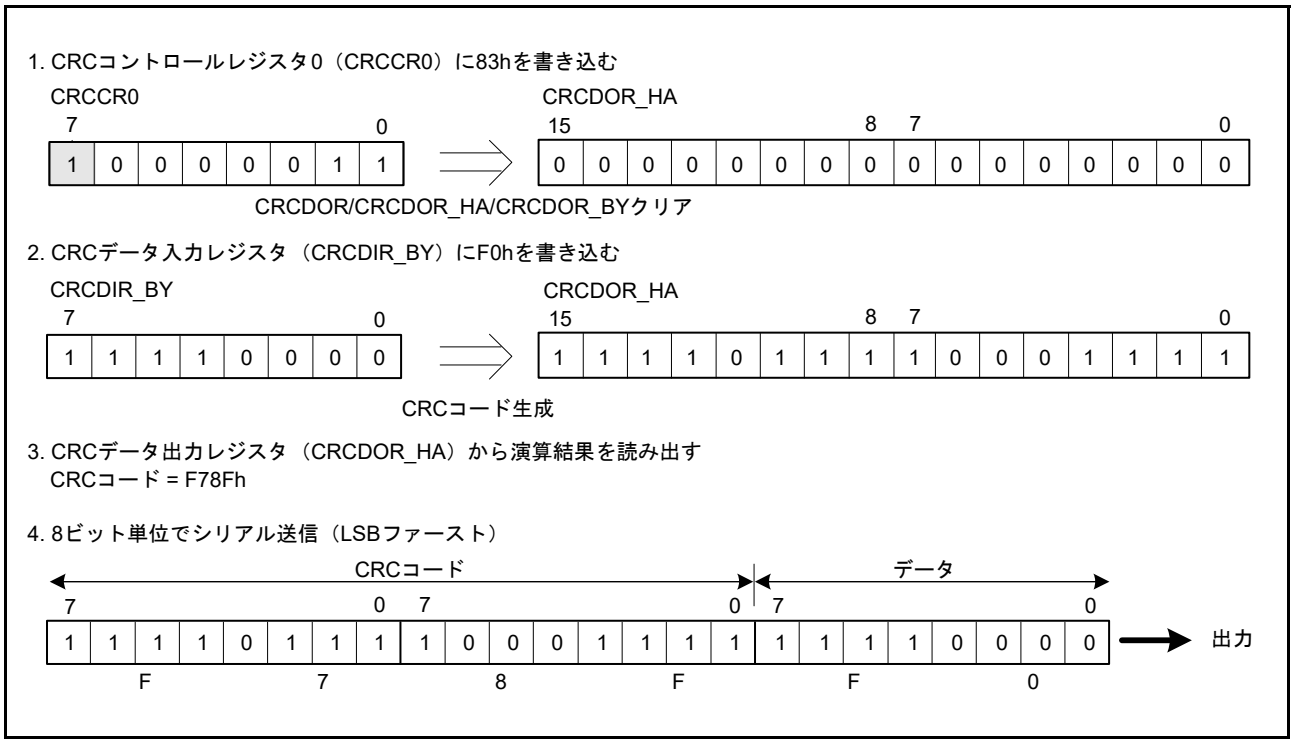


図 36.2　　LSB ファーストのデータ送信

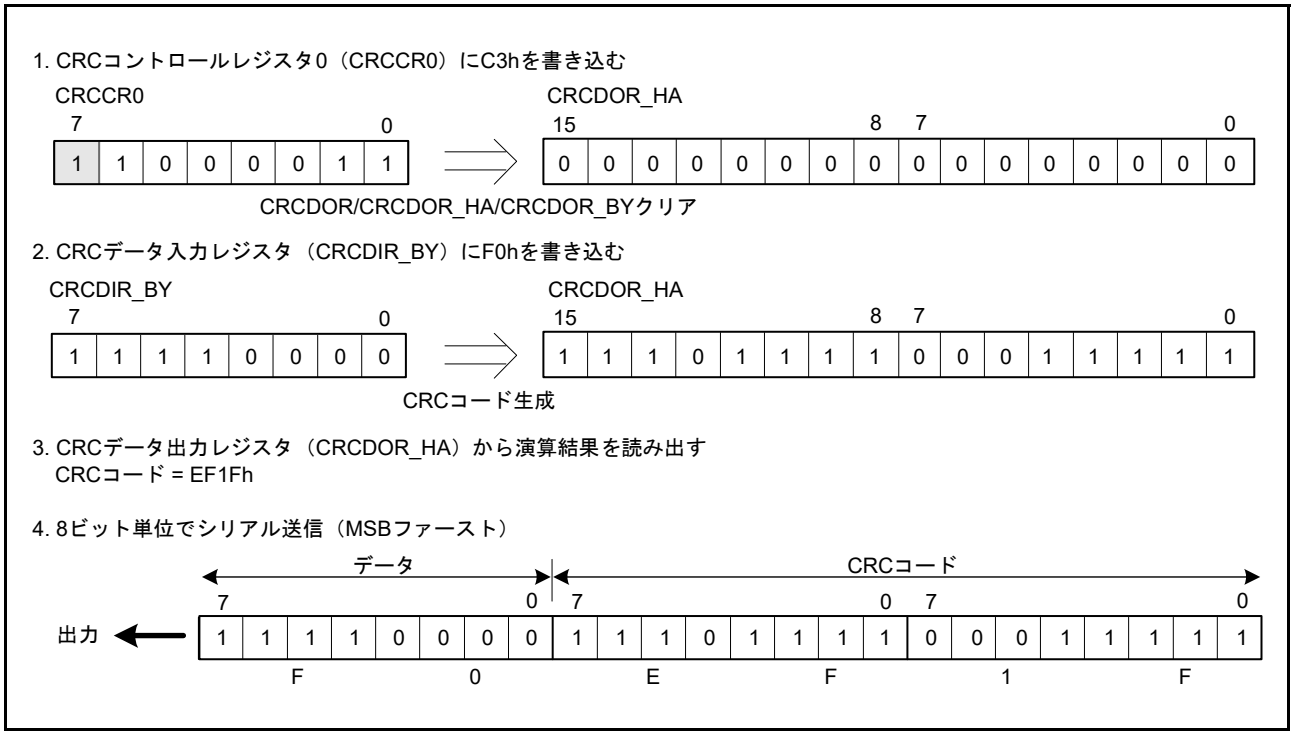


図 36.3　　MSB ファーストのデータ送信

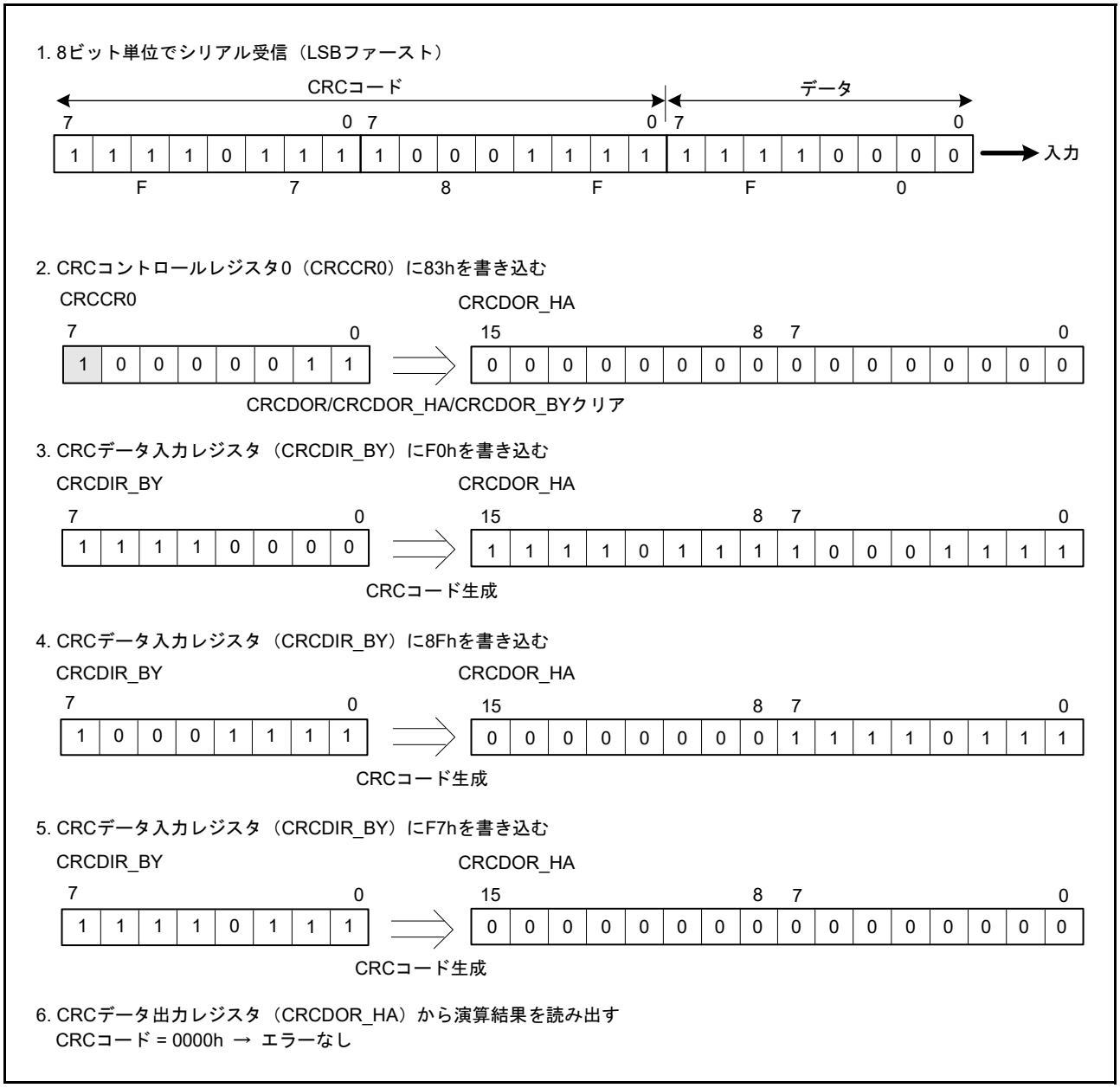


図 36.4 LSB ファーストのデータ受信

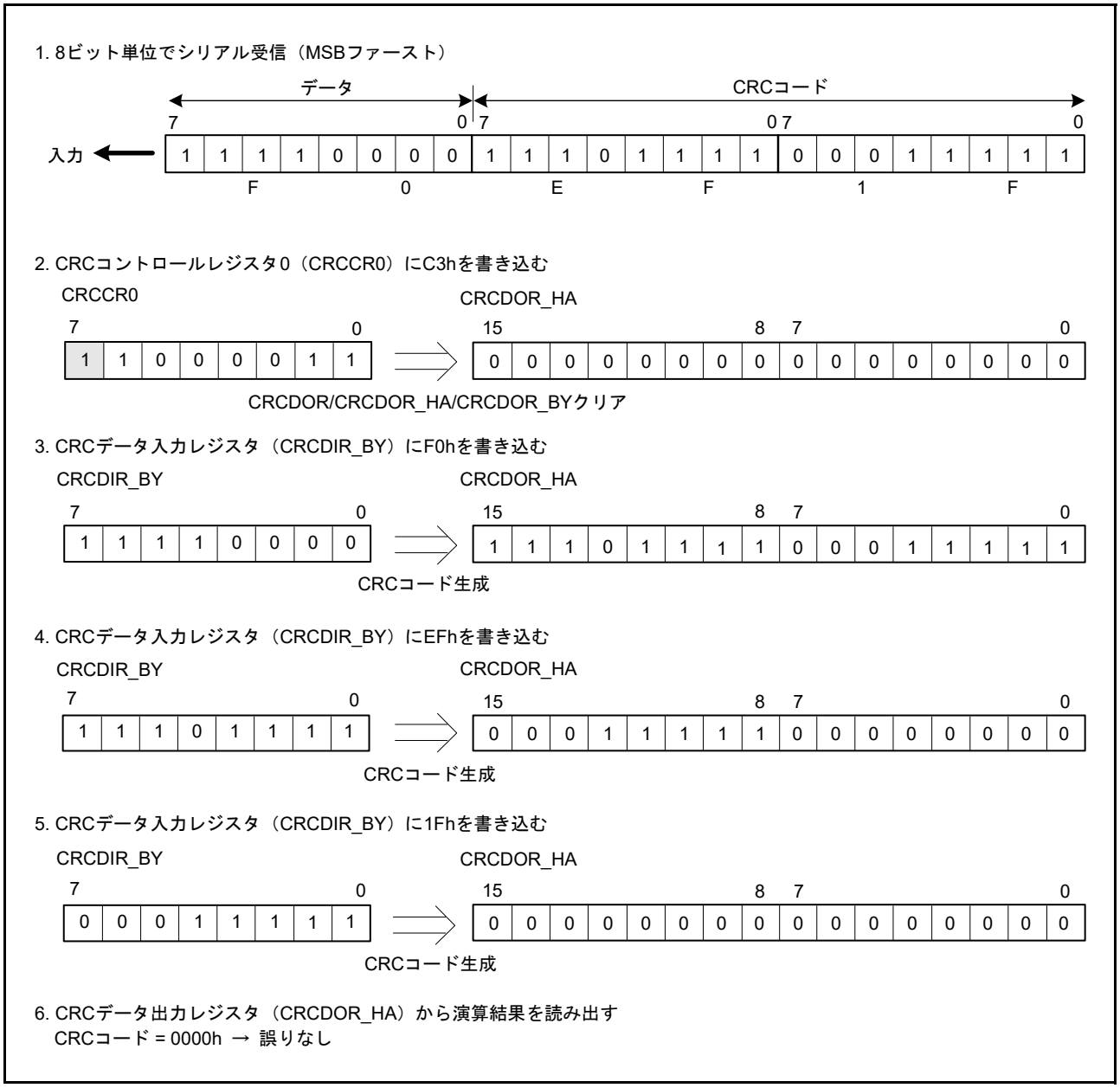


図 36.5　MSB ファーストのデータ受信

36.3.2　CRC スヌープ

CRC スヌープ機能は、特定のレジスタアドレスに対する読み出しと書き込みを監視し、そのレジスタアドレスで読み出しおよび書き込みを行ったデータを用いて自動的に CRC 演算を実行します。CRC スヌープは、特定のレジスタアドレスに対する読み出しと書き込みを、CRC 演算を自動実行するためのトリガとして認識するため、CRCDIR_BY レジスタにデータを書き込む必要がありません。CRC スヌープの対象アドレスは、36.2.5　スヌープアドレスレジスタ（CRCSAR）で指定したすべての I/O レジスタアドレスです。CRC スヌープは、シリアル送信バッファへの書き込みと、シリアル受信バッファからの読み出しの監視に役立ちます。

この機能を使用するには、対象となる I/O レジスタアドレスを CRCSAR レジスタの CRCSA13 ～ CRCSA0 ビットに書き込み、CRCCR1 レジスタの CRCSEN ビットを 1 にします。次に、CRCCR1.CRCSWR ビットを 1 にして、対象アドレスへの書き込みに対してスヌープを有効にするか、あるいは、CRCCR1.CRCSWR ビットを 0 にして、対象アドレスからの読み出しに対してスヌープを有効にします。

CRCSEN ビットと CRCSWR ビットの両方を 1 にして、バスマスタモジュール（CPU、DMAC、DTC など）の対象となる I/O レジスタアドレスにデータを書き込むと、CRC 演算器はそのデータを CRCDIR_BY レジスタに格納して CRC 演算を実行します。同様に、CRCSEN ビットを 1、CRCSWR ビットを 0 にして、バスマスタモジュール（CPU、DMAC、DTC など）の対象となる I/O レジスタアドレスからデータを読み出すと、CRC 演算器はそのデータを CRCDIR_BY レジスタに格納して CRC 演算を実行します。

一度に 1 バイトの CRC 演算が実行されます。対象となる I/O レジスタアドレスに対してワード（16 ビット）またはロングワード（32 ビット）でアクセスすると、データの下位バイト（1 バイト）に CRC コードが生成されます。

36.4　使用上の注意事項

36.4.1　モジュールストップ状態の設定

モジュールストップコントロールレジスタ C（MSTPCRC）によって、CRC 演算器の動作を禁止または許可することが可能です。リセット後の初期状態では、CRC 演算器の動作は停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は、「11.　低消費電力モード」を参照してください。

36.4.2　送信時の注意事項

LSB ファーストで送信する場合と、MSB ファーストで送信する場合とでは、CRC コードの送信順序が異なります。図 36.6 に LSB ファーストと MSB ファーストのデータ送信を示します。

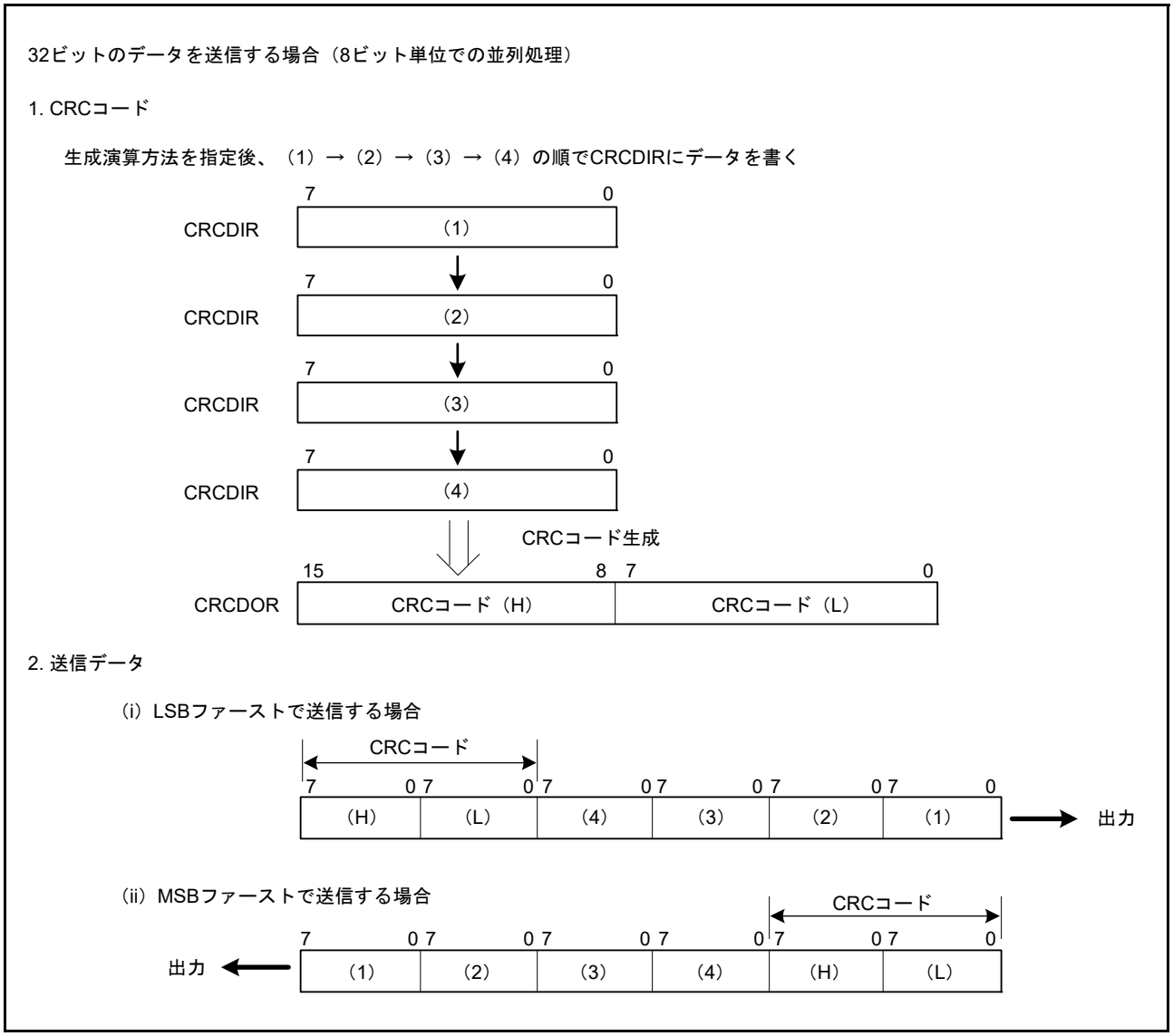


図 36.6　LSB ファーストと MSB ファーストのデータ送信

37.　拡張シリアルサウンドインタフェース（SSIE）

37.1　概要

拡張シリアルサウンドインタフェース（SSIE）は、I²S、モノラル、およびTDMなどの異なるオーディオデータフォーマットをサポートするさまざまなデバイス間でオーディオデータの送受信を可能にします。

表 37.1 にSSIEの仕様を、表 37.2 に通信フォーマット用語の定義を示します。図 37.1 に通信フォーマットを、図 37.2 にブロック図を、そして図 37.3 にクロック構成を示します。

表 37.1　SSIEの特徴

項目		内容
チャネル数		1チャネル（SSIE0）
通信モード		• マスタ／スレーブ • 送信／受信（全二重通信）
通信フォーマット		• I²Sフォーマット • モノラルフォーマット • TDMフォーマット
シリアルデータ		• MSBファースト • データは左詰めまたは右詰めに選択が可能 • SSILRCK/SSIFSからSSITXD0/SSIRXD0までの期間について、データ遅延（1クロックサイクル）、または遅延なしの選択が可能 • システムワード長：8、16、24、32、48、64、128、または256ビット • データワード長：8、16、18、20、22、24、または32ビット • パディング極性：Low/High
ビットクロック（SSIBCK）	マスタモード時	• 2種類のクロックソース：AUDIO_CLK、GTIOC1A（GPT出力） • クロックソース分周比：1/1、1/2、1/4、1/6、1/8、1/12、1/16、1/24、1/32、1/48、1/64、1/96、および1/128 • 通信が停止しているとき、供給／停止の選択が可能
	マスタ／スレーブモード時	• 極性（立ち上がりエッジまたは立ち下がりエッジ）の選択が可能
LRクロック／フレーム同期（SSILRCK/SSIFS）	マスタモード時	• 極性（Low/High）の選択が可能 • 通信が停止しているとき、供給／停止の選択が可能
送信データ（SSITXD0）および受信データ（SSIRXD0）	送信	• ミュート方式（送信FIFOデータまたは0固定データの送信）の選択が可能
FIFO	容量	• 送信FIFO／受信FIFO：4バイト×32段
	データアライメント	• FIFOとシフトレジスタ間でのデータ転送について、データアライメント方式（左詰めまたは右詰め）の選択が可能
割り込み	割り込み出力	• 通信エラー／アイドルモード • 受信データフル • 送信データエンプティ
低消費電力機能		• マスタモード時、オーディオクロック供給の有無の選択が可能
モジュールストップ機能		• モジュールストップ状態に設定して消費電力を削減

表 37.2　用語の定義

用語	定義
開始トリガ	LRCKPで指定した値に設定し通信可能にしたときの、SSILRCK/SSIFS端子信号の1つ目のエッジ
フレーム境界	SSIEで、フレームの先頭データの転送を開始した時点、または、最終データの転送を終了した時点
フレームワード数	フレームごとのサウンドチャネルの数
システムワード長	チャネルごとのビット数
データワード長	チャネルごとの有効ビット数

表 37.2　用語の定義

用語	定義
通信フォーマットに関する制御ビット	• SSICR レジスタ：FRM、DWL、SWL、LRCKP、SPDP、SDTA、PDTA、およびDEL ビット • SSIFCR レジスタ：BSW ビット • SSIOFR レジスタ：OMOD ビット • SSISCR レジスタ：TDES[4:0]およびRDFS[4:0]ビット

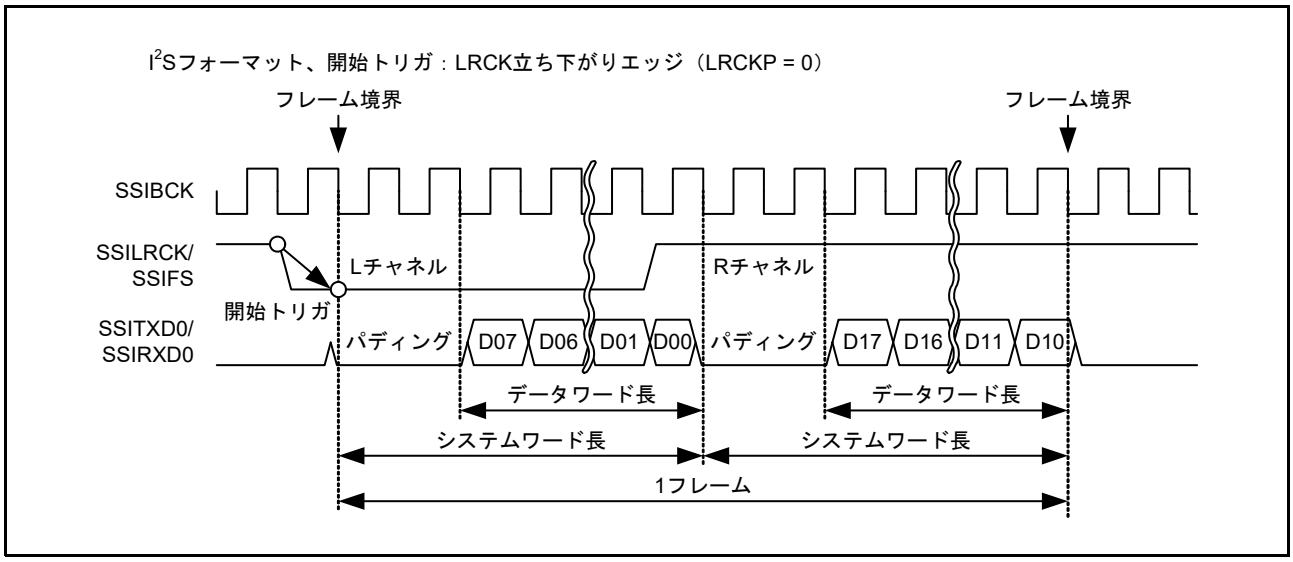


図 37.1　SSIE 通信フォーマット

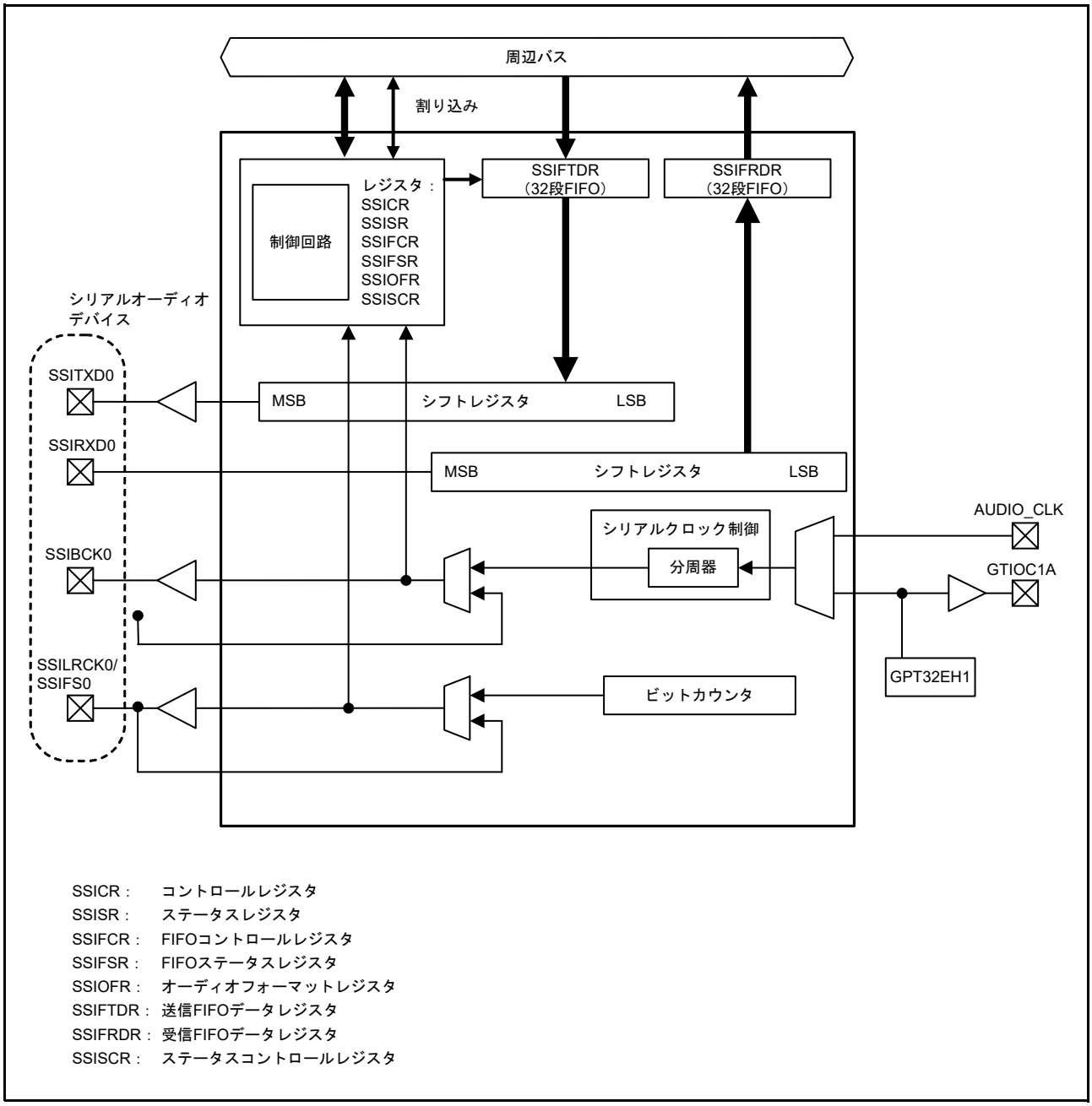


図 37.2　全二重通信の SSIE ブロック図（SSIE0）

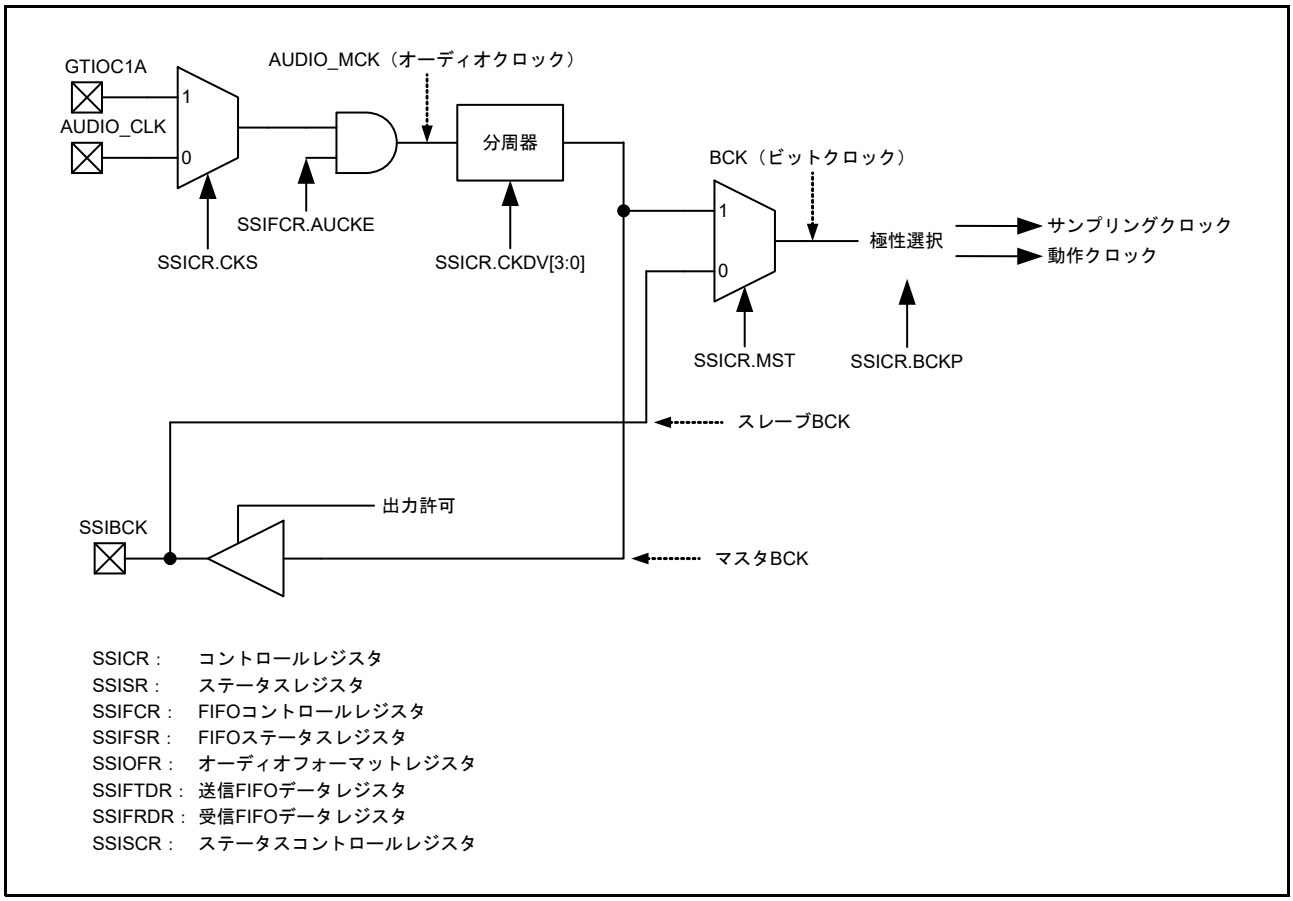


図 37.3 SSIE クロック構成

37.2　レジスタの説明

37.2.1　コントロールレジスタ（SSICR）

アドレス　SSIE0.SSICR4004 E000h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	CKS	TUIEN	TOIEN	RUIEN	ROIEN	IIEN	—	FRM[1:0]		DWL[2:0]			SWL[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	MST	BCKP	LRCKP	SPDP	SDTA	PDTA	DEL	CKDV[3:0]				MUEN	—	TEN	REN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	REN	送受信許可（注2）	b1 b0 0 0：送受信禁止 0 1：受信許可（受信開始） 1 0：送信許可（送信開始） 1 1：送受信許可（送受信開始）	R/W
b1	TEN			
b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b3	MUEN	ミュート許可	0：次のフレーム境界でミュート禁止 1：次のフレーム境界でミュート許可	R/W
b7-b4	CKDV[3:0]	ビットクロック分周比選択（注1）	b7 b6 b5 b4 0 0 0 0：AUDIO_MCK 0 0 0 1：AUDIO_MCK/2 0 0 1 0：AUDIO_MCK/4 0 0 1 1：AUDIO_MCK/8 0 1 0 0：AUDIO_MCK/16 0 1 0 1：AUDIO_MCK/32 0 1 1 0：AUDIO_MCK/64 0 1 1 1：AUDIO_MCK/128 1 0 0 0：AUDIO_MCK/6 1 0 0 1：AUDIO_MCK/12 1 0 1 0：AUDIO_MCK/24 1 0 1 1：AUDIO_MCK/48 1 1 0 0：AUDIO_MCK/96 1 1 0 1：設定禁止 1 1 1 0：設定禁止 1 1 1 1：設定禁止	R/W
b8	DEL	シリアルデータディレイ選択（注1）	0：SSILRCK/SSIFSとSSITXD0/SSIRXD0の間に、SSIBCKの1サイクル分の遅延あり 1：SSILRCK/SSIFSとSSITXD0/SSIRXD0の間に遅延なし モノラルフォーマットでは、SSILRCK/SSIFSの波形を制御します。 詳細は、37.3.2　モノラルフォーマットを参照してください。	R/W
b9	PDTA	配置データアライメント選択（注1）	0：データ（SSIFTDR、SSIFRDR）を左詰めに配置 1：データ（SSIFTDR、SSIFRDR）を右詰めに配置	R/W
b10	SDTA	シリアルデータアライメント選択（注1）	0：シリアルデータ、パディングビットの順に送受信 1：パディングビット、シリアルデータの順に送受信	R/W
b11	SPDP	シリアルパディング極性選択（注1）	0：パディングデータはLow 1：パディングデータはHigh	R/W
b12	LRCKP	LRクロック／フレーム同期信号の初期値と極性選択（注1）	0：初期値はHigh フレームの開始トリガは、SSILRCK/SSIFSの立ち下がりエッジに同期します。 1：初期値はLow フレームの開始トリガは、SSILRCK/SSIFSの立ち上がりエッジに同期します。	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b13	BCKP	ビットクロック極性選択（注1）	0：SSILRCK/SSIFSとSSITXD0/SSIRXD0は、立ち下がりエッジで変化（SSILRCK/SSIFSとSSIRXD0は、SSIBCKの立ち上がりエッジでサンプリング） 1：SSILRCK/SSIFSとSSITXD0/SSIRXD0は、立ち上がりエッジで変化（SSILRCK/SSIFSとSSIRXD0は、SSIBCKの立ち下がりエッジでサンプリング）	R/W
b14	MST	マスタ有効（注1）	0：スレーブモード通信 1：マスタモード通信	R/W
b15	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b18-b16	SWL[2:0]	システムワード長選択（注1）	b18 b17 b16 0 0 0：8ビット 0 0 1：16ビット 0 1 0：24ビット 0 1 1：32ビット 1 0 0：48ビット 1 0 1：64ビット 1 1 0：128ビット 1 1 1：256ビット	R/W
b21-b19	DWL[2:0]	データワード長選択（注1）	b21 b20 b19 0 0 0：8ビット 0 0 1：16ビット 0 1 0：18ビット 0 1 1：20ビット 1 0 0：22ビット 1 0 1：24ビット 1 1 0：32ビット 1 1 1：設定禁止	R/W
b23-b22	FRM[1:0]	フレームワード数選択（注1）	通信フォーマット（SSIOFR.OMOD[1:0]） FRM[1:0] / I²S（00b） / モノラル（10b） / TDM（01b） 00b / 2 / 1 / 設定禁止 01b / 設定禁止 / 設定禁止 / 4 10b / 6 11B / 8	R/W
b24	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b25	IIEN	アイドルモード割り込み出力許可	0：アイドルモード割り込み出力禁止 1：アイドルモード割り込み出力許可	R/W
b26	ROIEN	受信オーバーフロー割り込み出力許可	0：受信オーバーフロー割り込み出力禁止 1：受信オーバーフロー割り込み出力許可	R/W
b27	RUIEN	受信アンダーフロー割り込み出力許可	0：受信アンダーフロー割り込み出力禁止 1：受信アンダーフロー割り込み出力許可	R/W
b28	TOIEN	送信オーバーフロー割り込み出力許可	0：送信オーバーフロー割り込み出力禁止 1：送信オーバーフロー割り込み出力許可	R/W
b29	TUIEN	送信アンダーフロー割り込み出力許可	0：送信アンダーフロー割り込み出力禁止 1：送信アンダーフロー割り込み出力許可	R/W
b30	CKS	マスタモード通信のオーディオクロック選択（注1）	0：AUDIO_CLK入力選択 1：GTIOC1A（GPT出力）選択	R/W
b31	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　SSIE が通信状態（SSISR.IIRQ = 0）のとき、本ビットへ書き込みしないでください。ビットを書き換えた場合、変更後の動作は予測できません。

注 2.　TEN ビットまたは REN ビットを書き換えた場合、SSISR.IIRQ ビットが目的の状態になっていることを確認してください。ビットを書き換えた場合、変更直後の動作は予測できません。たとえば、送信または受信許可の場合は SSISR.IIRQ が 0、送信または受信禁止の場合は SSISR.IIRQ が 1 であることを確認してください。

SSICR レジスタで、オーディオクロック、割り込み要求の制御、データフォーマット、および動作モードを選択します。

TEN ビット、REN ビット（送受信許可）

送信および受信を許可または禁止します。いずれかのビットに 1 を書いたとき、SSILRCK/SSIFS 信号の開始トリガと同期して、対応する通信動作を開始します。詳細は、37.6.2　送信～ 37.6.4　送信および受信を参照してください。0 を書いたときは、次のフレーム境界で、通信中の動作を停止します。送信と受信の両方で SSIE を使用するには、TEN ビットと REN ビットの両方に同時に 1 を書いてください。SSIE での通信を停止するときは、常に TEN ビットと REN ビットに 0 を書き込んで、送信と受信の両方を禁止してください。フレーム境界まで達する前に SSIE を停止する場合は、ソフトウェアリセットを実行してください。

MUEN ビット（ミュート許可）

SSITXD0 端子からの出力データのミュート機能を有効または無効にします。フレームの中間部分で本ビットを 1 にすると、SSITXD0 出力は、次のフレーム境界で 0 に変わります。フレームの中間部分で本ビットを 0 にすると、SSITXD0 出力は、次のフレーム境界で送信 FIFO データレジスタのデータに変わります。MUEN ビットは、データに対してのみ制御を行います。ステータスフラグと割り込み信号は、通常通りに生成されます。

MUEN ビットは、使用する通信フォーマットを設定してから変更するようにしてください。

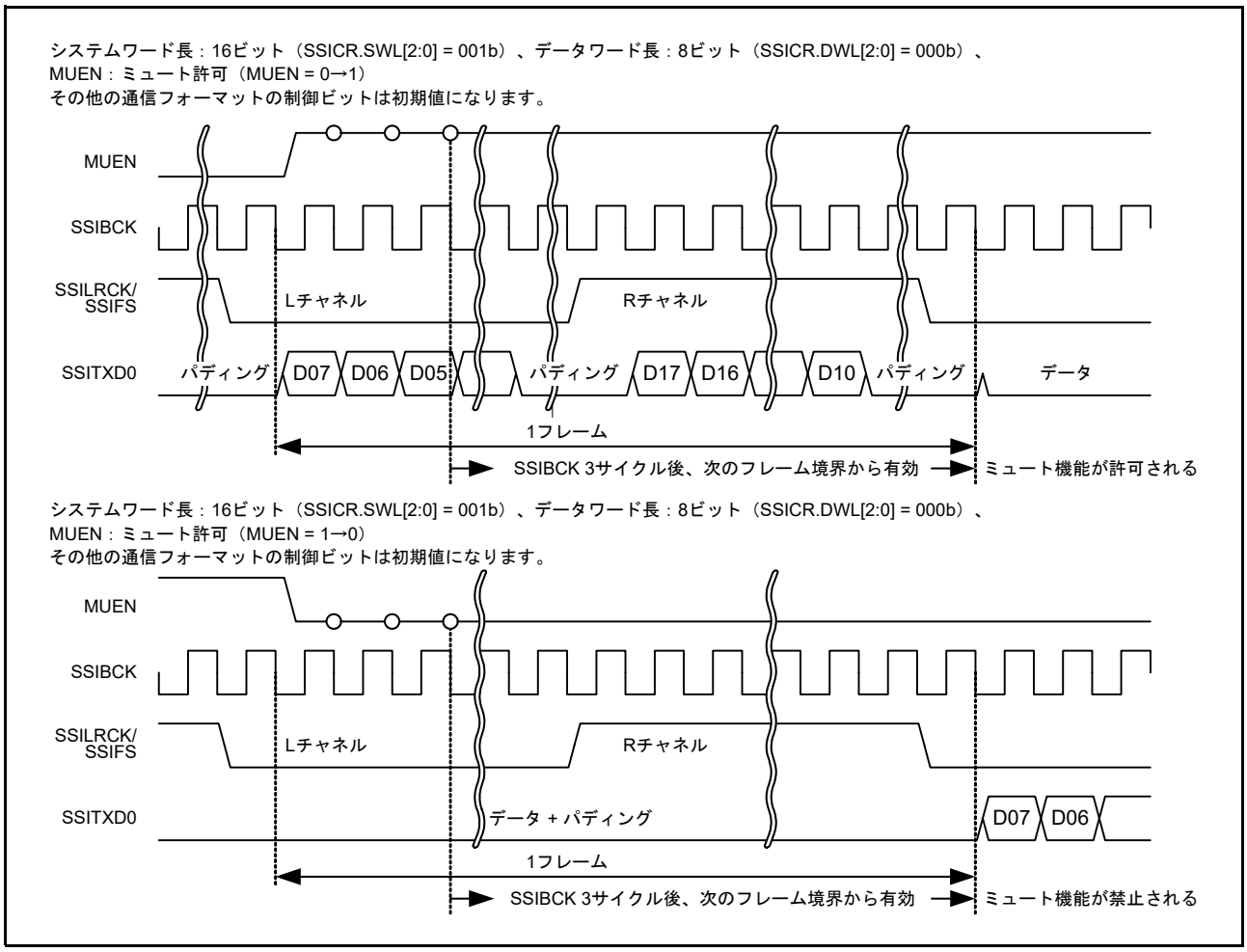


図 37.4　　ミュート機能設定時の送信データ

CKDV[3:0] ビット（ビットクロック分周比選択）

マスタモード通信（MST = 1）で、ビットクロック分周比を AUDIO_MCK に基づいて設定します。スレーブモード通信（MST = 0）では、本ビットに設定しても無効です。

AUDIO_MCK 供給が停止しているときに、本ビットへ書き込んでください。設定するタイミングの詳細は、SSIFCR の AUCKE ビットについての説明を参照してください。

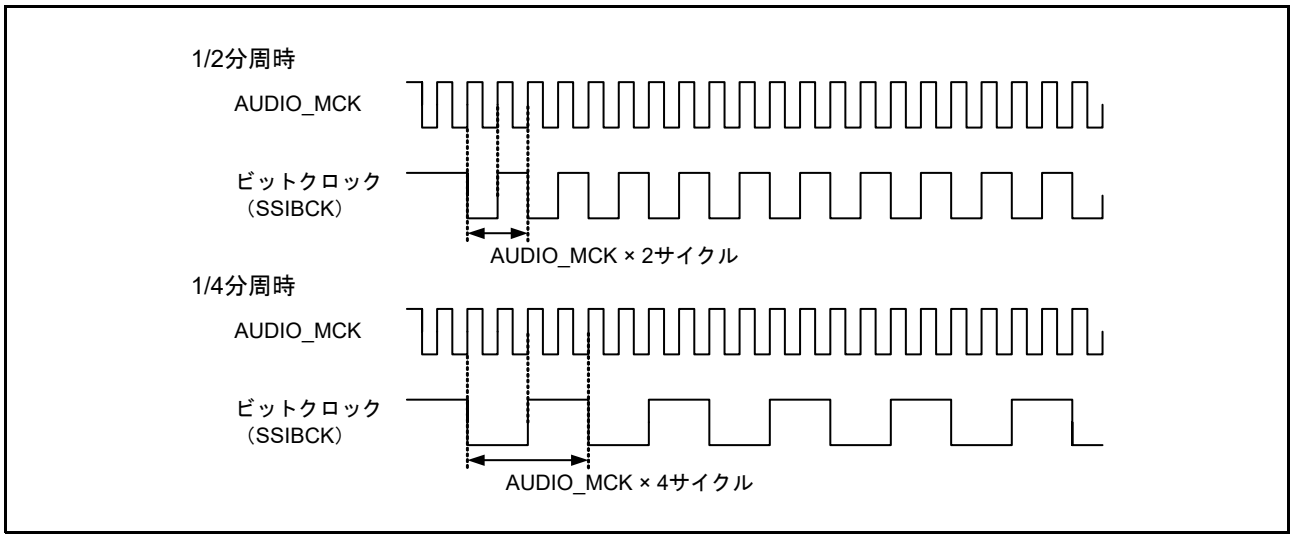


図 37.5　　マスタモード通信時のサンプリング周波数

DEL ビット（シリアルデータディレイ選択）

SSILRCK/SSIFS と SSITXD0/SSIRXD0 の間の、遅延の有無を設定します。

I²S または TDM フォーマットでは、DEL ビットは 0 にしてください。モノラルフォーマットの場合、本ビットを設定すると、SSILRCK/SSIFS の High 期間幅が変わります。詳細は、37.3.2　モノラルフォーマットを参照してください。互換性がある通信フォーマットの場合、通信が有効になるように本ビットを指定してください。

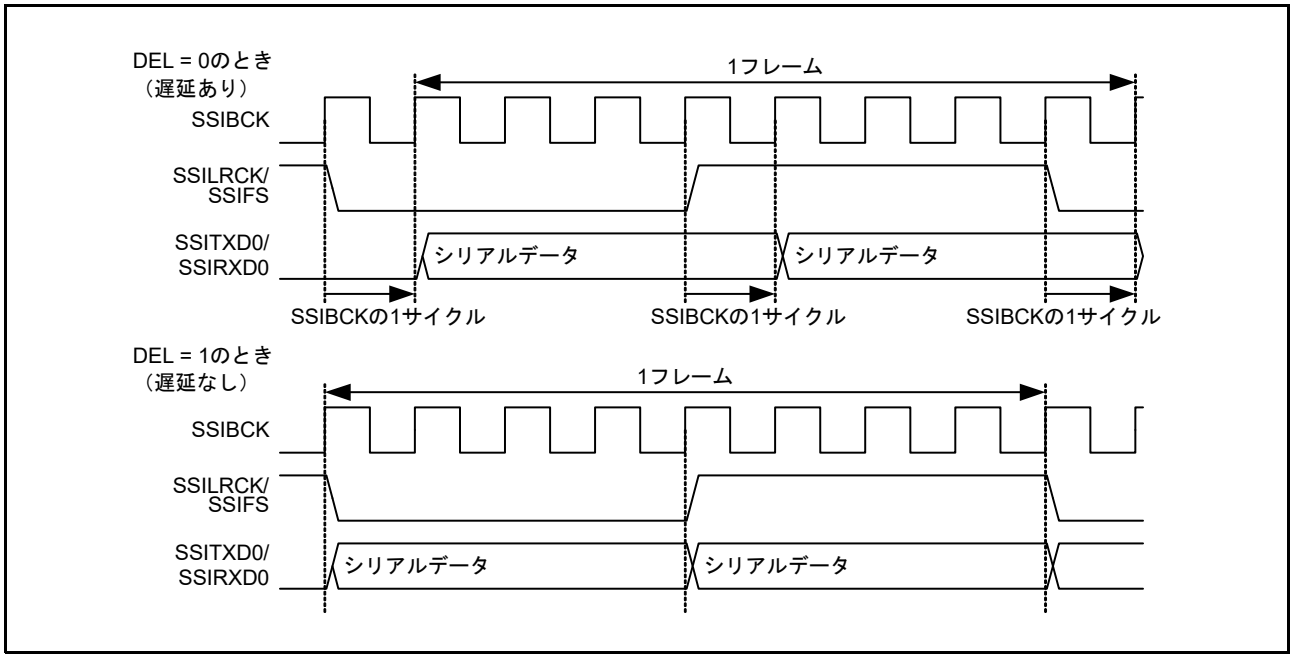


図 37.6　　シリアルデータディレイの設定

PDTA ビット（配置データアライメント選択）

配置データのアライメントを設定します。データワード長が 32 ビット（SSICR.DWL[2:0] = 110b）の設定では、PDTA ビットは無効です。送信するときは図 37.7 を参照してください。

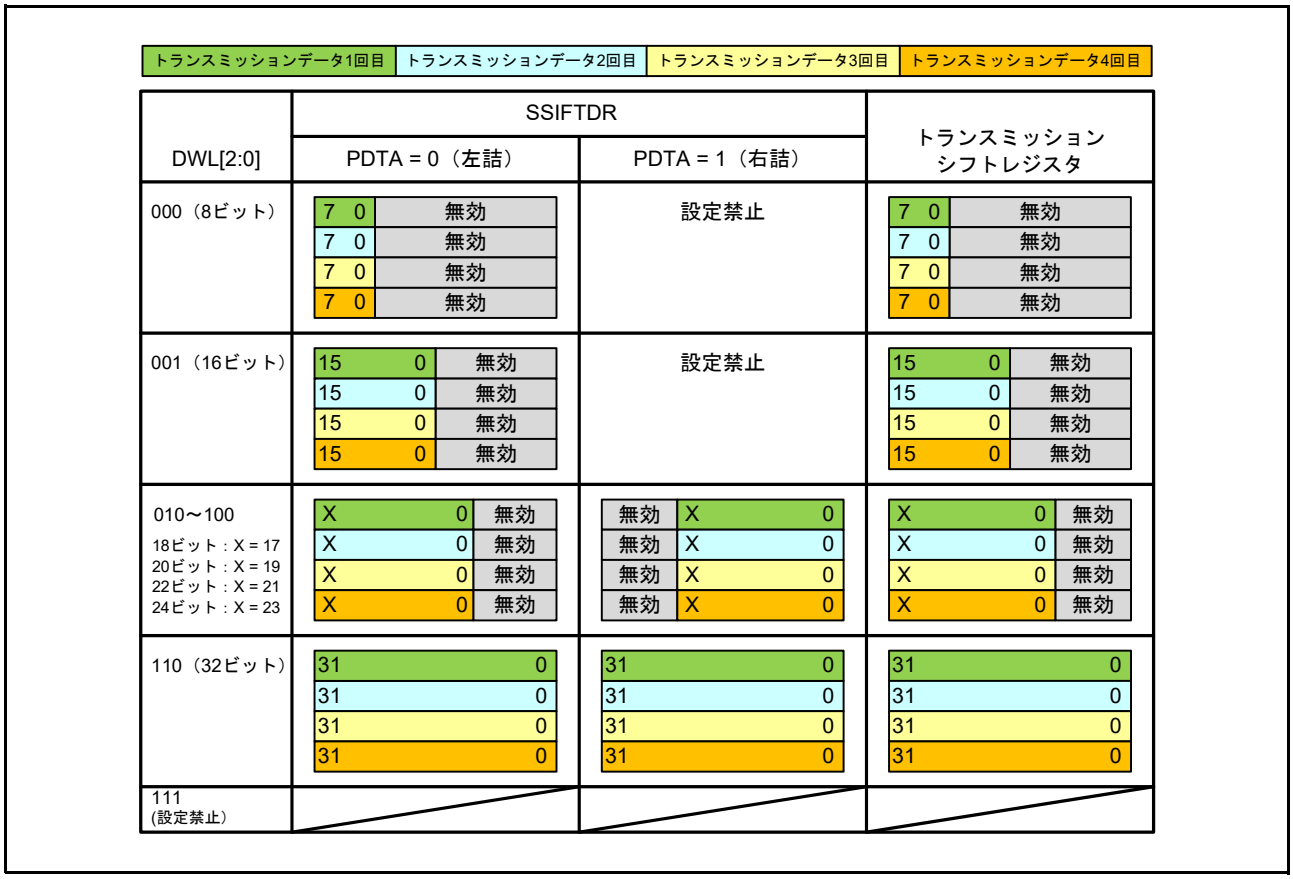


図 37.7　　送信時の配置データのアライメント

受信するときは図 37.8 を参照してください。

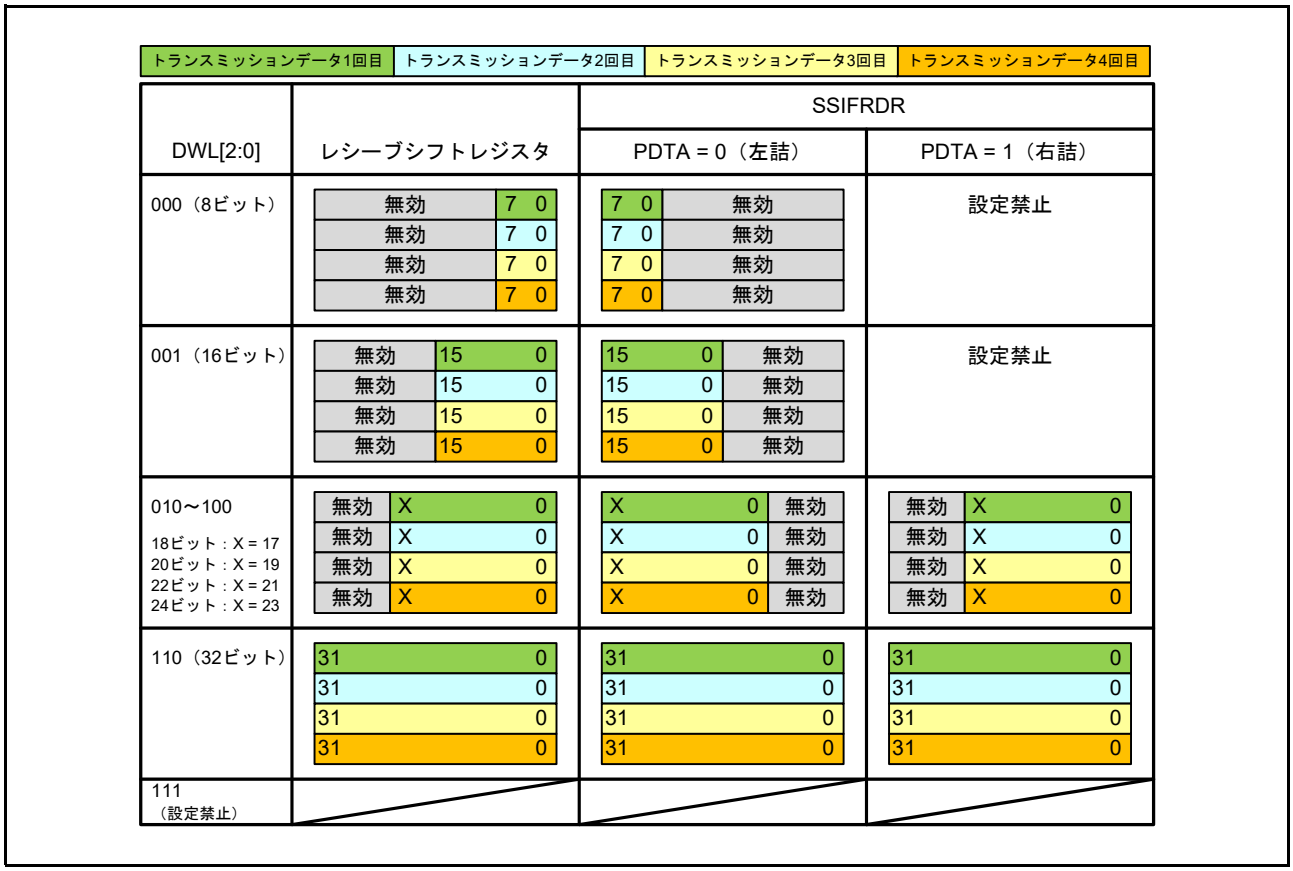


図 37.8　　受信時の配置データのアライメント

SDTA ビット（シリアルデータディレイ選択）

シリアルデータとパディングビットの調整方法を設定します。パディングビットのない通信では、本ビットは無効です。

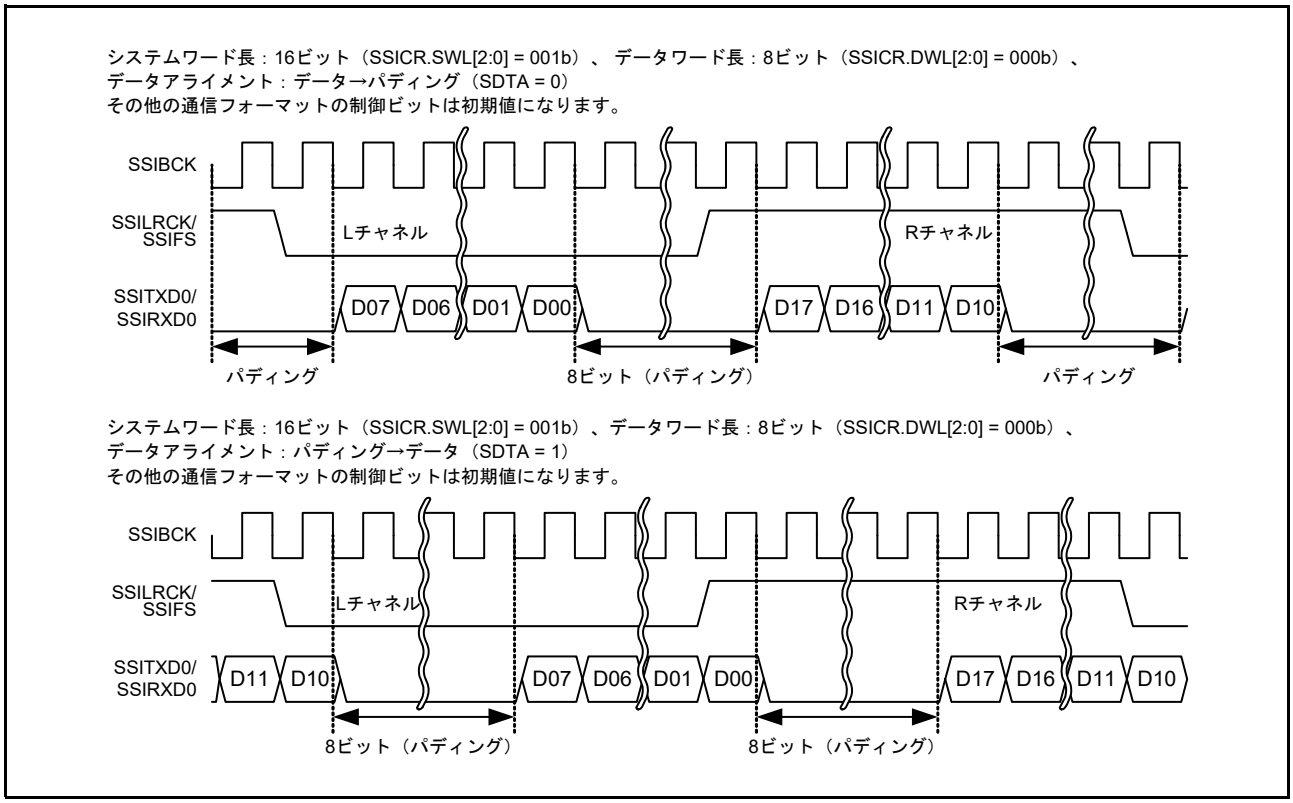


図 37.9　パディングビットのあるシリアルデータのアライメント設定

SPDP ビット（シリアルパディング極性選択）

パディングビットの極性を設定します。

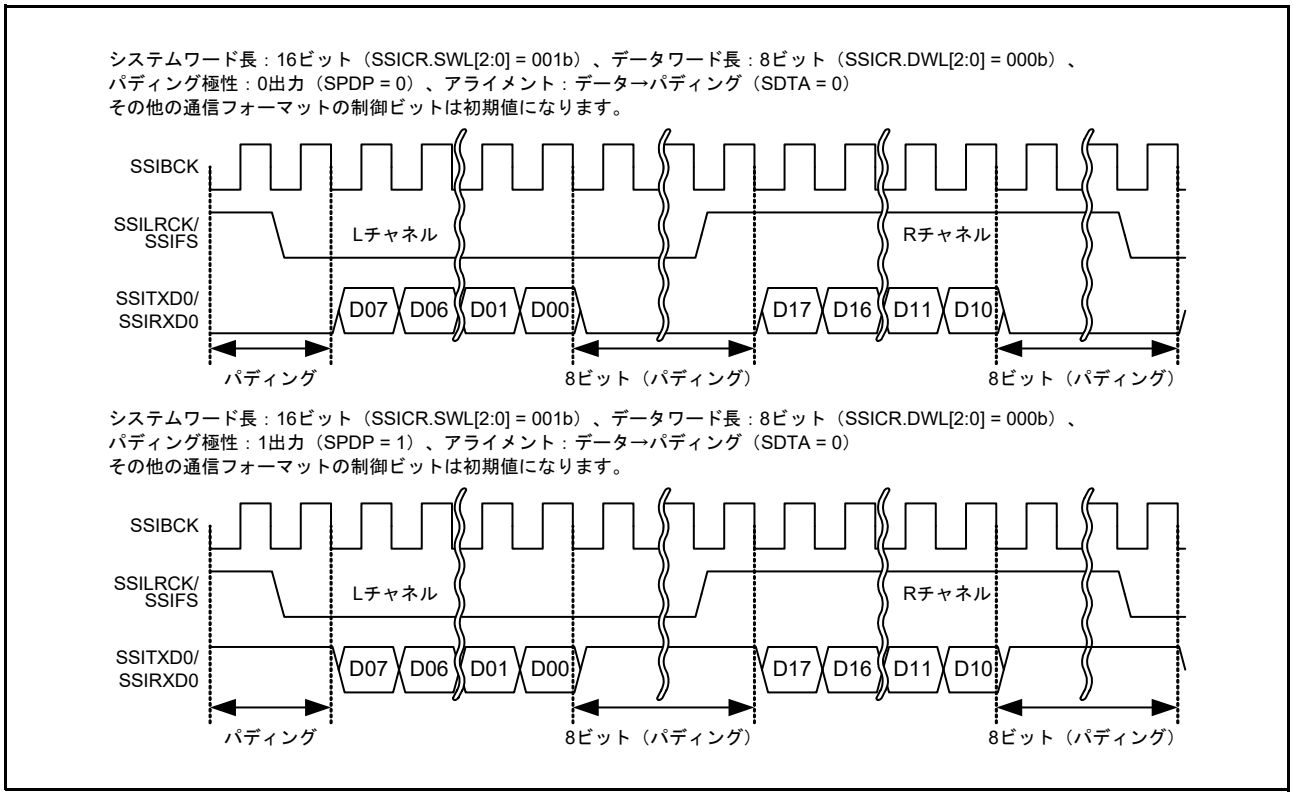


図 37.10　　パディングビット極性

LRCKP ビット（LR クロック／フレーム同期信号の初期値と極性選択）

SSILRCK/SSIFS の初期値および極性を設定します。SSIE で使用する通信フォーマットに従って設定してください。表 37.3　SSILRCK/SSIFS 端子の初期出力値と極性を参照してください。スレーブモード通信（MST = 0）では、開始トリガのみ使用します。

SSILRCK/SSIFS 端子への LR クロック供給が停止しているときに、本ビットへ書き込んでください。LR クロック出力の詳細は、37.2.7　オーディオフォーマットレジスタ（SSIOFR）の LRCONT ビットについての説明を参照してください。

表 37.3　　SSILRCK/SSIFS端子の初期出力値と極性

通信フォーマット	期待初期状態	LRCKPの設定値
I²S	High	0
モノラル	Low	1
TDM	Low	1

注 .　I²S、モノラル、または TDM のフォーマット間で互換性のある通信フォーマットを使用する場合、各フォーマットでの通信が有効になるようにビットを指定してください。

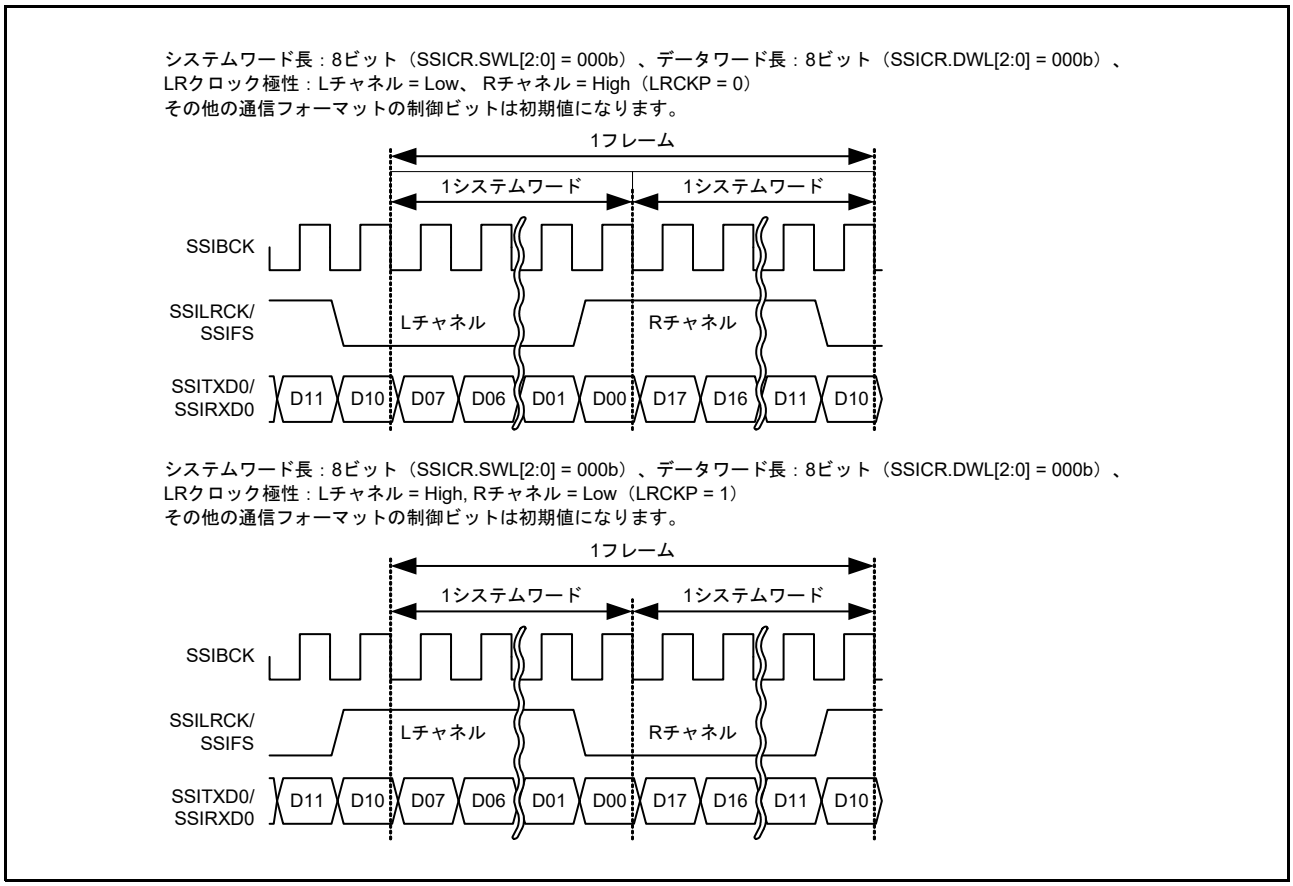


図 37.11　　LR クロック／フレーム同期極性設定

BCKP ビット（ビットクロック極性選択）

ビットクロック極性を設定します。

AUDIO_MCK 供給が停止しているときに、本ビットへ書き込んでください。設定するタイミングの詳細は、37.2.3　FIFO コントロールレジスタ（SSIFCR）の AUCKE ビットについての説明を参照してください。

表 37.4　　ビットクロック極性

通信状態	マスタ／スレーブ	タイミング	BCKP = 0	BCKP = 1
受信	スレーブ	SSILRCK/SSIFSサンプリング時	SSIBCK立ち上がりエッジ	SSIBCK立ち下がりエッジ
	マスタ／スレーブ	SSIRXD0サンプリング時	SSIBCK立ち上がりエッジ	SSIBCK立ち下がりエッジ
送信	マスタ	SSILRCK/SSIFS出力の変化時	SSIBCK立ち下がりエッジ	SSIBCK立ち上がりエッジ
	マスタ／スレーブ	SSITXD0出力の変化時	SSIBCK立ち下がりエッジ	SSIBCK立ち上がりエッジ

MST ビット（マスタ有効）

マスタ／スレーブモード通信を設定します。

AUDIO_MCK 供給が停止しているときに、本ビットへ書き込んでください。設定するタイミングの詳細は、37.2.3　FIFO コントロールレジスタ（SSIFCR）の AUCKE ビットについての説明を参照してください。

SWL[2:0] ビット（システムワード長選択）

1 つのシステムワードでのビット数を設定します。パディングビットが、DWL[2:0] で設定したデータワード 1 つごとに送受信されます。詳細は、表 37.11 を参照してください。

SSILRCK/SSIFS 端子への LR クロック供給が停止しているときに、本ビットへ書き込んでください。LR クロック出力の詳細は、37.2.7　オーディオフォーマットレジスタ（SSIOFR）の LRCONT ビットについての説明を参照してください。

DWL[2:0] ビット（データワード長選択）

1 つのデータワードのビット数を設定します。データワード長（データワードごとのビット数）は、システムワード長（システムワードごとのビット数）を超えないようにしてください。詳細は、表 37.11 を参照してください。

FRM[1:0] ビット（フレームワード数選択）

各通信フォーマットでのフレームワード数を設定します。SSILRCK/SSIFS 端子への LR クロック供給が停止しているときに、本ビットへ書き込んでください。LR クロック出力の詳細は、37.2.7　オーディオフォーマットレジスタ（SSIOFR）の LRCONT ビットについての説明を参照してください。

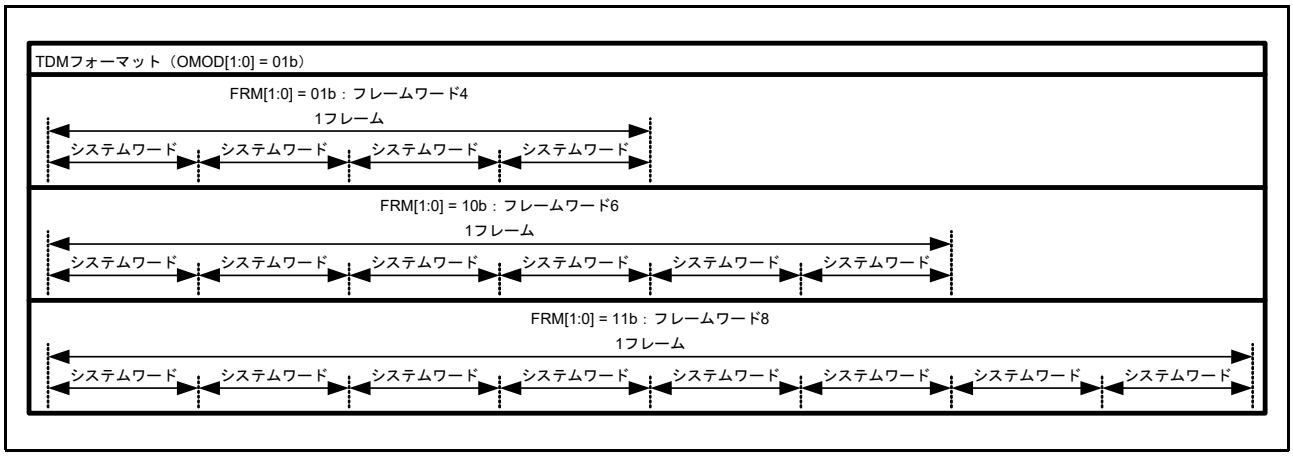


図 37.12　　フレームワード数

IIEN ビット（アイドルモード割り込み出力許可）

アイドルモード割り込み出力を許可／禁止します。本ビットを有効にする（1 にする）と、SSISR.IIRQ = 1 の立ち上がりエッジで割り込みを出力します。SSISR.IIRQ = 1 のときに本ビットを 0 から 1 へ変更した場合も、割り込みを出力します。

ROIEN ビット（受信オーバーフロー割り込み出力許可）

受信オーバーフロー割り込み出力を許可／禁止します。本ビットを有効にする（1 にする）と、SSISR.ROIRQ = 1 の立ち上がりエッジで割り込みを出力します。SSISR.ROIRQ = 1 のときに本ビットを 0 から 1 へ変更した場合も、割り込みを出力します。

RUIEN ビット（受信アンダーフロー割り込み出力許可）

受信アンダーフロー割り込み出力を許可／禁止します。本ビットを有効にする（1 にする）と、SSISR.RUIRQ = 1 の立ち上がりエッジで割り込みを出力します。SSISR.RUIRQ = 1 のときに本ビットを 0 から 1 へ変更した場合も、割り込みを出力します。

TOIEN ビット（送信オーバーフロー割り込み出力許可）

送信オーバーフロー割り込み出力を許可／禁止します。本ビットを有効にする（1 にする）と、SSISR.TOIRQ = 1 の立ち上がりエッジで割り込みを出力します。SSISR.TOIRQ = 1 のときに本ビットを 0 から 1 へ変更した場合も、割り込みを出力します。

TUIEN ビット（送信アンダーフロー割り込み出力許可）

送信アンダーフロー割り込み出力を許可／禁止します。本ビットを有効にする（1 にする）と、SSISR.TUIRQ = 1 の立ち上がりエッジで割り込みを出力します。SSISR.TUIRQ = 1 のときに本ビットを 0 から 1 へ変更した場合も、割り込みを出力します。

CKS ビット（マスタモード通信のオーディオクロック選択）

マスタモード通信（MST = 1）で、オーディオクロックを設定します。スレーブモード通信（MST = 0）では、本ビットに設定しても無効です。

AUDIO_MCK 供給が停止しているときに、本ビットへ書き込んでください。設定するタイミングの詳細は、37.2.3　FIFO コントロールレジスタ（SSIFCR）の AUCKE ビットについての説明を参照してください。

37.2.2 ステータスレジスタ（SSISR）

アドレス SSIE0.SSISR4004 E004h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	TUIRQ	TOIRQ	RUIRQ	ROIRQ	IIRQ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b24-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b25	IIRQ	アイドルモードステータスフラグ	0：通信状態 1：アイドル状態	R
b26	ROIRQ	受信オーバーフローエラーステータスフラグ	0：受信オーバーフローエラーの発生なし 1：受信オーバーフローエラーの発生あり	R/W
b27	RUIRQ	受信アンダーフローエラーステータスフラグ	0：受信アンダーフローエラーの発生なし 1：受信アンダーフローエラーの発生あり	R/W
b28	TOIRQ	送信オーバーフローエラーステータスフラグ	0：送信オーバーフローエラーの発生なし 1：送信オーバーフローエラーの発生あり	R/W
b29	TUIRQ	送信アンダーフローエラーステータスフラグ	0：送信アンダーフローエラーの発生なし 1：送信アンダーフローエラーの発生あり	R/W
b31-b30	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

本レジスタは、SSIE の動作状態を示すステータスフラグで構成されます。

IIRQ フラグ（アイドルモードステータスフラグ）

SSIE がアイドル状態にあるか通信状態にあるかを示すステータスフラグです。詳細は、図 37.13、および図 37.14 を参照してください。

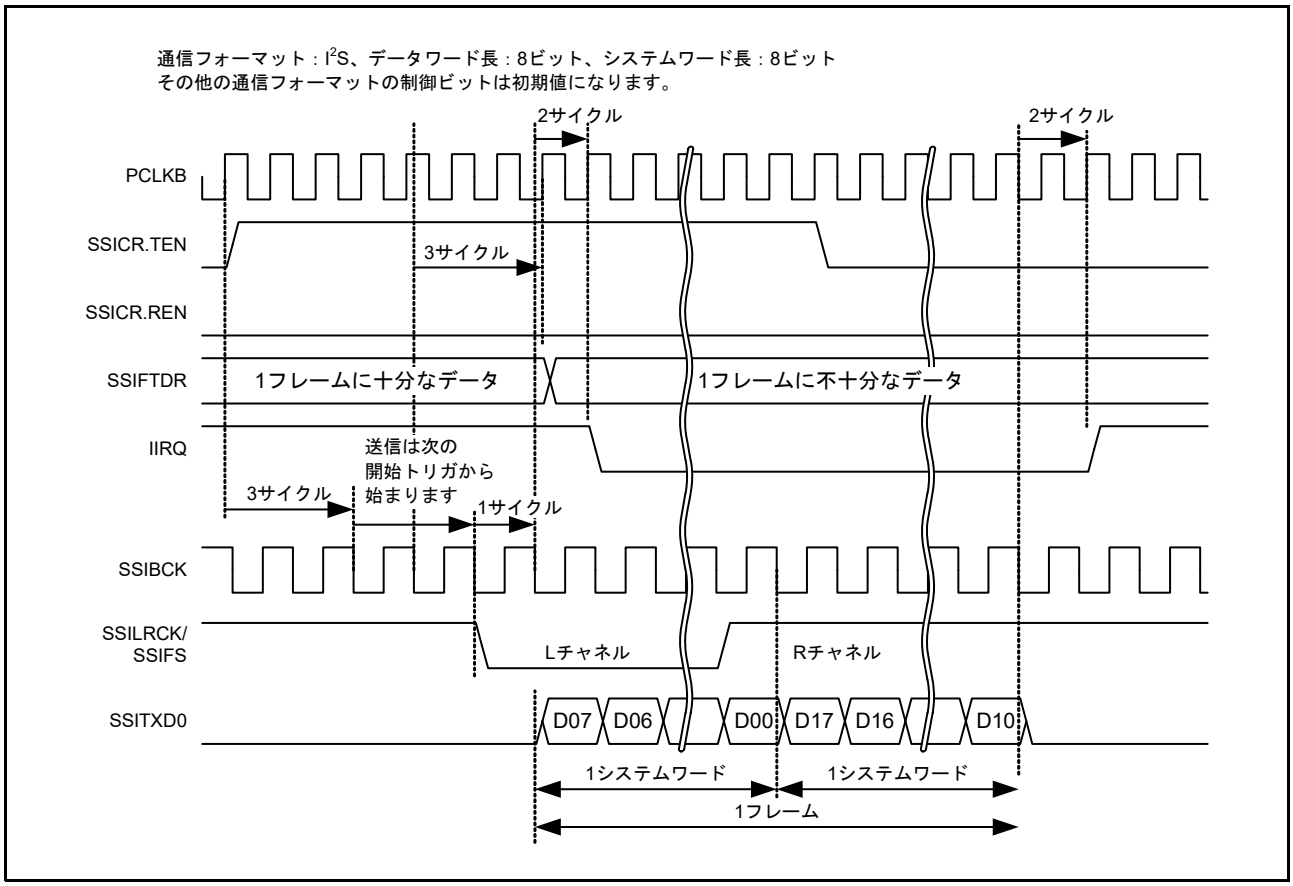


図 37.13　　IIRQ 設定タイミング（送信）

トランスミッタ（送信専用）

［0 になる条件］

- 送信が許可されている場合（SSICR.TEN = 1 かつ SSICR.REN = 0）に、送信フレームの送信データが SSIFTDR レジスタに書き込まれ、開始トリガが SSILRCK/SSIFS 信号によって生成されたとき

［0 になるタイミング］

- 0 になる条件である開始トリガの生成から、「SSIBCK 1 サイクル + PCLKB 2 サイクル」が経過したとき

［1 になる条件］

- 送信と受信が禁止されている場合（SSICR.TEN = 0 かつ SSICR.REN = 0）に、1 つのフレームの送信が完了したとき

［1 になるタイミング］

- 1 になる条件である送信の終了（フレーム境界）から、PCLKB の 2 サイクルが経過したとき

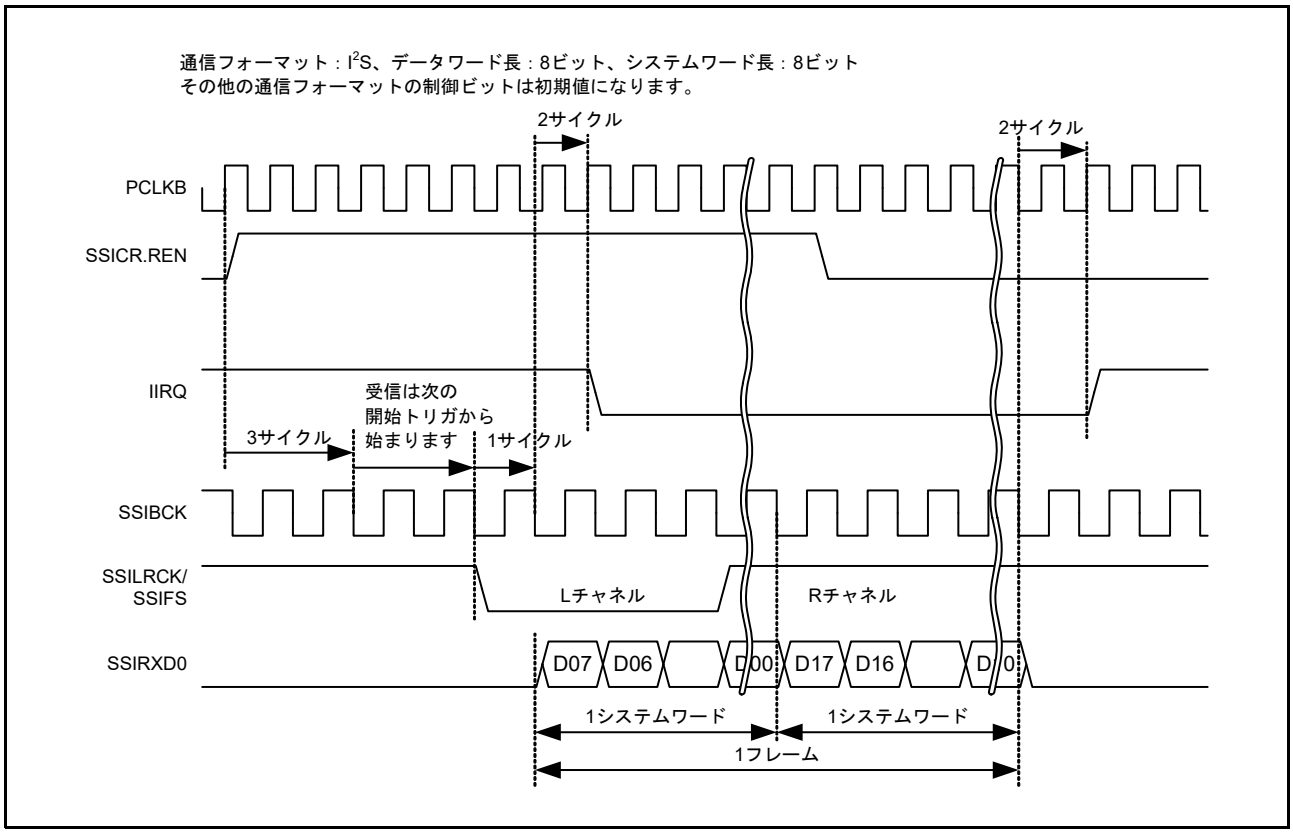


図 37.14　　IIRQ 設定タイミング（受信）

レシーバ（受信専用）

［0 になる条件］

- 受信が許可されている場合（SSICR.TEN = 0 かつ SSICR.REN = 01）に、開始トリガが SSILRCK/SSIFS 信号によって生成されたとき

［0 になるタイミング］

- 0 になる条件である開始トリガの生成から、「SSIBCK 1 サイクル + PCLKB 2 サイクル」が経過したとき

［1 になる条件］

- 送信と受信が禁止されている場合（SSICR.TEN = 0 かつ SSICR.REN = 0）に、1 つのフレームの受信が完了したとき

［1 になるタイミング］

- 1 になる条件である受信の終了（フレーム境界）から、PCLKB の 2 サイクルが経過したとき

トランシーバ（送信および受信）

［0 になる条件］

- 送信と受信が許可されている場合（SSICR.TEN = 1 かつ SSICR.REN = 1）に、送信フレームの送信データが SSIFTDR レジスタに書き込まれ、開始トリガが SSILRCK/SSIFS 信号によって生成されたとき

［0 になるタイミング］

- 0 になる条件である開始トリガの生成から、「SSIBCK 1 サイクル + PCLKB 2 サイクル」が経過したとき

［1 になる条件］

- 送信と受信が禁止されている場合（SSICR.TEN = 0 かつ SSICR.REN = 0）に、1 つのフレームの送信が完了したとき

［1 になるタイミング］

- 1 になる条件である送信の終了（フレーム境界）から、PCLKB の 2 サイクルが経過したとき

ROIRQ フラグ（受信オーバーフローエラーステータスフラグ）

受信オーバーフローエラーを示すステータスフラグです。本フラグは自動判定により設定されますが、レジスタアクセスによるフラグクリアが必要です。要求レートより高いレートで受信データが供給されたことを示します。受信シフトレジスタから、受信オーバーフローエラーが発生した SSIFRDR へは、データは転送されません。オーバーフローエラーから回復する手順は、37.6.6　エラー処理を参照してください。本フラグは、受信 FIFO データレジスタリセット（SSIFCR.RFRST）ではクリアできません。

［1 と 0 の優先順位］

- 1 が優先されます。（注 1）

［0 になる条件］

下記のいずれかの操作を行ったとき

1. 本ビットから 1 を読み出した後に、0 を書き込んだとき（注 2）
2. 通信を許可したとき（SSICR.REN を 0 から 1 に変更）

［0 になるタイミング］

前述の 0 になる条件に対応して 0 になるタイミング

1. 本ビットから 1 を読み出した後に、0 を書き込んだとき（図 37.18 に示すタイミングと同じ）
2. SSICR.REN に 1 を書き込んでから PCLKB の 1 サイクルが経過したとき（注 3）

注 1.　本ビットは、ソフトウェアリセット（SSIFCR.SSIRST = 1）によってクリアします。ソフトウェアリセットは、前述したすべての 0 になる条件より優先されます。

注 2.　本ビットから 1 を読み出した後、以下 3 つの条件のうちいずれかを満たしたときに、本ビットはクリアされます。
- ソフトウェアリセット（SSIFCR.SSIRST = 1）を行ったとき
- 1 を読み出した後、0 の書き込みが完了したとき
- SSICR.REN に 1 を書き込んだ後、PCLKB の 1 サイクルが経過したとき

注 3.　通信を許可した後（SSICR.REN ビットを 0 から 1 に変更）、受信エラーフラグ（SSISR レジスタの RUIRQ および ROIRQ）はクリアされます。ただし、SSISR レジスタが継続して読み出されるとき、受信エラーフラグをクリアしたステータスは、読み出しできない可能性があります。

［1 になる条件］

- SSIFRDR がフルの状態で次のデータの受信が完了したとき

［1 になるタイミング］

- 受信が完了した後に、PCLKB の 3 サイクルが経過したとき

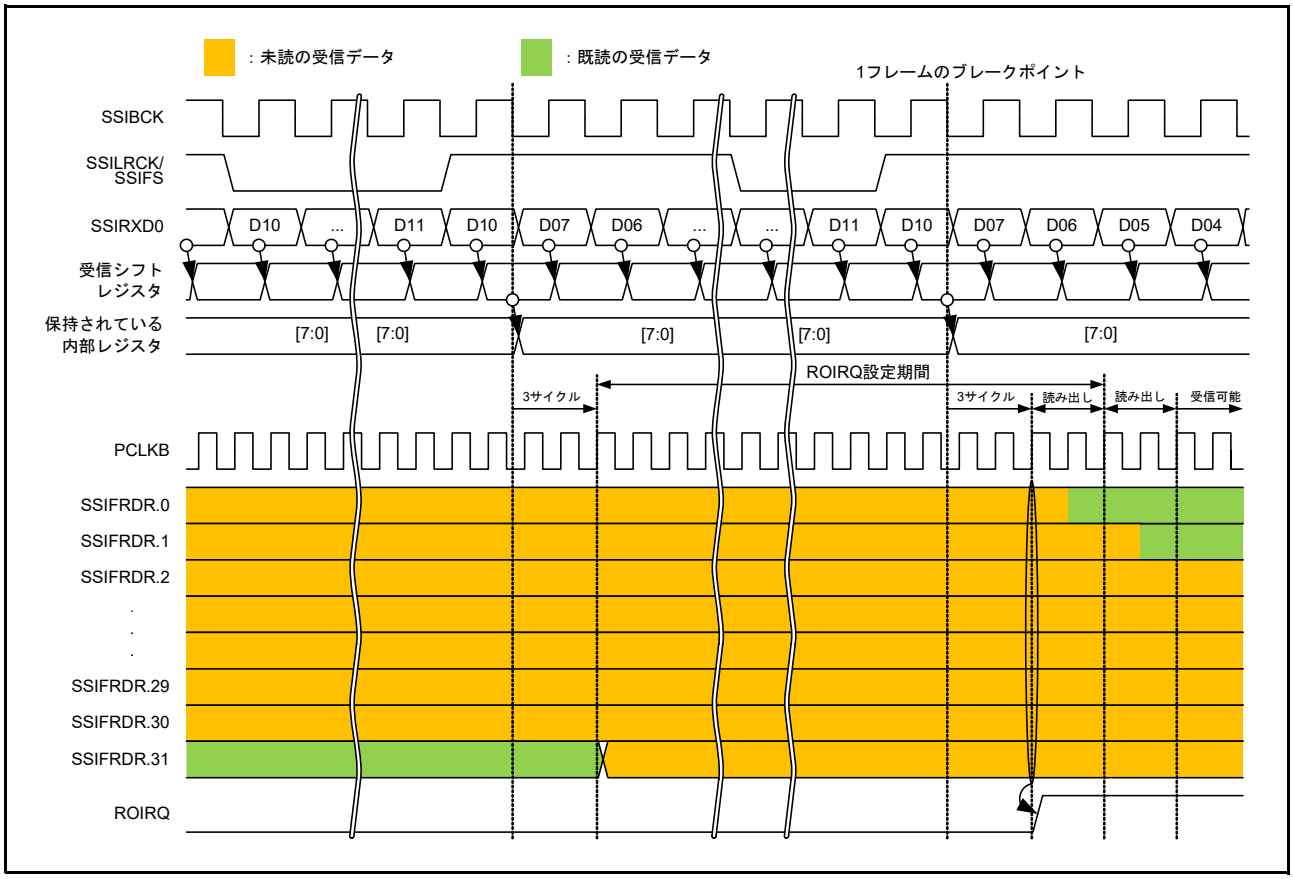


図 37.15　　ROIRQ 設定タイミング

RUIRQ フラグ（受信アンダーフローエラーステータスフラグ）

受信アンダーフローエラーを示すステータスフラグです。本フラグは自動判定により設定されますが、レジスタアクセスによるフラグクリアが必要です。SSIFRDR が空の状態で読み出されたことを示します。受信アンダーフローエラーが発生した SSIFRDR から読み出されたデータは、無効です。エラーから回復する手順は、37.6.6　エラー処理を参照してください。本フラグは、受信 FIFO データレジスタリセット（SSIFCR.RFRST）ではクリアできません。なお、受信 FIFO データレジスタをリセット（SSIFCR.RFRST を 1 にする）して SSIFRDR レジスタを読み出しても、本フラグは設定できません。

［1 と 0 の優先順位］

- 1 が優先されます。（注 1）

［0 になる条件］

下記のいずれかの操作を行ったとき

1. 本ビットから 1 を読み出した後に、0 を書き込んだとき（注 2）
2. 通信を許可したとき（SSICR.REN を 0 から 1 に変更）

［0 になるタイミング］

前述の 0 になる条件に対応して 0 になるタイミング

1. 本ビットから 1 を読み出した後に、0 を書き込んだとき（図 37.18 に示すタイミングと同じ）
2. SSICR.REN に 1 を書き込んでから PCLKB の 1 サイクルが経過したとき（注 3）

注 1.　本ビットは、ソフトウェアリセット（SSIFCR.SSIRST = 1）によってクリアします。ソフトウェアリセットは、前述したすべての 0 になる条件より優先されます。

注 2.　本ビットから 1 を読み出した後、以下 3 つの条件のうちいずれかを満たしたときに、本ビットはクリアされます。
- ソフトウェアリセット（SSIFCR.SSIRST = 1）を行ったとき
- 1 を読み出した後、0 の書き込みが完了したとき

- SSICR.REN に 1 を書き込んだ後、PCLKB の 1 サイクルが経過したとき

注 3. 通信を許可した後（SSICR.REN ビットを 0 から 1 に変更）、受信エラーフラグ（SSISR レジスタの RUIRQ および ROIRQ）はクリアされます。ただし、SSISR レジスタが継続して読み出されるとき、受信エラーフラグをクリアしたステータスは、読み出しできない可能性があります。

［1 になる条件］

- SSIFRDR が空の状態で読み出したとき

［1 になるタイミング］

- SSIFRDR からの読み出しが完了したとき。図 37.16 を参照してください。

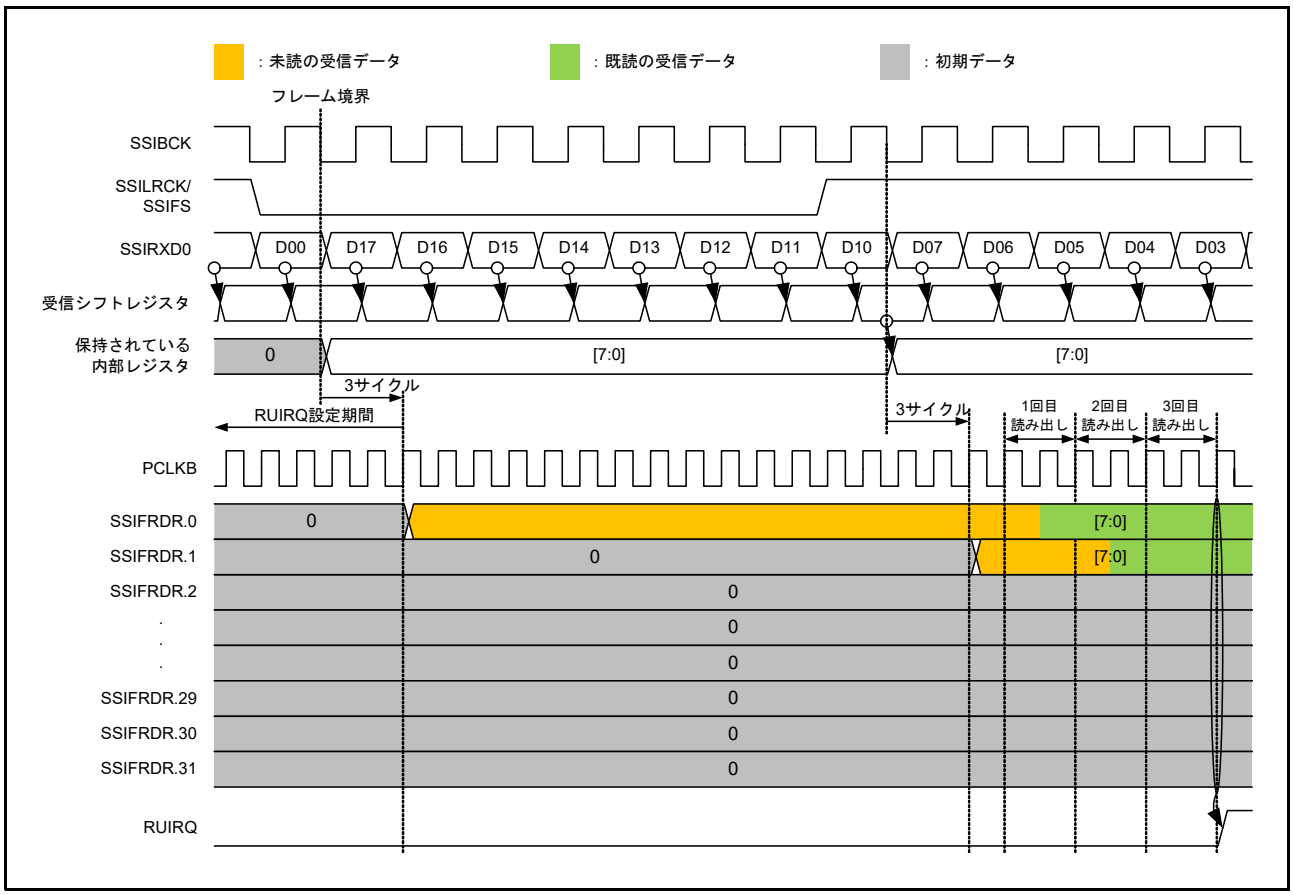


図 37.16　RUIRQ 設定タイミング

TOIRQ ビット（送信オーバーフローエラーステータスフラグ）

送信オーバーフローエラーを示すステータスフラグです。本フラグは自動判定により設定されますが、レジスタアクセスによるフラグクリアが必要です。SSIFTDR レジスタがデータフルのときに、SSIFTDR レジスタへデータを書き込みしたことを示します。送信オーバーフローの原因となったデータ書き込みは、無視されます。オーバーフローエラーから回復する手順は、37.6.6　エラー処理を参照してください。本フラグは、送信 FIFO データレジスタリセット（SSIFCR.TFRST）ではクリアできません。

［1 と 0 の優先順位］

1 が優先されます。（注 1）

［0 になる条件］

下記のいずれかの操作を行ったとき

1. 本ビットから 1 を読み出した後に、0 を書き込んだとき（注 2）
2. 通信を許可したとき（SSICR.TEN を 0 から 1 に変更）

［0 になるタイミング］

前述の 0 になる条件に対応して 0 になるタイミング

1. 本ビットから 1 を読み出した後に、0 を書き込んだとき（図 37.18 に示すタイミングと同じ）
2. SSICR.TEN に 1 を書き込んでから PCLKB の 1 サイクルが経過したとき（注 3）

注 1.　本ビットは、ソフトウェアリセット（SSIFCR.SSIRST = 1）によってクリアします。ソフトウェアリセットは、前述したすべての 0 になる条件より優先されます。

注 2.　本ビットから 1 を読み出した後、以下 3 つの条件のうちいずれかを満たしたときに、本ビットはクリアされます。
- ソフトウェアリセット（SSIFCR.SSIRST = 1）を行ったとき
- 1 を読み出した後、0 の書き込みが完了したとき
- SSICR.TEN に 1 を書き込んだ後、PCLKB の 1 サイクルが経過したとき

注 3.　通信を許可した後（SSICR.TEN ビットを 0 から 1 に変更）、送信エラーフラグ（SSISR レジスタの TOIRQ および TUIRQ）はクリアされます。ただし、SSISR レジスタが継続して読み出されるとき、送信エラーフラグをクリアしたステータスは、読み出しできない可能性があります。

［1 になる条件］

- SSIFTDR レジスタがデータフルのときに、SSIFTDR レジスタへデータを書き込みしたことを示します。

［1 になるタイミング］

- SSIFTDR への書き込みが完了したとき。詳細は、図 37.17 を参照してください。

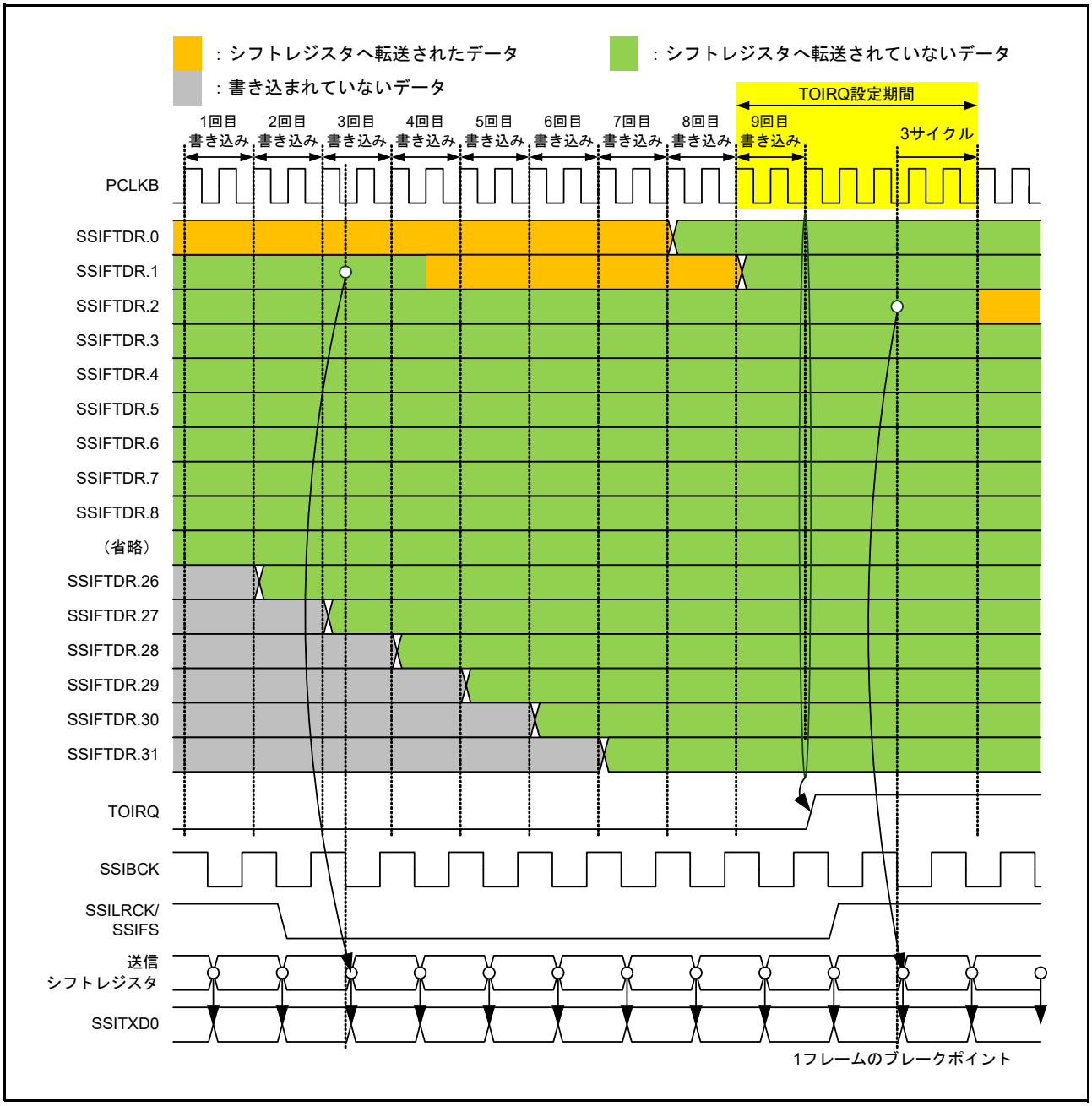


図 37.17　　TOIRQ 設定タイミング

TUIRQ ビット（送信アンダーフローエラーステータスフラグ）

送信アンダーフローエラーを示すステータスフラグです。本フラグは自動判定により設定されますが、レジスタアクセスによるフラグクリアが必要です。フレームに必要なシリアルデータの SSIFTDR への書き込みが、フレームの送信に追いつかなかったことを示します。設定されたフラグをクリアしても、SSITXD0 出力は 0 のままです。送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）へ書き込まれたデータを、SSITXD0 端子へ出力するには、図 37.55 の通信停止の手順、および図 37.56 のエラー処理手順に従ってください。エラーから回復する手順は、37.6.6　エラー処理を参照してください。本フラグは、送信 FIFO データレジスタリセット（SSIFCR.TFRST 信号）ではクリアできません。

［1 と 0 の優先順位］

1 が優先されます。（注 1）

［0 になる条件］

下記のいずれかの操作を行ったとき

1. 本ビットから 1 を読み出した後に、0 を書き込んだとき（注 2）
2. 通信を許可したとき（SSICR.TEN を 0 から 1 に変更）

［0 になるタイミング］

前述の 0 になる条件に対応して 0 になるタイミング

1. 本ビットから 1 を読み出した後に、0 を書き込んだとき
2. SSICR.TEN に 1 を書き込んでから PCLKB の 1 サイクルが経過したとき（注 3）

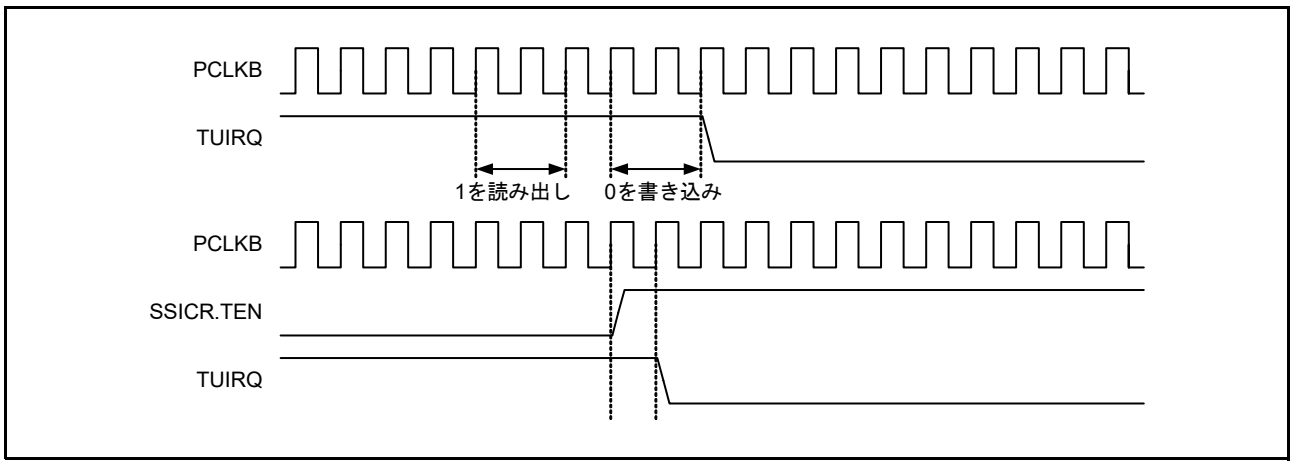


図 37.18　TUIRQ クリアタイミング

注 1.　本ビットは、ソフトウェアリセット（SSIFCR.SSIRST = 1）によってクリアします。ソフトウェアリセットは、前述したすべての 0 になる条件より優先されます。

注 2.　本ビットから 1 を読み出した後、以下 3 つの条件のうちいずれかを満たしたときに、本ビットはクリアされます。
- ソフトウェアリセット（SSIFCR.SSIRST = 1）を行ったとき
- 1 を読み出した後、0 の書き込みが完了したとき
- SSICR.TEN に 1 を書き込んだ後、PCLKB の 1 サイクルが経過したとき

注 3.　通信を許可した後（SSICR.TEN ビットを 0 から 1 に変更）、送信エラーフラグ（SSISR レジスタの TOIRQ および TUIRQ）はクリアされます。ただし、SSISR レジスタが継続して読み出されるとき、送信エラーフラグをクリアしたステータスは、読み出しできない可能性があります。

［1 になる条件］

- フレーム境界を越えて通信が継続する場合に、次のフレームで必要な送信データが SSIFTDR に書き込みされなかったとき。詳細は、図 37.19 および図 37.20 を参照してください。

［1 になるタイミング］

- フレーム境界から PCLKB の 3 サイクルが経過したとき。詳細は、図 37.19 を参照してください。

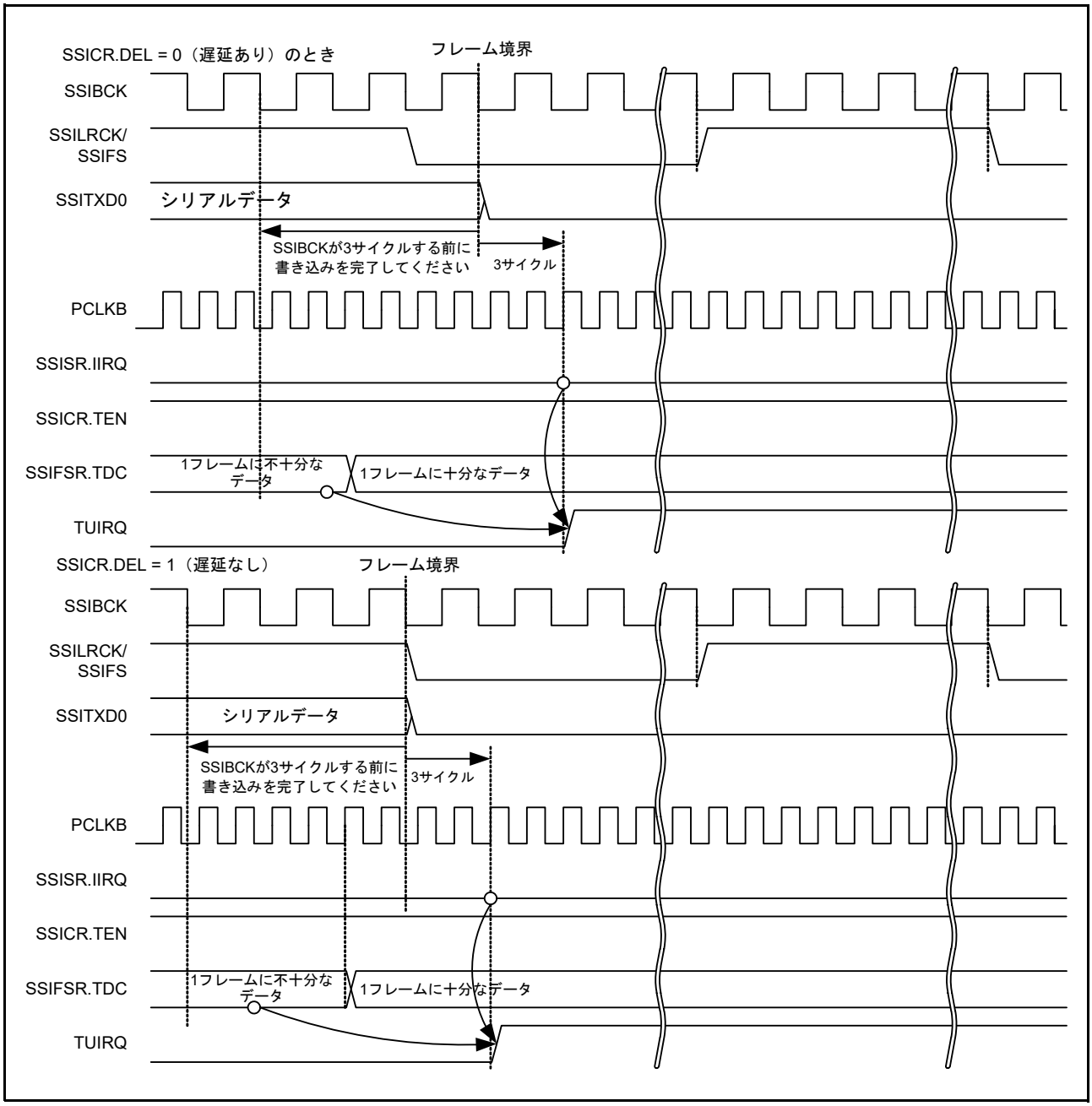


図 37.19　TUIRQ 設定タイミング（通信が継続する場合）

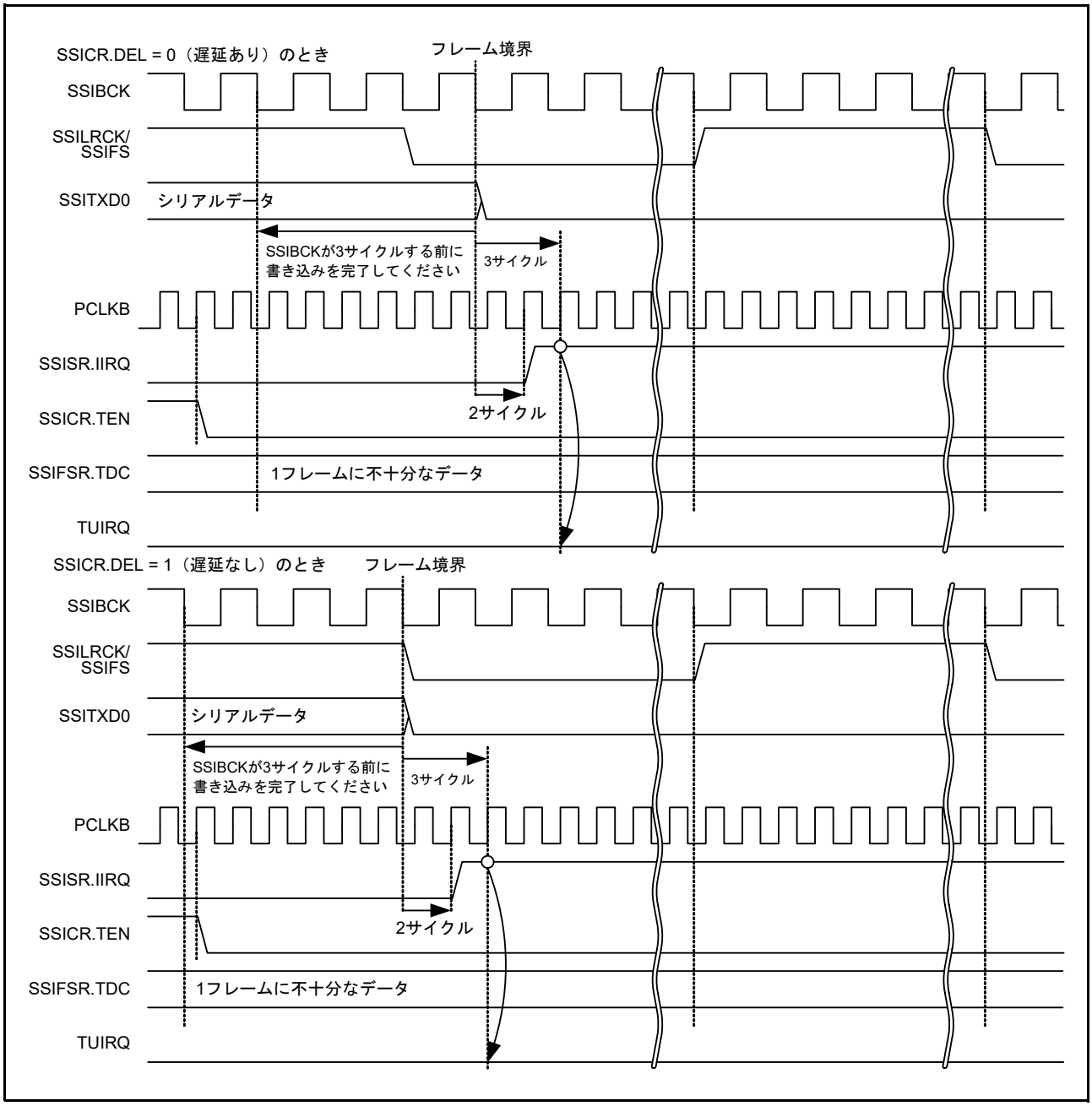


図 37.20　TUIRQ 設定タイミング（通信が停止する場合）

37.2.3 FIFO コントロールレジスタ（SSIFCR）

アドレス SSIE0.SSIFCR4004 E010h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	AUCKE	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SSIRST
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	BSW	—	—	—	—	—	—	—	TIE	RIE	TFRST	RFRST
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RFRST	受信FIFOデータレジスタリセット（注1）	0：受信データFIFOリセットを解除 1：受信データFIFOリセットを設定	R/W
b1	TFRST	送信FIFOデータレジスタリセット（注1）	0：送信データFIFOリセットを解除 1：送信データFIFOリセットを設定	R/W
b2	RIE	受信データフル割り込み出力許可	0：受信データフル割り込み禁止 1：受信データフル割り込み許可	R/W
b3	TIE	送信データエンプティ割り込み出力許可	0：送信データエンプティ割り込み禁止 1：送信データエンプティ割り込み許可	R/W
b10-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b11	BSW	バイトスワップ許可（注1）	0：バイトスワップ禁止 1：バイトスワップ許可	R/W
b15-b12	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b16	SSIRST	ソフトウェアリセット	0：ソフトウェアリセットを解除 1：ソフトウェアリセットを設定	R/W
b30-b17	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b31	AUCKE	マスタモード通信時にAUDIO_MCK許可（注1）	0：AUDIO_MCK供給を禁止 1：AUDIO_MCK供給を許可	R/W

注 1. SSIE が通信状態（SSISR.IIRQ = 0）のとき、本ビットへ書き込みしないでください。ビットを書き換えた場合、変更後の動作は予測できません。

本レジスタは、ソフトウェアリセット、バイトスワップ、および割り込み要求の許可／禁止を設定します。

RFRST ビット（受信 FIFO データレジスタリセット）

受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR）のソフトウェアリセットを設定します。1 を書き込むと、SSIFRDR の内部状態を初期化します。本ビットへの書き込みによりソフトウェアリセットを行うレジスタビットを、表 37.5 に網掛けで示します。本ビットは設定すると自動的にクリアされないため、0 を書き込んでソフトウェアリセットからレジスタビットを解放してください。0 を書き込んだ後、本ビットが 0 になっていることを確認してから次の手順を開始してください。

本ビットは、SSIRST ビットによるソフトウェアリセットの対象です。SSIRST ビットでのソフトウェアリセットは、本ビットでのリセットより優先されるため、SSIRST ビットが設定されている場合、本ビットの設定は無視されます。

表 37.5　　RFRST ビットによるソフトウェアリセットを行うレジスタビット

シンボル	アドレス (BASE+)		+0								+1							
			31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
			15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SSICR	00h	+0	—	CKS	TUIEN	TOIEN	RUIEN	ROIEN	IIEN	—	FRM[1:0]		DWL[2:0]			SWL[2:0]		
		+2	—	MST	BCKP	LRCKP	SPDP	SDTA	PDTA	DEL	CKDV[3:0]				MUEN	—	TEN	REN
SSISR	04h	+0	—	—	TUIRQ	TOIRQ	RUIRQ	ROIRQ	IIRQ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		+2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SSIFCR	10h	+0	AUCKE	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SSIRST
		+2	—	—	—	—	BSW	—	—	—	—	—	—	—	TIE	RIE	TFRST	RFRST
SSIFSR	14h	+0	—	—	TDC[5:0]						—	—	—	—	—	—	—	TDE
		+2	—	—	RDC[5:0]						—	—	—	—	—	—	—	RDF
SSIFTDR	18h	+0	SSIFTDR[31:16]															
		+2	SSIFTDR[15:0]															
SSIFRDR	1ch	+0	SSIFRDR[31:16]															
		+2	SSIFRDR[15:0]															
SSIOFR	20h	+0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		+2	—	—	—	—	—	—	BCKASTP	LRCONT	—	—	—	—	—	—	OMOD[1:0]	
SSISCR	24h	+0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		+2	—	—	—	TDES[4:0]					—	—	—	RDFS[4:0]				

TFRST ビット（送信 FIFO データレジスタリセット）

送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）のソフトウェアリセットを設定します。1 を書き込むと、SSIFTDR の内部状態を初期化します。本ビットへの書き込みによりソフトウェアリセットを行うレジスタビットを、表 37.6 に網掛けで示します。本ビットは設定すると自動的にクリアされないため、0 を書き込んでソフトウェアリセットからレジスタビットを解放してください。0 を書き込んだ後、本ビットが 0 になっていることを確認してから次の手順を開始してください。

本ビットは、SSIRST ビットによるソフトウェアリセットの対象です。SSIRST ビットでのソフトウェアリセットは、本ビットでのリセットより優先されるため、SSIRST ビットが設定されている場合、本ビットの設定は無視されます。

表 37.6　TFRST ビットによるソフトウェアリセットを行うレジスタビット

シンボル	アドレス (BASE+)		+0								+1							
			31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
			15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SSICR	00h	+0	—	CKS	TUIEN	TOIEN	RUIEN	ROIEN	IIEN	—	FRM[1:0]		DWL[2:0]			SWL[2:0]		
		+2	—	MST	BCKP	LRCKP	SPDP	SDTA	PDTA	DEL	CKDV[3:0]				MUEN	—	TEN	REN
SSISR	04h	+0	—	—	TUIRQ	TOIRQ	RUIRQ	ROIRQ	IIRQ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		+2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SSIFCR	10h	+0	AUCKE	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SSIRST
		+2	—	—	—	—	BSW	—	—	—	—	—	—	—	TIE	RIE	TFRST	RFRST
SSIFSR	14h	+0	—	—	TDC[5:0]						—	—	—	—	—	—	—	TDE
		+2	—	—	RDC[5:0]						—	—	—	—	—	—	—	RDF
SSIFTDR	18h	+0	SSIFTDR[31:16]															
		+2	SSIFTDR[15:0]															
SSIFRDR	1ch	+0	SSIFRDR[31:16]															
		+2	SSIFRDR[15:0]															
SSIOFR	20h	+0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		+2	—	—	—	—	—	—	BCKASTP	LRCONT	—	—	—	—	—	—	OMOD[1:0]	
SSISCR	24h	+0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		+2	—	—	—	TDES[4:0]					—	—	—	RDFS[4:0]				

RIE ビット（受信データフル割り込み出力許可）

受信データフル割り込みの出力を許可／禁止します。受信データフル割り込みは、受信 FIFO データレジスタからの読み出しを開始するための割り込みとして使用してください。受信データフル割り込みの設定条件（1 になる条件）を指定してから（SSISCR.RDFS[4:0] ビットを使用）、本ビットに 1 を書き込んでください。図 37.21 に、受信データフル割り込み発生のタイミングを示します。

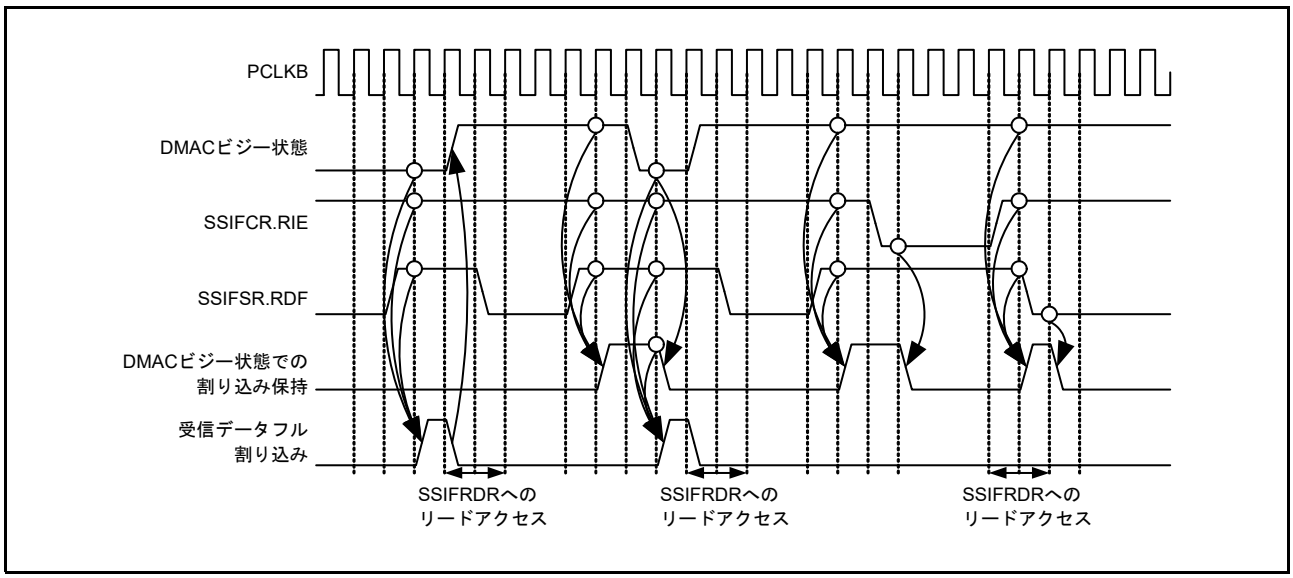


図 37.21　受信データフル割り込みのタイミング

TIE ビット（送信データエンプティ割り込み出力許可）

送信データエンプティ割り込みの出力を許可／禁止します。送信データエンプティ割り込みは、送信 FIFO データレジスタへの書き込みを開始するための割り込みとして使用してください。送信データエンプティ割り込みの設定条件（1 になる条件）を指定してから（SSISCR.TDES[4:0] ビットを使用）、本ビットに 1 を書き込んでください。図 37.22 に、送信データエンプティ割り込み発生のタイミングを示します。

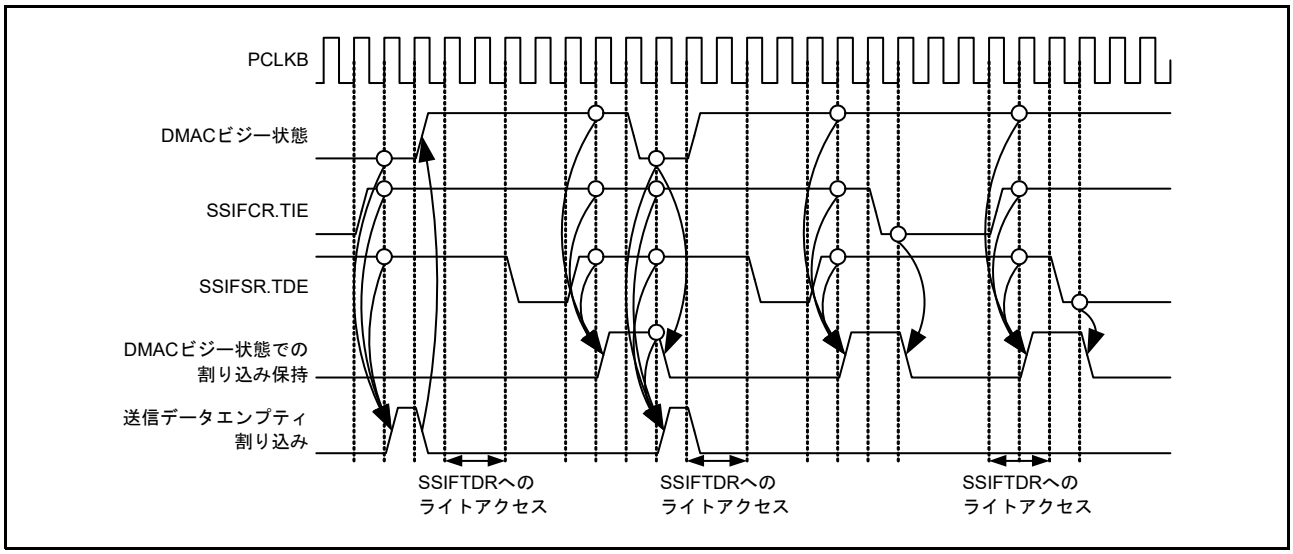


図 37.22　　送信データエンプティ割り込みのタイミング

BSW ビット（バイトスワップ許可）

送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）および受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR）について、レジスタアクセスのバイトスワップを許可／禁止します。本ビットは、SSIFTDR および SSIFRDR への 16 ビットアクセスまたは 32 ビットアクセスでのみ有効です。詳細は、図 37.23 を参照してください。

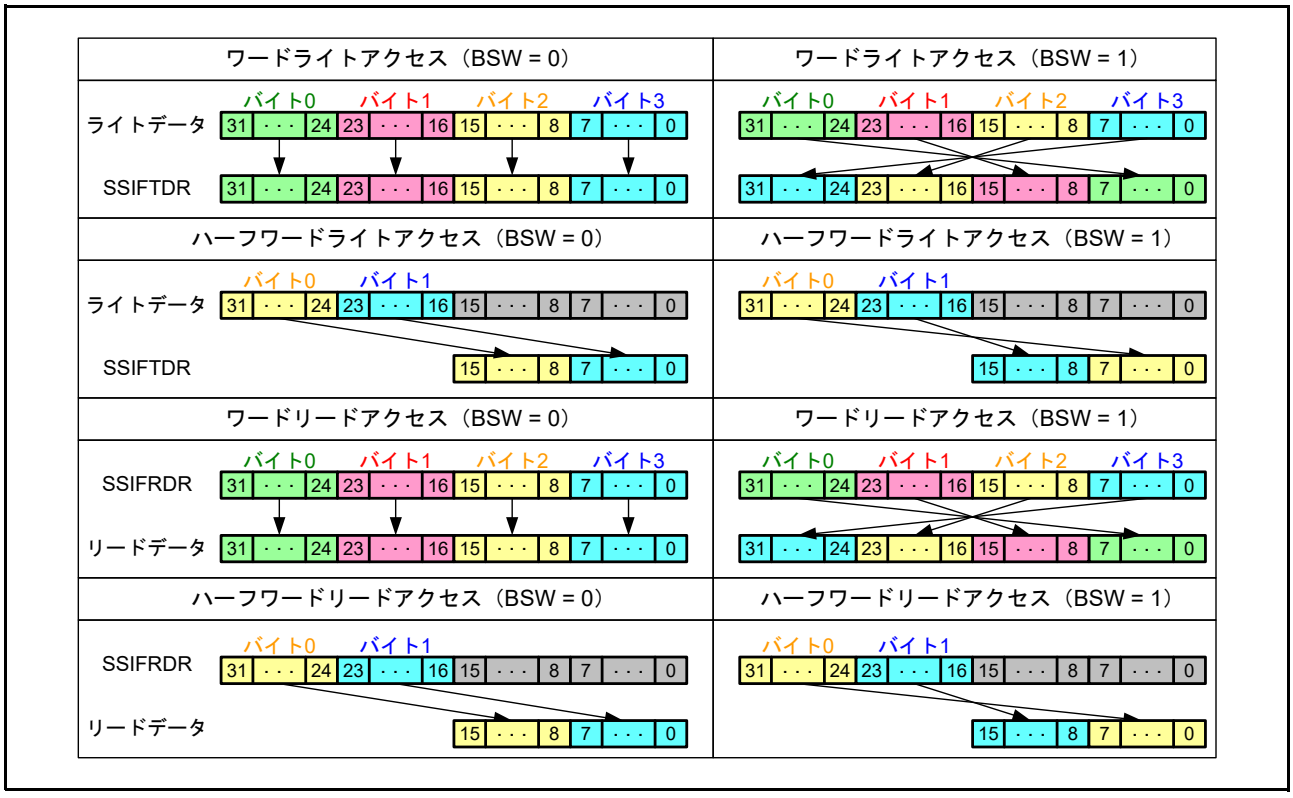


図 37.23　　バイトスワップの動作例

SSIRST ビット（ソフトウェアリセット）

SSIE のソフトウェアリセットを設定します。1 を書き込むと、SSIE の内部状態を初期化します。本ビットへの書き込みによりソフトウェアリセットを行うレジスタビットを、表 37.7 に網掛けで示します。本ビットは設定すると自動的にクリアされないため、0 を書き込んでソフトウェアリセットからレジスタビットを解放してください。0 を書き込んだ後、本ビットが 0 になっていることを確認してから次の手順を開始してください。

SSIE の通信をすぐに停止するには、周辺機能をオフにしてから本ビットに 1 を書き込んでください。ビットクロックとは関係なく、ソフトウェアリセットによる初期化が行われます。

表 37.7　　SSIRST ビットによるソフトウェアリセットを行うレジスタビット

シンボル	アドレス（BASE+）		+0								+1							
			31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
			15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SSICR	00h	+0	—	CKS	TUIEN	TOIEN	RUIEN	ROIEN	IIEN	—	FRM[1:0]		DWL[2:0]			SWL[2:0]		
		+2	—	MST	BCKP	LRCKP	SPDP	SDTA	PDTA	DEL	CKDV[3:0]				MUEN	—	TEN	REN
SSISR	04h	+0	—	—	TUIRQ	TOIRQ	RUIRQ	ROIRQ	IIRQ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		+2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SSIFCR	10h	+0	AUCKE	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SSIRST
		+2	—	—	—	—	BSW	—	—	—	—	—	—	—	TIE	RIE	TFRST	RFRST
SSIFSR	14h	+0	—	—	TDC[5:0]						—	—	—	—	—	—	—	TDE
		+2	—	—	RDC[5:0]						—	—	—	—	—	—	—	RDF
SSIFTDR	18h	+0	SSIFTDR[31:16]															
		+2	SSIFTDR[15:0]															
SSIFRDR	1ch	+0	SSIFRDR[31:16]															
		+2	SSIFRDR[15:0]															
SSIOFR	20h	+0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		+2	—	—	—	—	—	—	BCKASTP	LRCONT	—	—	—	—	—	—	OMOD[1:0]	
SSISCR	24h	+0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		+2	—	—	—	TDES[4:0]					—	—	—	RDFS[4:0]				

AUCKE ビット（マスタモード通信時に AUDIO_MCK 許可）

マスタモード通信（MST = 1）のとき、AUDIO_MCK 供給を許可／禁止します。

AUDIO_MCK に関連する設定を指定してから（SSICR レジスタの CKS、MST、BCKP、および CKDV ビットを使用）、本ビットを変更してください。

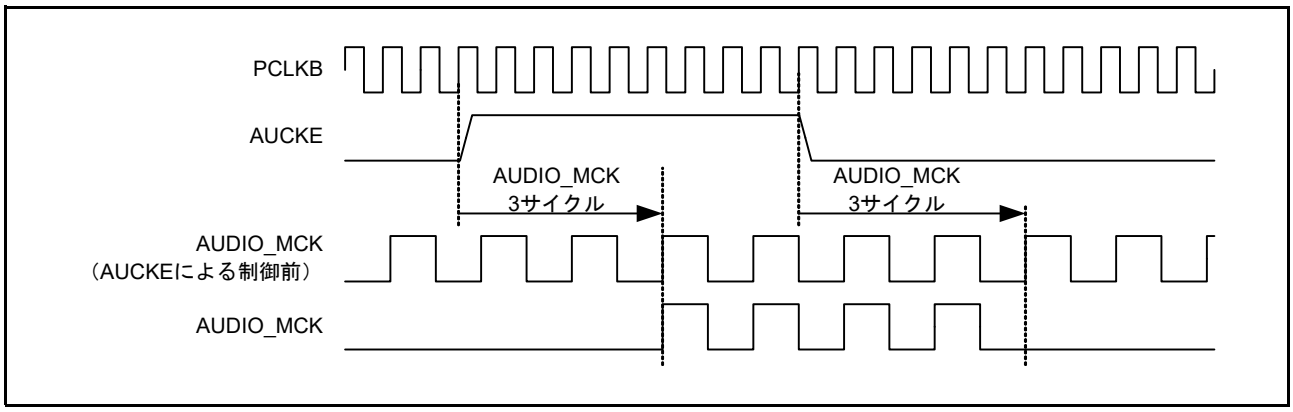


図 37.24　　AUDIO_MCK の停止／再開

注 .　スレーブモード通信（SSICR.MST = 0）では、SSIBCK 供給が必要です。マスタ側で BCK を停止するには、SSIE がアイドル状態（SSISR.IIRQ = 1）であることを確認してください。SSIE がアイドル状態になる前に BCK が停止した場合、図 37.51 の通信開始手順に従うか、あるいは、図 37.57 の通信再開の手順に従ってアイドル状態になるまで待機してください。
マスタモード通信（SSICR.MST = 1）では、SSIE はオーディオクロック（AUDIO_MCK）と連携して動作します。SSIE を完全に停止するには、SSIE がアイドル状態（SSISR.IIRQ = 1）にあることを確認してから、SSIFCR.AUCKE に 0 を書き込んでください。アイドル状態になる前に SSIFCR.AUCKE へ 0 を書き込んだときは、図 37.51 の通信開始手順に従ってください。

図 37.25 および図 37.26 に、本ビットを 1 にしてから SSIBCK 端子出力までの間の、信号動作のタイミングを示します。

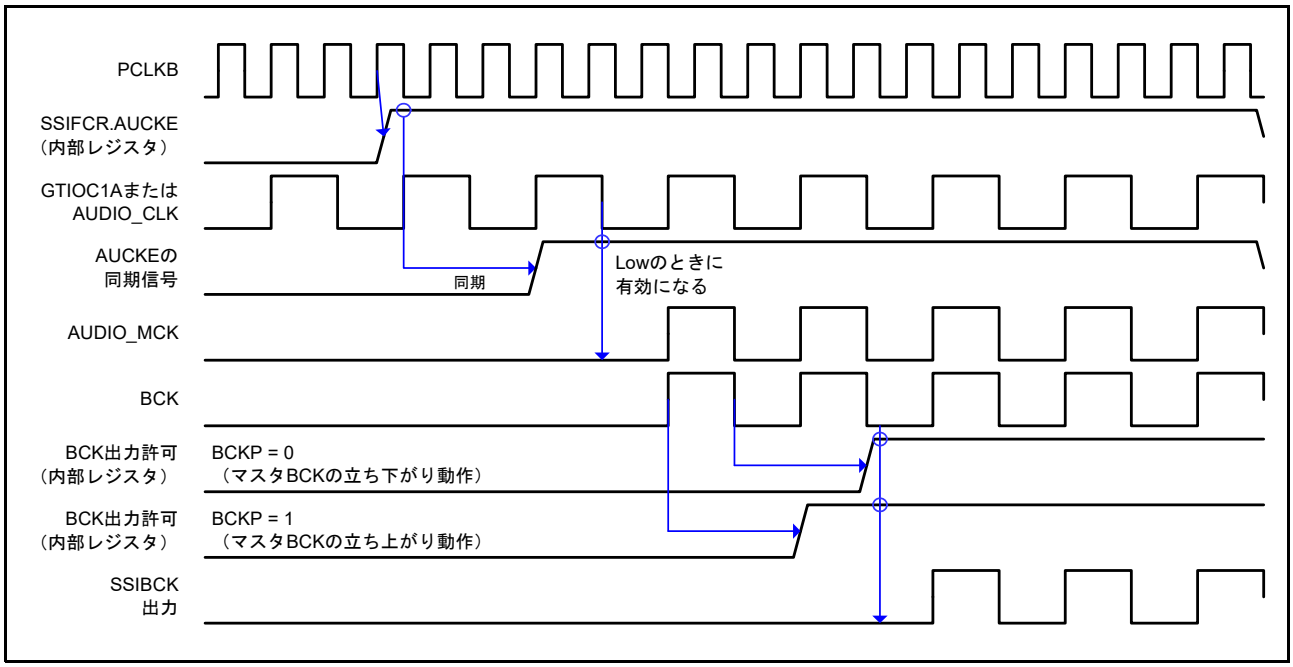


図 37.25　　システムリセットからマスタモード通信開始までの動作のタイミング図

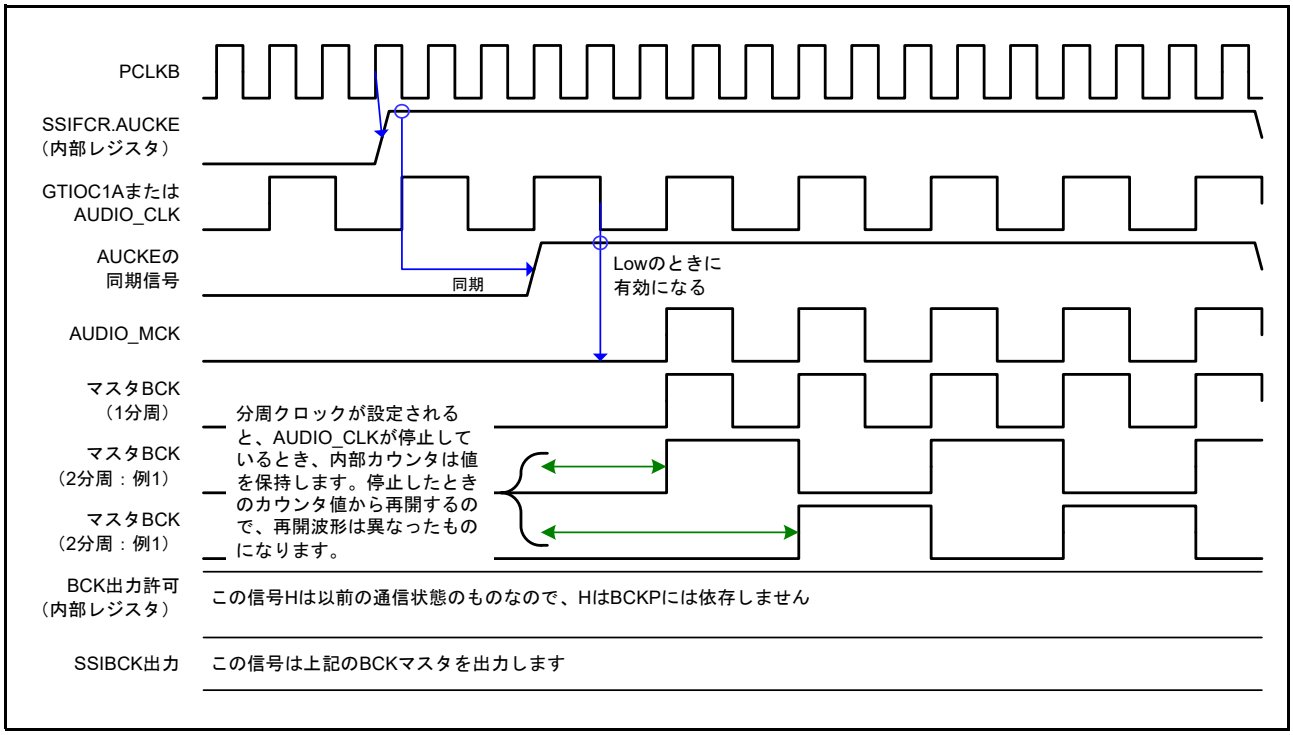


図 37.26　通信停止からマスタモード通信開始までの動作のタイミング図

注 .　AUDIO_MCK 供給が停止した場合、SSIBCK 端子の値は保持されます。そのため、SSIBCK 信号は High の状態で停止する可能性があります。

37.2.4 FIFO ステータスレジスタ（SSIFSR）

アドレス SSIE0.SSIFSR4004 E014h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	TDC[5:0]						—	—	—	—	—	—	—	TDE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	RDC[5:0]						—	—	—	—	—	—	—	RDF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RDF	受信データフルフラグ	0：SSIFRDRの受信データのサイズが、SSISCR.RDFS[4:0]の値以下 1：SSIFRDRの受信データのサイズが、SSISCR.RDFS[4:0] + 1の値以上	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b13-b8	RDC[5:0]	受信FIFO有効データ数	受信FIFOデータレジスタに保存されている有効データ数を表示	R
b15-b14	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b16	TDE	送信データエンプティフラグ	0：SSIFTDRの空きが、SSISCR.TDES[4:0]の値以下 1：SSIFTDRの空きが、SSISCR.TDES[4:0] + 1の値以上	R/W
b23-b17	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b29-b24	TDC[5:0]	送信FIFO有効データ数	送信FIFOデータレジスタに保存されている有効データ数を表示	R
b31-b30	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

本レジスタは、送信 FIFO データレジスタおよび受信 FIFO データレジスタのステータスを示すステータスフラグで構成されます。

RDF フラグ（受信データフルフラグ）

受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR）に、SSISCR.RDFS[4:0] ビット + 1 の値以上の未読の受信データがあることを示します。本フラグは自動判定により設定されますが、レジスタアクセスによるフラグクリアが必要です。

［1 と 0 の優先順位］

- 0 が優先されます。

［0 になる条件］

下記 2 つのうちいずれかのとき（注 1）

1. 本フラグから 1 を読み出した後に、0 を書き込んだとき（CPU 動作）（注 2）
2. DTC および DMAC を使用した割り込みルーチンによる、SSIFRDR からのデータ読み出しの最終アクセスのとき（DTC/DMAC 動作）

［0 になるタイミング］

前述の 0 になる条件に対応して 0 になるタイミング

1. 本フラグから 1 を読み出した後に、0 を書き込んだとき（図 37.18 に示すタイミングと同じ）
2. DTC および DMAC を使用した割り込みルーチンによる、SSIFRDR からのデータ読み出しの最終アクセス命令が発行された PCLKB サイクルの後

注 1. 本フラグは、ソフトウェアリセット（SSIFCR.SSIRST = 1）および受信 FIFO データレジスタリセット（SSIFCR.RFRST = 1）によってクリアします。上述のクリア条件に加えて、ソフトウェアリセットおよび受信 FIFO データレジスタリセットもリセット条件として適用されます。

注 2.　本フラグから 1 を読み出した後、以下 4 つの条件のうちいずれかを満たしたときに、本フラグはクリアされます。
- ソフトウェアリセット（SSIFCR.SSIRST = 1）を行ったとき
- 受信 FIFO データレジスタリセット（SSIFCR.RFRST = 1）を行ったとき
- 1 を読み出した後、0 の書き込みが完了したとき
- DTC および DMAC を使用した割り込みルーチンによる、SSIFRDR からのデータ読み出しの最終アクセスを行ったとき

［1 になる条件］

- SSIFRDR に、SSISCR.RDFS[4:0] ビット + 1 の値以上のデータがあるとき

［1 になるタイミング］

- SSIFRDR で SSISCR.RDFS[4:0] ビット + 1 の値以上のデータとなった場合の、シフトレジスタからの転送が完了したとき

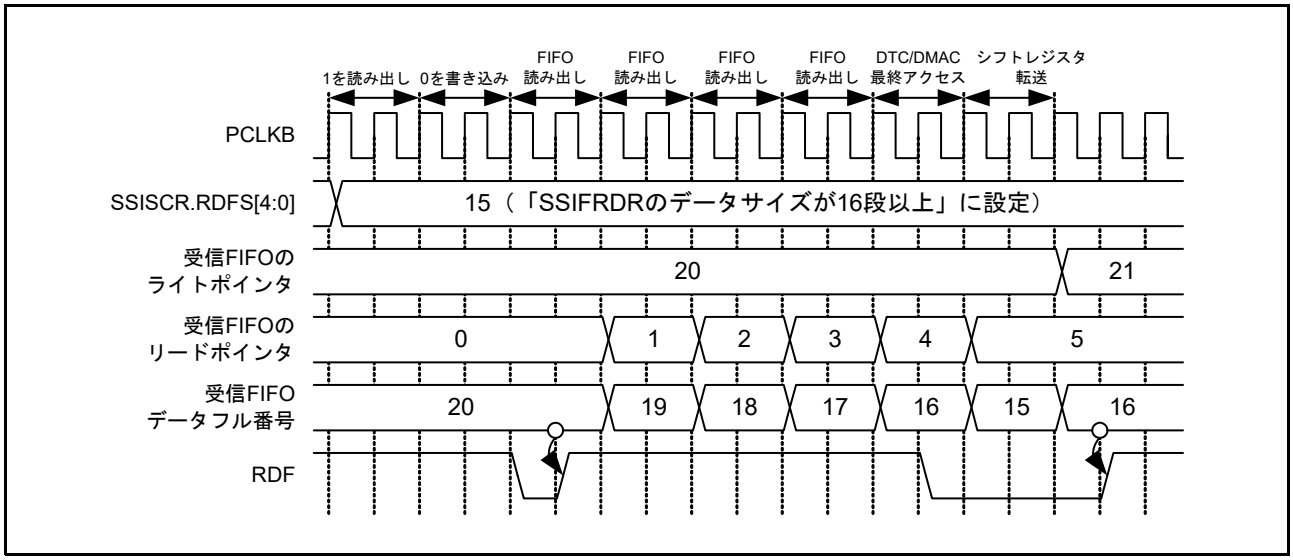


図 37.27　　RDF の設定およびクリアのタイミング図

RDC[5:0] フラグ（受信 FIFO 有効データ数）

受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR）に格納された有効なデータ数を示します。本フラグが 0h の場合、受信データはありません。20h の場合、レジスタは受信データフルで空きはありません。

TDE フラグ（送信データエンプティフラグ）

送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）に、SSISCR.TDES ビット + 1 の値以上の空きがあることを示します。本フラグは自動判定により設定されますが、レジスタアクセスによるフラグクリアが必要です。

［1 と 0 の優先順位］

0 が優先されます。（注 1）

［0 になる条件］

下記 2 つのうちいずれかのとき

1. 本フラグから 1 を読み出した後に、0 を書き込んだとき（CPU 動作）（注 2）
2. DTC および DMAC を使用した割り込みルーチンによる、SSIFTDR へのデータ書き込みの最終アクセスのとき（DTC/DMAC 動作）

［0 になるタイミング］

前述の 0 になる条件に対応して 0 になるタイミング

1. 本フラグから 1 を読み出した後に、0 を書き込んだとき（図 37.18 に示すタイミングと同じ）
2. DTC および DMAC を使用した割り込みルーチンによる、SSIFTDR へのデータ書き込みの最終アクセス

のとき（DTC/DMAC 動作）

注 1.　本ビットは、ソフトウェアリセット（SSIFCR.SSIRST = 1）および送信 FIFO データレジスタリセット（SSIFCR.TFRST = 1）によってクリアします。ソフトウェアリセットおよび送信 FIFO データレジスタリセットは、前述したすべての 0 になる条件より優先されます。

注 2.　本ビットから 1 を読み出した後、以下 4 つの条件のうちいずれかを満たしたときに、本ビットはクリアされます。
- ソフトウェアリセット（SSIFCR.SSIRST = 1）を行ったとき
- 送信 FIFO データレジスタリセット（SSIFCR.TFRST = 1）を行ったとき
- 1 を読み出した後、0 の書き込みが完了したとき
- DTC および DMAC を使用した割り込みルーチンによる、SSIFTDR へのデータ書き込みの最終アクセスを行ったとき

［1 になる条件］

- SSIFTDR に、SSIFCR.TTRG ビット + 1 の値以上の空きがあるとき

［1 になるタイミング］

- PCLKB で動作しており、SSIFTDR に「SSISCR.TDES[4:0] ビットで設定したサイズ + 1」以上の空きがあるとき

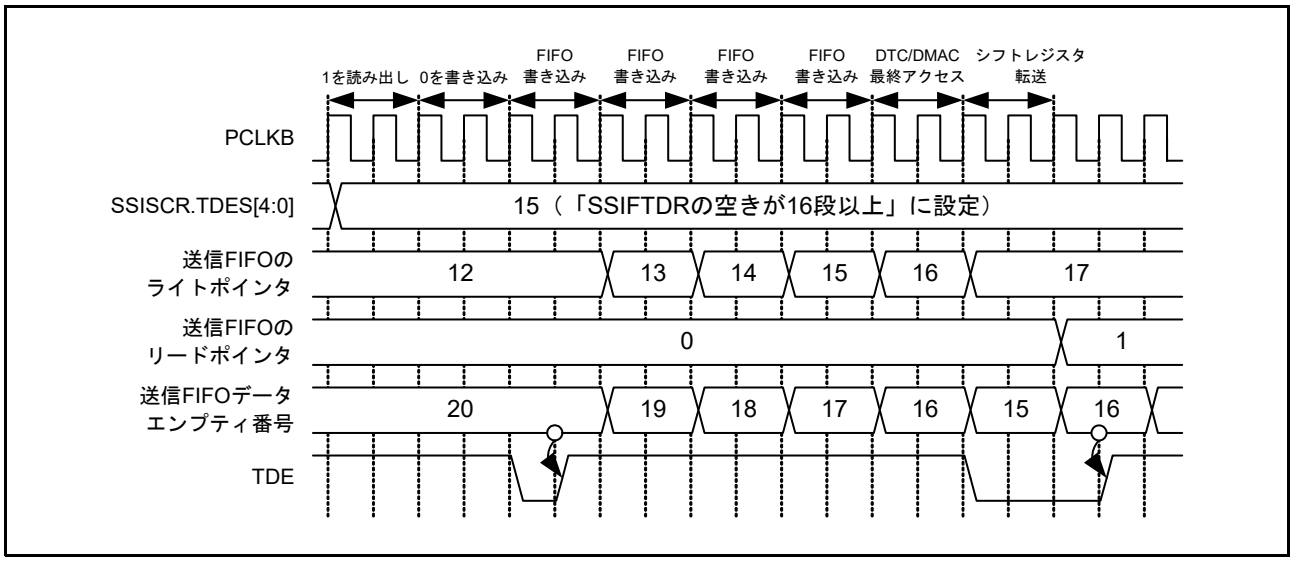


図 37.28　　TDE の設定およびクリアのタイミング図

TDC[5:0] フラグ（送信 FIFO 有効データ数）

送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）に格納された有効なデータ数を示します。本フラグが 0h の場合、送信データはありません。20h の場合、データを書き込みできる空きはありません。

37.2.5 送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）

アドレス SSIE0.SSIFTDR4004 E018h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	SSIFTDR [31:16]															
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SSIFTDR [15:0]															
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b0	SSIFTDR[31:0]	送信FIFOデータ	送信FIFOデータ	W

シリアル送信するデータを格納します。本レジスタを読み出すとき、0 が返されます。

本レジスタで送信するときは、本レジスタへの書き込みを、送信データエンプティ割り込みにより開始される DTC/DMAC 動作として指定してください。通信対象のデータワード長に対応した本レジスタへのアクセスサイズは、表 37.8 で確認してください。

表 37.8　FIFOデータへのレジスタアクセス制限

アクセスサイズ		バイト	ハーフワード	ワード
SSICR.DWL[2:0]	データワード長			
000b	8	○	—	—
001b	16	—	○	—
010b	18	—	—	○
011b	20	—	—	○
100b	22	—	—	○
101b	24	—	—	○
110b	32	—	—	○
111b	設定禁止	—	—	—

図 37.29 に、送信 FIFO データレジスタへのレジスタアクセスを示します。

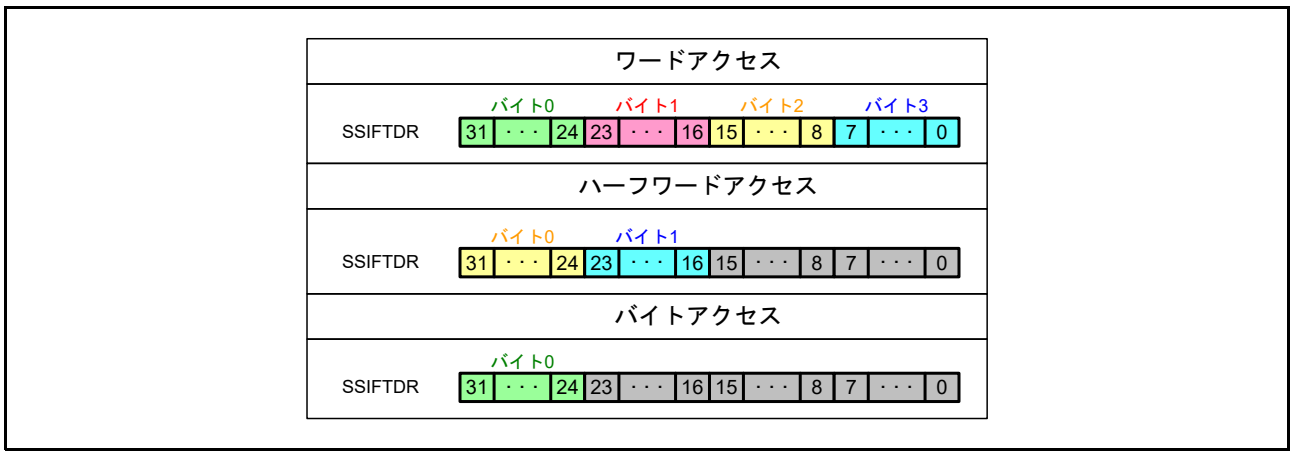


図 37.29　送信 FIFO データレジスタへのレジスタアクセス例

図 37.30 に、送信 FIFO データレジスタおよび送信シフトレジスタの構成と動作例を示します。FIFO レジスタにデータを格納するための構成であり、通信とは関係ありません。

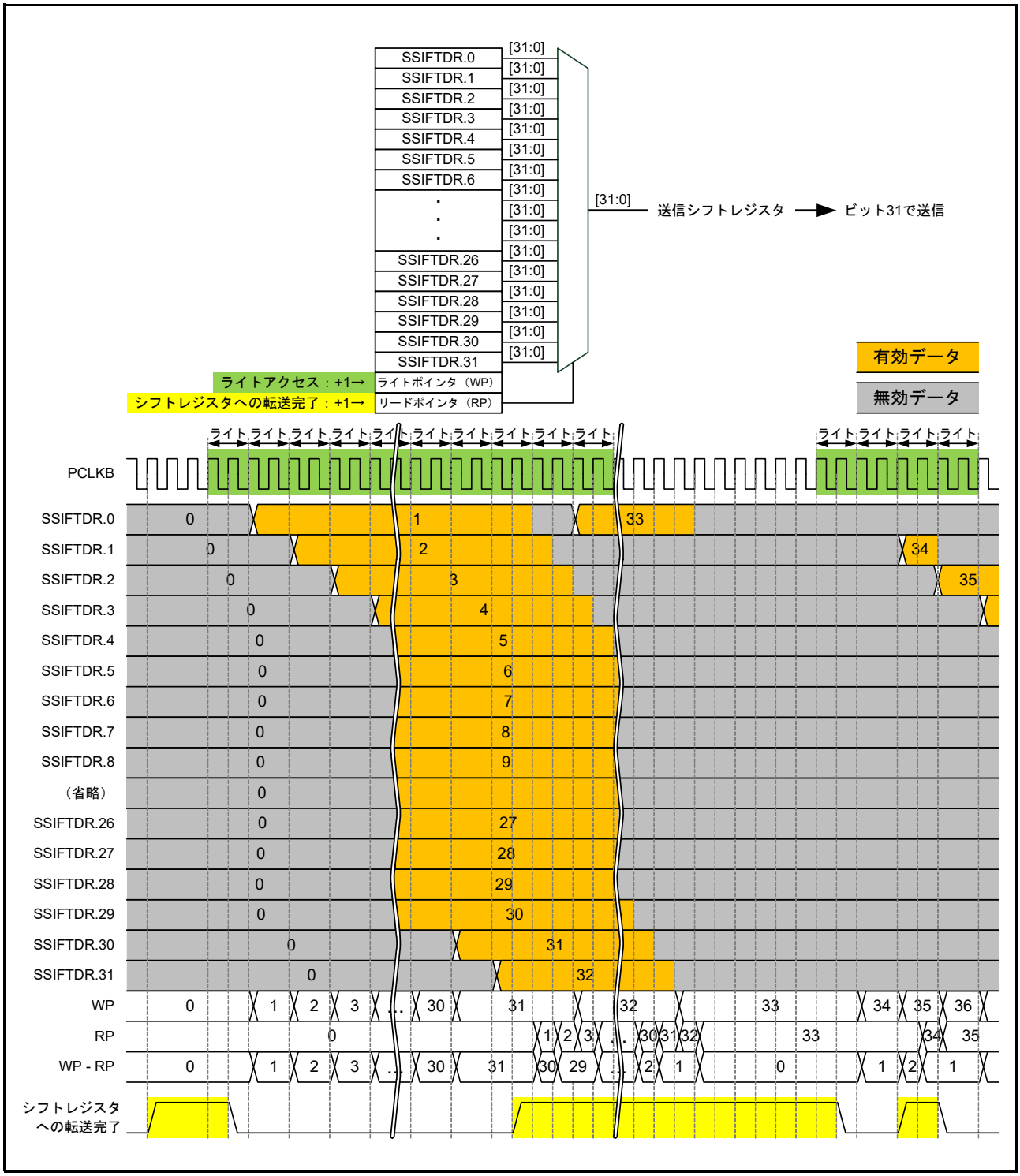


図 37.30　　送信 FIFO データレジスタと送信シフトレジスタの構成および FIFO 動作例

37.2.6 受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR）

アドレス SSIE0.SSIFRDR4004 E01Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	SSIFRDR [31:16]															
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SSIFRDR [15:0]															
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b0	SSIFRDR[31:0]	受信FIFOデータ	受信FIFOデータ	R

本レジスタで受信するときは、本レジスタからの読み出しを、受信データフル割り込みにより開始される DTC または DMAC 動作として指定してください。本レジスタへのアクセスサイズは、表 37.8 に示す通信対象のデータワード長に従って決定してください。受信 FIFO データレジスタへのレジスタアクセスは、送信 FIFO データレジスタへのレジスタアクセスの場合と同様です。

図 37.31 に、受信 FIFO データレジスタおよび受信シフトレジスタの構成と動作例を示します。

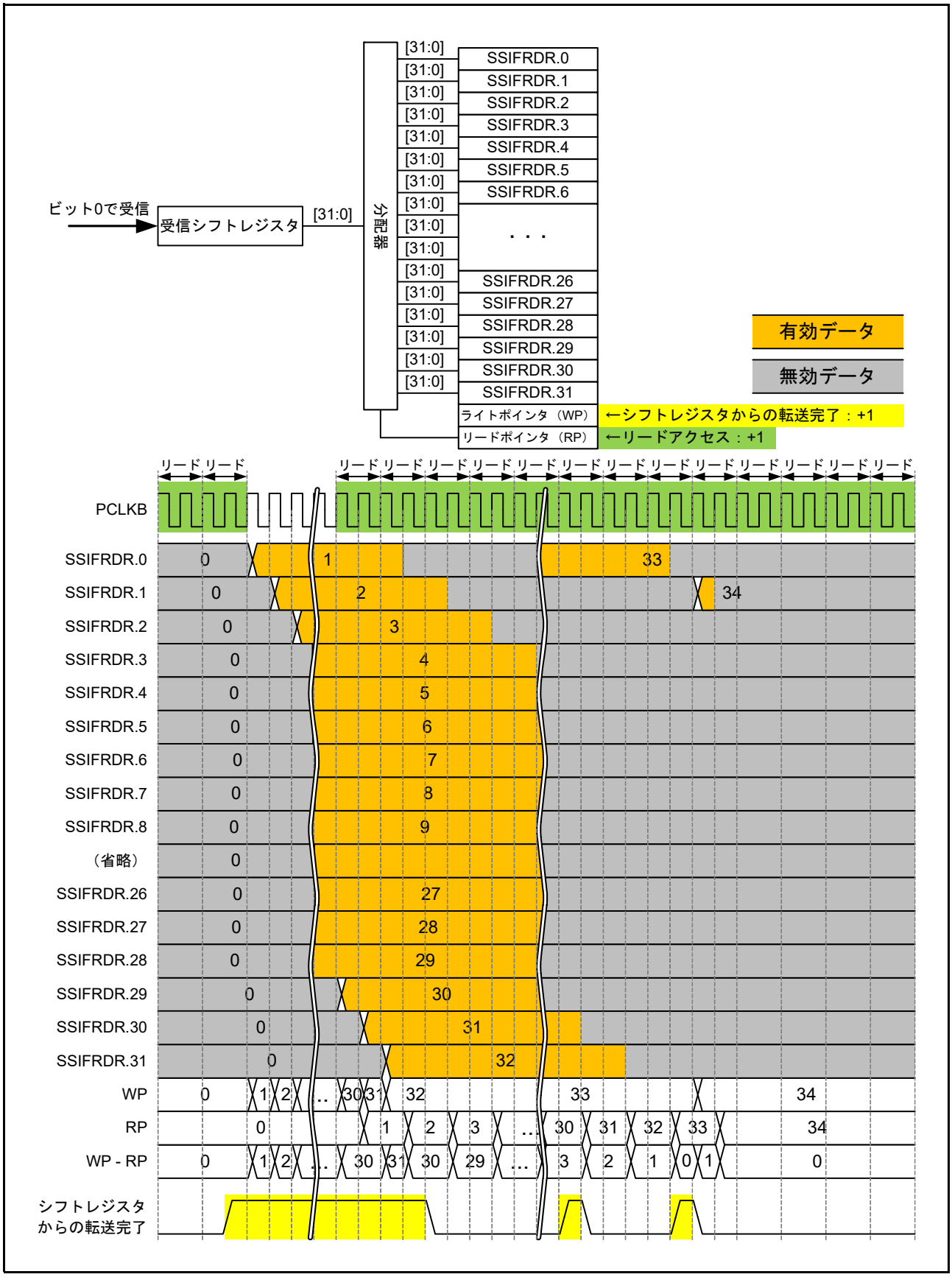


図 37.31　受信 FIFO データレジスタと受信シフトレジスタの構成および FIFO 動作例

37.2.7　オーディオフォーマットレジスタ（SSIOFR）

アドレス　SSIE0.SSIOFR4004 E020h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	BCKASTP	LRCONT	—	—	—	—	—	—	OMOD[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	OMOD[1:0]	オーディオフォーマット選択（注3）（注4）	b1　b0 0　0：I²Sフォーマット 0　1：TDMフォーマット 1　0：モノラルフォーマット 1　1：設定禁止	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	LRCONT	LRCK/FS継続の許可／禁止（注1）（注2）	0：LRCK/FS継続禁止 1：LRCK/FS継続許可	R/W
b9	BCKASTP	BCK出力停止の許可／禁止（アイドル状態の場合）（注1）（注2）	0：SSIBCK端子へBCKを常に出力 1：SSIBCK端子へのBCK出力を自動制御	R/W
b31-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　マスタモード通信時（SSICR.MST = 1）のみ有効です。スレーブモード通信時（SSICR.MST = 0）は、設定しても無効です。
注 2.　BCKASTP ビットと LRCONT ビットは、同時に 1 にしないでください。
注 3.　SSIE の通信時（SSISR.IIRQ = 0）は、書き込みしないでください。ビットを書き換えた場合、変更後の動作は予測できません。
注 4.　相手側デバイスと SSIE 間で、通信フォーマットに互換性がある場合、そのデバイスとの通信が可能になるような通信フォーマットを指定して使用してください。

本レジスタは、オーディオフォーマットを設定するために使用します（通信フォーマット、LR クロック／フレーム同期継続モード、および BCK 出力停止の設定を含む）。

OMOD[1:0] ビット（オーディオフォーマット選択）

オーディオフォーマットを設定します。SSILRCK/SSIFS 端子への LR クロック供給が停止しているときに、本ビットへ書き込んでください。LR クロック出力の詳細は、37.2.7 の LRCONT ビットについての説明を参照してください。

LRCONT ビット（LRCK/FS 継続の許可／禁止）

マスタモード通信（SSICR.MST = 1）かつアイドル状態（SSISR.IIRQ = 1）のとき、SSILRCK/SSIFS 端子からの出力を許可／禁止します。

アイドル状態のときでも、マスタモード（SSICR.MST = 1）で本ビットを 1 にした場合（LR クロック／フレーム同期継続を許可）、SSILRCK/SSIFS 端子からの信号出力が可能です。

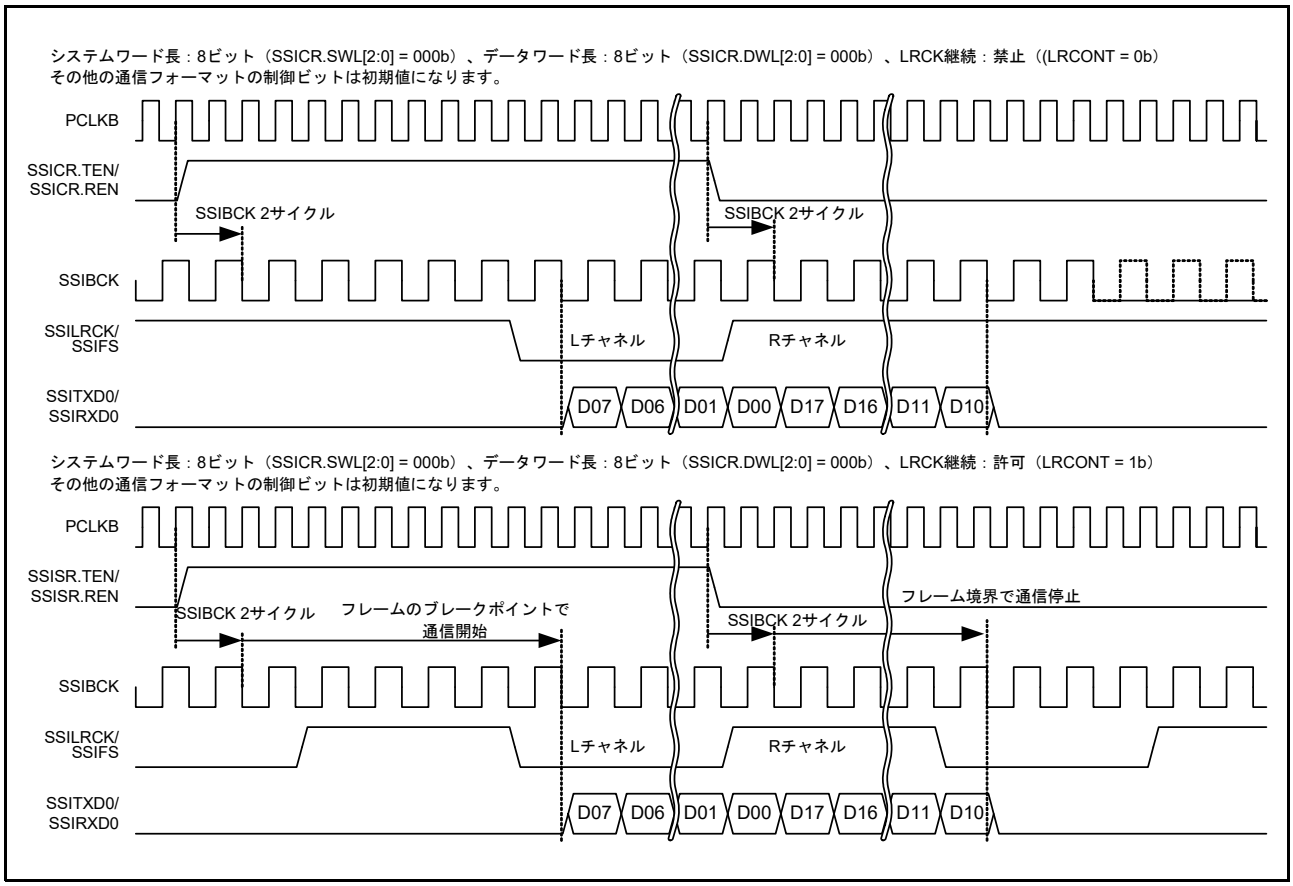


図 37.32　　LR クロック／フレーム同期継続の動作例

BCKASTP ビット（BCK 出力停止の許可／禁止（アイドル状態の場合））

図 37.33 および図 37.34 に示したマスタモード通信（SSICR.MST = 1）で、SSIBCK 端子への BCK 出力機能をオン／オフにします。

本ビットの値を変更する場合は、使用する通信フォーマットを設定してからにしてください。

本ビットの使用方法

- 本ビットに 0 を書き込んでから通信を開始
- 通信中に、本ビットに 1 を書き込み。SSIBCK 端子へのビットクロック出力は、通信が停止したときに自動的に停止
- 通信を再開するには、SSIE をアイドル状態にして（SSICR.IIRQ = 1）、AUDIO_MCK 供給を許可（SSIFCR.AUCKE = 1）してから本ビットに 0 を書き込み

表 37.9 に、マスタモード（SICR.MST = 1）通信で SSIE がアイドル状態（SSICR.IIRQ = 1）のときの、BCKASTP ビットステータスと SSIBCK 端子出力を示します。

表 37.9　　BCKASTP ビットステータスおよびSSIBCK端子出力

BCKASTP ビット	SSIBCK 端子出力ステータス
0	出力
1	停止

注 .　相手側デバイス（スレーブ側）が、通信前および通信中に SSIBCK 端子からのクロック出力を要求するとき、BCKASTP ビットは使用できません。この場合、通信が終了してから本ビットでクロックを停止してください。クロック停止機能の許可タイミングの詳細は、図 37.33 を参照してください。

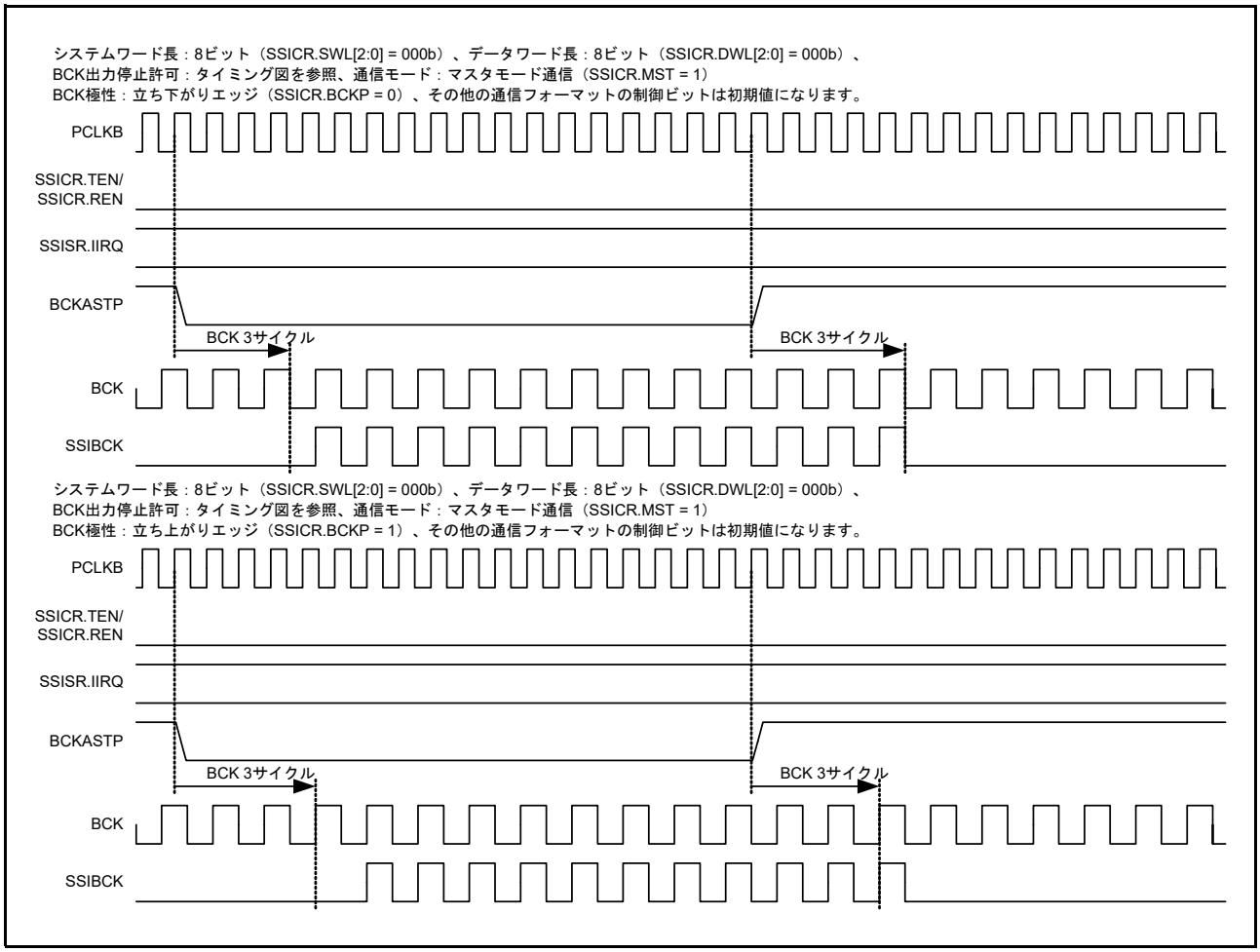


図 37.33　BCKASTP ビットの動作例（アイドル状態の場合）

マスタモード通信（SSICR.MST = 1）かつ BCK 出力停止機能が許可されているとき（BCKASTP = 1）、SSIBCK 端子への BCK 出力は以下のようになります。

- 出力開始タイミング：LR クロック／フレーム同期信号が有効な値に変換されたときに有効エッジが生成されるよう、BCK は適切なタイミングで出力
- 出力停止タイミング：フレーム境界の 1 ～ 1.5 クロックサイクル後

図 37.34 にタイミングの詳細を示します。

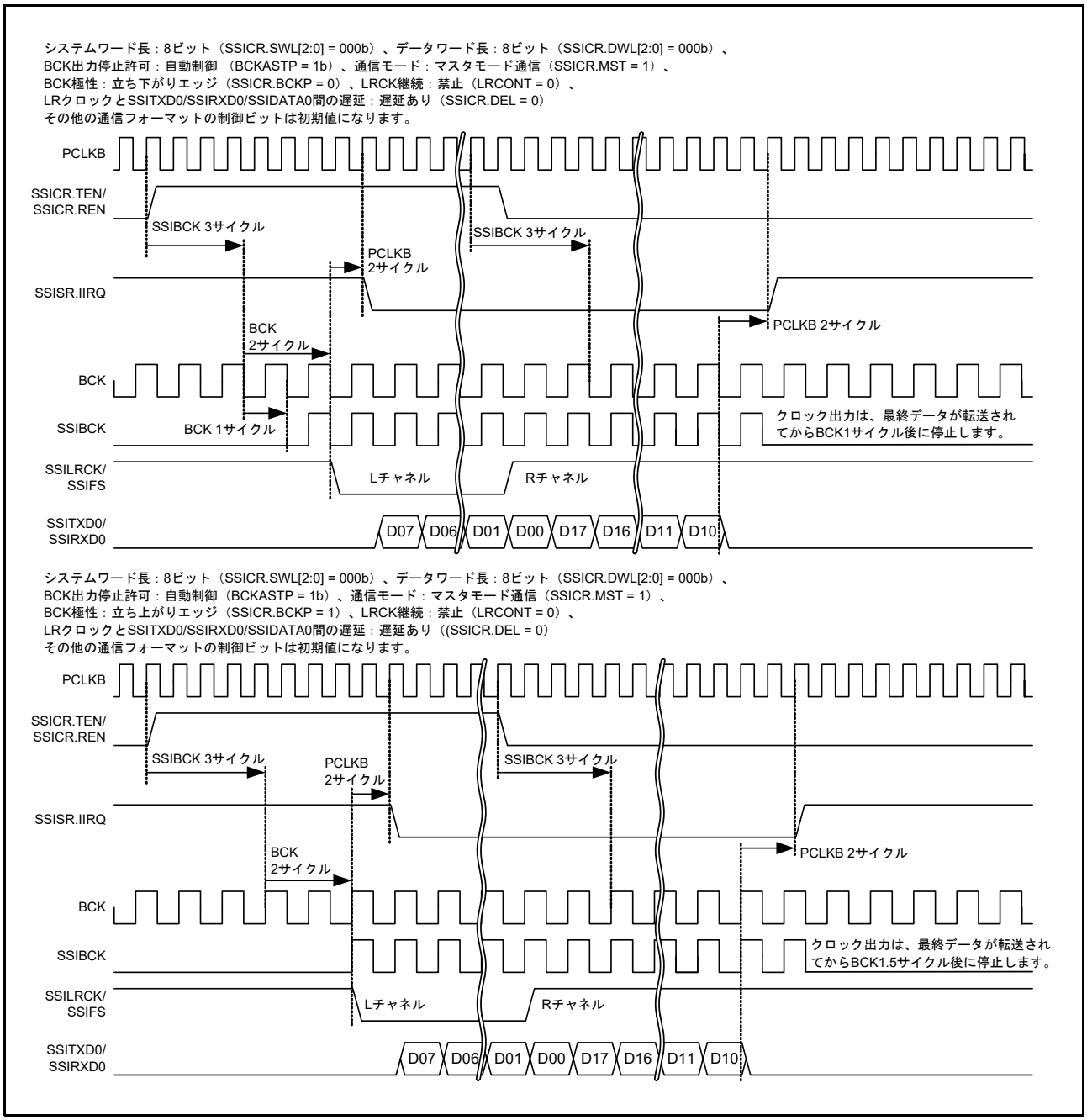


図 37.34　　BCKASTP ビットの動作例（BCKASTP = 1 での通信動作の場合）

37.2.8 ステータスコントロールレジスタ（SSISCR）

アドレス SSIE0.SSISCR4004 E024h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	TDES[4:0]					—	—	—	RDFS[4:0]				
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	RDFS[4:0]	RDF設定条件選択（注1）	b4 b0 0 0 0 0 0：SSIFRDRのデータサイズが1段以上 0 0 0 0 1：SSIFRDRのデータサイズが2段以上 ： 1 1 1 1 0：SSIFRDRのデータサイズが31段以上 1 1 1 1 1：SSIFRDRのデータサイズが32段以上	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b12-b8	TDES[4:0]	TDE設定条件選択（注1）	b12 b8 0 0 0 0 0：SSIFTDRの空きが1段以上 0 0 0 0 1：SSIFTDRの空きが2段以上 ： 1 1 1 1 0：SSIFTDRの空きが31段以上 1 1 1 1 1：SSIFTDRの空きが32段以上	R/W
b31-b13	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. SSIE が通信状態（SSISR.IIRQ = 0）のとき、本ビットへ書き込みしないでください。通信状態で書き込んだ場合、書き込み後の動作は保証されません。

RDFS[4:0] ビット（RDF 設定条件選択）

受信データフルフラグ（RDF）の設定条件（1 になる条件）を設定します。

TDES[4:0] ビット（TDE 設定条件選択）

送信データエンプティフラグ（TDE）の設定条件（1 になる条件）を設定します。

37.3　通信フォーマット

表 37.10 に、SSIE がサポートする通信フォーマットを示します。

表 37.10　　SSIE で使用できる通信フォーマット

通信フォーマット	SSIOFR.OMOD[1:0]
I²S フォーマット	00
TDM フォーマット	01
モノラルフォーマット	10

以下に、各通信フォーマットで共通のシリアルデータ構成について説明します。シリアルデータ構成は、システムワード長（SSICR.SWL[2:0] で設定）およびデータワード長（SSICR.DWL[2:0] で設定）により定義されます。データワード長がシステムワード長よりも短い場合、パディングビットはシリアルデータで転送されます。詳細は、図 37.35 を参照してください。

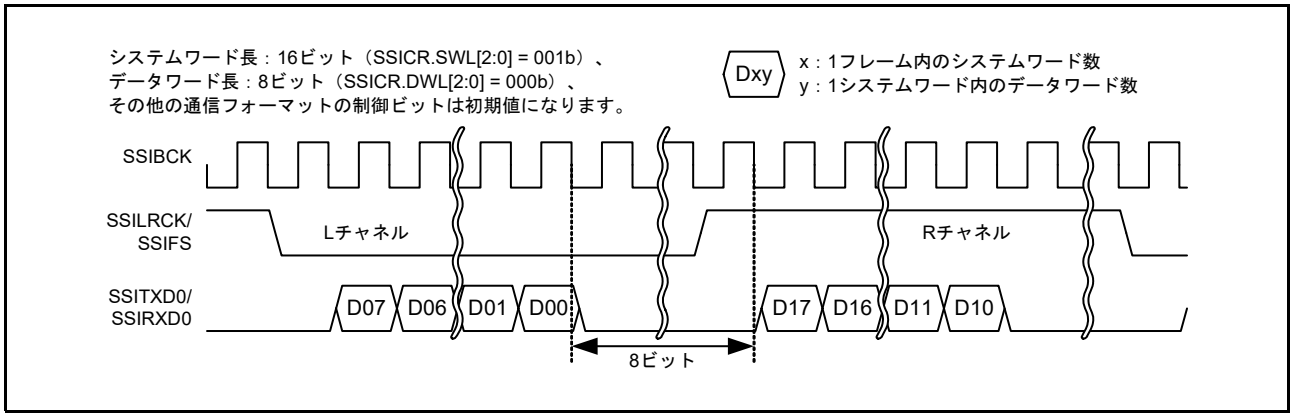


図 37.35　　パディングビットの転送例（I²S フォーマット、システムワード長＞データワード長）

表 37.11 に、転送されるパディングビットの数を、システムワード長（SSICR.SWL[2:0]）とデータワード長（SSICR.DWL[2:0]）の組み合わせごとに示します。

表 37.11　　パディングビットの数

	SSICR.DWL[2:0]	000b	001b	010b	011b	100b	101b	110b	111b
SSICR.SWL[2:0]	システムワード長	8	16	18	20	22	24	32	設定禁止
000b	8	0	—	—	—	—	—	—	—
001b	16	8	0	—	—	—	—	—	—
010b	24	16	8	6	4	2	0	—	—
011b	32	24	16	14	12	10	8	0	—
100b	48	40	32	30	28	26	24	16	—
101b	64	56	48	46	44	42	40	32	—
110b	128	120	112	110	108	106	104	96	—
111b	256	248	240	238	236	234	232	224	—

「—」は、設定禁止を示します。

37.3.1　I²S フォーマット

I²S フォーマットは、I²S と互換性のあるシリアルデバイスとの通信に使用します。本フォーマット設定では（SSIOFR.OMOD[1:0] = 00b）、1 フレームは 2 つのシステムワードで構成されます。1 つはチャネル L 用、もう 1 つはチャネル R 用です。SSILRCK/SSIFS 信号は、チャネル L では Low、チャネル R では High となります。SSICR.LRCKP ビットで信号極性を設定してください。図 37.36 に、パディングなしの場合の I²S フォーマットを示します。パディングありの場合のフォーマットは、図 37.35 を参照してください。

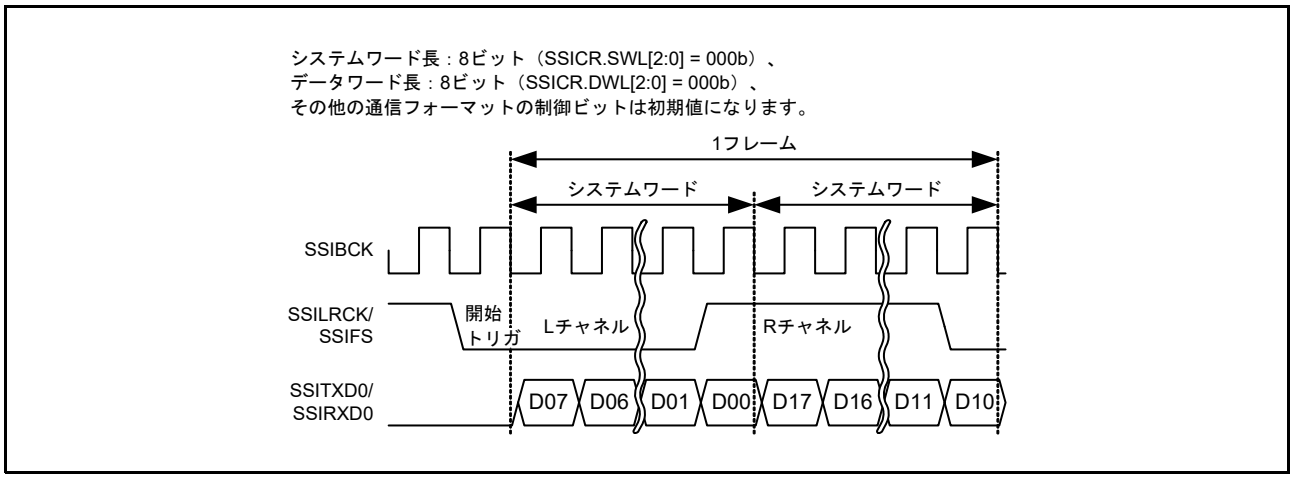


図 37.36　I²S フォーマット（パディングなし、システムワード長 = データワード長）

SSIE がアイドル状態のときの外部端子の状態は、37.5.1 を参照してください。

注 .　SSIE の SSILRCK/SSIFS 端子は通信の同期を示します。スレーブモード（SSICR.MST = 0）で通信するとき、SSIE の通信フォーマットは、相手側デバイスと同じにしてください。SSIE は、SSILRCK/SSIFS 端子による信号入力を、通信開始のトリガとしてのみ使用します。

37.3.2　モノラルフォーマット

モノラルフォーマットは、モノラルと互換性のあるシリアルデバイスとの通信に使用します。モノラルフォーマットを使用するように指定した場合（SSIOFR.OMOD[1:0] = 10b）、1 フレームは 1 つのシステムワードで構成されます。また、SSILRCK/SSIFS 信号の立ち上がりエッジは、通信開始のトリガを示します。図 37.37 および図 37.38 に、それぞれパディングあり／なしの場合のモノラルフォーマットを示します。

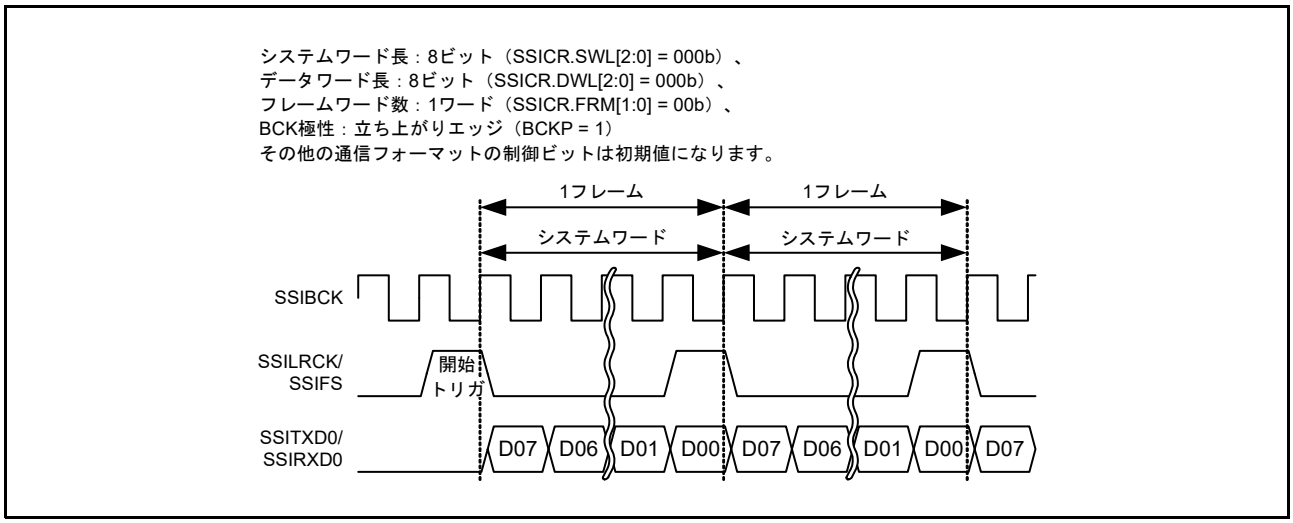


図 37.37　モノラルフォーマットでのショートフレーム（パディングなし、システムワード長 = データワード長）

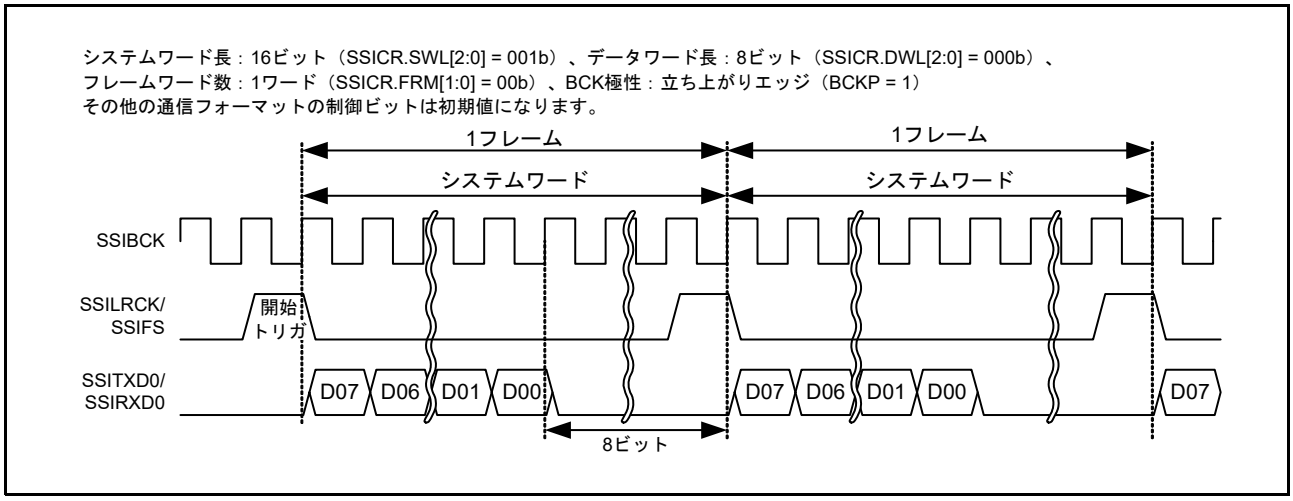


図 37.38　モノラルフォーマットでのショートフレーム（パディングあり、システムワード長>データワード長）

SSIE でのモノラルフォーマットは、ショートフレームとロングフレームから構成されます。ショートフレームとロングフレームの違いについては、37.3.2.1　ショートフレームおよび 37.3.2.2　ロングフレームを参照してください。

SSIE がアイドル状態のときの外部端子の状態は、37.5.1　アイドル状態を参照してください。

注 .　SSIE の SSILRCK/SSIFS 端子は通信の同期を示します。スレーブモード（SSICR.MST = 0）で通信するとき、SSIE の通信フォーマットは、相手側デバイスと同じにしてください。SSIE は、SSILRCK/SSIFS 端子による信号入力を、通信開始のトリガとしてのみ使用します。

37.3.2.1　ショートフレーム

ショートフレームを使用する場合（SSICR.DEL = 0）、シリアルデータの開始を示す SSILRCK/SSIFS 信号は、SSIBCK の 1 サイクルの間だけ High になります。データ転送は、信号の立ち下がりエッジで開始します。

37.3.2.2　ロングフレーム

ロングフレームを使用する場合（SSICR.DEL = 1）、シリアルデータの開始を示す SSILRCK/SSIFS 信号は、SSIBCK の 2 サイクルの間だけ High になります。図 37.39 を参照してください。データ転送は、信号の立ち上がりエッジで開始します。

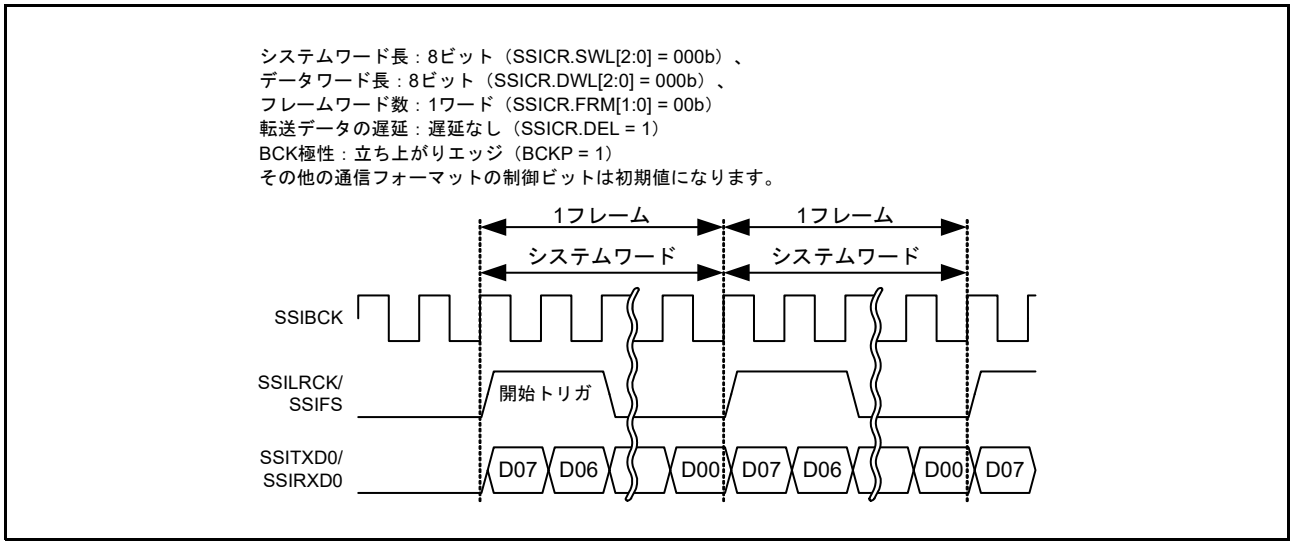


図 37.39　モノラルフォーマットでのロングフレーム（パディングなし）

37.3.3　TDM フォーマット

TDM フォーマットは、TDM と互換性のあるマルチチャネルデバイスとの通信に使用します。本フォーマット設定では（SSIOFR.OMOD[1:0] = 01b）、SSICR.FRM[1:0] ビットで設定したとおり、1 フレームは 4 ～ 8 個のシステムワードで構成されます。SSILRCK/SSIFS 信号は、最初のシステムワードでは High、2 つ目以降のシステムワードでは Low になります。SSILRCK/SSIFS 信号で生成されるパルスは SYNC パルスとして定義され、パルスの立ち上がりエッジは、1 フレームの開始を意味します。図 37.40 および図 37.41 に、それぞれパディングあり／なしの場合の TDM フォーマットを示します。

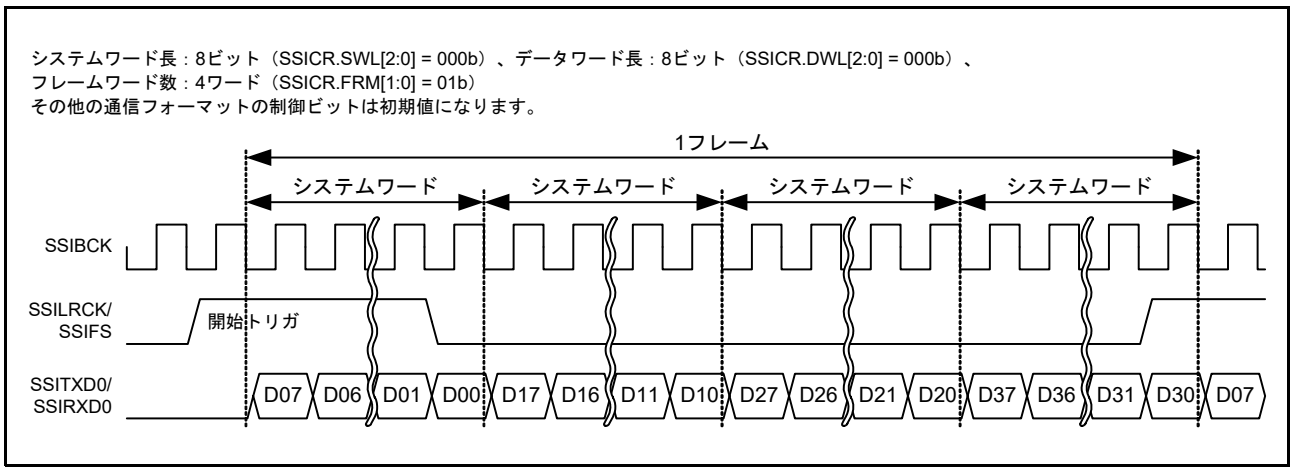


図 37.40　TDM フォーマット（パディングなし、システムワード長 = データワード長）

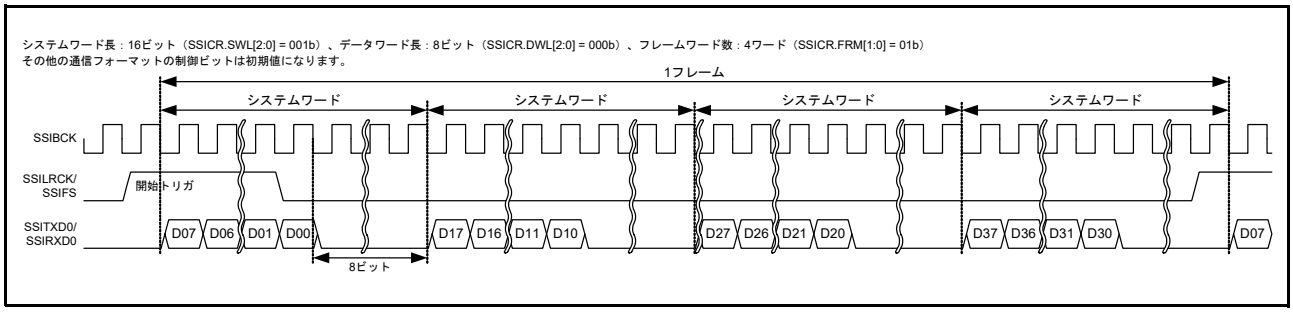


図 37.41　　TDM フォーマット（パディングあり、システムワード長＞データワード長）

SSIE がアイドル状態のときの外部端子の状態は、37.5.1　アイドル状態を参照してください。

注 .　SSIE の SSILRCK/SSIFS 端子は通信の同期を示します。スレーブモード（SSICR.MST = 0）で通信するとき、SSIE の通信フォーマットは、相手側デバイスと同じにしてください。SSIE は、SSILRCK/SSIFS 端子による信号入力を、通信開始のトリガとしてのみ使用します。

37.4　通信モード

表 37.12 に、SSIE がサポートする通信モードを示します。表 37.13 に、各通信モードで使用できない制御ビットを示します。通信モードの詳細は、37.4.1　スレーブモード通信から 37.4.5　送信および受信を参照してください。

表 37.12　通信モード

通信モード	SSICR.MST ビット	SSICR.REN ビット	SSICR.TEN ビット
スレーブモード送信	0	0	1
スレーブモード受信	0	1	0
スレーブモード送信および受信	0	1	1
マスタモード送信	1	0	1
マスタモード受信	1	1	0
マスタモード送信および受信	1	1	1

表 37.13　各通信モードで使用できない制御ビット

通信モード / 制御ビット	スレーブモード受信	スレーブモード送信	スレーブモード送信および受信	マスタモード受信	マスタモード送信	マスタモード送信および受信
SSICR.CKS	無効	無効	無効	使用可能	使用可能	使用可能
SSICR.CKDV	無効	無効	無効	使用可能	使用可能	使用可能
SSICR.MUEN	無効	使用可能	使用可能	無効	使用可能	使用可能
SSICR.TEN	無効	使用可能	使用可能	無効	使用可能	使用可能
SSICR.REN	使用可能	無効	使用可能	使用可能	無効	使用可能
SSIFCR.AUCKEN	無効	無効	無効	使用可能	使用可能	使用可能
SSIFCR.TIE	無効	使用可能	使用可能	無効	使用可能	使用可能
SSIFCR.RIE	使用可能	無効	使用可能	使用可能	無効	使用可能
SSIFCR.TFRST	無効	使用可能	使用可能	無効	使用可能	使用可能
SSIFCR.RFRST	使用可能	無効	使用可能	使用可能	無効	使用可能
SSIOFR.BCKASTP	無効	無効	無効	使用可能	使用可能	使用可能
SSIOFR.LRCONT	無効	無効	無効	使用可能	使用可能	使用可能
SSIOFR.OMOD	使用可能	使用可能	使用可能	使用可能	使用可能	使用可能
SSISCR.TDES[4:0]	無効	使用可能	使用可能	無効	使用可能	使用可能
SSISCR.RDFS[4:0]	使用可能	無効	使用可能	使用可能	無効	使用可能

「無効」は、動作に何ら影響のないことを意味します。書き込みは可能です。

37.4.1　スレーブモード通信

SSIE は、SSICR.MST = 0 のときにスレーブモードで動作します。シリアルデータ通信に使用する SSIBCK および SSILRCK/SSIFS 信号は、外部デバイスからの供給が必要です。これらの信号が SSIE での通信フォーマットに適合しない場合の動作は保証されません。

37.4.2　マスタモード通信

SSIE は、SSICR.MST = 1 のときにマスタモードで動作します。シリアルデータ通信に使用する SSIBCK および SSILRCK/SSIFS 信号は、オーディオクロックからの内部生成が必要です。これらの信号は、SSIE の設定フォーマットを使用します。スレーブデバイスの通信フォーマットが、SSIE の通信フォーマットと異なる場合の動作は保証されません。

37.4.3　送信

SSIE は、SSICR.TEN ビットが 1、SSICR.REN ビットが 0 のとき、シリアルデータを相手側デバイスへ送信します。相手側デバイスの通信フォーマットが、SSIE の通信フォーマットと異なる場合の動作は保証されません。

37.4.4　受信

SSIE は、SSICR.TEN ビットが 0、SSICR.REN ビットが 1 のとき、シリアルデータを相手側デバイスから受信します。相手側デバイスの通信フォーマットが、SSIE の通信フォーマットと異なる場合の動作は保証されません。

37.4.5　送信および受信

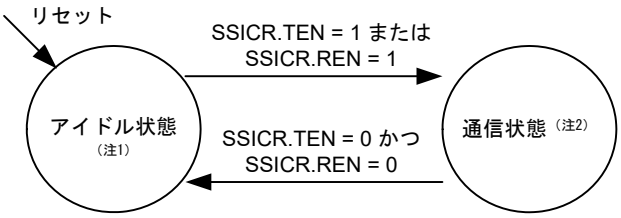
SSIE は、SSICR.TEN ビットが 1、SSICR.REN ビットが 1 のとき、シリアルデータを相手側デバイスとの間で送受信します。相手側デバイスの通信フォーマットが、SSIE の通信フォーマットと異なる場合の動作は保証されません。

37.5　動作説明

SSIE には、主要な動作状態として以下の 2 つがあります。

- アイドル状態（SSISR.IIRQ = 1）
- 通信状態（SSISR.IIRQ = 0）

図 37.42 に、SSIE の状態遷移を示します。



注 1.　アイドル状態の詳細は、37.6.1 を参照してください。
注 2.　通信状態の詳細は、37.6.2 を参照してください。

図 37.42　SSIE の状態遷移

37.5.1　アイドル状態

アイドル状態のとき、SSIE の通信は停止しています。なお、SSICR.MST ビットが 1 のとき、外部端子への BCK および LR クロック／フレーム同期信号の出力は、SSIOFR.BCKASTP ビットと SSIOFR.LRCONT ビットの設定に従って制御できます。本機能は、すべての通信フォーマットで共通です。詳細は、表 37.14 を参照してください。

表 37.14　アイドル状態時の外部端子への出力

SSICR.MST	SSIOFR.BCKASTP	SSIOFR.LRCONT	端子への出力		
			SSIBCK	SSILRCK/SSIFS	SSITXD0/SSIDATA0
0	—	—	停止	停止	停止
1	0	0	供給	停止	停止
1	0	1	供給	供給	停止
1	1	0	停止	停止	停止
1	1	1	停止	供給	停止

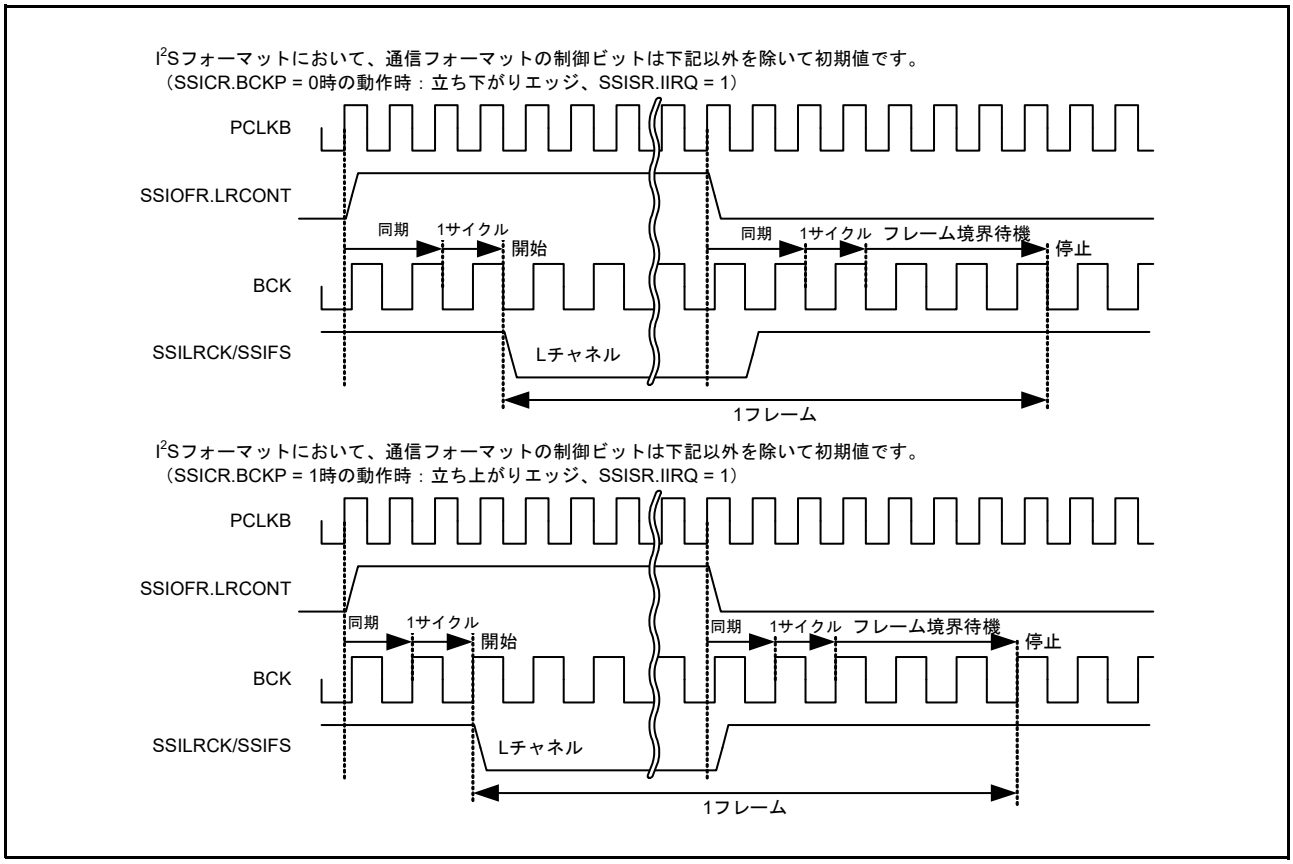


図 37.43　SSIOFR.LRCONT ビットによる LR クロック／フレーム同期継続の禁止例

注 .　SSIE がマスタモード通信（SSICR.MST = 1）でアイドル状態のとき、SSIOFR.LRCONT ビットで SSILRCK/SSIFS 端子への出力を停止する際は、以下に留意してください。SSIOFR.LRCONT ビットの値が 1 から 0 に変わると、出力は停止します。相手側デバイスには影響がないことを確認してください。

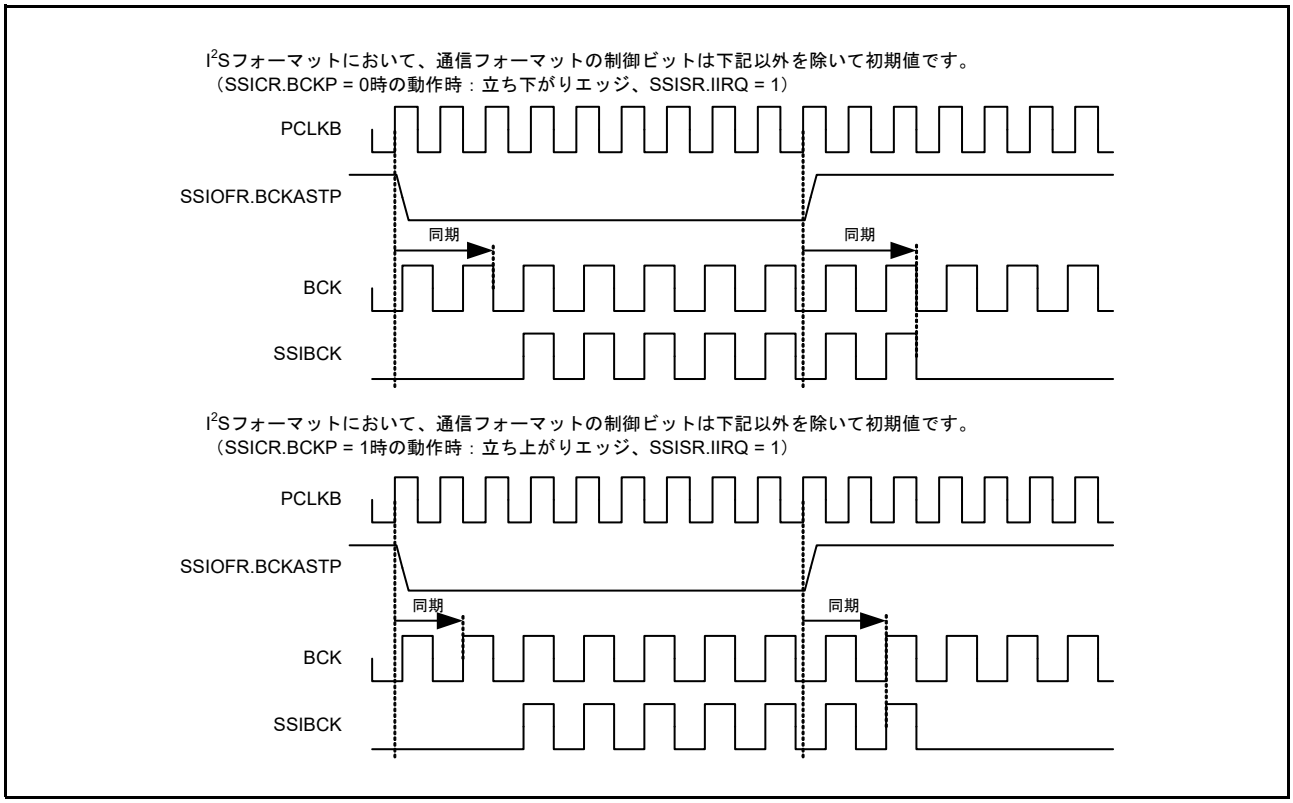


図 37.44　SSIOFR.BCKASTP ビットによる SSIBCK 出力の停止例

注 .　SSIE がマスタモード通信（SSICR.MST = 1）でアイドル状態のとき、SSIOFR.BCKASTP ビットで SSIBCK 端子への出力を停止する際は、以下に留意してください。SSIOFR.BCKASTP ビットの値が 0 から 1 に変わると、出力は停止します。相手側デバイスには影響がないことを確認してください。

37.5.2　通信状態

通信状態のとき、SSIE では常に通信を行っています。図 37.45 および表 37.15 に、それぞれ通信状態の遷移と遷移条件を示します。遷移条件が満たされない場合、状態の遷移はありません。

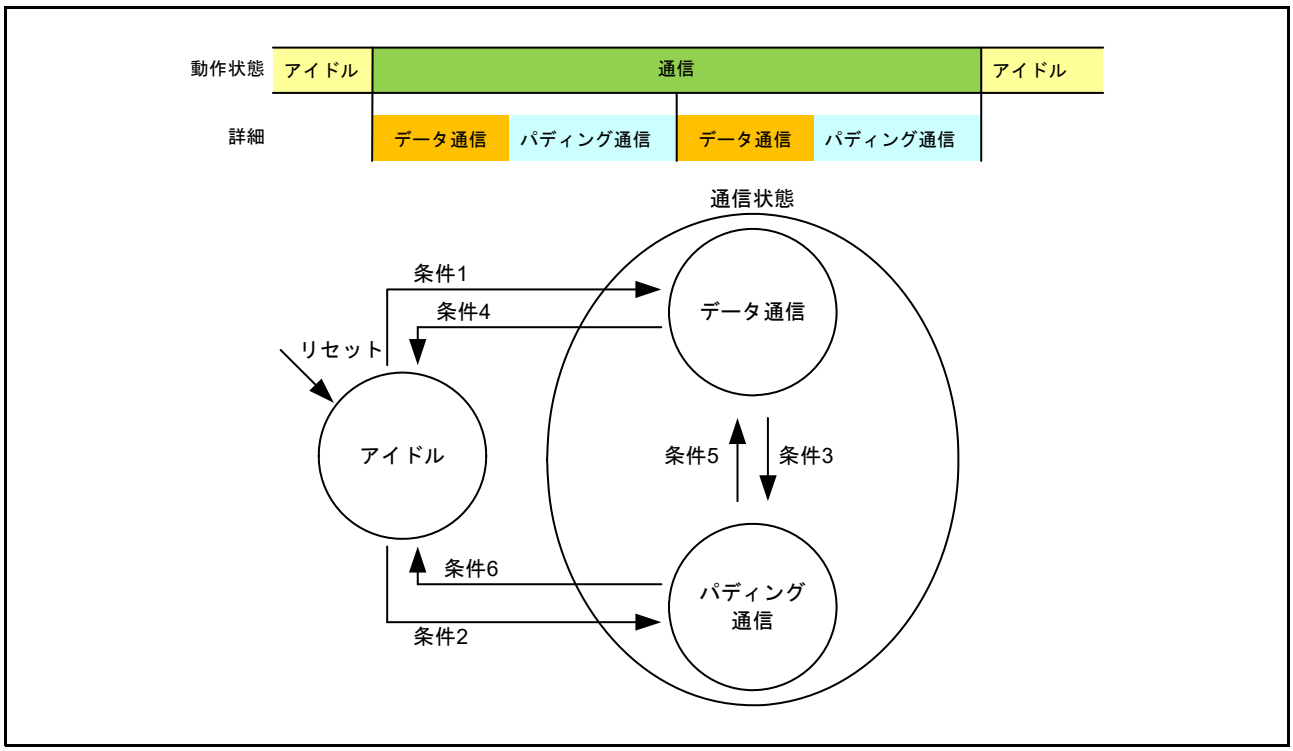


図 37.45　通信の状態遷移

表 37.15　通信の状態遷移の条件

条件番号	遷移条件
1	SSICR.SDTA = 0またはパディングビットなし設定の場合に、SSICR.TEN = 1またはSSICR.REN = 1を書いたとき
2	SSICR.SDTA = 1およびパディングビットあり設定の場合に、SSICR.TEN = 1またはSSICR.REN = 1を書いたとき
3	以下3つの条件をすべて満たしたとき • SSICR.TEN = 1またはSSICR.REN = 1 • パディングビットありの設定 • データワードの最終ビットの転送が完了
4	以下2つの条件を両方満たしたとき • SSICR.SDTA = 1またはパディングビットなし • SSICR.TEN = 0かつSSICR.REN = 0で、フレームのデータワードの最終ビットの転送が完了
5	SSICR.TEN = 1またはSSICR.REN = 1で、最終パディングビットの転送が完了
6	以下2つの条件を両方満たしたとき • SSICR.SDTA = 0かつパディングビットあり • SSICR.TEN = 0かつSSICR.REN = 0で、最終パディングビットの転送が完了

パディングビットあり／なしの設定は、表 37.11 を参照してください。

37.5.2.1　データ通信状態

データ通信状態のとき、SSIE では通信を行っています。SSICR.DWL[2:0] ビットで設定したデータワード長のデータが送信または受信、あるいは送受信されます。

- パディングビットなし設定での状態遷移

通信状態のとき（SSISR.IIRQ = 0）、SSIE では常に通信を行っています。送信と受信を禁止すると（SSICR.TEN = 0, SSICR.REN = 0）、SSIE はアイドル状態に遷移します。詳細は、図 37.46 および図 37.47 を参照してください。

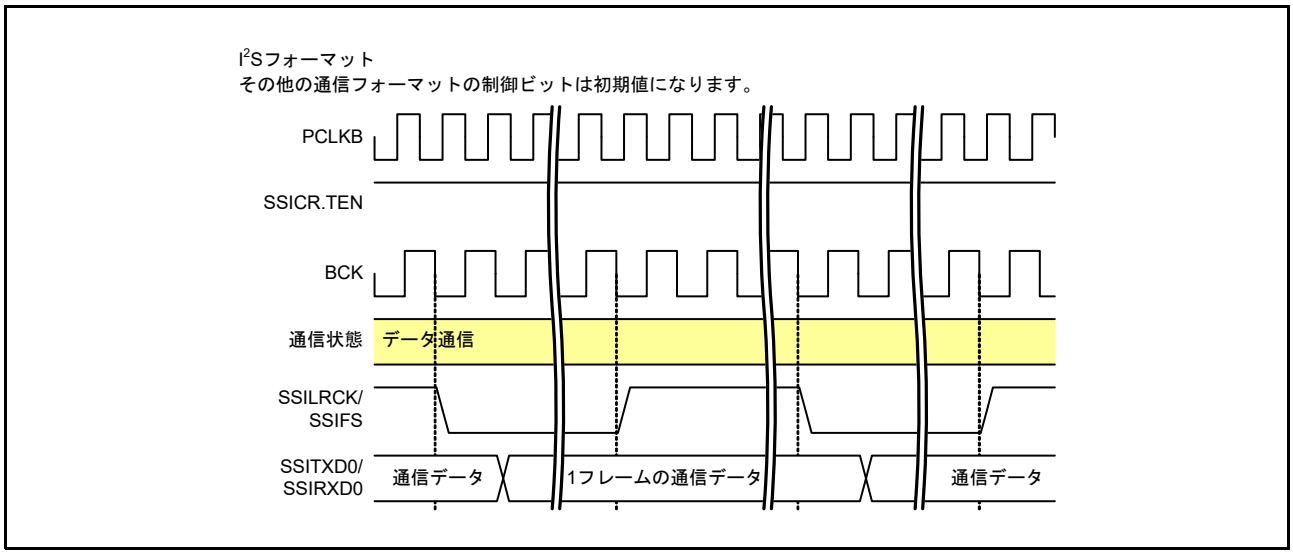


図 37.46　データ通信の継続

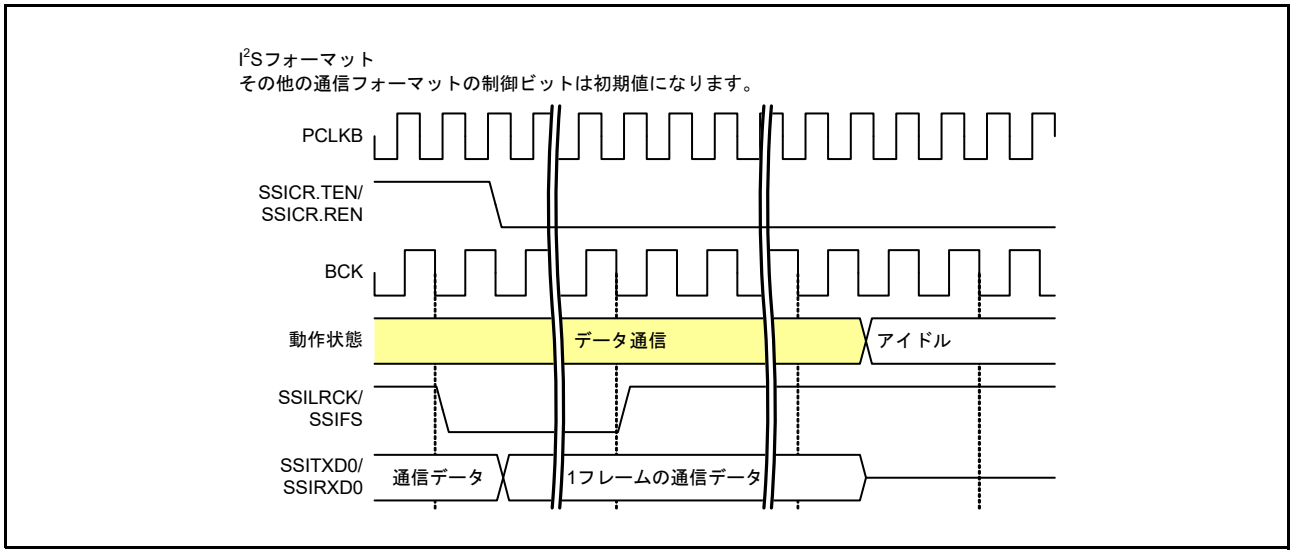


図 37.47　データ通信からの停止（パディングビットなし）

- パディングビットあり設定での状態遷移

SSIE の通信中に（SSISR.IIRQ = 0）データワードの最終ビットの転送を完了したとき、図 37.48 に示すように、SSIE はデータ通信状態からパディング通信状態へ遷移します。

SSICR.SDTA = 1 で送受信を禁止（SSICR.TEN = 0 かつ SSICR.REN = 0）した場合、図 37.49 に示すように通信を停止したとき、データ通信状態からアイドル状態に遷移します。

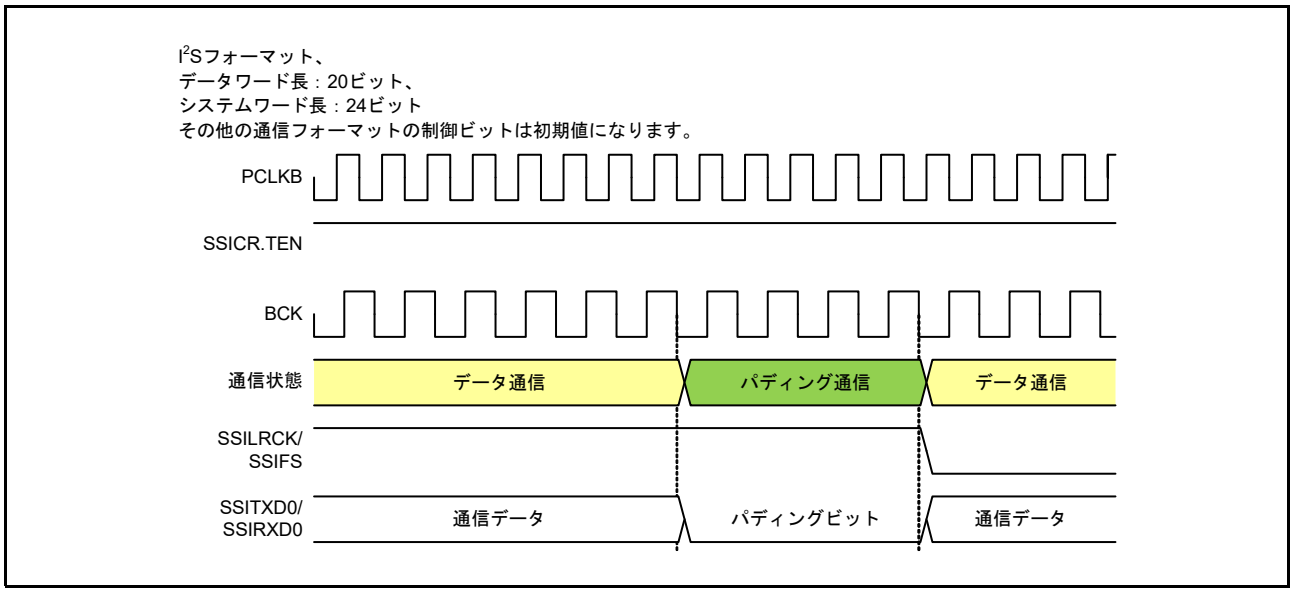


図 37.48　　データ通信からパディング通信への遷移

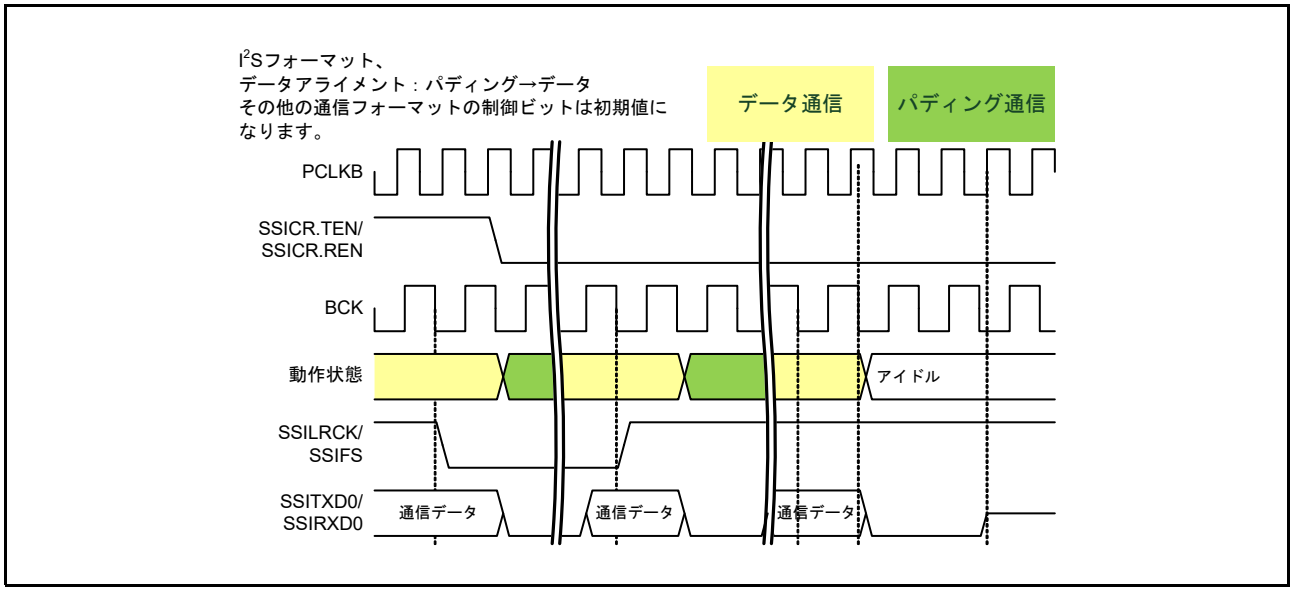


図 37.49　　データ通信からの停止（パディングビットあり）

37.5.2.2　パディング通信

パディング通信状態のとき、SSIE では常に通信を行っています。SSICR.SWL[2:0] ビットと SSICR.DWL[2:0] で設定したパディングビットが送信または受信、あるいは送受信されます。

- パディングビットあり設定での状態遷移

SSIE の通信中に（SSISR.IIRQ = 0）最終パディングビットの転送を完了したとき、図 37.48 に示すように、SSIE はデータ通信状態へ遷移します。SSICR.SDTA = 0 で送受信を禁止（SSICR.TEN = 0 かつ SSICR.REN = 0）した場合、図 37.50 に示すように通信を停止したとき、パディング通信状態からアイドル状態に遷移します。

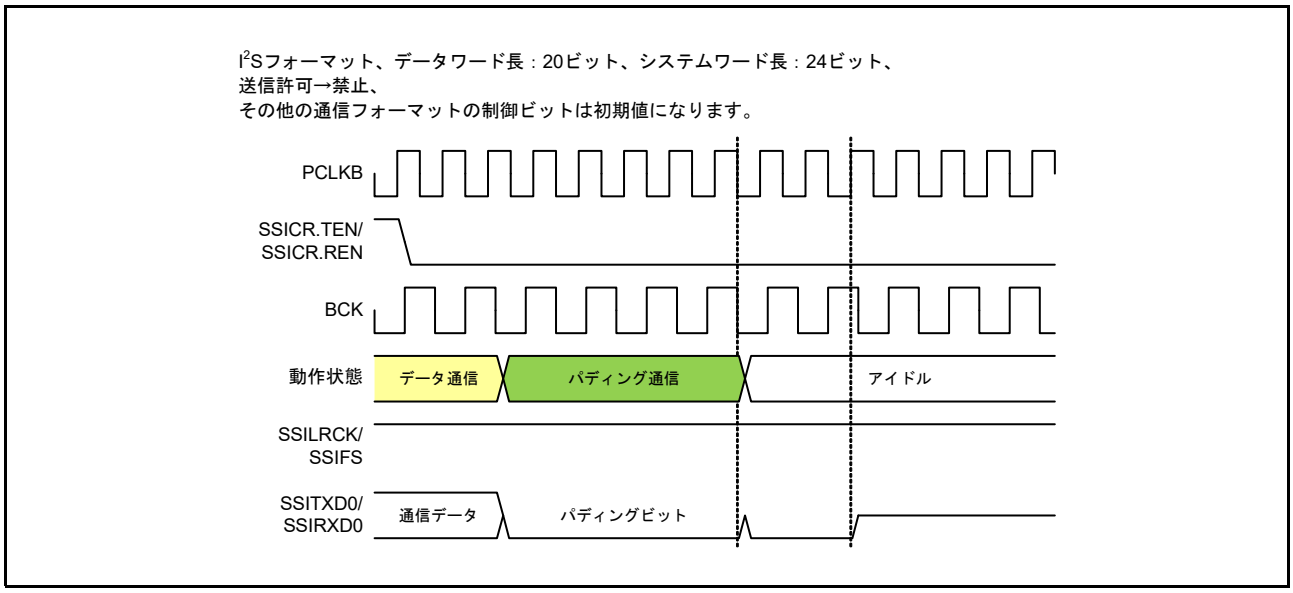


図 37.50　パディング通信からの停止

37.6　通信動作

図 37.51 に、SSIE の通信フローを示します。

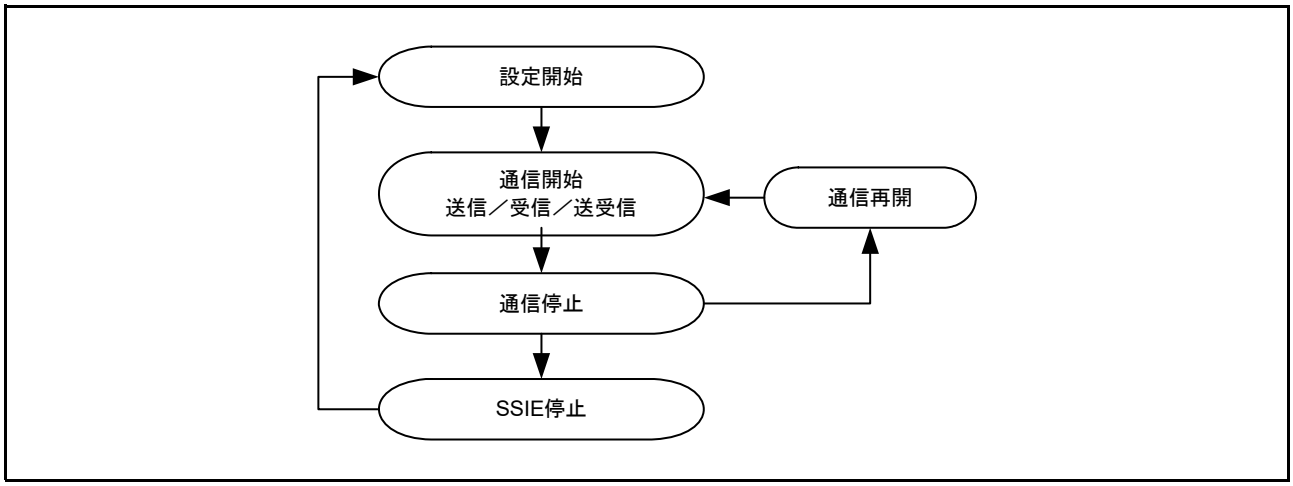
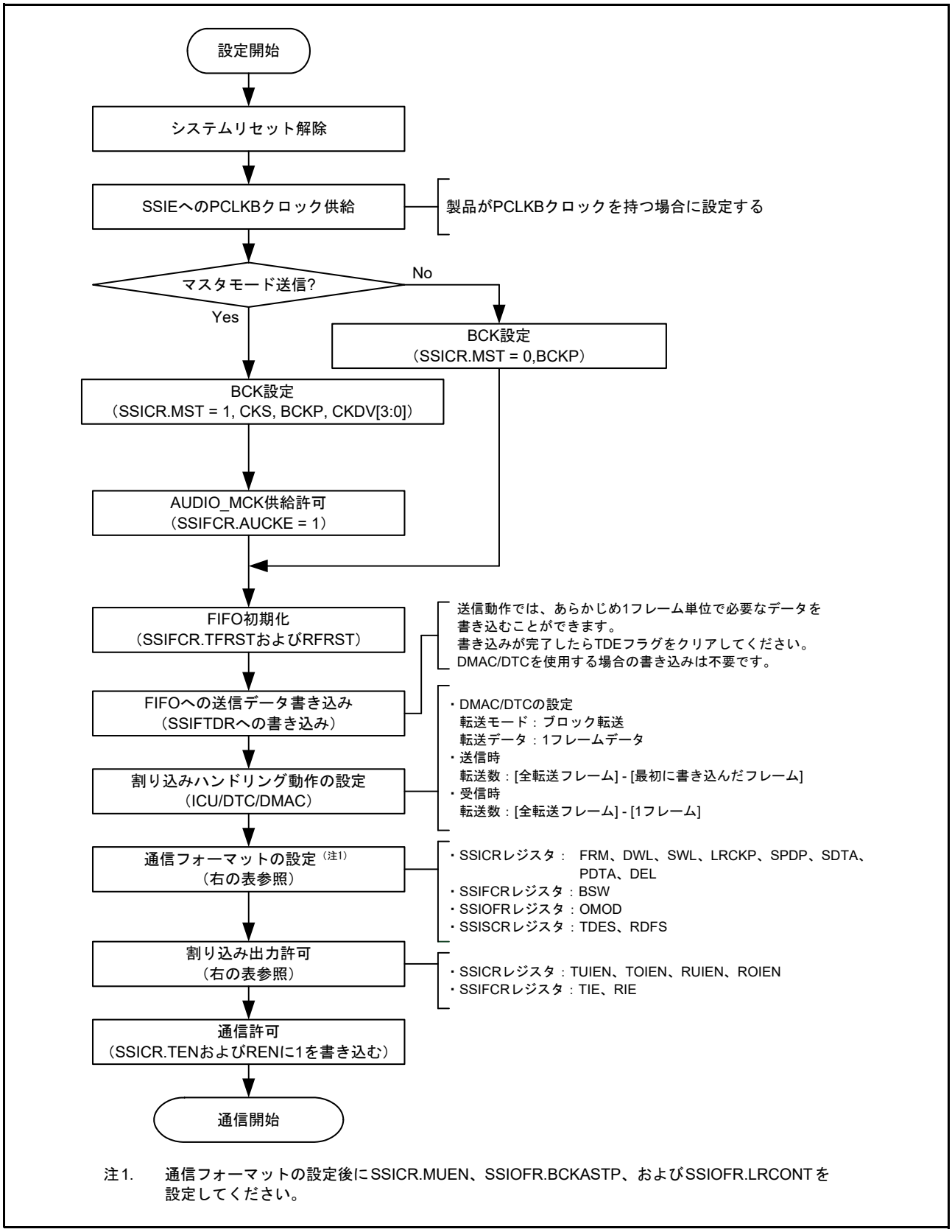


図 37.51　SSIE 通信動作

各動作の手順は、37.6.1　通信開始～ 37.6.7　通信再開で説明します。

37.6.1　通信開始

本項では、SSIE の通信開始方法について説明します。図 37.52 に、通信を開始する手順を示します。以下の手順に従ってください。送信および受信動作については、それぞれ 37.6.2　送信および 37.6.3　受信を参照してください。



注1.　通信フォーマットの設定後にSSICR.MUEN、SSIOFR.BCKASTP、およびSSIOFR.LRCONTを設定してください。

図 37.52　通信開始手順（CPU 動作手順）

SSIE では、DTC/DMAC 割り込みによる継続的な通信が可能です。送信の場合、SSIFCR.TIE、SSICR.TUIEN、および SSICR.TOIEN に 1 を書き込んでください。受信の場合、SSIFCR.RIE、SSICR.RUIEN、および SSICR.ROIEN に 1 を書き込んでください。

37.6.2　送信

送信動作については、すべて図 37.53 の送信手順に従ってください。

送信を許可（SSICR.TEN = 1 かつ SSICR.REN = 0）すると、少なくとも 1 フレームのシリアルデータが送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）にあり、SSILRCK/SSIFS によって開始トリガが生成されたとき、SSIE は送信を開始します。SSIE は、TDE 設定条件（SSISCR.TDES[4:0]）および通信の開始手順で指定した送信データエンプティ割り込み許可ビット（SSIFCR.TIE）の状態に応じて、送信データエンプティ割り込みを DTC/DMAC に出力します。送信データエンプティ割り込みは、送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）への書き込みを要求します。通信の開始手順で、送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）への書き込みは、送信データエンプティ割り込みに対応した DTC/DMAC 動作として指定してください。これにより、CPU を介さずに継続的なデータの送信が可能です。送信 FIFO データレジスタの空き容量が SSISCR.TDES[4:0] で指定した値に達したとき、送信データエンプティ割り込みは生成されます。送信 FIFO データレジスタへの書き込み回数は、送信データエンプティ割り込みによって示される送信 FIFO データレジスタの空き容量に応じて指定してください。エラーが発生したときは、通信の停止手順にあるエラー処理手順に従ってください。

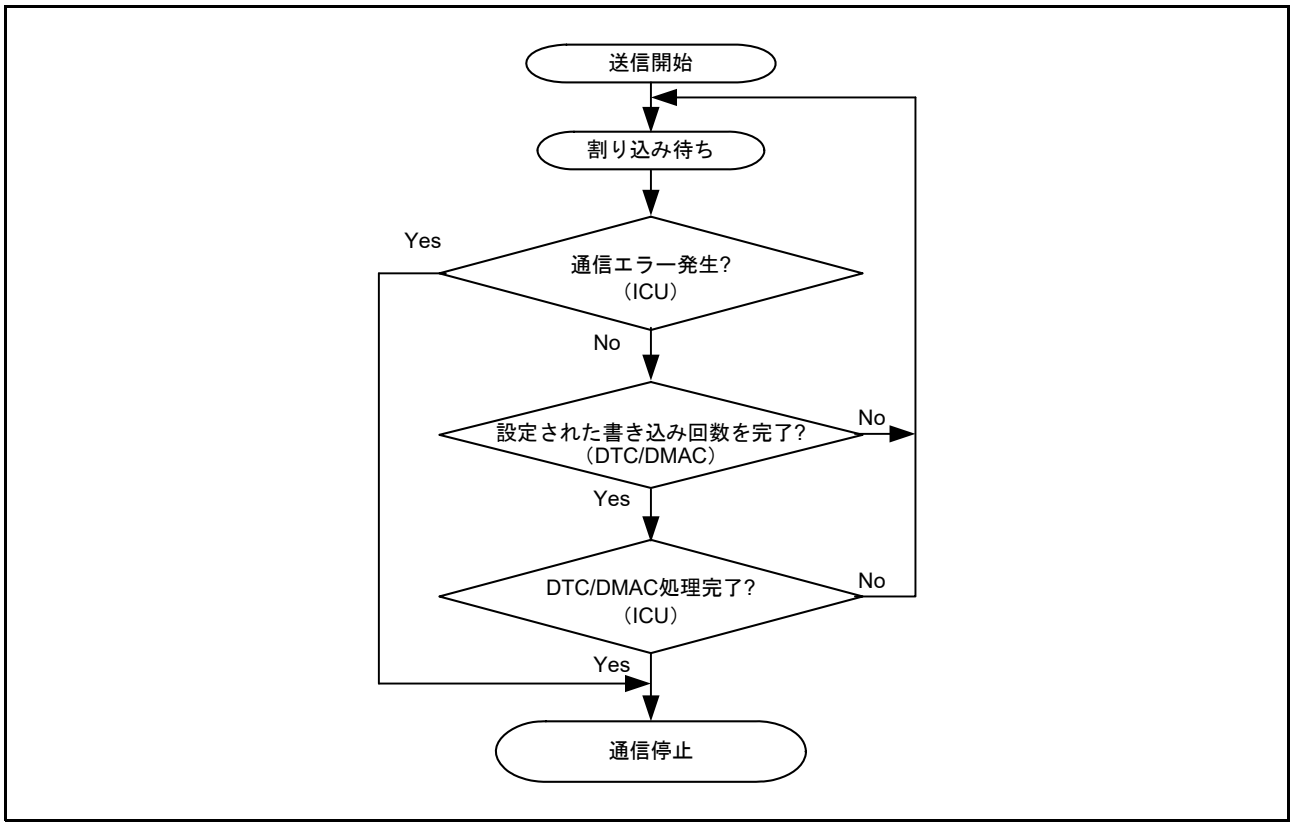


図 37.53　送信手順

注 .　SSIE に定義した通信フローでは、DTC/DMAC を使用します。DTC/DMAC を使用していない場合、SSIFSR.TDE の値 1 のポーリングを実行して SSIFTDR にデータを書き込むようにしてください。SSIFSR.TDE の値 1 の検出によって SSIFTDR へデータを書き込む回数は、SSISCR.TDES[4:0] ビットで指定した送信 FIFO データレジスタの空き容量に応じて決定してください。空き容量と同じサイズの送信データが SSIFTDR に書き込まれたら、SSIFSR.TDE フラグをクリアしてください。データ書き込みを繰り返すことで、継続的な送信が可能です。**SSIFSR.TDE フラグは、クリアしないと自動的にはクリアされません。**

37.6.3　受信

受信動作の手順を図 37.54 に示します。

受信を許可（SSICR.TEN = 0 かつ SSICR.REN = 1）すると、SSILRCK/SSIFS によって開始トリガが生成され、SSIE は受信を開始します。SSIE は、RDF 設定条件（SSISCR.RDFS[4:0]）および通信の開始手順で指定した受信データフル割り込み許可ビット（SSIFCR.RIE）の状態に応じて、受信データフル割り込みを DTC/DMAC に出力します。受信データフル割り込みは、受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR）からの読み出しを要求します。通信の開始手順で、受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR）からの読み出しは、受信データフル割り込みに対応した DTC/DMAC 動作として指定してください。これにより、CPU を介さずに継続的なデータの読み出しが可能です。受信 FIFO データレジスタと同容量のデータが格納されると、受信データフル割り込みは生成されます。受信 FIFO データレジスタからの読み出し回数は、受信データフル割り込みによって示される受信 FIFO データレジスタのデータサイズに応じて指定してください。エラーが発生したときは、通信の停止手順にあるエラー処理手順に従ってください。

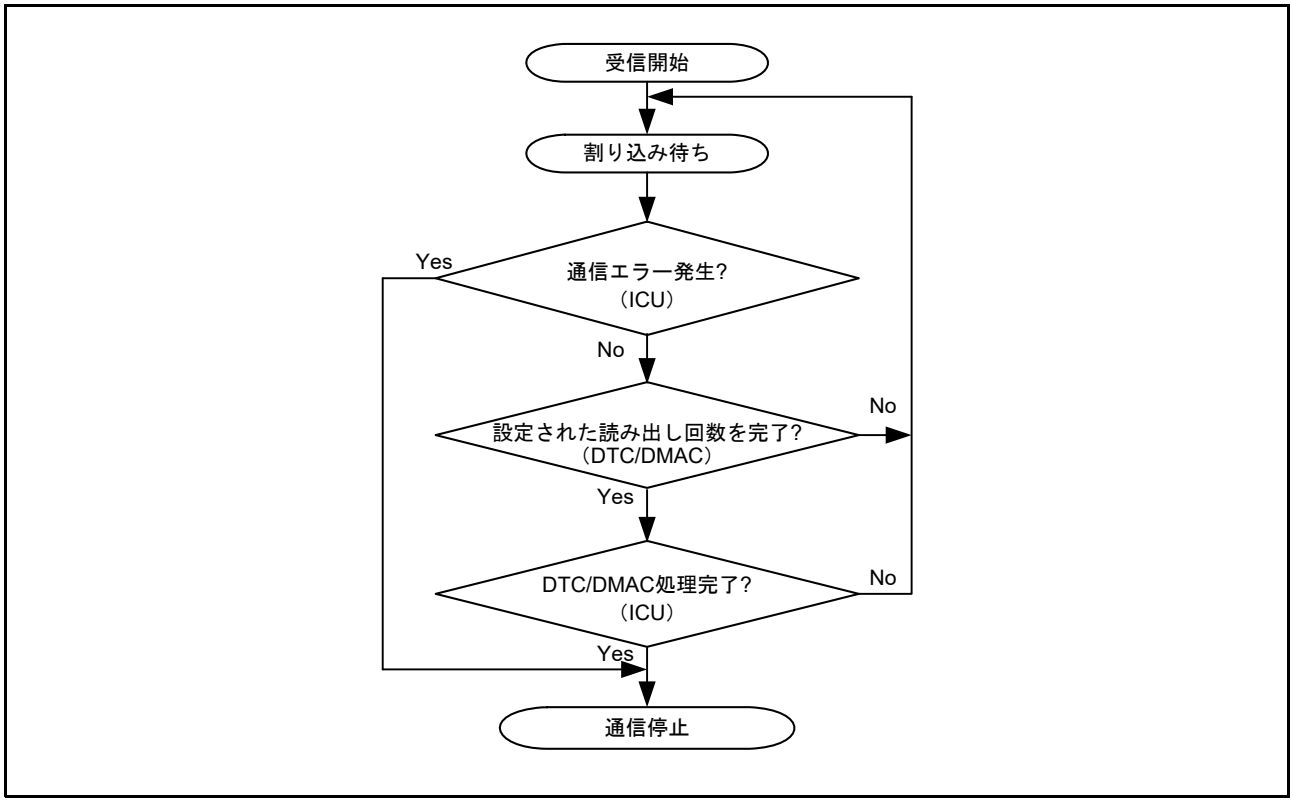


図 37.54　受信手順

注 .　SSIE に定義した通信フローでは、DTC/DMAC を使用します。DTC/DMAC を使用していない場合、SSIFSR.RDF の値 1 のポーリングを実行して SSIFRDR からデータを読み出すようにしてください。SSIFSR.RDF の値 1 の検出によって SSIFRDR からデータを読み出す回数は、SSISCR.RDFS[4:0] ビットで指定した受信 FIFO データレジスタの受信データ格納容量に応じて決定してください。受信データが SSIFRDR から読み出されたら、SSIFSR.RDF フラグをクリアしてください。データ読み出しを繰り返すことで、継続的な受信が可能です。**SSIFSR.RDF フラグは、クリアしないと自動的にはクリアされません。**

37.6.4　送信および受信

送信および受信を許可（SSICR.TEN = 1 かつ SSICR.REN = 1）すると、少なくとも 1 フレームのシリアルデータが送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）にあり、SSILRCK/SSIFS によって開始トリガが生成されたとき、SSIE は送信および受信を開始します。37.6.2　送信および 37.6.3　受信で説明する手順をそれぞれ実行することにより、継続的な送信および受信が可能です。送信および受信を停止する手順は、37.6.5　通信停止を参照してください。

37.6.5　通信停止

以下に、SSIE の通信停止方法について説明します。図 37.55 に示す手順に従って、通信を停止してください。

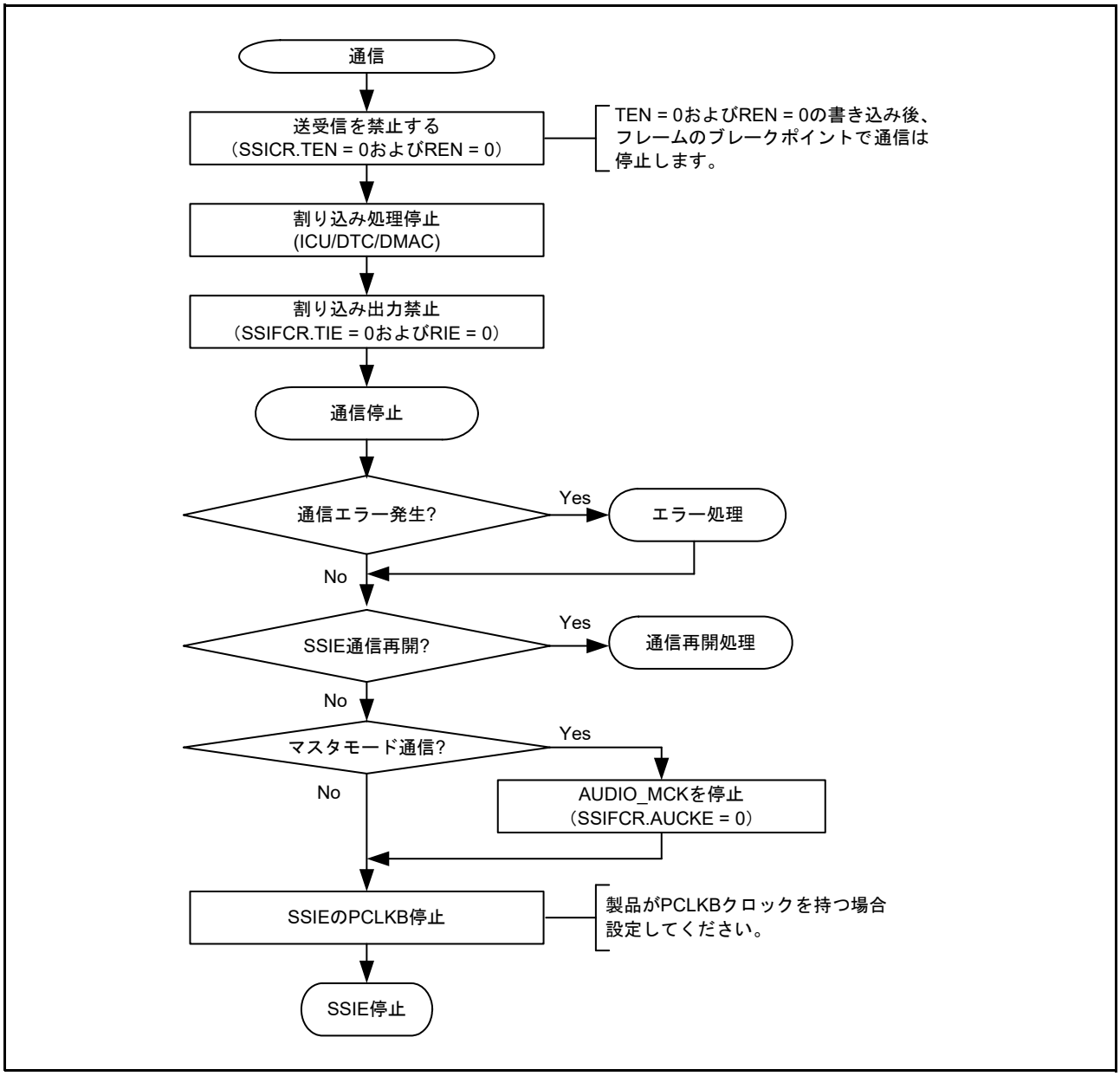


図 37.55　　通信停止手順（CPU 動作手順）

SSIE の通信を停止するには、SSISR.IIRQ ビットがアイドル状態を示すまで、以下のクロック供給が必要です。

- SSICR.MST = 0 のときは、SSIBCK 端子からの入力クロック
- SSICR.MST = 1 のときは、AUDIO_MCK

この設定のまま SSIE の通信を再開するときは、37.6.7　通信再開を参照してください。

注 .　図 37.55 に示す通信停止手順に従って SSIE を停止した後に通信を再開する場合、図 37.57 に示す通信再開手順に従ってください。

37.6.6　エラー処理

SSIE には、以下の 4 種類のエラーがあります。

- 送信アンダーフローエラー
- 送信オーバーフローエラー
- 受信アンダーフローエラー
- 受信オーバーフローエラー

アンダーフローエラーまたはオーバーフローエラーが生成された場合、SSIE はリスタートが必要です。図 37.55 の通信停止手順と図 37.56 のエラー処理手順に従ってください。

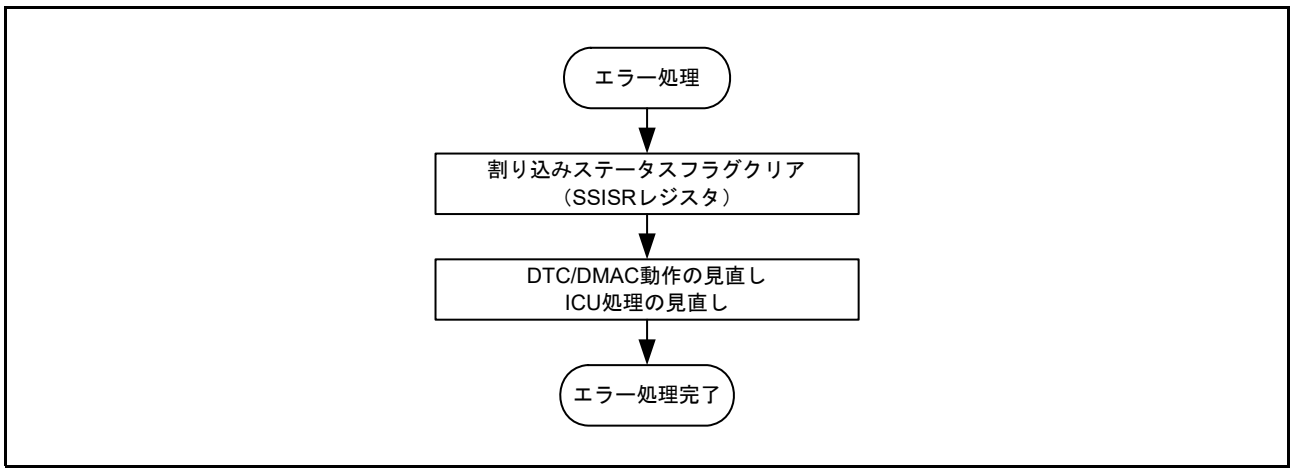


図 37.56　エラー処理手順

4 つのエラー動作について以下に説明します。SSICR レジスタの割り込み出力許可ビットを許可し、エラーフラグが設定されたとき、エラー割り込みが生成されます。エラーフラグの設定条件（1 になる条件）は、37.2.2　ステータスレジスタ（SSISR）のフラグについての説明を参照してください。

(1)　送信アンダーフローエラー

送信アンダーフローエラーが発生した場合、送信データエンプティ割り込みに応じた送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）への書き込み回数を見直してください。送信アンダーフローエラーが発生すると、SSIE はデータとして 0 を出力します。送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）へ書き込まれたシリアルデータが、SSITXD0 端子へ正常に出力されるようにするには、図 37.55 の通信停止手順と図 37.56 のエラー処理手順に従ってください。エラーが発生するときは、通常はシリアルデータはありません。通信を再開したら、最初からシリアルデータを書いてください。

(2)　送信オーバーフローエラー

送信オーバーフローエラーが発生した場合、送信データエンプティ割り込みに応じた送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）への書き込み回数を見直してください。送信オーバーフローエラーの原因となった送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）に書き込まれたシリアルデータは、無効になります。送信オーバーフローエラーは、送信動作の途中であっても発生します。エラーから回復するには、図 37.55 の通信停止手順と図 37.56 のエラー処理手順に従ってください。通信を再開する際は、無効なシリアルデータに適切に対処してください。

(3)　受信アンダーフローエラー

受信アンダーフローエラーが発生した場合、受信データフル割り込みに応じた受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR）からの読み出し回数を見直してください。受信アンダーフローエラーの原因となった受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR）から読み出される値は不定です。受信アンダーフローエラーは、受信動作の途中であっても発生します。エラーから回復するには、図 37.55 の通信停止手順と図 37.56 のエラー処理手順に従ってください。

(4)　受信オーバーフローエラー

受信オーバーフローエラーが発生した場合、受信データフル割り込みに応じた受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR）からの読み出し回数を見直してください。受信オーバーフローエラーの原因となった受信データは、受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR）に格納できません。エラーから回復するには、図 37.55 の通信停止手順と図 37.56 のエラー処理手順に従ってください。

37.6.7　通信再開

SSIE の通信を再開するときは、図 37.57 の通信再開の手順に従ってください。この手順は、通信停止手順で停止した通信設定に何も変更を加えずに再開することを前提としています。クロックおよびスレーブ／マスタ設定を変更するには、図 37.52 の通信開始手順に従ってください。通信を開始した後の送信および受信動作についての詳細は、37.6.2　送信および 37.6.3　受信をそれぞれ参照してください。

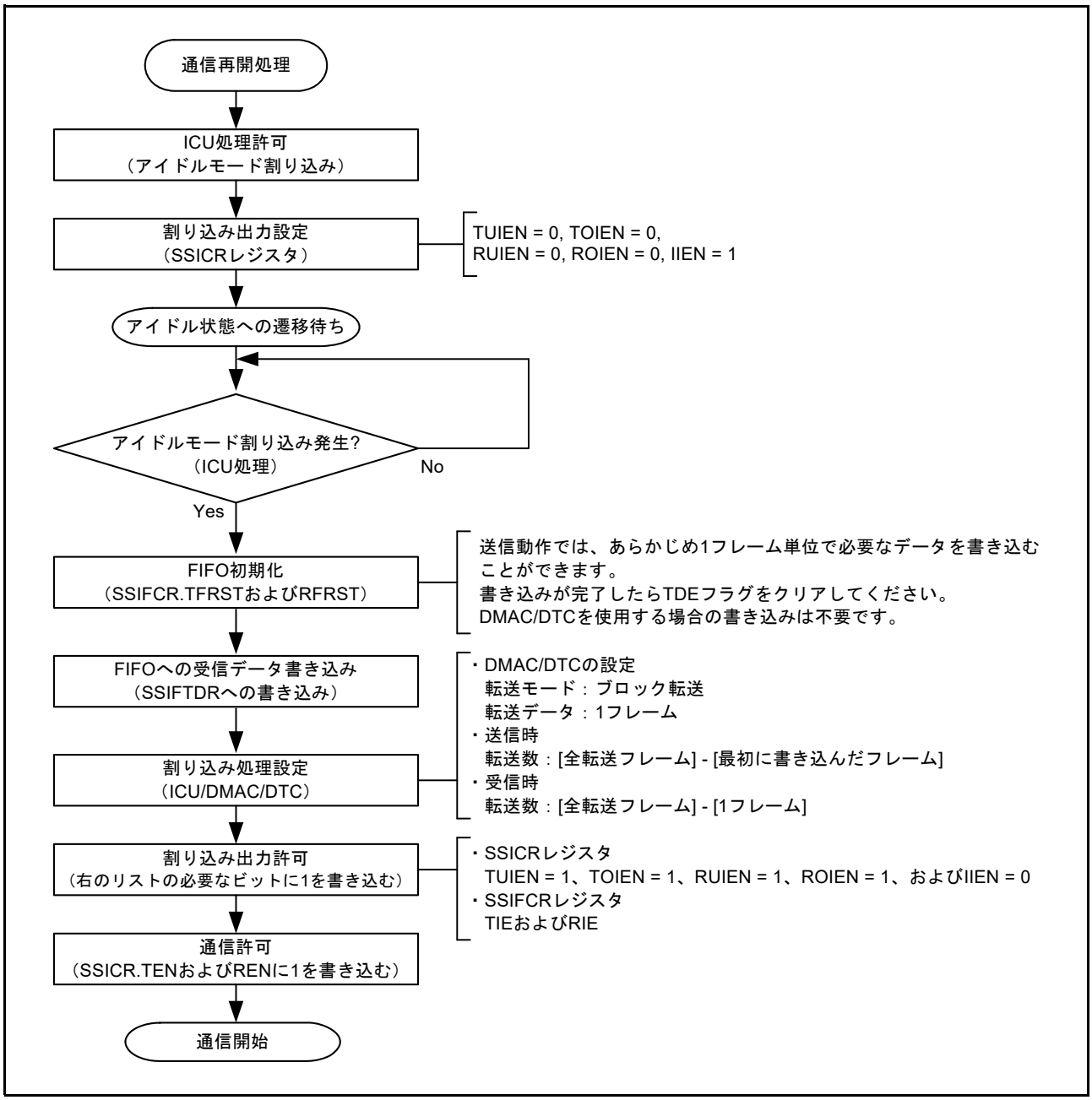


図 37.57　通信再開手順（CPU 動作手順）

37.7　割り込み

表 37.16 に、割り込み要因の一覧を示します。各割り込み要因の割り込み出力を、SSICR レジスタの TUIEN、TOIEN、RUIEN、ROIEN、および IIEN ビット、ならびに SSIFCR レジスタの TIE および RIE ビットで許可／禁止してください。

表 37.16　SSIE 割り込み要因

チャネル	割り込み要因	機能	割り込みフラグ	DMAC/DTC 起動
SSIE0	SSIE0_SSIF	• 送信アンダーフロー割り込み • 送信オーバーフロー割り込み • 受信アンダーフロー割り込み • 受信オーバーフロー割り込み • アイドル割り込み	SSISR.TUIRQ SSISR.TOIRQ SSISR.RUIRQ SSISR.ROIRQ SSISR.IIRQ	不可能
	SSIE0_SSIRXI	受信データフル割り込み	SSIFSR.RDF	可能
	SSIE0_SSITXI	送信データエンプティ割り込み	SSIFSR.TDE	可能

37.7.1　SSIE0_SSIF 割り込み

本割り込み要因は、5 種類の割り込みを組み合わせたものです。必要な割り込みの出力を許可してから、SSIE の使用を開始してください。これら 5 種類の割り込みは、それぞれ個別に割り当てられたフラグと割り込み出力許可ビットを使用することで動作します。割り込みを解除するには、割り込み許可ビットを 0 にするか、または割り込みフラグを 0 にクリアしてください。

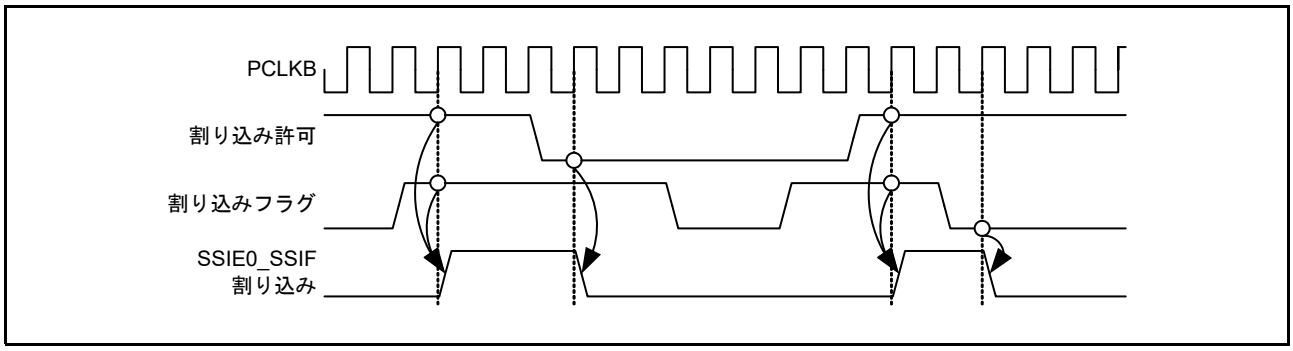


図 37.58　割り込み要因共通のタイミング図（SSIE0_SSIF）

- 送信アンダーフロー割り込み

SSICR.TUIEN = 1 のとき、送信アンダーフロー割り込みとして SSISR.TUIRQ が出力されます。SSIE で送信するときは、送信アンダーフロー割り込みの出力を許可してください（SSICR.TUIEN = 1）。本割り込みが発生したら、図 37.55 の通信停止手順と図 37.56 のエラー処理手順に従ってください。

- 送信オーバーフロー割り込み

SSICR.TOIEN = 1 のとき、送信オーバーフロー割り込みとして SSISR.TOIRQ が出力されます。SSIE で送信するときは、送信オーバーフロー割り込みの出力を許可してください（SSICR.TOIEN = 1）。本割り込みが発生したら、図 37.55 の通信停止手順と図 37.56 のエラー処理手順に従ってください。

- 受信アンダーフロー割り込み

SSICR.RUIEN = 1 のとき、受信アンダーフロー割り込みとして SSISR.RUIRQ が出力されます。SSIE で受信するときは、受信アンダーフロー割り込みの出力を許可してください（SSICR.RUIEN = 1）。本割り込みが発生したら、図 37.55 の通信停止手順と図 37.56 のエラー処理手順に従ってください。

- 受信オーバーフロー割り込み

SSICR.ROIEN = 1 のとき、受信オーバーフロー割り込みとして SSISR.ROIRQ が出力されます。SSIE で受信するときは、受信オーバーフロー割り込みの出力を許可してください（SSICR.ROIEN = 1）。本割り込みが発生したら、図 37.55 の通信停止手順と図 37.56 のエラー処理手順に従ってください。

- アイドルモード割り込み

SSICR.IIEN = 1 のとき、アイドルモード割り込みとして SSISR.IIRQ が出力されます。本割り込みは、通信が完全に停止したことを確認するために使用します。

37.7.2　SSIE0_SSITXI 割り込み（全二重通信）

送信データエンプティ割り込みは、パルス割り込みです。以下の条件になると出力されます。

- SSIFCR.TIE = 1 かつ SSIFSR.TDE = 1
  - SSIE 動作：SSIFCR.TIE の値が 1 で、SSIFSR.TDE の値が 0 から 1 に変わったとき
  - CPU 命令：SSIFSR.TDE の値が 1 で、SSIFCR.TIE の値が 0 から 1 に変わったとき

本割り込みには、割り込みの抑止機能が働きます。DTC/DMAC がビジー状態のときに（DTC/DMAC で割り込みの受け付けが不可能）本割り込みの割り込み条件になった場合、割り込みの抑止機能によって割り込み出力がホールドされます。ホールドされた割り込みは、DTC/DMAC で割り込みの受け付けが可能になると出力されるようになります。詳細は、図 37.59 を参照してください。

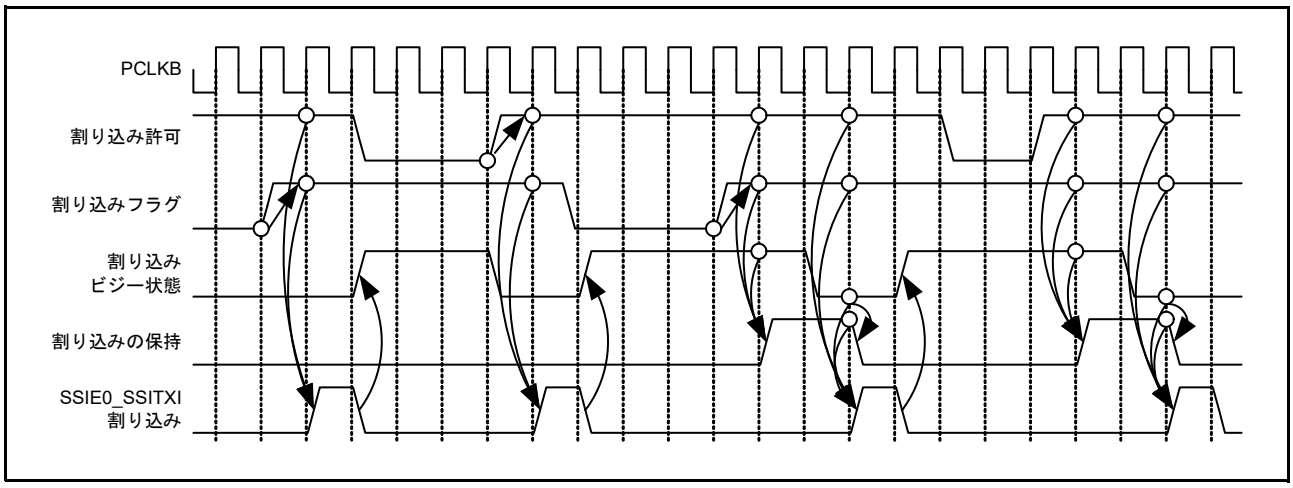


図 37.59　SSIE0_SSITXI 割り込みのタイミング図

37.7.3　SSIE0_SSIRXI 割り込み

受信データフル割り込みは、パルス割り込みです。以下の条件になると出力されます。

- SSIFCR.RIE = 1 かつ SSIFSR.RDF = 1
  - SSIE 動作：SSIFCR.RIE の値が 1 で、SSIFSR.RDF の値が 0 から 1 に変わったとき
  - CPU 命令：SSIFSR.RDE の値が 1 で、SSIFCR.RIE の値が 0 から 1 に変わったとき

本割り込みには、割り込みの抑止機能が働きます。DTC/DMAC がビジー状態のときに（DTC/DMAC で割り込みの受け付けが不可能）本割り込みの割り込み条件になった場合、割り込みの抑止機能によって割り込み出力がホールドされます。ホールドされた割り込みは、DTC/DMAC で割り込みの受け付けが可能になると出力されるようになります。本割り込みは、図 37.59 と同様に動作します。

37.8　ソフトウェアリセット

SSIE の状態をリセットするために、以下 3 種類のソフトウェアリセットビットがあります。

- SSIE ソフトウェアリセット（SSIFCR.SSIRST）
- 送信 FIFO データレジスタリセット（SSIFCR.TFRST）
- 受信 FIFO データレジスタリセット（SSIFCR.RFRST）

本項では、3 種類のソフトウェアリセットの手順を説明します。

37.8.1　ソフトウェアリセット手順

(1)　SSIE ソフトウェアリセット

SSIE のソフトウェアリセットビット（SSIFCR.SSIRST）を使用するときは、図 37.60 に示す手順に従ってください。リセット後に再開したときは、リセット前と同じ設定が適用されます。クロックおよびスレーブ／マスタモードの設定を変更するには、図 37.52 の通信開始手順に従ってください。通信再開後の送信および受信については、それぞれ 37.6.2　送信および 37.6.3　受信を参照してください。

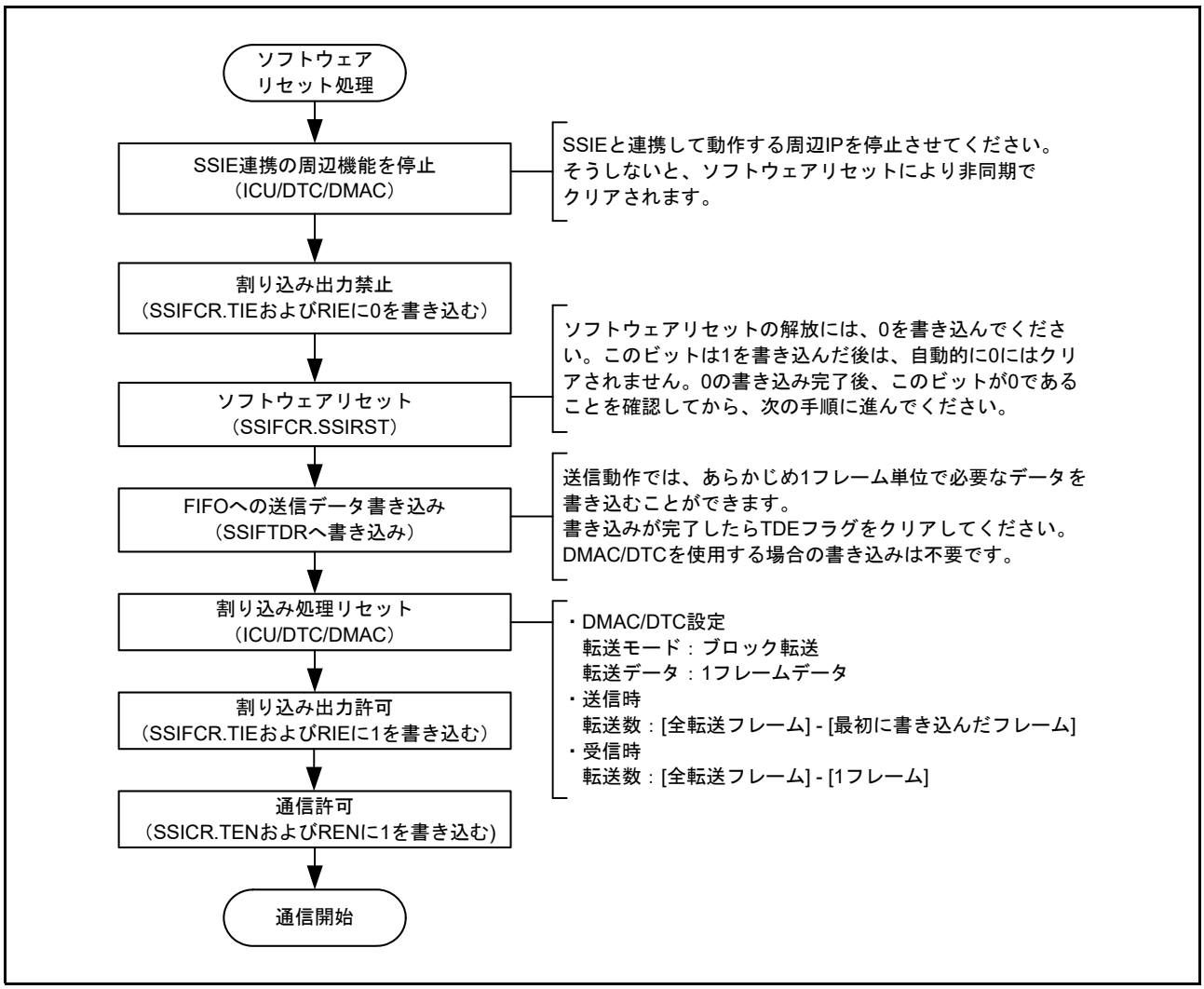


図 37.60　ソフトウェアリセット手順（CPU 動作手順）

(2) 送信 FIFO データレジスタリセット

送信 FIFO データレジスタリセットを行うには、図 37.52 に示す通信開始手順および図 37.57 に示す通信再開手順に従ってください。

(3) 受信 FIFO データレジスタリセット

受信 FIFO データレジスタリセットを行うには、図 37.52 に示す通信開始手順および図 37.57 に示す通信再開手順に従ってください。

37.9　使用上の注意事項

37.9.1　スレーブモード通信の注意事項

37.9.1.1　SSIBCK 制御

SSIE では、スレーブモード通信（SSICR.MST = 0）のとき、SSIBCK 供給が必要です。マスタ側で BCK を停止するには、SSIE がアイドル状態（SSISR.IIRQ = 1）であることを確認してください。SSIE がアイドル状態になる前に BCK が停止した場合、図 37.52 に示す通信開始手順に従うか、あるいは、図 37.57 に示す通信再開手順に従ってアイドル状態になるまで待機してください。

37.9.1.2　SSILRCK/SSIFS 端子

SSIE の SSILRCK/SSIFS 端子は通信の同期を示します。スレーブモード（SSICR.MST = 0）で通信するとき、SSIE の通信フォーマットは、相手側デバイスと同じにしてください。SSIE は、SSILRCK/SSIFS 端子による信号入力を、通信開始のトリガとしてのみ使用します。

37.9.2　マスタモード通信の注意事項

37.9.2.1　AUCKE 制御

マスタモード通信（SSICR.MST = 1）では、SSIE はオーディオクロック（AUDIO_MCK）と連携して動作します。SSIE を完全に停止するには、SSIE がアイドル状態（SSISR.IIRQ = 1）にあることを確認してから、SSIFCR.AUCKE に 0 を書き込んでください。

37.9.2.2　LRCONT 制御

SSIE がマスタモード通信（SSICR.MST = 1）でアイドル状態のとき、SSIOFR.LRCONT ビットで SSILRCK/SSIFS 端子への出力を停止する際は、SSIOFR.LRCONT ビットの値が 1 から 0 に変わると出力が停止することに留意してください。相手側デバイスには影響がないことを確認してください。詳細は、図 37.43 を参照してください。

37.9.2.3　BCKASTP 制御

SSIE がマスタモード通信（SSICR.MST = 1）でアイドル状態のとき、SSIOFR.BCKASTP ビットで SSIBCK 端子への出力を停止する際は、SSIOFR.BCKASTP ビットの値が 0 から 1 に変わると出力が停止することに留意してください。相手側デバイスには影響がないことを確認してください。詳細は、図 37.44 を参照してください。

相手側デバイス（スレーブ側）が、通信前および通信中に SSIBCK 端子からのクロック出力を要求するとき、BCKASTP ビットは使用できません。

37.9.3　通信フローの注意事項

37.9.3.1　エラー割り込み発生

SSIE には、以下の 4 種類のエラーがあります。

- 送信アンダーフローエラー
- 送信オーバーフローエラー
- 受信アンダーフローエラー
- 受信オーバーフローエラー

アンダーフローエラーまたはオーバーフローエラーが発生した場合、SSIE をリスタートしてください。図 37.55 の通信停止手順と図 37.56 のエラー処理手順に従ってください。

(1)　送信アンダーフローエラー

送信アンダーフローエラーが発生した場合、送信データエンプティ割り込みに応じた送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）への書き込み回数を見直してください。送信アンダーフローエラーが発生すると、SSIE はデータとして 0 を出力します。送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）へ書き込まれたシリアルデータが、SSITXD0 端子へ正常に出力されるようにするには、図 37.55 に示す通信停止手順と図 37.56 のエラー処理手順に従ってください。エラーが発生するときは、通常はシリアルデータはありません。通信を再開したら、最初からシリアルデータを書いてください。

(2)　送信オーバーフローエラー

送信オーバーフローエラーが発生した場合、送信データエンプティ割り込みに応じた送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）への書き込み回数を見直してください。送信オーバーフローエラーの原因となった送信 FIFO データレジスタ（SSIFTDR）に書き込まれたシリアルデータは、無効になります。送信オーバーフローエラーは、送信動作の途中であっても発生します。エラーから回復するには、図 37.55 に示す通信停止手順と図 37.56 のエラー処理手順に従ってください。通信を再開する際は、無効なシリアルデータに適切に対処してください。

(3)　受信アンダーフローエラー

受信アンダーフローエラーが発生した場合、受信データフル割り込みに応じた受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR）からの読み出し回数を見直してください。受信アンダーフローエラーの原因となった受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR）から読み出される値は不定です。受信アンダーフローエラーは、受信動作の途中であっても発生します。エラーから回復するには、図 37.55 に示す通信停止手順と図 37.56 のエラー処理手順に従ってください。

(4)　受信オーバーフローエラー

受信オーバーフローエラーが発生した場合、受信データフル割り込みに応じた受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR）からの読み出し回数を見直してください。受信オーバーフローエラーの原因となった受信データは、受信 FIFO データレジスタ（SSIFRDR）に格納できません。エラーから回復するには、図 37.55 に示す通信停止手順と図 37.56 のエラー処理手順に従ってください。

37.9.3.2　送信データエンプティ割り込み

SSIE に定義した通信フローでは、DTC/DMAC を使用します。DTC/DMAC を使用していない場合、SSIFSR.TDE の値 1 のポーリングを実行して SSIFTDR にデータを書き込むようにしてください。SSIFSR.TDE の値 1 の検出によって SSIFTDR へデータを書き込む回数は、SSISCR.TDES[4:0] ビットで指定した送信 FIFO データレジスタの空き容量に応じて決定してください。空き容量と同じサイズの送信データが SSIFTDR に書き込まれたら、SSIFSR.TDE フラグをクリアしてください。データ書き込みを繰り返すことで、継続的な送信が可能です。**SSIFSR.TDE フラグは、クリアしないと自動的にはクリアされません。**

37.9.3.3　受信データフル割り込み

SSIE に定義した通信フローでは、DTC/DMAC を使用します。DTC/DMAC を使用していない場合、SSIFSR.RDF の値 1 のポーリングを実行して SSIFRDR からデータを読み出すようにしてください。SSIFSR.RDF の値 1 の検出によって SSIFRDR からデータを読み出す回数は、SSISCR.RDFS[4:0] ビットで指定した受信 FIFO データレジスタの受信データ格納容量に応じて決定してください。受信データが SSIFRDR から読み出されたら、SSIFSR.RDF フラグをクリアしてください。データ読み出しを繰り返すことで、継続的な受信が可能です。**SSIFSR.RDF フラグは、クリアしないと自動的にはクリアされません。**

37.9.3.4　転送モードの切り替え

転送モードは以下のように切り替えできます。

1. 送信、受信、および送受信から状態遷移する場合、送信および受信を禁止してください（SSICR.TEN = 0、SSICR.REN = 0）。
2. 通信がアイドル状態にあることを確認してください（SSISR.IIRQ = 1）。
3. アイドル状態で SSICR.TEN ビットまたは SSICR.REN ビットを再設定し、転送を再開してください。

37.9.3.5　SSIE 停止後の通信再開

図 37.55 の通信停止手順に従って SSIE を停止した後に通信を再開する場合、図 37.57 の通信再開手順に従ってください。

37.9.4　書き込みアクセス制限

37.9.4.1　SSICR レジスタ

TEN ビットまたは REN ビットを書き換えた場合、SSISR.IIRQ ビットが目的の状態になっていることを確認してください。書き換えによって TEN または REN ビットの値を変更した場合、以降の動作は予測できません。たとえば、送信または受信許可の場合は SSISR.IIRQ が 0、送信または受信禁止の場合は SSISR.IIRQ が 1 であることを確認してください。

(1)　TEN ビットおよび REN ビット

送信および受信を許可／禁止します。いずれかのビットに 1 を書いたとき、SSILRCK/SSIFS 信号の開始トリガと同期して、対応する通信動作を開始します。詳細は、37.6.2　送信、37.6.3　受信、および 37.6.4 送信および受信を参照してください。0 を書いたとき、次のフレーム境界で、通信中の動作を停止します。送信と受信の両方で SSIE を使用するには、TEN ビットと REN ビットの両方へ同時に 1 を書いてください。SSIE での通信を停止するときは、常に送信と受信の両方を禁止してください（TEN ビットと REN ビットへ 0 の書き込み）。

37.9.4.2　SSISR レジスタ

(1)　TUIRQ フラグおよび TOIRQ フラグのクリア

通信を許可した後（SSICR.TEN ビットを 0 から 1 に変更）、送信エラーフラグ（SSISR レジスタの TOIRQ および TUIRQ）はクリアされます。ただし、SSISR レジスタが継続して読み出されるとき、送信エラーフラグをクリアしたステータスは、読み出しできない可能性があります。

(2)　RUIRQ フラグおよび ROIRQ フラグのクリア

通信を許可した後（SSICR.REN ビットを 0 から 1 に変更）、受信エラーフラグ（SSISR レジスタの RUIRQ および ROIRQ）はクリアされます。ただし、SSISR レジスタが継続して読み出されるとき、受信エラーフラグをクリアしたステータスは、読み出しできない可能性があります。

37.9.4.3　通信状態

表 37.17 で網掛けしたビットへは書き込みしないでください。書き込んだ場合、書き込み後の動作は保証されません。

表 37.17　　通信時のビットへの書き込み保護

シンボル	アドレス (BASE+)		+0								+1							
			31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
			15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SSICR	00h	+0	—	CKS	TUIEN	TOIEN	RUIEN	ROIEN	IIEN	—	FRM[1:0]		DWL[2:0]			SWL[2:0]		
		+2	—	MST	BCKP	LRCKP	SPDP	SDTA	PDTA	DEL	CKDV[3:0]				MUEN	—	TEN	REN
SSISR	04h	+0	—	—	TUIRQ	TOIRQ	RUIRQ	ROIRQ	IIRQ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		+2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SSIFCR	10h	+0	AUCKE	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SSIRST
		+2	—	—	—	—	BSW	—	—	—	—	—	—	—	TIE	RIE	TFRST	RFRST
SSIFSR	14h	+0	—	—	TDC[5:0]						—	—	—	—	—	—	—	TDE
		+2	—	—	RDC[5:0]						—	—	—	—	—	—	—	RDF
SSIFTDR	18h	+0	SSIFTDR[31:16]															
		+2	SSIFTDR[15:0]															
SSIFRDR	1ch	+0	SSIFRDR[31:16]															
		+2	SSIFRDR[15:0]															
SSIOFR	20h	+0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		+2	—	—	—	—	—	—	BCKASTP	LRCONT	—	—	—	—	—	—	OMOD[1:0]	
SSISCR	24h	+0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		+2	—	—	—	TDES[4:0]					—	—	—	RDFS[4:0]				

38.　サンプリングレートコンバータ（SRC）

38.1　概要

サンプリングレートコンバータ（SRC）は、WMA/MP3/AAC を含む各種オーディオデコーダで生成されたデータのサンプリングレートを変換するために使用されます。16 ビットのステレオデータとモノラルデータの両方に対応しています。入力信号のサンプリングレートは、8kHz、11.025kHz、12kHz、16kHz、22.05kHz、24kHz、32kHz、44.1kHz、48kHz のいずれかになります。出力信号のサンプリングレートは、8kHz、16kHz、32kHz、44.1kHz、48kHz のいずれかになります。入力用と出力用で FIFO が独立しています。一般的な用途では、DMA コントローラを使用して PCM オーディオデータを、たとえば SRAM から SRC に転送することが可能です。その後、SRC からサンプル変換されたオーディオデータは、DMA コントローラを使用して SSIE インタフェースに転送され、SSIE から外部オーディオコーデックに送信することが可能です。

表 38.1 に SRC の仕様を、図 38.1 にブロック図を示します。

表 38.1　SRCの仕様

項目		内容
データサイズ		16ビット（ステレオ／モノラル）
サンプリングレート	入力	8kHz、11.025kHz、12kHz、16kHz、22.05kHz、24kHz、32kHz、44.1kHz、48kHzから選択可能
	出力	8kHz（注1）、16kHz（注1）、32kHz、44.1kHz、48kHzから選択可能
処理性能		1サンプルの出力間隔は最大7.7μs（PCLKB = 60MHz、462クロック）
SNR		80dB以上
割り込み要因		5種類 入力FIFOエンプティ、出力FIFOフル、出力FIFOオーバーフロー、出力FIFOアンダーフロー、変換処理終了
DMA転送要因		2種 入力FIFOエンプティ、出力FIFOフル
モジュールストップ機能		モジュールストップ状態に設定して消費電力を削減

注 1.　入力 44.1kHz 選択時のみ

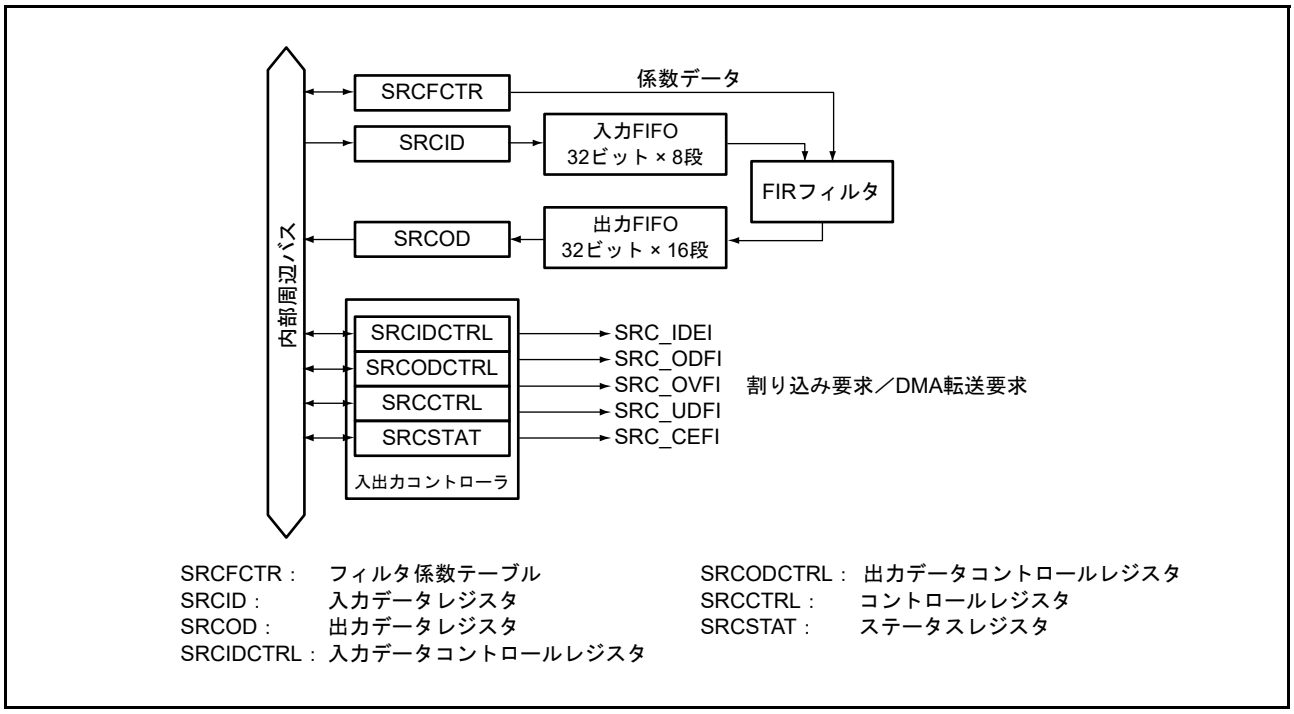


図 38.1　SRC のブロック図

38.2　レジスタの説明

38.2.1　入力データレジスタ（SRCID）

アドレス　SRC.SRCID 4004 DFF0h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

SRCID レジスタは、32 ビットの書き込み専用レジスタで、サンプリングレート変換前のデータの入力に用います。すべてのビットは読み出すと 0 が読み出されます。SRCID へ書き込まれたデータは、8 段の入力 FIFO に格納されます。入力 FIFO のデータ数が 8 のときは、SRCID への書き込みは無効になります。

ステレオデータの場合、b31 ～ b16 には Lch のデータ、b15 ～ b0 には Rch のデータを格納します。モノラルデータの場合、b31 ～ b16 が有効なデータで、b15 ～ b0 が無効なデータです。

変換処理の対象となるデータは、SRCIDCTRL の IED 設定値によりアライメントが異なります。表 38.2 に SRCIDCTRL の IED の設定値とデータのアライメントとの関係を示します。

表 38.2　サンプリングレート変換前のデータアライメント

IED	Lch[15:8]	Lch[7:0]	Rch[15:8]	Rch[7:0]
0	SRCID[31:24]	SRCID[23:16]	SRCID[15:8]	SRCID[7:0]
1	SRCID[23:16]	SRCID[31:24]	SRCID[7:0]	SRCID[15:8]

38.2.2 出力データレジスタ（SRCOD）

アドレス SRC.SRCOD 4004 DFF4h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

SRCOD レジスタは、32 ビットの読み出し専用レジスタで、サンプリングレート変換後のデータの出力に用います。16 段の出力 FIFO に格納されたデータを SRCOD から読み出します。変換処理の開始後に、出力 FIFO がエンプティのときは、前回と同じ値が読み出されます。

SRCOD のデータは、SRCODCTRL の OCH と OED の設定値によりアライメントが異なります。表 38.3 に SRCODCTRL の OCH および OED の設定値と SRCOD におけるデータのアライメントとの関係を示します。

表 38.3　SRCOD のデータアライメント

OCH	OED	SRCOD[31:24]	SRCOD[23:16]	SRCOD[15:8]	SRCOD[7:0]
0	0	Lch[15:8]	Lch[7:0]	Rch[15:8]（注1）	Rch[7:0]（注1）
	1	Lch[7:0]	Lch[15:8]	Rch[7:0]（注1）	Rch[15:8]（注1）
1（注2）	0	Rch[15:8]	Rch[7:0]	Lch[15:8]	Lch[7:0]
	1	Rch[7:0]	Rch[15:8]	Lch[7:0]	Lch[15:8]

注 1.　モノラルデータを処理する場合は無効なデータとなります。32 ビットで読み出したあと、無効データを破棄してください。
注 2.　モノラルデータを処理する場合は無効なデータとなります。

38.2.3　入力データコントロールレジスタ（SRCIDCTRL）

アドレス　SRC.SRCIDCTRL 4004 DFF8h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	IED	IEN	—	—	—	—	—	—	IFTRG[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	IFTRG[1:0]	入力FIFOデータ数トリガ	b1　b0 0　0：0 0　1：2 1　0：4 1　1：6	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	IEN	入力FIFOエンプティ割り込み許可	0：入力FIFOエンプティ割り込み禁止 1：入力FIFOエンプティ割り込み許可	R/W
b9	IED	入力データエンディアン（注1）	0：リトルエンディアン 1：ビッグエンディアン	R/W
b15-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　SRCCTRL.SRCEN ビットが 0 の場合に限り書き換えてください。

SRCIDCTRL レジスタは、16 ビットの読み出し／書き込みレジスタで、入力データのエンディアン形式、割り込み要求の許可／禁止、トリガデータ数を設定します。

IFTRG[1:0] ビット（入力 FIFO データ数トリガ）

ステータスレジスタ（SRCSTAT）の IINT フラグが 1 のときのデータ数を指定します。入力 FIFO に格納された入力データ数が設定トリガ数以下になったとき、IINT フラグを 1 にします。

IEN ビット（入力 FIFO エンプティ割り込み許可）

入力 FIFO のデータ数が IFTRG[1:0] ビットで設定されたトリガ数以下になり、ステータスレジスタ（SRCSTAT）の IINT フラグが 1 になったときに、入力 FIFO エンプティ割り込み要求の発行を許可／禁止します。

IED ビット（入力データエンディアン）

入力データのエンディアン形式を指定します。

38.2.4　出力データコントロールレジスタ（SRCODCTRL）

アドレス　SRC.SRCODCTRL 4004 DFFAh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	OCH	OED	OEN	—	—	—	—	—	—	OFTRG[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	OFTRG[1:0]	出力FIFOデータ数トリガ	b1 b0 0 0 : 1 0 1 : 4 1 0 : 8 1 1 : 12	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	OEN	出力FIFOフル割り込み許可	0：出力FIFOフル割り込み禁止 1：出力FIFOフル割り込み許可	R/W
b9	OED	出力データエンディアン	0：リトルエンディアン 1：ビッグエンディアン	R/W
b10	OCH	出力データチャネル入れ替え （注1）	0：チャネルを入れ替えない（入力データの順と同じにする） 1：チャネルを入れ替える（入力データの順と逆にする）	R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　SRCCTRL.SRCEN ビットが 0 の場合に限り書き換えてください。

SRCODCTRL レジスタは、16 ビットの読み出し／書き込みレジスタで、出力データのチャネル入れ替え、エンディアン形式、割り込み要求の許可／禁止、トリガデータ数を設定します。

OFTRG[1:0] ビット（出力 FIFO データ数トリガ）

ステータスレジスタ（SRCSTAT）の OINT フラグが 1 のときのデータ数を指定します。出力 FIFO に格納された出力データ数が設定トリガ数以上になったとき、OINT フラグを 1 にします。

OEN ビット（出力 FIFO フル割り込み許可）

出力 FIFO のデータ数が OFTRG[1:0] ビットで設定された数以上になり、ステータスレジスタ（SRCSTAT）の OINT フラグが 1 になったときに、出力 FIFO フル割り込み要求の発行を許可／禁止します。

OED ビット（出力データエンディアン）

出力データのエンディアン形式を指定します。

OCH ビット（出力データチャネル入れ替え）

出力データレジスタ（SRCOD）のチャネル入れ替えを指定します。モノラルデータを変換する場合には 1 にしないでください。

38.2.5 コントロールレジスタ（SRCCTRL）

アドレス SRC.SRCCTRL 4004 DFFCh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	FICRAE	—	CEEN	SRCEN	UDEN	OVEN	FL	CL	IFS[3:0]				—	OFS[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	OFS[2:0]	出力サンプリングレート	b2 b0 0 0 0：44.1kHz 0 0 1：48.0kHz 0 1 0：32.0kHz 0 1 1：設定禁止 1 0 0：8.0kHz（注1） 1 0 1：16.0kHz（注1） 上記以外は設定しないでください。	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7-b4	IFS[3:0]	入力サンプリングレート	b7 b4 0 0 0 0：8.0kHz 0 0 0 1：11.025kHz 0 0 1 0：12.0kHz 0 0 1 1：設定禁止 0 1 0 0：16.0kHz 0 1 0 1：22.05kHz 0 1 1 0：24.0kHz 0 1 1 1：設定禁止 1 0 0 0：32.0kHz 1 0 0 1：44.1kHz 1 0 1 0：48.0kHz 上記以外は設定しないでください。	R/W
b8	CL	内部ワークメモリクリア	1を書き込むと、入力FIFO、出力FIFO、入力バッファメモリ、中間メモリ、およびアキュムレータをクリア	R/W
b9	FL	内部ワークメモリフラッシュ	1を書き込むと、入力FIFO、入力バッファメモリ、および中間メモリに格納されたすべてのデータに対するサンプリングレートの変換（フラッシュ処理）を開始します。	R/W
b10	OVEN	出力FIFOオーバーフロー割り込み許可	0：出力FIFOオーバーフロー割り込み禁止 1：出力FIFOオーバーフロー割り込み許可	R/W
b11	UDEN	出力FIFOアンダーフロー割り込み許可	0：出力FIFOアンダーフロー割り込み禁止 1：出力FIFOアンダーフロー割り込み許可	R/W
b12	SRCEN	モジュール許可	0：SRCモジュール動作を禁止 1：SRCモジュール動作を許可（注2）	R/W
b13	CEEN	変換処理終了割り込み許可	0：変換処理終了割り込み禁止 1：変換処理終了割り込み許可	R/W
b14	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15	FICRAE	フィルタ係数テーブルアクセス許可	0：フィルタ係数テーブルRAMへの読み出し／書き込み禁止 1：フィルタ係数テーブルRAMへの読み出し／書き込み許可	R/W

注 1.　IFS[3:0] = 1001b のときのみ有効です。

注 2.　SRCEN = 1 のときは、下記ビットの設定値を変更しないでください。
SRCIDCTRL.IED ビット、SRCODCTRL.OED および SRCODCTRL.OCH ビット、SRCCTRL.OFS[2:0]、SRCCTRL.IFS[3:0]、および SRCCTRL.FICRAE ビット

SRCCTRL は、16 ビットの読み出し／書き込みレジスタで、フィルタ係数テーブルへのアクセス、モジュール動作、および割り込み要求の許可／禁止を設定します。また、フラッシュ処理、内部ワークメモリのクリア処理、および入力／出力サンプリングレートの設定も行います。

OFS[2:0] ビット（出力サンプリングレート）

出力サンプリングレートを指定します。

IFS[3:0] ビット（入力サンプリングレート）

入力サンプリングレートを指定します。

CL ビット（内部ワークメモリクリア）

1 を書き込むと、入力 FIFO、出力 FIFO、入力バッファメモリ、中間バッファメモリ、およびアキュムレータをクリアし、CL ビットは 0 になります。読むと 0 が読めます。SRCEN = 0 の場合でも、1 を書き込むとクリアします。

FL ビット（内部ワークメモリフラッシュ）

1 を書き込むと、入力 FIFO、入力バッファメモリ、および中間メモリに格納されたすべてのデータに対するサンプリングレートの変換を開始することでフラッシュ処理を開始します。読むと 0 が読めます。SRCEN = 0 のときは、1 を書き込んでもフラッシュ処理を実行しません。

また、入力バッファメモリ内のデータの数が表 38.6 に示す値を下回る状態で FL ビットに 1 を書き込んだ場合は、有効な出力データが受信できません。フラッシュ処理を実行しないまま、内部ワークメモリがクリアされます。

OVEN ビット（出力 FIFO オーバーフロー割り込み許可）

ステータスレジスタ（SRCSTAT）の OVF フラグが 1 の場合に、出力 FIFO オーバーフロー割り込み要求の発行を許可／禁止します。

OVEN = 1 の場合は、出力 FIFO オーバーフロー割り込みが発生すると、CPU による SRCSTAT へのアクセスで OVF フラグがクリアされるまで、変換処理が停止します。出力 FIFO への変換結果の書き込みも停止します。

OVEN = 0 の場合は、出力 FIFO に空きができると自動的に OVF フラグがクリアされ、変換処理を継続できます。

UDEN ビット（出力 FIFO アンダーフロー割り込み許可）

出力 FIFO のデータ数が 0 の状態で出力 FIFO が読み出だされ、ステータスレジスタ（SRCSTAT）の UDF フラグが 1 になったときの、出力 FIFO アンダーフロー割り込み要求の発行を許可／禁止します。

SRCEN ビット（モジュール許可）

SRC 動作を許可／禁止します。SRCEN が 0 のときに 1 を書き込むと、内部ワークメモリをクリアします。

CEEN ビット（変換処理終了割り込み許可）

フラッシュ処理が完了してすべての出力データが読み出され、ステータスレジスタ（SRCSTAT）の CEF フラグが 1 になったときの、変換終了割り込み要求の発行を許可／禁止します。

FICRAE ビット（フィルタ係数テーブルアクセス許可）

フィルタ係数テーブル RAM へのアクセスを許可／禁止します。フラッシュ処理終了後、変換結果として得られる出力データ数は、以下に示す式から求められます。

$$\frac{\text{出力データ数} - 1}{\text{出力サンプリングレート}} = \frac{\text{入力データ数} \times n - 1}{\text{入力サンプリングレート} \times n}$$

$$\text{出力データ数} = \left[(\text{入力データ数} \times n - 1) \times \frac{\text{出力サンプリングレート}}{\text{入力サンプリングレート} \times n} \right] + 1$$

n の値は、表 38.4 から得られます。入力データ数は表 38.5 の値以上に設定してください。

表 38.4　　サンプリングレート設定と N 値

OFS[2:0] 設定値（出力サンプリングレート [kHz]）	IFS[3:0] 設定値（入力サンプリングレート [kHz]）								
	0000b（8.0）	0001b（11.025）	0010b（12.0）	0100b（16.0）	0101b（22.05）	0110b（24.0）	1000b（32.0）	1001b（44.1）	1010b（48.0）
000b（44.1）	6	4	4	3	2	2	3	—	1
001b（48.0）	6	4	4	3	2	2	3	1	—
010b（32.0）	4	8	4	2	4	2	—	2	1
100b（8.0）	—	—	—	—	—	—	—	—	—
101b（16.0）	—	—	—	—	—	—	—	—	—

一定数のデータが入力されるまでは、変換処理を開始しないため、出力データを得ることはできません。最初の出力データを得るために必要となる入力データ数は、IFS ビットと OFS ビットの設定値により異なります。表 38.5 は、IFS ビットと OFS ビットの設定値の関係と、必要な初期入力データ数を示しています。表 38.6 は、IFS ビットと OFS ビットの設定値の関係と、処理に必要な初期入力データ数を示しています。

表 38.5　　サンプリングレート設定値と必要な初期入力データ数の関係

OFS[2:0] 設定値（出力サンプリングレート [kHz]）	IFS[3:0] 設定値（入力サンプリングレート [kHz]）								
	0000b（8.0）	0001b（11.025）	0010b（12.0）	0100b（16.0）	0101b（22.05）	0110b（24.0）	1000b（32.0）	1001b（44.1）	1010b（48.0）
000b（44.1）	38	40	40	43	48	48	43	—	63
001b（48.0）	38	40	40	43	48	48	43	32	—
010b（32.0）	40	37	40	48	40	48	—	48	63
100b（8.0）	—	—	—	—	—	—	—	63	—
101b（16.0）	—	—	—	—	—	—	—	63	—

表 38.6　　サンプリングレート設定値とフラッシュ処理に必要な入力データ数の関係

OFS[2:0] 設定値（出力サンプリングレート [kHz]）	IFS[3:0] 設定値（入力サンプリングレート [kHz]）								
	0000b（8.0）	0001b（11.025）	0010b（12.0）	0100b（16.0）	0101b（22.05）	0110b（24.0）	1000b（32.0）	1001b（44.1）	1010b（48.0）
000b（44.1）	27	24	24	22	16	16	22	—	1
001b（48.0）	27	24	24	22	16	16	22	32	—
010b（32.0）	24	29	24	16	24	16	—	16	1
100b（8.0）	—	—	—	—	—	—	—	1	—
101b（16.0）	—	—	—	—	—	—	—	1	—

38.2.6 ステータスレジスタ（SRCSTAT）

アドレス SRC.SRCSTAT 4004 DFFEh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	OFDN[4:0]					IFDN[3:0]				—	CEF	FLF	UDF	OVF	IINT	OINT
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	OINT	出力FIFOフル割り込み要求フラグ	0：出力FIFOに格納されているデータ数がトリガ数以上になっていない 1：出力FIFOに格納されているデータ数がトリガ数以上になった	R/(W)（注1）
b1	IINT	入力FIFOエンプティ割り込み要求フラグ	0：入力FIFOに格納されているデータ数がトリガ数以下になっていない 1：入力FIFOに格納されているデータ数がトリガ数以下になった	R/(W)（注1）
b2	OVF	出力FIFOオーバーフロー割り込み要求フラグ	0：出力FIFOオーバーフローなし 1：出力FIFOオーバーフロー発生	R/(W)（注1）
b3	UDF	出力FIFOアンダーフロー割り込み要求フラグ	0：出力FIFOアンダーフローなし 1：出力FIFOアンダーフロー発生	R/(W)（注1）
b4	FLF	フラッシュ処理ステータスフラグ	0：フラッシュ処理完了 1：フラッシュ処理実行中	R
b5	CEF	変換処理終了フラグ	0：すべての出力データは読み出されていない 1：すべての出力データが読み出された	R/(W)（注1）
b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b10-b7	IFDN[3:0]	入力FIFOデータカウント	入力FIFOのデータ数表示	R
b15-b11	OFDN[4:0]	出力FIFOデータカウント	出力FIFOのデータ数表示	R

注 1.　1 を読み出したあとの 0 書き込みのみ可能です。

SRCSTAT レジスタは、16 ビットの読み出し／書き込みレジスタで、入力 FIFO および出力 FIFO のデータ数、各割り込み要因の発生状態、フラッシュ処理の実行状態を示します。

OINT フラグ（出力 FIFO フル割り込み要求フラグ）

出力 FIFO に格納されたデータ数が、SRC 出力データコントロールレジスタ（SRCODCTRL）の OFTRG[1:0] ビットで設定されたトリガ数以上になったことを示します。

［1 になる条件］

- 出力 FIFO に格納されたデータ数が、設定されたトリガ数以上になったとき

［0 になる条件］

- OINT フラグで、1 を読んだ後 0 を書いたとき
- DMA 転送において、最終転送が行われたとき
- SRCCTRL.CL ビットに 1 を書いたとき
- SRCCTRL.SRCEN ビットが 0 の場合に 1 を書いたとき

IINT フラグ（入力 FIFO エンプティ割り込み要求フラグ）

入力 FIFO に格納されたデータ数が SRC 入力データコントロールレジスタ（SRCIDCTRL）の IFTRG[1:0] ビットで設定されたトリガ数以下になったことを示します。

［1 になる条件］

- 入力 FIFO に格納されたデータ数が、設定されたトリガ数以下になったとき
- SRCCTRL.CL ビットに 1 を書いたとき
- SRCCTRL.SRCEN ビットが 0 の場合に 1 を書いたとき

［0 になる条件］

- IINT フラグで、1 を読んだ後 0 を書いたとき
- DMA 転送において、最終転送が行われたとき

OVF フラグ（出力 FIFO オーバーフロー割り込み要求フラグ）

出力 FIFO がフルの状態で、次のデータのサンプリングレート変換が完了したことを示します。OVF フラグがクリアされるまで、変換処理は停止します。

［1 になる条件］

- 出力 FIFO がフルの状態で、次のデータのサンプリングレート変換が完了したとき

［0 になる条件］

- SRCCTRL.OVEN ビットが 1 の場合に OVF フラグで 1 を読んだ後 0 を書いたとき
- SRCCTRL.OVEN ビットが 0 の場合に、SRCOD を読み出したあとに出力 FIFO のデータ数が減少したとき
- SRCCTRL.CL ビットに 1 を書いたとき
- SRCCTRL.SRCEN ビットが 0 の場合に 1 を書いたとき

UDF フラグ（出力 FIFO アンダーフロー割り込み要求フラグ）

出力 FIFO のデータ数が 0 の状態で、出力 FIFO を読み出したことを示します。

［1 になる条件］

- 出力 FIFO のデータ数が 0 の状態で、出力 FIFO を読み出したとき

［0 になる条件］

- UDF フラグで、1 を読んだ後 0 を書いたとき
- SRCCTRL.CL ビットに 1 を書いたとき
- SRCCTRL.SRCEN ビットが 0 の場合に 1 を書いたとき

FLF フラグ（フラッシュ処理ステータスフラグ）

フラッシュ処理の実行中であることを示します。

［1 になる条件］

- SRCCTRL.FL ビットに 1 を書いたとき
  フラッシュ処理が実行されていないときは 1 になりません

［0 になる条件］

- フラッシュ処理が完了したとき
- SRCCTRL.CL ビットに 1 を書いたとき
- SRCCTRL.SRCEN ビットが 0 の場合に 1 を書いたとき

CEF フラグ（変換処理終了フラグ）

フラッシュ処理が終了したあと、すべての出力データが読み出されたことを示します。

［1 になる条件］

- フラッシュ処理が終了したあと、出力 FIFO のデータ数が 0 になったとき

［0 になる条件］

- CEF フラグで、1 を読んだ後 0 を書いたとき
- SRCCTRL.CL ビットに 1 を書いたとき
- SRCCTRL.SRCEN ビットが 0 の場合に 1 を書いたとき

IFDN[3:0] ビット（入力 FIFO データカウント）

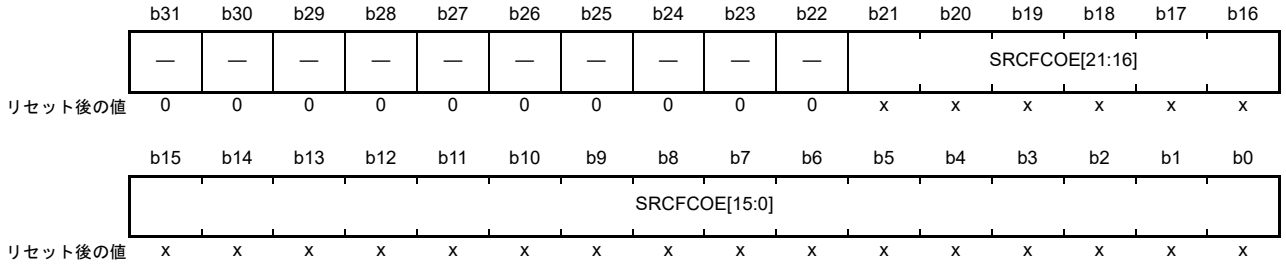
入力 FIFO 内のデータ数を示します。

OFDN[4:0] ビット（出力 FIFO データカウント）

出力 FIFO 内のデータ数を示します。

38.2.7 フィルタ係数テーブル n（SRCFCTRn）（n = 0 ～ 5551）

アドレス SRCRAM.SRCFCTR0～5551 4004 8000h～4004 D6BFh



x：不定

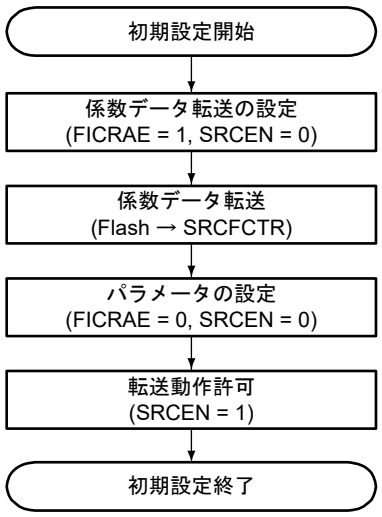
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b21-b0	SRCFCOE[21:0]	フィルタ係数テーブル	フィルタ係数値を格納	R/W
b31-b22	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

SRCFCTR0 ～ SRCFCTR5551 は 32 ビットの読み出し／書き込み SRAM モジュールで、サンプリングレート変換処理に使用するフィルタ係数を格納するメモリです。SRCCTRL の FICRAE ビット = 1 で、かつ SRCEN ビット = 0 のときのみ、周辺バスから読み出し／書き込みが可能です。b31 ～ b22 は予約ビットで、読むと 0 が読み出されます。書く場合、0 にしてください。b21 ～ b0 はフィルタ係数値が格納されるレジスタで、初期値は不定です。

38.3　動作説明

38.3.1　初期設定

図 38.2 は、初期設定のフロー例を示しています。モジュールストップ解除後、SRC 変換動作開始前にフラッシュなどに格納してあるフィルタ係数データを、フィルタ係数テーブル（SRCFCTR）に転送する必要があります。フィルタ係数値がフィルタ係数テーブルに格納されている状態であれば、転送を省略し、必須パラメータの設定から始めることができます。



レジスタ	ビット	設定パラメータ
SRCCTRL	FICRAE	フィルタ係数テーブルアクセスイネーブル
	SRCEN	モジュールイネーブル

レジスタ	ビット	設定パラメータ
SRCCTRL	CEEN	SRC_CEFI 割り込みの許可／禁止
	UDEN	SRC_UDFI 割り込みの許可／禁止
	OVEN	SRC_OVFI 割り込みの許可／禁止
	IFS[3:0]	入力サンプリングレート
	OFS[2:0]	出力サンプリングレート
SRCIDCTRL	IED	入力データエンディアン
	IEN	SRC_IDEI 割り込みの許可／禁止
	IFTRG[1:0]	入力 FIFO トリガ数
SRCODCTRL	OCH	出力データチャネル入れ替え
	OED	出力データエンディアン
	OEN	SRC_ODFI 割り込みの許可／禁止
	OFTRG[1:0]	出力 FIFO トリガ数

図 38.2　初期設定のフロー例

38.3.2　データ入力

図 38.3 に、データ入力のフロー例を示します。

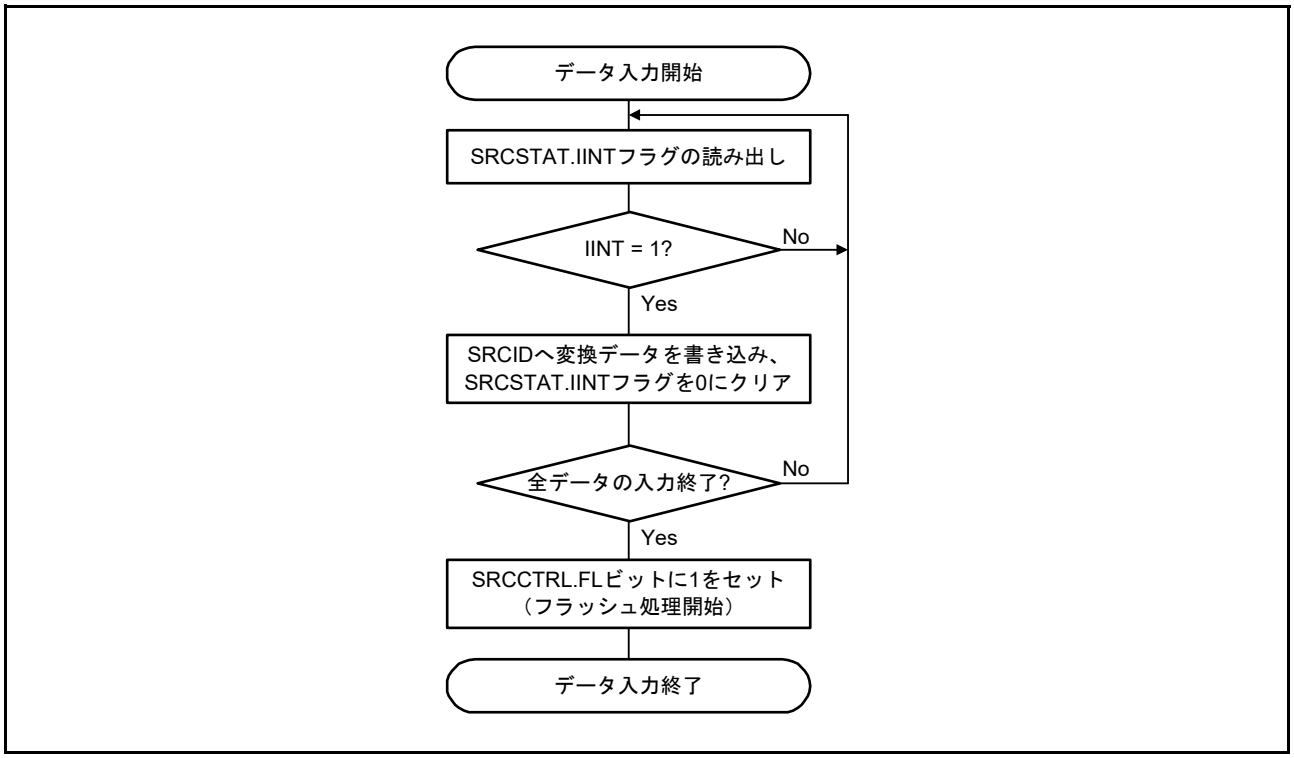


図 38.3　　データ入力フロー

(1)　CPU への割り込み発行時

1. SRCIDCTRL の IEN ビットを 1 にします。
2. SRCSTAT の IINT フラグを 1 にすると、IDEI 割り込み要求を発生します。割り込み処理ルーチンで SRCSTAT の IINT フラグを読み出し、1 であることを確認したあと、SRCID へデータを書き込み、SRCSTAT の IINT フラグに 0 を書き込みます。その後、割り込み処理ルーチンから復帰します。
3. 2. を繰り返し、すべてのデータ入力が終わったら、SRCCTRL の FL ビットに 1 を書き込みます。

(2)　割り込みを使用して DMAC を起動する場合

1. DMAC のいずれかのチャネルに、SRC の SRC_IDEI 割り込みを割り当てます。
2. SRCIDCTRL の IEN ビットを 1 にします。
3. SRCSTAT の IINT フラグを 1 に設定すると、SRC_IDEI 割り込み要求を発生し、DMAC を起動します。DMA 転送により SRCID レジスタへデータが書き込まれ、入力 FIFO のデータ数が SRCIDCTRL の IFTRG[1:0] ビットで設定したトリガ数を上回ると、SRCSTAT の IINT フラグがクリアされます。
4. 3. を繰り返し、すべてのデータ入力が終わったら、SRCCTRL の FL ビットに 1 を書き込みます。

(3)　SSIE インタフェースから入力データを転送するために SSIE インタフェース割り込みを使用して DMAC を起動する場合

1. DMAC のいずれかのチャネルに、DMA 転送要求元として SSIE インタフェースを割り当てます。SSIE インタフェースの SSIFRDR を転送元に、SRC の SRCID を転送先に設定し、受信動作を許可するよう SSIE インタフェースを設定します。
2. SSIFSR の RDF ビットを 1 にすると、SSIE インタフェースが割り込み要求を発生し、DMAC を起動します。DMAC は SSIFRDR からのデータを読み出し、SRCID に書き込みます。
3. 2. を繰り返し、すべてのデータ入力が終わったら、SRCCTRL の FL ビットに 1 を書き込みます。

注 .　入力 FIFO は 8 段です。また、SRC_IDEI 割り込み要求が発生したときの転送可能データ数（FIFO の空き）は、SRCIDCTRL の IFTRG[1:0] ビットの設定により異なります。入力 FIFO にはオーバーフローを防ぐ／検知する機能はないため、オーバーフローが生じた場合はデータが壊れます。それを防止するため、DMA 転送による連続データ転送数は SRCCTRL の IFTRG[1:0] ビットの設定を考慮して設定してください。

38.3.3　データ出力

図 38.4 に、データ出力のフロー例を示します。

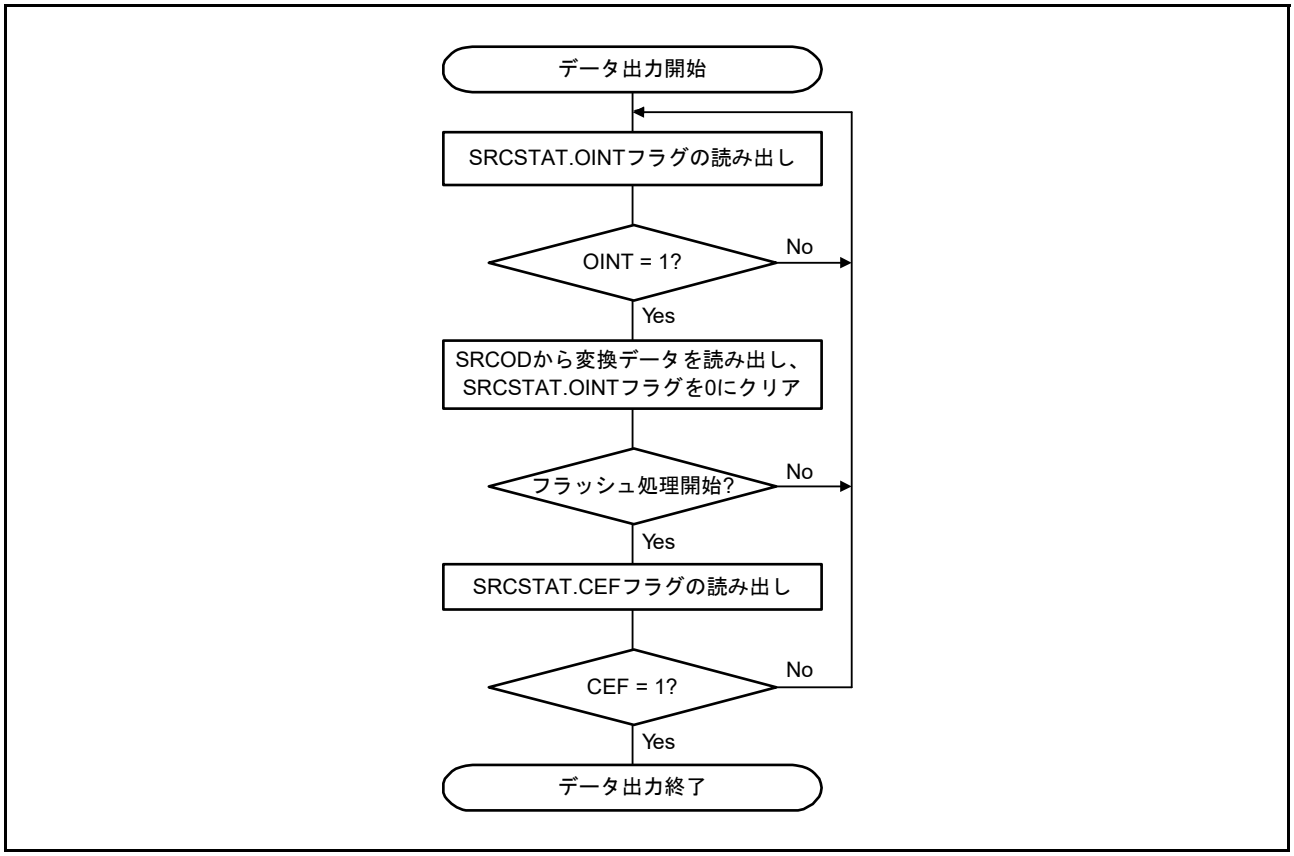


図 38.4　データ出力フロー

(1)　CPU への割り込み発行時

1. SRCODCTRL の OEN ビットを 1 にします。
2. SRCSTAT の OINT フラグを 1 にすると、SRC_ODFI 割り込み要求を発生します。割り込み処理ルーチンで SRCSTAT の OINT フラグを読み出し、1 であることを確認したあと、SRCOD からデータを読み出し、SRCSTAT の OINT フラグに 0 を書き込みます。その後、割り込み処理ルーチンから復帰します。
3. フラッシュ処理開始後、SRCSTAT の CEF フラグが 1 であることを読み出すまで、2. を繰り返します。

(2)　割り込みを使用して DMAC を起動する場合

1. DMAC のいずれかのチャネルに、SRC の SRC_ODFI 割り込みを割り当てます。
2. SRCODCTRL の OEN ビットを 1 にします。
3. SRCSTAT の OINT フラグを 1 に設定すると、SRC_ODFI 割り込み要求を発生し、DMAC を起動します。DMA 転送により、SRCOD レジスタからデータが読み出され、出力 FIFO のデータ数が SRCODCTRL の OFTRG[1:0] ビットで設定したトリガ数を下回ると、SRCSTAT の OINT フラグがクリアされます。
4. フラッシュ処理開始後、SRCSTAT の FLF フラグが 0 であることを読み出すまで、3. を繰り返します。

(3) SSIE インタフェースへ出力データを転送するために SSIE インタフェース割り込みを使用して DMAC を起動する場合

1. SRCCTRL の OVEN ビットを 0 にして、SRC_OVFI 割り込み要求の発生を禁止します。
2. DMAC のいずれかのチャネルに、DMA 転送要求元として SSIE インタフェースを割り当てます。SRC の SRCID を転送元に、SSIE インタフェースの SSIFTDR を転送先に設定し、送信動作を許可するよう SSIE インタフェースを設定します。
3. SSIFSR の TDE ビットを 1 にすると、SSIE インタフェースが割り込み要求を発生し、DMAC を起動します。DMAC は SRCOD からデータを読み出し、SSIFTDR に書き込みます。
4. フラッシュ処理開始後、SRCSTAT の CEF フラグが 1 であることを読み出すまで、3. を繰り返します。

注 1. 出力 FIFO は 16 段です。データ読み出しがなくて出力 FIFO がオーバーフローすると、変換処理は停止します。オーバーフロー状態でも出力 FIFO からのデータ読み出しは可能ですが、設定によっては変換処理再開の手続きが必要です。詳細については、38.2.5 コントロールレジスタ（SRCCTRL）の OVEN ビットの説明を参照してください。

注 2. 出力 FIFO のデータ数が 0 の状態でデータを読み出した場合は、不正なデータが読み出されます。これを防止するために、DMAC により連続転送されるデータ数は、OFTRG[1:0] ビットの設定を考慮して設定してください。

38.4 割り込み

SRC 割り込み要因には以下が含まれます。

- 入力 FIFO エンプティ（SRC_IDEI）
- 出力 FIFO フル（SRC_ODFI）
- 出力 FIFO オーバーフロー（SRC_OVFI）
- 出力 FIFO アンダーフロー（SRC_UDFI）
- 変換処理終了（SRC_CEFI）

表 38.7 に割り込み要求の種類と発生条件を示します。

表 38.7 割り込み要求と発生条件

割り込み要求	略称	割り込み条件	DMACの起動
入力FIFOエンプティ	SRC_IDEI	IINT = 1、IEN = 1、SRCEN = 1	可能
出力FIFOフル	SRC_ODFI	OINT = 1、OEN = 1、SRCEN = 1	可能
出力FIFOオーバーフロー	SRC_OVFI	OVF = 1、OVEN = 1、SRCEN = 1	不可能
出力FIFOアンダーフロー	SRC_UDFI	UDF = 1、UDEN = 1、SRCEN = 1	不可能
変換処理終了	SRC_CEFI	CEF = 1、CEEN = 1、SRCEN = 1	不可能

割り込み発生条件が成立すると、CPU は割り込み例外処理を実行します。この処理の実行中に、割り込み要因フラグをクリアします。

SRC_IDEI 割り込みと SRC_ODFI 割り込みは、DMAC を起動することが可能です。DMAC を起動した場合は、SRC から CPU への割り込みは発生しません。

DMA 転送中は CPU 書き込みによる IINT/OINT フラグのクリア（1 読み出し後の 0 書き込み）を行わないでください。

38.5　使用上の注意事項

38.5.1　レジスタアクセス時の注意

下記に示す SRCCTRL への書き込みが SRCSTAT に反映されるまでに、周辺クロック（PCLKB）で 3 サイクル必要です。

- SRCCTRL の FL ビットに 1 を書いて SRCSTAT の FLF フラグを設定する
- SRCCTRL の CL ビットに 1 を書いて SRCSTAT の各ビットを初期化する
- SRCEN ビットが 0 の場合に SRCCTRL の SRCEN ビットに 1 を書いて SRCSTAT の各ビットを初期化する

ただし、CPU はレジスタ書き込みの完了を待たずに後続の命令を実行するため、SRCCTRL への書き込み命令の直後の命令では、SRCSTAT の変更後の状態を正しく読み出すことはできません。SRCSTAT の変更後の状態を確認する場合は、SRCCTRL への書き込み命令のあとに SRCCTRL または SRCSTAT をダミーリードしてください。

38.5.2　フラッシュ処理に関する注意

SRC コントロールレジスタ（SRCCTRL）の FL ビットに 1 が書き込まれると、SRC はそれまでに入力されたデータのエンドポイントに 0 データを付加しながら、フラッシュ処理を続行します。そのため、フラッシュ処理は、オーディオデータのエンドポイントとなるデータの入力が完了し、後続するデータが存在しない場合に限り行ってください。

また、フラッシュ処理を実行したあとに、再度、フラッシュ処理を行う場合は、下記のいずれかの動作によって内部ワークメモリをクリアしてください。

- SRCCTRL の CL ビットに 1 を書き込む
- SRCCTRL の SRCEN ビットに 0 を書き込んだあとに、1 を書き込む

38.5.3　DMAC/DTC 転送時の注意

入出力データレジスタ（SRCID、SRCOD）へのデータ転送に DMAC/DTC を使用する場合、DMAC/DTC 転送中はステータスレジスタ（SRCSTAT）の IINT フラグと OINT フラグを CPU でクリア（1 読み出し後に 0 書き込み）しないでください。

38.5.4　SRC 動作時の注意

SRC 動作時（SRCCTRL.SRCEN = 1）は、フィルタ係数テーブルへアクセスしないでください。

38.5.5　モジュールストップ状態の設定

モジュールストップコントロールレジスタ C（MSTPCRC）により、SRC 動作の禁止／許可を設定することが可能です。SRC モジュールは、リセット後の初期状態では動作が停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は、「11.　低消費電力モード」を参照してください。

39. SD/MMC ホストインタフェース（SDHI）

39.1 概要

セキュアデジタルホストインタフェース（SDHI）およびマルチメディアカード（MMC）インタフェースは、各種外部メモリカードを MCU と接続するために必要な機能を備えています。SDHI は、SD、SDHC、SDXC フォーマットに対応するさまざまなメモリカードを接続するために 1 ビットと 4 ビットのいずれのバスもサポートしています。SD 規格に対応したホスト機器を開発するには、SD Host/Ancillary Product License Agreement（SD HALA）に準拠する必要があります。

MMC インタフェースは、eMMC 4.51（JEDEC Standard JESD 84-B451）デバイスアクセスを可能にするために 1 ビット、4 ビットのバスをサポートしています。このインタフェースには下位互換性があり、高速 SDR 転送モードもサポートしています。

表 39.1 に SD/MMC ホストインタフェースの仕様を、図 39.1 にブロック図を示します。

表 39.1　SD/MMCホストインタフェースの仕様

インタフェース	項目	内容
SD	SDバスインタフェース	• SDメモリカード、SDIOカードに対応 • 転送バス幅をワイドバスモード（4ビット）、デフォルトバスモード（1ビット）から選択可能 • SD、SDHC、SDXCのSDメモリカードアクセスに対応
SD/MMC共通仕様	SD/MMCクロック周波数	PCLKAを2^n（n = 1～9）で分周してSD/MMCクロックを生成
	エラーチェック機能	CRC7（コマンド／レスポンス）、CRC16（転送データ）
	割り込み要因	• カードアクセス割り込み（SDHI_MMCn_ACCS） • SDIOアクセス割り込み（SDHI_MMCn_SDIO） • カード検出割り込み（SDHI_MMCn_CARD） （n = 0～1）
	DMA転送要因	• SDバッファアクセス割り込み（SBFAI）によりDMAC/DTCを起動可能 • DMACによるSDバッファの読み出し／書き込みが可能
	その他の機能	• カード検出機能 • ライトプロテクトサポート
MMC	MMCBusインタフェース	転送バスモードを1ビット、4ビットから選択可能
	転送モード	Backward-compatibleモードとHigh-speed SDRモードから選択可能
	その他の機能	e.MMCデバイスアクセスに対応

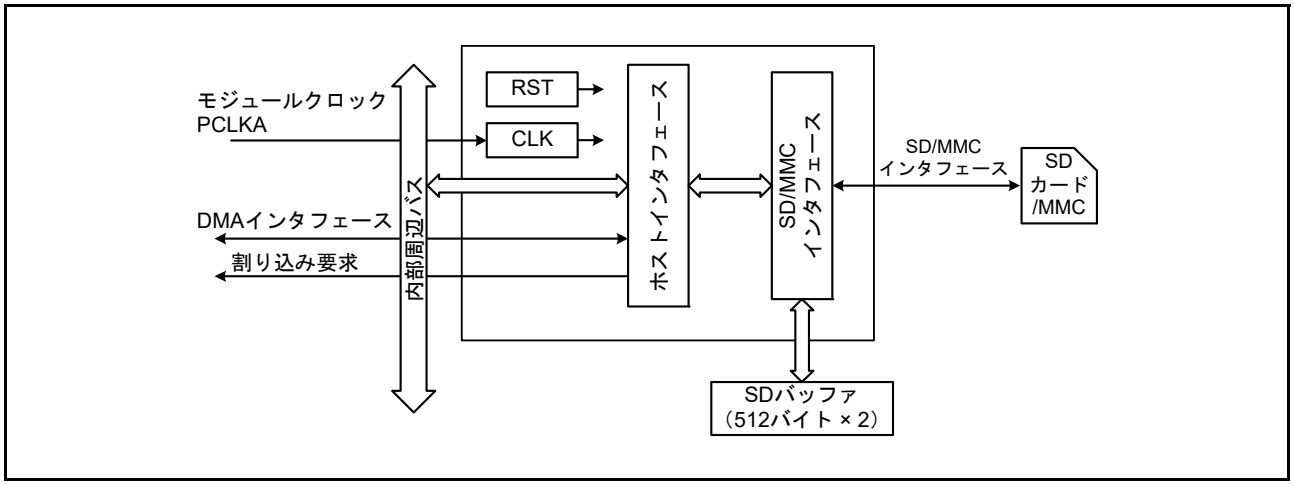


図 39.1　SD/MMC ホストインタフェースのブロック図

表 39.2 SDHIの入出力端子

チャネル	端子名	入出力	機能
Ch 0	SD0CLK	出力	SD/MMCクロック
	SD0CMD	入出力	コマンドの出力、レスポンスの入力
	SD0DAT0	入出力	データ0（DAT0）
	SD0DAT1	入出力	データ1（DAT1）、SDIO割り込み
	SD0DAT2	入出力	データ2（DAT2）、SDIO Read Wait
	SD0DAT3	入出力	データ3（DAT3）、SDカード検出
	SD0CD	入力	SDカード検出
	SD0WP	入力	SDライトプロテクト
Ch 1	SD1CLK	出力	SD/MMCクロック
	SD1CMD	入出力	コマンドの出力、レスポンスの入力
	SD1DAT0	入出力	データ0（DAT0）
	SD1DAT1	入出力	データ1（DAT1）、SDIO割り込み
	SD1DAT2	入出力	データ2（DAT2）、SDIO Read Wait
	SD1DAT3	入出力	データ3（DAT3）、SDカード検出

39.2　レジスタの説明

39.2.1　コマンドタイプレジスタ（SD_CMD）

アドレス　SDHI0.SD_CMD 4006 2000h, SDHI1.SD_CMD 4006 2400h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CMD12AT[1:0]		TRSTP	CMDRW	CMDTP	RSPTP[2:0]			ACMD[1:0]		CMDIDX[5:0]					
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	CMDIDX[5:0]	Command indexフィールド値選択	Command indexフィールド値を設定します。例にはACMD[1:0]ビットのビット値が含まれています。 b7 b0 0 0 0 0 0 1 1 0 : CMD6 0 0 0 1 0 0 1 0 : CMD18 0 1 0 0 1 1 0 1 : ACMD13	R/W
b7-b6	ACMD[1:0]	コマンドタイプ選択	b7 b6 0 0 : CMD 0 1 : ACMD 上記以外は設定しないでください。	R/W
b10-b8	RSPTP[2:0]	レスポンスタイプ選択 （注1）	b10 b8 0 0 0 : ノーマルモード コマンド（ACMD[1:0]ビットおよびCMDIDX[5:0]ビットの組み合わせ）によって、レスポンスの種類と転送の方法が決まります。このとき、本レジスタのb15-b11の設定は無効です。 0 1 1 : 拡張モード、レスポンスなし 1 0 0 : 拡張モード、R1、R5、R6、R7レスポンス 1 0 1 : 拡張モード、R1bレスポンス 1 1 0 : 拡張モード、R2レスポンス 1 1 1 : 拡張モード、R3またはR4レスポンス 上記以外は設定しないでください。	R/W
b11	CMDTP	データ転送選択（注2）	0 : コマンドタイプは、bc、bcr、acのいずれか（データ転送を行わないコマンド） 1 : コマンドタイプは、adtc（データ転送を行うコマンド）	R/W
b12	CMDRW	データ転送方向選択 （注3）	0 : 書き込み（SD/MMCホストインタフェース→SDカード／MMC） 1 : 読み出し（SD/MMCホストインタフェース←SDカード／MMC）	R/W
b13	TRSTP	ブロック転送選択（注3）	0 : シングルブロック転送 1 : マルチブロック転送	R/W
b15-b14	CMD12AT[1:0]	CMD12自動送信選択 （注4）	b15 b14 0 0 : マルチブロック転送時にCMD 12を自動送信する 0 1 : マルチブロック転送時にCMD 12を自動送信しない 上記以外は設定しないでください。	R/W
b31-b16	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　ノーマルモードで使用できないコマンドがあります。
注 2.　CMDTP ビットは、RSPTP[2:0] ビットが 011b、100b、101b、110b、または 111b のときのみ有効です。
注 3.　CMDRW ビットと TRSTP ビットは、RSPTP[2:0] ビットが 011b、100b、101b、110b、または 111b で、CMDTP ビットが 1 のときのみ有効です。
注 4.　CMD12AT[1:0] ビットは、RSPTP[2:0] ビットが 011b、100b、101b、110b、または 111b で、TRSTP ビットが 1 のときのみ有効です。

SD_CMD レジスタは、コマンドやレスポンスの種類を設定するレジスタです。RSPTP[2:0] ビットが 011b、100b、101b、110b、または 111b の場合、コマンドタイプや転送モードを設定する必要があります。SD_CMD レジスタに値を書き込むと、SDHI はコマンドシーケンスを開始します。設定例については、表 39.8、表 39.9 を参照してください。SD_INFO2.CBSY フラグが 1 のとき、SD_CMD レジスタへ書き込まないでください。

39.2.2　SD コマンドアーギュメントレジスタ（SD_ARG）

アドレス　SDHI0.SD_ARG 4006 2008h, SDHI1.SD_ARG 4006 2408h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b0	—	—	コマンドのフォーマット[39:8]（argument）を設定	R/W

SD_ARG レジスタは、argument フィールド値を設定するレジスタです。SD_CMD レジスタに書き込む前に SD_ARG レジスタに書き込んでください。なお、自動送信される CMD12 の argument フィールド値は、SD_ARG レジスタの値にかかわらず 0000_0000h です。

39.2.3　SD コマンドアーギュメントレジスタ 1（SD_ARG1）

アドレス　SDHI0.SD_ARG1 4006 200Ch, SDHI1.SD_ARG1 4006 240Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	—	—	コマンドのフォーマット[39:24]（argument）を設定	R/W
b31-b16	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

SD_ARG1 レジスタは、argument フィールド値を設定するレジスタです。SD_CMD レジスタに書き込む前に SD_ARG1 レジスタに書き込んでください。なお、自動送信される CMD12 の argument フィールド値は、SD_ARG1 レジスタの値にかかわらず 0000_0000h です。

39.2.4　データストップレジスタ（SD_STOP）

アドレス　SDHI0.SD_STOP 4006 2010h, SDHI1.SD_STOP 4006 2410h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	SEC	—	—	—	—	—	—	—	STP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	STP	転送停止	1にするとデータ転送が停止します。	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	SEC	ブロックカウントレジスタ有効 （注1）	0：SD_SECCNTレジスタ値を無効にする 1：SD_SECCNTレジスタ値を有効にする	R/W
b31-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　SD_INFO2.CBSY フラグが 1 のとき、本ビットを書き換えないでください。

SD_STOP レジスタは、転送の停止を行うレジスタです。また、マルチブロック転送時は、SD_SECCNT レジスタ値（転送ブロック数）を有効または無効にします。

STP ビット（転送停止）

マルチブロック転送時に STP ビットを 1 にすると、SDHI により転送を停止するために CMD12 が送信されます。ただし、通信エラーまたはタイムアウトによりコマンドシーケンスが停止した場合、CMD12 は送信されません。STP を 1 にした後も引き続きバッファアクセスは可能ですが、これにより SD_INFO2 のバッファアクセスエラービット（ILR または ILW）が設定されます。

シングルブロックライトの転送時に STP を 1 にすると、SD_BUF がエンプティの場合はアクセスエンドフラグが設定され、CMD12 は送信されません。SD_BUF にデータがある場合、CMD12 が送信されずにビジー状態の受信を完了したときにアクセスエンドフラグが設定されます。

シングルブロックリードの転送時に STP を 1 にすると、STP ビット設定後にアクセスエンドフラグが設定され、CMD12 は送信されません。

R1b レスポンス後、ビジー状態の受信時に STP を 1 にすると、CMD12 が送信されずにビジー状態の受信を完了したときにアクセスエンドフラグが設定されます。

コマンドシーケンスの完了後に STP を 1 にすると、CMD12 は送信されず、アクセスエンドフラグも設定されません。

レスポンスエンドフラグの設定後に STP を 1 にしてください。アクセスエンドフラグの設定後に STP を 0 にしてください。

SEC ビット（ブロックカウントレジスタ有効）

SEC ビットを 1 にしている間に以下で SD_CMD を設定してコマンドシーケンスを開始すると、CMD12 が自動送信され、SD_SECCNT で設定したブロック数でマルチブロック転送が停止します。

- ノーマルモード（SD_CMD[10:8] = 000）の CMD18 または CMD25
- 拡張モードの SD_CMD[15:13] = 001b（CMD12 自動送信、マルチブロック転送）

通信エラーまたはタイムアウトによりコマンドシーケンスが停止した場合、CMD12 は自動送信されません。

39.2.5　ブロックカウントレジスタ（SD_SECCNT）

アドレス　SDHI0.SD_SECCNT 4006 2014h, SDHI1.SD_SECCNT 4006 2414h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

SD_SECCNT レジスタは、マルチブロック転送時の転送ブロック数を設定する読み出し／書き込みレジスタです。たとえば、レジスタ値が 0000_0001h の場合、1 ブロックが転送されます。レジスタ値が 0000_FFFFh の場合は 65535 ブロックが転送され、レジスタ値が FFFF_FFFFh の場合は 4294967295 ブロックが転送されます。0000_0000h は設定しないでください。SD_INFO2.CBSY フラグが 1 のときは、SD_SECCNT レジスタを書き換えないでください。

39.2.6　SD カードレスポンスレジスタ 10（SD_RSP10）、SD カードレスポンスレジスタ 32（SD_RSP32）、SD カードレスポンスレジスタ 54（SD_RSP54）

アドレス　SDHI0.SD_RSP10 4006 2018h, SDHI1.SD_RSP10 4006 2418h, SDHI0.SD_RSP32 4006 2020h, SDHI1.SD_RSP32 4006 2420h
SDHI0.SD_RSP54 4006 2028h, SDHI1.SD_RSP54 4006 2428h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

39.2.7 SD カードレスポンスレジスタ 1（SD_RSP1）、SD カードレスポンスレジスタ 3（SD_RSP3）、SD カードレスポンスレジスタ 5（SD_RSP5）

アドレス SDHI0.SD_RSP1 4006 201Ch, SDHI1.SD_RSP1 4006 241Ch, SDHI0.SD_RSP3 4006 2024h, SDHI1.SD_RSP3 4006 2424h, SDHI0.SD_RSP5 4006 202Ch, SDHI1.SD_RSP5 4006 242Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0		—	SDカード／MMCからのレスポンスを格納します。	R
b31-b16	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

39.2.8 SD カードレスポンスレジスタ 76（SD_RSP76）

アドレス SDHI0.SD_RSP76 4006 2030h, SDHI1.SD_RSP76 4006 2430h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—								
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b23-b0		—	SDカード／MMCからのレスポンスを格納します。	R
b31-b24	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

39.2.9 SD カードレスポンスレジスタ 7（SD_RSP7）

アドレス SDHI0.SD_RSP7 4006 2034h, SDHI1.SD_RSP7 4006 2434h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—								
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0		—	SDカード／MMCからのレスポンスを格納します。	R
b31-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

SD_RSP10、SD_RSP32、SD_RSP54、SD_RSP1、SD_RSP3、SD_RSP5、SD_RSP76、SD_RSP7 は、SD カード／ MMC からのレスポンスを格納する、読み出し専用のレジスタです。SD/MMC ホストインタフェースは、SD カード／ MMC からのレスポンスの種類により、レスポンスの内容を 4 つのレジスタに分割して格納します。

レスポンスタイプとその格納先の対応を表 39.3 に示します。

表 39.3　レスポンスタイプと格納先の対応

レスポンスタイプ	SD_RSP10 レジスタ	SD_RSP32 レジスタ	SD_RSP54 レジスタ	SD_RSP1 レジスタ	SD_RSP3 レジスタ	SD_RSP5 レジスタ	SD_RSP76 レジスタ	SD_RSP7 レジスタ
R1	[39:8]	—	[39:8] (注1)	—	—	—	—	—
R1b	[39:8]	—	[39:8] (注1)	—	—	—	—	—
R2	[39:8]	[71:40]	[103:72]	—	—	—	[127:104]	—
R3	[39:8]	—	—	—	—	—	—	—
R4	[39:8]	—	—	—	—	—	—	—
R5	[39:8]	—	—	—	—	—	—	—
R6	[39:8]	—	—	—	—	—	—	—
R7	[39:8]	—	—	—	—	—	—	—

注 1.　CMD18 および CMD25 に対するレスポンスは、SD_RSP10 レジスタおよび SD_RSP54 レジスタに格納されます。このため、SD_RSP10 レジスタが自動送信された CMD12 に対するレスポンスで上書きされても、SD_RSP54 レジスタを読み出すことで CMD18 または CMD25 に対するレスポンスを確認できます。

39.2.10 SD カード割り込みフラグレジスタ 1（SD_INFO1）

アドレス SDHI0.SD_INFO1 4006 2038h, SDHI1.SD_INFO1 4006 2438h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	SDD3MON	SDD3IN	SDD3RM	SDWPMON	—	SDCDMON	SDCDIN	SDCDRM	ACEND	—	RSPEND
リセット後の値	0	0	0	0	0	x	0	0	x	0	x	0	0	0（注1）	0	0（注1）

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RSPEND	レスポンスエンド検出フラグ	0：レスポンスエンドを検出していない 1：レスポンスエンドを検出した	R(/W)（注2）
b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b2	ACEND	アクセスエンド検出フラグ	0：アクセスエンドを検出していない 1：アクセスエンドを検出した	R(/W)（注2）
b3	SDCDRM（注4）	SD0CD抜去フラグ	0：SD0CD端子によるSDカード／MMC抜去を検出していない 1：SD0CD端子によるSDカード／MMC抜去を検出した	R(/W)（注2）
b4	SDCDIN（注4）	SD0CD挿入フラグ	0：SD0CD端子によるSDカード／MMC挿入を検出していない 1：SD0CD端子によるSDカード／MMC挿入を検出した	R(/W)（注2）
b5	SDCDMON（注4）	SD0CD端子モニタフラグ	0：SD0CD端子のレベルはHigh（注3） 1：SD0CD端子のレベルはLow（注3）	R
b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	SDWPMON（注5）	SD0WP端子モニタフラグ	0：SD0WP端子のレベルはHigh 1：SD0WP端子のレベルはLow	R
b8	SDD3RM	SDnDAT3抜去フラグ	0：SDnDAT3端子によるSDカード／MMC抜去を検出していない 1：SDnDAT3端子によるSDカード／MMC抜去を検出した	R(/W)（注2）
b9	SDD3IN	SDnDAT3挿入フラグ	0：SDnDAT3端子によるSDカード／MMC挿入を検出していない 1：SDnDAT3端子によるSDカード／MMC挿入を検出した	R(/W)（注2）
b10	SDD3MON	SDnDAT3端子モニタフラグ	0：SDnDAT3端子のレベルはLow 1：SDnDAT3端子のレベルはHigh	R
b31-b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　リセットで初期化されます。また、SOFT_RST.SDRST フラグによるリセットの場合も初期化されます。
注 2.　1 にしてもフラグは変化しません。0 を書くとフラグの値は 0 になります。
注 3.　SD_OPTION.CTOP[3:0] ビットで指定した期間以上、同じ端子レベルが継続したときにフラグが変化します。
注 4.　SDCDRM ビット、SDCDIN ビット、および SDCDMON ビットは SDHI0（SD0CD）のみ対応しています。SHDI1 ではビット [5:3] は予約ビットです。
注 5.　SDWPMON ビットは SDHI0（SD0WP）のみ対応しています。SHDI1 ではビット [7] は予約ビットです。

SD_INFO1 レジスタは、コマンドシーケンスにおけるレスポンスエンドおよびアクセスエンドの検出を表示します。また、SD カード／ MMC の挿抜検出、ライトプロテクトの状態を表示します。

マルチブロック転送中に CMD12 または CMD52（SDIO abort）を送信した場合、ACEND フラグは 1 になりますが、RSPEND フラグは 1 になりません。

通信エラーまたはタイムアウトによりコマンドシーケンスが停止した場合、ACEND フラグまたは RSPEND フラグが 1 になります。

SDD3MON ビット、SDD3IN フラグ、SDD3RM フラグはリセット解除後、SDnDAT3（n = 0, 1）端子の状態により変化します。また、ワイドバスモードでのデータ転送中にも変化します。これらの 3 つのビットは SD カードにのみ使用されます。クリアするフラグを 0 にしてください。クリアされていないフラグは 1 にしてください。

RSPEND フラグ（レスポンスエンド検出フラグ）

レスポンスエンドが検出されたことを示します。

[1 になる条件]

- レスポンスの受信が完了したとき
- レスポンスがないコマンドの送信が完了したとき
- R1b レスポンス後のビジー状態の受信が完了したとき
- マルチブロックリードの転送で、C52PUB ビットを 1 にして送信された CMD52 に対するレスポンスの受信が完了したとき
- マルチブロックライトの転送で、C52PUB ビットを 1 にして送信された CMD52 に対するレスポンスの受信が完了したとき
- 通信エラーまたはタイムアウトによりコマンドシーケンスが停止したとき

[0 になる条件]

- RSPEND に 0 を書いたとき
- データがないコマンドを送信したとき

注 . データ転送のないコマンドを送信したとき、コマンドシーケンスが終了した後に RSPEND フラグが 1 になります。

ACEND フラグ（アクセスエンド検出フラグ）

アクセスエンドが検出されたことを示します。

[1 になる条件]

- シングルブロックリードの転送で、バッファに対する読み出しが完了したとき
- マルチブロックリードの転送で、データの最終ブロックのバッファに対する読み出しが完了したとき
- CMD12 の自動送信によるマルチブロックリードの転送で、バッファに対する読み出しおよび CMD12 に対するレスポンスの受信が完了したとき
- シングルブロックライトの転送で、CRC ステータスを受信した後、ビジー状態の受信が完了したとき
- マルチブロックライトの転送で、最終ブロックの CRC ステータスを受信した後、ビジー状態の受信が完了したとき
- CMD12 の自動送信によるマルチブロックライトの転送で、CMD12 に対するレスポンスビジー状態の受信が完了したとき
- マルチブロックリードの転送で、STP ビットを 1 にして送信された CMD12 に対するレスポンスの受信が完了したとき
- マルチブロックライトの転送で、STP ビットを 1 にして送信された CMD12 に対するレスポンスビジー状態の受信が完了したとき
- マルチブロックリードの転送で、IOABT ビットを 1 にして送信された CMD52 に対するレスポンスの受信が完了したとき
- マルチブロックライトの転送で、IOABT ビットを 1 にして送信された CMD52 に対するレスポンスの受信が完了したとき
- 通信エラーまたはタイムアウトによりコマンドシーケンスが停止したとき

[0 になる条件]

- ACEND フラグに 0 を書いたとき
- アクセスエンドビットが 1 に設定されたとき

注 .　コマンドシーケンスが終了した後、ACEND フラグは 1 になります。

SDCDRM フラグ（SD0CD 抜去フラグ）

SD0CD が抜去されたことを示します。

［1 になる条件］

- SD0CD が 0 から 1 に変化した後、SD0CD が 1 に保持された状態で Mcycle が経過したとき

［0 になる条件］

- SDCDRM に 0 を書いたとき

注 .　SD_OPTION[3:0] ビットによって Mcycle が設定されたとき

SDCDIN フラグ（SD0CD 挿入フラグ）

SD0CD が挿入されたことを示します。

［1 になる条件］

- SD0CD が 1 から 0 に変化した後、SD0CD が 0 に保持された状態で Mcycle が経過したとき

［0 になる条件］

- SDCDIN に 0 を書いたとき

注 .　SD_OPTION[3:0] ビットによって Mcycle が設定されたとき

SDD3RM フラグ（SDnDAT3 抜去フラグ）

SDnDAT3 が抜去されたことを示します。

［1 になる条件］

- SDnDAT3が1から0に変化した後、SDnDAT3が0に保持された状態でPCLKAの2サイクルが経過したとき

［0 になる条件］

- SDD3RM に 0 を書いたとき

SDD3IN フラグ（SDnDAT3 挿入フラグ）

SDnDAT3 が挿入されたことを示します。

［1 になる条件］

- SDnDAT3が0から1に変化した後、SDnDAT3が1に保持された状態でPCLKAの2サイクルが経過したとき

［0 になる条件］

- SDD3IN に 0 を書いたとき

39.2.11　SD カード割り込みフラグレジスタ 2（SD_INFO2）

アドレス　SDHI0.SD_INFO2 4006 203Ch, SDHI1.SD_INFO2 4006 243Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ILA	CBSY	SD_CLK_CTRLEN	—	—	—	BWE	BRE	SDD0MON	RSPTO	ILR	ILW	DTO	ENDE	CRCE	CMDE
リセット後の値	0（注1）	0	1	0	0	0	0（注1）	0（注1）	x	0（注1）	0（注1）	0（注1）	0（注1）	0（注1）	0（注1）	0（注1）

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMDE	コマンドエラー検出フラグ	0：コマンドエラーの発生なし 1：コマンドエラーの発生あり	R/W（注1）
b1	CRCE	CRCエラー検出フラグ	0：CRCエラーの発生なし 1：CRCエラーの発生あり	R/W（注1）
b2	ENDE	エンドビットエラー検出フラグ	0：エンドビットエラーの発生なし 1：エンドビットエラーの発生あり	R/W（注1）
b3	DTO	データタイムアウト検出フラグ	0：データタイムアウトの発生なし 1：データタイムアウトの発生あり	R/W（注1）
b4	ILW	SD_BUF0不正書き込み検出フラグ	0：SD_BUF0レジスタへの不正な書き込みなし 1：SD_BUF0レジスタへの不正な書き込みあり	R/W（注1）
b5	ILR	SD_BUF0不正読み出し検出フラグ	0：SD_BUF0レジスタから不正な読み出しなし 1：SD_BUF0レジスタから不正な読み出しあり	R/W（注1）
b6	RSPTO	レスポンスタイムアウト検出フラグ	0：レスポンスタイムアウトの発生なし 1：レスポンスタイムアウトの発生あり	R/W（注1）
b7	SDD0MON	SDHI_D0端子ステータスフラグ	0：SDnDAT0端子がLow 1：SDnDAT0端子がHigh	R
b8	BRE	SD_BUF0読み出し許可フラグ	0：SD_BUF0レジスタへのリードアクセス禁止 1：SD_BUF0レジスタへのリードアクセス許可	R/W（注1）
b9	BWE	SD_BUF0書き込み許可フラグ	0：SD_BUF0レジスタへのライトアクセス禁止 1：SD_BUF0レジスタへのライトアクセス許可	R/W（注1）
b12-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b13	SD_CLK_CTRLEN	SD_CLK_CTRL書き込み許可フラグ	0：SD/MMCバス（CMDラインとDATライン）がビジーなので、SD_CLK_CTRL.CLKENビットとCLKSEL[7:0]ビットへの書き込み禁止 1：SD/MMCバス（CMDラインとDATライン）がビジーではないので、SD_CLK_CTRL.CLKENビットとCLKSEL[7:0]ビットへの書き込み許可	R
b14	CBSY	コマンドシーケンス状態表示フラグ	0：コマンドシーケンス終了 1：コマンドシーケンス実行中（ビジー状態）	R
b15	ILA	不正アクセスエラー検出フラグ	0：不正アクセスエラーの発生なし 1：不正アクセスエラーの発生あり	R/W（注1）
b31-b16	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　1にしてもフラグは変化しません。0 を書くとフラグの値は 0 になります。

SD_INFO2 レジスタは、SD バッファおよび SD カード／ MMC のステータスを表示します。クリアするフラグを 0 にしてください。クリアされていないフラグは 1 にしてください。

CMDE フラグ（コマンドエラー検出フラグ）

コマンドエラーが検出されたことを示します。コマンドシーケンスはコマンドエラーが発生すると停止します。SDIO_MODE.C52PUB ビットが 1 および CMD52 が自動作成されたとき、通信エラーまたはレスポンスタイムアウトが起こると、コマンドシーケンスは完了しません。39.3.12　IO_RW_EXTENDED コマンド（SD：CMD53 ／マルチブロックリード）または 39.3.13　IO_RW_EXTENDED コマンド（SD：CMD53 ／マルチブロックライト）のエラー処理を実行しコマンドシーケンスを完了してください。

［1 になる条件］

- 送信したコマンドの command index と受信したレスポンスの command index が異なるとき
- コマンドシーケンス中に送信したコマンドの command index と受信したレスポンスの command index が異なるとき

［0 になる条件］

- CMDE に 0 を書いたとき

CRCE フラグ（CRC エラー検出フラグ）

CRC エラーが検出されたことを示します。コマンドシーケンスは CRC エラーが発生すると停止します。SDIO_MODE.C52PUB ビットが 1 および CMD52 が自動作成されたとき、通信エラーまたはレスポンスタイムアウトが起こると、コマンドシーケンスは完了しません。39.3.12　IO_RW_EXTENDED コマンド（SD：CMD53 ／マルチブロックリード）または 39.3.13　IO_RW_EXTENDED コマンド（SD：CMD53 ／マルチブロックライト）のエラー処理を実行しコマンドシーケンスを完了してください。

［1 になる条件］

- CRC ステータスにエラーが発生したとき
- 読み出したデータに CRC エラーが発生したとき
- レスポンスに CRC エラーが発生したとき
- コマンドシーケンス中に送信したコマンドに対するレスポンスに CRC エラーが発生したとき

［0 になる条件］

- CRCE に 0 を書いたとき

ENDE フラグ（エンドビットエラー検出フラグ）

エンドビットエラーが検出されたことを示します。コマンドシーケンスはエンドビットエラーが発生すると停止します。SDIO_MODE.C52PUB ビットが 1 および CMD52 が自動作成されたとき、通信エラーまたはレスポンスタイムアウトが起こると、コマンドシーケンスは完了しません。39.3.12　IO_RW_EXTENDED コマンド（SD：CMD53 ／マルチブロックリード）または 39.3.13　IO_RW_EXTENDED コマンド（SD：CMD53 ／マルチブロックライト）のエラー処理を実行しコマンドシーケンスを完了してください。

［1 になる条件］

- レスポンス長にエラーが発生したとき（エンドビットが検出されなかったとき）
- 読み出しデータ長にエラーが発生したとき（有効ビットのエンドビットが検出されなかったとき）
- CRC ステータス長にエラーが発生したとき（エンドビットが検出されなかったとき）
- コマンドシーケンス中に送信したコマンドに対するレスポンス長にエラーがあるとき（たとえば、エンドビットが検出されなかったとき）

［0 になる条件］

- ENDE に 0 を書いたとき

DTO フラグ（データタイムアウト検出フラグ）

データタイムアウトエラーが検出されたことを示します。タイムアウトが発生するとコマンドシーケンスは停止します。

［1 になる条件］

- R1b レスポンス後、Ncycle を超える期間にわたってビジー状態（SDnDAT0 = 0）が継続しているとき
- CRC ステータス後、Ncycle を超える期間にわたってビジー状態（SDnDAT0 = 0）が継続しているとき
- データを書き込んだ後、Ncycle の期間が経過する前に CRC ステータス を受信しなかったとき
- リードコマンドの後、Ncycle の期間が経過する前に読み出しデータを受信しなかったとき
- コマンドシーケンス中に CMD12 が送信された後、Ncycle を超える期間にわたってビジー状態（SDnDAT0 = 0）が継続しているとき
- 読み出しデータを受信した後、Ncycle の期間が経過する前に次のブロックの読み出しデータを受信しなかったとき
- Read Wait 状態が解除された後、Ncycle の期間が経過する前に次のブロックの読み出しデータを受信しなかったとき

注 .　Ncycle は SD_OPTION[7:4] ビットに設定されます。

［0 になる条件］

- DTO に 0 を書いたとき

ILW フラグ（SD_BUF0 不正書き込み検出フラグ）

SD_BUF0 不正ライトアクセスが検出されたことを示します。

［1 になる条件］

- リードまたはライトコマンドステートでないときに SD_BUF0 にデータを書き込んだとき
- SD_BUF がフルのときに SD_BUF0 にデータを書き込んだとき
- CRC ステータスまたは CRC ステータス長にエラーが発生した場合に SD_BUF0 にデータを書き込んだとき
- CRCステータス後のビジー状態がNcycleを超える期間にわたって継続しているときにSD_BUF0にデータを書き込んだとき

注 .　Ncycle は SD_OPTION[7:4] ビットに設定されます。

［0 になる条件］

- ILW に 0 を書いたとき

ILR フラグ（SD_BUF0 不正読み出し検出フラグ）

SD_BUF0 不正リードアクセスが検出されたことを示します。

［1 になる条件］

- SD_BUF0 を読み出しているときに SD_BUF がエンプティのとき
- CRC エラーまたは END エラーを含むデータを SD_BUF0 から読み出したとき

［0 になる条件］

- ILR に 0 を書いたとき

RSPTO フラグ（レスポンスタイムアウト検出フラグ）

レスポンスタイムアウトが検出されたことを示します。コマンドシーケンスはレスポンスタイムアウトが発生すると停止します。SDIO_MODE.C52PUB ビットが 1 および CMD52 が自動送信されたとき、通信エラーまたはレスポンスタイムアウトが起こると、コマンドシーケンスは完了していません。39.3.12 IO_RW_EXTENDED コマンド（SD：CMD53 ／マルチブロックリード）または 39.3.13 IO_RW_EXTENDED コマンド（SD：CMD53 ／マルチブロックライト）のエラー処理を実行しコマンドシーケンスを完了してください。

［1 になる条件］

- SD/MMC クロックで 640 サイクルを超える時間が経過してもレスポンスを受信しないとき（コマンドシーケンス中に送信したコマンドに対するレスポンスを含みます）

［0 になる条件］

- RSPTO に 0 を書いたとき

SDD0MON フラグ（SDHI_D0 端子ステータスフラグ）

SDHI_D0 端子の状態が表示されます。イレースコマンドを送信した後、データタイムアウト (DTO) が設定されていても、レスポンスタイムアウト（RSPTO）が設定されていない場合、DAT0 のポーリングによりイレースシーケンスの終了（SDD0MON = 1）が確認されます。

なお、ライトシーケンス中に通信エラーまたはタイムアウトが発生すると、DAT0 ビットの値が 0 のままになっている場合があります。

SD/MMC クロックが停止しているとき、DAT0 ビットはクロックが停止する前に値を保持します。

BRE フラグ（SD_BUF0 読み出し許可フラグ）

SD_BUF0 の読み出しが許可されていることを示します。

［1 になる条件］

- シングルブロック転送時、SD_SIZE に設定したデータが SD_BUF0 に格納されたとき
- マルチブロック転送時、SD_SIZE に設定したデータが SD_BUF0 のバンク 1 またはバンク 2 のいずれかに格納されたとき

［0 になる条件］

- BRE に 0 を書いたとき
- DMA 転送にて SD_BUF0 からデータを 1 ブロック分読み出したとき

CPU にて SD_BUF0 からデータを読み出す場合、BRE をクリアしてから、SD_SIZE に設定したデータ量を読み出すようにしてください。ブロックデータを読み出しているときに CRC エラーまたは END エラーが発生した場合も、SD_BUF0 にデータが格納され、BRE が設定されます。

BWE フラグ（SD_BUF0 書き込み許可フラグ）

SD_BUF0 への書き込みが許可されていることを示します。

［1 になる条件］

- シングルブロック転送時、SD_BUF0 がエンプティのとき
- マルチブロック転送時、SD_BUF0 のバンク 1 またはバンク 2 のいずれかがエンプティのとき

［0 になる条件］

- BWE に 0 を書いたとき
- DMA 転送にて SD_BUF0 にデータを 1 ブロック分書いたとき

CPU にて SD_BUF0 にデータを書き込む場合、BWE をクリアしてから、SD_SIZE に設定したデータ量を書き込むようにしてください。

SD_CLK_CTRLEN フラグ（SD_CLK_CTRL 書き込み許可フラグ）

SD_CMD への書き込みによってコマンドシーケンスが開始すると、CBSY ビットが 1 になると同時に、SD_CLK_CTRLEN ビットが 0 になります。コマンドシーケンスの完了により CBSY ビットが 0 になった後、SDnCLK クロックの 8 サイクル後に SD_CLK_CTRLEN ビットが 1 になります。

ILA フラグ（不正アクセスエラー検出フラグ）

不正アクセスエラーが検出されたことを示します。

［1 になる条件］

- コマンドシーケンス中に SD_CMD にデータを書き込んだとき（CBSY = 1）
- SD_CMD において SD_CMD[11] = 1（データ転送のあるコマンド）かつ SD_CMD[7:0] = 0000 1100b（CMD12）にしたとき

［0 になる条件］

- ILA に 0 を書いたとき

39.2.12 SD INFO1 割り込みマスクレジスタ（SD_INFO1_MASK）

アドレス SDHI0.SD_INFO1_MASK 4006 2040h, SDHI1.SD_INFO1_MASK 4006 2440h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	SDD3INM	SDD3RMM	—	—	—	SDCDINM	SDCDRMM	ACENDM	—	RSPENDM
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RSPENDM	レスポンスエンド割り込み要求マスク	0：レスポンスエンド割り込み要求をマスクしない 1：レスポンスエンド割り込み要求をマスクする	R/W
b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書き込みは無効になります。	R
b2	ACENDM	アクセスエンド割り込み要求マスク	0：アクセスエンド割り込み要求をマスクしない 1：アクセスエンド割り込み要求をマスクする	R/W
b3	SDCDRMM（注1）	SD0CD抜去割り込み要求マスク	0：SD0CD端子によるSDカード／MMC抜去割り込み要求をマスクしない 1：SD0CD端子によるSDカード／MMC抜去割り込み要求をマスクする	R/W
b4	SDCDINM（注1）	SD0CD挿入割り込み要求マスク	0：SD0CD端子によるSDカード／MMC挿入割り込み要求をマスクしない 1：SD0CD端子によるSDカード／MMC挿入割り込み要求をマスクする	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書き込みは無効になります。	R
b8	SDD3RMM	SDnDAT3抜去割り込み要求マスク	0：SDnDAT3端子によるSDカード／MMC抜去割り込み要求をマスクしない 1：SDnDAT3端子によるSDカード／MMC抜去割り込み要求をマスクする	R/W
b9	SDD3INM	SDnDAT3挿入割り込み要求マスク	0：SDnDAT3端子によるSDカード／MMC挿入割り込み要求をマスクしない 1：SDnDAT3端子によるSDカード／MMC挿入割り込み要求をマスクする	R/W
b31-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書き込みは無効になります。	R

注 1.　SDCDRMM ビットおよび SDCDINM ビットは SDHI0（SD0CD）のみ対応しています。SHDI1 ではビット [4:3] は予約ビットです。

SD_INFO1_MASK レジスタは、SD_INFO1 レジスタの各ステータスフラグによる割り込みの要求を許可または禁止します。各ステータスフラグと要求される割り込み要因の関係は表 39.5　割り込み要因を参照してください。

39.2.13 SD INFO2 割り込みマスクレジスタ（SD_INFO2_MASK）

アドレス SDHI0.SD_INFO2_MASK 4006 2044h, SDHI1.SD_INFO2_MASK 4006 2444h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ILAM	—	—	—	—	—	BWEM	BREM	—	RSPTOM	ILRM	ILWM	DTOM	ENDEM	CRCEM	CMDEM
リセット後の値	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMDEM	コマンドエラー割り込み要求マスク	0：コマンドエラー割り込み要求をマスクしない 1：コマンドエラー割り込み要求をマスクする	R/W
b1	CRCEM	CRCエラー割り込み要求マスク	0：CRCエラー割り込み要求をマスクしない 1：CRCエラー割り込み要求をマスクする	R/W
b2	ENDEM	エンドビットエラー割り込み要求マスク	0：エンドビット検出エラー割り込み要求をマスクしない 1：エンドビット検出エラー割り込み要求をマスクする	R/W
b3	DTOM	データタイムアウト割り込み要求マスク	0：データタイムアウト割り込み要求をマスクしない 1：データタイムアウト割り込み要求をマスクする	R/W
b4	ILWM	SD_BUF0レジスタ不正書き込み割り込み要求マスク	0：SD_BUF0レジスタへの不正書き込み検出割り込み要求をマスクしない 1：SD_BUF0レジスタへの不正書き込み検出割り込み要求をマスクする	R/W
b5	ILRM	SD_BUF0レジスタ不正読み出し割り込み要求マスク	0：SD_BUF0レジスタへの不正読み出し検出割り込み要求をマスクしない 1：SD_BUF0レジスタへの不正読み出し検出割り込み要求をマスクする	R/W
b6	RSPTOM	レスポンスタイムアウト割り込み要求マスク	0：レスポンスタイムアウト割り込み要求をマスクしない 1：レスポンスタイムアウト割り込み要求をマスクする	R/W
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書き込みは無効になります。	R
b8	BREM（注1）	BRE割り込み要求マスク	0：SD_BUF0レジスタの読み出し許可割り込み要求をマスクしない 1：SD_BUF0レジスタの読み出し許可割り込み要求をマスクする	R/W
b9	BWEM（注1）	BWE割り込み要求マスク	0：SD_BUF0レジスタへの書き込み許可割り込み要求をマスクしない 1：SD_BUF0レジスタへの書き込み許可割り込み要求をマスクする	R/W
b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b11	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b14-b12	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b15	ILAM	不正アクセスエラー割り込み要求マスク	0：不正アクセスエラー割り込み要求をマスクしない 1：不正アクセスエラー割り込み要求をマスクする	R/W
b31-b16	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R

注 1. SD_INFO2_MASK.BWEM ビットもしくは SD_INFO2_MASK.BREM ビットのいずれかが 0 のとき、SD_DMAEN.DMAEN ビットは 0 にしてください。SD_DMAEN.DMAEN ビットが 1 のとき、SD_INFO2_MASK.BWEM ビットおよび SD_INFO2_MASK.BREM ビットは 1 にしてください。

SD_INFO2_MASK レジスタは、SD_INFO2 レジスタの各ステータスフラグによる割り込みの要求を許可または禁止します。各ステータスフラグと要求される割り込み要因の関係は表 39.5 を参照してください。

39.2.14 SD クロックコントロールレジスタ（SD_CLK_CTRL）

アドレス SDHI0.SD_CLK_CTRL 4006 2048h, SDHI1.SD_CLK_CTRL 4006 2448h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	CLKCTRLEN	CLKEN	CLKSEL[7:0]							
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	CLKSEL[7:0]	SD/MMCクロック周波数選択（注1）	b7 b0 0 0 0 0 0 0 0 0：PCLKA/2 0 0 0 0 0 0 0 1：PCLKA/4 0 0 0 0 0 0 1 0：PCLKA/8 0 0 0 0 0 1 0 0：PCLKA/16 0 0 0 0 1 0 0 0：PCLKA/32 0 0 0 1 0 0 0 0：PCLKA/64 0 0 1 0 0 0 0 0：PCLKA/128 0 1 0 0 0 0 0 0：PCLKA/256 1 0 0 0 0 0 0 0：PCLKA/512 上記以外は設定しないでください。	R/W
b8	CLKEN	SD/MMCクロック出力制御（注1）	0：SD/MMCクロック出力は無効（SDnCLK信号をLowに固定） 1：SD/MMCクロック出力は有効	R/W
b9	CLKCTRLEN	SD/MMCクロック出力自動制御選択	0：SD/MMCクロック出力の自動制御は無効 1：SD/MMCクロック出力の自動制御は有効	R/W
b31-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　SD_INFO2.SD_CLK_CTRLEN フラグが 0 のとき、CLKSEL[7:0] ビット、CLKEN ビットに書き込むことはできません。

SD_CLK_CTRL レジスタは、SD/MMC クロックの周波数の設定や出力の制御を行います。SD_CMD レジスタに値を書き込んでコマンドシーケンスが開始される前に CLKEN ビットを 1 にしてください。SD_INFO2.SD_CLK_CTRLEN フラグが 0 のとき、SD_CLK_CTRL レジスタへ書き込まないでください。

CLKCTRLEN ビット（SD/MMC クロック出力自動制御選択）

コマンドシーケンス中、SD/MMC クロック出力の自動制御を行うかどうかを設定します。

SD/MMC クロック出力が開始・停止するタイミングは以下のとおりです。

- SD/MMC クロック出力は、SD_CMD への書き込み後に開始
- SD/MMC クロック出力は、コマンドシーケンスの終了後に SD/MMC クロックの 8 サイクルが経過すると停止

また、SD_CLK_CTRL の CLKEN が 0 のときは、CLKCTRLEN ビットの値にかかわらず、SD/MMC クロックは 0 に固定されます。

39.2.15　転送データ長レジスタ（SD_SIZE）

アドレス　SDHI0.SD_SIZE 4006 204Ch, SDHI1.SD_SIZE 4006 244Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	LEN[9:0]									
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b9-b0	LEN[9:0]	転送データサイズ設定	転送データサイズを設定します。(注1)	R/W
b31-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R

注 1.　SD_INFO2.CBSY フラグが 1 のとき、これらのビットを書き換えないでください。

SD_SIZE レジスタは、転送データサイズを設定するレジスタです。

LEN[9:0] ビット（転送データサイズ設定）

シングルブロック転送時には、LEN[9:0] ビットに転送データサイズを 1 バイト～ 512 バイトの範囲で設定できます。CMD12 を自動送信するマルチブロック転送時（CMD18 と CMD25）には、512 バイトのみ設定できます。CMD12 を自動送信しないマルチブロック転送時には、512 バイトの他、32、64、128、256 バイトを設定できます。ただし、32、64、128、256 バイトのマルチブロックリード転送は、SDIO のマルチブロック転送時（CMD53）に限ります。なお、データ転送のあるコマンドのとき、LEN[9:0] ビットを 0 にしないでください。

39.2.16 SD カードアクセスコントロールオプションレジスタ（SD_OPTION）

アドレス SDHI0.SD_OPTION 4006 2050h, SDHI1.SD_OPTION 4006 2450h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	WIDTH	—	WIDTH8	—	—	—	—	TOUTMASK	TOP[3:0]				CTOP[3:0]			
リセット後の値	0（注2）	1	0（注2）	0	0	0	0	0（注2）	1（注2）	1（注2）	1（注2）	0（注2）	1（注2）	1（注2）	1（注2）	0（注2）

ビット	シンボル	ビット名	機能		R/W
b3-b0	CTOP[3:0]	カード検出タイムカウンタ（注1）	b3 b0 0 0 0 0：PCLKA × 2^{10} 0 0 0 1：PCLKA × 2^{11} 0 0 1 0：PCLKA × 2^{12} 0 0 1 1：PCLKA × 2^{13} 0 1 0 0：PCLKA × 2^{14} 0 1 0 1：PCLKA × 2^{15} 0 1 1 0：PCLKA × 2^{16} 0 1 1 1：PCLKA × 2^{17}	b3 b0 1 0 0 0：PCLKA × 2^{18} 1 0 0 1：PCLKA × 2^{19} 1 0 1 0：PCLKA × 2^{20} 1 0 1 1：PCLKA × 2^{21} 1 1 0 0：PCLKA × 2^{22} 1 1 0 1：PCLKA × 2^{23} 1 1 1 0：PCLKA × 2^{24} 1 1 1 1：設定禁止	R/W
b7-b4	TOP[3:0]	タイムアウトカウンタ（注1）	b7 b4 0 0 0 0：SD/MMCクロック × 2^{13} 0 0 0 1：SD/MMCクロック × 2^{14} 0 0 1 0：SD/MMCクロック × 2^{15} 0 0 1 1：SD/MMCクロック × 2^{16} 0 1 0 0：SD/MMCクロック × 2^{17} 0 1 0 1：SD/MMCクロック × 2^{18} 0 1 1 0：SD/MMCクロック × 2^{19} 0 1 1 1：SD/MMCクロック × 2^{20}	b7 b4 1 0 0 0：SD/MMCクロック × 2^{21} 1 0 0 1：SD/MMCクロック × 2^{22} 1 0 1 0：SD/MMCクロック × 2^{23} 1 0 1 1：SD/MMCクロック × 2^{24} 1 1 0 0：SD/MMCクロック × 2^{25} 1 1 0 1：SD/MMCクロック × 2^{26} 1 1 1 0：SD/MMCクロック × 2^{27} 1 1 1 1：設定禁止	R/W
b8	TOUTMASK	タイムアウトマスク	0：タイムアウトの有効化 1：タイムアウトの無効化。SD_INFO2レジスタのRSPTOビットとDTOビット、およびSD_ERR_STS2レジスタの6～0ビットが設定されません。 タイムアウトの無効化によりタイムアウトが発生した場合、ソフトウェアリセットを実行してコマンドシーケンスを終了してください。		R/W
b12-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。		R
b13	WIDTH8（注1）	バス幅	ビット15（WIDTHビット）を参照してください。		R/W
b14	—	予約ビット	読むと1が読めます。		R
b15	WIDTH	バス幅（注1）	b15 b13 0 1：8ビット幅 0 0：4ビット幅 1 0：1ビット幅 1 1：1ビット幅		R/W
b31-b16	—	予約ビット	読むと0が読めます。		R

注 1.　SD_INFO2.CBSY フラグが 1 のとき、これらのビットを書き換えないでください。
注 2.　リセット時および SOFT_RST.SDRST フラグが 0 の場合、初期値が適用されます。

SD_OPTION レジスタは、SD バスの幅およびタイムアウトカウンタを設定するレジスタです。

39.2.17 SD エラーステータスレジスタ 1（SD_ERR_STS1）

アドレス SDHI0.SD_ERR_STS1 4006 2058h, SDHI1.SD_ERR_STS1 4006 2458h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	CRCTK[2:0]			CRCTKE	RDCRCE	RSPCRCE1	RSPCRCE0	—	—	CRCLENE	RDLENE	RSPLENE1	RSPLENE0	CMDE1	CMDE0
リセット後の値	0	0 (注3)	1 (注3)	0 (注3)	0 (注3)	0 (注3)	0 (注3)	0 (注3)	0	0	0 (注3)	0 (注3)	0 (注3)	0 (注3)	0 (注3)	0 (注3)

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMDE0	コマンドエラーフラグ0	0：コマンド（注1）レスポンスのcommand indexフィールド値にエラーなし 1：コマンド（注1）レスポンスのcommand indexフィールド値にエラーあり	R
b1	CMDE1	コマンドエラーフラグ1	0：コマンド（注2）レスポンスのcommand indexフィールド値にエラーなし 1：コマンド（注2）レスポンスのcommand indexフィールド値にエラーあり。SD_CMD.CMDIDX[5:0]ビットが設定されているとき、CMD12の送信により発生したエラーはCMDE0フラグに表示されます。	R
b2	RSPLENE0	レスポンス長エラーフラグ0	0：コマンド（注1）レスポンス長にエラーなし 1：コマンド（注1）レスポンス長にエラーあり	R
b3	RSPLENE1	レスポンス長エラーフラグ1	0：コマンド（注2）レスポンス長にエラーなし 1：コマンド（注2）レスポンス長にエラーあり （SD_CMD.CMDIDX[5:0]設定では、CMD12送信で発生したエラーをRSPLENE0フラグに表示）	R
b4	RDLENE	読み出しデータ長エラーフラグ	0：読み出しデータ長エラーの発生なし 1：読み出しデータ長エラーの発生あり	R
b5	CRCLENE	CRCステータストークン長エラーフラグ	0：CRCステータストークン長エラーの発生なし 1：CRCステータストークン長エラーの発生あり	R
b7-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b8	RSPCRCE0	レスポンスCRCエラーフラグ0	0：コマンド（注1）のレスポンスにCRCエラーなし 1：コマンド（注1）のレスポンスにCRCエラーあり	R
b9	RSPCRCE1	レスポンスCRCエラーフラグ1	0：コマンド（注2）レスポンスにCRCエラーなし （SD_CMD.CMDIDX[5:0]設定では、CMD12送信で発生したエラーをRSPCRCE0フラグに表示） 1：コマンド（注2）のレスポンスにCRCエラーあり	R
b10	RDCRCE	読み出しデータCRCエラーフラグ	0：読み出しデータにCRCエラーなし 1：読み出しデータにCRCエラーあり	R
b11	CRCTKE	CRCステータストークンエラーフラグ	0：CRCステータストークンにエラーなし 1：CRCステータストークンにエラーあり	R
b14-b12	CRCTK[2:0]	CRCステータストークン	これらのビットはCRCステータストークン値を格納します（正常値は010b）	R
b15	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b31-b16	—	予約ビット	読むと、不定値が読めます。	R

注 1.　SD_CMD でマルチブロック転送の自動送信が有効な場合は CMD12 以外の CMD、SD_STOP の STP ビットが 1 の場合は CMD12、SDIO_MODE の C52PUB ビットまたは IOABT ビットが 1 の場合は CMD52

注 2.　SD_CMD でマルチブロック転送の自動送信が有効な場合は CMD12、SD_STOP の STP ビットが 1 の場合は CMD12、SDIO_MODE の C52PUB ビットまたは IOABT ビットが 1 の場合は CMD52

注 3.　リセット時および SOFT_RST.SDRST フラグが 0 の場合、初期値が適用されます。

SD_ERR_STS1 レジスタは、CRC ステータストークン、CRC エラー、エンドビットエラー、およびコマンドエラーを表示します。

39.2.18 SD エラーステータスレジスタ 2（SD_ERR_STS2）

アドレス SDHI0.SD_ERR_STS2 4006 205Ch, SDHI1.SD_ERR_STS2 4006 245Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CRCBSYTO	CRCTO	RDTO	BSYTO1	BSYTO0	RSPTO1	RSPTO0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0（注4）	0（注4）	0（注4）	0（注4）	0（注4）	0（注4）	0（注4）

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RSPTO0	レスポンスタイムアウトフラグ0	0：コマンド（注1）を送信した後、SD/MMCクロックで640サイクル未満でレスポンスを受信した 1：コマンド（注1）を送信した後、SD/MMCクロックで640サイクル以上経過してもレスポンスを受信しなかった	R
b1	RSPTO1	レスポンスタイムアウトフラグ1	0：コマンド（注2）を送信した後、SD/MMCクロックで640サイクル未満でレスポンスを受信した 1：コマンド（注2）を送信した後、SD/MMCクロックで640サイクル以上経過してもレスポンスを受信しなかった（SD_CMD.CMDIDX[5:0]の設定により、CMD12送信時のエラーはRSPTO0フラグに表示されます）	R
b2	BSYTO0	ビジータイムアウトフラグ0	0：R1bレスポンス受信後、指定時間（注3）以内にSD/MMCのビジー状態が解除された 1：R1bレスポンス受信後、指定時間（注3）が経過してもSD/MMCはビジー状態のまま	R
b3	BSYTO1	ビジータイムアウトフラグ1	0：CMD12の自動送信後、指定時間（注3）以内にSD/MMCのビジー状態が解除された 1：CMD12の自動送信後、指定時間（注3）が経過してもSD/MMCはビジー状態のまま（SD_CMD.CMDIDX[5:0]の設定により、CMD12送信時のエラーはBSYTO0フラグに表示されます）	R
b4	RDTO	読み出しデータタイムアウトフラグ	リードコマンド送信時、指定時間（注3）が経過してもリードデータを受信しないとき1になります。 リードデータ受信時、指定時間（注3）が経過しても次ブロックリードデータを受信しないとき1になります。 SD/MMCのRead Wait解除時、指定時間（注3）が経過しても次ブロックリードデータを受信しないとき1になります。	R
b5	CRCTO	CRCステータストークンタイムアウトフラグ	0：CRCデータをSDカード／MMCに書き込んだ後、指定時間（注3）以内にCRCステータストークンを受信した 1：CRCデータをSDカード／MMCに書き込んだ後、指定時間（注3）が経過してもCRCステータストークンを受信しなかった	R
b6	CRCBSYTO	CRCステータストークンビジータイムアウトフラグ	0：CRCステータストークン受信後、指定時間（注3）以内にSD/MMCのビジー状態が解除された 1：CRCステータストークン受信後、指定時間（注3）が経過してもSD/MMCはビジー状態のまま	R
b31-b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

注 1.　SD_CMD でマルチブロック転送の自動送信が有効な場合は CMD12 以外の CMD、SD_STOP の STP ビットが 1 の場合は CMD12、SDIO_MODE の C52PUB ビットまたは IOABT ビットが 1 の場合は CMD52

注 2.　SD_CMD でマルチブロック転送の自動送信が有効な場合は CMD12、SD_STOP の STP ビットが 1 の場合は CMD12、SDIO_MODE の C52PUB ビットまたは IOABT ビットが 1 の場合は CMD52

注 3.　SD_OPTION.TOP[3:0] ビットで設定して、サイクル数 *n* を選択します

注 4.　リセット時および SOFT_RST.SDRST フラグが 0 の場合、初期値が適用されます。

SD_ERR_STS2 レジスタは、タイムアウトの状態を表示します。

39.2.19 SD バッファレジスタ（SD_BUF0）

アドレス SDHI0.SD_BUF0 4006 2060h, SDHI1.SD_BUF0 4006 2460h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

x：不定

SD カードに書き込みを行うと、書き込みデータはこのレジスタに書き込まれます。SD カードから読み出しを行うと、読み出しデータはこのレジスタから読み出されます。このレジスタは 2 つの 512 バイトバッファに内部的に接続されます。

マルチブロックリードの実行時に両方のバッファがエンプティでない場合、データ受信を中断するために SD カード／ MMC クロックが停止します。どちらかのバッファがエンプティの場合、データ受信を再開するために SD カード／ MMC クロックが供給されます。

39.2.20 SDIO モードコントロールレジスタ（SDIO_MODE）

アドレス SDHI0.SDIO_MODE 4006 2068h, SDHI1.SDIO_MODE 4006 2468h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	C52PUB	IOABT	—	—	—	—	—	RWREQ	—	INTEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	INTEN	SDIO割り込み受け付け許可（注1）	0：SDIO割り込み受け付け禁止 1：SDIO割り込み受け付け許可	R/W
b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b2	RWREQ	Read Wait要求	0：SD/MMCのRead Wait状態の解除 1：SD/MMCのRead Wait状態への遷移を要求	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b8	IOABT	SDIO Abort	CMD53によるマルチブロック転送時に1にするとただちにCMD52が送信され、コマンドシーケンスは中断します。	R/W
b9	C52PUB	SDIO None Abort	CMD53によるマルチブロック転送時に1にすると、転送中の処理を終えてからCMD52が送信され、コマンドシーケンスは終了します。	R/W
b31-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

注 1.　SD_INFO2.CBSY フラグが 1 のとき、本ビットを書き換えないでください。

SDIO_MODE レジスタは、SDIO 割り込みの受け付け、マルチブロック転送時の CMD52 の送信、Read Wait 要求の制御を行うレジスタです。C52PUB ビットと IOABT ビットを同時に 1 にしないでください。

RWREQ ビット（Read Wait 要求）

CMD53（マルチブロック）リードシーケンスで RWREQ を 1 にすると、ブロック転送はブロック間で Read Wait 状態になります。

［Read Wait 状態の解除］

- Read Wait 状態で RWREQ を 0 にしたとき
- Read Wait 状態で IOABT を 1 にし、CMD52 の送信後に RWREQ が自動的に 0 になったとき
- CMD53（マルチブロック）リードシーケンスで C52PUB と同時に RWREQ を 1 にした場合、Read Wait 状態は自動で解除されない。そのため、CMD52 レスポンスを受信した後に RWREQ をクリアする。RWREQ と C52PUB は必ず同時に設定すること

CMD53（マルチブロック）リードシーケンスで最終ブロックの転送中に RWREQ を 1 にした場合、Read Wait 状態にはならず、アクセスエンドを設定することで RWREQ は自動的にクリアされます。レスポンスエンドフラグの設定後に RWREQ を 1 にしてください。

IOABT ビット（SDIO Abort）

CMD53（マルチブロック）シーケンスで IOABT ビットを 1 にすると、CMD53 のシーケンスが停止し、CMD52 が送信されます。ただし、通信エラーまたはタイムアウトによりコマンドシーケンスが停止した場合、CMD52 は送信されません。IOABT を 1 にした後も引き続きバッファアクセスは可能ですが、これにより SD_INFO2 のバッファアクセスエラービット（ILR または ILW）が設定されます。IOABT を 1 にする前に SD_ARG を設定してください。

シングルブロックライトの転送時に IOABT を 1 にすると、SD_BUF0 がエンプティの場合はアクセスエンドフラグが設定され、CMD52 は送信されません。SD_BUF0 にデータがある場合、CMD52 が送信されずにビジー状態の受信を完了したときにアクセスエンドフラグが設定されます。

シングルブロックリードの転送時に IOABT を 1 にすると、IOABT 設定後にアクセスエンドフラグが設定され、CMD52 は送信されません。

R1b レスポンス後、ビジー状態の受信時に IOABT を 1 にすると、CMD52 が送信されずにビジー状態の受信を完了したときにアクセスエンドフラグが設定されます。

コマンドシーケンスの完了後に IOABT を 1 にすると、CMD52 は送信されず、アクセスエンドフラグも設定されません。

レスポンスエンドフラグの設定後に IOABT を 1 にしてください。

アクセスエンドフラグの設定後に IOABT を 0 にしてください。

C52PUB ビット（SDIO None Abort）

CMD53（マルチブロック）ライトシーケンスで C52PUB ビットを 1 にすると、SD_BUF0 がエンプティになる場合、CMD52 がブロック間で自動送信されます。C52PUB は、CMD52 に対するレスポンスの受信を完了した後、自動的にクリアされます。また、最終ブロック転送中に C52PUB を 1 にすると、CMD52 は送信されません。この場合、アクセスエンドフラグを 1 にした後、C52PUB は自動的にクリアされます。

CMD53（マルチブロック）リードシーケンスで C52PUB と RWREQ を 1 にすると、ブロック転送はブロック間で Read Wait 状態になり、CMD52 は自動送信されます。C52PUB は、CMD52 に対するレスポンスの受信を完了した後、自動的にクリアされます。また、最終ブロック転送中に C52PUB を 1 にすると、CMD52 は送信されません。この場合、アクセスエンドフラグを 1 にした後、C52PUB は自動的にクリアされます。

CMD53（マルチブロック）リードシーケンスで C52PUB を 1 にした場合、C52PUB に加えて RWREQ を 1 にする必要があります。

C52PUB を 1 にする前に SD_ARG を設定してください。レスポンスエンドフラグの設定後に C52PUB を 1 にしてください。

39.2.21　SDIO 割り込みフラグレジスタ（SDIO_INFO1）

アドレス　SDHI0.SDIO_INFO1 4006 206Ch, SDHI1.SDIO_INFO1 4006 246Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	EXWT	EXPUB52	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	IOIRQ
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	x	x	0

x：不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IOIRQ	SDIO割り込みステータスフラグ	0：SDIO割り込みの検出なし 1：SDIO割り込みの検出あり	R(/W)（注1）
b2-b1	—	予約ビット	読むと不定値が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b13-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b14	EXPUB52	EXPUB52ステータスフラグ	EXPUB52ステータスを表示します。	R(/W)（注1）
b15	EXWT	EXWTステータスフラグ	EXWTステータスを表示します。	R(/W)（注1）
b31-b16	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　ビットをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。

SDIO_INFO1 レジスタは、SDIO カードアクセスに関するステータスを表示します。クリアするフラグを 0 にしてください。クリアされていないフラグは 1 にしてください。

IOIRQ フラグ（SDIO 割り込みステータスフラグ）

SDIO 割り込みの発生を表示します。

[1 になる条件]

- SDIO_MODE の INTEN が 1 のときに SDIO カードからの SDIO 割り込みを受信したとき

[0 になる条件]

- IOIRQ に 0 を書いたとき（注 1）

注 1.　このビットをクリアする前に、SDIO カードにアクセスして SDIO カードからの SDIO 割り込み信号をネゲートしてください。割り込み信号をネゲートしない場合、このビットが再び設定される可能性があります。

EXPUB52 フラグ（EXPUB52 ステータスフラグ）

EXPUB52 のステータスを表示します。

[1 になる条件]

- CMD53（マルチブロック）シーケンスで最終ブロックの転送中に、SDIO_MODE の C52PUB を 1 にしたとき
- CMD53（マルチブロック）ライトシーケンスで C52PUB を 1 にして、最終ブロックが転送されたとき

[0 になる条件]

- EXPUB52 に 0 を書いたとき

EXWT フラグ（EXWT ステータスフラグ）

EXWT のステータスを表示します。

［1 になる条件］

- CMD53（マルチブロック）リードシーケンスで最終ブロックの転送中に、SDIO_MODE の RWREQ を 1 にしたとき

［0 になる条件］

- EXWT に 0 を書いたとき

39.2.22　SD INFO1 割り込みマスクレジスタ（SDIO_INFO1_MASK）

アドレス　SDHI0.SDIO_INFO1_MASK 4006 2070h, SDHI1.SDIO_INFO1_MASK 4006 2470h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	EXWTM	EXPUB52M	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	IOIRQM
リセット後の値	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IOIRQM	IOIRQ割り込みマスク制御	0：IOIRQ割り込みをマスクしない 1：IOIRQ割り込みをマスクする	R/W
b2-b1	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b13-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b14	EXPUB52M	EXPUB52割り込み要求マスク制御	0：EXPUB52割り込み要求をマスクしない 1：EXPUB52割り込み要求をマスクする	R/W
b15	EXWTM	EXWT割り込み要求マスク制御	0：EXWT割り込み要求をマスクしない 1：EXWT割り込み要求をマスクする	R/W
b31-b16	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

SDIO_INFO1_MASK レジスタは、SDIO_INFO1 レジスタの各ステータスフラグによる割り込みの要求を許可または禁止します。各ステータスフラグと要求される割り込み要因の関係は表 39.5　割り込み要因を参照してください。

39.2.23　DMA モードイネーブルレジスタ（SD_DMAEN）

アドレス　SDHI0.SD_DMAEN 4006 21B0h, SDHI1.SD_DMAEN 4006 25B0h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	DMAEN	—
リセット後の値	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b1	DMAEN	DMA転送許可（注1）（注2）	0：DMA転送を使用したSD_BUF0レジスタへのアクセスを禁止 1：DMA転送を使用したSD_BUF0レジスタへのアクセスを許可	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b4	—	予約ビット	読むと1が読めます。	R
b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b9-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b11-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b12	—	予約ビット	読むと1が読めます。	R
b31-b13	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

注 1.　SD_INFO2.CBSY ビットが 1 のとき、本ビットを書き換えないでください。
注 2.　SD_INFO2_MASK.BWEM ビットもしくは SD_INFO2_MASK.BREM ビットのいずれかが 0 のとき、SD_DMAEN.DMAEN ビットは 0 にしてください。SD_DMAEN.DMAEN ビットが 1 のとき、SD_INFO2_MASK.BWEM ビットおよび SD_INFO2_MASK.BREM ビットは 1 にしてください。

SD_DMAEN レジスタは、DMA 転送の許可／禁止を設定するレジスタです。

DMAEN ビット（DMA 転送許可）

SD バッファの読み出しおよび書き込みを DMA 転送を用いて行う場合、SD_CMD レジスタを設定する前に DMAEN ビットを 1 にしてください。

39.2.24　ソフトウェアリセットレジスタ（SOFT_RST）

アドレス　SDHI0.SOFT_RST 4006 21C0h, SDHI1.SOFT_RST 4006 25C0h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SDRST
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SDRST	ソフトウェアリセット制御	0：SD/MMCホストインタフェースソフトウェアをリセット 1：SD/MMCホストインタフェースソフトウェアのリセットを解除	R/W
b2-b1	—	予約ビット	読むと1が読めます。	R
b31-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

SD/MMC ホストインタフェースソフトウェアリセットで初期化されるビットおよびフラグを表 39.4 に示します。

表 39.4　SD/MMCホストインタフェースソフトウェアリセットで初期化されるビットおよびフラグ

レジスタ	ビット／フラグ
SD_STOP	SEC
SD_INFO1	RSPEND, ACEND
SD_INFO2	CMDE, CRCE, ENDE, DTO, ILW, ILR, RSPTO, SDD0MON, BRE, BWE, SD_CLK_CTRLEN, ILA
SD_CLK_CTRL	CLKEN
SD_OPTION	CTOP[3:0], TOP[3:0], WIDTH SD_OPTION レジスタの b8 と b13 も SDHI ソフトウェアリセットで初期化されます。
SD_ERR_STS1	CMDE0, CMDE1, RSPLENE0, RSPLENE1, RDLENE, CRCLENE, RSPCRCE0, RSPCRCE1, RDCRCE, CRCTKE, CRCTK[2:0]
SD_ERR_STS2	RSPTO0, RSPTO1, BSYTO0, BSYTO1, RDTO, CRCTO, CRCBSYTO
SDIO_INFO1	IOIRQ, EXPUB52, EXWT

39.2.25 SD インタフェースモード設定レジスタ（SDIF_MODE）

アドレス SDHI0.SDIF_MODE 4006 21CCh, SDHI1.SDIF_MODE 4006 25CCh

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	NOCHKCR	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	NOCHKCR	CRCチェックのマスク	MMCテストコマンドのCRCチェックマスクビット。CRC16またはCRCステータス値チェックが実行されていないときに設定してください。 0：CRCチェックの許可 1：CRCチェックの禁止（読み出し時のCRC16値は無視、書き込み時のCRCステータス値は無視）	R/W
b31-b9	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

NOCHKCR ビット（CRC チェックのマスク）

MMC テストコマンドで使用します。CRC16 または CRC ステータス値チェックが実行されていないときに設定します。

39.2.26　スワップコントロールレジスタ（EXT_SWAP）

アドレス　SDHI0.EXT_SWAP 4006 21E0h, SDHI1.EXT_SWAP 4006 25E0h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	BRSWP	BWSWP	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書き込みは無効になります。	R
b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書き込みは無効になります。	R
b4-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書き込みは無効になります。	R
b6	BWSWP	SD_BUF0スワップ書き込み（注1）	0：通常の書き込み 1：バイトのエンディアンの順番を入れ替えてSD_BUF0レジスタに書き込む	R/W
b7	BRSWP	SD_BUF0スワップ読み出し（注1）	0：通常の読み出し 1：バイトのエンディアンの順番を入れ替えてSD_BUF0レジスタを読み出す	R/W
b10-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書き込みは無効になります。	R
b12-b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b14-b13	—	予約ビット	読むと0が読めます。書き込みは無効になります。	R
b15	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b31-b16	—	予約ビット	読むと0が読めます。書き込みは無効になります。	R

注 1.　SD_INFO2.CBSY フラグが 1 のとき、本ビットを書き換えないでください。

EXT_SWAP レジスタは、SD_BUF0 レジスタにアクセスするとき、データのバイトエンディアンの順番を入れ替えてアクセスするかどうかを選択するレジスタです。EXT_SWAP レジスタ値による SD_BUF0 レジスタへのアクセス方法の差異については 39.3.1　SD/MMC インタフェースを参照してください。

39.3　動作説明

39.3.1　SD/MMC インタフェース

SD カード／ MMC からデータを読み出すときの処理は以下のとおりです。

1. SD/MMC ホストインタフェースが SDnDAT 信号により SD カード／ MMC からデータを受信する（図 39.2 および図 39.3 を参照）。
2. 受信データが MMC ホストインタフェースの SD_BUF に格納される（図 39.4 を参照）。
3. SD_BUF に格納されたデータが SD_BUF0 から読み出される（図 39.5 を参照）。

SD カード／ MMC にデータを書き込むときは、指定手順は逆になります。

SD_BUF0 にアクセスするときは、SDnDAT の転送順と SD_BUF の格納順に注意してください。必用に応じて、SD_BUF0 の読み出し／書き込みデータのバイトエンディアンを EXT_SWAP レジスタで変更できます。図 39.5 を参照してください。

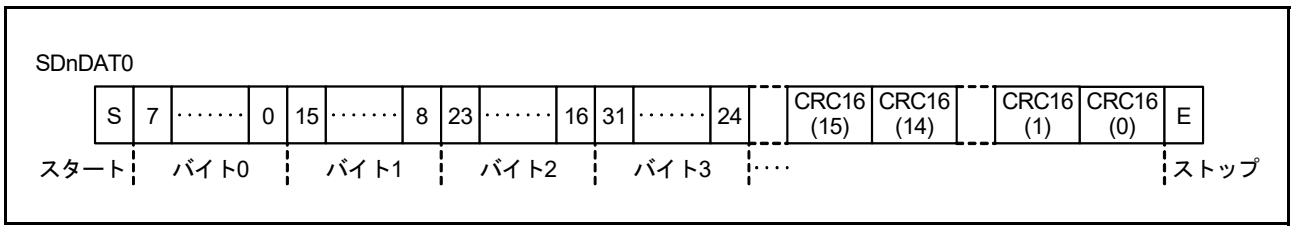


図 39.2　1 ビット幅モードの SDnDAT

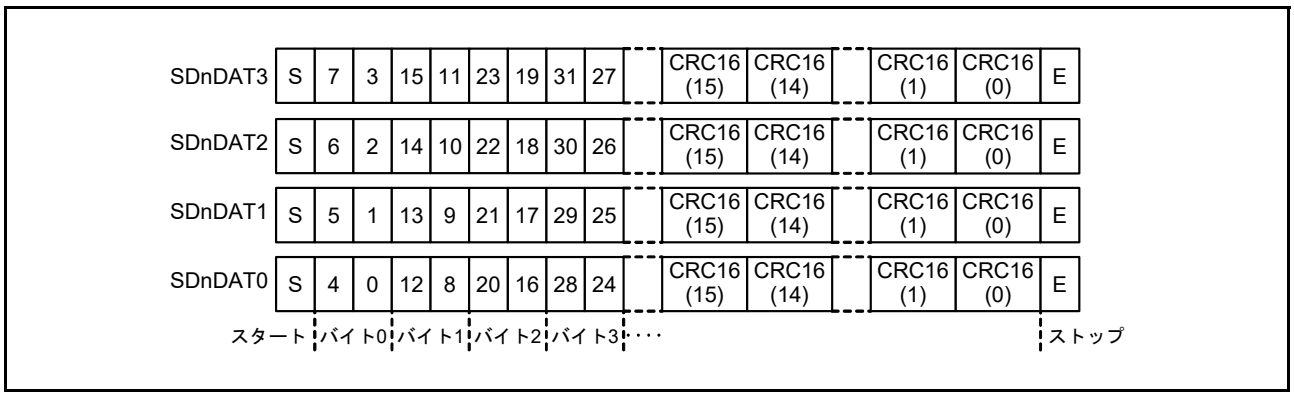


図 39.3　4 ビット幅モードの SDnDAT

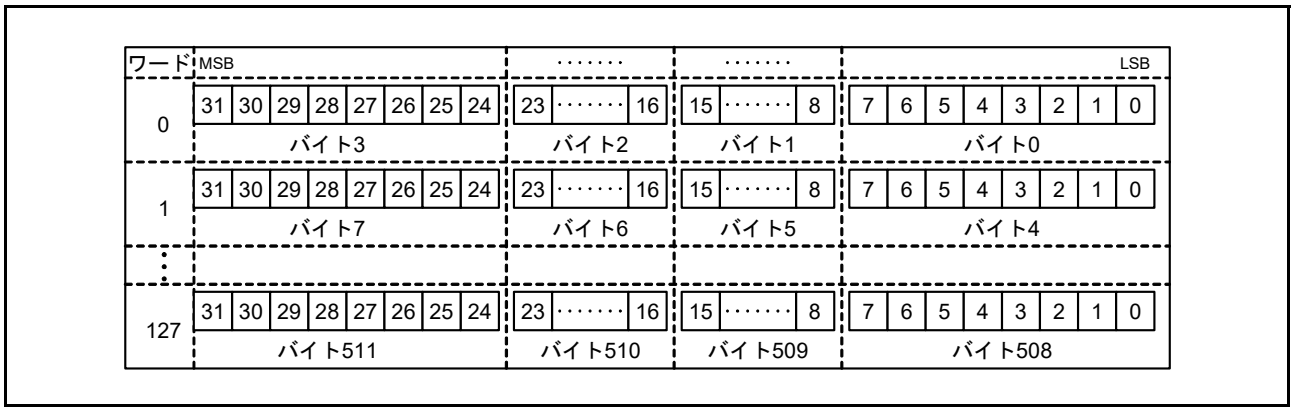


図 39.4　SD_BUF 格納データ

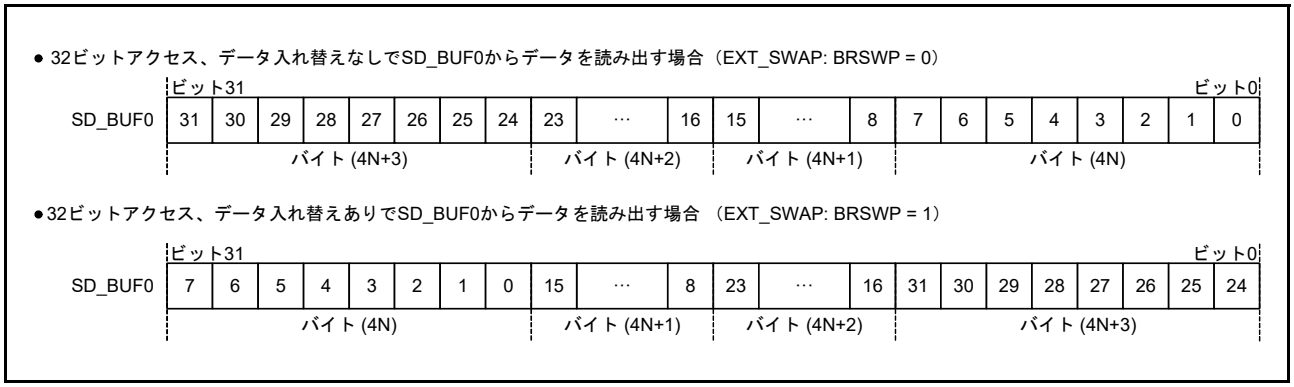


図 39.5　　SD_BUF0 からの読み出し

39.3.2　カード検出／ライトプロテクト

39.3.2.1　カード検出

SD/MMC ホストインタフェースには 2 種類のカード検出機能があります。

(1)　SD0CD によるカード検出

SD0CD によるカード検出のタイミングを図 39.6 に示します。SD0CD はカードソケットに接続され、ホスト機器側でプルアップします。プルアップ抵抗値は SD/MMC ホスト機器の仕様により決定します。

(2)　カード挿入

SD0CD はカード挿入時にプルダウンします。このとき、SD0CD が Mcycle 期間（SD_OPTION.CTOP[3:0] で設定される）にわたってプルダウンすると、SD_INFO1 の SDCDIN が 1 になります。0 書き込みで 0 になります。

(3)　カード抜去

SD0CD はカード抜去時にプルアップします。このとき、SD0CD が Mcycle 期間（SD_OPTION.CTOP[3:0] で設定される）にわたってプルアップすると、SD_INFO1 の SDCDRM が 1 になります。0 書き込みで 0 になります。

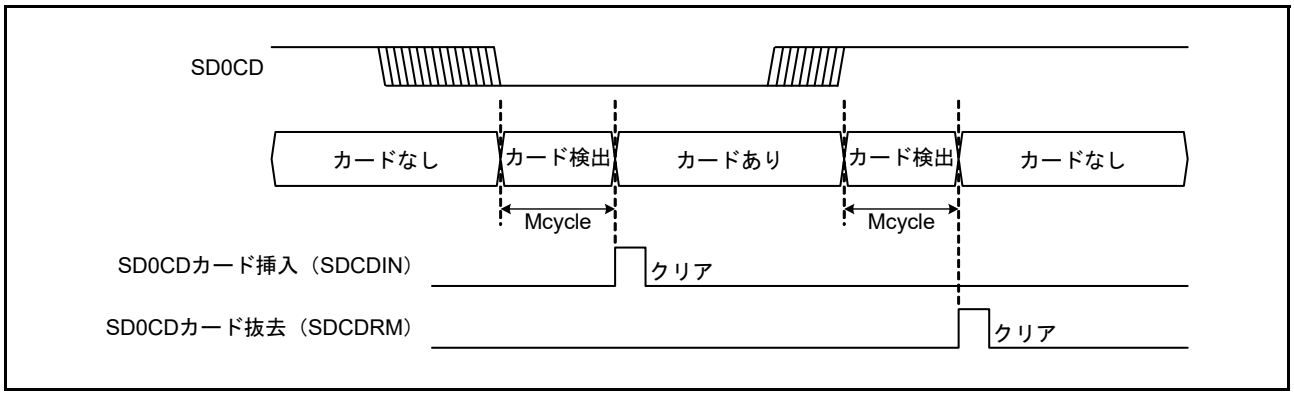


図 39.6　SD0CD によるカード検出例

(4)　SDnDAT3（n = 0, 1）による SD カード検出

SDnDAT3 による SD カード検出時のタイミングを図 39.7 に示します。また、SDnDAT3 はホスト機器によってプルダウンし、プルダウン抵抗値は SD ホスト機器により決定します。

(5)　カード挿入

SD カードが挿入されると、SDnDAT3 がプルアップし、SD_INFO1 の SDD3IN が 1 になります。0 書き込みで 0 になります。

(6)　カード抜去

SD カードが抜去されると、SDnDAT3 がプルダウンし、SD_INFO1 の SDD3RM が 1 になります。0 書き込みで 0 になります。

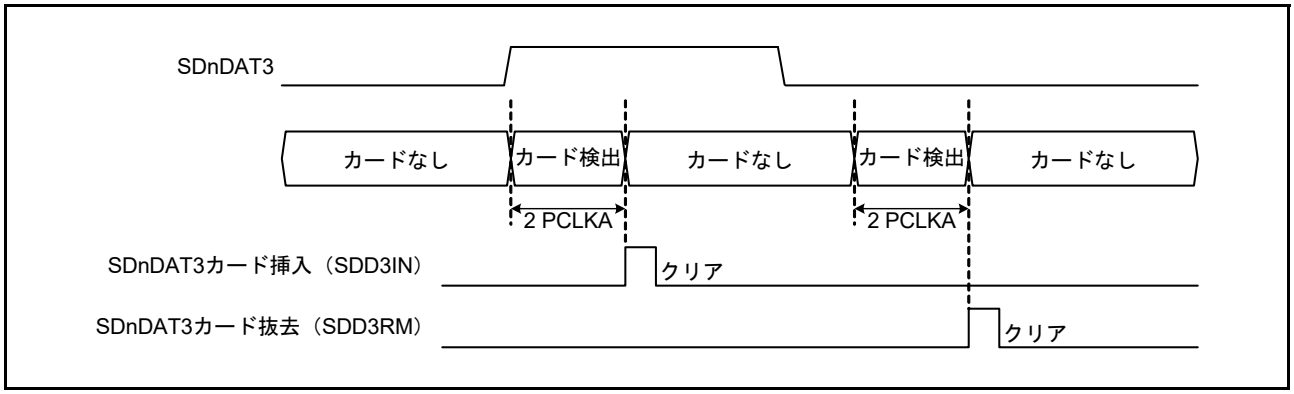


図 39.7　SDnDAT3 による SD カード検出

39.3.2.2　ライトプロテクト

SD/MMC ホストインタフェースには 2 種類のライトプロテクト機能があります。

(1)　SD0WP によるライトプロテクト

SD0WP はカードソケットに接続され、カード挿入によりプルアップまたはプルダウンします。プルアップまたはプルダウンの選択および抵抗値は SD ホスト機器の仕様により決定します。SD0WP ステートが SD_INFO1 の SDWPMON に反映されると、SD カードの挿入後にライトプロテクトステートが設定されます。

(2)　コマンドによるライトプロテクト

カードの内部的なライトプロテクトおよびカードのロック／アンロック動作はコマンドによって実現します。

39.3.3　割り込み要求と DMA 転送要求

39.3.3.1　割り込み

SDHI の割り込み要因を表 39.5 に示します。SDHI は、以下の場合に割り込みを要求します。

- SD_INFO1、SD_INFO2、および SDIO_INFO1 レジスタの各ステータスフラグが 1 のとき
- SD_INFO1_MASK、SD_INFO2_MASK、および SDIO_INFO1_MASK レジスタの関連ビットが 0 のとき

SD_INFO1、SD_INFO2、および SDIO_INFO1 レジスタの各ステータスフラグをクリアする場合は、クリアするステータスフラグに 0 を、それ以外のステータスフラグには 1 を書き込んでください。

表 39.5　　割り込み要因

割り込み要因	ステータスフラグレジスタ		割り込みマスクレジスタ		割り込み名称	
	レジスタシンボル	ビットシンボル	レジスタシンボル	ビットシンボル	Ch 0	Ch 1
カードアクセス割り込み（CACI）	SD_INFO1	ACEND	SD_INFO1_MASK	ACENDM	SDHI_MMC0_ACCS	SDHI_MMC1_ACCS
		RSPEND		RSPENDM		
	SD_INFO2	ILA	SD_INFO2_MASK	ILAM		
		BWE		BWEM		
		BRE		BREM		
		RSPTO		RSPTOM		
		ILR		ILRM		
		ILW		ILWM		
		DTO		DTOM		
		ENDE		ENDEM		
		CRCE		CRCEM		
		CMDE		CMDEM		
SDIOアクセス割り込み（SDACI）	SDIO_INFO1	EXWT	SDIO_INFO1_MASK	EXWTM	SDHI_MMC0_SDIO	SDHI_MMC1_SDIO
		EXPUB52		EXPUB52M		
		IOIRQ		IOIRQM		
カード検出割り込み（CDETI）	SD_INFO1	SDD3IN	SD_INFO1_MASK	SDD3INM	SDHI_MMC0_CARD	SDHI_MMC1_CARD
		SDD3RM		SDD3RMM		
		SDCDIN		SDCDINM		
		SDCDRM		SDCDRMM		

39.3.3.2　　DMA 転送要求（SDHI_MMCn_ODMSDBREQ、n = 0 ～ 1）

SD/MMC ホストインタフェースには 2 種類の DMA 転送要求があります。

(1)　SD_BUF のライト DMA 転送要求

- SD_DMAEN の DMAEN ビットが 1 のときに SD_INFO2 の BWE ビットを 1 にすると、SD_BUF のライト DMA 転送要求がアサートされる
- 1 ブロック（SD_SIZE に設定された転送データサイズに基づく）の最終データを転送すると、SD_BUF のライト DMA 転送要求がネゲートされる。SOFT_RST の SDRST ビットを 0 に変更するか、SD_STOP の STP ビットを 1 にすることによっても、SD_BUF のライト DMA 転送要求がネゲートされる。ただし、DMA 転送時に通信エラーまたはタイムアウトが発生した場合、SD_BUF のライト DMA 転送要求はネゲートされない
- DMA 転送による SD_BUF への書き込み要求に続いて 1 ブロックの最終データを転送した後、SD_INFO2 の BWE ビットがクリアされる
- DMA 転送数は n × 1 ブロックにする必要がある（n = 整数、1 ブロック = SD_SIZE に設定された転送データサイズ）
- SDIO_MODE の IOABT ビットを 1 にすると、SD_BUF のライト DMA 転送要求がネゲートされる
- DMAEN ビットを 0 にすることによっても、DMA 転送要求がネゲートされる。ただし、SD_CMD への書き込み前に DMAEN ビットを 1 にすると、DMA 転送要求は再びアサートされる
- STP/IOABT ビットを設定しても、また通信エラーまたはタイムアウトが発生しても、SD_INFO2 の BWE ビットはクリアされないため、次のコマンドを送信する前に 0 にクリアする。BWE ビットが設定されている場合、DMA 転送で SD_BUF への書き込みデータは送信されない

(2) SD_BUF のリード DMA 転送要求

- SD_DMAENレジスタのDMAENビットが1のときにSD_INFO2のBREビットを1にすると、SD_BUFのリードDMA転送要求がアサートされる
- 1ブロック（SD_SIZEに設定された転送データサイズに基づく）の最終データを転送すると、SD_BUFのリードDMA転送要求がネゲートされる。SOFT_RSTのSDRSTビットを0に変更するか、SD_STOPのSTPビットを1にすることによっても、SD_BUFのリードDMA転送要求がネゲートされる。ただし、DMA転送時に通信エラーまたはタイムアウトが発生した場合、SD_BUFのリードDMA転送要求はネゲートされない
- DMA転送によるSD_BUFからの読み出し要求に続いて1ブロックの最終データを転送した後、SD_INFO2のBREビットがクリアされる
- DMA転送数はn×1ブロックにする必要がある（n＝整数、1ブロック＝SD_SIZEに設定された転送データサイズ）
- SDIO_MODEのIOABTを1にすると、SD_BUFのリードDMA転送要求がネゲートされる
- DMAENビットを0にすることによっても、DMA転送要求がネゲートされる。ただし、SD_CMDへの書き込み前にDMAENビットを1にすると、DMA転送要求は再びアサートされる
- STP/IOABTビットを設定しても、また通信エラーまたはタイムアウトが発生しても、SD_INFO2のBREビットはクリアされないため、次のコマンドを送信する前に0にクリアする。BREビットが設定されている場合、DMA転送でSD_BUFからの読み出しデータは送信されない

39.3.4 通信エラーとタイムアウト

通信エラーまたはタイムアウトが発生すると、発生したエラーの種類により、SD_INFO2レジスタの関連するステータスフラグが1になります。また、発生したエラー要因により、SD_ERR_STS1レジスタまたはSD_ERR_STS2レジスタの関連するステータスフラグが1になります。

SD_ERR_STS1レジスタとSD_ERR_STS2レジスタの各ステータスフラグは、SD_CMDレジスタに書き込むか、SOFT_RST.SDRSTビットを0にすることで0になります。

表 39.6 通信エラー

通信エラー	割り込みフラグレジスタ		エラーステータスレジスタ		説明
	レジスタシンボル	ビットシンボル	レジスタシンボル	ビットシンボル	
エンドビットエラー	SD_INFO2	ENDE	SD_ERR_STS1	CRCLENE	CRCステータストークン長がエラーのとき
				RDLENE	リードデータ長がエラーのとき
				RSPLENE1	レスポンス長がエラーのとき（注1）
				RSPLENE0	レスポンス長がエラーのとき（注2）
CRCエラー		CRCE		CRCTKE	CRCステータストークンがエラーのとき
				RDCRCE	リードデータにCRCエラーがあるとき
				RSPCRCE1	レスポンスにCRCエラーがあるとき（注1）
				RSPCRCE0	レスポンスにCRCエラーがあるとき（注2）
コマンドエラー		CMDE		CMDE1	送信したコマンドと受信したレスポンスのcommand indexフィールド値が異なるとき（注1）
				CMDE0	送信したコマンドと受信したレスポンスのcommand indexフィールド値が異なるとき（注2）

注 1. SD_CMDでマルチブロック転送の自動送信が有効な場合はCMD12、SD_STOPのSTPビットが1の場合はCMD12、SDIO_MODEのC52PUBビットまたはIOABTビットが1の場合はCMD52

注 2. SD_CMDでマルチブロック転送の自動送信が有効な場合はCMD12以外のCMD、SD_STOPのSTPビットが1の場合はCMD12、SDIO_MODEのC52PUBビットまたはIOABTビットが1の場合はCMD52

表 39.7　タイムアウト

タイムアウト	割り込みフラグレジスタ		エラーステータスレジスタ		説明
	レジスタシンボル	ビットシンボル	レジスタシンボル	ビットシンボル	
レスポンスタイムアウト	SD_INFO2	RSPTO	SD_ERR_STS2	RSPTO1	SD/MMCクロックで640サイクル以上経過してもレスポンスを受信しないとき（注1）
				RSPTO0	SD/MMCクロックで640サイクル以上経過してもレスポンスを受信しないとき（注2）
データタイムアウト（レスポンスタイムアウト除く）		DTO		CRCBSYTO	CRCステータストークン受信後、指定期間（注3）以上ビジー状態のとき
				CRCTO	ライトデータを送信した後、指定期間（注3）以上経過してもCRCステータストークンを受信しないとき
				RDTO	リードコマンドの後、指定期間（注3）以上経過してもリードデータを受信しないとき
					リードデータ受信の後、指定期間（注3）以上経過しても次ブロックリードデータを受信しないとき
					SDHIのRead Wait解除の後、指定期間（注3）以上経過しても次ブロックリードデータを受信しないとき
				BSYTO1	コマンドシーケンス中のCMD12送信の後、指定期間（注3）以上ビジー状態のとき
				BSYTO0	R1bレスポンスの後、指定期間（注3）以上ビジー状態のとき（コマンドシーケンス中のCMD12以外のコマンド）

注 1.　SD_CMD でマルチブロック転送の自動送信が有効な場合は CMD12、SD_STOP の STP ビットが 1 の場合は CMD12、SDIO_MODE の C52PUB ビットまたは IOABT ビットが 1 の場合は CMD52

注 2.　SD_CMD でマルチブロック転送の自動送信が有効な場合は CMD12 以外の CMD、SD_STOP の STP ビットが 1 の場合は CMD12、SDIO_MODE の C52PUB ビットまたは IOABT ビットが 1 の場合は CMD52

注 3.　SD_OPTION.TOP[3:0] ビットで指定します。

39.3.5　データ転送を行わないコマンド（SD/MMC）

図 39.8 および図 39.9 に、フロー例を示しています。

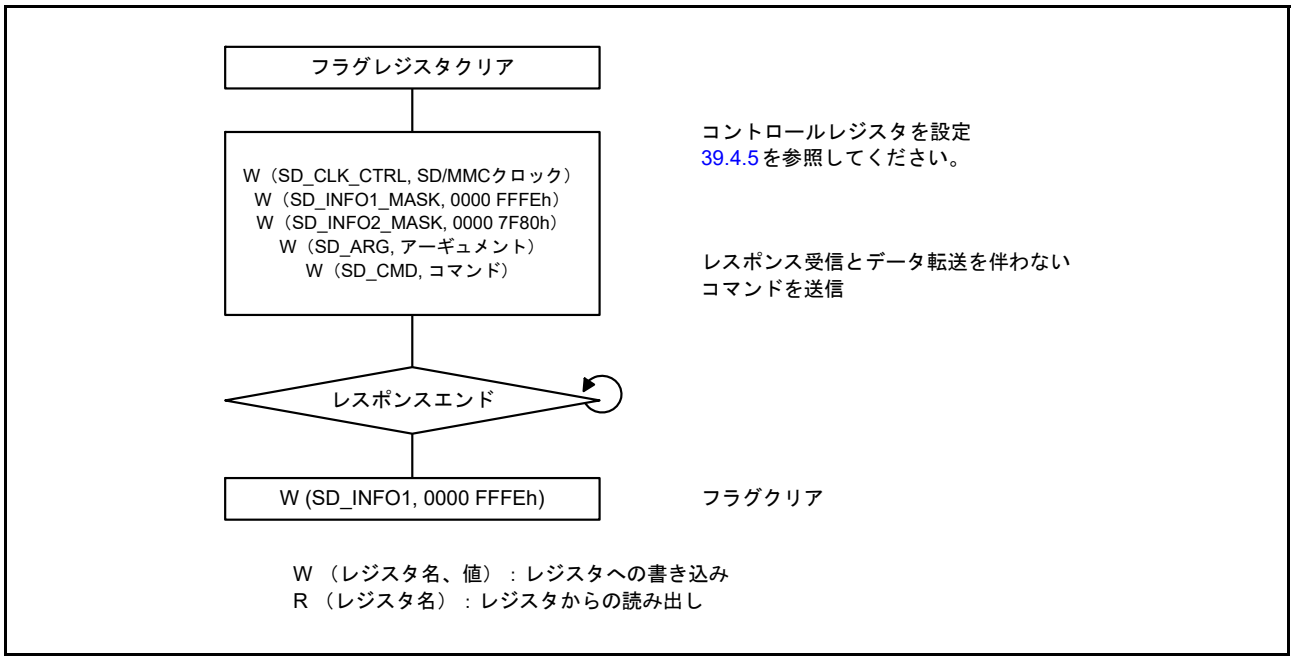


図 39.8　レスポンスまたはデータがないコマンドのフロー例

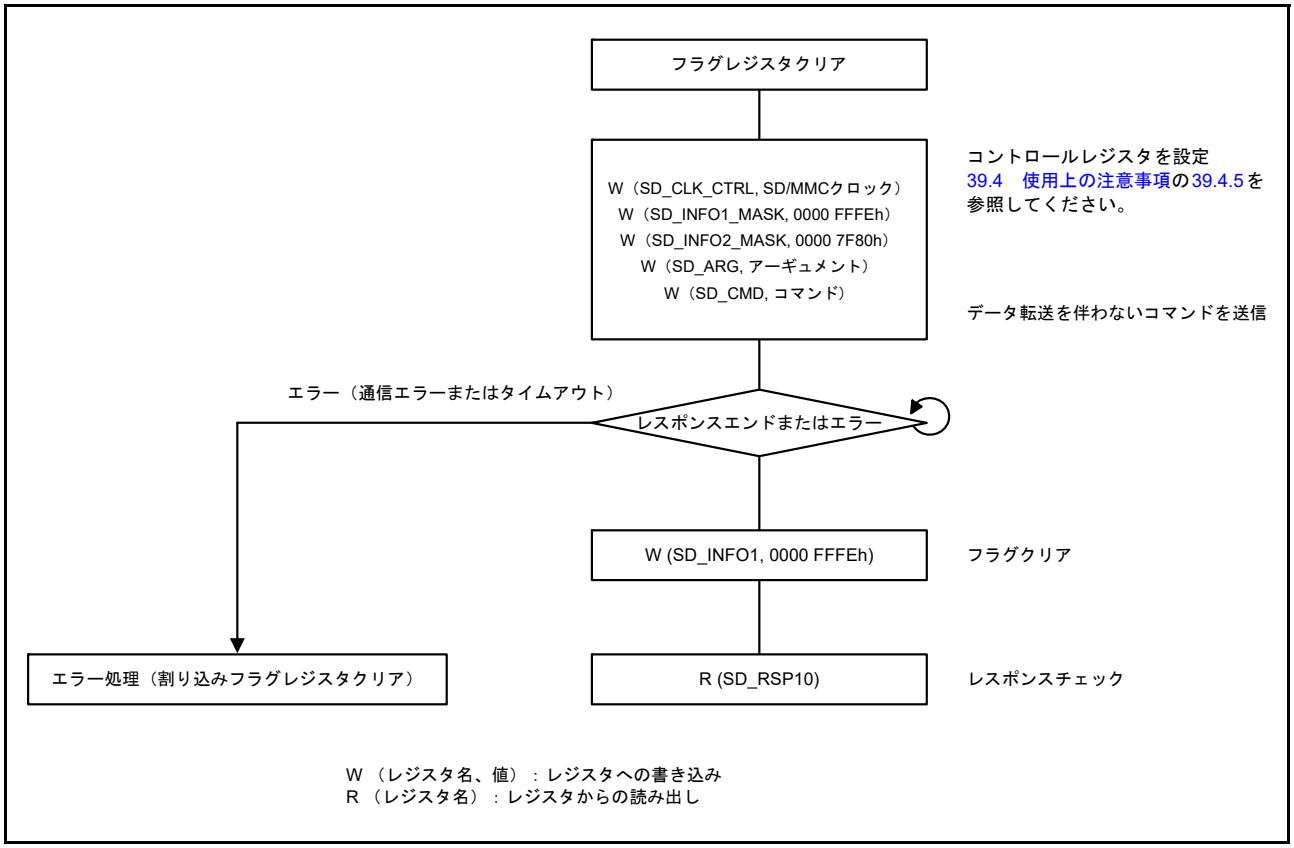


図 39.9　データがないコマンドのフロー例

39.3.5.1 データ転送を行わないコマンドの動作

レジスタ読み出し／書き込みの説明には以下の記号を使用します。

W（レジスタ名称、値）：レジスタに書き込む

R（レジスタ名称）：レジスタから読み出す

動作について以下に説明します。

(1) レスポンスとデータがないコマンド

a. フラグレジスタクリア
最初にフラグレジスタ（SD_INFO1およびSD_INFO2）のビットをクリアする

b. コントロールレジスタ設定
SD/MMCクロックおよび割り込みマスク（SD_CLK_CTRL、SD_INFO1_MASK、および SD_INFO2_MASK）を設定する

c. コマンド送信
SD_ARGのCMDアーギュメントを設定してからSD_CMDに書き込むと、コマンドが送信され動作が開始する

d. フラグクリア
コマンドの送信が完了すると、割り込みを発生させるためにSD_INFO1のRSPEND（レスポンスエンド）が1になる。RSPENDを0にクリアする

(2) データがないコマンド

a. フラグレジスタクリア
最初にフラグレジスタ（SD_INFO1およびSD_INFO2）のビットをクリアする

b. コントロールレジスタ設定
SD/MMCクロックおよび割り込みマスク（SD_CLK_CTRL、SD_INFO1_MASK、および SD_INFO2_MASK）を設定する

c. コマンド送信
SD_ARGレジスタのCMDアーギュメントを設定してからSD_CMDレジスタに書き込むと、コマンドが送信され動作が開始する

d. フラグクリア
レスポンスが受信されると、割り込みを発生させるためにSD_INFO1のRSPEND（レスポンスエンド）が1になる。RSPENDを0にクリアする

e. SD_RSP10からレスポンスを読み出す。なお、通信エラーまたはタイムアウトが発生した場合、エラー処理（割り込みフラグレジスタのクリア）を行う

39.3.6　シングルブロックリード（SD/MMC）

図 39.10 にシングルブロックリード動作のフロー例を示します。

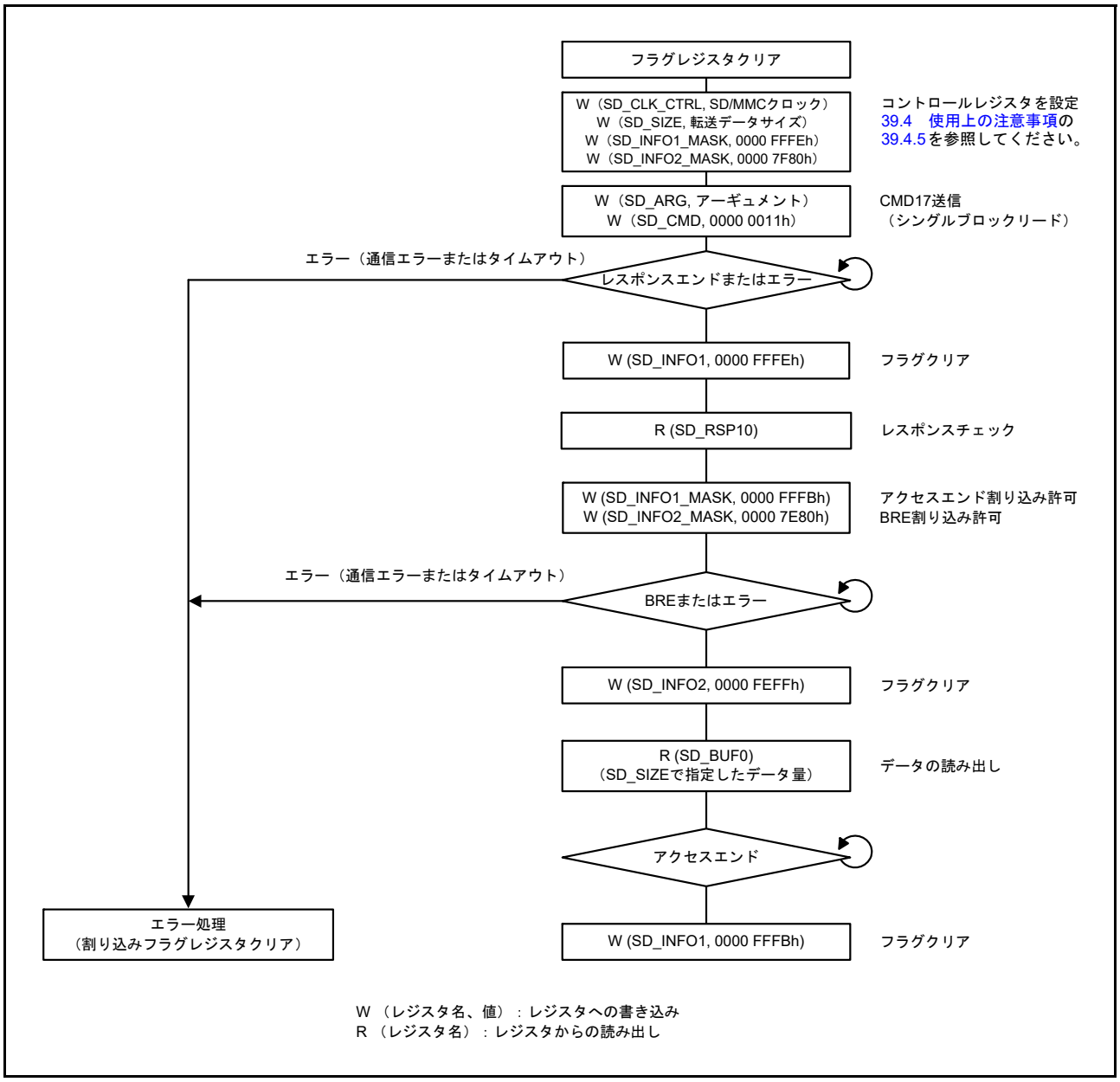


図 39.10　シングルブロックリード動作のフロー例

39.3.6.1 シングルブロックリード動作

シングルブロックリード動作について以下に説明します。

a. フラグレジスタクリア
最初にフラグレジスタ（SD_INFO1およびSD_INFO2）のビットをクリアする

b. コントロールレジスタ設定
SD/MMCクロック、データ転送サイズ、割り込みマスク（SD_CLK_CTRL、SD_SIZE、SD_INFO1_MASK、およびSD_INFO2_MASK）を設定する

c. コマンド送信（CMD17）
SD_ARGのCMD17アーギュメントを設定し、SD_CMDに0000_0011hを書き込む。CMD17が送信され、シングルブロックリード動作が開始する

d. レスポンスチェック
レスポンスが受信されると、割り込みを発生させるためにSD_INFO1のRSPEND（レスポンスエンド）が1になる。RSPENDを0にクリアし、SD_RSP10からレスポンスを読み出す。レスポンスの復号結果がエラーの場合、SD_STOPのSTPビットまたはSDIO_MODEのIOABTビットを1にすることでコマンドシーケンスを停止できる。また、これによりCMD12とCMD52が送信されなくなる。
SD_INFO1のACENDビット（アクセスエンド）が設定されている場合、コマンドシーケンスを停止すると割り込みが発生する

e. SDカード／MMCからのデータ受信とデータ読み出し
SD_INFO1_MASKに0000_FFFBhを書き込み、アクセスエンド割り込みを有効にする。さらに、SD_INFO2_MASKに0000_7E80hを書き込み、BRE割り込みを有効にする。SDカード／MMCからのデータ受信が完了すると、割り込みを発生させるためにSD_INFO2のBREビットが1になる。BREビットを0にクリアし、SD_SIZEに指定されたデータ量をSD_BUF0から読み出す。SD_BUF0の読み出し中にデータが受信されていると、通信エラーまたはタイムアウトが発生する場合がある

f. 動作完了
SD_BUF0からのデータ読み出しが完了すると、割り込みを発生させるためにSD_INFO1のACEND（アクセスエンド）が1になる。ACENDを0にクリアし、シングルブロックリード動作を終了する。なお、通信エラーまたはタイムアウトが発生した場合、エラー処理（割り込みフラグレジスタのクリア）を行う

39.3.7　シングルブロックライト（SD/MMC）

図 39.11 にシングルブロックライト動作のフロー例を示します。

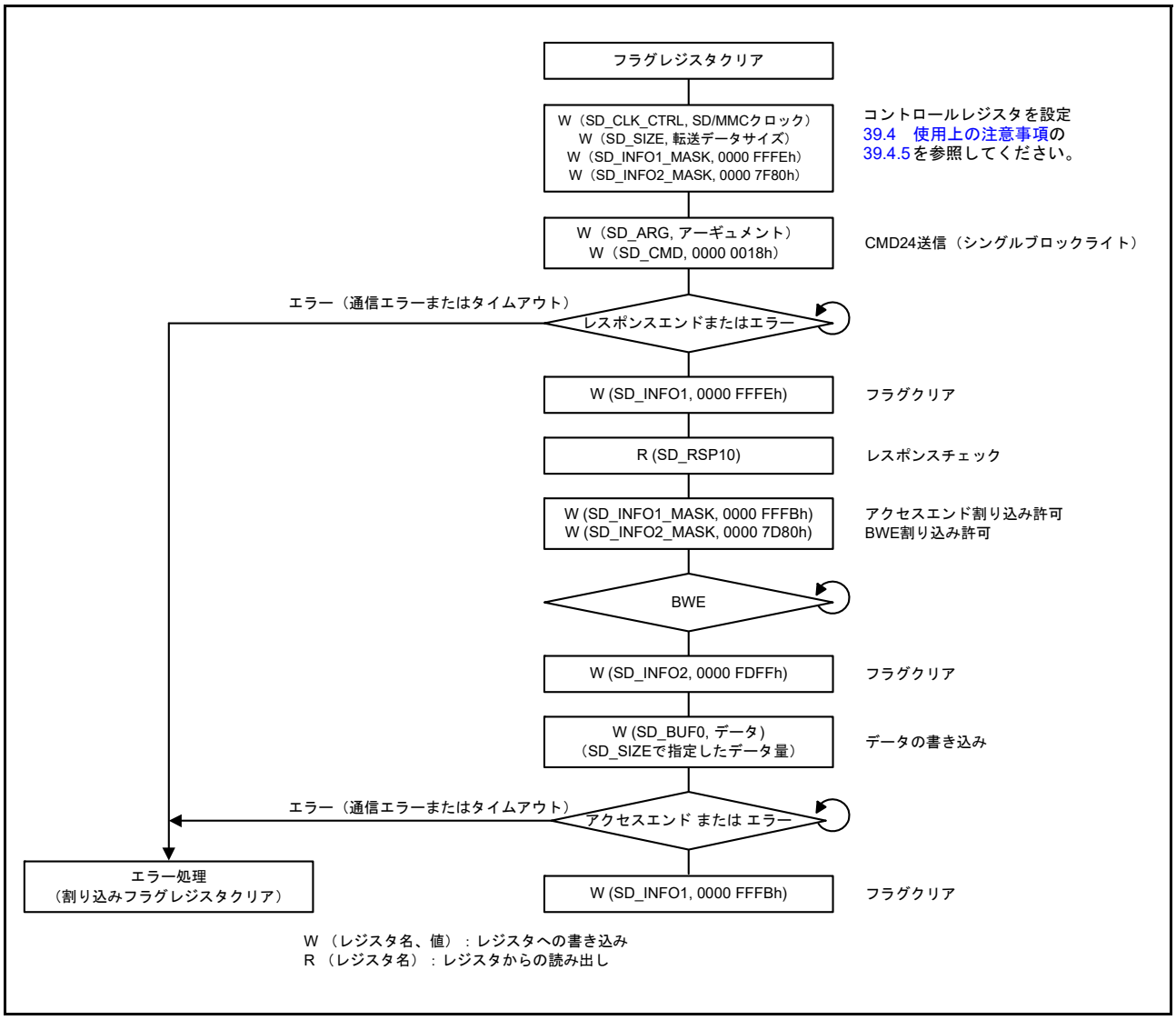


図 39.11　シングルブロックライト動作の例

39.3.7.1 シングルブロックライト動作

シングルブロックライト動作について以下に説明します。

a. フラグレジスタクリア
最初にフラグレジスタ（SD_INFO1およびSD_INFO2）のビットをクリアする

b. コントロールレジスタ設定
SD/MMCクロック、データ転送サイズ、割り込みマスク（SD_CLK_CTRL、SD_SIZE、SD_INFO1_MASK、およびSD_INFO2_MASK）を設定する

c. コマンド送信（CMD24）
SD_ARGのCMD24アーギュメントを設定し、SD_CMDに0000_0018hを書き込む。CMD24が送信され、シングルブロックライト動作が開始する

d. レスポンスチェック
レスポンスが受信されると、割り込みを発生させるためにSD_INFO1のRSPEND（レスポンスエンド）が1になる。RSPENDを0にクリアし、SD_RSP10からレスポンスを読み出す。レスポンスの復号結果がエラーの場合、SD_STOPのSTPビットまたはSDIO_MODEのIOABTビットを1にすることでコマンドシーケンスを停止できる。また、これによりCMD12とCMD52が送信されなくなる。
SD_INFOのACENDフラグ（アクセスエンド）が設定されている場合、コマンドシーケンスを停止すると割り込みが発生する

e. データ書き込みとSDカード／MMCへのデータ送信
SD_INFO1_MASKに0000_FFFBhを書き込み、アクセスエンド割り込みを有効にする。さらに、SD_INFO2_MASKに0000_7D80hを書き込み、BWE割り込みを有効にする。SD_BUF0でデータの書き込みが可能になると、割り込みを発生させるためにSD_INFO2のBWEビットが1になる。BWEビットを0にクリアし、SD_SIZEに指定されたデータ量をSD_BUF0に書き込む。SD_BUF0へのデータ書き込みが完了すると、SDカードにデータが送信される。その後、SDカード／MMCからCRCステータスとビジー状態が受信される。
なお、SD_BUF0レジスタに書き込んだ後、送信中のデータによる通信エラーまたはタイムアウトが発生する場合がある

f. 動作完了
CRCステータスとビジー状態がSDカード／MMCから受信されると、割り込みを発生させるためにSD_INFO1のACEND（アクセスエンド）が1になる。ACENDフラグを0にクリアし、シングルブロックライト動作を終了する。
なお、通信エラーまたはタイムアウトが発生した場合、エラー処理（割り込みフラグレジスタのクリア）を行う

39.3.8　マルチブロックリード（SD/MMC）

図 39.12 にマルチブロックリード動作のフロー例を示します。

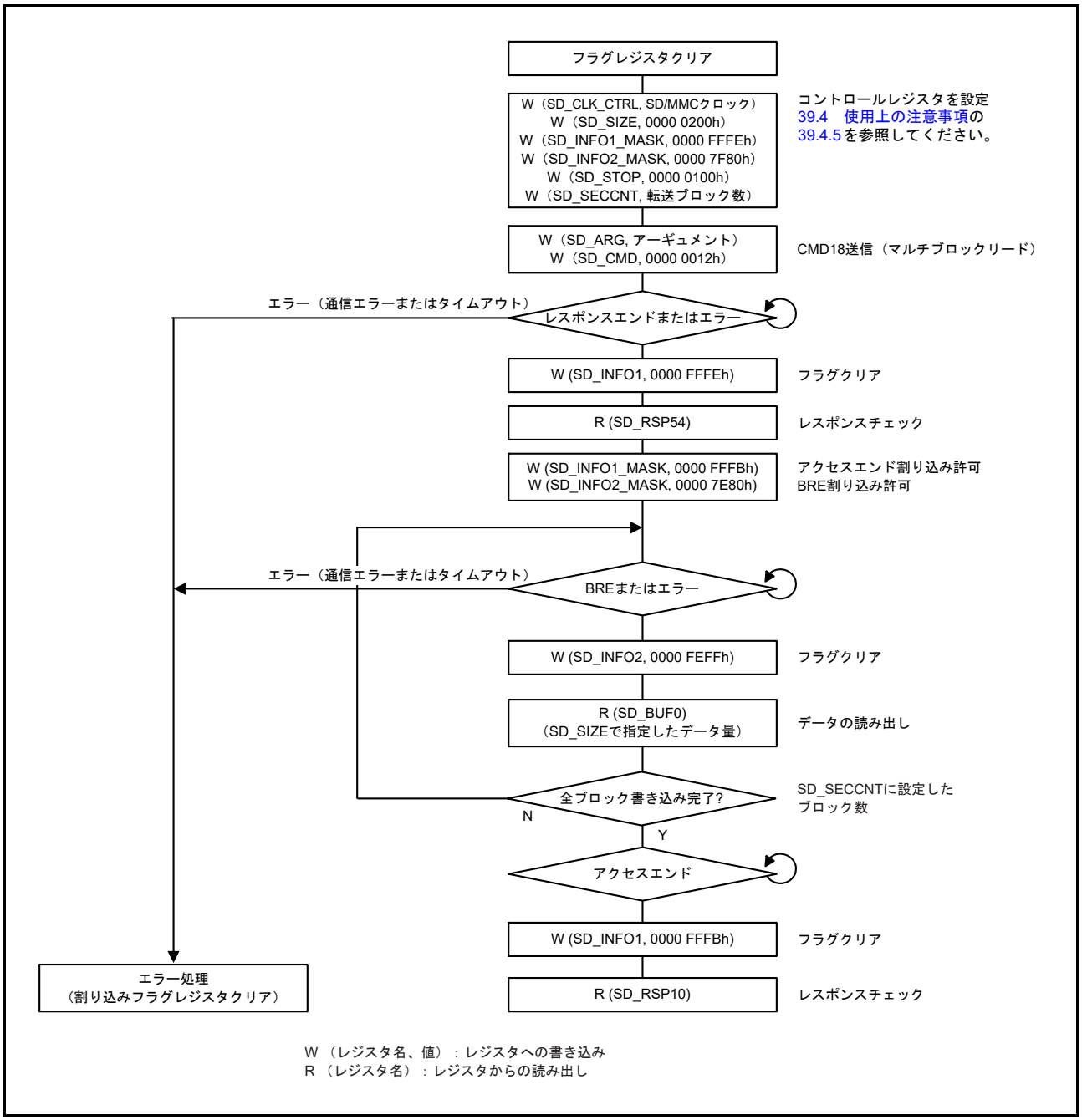


図 39.12　マルチブロックリード動作の例

39.3.8.1 マルチブロックリード動作

マルチブロックリード動作について以下に説明します。

a. フラグレジスタクリア
最初にフラグレジスタ（SD_INFO1およびSD_INFO2）のビットをクリアする

b. コントロールレジスタ設定
SD/MMCクロック、データ転送サイズ、割り込みマスク（SD_CLK_CTRL、SD_SIZE、SD_INFO1_MASK、およびSD_INFO2_MASK）を設定する。
SD_STOPのSECを1にして、SD_SECCNTに転送ブロック数を設定する

c. コマンド送信（CMD18）
SD_ARGのCMD18アーギュメントを設定し、SD_CMDに0000_0012hを書き込む。CMD18が送信され、マルチブロックリード動作が開始する

d. レスポンスチェック
レスポンスが受信されると、割り込みを発生させるためにSD_INFO1のRSPEND（レスポンスエンド）が1になる。RSPENDを0にクリアし、SD_RSP54からレスポンスを読み出す。レスポンスの復号結果がエラーの場合、SD_STOPのSTPビットを1にすることでコマンドシーケンスを停止できる。また、STPビットを1にすると、CMD12が送信され、レスポンスが受信される。アクセスエンド割り込みが許可されているためにコマンドシーケンスが停止した場合、レスポンスの受信完了時にSD_INFO1のACENDフラグ（アクセスエンド）が1になり割り込みが発生する。ACENDフラグを0にクリアし、レスポンスを読み出す

e. SDカード／MMCからのデータ受信とデータ読み出し
SD_INFO1_MASKに0000_FFFBhを書き込み、アクセスエンド割り込みを有効にする。さらに、SD_INFO2_MASKに0000_7E80hを書き込み、BRE割り込みを有効にする。SDカード／MMCからの1ブロックデータ受信が完了すると、割り込みを発生させるためにSD_INFO2のBREビットが1になる。BREビットを0にクリアし、SD_SIZEに指定されたデータ量をSD_BUF0から読み出す。これにより、SD_SECCNTに設定されたブロック数の転送が繰り返される。ただし、SD_BUF0の読み出し中にデータが受信されていると、通信エラーまたはタイムアウトが発生する場合がある。
SD_SECCNTに設定されているブロック数でマルチブロック転送を停止するためにCMD12が自動送信され、レスポンスが受信される。このとき、CMD12アーギュメントが0000_0000hに自動設定される

f. 動作完了
すべてのブロックデータ読み出しとCMD12レスポンス受信が完了すると、割り込みを発生させるためにSD_INFO1のACEND（アクセスエンド）が1になる。ACENDを0にクリアし、レスポンスを読み出す。これでマルチブロックリード動作が終了する。なお、通信エラーまたはタイムアウトが発生した場合、エラー処理（割り込みフラグレジスタのクリア）を行う

39.3.9　マルチブロックライト（内蔵タイマによる SD/MMC）

図 39.13 に内蔵タイマによるマルチブロックライトのフロー例を示します。

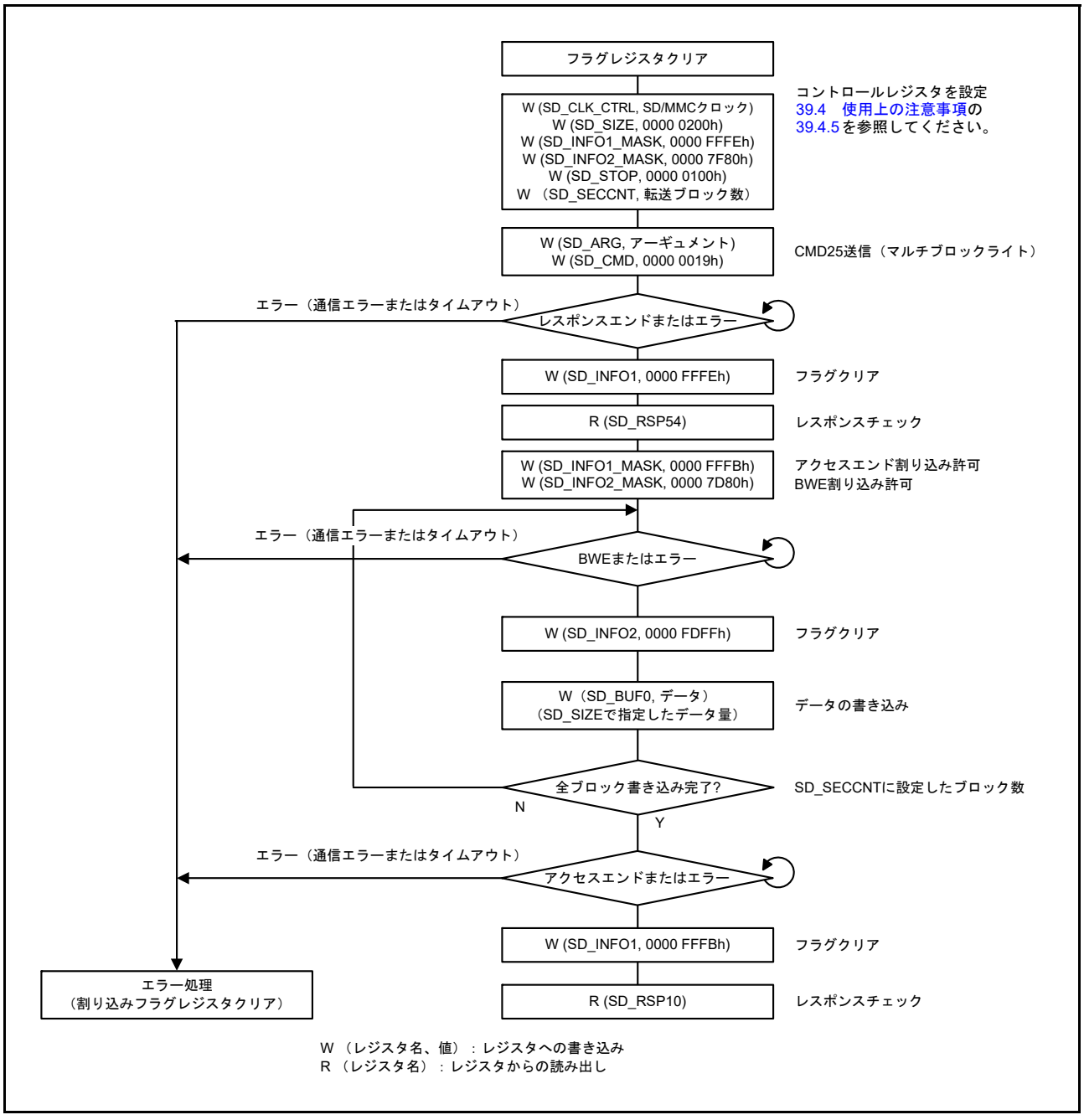


図 39.13　内蔵タイマによるマルチブロックライト動作の例

39.3.9.1 内蔵タイマによるマルチブロックライト動作

マルチブロックライト動作について以下に説明します。

a. フラグレジスタクリア
最初にフラグレジスタ（SD_INFO1およびSD_INFO2）のビットをクリアする

b. コントロールレジスタ設定
SD/MMCクロック、データ転送サイズ、割り込みマスク（SD_CLK_CTRL、SD_SIZE、SD_INFO1_MASK、およびSD_INFO2_MASK）を設定する。
SD_STOPのSECビットを1にして、SD_SECCNTに転送ブロック数を設定する

c. コマンド送信（CMD25）
SD_ARGのCMD25アーギュメントを設定し、SD_CMDに0000_0019hを書き込む。CMD25が送信され、マルチブロックライト動作が開始する

d. レスポンスチェック
レスポンスが受信されると、割り込みを発生させるためにSD_INFO1のRSPEND（レスポンスエンド）が1になる。RSPENDフラグを0にクリアし、SD_RSP54からレスポンスを読み出す。レスポンスの復号結果がエラーの場合、SD_STOPのSTPビットを1にすることでコマンドシーケンスを停止できる。また、STPビットを1にすると、CMD12が送信され、レスポンスが受信される。アクセスエンド割り込みが許可されているためにコマンドシーケンスが停止した場合、レスポンスの受信完了時にSD_INFO1のACENDフラグ（アクセスエンド）が1になり割り込みが発生する。ACENDフラグを0にクリアし、レスポンスを読み出す

e. データ書き込みとSDカード／MMCへのデータ送信
SD_INFO1_MASKに0000_FFFBhを書き込み、アクセスエンド割り込みを有効にする。さらに、SD_INFO2_MASKに0000_7D80hを書き込み、BWE割り込みを有効にする。SD_BUF0でデータの書き込みが可能になると、割り込みを発生させるためにSD_INFO2レジスタのBWEビットが1になる。BWEビットを0にクリアし、SD_SIZEに指定されたデータ量をSD_BUF0に書き込む。SD_BUF0へのデータ書き込みが完了すると、SDカード／MMCにデータが送信される。SDカード／MMCからCRCステータスとビジー状態が受信される。これにより、SD_SECCNTに設定されたブロック数の転送が繰り返される。ただし、SD_BUF0への書き込み中にデータが受信されていると、通信エラーまたはタイムアウトが発生する場合がある。SD_SECCNTに設定されているブロック数でマルチブロック転送を停止するためにCMD12が自動送信され、レスポンスが受信される。このとき、CMD12アーギュメントが0000_0000hに自動設定される

f. 動作完了
すべてのブロックデータ送信とCRCステータス受信が完了すると、割り込みを発生させるためにSD_INFO1のACENDフラグ（アクセスエンド）が1になる。ACENDフラグを0にクリアし、レスポンスを読み出す。これでマルチブロックライト動作が終了する。なお、通信エラーまたはタイムアウトが発生した場合、エラー処理（割り込みフラグレジスタのクリア）を行う

39.3.10　マルチブロックライト（外付けタイマによる MMC）

図 39.14 に外付けタイマによるマルチブロックライトのフロー例を示します。

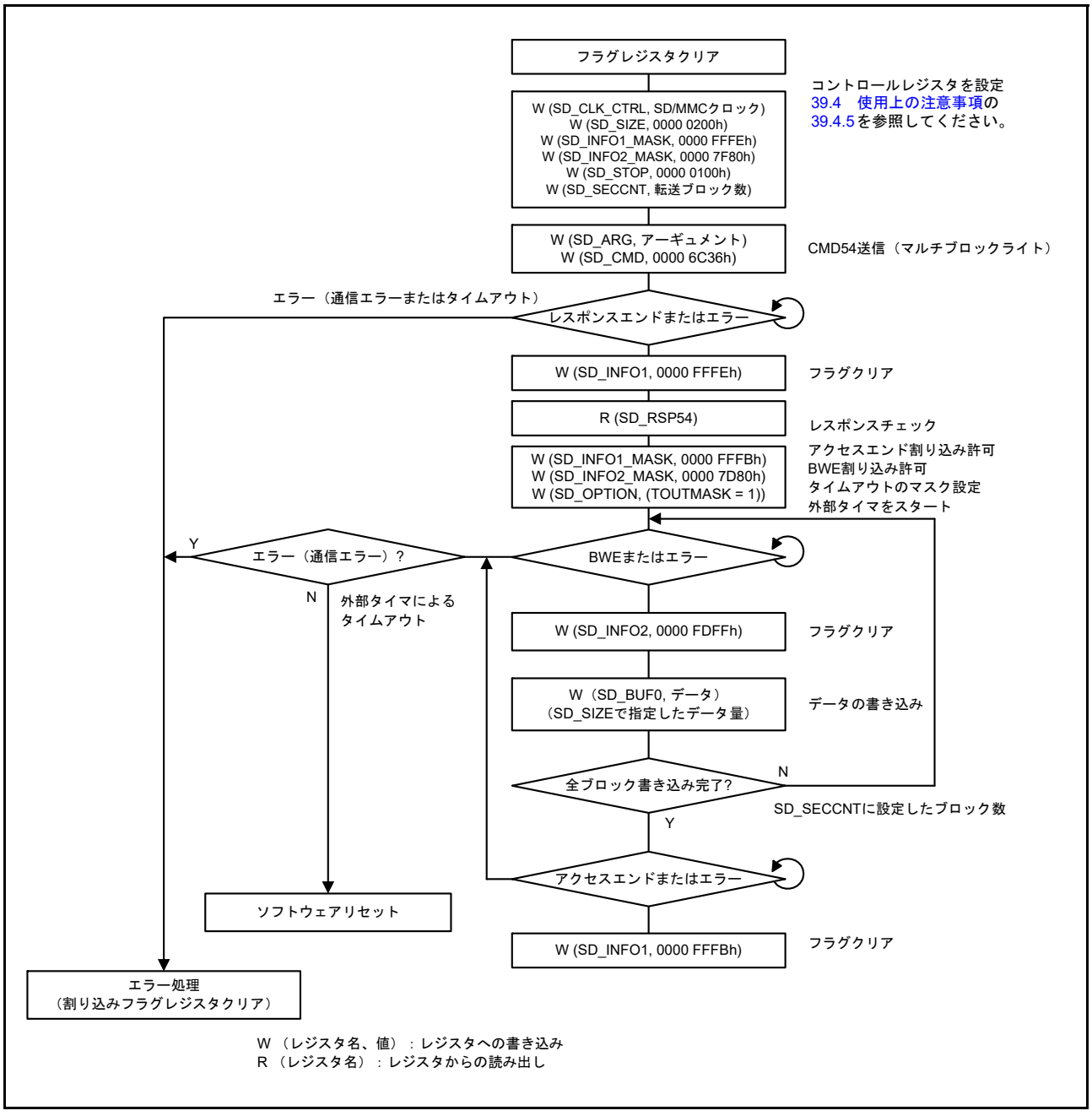


図 39.14　外付けタイマによるマルチブロックライト動作の例

39.3.10.1 外付けタイマによるマルチブロックライト動作

マルチブロックライト動作について以下に説明します。

a. フラグレジスタクリア
最初にフラグレジスタ（SD_INFO1およびSD_INFO2）のビットをクリアする

b. コントロールレジスタ設定
MMCクロック、データ転送サイズ、割り込みマスク（SD_CLK_CTRL、SD_SIZE、SD_INFO1_MASK、およびSD_INFO2_MASK）を設定する。
SD_STOPのSECビットを1にして、SD_SECCNTに転送ブロック数を設定する

c. コマンド送信（CMD54）
SD_ARGのCMD54アーギュメントを設定し、SD_CMDに0000_6C36hを書き込む。CMD54が送信され、マルチブロックライト動作が開始する

d. レスポンスチェック
レスポンスが受信されると、割り込みを発生させるためにSD_INFO1のRSPENDフラグ（レスポンスエンド）が1になる。RSPENDフラグを0にクリアし、SD_RSP54からレスポンスを読み出す。レスポンスの復号結果がエラーの場合、SD_STOPのSTPビットを1にすることでコマンドシーケンスを停止できる。また、STPビットを1にすると、CMD12が送信され、レスポンスが受信される。アクセスエンド割り込みが許可されているためにコマンドシーケンスが停止した場合、レスポンスの受信完了時にSD_INFO1のACENDフラグ（アクセスエンド）が1になり割り込みが発生する。ACENDフラグを0にクリアし、レスポンスを読み出す

e. データ書き込みとMMCへのデータ送信
SD_INFO1_MASKに0000_FFFBhを書き込んでアクセスエンド割り込みを許可し、SD_INFO2_MASKに0000_7D80hを書き込んでBWE割り込みを許可し、SD_OPTIONのTOUTMASKを1にしてタイムアウトを無効にする。さらに、外付けタイマを開始する。SD_BUF0でデータの書き込みが可能になると、割り込みを発生させるためにSD_INFO2レジスタのBWEビットが1になる。BWEビットを0にクリアし、SD_SIZEに指定されたデータ量をSD_BUF0に書き込む。SD_BUF0へのデータ書き込みが完了すると、MMCにデータが送信される。MMCからCRCステータスとビジー状態が受信される。これにより、SD_SECCNTに設定されたブロック数の転送が繰り返される。ただし、SD_BUF0への書き込み中にデータが受信されていると、通信エラーまたはタイムアウトが発生する場合がある

f. 動作完了
すべてのブロックデータ送信とCRCステータス受信が完了すると、割り込みを発生させるためにSD_INFO1のACENDフラグ（アクセスエンド）が1になる。ACENDフラグを0にクリアし、レスポンスを読み出す。これでマルチブロックライト動作が終了する。なお、レスポンス受信時に通信エラーまたはタイムアウトが発生した場合、エラー処理（割り込みフラグレジスタのクリア）を行う。データ送信時に外付けタイマによるタイムアウトが発生した場合、ソフトウェアリセットを実行する

39.3.11　IO_RW_DIRECT コマンド（SD：CMD52）

図 39.15 に IO_RW_DIRECT コマンド（CMD52）動作のフロー例を示します。

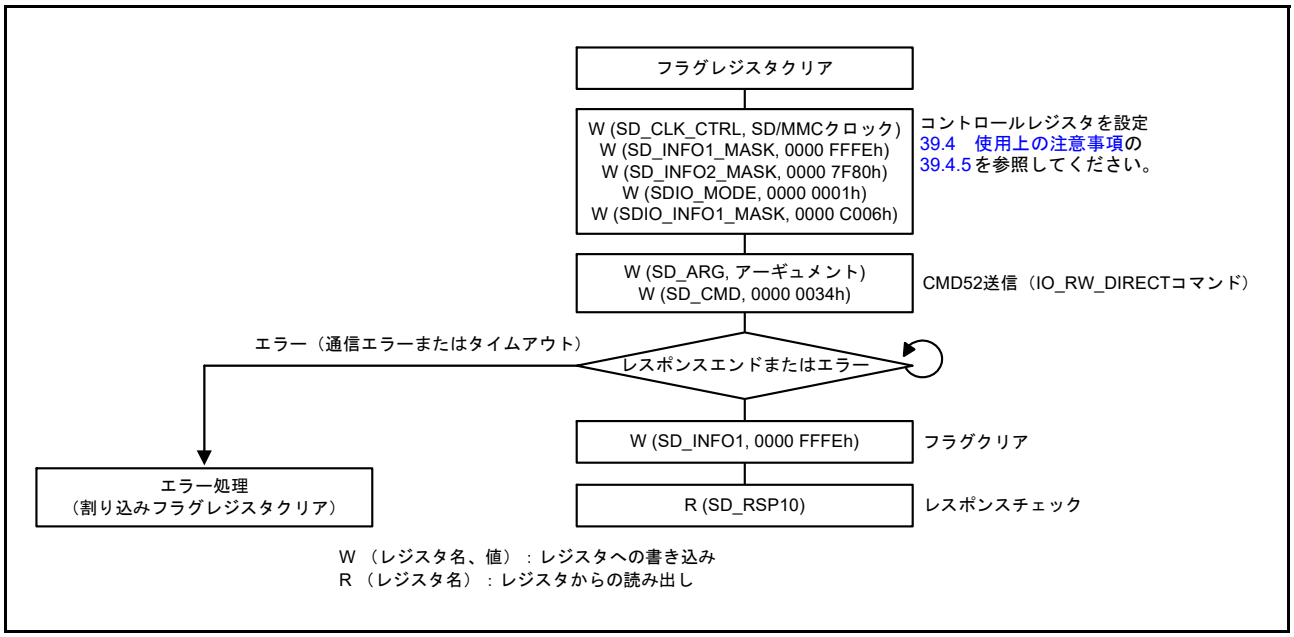


図 39.15　IO_RW_DIRECT コマンド（CMD52）動作の例

39.3.12　IO_RW_EXTENDED コマンド（SD：CMD53 ／マルチブロックリード）

図 39.16 に CMD53 マルチブロックリード動作のフロー例を示します。

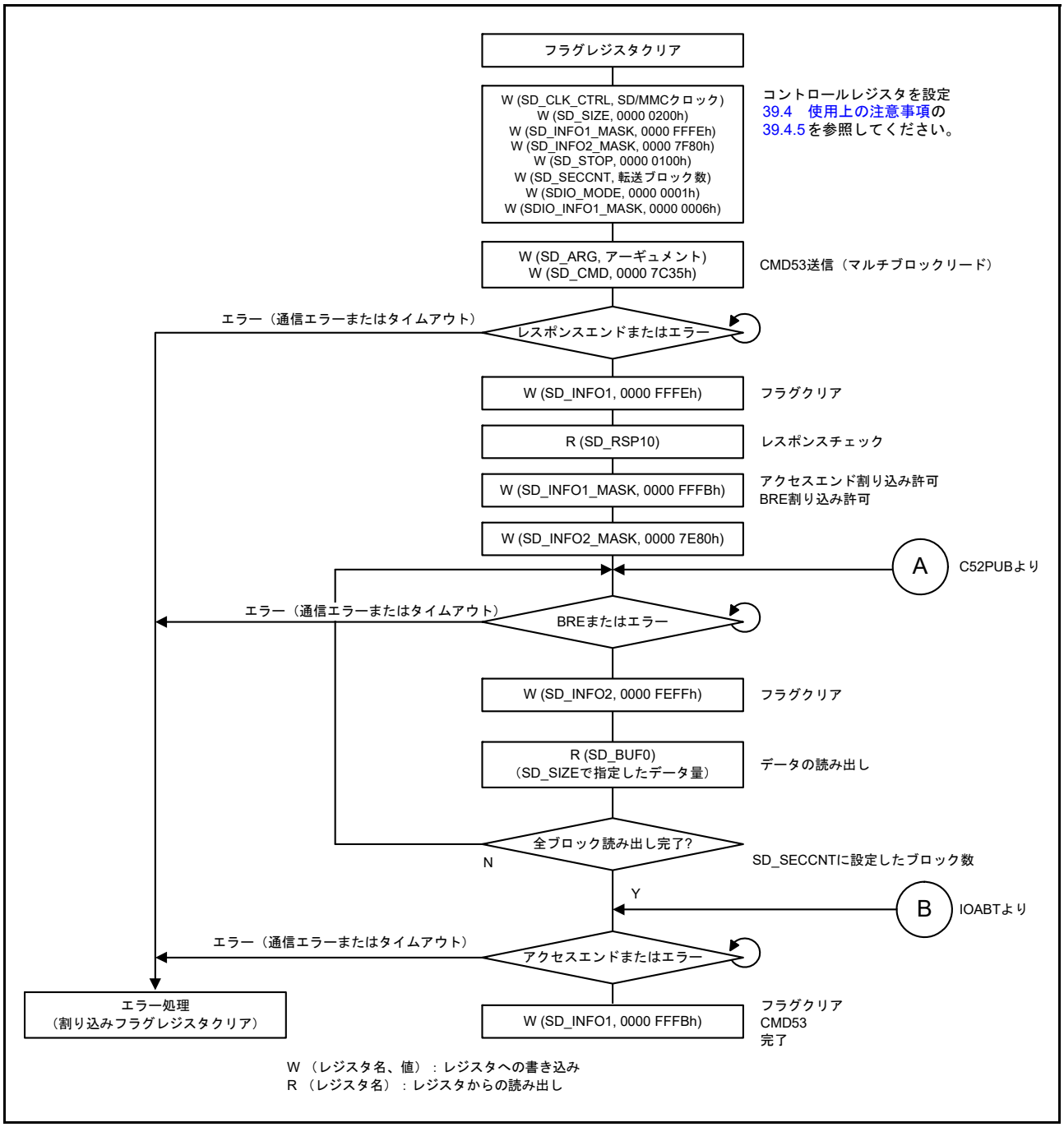


図 39.16　　マルチブロックリード動作の IO_RW_EXTENDED コマンド（CMD53）の例

CMD53 マルチブロックリード時に CMD52（SDIO abort）が送信される場合のフロー例を図 39.17 に示します。

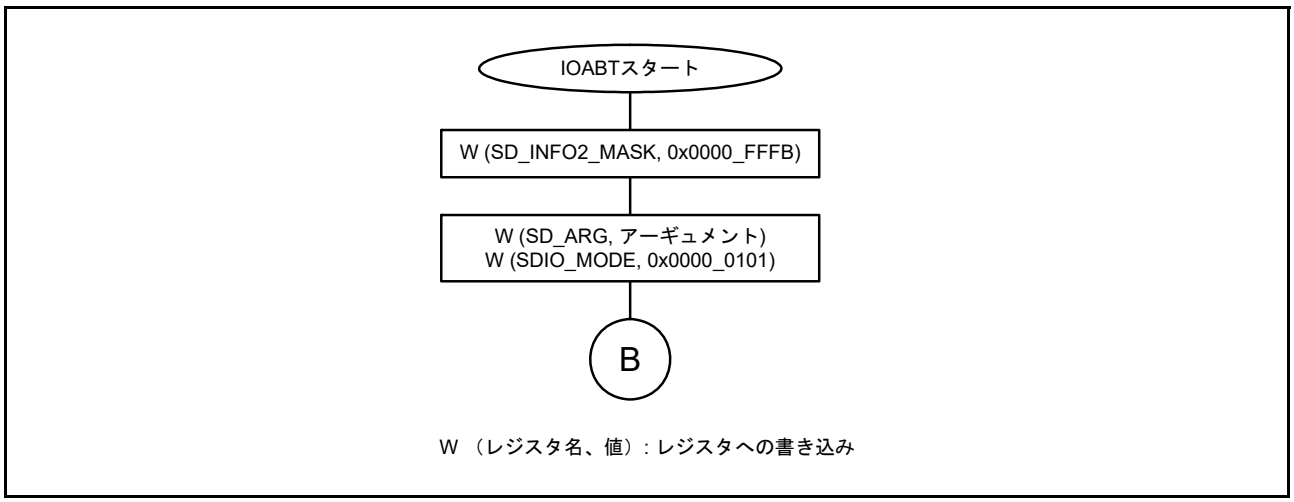


図 39.17　　CMD53 マルチブロックリード時に CMD52（SDIO abort）が送信される場合のフロー

SD ホストインタフェースが Read Wait 状態で、CMD53 マルチブロックリード時に CMD52（SDIO none abort）が送信される場合のフロー例を図 39.18 に示します。

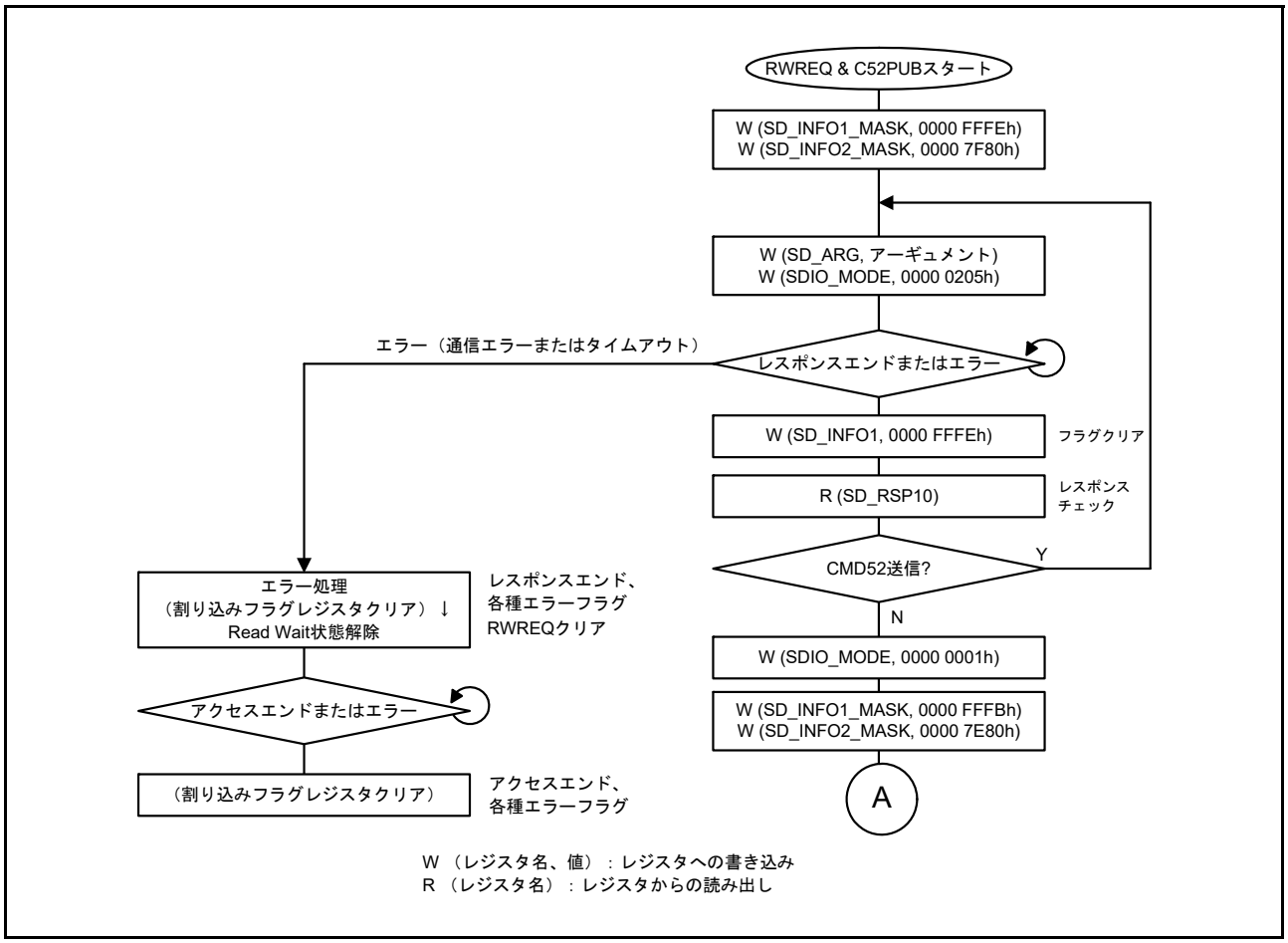


図 39.18　　SD ホストインタフェースが Read Wait 状態で、CMD53 マルチブロックリード時に CMD52（SDIO none abort）が送信される場合のフロー

39.3.13　IO_RW_EXTENDED コマンド（SD：CMD53 ／マルチブロックライト）

図 39.19 に CMD53 マルチブロックライトのフロー例を示します。

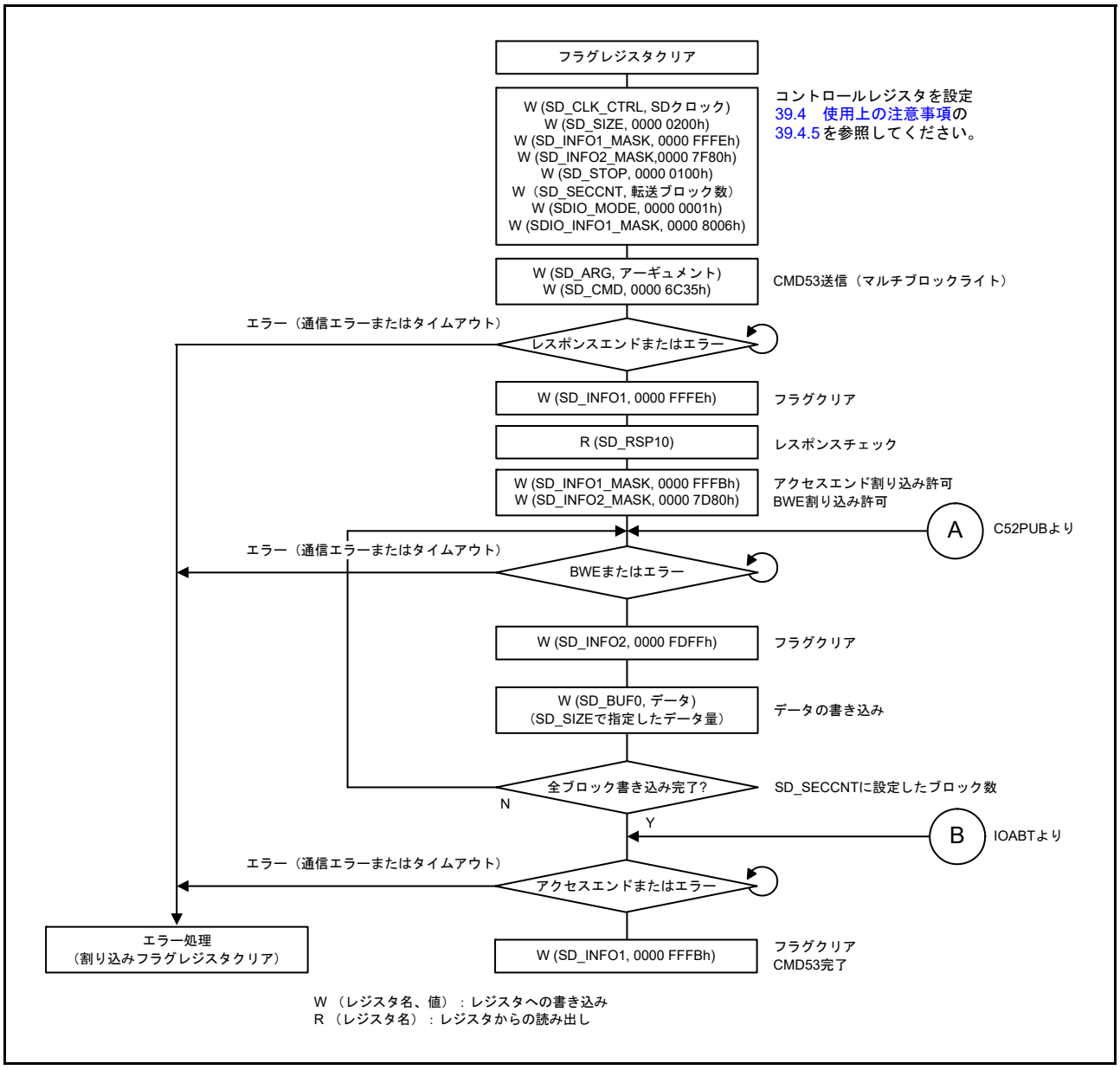


図 39.19　CMD53 マルチブロックライト動作時の IO_RW_EXTENDED コマンドの例

CMD53 マルチブロックライト時に CMD52（SDIO abort）が送信される場合のフロー例を図 39.20 に示します。

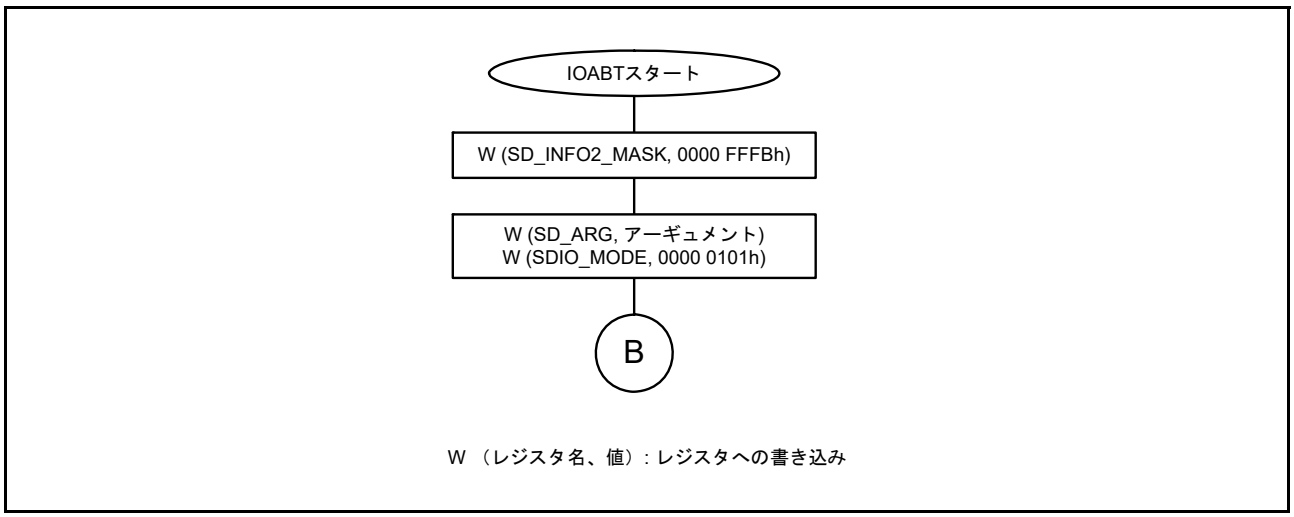


図 39.20　　CMD53 マルチブロックライト時に CMD52（SDIO Abort）が送信される場合のフロー

CMD53 マルチブロックライト時に CMD52（SDIO none abort）が送信される場合のフロー例を図 39.21 に示します。

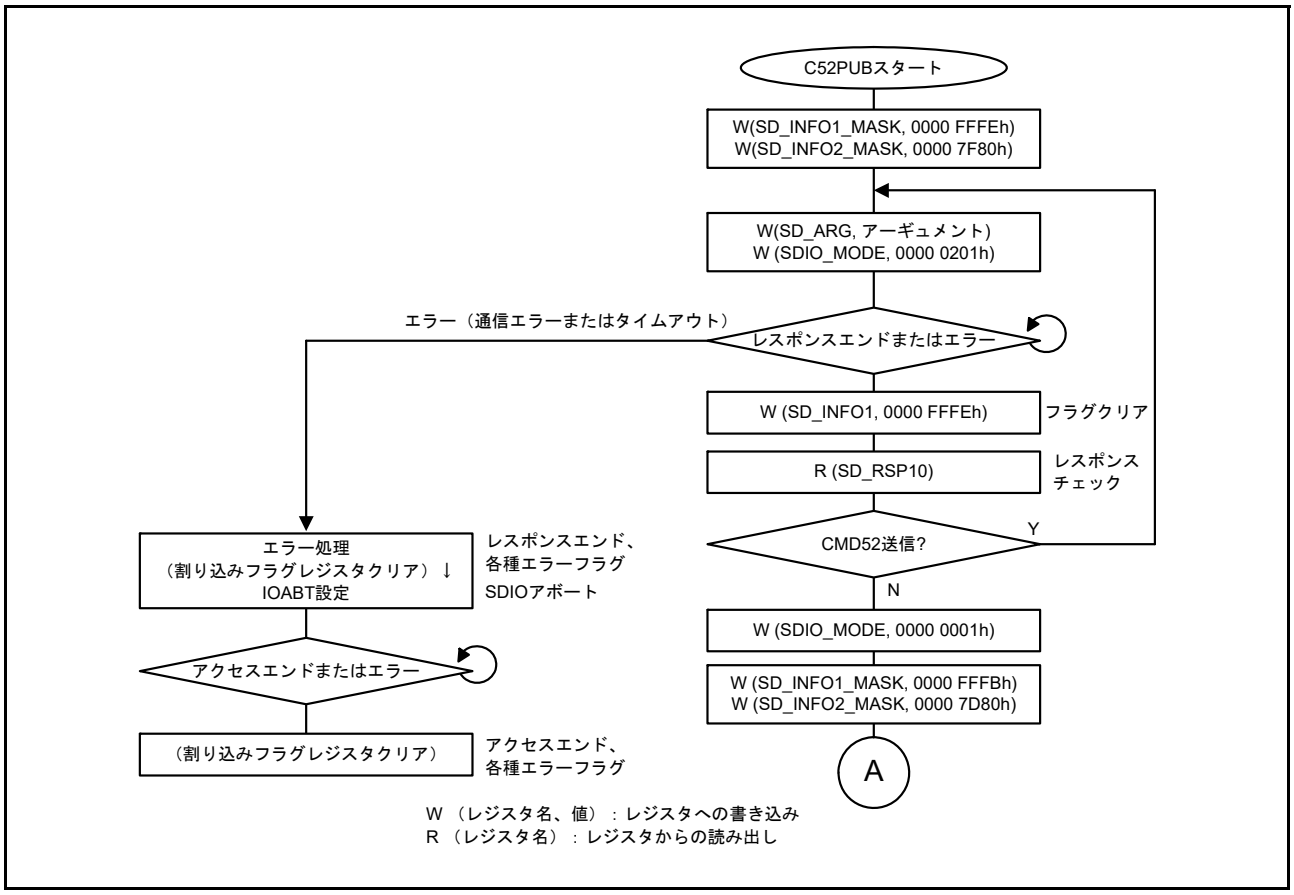


図 39.21　　CMD53 マルチブロックライト時に CMD52（SDIO none abort）が送信される場合のフロー

39.3.14　DMA 転送（SD/MMC）

39.3.14.1　SD_BUF DMA 転送

CMD18 マルチブロックリードが送信される場合の SD_BUF DMA リードのフロー例を図 39.22 に示します。

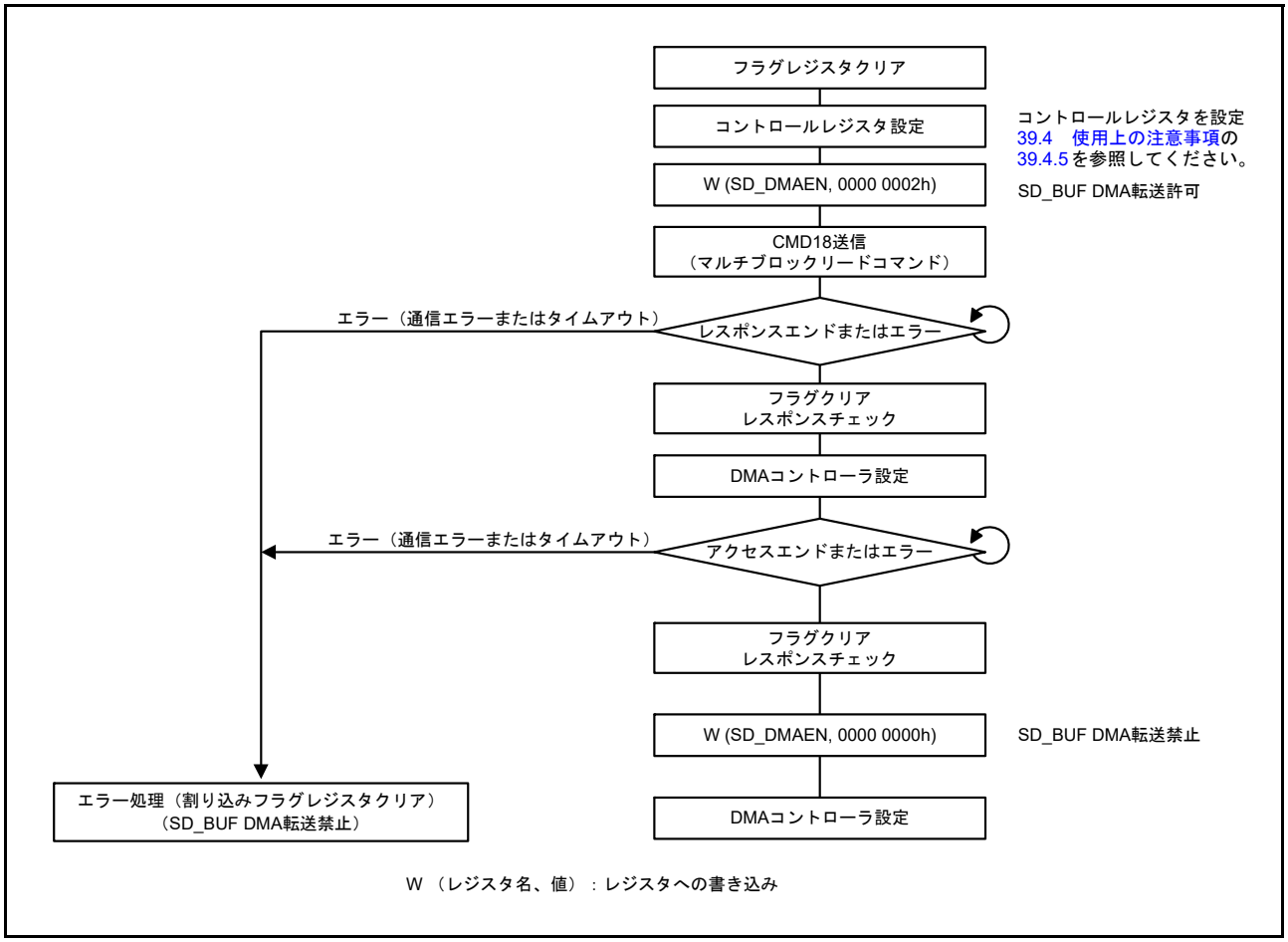


図 39.22　SD_BUF_DMA リード動作の例

CMD25 マルチブロックライトが送信される場合の SD_BUF DMA ライトのフロー例を図 39.23 に示します。

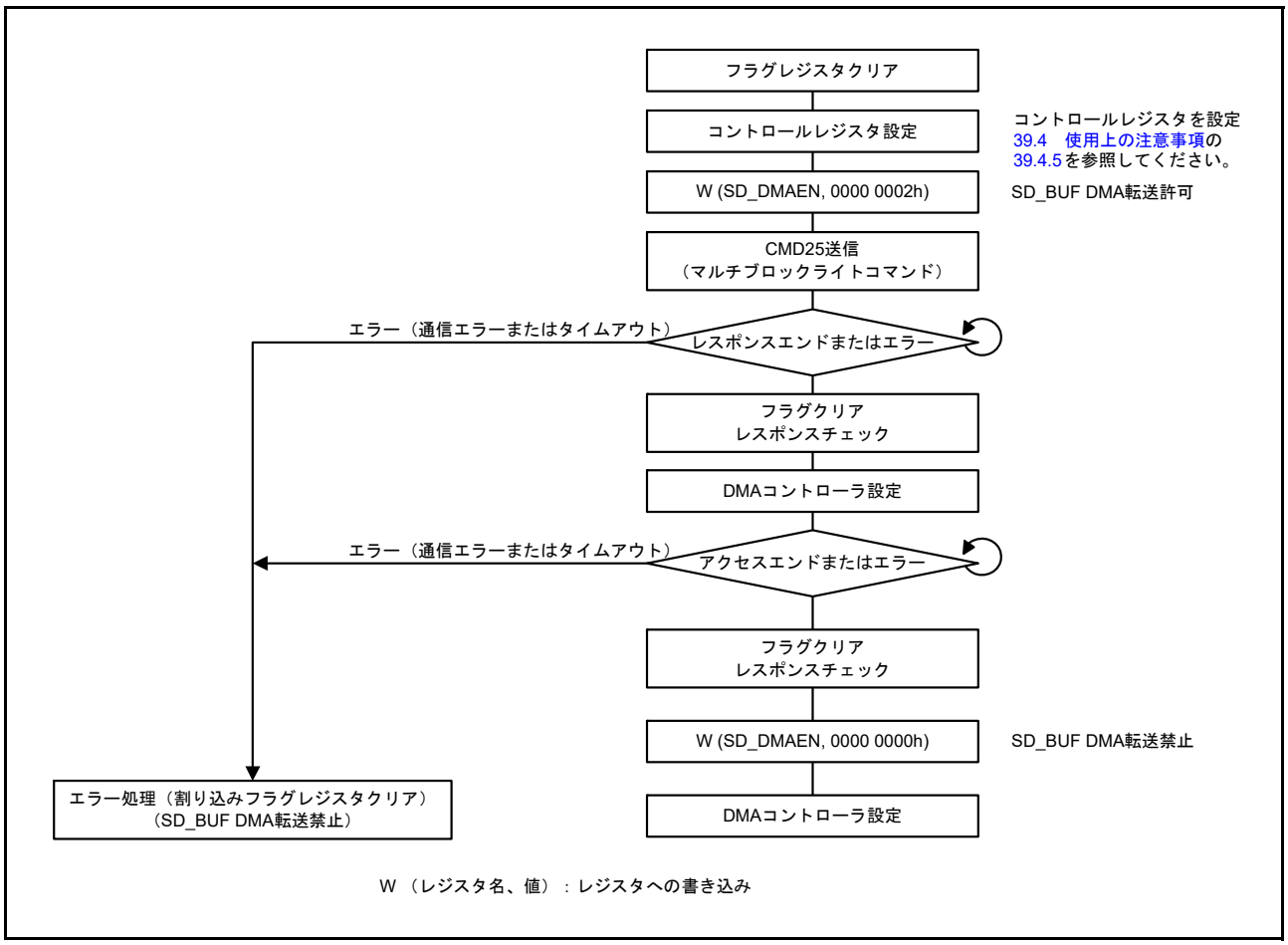


図 39.23　　SD_BUF_DMA ライト動作の例

39.3.15　SD_CMD レジスタへの設定例

表 39.8 および表 39.9 に SD_CMD レジスタへの設定例を示します。

表 39.8　SDのSD_CMD レジスタ設定例 (1/2)

種類	コマンド	SD_CMD レジスタ設定例	説明
CMD	CMD0	0000_0000h	
	CMD2	0000_0002h	
	CMD3	0000_0003h	
	CMD4	0000_0004h	
	CMD5	0000_0705hまたは0000_0005h	
	CMD6	0000_1C06hまたは0000_0006h	
	CMD7	0000_0007h	カードを非選択状態にすると、レスポンスがないためレスポンスタイムアウトフラグが設定されます。
	CMD8	0000_0408hまたは0000_0008h	
	CMD9	0000_0009h	
	CMD10	0000_000Ah	
	CMD11	0000_040Bhまたは0000_000Bh	
	CMD12	0000_000Ch	
	CMD13	0000_000Dh	
	CMD15	0000_000Fh	
	CMD16	0000_0010h	
	CMD17	0000_0011h	
	CMD18	0000_0012h	自動CMD12による
	CMD20	0000_0514hまたは0000_0014h	
	CMD24	0000_0018h	
	CMD25	0000_0019h	自動CMD12による
	CMD27	0000_001Bh	
	CMD28	0000_001Ch	
	CMD29	0000_001Dh	
	CMD30	0000_001Eh	
	CMD32	0000_0020h	
	CMD33	0000_0021h	
	CMD38	0000_0026h	
	CMD42	0000_002Ah	
	CMD52	0000_0434hまたは0000_0034h	
	CMD53	0000_1C35h	シングルリード
		0000_0C35h	シングルライト
		0000_7C35h	マルチリード
		0000_6C35h	マルチライト
		0000_0035h	左側の値は、シングル動作とマルチ動作の両方に設定可能です。ただし、SD_ARGのCF39ビットは以下のように設定する必要があります。 読み出し：0、書き込み時：1
	CMD55	0000_0037h	
	CMD56	0000_0038h	

表 39.8 SDのSD_CMDレジスタ設定例 (2/2)

種類	コマンド	SD_CMDレジスタ設定例	説明
ACMD	ACMD6	0000_0046h	
	ACMD13	0000_004Dh	
	ACMD22	0000_0056h	
	ACMD23	0000_0057h	
	ACMD41	0000_0069h	
	ACMD42	0000_006Ah	
	ACMD51	0000_0073h	

表 39.9　MMCのSD_CMDレジスタ設定例

種類	コマンド	SD_CMDレジスタ設定例	説明
CMD	CMD0	0000_0000h	
	CMD1	0000_0701h	
	CMD2	0000_0002h	
	CMD3	0000_0003h	
	CMD4	0000_0004h	
	CMD5	0000_0505h	
	CMD6	0000_0506h	レスポンスビジーあり
		0000_0406h	レスポンスビジーなし
	CMD7	0000_0007h	カードを非選択状態にすると、レスポンスがないためレスポンスタイムアウトフラグが設定されます。
	CMD8	0000_1C08h	
	CMD9	0000_0009h	
	CMD10	0000_000Ah	
	CMD12	0000_000Ch	
	CMD13	0000_000Dh	
	CMD14	0000_1C0Eh	必須の設定：SDIF_MODE = 0000_0100h （CRCチェックが無効）
	CMD15	0000_000Fh	
	CMD16	0000_0010h	
	CMD17	0000_0011h	
	CMD18	0000_7C12h	Pre-defined
	CMD19	0000_0C13h	必須の設定：SDIF_MODE = 0000_0100h （CRCチェックが無効）
	CMD21	0000_1C15h	DDRモードが抑止されます。
	CMD23	0000_0017h	
	CMD24	0000_0018h	
	CMD25	0000_6C19h	Pre-defined
	CMD26	0000_0C1Ah	
	CMD27	0000_001Bh	
	CMD28	0000_001Ch	
	CMD29	0000_001Dh	
	CMD30	0000_001Eh	
	CMD31	0000_1C1Fh	
CMD	CMD35	0000_0423h	-
	CMD36	0000_0424h	-
	CMD38	0000_0026h	-
	CMD39	0000_0427h	-
	CMD40	0000_0428h	-
	CMD42	0000_002Ah	-
	CMD49	0000_0C31h	-
	CMD53	0000_7C35h	-
	CMD54	0000_6C36h	-
	CMD55	0000_0037h	-
	CMD56	0000_0038h	-

39.4　使用上の注意事項

39.4.1　SD_BUF0 不正書き込み（SD/MMC）

シングルブロックライトまたはマルチブロックライトコマンドを送信した後に SD_BUF0 にデータを書きこむ場合、SD_SIZE で設定したサイズ分のデータを書き込む必要があります。

SD_SIZE で設定したサイズを超えるデータが書き込まれると、SD_INFO2 の ILW ビットが 1 になります。また、SD_BUF0 に書き込まれたデータを転送できず、SD_INFO2 の SD_CLK_CTRLEN ビットは値 0 に保持される可能性があります。その場合、SOFT_RST の SDRST ビットを 0 にクリアした後にその値を 1 に戻すと、SD_CLK_CTRLEN ビットが 1 になります。

ただし、ダミーデータ部分の書き込みは超過データとみなされて無視されるため、SD_SIZE 設定が奇数の場合は 1 バイトまたは 3 バイトに、SD_SIZE 設定が偶数の場合は端数バイト（4 バイト単位になっていない 2 バイト）がダミーデータであり、エラーにはなりません。

39.4.2　マルチブロックリードのブロック数制限（SD）

1 ブロックまたは 2 ブロックのマルチブロックリードを実行するときに、SD カードレスポンスレジスタが読み出されるタイミングによっては、レスポンス値が適切に読み出されない場合があります。これを回避するためには、以下のいずれかを実行します。

1. 1 ブロックまたは 2 ブロックのデータを受信するときに、シングルブロックリードを使用する
2. SD_RSP54 から CMD18 へのレスポンスを読み出す

39.4.2.1　誤った読み出しのメカニズム

2 ブロックのマルチブロックリードが実行された場合の SDHI（ハードウェア）動作とソフトウェア動作の処理フローを図 39.24 に示します。図 39.24 に示す誤動作のように、CMD18 レスポンスの受信時に割り込みが発生し、SD カードレスポンスレジスタ（SD_RSP10）が割り込みによって読み出されるタイミングが遅延した場合、CMD12 レスポンス受信中のデータまたは CMD12 レスポンスが読み出される場合があります。データブロックが読み出されるまで CMD12 は送信されないため、この問題は 3 ブロック以上のマルチブロックリードでは発生しません。同様に、CMD25 レスポンスはデータブロック送信前に読み出されるため、この問題はマルチブロックライトでも発生しません。

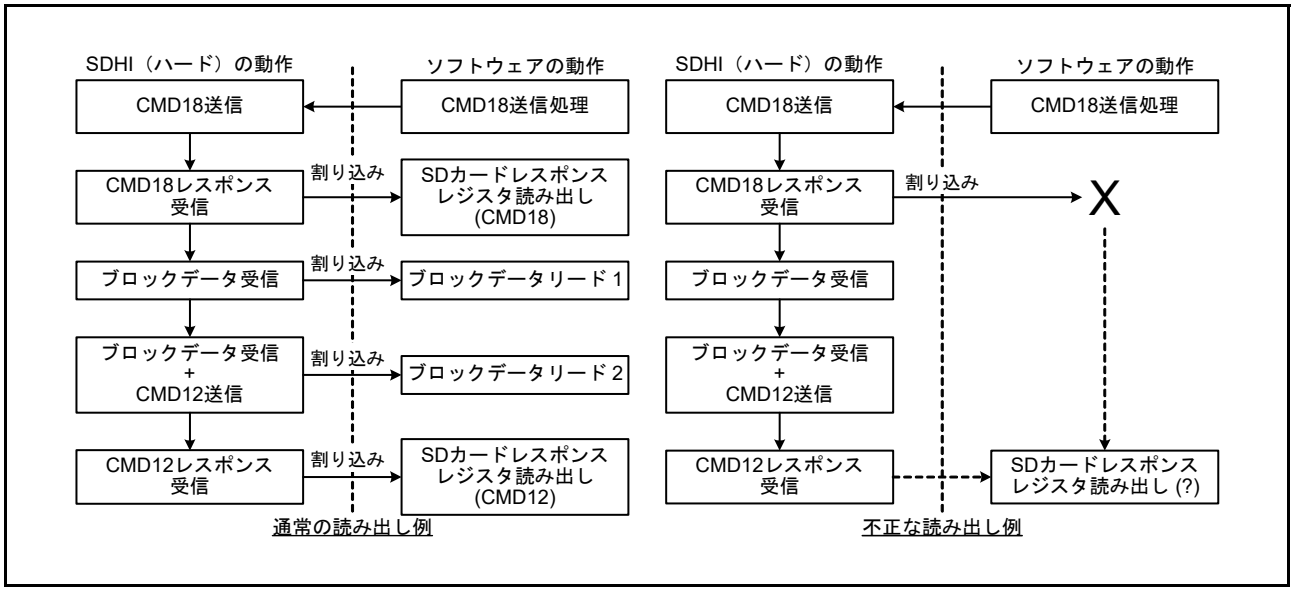


図 39.24　マルチブロックリード動作のフローチャート（2 ブロック）

39.4.3 SD/MMC クロック出力の自動制御（SD/MMC）

SD カード／ MMC 規格では、カードを初期化する前に SD/MMC クロックを 74 サイクル出力する必要があります。このため、SD/MMC クロックが 74 サイクル出力された後に、SD/MMC クロック出力の自動制御を使用します。また、SD/MMC クロック出力の自動制御を有効にした場合、通信エラーまたはタイムアウトによりシーケンスが完了すると SD/MMC クロック出力が停止します。シーケンスの完了後に SD カード／ MMC 内の状態遷移が必要な場合、SD/MMC クロック出力の自動制御を解除し、SD カード／ MMC への SD/MMC クロックの供給を再開させてください。

39.4.4 マルチブロックライトの C52PUB 設定の制御（SD）

CMD53 によるマルチブロックライトシーケンス中に SDIO_MODE の C52PUB ビットを 1 にすると、SD_BUF がエンプティになるまで CMD52 は送信されません。このため、以下の適切ないずれかの手順に従って SD_BUF への書き込みを一時停止してから C52PUB ビットを設定してください。

(a) DMA 転送を使用しない場合

1. C52PUB ビットを設定する前に、BWE 割り込みを禁止するように SD_INFO2 を設定することで SD_BUF への書き込みを一時停止する
2. SDIO_MODE の C52PUB ビットを 1 にする（これにより、SD_BUF がエンプティになると CMD52 が送信される）
3. CMD52 の送信による SD_INFO1 での RSPEND 割り込み処理が完了した後に、BWE 割り込みを許可するように SD_INFO2 を設定することで SD_BUF への書き込みを再開する

(b) DMA 転送を使用する場合

1. SD_SIZE に設定された値 × n ブロック（n = 1, 2, ...）の DMA 転送が始まるたびに、C52PUB ビットを設定する前に DMA 転送による SD_BUF への書き込みを一時停止する
2. SDIO_MODE の C52PUB ビットを 1 にする（これにより、SD_BUF がエンプティになると CMD52 が送信される）
3. CMD52 の送信による SD_INFO1 での RSPEND 割り込み処理が完了した後に、DMA 転送による SD_BUF への書き込みを再開する

39.4.5 SD_CLK_CTRL レジスタ設定時の注意（SD/MMC）

SD_INFO2 の SD_CLK_CTRLEN ビットが 0 の場合、SD_CLK_CTRL に書き込むことはできません。SD_CLK_CTRL に書き込むときは、SD_INFO2 の SD_CLK_CTRLEN ビットが 1 であることを確認してから行ってください。

39.4.6 仕様の制限

1. SDIO の一時停止／再開動作はサポートされていない
2. SPI Bus はサポートされていない（SD/MMC）
3. Embedded SDIO の Shared Bus と 8 ビット SD Bus はサポートされていない
4. MMC のストリーム転送はサポートされていない
5. MMC の High Priority Interrupt（HPI）はサポートされていない
6. MMC の Boot Operation/Alternative Boot Operation はサポートされていない
7. MMC の Open-ended マルチブロック転送はサポートされていない

39.4.7 マルチブロックリード時の STP ビット設定（SD/MMC）

SD_STOP の SEC ビットを 1 にすることで自動 CMD12 実行によるマルチブロックリードを実行しているときは、強制的に実行を停止するために SD_STOP の STP ビットを 1 にしても、STP ビットを設定するタイミングによってはコマンドシーケンスが停止しない場合があります。

これを回避するには、マルチブロック転送時に SD_STOP の STP ビットを 1 にするときに、同時に SD_STOP の SEC ビットを 0 にクリアします。SD_INFO2 の SD_CLK_CTRLEN ビットが 0 の場合でも、SEC ビットを 1 から 0 に変更します。

SEC ビットが 0 にクリアされないためにコマンドシーケンスが停止しないときは、SOFT_RST の SDRST ビットを 0 にクリアすることでコマンドシーケンスを停止することが可能です。

CMD53 マルチブロック転送を SDIO_MODE の IOABT ビットで強制的に終了するときは、必ず SD_STOP の SEC ビットを 1 のままにしてください。

39.4.8 レジスタ設定時の注意

1. 39.2 レジスタの説明の全レジスタへのアクセスは、32 ビットアクセスに限定されます。
2. レジスタは、I/O ポートジレスタを設定してから設定してください。

40. バウンダリスキャン

40.1 概要

バウンダリスキャン機能は、JTAG（Joint Test Action Group）、IEEE Std.1149.1 および IEEE Standard Test Access Port and Boundary-Scan Architecture に基づくシリアル入出力インタフェースを提供します。

表 40.1 にバウンダリスキャンの仕様を、図 40.1 にブロック図を、表 40.2 に入出力端子を示します。

表 40.1 バウンダリスキャンの仕様

項目	内容
実行条件	RES端子がLowの場合は必ずバウンダリスキャンを実行する必要があります。
テストモード	• BYPASSモード • EXTESTモード • SAMPLE/PRELOADモード • CLAMPモード • HIGHZモード • IDCODEモード

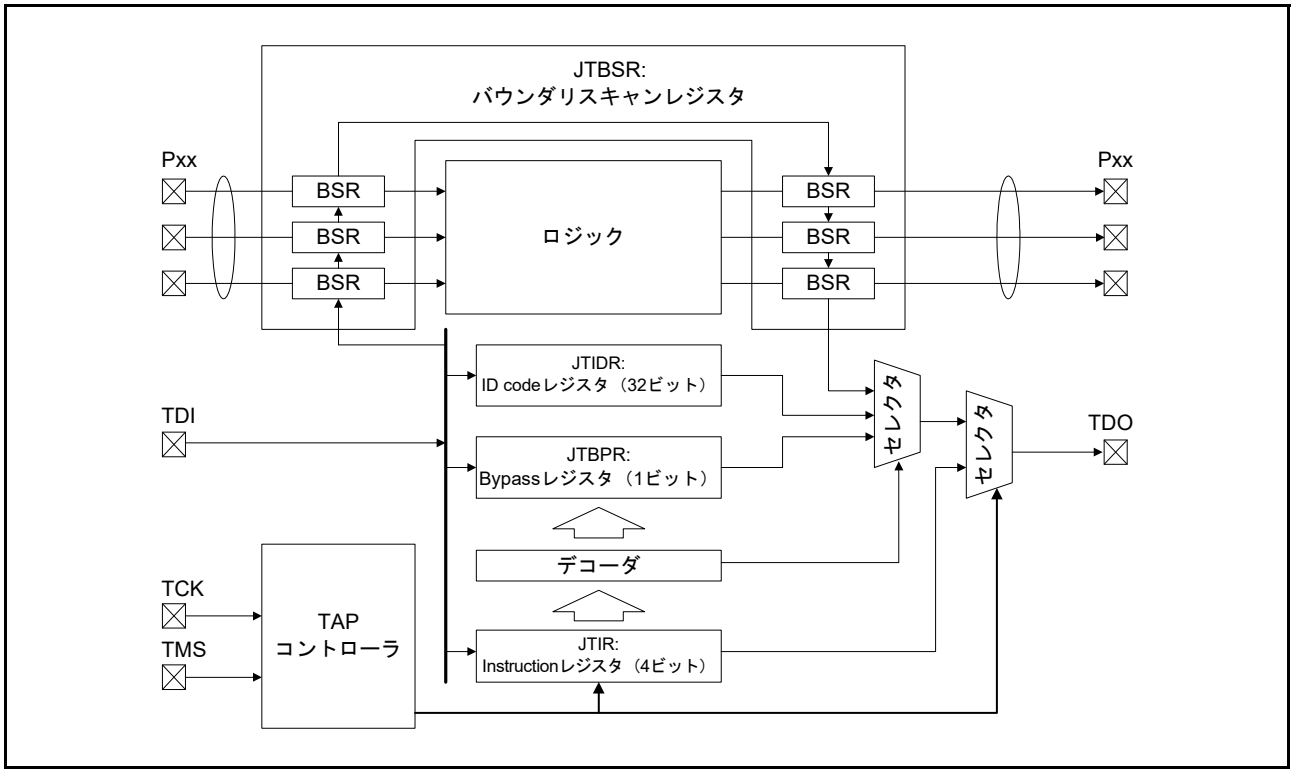


図 40.1 バウンダリスキャン機能のブロック図

表 40.2 バウンダリスキャンの入出力端子

端子名	入出力	機能
TCK	入力	テストクロック入力 バウンダリスキャン用のクロック信号。バウンダリスキャン機能使用時、入力クロックデューティ比は50%です。
TMS	入力	テストモードセレクト
TDI	入力	テストデータ入力
TDO	出力	テストデータ出力

注 . 本 MCU は、JTAG インタフェース用の TRST 端子はサポートしていません。

40.2 レジスタの説明

表 40.3 にバウンダリスキャンのレジスタ一覧を示します。

表 40.3 バウンダリスキャンレジスタ

レジスタ名	シンボル	リセット後の値
インストラクションレジスタ	JTIR	Eh
IDコードレジスタ	JTIDR	083D 8447h
バイパスレジスタ	JTBPR	不定
バウンダリスキャンレジスタ	JTBSR	不定

バウンダリスキャンレジスタの使用上の注意

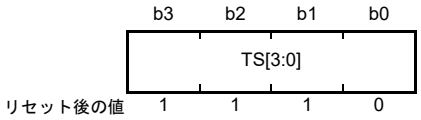
- インストラクションは、TDI 端子からシリアル転送によりインストラクションレジスタ（JTIR）へ入力できます
- バイパスレジスタ(JTBPR)は 1 ビットのレジスタで、BYPASS モード時に TDI 端子と TDO 端子はこのレジスタに接続されます
- バウンダリスキャンレジスタ（JTBSR）は BSDL の記述に基づき構成されており、テストデータをシフトインするときに TDI 端子と TDO 端子の間に接続されます

表 40.4 に各レジスタのシリアル転送を示します。

表 40.4 レジスタのシリアル転送

レジスタ名	シリアル入力	シリアル出力
インストラクションレジスタ（JTIR）	可能	可能
IDコードレジスタ（JTIDR）	可能	可能
バイパスレジスタ（JTBPR）	可能	可能
バウンダリスキャンレジスタ（JTBSR）	可能	可能

40.2.1 インストラクションレジスタ（JTIR）



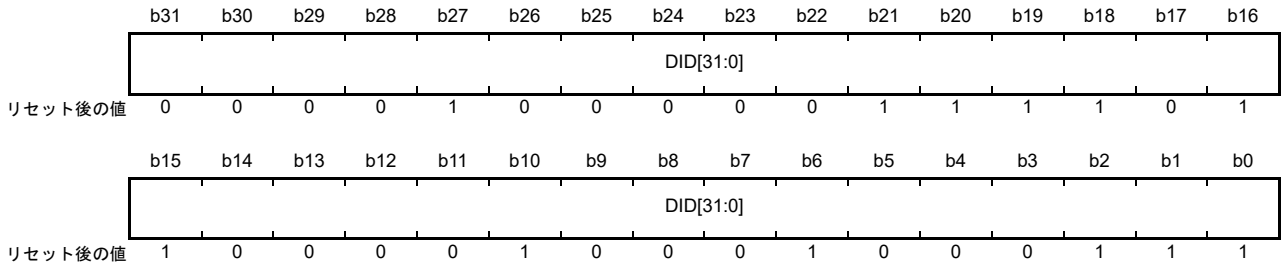
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	TS[3:0]	テストビットセット	表 40.5に、これらのビットのコマンド構成を示します。	—

表 40.5 コマンド構成

TS3	TS2	TS1	TS0	インストラクション
0	0	0	0	EXTEST
0	0	0	1	SAMPLE/PRELOAD
0	0	1	1	IDCODE（ルネサスコード）
0	1	0	1	CLAMP
0	1	1	0	HIGHZ
1	1	1	1	BYPASS
上記以外の設定				予約ビット

JTAG 命令は、TDI 端子からのシリアル入力によって JTIR レジスタに転送することが可能です。JTIR レジスタは、パワーオンリセットが発生したとき、または TAP コントローラが Test-Logic-Reset 状態のときに初期化されます。

40.2.2 ID コードレジスタ（JTIDR）



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31-b0	DID[31:0]	デバイスID	デバイスIDCODEを示す固定値を格納します。	—

IDCODE 命令の実行時、JTIDR レジスタのデータを TDO 端子から出力します。リセット解除後、JTIDR の IDCODE は Arm® デバッグコードに変わります。*ARM® CoreSight™ SoC-400 Technical Reference Manual（ARM DDI 0480F）*を参照してください。

40.2.3 バイパスレジスタ（JTBPR）

JTBPR は、1 ビットのレジスタです。BYPASS モードに設定された場合、TDI 端子と TDO 端子は JTBPR レジスタに接続されます。CPU から JTBPR レジスタへ読み出し／書き込みできません。

40.2.4 バウンダリスキャンレジスタ（JTBSR）

JTBSR は、本 MCU の入出力端子の制御を行うために PAD 上に配置されたシフトレジスタです。バウンダリスキャンテスト中の JTBSR レジスタを適用するには、EXTEST、SAMPLE/PRELOAD、CLAMP、HIGHZ の命令を発行します。BSDL ファイルは、JTBSR ビットと本 MCU の端子の対応について説明しています。リセット後の値は、不定です。

40.3 動作説明

リセット時に、JTAG ポートの TCK、TMS、TDI、および TDO がデフォルトの端子機能として割り当てられます。TCK、TMS、および TDI 端子はプルアップ抵抗によってプルアップします。POR がネゲートされ、RES が Low になった場合、セットアップ時間が経過した後にバウンダリスキャンテストを行うことが可能です。

40.3.1 TAP コントローラ

図 40.2 に TAP コントローラの状態遷移図を示します。すべての遷移は TMS 信号によって制御されます。

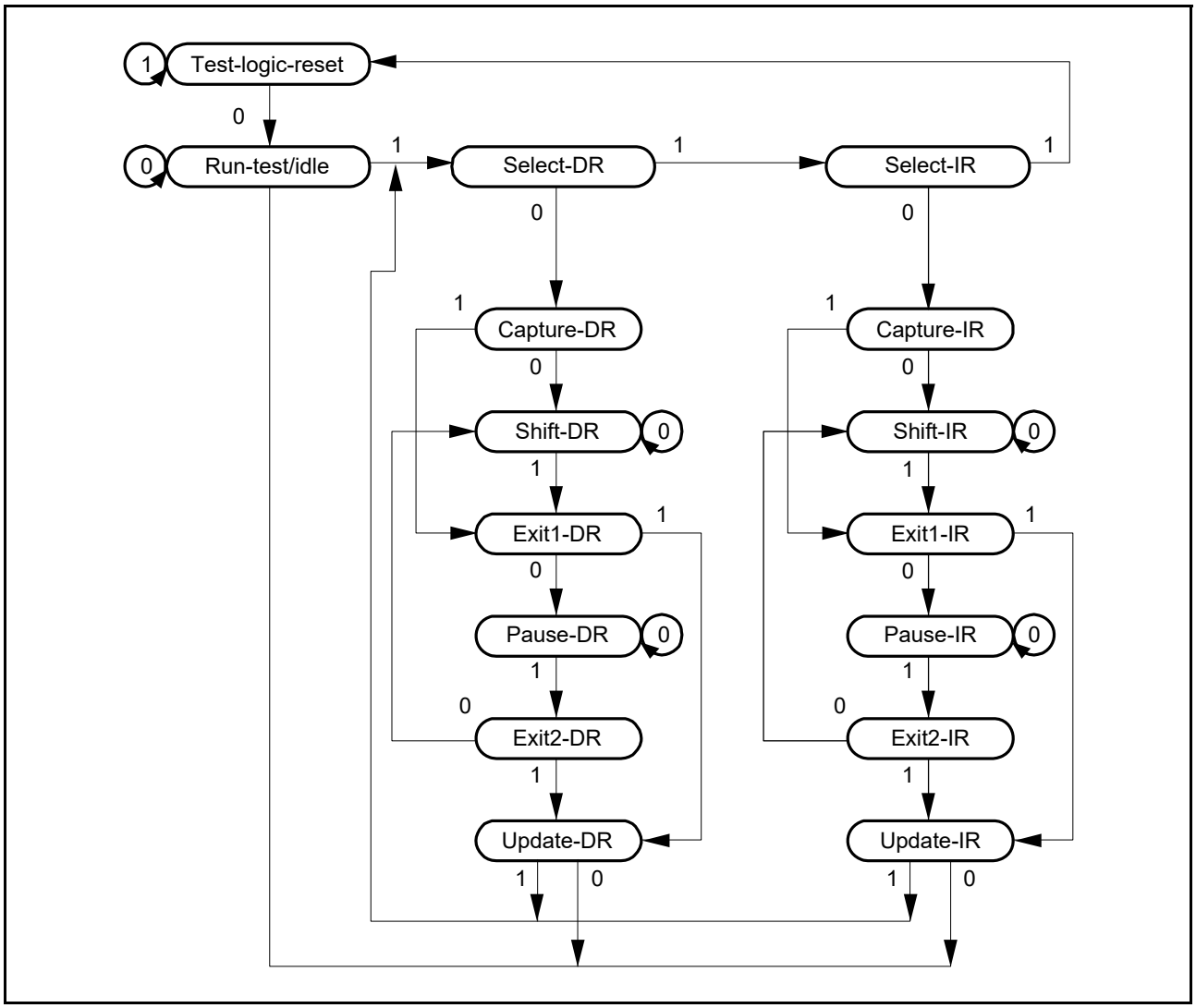


図 40.2 TAP コントローラの状態遷移図

40.3.2 コマンド

(1) BYPASS

BYPASS 命令は、バイパスレジスタ（JTBPR）を動作させます。この命令はシフトパスを短縮してプリント基板上の他の LSI のシリアルデータの転送速度を高速化するものです。この命令の実行中、テスト回路はシステム回路に何の影響も与えません。

TDI 端子と TDO 端子にはバイパスレジスタ（JTBPR）が接続されます。Shift-DR 動作でバイパス動作となります。Shift-DR の 1 クロック目では TDO が Low となります。その後の Shift-DR で TDI が TDO から出力されます。

(2) EXTEST

EXTEST 命令は、本 MCU をプリント基板に実装したとき、外部回路をテストするためのものです。この命令の実行時、出力端子はバウンダリスキャンレジスタ（JTBSR）からテストデータ（SAMPLE/PRELOAD 命令ですでに設定されています）をプリント基板へ出力するために使用され、入力端子はプリント基板から JTBSR レジスタにそのテスト結果を取り込むために使用されます。

(3) SAMPLE/PRELOAD

SAMPLE/PRELOAD 命令は、MCU の内部回路からバウンダリスキャンレジスタ（JTBSR）に値を入力し、スキャンパスから出力したり、スキャンパスにデータをロードする命令です。この命令の実行中、MCU の入力端子はそのまま内部回路に伝達され、内部回路の値はそのまま出力端子から外部へ出力されます。この命令の実行により MCU のシステム回路は何の影響も受けません。

SAMPLE 動作では、バウンダリスキャンレジスタ（JTBSR）は入力端子から内部回路に転送されたデータ、または内部回路から出力端子に転送されたデータのスナップショットをラッチします。ラッチしたデータは、スキャンパスから読み出します。JTBSR レジスタは、Capture-DR 状態の TCK 端子の立ち上がりに同期してデータのスナップショットをラッチします。データのスナップショットは、リセット中に限り内部回路から出力端子に転送されます。

PRELOAD 動作では、EXTEST 命令に先立ちスキャンパスから JTBSR レジスタのパラレル出力ラッチに初期値を設定します。PRELOAD 動作がないと、EXTEST 命令を実行するとき、EXTEST シーケンスの最初から最後（出力ラッチへの転送）まで出力端子から不定値が出力されます。EXTEST 命令では、常に出力端子にパラレル出力ラッチを出力します。

(4) IDCODE

IDCODE 命令が選択されると、TAP コントローラの Shift-DR 状態時に ID コードレジスタ（JTIDR）の値を TDO 端子に出力します。この場合、JTIDR レジスタ値は LSB ファーストで出力されます。この命令の実行中、テスト回路はシステム回路に何も影響を与えません。

(5) CLAMP

CLAMP 命令が選択されると、出力端子はあらかじめ SAMPLE/PRELOAD 命令によって設定されたバウンダリスキャンレジスタ（JTBSR）の値を出力します。CLAMP 命令が選択されている間、JTBSR レジスタの状態は TAP コントローラの状態に関係なく前の状態で保持されます。

TDI 端子と TDO 端子の間にはバイパスレジスタ（JTBPR）が接続され、BYPASS 命令が選択されたときと同様の動作をします。

(6) HIGHZ

HIGHZ 命令が選択されると、すべての出力端子はハイインピーダンス状態となります。HIGHZ 命令が選択されている間、バウンダリスキャンレジスタ（JTBSR）の状態は TAP コントローラの状態に関係なく前の状態で保持されます。

TDI 端子と TDO 端子の間にはバイパスレジスタ（JTBPR）が接続され、BYPASS 命令が選択されたときと同様の動作をします。

40.4 使用上の注意事項

バウンダリスキャン機能には、以下の制限が適用されます。

- RES 端子が Low の場合は必ずバウンダリスキャンを実行する
- BSDL は、BSDL の記述に準じて構成されなければならないセーフビットを提供する
- 図 40.3 で示すとおりシリアルデータは LSB 側から入出力する

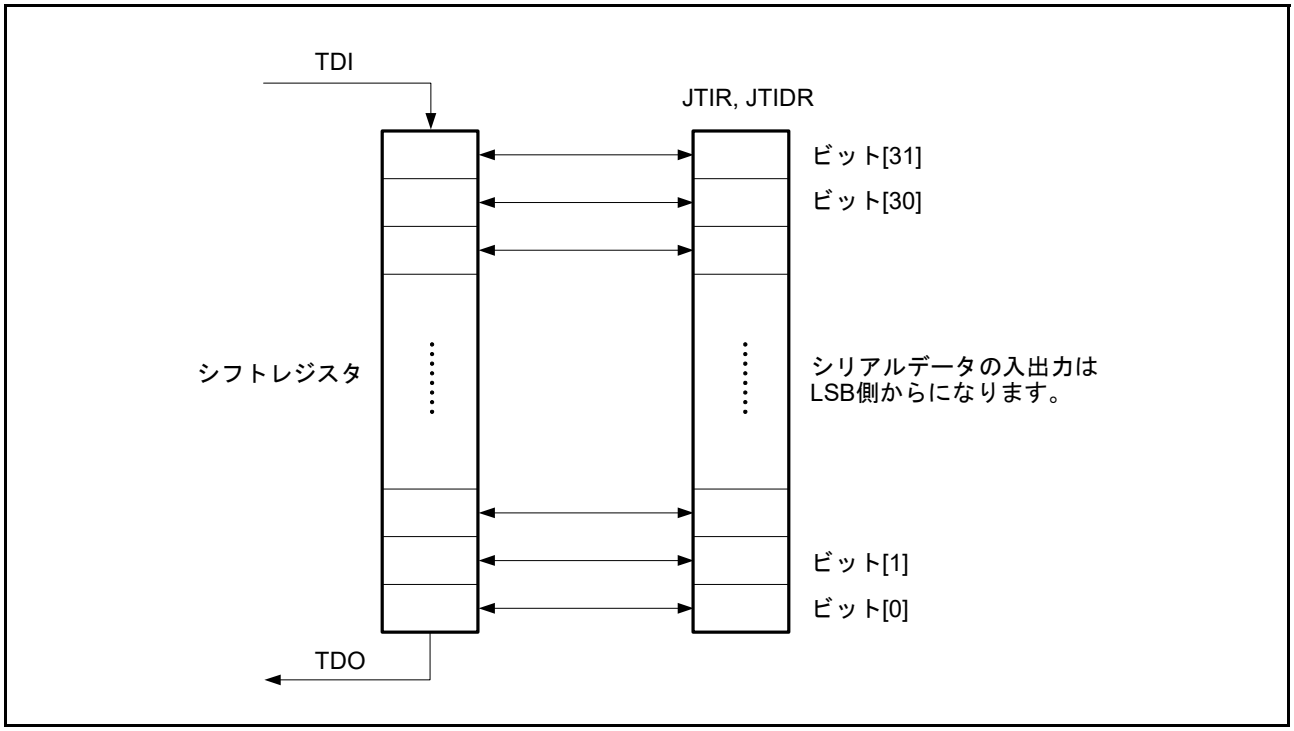


図 40.3 シリアルデータ入出力

以下の端子は、バウンダリスキャン対象外です。

- 電源端子（VCC、VCL、VCL0、VSS、VBATT、AVCC0、AVSS0、VCC_USB、VSS_USB）
- アナログリファレンス端子（VREFH0、VREFL0、VREFH、VREFL）
- クロック端子（EXTAL、XTAL、XCIN、XCOUT）
- リセット信号（RES）
- USB 専用端子（USB_DP、USB_DM）
- バウンダリスキャンの端子（TCK、TMS、TDI、TDO）

41. セキュア暗号エンジン（SCE7）

41.1 概要

本 MCU はセキュリティ機能向けにセキュア暗号エンジン（SCE7）モジュールを搭載しています。本モジュールは、アクセス管理回路と暗号エンジン、および乱数生成器で構成されています。

表 41.1 に SCE7 の仕様を、図 41.1 にブロック図を示します。

表 41.1 SCE7の仕様

項目	内容
アクセス制御	アクセス管理回路 • 不正プログラムやプログラム実行の暴走によりSCE7に異常なアクセスがあった場合、この回路は後続のすべてのアクセスを遮断し、SCE7からのデータ出力を停止します。
暗号エンジン	Advanced Encryption Standard（AES）：NIST FIPS PUB 197 アルゴリズムに準拠 • キーサイズ：128、192、256ビット • ブロックサイズ：128ビット • 連鎖モード ECB、CBC、CTR：NIST SP 800-38Aに準拠 GCM：NIST SP 800-38Dに準拠 XTS：NIST SP 800-38Eに準拠 GCTR • 128ビットデータに対するスループット 128ビット鍵に対して11 PCLKBサイクル 256ビット鍵に対して15 PCLKBサイクル AES-GCM • AES-GCMはAES-GCTRとGHASHを組み合わせることにより実現 Triple Data Encryption Standard（3DES） • 168ビット鍵長 • 8バイトの固定データブロックで動作 • レガシーなSecure Socket Layer（SSL）およびTransport Layer Security（TLS）プロトコルを使用 • 64ビットデータに対するスループット 56ビット鍵に対して16PCLKBサイクル Alleged RC4（ARC4） • 2048ビット鍵長 • 128ビットデータに対するスループット 2048ビット鍵に対して16PCLKBサイクル キー管理 • 鍵はSCE7でのみ有効
乱数の生成	128ビット真正乱数発生器
署名生成と認証	RSA • 1024ビットおよび2048ビットの鍵サイズをサポート • 署名生成、署名認証、公開鍵暗号、秘密鍵暗号 DSA • 以下のDSA鍵サイズをサポート -（1024ビット、160ビット） -（2048ビット、224ビット） -（2048ビット、256ビット） • 署名生成、署名認証 ECC • P-192、P-224、P-256、およびP-384曲線をサポート • 署名生成、署名認証 • スカラー倍算
メッセージダイジェストの計算	HASH • SHA1, SHA224, SHA256
ユニークID	• MCU固有のID（ユニークID）では、アクセス管理回路から専用バスまでアクセスが可能 • ユニークDと鍵生成情報を組み合わせることにより、他のMCUへの不正なデータコピーを防止
低消費電力	モジュールストップ状態の設定が可能

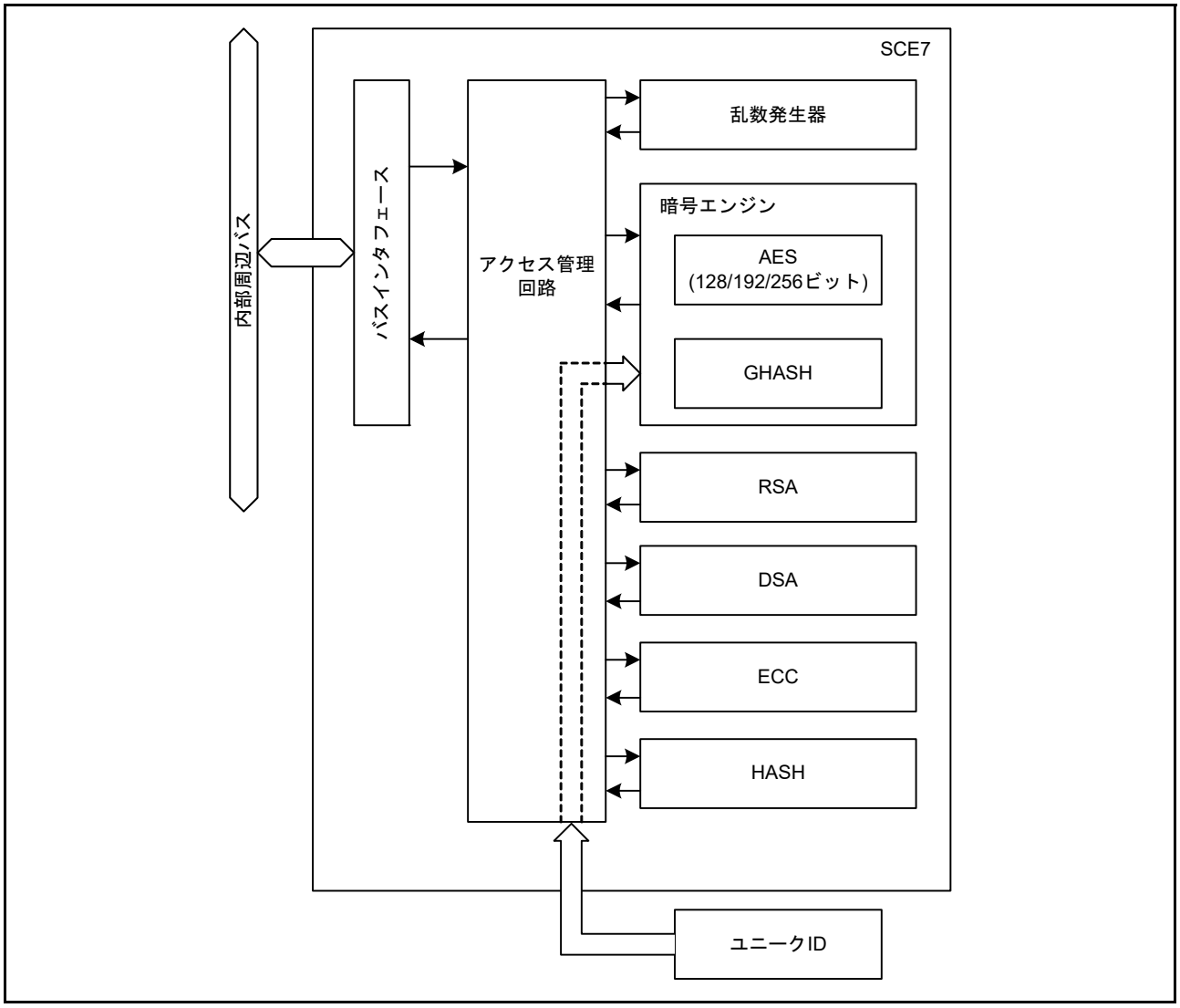


図 41.1　SCE7 ブロック図

41.2　動作説明

41.2.1　暗号エンジン

暗号エンジンは下記の機能をハードウェアで実行します。（図 41.2 参照）

- 平文から暗号文への暗号化
- 暗号文から平文への復号

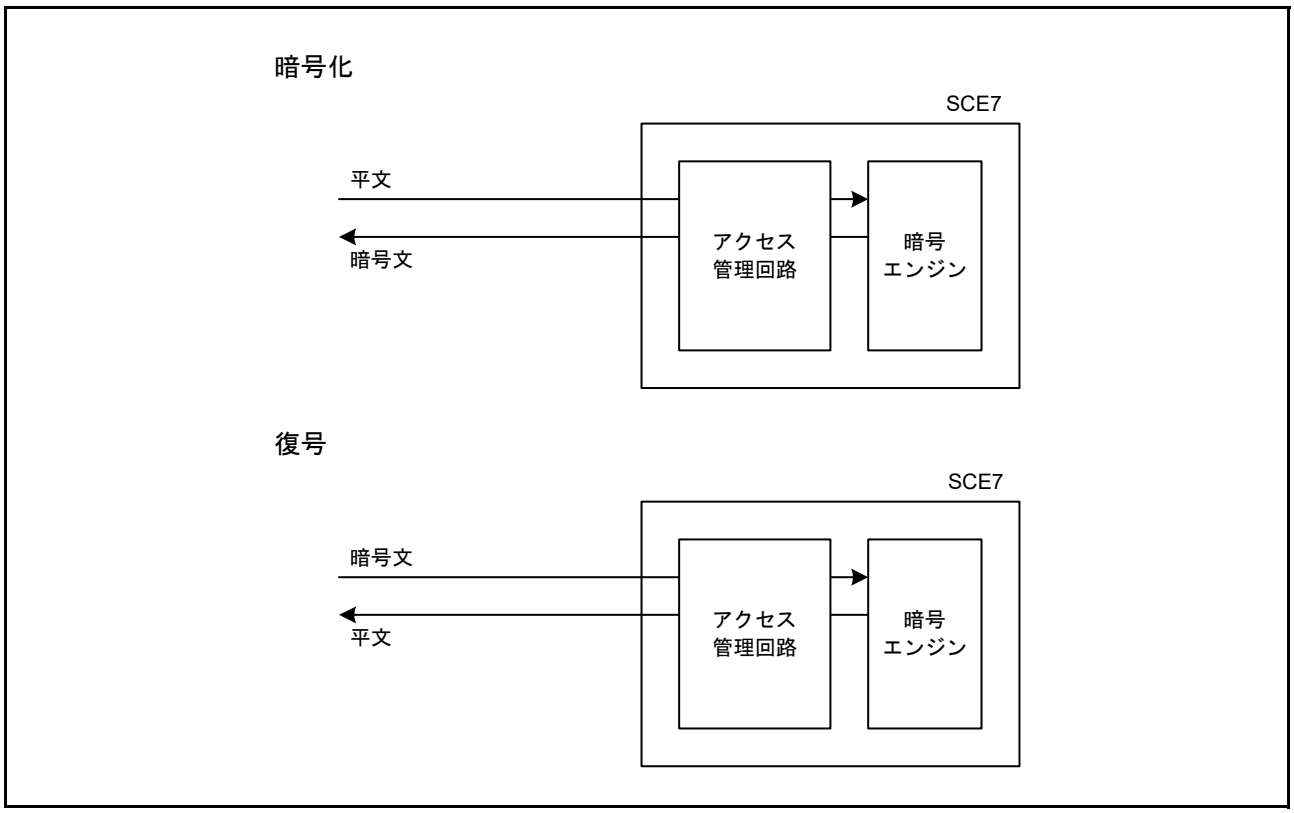


図 41.2　暗号エンジンによる暗号化と復号

41.2.2 暗号化と復号

データの暗号化または復号する方法：

1. 暗号化または復号するデータを SCE7 に入力します。

   SCE7 は平文を暗号文に、暗号文を平文に変換します。
2. 変換されたデータを読み出します。

暗号エンジンは入力バッファと出力バッファを備えており、入出力データの暗号化 / 復号を並行して処理することが可能です。図 41.3 に暗号および複合エンジンのタイミングを示します。

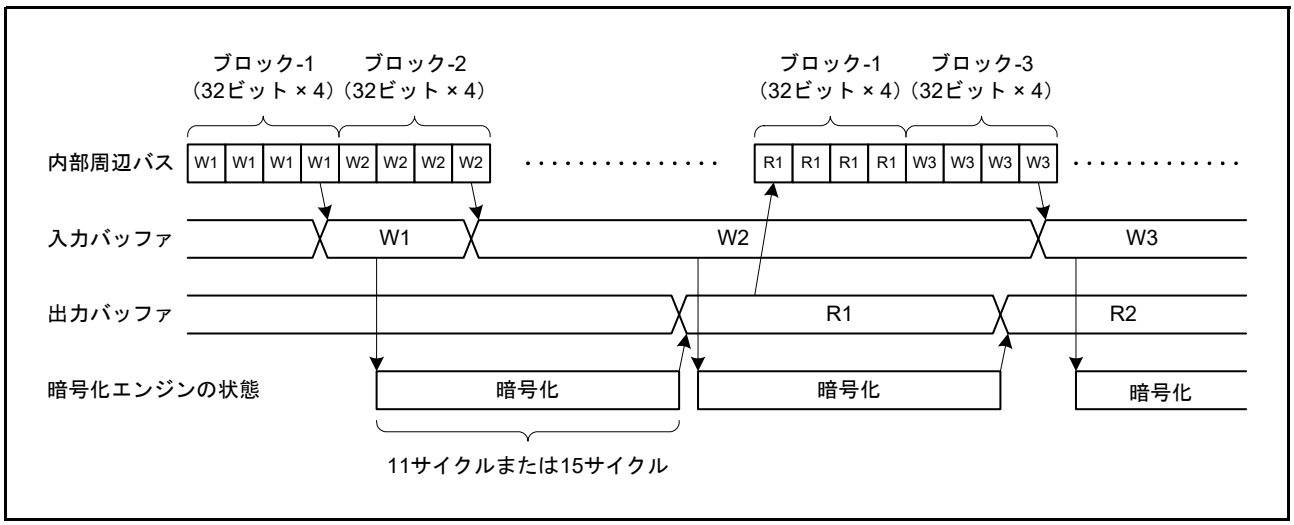


図 41.3 暗号化と復号タイミング（AES）

41.3 使用上の注意事項

41.3.1 ソフトウェアスタンバイモード

暗号エンジンの処理中にソフトウェアスタンバイモードへ遷移した場合、ソフトウェアスタンバイモードが終了しても適切な処理を再開することができません。ソフトウェアスタンバイモードへの遷移は、暗号化エンジンが動作していないときに行ってください。

41.3.2 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ C（MSTPCRC）により、SCE7 の動作を禁止／許可することが可能です。リセット後の初期状態では、SCE7 モジュールの動作は停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。

42.　12 ビット A/D コンバータ（ADC12）

42.1　概要

本 MCU は、逐次比較方式の 12 ビット A/D コンバータ（ADC12）を 2 ユニット内蔵しています。ユニット 0 では最大 11 チャネル、ユニット 1 では最大 8 チャネルのアナログ入力を選択可能です。ただしユニット 0 およびユニット 1 の各 2 つのアナログ入力は共通のポートに割り当てられており（AN005/AN105, AN006/AN106）、同時に使用可能なアナログ入力は、最大 17 端子です。また内蔵の温度センサ出力および内部基準電圧を各ユニットのアナログ入力として選択できます。A/D 変換精度は 12 ビット変換、10 ビット変換、および 8 ビット変換から選択可能で、デジタル値の生成時に速度と分解能のバランスを最適化することが可能です。

ADC12 は以下の特性を持ちます。

- 11 チャネル（ユニット 0）、8 チャネル（ユニット 1）、うち各 2 チャネルは端子共用
- PCLKB = 60MHz（最大）
- PCLKC = 60MHz（最大）
- アナログチャネル：AN000 ～ AN003、AN005 ～ AN007、AN016 ～ AN018，AN020（ユニット 0）、AN100 ～ AN102、AN105 ～ AN107、AN116、AN117（ユニット 1）
- 分解能：12 ビット、10 ビット、8 ビット
- 専用サンプル＆ホールド回路内蔵
- プログラマブルゲインアンプ内蔵

ADC12 には次の動作モードがあります。

- 任意に選択したチャネルのアナログ入力を、チャネル番号の昇順に変換するシングルスキャンモード
- 任意に選択したチャネルのアナログ入力を、順次チャネル番号の昇順に連続して変換する連続スキャンモード
- チャネルのアナログ入力を任意に 2 つのグループ（A と B）に分け、グループ単位で選択したチャネルのアナログ入力をチャネル番号の昇順に変換するグループスキャンモード

グループスキャンモードでは、グループ A とグループ B のスキャン開始条件を個別に選択することで、グループ A とグループ B は異なるタイミングで A/D 変換を開始することが可能です。さらに、グループ A の優先制御動作を設定すると、ADC12 はグループ B の A/D 変換動作中にグループ A のスキャン開始を受け付けて、グループ B の A/D 変換動作を中断します。このようにして、グループ A の A/D 変換を優先的に開始することが可能です。

ダブルトリガモードは、任意に選択した 1 チャネルのアナログ入力をシングルスキャンモードかグループスキャンモード（グループ A）で変換し、1 回目の A/D 変換開始トリガで変換したデータと 2 回目の A/D 変換開始トリガで変換したデータを別々のレジスタに格納（A/D 変換データの 2 重化）します。

自己診断は、スキャンごとの最初に 1 回実施され、ADC12 内部で生成する 3 つの電圧値のうち 1 つを A/D 変換します。

温度センサ出力、内部基準電圧は、チャネルのアナログ入力と同時に選択可能です。最初の A/D 変換は、チャネルのアナログ入力、温度センサ出力、内部基準電圧の順で行われます。

ADC12 は比較機能（ウィンドウ A およびウィンドウ B）を搭載しています。この比較機能は、ウィンドウ A の上側基準値およびウィンドウ B の下側基準値を指定し、選択したチャネルの A/D 変換値が比較条件に一致すると割り込み要求を出力します。

表 42.1 に ADC12 の仕様を、表 42.2 に機能一覧を、表 42.3 に入出力端子を示します。図 42.1 に ADC12（ユニット 0）のブロック図を、図 42.2 に ADC12（ユニット 1）のブロック図を示します。

表 42.1　ADC12の仕様 (1/2)

項目	内容
ユニット数	2ユニット（0および1）
入力チャネル	• ユニット0：最大11チャネル • ユニット1：最大8チャネル（うち各2チャネルは端子共用）
拡張アナログ機能	温度センサ出力、内部基準電圧
A/D変換方式	逐次比較方式
分解能	12ビット（12ビット、10ビット、8ビット変換から選択可能）
変換時間	A/D変換クロックPCLKC（ADCLK）が60MHzで動作時、1チャネル当たり0.4µs （条件については表 52.33および表 52.34を参照してください）
A/D変換クロック	周辺モジュールクロックPCLKB（注1）とA/D変換クロックPCLKC（ADCLK）（注1）を以下の分周比で設定可能 PCLKB：PCLKC（ADCLK）分周比 = 1:1、2:1、4:1、8:1、1:2、1:4
データレジスタ	• アナログ入力用19本（ユニット0：11本、ユニット1：8本）、ダブルトリガモードでのA/D変換データ2重化用1本/各ユニット、ダブルトリガモード拡張動作時のA/D変換データ2重化用2本/各ユニット • 温度センサ出力用1本 • 内部基準電圧用1本 • 自己診断用1本 • A/D変換結果をA/Dデータレジスタに保持 • A/D変換結果の8、10、12ビット精度出力対応 • A/D変換値加算モード（A/D変換結果の加算値を変換精度ビット数 + 2ビットでA/Dデータレジスタに保持）（注4） • ダブルトリガモード（シングルスキャンとグループスキャンモードで選択可能） 選択した1つのチャネルのアナログ入力のA/D変換データを1回目は対象チャネルのデータレジスタに保持、2回目のA/D変換データは2重化レジスタに保持 • ダブルトリガモード拡張動作（特定トリガ種別で有効） 選択した1つのチャネルのアナログ入力のA/D変換データを関連するトリガに準備した2重化レジスタに保持
動作モード	• シングルスキャンモード - 任意に選択したチャネルのアナログ入力、温度センサ出力、内部基準電圧を1回のみA/D変換 • 連続スキャンモード - 任意に選択したチャネルのアナログ入力、温度センサ出力、内部基準電圧を繰り返しA/D変換 • グループスキャンモード - 任意に選択したチャネル（グループAとグループBに分割）のアナログ入力、温度センサ出力、内部基準電圧を1回のみA/D変換 - グループAとグループBのスキャン開始条件を個別に選択することで、グループAとグループBのA/D変換をそれぞれ異なるタイミングで開始することが可能 • グループスキャンモード（グループA優先制御選択時） - グループBのA/D変換動作中にグループAのトリガ入力があった場合、グループBのA/D変換動作を中断し、グループAのA/D変換動作を実行 - グループAのA/D変換動作終了後にグループBのA/D変換動作の再実行（再スキャン）の設定が可能
A/D変換開始条件	• ソフトウェアトリガ • イベントリンクコントローラ（ELC）からの同期トリガ • 外部トリガADTRG0端子（ユニット0）およびADTRG1端子（ユニット1）による非同期トリガ
機能	• 専用サンプル＆ホールド機能（3ch：ユニット0および1、常時サンプリング設定可能） • サンプリングステート数可変機能 • ADC12の自己診断機能 • A/D変換値加算モードと平均モードが選択可能 • アナログ入力断線検出機能（ディスチャージ機能／プリチャージ機能） • ダブルトリガモード（A/D変換データ2重化機能） • 12/10/8ビット変換切り替え機能（注2） • A/Dデータレジスタオートクリア機能 • デジタルコンペア機能（コンペアレジスタとデータレジスタとの比較、データレジスタ間の比較）
プログラマブルゲインアンプ	• A/D変換を可能にするアナログ入力信号を増幅（3ch：ユニット0および1） • シングルエンド入力および差動入力に対応
割り込み要因およびELCイベント	• ADC12i_ADI：A/Dスキャン終了割り込み • ADC12i_GBADI：グループBのA/Dスキャン終了割り込み • ADC12i_CMPAI：ウィンドウAのコンペアマッチ • ADC12i_CMPBI：ウィンドウBのコンペアマッチ • ADC12i_WCMPM：コンペアマッチ • ADC12i_WCMPUM：コンペア不一致

表 42.1　ADC12の仕様 (2/2)

項目	内容
ELCインタフェース	ELCからのトリガでスキャン開始可能
バスインタフェース	周辺クロック（PCLKB）とバスクロック同期（最大周波数 = 60MHz）
基準電圧	• ユニット0： - VREFH0は高電位基準電圧 - VREFL0は低電位基準電圧 • ユニット1： - VREFHは高電位基準電圧 - VREFLは低電位基準電圧
モジュールストップ機能	モジュールストップ状態に設定して消費電力を削減（注3）

i が 0 の場合はユニット 0 を、i が 1 の場合はユニット 1 を表します。

注 1.　周辺モジュールクロック PCLKB は SCKDIVCR.PCKB[2:0] ビットに指定し、A/D 変換クロック ADCLK は SCKDIVCR.PCKC[2:0] ビットに指定します（ユニット 0 および 1）。
注 2.　A/D 変換精度を変えた場合、A/D 変換時間も変わります。詳細は、42.3.6　アナログ入力のサンプリング時間とスキャン変換時間を参照してください。
注 3.　詳細は、「11.　低消費電力モード」を参照してください。
注 4.　加算用の拡張ビット数は、A/D 変換精度および加算回数によって異なります。A/D 変換精度が 8、10、または 12 ビットの場合、2 ビット拡張は最大で変換 4 回（加算 3 回）となります。A/D 変換精度が 12 ビットの場合、4 ビット拡張は変換 16 回（加算 15 回）となります。

表 42.2　ADC12の機能一覧

項目			ユニット0（ADC120）	ユニット1（ADC121）
アナログ入力チャネル（注3）			AN000～AN003、AN005～AN007、AN016～AN018、AN020 内部基準電圧 温度センサ出力	AN100～AN102、AN105～AN107、AN116、AN117 内部基準電圧 温度センサ出力
A/D変換開始条件	ソフトウェア	ソフトウェアトリガ	許可	許可
	外部トリガ	トリガ入力端子	ADTRG0	ADTRG1
	同期トリガ（ELCからのトリガ）	ELCトリガ	ELC_AD00、ELC_AD01	ELC_AD10、ELC_AD11
チャネル専用サンプル&ホールド機能	対象チャネル		AN000～AN002	AN100～AN102
プログラマブルゲインアンプ	対象チャネル		AN000～AN002	AN100～AN102
	差動入力端子		PGAVSS000	PGAVSS100
割り込み			ADC120_ADI ADC120_GBADI ADC120_CMPAI ADC120_CMPBI	ADC121_ADI ADC121_GBADI ADC121_CMPAI ADC121_CMPBI
ELCへの出力			ADC120_ADI ADC120_WCMPM ADC120_WCMPUM	ADC121_ADI ADC121_WCMPM ADC121_WCMPUM
モジュールストップ機能の設定（注1）（注2）			MSTPCRD.MSTPD16ビット	MSTPCRD.MSTPD15ビット

注 1.　詳細は、「11.　低消費電力モード」を参照してください。
注 2.　モジュールストップ状態の解除後に A/D 変換を開始するのに、1μs 以上待機します。
注 3.　AN005 と AN105、および AN006 と AN106 はそれぞれ同じポートに割り当てられています。

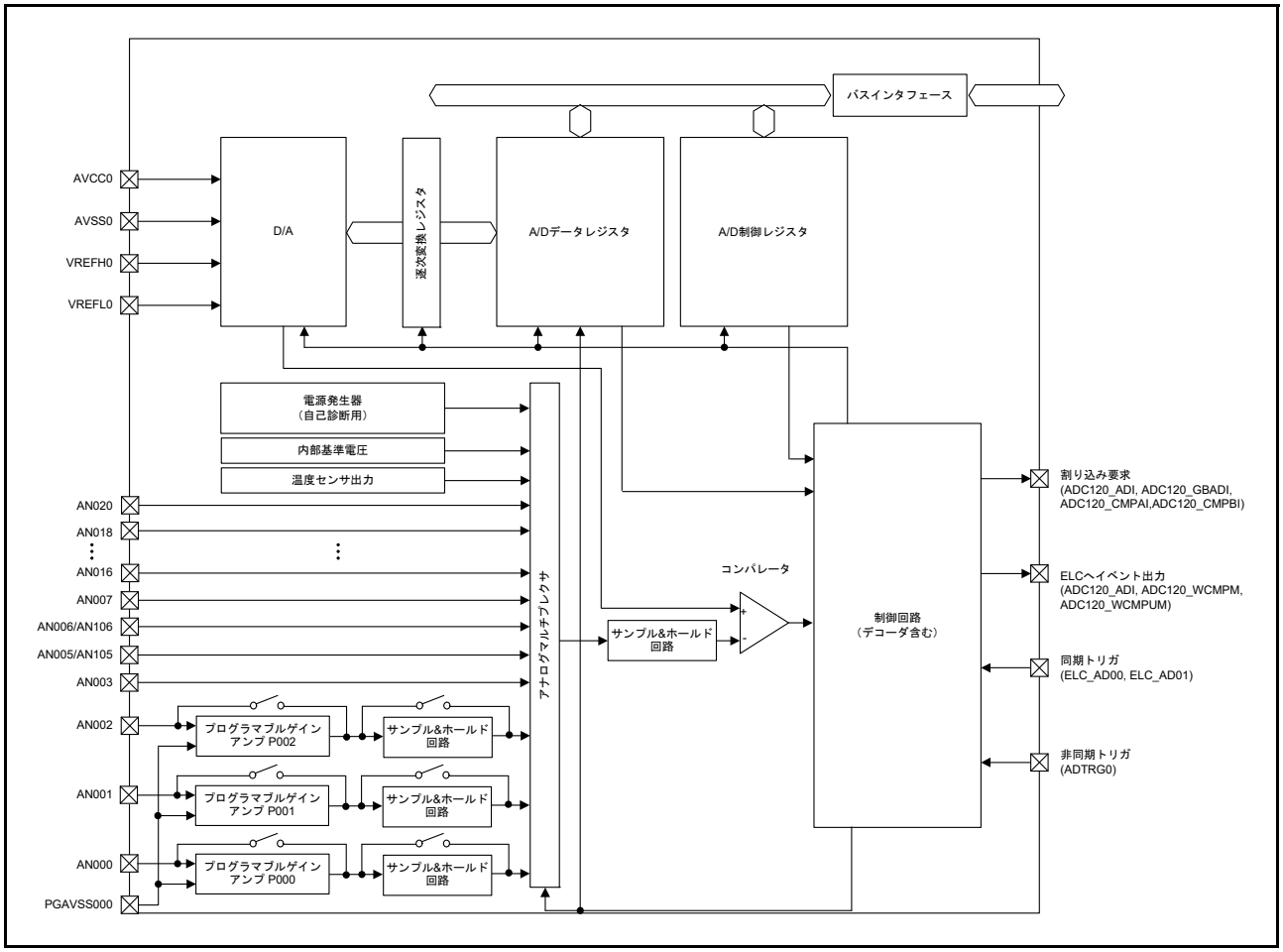


図 42.1 ADC12（ユニット 0）のブロック図

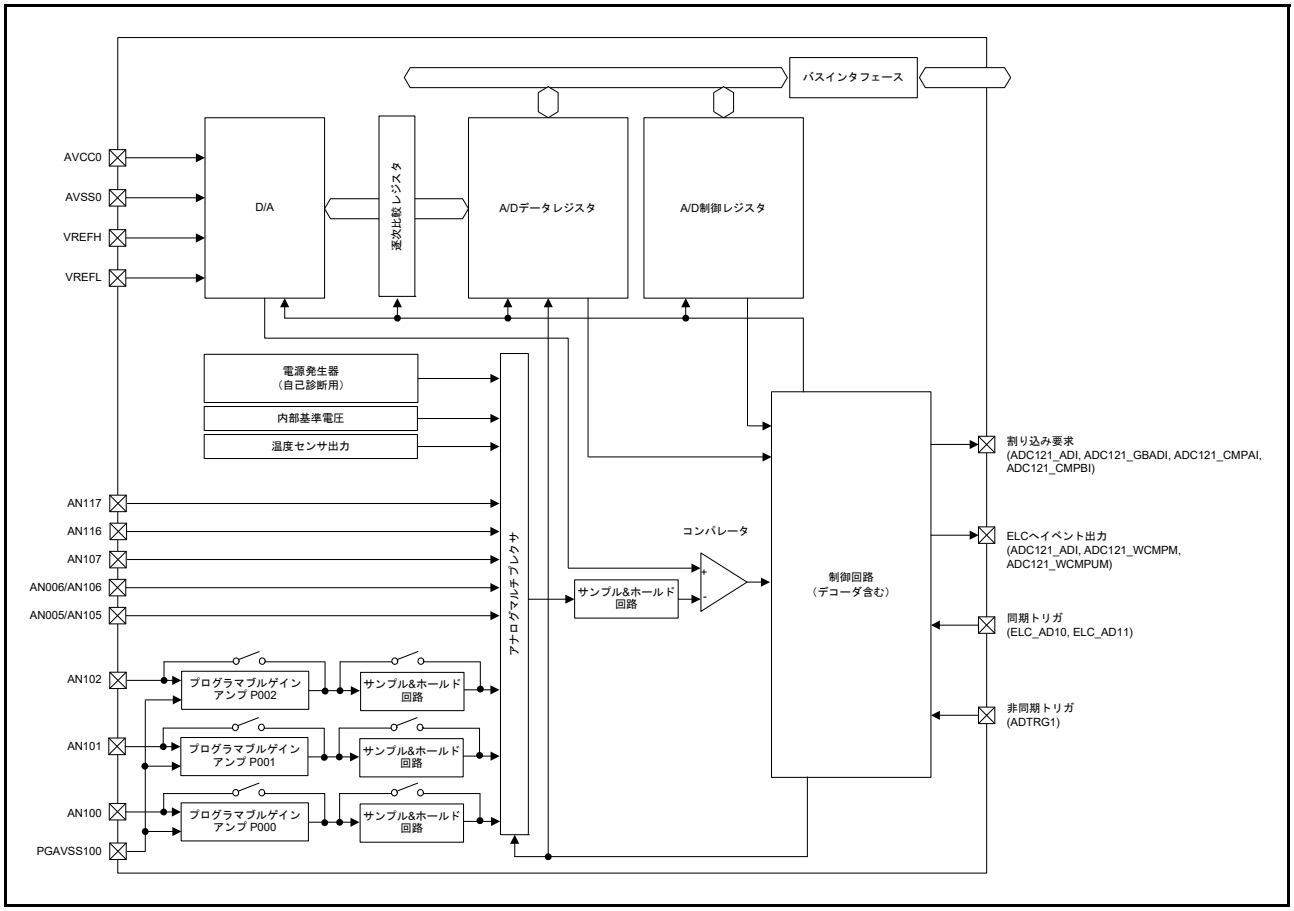


図 42.2 ADC12（ユニット 1）のブロック図

表 42.3　　ADC12の入出力端子

ユニット	端子名	入出力	機能
ユニット0	AVCC0	入力	アナログ部の電源端子 （ADC12、DAC12、TSN、およびコンパレータを使用しない場合は、VCCに接続してください）
	AVSS0	入力	アナログ部の電源グランド端子 （ADC12、DAC12、TSN、およびコンパレータを使用しない場合は、VSSに接続してください）
	VREFH0	入力	基準電源端子
	VREFL0	入力	基準電源グランド端子
	AN000～AN003、 AN005（注1）、AN006（注1）、 AN007、AN016～AN018、 AN020	入力	アナログ入力端子0～3、5～7、16～18、20
	ADTRG0	入力	A/D変換開始のための外部トリガ入力端子、アクティブLow
	PGAVSS000	入力	差動入力端子
ユニット1	AVCC0	入力	アナログ部の電源端子 （ADC12、DAC12、TSN、およびコンパレータを使用しない場合は、VCCに接続してください）
	AVSS0	入力	アナログ部の電源グランド端子 （ADC12、DAC12、TSN、およびコンパレータを使用しない場合は、VSSに接続してください）
	VREFH	入力	ADC12（ユニット1）およびDACの基準電源端子
	VRELF	入力	ADC12（ユニット1）およびDACの基準電源グランド端子
	AN100～AN102、 AN105（注1）、AN106（注1）、 AN107、AN116、AN117	入力	アナログ入力端子0～2、5～7、16、17
	ADTRG1	入力	A/D変換開始のための外部トリガ入力端子、アクティブLow
	PGAVSS100	入力	差動入力端子

注 1.　　AN005 と AN105、および AN006 と AN106 はそれぞれ同じポートに割り当てられています。

42.2　レジスタの説明

42.2.1　A/D データレジスタ y（ADDRy）、A/D データ 2 重化レジスタ（ADDBLDR）、A/D データ 2 重化レジスタ A（ADDBLDRA）、A/D データ 2 重化レジスタ B（ADDBLDRB）、A/D 温度センサデータレジスタ（ADTSDR）、A/D 内部基準電圧データレジスタ（ADOCDR）

データレジスタには以下の種類があります。

- ADDRy レジスタ（y = 0 ～ 3、5 ～ 7、16 ～ 18、20（ユニット 0）、y = 0 ～ 2、5 ～ 7、16、17（ユニット 1））：A/D 変換結果を格納する 16 ビットの読み出し専用レジスタ
- ADDBLDR レジスタ：ダブルトリガモード選択時の 2 回目のトリガによって A/D 変換した結果を格納する 16 ビットの読み出し専用レジスタ
- ADDBLDRA および ADDBLDRB レジスタ：ダブルトリガモード選択時、拡張動作中のトリガによって A/D 変換した結果を格納する 16 ビットの読み出し専用レジスタ
- ADTSDR レジスタ：温度センサ出力を A/D 変換した結果を格納する 16 ビットの読み出し専用レジスタ
- ADOCDR レジスタ：内部基準電圧を A/D 変換した結果を格納する 16 ビットの読み出し専用レジスタ

これらのレジスタは、下記の条件によりデータフォーマットが異なります。

- A/D データレジスタフォーマット選択ビット（ADCER.ADRFMT）の設定値（右詰め、または左詰め）
- A/D 変換精度指定ビット（ADCER.ADPRC[1:0]）の設定値（8 ビット、10 ビット、または 12 ビット

以下では、各モードにおける条件ごとのデータフォーマットについて説明します。

(1)　A/D 変換値加算／平均モードを非選択とした場合

以下に、条件ごとのデータフォーマットを示します。

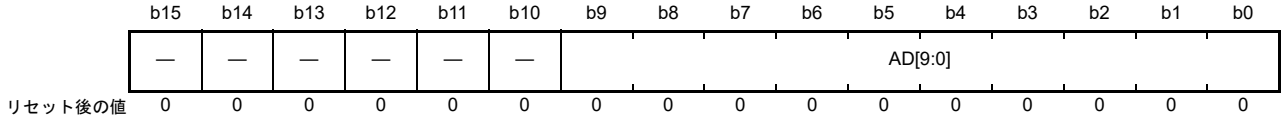
右詰めのフォーマット、12 ビット精度に設定した場合

アドレス　ADC120.ADDR0 4005 C020h～ADC120.ADDR3 4005 C026h, ADC120.ADDR5 4005 C02Ah～ADC120.ADDR7 4005 C02Eh,
ADC120.ADDR16 4005 C040h～ADC120.ADDR18 4005 C044h, ADC120.ADDR20 4005 C048h
ADC120.ADDBLDR 4005 C018h, ADC120.ADDBLDRA 4005 C084h, ADC120.ADDBLDRB 4005 C086h,
ADC120.ADTSDR 4005 C01Ah, ADC120.ADOCDR 4005 C01Ch,
ADC121.ADDR0 4005 C220h～ADC121.ADDR2 4005 C224h,
ADC121.ADDR5 4005 C22Ah～ADC121.ADDR7 4005 C22Eh,
ADC121.ADDR16 4005 C240h, ADC121.ADDR17 4005 C242h,
ADC121.ADDBLDR 4005 C218h, ADC121.ADDBLDRA 4005 C284h, ADC121.ADDBLDRB 4005 C286h,
ADC121.ADTSDR 4005 C21Ah, ADC121.ADOCDR 4005 C21Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	AD[11:0]											
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

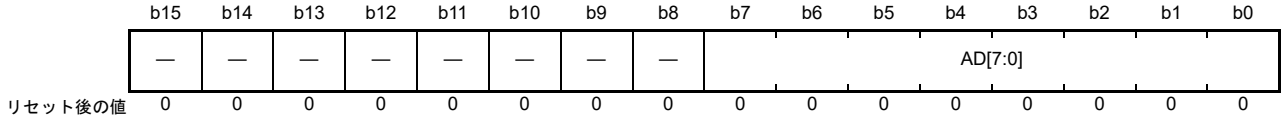
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b11-b0	AD[11:0]	変換値11～0	12ビットA/D変換値	R
b15-b12	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

右詰めのフォーマット、10 ビット精度に設定した場合



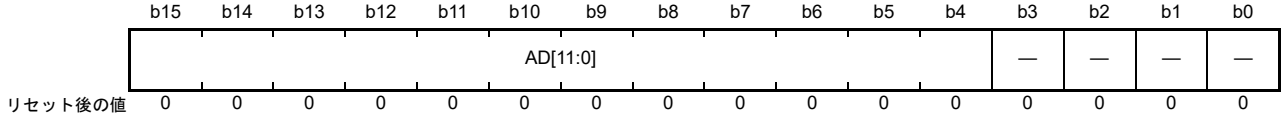
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b9-b0	AD[9:0]	変換値9～0	10ビットA/D変換値	R
b15-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

右詰めのフォーマット、8 ビット精度に設定した場合



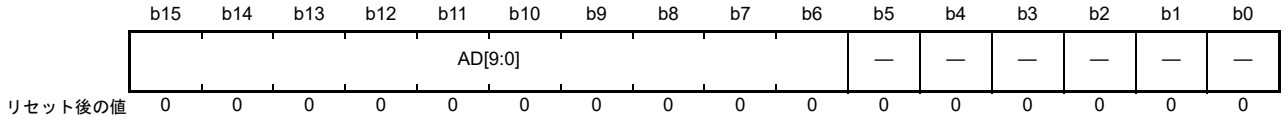
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	AD[7:0]	変換値7～0	8ビットA/D変換値	R
b15-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

左詰めのフォーマット、12 ビット精度に設定した場合



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b15-b4	AD[11:0]	変換値11～0	12ビットA/D変換値	R

左詰めのフォーマット、10 ビット精度に設定した場合



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b15-b6	AD[9:0]	変換値9～0	10ビットA/D変換値	R

左詰めのフォーマット、8 ビット精度に設定した場合



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b15-b8	AD[7:0]	変換値7～0	8ビットA/D変換値	R

(2)　A/D 変換値平均モードを選択した場合

A/D 変換値加算モードで 2 回または 4 回を指定した場合、A/D 変換値平均モードを選択できます。A/D 変換値平均モードを選択した場合、このレジスタは指定したチャネルの A/D 変換値を平均した値を示します。通常の A/D 変換と同様に A/D データレジスタフォーマット選択ビットの設定に従い、A/D データレジスタに値が格納されます。

(3)　A/D 変換値加算モードを選択した場合

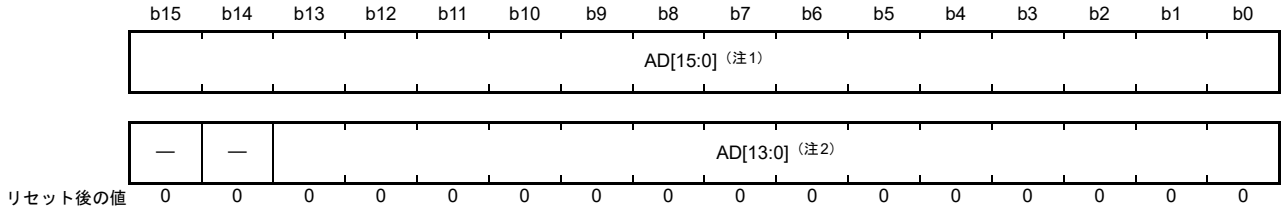
8、10、または 12 ビット精度（ADPRC ビットの設定値）の場合、A/D 変換値加算で 1 回、2 回、3 回、または 4 回を選択できます。12 ビット精度を選択した場合に限り、加算モードで 16 回を選択することもできます。加算モードでは、本レジスタは特定チャネルの A/D 変換値を加算した結果の値を示します。A/D 変換結果の合計を、指定した変換精度のビット数に 2 ビット分拡張したデータとして、A/D データレジスタに保持します。通常の A/D 変換と同様に A/D データレジスタフォーマット選択ビットの設定に従い、A/D データレジスタに値が格納されます。

加算モードで 1 回、2 回、3 回、または 4 回変換を設定し、8、10、または 12 ビットの精度を指定した場合、変換結果の値を、指定した精度のビット数に 2 ビット分拡張したデータとして A/D データレジスタに保持します。

加算モードで 16 回変換を設定し、12 ビットの精度を指定した場合、変換結果の値を、指定した精度のビット数に 4 ビット分拡張したデータとして A/D データレジスタに保持します。

以下に、条件ごとのデータフォーマットを示します。

右詰めフォーマット、12 ビット精度に設定した場合（A/D 変換値加算モード時）

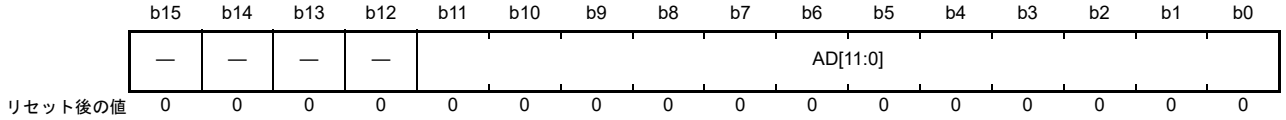


ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	AD[15:0] (注1)	加算結果15～0	16ビットA/D変換値加算結果	R

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b13-b0	AD[13:0] (注2)	加算結果13～0	14ビットA/D変換値加算結果	R
b15-b14	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

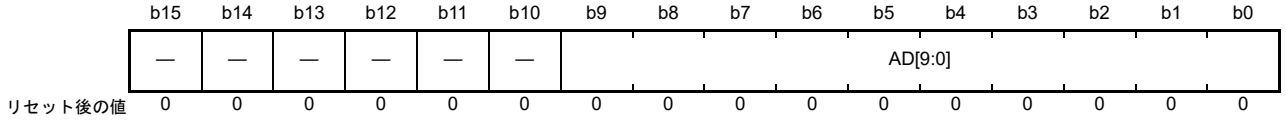
注 1.　A/D 変換値加算モードで 16 回変換の値を指定した場合に使用。
注 2.　A/D 変換値加算モードで 1 回、2 回、3 回、または 4 回変換の値を指定した場合に使用。

右詰めフォーマット、10 ビット精度に設定した場合（A/D 変換値加算モード時）



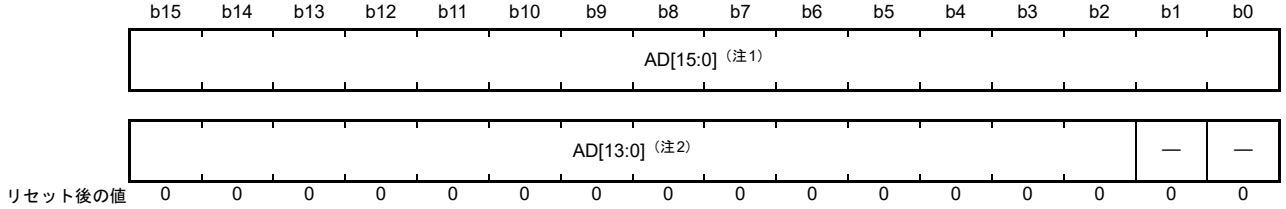
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b11-b0	AD[11:0]	加算結果11～0	12ビットA/D変換値加算結果	R
b15-b12	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

右詰めフォーマット、8 ビット精度に設定した場合（A/D 変換値加算モード時）



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b9-b0	AD[9:0]	加算結果9～0	10ビットA/D変換値加算結果	R
b15-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

左詰めフォーマット、12 ビット精度に設定した場合（A/D 変換値加算モード時）



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	AD[15:0] (注1)	加算結果15～0	16ビットA/D変換値加算結果	R

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b15-b2	AD[13:0] (注2)	加算結果13～0	14ビットA/D変換値加算結果	R

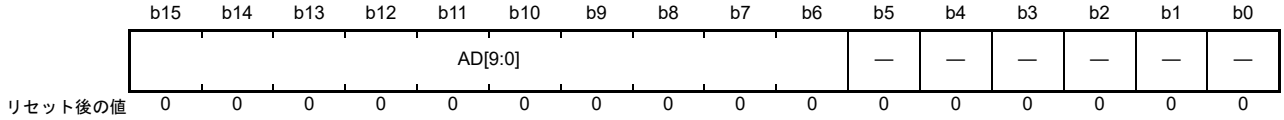
注 1.　A/D 変換値加算モードで 16 回変換の値を指定した場合に使用。
注 2.　A/D 変換値加算モードで 1 回、2 回、3 回、または 4 回変換の値を指定した場合に使用。

左詰めフォーマット、10 ビット精度に設定した場合（A/D 変換値加算モード時）



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b15-b4	AD[11:0]	加算結果11～0	12ビットA/D変換値加算結果	R

左詰めフォーマット、8 ビット精度に設定した場合（A/D 変換値加算モード時）



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b15-b6	AD[9:0]	加算結果9～0	10ビットA/D変換値加算結果	R

42.2.2　A/D 自己診断データレジスタ（ADRD）

ADRD レジスタは、ADC12 の自己診断で A/D 変換した結果を格納する 16 ビットの読み出し専用レジスタです。A/D 変換値を示す AD[11:0] ビットに加えて、自己診断ステータスビット（DIAGST）が付加されています。

このレジスタは、下記の条件によりデータフォーマットが異なります。

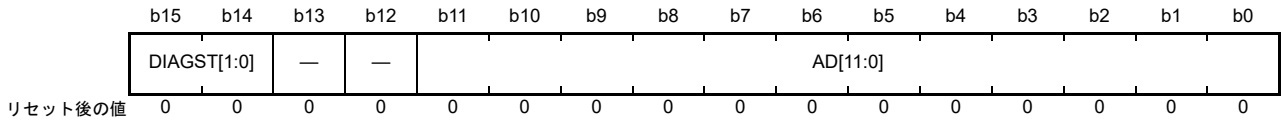
- A/D データレジスタフォーマット選択ビット（ADCER.ADRFMT）の設定値（右詰め、または左詰め）
- A/D 変換精度指定ビット（ADCER.ADPRC[1:0]）の設定値（8 ビット、10 ビット、または 12 ビット）

A/D 自己診断機能には A/D 変換加算モードと A/D 変換平均モードを適用することはできません。自己診断の詳細については、42.2.11　A/D コントロール拡張レジスタ（ADCER）を参照してください。

以下では、各条件のデータフォーマットについて説明します。

右詰めのフォーマット、12 ビット精度に設定した場合

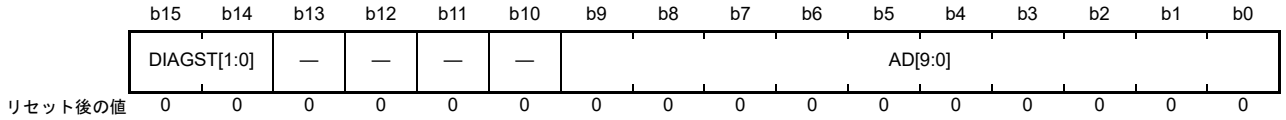
アドレス　ADC120.ADRD 4005 C01Eh, ADC121.ADRD 4005 C21Eh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b11-b0	AD[11:0]	変換値 11～0	12 ビット A/D 変換値	R
b13-b12	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。	R
b15-b14	DIAGST[1:0]	自己診断ステータス	b15 b14 0　0：パワーオン後に自己診断を実行していないことを示す 0　1：0V の電圧値の自己診断を実行したことを示す 1　0：基準電源（注 1）× 1/2 の電圧値の自己診断を実行したことを示す 1　1：基準電源（注 1）の電圧値の自己診断を実行したことを示す 自己診断の詳細については、42.2.11　A/D コントロール拡張レジスタ（ADCER）を参照してください。	R

注 1.　基準電圧はユニット 0 の場合 VREFH0 を、ユニット 1 の場合 VREFH を指します。

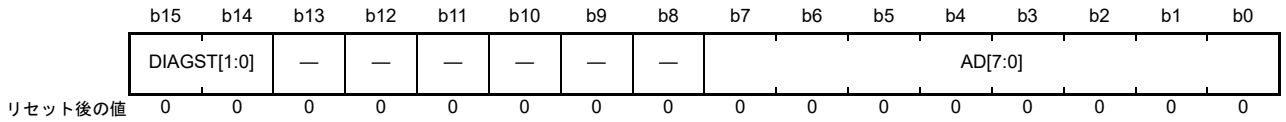
右詰めのフォーマット、10 ビット精度に設定した場合



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b9-b0	AD[9:0]	変換値 9～0	10 ビット A/D 変換値	R
b13-b10	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。	R
b15-b14	DIAGST[1:0]	自己診断ステータス	b15 b14 0　0：パワーオン後に自己診断を実行していないことを示す 0　1：0V の電圧値の自己診断を実行したことを示す 1　0：基準電源（注 1）× 1/2 の電圧値の自己診断を実行したことを示す 1　1：基準電源（注 1）の電圧値の自己診断を実行したことを示す 自己診断の詳細については、42.2.11　A/D コントロール拡張レジスタ（ADCER）を参照してください。	R

注 1.　基準電圧はユニット 0 の場合 VREFH0 を、ユニット 1 の場合 VREFH を指します。

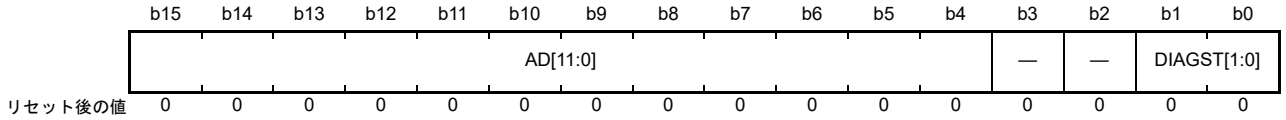
右詰めのフォーマット、8 ビット精度に設定した場合



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	AD[7:0]	変換値7～0	8ビットA/D変換値	R
b13-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b15-b14	DIAGST[1:0]	自己診断ステータス	b15 b14 0 0：パワーオン後に自己診断を実行していないことを示す 0 1：0Vの電圧値の自己診断を実行したことを示す 1 0：基準電源（注1）× 1/2の電圧値の自己診断を実行したことを示す 1 1：基準電源（注1）の電圧値の自己診断を実行したことを示す 自己診断の詳細については、42.2.11 A/Dコントロール拡張レジスタ（ADCER）を参照してください。	R

注 1.　基準電圧はユニット 0 の場合 VREFH0 を、ユニット 1 の場合 VREFH を指します。

左詰めのフォーマット、12 ビット精度に設定した場合



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	DIAGST[1:0]	自己診断ステータス	b1 b0 0 0：パワーオン後に自己診断を実行していないことを示す 0 1：0Vの電圧値の自己診断を実行したことを示す 1 0：基準電源（注1）× 1/2の電圧値の自己診断を実行したことを示す 1 1：基準電源（注1）の電圧値の自己診断を実行したことを示す 自己診断の詳細については、42.2.11 A/Dコントロール拡張レジスタ（ADCER）を参照してください。	R
b3-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b15-b4	AD[11:0]	変換値11～0	12ビットA/D変換値	R

注 1.　基準電圧はユニット 0 の場合 VREFH0 を、ユニット 1 の場合 VREFH を指します。

左詰めのフォーマット、10 ビット精度に設定した場合

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	AD[9:0]										—	—	—	—	DIAGST[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	DIAGST[1:0]	自己診断ステータス	b1　b0 0　0：パワーオン後に自己診断を実行していないことを示す 0　1：0Vの電圧値の自己診断を実行したことを示す 1　0：基準電源（注1）× 1/2の電圧値の自己診断を実行したことを示す 1　1：基準電源（注1）の電圧値の自己診断を実行したことを示す 自己診断の詳細については、42.2.11　A/Dコントロール拡張レジスタ（ADCER）を参照してください。	R
b5-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b15-b6	AD[9:0]	変換値9～0	10ビットA/D変換値	R

注 1.　基準電圧はユニット 0 の場合 VREFH0 を、ユニット 1 の場合 VREFH を指します。

左詰めのフォーマット、8 ビット精度に設定した場合

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	AD[7:0]								—	—	—	—	—	—	DIAGST[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	DIAGST[1:0]	自己診断ステータス	b1　b0 0　0：パワーオン後に自己診断を実行していないことを示す 0　1：0Vの電圧値の自己診断を実行したことを示す 1　0：基準電源（注1）× 1/2の電圧値の自己診断を実行したことを示す 1　1：基準電源（注1）の電圧値の自己診断を実行したことを示す 自己診断の詳細については、42.2.11　A/Dコントロール拡張レジスタ（ADCER）を参照してください。	R
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b15-b8	AD[7:0]	変換値7～0	8ビットA/D変換値	R

注 1.　基準電圧はユニット 0 の場合 VREFH0 を、ユニット 1 の場合 VREFH を指します。

42.2.3 A/D コントロールレジスタ（ADCSR）

アドレス　ADC120.ADCSR 4005 C000h, ADC121.ADCSR 4005 C200h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ADST	ADCS[1:0]		—			TRGE	EXTRG	DBLE	GBADIE	—	DBLANS[4:0]				
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	DBLANS[4:0]	ダブルトリガ対象チャネル選択	ダブルトリガ対象のアナログ入力を1チャネル選択します。 ダブルトリガモード時のみ有効です。	R/W
b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6	GBADIE	グループBスキャン終了割り込みおよびELCイベント許可	0：グループBのスキャン終了後にADC12i_GBADI割り込み発生を禁止 1：グループBのスキャン終了後にADC12i_GBADI割り込み発生を許可 グループBのスキャンは、グループスキャンモードでのみ実行できます。	R/W
b7	DBLE	ダブルトリガモード選択	0：ダブルトリガモード非選択 1：ダブルトリガモード選択	R/W
b8	EXTRG	トリガ選択（注1）	0：同期トリガ（ELC）によりA/D変換開始 1：非同期トリガ（ADTRGi）によりA/D変換開始	R/W
b9	TRGE	トリガ開始許可	0：同期、非同期トリガによるA/D変換の開始を禁止 1：同期、非同期トリガによるA/D変換の開始を許可	R/W
b12-b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b14-b13	ADCS[1:0]	スキャンモード選択	b14 b13 0 0：シングルスキャンモード 0 1：グループスキャンモード 1 0：連続スキャンモード 1 1：設定禁止	R/W
b15	ADST	A/D変換スタート	0：A/D変換停止 1：A/D変換開始	R/W

i が 0 の場合はユニット 0 を、i が 1 の場合はユニット 1 を表します。

注 1.　外部端子（非同期トリガ）で A/D 変換を起動する方法：
外部端子（ADTRG0（ユニット 0）、ADTRG1（ユニット 1））に High を入力した状態で、ADCSR.TRGE ビットと ADCSR.EXTRG ビットをどちらも 1 にし、これらの外部端子を Low にします。この設定の場合、ADTRG0（ユニット 0）、ADTRG1（ユニット 1）の立ち下がりエッジを検出すると、スキャン変換を開始します。この構成では、Low 入力のパルス幅は 1.5PCLKB クロック以上必要です。

DBLANS[4:0] ビット（ダブルトリガ対象チャネル選択）

ダブルトリガモードで A/D 変換データを 2 重化する 1 チャネルを選択します。指定したアナログ入力チャネルを、1 回目の A/D 変換開始トリガで変換した結果が A/D データレジスタ y に格納され、2 回目の A/D 変換開始トリガで変換した結果が A/D データ 2 重化レジスタに格納されます。表 42.4 にダブルトリガ対象チャネルの選択表を示します。

A/D 変換値加算／平均モードは、ダブルトリガモードで、ADADS0 および ADADS1 レジスタを使用して DBLANS[4:0] ビットで選択したチャネル用に使用することが可能です。ダブルトリガモードでは、ADANSA0 および ADANSA1 レジスタで選択したチャネルは無効となり、DBLANS[4:0] ビットで選択したチャネルが代わりに A/D 変換されます。

グループスキャンモードでダブルトリガモードを使用する場合、ダブルトリガ制御はグループ A のみに適用され、グループ B には適用されません。そのため、ダブルトリガモードでもグループ B に対しては、マルチチャネルアナログ入力、温度センサ出力、内部基準電圧を選択できます。

DBLANS[4:0] ビットの設定は、ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。この設定を ADST ビットへの 1 書き込みと同時に行わないでください。

ダブルトリガモードが選択されている状態で A/D 変換値加算／平均モードに遷移するには、DBLANS[4:0] ビットで選択したチャネルを ADADS0、ADADS1 レジスタに設定してください。

表 42.4　　DBLANS ビット設定値とダブルトリガ対象チャネルの関係

ユニット 0		ユニット 1	
DBLANS[4:0]	2 重化チャネル	DBLANS[4:0]	2 重化チャネル
00000	AN000	00000	AN100
00001	AN001	00001	AN101
00010	AN002	00010	AN102
00011	AN003	00011	—
00100	—	00100	—
00101	AN005	00101	AN105
00110	AN006	00110	AN106
00111	AN007	00111	AN107

ユニット 0		ユニット 1	
DBLANS[4:0]	2 重化チャネル	DBLANS[4:0]	2 重化チャネル
10000	AN016	10000	AN116
10001	AN017	10001	AN117
10010	AN018	10010	—
10011	—	10011	—
10100	AN020	10100	—

注 .　自己診断機能、温度センサ出力、および内部基準電圧の A/D 変換データは、ダブルトリガモードで使用できません。表 42.4 に示す設定以外は使用しないでください。

GBADIE ビット（グループ B スキャン終了割り込みおよび ELC イベント許可）

グループスキャンモードでのグループ B のスキャン終了割り込み（ADC12i_GBADI（i = 0, 1））の発生を許可／禁止します。

DBLE ビット（ダブルトリガモード選択）

ダブルトリガモードの選択／非選択を指定します。ダブルトリガモードは、ADSTRGR.TRSA[5:0] で選択された同期トリガ（ELC）のみで動作できます。

ダブルトリガは以下のように動作します。

1. ADC12i_ADI（i = 0, 1）を 1 回目の変換終了時は出力せず、2 回目の変換終了時に出力します。
2. 1 回目のトリガで開始した 2 重化チャネル（DBLANS[4:0] で選択）の A/D 変換結果は、A/D データレジスタ y に格納され、2 回目のトリガで開始した変換結果は、A/D データ 2 重化レジスタに格納されます。

DBLE が設定されている場合（ダブルトリガモードを選択）、ADANSA0 および ADANSA1 レジスタで指定したチャネルは無効です。DBLE を 0 にすると、ダブルトリガモードは非選択となります。DBLE を再度 1 にすると、ダブルトリガモードの動作は、1. および 2. に示した 1 回目のトリガによる最初のスキャンと同じ動作になります。

ダブルトリガモードは、連続スキャンモードで選択しないでください。また、温度センサ出力や内部基準電圧を変換する場合はダブルトリガモードを選択しないでください（グループスキャンモードでのグループ B スキャンは除く）。ダブルトリガモードでは、ソフトウェアトリガを設定できません。DBLE ビットの設定は、必ず ADST ビットを 0 にクリアしてから行ってください。すなわち、DBLE ビットの設定を ADST ビットへの 1 書き込みと同時に行わないでください。

EXTRG ビット（トリガ選択）

A/D 変換を起動するトリガを同期トリガと非同期トリガのどちらにするかを選択します。

TRGE ビット（トリガ開始許可）

同期トリガ、非同期トリガによる A/D 変換の起動を許可／禁止します。グループスキャンモード時は本ビットを 1 にしてください。

ADCS[1:0] ビット（スキャンモード選択）

スキャンモードを選択します。

シングルスキャンモードは、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択した最大 11 チャネル（ユニット 0）/ 8 チャネル（ユニット 1）のアナログ入力を若いチャネル番号順に A/D 変換を実行します。選択したすべてのチャネルの A/D 変換が終了するとスキャン変換を停止します。温度センサ出力または内部基準電圧を選択した場合、チャネルのアナログ入力の A/D 変換の後に温度センサ出力、内部基準電圧の順に A/D 変換されます。

連続スキャンモードは、ADCSR.ADST ビットが 1 の間、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択したアナログ入力を若いチャネル番号順に A/D 変換を実行し、選択したすべてのチャネルの変換が終了すると最初のチャネルに戻り A/D 変換を継続します。連続スキャン中に ADCSR.ADST ビットを 0 にすると、スキャン中でも A/D 変換を停止します。温度センサ出力または内部基準電圧を選択した場合、チャネルのアナログ入力の A/D 変換の後に温度センサ出力、内部基準電圧の順に A/D 変換されます。

グループスキャンモードは、ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットで選択した同期トリガ（ELC）によりスキャンを開始します。ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択した最大チャネル数までのアナログ入力（グループ A）を若いチャネル番号順に A/D 変換を実行します。選択したすべてのチャネルの A/D 変換が終了すると A/D 変換を停止します。また、同じトリガで、ADANSB0、ADANSB1 レジスタで選択した最大チャネル数までのアナログ入力（グループ B）を若いチャネル番号順に A/D 変換を実行します。選択したすべてのチャネルの A/D 変換が終了すると A/D 変換を停止します。このとき、グループ A 側とグループ B 側の変換が重なった場合、変換制御は別々に制御することができません。この場合は、A/D グループスキャン優先コントロールレジスタのグループ A 優先制御設定ビット（ADGSPCR.PGS）を 1 にして、変換優先順位を A 側に設定してください。温度センサ出力または内部基準電圧を選択した場合、チャネルのアナログ入力の A/D 変換の後に温度センサ出力、内部基準電圧の順に A/D 変換されます。

グループスキャンモード時は、グループ A とグループ B で別々のチャネルとトリガを選択してください。ADCS[1:0] ビットの設定は、ADCS ビットの 0 クリア後に行ってください。すなわち、ADST ビットへの 1 書き込みと ADCS[1:0] ビットの設定を同時に行うことは禁止されています。

表 42.5　　スキャンモード、ダブルトリガモードと A/D 変換対象の選択可否

スキャンモード設定	ダブルトリガモード設定	A/D 変換対象				
		自己診断	アナログ入力（グループ A 含む）	アナログ入力（グループ B）	温度センサ出力	内部基準電圧
シングルスキャン	DBLE = 0	○	○	-	○	○
	DBLE = 1	-	○（1ch のみ）	-	-	-
連続スキャン	DBLE = 0	○	○	-	○	○
	DBLE = 1	-	-	-	-	-
グループスキャン	DBLE = 0	○	○	○	○	○
	DBLE = 1	-	○（1ch のみ）	○	○	○

○：選択可能、—：選択不可能

ADST ビット（A/D 変換スタート）

A/D 変換の開始／停止を制御します。ADST ビットを 1 にする場合は、事前に A/D 変換クロック、変換モード、および変換対象アナログ入力の設定を行ってください。

［1 になる条件］

- ソフトウェアで 1 を書き込んだとき
- ADCSR.EXTRG ビットを 0、ADCSR.TRGE ビットを 1 にし、ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットで選択した同期トリガ（ELC）を検出したとき

- グループスキャンモードでADCSR.TRGEビットを1にし、ADSTRGR.TRSB[5:0]ビットで選択した同期トリガ（ELC）を検出したとき
- ADCSR.TRGE ビットと ADCSR.EXTRG ビットを 1、ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットを 000000b にし、非同期トリガを検出したとき
- グループ A 優先制御動作モード有効時（ADCSR.ADCS[1:0] ビット = 01b かつ ADGSPCR.PGS ビット = 1）に、ADGSPCR.GBRP ビットを 1 にして、グループ B の A/D 変換を開始したとき

［0 になる条件］

- ソフトウェアで 0 を書き込んだとき
- シングルスキャンモードで、選択したすべてのチャネル、温度センサ出力、または内部基準電圧の A/D 変換が終了したとき
- グループスキャンモードでグループ A のスキャンが終了したとき
- グループスキャンモードでグループ B のスキャンが終了したとき
- グループ A 優先制御動作モード有効時（ADCSR.ADCS[1:0] ビット = 01b かつ ADGSPCR.PGS ビット = 1）に、ADGSPCR.GBRSCN ビットを 1 にして、グループ B のスキャンが終了したとき

注 . グループ A 優先制御動作モード有効時（ADCSR.ADCS[1:0] ビット = 01b かつ ADGSPCR.PGS ビット = 1）、ADST ビットを 1 にしないでください。

注 . グループ A 優先制御動作モード有効時（ADCSR.ADCS[1:0] ビット = 01b かつ ADGSPCR.PGS ビット = 1）、ADST ビットを 0 にしないでください。A/D 変換を強制停止させる場合、ADST ビットのクリア手順に従ってください。

注 . グループ優先動作モード有効時（ADCSR.ADCS[1:0] = 01b かつ ADGSPCR.PGS = 1）にシングルスキャン連続起動機能が使用される（ADGSPCR.GBRP = 1）場合、ADST ビットは 1 に保持されます。

42.2.4 A/D チャネル選択レジスタ A0（ADANSA0）

アドレス　ADC120.ADANSA0 4005 C004h, ADC121.ADANSA0 4005 C204h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	ANSA07	ANSA06	ANSA05	—	ANSA03	ANSA02	ANSA01	ANSA00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	ANSA03～ANSA00	A/D変換チャネル選択	0：対応する入力チャネルを非選択 1：対応する入力チャネルを選択	R/W
b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7-b5	ANSA07～ANSA05	A/D変換チャネル選択	0：対応する入力チャネルを非選択 1：対応する入力チャネルを選択	R/W
b15-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

ANSAn ビット（n = 00 ～ 07）（A/D 変換チャネル選択）

A/D 変換を行うチャネルのアナログ入力 AN000 ～ AN003 と AN005 ～ AN007（ユニット 0）、および AN100 ～ AN102 と AN105 ～ AN107（ユニット 1）の選択／非選択を制御します。チャネルおよびチャネル数は任意に設定可能です。ユニット 0 では、ANSA00 ビットが AN000 に、ANSA07 ビットが AN007 に対応します。ユニット 1 では、ANSA00 ビットが AN100 に、ANSA07 ビットが AN107 に対応します。

ダブルトリガモード時は、ADCSR.DBLANS[4:0] ビットで選択した 1 チャネルがグループ A の選択チャネルとなり、ADANSA0 レジスタの設定は無効になります。

グループスキャンモード時は、A/D チャネル選択レジスタ B0（ADANSB0）、および A/D チャネル選択レジスタ B1（ADANSB1）で指定したチャネルを設定しないでください。ADANSA0 レジスタの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

42.2.5 A/D チャネル選択レジスタ A1（ADANSA1）

アドレス　ADC120.ADANSA1 4005 C006h, ADC121.ADANSA1 4005 C206h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ANSA20	—	ANSA18	ANSA17	ANSA16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	ANSA18～ANSA16	A/D変換チャネル選択	0：対応する入力チャネルを非選択 1：対応する入力チャネルを選択	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	ANSA20	A/D変換チャネル選択	0：対応する入力チャネルを非選択 1：対応する入力チャネルを選択	R/W
b15-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

ANSAn ビット（n = 16 ～ 18、20）（A/D 変換チャネル選択）

A/D 変換を行うチャネルのアナログ入力 AN016 ～ AN018 と AN020（ユニット 0）、および AN116 ～ AN117（ユニット 1）の選択／非選択を制御します。チャネルおよびチャネル数は任意に設定可能です。ユニット 0 では、ANSA16 ビットが AN016 に、ANSA20 ビットが AN020 に対応します。ユニット 1 では、ANSA16 ビットが AN116 に、ANSA17 ビットが AN117 に対応します。

ダブルトリガモード時は、ADCSR.DBLANS[4:0] ビットで選択した 1 チャネルがグループ A の選択チャネルとなり、ANSA1[15:0] ビットの設定は無効になります。

グループスキャンモード時は、A/D チャネル選択レジスタ B0（ADANSB0）、および A/D チャネル選択レジスタ B1（ADANSB1）で指定したチャネルを選択しないでください。ADANSA1 レジスタの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

42.2.6　A/D チャネル選択レジスタ B0（ADANSB0）

アドレス　ADC120.ADANSB0 4005 C014h, ADC121.ADANSB0 4005 C214h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	ANSB07	ANSB06	ANSB05	—	ANSB03	ANSB02	ANSB01	ANSB00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	ANSB03～ANSB00	A/D変換チャネル選択	0：対応する入力チャネルを非選択 1：対応する入力チャネルを選択	R/W
b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7-b5	ANSB07～ANSB05	A/D変換チャネル選択	0：対応する入力チャネルを非選択 1：対応する入力チャネルを選択	R/W
b15-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

ANSBn ビット（n = 00 ～ 03、05 ～ 07）（A/D 変換チャネル選択）

グループスキャンモード時にグループ B で A/D 変換を行うチャネルのアナログ入力 AN000 ～ AN003 と AN005 ～ AN007（ユニット 0）、および AN100 ～ AN102 と AN105 ～ AN107（ユニット 1）の選択を行います。ADANSB0 レジスタはグループスキャンモードでのみ使用され、他のスキャンモードでは使用しません。選択するチャネルおよびチャネル数は、グループ A で指定したチャネル（ADANSA0 および ADANSA1 レジスタ、またはダブルトリガモードの場合は ADCSR.DBLANS[4:0] で選択したグループ A に対応しているチャネル）以外から設定します。

ユニット 0 では、ANSB00 ビットが AN000 に、ANSB07 ビットが AN007 に対応します。ユニット 1 では、ANSB00 ビットが AN100 に、ANSB07 ビットが AN107 に対応します。ADANSB0 レジスタの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

42.2.7　A/D チャネル選択レジスタ B1（ADANSB1）

アドレス　ADC120.ADANSB1 4005 C016h, ADC121.ADANSB1 4005 C216h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ANSB20	—	ANSB18	ANSB17	ANSB16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	ANSB18～ANSB16	A/D変換チャネル選択	0：対応する入力チャネルを非選択 1：対応する入力チャネルを選択	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	ANSB20	A/D変換チャネル選択	0：対応する入力チャネルを非選択 1：対応する入力チャネルを選択	R/W
b15-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

ANSBn ビット（n = 16 ～ 20）（A/D 変換チャネル選択）

グループスキャンモード時にグループ B で A/D 変換を行うチャネルのアナログ入力 AN016 ～ AN018、AN020（ユニット 0）、および AN116 ～ AN117（ユニット 1）の選択を行います。ADANSB1 レジスタは他のスキャンモードでは使用しません。選択するチャネルおよびチャネル数は、グループ A で指定したチャネル（ADANSA0 および ADANSA1 レジスタ、またはダブルトリガモードの場合は ADCSR.DBLANS[4:0] で選択したグループ A に対応しているチャネル）以外から設定します。

ユニット 0 では、ANSB16 ビットが AN016 に、ANSB20 ビットが AN020 に対応します。ユニット 1 では、ANSB16 ビットが AN116 に、ANSB17 ビットが AN117 に対応します。ADANSB1 レジスタの設定は、ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

42.2.8　A/D 変換値加算／平均チャネル選択レジスタ 0（ADADS0）

アドレス　ADC120.ADADS0 4005 C008h, ADC121.ADADS0 4005 C208h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	ADS07	ADS06	ADS05	—	ADS03	ADS02	ADS01	ADS00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	ADS03～ADS00	A/D 変換値加算／平均チャネル選択	0：対応する入力チャネルを非選択 1：対応する入力チャネルを選択	R/W
b4	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b7-b5	ADS07～ADS05	A/D 変換値加算／平均チャネル選択	0：対応する入力チャネルを非選択 1：対応する入力チャネルを選択	R/W
b15-b8	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

ADSn ビット（n = 00 ～ 03、05 ～ 07）（A/D 変換値加算／平均チャネル選択）

ADANSA0.ANSAn ビット（n = 00 ～ 03、05 ～ 07）、または ADCSR.DBLANS[4:0] ビットと ADANSB0.ANSBn ビット（n = 00 ～ 03、05 ～ 07）で選択した A/D 変換チャネルと同一番号の ADSn ビットを 1 にすると、選択したチャネルのアナログ入力の A/D 変換が ADADC.ADC[2:0] ビットで指定した回数（1 ～ 16 回）分、順次行われます。ADADC.AVEE ビットが 0 の場合は加算した値を、ADADC.AVEE ビットが 1 の場合は加算値から平均した値を、A/D データレジスタに格納します。加算／平均モードが非選択の A/D 変換チャネルは、通常の 1 回変換を実行し、A/D データレジスタに変換結果を格納します。

ユニット 0 では、ADS00 ビットが AN000 に、ADS07 ビットが AN007 に対応します。ユニット 1 では、ADS00 ビットが AN100 に、ADS07 ビットが AN107 に対応します。

ADADS0 レジスタのビット設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

42.2.9　A/D 変換値加算／平均チャネル選択レジスタ 1（ADADS1）

アドレス　ADC120.ADADS1 4005 C00Ah, ADC121.ADADS1 4005 C20Ah

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ADS20	—	ADS18	ADS17	ADS16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	ADS18～ADS16	A/D 変換値加算／平均チャネル選択	0：対応する入力チャネルを非選択 1：対応する入力チャネルを選択	R/W
b3	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W
b4	ADS20	A/D 変換値加算／平均チャネル選択	0：対応する入力チャネルを非選択 1：対応する入力チャネルを選択	R/W
b15-b5	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

ADSn ビット（n = 16 ～ 18、20）（A/D 変換値加算／平均チャネル選択）

ADANSA1.ANSAn ビット（n = 16 ～ 18、20）、または ADCSR.DBLANS[4:0] ビットと ADANSB1.ANSBn ビット（n = 16 ～ 18、20）で選択した A/D 変換チャネルと同一番号の ADSn ビットを 1 にすると、ADADC.ADC[2:0] ビットで指定した回数（1 ～ 16 回）分、選択したチャネルのアナログ入力の A/D 変換が連続して行われます。ADADC.AVEE ビットが 0 の場合、加算（積算）した値を A/D データレジスタに格納します。ADADC.AVEE ビットが 1 の場合は、加算値から平均した値を A/D データレジスタに格納します。加算／平均モードが非選択の A/D 変換チャネルは、通常の 1 回変換を実行し、A/D データレジスタに値を格納します。

ユニット 0 では、ADS16 ビットが AN016 に、ADS20 ビットが AN020 に対応します。ユニット 1 では、ADS16 ビットが AN116 に、ADS17 ビットが AN117 に対応します。ADADS1 レジスタの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

図 42.3 に、ADADS0.ADS02 および ADS06 ビットを 1 にしたときのスキャン動作シーケンスを示します。

この例では、連続スキャンモード（ADCSR.ADCS[1:0] = 10b）で、加算モードを選択（ADADS.AVEE = 0）、変換回数は 4 回に設定（ADADC.ADC[1:0] = 11b）して、AN000 ～ AN003 と AN005 ～ AN007 チャネルが選択（ADANSA0.ANSA0[15:0] = 00EFh）されています。AN000 から変換を開始します。AN002 の変換は 4 回連続変換し、加算（積算）値を A/D データレジスタ ADDR2 に返します。次に、AN003 の変換を開始して、AN007 の変換は 4 回連続変換し、加算（積算）値を A/D データレジスタ ADDR7 に返します。AN007 の変換後、再度 AN000 から同じシーケンスで動作します。

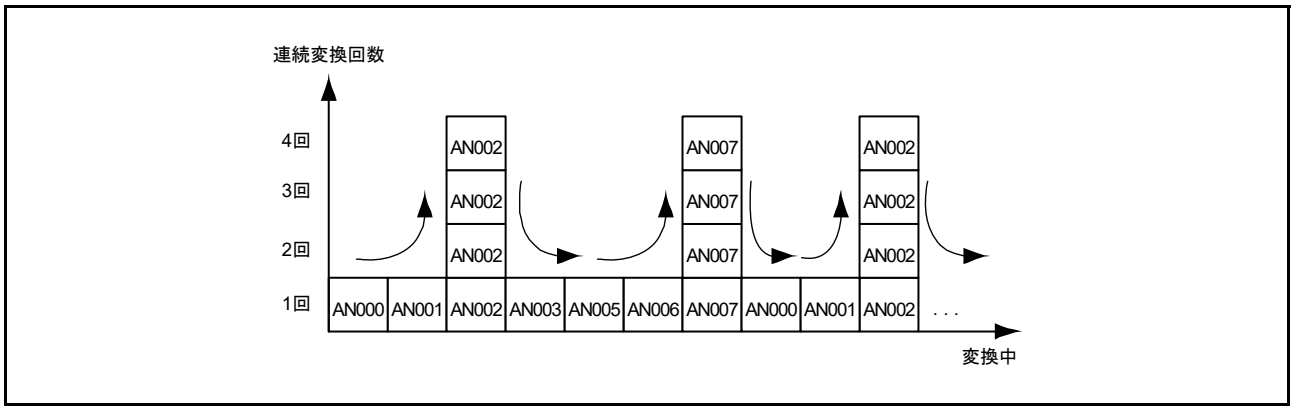


図 42.3　ADADC.ADC[2:0] = 011b、ADADS0.ADS02 = 1、ADADS0.ADS07 = 1 選択時のスキャン変換シーケンス

42.2.10　A/D 変換値加算／平均回数選択レジスタ（ADADC）

アドレス　ADC120.ADADC 4005 C00Ch, ADC121.ADADC 4005 C20Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	AVEE	—	—	—	—	ADC[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	ADC[2:0]	回数選択	b2　b0 0　0　0：1回変換（加算なし。通常変換と同じ） 0　0　1：2回変換（1回加算を行う） 0　1　0：3回変換（2回加算を行う） 0　1　1：4回変換（3回加算を行う） 1　0　1：16回変換（15回加算を行う） 上記以外は設定しないでください。	R/W
b6-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	AVEE	平均モードイネーブル	0：平均モードを禁止（注1） 1：平均モードを許可（注2）	R/W

注 1.　ADADC.AVEE ビットを 0 にして平均モードを非選択にする場合、加算回数は、1 回、2 回、3 回、4 回、または 16 回変換に設定してください。16 回変換は 12 ビット精度選択時のみ使用できます。

注 2.　ADADC.AVEE ビットを 1 にして平均モードを選択する場合、1 回、2 回、または 4 回変換に設定してください。加算回数は、3 回または 16 回変換（ADC[2:0] = 010b または 101b）に設定しないでください。

ADC[2:0] ビット（回数選択）

ダブルトリガモードでの選択チャネル（ADCSR.DBLANS[4:0] ビットでの選択チャネル）を含む A/D 変換および加算／平均モードが選択されたすべてのチャネルに対して加算回数を設定します。加算回数は、温度センサ出力、内部基準電圧の A/D 変換にも適用されます。

ADADC.AVEE ビットを 1 にして平均モードを選択する場合、3 回変換（ADADC.ADC[2:0] = 010b）に設定しないでください。また、42.2.1 で説明しているように、16 回変換（ADADC.ADC[2:0] = 101b）と変換精度 8 ビットまたは 10 ビット（ADCER.ADPRC[1:0] = 10b または 01b）の設定を組み合わせることは禁止されています。

ADC[2:0] ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。自己診断機能（ADCER.DIAGM = 1）を実施する場合、ADC[2:0] を 000b 以外の値にしないでください。変換精度が 8 または 10 ビット（ADCER.ADPRC[1:0] = 10b または 01b）の場合、ADC[2:0] ビットを 101b にしないでください。

AVEE ビット（平均モードイネーブル）

ダブルトリガモードでの選択チャネル（ADCSR.DBLANS[4:0] ビットでの選択チャネル）を含む A/D 変換および加算／平均モードが選択されたすべてのチャネル、温度センサ出力、内部基準電圧の A/D 変換に対して、加算モードまたは平均モードの選択を行います。

ADADC.AVEE ビットを 1 にして平均モードを選択する場合、3 回変換（ADADC.ADC[2:0] = 010b）に設定しないでください。

AVEE ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

42.2.11　A/D コントロール拡張レジスタ（ADCER）

アドレス　ADC120.ADCER 4005 C00Eh, ADC121.ADCER 4005 C20Eh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ADRFMT	—	—	—	DIAGM	DIAGLD	DIAGVAL[1:0]		—	—	ACE	—	—	ADPRC[1:0]		—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b2-b1	ADPRC[1:0]	A/D変換精度指定	b2 b1 0 0：12ビット精度 0 1：10ビット精度 1 0：8ビット精度 1 1：設定禁止	R/W
b4-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5	ACE	A/Dデータレジスタ自動クリアイネーブル	0：自動クリアを禁止 1：自動クリアを許可	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b9-b8	DIAGVAL[1:0]	自己診断変換電圧選択	b9 b8 0 0：自己診断有効時は設定禁止 0 1：0V 1 0：基準電源の電圧値（注1）× 1/2 1 1：基準電源の電圧値（注1）	R/W
b10	DIAGLD	自己診断モード選択	0：自己診断電圧ローテーションモードを選択 1：自己診断電圧固定モードを選択	R/W
b11	DIAGM	自己診断イネーブル	0：ADC12の自己診断を実行しない 1：ADC12の自己診断を実行する	R/W
b14-b12	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15	ADRFMT	A/Dデータレジスタフォーマット選択	0：A/Dデータレジスタのフォーマットを右詰めにする 1：A/Dデータレジスタのフォーマットを左詰めにする	R/W

注 1.　基準電圧はユニット 0 の場合 VREFH0 を、ユニット 1 の場合 VREFH を指します。

ADPRC[1:0] ビット（A/D 変換精度指定）

A/D 変換精度を、8 ビット、10 ビット、12 ビット精度から選択して設定します。A/D 変換精度を変えた場合、結果レジスタに格納する有効データのビット幅、A/D 変換時間も変わります。詳細は、42.3.6　アナログ入力のサンプリング時間とスキャン変換時間を参照してください。

ADPRC[1:0] ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

ACE ビット（A/D データレジスタ自動クリアイネーブル）

CPU、DTC、または DMAC によって ADDRy、ADRD、ADDBLDR、ADDBLDRA、ADDBLDRB、ADTSDR、または ADOCDR レジスタを読み出した後、当該レジスタの自動クリア（すべて 0）を行うか行わないかを選択します。A/D データレジスタの自動クリアにより各 A/D データレジスタの未更新障害を検出することが可能です。

DIAGVAL[1:0] ビット（自己診断変換電圧選択）

自己診断電圧固定モードでの電圧値を選択します。詳細は、ADCER.DIAGLD ビットの説明を参照してください。

ADCER.DIAGVAL[1:0] ビットが 00b の場合、ADCER.DIAGLD ビットを 1 にして自己診断を実行しないでください。

DIAGLD ビット（自己診断モード選択）

自己診断で変換する 3 つの電圧値をローテーションするか、電圧値を固定するかを選択します。本ビットを 0 にすると、0V →基準電源電圧 × 1/2 →基準電源電圧の順番にローテーションして変換していきます。リセット後、自己診断電圧ローテーションモードを選択した場合は、0V から自己診断を行います。ADCER.DIAGVAL[1:0] ビットで指定した固定電圧は、自己診断電圧固定モード選択時に変換されます。自己診断電圧ローテーションモードでは、スキャン変換が終了しても自己診断電圧は 0V に戻りません。再びスキャン変換を実行すると、前回の続きからローテーションします。固定モードから、ローテーションモードに切り替えた場合は、固定電圧値からローテーションを開始します。

DIAGLD ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

DIAGM ビット（自己診断イネーブル）

自己診断を実施するかしないかを選択します。自己診断は、ADC12 の故障を検出するための機能です。自己診断モードでは、内部で生成する 0V、基準電源電圧 × 1/2、基準電源電圧の 3 つの電圧値のいずれかを変換します。変換が終了すると、A/D 自己診断データレジスタ（ADRD）に変換した電圧の情報と変換結果を格納します。ADRD レジスタをソフトウェアで読み出し、変換結果が正常な範囲内にあるかどうか（値が正常か異常か）を判断します。自己診断は、スキャンごとの最初に 1 回実施され、3 つの電圧値のうち 1 つを A/D 変換します。ダブルトリガモードを設定（ADCSR.DBLE = 1）した場合は、自己診断をしないでください（DIAGM = 0）。グループスキャンモードで自己診断を選択した場合は、グループ A とグループ B でそれぞれ別々に自己診断を実行します。

DIAGM ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

ADRFMT ビット（A/D データレジスタフォーマット選択）

ADDRy、ADDBLDR、ADDBLDRA、ADDBLDRB、ADTSDR、ADOCDR、ADCMPDR0/1、ADWINLLB、ADWINULB、または ADRD レジスタに格納するデータの右詰め／左詰めを選択します。

ADRFMT ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

42.2.12　A/D 変換開始トリガ選択レジスタ（ADSTRGR）

アドレス　ADC120.ADSTRGR 4005 C010h, ADC121.ADSTRGR 4005 C210h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	TRSA[5:0]						—	—	TRSB[5:0]					
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	TRSB[5:0]	グループB用A/D変換開始トリガ選択	グループスキャンモードでグループBのA/D変換開始トリガを選択します。	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b13-b8	TRSA[5:0]	A/D変換開始トリガ選択	シングルスキャンモード、連続モードではA/D変換開始トリガを指定します。グループスキャンモードではグループAのA/D変換開始トリガを選択します。	R/W
b15-b14	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

TRSB[5:0] ビット（グループ B 用 A/D 変換開始トリガ選択）

グループ B で選択したアナログ入力のスキャンを開始するトリガを選択します。TRSB[5:0] ビットはグループスキャンモードでのみ設定が必要なビットで、他のスキャンモードでは使用しません。グループ B のスキャン変換開始トリガには、ソフトウェアトリガと非同期トリガの設定はしないでください。グループスキャンモードでは、TRSB[5:0] ビットを 000000b 以外の値にし、ADCSR.TRGE ビットを 1 にしてください。

グループスキャンモードのグループ A 優先制御時に、ADGSPCR.GBRP ビットを 1 にすることで、グループ B をシングルスキャンモードで連続動作させることができます。ADGSPCR.GBRP ビットを 1 にする場合は、TRSB[5:0] ビットを 3Fh にしてください。変換トリガの発行間隔は、実際のスキャン変換時間（t_{SCAN}）以上となるように設定してください。発行間隔が t_{SCAN} より短い場合は、トリガによる A/D 変換が無効となる場合があります。

A/D 変換開始トリガに 120MHz 動作モジュール（GPT）からのトリガを選択した場合、同期化処理の分だけ遅延が発生します。詳細は、42.3.6　アナログ入力のサンプリング時間とスキャン変換時間を参照してください。

表 42.6 に TRSB[5:0] ビットでの A/D 変換起動要因選択一覧を示します。

表 42.6　TRSB[5:0] ビットでのA/D変換起動要因選択一覧

要因	備考	TRSB[5]	TRSB[4]	TRSB[3]	TRSB[2]	TRSB[1]	TRSB[0]
トリガ要因非選択状態		1	1	1	1	1	1
ELC_ADC00（ユニット0）、ELC_ADC10（ユニット1）	ELC	0	0	1	0	0	1
ELC_ADC01（ユニット0）、ELC_ADC11（ユニット1）	ELC	0	0	1	0	1	0
ELC_ADC00/ELC_ADC01（ユニット0） ELC_ADC10/ELC_ADC11（ユニット1）	ELC	0	0	1	0	1	1

TRSA[5:0] ビット（A/D 変換開始トリガ選択）

シングルスキャンモード、連続スキャンモードでの A/D 変換開始トリガの選択を行います。グループスキャンモードでは、グループ A で選択したアナログ入力のスキャンを開始するトリガを選択します。グループスキャンモードまたはダブルトリガモードでスキャンを行う場合、ソフトウェアトリガと非同期トリガは使用しないでください。

同期トリガ（ELC）を A/D 変換起動要因として使用する場合は、ADCSR.TRGE ビットを 1 にし、かつ ADCSR.EXTRG ビットを 0 にしてください。

非同期トリガ（ADTRGn）を使用する場合は、ADCSR.TRGE ビットを 1 にし、かつ ADCSR.EXTRG ビットを 1 にしてください。

ソフトウェアトリガ（ADCSR.ADST）は、ADCSR.TRGE ビット、ADCSR.EXTRG ビット、TRSA[5:0] ビットの設定値にかかわらず有効です。変換トリガの発行間隔は、実際のスキャン変換時間（t_{SCAN}）以上となるように設定してください。発行間隔が t_{SCAN} より短い場合は、トリガによる A/D 変換が無効となる場合があります。

A/D 変換開始トリガに 120MHz 動作モジュール（GPT）からのトリガを選択した場合、同期化処理の分だけ遅延が発生します。詳細は、42.3.6　アナログ入力のサンプリング時間とスキャン変換時間を参照してください。

表 42.7 に TRSA[5:0] ビットでの A/D 変換起動要因選択一覧を示します。

表 42.7　　TRSA[5:0] ビットでのA/D変換起動要因選択一覧

要因	備考	TRSA[5]	TRSA[4]	TRSA[3]	TRSA[2]	TRSA[1]	TRSA[0]
トリガ要因非選択状態		1	1	1	1	1	1
ADTRGn	トリガ入力端子	0	0	0	0	0	0
ELC_ADC00（ユニット0）、ELC_ADC10（ユニット1）	ELC	0	0	1	0	0	1
ELC_ADC01（ユニット0）、ELC_ADC11（ユニット1）	ELC	0	0	1	0	1	0
ELC_ADC00/ELC_ADC01（ユニット0） ELC_ADC10/ELC_ADC11（ユニット1）	ELC	0	0	1	0	1	1

42.2.13　A/D 変換拡張入力コントロールレジスタ（ADEXICR）

アドレス　ADC120.ADEXICR 4005 C012h, ADC121.ADEXICR 4005 C212h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	OCSB	TSSB	OCSA	TSSA	—	—	—	—	—	—	OCSAD	TSSAD
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TSSAD	温度センサ出力A/D変換値加算／平均モード選択	0：温度センサ出力に対し加算／平均モード非選択 1：温度センサ出力に対し加算／平均モード選択	R/W
b1	OCSAD	内部基準電圧A/D変換値加算／平均モード選択	0：内部基準電圧に対し加算／平均モード非選択 1：内部基準電圧に対し加算／平均モード選択	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b8	TSSA	温度センサ出力A/D変換選択	0：温度センサ出力のA/D変換禁止 1：温度センサ出力のA/D変換許可	R/W
b9	OCSA	内部基準電圧A/D変換選択	0：内部基準電圧のA/D変換禁止 1：内部基準電圧のA/D変換許可	R/W
b10	TSSB	グループB用温度センサ出力A/D変換選択	グループスキャンモードの場合のグループBの選択 0：温度センサ出力のA/D変換禁止 1：温度センサ出力のA/D変換許可	R/W
b11	OCSB	グループB用内部基準電圧A/D変換選択	グループスキャンモードの場合のグループBの選択 0：内部基準電圧のA/D変換禁止 1：内部基準電圧のA/D変換許可	R/W
b15-b12	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

TSSAD ビット（温度センサ出力 A/D 変換値加算／平均モード選択）

TSSAD ビットが 1 の場合、ADADC.ADC[2:0] ビットで設定した回数分、連続して温度センサ出力の A/D 変換が行われます。最大加算回数は、42.2.1 で示すように変換精度によって異なります。ADADC.AVEE ビットが 0 の場合は加算（積算）した値を、ADADC.AVEE ビットが 1 の場合は平均した値を A/D 温度センサデータレジスタ（ADTSDR）に返します。

TSSAD ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

OCSAD ビット（内部基準電圧 A/D 変換値加算／平均モード選択）

OCSAD ビットが 1 の場合、ADADC.ADC[2:0] ビットで設定した回数分、連続して内部基準電圧の A/D 変換が行われます。最大加算回数は、42.2.1 で示すように変換精度によって異なります。ADADC.AVEE ビットが 0 の場合は加算（積算）した値を、ADADC.AVEE ビットが 1 の場合は平均した値を A/D 内部基準電圧データレジスタ（ADOCDR）に返します。

OCSAD ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

TSSA ビット（温度センサ出力 A/D 変換選択）

シングルスキャンモード、連続スキャンモード、およびグループスキャンモードのグループ A での温度センサ出力の A/D 変換を選択します。温度センサ出力の A/D 変換をする場合、ADCSR.DBLE ビットを 0 にしてください。

TSSA ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

OCSA ビット（内部基準電圧 A/D 変換選択）

シングルスキャンモード、連続スキャンモード、およびグループスキャンモードのグループ A での内部基準電圧の A/D 変換を選択します。内部基準電圧の A/D 変換をする場合、ADCSR.DBLE ビットを 0 にしてください。

OCSA ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。また、OCSA ビットを 1 に設定した場合は、設定後 400ns 以上待ってから A/D 変換を開始してください。

TSSB ビット（グループ B 用温度センサ出力 A/D 変換選択）

グループスキャンモードのグループ B での温度センサ出力の A/D 変換を選択します。

TSSB ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。TSSA ビットが 1 のときは、TSSB ビットを 1 にしないでください。

OCSB ビット（グループ B 用内部基準電圧 A/D 変換選択）

グループスキャンモードのグループ B での内部基準電圧の A/D 変換を選択します。

OCSB ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。OCSA ビットが 1 のときは、OCSB ビットを 1 にしないでください。また、OCSB ビットを 1 にしてから 400ns 以上待ってから A/D 変換を開始してください。

42.2.14　A/D サンプリングステートレジスタ n（ADSSTRn）（n = 00 ～ 03, 05 ～ 07, L, T, O）

アドレス　ADC120.ADSSTR00 4005 C0E0h～ADC120.ADSSTR03 4005 C0E3h,
ADC120.ADSSTR05 4005 C0E5h～ADC120.ADSSTR07 4005 C0E7h,
ADC120.ADSSTRL 4005 C0DDh, ADC120.ADSSTRT 4005 C0DEh, ADC120.ADSSTRO 4005 C0DFh,
ADC121.ADSSTR00 4005 C2E0h～ADC121.ADSSTR02 4005 C2E2h,
ADC121.ADSSTR05 4005 C2E5h～ADC121.ADSSTR07 4005 C2E7h,
ADC121.ADSSTRL 4005 C2DDh, ADC121.ADSSTRT 4005 C2DEh, ADC121.ADSSTRO 4005 C2DFh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	SST[7:0]	サンプリング時間設定	5～255 ステートの間でサンプリング時間を設定します。	R/W

ADSSTRn レジスタは、アナログ入力のサンプリング時間の設定を行います。1 ステート = 1ADCLK（A/D 変換クロック）幅で ADCLK クロックが 60MHz であれば、1 ステート = 16.7ns になります。初期値は 11 ステートです。

アナログ入力信号源のインピーダンスが高くサンプリング時間が不足する場合や、ADCLK クロックが低速な場合に、サンプリング時間を調整することが可能です。

SST[7:0] ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

サンプリング時間の下限値は分周比によって以下のように異なります。

- PCLKB : PCLKC（ADCLK）の分周比が 1:1、2:1、4:1、または 8:1 の場合、サンプリング時間は 5 ステートより長く設定してください
- PCLKB : PCLKC（ADCLK）の分周比が 1:2 または 1:4 の場合、サンプリング時間は 6 ステートより長く設定してください

表 42.8 に A/D サンプリングステートレジスタと関連チャネルの関係を示します。詳細は、42.3.6　アナログ入力のサンプリング時間とスキャン変換時間を参照してください。

表 42.8　　A/D サンプリングステートレジスタと関連チャネルの関係

ビット名	関連チャネル	
	ユニット 0	ユニット 1
ADSSTR00.SST[7:0] ビット（注 1）	AN000	AN100
ADSSTR01.SST[7:0] ビット	AN001	AN101
ADSSTR02.SST[7:0] ビット	AN002	AN102
ADSSTR03.SST[7:0] ビット	AN003	-
ADSSTR05.SST[7:0] ビット	AN005	AN105
ADSSTR06.SST[7:0] ビット	AN006	AN106
ADSSTR07.SST[7:0] ビット	AN007	AN107
ADSSTRL.SST[7:0] ビット	AN016～AN018, AN020	AN116, AN117
ADSSTRT.SST[7:0] ビット	温度センサ出力	温度センサ出力
ADSSTRO.SST[7:0] ビット	内部基準電圧	内部基準電圧

注 1.　自己診断機能を選択したときは、ADSSTR0.SST[7:0] で設定したサンプリング時間が適用されます。

42.2.15 A/D サンプル & ホールド回路コントロールレジスタ（ADSHCR）

アドレス ADC120.ADSHCR 4005 C066h, ADC121.ADSHCR 4005 C266h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	SHANS[2:0]			SSTSH[7:0]							
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	SSTSH[7:0]	チャネル専用サンプル&ホールド回路サンプリング時間設定	サンプリング時間（4～255ステート）	R/W
b10-b8	SHANS[2:0]	チャネル専用サンプル&ホールド回路バイパス選択	AN000～AN002（ユニット0）／AN100～AN102（ユニット1）のチャネル専用サンプル&ホールド回路を使用するか、使用せずバイパスするかを選択します。 0：上記回路をバイパス 1：上記回路を使用	R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

SSTSH[7:0] ビット（チャネル専用サンプル & ホールド回路サンプリング時間設定）

チャネル専用サンプル&ホールド回路のサンプリング時間設定をします。1 ステート = 1ADCLK（A/D 変換クロック）幅で ADCLK クロックが 60MHz であれば、1 ステート = 16.7ns になります。初期値は 24 ステートです。アナログ入力信号源のインピーダンスが高くサンプリング時間が不足する場合や、ADCLK クロックが低速な場合に、サンプリング時間を調整することが可能です。

SSTSH[7:0] ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。サンプリング時間の設定値は、4 ステート以上 255 ステート以下の値を設定してください。

SHANS[2:0] ビット（チャネル専用サンプル & ホールド回路バイパス選択）

AN000 ～ AN002（ユニット 0）／ AN100 ～ AN102（ユニット 1）のチャネル専用サンプル & ホールド回路を使用するか、使用せずバイパスするかを選択します。ユニット 0 では、SHANS[0] ビットが AN000 に、SHANS[1] ビットが AN001 に、SHANS[2] ビットが AN002 に対応します。ユニット 1 では、SHANS[0] ビットが AN100 に、SHANS[1] ビットが AN101 に、SHANS[2] ビットが AN102 に対応します。

グループスキャンモードのグループ A 優先制御時に、グループ B に AN000 ～ AN002（ユニット 0）／ AN100 ～ AD102（ユニット 1）のいずれかのチャネルを選択した場合は、この設定で当該チャネルの専用サンプル&ホールド回路をバイパスするようにしてください。

SHANS[2:0] ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットと ADSHMSR.SHMD ビットがどちらも 0 であるときのみ行ってください。

42.2.16　A/D サンプル & ホールド動作モード選択レジスタ（ADSHMSR）

アドレス　ADC120.ADSHMSR 4005 C07Ch, ADC121.ADSHMSR 4005 C27Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	SHMD
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SHMD	サンプリング動作選択	0：常時サンプリング機能は無効 1：常時サンプリング機能は有効	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

SHMD ビット（サンプリング動作選択）

SHMD ビットを 1 にすると、ADSHCR.SHANS[2:0] ビットで選択されたチャネル専用サンプル&ホールド回路の常時サンプリング機能が有効になります。SHMD ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

常時サンプリング機能が有効な場合、サンプル&ホールド回路は、ADC12 が動作していないときにはサンプリング動作を行い、ADC12 が動作中のときにはホールド動作を行います。

注 .　SHMD ビットを 1 にしてから 400ns（許容信号源インピーダンスが 1kΩ の場合）以上の時間が経過してから、ADCSR.ADST ビットが 1 になるようにしてください。サンプル&ホールド回路のサンプリング周期は 400ns（許容信号源インピーダンスが 1kΩ の場合）以上でなければなりません。

42.2.17　A/D 断線検出コントロールレジスタ（ADDISCR）

アドレス　ADC120.ADDISCR 4005 C07Ah, ADC121.ADDISCR 4005 C27Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	PCHG	ADNDIS[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	ADNDIS[3:0]	断線検出アシスト設定	b3-b0 0000：断線検出アシスト機能は無効 0001：設定禁止 その他：プリチャージ／ディスチャージ期間のステート数	R/W
b4	PCHG	プリチャージ／ディスチャージ選択	0：ディスチャージ 1：プリチャージ	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

A/D 断線検出アシスト機能におけるプリチャージ／ディスチャージの選択およびプリチャージ／ディスチャージ期間の設定を行います。

ADDISCR レジスタの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

下記の機能のいずれかが使用されている場合、断線検出アシスト機能は無効にしてください。

- 温度センサ
- 内部基準電圧
- A/D 自己診断
- バイパス許可なしのプログラマブルゲインアンプ

ADNDIS[3:0] ビット（断線検出アシスト設定）

ADNDIS[3:0] ビットは、プリチャージ／ディスチャージの期間を指定します。ADNDIS[3:0] = 0000b の場合は、断線検出アシスト機能は無効です。ADNDIS[3:0] = 0001b は設定禁止です。ADNDIS[3:0] = 0000b、0001b 以外では、設定した値がプリチャージ／ディスチャージ期間のステート数となります。ADNDIS[3:0] ビットが 0000b および 0001b 以外の値の場合、断線検出アシスト機能は有効になります。

PCHG ビット（プリチャージ／ディスチャージ選択）

PCHG ビット = 1 でプリチャージが選択され、PCHG ビット = 0 でディスチャージが選択されます。

42.2.18　A/D グループスキャン優先コントロールレジスタ（ADGSPCR）

アドレス　ADC120.ADGSPCR 4005 C080h, ADC121.ADGSPCR 4005 C280h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	GBRP	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	GBRSCN	PGS
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PGS	グループA優先制御設定（注1）	0：グループAの優先制御動作を行わない 1：グループAの優先制御動作を行う	R/W
b1	GBRSCN	グループB再起動設定	PGS = 1のときのみ有効。PGS = 0のときは予約ビット 0：グループAの優先制御でグループBのスキャンを中断した後にそのスキャンの再起動をしない 1：グループAの優先制御でグループBのスキャンを中断した後にそのスキャンを再起動する	R/W
b14-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15	GBRP	グループB用シングルスキャン連続起動設定（注2）	PGS = 1のときのみ有効。PGS = 0のときは予約ビット 0：グループBのシングルスキャン連続動作を行わない 1：グループBのシングルスキャン連続動作を行う	R/W

注 1.　ADCSR.ADCS[1:0] ビットは、PGS を 1 にする前に 01b（グループスキャンモード）にする必要があります。それ以外の値にした場合、動作は保証されません。

注 2.　GBRP ビットを 1 にした場合は、GBRSCN ビットの設定にかかわらず、グループ B のシングルスキャン連続動作を実行します。

PGS ビット（グループ A 優先制御設定）

PGS ビットを 1 にすると、グループ A の優先動作が行われます。PGS ビットを 1 にする場合は、事前に ADCSR.ADCS[1:0] ビットを 01b（グループスキャンモード）にしてください。それ以外の値にした場合、動作は保証されません。

PGS ビットを 0 にする場合は、42.6.2　A/D 変換停止時の注意事項に従い、ソフトウェアでのクリアを行ってください。PGS ビットを 1 にする場合は、42.3.4.3　グループ A 優先制御動作の手順に従い設定を行ってください。

GBRSCN ビット（グループ B 再起動設定）

グループ A 優先制御時の、グループ B の再スキャン動作を制御します。GBRSCN ビットを 1 にすると、グループ A のトリガ入力によるグループ B のスキャン動作中断後、グループ A の変換終了を待ってグループ B の再スキャン動作を実行します。また、グループ A の A/D 変換動作中にグループ B のトリガ入力があった場合、グループ A の変換終了を待ってグループ B の再スキャン動作を行います。

GBRSCN ビットを 0 にした場合は、A/D 変換実行中に入力されたトリガは無視されます。GBRSCN ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

GBRSCN ビットの設定は、PGS ビットが 1 のときに有効となります。

GBRP ビット（グループ B 用シングルスキャン連続起動設定）

GBRP ビットを設定すると、グループ B のシングルスキャン連続動作を実行します。GBRP ビットを 1 にした場合は、グループ B のシングルスキャンが起動します。スキャン終了後は自動的にグループ B のシングルスキャンを再開します。グループ A の動作によってグループ B の変換が中断した場合、グループ A の動作が優先され、グループ A の変換終了後、自動的にグループ B のシングルスキャンを再開します。

GBRP ビットを 1 にする場合は、事前にグループ B のトリガ入力を無効にしてください。GBRP ビットを 1 にした場合、GBRSCN ビットの設定は無効となります。GBRP ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

GBRP ビットの設定は、PGS ビットが 1 のときに有効となります。

42.2.19　A/D コンペア機能コントロールレジスタ（ADCMPCR）

アドレス　ADC120.ADCMPCR 4005 C090h, ADC121.ADCMPCR 4005 C290h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CMPAIE	WCMPE	CMPBIE	—	CMPAE	—	CMPBE	—	—	—	—	—	—	—	CMPAB[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	CMPAB[1:0]	ウィンドウA/B複合条件設定	b1　b0 0　0：ウィンドウA比較条件に一致ORウィンドウB比較条件に一致の場合、ADC12i_WCMPMを出力。その他の場合はADC12i_WCMPUMを出力 0　1：ウィンドウA比較条件に一致EXORウィンドウB比較条件に一致の場合、ADC12i_WCMPMを出力。その他の場合はADC12i_WCMPUMを出力 1　0：ウィンドウA比較条件に一致ANDウィンドウB比較条件に一致の場合、ADC12i_WCMPMを出力。その他の場合はADC12i_WCMPUMを出力 1　1：設定禁止 これらのビットは、ウィンドウAおよびウィンドウBがどちらも有効（CMPAE = 1およびCMPBE = 1）な場合に有効となります。	R/W
b8-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b9	CMPBE	コンペアウィンドウB動作許可	0：コンペアウィンドウB動作禁止 ADC12i_WCMPMおよびADC12i_WCMPUMの出力不可 1：コンペアウィンドウB動作許可	R/W
b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b11	CMPAE	コンペアウィンドウA動作許可	0：コンペアウィンドウA動作禁止 ADC12i_WCMPMおよびADC12i_WCMPUMの出力不可 1：コンペアウィンドウA動作許可	R/W
b12	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b13	CMPBIE	コンペアB割り込み許可	0：比較条件（ウィンドウB）一致によるADC12i_CMPBI割り込み禁止 1：比較条件（ウィンドウB）一致によるADC12i_CMPBI割り込み許可	R/W
b14	WCMPE	ウィンドウ機能設定	0：ウィンドウ機能無効 ウィンドウAおよびBはコンパレータとして動作し、下位の1つの値をA/D変換結果と比較 1：ウィンドウ機能有効 ウィンドウAおよびBはコンパレータとして動作し、上位および下位の2つの値をA/D変換結果と比較	R/W
b15	CMPAIE	コンペアA割り込み許可	0：比較条件（ウィンドウA）一致によるADC12i_CMPAI割り込み禁止 1：比較条件（ウィンドウA）一致によるADC12i_CMPAI割り込み許可	R/W

注．　i = 0：ユニット0、i = 1：ユニット1

CMPAB[1:0] ビット（ウィンドウ A/B 複合条件設定）

シングルスキャンモードでウィンドウ A およびウィンドウ B がどちらも有効（CMPAE = 1 および CMPBE = 1）な場合に有効となります。CMPAB[1:0] ビットにより、ADWINMON.MONCONB のコンペア機能一致／不一致イベント出力条件および監視条件を指定します。

CMPAB[1:0] ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

CMPBE ビット（コンペアウィンドウ B 動作許可）

コンペアウィンドウ B の動作を許可／禁止します。CMPBE ビットは、ADCSR.ADST ビットが 0 のときに設定してください。

本ビットは、以下のレジスタを設定する前に 0 にしてください。

- A/D チャネル選択レジスタ A0、A1、B0、および B1（ADANSA0、ADANSA1、ADANSB0、および ADANSB1）
- A/D 変換拡張入力コントロールレジスタ（ADEXICR）の OCSB、TSSB、OCSA、または TSSA ビット
- ウィンドウ B チャネル選択レジスタ（ADCMPBNSR）の CMPCHB[5:0] ビット

CMPAE ビット（コンペアウィンドウ A 動作許可）

コンペアウィンドウ A の動作を許可／禁止します。CMPAE ビットは、ADCSR.ADST ビットが 0 のときに設定してください。

本ビットは、以下のレジスタを設定する前に 0 にしてください。

- A/D チャネル選択レジスタ A0、A1、B0、および B1（ADANSA0、ADANSA1、ADANSB0、および ADANSB1）
- A/D 変換拡張入力コントロールレジスタ（ADEXICR）の OCSB、TSSB、OCSA、または TSSA ビット
- ウィンドウ A チャネル選択レジスタ 0 および 1（ADCMPANSR0 および ADCMPANSR1）
- ウィンドウ A 拡張入力選択レジスタ（ADCMPANSER）

CMPBIE ビット（コンペア B 割り込み許可）

比較条件（ウィンドウ B）の一致による ADC12i_CMPBI（i = 0, 1）割り込み出力を許可／禁止します。

WCMPE ビット（ウィンドウ機能設定）

ウィンドウ機能の有効／無効を選択します。WCMPE ビットは、ADCSR.ADST ビットが 0 のときに設定してください。

CMPAIE ビット（コンペア A 割り込み許可）

比較条件（ウィンドウ A）の一致による ADC12i_CMPAI（i = 0, 1）割り込み出力を許可／禁止します。

42.2.20 A/D コンペア機能ウィンドウ A チャネル選択レジスタ 0（ADCMPANSR0）

アドレス ADC120.ADCMPANSR0 4005 C094h, ADC121.ADCMPANSR0 4005 C294h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	CMPCHA07	CMPCHA06	CMPCHA05	—	CMPCHA03	CMPCHA02	CMPCHA01	CMPCHA00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	CMPCHA03～CMPCHA00	コンペアウィンドウAチャネル選択	0：関連する入力チャネルに対するコンペア機能を禁止 1：関連する入力チャネルに対するコンペア機能を許可 ユニット0では、ビット3（CMPCHA03）がAN003に、ビット0（CMPCHA00）がAN000に対応します。 ユニット1では、ビット2（CMPCHA02）がAN102に、ビット0（CMPCHA00）がAN100に対応します。	R/W
b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7-b5	CMPCHA07～CMPCHA05	コンペアウィンドウAチャネル選択	0：関連する入力チャネルに対するコンペア機能を禁止 1：関連する入力チャネルに対するコンペア機能を許可 ユニット0では、ビット7（CMPCHA07）がAN007に、ビット5（CMPCHA05）がAN005に対応します。 ユニット1では、ビット7（CMPCHA07）がAN107に、ビット5（CMPCHA05）がAN105に対応します。	R/W
b15-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CMPCHAn ビット（n = 00 ～ 03、05 ～ 07）（コンペアウィンドウ A チャネル選択）

ADANSA0.ANSAn ビット（n = 00 ～ 03、05 ～ 07）および ADANSB0.ANSBn ビット（n = 00 ～ 03、05 ～ 07）で選択した A/D 変換チャネルと同一番号の CMPCHAn ビットを 1 にすると、コンペア機能が有効になります。

CMPCHAn ビットは、ADCSR.ADST ビットが 0 のときに設定してください。

42.2.21 A/D コンペア機能ウィンドウ A チャネル選択レジスタ 1（ADCMPANSR1）

アドレス ADC120.ADCMPANSR1 4005 C096h, ADC121.ADCMPANSR1 4005 C296h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CMPCHA20	—	CMPCHA18	CMPCHA17	CMPCHA16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	CMPCHA18～CMPCHA16	コンペアウィンドウAチャネル選択	0：関連する入力チャネルに対するコンペア機能を禁止 1：関連する入力チャネルに対するコンペア機能を許可 ユニット0では、ビット2（CMPCHA18）がAN018に、ビット0（CMPCHA16）がAN016に対応します。 ユニット1では、ビット1（CMPCHA17）がAN117に、ビット0（CMPCHA16）がAN116に対応します。	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	CMPCHA20	コンペアウィンドウAチャネル選択	0：関連する入力チャネルに対するコンペア機能を禁止 1：関連する入力チャネルに対するコンペア機能を許可 ユニット0では、ビット4（CMPCHA20）がAN020に対応します。 ユニット1では、ビット4（CMPCHA20）に対応する入力チャネルはありません。	R/W
b15-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CMPCHAn ビット（n = 16 ～ 18、20）（コンペアウィンドウ A チャネル選択）

ADANSA1.ANSAn ビット（n = 16 ～ 18、20）および ADANSB1.ANSBn ビット（n = 16 ～ 18、20）で選択した A/D 変換チャネルと同一番号の CMPCHAn ビットを 1 にすると、コンペア機能が有効になります。

CMPCHAn ビットは、ADCSR.ADST ビットが 0 のときに設定してください。

42.2.22　A/D コンペア機能ウィンドウ A 拡張入力選択レジスタ（ADCMPANSER）

アドレス　ADC120.ADCMPANSER 4005 C092h, ADC121.ADCMPANSER 4005 C292h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	CMPOCA	CMPTSA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPTSA	温度センサ出力コンペア選択	0：温度センサ出力をコンペアウィンドウA対象から外す 1：温度センサ出力をコンペアウィンドウA対象とする	R/W
b1	CMPOCA	内部基準電圧コンペア選択	0：内部基準電圧をコンペアウィンドウA対象から外す 1：内部基準電圧をコンペアウィンドウA対象とする	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CMPTSA ビット（温度センサ出力コンペア選択）

ADEXICR.TSSA ビットまたは ADEXICR.TSSB ビットが 1 のときに CMPTSA ビットを 1 にすると、コンペアウィンドウ A 機能が有効になります。CMPTSA ビットは、ADCSR.ADST ビットが 0 のときに設定してください。

CMPOCA ビット（内部基準電圧コンペア選択）

ADEXICR.OCSA ビットまたは ADEXICR.OCSB ビットが 1 のときに CMPOCA ビットを 1 にすると、コンペアウィンドウ A 機能が有効になります。CMPOCA ビットは、ADCSR.ADST ビットが 0 のときに設定してください。

42.2.23　A/D コンペア機能ウィンドウ A 比較条件設定レジスタ 0（ADCMPLR0）

アドレス　ADC120.ADCMPLR0 4005 C098h, ADC121.ADCMPLR0 4005 C298h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	CMPLCHA07	CMPLCHA06	CMPLCHA05	—	CMPLCHA03	CMPLCHA02	CMPLCHA01	CMPLCHA00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	CMPLCHA03～CMPLCHA00	コンペアウィンドウA比較条件選択	ウィンドウA比較条件を適用するチャネル（AN000～AN007（ユニット0）／AN100～AN102（ユニット1）から選択）の比較条件を設定します。比較条件を図 42.4に示します。 • ウィンドウ機能無効時（ADCMPCR.WCMPE = 0） 0：ADCMPDR0値＞A/D変換値 1：ADCMPDR0値＜A/D変換値 • ウィンドウ機能有効時（ADCMPCR.WCMPE = 1） 0：A/D変換値＜ADCMPDR0値または ADCMPDR1値＜A/D変換値 1：ADCMPDR0値＜A/D変換値＜ADCMPDR1値	R/W
b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7-b5	CMPLCHA07～CMPLCHA05	コンペアウィンドウA比較条件選択	ウィンドウA比較条件を適用するチャネル（AN005～AN007（ユニット0）／AN105～AN107（ユニット1）から選択）の比較条件を設定します。比較条件を図 42.4に示します。 • ウィンドウ機能無効時（ADCMPCR.WCMPE = 0） 0：ADCMPDR0値＞A/D変換値 1：ADCMPDR0値＜A/D変換値 • ウィンドウ機能有効時（ADCMPCR.WCMPE = 1） 0：A/D変換値＜ADCMPDR0値または ADCMPDR1値＜A/D変換値 1：ADCMPDR0値＜A/D変換値＜ADCMPDR1値	R/W
b15-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CMPLCHAn ビット（n = 00 ～ 03、05 ～ 07）（コンペアウィンドウ A 比較条件選択）

ウィンドウ A 比較条件を適用するチャネル（AN000 ～ AN003、AN005 ～ AN007（ユニット 0）／ AN100 ～ AN102、AN105 ～ AN107（ユニット 1）から選択）の比較条件を指定します。CMPLCHAn ビットはコンペア対象のアナログ入力ごとに設定可能です。ユニット 0 では、CMPLCHA00 が AN000 に、CMPLCHA07 が AN007 に対応します。ユニット 1 では、CMPLCHA00 が AN100 に、CMPLCHA07 が AN107 に対応します。各アナログ入力の比較結果が設定条件と一致すると、ADCMPSR0.CMPSTCHAn フラグは 1 になり、コンペア割り込み（ADC12i_CMPAI（i = 0, 1））が発生します。

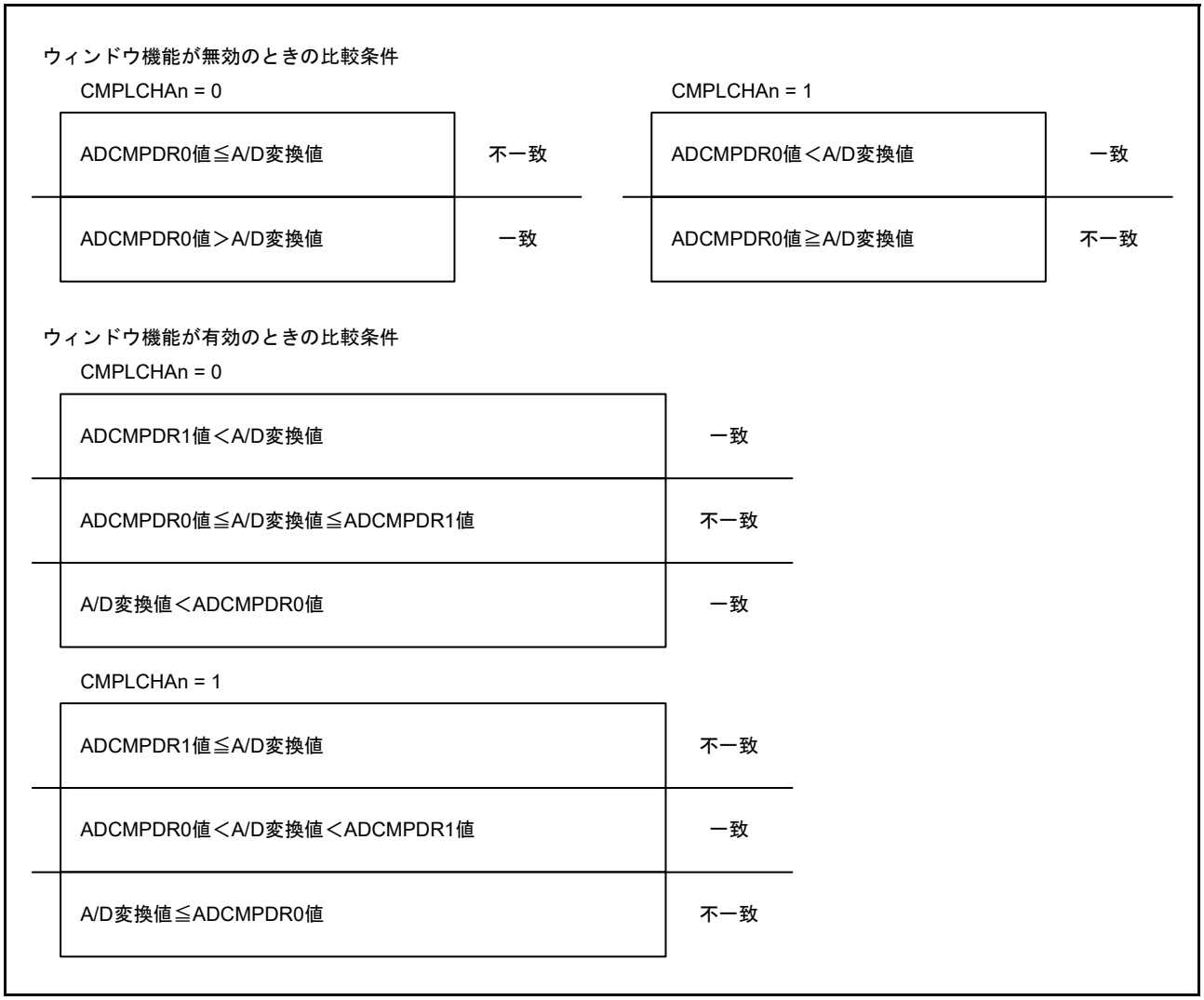


図 42.4　　コンペア機能ウィンドウ A 比較条件の説明

42.2.24　A/D コンペア機能ウィンドウ A 比較条件設定レジスタ 1（ADCMPLR1）

アドレス　ADC120.ADCMPLR1 4005 C09Ah, ADC121.ADCMPLR1 4005 C29Ah

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CMPLCHA20	—	CMPLCHA18	CMPLCHA17	CMPLCHA16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	CMPLCHA18～CMPLCHA16	コンペアウィンドウA比較条件選択	ウィンドウA比較条件を適用するチャネル（AN016～AN018（ユニット0）／AN116、AN117（ユニット1）から選択）の比較条件を設定します。比較条件を図 42.4に示します。 • ウィンドウ機能無効時（ADCMPCR.WCMPE = 0） 0：ADCMPDR0値＞A/D変換値 1：ADCMPDR0値＜A/D変換値 • ウィンドウ機能有効時（ADCMPCR.WCMPE = 1） 0：A/D変換値＜ADCMPDR0値、または ADCMPDR1値＜A/D変換値 1：ADCMPDR0値＜A/D変換値＜ADCMPDR1値	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	CMPLCHA20	コンペアウィンドウA比較条件選択	ウィンドウA比較条件を適用するチャネル（AN020（ユニット0）を選択）の比較条件を設定します。比較条件を図 42.4に示します。 • ウィンドウ機能無効時（ADCMPCR.WCMPE = 0） 0：ADCMPDR0値＞A/D変換値 1：ADCMPDR0値＜A/D変換値 • ウィンドウ機能有効時（ADCMPCR.WCMPE = 1） 0：A/D変換値＜ADCMPDR0値または ADCMPDR1値＜A/D変換値 1：ADCMPDR0値＜A/D変換値＜ADCMPDR1値	R/W
b15-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CMPLCHAn ビット（n = 16 ～ 18、20）（コンペアウィンドウ A 比較条件選択）

ウィンドウ A 比較条件を適用するチャネル（AN016 ～ AN018、AN020（ユニット 0）／ AN116、AN117（ユニット 1）から選択）の比較条件を指定します。CMPLCHAn ビットはコンペア対象のアナログ入力ごとに設定可能です。ユニット 0 では、CMPLCHA16 が AN016 に、CMPLCHA20 が AN020 に対応します。ユニット 1 では、CMPLCHA16 が AN116 に、CMPLCHA17 が AN117 に対応します。各アナログ入力の比較結果が設定条件と一致すると、ADCMPSR1.CMPSTCHAn フラグは 1 になり、コンペア割り込み（ADC12i_CMPAI（i = 0, 1））が発生します。

42.2.25　A/D コンペア機能ウィンドウ A 拡張入力比較条件設定レジスタ（ADCMPLER）

アドレス　ADC120.ADCMPLER 4005 C093h, ADC121.ADCMPLER 4005 C293h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	CMPLOCA	CMPLTSA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPLTSA	コンペアウィンドウA温度センサ出力比較条件選択	比較条件を図 42.4に示します。 • ウィンドウ機能無効時（ADCMPCR.WCMPE = 0） 0：ADCMPDR0値＞A/D変換値 1：ADCMPDR0値＜A/D変換値 • ウィンドウ機能有効時（ADCMPCR.WCMPE = 1） 0：A/D変換値＜ADCMPDR0値または A/D変換値＞ADCMPDR1値 1：ADCMPDR0値＜A/D変換値＜ADCMPDR1値	R/W
b1	CMPLOCA	コンペアウィンドウA内部基準電圧比較条件選択	比較条件を図 42.4に示します。 • ウィンドウ機能無効時（ADCMPCR.WCMPE = 0） 0：ADCMPDR0値＞A/D変換値 1：ADCMPDR0値＜A/D変換値 • ウィンドウ機能有効時（ADCMPCR.WCMPE = 1） 0：A/D変換値＜ADCMPDR0値または A/D変換値＞ADCMPDR1値 1：ADCMPDR0値＜A/D変換値＜ADCMPDR1値	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CMPLTSA ビット（コンペアウィンドウ A 温度センサ出力比較条件選択）

温度センサ出力がウィンドウ A 比較条件の対象である場合の比較条件を指定します。温度センサ出力の比較結果が設定条件と一致すると、ADCMPSER.CMPSTTSA フラグは 1 になり、コンペア割り込み（ADC12i_CMPAI（i = 0, 1））が発生します。

CMPLOCA ビット（コンペアウィンドウ A 内部基準電圧比較条件選択）

内部基準電圧がウィンドウ A 比較条件の対象である場合の比較条件を指定します。内部基準電圧の比較結果が設定条件と一致すると、ADCMPSER.CMPSTOCA フラグは 1 になり、コンペア割り込み（ADC12i_CMPAI）が発生します。

42.2.26 A/D コンペア機能ウィンドウ A 下側レベル設定レジスタ（ADCMPDR0）、A/D コンペア機能ウィンドウ A 上側レベル設定レジスタ（ADCMPDR1）、A/D コンペア機能ウィンドウ B 下側レベル設定レジスタ（ADWINLLB）、A/D コンペア機能ウィンドウ B 上側レベル設定レジスタ（ADWINULB）

アドレス ADC120.ADCMPDR0 4005 C09Ch, ADC120.ADCMPDR1 4005 C09Eh, ADC120.ADWINLLB 4005 C0A8h, ADC120.ADWINULB 4005 C0AAh, ADC121.ADCMPDR0 4005 C29Ch, ADC121.ADCMPDR1 4005 C29Eh, ADC121.ADWINLLB 4005 C2A8h, ADC121.ADWINULB 4005 C2AAh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	—	—	基準値	R/W

ADCMPDRy（y = 0, 1）レジスタは、コンペアウィンドウ A 機能使用時、基準となるデータを指定するレジスタです。ADCMPDR0 はウィンドウ A の下側基準を設定し、ADCMPDR1 は上側基準を設定します。

ADWINULB および ADWINLLB は、コンペアウィンドウ B 機能使用時、基準となるデータを指定します。ADWINLLB はウィンドウ B の下側基準を設定し、ADWINULB は上側基準を設定します。ADCMPDRy、ADWINULB、および ADWINLLB はともに読み出し／書き込みレジスタです。

ADCMPDRy、ADWINULB、および ADWINLLB は A/D 変換中でも書き込むことができます。A/D 変換中にレジスタ値を書き換えることにより、基準データを動的に変更することが可能です。

これらのレジスタを設定するときは、上側基準が下側基準を下回らないようにしてください（ADCMPDR1 ≧ ADCMPDR0、ADWINULB ≧ ADWINLLB）。ADCMPDR1 および ADWINULB はウィンドウ機能無効時は使用しません。

下側基準および上側基準は、それぞれのレジスタが書き込まれるときに変更されます。たとえば上側基準値が変更され、下側基準値が変更中の場合、本 MCU は上側基準値（変更後）と下側基準値（変更前）を A/D 変換結果と比較します。（図 42.5 を参照してください。）2 つの基準値の書き換え時に比較エラーとなった場合、ADCSR.ADST および関連するコンペアウィンドウ動作許可ビット（ADCMPCR.CMPAE または ADCMPCR.CMPBE）がどちらも 0 のときに、それらの基準値を書き換えてください。

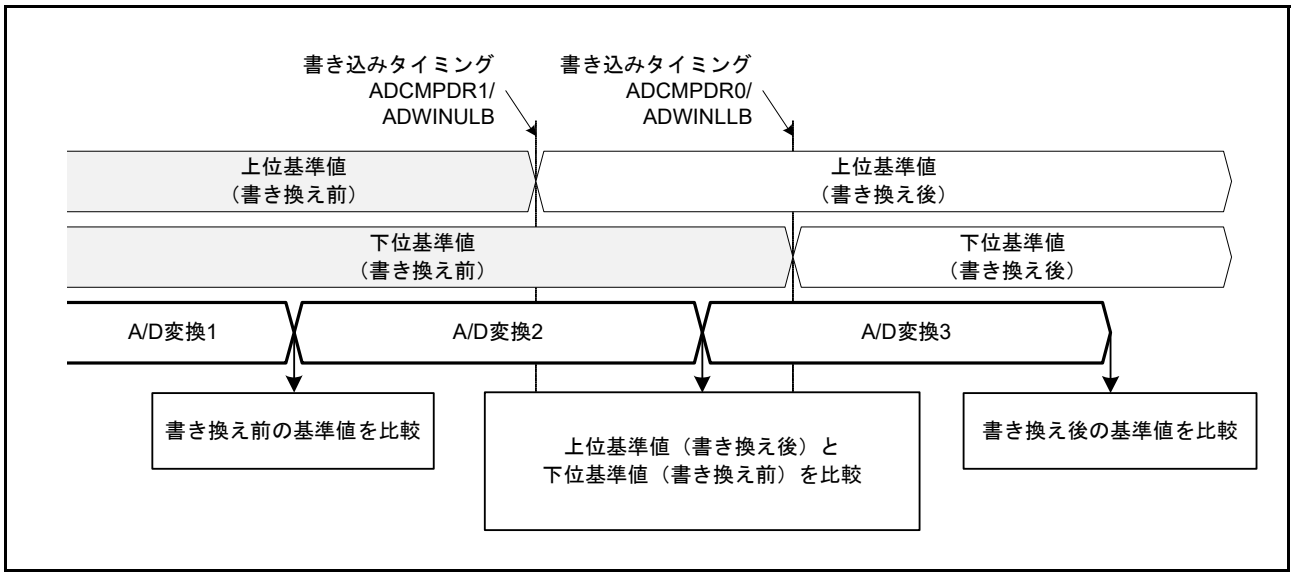


図 42.5　書き換え前後の上側基準値と下側基準値の比較

ADCMPDRy、ADWINLLB、およびADWINULBレジスタは、下記の条件でフォーマットが異なります。

- A/Dデータレジスタフォーマット選択ビットの設定値（右詰めまたは左詰め）
- A/D変換精度指定ビットの設定値（12ビット、10ビット、または8ビット）
- A/D変換値加算／平均チャネル選択ビットの設定値（A/D変換値加算モード選択、または非選択）

以下に、条件ごとのデータフォーマットを示します。

(1) A/D変換値加算モードを非選択とした場合

- 右詰めのフォーマット、12ビット精度の場合：下位12ビット（[11:0]）が有効
- 右詰めのフォーマット、10ビット精度の場合：下位10ビット（[9:0]）が有効
- 右詰めのフォーマット、8ビット精度の場合：下位8ビット（[7:0]）が有効
- 左詰めのフォーマット、12ビット精度の場合：上位12ビット（[15:4]）が有効
- 左詰めのフォーマット、10ビット精度の場合：上位10ビット（[15:6]）が有効
- 左詰めのフォーマット、8ビット精度の場合：上位8ビット（[15:8]）が有効

(2) A/D変換値加算モードを選択した場合

- 右詰めのフォーマット、12ビット精度の場合：下位14ビット（[13:0]）または16ビット（[15:0]）が有効
- 右詰めのフォーマット、10ビット精度の場合：下位12ビット（[11:0]）が有効
- 右詰めのフォーマット、8ビット精度の場合：下位10ビット（[9:0]）が有効
- 左詰めのフォーマット、12ビット精度の場合：上位14ビット（[15:2]）または16ビット（[15:0]）が有効
- 左詰めのフォーマット、10ビット精度の場合：上位12ビット（[15:4]）が有効
- 左詰めのフォーマット、8ビット精度の場合：上位10ビット（[15:6]）が有効

注 . 加算用の拡張ビット数は、A/D変換精度および加算回数によって異なります。
A/D変換精度が8、10、または12ビットの場合、変換4回までは2ビット拡張、A/D変換精度が12ビットの場合、変換16回時に4ビット拡張となります。

42.2.27　A/D コンペア機能ウィンドウ A チャネルステータスレジスタ 0（ADCMPSR0）

アドレス　ADC120.ADCMPSR0 4005 C0A0h, ADC121.ADCMPSR0 4005 C2A0h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	CMPSTCHA07	CMPSTCHA06	CMPSTCHA05	—	CMPSTCHA03	CMPSTCHA02	CMPSTCHA01	CMPSTCHA00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	CMPSTCHA03～CMPSTCHA00	コンペアウィンドウAフラグ	ウィンドウA動作が有効（ADCMPCR.CMPAE = 1b）な場合、ウィンドウA比較条件を適用するチャネル（AN000～AN003（ユニット0）／AN100～AN102（ユニット1）から選択）の比較結果を示します。 0：比較条件不成立 1：比較条件成立	R/W
b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7-b5	CMPSTCHA07～CMPSTCHA05	コンペアウィンドウAフラグ	ウィンドウA動作が有効（ADCMPCR.CMPAE = 1b）な場合、ウィンドウA比較条件を適用するチャネル（AN005～AN007（ユニット0）／AN105～AN107（ユニット1）から選択）の比較結果を示します。 0：比較条件不成立 1：比較条件成立	R/W
b15-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CMPSTCHAn フラグ（n = 00 ～ 03、05 ～ 07）（コンペアウィンドウ A フラグ）

ウィンドウ A 比較条件を適用するチャネル（AN000 ～ AN003、AN005 ～ AN007（ユニット 0）／ AN100 ～ AN102、AN105 ～ AN107（ユニット 1）から選択）の比較結果を示します。ADCMPLR0.CMPLCHAn で設定した比較条件が A/D 変換終了時に成立すると、関連する CMPSTCHAn フラグが 1 になります。ADCMPCR.CMPAIE ビットが 1 の場合、本フラグが 1 になるとコンペア割り込み要求（ADC12i_CMPAI（i = 0, 1））が発生します。ユニット 0 では、CMPSTCHA00 が AN000 に、CMPSTCHA07 が AN007 に対応します。ユニット 1 では、CMPSTCHA00 が AN100 に、CMPSTCHA07 が AN107 に対応します。

CMPSTCHAn フラグへの 1 書き込みは無効です。

［1 になる条件］

- ADCMPCR.CMPAE が 1 のときに、ADCMPLR0.CMPLCHAn で設定した条件が成立したとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

42.2.28 A/D コンペア機能ウィンドウ A チャネルステータスレジスタ 1（ADCMPSR1）

アドレス ADC120.ADCMPSR1 4005 C0A2h, ADC121.ADCMPSR1 4005 C2A2h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CMPSTCHA20	—	CMPSTCHA18	CMPSTCHA17	CMPSTCHA16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	CMPSTCHA18～CMPSTCHA16	コンペアウィンドウAフラグ	ウィンドウA動作が有効（ADCMPCR.CMPAE = 1）な場合、ウィンドウA比較条件を適用するチャネル（AN016～AN018（ユニット0）／AN116、AN117（ユニット1）から選択）の比較結果を示します。 0：比較条件不成立 1：比較条件成立	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	CMPSTCHA20	コンペアウィンドウAフラグ	ウィンドウA動作が有効（ADCMPCR.CMPAE = 1b）な場合、ウィンドウA比較条件を適用するチャネル（AN020（ユニット0）を選択）の比較結果を示します。 0：比較条件不成立 1：比較条件成立	R/W
b15-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CMPSTCHAn フラグ（n = 16 ～ 18、20）（コンペアウィンドウ A フラグ）

ウィンドウ A 比較条件を適用するチャネル（AN016 ～ AN018、AN020（ユニット 0）／ AN116、AN117（ユニット 1）から選択）の比較結果を示します。ADCMPLR1.CMPLCHAn で設定した比較条件が A/D 変換終了時に成立すると、関連する CMPSTCHAn フラグが 1 になります。ADCMPCR.CMPAIE ビットが 1 の場合、本フラグが 1 になるとコンペア割り込み要求（ADC12i_CMPAI（i = 0, 1））が発生します。ユニット 0 では、CMPSTCHA16 が AN016 に、CMPSTCHA20 が AN020 に対応します。ユニット 1 では、CMPSTCHA16 が AN116 に、CMPSTCHA17 が AN117 に対応します。

CMPSTCHAn フラグへの 1 書き込みは無効です。

［1 になる条件］

- ADCMPCR.CMPAE が 1 のときに、ADCMPLR1.CMPLCHAn で設定した条件が成立したとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

42.2.29 A/D コンペア機能ウィンドウ A 拡張入力チャネルステータスレジスタ（ADCMPSER）

アドレス ADC120.ADCMPSER 4005 C0A4h, ADC121.ADCMPSER 4005 C2A4h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	CMPSTOCA	CMPSTTSA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPSTTSA	コンペアウィンドウA温度センサ出力コンペアフラグ	ウィンドウA動作が有効（ADCMPCR.CMPAE = 1）な場合、温度センサ出力の比較結果を示します。 0：比較条件不成立 1：比較条件成立	R/W
b1	CMPSTOCA	コンペアウィンドウA内部基準電圧コンペアフラグ	ウィンドウA動作が有効（ADCMPCR.CMPAE = 1）な場合、内部基準電圧の比較結果を示します。 0：比較条件不成立 1：比較条件成立	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CMPSTTSA フラグ（コンペアウィンドウ A 温度センサ出力コンペアフラグ）

温度センサ出力の比較結果を示すフラグです。ADCMPLER.CMPLTSA で設定した比較条件が A/D 変換終了時に成立すると 1 になります。ADCMPCR.CMPAIE ビットが 1 の場合、本フラグが 1 になるとコンペア割り込み要求（ADC12i_CMPAI（i = 0, 1））が発生します。

CMPSTTSA フラグへの 1 書き込みは無効です。

［1 になる条件］

- ADCMPCR.CMPAE が 1 のときに、ADCMPLER.CMPLTSA で設定した条件が成立したとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

CMPSTOCA フラグ（コンペアウィンドウ A 内部基準電圧コンペアフラグ）

内部基準電圧の比較結果を示すフラグです。ADCMPLER.CMPLOCA で設定した比較条件が A/D 変換終了時に成立すると 1 になります。ADCMPCR.CMPAIE ビットが 1 の場合、本フラグが 1 になるとコンペア割り込み要求（ADC12i_CMPAI）が発生します。

CMPSTOCA フラグへの 1 書き込みは無効です。

［1 になる条件］

- ADCMPCR.CMPAE が 1 のときに、ADCMPLER.CMPLOCA で設定した条件が成立したとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

42.2.30 A/D コンペア機能ウィンドウ B チャネル選択レジスタ（ADCMPBNSR）

アドレス　ADC120.ADCMPBNSR 4005 C0A6h, ADC121.ADCMPBNSR 4005 C2A6h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CMPLB	—	CMPCHB[5:0]					
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	CMPCHB[5:0]	コンペアウィンドウBチャネル選択	コンペアウィンドウB条件と比較するチャネルを選択します。最大チャネルは、ユニット0ではAN020、ユニット1ではAN117です。 b5 b0 ユニット0 ユニット1 0 0 0 0 0 0 : AN000 AN100 0 0 0 0 0 1 : AN001 AN101 0 0 0 0 1 0 : AN002 AN102 0 0 0 0 1 1 : AN003 — 0 0 0 1 0 1 : AN005 AN005 0 0 0 1 1 0 : AN006 AN006 0 0 0 1 1 1 : AN007 AN107 0 1 0 0 0 0 : AN016 AN116 0 1 0 0 0 1 : AN017 AN117 0 1 0 0 1 0 : AN018 — 0 1 0 1 0 0 : AN020 — 1 0 0 0 0 0 : 温度センサ 1 0 0 0 0 1 : 内部基準電圧 上記以外は設定しないでください。	R/W
b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	CMPLB	コンペアウィンドウB比較条件設定	ウィンドウBのチャネル比較条件を設定します。比較条件を図42.6に示します。 • ウィンドウ機能無効時（ADCMPCR.WCMPE = 0） 0：CMPLLB値＞A/D変換値 1：CMPLLB値＜A/D変換値 • ウィンドウ機能有効時（ADCMPCR.WCMPE = 1） 0：A/D変換値＜CMPLLB値、またはCMPULB値＜A/D変換値 1：CMPLLB値＜A/D変換値＜CMPULB値	R/W

CMPCHB[5:0] ビット（コンペアウィンドウ B チャネル選択）

コンペアウィンドウ B 条件と比較するチャネル（AN000 ～ AN003、AN005 ～ AN007、AN016 ～ AN018、AN020（ユニット 0）／ AN100 ～ AN102、AN105 ～ AN107、AN116 ～ AN117（ユニット 1））、温度センサ、および内部基準電圧を指定します。コンペアウィンドウ B 機能は、以下のビットで選択した A/D 変換チャネルの 16 進数を指定することで有効になります。

ユニット 0 :

- ADANSA0.ANSA00 ～ ANSA03 ビット
- ADANSA0.ANSA05 ～ ANSA07 ビット
- ADANSA1.ANSA16 ～ ANSA18、ANSA20 ビット
- ADANSB0.ANSB00 ～ ANSB03 ビット
- ADANSB0.ANSB05 ～ ANSB07 ビット
- ADANSB1.ANSB16 ～ ANSB18、ANSB20 ビット

ユニット 1：

- ADANSA0.ANSA00 ～ ANSA02 ビット
- ADANSA0.ANSA05 ～ ANSA07 ビット
- ADANSA1.ANSA16 ～ ANSA17 ビット
- ADANSB0.ANSB00 ～ ANSB02 ビット
- ADANSB0.ANSB05 ～ ANSB07 ビット
- ADANSB1.ANSB16 ～ ANSB17 ビット

CMPCHB[5:0] ビットは、ADCSR.ADST ビットが 0 のときに設定してください。

CMPLB ビット（コンペアウィンドウ B 比較条件設定）

ウィンドウ B のチャネル比較条件を指定します。アナログ入力の比較結果が設定条件と一致すると、関連する ADCMPBSR.CMPSTB フラグは 1 になり、コンペア割り込み要求（ADC12i_CMPBI（i = 0, 1））が生成されます。

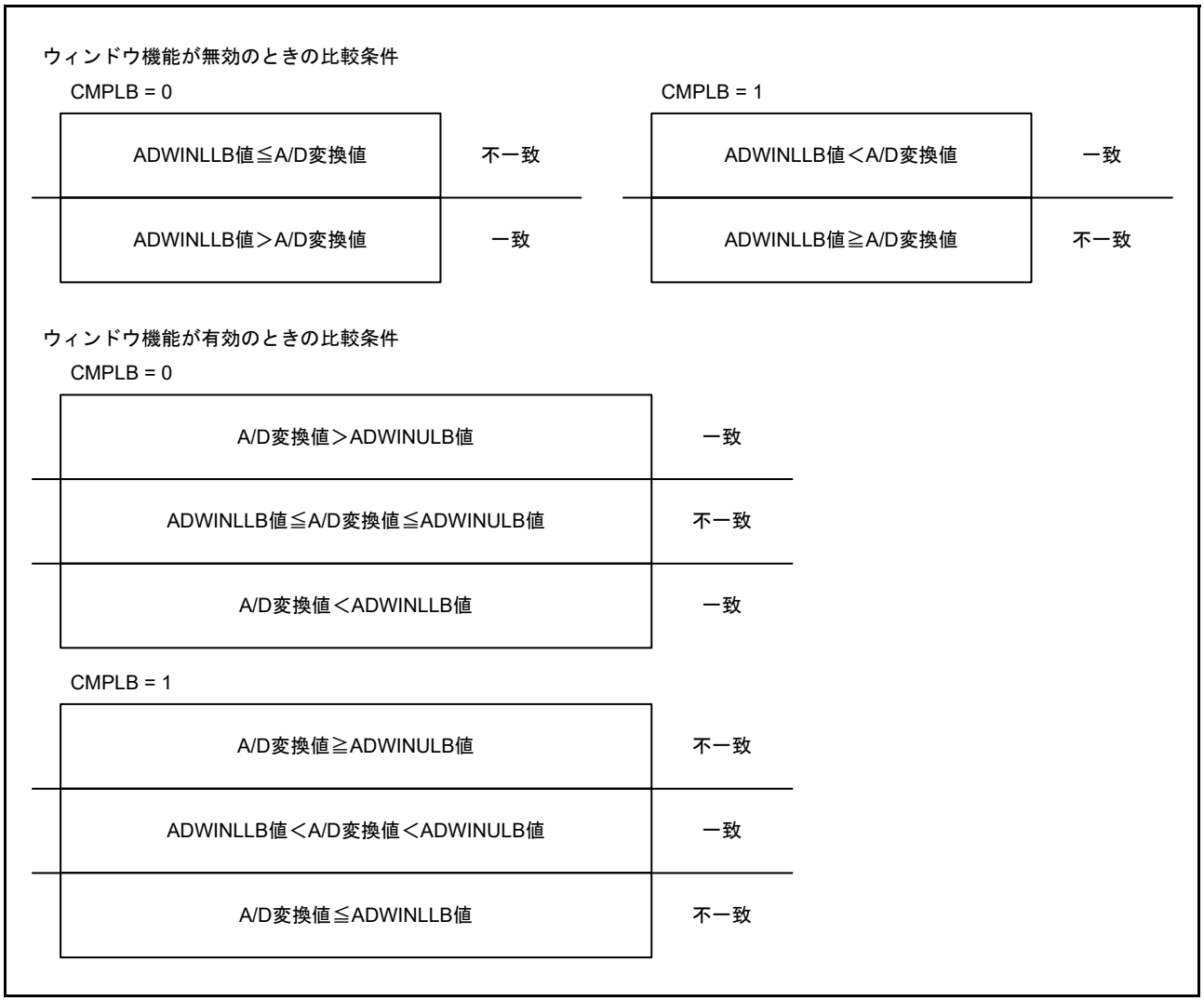


図 42.6　　コンペア機能ウィンドウ B 比較条件の説明

42.2.31　A/D コンペア機能ウィンドウ B ステータスレジスタ（ADCMPBSR）

アドレス　ADC120.ADCMPBSR 4005 C0ACh, ADC121.ADCMPBSR 4005 C2ACh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	CMPSTB
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPSTB	コンペアウィンドウBフラグ	ウィンドウB動作が有効（ADCMPCR.CMPBE = 1）な場合、ウィンドウB比較条件を適用するチャネル（AN000～AN003、AN005～AN007、AN016～AN018、AN020（ユニット0）／AN100～AN102、AN105～AN107、AN116、AN117（ユニット1）から選択）、温度センサ出力、および内部基準電圧の比較結果を示します。 0：比較条件不成立 1：比較条件成立	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CMPSTB フラグ（コンペアウィンドウ B フラグ）

ウィンドウ B 比較条件を適用するチャネル（AN000 ～ AN003、AN005 ～ AN007、AN016 ～ AN018、AN020（ユニット 0）／ AN100 ～ AN102、AN105 ～ AN107、AN116、AN117（ユニット 1）から選択）、温度センサ、および内部基準電圧の比較結果を示します。ADCMPBNSR.CMPLB で設定した比較条件が A/D 変換終了時に成立すると 1 になります。ADCMPCR.CMPBIE ビットが 1 の場合、本フラグが 1 になるとコンペア割り込み要求（ADC12i_CMPBI（i = 0, 1））が発生します。

CMPSTB フラグへの 1 書き込みは無効です。

［1 になる条件］

- ADCMPCR.CMPBE が 1 のときに、ADCMPBNSR.CMPLB で設定した条件が成立したとき

［0 になる条件］

- 1 を読んだ後、0 を書いたとき

42.2.32　A/D コンペア機能ウィンドウ A/B ステータスモニタレジスタ（ADWINMON）

アドレス　ADC120.ADWINMON 4005 C08Ch, ADC121.ADWINMON 4005 C28Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	MONCMPB	MONCMPA	—	—	—	MONCOMB
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MONCOMB	組み合わせ結果監視	組み合わせ結果を示します。本ビットは、ウィンドウAとウィンドウBの動作がどちらも有効な場合に有効となります。 0：ウィンドウA／ウィンドウBの複合条件が不成立 1：ウィンドウA／ウィンドウBの複合条件が成立	R
b3-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R
b4	MONCMPA	比較結果監視A	0：ウィンドウA比較条件が不成立 1：ウィンドウA比較条件が成立	R
b5	MONCMPB	比較結果監視B	0：ウィンドウB比較条件が不成立 1：ウィンドウB比較条件が成立	R
b7-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

MONCOMB ビット（組み合わせ結果監視）

ADCMPCR.CMPAB[1:0] ビットで設定した複合条件に従って比較条件結果 A および B の組み合わせの結果を示す読み出し専用ビットです。

［1 になる条件］

- ADCMPCR.CMPAE が 1 かつ ADCMPCR.CMPBE が 1 のとき、組み合わせ結果が ADCMPCR.CMPAB[1:0] ビットで設定した複合条件と一致したとき

［0 になる条件］

- 組み合わせ結果が ADCMPCR.CMPAB[1:0] ビットで設定した複合条件と一致しないとき
- ADCMPCR.CMPAE が 0 または ADCMPCR.CMPBE が 0 のとき

MONCMPA ビット（比較結果監視 A）

ウィンドウ A の対象チャネルの A/D 変換値が ADCMPLR0/ADCMPLR1 および ADCMPLER で設定した条件と一致すると 1 が読み出される読み出し専用ビットです。それ以外の場合は読むと 0 が読み出されます。

［1 になる条件］

- ADCMPCR.CMPAE が 1 のときに、A/D 変換値が ADCMPLR0.CMPLCHAn、ADCMPLR1.CMPLCHAn、ADCMPLER.CMPLTSA、ADCMPLER.CMPLOCA で設定した条件と一致するとき

［0 になる条件］

- ADCMPCR.CMPAE が 1 のときに、A/D 変換値が ADCMPLR0.CMPLCHAn、ADCMPLR1.CMPLCHAn、ADCMPLER.CMPLTSA、ADCMPLER.CMPLOCA で設定した条件と一致しないとき
- ADCMPCR.CMPAE が 0 のとき（ADCMPCR.CMPAE の値が 1 から 0 に変化すると自動的に 0 になる）

MONCMPB ビット（比較結果監視 B）

ウィンドウ B の対象チャネルの A/D 変換値が ADCMPBNSR.CMPLB ビットで設定した条件と一致すると 1 が読み出される読み出し専用ビットです。それ以外の場合は読むと 0 が読み出されます。

［1 になる条件］

- ADCMPCR.CMPBE が 1 のときに、A/D 変換値が ADCMPBNSR.CMPLB で設定した条件と一致するとき

［0 になる条件］

- ADCMPCR.CMPBE が 1 のときに、A/D 変換値が ADCMPBNSR.CMPLB で設定した条件と一致しないとき
- ADCMPCR.CMPBE が 0 のとき（ADCMPCR.CMPBE の値が 1 から 0 に変化すると自動的に 0 になる）

42.2.33　A/D プログラマブルゲインアンプコントロールレジスタ（ADPGACR）

アドレス　ADC120.ADPGACR 4005 C1A0h, ADC121.ADPGACR 4005 C3A0h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	P002GEN	P002ENAMP	P002SEL1	P002SEL0	P001GEN	P001ENAMP	P001SEL1	P001SEL0	P000GEN	P000ENAMP	P000SEL1	P000SEL0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	P000SEL0	PGA P000アンプバイパス許可	0：PGAのアンプをバイパスする経路に信号を出力しない 1：PGAのアンプをバイパスする経路に信号を出力する	R/W
b1	P000SEL1	PGA P000アンプ経由許可	0：PGAのアンプを経由する経路に信号を出力しない 1：PGAのアンプを経由する経路に信号を出力する	R/W
b2	P000ENAMP	PGA P000アンプ許可	0：PGAのアンプを使用しない 1：PGAのアンプを使用する	R/W
b3	P000GEN	PGA P000ゲイン設定許可	0：ゲイン設定禁止 1：ゲイン設定許可	R/W
b4	P001SEL0	PGA P001アンプバイパス許可	0：PGAのアンプをバイパスする経路に信号を出力しない 1：PGAのアンプをバイパスする経路に信号を出力する	R/W
b5	P001SEL1	PGA P001アンプ経由許可	0：PGAのアンプを経由する経路に信号を出力しない 1：PGAのアンプを経由する経路に信号を出力する	R/W
b6	P001ENAMP	PGA P001アンプ許可	0：PGAのアンプを使用しない 1：PGAのアンプを使用する	R/W
b7	P001GEN	PGA P001ゲイン設定許可	0：ゲイン設定禁止 1：ゲイン設定許可	R/W
b8	P002SEL0	PGA P002アンプバイパス許可	0：PGAのアンプをバイパスする経路に信号を出力しない 1：PGAのアンプをバイパスする経路に信号を出力する	R/W
b9	P002SEL1	PGA P002アンプ経由許可	0：PGAのアンプを経由する経路に信号を出力しない 1：PGAのアンプを経由する経路に信号を出力する	R/W
b10	P002ENAMP	PGA P002アンプ許可	0：PGAのアンプを使用しない 1：PGAのアンプを使用する	R/W
b11	P002GEN	PGA P002ゲイン設定許可	0：ゲイン設定禁止 1：ゲイン設定許可	R/W
b12	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b14-b13	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W

注．　これらのビットの設定の詳細は、42.3.12　プログラマブルゲインアンプを参照してください。

PnSEL0 ビット（PGA Pn アンプバイパス許可）（n = 000 ～ 002）

各プログラマブルゲインアンプ Pn の PGA のアンプをバイパスする経路に信号を出力するかどうかを選択します。

PnSEL1 ビット（PGA Pn アンプ経由許可）（n = 000 ～ 002）

各プログラマブルゲインアンプ Pn の PGA のアンプを経由する経路に信号を出力するかどうかを選択します。

PnENAMP ビット（PGA Pn アンプ許可）（n = 000 ～ 002）

各プログラマブルゲインアンプ Pn の PGA のアンプを使用するかどうかを選択します。

PnGEN ビット（PGA Pn 入力抵抗側ゲイン選択信号許可）（n = 000 ～ 002）

プログラマブルゲインアンプ Pn のゲイン設定を許可または禁止します。

42.2.34　A/D プログラマブルゲインアンプゲイン設定レジスタ 0（ADPGAGS0）

アドレス　ADC120.ADPGAGS0 4005 C1A2h, ADC121.ADPGAGS0 4005 C3A2h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	P002GAIN[3:0]				P001GAIN[3:0]				P000GAIN[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	P000GAIN[3:0]	PGA P000 ゲイン設定	• 差動入力が無効（ADPGADCR0.PnDEN = 0）の場合 0 0 0 0 : ´2.000 0 0 0 1 : ´2.500 0 0 1 0 : ´2.667 0 0 1 1 : ´2.857 0 1 0 0 : ´3.077 0 1 0 1 : ´3.333 0 1 1 0 : ´3.636 0 1 1 1 : ´4.000 1 0 0 0 : ´4.444 1 0 0 1 : ´5.000 1 0 1 0 : ´5.714 1 0 1 1 : ´6.667 1 1 0 0 : ´8.000 1 1 0 1 : ´10.000 1 1 1 0 : ´13.333. • 差動入力が有効（ADPGADCR0.PnDEN = 1）（注1）の場合 0 0 0 1 : ´1.500 0 1 0 1 : ´2.333 1 0 0 1 : ´4.000 1 0 1 1 : ´5.667 上記以外は設定しないでください。	R/W
b7-b4	P001GAIN[3:0]	PGA P001 ゲイン設定		R/W
b11-b8	P002GAIN[3:0]	PGA P002 ゲイン設定		R/W
b15-b12	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

注 1.　これらのビットの設定の詳細は、42.3.12　プログラマブルゲインアンプを参照してください。

PnGAIN[3:0] ビット（PGA Pn ゲイン設定）（n = 000 ～ 002）

PGA のアンプ Pn のゲインを指定します。差動入力（ADPGADCR0.PnDEN = 1 かつ ADPGACR.PnGEN = 1）の場合、ADPGADCR0.PnDG[1:0] との組み合わせによってゲインを設定します。

42.2.35 A/D プログラマブルゲインアンプ差動入力コントロールレジスタ（ADPGADCR0）

アドレス ADC120.ADPGADCR0 4005 C1B0h, ADC121.ADPGADCR0 4005 C3B0h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	P002DEN	—	P002DG[1:0]		P001DEN	—	P001DG[1:0]		P000DEN	—	P000DG[1:0]	
リセット後の値	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	P000DG[1:0]	P000差動入力ゲイン設定	これらのビットを使用する場合、{P000DEN, P000GEN}を11bにしてください。 b1 b0 0 0：´1.5 0 1：´2.333 1 0：´4.0 1 1：´5.667	R/W
b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b3	P000DEN	P000差動入力許可	0：差動入力禁止 1：差動入力許可	R/W
b5-b4	P001DG[1:0]	P001差動入力ゲイン設定	これらのビットを使用する場合、{P001DEN, P001GEN}を11bにしてください。 b5 b4 0 0：´1.5 0 1：´2.333 1 0：´4.0 1 1：´5.667	R/W
b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	P001DEN	P001差動入力許可	0：差動入力禁止 1：差動入力許可	R/W
b9-b8	P002DG[1:0]	P002差動入力ゲイン設定	これらのビットを使用する場合、{P002DEN, P002GEN}を11bにしてください。 b9 b8 0 0：´1.5 0 1：´2.333 1 0：´4.0 1 1：´5.667	R/W
b10	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b11	P002DEN	P002差動入力許可	0：差動入力禁止 1：差動入力許可	R/W
b15-b12	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注．　これらのビットの設定の詳細は、42.3.12　プログラマブルゲインアンプを参照してください。

PnDG[1:0] ビット（Pn 差動入力ゲイン設定）（n = 000 ～ 002）

差動入力使用時の PGA のアンプ Pn のゲインを指定します。PnDEN ビットと PnGEN ビットがどちらも 1 の場合にのみ有効となります。

PGA を差動入力に使用するには、ADPGAGS0.PnGAIN[3:0] ビットと一緒に ADPGADCR0.PnDG[1:0] ビットを設定してください。

例：　P000 の差動入力でゲインを ×1.5 に設定する場合は、次のように設定します。
ADPGAGS0.P000GAIN[3:0] = 0001b
ADPGADCR0.P000DG[1:0] = 00b

PnDEN ビット（Pn 差動入力許可）（n = 000 ～ 002）

PGA のアンプ Pn の差動入力を許可または禁止します。

42.3 動作説明

42.3.1 スキャンの動作説明

スキャンとは、選択したチャネルのアナログ入力を順次 A/D 変換する動作です。

スキャン変換には、以下の 3 つの動作モードがあります。

- シングルスキャンモード
- 連続スキャンモード
- グループスキャンモード

シングルスキャンモードは、指定した 1 チャネル以上のスキャンを 1 回実行して終了するモードです。連続スキャンモードは、指定した 1 チャネル以上のスキャンをソフトウェアで ADCSR.ADST ビットを 1 から 0 にクリアするまで繰り返し実行するモードです。グループスキャンモードは、グループ A とグループ B のスキャンをそれぞれ選択した同期トリガ（ELC）で開始し、グループ A とグループ B で選択したチャネルのスキャンをそれぞれ 1 回ずつ実行して終了するモードです。

シングルスキャンモードと連続スキャンモードでは、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択した ANn の n が小さい番号のチャネルから順に A/D 変換を行います。グループスキャンモードでは、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択したグループ A のアナログ入力チャネル（ANn）、ADANSB0、ADANSB1 レジスタで選択したグループ B のアナログ入力チャネル（ANn）に対して最小のチャネル番号 n から A/D 変換を開始します。

自己診断を選択した場合は、スキャンごとの最初に 1 回実行され、ADC12 内部で生成する 3 つの電圧値のうち 1 つを A/D 変換します。

温度センサ出力、内部基準電圧は、チャネルのアナログ入力と同時に選択可能で、チャネルのアナログ入力、温度センサ出力、内部基準電圧の順に A/D 変換を行います。

ダブルトリガモードは、シングルスキャンモードまたはグループスキャンモードで使用可能です。ダブルトリガモードを許可（ADCSR.DBLE = 1）すると、ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットで選択した、同期トリガ（ELC）でのスキャン起動でのみ、ADCSR.DBLANS[4:0] ビットで選択した 1 チャネルの A/D 変換データを 2 重化します。グループスキャンモードのグループ A のみダブルトリガモードを使用可能です。

ダブルトリガモードの拡張動作では、A/D 変換動作が同期トリガコンビネーションから発生します。トリガコンビネーションは、ダブルトリガモードで ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットによって選択します。ELC_AD00 および ELC_AD01 はユニット 0 に対応します。ELC_AD10 および ELC_AD11 はユニット 1 に対応します。

ダブルトリガモードの拡張動作では、通常のダブルトリガモードでの動作に加えて、ELC_AD00（ユニット 0）および ELC_AD10（ユニット 1）の A/D 変換データは A/D データ 2 重化レジスタ A（ADDBLDRA）に格納され、ELC_AD01（ユニット 0）および ELC_AD11（ユニット 1）の A/D 変換データは A/D データ 2 重化レジスタ B（ADDBLDRB）に格納されます。ダブルトリガモードの拡張動作では、トリガコンビネーションの 1 つが同時発生すると、指定したトリガのデータ二重化レジスタ設定が実行されず、A/D 変換データは A/D データ二重化レジスタ B（ADDBLDRB）に格納されます。

同期トリガによって開始された A/D 変換中に別の同期トリガが入力された場合は、他の A/D 変換がキャンセルされると以降のトリガが入力されます。

ADSHCR.SHANS[2:0] ビットで AN000 ～ AN002（ユニット 0）、および AN100 ～ AN102（ユニット 1）のいずれかをチャネル専用サンプル＆ホールド回路に設定すると、スキャンごとに最初の A/D 変換開始前に対象となるアナログ入力のサンプル＆ホールドを行います。

42.3.2　シングルスキャンモード

42.3.2.1　基本動作（チャネル専用サンプル＆ホールド回路なし）

シングルスキャンモードの基本動作は、指定されたチャネルのアナログ入力を以下のように 1 サイクルのみ A/D 変換します。

1. ソフトウェアトリガ、同期トリガ入力（ELC）または非同期トリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択した ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
2. 1 チャネルの A/D 変換が終了するごとに、A/D 変換結果は関連する A/D データレジスタ（ADDRy）に格納されます。
3. 選択したすべてのチャネルの A/D 変換終了後、ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。
4. ADST ビットは A/D 変換中は 1（A/D 変換開始）を保持し、選択されたすべてのチャネルの A/D 変換が終了すると自動的に 0 にクリアされ、ADC12 は待機状態になります。

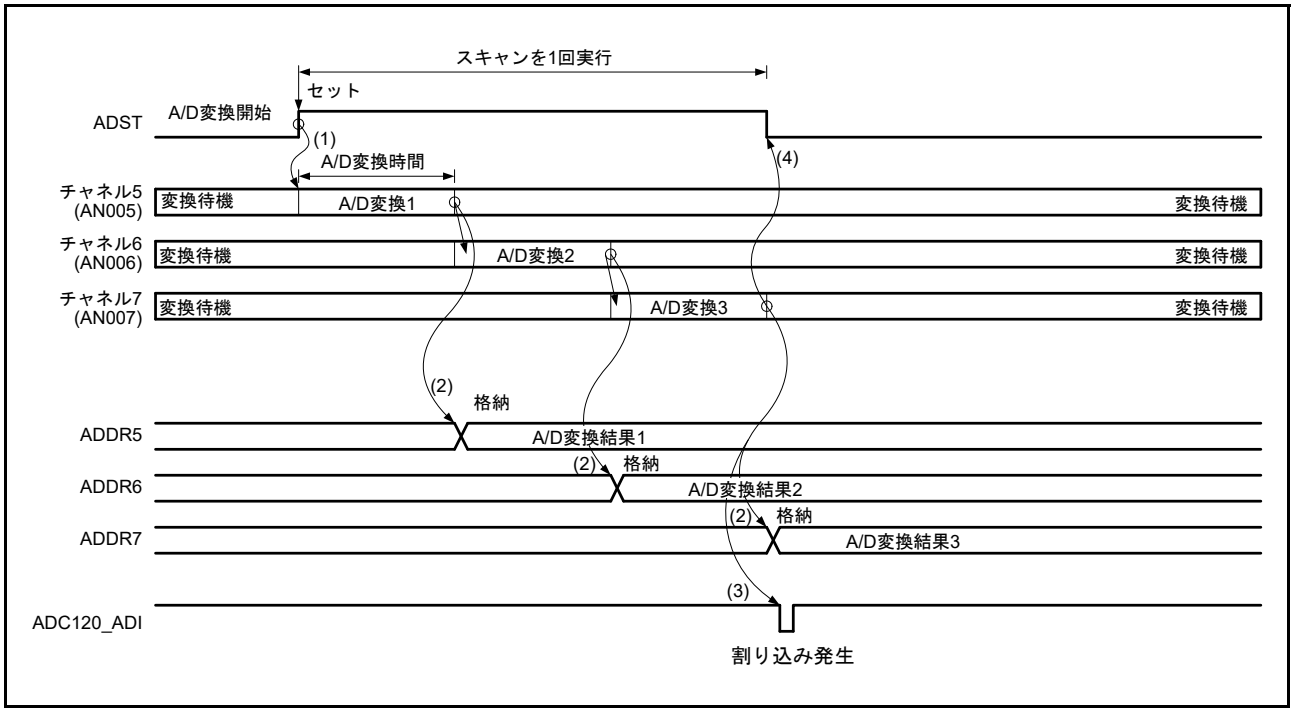


図 42.7　シングルスキャンモードの基本動作例（AN005 ～ AN007 選択）

42.3.2.2 基本動作（チャネル専用サンプル&ホールド回路あり、常時サンプリング無効）

チャネル専用サンプル&ホールド回路を使用すると、サンプル&ホールド実行後、指定したすべてのチャネルのアナログ入力を 1 回のみ A/D 変換します。チャネル専用サンプル&ホールド回路を使用するチャネルは、ADSHCR.SHANS[2:0] ビットで選択します。

動作は以下のとおりです。

1. ソフトウェアトリガ、同期トリガ入力（ELC）、または非同期トリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、チャネル専用サンプル&ホールド回路を使用するチャネルはすべてアナログ入力のサンプリングを開始します。
2. サンプリング&ホールド実行後に、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択したチャネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
3. 1 チャネルの A/D 変換が終了するごとに、A/D 変換結果は関連する A/D データレジスタ（ADDRy）に格納されます。
4. 選択したすべてのチャネルの A/D 変換終了後、ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。
5. ADST ビットは A/D 変換中は 1（A/D 変換開始）を保持し、選択されたすべてのチャネルの A/D 変換が終了すると自動的に 0 にクリアされ、ADC12 は待機状態になります。

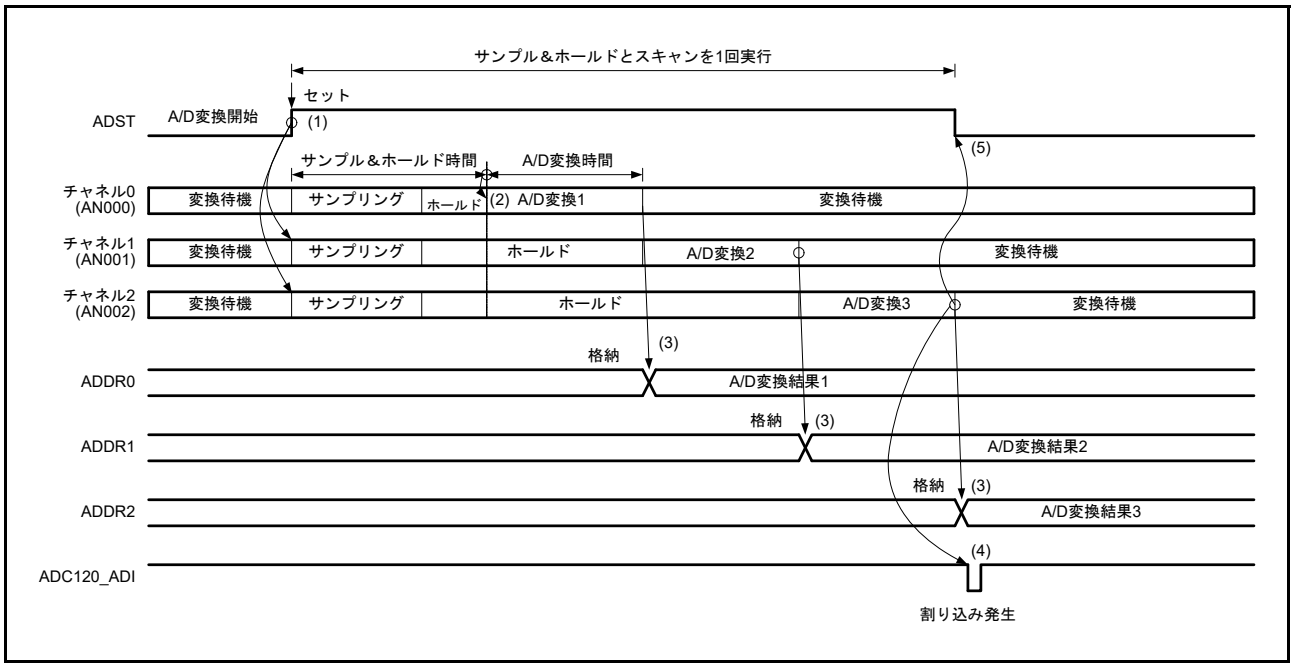


図 42.8 シングルスキャンモードの動作例（チャネル専用サンプル&ホールド回路使用、AN000 ～ AN002 選択）

42.3.2.3　基本動作（チャネル専用サンプル＆ホールド回路あり、常時サンプリング有効）

常時サンプリング有効設定でチャネル専用サンプル＆ホールド回路を使用すると、以下のようにサンプル＆ホールド実施後に選択したすべてのチャネルのアナログ入力を 1 回のみ A/D 変換します。チャネル専用サンプル＆ホールド回路を使用するチャネルは、ADSHCR.SHANS[2:0] ビットで指定します。

動作は以下のとおりです。

1. ADSHMSR.SHMD ビットを 1 にすると、ADSHCR.SHANS[2:0] ビットで選択されたサンプル＆ホールド回路が常時サンプリングを開始します。
2. ソフトウェアトリガ、同期トリガ入力（ELC）または非同期トリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、チャネル専用サンプル＆ホールド回路を使用するチャネルはすべてアナログ入力のホールドを開始します。
3. サンプル＆ホールド回路の安定時間経過後に、ADANSA0/1 レジスタで選択したチャネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
4. 1 チャネルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は関連する A/D データレジスタ（ADDRy）へ格納され、サンプル＆ホールド回路は常時サンプリングを再開します。
5. 選択したすべてのチャネルの A/D 変換終了後、ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。
6. ADCSR.ADST ビットは A/D 変換中は 1（A/D 変換開始）を保持し、選択されたすべてのチャネルの A/D 変換が終了すると自動的に 0 にクリアされ、ADC12 は待機状態になります。続けてシングルスキャンを実行する場合は、サンプル & ホールド回路の常時サンプリング期間が 400ns（許容信号源インピーダンスが 1kΩ の場合）以上となるようにしてください。
7. ADSHMSR.SHMD ビットを 0 にすると、サンプル＆ホールド回路が停止します。

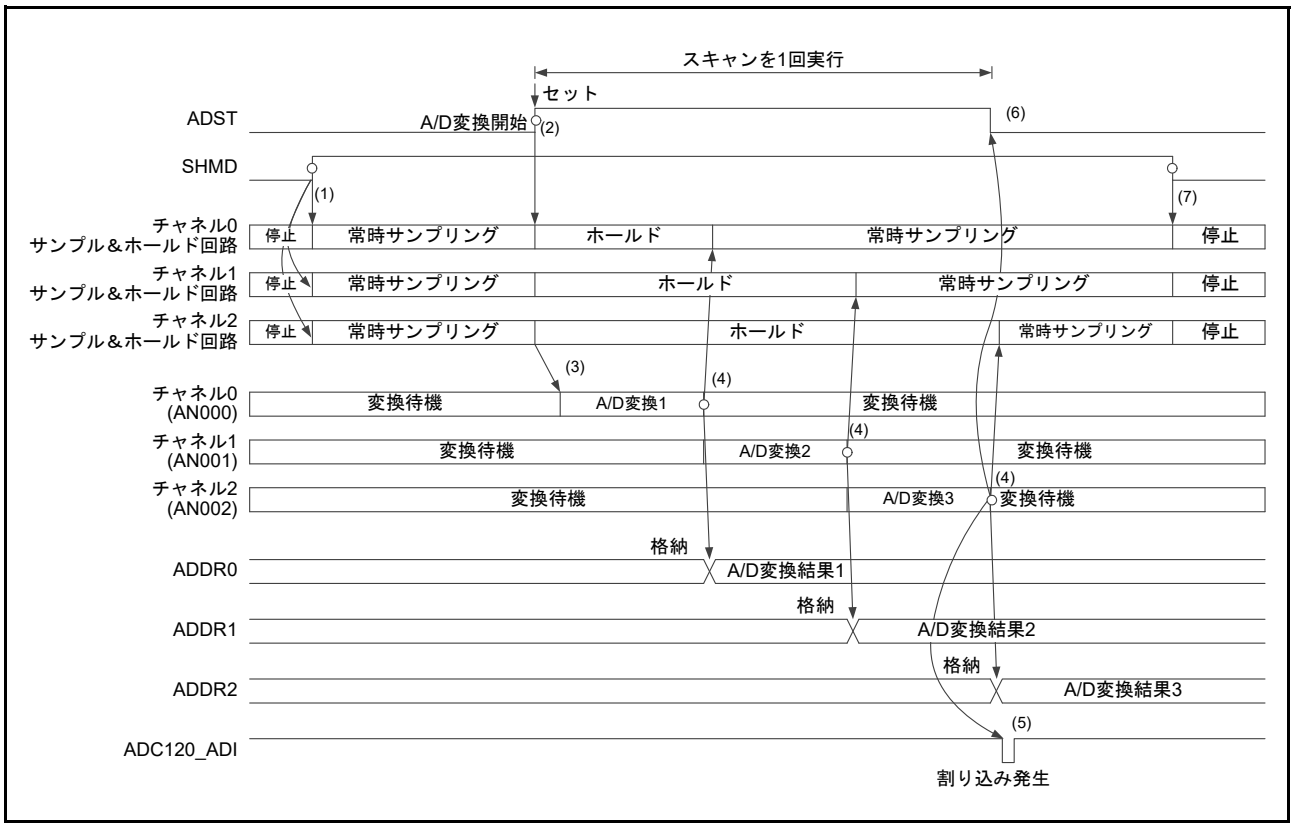


図 42.9　シングルスキャンモードの動作例（チャネル専用サンプル＆ホールド回路使用、AN000 ～ AN002 選択、常時サンプリング有効）

42.3.2.4　チャネル選択と自己診断（チャネル専用サンプル＆ホールド回路なし）

チャネル選択とともに自己診断を選択すると、ADC12 に供給される基準電圧 VREFH0（ユニット 0）または VREFH（ユニット 1）（×0, ×1/2, ×1 のいずれか）の A/D 変換を行い、その後、指定したチャネルのアナログ入力を 1 回のみ A/D 変換します。

動作は以下のとおりです。

1. ソフトウェアトリガ、同期トリガ入力（ELC）または非同期トリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、最初に自己診断での A/D 変換を開始します。
2. 自己診断の A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は A/D 自己診断データレジスタ（ADRD）に格納されます。次に、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択したチャネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
3. 1 チャネルの A/D 変換が終了するごとに、A/D 変換結果は関連する A/D データレジスタ（ADDRy）に格納されます。
4. 選択したすべてのチャネルの A/D 変換終了後、ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。
5. ADST ビットは A/D 変換中は 1（A/D 変換開始）を保持し、選択されたすべてのチャネルの A/D 変換が終了すると自動的に 0 にクリアされ、ADC12 は待機状態になります。

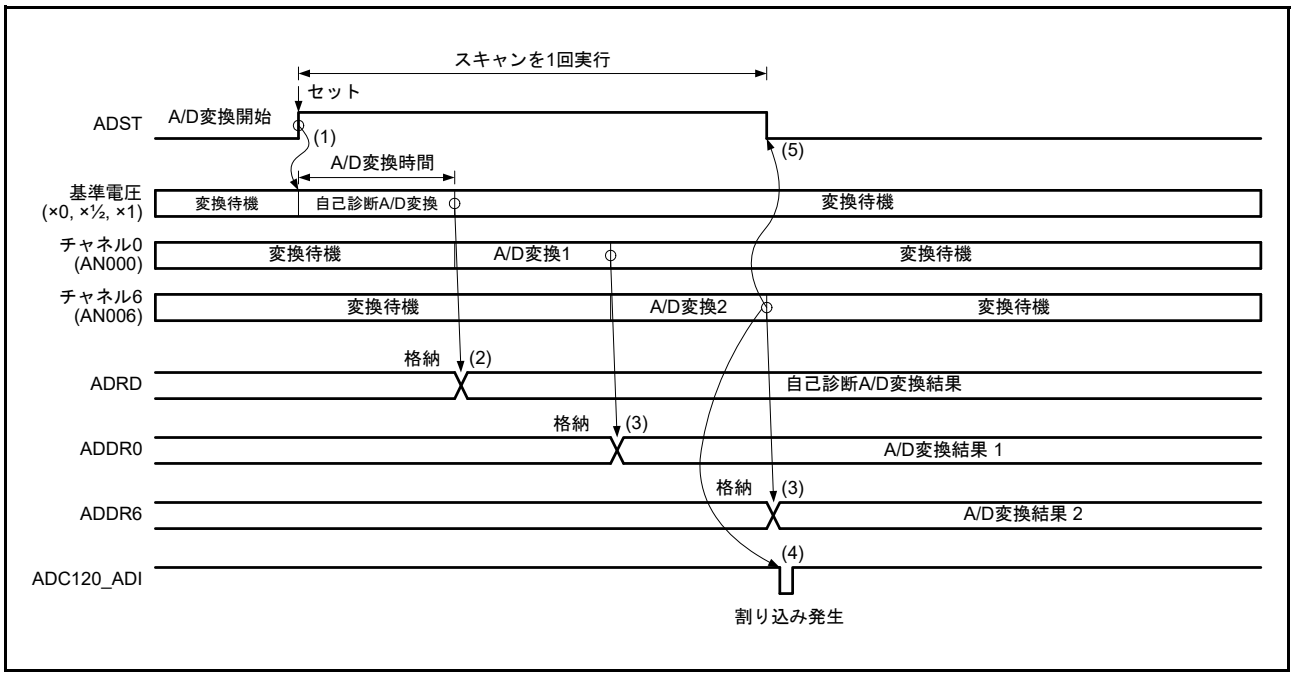


図 42.10　シングルスキャンモードの基本動作例（AN000、AN006 選択 + 自己診断）

42.3.2.5　チャネル選択と自己診断（チャネル専用サンプル&ホールド回路あり、常時サンプリング無効）

チャネル選択とともに自己診断を選択し、常時サンプリング無効設定でチャネル専用サンプル&ホールド回路を使用すると、サンプル&ホールド実行後に、ADC12 に供給される基準電圧 VREFH0（ユニット 0）、VREFH（ユニット 1）（×0, ×1/2, ×1 のいずれか）の A/D 変換を行い、その後選択したチャネルのアナログ入力を 1 回のみ A/D 変換します。

動作は以下のとおりです。

1. ソフトウェアトリガ、同期トリガ入力（ELC）、または非同期トリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、チャネル専用サンプル&ホールド回路を使用するチャネルはすべてアナログ入力のサンプリングを開始します。
2. サンプリング&ホールド実行後に、自己診断での A/D 変換を開始します。
3. 自己診断の A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は A/D 自己診断データレジスタ（ADRD）に格納されます。次に、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択したチャネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
4. 1 チャネルの A/D 変換が終了するごとに、A/D 変換結果は関連する A/D データレジスタ y（ADDRy）に格納されます。
5. 選択したすべてのチャネルの A/D 変換終了後、ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。
6. ADST ビットは A/D 変換中は 1（A/D 変換開始）を保持し、選択されたすべてのチャネルの A/D 変換が終了すると自動的に 0 にクリアされ、ADC12 は待機状態になります。

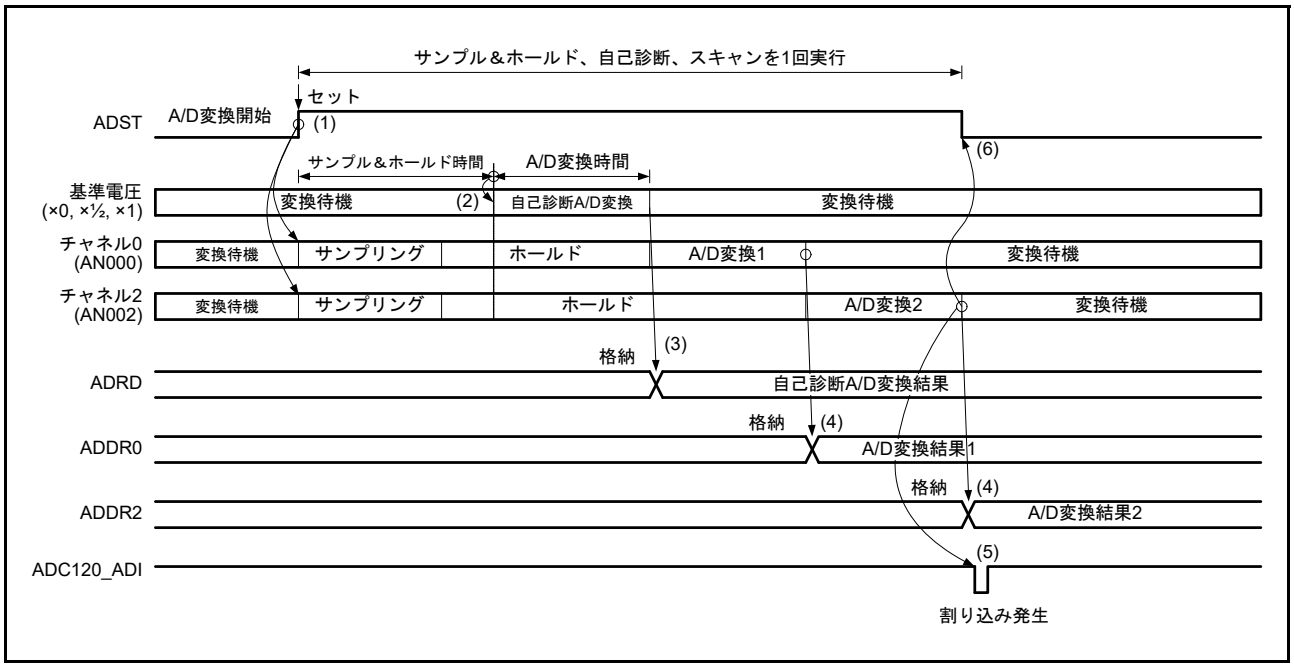


図 42.11　シングルスキャンモードの動作例（チャネル専用サンプル&ホールド回路使用、AN000 および AN002 選択 + 自己診断、常時サンプリング無効）

42.3.2.6　チャネル選択と自己診断（チャネル専用サンプル&ホールド回路あり、常時サンプリング有効）

チャネル選択とともに自己診断を選択し、常時サンプリング有効設定でチャネル専用サンプル&ホールド回路を使用すると、サンプル&ホールド実行後に、ADC12 に供給される基準電圧 VREFH0（ユニット 0）、VREFH（ユニット 1）の A/D 変換を行い、その後選択したチャネルのアナログ入力を 1 回のみ A/D 変換します。

動作は以下のとおりです。

1. ADSHMSR.SHMD ビットを 1 にすると、ADSHCR.SHANS[2:0] ビットで選択されたサンプル&ホールド回路が常時サンプリングを開始します。
2. ソフトウェアトリガ、同期トリガ入力（ELC）または非同期トリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、チャネル専用サンプル&ホールド回路を使用するチャネルはすべてアナログ入力のホールドを開始します。ADSHMSR.SHMD ビットを 1 にしてから 400ns（許容信号源インピーダンスが 1kΩ の場合）以上経過してから、ADCSR.ADST ビットが 1 になるようにしてください。
3. サンプル&ホールド回路の安定時間経過後に、自己診断での A/D 変換を開始します。
4. 自己診断の A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は A/D 自己診断データレジスタ（ADRD）に格納されます。次に、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択したチャネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
5. 1 チャネルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は関連する A/D データレジスタ y（ADDRy）へ格納され、サンプル&ホールド回路は常時サンプリングを再開します。
6. 選択したすべてのチャネルの A/D 変換終了後、ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。
7. ADCSR.ADST ビットは A/D 変換中は 1（A/D 変換開始）を保持し、選択されたすべてのチャネルの A/D 変換が終了すると自動的に 0 にクリアされ、ADC12 は待機状態になります。続けてシングルスキャンを実行する場合は、サンプル & ホールド回路の常時サンプリング期間が 400ns（許容信号源インピーダンスが 1kΩ の場合）以上となるようにしてください。
8. ADSHMSR.SHMD ビットを 0 にすると、サンプル&ホールド回路が停止します。

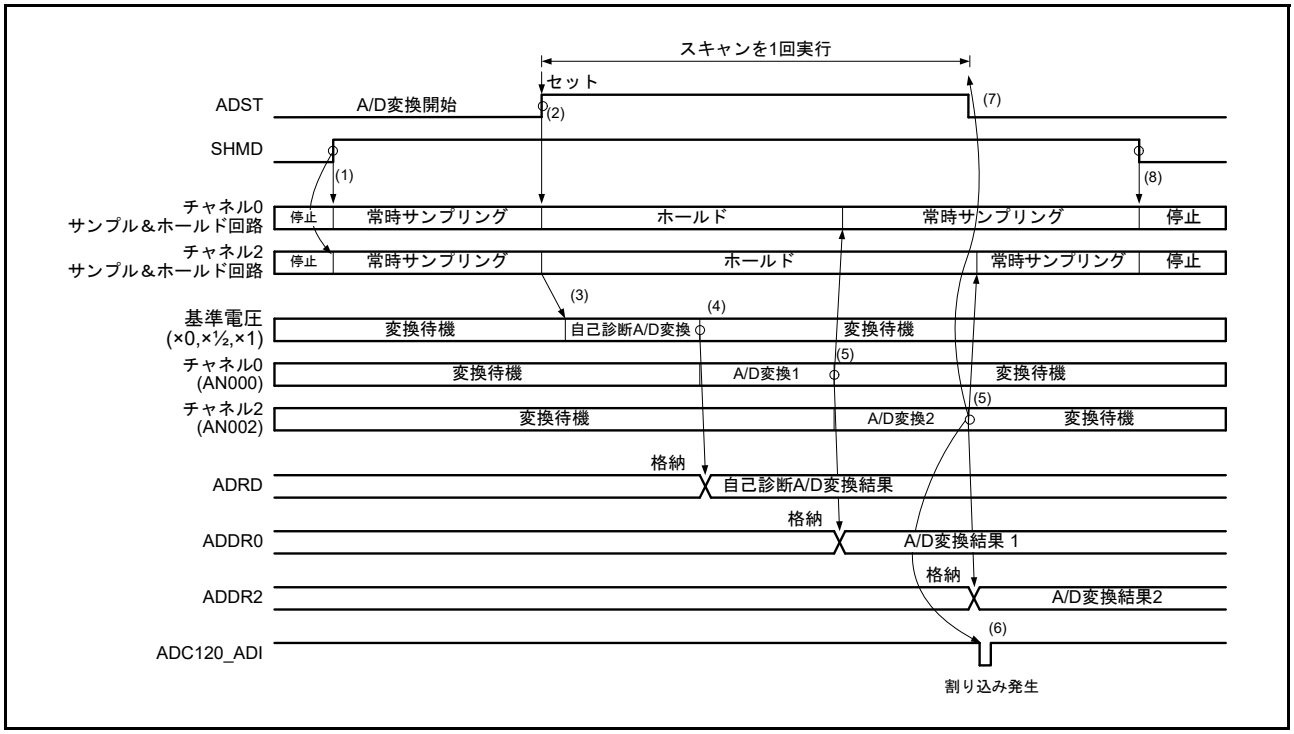


図 42.12　シングルスキャンモードの動作例（チャネル専用サンプル&ホールド回路使用、AN000 ～ AN002 選択 + 自己診断、常時サンプリング有効）

42.3.2.7　温度センサ出力／内部基準電圧選択時のA/D変換動作

チャネル選択とともに温度センサ出力または内部基準電圧を選択すると、選択したチャネルのアナログ入力のA/D変換を行い、その後温度センサ出力または内部基準電圧を1回のみA/D変換します。温度センサ出力と内部基準電圧の両方を選択した場合は、温度センサ、内部基準電圧の順にA/D変換します。チャネルを非選択とし、温度センサまたは内部基準電圧のみを選択することも可能です。

動作は以下のとおりです。

1. ソフトウェアトリガ、同期トリガ（ELC）または非同期トリガによってADCSR.ADSTビットが1（A/D変換開始）になると、ADANSA0、ADANSA1レジスタで選択したANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。
2. チャネルのA/D変換が終了すると、結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy）へ格納され、次に温度センサ出力のA/D変換を開始します。
3. 温度センサ出力のA/D変換が終了すると、結果は関連するA/D温度センサデータレジスタ（ADTSDR）へ格納され、次に内部基準電圧のA/D変換を開始します。
4. 内部基準電圧のA/D変換が終了すると、結果は関連するA/D内部基準電圧データレジスタ（ADOCDR）へ格納され、ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。
5. ADCSR.ADSTビットはA/D変換中は1（A/D変換開始）を保持し、A/D変換が終了すると自動的に0にクリアされ、ADC12は待機状態になります。

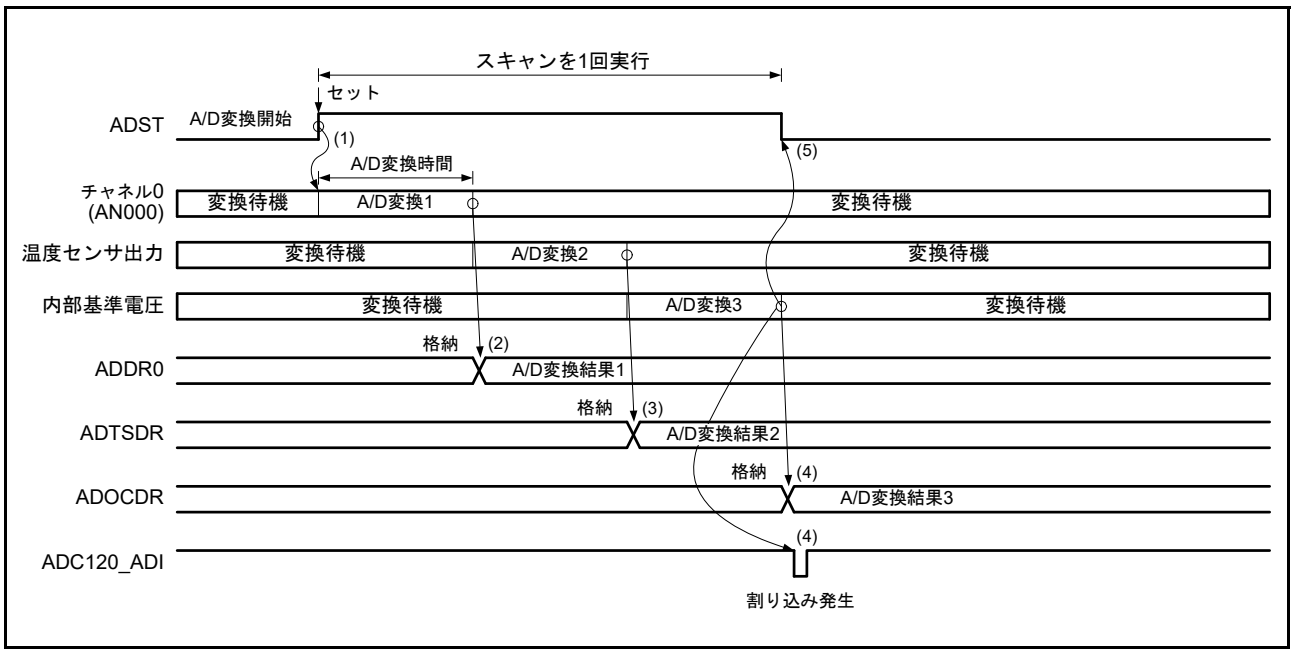


図 42.13　シングルスキャンモードの基本動作例（AN000、温度センサ出力または内部基準電圧選択）

42.3.2.8　ダブルトリガモード選択時のA/D変換動作

シングルスキャンモードでダブルトリガモードを選択した場合は、同期トリガ（ELC）で開始するシングルスキャンモードの実行2回分を一連の動作として実行します。

自己診断は非選択とし、温度センサ出力A/D変換選択ビット（ADEXICR.TSSA）と内部基準電圧A/D変換選択ビット（ADEXICR.OCSA）は0にしてください。

A/D変換データ2重化は、2重化するチャネルの番号をADCSR.DBLANS[4:0]ビットに設定し、ADCSR.DBLEビットを1にすると有効となります。ADCSR.DBLEビットを1にした場合はADANSA0、ADANSA1レジスタのチャネル選択は無効になります。

ダブルトリガモード時は、ADSTRGR.TRSA[5:0]ビットで同期トリガ（ELC）を選択し、ADCSR.EXTRGビットを0に、ADCSR.TRGEビットを1にしてください。ソフトウェアトリガは使用しないでください。

動作は以下のとおりです。

1. 同期トリガ入力（ELC）によってADCSR.ADSTビットが1（A/D変換開始）になると、ADCSR.DBLANS[4:0]ビットで選択した1チャネルのA/D変換を開始します。
2. 1チャネルのA/D変換が終了すると、A/D変換結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy）に格納されます。
3. ADSTビットは自動的にクリアされ、ADC12は待機状態になります。ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求は発生しません。
4. 2回目のトリガ入力によってADCSR.ADSTビットが1（A/D変換開始）になると、ADCSR.DBLANS[4:0]ビットで選択した1チャネルのA/D変換を開始します。
5. A/D変換が終了すると、結果はダブルトリガモード専用のA/Dデータ2重化レジスタ（ADDBLDR）に格納されます。
6. ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。
7. ADSTビットはA/D変換中は1（A/D変換開始）を保持し、A/D変換が終了すると自動的に0にクリアされ、ADC12は待機状態になります。

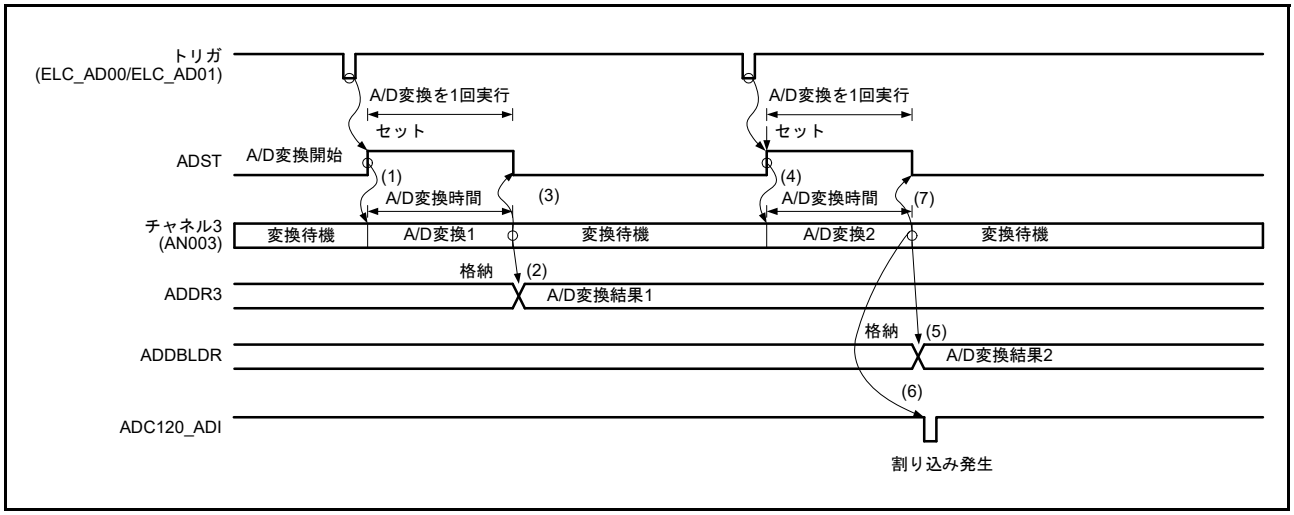


図 42.14　シングルスキャンモードの動作例（ダブルトリガモード選択、AN003 を 2 重化）

42.3.2.9 ダブルトリガモード選択時の拡張動作

シングルスキャンモードでダブルトリガモードを選択した場合で、A/D 変換開始トリガとして同期トリガ（ELC_AD00/ELC_AD01（ユニット 0）／ELC_AD10/ELC_AD11（ユニット 1））を選択した場合、シングルスキャンモードの実行 2 回分を行います。

自己診断は非選択とし、温度センサ出力 A/D 変換選択ビット（ADEXICR.TSSA および ADEXICR.TSSB）と内部基準電圧 A/D 変換選択ビット（ADEXICR.OCSA および ADEXICR.OCSB）はともに 0 にしてください。

A/D 変換データ 2 重化は、2 重化するチャネルの番号を ADCSR.DBLANS[4:0] ビットに設定し、ADCSR.DBLE ビットを 1 にすると有効となります。ADCSR.DBLE ビットを 1 にした場合は ADANSA0、ADANSA1 レジスタのチャネル選択は無効になります。

ダブルトリガ拡張モード時は、ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットを 0Bh にして同期トリガ（ELC_AD00/ELC_AD01（ユニット 0）／ELC_AD10/ELC_AD11（ユニット 1））を選択し、ADCSR.EXTRG ビットを 0 に、ADCSR.TRGE ビットを 1 にしてください。ソフトウェアトリガは使用しないでください。

動作は以下のとおりです。

1. 同期トリガ入力（ELC_AD00/ELC_AD01（ユニット 0）／ELC_AD10/ELC_AD11（ユニット 1））によって ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、ADCSR.DBLANS[4:0] ビットで選択した 1 チャネルの A/D 変換を開始します。
2. 1 チャネルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は、関連する A/D データレジスタ y（ADDRy）、および ELC_ADi0 のトリガが入力の場合（i = 0、1）は A/D データ 2 重化レジスタ A（ADDBLDRA）、または ELC_ADi1 のトリガが入力の場合（i = 0、1）は A/D データ 2 重化レジスタ B（ADDBLDRB）へ格納されます。
3. ADCSR.ADST ビットは自動的に 0 にクリアされ、ADC12 は待機状態になります。ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求は発生しません。
4. 2 回目のトリガ入力（ELC_AD00/ELC_AD01（ユニット 0）／ELC_AD10/ELC_AD11（ユニット 1））によって ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、ADCSR.DBLANS[4:0] ビットで選択した 1 チャネルの A/D 変換を開始します。
5. A/D 変換が終了すると、その結果は、A/D データ 2 重化レジスタ（ADDBLDR）、および ELC_ADi0 のトリガが入力の場合（i = 0、1）は A/D データ 2 重化レジスタ A（ADDBLDRA）、または ELC_ADi1 のトリガが入力の場合（i = 0、1）は A/D データ 2 重化レジスタ B（ADDBLDRB）へ格納されます。
6. ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。
7. ADCSR.ADST ビットは A/D 変換中は 1（A/D 変換開始）を保持し、A/D 変換が終了すると自動的に 0 にクリアされ、ADC12 は待機状態になります。

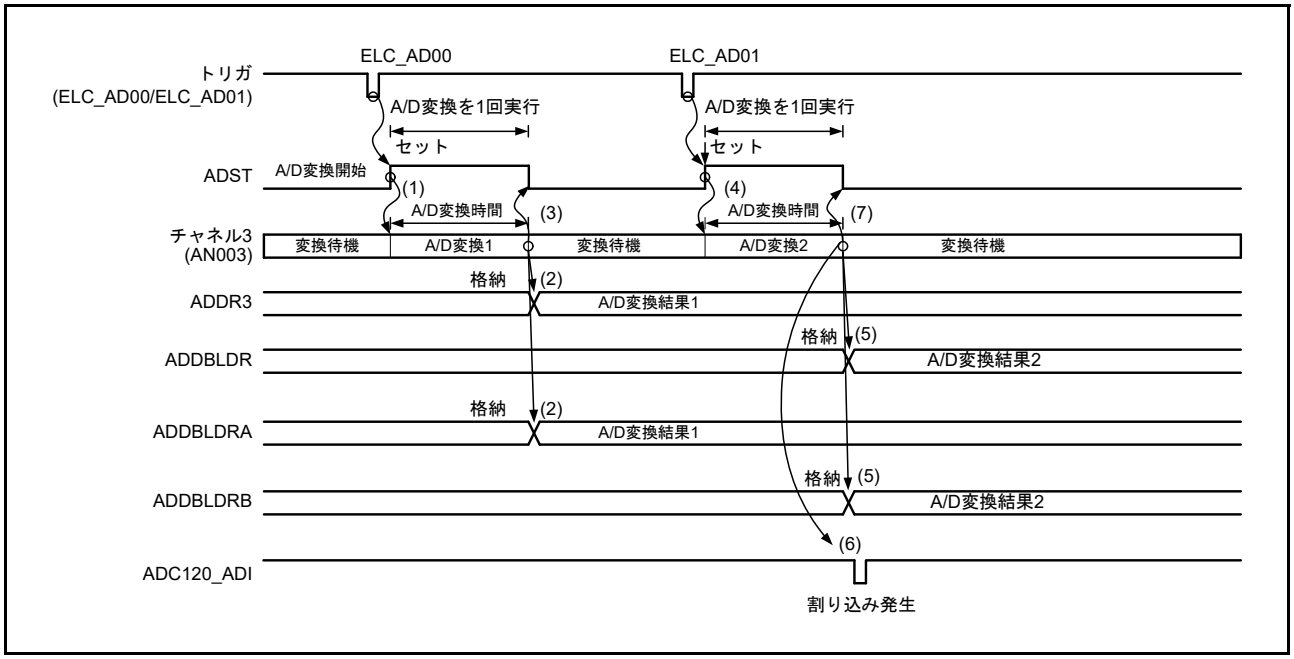


図 42.15　ダブルトリガモードの拡張動作例（1）（AN003 の 2 重化を選択、ELC_AD00/ELC_AD01 選択）

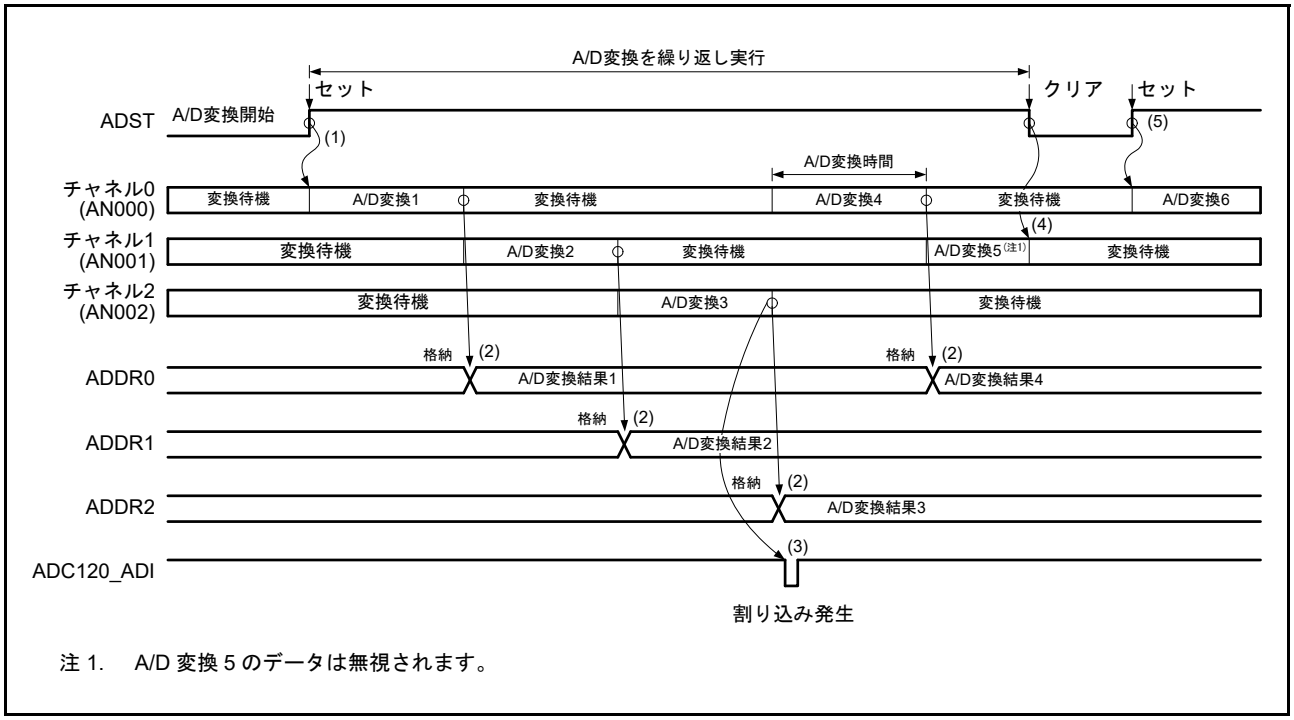
42.3.3　連続スキャンモード

42.3.3.1　基本動作（チャネル専用サンプル＆ホールド回路なし）

連続スキャンモードの基本動作は、選択されたチャネルのアナログ入力を繰り返しA/D変換します。

動作は以下のとおりです。

1. ソフトウェアトリガ、同期トリガ入力（ELC）または非同期トリガ入力によってADCSR.ADSTビットが1（A/D変換開始）になると、ADANSA0、ADANSA1レジスタで選択したANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。
2. 1チャネルのA/D変換が終了すると、A/D変換結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy）に格納されます。
3. 選択したすべてのチャネルのA/D変換終了後、ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。またADC12は、継続してADANSA0、ADANSA1レジスタで選択したANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。
4. ADCSR.ADSTビットは自動的にクリアされず、1（A/D変換開始）の状態の間は（2）～（3）を繰り返します。ADCSR.ADSTビットを0（A/D変換停止）にすると、A/D変換は停止し、ADC12は待機状態になります。
5. その後、ADCSR.ADSTビットを1（A/D変換開始）にすると、ADANSA0、ADANSA1レジスタで選択したANnのnが小さい番号順に再びA/D変換を開始します。



注 1.　A/D変換5のデータは無視されます。

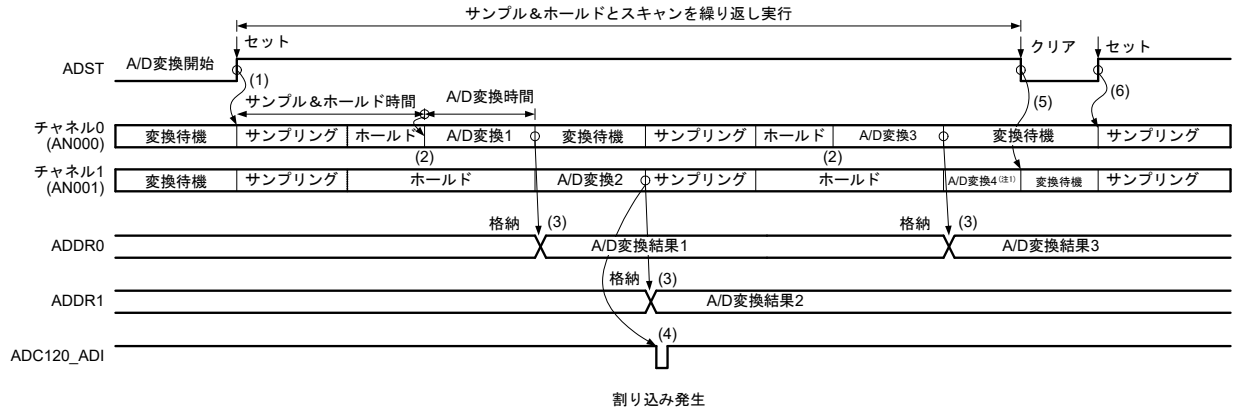
図 42.16　連続スキャンモードの基本動作例（AN000 ～ AN002 選択）

42.3.3.2 基本動作（チャネル専用サンプル&ホールド回路あり、常時サンプリング無効）

常時サンプリング無効時にチャネル専用サンプル&ホールド回路を使用すると、サンプル&ホールド実行後、指定したすべてのチャネルのアナログ入力を繰り返し A/D 変換します。チャネル専用サンプル&ホールド回路を使用するチャネルは、ADSHCR.SHANS[2:0] ビットで選択します。

動作は以下のとおりです。

1. ソフトウェアトリガ、同期トリガ入力（ELC）、または非同期トリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、チャネル専用サンプル&ホールド回路を使用するチャネルはすべてアナログ入力のサンプリングを開始します。
2. サンプリング&ホールド実行後に、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択したチャネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
3. 1 チャネルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は関連する A/D データレジスタ y（ADDRy）に格納されます。
4. 選択したすべてのチャネルの A/D 変換終了後、ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。また、チャネル専用サンプル&ホールド回路を使用するすべてのチャネルのアナログ入力のサンプリングが開始されます。
5. ADCSR.ADST ビットは自動的にクリアされず、1 の状態の間は（2）～（4）を繰り返します。ADCSR.ADST ビットを 0（A/D 変換停止）にすると、A/D 変換は停止し、ADC12 は待機状態になります。
6. その後、ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、チャネル専用サンプル&ホールド回路を使用するすべてのチャネルのアナログ入力のサンプリングが再び開始されます。



注 1. A/D 変換 4 のデータは無視されます。

図 42.17 連続スキャンモードの動作例（チャネル専用サンプル&ホールド回路使用、AN000 および AN001 選択）

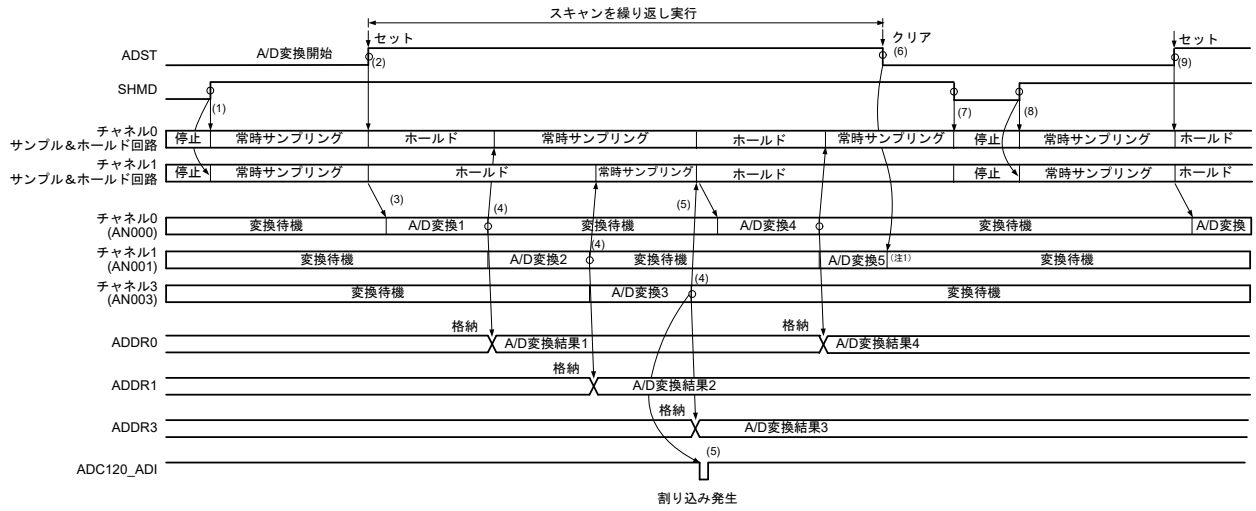
42.3.3.3 基本動作（チャネル専用サンプル＆ホールド回路あり、常時サンプリング有効）

常時サンプリング有効設定でチャネル専用サンプル＆ホールド回路を使用すると、以下のように、サンプル＆ホールド実行後、選択したすべてのチャネルのアナログ入力を A/D 変換する動作を繰り返します。チャネル専用サンプル＆ホールド回路を使用するチャネルは、ADSHCR.SHANS[2:0] ビットで選択します。

動作は以下のとおりです。

1. ADSHMSR.SHMD ビットを 1 にすると、ADSHCR.SHANS[2:0] ビットで選択されたサンプル＆ホールド回路が常時サンプリングを開始します。
2. ソフトウェアトリガ、同期トリガ入力（ELC）または非同期トリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、チャネル専用サンプル＆ホールド回路を使用するチャネルはすべてアナログ入力のホールドを開始します。ADSHMSR.SHMD ビットを 1 にしてから 400ns（許容信号源インピーダンスが 1kΩ の場合）以上経過してから、ADCSR.ADST ビットが 1 になるようにしてください。
3. サンプル＆ホールド回路の安定時間経過後に、ADANSA0/1 レジスタで選択したチャネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
4. 1 チャネルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は関連する A/D データレジスタ y（ADDRy）へ格納され、サンプル＆ホールド回路は常時サンプリングを再開します。
5. 選択したすべてのチャネルの A/D 変換終了後、ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。また、チャネル専用サンプル＆ホールド回路を使用するチャネルはすべてアナログ入力のホールドを開始します。
6. ADCSR.ADST ビットは自動的にクリアされず、1 の状態の間は（3）～（5）を繰り返します。ADCSR.ADST ビットを 0（A/D 変換停止）にすると、A/D 変換は停止し、ADC12 は待機状態になります。
7. ADSHMSR.SHMD ビットを 0 にすると、サンプル＆ホールド回路が停止します。
8. その後、ADSHMSR.SHMD ビットを 1 にすると、ADSHCR.SHANS[2:0] ビットで選択されたサンプル＆ホールド回路が常時サンプリングを開始します。
9. ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、チャネル専用サンプル＆ホールド回路を使用するチャネルはすべてアナログ入力のホールドを開始します。

注 . サンプル & ホールド回路ありのチャネルのみを選択し連続スキャンを実施すると、連続スキャンの 2 回目以降に常時サンプリングの期間が確保されなくなります。サンプル & ホールド回路の常時サンプリング有効で連続スキャンする場合、ユニット 0 では AN003 ～ AN007、AN016 ～ AN018、AN020 の中の 1 つ以上のチャネル、温度センサ出力、および内部基準電圧、ユニット 1 では AN105 ～ AN107、AN116、AN117 の中の 1 つ以上のチャネル、温度センサ出力、および内部基準電圧を選択し、サンプル & ホールド回路の常時サンプリング期間が 400ns（許容信号源インピーダンスが 1kΩ の場合）以上となるようにしてください。



注 1. A/D 変換 5 のデータは無視されます。

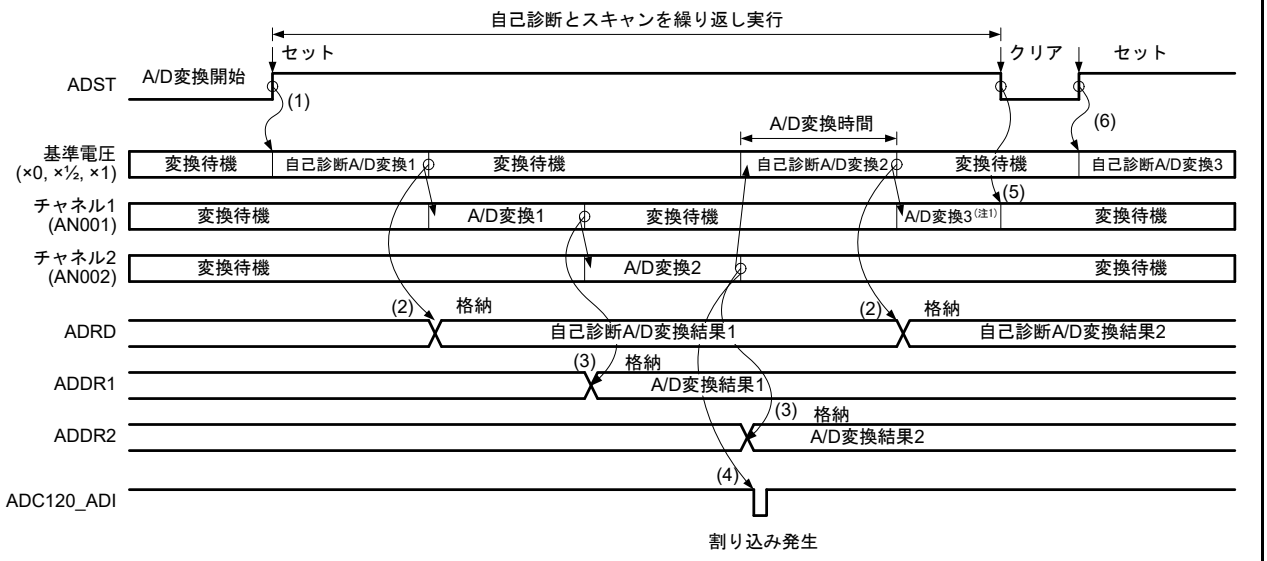
図 42.18 連続スキャンモードの動作例（チャネル専用サンプル＆ホールド回路使用、AN000、AN001、および AN003 選択、常時サンプリング有効）

42.3.3.4　チャネル選択と自己診断（チャネル専用サンプル＆ホールド回路なし）

チャネル選択とともに自己診断を選択すると、ADC12 に供給される基準電圧 VREFH0（ユニット 0）、VREFH（ユニット 1）（×0, ×1/2, ×1 のいずれか）の A/D 変換を行い、その後、選択したチャネルのアナログ入力を A/D 変換するという流れを繰り返します。

動作は以下のとおりです。

1. ソフトウェアトリガ、同期トリガ入力（ELC）または非同期トリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、最初に自己診断での A/D 変換を開始します。
2. 自己診断の A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は A/D 自己診断データレジスタ（ADRD）に格納されます。次に、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択したチャネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
3. 1 チャネルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は関連する A/D データレジスタ y（ADDRy）に格納されます。
4. 選択したすべてのチャネルの A/D 変換終了後、ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。また、ADC12 は同時に自己診断での A/D 変換を開始し、次に ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択したチャネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
5. ADCSR.ADST ビットは自動的にクリアされず、1 の状態の間は（2）～（4）を繰り返します。ADCSR.ADST ビットを 0（A/D 変換停止）にすると、A/D 変換は停止し、ADC12 は待機状態になります。
6. その後、ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）に設定されると、再び自己診断での A/D 変換から開始します。



注 1.　A/D 変換 3 のデータは無視されます。

図 42.19　連続スキャンモードの基本動作例（AN001 および AN002 選択 + 自己診断）

42.3.3.5　チャネル選択と自己診断（チャネル専用サンプル＆ホールド回路あり、常時サンプリング無効）

チャネル選択とともに自己診断を選択し、常時サンプリング無効設定でチャネル専用サンプル＆ホールド回路を使用すると、サンプル＆ホールド処理後に、ADC12 に供給される基準電圧 VREFH0（ユニット 0）、VREFH（ユニット 1）（×0, ×1/2, ×1 のいずれか）の A/D 変換を行い、その後、選択したチャネルのアナログ入力を A/D 変換する動作を繰り返し行います。

動作は以下のとおりです。

1. ソフトウェアトリガ、同期トリガ入力（ELC）、または非同期トリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、チャネル専用サンプル＆ホールド回路を使用するチャネルはすべてアナログ入力のサンプリングを開始します。
2. サンプリング＆ホールド実行後に、自己診断での A/D 変換を開始します。
3. 自己診断の A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は A/D 自己診断データレジスタ（ADRD）に格納されます。次に、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択したチャネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
4. 1 チャネルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は関連する A/D データレジスタ y（ADDRy）に格納されます。
5. 選択したすべてのチャネルの A/D 変換終了後、ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。また、チャネル専用サンプル＆ホールド回路を使用するすべてのチャネルのアナログ入力のサンプリングが開始されます。
6. ADCSR.ADST ビットは自動的にクリアされず、1 の状態の間は（2）～（5）を繰り返します。ADCSR.ADST ビットを 0（A/D 変換停止）にすると、A/D 変換は停止し、ADC12 は待機状態になります。
7. その後、ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、チャネル専用サンプル＆ホールド回路を使用するすべてのチャネルのアナログ入力のサンプリングが再び開始されます。

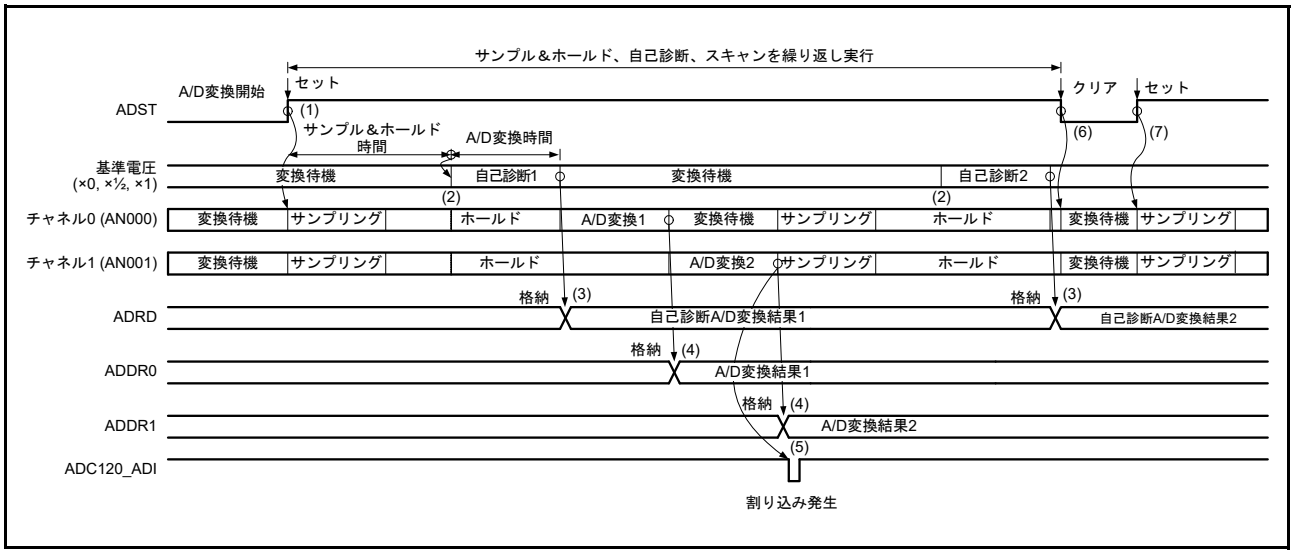


図 42.20　連続スキャンモードの動作例（チャネル専用サンプル＆ホールド回路使用、AN000 および AN001 選択 + 自己診断）

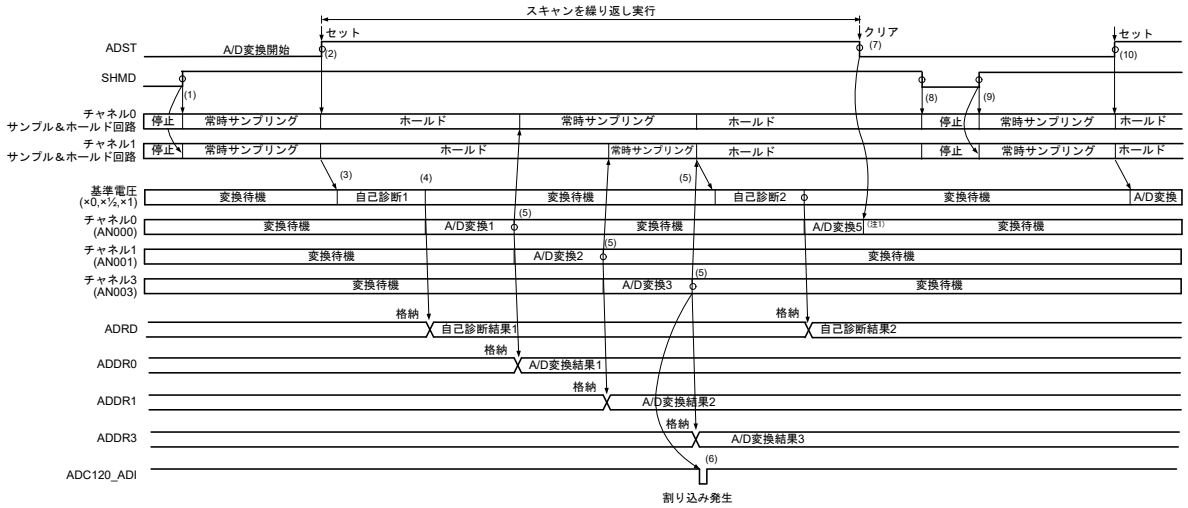
42.3.3.6 チャネル選択と自己診断（チャネル専用サンプル&ホールド回路あり、常時サンプリング有効）

チャネル選択とともに自己診断を選択し、常時サンプリング有効設定でチャネル専用サンプル&ホールド回路を使用すると、サンプル&ホールド実行後に、ADC12 に供給される基準電圧 VREFH0（ユニット 0）、VREFH（ユニット 1）（×0, ×1/2, ×1 のいずれか）の A/D 変換を行い、その後、選択したチャネルのアナログ入力を A/D 変換するという流れを繰り返します。

動作は以下のとおりです。

1. ADSHMSR.SHMD ビットを 1 にすると、ADSHCR.SHANS[2:0] ビットで選択されたサンプル&ホールド回路が常時サンプリングを開始します。
2. ソフトウェアトリガ、同期トリガ入力（ELC）または非同期トリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、チャネル専用サンプル&ホールド回路を使用するチャネルはすべてアナログ入力のホールドを開始します。ADSHMSR.SHMD ビットを 1 にしてから 400ns（許容信号源インピーダンスが 1kΩ の場合）以上経過してから、ADCSR.ADST ビットが 1 になるようにしてください。
3. サンプル&ホールド回路の安定時間経過後に、自己診断での A/D 変換を開始します。
4. 自己診断の A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は A/D 自己診断データレジスタ（ADRD）に格納されます。次に、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択したチャネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
5. 1 チャネルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は関連する A/D データレジスタ y（ADDRy）へ格納され、サンプル&ホールド回路は常時サンプリングを再開します。
6. 選択したすべてのチャネルの A/D 変換終了後、ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。また、チャネル専用サンプル&ホールド回路を使用するチャネルはすべてアナログ入力のホールドを開始します。
7. ADCSR.ADST ビットは自動的にクリアされず、1 の状態の間は（3）～（6）を繰り返します。ADCSR.ADST ビットを 0（A/D 変換停止）にすると、A/D 変換は停止し、ADC12 は待機状態になります。
8. ADSHMSR.SHMD ビットを 0 にすると、サンプル&ホールド回路が停止します。
9. その後、ADSHMSR.SHMD ビットを 1 にすると、ADSHCR.SHANS[2:0] ビットで選択されたサンプル&ホールド回路が常時サンプリングを開始します。
10. ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、チャネル専用サンプル&ホールド回路を使用するチャネルはすべてアナログ入力のホールドを開始します。

注 . サンプル & ホールド回路ありのチャネルのみを選択し連続スキャンを実施すると、連続スキャンの 2 回目以降に常時サンプリングの期間が確保されなくなります。サンプル & ホールド回路の常時サンプリング有効で連続スキャンする場合、ユニット 0 では AN003 ～ AN007、AN016 ～ AN018、AN020 の中の 1 つ以上のチャネル、温度センサ出力、および内部基準電圧、ユニット 1 では AN105 ～ AN107、AN116、AN117 の中の 1 つ以上のチャネル、温度センサ出力、および内部基準電圧を選択し、サンプル & ホールド回路の常時サンプリング期間が 400ns（許容信号源インピーダンスが 1kΩ の場合）以上となるようにしてください。



注 1.　A/D 変換 5 のデータは無視されます。

図 42.21　連続スキャンモードの動作例（チャネル専用サンプル＆ホールド回路使用、AN000、AN001、および AN003 選択 + 自己診断、常時サンプリング有効）

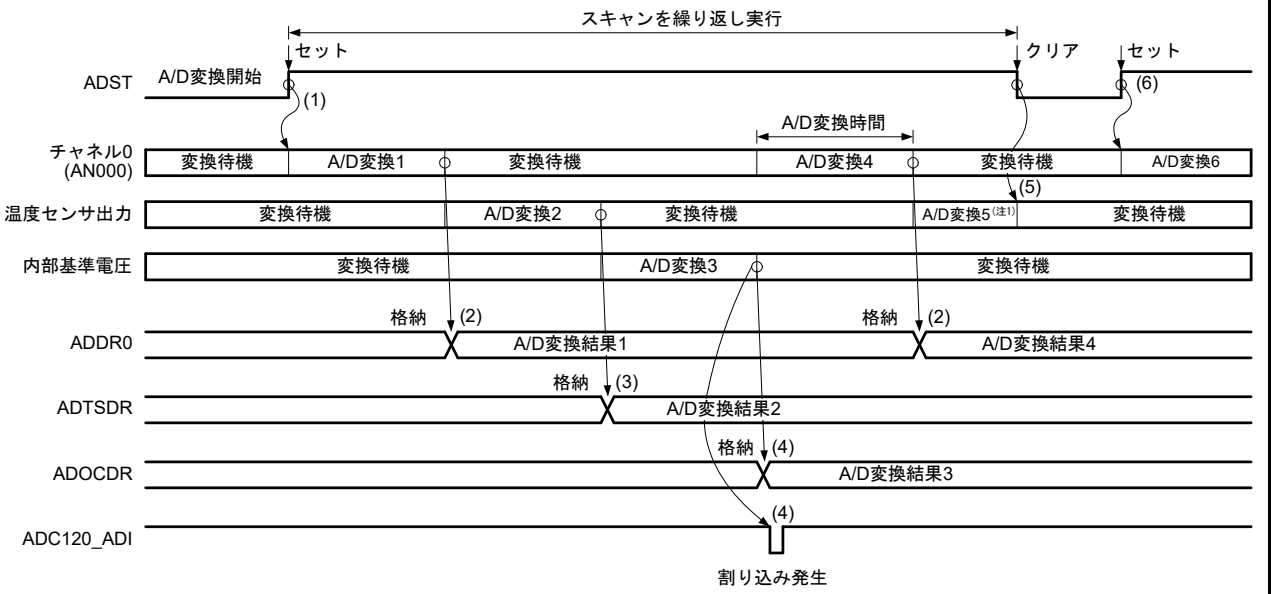
42.3.3.7　温度センサ出力／内部基準電圧選択時のA/D変換動作

チャネル選択とともに温度センサ出力または内部基準電圧を選択すると、選択したチャネルのアナログ入力のA/D変換を行い、その後温度センサ出力または内部基準電圧を繰り返しA/D変換します。温度センサ出力と内部基準電圧の両方を選択した場合は、温度センサ出力、内部基準電圧の順にA/D変換します。

チャネルを非選択とし、温度センサまたは内部基準電圧のみを選択することも可能です。

動作は以下のとおりです。

1. ソフトウェアトリガ、同期トリガ（ELC）または非同期トリガによってADCSR.ADSTビットが1（A/D変換開始）になると、ADANSA0、ADANSA1レジスタで選択したANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。
2. チャネルのA/D変換が終了すると、結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy）へ格納され、次に温度センサ出力のA/D変換を開始します。
3. 温度センサ出力のA/D変換が終了すると、結果は関連するA/D温度センサデータレジスタ（ADTSDR）へ格納され、次に内部基準電圧のA/D変換を開始します。
4. 内部基準電圧のA/D変換が終了すると、結果は関連するA/D内部基準電圧データレジスタ（ADOCDR）へ格納され、ADC12i_ADI割り込み要求が発生します。またADC12は、継続してADANSA0、ADANSA1レジスタで選択したANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。
5. ADCSR.ADSTビットは自動的にクリアされず、1の状態の間は（2）～（4）を繰り返します。ADCSR.ADSTビットを0（A/D変換停止）にすると、A/D変換は停止し、ADC12は待機状態になります。
6. その後、ADCSR.ADSTビットを1（A/D変換開始）にすると、ADANSA0、ADANSA1レジスタで選択したANnのnが小さい番号順に再びA/D変換を開始します。



注1.　A/D変換5のデータは無視されます。

図42.22　　連続スキャンモードの基本動作例（AN000、温度センサ出力または内部基準電圧選択）

42.3.4　グループスキャンモード

42.3.4.1　基本動作

グループスキャンモードでは、同期トリガ（ELC）をスキャン開始条件とし、グループAとグループBのそれぞれで選択したすべてのチャネルのアナログ入力を1回のみA/D変換します。グループAとグループBのそれぞれのスキャン動作は、シングルスキャンモードと同じ動作になります。

同期トリガ設定は、ADSTRGR.TRSA[5:0]ビットでグループAの同期トリガ、ADSTRGR.TRSB[5:0]ビットでグループBの同期トリガを選択します。グループAとグループBのA/D変換が同時に起こらないように、グループAとグループBのトリガは別々のトリガにしてください。ソフトウェアトリガは使用しないでください。

A/D変換対象とするチャネルは、ADANSA0、ADANSA1レジスタ、ADEXICR.TSSA、OCSAビットでグループAのチャネルを選択し、ADANSB0、ADANSB1レジスタ、ADEXICR.TSSB、OCSBビットでグループBのチャネルを選択します。グループAとグループBで同一のチャネルを選択することはできません。

グループスキャンモードで自己診断を選択した場合は、グループAとグループBそれぞれで自己診断を実施します。

以下にELCからの同期トリガによるグループスキャンモードの動作例を示します。この例では、ELCからのELC_AD00およびELC_AD01トリガ（ユニット0）、ELC_AD10およびELC_AD11トリガ（ユニット1）、を使用して、グループAおよびグループBの変換をそれぞれ開始します。また、ELC_AD00およびELC_AD01（ユニット0）、ELC_AD10およびELC_AD11（ユニット1）は、関連するELC.ELSRnレジスタでGPTイベントに選択されます。

動作は以下のとおりです。

1. ELC_AD00（ユニット0）またはELC_AD10（ユニット1）でグループAのスキャンを開始します。
2. グループAのスキャン終了後、ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込みが発生します（レジスタ設定なし）。
3. ELC_AD01（ユニット0）またはELC_AD11（ユニット1）でグループBのスキャンを開始します。
4. グループBのスキャン完了時にADCSR.GBADIEビットが1（スキャン終了によるADC12i_GBADI割り込み許可）になっていると、ADC12i_GBADI割り込みが発生します。

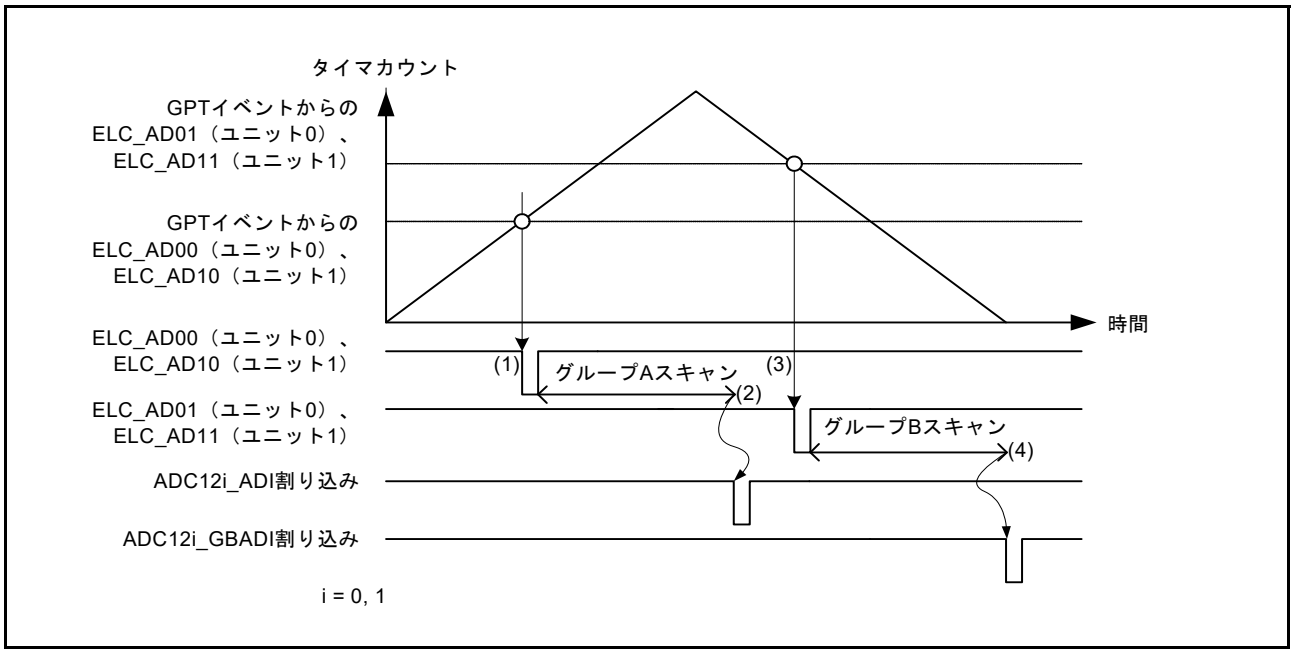


図 42.23　グループスキャンモードの基本動作例（ELCからの同期トリガ使用）

42.3.4.2 ダブルトリガモード選択時のA/D変換動作

グループスキャンモードでダブルトリガモードを選択した場合は、グループAは同期トリガ（ELC）で開始するシングルスキャンモードの実行2回分を一連の動作として実行します。グループBは同期トリガ（ELC）で開始するシングルスキャンモードの動作を1回実行します。

グループスキャンモード時、同期トリガ設定は、ADSTRGR.TRSA[5:0]ビットでグループAの同期トリガを選択し、ADSTRGR.TRSB[5:0]ビットでグループBの同期トリガを選択します。グループAとグループBのA/D変換が同時に起こらないように、グループAとグループBのトリガは別々のトリガにしてください。ソフトウェアトリガ、非同期トリガ（ADTRGn）は使用しないでください。

ADSTRGR.TRSA[5:0]ビットを0Bhにすることによって ELC_AD00/ELC_AD01（ユニット0）およびELC_AD10/ELC_AD11（ユニット1）をグループAの同期トリガに選択した場合は、ダブルトリガ拡張モードで動作します。

A/D変換対象とするチャネルは、ADCSR.DBLANS[4:0]ビットでグループAのチャネルを選択し、ADANSB0、ADANSB1レジスタでグループBのチャネルを選択します。グループAとグループBで同一のチャネルを選択することはできません。

グループスキャンモードでダブルトリガモードを選択した場合は、温度センサ出力A/D変換選択ビット（ADEXICR.TSSA）と内部基準電圧A/D変換選択ビット（ADEXICR.OCSA）はともに0（非選択）にします。グループスキャンモードでダブルトリガモード選択時は自己診断を選択できません。

A/D変換データ2重化は、2重化するチャネルの番号をADCSR.DBLANS[4:0]ビットに設定し、ADCSR.DBLEビットを1にすると有効となります。

以下にELCからの同期トリガによるグループスキャンモードかつダブルトリガモード設定時の動作例を示します。この例では、ELCからのELC_AD00およびELC_AD01（ユニット0）トリガ、ELC_AD10およびELC_AD11（ユニット1）トリガを使用して、グループAおよびグループBの変換をそれぞれ開始します。また、ELC_AD00およびELC_AD01（ユニット0）、ELC_AD10およびELC_AD11（ユニット1）は、関連するELC.ELSRnレジスタでGPTイベントに選択されます。

動作は以下のとおりです。

1. ELCからのELC_AD00（ユニット0）またはELC_AD10（ユニット1）トリガでグループBのスキャンを開始します。
2. グループBのスキャン終了時にADCSR.GBADIEビットが1（スキャン完了によるADC12i_GBADI割り込み許可）になっていると、ADC12i_GBADI（i = 0, 1）割り込みが発生します。
3. 1回目のELC_AD01（ユニット0）またはELC_AD11（ユニット1）トリガでグループAの1回目のスキャンを開始します。
4. グループAの1回目のスキャンが完了すると、A/D変換結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy）に格納されます。ADC12i_ADI割り込み要求は発生しません。
5. 2回目のELC_AD01（ユニット0）またはELC_AD11（ユニット1）トリガでグループAの2回目のスキャンを開始します。
6. グループAの2回目のスキャン終了時、A/D変換結果をADDBLDRに格納します。ADC12i_ADI割り込みが発生します。

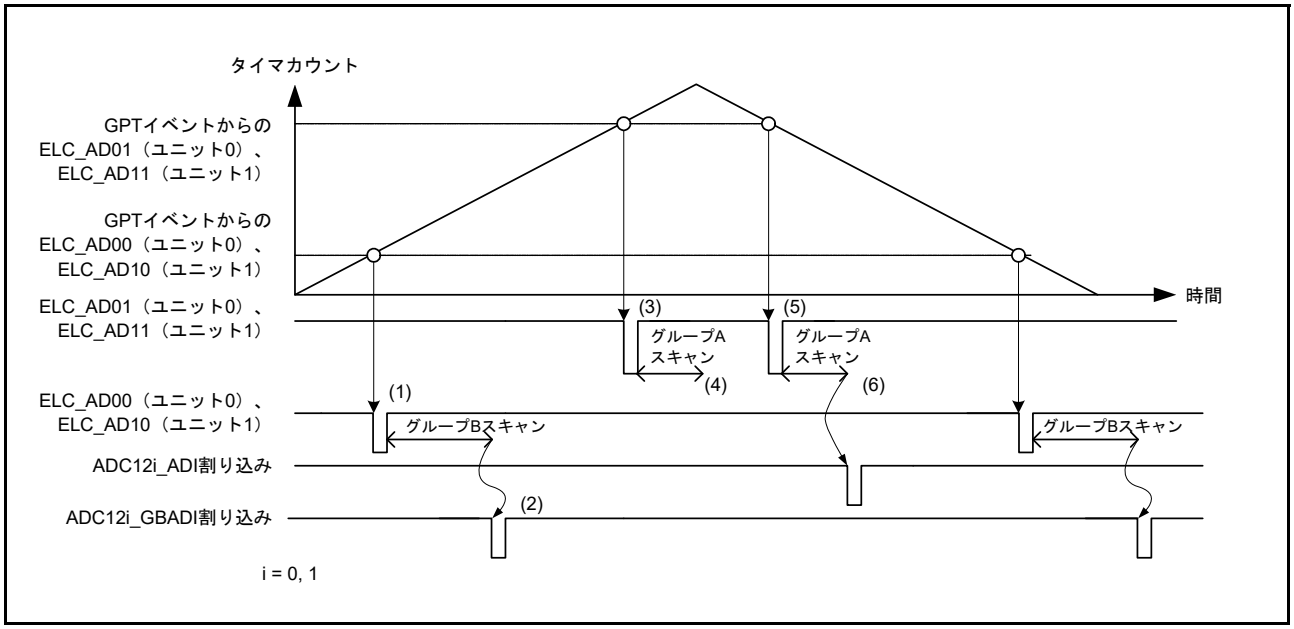


図 42.24 グループスキャンモードでダブルトリガモードを使用する場合の基本動作例（ELC からの同期トリガ使用時）

42.3.4.3 グループA優先制御動作

グループスキャンモードでA/Dグループスキャン優先コントロールレジスタ（ADGSPCR）のPGSビットを1にすると、グループA優先制御動作を行います。ADGSPCRレジスタのPGSビットを1に設定する際は、図42.25に記載された手順に従って設定を実行してください。フロー以外の設定をした場合、A/D変換の動作および格納されたデータは保証されません。

グループスキャンモードの基本動作では、グループA、もしくはグループBのA/D変換動作中に他方のA/D変換のトリガ入力があっても無視されます。グループA優先制御動作では、グループBのA/D変換動作中にグループAのトリガ入力があった場合、グループBのA/D変換動作を中断して、グループAのA/D変換動作を行います。ADGSPCR.GBRSCNビットが0のときは、ADC12はグループAのA/D変換完了時に待機状態となります。ADGSPCR.GBRSCNビットが1のときは、グループAのA/D変換完了後、自動的にグループBのスキャンをグループ先頭から自動で再開します。ADGSPCR.GBRSCNビットの設定とA/D変換動作中のトリガ入力時の動作を表42.9に示します。

グループAとグループBのスキャン動作は、シングルスキャンモードと同じ動作になります。また、ADGSPCR.GBRPビットを1にすると、グループBのシングルスキャンを連続して実行する動作になります。

グループスキャンモードのトリガ設定は、ADSTRGR.TRSA[5:0]ビットでグループAの同期トリガを選択し、ADSTRGR.TRSB[5:0]ビットでグループAのトリガとは異なるグループBの同期トリガを選択してください。ADGSPCR.GBRPビットを1にする場合は、ADSTRGR.TRSB[5:0]ビットを3Fhにしてください。

またA/D変換対象とするチャネルは、ADANSA0、ADANSA1レジスタ、ADEXICR.TSSA、OCSAビットでグループAのチャネルを選択し、ADANSB0、ADANSB1レジスタ、ADEXICR.TSSB、OCSBビットでグループAとは異なるグループBのチャネルを選択してください。

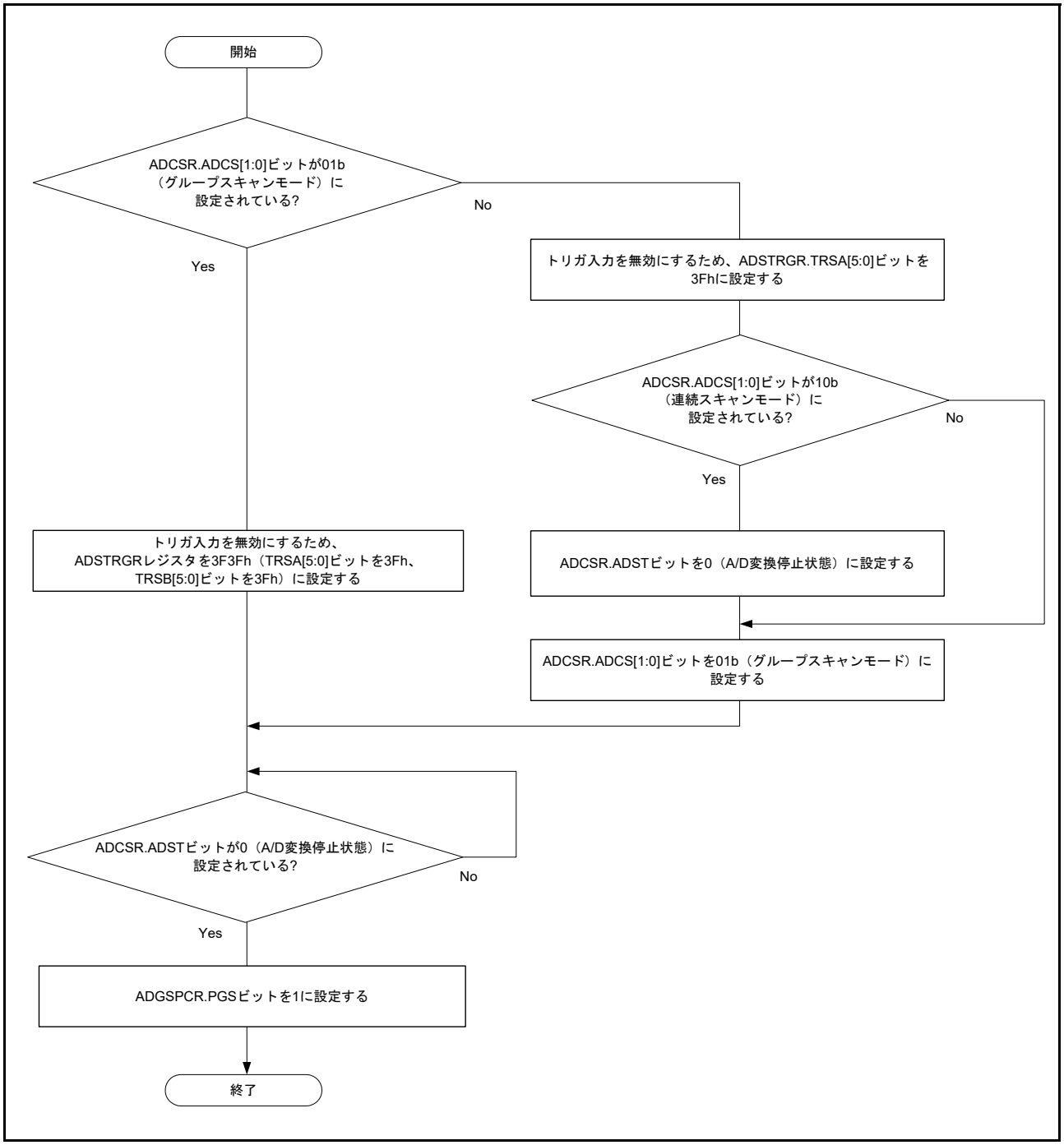


図 42.25　　ADGSPCR.PGS ビット設定時のフロー

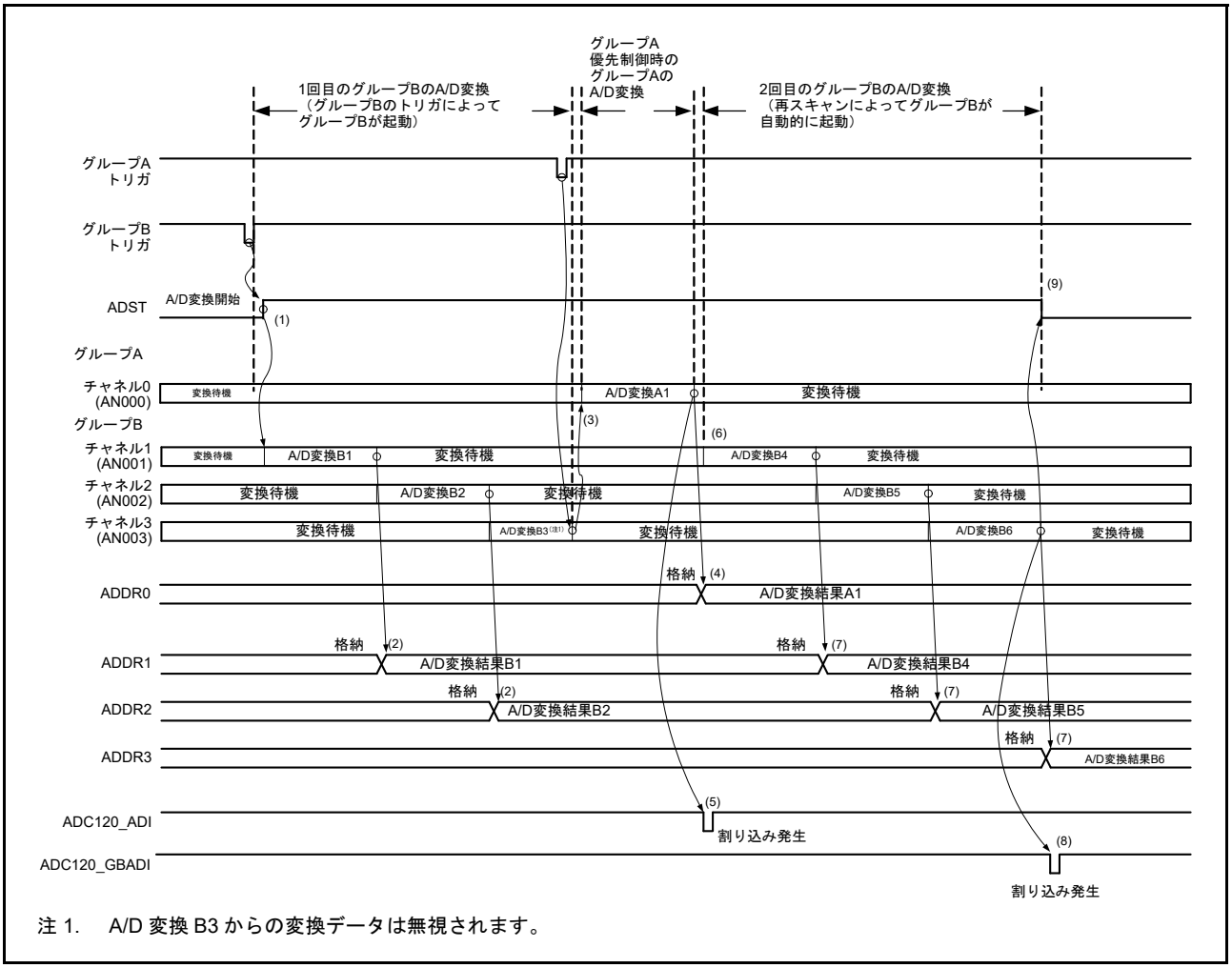
表 42.9　　ADGSPCR.GBRSCN ビットの設定によるA/D変換動作制御

A/D変換動作	トリガ入力	ADGSPCR.GBRSCN = 0	ADGSPCR.GBRSCN = 1
グループAのA/D変換動作中	グループAのトリガ入力	トリガ入力無効	トリガ入力無効
	グループBのトリガ入力	トリガ入力無効	グループAの変換動作終了後にグループBを変換
グループBのA/D変換動作中	グループAのトリガ入力	グループBの変換を中断しグループAの変換を開始	• グループBの変換を中断しグループAの変換を開始 • グループAの変換終了後にグループBの変換を開始
	グループBのトリガ入力	トリガ入力無効	トリガ入力無効

以下に、グループAにチャネル0を、グループBにチャネル1～3を選択したグループスキャンモードグループA優先制御動作の動作例（ADGSPCR.GBRSCN = 1、ADGSPCR.GBRP = 0時）を示します。

動作は以下のとおりです。

1. グループBのトリガ入力によってADCSR.ADSTビットが1（A/D変換開始）になると、ADANSB0、ADANSB1レジスタで選択したチャネルANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。
2. A/D変換が完了すると、結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy）に格納されます。
3. グループBのA/D変換動作中にグループAのトリガ入力があり、グループBのA/D変換動作がADCSR.ADSTビットが1のままで中断されると、ADANSA0およびADANSA1レジスタで選択したチャネルANnのA/D変換をnが小さい番号順に開始します。グループBのA/D変換動作が中断されたときにA/D変換が終了していない場合は、A/D変換結果はA/Dデータレジスタ（ADDRy）に格納されません。
4. 1チャネルのA/D変換が終了すると、結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy）に格納されます。
5. ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。
6. ADANSB0およびADANSB1レジスタで選択した、グループBのチャネルANnのA/D変換が、チャネルのnが小さい番号順に、ADCSR.ADSTビットが1の状態で再開します。
7. 1チャネルのA/D変換が終了すると、結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy）に格納されます。
8. ADCSR.GBADIEビットが1（グループBのスキャン終了によるADC12i_GBADI割り込み許可）になっていると、ADC12i_GBADI割り込み要求が発生します。
9. A/D変換が終了すると、ADCSR.ADSTビットは自動的にクリアされ、ADC12は待機状態になります。



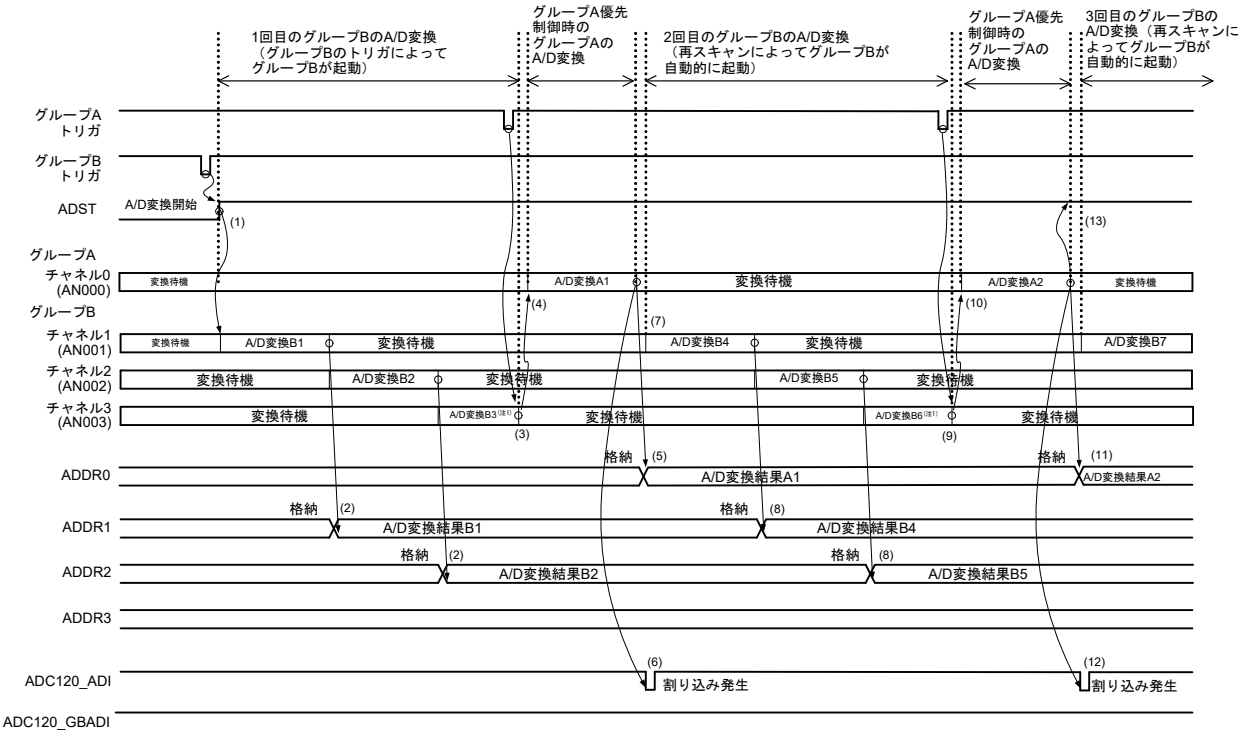
注 1. A/D 変換 B3 からの変換データは無視されます。

図 42.26 グループ A 優先制御の動作例（1）（ADGSPCR.GBRSCN = 1、ADGSPCR.GBRP = 0 の場合）

以下では、グループB再スキャン動作時に、再度グループAのトリガが入力された場合の例として、グループA優先動作時（ADGSPCR.GBRSCN = 1、ADGSPCR.GBRP = 0）に、グループAにチャネル0を、グループBにチャネル1～3を選択した場合の例を示します。

動作は以下のとおりです。

1. グループBのトリガ入力によって、ADCSR.ADSTビットが1（A/D変換開始）になると、ADANSB0、ADANSB1レジスタで選択した、グループBのチャネルANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。
2. 1チャネルのA/D変換が終了すると、結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy）に格納されます。
3. グループBのA/D変換動作中にグループAのトリガ入力があると、ADCSR.ADSTビットが1のままでグループBのA/D変換動作を中断します。グループBのA/D変換動作が中断されたときにA/D変換が終了していない場合は、A/D変換結果はA/Dデータレジスタ（ADDRy）に格納されません。
4. ADANSA0およびADANSA1レジスタで選択した、グループAのチャネルANnのnが小さい番号順に、A/D変換を開始します。
5. 1チャネルのA/D変換が終了すると、結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy）に格納されます。
6. ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。
7. ADGSPCR.GBRSCNビットが1（再スキャン動作有効）の場合は、グループAのA/D変換後、グループBの再スキャン動作により、自動的にADCSR.ADSTビットが1になります。その後、ADANSB0、ADANSB1レジスタで選択したグループBのチャネルANnのnが小さい番号順に、A/D変換を再度開始します。
8. 1チャネルのA/D変換が終了すると、結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy）に格納されます。
9. 再スキャン起動によるグループBのA/D変換動作中にグループAのトリガ入力があると、ADCSR.ADSTビットは1のままで、動作中のグループBのA/D変換を中断します。
10. ADANSA0およびADANSA1レジスタで選択した、グループAのチャネルANnのnが小さい番号順に、A/D変換を開始します。
11. 1チャネルのA/D変換が終了すると、結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy）に格納されます。
12. ADC12i_ADI割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。
13. ADGSPCR.GBRSCNビットが1（再スキャン動作有効）の場合は、グループAのA/D変換後、グループBの再スキャン動作により、自動的にADCSR.ADSTビットが1になります。その後、ADANSB0、ADANSB1レジスタで選択したグループBのチャネルANnのnが小さい番号順に、A/D変換を再度開始します。
14. 再スキャンによるグループBのA/D変換中にグループAのトリガ入力があると、(9)～(13)を繰り返し実行します。グループAのトリガ入力がない場合は、グループBのA/D変換が終了するとADCSR.ADSTビットが自動的にクリアされ、ADC12は待機状態になります。



注 1.　A/D 変換 B3 と B6 の変換データは無視されます。

図 42.27　　グループ A 優先制御の動作例（2）（ADGSPCR.GBRSCN = 1、ADGSPCR.GBRP = 0 の場合）

以下では、グループ A の A/D 変換動作中に、グループ B のトリガが入力された場合の再スキャン動作例として、グループ A 優先動作時（ADGSPCR.GBRSCN = 1、ADGSPCR.GBRP = 0）に、グループ A にチャネル 1 ～ 3 を、グループ B にチャネル 0 を選択した場合の例を示します。

1. グループ A のトリガ入力によって、ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択した、チャネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
2. 1 チャネルの A/D 変換が終了すると、結果は関連する A/D データレジスタ y（ADDRy）に格納されます。
3. グループ A の A/D 変換動作中に、グループ B のトリガ入力があると、グループ A の A/D 変換終了後に、グループ B の A/D 変換を実行できる状態となります。ただし、グループ A のトリガが連続で入力された場合、グループ B のスキャン動作は、グループ A に打ち消されて実行されません。
4. グループ A の A/D 変換終了後、ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。
5. グループ A の変換終了後、ADCSR.ADST ビットは 1 のままでグループ B が再スキャンされます。その後、ADANSB0 および ADANSB1 レジスタで選択した、グループ B のチャネル ANn の n が小さい番号順に、A/D 変換を開始します。
6. 1 チャネルの A/D 変換が終了すると、結果は関連する A/D データレジスタ y（ADDRy）に格納されます。
7. 再スキャン起動によるグループ B のスキャン終了後、ADCSR.GBADIE ビットが 1（スキャン終了による ADC12i_GBADI 割り込み許可）になっていると、ADC12i_GBADI 割り込み要求が発生します。
8. A/D 変換が終了すると、ADCSR.ADST ビットは自動的にクリアされ、ADC12 は待機状態になります。

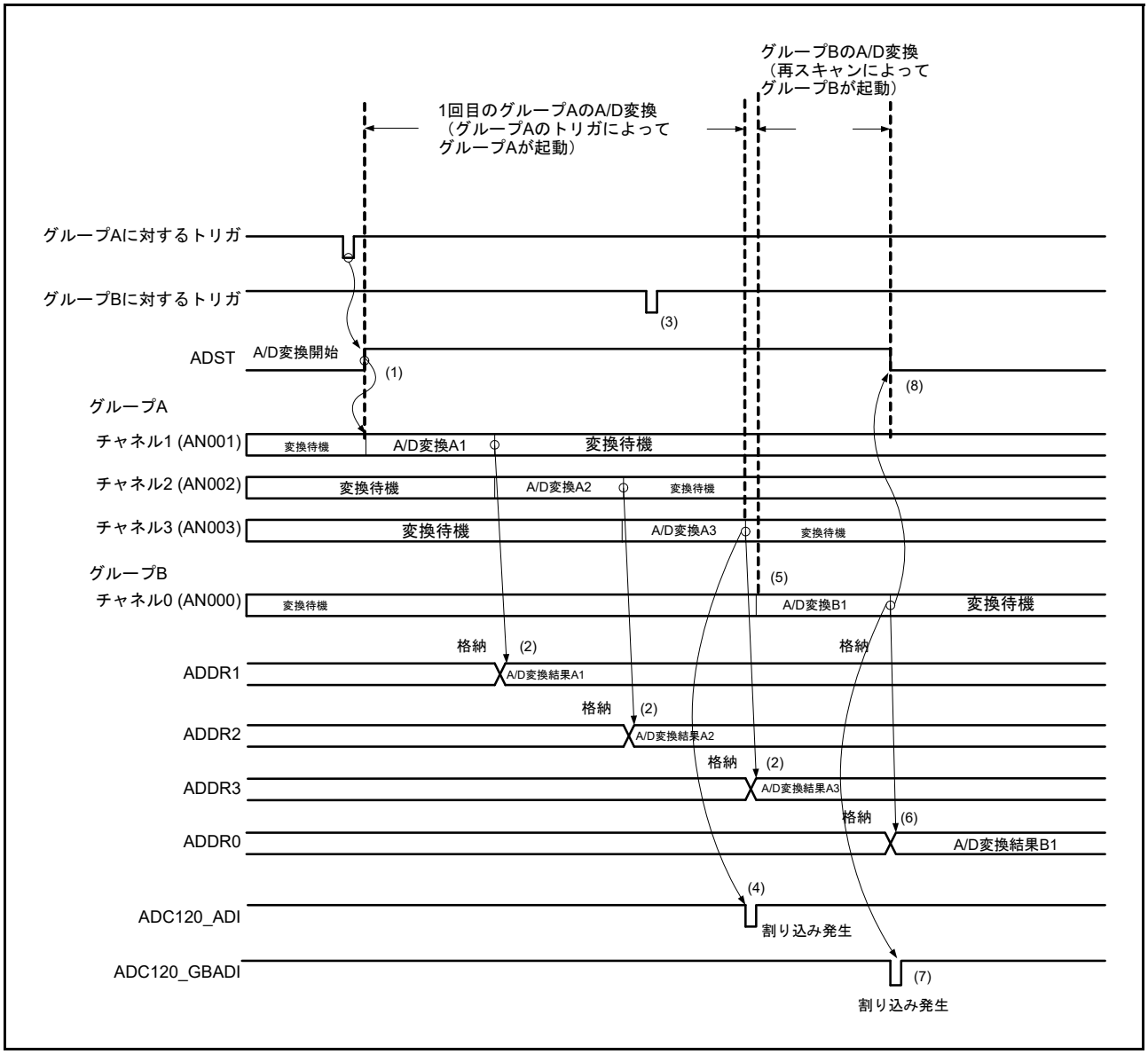
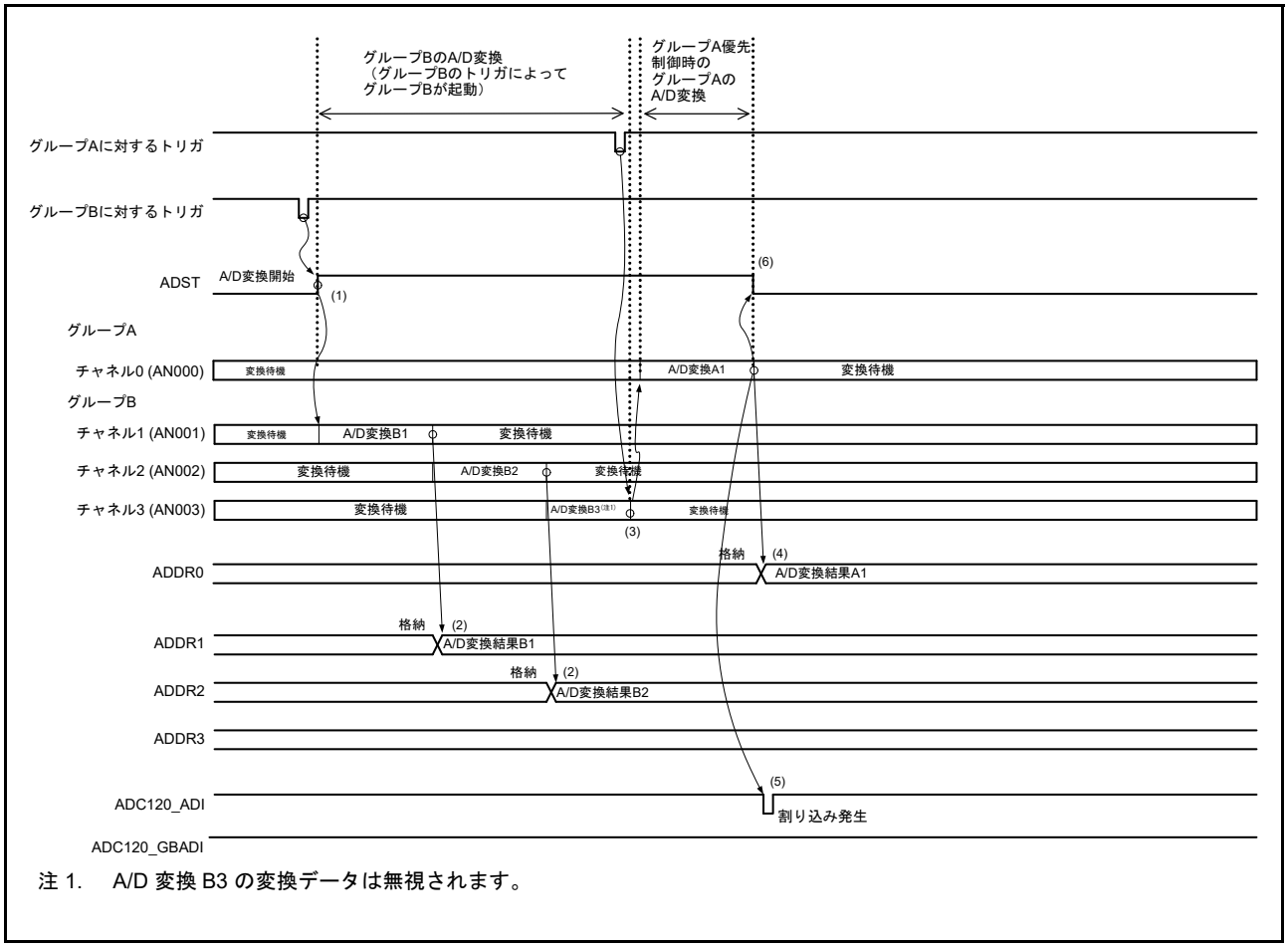


図 42.28 グループ A 優先制御の動作例（3）（ADGSPCR.GBRSCN = 1、ADGSPCR.GBRP = 0 の場合）

本項では、グループ A にチャネル 0 を、グループ B にチャネル 1 ～ 3 を選択したときのグループ A 優先制御の動作例（ADGSPCR.GBRSCN = 0、ADGSPCR.GBRP = 0）を示します。

1. グループ B のトリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが 1（A/D 変換開始）になると、ADANSB0、ADANSB1 レジスタで選択したチャネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
2. 1 チャネルの A/D 変換が終了すると、結果は関連する A/D データレジスタ y（ADDRy）に格納されます。
3. グループ B の A/D 変換動作中にグループ A のトリガ入力があり、グループ B の A/D 変換動作が ADCSR.ADST ビットが 1 のままで中断されると、ADANSA0 および ADANSA1 レジスタで選択したチャネル ANn の A/D 変換を n が小さい番号順に開始します。
4. 1 チャネルの A/D 変換が終了すると、結果は関連する A/D データレジスタ y（ADDRy）に格納されます。
5. ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。
6. A/D 変換が終了すると、ADCSR.ADST ビットは自動的にクリアされ、ADC12 は待機状態になります。

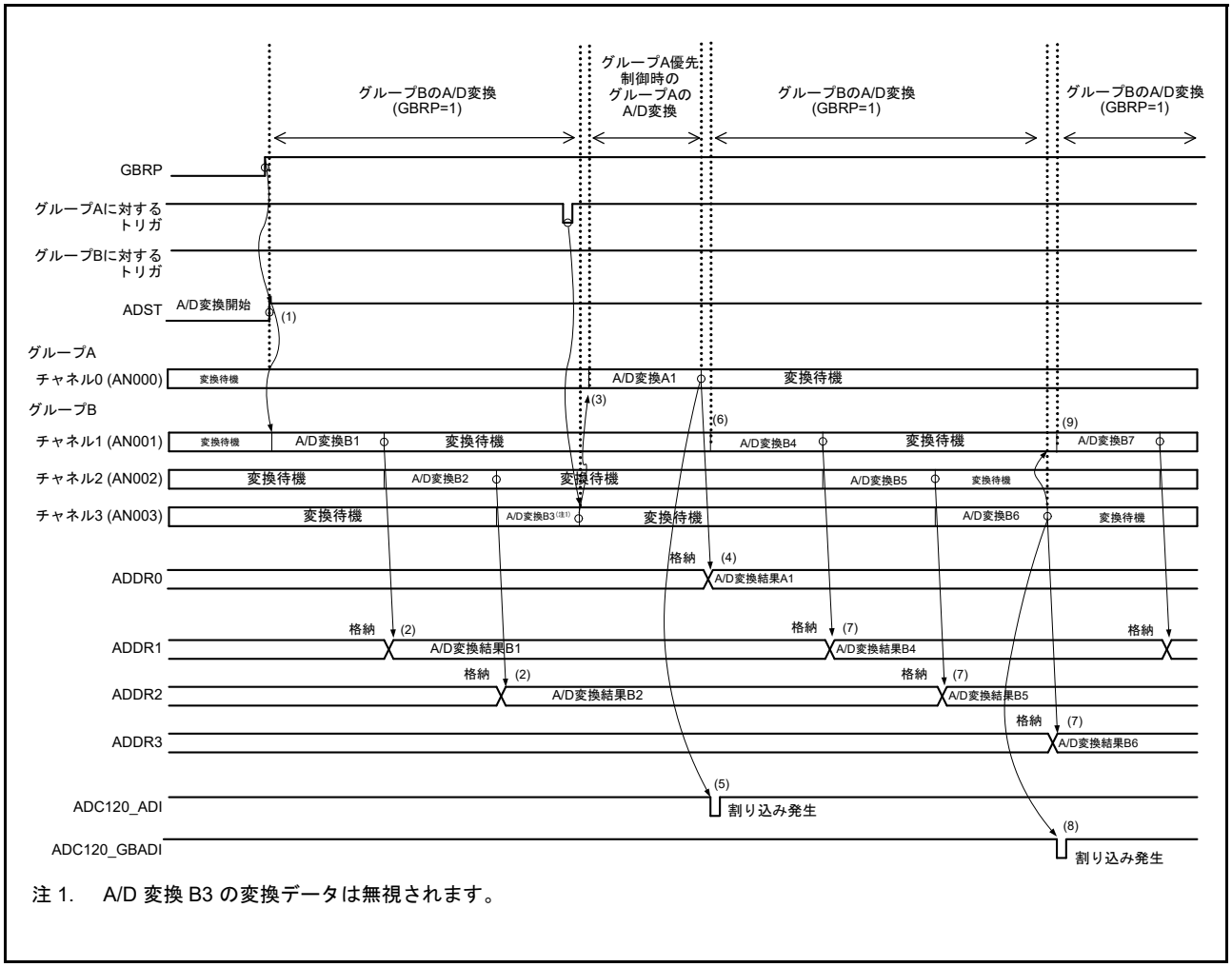


注 1.　A/D 変換 B3 の変換データは無視されます。

図 42.29　　グループ A 優先制御の動作例（4）（ADGSPCR.GBRSCN = 0、ADGSPCR.GBRP = 0 の場合）

本項では、グループAにチャネル0を、グループBにチャネル1～3を選択したときのグループA優先制御の動作例（ADGSPCR.GBRP = 1）を示します。

1. ADGSPCR.GBRPを1にすると、ADCSR.ADSTビットが1（A/D変換開始）になり、ADANSB0、ADANSB1レジスタで選択したチャネルANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。
2. 1チャネルのA/D変換が終了すると、結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy）に格納されます。
3. グループBのA/D変換動作中にグループAのトリガ入力があり、グループBのA/D変換動作がADCSR.ADSTビットが1のままで中断されると、ADANSA0およびADANSA1レジスタで選択したチャネルANnのA/D変換をnが小さい番号順に開始します。
4. 1チャネルのA/D変換が終了すると、結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy）に格納されます。
5. ADC12i_ADI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します（レジスタ設定なし）。
6. ADANSB0およびADANSB1レジスタで選択した、グループBのチャネルANnのA/D変換が、チャネルのnが小さい番号順に、ADCSR.ADSTビットが1の状態で再開します。
7. 1チャネルのA/D変換が終了すると、A/D変換結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy）に格納されます。
8. ADCSR.GBADIEビットが1の場合は、ADC12i_GBADI割り込み要求が発生します。
9. ADANSB0およびADANSB1レジスタで選択したチャネルANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。ADGSPCR.GBRPビットが1の状態の間は、（6）～（9）の動作を繰り返します。
ADGSPCR.GBRPビットが1のままである間は、ADCSR.ADSTビットを0にクリアしないでください。
ADGSPCR.GBRPビットが1のときにA/D変換を強制停止させるには、図 42.40に示す手順に従ってソフトウェアでADCSR.ADSTビットをクリアしてください。



注 1. A/D 変換 B3 の変換データは無視されます。

図 42.30 グループ A 優先制御の動作例（5）（ADGSPCR.GBRP = 1 の場合）

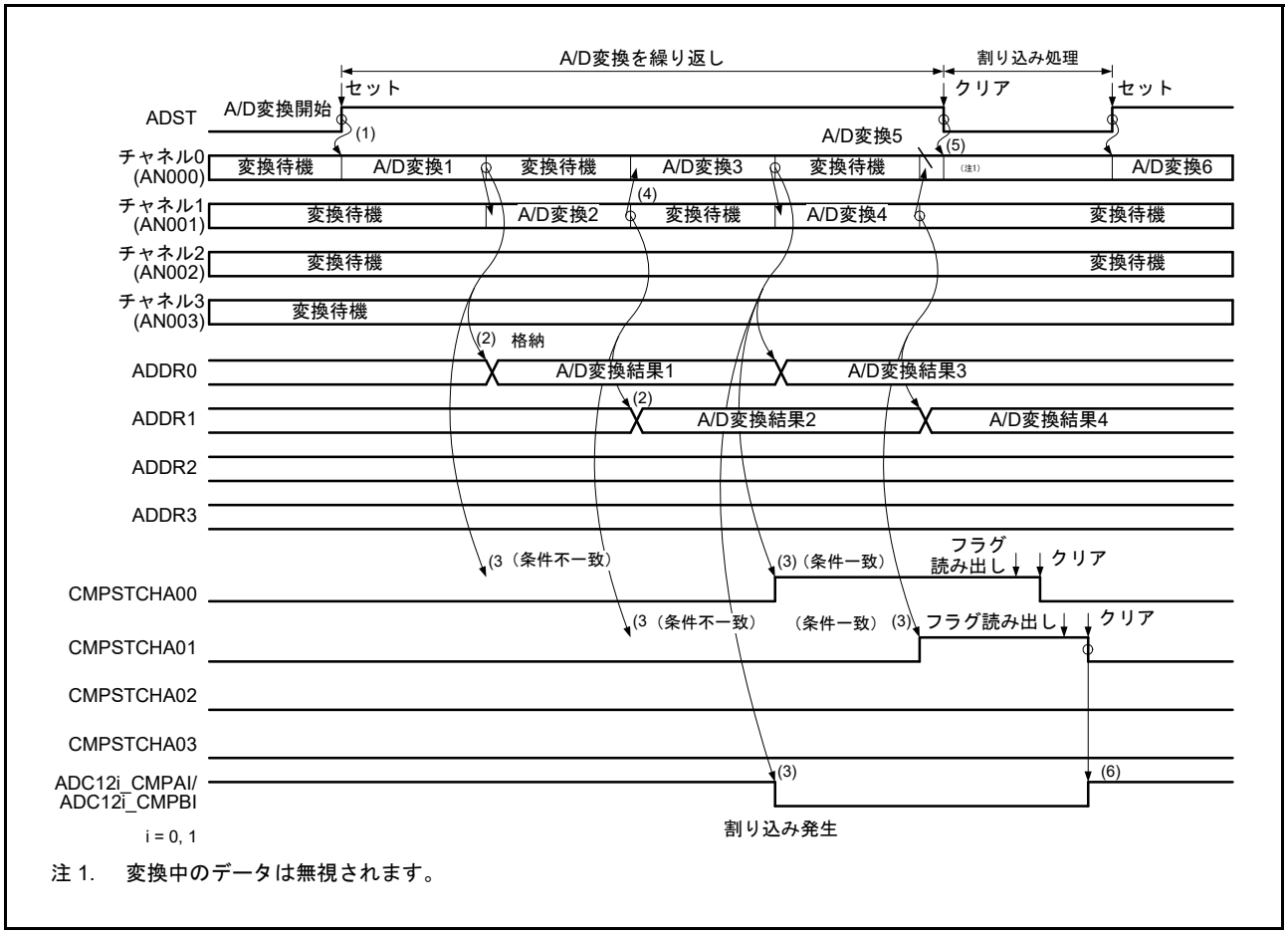
42.3.5 コンペア機能（ウィンドウA、ウィンドウB）

42.3.5.1 コンペア機能

コンペア機能は、基準値とA/D変換結果を比較する機能です。基準値はウィンドウAおよびウィンドウBそれぞれに設定することが可能です。コンペア機能の使用中は、自己診断機能およびダブルトリガモードは使用できません。ウィンドウAとウィンドウBの大きな違いとしては、割り込み出力信号の違いと、ウィンドウBは1つのチャネルしか選択できないという制限が挙げられます。

本項では、連続スキャンモードとコンペア機能を組み合わせた動作例を示します。

1. ソフトウェア、同期トリガ（ELC）、または非同期トリガでADCSR.ADSTビットを1（A/D変換開始）にした場合、選択したチャネル、温度センサ、および内部基準電圧でA/D変換を開始します。
2. A/D変換が終了すると、A/D変換結果は関連するA/Dデータレジスタy（ADDRy、ADTSDR、またはADOCDR）に格納されます。ADCMPCR.CMPAEが1のとき、ウィンドウAに対してADCMPANSRyまたはADCMPANSERレジスタのビットを設定すると、A/D変換結果を、設定したADCMPDR0/1レジスタ値と比較します。ADCMPCR.CMPBEが1のとき、ウィンドウBに対してADCMPBNSRレジスタのビットを設定すると、A/D変換結果を、ADWINULB/ADWINLLBレジスタの設定値と比較します。
3. 比較した結果、ウィンドウAがADCMPLR0/1またはADCMPLERに設定された条件と一致すると、コンペアウィンドウAフラグ（ADCMPSR0.CMPSTCHA0n、ADCMPSR1.CMPSTCHA1n、ADCMPSER.CMPSTTSA、またはADCMPSER.CMPSTOCA）が1になります。このときADCMPCR.CMPAIEビットが1であれば、ADC12i_CMPAI（i = 0, 1）割り込み要求が発生します。同様に、ウィンドウBがADCMPBNSR.CMPLBに設定された条件と一致すると、コンペアウィンドウBフラグ（ADCMPBSR.CMPSTB）が1になります。このときADCMPCR.CMPBIEビットが1であれば、ADC12i_CMPBI割り込み要求が発生します。
4. 選択したすべてのA/D変換および比較が終了すると、スキャンが再開します。
5. ADC12i_CMPAIおよびADC12i_CMPBI割り込みを受け付けると、ADCSR.ADSTビットは0（A/D変換停止）になり、コンペアフラグが1であるチャネルの処理を行います。
6. ウィンドウAのすべてのコンペアフラグをクリアすると、ADC12i_CMPAI割り込み要求は取り消されます。同様に、ウィンドウBのすべてのコンペアフラグをクリアすると、ADC12i_CMPBI割り込み要求はリセットされます。再度比較を実行するには、A/D変換を再開してください。



注 1.　変換中のデータは無視されます。

図 42.31　　コンペア機能の動作例（AN000 ～ AN003 を比較）

42.3.5.2　コンペア機能のイベント出力

コンペア機能のイベント出力は、上側基準電圧値と下側基準電圧値をそれぞれウィンドウ A とウィンドウ B に設定し、選択したチャネルの A/D 変換値を上側／下側基準電圧値と比較します。その後、イベント条件（A OR B、A AND B、A XOR B）とウィンドウ A およびウィンドウ B の比較結果に従って、ADC12i_WCMPM および ADC12i_WCMPUM（i = 0, 1）イベントを出力します。

ウィンドウ A で複数のチャネルを選択し、チャネルのうち 1 つでも比較条件と一致した場合、ウィンドウ A の比較結果は一致となります。この機能を使用する場合、A/D 変換はシングルスキャンモードで行ってください。ウィンドウ A の場合、AN000 ～ AN003、AN005 ～ AN007、AN016 ～ AN018、AN020（ユニット 0）、および AN100 ～ AN102、AN105 ～ AN107、AN116、AN117（ユニット 1）の任意のチャネル、内部基準電圧、および温度センサ出力を選択できます。

コンペア機能のイベント出力使用時の設定手順および設定例を以下に示します。

1. ADCSR.ADCS ビットの値が 00b（シングルスキャンモード）であることを確認します。
2. ADCMPANSR0/1 および ADCMPANSER でウィンドウ A のチャネルを選択します。ADCMPLR0/1 および ADCMPLER レジスタにウィンドウ比較条件を設定します。ADCMPDR0/1 レジスタに上側および下側基準値を設定します。
3. ADCMPBNSR レジスタでウィンドウ B のチャネルおよび比較条件を選択し、ADWINULB/ADWINLLB レジスタで上側および下側基準値を設定します。
4. ウィンドウ A/B の複合条件、ウィンドウ A/B 動作許可、および割り込み出力許可を ADCMPCR に設定してください。

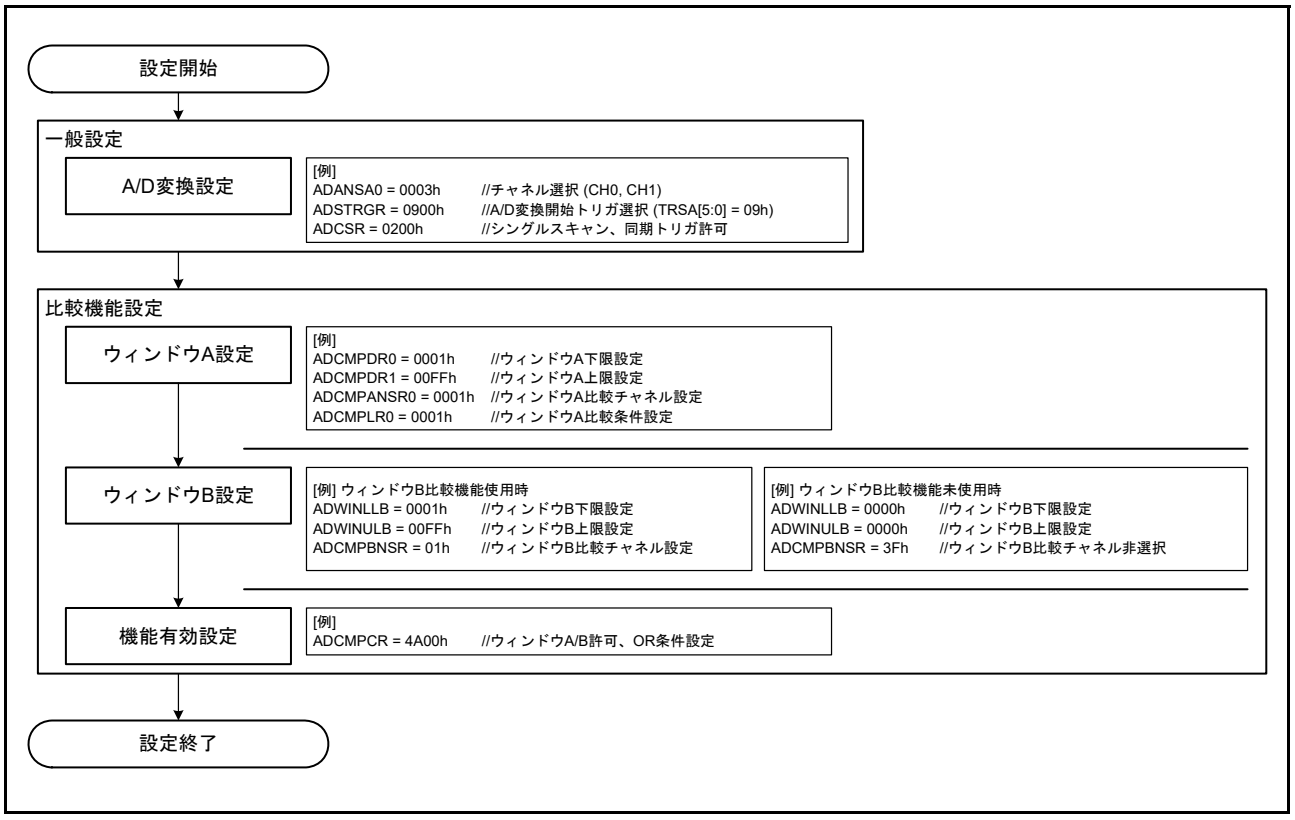


図 42.32　　コンペア機能のイベント出力使用時の設定例

コンペア機能でウィンドウ A のみを使用するときのイベント出力の使用方法の注意点：

- ウィンドウ A および B をどちらも有効（ADCMPCR.CMPAE = 1、ADCMPCR.CMPBE = 1）にしてください
- ウィンドウ A および B の複合条件を「OR 条件」にしてください（ADCMPCR.CMPAB[1:0] = 00b）
- ウィンドウ B の比較対象チャネルを「非選択」にしてください（ADCMPBNSR.CMPCHB[5:0] = 111111b）
- ウィンドウ B の比較条件を、常に不一致を表す「0 ＜結果＜ 0」に設定してください（ADCMPCR.WCMPE = 1、ADWINLLB.CMPLLB[15:0] = ADWINULB.CMPULB[15:0] = 0000h、および ADCMPBNSR.CMPLB = 1）

コンペア機能のイベント出力動作例を図 42.33 に示します。

シングルスキャンが一度終了するタイミングで、スキャン終了イベント（ADC12i_ADI）を出力します。その後、ADCMPCR.CMPAB[1:0] の設定に従い、1PCLKB 遅れて一致または不一致イベント（ADC12i_WCMPM または ADC12i_WCMPUM）を出力します。

注 .　一致イベントと不一致イベントは排他的であるため、2 つのイベントを同時に出力することはありません。

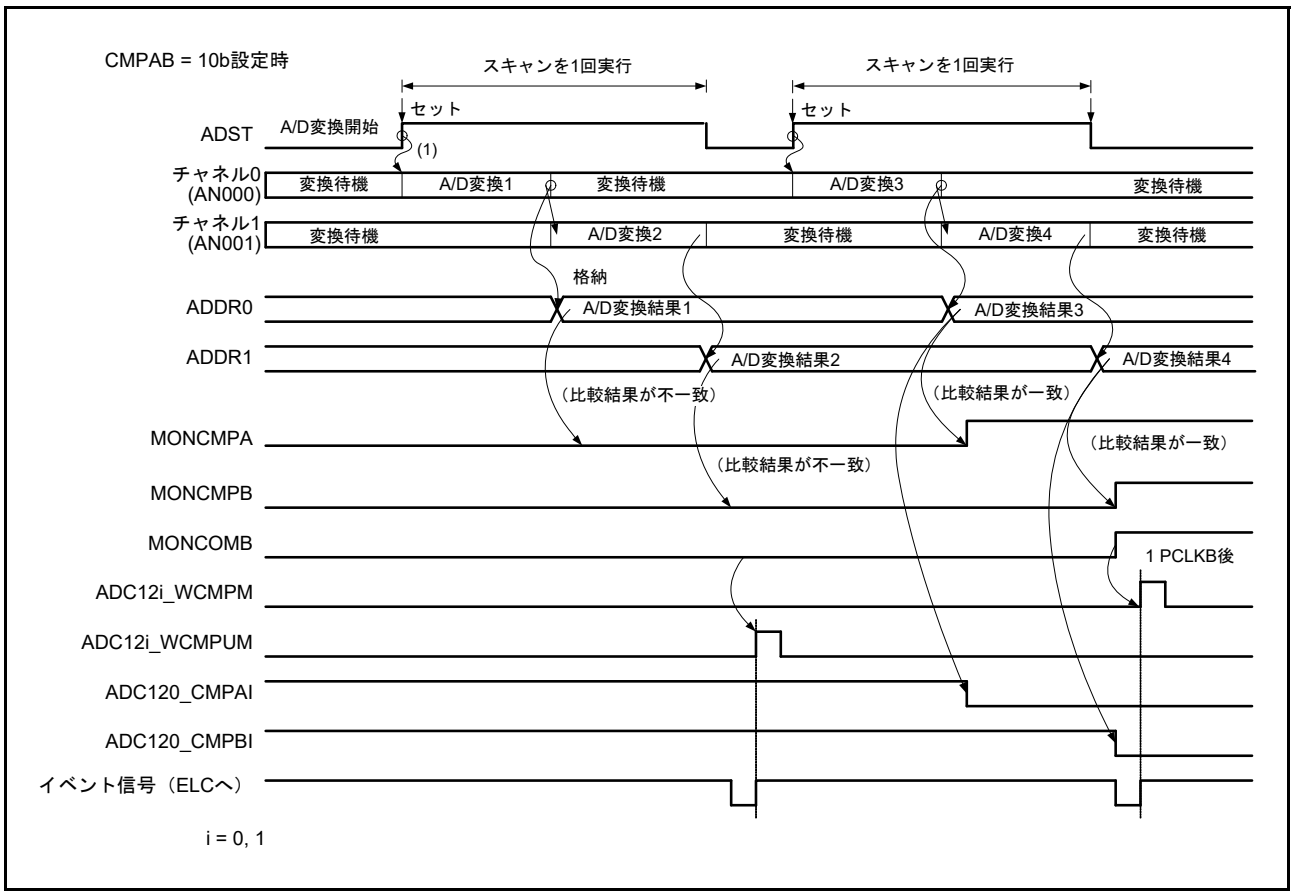


図 42.33　コンペア機能のイベント出力動作例（AN000 ～ AN001 を比較）

注 .　コンペア機能のイベント出力は、ADCMPCR.CMPAB[1:0] の設定に従い、ウィンドウ A およびウィンドウ B の比較結果の一致／不一致を出力します。
ウィンドウ A の比較結果は、ウィンドウ A の比較対象チャネルの比較結果の論理和です。ウィンドウ A および B の比較結果は、A/D 変換ごとに更新され、シングルスキャンが終了しても保持されます。比較結果をクリアするには、ADCMPCR.CMPAE および ADCMPCR.CMPBE を 0 にしてください。

42.3.5.3　コンペア機能の制限事項

コンペア機能には以下の制限事項があります。

- コンペア機能は、自己診断機能またはダブルトリガモードと一緒には使用できません。（ADRD、ADDBLDR、ADDBLDRA、および ADDBLDRB ではコンペア機能は使用できません）
- 一致／不一致イベント出力を使用する場合はシングルスキャンモードにしてください
- ウィンドウ A に温度センサ出力または内部基準電圧を選択した場合、ウィンドウ B 動作は無効になります
- ウィンドウ B に温度センサ出力または内部基準電圧を選択した場合、ウィンドウ A 動作は無効になります
- ウィンドウ A とウィンドウ B に同じチャネルを設定することはできません
- 基準電圧値を設定する際は、高電位基準電圧値が低電位基準電圧値以上となるように設定してください

42.3.6　アナログ入力のサンプリング時間とスキャン変換時間

スキャン変換は、ソフトウェア起動、同期トリガ（ELC）による起動および非同期トリガ（ADTRGn）による起動が選択できます。スキャン変換開始遅延時間（t_D）の経過後に、チャネル専用サンプル＆ホールド回路処理、断線検出アシスト処理、自己診断変換処理をすべて行い、その後に A/D 変換処理が開始されます。

図 42.34 に、ソフトウェアトリガと同期トリガ（ELC）起動によるスキャン変換を行う場合のタイミングを示します。また、図 42.35 に、非同期トリガ（ADTRGn）起動によるスキャン変換を行う場合のタイミングを示します。スキャン変換時間（t_{SCAN}）は、スキャン変換開始遅延（t_D）、チャネル専用サンプル＆ホールド回路処理時間（t_{SPLSH}）（注 1）、断線検出アシスト処理時間（t_{DIS}）（注 2）、自己診断変換時間（t_{DIAG}）（注 3）、A/D 変換処理時間（t_{CONV} および t_{DSD}）、チャネル専用サンプル＆ホールド回路終了処理時間（t_{SHED}）（注 4）、スキャン変換終了遅延（t_{ED}）を含めた時間となります。

A/D 変換処理時間（t_{CONV}）は、入力サンプリング時間（t_{SPL}）、逐次変換時間（t_{SAM}）を合わせた時間となります。サンプリング時間（t_{SPL}）は、ADC12 内のサンプル＆ホールド回路に電荷を充電するための時間です。アナログ入力の信号源インピーダンスが高くサンプリング時間が不足する場合や、A/D 変換クロック（ADCLK）が低速の場合には、ADSSTR レジスタでサンプリング時間を調整することが可能です。

逐次変換時間（t_{SAM}）は、12 ビット精度選択時で 13 ステート（ADCLK）、10 ビット精度選択時で 11 ステート（ADCLK）、8 ビット精度選択時で 9 ステート（ADCLK）となります。

選択チャネル数が n のシングルスキャンのスキャン変換時間（t_{SCAN}）は、次のように表されます。

$$t_{SCAN} = t_D + t_{SPLSH} + (t_{DIS} \times n) + t_{DIAG} + (t_{CONV} \times n)\ \text{（注 5）} + t_{ED}$$

連続スキャンの 1 サイクル目は、シングルスキャンの t_{SCAN} から t_{ED} を省き t_{SHED} を加えた時間です。連続スキャンの 2 サイクル目以降は、$t_{SPLSH} + (t_{DIS} \times n) + t_{DIAG} + t_{DSD} + (t_{CONV} \times n)$（注 5）$+ t_{SHED}$ 固定となります。

注 1.　チャネル専用サンプル＆ホールド回路を使用しない場合は、$t_{SPLSH} = 0$ となります。
注 2.　断線検出アシストを設定しない場合は、$t_{DIS} = 0$ となります。
注 3.　自己診断機能を使用しない場合は、$t_{DIAG} = 0$、$t_{DSD} = 0$ となります。
注 4.　チャネル専用サンプル＆ホールド回路を使用しない場合は、$t_{SHED} = 0$ となります。シングルスキャンモード時とグループスキャンモード時、t_{SHED} はスキャン変換終了遅延（t_{ED}）に含まれます。
注 5.　選択したすべてのチャネルの入力サンプリング時間（t_{SPL}）が同じである場合、この要素は $t_{CONV} \times n$ になります。チャネルごとに異なるサンプリング時間の場合、この要素は選択したチャネルごとに設定した t_{SPL} と t_{SAM} の和となります。

表 42.10　スキャン変換時間（ADCLKとPCLKBのサイクル数）

項目			シンボル		種別／条件 同期トリガ（注4）	非同期トリガ	ソフトウェアトリガ	単位
スキャン開始処理時間（注1）（注2）	グループA優先制御動作によるグループAのA/D変換	グループB中断あり（グループAのA/D変換要因によってグループBを停止させた後、グループAを起動）	t_D		3PCLKB + 6ADCLK 5PCLKB + 3ADCLK（注5）	-	-	サイクル
		グループB中断なし（グループAのA/D変換要因によって起動）			2PCLKB + 4ADCLK	-	-	
	自己診断有効時のA/D変換	自己診断変換開始時			2PCLKB + 6ADCLK	4PCLKB + 6ADCLK	6ADCLK	
	上記以外				2PCLKB + 4ADCLK	2PCLKB + 4ADCLK	4ADCLK	
チャネル専用サンプル＆ホールド処理時間（注1）	サンプリング時間		t_{SPLSH}	t_{SH}	常時サンプリング無効時：ADSHCR.SSTSH[7:0]設定値（初期値18h）× ADCLK 常時サンプリング有効時：0			
	サンプリングーA/D変換の待機時間			t_W	12ADCLK			
断線検出アシスト処理時間			t_{DIS}		ADNDIS[3:0]設定値（初期値0h）× ADCLK			
自己診断変換処理時間（注1）	サンプリング時間		t_{DIAG}	t_{SPL}	ADSSTR0設定値（初期値0Bh）× ADCLK（注3）	-	-	
	逐次変換時間	12ビット変換精度		t_{SAM}	15ADCLK	-	-	
		10ビット変換精度			13ADCLK	-	-	
		8ビット変換精度			11ADCLK	-	-	
	自己診断変換終了からアナログチャネルサンプリング開始までの待機時間			t_{DED}	2ADCLK			
	連続スキャンモードでの最後のチャネル変換終了から自己診断サンプリング開始までの待機時間		t_{DSD}		2ADCLK			
A/D変換処理時間（注1）	サンプリング時間		t_{CONV}	t_{SPL}	ADSSTRn（n = 00～03, 05～07, L, T, O）設定値（初期値0Bh）× ADCLK + 0.5ADCLK			
	逐次変換時間	12ビット変換精度		t_{SAM}	13ADCLK			
		10ビット変換精度			11ADCLK			
		8ビット変換精度			9ADCLK			
チャネル専用サンプル＆ホールド終了処理時間			t_{SHED}		2ADCLK			
スキャン終了処理時間（注1）			t_{ED}		1PCLKB + 3ADCLK 2PCLKB + 3ADCLK（注5）			

注 1.　t_D、t_{SPLSH}、t_{DIAG}、t_{CONV}、t_{ED} の各タイミングについては、図 42.34 および図 42.35 を参照してください。
注 2.　ソフトウェア書き込み、またはトリガ入力から A/D 変換開始までの最大時間です。
注 3.　サンプリング時間は電気的特性を満たすように設定してください。
注 4.　タイマ出力からトリガ入力までの経路で使われる時間は含みません。
注 5.　ADCLK が PCLKB より速い場合（PCLKB : ADCLK の分周比 = 1 : 2 または 1 : 4）、スキャン処理時間は変化します。

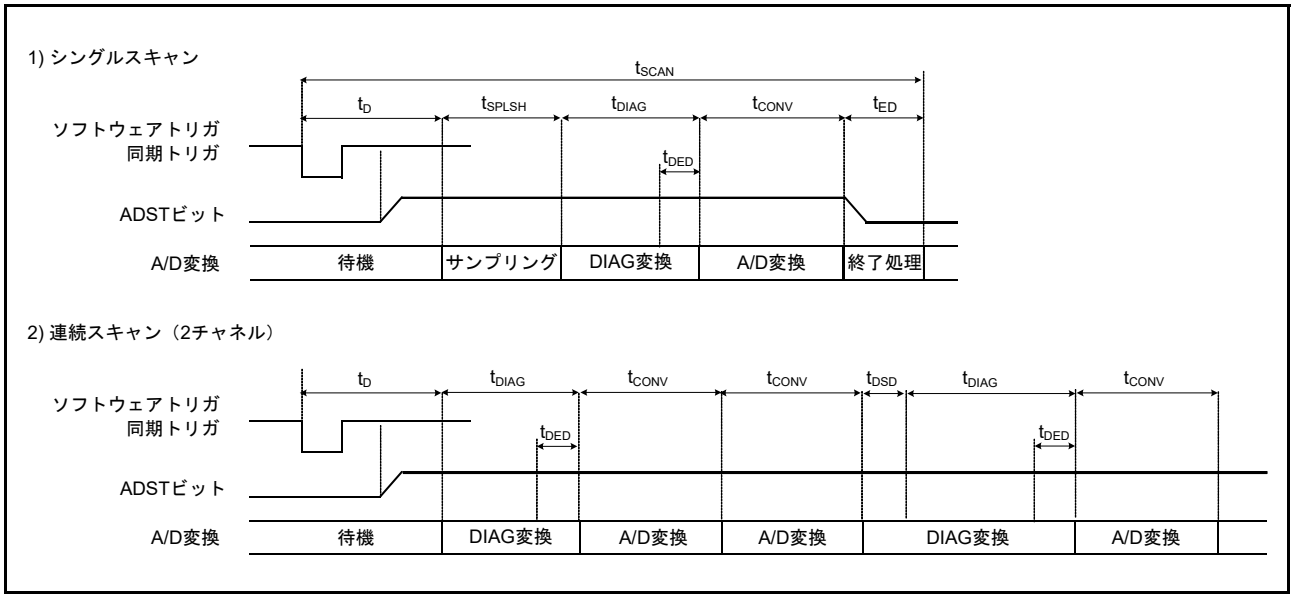


図 42.34　スキャン変換のタイミング（ソフトウェア起動または同期トリガ入力（ELC）起動の場合）

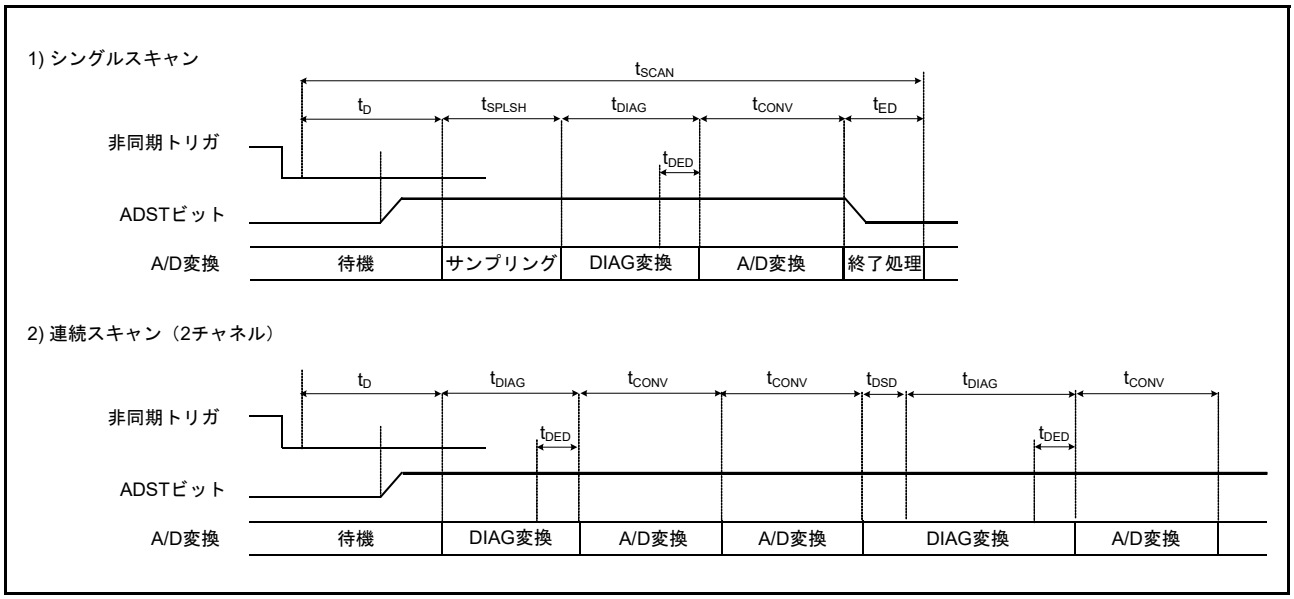


図 42.35　スキャン変換のタイミング（非同期トリガ入力（ADTRG0）起動の場合）

42.3.7 A/D データレジスタの自動クリア機能の使用例

A/D 変換値加算／平均モードは、選択したチャネルのアナログ入力、温度センサ出力、および内部基準電圧のいずれかの A/D 変換の選択時に使用できます。

ADCER.ACE ビットを 1 にすることにより、CPU、DTC、または DMAC によってデータレジスタ（ADDRy、ADRD、ADDBLDR、ADDBLDRA、ADDBLDRB、ADTSDR、および ADOCDR）を読み出す際、自動的にこれらのレジスタを 0000h にクリアできます。この機能を使用することで、これらのデータレジスタの未更新障害を検出することが可能です。

以下に、ADDRy レジスタの自動クリア機能が無効時と有効時の例をそれぞれ示します。

- ADCER.ACE ビットが 0（自動クリア禁止）の場合に、A/D 変換結果（0222h）が何らかの原因で ADDRy レジスタに書き込みされなかったとき、ADDRy レジスタの値は古いデータ（0111h）を保持します。さらに A/D スキャン終了割り込みを利用して、この ADDRy レジスタの値を汎用レジスタに読み出した場合、古いデータ（0111h）を汎用レジスタに保持できます。ただし、未更新のチェックを行う場合、古いデータを SRAM または汎用レジスタに逐一保持しながらチェックを行う必要があります。
- ADCER.ACE ビットが 1（自動クリア許可）の場合には、ADDRy = 0111h が CPU、DTC、または DMAC によって読み出された場合、ADDRy レジスタは自動的に 0000h にクリアされます。その後、A/D 変換結果（0222h）が ADDRy レジスタに何らかの原因で転送できなかったとき、クリアされたデータ（0000h）が ADDRy レジスタ値として残ります。ここで A/D スキャン終了割り込みを利用して、この ADDRy レジスタの値を汎用レジスタに読み出した場合、0000h が汎用レジスタに保持されます。読み出されたデータ値が 0000h であることをチェックすることで、ADDRy レジスタの未更新障害があったことを判断できます。

42.3.8 A/D 変換値加算／平均モード

A/D 変換値加算モードは、同じチャネルを 1、2、3、4、または 16 (注 1) 回連続で A/D 変換し、その変換値の合計をデータレジスタに保持します。A/D 変換値平均モードは、同じチャネルを 2 回または 4 回連続で A/D 変換し、その変換値の平均をデータレジスタに保持します。この結果の平均値を使用することで、ノイズ成分によっては A/D 変換精度が良くなります。ただし、A/D 変換精度が必ず向上することを保証する機能ではありません。

A/D 変換値加算／平均モードは、チャネル選択アナログ入力 A/D 変換、温度センサ出力 A/D 変換、内部基準電圧 A/D 変換に使用できます。

注 1. 加算回数は 12 ビット精度選択している場合のみ 16 回に設定できます。

42.3.9　断線検出アシスト機能

A/D 変換開始前に、サンプリング容量の電荷を所定の状態（ユニット 0 は VREFH0 または VREFL0、ユニット 1 は VREFH または VREFL）に固定する機能を ADC12 は内蔵しています。この機能により、アナログ入力に接続した配線の断線検出が可能になります。

チャネル専用サンプル&ホールド回路の断線検出アシスト機能を使用する場合、ADSHMSR.SHMD ビットを 0 にしてください（「常時サンプリング機能は無効」を選択してください）。

以下の機能のいずれかを使用する場合、断線検出アシスト機能は無効にしてください。

- 温度センサ
- 内部基準電圧
- A/D 自己診断
- バイパス許可なしのプログラマブルゲインアンプ

図 42.36 に断線検出アシスト機能を使用した場合の A/D 変換動作図を示します。図 42.37 にプリチャージを選択した場合の断線検出例を示します。図 42.38 にディスチャージを選択した場合の断線検出例を示します。

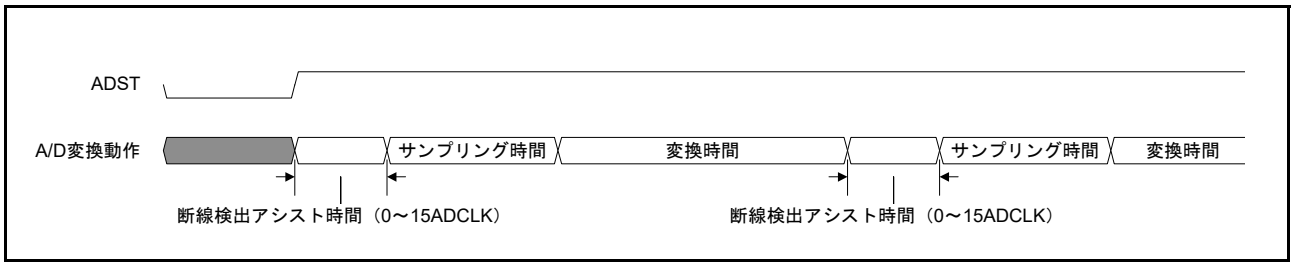
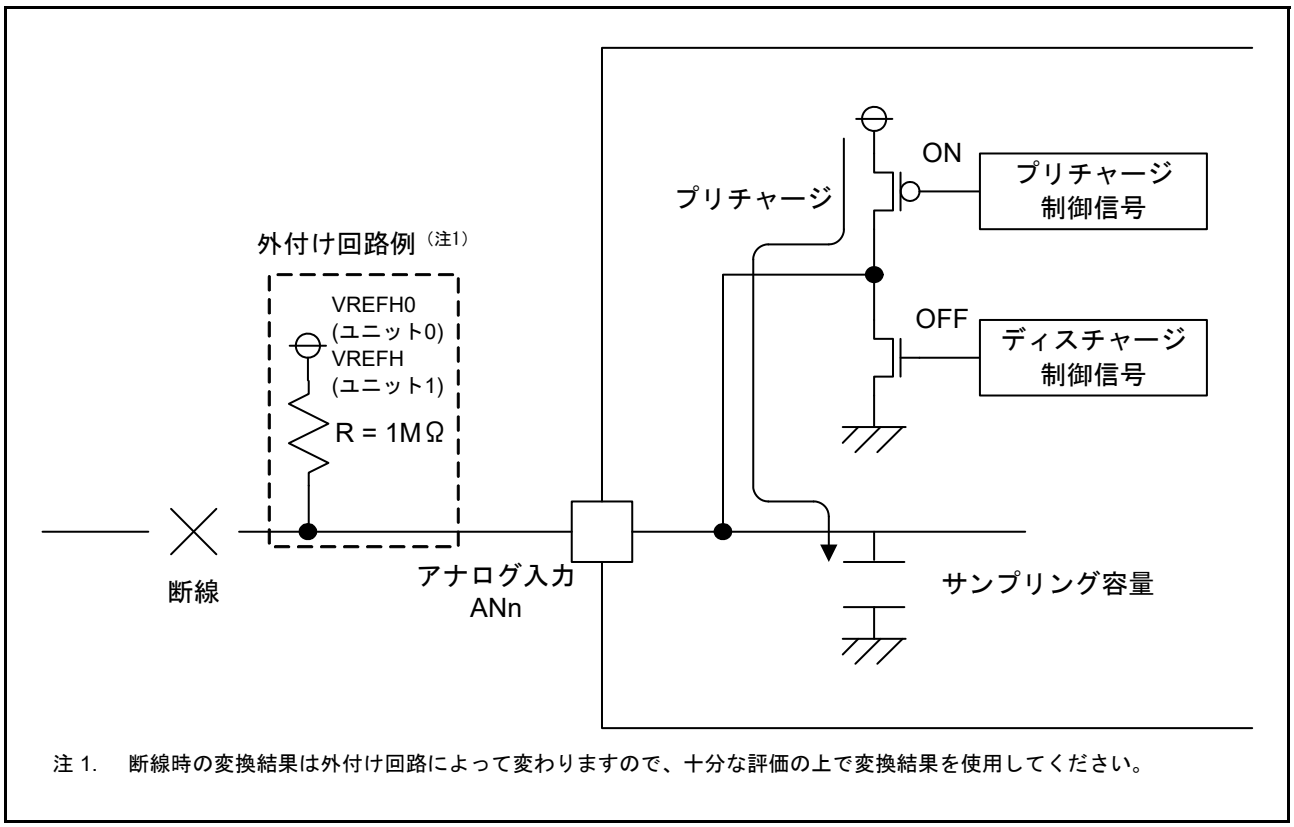
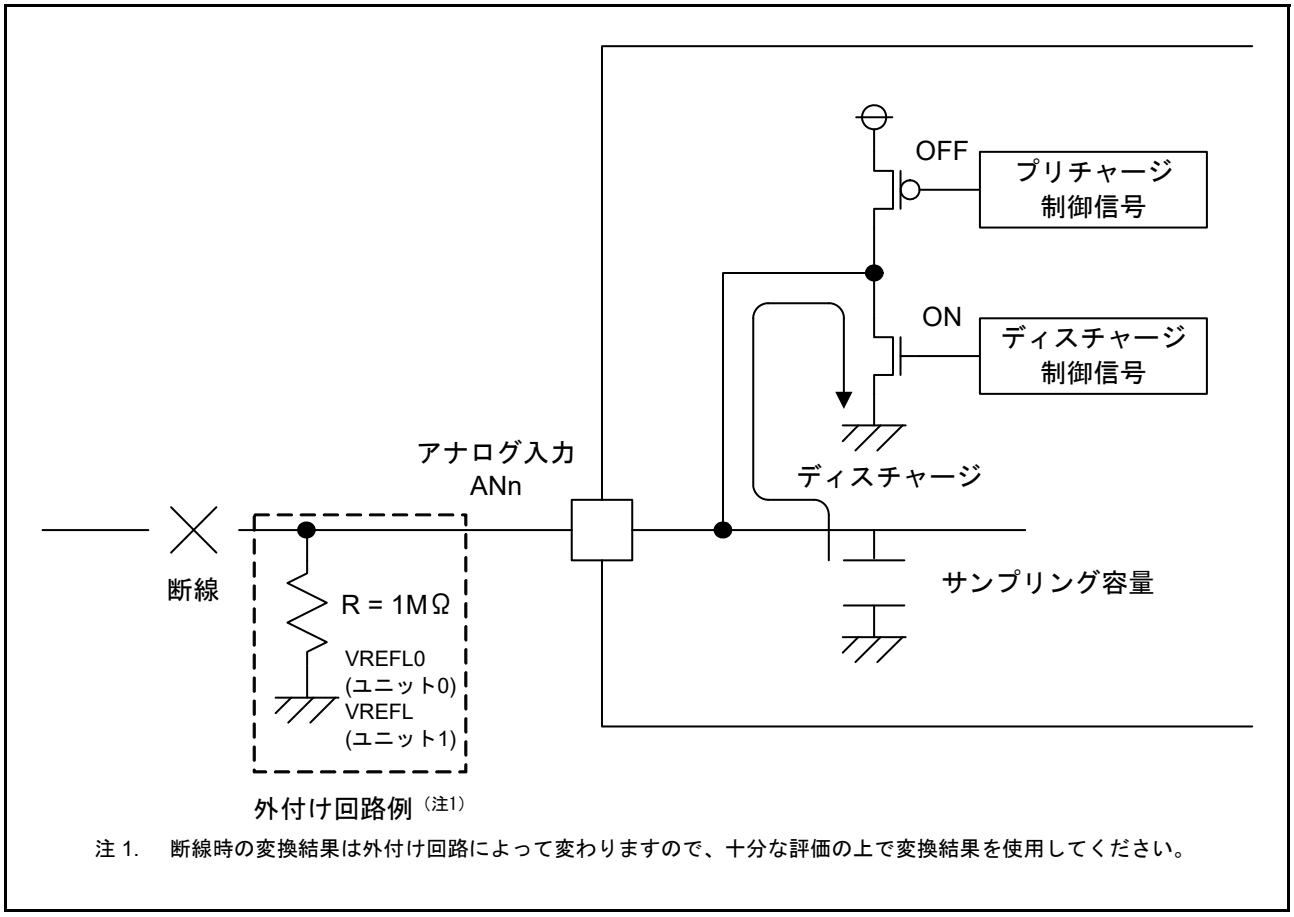


図 42.36　断線検出アシスト機能を使用した場合の A/D 変換動作



注 1.　断線時の変換結果は外付け回路によって変わりますので、十分な評価の上で変換結果を使用してください。

図 42.37　プリチャージを選択した場合の断線検出例



注 1. 断線時の変換結果は外付け回路によって変わりますので、十分な評価の上で変換結果を使用してください。

図 42.38 ディスチャージを選択した場合の断線検出例

42.3.10　非同期トリガによる A/D 変換の開始

非同期トリガの入力により A/D 変換を開始することが可能です。非同期トリガを使用して A/D 変換を開始する場合は、まず PmnPFS レジスタで端子機能を設定し、次に、A/D 変換開始トリガ選択ビット（ADSTRGR.TRSA[5:0]）を 000000b にしてから、非同期トリガ（ADTRGn 端子）に High を入力した後、ADCSR.TRGE ビットと ADCSR.EXTRG ビットをどちらも 1 にしてください。図 42.39 に非同期トリガ入力タイミングを示します。

非同期トリガは、グループスキャンモードで使用するグループ B の A/D 変換開始トリガ選択ビット（ADSTRGR.TRSB[5:0]）では選択できません。端子機能の設定については、「20.　I/O ポート」を参照してください。

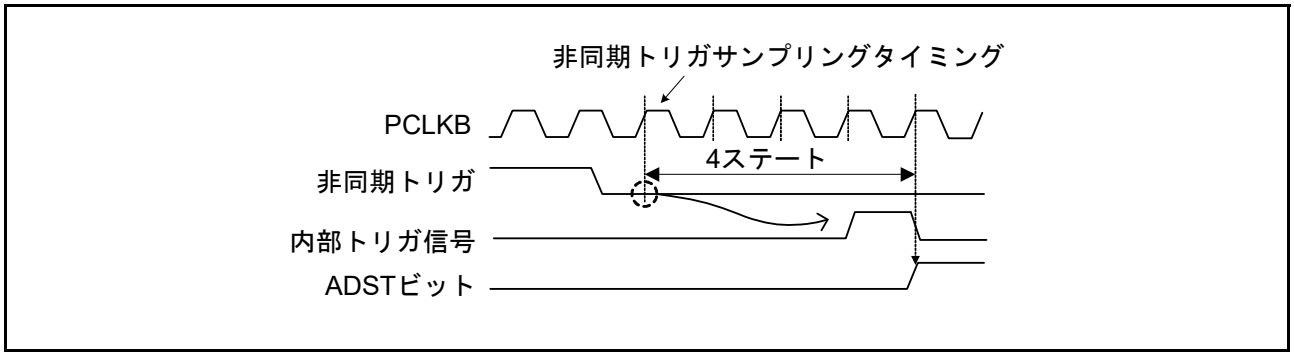


図 42.39　　非同期トリガ入力タイミング

42.3.11　周辺モジュールからの同期トリガによる A/D 変換の開始

A/D 変換は同期トリガ（ELC）によって開始できます。同期トリガで A/D 変換を開始するには、ADCSR.TRGE ビットを 1 にし、ADCSR.EXTRG ビットを 0 にクリアして、ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットおよび ADSTRGR.TRSB[5:0] ビットで該当の要因を選択してください。

42.3.12　プログラマブルゲインアンプ

ユニットごとに最大 3 つまでプログラマブルゲインアンプ（PGA）を使用できます。ADPGAGS0.PnGAIN[3:0] ビット（n = 000 ～ 002）でゲインを選択し、ADPGACR.PnSEL0 ビットと ADPGACR.PnSEL1 ビットで使用するオペアンプを選択します。

これらの PGA は差動入力に対応しています。差動入力に対応した端子は AN000 ～ AN002（ユニット 0）の PGAVSS000、AN100 ～ AN102（ユニット 1）の PGAVSS100 です。差動入力を使用するには、ADPGADCR0.PnDG[2:0] ビットで差動入力ゲインを設定し、ADPGACR.PnGEN ビットで差動入力ゲイン設定を有効にした後、ADPGADCR0.PnDEN ビットで差動入力アンプを選択してください。表 42.11 に示すように PGA レジスタの選択が可能です。

表 42.11　PGAレジスタの設定値と使用可能な関連機能

選択可能値（条件別）	該当レジスタの設定値				関連機能 P：使用可能 x：使用不可			
	PmnPFS	ADPGACR	ADPGAGS0	ADPGADCR0				
		PGA P002：ビット[11:8]	ビット［11:8］	ビット［11:8］		ACMPHS（注2）		
		PGA P001：ビット[7:4]	ビット［7:4］	ビット［7:4］				
	ASEL（注3）	PGA P000：ビット[3:0]	ビット［3:0］	ビット［3:0］	ポート（注1）	IVCMP2	IVCMP3	ADC12
ポート使用時	0	初期値のままにしてください。			○	x	x	x
ACMPHSまたはADC12（PGAバイパス）使用時（注4）	1	9	0	0	x	○	x	○
PGA使用時、差動入力無効	1	Eh	0～Eh	0	x	○	○	○
PGA使用時、差動入力有効	1	Eh	1, 5, 9, Bh	8～Bh	x	x	○	○

注 1.　ポート：入力ポート使用時。
注 2.　ACMPHS IVCMP2：PGA を介した入力を使用する場合。ACMPHS IVCMP3：PGA 出力の入力を使用する場合。
注 3.　PmnPFS レジスタの構成については、「20.　I/O ポート」を参照してください。
注 4.　ポートと ACMPHS を同時に使用することはできません。ポートと ADC12 を同時に使用することはできません。

表 42.12 は PGA 出力電圧の計算式を示しています。

表 42.12　PGA出力電圧

モード	PGA出力電圧
シングルモード	ゲイン× Vin
差動モード	ゲイン(Vin - Vs) + 0.5 × AVCC

Vin：AN000 ～ AN002、AN100 ～ AN102
Vs：PGAVSS00、PGAVSS001

42.4　割り込み要因と DTC/DMAC 転送要求

42.4.1　割り込み要求

ADC12 は、CPU へのスキャン終了割り込み要求である ADC12i_ADI（i = 0, 1）、ADC12i_GBADI を発生させることができます。また、比較条件成立で、CPU への ADC12i_CMPAI および ADC12i_CMPBI 割り込みを発生させます。

ADC12i_ADI 割り込みは常時発生します。ADC12i_GBADI 割り込みは、ADCSR.GBADIE ビットを 1 にすることで発生させることができます。同様に、ADC12i_CMPAI および ADC12i_CMPBI 割り込みは ADCMPCR.CMPAIE ビットおよび ADCMPCR.CMPBIE ビットを 1 にすることで発生させることが可能です。

また、ADC12i_ADI または ADC12i_GBADI 割り込み発生時、ADC12i_WCMPM または ADC12i_WCMPUM イベント発生時に DTC または DMAC を起動できます。これらの割り込みまたはイベントで変換されたデータの読み出しを DTC または DMAC で行うと、連続変換がソフトウェアの負担なく実現できます。

DTC の設定の詳細は「18.　データトランスファコントローラ（DTC）」を、DMAC の設定の詳細は「17. DMA コントローラ（DMAC）」を参照してください。

表 42.13 に、ADC12 で使用可能な割り込み要因および ELC イベントを示します。

表 42.13　ADC12のイベント一覧 (1/2)

○：使用可能　x：使用不可

動作		割り込み要求／ELCイベント			割り込み要求	DTC/DMAC起動	ELCイベント要求	機能
スキャンモード	ダブルトリガモード	コンペア機能ウィンドウA/B	ユニット0	ユニット1				
シングルスキャンモード	非選択	非選択	ADC120_ADI	ADC121_ADI	○	○	○	シングルスキャンの最後にADC12i_ADI発生
		選択	ADC120_ADI	ADC121_ADI	○	○	○	シングルスキャンの最後にADC12i_ADI発生
			ADC120_CMPAI	ADC121_CMPAI	○	x	x	ウィンドウAの比較条件一致でADC12i_CMPAI発生
			ADC120_CMPBI	ADC121_CMPBI	○	x	x	ウィンドウBの比較条件一致でADC12i_CMPBI発生
			ADC120_WCMPM	ADC121_WCMPM	x	○	○	ウィンドウA/Bコンペア機能の条件一致でADC12i_WCMPM発生
			ADC120_WCMPUM	ADC121_WCMPUM	x	○	○	ウィンドウA/Bコンペア機能の条件不一致でADC12i_WCMPUM発生
	選択	非選択	ADC120_ADI	ADC121_ADI	○	○	○	偶数回数のスキャン終了時にADC12i_ADI発生
連続スキャンモード	非選択	非選択	ADC120_ADI	ADC121_ADI	○	○	○	選択したすべてのチャネルのスキャン終了時にADC12i_ADI発生
		選択	ADC120_CMPAI	ADC121_CMPAI	○	x	x	ウィンドウAの比較条件一致でADC12i_CMPAI発生
			ADC120_CMPBI	ADC121_CMPBI	○	x	x	ウィンドウBの比較条件一致でADC12i_CMPBI発生

表 42.13　ADC12のイベント一覧 (2/2)

○：使用可能 x：使用不可

動作		割り込み要求／ELCイベント			割り込み要求	DTC/DMAC起動	ELCイベント要求	機能
スキャンモード	ダブルトリガモード	コンペア機能ウィンドウA/B	ユニット0	ユニット1				
グループスキャンモード	非選択	非選択	ADC120_ADI	ADC121_ADI	○	○	○	グループAのスキャン終了時にADC12i_ADI発生
			ADC120_GBADI	ADC121_GBADI	○	○	x	グループBのスキャン終了時にグループB用のADC12i_GBADI発生
		選択	ADC120_ADI	ADC121_ADI	○	○	○	グループAのスキャン終了時にADC12i_ADI発生
			ADC120_GBADI	ADC121_GBADI	○	○	x	グループBのスキャン終了時にグループB用のADC12i_GBADI発生
			ADC120_CMPAI	ADC121_CMPAI	○	x	x	ウィンドウAの比較条件一致でADC12i_CMPAI発生
			ADC120_CMPBI	ADC121_CMPBI	○	x	x	ウィンドウBの比較条件一致でADC12i_CMPBI発生
	選択	非選択	ADC120_ADI	ADC121_ADI	○	○	○	偶数回数のグループAのスキャン終了時にADC12i_ADI発生
			ADC120_GBADI	ADC121_GBADI	○	○	x	グループBのスキャン終了時にグループB用のADC12i_GBADI発生

注．　i = 0：ユニット0、i = 1：ユニット1

42.5 イベントリンク機能

42.5.1 ELC へのイベント出力

ELC は、ADC12i_ADI 割り込み要求信号をイベント信号として使用し、事前設定モジュールに対してリンク動作が可能です。ADC12i_GBADI 割り込みおよび ADC12i_CMPAI/ADC12i_CMPBI 割り込みをイベント信号として使用することはできません。詳細は、表 42.13 を参照してください。

42.5.2 ELC からのイベントによる ADC12 の動作

ADC12 は、以下のように、ELC の ELSRn 設定で指定した事前設定イベントによって A/D 変換を開始できます。

- ELC.ELSR8 レジスタで ELC_AD00（ユニット 0）信号を選択する
- ELC.ELSR9 レジスタで ELC_AD01（ユニット 0）信号を選択する
- ELC.ELSR10 レジスタで ELC_AD10（ユニット 1）信号を選択する
- ELC.ELSR11 レジスタで ELC_AD11（ユニット 1）信号を選択する

A/D 変換中に ELC_ADi0 または ELC_ADi1 イベントが発生した場合、そのイベントは無効となります。

42.6 使用上の注意事項

42.6.1 データレジスタの読み出しに関する制限

以下のレジスタの読み出しは、ハーフワード単位で行ってください。

- A/D データレジスタ
- A/D データ 2 重化レジスタ
- A/D データ 2 重化レジスタ A
- A/D データ 2 重化レジスタ B
- A/D 温度センサデータレジスタ
- A/D 内部基準電圧レジスタ
- A/D 自己診断データレジスタ

バイト単位で上位バイトと下位バイトの 2 回に分けてレジスタを読み出すと、1 回目に読み出した A/D 変換値と 2 回目に読み出した A/D 変換値が一致しないことがあります。これを避けるため、バイト単位のデータレジスタの読み出しは行わないでください。

42.6.2 A/D 変換停止時の注意事項

A/D 変換開始条件に非同期トリガまたは同期トリガを選択している場合、A/D 変換を停止させるためには、図 42.40 のフローチャートの手順に従ってください。

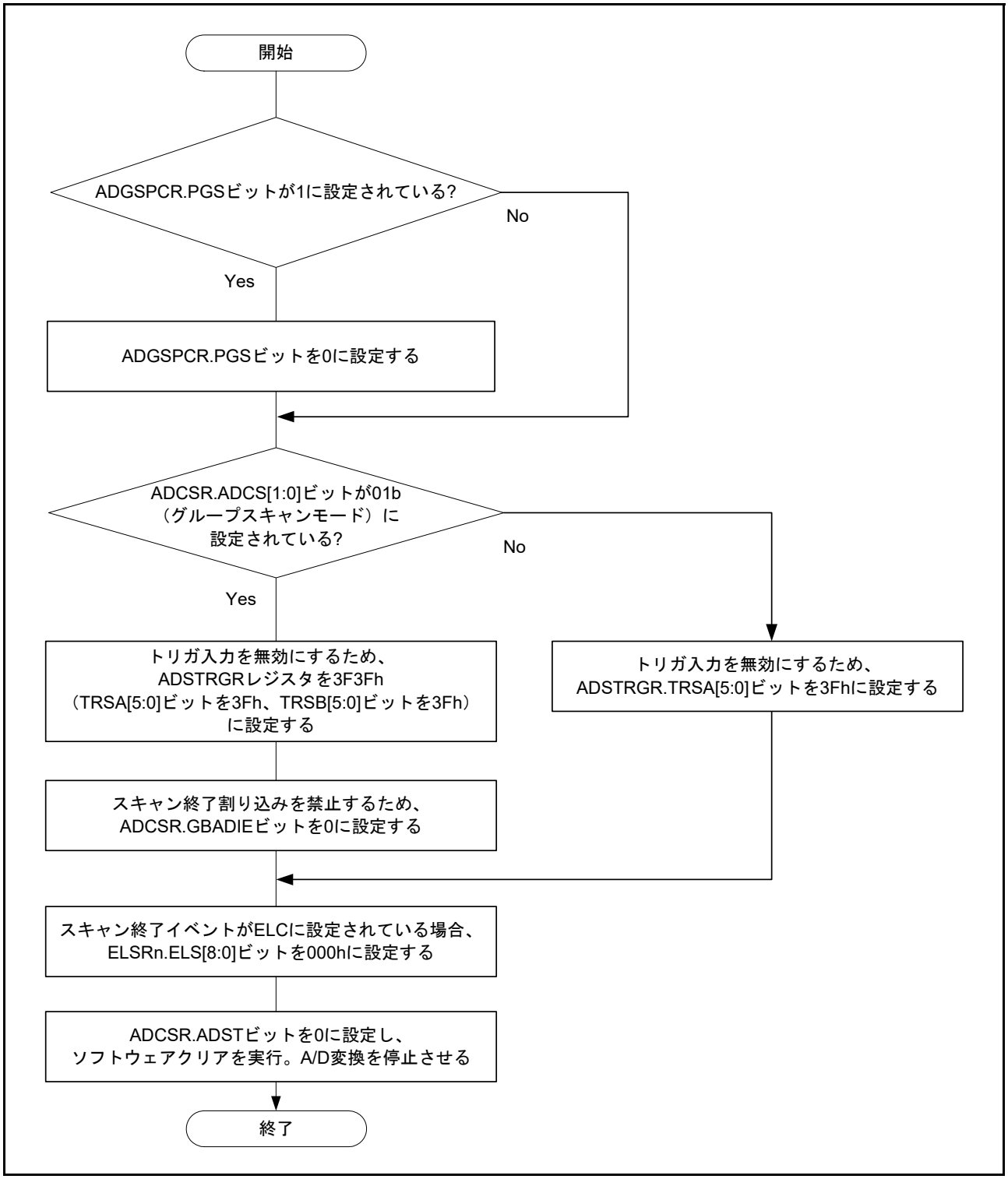


図 42.40 ソフトウェアによる ADCSR.ADST ビットのクリア手順

42.6.3 A/D 変換強制停止と再開時の動作タイミング

ADC12 の停止状態のアナログ部を ADCSR.ADST ビットへの 1 書き込み時に再開するには、ADCLK で最大 6 クロックの時間を必要とします。ADC12 の動作中のアナログ部を ADCSR.ADST ビットへの 0 書き込み時に強制終了するには、ADCLK で最大 2 クロックの時間を必要とします。

42.6.4 スキャン終了割り込み処理の制限

トリガ起動による同一アナログ入力のスキャンを2回行う場合などで、1回目のスキャン終了割り込み発生から、2回目のスキャンによる最初のアナログ入力のA/D変換が終了するまでに、CPUがA/D変換データを読み出し終えていなければ、1回目のA/D変換データが2回目のA/D変換データで上書きされます。

42.6.5 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタによって、ADC12の動作を禁止／許可することが可能です。ADC12は、リセット後の初期状態では動作が停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。モジュールストップ状態を解除した後は、1µs以上待ってからA/D変換を開始してください。詳細は、11.4 モジュールストップ機能を参照してください。

42.6.6 低消費電力状態への遷移に関する注意事項

モジュールストップ状態やソフトウェアスタンバイモードへ遷移する場合は、事前にA/D変換を停止させてください。A/D変換を停止させる際は、ADCSR.ADSTビットを0にした後、ADC12のアナログ部が停止するまでの時間を確保する必要があります。

この時間を確保するため、図42.40に示す、ソフトウェアによるADCSR.ADSTビットのクリア手順に従ってください。その後、ADCLKの2クロック期間待った後、モジュールストップ状態やソフトウェアスタンバイモードへ遷移させてください。

42.6.7 断線検出アシスト機能使用時の絶対精度誤差

断線検出アシスト機能を使用する場合、ADC12の絶対精度誤差が生じます。この誤差は、アナログ入力端子にプルアップ／プルダウン抵抗（Rp）と信号源抵抗（Rs）の抵抗分圧分の誤差電圧が入力されるために生じます。絶対精度の誤差は下式で表されます。

最大絶対精度誤差（LSB）= （$2^{\text{分解能}} - 1$）× Rs/(Rs + Rp)、（分解能 = 12, 10, 8）

断線検出アシスト機能は、十分な評価の上、使用してください。

42.6.8 AN000 ～ AN002、AN007、AN100 ～ AN102、およびAN107の使用可能な機能とレジスタ設定

AN000 ～ AN002、AN007、AN100 ～ AN102、およびAN107の使用可能な機能とレジスタ設定を表42.14に、レジスタの設定手順を図42.41に示します。それぞれの機能を使用するには、表42.14に示すようにレジスタの値を設定してください。

PGA（差動入力有効）を使用する場合、レジスタ設定後、ユニット0のAN000 ～ AN002およびPGAVSS000、ユニット1のAN100 ～ AN102およびPGAVSS100に負電圧を入力できます。

PGA（差動入力有効）を使用する場合、ADPGADCR0レジスタで各ユニットのすべてのPGAアンプを差動入力に設定する必要があります。

PGA（差動入力無効）を使用する場合、関連するPGAVSS端子をAVSS0に接続してください。PGAを使用しない場合は、関連するPGAVSSを入力ポートまたはアナログポートとして使用できます。

PGAまたはサンプル&ホールド回路を使用している状態からADCモジュールストップ状態やソフトウェアスタンバイモードへ遷移するときは、各ADC12のADPGACRまたはADSHCRレジスタの対応ビットを遷移前に0にすると、電力消費を減らすことができます。

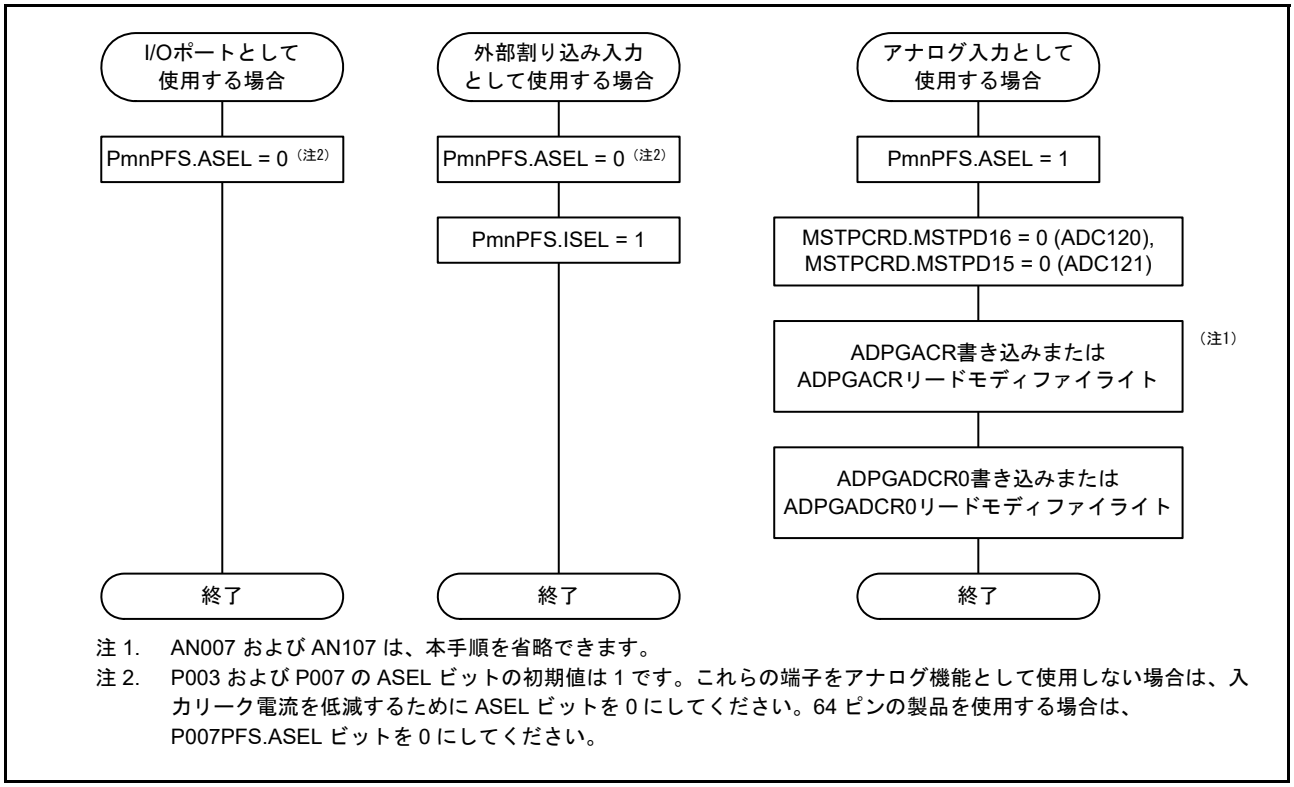
P003およびP007のASELビットの初期値は1です。これらの端子をアナログ機能として使用しない場合は、入力リーク電流を低減させるため、ASELビットを0にする必要があります。

64ピン製品を使用するときは、P007PFS.ASELビットを0にしてください。

表 42.14　使用可能な機能とレジスタ設定値

使用可能な機能						レジスタ設定値				
						P0nPFS（注6）		PGA		S/H（注3）
ポート（注1）	IRQ（注2）	S/H（注3）	PGA-S（注4）	PGA-D（注5）	ADC12	ASEL	ISEL	ADPGADCR0（注7）	ADPGACR（注8）	ADSHCR（注9）
○						0	0	x	x	x
	○					0	1	x	x	x
					○（注10）	1	x	0	9h	0
					○（注11）	1	x	0（注11）	0または9h	0
		○			○	1	x	0	9h	1 (0（注13）)
		○	○		○	1	x	0	Eh (0h（注12）)	1 (0（注13）)
		○		○	○	1	x	1	Eh (0h（注12）)	1 (0（注13）)
			○		○	1	x	0	Eh (0h（注12）)	0
				○	○	1	x	1	Eh (0h（注12）)	0

○：使用可能
x：Don’t care
注 1.　ポート：P000 ～ P007 はポート入力として使用可能。
注 2.　IRQ：P000 ～ P002 および P003 ～ P005 は IRQ 端子として使用可能。
注 3.　S/H：サンプル＆ホールド回路。
注 4.　PGA-S：PGA 設定が「差動入力無効」の場合。対応する PGAVSS は、1 に設定された ASEL として設定し、AVSS0 に接続する必要があります。
注 5.　PGA-D：PGA 設定が「差動入力有効」の場合。対応する PGAVSS は、ASEL として 1 に設定する必要があります。
注 6.　P0nPFS：アナログ入力端子に対応したポート 0n 端子機能選択レジスタ（n = 00 ～ 07）。
注 7.　対応する ADPGADCR0 レジスタの差動入力許可ビット（ビット [11]、ビット [7]、またはビット [3]）。
注 8.　対応する ADPGACR レジスタのアンプ制御ビット（ビット [11:8]、ビット [7:4]、またはビット [3:0]）。
注 9.　対応する ADSHCR レジスタのバイパス選択ビット（ビット [10]、ビット [9]、またはビット [8]）。
注 10.　AN000 ～ AN002 または AN100 ～ AN102 を使用する場合。
注 11.　AN007 または AN107 を使用する場合。対応するすべてのビット（ADPGADCR0 のビット [11]、ビット [7]、およびビット [3]）を 0 にする。
注 12.　ADC12 モジュールストップ状態やソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、ADPGACR レジスタの対応ビットを 0 にすると、PGA の電力消費の削減が可能です。
注 13.　ADC12 モジュールストップ状態やソフトウェアスタンバイモードへ遷移する前に、ADSHCR レジスタの対応ビットを 0 にすると、S/H の電力消費の削減が可能です。



注 1. AN007 および AN107 は、本手順を省略できます。
注 2. P003 および P007 の ASEL ビットの初期値は 1 です。これらの端子をアナログ機能として使用しない場合は、入力リーク電流を低減するために ASEL ビットを 0 にしてください。64 ピンの製品を使用する場合は、P007PFS.ASEL ビットを 0 にしてください。

図 42.41 レジスタの設定手順

42.6.9 動作モードおよびステータスビットについての注意事項

自己診断の電圧値、ダブルトリガモードでの 1 回目または 2 回目のスキャンの判定、およびコンペア機能のステータスモニタビットは、それぞれ必要に応じて初期化または再設定を行います。

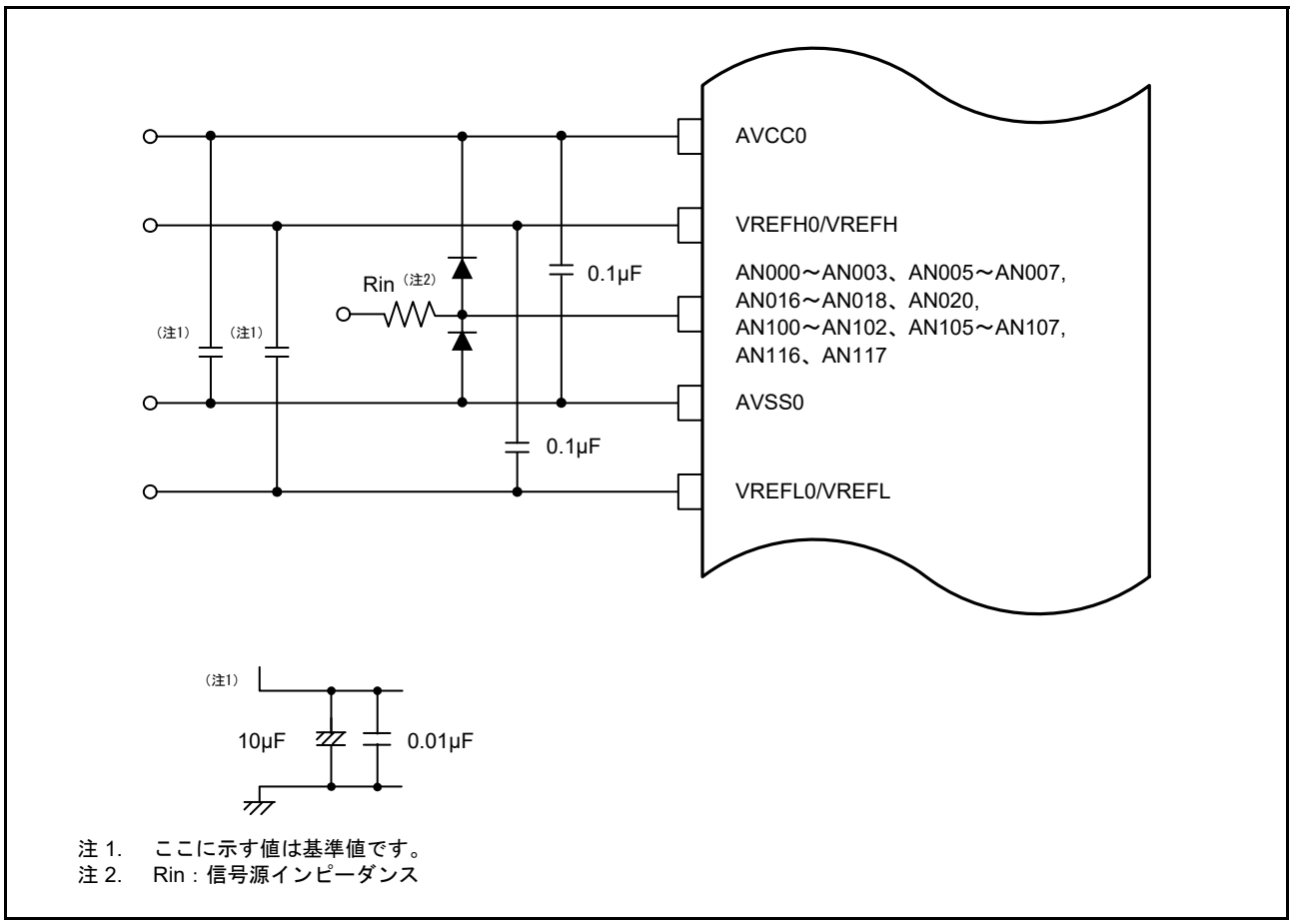
- 自己診断の電圧値（ADCER.DIAGVAL[1:0]）は、ADCER.DIAGLD を 1 に設定してから選択してください
- ダブルトリガモードは、ADCSR.DBLE を 0 から 1 にした後、1 回目のスキャンとして動作します
- コンペア機能のステータスモニタビット（MONCMPA、MONCMPB、および MONCMPA）は、ADCMPCR.CMPAE および ADCMPCR.CMPBE ビットを 0 にクリアした後、初期化されます
- 常時サンプリング機能（ADSHMSR.SHMD = 1）は、ADSHMSR.SHMD を 0 にした後、初期化されます。常時サンプリング機能を再び使用する場合（ADSHMSR.SHMD を 1 にする場合）、ADCLK で 1 サイクル以上待機する必要があります

42.6.10 ボード設計に関する注意事項

デジタル回路とアナログ回路の間はできるだけ離れるように、ボードを設計してください。また、デジタル信号線とアナログ信号線は、交差させたり互いに近づけたりしないでください。これらのルールに従わないと、アナログ信号にノイズが発生し、A/D 変換精度に影響を及ぼします。アナログ入力端子（AN000 ～ AN003、AN005 ～ AN007、AN016 ～ AN018、AN020、AN100 ～ AN102、AN105 ～ AN107、AN116、AN117）、基準電源端子（VREFH0/VREFH）、基準グランド端子（VREFL0/VREFL）、およびアナログ電源（AVCC0）は、アナロググランド（AVSS0）を使用したデジタル回路と離すようにしてください。アナロググランド（AVSS0）は、ボード上の安定したデジタルグランド（VSS）に接続してください（単一グランドプレーン接続）。

42.6.11 ノイズ対策時の制約

過剰電圧などの異常電圧によってアナログ入力端子（AN000 ～ AN003、AN005 ～ AN007、AN016 ～ AN018、AN020、AN100 ～ AN102、AN105 ～ AN107、AN116、AN117）が破壊されないようにするため、AVCC0 と AVSS0 間、VREFH0 と VREFL0 間、および VREFH と VREFL 間にコンデンサを設置してください。また、アナログ入力端子（AN000 ～ AN003、AN005 ～ AN007、AN016 ～ AN018、AN020、AN100 ～ AN102、AN105 ～ AN107、AN116、AN117）を保護するため、図 42.42 に示すように保護回路を接続してください。



注 1. ここに示す値は基準値です。
注 2. Rin：信号源インピーダンス

図 42.42 アナログ入力用保護回路例

42.6.12 ADC12 入力使用時のポート設定

高精度チャネルを使用する場合は、ポート 0 をデジタル出力ポートとして使用しないでください。通常精度チャネルを使用している場合は、A/D アナログ入力とデジタル出力に同じポートは使用しないことを推奨します。A/D アナログ入力としても使用しているデジタル出力を出力信号用に使用する場合は、A/D 変換を複数回実行し、最大値と最小値を除いた平均をとるなどの対策を行ってください。

42.6.13 ADC12（ユニット 0 およびユニット 1）と ACMPHS の関係

表 42.15 に示す A/D 変換対象の場合、ユニット 0 およびユニット 1 は同時に A/D 変換を行うことができません。

表 42.15 相互排他的関係にあるA/D変換対象

A/D変換対象	
ユニット0	ユニット1
温度センサ	
内部基準電圧	
AN005/DA0	AN105/DA0
AN006/DA1	AN106/DA1

表 42.16 に示す A/D 変換対象は、A/D 変換中に ACMPHS 入力として選択することができません。これらの端子は ADC12 と ACMPHS との兼用端子であるためです。

表 42.16 A/D変換中に選択できないACMPHS端子一覧

A/D変換対象		
ユニット0	ユニット1	ACMPHS
AN000	-	ACMPHS0.IVCMP2
AN001	-	ACMPHS1.IVCMP2
AN002	-	ACMPHS2.IVCMP2
PGA P000出力	-	ACMPHS0.IVCMP3
PGA P001出力	-	ACMPHS1.IVCMP3
PGA P002出力	-	ACMPHS2.IVCMP3
AN005/DA0	-	ACMPHS0～ACMPHS5.IVREF3
AN006/DA1	-	ACMPHS0～ACMPHS5.IVCMP1
AN016	-	ACMPHS0～ACMPHS5.IVREF0
AN017	-	ACMPHS0～ACMPHS5.IVCMP0
内部基準電圧	-	ACMPHS0～ACMPHS5.IVREF2
-	AN100	ACMPHS3.IVCMP2
-	AN101	ACMPHS4.IVCMP2
-	AN102	ACMPHS5.IVCMP2
-	PGA P000出力	ACMPHS3.IVCMP3
-	PGA P001出力	ACMPHS4.IVCMP3
-	PGA P002出力	ACMPHS5.IVCMP3
-	AN105/DA0	ACMPHS3～ACMPHS5.IVREF3
-	AN106/DA1	ACMPHS3～ACMPHS5.IVCMP1
-	AN116	ACMPHS0～ACMPHS5.IVREF1
-	内部基準電圧	ACMPHS0～ACMPHS5.IVREF2

43.　12 ビット D/A コンバータ（DAC12）

43.1　概要

本 MCU は、出力アンプ付きの 12 ビット D/A コンバータ（DAC12）を内蔵しています。

表 43.1 に DAC12 の仕様を、図 43.1 にそのブロック図を、表 43.2 に入出力端子を示します。

表 43.1　DAC12の仕様

項目	内容
分解能	12ビット
出力チャネル	2チャネル
アナログモジュール間の干渉低減	D/A変換とA/D変換の干渉を最小化するための対策 • ADC12（ユニット1）が出力するADC12同期D/A変換許可入力信号により、D/A変換データの更新タイミングを制御する • DAC12のインラッシュカレント発生タイミングを許可信号で制御し、干渉によるA/D変換精度の劣化を低減する
モジュールストップ機能	モジュールストップ状態を設定して消費電力を削減可能
イベントリンク機能（入力）	イベント信号の入力により、DA0およびDA1変換の開始が可能
D/A出力アンプ制御機能	出力アンプ（アンプスルー制御およびアンプバイアス制御）の使用／不使用を制御

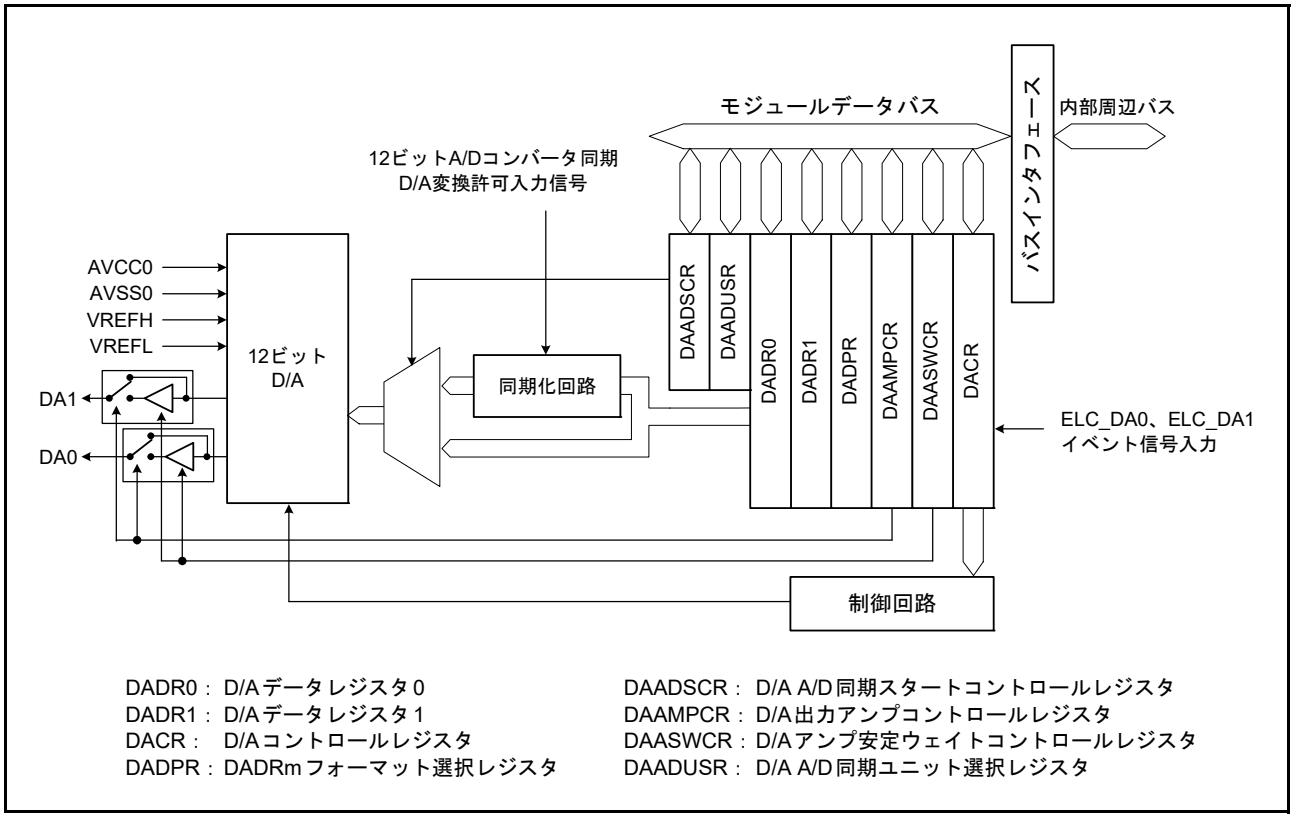


図 43.1　DAC12 のブロック図

表 43.2 DAC12の入出力端子

端子名	入出力	機能
AVCC0	入力	ADC12、DAC12、TSN、およびコンパレータ用のアナログ電源端子 これらのモジュールを使用しない場合は、VCCに接続してください
AVSS0	入力	ADC12、DAC12、TSN、およびコンパレータ用のアナロググランド端子 これらのモジュールを使用しない場合は、VSSに接続してください
VREFH	入力	ADC12（ユニット1）とDAC12のアナログ基準電源端子
VREFL	入力	ADC12（ユニット1）とDAC12のアナログ基準グランド端子
DA0	出力	チャネル0のアナログ出力端子
DA1	出力	チャネル1のアナログ出力端子

43.2　レジスタの説明

43.2.1　D/A データレジスタ m（DADRm）（m = 0, 1）

アドレス　DAC12.DADR0 4005 E000h, DAC12.DADR1 4005 E002h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

DADRm レジスタは、D/A 変換を行うデータを格納するための 16 ビットの読み出し／書き込みレジスタです。アナログ出力を許可すると、DADRm レジスタの値が変換されアナログ出力端子に出力されます。

12 ビットデータを左詰めにするか右詰めにするかは、DADPR.DPSEL ビットで設定できます。右詰め形式（DADPR.DPSEL = 0）では、下位 12 ビット（[11:0]）が有効です。左詰め形式（DADPR.DPSEL = 1）では、上位 12 ビット（[15:4]）が有効です。

出力アンプの使用方法については、43.6.5　出力アンプ使用時の初期設定手順を参照してください。

43.2.2 D/A コントロールレジスタ（DACR）

アドレス DAC12.DACR 4005 E004h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DAOE1	DAOE0	DAE	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	1	1	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b5	DAE	D/A許可（注1）	0：チャネル0とチャネル1のD/A変換を個別制御 1：チャネル0とチャネル1のD/A変換を一括制御	R/W
b6	DAOE0	D/A出力許可0	0：チャネル0のD/A変換とアナログ出力（DA0）を禁止 1：チャネル0のD/A変換とアナログ出力（DA0）を許可	R/W
b7	DAOE1	D/A出力許可1	0：チャネル1のD/A変換とアナログ出力（DA1）を禁止 1：チャネル1のD/A変換とアナログ出力（DA1）を許可	R/W

注 1.　変換結果の出力を制御する DAOEi ビット（i = 0, 1）との組み合わせで D/A 変換とアナログ出力を制御します。詳細は、表 43.3 を参照してください。

表 43.3　D/A 変換の制御

b5	b7	b6	
DAE	DAOE1	DAOE0	機能
0	0	0	D/A変換とアナログ出力（DA0、DA1）（注1）を禁止
		1	• チャネル0のD/A変換を許可、チャネル1のD/A変換を禁止 • チャネル0のアナログ出力（DA0）を許可、チャネル1のアナログ出力（DA1）（注1）を禁止
	1	0	• チャネル0のD/A変換を禁止、チャネル1のD/A変換を許可 • チャネル0のアナログ出力（DA0）（注1）を禁止、チャネル1のアナログ出力（DA1）を許可
		1	• チャネル0とチャネル1のD/A変換を許可 • チャネル0とチャネル1のアナログ出力（DA0、DA1）を許可
1	x	x	• チャネル0とチャネル1のD/A変換を許可 • チャネル0とチャネル1のアナログ出力（DA0、DA1）を一括して許可

x：Don't care

注 1.　アナログ出力禁止時、アナログ出力信号は Hi-Z 状態になります。

DACR レジスタは、DAADSCR.DAADST ビットが 1（D/A 変換と A/D 変換の干渉防止が有効）の状態で、ADC12 が停止中の場合のみ設定してください。DACR を設定するときは、ADC12 トリガで ADC12 を確実に停止させるために、ADCSR.ADST ビットが 0、かつソフトウェアトリガを選択した状態でのみ行ってください。本 MCU でサポートされる ADC12 はユニット 1 のみです。

DAE ビット（D/A 許可）

DAE ビット、DAOEi ビット（i = 0, 1）および DAAMPCR.DAAMPi ビット（i = 0, 1）の組み合わせで、D/A 変換、アンプ動作、およびアナログ出力を制御します。表 43.4 を参照してください。

D/A 変換と A/D 変換の干渉防止が有効（DAADSCR.DAADST = 1）のときは、ADC12 の ADCSR.ADST ビットを 0 にしてください。このとき、ADC12 を確実に停止させるため、ADC12 のトリガ選択をソフトウェアトリガに設定してください。

DAOEi ビット（D/A 出力許可 i）

DAE ビット、DAOEi ビット（i = 0, 1）、および DAAMPCR.DAAMPi ビット（i = 0, 1）の組み合わせで、D/A 変換、アンプ動作、およびアナログ出力を制御します。表 43.4 を参照してください。

DAOEi ビット（i = 0, 1）が 0 で DAE ビットも 0 のとき、チャネル i（i = 0, 1）の D/A 変換は行われず、変

換結果も出力されません。

D/A 変換と A/D 変換の干渉防止が有効（DAADSCR.DAADST = 1）のときは、ADC12 の ADCSR.ADST ビットが 0 の状態で DAOEi ビットを設定してください。このとき、ADC12 を確実に停止させるため、ADC12 のトリガ選択をソフトウェアトリガに設定してください。

イベントリンク機能を使用して、DAOEi ビットを 1 にできます。ELC の ELSR12 レジスタで設定されたイベント（ELC_DA0 イベント）が発生すると、DAOE0 ビットが 1 になり、D/A 変換結果の出力を開始します。ELC の ELSR13 レジスタで設定されたイベント（ELC_DA1 イベント）が発生すると、DAOE1 ビットが 1 になり、D/A 変換結果の出力を開始します。

表 43.4　D/A 変換とアナログ出力制御

DACR		DAAMPCR	チャネルiの動作	チャネルi アンプ動作	チャネルi アナログ出力
DAE	DAOEi	DAAMPi			
0	0	0	停止	停止	Hi-Z
		1	停止	停止	Hi-Z
	1	0	動作	停止	アンプスルー
		1	動作	動作	アンプ出力
1	0	0	動作	停止	アンプスルー
		1	動作	動作	アンプ出力
	1	0	動作	停止	アンプスルー
		1	動作	動作	アンプ出力

i = 0, 1

43.2.3　DADRm フォーマット選択レジスタ（DADPR）

アドレス　DAC12.DADPR 4005 E005h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DPSEL	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	DPSEL	DADRmフォーマット選択	0：右詰め 1：左詰め	R/W

43.2.4　D/A A/D 同期スタートコントロールレジスタ（DAADSCR）

アドレス　DAC12.DAADSCR 4005 E006h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DAADST	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	DAADST	D/A A/D同期変換	0：DAC12の動作はADC12（ユニット1）の動作と同期しない（D/A変換とA/D変換の干渉防止が無効） 1：DAC12の動作はADC12（ユニット1）の動作と同期する（D/A変換とA/D変換の干渉防止が有効）	R/W

DAADSCR レジスタは、D/A 変換と A/D 変換の干渉を最小化するために、D/A 変換の開始タイミングを ADC12 同期 D/A 変換許可入力信号に同期させることができます。

注 .　本 MCU でサポートされる ADC12 はユニット 1 のみです。

このレジスタの設定は、ADC12 が停止中のとき（ADC12 のトリガ選択をソフトウェアトリガにした後、ADCSR.ADST ビットが 0 のとき）のみ行ってください。

DAADST ビットを 1 にする前に、ADC12 の対象ユニットをユニット 1 に設定してください。DAADUSR レジスタの b1 を 1 にして、ユニット 1 を選択してください。

DAADST ビット（D/A A/D 同期変換）

DAADST ビットを 0 にすると、DADRm レジスタの値を随時 D/A 変換します。DAADST ビットを 1 にすると、ADC12 からの ADC12 同期 D/A 変換許可入力信号に同期して D/A 変換が行われます。本ビットを設定した場合、DADRm レジスタの値を書き換えても、ADC12 の A/D 変換が終了するまで D/A 変換は行われません。

DAADST ビットの設定は ADCSR.ADST ビットが 0 のときに行ってください。このとき、ADC12 を確実に停止させるため、ADC12 のトリガ選択をソフトウェアトリガに設定してください。また、DAADST ビットを 1 にする前に、DAADUSR レジスタの b1 を 1 にしてください。

なお、DAADST ビットを 1 にした場合は、イベントリンク機能は使用できません。ELC の ELSR12 および ELSR13 レジスタでイベントリンク機能を停止に設定してください。DAADST ビットの設定は、DAC12 のチャネル 0 およびチャネル 1 に共通です。

43.2.5 D/A 出力アンプコントロールレジスタ（DAAMPCR）

アドレス DAC12.DAAMPCR 4005 E008h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DAAMP1	DAAMP0	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6	DAAMP0	アンプ制御0	0：チャネル0の出力アンプを使用しない 1：チャネル0の出力アンプを使用する	R/W
b7	DAAMP1	アンプ制御1	0：チャネル1の出力アンプを使用しない 1：チャネル1の出力アンプを使用する	R/W

DAAMPCR レジスタは、D/A 出力に対してアンプを使用するか、使用せずにスルー出力するかを選択します。

DAAMP0 ビット（アンプ制御 0）

DAAMP0 ビットを 0 にすると、チャネル 0 の D/A 出力に対してアンプを介さずにアナログ値を出力します。DAAMP0 ビットを 1 にすると、チャネル 0 の D/A 出力に対してアンプを介してアナログ値を出力します。

なお、DAE ビットと DAOE0 ビットの両方が 0 の状態では、DAAMP0 ビットの設定にかかわらずアンプは停止します。詳細は表 43.4 を参照してください。

DAAMP1 ビット（アンプ制御 1）

DAAMP1 ビットを 0 にすると、チャネル 1 の D/A 出力に対してアンプを介さずにアナログ値を出力します。DAAMP1 ビットを 1 にすると、チャネル 1 の D/A 出力に対してアンプを介してアナログ値を出力します。

なお、DAE ビットと DAOE1 ビットの両方が 0 の状態では、DAAMP1 ビットの設定にかかわらずアンプは停止します。詳細は表 43.4 を参照してください。

43.2.6　D/A アンプ安定ウェイトコントロールレジスタ（DAASWCR）

アドレス　DAC12.DAASWCR 4005 E01Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DAASW1	DAASW0	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6	DAASW0	D/Aアンプ安定待ち0	0：チャネル0のアンプ安定待ちオフ（出力） 1：チャネル0のアンプ安定待ちオン（High-Z）	R/W
b7	DAASW1	D/Aアンプ安定待ち1	0：チャネル1のアンプ安定待ちオフ（出力） 1：チャネル1のアンプ安定待ちオン（High-Z）	R/W

DAASWCR レジスタは、出力アンプを使用して D/A 出力を制御します。本レジスタは、D/A 出力アンプ安定待ちのための初期化手順で使用します。DACR レジスタの DAE ビットと DAOEi ビット（i = 0、1）がともに 0 のとき、DAASWCR の各ビットを 1 にしてください。43.6.5　出力アンプ使用時の初期設定手順を参照してください。

DAASW0 ビット（D/A アンプ安定待ち 0）

チャネル 0 の D/A 出力アンプ安定待ちのための初期化手順で、DAASW0 ビットを 1 にしてください。DAASW0 を 1 にすると、D/A 変換は動作しますが、D/A 変換結果は、チャネル 0 から出力されません。DAASW0 ビットを 0 にすると、安定待機時間は終了し、チャネル 0 の D/A 変換結果が出力アンプによって出力されます。

DAASW1 ビット（D/A アンプ安定待ち 1）

チャネル 1 の D/A 出力アンプ安定待ちのための初期化手順で、DAASW1 ビットを 1 にしてください。DAASW1 を 1 にすると、D/A 変換は動作しますが、D/A 変換結果は、チャネル 1 から出力されません。DAASW1 ビットを 0 にすると、安定待機時間は終了し、チャネル 1 の D/A 変換結果が出力アンプによって出力されます。

43.2.7　D/A A/D 同期ユニット選択レジスタ（DAADUSR）

アドレス　DAC12.DAADUSR 4005 F0C0h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	AMADSEL1	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b1	AMADSEL1	A/Dユニット1選択	0：ユニット1を選択しない 1：ユニット1を選択する	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

DDAADUSR レジスタは、D/A A/D 同期変換する ADC12 の対象ユニットを選択するレジスタです。MCU で b1 を 1 にして、ユニット 1 を同期対象ユニットとして選択してください。DAADSCR.DAADST ビットを 1 にして同期変換する場合は、事前に本レジスタで対象ユニットを選択してください。

DAADUSR レジスタの設定は、ADC12 の ADCSR.ADST ビットが 0 かつ DAADSCR.DAADST ビットが 0 のときのみ行ってください。

43.3　動作説明

DAC12には2チャネルのD/A変換回路があり、それぞれ独立して変換を行うことができます。DACR.DAOEnビット（n = 0, 1）を1にすると、DAC12が有効になり、変換結果が出力されます。

以下にチャネル0でのD/A変換例を示します。このときの動作タイミングを図 43.2 に示します。

チャネル0でD/A変換を実行する場合の手順は以下のとおりです。

1. DADPR.DPSELビットとDADR0レジスタにD/A変換を行うためのデータを設定します。
2. DACR.DAOE0ビットを1にすると、D/A変換を開始します。tDCONV時間経過後、変換結果をアナログ出力端子DA0より出力します。DADR0レジスタを書き換えるか、DAOE0ビットを0にするまで、この変換結果が出力され続けます。出力値（参考）は以下の式で計算します。

$$\frac{\text{DADRmの設定値}}{4096} \times \text{VREFH}$$

3. 変換を再度開始するため、もう一度DADR0へ書き込みます。tDCONV時間経過後、変換結果が出力されます。
   DAADSCR.DAADSTビットが1（D/A変換とA/D変換の干渉防止が有効）の場合、D/A変換開始まで最大でA/D変換1回分の時間が必要です。ADCLKが周辺クロックよりも速い場合は、さらに時間が必要となる場合があります。
4. アナログ出力を禁止する場合は、DAOE0ビットを0にしてください。

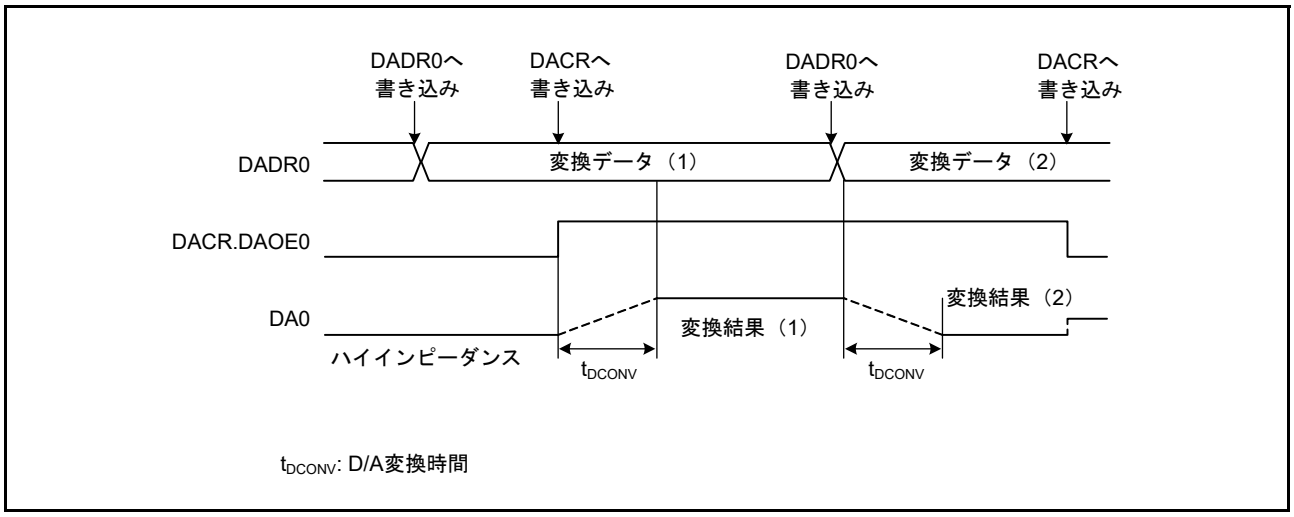


図 43.2　DAC12の動作例

43.3.1　D/A 変換と A/D 変換の干渉の低減

D/A 変換が始まると DAC12 はインラッシュカレントを発生させます。DAC12 と ADC12 のアナログ電源が共通であるため、発生したインラッシュカレントが ADC12 の変換に干渉することがあります。

DAADSCR.DAADST ビットが 1 の場合、ADC12 が A/D 変換中に DADRm レジスタのデータを書き換えても、D/A 変換はすぐに開始されず、A/D 変換終了タイミングに同期して開始します。DADRm レジスタデータの更新が D/A 変換回路の入力に反映されるまで、最大で A/D 変換 1 回分の時間が必要です。その間 DADRm レジスタ値とアナログ出力値は一致しません。

本機能が有効なときに、DADRm レジスタの値が D/A 変換されたかどうかをソフトウェアで確認する手段はありません。ADC12 が停止中に DADRm レジスタのデータが変更された場合、DAADSCR.DAADST ビットが 1 であっても、1PCLKB サイクル後に D/A 変換が開始されます。

以下に、DAC12 を ADC12 に同期して動作させる場合のチャネル 0 の D/A 変換例を示します。

チャネル 0 の D/A 変換を ADC12 に同期して動作させる場合は、以下の手順で行ってください。

1. ADC12 が停止中であることと、DAADSCR.DAADST ビットが 0 であることを確認し、DAADUSR.AMADSEL1 ビットを 1 にします。
2. ADC12 が停止中であることを確認し、DAADSCR.DAADST ビットを 1 にします。
3. ADC12 が停止中であることを確認し、DACR.DAOE0 ビットを 1 にします。
4. DADR0 レジスタを設定します。ADCLK が周辺クロックよりも速い場合は、A/D 変換 1 回分以上の時間が必要となる場合があります。
   - DADR0 レジスタを書き換えたとき、12 ビット A/D 変換が停止していた場合（ADCSR.ADST ビット = 0）、1PCLKB サイクル後に D/A 変換が開始されます
   - DADR0 レジスタを書き換えたとき、12 ビット A/D 変換中の場合（ADCSR.ADST ビット = 1）、A/D 変換終了時に D/A 変換が開始されます。A/D 変換中に DADR0 レジスタを 2 回書き換えた場合は、1 回目の値が D/A 変換されないことがあります

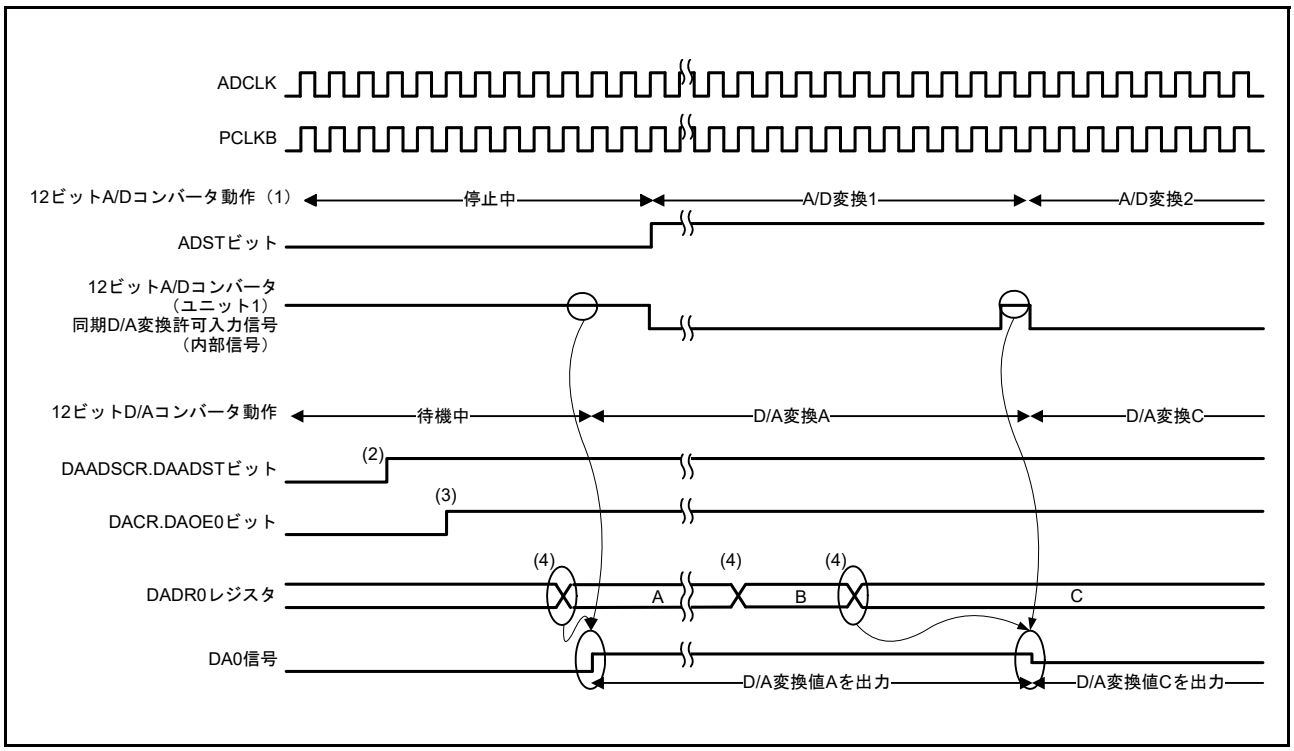


図 43.3　DAC12 を ADC12 に同期して変換する例

ADCLK が PCLKB よりも速い場合、A/D 変換 1 と A/D 変換 2 の間に出力される ADCLK 1 サイクル分の ADC12（ユニット 1）同期 D/A 変換許可入力信号を DAC12 が取り込めない可能性があります。図 43.4 にその例を示します。この場合、DA0 信号は D/A 変換値 A の出力を継続します。

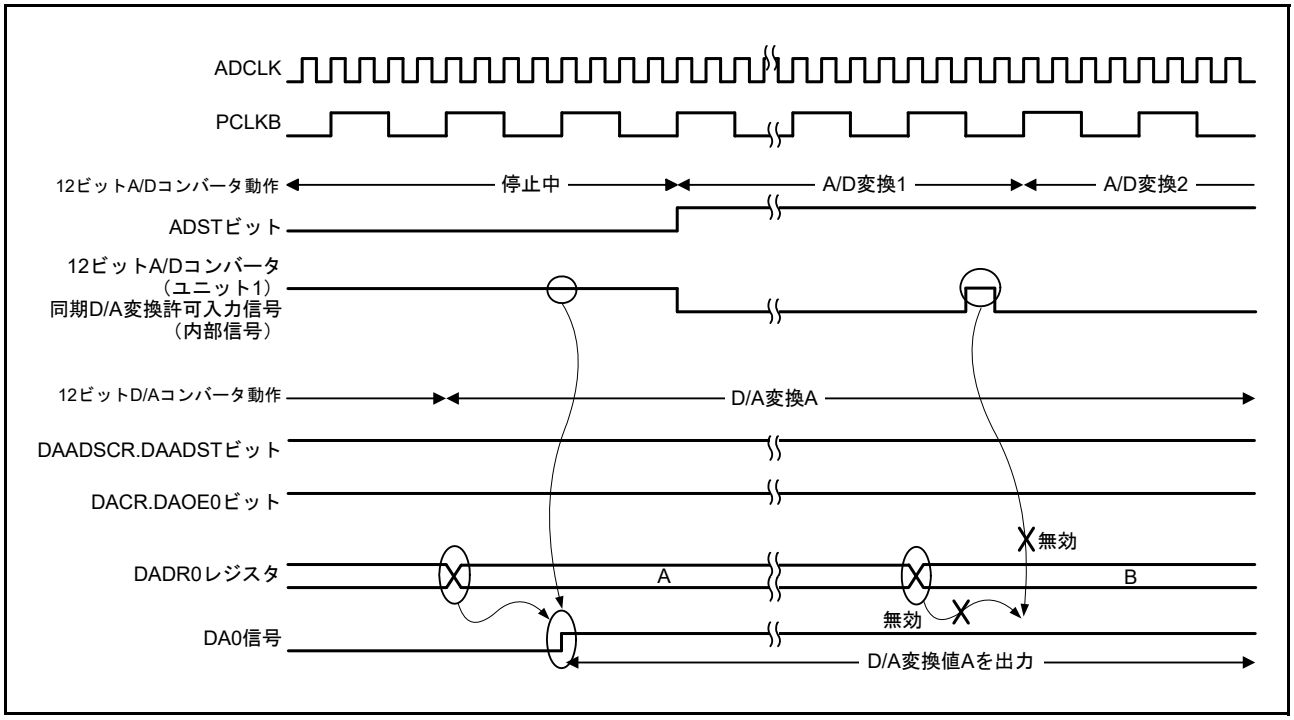


図 43.4　DAC12 が ADC12（ユニット 1）からの同期 D/A 変換許可入力信号を取り込めない場合の例

43.4 イベントリンクの動作設定手順

以下にイベントリンク動作手順を示します。

43.4.1 DA0 イベントリンクの動作設定手順

DA0 イベントリンクの動作を設定する場合は、以下の手順で行います。

1. DADPR.DPSEL ビットを設定し、DADR0 レジスタに D/A 変換を行うためのデータを設定します。
2. ELC_DA0 イベント信号が ELSR12 レジスタの各周辺モジュールとリンクするよう設定します。
3. ELCR.ELCON ビットを 1 にします。これによりイベントリンク機能が設定されている全モジュールのイベントリンク動作が有効となります。
4. イベント出力元のモジュールを設定し、イベントリンクを起動します。モジュールからイベントが出力されると、DACR.DAOE0 ビットが 1 になり、チャネル 0 の D/A 変換が開始されます。
5. DAC12 のチャネル 0 のイベントリンク動作を停止するときは、ELSR12.ELS[8:0] ビットを 000h にしてください。また ELCR.ELCON ビットを 0 にすることにより、全モジュールのイベントリンク動作が停止します。

43.4.2 DA1 イベントリンクの動作設定手順

DA1 イベントリンクの動作を設定する場合は、以下の手順で行います。

1. DADPR.DPSEL ビットを設定し、DADR1 レジスタに D/A 変換を行うためのデータを設定します。
2. ELC_DA1 イベント信号が ELSR13 レジスタの各周辺モジュールとリンクするよう設定します。
3. ELCR.ELCON ビットを 1 にします。これによりイベントリンク機能が設定されている全モジュールのイベントリンク動作が有効となります。
4. イベント出力元のモジュールを設定し、イベントリンクを起動します。モジュールからイベントが出力されると、DACR.DAOE1 ビットが 1 になり、チャネル 1 の D/A 変換が開始されます。
5. DAC12 のチャネル 1 のイベントリンク動作を停止するときは、ELSR13.ELS[8:0] ビットを 000h にしてください。また ELCR.ELCON ビットを 0 にすることにより、全モジュールのイベントリンク動作が停止します。

43.5 イベントリンク動作における注意事項

- イベントリンク機能を使用する場合、アンプ出力機能を使用しないでください
- イベントリンク機能を使用する場合、DACR.DAE ビットは 0 にしてください
- DACR.DAOE0 ビットへの書き込みサイクル中に ELC_DA0 イベント信号で設定されたイベントが発生すると、DACR.DAOE0 ビットへの書き込みサイクルは停止し、イベント発生が優先的にビットを 1 にします
- DACR.DAOE1 ビットへの書き込みサイクル中に ELC_DA1 イベント信号で設定されたイベントが発生すると、DACR.DAOE1 ビットへの書き込みサイクルは停止し、イベント発生が優先的にビットを 1 にします
- D/A 変換と A/D 変換の干渉低減のため DAADSCR.DAADST ビットを 1 にしている場合、イベントリンク機能は使用禁止です

43.6 使用上の注意事項

43.6.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタD（MSTPCRD）によって、DAC12のモジュールストップ状態の遷移／解除を設定できます。DAC12は、リセット後の初期状態では動作が停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は、「11. 低消費電力モード」を参照してください。

43.6.2 モジュールストップ時のDAC12の動作

D/A変換を許可した状態でMCUがモジュールストップ状態になると、D/A出力は保持され、アナログ電源電流はD/A変換中と同様になります。モジュールストップ時にアナログ電源電流を低減する必要がある場合は、DACR.DAOE1、DAOE0、およびDAEビットをすべて0にしてD/A変換を禁止してください。

43.6.3 ソフトウェアスタンバイモード時のDAC12の動作

D/A変換を許可した状態でMCUがソフトウェアスタンバイモードになると、D/A出力は保持され、アナログ電源電流はD/A変換中と同様になります。ソフトウェアスタンバイモード時にアナログ電源電流を低減する必要がある場合は、DACR.DAOE1、DAOE0、およびDAEビットをすべて0にしてD/A変換を禁止してください。

43.6.4 ディープソフトウェアスタンバイモードへの遷移に関する制約

D/A変換を許可した状態でMCUがディープソフトウェアスタンバイモードに遷移すると、DAC12の出力はハイインピーダンスとなります。

43.6.5 出力アンプ使用時の初期設定手順

出力アンプを使用して、以下の初期化手順に従ってください。ここではチャネル0を例に説明します。

出力アンプを使用してDAC12を初期化するには、以下の手順を行います。

1. DADR0レジスタに0000hを書き込みます。
2. DAASWCR.DAASW0ビットを1にします。
3. DAAMPCR.DAAMP0ビットを1にします。
4. DACR.DAEビットまたはDACR.DAOE0ビットを1にして、アンプ動作を開始します。
5. D/A変換時間（t_{DCONV}）を待機してから、DAASWCR.DAASW0ビットを0にクリアします。
6. 変換する値をDADR0レジスタに書き込みます。

なお、アンプが動作している状態で、DACR.DAEビットとDACR.DAOE0ビットを0にクリアすると、アンプは停止状態になります。再びアンプを使用する場合には、手順1～6を再度行ってください。

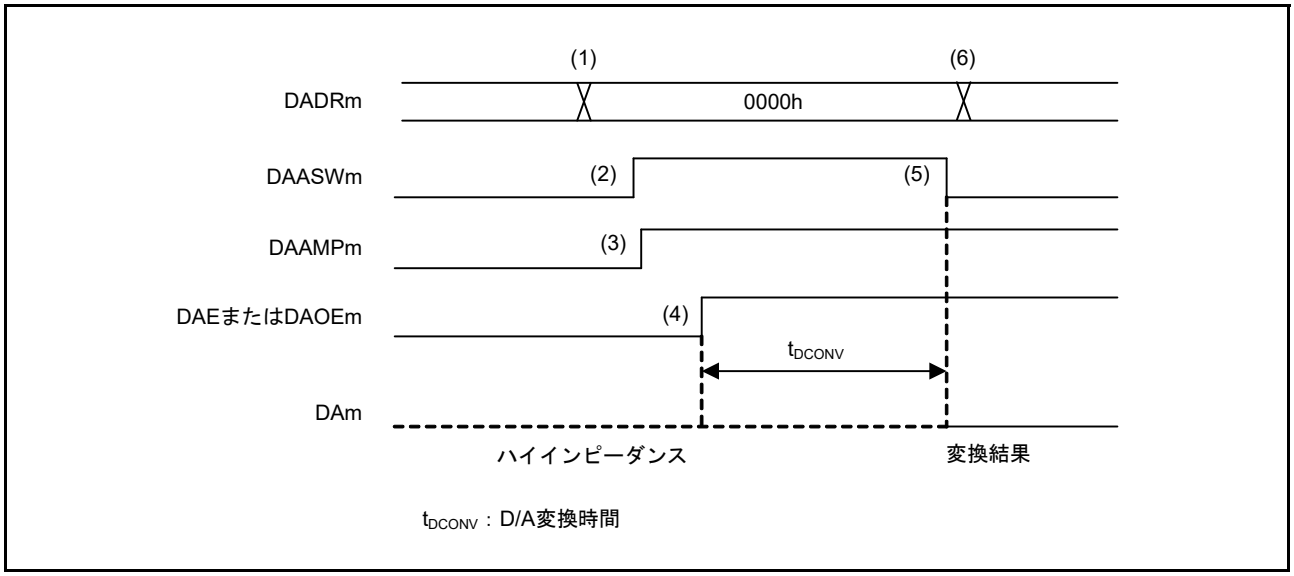


図 43.5　出力アンプを使用した DAC12 の初期化フロー例

43.6.6　D/A 変換と A/D 変換の干渉低減有効時の制限事項

DAADSCR.DAADST ビットが 1（D/A 変換と A/D 変換の干渉防止が有効）の場合、ADC12 をモジュールストップ状態にしないでください。モジュールストップ状態にすると、A/D 変換が停止するだけでなく、D/A 変換も停止する可能性があります。

44. 温度センサ（TSN）

44.1 概要

デバイス動作の信頼性確保のため、内蔵されている温度センサでチップの温度を決定し、監視することが可能です。センサはチップの温度と正比例する電圧を出力します。チップ温度と出力電圧はほとんどリニアの関係にあります。出力された電圧は ADC12 で変換されてから、末端の応用機器で使用できます。

表 44.1 に温度センサの仕様を、図 44.1 にブロック図を示します。

表 44.1 温度センサの仕様

項目	内容
温度センサ電圧出力	12ビットA/Dコンバータ（ADC12）に電圧を出力
モジュールストップ機能	モジュールストップ状態に設定して消費電力を削減
温度センサ補正データ	工場出荷時にMCUごとに測定した基準となるデータを格納

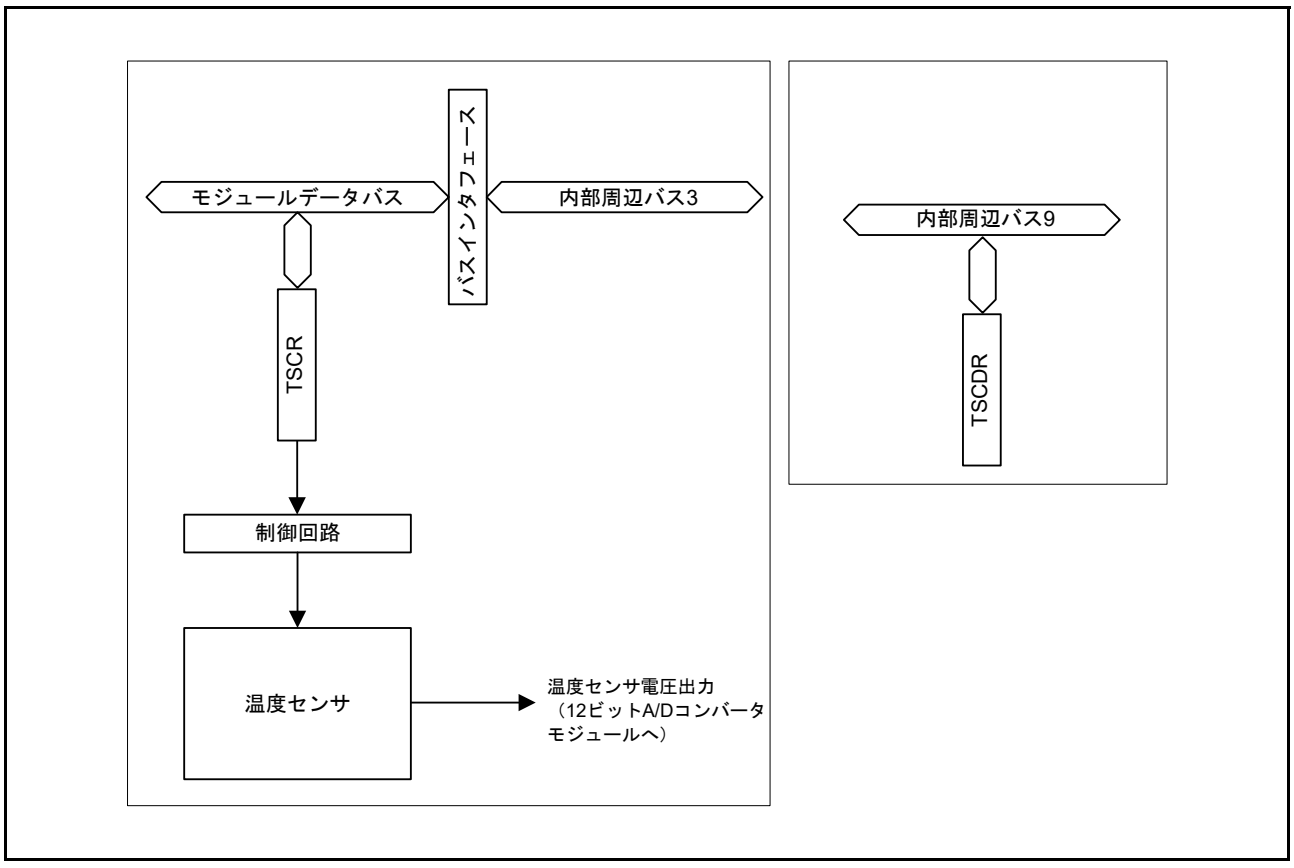


図 44.1 温度センサのブロック図

44.2　レジスタの説明

44.2.1　温度センサコントロールレジスタ（TSCR）

アドレス　TSN.TSCR 4005 D000h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TSEN	—	—	TSOE	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	TSOE	温度センサ出力許可	0：温度センサからADC12への出力を禁止 1：温度センサからADC12への出力を許可	R/W
b6-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	TSEN	温度センサ許可	0：温度センサが停止 1：温度センサが動作	R/W

図 44.3 に示すタイミング制約は、TSCR レジスタ設定に適用されます。

44.2.2　温度センサ補正データレジスタ（TSCDR）

アドレス　TSD.TSCDR 407F B17Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—												
リセット後の値	0	0	0	0	MCU固有の値											

TSCDR レジスタには、工場出荷時に MCU ごとに測定した温度センサ補正データが格納されています。

温度センサ補正データは、$T_a = T_j = 127$ ℃および AVCC0 = 3.3 V の条件下で温度センサが出力した電圧を変換するために、12 ビット A/D 変換ユニット 0 を用いて取得したデジタル値です。

TSCDR レジスタは、32 ビットの読み出し専用レジスタです。読み出しは 32 ビット単位で行う必要があります。

44.3 温度センサの使用方法

温度センサが出力する電圧は、温度により変化します。この電圧は ADC12 でデジタル値に変換されます。チップの温度は、この値を温度に変換することで求められます。

44.3.1 使用前の準備

温度（T）はセンサの電圧出力（Vs）と比例関係にあるため、以下の式で温度を求められます。

T = (Vs - V1)/Slope + T1

T：測定温度（℃）

Vs：温度測定時の温度センサの出力電圧（V）

T1：1 点目の試行測定時の温度（℃）

V1：T1 測定時の温度センサの出力電圧（V）

T2：2 点目の試行測定時の温度（℃）

V2：T2 測定時の温度センサの出力電圧（V）

Slope：温度センサの温度傾斜（V/ ℃）Slope = (V2 - V1)/(T2 - T1)

式のパラメータ（V1、T1、Slope）測定値を決定します。これらの値はセンサによりばらつきがあるため、異なる温度 2 点において以下のような試行測定を実施し、パラメータの値を決定することを推奨します。

1. ADC12 を使用して、温度 T1 のときの温度センサの出力電圧 V1 を測定します。
2. ADC12 を使用して、温度 T1 と異なる温度 T2 のときの温度センサの出力電圧 V2 を測定します。両者の測定結果から、温度傾斜（Slope = (V2 - V1)/(T2 - T1)）を求めます。
3. この Slope の値を温度特性の式（T = (Vs - V1)/Slope + T1）に代入し、温度を求めます。

「52. 電気的特性」の表 52.38 に記載されている温度傾斜を用いる場合は、温度 T1 のときに温度センサから出力される電圧 V1 を、ADC12 コンバータユニット 0 で測定し、以下の式により温度特性を算出します。

T = (Vs - V1)/Slope + T1

T：測定温度（℃）

Vs：温度測定時の温度センサの出力電圧（V）

T1：1 点目のサンプル測定結果（℃）

V1：T1 測定時の温度センサの出力電圧（V）

Slope：表 52.38 に記載の温度傾斜 ÷ 1000（V / ℃）

本 MCU の TSCDR レジスタには、Ta = Tj = 127 ℃および AVCC0 = 3.3 V の条件下で測定された温度センサの温度値（CAL127）が格納されています。この温度値を 1 点目のサンプル測定結果として使用することにより、温度センサ使用前の本準備を省略することができます。

V1 は、以下のように CAL127 から算出されます。

V1 = 3.3 × CAL127 / 4096［V］

この値を用いて、以下の式により測定温度が算出できます。

T = (Vs - V1)/Slope + 127［℃］

T：測定温度（℃）

Vs：温度測定時の温度センサの出力電圧（V）

V1：Ta = Tj = 127 ℃および AVCC0 = 3.3V のときの温度センサの出力電圧（V）

Slope：表 52.36 に記載の温度傾斜 ÷ 1000（V / ℃）

44.3.2　温度センサの使用手順

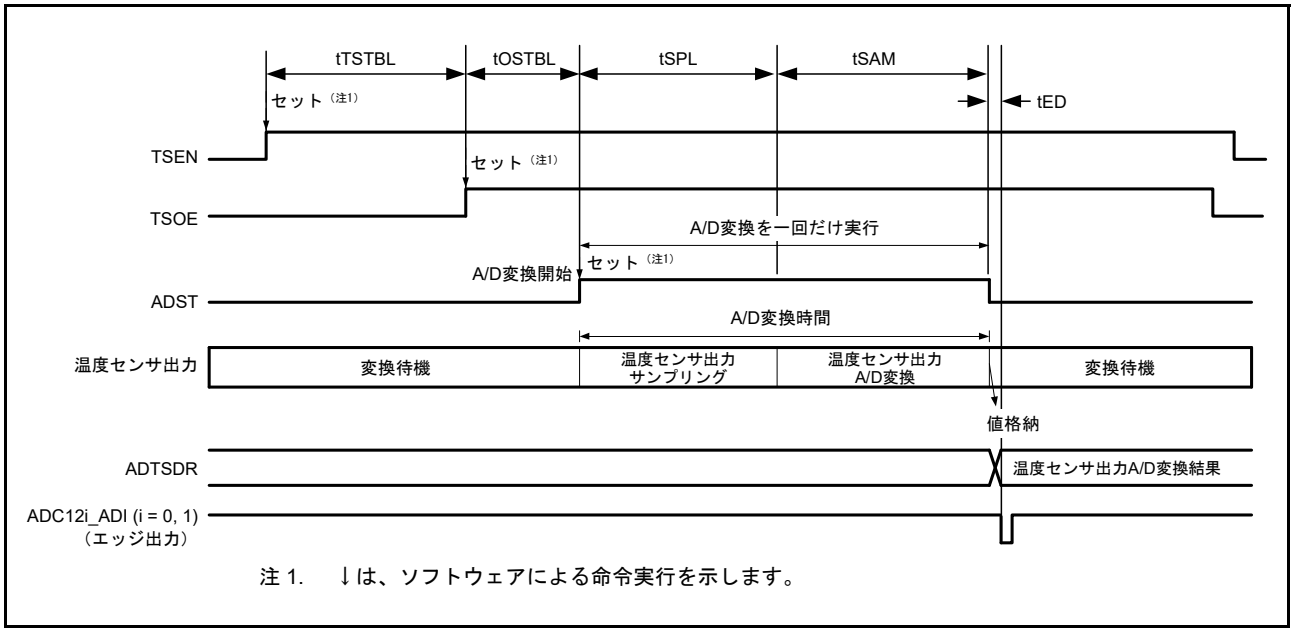
図 44.2 に温度センサの使用手順フローを示します。ADC12 の設定手順については、「42.　12 ビット A/D コンバータ（ADC12）」を参照してください。



注 1.　平均モードでは、ADADC.ADC[2:0] 設定値は制限されています。平均モードで使用可能な ADADC.ADC[2:0] 設定について、詳しくは、42.2.10　A/D 変換値加算／平均回数選択レジスタ（ADADC）を参照してください。
注 2.　加算／平均モードを設定しない場合は、設定不要です。
注 3.　52.7　TSN 特性に示された値より大きいサンプリング時間を設定してください。

図 44.2　　温度センサの使用手順

ADC12 がシングルスキャンモードで、温度センサ出力のみを A/D 変換対象としたときの、温度センサの動作開始から A/D 変換完了までのタイミングを図 44.3 に示します。表 44.2 に図中に示す時間を説明します。



注 1.　↓は、ソフトウェアによる命令実行を示します。

図 44.3　　温度センサの動作開始から A/D 変換完了までのタイミング

表 44.2　　温度センサの動作開始から A/D 変換完了までの時間

項目	シンボル	時間
温度センサ基準電圧安定待ち時間	tTSTBL	30μs (min)
温度センサ出力安定待ち時間	tOSTBL	0μs (min)
ADC12 入力サンプリング時間	tSPL	ADSSTRT の設定値 × ADCLK サイクル
A/D 変換処理時間	tSAM	表 42.10　スキャン変換時間（ADCLK と PCLKB のサイクル数）を参照。
スキャン変換終了遅延	tED	

44.4 使用上の注意事項

44.4.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ D（MSTPCRD）の関連ビットにより、温度センサ動作の禁止／許可を設定できます。温度センサは、リセット後の初期状態では動作が停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は、「11. 低消費電力モード」を参照してください。

44.4.2 制限事項

温度センサの測定に、ADC12 の両方のチャネルを同時に使用することは禁止されています。

45.　高速アナログコンパレータ（ACMPHS）

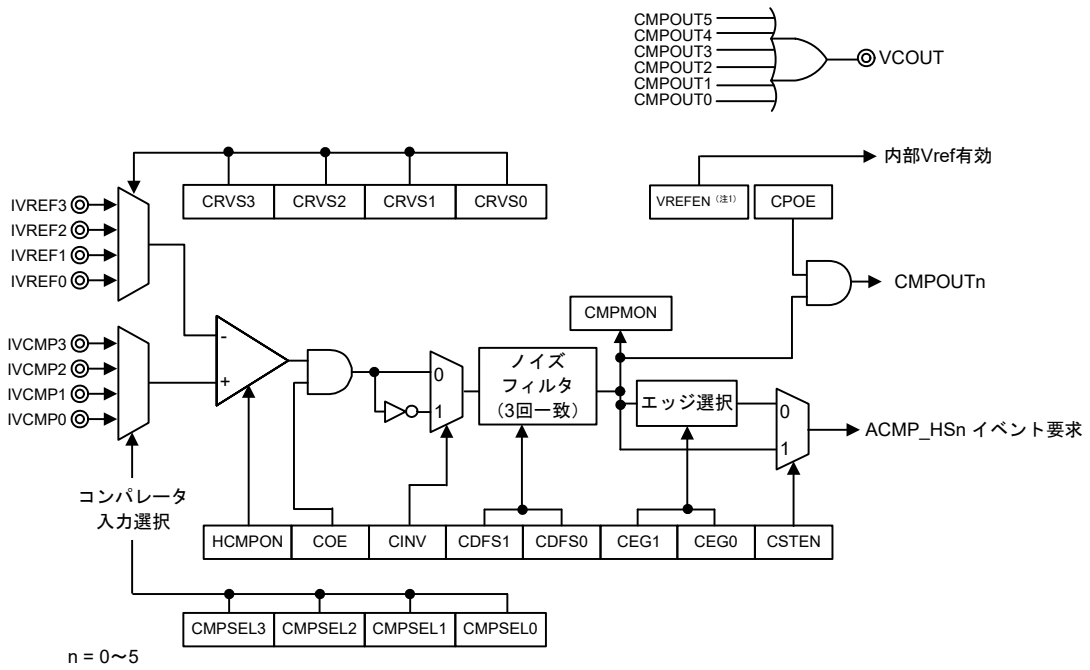
45.1　概要

高速アナログコンパレータ（ACMPHS）は、テスト電圧と基準電圧を比較し、変換結果に基づいてデジタル出力を行います。テスト電圧および基準電圧は、どちらも内部電源（D/A コンバータ出力および内部基準電圧）および外部電源（内部 PGA ありまたはなし）から ACMPHS に供給することが可能です。こうした柔軟性は、必ずしも A/D 変換を必要とはせずにアナログ信号に対して実行／中止の比較を行わなければならないようなアプリケーションに有効です。

表 45.1 に ACMPHS の仕様を、図 45.1 にブロック図を、表 45.2 に入力電源構成を示します。

表 45.1　　ACMPHS0～5の仕様

項目	内容
チャネル数	6チャネル：ACMPHS0～ACMPHS5
アナログ入力電圧	• 内部PGAから出力 • 内部D/Aコンバータから出力 • 内部A/Dコンバータ入力端子（1つを選択可能）から入力
基準電圧	• 内部基準電圧（Vref） • 内部D/Aコンバータから出力 • 内部A/Dコンバータ入力端子（1つを選択可能）から入力
ACMPHS出力	• 比較結果 • ELCイベント出力の発生 • レジスタからの出力監視
割り込み要求信号	• 比較結果からの有効エッジ検出時に生成された割り込み要求 • 立ち上がりエッジ、立ち下がりエッジ、両エッジを選択可能
デジタルフィルタ機能	• 3つのサンプリング周波数から1つを選択可能 • フィルタ機能不使用の選択可能



注1.　VREFENはACMPHS0だけにあります。

図 45.1　　ACMPHS のブロック図

表 45.2　　ACMPHSの入力電源構成

コンパレータ	基準電圧入力電源				アナログ電圧入力電源				出力端子
	IVREF3	IVREF2	IVREF1	IVREF0	IVCMP3	IVCMP2	IVCMP1	IVCMP0	
ACMPHS0	DA0（注1）	Vref（注2）	AN116	AN016	PGA0出力（注6）	AN000（注3）（注6）	DA1（注4）	AN017	VCOUT（注5）
ACMPHS1	DA0（注1）	Vref（注2）	AN116	AN016	PGA1出力（注6）	AN001（注3）（注6）	DA1（注4）	AN017	
ACMPHS2	DA0（注1）	Vref（注2）	AN116	AN016	PGA2出力（注6）	AN002（注3）（注6）	DA1（注4）	AN017	
ACMPHS3	DA0（注1）	Vref（注2）	AN116	AN016	PGA3出力（注6）	AN100（注3）（注6）	DA1（注4）	AN017	
ACMPHS4	DA0（注1）	Vref（注2）	AN116	AN016	PGA4出力（注6）	AN101（注3）（注6）	DA1（注4）	AN017	
ACMPHS5	DA0（注1）	Vref（注2）	AN116	AN016	PGA5出力（注6）	AN102（注3）（注6）	DA1（注4）	AN017	

注 1.　D/A コンバータ 0 出力を使用しない場合、AN005/AN105 アナログ入力として信号を使用できます。
注 2.　内部電圧基準。
注 3.　入力は PGA を経由するため、対応するモジュールストップビット、MSTPCRD.MSTPD16（ユニット 0）、または MSTPCRD.MSTPD15（ユニット 1）を 0 にする必要があります。
注 4.　D/A コンバータ 1 出力を使用しない場合、AN006/AN106 アナログ入力として信号を使用できます。
注 5.　ACMPHS0 ～ ACMPHS5 のコンペア出力は VCOUT 端子に束ねられています。
注 6.　ADC12 の設定が必要です。詳細は、「42.6.8　AN000 ～ AN002、AN007、AN100 ～ AN102、および AN107 の使用可能な機能とレジスタ設定」を参照してください。

45.2　レジスタの説明

45.2.1　コンパレータコントロールレジスタ（CMPCTL）

アドレス　ACMPHS0.CMPCTL 4008 5000h, ACMPHS1.CMPCTL 4008 5100h, ACMPHS2.CMPCTL 4008 5200h, ACMPHS3.CMPCTL 4008 5300h, ACMPHS4.CMPCTL 4008 5400h, ACMPHS5.CMPCTL 4008 5500h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	HCMPON	CDFS[1:0]		CEG1	CEG0	CSTEN	COE	CINV
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CINV	コンパレータ出力極性選択 （注2）（注3）	0：コンパレータ出力を反転しない 1：コンパレータ出力を反転する	R/W
b1	COE	コンパレータ出力許可	0：コンパレータ出力禁止（出力信号はLow） 1：コンパレータ出力許可	R/W
b2	CSTEN	割り込み選択（注1）	0：エッジセレクタによる出力 1：直接出力	R/W
b4-b3	CEG1/ CEG0	有効エッジ選択（エッジセレクタ）	b4　b3 0　0：エッジ検出なし 0　1：立ち上がりエッジ検出 1　0：立ち下がりエッジ検出 1　1：両エッジを検出	R/W
b6-b5	CDFS[1:0]	ノイズフィルタ選択（注1）（注2） （注3）（注4）	b6　b5 0　0：ノイズフィルタを使用しない 0　1：PCLKB/2^3のノイズフィルタサンプリング周波数を使用 1　0：PCLKB/2^4のノイズフィルタサンプリング周波数を使用 1　1：PCLKB/2^5のノイズフィルタサンプリング周波数を使用	R/W
b7	HCMPON	コンパレータ動作制御（注5）	0：動作停止（コンパレータがLowの信号を出力） 1：動作許可（コンパレータ端子への入力許可）	R/W

注 1.　ACMPHS 割り込みによってソフトウェアスタンバイモードまたはスヌーズモードが解除される場合、CSTEN ビットを 1、CDFS[1:0] ビットを 00b にしてください。CTSEN は ACMPHS0 のみ対応しています。ACMPHSn.CMPCTL.CTESN（n = 1 ～ 5）は、0 にしてください。

注 2.　CDFS[1:0] ビット、CINV ビットを変更する前に、ACMPHS 出力を禁止（COE = 0）にしてください。

注 3.　CDFS[1:0] ビットおよび CINV ビットが変更されると、ACMPHS 割り込み要求および ELC イベントが発生する場合があります。これらのビットを変更する前に、ELSRn レジスタを 0（ACMPHS 出力がリンクしていない）にしてください。ビット変更後、IELSRn レジスタの IR フラグを 0 にして割り込みステータスをクリアしてください。

注 4.　CDFS[1:0] ビットを 00b（ノイズフィルタ不使用）から 00b 以外の値（ノイズフィルタ使用）に変更する場合、サンプリングを 4 回行い、フィルタ出力を更新した後、ACMPHS 割り込み要求または ELC イベントを使用してください。

注 5.　ACMPHS 動作を有効（HCMPON = 1）にした後は、ACMPHS 動作を許可するために安定待機時間が必要です。ACMPHS モジュール 0 ～ 5 の動作安定待機時間は 300ns です。

CMPCTL レジスタは、ACMPHS 動作の制御、ACMPHS 出力の許可／禁止、ノイズフィルタ選択、割り込み信号の有効エッジ選択、および割り込み選択を行います。リセットはこのレジスタを 00h にクリアします。

45.2.2 コンパレータ入力選択レジスタ（CMPSEL0）

アドレス ACMPHS0.CMPSEL0 4008 5004h, ACMPHS1.CMPSEL0 4008 5104h, ACMPHS2.CMPSEL0 4008 5204h, ACMPHS3.CMPSEL0 4008 5304h, ACMPHS4.CMPSEL0 4008 5404h, ACMPHS5.CMPSEL0 4008 5504h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	CMPSEL[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	CMPSEL[3:0]	コンパレータ入力選択（注1）	b3 b0 0 0 0 0：入力しない 0 0 0 1：IVCMP0を選択（注2） 0 0 1 0：IVCMP1を選択（注2） 0 1 0 0：IVCMP2を選択（注2） 上記以外は設定しないでください。	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. CMPSEL[3:0] ビットは下記の手順で変更してください。CMPSEL0 レジスタの値が 0000 0000b 以外の場合、0000 0000b 以外の値の書き込みは無効です。2 つ以上のビットへの 1 の書き込みも無効です。どちらの場合も、変更前の値が保持されます。

CMPSEL[3:0] ビットを変更するには、以下を実行します。

1. CMPCTL.COE ビットを 0 にする。
2. CMPSEL0 レジスタを 0000 0000b にする。
3. CMPSEL[3:0] ビットに新しい値を設定する。このとき、いずれか 1 つのビットのみを 1 にする。
4. 入力切り替え安定待機時間（200ns）の経過を待つ。
5. CMPCTL.COE ビットを 1 にする。
6. IELSRn レジスタの IR フラグをクリアし、割り込みステータスをクリアする。

注 2. 詳細は、表 45.2 を参照してください。

45.2.3 コンパレータ基準電圧選択レジスタ（CMPSEL1）

アドレス ACMPHS0.CMPSEL1 4008 5008h, ACMPHS1.CMPSEL1 4008 5108h, ACMPHS2.CMPSEL1 4008 5208h, ACMPHS3.CMPSEL1 4008 5308h, ACMPHS4.CMPSEL1 4008 5408h, ACMPHS5.CMPSEL1 4008 5508h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	CRVS[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	CRVS[3:0]	基準電圧選択（注1）	b3 b0 0 0 0 0：入力しない 0 0 0 1：IVREF0を選択（注2） 0 0 1 0：IVREF1を選択（注2） 0 1 0 0：IVREF2を選択（注2） 1 0 0 0：IVREF3を選択（注2） 上記以外は設定しないでください。	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1. CRVS[3:0] ビットは下記の手順で変更してください。CMPSEL1 レジスタの値が 0000 0000b 以外の場合、0000 0000b 以外の値の書き込みは無効です。2 つ以上のビットへの 1 の書き込みも無効です。どちらの場合も、変更前の値が保持されます。
CRVS[3:0] ビットを変更するには、以下を実行します。
1. CMPCTL.COE ビットを 0 にする。
2. CMPSEL1 レジスタを 0000 0000b にする。
3. CRVS[3:0] ビットに新しい値を設定する。このとき、いずれか 1 つのビットのみを 1 にする。
4. 入力切り替え安定待機時間（200ns）の経過を待つ。
5. CMPCTL.COE ビットを 1 にする。
6. IELSRn レジスタの IR フラグをクリアし、割り込みステータスをクリアする。

注 2. 詳細は、表 45.2 を参照してください。

45.2.4 コンパレータ出力モニタレジスタ（CMPMON）

アドレス ACMPHS0.CMPMON 4008 500Ch, ACMPHS1.CMPMON 4008 510Ch, ACMPHS2.CMPMON 4008 520Ch, ACMPHS3.CMPMON 4008 530Ch, ACMPHS4.CMPMON 4008 540Ch, ACMPHS5.CMPMON 4008 550Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	CMPMON
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPMON	コンパレータ出力監視（注1）	0：コンパレータ出力はLow 1：コンパレータ出力はHigh	R
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

注 1. ACMPHS の動作が有効（HCMPON = COE = 1）であるが、ノイズフィルタを使用していない（CDFS[1:0] = 00b）場合、CMPMON ビットを 2 度読み出し、2 つの連続した値が一致した後でのみ値を使用するようソフトウェアアプリケーションを設計してください。

45.2.5 コンパレータ出力コントロールレジスタ（CPIOC）

アドレス ACMPHS0.CPIOC 4008 5010h, ACMPHS1.CPIOC 4008 5110h, ACMPHS2.CPIOC 4008 5210h, ACMPHS3.CPIOC 4008 5310h, ACMPHS4.CPIOC 4008 5410h, ACMPHS5.CPIOC 4008 5510h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	VREFEN	—	—	—	—	—	—	CPOE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CPOE	コンパレータ出力選択	0：コンパレータのVCOUT端子出力を禁止（出力信号はLow） 1：コンパレータのVCOUT端子出力を許可	R/W
b6-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	VREFEN	内部Vref許可（注1）	0：内部Vrefを禁止 1：内部Vrefを許可	R/W

注 1. ACMPHS モジュール 0 ～ 5 の場合、VREFEN は ACMPHS0.CPIOC だけにあります。COMP0 ～ COMP5 で内部 Vref を使用する場合、ACMPHS0.CPIOC の VREFEN ビットを 1 にしてください。ACMPHS1.CPIOC ～ ACMPHS5.CPIOC レジスタのビット 7 は、内部 Vref を使用するかどうかにかかわらず、0 にしてください。

45.3　動作説明

ACMPHS は、基準電圧とアナログ入力電圧を比較します。ACMPHS の動作中にレジスタの値を変更した場合、動作は保証されません。表 45.3 に、ACMPHS に関連するレジスタの設定手順を示します。

表 45.3　ACMPHSn（n = 0～5）に関連するレジスタの設定手順

手順	レジスタ	ビット	設定
1	関連MSTPCRD レジスタ	MSTPD28～MSTPD23	0：入力クロック供給
2	関連する端子機能コントロールレジスタ（PFS）	ASEL	1：IVREF およびIVCMP 端子の機能を選択
3	ACMPHS0.CPIOC	VREFEN	1：内部Vref を使用する場合
4	関連するD/A コンバータ		D/A コンバータを使用する場合、レジスタで選択
5	CMPSEL0、CMPSEL1	CMPSEL0～CMPSEL3、CRVS0～CRVS3	ACMPHSn 入力を選択します。このとき、いずれか1つのビットのみを1にします。
6	CMPCTL	CDFS[1:0]、CEG1、CEG0、CINV	ACMPHSn 制御を設定
		HCMPON	1：ACMPHSn 動作を許可
7	ACMPHS 安定時間（最小300ns）待機		
8	CMPCTL	COE	1：ACMPHSn 出力を許可
9	CPIOC	CPOE	VCOUT 出力を設定
	関連するポートmn 端子機能選択レジスタ（PmnPFS）	PSEL、PMR	VCOUT ポート機能を選択
10	IELSRn	IR、IELS[8:0]	割り込みを使用する場合は割り込みステータスフラグおよびICU イベントリンクを選択（注1）
11	ELSRn	ELS[8:0]	ELC を使用する場合はイベントリンクを選択（注2）
12	動作開始		
13	CMPCTL	COE	0：IVREF またはIVCMP を変更する場合はACMPHSn 出力を禁止
14	CMPSEL1	CRVS0～CRVS3	以下の手順でCMPSEL1 ビットを変更してください。 1. CMPSEL1 ビットを0000 0000b にします。 2. 新しい値をCMPSEL1 ビットに設定します。 　このとき、いずれか1つのビットのみを1にします。
	CMPSEL0	CMPSEL0～CMPSEL3	以下の手順でCMPSEL0 ビットを変更してください。 1. CMPSEL0 ビットを0000 0000b にします。 2. 新しい値をCMPSEL0 ビットに設定します。 　このとき、いずれか1つのビットのみを1にします。
15	ACMPHS 切り替え安定時間（最小200ns）待機		
16	CMPCTL	COE	1：ACMPHSn 出力を許可
17	動作再開		

注 1.　ACMPHSn を設定した後、動作が安定するまで不要な割り込みが発生する場合があるため、割り込みフラグを初期化してください。
注 2.　ACMPHSn を設定した後、動作が安定するまで不要な割り込みが発生する場合があるため、イベントリンク選択を初期化してください。

ACMPHS の動作例を図 45.2 に示します。アナログ入力電圧が ACMPHS 基準入力電圧より高くなるとVCOUT 出力は 1 になり、低くなると 0 になります。ACMPHS 出力が変わると、割り込み要求および ELC イベントが出力されます。

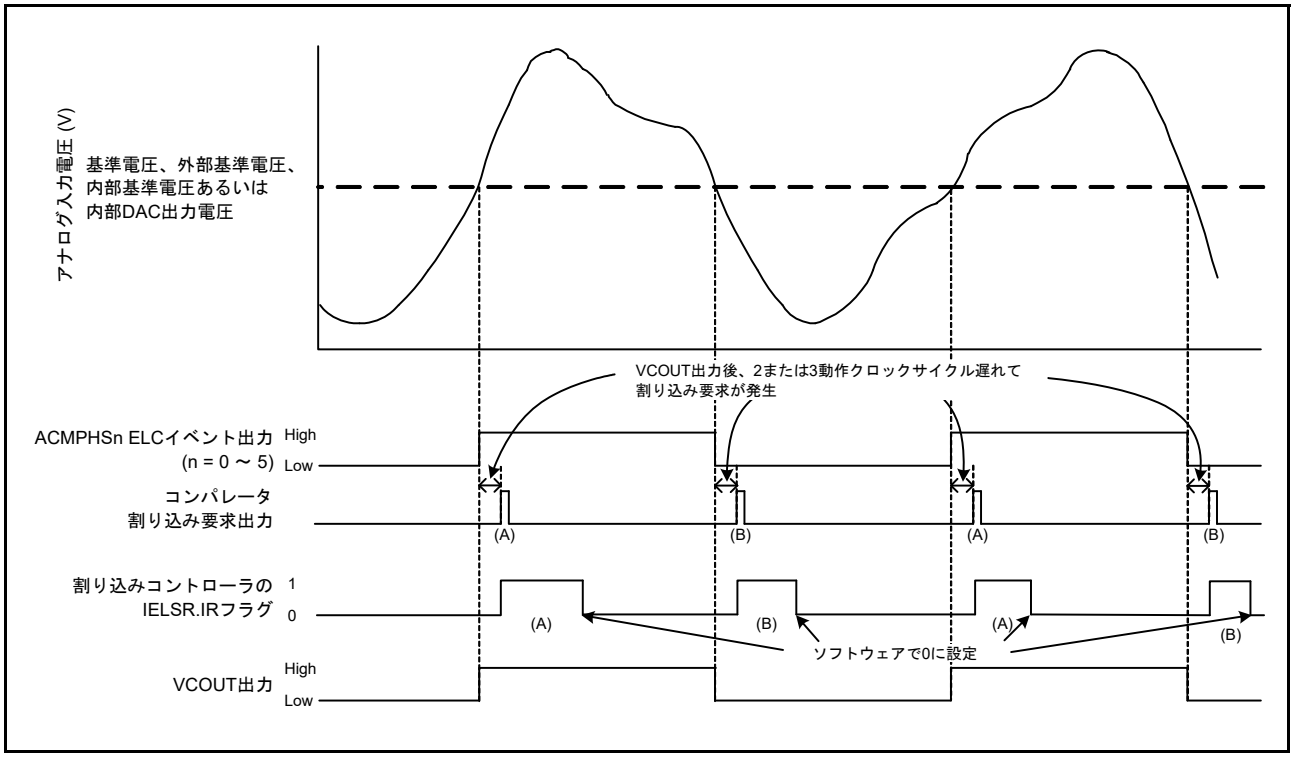


図 45.2　　ACMPHS の動作例

図 45.2 は CPOE = 1（端子出力許可）、CDFS[1:0] = 00b（フィルタ不使用）、および CEG1 = CEG0 = 1（両エッジ検出を選択）の場合に適用されます。CINV = 0、CEG0 = 1、CEG1 = 0（ACMPHS からの非反転出力信号の立ち上がりエッジ検出を選択）の場合、IELSR.IR フラグは（A）で示されるように変化します。CINV = 0、CEG0 = 0、CEG1 = 1（ACMPHS からの非反転出力信号の立ち下がりエッジ検出を選択）の場合、IELSR.IR フラグは（B）で示されるように変化します。CPOE = 1 の場合、VCOUT は ELC イベント出力を直接出力します。

45.4　ノイズフィルタ

ACMPHS はノイズフィルタを搭載しています。CMPCTL.CDFS[1:0] ビットによってサンプリングクロックの選択が可能です。ACMPHS 信号は、サンプリングクロックごとにサンプリングされ、同じ値が 3 回サンプリングされた場合、次のサンプリングクロック周期のノイズフィルタ出力が ACMPHS 出力として使用されます。

ノイズフィルタとエッジ検出器の構成を図 45.3 に、ノイズフィルタと割り込み動作の例を図 45.4 に示します。

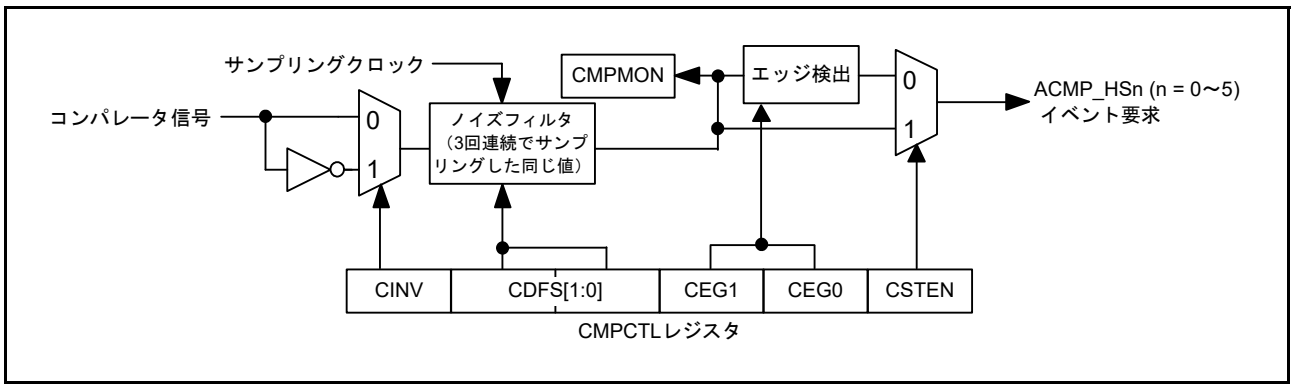


図 45.3　　ノイズフィルタおよびエッジ検出の構成

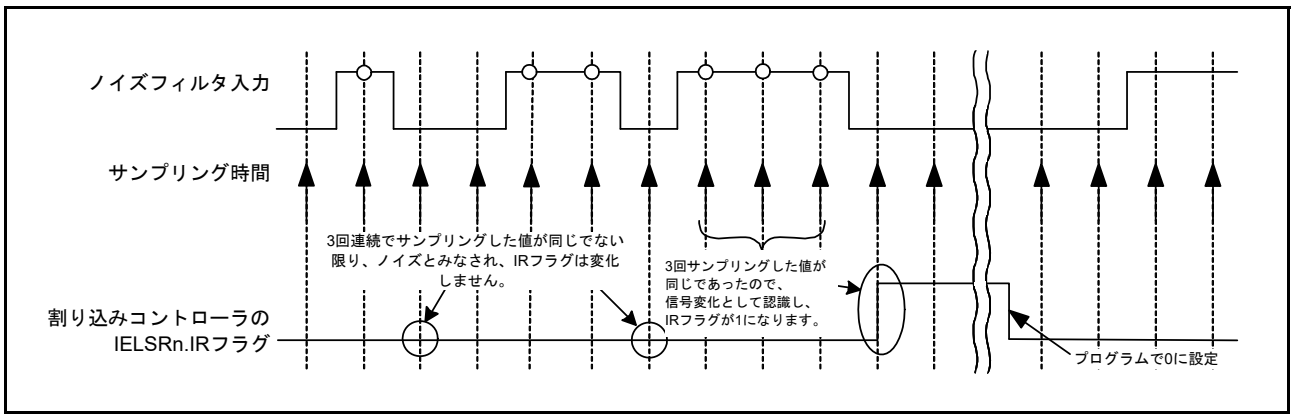


図 45.4　　ノイズフィルタおよび割り込み動作例

図 45.4 の動作例は CMPCTL.CDFS[1:0] ビットが 01b、10b、または 11b（ノイズフィルタ使用）の場合に適用されます。

45.5　ACMPHS 割り込み

ACMPHS は、ACMPHS0 ～ ACMPHS5 のソースから 6 つの割り込み要求を生成します。ACMPHS 割り込みを使用するには、使用する割り込みを割り込みコントローラユニット（ICU）の IELSR レジスタで選択します。割り込み要求にエッジセレクタを使用するかしないかは、CMPCTL.CSTEN ビットで選択します。

エッジセレクタで ACMPHS 割り込みを使用する場合は、CMPCTL.CEG0 ビットおよび CMPCTL.CEG1 ビットのうち少なくとも 1 つを 1（00b（エッジ選択なし）以外の値）にしてください。ほとんどの場合、CMPCTL.CSTEN ビットを 0（エッジセレクタによる出力）にします。本ビットは、ソフトウェアスタンバイまたはスヌーズモードの解除時のみ 1 にできます。

ソフトウェアスタンバイモードまたはスヌーズモード時に ACMPHS 割り込みを使用するには、CMPCTL.CSTEN ビットを 1（直接出力）に、CMPCTL.CDFS[1:0] ビットを 00b（デジタルノイズフィルタ不使用）に、CMPCTL.CINV を以下のとおり設定してください。

- 比較結果 0 から 1 を検出する場合、CMPCTL.CINV を 0（コンパレータ出力を反転しない）にします
- 比較結果 1 から 0 を検出する場合、CMPCTL.CINV を 1（コンパレータ出力を反転する）にします

ACMPHS0 割り込み要求を使用して、ソフトウェアスタンバイモードまたはスヌーズモードを解除できます。ACMPHS1 ～ ACMPHS5 は使用できません。ACMPHS 割り込み要求に関連するレジスタ設定については、45.2.1　コンパレータコントロールレジスタ（CMPCTL）を参照してください。

45.6　イベントリンクコントローラ（ELC）への ACMPHS 出力

ELC は、ACMPHS 割り込み要求信号を ELC イベント信号として使用し、事前設定モジュールに対してリンク動作が可能です。ACMPHS ELC イベントを使用するには、使用するイベントを ELC の ELSRn レジスタで選択します。ELC イベント要求を使用する場合、CMPCTL.CSTEN ビットを 0（エッジセレクタを介して出力）にします。また、CMPCTL.CEG0 ビットおよび CMPCTL.CEG1 ビットのうち少なくとも 1 つを 1（00b（エッジ選択なし）以外の値）にしてください。

45.7　ACMPHS 端子出力

ACMPHS からの比較結果は外部端子に出力できます。CMPCTL.CINV および CPIOC.CPOE ビットを使用して、出力極性（非反転出力または反転出力）および出力許可／禁止を設定することが可能です。ACMPHS 比較結果を VCOUT 出力端子に出力するには、I/O レジスタの関連ポート mn 端子機能コントロールレジスタ（PmnPFS）を設定してください。

45.8　使用上の注意事項

45.8.1　モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタを使用して、ACMPHS 動作を禁止／許可できます。ACMPHS は、リセット後の初期状態では動作が停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は、「11.　低消費電力モード」を参照してください。

45.8.2　ADC12 との関係

ACMPHS アナログ入力と ADC12 アナログ入力を同時に使用する場合は制限がかかります。詳細は、42.6.13　ADC12（ユニット 0 およびユニット 1）と ACMPHS の関係を参照してください。

46.　静電容量式タッチセンシングユニット（CTSU）

46.1　概要

静電容量式タッチセンシングユニット（CTSU）は、タッチセンサの静電容量を測定します。ソフトウェアで静電容量の変化を判定することによって、指などがタッチセンサに接触したことを検出できます。通常、タッチセンサの電極表面は電気絶縁体で覆われており、指が電極に直接接触することはありません。

図 46.1 に示すように、電極と周囲の電気絶縁体との間には静電容量（寄生容量）が存在します。人体も導電体ですので、電極に指が近づくと静電容量の値が増加します。

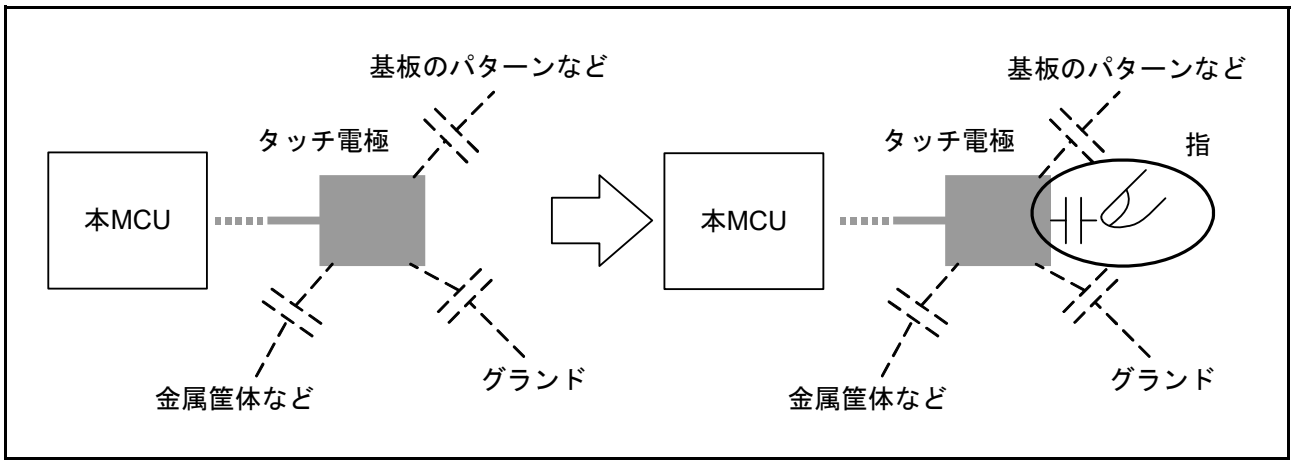


図 46.1　　指による静電容量の増加

静電容量の検出方式には、自己容量方式と相互容量方式があります。自己容量方式では、指と 1 つの電極との間に生じる静電容量を検出します。一方、相互容量方式は、2 つの電極の片方を送信電極、もう片方を受信電極として使用し、指が接近することによって両者の間に生じる静電容量の変化を検出する方式です。

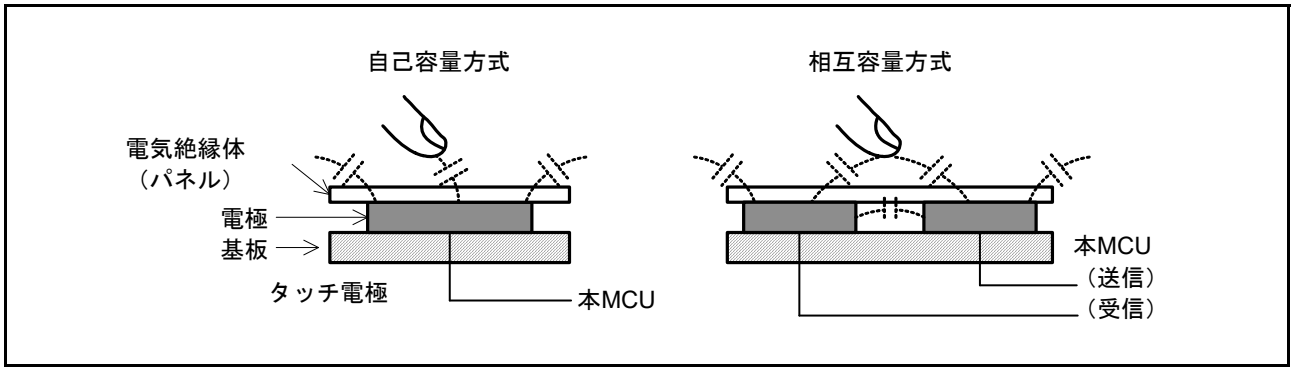


図 46.2　　自己容量方式と相互容量方式

静電容量の測定は、充放電電流の量に応じて周波数が変化するクロック信号を一定の時間カウントすることにより行います。CTSU の計測原理の詳細については、46.3.1　計測動作原理を参照してください。表 46.1 に CTSU の仕様を、図 46.3 にブロック図を示します。

表 46.1　　CTSUの仕様

項目		内容
動作クロック		PCLKB、PCLKB/2、またはPCLKB/4
端子	静電容量計測	12チャネル（TS01～TS12）
	TSCAP	LPF（Low Pass Filter）接続端子
計測モード	自己容量シングルスキャンモード	自己容量方式で1チャネルの静電容量を計測
	自己容量マルチスキャンモード	自己容量方式で複数チャネルの静電容量を連続して計測
	相互容量フルスキャンモード	相互容量方式で複数チャネルの静電容量を連続して計測
ノイズ対策		同期系ノイズ対策、高域ノイズ対策
計測開始条件		• ソフトウェアトリガ • 外部トリガ（イベントリンクコントローラ（ELC）からのELC_CTSU）

CTSU は、図 46.3 に示すように以下のコンポーネントで構成されます。

- ステータス制御部
- トリガ制御部
- クロック制御部
- チャネル制御部
- ポート制御部
- センサドライブパルス生成部
- 計測部
- 割り込み部
- I/O レジスタ

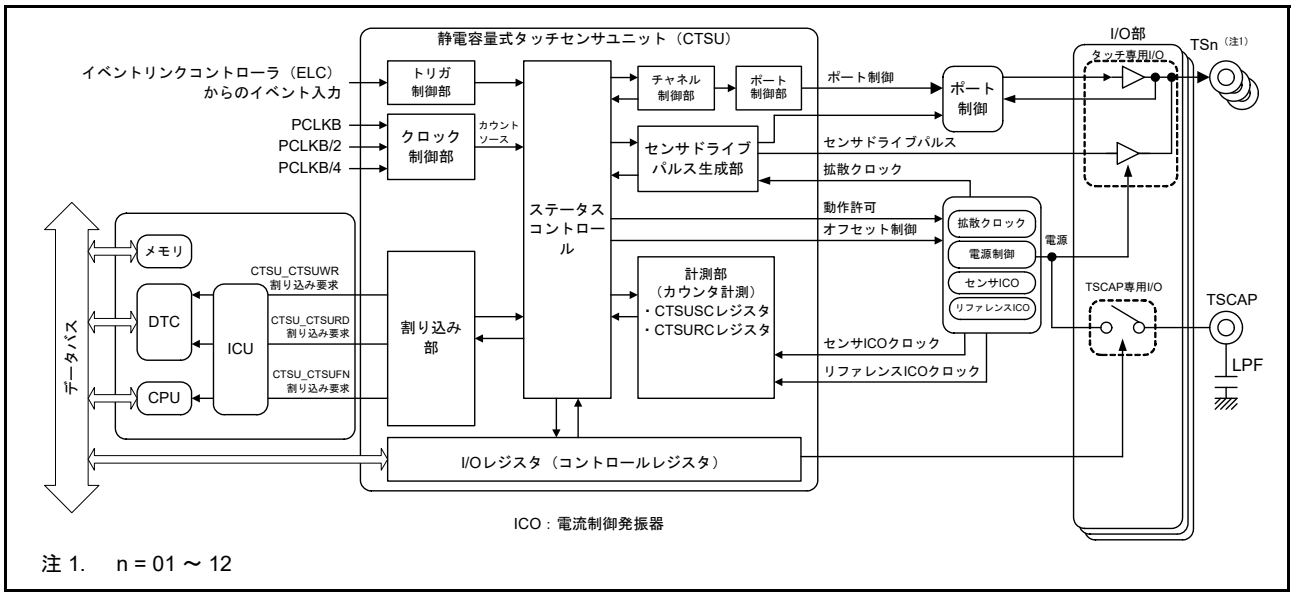


図 46.3　　CTSU のブロック図

表 46.2　　CTSUの入出力端子

端子名	入出力	機能
TS01～TS12	入力	静電容量計測端子（タッチ端子）
TSCAP	-	LPF接続端子

46.2　レジスタの説明

46.2.1　CTSU コントロールレジスタ 0（CTSUCR0）

アドレス　CTSU.CTSUCR0 4008 1000h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CTSUTXVSEL	—	—	CTSUINIT	—	CTSUSNZ	CTSUCAP	CTSUSTRT
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CTSUSTRT	CTSU計測動作開始	0：計測動作停止（注1） 1：計測動作開始	R/W
b1	CTSUCAP	CTSU計測動作開始トリガ選択	0：ソフトウェアトリガ 1：外部トリガ	R/W
b2	CTSUSNZ	CTSU待機時省電力有効	0：待機時省電力機能無効 1：待機時省電力機能有効	R/W
b3	—	予約ビット	読むと0が読み出されます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	CTSUINIT	CTSU制御部初期化	1を書くと、CTSU制御部と、CTSUSC、CTSURC、CTSUMCH0、CTSUMCH1、CTSUSTの各レジスタが初期化されます。読むと0が読めます。	W
b6-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7	CTSUTXVSEL	CTSU送信電源選択	0：VCC選択 1：内部論理電源選択	R/W

注 1.　CTSU を使用しない場合、本ビットは 0 にしてください。

CTSUCAP ビットと CTSUSNZ ビットの設定は、CTSUSTRT ビットが 0 のときのみ行ってください。計測動作開始時に同時に設定可能です。

CTSUSTRT ビット（CTSU 計測動作開始）

計測動作開始／停止を指定します。

CTSUCAP ビットが 0 のとき、ソフトウェアで CTSUSTRT ビットに 1 を書く（ソフトウェアトリガ）と計測が開始し、ハードウェアが CTSUSTRT ビットを 0 にクリアすると停止します。CTSUCAP ビットが 1 のとき、CTSUSTRT ビットに 1 を書き込むことにより外部トリガの待機状態となり、外部トリガの立ち上がりで計測を開始します。計測が終了したら、次の外部トリガの待機状態となり動作が継続されます。

CTSU の状態を、表 46.3 に示します。

表 46.3　CTSUの状態

CTSUSTRTビット	CTSUCAPビット	CTSUの状態
0	0	停止
0	1	停止
1	0	計測中
1	1	計測中および外部トリガ待ち（注1）

注 1.　CTSUST.CTSUSTC[2:0] フラグで以下のとおり状態を判断できます。
・計測中：CTSUST.CTSUSTC[2:0] フラグ≠ 000b
・外部トリガ待ち：CTSUST.CTSUSTC[2:0] フラグ = 000b

CTSUSTRT ビットがすでに 1 になっている場合、ソフトウェアで本ビットを 1 にしても、その書き込みは無視され動作が継続します。CTSUSTRT ビットが 1 のとき、ソフトウェアにより動作を強制的に終了する場合は、CTSUSTRT ビットを 0 にして、同時に CTSUINIT ビットを 1 にしてください。

CTSUCAP ビット（CTSU 計測動作開始トリガ選択）

計測開始条件を指定します。詳細は、CTSUSTRT ビット（CTSU 計測動作開始）を参照してください。

CTSUSNZ ビット（CTSU 待機時省電力有効）

待機時省電力動作の有効／無効を選択します。また、本ビットにより CTSU 電源はサスペンド状態になり、待機状態の低消費電力化が可能になります。サスペンド状態では、CTSU 電源は OFF になりますが外部 TSCAP は引き続き充電されます。

CTSU 電源状態制御を表 46.4 に示します。

表 46.4　　CTSU 電源状態制御

CTSUCR1.CTSUPON ビット	CTSUSNZ ビット	CTSUCAP ビット	CTSUSTRT ビット	CTSU 電源の状態
0	0	0	0	停止
1	0	—	—	動作
1	1	0	0	サスペンド状態

注 .　　上記以外は設定しないでください。

サスペンド状態から計測を開始する場合は、CTSUSNZ ビットを 0 にしてから CTSUSTRT ビットを 1 にしてください。計測終了後、モジュールをサスペンド状態にするには、CTSUSNZ ビットを 1 にしてください。

CTSUINIT ビット（CTSU 制御部初期化）

1 を書き込むと、内部コントロールレジスタを初期化します。動作中に強制終了させる場合は、CTSUSTRT ビットを 0 にして、同時に CTSUINIT ビットを 1 にしてください。この場合は動作が停止し、内部コントロールレジスタが初期化されます。

CTSUSTRT ビットが 1 のとき、CTSUINIT ビットに 1 を書き込まないでください。

CTSUTXVSEL ビット（CTSU 送信電源選択）

相互容量フルスキャンモードで、送信バッファの電源を切り替えるために使用します。相互容量フルスキャンモード以外のモードのときは、本ビットを 0 にしてください。本ビットにより、CTSUCHTRCn レジスタでの送信用に設定したタッチ専用 I/O 電源を切り替えます。表 46.5 に、TSm 端子の電源を示します。出力バッファの切り替えにより VCC 電圧が大きく揺らぐ場合に内部論理電源へ切り替えると、電圧の揺らぎによる影響を低減できる可能性があります。

表 46.5　　TSm 端子への供給電源

CTSUCHTRCn レジスタの設定	CTSUTXVSEL ビット	TSm 端子の電源
0（受信）	*	VCC
1（送信）	0（VCC）	
	1（内部論理電源）	内部論理電源

46.2.2 CTSU コントロールレジスタ 1（CTSUCR1）

アドレス CTSU.CTSUCR1 4008 1001h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CTSUMD[1:0]		CTSUCLK[1:0]		CTSUATUNE1	—	CTSUCSW	CTSUPON
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CTSUPON	CTSU電源供給許可	CTSU電源供給を制御します。 0：CTSU電源OFF 1：CTSU電源ON	R/W
b1	CTSUCSW	CTSU LPF容量充電制御	TSCAP端子に接続されるLPF容量の充電を制御します。 0：容量スイッチOFF 1：容量スイッチON	R/W
b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b3	CTSUATUNE1	CTSU電源能力調整	0：通常出力 1：高出力	R/W
b5-b4	CTSUCLK[1:0]	CTSU動作クロック選択	CTSUの動作クロックを選択します。 b5 b4 0 0：PCLKB 0 1：PCLKB/2（PCLKBを2分周したクロック） 1 0：PCLKB/4（PCLKBを4分周したクロック） 1 1：設定禁止	R/W
b7-b6	CTSUMD[1:0]	CTSU計測モード選択	CTSUの計測モードを選択します。 b7 b6 0 0：自己容量シングルスキャンモード 0 1：自己容量マルチスキャンモード 1 0：設定禁止 1 1：相互容量フルスキャンモード	R/W

CTSUCR1 レジスタの設定は、CTSUCR0.CTSUSTRT ビットが 0 のときのみ行ってください。

CTSUPON ビット（CTSU 電源供給許可）

CTSU の電源制御を行います。CTSUPON ビットと CTSUCSW ビットには同じ値を設定してください。

CTSUCSW ビット（CTSU LPF 容量充電制御）

容量スイッチの ON/OFF により、TSCAP 端子に接続される LPF 容量の充電制御を行います。容量スイッチを ON にしてから TSCAP 端子に接続している容量が充電されるまで、一定時間待った後、CTSUCR0.CTSUSTRT を 1 にして計測を開始してください。計測に先立って、I/O ポートで TSCAP 端子に Low を出力し、すでに充電されている LPF 容量を放電してください。CTSUPON ビットと CTSUCSW ビットには同じ値を設定してください。

CTSUATUNE1 ビット（CTSU 電源能力調整）

CTSU の電源能力を設定します。通常は 0 にしてください。

CTSUCLK[1:0] ビット（CTSU 動作クロック選択）

動作クロックを選択します。

CTSUMD[1:0] ビット（CTSU 計測モード選択）

計測モードを設定します。詳細は、46.3.2　計測モードを参照してください。

46.2.3 CTSU 同期ノイズ低減設定レジスタ（CTSUSDPRS）

アドレス CTSU.CTSUSDPRS 4008 1002h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	CTSUSOFF	CTSUPRMODE[1:0]		CTSUPRRATIO[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	CTSUPRRATIO[3:0]	CTSU計測時間、計測パルス数調整	CTSU計測時間、計測パルス数を設定します。 推奨設定：3（0011b）	R/W
b5-b4	CTSUPRMODE[1:0]	CTSU基本周期、基本パルス数設定	基本パルス数を設定します。 b5 b4 0 0：510パルス 0 1：126パルス 1 0：62パルス（推奨設定） 1 1：設定禁止	R/W
b6	CTSUSOFF	CTSU高域ノイズ低減機能OFF設定	高域ノイズを低減するスペクトラム拡散のON/OFFを設定します。 0：ONに設定 1：OFFに設定	R/W
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CTSUSDPRS レジスタの設定は、CTSUCR0.CTSUSTRT ビットが 0 のときのみ行ってください。

CTSUPRRATIO[3:0] ビット（CTSU 計測時間、計測パルス数調整）

以下の式を使用して計測時間と計測パルス数を決定します。なお、式中の基本パルス数は、CTSUPRMODE[1:0] ビットの設定により決定します。

計測パルス数 = 基本パルス数 ×（CTSUPRRATIO[3:0] ビット + 1）

計測時間 =（基本パルス数 ×（CTSUPRRATIO[3:0] ビット + 1）+ 基本パルス数 - 2）× 0.25 × ベースクロック周期

注 . ベースクロック周期の詳細は、46.2.15 CTSU センサオフセットレジスタ 1（CTSUSO1）を参照してください。

CTSUPRMODE[1:0] ビット（CTSU 基本周期、基本パルス数設定）

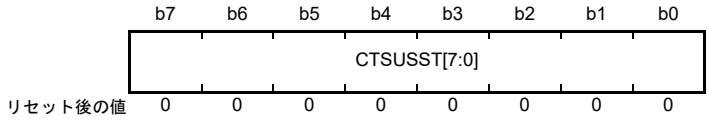
計測で発生する基本パルス数を選択します。

CTSUSOFF ビット（CTSU 高域ノイズ低減機能 OFF 設定）

高域ノイズを低減する機能の ON/OFF を設定します。1 にすると OFF になります。

46.2.4　CTSU センサ安定待ち時間コントロールレジスタ（CTSUSST）

アドレス CTSU.CTSUSST 4008 1003h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	CTSUSST[7:0]	CTSUセンサ安定待ち時間制御	00010000bにしてください。	R/W

CTSUSST レジスタの設定は、CTSUCR0.CTSUSTRT ビットが 0 のときのみ行ってください。

CTSUSST[7:0] ビット（CTSU センサ安定待ち時間制御）

TSCAP 端子の電圧の安定待ち時間を設定します。常に 00010000b にしてください。本ビットが設定されない場合、計測開始時の TSCAP 電圧が不安定となり、CTSU は正確なタッチ計測結果を取得できません。

46.2.5　CTSU 計測チャネルレジスタ 0（CTSUMCH0）

アドレス　CTSU.CTSUMCH0 4008 1004h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	CTSUMCH0[4:0]				
リセット後の値	0	0	0	1	1	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	CTSUMCH0[4:0]	CTSU 計測チャネル 0	自己容量シングルスキャンモードでは、計測する CTSU のチャネルを設定します。 b4 b0 0 0 0 0 1 : TS01 0 0 0 1 0 : TS02 0 0 0 1 1 : TS03 0 0 1 0 0 : TS04 0 0 1 0 1 : TS05 0 0 1 1 0 : TS06 0 0 1 1 1 : TS07 0 1 0 0 0 : TS08 0 1 0 0 1 : TS09 0 1 0 1 0 : TS10 0 1 0 1 1 : TS11 0 1 1 0 0 : TS12 上記以外の設定で CTSUCR0.CTSUSTRT ビットを 1 にして計測動作を開始することは禁止されています。 他の計測モードでは、現在計測中のチャネルを示します。 b4 b0 0 0 0 0 1 : TS01 0 0 0 1 0 : TS02 0 0 0 1 1 : TS03 0 0 1 0 0 : TS04 0 0 1 0 1 : TS05 0 0 1 1 0 : TS06 0 0 1 1 1 : TS07 0 1 0 0 0 : TS08 0 1 0 0 1 : TS09 0 1 0 1 0 : TS10 0 1 0 1 1 : TS11 0 1 1 0 0 : TS12 1 1 1 1 1 : 計測停止中	R/W （注 1）
b7-b5	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

注 1.　自己容量シングルスキャンモード時（CTSUCR1.CTSUMD[1:0] ビット = 00b）のみ書き込み可能です。

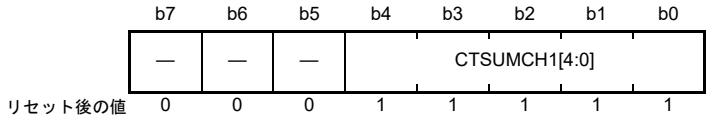
CTSUMCH0 レジスタの設定は、CTSUCR0.CTSUSTRT ビットが 0 のときのみ行ってください。

CTSUMCH0[4:0] ビット（CTSU 計測チャネル 0）

自己容量シングルスキャンモードでは、計測する CTSU のチャネルを設定します。このモードでは、有効なチャネル（00001b ～ 01100b）のみ指定します。それ以外のモードでは計測中の受信チャネルを示し、書き込みは無効になります。

46.2.6 CTSU 計測チャネルレジスタ 1（CTSUMCH1）

アドレス CTSU.CTSUMCH1 4008 1005h



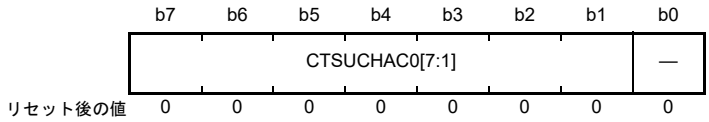
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	CTSUMCH1[4:0]	CTSU計測チャネル1	b4 b0 0 0 0 0 1：TS01 0 0 0 1 0：TS02 0 0 0 1 1：TS03 0 0 1 0 0：TS04 0 0 1 0 1：TS05 0 0 1 1 0：TS06 0 0 1 1 1：TS07 0 1 0 0 0：TS08 0 1 0 0 1：TS09 0 1 0 1 0：TS10 0 1 0 1 1：TS11 0 1 1 0 0：TS12 1 1 1 1 1：計測停止中	R
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

CTSUMCH1[4:0] ビット（CTSU 計測チャネル 1）

フルスキャンモード時に、計測中の送信チャネルを示します。計測停止中、または自己容量シングルスキャンモード時およびマルチスキャンモード時は、11111b になります。

46.2.7 CTSU チャネルイネーブルコントロールレジスタ 0（CTSUCHAC0）

アドレス CTSU.CTSUCHAC0 4008 1006h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7-b1	CTSUCHAC0[7:1]	CTSUチャネル有効制御0	対応するTS端子を計測するかどうかを選択します。 0：計測しない 1：計測する 本ビットはTS01～TS07端子の設定を行います。	R/W

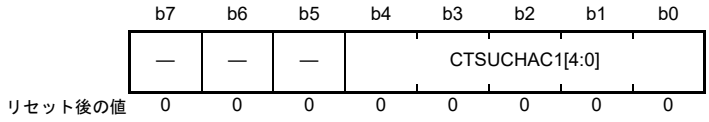
CTSUCHAC0 レジスタの設定は、CTSUCR0.CTSUSTRT ビットが 0 のときのみ行ってください。

CTSUCHAC0[7:1] ビット（CTSU チャネル有効制御 0）

静電容量を計測する受信端子と送信端子を選択します。CTSUCHAC0[1] は TS01 に、CTSUCHAC0[7] は TS07 に対応します。

46.2.8 CTSU チャネルイネーブルコントロールレジスタ 1（CTSUCHAC1）

アドレス CTSU.CTSUCHAC1 4008 1007h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	CTSUCHAC1[4:0]	CTSUチャネル有効制御1	対応するTS端子を計測するかどうかを選択します。 0：計測しない 1：計測する 本ビットはTS08～TS12端子の設定を行います。	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

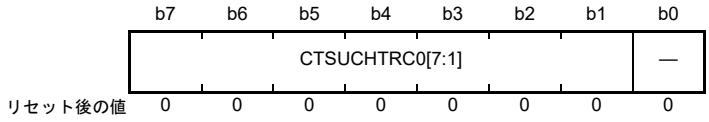
CTSUCHAC1 レジスタの設定は、CTSUCR0.CTSUSTRT ビットが 0 のときのみ行ってください。

CTSUCHAC1[4:0] ビット（CTSU チャネル有効制御 1）

静電容量を計測する受信端子と送信端子を選択します。CTSUCHAC1[0] は TS08 に、CTSUCHAC1[4] は TS12 に対応します。

46.2.9 CTSU チャネル送受信コントロールレジスタ 0（CTSUCHTRC0）

アドレス CTSU.CTSUCHTRC0 4008 100Bh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b7-b1	CTSUCHTRC0[7:1]	CTSUチャネル送受信制御0	0：受信 1：送信 本ビットはTS01～TS07端子の設定を行います。	R/W

CTSUCHTRC0 レジスタの設定は、CTSUCR0.CTSUSTRT ビットが 0 のときのみ行ってください。

CTSUCHTRC0[7:1] ビット（CTSU チャネル送受信制御 0）

フルスキャンモード時、関連する TS 端子の受信／送信割り当てを設定します。自己容量シングルスキャンモード、および自己容量マルチスキャンモードでは、この設定は無視されます。CTSUCHTRC0[1] は TS01 に、CTSUCHTRC0[7] は TS07 に対応します。

46.2.10 CTSU チャネル送受信コントロールレジスタ 1（CTSUCHTRC1）

アドレス CTSU.CTSUCHTRC1 4008 100Ch



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	CTSUCHTRC1[4:0]	CTSUチャネル送受信制御1	0：受信 1：送信 本ビットはTS08～TS15端子の設定を行います。	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

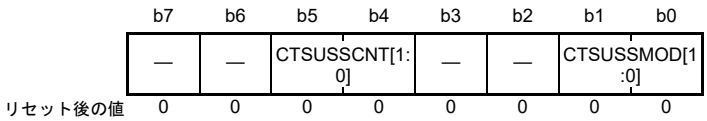
CTSUCHTRC1 レジスタの設定は、CTSUCR0.CTSUSTRT ビットが 0 のときのみ行ってください。

CTSUCHTRC1[4:0] ビット（CTSU チャネル送受信制御 1）

フルスキャンモード時、関連する TS 端子を受信または送信に割り当てます。自己容量シングルスキャンモード、および自己容量マルチスキャンモードでは、この設定は無視されます。CTSUCHTRC1[0] は TS08 に、CTSUCHTRC1[4] は TS12 に対応します。

46.2.11 CTSU 高域ノイズ低減コントロールレジスタ（CTSUDCLKC）

アドレス CTSU.CTSUDCLKC 4008 1010h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	CTSUSSMOD[1:0]	CTSU拡散クロックモード選択	00bにしてください。	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5-b4	CTSUSSCNT[1:0]	CTSU拡散クロックモード制御	11bにしてください。	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CTSUDCLKC レジスタの設定は、CTSUCR0.CTSUSTRT ビットが 0 のときのみ行ってください。

CTSUSSMOD[1:0] ビット（CTSU 拡散クロックモード選択）

高域ノイズ低減に関わるスペクトラム拡散クロックのモードを設定します。高域ノイズ低減機能を使用する場合は必ず 00b にしてください。本ビットが設定されていない場合、CTSU は効果的に高域ノイズを低減できません。

CTSUSSCNT[1:0] ビット（CTSU 拡散クロックモード制御）

高域ノイズ低減のためのスペクトラム拡散量を調整します。高域ノイズ低減機能を使用する場合は必ず 11b にしてください。本ビットが設定されていない場合、タッチ計測が正しく行われない可能性があります。

46.2.12　CTSU ステータスレジスタ（CTSUST）

アドレス　CTSU.CTSUST 4008 1011h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CTSUPS	CTSUROVF	CTSUSOVF	CTSUDTSR	—	CTSUSTC[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	CTSUSTC[2:0]	CTSU計測ステータスカウンタ	現在の計測ステータスを示します。 b2 b0 0 0 0：Status0 0 0 1：Status1 0 1 0：Status2 0 1 1：Status3 1 0 0：Status4 1 0 1：Status5	R
b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b4	CTSUDTSR	CTSUデータ転送ステータスフラグ	センサカウンタ、リファレンスカウンタに格納された計測結果を読み出したか否かを示します。 0：読み出し 1：読み出しなし	R
b5	CTSUSOVF	CTSUセンサカウンタオーバーフローフラグ	センサカウンタのオーバーフローを示します。 0：オーバーフロー発生なし 1：オーバーフロー発生	R/W
b6	CTSUROVF	CTSUリファレンスカウンタオーバーフローフラグ	リファレンスカウンタのオーバーフローを示します。 0：オーバーフロー発生なし 1：オーバーフロー発生	R/W
b7	CTSUPS	CTSU相互容量計測ステータスフラグ	相互容量フルスキャンモードでの計測ステータスを示します。 0：1回目の計測 1：2回目の計測	R

CTSUCR0.CTSUINIT ビットでオーバーフローフラグをクリアする場合は、必ず CTSUCR0.CTSUSTRT ビットが 0 であるときに行ってください。

CTSUSTC[2:0] フラグ（CTSU 計測ステータスカウンタ）

現在の計測ステータスを示すカウンタです。各ステータスの詳細は、46.3.2.2　ステータスカウンタを参照してください。

CTSUDTSR フラグ（CTSU データ転送ステータスフラグ）

センサカウンタ、リファレンスカウンタに格納された計測結果を読み出したか否かを示します。計測完了時に 1 になり、ソフトウェアまたは DTC でリファレンスカウンタを読み出すと 0 となります。また本フラグは、CTSUCR0.CTSUINIT ビットでもクリアされます。

CTSUSOVF フラグ（CTSU センサカウンタオーバーフローフラグ）

センサカウンタ（CTSUSC）でオーバーフローが発生すると 1 になります。オーバーフロー発生時、カウンタ値は FFFFh になります。計測は指定期間継続します。

オーバーフロー発生時に割り込みは発生しません。そのため、どのチャネルでオーバーフローが発生したかは、測定終了割り込み発生により計測完了が判明してから、各チャネルの計測結果により判定してください。

本フラグは、ソフトウェアで 1 を読み出した後、0 を書き込むことによりクリアされます。また、CTSUCR0.CTSUINIT ビットでもクリアされます。

CTSUROVF フラグ（CTSU リファレンスカウンタオーバーフローフラグ）

リファレンスカウンタ（CTSURC）でオーバーフローが発生すると 1 になります。オーバーフロー発生時、カウンタ値は FFFFh になります。計測は指定期間継続します。

オーバーフロー発生時に割り込みは発生しません。そのため、どのチャネルでオーバーフローが発生したかは、測定終了割り込み発生により計測完了が判明してから、各チャネルの計測結果により判定してください。

本フラグは、ソフトウェアで 1 を読み出した後、0 を書き込むことによりクリアされます。また、CTSUCR0.CTSUINIT ビットでもクリアされます。

CTSUPS フラグ（CTSU 相互容量計測ステータスフラグ）

相互容量フルスキャンモード（CTSUCR1.CTSUMD[1:0] = 11b）のとき、1 チャネルあたり 2 回の計測において計測回数が 1 回目なのか 2 回目なのかを示します。計測停止時、またはその他の計測モードの場合は 0 になります。

46.2.13 CTSU 高域ノイズ低減スペクトラム拡散コントロールレジスタ（CTSUSSC）

アドレス CTSU.CTSUSSC 4008 1012h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	CTSUSSDIV[3:0]				—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b11-b8	CTSUSSDIV[3:0]	CTSUスペクトラム拡散分周設定	ベースクロックの分周設定に基づき、スペクトラム拡散分周設定値を設定します。	R/W
b15-b12	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

CTSUSSDIV[3:0] ビット（CTSU スペクトラム拡散分周設定）

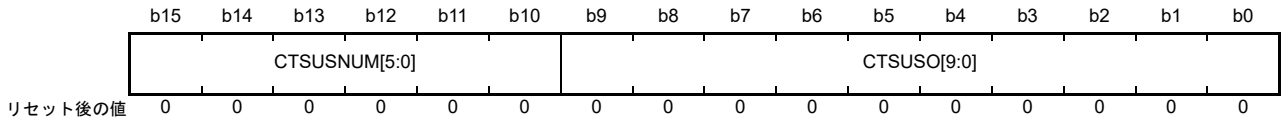
ベースクロックの分周設定に基づいて、スペクトラム拡散分周設定値を設定します。CTSUSSDIV[3:0] の正しい設定値を決めるには、表 46.6 でベースクロック周波数と設定値の関係を参照してください。

表 46.6　ベースクロック周波数とCTSUSSDIV[3:0]ビットの設定値の関係

ベースクロック周波数fb（MHz）	CTSUSSDIV[3:0]ビットの設定値
4.00≦fb	0000b
2.00≦fb＜4.00	0001b
1.33≦fb＜2.00	0010b
1.00≦fb＜1.33	0011b
0.80≦fb＜1.00	0100b
0.67≦fb＜0.80	0101b
0.57≦fb＜0.67	0110b
0.50≦fb＜0.57	0111b
0.44≦fb＜0.50	1000b
0.40≦fb＜0.44	1001b
0.36≦fb＜0.40	1010b
0.33≦fb＜0.36	1011b
0.31≦fb＜0.33	1100b
0.29≦fb＜0.31	1101b
0.27≦fb＜0.29	1110b
fb＜0.27	1111b

46.2.14　CTSU センサオフセットレジスタ 0（CTSUSO0）

アドレス　CTSU.CTSUSO0 4008 1014h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b9-b0	CTSUSO[9:0]	CTSUセンサオフセット調整	電極が非タッチ状態のときの静電容量を調整します。 b9 b0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0：電流オフセット量0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1：電流オフセット量1 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0：電流オフセット量2 ：　： 1 1 1 1 1 1 1 1 1 0：電流オフセット量1022 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1：電流オフセット最大	R/W
b15-b10	CTSUSNUM[5:0]	CTSU計測回数設定	CTSUの計測回数を設定します。	R/W

CTSUSO[9:0] ビット（CTSU センサオフセット調整）

タッチ計測時に電極が非タッチ状態のときの静電容量により発生するセンサ ICO 入力電流をオフセットします。これは、CTSU センサカウンタのオーバーフローを防止します。

次に計測する TS 端子の設定は、CTSU_CTSUWR 割り込みの発生後に行ってください。

CTSUSNUM[5:0] ビット（CTSU 計測回数設定）

CTSUSDPRS.CTSUPRRATIO[3:0] ビットおよび CTSUSDPRS.CTSUPRMODE[1:0] ビットで決定される計測パルス数を計測時間内に何回繰り返すかを設定します。繰り返し回数は（CTSUSNUM[5:0] ビット + 1）となります。

次に計測する TS 端子の設定は、CTSU_CTSUWR 割り込みの発生後に行ってください。

46.2.15　CTSU センサオフセットレジスタ 1（CTSUSO1）

アドレス　CTSU.CTSUSO1 4008 1016h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	CTSUICOG[1:0]		CTSUSDPA[4:0]					CTSURICOA[7:0]							
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	CTSURICOA[7:0]	CTSU リファレンス ICO 電流調整	リファレンス ICO の入力電流を調整します。 b7 b0 0 0 0 0 0 0 0 0：電流オフセット量 0 0 0 0 0 0 0 0 1：電流オフセット量 1 0 0 0 0 0 0 1 0：電流オフセット量 2 ：　： 1 1 1 1 1 1 1 0：電流オフセット量 254 1 1 1 1 1 1 1 1：電流オフセット最大	R/W
b12-b8	CTSUSDPA[4:0]	CTSU ベースクロック設定	CTSU のベースクロックを生成します。 b12 b8 0 0 0 0 0：動作クロックの 2 分周（注 1） 0 0 0 0 1：動作クロックの 4 分周 0 0 0 1 0：動作クロックの 6 分周 0 0 0 1 1：動作クロックの 8 分周 0 0 1 0 0：動作クロックの 10 分周 0 0 1 0 1：動作クロックの 12 分周 0 0 1 1 0：動作クロックの 14 分周 0 0 1 1 1：動作クロックの 16 分周 0 1 0 0 0：動作クロックの 18 分周 0 1 0 0 1：動作クロックの 20 分周 0 1 0 1 0：動作クロックの 22 分周 0 1 0 1 1：動作クロックの 24 分周 0 1 1 0 0：動作クロックの 26 分周 0 1 1 0 1：動作クロックの 28 分周 0 1 1 1 0：動作クロックの 30 分周 0 1 1 1 1：動作クロックの 32 分周 1 0 0 0 0：動作クロックの 34 分周 1 0 0 0 1：動作クロックの 36 分周 1 0 0 1 0：動作クロックの 38 分周 1 0 0 1 1：動作クロックの 40 分周 1 0 1 0 0：動作クロックの 42 分周 1 0 1 0 1：動作クロックの 44 分周 1 0 1 1 0：動作クロックの 46 分周 1 0 1 1 1：動作クロックの 48 分周 1 1 0 0 0：動作クロックの 50 分周 1 1 0 0 1：動作クロックの 52 分周 1 1 0 1 0：動作クロックの 54 分周 1 1 0 1 1：動作クロックの 56 分周 1 1 1 0 0：動作クロックの 58 分周 1 1 1 0 1：動作クロックの 60 分周 1 1 1 1 0：動作クロックの 62 分周 1 1 1 1 1：動作クロックの 64 分周	R/W
b14-b13	CTSUICOG[1:0]	CTSU ICO ゲイン調整	センサ ICO とリファレンス ICO の出力周波数ゲインを調整します。 b14 b13 0 0：ゲイン 100% 0 1：ゲイン 66% 1 0：ゲイン 50% 1 1：ゲイン 40%	R/W
b15	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

注 1.　相互容量フルスキャンモード時（CTSUCR1.CTSUMD[1:0] ビット = 11b）の高域ノイズ低減機能 OFF 状態（CTSUSDPRS.CTSUSOFF ビット = 1）では、CTSUSDPA[4:0] ビットを 00000b にしないでください。

CTSU_CTSUWR 割り込み発生後に、CTSUSSC レジスタ、CTSUSO0 レジスタ、CTSUSO1 レジスタの順に書き込んでください。CTSUSO1 レジスタへの書き込みにより Status3 へ遷移します。表 46.7、表 46.8 を参照してください。CTSUSO1 レジスタに書き込む場合は、一度の動作で全ビットに書き込むようにしてください。

CTSURICOA[7:0] ビット（CTSU リファレンス ICO 電流調整）

リファレンス ICO の入力電流により、発振周波数を調整します。

CTSUSDPA[4:0] ビット（CTSU ベースクロック設定）

動作クロックを分周して、センサドライブパルスの元となるベースクロックを選択します。設定手順の詳細は、46.3.2.1　初期設定フローを参照してください。

CTSUICOG[1:0] ビット（CTSU ICO ゲイン調整）

センサ ICO とリファレンス ICO の出力周波数ゲインを調整します。通常は最大ゲインの 00b にします。電極タッチ時と非タッチ時の間の容量変化が、センサ ICO のダイナミックレンジを大きく超える場合は、このビットを適切なゲインに調整してください。

46.2.16　CTSU センサカウンタ（CTSUSC）

アドレス　CTSU.CTSUSC 4008 1018h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CTSUSC[15:0]															
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	CTSUSC[15:0]	CTSUセンサカウンタ	センサICOの計測結果を示します。オーバーフロー発生時はFFFFhが読み出されます。	R

CTSU_CTSURD 割り込み発生後、まず CTSUSC カウンタ、次に CTSURC カウンタの順で読み出してください。

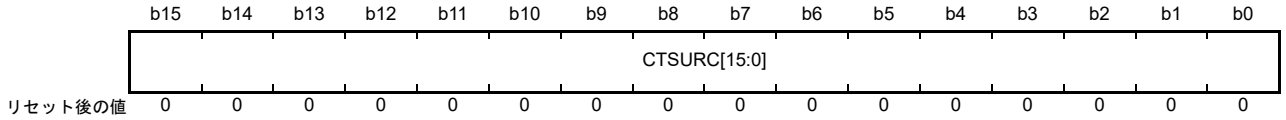
CTSUSC[15:0] ビット（CTSU センサカウンタ）

センサ ICO クロック用のインクリメントカウンタです。

CTSU_CTSURD 割り込み発生後に読み出してください。本ビットは CTSURC カウンタ読み出し後、次の計測で CTSU 測定ステータスカウンタの値が Status4 に遷移する（CTSUST.CTSUSTC[2:0] フラグの値が 100b に遷移する）直前にクリアされます。また、CTSUCR0.CTSUINIT ビットでもクリアされます。

46.2.17　CTSU リファレンスカウンタ（CTSURC）

アドレス　CTSU.CTSURC 4008 101Ah



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	CTSURC[15:0]	CTSU リファレンスカウンタ	リファレンス ICO の計測結果を示します。オーバーフロー発生時は FFFFh が読み出されます。	R

CTSU_CTSURD 割り込み発生後、まず CTSUSC カウンタ、次に CTSURC カウンタの順で読み出してください。Status3 に指定した安定時間を経過しても、CTSURC カウンタが読み出されるまで Status3 が継続します。

CTSURC[15:0] ビット（CTSU リファレンスカウンタ）

リファレンス ICO クロック用のインクリメントカウンタです。

リファレンス ICO はセンサ ICO によるタッチ計測を最適化します。CTSU に内蔵されたセンサ ICO とリファレンス ICO は個体により若干の偏差はありますが、ダイナミックレンジや電流－周波数の特性などはほぼ同様の特性を持っています。リファレンス ICO 電流調整ビットで設定できる電流量の範囲がほぼ、両 ICO のダイナミックレンジになるため、センサ ICO に入力する電流量もこのダイナミックレンジに収める必要があります。そのためには、ICO の個体差を確認するためにリファレンス ICO を使い、電流－発振周波数の特性を計測します。リファレンス ICO 発振周波数はリファレンス ICO カウンタで取得できるので、リファレンス ICO 電流調整ビットに値を設定し、リファレンス ICO カウンタを計測することで、入力した電流量に対する ICO の発振周波数（カウンタ値／計測時間）を計測できます。また、リファレンス ICO 電流調整ビットの最大値で計測されるリファレンス ICO カウンタの値が、ICO のダイナミックレンジの最大値となります。センサ ICO カウンタの値がこの値を超えないように、オフセット調整ビットでセンサ ICO の電流をオフセットする必要があります。

CTSURC[15:0] ビットは、CTSU_CTSURD 割り込み発生後に読み出してください。本ビットは読み出し後に、次の計測で CTSU 測定ステータスカウンタの値が Status4 に遷移する（CTSUST.CTSUSTC[2:0] フラグの値が 100b に遷移する）直前にクリアされます。また、CTSUCR0.CTSUINIT ビットでもクリアされます。

46.2.18 CTSU エラーステータスレジスタ（CTSUERRS）

アドレス CTSU.CTSUERRS 4008 101Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CTSUICOMP	—	—	—	—	—	—	—	CTSUTSOC	CTSUCLKSEL1	—	—	CTSUDRV	CTSUTSOD	CTSUSPMD[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	CTSUSPMD[1:0]	キャリブレーションモード	キャリブレーションモード b1 b0 0 0：静電容量測定モード 1 0：キャリブレーションモード その他：設定禁止	R/W
b2	CTSUTSOD	TS端子固定出力	TS端子の固定出力 0：静電容量測定モード 1：TS端子はHighまたはLowに強制される	R/W
b3	CTSUDRV	キャリブレーション設定1	キャリブレーション設定1 0：静電容量測定モード 1：キャリブレーション設定1	R/W
b5-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b6	CTSUCLKSEL1	キャリブレーション設定3	キャリブレーション設定3 0：静電容量測定モード 1：キャリブレーション設定3	R/W
b7	CTSUTSOC	キャリブレーション設定2	キャリブレーション設定2 0：静電容量測定モード 1：キャリブレーション設定2	R/W
b14-b8	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b15	CTSUICOMP	TSCAP電圧異常監視	TSCAP電圧の異常状態を監視します。 0：TSCAP電圧正常 1：TSCAP電圧異常（注1）	R

注 1.　CTSUCR1.CTSUPON ビットが 0 のとき、本ビットは 1 になります。

CTSUSPMD[1:0] ビット（キャリブレーションモード）

CTSUSPMD[1:0] ビットは CTSU のキャリブレーションに使用されます。容量を計測するときは、これらのビットを 00b にしてください。

CTSUTSOD ビット（TS 端子固定出力）

CTSUTSOD ビットは CTSU のキャリブレーションに使用されます。このビットを 1 にすると、TS 端子は CTSUCR0.CTSUIOC ビットで指定されたロジックレベルに強制されます。容量を計測するときは、このビットを 0 にしてください。

CTSUDRV ビット（キャリブレーション設定 1）

CTSUDRV ビットは CTSU のキャリブレーションに使用されます。容量を計測するときは、このビットを 0 にしてください。

CTSUCLKSEL1 ビット（キャリブレーション設定 3）

CTSUCLKSEL1 ビットは CTSU のキャリブレーションに使用されます。容量を計測するときは、このビットを 0 にしてください。

CTSUTSOC ビット（キャリブレーション設定 2）

CTSUTSOC ビットは CTSU のキャリブレーションに使用されます。容量を計測するときは、このビットを 0 にしてください。

CTSUICOMP ビット（TSCAP 電圧異常監視）

本ビットは TSCAP 電圧を監視し、電圧異常となった場合は 1 になります。

CTSUSO0 レジスタで設定したオフセット電流量が、タッチ計測時のセンサ ICO 入力電流を上回った場合、TSCAP 電圧が異常となりタッチ計測が正しく行われません。

TSCAP 電圧が異常となった場合、センサ ICO カウンタの値は不定になりますが、タッチ計測は正常に終了するので、センサ ICO カウンタの値から異常を検知することは困難です。CTSUSO1 レジスタの CTSU リファレンス ICO 電流調整ビット（CTSURICOA[7:0]）を 0 以外の値にしてある場合は、必ずタッチ計測終了時に本ビットを確認してください。

本ビットは、CTSUCR1.CTSUPON ビットに 0 を書き込み、電源 OFF とすることでクリアされます。

46.3　動作説明

46.3.1　計測動作原理

図 46.4 に計測部回路を示します。

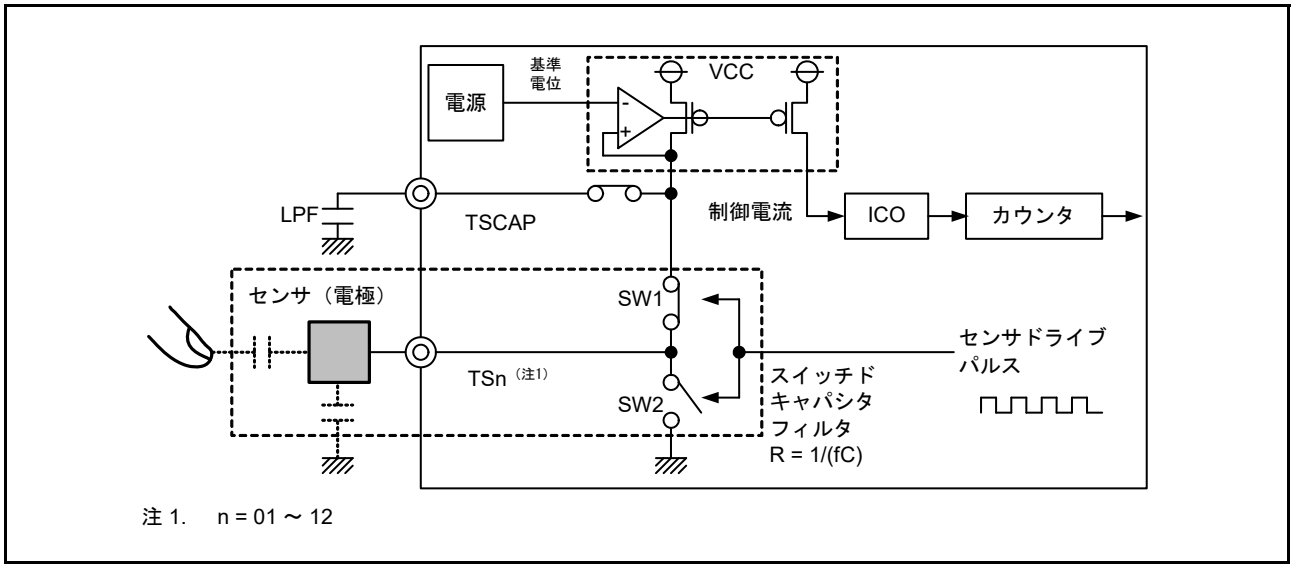


図 46.4　計測部回路

図 46.5 ～図 46.7 に CTSU の電流周波数変換方式の静電容量計測動作原理を示します。動作は以下のとおりです。

1. SW1：ON、SW2：OFF にすることで、電極の静電容量に充電されます。（図 46.5）
2. SW1：OFF、SW2：ON にすることで、充電された容量は放電されます。（図 46.6）
3. 充放電を切り替えることにより、スイッチドキャパシタフィルタに電流が流れます。この時点で指が接近していれば、容量および流れる電流が変化します。TSCAP 電源を生成する回路からスイッチドキャパシタフィルタに流れる電流に比例した制御電流を ICO に供給することで、クロックを生成します。カウンタは、指が接近しているかどうかにより変化するクロック周波数を計測します。ソフトウェアは、カウンタから読み出した値に基づき指の接触を判断します（図 46.7）。

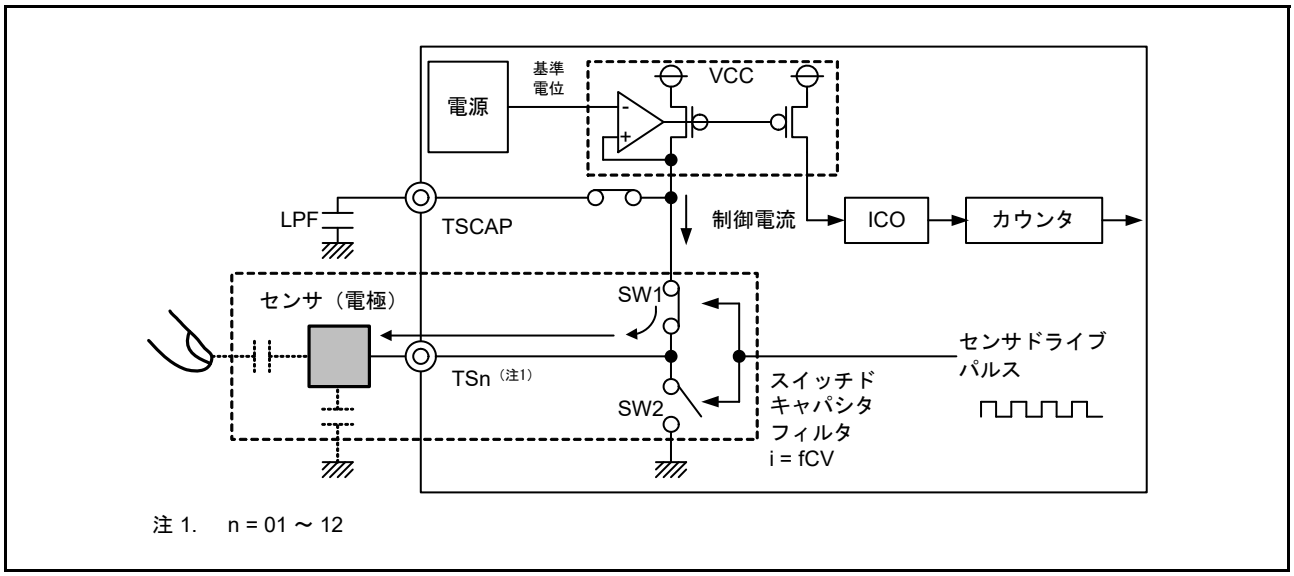


図 46.5　充電動作

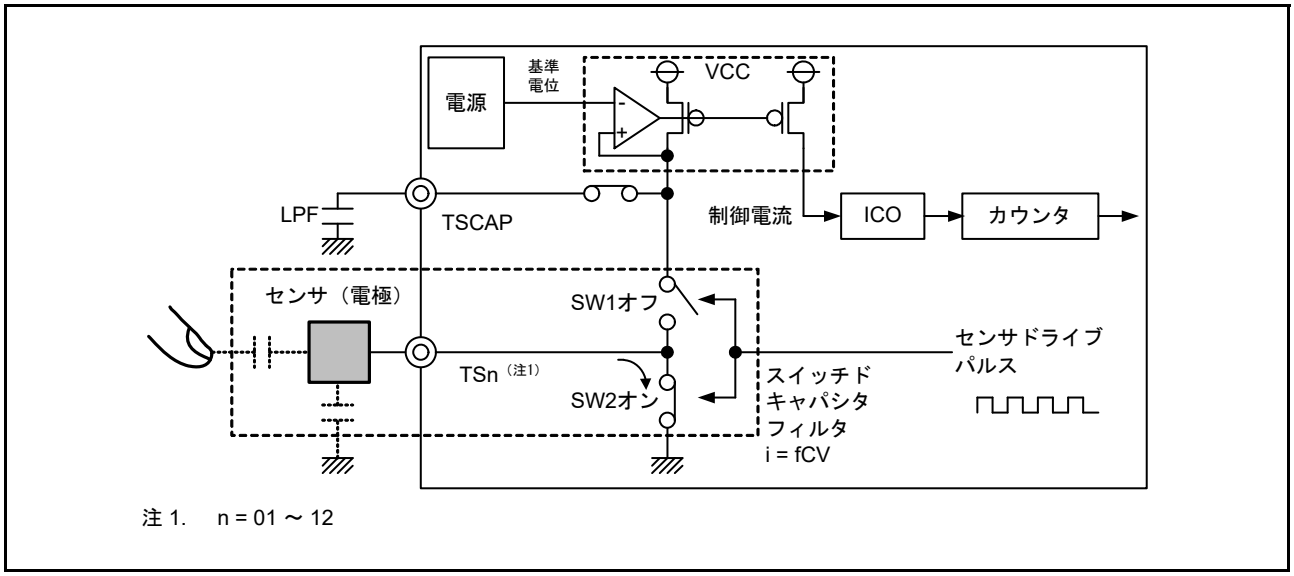


図 46.6　　放電動作

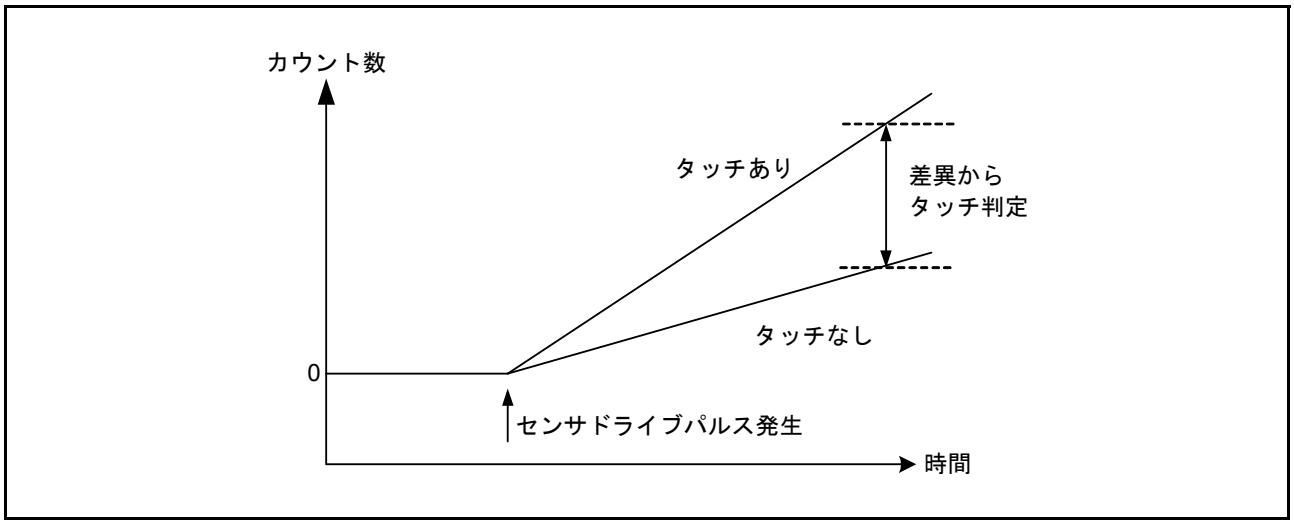


図 46.7　　接触／非接触による計測値の変化

46.3.2　計測モード

CTSU は、自己容量方式と相互容量方式に対応しています。図 46.8 に自己容量方式と相互容量方式の概要を示します。

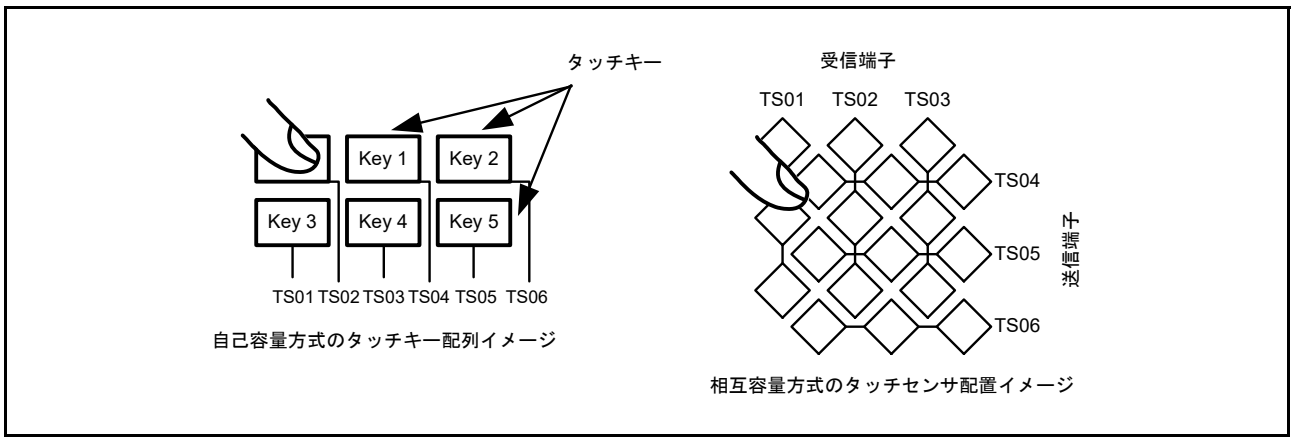


図 46.8　自己容量方式と相互容量方式の概要

自己容量方式では、1 つのタッチキーに 1 つのタッチ端子を割り当て、それぞれにおける指の接近時の静電容量を計測します。この方法では、シングルスキャンモードとマルチスキャンモードの両方で容量を計測できます。相互容量方式では、対向する 2 つの電極（送信端子と受信端子）間の容量を計測します。

46.3.2.1　初期設定フロー

図 46.9 に、CTSU の初期設定フローを示します。

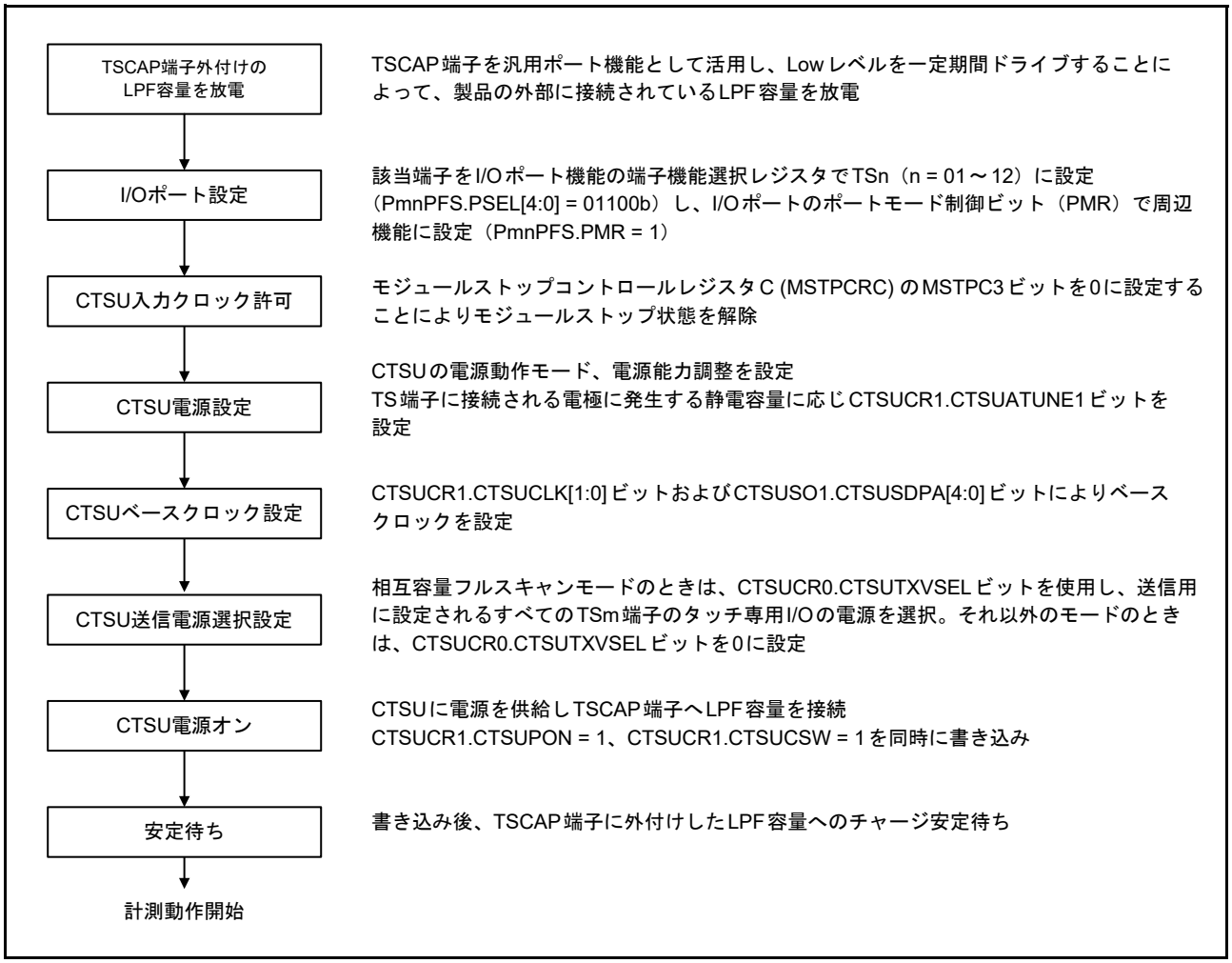


図 46.9　CTSU 初期設定フロー

図 46.10 に、CTSU の動作を停止させスタンバイ状態にするフローを示します。

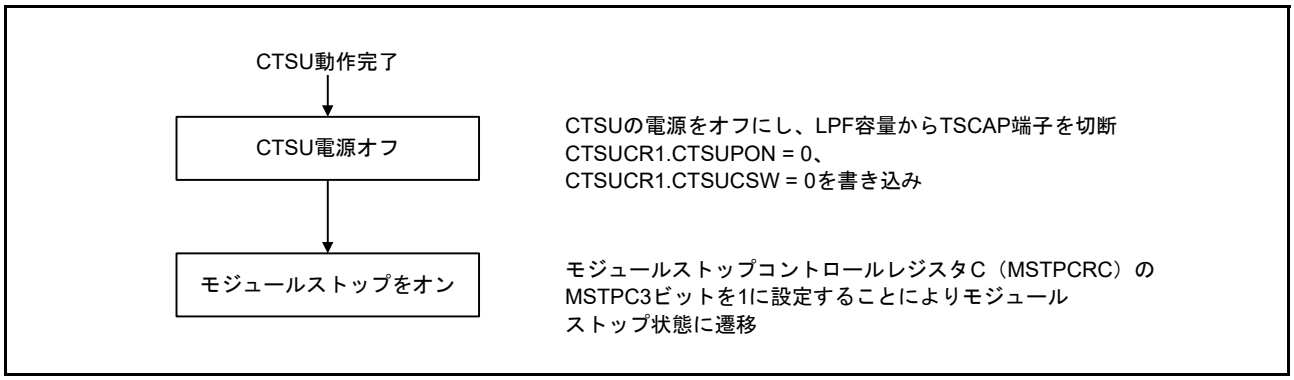
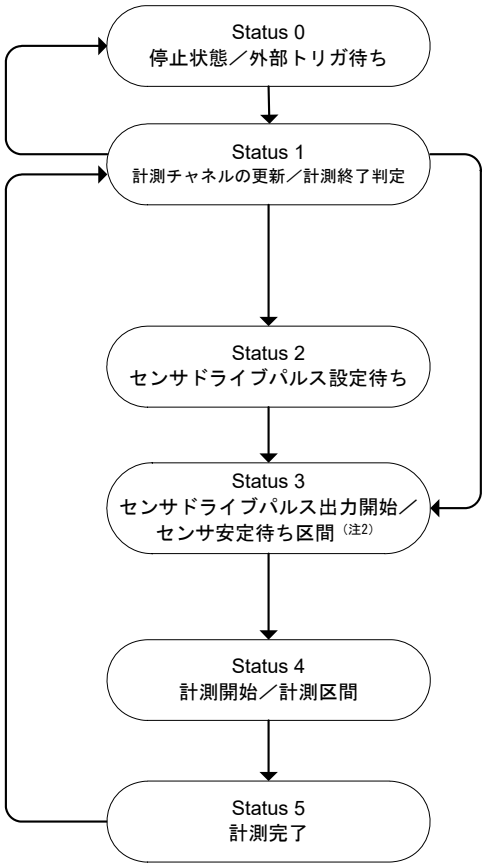


図 46.10　CTSU 停止フロー

停止した動作を再開する場合は、図 46.9 の初期設定フローに従ってください。

46.3.2.2　ステータスカウンタ

CTSU ステータスレジスタ（CTSUST）は、3 つのモードすべてに適用する電流計測ステータスを示します。図 46.11 にステータス動作遷移図を示します。



Status 1への遷移条件：
- CTSUCR0.CTSUCAP = 0: CTSUCR0.CTSUSTRT = 1
- CTSUCR0.CTSUCAP = 1: CTSUCR0.CTSUSTRT = 1 かつ外部トリガの立ち上がりエッジ検出

Status 0への遷移条件：
- 次に計測すべきチャネルがない場合

（CTSU_CTSUFN割り込み発生し、測定終了）

Status 2への遷移条件：
- 計測チャネルの更新完了

Status 3へ遷移条件：
- 相互容量フルスキャンモードで CTSUST.CTSUPS = 1（2 回目）の場合

Status 3への遷移条件：
- CTSUSO1 レジスタへのライトアクセス（注 1）

Status 4への遷移条件：
- センサドライブパルス供給開始からセンサ安定時間を経過し、CTSUST.CTSUDTSR = 0 の場合

Status 5への遷移条件：
- 計測開始から計測時間を経過

（計測時間は、46.3.3.1　センサ安定待ち時間と計測時間を参照してください）

Status 1への遷移条件：
- 動作クロックが 2 クロック経過後

注 1.　CTSU_CTSUWR 割り込み処理時に、レジスタ設定のために DTC または ICU を使用する場合、CTSUSO1 レジスタに最後に書き込んでください。
注 2.　CTSUST.CTSUDTSR = 1 の場合は、前の計測結果転送待ちとなります。

図 46.11　ステータス動作遷移図

ステータスカウンタは、指定したすべての計測チャネルの計測が終了すると Status0 に遷移します。

CTSUCR0.CTSUSTRT ビットは、ソフトウェアトリガではハードウェアにより 0 にクリアされます。また外部トリガでは 1 が保持され、次のトリガの待機状態になります。

計測中またはトリガ待機状態で強制終了する（CTSUCR0.CTSUSTRT ビットに 0 を、CTSUCR0.CTSUINIT ビットに 1 を同時に書き込む）ことにより、Status0 に遷移して計測は停止します。

計測対象チャネルがないケースは以下のとおりです。

- CTSUCHAC0 ～ CTSUCHAC2 レジスタに計測対象チャネルが指定されていない場合
- 自己容量シングルスキャンモードで、CTSUMCH0 レジスタで指定したチャネルが CTSUCHAC0 ～ CTSUCHAC1 レジスタで計測対象外となっている場合
- フルスキャンモードで、CTSUCHAC0～CTSUCHAC1 レジスタ、CTSUCHTRC0～CTSUCHTRC1 レジスタの組み合わせで、計測する送信チャネルまたは受信チャネルがない場合

これらの設定に基づき計測するチャネルがない場合、Status1 への遷移後すぐに CTSU_CTSUFN 割り込みが発生し、カウンタのステータスは Status0 になります。

46.3.2.3　自己容量シングルスキャンモード動作

自己容量シングルスキャンモードは、任意の1チャネルの静電容量を計測します。図 46.12 にソフトウェアフローと動作例を、図 46.13 にタイミングを示します。

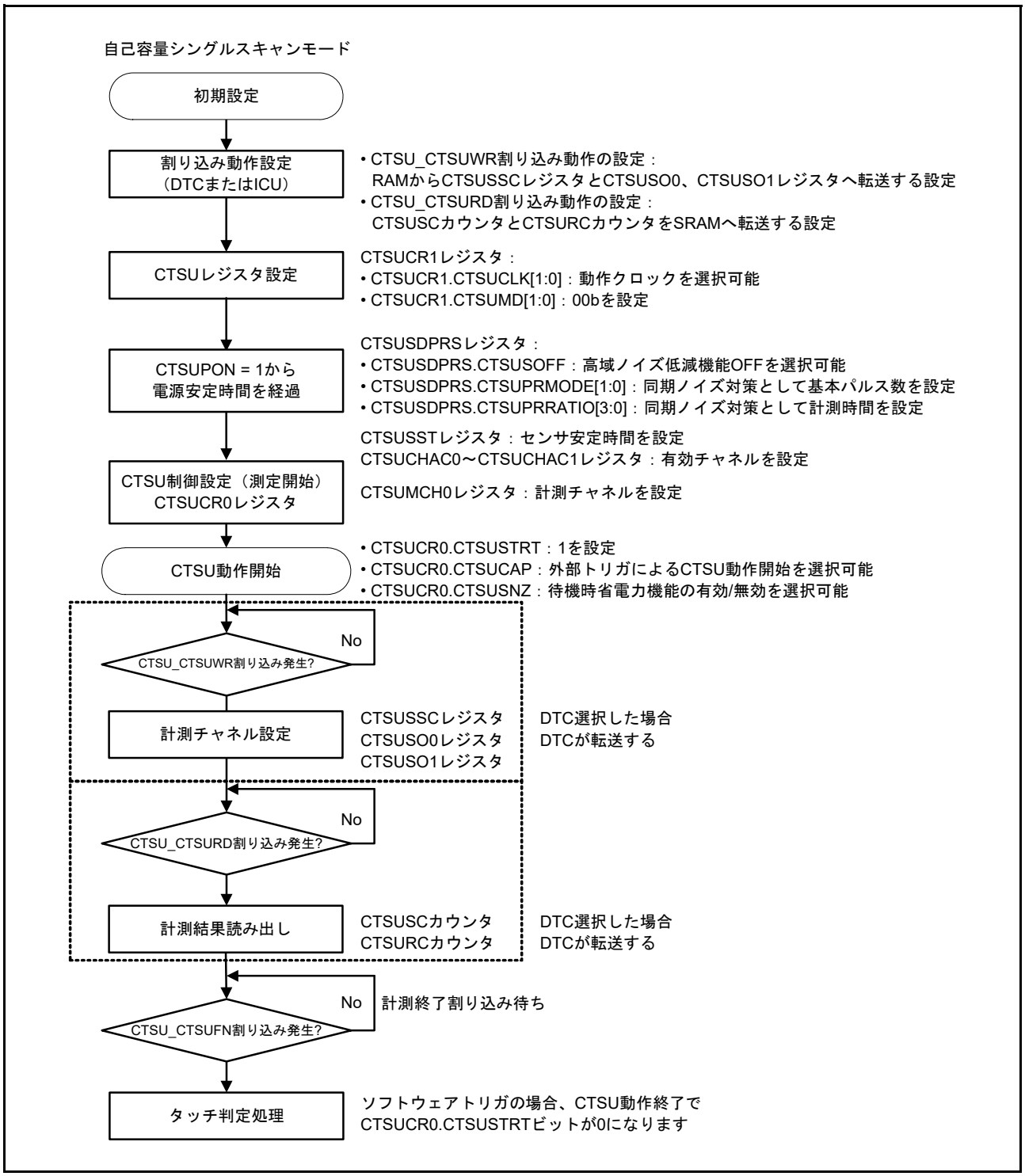


図 46.12　自己容量シングルスキャンモードのソフトウェアフローと動作例

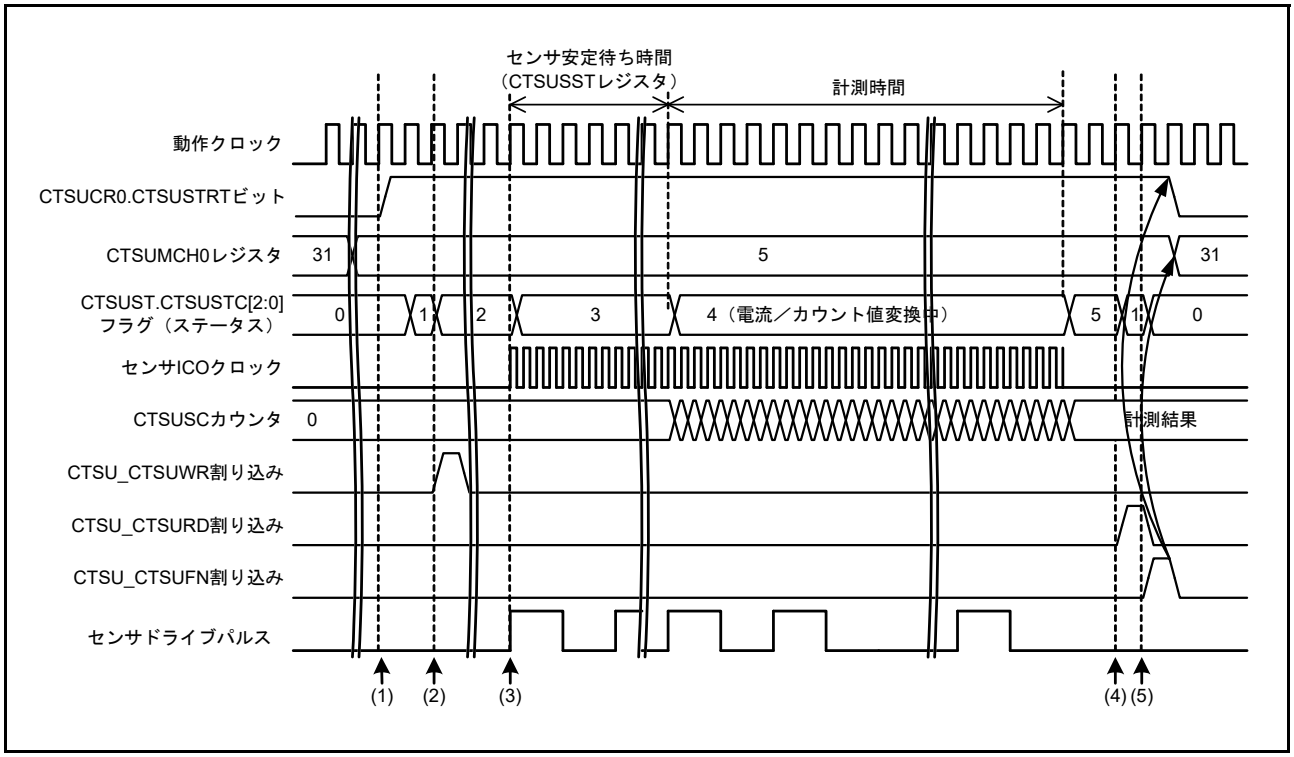


図 46.13　　自己容量シングルスキャンモードのタイミング（計測開始条件がソフトウェアトリガの場合）

図 46.13 に示した動作を以下で説明します。

1. 初期設定を実施後、CTSUCR0.CTSUSTRT ビットに 1 を書き込むと開始します。
2. あらかじめ設定された条件に従って計測対象チャネルが決定された後に、関連するチャネルの設定要求（CTSU_CTSUWR）を出力します。
3. 計測チャネルの設定書き込み（CTSUSSC、CTSUSO0、および CTSUSO1 レジスタ）が完了するとセンサドライブパルスが出力され、センサ ICO クロックとリファレンス ICO クロックが動作します。
4. センサ安定待ち時間、計測時間が経過して計測が終了した後、計測結果読み出し要求（CTSU_CTSURD）を出力します。
5. 計測終了割り込み（CTSU_CTSUFN）を出力して計測終了（Status0 へ遷移）します。

表 46.7 に自己容量シングルスキャンモードのタッチ端子状態を示します。

表 46.7　　自己容量シングルスキャンモードのタッチ端子状態

Status	タッチ端子	
	計測チャネル	非計測チャネル
0	Low	Low
1	Low	Low
2	Low	Low
3	パルス	Low
4	パルス	Low
5	Low	Low

46.3.2.4　自己容量マルチスキャンモードの動作

自己容量マルチスキャンモードは、CTSUCHAC0 ～ CTSUCHAC1 レジスタで計測対象に指定したすべてのチャネルに対して、静電容量を昇順で順次計測します。図 46.14 にソフトウェアフローと動作例を、図 46.15 にタイミングを示します。

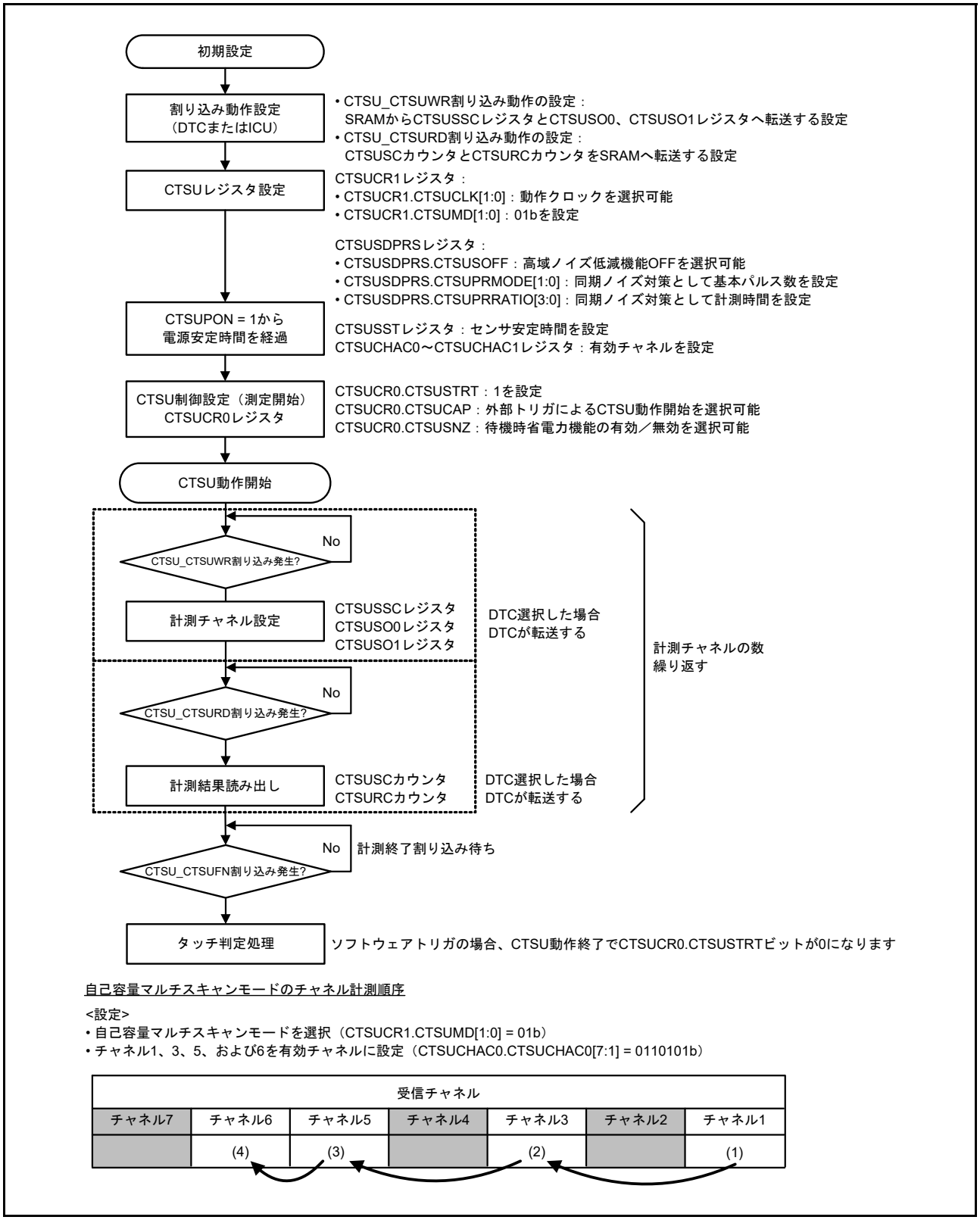


図 46.14　自己容量マルチスキャンモードのソフトウェアフローと動作例

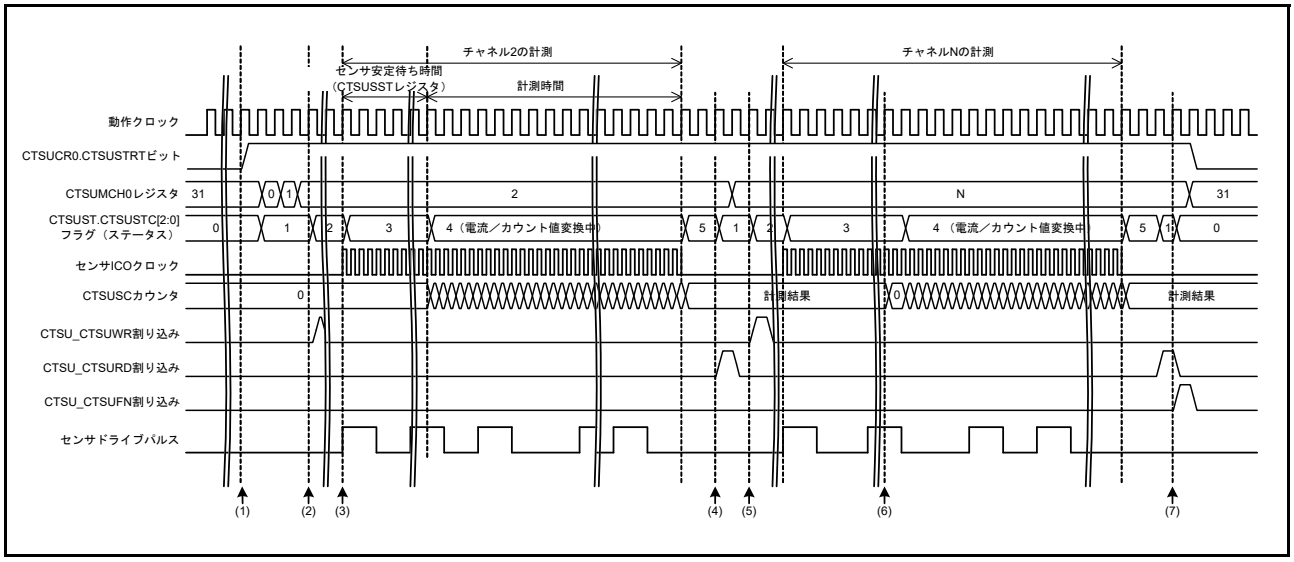


図 46.15　　自己容量マルチスキャンモードのタイミング（計測開始条件がソフトウェアトリガの場合）

図 46.15 に示した動作を以下で説明します。

1. 初期設定を実施後、CTSUCR0.CTSUSTRT ビットに 1 を書き込むと開始します。
2. あらかじめ設定された条件に従って計測対象チャネルが決定された後に、そのチャネルの設定要求（CTSU_CTSUWR）を出力します。
3. 計測チャネルの設定書き込み（CTSUSSC、CTSUSO0、および CTSUSO1 レジスタ）が完了するとセンサドライブパルスが出力され、センサ ICO クロックとリファレンス ICO クロックが動作します。
4. センサ安定待ち時間、計測時間が経過して計測が終了した後、計測結果読み出し要求（CTSU_CTSURD）を出力します。
5. 次に計測するチャネルが決定した後、関連するチャネルの設定要求（CTSU_CTSUWR）を出力します。
6. 安定待ち時間の経過、および前回の計測結果の読み出しによって、前回の計測結果をクリアし、計測を開始します。
7. すべてのチャネル計測が完了したら、計測終了割り込み（CTSU_CTSUFN）を出力して計測を終了（Status0 へ遷移）します。

表 46.8 に自己容量マルチスキャンモードのタッチ端子状態を示します。

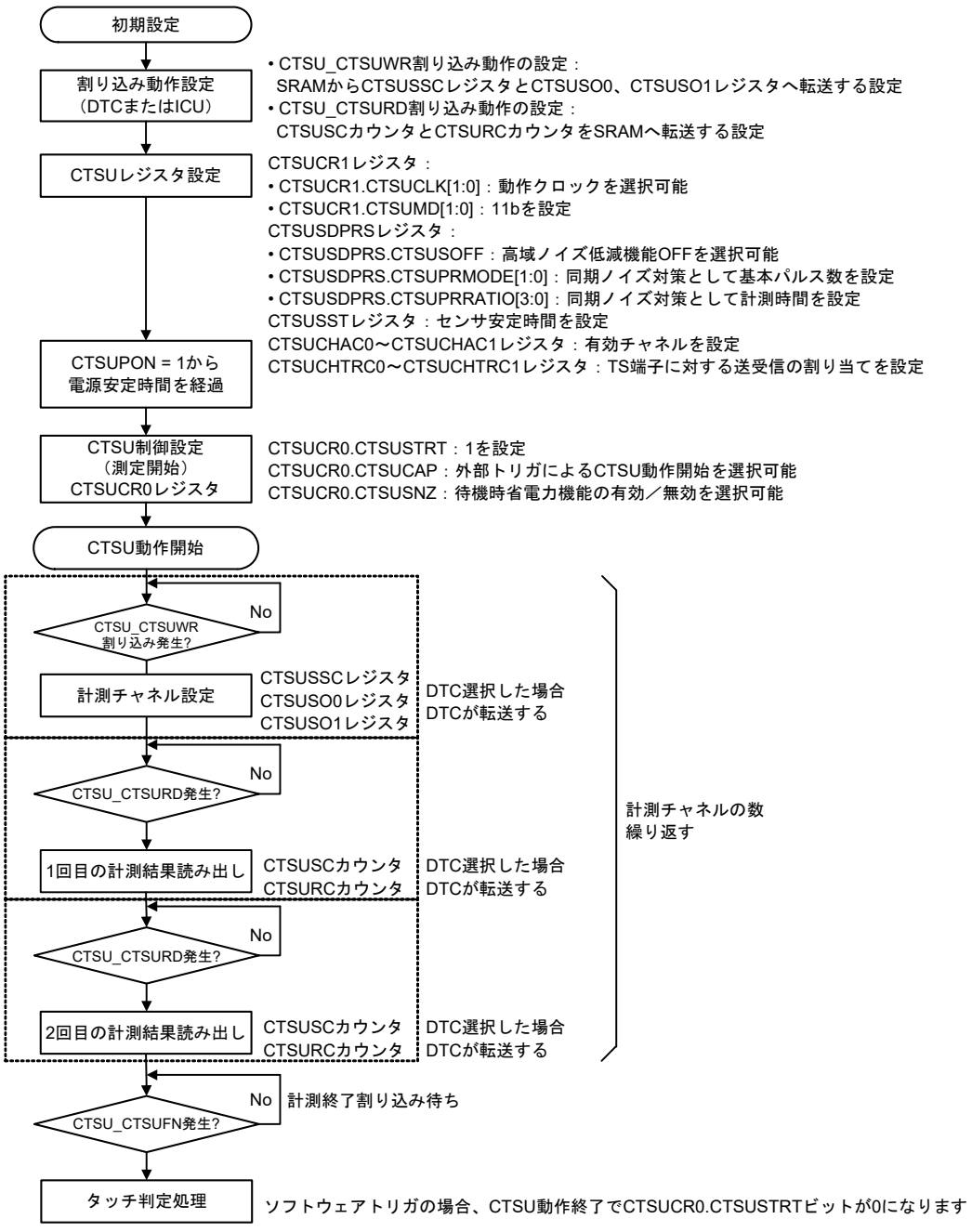
表 46.8　　自己容量マルチスキャンモードのタッチ端子状態

Status	タッチ端子	
	計測チャネル	非計測チャネル
0	Low	Low
1	Low	Low
2	Low	Low
3	パルス	Low
4	パルス	Low
5	Low	Low

46.3.2.5 相互容量フルスキャンモード動作

相互容量フルスキャンモードは、受信チャネルのセンサドライブパルスの High 期間に対して、計測対象の送信チャネルにエッジを印加して計測を行います。1 計測対象に対して立ち上がりエッジと立ち下がりエッジの 2 回の計測を実施します。この 2 回の計測データの差分からタッチ判定を行い、より高いタッチ感度を実現します。

CTSUCHTRC0 ～ CTSUCHTRC1 レジスタで送信用または受信用に設定され、CTSUCHAC0 ～ CTSUCHAC1 レジスタで計測対象に設定されたチャネルに対して、静電容量を順次計測します。図 46.16 にソフトウェアフローと動作例を、図 46.17 にタイミングを示します。



相互容量フルスキャンモードのチャネル計測順序

<設定>
- 相互容量フルスキャンモードを選択（CTSUCR1.CTSUMD[1:0] = 11b）
- 有効チャネルを1、3、5、6に設定（CTSUCHAC0.CTSUCHAC0[7:1] = 0110101b）
- 受信チャネルを1～3、送信チャネルを4～7に設定（CTSUCHTRC0.CTSUCHTRC0[7:1] = 1111000b）

		受信チャネル		
		チャネル3	チャネル2	チャネル1
送信チャネル	チャネル4			
	チャネル5	(3)		(1)
	チャネル6	(4)		(2)
	チャネル7			

図 46.16　　相互容量フルスキャンモードのソフトウェアフローと動作例

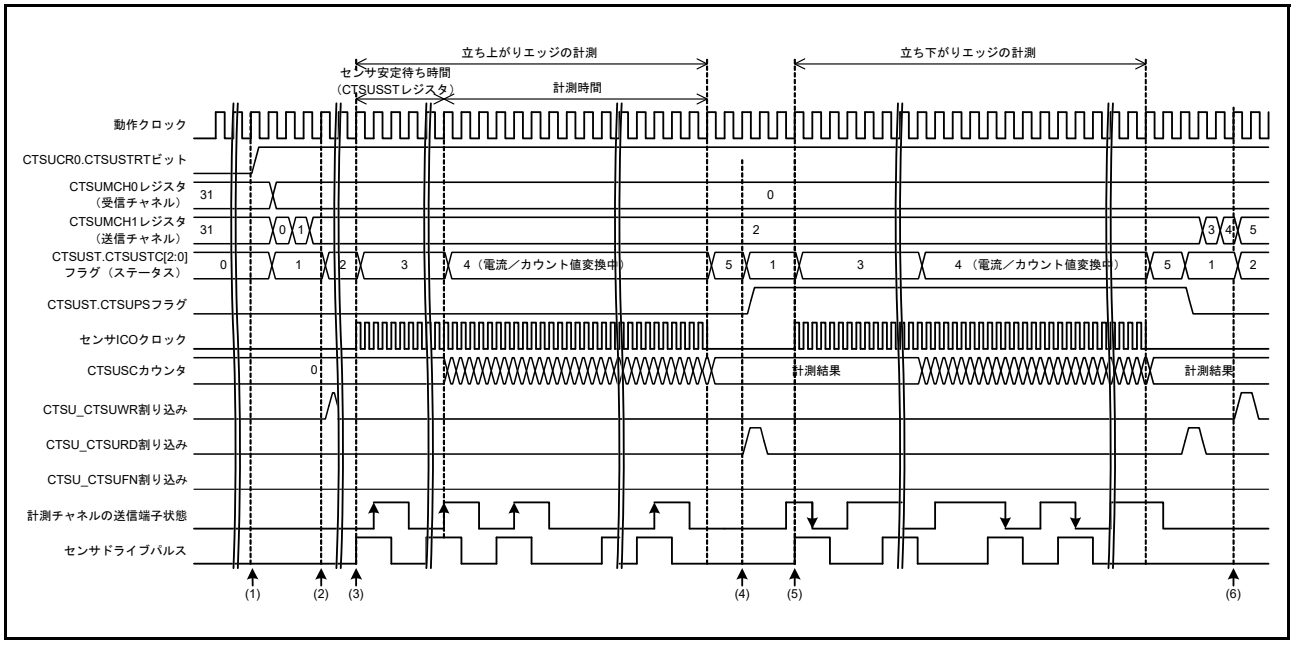


図 46.17　　相互容量フルスキャンモードのタイミング（計測開始条件がソフトウェアトリガの場合）

図 46.17 に示した動作を以下で説明します。

1. 初期設定を実施後、CTSUCR0.CTSUSTRT ビットに 1 を書き込むと開始します。
2. あらかじめ設定された条件に従って計測対象チャネルが決定された後に、そのチャネルの設定要求（CTSU_CTSUWR）を出力します。
3. 計測チャネルの設定書き込み（CTSUSSC、CTSUSO0、および CTSUSO1 レジスタ）が完了するとセンサドライブパルスが出力され、センサ ICO クロックとリファレンス ICO クロックが動作します。同時に、センサドライブパルスの High 期間に対して、立ち上がりエッジで検出されたパルスを計測チャネルの送信端子に出力します。
4. センサ安定待ち時間、計測時間が経過して計測が終了した後、計測結果読み出し要求（CTSU_CTSURD）を出力します。
5. 同一チャネルに対して、センサドライブパルスの High 期間に、立ち下がりエッジで検出されたパルスを出力して計測を行います。
6. 同一チャネルに対して 2 回の計測を行った後、次に計測するチャネルを決定し、同様の計測を行います。
7. すべてのチャネル計測が完了したら、計測終了割り込み（CTSU_CTSUFN）を出力して計測を終了（Status0 へ遷移）します。

なお、相互容量計測ステータスフラグ（CTSUST.CTSUPS ビット）は、Status5 から Status1 へ遷移するタイミングで変化します。

表 46.9 に相互容量フルスキャンモードのタッチ端子状態を示します。

表 46.9　相互容量フルスキャンモードのタッチ端子状態

Status	受信チャネルのタッチ端子		送信チャネルのタッチ端子		備考
	計測チャネル	非計測チャネル	計測チャネル	非計測チャネル	
0	Low	Low	Low	Low	-
1	Low	Low	Low/High	Low	-
2	Low	Low	Low	Low	-
3	パルス	Low	パルス	Low	位相パルスは、1回目の計測では受信チャネルと同相になり、2回目の計測では逆相になります。
4	パルス	Low	パルス	Low	-
5	Low	Low	Low	Low	-

46.3.3　複数モードに関わる共通事項

46.3.3.1　センサ安定待ち時間と計測時間

図 46.18 にセンサ安定待ちと計測のタイミングを示します。

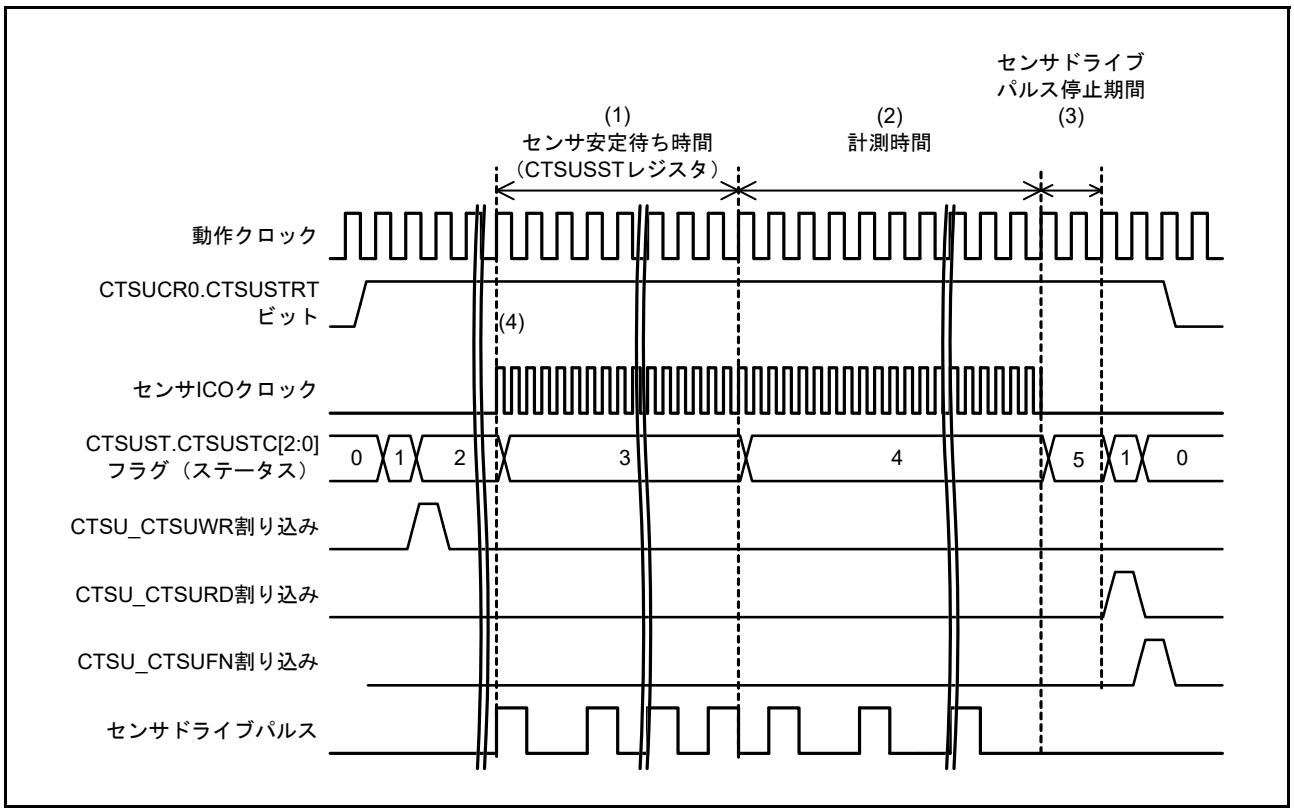


図 46.18　センサ安定待ちと計測のタイミング

図 46.18 に示した動作を以下で説明します。

1. CTSU_CTSUWR 割り込み要求に対して、CTSUSO1 レジスタへライトアクセスすることでセンサドライブパルスの出力を開始し、CTSUSST レジスタで設定した安定時間を待ちます。
2. センサ安定時間が経過し、かつ CTSUST.CTSUDTSR フラグが 0 にクリアされ、Status4 に遷移することによって計測を開始します。計測時間は、ベースクロックの周期と CTSUSDPRS.CTSUPRMODE[1:0] ビット、CTSUPRRATIO[3:0] ビット、CTSUSO0.CTSUSNUM[5:0] ビットの設定で決定します。計測時間が経過すると対応するチャネルの計測を終了します。
3. 計測時間経過後、動作クロック 2 サイクルで Status1 に遷移し、CTSU_CTSURD 割り込みが発生します。CTSUSC カウンタと CTSURC カウンタからデータを読み出してください。このとき、センサドライブパルスは Low 出力になります。設定した全チャネルの計測が完了すると、CTSUCR0.CTSUSTRT ビットは 0 にクリアされます。
4. センサ ICO クロックは、CTSUST.CTSUSTC[2:0] フラグが 011b（Status3）または 100b（Status4）となっている期間に発振します。

46.3.3.2　割り込み

CTSU は下記の割り込みに対応しています。

- チャネルごとの設定レジスタ書き込み要求割り込み（CTSU_CTSUWR）
- 測定データ転送要求割り込み（CTSU_CTSURD）
- 測定終了割り込み（CTSU_CTSUFN）

(1)　チャネルごとの設定レジスタ書き込み要求割り込み（CTSU_CTSUWR）

計測チャネルごとの設定データを SRAM 上に用意しておき、あらかじめ CTSU_CTSUWR 割り込みに対応した DTC/ICU の転送設定を行います。CTSU_CTSUWR 割り込みは Status1 から Status2 へ遷移したタイミングで出力します。選択したチャネルの設定データを SRAM から CTSUSSC、CTSUSO0、CTSUSO1 の各レジスタに書き込んでください（図 46.19）。CTSUSO1 レジスタへのライトアクセスにより次の Status への遷移が制御されるため、CTSUSO1 レジスタを必ず最後に設定してください。

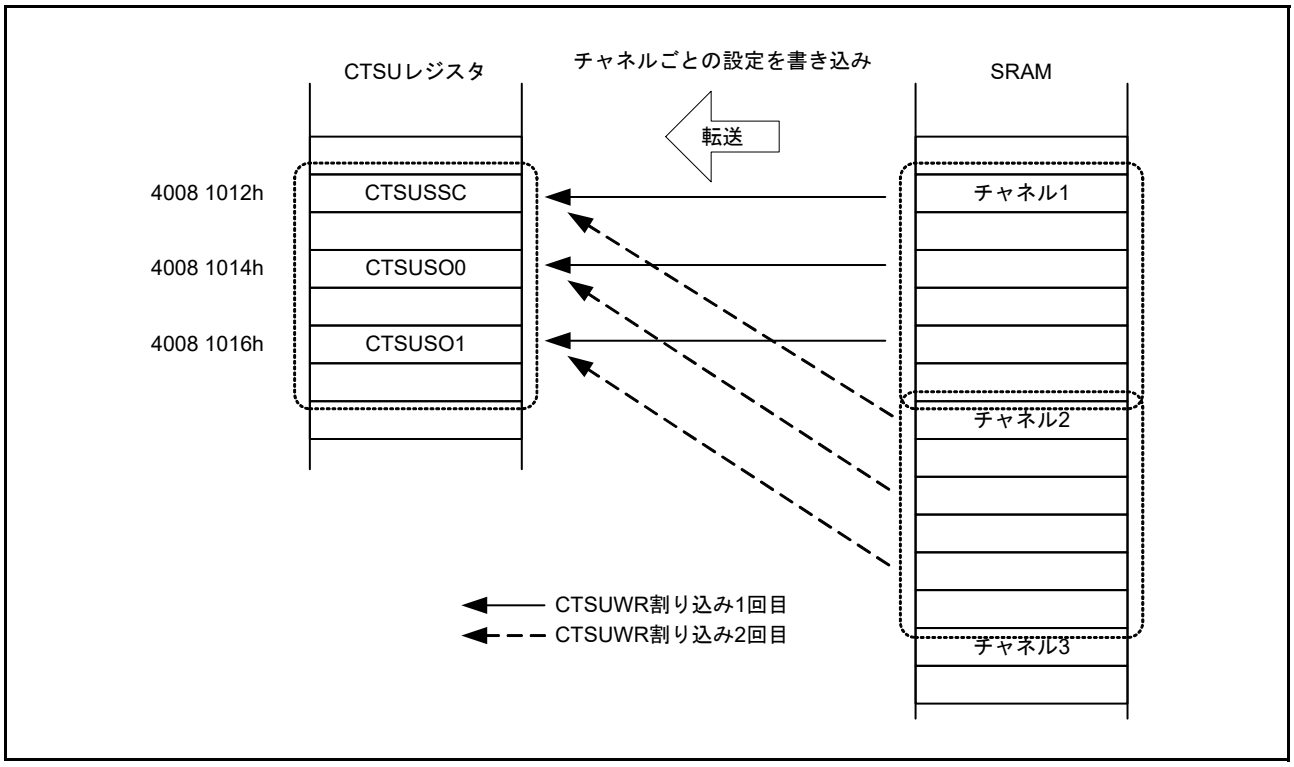


図 46.19　　CTSU_CTSUWR 割り込みを用いた DTC 転送動作例

設定するレジスタ（CTSUSSC、CTSUSO0、CTSUSO1 の各レジスタ）は、連続したアドレスに配置しています。CTSU_CTSUWR 割り込み発生では、以下のように動作を設定してください。

- 転送先アドレス：CTSUSSC レジスタのアドレス
- 転送先アドレスの処理：先頭バイトのアドレスは固定
- 転送元アドレス:SRAM 上に用意した設定の番号が最小のチャネルの CTSUSSC レジスタデータ格納アドレス
- 転送元アドレスの処理：2 バイトのデータを転送。先頭バイトのアドレスは前回の割り込み処理から継続
- 割り込み 1 回あたりの転送回数：3 回転送

(2)　測定データ転送要求割り込み（CTSU_CTSURD）

あらかじめ、CTSU_CTSURD 割り込みに対応した DTC/ICU の転送設定を行います。CTSU_CTSURD 割り込みは、Status5 から Status1 へ遷移するタイミングで出力します。計測結果を CTSUSC カウンタと CTSURC カウンタから読み出してください（図 46.20）。

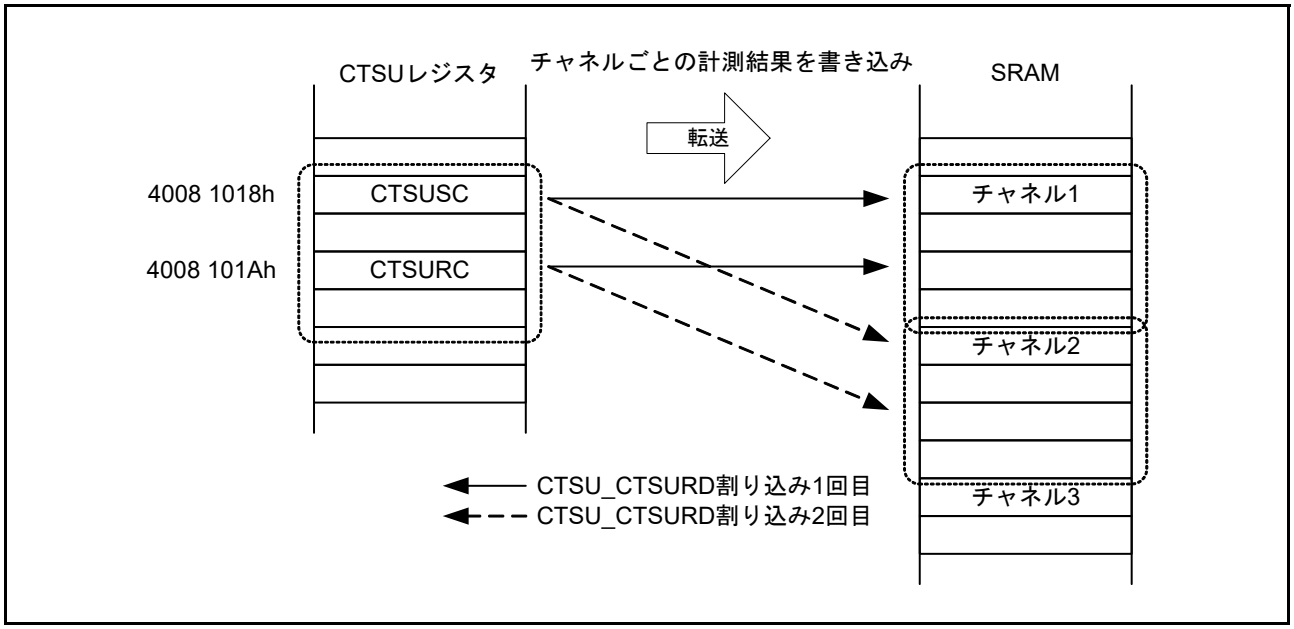


図 46.20　　CTSU_CTSURD 割り込みを用いた DTC 転送動作例

転送元である計測結果レジスタ（CTSUSC カウンタと CTSURC カウンタ）は、連続したアドレスに配置してあります。CTSU_CTSURD 割り込み発生では、以下のように動作を設定してください。

- 転送元アドレス：CTSUSC カウンタのアドレス
- 転送元アドレスの処理：先頭アドレスは固定
- 転送先アドレス：SRAM 上に用意した設定の番号が最小のチャネルの CTSUSC カウンタデータ格納アドレス
- 転送先アドレスの処理：2 バイトのデータを転送。先頭アドレスは前回の割り込み処理から継続
- 割り込み 1 回あたりの転送回数：2 回転送

(3)　測定終了割り込み（CTSU_CTSUFN）

すべてのチャネル計測が終了すると、Status1 から Status0 に遷移するタイミングで割り込みが発生します。ソフトウェアで、オーバーフローフラグ（CTSUST.CTSUSOVF と CTSUROVF）の確認を行い、計測結果を読み出して電極とのタッチの有無を判定します。割り込み要求の受付、禁止は割り込み制御部で行います。

46.4　使用上の注意事項

46.4.1　計測結果データ（CTSUSC カウンタ、CTSURC カウンタ）

計測中のリードアクセスは禁止です。アクセスした場合は、非同期のため正しくない値を読み出す場合があります。

46.4.2　ソフトウェアトリガに対する制限事項

CTSUCR1.CTSUCLK[1:0] ビットで 10b（PCLKB/4）を選択した場合、計測完了後に CTSUCR0.CTSUSTRT ビットへ 1 を書き込み計測を再開させるときは、割り込み発生から 3 サイクル以上待ってから書き込むようにしてください。

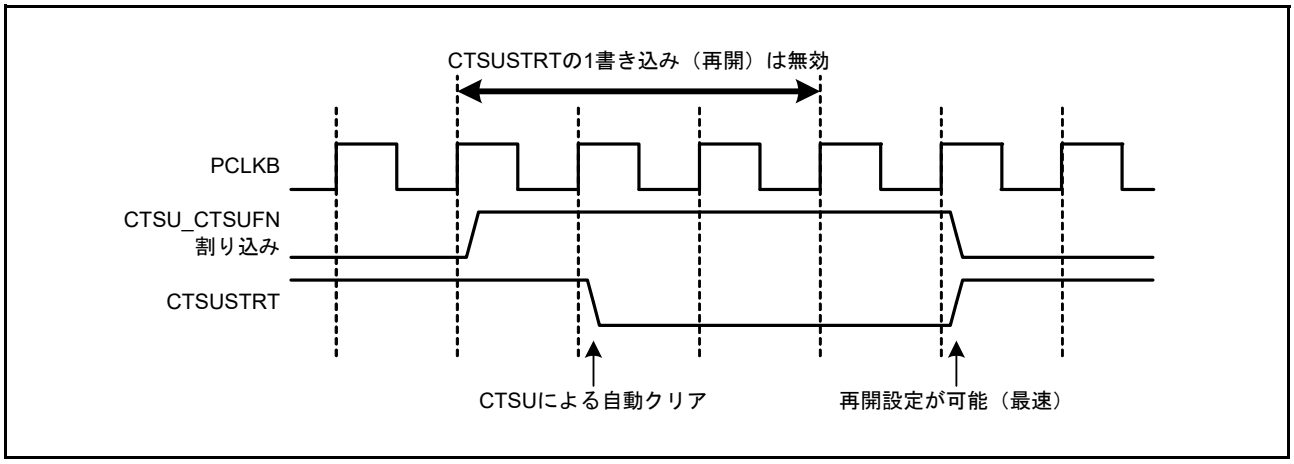


図 46.21　再開時の注意事項

46.4.3　外部トリガに対する制限事項

- 計測時間中に外部トリガが入力された場合、計測は開始されない。次の外部イベントは、CTSU_CTSUFN 割り込みが発生した動作クロックの 1 サイクル後から有効
- 外部トリガモードを終了する場合は、CTSUCR0.CTSUSTRT ビットの 0 と CTSUCR0.CTSUINIT ビットの 0 の同時書き込み（強制停止）で停止

46.4.4　強制終了に関する制限事項

動作中に強制停止させる場合は、CTSUCR0.CTSUSTRT ビットに 0、CTSUCR0.CTSUINIT ビットに 1 を同時に書き込んでください。動作が停止し、内部コントロールレジスタが初期化されます。

CTSUCR0.CTSUINIT ビットによる初期化では、内部計測状態の初期化に加え、以下のレジスタが初期化されます。

- CTSUMCH0 レジスタ
- CTSUMCH1 レジスタ
- CTSUST レジスタ
- CTSUSC カウンタ
- CTSURC カウンタ

強制停止した場合、内部状態によっては割り込み要求が発生することがあります。強制停止後、DTC/ICU の停止／無効処理も行ってください。搭載するシステムが何らかの要因で DTC 転送を停止する場合は、CTSU に対しても強制終了および初期化処理を行ってください。

46.4.5　TSCAP 端子

TSCAP 端子は、CTSU 内部電圧を一定に保つために、外部デカップリングキャパシタを必要とします。TSCAP 端子とキャパシタ間、およびキャパシタとグランド間の配線は、物理的に可能な限り短く幅広くしてください。

TSCAP 端子に接続されたキャパシタは、接続確立のためスイッチを ON（CTSUCR1.CTSUCSW ビット = 1）にする前に、I/O ポート制御により Low を出力させ、十分放電させてください。

46.4.6　計測動作時（CTSUCR0.CTSUSTRT ビット = 1）の制限事項

計測中（CTSUCR0.CTSUSTRT ビット = 1）には、システムの上位レイヤから「周辺クロックの停止」、「タッチ端子（TSn 端子、TSCAP 端子）に関わるポート設定の変更」、および「送信電源選択（CTSUCR0.CTSUTXVSEL）」を行わないでください。

これらの制限に違反する制御を設定した場合は、動作の強制停止（CTSUCR0.CTSUSTRT ビット = 0、CTSUCR0.CTSUINIT ビット = 1）後、CTSUCR1.CTSUPON ビットと CTSUCR1.CTSUCSW ビットに 0 を同時に書き込み、CTSUCR0.CTSUSNZ ビットを 0 にしてください。次に、図 46.9 の初期設定フローから再開してください。

47. データ演算回路（DOC）

47.1 概要

データ演算回路（DOC）は、16 ビットデータの比較、加算、および減算を行う機能です。選択した条件に該当する場合、16 ビットのデータが比較されて、割り込みが発生します。

表 47.1 に DOC の仕様を、図 47.1 にブロック図を示します。

表 47.1 DOCの仕様

項目	内容
データ演算機能	16ビットデータの比較、加算、または減算
モジュール停止機能	モジュール停止状態に設定して消費電力を削減
割り込みとイベントリンク機能（DOC_DOPCI）	割り込みの発生条件 • データ比較の結果が一致または不一致のとき • データ加算の結果がFFFFhより大きくなったとき • データ減算の結果が0000hより小さくなったとき

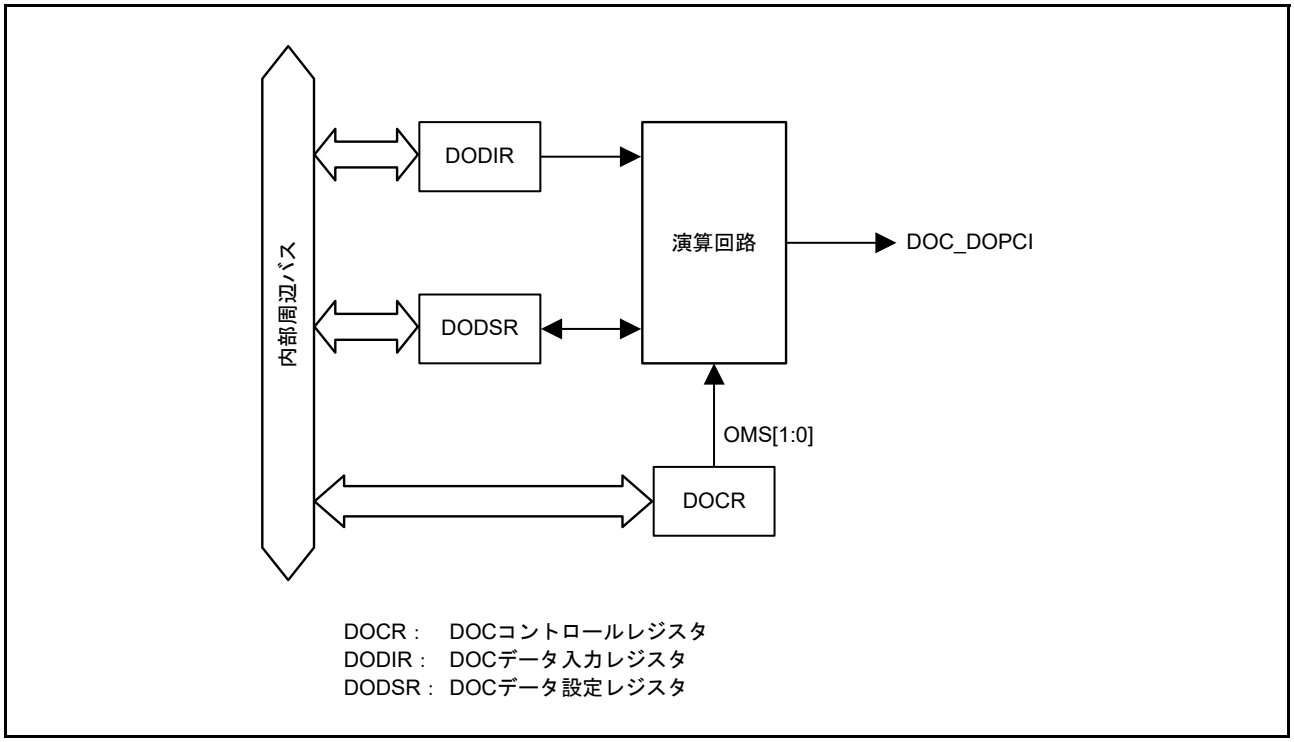


図 47.1 DOC ブロック図

47.2　レジスタの説明

47.2.1　DOC コントロールレジスタ（DOCR）

アドレス　DOC.DOCR 4005 4100h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	DOPCFCL	DOPCF	—	—	DCSEL	OMS[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	OMS[1:0]	動作モード選択	b1　b0 0　0：データ比較モード 0　1：データ加算モード 1　0：データ減算モード 1　1：設定禁止	R/W
b2	DCSEL（注1）	検出条件選択	0：データの不一致検出時にDOPCFを設定 1：データの一致検出時にDOPCFを設定	R/W
b4-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b5	DOPCF	データ演算回路フラグ	演算結果を示します。	R
b6	DOPCFCL	DOPCFクリア	0：DOPCFフラグ状態を保持 1：DOPCFフラグをクリア	R/W
b7	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

注 1.　データ比較モード選択時のみ有効

OMS[1:0] ビット（動作モード選択）

DOC の動作モードを選択します。

DCSEL ビット（検出条件選択）

データ比較モード時の検出条件を選択します。データ比較モード選択時のみ有効です。

DOPCF フラグ（データ演算回路フラグ）

動作結果を示します。

［1 になる条件］

- DCSEL ビットで選択した条件になったとき
- データ加算の結果が FFFFh より大きくなったとき
- データ減算の結果が 0000h より小さくなったとき

［0 になる条件］

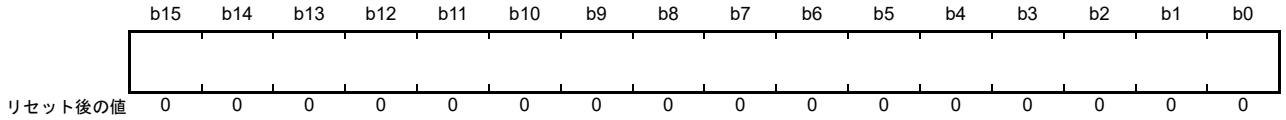
- DOPCFCL ビットに 1 を書き込んだとき

DOPCFCL ビット（DOPCF クリア）

本ビットを 1 にすると DOPCF フラグをクリアします。読むと 0 が読めます。

47.2.2 DOC データインプットレジスタ（DODIR）

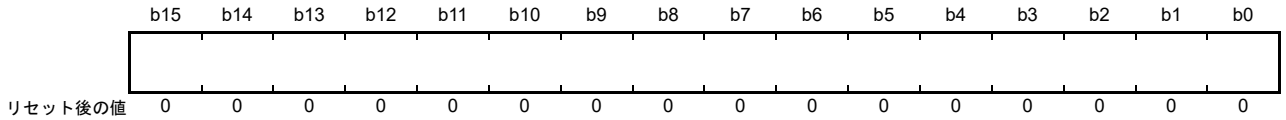
アドレス DOC.DODIR 4005 4102h



DODIR は、演算対象の 16 ビットのデータを格納する 16 ビットの読み出し／書き込みレジスタです。

47.2.3 DOC データ設定レジスタ（DODSR）

アドレス DOC.DODSR 4005 4104h



DODSR は、データ比較モードで基準として使用される 16 ビットのデータを格納する 16 ビットの読み出し／書き込みレジスタです。また、データ加算モードおよびデータ減算モードでは、演算結果を格納します。

47.3　動作説明

47.3.1　データ比較モード

図 47.2 に、データ比較モードの DOC 動作例を示します。以下は DCSEL = 0（データ比較の結果、不一致を検出）設定時の動作例です。

1. DOCR.OMS[1:0] ビットに 00b を書き込み、データ比較モードにします。
2. DODSR レジスタに基準となる 16 ビットのデータを設定します。
3. DODIR レジスタに比較する 16 ビットのデータを書き込みます。
4. 比較するデータの書き込みが完了するまで、続けて 16 ビットのデータを DODIR レジスタに書き込みます。
5. DODIR レジスタに書き込まれたデータが DODSR レジスタ内のデータと一致しなかったとき（注 1）、DOCR.DOPCF フラグが 1 になります。

注 1.　DOCR.DCSEL = 0 の場合

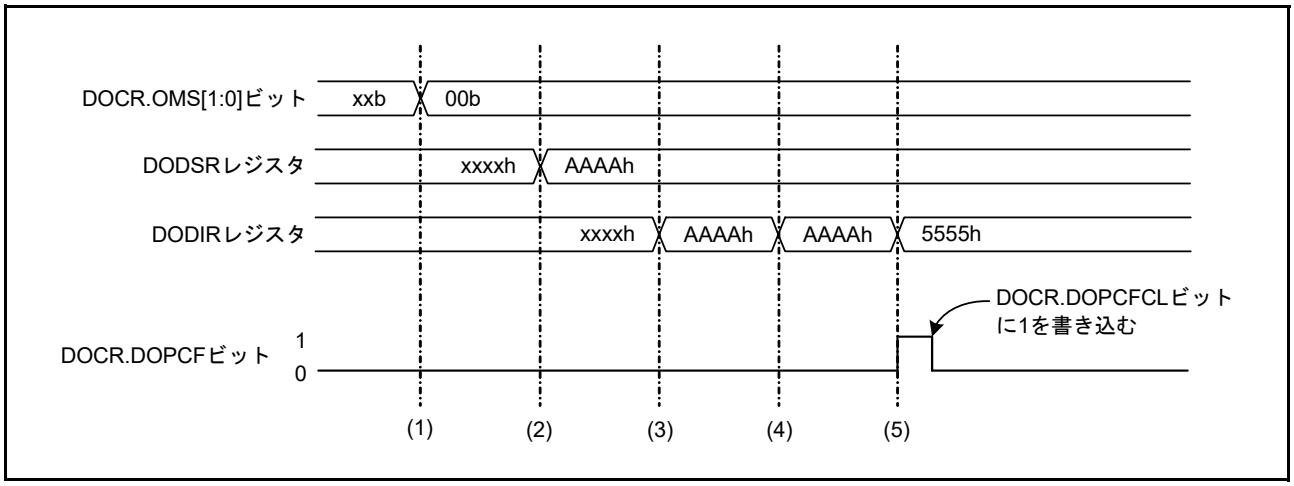


図 47.2　　データ比較モードの動作例

47.3.2　データ加算モード

図 47.3 にデータ加算モードの DOC 動作例を示します。設定方法は以下のとおりです。

1. DOCR.OMS[1:0] ビットに 01b を書き込むと、データ加算モードになります。
2. DODSR レジスタに初期値として 16 ビットのデータを設定します。
3. DODIR レジスタに加算する 16 ビットのデータを書き込みます。演算結果は DODSR レジスタに格納されます。
4. 加算するデータの書き込みが完了するまで、続けて 16 ビットのデータを DODIR レジスタに書き込みます。
5. 演算結果が FFFFh よりも大きくなったとき DOCR.DOPCF フラグが 1 になります。

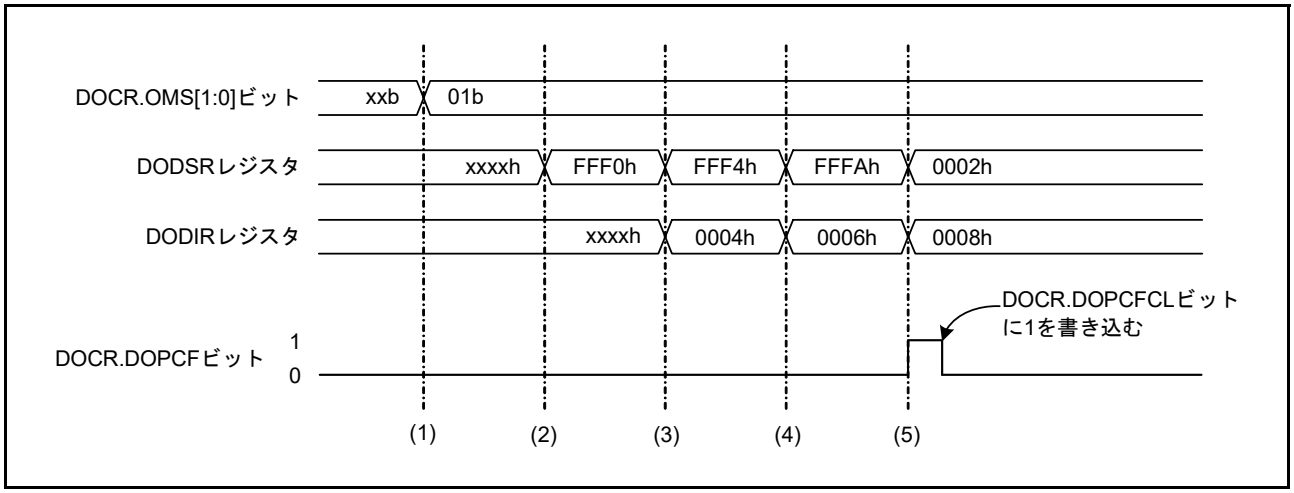


図 47.3　　データ加算モードの動作例

47.3.3　　データ減算モード

図 47.4 にデータ減算モードの DOC 動作例を示します。設定方法は以下のとおりです。

1. DOCR.OMS[1:0] ビットに 10b を書き込むと、データ減算モードになります。
2. DODSR レジスタに初期値として 16 ビットのデータを設定します。
3. DODIR レジスタに減算する 16 ビットのデータを書き込みます。演算結果は DODSR レジスタに格納されます。
4. 減算するデータの書き込みが完了するまで、続けて 16 ビットのデータを DODIR レジスタに書き込みます。
5. 演算結果が 0000h よりも小さくなったとき DOCR.DOPCF フラグが 1 になります。

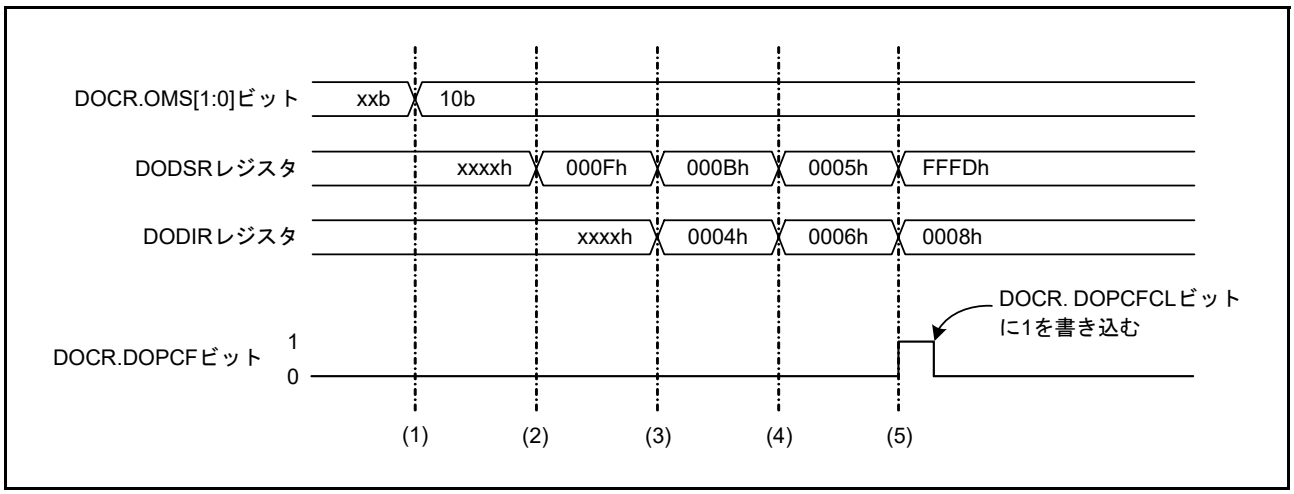


図 47.4　　データ減算モードの動作例

47.4 イベントリンクコントローラ（ELC）への割り込み要求と出力

DOC は以下の条件で ELC にイベント信号を出力します。

- データ比較の結果が一致または不一致のとき
- データの加算結果が FFFFh より大きいとき
- データの減算結果が 0000h より小さいとき

この信号を使用して、あらかじめ設定していたモジュールの動作を開始させることができます。また、割り込み要求として使用することもできます。イベント信号が発生すると、データ演算回路フラグ（DOCR.DOPCF）が 1 になります。

47.5 使用上の注意事項

47.5.1 モジュールストップ状態の設定

モジュールストップコントロールレジスタ C（MSTPCRC）により、DOC 動作の禁止／許可を設定することが可能です。DOC は、リセット後の初期状態では動作が停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は、「11. 低消費電力モード」を参照してください。

48. SRAM

48.1 概要

本 MCU は、パリティビットチェック機能または誤り訂正コード（ECC）を備えたオンチップ高速 SRAM モジュールを搭載しています。ECC の対象は SRAM0 の最初の 32KB 領域です。パリティチェックは、その他の領域で実行されます。

SRAM の仕様を表 48.1 に示します。

表 48.1 SRAMの仕様

項目	内容（ECCなしの場合）	内容（ECCありの場合）	内容（SRAMHSの場合）
SRAM容量	SRAM0：96KB	SRAM0（ECC領域）：32KB	SRAMHS：128KB
SRAMアドレス（注2）	SRAM0：2000 8000h～2001 FFFFh	SRAM0（ECC領域）：2000 0000h～2000 7FFFh	SRAMHS：1FFE 0000h～1FFF FFFFh
アクセス（注1）	リードサイクルにウェイトステートがデフォルトで挿入されています。ICLK周波数が60MHzより高い（最高120MHz)場合、ウェイトステートが必要になります。ICLK周波数が60MHz以下の場合、ウェイトステートは必要ありません。詳細は、48.4 使用上の注意事項を参照してください。	リードサイクルにウェイトステートがデフォルトで挿入されています。ICLK周波数が60MHzより高い（最高120MHz)場合、ウェイトステートが必要になります。ICLK周波数が60MHz以下の場合、ウェイトステートは必要ありません。詳細は、48.4 使用上の注意事項を参照してください。	SRAMHSへのアクセスは、常にウェイトステートなしになります。
データ保持	ディープソフトウェアスタンバイモード時のデータ保持機能なし		
モジュールストップ機能	モジュールストップ状態に設定して消費電力を削減		
パリティ	偶数パリティ（データ：8ビット、パリティ：1ビット）	パリティなし	偶数パリティ（データ：8ビット、パリティ：1ビット）
エラーチェック機能	偶数パリティエラーチェック	2ビット以下の誤り検出	偶数パリティエラーチェック

注 1. 詳細は、48.3.7 アクセスサイクルを参照してください。

注 2. Cortex®-M4 プロセッサは、Armv7 のアラインされていないアクセスに対応しています。本製品において、SRAMHS と SRAM0 は互いに接していますが、アクセスに関しては境界で隔てられています。したがって、SRAMHS と SRAM0 がメモリ空間の連続領域として使用されていても、この境界を越えてアクセスしないでください。意図しないデータにアクセスする恐れがあります。
詳細は、*ARM® Cortex-M4 Processor Technical Reference Manual* を参照してください。

48.2 レジスタの説明

48.2.1 SRAM パリティエラー検出後動作レジスタ（PARIOAD）

アドレス SRAM.PARIOAD 4000 2000h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	OAD
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	OAD	検出後の動作	1：リセット 0：ノンマスカブル割り込み	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

PARIOAD レジスタは、パリティエラー検出時の動作を制御します。本レジスタへの書き込みは SRAM プロテクトレジスタ（SRAMPRCR）によって保護されています。本レジスタに書き込む前に、必ず SRAMPRCR レジスタの SRAMPRCR ビットを設定してください。SRAM アクセス中は、PARIOAD レジスタへの書き込みは行わないでください。

OAD ビット（検出後の動作）

パリティエラーが検出された場合、リセットまたはノンマスカブル割り込みのどちらを発生させるか指定します。PARIOAD.OAD ビットは SRAM0（ECC なし）、SRAMHS、スタンバイ SRAM で共有されます。

48.2.2 SRAM プロテクトレジスタ（SRAMPRCR）

アドレス SRAM.SRAMPRCR 4000 2004h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	KW[6:0]							SRAMPRCR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SRAMPRCR	レジスタ書き込み制御	0：保護対象のレジスタへの書き込みを禁止 1：保護対象のレジスタへの書き込みを許可	R/W
b7-b1	KW[6:0]	書き込みキーコード	SRAMPRCR ビットへの書き込みを許可または禁止します。	R/W

SRAMPRCR ビット（レジスタ書き込み制御）

SRAMWTSC レジスタおよび PARIOAD レジスタのライトモードを制御します。本ビットが 1 のとき、SRAMWTSC レジスタおよび PARIOAD レジスタへの書き込みが許可されます。本ビットに書き込む場合、同時に KW[6:0] ビットに 78h を書き込んでください。

KW[6:0] ビット（書き込みキーコード）

SRAMPRCR ビットへの書き込みを許可または禁止します。SRAMPRCR ビットに書き込む場合、同時に KW[6:0] ビットに 78h を書き込んでください。それ以外の値を KW[6:0] に書き込むと、SRAMPRCR ビットは更新されません。KW[6:0] は読むと常に 00h が読み出されます。

48.2.3 SRAM ウェイトステートコントロールレジスタ（SRAMWTSC）

アドレス SRAM.SRAMWTSC 4000 2008h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	SRAM0WTEN	SRAM0ERDWTEN	—
リセット後の値	0	0	0	0	1	1	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W
b1	SRAM0ERDWTEN	SRAM0（ECC領域）リードウェイト許可	1：SRAM0（ECC領域）へのリードアクセスサイクルにウェイトステートを追加する 0：SRAM0（ECC領域）へのリードアクセスサイクルにウェイトステートを追加しない	R/W
b2	SRAM0WTEN	SRAM0ウェイト許可	1：SRAM0へのリードアクセスサイクルにウェイトステートを追加する 0：SRAM0へのリードアクセスサイクルにウェイトステートを追加しない	R/W
b3	—	予約ビット	読むと1が読めます。書く場合、1としてください。	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

SRAMWTSC レジスタは、SRAM モジュールのウェイトステートを制御します。本レジスタへの書き込みは SRAM プロテクトレジスタ（SRAMPRCR）によって保護されています。本レジスタに書き込む前に、必ず SRAMPRCR レジスタの SRAMPRCR ビットを書き込み許可に設定してください。SRAM アクセス中は、SRAMWTSC レジスタへの書き込みは行わないでください。

SRAM0ERDWTEN ビット（SRAM0（ECC 領域）リードウェイト許可）

SRAM0 の ECC 領域から読み出すためのウェイトサイクルを許可します。1 にすると、SRAM0 の ECC 領域のリードサイクルにウェイトサイクルが 1 サイクル挿入されます。リードアクセス周波数が 60MHz より高い場合、このウェイトサイクルを 1 に設定してください。

SRAM0WTEN ビット（SRAM0 ウェイト許可）

SRAM0 から読み出すためのウェイトサイクルを許可します。1 にすると、SRAM0 のリードサイクルにウェイトサイクルが 1 サイクル挿入されます。リードアクセス周波数が 60MHz より高い場合、このウェイトサイクルを 1 に設定してください。

48.2.4 ECC 動作モードコントロールレジスタ（ECCMODE）

アドレス SRAM.ECCMODE 4000 20C0h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	ECCMOD[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	ECCMOD[1:0]	ECC 動作モード選択	b1 b0 0 0 : ECC 機能は無効 0 1 : 設定禁止 1 0 : ECC 機能は有効／エラーチェックなし 1 1 : ECC 機能は有効／エラーチェックあり	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

ECCMODE レジスタは ECC の動作モードを設定するレジスタです。本レジスタへの書き込みは ECC プロテクトレジスタ（ECCPRCR）によって保護されています。本レジスタに書き込む前に、必ず ECCPRCR レジスタの ECCPRCR ビットを書き込み許可に設定してください。SRAM アクセス中は、ECCMODE レジスタへの書き込みは行わないでください。

ECCMOD[1:0] ビット（ECC 動作モード選択）

SRAM0 の ECC 領域へのアクセスモードを設定します。

48.2.5 ECC 2 ビットエラーステータスレジスタ（ECC2STS）

アドレス SRAM.ECC2STS 4000 20C1h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	ECC2ERR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ECC2ERR	ECC 2 ビットエラーステータス	0 : ECC 2 ビットエラー発生なし 1 : ECC 2 ビットエラー発生	R(/W) （注 1）
b7-b1	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

注 1. ビットをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。

ECC2ERR ビット（ECC 2 ビットエラーステータス）

SRAM の ECC 領域で ECC 2 ビットエラーが発生したかどうかを示します。ECC 動作が有効で誤り訂正が選択されている場合、2 ビットエラーが検出されると本ビットが 1 になります。SRAM エラー信号もアサートされます。ECC2ERR ビットに 0 を書き込むと、ECC 2 ビットエラーによってトリガされた SRAM エラー信号がネゲートされます。

SRAM エラーでは、ECCOAD レジスタでノンマスカブル割り込みまたはリセットを指定できます。本レジスタに 0 を書き込む間、SRAM の ECC 領域にはアクセスしないでください。

48.2.6 ECC 1 ビットエラー情報更新イネーブルレジスタ（ECC1STSEN）

アドレス SRAM.ECC1STSEN 4000 20C2h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	E1STSEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	E1STSEN	ECC 1 ビットエラー情報更新許可	0：ECC 1 ビットエラー情報の更新禁止 1：ECC 1 ビットエラー情報の更新許可	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

ECC1STSEN レジスタは、SRAM（ECC 領域）の ECC 1 ビットエラー発生時に、ECC 1 ビットエラーステータスレジスタ（ECC1STS）の更新を許可／禁止します。本レジスタへの書き込みは ECC プロテクトレジスタ（ECCPRCR）によって保護されています。本ビットへ書き込む前に、ECCPRCR レジスタの ECCPRCR ビットを 1 にして、ライトプロテクション機能を無効にしてください。

E1STSEN ビット（ECC 1 ビットエラー情報更新許可）

SRAM の ECC 領域における 1 ビットエラー発生時に、SRAM（ECC 領域）1 ビットエラーステータスレジスタ（ECC1STS）の更新を許可／禁止します。本レジスタは、割り込みまたはリセットマスクとしても機能します。

48.2.7 ECC 1 ビットエラーステータスレジスタ（ECC1STS）

アドレス SRAM.ECC1STS 4000 20C3h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	ECC1ERR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ECC1ERR	ECC 1 ビットエラーステータス	0：ECC 1 ビットエラー発生なし 1：ECC 1 ビットエラー発生	R(/W) （注 1）
b7-b1	—	予約ビット	読むと 0 が読めます。書く場合、0 としてください。	R/W

注 1. ビットをクリアするための 0 の書き込みのみ可能です。

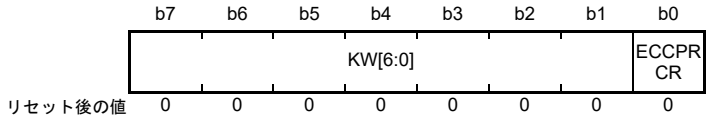
ECC1ERR ビット（ECC 1 ビットエラーステータス）

SRAM の ECC 領域で ECC 1 ビットエラーが発生したかどうかを示します。ECC 動作が有効で、誤り訂正が選択されており、1 ビットエラー情報の更新が許可されている場合、1 ビットエラーが検出されると 1 になります。SRAM エラー信号もアサートされます。ECC1ERR ビットに 0 を書き込むと、ECC 1 ビットエラーによってトリガされた SRAM エラー信号がネゲートされます。

SRAM エラーには、ECCOAD レジスタでノンマスカブル割り込みまたはリセットを指定できます。本レジスタに 0 を書き込む間、SRAM の ECC 領域にはアクセスしないでください。

48.2.8 ECC プロテクトレジスタ（ECCPRCR）

アドレス SRAM.ECCPRCR 4000 20C4h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ECCPRCR	レジスタ書き込み制御	0：保護対象のレジスタへの書き込みを禁止 1：保護対象のレジスタへの書き込みを許可	R/W
b7-b1	KW[6:0]	書き込みキーコード	ECCPRCR ビットへの書き込みを許可または禁止します。	R/W

ECCPRCR ビット（レジスタ書き込み制御）

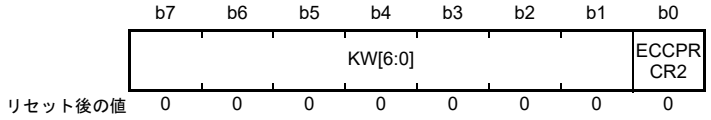
ECCMODE レジスタ、ECC1STSEN レジスタ、ECCOAD レジスタのライトモードを制御します。本ビットが 1 のとき、ECCMODE レジスタ、ECC1STSEN レジスタ、ECCOAD レジスタへの書き込みが許可されます。本ビットに書き込む場合、同時に KW[6:0] に 78h を書き込んでください。

KW[6:0] ビット（書き込みキーコード）

ECCPRCR ビットへの書き込みを許可または禁止します。ECCPRCR ビットに書き込む場合、同時に KW[6:0] ビットに 78h を書き込んでください。それ以外の値を KW[6:0] に書き込むと、ECCPRCR ビットは更新されません。KW[6:0] は読むと常に 00h が読み出されます。

48.2.9 ECC プロテクトレジスタ 2（ECCPRCR2）

アドレス SRAM.ECCPRCR2 4000 20D0h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ECCPRCR2	レジスタ書き込み制御	0：保護対象のレジスタへの書き込みを禁止 1：保護対象のレジスタへの書き込みを許可	R/W
b7-b1	KW[6:0]	書き込みキーコード	ECCPRCR2 ビットへの書き込みを許可または禁止します。	R/W

ECCPRCR2 ビット（レジスタ書き込み制御）

ECCETST レジスタのライトモードを制御します。本ビットが 1 のとき、ECCETST レジスタへの書き込みが許可されます。本ビットに書き込む場合、同時に KW2[6:0] ビットに 78h を書き込んでください。

KW[6:0] ビット（書き込みキーコード）

ECCPRCR2 ビットへの書き込みを許可または禁止します。本ビットに書き込む場合、同時に KW2[6:0] に 78h を書き込んでください。それ以外の値を KW2[6:0] に書き込むと、ECCPRCR2 ビットは更新されません。KW2[6:0] ビットは読むと常に 00h が読み出されます。

48.2.10 ECC テストコントロールレジスタ（ECCETST）

アドレス SRAM.ECCETST 4000 20D4h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	TSTBYP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TSTBYP	ECCバイパス選択	0：ECCバイパス無効 1：ECCバイパス有効	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

本レジスタへの書き込みは ECC プロテクトレジスタ 2（ECCPRCR2）によって保護されています。本ビットへ書き込む前に、ECCPRCR2 レジスタの ECCPRCR2 ビットを 1（ライトプロテクション機能が無効）にしてください。SRAM アクセス中は ECCETST レジスタへの書き込みは行わないでください。

TSTBYP ビット（ECC バイパス選択）

ECC 機能をバイパスして、ECC コードへの直接アクセスを許可します。ECC バイパス機能は、ECCMODE.ECCMOD[1:0] ビットを 00b にします。ECC は、32 ビットデータと同じアドレスを使用して、32 ビット単位でアクセスする必要があります。ECC コードは 32 ビットデータの下位 7 ビットに割り当てられています。このとき、ライトデータの上位 25 ビットは無視されます。リードデータの上位 25 ビットは不定です。

注 . ECC テストの詳細については、48.3.4 ECC デコーダのテスト方法を参照してください。

48.2.11 SRAM ECC エラー検出後動作レジスタ（ECCOAD）

アドレス SRAM.ECCOAD 4000 20D8h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	OAD
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	OAD	検出後の動作	1：リセット 0：ノンマスカブル割り込み	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。書く場合、0としてください。	R/W

ECCOAD レジスタは、ECC エラー検出時の動作を制御します。本レジスタへの書き込みは ECC プロテクトレジスタ（ECCPRCR）によって保護されています。本レジスタに書き込む前に、ECCPRCR レジスタの ECCPRCR ビットを 1 にしてください。SRAM アクセス中は ECCOAD レジスタへの書き込みは行わないでください。

OAD ビット（検出後の動作）

ECC エラーが検出された場合、リセットまたはノンマスカブル割り込みのどちらを発生させるか指定します。ECCOAD.OAD ビットは、SRAM（ECC 領域）で使用されます。

48.3 動作説明

48.3.1 低消費電力機能

モジュールストップコントロールレジスタ A（MSTPCRA）の設定により、SRAM へのクロック信号の供給を停止することで、消費電力を低減できます。各モジュールの制御ビットは以下のとおりです。

- MSTPCRA.MSTPA0 ビットと MSTPCRA.MSTPA6 ビットの両方を 1 にすると、SRAM0 へのクロック信号の供給が停止（注 1）
- MSTPCRA.MSTPA5 ビットを 1 にすると、SRAMHS へのクロック信号の供給が停止
- MSTPCRA.MSTPA7 ビットを 1 にすると、スタンバイ SRAM へのクロック信号の供給が停止

クロック信号の供給が停止すると、SRAM はモジュールストップ状態になります。リセット後は、SRAM は動作します。

モジュールストップ状態では SRAM にアクセスできません。SRAM アクセス中は、モジュールストップ状態に遷移しないでください。MSTPCRA レジスタの詳細については、「11. 低消費電力モード」の章を参照してください。

注 1. MSTPCRA.MSTPA0 ビットおよび MSTPCRA.MSTPA6 ビットは、同じ設定にしてください。

48.3.2 ECC 機能

ECC 機能は、ECCMODE レジスタの設定によって、有効または無効に設定可能です。デフォルトでは、ECC 機能は無効で、ECC チェックのタイプは SEC-DED（Single-Error-Correction/Double-Error-Detection：単一誤り訂正 / 二重誤り検出）です。

ECC 機能が有効な場合、書き込み時は、32 ビットのデータに 7 ビットのチェックビットが付与されます。読み出し時は、SRAM（ECC 領域）から 39 ビットデータ（32 ビットのデータと 7 ビットのチェックビット）が読み出されます。

ECC 機能とエラーチェックの両方が有効の場合、1 ビットエラーが発生すると誤り訂正が実行され、ECC1STSEN.E1STSEN ビットが 1 のときは ECC1STS.ECC1ERR ビットが 1 になります。2 ビットエラーが発生すると、誤りが検出され（誤り訂正なし）、ECC2STS.ECC2ERR ビットが 1 になります。

「ECC 有効／エラーチェックなし」の場合、1 ビットエラーが発生すると誤り訂正が実行されますが、ECC1STSEN.E1STSEN ビットが 1 でも ECC1STS.ECC1ERR ビットは更新されません。2 ビットエラーが発生すると、誤りが検出されますが ECC2STS.ECC2ERR ビットは更新されず、誤り訂正も実行されません。

ECC 機能が無効の場合、1 ビットエラーまたは 2 ビットエラーが発生しても、誤り訂正と誤り検出は実行されません。そのため、ECC1ERR ビットと ECC2ERR ビットは更新されません。

エラーを検出した場所は確認できません。そのため、エラー発生後は SRAM に 32 ビットデータを書き込んで、すべてのデータを更新してください。

電源投入後およびディープソフトウェアスタンバイモード解除後、SRAM データは不定であるため、「ECC 有効／エラーチェックあり」モードで SRAM にアクセスを行うと ECC エラーが発生します。この問題を避けるには、ECC 機能を使用する前に、SRAM で使用する領域に 32 ビットデータを書き込んでください。

ライトアクセスの後にリードアクセスが続いて発生すると、リードアクセスが優先的に実行されます。したがって、初期化中は、ライトアクセスの後に続けてリードアクセスを行わないでください。

48.3.3 ECC エラー発生

SRAM（ECC 領域）が「ECC 有効／エラーチェックあり」モードのとき、ECC 2 ビットエラーを示す ECC2STS.ECC2ERR ビット、または ECC 1 ビットエラーを示す ECC1STS.ECC1ERR ビットのいずれかが 1 になると、ECC エラーが発生します。

ECC エラーは、ICLK のパルス幅で出力されます。ECC 1 ビットエラーをマスクする場合は、ECC1STSEN.E1STSEN ビットを 0 にして、ECC1ERR ビットの更新を禁止してください。ECC 無効時、または「ECC 有効／エラーチェックなし」の場合、ECC エラーは発生しません。

ECC エラーは、ECCOAD レジスタの指定により、ノンマスカブル割り込みまたはリセットのいずれかにすることができます。ECCOAD.OAD ビットが 1 のとき、ECC エラーはリセット機能に出力されます。ECCOAD.OAD ビットが 0 のとき、ECC エラー割り込みはノンマスカブル割り込みとして ICU に出力されます。

48.3.4 ECC デコーダのテスト方法

図 48.1 に ECC デコーダのテスト方法を示します。

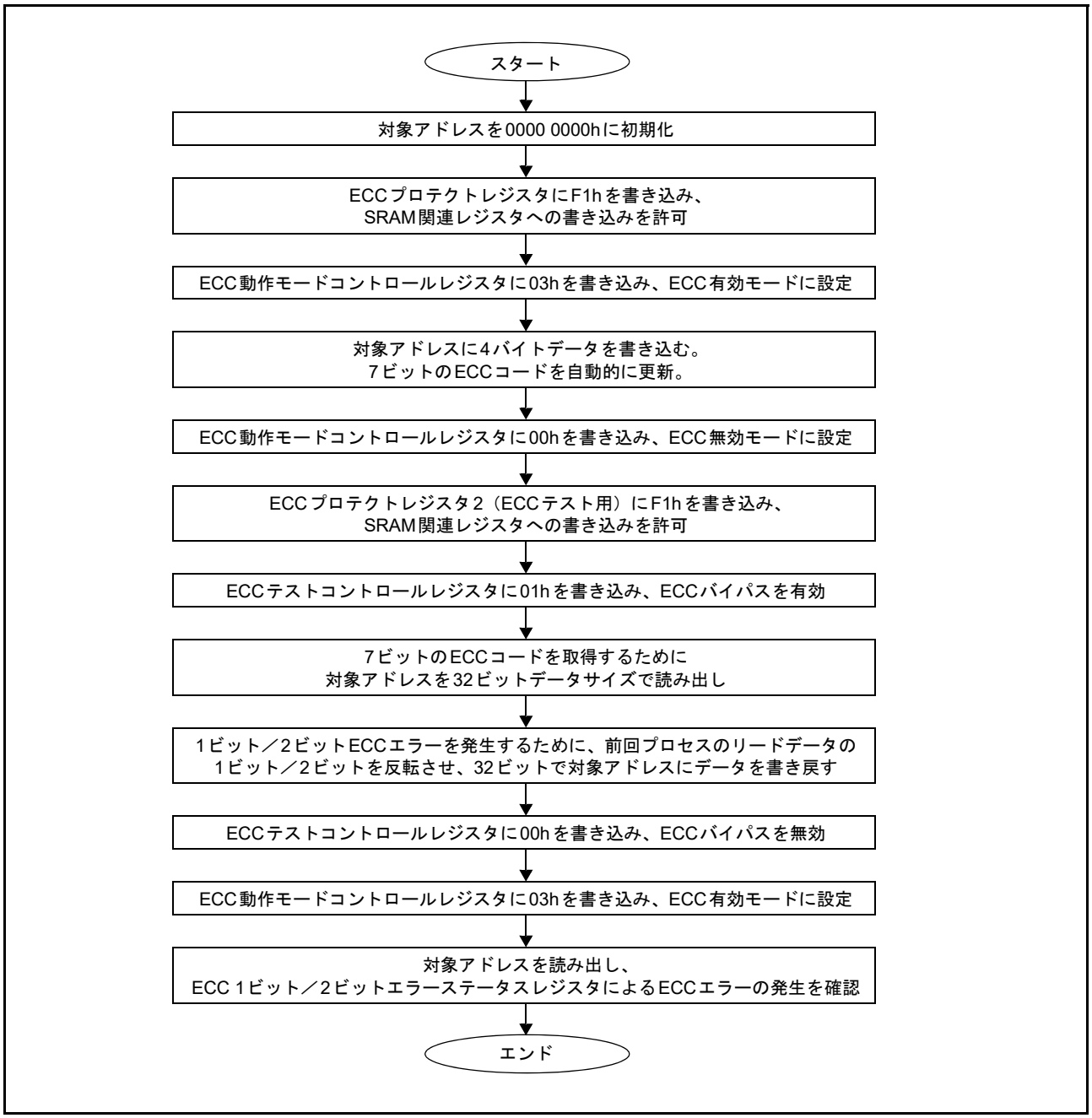


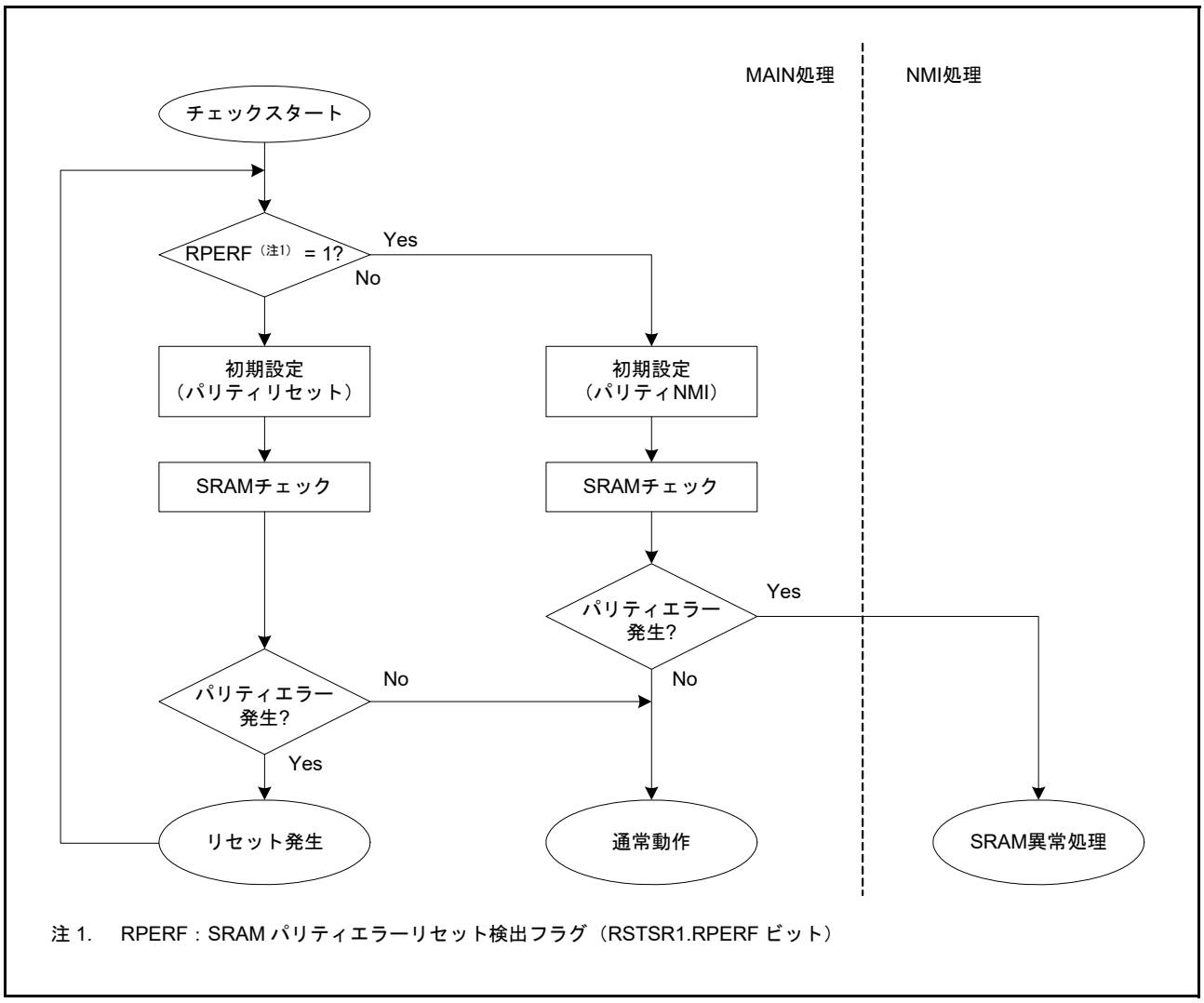
図 48.1 ECC デコーダのテスト方法

48.3.5 パリティ計算機能

IEC60730 規格に準拠するには、SRAM データのチェックが必要です。データ書き込み時に 32 ビットデータ幅の SRAM に格納されている 8 ビットデータごとにパリティビットが付与され、データ読み出し時にパリティチェックが行われます。パリティエラーが発生すると、パリティエラー通知が生成されます。この機能は、リセットを起こすためにも使用できます。ECC なしの SRAM0、SRAMHS、およびスタンバイ SRAM の仕様は偶数パリティです。

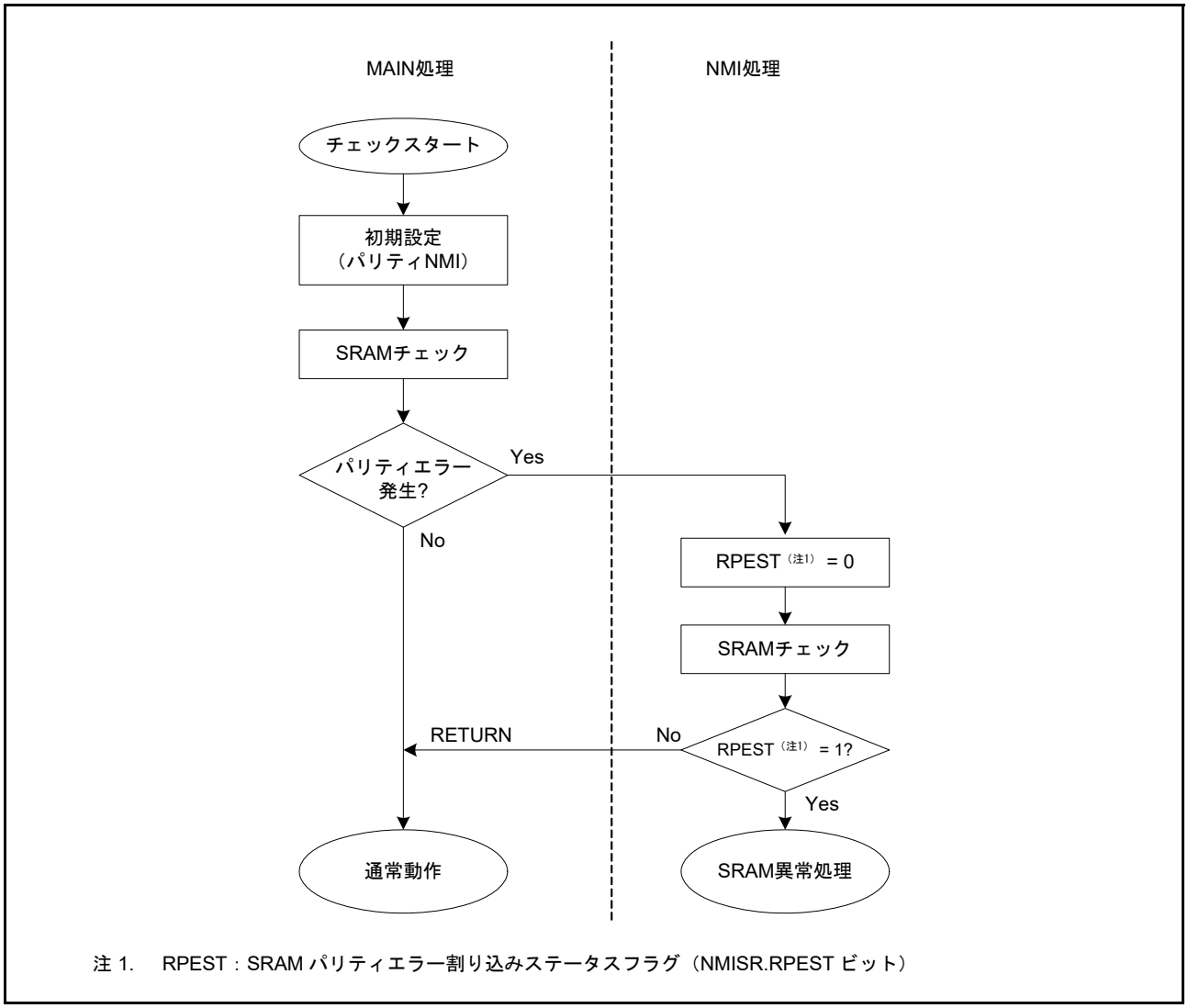
パリティエラー通知には、PARIOAD.OAD ビットで、ノンマスカブル割り込みまたはリセットのいずれかを指定できます。PARIOAD.OAD ビットが 1 のとき、パリティエラーはリセット機能に出力されます。OAD ビットが 0 のとき、パリティエラーはノンマスカブル割り込みとして ICU に出力されます。

パリティエラーはしばしばノイズにより発生します。パリティエラーの原因がノイズか破損かを確認するには、図 48.2 および図 48.3 に示されたパリティチェックフローを参照してください。



注 1. RPERF：SRAM パリティエラーリセット検出フラグ（RSTSR1.RPERF ビット）

図 48.2 SRAM パリティリセット許可の場合の SRAM パリティチェックのフロー



注 1. RPEST：SRAM パリティエラー割り込みステータスフラグ（NMISR.RPEST ビット）

図 48.3 SRAM パリティ割り込み許可の場合の SRAM パリティチェックのフロー

48.3.6 SRAM エラー要因

SRAM エラーの原因は、ECC エラーまたはパリティエラーのいずれかです。ECC エラーとパリティエラーは、ノンマスカブル割り込みとリセットのどちらかを発生させることができます。どちらを発生させるかは、ECC エラーの場合、ECCOAD.OAD ビットで選択します。パリティエラーの場合、PARIOAD.OAD ビットで選択します。

表 48.2 SRAMエラー要因

割り込み要因	DTC起動	DMAC起動
ECCエラー（ECCありのSRAM0領域）	不可能	不可能
パリティエラー（ECCなしのSRAM0領域、SRAMHS）	不可能	不可能

48.3.7 アクセスサイクル

表 48.3 SRAMHS（パリティ領域1FFE 0000h～1FFF FFFFh）

リード（サイクル）		ライト（サイクル）	
ワードアクセス	ハーフワード／バイトアクセス	ワードアクセス	ハーフワード／バイトアクセス
2		2	

表 48.4 SRAM0（ECC領域2000 0000h～2000 7FFFh）

設定ビット		リード（サイクル）		ライト（サイクル）	
		ワードアクセス	ハーフワード／バイトアクセス	ワードアクセス	ハーフワード／バイトアクセス
ECCオフ ECCMOD[1] = 0	SRAM0ERDWTEN = 0	2		2	
	SRAM0ERDWTEN = 1	3		2	
ECCオン ECCMOD[1] = 1	SRAM0ERDWTEN = 0	2		2	4
	SRAM0ERDWTEN = 1	3		2	4

表 48.5 SRAM0（パリティ領域2000 8000h～2003 FFFFh）

設定ビット	リード（サイクル）		ライト（サイクル）	
	ワードアクセス	ハーフワード／バイトアクセス	ワードアクセス	ハーフワード／バイトアクセス
SRAM0WTEN = 0	2		2	
SRAM0WTEN = 1	3		2	

48.4 使用上の注意事項

48.4.1 ウェイトステートの挿入

以下に基づき、SRAMWTSC レジスタの SRAM ウェイトサイクル数を設定してください。

- SRAM0
  1 ウェイト：60MHz ＜ ICLK ≦ 120MHz
  ウェイトなし：ICLK ≦ 60MHz

48.4.2 SRAM 領域からの命令フェッチ

SRAM0、または SRAMHS を使用してプログラムを実行する場合、CPU が正確にデータをプリフェッチできるように、SRAM 領域を初期化してください。初期化されていない SRAM 領域から CPU がデータをプリフェッチすると、ECC エラーまたはパリティエラーが発生する場合があります。4 バイト境界のプログラムの終了アドレスから 12 バイト領域を初期化してください。弊社からは、データの初期化には NOP 命令の使用を推奨します。

48.4.3 SRAM のストアバッファ

SRAM と CPU 間の高速アクセスには、ストアバッファが使用されます。SRAM へのストア命令の後に同じアドレスからロード命令が実行されると、そのロード命令は SRAM からではなくバッファからデータを読み出す場合があります。SRAM のデータを正確に読み出すには、以下の手順のうちいずれかを使用します。

- SRAM（アドレス = A）に書き込んだ後、NOP 命令を使用し、SRAM（アドレス = A）を読み出します。
- SRAM（アドレス = A）に書き込んだ後、SRAM（アドレス = A）以外の領域からデータを読み出し、SRAM（アドレス = A）を読み出します。

49. スタンバイ SRAM

49.1 概要

内蔵 SRAM は、ディープソフトウェアスタンバイモードでデータを保持するために提供されています。

表 49.1 に、スタンバイ SRAM の仕様を示します。

表 49.1 スタンバイSRAMの仕様

項目	内容
SRAM容量	8KB
SRAMアドレス	200F E000h～200F FFFFh
アクセス	アクセス回数は、ICLKとPCLKBとの周波数関係に依存します。詳細は、49.2.4 アクセスサイクルを参照してください。
データ保持	ディープソフトウェアスタンバイモード時、データを保持可能
パリティ	偶数パリティ（データ：8ビット、パリティ：1ビット）
モジュールストップ機能	モジュールストップ状態に設定して消費電力を削減

49.2 動作説明

49.2.1 データ保持

DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットの設定により、ディープソフトウェアスタンバイモード時にスタンバイ SRAM へ電源を供給できます。DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットが 00b の場合、スタンバイ SRAM のデータをディープソフトウェアスタンバイモードで保持できます。DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] ビットの詳細については、「11. 低消費電力モード」を参照してください。

49.2.2 低消費電力機能

モジュールストップコントロールレジスタ A（MSTPCRA）の設定により、SRAM へのクロック供給を停止することで、消費電力を低減することが可能です。MSTPCRA.MSTPA7 ビットを 1 にすると、スタンバイ SRAM へのクロック信号の供給が停止します。クロック供給の停止により、スタンバイ SRAM はモジュールストップ状態になります。リセット後は、スタンバイ SRAM は動作状態になります。モジュールストップ状態になると、スタンバイ SRAM へのアクセスができなくなります。スタンバイ SRAM アクセス中は、モジュールストップ状態に遷移させないでください。MSTPCRA レジスタの詳細については、「11. 低消費電力モード」を参照してください。

49.2.3 パリティ計算機能

スタンバイ SRAM のパリティ計算機能は、誤り訂正コード（ECC）なしの SRAM0 と同じです。PARIOAD.OAD ビットの機能と SRAM パリティチェックのフローは、スタンバイ SRAM モジュールと共有されています。詳細は、48.3.5 パリティ計算機能と 48.3.6 SRAM エラー要因を参照してください。

49.2.4 アクセスサイクル

表 49.2 スタンバイ SRAM アクセスサイクル

周波数	読み出し（サイクル）		書き込み（サイクル）	
	ワードアクセス	ハーフワード／バイトアクセス	ワードアクセス	ハーフワード／バイトアクセス
同じ周波数 ICLK = PCLKB	3ICLK		2ICLK	
異なる周波数 ICLK＞PCLKB	1ICLK + 2～3PCLKB		1ICLK + 1～2PCLKB	

49.3 使用上の注意事項

49.3.1 スタンバイ SRAM 領域からの命令フェッチ

スタンバイ SRAM を使用してプログラムを実行する場合、スタンバイ SRAM 領域を初期化して CPU が正確にデータをプリフェッチできるようにします。CPU が初期化されていない領域からプリフェッチすると、パリティエラーが発生する場合があります。4 バイト境界のプログラムの終了アドレスから 12 バイト領域を初期化してください。データの初期化には、NOP 命令の使用を推奨します。

50. フラッシュメモリ

50.1 概要

本 MCU は、512KB のコードフラッシュメモリと 8KB のデータフラッシュメモリを内蔵しています。フラッシュコントロールユニット（FCU）はフラッシュメモリのプログラム／イレースの制御を行います。フラッシュアプリケーションコマンドインタフェース（FACI）は、指定された FACI コマンドに従って FCU を制御します。

表 50.1 にコードフラッシュメモリとデータフラッシュメモリの仕様を、図 50.1 に関連モジュールのブロック図を示します。図 50.2 にコードフラッシュメモリの構成を、図 50.3 にデータフラッシュメモリの構成を示します。

表 50.1 コードフラッシュメモリとデータフラッシュメモリの仕様

項目	コードフラッシュメモリの仕様	データフラッシュメモリの仕様
メモリ容量	• ユーザ領域：512KB	データ領域：8KB
リードサイクル	• 80MHz＜ICLK周波数≦120MHz キャッシュヒット：1サイクル キャッシュミス：3サイクル • 40MHz＜ICLK周波数≦80MHz キャッシュヒット：1サイクル キャッシュミス：2サイクル • ICLK周波数≦40MHz キャッシュヒット：1サイクル キャッシュミス：1サイクル	ワードまたはバイトアクセス時にはFCLK 7サイクルでのリード（FCLK周波数は最高60MHz）
イレース後の値	FFh	不定
プログラム／イレース方式	• FACIコマンド発行領域（407E 0000h）に設定したFACIコマンドで、コードフラッシュメモリ／データフラッシュメモリのプログラム／イレースが可能 • 専用フラッシュメモリプログラマによるシリアルインタフェース通信を介したプログラム（シリアルプログラミング） • ユーザプログラムによるフラッシュメモリのプログラム（セルフプログラミング）	
セキュリティ機能	フラッシュメモリの不正改ざん／不正リードを防止	
プロテクション機能	フラッシュメモリの誤オーバーライトを防止	
BGO（バックグラウンドオペレーション）機能	• データフラッシュメモリのプログラム中にコードフラッシュメモリの読み出しが可能 • コードフラッシュメモリのプログラム中にデータフラッシュメモリの読み出しが可能	
プログラム／イレース単位	• ユーザ領域へのプログラム：128バイト単位 • ユーザ領域のイレース：ブロック単位	• データ領域へのプログラム：4/8/16バイト単位 • データ領域のイレース：64/128/256バイト単位
その他の機能	セルフプログラミング中の割り込み受け付け可能	
	本MCUの初期設定でフラッシュメモリ拡張領域（オプションバイト）の設定可能	
オンボードプログラミング（4種類）	シリアルプログラミングモード（SCIブートモード）でのプログラム • 調歩同期式シリアルインタフェース（SCI9）を使用 • 転送速度は自動調整 シリアルプログラミングモード（USBブートモード）でのプログラム • USBFSを使用 • 専用ハードウェアが不要で、PCと直結可能 オンチップデバッグモードによるプログラム • JTAG/SWDインタフェースを使用 • 専用ハードウェアは必要なし ユーザプログラム中のコードフラッシュメモリ／データフラッシュメモリ書き換えルーチンによるプログラム • システムをリセットすることなくコードフラッシュメモリ／データフラッシュメモリのプログラムが可能	

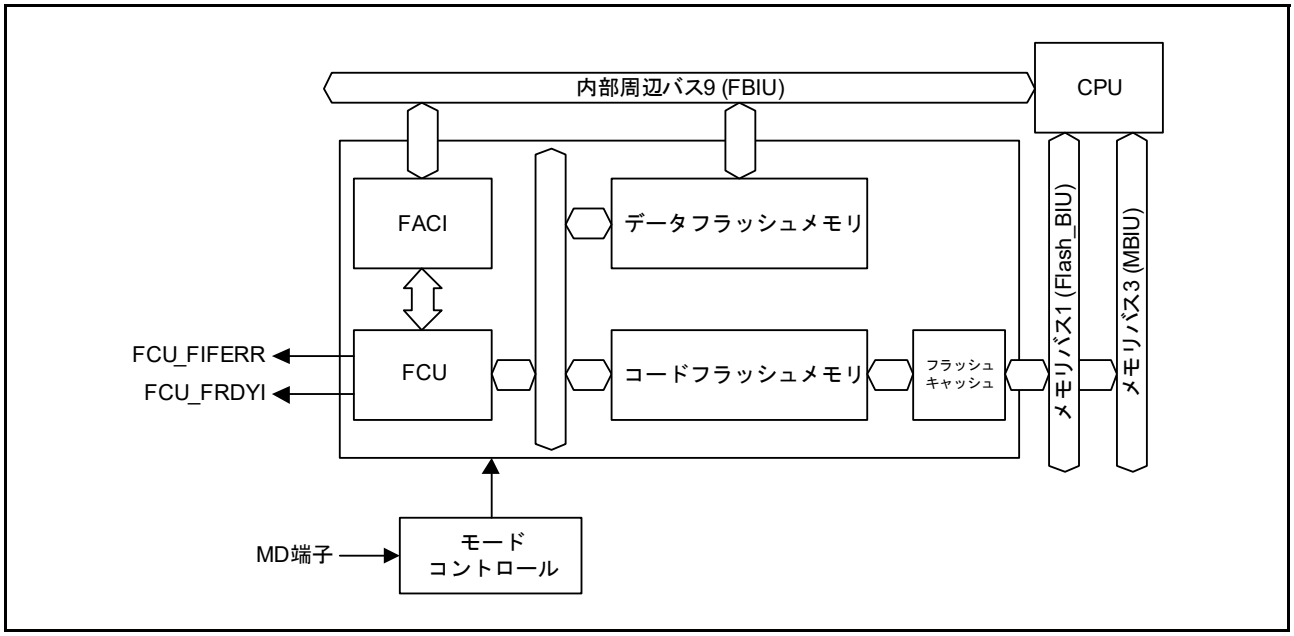


図 50.1 フラッシュメモリ関連モジュールのブロック図

50.2 メモリ構成

図 50.2 にコードフラッシュメモリのマッピングを、表 50.2 にコードフラッシュメモリのリードアドレスとプログラム／イレースアドレスを示します。コードフラッシュメモリのユーザ空間は 8KB または 32KB のブロックに分割されており、各ブロック単位でイレース可能です。ユーザ領域は、ユーザプログラムの格納に使用できます。

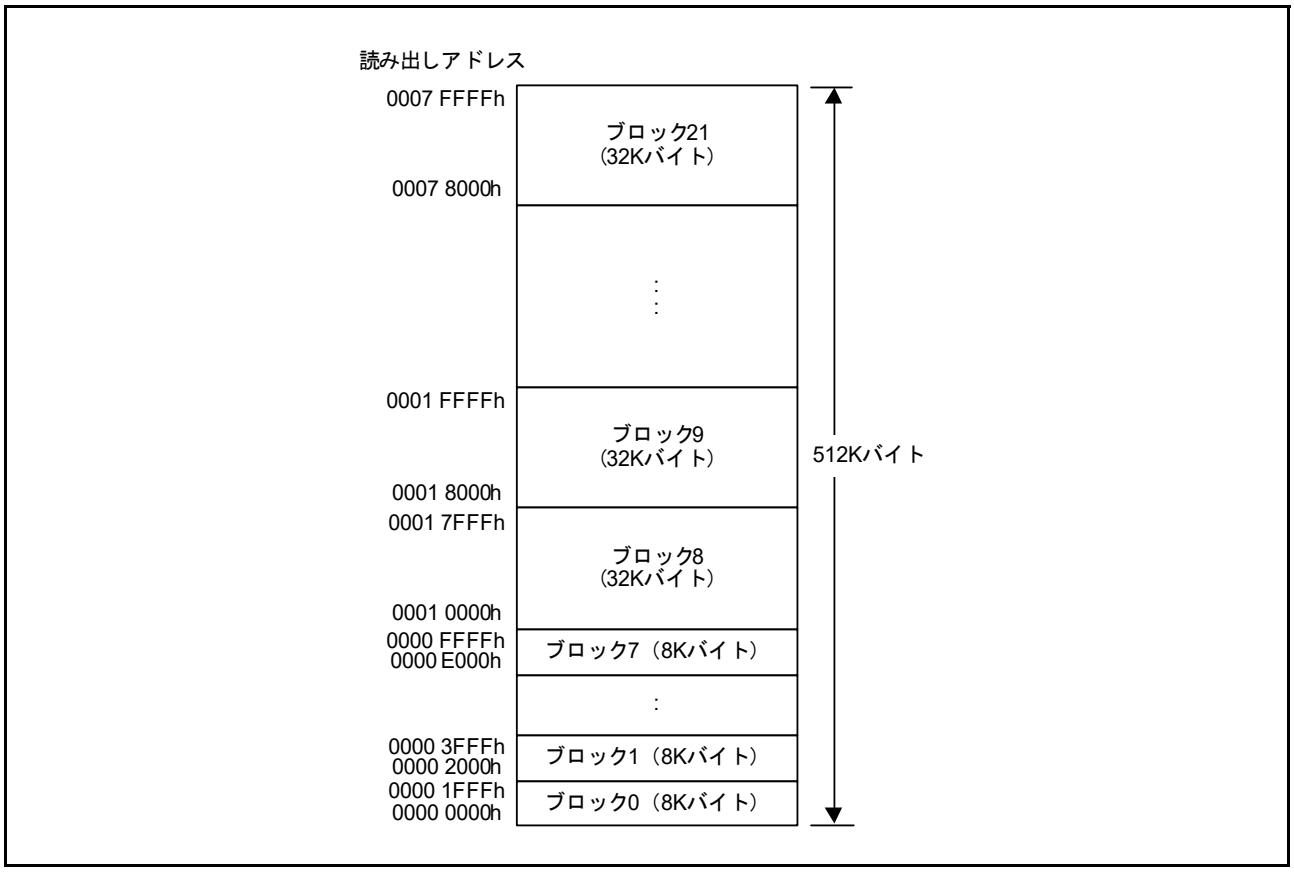


図 50.2 コードフラッシュメモリマッピング

表 50.2 コードフラッシュメモリの製品別リード、P/Eアドレス

製品	読み出しアドレス	P/Eアドレス	ブロック数
512KB製品	0000 0000h～0007 FFFFh	0000 0000h～0007 FFFFh	0～21

データフラッシュメモリのデータ領域は 64 バイトのブロックに分割されており、各ブロック単位でイレース可能です。図 50.3 にデータフラッシュメモリのマッピングを示します。

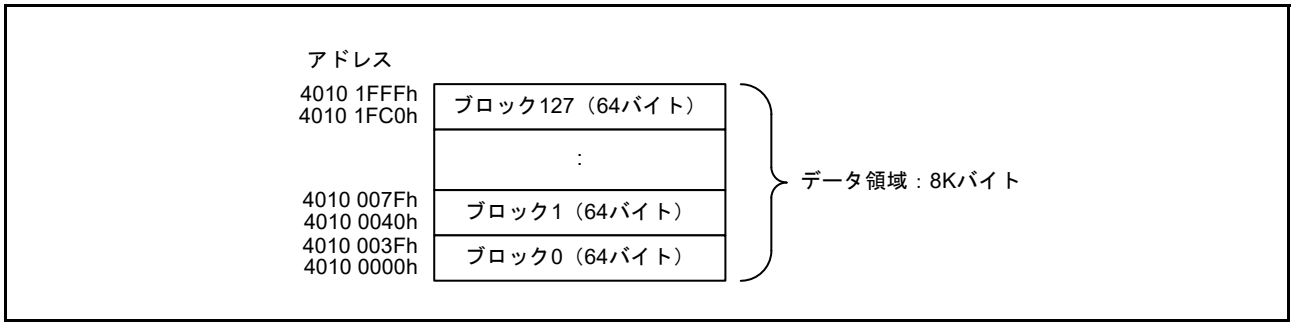


図 50.3 データフラッシュメモリマッピング

50.3 レジスタの説明

50.3.1 フラッシュキャッシュイネーブルレジスタ（FCACHEE）

アドレス FCACHE.FCACHEE 4001 C100h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	FCACHEEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	FCACHEEN	FCACHE許可	0：FCACHE禁止 1：FCACHE許可	R/W
b15-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

FCACHEE.FCACHEEN ビットは、FCACHE1、FCACHE2、FLPF のフラッシュキャッシュ機能を許可／禁止します。FCACHEIV.FCACHEIV には影響しません。FCACHE が許可されている場合、HPROT[3] はそれがキャッシャブルなのかノンキャッシャブルなのかを決定します。HPROT[3] の詳細は、15.7 フラッシュキャッシュ使用時の注意事項を参照してください。

50.3.2 フラッシュキャッシュインバリデートレジスタ（FCACHEIV）

アドレス FCACHE.FCACHEIV 4001 C104h

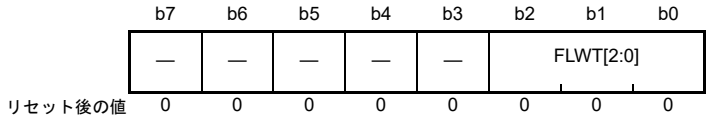
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	FCACHEIV
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	FCACHEIV	フラッシュキャッシュインバリデート	• 読み出し： 0：インバリデートしない 1：インバリデートする • 書き込み： 1を書くとFCACHEをインバリデートします。0を書くと無視されます。	R/W
b15-b1	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

FCACHEIV.FCACHEIV ビットに 1 を書くと、FCACHE1、FCACHE2、FLPF のフラッシュキャッシュデータがインバリデートされます。

50.3.3 フラッシュウェイトサイクルレジスタ（FLWT）

アドレス FCACHE.FLWT 4001 C11Ch



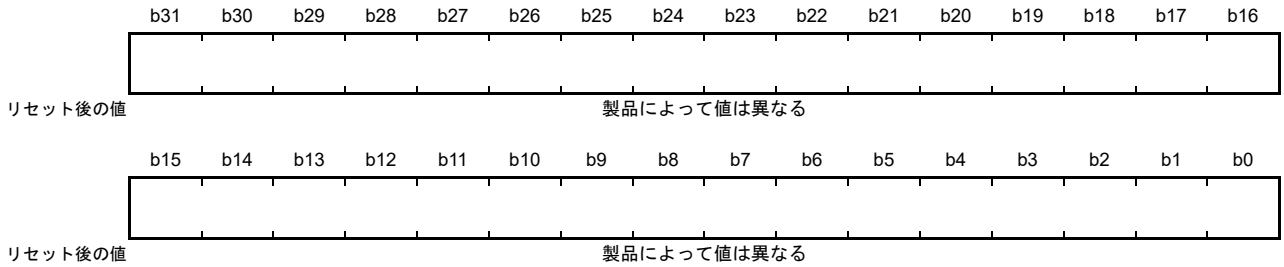
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	FLWT[2:0]（注1）	フラッシュウェイトサイクル	b2 b0 0 0 0：0ウェイト（ICLK≦40MHz） 0 0 1：1ウェイト（40MHz＜ICLK≦80MHz） 0 1 0：2ウェイト（80MHz＜CLK≦120MHz） その他の設定は予約されています。	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと0が読めます。	R

注 1. Subosc-speed モードでは、000b 以外の設定は禁止されています。

フラッシュウェイトサイクルレジスタ（FLWT）は、フラッシュメモリのアクセスウェイト数を設定します。クロック周波数をこれより高くする場合、クロック周波数を変更する前に FLWT.FLWT を設定してください。クロック周波数をこれより低くする場合、クロック周波数を変更した後に FLWT.FLWT を設定してください。

50.3.4 ファクトリ MCU インフォメーションフラッシュルートテーブル（FMIFRT）

アドレス 407F B19Ch

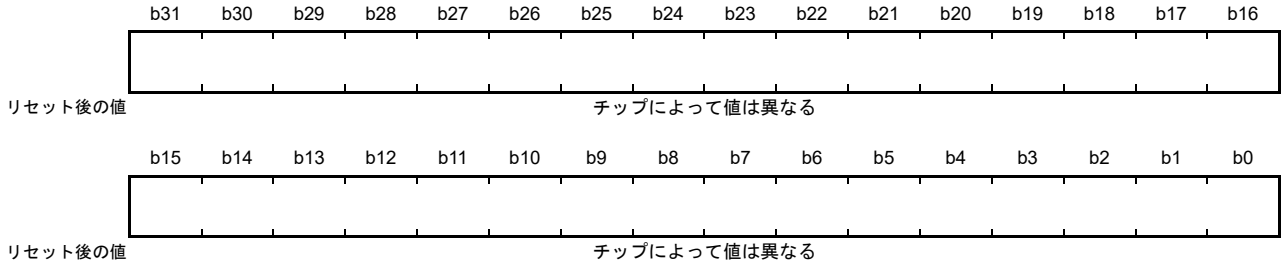


ビット	機能	R/W
b31-b0	ユニークIDのベースアドレス	R

FMIFRT レジスタは読出し専用のレジスタで、ユニーク ID レジスタ、型名レジスタ、MCU パ — ジョンレジスタのベースアドレスを格納しています。FMIFRT は 32 ビット単位で読み出してください。RA6M1 MCU のベースアドレスは 0x01007000 です。

50.3.5 ユニーク ID レジスタ n（UIDRn）（n = 0 ～ 3）

アドレス UIDR0 FMIFRT+14h, UIDR1 FMIFRT+18h, UIDR2 FMIFRT+1Ch, UIDR3 FMIFRT+20h

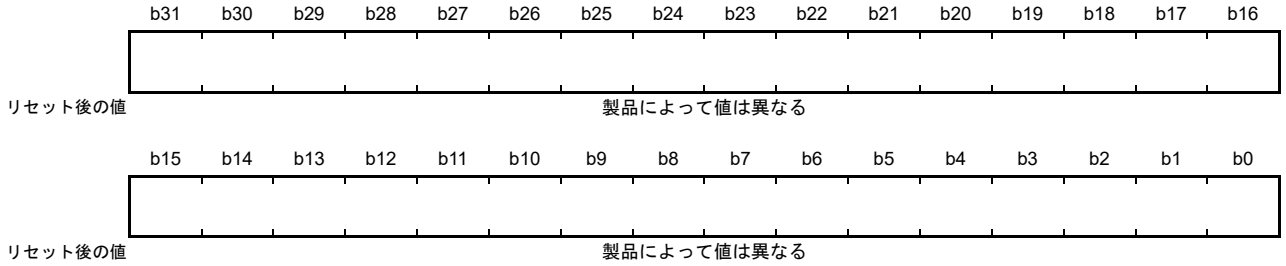


ビット	機能	R/W
b31-b0	ユニーク ID	R

UIDRn レジスタは読み出し専用のレジスタで、チップ固有の 16 バイトの ID（ユニーク ID）を格納しています。UIDRn は 32 ビット単位で読み出してください。

50.3.6 型名レジスタ n（PNRn）（n = 0 ～ 3）

アドレス PNR0 FMIFRT+24h, PNR1 FMIFRT+28h, PNR2 FMIFRT+2Ch, PNR3 FMIFRT+30h

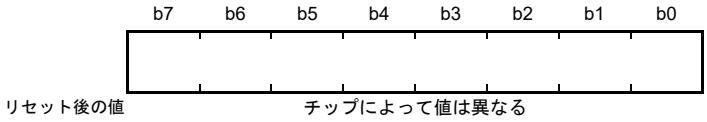


ビット	機能	R/W
b31-b0	製品の型名	R

PNRn レジスタは読み出し専用のレジスタで、16 バイトの型名を格納しています。PNRn レジスタは 32 ビット単位で読み出してください。各バイトは、表 1.14　製品一覧の型名の ASCII コード表現に対応しています。型名の最初の文字（“R”、ASCII コードでは 0x52）は、アドレスが最小のバイト（FMIFRT + 24h）に格納されています。

50.3.7 MCU バージョンレジスタ（MCUVER）

アドレス FMIFRT+44h



ビット	機能	R/W
b7-b0	MCUバージョン	R

MCUVER レジスタは読み出し専用のレジスタで、MCU バージョンを格納しています。MCUVER レジスタは 8 ビット単位で読み出してください。この値が大きいほど、MCU バージョンは新しいです。

50.4 フラッシュキャッシュ

50.4.1 概要

フラッシュキャッシュ（FCACHE）は、バスマスタからフラッシュメモリへのリードアクセスを高速化します。FCACHE には以下が含まれます。

- CPU 命令フェッチで使用する FCACHE1
- CPU オペランドアクセスと DMA で使用する FCACHE2
- CPU 命令フェッチのプリフェッチアクセスで使用する FLPF

表 50.3 フラッシュキャッシュの概要

項目	フラッシュキャッシュ 1（FCACHE1）	フラッシュキャッシュ 2（FCACHE2）	プリフェッチバッファ（FLPF）
キャッシュ対象領域	0000 0000h～0007 FFFFh	0000 0000h～0007 FFFFh	0000 0000h～0007 FFFFh
対象バスマスタ	CPU命令フェッチ	CPUオペランドアクセスおよびCPU以外からのアクセス	FLPF
容量	256バイト	16バイト	32バイト
アソシアティブ方式	• 8ウェイセットアソシアティブ • 128ビット／エントリ（128ビット整列データ） • 2エントリ／ウェイ	• フルアソシアティブ • 128ビット／エントリ（128ビット整列データ） • FCACHE2の1エントリ	• フルアソシアティブ • 128ビット／エントリ（128ビット整列データ） • 2エントリ
アクセスサイクル	• キャッシュヒット：0ウェイト • キャッシュミス：フラッシュウェイトサイクルレジスタに設定されたウェイト数	• キャッシュヒット：0ウェイト • キャッシュミス：フラッシュウェイトサイクルレジスタに設定されたウェイト数	• キャッシュヒット：0ウェイト • キャッシュミス：フラッシュウェイトサイクルレジスタに設定されたウェイト数

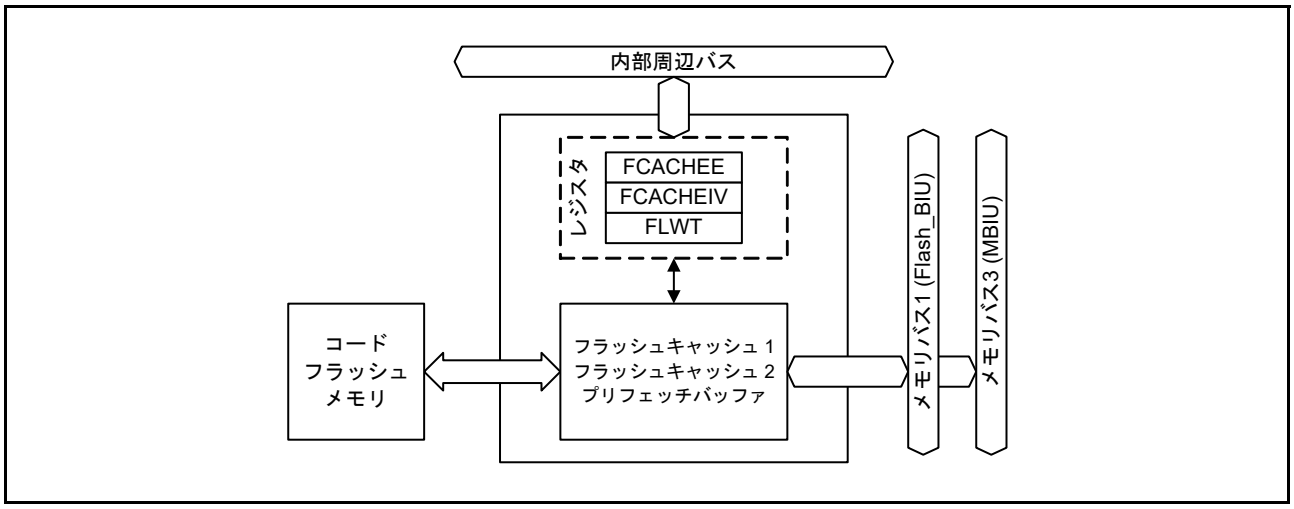


図 50.4 FCACHE のブロック図

50.5 動作説明

フラッシュ動作を設定して有効にするには FCACHEE レジスタを使用します。フラッシュキャッシュを設定してフラッシュメモリの書き換えに備えるには、以下を実行します。

1. FCACHEE.FCACHEEN をリセットしてフラッシュキャッシュを禁止します。(注 1)
2. FCACHEIV.FCACHEIV を設定してフラッシュキャッシュをインバリデートします。
3. FCACHEIV.FCACHEIV が 0 であることを確認します。
4. FCACHEE.FCACHEEN を設定してフラッシュキャッシュを許可します。

注 1. リセット後の最初の設定でフラッシュキャッシュを禁止にする必要はありません。

50.5.1 フラッシュキャッシュ使用における注意

CPU からフラッシュキャッシュにアクセスする場合は、Arm® MPU もキャッシャブルに設定しなければなりません。

ARM®v7-M Architecture Reference Manual および *ARM® Cortex®-M4 Devices Generic User Guide* を参照してください。

50.6 フラッシュメモリ関連の動作モード

図 50.5 にフラッシュメモリに関するモード遷移図を示します。モード設定の方法については「3. 動作モード」を参照してください。

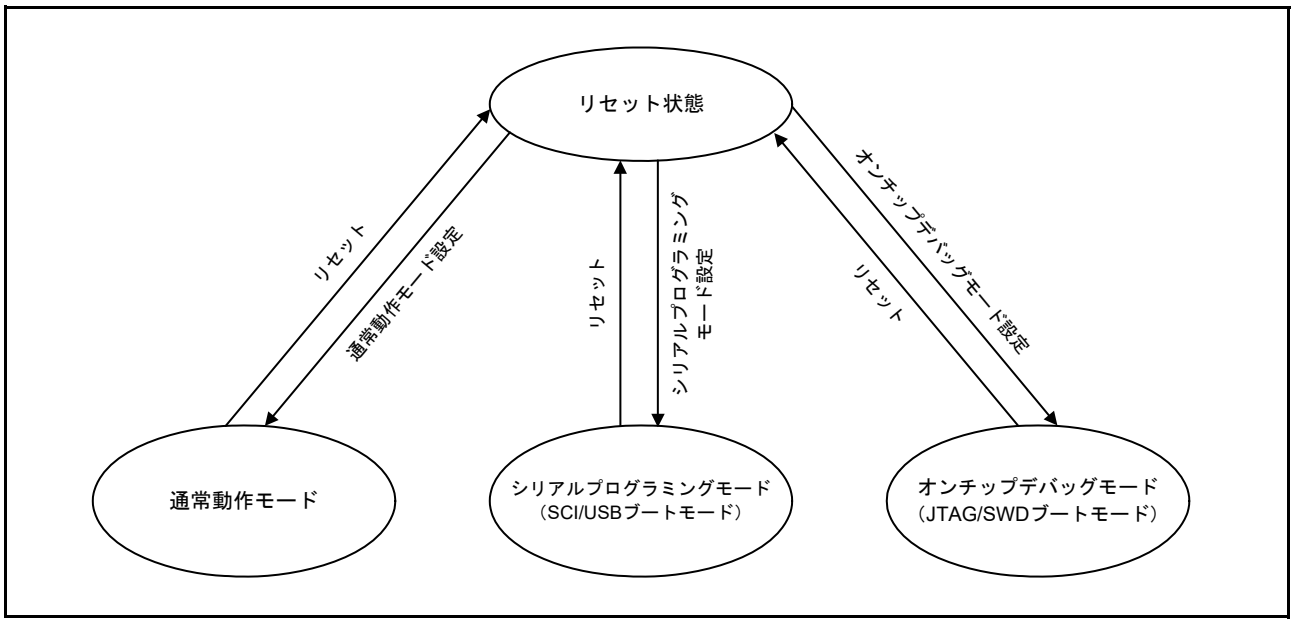


図 50.5 フラッシュメモリに関するモード遷移図

プログラム／イレースが可能なフラッシュメモリの領域、およびリセット時の起動プログラムを実行するフラッシュメモリの領域は各モードで異なります。表 50.4 に各モードの相違点を示します。

表 50.4 各モードの相違点

項目	通常動作モード	シリアルプログラミングモード（SCI/USB ブートモード）	オンチップデバッグモード（JTAG/SWD ブートモード）
プログラム／イレースが可能な領域	• コードフラッシュメモリ • データフラッシュメモリ	• コードフラッシュメモリ • データフラッシュメモリ	• コードフラッシュメモリ • データフラッシュメモリ
ブロック単位のイレース	可能	可能	可能
リセット時の起動プログラム	ユーザ領域のプログラム	シリアルプログラミング用組み込みプログラム	デバッグコマンドに依存

50.6.1 ID コードプロテクト

ID コードプロテクト機能は、プログラミングとオンチップデバッギングを禁止します。ID コードプロテクトが有効な場合、デバイスはホストが送信した ID コードをフラッシュメモリに格納されている ID コードと比較し、有効または無効にします。プログラミングとオンチップデバッギングは、この 2 つが一致する場合に限り許可されます。

フラッシュメモリの ID コードは、32 ビットワード 4 つで構成されます。ID コードのビット 127 とビット 126 は、ID コードプロテクト機能が有効か判定し、ホストで使用する認証方法を決定します。

ID コードがどのように認証方法を決定するかについて、表 50.5 に示します。

表 50.5 IDコードプロテクト機能の仕様

ブートアップ時の動作モード	IDコード	プロテクト状態	プログラマまたはオンチップデバッガ接続時の動作
シリアルプログラミングモード（SCI/USBブートモード） オンチップデバッグモード（JTAG/SWDブートモード）	FFh, …, FFh（全バイトがFFh）	プロテクト無効	IDコードは検証されません。IDコードは常に一致して、プログラマまたはオンチップデバッガへの接続が許可されます。
	ビット[127] = 1およびビット[126] = 1、かつ16バイトのうち少なくとも1つがFFh以外	プロテクト有効	IDコード一致：認証を終了し、プログラマまたはオンチップデバッガへの接続を許可 IDコード不一致：IDコードプロテクト待機状態へ遷移 プログラマまたはオンチップデバッガから送られてきたIDコードがASCIIコードのALeRASE（414C_6552_4153_45FF_FFFF_FFFF_FFFF_FFFFh）であると、ユーザフラッシュ（コードフラッシュおよびデータフラッシュ）領域および構成領域の内容は消去されます。 ただし、AWS.FSPR（注1）ビットが0であれば、強制消去は実行されません。
	ビット[127] = 1、ビット[126] = 0	プロテクト有効	IDコード一致：認証を終了し、プログラマまたはオンチップデバッガへの接続を許可 IDコード不一致：IDコードプロテクト待機状態へ遷移
	ビット[127] = 0	プロテクト有効	IDコードは検証されません。IDコードは常に一致せず、プログラマまたはオンチップデバッガへの接続は禁止されます。

注 1. AWS.FSPR ビットの詳細については、7.2.3 アクセスウィンドウ設定レジスタ（AWS）を参照してください。

50.7 機能概要

シリアルインタフェース経由（シリアルプログラミングモード）、またはJTAG/SWDインタフェース経由（オンチップデバッグモード）で、専用フラッシュメモリプログラマを使用してオンチップフラッシュメモリを書き替えることにより、ターゲットシステムへの実装前／実装後にかかわらずデバイスのプログラムが可能です。また、第三者によるプログラムの改ざん防止のため、オンチップフラッシュメモリに書かれたユーザプログラムの書き換えを禁止するセキュリティ機能をサポートしています。

ユーザプログラムによるプログラミング（セルフプログラミング）は、システムの製造／出荷後の更新が必要なアプリケーションに有効です。フラッシュメモリ領域を安全に書き換えるためのプロテクション機能もサポートしています。また、セルフプログラミング中の割り込み処理もサポートされており、外部通信およびその他の機能を実行している間もプログラミングを継続できます。表 50.6 は、プログラミング方法と対応する動作モードを示しています。

表 50.6 プログラミング方式

プログラミング方式	機能概要	動作モード
シリアルプログラミング	SCI/USBFSインタフェース経由で接続されている専用フラッシュメモリプログラマを用いて、ターゲットシステムへの実装後もフラッシュメモリのオンボード書き換えが可能です。	シリアルプログラミングモード
	SCI/USBFSインタフェースおよび専用プログラミングアダプタボードを経由して接続されている専用フラッシュメモリプログラマを用いて、ターゲットシステム実装前にフラッシュメモリのオフボード書き換えが可能です。	
セルフプログラミング	シリアルプログラミングによってあらかじめメモリに書き込まれたユーザプログラムを実行することによっても、フラッシュメモリの書き換えが可能です。データフラッシュメモリの書き換え時には、バックグラウンドオペレーション機能によりコードフラッシュメモリからの命令フェッチまたはデータの読み出しが可能です。そのため、コードフラッシュメモリ上のプログラムを実行してデータフラッシュメモリを書き換えることができます。 バックグラウンドオペレーションを利用できない場合は、セルフプログラミングによるコードフラッシュメモリの書き換え時には、コードフラッシュメモリからの命令フェッチおよびデータアクセスはできません。内蔵SRAMまたは外部メモリへ書き換え用のプログラムをあらかじめ転送して実行する必要があります。	通常動作モード
JTAG/SWDプログラミング	JTAG/SWDを経由した専用フラッシュメモリプログラマまたはオンチップデバッガを用いて、ターゲットシステムへの実装後もフラッシュメモリのオンボード書き換えが可能です。	オンチップデバッグモード
	JTAG/SWDを経由した専用フラッシュメモリプログラマまたはオンチップデバッガ、および専用プログラミングアダプタボードを用いて、デバイスのプログラミングなど、ターゲットシステム実装前にフラッシュメモリをオフボードで書き換えることが可能です。	

内蔵フラッシュメモリの機能一覧を表 50.7 に示します。

シリアルプログラミングではシリアルプログラマコマンドを使用してください。セルフプログラミングでは、FACIコマンドを使用して内蔵フラッシュメモリの読み出しまたはユーザプログラムの実行を行ってください。

表 50.7 基本機能

機能	機能概要	サポートの有無	
		シリアルプログラミング	セルフプログラミング
ブランクチェック	指定したブロックがプログラムされていないことを確認します。イレース後にプログラムされていない状態のデータフラッシュメモリの読み出し結果は保証されません。イレース後にプログラムされていない状態を確認するには、ブランクチェックを使用してください。	なし	あり （データフラッシュプログラミングのみ）
ブロックイレース	指定したブロックのメモリの内容のイレースを行います。	あり	あり
プログラム	指定したアドレスのプログラムを行います。	あり	あり
読み出し	フラッシュメモリにプログラムしたデータの読み出しを行います。	あり	なし （ユーザプログラムにて読み出しは可能）
IDコードチェック	ホストが送信したIDコードとROMに格納されているコードとを比較します。これら二つが一致する場合、FCUは待機状態に遷移してホストからのプログラミングとイレースコマンドを待ちます。	あり	なし （ID認証は行わない）
セキュリティ設定	シリアルプログラミング用のセキュリティ機能の設定を行います。	あり（条件つき） （有効から無効への設定切り替えのみ許可）	あり（条件つき） （有効から無効への設定切り替えのみ許可）
プロテクション設定	コードフラッシュメモリにおけるフラッシュ領域プロテクションのアクセスウィンドウを設定します。	あり	あり

内蔵フラッシュメモリは ID コードセキュリティ機能をサポートしています。ID 認証は、シリアルプログラミングと JTAG/SWD プログラミングで使用できるセキュリティ機能です。内蔵フラッシュメモリでサポートされるセキュリティ機能を表 50.8 に、セキュリティ設定時の動作を表 50.9 に示します。

表 50.8 セキュリティ機能

機能	内容
ID認証	シリアルプログラミング時のシリアルプログラマ接続をID認証結果で制御可能です。

表 50.9 セキュリティ設定時の動作

機能	各セキュリティ設定時のイレース／プログラミング／リード動作		セキュリティ設定に関する注意事項
	シリアルプログラミングとオンチップデバッグモード	セルフプログラミングモード	セルフプログラミングモード
ID認証	IDが不一致の場合 • ブロックイレースコマンド：× • プログラムコマンド：× • リードコマンド：× • セキュリティ設定コマンド：× • プロテクション設定コマンド：× IDが一致した場合 • ブロックイレースコマンド：○ • プログラムコマンド：○ • リードコマンド：○ • セキュリティ設定コマンド：○ • プロテクション設定コマンド：○	（ID認証は行わない） • ブランクチェック：○ • ブロックイレース：○ • プログラム：○ • セキュリティ設定：○ • プロテクション設定：○	ID認証は行わない

50.7.1 構成領域ビットマップ

図 50.6 に、ID 認証、スタートアップ領域の選択、アクセスウィンドウプロテクション、セキュリティ設定機能で使用するビットを示します。ブートプログラムは、必ずこれらのビットを 16 進数データとして使用しなければなりません。

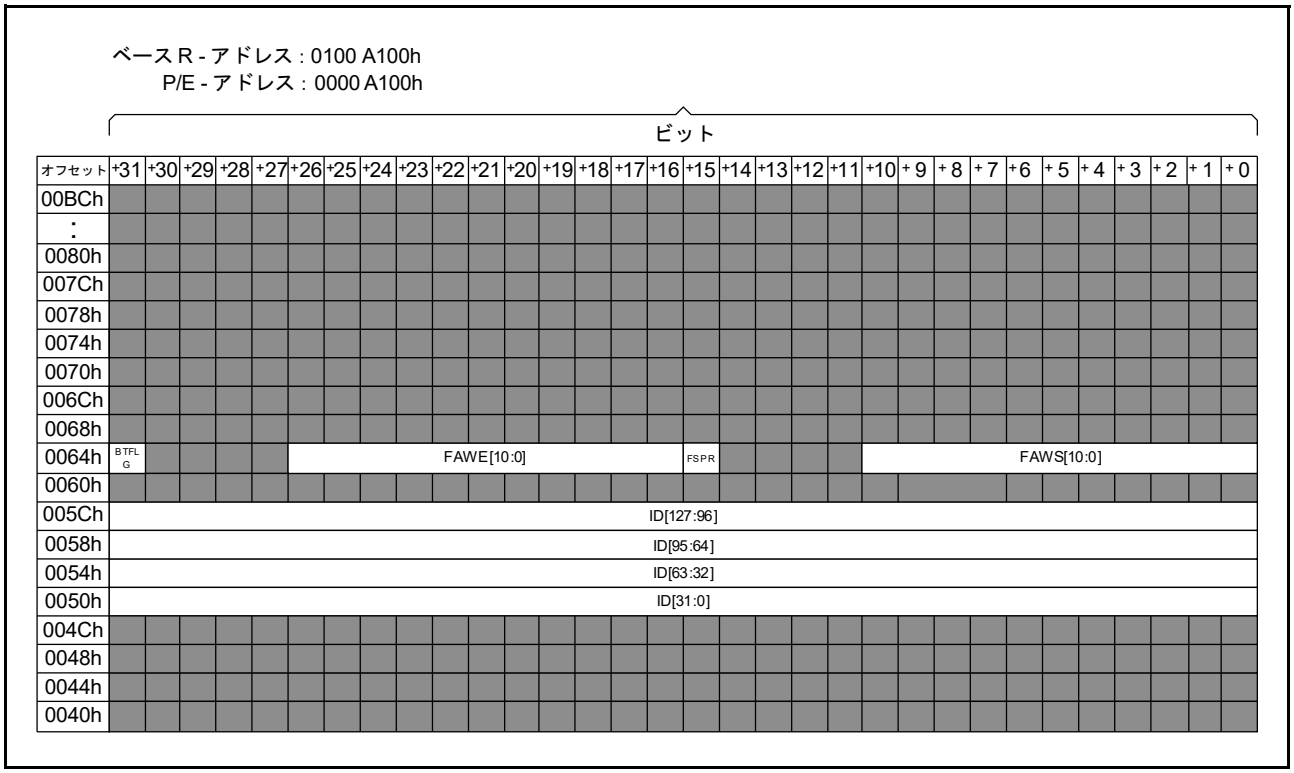


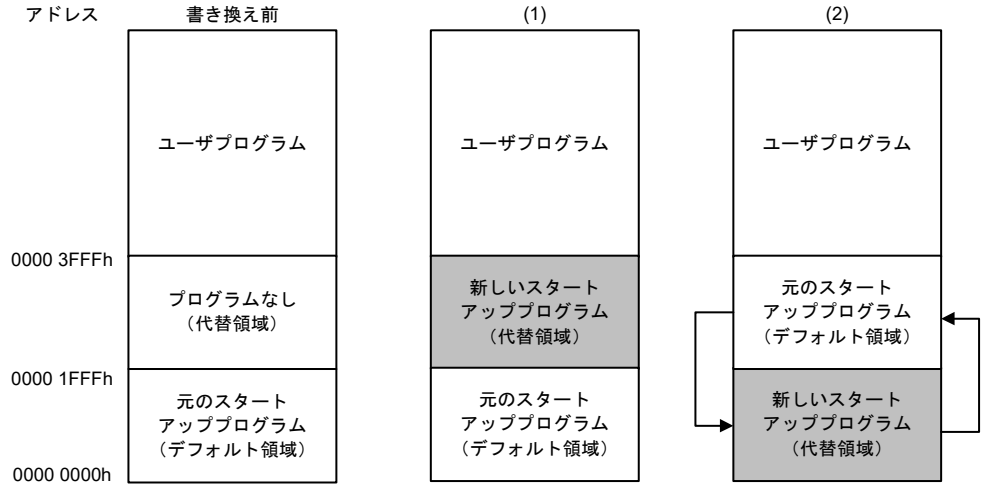
図 50.6 構成領域ビットマップ

50.7.2　スタートアップ領域選択

スタートアップ領域選択機能によって、ブートプログラムの安全な更新が可能になります。スタートアップ領域のサイズは 8KB で、ユーザ領域に配置されています。FACI は、構成領域のスタートアップ領域選択フラグ（AWS.BTFLG）に基づきスタートアップ領域のアドレスを制御します。スタートアップ領域は AWS.FSPR ビット（注 1）でロックすることが可能です。

注 1.　AWS.FSPR ビットについては、7.2.3　アクセスウィンドウ設定レジスタ（AWS）を参照してください。

図 50.7 に、スタートアッププログラムのプロテクションの概要を示します。



(1)　代替領域に新しいスタートアッププログラムを書き込みます。このとき、デフォルト領域には元のスタートアッププログラムがあるので、代替領域への書き換えが失敗しても、デフォルト領域から起動して再度書き換えを行うことができます。
(2)　代替領域の書き換えが成功したら、セルフプログラミングライブラリを使用して、デフォルト領域と代替領域の配置を入れ替えます。これ以降、リセット後は代替領域からプログラムが起動します。

図 50.7　スタートアッププログラムプロテクションの概要

50.7.3　アクセスウィンドウによるプロテクション

アクセスウィンドウの外側にあるフラッシュメモリ領域にプログラムまたはブロックイレースコマンドを発行すると、コマンドロック状態に陥ります。アクセスウィンドウは、コードフラッシュメモリのユーザ領域においてのみ有効です。アクセスウィンドウは、セルフプログラミングモード、シリアルプログラミングモード、およびオンチップデバッグモードにおいて、プロテクション機能を提供します。

アクセスウィンドウは、AWS.FAWS[10:0] ビットおよび AWS.FAWE[10:0] ビット（注 1）の両方で指定されています。

以下に、各種条件での FAWS[10:0] ビットおよび FAWE[10:0] ビットの設定を説明します。

- FAWE[10:0] = FAWS[10:0] : P/E コマンドは、コードフラッシュメモリのユーザ領域のどこでも実行できます。
- FAWE[10:0] > FAWS[10:0] : P/E コマンドは、FAWS[10:0] ビットで指示されたブロックから、FAWE ビットで指示されたものより 1 つ下のブロックまでのウィンドウにおいてのみ実行できます。
- FAWE[10:0] < FAWS[10:0] : P/E コマンドは、コードフラッシュメモリのユーザ領域のどこでも実行できません。

注 1.　AWS.FAWS[10:0] ビットおよび AWS.FAWE[10:0] ビットについては 7.2.4　OCD／シリアルプログラマ ID 設定レジスタ（OSIS）を参照してください。

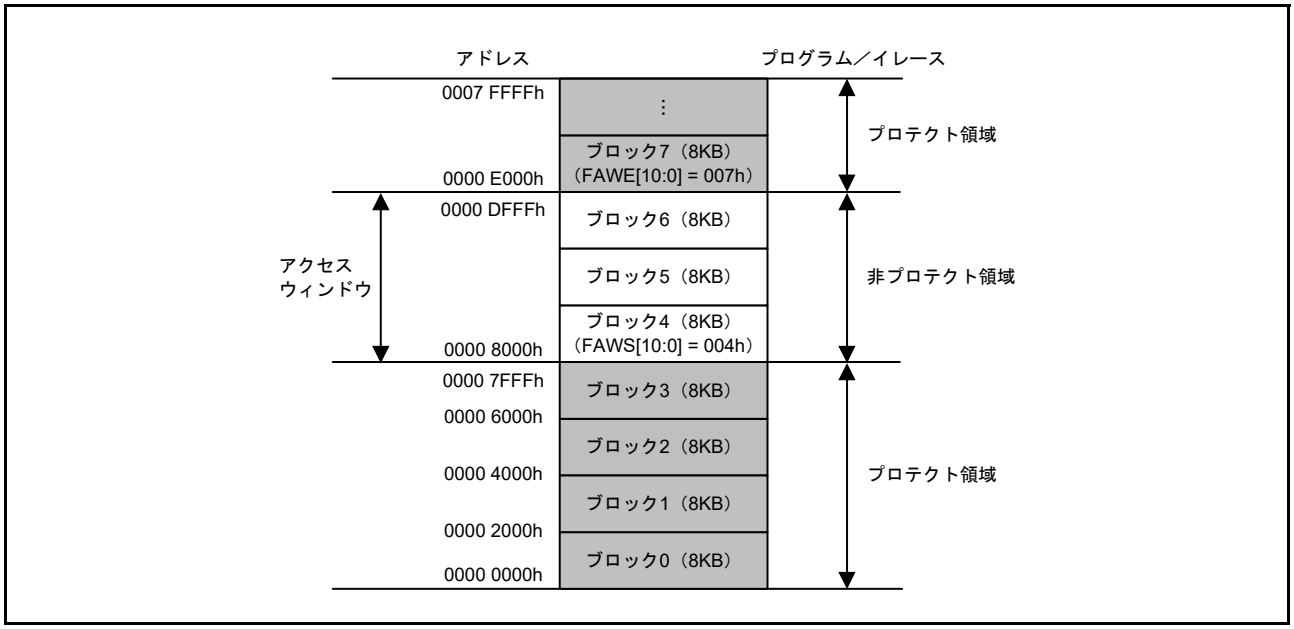


図 50.8　アクセスウィンドウに 8KB のブロックのみ含まれる場合のアクセスウィンドウの開始ブロックアドレス（FAWS）と終了ブロックアドレス（FAWE）

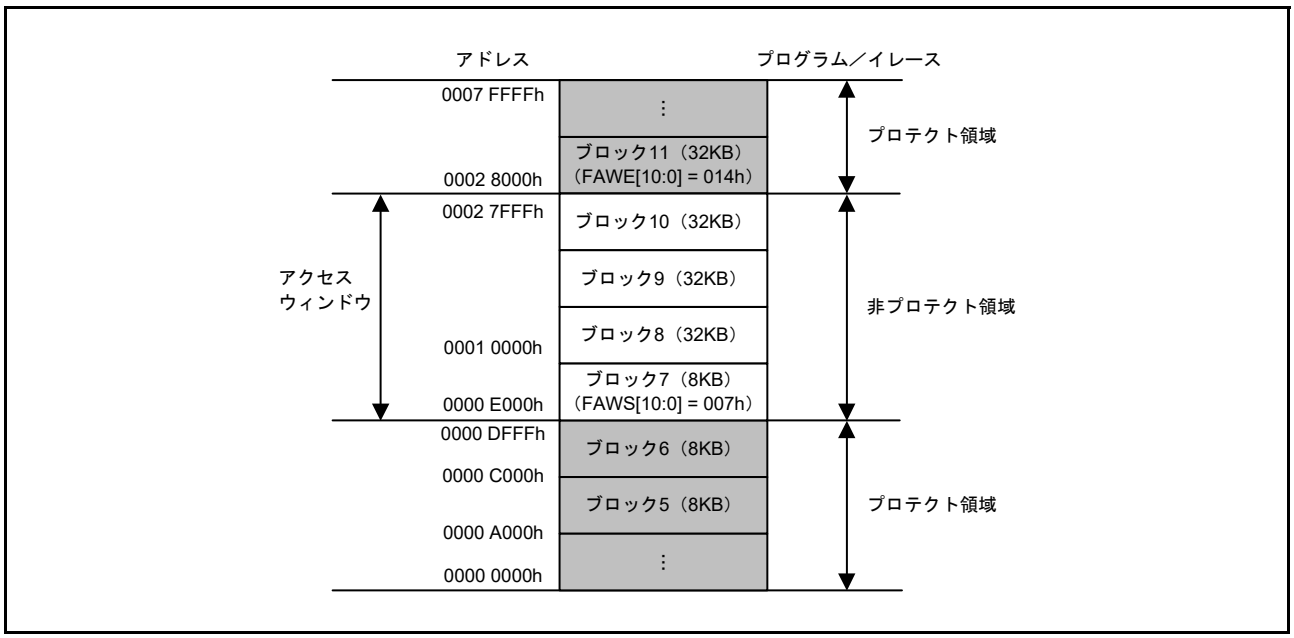


図 50.9　アクセスウィンドウに 8KB および 32KB のブロックが含まれる場合のアクセスウィンドウの開始ブロックアドレス（FAWS）と終了ブロックアドレス（FAWE）

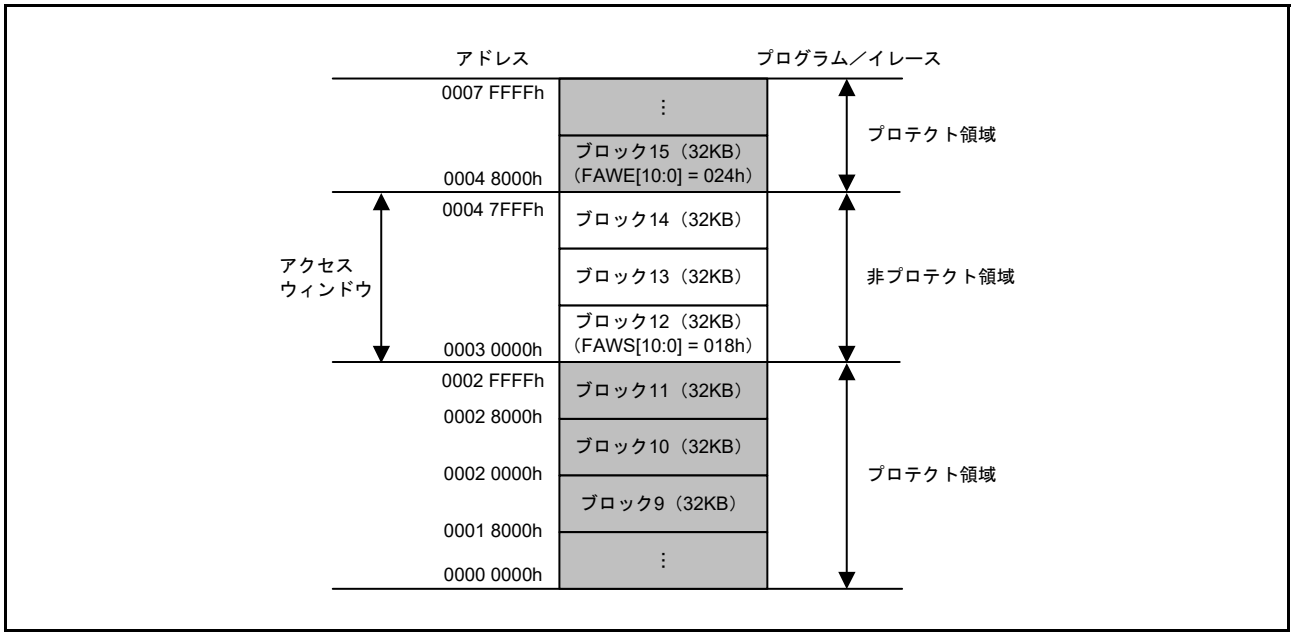


図 50.10　アクセスウィンドウに 32KB のブロックのみ含まれる場合のアクセスウィンドウの開始ブロックアドレス（FAWS）と終了ブロックアドレス（FAWE）

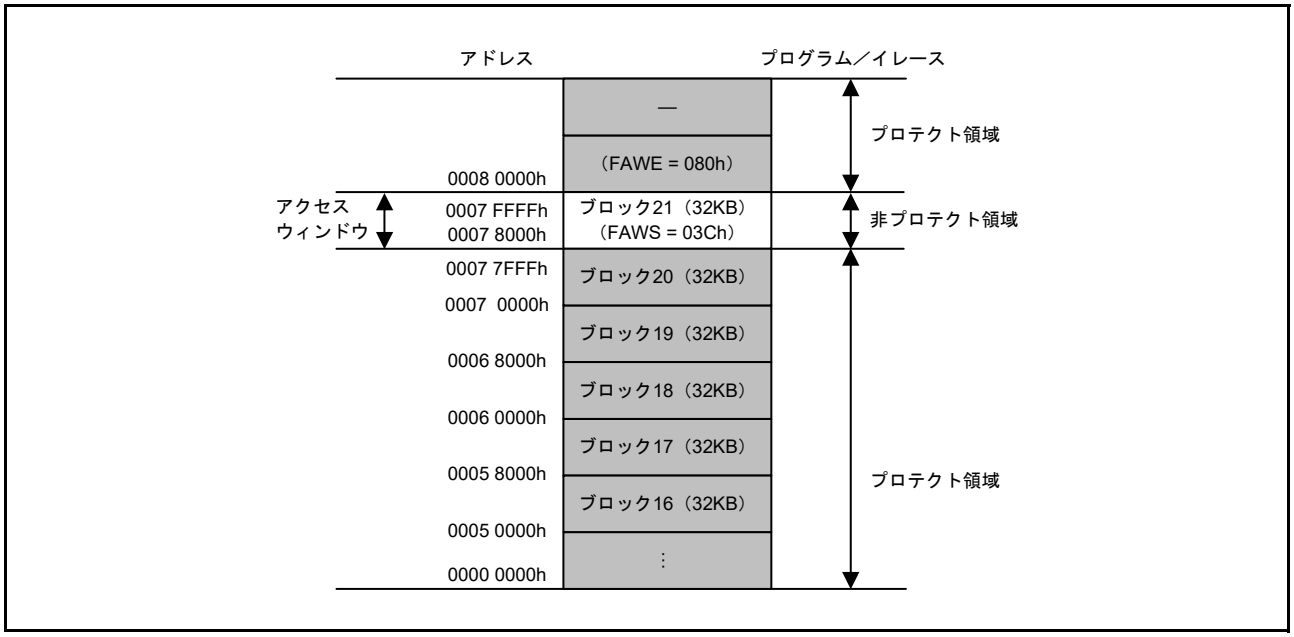


図 50.11　アクセスウィンドウに最終ブロックのみ含まれる場合のアクセスウィンドウの開始ブロックアドレス（FAWS）と終了ブロックアドレス（FAWE）

50.8 プログラムコマンド

FACI は設定された FACI コマンドに従って、FCU の制御を行います。

50.9 サスペンド動作

アドレス範囲がバックグラウンドオペレーション機能の条件を満足していない場合、プログラミングまたはイレース実行中に、コードフラッシュメモリまたはデータフラッシュメモリからの読み出しはできません。P/E サスペンドコマンドを発行し、コードフラッシュメモリ／データフラッシュメモリへのプログラム／イレース処理を中断させることによって、メモリの読み出しが可能になります。プログラムに対するサスペンドコマンドモードが 1 種類、イレースに対するサスペンドコマンドモードが 2 種類（サスペンド優先モード、イレース優先モード）存在します。中断したプログラム／イレース処理を再開するための P/E レジュームコマンドも使用できます。

50.10 プロテクション機能

以下の種類のプロテクションが提供されています。

- ソフトウェアプロテクション
- エラープロテクション
- ブートプログラムプロテクション

50.11 シリアルプログラミングモード

シリアルプログラミングモードには以下が含まれます。

- SCI9 を使用するブートモード
- USBFS を使用する USB ブートモード

表 50.10 にフラッシュメモリ関連モジュールの入出力端子を示します。

表 50.10 フラッシュメモリ関連モジュールの入出力端子

端子名	入出力	適用モード	機能
MD	入力	SCI ブートモード USB ブートモード （シリアルプログラミングモード）	動作モードの選択
P110/RXD9	入力	SCI ブートモード	ホスト通信における SCI データ受信用
P109/TXD9	出力		ホスト通信における SCI データ送信用
USB_DP, USB_DM	入出力	USB ブートモード	USB データの入出力
USB_VBUS	入力		USB ケーブルの接続／切断の検出

50.11.1 SCI ブートモード

SCI ブートモードでは、ホストから制御コマンドやプログラミングデータを送信して、コードフラッシュメモリ／データフラッシュメモリ領域へのプログラム／イレースが実行可能です。ホストと本 MCU 間の通信には、内蔵の SCI を調歩同期式モードで使用します。ホストには制御コマンドを送信するためのツールとプログラム用データを準備する必要があります。

本 MCU を SCI ブートモードで起動すると、シリアルプログラミング用の組み込みプログラムが実行されます。このプログラムは、SCI のビットレートの自動調整とホストからの制御コマンドを受けて、プログラムおよびイレースを制御します。リセット解除時に USB ケーブルが接続されていてはいけません。

図 50.12 に、SCI ブートモード時のシステム構成を示します。

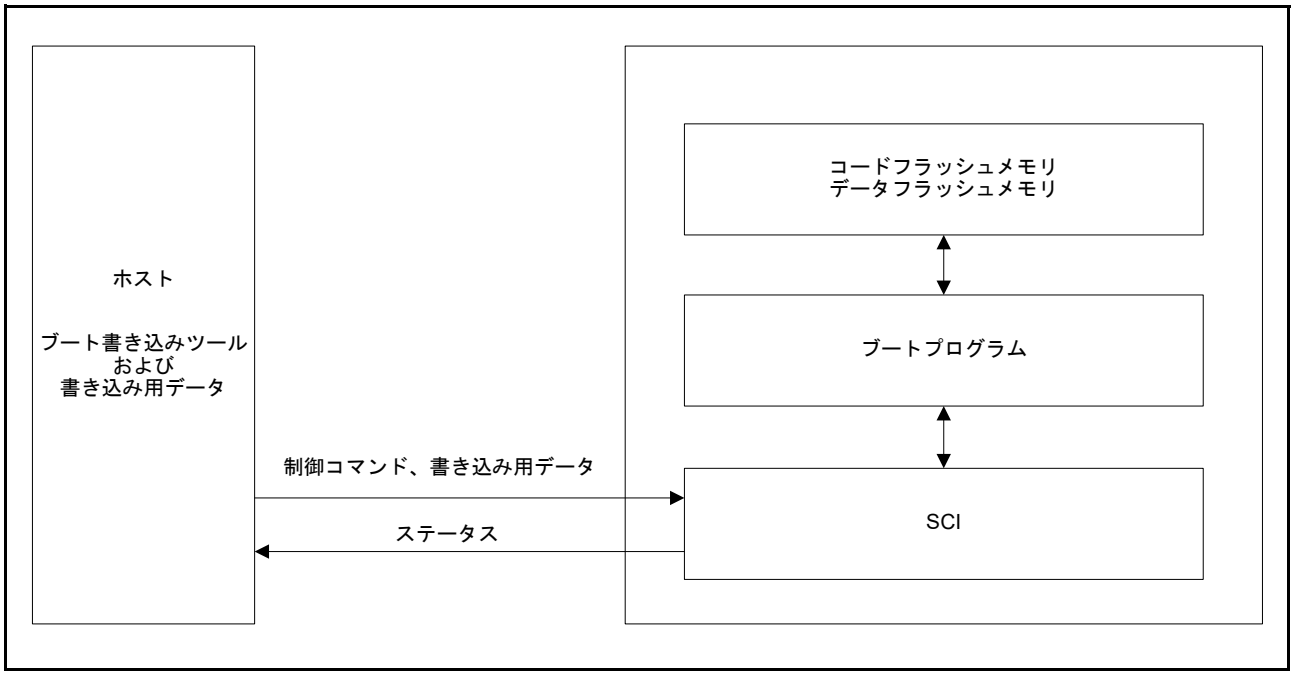


図 50.12 SCI ブートモード時のシステム構成

50.11.2 USB ブートモード

USB ブートモードは、USB インタフェースを経由して外部に接続されたホストから制御コマンドやプログラムデータを送信し、コードフラッシュメモリ／データフラッシュメモリへのプログラム／イレースを行うモードです。

USB ブートモードでは、制御コマンドやプログラムデータを送信するツールと、プログラムデータをホスト側に準備しておく必要があります。図 50.13 に、USB ブートモードで使用するシステム構成を示します。リセット解除時、USB ケーブルが接続されていなければいけません。

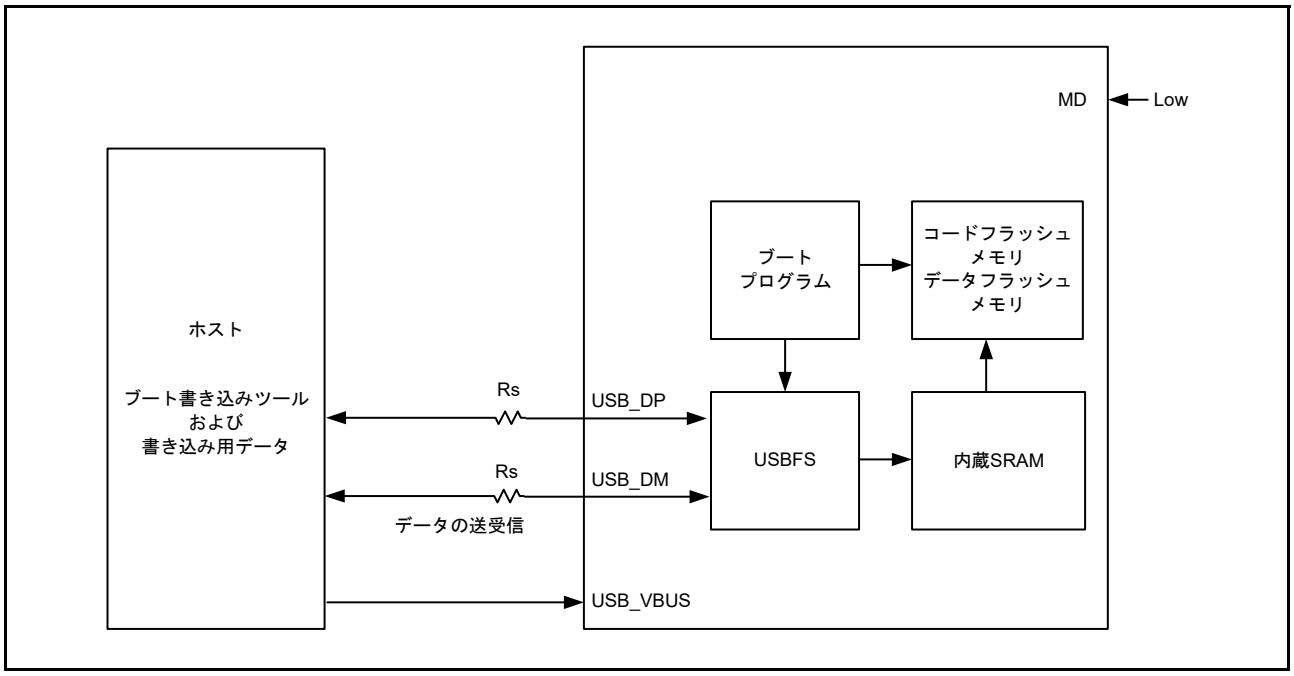


図 50.13 USB ブートモード時のシステム構成

50.12 シリアルプログラマを使用する場合

専用フラッシュメモリプログラマを使用して、シリアルプログラミングモードでフラッシュメモリのプログラムを行うことができます。

50.12.1 シリアルプログラミング

本 MCU は、シリアルプログラミング用にボードに装着されています。ボードにコネクタを備えることにより、フラッシュメモリプログラマはプログラムを行うことができます。

50.12.2 プログラミング環境

図 50.14 に、本 MCU のフラッシュメモリにデータをプログラミングするための推奨される環境を示します。

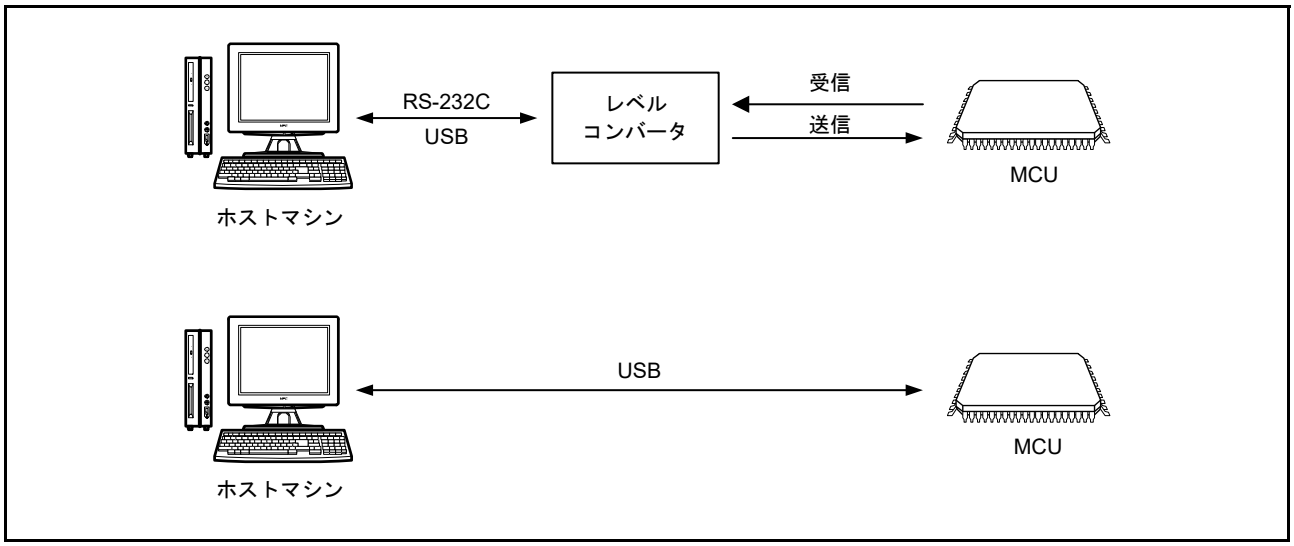


図 50.14 フラッシュメモリにプログラムを書き込むための環境

50.13 セルフプログラミング

50.13.1 概要

本 MCU は、ユーザプログラムによるフラッシュメモリの書き換えをサポートします。プログラムコマンドをユーザのプログラムで使用することにより、コードフラッシュメモリとデータフラッシュメモリを書き換えることができます。したがって、ユーザプログラムのアップグレードと、定数データフィールドの書き換えが可能になります。

バックグラウンドオペレーション機能を利用して表 50.11 に示す条件でコードフラッシュメモリ上のプログラムを実行して、データフラッシュメモリを書き換えることができます。このプログラムを事前に内蔵 SRAM または外部メモリに複製し、そこから実行することも可能です。内蔵 SRAM または外部メモリから実行時、本プログラムはコードフラッシュメモリを書き換えることもできます。

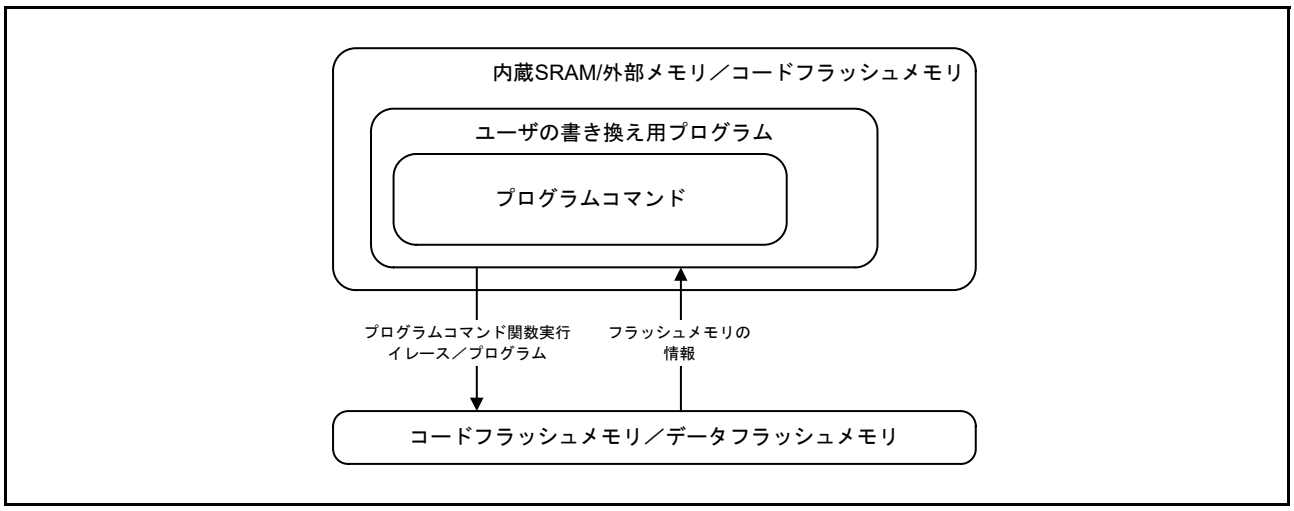


図 50.15 セルフプログラミングの概念

50.13.2 バックグラウンドオペレーション

書き込み対象および読み出し対象のフラッシュメモリが表 50.11 に示す組み合わせである場合には、バックグラウンドオペレーションを利用することが可能です。

表 50.11 バックグラウンドオペレーションの利用可能な条件

製品	書き込み範囲	読み出し範囲
全製品	データフラッシュメモリ	コードフラッシュメモリ
	コードフラッシュメモリ	データフラッシュメモリ

50.14 フラッシュメモリの読み出し

50.14.1 コードフラッシュメモリの読み出し

通常モードでコードフラッシュメモリを読み出すのに、特別な設定は必要ありません。コードフラッシュメモリのアドレスにアクセスすることで、データを読み出すことが可能です。イレース後にプログラミングしていない（未プログラム状態の）コードフラッシュメモリを読み出すと、全ビットから 1 が読み出されます。

50.14.2 データフラッシュメモリの読み出し

通常モードでデータフラッシュメモリを読み出すのに、特別な設定は必要ありません。データフラッシュメモリのアドレスにアクセスすることで、データを読み出すことが可能です。未プログラム状態のデータフラッシュメモリなど、イレース後に書き換えられていないデータフラッシュメモリを読み出すと、値はすべて不定です。未プログラム状態の確認には、ブランクチェック機能を使用してください。

50.15 使用上の注意事項

50.15.1 プログラム／イレースを中断した領域の読み出し

プログラム／イレースを中断したフラッシュメモリ領域の格納データは不定です。誤動作の原因となる不定データの読み出しを回避するため、プログラム／イレースを中断した領域の命令フェッチやデータリードを実行しないでください。

50.15.2 追加の書き込みに関する制約

構成領域を除き、同一領域に 2 回以上の書き込みを行うことはできません。フラッシュメモリ領域への書き込みが完了したら、その領域の書き換えを行う前にイレースしてください。構成領域は上書き可能です。

50.15.3 プログラム／イレース中のリセット

RES 端子からリセットを入力する場合、電気的特性で定義された動作電圧の範囲内で、t_{RESW} 以上（52.3.3 リセットタイミング参照）のリセット入力時間を経過してからリセットを解除してください。

50.15.4 プログラム／イレース中の割り込み／例外ベクタの配置

プログラム／イレース中に割り込み／例外が発生すると、コードフラッシュメモリからのベクタフェッチが発生する場合があります。ベクタ配置がバックグラウンドオペレーションの使用条件を満足しない場合、ベクタフェッチのアドレスをコードフラッシュメモリ以外に設定してください。

50.15.5 プログラム／イレース中の制約

プログラム／イレース中は、下記を禁止します。

- 電源を動作電圧範囲外にする
- 周辺クロックの動作周波数を変更する

50.15.6 プログラム／イレース中の異常終了

RES 端子によるリセットの発生によりプログラム／イレースが異常終了した場合、不定データを格納したフラッシュメモリのプログラム状態／イレース状態は検証または確認できません。プログラム／イレースが異常終了した領域では、ブランクチェック機能では当該領域のイレースに成功したかどうかを判断できません。当該領域を使用する前にイレースを完了するためには、イレースを再実行してください。

51. 内部電圧レギュレータ

51.1 概要

本 MCU は、入出力、アナログ、USB、およびバッテリバックアップパワードメイン以外の内部回路およびメモリに電圧を供給するリニアレギュレータ（LDO）を内蔵しています。

51.2 動作説明

表 51.1 に LDO モードの端子設定を、図 51.1 に LDO モードの設定を示します。LDO モードでは、内部電圧は VCC から生成します。

表 51.1 LDOモード端子の設定内容

端子	内容
全VCC端子	• システムの電源に接続してください。 • 0.1μFの積層セラミックコンデンサを介してVSSに接続してください。コンデンサは端子近くに配置してください。
VCL端子およびVCL0端子	0.1μFの積層セラミックコンデンサを介してVSSに接続してください。コンデンサは端子近くに配置してください。

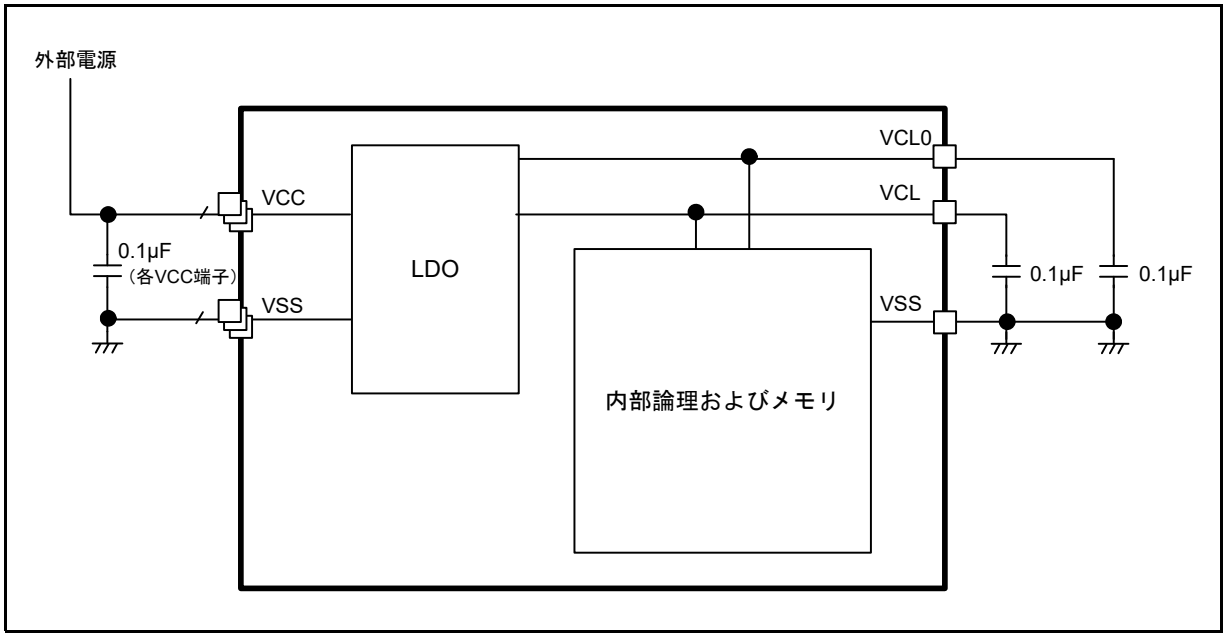


図 51.1 LDO モード設定

52. 電気的特性

特に記載のない限り、本 MCU の電気的特性は以下の条件で定義されています。

- VCC = AVCC0 = VCC_USB = VBATT = 2.7 ～ 3.6V
- 2.7 ≦ VREFH0/VREFH ≦ AVCC0
- VSS = AVSS0 = VREFL0/VREFL = VSS_USB = 0V
- $T_a = T_{opr}$

図 52.1 は、タイミング条件を示しています。

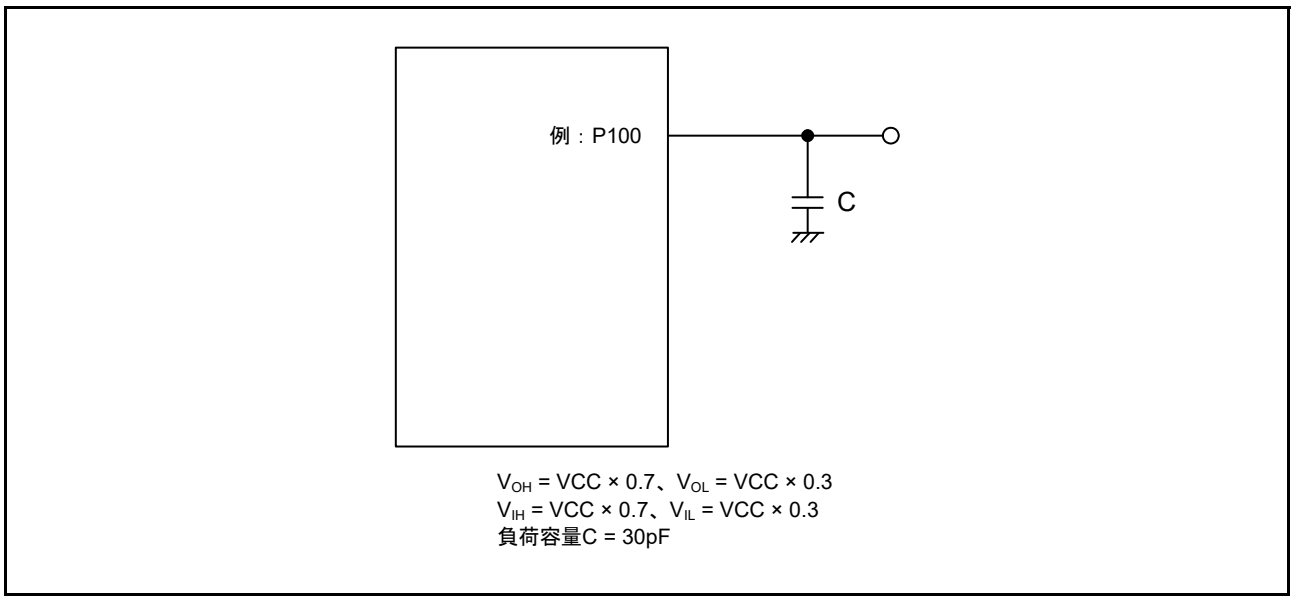


図 52.1 入出力タイミング計測条件

各周辺モジュールのタイミング仕様の計測条件は、最適な周辺動作に対するものです。ただし、ユーザシステムの条件に合うように、各端子の駆動能力を調整してください。

同じ機能に使用される各機能端子は、同じ駆動能力を選択してください。各機能端子の I/O 駆動能力が混在する場合、各機能の A/C 仕様は保証されません。

52.1 絶対最大定格

表 52.1 絶対最大定格

項目	シンボル	値	単位
電源電圧	VCC、VCC_USB（注2）	-0.3～+4.0	V
VBATT電源電圧	VBATT	-0.3～+4.0	V
入力電圧（5V トレラントポートを除く（注1））	V_{in}	-0.3～VCC + 0.3	V
入力電圧（5V トレラントポート（注1））	V_{in}	-0.3～VCC + 4.0 (max 5.8)	V
リファレンス電源電圧	VREFH/VREFH0	-0.3～VCC + 0.3	V
アナログ電源電圧	AVCC0（注2）	-0.3～+4.0	V
アナログ入力電圧（P000～P007を除く）	V_{AN}	-0.3～AVCC0 + 0.3	V
PGA差分入力無効時のアナログ入力電圧（P000～P007）	V_{AN}	-0.3～AVCC0 + 0.3	V
PGA差分入力有効時のアナログ入力電圧 （P000～P002、P004～P006）	V_{AN}	-1.3～AVCC0 + 0.3	V
PGA差分入力有効時のアナログ入力電圧（P003、P007）	V_{AN}	-0.8～AVCC0 + 0.3	V
動作温度（注3）（注4）（注5）	T_{opr}	-40～+85 -40～+105	℃
保存温度	T_{stg}	-55～+125	℃

【使用上の注意】 絶対最大定格を超えて MCU を使用した場合、MCU の永久破壊となることがあります。

注 1. P205、P206、P400、P401、P407 ～ P415、および P708 は、5V トレラントポートです。
注 2. AVCC0 および VCC_USB を VCC に接続してください。
注 3. 52.2.1 Tj/Ta の定義を参照してください。
注 4. T_a = +85 ～ +105 ℃の場合のディレーティング動作について、詳しくは弊社の営業担当までお問い合わせください。ディレーティングとは、信頼性向上のための系統的な負荷軽減策です。
注 5. 動作温度の上限は +85 ℃または +105 ℃であり、製品によって異なります。詳細は、1.3 型名を参照してください。

表 52.2 推奨動作条件

項目	シンボル	値	Min	Typ	Max	単位
電源電圧	VCC	USB未使用時	2.7	-	3.6	V
		USB使用時	3.0	-	3.6	V
	VSS		-	0	-	V
USB電源電圧	VCC_USB		-	VCC	-	V
	VSS_USB		-	0	-	V
VBATT電源電圧	VBATT		1.65（注2）	-	3.6	V
アナログ電源電圧	AVCC0（注1）		-	VCC	-	V
	AVSS0		-	0	-	V

注 1. AVCC0 を VCC に接続してください。A/D コンバータ、D/A コンバータおよびコンパレータのいずれも使用していない場合、AVCC0 端子、VREFH/VREFH0 端子、AVSS0 端子および VREFL/VREFL0 端子を開放したままにしないでください。
AVCC0 端子および VREFH/VREFH0 端子を VCC に、AVSS0 端子および VREFL/VREFL0 端子を VSS に接続してください。
注 2. VBATT = 1.8V 未満は、低 CL 水晶振動子は使用できません。

52.2 DC 特性

52.2.1 Tj/Ta の定義

表 52.3 DC 特性
条件：動作温度（T_a）が -40 ～ +105 ℃の製品

項目		シンボル	Typ	Max	単位	測定条件
許容ジャンクション温度	100 ピン LQFP 64 ピン LQFP	T_j	-	125	℃	High-speed モード Low-speed モード Subosc-speed モード
	64 ピン QFN			117		
	100 ピン LGA			105		

注 . Tj = T_a + θja × 総消費電力（W）となるようにしてください。
このとき、総消費電力 = (VCC - V_{OH}) × ΣI_{OH} + V_{OL} × ΣI_{OL} + I_{CC}max × VCC です。
動作温度の上限は、+85 ℃または +105 ℃です（製品による）。詳細は、1.3 型名を参照してください。

52.2.2 I/O V_{IH}, V_{IL}

表 52.4 I/O V_{IH}, V_{IL}

項目					シンボル	Min	Typ	Max	単位
入力電圧（シュミットトリガ入力端子を除く）	周辺機能端子	EXTAL（外部クロック入力）、WAIT, SPI（RSPCKを除く）			V_{IH}	VCC × 0.8	-	-	V
					V_{IL}	-	-	VCC × 0.2	
		D00～D07			V_{IH}	VCC × 0.7	-	-	
					V_{IL}	-	-	VCC × 0.3	
		IIC（SMBus）（注1）			V_{IH}	2.1	-	-	
					V_{IL}	-	-	0.8	
		IIC（SMBus）（注2）			V_{IH}	2.1	-	VCC + 3.6（max 5.8）	
					V_{IL}	-	-	0.8	
シュミットトリガ入力電圧	周辺機能端子	IIC（SMBusを除く）（注1）			V_{IH}	VCC × 0.7	-	-	V
					V_{IL}	-	-	VCC × 0.3	
					ΔV_T	VCC × 0.05	-	-	
		IIC（SMBusを除く）（注2）			V_{IH}	VCC × 0.7	-	VCC + 3.6（max 5.8）	
					V_{IL}	-	-	VCC × 0.3	
					ΔV_T	VCC × 0.05	-	-	
		5Vトレラントポート（注3）（注7）			V_{IH}	VCC × 0.8	-	VCC + 3.6（max 5.8）	
					V_{IL}	-	-	VCC × 0.2	
					ΔV_T	VCC × 0.05	-	-	
		RTCIC0, RTCIC1, RTCIC2	バッテリバックアップ機能使用時	V_{BATT}電源選択時	V_{IH}	V_{BATT} × 0.8	-	V_{BATT} + 0.3	
					V_{IL}	-	-	V_{BATT} × 0.2	
					ΔV_T	V_{BATT} × 0.05	-	-	
				VCC電源供給選択時	V_{IH}	VCC × 0.8	-	VCC + 0.3V または V_{BATT} + 0.3Vのうち高電位の側	
					V_{IL}	-	-	VCC × 0.2	
					ΔV_T	VCC × 0.05	-	-	
			バッテリバックアップ機能未使用時		V_{IH}	VCC × 0.8	-	VCC + 0.3	
					V_{IL}	-	-	VCC × 0.2	
					ΔV_T	VCC × 0.05	-	-	
		その他の入力端子（注4）			V_{IH}	VCC × 0.8	-	-	
					V_{IL}	-	-	VCC × 0.2	
					ΔV_T	VCC × 0.05	-	-	
	ポート	5Vトレラントポート（注5）（注7）			V_{IH}	VCC × 0.8	-	VCC + 3.6（max 5.8）	V
					V_{IL}	-	-	VCC × 0.2	
		その他の入力端子（注6）			V_{IH}	VCC × 0.8	-	-	
					V_{IL}	-	-	VCC × 0.2	

注 1. SCL1_B、SDA1_B（合計 2 端子）
注 2. SCL0_A、SDA0_A、SCL0_B、SDA0_B、SCL1_A、SDA1_A（合計 6 端子）
注 3. P205、P206、P400、P401、P407 ～ P415、P708（合計 15 端子）に関連する RES および周辺機能端子
注 4. 表で説明した周辺機能端子を除くすべての入力端子
注 5. P205、P206、P400、P401、P407 ～ P415、P708（合計 14 端子）
注 6. 表で説明したポートを除くすべての入力端子
注 7. VCC が 2.7V 未満の場合、5V トレラントポートの入力電圧は、3.6V 未満としてください。このようにしないと、絶縁破壊が発生する可能性があります。5V トレラントポートは耐圧違反を防止するように電気的に制御されるためです。

52.2.3 I/O I_{OH}, I_{OL}

表 52.5 I/O I_{OH}, I_{OL}

項目			シンボル	Min	Typ	Max	単位
許容出力電流（端子ごとの平均値）	ポートP008、P201	-	I_{OH}	-	-	-2.0	mA
			I_{OL}	-	-	2.0	mA
	ポートP014、P015	-	I_{OH}	-	-	-4.0	mA
			I_{OL}	-	-	4.0	mA
	ポートP205、P206、P407～P415、P602、P708（合計13端子）	低駆動（注1）	I_{OH}	-	-	-2.0	mA
			I_{OL}	-	-	2.0	mA
		中駆動（注2）	I_{OH}	-	-	-4.0	mA
			I_{OL}	-	-	4.0	mA
		高駆動（注3）	I_{OH}	-	-	-20	mA
			I_{OL}	-	-	20	mA
	その他の出力端子（注4）	低駆動（注1）	I_{OH}	-	-	-2.0	mA
			I_{OL}	-	-	2.0	mA
		中駆動（注2）	I_{OH}	-	-	-4.0	mA
			I_{OL}	-	-	4.0	mA
		高駆動（注3）	I_{OH}	-	-	-16	mA
			I_{OL}	-	-	16	mA
許容出力電流（端子ごとの最大値）	ポートP008、P201	-	I_{OH}	-	-	-4.0	mA
			I_{OL}	-	-	4.0	mA
	ポートP014、P015	-	I_{OH}	-	-	-8.0	mA
			I_{OL}	-	-	8.0	mA
	ポートP205、P206、P407～P415、P602、P708（合計13端子）	低駆動（注1）	I_{OH}	-	-	-4.0	mA
			I_{OL}	-	-	4.0	mA
		中駆動（注2）	I_{OH}	-	-	-8.0	mA
			I_{OL}	-	-	8.0	mA
		高駆動（注3）	I_{OH}	-	-	-40	mA
			I_{OL}	-	-	40	mA
	その他の出力端子（注4）	低駆動（注1）	I_{OH}	-	-	-4.0	mA
			I_{OL}	-	-	4.0	mA
		中駆動（注2）	I_{OH}	-	-	-8.0	mA
			I_{OL}	-	-	8.0	mA
		高駆動（注3）	I_{OH}	-	-	-32	mA
			I_{OL}	-	-	32	mA
許容出力電流（全端子の最大値）	全出力端子の最大値		$\Sigma I_{OH\ (max)}$	-	-	-80	mA
			$\Sigma I_{OL\ (max)}$	-	-	80	mA

【使用上の注意】 MCU の信頼性を確保するため、出力電流値はこの表の値を超えないようにしてください。平均出力電流は、100µs の間に計測した電流の平均値を意味します。

注 1. PmnPFS レジスタのポート駆動能力ビットで低駆動が選択されている場合の値です。選択された駆動能力は、ディープソフトウェアスタンバイモードで保持されます。
注 2. PmnPFS レジスタのポート駆動能力ビットで中駆動が選択されている場合の値です。選択された駆動能力は、ディープソフトウェアスタンバイモードで保持されます。
注 3. PmnPFS レジスタのポート駆動能力ビットで高駆動が選択されている場合の値です。選択された駆動能力は、ディープソフトウェアスタンバイモードで保持されます。
注 4. 入力ポートである P000 ～ P007、P200 を除きます。

52.2.4 I/O V_{OH}、V_{OL}、その他の特性

表 52.6 I/O V_{OH}、V_{OL}、その他の特性

項目			シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
出力電圧	IIC		V_{OL}	-	-	0.4	V	I_{OL} = 3.0mA
			V_{OL}	-	-	0.6		I_{OL} = 6.0mA
	IIC（注1）		V_{OL}	-	-	0.4		I_{OL} = 15.0mA (ICFER.FMPE = 1)
			V_{OL}	-	0.4	-		I_{OL} = 20.0mA (ICFER.FMPE = 1)
	ポートP205、P206、P407～P415、P602、P708（合計13端子）（注2）		V_{OH}	VCC - 1.0	-	-		I_{OH} = -20mA VCC = 3.3V
			V_{OL}	-	-	1.0		I_{OL} = 20mA VCC = 3.3V
	その他の出力端子		V_{OH}	VCC - 0.5	-	-		I_{OH} = -1.0mA
			V_{OL}	-	-	0.5		I_{OL} = 1.0mA
入力リーク電流	RES		$\|I_{in}\|$	-	-	5.0	μA	V_{in} = 0V V_{in} = 5.5V
	ポートP000～P002、P004～P006、P200			-	-	1.0		V_{in} = 0V V_{in} = VCC
	ポートP003、P007	初期化前（注3）		-	-	45.0		V_{in} = 0V V_{in} = VCC
		初期化後（注4）		-	-	1.0		V_{in} = 0V V_{in} = VCC
スリーステートリーク電流（オフ状態）	5Vトレラントポート		$\|I_{TSI}\|$	-	-	5.0	μA	V_{in} = 0V V_{in} = 5.5V
	その他のポート（P000～P007、P200を除く）			-	-	1.0		V_{in} = 0V V_{in} = VCC
入力プルアップMOS電流	ポートP0～P7（P000～P007を除く）		I_p	-300	-	–10	μA	VCC = 2.7～3.6V Vin = 0V
入力容量	USB_DP、USB_DM、およびポートP003、P007、P014、P015、P400、P401		C_{in}	-	-	16	pF	Vbias = 0V Vamp = 20mV f = 1MHz T_a = 25℃
	その他の入力端子			-	-	8		

注 1. SCL0_A、SDA0_A（合計 2 端子）
注 2. PmnPFS レジスタのポート駆動能力ビットで高駆動が選択されている場合の値です。選択された駆動能力は、ディープソフトウェアスタンバイモードで保持されます。
注 3. P0nPFS.ASEL（n = 3 または 7）= 1
注 4. P0nPFS.ASEL（n = 3 または 7）= 0

52.2.5 動作電流とスタンバイ電流

表 52.7　動作電流とスタンバイ電流 (1/2)

項目				シンボル	Min	Typ	Max	Unit	測定条件
消費電流（注1）	High-speed モード	最大動作（注2）		I_{CC}（注3）	-	-	87	mA	ICLK = 120MHz PCLKA = 120MHz PCLKB = 60MHz PCLKC = 60MHz PCLKD = 120MHz FCLK = 60MHz BCLK = 120MHz
		CoreMark®（注5）			-	17	-		
		通常モード	すべての周辺クロックが有効、その間（1）コードがフラッシュから実行（注4）		-	24	-		
			すべての周辺クロックが無効、その間（1）コードはフラッシュから実行（注5）（注6）		-	12	-		
		スリープモード（注5）（注6）			-	9	33.5		
		BGO動作中に増加	データフラッシュ P/E		-	6	-		
			コードフラッシュ P/E		-	8	-		
	Low-speedモード（注5）				-	1.2	-		ICLK = 1MHz
	Subosc-speedモード（注5）				-	1.0	-		ICLK = 32.768kHz
	ソフトウェアスタンバイモード				-	1.3	13		Ta ≦ 85℃
					-	1.3	21		Ta ≦ 105℃
	ディープソフトウェアスタンバイモード	スタンバイSRAM、USBレジューム検出部への電源供給あり			-	28	65	μA	Ta ≦ 85℃
					-	28	93		Ta ≦ 105℃
		SRAM、USBレジューム検出部への電源供給なし	パワーオンリセット回路、低消費電力機能無効		-	11.6	28		Ta ≦ 85℃
					-	11.6	32		Ta ≦ 105℃
			パワーオンリセット回路、低消費電力機能有効		-	4.9	21		Ta ≦ 85℃
					-	4.9	26		Ta ≦ 105℃
		RTC、AGT動作中に増加	低速オンチップ発振器（LOCO）使用時		-	4.4	-		-
			低CL水晶発振子使用時		-	1.0	-		-
			標準CL水晶発振子使用時		-	1.4	-		-
		VCCオフ時のRTC動作（バッテリバックアップ機能により、RTC、サブクロック発振器のみ動作）	低CL水晶発振子使用時		-	0.9	-		V_{BATT} = 1.8V, VCC = 0V
					-	1.1	-		V_{BATT} = 3.3V, VCC = 0V
			標準CL水晶発振子使用時		-	1.0	-		V_{BATT} = 1.8V, VCC = 0V
					-	1.6	-		V_{BATT} = 3.3V, VCC = 0V
アナログ電源電流	12ビットA/D変換中			AI_{CC}	-	0.8	1.1	mA	-
	サンプル＆ホールドAMPを使用した12ビットA/D変換時				-	2.3	3.3	mA	-
	PGA（1ch）				-	1	3	mA	-
	ACMPHS（1ユニット）				-	100	150	μA	-
	温度センサ				-	0.1	0.2	mA	-
	D/A変換中（1ユニット当り）		AMP出力なし		-	0.1	0.2	mA	-
			AMP出力あり		-	0.6	1.1	mA	-
	A/D、D/A変換待機時（全ユニット）				-	0.9	1.6	mA	-
	スタンバイモードのADC12、DAC12（全ユニット）（注7）				-	2	8	μA	-
リファレンス電源電流（VREFH0）	12ビットA/D変換中（ユニット0）			AI_{REFH0}	-	70	120	μA	-
	12ビットA/D変換待機時（ユニット0）				-	0.07	0.5	μA	-
	スタンバイモードのADC12（ユニット0）				-	0.07	0.5	μA	-
リファレンス電源電流（VREFH）	12ビットA/D変換中（ユニット1）			AI_{REFH}	-	70	120	μA	-
	D/A変換中（1ユニット当り）		AMP出力なし		-	0.1	0.4	mA	-
			AMP出力あり		-	0.1	0.4	mA	-
	12ビットA/D（ユニット1）、D/A（全ユニット）変換待機時				-	0.07	0.8	μA	-
	スタンバイモードのADC12ユニット1				-	0.07	0.8	μA	-

表 52.7 動作電流とスタンバイ電流 (2/2)

項目			シンボル	Min	Typ	Max	Unit	測定条件
USB動作電流	ロースピード	USB	$I_{CCUSBLS}$	-	3.5	6.5	mA	VCC_USB
	フルスピード	USB	$I_{CCUSBFS}$	-	4.0	10.0	mA	VCC_USB

注 1. 消費電流値はすべての出力端子を無負荷状態にして、さらにすべての入力プルアップ MOS トランジスタをオフ状態にした場合の値です。
注 2. 周辺機能にクロックが供給された状態で計測しました。BGO 動作は含まれません。
注 3. I_{CC} は、下記のとおり f（ICLK）に依存します。（ICLK:PCLKA:PCLKB:PCLKC:PCLKD:BCK:EBCLK = 2:2:1:1:2:1:1）
I_{CC} Max. = 0.53 × f + 23（High-speed モードでの最大動作時）
I_{CC} Typ. = 0.08 × f + 2.4（High-speed モードでの通常動作時）
I_{CC} Typ. = 0.1 × f + 1.1（Low-speed モード）
I_{CC} Max. = 0.09 × f + 23（スリープモード）
注 4. BGO 動作は含まれません。
注 5. この状態では、周辺機能へのクロック信号供給は停止されています。BGO 動作は含まれません。
注 6. FCLK、BCLK、PCLKA、PCLKB、PCLKC、PCLKD は、64 分周（3.75MHz）に設定されています。
注 7. 本 MCU がソフトウェアスタンドバイモードの場合または MSTPCRD.MSTPD16（12 ビット A/D コンバータ 0 モジュールストップビット）および MSTPCRD.MSTPD15（12 ビット A/D コンバータ 1 モジュールストップビット）がモジュールストップ状態の場合 42.6.8 AN000 ～ AN002、AN007、AN100 ～ AN102、および AN107 の使用可能な機能とレジスタ設定を参照してください。

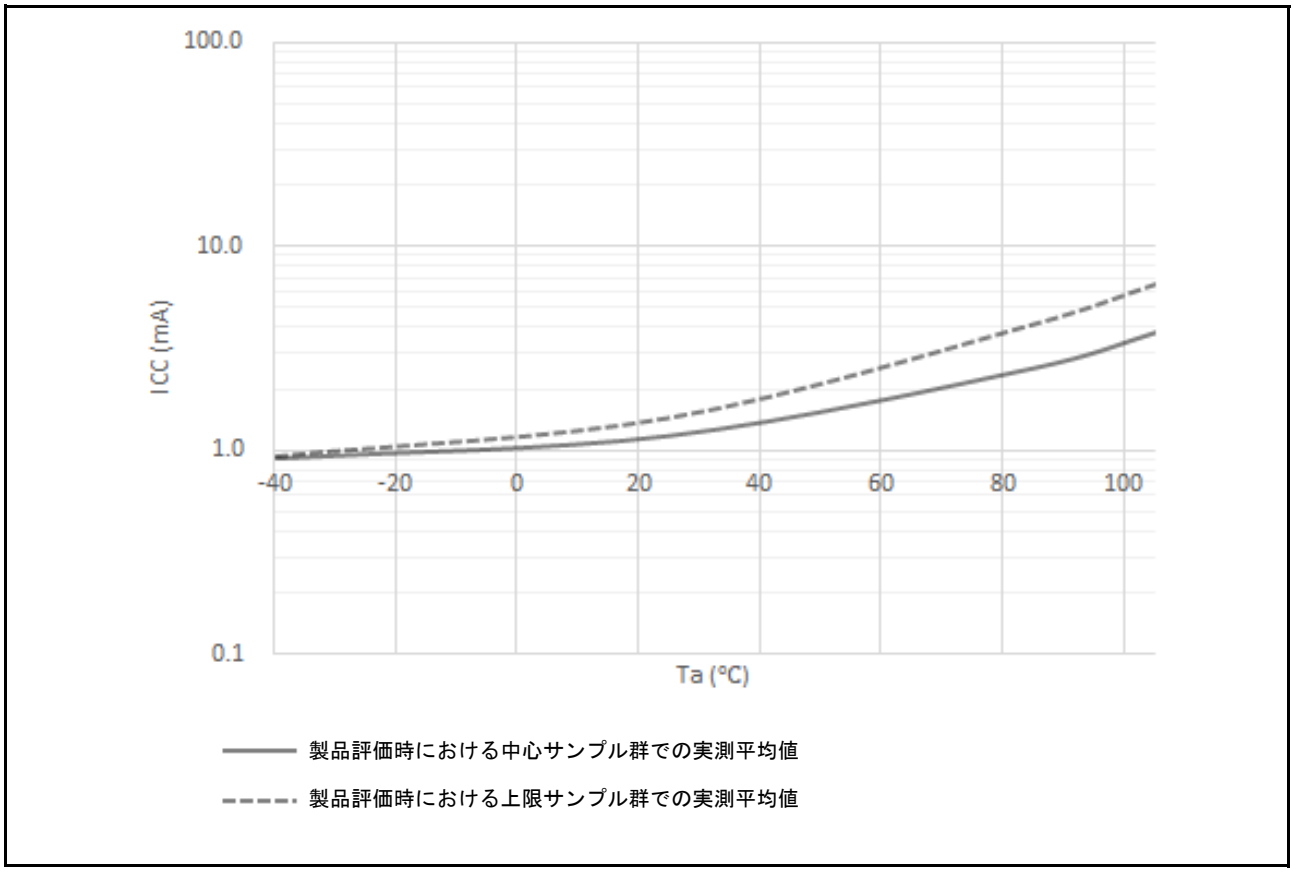


図 52.2 ソフトウェアスタンバイモード時の温度依存性（参考データ）

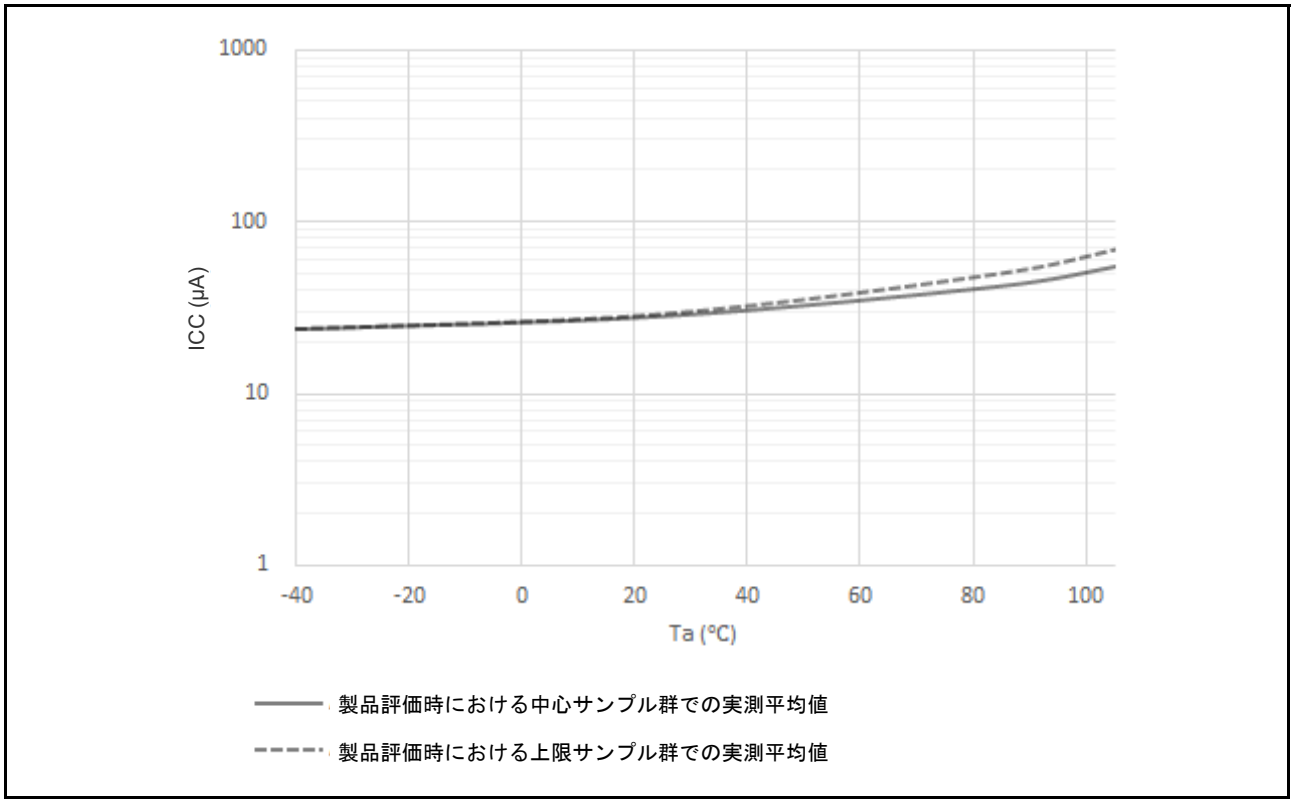


図 52.3　ディープソフトウェアスタンバイモード時の温度依存性：スタンバイ SRAM および USB レジューム検出部への電源供給あり（参考データ）

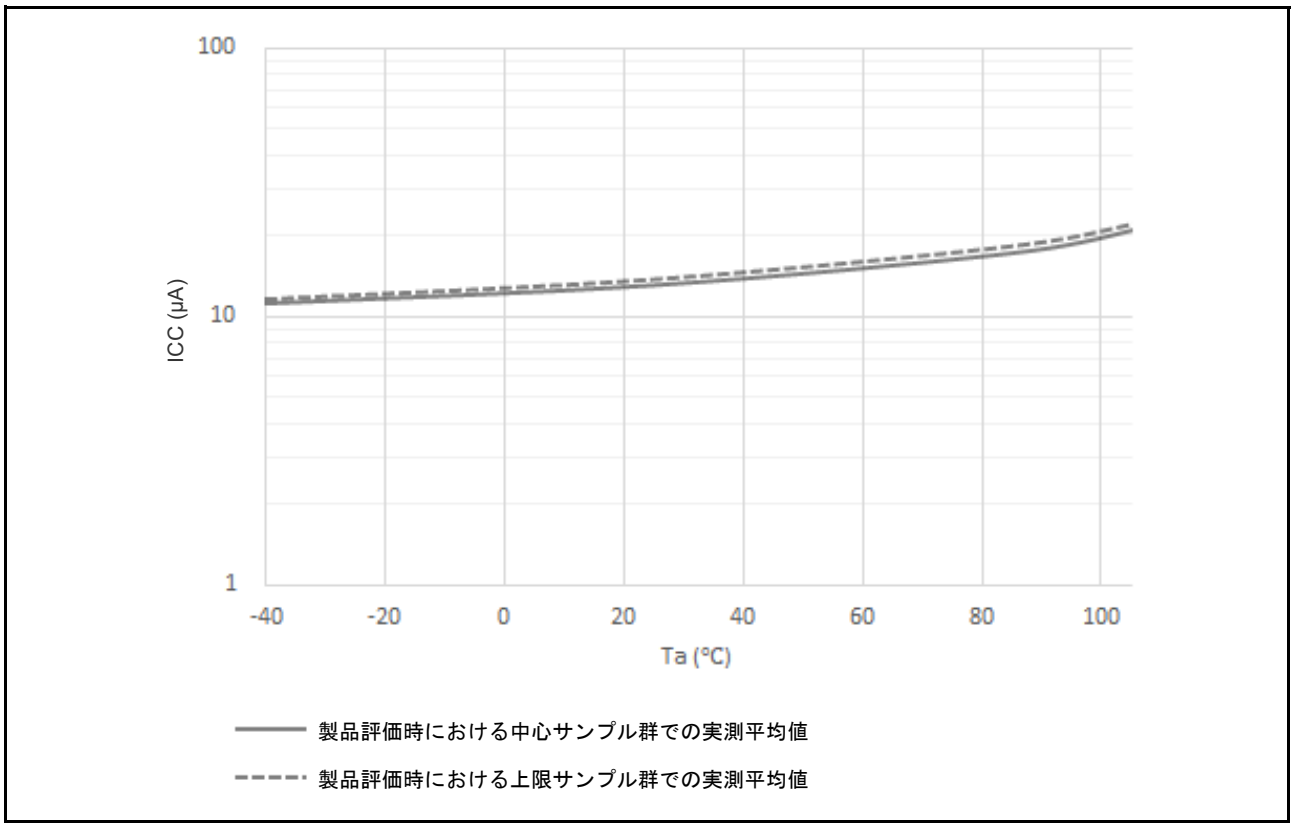


図 52.4　ディープソフトウェアスタンバイモード時の温度依存性：SRAM および USB レジューム検出部への電源供給なし、パワーオンリセット回路の低消費電力機能無効（参考データ）

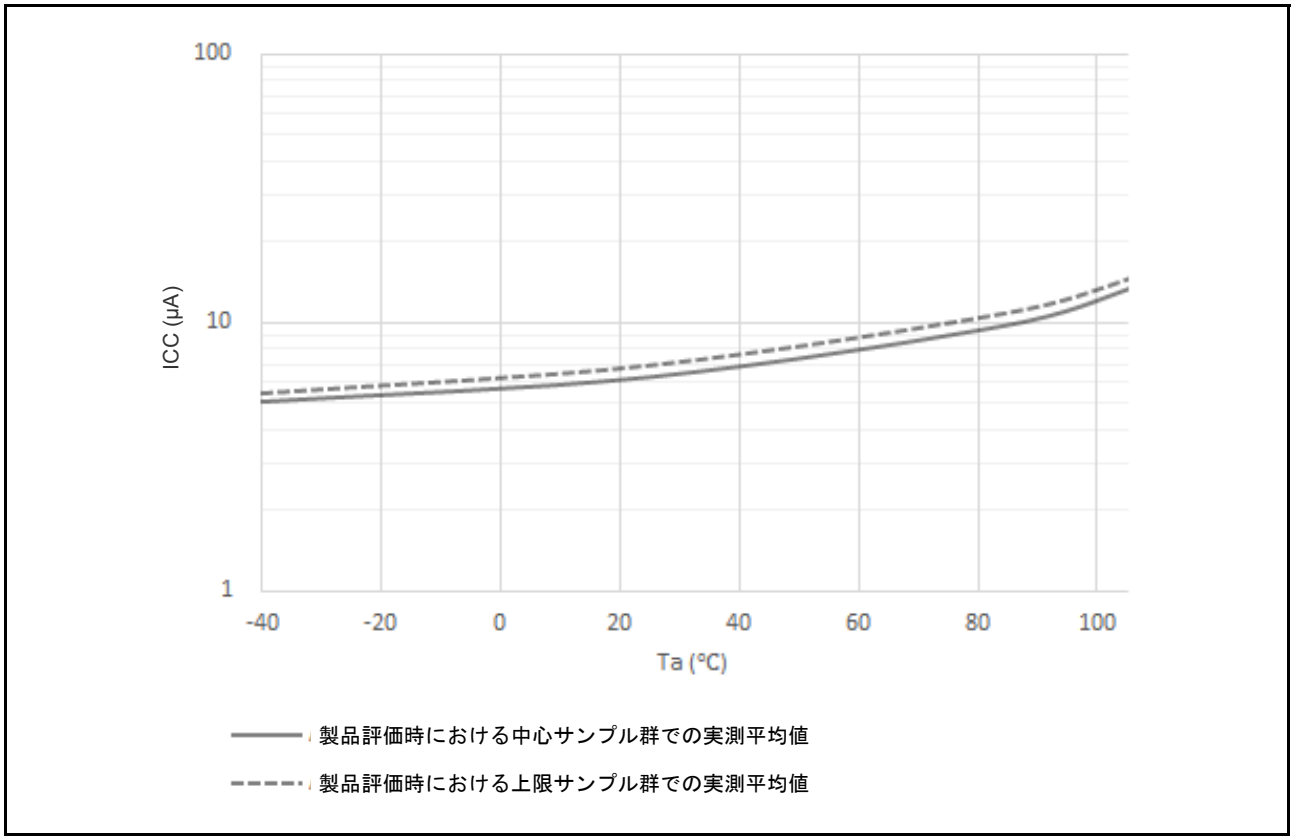


図 52.5 ディープソフトウェアスタンバイモード時の温度依存性：SRAM および USB レジューム検出部への電源供給なし、パワーオンリセット回路の低消費電力機能有効（参考データ）

52.2.6 VCC 立ち上がり／立ち下がり勾配とリップル周波数

表 52.8 立ち上がり／立ち下がり勾配の特性

項目		シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
VCC立ち上がり勾配	スタートアップ時の電圧監視0リセット禁止	SrVCC	0.0084	-	20	ms/V	-
	スタートアップ時の電圧監視0リセット許可		0.0084	-	-		-
	SCI/USB ブートモード（注1）		0.0084	-	20		-
VCC立ち下がり勾配（注2）		SfVCC	0.0084	-	-	ms/V	-

注 1. ブートモード時は、OFS1.LVDAS ビットの値にかかわらず、電圧モニタ 0 リセットは無効です。
注 2. VBATT を使用する場合に適用します。

表 52.9 立ち上がり／立ち下がり勾配とリップル周波数特性

リップル電圧は、VCC上限（3.6V）と下限（2.7V）の範囲内で、許容リップル周波数$f_{r(VCC)}$を満たす必要があります。VCC変動がVCC ± 10%を超える場合は、許容電圧変動立ち上がり／立ち下がり勾配dt/dVCCを満たす必要があります。

項目	シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
許容リップル周波数	$f_{r\ (VCC)}$	-	-	10	kHz	図 52.6 $V_{r\ (VCC)} \leqq$ VCC × 0.2
		-	-	1	MHz	図 52.6 $V_{r\ (VCC)} \leqq$ VCC × 0.08
		-	-	10	MHz	図 52.6 $V_{r\ (VCC)} \leqq$ VCC × 0.06
許容電圧変動立ち上がり／立ち下がり勾配	dt/dVCC	1.0	-	-	ms/V	VCC変動がVCC ± 10%を超える場合

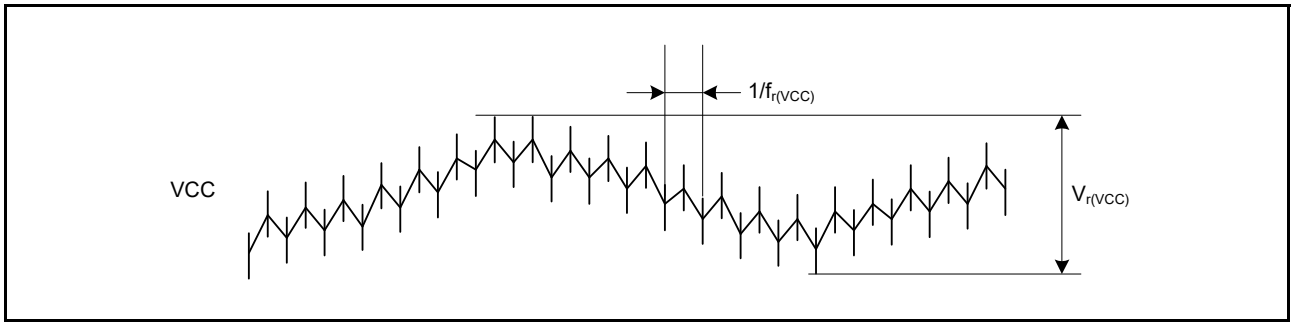


図 52.6 リップル波形

52.3 AC 特性

52.3.1 周波数

表 52.10 Hig-speedモードにおける動作周波数

項目		シンボル	Min	Typ	Max	単位
動作周波数	システムクロック（ICLK（注2））	f	-	-	120	MHz
	周辺モジュールクロック（PCLKA）（注2）		-	-	120	
	周辺モジュールクロック（PCLKB）（注2）		-	-	60	
	周辺モジュールクロック（PCLKC）（注2）		-（注3）	-	60	
	周辺モジュールクロック（PCLKD）（注2）		-	-	120	
	フラッシュインタフェースクロック（FCLK）（注2）		-（注1）	-	60	
	外部バスクロック（BCLK）（注2）		-	-	120	
	EBCLK端子出力		-	-	60	

注 1. フラッシュメモリのプログラミング／イレース中、FCLK は 4MHz 以上の周波数で実行する必要があります。
注 2. ICLK、PCLKA、PCLKB、PCLKC、PCLKD、FCLK、および BCLK 相互間の周波数関係については「9. クロック発生回路」を参照してください。
注 3. ADC12 使用時、PCLKC 周波数は 1MHz 以上でなければなりません。

表 52.11 Low-speedモードにおける動作周波数の値

項目		シンボル	Min	Typ	Max	単位
動作周波数	システムクロック（ICLK）（注2）	f	-	-	1	MHz
	周辺モジュールクロック（PCLKA）（注2）		-	-	1	
	周辺モジュールクロック（PCLKB）（注2）		-	-	1	
	周辺モジュールクロック（PCLKC）（注2）（注3）		-（注3）	-	1	
	周辺モジュールクロック（PCLKD）（注2）		-	-	1	
	フラッシュインタフェースクロック（FCLK）（注1）（注2）		-	-	1	
	外部バスクロック（BCLK）		-	-	1	
	EBCLK端子出力		-	-	1	

注 1. フラッシュメモリのプログラム／イレースは、Low-speed モードでは許可されていません。
注 2. ICLK、PCLKA、PCLKB、PCLKC、PCLKD、FCLK、および BCLK 相互間の周波数関係については「9. クロック発生回路」を参照してください。
注 3. ADC12 使用時、PCLKC 周波数は 1MHz 以上でなければなりません。

表 52.12 Subosc-speedモードにおける動作周波数

項目		シンボル	Min	Typ	Max	単位
動作周波数	システムクロック（ICLK）（注2）	f	29.4	-	36.1	kHz
	周辺モジュールクロック（PCLKA）（注2）		-	-	36.1	
	周辺モジュールクロック（PCLKB）（注2）		-	-	36.1	
	周辺モジュールクロック（PCLKC）（注2）（注3）		-	-	36.1	
	周辺モジュールクロック（PCLKD）（注2）		-	-	36.1	
	フラッシュインタフェースクロック（FCLK）（注1）（注2）		29.4	-	36.1	
	外部バスクロック（BCLK）（注2）		-	-	36.1	
	EBCLK端子出力		-	-	36.1	

注 1. フラッシュメモリのプログラム／イレースは、Subosc-speed モードでは許可されていません。
注 2. ICLK、PCLKA、PCLKB、PCLKC、PCLKD、FCLK、および BCLK 相互間の周波数関係については「9. クロック発生回路」を参照してください。
注 3. ADC12 は使用できません。

52.3.2 クロックタイミング

表 52.13 サブクロック発振器以外のクロックタイミング

項目		シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
EBCLK端子出力サイクル時間		t_{Bcyc}	16.6	-	-	ns	図 52.7
EBCLK端子出力Highレベルパルス幅		t_{CH}	3.3	-	-	ns	
EBCLK端子出力Lowレベルパルス幅		t_{CL}	3.3	-	-	ns	
EBCLK端子出力立ち上がり時間		t_{Cr}	-	-	5.0	ns	
EBCLK端子出力立ち下がり時間		t_{Cf}	-	-	5.0	ns	
EXTAL外部クロック入力サイクル時間		t_{EXcyc}	41.66	-	-	ns	図 52.8
EXTAL外部クロック入力Highレベルパルス幅		t_{EXH}	15.83	-	-	ns	
EXTAL外部クロック入力Lowレベルパルス幅		t_{EXL}	15.83	-	-	ns	
EXTAL外部クロック立ち上がり時間		t_{EXr}	-	-	5.0	ns	
EXTAL外部クロック立ち下がり時間		t_{EXf}	-	-	5.0	ns	
メインクロック発振器周波数		f_{MAIN}	8	-	24	MHz	-
メインクロック発振安定待機時間（水晶）（注1）		$t_{MAINOSCWT}$	-	-	-（注1）	ms	図 52.9
LOCOクロック発振周波数		f_{LOCO}	29.4912	32.768	36.0448	kHz	-
LOCOクロック発振安定待機時間		t_{LOCOWT}	-	-	60.4	μs	図 52.10
ILOCOクロック発振周波数		f_{ILOCO}	13.5	15	16.5	kHz	-
MOCOクロック発振周波数		F_{MOCO}	6.8	8	9.2	MHz	-
MOCOクロック発振安定待機時間		t_{MOCOWT}	-	-	15.0	μs	-
HOCOクロック発振器発振周波数	FLLなし	f_{HOCO16}	15.78	16	16.22	MHz	-20≦Ta≦105℃
		f_{HOCO18}	17.75	18	18.25		
		f_{HOCO20}	19.72	20	20.28		
		f_{HOCO16}	15.71	16	16.29		-40≦Ta≦-20℃
		f_{HOCO18}	17.68	18	18.32		
		f_{HOCO20}	19.64	20	20.36		
	FLLあり	f_{HOCO16}	15.960	16	16.040		-40≦Ta≦105℃ サブクロック周波数制度は、 ±50ppmです。
		f_{HOCO18}	17.955	18	18.045		
		f_{HOCO20}	19.950	20	20.050		
HOCOクロック発振安定待機時間（注2）		t_{HOCOWT}	-	-	64.7	μs	-
FLL安定待機時間		t_{FLLWT}	-	-	1.8	ms	-
PLLクロック周波数		f_{PLL}	120	-	240	MHz	-
PLLクロック発振安定待機時間		t_{PLLWT}	-	-	174.9	μs	図 52.11

注 1. メインクロック発振器を設定する場合、発振器メーカに発振評価を確認し、その結果を推奨発振安定時間として使用してください。MOSCWTCR レジスタを、推奨値以上に設定してください。
メインクロック動作を開始するために MOSCCR.MOSTP ビット設定を変更したら、OSCSF.MOSCSF フラグが 1 であることを確認してからメインクロック発振器の使用を開始してください。

注 2. リセット状態の解除から HOCO 発振周波数（fHOCO）が動作保証範囲に達するまでの時間です。

表 52.14 サブクロック発振器のクロックタイミング

項目	シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
サブクロック周波数	f_{SUB}	-	32.768	-	kHz	-
サブクロック発振安定待機時間	$t_{SUBOSCWT}$	-	-	-（注 1）	s	図 52.12

注 1. サブクロック発振器を設定する場合、発振器メーカに発振評価を確認し、その結果を推奨発振安定時間として使用してください。
サブクロック動作を開始するために SOSCCR.SOSTP ビットの設定を変更したら、必ずサブクロック発振安定時間が十分に経過してからサブクロック発振器の使用を開始してください。示された時間の 2 倍を推奨します。

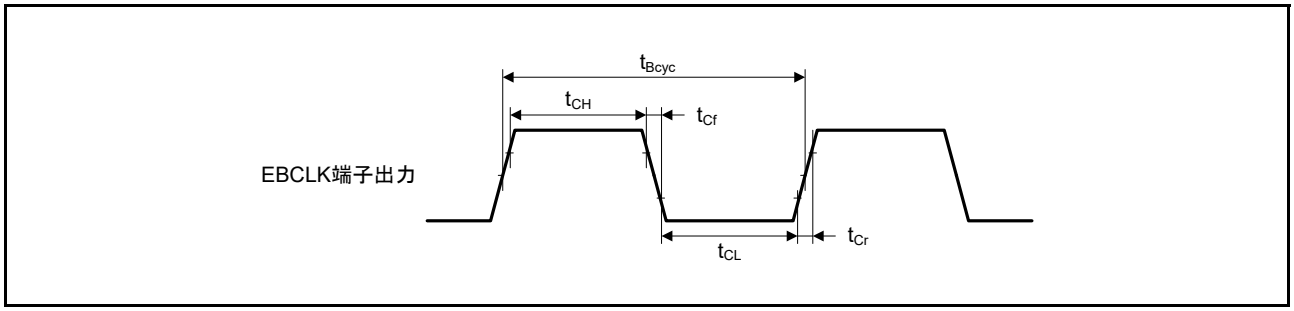


図 52.7 EBCLK 出力タイミング

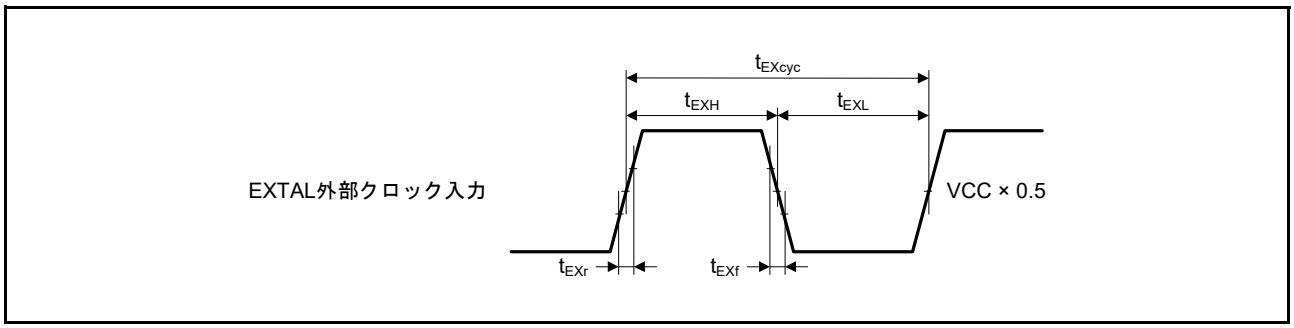


図 52.8 EXTAL 外部クロック入力タイミング

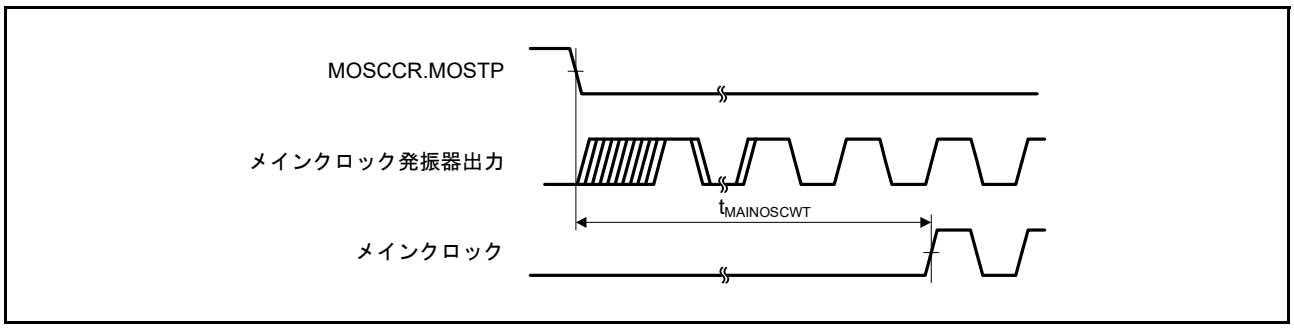


図 52.9 メインクロック発振開始タイミング

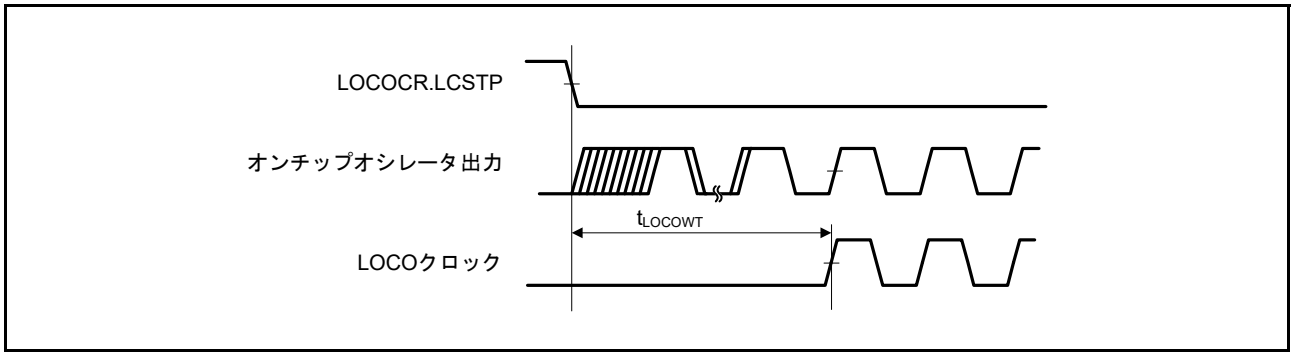


図 52.10 LOCO クロック発振開始タイミング

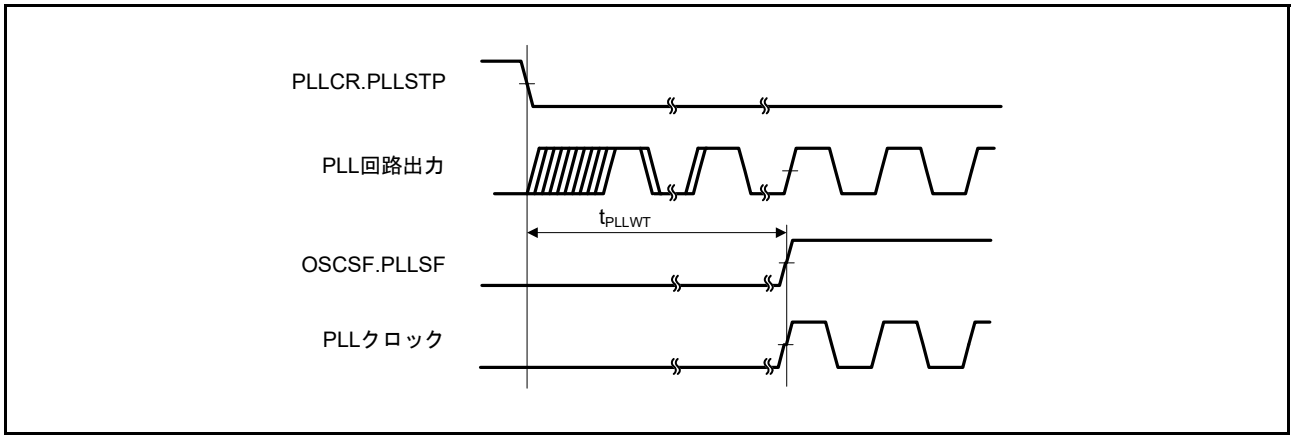


図 52.11 PLL クロック発振開始タイミング

注 . メインクロックの発振が安定した後に PLL を動作させてください。

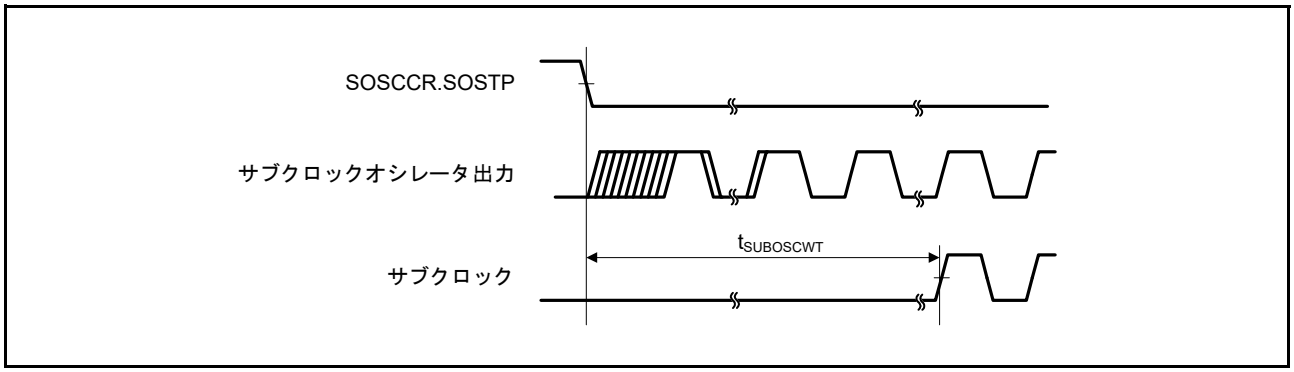


図 52.12 サブクロック発振開始タイミング

52.3.3 リセットタイミング

表 52.15 リセットタイミング

項目		シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
RESパルス幅	パワーオン	t_{RESWP}	1	-	-	ms	図 52.13
	ディープソフトウェアスタンバイモード	t_{RESWD}	0.6	-	-	ms	図 52.14
	ソフトウェアスタンバイモード、Subosc-speedモード	t_{RESWS}	0.3	-	-	ms	
	上記以外	t_{RESW}	200	-	-	μs	
RES解除後の待機時間		t_{RESWT}	-	29	32	μs	図 52.13
内部リセット解除後の待機時間（IWDTリセット、WDTリセット、ソフトウェアリセット、SRAMパリティエラーリセット、SRAM ECCエラーリセット、バスマスタMPUエラーリセット、バススレーブMPUエラーリセット、スタックポインタエラーリセット）		t_{RESW2}	-	320	390	μs	-

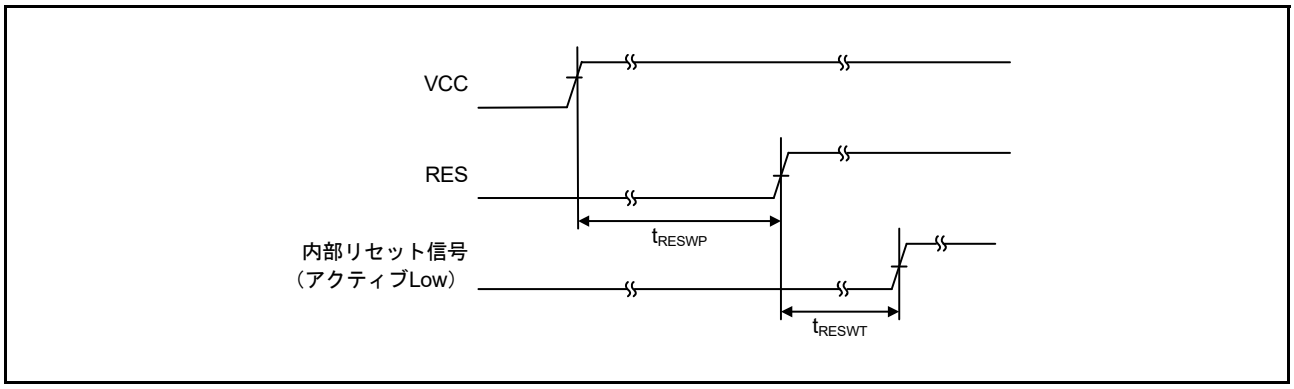


図 52.13 パワーオンリセットタイミング

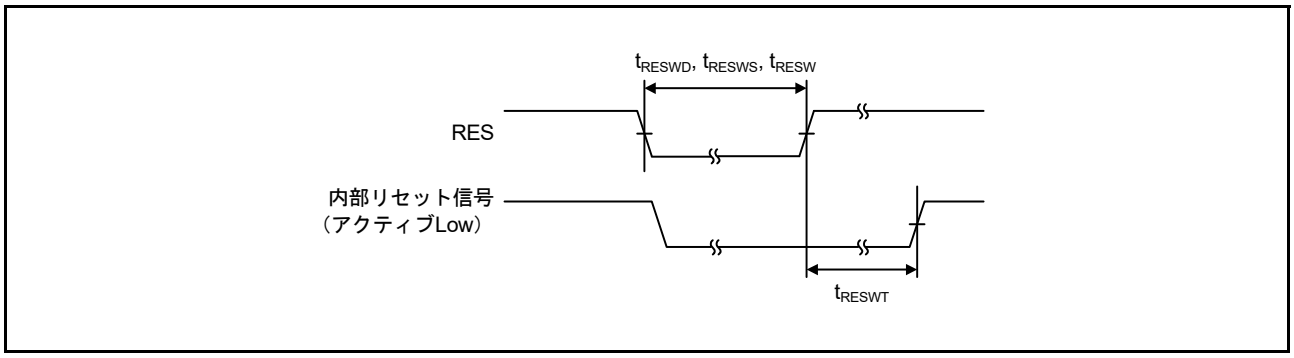


図 52.14 リセット入力タイミング

52.3.4 ウェイクアップタイミング

表 52.16 低消費電力モードからの復帰のタイミング

項目			シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
ソフトウェアスタンバイモードからの復帰時間（注1）	メインクロック発振器に水晶振動子を接続	システムクロックソースはメインクロック発振器（注2）	t_{SBYMC}	-	2.4（注9）	2.8（注9）	ms	図 52.15 全発振器の分周比は1です。
		システムクロックソースはメインクロック発振器を使用したPLL（注3）	t_{SBYPC}	-	2.7（注9）	3.2（注9）	ms	
	メインクロック発振器に外部クロックを入力	システムクロックソースはメインクロック発振器（注4）	t_{SBYEX}	-	230（注9）	280（注9）	µs	
		システムクロックソースはメインクロック発振器を使用したPLL（注5）	t_{SBYPE}	-	570（注9）	700（注9）	µs	
	システムクロックソースはサブクロック発振器（注8）		t_{SBYSC}	-	1.2（注9）	1.3（注9）	ms	
	システムクロックソースはLOCO（注8）		t_{SBYLO}	-	1.2（注9）	1.4（注9）	ms	
	システムクロックソースはHOCO（注6）		t_{SBYHO}	-	240（注9）（注10）	300（注9）（注10）	µs	
	システムクロックソースはMOCO（注7）		t_{SBYMO}	-	220（注9）	300（注9）	µs	
ディープソフトウェアスタンバイモードからの復帰時間			t_{DSBY}	-	0.65	1.0	ms	図 52.16
ディープソフトウェアスタンバイモード解除後待機時間			t_{DSBYWT}	34	-	35	t_{cyc}	
ソフトウェアスタンバイモードからスヌーズモードへの復帰時間	システムクロックソースがHOCO（20MHz）の場合はHigh-speedモード		t_{SNZ}	-	35（注9）（注10）	70（注9）（注10）	µs	図 52.17
	システムクロックソースがMOCO（8MHz）の場合はHigh-speedモード		t_{SNZ}	-	11（注9）	14（注9）	µs	

注 1. 復帰時間はシステムクロックソースにより決定されます。複数の発振器が起動している場合、復帰時間は以下の計算式で決定できます。
総復帰時間 = システムクロックソースとしての発振器の復帰時間 + システムクロックソースより長い安定時間を要する発振器の最長発振安定時間 + 2LOCO サイクル（LOCO が動作している場合）+ 3SOSC サイクル（Subosc が発振中かつ MSTPC0 = 0（CAC モジュール停止）の場合）。

注 2. 水晶の周波数が 24MHz の場合（メインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタ（MOSCWTCR）が 05h のとき）。その他の設定（MOSCWTCR が Xh）の場合、復帰時間は以下の計算式で決定できます。
t_{SBYMC} (MOSCWTCR = Xh) = t_{SBYMC} (MOSCWTCR = 05h) + ($t_{MAINOSCWT}$ (MOSCWTCR = Xh) - $t_{MAINOSCWT}$ (MOSCWTCR = 05h))

注 3. PLL の周波数が 240MHz の場合（メインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタ（MOSCWTCR）が 05h のとき）。その他の設定（MOSCWTCR が Xh）の場合、復帰時間は以下の計算式で決定できます。
t_{SBYMC} (MOSCWTCR = Xh) = t_{SBYMC} (MOSCWTCR = 05h) + ($t_{MAINOSCWT}$ (MOSCWTCR = Xh) - $t_{MAINOSCWT}$ (MOSCWTCR = 05h))

注 4. 外部クロックの周波数が 24MHz の場合（メインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタ（MOSCWTCR）が 01h のとき）。その他の設定（MOSCWTCR が Xh）の場合、復帰時間は以下の計算式で決定できます。
t_{SBYMC} (MOSCWTCR = Xh) = t_{SBYMC} (MOSCWTCR = 01h) + ($t_{MAINOSCWT}$ (MOSCWTCR = Xh) - $t_{MAINOSCWT}$ (MOSCWTCR = 01h))

注 5. PLL の周波数が 240MHz の場合（メインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタ（MOSCWTCR）が 01h のとき）。その他の設定（MOSCWTCR が Xh）の場合、復帰時間は以下の計算式で決定できます。
t_{SBYMC} (MOSCWTCR = Xh) = t_{SBYMC} (MOSCWTCR = 01h) + ($t_{MAINOSCWT}$ (MOSCWTCR = Xh) - $t_{MAINOSCWT}$ (MOSCWTCR = 01h))

注 6. HOCO 周波数は 20MHz です。

注 7. MOCO 周波数は 8MHz です。

注 8. Subosc-speed モードでは、サブクロック発振器または LOCO はソフトウェアスタンバイモードで発振を継続します。

注 9. SNZCR.RXDREQEN ビットが 0 のとき、下記の時間が電源復帰時間として追加されます：
STCONR.STCON[1:0] = 00b：16µs（標準）、34µs（最大）
STCONR.STCON[1:0] = 11b：16µs（標準）、104µs（最大）

注 10. SNZCR.RXDREQEN ビットが 0 のとき、16µs（標準）または 18µs（最大）が HOCO 待機時間として追加されます。

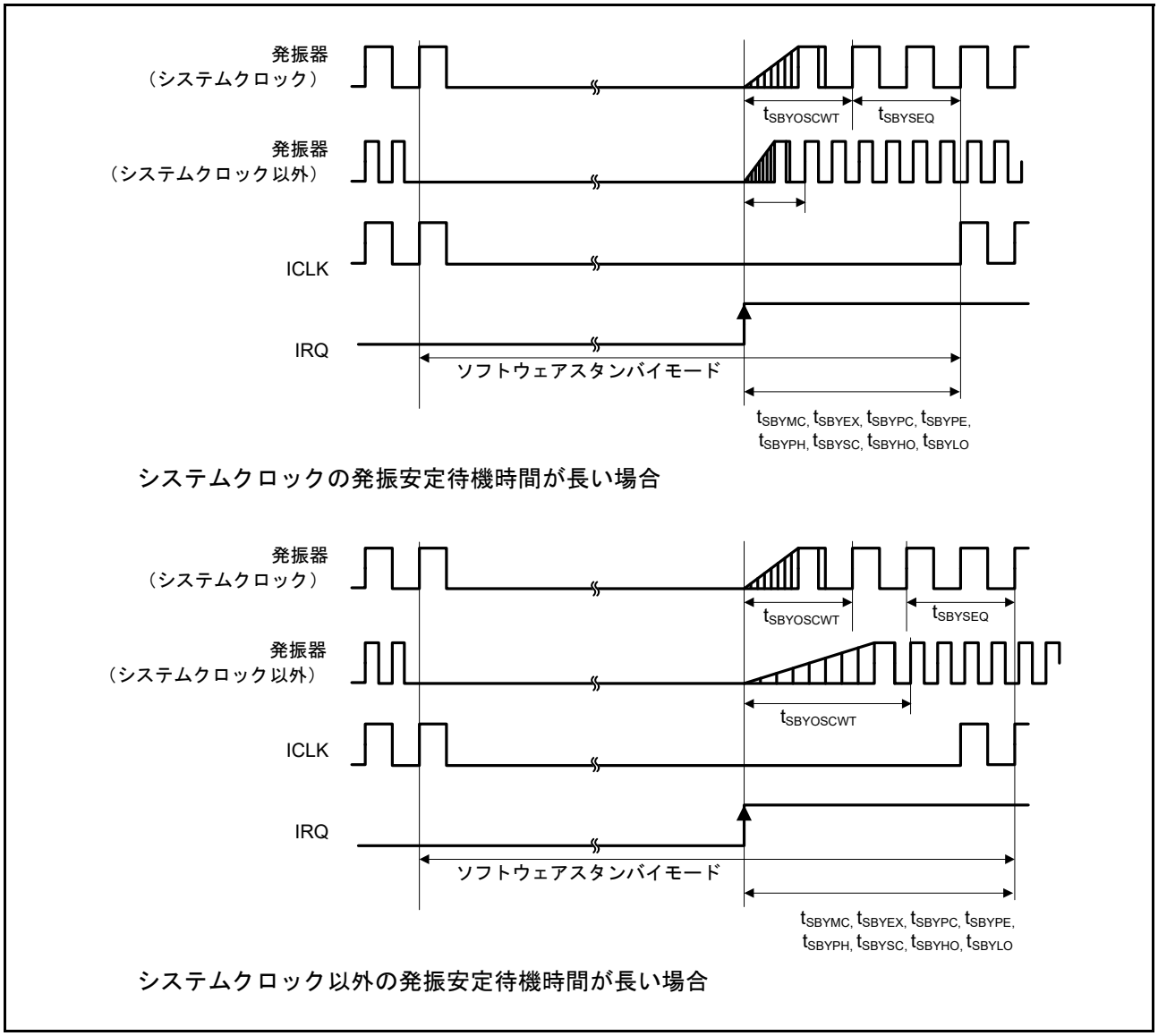


図 52.15　ソフトウェアスタンバイモード解除タイミング

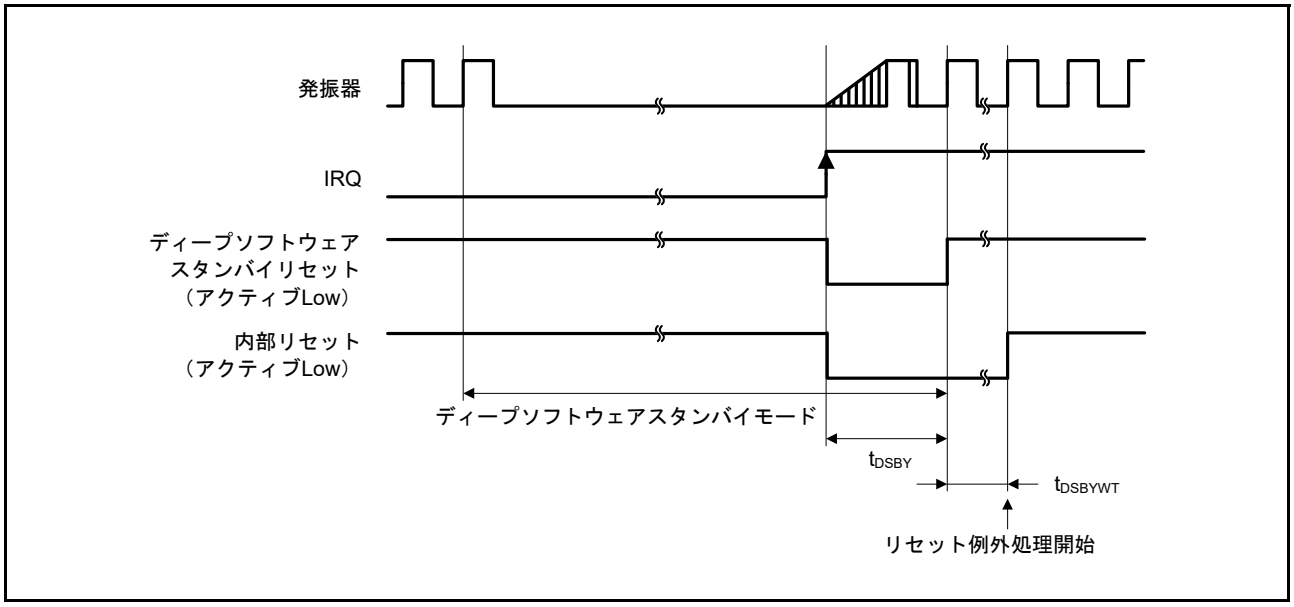
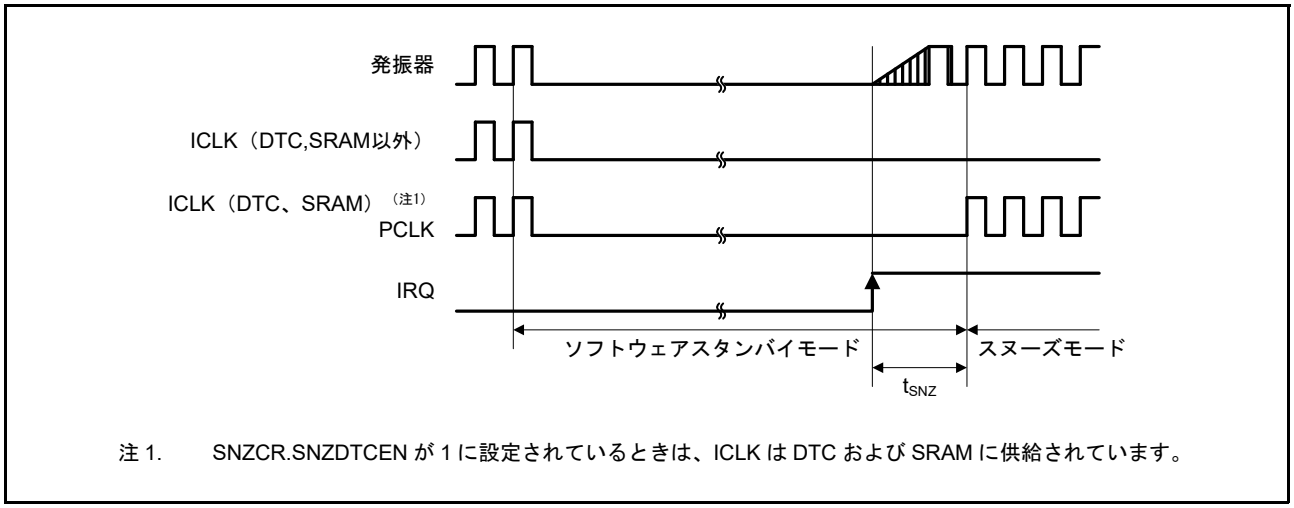


図 52.16　ディープソフトウェアスタンバイモード解除タイミング



注 1.　SNZCR.SNZDTCEN が 1 に設定されているときは、ICLK は DTC および SRAM に供給されています。

図 52.17　ソフトウェアスタンバイモードからスヌーズモードへの復帰タイミング

52.3.5 NMI/IRQ ノイズフィルタ

表 52.17 NMI/IRQ ノイズフィルタ

項目	シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件	
NMI パルス幅	t_{NMIW}	200	-	-	ns	NMI デジタルフィルタ無効	$t_{Pcyc} \times 2 \leqq 200ns$
		$t_{Pcyc} \times 2$（注 1）	-	-			$t_{Pcyc} \times 2 > 200ns$
		200	-	-		NMI デジタルフィルタ有効	$t_{NMICK} \times 3 \leqq 200ns$
		$t_{NMICK} \times 3.5$（注 2）	-	-			$t_{NMICK} \times 3 > 200ns$
IRQ パルス幅	t_{IRQW}	200	-	-	ns	IRQ デジタルフィルタ無効	$t_{Pcyc} \times 2 \leqq 200ns$
		$t_{Pcyc} \times 2$（注 1）	-	-			$t_{Pcyc} \times 2 > 200ns$
		200	-	-		IRQ デジタルフィルタ有効	$t_{IRQCK} \times 3 \leqq 200ns$
		$t_{IRQCK} \times 3.5$（注 3）	-	-			$t_{IRQCK} \times 3 > 200ns$

注 . ソフトウェアスタンバイモード時は最小 200ns です。
注 . クロックソースを切り替えたときは、切り替え後のクロックソースの 4 クロックサイクル分を加えてください。
注 1. t_{Pcyc} は PCLKB の周期を意味します。
注 2. t_{NMICK} は、NMI デジタルフィルタサンプリングクロックの周期を意味します。
注 3. t_{IRQCK} は、IRQi デジタルフィルタサンプリングクロックの周期を意味します。

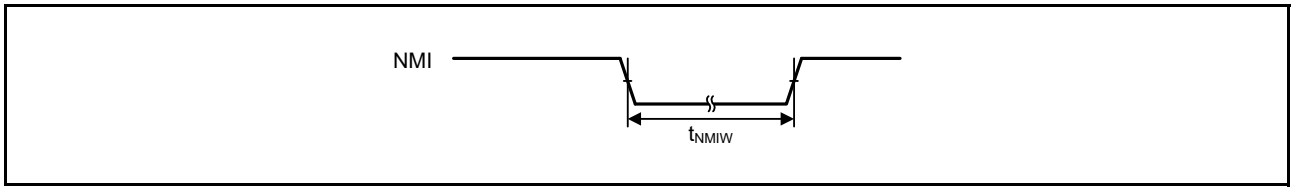


図 52.18 NMI 割り込み入力タイミング

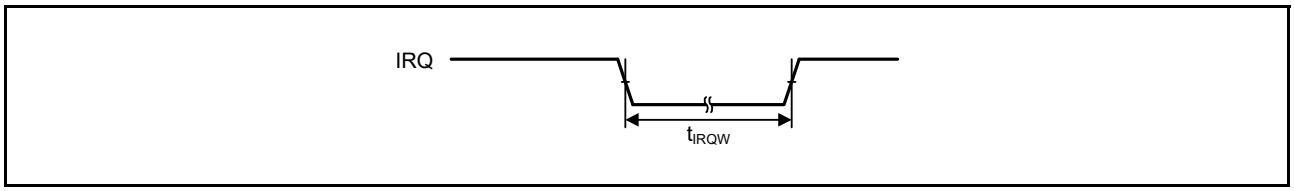


図 52.19 IRQ 割り込み入力タイミング

52.3.6 バスタイミング

表 52.18 バスタイミング

条件：
BCLK = 8～120MHz、EBCLK = 8～60MHz
VCC = AVCC0 = VCC_USB = VBATT = 2.7～3.6V、VREFH/VREFH0 = 2.7V～AVCC0
出力負荷条件：VOH = VCC × 0.5、VOL = VCC × 0.5、C = 30pF
EBCLK：PmnPFSレジスタのポート駆動能力ビットで高駆動出力が選択されています。
その他：PmnPFSレジスタのポート駆動能力ビットで中駆動出力が選択されています。

項目	シンボル	Min	Max	単位	測定条件
アドレス遅延時間	t_{AD}	-	12.5	ns	図 52.20～図 52.25
CS遅延時間	t_{CSD}	-	12.5	ns	
ALE遅延時間	t_{ALED}	-	12.5	ns	
RD遅延時間	t_{RSD}	-	12.5	ns	
リードデータセットアップ時間	t_{RDS}	12.5	-	ns	
リードデータホールド時間	t_{RDH}	0	-	ns	
WR0遅延時間	t_{WRD}	-	12.5	ns	
ライトデータ遅延時間	t_{WDD}	-	12.5	ns	
ライトデータホールド時間	t_{WDH}	0	-	ns	
WAITセットアップ時間	t_{WTS}	12.5	-	ns	図 52.26
WAITホールド時間	t_{WTH}	0	-	ns	

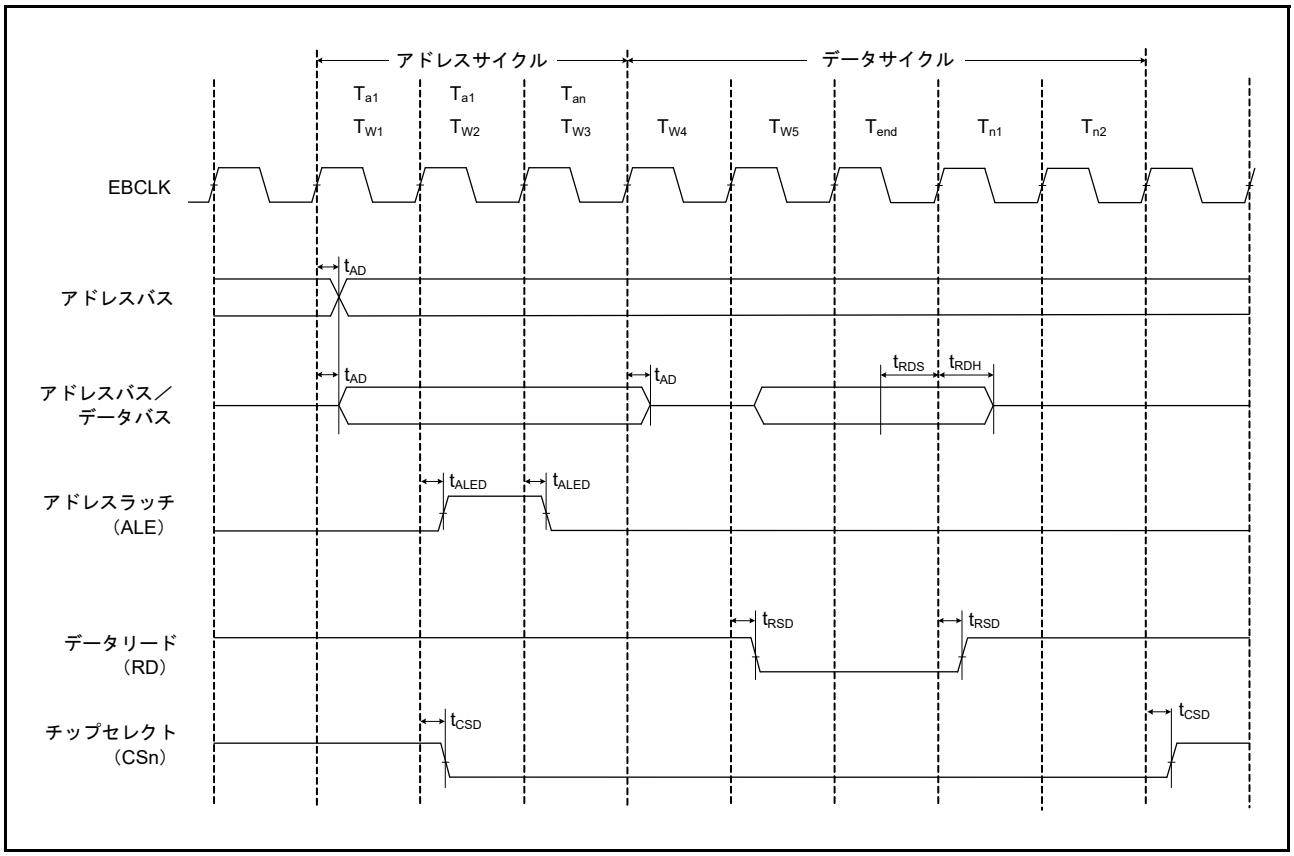


図 52.20 アドレス／データマルチプレクスバスのリードアクセスタイミング

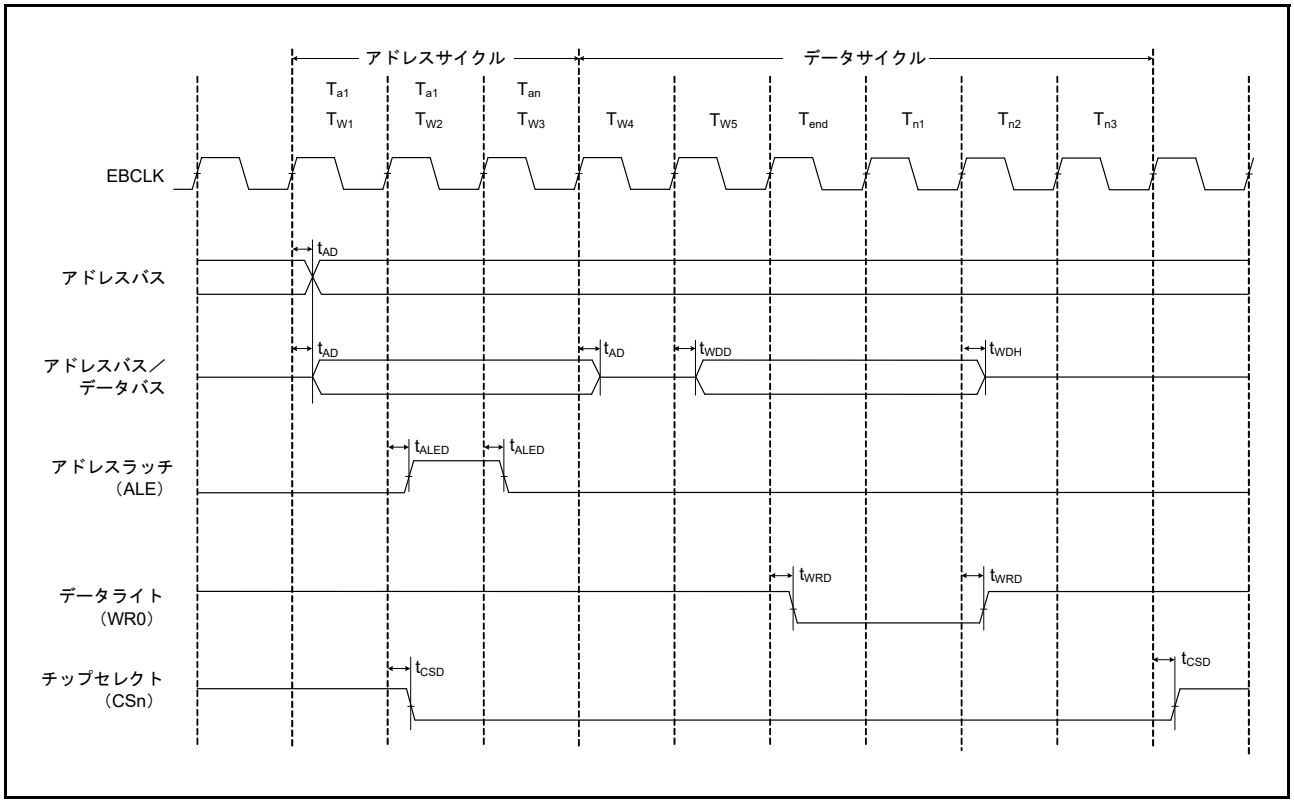


図 52.21　　アドレス／データマルチプレクスバスのライトアクセスタイミング

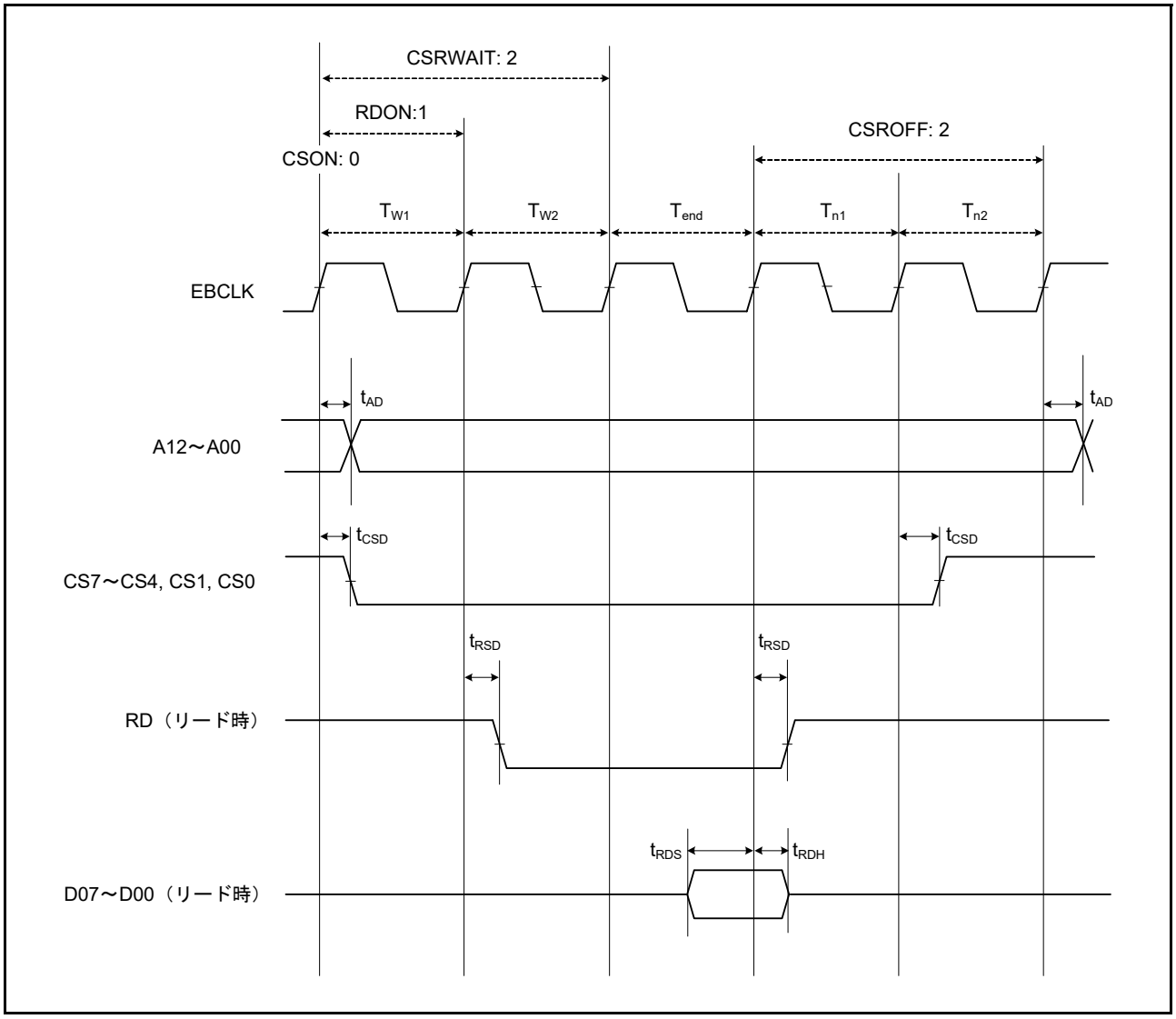
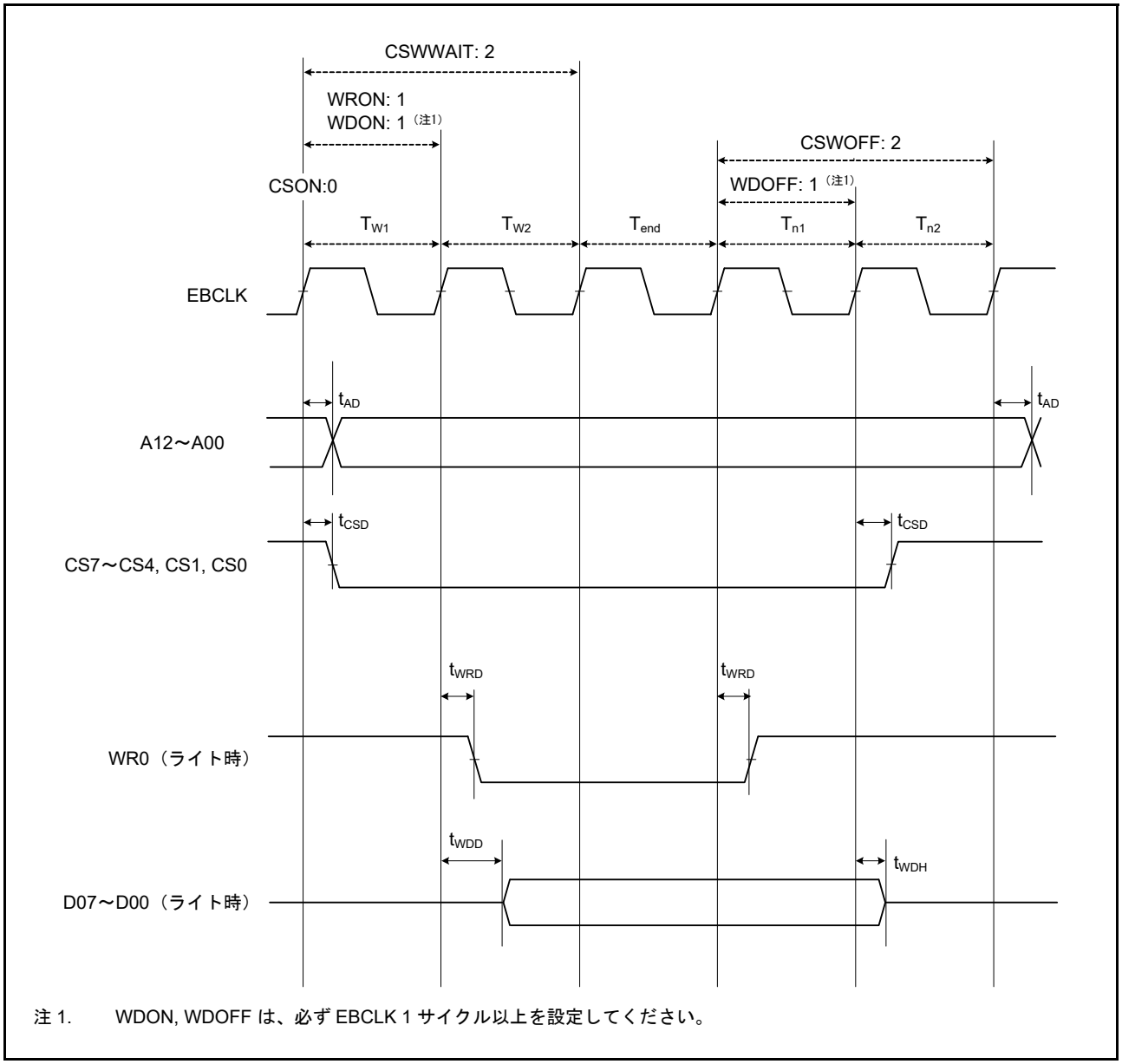


図 52.22　バスクロック同期を使用したノーマルリードサイクルの外部バスタイミング



注 1. WDON, WDOFF は、必ず EBCLK 1 サイクル以上を設定してください。

図 52.23 バスクロック同期を使用したノーマルライトサイクルの外部バスタイミング

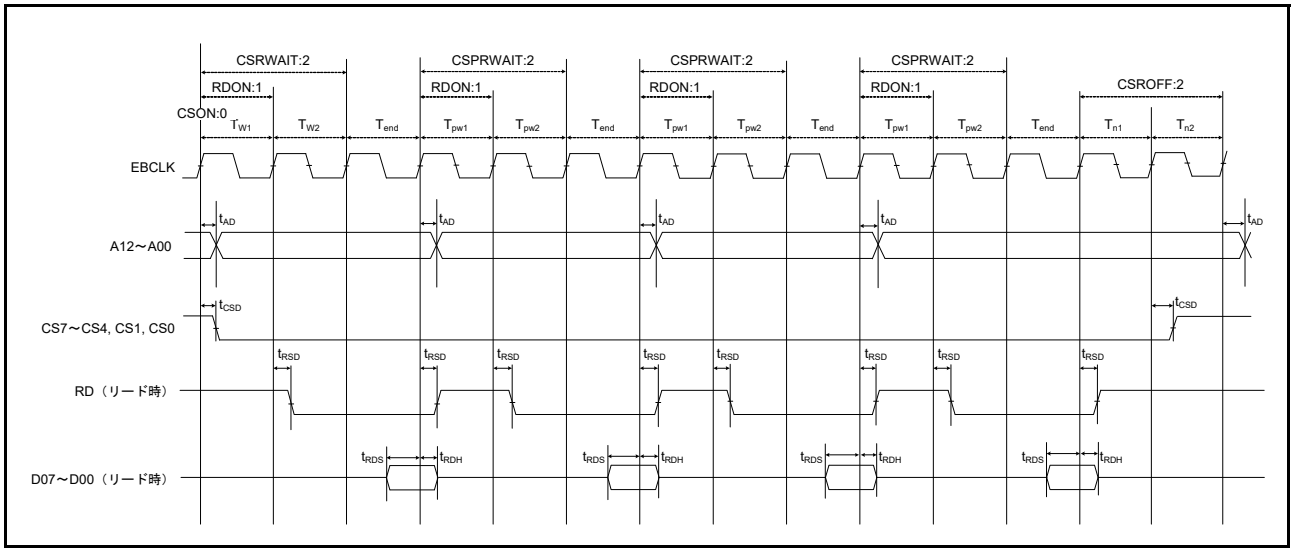
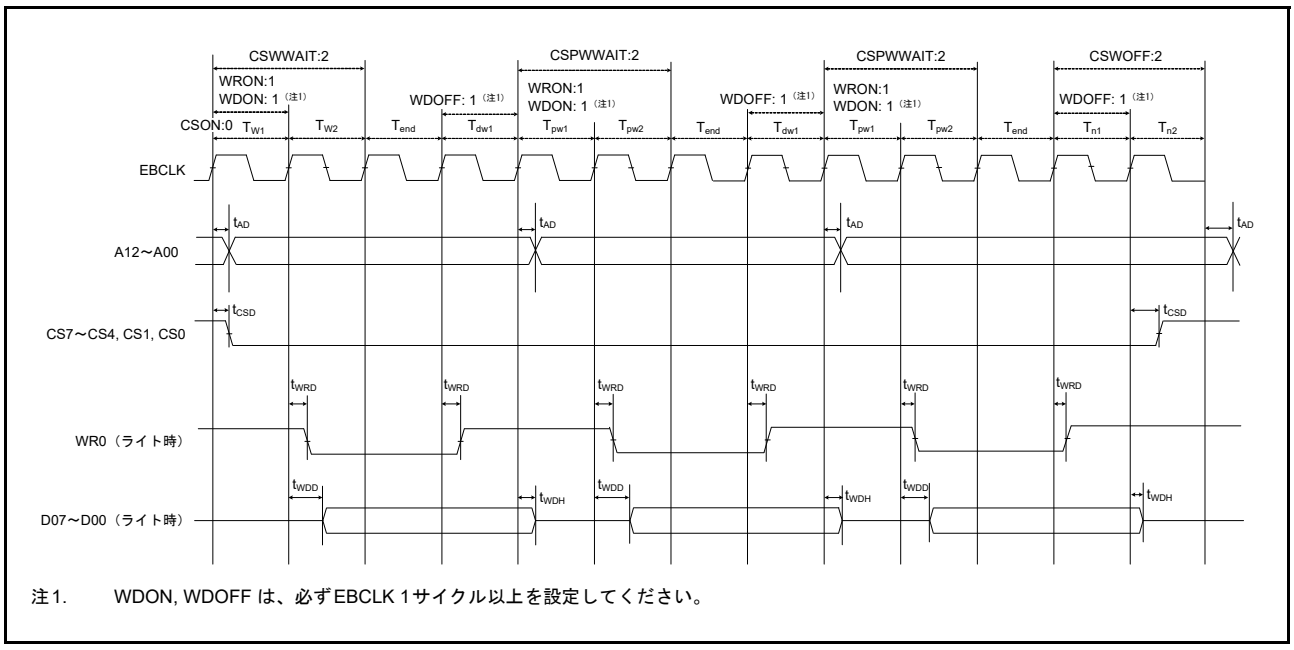


図 52.24　バスクロック同期を使用したページリードサイクルの外部バスタイミング



注1.　WDON, WDOFF は、必ずEBCLK 1サイクル以上を設定してください。

図 52.25　バスクロック同期を使用したページライトサイクルの外部バスタイミング

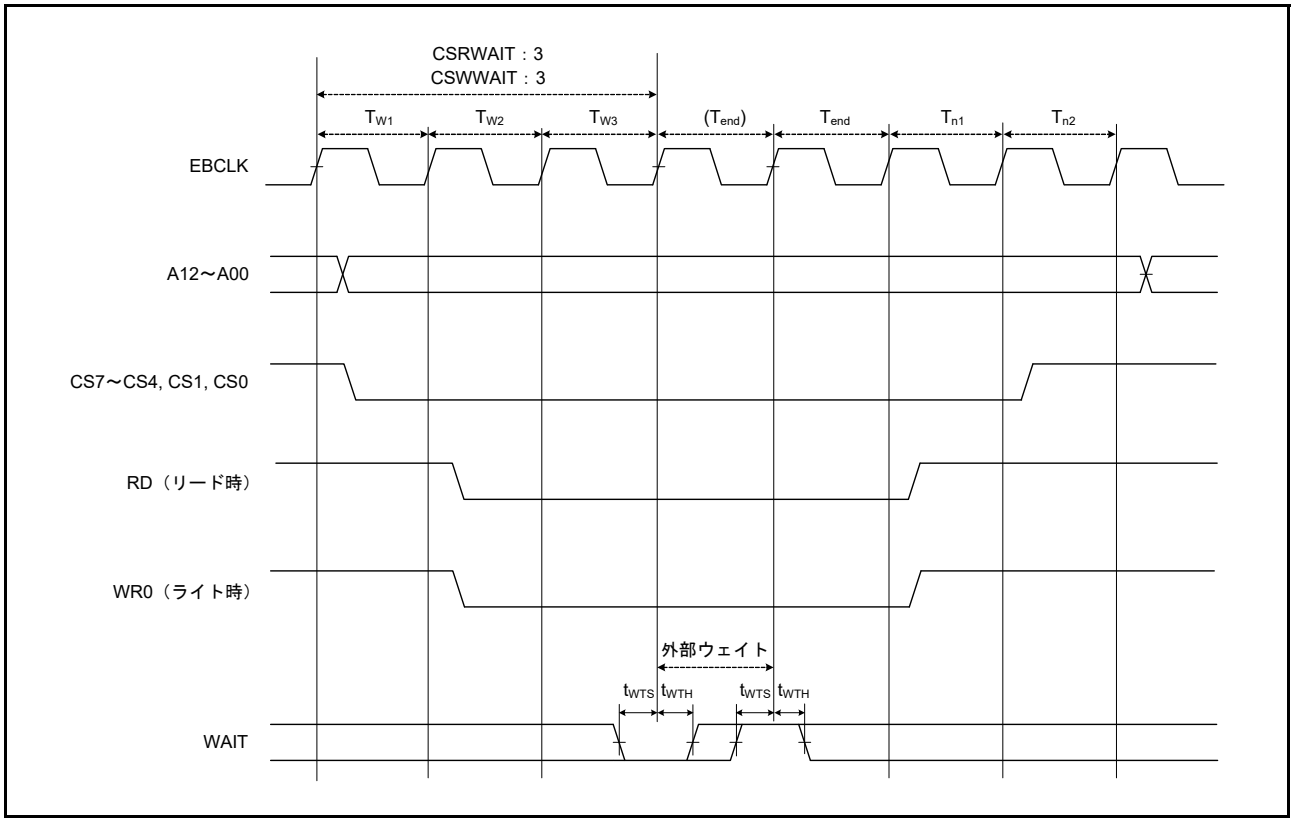


図 52.26　　外部ウェイト制御の外部バスタイミング

52.3.7 I/O ポート、POEG、GPT32、AGT、KINT、ADC12 トリガタイミング

表 52.19 I/Oポート、POEG、GPT32、AGT、KINT、ADC12 トリガタイミング

GPT条件：
PmnPFS レジスタのポート駆動能力ビットで高駆動出力が選択されています。

AGT条件：
PmnPFS レジスタのポート駆動能力ビットで中駆動出力が選択されています。

項目			シンボル	Min	Max	単位	測定条件
I/Oポート	入力データパルス幅		t_{PRW}	1.5	-	t_{Pcyc}	図 52.27
POEG	POEG入力トリガパルス幅		t_{POEW}	3	-	t_{Pcyc}	図 52.28
GPT32	インプットキャプチャパルス幅	単エッジ	t_{GTICW}	1.5	-	t_{PDcyc}	図 52.29
		両エッジ		2.5	-		
	GTIOCxY出力スキュー（x = 0～7、Y = AまたはB	中駆動バッファ	t_{GTISK}（注1）	-	4	ns	図 52.30
		高駆動バッファ		-	4		
	GTIOCxY出力スキュー（x = 8～12、Y = AまたはB	中駆動バッファ		-	4		
		高駆動バッファ		-	4		
	GTIOCxY出力スキュー（x = 0～12、Y = AまたはB	中駆動バッファ		-	6		
		高駆動バッファ		-	6		
	OPS出力スキュー GTOUUP、GTOULO、GTOVUP、GTOVLO、GTOWUP、GTOWLO		t_{GTOSK}	-	5	ns	図 52.31
GPT（PWM遅延生成回路）	GTIOCxY_Z出力スキュー（x = 0～3、Y = AまたはB、Z = A）		t_{HRSK}（注2）	-	2.0	ns	図 52.32
AGT	AGTIO、AGTEE入力サイクル		t_{ACYC}（注3）	100	-	ns	図 52.33
	AGTIO、AGTEE入力Highレベル幅、Lowレベル幅		t_{ACKWH}, t_{ACKWL}	40	-	ns	
	AGTIO、AGTO、AGTOA、AGTOB出力サイクル		t_{ACYC2}	62.5	-	ns	
ADC12	ADC12トリガ入力パルス幅		t_{TRGW}	1.5	-	t_{Pcyc}	図 52.34
KINT	KRnパルス幅（n = 00～07）		t_{KR}	250	-	ns	図 52.35

注 . t_{Pcyc}：PCLKB サイクル、t_{PDcyc}：PCLKD サイクル

注 1. このスキューは、同じドライバ I/O が使用されている場合に適用されます。中駆動ドライバと高駆動ドライバの I/O が混在する場合、動作は保証されません。

注 2. 負荷は 30pF です。

注 3. 入力サイクルの制約：
クロックソースを切り替えないときは、$t_{Pcyc} \times 2 < t_{ACYC}$ としてください。
クロックソースを切り替えたときは、$t_{Pcyc} \times 6 < t_{ACYC}$ としてください。

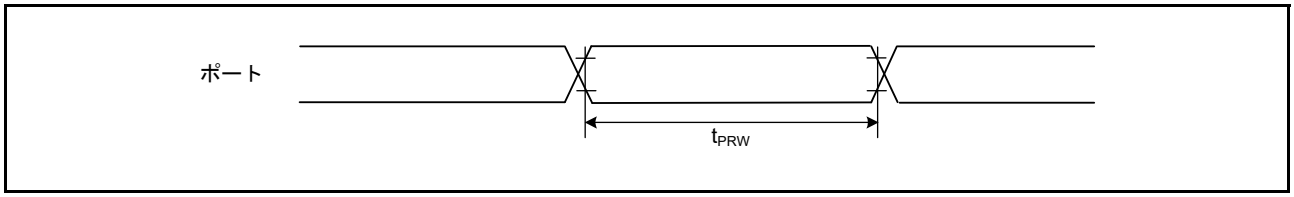


図 52.27 I/O ポート入力タイミング

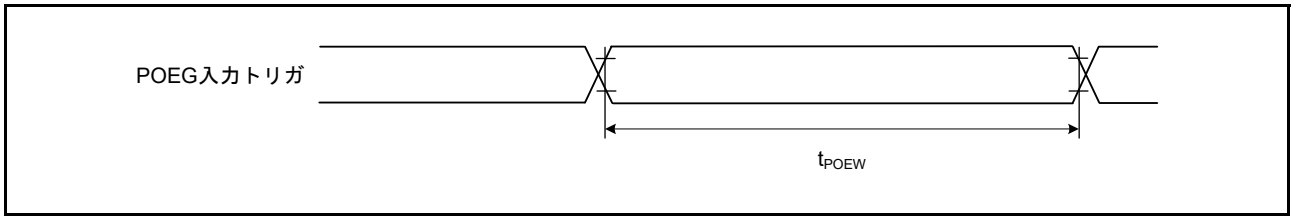


図 52.28 POEG 入力トリガタイミング

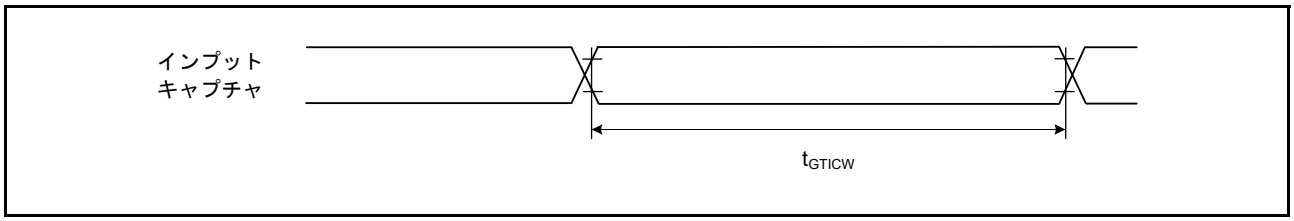


図 52.29 GPT32 インプットキャプチャタイミング

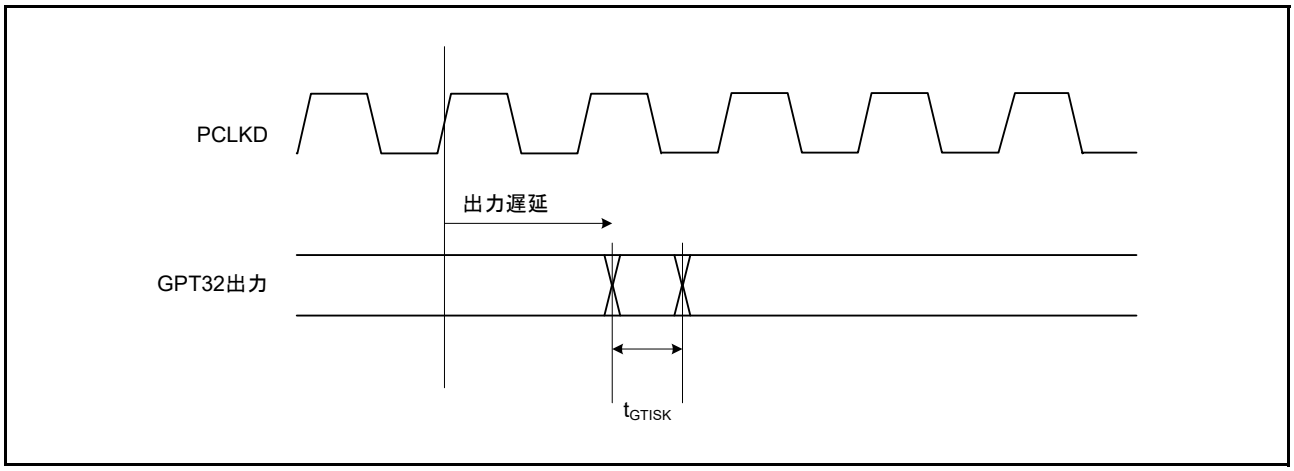


図 52.30 GPT32 出力遅延スキュー

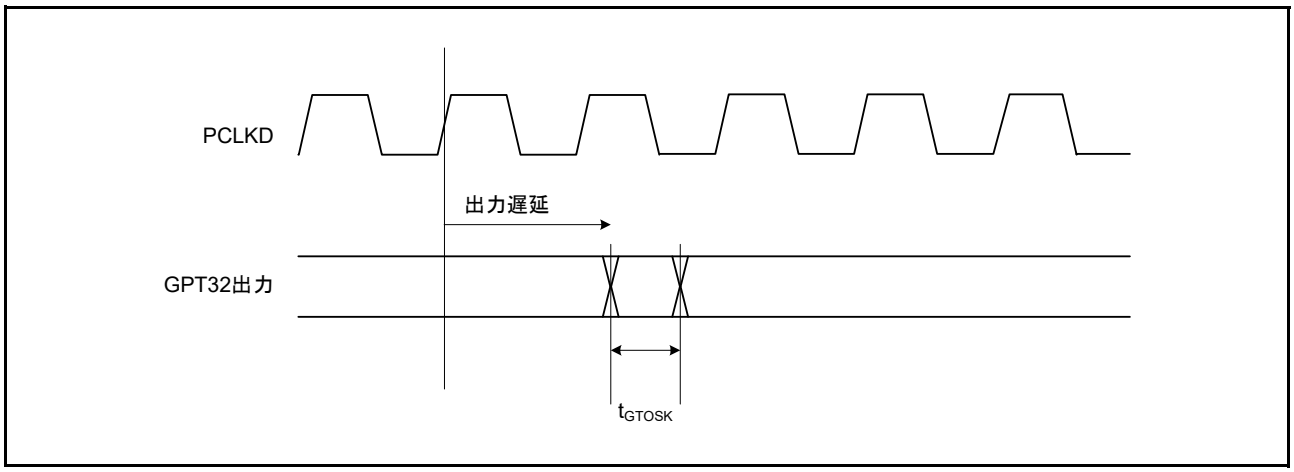


図 52.31 OPS の GPT32 出力遅延スキュー

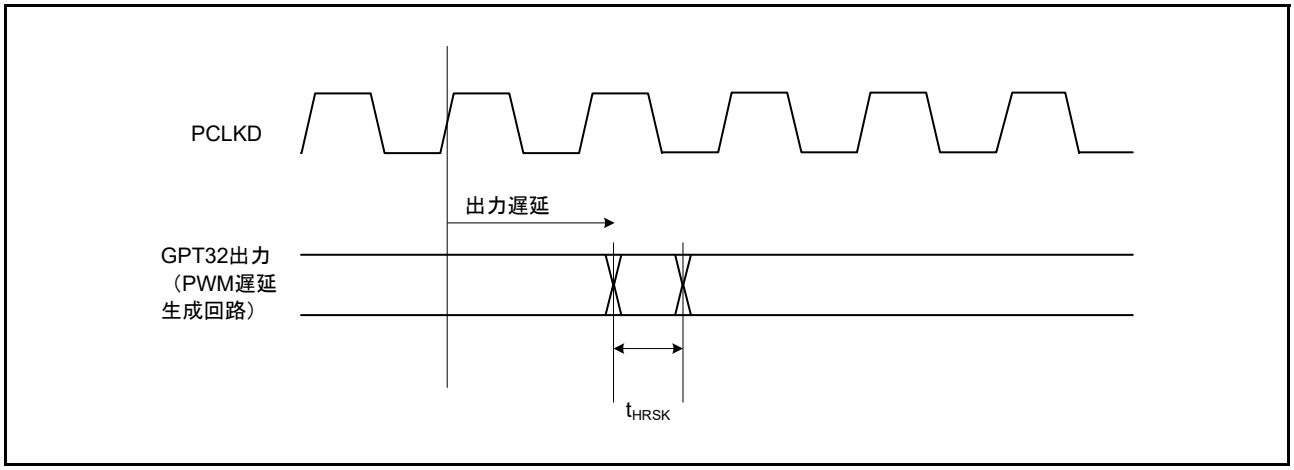


図 52.32　GPT32（PWM 遅延生成回路）出力遅延スキュー

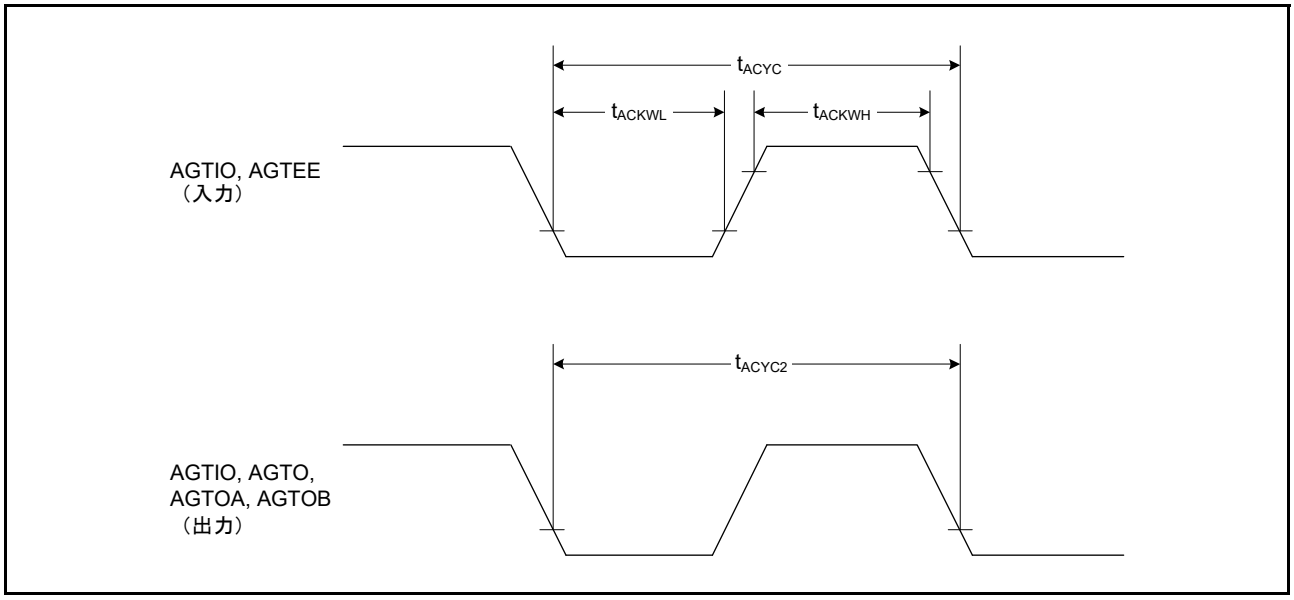


図 52.33　AGT 入出力タイミング

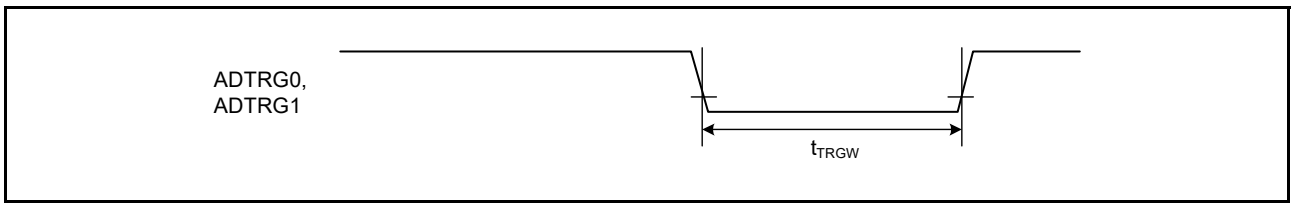


図 52.34　ADC12 トリガ入力タイミング

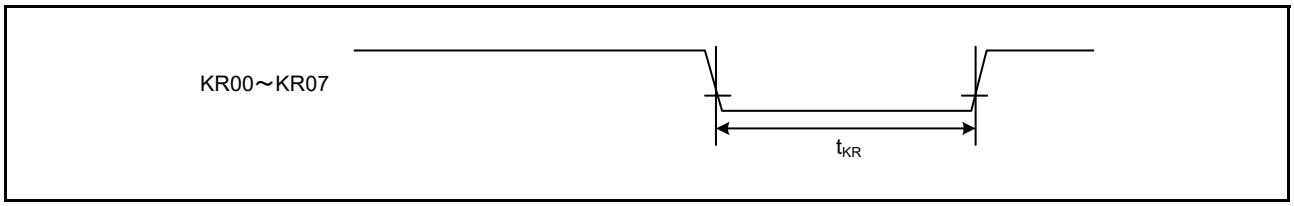


図 52.35　キー割り込み入力タイミング

52.3.8 PWM 遅延生成回路タイミング

表 52.20 PWM遅延生成回路タイミング

項目	Min	Typ	Max	単位	測定条件
動作周波数	80	-	120	MHz	-
分解能	-	260	-	ps	PCLKD = 120MHz
DNL（注1）	-	± 2.0	-	LSB	-

注 1. この値は、1LSB 分解能の行間の差異を正規化します。

52.3.9 CAC タイミング

表 52.21 CACタイミング

項目			シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
CAC	CACREF入力パルス幅	$t_{PBcyc} \leqq t_{cac}$（注2）	t_{CACREF}	$4.5 \times t_{cac} + 3 \times t_{PBcyc}$	-	-	ns	-
		$t_{PBcyc} > t_{cac}$（注2）		$5 \times t_{cac} + 6.5 \times t_{PBcyc}$	-	-	ns	

注 1. t_{PBcyc}：PCLKB の周期

注 2. t_{cac}：CAC カウントクロックソースの周期

52.3.10 SCI タイミング

表 52.22 SCI タイミング（1）

条件：以下の端子は、PmnPFS レジスタのポート駆動能力ビットで高駆動出力が選択されています：SCK0～SCK4、SCK8、SCK9
その他の端子は、PmnPFS レジスタのポート駆動能力ビットで中駆動出力が選択されています。

項目			シンボル	Min	Max	単位（注1）	測定条件
SCI	入力クロックサイクル	調歩同期式	t_{Scyc}	4	-	t_{Pcyc}	図 52.36
		クロック同期式		6	-		
	入力クロックパルス幅		t_{SCKW}	0.4	0.6	t_{Scyc}	
	入力クロック立ち上がり時間		t_{SCKr}	-	5	ns	
	入力クロック立ち下がり時間		t_{SCKf}	-	5	ns	
	出力クロックサイクル	調歩同期式	t_{Scyc}	6	-	t_{Pcyc}	
		クロック同期式		4	-		
	出力クロックパルス幅		t_{SCKW}	0.4	0.6	t_{Scyc}	
	出力クロック立ち上がり時間		t_{SCKr}	-	5	ns	
	出力クロック立ち下がり時間		t_{SCKf}	-	5	ns	
	送信データ遅延時間	クロック同期式	t_{TXD}	-	25	ns	図 52.37
	受信データセットアップ時間	クロック同期式	t_{RXS}	15	-	ns	
	受信データホールド時間	クロック同期式	t_{RXH}	5	-	ns	

注 1. t_{Pcyc}：PCLKA の周期

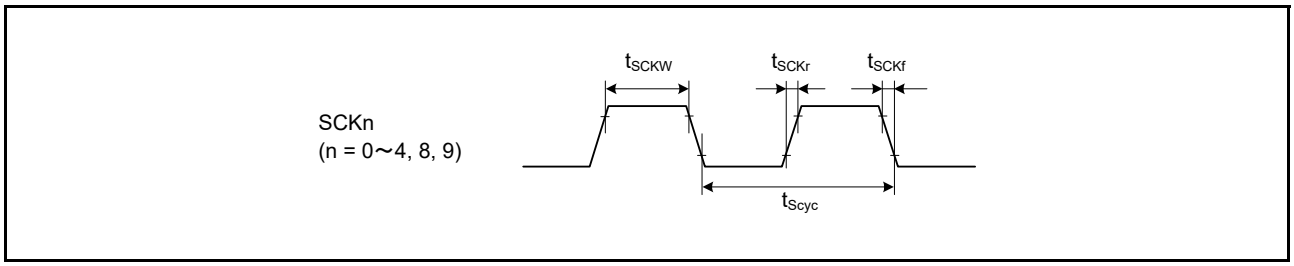


図 52.36 SCK クロック入出力タイミング

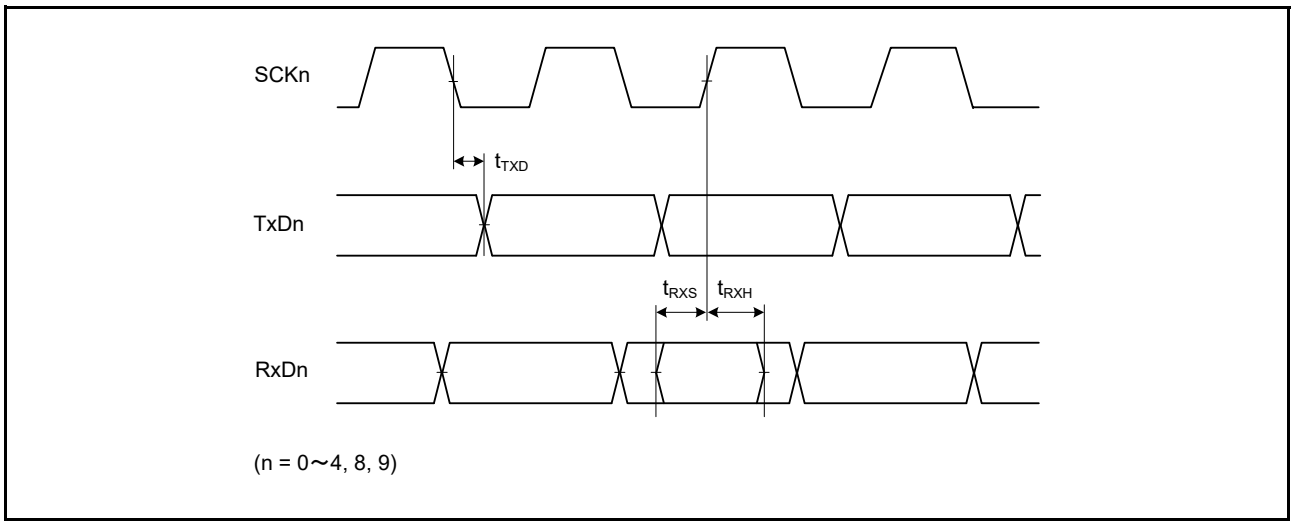


図 52.37 クロック同期式モードにおける SCI 入出力タイミング

表 52.23　　SCI タイミング（2）

条件：以下の端子は、PmnPFS レジスタのポート駆動能力ビットで高駆動出力が選択されています：SCK0～SCK4、SCK8、SCK9
その他の端子は、PmnPFS レジスタのポート駆動能力ビットで中駆動出力が選択されています。

項目		シンボル	Min	Max	単位	測定条件
簡易 SPI	SCK クロックサイクル出力（マスタ）	t_{SPcyc}	4（PCLKA ≦ 60MHz） 8（PCLKA ＞ 60MHz）	65536	t_{Pcyc}	図 52.38
	SCK クロックサイクル入力（スレーブ）	-	6（PCLKA ≦ 60MHz） 12（PCLKA ＞ 60MHz）	65536		
	SCK クロック High レベルパルス幅	t_{SPCKWH}	0.4	0.6	t_{SPcyc}	
	SCK クロック Low レベルパルス幅	t_{SPCKWL}	0.4	0.6	t_{SPcyc}	
	SCK クロック立ち上がり／立ち下がり時間	t_{SPCKr}, t_{SPCKf}	-	20	ns	
	データ入力セットアップ時間	t_{SU}	33.3	-	ns	図 52.39～図 52.42
	データ入力ホールド時間	t_H	33.3	-	ns	
	SS 入力セットアップ時間	t_{LEAD}	1	-	t_{SPcyc}	
	SS 入力ホールド時間	t_{LAG}	1	-	t_{SPcyc}	
	データ出力遅延時間	t_{OD}	-	33.3	ns	
	データ出力ホールド時間	t_{OH}	-10	-	ns	
	データ立ち上がり／立ち下がり時間	t_{Dr}, t_{Df}	-	16.6	ns	
	SS 入力立ち上がり／立ち下がり時間	t_{SSLr}, t_{SSLf}	-	16.6	ns	
	スレーブアクセス時間	t_{SA}	-	4（PCLKA ≦ 60MHz） 8（PCLKA ＞ 60MHz）	t_{Pcyc}	図 52.42
	スレーブ出力解放時間	t_{REL}	-	5（PCLKA ≦ 60MHz） 10（PCLKA ＞ 60MHz）	t_{Pcyc}	

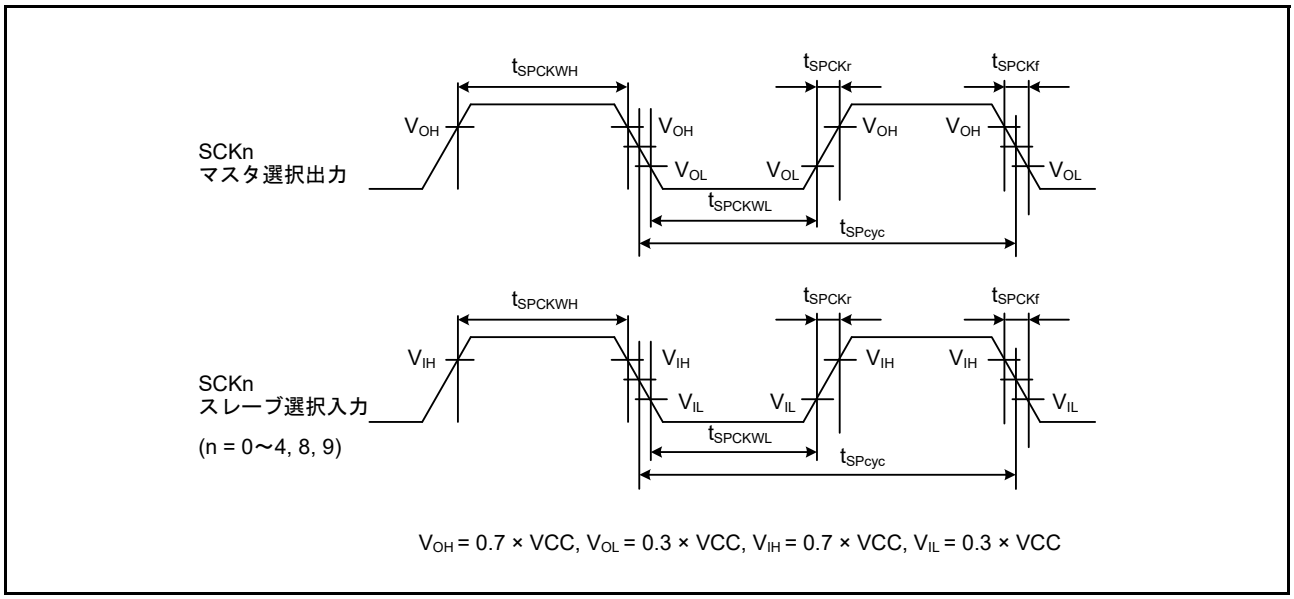


図 52.38　　SCI 簡易 SPI モードクロックタイミング

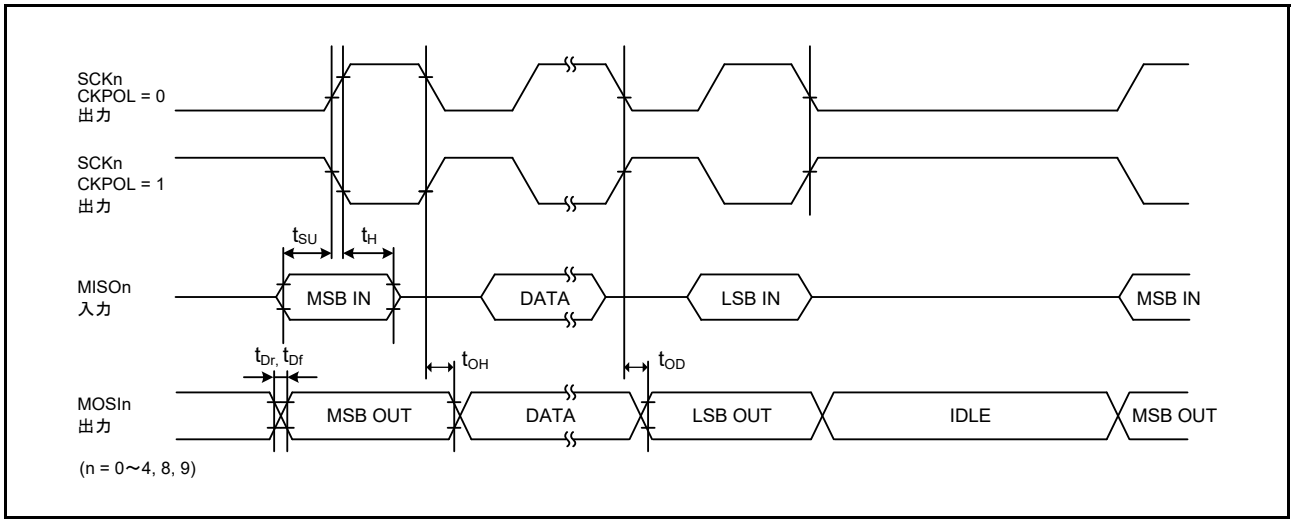


図 52.39　CKPH = 1 の場合におけるマスタの SCI 簡易 SPI モードタイミング

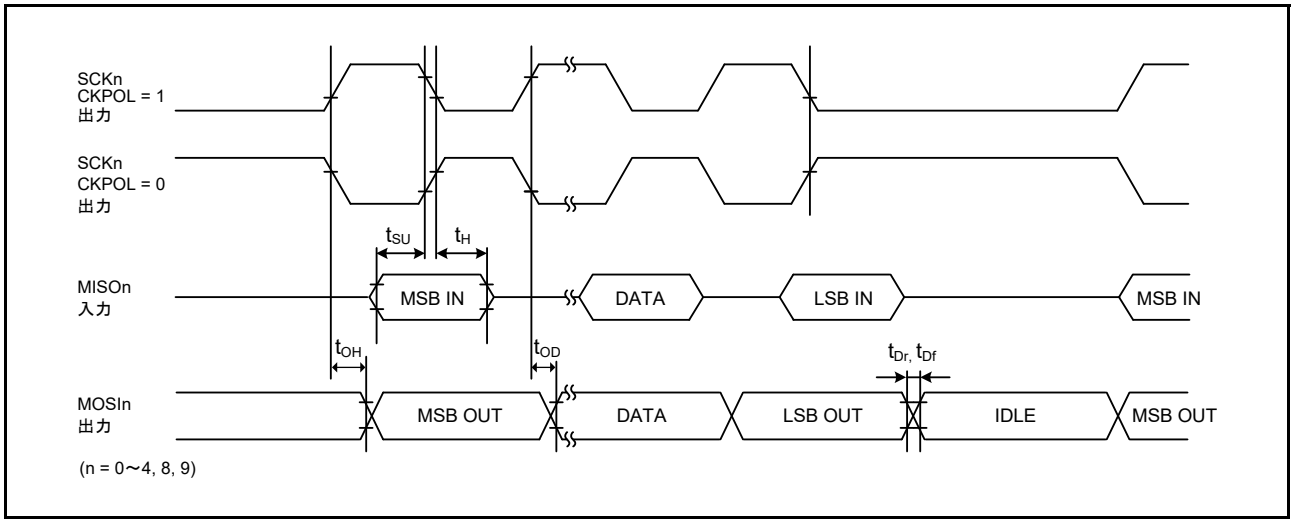


図 52.40　CKPH = 0 の場合におけるマスタの SCI 簡易 SPI モードタイミング

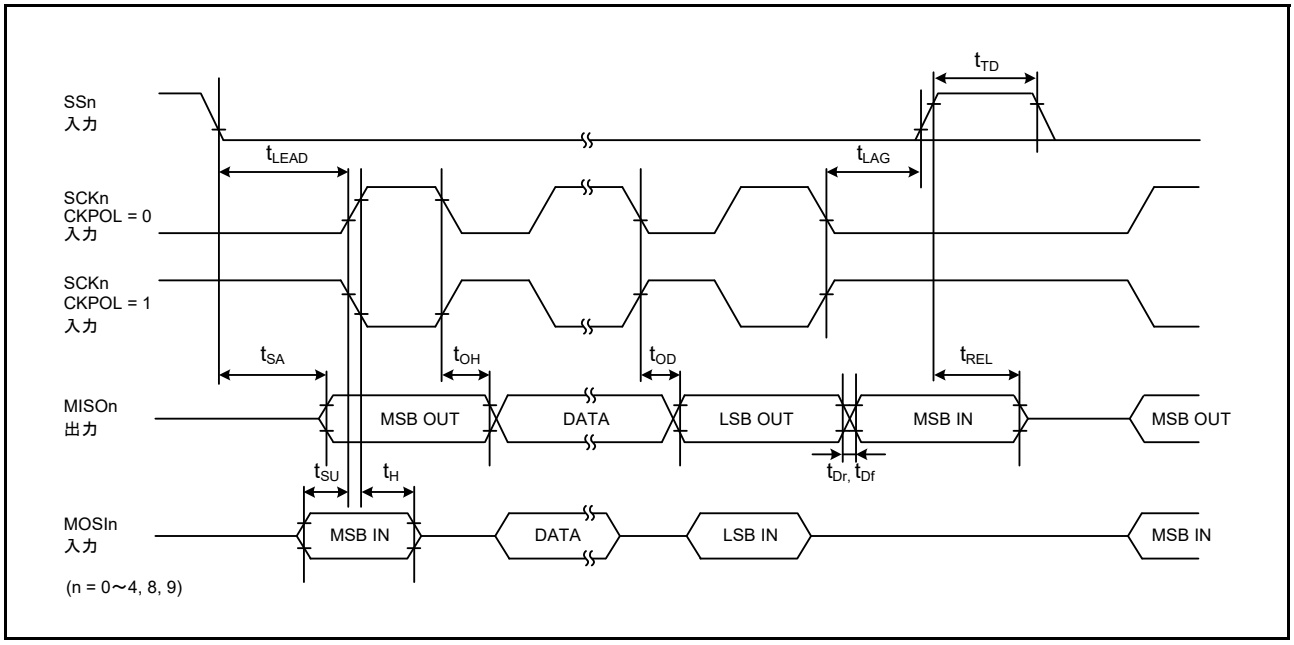


図 52.41　CKPH = 1 の場合におけるスレーブの SCI 簡易 SPI モードタイミング

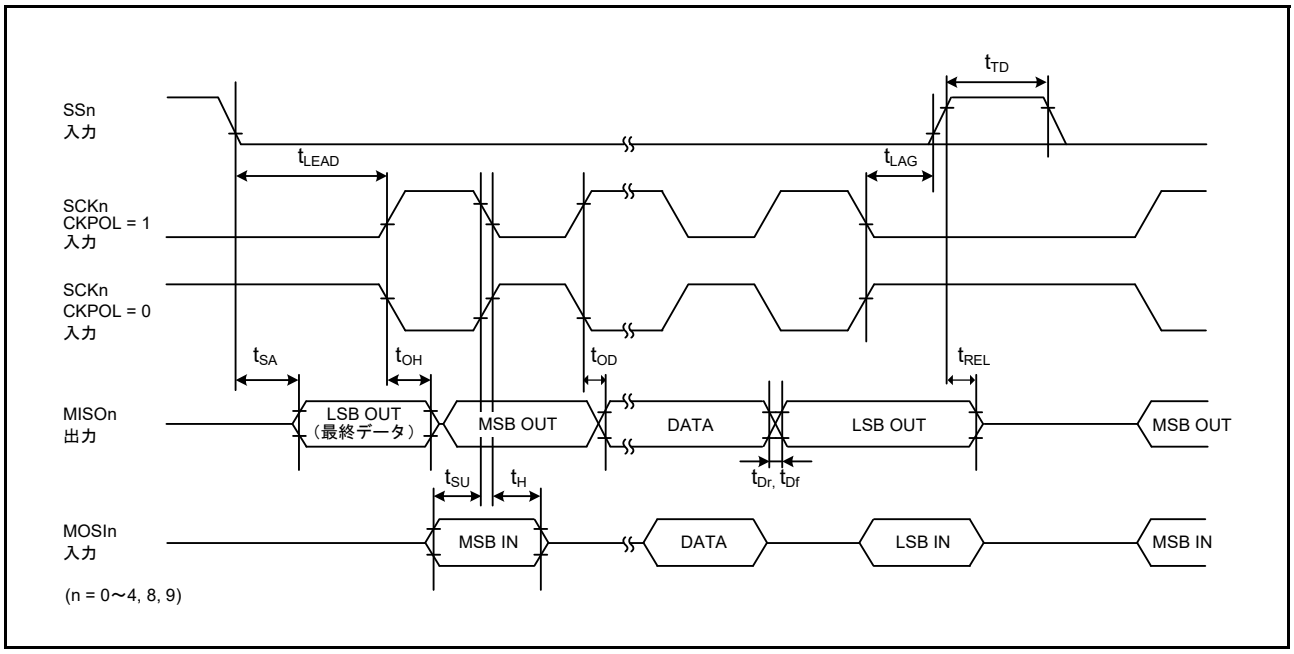


図 52.42　CKPH = 0 の場合におけるスレーブの SCI 簡易 SPI モードタイミング

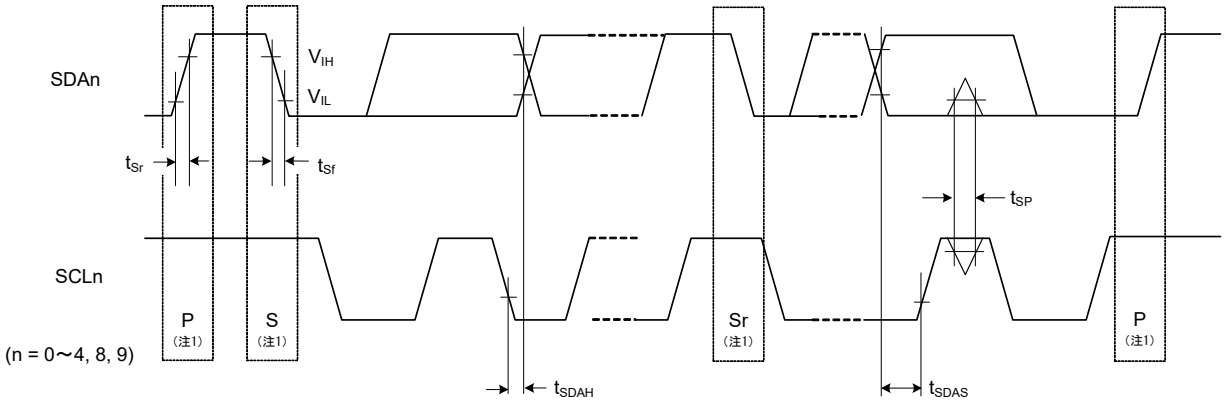
表 52.24　　SCI タイミング（3）

条件：PmnPFS レジスタのポート駆動能力ビットで中駆動出力が選択されています。

項目		シンボル	Min	Max	単位	測定条件
簡易 IIC（標準モード）	SDA 入力立ち上がり時間	t_{Sr}	-	1000	ns	図 52.43
	SDA 入力立ち下がり時間	t_{Sf}	-	300	ns	
	SDA 入力スパイクパルス除去時間	t_{SP}	0	4 × t_{IICcyc}	ns	
	データ入力セットアップ時間	t_{SDAS}	250	-	ns	
	データ入力ホールド時間	t_{SDAH}	0	-	ns	
	SCL、SDA の負荷容量	C_b（注 1）	-	400	pF	
簡易 IIC（ファストモード）	SDA 入力立ち上がり時間	t_{Sr}	-	300	ns	図 52.43
	SDA 入力立ち下がり時間	t_{Sf}	-	300	ns	
	SDA 入力スパイクパルス除去時間	t_{SP}	0	4 × t_{IICcyc}	ns	
	データ入力セットアップ時間	t_{SDAS}	100	-	ns	
	データ入力ホールド時間	t_{SDAH}	0	-	ns	
	SCL、SDA の負荷容量	C_b（注 1）	-	400	pF	

注 .　　t_{IICcyc}：IIC 内部基準クロック（IICφ）の周期

注 1.　　Cb はバスラインの容量総計を意味します。



注 1.　S、P、Sr はそれぞれ以下の条件を示します。
S：開始条件
P：停止条件
Sr：再開始条件

測定条件：
V_{IH} = VCC × 0.7, V_{IL} = VCC × 0.3
V_{OL} = 0.6V, I_{OL} = 6mA

図 52.43　　SCI 簡易 IIC モードタイミング

52.3.11 SPI タイミング

表 52.25 SPIタイミング

条件：RSPCKA端子およびRSPCKB端子は、PmnPFSレジスタのポート駆動能力ビットで高駆動出力が選択されています。
その他の端子は、PmnPFSレジスタのポート駆動能力ビットで中駆動出力が選択されています。

項目			シンボル	Min	Max	単位（注1）	測定条件（注2）
SPI	RSPCKクロックサイクル	マスタ	t_{SPcyc}	2 (PCLKA ≦ 60MHz) 4 (PCLKA ＞ 60MHz)	4096	t_{Pcyc}	図 52.44 C = 30pF
		スレーブ		4	4096		
	RSPCKクロックHighレベルパルス幅	マスタ	t_{SPCKWH}	$(t_{SPcyc} - t_{SPCKr} - t_{SPCKf})/2 - 3$	-	ns	
		スレーブ		$2 \times t_{Pcyc}$	-		
	RSPCKクロックLowレベルパルス幅	マスタ	t_{SPCKWL}	$(t_{SPcyc} - t_{SPCKr} - t_{SPCKf})/2 - 3$	-	ns	
		スレーブ		$2 \times t_{Pcyc}$	-		
	RSPCKクロック立ち上がり／立ち下がり時間	マスタ	t_{SPCKr}, t_{SPCKf}	-	5	ns	
		スレーブ		-	1	μs	
	データ入力セットアップ時間	マスタ	t_{SU}	4	-	ns	図 52.45～図 52.50 C = 30pF
		スレーブ		5	-		
	データ入力ホールド時間	マスタ（PCLKAを2分周に設定）	t_{HF}	0	-	ns	
		マスタ（PCLKAを2分周以外に設定）	t_H	t_{Pcyc}	-		
		スレーブ	t_H	20	-		
	SSLセットアップ時間	マスタ	t_{LEAD}	$N \times t_{SPcyc} - 10$（注3）	$N \times t_{SPcyc} + 100$（注3）	ns	
		スレーブ		$6 \times t_{Pcyc}$	-	ns	
	SSLホールド時間	マスタ	t_{LAG}	$N \times t_{SPcyc} - 10$（注4）	$N \times t_{SPcyc} + 100$（注4）	ns	
		スレーブ		$6 \times t_{Pcyc}$	-	ns	
	データ出力遅延時間	マスタ	t_{OD}	-	6.3	ns	
		スレーブ		-	20		
	データ出力ホールド時間	マスタ	t_{OH}	0	-	ns	
		スレーブ		0	-		
	連続転送遅延時間	マスタ	t_{TD}	$t_{SPcyc} + 2 \times t_{Pcyc}$	$8 \times t_{SPcyc} + 2 \times t_{Pcyc}$	ns	
		スレーブ		$6 \times t_{Pcyc}$			
	MOSI、MISOの立ち上がり／立ち下がり時間	出力	t_{Dr}, t_{Df}	-	5	ns	
		入力		-	1	μs	
	SSL立ち上がり／立ち下がり時間	出力	t_{SSLr}, t_{SSLf}	-	5	ns	
		入力		-	1	μs	
	スレーブアクセス時間		t_{SA}	-	$2 \times t_{Pcyc} + 28$	ns	図 52.49と図 52.50 C = 30pF
	スレーブ出力開放時間		t_{REL}	-	$2 \times t_{Pcyc} + 28$		

注 1. t_{Pcyc}：PCLKA の周期

注 2. 所属グループを示すため、“_A” や “_B” などのように端子名の後ろに文字を付加した端子を使用してください。SPI インタフェースについては、電気的特性の AC タイミングを各グループで測定しています。

注 3. N は、SPCKD レジスタで設定可能な 1 ～ 8 の整数です。

注 4. N は、SSLND レジスタで設定可能な 1 ～ 8 の整数です。

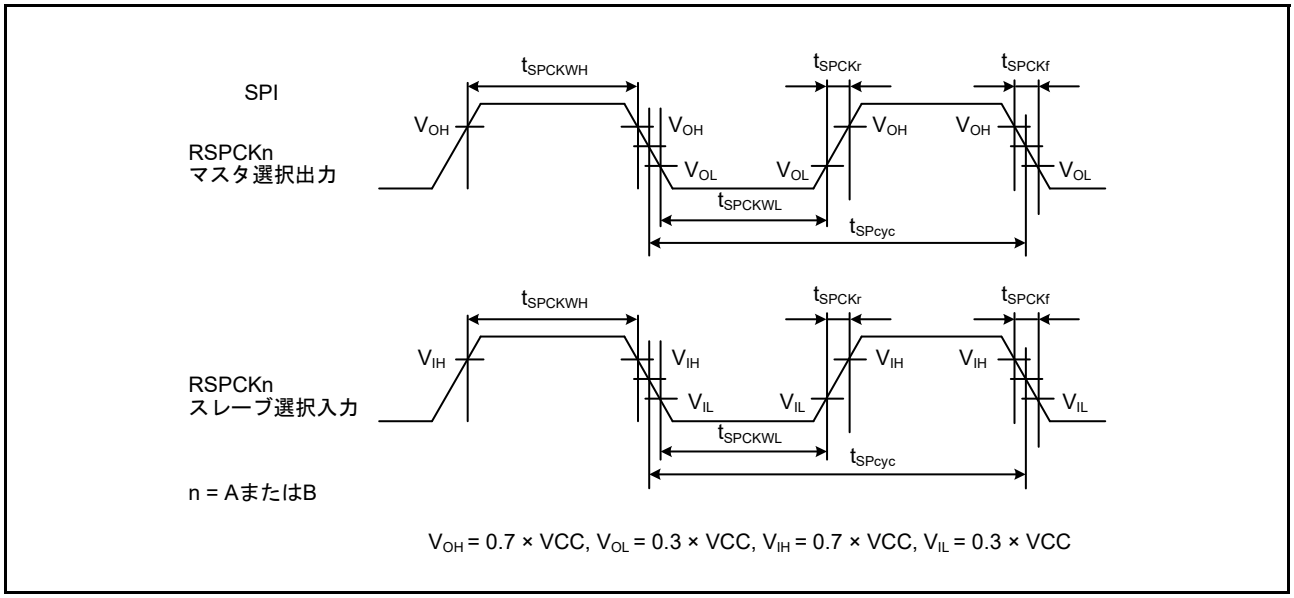


図 52.44　SPI クロックタイミング

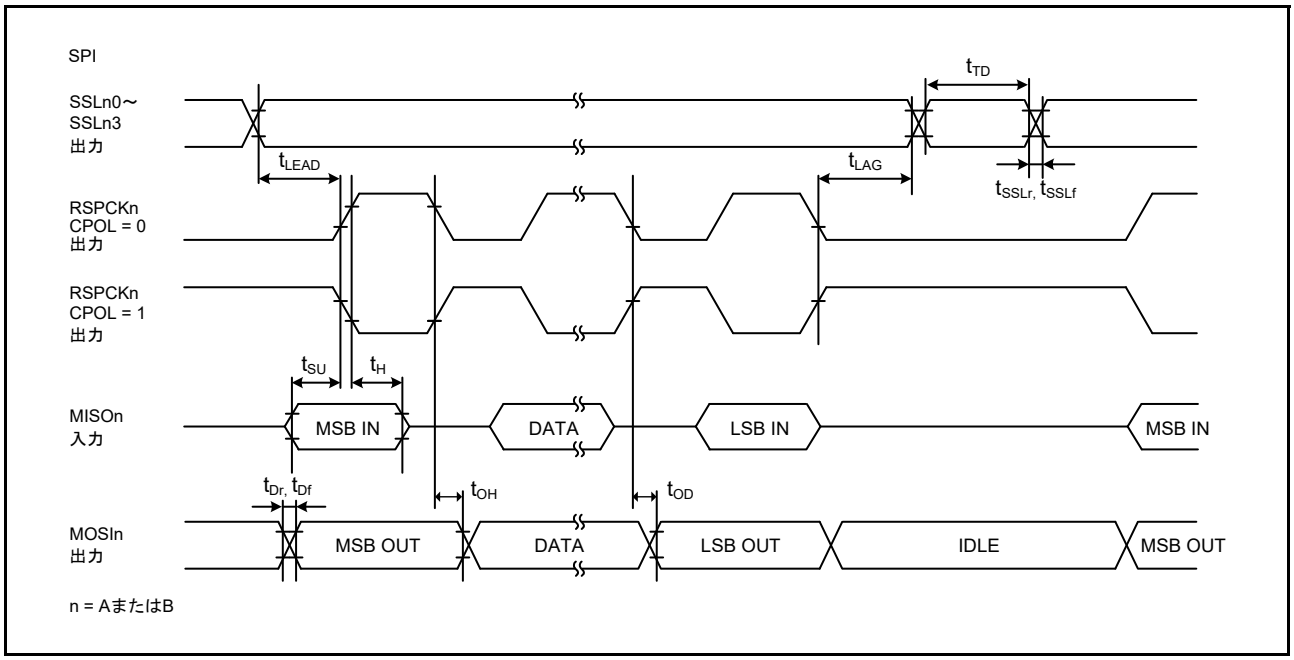


図 52.45　CPHA = 0 の場合におけるマスタの SPI タイミング

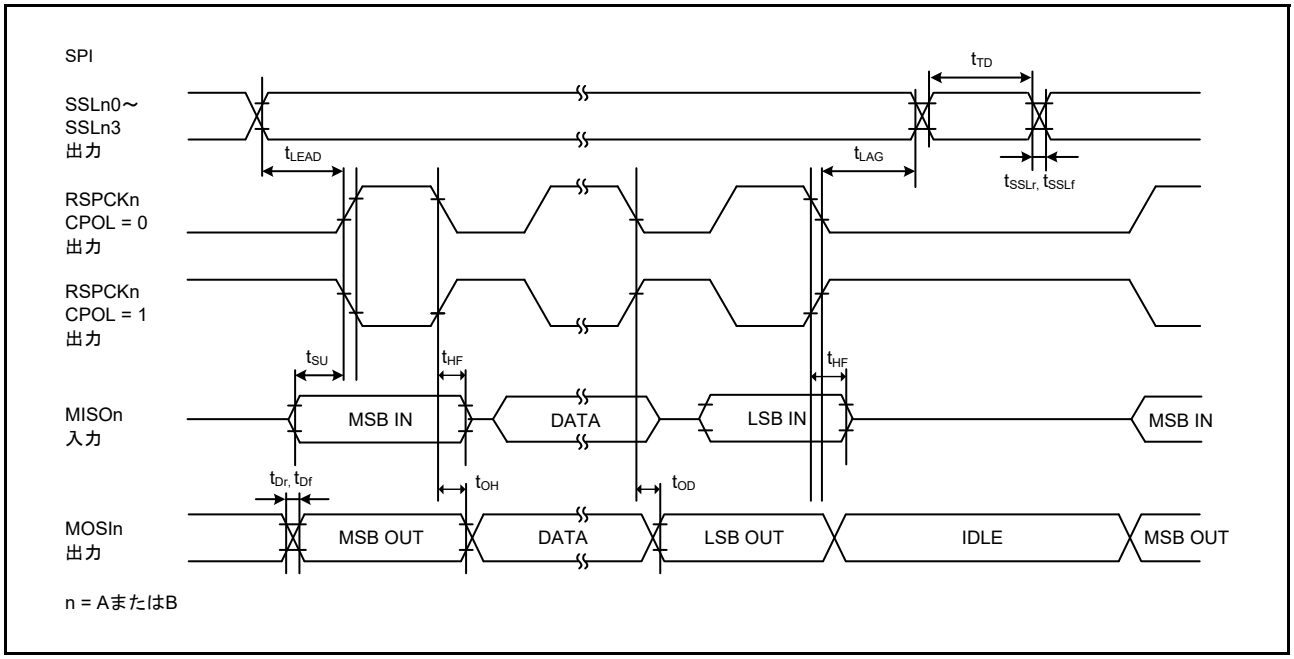


図 52.46　CPHA = 0 で、PCLKA/2 にビットレートが設定されている場合におけるマスタの SPI タイミング

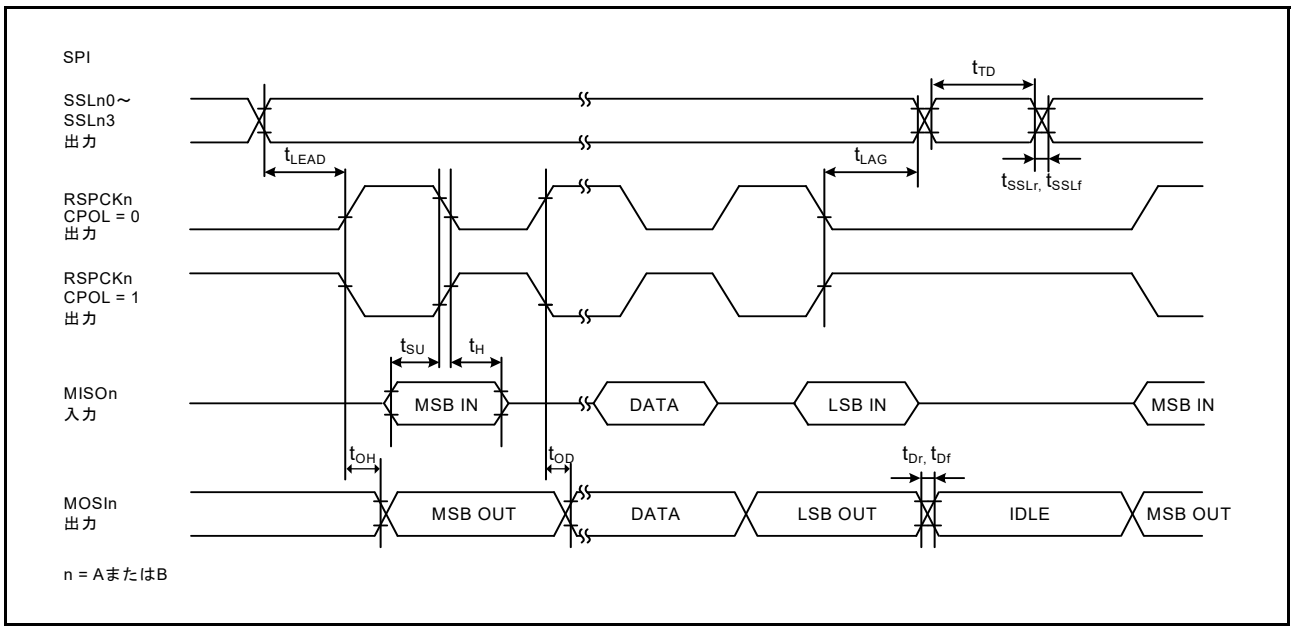


図 52.47　CPHA = 1 の場合におけるマスタの SPI タイミング

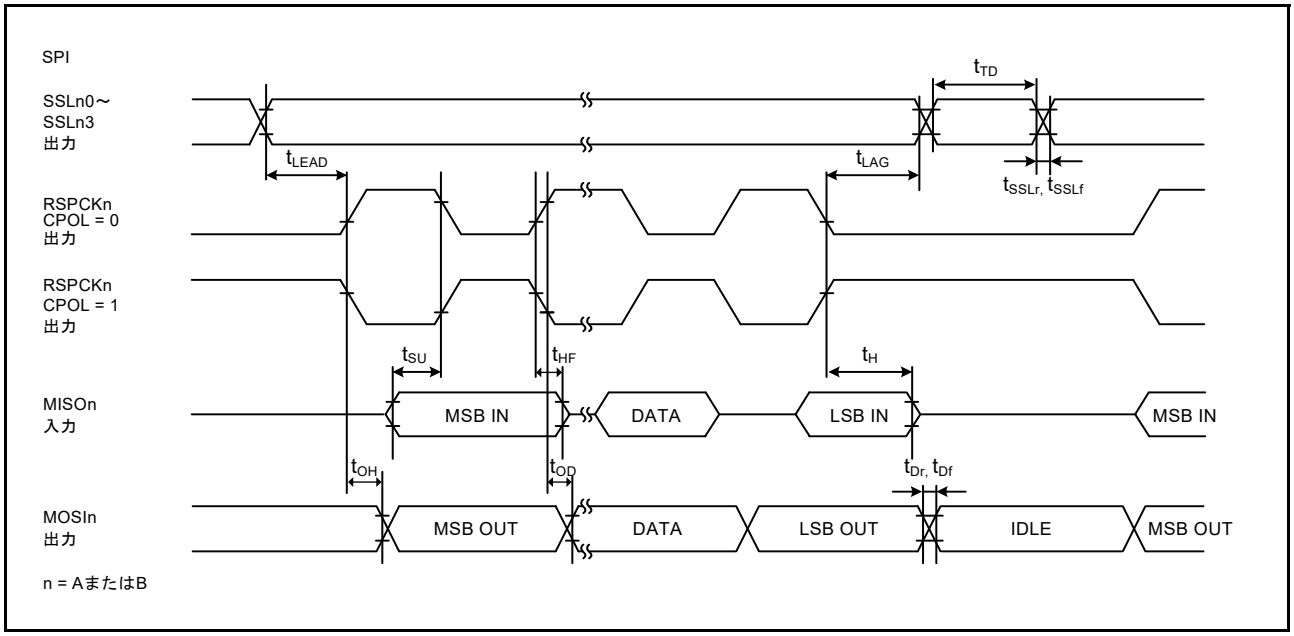


図 52.48　CPHA = 1 で、PCLKA/2 にビットレートが設定されている場合におけるマスタの SPI タイミング

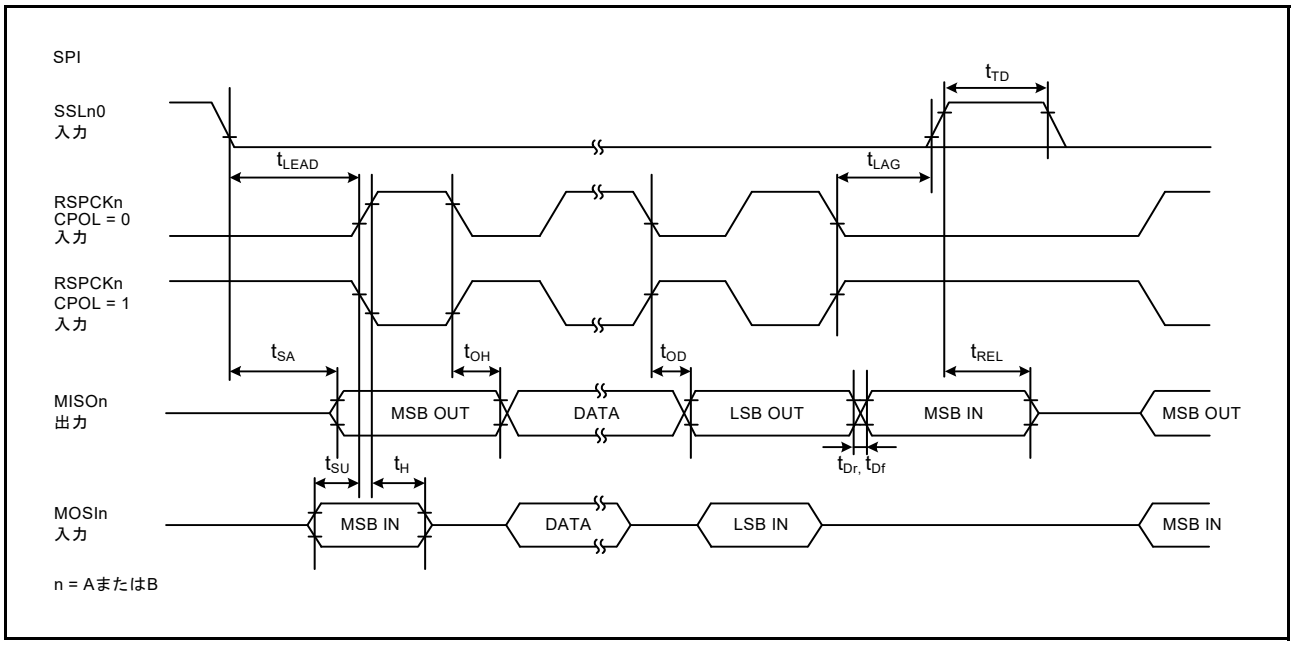


図 52.49　CPHA = 0 の場合におけるスレーブの SPI タイミング

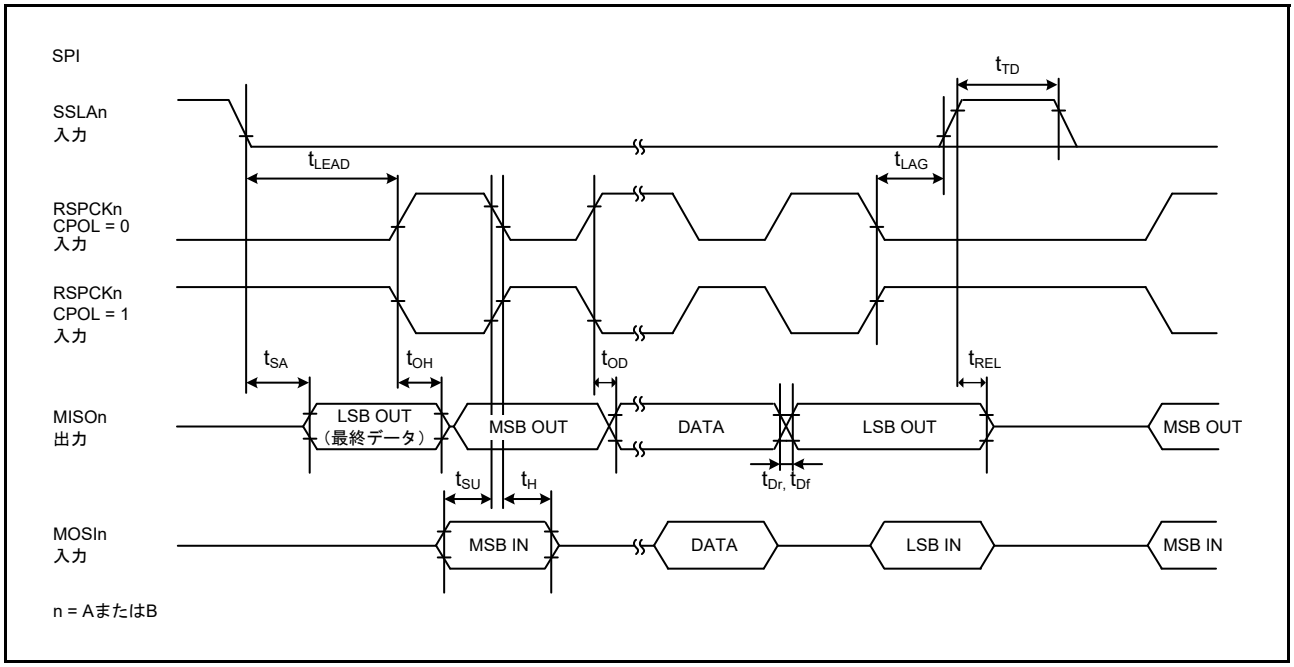


図 52.50　CPHA = 1 の場合におけるスレーブの SPI タイミング

52.3.12 QSPI タイミング

表 52.26 QSPIタイミング

条件：PmnPFS レジスタのポート駆動能力ビットで高駆動出力が選択されています。

項目		シンボル	Min	Max	単位 (注1)	測定条件
QSPI	QSPCKクロックサイクル	t_{QScyc}	2	48	t_{Pcyc}	図 52.51
	QSPCKクロック High レベルパルス幅	t_{QSWH}	t_{QScyc} × 0.4	-	ns	
	QSPCKクロック Low レベルパルス幅	t_{QSWL}	t_{QScyc} × 0.4	-	ns	
	データ入力セットアップ時間	t_{Su}	8	-	ns	図 52.52
	データ入力ホールド時間	t_{IH}	0	-	ns	
	QSSL セットアップ時間	t_{LEAD}	(N + 0.5) × t_{QScyc} - 5 (注2)	(N + 0.5) × t_{QScyc} + 100 (注2)	ns	
	QSSL ホールド時間	t_{LAG}	(N + 0.5) × t_{QScyc} - 5 (注3)	(N + 0.5) × t_{QScyc} + 100 (注3)	ns	
	データ出力遅延時間	t_{OD}	-	4	ns	
	データ出力ホールド時間	t_{OH}	-3.3	-	ns	
	連続転送遅延時間	t_{TD}	1	16	t_{QScyc}	

注 1. t_{Pcyc}：PCLKA の周期

注 2. SFMSLD で N は 0 または 1 になっています。

注 3. SFMSHD で N は 0 または 1 になっています。

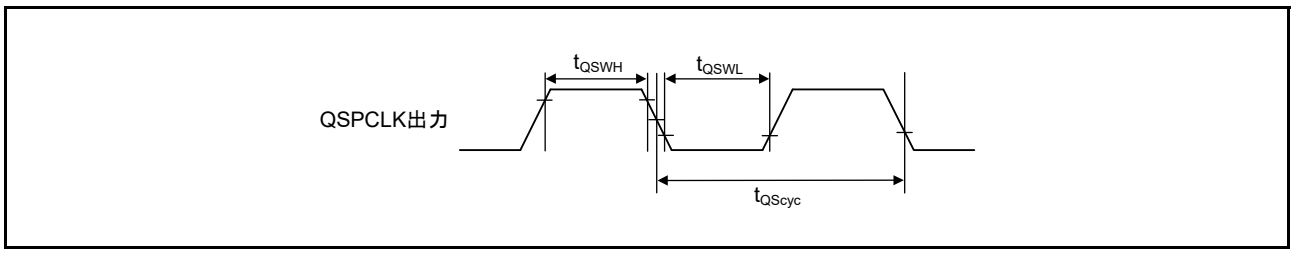


図 52.51 QSPI クロックタイミング

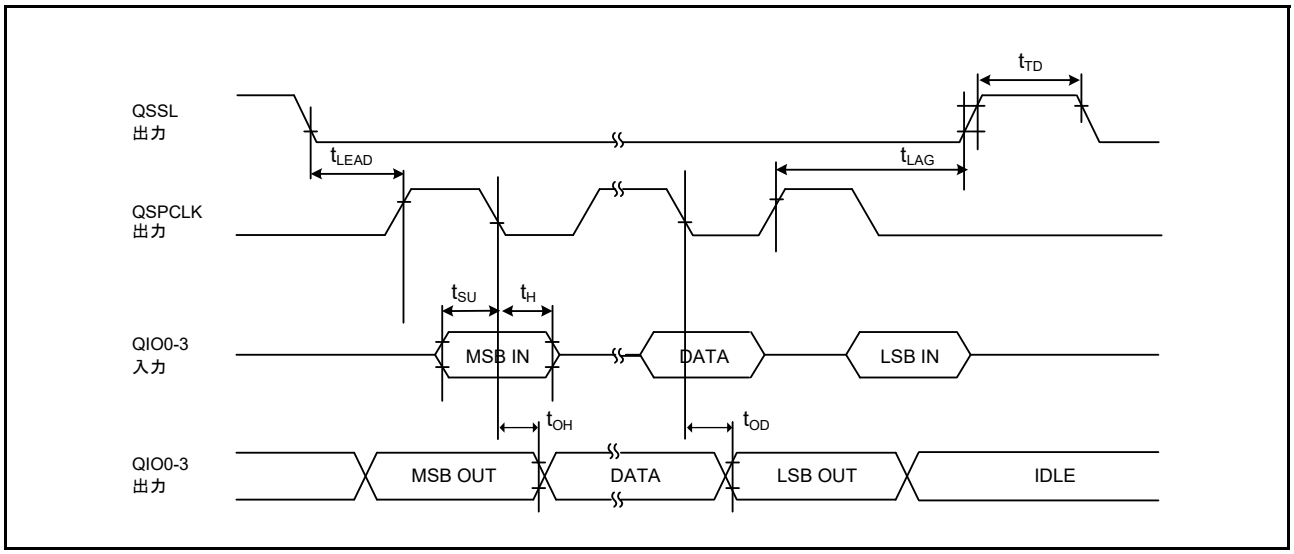


図 52.52 送受信タイミング

52.3.13 IIC タイミング

表 52.27 IICタイミング（1）

（1）条件：以下の端子は、PmnPFSレジスタのポート駆動能力ビットで中駆動出力が選択されています：SDA0_B、SCL0_B、SDA1_A、SCL1_A、SDA1_B、SCL1_B

（2）以下の端子の設定は必要ありません：SCL0_A、SDA0_A

（3）所属グループを示すため、“_A”や“_B”などのように端子名の後ろに文字を付加した端子を使用してください。IICインタフェースについては、電気的特性のACタイミングを各グループで測定しています。

項目		シンボル	Min（注1）	Max	単位	測定条件（注3）
IIC（標準モード、SMBus）ICFER.FMPE = 0	SCL入力サイクル時間	t_{SCL}	6 (12) × t_{IICcyc} + 1300	-	ns	図 52.53
	SCL入力Highレベルパルス幅	t_{SCLH}	3 (6) × t_{IICcyc} + 300	-	ns	
	SCL入力Lowレベルパルス幅	t_{SCLL}	3 (6) × t_{IICcyc} + 300	-	ns	
	SCL、SDA入力立ち上がり時間	t_{Sr}	-	1000	ns	
	SCL、SDA入力立ち下がり時間	t_{Sf}	-	300	ns	
	SCL、SDA入力スパイクパルス除去時間	t_{SP}	0	1 (4) × t_{IICcyc}	ns	
	ウェイクアップ機能が無効な場合のSDA入力バスフリー時間	t_{BUF}	3 (6) × t_{IICcyc} + 300	-	ns	
	ウェイクアップ機能が有効な場合のSDA入力バスフリー時間	t_{BUF}	3 (6) × t_{IICcyc} + 4 × t_{Pcyc} + 300	-	ns	
	ウェイクアップ機能が無効な場合のSTART条件入力ホールド時間	t_{STAH}	t_{IICcyc} + 300	-	ns	
	ウェイクアップ機能が有効な場合のSTART条件入力ホールド時間	t_{STAH}	1 (5) × t_{IICcyc} + t_{Pcyc} + 300	-	ns	
	再送START条件入力セットアップ時間	t_{STAS}	1000	-	ns	
	STOP条件入力セットアップ時間	t_{STOS}	1000	-	ns	
	データ入力セットアップ時間	t_{SDAS}	t_{IICcyc} + 50	-	ns	
	データ入力ホールド時間	t_{SDAH}	0	-	ns	
	SCL、SDAの負荷容量	C_b	-	400	pF	
IIC（ファストモード）	SCL入力サイクル時間	t_{SCL}	6 (12) × t_{IICcyc} + 600	-	ns	図 52.53
	SCL入力Highレベルパルス幅	t_{SCLH}	3 (6) × t_{IICcyc} + 300	-	ns	
	SCL入力Lowレベルパルス幅	t_{SCLL}	3 (6) × t_{IICcyc} + 300	-	ns	
	SCL、SDA入力立ち上がり時間	t_{Sr}	20 ×（外付けプルアップ電圧/5.5V）（注2）	300	ns	
	SCL、SDA入力立ち下がり時間	t_{Sf}	20 ×（外付けプルアップ電圧/5.5V）（注2）	300	ns	
	SCL、SDA入力スパイクパルス除去時間	t_{SP}	0	1 (4) × t_{IICcyc}	ns	
	ウェイクアップ機能が無効な場合のSDA入力バスフリー時間	t_{BUF}	3 (6) × t_{IICcyc} + 300	-	ns	
	ウェイクアップ機能が有効な場合のSDA入力バスフリー時間	t_{BUF}	3 (6) × t_{IICcyc} + 4 × t_{Pcyc} + 300	-	ns	
	ウェイクアップ機能が無効な場合のSTART条件入力ホールド時間	t_{STAH}	t_{IICcyc} + 300	-	ns	
	ウェイクアップ機能が有効な場合のSTART条件入力ホールド時間	t_{STAH}	1 (5) × t_{IICcyc} + t_{Pcyc} + 300	-	ns	
	再送START条件入力セットアップ時間	t_{STAS}	300	-	ns	
	STOP条件入力セットアップ時間	t_{STOS}	300	-	ns	
	データ入力セットアップ時間	t_{SDAS}	t_{IICcyc} + 50	-	ns	
	データ入力ホールド時間	t_{SDAH}	0	-	ns	
	SCL、SDAの負荷容量	C_b	-	400	pF	

注 . t_{IICcyc}：IIC 内部基準クロック（IICφ）の周期、t_{Pcyc}：PCLKB の周期

注 1. ICFER.NFE が 1 でデジタルフィルタが有効な場合、ICMR3.NF[1:0] が 11b であると（ ）内の値が適用されます。

注 2. SCL0_A および SDA0_A のみサポートしています。

注 3. 所属グループを示すため、“_A” や “_B” などのように端子名の後ろに文字を付加した端子を使用してください。IIC インタフェースについては、電気的特性の AC タイミングを各グループで測定しています。

表 52.28　　IIC タイミング（2）

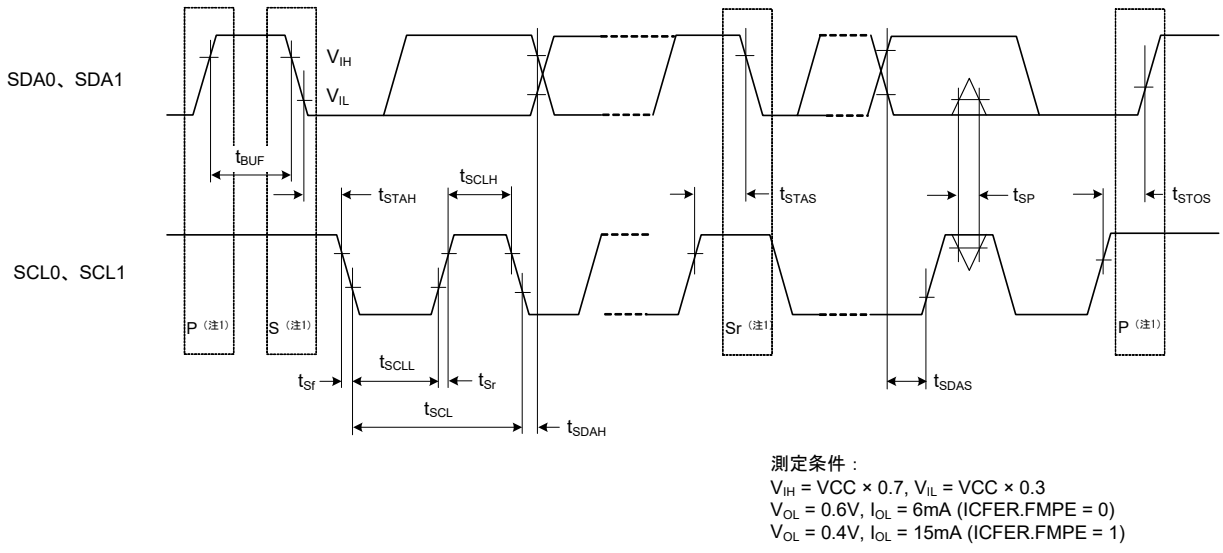
PmnPFS レジスタのポート駆動能力ビットでは、SCL0_A 端子、SDA0_A 端子の設定は必要ありません。

項目		シンボル	Min（注1）（注2）	Max	単位	測定条件
IIC（ファストモード+）ICFER.FMPE = 1	SCL 入力サイクル時間	t_{SCL}	6 (12) × t_{IICcyc} + 240	-	ns	図 52.53
	SCL 入力 High レベルパルス幅	t_{SCLH}	3 (6) × t_{IICcyc} + 120	-	ns	
	SCL 入力 Low レベルパルス幅	t_{SCLL}	3 (6) × t_{IICcyc} + 120	-	ns	
	SCL、SDA 入力立ち上がり時間	t_{Sr}	-	120	ns	
	SCL、SDA 入力立ち下がり時間	t_{Sf}	-	120	ns	
	SCL、SDA 入力スパイクパルス除去時間	t_{SP}	0	1 (4) × t_{IICcyc}	ns	
	ウェイクアップ機能が無効な場合の SDA 入力バスフリー時間	t_{BUF}	3 (6) × t_{IICcyc} + 120	-	ns	
	ウェイクアップ機能が有効な場合の SDA 入力バスフリー時間	t_{BUF}	3 (6) × t_{IICcyc} + 4 × t_{Pcyc} + 120	-	ns	
	ウェイクアップ機能が無効な場合の START 条件入力ホールド時間	t_{STAH}	t_{IICcyc} + 120	-	ns	
	ウェイクアップ機能が有効な場合の START 条件入力ホールド時間	t_{STAH}	1 (5) × t_{IICcyc} + t_{Pcyc} + 120	-	ns	
	リスタート条件入力セットアップ時間	t_{STAS}	120	-	ns	
	停止条件入力セットアップ時間	t_{STOS}	120	-	ns	
	データ入力セットアップ時間	t_{SDAS}	t_{IICcyc} + 30	-	ns	
	データ入力ホールド時間	t_{SDAH}	0	-	ns	
	SCL、SDA の負荷容量	C_b	-	550	pF	

注 .　t_{IICcyc}：IIC 内部基準クロック（IICφ）の周期、t_{Pcyc}：PCLKB の周期

注 1.　ICFER.NFE が 1 でデジタルフィルタが有効な場合、ICMR3.NF[1:0] が 11b であると（　）内の値が適用されます。

注 2.　Cb はバスラインの容量総計を意味します。



注 1.　S、P、Sr はそれぞれ以下の条件を示します。
S：開始条件
P：停止条件
Sr：再開始条件

図 52.53　　I²C バスインタフェース入出力タイミング

52.3.14 SSIE タイミング

表 52.29 SSIE タイミング

(1) PmnPFS レジスタのポート駆動能力ビットで高駆動出力が選択されています。
(2) 所属グループを示すため、“_A”や“_B”などのように端子名の後ろに文字を付加した端子を使用してください。SSIE インタフェースについては、電気的特性の AC タイミングを各グループで測定しています。

項目			シンボル	Min	Max	単位	測定条件
SSIBCK0	サイクル	マスタ	t_O	80	-	ns	図 52.54
		スレーブ	t_I	80	-	ns	
	High レベル／Low レベル	マスタ	t_{HC}/t_{LC}	0.35	-	t_O	
		スレーブ		0.35	-	t_I	
	立ち上がり時間／立ち下がり時間	マスタ	t_{RC}/t_{FC}	-	0.15	t_O/t_I	
		スレーブ		-	0.15	t_O/t_I	
SSILRCK0/SSIFS0, SSITXD0, SSIRXD0	入力セットアップ時間	マスタ	t_{SR}	12	-	ns	図 52.56、図 52.57
		スレーブ		12	-	ns	
	入力ホールド時間	マスタ	t_{HR}	8	-	ns	
		スレーブ		15	-	ns	
	出力遅延時間	マスタ	t_{DTR}	-10	5	ns	
		スレーブ		0	20	ns	図 52.56, 図 52.57
	SSILRCK0/SSIFS0 変化時からの出力遅延時間	スレーブ	t_{DTRW}	-	20	ns	図 52.58（注 1）
GTIOC1A, AUDIO_CLK	サイクル		t_{EXcyc}	20	-	ns	図 52.55
	High レベル／Low レベル		t_{EXL}/t_{EXH}	0.4	0.6	t_{EXcyc}	

注 1. SSIE はスレーブモード送信用に 1 本の経路を備え、その経路により SSILRCK0/SSIFS0 端子からの信号入力が送信データの生成に使用され、送信データが SSITXD0 端子へ論理出力されます。

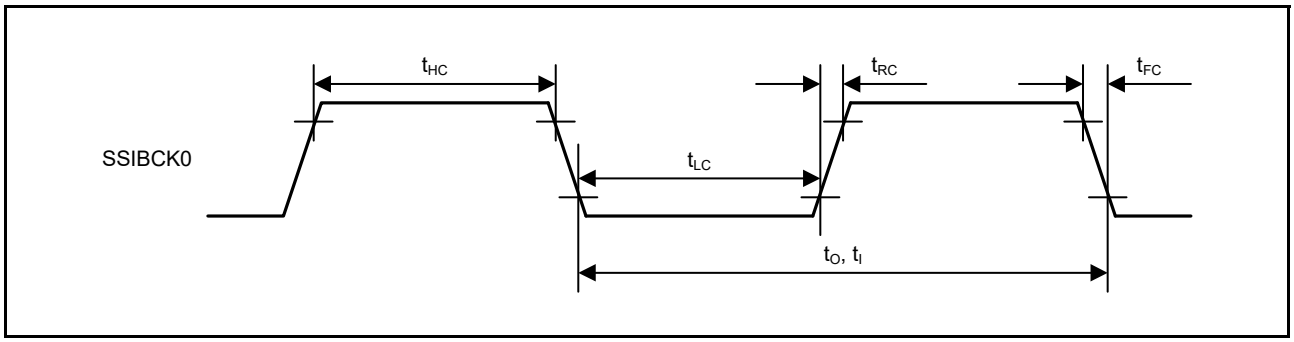


図 52.54 SSIE クロック入出力タイミング

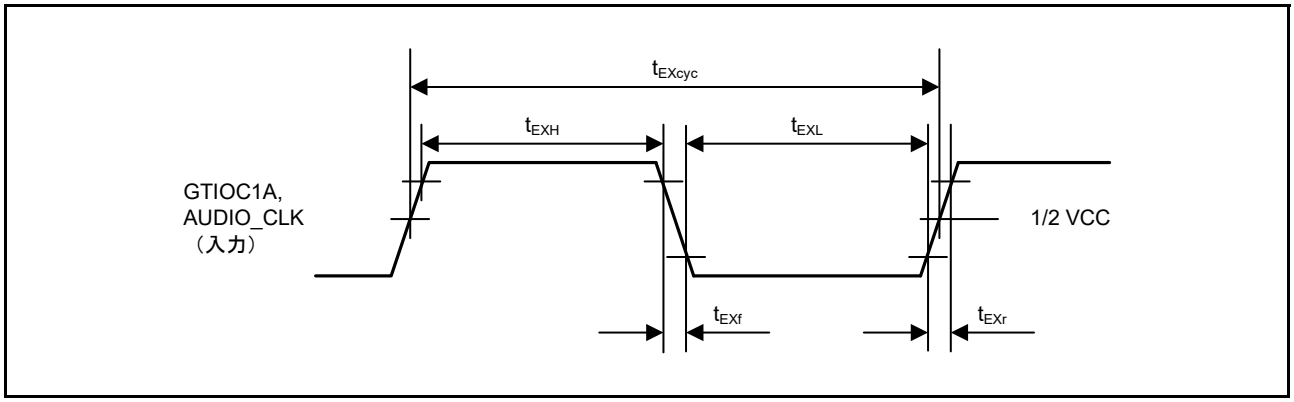


図 52.55　クロック入力タイミング

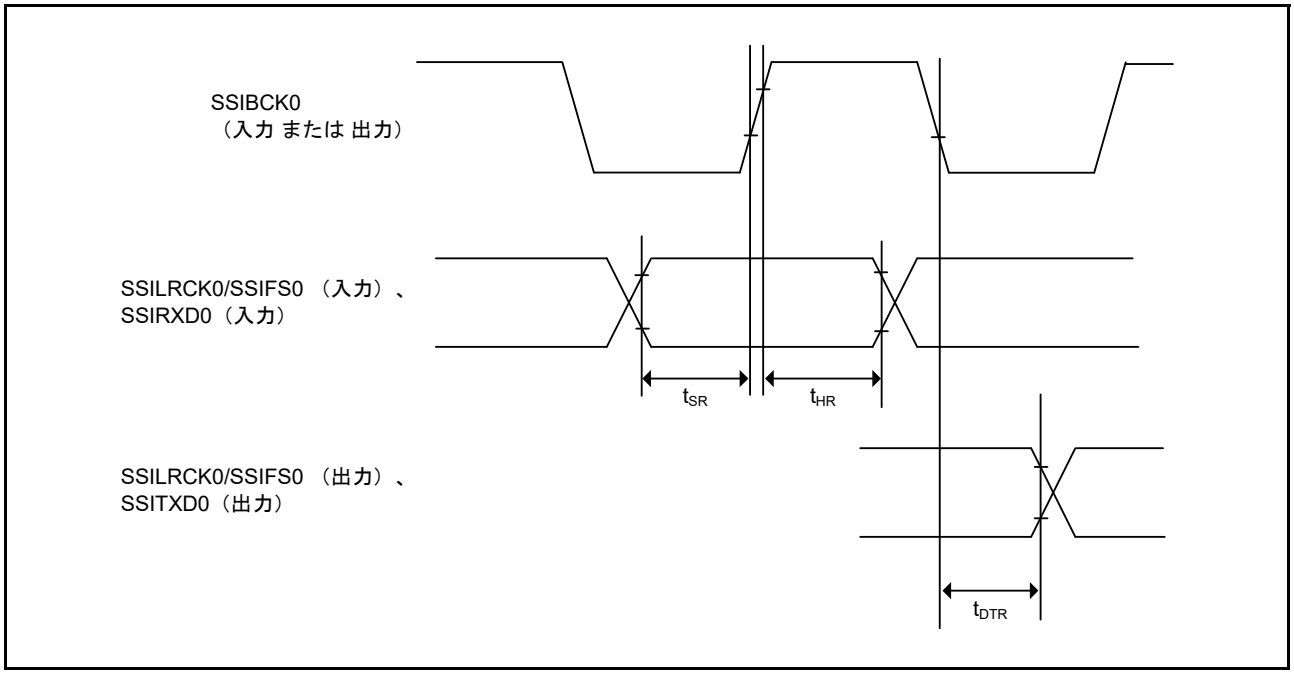


図 52.56　SSICR.BCKP = 0 の場合の SSIE データ送受信タイミング

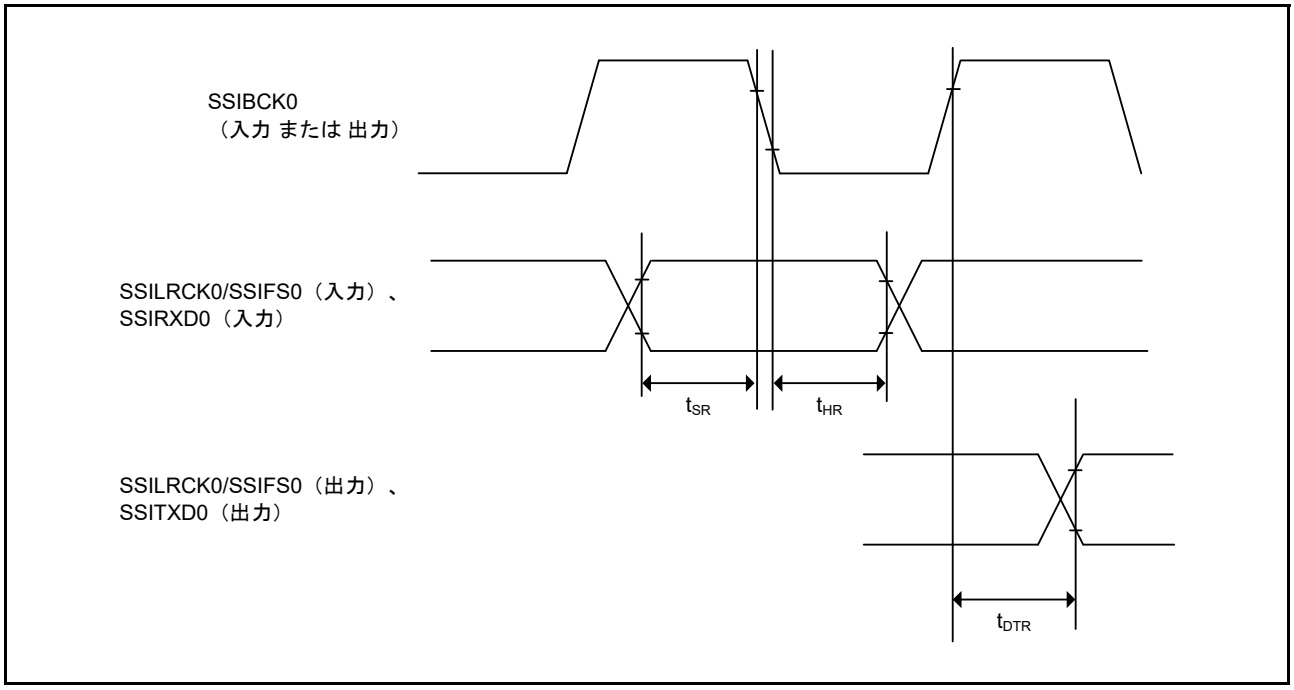


図 52.57　SSICR.BCKP = 1 の場合の SSIE データ送受信タイミング

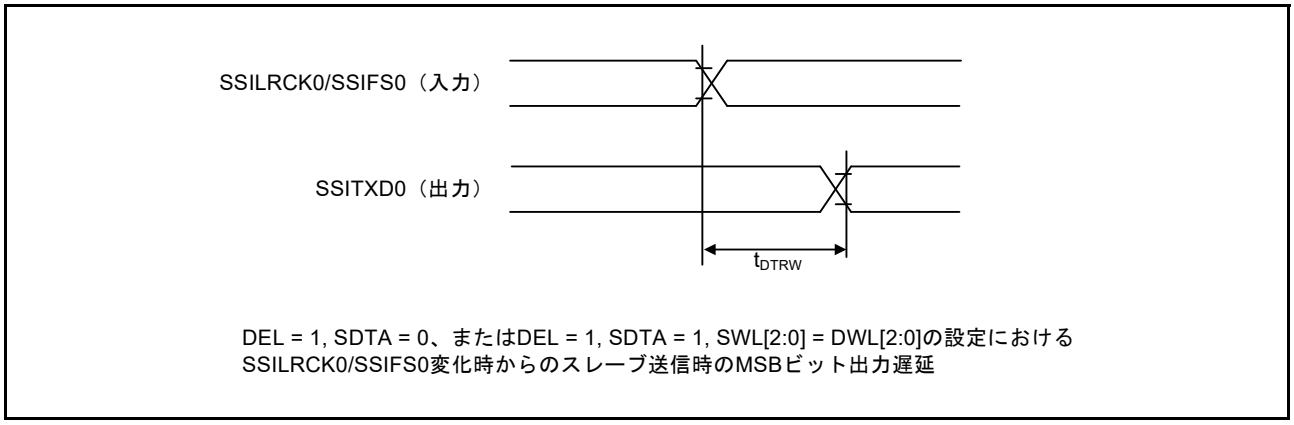


図 52.58　SSILRCK0/SSIFS0 変化時からの SSIE データ出力遅延

52.3.15 SD/MMC ホストインタフェースタイミング

表 52.30 SD/MMCホストインタフェース信号タイミング

条件 : PmnPFSレジスタのポート駆動能力ビットで高駆動出力が選択されています。
クロックデューティ比は50%です。

項目	シンボル	Min	Max	単位	測定条件（注1）
SDnCLKクロックサイクル	T_{SDCYC}	20	-	ns	図 52.59
SDnCLKクロックHighレベルパルス幅	T_{SDWH}	6.5	-	ns	
SDnCLKクロックLowレベルパルス幅	T_{SDWL}	6.5	-	ns	
SDnCLKクロック立ち上がり時間	T_{SDLH}	-	3	ns	
SDnCLKクロック立ち下がり時間	T_{SDHL}	-	3	ns	
SDnCMD/SDnDATm出力データ遅延	T_{SDODLY}	-6	5	ns	
SDnCMD/SDnDATm入力データセットアップ	T_{SDIS}	4	-	ns	
SDnCMD/SDnDATm入力データホールド	T_{SDIH}	2	-	ns	

注 1. 所属グループを示すため、“_A” や “_B” などのように端子名の後ろに文字を付加した端子を使用してください。SD/MMC ホストインタフェースについては、電気的特性の AC タイミングを各グループで測定しています。

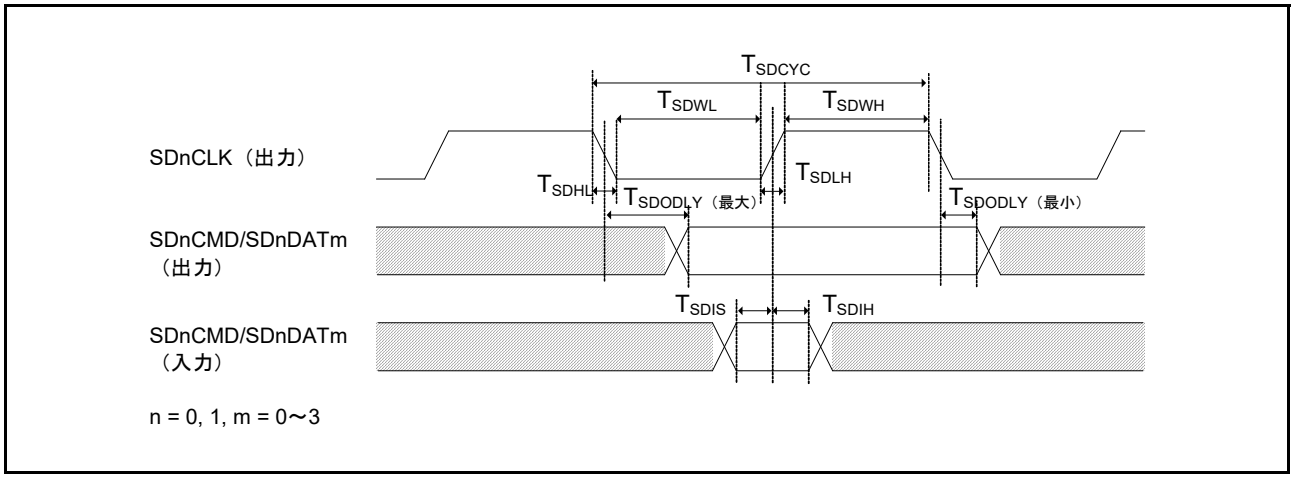


図 52.59 SD/MMC ホストインタフェース信号タイミング

52.4 USB 特性

52.4.1 USBFS タイミング

表 52.31 ホストに限定したUSBFSロースピード特性（USB_DP端子およびUSB_DM端子の特性）

条件：VCC= AVCC0 = VCC_USB = VBATT = 3.0～3.6V、2.7≦VREFH0/VREFH≦AVCC0、UCLK = 48MHz

項目		シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
入力特性	入力Highレベル電圧	V_{IH}	2.0	-	-	V	-
	入力Lowレベル電圧	V_{IL}	-	-	0.8	V	-
	差動入力感度	V_{DI}	0.2	-	-	V	| USB_DP - USB_DM |
	差動コモンモードレンジ	V_{CM}	0.8	-	2.5	V	-
出力特性	出力Highレベル電圧	V_{OH}	2.8	-	3.6	V	I_{OH} = -200μA
	出力Lowレベル電圧	V_{OL}	0.0	-	0.3	V	I_{OL} = 2mA
	クロスオーバー電圧	V_{CRS}	1.3	-	2.0	V	図 52.60
	立ち上がり時間	t_{LR}	75	-	300	ns	
	立ち下がり時間	t_{LF}	75	-	300	ns	
	立ち上がり／立ち下がり時間比	t_{LR}/t_{LF}	80	-	125	%	t_{LR}/t_{LF}
プルアップ／プルダウン特性	ホストコントローラモードにおけるUSB_DP、USB_DMのプルダウン抵抗	R_{pd}	14.25	-	24.80	kΩ	-

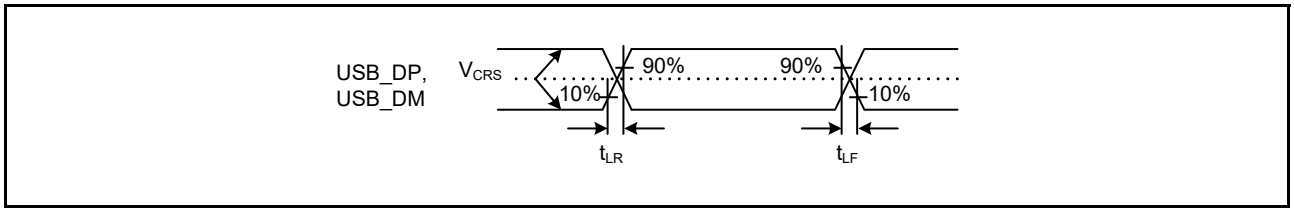


図 52.60 Low-speed モードにおける USB_DP、USB_DM の出力タイミング

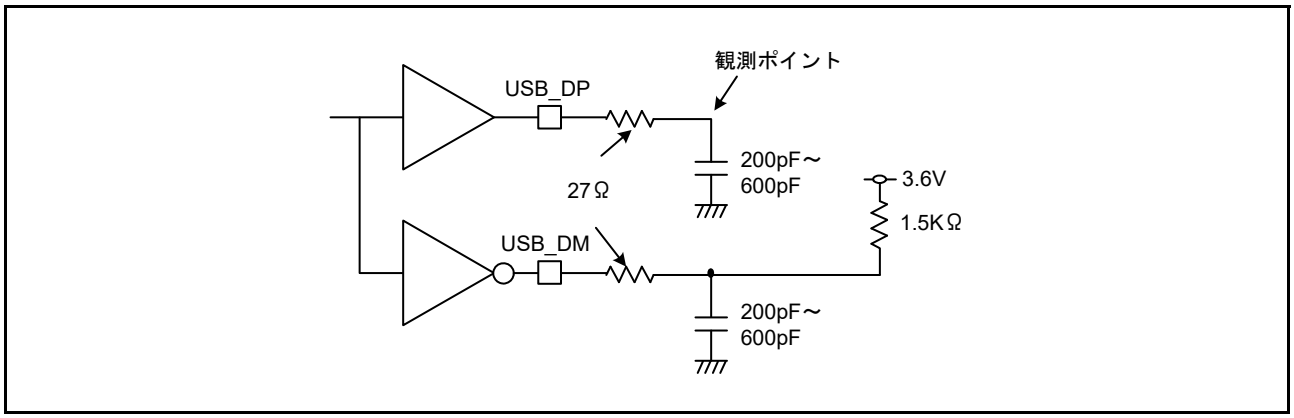


図 52.61 Low-speed モードにおける測定回路

表 52.32　　USBFS フルスピード特性（USB_DP 端子、USB_DM 端子の特性）

条件：VCC = AVCC0 = VCC_USB = VBATT = 3.0～3.6V、2.7≦VREFH0/VREFH≦AVCC0、UCLK = 48MHz

項目		シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
入力特性	入力 High レベル電圧	V_{IH}	2.0	-	-	V	-
	入力 Low レベル電圧	V_{IL}	-	-	0.8	V	-
	差動入力感度	V_{DI}	0.2	-	-	V	| USB_DP - USB_DM |
	差動コモンモードレンジ	V_{CM}	0.8	-	2.5	V	-
出力特性	出力 High レベル電圧	V_{OH}	2.8	-	3.6	V	I_{OH} = -200μA
	出力 Low レベル電圧	V_{OL}	0.0	-	0.3	V	I_{OL} = 2mA
	クロスオーバー電圧	V_{CRS}	1.3	-	2.0	V	図 52.62
	立ち上がり時間	t_{FR}	4	-	20	ns	
	立ち下がり時間	t_{FF}	4	-	20	ns	
	立ち上がり／立ち下がり時間比	t_{FR}/t_{FF}	90	-	111.11	%	t_{FR}/t_{FF}
	出力抵抗	Z_{DRV}	28	-	44	Ω	USBFS：Rs = 27Ω 含む
プルアップ／プルダウン特性	デバイスコントローラモードにおける DM プルアップ抵抗	R_{pu}	0.900	-	1.575	kΩ	アイドル状態の間
			1.425	-	3.090	kΩ	送受信中
	ホストコントローラモードにおける USB_DP、USB_DM のプルダウン抵抗	R_{pd}	14.25	-	24.80	kΩ	-

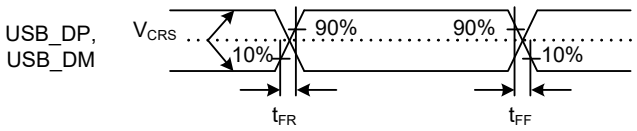


図 52.62　　フルスピードモードにおける USB_DP、USB_DM の出力タイミング

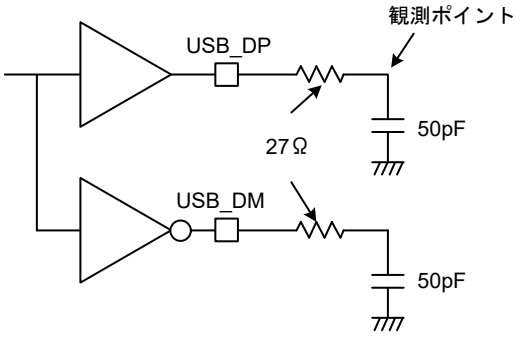


図 52.63　　フルスピードモードにおける測定回路

52.5 ADC12 特性

表 52.33 ユニット0のA/D変換特性

条件：PCLKC = 1～60MHz

項目			Min	Typ	Max	単位	測定条件
周波数			1	-	60	MHz	-
アナログ入力容量			-	-	30	pF	-
量子化誤差			-	± 0.5	-	LSB	-
分解能			-	-	12	ビット	-
チャネル専用サンプルホールド回路使用時（注3）（AN000～AN002）	変換時間（注1）（PCLKC = 60MHz時）	許容信号源インピーダンス max = 1kΩ	1.06 (0.4 + 0.25)（注2）	-	-	μs	• チャネル専用サンプル&ホールド回路のサンプリング24ステート • サンプリング15ステート
	オフセット誤差		-	± 1.5	± 3.5	LSB	AN000～AN002 = 0.25V
	フルスケール誤差		-	± 1.5	± 3.5	LSB	AN000～AN002 = VREFH0 - 0.25V
	絶対精度		-	± 2.5	± 5.5	LSB	-
	DNL微分非直線性誤差		-	± 1.0	± 2.0	LSB	-
	INL積分非直線性誤差		-	± 1.5	± 3.0	LSB	-
	サンプル&ホールド回路のホールド特性		-	-	20	μs	-
	ダイナミックレンジ		0.25	-	VREFH 0 - 0.25	V	-
チャネル専用サンプル&ホールド回路未使用時（AN000～AN002）	変換時間（注1）（PCLKC = 60MHz時）	許容信号源インピーダンス max = 1kΩ	0.48 (0.267)（注2）	-	-	μs	サンプリング16ステート
	オフセット誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
	フルスケール誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
	絶対精度		-	± 2.0	± 4.5	LSB	-
	DNL微分非直線性誤差		-	± 0.5	± 1.5	LSB	-
	INL積分非直線性誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
高精度チャネル（AN003、AN005、AN006）	変換時間（注1）（PCLKC = 60MHz時）	許容信号源インピーダンス max = 1kΩ	0.48 (0.267)（注2）	-	-	μs	サンプリング16ステート
		max = 400Ω	0.40 (0.183)（注2）	-	-	μs	サンプリング11ステート VCC = AVCC0 = 3.0～3.6V 3.0V≦VREFH0≦AVCC0
	オフセット誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
	フルスケール誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
	絶対精度		-	± 2.0	± 4.5	LSB	-
	DNL微分非直線性誤差		-	± 0.5	± 1.5	LSB	-
	INL積分非直線性誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
高精度チャネル（AN007）	変換時間（注1）（PCLKC = 60MHz時）	許容信号源インピーダンス max = 1kΩ	0.75 (0.533)（注2）	-	-	μs	サンプリング32ステート
	オフセット誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
	フルスケール誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
	絶対精度		-	± 2.0	± 4.5	LSB	-
	DNL微分非直線性誤差		-	± 0.5	± 1.5	LSB	-
	INL積分非直線性誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
通常精度チャネル（AN016～AN018、AN020）	変換時間（注1）（PCLKC = 60MHz時）	許容信号源インピーダンス max = 1kΩ	0.88 (0.667)（注2）	-	-	μs	サンプリング40ステート
	オフセット誤差		-	± 1.0	± 5.5	LSB	-
	フルスケール誤差		-	± 1.0	± 5.5	LSB	-
	絶対精度		-	± 2.0	± 7.5	LSB	-
	DNL微分非直線性誤差		-	± 0.5	± 4.5	LSB	-
	INL積分非直線性誤差		-	± 1.0	± 5.5	LSB	-

注 . これらの規格値は、A/D 変換中に外部バスアクセスを行わなかった場合の数値です。A/D 変換中にアクセスが発生した場合は、提示した範囲に数値が収まらない可能性があります。
12 ビット A/D コンバータ使用時は、ポート 0 をデジタル出力として使用しないでください。
上記の特性は、AVCC0、AVSS0、VREFH0、VREFH、VREFL0、VREFL および 12 ビット A/D コンバータの入力電圧が安定しているときの特性です。
注 1. 変換時間にはサンプリング時間と比較時間が含まれます。測定条件には、サンプリングステート数が示されています。
注 2. （ ）内の値は、サンプリング時間を意味します。
注 3. ユニット 0 とユニット 1 それぞれのチャネル専用サンプル＆ホールド回路を同時に使用する場合、表 52.35 を参照してください。

表 52.34 ユニット1のA/D変換特性 (1/2)

条件：PCLKC = 1～60MHz

項目			Min	Typ	Max	単位	測定条件
周波数			1	-	60	MHz	-
アナログ入力容量			-	-	30	pF	-
量子化誤差			-	± 0.5	-	LSB	-
分解能			-	-	12	ビット	-
チャネル専用サンプル&ホールド回路使用時（注3）（AN100～AN102）	変換時間（注1）（PCLKC = 60MHz時）	許容信号源インピーダンス max = 1kΩ	1.06 (0.4 + 0.25)（注2）	-	-	μs	• チャネル専用サンプル&ホールド回路のサンプリング24ステート • サンプリング15ステート
	オフセット誤差		-	± 1.5	± 3.5	LSB	AN100～AN102 = 0.25V
	フルスケール誤差		-	± 1.5	± 3.5	LSB	AN100～AN102 = VREFH - 0.25V
	絶対精度		-	± 2.5	± 5.5	LSB	-
	DNL微分非直線性誤差		-	± 1.0	± 2.0	LSB	-
	INL積分非直線性誤差		-	± 1.5	± 3.0	LSB	-
	サンプル&ホールド回路のホールド特性		-	-	20	μs	-
	ダイナミックレンジ		0.25	-	VREFH - 0.25	V	-
チャネル専用サンプル&ホールド回路未使用時（AN100～AN102）	変換時間（注1）（PCLKC = 60MHz時）	許容信号源インピーダンス max = 1kΩ	0.48 (0.267)（注2）	-	-	μs	サンプリング16ステート
	オフセット誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
	フルスケール誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
	絶対精度		-	± 2.0	± 4.5	LSB	-
	DNL微分非直線性誤差		-	± 0.5	± 1.5	LSB	-
	INL積分非直線性誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
高精度チャネル（AN105、AN106）	変換時間（注1）（PCLKC = 60MHz時）	許容信号源インピーダンス max = 1kΩ	0.48 (0.267)（注2）	-	-	μs	サンプリング16ステート
		max = 400Ω	0.40 (0.183)（注2）	-	-	μs	サンプリング11ステート VCC = AVCC0 = 3.0～3.6V 3.0V≦VREFH≦AVCC0
	オフセット誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
	フルスケール誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
	絶対精度		-	± 2.0	± 4.5	LSB	-
	DNL微分非直線性誤差		-	± 0.5	± 1.5	LSB	-
	INL積分非直線性誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
高精度チャネル（AN107）	変換時間（注1）（PCLKC = 60MHz時）	許容信号源インピーダンス max = 1kΩ	0.75 (0.533)（注2）	-	-	μs	サンプリング32ステート
	オフセット誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
	フルスケール誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-
	絶対精度		-	± 2.0	± 4.5	LSB	-
	DNL微分非直線性誤差		-	± 0.5	± 1.5	LSB	-
	INL積分非直線性誤差		-	± 1.0	± 2.5	LSB	-

表 52.34 ユニット1のA/D変換特性 (2/2)

条件：PCLKC = 1～60MHz

項目			Min	Typ	Max	単位	測定条件
通常精度チャネル（AN116、AN117）	変換時間（注1）（PCLKC = 60MHz時）	許容信号源インピーダンス max = 1kΩ	0.88 (0.667)（注2）	-	-	μs	サンプリング40ステート
	オフセット誤差		-	± 1.0	± 5.5	LSB	-
	フルスケール誤差		-	± 1.0	± 5.5	LSB	-
	絶対精度		-	± 2.0	± 7.5	LSB	-
	DNL微分非直線性誤差		-	± 0.5	± 4.5	LSB	-
	INL積分非直線性誤差		-	± 1.0	± 5.5	LSB	-

注 . これらの規格値は、A/D 変換中に外部バスアクセスを行わなかった場合の数値です。A/D 変換中にアクセスが発生した場合は、提示した範囲に数値が収まらない可能性があります。
12 ビット A/D コンバータ使用時は、ポート 0 をデジタル出力として使用しないでください。
上記の特性は、AVCC0、AVSS0、VREFH0、VREFH、VREFL0、VREFL および 12 ビット A/D コンバータの入力電圧が安定しているときの特性です。

注 1. 変換時間にはサンプリング時間と比較時間が含まれています。測定条件には、サンプリングステート数が示されています。

注 2. （ ）内の値は、サンプリング時間を意味します。

注 3. ユニット 0 とユニット 1 それぞれのチャネル専用サンプル＆ホールド回路を同時に使用する場合、表 52.35 を参照してください。

表 52.35 ユニット0およびユニット1のチャネル専用サンプル＆ホールド回路の同時使用時のA/D変換特性

条件：PCLKC = 30/60MHz

項目		Min	Typ	Max	単位	測定条件
連続サンプリング機能許可でチャネル専用サンプル＆ホールド回路使用時（AN000～AN002）	オフセット誤差	-	± 1.5	± 5.0	LSB	• PCLKC = 60MHz • サンプリング15ステート
	フルスケール誤差	-	± 2.5	± 5.0	LSB	
	絶対精度	-	± 4.0	± 8.0	LSB	
連続サンプリング機能許可でチャネル専用サンプル＆ホールド回路使用時（AN100～AN102）	オフセット誤差	-	± 1.5	± 5.0	LSB	
	フルスケール誤差	-	± 2.5	± 5.0	LSB	
	絶対精度	-	± 4.0	± 8.0	LSB	
連続サンプリング機能許可でチャネル専用サンプル＆ホールド回路使用時（AN000～AN002）	オフセット誤差	-	± 1.5	± 3.5	LSB	• PCLKC = 30MHz • サンプリング7ステート
	フルスケール誤差	-	± 1.5	± 3.5	LSB	
	絶対精度	-	± 3.0	+4.5/ -6.5	LSB	
連続サンプリング機能許可でチャネル専用サンプル＆ホールド回路使用時（AN100～AN102）	オフセット誤差	-	± 1.5	± 3.5	LSB	
	フルスケール誤差	-	± 1.5	± 3.5	LSB	
	絶対精度	-	± 3.0	+4.5/ -6.5	LSB	

注 . ユニット 0 およびユニット 1 でチャネル専用のサンプル＆ホールド回路を同時に使う場合、ADSHMSR.SHMD ビットを 1 に設定することを推奨します。

表 52.36 A/D内部基準電圧特性

項目	Min	Typ	Max	単位	測定条件
A/D内部基準電圧	1.13	1.18	1.23	V	-
サンプリング時間	4.15	-	-	μs	-

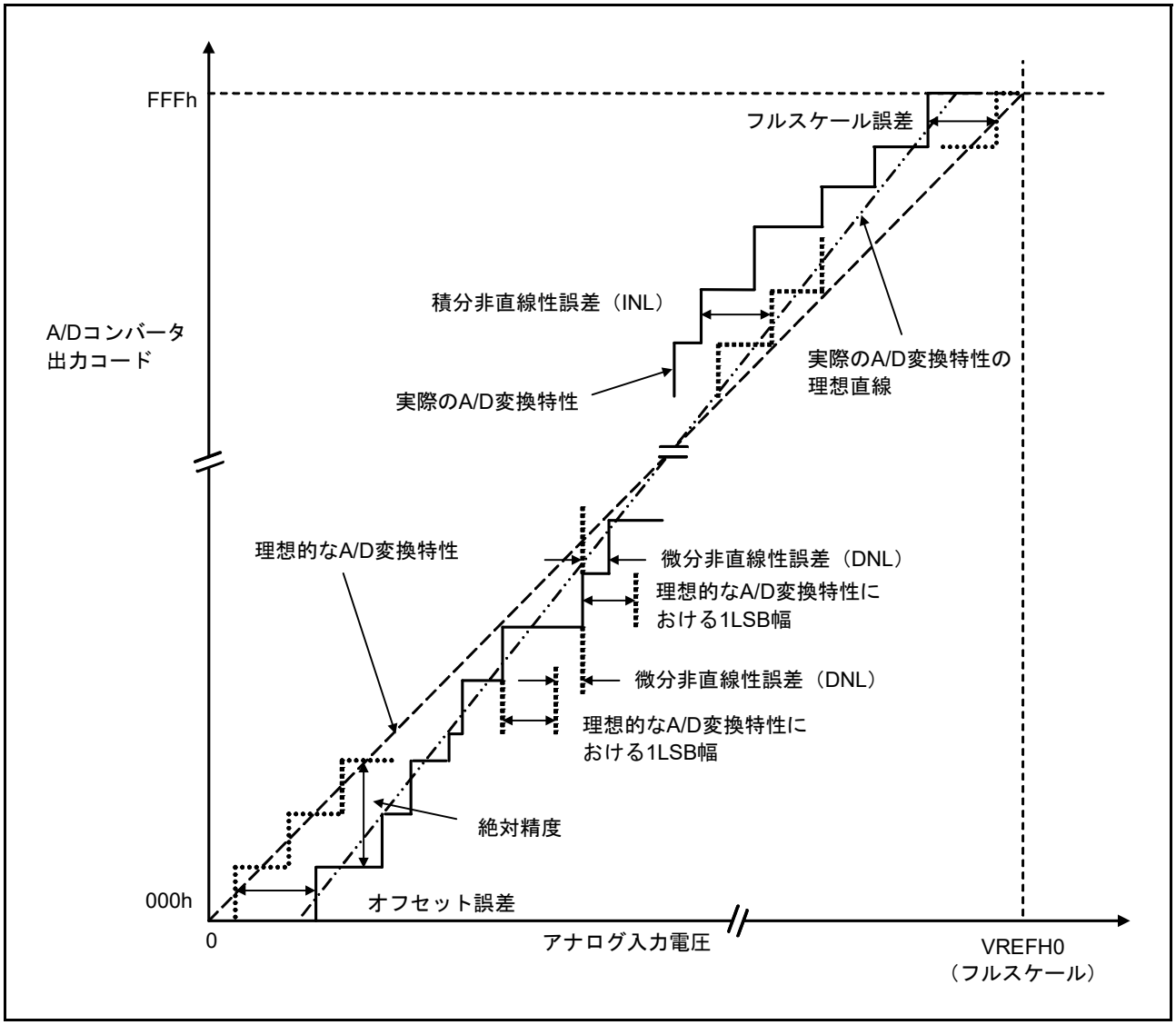


図 52.64　　ADC12 特性用語の解説図

絶対精度

絶対精度とは、理論的 A/D 変換特性に基づく出力コードと、実際の A/D 変換結果との差です。絶対精度を測定する場合、理論的 A/D 変換特性において同じ出力コードが期待できるアナログ入力電圧の幅（1LSB 幅）の中点の電圧を、アナログ入力電圧として使用します。たとえば、分解能が 12 ビットで、基準電圧 VREFH0 = 3.072V の場合、1LSB 幅は 0.75mV になり、アナログ入力電圧には 0mV、0.75mV、1.5mV が使用されます。± 5LSB の絶対精度とは、アナログ入力電圧が 6mV の場合、理論的 A/D 変換特性から期待される出力コードが 008h であっても、実際の A/D 変換結果は 003h ～ 00Dh の範囲になることを意味します。

積分非直線性誤差（INL）

積分非直線性誤差とは、測定されたオフセット誤差とフルスケール誤差をゼロとした場合の理想的な直線と、実際の出力コードとの最大偏差です。

微分非直線性誤差（DNL）

微分非直線性誤差とは、理想的 A/D 変換特性に基づく 1LSB 幅と、実際の出力コード幅との差です。

オフセット誤差

オフセット誤差とは、理想的な最初の出力コードの変化点と、実際の最初の出力コードとの差です。

フルスケール誤差

フルスケール誤差とは、理想的な最後の出力コードの変化点と、実際の最後の出力コードとの差です。

52.6 DAC12 特性

表 52.37 D/A変換特性

項目	Min	Typ	Max	単位	測定条件
分解能	-	-	12	ビット	-
出力アンプなし					
絶対精度	-	-	± 24	LSB	負荷抵抗2MΩ
INL	-	± 2.0	± 8.0	LSB	負荷抵抗2MΩ
DNL	-	± 1.0	± 2.0	LSB	-
出力インピーダンス	-	8.5	-	kΩ	-
変換時間	-	-	3.0	μs	負荷抵抗2MΩ 負荷容量20pF
出力電圧範囲	0	-	VREFH	V	-
出力アンプあり					
INL	-	± 2.0	± 4.0	LSB	-
DNL	-	± 1.0	± 2.0	LSB	-
変換時間	-	-	4.0	μs	-
負荷抵抗	5	-	-	kΩ	-
負荷容量	-	-	50	pF	-
出力電圧範囲	0.2	-	VREFH - 0.2	V	-

52.7 TSN 特性

表 52.38 TSN特性

項目	シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
相対精度	-	-	± 1.0	-	℃	-
温度傾斜	-	-	4.0	-	mV/℃	-
出力電圧（25℃）	-	-	1.24	-	V	-
温度センサ起動時間	t_{START}	-	-	30	μs	-
サンプリング時間	-	4.15	-	-	μs	-

52.8 OSC 停止検出特性

表 52.39 発振停止検出回路特性

項目	シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
検出時間	t_{dr}	-	-	1	ms	図 52.65

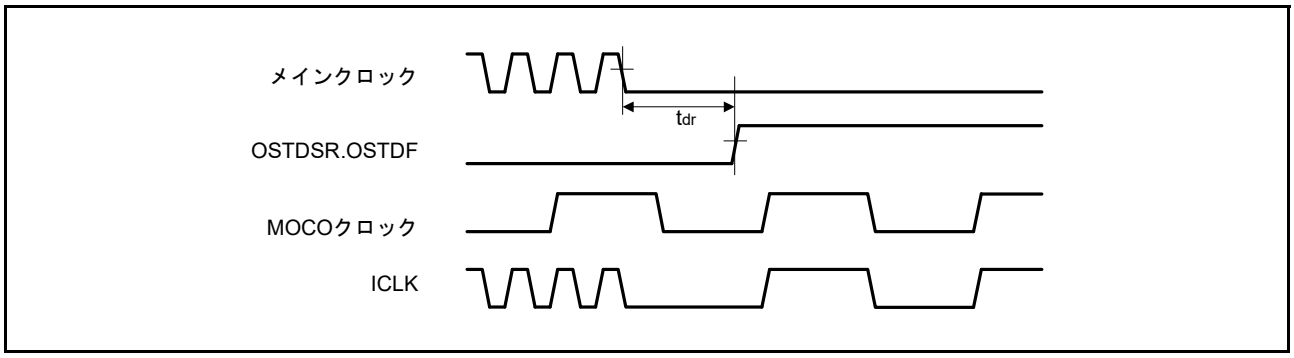


図 52.65 発振停止検出タイミング

52.9　POR/LVD 特性

表 52.40　　パワーオンリセット回路、電圧検出回路の特性

項目			シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
電圧検出レベル	パワーオンリセット（POR）	DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] = 00b または 01b	V_{POR}	2.5	2.6	2.7	V	図 52.66
		DPSBYCR.DEEPCUT[1:0] = 11b		1.8	2.25	2.7		
	電圧検出回路（LVD0）		V_{det0_1}	2.84	2.94	3.04		図 52.67
			V_{det0_2}	2.77	2.87	2.97		
			V_{det0_3}	2.70	2.80	2.90		
	電圧検出回路（LVD1）		V_{det1_1}	2.89	2.99	3.09		図 52.68
			V_{det1_2}	2.82	2.92	3.02		
			V_{det1_3}	2.75	2.85	2.95		
	電圧検出回路（LVD2）		V_{det2_1}	2.89	2.99	3.09		図 52.69
			V_{det2_2}	2.82	2.92	3.02		
			V_{det2_3}	2.75	2.85	2.95		
内部リセット時間	パワーオンリセット時間		t_{POR}	-	4.5	-	ms	図 52.66
	LVD0 リセット時間		t_{LVD0}	-	0.51	-		図 52.67
	LVD1 リセット時間		t_{LVD1}	-	0.38	-		図 52.68
	LVD2 リセット時間		t_{LVD2}	-	0.38	-		図 52.69
最小 VCC 低下時間（注 1）			t_{VOFF}	200	-	-	μs	図 52.66、図 52.67
応答遅延時間			t_{det}	-	-	200	μs	図 52.66 ～ 図 52.69
LVD 動作安定時間（LVD 有効切り替え後）			$t_{d(E-A)}$	-	-	10	μs	図 52.68、図 52.69
ヒステリシス幅（LVD1、LVD2）			V_{LVH}	-	70	-	mV	

注 1.　　最小 VCC 低下時間は、VCC が POR/LVD の電圧検出レベル V_{POR}、V_{det1}、V_{det2} の min 値を下回っている時間です。

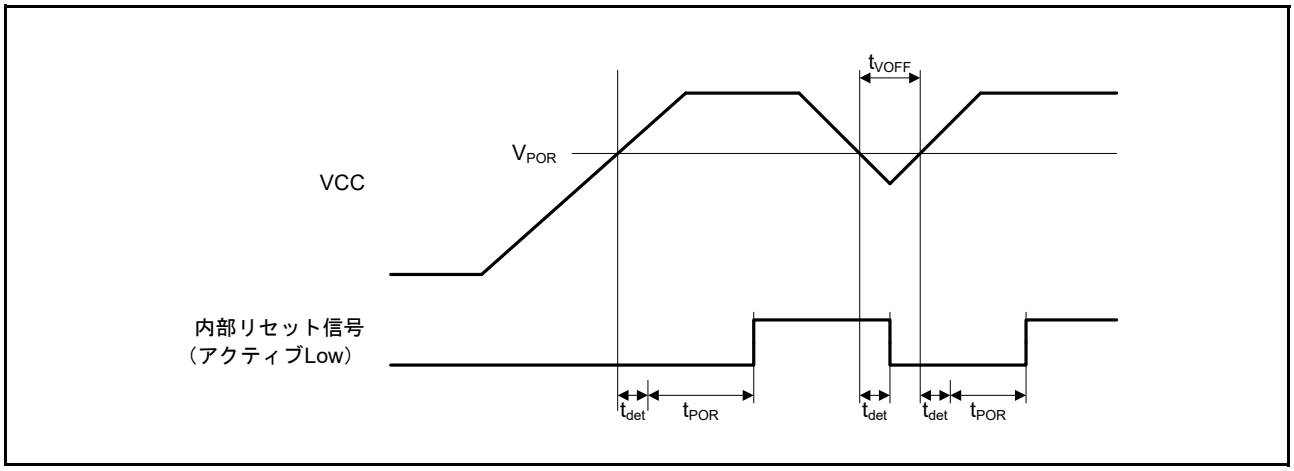


図 52.66　　パワーオンリセットタイミング

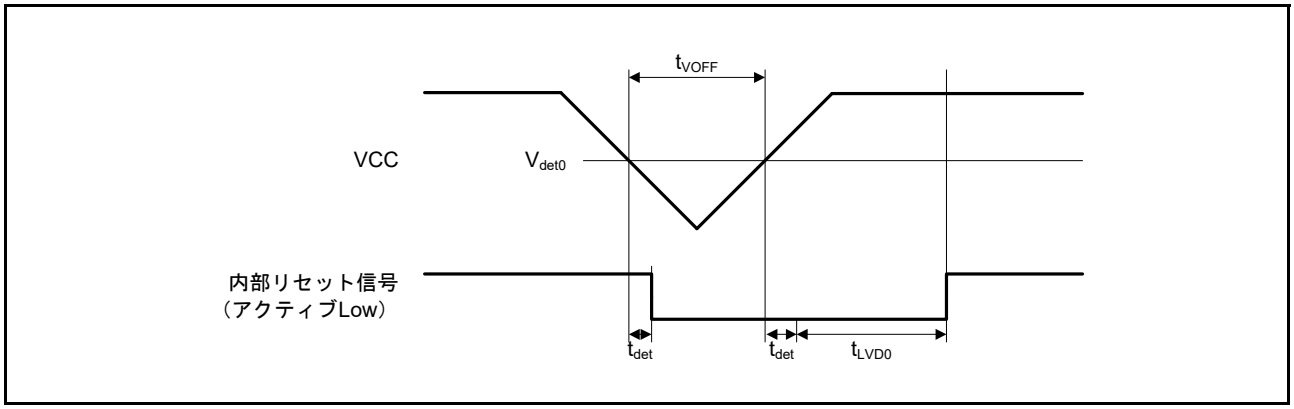


図 52.67　電圧検出回路タイミング（V_{det0}）

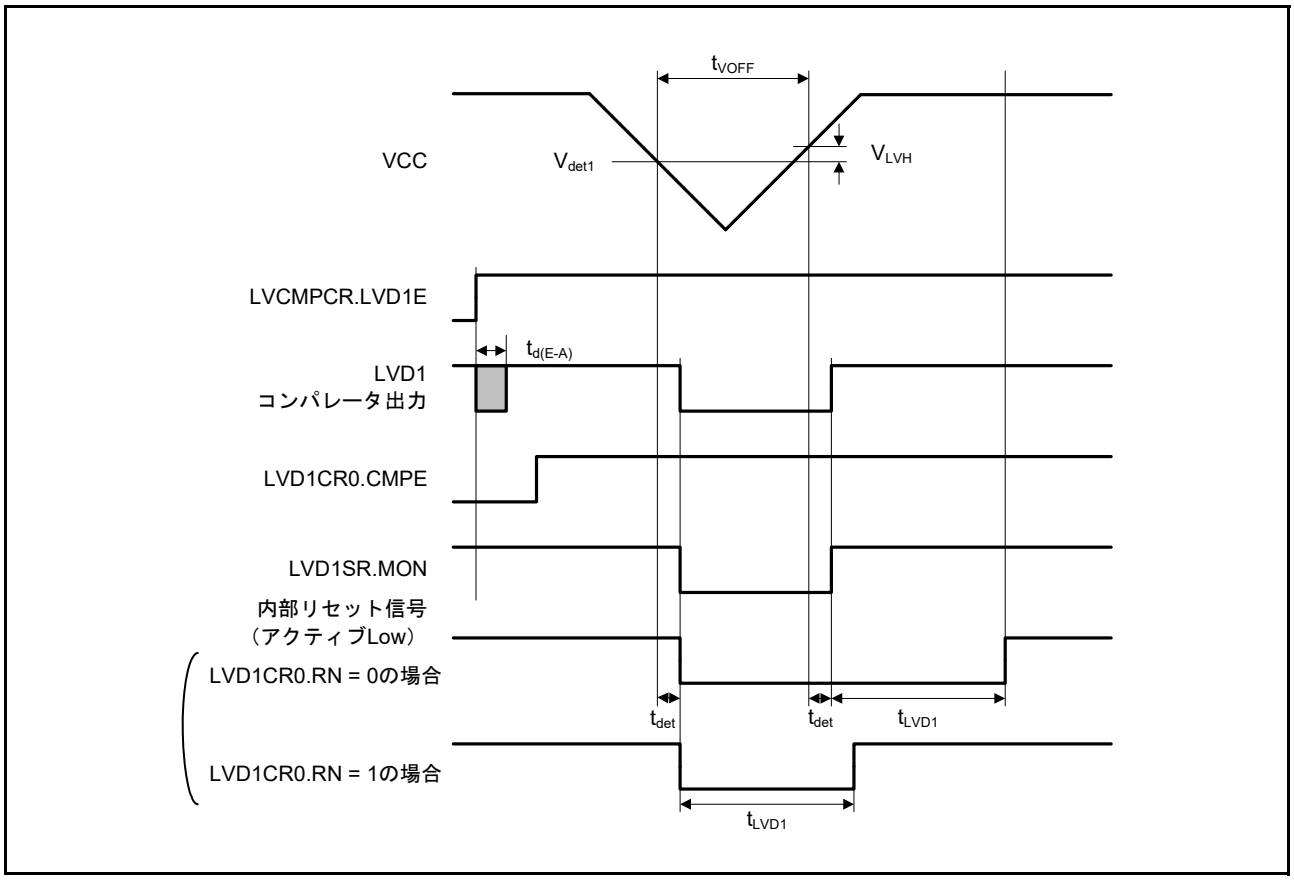


図 52.68　電圧検出回路タイミング（V_{det1}）

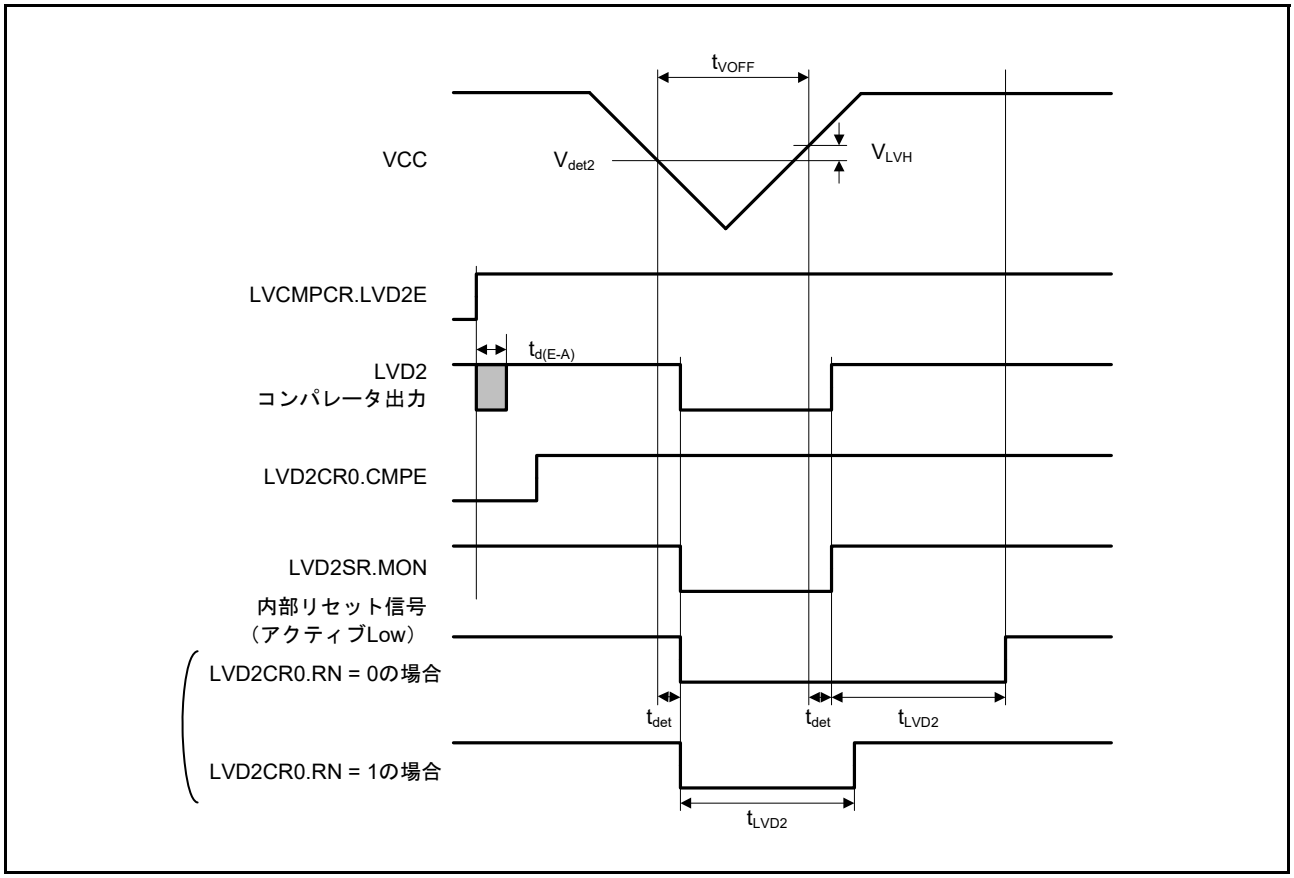


図 52.69　電圧検出回路タイミング（V_{det2}）

52.10 VBATT 特性

表 52.41 バッテリバックアップ機能の特性

条件：VCC = AVCC0 = VCC_USB = 2.7～3.6V、2.7≦VREFH0/VREFH≦AVCC0、VBATT = 1.65～3.6V（注1）

項目	シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
バッテリバックアップ切り替え電圧レベル	$V_{DETBATT}$	2.50	2.60	2.70	V	図 52.70
VCC電圧低下による電源切り替え時のVBATT下限電圧	V_{BATTSW}	2.70	-	-	V	
電源切り替え開始時VCCオフ期間	$t_{VOFFBATT}$	200	-	-	μs	

注 . 電源切り替え開始時 VCC オフ期間は、VCC がバッテリバックアップ切り替え電圧レベル $V_{DETBATT}$ の min 値を下回っている時間です。

注 1. VBATT = 1.8V 未満は、低 CL 水晶振動子は使用できません。

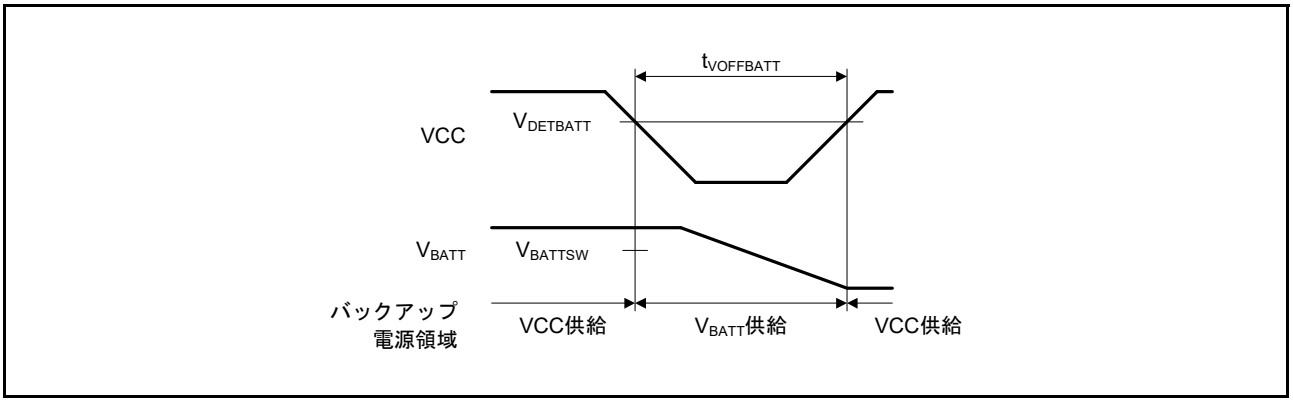


図 52.70 バッテリバックアップ機能特性

52.11 CTSU 特性

表 52.42 CTSU特性

項目	シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
TSCAP端子に接続された外付け容量	C_{tscap}	9	10	11	nF	-
TS端子の負荷容量	C_{base}	-	-	50	pF	-
許容大電流出力	ΣI_{oH}	-	-	-40	mA	相互容量方式適用時

52.12 ACMPHS 特性

表 52.43 ACMPHS特性

項目	シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
基準電圧範囲	VREF	0	-	AVCC0	V	-
入力電圧範囲	VI	0	-	AVCC0	V	-
出力遅延時間（注1）	Td	-	50	100	ns	VI = VREF ± 100mV
内部基準電圧	Vref	1.13	1.18	1.23	V	-

注 1. 内部伝搬遅延の値です。

52.13 PGA 特性

表 52.44 シングルモードにおけるPGA特性

項目	シンボル	Min	Typ	Max	単位
PGAVSS入力電圧範囲	PGAVSS	0	-	0	V
	AIN0（G = 2.000）	0.050 × AVCC0	-	0.45 × AVCC0	V
	AIN1（G = 2.500）	0.047 × AVCC0	-	0.360 AVCC0	V
	AIN2（G = 2.667）	0.046 × AVCC0	-	0.337 × AVCC0	V
	AIN3（G = 2.857）	0.046 × AVCC0	-	0.32 × AVCC0	V
	AIN4（G = 3.077）	0.045 × AVCC0	-	0.292 × AVCC0	V
	AIN5（G = 3.333）	0.044 × AVCC0	-	0.265 × AVCC0	V
	AIN6（G = 3.636）	0.042 × AVCC0	-	0.247 × AVCC0	V
	AIN7（G = 4.000）	0.040 × AVCC0	-	0.212 × AVCC0	V
	AIN8（G = 4.444）	0.036 × AVCC0	-	0.191 × AVCC0	V
	AIN9（G = 5.000）	0.033 × AVCC0	-	0.17 × AVCC0	V
	AIN10（G = 5.714）	0.031 × AVCC0	-	0.148 × AVCC0	V
	AIN11（G = 6.667）	0.029 × AVCC0	-	0.127 × AVCC0	V
	AIN12（G = 8.000）	0.027 × AVCC0	-	0.09 × AVCC0	V
	AIN13（G = 10.000）	0.025 × AVCC0	-	0.08 × AVCC0	V
	AIN14（G = 13.333）	0.023 × AVCC0	-	0.06 × AVCC0	V
ゲイン誤差	Gerr0（G = 2.000）	-1.0	-	1.0	%
	Gerr1（G = 2.500）	-1.0	-	1.0	%
	Gerr2（G = 2.667）	-1.0	-	1.0	%
	Gerr3（G = 2.857）	-1.0	-	1.0	%
	Gerr4（G = 3.077）	-1.0	-	1.0	%
	Gerr5（G = 3.333）	-1.5	-	1.5	%
	Gerr6（G = 3.636）	-1.5	-	1.5	%
	Gerr7（G = 4.000）	-1.5	-	1.5	%
	Gerr8（G = 4.444）	-2.0	-	2.0	%
	Gerr9（G = 5.000）	-2.0	-	2.0	%
	Gerr10（G = 5.714）	-2.0	-	2.0	%
	Gerr11（G = 6.667）	-2.0	-	2.0	%
	Gerr12（G = 8.000）	-2.0	-	2.0	%
	Gerr13（G = 10.000）	-2.0	-	2.0	%
	Gerr14（G = 13.333）	-2.0	-	2.0	%
オフセット誤差	Voff	-8	-	8	mV

表 52.45 差動モードにおけるPGA特性 (1/2)

項目		シンボル	Min	Typ	Max	単位
PGAVSS入力電圧範囲		PGAVSS	-0.5	-	0.3	V
差動入力電圧範囲	G = 1.500	AIN-PGAVSS	-0.5	-	0.5	V
	G = 2.333		-0.4	-	0.4	V
	G = 4.000		-0.2	-	0.2	V
	G = 5.667		-0.15	-	0.15	V

表 52.45 差動モードにおけるPGA特性 (2/2)

項目		シンボル	Min	Typ	Max	単位
ゲイン誤差	G = 1.500	Gerr	-1.0	-	1.0	%
	G = 2.333		-1.0	-	1.0	
	G = 4.000		-1.0	-	1.0	
	G = 5.667		-1.0	-	1.0	

52.14 フラッシュメモリ特性

52.14.1 コードフラッシュメモリ特性

表 52.46 コードフラッシュメモリ特性

条件：プログラム／イレース：FCLK = 4～60MHz
読み出し：FCLK≦60MHz

項目		シンボル	FCLK = 4MHz			20MHz≦FCLK≦60MHz			単位	測定条件
			Min	Typ	Max	Min	Typ	Max		
プログラム時間 N_{PEC}≦100回	128バイト	t_{P128}	-	0.75	13.2	-	0.34	6.0	ms	
	8KB	t_{P8K}	-	49	176	-	22	80	ms	
	32KB	t_{P32K}	-	194	704	-	88	320	ms	
プログラム時間 N_{PEC}＞100回	128バイト	t_{P128}	-	0.91	15.8	-	0.41	7.2	ms	
	8KB	t_{P8K}	-	60	212	-	27	96	ms	
	32KB	t_{P32K}	-	234	848	-	106	384	ms	
イレース時間 N_{PEC}≦100回	8KB	t_{E8K}	-	78	216	-	43	120	ms	
	32KB	t_{E32K}	-	283	864	-	157	480	ms	
イレース時間 N_{PEC}＞100回	8KB	t_{E8K}	-	94	260	-	52	144	ms	
	32KB	t_{E32K}	-	341	1040	-	189	576	ms	
再プログラム／イレースサイクル（注4）		N_{PEC}	10000（注1）	-	-	10000（注1）	-	-	回	
プログラム中のサスペンド遅延時間		t_{SPD}	-	-	264	-	-	120	μs	
サスペンド優先モードにおけるイレース中の1回目のサスペンド遅延時間		t_{SESD1}	-	-	216	-	-	120	μs	
サスペンド優先モードにおけるイレース中の2回目のサスペンド遅延時間		t_{SESD2}	-	-	1.7	-	-	1.7	ms	
イレース優先モードにおけるイレース中のサスペンド遅延時間		t_{SEED}	-	-	1.7	-	-	1.7	ms	
強制終了コマンド		t_{FD}	-	-	32	-	-	20	μs	
データ保持時間（注2）		t_{DRP}	10（注2）（注3）	-	-	10（注2）（注3）	-	-	年	
			30（注2）（注3）	-	-	30（注2）（注3）	-	-		Ta = +85℃

注 1. 再プログラム後の、すべての特性を保証する最小回数です。保証範囲は 1 ～最小値です。
注 2. 書き換えが仕様範囲内で行われたときの特性の min 値です。
注 3. 信頼性試験から取得された結果です。
注 4. 再プログラム／イレースサイクルは、ブロックごとの消去回数です。再プログラム／イレースサイクルが n 回（n = 10000）の場合、ブロックごとにそれぞれ n 回ずつ消去することが可能です。たとえば、8KB のブロックについて、それぞれ異なる番地に 128 バイト書き込みを 64 回に分けて行った後に、そのブロックを消去した場合も、再プログラム／イレースサイクル回数は 1 回と数えます。ただし、消去 1 回に対して、同一アドレスに複数回の書き込みを行うことはできません。上書きはしないでください。

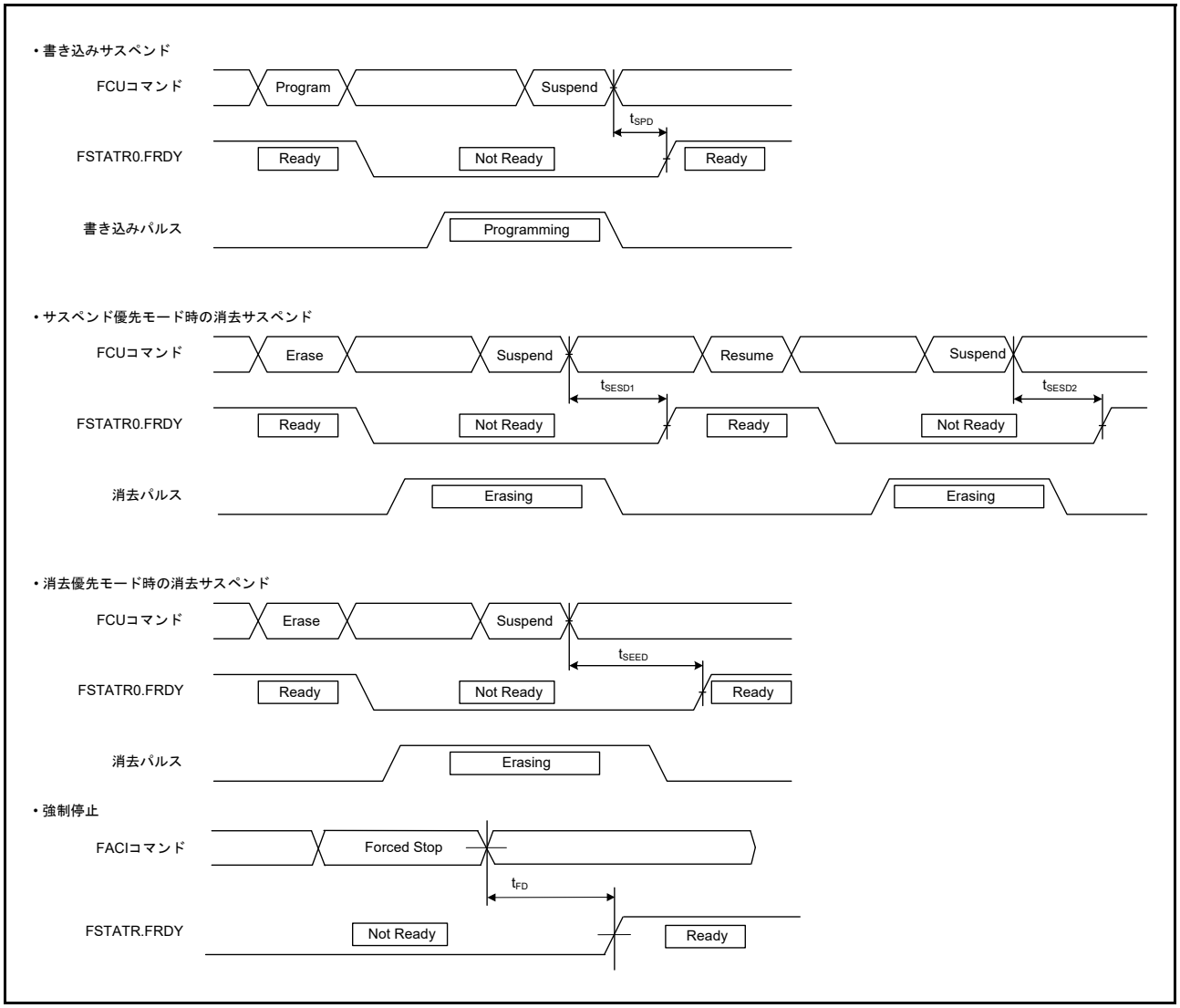


図 52.71　フラッシュメモリのプログラム／イレースのサスペンドタイミングと強制停止タイミング

52.14.2 データフラッシュメモリ特性

表 52.47 データフラッシュメモリ特性

条件：プログラム／イレース：FCLK = 4～60MHz
読み出し：FCLK≦60MHz

項目		シンボル	FCLK = 4MHz			20MHz≦FCLK≦60MHz			単位	測定条件
			Min	Typ	Max	Min	Typ	Max		
プログラム時間	4バイト	t_{DP4}	-	0.36	3.8	-	0.16	1.7	ms	
	8バイト	t_{DP8}	-	0.38	4.0	-	0.17	1.8		
	16バイト	t_{DP16}	-	0.42	4.5	-	0.19	2.0		
イレース時間	64バイト	t_{DE64}	-	3.1	18	-	1.7	10	ms	
	128バイト	t_{DE128}	-	4.7	27	-	2.6	15		
	256バイト	t_{DE256}	-	8.9	50	-	4.9	28		
ブランクチェック時間	4バイト	t_{DBC4}	-	-	84	-	-	30	μs	
再プログラム／イレースサイクル（注1）		N_{DPEC}	125000（注2）	-	-	125000（注2）	-	-	-	
プログラム中のサスペンド遅延時間	4バイト	t_{DSPD}	-	-	264	-	-	120	μs	
	8バイト		-	-	264	-	-	120		
	16バイト		-	-	264	-	-	120		
サスペンド優先モードにおけるイレース中の1回目のサスペンド遅延時間	64バイト	t_{DSESD1}	-	-	216	-	-	120	μs	
	128バイト		-	-	216	-	-	120		
	256バイト		-	-	216	-	-	120		
サスペンド優先モードにおけるイレース中の2回目のサスペンド遅延時間	64バイト	t_{DSESD2}	-	-	300	-	-	300	μs	
	128バイト		-	-	390	-	-	390		
	256バイト		-	-	570	-	-	570		
イレース優先モードにおけるイレース中のサスペンド遅延時間	64バイト	t_{DSEED}	-	-	300	-	-	300	μs	
	128バイト		-	-	390	-	-	390		
	256バイト		-	-	570	-	-	570		
強制終了コマンド		t_{FD}	-	-	32	-	-	20	μs	
データ保持時間（注3）		t_{DRP}	10（注3）（注4）	-	-	10（注3）（注4）	-	-	年	
			30（注3）（注4）	-	-	30（注3）（注4）	-	-		Ta = +85℃

注 1. 再プログラム／イレースサイクルは、ブロックごとの消去回数です。再プログラム／イレースサイクルが n 回（n = 125000）の場合、ブロックごとにそれぞれ n 回ずつ消去することが可能です。たとえば、64 バイトのブロックについて、それぞれ異なる番地に 4 バイト書き込みを 16 回に分けて行った後に、そのブロックを消去した場合も、再プログラム／イレースサイクル回数は 1 回と数えます。ただし、消去 1 回に対して、同一アドレスに複数回の書き込みを行うことはできません。上書きはしないでください。
注 2. 再プログラム後の、すべての特性を保証する最小回数です。保証範囲は 1 ～最小値です。
注 3. 書き換えが仕様範囲内で行われたときの特性の min 値です。
注 4. 信頼性試験から取得された結果です。

52.15 バウンダリスキャン

表 52.48 バウンダリスキャン特性

項目	シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
TCKクロックサイクル時間	t_{TCKcyc}	100	-	-	ns	図 52.72
TCKクロックHighレベルパルス幅	t_{TCKH}	45	-	-	ns	
TCKクロックLowレベルパルス幅	t_{TCKL}	45	-	-	ns	
TCKクロック立ち上がり時間	t_{TCKr}	-	-	5	ns	
TCKクロック立ち下がり時間	t_{TCKf}	-	-	5	ns	
TMSセットアップ時間	t_{TMSS}	20	-	-	ns	図 52.73
TMSホールド時間	t_{TMSH}	20	-	-	ns	
TDIセットアップ時間	t_{TDIS}	20	-	-	ns	
TDIホールド時間	t_{TDIH}	20	-	-	ns	
TDOデータ遅延時間	t_{TDOD}	-	-	40	ns	
バウンダリスキャン回路起動時間（注1）	T_{BSSTUP}	t_{RESWP}	-	-	-	図 52.74

注 1. パワーオンリセットが無効になるまで、バウンダリスキャンは機能しません。

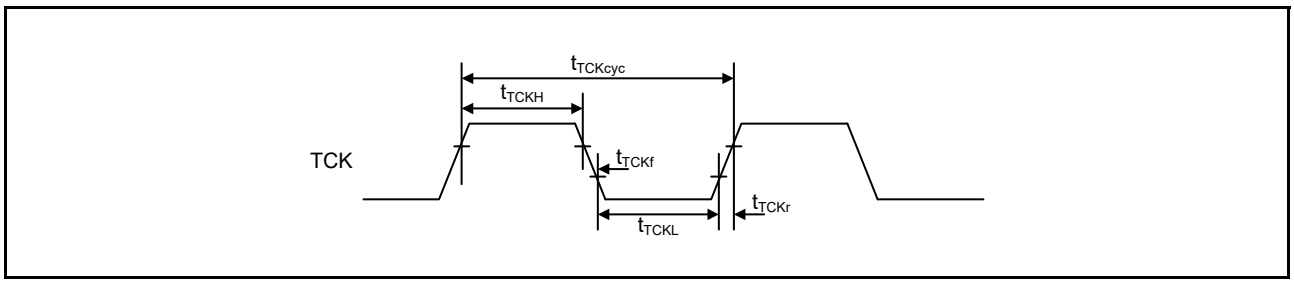


図 52.72 バウンダリスキャン TCK タイミング

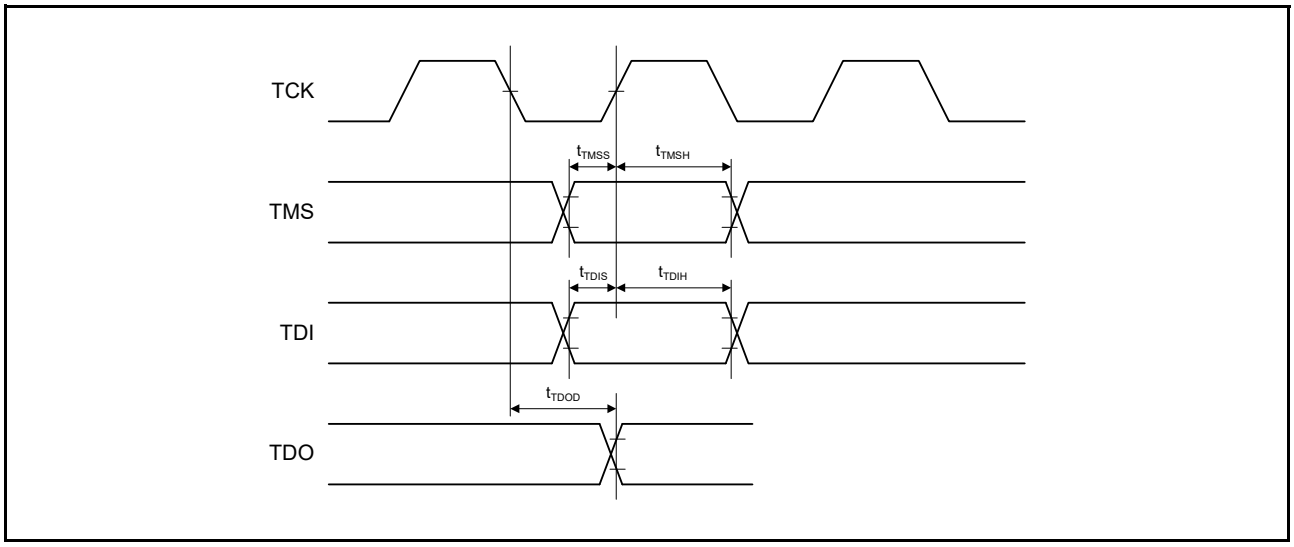


図 52.73 バウンダリスキャン入出力タイミング

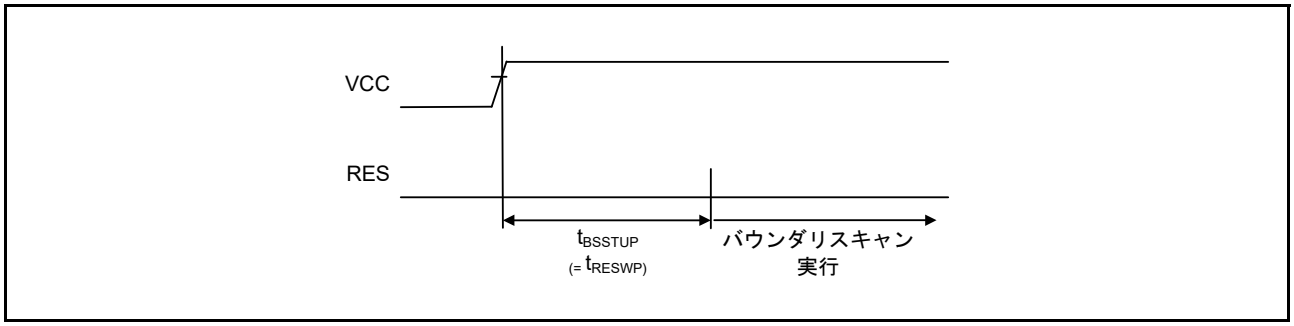


図 52.74 バウンダリスキャン回路起動タイミング

52.16 ジョイントテストアクショングループ（JTAG）

表 52.49 JTAG特性

項目	シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
TCKクロックサイクル時間	t_{TCKcyc}	40	-	-	ns	図 52.75
TCKクロックHighレベルパルス幅	t_{TCKH}	15	-	-	ns	
TCKクロックLowレベルパルス幅	t_{TCKL}	15	-	-	ns	
TCKクロック立ち上がり時間	t_{TCKr}	-	-	5	ns	
TCKクロック立ち下がり時間	t_{TCKf}	-	-	5	ns	
TMSセットアップ時間	t_{TMSS}	8	-	-	ns	図 52.76
TMSホールド時間	t_{TMSH}	8	-	-	ns	
TDIセットアップ時間	t_{TDIS}	8	-	-	ns	
TDIホールド時間	t_{TDIH}	8	-	-	ns	
TDOデータ遅延時間	t_{TDOD}	-	-	20	ns	

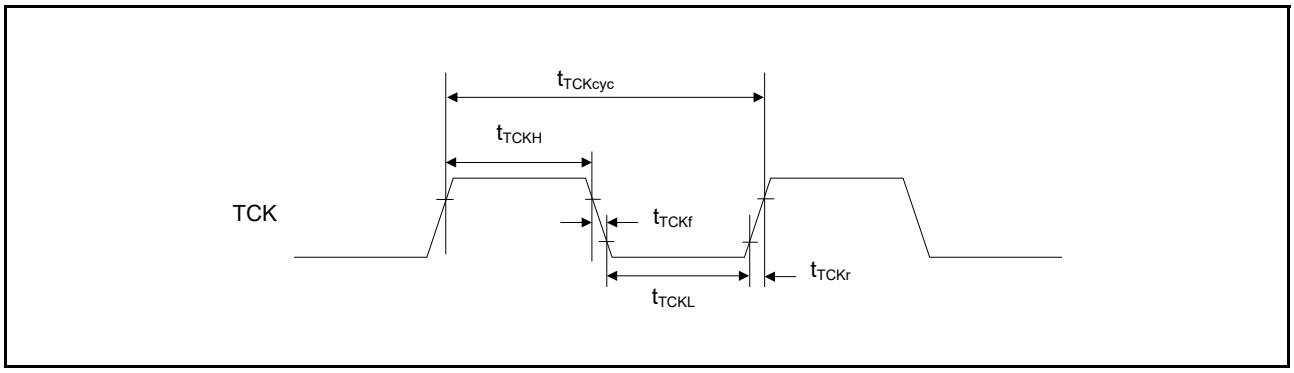


図 52.75 JTAG TCK タイミング

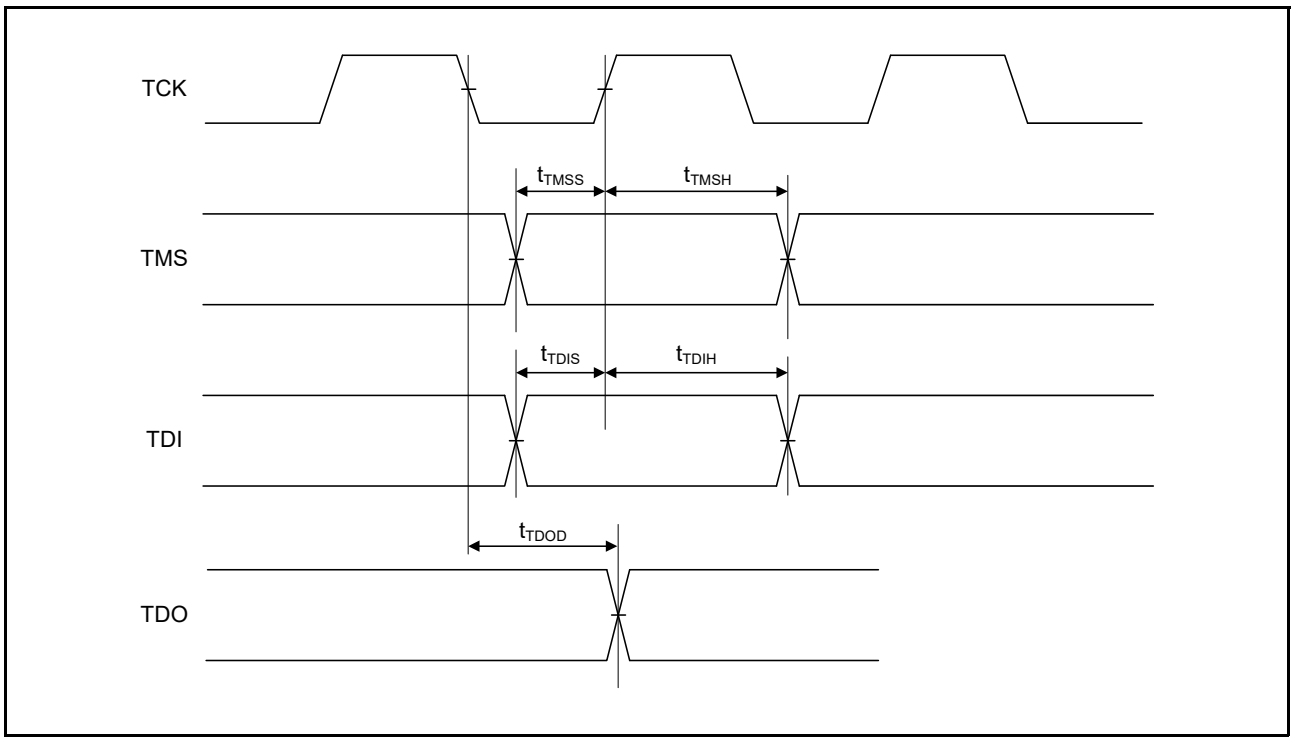


図 52.76 JTAG 入出力タイミング

52.17 シリアルワイヤデバッグ（SWD）

表 52.50 SWD特性

項目	シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
SWCLKクロックサイクル時間	$t_{SWCKcyc}$	40	-	-	ns	図 52.77
SWCLKクロックHighレベルパルス幅	t_{SWCKH}	15	-	-	ns	
SWCLKクロックLowレベルパルス幅	t_{SWCKL}	15	-	-	ns	
SWCLKクロック立ち上がり時間	t_{SWCKr}	-	-	5	ns	
SWCLKクロック立ち下がり時間	t_{SWCKf}	-	-	5	ns	
SWDIOセットアップ時間	t_{SWDS}	8	-	-	ns	図 52.78
SWDIOホールド時間	t_{SWDH}	8	-	-	ns	
SWDIOデータ遅延時間	t_{SWDD}	2	-	28	ns	

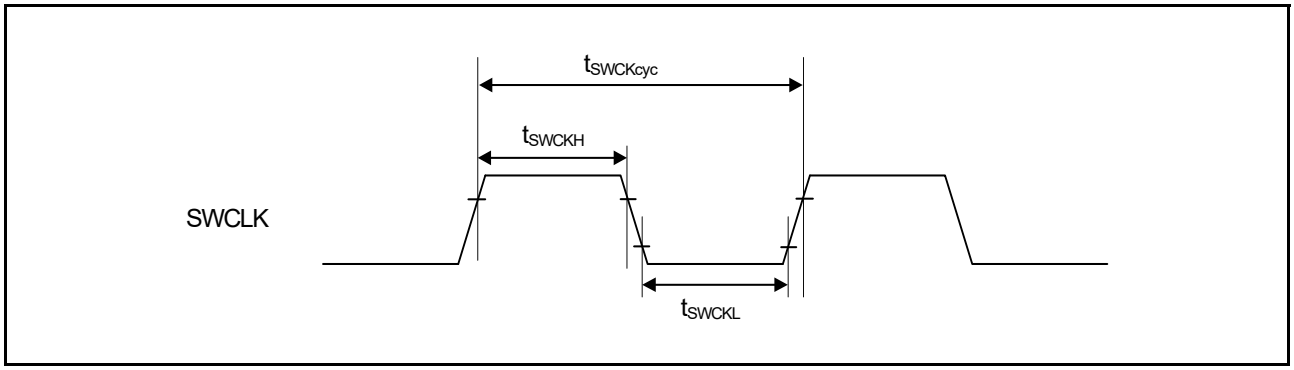


図 52.77 SWD SWCLK タイミング

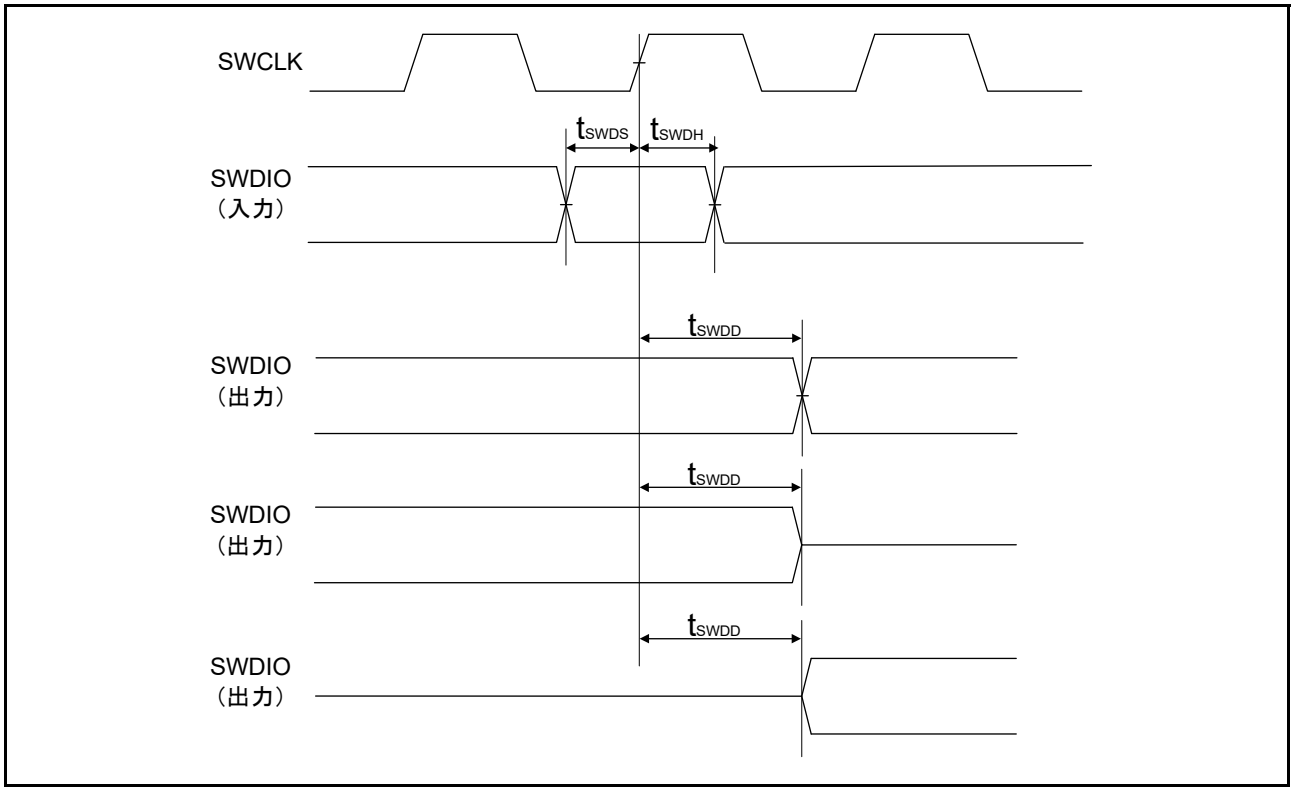


図 52.78 SWD 入出力タイミング

52.18 エンベデッドトレースマクロインタフェース（ETM）

表 52.51 ETM特性

条件：PmnPFSレジスタのポート駆動能力ビットで高駆動出力が選択されています。

項目	シンボル	Min	Typ	Max	単位	測定条件
TCLKクロックサイクル時間	$t_{TCLKcyc}$	33.3	-	-	ns	図 52.79
TCLKクロックHighレベルパルス幅	t_{TCLKH}	13.6	-	-	ns	
TCLKクロックLowレベルパルス幅	t_{TCLKL}	13.6	-	-	ns	
TCLKクロック立ち上がり時間	t_{TCLKr}	-	-	3	ns	
TCLKクロック立ち下がり時間	t_{TCLKf}	-	-	3	ns	
TDATA[3:0]出力セットアップ時間	t_{TRDS}	3.5	-	-	ns	図 52.80
TDATA[3:0]出力ホールド時間	t_{TRDH}	2.5	-	-	ns	

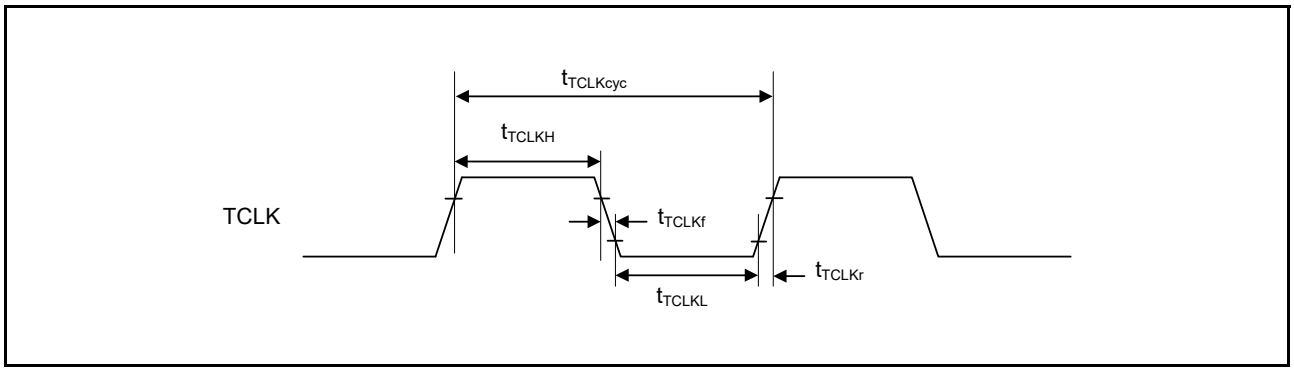


図 52.79 ETM TCLK タイミング

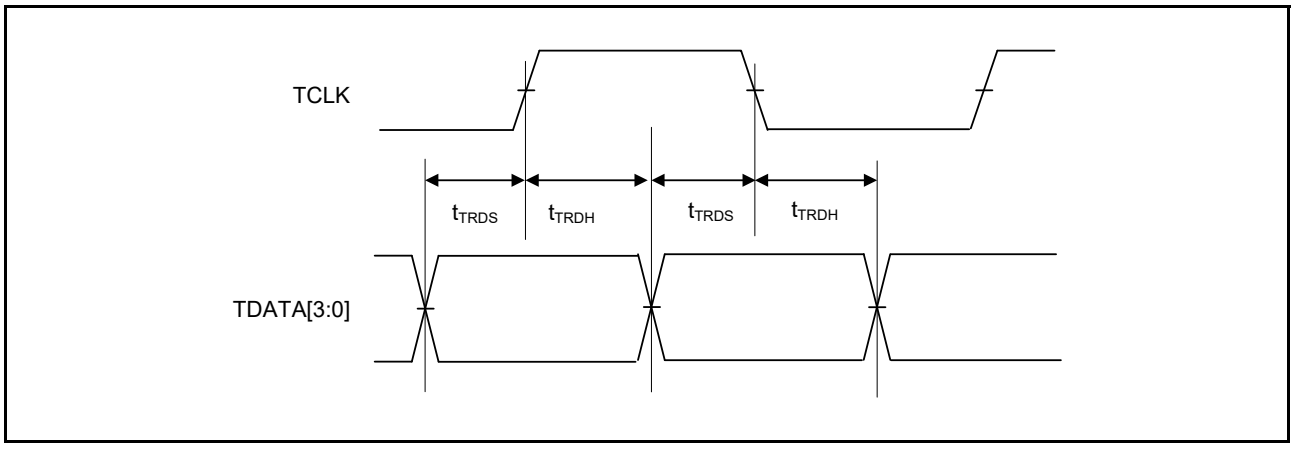


図 52.80 ETM 出力タイミング

付録 1. 各プロセスモードのポート状態

表 1.1 各プロセスモードのポート状態 (1/3)

ポート名	リセット	ソフトウェアスタンバイモード		ディープソフトウェアスタンバイモード	ディープソフトウェアスタンバイモード解除後（スタートアップモードに復帰）	
		OPE = 0	OPE = 1		IOKEEP = 0	IOKEEP = 1（注1）
P000/IRQ6-DS, P001/IRQ7-DS, P002/IRQ8-DS	Hi-Z	Hi-Z（注2）		Keep-O（注3）	Hi-Z	Keep
P003	Hi-Z	Hi-Z		Keep	Hi-Z	Keep
P004/IRQ9-DS, P005/IRQ10-DS, P006/IRQ11-DS	Hi-Z	Hi-Z（注2）		Keep-O（注3）	Hi-Z	Keep
P007	Hi-Z	Hi-Z		Keep	Hi-Z	Keep
P008/IRQ12-DS	Hi-Z	Keep-O（注2）		Keep-O（注3）	Hi-Z	Keep
P014/DA0	Hi-Z	[DA0出力（DAOE0 = 1）] D/A出力保持 [上記以外（DAOE0 = 0）] Keep-O		Keep	Hi-Z	Keep
P015/IRQ13/DA1	Hi-Z	[DA1出力（DAOE1 = 1）] D/A出力保持 [上記以外（DAOE1 = 0）] Keep-O（注2）		Keep	Hi-Z	Keep
P100/D00[A00/D00]/ KR00/AGTIO0/RXD0/ IRQ2	Hi-Z	[D00出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O（注2）		Keep	Hi-Z	Keep
P101/D01[A01/D01]/ KR01/IRQ1	Hi-Z	[D01出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O（注2）		Keep	Hi-Z	Keep
P102/D02[A02/D02]/ KR02	Hi-Z	[D02出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O（注2）		Keep	Hi-Z	Keep
P103/D03[A03/D03]/ KR03	Hi-Z	[D03出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O（注2）		Keep	Hi-Z	Keep
P104/D04[A04/D04]/ KR04/IRQ1	Hi-Z	[D04出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O（注2）		Keep	Hi-Z	Keep
P105/D05[A05/D05]/ KR05/IRQ0	Hi-Z	[D05出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O（注2）		Keep	Hi-Z	Keep
P106/D06[A06/D06]/ KR06	Hi-Z	[D06出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O（注2）		Keep	Hi-Z	Keep
P107/D07[A07/D07]/ KR07	Hi-Z	[D07出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O（注2）		Keep	Hi-Z	Keep
P108/TMS	Pull-up	Keep-O		Keep	Pull-up	Keep
P109/TDO/ CLKOUT	TDO出力	[CLKOUT選択] CLKOUT出力 [上記以外] Keep-O		[TDO出力] TDO出力保持 [上記以外] Keep	[TDO出力] TDO出力保持 [上記以外] Hi-Z	[TDO出力] TDO出力保持 [上記以外] Keep
P110/IRQ3/TDI/ VCOUT	Pull-up	[ACMPHS選択] VCOUT出力 [上記以外] Keep-O（注2）		Keep	Pull-up	Keep
P111/A05/IRQ4	Hi-Z	[A05出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O（注2）	[A05出力] アドレス出力保持 [上記以外] Keep-O（注2）	Keep	Hi-Z	Keep
P112/A04	Hi-Z	[A04出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O	[A04出力] アドレス出力保持 [上記以外] Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep

表 1.1　　各プロセスモードのポート状態 (2/3)

ポート名	リセット	ソフトウェアスタンバイモード		ディープソフトウェアスタンバイモード	ディープソフトウェアスタンバイモード解除後（スタートアップモードに復帰）	
		OPE = 0	OPE = 1		IOKEEP = 0	IOKEEP = 1（注1）
P113/A03	Hi-Z	[A03出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O	[A03出力] アドレス出力保持 [上記以外] Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep
P114/A02	Hi-Z	[A02出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O	[A02出力] アドレス出力保持 [上記以外] Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep
P115/A01	Hi-Z	[A01出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O	[A01出力] アドレス出力保持 [上記以外] Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep
P200/NMI	Hi-Z	Hi-Z		Keep	Hi-Z	Keep
P201	Pull-up	Keep-O		Keep	Pull-up	Keep
P205/ USB_OVRCURA-DS/ CLKOUT/IRQ1-DS	Hi-Z	［CLKOUT選択］ CLKOUT出力 [上記以外] Keep-O（注2）	［CLKOUT選択］ CLKOUT出力 [上記以外] Keep-O（注2）	Keep-O（注3）	Hi-Z	Keep
P206/WAIT/IRQ0-DS	Hi-Z	Keep-O（注2）		Keep-O（注3）	Hi-Z	Keep
P207	Hi-Z	Keep-O	Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep
P208/CS4	Hi-Z	[CS4出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O	[CS4出力] H [上記以外] Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep
P209/CS5	Hi-Z	[CS5出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O	[CS5出力] H [上記以外] Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep
P210/CS6	Hi-Z	[CS6出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O	[CS6出力] H [上記以外] Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep
P211/CS7	Hi-Z	[CS7出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O	[CS7出力] H [上記以外] Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep
P212/IRQ3/EXTAL, P213/IRQ2/XTAL	Hi-Z	Keep-O（注2）		Keep	Hi-Z	Keep
P214	Hi-Z	Keep-O		Keep	Hi-Z	Keep
P300/TCK	Pull-up	Keep-O		Keep	Pull-up	Keep
P301/A06/AGTIO0/ IRQ6	Hi-Z	[A06出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O（注2）	[A06出力] アドレス出力保持 [上記以外] Keep-O（注2）	Keep	Hi-Z	Keep
P302/A07/IRQ5	Hi-Z	[A07出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O（注2）	[A07出力] アドレス出力保持 [上記以外] Keep-O（注2）	Keep	Hi-Z	Keep
P303/A08	Hi-Z	[A08出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O	[A08出力] アドレス出力保持 [上記以外] Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep
P304/A09/IRQ9	Hi-Z	[A09出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O（注2）	[A09出力] アドレス出力保持 [上記以外] Keep-O（注2）	Keep	Hi-Z	Keep
P305/A10/IRQ8	Hi-Z	[A10出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O（注2）	[A10出力] アドレス出力保持 [上記以外] Keep-O（注2）	Keep	Hi-Z	Keep
P306/A11	Hi-Z	[A11出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O	[A11出力] アドレス出力保持 [上記以外] Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep
P307/A12	Hi-Z	[A12出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O	[A12出力] アドレス出力保持 [上記以外] Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep
P400/AGTIO1/ SCL0_A/IRQ0	Hi-Z	Keep-O（注2）		Keep	Hi-Z	Keep

表 1.1　各プロセスモードのポート状態 (3/3)

ポート名	リセット	ソフトウェアスタンバイモード		ディープソフトウェアスタンバイモード	ディープソフトウェアスタンバイモード解除後（スタートアップモードに復帰）	
		OPE = 0	OPE = 1		IOKEEP = 0	IOKEEP = 1（注1）
P401/SDA0_A/IRQ5-DS, P402/IRQ4-DS/RTCIC0/AGTIO0/AGTIO1, P403/RTCIC1/AGTIO0/AGTIO1, P404/RTCIC2	Hi-Z	Keep-O（注2）		Keep-O（注3）	Hi-Z	Keep
P405, P406	Hi-Z	Keep-O		Keep	Hi-Z	Keep
P407/AGTIO0/SDA0_B/USB_VBUS/RTCOUT	Hi-Z	[RTCOUT選択] RTCOUT出力 [上記以外] Keep-O（注2）		Keep-O（注3）	Hi-Z	Keep
P408/SCL0_B/IRQ7, P409/IRQ6, P410/RXD0/IRQ5, P411/IRQ4	Hi-Z	Keep-O（注2）		Keep	Hi-Z	Keep
P412, P413	Hi-Z	Keep-O		Keep	Hi-Z	Keep
P414/IRQ9, P415/IRQ8	Hi-Z	Keep-O（注2）		Keep	Hi-Z	Keep
P500	Hi-Z	Keep-O		Keep	Hi-Z	Keep
P501/USB_OVRCURA/IRQ11, P502/USB_OVRCURB/IRQ12	Hi-Z	Keep-O（注2）		Keep	Hi-Z	Keep
P503	Hi-Z	Keep-O		Keep	Hi-Z	Keep
P504/ALE	Hi-Z	[ALE出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O	[ALE出力] L [上記以外] Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep
P508	Hi-Z	Keep-O		Keep	Hi-Z	Keep
P600/RD/CLKOUT	Hi-Z	[RD出力] Hi-Z [CLKOUT選択] CLKOUT出力 [上記以外] Keep-O	[RD出力] H [CLKOUT選択] CLKOUT出力 [上記以外] Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep
P601/WR0	Hi-Z	[WR0出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O	[WR0出力] H [上記以外] Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep
P602/EBCLK	Hi-Z	[EBCLK出力] H [上記以外] Keep-O		Keep	Hi-Z	Keep
P608/A00	Hi-Z	[A00出力] Hi-Z [上記以外] Keep-O	[A00出力] アドレス出力保持 [上記以外] Keep-O	Keep	Hi-Z	Keep
P708/IRQ11	Hi-Z	Keep-O（注2）		Keep	Hi-Z	Keep
USB_DP	Hi-Z	Keep-O（注4）		Hi-Z（注3）	Hi-Z	
USB_DM	Hi-Z	Keep-O（注4）		Hi-Z（注3）	Hi-Z	

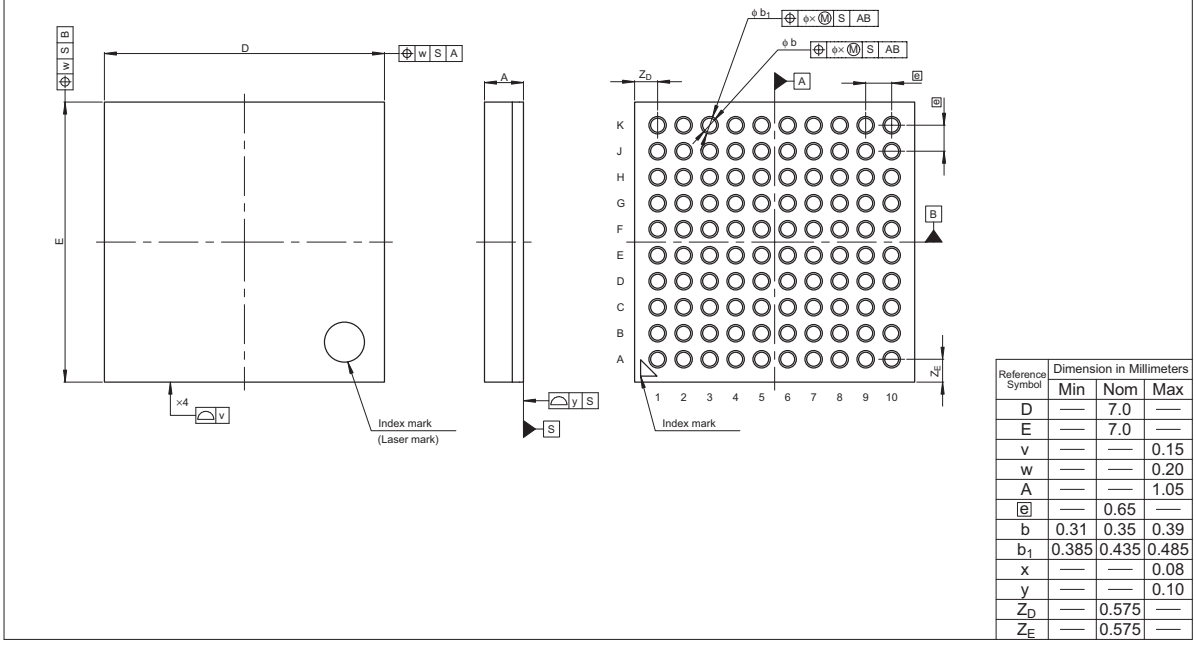
H：High レベル
L：Low レベル
Hi-Z：ハイインピーダンス
Keep-O：出力端子は前の値を保持します。入力端子はハイインピーダンスになります。
Keep：ソフトウェアスタンバイモード期間中、端子状態は保持されます。

注 1.　DPSBYCR.IOKEEP ビットが 0 になるまで、I/O ポートの状態が保持されます。
注 2.　端子が外部割り込み端子として使用され、ソフトウェアスタンバイのキャンセル要因に指定されている場合、入力が許可されます。
注 3.　端子がディープソフトウェアスタンバイのキャンセル要因に指定された場合、入力が許可されます。
注 4.　入力として使用されている端子への入力は許可されています。

付録 2.外形寸法図

外形寸法図の最新版や実装に関する情報は、ルネサスエレクトロニクスのウェブサイトの「パッケージ」を参照してください。

JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS[Typ.]
P-TFLGA100-7x7-0.65	PTLG0100JA-A	100F0G	0.1g

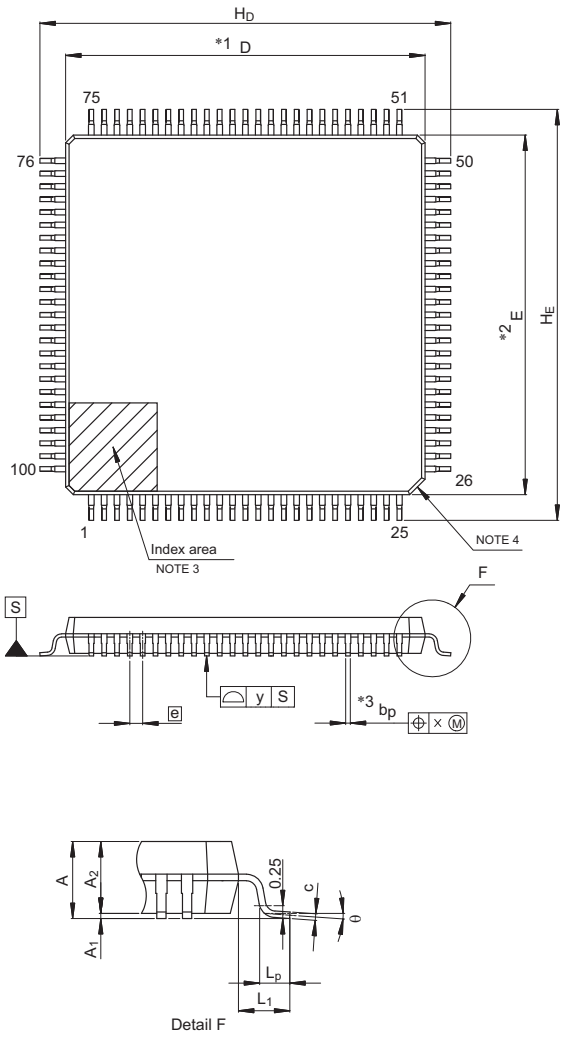


Reference Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min	Nom	Max
D	—	7.0	—
E	—	7.0	—
v	—	—	0.15
w	—	—	0.20
A	—	—	1.05
e	—	0.65	—
b	0.31	0.35	0.39
b_1	0.385	0.435	0.485
x	—	—	0.08
y	—	—	0.10
Z_D	—	0.575	—
Z_E	—	0.575	—

図 2.1 100 ピン LGA

JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS (Typ) [g]
P-LFQFP100-14x14-0.50	PLQP0100KB-B	—	0.6

Unit: mm



NOTE)
1. DIMENSIONS "*1" AND "*2" DO NOT INCLUDE MOLD FLASH.
2. DIMENSION "*3" DOES NOT INCLUDE TRIM OFFSET.
3. PIN 1 VISUAL INDEX FEATURE MAY VARY, BUT MUST BE LOCATED WITHIN THE HATCHED AREA.
4. CHAMFERS AT CORNERS ARE OPTIONAL, SIZE MAY VARY.

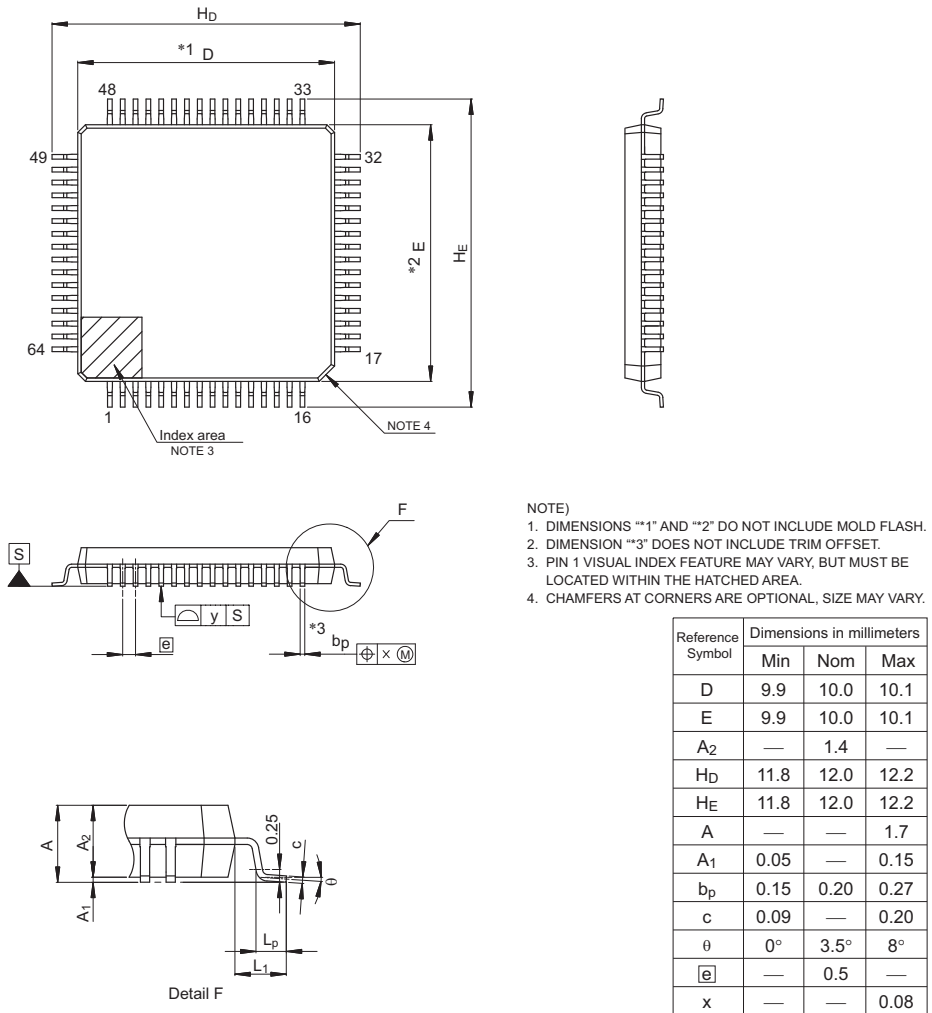
Reference Symbol	Dimensions in millimeters		
	Min	Nom	Max
D	13.9	14.0	14.1
E	13.9	14.0	14.1
A_2	—	1.4	—
H_D	15.8	16.0	16.2
H_E	15.8	16.0	16.2
A	—	—	1.7
A_1	0.05	—	0.15
b_p	0.15	0.20	0.27
c	0.09	—	0.20
θ	0°	3.5°	8°
e	—	0.5	—
x	—	—	0.08
y	—	—	0.08
L_p	0.45	0.6	0.75
L_1	—	1.0	—

© 2015 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

図 2.2 100 ピン LQFP

JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS (Typ) [g]
P-LFQFP64-10x10-0.50	PLQP0064KB-C	—	0.3

Unit: mm



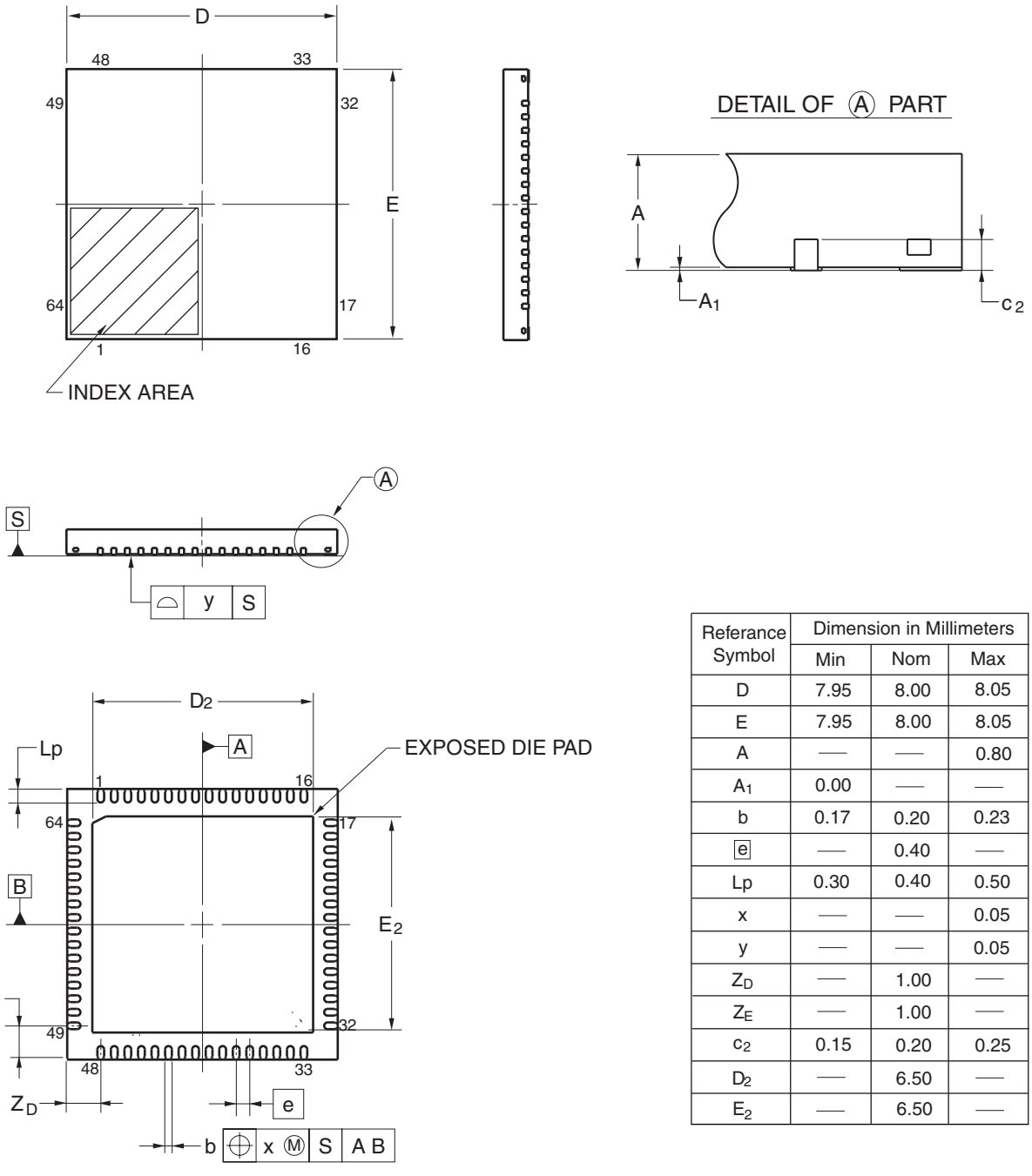
NOTE)
1. DIMENSIONS "*1" AND "*2" DO NOT INCLUDE MOLD FLASH.
2. DIMENSION "*3" DOES NOT INCLUDE TRIM OFFSET.
3. PIN 1 VISUAL INDEX FEATURE MAY VARY, BUT MUST BE LOCATED WITHIN THE HATCHED AREA.
4. CHAMFERS AT CORNERS ARE OPTIONAL, SIZE MAY VARY.

Reference Symbol	Dimensions in millimeters		
	Min	Nom	Max
D	9.9	10.0	10.1
E	9.9	10.0	10.1
A_2	—	1.4	—
H_D	11.8	12.0	12.2
H_E	11.8	12.0	12.2
A	—	—	1.7
A_1	0.05	—	0.15
b_p	0.15	0.20	0.27
c	0.09	—	0.20
θ	0°	3.5°	8°
e	—	0.5	—
x	—	—	0.08
y	—	—	0.08
L_p	0.45	0.6	0.75
L_1	—	1.0	—

© 2015 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

図 2.3 64 ピン LQFP

JEITA Package code	RENESAS code	Previous code	MASS(TYP.)[g]
P-HWQFN64-8x8-0.40	PWQN0064LA-A	P64K8-40-9B5-3	0.16



Referance Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min	Nom	Max
D	7.95	8.00	8.05
E	7.95	8.00	8.05
A	—	—	0.80
A_1	0.00	—	—
b	0.17	0.20	0.23
e	—	0.40	—
Lp	0.30	0.40	0.50
x	—	—	0.05
y	—	—	0.05
Z_D	—	1.00	—
Z_E	—	1.00	—
c_2	0.15	0.20	0.25
D_2	—	6.50	—
E_2	—	6.50	—

©2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

図 2.4 64 ピン QFN

付録 3. I/O レジスタ

この付録では、I/O レジスタアドレス、アクセスサイクル、およびリセット値について機能ごとに説明します。

3.1 周辺機能のベースアドレス

本節では、本マニュアルでとりあげた周辺機能のベースアドレスについて説明します。

表 3.1 に、各周辺機能の名称、内容、およびベースアドレスを示します。

表 3.1 周辺機能のベースアドレス (1/3)

名称	内容	ベースアドレス
MMPU	バスマスタMPU	0x40000000
SMPU	バススレーブMPU	0x40000C00
SPMON	CPUスタックポインタモニタ	0x40000D00
MMF	メモリミラー機能	0x40001000
SRAM	SRAMコントロール	0x40002000
BUS	バスコントロール	0x40003000
DMAC0	ダイレクトメモリアクセスコントローラ0	0x40005000
DMAC1	ダイレクトメモリアクセスコントローラ1	0x40005040
DMAC2	ダイレクトメモリアクセスコントローラ2	0x40005080
DMAC3	ダイレクトメモリアクセスコントローラ3	0x400050C0
DMAC4	ダイレクトメモリアクセスコントローラ4	0x40005100
DMAC5	ダイレクトメモリアクセスコントローラ5	0x40005140
DMAC6	ダイレクトメモリアクセスコントローラ6	0x40005180
DMAC7	ダイレクトメモリアクセスコントローラ7	0x400051C0
DMA	DMACモジュール起動	0x40005200
DTC	データトランスファコントローラ	0x40005400
ICU	割り込みコントローラ	0x40006000
DBG	デバッグ機能	0x4001B000
FCACHE	フラッシュキャッシュ	0x4001C000
SYSTEM	システム制御	0x4001E000
PORT0	ポート0コントロールレジスタ	0x40040000
PORT1	ポート1コントロールレジスタ	0x40040020
PORT2	ポート2コントロールレジスタ	0x40040040
PORT3	ポート3コントロールレジスタ	0x40040060
PORT4	ポート4コントロールレジスタ	0x40040080
PORT5	ポート5コントロールレジスタ	0x400400A0
PORT6	ポート6コントロールレジスタ	0x400400C0
PORT7	ポート7コントロールレジスタ	0x400400E0
PFS	Pmn端子機能コントロールレジスタ	0x40040800
PMISC	その他のポートコントロールレジスタ	0x40040D00
ELC	イベントリンクコントローラ	0x40041000
POEG	GPT用ポートアウトプットイネーブル	0x40042000
RTC	リアルタイムクロック	0x40044000
WDT	ウォッチドッグタイマ	0x40044200
IWDT	独立ウォッチドッグタイマ	0x40044400
CAC	クロック周波数精度測定回路	0x40044600
MSTP	モジュールストップコントロールB、C、D	0x40047000

表 3.1 周辺機能のベースアドレス (2/3)

名称	内容	ベースアドレス
SRCRAM	サンプリングレートコンバータRAM	0x40048000
SRC	サンプリングレートコンバータ	0x4004DFF0
SSIE0	拡張シリアルサウンドインタフェース（SSIE）	0x4004E000
CAN0	CAN0モジュール	0x40050000
CAN1	CAN1モジュール	0x40051000
IIC0	Inter-Integrated Circuit 0	0x40053000
IIC1	Inter-Integrated Circuit 1	0x40053100
DOC	データ演算回路	0x40054100
ADC120	12ビットA/Dコンバータ0	0x4005C000
ADC121	12ビットA/Dコンバータ1	0x4005C200
TSN	温度センサ	0x4005D000
DAC12	12ビットD/Aコンバータ	0x4005E000
SDHI0	SDホストインタフェース0	0x40062000
SDHI1	SDホストインタフェース1	0x40062400
SCI0	シリアルコミュニケーションインタフェース0	0x40070000
SCI1	シリアルコミュニケーションインタフェース1	0x40070020
SCI2	シリアルコミュニケーションインタフェース2	0x40070040
SCI3	シリアルコミュニケーションインタフェース3	0x40070060
SCI4	シリアルコミュニケーションインタフェース4	0x40070080
SCI8	シリアルコミュニケーションインタフェース8	0x40070100
SCI9	シリアルコミュニケーションインタフェース9	0x40070120
IRDA	赤外線通信協会	0x40070F00
SPI0	シリアルペリフェラルインタフェース0	0x40072000
SPI1	シリアルペリフェラルインタフェース1	0x40072100
CRC	CRC演算器	0x40074000
GPT32EH0	汎用PWMタイマ0（32ビット拡張高分解能）	0x40078000
GPT32EH1	汎用PWMタイマ1（32ビット拡張高分解能）	0x40078100
GPT32EH2	汎用PWMタイマ2（32ビット拡張高分解能）	0x40078200
GPT32EH3	汎用PWMタイマ3（32ビット拡張高分解能）	0x40078300
GPT32E4	汎用PWMタイマ4（32ビット拡張）	0x40078400
GPT32E5	汎用PWMタイマ5（32ビット拡張）	0x40078500
GPT32E6	汎用PWMタイマ6（32ビット拡張）	0x40078600
GPT32E7	汎用PWMタイマ7（32ビット拡張）	0x40078700
GPT328	汎用PWMタイマ8（32ビット拡張）	0x40078800
GPT329	汎用PWMタイマ9（32ビット拡張）	0x40078900
GPT3210	汎用PWMタイマ10（32ビット拡張）	0x40078A00
GPT3211	汎用PWMタイマ11（32ビット拡張）	0x40078B00
GPT3212	汎用PWMタイマ12（32ビット拡張）	0x40078C00
GPT_OPS	出力相切り替えコントローラ	0x40078FF0
GPT_ODC	PWM遅延生成回路	0x4007B000
KINT	キー割り込み機能	0x40080000
CTSU	静電容量式タッチセンシングユニット	0x40081000
AGT0	低消費電力非同期汎用タイマ0	0x40084000
AGT1	低消費電力非同期汎用タイマ1	0x40084100
ACMPHS0	高速アナログコンパレータ0	0x40085000

表 3.1 周辺機能のベースアドレス (3/3)

名称	内容	ベースアドレス
ACMPHS1	高速アナログコンパレータ 1	0x40085100
ACMPHS2	高速アナログコンパレータ 2	0x40085200
ACMPHS3	高速アナログコンパレータ 3	0x40085300
ACMPHS4	高速アナログコンパレータ 4	0x40085400
ACMPHS5	高速アナログコンパレータ 5	0x40085500
USBFS	USB2.0 フルスピードモジュール	0x40090000
TSD	温度センサデータ	0x407FB17C
QSPI	クワッドシリアルペリフェラルインタフェース	0x64000000

名称 = 周辺機能の名前
内容 = 周辺機能
ベースアドレス = 最下位の予約アドレスまたは周辺機能で使用されるアドレス

3.2 アクセスサイクル

本節では、本マニュアルでとりあげたI/Oレジスタのアクセスサイクル情報を示します。

以下の情報は、表3.2に適用されます。

- レジスタは関連するモジュールごとに分類されます。
- アクセスサイクル数は、指定の基準クロックのサイクル数を示しています。
- 内部I/O領域では、レジスタに割り当てられていない予約アドレスにはアクセスしないでください。アクセスした場合、動作は保証されません。
- I/Oアクセスサイクル数は、内部周辺バスのバスサイクル、分周クロック同期化サイクル、および各モジュールのウェイトサイクルによって異なります。分周クロック同期化サイクルは、ICLKとPCLK間の周波数比によって異なります。
- ICLK周波数とPCLK周波数が等しいとき、分周クロック同期化サイクル数は常に一定です。
- ICLK周波数がPCLK周波数より大きいとき、分周クロック同期化サイクル数に少なくとも1PCLKサイクル追加されます。

注. CPUからのレジスタアクセスが、外部メモリへの命令フェッチや、DMACやDTCのような他のバスマスタからのバスアクセスと競合せずに実行された場合、サイクル数に適用されます。

表3.2にレジスタアクセスサイクルを示します。

表3.2 アクセスサイクル (1/2)

周辺機能	アドレス		アクセスサイクル数				サイクルの単位	関連機能
			ICLK = PCLK		ICLK＞PCLK（注1）			
	開始	終了	読み出し	書き込み	読み出し	書き込み		
MMPU, SMPU, SPMON, MMF, SRAM, BUS, DMACn, DMA, DTC, ICU, DBG, FCACHE	4000 0000h	4001 CFFFh	4				ICLK	メモリプロテクションユニット、メモリミラー機能、SRAM、バス、DMAコントローラ、データトランスファコントローラ、割り込みコントローラ、CPU、フラッシュメモリ
SYSTEM	4001 E000h	4001 E3FFh	5				ICLK	低消費電力モード、リセット、低電圧検出、クロック発生回路、レジスタライトプロテクション
SYSTEM	4001 E400h	4001 E6FFh	9		5～8		PCLKB	低消費電力モード、リセット、低電圧検出、バッテリバックアップ機能
PORTn, PFS, PMISC, ELC, POEG, RTC, WDT, IWDT, CAC, MSTP	4004 0000h	4004 7FFFh	3		2～3		PCLKB	I/Oポート、イベントリンクコントローラ、GPT用ポートアウトプットイネーブル、リアルタイムクロック、ウォッチドッグタイマ、独立ウォッチドッグタイマ、クロック周波数精度測定回路、モジュールストップコントロール
SRCRAM	4004 8000h	4004 DFEFh	4	3	3～4	2～3	PCLKB	サンプリングレートコンバータ
SRC	4004 DFF0h	4004 DFF7h	5		4～5		PCLKB	
SRC	4004 DFF8h	4004 DFFFh	3		2～3		PCLKB	
SSIE0, CANn, IICn, DOC, ADC12n, TSN, DAC12	4004 E000h	4005 FFFFh	3		2～3		PCLKB	拡張シリアルサウンドインタフェース、コントローラエリアネットワークモジュール、I^2Cバスインタフェース、データ演算回路、12ビットA/Dコンバータ、温度センサ、12ビットD/Aコンバータ
SDHIn	4006 2000h	4006 2FFFh	3		2～3		PCLKA	SD/MMCホストインタフェース
SCIn	4007 0000h	4007 0EFFh	3（注2）		2～3（注2）		PCLKA	シリアルコミュニケーションインタフェース
IRDA	4007 0F00h	4007 0FFFh	3		2～3		PCLKA	IrDAインタフェース
SPI0, SPI1	4007 2000h	4007 2FFFh	3（注3）		2～3（注3）		PCLKA	シリアルペリフェラルインタフェース
CRC	4007 4000h	4007 4FFFh	3		2～3		PCLKA	CRC演算器

表 3.2 アクセスサイクル (2/2)

周辺機能	アドレス		アクセスサイクル数					
			ICLK = PCLK		ICLK＞PCLK（注1）		サイクルの単位	関連機能
	開始	終了	読み出し	書き込み	読み出し	書き込み		
GPT32EHi, GPT32Ej, GPT32k, GPT_OPS	4007 8000h	4007 8FFFh	5	3	4～5	2～3	PCLKA	汎用PWMタイマ
GPT_ODC	4007 B000h	4007 BFFFh	2		1～2		PCLKA	PWM遅延生成回路
KINT, CTSU	4008 0000h	4008 1FFFh	2		1～2		PCLKB	キー割り込み機能、静電容量式タッチセンシングユニット
AGTn	4008 4000h	4008 4FFFh	5	3	4～5	2～3	PCLKB	低消費電力非同期汎用タイマ
ACMPHSn	4008 5000h	4008 5FFFh	2		1～2		PCLKB	高速アナログコンパレータ
USBFS	4009 0000h	4009 03FFh	4		3～4		PCLKB	USB2.0フルスピードモジュール
USBFS	4009 0400h	4009 04FFh	2		1～2		PCLKB	USB2.0フルスピードモジュール
TSD	407F B17Ch	407F B17Ch	2	-	2	-	ICLK	温度センサ
QSPI	6400 0000h	6400 000Fh	3	13～（注4）	2～3	12～（注4）	PCLKA	クワッドシリアルペリフェラルインタフェース
QSPI	6400 0010h	6400 0013h	24～（注4）	5～（注4）	23～（注4）	4～（注4）	PCLKA	クワッドシリアルペリフェラルインタフェース
QSPI	6400 0014h	6400 0037h	3	13～（注4）	2～3	12～（注4）	PCLKA	クワッドシリアルペリフェラルインタフェース
QSPI	6400 0804h	6400 0807h	2	2	1～2	1～2	PCLKA	クワッドシリアルペリフェラルインタフェース

注 1. PCLK サイクル数が整数でない場合（たとえば 1.5）、最小値は小数点以下を切り捨て、最大値は小数点を四捨五入します。たとえば、1.5 ～ 2.5 は、1 ～ 3 となります。

注 2. 16 ビットレジスタ（FTDRHL、FRDRHL、FCR、FDR、LSR、および CDR）へのアクセス時、アクセスは表 3.2 に示す値よりも 2 サイクル多くなります。8 ビットレジスタ（FTDRH、FTDRL、FRDRH、および FRDRL）へのアクセス時、アクセスサイクルは表 3.2 に示すとおりです。

注 3. 32 ビットレジスタ（SPDR）へのアクセス時、アクセスは表 3.2 に示す値よりも 2 サイクル多くなります。8 ビットまたは 16 ビットレジスタ（SPDR_HA）へのアクセス時、アクセスサイクルは表 3.2 に示すとおりです。

注 4. アクセスサイクルは、QSPI バスサイクルによって異なります。

3.3 レジスタの説明

本節では、本マニュアルでとりあげたレジスタに関する情報を示します。

表 3.3 に、各レジスタのアドレスオフセット、アドレスサイズ、アクセス権、およびリセット値を示します。

表 3.3 レジスタの説明 (1/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
MMPU	-	-	-	MMPUCTLA	Bus Master MPU Control Register	0x000	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				MMPUPTA	Group A Protection of Register	0x102	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	32	0x010	0-31	MMPUACA%s	Group A Region %s Access Control Register	0x200	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	32	0x010	0-31	MMPUSA%s	Group A Region %s Start Address Register	0x204	32	read-write	0x00000000	0x00000003
	32	0x010	0-31	MMPUEA%s	Group A Region %s End Address Register	0x208	32	read-write	0x00000003	0x00000003
SMPU	-	-	-	SMPUCTL	Slave MPU Control Register	0x00	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				SMPUMBIU	Access Control Register for MBIU	0x10	16	read-write	0x2000	0xFFFF
				SMPUFBIU	Access Control Register for FBIU	0x14	16	read-write	0x0000	0xFFFF
SMPU	2	0x4	0,1	SMPUSRAM%s	Access Control Register for SRAM%s	0x18	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	3	0x4	0,2,6	SMPUP%sBIU	Access Control Register for P%sBIU	0x20	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	-	-	-	SMPUEXBIU	Access Control Register for EXBIU	0x30	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				SMPUEXBIU2	Access Control Register for EXBIU2	0x34	16	read-write	0x0000	0xFFFF
SPMON	-	-	-	MSPMPUOAD	Stack Pointer Monitor Operation After Detection Register	0x00	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				MSPMPUCTL	Stack Pointer Monitor Access Control Register	0x04	16	read-write	0x0000	0xFEFF
				MSPMPUPT	Stack Pointer Monitor Protection Register	0x06	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				MSPMPUSA	Main Stack Pointer Monitor Start Address Register	0x08	32	read-write	0x00000000	0x00000003
				MSPMPUEA	Main Stack Pointer Monitor End Address Register	0x0C	32	read-write	0x00000003	0x00000003
				PSPMPUOAD	Stack Pointer Monitor Operation After Detection Register	0x10	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				PSPMPUCTL	Stack Pointer Monitor Access Control Register	0x14	16	read-write	0x0000	0xFEFF
				PSPMPUPT	Stack Pointer Monitor Protection Register	0x16	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				PSPMPUSA	Process Stack Pointer Monitor Start Address Register	0x18	32	read-write	0x00000000	0x00000003
				PSPMPUEA	Process Stack Pointer Monitor End Address Register	0x1C	32	read-write	0x00000003	0x00000003
MMF	-	-	-	MMSFR	MemMirror Special Function Register	0x00	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				MMEN	MemMirror Enable Register	0x04	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (2/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
SRAM	-	-	-	PARIOAD	SRAM Parity Error Operation After Detection Register	0x00	8	read-write	0x00	0xFF
SRAM	-	-	-	SRAMPRCR	SRAM Protection Register	0x04	8	read-write	0x00	0xFF
				SRAMWTSC	SRAM Wait State Control Register	0x08	8	read-write	0x0E	0xFF
				ECCMODE	ECCRAM Operating Mode Control Register	0xC0	8	read-write	0x00	0xFF
				ECC2STS	ECCRAM 2-Bit Error Status Register	0xC1	8	read-write	0x00	0xFF
				ECC1STSEN	ECCRAM 1-Bit Error Information Update Enable Register	0xC2	8	read-write	0x00	0xFF
				ECC1STS	ECCRAM 1-Bit Error Status Register	0xC3	8	read-write	0x00	0xFF
				ECCPRCR	ECCRAM Protection Register	0xC4	8	read-write	0x00	0xFF
				ECCETST	ECC Test Control Register	0xD4	8	read-write	0x00	0xFF
				ECCOAD	RAM ECC Error Operation After Detection Register	0xD8	8	read-write	0x00	0xFF
BUS	2	0x10	0,1	CS%sMOD	CS%s Mode Register	0x0002	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	2	0x10	0,1	CS%sWCR1	CS%s Wait Control Register 1	0x0004	32	read-write	0x07070707	0xFFFFFFFF
	2	0x10	0,1	CS%sWCR2	CS%s Wait Control Register 2	0x0008	32	read-write	0x00000007	0xFFFFFFFF
	4	0x10	4-7	CS%sMOD	CS%s Mode Register	0x0042	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	4	0x10	4-7	CS%sWCR1	CS%s Wait Control Register 1	0x0044	32	read-write	0x07070707	0xFFFFFFFF
	4	0x10	4-7	CS%sWCR2	CS%s Wait Control Register 2	0x0048	32	read-write	0x00000007	0xFFFFFFFF
	-	-	-	CS0CR	CS0 Control Register	0x0802	16	read-write	0x0021	0xFFFF
	2	0x10	0,1	CS%sREC	CS%s Recovery Cycle Register	0x080A	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	-	-	-	CS1CR	CS1 Control Register	0x0812	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	4	0x10	4-7	CS%sCR	CS%s Control Register	0x0842	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	4	0x10	4-7	CS%sREC	CS%s Recovery Cycle Register	0x084A	16	read-write	0x0000	0xFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (3/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
BUS	-	-	-	CSRECEN	CS Recovery Cycle Insertion Enable Register	0x0880	16	read-write	0x3E3E	0xFFFF
	2	0x4	M4I,M4D	BUSMCNT%s	Master Bus Control Register %s	0x1000	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	-	-	-	BUSMCNTSYS	Master Bus Control Register SYS	0x1008	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	-	-	-	BUSMCNTDMA	Master Bus Control Register DMA	0x100C	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	2	0x4	FLI,RAMH	BUSSCNT%s	Slave Bus Control Register %s	0x1100	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	-	-	-	BUSSCNTMBIU	Slave Bus Control Register MBIU	0x1108	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	2	0x4	RAM0,RAM1	BUSSCNT%s	Slave Bus Control Register %s	0x110C	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	4	0x4	P0B,P2B,P3B,P4B	BUSSCNT%s	Slave Bus Control Register %s	0x1114	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	-	-	-	BUSSCNTP6B	Slave Bus Control Register P6B	0x1128	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	3	0x4	FBU,EXT,EXT2	BUSSCNT%s	Slave Bus Control Register %s	0x1130	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	4	0x10	1-4	BUS%sERRADD	Bus Error Address Register %s	0x1800	32	read-only	0x00000000	0x00000000
	4	0x10	1-4	BUS%sERRSTAT	Bus Error Status Register %s	0x1804	8	read-only	0x00	0xFE
DMAC0-7	-	-	-	DMSAR	DMA Source Address Register	0x00	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				DMDAR	DMA Destination Address Register	0x04	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				DMCRA	DMA Transfer Count Register	0x08	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				DMCRB	DMA Block Transfer Count Register	0x0C	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				DMTMD	DMA Transfer Mode Register	0x10	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				DMINT	DMA Interrupt Setting Register	0x13	8	read-write	0x00	0xFF
				DMAMD	DMA Address Mode Register	0x14	16	read-write	0x0000	0xFFFF
DMAC0-7	-	-	-	DMOFR	DMA Offset Register	0x18	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				DMCNT	DMA Transfer Enable Register	0x1C	8	read-write	0x00	0xFF
				DMREQ	DMA Software Start Register	0x1D	8	read-write	0x00	0xFF
				DMSTS	DMAC Module Activation Register	0x1E	8	read-write	0x00	0xFF
DMA	-	-	-	DMAST	DMA Module Activation Register	0x00	8	read-write	0x00	0xFF
DTC	-	-	-	DTCCR	DTC Control Register	0x00	8	read-write	0x08	0xFF
				DTCVBR	DTC Vector Base Register	0x04	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				DTCST	DTC Module Start Register	0x0C	8	read-write	0x00	0xFF
				DTCSTS	DTC Status Register	0x0E	16	read-only	0x0000	0xFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (4/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
ICU	14	0x1	0-13	IRQCR%s	IRQ Control Register %s	0x000	8	read-write	0x00	0xFF
	-	-	-	NMICR	NMI Pin Interrupt Control Register	0x100	8	read-write	0x00	0xFF
				NMIER	Non-Maskable Interrupt Enable Register	0x120	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				NMICLR	Non-Maskable Interrupt Status Clear Register	0x130	16	write-only	0x0000	0xFFFF
				NMISR	Non-Maskable Interrupt Status Register	0x140	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				WUPEN	Wakeup Interrupt Enable Register	0x1A0	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SELSR0	SYS Event Link Setting Register	0x200	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	8	0x4	0-7	DELSR%s	DMAC Event Link Setting Register %s	0x280	32	read-write	0x0000	0xFFFF
	96	0x4	0-95	IELSR%s	INT Event Link Setting Register %s	0x300	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
DBG	-	-	-	DBGSTR	Debug Status Register	0x000	32	read-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				DBGSTOPCR	Debug Stop Control Register	0x010	32	read-write	0x00000003	0xFFFFFFFF
				TRACECTR	Trace Control Register	0x020	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
FCACHE	-	-	-	FCACHEE	Flash Cache Enable Register	0x100	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				FCACHEIV	Flash Cache Invalidate Register	0x104	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				FLWT	Flash Wait Cycle Register	0x11C	8	read-write	0x00	0xFF

表 3.3 レジスタの説明 (5/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
SYSTEM	-	-	-	SBYCR	Standby Control Register	0x00C	16	read-write	0x4000	0xFFFF
				MSTPCRA	Module Stop Control Register A	0x01C	32	read-write	0xFFBFFF1C	0xFFFFFFFF
				SCKDIVCR	System Clock Division Control Register	0x020	32	read-write	0x22022222	0xFFFFFFFF
				SCKDIVCR2	System Clock Division Control Register 2	0x024	8	read-write	0x40	0xFF
				SCKSCR	System Clock Source Control Register	0x026	8	read-write	0x01	0xFF
				PLLCCR	PLL Clock Control Register	0x028	16	read-write	0x1300	0xFFFF
				PLLCR	PLL Control Register	0x02A	8	read-write	0x01	0xFF
				BCKCR	External Bus Clock Control Register	0x030	8	read-write	0x00	0xFF
				MOSCCR	Main Clock Oscillator Control Register	0x032	8	read-write	0x01	0xFF
				HOCOCR	High-Speed On-Chip Oscillator Control Register	0x036	8	read-write	0x00	0xFE
				MOCOCR	Middle-Speed On-Chip Oscillator Control Register	0x038	8	read-write	0x00	0xFF
				FLLCR1	FLL Control Register 1	0x039	8	read-write	0x00	0xFF
				FLLCR2	FLL Control Register 2	0x03A	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				OSCSF	Oscillation Stabilization Flag Register	0x03C	8	read-only	0x00	0xFE
				CKOCR	Clock Out Control Register	0x03E	8	read-write	0x00	0xFF
				TRCKCR	Trace Clock Control Register	0x03F	8	read-write	0x01	0xFF
				OSTDCR	Oscillation Stop Detection Control Register	0x040	8	read-write	0x00	0xFF
SYSTEM	-	-	-	OSTDSR	Oscillation Stop Detection Status Register	0x041	8	read-write	0x00	0xFF
				EBCKOCR	External Bus Clock Output Control Register	0x052	8	read-write	0x00	0xFF

表 3.3 レジスタの説明 (6/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
SYSTEM	-	-	-	MOCOUTCR	MOCO User Trimming Control Register	0x061	8	read-write	0x00	0xFF
				HOCOUTCR	HOCO User Trimming Control Register	0x062	8	read-write	0x00	0xFF
				SNZCR	Snooze Control Register	0x092	8	read-write	0x00	0xFF
				SNZEDCR	Snooze End Control Register	0x094	8	read-write	0x00	0xFF
				SNZREQCR	Snooze Request Control Register	0x098	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				OPCCR	Operating Power Control Register	0x0A0	8	read-write	0x00	0xFF
				MOSCWTCR	Main Clock Oscillator Wait Control Register	0x0A2	8	read-write	0x05	0xFF
				HOCOWTCR	High-speed on-chip oscillator wait control register	0x0A5	8	read-write	0x02	0xFF
				SOPCCR	Sub Operating Power Control Register	0x0AA	8	read-write	0x00	0xFF
				RSTSR1	Reset Status Register 1	0x0C0	16	read-write	0x0000	0xE0F8
	2	0x2	1,2	LVD%sCR1	Voltage Monitor %s Circuit Control Register 1	0x0E0	8	read-write	0x01	0xFF
	2	0x2	1,2	LVD%sSR	Voltage Monitor %s Circuit Status Register	0x0E1	8	read-write	0x02	0xFF
	-	-	-	PRCR	Protect Register	0x3FE	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				DPSBYCR	Deep Standby Control Register	0x400	8	read-write	0x01	0xFF
				DPSIER0	Deep Standby Interrupt Enable Register 0	0x402	8	read-write	0x00	0xFF

表 3.3 レジスタの説明 (7/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
SYSTEM	-	-	-	DPSIER1	Deep Standby Interrupt Enable Register 1	0x403	8	read-write	0x00	0xFF
				DPSIER2	Deep Standby Interrupt Enable Register 2	0x404	8	read-write	0x00	0xFF
				DPSIER3	Deep Standby Interrupt Enable Register 3	0x405	8	read-write	0x00	0xFF
				DPSIFR0	Deep Standby Interrupt Flag Register 0	0x406	8	read-write	0x00	0xFF
				DPSIFR1	Deep Standby Interrupt Flag Register 1	0x407	8	read-write	0x00	0xFF
				DPSIFR2	Deep Standby Interrupt Flag Register 2	0x408	8	read-write	0x00	0xFF
				DPSIFR3	Deep Standby Interrupt Flag Register 3	0x409	8	read-write	0x00	0xFF
				DPSIEGR0	Deep Standby Interrupt Edge Register 0	0x40A	8	read-write	0x00	0xFF
				DPSIEGR1	Deep Standby Interrupt Edge Register 1	0x40B	8	read-write	0x00	0xFF
				DPSIEGR2	Deep Standby Interrupt Edge Register 2	0x40C	8	read-write	0x00	0xFF
				SYOCDCR	System Control OCD Control Register	0x40E	8	read-write	0x00	0xFE
				STCONR	Standby Condition Register	0x40F	8	read-write	0xC3	0xFF
				RSTSR0	Reset Status Register 0	0x410	8	read-write	0x00	0x70
				RSTSR2	Reset Status Register 2	0x411	8	read-write	0x00	0xFE
				MOMCR	Main Clock Oscillator Mode Oscillation Control Register	0x413	8	read-write	0x00	0xFF
				FWEPROR	Flash P/E Protect Register	0x416	8	read-write	0x02	0xFF
				LVCMPCR	Voltage Monitor Circuit Control Register	0x417	8	read-write	0x00	0xFF
				LVDLVLR	Voltage Detection Level Select Register	0x418	8	read-write	0xF3	0xFF
	2	0x1	1, 2	LVD%sCR0	Voltage Monitor %s Circuit Control Register 0	0x41A	8	read-write	0x8A	0xF7
	-	-	-	SOSCCR	Sub-clock oscillator control register	0x480	8	read-write	0x00	0xFF
				SOMCR	Sub Clock Oscillator Mode Control Register	0x481	8	read-write	0x00	0xFD
				LOCOCR	Low-Speed On-Chip Oscillator Control Register	0x490	8	read-write	0x00	0xFF
				LOCOUTCR	LOCO User Trimming Control Register	0x492	8	read-write	0x00	0xFF
				VBTICTLR	VBATT Input Control Register	0x4BB	8	read-write	0x00	0xF8
	512	0x1	0-511	VBTBKR[%s]	VBATT Backup Register [%s]	0x500	8	read-write	0x00	0x00

表 3.3 レジスタの説明 (8/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
PORT0, 5-7	-	-	-	PCNTR1	Port Control Register 1	0x00	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				PODR	Output data register	0x00	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				PDR	Data direction register	0x02	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				PCNTR2	Port Control Register 2	0x04	32	read-only	0x00000000	0xFFFF0000
				PIDR	Input data register	0x06	16	read-only	0x0000	0x0000
				PCNTR3	Port Control Register 3	0x08	32	write-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				PORR	Output reset register	0x08	16	write-only	0x0000	0xFFFF
				POSR	Output set register	0x0A	16	write-only	0x0000	0xFFFF
PORT1-4	-	-	-	PCNTR1	Port Control Register 1	0x00	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				PODR	Output data register	0x00	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				PDR	Data direction register	0x02	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				PCNTR2	Port Control Register 2	0x04	32	read-only	0x00000000	0xFFFF0000
				EIDR	Event input data register	0x04	16	read-only	0x0000	0x0000
PORT1-4	-	-	-	PIDR	Input data register	0x06	16	read-only	0x0000	0x0000
				PCNTR3	Port Control Register 3	0x08	32	write-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				PORR	Output set register	0x08	16	write-only	0x0000	0xFFFF
				POSR	Output reset register	0x0A	16	write-only	0x0000	0xFFFF
				PCNTR4	Port Control Register 4	0x0C	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				EORR	Event output set register	0x0C	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				EOSR	Event output reset register	0x0E	16	read-write	0x0000	0xFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (9/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
PFS	-	-	-	P000PFS	P000 Pin Function Control Register	0x000	32	read-write	0x00008000	0xFFFFFFFD
				P000PFS_HA	P000 Pin Function Control Register	0x002	16	read-write	0x8000	0xFFFD
				P000PFS_BY	P000 Pin Function Control Register	0x003	8	read-write	0x00	0xFD
	7	0x4	1-7	P00%sPFS	P00%s Pin Function Control Register	0x004	32	read-write	0x00008000	0xFFFFFFFD
	7	0x4	1-7	P00%sPFS_HA	P00%s Pin Function Control Register	0x006	16	read-write	0x8000	0xFFFD
	7	0x4	1-7	P00%sPFS_BY	P00%s Pin Function Control Register	0x007	8	read-write	0x00	0xFD
	-	-	-	P008PFS	P008 Pin Function Control Register	0x020	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
				P008PFS_HA	P008 Pin Function Control Register	0x022	16	read-write	0x0000	0xFFFD
				P008PFS_BY	P008 Pin Function Control Register	0x023	8	read-write	0x00	0xFD
	2	0x4	14-15	P0%sPFS	P0%s Pin Function Control Register	0x038	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
	2	0x4	14-15	P0%sPFS_HA	P0%s Pin Function Control Register	0x03A	16	read-write	0x0000	0xFFFD
	2	0x4	14-15	P0%sPFS_BY	P0%s Pin Function Control Register	0x03B	8	read-write	0x00	0xFD
	-	-	-	P100PFS	P100 Pin Function Control Register	0x040	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
				P100PFS_HA	P100 Pin Function Control Register	0x042	16	read-write	0x0000	0xFFFD
				P100PFS_BY	P100 Pin Function Control Register	0x043	8	read-write	0x00	0xFD
	7	0x4	1-7	P10%sPFS	P10%s Pin Function Control Register	0x044	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD

表 3.3 レジスタの説明 (10/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
PFS	7	0x4	1-7	P10%sPFS_HA	P10%s Pin Function Control Register	0x046	16	read-write	0x0000	0xFFFD
	7	0x4	1-7	P10%sPFS_BY	P10%s Pin Function Control Register	0x047	8	read-write	0x00	0xFD
	-	-	-	P108PFS	P108 Pin Function Control Register	0x060	32	read-write	0x00010410	0xFFFFFFFD
				P108PFS_HA	P108 Pin Function Control Register	0x062	16	read-write	0x0410	0xFFFD
				P108PFS_BY	P108 Pin Function Control Register	0x063	8	read-write	0x10	0xFD
				P109PFS	P109 Pin Function Control Register	0x064	32	read-write	0x00010410	0xFFFFFFFD
				P109PFS_HA	P109 Pin Function Control Register	0x066	16	read-write	0x0410	0xFFFD
				P109PFS_BY	P109 Pin Function Control Register	0x067	8	read-write	0x10	0xFD
				P110PFS	P110 Pin Function Control Register	0x068	32	read-write	0x00010010	0xFFFFFFFD
				P110PFS_HA	P110 Pin Function Control Register	0x06A	16	read-write	0x0010	0xFFFD
				P110PFS_BY	P110 Pin Function Control Register	0x06B	8	read-write	0x10	0xFD
	5	0x4	11-15	P1%sPFS	P1%s Pin Function Control Register	0x06C	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
	5	0x4	11-15	P1%sPFS_HA	P1%s Pin Function Control Register	0x06E	16	read-write	0x0000	0xFFFD
	5	0x4	11-15	P1%sPFS_BY	P1%s Pin Function Control Register	0x06F	8	read-write	0x00	0xFD
	-	-	-	P200PFS	P200 Pin Function Control Register	0x080	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
				P200PFS_HA	P200 Pin Function Control Register	0x082	16	read-write	0x0000	0xFFFD
				P200PFS_BY	P200 Pin Function Control Register	0x083	8	read-write	0x00	0xFD
				P201PFS	P201 Pin Function Control Register	0x084	32	read-write	0x00000010	0xFFFFFFFD
				P201PFS_HA	P201 Pin Function Control Register	0x086	16	read-write	0x0010	0xFFFD
				P201PFS_BY	P201 Pin Function Control Register	0x087	8	read-write	0x10	0xFD
	5	0x4	5-9	P20%sPFS	P20%s Pin Function Control Register	0x094	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
	5	0x4	5-9	P20%sPFS_HA	P20%s Pin Function Control Register	0x096	16	read-write	0x0000	0xFFFD
	5	0x4	5-9	P20%sPFS_BY	P20%s Pin Function Control Register	0x097	8	read-write	0x00	0xFD

表 3.3 レジスタの説明 (11/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
PFS	5	0x4	10-14	P2%sPFS	P2%s Pin Function Control Register	0x0A8	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
	5	0x4	10-14	P2%sPFS_HA	P2%s Pin Function Control Register	0x0AA	16	read-write	0x0000	0xFFFD
	5	0x4	10-14	P2%sPFS_BY	P2%s Pin Function Control Register	0x0AB	8	read-write	0x00	0xFD
	-	-	-	P300PFS	P300 Pin Function Control Register	0x0C0	32	read-write	0x00010010	0xFFFFFFFD
				P300PFS_HA	P300 Pin Function Control Register	0x0C2	16	read-write	0x0010	0xFFFD
				P300PFS_BY	P300 Pin Function Control Register	0x0C3	8	read-write	0x10	0xFD
	7	0x4	1-7	P30%sPFS	P30%s Pin Function Control Register	0x0C4	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
	7	0x4	1-7	P30%sPFS_HA	P30%s Pin Function Control Register	0x0C6	16	read-write	0x0000	0xFFFD
	7	0x4	1-7	P30%sPFS_BY	P30%s Pin Function Control Register	0x0C7	8	read-write	0x00	0xFD
	10	0x4	0-9	P40%sPFS	P40%s Pin Function Control Register	0x100	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
	10	0x4	0-9	P40%sPFS_HA	P40%s Pin Function Control Register	0x102	16	read-write	0x0000	0xFFFD
	10	0x4	0-9	P40%sPFS_BY	P40%s Pin Function Control Register	0x103	8	read-write	0x00	0xFD
	6	0x4	10-15	P4%sPFS	P4%s Pin Function Control Register	0x128	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
	6	0x4	10-15	P4%sPFS_HA	P4%s Pin Function Control Register	0x12A	16	read-write	0x0000	0xFFFD
	6	0x4	10-15	P4%sPFS_BY	P4%s Pin Function Control Register	0x12B	8	read-write	0x00	0xFD
	5	0x4	0-4	P50%sPFS	P50%s Pin Function Control Register	0x140	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
	5	0x4	0-4	P50%sPFS_HA	P50%s Pin Function Control Register	0x142	16	read-write	0x0000	0xFFFD
	5	0x4	0-4	P50%sPFS_BY	P50%s Pin Function Control Register	0x143	8	read-write	0x00	0xFD
	-	-	-	P508PFS	P508 Pin Function Control Register	0x160	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
				P508PFS_HA	P508 Pin Function Control Register	0x162	16	read-write	0x0000	0xFFFD
				P508PFS_BY	P508 Pin Function Control Register	0x163	8	read-write	0x00	0xFD
	3	0x4	0-2	P60%sPFS	P60%s Pin Function Control Register	0x180	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
	3	0x4	0-2	P60%sPFS_HA	P60%s Pin Function Control Register	0x182	16	read-write	0x0000	0xFFFD

表 3.3 レジスタの説明 (12/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
PFS	3	0x4	0-2	P60%sPFS_BY	P60%s Pin Function Control Register	0x183	8	read-write	0x00	0xFD
	2	0x4	8-9	P60%sPFS	P60%s Pin Function Control Register	0x1A0	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
	2	0x4	8-9	P60%sPFS_HA	P60%s Pin Function Control Register	0x1A2	16	read-write	0x0000	0xFFFD
	2	0x4	8-9	P60%sPFS_BY	P60%s Pin Function Control Register	0x1A3	8	read-write	0x00	0xFD
	-	-	-	P610PFS	P610 Pin Function Control Register	0x1A8	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
				P610PFS_HA	P610 Pin Function Control Register	0x1AA	16	read-write	0x0000	0xFFFD
				P610PFS_BY	P610 Pin Function Control Register	0x1AB	8	read-write	0x00	0xFD
				P708PFS	P708 Pin Function Control Register	0x1E0	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFD
				P708PFS_HA	P708 Pin Function Control Register	0x1E2	16	read-write	0x0000	0xFFFD
				P708PFS_BY	P708 Pin Function Control Register	0x1E3	8	read-write	0x00	0xFD
PMISC	-	-	-	PWPR	Write-Protect Register	0x03	8	read-write	0x80	0xFF
ELC	-	-	-	ELCR	Event Link Controller Register	0x00	8	read-write	0x00	0xFF
	2	0x2	0,1	ELSEGR%s	Event Link Software Event Generation Register %s	0x02	8	read-write	0x80	0xFF
	19	0x4	0-18	ELSR%s	Event Link Setting Register %s	0x10	16	read-write	0x0000	0xFFFF
POEG	4	0x100	A,B,C,D	POEGG%s	POEG Group %s Setting Register	0x00	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
RTC	-	-	-	R64CNT	64-Hz Counter	0x00	8	read-only	0x00	0x80
				RSECCNT	Second Counter	0x02	8	read-write	0x00	0x00
				BCNT0	Binary Counter 0	0x02	8	read-write	0x00	0x00
				RMINCNT	Minute Counter	0x04	8	read-write	0x00	0x00
				BCNT1	Binary Counter 1	0x04	8	read-write	0x00	0x00
				RHRCNT	Hour Counter	0x06	8	read-write	0x00	0x00
				BCNT2	Binary Counter 2	0x06	8	read-write	0x00	0x00

表 3.3 レジスタの説明 (13/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
RTC	-	-	-	RWKCNT	Day-of-Week Counter	0x08	8	read-write	0x00	0x00
				BCNT3	Binary Counter 3	0x08	8	read-write	0x00	0x00
				RDAYCNT	Day Counter	0x0A	8	read-write	0x00	0xC0
				RMONCNT	Month Counter	0x0C	8	read-write	0x00	0xE0
				RYRCNT	Year Counter	0x0E	16	read-write	0x0000	0xFF00
				RSECAR	Second Alarm Register	0x10	8	read-write	0x00	0x00
				BCNT0AR	Binary Counter 0 Alarm Register	0x10	8	read-write	0x00	0x00
				RMINAR	Minute Alarm Register	0x12	8	read-write	0x00	0x00
				BCNT1AR	Binary Counter 1 Alarm Register	0x12	8	read-write	0x00	0x00
				RHRAR	Hour Alarm Register	0x14	8	read-write	0x00	0x00
				BCNT2AR	Binary Counter 2 Alarm Register	0x14	8	read-write	0x00	0x00
				RWKAR	Day-of-Week Alarm Register	0x16	8	read-write	0x00	0x00
				BCNT3AR	Binary Counter 3 Alarm Register	0x16	8	read-write	0x00	0x00
				RDAYAR	Date Alarm Register	0x18	8	read-write	0x00	0x00
				BCNT0AER	Binary Counter 0 Alarm Enable Register	0x18	8	read-write	0x00	0x00
				RMONAR	Month Alarm Register	0x1A	8	read-write	0x00	0x00
				BCNT1AER	Binary Counter 1 Alarm Enable Register	0x1A	8	read-write	0x00	0x00
				RYRAR	Year Alarm Register	0x1C	16	read-write	0x0000	0xFF00
				BCNT2AER	Binary Counter 2 Alarm Enable Register	0x1C	16	read-write	0x0000	0xFF00
				RYRAREN	Year Alarm Enable Register	0x1E	8	read-write	0x00	0x00
				BCNT3AER	Binary Counter 3 Alarm Enable Register	0x1E	8	read-write	0x00	0x00

表 3.3 レジスタの説明 (14/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
RTC	-	-	-	RCR1	RTC Control Register 1	0x22	8	read-write	0x00	0x0A
				RCR2	RTC Control Register 2	0x24	8	read-write	0x00	0x0E
				RCR4	RTC Control Register 4	0x28	8	read-write	0x00	0xFE
				RFRH	Frequency Register H	0x2A	16	read-write	0x0000	0xFFFE
				RFRL	Frequency Register L	0x2C	16	read-write	0x0000	0x0000
				RADJ	Time Error Adjustment Register	0x2E	8	read-write	0x00	0x00
	3	0x2	0-2	RTCCR%s	Time Capture Control Register %s	0x40	8	read-write	0x00	0x00
	3	0x10	0-2	RSECCP%s	Second Capture Register %s	0x52	8	read-only	0x00	0x00
	3	0x10	0-2	BCNT0CP%s	BCNT0 Capture Register %s	0x52	8	read-only	0x00	0x00
	3	0x10	0-2	RMINCP%s	Minute Capture Register %s	0x54	8	read-only	0x00	0x00
	3	0x10	0-2	BCNT1CP%s	BCNT1 Capture Register %s	0x54	8	read-only	0x00	0x00
	3	0x10	0-2	RHRCP%s	Hour Capture Register %s	0x56	8	read-only	0x00	0x00
	3	0x10	0-2	BCNT2CP%s	BCNT2 Capture Register %s	0x56	8	read-only	0x00	0x00
	3	0x10	0-2	RDAYCP%s	Date Capture Register %s	0x5A	8	read-only	0x00	0x00
	3	0x10	0-2	BCNT3CP%s	BCNT3 Capture Register %s	0x5A	8	read-only	0x00	0x00
	3	0x10	0-2	RMONCP%s	Month Capture Register %s	0x5C	8	read-only	0x00	0x00
WDT	-	-	-	WDTRR	WDT Refresh Register	0x00	8	read-write	0xFF	0xFF
				WDTCR	WDT Control Register	0x02	16	read-write	0x33F3	0xFFFF
				WDTSR	WDT Status Register	0x04	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				WDTRCR	WDT Reset Control Register	0x06	8	read-write	0x80	0xFF
				WDTCSTPR	WDT Count Stop Control Register	0x08	8	read-write	0x80	0xFF
IWDT	-	-	-	IWDTRR	IWDT Refresh Register	0x00	8	read-write	0xFF	0xFF
				IWDTSR	IWDT Status Register	0x04	16	read-write	0x0000	0xFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (15/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
CAC	-	-	-	CACR0	CAC Control Register 0	0x00	8	read-write	0x00	0xFF
				CACR1	CAC Control Register 1	0x01	8	read-write	0x00	0xFF
				CACR2	CAC Control Register 2	0x02	8	read-write	0x00	0xFF
				CAICR	CAC Interrupt Control Register	0x03	8	read-write	0x00	0xFF
				CASTR	CAC Status Register	0x04	8	read-only	0x00	0xFF
				CAULVR	CAC Upper-Limit Value Setting Register	0x06	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				CALLVR	CAC Lower-Limit Value Setting Register	0x08	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				CACNTBR	CAC Counter Buffer Register	0x0A	16	read-only	0x0000	0xFFFF
MSTP	-	-	-	MSTPCRB	Module Stop Control Register B	0x00	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				MSTPCRC	Module Stop Control Register C	0x04	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				MSTPCRD	Module Stop Control Register D	0x08	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
SRCRAM	5552	0x4	0-5551	SRCFCTR[%s]	Filter Coefficient Table [%s]	0x00	32	read-write	0x00000000	0xFFC00000
SRC	-	-	-	SRCID	Input Data Register	0x00	32	write-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SRCOD	Output Data Register	0x04	32	read-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SRCIDCTRL	Input Data Control Register	0x08	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				SRCODCTRL	Output Data Control Register	0x0A	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				SRCCTRL	Control Register	0x0C	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				SRCSTAT	Status Register	0x0E	16	read-write	0x0002	0xFFFF
SSIE0	-	-	-	SSICR	Control Register	0x00	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SSISR	Status Register	0x04	32	read-write	0x02000013	0x3E00007F
				SSIFCR	FIFO Control Register	0x10	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SSIFSR	FIFO Status Register	0x14	32	read-write	0x00010000	0xFFFFFFFF
SSIE0	-	-	-	SSIFTDR	Transmit FIFO Data Register	0x18	32	write-only	0x00000000	0x00000000
				SSIFRDR	Receive FIFO Data Register	0x1C	32	read-only	0x00000000	0x00000000
				SSIOFR	Audio Format Register	0x20	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SSISCR	Status Control Register	0x24	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (16/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
CAN0,1	32	0x10	0-31	MB%s_ID	Mailbox Register	0x200	32	read-write	0x00000000	0x00000000
	32	0x10	0-31	MB%s_DL	Mailbox Register	0x204	16	read-write	0x0000	0x0000
	32	0x10	0-31	MB%s_D0	Mailbox Register	0x206	8	read-write	0x00	0x00
	32	0x10	0-31	MB%s_D1	Mailbox Register	0x207	8	read-write	0x00	0x00
	32	0x10	0-31	MB%s_D2	Mailbox Register	0x208	8	read-write	0x00	0x00
	32	0x10	0-31	MB%s_D3	Mailbox Register	0x209	8	read-write	0x00	0x00
	32	0x10	0-31	MB%s_D4	Mailbox Register	0x20A	8	read-write	0x00	0x00
	32	0x10	0-31	MB%s_D5	Mailbox Register	0x20B	8	read-write	0x00	0x00
	32	0x10	0-31	MB%s_D6	Mailbox Register	0x20C	8	read-write	0x00	0x00
	32	0x10	0-31	MB%s_D7	Mailbox Register	0x20D	8	read-write	0x00	0x00
	32	0x10	0-31	MB%s_TS	Mailbox Register	0x20E	16	read-write	0x0000	0x0000
	8	0x4	0-7	MKR[%s]	Mask Register	0x400	32	read-write	0x00000000	0x00000000
	2	0x4	0,1	FIDCR%s	FIFO Received ID Compare Registers	0x420	32	read-write	0x00000000	0x00000000
	-	-	-	MKIVLR	Mask Invalid Register	0x428	32	read-write	0x00000000	0x00000000
				MIER	Mailbox Interrupt Enable Register	0x42C	32	read-write	0x00000000	0x00000000
				MIER_FIFO	Mailbox Interrupt Enable Register for FIFO Mailbox Mode	0x42C	32	read-write	0x00000000	0x00000000
	32	0x1	0-31	MCTL_TX[%s]	Message Control Register for Transmit	0x820	8	read-write	0x00	0xFF
	32	0x1	0-31	MCTL_RX[%s]	Message Control Register for Receive	0x820	8	read-write	0x00	0xFF

表 3.3 レジスタの説明 (17/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
CAN0,1	-	-	-	CTLR	Control Register	0x840	16	read-write	0x0500	0xFFFF
				STR	Status Register	0x842	16	read-only	0x0500	0xFFFF
				BCR	Bit Configuration Register	0x844	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				RFCR	Receive FIFO Control Register	0x848	8	read-write	0x80	0xFF
				RFPCR	Receive FIFO Pointer Control Register	0x849	8	write-only	0x00	0x00
				TFCR	Transmit FIFO Control Register	0x84A	8	read-write	0x80	0xFF
				TFPCR	Transmit FIFO Pointer Control Register	0x84B	8	write-only	0x00	0x00
				EIER	Error Interrupt Enable Register	0x84C	8	read-write	0x00	0xFF
				EIFR	Error Interrupt Factor Judge Register	0x84D	8	read-write	0x00	0xFF
				RECR	Receive Error Count Register	0x84E	8	read-only	0x00	0xFF
				TECR	Transmit Error Count Register	0x84F	8	read-only	0x00	0xFF
				ECSR	Error Code Store Register	0x850	8	read-write	0x00	0xFF
				CSSR	Channel Search Support Register	0x851	8	read-write	0x00	0x00
				MSSR	Mailbox Search Status Register	0x852	8	read-only	0x80	0xFF
				MSMR	Mailbox Search Mode Register	0x853	8	read-write	0x00	0xFF
				TSR	Time Stamp Register	0x854	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				AFSR	Acceptance Filter Support Register	0x856	16	read-write	0x0000	0x0000
				TCR	Test Control Register	0x858	8	read-write	0x00	0xFF
IIC0	-	-	-	ICCR1	I2C Bus Control Register 1	0x00	8	read-write	0x1F	0xFF
				ICCR2	I2C Bus Control Register 2	0x01	8	read-write	0x00	0xFF
				ICMR1	I2C Bus Mode Register 1	0x02	8	read-write	0x08	0xFF
				ICMR2	I2C Bus Mode Register 2	0x03	8	read-write	0x06	0xFF

表 3.3 レジスタの説明 (18/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
IIC0	-	-	-	ICMR3	I2C Bus Mode Register 3	0x04	8	read-write	0x00	0xFF
				ICFER	I2C Bus Function Enable Register	0x05	8	read-write	0x72	0xFF
				ICSER	I2C Bus Status Enable Register	0x06	8	read-write	0x09	0xFF
				ICIER	I2C Bus Interrupt Enable Register	0x07	8	read-write	0x00	0xFF
				ICSR1	I2C Bus Status Register 1	0x08	8	read-write	0x00	0xFF
				ICSR2	I2C Bus Status Register 2	0x09	8	read-write	0x00	0xFF
	3	0x2	0-2	SARL%s	Slave Address Register L%s	0x0A	8	read-write	0x00	0xFF
	3	0x2	0-2	SARU%s	Slave Address Register U%s	0x0B	8	read-write	0x00	0xFF
	-	-	-	ICBRL	I2C Bus Bit Rate Low-Level Register	0x10	8	read-write	0xFF	0xFF
				ICBRH	I2C Bus Bit Rate High-Level Register	0x11	8	read-write	0xFF	0xFF
				ICDRT	I2C Bus Transmit Data Register	0x12	8	read-write	0xFF	0xFF
				ICDRR	I2C Bus Receive Data Register	0x13	8	read-only	0x00	0xFF
				ICWUR	I2C Bus Wake Up Unit Register	0x16	8	read-write	0x00	0xFF
				ICWUR2	I2C Bus Wake Up Unit Register 2	0x17	8	read-only	0x03	0xFF
IIC1	-	-	-	ICCR1	I2C Bus Control Register 1	0x00	8	read-write	0x1F	0xFF
				ICCR2	I2C Bus Control Register 2	0x01	8	read-write	0x00	0xFF
				ICMR1	I2C Bus Mode Register 1	0x02	8	read-write	0x08	0xFF
				ICMR2	I2C Bus Mode Register 2	0x03	8	read-write	0x06	0xFF
				ICMR3	I2C Bus Mode Register 3	0x04	8	read-write	0x00	0xFF
				ICFER	I2C Bus Function Enable Register	0x05	8	read-write	0x72	0xFF
				ICSER	I2C Bus Status Enable Register	0x06	8	read-write	0x09	0xFF
				ICIER	I2C Bus Interrupt Enable Register	0x07	8	read-write	0x00	0xFF
				ICSR1	I2C Bus Status Register 1	0x08	8	read-write	0x00	0xFF
IIC1	-	-	-	ICSR2	I2C Bus Status Register 2	0x09	8	read-write	0x00	0xFF
	3	0x2	0-2	SARL%s	Slave Address Register L%s	0x0A	8	read-write	0x00	0xFF
	3	0x2	0-2	SARU%s	Slave Address Register U%s	0x0B	8	read-write	0x00	0xFF
	-	-	-	ICBRL	I2C Bus Bit Rate Low-Level Register	0x10	8	read-write	0xFF	0xFF
				ICBRH	I2C Bus Bit Rate High-Level Register	0x11	8	read-write	0xFF	0xFF
				ICDRT	I2C Bus Transmit Data Register	0x12	8	read-write	0xFF	0xFF
				ICDRR	I2C Bus Receive Data Register	0x13	8	read-only	0x00	0xFF

表 3.3 レジスタの説明 (19/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
DOC	-	-	-	DOCR	DOC Control Register	0x00	8	read-write	0x00	0xFF
				DODIR	DOC Data Input Register	0x02	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				DODSR	DOC Data Setting Register	0x04	16	read-write	0x0000	0xFFFF
ADC120	-	-	-	ADCSR	A/D Control Register	0x000	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADANSA0	A/D Channel Select Register A0	0x004	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADANSA1	A/D Channel Select Register A1	0x006	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADADS0	A/D-Converted Value Addition/Average Channel Select Register 0	0x008	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADADS1	A/D-Converted Value Addition/Average Channel Select Register 1	0x00A	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADADC	A/D-Converted Value Addition/Average Count Select Register	0x00C	8	read-write	0x00	0xFF
				ADCER	A/D Control Extended Register	0x00E	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADSTRGR	A/D Conversion Start Trigger Select Register	0x010	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADEXICR	A/D Conversion Extended Input Control Register	0x012	16	read-write	0x0000	0xFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (20/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
ADC120	-	-	-	ADANSB0	A/D Channel Select Register B0	0x014	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADANSB1	A/D Channel Select Register B1	0x016	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADDBLDR	A/D Data Duplication Register	0x018	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				ADTSDR	A/D Temperature Sensor Data Register	0x01A	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				ADOCDR	A/D Internal Reference Voltage Data Register	0x01C	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				ADRD	A/D Self-Diagnosis Data Register	0x01E	16	read-only	0x0000	0xFFFF
	4	0x2	0-3	ADDR%s	A/D Data Register %s	0x020	16	read-only	0x0000	0xFFFF
	3	0x2	5-7	ADDR%s	A/D Data Register %s	0x02A	16	read-only	0x0000	0xFFFF
	3	0x2	16-18	ADDR%s	A/D Data Register %s	0x040	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				ADDR20	A/D Data Register 20	0x048	16	read-only	0x0000	0xFFFF
	-	-	-	ADSHCR	A/D Sample and Hold Circuit Control Register	0x066	16	read-write	0x0018	0xFFFF
				ADDISCR	A/D Disconnection Detection Control Register	0x07A	8	read-write	0x00	0xFF
				ADSHMSR	A/D Sample and Hold Operation Mode Select Register	0x07C	8	read-write	0x00	0xFF
				ADGSPCR	A/D Group Scan Priority Control Register	0x080	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADDBLDRA	A/D Data Duplication Register A	0x084	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				ADDBLDRB	A/D Data Duplication Register B	0x086	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				ADWINMON	A/D Compare Function Window A/B Status Monitor Register	0x08C	8	read-only	0x00	0xFF
				ADCMPCR	A/D Compare Function Control Register	0x090	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPANSER	A/D Compare Function Window A Extended Input Select Register	0x092	8	read-write	0x00	0xFF

表 3.3 レジスタの説明 (21/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
ADC120	-	-	-	ADCMPLER	A/D Compare Function Window A Extended Input Comparison Condition Setting Register	0x093	8	read-write	0x00	0xFF
				ADCMPANSR0	A/D Compare Function Window A Channel Select Register 0	0x094	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPANSR1	A/D Compare Function Window A Channel Select Register 1	0x096	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPLR0	A/D Compare Function Window A Comparison Condition Setting Register 0	0x098	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPLR1	A/D Compare Function Window A Comparison Condition Setting Register 1	0x09A	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPDR0	A/D Compare Function Window A Lower-Side Level Setting Register	0x09C	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPDR1	A/D Compare Function Window A Upper-Side Level Setting Register	0x09E	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPSR0	A/D Compare Function Window A Channel Status Register 0	0x0A0	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPSR1	A/D Compare Function Window A Channel Status Register 1	0x0A2	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPSER	A/D Compare Function Window A Extended Input Channel Status Register	0x0A4	8	read-write	0x00	0xFF
				ADCMPBNSR	A/D Compare Function Window B Channel Selection Register	0x0A6	8	read-write	0x00	0xFF
ADC120	-	-	-	ADWINLLB	A/D Compare Function Window B Lower-Side Level Setting Register	0x0A8	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADWINULB	A/D Compare Function Window B Upper-Side Level Setting Register	0x0AA	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPBSR	A/D Compare Function Window B Status Register	0x0AC	8	read-write	0x00	0xFF
				ADSSTRL	A/D Sampling State Register L	0x0DD	8	read-write	0x0B	0xFF
				ADSSTRT	A/D Sampling State Register T	0x0DE	8	read-write	0x0B	0xFF
				ADSSTRO	A/D Sampling State Register O	0x0DF	8	read-write	0x0B	0xFF
	4	0x1	0-3	ADSSTR0%s	A/D Sampling State Register %s (Corresponding Channel is AN00%s)	0x0E0	8	read-write	0x0B	0xFF
	3	0x1	5-7	ADSSTR0%s	A/D Sampling State Register %s (Corresponding Channel is AN00%s)	0x0E5	8	read-write	0x0B	0xFF
	-	-	-	ADPGACR	A/D Programmable Gain Amplifier Control Register	0x1A0	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADPGAGS0	A/D Programmable Gain Amplifier Gain Setting Register 0	0x1A2	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADPGADCR0	A/D Programmable Gain Amplifier Differential Input Control Register	0x1B0	16	read-write	0x8888	0xFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (22/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
ADC121	-	-	-	ADCSR	A/D Control Register	0x000	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADANSA0	A/D Channel Select Register A0	0x004	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADANSA1	A/D Channel Select Register A1	0x006	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADADS0	A/D-Converted Value Addition/Average Channel Select Register 0	0x008	16	read-write	0x0000	0xFFFF
ADC121	-	-	-	ADADS1	A/D-Converted Value Addition/Average Channel Select Register 1	0x00A	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADADC	A/D-Converted Value Addition/Average Count Select Register	0x00C	8	read-write	0x00	0xFF
				ADCER	A/D Control Extended Register	0x00E	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADSTRGR	A/D Conversion Start Trigger Select Register	0x010	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADEXICR	A/D Conversion Extended Input Control Register	0x012	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADANSB0	A/D Channel Select Register B0	0x014	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADANSB1	A/D Channel Select Register B1	0x016	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADDBLDR	A/D Data Duplication Register	0x018	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				ADTSDR	A/D Temperature Sensor Data Register	0x01A	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				ADOCDR	A/D Internal Reference Voltage Data Register	0x01C	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				ADRD	A/D Self-Diagnosis Data Register	0x01E	16	read-only	0x0000	0xFFFF
	3	0x2	0-2	ADDR%s	A/D Data Register %s	0x020	16	read-only	0x0000	0xFFFF
	3	0x2	5-7	ADDR%s	A/D Data Register %s	0x02A	16	read-only	0x0000	0xFFFF
	2	0x2	16,17	ADDR%s	A/D Data Register %s	0x040	16	read-only	0x0000	0xFFFF
	-	-	-	ADSHCR	A/D Sample and Hold Circuit Control Register	0x066	16	read-write	0x0018	0xFFFF
				ADDISCR	A/D Disconnection Detection Control Register	0x07A	8	read-write	0x00	0xFF
				ADSHMSR	A/D Sample and Hold Operation Mode Select Register	0x07C	8	read-write	0x00	0xFF
				ADGSPCR	A/D Group Scan Priority Control Register	0x080	16	read-write	0x0000	0xFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (23/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
ADC121	-	-	-	ADDBLDRA	A/D Data Duplication Register A	0x084	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				ADDBLDRB	A/D Data Duplication Register B	0x086	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				ADWINMON	A/D Compare Function Window A/B Status Monitor Register	0x08C	8	read-only	0x00	0xFF
				ADCMPCR	A/D Compare Function Control Register	0x090	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPANSER	A/D Compare Function Window A Extended Input Select Register	0x092	8	read-write	0x00	0xFF
				ADCMPLER	A/D Compare Function Window A Extended Input Comparison Condition Setting Register	0x093	8	read-write	0x00	0xFF
				ADCMPANSR0	A/D Compare Function Window A Channel Select Register 0	0x094	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPANSR1	A/D Compare Function Window A Channel Select Register 1	0x096	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPLR0	A/D Compare Function Window A Comparison Condition Setting Register 0	0x098	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPLR1	A/D Compare Function Window A Comparison Condition Setting Register 1	0x09A	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPDR0	A/D Compare Function Window A Lower-Side Level Setting Register	0x09C	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPDR1	A/D Compare Function Window A Upper-Side Level Setting Register	0x09E	16	read-write	0x0000	0xFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (24/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
ADC121	-	-	-	ADCMPSR0	A/D Compare Function Window A Channel Status Register 0	0x0A0	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPSR1	A/D Compare Function Window A Channel Status Register 1	0x0A2	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPSER	A/D Compare Function Window A Extended Input Channel Status Register	0x0A4	8	read-write	0x00	0xFF
				ADCMPBNSR	A/D Compare Function Window B Channel Selection Register	0x0A6	8	read-write	0x00	0xFF
				ADWINLLB	A/D Compare Function Window B Lower-Side Level Setting Register	0x0A8	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADWINULB	A/D Compare Function Window B Upper-Side Level Setting Register	0x0AA	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADCMPBSR	A/D Compare Function Window B Status Register	0x0AC	8	read-write	0x00	0xFF
				ADSSTRL	A/D Sampling State Register L	0x0DD	8	read-write	0x0B	0xFF
				ADSSTRT	A/D Sampling State Register T	0x0DE	8	read-write	0x0B	0xFF
				ADSSTRO	A/D Sampling State Register O	0x0DF	8	read-write	0x0B	0xFF
	3	0x1	0-2	ADSSTR0%s	A/D Sampling State Register %s (Corresponding Channel is AN10%s)	0x0E0	8	read-write	0x0B	0xFF
	3	0x1	5-7	ADSSTR0%s	A/D Sampling State Register %s (Corresponding Channel is AN10%s)	0x0E5	8	read-write	0x0B	0xFF
	-	-	-	ADPGACR	A/D Programmable Gain Amplifier Control Register	0x1A0	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				ADPGAGS0	A/D Programmable Gain Amplifier Gain Setting Register 0	0x1A2	16	read-write	0x0000	0xFFFF
ADC121	-	-	-	ADPGADCR0	A/D Programmable Gain Amplifier Differential Input Control Register	0x1B0	16	read-write	0x8888	0xFFFF
TSN	-	-	-	TSCR	Temperature Sensor Control Register	0x00	8	read-write	0x00	0xFF
DAC12	2	0x2	0,1	DADR%s	D/A Data Register %s	0x00	16	read-write	0x0000	0xFFFF
DAC12	-	-	-	DACR	D/A Control Register	0x0004	8	read-write	0x1F	0xFF
				DADPR	DADRm Format Select Register	0x0005	8	read-write	0x00	0xFF
				DAADSCR	D/A-A/D Synchronous Start Control Register	0x0006	8	read-write	0x00	0xFF
				DAAMPCR	D/A Output Amplifier Control Register	0x0008	8	read-write	0x00	0xFF
				DAASWCR	D/A Amplifier Stabilization Wait Control Register	0x001C	8	read-write	0x00	0xFF
				DAADUSR	D/A A/D Synchronous Unit Select Register	0x10C0	8	read-write	0x00	0xFF

表 3.3 レジスタの説明 (25/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
SDHI0,1	-	-	-	SD_CMD	Command Type Register	0x000	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SD_ARG	SD Command Argument Register	0x008	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SD_ARG1	SD Command Argument Register 1	0x00C	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SD_STOP	Data Stop Register	0x010	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SD_SECCNT	Block Count Register	0x014	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SD_RSP10	SD Card Response Register 10	0x018	32	read-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SD_RSP1	SD Card Response Register 1	0x01C	32	read-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SD_RSP32	SD Card Response Register 32	0x020	32	read-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SD_RSP3	SD Card Response Register 3	0x024	32	read-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SD_RSP54	SD Card Response Register 54	0x028	32	read-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SD_RSP5	SD Card Response Register 5	0x02C	32	read-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
SDHI0,1	-	-	-	SD_RSP76	SD Card Response Register 76	0x030	32	read-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SD_RSP7	SD Card Response Register 7	0x034	32	read-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SD_INFO1	SD Card Interrupt Flag Register 1	0x038	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFB5F
				SD_INFO2	SD Card Interrupt Flag Register 2	0x03C	32	read-write	0x00002000	0xFFFFFF7F
				SD_INFO1_MASK	SD_INFO1 Interrupt Mask Register	0x040	32	read-write	0x0000031D	0xFFFFFFFF
				SD_INFO2_MASK	SD_INFO2 Interrupt Mask Register	0x044	32	read-write	0x00008B7F	0xFFFFFFFF
				SD_CLK_CTRL	SD Clock Control Register	0x048	32	read-write	0x00000020	0xFFFFFFFF
				SD_SIZE	Transfer Data Length Register	0x04C	32	read-write	0x00000200	0xFFFFFFFF
				SD_OPTION	SD Card Access Control Option Register	0x050	32	read-write	0x000040EE	0xFFFFFFFF
				SD_ERR_STS1	SD Error Status Register 1	0x058	32	read-only	0x00002000	0xFFFFFFFF
				SD_ERR_STS2	SD Error Status Register 2	0x05C	32	read-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SD_BUF0	SD Buffer Register	0x060	32	read-write	0x00000000	0x00000000
				SDIO_MODE	SDIO Mode Control Register	0x068	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SDIO_INFO1	SDIO Interrupt Flag Register 1	0x06C	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFF9
				SDIO_INFO1_MASK	SDIO_INFO1 Interrupt Mask Register	0x070	32	read-write	0x0000C007	0xFFFFFFFF
				SD_DMAEN	DMA Mode Enable Register	0x1B0	32	read-write	0x00001010	0xFFFFFFFF
				SOFT_RST	Software Reset Register	0x1C0	32	read-write	0x00000007	0xFFFFFFFF
				SDIF_MODE	SD Interface Mode Setting Register	0x1CC	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				EXT_SWAP	Swap Control Register	0x1E0	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (26/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
SCI0-4,8,9	-	-	-	SMR	Serial Mode Register (SCMR.SMIF = 0)	0x00	8	read-write	0x00	0xFF
				SMR_SMCI	Serial mode register (SCMR.SMIF = 1)	0x00	8	read-write	0x00	0xFF
				BRR	Bit Rate Register	0x01	8	read-write	0xFF	0xFF
SCI0-4,8,9	-	-	-	SCR	Serial Control Register (SCMR.SMIF = 0)	0x02	8	read-write	0x00	0xFF
				SCR_SMCI	Serial Control Register (SCMR.SMIF =1)	0x02	8	read-write	0x00	0xFF
				TDR	Transmit Data Register	0x03	8	read-write	0xFF	0xFF
				SSR	Serial Status Register (SCMR.SMIF = 0 and FCR.FM=0)	0x04	8	read-write	0x84	0xFF
				SSR_FIFO	Serial Status Register (SCMR.SMIF = 0 and FCR.FM=1)	0x04	8	read-write	0x80	0xFD
				SSR_SMCI	Serial Status Register (SCMR.SMIF = 1)	0x04	8	read-write	0x84	0xFF
				RDR	Receive Data Register	0x05	8	read-only	0x00	0xFF
				SCMR	Smart Card Mode Register	0x06	8	read-write	0xF2	0xFF
				SEMR	Serial Extended Mode Register	0x07	8	read-write	0x00	0xFF
				SNFR	Noise Filter Setting Register	0x08	8	read-write	0x00	0xFF
				SIMR1	I2C Mode Register 1	0x09	8	read-write	0x00	0xFF
				SIMR2	I2C Mode Register 2	0x0A	8	read-write	0x00	0xFF
				SIMR3	I2C Mode Register 3	0x0B	8	read-write	0x00	0xFF
				SISR	I2C Status Register	0x0C	8	read-only	0x00	0xCB
				SPMR	SPI Mode Register	0x0D	8	read-write	0x00	0xFF
				TDRHL	Transmit 9-bit Data Register	0x0E	16	read-write	0xFFFF	0xFFFF
				FTDRHL	Transmit FIFO Data Register HL	0x0E	16	write-only	0xFFFF	0xFFFF
				FTDRH	Transmit FIFO Data Register H	0x0E	8	write-only	0xFF	0xFF
				FTDRL	Transmit FIFO Data Register L	0x0F	8	write-only	0xFF	0xFF
				RDRHL	Receive 9-bit Data Register	0x10	16	read-only	0x0000	0xFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (27/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
SCI0-4,8,9	-	-	-	FRDRHL	Receive FIFO Data Register HL	0x10	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				FRDRH	Receive FIFO Data Register H	0x10	8	read-only	0x00	0xFF
				FRDRL	Receive FIFO Data Register L	0x11	8	read-only	0x00	0xFF
				MDDR	Modulation Duty Register	0x12	8	read-write	0xFF	0xFF
				DCCR	Data Compare Match Control Register	0x13	8	read-write	0x40	0xFF
				FCR	FIFO Control Register	0x14	16	read-write	0xF800	0xFFFF
				FDR	FIFO Data Count Register	0x16	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				LSR	Line Status Register	0x18	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				CDR	Compare Match Data Register	0x1A	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				SPTR	Serial Port Register	0x1C	8	read-write	0x03	0xFF
IRDA	-	-	-	IRCR	IrDA Control Register	0x00	8	read-write	0x00	0xFF
SPI0,1	-	-	-	SPCR	SPI Control Register	0x00	8	read-write	0x00	0xFF
				SSLP	SPI Slave Select Polarity Register	0x01	8	read-write	0x00	0xFF
				SPPCR	RSPI Pin Control Register	0x02	8	read-write	0x00	0xFF
				SPSR	SPI Status Register	0x03	8	read-write	0x20	0xFF
				SPDR	SPI Data Register	0x04	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SPDR_HA	SPI Data Register (halfword access)	0x04	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				SPSCR	SPI Sequence Control Register	0x08	8	read-write	0x00	0xFF
				SPSSR	SPI Sequence Status Register	0x09	8	read-only	0x00	0xFF
				SPBR	SPI Bit Rate Register	0x0A	8	read-write	0xFF	0xFF
				SPDCR	SPI Data Control Register	0x0B	8	read-write	0x00	0xFF
				SPCKD	SPI Clock Delay Register	0x0C	8	read-write	0x00	0xFF
SPI0,1	-	-	-	SSLND	SPI Slave Select Negation Delay Register	0x0D	8	read-write	0x00	0xFF
				SPND	SPI Next-Access Delay Register	0x0E	8	read-write	0x00	0xFF
				SPCR2	SPI Control Register 2	0x0F	8	read-write	0x00	0xFF
	8	0x2	0-7	SPCMD%s	SPI Command Register %s	0x10	16	read-write	0x070D	0xFFFF
	-	-	-	SPDCR2	SPI Data Control Register 2	0x20	8	read-write	0x00	0xFF

表 3.3 レジスタの説明 (28/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
CRC	-	-	-	CRCCR0	CRC Control Register0	0x00	8	read-write	0x00	0xFF
				CRCCR1	CRC Control Register1	0x01	8	read-write	0x00	0xFF
				CRCDIR	CRC Data Input Register	0x04	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				CRCDIR_BY	CRC Data Input Register (byte access)	0x04	8	read-write	0x00	0xFF
				CRCDOR	CRC Data Output Register	0x08	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				CRCDOR_HA	CRC Data Output Register (halfword access)	0x08	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				CRCDOR_BY	CRC Data Output Register (byte access)	0x08	8	read-write	0x00	0xFF
				CRCSAR	Snoop Address Register	0x0C	16	read-write	0x0000	0xFFFF
GPT32EH0-3,GPT32E4-7	-	-	-	GTWP	General PWM Timer Write-Protection Register	0x00	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTSTR	General PWM Timer Software Start Register	0x04	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTSTP	General PWM Timer Software Stop Register	0x08	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTCLR	General PWM Timer Software Clear Register	0x0C	32	write-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTSSR	General PWM Timer Start Source Select Register	0x10	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (29/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
GPT32EH0-3,GPT32E4-7	-	-	-	GTPSR	General PWM Timer Stop Source Select Register	0x14	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTCSR	General PWM Timer Clear Source Select Register	0x18	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTUPSR	General PWM Timer Up Count Source Select Register	0x1C	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTDNSR	General PWM Timer Down Count Source Select Register	0x20	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTICASR	General PWM Timer Input Capture Source Select Register A	0x24	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTICBSR	General PWM Timer Input Capture Source Select Register B	0x28	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTCR	General PWM Timer Control Register	0x2C	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTUDDTYC	General PWM Timer Count Direction and Duty Setting Register	0x30	32	read-write	0x00000001	0xFFFFFFFF
				GTIOR	General PWM Timer I/O Control Register	0x34	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTINTAD	General PWM Timer Interrupt Output Setting Register	0x38	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTST	General PWM Timer Status Register	0x3C	32	read-write	0x00008000	0xFFFFFFFF
				GTBER	General PWM Timer Buffer Enable Register	0x40	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTITC	General PWM Timer Interrupt and A/D Converter Start Request Skipping Setting Register	0x44	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTCNT	General PWM Timer Counter	0x48	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTCCRA	General PWM Timer Compare Capture Register A	0x4C	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTCCRB	General PWM Timer Compare Capture Register B	0x50	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (30/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
GPT32EH0-3,GPT32E4-7	-	-	-	GTCCRC	General PWM Timer Compare Capture Register C	0x54	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTCCRE	General PWM Timer Compare Capture Register E	0x58	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTCCRD	General PWM Timer Compare Capture Register D	0x5C	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTCCRF	General PWM Timer Compare Capture Register F	0x60	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTPR	General PWM Timer Cycle Setting Register	0x64	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTPBR	General PWM Timer Cycle Setting Buffer Register	0x68	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTPDBR	General PWM Timer Cycle Setting Double-Buffer Register	0x6C	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTADTRA	A/D Converter Start Request Timing Register A	0x70	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTADTBRA	A/D Converter Start Request Timing Buffer Register A	0x74	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTADTDBRA	A/D Converter Start Request Timing Double-Buffer Register A	0x78	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTADTRB	A/D Converter Start Request Timing Register B	0x7C	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTADTBRB	A/D Converter Start Request Timing Buffer Register B	0x80	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTADTDBRB	A/D Converter Start Request Timing Double-Buffer Register B	0x84	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTDTCR	General PWM Timer Dead Time Control Register	0x88	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTDVU	General PWM Timer Dead Time Value Register U	0x8C	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
GPT32EH0-3,GPT32E4-7	-	-	-	GTDVD	General PWM Timer Dead Time Value Register D	0x90	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTDBU	General PWM Timer Dead Time Buffer Register U	0x94	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTDBD	General PWM Timer Dead Time Buffer Register D	0x98	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTSOS	General PWM Timer Output Protection Function Status Register	0x9C	32	read-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTSOTR	General PWM Timer Output Protection Function Temporary Release Register	0xA0	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (31/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
GPT328-GPT3212	-	-	-	GTWP	General PWM Timer Write-Protection Register	0x00	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTSTR	General PWM Timer Software Start Register	0x04	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTSTP	General PWM Timer Software Stop Register	0x08	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTCLR	General PWM Timer Software Clear Register	0x0C	32	write-only	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTSSR	General PWM Timer Start Source Select Register	0x10	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTPSR	General PWM Timer Stop Source Select Register	0x14	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTCSR	General PWM Timer Clear Source Select Register	0x18	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTUPSR	General PWM Timer Up Count Source Select Register	0x1C	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTDNSR	General PWM Timer Down Count Source Select Register	0x20	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTICASR	General PWM Timer Input Capture Source Select Register A	0x24	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (32/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
GPT328-GPT3212	-	-	-	GTICBSR	General PWM Timer Input Capture Source Select Register B	0x28	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTCR	General PWM Timer Control Register	0x2C	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTUDDTYC	General PWM Timer Count Direction and Duty Setting Register	0x30	32	read-write	0x00000001	0xFFFFFFFF
				GTIOR	General PWM Timer I/O Control Register	0x34	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTINTAD	General PWM Timer Interrupt Output Setting Register	0x38	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTST	General PWM Timer Status Register	0x3C	32	read-write	0x00008000	0xFFFFFFFF
				GTBER	General PWM Timer Buffer Enable Register	0x40	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTCNT	General PWM Timer Counter	0x48	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				GTCCRA	General PWM Timer Compare Capture Register A	0x4C	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTCCRB	General PWM Timer Compare Capture Register B	0x50	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTCCRC	General PWM Timer Compare Capture Register C	0x54	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTCCRE	General PWM Timer Compare Capture Register E	0x58	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTCCRD	General PWM Timer Compare Capture Register D	0x5C	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTCCRF	General PWM Timer Compare Capture Register F	0x60	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTPR	General PWM Timer Cycle Setting Register	0x64	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTPBR	General PWM Timer Cycle Setting Buffer Register	0x68	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
				GTDTCR	General PWM Timer Dead Time Control Register	0x88	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
GPT328-GPT3212	-	-	-	GTDVU	General PWM Timer Dead Time Value Register U	0x8C	32	read-write	0xFFFFFFFF	0xFFFFFFFF
GPT32EH0-3,GPT32E4-7	-	-	-	OPSCR	Output Phase Switching Control Register	0x00	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
GPT_ODC	-	-	-	GTDLYCR	PWM Output Delay Control Register	0x00	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				GTDLYCR2	PWM Output Delay Control Register2	0x02	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	4	0x4	0-3	GTDLYR%sA	GTIOC%sA Rising Output Delay Register	0x18	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	4	0x4	0-3	GTDLYR%sB	GTIOC%sB Rising Output Delay Register	0x1A	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	4	0x4	0-3	GTDLYF%sA	GTIOC%sA Falling Output Delay Register	0x28	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	4	0x4	0-3	GTDLYF%sB	GTIOC%sB Falling Output Delay Register	0x2A	16	read-write	0x0000	0xFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (33/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
KINT	-	-	-	KRCTL	KEY Return Control Register	0x00	8	read-write	0x00	0xFF
				KRF	KEY Return Flag Register	0x04	8	read-write	0x00	0xFF
				KRM	KEY Return Mode Register	0x08	8	read-write	0x00	0xFF
CTSU	-	-	-	CTSUCR0	CTSU Control Register 0	0x00	8	read-write	0x00	0xFF
				CTSUCR1	CTSU Control Register 1	0x01	8	read-write	0x00	0xFF
				CTSUSDPRS	CTSU Synchronous Noise Reduction Setting Register	0x02	8	read-write	0x00	0xFF
				CTSUSST	CTSU Sensor Stabilization Wait Control Register	0x03	8	read-write	0x00	0xFF
				CTSUMCH0	CTSU Measurement Channel Register 0	0x04	8	read-write	0x1F	0xFF
				CTSUMCH1	CTSU Measurement Channel Register 1	0x05	8	read-only	0x1F	0xFF
				CTSUCHAC0	CTSU Channel Enable Control Register 0	0x06	8	read-write	0x00	0xFF
CTSU	-	-	-	CTSUCHAC1	CTSU Channel Enable Control Register 1	0x07	8	read-write	0x00	0xFF
				CTSUCHTRC1	CTSU Channel Transmit/ Receive Control Register 1	0x0C	8	read-write	0x00	0xFF
				CTSUDCLKC	CTSU High-Pass Noise Reduction Control Register	0x10	8	read-write	0x00	0xFF
				CTSUST	CTSU Status Register	0x11	8	read-write	0x00	0xFF
				CTSUSSC	CTSU High-Pass Noise Reduction Spectrum Diffusion Control Register	0x12	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				CTSUSO0	CTSU Sensor Offset Register 0	0x14	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				CTSUSO1	CTSU Sensor Offset Register 1	0x16	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				CTSUSC	CTSU Sensor Counter	0x18	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				CTSURC	CTSU Reference Counter	0x1A	16	read-only	0x0000	0xFFFF
				CTSUERRS	CTSU Error Status Register	0x1C	16	read-only	0x0000	0x7FFF
AGT0,1	-	-	-	AGT	AGT Counter Register	0x00	16	read-write	0xFFFF	0xFFFF
				AGTCMA	AGT Compare Match A Register	0x02	16	read-write	0xFFFF	0xFFFF
				AGTCMB	AGT Compare Match B Register	0x04	16	read-write	0xFFFF	0xFFFF
				AGTCR	AGT Control Register	0x08	8	read-write	0x00	0xFF
				AGTMR1	AGT Mode Register 1	0x09	8	read-write	0x00	0xFF
				AGTMR2	AGT Mode Register 2	0x0A	8	read-write	0x00	0xFF
				AGTIOC	AGT I/O Control Register	0x0C	8	read-write	0x00	0xFF
				AGTISR	AGT Event Pin Select Register	0x0D	8	read-write	0x00	0xFF
				AGTCMSR	AGT Compare Match Function Select Register	0x0E	8	read-write	0x00	0xFF
				AGTIOSEL	AGT Pin Select Register	0x0F	8	read-write	0x00	0xFF

表 3.3 レジスタの説明 (34/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
ACMPHS0	-	-	-	CMPCTL	Comparator Control Register	0x000	8	read-write	0x00	0xFF
				CMPSEL0	Comparator Input Select Register	0x004	8	read-write	0x00	0xFF
				CMPSEL1	Comparator Reference Voltage Select Register	0x008	8	read-write	0x00	0xFF
				CMPMON	Comparator Output Monitor Register	0x00C	8	read-only	0x00	0xFF
				CPIOC	Comparator Output Control Register	0x010	8	read-write	0x00	0xFF
ACMPHS1-5	-	-	-	CMPCTL	Comparator Control Register	0x000	8	read-write	0x00	0xFF
				CMPSEL0	Comparator Input Select Register	0x004	8	read-write	0x00	0xFF
				CMPSEL1	Comparator Reference Voltage Select Register	0x008	8	read-write	0x00	0xFF
				CMPMON	Comparator Output Monitor Register	0x00C	8	read-only	0x00	0xFF
				CPIOC	Comparator Output Control Register	0x010	8	read-write	0x00	0xFF
USBFS	-	-	-	SYSCFG	System Configuration Control Register	0x000	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				SYSSTS0	System Configuration Status Register 0	0x004	16	read-only	0x0000	0x0000
				DVSTCTR0	Device State Control Register 0	0x008	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				CFIFO	CFIFO Port Register	0x014	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				CFIFOL	CFIFO Port Register L	0x014	8	read-write	0x00	0xFF
				D0FIFO	D0FIFO Port Register	0x018	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				D0FIFOL	D0FIFO Port Register L	0x018	8	read-write	0x00	0xFF
				D1FIFO	D1FIFO Port Register	0x01C	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				D1FIFOL	D1FIFO Port Register L	0x01C	8	read-write	0x00	0xFF
				CFIFOSEL	CFIFO Port Select Register	0x020	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				CFIFOCTR	CFIFO Port Control Register	0x022	16	read-write	0x0000	0xFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (35/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
USBFS	-	-	-	D0FIFOSEL	D0FIFO Port Select Register	0x028	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				D0FIFOCTR	D0FIFO Port Control Register	0x02A	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				D1FIFOSEL	D1FIFO Port Select Register	0x02C	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				D1FIFOCTR	D1FIFO Port Control Register	0x02E	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				INTENB0	Interrupt Enable Register 0	0x030	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				INTENB1	Interrupt Enable Register 1	0x032	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				BRDYENB	BRDY Interrupt Enable Register	0x036	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				NRDYENB	NRDY Interrupt Enable Register	0x038	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				BEMPENB	BEMP Interrupt Enable Register	0x03A	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				SOFCFG	SOF Output Configuration Register	0x03C	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				INTSTS0	Interrupt Status Register 0	0x040	16	read-write	0x0000	0xFF7F
				INTSTS1	Interrupt Status Register 1	0x042	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				BRDYSTS	BRDY Interrupt Status Register	0x046	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				NRDYSTS	NRDY Interrupt Status Register	0x048	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				BEMPSTS	BEMP Interrupt Status Register	0x04A	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				FRMNUM	Frame Number Register	0x04C	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				DVCHGR	Device State Change Register	0x04E	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				USBADDR	USB Address Register	0x050	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				USBREQ	USB Request Type Register	0x054	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				USBVAL	USB Request Value Register	0x056	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				USBINDX	USB Request Index Register	0x058	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				USBLENG	USB Request Length Register	0x05A	16	read-write	0x0000	0xFFFF

表 3.3 レジスタの説明 (36/36)

周辺機能	Dim	Dim incr	Dim index	レジスタ名	説明	アドレスオフセット	サイズ	アクセス	リセット値	リセットマスク
USBFS	-	-	-	DCPCFG	DCP Configuration Register	0x05C	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				DCPMAXP	DCP Maximum Packet Size Register	0x05E	16	read-write	0x0040	0xFFFF
				DCPCTR	DCP Control Register	0x060	16	read-write	0x0040	0xFFFF
				PIPESEL	Pipe Window Select Register	0x064	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				PIPECFG	Pipe Configuration Register	0x068	16	read-write	0x0000	0xFFFF
				PIPEMAXP	Pipe Maximum Packet Size Register	0x06C	16	read-write	0x0000	0xFFBF
				PIPEPERI	Pipe Cycle Control Register	0x06E	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	5	0x002	1-5	PIPE%sCTR	Pipe %s Control Register	0x070	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	4	0x002	6-9	PIPE%sCTR	Pipe %s Control Register	0x07A	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	5	0x004	1-5	PIPE%sTRE	Pipe %s Transaction Counter Enable Register	0x090	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	5	0x004	1-5	PIPE%sTRN	Pipe %s Transaction Counter Register	0x092	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	6	0x002	0-5	DEVADD%s	Device Address %s Configuration Register	0x0D0	16	read-write	0x0000	0xFFFF
	-	-	-	PHYSLEW	PHY Cross Point Adjustment Register	0x0F0	32	read-write	0x0000000E	0xFF4CFFFF
				DPUSR0R	Deep Software Standby USB Transceiver Control/ Pin Monitor Register	0x400	32	read-write	0x00000000	0xFF4CFFFF
				DPUSR1R	Deep Software Standby USB Suspend/Resume Interrupt Register	0x404	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
TSD	-	-	-	TSCDR	Temperature Sensor Calibration Data Register	0x00	32	read-only	0x00000000	0xFFFFF000
QSPI	-	-	-	SFMSMD	Transfer Mode Control Register	0x000	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SFMSSC	Chip Selection Control Register	0x004	32	read-write	0x00000037	0xFFFFFFFF
				SFMSKC	Clock Control Register	0x008	32	read-write	0x00000008	0xFFFFFFFF
				SFMSST	Status Register	0x00C	32	read-only	0x00000080	0xFFFFFFFF
QSPI	-	-	-	SFMCOM	Communication Port Register	0x010	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFF00
				SFMCMD	Communication Mode Control Register	0x014	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SFMCST	Communication Status Register	0x018	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SFMSIC	Instruction Code Register	0x020	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SFMSAC	Address Mode Control Register	0x024	32	read-write	0x00000002	0xFFFFFFFF
				SFMSDC	Dummy Cycle Control Register	0x028	32	read-write	0x0000FF00	0xFFFFFFFF
				SFMSPC	SPI Protocol Control Register	0x030	32	read-write	0x00000010	0xFFFFFFFF
				SFMPMD	Port Control Register	0x034	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF
				SFMCNT1	External QSPI Address Register 1	0x804	32	read-write	0x00000000	0xFFFFFFFF

周辺機能名 = 周辺機能の名称
Dim = レジスタ配列の要素数
Dim inc = アドレスマップにおいてアドレス配列の 2 つの隣接するレジスタ間のアドレスインクリメントを示します。
Dim index = レジスタ名においてプレースホルダー「%s」を置き換えるサブストリングを示します。
レジスタ名 = レジスタの名称
説明 = レジスタの説明
アドレスオフセット = レジスタの周辺機能により定義されるベースアドレスに関連するレジスタアドレス
サイズ = レジスタのビット幅
アクセス = レジスタアクセス権：
　read-only：読み出しのみ可能。書き込みを行うと結果は不定です。
　write-only：書き込みのみ可能。読み出しを行うと結果は不定です。
　read-write：読み出し、書き込みともに可能。書き込みを行うとレジスタの状態に影響を与え、読み出しを行うとレジスタに関連する値が返されます。
リセット値 = レジスタのデフォルトのリセット値
リセットマスク = レジスタのどのビットにリセット値が定義されているのかを特定します。

改訂記録	RA6M1 グループユーザーズマニュアル　ハードウェア編

Rev.	発行日	章	改訂内容
1.00	2020.03.24	—	初版発行
1.10	2022.06.30	—	第1.10版発行
		特長	■ タイマの説明を更新
			■ 動作温度およびパッケージの説明を更新
		1.　概要	表 1.7　タイマの低消費電力非同期汎用タイマ（AGT）を更新
			表 1.9　アナログの12ビットA/Dコンバータ（ADC12）の説明を更新
			表 1.13　I/Oポートを追加
			図 1.2　型名の読み方を更新
			表 1.14　製品一覧のアナログの説明を更新
			表 1.15　機能の比較を更新
			表 1.16　端子機能のADC12の説明を更新
			1.7　端子一覧を更新
		2.　CPU	2.1.3　動作周波数の説明を更新
			2.6.4.2　デバッグストップコントロールレジスタ（DBGSTOPCR）の説明を更新
			2.11.3.2　OCDモードにおける低消費電力モードの切り替えの説明を更新
			2.11.3.4　接続順序とJTAG/SWD認証の説明を更新
		4.　アドレス空間	図 4.1　メモリマップを更新
		5.　メモリミラー機能（MMF）	図 5.1　MMF動作を更新
			図 5.2　MMFブロック図を更新
		7.　オプション設定メモリ	7.2.1　オプション機能選択レジスタ0（OFS0）の説明を更新
			7.2.2　オプション機能選択レジスタ1（OFS1）の説明を更新
			図 7.2　アクセスウィンドウの概要を更新
			表 7.1　IDコードプロテクト機能の仕様を更新
			7.3.2　オプション設定メモリにプログラムするデータの設定方法の説明を更新
		8.　低電圧検出（LVD）	図 8.1　電圧検出0、1、2回路のブロック図を更新
			8.2.3　電圧モニタ2回路コントロールレジスタ1（LVD2CR1）の説明を更新
			図 8.4　電圧監視0リセットの動作例を更新
			表 8.4　電圧監視1割り込み、電圧監視1リセット関連ビットの動作設定手順を更新
			表 8.6　電圧監視2割り込み、電圧監視2リセット関連ビットの動作設定手順を更新
			表 8.7　電圧監視2割り込み、電圧監視2リセット関連ビットの停止設定手順を更新
		9.　クロック発生回路	図 9.1　クロック発生回路のブロック図を更新
			9.2.7　メインクロック発振器コントロールレジスタ（MOSCCR）の説明を更新
			9.2.8　サブクロック発振器コントロールレジスタ（SOSCCR）の説明を更新
			9.2.9　低速オンチップオシレータコントロールレジスタ（LOCOCR）の説明を更新
			9.2.10　高速オンチップオシレータコントロールレジスタ（HOCOCR）の説明を更新
			9.2.11　高速オンチップオシレータウェイトコントロールレジスタ（HOCOWTCR）の説明を更新
			図 9.4　FLL設定フロー（リセット解除後／ディープソフトウェアスタンバイモード解除後）を更新
			図 9.5　ソフトウェアスタンバイモード遷移／解除フローを更新
			9.2.15　発振安定フラグレジスタ（OSCSF）の説明を更新
			9.2.17　発振停止検出ステータスレジスタ（OSTDSR）の説明を更新
			9.2.18　メインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタ（MOSCWTCR）の説明を更新
			9.2.19　メインクロック発振器モード発振コントロールレジスタ（MOMCR）の説明を更新
			9.7.1　システムクロック（ICLK）の説明を更新
			図 9.14　クロックソース切り替えタイミング図を更新
			9.7.2　周辺モジュールクロック（PCLKA、PCLKB、PCLKC、PCLKD）の説明を更新
			9.7.3　フラッシュインタフェースクロック（FCLK）の説明を更新
			9.7.4　外部バスクロック（BCLK）の説明を更新
			9.7.11　SysTickタイマ専用クロック（SYSTICCLK）の説明を更新

Rev.	発行日	章	改訂内容
1.10	2022.06.30	9. クロック発生回路	9.7.12 クロック／ブザー出力クロック（CLKOUT）の説明を更新
			9.8.5 サブクロック発振器使用時の注意事項（LGAパッケージ）の説明を更新
			9.8.6 メインクロック発振器駆動能力自動切り替え機能に関する注意事項の説明を更新
		11. 低消費電力モード	表 11.1 低消費電力モード機能の仕様を更新
			表 11.2 各低消費電力モードの動作状態を更新
			11.2.1 スタンバイコントロールレジスタ（SBYCR）の説明を更新
			11.2.5 モジュールストップコントロールレジスタD（MSTPCRD）の説明を更新
			11.5.1 動作電力制御モードの設定方法の説明を更新
			11.6.2 スリープモードの解除の説明を更新
			11.7.3 ソフトウェアスタンバイモードの応用例の説明を更新
			図 11.4 ソフトウェアスタンバイモードの応用例を更新
			図 11.9 スヌーズモードエントリでSCI0を使用するための設定例を更新
			11.9.1 ディープソフトウェアスタンバイモードへの遷移の説明を更新
			11.9.4 ディープソフトウェアスタンバイモードの応用例の説明を更新
		12. バッテリバックアップ機能	12.1.3 バックアップレジスタの説明を更新
		14. 割り込みコントローラユニット（ICU）	図 14.1 ICUのブロック図を更新
			14.2.1 IRQコントロールレジスタi（IRQCRi）（i = 0～13）の説明を更新
			14.2.2 ノンマスカブル割り込みステータスレジスタ（NMISR）の説明を更新
			14.2.3 ノンマスカブル割り込みイネーブルレジスタ（NMIER）の説明を更新
			14.2.4 ノンマスカブル割り込みステータスクリアレジスタ（NMICLR）の説明を更新
			14.2.5 NMI端子割り込みコントロールレジスタ（NMICR）の説明を更新
			14.2.8 SYSイベントリンク設定レジスタ（SELSR0）の説明を更新
			表 14.4 イベントテーブルを更新
			表 14.5 DTCが起動するときの動作を更新
			14.4.2.3 DMACの起動の説明を更新
		16. メモリプロテクションユニット（MPU）	16.2.1.7 スタックポインタモニタ保護レジスタ（MSPMPUPT, PSPMPUPT）の説明を更新
			16.4.1.3 グループA 領域n アクセスコントロールレジスタ（MMPUACAn）（n = 0～31）の説明を更新
			16.4.1.5 グループA レジスタ保護（MMPUPTA）の説明を更新
			16.6.1.1 セキュリティ MPU プログラムカウンタ開始アドレスレジスタ（SECMPUPCSn）（n = 0, 1）の説明を更新
		19. イベントリンクコントローラ（ELC）	19.4.4 ELC 遅延時間の説明を更新
		20. I/O ポート	表 20.2 I/Oポートの機能を更新
			20.2.1 ポートコントロールレジスタ1（PCNTR1/PODR/PDR）の説明を更新
			20.2.2 ポートコントロールレジスタ2（PCNTR2/EIDR/PIDR）の説明を更新
			20.2.3 ポートコントロールレジスタ3（PCNTR3/PORR/POSR）の説明を更新
			20.3.2 ポート機能選択の説明を更新
			表 20.3 未使用端子の処理を更新
			20.5.3 ポート出力データレジスタ（PODR）の概要の説明を更新
			表 20.5 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート0）を更新
			表 20.6 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート0）を更新
			表 20.7 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート1）を更新
			表 20.8 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート1）を更新
			表 20.9 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート2）を更新
			表 20.10 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート2）を更新
			表 20.11 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート3）を更新
			表 20.12 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート4）を更新
			表 20.13 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート4）を更新
			表 20.14 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート5）を更新
			表 20.15 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート6）を更新
			表 20.16 入出力端子機能のレジスタ設定（ポート7）を更新
		21. キー割り込み機能（KINT）	図 21.1 キー割り込み機能のブロック図の注釈文を更新
			21.3.2 キー割り込みフラグを使用する場合の動作（KRMD = 1）の説明を更新

Rev.	発行日	章	改訂内容
1.10	2022.06.30	22. GPT用ポートアウトプットイネーブル（POEG）	22.3 出力禁止制御の動作の説明を更新
			22.3.1.1 デジタルフィルタの説明を更新
			22.4 割り込み要因の説明を更新
			22.5 GPTに対する外部トリガ出力の説明を更新
			図 22.4 GPTに対する外部トリガ出力のタイミングを更新
		23. 汎用PWMタイマ（GPT）	表 23.2 GPTの機能一覧を更新
			図 23.1 GPTのブロック図を更新
			23.2.8 汎用PWMタイマアップカウント要因選択レジスタ（GTUPSR）の説明を更新
			23.2.9 汎用PWMタイマダウンカウント要因選択レジスタ（GTDNSR）の説明を更新
			23.2.12 汎用PWMタイマコントロールレジスタ（GTCR）の説明を更新
			23.2.13 汎用PWMタイマカウント方向、デューティ設定レジスタ（GTUDDTYC）の説明を更新
			23.2.14 汎用PWMタイマI/Oコントロールレジスタ（GTIOR）の説明を更新
			表 23.5 GTIOA[4:0]ビットとGTIOB[4:0]ビットの設定値の注釈文を更新
			23.2.17 汎用PWMタイマバッファイネーブルレジスタ（GTBER）の説明を更新
			23.2.18 汎用PWMタイマ割り込み、A/D変換開始要求間引き設定レジスタ（GTITC）の説明を更新
			23.2.25 A/D変換開始要求タイミングバッファレジスタn（GTADTBRn）（n = A, B）の説明を更新
			23.2.28 汎用PWMタイマデッドタイム値レジスタn（GTDVn）（n = U, D）の説明を更新
			23.2.30 汎用PWMタイマ出力保護機能ステータスレジスタ（GTSOS）の説明を更新
			23.2.32 出力相切り替えコントロールレジスタ（OPSCR）の説明を更新
			23.3.1.1 カウンタの動作の説明を更新
			図 23.8 ハードウェア要因によるアップカウント時のイベントカウント動作設定例を更新
			図 23.10 ハードウェア要因によるダウンカウント時のイベントカウント動作設定例を更新
			23.3.1.3 インプットキャプチャ機能の説明を更新
			図 23.22 GTCCRA、GTCCRBレジスタのバッファ動作例（アウトプットコンペア、アップカウント時ののこぎり波、GTCCRAレジスタのコンペアマッチでHigh出力、周期の終わりでLow出力の場合）を更新
			図 23.28 GTCCRA、GTCCRBレジスタのバッファ動作設定例（インプットキャプチャ時）を更新
			23.3.2.3 GTADTRA、GTADTRBレジスタのバッファ動作の説明を更新
			図 23.38 三角波PWMモード1設定例の注釈文を更新
			図 23.40 三角波PWMモード2設定例の注釈文を更新
			23.3.4 デッドタイム自動設定機能の説明を更新
			図 23.47 デッドタイム自動設定機能の設定例（のこぎり波ワンショットパルスモード、三角波PWMモード3の場合）を更新
			図 23.48 デッドタイム自動設定機能の設定例（三角波PWMモード1または2の場合）を更新
			図 23.61 ソフトウェアによる同時スタート／ストップ／クリア動作例（カウント周期（GTPRレジスタ値）が同一のとき）を更新
			表 23.11 位相計数モード2でのアップカウント／ダウンカウントの条件（C）を更新
			図 23.81 GPT_OPS制御フローの概念図を更新
			23.3.11 出力相切り替え（GPT_OPS）の説明を更新
			23.3.11.1 外部入力信号の同期および入力選択の説明を更新
			23.3.11.5 出力選択制御（グループ出力禁止機能）の説明を更新
			23.3.11.6 イベントリンクコントローラ（ELC）出力の説明を更新
			表 23.22 割り込み要因を更新
			23.4.2 割り込み、A/D変換要求の間引き機能の説明を更新
			図 23.93 A/D変換開始要求タイミング動作設定例を更新
			図 23.94 ノイズフィルタのタイミングを更新
			23.7 ノイズフィルタ機能の説明を更新

Rev.	発行日	章	改訂内容
1.10	2022.06.30	23. 汎用 PWM タイマ（GPT）	図 23.99 谷でのバッファ転送中にGTCCRAレジスタが0になった場合の出力保護機能の動作例（山でのバッファ転送中に0＜GTCCRAレジスタ＜GTPRレジスタを回復、アクティブLowの場合）を更新
			図 23.106 谷でのバッファ転送中にGTCCRAレジスタ≧GTPRレジスタとなった場合の出力保護機能一時解除例（谷でのバッファ転送中に0＜GTCCRAレジスタ＜GTPRレジスタを回復、アクティブLowの場合）を更新
			23.10.5 イベントごとの優先順位の説明を更新
		25. 低消費電力非同期汎用タイマ（AGT）	章のタイトルを更新
			25.1 概要の説明を更新
			25.2.5 AGTモードレジスタ1（AGTMR1）の説明を更新
			25.2.10 AGT端子選択レジスタ（AGTIOSEL）の説明を更新
			図 25.2 TSTARTビット値、TCMEAおよびTCMEBビット値による書き換え動作のタイミング（コンペアマッチレジスタAおよびBが無効の場合）のタイトルを更新
			図 25.11 コンペアマッチモードでの動作例（TOPOLA = 0、TOPOLB = 0）を更新
			25.4.3 モード変更時の説明を更新
			25.4.11 クロックソースを切り替える場合の説明を更新
		27. ウォッチドッグタイマ（WDT）	27. ウォッチドッグタイマ（WDT）の説明を更新
			図 27.1 WDTのブロック図を更新
			27.2.2 WDTコントロールレジスタ（WDTCR）の説明を更新
			図 27.2 RPSS[1:0]およびRPES[1:0]ビットとリフレッシュ許可期間を更新
			27.2.4 WDTリセットコントロールレジスタ（WDTRCR）の説明を更新
			27.2.5 WDTカウント停止コントロールレジスタ（WDTCSTPR）の説明を更新
			27.3.1.1 レジスタスタートモードの説明を更新
			図 27.3 レジスタスタートモードでの動作例を更新
			27.3.1.2 オートスタートモードの説明を更新
			図 27.4 オートスタートモードでの動作例を更新
			27.3.2 WDTCR、WDTRCR、およびWDTCSTPRレジスタへの書き込み制御の説明を更新
			図 27.5 WDTCRレジスタへの書き込みに対して生成される制御波形を更新
			27.3.3 リフレッシュ動作の説明を更新
			図 27.6 WDTリフレッシュ動作波形（WDTCR.CKS[3:0] = 0100b、WDTCR.TOPS[1:0] = 01bの場合）を更新
			表 27.5 オプション機能選択レジスタ0（OFS0）とWDTレジスタの対応関係を更新
			27.5.1 ICUイベントリンク設定レジスタn（IELSRn）の設定の説明を更新
		28. 独立ウォッチドッグタイマ（IWDT）	図 28.1 IWDTのブロック図を更新
			28.2.2 IWDTステータスレジスタ（IWDTSR）の説明を更新
			28.2.3 オプション機能選択レジスタ0（OFS0）の説明を更新
			図 28.2 IWDTRPSS[1:0]およびIWDTRPES[1:0]ビットとリフレッシュ許可期間の注釈文を更新
			28.3.1 オートスタートモードの説明を更新
			28.3.2 リフレッシュ動作の説明を更新
			図 28.4 IWDTリフレッシュ動作波形（OFS0.IWDTCKS[3:0] = 0000b、OFS0.IWDTTOPS[1:0] = 11bの場合）を更新
			図 28.5 IWDTカウンタ値の読み出し処理（OFS0.IWDTCKS[3:0] = 0000b、OFS0.IWDTTOPS[1:0] = 11bの場合）を更新
		29. USB2.0 フルスピードモジュール（USBFS）	表 29.1 USBFSの仕様を更新
			29.2.2 システムコンフィグレーションステータスレジスタ0（SYSSTS0）の説明を更新
			29.2.3 デバイスステートコントロールレジスタ0（DVSTCTR0）の説明を更新
			29.2.5 CFIFOポート選択レジスタ（CFIFOSEL）D0FIFOポート選択レジスタ（D0FIFOSEL）D1FIFOポート選択レジスタ（D1FIFOSEL）の説明を更新
			29.2.13 割り込みステータスレジスタ0（INTSTS0）の説明を更新
			29.2.14 割り込みステータスレジスタ1（INTSTS1）の説明を更新
			29.2.26 DCPマックスパケットサイズレジスタ（DCPMAXP）の説明を更新
			29.2.30 パイプマックスパケットサイズレジスタ（PIPEMAXP）の説明を更新
			29.2.32 パイプnコントロールレジスタ（PIPEnCTR）（n = 1～9）の説明を更新
			29.2.35 デバイスアドレスnコンフィグレーションレジスタ（DEVADDn）（n = 0～5）の説明を更新
			29.2.36 PHYクロスポイント調整レジスタ（PHYSLEW）の説明を更新

Rev.	発行日	章	改訂内容
1.10	2022.06.30	29. USB2.0 フルスピードモジュール（USBFS）	29.2.38 ディープソフトウェアスタンバイUSBサスペンド／レジューム割り込みレジスタ（DPUSR1R）の説明を更新
			29.3.3.1 BRDY割り込みの説明を更新
			図 29.12 デバイスコントローラモード時のNRDY割り込み発生タイミングの注釈文を更新
			29.3.4.6 応答PIDの説明を更新
			29.3.5 FIFOバッファメモリの説明を更新
			表 29.27 トランザクション発行条件を更新
			29.4.3 ポート機能設定後の割り込みステータスレジスタのクリアの説明を更新
		30. シリアルコミュニケーションインタフェース（SCI）	30.2.26 FIFOコントロールレジスタ（FCR）の説明を更新
		32. I²C バスインタフェース（IIC）	32.2.2 I²Cバスコントロールレジスタ2（ICCR2）の説明を更新
			32.2.6 I²Cバスファンクションイネーブルレジスタ（ICFER）の説明を更新
			32.2.9 I²Cバスステータスレジスタ1（ICSR1）の説明を更新
			32.2.10 I²Cバスステータスレジスタ2（ICSR2）の説明を更新
			表 32.5 ウェイクアップモードを更新
			32.2.11 I²Cバスウェイクアップユニットレジスタ（ICWUR）の説明を更新
			32.2.12 I²Cバスウェイクアップユニットレジスタ2（ICWUR2）の説明を更新
			32.3.3 マスタ送信動作の説明を更新
			32.3.6 スレーブ受信動作の説明を更新
			図 32.23 デジタルノイズフィルタ回路のブロック図を更新
			32.7.3 デバイスIDアドレス検出機能の説明を更新
			図 32.28 デバイスID受信時のAASyおよびDIDフラグのセット／クリアタイミングを更新
			図 32.39 NACK受信時のデータ転送中断動作（NACKE = 1の場合）を更新
			32.10.1 マスタアービトレーションロスト検出機能（MALEビット）の説明を更新
			32.10.3 スレーブアービトレーションロスト検出機能（SALEビット）の説明を更新
			32.11.2 リスタートコンディション発行動作の説明を更新
			32.12 バスハングアップの説明を更新
			32.12.2 SCLクロック追加出力機能の説明を更新
			図 32.49 SCLクロック追加出力機能（CLOビットの使用）を更新
			表 32.10 割り込み要因を更新
			表 32.11 各コンディション発行時のリセット、レジスタ、機能の状態を更新
		34. シリアルペリフェラルインタフェース（SPI）	34.2.9 SPIデータコントロールレジスタ（SPDCR）の説明を更新
		35. クワッドシリアルペリフェラルインタフェース（QSPI）	図 35.1 QSPIのブロック図を更新
			35.2.1 転送モードコントロールレジスタ（SFMSMD）の説明を更新
			35.2.2 チップ選択コントロールレジスタ（SFMSSC）の説明を更新
			35.2.3 クロックコントロールレジスタ（SFMSKC）の説明を更新
			35.2.4 ステータスレジスタ（SFMSST）の説明を更新
			35.2.5 通信ポートレジスタ（SFMCOM）の説明を更新
			35.2.8 命令コードレジスタ（SFMSIC）の説明を更新
			35.2.9 アドレスモードコントロールレジスタ（SFMSAC）の説明を更新
			35.2.10 ダミーサイクルコントロールレジスタ（SFMSDC）の説明を更新
			35.2.11 SPIプロトコルコントロールレジスタ（SFMSPC）の説明を更新
			図 35.2 デフォルト領域設定およびAHB空間メモリマップを更新
			図 35.3 SPI空間のメモリマップを更新
			図 35.6 Dual-SPIプロトコル例（ファストリードDual I/O）のタイトルを更新
			図 35.7 Quad-SPIプロトコル例（ファストリードQuad I/O）のタイトルを更新
			35.4.2 SPIモードの説明を更新
			図 35.9 SFMDTYビットを使用したQSPCLK信号デューティ比の補正例（PCLKAを3逓倍した場合）を更新
			35.5.4 QSSL信号セットアップ時間の説明を更新
			図 35.10 SFMSLDビットを使用したQSSL信号のセットアップ時間調整を更新
			35.5.5 QSSL信号ホールド時間の説明を更新
			図 35.11 SFMSHDビットを使用したQSSL信号のホールド時間調整を更新
			35.5.6 シリアルデータ出力許可のホールド時間の説明を更新
			図 35.12 SFMOEXビットを使用した出力許可ホールド時間調整を更新

Rev.	発行日	章	改訂内容
1.10	2022.06.30	35. クワッドシリアルペリフェラルインタフェース（QSPI）	図 35.13 SFMOSWビットを使用したシリアルデータ出力のセットアップ時間調整を更新
			35.5.8 シリアルデータ出力のホールド時間の説明を更新
			図 35.14 SFMOHWビットを使用したシリアルデータ出力のホールド時間調整を更新
			35.5.9 シリアルデータ受信レイテンシを削除
			表 35.4 SFMAS[1:0] = 00bの場合に自動生成されるSPI命令を更新
			表 35.5 SFMAS[1:0] = 01bの場合に自動生成されるSPI命令を更新
			表 35.6 SFMAS[1:0] = 10bの場合に自動生成されるSPI命令を更新
			表 35.7 SFMAS[1:0] = 11b、SFM4BC = 0の場合に自動生成されるSPI命令を更新
			表 35.8 SFMAS[1:0] = 11b、SFM4BC = 1の場合に自動生成されるSPI命令を更新
			35.6.6 ファストリードQuad出力命令の説明を更新
			35.6.7 ファストリードQuad I/O命令の説明を更新
			35.7.5 プリフェッチ状態ポーリングの説明を更新
			35.10.3 直接通信時のSPIバスサイクルの発生の説明を更新
		37. 拡張シリアルサウンドインタフェース（SSIE）	37.2.1 コントロールレジスタ（SSICR）の説明を更新
			図 37.4 ミュート機能設定時の送信データを更新
			図 37.7 送信時の配置データのアライメントを更新
			図 37.8 受信時の配置データのアライメントを更新
			37.2.3 FIFOコントロールレジスタ（SSIFCR）の説明を更新
			表 37.5 RFRSTビットによるソフトウェアリセットを行うレジスタビットを更新
			表 37.6 TFRSTビットによるソフトウェアリセットを行うレジスタビットを更新
			表 37.7 SSIRSTビットによるソフトウェアリセットを行うレジスタビットを更新
			図 37.24 AUDIO_MCKの停止／再開を更新
			図 37.24 AUDIO_MCKの停止／再開の注釈文を更新
			37.2.4 FIFOステータスレジスタ（SSIFSR）の説明を更新
			図 37.30 送信FIFOデータレジスタと送信シフトレジスタの構成およびFIFO動作例を更新
			図 37.31 受信FIFOデータレジスタと受信シフトレジスタの構成およびFIFO動作例を更新
			図 37.34 BCKASTPビットの動作例（BCKASTP = 1での通信動作の場合）を更新
			図 37.42 SSIEの状態遷移を更新
			37.5.2.1 データ通信状態の説明を更新
			図 37.52 通信開始手順（CPU動作手順）を更新
			図 37.53 送信手順を更新
			図 37.54 受信手順を更新
			図 37.57 通信再開手順（CPU動作手順）を更新
			37.7.1 SSIE0_SSIF割り込みの説明を更新
			図 37.60 ソフトウェアリセット手順（CPU動作手順）を更新
			37.9.1.1 SSIBCK制御のタイトルを更新
			37.9.2.1 AUCKE制御のタイトルと説明を更新
			37.9.3.4 転送モードの切り替えの説明を更新
			37.9.4.1 SSICRレジスタの説明を更新
			表 37.17 通信時のビットへの書き込み保護を更新
		39. SD/MMC ホストインタフェース（SDHI）	表 39.1 SD/MMCホストインタフェースの仕様を更新
			表 39.2 SDHIの入出力端子を更新
			39.2.1 コマンドタイプレジスタ（SD_CMD）の説明を更新
			39.2.4 データストップレジスタ（SD_STOP）の説明を更新
			39.2.10 SDカード割り込みフラグレジスタ1（SD_INFO1）の説明を更新
			39.2.11 SDカード割り込みフラグレジスタ2（SD_INFO2）の説明を更新
			39.2.13 SD INFO2割り込みマスクレジスタ（SD_INFO2_MASK）の説明を更新
			39.2.14 SDクロックコントロールレジスタ（SD_CLK_CTRL）の説明を更新
			39.2.16 SDカードアクセスコントロールオプションレジスタ（SD_OPTION）の説明を更新
			39.2.17 SDエラーステータスレジスタ1（SD_ERR_STS1）の説明を更新
			39.2.18 SDエラーステータスレジスタ2（SD_ERR_STS2）の説明を更新
			39.2.20 SDIOモードコントロールレジスタ（SDIO_MODE）の説明を更新
			39.3.1 SD/MMCインタフェースの説明を更新
			図 39.5 SD_BUF0からの読み出しを更新
			39.3.2.1 カード検出の説明を更新

Rev.	発行日	章	改訂内容
1.10	2022.06.30	39. SD/MMC ホストインタフェース（SDHI）	39.3.3.2 DMA転送要求（SDHI_MMCn_ODMSDBREQ、n = 0～1）の説明を更新
			表 39.6 通信エラーを更新
			表 39.7 タイムアウトを更新
			39.3.6.1 シングルブロックリード動作の説明を更新
			39.3.7.1 シングルブロックライト動作の説明を更新
			39.3.8.1 マルチブロックリード動作の説明を更新
			39.3.9.1 内蔵タイマによるマルチブロックライト動作の説明を更新
			39.3.10.1 外付けタイマによるマルチブロックライト動作の説明を更新
			39.3.11 IO_RW_DIRECTコマンド（SD：CMD52）の説明を更新
			図 39.15 IO_RW_DIRECTコマンド（CMD52）動作の例を更新
			表 39.9 MMCのSD_CMDレジスタ設定例を更新
			39.4.1 SD_BUF0不正書き込み（SD/MMC）の説明を更新
		41. セキュア暗号エンジン（SCE7）	表 41.1 SCE7の仕様を更新
			図 41.1 SCE7ブロック図を更新
		42. 12 ビット A/D コンバータ（ADC12）	42.1 概要の説明を更新
			表 42.1 ADC12の仕様を更新
			表 42.2 ADC12の機能一覧を更新
			図 42.1 ADC12（ユニット0）のブロック図を更新
			図 42.2 ADC12（ユニット1）のブロック図を更新
			表 42.3 ADC12の入出力端子を更新
			42.2.2 A/D自己診断データレジスタ（ADRD）の説明を更新
			42.2.3 A/Dコントロールレジスタ（ADCSR）の説明を更新
			42.2.5 A/Dチャネル選択レジスタA1（ADANSA1）の説明を更新
			42.2.11 A/Dコントロール拡張レジスタ（ADCER）の説明を更新
			42.2.18 A/Dグループスキャン優先コントロールレジスタ（ADGSPCR）の説明を更新
			42.2.26 A/Dコンペア機能ウィンドウA下側レベル設定レジスタ（ADCMPDR0）、A/Dコンペア機能ウィンドウA上側レベル設定レジスタ（ADCMPDR1）、A/Dコンペア機能ウィンドウB下側レベル設定レジスタ（ADWINLLB）、A/Dコンペア機能ウィンドウB上側レベル設定レジスタ（ADWINULB）の説明を更新
			42.2.30 A/Dコンペア機能ウィンドウBチャネル選択レジスタ（ADCMPBNSR）の説明を更新
			42.2.32 A/Dコンペア機能ウィンドウA/Bステータスモニタレジスタ（ADWINMON）の説明を更新
			42.2.35 A/Dプログラマブルゲインアンプ差動入力コントロールレジスタ（ADPGADCR0）の説明を更新
			42.3.1 スキャンの動作説明を更新
			42.3.2.8 ダブルトリガモード選択時のA/D 変換動作の説明を更新
			42.3.2.9 ダブルトリガモード選択時の拡張動作の説明を更新
			42.3.3.2 基本動作（チャネル専用サンプル＆ホールド回路あり、常時サンプリング無効）の説明を更新
			42.3.3.4 チャネル選択と自己診断（チャネル専用サンプル＆ホールド回路なし）の説明を更新
			42.3.3.5 チャネル選択と自己診断（チャネル専用サンプル＆ホールド回路あり、常時サンプリング無効）の説明を更新
			42.3.5.2 コンペア機能のイベント出力の説明を更新
			42.3.6 アナログ入力のサンプリング時間とスキャン変換時間の説明を更新
			表 42.10 スキャン変換時間（ADCLKとPCLKBのサイクル数）を更新
			42.3.8 A/D変換値加算／平均モードの説明を更新
			42.3.12 プログラマブルゲインアンプの説明を更新
			42.6.9 動作モードおよびステータスビットについての注意事項の説明を更新
		43. 12 ビット D/A コンバータ（DAC12）	表 43.2 DAC12の入出力端子を更新
			43.2.2 D/Aコントロールレジスタ（DACR）の説明を更新
			43.3.1 D/A変換とA/D変換の干渉の低減の説明を更新
			43.6.1 モジュールストップ機能の設定の説明を更新
			43.6.5 出力アンプ使用時の初期設定手順のタイトルと説明を更新
			図 43.5 出力アンプを使用したDAC12の初期化フロー例を更新
		44. 温度センサ（TSN）	表 44.1 温度センサの仕様を更新
			44.2.2 温度センサ補正データレジスタ（TSCDR）の説明を更新

Rev.	発行日	章	改訂内容
1.10	2022.06.30	45. 高速アナログコンパレータ（ACMPHS）	図 45.1 ACMPHSのブロック図を更新
			45.5 ACMPHS割り込みの説明を更新
		46. 静電容量式タッチセンシングユニット（CTSU）	図 46.3 CTSUのブロック図を更新
			46.2.3 CTSU同期ノイズ低減設定レジスタ（CTSUSDPRS）の説明を更新
			46.2.5 CTSU計測チャネルレジスタ0（CTSUMCH0）の説明を更新
			46.2.12 CTSUステータスレジスタ（CTSUST）の説明を更新
			46.2.18 CTSUエラーステータスレジスタ（CTSUERRS）の説明を更新
			図 46.9 CTSU初期設定フローを更新
			図 46.10 CTSU停止フローを更新
			図 46.11 ステータス動作遷移図を更新
			図 46.12 自己容量シングルスキャンモードのソフトウェアフローと動作例を更新
			図 46.14 自己容量マルチスキャンモードのソフトウェアフローと動作例を更新
			46.3.2.5 相互容量フルスキャンモード動作の説明を更新
			図 46.16 相互容量フルスキャンモードのソフトウェアフローと動作例を更新
			46.3.3.2 割り込みの説明を更新
			46.4.2 ソフトウェアトリガに対する制限事項の説明を更新
		48. SRAM	48.3.1 低消費電力機能の説明を更新
			図 48.2 SRAMパリティリセット許可の場合のSRAMパリティチェックのフローを更新
			図 48.3 SRAMパリティ割り込み許可の場合のSRAMパリティチェックのフローを更新
		50. フラッシュメモリ	50.3.2 レジスタの説明を50.3 レジスタの説明に移動
			50.3.4 ファクトリMCUインフォメーションフラッシュルートテーブル（FMIFRT）を追加
			50.3.5 ユニークIDレジスタn（UIDRn）（n = 0～3）を追加
			50.3.6 型名レジスタn（PNRn）（n = 0～3）を追加
			50.3.7 MCUバージョンレジスタ（MCUVER）を追加
		52. 電気的特性	表 52.2 推奨動作条件を更新
			表 52.13 サブクロック発振器以外のクロックタイミングを更新
			表 52.16 低消費電力モードからの復帰のタイミングの注釈文を更新
			表 52.30 SD/MMCホストインタフェース信号タイミングを更新
			表 52.41 バッテリバックアップ機能の特性を更新
		付録 3. I/O レジスタ	表 3.1 周辺機能のベースアドレスを更新
			表 3.2 アクセスサイクルを更新
			表 3.3 レジスタの説明を更新

RA6M1グループ ユーザーズマニュアル　ハードウェア編

発行年月日　2022年6月30日　Rev.1.10

発行　　ルネサスエレクトロニクス株式会社
〒135-0061 東京都江東区豊洲3-2-24（豊洲フォレシア）

RA6M1 グループ

ルネサス エレクトロニクス株式会社

R01UH0884JJ0110